舊 新 約 聖 書

文語訳

舊約聖書　明治元譯（一八八七年）　一九五三年版

新約聖書　大正改譯（一九一七年）　一九五〇年版

日本聖書協會

パブリックドメイン。本文は CrossWire 聖書協会の SWORD モジュール「JapBungo」（第2.0版、2022年8月17日、配布ライセンス：Public Domain）による。振り仮名を含め、本文には一切手を加えていない。
天国の学者（thekingdomscribe.net）資料室

目 次

舊約聖書

創世記 1
出エジプト記 36
レビ記 65
民數紀略 87
申命記 117
ヨシュア記 144
士師記 162
ルツ記 180
サムエル前書 184
サムエル後書 208
列王紀略上 227
列王紀略下 248
歴代志略上 271
歴代志略下 292
エズラ書 316
ネヘミヤ記 324
エステル書 334
ヨブ記 340
詩篇 359
箴言 413
傳道之書 427
雅歌 433
イザヤ書 436
ヱレミヤ記 475
エレミヤの哀歌 512
エゼキエル書 516
ダニエル書 549
ホセア書 560
ヨエル書 565
アモス書 568
オバデヤ書 572
ヨナ書 572
ミカ書 574
ナホム書 577
ハバクク書 578
ゼパニヤ書 580
ハガイ書 581
ゼカリヤ書 582
マラキ書 588

新約聖書

マタイ傳福音書 590
マルコ傳福音書 613
ルカ傳福音書 627
ヨハネ傳福音書 653
使徒行傳 672
ロマ人への書 696
コリント人への前の書 706
コリント人への後の書 717
ガラテヤ人への書 723
エペソ人への書 727
ピリピ人への書 730
コロサイ人への書 733
テサロニケ人への前の書 735
テサロニケ人への後の書 737
テモテへの前の書 739
テモテへの後の書 741
テトスへの書 743
ピレモンへの書 744
ヘブル人への書 746
ヤコブの書 753
ペテロの前の書 756

ペテロの後の書 758
ヨハネの第一の書 760
ヨハネの第二の書 763
ヨハネの第三の書 763
ユダの書 764
ヨハネの默示録 764

舊約聖書

明治元譯（明治二十年・一八八七年）

創世記

第一章

1元始に神天地を創造たまへり 2地は定形なく曠空くして黒暗淵の面にあり神の靈水の面を覆たりき 3神光あれと言たまひければ光ありき 4神光を善と觀たまへり神光と暗を分ちたまへり 5神光を晝と名け暗を夜と名けたまへり夕あり朝ありき是首の日なり 6神言たまひけるは水の中に穹蒼ありて水と水とを分つべし 7神穹蒼を作りて穹蒼の下の水と穹蒼の上の水とを判ちたまへり即ち斯なりぬ 8神穹蒼を天と名けたまへり夕あり朝ありき是二日なり 9神言たまひけるは天の下の水は一處に集りて乾ける土顯べしと即ち斯なりぬ 10神乾ける土を地と名け水の集合るを海と名けたまへり神之を善と觀たまへり 11神言たまひけるは地は青草と實蔬を生ずる草蔬と其類に從ひ果を結びみづから核をもつ所の果を結ぶ樹を地に發出すべしと即ち斯なりぬ 12地青草と其類に從ひ實蔬を生ずる草蔬と其類に從ひ果を結てみづから核をもつ所の樹を發出せり神これを善と觀たまへり 13夕あり朝ありき是三日なり 14神言たまひけるは天の穹蒼に光明ありて晝と夜とを分ち又天象のため時節のため日のため年のために成べし 15又天の穹蒼にありて地を照す光となるべしと即ち斯なりぬ 16神二の巨なる光を造り大なる光に晝を司どらしめ小き光に夜を司どらしめたまふまた星を造りたまへり 17神これを天の穹蒼に置て地を照さしめ 18晝と夜を司どらしめ光と暗を分たしめたまふ神これを善と觀たまへり 19夕あり朝ありき是四日なり 20神云たまひけるは水には生物饒に生じ鳥は天の穹蒼の面に地の上に飛べしと 21神巨なる魚と水に饒に生じて動く諸の生物を其類に從ひて創造り又羽翼ある諸の鳥を其類に從ひて創造りたまへり神之を善と觀たまへり 22神之を祝して曰く生よ繁息よ海の水に充牣よ又禽鳥は地に蕃息よと 23夕あり朝ありき是五日なり 24神言給ひけるは地は生物を其類に從て出し家畜と昆蟲と地の獸を其類に從て出すべしと即ち斯なりぬ 25神地の獸を其類に從て造り家畜を其類に從て造り地の諸の昆蟲を其類に從て造り給へり神之を善と觀給へり 26神言給けるは我儕に象りて我儕の像の如くに我儕人を造り之に海の魚と天空の鳥と家畜と全地と地に匍ふ所の諸の昆蟲を治めんと 27神其像の如くに人を創造たまへり即ち神の像の如くに之を創造之を男と女に創造たまへり 28神彼等を祝し神彼等に言たまひけるは生よ繁殖よ地に滿盈よ之を服從せよ又海の魚と天空の鳥と地に動く所の諸の生物を治めよ 29神言たまひけるは視よ我全地の面にある實蔬のなる諸の草蔬と核ある木果の結る諸の樹とを汝等に與ふこれは汝らの糧となるべし 30又地の諸の獸と天空の諸の鳥および地に匍ふ諸の物等凡そ生命ある者には我食物として諸の青き草を與ふと即ち斯なりぬ 31神其造りたる諸の物を視たまひけるに甚だ善りき夕あり朝ありき是六日なり

第二章

1斯天地および其衆群 悉く成ぬ 2第七日に神其造りたる
工を竣たまへり即ち其造りたる工を竣て七日に安息たま
へり 3神七日を祝して之を神聖めたまへり其は神其創造
爲たまへる工を 盡く竣て是日に安息みたまひたればな
り 4ヱホバ神地と天を造りたまへる日に天地の創造られ
たる其由來は是なり 5野の諸の灌木は未だ地にあらず野
の諸の草蔬は未 生ぜざりき其はヱホバ神雨を地に降せ
たまはず亦土地を耕す人なかりければなり 6霧地より上
りて土地の面を遍く潤したり 7ヱホバ神土の塵を以て人
を造り生 氣を其鼻に噓入たまへり人 即ち生 靈となりぬ
8ヱホバ神エデンの東の方に園を設て其造りし人を其處
に置たまへり 9ヱホバ神觀に美麗く食ふに善き各種の樹
を土地より生ぜしめ又園の中に生命の樹および善惡を知
の樹を生ぜしめ給へり 10河エデンより出て園を潤し彼處
より分れて四の 源 となれり 11其第一の名はピソンとい
ふ是は金あるハビラの全地を繞る者なり 12其地の金は善
し又ブドラクと碧 玉彼處にあり 13第二の河の名はギホン
といふ是はクシの全地を繞る者なり 14第三の河の名はヒ
デケルといふ是はアッスリヤの東に流るるものなり第四
の河はユフラテなり 15ヱホバ神其人を挈て彼をエデンの
園に置き之を埋め之を守らしめ給へり 16ヱホバ神其人に
命じて言たまひけるは園の各種の樹の果は汝 意のまま
に食ふことを得 17然ど善惡を知の樹は汝その果を食ふべ
からず汝 之を食ふ日には必ず死べければなり 18ヱホバ神
言たまひけるは人 獨なるは善らず我彼に適ふ助者を彼の
ために造らんと 19ヱホバ神土を以て野の諸の獸と天空の
諸 の鳥を造りたまひてアダムの之を何と名るかを見んと
て之を彼の所に率ゐいたりたまへりアダムが生物に名け
たる所は皆其名となりぬ 20アダム諸の家畜と天空の鳥と
野の諸の獸に名を與へたり然どアダムには之に適ふ助者
みえざりき 21是に於てヱホバ神アダムを熟く睡らしめ睡
りし時其肋 骨の一を取り肉をもて其處を填塞たまへり 22
ヱホバ神アダムより取たる肋 骨を以て女を成り之をアダ
ムの所に携きたりたまへり 23アダム言けるは此こそわが
骨の骨わが肉の肉なれ此は男より取たる者なれば之を 女
と名くべしと 24是故に人は其父母を離れて其妻に好合ひ
二人一體となるべし 25アダムと其妻は二人倶に裸體にし
て愧ざりき

第三章

1ヱホバ神の造りたまひし野の生物の中に蛇 最も狡猾し
蛇 婦に言ひけるは神 眞に汝等園の諸の樹の果は食ふべ
からずと言たまひしや 2婦 蛇に言けるは我等園の樹の果
を食ふことを得 3然ど園の中央に在樹の果實をば神汝等
之を食ふべからず又之に捫るべからず 恐 は汝等死んと
言給へり 4蛇 婦に言けるは汝等必らず死る事あらじ 5神
汝等が之を食ふ日には汝等の目開け汝等神の如くなりて
善惡を知に至るを知りたまふなりと 6婦 樹を見ば食に善
く目に美麗しく且智慧からんが爲に慕はしき樹なるによ
りて遂に其果實を取て食ひ亦之を己と偕なる夫に與へけ
れば彼食へり 7是において彼等の目俱に開て彼等其裸體
なるを知り乃ち無花果樹の葉を綴て裳を作れり 8彼等園
の中に日の清涼き時分歩みたまふヱホバ神の聲を聞しか
ばアダムと其妻 即ちヱホバ神の面を避て園の樹の間に身
を匿せり 9ヱホバ神アダムを召て之に言たまひけるは 汝
は何處にをるや 10彼いひけるは我園の中に汝の聲を聞き
裸體なるにより懼れて身を匿せりと 11ヱホバ言たまひけ
るは誰が汝の裸なるを汝に告しや汝は我が汝に食ふなか
れと命じたる樹の果を食ひたりしや 12アダム言けるは 汝
が與て我と偕ならしめたまひし婦 彼其樹の果實を我にあ
たへたれば我食へりと 13ヱホバ神 婦に言たまひけるは
汝 がなしたる此事は何ぞや婦 言けるは蛇我を誘惑して
我食へりと 14ヱホバ神蛇に言たまひけるは汝 是を爲たる
に因て汝は諸の家畜と野の諸の獸よりも勝りて詛はる 汝
は腹行て一 生の間 塵を食ふべし 15又我 汝と婦の間およ
び汝の苗裔と婦の苗裔の間に怨恨を置ん彼は汝の頭を碎
き汝は彼の踵を碎かん 16又 婦に言たまひけるは我 大に
汝 の懷姙の劬勞を増すべし汝は苦みて子を產ん又 汝は
夫 をしたひ彼は汝を治めん 17又アダムに言たまひけるは
汝 その妻の言を聽て我が汝に命じて食ふべからずと言た
る樹の果を食ひしに縁て土は汝のために詛はる汝は一 生
のあひだ勞苦て其より食を得ん 18土は荊棘と薊とを汝の
ために生ずべしまた汝は野の草蔬を食ふべし 19汝は面に
汗して食 物を食ひ終に土に歸らん其は其中より汝は取れ
たればなり汝は塵なれば塵に皈るべきなりと 20アダム其
妻の名をヱバと名けたり其は彼は群の生 物の母なればな
り 21ヱホバ神アダムと其妻のために皮 衣を作りて彼等に
衣せたまへり 22ヱホバ神曰たまひけるは視よ夫人我等の
一 の如くなりて善惡を知る然ば恐くは彼其手を舒べ生命
の樹の果實をも取りて食ひ限 無生んと 23ヱホバ神彼をエ

デンの園よりいだし其取て造られたるところの土を耕さしめたまへり 24斯神其人を逐出しエデンの園の東にケルビムと自から旋轉る焔の劍を置て生命の樹の途を保守りたまふ

第四章

1アダム其妻エバを知る彼孕みてカインを生みて言けるは我ヱホバによりて一個の人を得たりと 2彼また其弟アベルを生りアベルは羊を牧ふ者カインは土を耕す者なりき 3日を經て後カイン土より出る果を携來りてヱホバに供物となせり 4アベルもまた其羊の初生と其肥たる者を携來れりヱホバ、アベルと其供物を眷顧みたまひしかども 5カインと其供物をば眷み給はざりしかばカイン甚だ怒り且其面をふせたり 6ヱホバ、カインに言たまひけるは汝何ぞ怒るや何ぞ面をふするや 7汝若善を行はば擧ることをえざらんや若善を行はずば罪門戸に伏す彼は汝を慕ひ汝は彼を治めん 8カイン其弟アベルに語りぬ彼等野にをりける時カイン其弟アベルに起かかりて之を殺せり 9ヱホバ、カインに言たまひけるは汝の弟アベルは何處にをるや彼言ふ我しらず我あに我弟の守者ならんやと 10ヱホバ言たまひけるは汝何をなしたるや汝の弟の血の聲地より我に叫べり 11されば汝は詛れて此地を離るべし此地其口を啓きて汝の弟の血を汝の手より受たればなり 12汝地を耕すとも地は再其力を汝に效さじ汝は地に吟行ふ流離子となるべしと 13カイン、ヱホバに言けるは我が罪は大にして負ふこと能はず 14視よ汝今日斯地の面より我を逐出したまふ我汝の面を觀ることなきにいたらん我地に吟行ふ流離子とならん凡そ我に遇ふ者我を殺さん 15ヱホバ彼に言たまひけるは然らず凡そカインを殺す者は七倍の罰を受んとヱホバ、カインに遇ふ者の彼を擊ざるため印誌を彼に與へたまへり 16カイン、ヱホバの前を離て出でエデンの東なるノドの地に住り 17カイン其妻を知る彼孕みエノクを生りカイン邑を建て其邑の名を其子の名に循ひてエノクと名けたり 18エノクにイラデ生れたりイラデ、メホヤエルを生みメホヤエル、メトサエルを生みメトサエル、レメクを生り 19レメク二人の妻を娶れり一の名はアダと曰ひ一の名はチラと曰り 20アダ、ヤバルを生めり彼は天幕に住て家畜を牧ふ所の者の先祖なり 21其弟の名はユバルと云ふ彼は琴と笛とをとる凡ての者の先祖なり 22又チラ、トバルカインを生り彼は銅と鐵の諸の刃物を鍛ふ者なりトバルカインの妹をナアマといふ 23レメク其妻等に言けるはアダとチラよ我聲を聽けレメクの妻等よわが言を容よ我わが創傷のために人を殺すわが痍のために少年を殺す 24カインのために七倍の罰あればレメクのためには七十七倍の罰あらん 25アダム復其妻を知て彼男子を生み其名をセツと名けたり其は彼神我にカインの殺したるアベルのかはりに他の子を與へたまへりといひたればなり 26セツにもまた男子生れたりかれ其名をエノスと名けたり此時人々ヱホバの名を呼ことをはじめたり

第五章

1アダムの傳の書は是なり神人を創造りたまひし日に神に象りて之を造りたまひ 2彼等を男女に造りたまへり彼等の創造られし日に神彼等を祝してかれらの名をアダムと名けたまへり 3アダム百三十歳に及びて其像に循ひ己に象りて子を生み其名をセツと名けたり 4アダムのセツを生し後の齡は八百歳にして男子女子を生り 5アダムの生存へたる齡は都合九百三十歳なりき而して死り 6セツ百五歳に及びてエノスを生り 7セツ、エノスを生し後八百七年生存へて男子女子を生り 8セツの齡は都合九百十二歳なりき而して死り 9エノス九十歳におよびてカイナンを生り 10エノス、カイナンを生し後八百十五年生存へて男子女子を生り 11エノスの齡は都合九百五歳なりき而して死り 12カイナン七十歳におよびてマハラレルを生り 13カイナン、マハラレルを生し後八百四十年生存へて男子女子を生り 14カイナンの齡は都合九百十歳なりきしかして死り 15マハラレル六十五歳に及びてヤレドを生り 16マハラレル、ヤレドを生し後八百三十年生存へて男子女子を生り 17マハラレルの齡は都合八百九十五歳なりき而して死り 18ヤレド百六十二歳に及びてエノクを生り 19ヤレド、エノクを生し後八百年生存へて男子女子を生り 20ヤレドの齡は都合九百六十二歳なりき而して死り 21エノク六十五歳に及びてメトセラを生り 22エノク、メトセラを生し後三百年神とともに歩み男子女子を生り 23エノクの齡は都合三百六十五歳なりき 24エノク神と偕に歩みしが神かれを取りたまひければをらずなりき 25メトセラ百八十七歳に及びてレメクを生り 26メトセラ、レメクを生しのち七百八十二年生存へて男子女子を生り 27メトセラの齡は都合九百六十九歳なりき而して死り 28レメク百

八十二歳に及びて男子を生み 29其名をノアと名けて言けるは此子はヱホバの詛ひたまひし地に由れる我操作と我勞苦とに就て我らを慰めん 30レメク、ノアを生し後五百九十五年生存へて男子女子を生り 31レメクの齢は都合七百七十七歳なりき而して死り 32ノア五百歳なりきノア、セム、ハム、ヤペテを生り

第六章

1人地の面に繁衍はじまりて女子之に生るるに及べる時 2神の子等人の女子の美しきを見て其好む所の者を取て妻となせり 3ヱホバいひたまひけるは我靈永く人と爭はじ其は彼も肉なればなり然ど彼の日は百二十年なるべし 4當時地にネピリムありき亦其後神の子輩人の女の所に入りて子女を生しめたりしが其等も勇士にして古昔の名聲ある人なりき 5ヱホバ人の惡の地に大なると其心の思念の都て圖維る所の恒に惟惡きのみなるを見たまへり 6是に於てヱホバ地の上に人を造りしことを悔いて心に憂へたまへり 7ヱホバ言たまひけるは我が創造りし人を我地の面より拭去ん人より獣昆蟲天空の鳥にいたるまでほろぼさん其は我之を造りしことを悔ればなりと 8されどノアはヱホバの目のまへに恩を得たり 9ノアの傳は是なりノアは義人にして其世の完全き者なりきノア神と偕に歩めり 10ノアはセム、ハム、ヤペテの三人の子を生り 11時に世神のまへに亂れて暴虐世に滿盈ちたりき 12神世を視たまひけるに視よ亂れたり其は世の人皆其道をみだしたればなり 13神ノアに言たまひけるは諸の人の末期わが前に近づけり其は彼等のために暴虐世にみつればなり視よ我彼等を世とともに剪滅さん 14汝松木をもて汝のために方舟を造り方舟の中に房を作り瀝青をもて其内外を塗るべし 15汝かく之を作るべし即ち其方舟の長は三百キユビト其濶は五十キユビト其高は三十キユビト 16又方舟に導光牖を作り上一キユビトに之を作り終べし又方舟の戸は其傍に設くべし下牀と二階と三階とに之を作るべし 17視よ我洪水を地に起して凡て生命の氣息ある肉なる者を天下より剪滅し絶ん地にをる者は皆死ぬべし 18然ど汝とは我わが契約をたてん汝は汝の子等と汝の妻および汝の子等の妻とともに其方舟に入るべし 19又諸の生物總て肉なる者をば汝各其二を方舟に挈へいりて汝とともに其生命を保たしむべし其等は牝牡なるべし 20鳥其類に從ひ獣其類に從ひ地の諸の昆蟲其類に從ひて各二汝の所に至りて其生命を保つべし 21汝食はるる諸の食品を汝の許に取て之を汝の所に集むべし是即ち汝と是等の物の食品となるべし 22ノア是爲し都て神の己に命じたまひしごとく然爲せり

第七章

1ヱホバ、ノアに言たまひけるは汝と汝の家皆方舟に入べし我汝がこの世の人の中にてわが前に義を視たればなり 2諸の潔き獣を牝牡七宛汝の許に取り潔らぬ獣を牝牡二 3亦天空の鳥を雌雄七宛取て種を全地の面に生のこらしむべし 4今七日ありて我四十日四十夜地に雨ふらしめ我造りたる萬有を地の面より拭去ん 5ノア、ヱホバの凡て己に命じたまひし如くなせり 6地に洪水ありける時にノア六百歳なりき 7ノア其子等と其妻および其子等の妻と倶に洪水を避て方舟にいりぬ 8潔き獣と潔らざる獣と鳥および地に匍ふ諸の物 9牝牡二宛ノアに來りて方舟にいりぬ神のノアに命じたまへるが如し 10かくて七日の後洪水地に臨めり 11ノアの齢の六百歳の二月即ち其月の十七日に當り此日に大淵の源皆潰れ天の戸開けて 12雨四十日四十夜地に注げり 13此日にノアとノアの子セム、ハム、ヤペテおよびノアの妻と其子等の三人の妻諸倶に方舟にいりぬ 14彼等および諸の獣其類に從ひ諸の家畜其類に從ひ都て地に匍ふ昆蟲其類に從ひ諸の禽即ち各様の類の鳥皆其類に從ひて入りぬ 15即ち生命の氣息ある諸の肉なる者二宛ノアに來りて方舟にいりぬ 16入たる者は諸の肉なる者の牝牡にして皆いりぬ神の彼に命じたまへるが如しヱホバ乃ち彼を閉置たまへり 17洪水四十日地にありき是において水増し方舟を浮めて方舟地の上に高くあがれり 18而して水瀰漫りて大に地に増しぬ方舟は水の面に漂へり 19水甚大に地に瀰漫りければ天下の高山皆おほはれたり 20水はびこりて十五キユビトに上りければ山々おほはれたり 21凡そ地に動く肉なる者鳥家畜獣地に匍ふ諸の昆蟲および人皆死り 22即ち凡そ其鼻に生命の氣息のかよふ者都て乾土にある者は死り 23斯地の表面にある萬有を人より家畜昆蟲天空の鳥にいたるまで盡く拭去たまへり是等は地より拭去れたり唯ノアおよび彼とともに方舟にありし者のみ存れり 24水百五十日のあひだ地にはびこりぬ

第八章

1神ノアおよび彼とともに方舟にある諸の生物と諸の家畜を眷念ひたまひて神乃ち風を地の上に吹しめたまひければ水減りたり 2亦淵の源と天の戸閉塞りて天よりの雨止ぬ 3是に於て水次第に地より退き百五十日を經てのち水減り 4方舟は七月に至り其月の十七日にアララテの山に止りぬ 5水次第に減て十月に至りしが十月の月朔に山々の嶺現れたり 6四十日を經てのちノア其方舟に作りし窓を啓て 7鴉を放出ちけるが水の地に涸るまで往來しをれり 8彼地の面より水の減少しかを見んとて亦鴿を放出いだしけるが 9鴿其足の跖を止べき處を得ずして彼に還りて方舟に至れり其は水全地の面にありたればなり彼乃ち其手を舒て之を執へ方舟の中におのれの所に接入たり 10尚又七日待て再び鴿を方舟より放出ちけるが 11鴿暮におよびて彼に還れり視よ其口に橄欖の新葉ありき是に於てノア地より水の減少しをしれり 12尚又七日まちて鴿を放出ちけるが再び彼の所に歸らざりき 13六百一年の一月の月朔に水地に涸たりノア乃ち方舟の蓋を撤きて視しに視よ土の面は燥てありぬ 14二月の二十七日に至りて地乾きたり 15爰に神ノアに語りて言給はく 16汝および汝の妻と汝の子等と汝の子等の妻ともに方舟を出べし 17汝とともにある諸の肉なる諸の生物諸の肉なる者即ち鳥家畜および地に匍ふ諸の昆蟲を率いでよ此等は地に饒く生育地の上に生且殖增すべし 18ノアと其子等と其妻および其子等の妻ともに出たり 19諸の獸諸の昆蟲および諸の鳥等凡そ地に動く者種類に從ひて方舟より出たり 20ノア、ヱホバのために壇を築き諸の潔き獸と諸の潔き鳥を取て燔祭を壇の上に献げたり 21ヱホバ其馨き香を聞ぎたまひてヱホバ其意に謂たまひけるは我再び人の故に因て地を詛ふことをせじ其は人の心の圖維るところ其幼少時よりして惡かればなり又我曾て爲たる如く再び諸の生る物を撃ち滅さじ 22地のあらん限りは播種時、收穫時、寒熱夏冬および日と夜息ことあらじ

第九章

1神ノアと其子等を祝して之に曰たまひけるは生よ增殖よ地に滿よ 2地の諸の獸畜天空の諸の鳥地に匍ふ諸の物海の諸の魚汝等を畏れ汝等に懾かん是等は汝等の手に與へらる 3凡そ生る動物は汝等の食となるべし菜蔬のごとく我之を皆汝等に與ふ 4然ど肉を其生命なる其血のままに食ふべからず 5汝等の生命の血を流すをば我必ず討さん獸之をなすも人をこれを爲すも我討さん凡そ人の兄弟人の生命を取ば我討すべし 6凡そ人の血を流す者は人其血を流さん其は神の像のごとくに人を造りたまひたればなり 7汝等生よ增殖よ地に饒くなりて其中に增殖よ 8神ノアおよび彼と偕にある其子等に告て言たまひけるは 9見よ我汝等と汝等の後の子孫 10および汝等と偕なる諸の生物即ち汝等とともなる鳥家畜および地の諸の 11我汝等と契約を立ん總て肉なる者は再び洪水に絶るる事あらじ又地を滅す洪水再びあらざるべし 12神言たまひけるは我が我と汝等および汝等と偕なる諸の生物の間に世々限りなく爲す所の契約の徵は是なり 13我わが虹を雲の中に起さん是我と世との間の契約の徵なるべし 14即ち我雲を地の上に起す時虹雲の中に現るべし 15我乃ち我と汝等および總て肉なる諸の生物の間のわが契約を記念はん水再び諸の肉なる者を滅す洪水とならじ 16虹雲の中にあらん我之を觀て神と地にある都て肉なる諸の生物との間なる永遠の契約を記念えん 17神ノアに言たまひけるは是は我が我と地にある諸の肉なる者との間に立たる契約の徵なり 18ノアの子等の方舟より出たる者はセム、ハム、ヤペテなりきハムはカナンの父なり 19是等はノアの三人の子なり全地の民は是等より出て蔓延れり 20爰にノアの農夫となりて葡萄園を植ることを始しが 21葡萄酒を飲て醉天幕の中にありて裸になれり 22カナンの父ハム其父のかくし所を見て外にありし二人の兄弟に告たり 23セムとヤペテ乃ち衣を取て俱に其肩に負け後向に歩みゆきて其父の裸體を覆へり彼等面を背にして其父の裸體を見ざりき 24ノア酒さめて其若き子の己に爲たる事を知れり 25是に於て彼言けるはカナン詛はれよ彼は僕輩の僕となりて其兄弟に事へん 26又いひけるはセムの神ヱホバは讃べきかなカナン彼の僕となるべし 27神ヤペテを大ならしめたまはん彼はセムの天幕に居住はんカナン其僕となるべし 28ノア洪水の後三百五十年生存へたり 29ノアの齡は都て九百五十年なりき而して死り

第十章

1ノアの子セム、ハム、ヤペテの傳は是なり洪水の後彼等に子等生れたり 2ヤペテの子はゴメル、マゴグ、マ

デア、ヤワン、トバル、メセク、テラスなり 3ゴメルの子はアシケナズ、リパテ、トガルマなり 4ヤワンの子はエリシヤ、タルシシ、キツテムおよびドダニムなり 5是等より諸國の洲島の民は派分れ出て各其方言と其宗族と其邦國とに循ひて其地に住り 6ハムの子はクシ、ミツライム、フテおよびカナンなり 7クシの子はセバ、ハビラ、サブタ、ラアマ、サブテカなりラアマの子はシバおよびデダンなり 8クシ、ニムロデを生り彼始めて世の權力ある者となれり 9彼はヱホバの前にありて權力ある獵夫なりき是故にヱホバの前にある夫權力ある獵夫ニムロデの如しといふ諺あり 10彼の國の起初はシナルの地のバベル、エレク、アツカデ、及びカルネなりき 11其地より彼アッスリヤに出でニネベ、レホボテイリ、カラ 12およびニネベとカラの間なるレセンを建たり是は大なる城邑なり 13ミツライム、ルデ族アナミ族レハビ族ナフト族 14パテロス族カスル族およびカフトリ族を生りカスル族よりペリシテ族出たり 15カナン其冢子シドンおよびヘテ 16エブス族アモリ族ギルガシ族 17ヒビ族アルキ族セニ族 18アルワデ族ゼマリ族ハマテ族を生り後に至りてカナン人の宗族蔓延りぬ 19カナン人の境はシドンよりゲラルを經てガザに至りソドム、ゴモラ、アデマ、ゼボイムに沿てレシヤにまで及べり 20是等はハムの子孫にして其宗族と其方言と其土地と其邦國に隨ひて居りぬ 21セムはヱベルの全の子孫の先祖にしてヤペテの兄なり彼にも子女生れたり 22セムの子はエラム、アシユル、アルパクサデルデ、アラムなり 23アラムの子はウヅ、ホル、ゲテル、マシなり 24アルパクサデ、シラを生みシラ、エベルを生り 25エベルに二人の子生れたり一人の名をペレグ(分れ)といふ其は彼の代に邦國分れたればなり其弟の名をヨクタンと曰ふ 26ヨクタン、アルモダデ、シヤレフ、ハザルマウテ、ヱラ 27ハドラム、ウザル、デクラ 28オバル、アビマエル、シバ 29オフル、ハビラおよびヨバブを生り是等は皆ヨクタンの子なり 30彼等の居住所はメシヤよりして東方の山セバルにまで至れり 31是等はセムの子孫にして其宗族と其方言と其土地と其邦國とに隨ひて居りぬ 32是等はノアの子の宗族にして其血統と其邦國に隨ひて居りぬ洪水の後是等より地の邦國の民は派分れ出たり

第十一章

1全地は一の言語一の音のみなりき 2茲に人衆東に移りてシナルの地に平野を得て其處に居住り 3彼等互に言けるは去來甎石を作り之を善く燔んと遂に石の代に甎石を獲灰沙の代に石漆を獲たり 4又曰けるは去來邑と塔とを建て其塔の頂を天にいたらしめん斯して我等名を揚て全地の表面に散ることを免れんと 5ヱホバ降臨りて彼人衆の建る邑と塔とを觀たまへり 6ヱホバ言たまひけるは視よ民は一にして皆一の言語を用ふ今既に此を爲し始めたり然ば凡て其爲んと圖維る事は禁止め得られざるべし 7去來我等降り彼處にて彼等の言語を淆し互に言語を通ずることを得ざらしめんと 8ヱホバ遂に彼等を彼處より全地の表面に散したまひければ彼等邑を建ることを罷たり 9是故に其名はバベル(淆亂)と呼ばる是はヱホバ彼處に全地の言語を淆したまひしに由てなり彼處よりヱホバ彼等を全地の表に散したまへり 10セムの傳は是なりセム百歳にして洪水の後の二年にアルパクサデを生り 11セム、アルパクサデを生し後五百年生存へて男子女子を生り 12アルパクサデ三十五歳に及びてシラを生り 13アルパクサデ、シラを生し後四百三年生存へて男子女子を生り 14シラ三十歳におよびてエベルを生り 15シラ、エベルを生し後四百三年生存へて男子女子を生り 16エベル三十四歳におよびてペレグを生り 17エベル、ペレグを生し後四百三十年生存へて男子女子を生り 18ペレグ三十歳におよびてリウを生り 19ペレグ、リウを生し後二百九年生存へて男子女子を生り 20リウ三十二歳におよびてセルグを生り 21リウ、セルグを生し後二百七年生存へて男子女子を生り 22セルグ三十年におよびてナホルを生り 23セルグ、ナホルを生しのち二百年生存へて男子女子を生り 24ナホル二十九歳に及びてテラを生り 25ナホル、テラを生し後百十九年生存へて男子女子を生り 26テラ七十歳に及びてアブラム、ナホルおよびハランを生り 27テラの傳は是なりテラ、アブラム、ナホルおよびハランを生ハラン、ロトを生り 28ハランは其父テラに先ちて其生處なるカルデアのウルにて死たり 29アブラムとナホルと妻を娶れりアブラムの妻の名をサライと云ナホルの妻の名をミルカと云てハランの女なりハランはミルカの父にして亦イスカの父なりき 30サライは石女にして子なかりき 31テラ、カナンの地に往とて其子アブラムとハランの子なる其孫ロト及其子アブラムの妻なる其媳サライをひき挈

て俱にカルデアのウルを出たりしがハランに至て其處に住り 32テラの齢は二百五歳なりきテラはハランにて死り

第十二章

1爰にヱホバ、アブラムに言たまひけるは汝の國を出で汝 の親族に別れ汝の父の家を離れて我が汝に示さん其地に至れ 2我 汝を大なる國民と成し汝を祝み汝の名を大ならしめん汝は祉福の基となるべし 3我は汝を祝する者を祝 し汝を詛ふ者を詛はん天下の 諸 の宗族 汝によりて福禔を獲と 4アブラム乃ちヱホバの自己に言たまひし言に 從 て出たりロト彼と共に行りアブラムはハランを出たる時七十五歳なりき 5アブラム其妻サライと其 弟 の子ロトおよび其集めたる總の所有とハランにて獲たる人衆を携へてカナンの地に往んとて出で遂にカナンの地に至れり 6アブラム其地を經過てシケムの處に及びモレの橡樹に至れり其時にカナン人其地に住り 7茲にヱホバ、アブラムに顯現れて我 汝の苗裔に此地に與へんといひたまへり彼處にて彼 己に顯現れたまひしヱホバに壇を築けり 8彼其處よりベテルの東の山に移りて其天幕を張り西にベテル東にアイありき彼處にて彼ヱホバに壇を築きヱホバの名を籲り 9アブラム尚 進て南に遷れり 10茲に饑饉其地にありければアブラム、エジプトに寄寓らんとて彼處に下れり其は饑饉其地に 甚 しかりければなり 11彼近く來りてエジプトに入んとする時其妻サライに言けるは視よ我 汝を觀て美麗き婦人なるを知る 12是故にエジプト人 汝を見る時是は彼の妻なりと言て我を殺さん然ど汝 をば生存かん 13請ふ汝わが 妹 なりと言へ然ば我 汝の故によりて 安 にしてわが命 汝のために生存ん 14アブラム、エジプトに至りし時エジプト人此 婦を見て甚だ美麗となせり 15またパロの大臣等彼を視て彼をパロの前に譽めければ婦 遂にパロの家に召入れられたり 16是に於てパロ彼のために厚くアブラムを待ひてアブラム 遂に羊 牛 僕 婢 牝牡の驢馬および駱駝を多く獲るに至れり 17時にヱホバ、アブラムの妻サライの故によりて大なる 災 を以てパロと其家を惱したまへり 18パロ、アブラムを召て言けるは汝が我になしたる此事は何ぞや汝 何故に彼が汝 の妻なるを我に告ざりしや 19汝 何故に彼はわが 妹 なりといひしや我 幾 彼をわが妻にめとらんとせり然ば汝の妻は此にあり挈去るべしと 20パロ即ち彼の事を人々に命じければ彼と其妻および其有る諸の物を送りさらしめたり

第十三章

1アブラム其妻および其有る諸の物と偕にエジプトを出て南の地に上れりロト彼と共にありき 2アブラム 甚 家畜と金銀に富り 3彼 南の地より其旅路に進てベテルに至りベテルとアイの間なる其以前に天幕を張たる處に至れり 4即ち彼が初に其處に築きたる壇のある處なり彼處にアブラム、ヱホバの名を籲り 5アブラムと偕に行しロトも羊 牛および天幕を有り 6其地は彼等を載て俱に居しむること能はざりき彼等は其所有多かりしに縁て俱に居ることを得ざりしなり 7斯有かばアブラムの家畜の牧者とロトの家畜の牧者の間に競爭ありきカナン人とペリジ人此時其地に居住り 8アブラム、ロトに言けるは我等は兄弟の人なれば請ふ我と汝の間およびわが牧者と汝の牧者の間に競爭あらしむる勿れ 9地は皆 爾の前にあるにあらずや請ふ我を離れよ爾 若 左にゆかば我右にゆかん又 爾 右にゆかば我 左にゆかんと 10是に於てロト目を擧てヨルダンの凡ての低地を瞻望みけるにヱホバ、ソドムとゴモラとを滅し給はざりし前なりければゾアルに至るまであまねく善く潤澤ひてヱホバの園の如くエジプトの地の如くなりき 11ロト乃ちヨルダンの低地を 盡 く撰とりて東に徙れり斯彼等彼此に別たり 12アブラムはカナンの地に住り又ロトは低地の諸邑に住み其天幕を遷してソドムに至れり 13ソドムの人は惡くしてヱホバの前に大なる罪人なりき 14ロトのアブラムに別れし後ヱホバ、アブラムに言たまひけるは爾の目を擧て爾の居る處より西 東北 南を瞻望め 15凡そ汝が觀る所の地は我之を永く爾と爾 の裔に與べし 16我 爾の後裔を地の塵沙の如くなさん若人地の塵沙を數ふることを得ば爾の後裔も數へらるべし 17爾 起て縦横に其地を行き巡るべし我之を爾に與へんと 18アブラム遂に天幕を遷して來りヘブロンのマムレの橡 林に住み彼處にてヱホバに壇を築けり

第十四章

1當時シナルの王アムラペル、エラサルの王アリオク、エラムの王ケダラオメルおよびゴイムの王テダル等 2ソドムの王ベラ、ゴモルの王ビルシア、アデマの王シナブ、ゼボイムの王セメベルおよびベラ(即ち今のゾアル)の王と戰ひをなせり 3是等の五人の王皆結 合てシデムの谷に

至れり其處は今の鹽海なり 4彼等は十二年ケダラオメルに事へ第十三年に叛けり 5第十四年にケダラオメルおよび彼と偕なる王等來りてアシタロテカルナイムのレパイム人、ハムのズジ人、シヤベキリアタイムのエミ人 6およびセイル山のホリ人を撃て曠野の傍なるエルパランに至り 7彼等歸りてエンミシパテ(即ち今のカデシ)に至りアマレク人の國を盡く撃又ハザゾンタマルに住るアモリ人を撃り 8爰にソドムの王ゴモラの王アデマの王ゼボイムの王およびベラ(即ち今のゾアル)の王出てシデムの谷にて彼等と戰ひを接たり 9即ち彼五人の王等エラムの王ケダラオメル、ゴイムの王テダル、シナルの王アムラペル、エラサルの王アリオクの四人と戰へり 10シデムの谷には地瀝青の坑多かりしがソドムとゴモラの王等遁て其處に陷りぬ其餘の者は山に遁逃たり 11是に於て彼等ソドムとゴモラの諸の物と其諸の食料を取て去れり 12彼等アブラムの姪ロトと其物を取て去り其は彼ソドムに住たればなり 13茲に遁逃者來りてヘブル人アブラムに之を告たり時にアブラムはアモリ人マムレの橡林に住りマムレはエシコルの兄弟又アネルの兄弟なり是等はアブラムと契約を結べる者なりき 14アブラム其兄弟の擄にせられしを聞しかば其熟練したる家の子三百十八人を率ゐてダンまで追いたり 15其家臣を分ちて夜に乘じて彼等を攻め彼等を擊破りてダマスコの左なるホバまで彼等を追ゆけり 16アブラム斯諸の物を奪回し亦其兄弟ロトと其物および婦人と人民を取回せり 17アブラム、ケダラオメルおよび彼と偕なる王等を擊破りて歸れる時ソドムの王シヤベの谷(即ち今の王の谷)にて彼を迎へたり 18時にサレムの王メルキゼデク、パンと酒を携出せり彼は至高き神の祭司なりき 19彼アブラムを祝して言けるは願くは天地の主なる至高神アブラムを祝福みたまへ 20願くは汝の敵を汝の手に付したまひし至高神に稱譽あれとアブラム乃ち彼に其諸の物の什分の一を饋れり 21茲にソドムの王アブラムに言けるは人を我に與へ物を汝に取れと 22アブラム、ソドムの王に言けるは我天地の主なる至高き神ヱホバを指て言ふ 23一本の絲にても鞋帶にても凡て汝の所屬は我取ざるべし恐くは汝我アブラムを富しめたりと言ん 24但少者の既に食ひたる物および我と偕に行し人アネル、エシコルおよびマムレの分を除くべし彼等には彼等の分を取しめよ

第十五章

1是等の事の後ヱホバの言異象の中にアブラムに臨て曰くアブラムよ懼るなかれ我は汝の干櫓なり汝の賚は甚大なるべし 2アブラム言けるは主ヱホバよ何を我に與んとしたまふや我は子なくして居り此ダマスコのエリエゼル我が家の相續人なり 3アブラム又言けるは視よ爾子を我にたまはず我の家の子わが嗣子とならんとすと 4ヱホバの言彼にのぞみて曰く此者は爾の嗣子となるべからず汝の身より出る者爾の嗣子となるべしと 5斯てヱホバ彼を外に携へ出して言たまひけるは天を望みて星を數へ得るかを見よと又彼に言たまひけるは汝の子孫は是のごとくなるべしと 6アブラム、ヱホバを信ずヱホバこれを彼の義となしたまへり 7又彼に言たまひけるは我は此地を汝に與へて之を有たしめんとて汝をカルデアのウルより導き出せるヱホバなり 8彼言けるは主ヱホバよ我いかにして我之を有つことを知るべきや 9ヱホバ彼に言たまひけるは三歳の牝牛と三歳の牝山羊と三歳の牡羊と山鳩および雛き鴿を我ために取れと 10彼乃ち是等を皆取て之を中より剖き其剖たる者を各相對はしめて置り但鳥は剖ざりき 11鷙鳥其死體の上に下る時はアブラム之を驅はらへり 12斯て日の沒る頃アブラム酣く睡りしが其大に暗きを覺えて懼れたり 13時にヱホバ、アブラムに言たまひけるは爾確に知るべし爾の子孫他人の國に旅人となりて其人々に服事へん彼等四百年のあひだ之を惱さん 14又其服事たる國民は我之を鞫かん其後彼等は大なる財貨を携へて出ん 15爾は安然に爾の父祖の所にゆかん爾は遐齡に達りて葬らるべし 16四代に及びて彼等此に返りきたらん其はアモリ人の惡未だ貫盈ざれば也と 17斯て日の沒て黑暗となりし時烟と火焔の出る爐其切剖たる物の中を通過り 18是日にヱホバ、アブラムと契約をなして言たまひけるは我此地をエジプトの河より彼大河即ちユフラテ河まで爾の子孫に與ふ 19即ちケニ人ケナズ人カデモニ人 20ヘテ人ペリジ人レパイム人 21アモリ人カナン人ギルガシ人ヱブス人の地是なり

第十六章

1アブラムの妻サライ子女を生ざりき彼に一人の侍女ありしがエジプト人にして其名をハガルと曰り 2サライ、アブラムに言けるは視よヱホバわが子を生むことを禁めたまひければ請ふ我が侍女の所に入れ我彼よりして子女を

得ることあらんとアブラム、サライの言を聽いれたり 3 アブラムの妻サライ其侍女なるエジプト人ハガルを取て之を其夫アブラムに與へて妻となさしめたり是はアブラムがカナンの地に十年住みたる後なりき 4 是においてアブラム、ハガルの所に入るハガル遂に孕みければ己の孕めるを見て其女主を藐視たり 5 サライ、アブラムに言けるはわが蒙れる害は汝に歸すべし我わが侍女を汝の 懐に與へたるに彼 己の孕るを見て我を藐視ぐ 願 はヱホバ我と汝の間の事を鞫きたまへ 6 アブラム、サライに言けるは視よ汝の侍女は汝の手の中にあり汝の目に善と見ゆる所を彼に爲すべしサライ乃ち彼を苦めければ彼サライの面を避て逃たり 7 ヱホバの使者曠野の泉の 旁 即ちシユルの路にある泉の 旁 にて彼に遭ひて 8 言けるはサライの侍女ハガルよ汝 何處より來れるや又何處に往や彼言けるは我は女主サライの面をさけて逃るなり 9 ヱホバの使者彼に言けるは汝の女主の許に返り身を其手に任すべし 10 ヱホバの使者又彼に言ひけるは我 大に汝の子孫を増し其數を衆多して數ふることあたはざらしめん 11 ヱホバの使者又彼に言けるは汝 孕めり男 子を生まん其名をイシマエル(神聽知)と名くべしヱホバ汝の艱難を聽知したまへばなり 12 彼は野驢馬の如き人とならん其手は諸の人に敵し諸の人の手はこれに敵すべし彼は其 諸の兄 弟の東 に住んと 13 ハガル己に諭したまへるヱホバの名をアタエルロイ(汝は見たまふ神なり)とよべり彼いふ我視たる後尚生るやと 14 是をもて其井はベエルラハイロイ(我を見る活る者の井)と呼ばる是はカデシとベレデの間にあり 15 ハガル、アブラムの男子を生めりアブラム、ハガルの生める其子の名をイシマエルと名づけたり 16 ハガル、イシマエルをアブラムに生める時アブラムは八十六歳なりき

第十七章

1 アブラム九十九歳の時ヱホバ、アブラムに顯れて之に言たまひけるは我は全能の神なり汝 我前に行みて完全かれよ 2 我わが契約を我と汝の間に立て大に汝の子孫を増ん 3 アブラム乃ち俯伏たり神又彼に告て言たまひけるは 4 我 汝とわが契約を立つ汝は衆多の國民の父となるべし 5 汝 の名を此後アブラムと呼ぶべからず汝の名をアブラハム(衆多の人の父)とよぶべし其は我 汝を衆多の國民の父と爲ばなり 6 我 汝をして衆多の子孫を得せしめ國々の民を汝より起さん王等 汝より出べし 7 我わが契約を我と 汝および汝の後の世々の子孫との間に立て永久の契約となし汝および汝の後の子孫の神となるべし 8 我 汝と汝の後の子孫に此 汝が寄寓る地 即ちカナンの全地を與へて永久の産業となさん而して我彼等の神となるべし 9 神またアブラハムに言たまひけるは然ば汝と汝の後の世々の子孫わが契約を守るべし 10 汝等の中の男 子は咸割禮を受べし是は我と汝等および汝の後の子孫の間の我が契約にして汝等の守るべき者なり 11 汝等其陽の皮を割べし是我と汝等の間の契約の徴なり 12 汝等の代々の男 子は家に生れたる者も異邦人より金にて買たる汝の子孫ならざる者も皆生れて八日に至らば割禮を受べし 13 汝の家に生れたる者も汝の金にて買たる者も割禮を受ざるべからず斯我契約汝等の身にありて永久の契約となるべし 14 割禮を受ざる男兒 即ち其陽の皮を割ざる者は我契約を破るによりて其人其民の中より絶るべし 15 神又アブラハムの言たまひけるは汝の妻サライは其名をサライと稱ぶべからず其名をサラと爲べし 16 我彼を祝み彼よりして亦 汝に一人の男 子を授けん我彼を祝み彼をして諸邦の民の母とならしむべし 諸 の民の王等彼より出べし 17 アブラハム俯伏て哂ひ其 心に謂けるは百歳の人に豈で子の生るることあらんや又サラは九十歳なれば豈で產ことをなさんやと 18 アブラハム遂に神にむかひて願くはイシマエルの汝のまへに生 存へんことをと曰ふ 19 神言たまひけるは汝の妻サラ必 ず子を生ん汝 其名をイサクと名くべし我彼および其後の子孫と契約を立て永久の契約となさん 20 又イシマエルの事に關ては我 汝の願を聽たり視よ我彼を祝みて多衆の子孫を得さしめ大に彼の子孫を増すべし彼十二の君王を生ん我彼を大なる國民となすべし 21 然どわが契約は我翌 年の今頃サラが汝に生ん所のイサクと之を立べし 22 神アブラハムと 言 ことを竟へ彼を離れて昇り給へり 23 是に於てアブラハム神の己に言たまへる如く此日其子イシマエルと凡て其家に生れたる者および凡て其金にて買たる者 即ちアブラハムの家の人の中なる諸の男を將きたりて其陽の皮を割たり 24 アブラハムは其陽の皮を割れたる時九十九歳 25 其子イシマエルは其陽の皮を割れたる時十三歳なりき 26 是日アブラハムと其子イシマエル割禮を受たり 27 又其家の人家に生れたる者も金にて異邦人より買たる者も皆彼とともに割禮を受たり

第十八章

1ヱホバ、マムレの橡林にてアブラハムに顯現たまへり彼は日の熱き時刻天幕の入口に坐しゐたりしが 2目を擧て見たるに視よ三人の人其前に立り彼見て天幕の入口より趨り行て之を迎へ 3身を地に鞠めて言けるは我が主よ我若汝の目のまへに恩を得たるならば請ふ僕を通り過すなかれ 4請ふ少許の水を取きたらしめ汝等の足を濯ひて樹の下に休憩たまへ 5我一口のパンを取來らん汝等心を慰めて然る後過ゆくべし汝等僕の所に來ればなり彼等言ふ汝が言るごとく爲せ 6是においてアブラハム天幕に急ぎいりてサラの許に至りて言けるは速に細麪三セヤを取り捏てパンを作るべしと 7而してアブラハム牛の群に趨ゆき犢の柔にして善き者を取りきたりて少者に付しければ急ぎて之を調理ふ 8かくてアブラハム牛酪と牛乳および其調理へたる犢を取て彼等のまへに供へ樹の下にて其側に立り彼等乃ち食へり 9彼等アブラハムに言けるは爾の妻サラは何處にあるや彼言ふ天幕にあり 10其一人言ふ明年の今頃我必ず爾に返るべし爾の妻サラに男子あらんサラ其後なる天幕の入口にありて聞ゐたり 11抑アブラハムとサラは年邁み老いたる者にしてサラには婦人の常の經已に息たり 12是故にサラ心に哂ひて言けるは我は老衰へ吾が主も亦老たる後なれば我に樂あるべけんや 13ヱホバ、アブラハムに言たまひけるは何故にサラは哂ひて我老たれば果して子を生ことあらんと言ふや 14ヱホバに豈爲し難き事あらんや時至らば我定めたる期に爾に歸るべしサラに男子あらんと 15サラ懼れたれば承ずして我哂はずと言へりヱホバ言たまひけるは否汝哂へるなり 16斯て其人々彼處より起てソドムの方を望みければアブラハム彼等を送らんとて倶に行り 17ヱホバ言ひ給けるは我爲んとする事をアブラハムに隱すべけんや 18アブラハムは必ず大なる強き國民となりて天下の民皆彼に由て福を獲に至るべきに在ずや 19其は我彼をして其後の兒孫と家族とに命じヱホバの道を守りて公儀と公道を行しめん爲に彼をしれり是ヱホバ、アブラハムに其曾て彼に就て言し事を行はん爲なり 20ヱホバ又言給ふソドムとゴモラの號呼大なるに因り又其罪甚だ重に因て 21我今下りて其號呼の我に達れる如くかれら全く行ひたりしやを見んとす若しからずば我知るに至らんと 22其人々其處より身を旋してソドムに赴むけりアブラハムは尚ほヱホバのまへに立り 23アブラハム近よりて言けるは爾は義者をも惡者と倶に滅ぼしたまふや 24若邑の中に五十人の義者あるも汝尚ほ其處を滅ぼし其中の五十人の義者のためにこれを恕したまはざるや 25なんぢ斯の如く爲て義者と惡者と倶に殺すが如きは是あるまじき事なり又義者と惡者を均等するが如きもあるまじき事なり天下を鞫く者は公儀を行ふ可にあらずや 26ヱホバ言たまひけるは我若ソドムに於て邑の中に五十人の義者を看ば其人々のために其處を盡く恕さん 27アブラハム應へていひけるは我は塵と灰なれども敢て我主に言上す 28若五十人の義者の中五人缺たらんに爾五人の缺たるために邑を盡く滅ぼしたまふやヱホバ言たまひけるは我若彼處に四十五人を看ば滅さざるべし 29アブラハム又重ねてヱホバに言上して曰けるは若彼處に四十人看えなば如何ヱホバ言たまふ我四十人のために之をなさじ 30アブラハム曰ひけるは請ふわが主よ怒らずして言しめたまへ若彼處に三十人看えなば如何ヱホバいひたまふ我三十人を彼處に看ば之を爲じ 31アブラハム言ふ我あへてわが主に言上す若彼處に二十人看えなば如何ヱホバ言たまふ我二十人のためにほろぼさじ 32アブラハム言ふ請ふわが主怒らずして今一度言しめたまへ若かしこに十人看えなば如何ヱホバ言たまふ我十人のためにほろぼさじ 33ヱホバ、アブラハムと言ふことを終てゆきたまへりアブラハムおのれの所にかへりぬ

第十九章

1其二個の天使黄昏にソドムに至るロト時にソドムの門に坐し居たりしがこれを視起て迎へ首を地にさげて 2言けるは我主よ請ふ僕の家に臨み足を濯ひて宿りつとに起て途に遄征たまへ彼等言ふ否我等は街衢に宿らんと 3然ど固く強ければ遂に彼の所に臨みて其家に入るロト乃ち彼等のために筵を設け酵いれぬパンを炊て食はしめたり 4斯て未だ寢ざる前に邑の人々即ちソドムの人老たるも若きも諸共に四方八方より來たれる民皆其家を環み 5ロトを呼て之に言けるは今夕爾に就たる人は何處にをるや彼等を我等の所に携へ出せ我等之を知らん 6ロト入口に出て其後の戸を閉ぢ彼等の所に至りて 7言けるは請ふ兄弟よ惡き事を爲すなかれ 8我に未だ男知ぬ二人の女あり請ふ我之を携へ出ん爾等の目に善と見ゆる如く之になせよ唯此人等は既に我家の蔭に入たれば何をも之になすなかれ 9彼等曰ふ爾退け又言けるは此人は來り寓れる身なるに恒に士師とならんとす然ば我等彼等に加ふるよ

りも多くの害を爾に加へんと遂に彼等酷しく其人ロトに
逼り前よりて其戸を破んとせしに 10彼二人其手を舒しロ
トを家の内に援いれて其戸を閉ぢ 11家の入口にをる人衆
をして大なるも小も倶に目を眩しめければ彼等遂に入
口を索ぬるに困憊たり 12斯て二人ロトに言けるは外に爾
に屬する者ありや汝の婿子 女および凡て邑にをりて爾
に屬する者を此所より携へ出べし 13此處の號呼ヱホバ
の前に大になりたるに因て我等之を滅さんとすヱホバ
我等を遣はして之を滅さしめたまふ 14ロト出て其女を娶
る婿等に告て言けるはヱホバが邑を滅したまふべければ
爾等起て此處を出よと然ど婿等は之を戯言と視爲り 15
曉に及て天使ロトを促して言けるは起て此なる爾の妻
と二人の女を携へよ恐くは爾邑の惡とともに滅されん 16
然るに彼遲延ひしかば二人其手と其妻の手と其二人の女
の手を執て之を導き出し邑の外に置りヱホバ斯彼に仁慈
を加へたまふ 17既に之を導き出して其一人曰けるは逃遁
て汝の生命を救へ後を回顧るなかれ低地の中に止るなか
れ山に遁れよ否ずば爾滅されん 18ロト彼等に言けるは
わが主よ請ふ斯したまふなかれ 19視よ僕爾の目のまへ
に恩を得たり爾大なる仁慈を吾に施してわが生命を救
たまふ吾山に遁る能はず恐くは災害身に及びて死るにい
たらん 20視よ此邑は遁ゆくに近くして且小し我をして
彼處に遁れしめよしからば吾生命全からん是は小き邑な
るにあらずや 21天使之にいひけるは視よ我此事に關て
も亦爾の願を容たれば爾が言ふところの邑を滅さじ 22急
ぎて彼處に遁れよ爾が彼處に至るまでは我何事をも爲を
得ずと是に因て其邑の名はゾアル(小し)と稱る 23ロト、
ゾアルに至れる時日地の上に昇れり 24ヱホバ硫黄と火を
ヱホバの所より即ち天よりソドムとゴモラに雨しめ 25其
邑と低地と其邑の居民および地に生るところの物を 盡
く滅したまへり 26ロトの妻は後を回顧たれば鹽の柱とな
りぬ 27アブラハム其朝夙に起て其嘗てヱホバの前に立た
る處に至り 28ソドム、ゴモラおよび低地の全面を望み見
るに其地の烟燄窯の烟のごとくに騰上れり 29神低地の邑
を滅したまふ時即ちロトの住る邑を滅したまふ時に當り
神アブラハムを眷念て斯其滅亡の中よりロトを出したま
へり 30斯てロト、ゾアルに居ることを懼れたれば其二人
の女と偕にゾアルを出て上りて山に居り其二人の女子と
ともに巖穴に住り 31茲に長女季女にいひけるは我等の父
は老いたり又此地には我等に偶て世の道を成す人あらず
32然ば我等父に酒を飲せて與に寢ね父に由て子を得んと
33遂に其夜父に酒を飲せ長女入て其父と與に寢たり然る
にロトは女の起臥を知ざりき 34翌日長女季女に言ける
は我昨夜わが父と寢たり我等此夜又父に酒をのません
爾入て與に寢よわれらの父に由て子を得ることをえん
と 35乃ち其夜も亦父に酒をのませ季女起て父と與に寢た
りロトまた女の起臥を知ざりき 36斯ロトの二人の女其父
によりて孕みたり 37長女子を生み其名をモアブと名く
即ち今のモアブ人の先祖なり 38季女も亦子を生み其名
をベニアンミと名く即ち今のアンモニ人の先祖なり

第二十章

1アブラハム彼處より徙りて南の地に至りカデシとシユ
ルの間に居りゲラルに寄留り 2アブラハム其妻サラを我
妹なりと言しかばゲラルの王アビメレク人を遣してサ
ラを召入たり 3然るに神夜の夢にアビメレクに臨みて之
に言たまひけるは汝は其召入たる婦人のために死るなる
べし彼は夫ある者なればなり 4アビメレク未だ彼に近づ
かざりしかば言ふ主よ汝は義き民をも殺したまふや 5彼
は我に是はわが妹なりと言しにあらずや又婦も自彼
はわが兄なりと言たり我全き心と潔き手をもて此をな
せり 6神又夢に之に言たまひけるは然り我汝が全き心を
もて之をなせるを知りたれば我も汝を阻めて罪を我に犯
さしめざりき彼に觸るを容ざりしは是がためなり 7然ば
彼の妻を歸せ彼は預言者なれば汝のために祈り汝をして
生命を保しめん汝若歸ずば汝と汝に屬する者皆必死
るべきを知るべし 8是に於てアビメレク其朝夙に起て
臣僕を悉く召し此事を皆語り聞せければ人々甚く懼れ
たり 9斯てアビメレク、アブラハムを召て之に言けるは
爾我等に何を爲すや我何の惡き事を爾になしたれば爾
大なる罪を我とわが國に蒙らしめんとせしか爾爲べか
らざる所爲を我に爲したり 10アビメレク又アブラハムに
言けるは爾何を見て此事を爲たるや 11アブラハム言ける
は我此處はかならず神を畏れざるべければ吾妻のために
人我を殺さんと思ひたるなり 12又我は誠にわが妹なり
彼はわが父の子にしてわが母の子にあらざるが遂に我妻
となりたるなり 13神我をして吾父の家を離れて周遊しめ
たまへる時に當りて我彼に爾我等が至る處にて我を爾の
兄なりと言へ是は爾が我に施す恩なりと言たり 14アビメ
レク乃ち羊牛僕婢を將てアブラハムに與へ其妻サラ之

に歸せり 15而してアビメレク言けるは視よ我地は爾のまへにあり爾の好むところに住め 16又サラに言けるは視よ我 爾の兄に銀千枚を與へたり是は爾および諸の人にありし事等につきて爾の目を蔽ふ者なり斯 爾 償贖を得たり 17是に於てアブラハム神に祈りければ神アビメレクと其妻および婢を醫したまひて彼等子を產むにいたる 18ヱホバさきにはアブラハムの妻サラの故をもてアビメレクの家の者の胎をことごとく閉たまへり

第二十一章

1ヱホバ其言し如くサラを眷顧みたまふ即ちヱホバ其語しごとくサラに行ひたまひしかば 2サラ遂に孕み神のアブラハムに語たまひし期日に及びて年老たるアブラハムに男子を生り 3アブラハム其生れたる子 即ちサラが己に生る子の名をイサクと名けたり 4アブラハム神の命じたまひし如く八日に其子イサクに割禮を行へり 5アブラハムは其子イサクの生れたる時 百 歳なりき 6サラ言けるは神我を笑はしめたまふ聞く者皆我とともに笑はん 7又曰けるは誰かアブラハムにサラ子女に乳を飲しむるにいたらんと言しものあらん然に彼が年老るに及びて男子を生たりと 8偖其子長育ちて遂に乳を離るイサクの乳を離るる日にアブラハム大なる饗宴を設けたり 9時にサラ、エジプト人ハガルがアブラハムに生たる子の笑ふを見て 10アブラハムに言けるは此婢と其子を遂出せ此婢の子は吾子イサクと共に嗣子となるべからざるなりと 11アブラハム其子のために甚く此事を憂たり 12神アブラハムに言たまひけるは童兒のため又汝の婢のために之を憂るなかれサラが汝に言ところの言は悉く之を聽け其はイサクより出る者汝の裔と稱らるべければなり 13又婢の子も汝の胤なれば我之を一の國となさん 14アブラハム朝夙に起てパンと水の革嚢とを取りハガルに與へて之を其肩に負せ其子を携へて去しめければ彼往てベエルシバの曠野に躑躅しが 15革嚢の水遂に罄たれば子を灌木の下に置き 16我子の死るを見るに忍ずといひて遙かに行き箭達を隔てて之に對ひ坐しぬ斯相嚮ひて坐し聲をあげて泣く 17神其童兒の聲を聞たまふ神の使 即ち天よりハガルを呼て之に言けるはハガルよ何事ぞや懼るるなかれ神彼處にをる童兒の聲を聞たまへり 18起て童兒を起し之を汝の手に抱くべし我之を大なる國となさんと 19神ハガルの目を開きたまひければ水の井あるを見ゆきて革嚢に水を充し童兒に飲しめたり 20神童兒と偕に在す彼遂に成長り曠野に居りて射 者となり 21パランの曠野に住り其母彼のためにエジプトの國より妻を迎へたり 22當時アビメレクと其軍勢の長ピコル、アブラハムに語て言けるは汝 何事を爲にも神 汝とともに在す 23然ば汝が我とわが子とわが孫に 僞 をなさざらんことを今此に神をさして我に誓へ我が厚 情をもて汝をあつかふごとく汝 我と此 汝が寄留る地とに爲べし 24アブラハム言ふ我誓はん 25アブラハム、アビメレクの臣僕等が水の井を奪ひたる事につきてアビメレクを責ければ 26アビメレク言ふ我誰が此事を爲しを知ず汝 我に告しこと无く又我今日まで聞しことなし 27アブラハム乃ち羊と牛を取て之をアビメレクに與ふ斯て二人契約を結べり 28アブラハム牝の 羔 七を分ち置ければ 29アビメレク、アブラハムに言ふ汝 此 七の牝の 羔 を分ちおくは何のためなるや 30アブラハム言けるは汝わが手より此 七の牝の 羔 を取りて我が此井を掘たる證據とならしめよと彼等二人彼處に誓ひしによりて 31其 處をベエルシバ(盟約の井)と名けたり 32斯彼等ベエルシバにて契約を結びアビメレクと其軍勢の長ピコルは起てペリシテ人の國に歸りぬ 33アブラハム、ベエルシバに柳を植ゑ永遠に在す神ヱホバの名を彼處に籲り 34斯してアブラハム久くペリシテ人の地に留寄りぬ

第二十二章

1是等の事の後神アブラハムを試みんとて之をアブラハムよと呼たまふ彼言ふ我此にあり 2ヱホバ言給ひけるは爾 の子 爾の愛する獨子 即ちイサクを 携 てモリアの地に到りわが爾に示さんとする彼所の山に於て彼を燔祭として獻ぐべし 3アブラハム朝夙に起て其驢馬に鞍おき二人の少者と其子イサクを携へ且燔祭の柴薪を劈りて起て神の己に示したまへる處におもむきけるが 4三日におよびてアブラハム目を擧て遙に其 處を見たり 5是に於てアブラハム其少者に言けるは爾 等は驢馬とともに此に止れ我と童子は彼處にゆきて崇拜を爲し復 爾 等に歸ん 6アブラハム乃ち燔祭の柴薪を取て其子イサクに負せ手に火と 刀を執て二人ともに往り 7イサク父アブラハムに語て父よと曰ふ彼 答て子よ我此にありといひければイサク即ち言ふ火と柴薪は有り然ど燔祭の 羔 は何處にあるや 8アブラハム言けるは子よ神 自ら燔祭の 羔 を備へたまはんと二人偕に進みゆきて 9遂に神の彼に示したまへる處に到

れり是においてアブラハム彼處に壇を築き柴薪を臚列べ其子イサクを縛りて之を壇の柴薪の上に置せたり 10斯してアブラハム手を舒べ刀を執りて其子を宰んとす 11時にヱホバの使者天より彼を呼てアブラハムよアブラハムよと言へり彼言ふ我此にあり 12使者言けるは汝の手を童子に按るなかれ亦何をも彼に爲べからず汝の子 即ち汝の獨子をも我ために惜まざれば我今 汝が神を畏るを知ると 13茲にアブラハム目を擧て視れば後に牡綿羊ありて其角林叢に繋りたりアブラハム即ち往て其牡綿羊を執へ之を其子の代に燔祭として獻げたり 14アブラハム其 處をヱホバエレ(ヱホバ預備たまはん)と名く是に縁て今日もなほ人々山にヱホバ預備たまはんといふ 15ヱホバの使者　再天よりアブラハムを呼て 16言けるはヱホバ諭したまふ我己 を指て誓ふ汝 是事を爲し汝の子 即ち汝の獨子を惜まざりしに因て 17我 大に汝を祝み又 大に汝の子孫を増して天の星の如く濱の沙の如くならしむべし汝の子孫は其敵の門を獲ん 18又 汝の子孫によりて天下の民皆福祉を得べし汝わが言に遵ひたるによりてなりと 19斯てアブラハム其少者の所に歸り皆たちて偕にベエルシバにいたれりアブラハムはベエルシバに住り 20是等の事の後アブラハムに告る者ありて言ふミルカ亦 汝の兄 弟ナホルにしたがひて子を生り 21長子はウヅ其 弟 はブヅ其次はケムエル是はアラムの父なり 22其次はケセデ、ハゾ、ピルダシ、ヱデラフ、ベトエル 23ベトエルはリベカを生り是八人はミルカがアブラハムの兄 弟ナホルに生たる者なり 24ナホルの妾名はルマといふ者も亦テバ、ガハム、タハシおよびマアカを生り

第二十三章

1サラ百二十七歳なりき是 即ちサラの齢の年なり 2サラ、キリアテアルバにて死り是はカナンの地のヘブロンなりアブラハム至りてサラのために哀み且哭り 3斯てアブラハム死人の前より起ち出てヘテの子孫に語りて言けるは 4我は汝等の中の寳旅なり寄居者なり請ふ汝等の中にて我は墓 地を與へて吾が所有となし我をして吾が死人を出し葬ることを得せしめよ 5ヘテの子孫アブラハムに應て之に言ふ 6我主よ我等に聽たまへ我等の中にありて汝は神の如き君なり我等の墓 地の佳者を擇みて汝の死人を葬 れ我等の中一人も其墓 地を汝にをしみて汝をしてその死人を葬らしめざる者なかるべし 7是に於てアブラハム起ち其地の民ヘテの子孫に對て躬を鞠む 8而して彼等と語ひて言けるは若我をしてわが死人を出し葬るを得せしむる事汝等の意ならば請ふ我に聽て吾ためにゾハルの子エフロンに求め 9彼をして其野の極端に有るマクペラの洞穴を我に與へしめよ彼其十分の値を取て之を我に與へ汝等の中にてわが所有なる墓 地となさば善し 10時にエフロン、ヘテの子孫の中に坐しゐたりヘテ人エフロン、ヘテの子孫 即ち凡て其邑の門に入る者の聽る前にてアブラハムに應へて言けるは 11吾主よ我に聽たまへ其野は我汝 に與ふ又其中の洞穴も我之を汝に與ふ我吾民なる衆人の前にて之を汝にあたふ汝の死人を葬れ 12是に於てアブラハム其地の民の前に躬を鞠たり 13而して彼其地の民に聽る前にてエフロンに語りて言けるは汝 若之を肯はば請ふ吾に聽け我其野の値を汝に償はん汝 之を吾より取れ我わが死人を彼處に葬らん 14エフロン、アブラハムに答て曰けるは 15わが主よ我に聽たまへ彼地は銀四百シケルに當る是は我と汝の間に豈道に足んや然ば汝の死人を葬れ 16アブラハム、エフロンの言に從ひエフロンがヘテの子孫の聽る前にて言たる所の銀を秤り商買の中の通用銀四百シケルを之に與へたり 17マムレの前なるマクペラに在るエフロンの野は野も其中の洞穴も野の中と其四周の堺 にある樹も皆 18ヘテの子孫の前 即ち凡て其邑に入る者の前にてアブラハムの所有と定りぬ 19厥後アブラハム其妻サラをマムレの前なるマクペラの野の洞穴に葬れり是 即ちカナンの地のヘブロンなり 20斯く其野と其中の洞穴はヘテの子孫之をアブラハムの所有なる墓 地と定めたり

第二十四章

1アブラハム年 邁て老たりヱホバ萬の事に於てアブラハムを祝みたまへり 2茲にアブラハム其 凡の所有を 宰 る其家の年邁なる僕に言けるは請ふ爾の手を吾髀の下に置よ 3我 爾をして天の神地の神ヱホバを指て誓はしめん 即ち汝わが偕に居むカナン人の女の中より吾子に妻を娶るなかれ 4汝わが故國に往き吾親族に到りて吾子イサクのために妻を娶れ 5僕 彼に言けるは倘 女 我に從ひて此地に來ることを好まざる事あらん時は我 爾の子を彼 汝が出來りし地に導き歸るべきか 6アブラハム彼に曰けるは汝　愼みて吾子を彼處に携かへるなかれ 7天の神ヱホバ我を導きて吾父の家とわが親族の地を離れしめ我に語り我

に誓ひて汝の子孫に此地を與へんと言たまひし者其 使を遣して汝に先たしめたまはん汝 彼處より我子に妻を娶るべし 8若 女 汝に從ひ來る事を好ざる時は汝 吾此 誓を解るべし唯我子を彼處に携へかへるなかれ 9是に於て 僕手を其主人アブラハムの髀の下に置て此事について彼に誓へり 10斯て僕 其主人の駱駝の中より十頭の駱駝を取りて出たてり即ち其主人の 諸 の佳物を手にとりて起てメソポタミアに往きナホルの邑に至り 11其駱駝を邑の外にて井の 傍 に跪伏しめたり其時は黄昏にて婦女等の水汲にいづる時なりき 12斯して彼言けるは吾主人アブラハムの神ヱホバよ願くは今日我にその者を逢しめわが主人アブラハムに恩恵を施し給へ 13我この水井の 傍 に立ち邑の人の女 等水を汲に出づ 14我童女に向ひて請ふ汝の瓶をかたむけて我に飲しめよと言んに彼答へて飲め我また 汝の駱駝にも飲しめんと言ば彼は汝が僕イサクの爲に定め給ひし者なるべし然れば我 汝の吾主人に恩恵を施し給ふを知らん 15彼 語ふことを終るまへに視よリベカ瓶を肩にのせて出きたる彼はアブラハムの兄 弟ナホルの妻ミルカの子ベトエルに生れたる者なり 16其童女は觀に甚だ美しく且處女にして未だ人に適しことあらず彼井に下り其瓶に水を盈て上りしかば 17僕はせゆきて之にあひ請ふ我をして汝の瓶より少許の水を飲しめよといひけるに 18彼主よ飲たまへといひて乃ち急ぎ其瓶を手におろして之にのましめたりしが 19飲せをはりて言ふ汝の駱駝のためにも其飲をはるまで水を汲て飽しめん 20急ぎて其瓶を水鉢にあけ又汲んとて井にはせゆき其 諸 の駱駝のために汲みたり 21其人之を見つめヱホバが其途に幸福をくだしたまふや否ややをしらんとして默し居たり 22茲に駱駝飲をはりしかば其人 重 半シケルの金の鼻環一箇と重 十シケルの金の手釧二箇をとりて 23言けるは汝は誰の女なるや請ふ我に告よ汝の父の家に我等が宿る隙地ありや 24女 彼に曰けるは我はミルカがナホルに生みたる子ベトエルの女なり 25又彼にいひけるは家には藁も飼草も多くあり且宿る隙地もあり 26是に於て其人伏てヱホバを拜み 27言けるは吾主人アブラハムの神ヱホバは讃美べきかなわが主人に慈恵と眞實とを缺きたまはず我途にありしにヱホバ我を吾主人の兄 弟の家にみちびきたまへり 28茲に童女走行てその母の家に此等の事を告たり 29リベカに一人の兄あり其名をラバンといふラバンはせいで井にゆきて其人の許につく 30すなはち彼鼻環および其 妹 の手の手釧を見又其妹 リベカが其人斯我に語りといふを聞て其人の所に到り見るに井の側らにて駱駝の傍にたちゐたれば 31之に言けるは汝ヱホバに祝るる者よ請ふ入れ奚ぞ外にたつや我家を備へ且駱駝のために所をそなへたり 32是に於て其人家にいりぬラバン乃ち其駱駝の負を釋き藁と飼草を駱駝にあたへ又水をあたへて其人の足と其從者の足をあらはしめ 33斯して彼の前に食をそなへたるに彼言ふ我はわが事をのぶるまでは食はじとラバン語れといひければ 34彼言ふわれはアブラハムの僕なり 35ヱホバ大にわが主人をめぐみたまひて大なる者とならしめ又 羊 牛金銀 僕 婢 駱駝驢馬をこれにたまへり 36わが主人の妻サラ年老てのちわが主人に男子をうみければ主人其所有を 悉 く之に與ふ 37わが主人我を誓せて言ふ吾すめるカナンの地の人の女子の中よりわが子に妻を娶るなかれ 38汝わが父の家にゆきわが親族にいたりわが子のために妻をめとれと 39我わが主人にいひけるは倘 女 我にしたがひて來ずば如何 40彼我にいひけるは吾事ふるところのヱホバ其使者を汝とともに遣はして汝の途に幸福を降したまはん爾わが親族わが父の家より吾子に妻をめとるべし 41汝わが親族に至れる時はわが誓を解さるべし若彼等 汝にあたへずば汝はわが誓をゆるさるべしと 42我今日井に至りて謂けらくわが主人アブラハムの神ヱホバねがはくはわがゆく途に幸福を降したまへ 43我はこの井水の 傍 に立つ水を汲にいづる處女あらん時我彼にむかひて請ふ汝の瓶より少許の水を我にのましめよと言んに 44若我に答へて汝 飲め我亦 汝の駱駝のためにも汲んと言ば是ヱホバがわが主人の子のために定たまひし女なるべし 45我 心の中に語 ふことを終るまへにリベカ其瓶を肩にのせて出來り井にくだりて水を汲みたるにより我彼に請ふ我にのましめよと言ければ 46彼急ぎ其瓶を肩よりおろしていひけるは飲めまた汝の駱駝にものましめんと是に於て我飲しが彼また駱駝にものましめたり 47我彼に問て汝は誰の女なるやといひければミルカがナホルに生たる子ベトエルの女なりといふ是に於て我其鼻に環をつけ其手に手釧をつけたり 48而して我伏てヱホバを拜み吾主人アブラハムの神ヱホバを頌美たりヱホバ我を正き途に導きてわが主人の兄 弟の女を其子のために娶しめんとしたまへばなり 49されば汝等若わが主人にむかひて慈恵と眞誠をもて事をなさんと思はば我に告よ然ざるも亦我に告よ然ば我右か 左におもむくをえん 50ラバンとベトエル答て言けるは此事

はヱホバより出づ我等汝に善惡を言ふあたはず 51視よリベカ汝の前にをる携へてゆき彼をしてヱホバの言たまひし如く汝の主人の子の妻とならしめよ 52アブラハムの僕彼等の言を聞て地に伏てヱホバを拜めり 53是に於て僕銀の飾品金の飾品および衣服をとりいだしてリベカに與へ亦其兄と母に寶物をあたへたり 54是に於て彼および其從者等食飲して宿りしが朝起たる時彼言我をして吾主人に還らしめよ 55リベカの兄と母言けるは童女を數日の間少くも十日我等と偕にをらしめよしかるのち彼ゆくべし 56彼人之に言ヱホバ吾途に福祉をくだしたまひたるなれば我を阻むるなかれ我を歸してわが主人に往しめよ 57彼等いひけるは童女をよびて其言を問んと 58即ちリベカを呼て之に言けるは汝此人と共に往や彼言ふ往ん 59是に於て彼等妹リベカと其乳媼およびアブラハムの僕と其從者を遣り去しめたり 60即ち彼等リベカを祝して之にいひけるはわれらの妹よ汝千萬の人の母となれ汝の子孫をして其仇の門を獲しめよ 61是に於てリベカ起て其童女等とともに駱駝にのりて其人にしたがひ往く僕乃ちリベカを導きてさりぬ 62茲にイサク、ラハイロイの井の路より來れり南の國に住居たればなり 63しかしてイサク黄昏に野に出て默想をなしたりしが目を擧て見しに駱駝の來るあり 64リベカ目をあげてイサクを見駱駝をおりて 65僕にいひけるは野をあゆみて我等にむかひ來る者は何人なるぞ僕わが主人なりといひければリベカ覆衣をとりて身をおほへり 66茲に僕其凡てなしたる事をイサクに告ぐ 67イサク、リベカを其母サラの天幕に携至りリベカを娶りて其妻となしてこれを愛したりイサクは母にわかれて後茲に慰籍を得たり

第二十五章

1アブラハム再妻を娶る其名をケトラといふ 2彼ジムラン、ヨクシヤン、メダン、ミデアン、イシバク、シユワを生り 3ヨクシヤン、シバとデダンを生むデダンの子はアッシユリ族レトシ族リウミ族なり 4ミデアンの子はエパ、エペル、ヘノク、アビダ、エルダアなり是等は皆ケトラの子孫なり 5アブラハム其所有を盡くイサクに與へたり 6アブラハムの妾等の子にはアブラハム其生る間の物をあたへて之をして其子イサクを離れて東にさりて東の國に至らしむ 7アブラハムの生存へたる齡の日は即ち百七十五年なりき 8アブラハム遐齡に及び老人となり年滿て氣たえ死て其民に加る 9其子イサクとイシマエル之をヘテ人ゾハルの子エフロンの野なるマクペラの洞穴に葬れり是はマムレの前にあり 10即ちアブラハムがヘテの子孫より買たる野なり彼處にアブラハムと其妻サラ葬らる 11アブラハムの死たる後神其子イサクを祝みたまふイサクはベエルラハイロイの邊に住り 12サラの侍婢なるエジプト人ハガルがアブラハムに生たる子イシマエルの傳は左のごとし 13イシマエルの子の名は其名氏と其世代に循ひて言ば是のごとしイシマエルの長子はネバヨテなり其次はケダル、アデビエル、ミブサム 14ミシマ、ドマ、マツサ 15ハダデ、テマ、ヱトル、ネフシ、ケデマ 16是等はイシマエルの子なり是等は其鄉黨を其營にしたがひて言る者にして其國に循ひていへば十二の牧伯なり 17イシマエルの齡は百三十七歲なりき彼いきたえ死て其民にくはははる 18イシマエルの子等はハビラよりエジプトの前なるシユルまでの間に居住てアッスリヤまでにおよべりイシマエルは其すべての兄弟等のまへにすめり 19アブラハムの子イサクの傳は左のごとしアブラハム、イサクを生り 20イサク四十歲にしてリベカを妻に娶れりリベカはパダンアラムのスリア人ベトエルの女にしてスリア人ラバンの妹なり 21イサク其妻の子なきに因て之がためにヱホバに祈願をたてければヱホバ其ねがひを聽たまへり遂に其妻リベカ孕みしが 22其子胎の内に爭そひければ然らば我いかで斯てあるべきと言て往てヱホバに問に 23ヱホバ彼に言たまひけるは二の國民汝の胎にあり二の民汝の腹より出て別れん一の民は一の民よりも強かるべし大は小に事へんと 24かくて臨月みちて見しに胎には孿ありき 25先に出たる者は赤くして躰中裘の如し其名をエサウと名けたり 26其後に弟出たるが其手にエサウの踵を持り其名をヤコブとなづけたりリベカが彼等を生し時イサクは六十歲なりき 27茲に童子人となりしがエサウは巧なる獵人にして野の人となりヤコブは質樸なる人にして天幕に居ものとなれり 28イサクは麑を嗜によりてエサウを愛したりしがリベカはヤコブを愛したり 29茲にヤコブ羹を煮たり時にエサウ野より來りて憊れ居り 30エサウ、ヤコブにむかひ我憊れたれば請ふ其紅羹其處にある紅羹を我にのませよといふ是をもて彼の名はエドム(紅)と稱らる 31ヤコブ言けるは今日汝の家督の權を我に鬻れ 32エサウいふ我は死んとして居る此家督の權我に何の益をなさんや 33ヤコブまた言けるは今日我に誓へと彼すな

はち誓て其家督の権をヤコブに譲ぬ 34是に於てヤコブ、パンと扁豆の羹とをエサウに與へければ食且飲て起て去り斯エサウ家督の権を藐視じたり

第二十六章

1アブラハムの時にありし最初の饑饉の外に又其國に饑饉ありければイサク、ゲラルに往てペリシテ人の王アビメレクの許にいたれり 2時にヱホバ彼にあらはれて言たまひけるはエジプトに下るなかれ吾汝に示すところの地にをれ 3汝此地にとどまれ我汝と共にありて汝を祝まん我是等の國を盡く汝および汝の子孫に與へ汝の父アブラハムに誓ひたる誓言を行ふべし 4われ汝の子孫を増て天の星のごとくなし汝の子孫に凡て是等の國を與へん汝の子孫によりて天下の國民皆福祉を獲べし 5是はアブラハムわが言に順ひわが職守とわが誡命とわが憲法とわが律法を守りしに因てなり 6イサク乃ちゲラルに居しが 7處の人其妻の事をとへば我妹なりと言ふリベカは觀に美麗かりければ其處の人リベカの故をもて我を殺さんと謂て彼をわが妻と言をおそれたるなり 8イサク久しく彼處にをりし後一日ペリシテ人の王アビメレク\牖より望みてイサクが其妻リベカと嬉戯るを見たり 9是に於てアビメレク、イサクを召て言けるは彼は必ず汝の妻なり汝なんぞ吾妹といひしやイサク彼に言けるは恐くは我彼のために死るならんと思たればなり 10アビメレクいひけるは汝なんぞ此事を我等になすや民の一人もし輕々しく汝の妻と寢ることあらんその時は汝罪を我等に蒙らしめんと 11アビメレク乃ちすべて民に皆命じて此人と其妻にさはるものは必ず死すべしと言り 12イサク彼地に種播て其年に百倍を獲たりヱホバ彼を祝みたまふ 13其人大になりゆきて進て盛になり遂に甚だ大なる者となれり 14即ち羊と牛と僕從を多く有しかばペリシテ人彼を嫉みたり 15其父アブラハムの世に其父の僕從が掘たる諸の井はペリシテ人之をふさぎて土を之にみてたり 16茲にアビメレク、イサクに言けるは汝は大に我等よりも強大ければ我等をはなれて去れと 17イサク乃ち彼處をさりてゲラルの谷に天幕を張て其處に住り 18其父アブラハムの世に掘たる水井をイサク茲に復び鑿り其はアブラハムの死たる後ペリシテ人之を塞ぎたればなり斯してイサク其父が之に名けたる名をもて其名となせり 19イサクの僕谷に掘て其處に泉の湧出る井を得たり 20ゲラルの牧者此水は我儕の所屬なりといひてイサクの僕と爭ひければイサク其井の名をエセク(競爭)と名けたり彼等が己と之を競爭たるによりてなり 21是に於て又他の井を鑿しが彼等是をも爭ひければ其名をシテナ(敵)となづけたり 22イサク乃ち彼處より遷りて他の井を鑿けるが彼等之をあらそはざりければ其名をレホボテ(廣場)と名けて言けるは今ヱホバ我等の處所を廣くしたまへり我等此地を繁衍ん 23斯て彼其處よりベエルシバにのぼりしが 24其夜ヱホバ彼にあらはれて言たまひけるは我は汝の父アブラハムの神なり懼るるなかれ我汝と偕にありて汝を祝み我僕アブラハムのために汝の子孫を増んと 25是に於て彼處に壇を築きてヱホバの名を籲び天幕を彼處に張り彼處にてイサクの僕井を鑿り 26茲にアビメレク其友アホザテ及び其軍勢の長ピコルと共にゲラルよりイサクの許に來りければ 27イサク彼等に言ふ汝等は我を惡み我をして汝等をはなれて去らしめたるなるに何ぞ我許に來るや 28彼等いひけるは我等確然にヱホバが汝と偕にあるを見たれば我等の間即ち我等と汝の間に誓詞を立て汝と契約を結ばんと謂へり 29汝我等に惡事をなすなかれ其は我等は汝を害せず只善事のみを汝になし且汝を安然に去しめたればなり汝はヱホバの祝みたまふ者なり 30イサク乃ち彼等のために酒宴を設けたれば彼等食ひ且飲り 31斯て朝夙に起て互に相誓へり而してイサク彼等を去しめたれば彼等イサクをはなれて安然にかへりぬ 32其日イサクの僕來りて其ほりたる井につきて之に告て我等水を得たりといへり 33即ち之をシバとなづく此故に其邑の名は今日までベエルシバ(誓詞の井)といふ 34エサウ四十歳の時ヘテ人の女ユデテとヘテ人エロンの女バスマテを妻に娶り 35彼等はイサクとリベカの心の愁煩となれり

第二十七章

1イサク老て目くもりて見るあたはざるに及びて其長子エサウを召て之に吾子よといひければ答へて我此にありといふ 2イサクいひけるは視よ我は今老て何時死るやを知ず 3然ば請ふ汝の器汝の弓矢を執て野に出でわがために麞を獵て 4わが好む美味を作り我にもちきたりて食はしめよ我死るまへに心に汝を祝せん 5イサクが其子エサウに語る時にリベカ聞ゐたりエサウは麞を獵て携きたらんとて野に往り 6是に於てリベカ其子ヤコブに語りていひけるは我聞ゐたるに汝の父汝の兄エサウに語りて言けら

く 7吾ために麑をとりきたり美味を製りて我にくはせよ
死るまへに我ヱホバの前にて汝を祝せんと 8然ば吾子よ
吾 言にしたがひわが汝に命ずるごとくせよ 9汝 群畜の
所にゆきて彼處より山羊の二箇の善き羔を我にとりきた
れ我之をもて汝の父のために其好む美味を製らん 10汝 之
を父にもちゆきて食しめ其死る前に汝を祝せしめよ 11ヤ
コブ其母リベカに言けるは兄エサウは毛深き人にして我
は滑澤なる人なり 12恐くは父我に捫ることあらん然らば
我は欺く者と父に見えんされば祝をえずして返て呪詛を
まねかん 13其母彼にいひけるは我子よ汝の詛はるる所は
我に歸せん只わが言にしたがひ往て取來れと 14是におい
て彼往て取り母の所にもちきたりければ母すなはち父の
好むところの美味を製れり 15而してリベカ家の中に己の
所にある長子エサウの美服をとりて之を季子ヤコブに衣
せ 16又山羊の羔の皮をもて其手と其頸の滑澤なる處とを
掩ひ 17其製りたる美味とパンを子ヤコブの手にわたせり
18彼 乃ち父の許にいたりて我父よといひければ我此にあ
りわが子よ汝は誰なると曰ふ 19ヤコブ父にいひけるは我
は汝の長子エサウなり我 汝が我に命じたるごとくなせり
請ふ起て坐しわが麑の肉をくらひて汝の心に我を祝せよ
20イサク其子に言けるは吾子よ汝いかにして斯 速に獲
たるや彼言ふ汝の神ヱホバ之を我にあはせたまひしが故
なり 21イサク、ヤコブにいひけるはわが子よ請ふ近くよ
れ我 汝に捫て汝がまことに吾子エサウなるや否やをしら
ん 22ヤコブ父イサクに近よりければイサク之にさはりて
いひけるは聲はヤコブの聲なれども手はエサウの手なり
と 23彼の手其兄エサウの手のごとく毛深かりしに因て之
を辨別へずして遂に之を祝したり 24即ちイサクいひける
は汝はまことに吾子エサウなるや彼然りといひければ 25
イサクいひけるは我に持きたれ吾子の麑を食ひてわが心
に汝を祝せんと是に於てヤコブ彼の許にもちきたりけれ
ば食へり又酒をもちきたりければ飲り 26かくて父イサク
彼にいひけるは吾子よ近くよりて我に接吻せよと 27彼す
なはち近よりて之に接吻しければ其 衣の馨香をかぎて彼
を祝していひけるは嗚呼吾子の香はヱホバの祝たまへる
野の馨香のごとし 28ねがはくは神天の露と地の腴および
饒多の穀と酒を汝にたまへ 29諸 の民 汝につかへ諸 の邦
汝 に躬を鞠ん汝 兄 弟等の主となり汝の母の子等 汝に身
をかがめん汝を詛ふ者はのろはれ汝を祝す者は祝せらる
べし 30イサク、ヤコブを祝することを終てヤコブ父イサ
クの前より出さりし時にあたりて兄エサウ獵より歸り來
り 31己も亦美味をつくりて之を其父の許にもちゆき父に
いひけるは父よ起て其子の麑を食ひて心に我を祝せよ 32
父イサク彼にいひけるは汝は誰なるや彼いふ我は汝の子
汝 の長子エサウなり 33イサク 甚 大に戰兢ていひけるは
然 ば彼麑を獵て之を我にもちきたりし者は誰ぞや我 汝
がきたるまへに 諸 の物を食ひて彼を祝したれば彼まこ
とに祝福をうべし 34エサウ父の言を聞て大に哭き痛く泣
て父にいひけるは父よ我を祝せよ我をも祝せよ 35イサク
言けるは汝の 弟 僞りて來り汝の祝を奪ひたり 36エサウ
いひけるは彼をヤコブ(推除者)となづくるは宜ならずや
彼が我をおしのくる事此にて二次なり昔にはわが家督の
權を奪ひ今はわが祝を奪ひたり又言ふ汝は祝をわがため
に殘しおかざりしや 37イサク對てエサウにいひけるは我
彼を汝の主となし其兄 弟を 悉 く僕として彼にあたへた
り又穀と酒とを彼に授けたり然ば吾子よ我何を汝になす
をえん 38エサウ父に言けるは父よ父の祝 唯 一ならんや
父よ我を祝せよ我をも祝せよと聲をあげて哭ぬ 39父イサ
ク答て彼にいひけるは汝の住所は地の膏腴にはなれ上よ
りの天の露にはなるべし 40汝は劍をもて世をわたり汝の
弟 に事ん然ど汝 繫を離るる時は其 軛を汝の頸より振ひ
おとすを得ん 41エサウ父のヤコブを祝したる其 祝の爲に
ヤコブを惡めり即ちエサウ心に謂けるは父の喪の日近け
れば其時我 弟 ヤコブを殺さんと 42長子エサウの此 言リ
ベカに聞えければ季子ヤコブを呼よせて之に言けるは 汝
の兄エサウ汝を殺さんとおもひて自ら慰む 43されば吾子
よ我 言にしたがひ起てハランにゆきわが兄ラバンの許に
のがれ 44汝の兄の怒の釋るまで暫く彼とともに居れ 45 汝
の兄の鬱 憤 釋て汝をはなれ汝 彼になしたる事を忘るる
にいたらば我人をやりて汝を彼處よりむかへん我何ぞ
一日のうちに汝等二人を喪ふべけんや 46リベカ、イサク
に言けるは我はヘテの女 等のために世を厭ふにいたるヤ
コブ若此地の彼 女 等の如きヘテの女の中より妻を娶ら
ば我身生るも何の利益あらんや

第二十八章

1イサク、ヤコブを呼て之を祝し之に命じて言けるは汝カ
ナンの女の中より妻を娶るなかれ 2起てパダンアラムに
往き汝の母の父ベトエルの家にいたり彼處にて汝の母の
兄ラバンの女の中より妻を娶れ 3願くは全能の神 汝を祝

み汝をして子女を多く得せしめ且汝の子孫を増て汝をして多衆の民とならしめ 4 又アブラハムに賜んと約束せし祝を汝および汝と共に汝の子孫に賜ひ汝をして神がアブラハムにあたへ給ひし此汝が寄寓る地を持たしめたまはんことをと 5 斯てイサク、ヤコブを遣しければパダンアラムにゆきてラバンの所にいたれりラバンはスリア人ベトエルの子にしてヤコブとエサウの母なるリベカの兄なり 6 エサウはイサクがヤコブを祝して之をパダンアラムにつかはし彼處より妻を娶しめんとしたるを見又之を祝し汝はカナンの女の中より妻をめとるなかれといひて之に命じたることを見 7 又ヤコブが其父母の言に順ひてパダンアラムに往しを見たり 8 エサウまたカナンの女の其父イサクの心にかなはぬを見たり 9 是においてエサウ、イシマエルの所にゆきて其有る妻の外に又アブラハムの子イシマエルの女ネバヨテの妹マハラテを妻にめとれり 10 茲にヤコブ、ベエルシバより出たちてハランの方におもむきけるが 11 一處にいたれる時日暮たれば即ち其處に宿り其處の石をとり枕となして其處に臥て寢たり 12 時に彼夢て梯の地にたちゐて其巓の天に達れるを見又神の使者の其にのぼりくだりするを見たり 13 ヱホバ其上に立て言たまはく我は汝の祖父アブラハムの神イサクの神ヱホバなり汝が偃臥ところの地は我之を汝と汝の子孫に與へん 14 汝の子孫は地の塵沙のごとくなりて西東北南に蔓るべし又天下の諸の族汝と汝の子孫によりて福祉をえん 15 また我汝とともにありて凡て汝が往ところにて汝をまもり汝を此地に率返るべし我はわが汝にかたりし事を行ふまで汝をはなれざるなり 16 ヤコブ目をさまして言けるは誠にヱホバ此處にいますに我しらざりきと 17 乃ち惶懼ていひけるは畏るべき哉此處是即ち神の殿の外ならず是天の門なり 18 かくてヤコブ朝夙に起き其枕となしたる石を取り之を立て柱となし膏を其上に沃ぎ 19 其處を名をベテル(神殿)と名けたり其邑の名は初はルズといへり 20 ヤコブ乃ち誓をたてていひけるは若神我とともにいまし此わがゆく途にて我をまもり食ふパンと衣る衣を我にあたへ 21 我をしてわが父の家に安然に歸ることを得せしめたまはばヱホバをわが神となさん 22 又わが柱にたてたる此石を神の家となさん又汝がわれにたまふ者は皆必ず其十分の一を汝にささげん

第二十九章

1 斯てヤコブ其途にすすみて東の民の地にいたりて 2 見るに野に井ありて羊の群三其傍に臥ゐたり此井より群に飲へばなり大なる石井の口にあり 3 羊の群皆其處に集る時に井の口より石をまろばして羊に水飼ひ復故のごとく井の口に石をのせおくなり 4 ヤコブ人々に言けるは兄弟よ奚よりきたれるや彼等いふ我等はハランより來る 5 ヤコブ彼等にいひけるは汝等ナホルの子ラバンをしるや彼等識といふ 6 ヤコブ又かれらにいひけるは彼は安きや彼等いふ安し視よ彼の女ラケル羊と偕に來ると 7 ヤコブ言ふ視よ日尚高し家畜を聚むべき時にあらず羊に飲ひて往て牧せよ 8 彼等いふ我等しかする能はず群の皆聚るに及て井の口より石をまろばして羊に飲ふべきなり 9 ヤコブ尚彼等と語れる時にラケル父の羊とともに來る其は之を牧居たればなり 10 ヤコブ其母の兄ラバンの女ラケルおよび其母の兄ラバンの羊を見しかばヤコブ進みよりて井の口より石をまろばし母の兄ラバンの羊に飲ひたり 11 而してヤコブ、ラケルに接吻して聲をあげて啼哭ぬ 12 即ちヤコブ、ラケルに己はその父の兄弟にしてリベカの子なることを告ければ彼はしりゆきて父に告たり 13 ラバン其妹の子ヤコブの事を聞しかば趨ゆきて之を迎へ之を抱きて接吻し之を家に導きいたれりヤコブすなはち此等の事を悉くラバンに述たり 14 ラバン彼にいひけるは汝は誠にわが骨肉なりとヤコブ一月の間彼とともに居る 15 茲にラバン、ヤコブにいひけるは汝はわが兄弟なればとて空く我に役事べけんや何の報酬を望むや我に告よ 16 ラバン二人の女子を有り姉の名はレアといひ妹の名はラケルといふ 17 レアは目弱かりしがラケルは美くして姝し 18 ヤコブ、ラケルを愛したれば言ふ我汝の季女ラケルのために七年汝に事ん 19 ラバンいひけるは彼を他の人にあたふるよりも汝にあたふるは善し我と偕に居れ 20 ヤコブ七年の間ラケルのために勤たりしが彼を愛するが爲に此を數日の如く見做り 21 茲にヤコブ、ラバンに言けるはわが期滿たればわが妻をあたへて我をしてかれの處にいることを得せしめよ 22 是に於てラバン處の人を盡く集めて酒宴を設けたりしが 23 晩に及びて其女レアを携へて此をヤコブにつれ來れりヤコブ即ち彼の處にいりぬ 24 ラバンまた其侍婢ジルパを娘レアに與へて侍婢となさしめたり 25 朝にいたりて見るにレアなりしかばヤコブ、ラバンに言けるは汝なんぞ此事を我になしたるや我ラケルのために汝に役事しにあらずや汝なんぞ我を欺くや 26 ラバン

いひけるは姉より先に妹を嫁しむる事は我國にて爲ざるところなり 27其七日を過せ我等是をも汝に與へん然ば汝 是がために尚七年我に事へて勤むべし 28ヤコブ即ち斯なして其七日をすごせしかばラバン其女ラケルをも之にあたへて妻となさしむ 29またラバン其侍婢ビルハを 女ラケルにあたへて侍婢となさしむ 30ヤコブまたラケルの所 にいりぬ彼レアよりもラケルを愛し尚七年ラバンに事 たり 31ヱホバ、レアの嫌るるを見て其胎をひらきたまへり然どラケルは姙なきものなりき 32レア孕みて子を生み其名をルベンと名けていひけるはヱホバ誠にわが艱苦を顧みたまへりされば今 夫 我を愛せんと 33彼ふたたび孕みて子を産みヱホバわが嫌るるを聞たまひしによりて我に是をもたまへりと言て其名をシメオンと名けたり 34彼また孕みて子を生み我三人の子を生たれば夫 今より我に膠漆んといへり是によりて其名をレビと名けたり 35彼復姙みて子を生み我今ヱホバを讃美んといへり是によりて其名をユダと名けたり是にいたりて産ことやみぬ

第三十章

1ラケル己がヤコブに子を生ざるを見て其姉を夢みヤコブに言けるは我に子を與へよ然らずば我死んと 2ヤコブ、ラケルにむかひて怒を發して言ふ汝の胎に子をやどらしめざる者は神なり我神に代るをえんや 3ラケルいふ吾 婢ビルハを視よ彼の處に入れ彼子を生てわが膝に置ん然ば我もまた彼によりて子をうるにいたらんと 4其仕女ビルハを彼にあたへて妻となさしめたりヤコブ即ち彼の處にいる 5ビルハ遂にはらみてヤコブに子を生ければ 6ラケルいひけるは神我を監み亦わが聲を聽いれて吾に子をたまへりと是によりて其名をダンと名けたり 7ラケルの仕女ビルハ再び姙みて次の子をヤコブに生ければ 8ラケル我神の 爭 をもて姉と爭ひて勝ぬといひて其名をナフタリと名けたり 9茲にレア産ことの止たるを見しかば其仕女ジルパをとりて之をヤコブにあたへて妻となさしむ 10レアの仕女ジルパ、ヤコブに子を産ければ 11レア福來れりといひて其名をガドと名けたり 12レアの仕女ジルパ次子をヤコブに生ければ 13レアいふ我は 幸 なり女 等我を幸 なる者となさんと其名をアセルとなづけたり 14茲に麥苅の日にルベン出ゆきて野にて戀茄を獲これを母レアの許にもちきたりければラケル、レアにいひけるは請ふ我に汝の子の戀茄をあたへよ 15レア彼にいひけるは汝のわが夫を奪しは微き事ならんや然るに汝またわが子の戀茄をも奪んとするやラケルいふ然ば汝の子の戀茄のために夫 是夜 汝と寢べし 16晩におよびてヤコブ野より來りければレア之をいでむかへて言けるは我 誠にわが子の戀茄をもて汝を雇ひたれば汝 我の所にいらざるべからずヤコブ即ち其夜彼といねたり 17神レアに聽たまひければ彼妊みて第五の子をヤコブに生り 18レアいひけるは我わが仕女を夫に與へたれば神我に其 値をたまへりと其名をイツサカルと名けたり 19レア復妊みて第六の子をヤコブに生り 20レアいひけるは神我に嘉 賚を貺ふ我六人の男子を生たれば夫 今より我と偕にすまんと其名をゼブルンとなづけたり 21其後彼女 子を生み其名をデナと名けたり 22茲に神ラケルを念ひ神彼に聽て其胎を開きたまひければ 23彼妊みて男子を生て曰ふ神わが恥辱を洒ぎたまへりと 24乃ち其名をヨセフと名けて言ふヱホバ又他の子を我に加へたまはん 25茲にラケルのヨセフを生むに及びてヤコブ、ラバンに言けるは我を歸して故郷に我國に往しめよ 26わが汝に事て得たる所の妻子を我に與へて我を去しめよわが汝になしたる役事は汝 之を知るなり 27ラバン彼にいひけるは若なんぢの意にかなはばねがはくは留れ我ヱホバが汝のために我を祝みしを卜ひ得たり 28又言ふ汝 の望む値をのべよ我之を與ふべし 29ヤコブ彼にいひけるは汝は如何にわが汝に事しか如何に汝の家畜を牧しかを知る 30わが來れる前に汝の有たる者は鮮少なりしが増て遂に群をなすに至る吾來りてよりヱホバ汝を祝みたまへり然ども我は何時吾家を成にいたらんや 31彼言ふ我何を汝に與へんかヤコブいひけるは汝 何者をも我に與ふるに及ばず汝 若此事を我になさば我復 汝の群を牧守らん 32即ち我今日 徧く汝の群をゆきめぐりて其中より凡て斑なる者 黠なる者を移し綿羊の中の凡て黒き者を移し山羊の中の黠なる者と斑なる者を移さん是わが値なるべし 33後に汝 來りてわが傭値をしらぶる時わが義我にかはりて應 をなすべし若わが所に山羊の斑ならざる者 黠ならざる者あり綿羊の黒からざる者あらば皆 盜る者となすべし 34ラバンいふ汝の言の如くなさんことを願ふ 35是に於て彼其日牡山羊の斑入なる者斑點なる者を移し凡て牝山羊の斑駮なる者斑點なる者都て身に白色ある者を移し又綿羊の中の凡て黒き者を移して其子等の手に付せり 36而して彼 己とヤコブの間に三日程の 隔 をたてたりヤコブはラバンの餘の群を牧ふ 37茲にヤコブ楊柳と楓と桑の青

枝を執り皮を剥て白紋理を成り枝の白き所をあらはし 38 其皮をはぎたる枝を群の來りて飲むところの水槽と水鉢に立て群に向はしめ群をして水のみの來る時に孕ましむ 39 群すなはち枝の前に孕みて斑入の者斑駮なる者斑點なる者を產しかば 40 ヤコブ其羔羊を區分ちラバンの群の面を其群の斑入なる者と黑き者に對はしめたりしが己の群をば一所に置てラバンの群の中にいれざりき 41 又家畜の壯健き者孕みたる時はヤコブ水槽の中にて其家畜の目の前に彼枝を置き枝の傍において孕ましむ 42 然ど家畜の羸弱かる時は之を置ず是に因て羸弱者はラバンのとなり壯健者はヤコブのとなれり 43 是に於て其人大に富饒になりて多の家畜と婢僕および駱駝驢馬を有にいたれり

第三十一章

1 茲にヤコブ、ラバンの子等がヤコブわが父の所有を盡く奪ひ吾父の所有によりて此凡の榮光を獲たりといふを聞り 2 亦ヤコブ、ラバンの面を見るに己に對すること疇昔の如くならず 3 時にヱホバ、ヤコブに言たまへるは汝の父の國にかへり汝の親族に至れ我汝と偕にをらんと 4 是に於てヤコブ人をやりてラケルとレアを野に招きて群の所に至らしめ 5 之にいひけるは我汝等の父の面を見るに其我に對すること疇昔の如くならず然どわが父の神は我と偕にいますなり 6 汝等がしるごとく我力を竭して汝らの父に事へたるに 7 汝等の父我を欺きて十次もわが値を易たり然ども神彼の我を害するを容したまはず 8 彼斑駮なる者は汝の傭値なるべしといへば群の生ところ皆斑駮なり斑入の者は汝の値なるべしといへば群の生ところ皆斑入なり 9 斯神汝らの父の家畜を奪て我に與へたまへり 10 群の孕む時に當りて我夢に目をあげて見しに群の上に乘る牡羊は皆斑入の者斑駮なる者白點なる者なりき 11 時に神の使者夢の中に我に言ふヤコブよと我此にありと對へければ 12 乃ち言ふ汝の目をあげて見よ群の上に乘る牡羊は皆斑入の者斑駮なる者白點なる者なり我ラバンが凡て汝に爲すところを鑒みる 13 我はベテルの神なり汝彼處にて柱に膏を沃ぎ彼處にて我に誓を立たり今起て斯地を出て汝の親族の國に歸れと 14 ラケルとレア對て彼にいひけるは我等の父の家に尚われらの分あらんや 15 我等の產業あらんや我等は父に他人のごとくせらるるにあらずや其は父我等を賣り亦我等の金を蝕滅したればなり 16 神がわが父より取たまひし財寶は我等とわれらの子女の所屬なり然ば都て神の汝に言たまひし事を爲せ 17 是に於てヤコブ起て子等と妻等を駱駝に乘せ 18 其獲たる凡の家畜と凡の所有即ちパダンアラムにてみづから獲たるところの家畜を携へ去てカナンの地に居所の其父イサクの所におもむけり 19 時にラバンは羊の毛を剪んとて往てありラケル其父のテラピムを竊めり 20 ヤコブは其去ことをスリア人ラバンに告ずして潛に忍びいでたり 21 即ち彼その凡の所有を挈へて逃去り起て河を渡りギレアデの山にむかふ 22 ヤコブの逃去しこと三日におよびてラバンに聞えければ 23 彼兄弟を率てその後を追ひしが七日路をへてギレアデの山にて之に追及ぬ 24 神夜の夢にスリア人ラバンに臨みて汝愼みて善も惡もヤコブに道なかれと之に告たまへり 25 ラバン遂にヤコブに追及しがヤコブは山に天幕を張ゐたればラバンもその兄弟と共にギレアデの山に天幕をはれり 26 而してラバン、ヤコブに言けるは汝我に知しめずして忍びいで吾女等を劍をもて執たる者のごとくにひき往り何ぞかかる事をなすや 27 何故に汝潛に逃さり我をはなれて忍いで我につげざりしや我歡喜と歌謠と鼗と琴をもて汝を送りしならんを 28 何ぞ我をしてわが孫と女に接吻するを得ざらしめしや汝愚妄なる事をなせり 29 汝等に害をくはふるの能わが手にあり然ど汝等の父の神昨夜我に告て汝つつしみて善も惡もヤコブに語べからずといへり 30 汝今父の家を甚く戀て歸んと願ふは善れども何ぞわが神を竊みたるや 31 ヤコブ答へてラバンにいひけるは恐くは汝強て女を我より奪ならんと思ひて懼れたればなり 32 汝の神を持る者を見ば之を生しおくなかれ我等の兄弟等の前にて汝の何物我の許にあるかをみわけて之を汝に取れと其はヤコブ、ラケルが之を竊しを知ざればなり 33 是に於てラバン、ヤコブの天幕に入りレアの天幕に入りまた二人の婢の天幕にいりしが視いださざればレアの天幕を出てラケルの天幕にいる 34 ラケル已にテラピムを執て之を駱駝の鞍の下にいれて其上に坐しければラバン遍く天幕の中をさぐりたれども見いださざりき 35 時にラケル父にいひけるは婦女の經の習例の事わが身にあれば父の前に起あたはず願くは主之を怒り給ふなかれと是をもて彼さがしたれども遂にテラピムを見いださざりき 36 是に於てヤコブ怒てラバンを譴即ちヤコブ應てラバンに言けるは我何の愆あり何の罪ありてか汝火急く我をおふや 37 汝わが物を盡く索たるが汝の家の何物を見いだしたるや此にわが兄弟と汝の兄弟

の前に其を置て我等二人の間をさばかしめよ 38我この二十年汝とともにありしが汝の牝綿羊と牝山羊其胎を殰ねしことなし又汝の群の牡綿羊は我食はざりき 39又噛裂れたる者は我これを汝の所に持きたらずして自ら之を補へり又晝竊るるも夜竊るるも汝わが手より之を要めたり 40我は是ありつ晝は暑に夜は寒に犯されて目も寐るの遑なく 41此二十年汝の家にありたり汝の二人の女の爲に十四年汝の群のために六年汝に事たり然に汝は十次もわが値を易たり 42若わが父の神アブラハムの神イサクのの畏む者我とともにいますにあらざれば汝今必ず我を空手にて去しめしならん神わが苦難とわが手の勞苦をかへりみて昨夜汝を責たまへるなり 43ラバン應てヤコブに言けるは女等はわが女子等はわが子群はわが群汝が見る者は皆わが所屬なり我今日此わが女等とその生たる子等に何をなすをえんや 44然ば來れ我と汝二人契約をむすび之を我と汝の間の證憑となすべし 45是に於てヤコブ石を執りこれを建て柱となせり 46ヤコブ又その兄弟等に石をあつめよといひければ即ち石をとりて垤を成れり斯て彼等彼處にて垤の上に食す 47ラバン之をエガルサハドタ(證憑の垤)と名けヤコブ之をギレアデ(證憑の垤)と名けたり 48ラバン此垤今日われとなんぢの間の證憑たりといひしによりて其名はギレアデととなへらる 49又ミヅパ(觀望樓)と稱らる其は彼我等が互にわかるるに及べる時ねがはくはヱホバ我と汝の間を監みたまへといひたればなり 50彼又いふ汝もしわが女をなやまし或はわが女のほかに妻をめとらば人の我らと偕なる者なきも神と汝のあひだにいまして證をなしたまふ 51ラバン又ヤコブにいふ我われとなんぢの間にたてたる此垤を視よ柱をみよ 52此垤證とならん柱證とならん我この垤を越て汝を害せじ汝この垤この柱を越て我を害せざれ 53アブラハムの神ナホルの神彼等の父の神われらの間を鞫きたまへとヤコブ乃ちその父イサクの畏む者をさして誓へり 54斯てヤコブ山にて犧牲をささげその兄弟を招きてパンを食しむ彼等パンを食ひて山に宿れり 55ラバン朝蚤に起き其孫と女に接吻して之を祝せりしかしてラバンゆきて其所にかへりぬ

第三十二章

1茲にヤコブその途に進みしが神の使者これにあふ 2ヤコブこれを見て是は神の陣營なりといひてその處の名をマハナイム(二營)となづけたり 3かくてヤコブ己より前に使者をつかはしてセイルの地エドムの野にをる其兄エサウの所にいたらしむ 4即ち之に命じて言ふ汝等かくわが主エサウにいふべし汝の僕ヤコブ斯いふ我ラバンの所に寄寓て今までとどまれり 5我牛驢馬羊僕婢あり人をつかはしてわが主に告ぐ汝の前に恩をえんことを願ふなりと 6使者ヤコブにかへりて言けるは我等汝の兄エサウの許に至れり彼四百人をしたがへて汝をむかへんとて來ると 7是によりヤコブ大におそれ且くるしみ己とともにある人衆および羊と牛と駱駝を二隊にわかちて 8言けるはエサウもし一の隊に來りて之をうたば遺れるところの一隊逃るべし 9ヤコブまた言けるはわが父アブラハムの神わが父イサクの神ヱホバよ汝嘗て我につげて汝の國にかへり汝の親族に到れ我なんぢを善せんといひたまへり 10我はなんぢが僕にほどこしたまひし恩惠と眞實を一も受るにたらざるなり我わが杖のみを持てこのヨルダンを濟りしが今は二隊とも成にいたれり 11願くはわが兄の手よりエサウの手より我をすくひいだしたまへ我彼をおそる恐くは彼きたりて我をうち母と子とに及ばん 12汝は嘗て我かならず汝を惠み汝の子孫を濱の沙の多して數ふべからざるが如くなさんといひたまへりと 13彼その夜彼處に宿りその手にいりし物の中より兄エサウへの禮物をえらべり 14即ち牝山羊二百牡山羊二十牝羊二百牡羊二十 15乳駱駝と其子三十牝牛四十牡牛十牝の驢馬二十驢馬の子十 16而して其群と群とをわかちて之を僕の手に授し僕にいひけるは吾に先ちて進み群と群との間を隔ておくべし 17又その前者に命じて言けるはわが兄エサウ汝にあひ汝に問て汝は誰の人にして何處にゆくや是汝のまへなる者は誰の所有なるやといはば 18汝の僕ヤコブの所有にしてわが主エサウにたてまつる禮物なり視よ彼もわれらの後にをるといふべしと 19彼かく第二の者第三の者および凡て群々にしたがひゆく者に命じていふ汝等エサウにあふ時はかくの如く之にいふべし 20且汝等いへ視よなんぢの僕ヤコブわれらの後にをるとヤコブおもへらく我わが前におくる禮物をもて彼を和めて然るのち其面を觀ん然ば彼われを接遇ることあらんと 21是によりて禮物かれに先ちて行く彼は其夜陣營の中に宿りしが 22其夜おきいでて二人の妻と二人の仕女および十一人の子を導きてヤボクの渡をわたれり 23即ち彼等をみちびきて川を渉らしめ又その有る物を渡せり 24而してヤコブ一人遺りしが人あ

りて夜の明るまで之と角 力す 25其人 己のヤコブに勝ざるを見てヤコブの髀の樞骨に觸しかばヤコブの髀の樞骨其人と角 力する時挫離たり 26其人夜明んとすれば我をさらしめよといひければヤコブいふ汝われを祝せずばさらしめずと 27是に於て其人かれにいふ汝の名は何なるや彼いふヤコブなり 28其人いひけるは汝の名は重てヤコブととなふべからずイスラエルととなふべし其は汝 神と人とに力をあらそひて勝たればなりと 29ヤコブ問て請ふ 汝の名を告よといひければ其人何故にわが名をとふやといひて乃ち其處にて之を祝せり 30是を以てヤコブその處の名をベニエル(神の面)となづけて曰ふ我面と面をあはせて神とあひ見てわが生命なほ存るなりと 31斯て彼日のいづる時にベニエルを過たりしが其髀のために歩行はかどらざりき 32是故にイスラエルの子孫は今日にいたるまで髀の樞の巨筋を食はず是彼人がヤコブの髀の巨筋に觸たるによりてなり

第三十三章

1爰にヤコブ目をあげて視にエサウ四百人をひきゐて來しかば即ち子等を分ちてレアとラケルと二人の仕女とに付し 2仕女とその子等を前におきレアとその子等を次におきラケルとヨセフを後におきて 3自 彼等の前に進み七度身を地にかがめて遂に兄に近づきけるに 4エサウ 趨てこれを迎へ抱きてその頸をかかへて之に接吻すしかして二人ともに啼泣り 5エサウ目をあげて婦人と子等を見ていひけるは是等の汝とともなる者は誰なるやヤコブいひけるは神が僕に授たまひし子なりと 6時に仕女等その子とともに近よりて拜し 7レアも亦その子とともに近よりて拜す其後にヨセフとラケルちかよりて拜す 8エサウ又いひけるは我あへる此 諸 の群は何のためなるやヤコブいふ主の目の前に恩を獲んがためなり 9エサウいひけるは弟 よわが有ところの者は足り汝の所有は汝 自ら之を有てよ 10ヤコブいひけるは否我もし汝の目の前に恩をえたらんには請ふわが手よりこの禮物を受よ我 汝の面をみるに神の面をみるがごとくなり汝また我をよろこぶ 11神我をめぐみたまひて我が有ところの者足りされば請ふわが汝にたてまつる禮物を受よと彼に強ければ終に受たり 12エサウいひけるは我等いでたちてゆかん我 汝にさきだつべし 13ヤコブ彼にいひけるは主のしりたまふごとく子等は幼弱し又子を持る羊と牛と我にしたがふ若一日これを驅すごさば群みな死ん 14請ふわが主 僕にさきだちて進みたまへ我はわが前にゆくところの家畜と子女に足にまかせて徐に導きすすみセイルにてわが主に詣らん 15エサウいひけるは然ば我わがひきゐる人數人を汝の所にのこさんヤコブいひけるは何ぞ此を須んや我をして主の目の前に恩を得せしめよ 16是に於てエサウは此日その途にしたがひてセイルに還りぬ 17斯てヤコブ、スコテに進みて己のために家を建て又家畜のために廬を作れり是によりて其 處の名をスコテ(廬)といふ 18ヤコブ、パダンアラムより來りて恙なくカナンの地にあるシケムの邑に至り邑の前にその天幕を張り 19遂にその天幕をはりしところの野をシケムの父ハモルの子等の手により金 百 枚にて購とり 20彼處に壇をきづきて之をエル、エロヘ、イスラエル(イスラエルの神なる神)となづけたり

第三十四章

1レアのヤコブに生たる女デナその國の婦女を見んとていでゆきしが 2その國の君主なるヒビ人ハモルの子シケムこれを見て之をひきいれこれと寢てこれを辱しむ 3而してその心ふかくヤコブの女デナを戀ひて彼此 女を愛しこの女の心をいひなだむ 4斯てシケムその父ハモルに語り此少き女をわが妻に獲よといへり 5ヤコブ彼がその女子デナを汚したることを聞しかどもその子等家畜を牧て野にをりしによりて其かへるまでヤコブ默しゐたり 6シケムの父ハモル、ヤコブの許にいできたりて之と語らふ 7茲にヤコブの子等野より來りしが之を聞しかば其人々憂へかつ甚く怒れり是はシケムがヤコブの女と寢てイスラエルに愚なる事をなしたるに因り是のごとき事はなすべからざる者なればなり 8ハモル彼等に語りていひけるはわが子シケム心になんぢの女を戀ふねがはくは彼をシケムにあたへて妻となさしめよ 9汝ら我らと婚姻をなし汝らの女を我らにあたへ我らの女 汝らに娶れ 10かくして汝等われらとともに居るべし地は汝等の前にあり此に住て貿易をなし此にて產業を獲よ 11シケム又デナの父と兄弟等にいひけるは我をして汝等の目のまへに恩を獲せしめよ汝らが我にいふところの者は我あたへん 12いかに大なる聘物と禮物を要るも汝らがわれに言ふごとくあたへん唯この女を我にあたへて妻となさしめよ 13ヤコブの子等シケムとその父ハモルに詭りて答へたり即ちシケムがその妹 デナを汚したるによりて 14彼等これに語

りていひけるは我等この事を爲あたはず割禮をうけざる者にわれらの妹をあたふるあたはず是われらの恥辱なればなり 15然ど斯せば我等汝らに允さん若し汝らの中の男子みな割禮をうけてわれらの如くならば 16我等の女子を汝等にあたへ汝らの女子をわれらに娶り汝らと偕にをりて一の民とならん 17汝等もし我等に聽ずして割禮をうけずば我等女子をとりて去べしと 18彼等の言ハモルとハモルの子シケムの心にかなへり 19此若き人ヤコブの女を愛するによりて其事をなすを遲せざりき彼はその父の家の中にて最 貴れたる者なり 20ハモルとその子シケム乃ちその邑の門にいたり邑の人々に語りていひけるは 21是人々は我等と睦し彼等をして此地に住て此に貿易をなさしめよ地は廣くして彼らを容るにたるなり我ら彼らの女を妻にめとり我らの女をかれらに與へん 22若唯われらの中の男子みな彼らが割禮をうくるごとく割禮を受なば此人々われらに聽て我等と偕にをり一の民となるべし 23然ばかれらの家畜と財産と其 諸の畜は我等が所有となるにあらずや只かれらに聽んしからば彼らわれらとともにをるべしと 24邑の門に出入する者みなハモルとその子シケムに聽したがひ邑の門に出入する男子皆割禮を受たり 25斯て三日におよび彼等その痛をおぼゆる時ヤコブの子二人 即ちデナの兄弟なるシメオンとレビ 各 劍をとり往て思よらざる時に邑を襲ひ男子を 悉 く殺し 26利刃をもてハモルとその子シケムをころしシケムの家よりデナを携へいでたり 27而してヤコブの子等ゆきて其殺されし者を剥ぎ其邑をかすめたり是彼等がその 妹 を汚したるによりてなり 28またその羊と牛と驢馬およびその邑にある者と野にある者 29並にその 諸 の貨財を奪ひその子女と妻等を 悉 く擄にし家の中なる物を 悉 く掠めたり 30ヤコブ、シメオンとレビに言けるは汝等我を累はし我をして此國の人 即ちカナン人とベリジ人の中に避嫌れしむ我は數すくなければ彼ら集りて我をせめ我をころさん然ば我とわが家 滅さるべし 31彼らいふ彼豈われらの 妹 を娼妓のごとくしてよからんや

第三十五章

1茲に神ヤコブに言たまひけるは起てベテルにのぼりて彼處に居り汝が昔に兄エサウの面をさけて逃る時に汝にあらはれし神に彼處にて壇をきづけと 2ヤコブ乃ちその家人および凡て己とともなる者にいふ汝等の中にある異 神を棄て身を清めて衣服を易よ 3我等起てベテルにのぼらん彼處にて我わが苦患の日に我に應へわが往ところの途にて我とともに在せし神に壇をきづくべし 4是に於て彼等その手にある異 神およびその耳にある耳環を 盡くヤコブに與へしかばヤコブこれをシケムの邊なる橡樹の下に埋たり 5斯て彼等いでたちしが神其四周の邑々をして懼れしめたまひければヤコブの子の後を追ふ者なかりき 6ヤコブ及び之と共なる諸の人遂にカナンの地にあるルズに至る是 即ちベテルなり 7彼かしこに壇をきづき其處をエルベテルと名けたり是は兄の面をさけて逃る時に神此にて己にあらはれ給しによりてなり 8時にリベカの乳媼デボラ死たれば之をベテルの下にて橡樹の下に 葬れり是によりてその樹の名をアロンバクテ(哀哭の橡)といふ 9ヤコブ、パダンアラムより歸りし時神復これにあらはれて之を祝したまふ 10神かれに言たまはく汝の名はヤコブといふ汝の名は重てヤコブとよぶべからずイスラエルを汝の名となすべしとその名をイスラエルと稱たまふ 11神また彼にいひたまふ我は全能の神なり生よ殖よ國民および多の國民 汝よりいで又王等なんぢの腰よりいでん 12わがアブラハムおよびイサクに與し地は我これを汝 にあたへん我なんぢの後の子孫にその地をあたふべしと 13神かれと 言 たまひし處より彼をはなれて昇りたまふ 14是に於てヤコブ神の己と言いひたまひし處に柱すなはち石の柱を立て其上に酒を灌ぎまた其上に膏を沃げり 15而してヤコブ神の己にものいひたまひし處の名をベテルとなづけたり 16かくてヤコブ等ベテルよりいでたちしがエフラタに至るまでは尚路の 隔 ある處にてラケル産にのぞみその產おもかりき 17彼難產にのぞめる時 產 婆之にいひけるは懼るなかれ汝また此 男の子を得たり 18彼死にのぞみてその 魂 さらんとする時その子の名をベノニ(吾苦痛の子)と呼たり然ど其父これをベニヤミン(右手の子)となづけたり 19ラケル死てエフラタの途に葬らる是即 ちベテレヘムなり 20ヤコブその墓に柱を立たり是はラケルの墓の柱といひて今日まで在り 21イスラエル復いでたちてエダルの塔の外にその天幕を張り 22イスラエルかの地に住る時にルベン往て父の妾ビルハと寢たりイスラエルこれを聞く夫ヤコブの子は十二人なり 23即ちレアの子はヤコブの長子ルベンおよびシメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルンなり 24ラケルの子はヨセフとベニヤミンなり 25ラケルの仕女ビルハの子はダンとナフタリ

なり 26 レアの仕女ジルパの子はガドとアセルなり是等はヤコブの子にしてパダンアラムにて彼に生れたる者なり 27 ヤコブ、キリアテアルバのマムレにゆきてその父イサクに至れり是すなはちヘブロンなり彼處はアブラハムとイサクの寄寓しところなり 28 イサクの齢は百八十歳なりき 29 イサク老て年滿ち氣息たえ死にて其民にくははれりその子エサウとヤコブ之をはうむる

第三十六章

1 エサウの傳はかくのごとしエサウはすなはちエドムなり 2 エサウ、カナンの女の中より妻をめとれり即ちヘテ人エロンの女アダおよびヒビ人ヂベオンの女なるアナの女アホリバマ是なり 3 又イシマエルの女ネバヨテの妹バスマテをめとれり 4 アダはエリパズをエサウに生みバスマテはリウエルを生み 5 アホリバマはヱウシ、ヤラムおよびコラを生り是等はエサウの子にしてカナンの地に於て彼に生れたる者なり 6 エサウその妻と子 女およびその家の諸の人 並に家畜と諸の畜類およびそのカナンの地にて獲たる 諸 の物を挈へて 弟 ヤコブをはなれて他の地にゆけり 7 其は二人の富有多くして倶にをるあたはざればなり彼らが寄寓しところの地はかれらの家畜のためにかれらを容るをえざりき 8 是に於てエサウ、セイル山に住りエサウはすなはちエドムなり 9 セイル山にをりしエドミ人の先祖エサウの傳はかくのごとし 10 エサウの子の名は左のごとしエサウの妻アダの子はエリパズ、エサウの妻バスマテの子はリウエル 11 エリパズの子はテマン、オマル、ゼポ、ガタムおよびケナズなり 12 テムナはエサウの子エリパズの妾にしてアマレクをエリパズに生り是等はエサウの妻アダの子なり 13 リウエルの子は左の如しナハテ、ゼラ、シヤンマおよびミザ是等はエサウの妻バスマテの子なり 14 ヂベオンの女なるアナの女にしてエサウの妻なるアホリバマの子は左のごとし彼ヱウシ、ヤラムおよびコラをエサウに生り 15 エサウの子孫の侯たる者は左のごとしエサウの冢子エリパスの子にはテマン侯オマル侯ゼボ侯ケナズ侯 16 コラ侯ガタム侯アマレク侯是等はエリパズよりいでたる侯にしてエドムの地にありき是等はアダの子なり 17 エサウの子リウエルの子は左のごとしナハテ侯ゼラ侯シヤンマ侯ミザ侯是等はリウエルよりいでたる侯にしてエドムの地にありき是等はエサウの妻バスマテの子なり 18 エサウの妻アホリバマの子は左のごとしヱウシ侯ヤラム侯コラ侯是等はアナの女にしてエサウの妻なるアホリバマよりいでたる侯なり 19 是等はエサウすなはちエドムの子孫にしてその侯たる者なり 20 素より此地に住しホリ人セイルの子は左のごとしロタン、シヨバル 、ヂベオン、アナ 21 デシヨン、エゼル、デシヤン是等はセイルの子ホリ人の中の侯にしてエドムの地にあり 22 ロタンの子はホリ、ヘマムなりロタンの 妹 はテムナ 23 シヨバルの子は左のごとしアルワン、マナハテ、エバル、シボ、オナム 24 ヂベオンの子は左のごとし即ちアヤとアナ此アナその父ヂベオンの驢馬を牧をりし時曠野にて温泉を發見り 25 アナの子は左のごとしデシヨンおよびアホリバマ、アホリバマはアナの女なり 26 デシヨンの子は左のごとしヘムダン、エシバン、イテラン、ケラン 27 エゼルの子は左のごとしビルハン、ザワン、ヤカン 28 デシヤンの子は左のごとしウヅ、アラン 29 ホリ人の侯たる者は左のごとしロタン侯シヨバル侯ヂベオン侯アナ侯 30 デシヨン侯エゼル侯デシヤン侯是等はホリ人の侯にしてその所領にしたがひてセイルの地にあり 31 イスラエルの子孫を治むる王いまだあらざる前にエドムの地を治めたる王は左のごとし 32 ベオルの子ベラ、エドムに王たりその都の名はデナバといふ 33 ベラ薨てボヅラのゼラの子ヨバブ之にかはりて王となる 34 ヨバブ薨てテマン人の地のホシヤムこれにかはりて王となる 35 ホシヤム薨てベダデの子ハダデの子ハダこれに代て王となる彼モアブの野にてミデアン人を撃しことあり其邑の名はアビテといふ 36 ハダデ薨てマスレカのサムラこれにかはりて王となる 37 サラム薨て河の旁なるレホボテのサウル之にかはりて王となる 38 サウル薨てアクボルの子バアルハナンこれに代りて王となる 39 アクボルの子バアルハナン薨てハダル之にかはりて王となる其 都の名はパウといふその妻の名はメヘタベルといひてマテレデの女なりマテレデはメザハブの女なり 40 エサウよりいでたる侯の名はその宗族と居處と名に循ひていへば左のごとしテムナ侯アルワ侯エテテ侯 41 アホリバマ侯エラ侯ピノン侯 42 ケナズ侯テマン侯ミブザル侯 43 マグデエル侯イラム侯是等はエドムの侯にして其領地の居處によりて言る者なりエドミ人の先祖はエサウ是なり

第三十七章

1ヤコブはカナンの地に住り即ちその父が寄寓し地なり 2ヤコブの傳は左のごとしヨセフ十七歳にしてその兄弟と偕に羊を牧ふヨセフは童子にしてその父の妻ビルハの子およびジルパの子と侶たりしが彼等の惡き事を父につぐ 3ヨセフは老年子なるが故にイスラエルその諸の兄弟よりも深くこれを愛しこれがために繰る衣を製れり 4その兄弟等父がその諸の兄弟よりも深く彼を愛するを見て彼を惡み穩和に彼にものいふことを得せざりき 5茲にヨセフ夢をみてその兄弟に告ければ彼等 愈 これを惡めり 6ヨセフ彼等にいひけるは請ふわが夢たる此夢を聽け 7我等 田の中に禾束をむすび居たるにわが禾束おき且立り而して汝等の禾束環りたちてわが禾束を拜せり 8その兄弟等之にいひけるは汝 眞にわれらの君となるや眞に我等ををさむるにいたるやとその夢とその言のために益 これを惡めり 9ヨセフ又一の夢をみて之をその兄弟に述ていひけるは我また夢をみたるに日と月と十一の星われを拜せりと 10則ちこれをその父と兄弟に述ければ父かれを戒めて彼にいふ汝が夢しこの夢は何ぞや我と汝の母となんぢの兄弟と實にゆきて地に鞠て汝を拜するにいたらんやと 11斯しかばその兄弟かれを嫉めり然どその父はこの言をおぼえたり 12茲にその兄弟等シケムにゆきて父の羊を牧ゐたりしかば 13イスラエル、ヨセフにいひけるは汝の兄弟はシケムにて羊を牧をるにあらずや來れ汝を彼等につかはさんヨセフ父にいふ我ここにあり 14父かれにいひけるは請ふ往て汝の兄弟と群の恙なきや否を見てかへりて我につげよと彼をヘブロンの谷より遣はしければ遂にシケムに至る。 15或人かれに遇ふに彼野にさまよひをりしかば其人かれに問て汝 何をたづぬるやといひければ 16彼いふ我はわが兄弟等をたづぬ請ふかれらが羊 をかひをる所をわれに告よ 17その人いひけるは彼等は此をされり我かれらがドタンにゆかんといふを聞たりと是に於てヨセフその兄弟の後をおひゆきドタンにて之に遇ふ 18ヨセフの彼等に近かざる前に彼ら之を遙に見てこれを殺さんと謀り 19互にいひけるは視よ作夢者きたる 20去來彼をころして阱に投いれ或惡き獸これを食たりと言ん而して彼の夢の如何になるかを觀るべし 21ルベン聞てヨセフを彼等の手より拯ひださんとして言けるは我等これを殺すべからず 22ルベンまた彼らにいひけるは血をながすなかれ之を曠野の此阱に投いれて手をこれにつくるなかれと是は之を彼等の手よりすくひだして父に歸んとてなりき 23茲にヨセフ兄弟の許に到りければ彼等ヨセフの衣 即ちその着たる繰る衣を褫ぎ 24彼を執て阱に投いれたり阱は空にしてその中に水あらざりき 25斯して彼等坐 てパンを食ひ目をあげて見しに一群のイシマエル人駱駝に香物と乳香と沒藥をおはせてエジプトにくだりゆかんとてギレアデより來る 26ユダその兄弟にいひけるは我儕 弟 をころしてその血を匿すも何の益かあらん 27去來彼をイシマエル人に賣ん彼は我等の兄弟われらの肉なればわれらの手をかれにつくべからずと兄弟等これを善とす 28時にミデアンの商旅經過ければヨセフを阱よりひきあげ銀二十枚にてヨセフをイシマエル人に賣り彼等すなはちヨセフをエジプトにたづさへゆきぬ 29茲にルベンかへりて阱にいたり見しにヨセフ阱にをらざりしかばその衣を裂き 30兄弟の許にかへりて言ふ童子はをらず嗚呼我何處にゆくべきや 31斯て彼等ヨセフの衣をとり牡山羊の羔をころしてその衣を血に濡し 32その繰る衣を父におくり遣していひけるは我等これを得たりなんぢの子の衣なるや否を知れと 33父これを知りていふわが子の衣なり惡き獸 彼をくらへりヨセフはかならずさかれしならんと 34ヤコブその衣を裂き麻布を腰にまとひ久くその子のためになげけり 35その子 女みな起てかれを慰むれどもその慰謝をうけずして我は哀きつつ陰府にくだりて我子のもとにゆかんといふ斯その父かれのために哭ぬ 36偕ミデアン人はエジプトにてパロの侍衞の長ポテパルにヨセフを賣り

第三十八章

1當時ユダ兄弟をはなれて下りアドラム人名はヒラといふ者の近邊に天幕をはりしが 2ユダかしこにてカナン人名はシュアといふ者の女子を見これを娶りてその所にいる 3彼はらみて男子を生みければユダその名をエルとなづく 4彼ふたたび孕みて男子を生みその名をオナンとなづけ 5またかさねて孕みて男子を生みてその名をシラとなづく此子をうみける時ユダはクジブにありき 6ユダその長子エルのために妻をむかふその名をタマルといふ 7ユダの長子エル、ヱホバの前に惡をなしたればヱホバこれを死しめたまふ 8茲にユダ、オナンにいひけるは汝の兄の妻の所にいりて之をめとり汝の兄をして子をえせしめよ 9オナンその子の己のものとならざるを知たれば兄

の妻の所にいりし時兄に子をえせしめざらんために地に洩したり 10斯なせし事ヱホバの目に惡かりければヱホバ彼をも死しめたまふ 11ユダその媳タマルにいひけるは嫠婦となりて汝の父の家にをりわが子シラの人となるを待てと恐らくはシラも亦その兄弟のごとく死るならんとおもひたればなりタマルすなはち往てその父の家にをる 12日かさなりて後シュアの女ユダの妻死たりユダ慰をいれてその友アドラム人ヒラとともにテムナにのぼりその羊毛を剪る者の所にいたる 13茲にタマルにつげて視よなんぢの舅はその羊の毛を剪んとてテムナにのぼるといふ者ありしかば 14彼その嫠の服を脱すて被衣をもて身をおほひつつみテムナの途の側にあるエナイムの入口に坐すその其はシラ人となりたれども己これが妻にせられざるを見たればなり 15彼その面を蔽ひゐたりしかばユダこれを見て娼妓ならんとおもひ 16途の側にて彼に就き請ふ來りて我をして汝の所にいらしめよといふ其はその子の妻なるをしらざればなり彼いひけるは汝何を我にあたへてわが所にいらんとするや 17ユダいひけるは我群より山羊の羔をおくらん彼いふ汝其をおくるまで質をあたへんか 18ユダ何の質をなんぢに與ふべきやといふに彼汝の印と綬と汝の手の杖をといひければ即ちこれを與へて彼の所にいりぬ彼ユダに由て姙めり 19彼起て去りその被衣をぬぎすて嫠婦の服をまとふ 20かくてユダ婦の手より質をとらんとてその友アドラム人の手に托して山羊の羔をおくりけるが彼婦を見ざれば 21その處の人に問て途の側なるエナイムの娼妓は何處にをるやといふに此には娼妓なしといひければ 22ユダの許にかへりていふ我彼を見いださず亦その處の人此には娼妓なしといへりと 23ユダいひけるは彼にとらせおけ恐くはわれら笑柄とならん我この山羊の羔をおくりたるに汝かれを見ざるなりと 24三月ばかりありて後ユダに告る者ありていふ汝の媳タマル姦淫をなせり亦その姦淫によりて妊めりユダいひけるは彼を曳いだして焚べし 25彼ひきいだされし時その舅にいひつかはしけるは是をもてる人によりて我は妊りと彼すなはち請ふこの印と綬と杖は誰の所屬なるかを辨別よといふ 26ユダこれを見識ていひけるは彼は我よりも正しわれ彼をわが子わがシラにあたへざりしによりてなりと再びこれを知らざりき 27かくて產の時にいたりて見るにその胎に孿あり 28その產時手出しかば產婆是首にいづといひて絳き線をとりてその手にしばりしが 29手を引こむるにあたりて兄弟いでたれば汝なんぞ圻いづるやその圻汝に歸せんといへり故にその名はペレヅ(圻)と稱る 30その兄弟手に絳線のある者後にいづその名はゼラとよばる

第三十九章

1ヨセフ挈へられてエジプトにくだりしがエジプト人ポテパル、パロの臣侍衞の長なる者彼を其處にたづさへくだれるイシマエル人の手よりこれを買ふ 2ヱホバ、ヨセフとともに在す彼享通者となりてその主人なるエジプト人の家にをる 3その主人ヱホバの彼とともにいますを見またヱホバがかれの手の凡てなすところを享通しめたまふを見たり 4是によりてヨセフ彼の心にかなひて其近侍となる彼ヨセフにその家を宰どらしめその所有を盡くその手に委たり 5彼ヨセフにその家とその有る凡の物をつかさどらせし時よりしてヱホバ、ヨセフのために其エジプト人の家を祝みたまふ即ちヱホバの祝福かれが家と田に有る凡の物におよぶ 6彼その有る物をことごとくヨセフの手にゆだねその食ふパンの外は何もかへりみざりき夫ヨセフは容貌麗しくして顏美しかりき 7これらの事の後その主人の妻ヨセフに目をつけて我と寢よといふ 8ヨセフ拒みて主人の妻にいひけるは視よわが主人の家の中の物をかへりみずその有るものことごとくわが手に委ぬ 9この家には我より大なるものなし又主人何をも我に禁ぜず只汝を除くのみ汝はその妻なればなり然ば我いかで此おほいなる惡をなして神に罪ををかすをえんや 10彼日々にヨセフに言よりたれどもヨセフきかずして之といねず亦與にをらざりき 11當時ヨセフその職をなさんとて家にいりしが家の人一箇もその内にをらざりき 12時に彼婦その衣を執て我といねよといひければヨセフ衣を彼の手に棄おきて外に遁いでたり 13彼ヨセフがその衣を己の手に棄おきて遁いでしを見て 14その家の人々を呼てこれにいふ視よヘブル人を我等の所につれ來て我等にたはむれしむ彼我といねんとて我の所にいり來しかば我大聲によばはれり 15彼わが聲をあげて呼はるを聞しかばその衣をわが許にすておきて外に遁いでたりと 16其衣を傍に置て主人の家に歸るを待つ 17かくて彼是言のごとく主人につげていふ汝が我らに携へきたりしヘブルの僕われにたはむれんとて我許にいりきたりしが 18我聲をあげてよばはりしかばその衣を我許にすておきて遁いでたり 19主人その妻が己につげて汝の僕斯のごとく我になせりと

いふ言を聞て怒を發せり 20是に於てヨセフの主人彼を執へて獄にいる其獄は王の囚徒を繋ぐ所なりヨセフ彼處にて獄にをりしが 21ヱホバ、ヨセフとともに在して之に仁慈を加へ典獄の恩顧をこれにえさせたまひければ 22典獄 獄にある囚人をことごとくヨセフの手に付せたり其處になす所の事は皆ヨセフこれをなすなり 23典獄そのまかせたる所の事は何をもかへりみざりき其はヱホバ、ヨセフとともにいませばなりヱホバかれのなすところをさかえしめたまふ

第四十章

1これらの事の後エジプト王の酒人と膳夫その主エジプト王に罪ををかす 2パロその二人の臣すなはち酒人の長と膳夫の長を怒りて 3之を侍衛の長の家の中なる獄に幽囚ふヨセフが繋れをる所なり 4侍衛の長ヨセフをして彼等の側に侍しめたればヨセフ之につかふ彼等幽囚れて日を經たり 5茲に獄に繋れたるエジプト王の酒人と膳夫の二人ともに一夜の中に各 夢を見たりその夢はおのおんおのその解 明にかなふ 6ヨセフ朝に及びて彼等の所に入て視るに彼等物憂に見ゆ 7是に於てヨセフその主人のの家に己とともに幽囚をるパロの臣に問て汝等なにゆゑに今日は顔色あやしきやといふに 8彼等これにいふ我等夢を見たれど之を解く者なしとヨセフ彼等にいひけるは解く事は神によるにあらずや請ふ我に述よ 9酒人の長その夢をヨセフに述て之にいふ我夢の中に見しにわが前に一の葡萄樹あり 10その樹に三の枝あり芽いで花ひらきて葡萄なり球をなして熟たるがごとくなりき 11時にパロの爵 わが手にあり我葡萄を摘てこれをパロの 爵 に搾りその 爵 をパロの手に奉たり 12ヨセフ彼にいひけるはその解 明は是のごとし三の枝は三日なり 13今より三日の中にパロなんぢの首を擧げ汝を故の所にかへさん汝は曩に酒人たりし時になせし如くパロの 爵 をその手に奉ぐるにいたらん 14然ば請ふ汝 善ならん時に我をおもひて我に恩惠をほどこし吾事をパロにのべてこの家よりわれを出せ 15我はまことにヘブル人の地より掠れ來しものなればなりまた此にても我は牢にいれらるるがごとき事はなさざりしなり 16茲に膳夫の長その解 明の善りしを見てヨセフにいふ我も夢を得て見たるに白きパン三筐わが首にありて 17その上の筐には膳夫がパロのために作りたる各種の饌 ありしが鳥わが首の筐の中より之をくらへり 18ヨセフこたへていひけるはその解 明はかくのごとし三の筐は三日なり 19今より三日の中にパロ汝の首を擧はなして汝 を木に懸んしかして鳥汝の肉をくらひとるべしと 20第三日はパロの誕辰なればパロその諸の臣僕に筵席をなし酒人の長と膳夫の長をして首をその臣僕の中に擧しむ 21即ちパロ酒人の長をその職にかへしければ彼 爵 をパロの手に奉たり 22されど膳夫の長は木に懸らるヨセフの彼等に解明せるがごとし 23然るに酒人の長ヨセフをおぼえずして之を忘れたり

第四十一章

1二年の後パロ夢ることあり即ち河の濱にたちて 2視るに七 の美しき肥たる牝牛河よりのぼりて葦を食ふ 3その後また七の醜き痩たる牛河よりのぼり河の畔にて彼牛の側にたちしが 4その醜き痩たる牛かの美しき肥たる七の牛を食ひつくせりパロ是にいたりて寤む 5彼また寢て再び夢るに一の莖に七の肥たる佳き穗いできたる 6其のちに又しなびて東風に燒たる七の穗いできたりしが 7その 七のしなびたる穗かの七の肥實りたる穗を呑盡せりパロ 寤て見に夢なりき 8パロ朝におよびてその心安からず人をつかはしてエジプトの法術士とその博士を皆ことごとく召し之にその夢を述たり然ど之をパロに解うる者なかりき 9時に酒人の長パロに告ていふ我今日わが 過 をおもひいづ 10嘗てパロその僕を怒て我と膳夫の長を侍衛の長の家に幽囚へたまひし時 11我と彼ともに一夜のうちに夢み各 その解 明にかなふ夢をみたりしが 12彼處に侍衛の 長の僕なる若きヘブル人我らと偕にあり我等これにのべたれば彼われらの夢を解その夢にしたがひて各人に解 明をなせり 13しかして其事かれが解たるごとくなりて我はわが職にかへり彼は木に懸らる 14是に於てパロ人をやりてヨセフを召しければ急ぎてこれを獄より出せりヨセフすなはち髭を薙り衣をかへてパロの許にいり來る 15パロ、ヨセフにいひけるは我夢をみたれど之をとく者なし聞に汝 は夢をききて之を解くことをうると云ふ 16ヨセフ、パロにこたへていひけるは我によるにあらず神パロの平安を告たまはん 17パロ、ヨセフにいふ我夢に河の岸にたちて見るに 18河より七の肥たる美しき牝牛のぼりて葦を食ふ 19後また弱く甚だ醜き瘠たる七の牝牛のぼりきたる其惡き事エジプト全國にわが未だ見ざるほどなり 20その瘠たる醜き牛初の七の肥たる牛を食ひつくしたりしが 21已

に腹にいりても其腹にいりし事しれず尚前のごとく醜かりき我是にいたりて寤めたり 22我また夢に見るに七の實たる佳き穂一の莖にいできたる 23その後にまたいぢけ萎びて東風にやけたる七の穂生じたりしが 24そのしなびたる穂かの七の佳穂を呑つくせり我これを法術士に告たれどもわれにこれをしめすものなし 25ヨセフ、パロにいひけるはパロの夢は一なり神その爲んとする所をパロに示したまへるなり 26七の美牝牛は七年 七の佳穂も七年にして夢は一なり 27其後にのぼりし七の瘠たる醜き牛は七年にしてその東風にやけたる七の空穂は七年の饑饉なり 28是はわがパロに申すところなり神そのなさんとするところをパロにしめしたまふ 29エジプトの全地に七年の大なる豐年あるべし 30その後に七年の凶年おこらん而してエジプトの地にありし豐作を皆忘るにいたるべし饑饉國を滅さん 31後にいたるその饑饉はなはだはげしきにより前の豐作國の中に知れざるにいたらん 32パロのふたたび夢をかさね見たまひしは神がこの事をさだめて速に之をなさんとしたまふなり 33さればパロ慧く賢き人をえらみて之にエジプトの國を治めしめたまふべし 34パロこれをなし國中に官吏を置てその七年の豐年の中にエジプトの國の五分の一を取たまふべし 35而して其官吏をして來らんとするその善き年の諸の糧 食を斂めてその穀物をパロの手に蓄へしめ糧 食を邑々にかこはしめたまふべし 36その糧 食を國のために畜藏へおきてエジプトの國にのぞむ七年の饑饉に備へ國をして饑饉のために滅ざらしむべし 37パロとその諸の臣僕此事を善とす 38是に於てパロその臣僕にいふ我等神の靈のやどれる是のごとき人を看いだすをえんやと 39しかしてパロ、ヨセフにいひけるは神是を盡く汝にしめしたまひたれば汝のごとく慧く賢き者なかるべし 40汝わが家を宰るべしわが民みな汝の口にしたがはん唯位においてのみ我は汝より大なるべし 41パロ、ヨセフにいひけるは視よ我汝をエジプト全國の冢宰となすと 42パロすなはち指環をその手より脱して之をヨセフの手にはめ之を白布を衣せ金の索をその項にかけ 43之をして己のもてる次の輅に乘しめ下にゐよと其前に呼しむ是彼をエジプト全國の冢宰となせり 44パロ、ヨセフにいひけるは我はパロなりエジプト全國に汝の允准をえずして手足をあぐる者なかるべしと 45パロ、ヨセフの名をザフナテパネアと名けまたオンの祭司ポテパルの女アセナテを之にあたへて妻となさしむヨセフいでてエジプトの地をめぐる 46ヨセフはエジプトの王パロのまへに立し時三十歳なりきヨセフ、パロのまへを出て遍くエジプトの地を巡れり 47七年の豐年の中に地山なして物を生ず 48ヨセフすなはちエジプトの地にありしその七年の糧 食を斂めてその糧 食を邑々に藏む即ち邑の周圍の田圃の糧 食を其邑の中に藏む 49ヨセフ海隅の沙のごとく甚だ多く穀物を儲へ遂に數ふることをやむるに至る其は數かぎり無ればなり 50饑饉の歳のいたらざる前にヨセフに二人の子うまる是はオンの祭司ポテパルの女アセナテの生たる者なり 51ヨセフその冢子の名をマナセ(忘)となづけて言ふ神我をしてわが諸の苦難とわが父の家の凡の事をわすれしめたまふと 52又次の子の名をエフライム(多く生る)となづけていふ神われをしてわが艱難の地にて多くの子をえせしめたまふと 53爰にエジプトの國の七年の豐年をはり 54ヨセフの言しごとく七年の凶年きたりはじむその饑饉は諸の國にあり然どエジプト全國には食物ありき 55エジプト全國饑し時民さけびてパロに食物を乞ふパロ、エジプトの諸の人にいひけるはヨセフに往け彼が汝等にいふところをなせと 56饑饉全地の面にありヨセフすなはち諸の倉廩をひらきてエジプト人に賣わたせり饑饉ますますエジプトの國にはげしくなる 57饑饉諸の國にはげしくなりしかば諸國の人エジプトにきたりヨセフにいたりて穀物を買ふ

第四十二章

1ヤコブ、エジプトに穀物あるを見しかばその子等にいひけるは汝等なんぞたがひに面を見あはするや 2ヤコブまたいふ我エジプトに穀物ありと聞り彼處にくだりて彼處より我等のために買きたれ然らばわれら生るを得て死をまぬかれんと 3ヨセフの十人の兄弟エジプトにて穀物をかはんとて下りゆけり 4されどヨセフの弟 ベニヤミンはヤコブこれをその兄弟とともに遣さざりきおそらくは災難かれの身にのぞむことあらんと思たればなり 5イスラエルの子等穀物を買んとて來る者とともに來る其はカナンの地に饑饉ありたればなり 6時にヨセフは國の總督にして國の凡の人に賣ことをなせりヨセフの兄弟等來りてその前に地に伏て拝す 7ヨセフその兄弟を見てこれを知たれども知ざる者のごとくして荒々しく之にものいふ即ち彼等に汝等は何處より來れるやといへば彼等いふ糧 食を買んためにカナンの地より來れりと 8ヨセフはそ

の兄弟をしりたれども彼等はヨセフをしらざりき 9ヨセフその昔に彼等の事を夢たる夢をを憶いだし彼等に言けるは汝等は間者にして此國の隙を窺んとて來れるなり 10彼等之にいひけるはわが主よ然らず唯糧食をかはんとて僕等は來れるなり 11我等はみな一箇の人の子にして篤實なる者なり僕等は間者にあらず 12ヨセフ彼等にいひけるは否汝等は此地の隙を窺んとて來れるなり 13彼等いひけるは僕等は十二人の兄弟にしてカナンの地の一箇の人の子なり季子は今日父とともにをる又一人はをらずなりぬ 14ヨセフかれらにいひけるはわが汝等につげて汝等は間者なりといひしはこの事なり 15汝等斯してその眞實をあかすべしパロの生命をさして誓ふ汝等の末弟ここに來るにあらざれば汝等は此をいづるをえじ 16汝等の一人をやりて汝等の弟をつれきたらしめよ汝等をば繋ぎおきて汝等の言をためし汝らの中に眞實あるや否をみんパロの生命をさして誓ふ汝等はかならず間者なりと 17彼等を皆ともに三日のあひだ幽囚おけり 18三日におよびてヨセフ彼等にいひけるは我神を畏る汝等是なして生命をえよ 19汝等もし篤實なる者ならば汝らの兄弟の一人をしてこの獄に繋れしめ汝等は穀物をたづさへゆきてなんぢらの家々の饑をすくへ 20但し汝らの末弟を我につれきたるべしさすればなんぢらの言の眞實あらはれて汝等死をまぬかるべし彼等すなはち斯なせり 21茲に彼らたがひに言けるは我等は弟の事によりて信に罪あり彼等は彼が我らに只管にねがひし時にその心の苦を見ながら之を聽ざりき故にこの苦われらにのぞめるなり 22ルベンかれらに對ていひけるは我なんぢらにいひて童子に罪ををかすなかれといひしにあらずや然るに汝等きかざりき是故に視よ亦彼の血をながせし罪をただされと 23彼等はヨセフが之を解するをしらざりき其は互に通辨をもちひたればなり 24ヨセフ彼等を離れゆきて哭き復かれらにかへりて之とかたり遂にシメオンを彼らの中より取りその目のまへにて之を縛れり 25而してヨセフ命じてその器に穀物をみたしめ其人々の金を嚢に返さしめ又途の食を之にあたへしむヨセフ斯かれらになせり 26彼等すなはち穀物を驢馬におはせて其處をさりしが 27其一人旅邸にて驢馬に糧を與んとて嚢をひらき其金を見たり其は嚢の口にありければなり 28彼その兄弟にいひけるは吾金は返してあり視よ嚢の中にありと是において彼等膽を消し懼れてたがひに神の我らになしたまふ此事は何ぞやといへり 29かくて彼等カナンの地にかへりて父ヤコブの所にいたり其身にありし事等を悉く之につげていひけるは 30彼國の主荒々しく我等にものいひ我らをもて國を偵ふ者となせり 31我ら彼にいふ我等は篤實なる者なり間者にあらず 32我らは十二人の兄弟にして同じ父の子なり一人はをらずなり季のは今日父とともにカナンの地にありと 33國の主なるその人われらにいひけるは我かくして汝等の篤實なるをしらん汝等の兄弟の一人を吾もとにのこし糧食をたづさへゆきて汝らの家々の饑をすくへ 34しかして汝らの季の弟をわが許につれきたれ然れば我なんぢらが間者にあらずして篤實なる者たるをしらん我なんぢらの兄弟を汝等に返し汝等をしてこの國にて交易をなさしむべしと 35茲に彼等その嚢を傾たるに視よ各人の金包その嚢のなかにあり彼等とその父金包を見ておそれたり 36その父ヤコブ彼等にいひけるは汝等は我をして子を喪はしむヨセフはをらずなりシメオンもをらずなりたるにまたベニヤミンを取んとす是みなわが身にかかるなり 37ルベン父に告ていふ我もし彼を汝につれかへらずば吾ふたりの子を殺せ彼をわが手にわたせ我之をなんぢにつれかへらん 38ヤコブいひけるはわが子はなんぢらとともに下るべからず彼の兄は死て彼ひとり遺たればなり若なんぢらが行ところの途にて災難かれの身におよばば汝等はわが白髪をして悲みて墓にくだらしむるにいたらん

第四十三章

1饑饉その地にはげしかりき 2茲に彼等エジプトよりもちきたりし穀物を食つくせし時父かれらに再びゆきて少許の糧食を買きたれといひければ 3ユダ父にかたりていひけるは彼人かたく我等をいましめていふ汝らの弟汝らとともにあるにあらざれば汝らはわが面をみるべからずと 4汝もし弟をわれらとともに遣さば我等下て汝のために糧食を買ふべし 5されど汝もし彼をつかはさずば我等くだらざるべし其はかの人われらにむかひ汝等の弟なんぢらとともにあるにあらざれば汝ら吾面をみるべからずといひたればなりと 6イスラエルいひけるは汝等なにゆゑに汝等に尚弟のあることを彼人につげて我を惡くなすや 7彼等いふ其人われらの模樣とわれらの親族を問ただして汝らの父は尚生存へをるや汝等は弟をもつやといひしにより其言の條々にしたがひて彼につ

げたるなり我等いかでか彼が汝等の弟をつれくだれといふならんとしるをえん 8ユダ父イスラエルにいひけるは童子をわれとともに遣はせ我等たちて往ん然らば我僑と汝およびわれらの子女生ることを得て死をまぬかるべし 9我彼の身を保はん汝わが手にかれを問へ我もし彼を汝につれかへりて汝のまへに置ずば我永遠に罪をおはん 10我僑もし濡滞ことなかりしならば必ずすでにゆきて再びかへりしならん 11父イスラエル彼等にいひけるは然ば斯なせ汝等國の名物を器にいれ携へくだりて彼人に禮物とせよ乳香少許、蜜少許、香物、沒藥、胡桃および巴旦杏 12又手に一倍の金を取りゆけ汝等の嚢の口に返してありし彼金を再び手にたづさへ行べし恐くは差謬にてありしならん 13且また汝らの弟を挈へ起てふたたびその人の所にゆけ 14ねがはくは全能の神その人のまへにて汝等を矜恤みその人をして汝等の他の兄弟とベニヤミンを放ちかへさしめたまはんことを若われ子に別るべくあらば別れんと 15是に於てかの人々その禮物を執り一倍の金を手に執りベニヤミンを携へて起てエジプトにくだりヨセフの前に立つ 16ヨセフ、ベニヤミンの彼らと偕なるを見てその家宰にいひけるはこの人々を家に導き畜を屠て備へよこの人々卓午に我とともに食をなすべければなり 17其人ヨセフのいひしごとくなし其人この人々をヨセフの家に導けり 18人々ヨセフの家に導かれたるにより て懼れいひけるは初めにわれらの嚢にかへりてありし金の事のために我等はひきいれらる是われらを抑留へて我等にせまり執へて奴隷となし且われらの驢馬を取んとするなりと 19彼等すなはちヨセフの家宰に進みよりて家の入口にて之にかたりて 20いひけるは主よ我等實に最初くだりて糧食を買たり 21しかるに我等旅邸に至りて嚢を啓き見るに各人の金その嚢の口にありて其金の量全かりし然ば我等これを手にもちかへれり 22又糧食を買ふ他の金をも手にもちくだる我等の金を嚢にいれたる者は誰なるかわれらは知ざるなり 23彼いひけるは汝ら安ぜよ懼るなかれ汝らの神汝らの父の神財寶を汝等の嚢におきて汝らに賜ひしなり汝らの金は我にとどけりと遂にシメオンを彼等の所にたづさへいだせり 24かくて其人この人々をヨセフの家に導き水をあたへてその足を濯はしめ又その驢馬に飼草をあたふ 25彼等其處にて食をなすなりと聞しかば禮物を調へてヨセフの日午に來るをまつ 26茲にヨセフ家にかへりしかば彼等その手の禮物を家にもちきたりてヨセフの許にいたり地に伏てこれを拝す 27ヨセフかれらの安否をとふていふ汝等の父汝らが初にかたりしその老人は恙なきや尚いきながらへをるや 28彼等こたへてわれらの父汝の僕は恙なくしてなほ生ながらへをるといひ身をかがめ禮をなす 29ヨセフ目をあげてその母の子なる己の弟ベニヤミンを見ていひけるは是は汝らが初に我にかたりし汝らの若き兄弟なるや又いふわが子よ願はくは神汝をめぐみたまはんことをと 30ヨセフその弟のために心焚るがごとくなりしかば急ぎてその泣べきところを尋ね室にいりて其處に泣り 31而して面をあらひて出で自から抑へて食をそなへよといふ 32すなはちヨセフはヨセフ彼等は彼等陪食するエジプト人はエジプト人と別々に之を供ふ是はエジプト人ヘブル人と共に食することをえざるによる其事エジプト人の穢はしとするところなればなり 33かくて彼等ヨセフの前に坐るに長子をばその長たるにしたがひて坐らせ若き者をばその幼少にしたがひてすわらせければその人々駭きあへり 34ヨセフ己のまへより皿を彼等に供ふベニヤミンの皿は他の人のよりも五倍おほかりきかれら飲てヨセフとともに樂めり

第四十四章

1茲にヨセフその家宰に命じていふこの人々の嚢にその負うるほど糧食を充せ各人の金をその嚢の口に置れ 2またわが杯すなはち銀の杯を彼の少き者の嚢の口に置てその穀物の金子とともにあらしめよと彼がヨセフがいひし言のごとくなせり 3かくて夜のあくるにおよびてその人々と驢馬をかへしけるが 4かれら城邑をいでてなほ程とほからぬにヨセフ家宰にいひけるは起てかの人々の後を追ひおひつきし時之にいふべし汝らなんぞ惡をもて善にむくゆるや 5其はわが主がもちひて飲み又用ひて常に卜ふ者にあらずや汝らかくなすは惡しと 6是に於て家宰かれらにおひつきてこの言をかれらにいひければ 7かれら之にいふ主なにゆゑに是事をいひたまふや僕等きはめてこの事をなさず 8視よ我らの嚢の口にありし金はカナンの地より汝の所にもちかへれり然ば我等いかで汝の主の家より金銀をぬすまんや 9僕等の中誰の手に見あたるも其者は死べし我等またわが主の奴隷となるべし 10彼いひけるはさらば汝らの言のごとくせん其の見あたりし者はわが奴隷となるべし汝等は咎なしと 11是において彼等急ぎて各その嚢を地におろし各その嚢をひらきしかば

12彼すなはち索し長者よりはじめて少者にをはるに杯はベニヤミンの嚢にありき 13斯有しかば彼等その衣を裂きおのおのその驢馬に荷を負せて邑にかへる 14しかしてユダとその兄弟等ヨセフの家にいたるにヨセフなほ其處にをりしかばその前に地に伏す 15ヨセフかれらにいひけるは汝等がなしたるこの事は何ぞや我のごとき人は善く卜ひうる者なるをしらざるや 16ユダいひけるは我等主に何をいはんや何をのべんや如何にしてわれらの正直をあらはさんや神僕等の罪を摘發したまへり然ば我等およびこの杯の見あたりし者倶に主の奴隷となるべし 17ヨセフいひけるはきはめて然せじ杯の手に見あたりし人はわが奴隷となるべし汝等は安然に父にかへりのぼるべし 18時にユダかれに近よりていひけるはわが主よ請ふ僕をして主の耳に一言いふをえせしめよ僕にむかひて怒を發したまふなかれ汝はパロのごとくにいますなり 19昔にわが主僕等に問て汝等は父あるや弟あるやといひたまひしかば 20我等主にいへり我等にわが父あり老人なり又その老年子なる少者ありその兄は死てその母の遺せるは只是のみ故に父これを愛すと 21汝また僕等にいひたまはく彼を我許につれくだり我をして之に目をつくることをえせしめよと 22われら主にいへり童子父を離るをえず若父をはなるるならば父死べしと 23汝また僕等にいひたまはく汝らの季の弟汝等とともに下るにあらざれば汝等ふたたびわが面を見るべからずと 24我等すなはちなんぢの僕わが父の所にかへりのぼりて主の言をこれに告たり 25我らの父再びゆきて少許の糧食を買きたれといひければ 26我らいふ我らくだりゆくことをえずわれらの季の弟われらと共にあらば下りゆくべし其は季の弟われらと共にあるにあらざれば彼人の面をみるをえざればなりと 27なんぢの僕わが父われらにいふ汝らのしるごとく吾妻われに二人を生しが 28その一人出てわれをはなれたれば必ず裂ころされしならんと思へり我今にいたるまで彼を見ず 29なんぢら是をも我側より取ゆかんに若災害是の身におよぶあらば遂にわが白髪をして悲みて墓にくだらしむるにいたらんと 30抑父の生命と童子の生命とは相結びてあれば我なんぢの僕わが父に歸りいたらん時に童子もしわれらと共に在ずば如何ぞや 31父童子の在ざるを見ば死るにいたらん然れば僕等なんぢの僕われらの父の白髪をして悲みて墓にくだらしむるなり 32僕わが父に童子の事を保ひて我もし是を汝につれかへらずば永久に罪を父に負んといへり 33されば請ふ僕をして童子にかはりをりて主の奴隷とならしめ童子をしてその兄弟とともに歸りのぼらしめたまへ 34我いかでか童子を伴はずして父の許に上りゆくべけん恐くは災害の父におよぶを見ん

第四十五章

1茲にヨセフその側にたてる人々のまへに自ら禁ぶあたはざるに至りければ人皆われを離ていでよと呼はれり是をもてヨセフが己を兄弟にあかしたる時一人も之とともにたつものなかりき 2ヨセフ聲をあげて泣りエジプト人これを聞きパロの家またこれを聞く 3ヨセフすなはちその兄弟にいひけるは我はヨセフなりわが父はなほ生ながらへをるやと兄弟等その前に愕き懼れて之にこたふるをえざりき 4ヨセフ兄弟にいひけるは請ふ我にちかよれとかれらすなはち近よりければ言ふ我はなんぢらの弟ヨセフなんぢらがエジプトにうりたる者なり 5されど汝等我をここに賣しをもて憂ふるなかれ身を恨るなかれ神生命をすくはしめんとて我を汝等の前につかはしたまへるなり 6この二年のあひだ饑饉國の中にありしが尚五年の間耕すことも穫ることもなかるべし 7神汝等の後を地につたへんため又大なる救をもて汝らの生命を救はんために我を汝等の前に遣したまへり 8然ば我を此につかはしたる者は汝等にはあらず神なり神われをもてパロの父となしその全家の主となしエジプト全國の宰となしたまへり 9汝等いそぎ父の許にのぼりゆきて之にいへ汝の子ヨセフかく言ふ神われをエジプト全國の主となしたまへりわが所にくだれ遲疑なかれ 10汝ゴセンの地に住べし斯汝と汝の子と汝の子の子およびなんぢの羊と牛並に汝のすべて有ところの者われの近方にあるべし 11なほ五年の饑饉あるにより我其處にてなんぢを養はん恐くは汝となんぢの家族およびなんぢの凡て有ところの者匱乏ならん 12汝等の目とわが弟ベニヤミンの目の視るごとく汝等にこれをいふ者はわが口なり 13汝等わがエジプトにて亨る顯榮となんぢらが見たる所とを皆悉く父につげよ汝ら急ぎて父を此にみちびき下るべし 14而してヨセフその弟ベニヤミンの頸を抱へて哭にベニヤミンもヨセフの頸をかかへて哭く 15ヨセフ亦その諸の兄弟に接吻し之をいだきて哭く是のち兄弟等ヨセフと言ふ 16茲にヨセフの兄弟等きたれりといふ聲パロの家にきこえければパロとその臣僕これを悦ぶ 17パロすなはちヨセフにいひけ

るは汝の兄弟に言べし汝等かく爲せ汝等の畜に物を負せ往てカナンの地に至り 18なんぢらの父となんぢらの家族を携へて我にきたれ我なんぢらにエジプトの地の嘉物をあたへん汝等國の膏腴を食ふことをうべしと 19今汝命をうく汝等かく爲せ汝等エジプトの地より車を取ゆきてなんぢらの子女と妻等を載せ汝等の父を導きて來れ 20また汝等の器を惜み視るなかれエジプト全國の嘉物は汝らの所屬なればなり 21イスラエルの子等すなはち斯なせりヨセフ、パロの命にしたがひて彼等に車をあたへかつ途の餱糧をかれらにあたへたり 22又かれらに皆おのおの衣一襲を與へたりしがベニヤミンには銀三百と衣五襲をあたへたり 23彼また斯のごとく父に餽れり即ち驢馬十疋にエジプトの嘉物をおはせ牝の驢馬十疋に父の途の用に供ふる穀物と糧と肉をおはせて餽れり 24斯して兄弟をかへして去しめ之にいふ汝等途にて相あらそふなかれと 25かれらエジプトより上りてカナンの地にゆきその父ヤコブにいたり 26之につげてヨセフは尚いきてをりエジプト全國の宰となりをるといふしかるにヤコブの心なほ寒冷なりき其はこれを信ぜざればなり 27彼等またヨセフの己にいひたる言をことごとく之につげたりその父ヤコブ、ヨセフがおのれを載んとておくりし車をみるにおよびて其氣おのれにかへれり 28イスラエルすなはちいふ足りわが子ヨセフなほ生をるわれ死ざるまへに往て之を視ん

第四十六章

1イスラエルその己につける諸の者とともに出たちベエルシバにいたりてその父イサクの神に犧牲をささぐ 2神夜の異象にイスラエルにかたりてヤコブよヤコブよといひたまふ 3ヤコブわれ此にありといひければ神いひたまふ我は神なり汝の父の神なりエジプトにくだることを懼るなかれわれ彼處にて汝を大なる國民となさん 4我汝と共にエジプトに下るべし亦かならず汝を導のぼるべしヨセフ手をなんぢの目の上におかんと 5かくてヤコブ、ベエルシバをたちいでたりイスラエルの子等すなはちパロの載んとておくりたる車に父ヤコブと己の子女と妻等を載せ 6その家畜とカナンの地にてえたる貨財をたづさへ斯してヤコブとその子孫皆ともにエジプトにいたれり 7ヤコブかくその子と子の子およびその女と子の女すなはちその子孫を皆ともなひてエジプトににつれゆけり 8イスラエルの子のエジプトにくだれる者の名は左のごとしヤコブとその子等ヤコブの長子はルベン 9ルベンの子はヘノク、パル、ヘヅロン、カルミ 10シメオンの子はヱムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ゾハルおよびカナンの婦のうめる子シヤウル 11レビの子はゲルシヨン、コハテ、メラリ 12ユダの子エル、オナン、シラ、ペレヅ、ゼラ但しエルとオナンはカナンの地に死たりペレヅの子はヘヅロンおよびハムルなり 13イツサカルの子はトラ、プワ、ヨブ、シムロン 14ゼブルンの子はセレデ、エロン、ヤリエルなり 15是等および女子デナはレアがパダンアラムにてヤコブにうみたる者なりその男子女子あはせて三十三人なりき 16ガドの子はゼボン、ハギ、シユニ、エヅボン、エリ、アロデ、アレリ 17アセルの子はヱムナ、イシワ、イスイ、ベリアおよびその妹サラ並にベリアの子ヘベルとマルキエルなり 18是等はラバンがその女レアにあたへたるジルパの子なり彼是等をヤコブにうめり都合十六人 19ヤコブの妻ラケルの子はヨセフとベニヤミンなり 20エジプトの國にてヨセフにマナセとエフライムうまれたり是はオンの祭司ポテパルの女アセナテが生たる者なり 21ベニヤミンの子はベラ、ベケル、アシベル、ゲラ、ナアマン、エヒ、ロシ、ムツピム、ホパム、アルデ 22是等はラケルの子にしてヤコブにうまれたる者なり都合十四人 23ダンの子はホシム 24ナフタリの子はヤジエル、グニ、エゼル、シレム 25是等はラバンがその女ラケルにあたへたるビルハの子なり彼これらをヤコブにうめり都合七人 26ヤコブとともにエジプトにいたりし者はヤコブの子の妻をのぞきて六十六人なりき是皆ヤコブの身よりいでたる者なり 27エジプトにてヨセフにうまれたる子二人ありヤコブの家の人のエジプトにいたりし者はあはせて七十人なりき 28ヤコブ預じめユダをヨセフにつかはしおのれをゴセンにみちびかしむ而して皆ゴセンの地にいたる 29ヨセフその車を整へゴセンにのぼりて父イスラエルを迓へ之にまみえてその頸を抱き頸をかかへて久く啼く 30イスラエル、ヨセフにいふ汝なほ生てをり我汝の面を見ることをえたれば今は死るも可しと 31ヨセフその兄弟等と父の家族とにいひけるは我のぼりてパロにつげて之にいふべしわが兄弟等とわが父の家族カナンの地にをりし者我のところに來れり 32その人々は牧者にして牧畜の人なり彼等その羊と牛およびその有る諸の物をたづさへ來れりと 33パロもし汝等を召て汝等の業は何なるやと問ことあらば 34僕等は幼少より今に至るまで牧

畜の人なり我儕も先祖等もともにしかりといへしからばなんぢらゴセンの地にすむことをえん牧者は皆エジプト人の穢はしとするものなればなり

第四十七章

1 茲にヨセフゆきてパロにつげていひけるはわが父と兄弟およびその羊と牛と諸の所有物カナンの地よりいたれり彼らはゴセンの地にをると 2 その兄弟の中より五人をとりてこれをパロにまみえしむ 3 パロ、ヨセフの兄弟等にいひけるは汝らの業は何なるか彼等パロにいふ僕等は牧者なりわれらも先祖等もともにしかりと 4 かれら又パロにいひけるは此國に寓らんとて我等はきたる其はカナンの地に饑饉はげしくして僕等の群をやしなふ牧場なければなりされば請ふ僕等をしてゴセンの地にすましめたまへ 5 パロ、ヨセフにかたりていふ汝の父と兄弟汝の所にきたれり 6 エジプトの地はなんぢの前にあり地の善き處に汝の父と兄弟をすましめよすなはちゴセンの地にかれらをすましめよ汝もし彼等の中に才能ある者あるをしらば其人々をしてわが家畜をつかさどらしめよ 7 ヨセフまた父ヤコブを引ていりパロの前にたたしむヤコブ、パロを祝す 8 パロ、ヤコブにいふ汝の齢の日は幾何なるか 9 ヤコブ、パロにいひけるはわが旅路の年月は百三十年にいたる我が齢の日は僅少にして且惡かり未だわが先祖等の齢の日と旅路の日にはおよばざるなり 10 ヤコブ、パロを祝しパロのまへよりいでさりぬ 11 ヨセフ、パロの命ぜしごとくその父と兄弟に居所を與へエジプトの國の中の善き地即ちラメセスの地をかれらにあたへて所有となさしむ 12 ヨセフその父と兄弟と父の全家にその子の數にしたがひて食物をあたへて養へり 13 却説饑饉ははなはだはげしくして全國に食物なくエジプトの國とカナンの國饑饉のために弱れり 14 ヨセフ穀物を賣あたへてエジプトの地とカナンの地にありし金をことごとく斂む而してヨセフその金をパロの家にもちきたる 15 エジプトの國とカナンの國に金つきたればエジプト人みなヨセフにいたりていふ我等に食物をあたへよ如何ぞなんぢの前に死べけんや金すでにたえたり 16 ヨセフいひけるは汝等の家畜をいだせ金もしたえたらば我なんぢらの家畜にかへて與ふべしと 17 かれら乃ちその家畜をヨセフにひきたりければヨセフその馬と羊の群と牛の群および驢馬にかへて食物をかれらにあたへそのすべての家畜のために其年のあひだ食物をあたへてこれをやしなふ 18 かくてその年暮けるが明年にいたりて人衆またヨセフにきたりて之にいふ我等主に隱すところなしわれらの金は竭たりまたわれらの畜の群は主に皈す主のまへにいだすべき者は何ものこりをらず唯われらの身體と田地あるのみ 19 われらいかんぞわれらの田地とともに汝の目のまへに死亡ぶべけんや我等とわれらの田地を食物に易て買とれ我等田地とともにパロの僕とならんまた我等に種をあたへよ然ばわれら生るをえて死るにいたらず田地も荒蕪にいたらじ 20 是に於てヨセフ、エジプトの田地をことごとく購とりてパロに納る其はエジプト人饑饉にせまりて各人その田圃を賣たればなり是によりて地はパロの所有となれり 21 また民はエジプトのこの境の極よりかの境の極の者までヨセフこれを邑々にうつせり 22 但祭司の田地は購とらざりき祭司はパロより祿をたまはりをればパロの與る祿を食たるによりてその田地を賣ざればなり 23 茲にヨセフ民にいひけるは視よ我今日汝等となんぢらの田地をかひてパロに納る視よこの種子を汝らに與ふ地に播べし 24 しかして收穫の五分の一をパロに輸し四分をなんぢらに取て田圃の種としなんぢらの食としなんぢらの家族と子女の食とせよ 25 人衆いひけるは汝われらの生命を拯ひたまへりわれら主のまへに恩をえんことをねがふ我等パロの僕となるべしと 26 ヨセフ、エジプトの田地に法をたてその五分の一をパロにをさめしむその事今日にいたる唯祭司の田地のみパロの有とならざりき 27 イスラエル、エジプトの國に於てゴセンの地にすみ彼處に產業を獲その數増て大に殖たり 28 ヤコブ、エジプトの國に十七年いきながらへたりヤコブの年齒の日は合て百四十七年なりき 29 イスラエル死る日ちかよりければその子ヨセフをよびて之にいひけるは我もし汝のまへに恩を得るならば請ふなんぢの手をわが髀の下にいれ懇に眞實をもて我をあつかへ我をエジプトに葬るなかれ 30 我は先祖等とともに偃んことをねがふ汝われをエジプトよ舁いだして先祖等の墓場にはうむれヨセフいふ我なんぢが言るごとくなすべしと 31 ヤコブまた我に誓へといひければすなはち誓へりイスラエル床の頭にて拜をなせり

第四十八章

1 是等の事の後汝の父病にかかるとヨセフに告る者ありければヨセフ二人の子マナセとエフライムをともなひて

至る 2人ヤコブに告て汝の子ヨセフなんぢの許にきたるといひければイスラエル強て床に坐す 3しかしてヤコブ、ヨセフにいひけるは昔に全能の神カナンの地のルズにて我にあらはれて我を祝し 4我にいひたまひけらく我なんぢをして多く子をえせしめ汝をふやし汝を衆多の民となさん我この地を汝の後の子孫にあたへて永久の所有となさしめんと 5わがエジプトにきたりて汝に就まへにエジプトにて汝に生れたる二人の子エフライムとマナセ是等はわが子となるべしルベンとシメオンのごとく是等はわが子とならん 6是等の後になんぢが得たる子は汝のものとすべし又その産業はその兄弟の名をもて稱らるべし 7我事をいはんに我昔パダンより來れる時ラケル我にしたがひをりて途にてカナンの地に死り其處はエフラタまで尚途の隔あるところなりわれ彼處にて彼をエフラタの途にはうむれり(エフラタはすなはちベテレヘムなり) 8斯てイスラエル、ヨセフの子等を見て是等は誰なるやといひければ 9ヨセフ父にいふ是は神の此にて我にたまひし子等なりと父すなはちいふ請ふ彼らを我所につれきたれ我これを祝せんと 10イスラエルの目は年壽のために眯て見るをえざりしがヨセフかれらをその許につれきたりければ之に接吻してこれを抱けり 11しかしてイスラエル、ヨセフにいひけるは我なんぢの面を見るあらんとは思はざりしに視よ神なんぢの子をもわれにしめしたまふと 12ヨセフかれらをその膝の間よりいだし地に俯て拜せり 13しかしてヨセフ、エフライムを右の手に執てヤコブに左の手にむかはしめマナセを左の手に執てヤコブの右の手にむかはしめ二人をみちびきてかれに就ければ 14イスラエル右の手をのべて季子エフライムの頭に按き左の手をのべてマナセの頭におけりマナセは長子なれども故にかくその手をおけるなり 15斯してヨセフを祝していふわが父アブラハム、イサクの事へし神わが生れてより今日まで我をやしなひたまひし神 16我をして諸の災禍を贖はしめたまひし天使ねがはくは是童子等を祝たまへねがはくは是等の者わが名とわが父アブラハム、イサクの名をもて稱られんことをねがはくは是等地の中に繁殖がるにいたれ 17ヨセフ父が右の手をエフライムの頭に按るを見てよろこばず父の手をあげて之をエフライムの頭よりマナセの頭にうつさんとす 18ヨセフすなはち父にいひけるは然にあらず父よ是長子なれば右の手をその頭に按たまへ 19父こばみていひけるは我知るわが子よわれしる彼も一の民となり彼も大なる者とならん然れどもその弟は彼よりも大なる者となりてその子孫は多衆の國民となるべしと 20此日彼等を祝していふイスラエル汝を指て人を祝し願くは神汝をしてエフライムのごとくマナセのごとくならしめたまへといふにいたらんとすなはちエフライムをマナセの先にたてたり 21イスラエルまたヨセフにいひけるは視よわれは死んされど神なんぢらとともにいまして汝等を先祖等の國にみちびきかへりたまふべし 22且われ一の分をなんぢの兄弟よりもおほく汝にあたふ是わが刀と弓を以てアモリ人の手より取たる者なり

第四十九章

1ヤコブその子等を呼ていひけるは汝らあつまれ我後の日に汝らが遇んところの事を汝等につげん 2汝等つどひて聽けヤコブの子等よ汝らの父イスラエルに聽け 3ルベン汝はわが豕子わが勢わが力の始威光の卓越たる者權威の卓越たる者なり 4汝は水の沸あがるがごとき者なれば卓越を得ざるべし汝父の床にのぼりて涜したればなり嗚呼彼はわが寢牀にのぼれり 5シメオン、レビは兄弟なりその劍は暴逆の器なり 6我魂よかれらの席にのぞむなかれ我寶よかれらの集會につらなるなかれ其は彼等その怒にまかせて人をころしその意にまかせて牛を筋截たればなり 7その怒は烈しかれば詛ふべしその憤は暴あれば詛ふべし我彼らをヤコブの中に分ちイスラエルの中に散さん 8ユダよ汝は兄弟の讃る者なり汝の手はなんぢの敵の頸を抑へんなんぢの父の子等なんぢの前に鞠ん 9ユダは獅子の子の如しわが子よ汝は所掠物をさきてかへりのぼる彼は牡獅子のごとく伏し牝獅のごとく蹲まる誰か之をおこすことをせん 10杖ユダを離れず法を立る者その足の間をはなるることなくしてシロの來る時にまでおよばん彼に諸の民したがふべし 11彼その驢馬を葡萄の樹に繋ぎその牝驢馬の子を葡萄の蔓に繋がん又その衣を酒にあらひ其服を葡萄の汁にあらふべし 12その目は酒によりて紅くその齒は乳によりて白し 13ゼブルンは海邊にすみ舟の泊る海邊に住はんその界はシドンにおよぶべし 14イッサカルは羊の牢の間に伏す健き驢馬の如し 15彼みて安泰を善としその國を樂とし肩をさげて負ひ租稅をいだして僕となるべし 16ダンはイスラエルの他の支派の如く其民を鞫かん 17ダンは路の旁の蛇のごとく途邊

にある蝮のごとし馬の踵を噛てその騎者をして後に落しむ 18ヱホバよわれ汝の拯救を待り 19ガドは軍勢これにせまらんされど彼返てその後にせまらん 20アセルよりいづる食物は美るべし彼王の食ふ美味をいださん 21ナフタリは釋れたる麀のごとし彼美言をいだすなり 22ヨセフは實を結ぶ樹の芽のごとし即ち泉の傍にある實をむすぶ樹の芽のごとしその枝つひに垣を踰ゆ 23射者彼をなやまし彼を射かれを惡めり 24然どかれの弓はなほ勁くあり彼の手の臂は力あり是ヤコブの全能者の手によりてなり其よりイスラエルの磐なる牧者いづ 25汝の父の神による彼なんぢを助けん全能者による彼なんぢを祝まん上なる天の福、下によこたはる淵の福、乳哺の福、胎の福、汝にきたるべし 26父の汝を祝することはわが父祖の祝したる所に勝て恒久の山の限極にまでおよばん是等の祝福はヨセフの首に歸しその兄弟と別になりたる者の頭頂に歸すべし 27ベニヤミンは物を噛む狼なり朝にその所掠物を啖ひ夕にその所攫物をわかたん 28是等はイスラエルの十二の支派なり斯その父彼らに語り彼等を祝せりすなはちその祝すべき所にしたがひて彼等諸人を祝せり 29ヤコブまた彼等に命じて之にいひけるは我はわが民にくははらんとすヘテ人エフロンの田にある洞穴にわが先祖等とともに我をはうむれ 30その洞穴はカナンの地にてマムレのまへなるマクペラの田にあり是はアブラハムがヘテ人エフロンより田とともに購て所有の墓所となせし者なり 31アブラハムとその妻サラ彼處にはうむられイサクとその妻リベカ彼處に葬られたり我またかしこにレアを葬れり 32彼田とその中の洞穴はヘテの子孫より購たる者なり 33ヤコブその子に命ずることを終し時足を床に斂めて氣たえてその民にくはは

第五十章

1ヨセフ父の面に俯し之をいだきて哭き之に接吻す 2而してヨセフその僕なる醫者に命じてその父に香らしむ醫者イスラエルに香れり 3すなはち之がために四十日を用ふ其は尸に香るにはこの日數を用ふべければなりエジプト人七十日の間之がために哭けり 4哀哭の日すぎし時ヨセフ、パロの家にかたりていひけるは我もし汝等の前に恩惠を得るならば請ふパロの耳にまうして言へ 5わが父我死ばカナンの地にわが掘おきたる墓に我をはうむれといひて我を誓はしめたり然ば請ふわれをして上りて父を葬らしめたまへまた歸りきたらんと 6パロいひけるは汝の父汝をちかはせしごとくのぼりて之を葬るべし 7是に於てヨセフ父を葬らんとて上るパロの諸の臣パロの家の長老等エジプトの地の長老等 8およびヨセフの全家とその兄弟等およびその父の家之とともに上る只その子女と羊と牛はゴセンの地にのこせり 9また車と騎兵ヨセフにしたがひてのぼり其隊ははなはだ大なりき 10彼等つひにヨルダンの外なるアタデの禾場に到り彼にて大に泣き痛く哀しむヨセフすなはち七日父のために哭きぬ 11その國の居人なるカナン人等アタデの禾場の哀哭を見て是はエジプト人の痛くなげくなりといへり是によりて其處の名をアベルミツライム(エジプト人の哀哭)と稱ふヨルダンの外にあり 12ヤコブの子等その命ぜられたるごとく之になせり 13すなはちヤコブの子等彼をカナンの地に舁ゆきて之をマクペラの田の洞穴にはうむれり是はアブラハムがヘテ人エフロンより田とともに購とりて所有の墓所となせし者にてマムレの前にあり 14ヨセフ父を葬りてのち其兄弟および凡て己とともにのぼりて父をはうむれる者とともにエジプトにかへりぬ 15ヨセフの兄弟等その父の死たるを見ていひけるはヨセフあるいはわれらを恨むることあらん又かならずわれらが彼になしたる諸の惡にむくゆるならんと 16すなはちヨセフにいひおくりけるはなんぢの父死るまへに命じて言けらく 17汝ら斯ヨセフにいふべし汝の兄弟汝に惡をなしたれども冀はくはその罪咎をゆるせと然ば請ふ汝の父の神の僕等の咎をゆるせとヨセフその言を聞て啼泣り 18兄弟等もまた自らきたりヨセフの面の前に俯し我儕は汝の僕とならんといふ 19ヨセフかれらに曰けるは懼るなかれ我あに神にかはらんや 20汝等は我を害せんとおもひたれども神はそれを善にかはらせ今日のごとく多の民の生命を救ふにいたらしめんとおもひたまへり 21故に汝らおそるるなかれ我なんぢらと汝らの子女をやしなはんと彼等をなぐさめ懇に之にかたれり 22ヨセフ父の家族とともにエジプトにすめりヨセフは百十歳いきながらへたり 23ヨセフ、エフライムの三世の子女をみるにいたれりマナセの子マキルの子女もうまれてヨセフの膝にありき 24ヨセフその兄弟等にいひけるは我死ん神かならず汝等を眷顧みなんぢらを此地よりいだしてそのアブラハム、イサク、ヤコブに誓ひし地にいたらしめたまはんと 25ヨセフ神かならず汝等をかへりみたまはん汝らわが骨をここよ

りたづさへのぼるべしといひてイスラエルの子孫を誓はしむ 26ヨセフ百十歳にして死たれば之に 香 りて櫃にをさめてエジプトにおけり

出エジプト記

第一章

1イスラエルの子等のエジプトに至りし者の名は左のごとし衆人 各 その家族をたづさへてヤコブとともに至れり 2すなはちルベン、シメオン、レビ、ユダ、 3イツサカル、ゼブルン、ベニヤミン、 4ダン、ナフタリ、ガド、アセルなり 5ヤコブの腰より出たる者は都合七十人ヨセフはすでにエジプトにありき 6ヨセフとその諸の兄弟および當世の人みな死たり 7イスラエルの子孫饒く子を生み殖増え甚だしく大に強くなりて國に滿るにいたれり 8茲にヨセフの事をしらざる 新 き王エジプトに起りしが 9彼その民にいひけるは視よ此民イスラエルの子孫われらよりも多く且強し 10來れわれら機巧く彼等に事をなさん恐 くは彼等 多ならん又戰爭の起ることある時は彼等敵にくみして我等と戰ひ遂に國よりいでさらんと 11すなはち督者をかれらの上に立て彼らに重荷をおはせて之を 苦 む彼等パロのために府庫の邑ピトムとラメセスを建たり 12然るにイスラエルの子孫は苦むるに隨ひて增し殖たれば皆これを懼れたり 13エジプト人イスラエルの子孫を 嚴 く動作かしめ 14辛き力役をもて彼等をして苦みて生を度らしむ即ち和泥、作 甎 および田圃の 諸 の工にはたらかしめけるが其 働かしめし工作は皆 嚴かりき 15エジプトの王又ヘブルの產 婆シフラと名くる者とプワと名くる者の二人に諭して 16いひけるは汝等ヘブルの婦女のために收生をなす時は床の上を見てその子若男 子ならばこれを殺せ女 子ならば生しおくべしと 17然に產 婆 神を畏れエジプト王の命ぜしごとく爲ずして男子をも生しおけり 18エジプト王 產 婆を召て之にいひけるは汝等なんぞ此事をなし男子を生しおくや 19產 婆パロに言けるはヘブルの婦はエジプトの婦のごとくならず彼等は健して產 婆 のかれらに至らぬ前に產をはるなりと 20是によりて神その產 婆 等に恩をほどこしたまへり是において民增ゆきて甚だ強くなりぬ 21產 婆 神を畏れたるによりて神かれらのために家を成たまへり 22斯有しかばパロその凡 の民に命じていふ男 子の生るあらば汝等これを 悉 く河に投いれよ女 子は皆生しおくべし

第二章

1爰にレビの家の一箇の人往てレビの女を娶れり 2女 妊みて男子を生みその 美 きを見て三月のあひだこれを匿せしが 3すでにこれを匿すあたはざるにいたりければ蒲の箱舟を之がために取て之に瀝青と樹脂を塗り子をその中に納てこれを河邊の葦の中に置り 4その姉 遥 に立てその如何になるかを窺ふ 5茲にパロの女 身を洗んとて河にくだりその婢 等河の傍にあゆむ彼葦の中に箱舟あるを見て使 女をつかはしてこれを取きたらしめ 6これを啓きてその子のをるを見る嬰兒すなはち啼く彼これを憐みていひけるは是はヘブル人の子なりと 7時にその姉パロの女にいひけるは我ゆきてヘブルの女の中より此子をなんぢのために養ふべき乳母を呼きたらんか 8パロの女 往よと之にいひければ女子すなはち往てその子の母を呼きたる 9パロの女かれにいひけるは此子をつれゆきて我ために之を養へ我その値をなんぢにとらせんと婦すなはちその子を取てこれを養ふ 10斯てその子の長ずるにおよびて之をパロの女の所にたづさへゆきければすなはちこれが子となる彼その名をモーセ(援出)と名けて言ふ我これを水より援いだせしに因ると 11茲にモーセ生長におよびて一時いでてその兄弟等の所にいたりその重荷を負ふを見しが會 一箇のエジプト人が一箇のイスラエル人 即ちおのれの兄弟を擊つを見たれば 12右左を視まはして人のをらざるを見てそのエジプト人を擊ころし之を沙の中に埋め匿せり 13次の日また出て二人のヘブル人の相 爭ふを見たればその曲き者にむかひ汝なんぞ汝の隣 人を擊つやといふに 14彼いひけるは誰が汝を立てわれらの君とし判 官としたるや汝かのエジプト人をころせしごとく我をも殺さんとするやと是においてモーセ懼れてその事かならず知れたるならんとおもへり 15パロ此事を聞てモーセを殺さんともとめければモーセすなはちパロの面をさけて逃げのびミデアンの地に住り彼井の 傍 に坐せり 16ミデアン

の祭司に七人の女子ありしが彼等來りて水を汲み水鉢に
盈て父の羊群に飲はんとしけるに 17牧羊者等きたりて彼
らを逐はらひければモーセ起あがりて彼等をたすけその
羊群に飲ふ 18彼等その父リウエルに至れる時父言けるは
今日はなんぢら何ぞかく速にかへりしや 19かれらいひけ
るは一箇のエジプト人我らを牧羊者等の手より救いだし
亦われらのために水を多く汲て羊群に飲しめたり 20父
女等にいひけるは彼は何處にをるや汝等なんぞその人を
遺てきたりしや彼をよびて物を食しめよと 21モーセこの
人とともに居ることを好めり彼すなはちその女子チツポ
ラをモーセに與ふ 22彼男子を生みければモーセその名を
ゲルシヨム(客)と名けて言ふ我異邦に客となりをればな
りと 23斯て時をふる程にジプトの王死りイスラエルの
子孫その勞役の故によりて歎き號ぶにその勞役の故によ
りて號ぶところの聲神に達りければ 24神その長呻を聞き
神そのアブラハム、イサク、ヤコブになしたる契約を憶
え 25神イスラエルの子孫を眷み神知しめしたまへり

第三章

1モーセその妻の父なるミデアンの祭司エテロの群を牧ひ
をりしがその群を曠野の奥にみちびきて神の山ホレブに
至るに 2エホバの使者棘の裏の火燄の中にて彼にあらは
る彼見るに棘火に燃れどもその棘燬ず 3モーセいひける
は我ゆきてこの大なる觀を見何故に棘の燃たえざるかを
見ん 4エホバ彼がきたり觀んとするを見たまふ即ち神棘
の中よりモーセよモーセよと彼をよびたまひければ我こ
こにありといふに 5神いひたまひけるは此に近よるなか
れ汝の足より履を脱ぐべし汝が立つ處は聖き地なればな
り 6又いひたまひけるは我はなんぢの父の神アブラハム
の神イサクの神ヤコブの神なりとモーセ神を見ることを
畏れてその面を蔽せり 7エホバ言たまひけるは我まこと
にエジプトにをるわが民の苦患を觀また彼等がその
驅使者の故をもて號ぶところの聲を聞り我かれらの憂苦
を知るなり 8われ降りてかれらをエジプト人の手より救
ひいだし之を彼地より導きのぼりて善き廣き地乳と蜜と
の流るる地すなはちカナン人ヘテ人アモリ人ペリジ人ヒ
ビ人エブス人のをる處に至らしめんとす 9今イスラエル
の子孫の號呼われに達る我またエジプト人が彼らを苦む
るその暴虐を見たり 10然ば來れ我なんぢをパロにつかは
し汝をしてわが民イスラエルの子孫をエジプトより導き
いださしめん 11モーセ神にいひけるは我は如何なる者ぞ
や我豈パロの許に往きイスラエルの子孫をエジプトより
導きいだすべき者ならんや 12神いひたまひけるは我かな
らず汝とともにあるべし是はわが汝をつかはせる證據な
り汝民をエジプトより導きいだしたる時汝等この山にて
神に事へん 13モーセ神にいひけるは我イスラエルの子孫
の所にゆきて汝らの先祖等の神我を汝らに遣はしたまふ
と言んに彼等もし其名は何と我に言ば何とかれらに言べ
きや 14神モーセにいひたまひけるは我は有て在る者なり
又いひたまひけるは汝かくイスラエルの子孫にいふべし
我有といふ者我を汝らに遣したまふと 15神またモーセに
いひたまひけるは汝かくイスラエルの子孫にいふべし 汝
らの先祖等の神アブラハムの神イサクの神ヤコブの神エ
ホバわれを汝らにつかはしたまふと是は永遠にわが名と
なり世々にわが誌となるべし 16汝往てイスラエルの
長老等をあつめて之にいふべし汝らの先祖等の神アブラ
ハム、イサク、ヤコブの神エホバ我にあらはれて言たま
ひけらく我誠になんぢらを眷み汝らがエジプトにて蒙る
ところの事を見たり 17我すなはち言り我汝らをエジプト
の苦患の中より導き出してカナン人ヘテ人アモリ人ペリ
ジ人ヒビ人エブス人の地すなはち乳と蜜の流るる地にの
ぼり至らしめんと 18彼等なんぢの言に聽したがふべし汝
とイスラエルの長老等エジプトの王の許にいたりて之に
言へヘブル人の神エホバ我らに臨めり然ば請ふわれらを
して三日程ほど曠野に入しめわれらの神エホバに犧牲を
ささぐることを得せしめよと 19我しるエジプトの王は
假令能力ある手をくはふるも汝等の往をゆるさざるべし
20我すなはちわが手を舒べエジプトの中に諸の奇跡を
行ひてエジプトを撃ん其後かれ汝等を去しむべし 21我エ
ジプト人をして此民をめぐましめん汝ら去る時手を空う
して去るべからず 22婦女皆その隣人とおのれの家に寓る
者とに金の飾品銀の飾品および衣服を乞べし而して汝ら
これを汝らの子女に穿戴せよ汝等かくエジプト人の物
を取べし

第四章

1モーセ對へていひけるは然ながら彼等我を信ぜず又わが
言に聽したがはずして言んエホバ汝にあらはれたまはず
と 2エホバかれにいひたまひけるは汝の手にある者は何
なるや彼いふ杖なり 3エホバいひたまひけるは其を地に

擲よとすなはち之を地になぐるに蛇となりければモーセその前を避たり 4ヱホバ、モーセにいひたまひけるは汝の手をのべて其尾を執れとすなはち手をのべて之を執ば手にいりて杖となる 5ヱホバいひたまふ是は彼らの先祖等の神アブラハムの神イサクの神ヤコブの神ヱホバの汝にあらはれたることを彼らに信ぜしめんためなり 6ヱホバまたかれに言たまひけるは汝の手を懐に納よとすなはち手を懐にいれて之を出し見るにその手癩病を生じて雪のごとくなれり 7ヱホバまた言たまひけるは汝の手をふたたび懐にいれよと彼すなはちふたたび其手を懐にいれて之を懐より出し見るに變りて他處の肌膚のごとくになる 8ヱホバいひたまふ彼等もし汝を信ぜずまたその最初の徴の聲に聽從はざるならば後の徴の聲を信ぜん 9彼らもし是ふたつの徴をも信ぜすして汝の言に聽從はざるならば汝河の水をとりて之を陸地にそそげ汝が河より取たる水陸地にて血となるべし 10モーセ、ヱホバにいひけるはわが主よ我は素言辭に敏き人にあらず汝が僕に語りたまへるに及びても猶しかり我は口重く舌重き者なり 11ヱホバかれにいひたまひけるは人の口を造る者は誰なるや唖者聾者目明者瞽者などを造る者は誰なるや我ヱホバなるにあらずや 12然ば往けよ我なんぢの口にありて汝の言ふべきことを教へん 13モーセいひけるはわが主よ願くは遣すべき者をつかはしたまへ 14是においてヱホバ、モーセにむかひ怒を發していひたまひけるはレビ人アロンは汝の兄弟なるにあらずや我かれが言を善するを知るまた彼なんぢに遇んとていで來る彼汝を見る時心に喜ばん 15汝かれに語りて言をその口に授くべし我なんぢの口と彼の口にありて汝らの爲べき事を教へん 16彼なんぢに代て民に語らん彼は汝の口に代らん汝は彼のために神に代るべし 17なんぢこの杖を手に執り之をもて奇蹟をおこなふべし 18是においてモーセゆきてその妻の父ヱテロの許にかへりて之にいふ請ふ我をして往てわがエジプトにある兄弟等の所にかへらしめ彼等のなほ生ながらへをるや否を見さしめよヱテロ、モーセに安然に往くべしといふ 19爰にヱホバ、ミデアンにてモーセにいひたまひけるは往てエジプトにかへれ汝の生命をもとめし人は皆死たりと 20モーセすなはちその妻と子等をとり之を驢馬に乗てエジプトの地にかへるモーセは神の杖を手に執り 21ヱホバ、モーセにいひたまひけるは汝エジプトにかへりゆける時はかならず我がなんぢの手に授けたるところの奇跡を悉くパロのまへにおこなふべし但し我かれの心を剛愎にすれば彼民を去しめざるべし 22汝パロに言べしヱホバかく言ふイスラエルはわが子わが冢子なり 23我なんぢにいふ我が子を去らしめて我に事ふることをえせしめよ汝もし彼をさらしむることを拒ば我なんぢの子なんぢの冢子を殺すべしと 24モーセ途にある時ヱホバかれの宿所にて彼に遇てころさんとしたまひければ 25チツポラ利き石をとりてその男子の陽の皮を割りモーセの足下になげうちて言ふ汝はまことにわがためには血の夫なりと 26是においてヱホバ、モーセをゆるしたまふ此時チツポラが血の夫といひしは割禮の故によりてなり 27爰にヱホバ、アロンにいひたまひけるに曠野にゆきてモーセを迎へよと彼すなはちゆきて神の山にてモーセに遇ひ之に接吻す 28モーセ、ヱホバがおのれに言ふくめて遣したまへる諸の言とヱホバのおのれに命じたまひし諸の奇跡とをアロンにつげたり 29斯てモーセとアロン往てイスラエルの子孫の長老を盡く集む 30而してアロン、ヱホバのモーセにかたりたまひし言を盡くつぐ又彼民の目のまへにて奇蹟をなしければ 31民すなはち信ず彼等ヱホバがイスラエルの民をかへりみその苦患をおもひたまふを聞て身をかがめて拝をなせり

第五章

1その後モーセとアロン入てパロにいふイスラエルの神ヱホバ斯いひたまふ我民を去しめ彼等をして曠野に於て我を祭ることをえせしめよと 2パロいひけるはヱホバは誰なればか我その聲にしたがひてイスラエルを去しむべき我ヱホバを識ず亦イスラエルを去しめじ 3彼ら言けるはヘブル人の神我らに顯れたまへり請ふ我等をして三日程ほど曠野にいりてわれらの神ヱホバに犠牲をささぐることをえせしめよ恐くはヱホバ疫病か又は刀兵をもて我らをなやましたまはん 4エジプト王かれらに言けるは汝等モーセ、アロンなんぞ民の操作を妨ぐるや往てなんぢらの荷を負へ 5パロまたいふ土民今は多かり然るに汝等かれらをして荷をおふことを止しめんとす 6パロ此日民が驅使ふ者等および民の有司等に命じていふ 7汝等 再び前のごとく民に磚瓦を造る禾稈を與ふべからず彼等をして往てみづから禾稈をあつめしめよ 8また彼等が前に造りし磚瓦の數のごとくに仍かれらに之をつくらしめよ其を減すなかれ彼等は懈惰が故に我儕をして往てわれらの神

に犠牲をささげしめよと呼はり言ふなり 9人々の工作を重くして之に労かしめよ然ば偽の言を聴ことあらじと 10民を驅使ふ者等およびその有司等出ゆきて民にいひけるはパロかく言たまふ我なんぢらに禾稈をあたへじ 11汝等往て禾稈のある處にて之をとれ但しなんぢらの工作は分毫も減さざるべしと 12是において民遍くエジプトの地に散て草藁をあつめて禾稈となす 13驅使者かれらを促たてて言ふ禾稈のありし時のごとく汝らの工作汝らの日々の業をなしをふべしと 14パロの驅使者等がイスラエルの子孫の上に立たるところの有司等撻れなんぢら何ぞ昨日も今日も磚瓦を作るところの汝らの業を前のごとくに爲しをへざるやと言る 15是に於てイスラエルの子孫の有司等來りてパロに呼はりて言ふ汝なんぞ斯 僕 等になすや 16僕 等に禾稈を與へずしてわれらに磚瓦を作れといふ視よ僕 等は撻る是なんぢの民の 過 なりと 17然るにパロいふ汝等は懶惰し懶惰し故に汝らは我らをして往てヱホバに犠牲をささげしめよと言ふなり 18然ば汝ら往て操作けよ禾稈はなんぢらに與ふることなかるべけれどなんぢら尚數のごとくに磚瓦を交納むべしと 19イスラエルの子孫の有司等汝等その日々につくる磚瓦を減すべからずと言るを聞て災害の身におよぶを知り 20彼らパロをはなれて出たる時モーセとアロンの對面にたてるを見たれば 21之にいひけるは願くはヱホバ汝等を鑒みて鞫きたまへ汝等はわれらの臭をパロの目と彼の僕の目に忌嫌はれしめ刀を彼等の手にわたして我等を殺さしめんとするなりと 22モーセ、ヱホバに返りて言ふわが主よ何て此民をあしくしたまふや何のために我をつかはしたまひしや 23わがパロの許に來りて汝の名をもて語りしよりして彼この民をあしくす汝また絶てなんぢの民をすくひたまはざるなり

第六章

1ヱホバ、モーセに言たまひけるは今 汝わがパロに爲んところの事を見るべし能ある手の加はるによりてパロ彼らをさらしめん能ある手の加はるによりてパロ彼らを其國より逐いだすべし 2神モーセに語りて之にいひたまひけるは我はヱホバなり 3我全能の神といひてアブラハム、イサク、ヤコブに顯れたり然ど我名のヱホバの事は彼等しらざりき 4我また彼らとわが契約を立て彼等が旅して寄 居たる國カナンの地をかれらに與ふ 5我またエジプト人が奴隷となせるイスラエルの子孫の呻吟た聞き且我が契約を憶ひ出づ 6故にイスラエルの子孫に言へ我はヱホバなり我 汝らをエジプト人の重負の下より携出し其使役をまぬかれしめ又腕をのべ大なる罰をほどこして汝等を贖はん 7我汝等を取て吾民となし汝等の神となるべし汝等はわがエジプト人の重擔の下より汝らを携出したるなんぢらの神ヱホバなることを知ん 8我わが手をあげてアブラハム、イサク、ヤコブに與へんと誓ひし地に汝等を導きいたり之を汝等に與へて產業となさしめん我はヱホバなり 9モーセかくイスラエルの子孫に語けれども彼等は心の傷ると役事の苦きとの爲にモーセに聽ざりき 10ヱホバ、モーセに告ていひたまひけるは 11入てエジプトの王パロに語りイスラエルの子孫をその國より去しめよ 12モーセ、ヱホバの前に申していふイスラエルの子孫既に我に聽ず我は口に割禮をうけざる者なればパロいかで我にきかんや 13ヱホバ、モーセとアロンに語り彼等に命じてイスラエルの子孫とエジプトの王パロの所に往しめイスラエルの子孫をエジプトの地より導きいださしめたまふ 14かれらの父の家々の長は左のごとしイスラエルの冢子ルベンの子ヘノク、バル、ヘヅロン、カルミ是等はルベンの家族なり 15シメオンの子ヱムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ゾハルおよびカナンの女の生しシヤウル是らはシメオンの家族なり 16レビの子の名はその世代にしたがひて言ば左のごとしゲルシヨン、コハテ、メラリ是なりレビの齢の年は百三十七年なりき 17ゲルシヨンの子はその家族にしたがひて言ばリブニおよびシメイなり 18コハテの子はアムラム、イヅハル、ヘブロン、ウジエルなりコハテの齢の年は百三十三年なりき 19メラリの子はマヘリおよびムシなり是等はレビの家族にしてその世代にしたがひて言るものなり 20アムラム其伯母ヨケベデを妻にめとれり彼アロンとモーセを生むアムラムの齢の年は百三十七年なりき 21イヅハルの子はコラ、ネベグ、ジクリなり 22ウジエルの子はミサエル、エルザバン、シテリなり 23アロン、ナシヨンの姉アミナダブの女エリセバを妻にめとれり彼ナダブ、アビウ、エレアザル、イタマルを生む 24コラの子はアツシル、エルカナ、アビアサフ是等はコラ人の族なり 25アロンの子エレアザル、ブテエルの女の中より妻をめとれり彼ピネハスを生む是等はレビ人の父の家々の長にしてその家族に循ひて言る者なり 26ヱホバがイスラエルの子孫を其軍隊に

したがひてエジプトの地より導きいだせよといひたまひしは此アロンとモーセなり 27彼等はイスラエルの子孫をエジプトより導きいださんとしてエジプトの王パロに語りし者にして即ち此モーセとアロンなり 28ヱホバ、エジプトの地にてモーセに語りたまへる日に 29ヱホバ、モーセに語りて言たまひけるは我はヱホバなり汝わが汝にいふ所を悉皆くエジプトの王パロに語るべし 30モーセ、ヱホバの前に言けるは我は口に割禮を受ざる者なればパロいかで我に聽んや

第七章

1ヱホバ、モーセに言たまひけるは視よ我汝をしてパロにおけること神のごとくならしむ汝の兄弟アロンは汝の預言者となるべし 2汝はわが汝に命ずる所を盡く宣べし汝の兄弟アロンはパロに告ることを爲べし彼イスラエルの子孫をその國より出すに至らん 3我パロの心を剛愎にして吾徴と奇跡をエジプトの國に多くせん 4然どパロ汝に聽ざるべし我すなはち吾手をエジプトに加へ大なる罰をほどこして吾軍隊わが民イスラエルの子孫をエジプトの國より出さん 5我わが手をエジプトの上に伸てイスラエルの子孫をエジプト人の中より出す時には彼等我のヱホバなるを知ん 6モーセとアロン斯おこなひヱホバの命じたまへる如くに然なしぬ 7そのパロと談論ける時モーセは八十歳アロンは八十三歳なりき 8ヱホバ、モーセとアロンに告て言たまひけるは 9パロ汝等に語りて汝ら自ら奇蹟を行へと言時には汝アロンに言べし汝の杖をとりてパロの前に擲てよと其は蛇とならん 10是に於てモーセとアロンはパロの許にいたりヱホバの命じたまひしごとくに行へり即ちアロンその杖をパロとその臣下の前に擲しに蛇となりぬ 11斯在しかばパロもまた博士と魔術士を召よせたるにエジプトの法術士等もその秘術をもてかくおこなへり 12即ち彼ら各人その杖を投たれば蛇となりけるがアロンの杖かれらの杖を呑つくせり 13然るにパロの心剛愎になりて彼らに聽ことをせざりきヱホバの言たまひし如し 14ヱホバ、モーセに言たまひけるはパロは心頑にして民を去しむることを拒むなり 15朝におよびて汝パロの許にいたれ視よ彼は水に臨む汝河の邊にたちて彼を逆ふべし汝かの蛇に化し杖を手にとりて居り 16彼に言ふべしヘブル人の神ヱホバ我を汝につかはして言しむ吾民を去しめて曠野にて我に事ふることを得せしめよ視よ今まで汝は聽入ざりしなり 17ヱホバかく言ふ汝これによりて我がヱホバなるを知ん視よ我わが手の杖をもて河の水を撃ん是血に變ずべし 18而して河の魚は死に河は臭くならんエジプト人は河の水を飲ことを厭ふにいたるべし 19ヱホバまたモーセに言たまはく汝アロンに言へ汝の杖をとりて汝の手をエジプトの上に伸べ流水の上河々の上池塘の上一切の湖水の上に伸て血とならしめよエジプト全國に於て木石の器の中に凡て血あるにいたらん 20モーセ、アロンすなはちヱホバの命じたまへるごとくに爲り即ち彼パロとその臣下の前にて杖をあげて河の水を撃しに河の水みな血に變じたり 21是において河の魚死て河臭くなりエジプト人河の水を飲ことを得ざりき斯エジプト全國に血ありき 22エジプトの法術士等もその秘術をもて斯のごとく行へりパロは心頑固にして彼等に聽ことをせざりきヱホバの言たまひし如し 23パロすなはち身をめぐらしてその家に入り此事にも心をとめざりき 24エジプト人河の水を飲ことを得ざりしかば皆飲水を得んとて河のまはりを掘たりヱホバ河を撃たまひてより後七日たちぬ

第八章

1ヱホバ、モーセに言たまひけるは汝パロに詣りて彼に言へヱホバかく言たまふ吾民を去しめて我に事ふることを得せしめよ 2汝もし去しむることを拒まば我蛙をもて汝の四方の境を惱さん 3河に蛙むらがり上りきたりて汝の家にいり汝の寢室にいり汝の牀にのぼり汝の臣下の家にいり汝の民の所にいたり汝の竈におよび汝の揉鉢にいらん 4蛙なんぢの身にのぼり汝の民と汝の臣下の上にのぼるべし 5ヱホバ、モーセに言たまはく汝アロンに言へ汝杖をとりて手を流水の上に伸べ河々の上と池塘の上に伸て蛙をエジプトの地に上らしめよ 6アロン手をエジプトの水のうへに伸たれば蛙のぼりきたりてエジプトの地を蔽ふ 7法術士等もその秘術をもて斯おこなひ蛙をエジプトの地に上らしめたり 8パロ、モーセとアロンを召て言けるはヱホバに願ひてこの蛙を我とわが民の所より取さらしめよ我この民を去しめてヱホバに犠牲をささぐることを得せしめん 9モーセ、パロに言けるは我なんぢと汝の臣下と汝の民のために願ひて何時此蛙を汝と汝の家より絶さりて河にのみ止らしむべきや我に示せと 10彼明日といひければモーセ言ふ汝の言のごとくに爲し汝をして

我らの神ヱホバのごとき者なきことを知しめん 11蛙 汝と汝の家を離れ汝の臣下と汝の民を離れて河にのみ止るべしと 12モーセとアロンすなはちパロを離れて出でモーセそのパロに至らしめたまひし蛙のためにヱホバに呼はりしに 13ヱホバ、モーセの言のごとくなしたまひて蛙 家より村より田野より死亡たり 14茲にこれを攅むるに山をなし地臭くなりぬ 15然るにパロは噓氣時あるを見てその心を頑固にして彼等に聽ことをせざりきヱホバの言たまひし如し 16ヱホバ、モーセに言たまひけるは汝アロンに言へ汝の杖を伸べ地の塵を打てエジプト全國に蚤とならしめよと 17彼等斯なせり即ちアロン杖をとりて手を伸べ地の塵を撃けるに蚤となりて人と畜につけりエジプト全國において地の塵みな蚤となりぬ 18法術士等その秘術をもて斯おこなひて蚤を出さんとしたりしが能はざりき蚤は人と畜に著く 19是において法術士等パロに言ふ是は神の指なりと然るにパロは心剛愎にして彼等に聽ざりきヱホバの言たまひし如し 20ヱホバ、モーセに言たまはく汝 朝早く起てパロの前に立て視よ彼は水に臨む汝 彼に言へヱホバかく言たまふわが民を去しめて我に事ふることを得せしめよ 21汝もしわが民を去しめずば視よ我 汝と汝 の臣下と汝の民と汝の家とに蚋をおくらんエジプト人の家々には蚋充べし彼らの居るところの地も然らん 22その日に我わが民の居るゴセンの地を區別おきて其處に蚋あらしめじ是地の中にありて我のヱホバなることを汝が知んためなり 23我わが民と汝の民の間に區別をたてん明日この徴あるべし 24ヱホバかく爲たまひたれば蚋おびただしく出來りてパロの家にいりその臣下の家にいりエジプト全國にたり蚋のために地 害はる 25是においてパロ、モーセとアロンを召ていひけるは汝等往て國の中にて汝らの神に犠牲を献げよ 26モーセ言ふ然するは宜からず我等はエジプト人の崇拝む者を犠牲としてわれらの神ヱホバに献ぐべければなり我等もしエジプト人の崇拝む者をその目の前にて犠牲に献げなば彼等石にて我等を撃ざらんや 27我等は三日路ほど曠野にいりて我らの神ヱホバに犠牲を献げその命じたまひしごとくせんとす 28パロ言けるは我 汝らを去しめて汝らの神ヱホバに曠野にて犠牲を献ぐることを得せしめん但 餘に遠くは行べからず我ために祈れよ 29モーセ言けるは視よ我 汝をはなれて出づ我ヱホバに祈ん明日蚋パロとその臣下とその民を離れん第パロ再び 偽 をおこなひ民を去しめてヱホバに犠牲をささぐるを得せしめざるが如きことを爲ざれ 30かくてモーセ、パロをはなれて出でヱホバに祈りたれば 31ヱホバ、モーセの言のごとく爲したまへり即ちその蚋をパロとその臣下とその民よりはなれしめたまふ一ものこらざりき 32然るにパロ此時にもまたその心を頑固にして民を去しめざりき

第九章

1爰にヱホバ、モーセにいひたまひけるはパロの所にいりてかれに告よヘブル人の神ヱホバ斯いひたまふ吾民を去しめて我につかふることをえせしめよ 2汝もし彼等をさらしむることを拒みて尚かれらを拘留へなば 3ヱホバの手野にをる汝の家畜馬驢馬駱駝牛および羊に加はらん 即ち甚だ悪き疾あるべし 4ヱホバ、イスラエルの家畜とエジプトの家畜とを別ちたまはんイスラエルの子孫に屬する者は死る者あらざるべしと 5ヱホバまた期をさだめて言たまふ明日ヱホバこの事を國になさんと 6明日ヱホバこの事をなしたまひければエジプトの家畜みな死り然どイスラエルの子孫の家畜は一も死ざりき 7パロ人をつかはして見さしめたるにイスラエルの家畜は一頭だにも死ざりき然どもパロは心剛愎にして民をさらしめざりき 8またヱホバ、モーセとアロンにいひたまひけるは汝等竈爐の灰を一握とれ而してモーセ、パロの目の前にて天にむかひて之をまきちらすべし 9其灰エジプト全國に塵となりてエジプト全國の人と畜獣につき膿をもちて脹る腫物とならんと 10彼等すなはち竈爐の灰をとりてパロの前に立ちモーセ天にむかひて之をまきちらしければ人と獣畜につき膿をもちて脹る腫物となれり 11法術士等はその腫物のためにモーセの前に立つことを得ざりき腫物は法術士等よりして諸のエジプト人にまで生じたり 12然どヱホバ、パロの心を剛愎にしたまひたれば彼らに聽ざりきヱホバのモーセに言給ひし如し 13爰にヱホバ、モーセにいひたまひけるは朝早くおきてパロの前にたちて彼に言へヘブル人の神ヱホバ斯いひたまふ吾民を去しめて我に事ふるをえせしめよ 14我此度わが 諸 の災害を汝 の心となんぢの臣下およびなんぢの民に降し全地に我ごとき者なきことを汝に知しめん 15我もしわが手を伸べ疫病をもて汝となんぢの民を撃たらば汝は地より絶れしならん 16抑 わが汝をたてたるは即ちなんぢをしてわが權能を見さしめわが名を全地に傳へんためなり 17汝なほ

吾民の前に立ふさがりて之を去しめざるや 18視よ明日の今頃我はなはだ大なる雹を降すべし是はエジプトの開國より今までに嘗てあらざりし者なり 19然ば人をやりて汝の家畜および凡て汝が野に有る物を集めよ人も獣畜も凡て野にありて家に歸らざる者は雹その上にふりくだりて死るにたらん 20パロの臣下の中ヱホバの言を畏る者はその僕と家畜を家に逃いらしめしが 21ヱホバの言を意にとめざる者はその僕と家畜を野に置り 22ヱホバ、モーセにいひたまひけるは汝の手を天に舒てエジプト全國に雹あらしめエジプトの國中の人と獣畜と田圃の諸の蔬にふりくだらしめよと 23モーセ天にむかひて杖を舒たればヱホバ雷と雹を遣りたまふ又火いでて地に馳すヱホバ雹をエジプトの地に降せたまふ 24斯雹ふり又火の塊雹に雜りて降る甚だ勵しエジプト全國には其國を成てよりこのかた未だ斯る者あらざりしなり 25雹エジプト全國に於て人と獣畜とをいはず凡て田圃にをる者を撃り雹また田圃の諸の蔬を撃ち野の諸の樹を折り 26唯イスラエルの子孫のをるゴセンの地には雹あらざりき 27是に於てパロ人をつかはしてモーセとアロンを召てこれに言けるは我此度罪ををかしたりヱホバは義く我とわが民は惡し 28ヱホバに願ひてこの神鳴と雹を最早これにて足しめよ我なんぢらを去しめん汝等今は留るにおよばず 29モーセかれに曰けるは我邑より出て我手をヱホバに舒ひろげん然ば雷やみて雹かさねてあらざるべし斯して地はヱホバの所屬なるを汝にしらしめん 30然ど我しる汝となんぢの臣下等はなほヱホバ神を畏れざるならんと 31偖麻と大麥は擊れたり大麥は穗いで麻は花さきゐたればなり 32然ど小麥と裸麥は未だ長ざりしによりて擊れざりき 33モーセ、パロをはなれて邑より出でヱホバにむかひて手をのべひろげたれば雷と雹やみて雨地にふらずなりぬ 34然るにパロ雨と雹と雷鳴のやみたるを見て復も罪を犯し其心を剛硬にす彼もその臣下も然り 35即ちパロは心剛愎にしてイスラエルの子孫を去しめざりきヱホバのモーセによりて言たまひしごとし

第十章

1爰にヱホバ、モーセにいひたまひけるはパロの所に入れ我かれの心とその臣下の心を剛硬にせり是はわが此等の徴を彼等の中に示さんため 2又なんぢをして吾がエジプトにて行ひし事等すなはち吾がエジプトの中にてなしたる徴をなんぢの子となんぢの子の子の耳に語らしめんためなり斯して汝等わがヱホバなるを知べし 3モーセとアロン、パロの所にいりて彼にいひけるはヘブル人の神ヱホバかく言たまふ何時まで汝は我に降ることを拒むや我民をさらしめて我に事ふることをえせしめよ 4汝もしわが民を去しむることを拒まば明日我蝗をなんぢの境に入しめん 5蝗地の面を蔽て人地を見るあたはざるべし蝗かの免かれてなんぢに遺れる者すなはち雹に打のこされたる者を食ひ野に汝らのために生る諸の樹をくらはん 6又なんぢの家となんぢの臣下の家々および凡のエジプト人の家に滿べし是はなんぢの父となんぢの父の父が世にいでしより今日にいたるまで未だ嘗て見ざるものなりと斯て彼身をめぐらしてパロの所よりいでたり 7時にパロの臣下パロにいひけるは何時まで此人われらの羂となるや人々を去しめてその神ヱホバに事ふることをえせしめよ汝なほエジプトの滅ぶるを知ざるやと 8是をもてモーセとアロンふたたび召れてパロの許にいたるにパロかれらにいふ往てなんぢらの神ヱホバに事よ但し往く者は誰と誰なるや 9モーセいひけるは我等は幼者をも老者をも子息をも息女をも挈へて往き羊をも牛をもたづさへて往くべし其は我らヱホバの祭禮をなさんとすればなり 10パロかれらにいひけるは我汝等となんぢらの子等を去しむる時はヱホバなんぢらと偕に在れ愼めよ惡き事なんぢらの面のまへにあり 11そは宜からず汝ら男子のみ往てヱホバに事よ是なんぢらが求むるところなりと彼等つひにパロの前より逐いださる 12爰にヱホバ、モーセにいひたまひけるは汝の手をエジプトの地のうへに舒て蝗をエジプトの國にのぞませて彼の雹が打殘したる地の諸の蔬を悉く食しめよ 13モーセすなはちエジプトの地の上に其杖をのべければヱホバ東風をおこしてその一日一夜地にふかしめたまひしが東風朝におよびて蝗を吹きたりて 14蝗エジプト全國にのぞみエジプトの四方の境に居て害をなすこと太甚し是より先には斯のごとき蝗なかりし是より後にもあらざるべし 15蝗全國の上を蔽ひければ國暗くなりぬ而して蝗地の諸の蔬および雹の打殘せし樹の菓を食ひたればエジプト全國に於て樹にも田圃の蔬にも青き者とてはのこらざりき 16是をもてパロ急ぎモーセとアロンを召て言ふ我なんぢらの神ヱホバと汝等とにむかひて罪ををかせり 17然ば請ふ今一次のみ吾罪を宥してなんぢらの神ヱホバに願ひ唯此死を我より取はなさしめよと 18

彼すなはちパロの所より出てヱホバにねがひければ 19ヱホバはなはだ強き西風を吹めぐらせて蝗を吹はらはしめ之を紅海に驅いれたまひてエジプトの四方の境に蝗ひとつも遺らざるにいたれり 20然れどもヱホバ、パロの心を剛愎にしたまひたればイスラエルの子孫をさらしめざりき 21ヱホバまたモーセにいひたまひけるは天にむかひて汝の手を舒べエジプトの國に黒暗を起すべし其暗黒は摸るべきなりと 22モーセすなはち天にむかひて手を舒ければ稠密黒暗三日のあひだエジプト全國にありて 23三日の間は人々たがひに相見るあたはず又おのれの處より起ものなかりき然どイスラエルの子孫の居處には皆光ありき 24是に於てパロ、モーセを呼ていひけるは汝等ゆきてヱホバに事よ唯なんぢらの羊と牛を留めおくべし汝らの子女も亦なんぢらとともに往べし 25モーセいひけるは汝また我等の神ヱホバに献ぐべき犠牲と燔祭の物をも我儕に與ふべきなり 26われらの家畜もわれらとともに往べし一蹄も後にのこすべからず其は我等その中を取てわれらの神ヱホバに事べきが故なりまたわれら彼處にいたるまでは何をもてヱホバに事ふべきかを知ざればなりと 27然れどもヱホバ、パロの心を剛愎にしたまひたればパロかれらをさらしむることを肯ぜざりき 28すなはちパロ、モーセに言ふ我をはなれて去よ自ら愼め重てわが面を見るなかれ汝わが面を見る日には死べし 29モーセいひけるは汝の言ふところは善し我重て復なんぢの面を見ざるべし

第十一章

1ヱホバ、モーセにいひたまひけるは我今一箇の災をパロおよびエジプトに降さん然後かれ汝等を此處より去しむべし彼なんぢらを全く去しむるには必ず汝らを此より逐はらはん 2然ば汝民の耳にかたり男女をしておのおのその隣々に銀の飾品金の飾具を乞しめよと 3ヱホバつひに民をしてエジプト人の恩を蒙らしめたまふ又その人モーセはエジプトの國にてパロの臣下の目と民の目に甚だ大なる者と見えたり 4モーセいひけるはヱホバかく言たまふ夜半頃われ出てエジプトの中に至らん 5エジプトの國の中の長子たる者は位に坐するパロの長子より磨の後にをる婢の長子まで悉く死べし又獣畜の首出もしかり 6而してエジプト全國に大なる號哭あるべし是まで是のごとき事はあらずまた再び斯ること有ざるべし 7然どイスラエルの子孫にむかひては犬もその舌をうごかさじ人にむかひても獣畜にむかひても然り汝等これによりてヱホバがエジプト人とイスラエルのあひだに區別をなしたまふを知べし 8汝の此臣等みなわが許に下り來てわれを拝し汝となんぢに從がふ民みな出よと言ん然る後われ出べしと烈しく怒りてパロの所より出たり 9ヱホバ、モーセにいひたまひけるはパロ汝に聽ざるべし是をもて吾がエジプトの國に奇蹟をおこなふこと増べし 10モーセとアロンこの諸の奇蹟をことごとくパロの前に行ひたれどもヱホバ、パロの心を剛愎にしたまひければ彼イスラエルの子孫をその國より去しめざりき

第十二章

1ヱホバ、エジプトの國にてモーセとアロンに告ていひたまひけるは 2此月を汝らの月の首となせ汝ら是を年の正月となすべし 3汝等イスラエルの全會衆に告て言べし此月の十日に家の父たる者おのおの羔羊を取べし即ち家ごとに一箇の羔羊を取べし 4もし家族少くして其羔羊を盡すことあたはずばその家の隣なる人とともに人の數にしたがひて之を取べし各人の食ふ所にしたがひて汝等羔羊を計るべし 5汝らの羔羊は疵なき當歳の牡なるべし汝等綿羊あるひは山羊の中よりこれを取べし 6而して此月の十四日まで之を守りおきイスラエルの會衆みな薄暮に之を屠り 7その血をとりて其之を食ふ家の門口の兩旁の楣と鴨居に塗べし 8而して此夜その肉を火に炙て食ひ又酵いれぬパンに苦菜をそへて食ふべし 9其を生にても水に煮ても食ふなかれ火に炙べし其頭と脛と臓腑とを皆くらへ 10其を明朝まで殘しおくなかれ其明朝まで殘れる者は火にて燒つくすべし 11なんぢら斯之を食ふべし即ち腰をひきからげ足に鞋を穿き手に杖をとりて急て之を食ふべし是ヱホバの逾越節なり 12是夜われエジプトの國を巡りて人と畜とを論ずエジプトの國の中の長子たる者をことごとく擊殺し又エジプトの諸の神に罰をかうむらせん我はヱホバなり 13その血なんぢらが居るところの家にありて汝等のために記號とならん我血を見る時なんぢらを逾越すべし又わがエジプトの國を擊つ時災なんぢらに降りて滅ぼすことなかるべし 14汝ら是日を記念えてヱホバの節期となし世々これを祝ふべし汝等之を常例となして祝ふべし 15七日の間酵いれぬパンを食ふべしその首の日にパン酵を汝等の家より除け凡て首の日より七日まで

に酵入たるパンを食ふ人はイスラエルより絶るべきなり
16且首の日に聖會をひらくべし又第七日に聖會を汝ら
の中に開け是ふたつの日には何の業をもなすべからず只
各人の食ふ者のみ汝等作ることを得べし 17汝ら酵いれぬ
パンの節期を守るべし其は此日に我なんぢらの軍隊をエ
ジプトの國より導きいだせばなり故に汝ら常例となして
世々是日をまもるべし 18正月に於てその月の十四日の
晩より同月の二十一日の晩まで汝ら酵いれぬパンを食へ
19七日の間なんぢらの家にパン酵をおくべからず凡て酵
いれたる物を食ふ人は其異邦人たると本國に生れし者た
るとを問ず皆イスラエルの聖會より絶るべし 20汝ら酵い
れたる物は何をも食ふべからず凡て汝らの居處に於ては
酵いれぬパンを食ふべし 21是に於てモーセ、イスラエル
の長老を盡くまねきて之にいふ汝等その家族に循ひて
一頭の羔羊を撿み取り之を屠りて逾越節のために備へよ
22又牛膝草一束を取て盂の血に濡し盂の血を門口の鴨居
および二旁の柱にそそぐべし明朝にいたるまで汝等一人
も家の戸をいづるなかれ 23其はヱホバ、エジプトを撃に
巡りたまふ時鴨居と兩旁の柱に血のあるを見ばヱキバ其
門を逾越し殺滅者をして汝等の家に入て撃ざらしめたま
ふべければなり 24汝ら是事を例となして汝となんぢの
子孫永くこれを守るべし 25汝等ヱホバがその言たまひし
如くになんぢらに與へたまはんところの地に至る時はこ
の禮式をまもるべし 26若なんぢらの子女この禮式は何の
意なるやと汝らに問ば 27汝ら言ふべし是はヱホバの
逾越節の祭祀なりヱホバ、エジプト人を撃たまひし時エ
ジプトにをるイスラエルの子孫の家を逾越てわれらの家
を救ひたまへりと民すなはち鞠て拝せり 28イスラエルの
子孫去てヱホバのモーセとアロンに命じたまひしごとく
なし斯おこなへり 29爰にヱホバ夜半にエジプトの國の中
の長子たる者を位に坐するパロの長子より牢獄にある
俘虜の長子まで盡く撃たまふ亦家畜の首生もしかり 30
期有しかばパロとその諸の臣下およびエジプト人みな夜
の中に起あがりエジプトに大なる號哭ありき死人あらざ
る家なかりければなり 31パロすなはち夜の中にモーセと
アロンを召ていひけるは汝らとイスラエルの子孫起てわ
が民の中より出さり汝らがいへる如くに往てヱホバに事
へよ 32亦なんぢらが言るごとく汝らの羊と牛をひきて去
れ汝らまた我を祝せよと 33是においてエジプト人我等み
な死ると言て民を催逼て速かに國を去しめんとせしかば
34民捏粉の未だ酵いれざるを執り捏盤を衣服に包みて肩
に負ふ 35而してイスラエルの子孫モーセの言のごとく爲
しエジプト人に銀の飾物、金の飾物および衣服を乞たる
に 36ヱホバ、エジプト人をして民をめぐましめ彼等にこ
れを與へしめたまふ斯かれらエジプト人の物を取り 37斯
てイスラエルの子孫ラメセスよりスコテに進みしが子女
の外に徒にて歩める男六十萬人ありき 38又衆多の寄集
人および羊牛等はなはだ多の家畜彼等とともに上れり 39
爰に彼等エジプトより携へいでたる捏粉をもて酵いれぬ
パンを烘り未だ酵をいれざりければなり是かれらエジプ
トより逐いだされて濡滞るを得ざりしに由り又何の食糧
をも備へざりしに因る 40偖イスラエルの子孫のエジプト
に住居しその住居の間は四百三十年なりき 41四百三十年
の終にいたり即ち其日にヱホバの軍隊みなエジプトの國
より出たり 42是はヱホバが彼等をエジプトの國より導き
いだしたまひし事のためにヱホバの前に守るべき夜なり
是はヱホバの夜にしてイスラエルの子孫が皆世々まもる
べき者なり 43ヱホバ、モーセとアロンに言たまひけるは
逾越節の例は是のごとし異邦人はこれを食ふべからず 44
但し各人の金にて買たる僕は割禮を施して然る後是を食
しむべし 45外國の客および傭人は之を食ふべからず 46
一の家にてこれを食ふべしその肉を少も家の外に持いづ
るなかれ又其骨を折べからず 47イスラエルの會衆みな之
を守るべし 48異邦人なんぢとともに寄居てヱホバの
逾越節を守らんとせば其男悉く割禮を受て然る後に近
りて守るべし即ち彼は國に生れたる者のごとくなるべし
割禮をうけざる人はこれを食ふべからざるなり 49國に生
れたる者にもまた汝らの中に寄居る異邦人にも此法は
同一なり 50イスラエルの子孫みな斯おこなひヱホバのモ
ーセとアロンに命じたまひしごとく爲たり 51その同じ日
にヱホバ、イスラエルの子孫をその軍隊にしたがひてエ
ジプトの國より導きいだしたまへり

第十三章

1爰にヱホバ、モーセに告ていひたまひけるは 2人と畜と
を論ず凡てイスラエルの子孫の中の始て生れたる首生を
ば皆聖別て我に歸せしむべし是わが所屬なればなり 3モ
ーセ民にいひけるは汝等エジプトを出で奴隷たる家を出
るこの日を誌えよヱホバ能ある手をもて汝等を此より導
きいだしたまへばなり酵いれたるパンを食ふべからず 4

アビブの月の此日なんぢら出づ 5ヱホバ汝を導きてカナン人ヘテ人アモリ人ヒビ人エブス人の地すなはちその汝にあたへんと汝の先祖たちに誓ひたまひし彼乳と蜜の流るる地に至らしめたまはん時なんぢ此月に是禮式を守るべし 6七日の間なんぢ酵いれぬパンを食ひ第七日にヱホバの節筵をなすべし 7酵いれぬパンを七日くらふべし酵いれたるパンを汝の所におくなかれ又汝の境の中にて汝の許にパン酵をおくなかれ 8汝その日に汝の子に示して言べし是は吾がエジプトより出る時にヱホバの我に爲したまひし事のためなりと 9斯是をなんぢの手におきて記號となし汝の目の間におきて記號となしてヱホバの法律を汝の口に在しむべし其はヱホバ能ある手をもて汝をエジプトより導きいだしたまへばなり 10是故に年々その期にいたりてこの例をまもるべし 11ヱホバ汝となんぢの先祖等に誓ひたまひしごとく汝をカナン人の地にみちびきて之を汝に與へたまはん時 12汝 凡て始て生れたる者及び汝の有る畜の初生を悉く分ちてヱホバに歸せしむべし男牡はヱホバの所屬なるべし 13又驢馬の初子は皆羔羊をもて贖ふべしもし贖はずばその頸を折るべし汝の子等の中の長子なる人はみな贖ふべし 14後に汝の子 汝に問て是は何なると言ばこれに言べしヱホバ能ある手をもて我等をエジプトより出し奴隸たりし家より出したまへり 15當時パロ剛愎にして我等を去しめざりしかばヱホバ、エジプトの國の中の長子たる者を人の長子より畜の初生まで盡く殺したまへり是故に始めて生れし牡を 盡くヱホバに犧牲に献ぐ但しわが子等の中の長子は之を贖ふなり 16是をなんぢの手におきて號となし汝の目の間におきて誌となすべしヱホバ能ある手をもて我等をエジプトより導きいだしたまひたればなりと 17偖パロ民をさらしめし時ペリシテ人の地は近かりけれども神彼等をみちびきて其地を通りたまはざりき其は民戰爭を見ば悔てエジプトに歸るならんと神おもひたまひたればなり 18神紅海の曠野の道より民を導きたまふイスラエルの子孫行伍をたててエジプトの國より出づ 19其時モーセはヨセフの骨を携ふ是はヨセフ神かならず汝らを眷みたまふべければ汝らわが骨を此より携へ出づべしといひてイスラエルの子孫を固く誓せたればなり 20斯てかれらスコテより進みて曠野の端なるエタム比幕張す 21ヱホバかれらの前に往たまひ晝は雲の柱をもてかれらを導き夜は火の柱をもて彼らを照して晝夜往すすましめたまふ 22民の前に晝は雲の柱を除きたまはず夜は火の柱をのぞきたまはず

第十四章

1茲にヱホバ、モーセに告ていひ給ひけるは 2イスラエルの子孫に言て轉回てミグドルと海の間なるピハヒロテの前にあたりてバアルゼポンの前に幕を張しめよ其にむかひて海の 傍 に幕を張るべし 3パロ、イスラエルの子孫の事をかたりて彼等はその地に迷ひをりて曠野に閉こめられたるならんといふべければなり 4我パロの心を剛愎にすべければパロ彼等の後を追はん我パロとその凡の軍勢に由て譽を得エジプト人をして吾ヱホバなるを知しめんと彼等すなはち斯なせり 5茲に民の逃さりたることエジプト王に聞えければパロとその臣下等民の事につきて心を變じて言ふ我等何て斯イスラエルを去しめて我に事ざらしむるがごとき事をなしたるやと 6パロすなはちその車を備へ民を將て己にしたがはしめ 7撰抜の戰 車六百兩 にエジプトの諸の戰 車および其の諸の軍長等を率ゐたり 8ヱホバ、エジプト王パロの心を剛愎にしたまひたれば彼イスラエルの子孫の後を追ふイスラエルの子孫は高らかなる手によりて出しなり 9エジプト人等パロの馬、車およびその騎兵と軍勢彼等の後を追てそのバアルゼポンの前なるピハヒロテの邊にて海の 傍 に幕を張るに追つけり 10パロの近よりし時イスラエルの子孫目をあげて視しにエジプト人 己の後に進み來りしかば痛く懼れたり是に於てイスラエルの子孫ヱホバに呼號り 11且モーセに言けるはエジプトに墓のあらざるがために汝われらをたづさへいだして曠野に死しむるや何故に汝われらをエジプトより導き出して斯我らに爲や 12我等がエジプトにて汝に告て我儕を棄おき我らをしてエジプト人に事しめよと言し言は是ならずや其は曠野にて死るよりもエジプト人に事るは善ればなり 13モーセ民にいひけるは汝ら懼るるなかれ立てヱホバが今日汝等のために爲たまはんところの救を見よ汝らが今日見たるエジプト人をば汝らかさねて復これを見ること絶てなかるべきなり 14ヱホバ汝等のために戰ひたまはん汝等は靜りて居るべし 15時にヱホバ、モーセにいひたまひけるは汝なんぞ我に呼はるやイスラエルの子孫に言て進みゆかしめよ 16汝 杖を擧げ手を海の上に伸て之を分ちイスラエルの子孫をして海の中の乾ける所を往しめよ 17我エジプト人の心を剛愎にす

べければ彼等その後にしたがひて入るべし我かくしてパロとその諸の軍勢およびそ戰 車と騎兵に囚て榮譽を得ん 18我がパロとその戰 車と騎兵とによりて榮譽をえん時エジプト人は我のヱホバなるを知ん 19爰にイスラエルの陣營の前に行る神の使者移りてその後に行けり即ち雲の柱その前面をはなれて後に立ち 20エジプト人の陣營とイスラエル人の陣營の間に至りけるが彼がためには雲となり暗となり是がためには夜を照せり是をもて彼と是と夜の中に相近づかざりき 21モーセ手を海の上に伸ければヱホバ終夜強き東風をもて海を退かしめ海を陸地となしたまひて水遂に分れたり 22イスラエルの子孫海の中の乾ける所を行くに水は彼等の右左に墻となれり 23エジプト人等パロの馬 車、騎兵みなその後にしたがひて海の中に入る 24暁 にヱホバ火と雲との柱の中よりエジプト人の軍勢を望みエジプト人の軍勢を惱まし 25其 車の輪を脱して行に重くならしめたまひければエジプト人言ふ我儕イスラエルを離れて逃ん其はヱホバかれらのためにエジプト人と戰へばなりと 26時にヱホバ、モーセに言たまひける汝の手を海の上に伸て水をエジプト人とその戰 車と騎兵の上に流れ反らしめよと 27モーセすなはち手を海の上に伸けるに夜明におよびて海本の勢力にかへりたればエジプト人之に逆ひて逃たりしがヱホバ、エジプト人を海の中に擲ちたまへり 28即ち水流反りて戰 車と騎兵を覆ひイスラエルの後にしたがひて海にいりしパロの軍勢を悉く覆へり一人も遺れる者あらざりき 29然どイスラエルの子孫は海の中の乾ける所を歩みしが水はその右左に墻となれり 30斯ヱホバこの日イスラエルをエジプト人の手より救ひたまへりイスラエルはエジプト人が海邊に死をるを見たり 31イスラエルまたヱホバがエジプト人に爲たまひし大なる事を見たり是に於て民ヱホバを畏れヱホバとその僕モーセを信じたり

第十五章

1是に於てモーセおよびイスラエルの子孫この歌をヱホバに謡ふ云く我ヱホバを歌ひ頌ん彼は高らかに高くいますなり彼は馬とその乘者を海になげうちたまへり 2わが力わが歌はヱホバなり彼はわが救拯となりたまへり彼はわが神なり我これを頌美ん彼はわが父の神なり我これを崇めん 3ヱホバは軍人にして其名はヱホバなり 4彼パロの戰 車とその軍勢を海に投すてたまふパロの勝れたる軍長等は紅海に沈めり 5大水かれらを掩ひて彼等石のごとくに淵の底に下る 6ヱホバよ汝の右の手は力をもて榮光をあらはすヱホバよ汝の右の手は敵を碎く 7汝の 大なる榮光をもて汝は汝にたち逆ふ者を滅したまふ汝 怒を發すれば彼等は藁のごとくに焚つくさる 8汝の鼻の息によりて水積かさなり浪堅く立て岸のごとくに成り大水海の中に凝る 9敵は言ふ我追て追つき掠取物を分たん我かれらに因てわが心を飽しめん我 劍を抜んわが手かれらを亡さんと 10汝 氣を吹たまへば海かれらを覆ひて彼等は猛烈き水に鉛のごとくに沈めり 11ヱホバよ神の中に誰か汝 に如ものあらん誰か汝のごとく聖して榮あり讃べくして威ありて奇事を行なふ者あらんや 12汝その右の手を伸たまへば地かれらを呑む 13汝はその贖ひし民を恩惠をもて導き汝の力をもて彼等を汝の聖き居所に引たまふ 14國々の民聞て慄へペリシテに住む者畏懼を懐く 15エドムの君等 駭きモアブの剛 者戰慄くカナンに住る者みな消うせん 16畏懼と戰慄かれらに及ぶ汝の腕の大なるがために彼らは石のごとくに默然たりヱホバよ汝の民の通り過るまで汝の買たまひし民の通り過るまで然るべし 17汝 民を導きてこれを汝の産業の山に植たまはんヱホバよ是すなはち汝の居所とせんとて汝の設けたまひし者なり主よ是 汝の手の建たる聖 所なり 18ヱホバは世々 限なく王たるべし 19斯パロの馬その車および騎兵とともに海にいりしにヱホバ海の水を彼等の上に流れ還らしめたまひしがイスラエルの子孫は海の中にありて旱 地を通れり 20時にアロンの姉なる預言者ミリアム鼗を手にとるに婦 等みな彼にしたがひて出で鼗をとり且踊る 21ミリアムすなはち彼等に和へて言ふ汝等ヱホバを歌ひ頌よ彼は高らかに高くいますなり彼は馬とその乘者を海に擲ちたまへりと 22斯てモーセ紅海よりイスラエルを導きてシユルの曠野にいり曠野に三日歩みたりしが水を得ざりき 23彼ら遂にメラにいたりしがメラの水苦くして飲ことを得ざりき是をもて其名はメラ(苦)と呼る 24是に於て民モーセにむかひて呟き我儕何を飲んかと言ければ 25モーセ、ヱホバに呼はりしにヱホバこれに一本の木を示したまひたれば即ちこれを水に投いれしに水甘くなれり彼處にてヱホバ民のために法度と法律をたてたまひ彼處にてこれを試みて 26言たまはく汝もし善く汝の神ヱホバの聲に聽したがひヱホバの口に善と見ることを爲しその誡命に耳を傾けその諸の法度を守ば我わがエジプト人に加へしところのその

疾病を一も汝に加へざるべし其は我はヱホバにして汝を
醫す者なればなりと 27斯て彼等エリムに至れり其處に水
の井十二棕櫚七十本あり彼處にて彼等水の傍に幕張す

第十六章

1斯てエリムを出たちてイスラエルの子孫の會衆そのエ
ジプトの地を出しより二箇月の十五日に皆エリムとシナ
イの間なるシンの曠野にいたりけるが 2其曠野において
イスラエルの全會衆モーセとアロンに向ひて呟けり 3即
ちイスラエルの子孫かれらに言けるは我儕エジプトの地
に於て肉の鍋の側に坐り飽までにパンを食ひし時にヱホ
バの手によりて死たらば善りし者を汝等はこの曠野に
我等を導きいだしてこの全會を饑に死しめんとするなり
4時にヱホバ、モーセに言たまひけるは視よ我パンを汝
らのために天より降さん民いでて日用の分を毎日斂むべ
し斯して我かれらが吾の法律にしたがふや否を試みん 5
第六日には彼等その取いれたる者を調理ふべし其は日々
に斂る者の二倍なるべし 6モーセとアロン、イスラエル
の全の子孫に言けるは夕にいたらば汝等はヱホバが汝ら
をエジプトの地より導きいだしたまひしなるを知にいた
らん 7又朝にいたらば汝等ヱホバの榮光を見ん其はヱホ
バなんぢらがヱホバに向ひて呟くを聞たまへばなり我等
を誰となして汝等は我儕に向ひて呟くや 8モーセまた言
けるはヱホバ夕には汝等に肉を與へて食はしめ朝にはパ
ンをあたへて飽しめたまはん其はヱホバ己にむかひて
汝等が呟くところの怨言を聞給へばなり我儕を誰と爲や
汝等の怨言は我等にむかひてするに非ずヱホバにむかひ
てするなり 9モーセ、アロンに言けるはイスラエルの
子孫の全會衆に言へ汝等ヱホバの前に近よれヱホバなん
ぢらの怨言を聞給へりと 10アロンすなはちイスラエルの
子孫の全會衆に語しかば彼等曠野を望むにヱホバの榮光
雲の中に顯はる 11ヱホバ、モーセに告て言たまひけるは
12我イスラエルの子孫の怨言を聞り彼等に告て言へ汝等
夕には肉を食ひ朝にはパンに飽べし而して我のヱホバに
して汝等の神なることを知にいたらんと 13即ち夕におよ
びて鶉きたりて營を覆ふ又朝におよびて露營の四圍にお
きしが 14そのおける露乾くにあたりて曠野の表に霜のご
とき小き圓き者地にあり 15イスラエルの子孫これを見て
此は何ぞやと互に言ふ其はその何たるを知ざればなりモ
ーセかれらに言けるは是はヱホバが汝等の食にあたへた
まふパンなり 16ヱホバの命じたまふところの事は是なり
即ち各その食ふところに循ひて之を斂め汝等の人數に
したがひて一人に一オメルを取れ各人その天幕にをる
者等のためにこれを取べし 17イスラエルの子孫かくなせ
しに其斂るところに多きと少きとありしが 18オメルをも
てこれむ量るに多く斂めし者にも餘るところ無く少く斂
めし者にも足ぬところ無りき皆その食ふところに循ひて
これを斂めたり 19モーセ彼等に誰も朝までこれを殘しお
く可らずと言り 20然るに彼等モーセに聽したがはずして
或者はこれを朝まで殘したりしが蟲たかりて臭なりぬモ
ーセこれを怒る 21人々各その食ふところに循ひて朝毎
に之を斂めしが日熱なれば消ゆ 22第六日にいたりて人々
二倍のパンを斂めたり即ち一人に二オメルを斂むるに
會衆の長皆きたりて之をモーセに告ぐモーセ 23かれら
に言ふヱホバの言たまふところ是のごとし明日はヱホバ
の聖安息日にして休息なり今日汝等烤んとする者を烤き
煮んとする者を煮よ其殘れる者は皆明朝まで藏めおくべ
し 24彼等モーセの命ぜしごとくに翌朝まで藏めおきしが
臭なること無く又蟲もその中に生ぜざりき 25モーセ言ふ
汝等今日其を食へ今日はヱホバの安息日なれば今日は
汝等これを野に獲ざるべし 26六日の間汝等これを斂むべ
し第七日は安息日なればその日には有ざるべし 27然るに
民の中に七日に出て斂めんとせし者ありしが得ところ無
りき 28是に於てヱホバ、モーセに言たまひけるは何時ま
で汝等は吾が誡命とわが律法をまもることをせざるや 29
汝等視よヱホバなんぢらに安息日を賜へり故に第六日に
二日の食物を汝等にあたへたまふなり汝等おのおのその
處に休みをれ第七日にはその處より出る者あるべからず
30是民第七日に休息り 31イスラエルの家その物の名をマ
ナと稱り是は莞の實のごとくにして白く其味は蜜をい
れたる菓子のごとし 32モーセ言ふヱホバの命じたまふと
ころ是のごとし是を一オメル盛て汝等の代々の子孫のた
めにたくはへおくべし是はわが汝等をエジプトの地より
導きいだせし時に曠野にて汝等を養ひしところのパンを
之に見さしめんためなり 33而してモーセ、アロンに言け
るは壺を取てその中にマナ一オメルを盛てこれをヱホバ
の前におき汝等の代々の子孫のためにたくはふべし 34ヱ
ホバのモーセに命じたまひし如くにアロンこれを律法の
前におきてたくはふ 35イスラエルの子孫は人の住る地に

至るまで四十年が間マナを食へり即ちカナンの地の境にいたるまでマナを食へり 36オメルはエパの十分の一なり

第十七章

1イスラエルの子孫の會衆ヱホバの命にしたがひて皆シンの曠野を立出で旅路をかさねてレピデムに幕張せしが民の飲む水あらざりき 2是をもて民モーセと爭ひて言ふ我儕に水をあたへて飲しめよモーセかれらに言けるは汝ら何ぞ我とあらそふや何ぞヱホバを試むるや 3彼處にて民水に渇き民モーセにむかひて呟き言ふ汝などて我等をエジプトより導きいだして我等とわれらの子女とわれらの家畜を渇に死しめんとするや 4是に於てモーセ、ヱホバに呼はりて言ふ我この民に何をなすべきや彼等は殆ど我を石にて擊んとするなり 5ヱホバ、モーセに言たまひけるは汝民の前に進み民の中の或長老等を伴ひかの汝が河を擊し杖を手に執て往よ 6視よ我そこにて汝の前にあたりてホレブの磐の上に立ん汝磐を擊べし然せば其より水出ん民これを飲べしモーセすなはちイスラエルの長老等の前にて斯おこなへり 7かくて彼その處の名をマツサと呼び又メリバと呼り是はイスラエルの子孫の爭ひしに由り又そのヱホバはわれらの中に在すや否と言てヱホバを試みしに由なり 8時にアマレクきたりてイスラエルとレピデムに戰ふ 9モーセ、ヨシユアに言けるは我等のために人を擇み出てアマレクと戰へ明日我神の杖を手にとりて岡の嶺に立ん 10ヨシユアすなはちモーセの己に言しごとくに爲しアマレクと戰ふモーセ、アロンおよびホルは岡の嶺に登りしが 11モーセ手を擧をればイスラエル勝ち手を垂ればアマレク勝り 12然るにモーセの手重くなりたればアロンとホル石をとりてモーセの下におきてその上に坐せしめ一人は此方一人は彼方にありてモーセの手を支へたりしかばその手日の沒まで垂下ざりき 13是においてヨシユア刃をもてアマレクとその民を敗れり 14ヱホバ、モーセに言たまひけるは之を書に筆して記念となしヨシユアの耳にこれをいれよ我必ずアマレクの名を塗抹て天下にこれを誌ゆること无らしめんと 15斯てモーセ一座の壇を築きその名をヱホバニシ(ヱホバ吾旗)と稱ふ 16モーセ云けらくヱホバの寶位にむかひて手を擧ることありヱホバ世々アマレクと戰ひたまはん

第十八章

1茲にモーセの外舅なるミデアンの祭司ヱテロ神が凡てモーセのため又その民イスラエルのために爲したまひし事ヱホバがイスラエルをエジプトより導き出したまひし事を聞り 2是に於てモーセの外舅ヱテロかの遣り還されてありしモーセの妻チッポラとその二人の子を挈へ來る 3その子の一人の名はゲルシヨムと云ふ是はモーセ我他國に客となりをると言たればなり 4今一人の名はエリエゼルと曰ふ是はかれ吾父の神われを助け我を救ひてパロの劍を免かれしめたまふと言たればなり 5斯モーセの外舅ヱテロ、モーセの子等と妻をつれて曠野に來りモーセが神の山に陣を張る處にいたる 6彼すなはちモーセに言けるは汝の外舅なる我ヱテロ汝の妻および之と供なるその二人の子をたづさへて汝に詣ると 7モーセ出てその外舅を迎へ禮をなして之に接吻し互に其安否を問て共に天幕に入る 8而してモーセ、ヱホバがイスラエルのためにパロとエジプト人とに爲たまひし諸の事と途にて遇し諸の艱難およびヱホバの己等を拯ひたまひし事をその外舅に語りければ 9ヱテロ、ヱホバがイスラエルをエジプト人の手より救ひいだして之に諸の恩典をたまひし事を喜べり 10ヱテロすなはち言けるはヱホバは頌べき哉汝等をエジプト人の手とパロの手より救ひいだし民をエジプト人の手の下より拯ひいだせり 11今我知るヱホバは諸の神よりも大なり彼等傲慢を逞しうして事をなせしがヱホバかれらに勝りと 12而してモーセの外舅ヱテロ燔祭と犧牲をヱホバに持きたれりアロンおよびイスラエルの長老等皆きたりてモーセの外舅とともに神の前に食をなす 13次の日にいたりてモーセ坐して民を審判きしが民は朝より夕までモーセの傍に立り 14モーセの外舅モーセの凡て民に爲ところを見て言けるは汝が民になす此事は何なるや何故に汝は一人坐しをりて民朝より夕まで汝の傍にたつや 15モーセその外舅に言けるは民神に問んとて我に來るなり 16彼等事ある時は我に來れば我此と彼とを審判きて神の法度と律法を知しむ 17モーセの外舅これに言けるは汝のなすところ善らず 18汝かならず氣力おとろへん汝も汝とともなる民も然らん此事汝には重に過ぐ汝一人にては之を爲ことあたはざるべし 19今吾言を聽け我なんぢに策を授けん願くは神なんぢとともに在せ汝民のために神の前に居り訴訟を神に陳よ 20汝かれらに法度と律法を教へ彼等の歩むべき道と爲べき事とを彼等

に示せ 21又汝全體の民の中より賢して神を畏れ眞實を
重んじ利を惡むところの人を選み之を民の上に立て千人
の司となし百人の司となし五十人の司となし十人の司と
なすべし 22而して彼等をして常に民を鞫かしめ大事は凡
てこれを汝に陳しめ小事は凡て彼等みづからこれを判か
しむべし斯汝の身の煩瑣を省き彼らをして汝とその任を
共にせしめよ 23汝もし此事を爲し神また斯汝に命じなば
汝はこれに勝ん此民もまた安然にその所に到ることを得
べし 24モーセその外舅の言にしたがひてその凡て言しご
とく成り 25モーセすなはちイスラエルの中より遍く賢き
人を擇みてこれを民の長となし千人の司となし百人の
司となし五十人の司となし十人の司となせり 26彼等常に
民を鞫き難事はこれをモーセに陳べ小事は凡て自らこれ
を判けり 27斯てモーセその外舅を還したればその國に往
ぬ

第十九章

1イスラエルの子孫エジプトの地を出て後第三月にいた
りて其日にシナイの曠野に至る 2即ちかれらレピデムを
出たちてシナイの曠野にいたり曠野に幕を張り彼處にて
イスラエルは山の前に營を設けたり 3爰にモーセ登て神
に詣るにヱホバ山より彼を呼て言たまはく汝かくヤコブ
の家に言ひイスラエルの子孫に告べし 4汝らはエジプト
人に我がなしたるところの事を見我が鷲の翼をのべて汝
らを負て我にいたらしめしを見たり 5然ば汝等もし善く
我が言を聽きわが契約を守らば汝等は諸の民に愈りて
わが寶となるべし全地はわが所有なればなり 6汝等は我
に對して祭司の國となり聖き民となるべし是等の言語を
汝イスラエルの子孫に告べし 7是に於てモーセ來りて民
の長老等を呼びヱホバの己に命じたまひし言を盡くそ
の前に陳たれば 8民皆等く應へて言けるはヱホバの言た
まひし所は皆われら之を爲べしとモーセすなはち民の言
をヱホバに告ぐ 9ヱホバ、モーセに言たまひけるは觀よ
我密雲の中にをりて汝に臨む是民をして我が汝と語るを
聞しめて汝を永く信ぜしめんがためなりとモーセ民の言
をヱホバに告たり 10ヱホバ、モーセに言たまひけるは汝
民の所に往て今日明日これを聖め之にその衣服を澣せ 11
準備をなして三日を待て其は第三日にヱホバ全體の民の
目の前にてシナイ山に降ればなり 12汝民のために四周に
境界を設けて言べし汝等愼んで山に登るなかれその境界
に捫るべからず山に捫る者はかならず殺さるべし 13手を
之に觸べからず其者はかならず石にて擊ころされ或は射
ころさるべし獸と人とを言ず生ることを得じ喇叭を長く
吹鳴さば人々山に上るべしと 14モーセすなはち山を下り
民にいたりて民を聖め民その衣服を濯ふ 15モーセ民に言
けるは準備をなして三日を待て婦人に近づくべからず 16
かくて三日の朝にいたりて雷と電および密雲山の上
にあり又喇叭の聲ありて甚だ高かり營にある民みな震ふ
17モーセ營より民を引いでて神に會しむ民山の麓に立に
18シナイ山都て煙を出せりヱホバ火の中にありてその上
に下りたまへばなりその煙竈の煙のごとく立のぼり山
すべて震ふ 19喇叭の聲彌高くなりゆきてばげしくなり
ける時モーセ言を出すに神聲をもて應へたまふ 20ヱホ
バ、シナイ山に下りその山の頂上にいまし而してヱホバ
山の頂上にモーセを召たまひければモーセ上れり 21ヱホ
バ、モーセに言たまひけるは下りて民を警めよ恐らくは
民推破りてヱホバに來りて見んとし多の者死るにいたら
ん 22又ヱホバに近くところの祭司等にその身を潔めしめ
よ恐くはヱホバかれらを擊ん 23モーセ、ヱホバに言ける
は民はシナイ山に得のぼらじ其は汝われらを警めて山の
四周に境界をたて山を聖めよと言たまひたればなり 24ヱ
ホバかれに言たまひけるは往け下れ而して汝とアロンと
もに上り來るべし但祭司等と民には推破りてにのぼりき
たらしめざれ恐らくは我かれらを擊ん 25モーセ民にくだ
りゆきてこれに告たり

第二十章

1神この一切の言を宣て言たまはく 2我は汝の神ヱホバ汝
をエジプトの地その奴隸たる家より導き出せし者なり 3
汝我面の前に我の外何物をも神とすべからず 4汝自己
のために何の偶像をも彫むべからず又上は天にある者下
は地にある者ならびに地の下の水の中にある者の何の
形狀をも作るべからず 5之を拜むべからずこれに事ふべ
からず我ヱホバ汝の神は嫉む神なれば我を惡む者にむか
ひては父の罪を子にむくいて三四代におよぼし 6我を愛
しわが誡命を守る者には恩惠をほどこして千代にいたる
なり 7汝の神ヱホバの名を妄に口にあぐべからずヱホバ
はおのれの名を妄に口にあぐる者を罰せではおかざるべ
し 8安息日を憶えてこれを聖潔すべし 9六日の間勞きて
汝の一切の業を爲べし 10七日は汝の神ヱホバの安息なれ

ば何の業務をも爲べからず汝も汝の息子息女も汝の 僕
婢 も汝の家畜も汝の門の中にをる他國の人も然り 11其は
ヱホバ六日の中に天と地と海と其等の中の一切の物を作
りて第七日に息みたればなり是をもてヱホバ安息日を祝
ひて聖日としたまふ 12汝の父母を敬へ是は汝の神ヱホバ
の汝にたまふ所の地に汝の生命の長からんためなり 13 汝
殺すなかれ 14汝 姦淫するなかれ 15汝 盜むなかれ 16汝そ
の隣人に對して虚妄の證據をたつるなかれ 17汝その隣人
の家を貪るなかれ又 汝の鄰人の妻およびその僕 婢 牛
驢馬ならびに凡て汝の隣人の所有を貪るなかれ 18民みな
雷 と 電 と喇叭の音と山の煙るとを見たり民これを見
て懼れをののきて遠く立ち 19モーセにいひけるは汝われ
らに語れ我等聽ん唯神の我らに語りたまふことあらざら
しめよ恐くは我等死ん 20モーセ民に言けるは畏るるなか
れ神 汝らを試みんため又その畏怖を汝らの面の前におき
て汝らに罪を犯さざらしめんために臨みたまへるなり 21
是において民は遠くに立ちしがモーセは神の在すところ
の濃雲に進みいたる 22ヱホバ、モーセに言たまひけるは
汝 イスラエルの子孫に斯いふべし汝等は天よりわが汝等
に語ふを見たり 23汝等何をも我にならべて造るべからず
銀の神をも金の神をも汝等のために造るべからず 24汝 土
の壇を我に築きてその上に汝の燔祭と酬恩祭 汝の羊と牛
をそなふべし我は凡てわが名を憶えしむる處にて汝に臨
みて汝を祝まん 25汝もし石の壇を我につくるならば琢石
をもてこれを築くべからず其は汝もし鑿をこれに當なば
之を汚すべければなり 26汝 階 よりわが壇に升るべから
ず是 汝の恥る處のその上に露ることなからんためなり

第二十一章

1是は汝が民の前に立べき律例なり 2汝ヘブルの僕を買ふ
時は六年の間 之に職業を爲しめ第七年には 贖 を索ずし
てこれを釋つべし 3彼もし獨 身にて來らば獨 身にて去べ
し若妻あらばその妻これとともに去べし 4もしその主人
これに妻をあたへて男 子 又は女 子これに生れたらば妻
とその子等は主人に屬すべし彼は獨 身にて去べし 5僕も
し我わが主人と我が妻子を愛す我釋たるるを好まずと
明白に言ば 6その主人これを士 師の所に携ゆき又戸ある
ひは戸 柱の所につれゆくべし而して主人錐をもてかれの
耳を刺とほすべし彼は何時までもこれに事ふべきなり 7
人若その娘を賣て婢となす時は僕のごとくに去べからす
8彼もしその約せし主人の心に適ざる時はその主人これ
を贖はしむることを得べし然ど之に眞實ならずして亦こ
れを異邦人に賣ことをなすを得べからず 9又もし之を 己
の子に與へんと約しなばこれを女子のごとくに待ふべし
10父もしその子のために別に娶ることあるとも彼に食物
と衣服を與ふる事とその交接の道とはこれを間斷しむべ
からず 11其人かれに此三を行はずば彼は金をつくのはず
して出さることを得べし 12人を擊て死しめたる妻は必ず
殺さるべし 13若人みづから畫策ことなきに神人をその手
にかからしめたまふことある時は我 汝のために一箇の
處 を設くればその人其處に逃るべし 14人もし 故 にその
隣 人を謀りて殺す時は汝これをわが壇よりも執へゆきて
殺すべし 15その父あるひは母を擊ものは必ず殺さるべし
16人を拐帶したる者は之を賣たるも尚その手にあるも 必
ず殺さるべし 17その父あるひは母を罵る者は殺さるべし
18人相 爭ふ時に一人石または拳をもてその對手を擊ちし
に死にいたらずして床につくことあらんに 19若起あがり
て杖によりて歩むにいたらば之を擊たる者は赦さるべし
但しその業を休める賠償をなして之を全く愈しむべきな
り 20人もし杖をもてその僕あるひは婢を擊んにその手の
下に死ば必ず罰せらるべし 21然ど彼もし一日二日生のび
なば其人は罰せられざるべし彼はその人の金子なればな
り 22人もし相 爭ひて妊める婦を擊ちその子を墮させんに
別に害なき時は必ずその婦人の夫の要むる所にしたがひ
て刑られ法 官の定むる所を爲べし 23若害ある時は生命に
て生命を償ひ 24目にて目を償ひ歯にて歯を償ひ手にて手
を償ひ足にて足を償ひ 25烙にて烙を償ひ傷にて傷を償ひ
打傷にて打傷を償ふべし 26人もしその僕の一の目あるひ
は婢の一の目を擊てこれを喪さばその目のために之を釋
つべし 27又もしその僕の一箇の歯か婢の一箇の歯を打落
ばその歯のために之を釋つべし 28牛もし男あるひは女を
衝て死しめなばその牛をば必ず石にて擊殺すべしその肉
は食べからず但しその牛の主は罪なし 29然ど牛もし素よ
り衝くことをなす者にしてその主これがために忠告をう
けし事あるに之を守りおかずして遂に男あるひは女を殺
すに至らしめなばその牛は石にて擊れその主もまた殺さ
るべし 30若彼贖罪金を命ぜられなば凡てその命ぜられし
者を生命の 償 に出すべし 31男子を衝も女子を衝もこの
例にしたがひてなすべし 32牛もし僕あるひは婢を衝ばそ
の主人に銀三十シケルを與ふべし又その牛は石にて擊こ

ろすべし 33人もし坑を啓くか又は人もし穴を掘ことをなしこれを覆はずして牛あるひは驢馬これに陥ば 34穴の主これを償ひ金をその所有主に與ふべし但しその死たる畜は己の有となるべし 35此人の牛もし彼人のを衝殺さば二人その生る牛を賣てその價を分つべし又その死たるものをも分つべし 36然どその牛素より衝ことをなす者なること知をるにその主これを守りおかざりしならばその人かならず牛をもて牛を償ふべし但しその死たる者は己の有となるべし

第二十二章

1人もし牛あるひは羊を竊みてこれを殺し又は賣る時は五の牛をもて一の牛を賠ひ四の羊をもて一の羊を賠ふべし 2もし盜賊の壞り入るを見てこれを撃て死しむる時はこれがために血をながすに及ばず 3然ど若日いでてよりならば之がために血をながすべし盜賊は全く償をなすべし若物あらざる時は身をうりてその竊める物を償ふべし 4若その竊める物眞に生てその手にあらばその牛驢馬羊たるにかかはらず倍してこれを償ふべし 5人もし田圃あるひは葡萄園の物を食はせその家畜をはなちて人の田圃の物を食ふにいたらしむる時は自己の田圃の嘉物と自己の葡萄園の嘉物をもてその償をなすべし 6火もし逸て荊棘にうつりその積あげたる穀物あるひは未だ刈ざる穀物あるひは田野を燬ばその火を焚たる者かならずこれを償ふべし 7人もし金あるひは物を人に預るにその人の家より竊みとられたる時はその盜者あらはれなばこれを倍して償はしむべし 8盜者もしあらはれずば家の主人を法官につれゆきて彼がその人の物に手をかけたるや否を見るべし 9何の過愆を論ず牛にもあれ驢馬にもあれ羊にもあれ衣服にもあれ又は何の失物にもあれ凡て人の見て是其なりと言ふ者ある時は法官その兩造の言を聽べし而して法官の罪ありとする者これを倍してその對手に償ふべし 10人もし驢馬か牛か羊か又はその他の家畜をその隣人にあづけんに死か傷けらるるか又は搶ひさらるることありて誰もこれを見し者なき時は 11二人の間にその隣人の物に手をかけずとヱホバを指て誓ふことあるべし然る時はその持主これを承諾べし彼人は償をなすに及ばず 12然ど若自己の許より竊まれたる時はその所有主にこれを償ふべし 13若またその裂ころされし時は其を證據のために持きたるべしその裂ころされし者は償ふによばず 14人もしその隣人より借たる者あらんにその物傷けられ又は死ることありてその所有主それとともにをらざる時は必ずこれを償ふべし 15その所有主それと共にをらばこれを償ふにむよばず雇し者なる時もしかり其は雇れて來りしなればなり 16人もし聘定あらざる處女を誘ひてこれと寢たらば必ずこれに聘禮して妻となすべし 17その父もしこれをその人に與ふることを固く拒まば處女にする聘禮にてらして金をはらふべし 18魔術をつかふ女を生しおくべからず 19凡て畜を犯す者をば必ず殺すべし 20ヱホバをおきて別の神に犠牲を献る者をば殺すべし 21汝 他國の人を惱すべからず又これを虐ぐべからず汝らもエジプトの國にをる時は他國の人たりしなり 22汝 凡て寡婦あるひは孤子を惱すべからず 23汝もし彼等を惱まして彼等われに呼らば我かならずその號呼を聽べし 24わが怒 烈しくなり我 劍をもて汝らを殺さん汝らの妻は寡婦となり汝 らの子女は孤子とならん 25汝もし汝とともにあるわが民の貧き者に金を貸す時は金貸のごとくなすべからず又これより利足をとるべからず 26汝もし人の衣服を質にとらば日のいる時までにこれを歸すべし 27其はその身を蔽ふ者は是のみにして是はその膚の衣なればなり彼何の中に寢んや彼われに籲はらば我きかん我は慈悲ある者なればなり 28汝 神を罵るべからず民の主長を詛ふべからず 29汝 の豊滿なる物と汝の搾りたる物とを献ぐることを怠るなかれ汝の長子を我に與ふべし 30汝また汝の牛と羊をも斯なすべし即ち七日母とともにをらしめて八日にこれを我に與ふべし 31汝等は我の聖 民となるべし汝らは野にて獣 に裂れし者の肉を食ふべからず汝らこれを犬に投與ふべし

第二十三章

1汝 虚妄の風説を言ふらすべからず惡き人と手をあはせて人を誣る證 人となるべからず 2汝 衆の人にしたがひて惡をなすべからず訴訟において答をなすに方りて衆の人にしたがひて道を曲べからず 3汝また貧き人の訴訟を曲て庇くべからず 4汝もし汝の敵の牛あるひは驢馬の迷ひ去に遭ばかならずこれを牽てその人に歸すべし 5汝もし汝を惡む者の驢馬のその負の下に仆れ臥すを見ば愼みてこれを遺さるべからず必ずこれを助けてその負を釋べし 6汝 貧き者の訴訟ある時にその判決を曲べからず 7虚假の事に遠かれ無辜者と義 者とはこれを殺すなかれ

我は惡き者を義とすることあらざるなり 8汝 賄賂を受べからず賄賂は人の目を暗まし義 者の言を曲しむるなり 9他國の人を虐ぐべからず汝等はエジプトの國にをる時は他國の人にてありたれば他國の人の心を知なり 10汝 六年の間 汝の地に種播きその實を穫いるべし 11但し第七年にはこれを息ませて耕さずにおくべし而して汝の民の 貧き者に食ふことを得せしめよ其餘れる者は野の獣これを食はん汝の葡萄園も橄欖 園も斯のごとくなすべし 12 汝六日の間 汝の業をなし七日に息むべし斯 汝の牛および驢馬を息ませ汝の婢の子および他國の人をして息をつかしめよ 13わが汝に言し事に凡て心を用ひよ他の神々の名を稱ふべからずまた之を汝の口より聞えしめざれ 14汝 年に三度わがために節筵を守るべし 15汝 無酵パンの節禮をまもるべし即ちわが汝に命ぜしごとくアビブの月の 定の時において七日の間 酵いれぬパンを食ふべし其はその月に汝エジプトより出たればなり徒 手にてわが前に出る者あるべからず 16また 穡 時の節筵を守るべし是すなはち汝が勞苦て田野に播る者の初の實を祝ふなり又収蔵の節筵を守るべし是すなはち汝の勞苦によりて成る者を年の終に田野より収蔵る者なり 17汝の男たる者は皆年に三次主ヱホバの前に出べし 18汝わが犠牲の血を酵いれしパンとともに献ぐべからず又わが節筵の脂を翌 朝まで殘しおくべからず 19汝の地に初に結べる實の初を汝の神ヱホバの室に持きたるべし汝 山羊羔をその母の乳にて煮べからず 20視よ我天の使をかはして汝に先たせ途にて汝を守らせ汝をわが備へし處に導かしめん 21汝等その前に 愼みをりその言にしたがへ之を怒らするなかれ彼なんぢらの咎を赦さざるべしわが名かれの中にあればなり 22汝もし彼が言にしたがひ凡てわが言ところを爲ば我なんぢの敵の敵となり汝の仇の仇となるべし 23わが使 汝にさきだちゆきて汝をアモリ人ヘテ人ペリジ人カナン人ヒビ人およびヱブス人に導きたらん我かれらを絶べし 24汝かれらの神を拝むべからずこれに奉事べからず彼らの作にならふなかれ汝 其等を 悉 く毀ちその偶像を打摧くべし 25汝等の神ヱホバに事へよ然ばヱホバ汝らのパンと水を 祝し汝らの中より疾病を除きたまはん 26汝の國の中には流産する者なく妊ざる者なかるべし我 汝の日の數を盈さん 27我わが畏懼をなんぢの前に遣し汝が至るところの民をことごとく敗り汝の 諸 の敵をして汝に後を見せしめん 28吾黄蜂を汝の先につかはさん是ヒビ人カナン人およびヘテ人を汝の前より逐はらふべし 29我かれらを一年の中には汝の前より逐はらはじ恐くは土地荒れ野の獣 増て汝 を害せん 30我漸々にかれらを汝の前より逐はらはん汝 らは遂に増てその地を獲にいたらん 31我なんぢの境をさだめて紅海よりペリシテ人の海にいたらせ曠野より河にいたらしめん我この地に住る者を汝の手に付さん汝かれらを汝の前より逐はらふべし 32汝かれらおよび彼らの神と何の契約をもなすべからず 33彼らは汝の國に住べきにあらず恐くは彼ら汝をして我に罪を犯さしめん汝もし彼等の神に事なばその事かならず汝の機檻となるべきなり

第二十四章

1又モーセに言たまひけるは汝アロン、ナダブ、アビウおよびイスラエルの七十人の長老とともにヱホバの許に上りきたれ而して汝等 遥にたちて拝むべし 2モーセ一人ヱホバに近づくべし彼等は近るべからず又民もかれとともに上るべからず 3モーセ來りてヱホバの諸の言およびその諸の典例を民に告しに民みな同音に應て云ふヱホバの宣ひし言は皆われらこれを爲べし 4モーセ、ヱホバの 言をことごとく書記し朝夙に興いでて山の麓に壇を築きイスラエルの十二の支派にしたがひて十二の柱を建て 5而してイスラエルの子孫の中の少き人等を遣はしてヱホバに燔祭を献げしめ牛をもて酬恩祭を供へしむ 6モーセ時にその血の半をとりて鉢に盛れ又その血の半を壇の上に灌げり 7而して契約の書をとりて民に誦きかせたるに彼ら應へて言ふヱホバの宣ふ所は皆われらこれを爲て遵ふべしと 8モーセすなはちその血をとりて民に灌ぎて言ふ是すなはちヱホバが此 諸の言につきて汝と結たまへる契約の血なり 9斯てモーセ、アロン、ナダブ、アビウおよびイスラエルの七十人の長老のぼりゆきて 10イスラエルの神を見るにその足の下には透明れる青玉をもて作れるごとき物ありて耀ける天空にさも似たり 11神はイスラエルの此頭人等にその手をかけたまはざりき彼等は神を見又食飲をなせり 12茲にヱホバ、モーセに言たまひけるは山に上りて我に來り其處にをれ我わが彼等を教へんために書しるせる法律と誡命を載るところの石の板を汝に與へん 13モーセその從者ヨシユアとともに起あがりモーセのぼりて神の山に至る 14時に彼長老等に言けるは我等の汝等に歸るまで汝等は此に待ちをれ視よアロンとホル

汝等とともに在り凡て事ある者は彼等にいたるべし 15而してモーセ山にのぼりしが雲山を蔽ひをる 16すなはちヱホバの榮光シナイ山の上に駐りて雲山を蔽ふこと六日なりしが七日にいたりてヱホバ雲の中よりモーセを呼たまふ 17ヱホバの榮光山の嶺に燃る火のごとくにイスラエルの子孫の目に見えたり 18モーセ雲の中に入り山に登りモーセ四十日四十夜山に居る

第二十五章

1ヱホバ、モーセに告て言たまひけるは 2イスラエルの子孫に告て我に献物を持きたれと言へ凡てその心に好んで出す者よりは汝等その我に献ぐるところの物を取べし 3汝等がかれらより取べきその献物は是なり即ち金 銀 銅 4青 紫 紅の線麻山羊毛 5赤染の牡羊の皮 獺の皮 合歓木 6燈 油塗膏と馨しき香を調ふところの香料 7葱珩およびエポデと胸牌に嵌る玉 8彼等わがために聖所を作るべし我かれらの中に住ん 9凡てわが汝らに示すところに循ひ幕屋の式様およびその器具の式様にしたがひてこれを作るべし 10彼等合歓木をもて櫃を作るべしその長は二キユビト半その濶は一キユビト半その高は一キユビト半なるべし 11汝 純 金をもて之を蔽ふべし即ち内外ともにこれを蔽ひその上の周圍に金の縁を造るべし 12汝 金の環四箇を鋳てその四の足につくべし即ち此旁に二箇の輪彼旁に二箇の輪をつくべし 13汝また合歓木をもて杠を作りてこれに金を著すべし 14而してその杠を櫃の邊旁の環にさしいれてこれをもて櫃を舁べし 15杠は櫃の環に差いれおくべし其より脱はなすべからず 16汝わが汝に與ふる律法をその櫃に蔵むべし 17汝 純 金をもて贖罪所を造るべしその長は二キユビト半その濶は一キユビト半なるべし 18汝 金をもて二箇のケルビムを作るべし即ち槌にて打てこれを作り贖罪所の兩旁に置べし 19一のケルブを此旁に一のケルブを彼旁に造れ即ちケルビムを贖罪所の兩旁に造るべし 20ケルビムは翼を高く展べその翼をもて贖罪所を掩ひその面を互に相向くべしすなはちケルビムの面は贖罪所に向ふべし 21汝 贖罪所を櫃の上に置ゑまた我が汝に與ふる律法を櫃の中に蔵むべし 22其處にて我なんぢに會ひ贖罪所の上より律法の櫃の上なる二箇のケルビムの間よりして我イスラエルの子孫のためにわが汝に命ぜんとする諸の事を汝に語ん 23汝また合歓木をもて案を作るべしその長は二キユビトその濶は一キユビトその高は一キユビト半なるべし 24而して汝 純 金をこれに著せその周圍に金の縁をつくるべし 25汝その四圍に掌寛の邊をつくりその邊の周圍に金の小縁を作るべし 26またそれがために金の環四箇を作りその足の四隅にその環をつくべし 27環は邊の側に附べし是は案を舁ところの杠をいるる處なり 28また合歓木をもてその杠をつくりてこれに金を著すべし案はこれに因て舁るべきなり 29汝また其に用ふる皿匙杓および酒を灌ぐところの斝を作るべし即ち純 金をもてこれを造るべし 30汝 案の上に供前のパンを置て常にわが前にあらしむべし 31汝 純 金をもて一箇の燈臺を造るべし燈臺は槌をもてうちて之を作るべしその臺座 軸 萼 節 花は其に聯らしむべし 32又六の枝をその旁より出しむべし即ち燈臺の三の枝は此 旁より出で燈臺の三の枝は彼 旁より出しむべし 33巴旦杏の花の形せる三の萼 節および花とともに此枝にあり又巴旦杏の花の形せる三の萼 節および花とともに彼枝にあるべし 燈臺より出る六の枝を皆斯のごとくにすべし 34巴旦杏の花の形せる四の萼その節および花とともに燈臺にあるべし 35兩箇の枝の下に一箇の節あらしめ又その兩箇の枝の下に一箇の節あらしめ又その兩箇の枝の下に一箇の節あらしむべし燈臺より出る六の枝みな是のごとくなるべし 36その節と枝とは其に連ならしめ皆槌にて打て純 金をもて造るべし 37又それがために七箇の燈 盞を造りその燈 盞を上に置てその對向を照さしむべし 38その燈鉗と剪燈盤をも純 金ならしむべし 39燈臺と此の諸の器具を造るには純 金一タラントを用ふべし 40汝 山にて示されし式様にしたがひて之を作ることに心を用ひよ

第二十六章

1汝また幕屋のために十の幕を造るべしその幕は即ち麻の撚絲青 紫および紅の絲をもて之を造り精巧にケルビムをその上に織出すべし 2一の幕の長は二十八キユビト一の幕の濶は四キユビトなるべし幕は皆その寸尺を 同うすべし 3その幕五箇を互に連ねあはせ又その他の幕五箇をも互に連ねあはすべし 4而してその一聯の幕の邊においてその聯絡處の端に青色の襟を付べし又他の一聯の幕の聯絡處の邊にも斯なすべし 5汝 一聯の幕に襟五十をつけ又他の一聯の幕の聯絡處の邊にも襟五十をつけ斯その襟をして彼と此と相對せしむべし 6而して金の鐶五十を造りその鐶をもて幕を連ねあはせて一の幕屋となす

べし 7汝また山羊の毛をもて幕をつくりて幕屋の上の蓋となすべし即ち幕十一をつくるべし 8その一箇の幕の長は三十キユビトその一箇の幕の濶は四キユビトなるべし即ちその十一の幕は寸尺を一にすべし 9而してその幕五を一に聯ねまたその幕六を一に聯ねその第六の幕を幕屋の前に摺むべし 10又その一聯の幕の邊すなはちその聯絡處の端に襟五十を付け又他の一聯の幕の聯絡處にも襟五十を付べし 11而して銅の鐶五十を作りその鐶を襟にかけてその幕を聯ねあはせて一となすべし 12その天幕の幕の餘れる遺餘すなはちその餘れる半幕をば幕屋の後に垂しむべし 13天幕の幕の餘れる者は此旁に一キユビト彼旁に一キユビトあり之を幕屋の両旁此方彼方に垂てこれを蓋ふべし 14汝赤く染たる牡山羊の皮をもて幕屋の蓋をつくりその上に獾の皮の蓋をほどこすべし 15汝合歓木をもて幕屋のために竪板を造るべし 16一枚の板の長は十キユビト一枚の板の濶は一キユビト半なるべし 17板ごとに二の榫をつくりて彼と此と交指しめよ幕屋の板には皆斯のごとく爲べし 18汝幕屋のために板を造るべし即ち南向の方のために板二十枚を作るべし 19而してその二十枚の板の下に銀の座四十を造るべし即ち此板の下にもその二の榫のために二の座あらしめ彼板の下にもその二の榫のために二の座あらしむべし 20幕屋の他の方すなはちその北の方のためにも板二十枚を作るべし 21而してこれに銀の座四十を作り此板の下にも二の座彼板の下にもその二の座あらしむべし 22幕屋の後すなはちその西の方のために板六枚を造るべし 23又幕屋の後の両の隅のために板二枚を造るべし 24その二枚は下にて相合せしめその頂まで一に連ならしむべし一箇の鐶に於て然りその二枚ともに是の如くなるべし其等は二の隅のために設くる者なり 25その板は合て八枚その銀の座は十六座此板にも二の座彼板にも二の座あらしむべし 26汝合歓木をもて横木を作り幕屋の此方の板のために五本を設くべし 27また幕屋の彼方の板のために横木五本を設け幕屋の後すなはちその西の方の板のために横木五本を設くべし 28板の眞中にある中間の横木をば端より端まで通らしむべし 29而してその板に金を着せ金をもて之がために鐶を作りて横木をこれに貫き又その横木に金を着すべし 30汝山にて示されしところのその模範にしたがひて幕屋を建べし 31汝また青　紫　紅の線および麻の撚絲をもて幕を作り巧にケルビムをその上に織いだすべし 32而して金を着たる四本の合歓木の柱の上に之を掛べしその鈎は金にしその柱は四の銀の座の上に置べし 33汝その幕を鐶の下に掛け其處にその幕の中に律法の櫃を蔵むべしその幕すなはち汝らのために聖所と至聖所を分たん 34汝至聖所にある律法の櫃の上に贖罪所を置べし 35而してその幕の外に案を置き幕屋の南の方に燈臺を置て案に對はしむべし案は北の方に置べし 36又青　紫　紅の線および麻の撚絲をもて幔を織なして幕屋の入口に掛べし 37又その幔のために合歓木をもて柱五本を造りてこれに金を着せその鈎を金にすべし又その柱のために銅をもて五箇の座を鋳べし

第二十七章

1汝合歓木をもて長五キユビト濶五キユビトの壇を作るべしその壇は四角その高は三キユビトなるべし 2その四隅の上に其の角を作りてその角を其より出しめその壇には銅を着すべし 3又灰を受る壷と火鏟と鉢と肉叉と火鼎を作るべし壇の器は皆銅をもて之を作るべし 4汝壇のために銅をもて金網を作りその網の上にその四隅に銅の鐶を四箇作るべし 5而してその網を壇の中程の邊の下に置て之を壇の半に達せしむべし 6又壇のために杠を作るべし即ち合歓木をもて杠を造り銅をこれに着すべし 7その杠を鐶に貫きその杠を壇の両旁にあらしめて之を舁べし 8壇は汝板をもて之を空に造り汝が山にて示されしごとくにこれを造るべし 9汝また幕屋の庭をつくるべし南に向ひては庭のために南の方に長百キユピトの細布の幕を設けてその一方に當べし 10その二十の柱およびその二十の座は銅にし其柱の鈎およびその桁は銀にすべし 11又北の方にあたりて長百キユビトの幕をその樅に設くべしその二十の柱とその柱の二十の座は銅にし柱の鈎とその桁は銀にすべし 12庭の横すなはちその西の方には五十キユビトの幕を設くべしその柱は十その座も十 13また東に向ひては庭の東の方の濶は五十キユビトにすべし 14而して此一旁に十五キユビトの幕を設くべしその柱は三その座も三 15又彼一旁にも十五キユビトの幕を設くべしその柱は三その座も三 16庭の門のために青　紫　紅の線および麻の撚絲をもて織なしたる二十キユビトの幔を設くべしその柱は四その座も四 17庭の四周の柱は皆銀の桁をもて続けその鈎を銀にしその座を銅にすべし 18庭の樅は百キユビトその横は五十キユビト宛その高は五キユビト麻の撚絲をもてつくりなしその座を銅に

すべし 19凡て幕屋に用ふるところの諸の器具並にその釘および庭の釘は銅をもて作るべし 20汝又イスラエルの子孫に命じ橄欖を搗て取たる清き油を燈火のために汝に持きたらしめて絶ず燈火をともすべし 21集會の幕屋に於て律法の前なる幕の外にアロンとその子等晩より朝までヱホバの前にその燈火を整ふべし是はイスラエの子孫が世々たえず守るべき定例なり

第二十八章

1汝イスラエルの子孫の中より汝の兄弟アロンとその子等すなはちアロンとその子ナダブ、アビウ、エレアザル、イタマルを汝に至らしめて彼をして我にむかひて祭司の職をなさしむべし 2汝また汝の兄弟アロンのために聖衣を製りて彼の身に顯榮と榮光あらしむべし 3汝凡て心に智慧ある者すなはち我が智慧の靈を充しおきたる者等に語りてアロンの衣服を製しめ之を用てアロンを聖別て我に祭司の職をなさしむべし 4彼等が製るべき衣服は是なり即ち胸牌エポデ明衣間格の裏衣頭帽および帶彼等汝の兄弟アロンとその子等のために聖衣をつくりて彼をして祭司の職を我にむかひてなすことをえせしむべし 5即ち彼等金青紫紅の糸および麻糸をとりて用ふべし 6又金青紫紅の線および麻の撚糸をもて巧にエポデを織なすべし 7エポデには二の肩帶をほどこしその兩の端を連ねて之を合すべし 8エポデの上にありてこれを束ぬるところの帶はその物同うしてエポデの製のごとくにすべし即ち金青紫紅の糸および麻の撚糸をもてこれを作るべし 9汝二箇の葱珩をとりてその上にイスラエルの子等の名を鐫つくべし 10即ち彼等の誕生にしたがひてその名六を一の玉に鐫りその遺餘の名六を外の玉に鐫べし 11玉に雕刻する人の印を刻が如くに汝イスラエルの子等の名をその二の玉に鐫つけその玉を金の槽に嵌べし 12この二の玉をエポデの肩帶の上につけてイスラエルの子等の記念の玉とならしむべし即ちアロン、ヱホバの前において彼等の名をその兩の肩に負て記念とならしむべし 13汝金の槽を作るべし 14而して純金を組て紐の如き二箇の鏈を作りその組る鏈をかの槽につくべし 15汝また審判の胸牌を巧に織なしエポデの製のごとくに之をつくるべし即ち金青紫紅の線および麻の撚糸をもてこれを製るべし 16是は四角にして二重なるべく其長は半キユビトその濶も半キユビトなるべし 17汝またその中に玉を嵌て玉を四行にすべし即ち赤玉黄玉瑪瑙の一行を 18第一行とすべし第二行は紅玉青玉金剛石 19第三行は深紅玉白瑪瑙紫玉 20第四行は黄緑玉葱珩碧玉凡て金の槽の中にこれを嵌べし 21その玉はイスラエルの子等の名に循ひその名のごとくにこれを十二にすべし而してその十二の支派の各々の名は印を刻ごとくにこれを鐫つくべし 22汝純金を紐のごとくに組たる鏈を胸牌の上につくべし 23また胸牌の上に金の環二箇を作り胸牌の兩の端にその二箇の環をつけ 24かの金の紐二條を胸牌の端の二箇の環につくべし 25而してその二條の紐の兩の端を二箇の槽に結ひエポデの肩帶の上につけてその前にあらしむべし 26又二箇の金の環をつくりて之を胸牌の兩の端につくべし即ちそのエポデに對ふところの内の邊に之をつくべし 27汝また金の環二箇を造りてこれをエポデの兩旁の下の方につけその前の方にてその聯接るところに對ひてエポデの帶の上にあらしむべし 28胸牌は青紐をもてその環によりて之をエポデの環に結ひつけエポデの帶の上にあらしむべし然せば胸牌エポデを離ることなかるべし 29アロン聖所に入る時はその胸にある審判の胸牌にイスラエルの子等の名を帶てこれをその心の上に置きヱホバの前に恒に記念とならしむべし 30汝審判の胸牌にウリムとトンミムをいれアロンをしてそのヱホバの前に入る時にこれをその心の上に置しむべしアロンはヱホバの前に常にイスラエルの子孫の審判を帶てその心の上に置べし 31エポデに屬する明衣は凡てこれを青く作るべし 32頭をいるる孔はその眞中に設くべし又その孔の周圍には織物の縁をつけて鎧の領盤のごとくになして之を綻びざらしむべし 33その裾には青紫紅の糸をもて石榴をつくりてその裾の周圍につけ又四周に金の鈴をその間々につくべし 34即ち明衣の据には金の鈴に石榴又金の鈴に石榴とその周圍につくべし 35アロン奉事をなす時にこれを著べし彼が聖所にいりてヱホバの前に至る時また出きたる時にはその鈴の音聞ゆべし斯せば彼死ることあらじ 36汝純金をもて一枚の前板を作り印を刻がごとくにその上にヱホバに聖と鐫つけ 37之を青紐につけて頭帽の上にあらしむべし即ち頭帽の前の方にこれをつくべし 38是はアロンの額にあるべしアロンはイスラエルの子孫が献ぐるところの聖物すなはちその献ぐる諸の聖き供物の上にあるところの罪を負べしこの板をば常にアロンの額にあらしむべし是ヱホバの前に其等の受納

られんためなり 39汝 麻糸をもて裏衣を間格に織り麻糸をもて頭 帽を製りまた帯を繍工に織なすべし 40汝またアロンの子等のために裏衣を製り彼らのために帯を製り彼らのために頭巾を製りてその身に顯榮と榮光あらしむべし 41而して汝これを汝の兄弟アロンおよび彼とともなるその子等に着せ膏を彼等に灌ぎこれを立てこれを聖別てこれをして祭司の職を我になさしむべし 42又かれらのためにその陰 所を蔽ふ麻の 褌 を製り腰より髀に達らしむべし 43アロンとその子等は集 會の幕屋に入る時又は祭壇に近づきて聖 所に職事をなす時はこれを著べし斯せば愆をかうむりて死ることなからん是は彼および彼の後の子孫の永く守るべき例なり

第二十九章

1汝かれらを聖別て彼らをして我にむかひて祭司の職をなさしむるには斯これに爲べし即ち若き牡牛と二の全き牡山羊を取り 2無酵パン油を和たる無酵菓子および油を塗たる無酵煎餅を取べし是等は麥粉をもて製るべし 3而してこれを一箇の筐にいれ牡牛および二の牡山羊とともにこれをその筐のままに持きたるべし 4汝またアロンとその子等を集 會の幕屋の口に携きたりて水をもてかれらを洗ひ清め 5衣服をとりて裏衣エポデに屬する明衣エポデおよび胸牌をアロンに着せエポデの帯を之に帯しむべし 6而してかれの首に頭 帽をかむらせその頭 帽の上にかの聖 金 板を 戴 しめ 7灌 油を取てこれを彼の首に傾け灌ぐべし 8又かれの子等を携來りて之に裏衣を着せ 9之に帯を帯しめ頭巾をこれにかむらすべし即ちアロンとその子等に斯なすべし祭司の職はかれらに歸す永くこれを例となすべし汝 斯アロンとその子等を立べし 10汝 集 會の幕屋の前に牡牛をひき來らしむべし而してアロンとその子等その牡牛の頭に手を按べし 11かくして汝 集 會の幕屋の口にてヱホバの前にその牡牛を宰すべし 12汝その牡牛の血をとり汝の指をもてこれを壇の角に塗りその血をばことごとく壇の下に灌ぐべし 13汝またその臟腑を裏むところの諸の脂 肝の上の網膜および二の腎とその上の脂 を取てこれを壇の上に燔べし 14但しその牡牛の肉とその皮および糞は營の外にて火に燒べし是は罪祭なり 15 汝かの牡山羊一頭を取るべし而してアロンとその子等その牡山羊の上に手を按べし 16汝その牡山羊を宰しその血をとりてこれを壇の上の周圍に灌ぐべし 17汝その牡山羊を切割きその臟腑とその足を洗ひて之をその肉の塊とその頭 の上におくべし 18汝その牡山羊を壇の上に 悉 く燒べし是ヱホバにたてまつる燔祭なり是は馨しき香にしてヱホバにたてまつる火祭なり 19汝また今 一の牡山羊をとるべし而してアロンとその子等その牡山羊の頭の上に手を按べし 20汝すなはちその牡山羊を殺しその血をとりてこれをアロンの右の耳の端およびその子等の右の耳の端につけ又その右の手の大指と右の足の拇指につけその血を壇の周圍に灌ぐべし 21又壇の上の血をとり灌 油をとりて之をアロンとその衣服およびその子等とその子等の衣服に灌ぐべし斯彼とその衣服およびその子等とその子等の衣服清淨なるべし 22汝その牡山羊の脂と脂の尾および其臟腑を裹る脂 肝の上の網膜二箇の腎と其上の脂および右の腿を取べし是は任 職の牡山羊なり 23汝またヱホバの前にある無 酵パンの筐の中よりパン一個と油ぬりたる菓子一箇と煎餅一個を取べし 24汝これらを 悉 くアロンの手と其子等の手に授けこれを搖てヱホバに搖祭となすべし 25而して汝これらを彼等の手より取て壇の上にて燔祭にくはへて燒くべし是ヱホバの前に馨しき香となるべし是すなはちヱホバにたてまつる火祭なり 26汝またアロンの任 職の牡山羊の胸を取てこれをヱホバの前に搖て搖祭となすべし是 汝の受るところの分なり 27汝その搖ところの搖祭の物の胸およびその擧るところの擧祭の物の腿すなはちアロンとその子等の任 職の牡山羊の胸と腿を聖 別つべし 28是はアロンとその子等に歸すべしイスラエルの子孫永くこの例を守るべきなり是はイスラエルの子孫が酬恩祭の犠牲の中よりとるところの擧祭にしてヱホバになすところの擧祭なり 29アロンの聖 衣は其後の子孫に歸すべし子孫これを着て膏をそそがれ職に任ぜらるべきなり 30アロンの子孫の中彼にかはりて祭司となり集 會の幕屋にいりて聖 所に職をなす者は先七日の間これを着べし 31汝 任 職の牡山羊を取り聖 所にてその肉を煮べし 32アロンとその子等は集 會の幕屋の戸口においてその牡山羊の肉と筐の中のパンを食ふべし 33罪を贖ふ物すなはち彼らを立て彼らを聖別るに用るところの物を彼らは食ふべし餘の人は食ふべからず其は聖 物なればなり 34もし任 職の肉あるひはパン旦まで遺りをらばその遺者は火をもてこれを燒べし是は聖ければ食ふべからず 35 汝わが凡て汝に命ずるごとくにアロンとその子等に斯なすべし即ちかれらのために七日のあひだ任 職の禮をおこな

ふべし 36汝 日々に罪祭の牡牛一頭をささげて 贖 をなすべし又壇のために贖罪をなしてこれを清めこれに膏を灌ぎこれを聖別べし 37汝 七日のあひだ壇のために 贖 をなして之を聖別め至聖き壇とならしむべし凡て壇に捫る者は聖なるべし 38汝が壇の上にささぐべき者は是なり即ち一歳の 羔 二を日々絶ず献ぐべし 39一の 羔 は朝にこれを献げ一の 羔 は夕にこれを献べし 40一の 羔 に麥粉十分の一に搗たる油一ヒンの四分の一を和たるを添へ又 灌祭として酒一ヒンの四分の一を添べし 41今一の羔羊は夕にこれを献げ朝とおなじき素祭と灌祭をこれと共にささげ馨しき香とならしめヱホバに火祭たらしむべし 42是すなはち汝らが代々絶ず集會の幕屋の門口にてヱホバの前に献ぐべき燔祭なり我其處にて汝等に會ひ汝と語ふべし 43其處にて我イスラエルの子孫に會ん幕屋はわが榮光によりて聖なるべし 44我集會の幕屋と祭壇を聖めん亦アロンとその子等を聖めて我に祭司の職をなさしむべし 45我イスラエルの子孫の中に居て彼らの神とならん 46彼等は我が彼らの神ヱホバにして彼等の中に住んとて彼等をエジプトの地より導き出せし者なることを知ん我はかれらの神ヱホバなり

第三十章

1汝 香を焚く壇を造るべし即ち合歓木をもてこれを造るべし 2その長は一キユビトその寛も一キユビトにして四角ならしめ其 高は三キユビトにし其角は其より出しむべし 3而してその上その四傍その角ともに純 金を着せその周圍に金の縁を作るべし 4汝またその兩 面に金の縁の下に金の環二箇を之がために作るべし即ちその兩 傍にこれを作るべし是すなはちこれを舁ところの杠を貫く所なり 5その杠は合歓木をもてこれを作りて之に金を着すべし 6汝これを律法の櫃の 傍 なる幕の前に置て律法の上なる贖 罪所に對はしむべし其處はわが汝に會ふ處なり 7アロン朝ごとにその上に馨しき香を焚べし彼燈火を整ふる時はその上に香を焚べきなり 8アロン夕に燈火を燃す時はその上に香を焚べし是香はヱホバの前に汝等が代々絶すべからざる者なり 9汝等その上に異る香を焚べからず燔祭をも素祭をも献ぐべからず又その上に灌祭の酒を灌ぐべからず 10アロン年に一回 贖 罪の罪祭の血をもてその壇の角のために 贖 をなすべし汝等代々年に一度是がために贖 をなすべし是はヱホバに最も聖き者たるなり

11ヱホバ、モーセに告て言たまはく 12汝がイスラエルの子孫の數を數へしらぶるにあたりて彼等は各人その數へらるる時にその生命の 贖 をヱホバにたてまつるべし是はその數ふる時にあたりて彼等の中に災害のあらざらんためなり 13凡て數へらるる者の中に入る者は聖 所のシケルに遵ひて半シケルを出すべし一シケルは二十ゲラなり即ち半シケルをヱホバにたてまつるべし 14凡て數へらるる者の中に入る者 即ち二十歳以上の者はヱホバに献納物をなすべし 15汝らの生命を贖ふためにヱホバに献納物をなすにあたりては富 者も半シケルより多く出すべからず貧 者も其より少く出すべからず 16汝イスラエルの子孫より 贖 の金を取てこれを幕屋の用に供ふべし是はヱホバの前にイスラエルの子孫の記念となりて汝ら生命を贖ふべし 17ヱホバ、モーセに告て言たまはく 18汝また銅 をもて洗盤をつくりその臺をも 銅 になして洗ふことのために供へ之を集會の幕屋と壇との間に置てその中に水をいれおくべし 19アロンとその子等はそれに就て手と足を洗ふべし 20彼等は集會の幕屋に入る時に水をもて洗ふことを爲て死をまぬかるべし亦壇にちかづきてその 職をなし火祭をヱホバの前に焚く時も然すべし 21即ち斯その手足を洗ひて死を免かるべし是は彼とその子孫の代々常に守るべき例なり 22ヱホバまたモーセに言たまひけるは 23汝また重立たる香物を取れ即ち淨 沒藥五百シケル香 しき肉桂その半二百五十シケル香しき菖蒲二百五十シケル 24桂枝五百シケルを聖 所のシケルに遵ひて取り又橄欖の油ヒンを取べし 25汝これをもて聖 灌 膏を製るべしすなはち薫 物を製る法にしたがひて香 膏を製るべし是は聖 灌 膏たるなり 26汝これを集會の幕屋と律法の櫃に塗り 27案とそのもろもろの器具燈臺とそのもろもろの器具および香壇 28並に燔祭の壇とそのもろもろの器具および洗盤とその臺とに塗べし 29汝 是等を聖めて至 聖らしむべし凡てこれに捫る者は聖くならん 30汝アロンとその子等に膏をそそぎて之を立て彼らをして我に祭司の 職をなさしむべし 31汝イスラエルの子孫に告ていふべし是は汝らが代々我の爲に用ふべき聖 灌 膏なり 32是は人の身に灌ぐべからず汝等また此 量をもて是に等き物を製るべからず是は聖し汝等これを聖 物となすべし 33凡て之に等 き物を製る者凡てこれを餘 人につくる者はその民の中より絶るべし 34ヱホバ、モーセに言たまはく汝ナタフ、シケレテ、ヘルベナの香物を取りその香物を淨き

乳香に和あはすべしその量は各 等からしむべきなり 35 汝 これを以て香を製るべし即ち薫物を製る法にしたがひてこれをもて薫物を製り鹽をこれにくはへ 潔く且 聖らしむべし 36 汝またその幾分を細に搗て我が汝に會ふところなる集會の幕屋の中にある律法の前にこれを供ふべし是は汝等において最も聖き者なり 37 汝が製るところの香は汝等その量をもてこれを自己のために製るべからず是は汝においてヱホバのために聖き者たるなり 38 凡て是に均き者を製りてこれを嗅ぐ者はその民の中より絶るべし

第三十一章

1 ヱホバ、モーセに告て言たまひけるは 2 我ユダの支派のホルの子なるウリの子ベザレルを名指て召し 3 神の霊をこれに充して智慧と了知と智識と 諸の類の工に長しめ 4 奇巧を盡して金銀及び銅の作をなすことを得せしめ 5 玉を切り嵌め木に彫刻みて 諸の類の工をなすことを得せしむ 6 視よ我またダンの支派のアヒサマクの子アホリアブを與へて彼とともならしむ凡て心に智ある者に我智慧を授け彼等をして我が汝に命ずる所の事を 盡くなさしむべし 7 即ち集會の幕屋律法の櫃その上の贖罪所幕屋の諸 の器具 8 案ならびにその器具純金の燈臺とその 諸の器具および香壇 9 燔祭の壇とその 諸の器具洗盤とその臺 10 供職の衣服祭司の職をなす時に用ふるアロンの聖 衣およびその子等の衣服 11 および灌 膏ならびに聖 所の馨しき香是等を我が凡て汝に命ぜしごとくに彼等製造べきなり 12 ヱホバ、モーセに告て言たまひけるは 13 汝イスラエルの子孫に告て言べし汝等かならず吾安息日を守るべし是は我と汝等の間の代々の徴にして汝等に我の汝等を聖からしむるヱホバなるを知しむる爲の者なればなり 14 即ち汝等安息日を守るべし是は汝等に聖 日なればなり凡て之を瀆す者は必ず殺さるべし凡てその日に働作をなす人はその民の中より絶るべし 15 六日の間 業をなすべし第七日は大安息にしてヱホバに聖なり凡て安息日に働作をなす者は必ず殺さるべし 16 斯イスラエルの子孫は安息日を守り代々安息日を祝ふべし是永遠の契約なり 17 是は永久に我とイスラエルの子孫の間の徴たるなり其はヱホバ六日の中に天地をつくりて七日に休みて安息に入たまひたればなり 18 ヱホバ、シナイ山にてモーセに語ることを終たまひし時律法の板二枚をモーセに賜ふ是は石の板にして神が手をもて書したまひし者なり

第三十二章

1 茲に民モーセが山を下ることの遅きを見民 集りてアロンの許に至り之に言けるは起よ汝われらを導く神を我儕のために作れ其は我らをエジプトの國より導き上りし彼モーセ其人は如何になりしか知ざればなり 2 アロンかれらに言けるは汝等の妻と息子息女等の耳にある金の環をとりはづして我に持きたれと 3 是において民みなその耳にある金の環をとりはづしてアロンの許に持來りければ 4 アロンこれを彼等の手より取り鎚鑿をもて之が形を造りて犢を鋳なしたるに人々言ふイスラエルよ是は汝をエジプトの國より導きのぼりし汝の神なりと 5 アロンこれを見てその前に壇を築き而してアロン宣告て明日はヱホバの祭禮なりと言ふ 6 是において人衆 明朝早く起いでて燔祭を献げ酬恩祭を供ふ民坐して飲食し起て戯る 7 ヱホバ、モーセに言たまひけるは汝 往て下れよ汝がエジプトの地より導き出せし汝の民は惡き事を行ふなり 8 彼等は早くも我が彼等に命ぜし道を離れ己のために犢を鋳なしてそれを拝み其に犠牲を献げて言ふイスラエルよ是は 汝をエジプトの地より導きのぼりし汝の神なりと 9 ヱホバまたモーセに言たまひけるは我この民を觀たり視よ是は項 の強き民なり 10 然ば我を阻るなかれ我かれらに向ひて怒 を發して彼等を滅し盡さん而して汝をして大なる國をなさしむべし 11 モーセその神ヱホバの面を和めて言けるはヱホバよ汝などて彼の大なる權能と強き手をもてエジプトの國より導きいだしたまひし汝の民にむかひて怒を發したまふや 12 何ぞエジプト人をして斯言しむべけんや曰く彼は禍 をくだして彼等を山に殺し地の面より滅し盡さんとて彼等を導き出せしなりと然ば汝の烈き怒を息め汝の民にこの 禍 を下さんとせしを思ひ直したまへ 13 汝 の僕アブラハム、イサク、イスラエルを憶ひたまへ汝 は自己さして彼等に誓ひて我天の星のごとくに汝等の子孫を増し又わが言ところの比地をことごとく汝等の子孫にあたへて永くこれを有たしめんと彼等に言たまへりと 14 ヱホバ是においてその民に 禍 を降んとせしを思ひ直したまへり 15 モーセすなはち身を轉して山より下れりかの律法の二枚の板その手にあり此板はその兩面に文字あり即ち此面にも彼面にも文字あり 16 此板は神の作

なりまた文字は神の書にして板に彫つけてあり 17ヨシユア民の呼はる聲を聞てモーセにむかひ營中に戰爭の聲すと言ければ 18モーセ言ふ是は勝鬨の聲にあらず又敗北の號呼聲にもあらず我が聞ところのものは歌唱ふ聲なりと 19斯てモ−セ營に近づくに及びて犢と舞跳を見たれば怒を發してその手よりかの板を擲ちこれを山の下に碎けり 20而して彼等が作りし犢をとりてこれを火に燒き碎きて粉となしてこれを水に撒きイスラエルの子孫に之をのましむ 21モーセ、アロンに言けるは此民汝に何をなしてか汝かれらに大なる罪を犯させしや 22アロン言けるは吾主よ怒を發したまふ勿れ此民の惡なるは汝の知ところなり 23彼等われに言けらく我らを導く神をわれらのために作れ其は我らをエジプトの國より導き上りし彼モーセ其人は如何になりしか知ざればなりと 24是において我凡て金をもつ者はそれをとりはづせと彼等に言ければ則ちそれを我に與へたり我これを火に投たれば此 犢 出きたれりと 25モーセ民を視るに縱肆に事をなすアロン彼等をして縱肆に事をなさしめたれば彼等はその敵の中に嘲笑となれるなり 26茲にモーセ營の門に立ち凡てヱホバに歸する者は我に來れと言ければレビの子孫みな集りてかれに至る 27モーセすなはち彼等に言けるはイスラエルの神ヱホバ斯言たまふ汝等おのおの劍を横たへて門より門と營の中を彼處此處に行めぐりて各人その兄弟を殺し各人その伴侶を殺し各人その隣人を殺すべしと 28レビの子孫すなはちモーセの言のごとくに爲たればその日民凡三千人殺されたり 29是に於てモーセ言ふ汝等おのおのその子をもその兄弟をも顧ずして今日ヱホバに身を献げ而して今日福祉を得よ 30明日モーセ民に言けるは汝等は大なる罪を犯せり今我ヱホバの許に上りゆかんとす我なんちらの罪を贖ふを得ることもあらん 31モーセすなはちヱホバに歸りて言けるは嗚呼この民の罪は大なる罪なり彼等は自己のために金の神を作れり 32然どかなはば彼等の罪を赦したまへ然ずば願くは汝の書しるしたまへる書の中より吾名を抹さりたまへ 33ヱホバ、モーセに言たまひけるは凡てわれに罪を犯す者をば我これをわが書より抹さらん 34然ば今往て民を我が汝につげたる所に導けよ吾使者汝に先だちて往ん但しわが罰をなこなふ日には我かれらの罪を罰せん 35ヱホバすなはち民を撃たまへり是はかれら犢を造りたるに因る即ちアロンこれを造りしなり

第三十三章

1茲にヱホバ、モーセに言たまひけるは汝と汝がエジプトの國より導き上りし民此を起いでて我がアブラハム、イサク、ヤコブに誓ひて之を汝の子孫に與へんと言しその地に上るべし 2我一の使を遣して汝に先だたしめん我カナン人アモリ人ヘテ人ペリジ人ヒビ人ヱブス人を逐はらひ 3なんぢらをして乳と蜜の流るる地にいたらしむべし我は汝の中にをりては共に上らじ汝は項の強き民なればおそらくは我途にて汝を滅すにいたらん 4民この惡き告を聞て憂へ一人もその妝飾を身につくる者なし 5ヱホバ、モーセに言たまひけるはイスラエルの子孫に言へ汝等は項の強き民なり我もし一刻も汝の中にありて往ば汝を滅すにいたらん然ば今汝らの妝飾を身より取すてよ然せば我汝に爲べきことを知んと 6是をもてイスラエルの子孫ホレブ山より以來はその妝飾を取すてて居ぬ 7モーセ幕屋をとりてこれを營の外に張て營と遥に離れしめ之を集會の幕屋と名けたり凡てヱホバに求むることのある者は出ゆきて營の外なるその集會の幕屋にいたる 8モーセの出て幕屋にいたる時には民みな起あがりてモーセが幕屋にいるまで各々その天幕の門口に立てかれを見る 9モーセ幕屋にいれば雲の柱くだりて幕屋の門口に立つ而してヱホバ、モーセとものいひたまふ 10民みな幕屋の門口に雲の柱の立つを見れば民みな起て各人その天幕の門口にて拝をなす 11人がその友に言談ごとくにヱホバ、モーセと面をあはせてものいひたまふモーセはその天幕に歸りしがその僕なる少者ヌンの子ヨシユアは幕屋を離れざりき 12茲にモーセ、ヱホバに言けるは視たまへ汝はこの民を導き上れと我に言たまひながら誰を我とともに遣したまふかを我にしらしめたまはず汝かつて言たまひけらく我名をもて汝を知る汝はまた我前に恩を得たりと 13然ば我もし誠に汝の目の前に恩を得たらば願くは汝の道を我に示して我に汝を知しめ我をして汝の目の前に恩を得せしめたまへ又汝この民の汝の有なるを念たまへ 14ヱホバ言たまひけるは我親汝と共にゆくべし我汝をして安泰にならしめん 15モーセ、ヱホバに言けるは汝もしみづから行たまはずは我等を此より上らしめたまふ勿れ 16我と汝の民とが汝の目の前に恩を得ることは如何にして知るべきや是汝が我等とともに往たまひて我と汝の民とが地の諸の民に異る者となるによるにあらずや 17ヱホバ、モーセに言たまひけるは汝が言るこの事をも我爲ん汝は

わが目の前に恩を得たればなり我名をもて汝を知なり 18 モーセ願くは汝の榮光を我に示したまへと言ければ 19 ヱホバ言たまはく我わが諸の善を汝の前に通らしめヱホバの名を汝の前に宣ん我は惠んとする者を惠み憐まんとする者を憐むなり 20 又言たまはく汝はわが面を見ることあたはず我を見て生る人あらざればなり 21 而してヱホバ言たまひけるは視よ我が傍に一の處あり汝磐の上に立べし 22 吾榮光其處を過る時に我なんぢを磐の穴にいれ我が過る時にわが手をもて汝を蔽はん 23 而してわが手を除る時に汝わが背後を見るべし吾面は見るべきにあらず

第三十四章

1 茲にヱホバ、モーセに言たまひけるは汝石の板二枚を前のごとくに斫て作れ汝が碎きし彼の前の板にありし言を我その板に書さん 2 詰朝までに準備をなし朝の中にシナイ山に上り山の嶺に於て吾前に立て 3 誰も汝とともに上るべからず又誰も山の中に居べからず又その山の前にて羊や牛を牧ふべからず 4 モーセすなはち石の板二枚を前のごとくに斫て造り朝早く起て手に二枚石の板をとりヱホバの命じたまひしごとくにシナイ山にのぼりゆけり 5 ヱホバ雲の中にありて降り彼とともに其處に立てヱホバの名を宣たまふ 6 ヱホバすなはち彼の前を過て宣たまはくヱホバ、ヱホバ憐憫あり恩惠あり怒ることの遲く恩惠と眞實の大なる神 7 恩惠を千代までも施し惡と過と罪とを赦す者又罰すべき者をば必ず赦すことをせず父の罪を子に報い子の子に報いて三四代におよぼす者 8 モーセ急ぎ地に躬を鞠めて拝し 9 言けるはヱホバよ我もし汝の目の前に恩を得たらば願くは主我等の中にいまして行たまへ是は項の強き民なればなり我等の惡と罪を赦し我等を汝の所有となしたまへ 10 ヱホバ言たまふ視よ我契約をなす我未だ全地に行はれし事あらず何の國民の中にも行はれし事あらざるところの奇跡を汝の總躰の民の前に行ふべし汝が住ところの國の民みなヱホバの所行を見ん我が汝をもて爲ところの事は怖るべき者なればなり 11 汝わが今日汝に命ずるところの事を守れ視よ我アモリ人カナン人ヘテ人ペリジ人ヒビ人ヱブス人を汝の前より逐はらふ 12 汝みづから愼め汝が往ところの國の居民と契約をむすぶべからず恐くは汝の中において機檻となることあらん 13 汝らかへつて彼等の祭壇を崩しその偶像を毀ちそのアシラ像を斫たふすべし 14 汝は他の神を拝むべからず其はヱホバはその名を嫉妒と言て嫉妒神たればたり 15 然ば汝その地の居民と契約を結ぶべからず恐くは彼等がその神々を慕ひて其と姦淫をおこなひその神々に犠牲をささぐる時に汝を招きてその犠牲に就て食はしむる者あらん 16 又恐くは汝かれらの女子等を汝の息子等に妻すことありて彼等の女子等その神々を慕ひて姦淫を行ひ汝の息子等をして彼等の神々を慕て姦淫をおこなはしむるにいたらん 17 汝おのれのために神々を鋳なすべからず 18 汝無酵パンの節筵を守るべし即ち我が汝に命ぜしごとくアビブの月のその期におよびて七日の間無酵パンを食ふべし其は汝アビブの月にエジプトより出たればなり 19 首出たる者は皆吾の所有なり亦汝の家畜の首出の牡たる者も牛羊ともに皆しかり 20 但し驢馬の首出は羔羊をもて贖ふべし若し贖はずばその頸を折べし汝の息子の中の初子は皆贖ふべし我前に空手にて出るものあるべからず 21 六日の間汝働作をなし第七日に休むべし耕耘時にも収穫時にも休むべし 22 汝七週の節筵すなはち麥秋の初穂の節筵を爲し又年の終に収蔵の節筵をなすべし 23 年に三回汝の男子みな主ヱホバ、イスラエルの神の前に出べし 24 我國々の民を汝の前より逐はらひて汝の境を廣くせん汝が年に三回のぼりて汝の神ヱホバのまへに出る時には誰も汝の國を取んとする者あらじ 25 汝わが犠牲の血を有酵パンとともに供ふべからず又逾越の節の犠牲は明朝まで存しおくべからざるなり 26 汝の土地の初穂の初を汝の神ヱホバの家に携ふべし汝山羊羔をその母の乳にて煮べからず 27 斯てヱホバ、モーセに言たまひけるは汝是等の言語を書しるせ我是等の言語をもて汝およびイスラエルと契約をむすべばなり 28 彼はヱホバとともに四十日四十夜其處に居しが食物をも食ず水をも飲ざりきヱホバその契約の詞なる十誡をかの板の上に書したまへり 29 モーセその律法の板二枚を己の手に執てシナイ山より下りしがその山より下りし時にモーセはその面の己がヱホバと言ひしによりて光を發つを知ざりき 30 アロンおよびイスラエルの子孫モーセを見てその面の皮の光を發つを視怖れて彼に近づかざりしかば 31 モーセかれらを呼りアロンおよび會衆の長等すなはちモーセの所に歸りたればモーセ彼等と言ふ 32 斯ありて後イスラエルの子孫みな近よりければモーセ、ヱホバがシナイ山にて己に告たまひし事等を盡くこれに諭せり 33 モーセかれらと語ふことを終て覆面帕をその面にあてたり 34 但しモー

セはヱホバの前にいりてともに語ることある時はその出るまで覆面帕を除きてをりまた出きたりてその命ぜられし事をイスラエルの子孫に告ぐ 35イスラエルの子孫モーセの面を見るにモーセの面の皮光を發つモーセは入てヱホバと言ふまでまたその覆面帕を面にあてをる

第三十五章

1モーセ、イスラエルの子孫の會衆を盡く集てこれに言ふ是はヱホバが爲せと命じたまへる言なり 2即ち六日の間は働作を爲べし第七日は汝等の聖日ヱホバの大安息日なり凡てこの日に働作をなす者は殺さるべし 3安息日には汝等の一切の住處に火をたく可らず 4モーセ、イスラエルの子孫の會衆に徧く告て言ふ是はヱホバの命じたまへるところの事なり 5曰く汝等が有る物の中より汝等ヱホバに献ぐる者を取べし凡て心より願ふ者に其を携へきたりてヱホバに献ぐべし即ち金 銀 銅 6青 紫 紅の線 麻糸 山羊の毛 7赤染の牡羊の皮 獾の皮 合歓木 8 燈 油 灌 膏と馨しき香をつくる香物 9葱珩 エポデと胸牌に嵌る玉 10凡て汝等の中の心に智慧ある者來りてヱホバの命じたまひし者を悉く造るべし 11即ち幕屋その天幕その頂蓋その鈎その版その横木その柱その座 12かの櫃とその杠 贖罪所 障蔽の幕 13案子とその杠およびその諸の器具 供前のパン 14燈明の臺その器具とその盞および燈火の油 15香壇とその杠 灌膏 馨しき香 幕屋の入口の幔 16 燔祭の壇およびその銅の網その杠その諸の器具洗盤とその臺 17庭の幕その柱その座庭の口の幔 18幕屋の釘庭の釘およびその紐 19聖所にて職をなすところの供職の衣 即ち祭司の職をなす時に用ふる者なる祭司アロンの聖衣および其子等の衣服 20斯てイスラエルの子孫の會衆みなモーセの前を離れて去しが 21凡て心に感じたる者凡て心より願ふ者は來りてヱホバへの献納物を携へいたり 集會の幕屋とその諸の用に供へ又聖衣のために供へたり 22即ち凡て心より願ふ者は男女ともに環釦耳環 指環 頸玉 諸の金の物を携へいたれり又凡て金の献納物をヱホバに爲す者も然せり 23凡て青 紫 紅の線および麻絲 山羊の毛 赤染の牡羊の皮 獾の皮ある者は是を携へいたり 24凡て銀および銅の献納物をなす者はこれを携へきたりてヱホバに献げ又物を造るに用ふべき合歓木ある者は其を携へいたれり 25また凡て心に智慧ある婦女等はその手をもて紡ぐことをなしその紡ぎたる者なる青紫 紅の線および麻絲を携へきたり 26凡て智慧ありて心に感じたる婦人は山羊の毛を紡げり 27又長たる者どもは葱珩およびエポデと胸牌に嵌べき玉を携へいたり 28 燈火と灌 膏と馨しき香とに用ふる香物と油を携へいたれり 29斯イスラエルの子孫悦んでヱホバに獻納物をなせり即ちヱホバがモーセに藉て爲せと命じたまひし諸の工事をなさしむるために物を携へきたらんと心より願ふところの男女は皆是のごとくになしたり 30モーセ、イスラエルの子孫に言ふ視よヱホバ、ユダの支派のホルの子なるウリの子ベザレルを名指て召たまひ 31神の霊をこれに充して智慧と了知と知識と諸の類の工事に長しめ 32奇巧を盡して金銀および銅の作をなすことを得せしめ 33玉を切り嵌め木に彫刻みて諸の類の工をなすことを得せしめ 34彼の心を明かにして教ふることを得せしめたまふ彼とダンの支派のアヒサマクの子アホリアブ倶に然り 35斯智慧の心を彼等に充して諸の類の工事をなすことを得せしめたまふ即ち彫刻文織および青 紫 紅の絲と麻絲の刺繍並に機織等凡て諸の類の工をなすことを得せしめ奇巧をこれに盡さしめたまふなり

第三十六章

1偖ベザレルとアホリアブおよび凡て心の穎敏き人即ちヱホバが智慧と了知をあたへて聖所の用に供ふるところの諸の工をなすことを知得せしめたまへる者等はヱホバの凡て命じたまひし如くに事をなすべかりし 2モーセすなはちベザレルとアホリアブおよび凡て心の穎敏き人すなはちその心にヱホバが智慧をさづけたまひし者凡そ來りてその工をなさんと心に望ところの者を召よせたり 3彼等は聖所の用にそなふるところの工事をなさしむるためにイスラエルの子孫が携へきたりし諸の献納物をモーセの手より受とりしが民は尚また朝ごとに自意の献納物をモーセに持きたる 4是に於て聖所の諸の工をなすところの智き人等みな各々その爲ところの工をやめて來り 5モーセに告て言けるは民餘りに多く持きたればヱホバが爲せと命じたまひし工事をなすに用ふるに餘ありと 6モーセすなはち命を傳へて營中に宣布しめて云く男女ともに今よりは聖所に獻納物をなすに及ばずと是をもて民は携へきたることを止たり 7其はその有ところの物すでに一切の工をなすに足て且餘あればなり 8偖彼等の中心に智慧ありてその工を爲るところの者十の幕

をもて幕屋を造れりその幕は麻の撚糸と青 紫 紅 の絲をもて巧にケルビムを織なして作れる者なり 9その幕は各々長二十八キユビトその幕は各 寛四キユビトその幕はみな寸尺 一なり 10而してその幕五箇を互に連ねあはせ又その幕五箇をたがひに連ねあはせ 11一 聯の幕の邊においてその連絡處の端に青色の襟を造り又他の一 聯の幕の邊においてその連絡處にこれを造れり 12一 聯の幕に襟五十をつくりまた他の一 聯の幕の連絡處の邊にも襟五十をつくれりその襟は彼と此と相對す 13而して金の鈎五十をつくりその鈎をもてその幕を彼と此と相連ねたれば一箇の幕屋となる 14又山羊の毛をもて幕をつくりて幕屋の上の天幕となせりその造れる幕は十一なり 15その幕は各々長三十キユビトその幕はおのおの寛四キユビトにして十一の幕は寸尺同一なり 16その幕 五を一幅に連ねまたその幕六を一幅に連ね 17その幕の邊において連絡處に襟五十をつくり又次の一連の幕の邊にも襟五十をつくれり 18又 銅 の鈎五十をつくりてその天幕をつらねあはせて一とならしめ 19赤染の牡羊の皮をもてその天幕の頂蓋をつくりてその上に獾の皮の蓋を設けたり 20又合歓木をもて幕屋の竪板をつくれり 21板の長は十キユビト板の寛は一キユビト半 22一の板に二の榫ありて彼と此と交指ふ幕屋の板には皆かくのごとく造りなせり 23又幕屋のために板を作れり即ち南に於は南の方に板二十枚 24その二十枚の板の下に銀の座四十をつくれり即ち此板の下にも 二の座ありてその二の榫を承け彼板の下にも二の座ありてその二の榫を承く 25幕屋の他の方すなはちその北の方のためにも板二十枚を作り 26又その銀の座四十をつくれり即 ち此板の下にも二の座あり彼板の下にも二の座あり 27又幕屋の後面すなはちその西のために板六枚をつくり 28幕屋の後の兩隅のために板二枚宛をつくれり 29その二枚は下にて相合しその 頂 まで一に連なれり一箇の環に於て然りその二枚ともに是のごとし是等は二隅のために設けたる者なり 30その板は八枚ありその座は銀の座十六座あり各々の板の下に二の座あり 31又合歓木をもて横木を作れり即ち幕屋の此方の板のために五本を設け 32幕屋の彼方の板のために横木五本を設け幕屋の後すなはちその西の板のために横木五本を設けたり 33又中間の横木をつくりて板の眞中において端より端まで通らしめ 34而してその板に金を着せ金をもて之がために鐶をつくりて横木をこれに貫き又その横木に金を着たり 35又青 紫 紅 の絲および麻の撚絲をもて幕をつくり巧にケルビムをその上に織いだし 36それがために合歓木をもて四本の柱をつくりてこれに金を着せたりその鈎は金なり又銀をもてこれがために座四を鋳たり 37又青 紫 紅 の絲および麻の撚絲をもて幕屋の入口に掛る幔を織なし 38その五本の 柱とその鈎とを造りその柱の頭と桁に金を着せたり但しその五の座は 銅 なりき

第三十七章

1ベザレル合歓木をもて櫃をつくれりその長は二キユビト半その寛は一キユビト半、その高は一キユビト半 2而して純 金をもてその内外を蔽ひてその上の周圍に金の縁を造れり 3又金の環四箇を鋳てその四の足につけたり即ち此旁に二箇の輪彼旁に二箇の輪を付く 4又合歓木をもて杠を作りてこれに金を着せ 5その杠を櫃の 傍 の環にさしいれて之をもて櫃をかくべからしむ 6又純 金をもて贖 罪所を造れりその長は二キユビト半その寛は一キユビト半なり 7又金をもて二箇のケルビムを作れり即ち槌にて打て之を贖 罪所の兩 傍に作り 8一箇のケルブを此方の末に一箇のケルブを彼方の末に置り即ち贖 罪所の兩 傍にケルビムを作れり 9ケルビムは翼を高く展べ其 翼をもて贖 罪所を掩ひ其面をたがひに相向く即ちケルビムの面は贖 罪所に向ふ 10又合歓木をもて案を作れり其 長は二キユビト其寛は二キユビト其 高は一キユビト半 11而て純 金を之に着せ其周圍に金の縁をつけ 12又其四圍に掌寛の邊を作り其邊の周圍に金の小縁を作れり 13而て之が爲に金の環四箇を鋳其足の四隅に其環を付たり 14即ち環は邊の側に在て案を舁く杠を入る處なり 15而て合歓木をもて案を舁く杠を作りて之に金を着せたり 16又 案の上の器具 即ち皿匙 杓 及び酒を灌ぐ 斝 を純 金にて作れり 17又純 金をもて一箇の燈臺を造れり即ち槌をもて打て其燈臺を作れり其臺座軸 萼 節及び花は其に連る 18六の枝その 旁 より出づ即ち燈臺の三の枝は此 旁 より出で燈臺の三の枝は彼 傍 より出づ 19巴旦杏の花の形せる三の萼 節および花とともに此枝にあり又巴旦杏の花の形せる三の萼 節および花とともに彼枝にあり燈臺より出る六の枝みな斯のごとし 20巴旦杏の花の形せる四の萼その節および花とともに燈臺にあり 21兩箇の枝の下に一箇の節あり又兩箇の枝の下に一箇の節あり又兩箇の枝の下に一箇の節あり燈臺より出る六の枝みな是のごとし 22その節と枝とは其に連

れり皆槌にて打て純金をもて造れり 23又純金をもて七箇の燈 盞と燈鉗と剪燈盤を造れり 24燈臺とその諸の器具は純金一タラントをもて作れり 25又合歓木をもて香壇を造れり其長一キユピトその寛二キユビトにして四角なりその高は二キユビトにしてその角は其より出づ 26その上その四旁その角ともに純金を着せその周圍に金の縁を作れり 27又その兩面に金の縁の下に金の環二箇をこれがために作れり即ちその兩旁にこれを作る是すなはち之を舁ところの杠を貫くところなり 28又合歓木をもてその杠をつくりて之に金を着せたり 29又薫物をつくる法にしたがひて聖 灌 膏と香物の清き香とを製れり

第三十八章

1又合歓木をもて燔祭の壇を築けりその長は五キユビト其寛は五キユビトにして四角その高は三キユビト 2而してその四隅の上に其の角を作りてその角を其より出しめその壇には銅 を着せたり 3又その壇の 諸 の器具すなはち壷と火鏟と鉢と肉叉と火鼎を作れり壇の器はみな 銅にて造る 4又壇のために銅 の網をつくりこれを壇の中程の邊の下に置ゑて壇の半に達せしめ 5その 銅 の網の四隅に四箇の環を鋳て杠を貫く處となし 6合歓木をもてその杠をつくりて之に 銅 を着せ 7壇の兩 旁の環にその杠をつらぬきて之を舁べからしむその壇は板をもてこれを 空につくれり 8また 銅 をもで洗盤をつくりその臺をも 銅にす即ち集 會の幕屋の門にて役事をなすところの婦人等鏡 をもて之を作れり 9又庭を作れり南に於ては庭の南の方に百キユビトの細布の幕を設く 10その柱は二十その座は二十にして共に 銅 なりその柱の鈎および桁は銀なり 11北の方には百キユビトの幕を設くその柱は二十その座は二十にして共に 銅 なりその柱の鈎と桁は銀なり 12西の方には五十キユビトの幕を設くその柱は十その座は十その柱の鈎と桁は銀なり 13東においては東の方に五十キユビトの幕を設く 14而してこの一旁に十五キユビトの幕を設くその柱は三その座も三 15又かの一旁にも十五キユビトの幕を設くその柱は三その座も三 即ち庭の門の此旁彼旁ともに然り 16庭の周圍の幕はみな細布なり 17柱の座は銅 柱の鈎と桁は銀 柱の頭の包は銀なり庭の柱はみな銀の桁にて連る 18庭の門の幔は青 紫 紅 の絲および麻の撚絲をもて織なしたる者なりその長は二十キユビトその寛における高は五キユビトにして庭の幕と等し 19その柱は四その座は四にして共に 銅 その鈎は銀その頭の 包と桁は銀なり 20幕屋およびその周圍の庭の釘はみな 銅なり 21幕屋につける物すなはち律法の幕屋につける物を量るに左のごとし祭司アロンの子イタマル、モーセの命にしたがひてレビ人を率ゐ用ひてこれを量れるなり 22ユダの支派のホルの子なるウリの子ベザレル凡てヱホバのモーセに命じたまひし事等をなせり 23ダンの支派のアヒサマクの子アホリアブ彼とともにありて雕刻織文をなし青 紫 紅 の絲および麻絲をもて文繍をなせり 24聖 所の諸 の工作をなすに用たる金は聖 所のシケルにしたがひて言ば都合二十九タラント七百三十シケルなり是すなはち献納たるところの金なり 25會 衆の中の核數られし者の献げし銀は聖 所のシケルにしたがひて言ば百タラント千七百七十五シケルなり 26凡て數らるる者の中に入し者即 ち二十歳以上の者六十萬三千五百五十人ありたれば聖 所 のシケルにしたがひて言ば一人に一ベカとなる是すなはち半シケルなり 27百タラントの銀をもて聖 所の座と幕の座を鋳たり百タラントをもて百座をつくれば一座すなはち一タラントなり 28又千七百七十五シケルをもて柱の鈎をつくり柱の頭を包み又 柱を連ねあはせたり 29又献納たるところの 銅 は七十タラント二千四百シケルなり 30是をもちひて集 會の幕屋の門の座をつくり 銅 の壇とその 銅 の網および壇の諸の器具をつくり 31庭の周圍の座と庭の門の座および幕屋の諸の釘と庭の周圍の諸 の釘を作れり

第三十九章

1青 紫 紅 の絲をもて聖 所にて職をなすところの供職の衣服を製り亦アロンのために聖 衣を製りヱホバのモーセに命じたまひしごとくせり 2又金青 紫 紅 の絲および麻の撚絲をもてエポデを製り 3金を薄片に打展べ剪て縷となしこれを青 紫 紅 の絲および麻絲に和てこれを織なし 4又これがために肩帯をつくりて之を連ねその 兩の端において之を連ぬ 5エポデの上にありて之を束ぬるところの帯はその物同じうして其の製のごとし即ち金青紫 紅 の絲および麻の撚絲をもて製る者なりヱホバのモーセに命じたまひしごとくなり 6又葱珩を琢て金の槽に嵌め印を刻がごとくにイスラエルの子等の名をこれに鐫つけ 7これをエボデの肩帯の上につけてイスラエルの子孫の記念の玉とならしむヱホバのモーセに命じたまひ

しごとし 8また胸牌を巧に織なしエポデの製のごとくに
金青 紫 紅 の絲および麻の撚絲をもてこれを製れり 9胸
牌は四角にして之を二重につくりたれば二重にしてその
長 半キユビトその濶半キユビトなり 10その中に玉四行
を嵌む即ち赤玉黄玉瑪瑙の一 行を第一行とす 11第二行は
紅 玉 青玉 金剛石 12第三行は深 紅 玉 白瑪瑙 紫 玉
13第四行は黄 緑玉 葱珩 碧 玉 凡て金の槽の中にこれを
嵌たり 14その玉はイスラエルの子等の名にしたがひ其名
のごとくに之を十二になし而して印を刻がごとくにその
十二の支派の 各 の名をこれに鐫つけたり 15又純 金を紐
のごとくに組たる鏈を胸牌の上につけたり 16又金をもて
二箇の槽をつくり二の金の環をつくりその二の環を胸牌
の兩の端につけ 17かの金の紐二條を胸牌の端の二箇の環
につけたり 18而してその二條の紐の兩の端を二箇の槽に
結ひエポデの肩帯の上につけてその前にあらしむ 19又
二箇の金の環をつくりて之を胸牌の兩の端につけたり 即
ちそのエポデに對ふところの内の邊にこれを付く 20また
金の環二箇を造りてこれをエポデの兩 傍の下の方につけ
てその前の方にてその聯接る處に對てエポデの帯の上に
あらしむ 21胸牌は青紐をもてその環によりて之をエポデ
の環に結つけエポデの帯の上にあらしめ胸牌をしてエポ
デを離ることなからしむヱホバのモーセに命じたまひ
しごとし 22又エポデに屬する明衣は凡てこれを青く織な
せり 23上衣の孔はその眞中にありて鎧の領 盤のごとしそ
の孔の周圍に縁ありて綻びざらしむ 24而して明衣の裾に
青 紫 紅 の撚絲をもて石榴を作りつけ 25又純 金をもて
鈴をつくりその鈴を明衣の裾の石榴の間につけ周圍にお
いて石榴の間 々にこれをつけたり 26即ち鈴に石榴鈴に
石榴と供職の明衣の裾の周圍につけたりヱホバのモーセ
に命じたまひしごとし 27又アロンとその子等のために織
布をもて裏衣を製り 28細布をもて頭 帽を製り細布をも
て美しき頭巾をつくり麻の撚絲をもて 褌 をつくり 29麻
の撚絲および青 紫 紅 の絲をもて帯を織なせりヱホバ
のモーセに命じたまひしごとし 30又純 金をもて聖 冠 の
前板をつくり印を刻がごとくにその上にヱホバに聖とい
ふ文字を書つけ 31之に青紐をつけて之を頭 帽の上に結
つけたりヱホバのモーセに命じたまひし如し 32斯集 合の
天幕なる幕屋の 諸 の工事成ぬイスラエルの子孫ヱホバ
の凡てモーセに命じたまひしごとくに爲て斯おこなへり
33人衆幕屋と天幕とその 諸 の器具をモーセの許に携へい
たる即ちその鈎その板その横木その柱その座 34赤染の
牡羊の皮の蓋貛の皮の蓋障蔽の幕 35律法の櫃とその杠
贖 罪所 36案とその 諸 の器具供前のパン 37純 金の燈臺と
その盞すなはち陳列る燈 盞とその 諸 の器具ならびにそ
の燈火の油 38金の壇 灌 膏 香幕屋の門の幔子 39 銅 の壇
その 銅 の網とその杠およびその 諸 の器具洗盤とその臺
40庭の幕その柱とその座庭の門の幔子その紐とその釘な
らびに幕屋に用ふる 諸 の器具 集 會の天幕のために用ふ
る者 41聖 所にて職をなすところの供職の衣服 即ち祭司
の職をなす時に用ふる者なる祭司アロンの聖 衣および
その子等の衣服 42斯ヱホバの凡てモーセに命じたまひし
ごとくにイスラエルの子孫その 諸 の工事をなせり 43モ
ーセその一切の工作を見るにヱホバの命じたまひしごと
くに造りてあり即ち是のごとくに作りてあればモーセ
人衆を祝せり

第四十章

1茲にヱホバ、モーセに告て言たまひけるは 2正 月の 元
日に汝 集 會の天幕の幕屋を建べし 3而して汝その中に
律法の櫃を置ゑ幕をもてその櫃を障 蔽し 4又 案を携へい
り陳 設の物を陳 設け且燈臺を携へいりてその燈 盞を置
うべし 5汝また金の香壇を律法の櫃の前に置ゑ幔子を
幕屋の門に掛け 6燔祭の壇を集 會の天幕の幕屋の門の前
に置ゑ 7洗盤を集 會の天幕とその壇の間に置ゑて之に水
をいれ 8庭の周圍に藩籬をたて庭の門に幔子を垂れ 9而
して灌 膏をとりて幕屋とその中の一切の物に灌ぎて其
とその 諸 の器具を聖別べし是聖 物とならん 10汝また
燔祭の壇とその一切の器具に膏をそそぎてその壇を聖別
べし壇は至聖 物とならん 11又洗盤とその臺に膏をそそぎ
て之を聖別め 12アロンとその子等を集 會の幕屋の門につ
れきたりて水をもて彼等を洗ひ 13アロンに聖 衣を着せ
彼に膏をそそぎてこれを聖別め彼をして祭司の職を我に
なさしむべし 14又かれの子等をつれきたりて之に明衣を
着せ 15その父になせるごとくに之に膏を灌ぎて祭司の 職
を我になさしむべし彼等の膏そそがれて祭司たることは
代々變らざるべきなり 16モーセかく行へり即ちヱホバの
己 に命じたまひし如くに爲たり 17第二年の正 月にいた
りてその月の元 日に幕屋建ぬ 18乃ちモーセ幕屋を建てそ
の座を置ゑその板をたてその横木をさしこみその柱を立
て 19幕屋の上に天幕を張り天幕の蓋をその上にほどこせ

りヱホバのモーセに命じ給ひし如し 20而してかれ律法をとりて櫃に蔵め杠を櫃につけ贖罪所を櫃の上に置ゑ 21櫃を幕屋に携へいり障蔽の幕を垂て律法の櫃を隠せりヱホバのモーセに命じたまひしごとし 22彼また集會の幕屋において幕屋の北の方にてかの幕の外に案を置ゑ 23供前のパンをその上にヱホバの前に陳設たりヱホバのモーセに命じたまひし如し 24又集會の幕屋において幕屋の南の方に燈臺をおきて案にむかはしめ 25燈 盞をヱホバの前にかかげたりヱホバのモーセに命じたまひしごとし 26又集會の幕屋においてかの幕の前に金の壇を居ゑ 27その上に馨しき香を焚りヱホバのモーセに命じたまひしごとし 28又幕屋の門に幔子を垂れ 29集會の天幕の幕屋の門に燔祭の壇を置ゑその上に燔祭と素祭をささげたりヱホバのモーセに命じたまひし如し 30又集會の天幕とその壇の間に洗盤をおき其に水をいれて洗ふことの爲にす 31モーセ、アロンおよびその子等其につきて手足を洗ふ 32即ち集會の幕屋に入る時または壇に近づく時に洗ふことをせりヱホバのモーセに命じたまひしごとし 33また幕屋と壇の周圍の庭に藩籬をたて庭の門に幔子を垂ぬ是モーセその工事を竣たり 34斯て雲集會の天幕を蓋てヱホバの榮光幕屋に充たり 35モーセは集會の幕屋にいることを得ざりき是雲その上に止り且ヱホバの榮光幕屋に盈たればなり 36雲幕屋の上より昇る時にはイスラエルの子孫途に進めり其途々凡て然り 37然ど雲の昇らざる時にはその昇る日まで途に進むことをせざりき 38即ち晝は幕屋の上にヱホバの雲あり夜はその中に火ありイスラエルの家の者皆これを見るその途々すべて然り

レビ記

第一章

1ヱホバ集會の幕屋よりモーセを呼びこれに告て言たまはく 2イスラエルの子孫に告てこれに言へ汝等の中の人もし家畜の禮物をヱホバに供んとせば牛あるひは羊をとりてその禮物となすべし 3もし牛の燔祭をもてその禮物になさんとせば全き牡牛を供ふべしすなはち集會の幕屋の門にてこれをヱホバの前にその受納たまふやうに供ふべし 4彼その燔祭とする者の首に手を按べし然ば受納られて彼のために贖罪とならん 5彼ヱホバの前にその犢を宰るべし又アロンの子等なる祭司等はその血を携へきたりて集會の幕屋の門なる壇の四圍にその血を灑ぐべし 6彼またその燔祭の牲の皮を剥ぎこれを切わかつべし 7祭司アロンの子等壇の上に火を置きその火の上に薪柴を陳べ 8而してアロンの子等なる祭司等その切わかてる者その首およびその脂を壇の上なる火の上にある薪の上に陳ぶべし 9その臟腑と足はこれを水に洗ふべし斯て祭司は一切を壇の上に燒て燔祭となすべし是すなはち火祭にしてヱホバに馨しき香たるなり 10またその禮物もし群の羊あるひは山羊の燔祭たらば全き牡を供ふべし 11彼壇の北の方においてヱホバの前にこれを宰るべしアロンの子等なる祭司等はその血を壇の四圍に灑ぐべし 12彼またこれを切わかちその首とその脂を截とるべし而して祭司これを皆壇の上なる火の上にある薪柴の上に陳ぶべし 13またその臟腑と足はこれを水に洗ひ祭司一切を携へきたりて壇の上に燒べし是を燔祭となす是即ち火祭にしてヱホバに馨しき香たるなり 14若また禽を燔祭となしてヱホバに献るならば鳩鳩または雛き鴿を携へ來りて禮物となすべし 15祭司はこれを壇にたづさへゆきてその首を切やぶりこれを壇の上に燒べしまたその血はこれをしぼりいだして壇の一方にぬるべし 16またその穀袋とその内の物はこれを除きて壇の東の方なる灰棄處にこれを棄べし 17またその翼は切はなすこと无にこれを割べし而して祭司これを壇の上にて火の上なる薪柴の上に燒べし是を燔祭となす是すなはち火祭にしてヱホバに馨しき香たるなり

第二章

1人素祭の禮物をヱホバに供ふる時は麥粉をもてその禮物となしその上に油をそそぎ又その上に乳香を加へ 2これをアロンの子等なる祭司等の許に携へゆくべし斯てまた祭司はその麥粉と油一握をその一切の乳香とともに取り之を記念の分となして壇の上に燒べし是すなはち火祭にしてヱホバに馨しき香たるなり 3素祭の餘はアロンとその子等に歸すべし是はヱホバに献る火祭の一にして至聖物たるなり 4汝もし爐に燒たる物をもて素祭の禮物となさんとせば麥粉に油を和て作れる無酵菓子お

よび油を抹たる無酵煎餅を用ふべし 5汝の素祭とする
禮物もし鍋に燒たる物ならば麥粉に油を和て酵いれずに
作れる者を用ふべし 6汝これを細に割てその上に油をそ
そぐべし是を素祭となす 7汝の素祭とする禮物もし釜に
煮たる物ならば麥粉と油をもて作れる者を用ふべし 8汝
これ等の物をもて作れる素祭の物をヱホバに携へいたる
べし是を祭司に授さば祭司はこれを壇にたづさへ往き 9
その素祭の中より記念の分をとりて壇の上に焚べし是す
なはち火祭にしてヱホバに馨しき香たるなり 10素祭の餘
はアロンとその子等に皈すべし是はヱホバにささぐる
火祭の一にして至聖物たるなり 11凡そ汝等がヱホバにた
づさへいたる素祭は都て酵いれて作るべからず汝等はヱ
ホバに献る火祭の中に酵または蜜を入て焚べからず 12但
し初熟の禮物をそなふる時には汝等これをヱホバにそな
ふべし然ど馨しき香のためにこれを壇にそなふる事はな
すべからず 13汝素祭を献るには凡て鹽をもて之に味くべ
し汝の神の契約の鹽を汝の素祭に缺こと勿れ汝禮物を
なすには都て鹽をそなふべし 14汝初穗の素祭をヱホバに
そなへんとせば穗を火にやきて殻をさりたる者をもて汝
の初穗の禮物にそなふべし 15汝また油をその上にほどこ
し乳香をその上に加ふべし是を素祭となす 16祭司はその
殻を去たる穀物の中および油の中よりその記念の分を取
りその一切の乳香とともにこれを焚べし是すなはちヱホ
バにささぐる火祭なり

第三章

1人もし酬恩祭の犧牲を献るに當りて牛をとりて之を献
るならば牝牡にかかはらずその全き者をヱホバの前に供
ふべし 2すなはちその禮物の首に手を按き集會の幕屋の
門にこれを宰るべし而してアロンの子等なる祭司等その
血を壇の周圍に灌ぐべし 3彼はまたその酬恩祭の犧牲の
中よりして火祭をヱホバに献べし即ち臟腑を裏むところ
の脂と臟腑の上の一切の脂 4および二箇の腎とその上の
脂の腰の兩傍にある者ならびに肝の上の網膜の腎の上
に達る者を取べし 5而してアロンの子等壇の上において
火の上なる薪の上の燔祭の上にこれを焚べし是すなはち
火祭にしてヱホバに馨しき香たるなり 6もしまたヱホバ
に酬恩祭の犧牲を献るにあたりて羊をその禮物となすな
らば牝牡にかかはらず其全き者を供ふべし 7若また羔羊
をその禮物となすならば之をヱホバの前に牽來り 8その
禮物の首に手を按きこれを集會の幕屋の前に宰るべし
而してアロンの子等その血を壇の四圍にそそぐべし 9彼
その酬恩祭の犧牲の中よりして火祭をヱホバに献べし即
ちその脂をとりその尾を脊骨より全く斷きりまた臟腑を
裏ところの脂と臟腑の上の一切の脂 10および兩箇の腎と
その上の脂の腰の兩傍にある者ならびに肝の上の網膜の
腎の上に達る者をとるべし 11祭司はこれを壇の上に焚べ
し是は火祭にしてヱホバにたてまつる食物なり 12もし
山羊を禮物となすならばこれをヱホバの前に牽來り 13其
の首に手を按きこれを集會の幕屋の前に宰るべし而して
アロンの子等その血を壇の四圍に灌ぐべし 14彼またその
中よりして禮物をとりヱホバに火祭をささぐべしすなは
ち臟腑を裏むところの脂と臟腑の上のすべての脂 15およ
び兩箇の腎とその上の脂と腰の兩傍にある者ならびに肝
の上の網膜の腎の上に達る者をとるべし 16祭司はこれを
壇の上に焚べし是は火祭として奉つる食物にして馨しき
香たるなり脂はみなヱホバに歸すべし 17汝等は脂と血を
食ふべからず是は汝らがその一切の住處において代々永
く守るべき例なり

第四章

1ヱホバまたモーセに告て言たまはく 2イスラエルの子孫
に告ていふべし人もし誤りてヱホバの誡命に違ひて罪を
犯しその爲べからざる事の一を行ふことあり 3また若膏
そそがれし祭司罪を犯して民を罪に陷いるるごとき事あ
らばその犯せし罪のために全き犢の若き者を罪祭として
ヱホバに献べし 4即ちその牡犢を集會の幕屋の門に牽き
たりてヱホバの前にいたりその牡犢の首に手を按きその
牡犢をヱホバの前に宰るべし 5かくて膏そそがれし祭司
その牡犢の血をとりてこれを集會の幕屋にたづさへ入り
6而して祭司指をその血にひたしてヱホバの前聖所の
障蔽の幕の前にその血を七次そそぐべし 7祭司またその
血をとりてヱホバの前にて集會の幕屋にある馨香の壇の
角にこれを塗べしその牡犢の血は凡てこれを集會の幕屋
の門にある燔祭の壇の底下に灌べし 8またその牡犢の脂
をことごとく取て罪祭に用ふべし即ち臟腑を裏むところ
の油と臟腑の上の一切の脂 9および兩箇の腎と其上の脂
の腰の兩傍にある者ならびに肝の上の網膜の腎の上に達
る者を取べし 10之を取には酬恩祭の犧牲の牛より取が如
くすべし而して祭司これを燔祭の壇の上に焚べし 11その

牡犢の皮とその一切の肉およびその首と脛と臓腑と糞等
12凡てその牡犢はこれを營の外に携へいだして灰を棄る
場なる清淨處にいたり火をもてこれを薪柴の上に焚べし
即ち是は灰棄處に焚べきなり 13またイスラエルの全
會衆過失をなしたるにその事會衆の目にあらはれすし
て彼等つひにヱホバの誡命の爲べからざる者を爲し罪を
獲ることあらんに 14もし其犯せし罪あらはれなば會衆の
者若き犢を罪祭に献べし即ちこれを集會の幕屋の前に牽
いたり 15會衆の長老等ヱホバの前にてその牡犢の首に手
を按きその一人牡犢をヱホバの前に宰るべし 16而して膏
そそがれし祭司その牡犢の血を集會の幕屋に携へいり 17
祭司指をその血にひたしてヱホバの前障蔽の幕の前にこ
れを七次そそぐべし 18祭司またその血をとりヱホバの前
にて集會の幕屋にある壇の角にこれを塗べし其血は凡て
これを集會の幕屋の門にある燔祭の壇の底下に灌べし 19
また其脂をことごとく取て壇の上に焚べし 20すなはち
罪祭の牡犢になしたるごとくにこの牡犢にもなし祭司こ
れをもて彼等のために贖罪をなすべし然せば彼等赦され
ん 21かくして彼その牡犢を營の外にたづさへ出し初次の
牡犢を焚しごとくにこれを焚べし是すなはち會衆の罪祭
なり 22また牧伯たる者罪を犯しその神ヱホバの誡命の爲
べからざる者を誤り爲て罪を獲ことあらんに 23若その罪
を犯せしことを覺らば牡山羊の全き者を禮物に持きたり
24その山羊の首に手を按き燔祭の牲を宰る場にてヱホバ
の前にこれを宰るべし是すなはち罪祭なり 25祭司は指を
もてその罪祭の牲の血をとり燔祭の壇の角にこれを抹り
燔祭の壇の底下にその血を灌ぎ 26酬恩祭の犠牲の脂のご
とくにその脂を壇の上に焚べし斯祭司かれの罪のために
贖事をなすべし然せば彼は赦されん 27また國の民の中に
誤りて罪を犯しヱホバの誡命の爲べからざる者の一を爲
て罪を獲る者あらんに 28若その罪を犯せしことを覺らば
牝山羊の全き者を牽きたりその犯せし罪のためにこれを
禮物になすべし 29即ちその罪祭の牲の首に手を按き燔祭
の牲の場にてその罪祭の牲を宰るべし 30而して祭司は指
をもてその血を取り燔祭の壇の角にこれを抹りその血を
ことごとくその壇の底下に灌べし 31祭司また酬恩祭の牲
より脂をとるごとくにその脂をことごとく取りこれを壇
の上に焚てヱホバに馨しき香をたてまつるべし斯祭司か
れのために贖罪をなすべし然せば彼は赦されん 32彼もし
羔羊を罪祭の禮物に持きたらんとせば牝の全き者を携へ
きたり 33その罪祭の牲の首に手を按き燔祭の牲を宰る場
にてこれを宰りて罪祭となすべし 34かくて祭司指をもて
その罪祭の牲の血を取り燔祭の壇の角にこれを抹りその
血をことごとくその壇の底下に灌ぎ 35羔羊の脂を酬恩祭
の犠牲より取るごとくにその脂をことごとく取べし而し
て祭司はヱホバに献ぐる火祭のごとくにこれを壇の上に
焚べし斯祭司彼の犯せる罪のために贖をなすべし然せ
ば彼は赦されん

第五章

1人もし證人として出たる時に諭誓の聲を聽ながらその
見たる事またはその知る事を陳ずして罪を犯さば己の咎
は己の身に歸すべし 2人もし汚穢たる獣の死體汚穢たる
家畜の死體汚穢たる昆蟲の死體など凡て汚穢たる物に捫
ることあらばその事に心づかざるもその身は汚れて辜あ
り 3もし又心づかずして人の汚穢にふるる事あらばその
人の汚穢は如何なる汚穢にもあれその之を知るにいたる
時は辜あり 4人もし心づかずして誓を發し妄に口をもて
惡をなさんと言ひ善をなさんと言ばその人の誓を發して
妄に言ふところるは如何なる事にもあれそのこれを知るに
いたる時は此等の一において辜あり 5若これらの一にお
いて辜ある時は某の事において罪を犯せりと言あらはし
6その愆のためその犯せし罪のために羊の牝なる者すな
はち羔羊あるひは牝山羊をヱホバにたづさへ來りて罪祭
となすべし斯て祭司は彼の罪のために贖罪をなすべし 7
もし羔羊にまで手のとどかざる時は鳩鳩二羽か雛鴿二
羽をその犯せし愆のためにヱホバに持きたり一を罪祭に
もちひ一を燔祭に用ふべし 8即ちこれを祭司にたづさへ
往べし祭司はその罪祭の者を先にささぐべし即ちその首
を頸の根より切やぶるべし但しこれを切はなすべからず
9而してその罪祭の者の血を壇の一方にそそぎその餘の
血をば壇の底下にしぼり出すべし是を罪祭となす 10また
その次のは慣例のごとくに燔祭にささぐべし斯祭司彼が
犯せし罪のために贖をなすべし然せば彼は赦されん 11
もし二羽の鳩鳩か二羽の雛き鴿までに手のとどかざる
時はその罪ある者麥粉一エパの十分一を禮物にもちきた
りてこれを罪祭となすべしその上に膏をかくべからず又
その上に乳香を加ふべからず是は罪祭なればなり 12彼
祭司の許にこれを携へゆくべし祭司はこれを一握とりて
記念の分となし壇の上にてヱホバの火祭の上にこれを焚

べし是を罪祭となす 13斯祭司は彼が是等の一を犯して獲たる罪のために贖をなすべし然せば彼は赦されんその殘餘は素祭とひとしく祭司に歸すべし 14ヱホバ、モーセに告て言たまはく 15人もし過失を爲し知ずしてヱホバの聖物を于して罪を獲ことあらば汝の估價に依り聖所のシケルにしたがひて數シケルの銀にあたる全き牡羊を群の中よりとりその愆のためにこれをヱホバに携へきたりて愆祭となすべし 16而してその聖物を于して獲たる罪のために償をなしまた之に五分の一をくはへて祭司に付すべし祭司はその愆祭の牡羊をもて彼のために贖罪をなすべし然せば彼は赦されん 17人もし罪を犯しヱホバの誡命の爲べからざる者の一を爲すことあらば假令これを知ざるも尚罪ありその罪を任べきなり 18即ち汝の估價にしたがひて群の中より全き牡羊をとり愆祭となしてこれを祭司にたづさへいたるべし祭司は彼が知ずして誤りし過誤のために贖罪をなすべし然せば彼は赦されん 19是を愆祭となすその人は誠にヱホバに罪を獲たり

第六章

1ヱホバまたモーセに告て言たまはく 2人もしヱホバにむかひて不信をなして罪を獲ことあり即ち人の物をあづかり又は質にとり又は奪ひおきて然る事あらずと言ひ或は人を虐る事を爲し 3或は人の落せし物を拾ひおきて然る事なしと言ひ僞りて誓ふことを爲す等凡て人の爲て罪を獲るところの事を一にても行はば 4是罪を犯して身に罪ある者なればその奪し物その虐げて取たる物その預りし物その拾ひとりし物 5および凡てその僞り誓し物を還すべし即ちその原物を還しその上に五分の一をこれに加へその愆祭をささぐる日にこれをその本主に付すべし 6彼その愆祭をヱホバに携へきたるべし即ち汝の估價にしたがひその愆のために群の中より全き牡羊をとりて祭司にいたるべし 7祭司はヱホバの前において彼のために贖罪をなすべし然せば彼はその中のいづれを行ひて愆を獲るもゆるさるべし 8ヱホバまたモーセに告て言たまはく 9アロンとその子等に命じて言へ燔祭の例は是のごとし此燔祭は壇の上なる爐の上に旦まで終夜あらしむべし即ち壇の火をしてこれと共に燃つつあらしむべきなり 10祭司は麻の衣服を着て麻の褌をその肉に纏ひ壇の上にて火にやけたる燔祭の灰を取て壇の旁に置き 11而してその衣服を脱ぎ他の衣服をつけてその灰を營の外に携へいだし清淨地にもちゆくべし 12壇の上の火をばたえず燃しむべし熄しむべからず祭司は朝ごとに薪柴をその上に燃し燔祭の物をその上に陳べまた酬恩祭の脂をその上に焚べし 13火はつねに壇の上にたえず燃しむべし熄しむべからず 14素祭の例は是のごとしアロンの子等これをヱホバの前すなはち壇の前にささぐべし 15即ち素祭の麥粉とその膏を一握とりまた素祭の上の乳香をことごとく取て之を壇の上に焚き馨しき香となし記念の分となしてヱホバにたてまつるべし 16その遺餘はアロンとその子等これを食ふべし即ち酵をいれずして之を聖所に食ふべし會の幕屋の庭にて之を食ふべきなり 17之を酵いれて燒べからずわが火祭の中より我これを彼等にあたへてその分となさしか是は罪祭と愆祭のごとくに至聖し 18アロンの子等の男たる者はみな之を食ふことを得べし是はヱホバにたてまつる火祭の例にして汝等が代々永くまもるべき者なり凡てこれに觸る者は聖なるべし 19ヱホバ、モーセに告て言たまはく 20アロンとその子等が膏そそがるる日にヱホバにささぐべき禮物は是のごとし麥粉一エパの十分の一を素祭となして恒に献ぐべし即ちその半を朝にその半を夕にささぐべし 21是は鍋の内に油をもて作りその燒たる時に汝これを携へきたるべし即ちこれを幾個にも劈て素祭となしヱホバに献げて馨しき香とならしむべし 22アロンの子等の中膏をそそがれて彼に継で祭司となる者はこれを献ぐべし斯はヱホバに對して永く守るべき例なり是は全く焚つくすべし 23凡て祭司の素祭はみな全く焚つくすべし食ふべからざるなり 24ヱホバまたモーセに告て言たまはく 25アロンとその子等に告ていふべし罪祭の例は是のごとし燔祭の牲を宰る場にて罪祭の牲をヱホバの前に宰るべし是は至聖物なり 26罪のために之をささぐるところの祭司これを食ふべし即ち集會の幕屋の庭において聖所に之を食ふべし 27凡てその肉に觸る者は聖なるべしその血もし衣服に灑ぎかかることあらばその灑ぎかかれる者を聖所に洗ふべし 28またこれを煮たる土瓦の器皿は碎くべし若これを煮たる者銅の鍋ならば水をもてこれを磨き洗ふべし 29祭司等の中の男たる者は皆これを食ふことを得べし是は至聖し 30然どその血を集會の幕屋にたづさへいりて聖所にて贖罪をなしたる罪祭はこれを食ふべからず火をもてこれを焚べし

第七章

1また愆祭の例は是のごとし是は至聖者なり 2燔祭を宰る場にて愆祭を宰るべし而して祭司その血を壇の四周にそそぎ 3その脂をことごとく献ぐべし即ちその脂の尾その臟腑を裹むところの諸の脂 4兩個の腎とその上の脂の腰の兩傍にある者および肝の上の網膜の腎の上におよべる者を取り 5祭司これを壇の上に焚てヱホバに火祭とすべし之を愆祭となす 6祭司等の中の男たる者はみな之を食ふことを得是は聖所に食ふべし至聖者なり 7罪祭も愆祭もその例は一にして異らずこれは贖罪をなすところの祭司に歸すべし 8人の燔祭をささぐるところの祭司その祭司はその献ぐる燔祭の物の皮を自己に得べし 9凡て爐に燒たる素祭の物および凡て釜と鍋にて製へたる者はこれを献ぐるところの祭司に歸すべし 10凡そ素祭は油を和たる者も乾たる者もみなアロンの諸の子等に均く歸すべし 11ヱホバに献ぐべき酬恩祭の犧牲の例は是のごとし 12若これを感謝のために献ぐるならば油を和たる無酵菓子と油をぬりたる無酵煎餅および麥粉に油をませて燒たる菓子をその感謝の犧牲にあはせて献ぐべし 13その菓子の外にまた有酵パンを酬恩祭なる感謝の犧牲にあはせてその禮物に供ふべし 14即ちこの全體の禮物の中より一箇宛を取りヱホバにささげて擧祭となすべし是は酬恩祭の血を灑ぐところの祭司に歸すべきなり 15感謝のために献ぐる酬恩祭の犧牲の肉はこれを献げしその日の中に食ふべし少にても翌朝まで存しおくまじきなり 16その犧牲の禮物もし願還かまたは自意の禮物ならばその犧牲をささげし日にこれを食ふべしその殘餘はまた明日これを食ふことを得るなり 17但しその犧牲の肉の殘餘は第三日にいたらば火に焚べし 18若その酬恩祭の犧牲の肉を第三日に少にても食ふことをなさば其は受納られずまた禮物と算らるることなくして反て憎むべき者とならん 19是を食ふ者その罪を任べし 19その肉もし汚穢たる物にふるる事あらば食ふべからず火に焚べしその肉は淨き者みなこれを食ふことを得るなり 20若その身に汚穢ある人ヱホバに屬する酬恩祭の犧牲の肉を食はばその人はその民の中より絶るべし 21また人もし人の汚穢あるひは汚たる獣畜あるひは忌しき汚たる物等都て汚穢に觸ることありながらヱホバに屬する酬恩祭の犧牲の肉を食はばその人はその民の中より絶るべし 22ヱホバまたモーセに告て言たまはく 23イスラエルの子孫に告て言べし牛羊山羊の脂は都て汝等これを食ふべからず 24自ら死たる獣畜の脂および裂ころされし獣畜の脂は諸般の事に用ふるを得れどもこれを食ふことは絶てなすべからず 25人のヱホバに火祭として献ぐるところの牲畜の脂は誰もこれを食ふべからず之を食ふ人はその民の中より絶るべし 26また汝等はその一切の住處において鳥獣の血を決して食ふべからず 27何の血によらずこれを食ふ人あればその人は皆民の中より絶るべし 28ヱホバ、モーセに告て言たまはく 29イスラエルの子孫に告て言べし酬恩祭の犧牲をヱホバに献ぐる者はその酬恩祭の犧牲の中よりその禮物を取てヱホバにたづさへ來るべし 30ヱホバの火祭はその人手づからこれを携へきたるべし即ちその脂と胸とをたづさへ來りその胸をヱホバの前に搖て搖祭となすべし 31而して祭司その脂を壇の上に焚べしその胸はアロンとその子等に歸すべし 32汝等はその酬恩祭の犧牲の右の腿を擧祭となして祭司に與ふべし 33アロンの子等の中酬恩祭の血と脂とを献ぐる者その右の腿を得て自己の分となすべし 34我イスラエルの子孫の酬恩祭の犧牲の中よりその搖る胸と擧たる腿をとりてこれを祭司アロンとその子等に與ふ是はイスラエルの子孫の中に永く行はるべき例典なり 35是はヱホバの火祭の中よりアロンに歸する分またその子等に歸する分なり彼等を立てヱホバに祭司の職をなさしむる日に斯定めらる 36すなはち是は彼等に膏をそそぐ日にヱホバが命をくだしてイスラエルの子孫の中より彼等に歸せしめたまふ者にて代々永くまもるべき例典たるなり 37是すなはち燔祭素祭罪祭愆祭任職祭酬恩祭の犧牲の法なり 38ヱホバ、シナイの野においてイスラエルの子孫にその禮物をヱホバに供ふることを命じたまひし日に是をシナイ山にてモーセに命じたまひしなり

第八章

1ヱホバ、モーセに告て言たまはく 2汝アロンとその子等およびその衣服と灌膏と罪祭の牡牛と二頭の牡羊と無酵パン一筐を携へきたり 3また會衆をことごとく集會の幕屋の門に集めよ 4モーセすなはちヱホバの己に命じたまひし如くなしたれば會衆は集會の幕屋の門に集りぬ 5モーセ會衆にむかひて言ふヱホバの爲せと命じたまへる事は斯のごとしと 6而してモーセ、アロンとその子等を携きたり水をもて彼等を洗ひ清め 7アロンに裏衣を著せ帶を帶しめ明衣を纏はせエポデを着しめエポデの帶を之に帶しめこれをもてエポデを其身に結つけ 8

また胸牌をこれに着させその胸牌にウリムとトンミムをつけ 9その首に頭 帽をかむらしめその頭 帽の上すなはちその額に金の板の聖 前板をつけたりヱホバのモーセに命じたまひし如し 10モーセまた灌 膏をとり幕屋とその中の一切の物に灌ぎてこれを聖別め 11且これを七度壇にそそぎ壇とその 諸 の器具および洗盤とその臺に膏そそぎてこれを聖別め 12また灌 膏をアロンの首にそそぎ之に膏そそぎて聖別たり 13モーセまたアロンの子等をつれきたりて裏衣をこれに着せ帯をこれに帯しめ頭巾をこれに蒙らせたりヱホバのモーセに命じたまひし如くなり 14また罪祭の牡牛を牽きたりてアロンとその子等その罪祭の牡牛の頭に手を按り 15斯てこれを殺してモーセその血をとり指をもてその血を壇の四周の角につけて壇を潔淨しまた壇の底下にその血を灌ぎて之を聖別め之がために贖 をなせり 16モーセまたその臟腑の上の一切の脂 肝の上の網膜および兩箇の腎とその脂をとりて之を壇の上に焚り 17但しその牡牛その皮その肉およびその糞は營の外にて火に焚りヱホバのモーセに命じたまひし如し 18また燔祭の牡羊を牽きたりてアロンとその子等その牡羊の 頭に手を按たり 19斯てこれを宰してモーセその血を壇の周圍に灑げり 20而してモーセその牡羊を切さきその頭と肉塊と脂とを焚り 21また水をもてその臟腑と脛を洗ひてモーセその牡羊をことごとく壇の上に焚り是は馨しき香のためにささぐる燔祭にしてヱホバにたてまつる火祭たるなりヱホバのモーセに命じたまひし如し 22また他の牡羊すなはち任 職の牡羊を牽きたりてアロンとその子等その牡羊の頭に手を按り 23斯てこれを殺してモーセその血をとり之をアロンの右の耳の端とその右の手の大指と右の足の拇指につけ 24またアロンの子等をつれきたりてその右の耳の端と右の手の大指と右の足の拇指にその血をつけたり而してモーセその血を壇の周圍に灑げり 25彼またその脂と脂の尾および臟腑の上の一切の脂と肝の上の網膜ならびに兩箇の腎とその脂とその右の腿とを取り 26またヱホバの前なる無酵パンの筐の中より無酵菓子一箇と油ぬりたるパンの菓子一箇と煎餅一箇を取り是等をその脂の上とその右の腿の上に載せ 27是を凡てアロンの手とその子等の手に授け之をヱホバの前に搖て搖祭となさしめたり 28而してモーセまた之を彼等の手より取り壇の上にて燔祭の上にこれを焚り是は馨しき香のためにたてまつる任 職 祭にしてヱホバにささぐる火祭なり 29斯てモーセその胸をとりヱホバの前にこれを搖て搖祭となせり任 職の牡羊の中是はモーセの分に歸する者なりヱホバのモーセに命じたまひし如し 30而してモーセ灌 膏と壇の上の血とをとりて之をアロンとその衣服に灑ぎまたその子等とその子等の衣服にそそぎアロンとその衣服およびその子等とその子等の衣服を聖別たり 31斯てモーセまたアロンとその子等に言けるは集 會の幕屋の門にて汝等その肉を煮よ而して任 職 祭の筐の内なるパンと偕にこれを其處に食へ是はアロンとその子等これを食ふべしと我に命ありしにしたがふなり 32その肉とパンの餘れる者は汝等これを火に焚べし 33汝等はその任 職 祭の竟る日まで七日が間は集 會の幕屋の門口より出べからず其は汝等の任 職は七日にわたればなり 34今日 行ひて汝等のために罪をあがなふが如くにヱホバ斯せよと命じたまふなり 35汝等は集 會の幕屋の門口に七日の間 日夜居てヱホバの命令を守れ然せば汝等死る事なからん我かく命ぜられたるなり 36すなはちアロンとその子等はヱホバのモーセによりて命じたまひし事等を 盡 く爲り

第九章

1斯て第八日にいたりてモーセ、アロンとその子等およびイスラエルの長老等を呼 2而してアロンに言けるは汝 若き牡犢の全き者を罪祭のために取りまた牡羊の全き者を燔祭のために取りてこれをヱホバの前に献ぐべし 3汝イスラエルの子孫に告て言べし汝等牡山羊を罪祭のために取りまた犢牛と羔羊の當歳にして全き者を燔祭のために取きたれ 4また酬恩祭のためにヱホバの前に供ふる牡牛と牡羊を取り且 油を和たる素祭をとりきたるべしヱホバ今日汝等に顯れたまふべければなり 5是に於てモーセの命ぜし物を集 會の幕屋の前に携へ來り會 衆みな進よりてヱホバの前に立ければ 6モーセ言ふヱホバの汝等に爲と命じたまへる者はすなはち是なり斯せばヱホバの榮光汝等にあらはれん 7モーセすなはちアロンに言けるは汝 壇に往き汝の罪祭と汝の燔祭を献げて己のためと民のために贖罪を爲しまた民の禮物を献げて之がために贖罪をなし凡てヱホバの命じたまひし如くせよ 8是に於てアロン壇に往き自己のためにする罪祭の犢を宰れり 9しかしてアロンの子等その血をアロンの許にたづさへ來りければアロン指をその血にひたして之を壇の角につけその血を壇の底下に灌ぎ 10また罪祭の牲の脂と腎と肝の上の網

膜を壇の上に燒り凡てヱホバのモーセに命じたまひし如し 11またその肉と皮は營の外にて火に焚り 12アロンまた燔祭の牲を宰りしがその子等これが血を自己の許に携へきたりければ之を壇の周圍に灌げり 13彼等また燔祭の牲すなはちその肉塊と頭をかれに持きたりければ彼壇の上にこれを焚き 14またその臟腑と脛を洗ひ壇の上にて之を燔祭の上に焚り 15彼また民の禮物を携へきたれり即ち民のためにする罪祭の山羊を取て之を宰り前のごとくに之を献げて罪祭となし 16また燔祭の牲を牽きたりて定例のごとくに之をささげたり 17また素祭を携へきたりてその中より一握をとり朝の燔祭にくはへてこれを壇の上に焚り 18アロンまた民のためにする酬恩祭の犠牲なる牡牛と牡羊を宰りしがその子等これが血を己にもちきたりければ之を壇の周圍に灑げり 19彼等またその牡牛と牡羊の脂およびその脂の尾と臟腑を裹む者と腎と肝の上の網膜とを携へきたれり 20即ち彼等その脂をその胸の上に載きたりけるにアロンその脂を壇の上に焚り 21その胸と右の腿はアロンこれをヱホバの前に搖て搖祭となせり凡てモーセの命じたる如し 22アロン民にむかひて手を擧てこれを祝し罪祭燔祭酬恩祭を献ぐることを畢て下れり 23モーセとアロン集會の幕屋にいり出きたりて民を祝せり斯てヱホバの榮光總體の民に顯れ 24火ヱホバの前より出て壇の上の燔祭と脂を燬つくせり民これを見て聲をあげ俯伏ぬ

第十章

1茲にアロンの子等なるナダブとアビウともにその火盤をとりて火をこれにいれ香をその上に盛て異火をヱホバの前に献げたり是はヱホバの命じたまひし者にあらざりしかば 2火ヱホバより出て彼等を燬ほろぼせりすなはち彼等はヱホバの前に死うせぬ 3モーセ、アロンに言けるはヱホバの宣ふところは是のごとし云く我は我に近づく者等の中に我の聖ことを顯はし又全體の民の前に榮光を示さんアロンは默然たりき 4モーセかくてアロンの叔父ウジエルの子等なるミサエルとエルザパンを呼び汝等進みよりて聖 所の前より汝等の兄弟等を營の外に携へ出せと之にいひければ 5すなはち進みよりて彼等をその裏衣のままに營の外に携へ出しモーセの言るごとくせり 6モーセまたアロンおよびその子エレアザルとイタマルにいひけるは汝らの頭を露すなかれまた汝らの衣を裂なかれ恐くは汝等死んまた震怒全體の民におよぶあらん但汝等の兄弟たるイスラエルの全家ヱホバのかく火をもて燬ほろぼしたまひし事を哀くべし 7汝等はまた集會の幕屋の門より出べからず恐くは汝等死ん其はヱホバの灌膏　汝らの上にあればなりと彼等モーセの言のごとくに爲り 8茲にヱホバ、アロンに告て言たまはく 9汝も汝の子等も集會の幕屋にいる時には葡萄酒と濃酒を飲なかれ恐くは汝等死ん是は汝らが代々永く守るべき例たるべし 10斯するは汝等が物の聖と世間なるとを分ち汚たると潔淨とを分つことを得んため 11又ヱホバのモーセによりて告たまひし一切の法度をイスラエルの子孫に教ふることを得んがためなり 12モーセまたアロンおよびその遺れる子エレアザルとイタマルに言けるは汝等ヱホバの火祭の中より素祭の遺餘を取り酵をいれずして之を壇の側に食へ是は至聖物なり 13是はヱホバの火祭の中より汝に歸する者また汝の子等に歸する者なれば汝等これを聖 所にて食ふべし我かく命ぜられたるなり 14また搖る胸と擧たる腿は汝および汝の男子と女子これを淨 處にて食ふべし是はイスラエルの子孫の酬恩祭の中より汝の分と汝の子等の分に與へらるる者なればなり 15彼等その擧るところの腿と搖ところの胸を火祭の脂とともに持きたりこれをヱホバの前に搖て搖祭となすべし其は汝と汝の子等に歸すべし是は永く守るべき例にしてヱホバの命じたまふ者なり 16斯てモーセ罪祭の山羊を尋ね索めけるに既にこれを燬たりしかばアロンの遺れる子等エレアザルとイタマルにむかひてモーセ怒を發し言けるは 17罪祭の牲は至聖かるに汝等なんぞ之を聖 所にて食ざりしや是は汝等をして會衆の罪を任て彼等のためにヱホバのまへに贖　をなさしめんとて汝等に賜ふ者たるなり 18視よその血はまだこれを聖 所に携へいることをせざりきかの物は我が命ぜしごとくに汝等これを聖 所にて食ふべかりしなり 19アロン、モーセに言けるは今日彼等その罪祭と燔祭をヱホバの前に献げしが斯る事我身に臨めり今日もし我罪祭の牲を食はばヱホバこれを善と觀たまふや 20モーセこれを聽て善とせり

第十一章

1ヱホバ、モーセとアロンに告てこれに言給はく 2イスラエルの子孫に告て言へ地の諸の獣畜の中汝らが食ふべき四足は是なり 3凡て獣畜の中蹄の分たる者すなはち蹄の全く分たる反芻者は汝等これを食ふべし 4但し反芻者

と蹄の分たる者の中汝等の食ふべからざる者は是なり即
ち駱駝是は反芻ども蹄わかれざれば汝等には汚たる者な
り 5山鼠是は反芻ども蹄わかれざれば汝等には汚たる者
なり 6兎是は反芻ども蹄わかれざれば汝等には汚たる者
なり 7猪是は蹄あひ分れ蹄まったく分るれども反芻こと
をせざれば汝等には汚たる者なり 8汝等是等の者の肉を
食ふべからずまたその死體にさはるべからず是等は汝等
には汚たる者なり 9水にある諸の族の中汝等の食ふべき
者は是なり凡て水の中にをり海河に居る者にして翅と鱗
のある者は汝等これを食ふべし 10凡て水に動く者凡て水
に生る者即ち凡て海河にある者にして翅と鱗なき者は是
汝等には忌はしき者なり 11是等は汝等には忌はしき者な
り汝等その肉を食ふべからずまたその死體をば忌はしき
者となすべし 12凡て水にありて翅も鱗もなき者は汝等に
は忌はしき者たるべし 13鳥の中に汝等が忌はしとすべき
者は是なり是をば食ふべからず是は忌はしき者なり即ち
鵰黄鷹鳶 14鸇鷹の類 15諸の鴉の類 16駝鳥梟鴎雀鷹
の類 17鶴鵜鷺 18白鳥鸅鸕大鷹 19鶴鸚鵡の類鷸および
蝙蝠 20また凡て羽翼のありて四爬にあるくところの昆蟲
は汝等には忌はしき者なり 21但し羽翼のありて四爬にあ
るく諸の昆蟲の中その足に飛腿のありて地に飛ぶもの
は汝等これを食ふことを得べし 22即ちその中蝗蟲の類大
蜢の類小蜢の類螇蚸の類を汝等食ふことを得べし 23凡
て羽翼ありて四爬にあるくところの昆蟲はみな汝等には
忌はしき者たるなり 24これ等はなんぢらを汚すなり凡て
是等の者の死體に捫る者は晩まで汚るべし 25凡てその
死體を身に携ふる者はその衣服を洗ふべしその身は晩ま
で汚るるなり 26凡そ蹄の分れたる獣畜の中その蹄の全く
分れざる者あるひは反芻ことをせざる者の死體は汝等に
は汚穢たるべし凡てこれに捫る者は汚るべし 27四足にて
あるく諸の獣畜の中その掌底にて歩む者は皆汝等には
汚穢たるべしその死骸に捫る者は晩まで汚るべし 28その
死體を身に携ふる者はその衣服を洗ふべしその身は晩ま
で汚るるなり是等は汝等には汚たる者なり 29地に匍とこ
ろの匍行者の中汝等に汚穢となる者は是なり即ち鼬鼠
鼫鼠大蜥蜴の類 30蛤蚧龍子守宮蛇醫蝘蜓 31諸の匍者の
中是等は汝等には汚穢たるなり凡てその死たるに捫る者
は晩まで汚るべし 32是等の者の死て上に墜たる物は何に
もあれ汚るべし木の器具にもあれ衣服にもあれ皮革にも
あれ嚢袋にもあれ凡そ事に用ふる器は皆これを水にいる
べし是は晩まで汚穢ん斯せば是は清まるべし 33また是等
の中の者瓦の器におつればその内にある者みな汚るべ
し汝らその器を毀つべきなり 34また水の入たる食ふべき
食物も是等によりて汚るべく諸般の器にある飲べき飲物
も是等に由て汚るべし 35是等の者の死體物の上に堕れば
その物都て汚るべし爐にもあれ土鍋にもあれ之を毀つべ
きなり是は汚れて汝等には汚れたる者となればなり 36然
ど泉水あるひは塘池水の潴は汚るること無し唯その死體
に觸る者汚るべし 37是等の者の死體は播べき種の上に堕
るも其は汚るることなし 38然ど種の上に水のかかれる時
にその死體上に堕なば其は汝等には汚たるべし 39汝等が
食ふところの獣畜の死たる時はその死體に捫る者は晩ま
で汚るべし 40その死體を食ふ者はその衣服を濯ふべし其
身は晩まで汚るるなりその死體を携ふる者もその衣服を
洗ふべしその身は晩まで汚るるなり 41地の上に匍ところ
の諸の匍行物は忌べき者なり食ふべからず 42即ち地に
匍ところの諸の匍行物の中凡て腹ばひ行く者四足にて
歩く者ならびに多の足を有つ者是等をば汝等食ふべから
ず是等は忌べき者たるなり 43汝等は匍ところの匍行物の
ためにその身を忌はしき者にするなかれ是等をもてその
身を汚すなかれ又是等に汚さるるなかれ 44我は汝等の神
ヱホバなれば汝等その身を聖潔せよ然ば汝等聖者となら
ん我聖ければなり汝等は必ず地に匍ところの匍行者をも
てその身を汚すことをせざれ 45我は汝等の神とならんと
て汝等をエジプトの國より導きいだせしヱホバなり我聖
ければ汝等聖潔なるべし 46是すなはち獣畜と鳥と水に動
く諸の生物と地に匍ふ諸の匍行物にかかはるところの
例にして 47汚たる者と潔き者とを分ち食るる生物と食は
れざる生物とを分つ者なり

第十二章

1ヱホバまたモーセに告て曰たまはく 2イスラエルの子孫
に告て言へ婦女もし種をやどして男子を生ば七日汚るべ
し即ちその月の穢の日數ほど汚るるなり 3また第八日に
至らばその嬰の前の皮を割べし 4その婦女は尚その成潔
の血に三十三日を歴べしその成潔の日の滿るまでは聖物
にさはるべからず聖所にいるべからず 5若女子を生ば二
七日汚るべし月の穢におけるがごとしまたその成潔の血
に六十六日を經べきなり 6而してその男子あるひは女子
につきての成潔の日滿なば燔祭の爲に當歳の羔羊を取り

罪祭のために雛き鴿あるひは鳴鳩を取てこれを集會の
幕屋の門に携へきたり祭司にいたるべし 7祭司は之をヱ
ホバの前にささげてその婦女のために贖罪をなすべし然
せばその出血の穢潔まるべし是すなはち男子または
女子を生る婦女にかかはるところの例なり 8その婦女も
し羔羊にまで手の届かざる時は鳴鳩二羽か又は雛き鴿
二羽を携へきたるべし是一は燔祭のため一は罪祭のため
なり祭司これがために贖罪をなすべし然せば婦女は潔ま
るべし

第十三章

1ヱホバ、モーセとアロンに告て言たまはく 2人その身の
皮に腫あるひは癬あるひは光る處あらんにもし之がそ
の身の皮にあること癩病の患處のごとくならばその人
を祭司アロンまたは祭司たるアロンの子等に携へいたる
べし 3また祭司は肉の皮のその患處を觀べしその患處の
毛もし白くなり且その患處身の皮よりも深く見えなば是
癩病の患處なり祭司かれを見て汚たる者となすべし 4も
し又その身の皮の光る處白くありて皮よりも深く見えず
またその毛も白くならずば祭司その患處ある人を七日の
間禁鎖おき 5第七日にまた祭司之を觀べし若その患處變
るところ無くまたその患處皮に蔓延ること無ば祭司また
その人を七日の間禁鎖おき 6第七日にいたりて祭司ふた
たびその人を觀べしその患處もし薄らぎまたその患處
皮に蔓延らずば祭司これを潔者となすべし是は癬なり
その人は衣服を洗ふべし然せば潔くならん 7然どその人
祭司に觀られて潔き者となりたる後にいたりてその癬
皮に廣く蔓延らば再ひ祭司にその身を見すべし 8祭司こ
れを觀てその癬皮に蔓延るを見ば祭司その人を汚たる
者となすべし是は癩病なり 9人もしその身に癩病の患處
あらば祭司にこれを携ゆくべし 10祭司これを觀にその皮
の腫白くしてその毛も白くなり且その腫に爛肉の見ゆる
あらば 11是舊き癩病のその身の皮にあるなれば祭司これ
を汚たる者となすべしその人は汚たる者なればこれを
禁鎖るにおよばず 12若また癩病大にその皮に發しその
患處ある者の皮に遍く滿て首より足まで凡て祭司の見
るところにおよばば 13祭司これを視若その身に遍く癩
病の滿たるを見ばその患處ある者を潔き者となすべし
其人は全く白くなりたれば潔きなり 14然どもし爛肉その
人に顯れなば汚たる者なり 15祭司爛肉を視ばその人を
汚たる者となすべし爛肉は汚たる者なり是すなはち癩
病たり 16若またその爛肉變て白くならばその人は祭司
に詣るべし 17祭司これを視るにその患處もし白くなりを
らば祭司その患處ある者を潔き者となすべしその人は潔
きなり 18また肉の皮に瘡瘡ありしに癒て 19その瘡瘡の
地方に白き腫おこり又は白くして微紅き光る處おこるあ
りて之を祭司に見することあらんに 20祭司これを視るに
皮よりも卑く見てその毛白くなりをらば祭司その人を汚
たる者となすべし其は瘡瘡より起りし癩病の患處たる
なり 21然ど祭司これを觀に其處に白き毛あらずまた皮よ
りも卑からずして却て薄らぎをらば祭司その人を七日の
間禁鎖おくべし 22而してもし大に皮に蔓延ば祭司その
人を汚たる者となすべし是その患處なり 23然どその光る
處もしその所に止りて蔓延ずば是は瘡瘡の痕跡なり祭司
その人を潔き者となすべし 24また肉の皮に火傷あらんに
その火傷の跡もし微紅くして白く又は只白くして光る處
とならば 25祭司これを視べし若その光る處の毛白くなり
てその處皮よりも深く見なば是火傷より起りし癩病な
れば祭司その人を汚たる者となすべし是は癩病の患處
たるなり 26然ど祭司これを視にその光る處に白き毛あら
ずまたその處皮よりも卑からずして却て薄らぎをらば
祭司その人を七日の間禁鎖おき 27第七日に祭司これを視
べしもし大に皮に蔓延りをらば祭司その人を汚たる者と
なすべし是は癩病の患處なり 28もしその光る處その所
に止り皮に蔓延らずして却て薄らぎをらば是火傷の腫な
り祭司其人を潔き者となすべし其は是火傷の痕迹なれば
なり 29男あるひは女もし頭または鬚に患處あらば 30祭司
その患處を觀べし若皮よりも深く見えまた其處に黄なる
細き毛あらば祭司その人を汚れたる者となすべし其は瘡
にして頭または鬚にある癩病なり 31若また祭司その瘡の
患處を視に皮よりも深からずしてまた其處に黒き毛あ
ること無ば祭司その瘡の患處ある者を七日の間禁鎖お
き 32第七日に祭司その患處を視べしその瘡もし蔓延ずま
た其處に黄なる毛あらずして皮よりもその瘡深く見ずば
33その人は剃ことをなすべし但しその瘡の上は剃べから
ず祭司其瘡ある者を尚また七日の間禁鎖おき 34第七日に
祭司またその瘡を視べし若その瘡皮に蔓延ずまた皮より
も深く見ずば祭司その人を潔き者となすべしその人はま
たその衣服をあらふべし然せば潔くならん 35若その潔き
者となりし後にいたりてその瘡大に皮に蔓延りなば 36

祭司その人を觀べし若その瘡皮に蔓延らば祭司は黄なる毛を尋るにおよばずその人は汚たる者なり 37然ど若その瘡 止たるごとくに見えて黒き毛の其處に生ずるあらばその瘡痊たる者にてその人は潔し祭司その人を潔き者となすべし 38また男あるひは女その身の皮に光る處すなはち白き光る處あらば 39祭司これを視べし若その身の皮の光る處 薄白からば是白斑のその皮に生じたるなればその人は潔し 40人もしその髪毛 頭より脱おつるあるも禿なれば潔し 41人もしその面に近き處の頭の毛脱おつるあるも額 の禿たるなれば潔し 42然ども若その禿 頭または禿 額に白く微紅き患 處あらば是その禿 頭または禿 額に癩 病の發したるなり 43祭司これを觀べし若その禿 頭あるひは禿 額の患 處の腫白くして微紅くあり身の肉に癩 病のあらはるるごとくならば 44是癩 病 人にして汚たる者なり祭司その人をもて全く汚たる者となすべしその患 處その頭 にあるなり 45癩 病の患 處ある者はその衣服を裂きその頭を露しその口に蓋をあてて居り汚たる者 汚たる者とみづから稱ふべし 46その患 處の身にある日の間は恒に汚 たる者たるべしその人は汚たる者なれば人に離れて居るべし即ち營の外に住居をなすべきなり 47若また衣服に癩 病の患 處起るあらん時は毛の衣にもあれ麻の衣にもあれ 48又麻あるひは毛の經線にあるにもせよ緯線にあるにもせよ皮革にあるにもあれ又凡て皮革にて造れる物にあるにもあれ 49若その衣服あるひは皮革あるひは經線あるひは緯線あるひは凡て皮革にて造れる物に有ところの患 處青くあるか又は赤くあらば是癩 病の患 處なり之を祭司に見べし 50祭司はその患 處を視その患 處ある物を七日の間 禁鎖おき 51第七日にその患 處を視べし若その衣服あるひは經線あるひは緯線あるひは毛あるひは皮革あるひは凡て皮革にて造れる物にあるところの患 處蔓延をらばこれ惡き癩 病にしてその物は汚たる者なり 52彼その患 處あるところの衣服毛または麻の經線緯線あるひは凡て皮革にて造れる物を燬べし是は惡き癩 病なりその物を火に燒べし 53然ど祭司これを視に患 處もしその衣服あるひは經線あるひは緯線あるひは凡て皮革にて造れる物に蔓延ずば 54祭司命じてその患 處ある物を濯はせ尚七日の間 之を禁鎖おき 55而して祭司その濯ひし患 處を觀べし患 處もし色の變ることなくば患 處の蔓延ことあらざるも是は汚たる者なり汝これを火に燬べし是は表面にあるも裏面にあるも共に腐蝕の陷なり 56然ど濯たる後に祭司これを觀るにその患 處薄らぎたらばその衣服あるひは皮革あるひは經線あるひは緯線より患 處を切とるべし 57然るに尚またその衣服あるひは經線あるひは緯線あるひは凡て皮革にて造れる物に患 處のあらはるるあらば是再發なり汝その患 處ある物を火に燒べし 58また汝が濯ふところの衣服あるひは經線あるひは緯線あるひは凡て皮革にて造れる物よりして若その患 處脱さらば再びこれを濯ふべし然せば潔し 59是すなはち毛または麻の衣服および經線緯線ならびに凡て皮革にて造りたる物に起れる癩 病の患 處をしらべて潔と汚たるとを定むるところの條例なり

第十四章

1ヱホバ、モーセに告て言たまはく 2癩 病 人の潔められる日の定例は是のごとし即ちその人を祭司の許に携へゆくべし 3先祭司營より出ゆきて觀祭司もし癩 病 人の身にありし癩 病の患 處の痊たるを見ば 4祭司その潔められる者のために命じて生る潔き鳥二羽に香柏と 紅 の線と牛膝草を取きたらしめ 5祭司また命じてその鳥一羽を瓦 の器の内にて活 水の上に殺さしめ 6而してその生る鳥を取り香柏と 紅 の線と牛膝草をも取て之を夫 活 水の上に殺したる鳥の血の中にその生る鳥とともに濡し 7癩 病 より潔められんとする者にこれを七回灑ぎてこれを潔き者となしその生る鳥をば野に放つべし 8潔められる者はその衣服を濯ひその毛髪をことごとく剃おとし水に身を滌ぎて潔くなり然る後に營に入きたるべし但し七日が間 は自己の天幕の外に居るべし 9而して第七日にその身の毛髪をことごとく剃べし即ちその頭の髪と鬚と眉とをことごとく剃りまたその衣服を濯ひ且その身を水に滌ぎて潔くなるべし 10第八日にいたりてその人二匹の全き羔羊の牡と當歳なる一匹の全き羔羊の牝を取りまた麥粉十分の三に油を和たる素祭と油一ログを取べし 11潔 禮をなす所の祭司その潔められるべき人と是等の物とを集 會の幕屋の門にてヱホバの前に置き 12而して祭司かの羔羊の牡一匹を取り一ログの油とともに之を愆祭に献げまた之をヱホバの前に揺て揺祭となすべし 13この羔羊の牡は罪祭燔祭の牲を宰る處すなはち聖 所にてこれを宰るべし罪祭の物の祭司に歸するごとく愆祭の物も然るなり是は至聖物たり 14而して祭司その愆祭の牲の血を取りその潔められるべき者の右の耳の端と右の手の大指と右の足の

拇指に祭司これをつくべし 15祭司またその一ログの油をとりて之を自身の左の手の掌に傾ぎ 16而して祭司その右の指を左の手の油にひたしその指をもて之を七回ヱホバの前に灑ぐべし 17その手の殘餘の油は祭司その潔らるべき者の右の耳の端と右の手の大指と右の足の拇指においてその愆祭の牲の血の上に之をつくべし 18而して尚その手に殘れる油は祭司これをその潔めらるべき者の首につけヱホバの前にて祭司その人のために贖罪をなすべし 19斯してまた祭司罪祭を献げその汚穢を潔めらるべき者のために贖罪を爲て然る後に燔祭の牲を宰るべし 20而して祭司燔祭と素祭を壇の上に献げその人のために祭司贖罪を爲べし然せばその人は潔くならん 21その人もし貧くして之にまで手の届かざる時は搖て自己の贖罪をなさしむべき愆祭のために羔羊の牡一匹をとり又素祭のために麥粉十分の一に油を和たるを取りまた油一ログを取り 22且その手のとどくところに循ひて鳩鳩二羽かまたは雛き鴿 二羽を取べし其一は罪祭のための者 一は燔祭のための者なり 23而してその潔禮の第八日に之を祭司に携へ集會の幕屋の門にきたりてヱホバの前にいたるべし 24かくて祭司はその愆祭の牡羊と一ログの油を取り祭司これをヱホバの前に搖て搖祭となすべし 25而して愆祭の羔羊を宰りて祭司その愆祭の牲の血を取りこれをその潔めらるべき者の右の耳の端と右の手の大指と右の足の拇指につけ 26また祭司その油の中を己の左の手の掌に傾ぎ 27而して祭司その右の指をもて左の手の油を七回ヱホバの前に灑ぎ 28亦祭司その潔めらるべき者の右の耳と右の手の大指と右の足の拇指において愆祭の牲の血をつけし處にその手の油をつくべし 29またその手に殘れる油をば祭司その潔めらるべき者の首に之をつけヱホバの前にてその人のために贖罪をなすべし 30その人はその手のおよぶところの鳩鳩または雛き鴿 一羽を献ぐべし 31即ちその手のおよぶところの者 一を罪祭に一を燔祭に爲べし祭司はその潔めらるべき者のためにヱホバの前に贖罪をなすべし 32癩病の患處ありし人にてその潔禮に用ふべき物に手の届ざる者は之をその條例とすべし 33ヱホバ、モーセとアロンに告て言たまはく 34我が汝らの産業に與ふるカナンの地に汝等の至らん時に我汝らの産業の地の或家に癩病の患處を生ぜしむること有ば 35その家の主來り祭司に告て患處のごとき者家に現はると言べし 36然る時は祭司命じて祭司のその患處を視に行く前にその家を空しむべし是は家にある物の凡て汚れざらんためなり而して後に祭司いりてその家を觀べし 37その患處を觀にもしその家の壁に青くまたは赤き窪の患處ありて壁よりも卑く見えなば 38祭司その家を出て家の門にいたり七日の間家を閉おき 39祭司第七日にまた來りて視るべしその患處もし家の壁に蔓延をらば 40祭司命じてその患處ある石をを取のぞきて邑の外の汚穢所にこれを棄しめ 41またその家の内の四周を刮らしむべしその刮りし灰沙は之を邑の外の汚穢所に傾け 42他の石を取てその石の所に入かふべし而して彼他の灰沙をとりて家を塗べきなり 43斯石を取のぞき家を刮りてこれを塗かへし後にその患處もし再びおこりて家に發しなば 44祭司また來りて視べし患處もし家に蔓延たらば是家にある惡き癩病なれば其は汚るるなり 45彼その家を毀ちその石その木およびその家の灰沙をことごとく邑の外の汚穢所に搬びいだすべし 46その家を閉おける日の間にこれに入る者は晩まで汚るべし 47その家に臥す者はその衣服を洗ふべしその家に食する者もその衣服を洗ふべし 48然ど祭司いりて視にその患處家を塗かへし後に家に蔓延ずば是患處の痊たる者なれば祭司その家を潔き者となすべし 49彼すなはちその家を潔むるために鳥二羽に香柏と紅の線と牛膝草を取り 50その鳥一羽を瓦の器の内にて活る水の上に殺し 51香柏と牛膝草と紅の線と生鳥を取てこれをその殺せし鳥の血なる活る水に浸し七回家に灑ぐべし 52斯祭司鳥の血と活る水と生る鳥と香柏と牛膝草と紅の線をもて家を潔め 53その生る鳥を邑の外の野に縦ちその家のために贖罪をなすべし然せば其は潔くならん 54是すなはち癩病の諸患處瘡 55および衣服と家屋の癩病 56ならびに腫と癬と光る處とに關る條例にして 57何の日潔きか何の日汚たるかを教ふる者なり癩病の條例は是のごとし

第十五章

1ヱホバ、モーセとアロンに告て言たまはく 2イスラエルの子孫に告て言へ凡そ人その肉に流出あらばその流出のために汚るべし 3その流出に由て汚ること是のごとし即ちその肉の流出したたるもその肉の流出滯ほるも共にその汚穢となるなり 4流出ある者の臥たる床は凡て汚るまたその人の坐したる物は凡て汚るべし 5その床に觸る人は衣服をあらひ水に身を濯ぐべしその身は晩まで汚るるなり 6流出ある人の坐したる物の上に坐する人は

衣服を洗ひ水に身をそそぐべしその身は晩まで汚るるなり 7流出ある者の身に觸る人は衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 8もし流出ある者の唾潔き者にかからばその人衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 9流出ある者の乗たる物は凡て汚るべし 10またその下になりし物に觸る人は皆晩まで汚るまた其等の物を携ふる者は衣服を洗ひ水に身をそそぐべしその身は晩まで汚るるなり 11流出ある者手を水に洗はずして人にさはらばその人は衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 12流出ある者の捫りし瓦の器は凡て砕くべし木の器は凡て水に洗ふべし 13流出ある者その流出やみて潔くならば己の成潔のために七日を數へその衣服を洗ひ活る水にその體を滌ぐべし然せば潔くなるべし 14而して第八日に鳩鳩二羽または雛き鴿二羽を自己のために取り集會の幕屋の門にきたりてヱホバの前にゆき之を祭司に付すべし 15祭司はその一を罪祭に一を燔祭に献げ而して祭司その人の流出のためにヱホバの前に贖罪をなすべし 16人もし精の洩ることあらばその全身を水にあらふべしその身は晩まで汚るるなり 17凡て精の粘着たる衣服皮革などは皆水に洗ふべし是は晩まで汚るるなり 18男もし女と寝て精を洩さば二人ともに水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 19また婦女流出あらんにその肉の流出もし血ならば七日の間不潔なり凡て彼に捫る者は晩まで汚るべし 20その不潔の間に彼が臥たるところの物は凡て汚るべし又彼がその上に坐れる物も皆汚れん 21その床に捫る者は皆衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 22彼が凡て坐りし物に捫る者は皆衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 23彼の床の上またはその凡て坐りし物の上にある血に捫らばその人は晩まで汚るるなり 24人もし婦女と寝てその不潔を身に得ば七日汚るべしその人の臥たる床は凡て汚れん 25婦女もしその血の流出不潔の期の外にありて多くの日に渉ることあり又その流出する事不潔の期に逾るあらばその汚穢の流出する日の間は凡てその不潔の時の如くにしてその身汚る 26凡てその流出ある日の間彼が臥ところの床は彼におけること不潔の床のごとし凡そ彼が坐れる物はその汚るること不潔の汚穢のごとし 27是等の物に捫る人は凡て汚るその衣服を洗ひ水に身を滌ぐべしその身は晩まで汚るるなり 28彼もしその流出やみて淨まらば七日を算ふべし而して後潔くならん 29彼第八日に鳩鳩二羽または雛き鴿二羽を自己のために取りこれを祭司に携へ來り集會の幕屋の門にいたるべし 30祭司その一を罪祭に一を燔祭に献げ而して祭司かれが汚穢の流出のためにヱホバの前に贖を爲べし 31斯汝等イスラエルの子孫をその汚穢に離れしむべし是は彼等その中間にある吾が幕屋を汚してその汚穢に死ることなからん爲なり 32是すなはち流出ある者その精を洩してこれに身を汚せし者 33その不潔を患ふ婦女或は男あるひは女の流出ある者汚たる婦女と寝たる者等に關するところの條例なり

第十六章

1アロンの子等二人がヱホバの前に献ぐることを爲て死たる後にヱホバ、モーセに斯告たまへり 2即ちヱホバ、モーセに言たまひけるは汝の兄弟アロンに告よ時をわかたずして障蔽の幕の内なる聖所にいり櫃の上なる贖罪所の前にいたるべからず是死ることなからんためなり其は我雲のうちにありて贖罪所の上にあらはるべければなり 3アロン聖所にいるには斯すべしすなはち犢の牡を罪祭のために取り牡羊を燔祭のために取り 4聖き麻の裏衣を着麻の褌をその肉にまとひ麻の帯をもて身に帯し麻の頭帽を冠るべし是は聖衣なりその身を水にあらひてこれを着べし 5またイスラエルの子孫の會衆の中より牡山羊二匹を罪祭のために取り牡羊一匹を燔祭のために取べし 6アロンは自己のためなるその罪祭の牡牛を牽きたりて自己とその家族のために贖罪をなすべし 7アロンまたその兩隻の山羊を取り集會の幕屋の門にてヱホバの前にこれを置き 8その兩隻の山羊のために籤を掣べし即ち一の籤をヱホバのためにし一の籤をアザゼルのためにすべし 9而してアロンそのヱホバの籤にあたりし山羊を献げて罪祭となすべし 10又アザゼルの籤にあたりし山羊はこれをヱホバの前に生しおきこれをもて贖罪をなしこれを野におくりてアザゼルにいたらすべし 11即ちアロン己のためなるその罪祭の牡牛を牽きたりて自己とその家族のために贖罪をなし自己のためなる其罪祭の牡牛を宰り 12而して火鼎をとりヱホバの前の壇よりして熱れる火を之に盈てまた兩手に細末の馨しき香を盈て之を障蔽の幕の中に携へいり 13ヱホバの前に於て香をその火に放べ香の煙の雲をして律法の上なる贖罪所を蓋はしむべし然せば彼死ることあらじ 14彼またその牡牛の血をと

り指をもて之を贖罪所の東 面に灑ぎまた指をもてその
血を贖罪所の前に七回灑ぐべし 15斯してまた民のためな
るその罪祭の山羊を宰りその血を障蔽の幕の内に携へい
りかの牡牛の血をもて爲しごとくその血をもて爲しこれ
を贖罪所の上と贖罪所の前に灑ぎ 16イスラエルの子孫
の汚穢とその 諸 の悖れる罪とに縁て聖 所のために贖罪
を爲べし即ち彼等の汚穢の中間にある集 會の幕屋のため
に斯なすべきなり 17彼が聖 所において贖罪をなさんと
て入たる時はその自己と己の家族とイスラエルの全
會 衆 のために贖罪をなして出るまでは何人も集 會の
幕屋の内に居べからず 18斯て彼ヱホバの前の壇に出きた
り之がために贖罪をなすべし即ちその牡牛の血と山羊の
血を取て壇の四周の角につけ 19また指をもて七回その血
を其の上に灑ぎイスラエルの子孫の汚穢をのぞきて其を
潔 ようし且聖別べし 20斯かれ聖 所と集 會の幕屋と壇の
ために贖罪をなしてかの生る山羊を牽きたるべし 21然る
時アロンその生る山羊の頭に兩手を按きイスラエルの
子孫の 諸 の惡事とその 諸 の悖反る罪をことごとくその
上に承認はしてこれを山羊の頭に載せ選びおける人の手
をもてこれを野に遣るべし 22その山羊彼等の諸惡を人な
き地に任ゆくべきなり即ちその山羊を野に遣るべし 23斯
してアロン集 會の幕屋にいりその聖 所にいりし時に穿
たる麻の衣を脱て其處に置き 24聖 所においてその身を
水にそそぎ衣服をつけて出で自己の燔祭と民の燔祭とを
献げて自己と民とのために贖罪をなすべし 25また罪祭の
牲の脂を壇の上に焚べきなり 26かの山羊をアザゼルに遣
りし者は衣服を濯ひ水に身を滌ぎて然る後營にいるべし
27聖 所において贖罪をなさんために其血を携へ入たる
罪祭の牡牛と罪祭の山羊とは之を營の外に携へいだしそ
の皮と肉と糞を火に燒べし 28之を燒たる者は衣服を濯ひ
水に身を滌ぎて然る後營にいるべし 29汝等永く此例を守
るべし即ち七月にいたらばその月の十日に汝等その身を
なやまし何の工をも爲べからず自己の國の人もまた汝等
の中に寄寓る外國の人も共に然すべし 30其はこの日に
祭司 汝らのために贖罪をなして汝らを淨むればなり是
汝 らがヱホバの前にその 諸 の罪を清められんためにな
す者なり 31是は汝らの大安息日なり汝ら身をなやますべ
し是永く守るべき例なり 32膏をそそがれて任ぜられその
父に代りて祭司の職をなすところの祭司贖罪をなすべし
彼は麻の衣すなはち聖 衣を衣べし 33彼すなはち至
聖 所のために贖罪をなしまた集 會の幕屋のためと壇の
ために贖罪をなしまた祭司等のためと民の會 衆のために
贖罪をなすべし 34是汝等が永く守るべき例にしてイスラ
エルの子孫の 諸 の罪のために年に一度贖罪をなす者な
り彼すなはちヱホバのモーセに命じたまひしごとく爲ぬ

第十七章

1ヱホバ、モーセに告て言たまはく 2アロンとその子等お
よびイスラエルの總の子孫に告てこれに言べしヱホバの
命ずるところ斯のごとし云く 3凡そイスラエルの家の人
の中牛 羊または山羊を營の内に宰りあるひは營の外に宰
ることを爲し 4之を集 會の幕屋の門に牽きたりて宰りヱ
ホバの幕屋の前において之をヱホバに禮 物として献ぐる
ことを爲ざる者は血を流せる者と算らるべし彼は血を流
したるなればその民の中より絶るべきなり 5是はイスラ
エルの子孫をしてその野の表に犠牲とするところの犠牲
をヱホバに牽きたらしめんがためなり即ち彼等は之を牽
きたり集 會の幕屋の門にいたりて祭司に就きこれを
酬恩祭としてヱホバに献ぐべきなり 6然る時は祭司その
血を集 會の幕屋の門なるヱホバの壇にそそぎまたその
脂 を馨しき香のために焚てヱホバに奉つるべし 7彼等は
その慕ひて淫せし魑魅に重て犠牲をささぐ可らず是は
彼等が代々永くまもるべき例なり 8汝また彼等に言べし
凡そイスラエルの家の人または汝らの中に寄寓る他國の
人燔祭あるひは犠牲を献ぐることをせんに 9之を集 會の
幕屋の門に携へきたりてヱホバにこれを献ぐるにあらず
ばその人はその民の中より絶るべし 10凡そイスラエルの
家の人または汝らの中に寄寓る他國の人の中何の血によ
らず血を食ふ者あれば我その血を食ふ人にわが面をむけ
て攻めその民の中より之を斷さるべし 11其は肉の生命は
血にあればなり我汝等がこれを以て汝等の霊魂のために
壇の上にて贖罪をなさんために是を汝等に與ふ血はその
中に生命のある故によりて贖罪をなす者なればなり 12是
をもて我イスラエルの子孫にいへり汝らの中何人も血を
くらふべからずまた汝らの中に寄寓る他國の人も血を食
ふべからずと 13凡そイスラエルの子孫の中または汝らの
中に寄寓る他國の人の中もし食はるべき獣あるひは鳥を
猟獲たる者あらばその血を灑ぎいだし土にて之を掩ふべ
し 14凡の肉の生命はその血にして是はすなはちその 魂
たるなり故に我イスラエルの子孫にいへりなんぢらは 何

の肉の血をもくらふべからず其は一切の肉の生命はその血なればなり凡て血をくらふものは絶るべし 15およそ自ら死たる物または裂ころされし物をくらふ人はなんぢらの國の者にもあれ他國の者にもあれその衣服をあらひ水に身をそそぐべしその身は晩までけがるるなりその後は潔し 16その人もし洗ふことをせずまたその身を水に滌がずばその罪を任べし

第十八章

1ヱホバまたモーセに告て言たまはく 2イスラエルの子孫に告て之に言へ我は汝らの神ヱホバなり 3汝らその住をりしエジプトの國に行はるる所の事等を倣ひ行ふべからずまた我が汝等を導きいたるカナンの國におこなはるる所の事等を倣ひおこなふべからずまたその例に歩行べからず 4汝等は我が法を行ひ我が例をまもりてその中にあゆむべし我は汝等の神ヱホバなり 5汝等わが例とわが法をまもるべし人もし是を行はば之によりて生べし我はヱホバなり 6汝等凡てその骨肉の親に近づきて之と淫するなかれ我はヱホバなり 7汝の母と淫するなかれ是汝の父を辱しむるなればなり彼は汝の母なれば汝これと淫するなかれ 8汝の父の妻と淫するなかれ是汝の父を辱しむるなればなり 9汝の姉妹すなはち汝の父の女子と汝の母の女子は家に生れたると家外に生れたるとによらず凡てこれと淫するなかれ 10汝の男子の女子または汝の女子の女子と淫する事なかれ是自己を辱しむるなればなり 11汝の父の妻が汝の父によりて産たる女子は汝の姉妹なれば之と淫する勿れ 12汝の父の姉妹と淫するなかれ是は汝の父の骨肉の親なればなり 13また汝の母の姉妹と淫する勿れ是は汝の母の骨肉の親なり 14汝の父の兄弟の妻に親づきて之と淫する勿れ是は汝の叔伯母なり 15汝の媳と淫するなかれ是は汝の息子の妻なれば汝これと淫する勿れ 16汝の兄弟の妻と淫する勿れ是汝の兄弟を辱しむるなればなり 17汝婦人とその婦の女子とに淫する勿れまたその婦人の子息の女子またはその女子の女子を取て之に淫する勿れ是等は汝の骨肉の親なれば然するは悪し 18汝妻の尚生る間に彼の姉妹を取て彼とおなじく妻となして之に淫する勿れ 19婦のその行経の汚穢にある間はこれに近づきて淫するなかれ 20汝の鄰の妻と交合して彼によりて己が身を汚すなかれ 21汝その子女に火の中を通らしめてこれをモロクにささぐることを絶て爲ざれ亦汝の神ヱホバの名を汚すことなかれ我はヱホバなり 22汝 女と寝るごとくに男と寝るなかれ是は憎むべき事なり 23汝 獣畜と交合して之によりて己が身を汚すこと勿れまた女たる者は獣畜の前に立て之と接ること勿れ是憎むべき事なり 24汝等はこの 諸 の事をもて身を汚すなかれ我が汝等の前に逐はらふ國々の人はこの 諸 の事によりて汚れ 25その地もまた汚る是をもて我その惡のために之を罰すその地も亦自らそこに住る民を吐いだすなり 26然ば汝等はわが例と法を守りこの 諸 の憎むべき事を一も爲べからず 汝らの國の人も汝らの中間に寄寓る他國の人も然るべし 27汝等の先にありし此地の人々はこの 諸 の憎むべき事を行へりその地もまた汚る 28汝等は是のごとくするなかれ恐くはこの地 汝らの先にありし國人を吐いだす如くに汝 らをも吐いださん 29凡そこの憎むべき事等を一にても行ふ者あれば之を行ふ人はその民の中より絶るべし 30然ば汝等はわが例規を守り汝等の先におこなはれし是等の憎むべき習俗を一も行ふなかれまた之によりて汝等身を汚す勿れ我は汝等の神ヱホバなり

第十九章

1ヱホバまたモーセに告て言たまはく 2汝イスラエルの子孫の全會衆に告てこれに言へ汝等 宜く聖あるべし其は我ヱホバ汝らの神 聖あればなり 3汝等おのおのその母とその父を畏れまた吾が安息日を守るべし我は汝らの神ヱホバなり 4汝等 虚き物を恃むなかれまた汝らのために神々を鋳造ることなかれ我は汝らの神ヱホバなり 5汝等酬恩祭の犠牲をヱホバにささぐる時はその受納らるるやうに献ぐべし 6之を食ふことは之を献ぐる日とその翌日に於てすべし若殘りて三日にいたらばこれを火に燒べし 7もし第三日に少にても之を食ふことあらば是は憎むべき物となりて受納られざるべし 8之を食ふ者はヱホバの聖物を汚すによりてその罰を蒙むるべし即ちその人は民の中より絶さられん 9汝その地の穀物を穫ときには汝等その田野の隅々までを 盡く穫可らず亦 汝の穀物の遺穂を拾ふべからず 10また汝の菓樹園の 菓 を取つくすべからずまた汝の菓樹園に落たる 菓 を斂むべからず貧 者と旅客のためにこれを遺しおくべし我は汝らの神ヱホバなり 11汝等竊むべからず 偽 べからず互に欺くべからず 12汝等わが名を指て偽り誓ふべからずまた汝の神の名を汚すべからず我はヱホバなり 13汝の鄰 人を虐ぐべからずま

たその物を奪ふべからず傭人の値を明朝まで汝の許に
留めおくべからず 14汝 聾者を詛ふべからずまた瞽者の前
に礙物をおくべからず汝の神を畏るべし我はヱホバな
り 15汝 審判をなすに方りて不義を行なふべからず貧窮者
を偏り護べからず權ある者を曲て庇くべからず但公義を
もて汝の鄰を審判べし 16汝の民の間に往めぐりて人を謗
るべからず汝の鄰人の血をながすべからず我はヱホバな
り 17汝 心に汝の兄弟を惡むべからず必ず汝の鄰人を
勸戒むべし彼の故によりて罪を身にうくる勿れ 18汝 仇を
かへすべからず汝の民の子孫に對ひて怨を懷くべからず
己のごとく汝の鄰を愛すべし我はヱホバなり 19汝らわが
條例を守るべし汝の家畜をして異類と交らしむべからず
異類の種をまぜて汝の田野に播べからず麻と毛をまじへ
たる衣服を身につくべからず 20凡そ未だ贖ひ出されず未
だ解放れざる奴隸の女にして夫に適く約束をなせし者あ
らんに人もしこれと交合しなばその二人を鏈責むべし然
ど之を殺すに及ばず是その婦いまだ解放れざるが故なり
21その男は愆祭をヱホバに携へきたるべし即ち愆祭の
牡羊を集會の幕屋の門に牽きたるべきなり 22而して祭司
その人の犯せる罪のためにその愆祭の牡羊をもてヱホバ
の前にこれがために贖罪をなすべし斯せばその人の犯せ
し罪赦されん 23汝等かの地にいたりて諸の果實の樹を
植ん時はその果實をもて未だ割禮を受ざる者と見做べし
即ち三年の間汝等これをもて割禮を受ざる者となすべ
し是は食はれざるなり 24第四年には汝らそのもろもろの
果實を聖物となしこれをもてヱホバに感謝の祭を爲べし
25第五年に汝等その果實を食ふべし然せば汝らのために
多く實を結ばん我は汝らの神ヱホバなり 26汝等何をも血
のままに食ふべからずまた魔術を行ふべからず卜筮をな
すべからず 27汝等頭の鬢を圓く剪べからず汝 鬚の兩方
を損ずべからず 28汝等死る人のために己が身に傷くべか
らずまたその身に刺文をなすべからず我はヱホバなり 29
汝の女子を汚して娼妓の業をなさしむべからず恐くは
淫事國におこなはれ罪惡國に滿ん 30汝等わが安息日を守
りわが聖所を敬ふべし我はヱホバなり 31汝等憑鬼者を
恃むなかれ卜筮師に問ことを爲て之に身を汚さるるなか
れ我は汝らの神ヱホバなり 32白髮の人の前には起あがる
べしまた老人の身を敬ひ汝の神を畏るべし我はヱホバな
り 33他國の人汝らの國に寄留て汝とともに在ばこれを
虐ぐるなかれ 34汝等とともに居る他國の人をば汝らの
中間に生れたる者のごとくし己のごとくに之を愛すべし
汝等もエジプトの國に客たりし事あり我は汝らの神ヱホ
バなり 35汝等審判に於ても尺度に於ても秤子に於ても
升斗に於ても不義を爲べからず 36汝等公平き秤 公平き
錘 公平きエパ公平きヒンをもちふべし我は汝らの神ヱ
ホバ汝らをエジプトの國より導き出せし者なり 37汝等わ
が一切の條例とわが一切の律法を守りてこれを行ふべし
我はヱホバなり

第二十章

1ヱホバまたモーセに告て言たまはく 2汝イスラエルの
子孫に言べし凡そイスラエルの子孫の中またはイスラエ
ルに寄寓る他國の人の中その子をモロクに獻ぐる者は必
ず誅さるべし國の民石をもて之を擊べし 3我またわが面
をその人にむけて之を攻めこれをその民の中より絶ん其
は彼その子をモロクに獻げて吾が聖所を汚しまたわが
聖名を褻せばなり 4その人がモロクにその子を獻ぐる時
に國の民もし目を掩ひて見ざるがごとくし之を殺すこと
をせずば 5我わが面をその人とその家族にむけ彼および
凡て彼に傚ひてモロクと淫をおこなふところの者等をそ
の民の中より絶ん 6憑鬼者または卜筮師を恃みこれに從
がふ人あらば我わが面をその人にむけ之をその民の中に
絶べし 7然ば汝等宜く自ら聖潔して聖あるべし我は汝ら
の神ヱホバたるなり 8汝等わが條例を守りこれを行ふべ
し我は汝らを聖別るヱホバなり 9凡てその父またはその
母を詛ふ者はかならず誅さるべし彼その父またはその母
を詛ひたればその血は自身に歸すべきなり 10人の妻と
姦淫する人すなはちその鄰の妻と姦淫する者あればその
姦夫淫婦ともにかならず誅さるべし 11その父の妻と寢る
人は父を辱しむるなり兩人ともにかならず誅さるべしそ
の血は自己に歸せん 12人もしその子の妻と寢る時は二人
ともにかならず誅さるべし是憎むべき事を行へばなりそ
の血は自己に歸せん 13人もし婦人と寢るごとく男子と寢
ることをせば是その二人憎むべき事をおこなふなり二人
ともにかならず誅さるべしその血は自己に歸せん 14人妻
を娶る時にそれの母をともに娶らば是惡き事なり彼も
彼等もともに火に燒るべし是汝らの中に惡き事の無らん
ためなり 15男子もし獸畜と交合しなばかならず誅さるべ
し汝らまたその獸畜を殺すべし 16婦人もし獸畜に近づき
これと交らばその婦人と獸畜を殺すべし是等はともに必

ず誅さるべしその血は自己に歸せん 17人もしその姉妹すなはちその父の女子あるひは母の女子を取りて此は彼の陰 所を見彼は此の陰 所を見なば是恥べき事をなすなりその民の子孫の前にてその二人を絶べし彼その姉妹と淫したればその罪を任べきなり 18人もし經水ある婦人と寢て彼の陰 所を露すことあり即ち男子その婦人の 源 を露し婦人また己の血の 源 を露すあらば二人ともにその民の中より絶るべし 19汝の母の姉妹または汝の父の姉妹の陰 所を露すべからず斯する皆にその骨肉の親たる者の陰 所をあらはすなれば二人ともにその罪を任べきなり 20人もしその伯叔の妻と寢る時は是その伯叔の陰 所を露すなれば二人ともにその罪を任ひ子なくして死ん 21人もしその兄弟の妻を取ば是汚はしき事なり彼その兄弟の陰 所を露したるなればその二人は子なかるべし 22汝等は我が一切の條例と一切の律法を守りて之を行ふべし然せば我が汝らを住せんとて導き行ところの地汝らを吐いだすことを爲じ 23汝らの前より我が逐はらふところの國人の例に汝ら歩行べからず彼等はこの諸の事をなしたれば我かれらを惡むなり 24我さきに汝等に言へり汝等その地を獲ん我これを汝らに與へて獲さすべし是は乳と蜜の流るる地なり我は汝らの神ヱホバにして汝らを他の民より區別てり 25汝等は獸畜の潔と汚たると禽の潔と汚たるとを區別べし汝等は我が汚たる者として汝らのために區別たる獸畜または禽または地に匍ふ諸の物をもて汝らの身を汚すべからず 26汝等は我の聖者となるべし其は我ヱホバ聖ければなり我また汝等をして我の所有とならしめんがために汝らを他の民より區別たるなり 27男または女の憑鬼者をなし或は卜筮をなす者はかならず誅さるべし即ち石をもてこれを擊べし彼等の血は彼らに歸せん

第二十一章

1ヱホバ、モーセに告て言たまはくアロンの子等なる祭司等に告てこれに言へ民の中の死人のために身を汚す者あるべからず 2但しその骨肉の親のためすなはちその母のため父のため男子のため女子のため兄弟のため 3またその姉妹の處女にして未だ夫あらざる者のためには身を汚すも宜し 4祭司はその民の中の長者なれば身を汚して褻たる者となるべからず 5彼等は髪をそりて頭に毛なき所をつくるべからずその鬚の兩傍を損ずべからずまたその身に傷つくべからず 6その神に對て聖あるべくまたその神の名をけがすべからず彼等はヱホバの火祭すなはち其神の食物を献ぐる者なれば聖あるべきなり 7彼等は妓女または汚れたる女を妻に娶るべからずまた夫に出されたる女を娶るべからず其はその身ヱホバにむかひて聖ければなり 8汝かれをもて聖者とすべし彼は汝の神ヱホバの食物を献ぐる者なればなり汝すなはちこれをもて聖者となすべし其は我ヱホバ汝らを聖別る者聖ければなり 9祭司の女たる者淫行をなしてその身を汚さば是その父を汚すなり火をもてこれを燒べし 10その兄弟の中 灌 膏を首にそそがれ職に任ぜられて祭司の長となれる者はその頭をあらはすべからずまたその衣服を裂べからず 11死人の所に往べからずまたその父のためにも母のためにも身を汚すべからず 12また聖 所より出べからずその神の聖 所を褻すべからず其はその神の任 職の灌 膏 首にあればなり我はヱホバなり 13彼妻には處女を娶るべし 14寡婦休れたる婦または汚れたる婦 妓女等は娶るべからず惟自己の民の中の處女を妻にめとるべし 15その民の中に自己の子孫を汚すべからずヱホバこれを聖別ればなり 16ヱホバ、モーセに告て言たまはく 17アロンに告て言へ凡そ汝の歴代の子孫の中身に疵ある者は進みよりてその神ヱホバの食物を献ぐる事を爲べからず 18凡て疵ある人は進みよるべからずすなはち瞽者跛者および鼻の缺たる者成餘るところ身にある者 19脚の折たる者手の折たる者 20傴僂者 侏儒 目に雲膜ある者 疥ある者 癬ある者 外腎の壞れたる者等は進みよるべからず 21凡そ祭司アロンの子孫の中身に疵ある者は進みよりてヱホバの火祭を献ぐべからず彼は身に疵あるなれば進みよりてヱホバの食物を献ぐべからざるなり 22神の食物の至聖者も聖者も彼は食ふことを得 23然ど障蔽の幕に至べからずまた祭壇に近よるべからず其は身に疵あればなり斯かれわが聖 所を汚すべからず其は我ヱホバこれを聖別ればなり 24モーセすなはちアロンとその子等およびイスラエルの一切の子孫にこれを告たり

第二十二章

1ヱホバ、モーセに告て言たまはく 2汝アロンとその子等に告て彼等をしてイスラエルの子孫の聖物をみだりに享用ざらしめまたその聖別て我にささげたる物についてわが名を汚すこと無らしむべし我はヱホバなり 3彼等に

言へ凡そ汝等の歴代の子孫の中都てイスラエルの子孫の聖別て我にささげし聖物に汚たる身をもて近く者あればその人はわが前より絶るべし我はヱホバなり 4アロンの子孫の中癩病ある者または流出ある者は凡てその潔くなるまで聖物を食ふべからずまた死躰に汚れたる物に捫れる者または精をもらせる者 5または凡て人を汚すところの匍行物に捫れる者または何の汚穢を論はず人をして汚れしむるところの人に捫れる者 6此のごとき物に捫る者は晩まで汚るべしまたその身を水にて洗ふにあらざれば聖物を食ふべからず 7日の入たる時は潔くなるべければその後に聖物を食ふべし是その食物なればなり 8自ら死たる物または裂ころされし者を食ひて之をもて身を汚すべからず我はヱホバなり 9彼等これを褻してこれが爲に罪を獲て死るにいたらざるやう我が例規をまもるべし我ヱホバ是等を聖せり 10外國の人は聖物を食ふ可らず祭司の客あるひは傭人は聖物を食ふべからざるなり 11然ど祭司金をもて人を買たる時はその者はこれを食ふことを得またその家に生れし者も然り彼等は祭司の食物を食ふことを得べし 12祭司の女子もし外國の人に嫁ぎなば禮物なる聖物を食ふべからず 13祭司の女子寡婦となるありまたは出さるるありて子なくしてその父の家にかへり幼時のごとくにてあらばその父の食物を食ふことを得べし但し外國の人はこれを食ふべからず 14人もし誤りて聖物を食はばその聖物にこれが五分一を加へて祭司に付すべし 15イスラエルの子孫がヱホバに献ぐるところの聖物を彼等褻すべからず 16その聖物を食ふ者にはその愆の罰をかうむらしむべし其は我ヱホバこれを聖すればなり 17ヱホバまたモーセに告て言たまはく 18アロンとその子等およびイスラエルの一切の子孫に告てこれに言へ凡そイスラエルにをる外國の人の中願 還の禮物または自意の禮物をヱホバに献げて燔祭となさんとする者は 19その受納らるるやうに牛羊あるひは山羊の牡の全き者を献ぐべし 20凡て疵ある者は汝ら献ぐべからず是はその物なんぢらのために受納られざるべければなり 21凡て願を還さんとしまたは自意の禮物をなさんとして牛あるひは羊をもて酬恩祭の犠牲を献上る者はその受納らるるやうに全き者を取べし其物には何の疵もあらしむべからざるなり 22即ち盲なる者折たる所ある者切斷たる處ある者腫物ある者 疥ある者 癬ある者是の如き者は汝等これをヱホバに献ぐべからずまた壇の上に火祭となしてヱホバにたてまつるべからず 23牛あるひは羊の成餘れる所または成足ざる所ある者は汝らこれを自意の禮物には用ふるも宜し然ど願 還においては是は受納らるることなかるべし 24汝等外腎を打壊りまたは壓つぶしまたは割きまたは斬りたる者をヱホバに献ぐべからずまた汝らの國の中に斯る事を行ふべからず 25汝らまた異邦人の手よりも是等の物を受て神の食に供ふることを爲べからず其は是等は缺あり疵ある者なるに因て汝らのために受納らるることあらざればなり 26ヱホバ、モーセに告て言たまはく 27牛羊または山羊生れなば之を七日その母につけ置べし八日より後は是はヱホバに火祭とすれば受納らるべし 28牝牛にもあれ牝羊にもあれ汝らその母と子とを同日に殺すべからず 29汝ら感謝の犠牲をヱホバに献ぐる時は汝らの受納らるるやうに献ぐべし 30是はその日の内に食つくすべし明日まで遺しおくべからず我はヱホバなり 31汝らわが誡命を守り且これを行ふべし我はヱホバなり 32汝等わが名を瀆すべからず我はかへつてイスラエルの子孫の中に聖者とあらはるべきなり我はヱホバにして汝らを聖くする者 33汝らの神とならんとて汝らをエジプトの國より導きいだせし者なり我はヱホバなり

第二十三章

1ヱホバ、モーセに告て言たまはく 2イスラエルの子孫につげて之に言へ汝らが宣告て聖會となすべきヱホバの節期は是のごとし我が節期はすなはち是なり 3六日の間業務をなすべし第七日は休むべき安息日にして聖會なり汝ら何の業をもなすべからず是は汝らがその一切の住所において守るべきヱホバの安息日なり 4その期々に汝らが宣告べきヱホバの節期たる聖會は是なり 5すなはち正月の十四日の晩はヱホバの逾越節なり 6またその月の十五日はヱホバの酵いれぬパンの節なり七日の間汝等酵いれぬパンを食ふべし 7その首の日には汝ら聖會をなすべし何の職業をも爲すべからず 8汝ら七日のあひだヱホバに火祭を献ぐべし第七日にはまた聖會をなし何の職業をもなすべからず 9ヱホバまたモーセにつげて言たまはく 10イスラエルの子孫につげて之に言へ汝らわが汝らにたまふところの地に至るにおよびて汝らの穀物を穫ときは先なんぢらの穀物の初穂一束を祭司にもちきたるべし 11彼その束の受いれらるるやうに之をヱホバの前に揺べし即ちその安息日の翌日に祭司これを揺べし 12また

汝らその束を搖る日に當歳の牡羔の全き者を燔祭となしてヱホバに献ぐべし 13その素祭には油を和たる麥粉十分の二をもちひ之をヱホバに献げて火祭となし馨しき香たらしむべしまたその灌祭には酒一ヒンの四分の一をもちふべし 14汝らはその神ヱホバに禮物をたづさへ來るその日まではパンをも烘麥をも青穂をも食ふべからず是は汝らがその一切の住居において代々永く守るべき例なり 15汝ら安息日の翌日より即ち汝らが搖祭の束を携へきたりし日より數へて安息日七をもてその數を盈すべし 16すなはち第七の安息日の翌日までに日數五十を數へをはり新素祭をヱホバに献ぐべし 17また汝らの居所より十分の二をもてつくりたるパン二箇を携へきたりて搖べし是は麥粉にてつくり酵をいれて燒べし是初穂をヱホバにささぐる者なり 18汝らまた當歳の全き羔羊七匹と少き牡牛一匹と牡山羊二匹を其パンとともに献ぐべしすなはち是等をその素祭およびその灌祭とともにヱホバにたてまつりて燔祭となすべし是は火祭にしてヱホバに馨しき香となる者なり 19斯てまた牡山羊一匹を罪祭にささげ當歳の羔羊二匹を酬恩祭の犧牲にささぐべし 20而して祭司その初穂のパンとともにこの二匹の羔羊をヱホバの前に搖て搖祭となすべし是等はヱホバにたてまつる聖物にして祭司に歸すべし 21汝らその日に汝らの中に聖會を宣告いだすべし何の職業をも爲べからず是は汝らがその一切の住所において永く守るべき條例なり 22汝らの地の穀物を穫ときは汝その穫るにのぞみて汝の田野の隅々までをことごとく穫つくすべからず又汝の穀物の遺穂を拾ふべからずこれを貧き者と客旅とに遺しおくべし我は汝らの神ヱホバなり 23ヱホバまたモーセに告て言たまはく 24イスラエルの子孫に告て言へ七月においては汝らその月の一日をもて安息の日となすべし是は喇叭を吹て記念するの日にして即ち聖會たり 25汝ら何の職業をもなすべからず惟ヱホバに火祭を献ぐべし 26ヱホバまたモーセに告て言たまはく 27殊にまたその七月の十日は贖罪の日にして汝らにおいて聖會たり汝等身をなやましまた火祭をヱホバに献ぐべし 28その日には汝ら何の工をもなすべからず其は汝らのために汝らの神ヱホバの前に贖罪をなすべき贖罪の日なればなり 29凡てその日に身をなやますことをせざる者はその民の中より絶れん 30またその日に何の工にても爲ものあれば我その人をその民の中より滅しさらん 31汝等何の工をもなすべからず是は汝らがその一切の住所において代々永く守るべき條例なり 32是は汝らの休むべき安息日なり汝らその身をなやますべしまたその月の九日の晩すなはちその晩より翌晩まで汝等その安息をまもるべし 33ヱホバまたモーセに告て言たまはく 34イスラエルの子孫に告て言へその七月の十五日は結茅節なり七日のあひだヱホバの前にこれを守るべし 35首の日には聖會を開くべし何の職業をもなすべからず 36汝等また七日のあひだ火祭をヱホバに献ぐべし而して第八日に汝等の中に聖會を開きまた火祭をヱホバに献ぐべし是は會の終結なり汝ら何の職業をもなすべからず 37偖是等はヱホバの節期にして汝らが宣告て聖會となし火祭をヱホバに献ぐべき者なり即ち燔祭素祭犧牲および灌祭等をその献ぐべき日にしたがひて献ぐべし 38このほかにヱホバの諸安息日ありまた外に汝らの献物ありまた外に汝らの諸の願還の禮物ありまた外に汝らの自意の禮物あり是みな汝らがヱホバに献る者なり 39汝らその地の作物を斂めし時は七月の十五日よりして七日の間ヱホバの節筵をまもるべし即ち初の日にも安息をなし第八日にも安息をなすべし 40その首の日には汝等佳樹の枝を取べしすなはち棕櫚の枝と茂れる樹の條と水楊の枝とを取りて七日の間 汝らの神ヱホバの前に樂むべし 41汝ら歳に七日ヱホバに此節筵をまもるべし汝ら代々ながくこの條例を守り七月にこれを祝ふべし 42汝ら七日のあひだ茅廬に居りイスラエルに生れたる人はみな茅廬に居べし 43斯するは我がイスラエルの子孫をエジプトの地より導き出せし時にこれを茅廬に住しめし事を汝らの代々の子孫に知しめんためなり我は汝らの神ヱホバなり 44モーセすなはちヱホバの節期をイスラエルの子孫に告たり

第二十四章

1ヱホバまたモーセに告て言たまはく 2イスラエルの子孫に命じ橄欖を搗て取たる清き油を燈火のために汝に持きたらしめて絶ず燈火をともすべし 3またアロンは集會の幕屋において律法の前なる幕の外にて絶ずヱホバの前にその燈火を整ふべし是は汝らが代々ながく守るべき定例なり 4彼すなはちヱホバの前にて純精の燈臺の上にその燈火を絶ず整ふべきなり 5汝麥粉を取りとれをもて菓子十二を燒べし菓子一箇には其の十分の二をもちふべし 6而してこれをヱホバの前なる純精の案の上に二累に積み一累に六宛あらしむべし 7汝また淨き乳香をその累の

上に置きこれをしてそのパンの上にありて記念とならしめヱホバにたてまつりて火祭となすべし 8安息日ごとに絶ずこれをヱホバの前に供ふべし是はイスラエルの子孫の献ぐべき者にして永遠の契約たるなり 9これはアロンとその子等に歸す彼等これを聖 所に食ふべし是はヱホバの火祭の一にして彼に歸する者にて至聖し是をもて永遠の條例となすべし 10茲にその父はエジプト人母はイスラエル人なる者ありてイスラエルの子孫の中にいで來れることありしがそのイスラエルの婦の生たる者イスラエルの人と營の中に爭論をなせり 11時にそのイスラエルの婦の生たる者ヱホバの名を瀆して詛ふことをなしければ人々これをモーセの許にひき來れり(その母はダンの支派のデブリの女子にして名をシロミテと曰ふ) 12人々かれを閉こめおきてヱホバの示諭をかうむるを俟り 13時にヱホバ、モーセにつげて言たまはく 14かの詛ふことをなせし者を營の外に曳いだし之を聞たる者に皆その手を彼の首に按しめ全會衆をして彼を石にて撃しめよ 15汝またイスラエルの子孫に告て言べし凡てその神を詛ふ者はその罰を蒙るべし 16ヱホバの名を瀆す者はかならず誅されん全會衆かならず石をもて之を撃べし外國の人にても自己の國の人にてもヱホバの名を瀆すにおいては誅さるべし 17人を殺す者はかならず誅さるべし 18獣畜を殺す者はまた獣畜をもて獣畜を償ふべし 19人もしその鄰人に傷損をつけなばそのなせし如く自己もせらるべし 20即ち挫は挫目は目歯は歯をもて償ふべし人に傷損をつけしごとく自己も然せらるべきなり 21獣畜を殺す者は是を償ふべく人を殺す者は誅さるべきなり 22外國の人にも自己の國の人にもこの法は同一なり我は汝らの神ヱホバなり 23モーセすなはちイスラエルの子孫にむかひかの營の外にて詛ふことをなせし者を曳いだして石にて撃てと言ければイラスエルの子孫ヱホバのモーセに命じたまひしごとく爲ぬ

第二十五章

1ヱホバ、シナイ山にてモーセに告て言たまはく 2イスラエルの子孫につげて之に言ふべし我が汝らに與ふる地に汝ら至らん時はその地にもヱホバにむかひて安息を守らしむべし 3六年のあひだ汝その田野に種播きまた六年のあひだ汝その菓園の物を剪伐てその果を斂むべし 4然ど第七年には地に安息をなさしむべし是ヱホバにむかひてする安息なり汝その田野に種播べからずまたその菓園の物を剪伐べからず 5汝の穀物の自然生たる者は穫べからずまた汝の葡萄樹の修理なしに結べる葡萄は斂むべからず是地の安息の年なればなり 6安息の年の産物は汝らの食となるべしすなはち汝と汝の僕と汝の婢と汝の傭人と汝の所に寄寓る他國の人 7ならびに汝の家畜と汝の國の中の獣みなその産物をもて食となすべし 8汝安息の年を七次かぞふべし是すなはち七年を七回かぞふるなり安息の年七次の間はすなはち四十九年なり 9七月の十日になんぢ喇叭の聲を鳴わたらしむべし即ち贖罪の日になんぢら國の中にあまねく喇叭を吹ならさしめ 10かくしてその第五十年を聖め國中の一切の人民に自由を宣しめすべしこの年はなんぢらにはヨベルの年なりなんぢらおのおのその産業に歸りおのおのその家にかへるべし 11その五十年はなんぢらにはヨベルなりなんぢら種播べからずまた自然生たる物を穫べからず修理なしになりたる葡萄を斂むべからず 12この年はヨベルにしてなんぢらに聖ければなりなんぢらは田野の産物をくらふべし 13このヨベルの年にはなんぢらおのおのその産業にかへるべし 14なんぢの鄰に物を賣りまたは汝の鄰の手より物を買ふ時はなんぢらたがひに相欺むくべからず 15ヨベルの後の年の數にしたがひてなんぢその鄰より買ことをなすべし彼もまたその果を得べき年の數にしたがひてなんぢに賣ことをなすべきなり 16年の數多ときはなんぢその値を増し年の數少なきときはなんぢその値を減すべし即ち彼その果の多少にしたがひてこれを汝に賣るべきなり 17汝らたがひに相欺むくべからず汝の神を畏るべし我は汝らの神ヱホバなり 18汝等わが法度を行ひまたわが律法を守りてこれを行ふべし然せば汝ら安泰にその地に住ことを得ん 19地はその産物を出さん汝等は飽までに食ひて安泰に其處に住ことを得べし 20汝等は我等もし第七年に種をまかずまたその産物を斂めずば何を食はんやと言か 21我命じて第六年に恩澤を汝等に降し三年だけの果を結ばしむべし 22汝等第八年には種を播ん然ど第九年までその舊き果を食ふことを得んすなはちその果のいできたるまで汝ら舊き者を食ふことを得べし 23地を賣には限りなく賣べからず地は我の有なればなり汝らは客旅また寄寓者にして我とともに在るなり 24汝らの産業の地に於ては凡てその地を贖ふことを許すべし 25汝の兄弟もし零落てその産業を賣しことあらばその贖業人たる親戚きたりてその

兄弟の賣たる者を贖ふべし 26若また人の之を贖ふ者あらずして己みづから之を贖ふことを得にいたらば 27その賣てよりの年を數へて之が餘の分をその買主に償ふべし然せばその產業にかへることを得ん 28然ど若これをその人に償ふことを得ずばその賣たる者は買主の手にヨベルの年まで在てヨベルに及びてもどさるべし彼すなはちその產業にかへることを得ん 29人石垣ある城邑の內の住宅を賣ことあらんに賣てより全一年の間はこれを贖ふことを得べし即ち期定の日の內にその贖をなすべきなり 30もし全一年の內に贖ふことなくばその石垣ある城邑の內の家は買主の者に確定りて代々ながくこれに屬しヨベルにももどされざるべし 31然ど周圍に石垣あらざる村落の家はその國の田畝の附屬物と見做べし是は贖はるべくまたヨベルにいたりてもどさるべきなり 32レビ人の邑々すなはちレビ人の產業の邑々の家はレビ人何時にでも贖ふことを得べし 33人もしレビ人の產業の邑においてレビ人より家を買ことあらば彼の賣たる家はヨベルにおよびて返さるべし其はレビ人の邑々の家はイスラエルの子孫の中に是がもてる產業なればなり 34但しその邑々の郊地の田畝は賣べからず是その永久の產業なればなり 35汝の兄弟零落かつ手慄ひて汝の傍にあらば之を扶助け之をして客旅または寄寓者のごとくに汝とともにありて生命を保たしむべし 36汝の兄弟より利をも息をも取べからず神を畏るべしまた汝の兄弟をして汝とともにありて生命を保たしむべし 37汝かれに利をとりて金を貸べからずまた益を得んとて食物を貸べからず 38我は汝等の神ヱホバにしてカナンの地を汝らに與へ且なんぢらの神とならんとて汝らをエジプトの國より導きいだせし者なり 39汝の兄弟零落て汝に身を賣ことあらば汝これを奴隸のごとくに使役べからず 40彼をして傭人または寄寓者のごとくにして汝とともに在しめヨベルの年まで汝に仕へしむべし 41其時には彼その子女とともに汝の所より出去りその一族にかへりその父祖等の產業に歸るべし 42彼らはエジプトの國より我が導き出せし我の僕なれば身を賣て奴隸となる可らず 43汝 嚴く彼を使ふべからず汝の神を畏るべし 44汝の有つ奴隸は男女ともに汝の四周の異邦人の中より取べし男女の奴隸は是る者の中より買べきなり 45また汝らの中に寄寓る異邦人の子女の中よりも汝ら買ことを得また彼等の中 汝らの國に生れて汝らと偕に居る人々の家よりも然り彼等は汝らの所有となるべし 46汝ら彼らを獲て汝らの後の子孫の所有に遺し之に彼等を有ちてその所有となさしむることを得べし彼等は永く汝らの奴隸とならん然ど汝らの兄弟なるイスラエルの子孫をば汝等たがひに嚴しく相使ふべからす 47汝の中なる客旅又は寄寓者にして富を致しその傍に住る汝の兄弟零落て汝の中なるその客旅あるひは寄寓者あるひは客旅の家の分支などに身を賣ることあらば 48その身を賣たる後に贖はるることを得その兄弟の一人これを贖ふべし 49その伯叔または伯叔の子これを贖ふべくその家の骨肉の親たる者これを贖ふべしまた若能せば自ら贖ふべし 50然る時は彼 己が身を賣たる年よりヨベルの年までをその買主とともに數へその年の數にしたがひてその身の代の金を定むべしまたその人に仕へし日は人を傭ひし日のごとくに數ふべきなり 51若なほ遺れる年多からばその數にしたがひまたその買れし金に照して贖の金をその人に償ふべし 52若またヨベルの年までに遺れる年 少からばその人とともに計算をなしその年數にてらして 贖 の金を之に償ふべし 53彼のその人に仕ふる事は歲 雇の傭 人のごとくなるべし汝の目の前において彼を嚴く使はしむべからす 54彼もし斯く贖はれずばヨベルののの年にいたりてその子女とともに出べし 55是イスラエルの子孫は我の僕なるに因る彼等はわが僕にして我がエジプトの地より導き出せし者なり我は汝らの神ヱホバなり

第二十六章

1汝ら己のために偶像を作り木像を雕刻べからず柱の像を堅べからずまた汝らの地に石像を立て之を拜むべからず其は我は汝らの神ヱホバなればなり 2汝等わが安息日を守りわが聖 所を敬ふべし我はヱホバなり 3汝等もしわが法令にあゆみ吾が誡命を守りてこれを行はば 4我その時候に雨を汝らに與ふべし地はその產物を出し田野の樹木はその實を結ばん 5是をもて汝らの麥打は葡萄を斂る時にまで及び汝らが葡萄を斂る事は種播時にまでおよばん汝等は飽までに食物を食ひ汝らの地に安泰に住ことを得べし 6我平和を國に賜ふべければ汝等は安じて寢ることを得ん汝等を懼れしむる者なかるべし我また猛き獸を國の中より除き去ん劍なんぢらの國を行めぐることもあらじ 7汝等はその敵を逐ん彼等は汝等の前に劍に殞るべし 8汝らの五人は百人を逐ひ汝らの百人は萬人を逐あらん汝らの敵は皆 汝らの前に劍に殞れん 9我なんぢらを眷

み汝らに子を生こと多からしめて汝等を増汝らとむすび
しわが契約を堅うせん 10汝等は舊き穀物を食ふ間にまた
新しき者を穫てその舊き者を出すに至らん 11我わが幕屋
を汝らの中に立ん我心汝らを忌きらはじ 12我なんぢら
の中に歩みまた汝らの神とならん汝らはまたわが民とな
るべし 13我は汝らの神エホバ汝らをエジプトの國より導
き出してその奴隷たることを免れしめし者なり我は汝ら
の軛の横木を碎き汝らをして眞直に立て歩く事を得せし
めたり 14然ど汝等もし我に聽したがふ事をなさずこの
諸の誡命を守らず 15わが法度を蔑如にしまた心にわが
律法を忌きらひて吾が諸の誡命をおこなはず却てわが
契約を破ることをなさば 16我もかく汝らになさんすなは
ち我なんぢらに驚恐を蒙らしむべし癆瘵と熱病ありて目
を壞し霊魂を憊果しめん汝らの種播ことは徒然なり汝ら
の敵これを食はん 17我わが面をなんぢらに向て攻ん汝ら
はその敵に殺されんまた汝らの惡む者汝らを治めん汝ら
はまた追ものなきに逃ん 18汝ら若かくのごとくなるも猶
我に聽したがはずば我汝らの罪を罰する事を七倍重す
べし 19我なんぢらが勢力として誇るところの者をほろぼ
し汝らの天を鐵のごとくに爲し汝らの地を銅のごとく
に爲ん 20汝等が力を用ふる事は徒然なるべし即ち地はそ
の產物を出さず國の中の樹はその實を結ばざらん 21汝ら
もし我に敵して事をなし我に聽したがふことをせずば我
なんぢらの罪にしたがひて七倍の災を汝らに降さん 22
我また野獸を汝らの中に遣るべし是等の者汝らの子女を
攫くらひ汝ちの家畜を噬ころしまた汝らの數を寡くせん
汝らの大路は通る人なきに至らん 23我これらの事をもて
懲すも汝ら改めずなほ我に敵して事をなさば 24我も汝ら
に敵して事をなし汝らの罪を罰することをまた七倍おも
くすべし 25我劍を汝らの上にもちきたりて汝らの背約の
怨を報さんまた汝らがその邑々に集る時は汝らの中に我
疫病を遣らん汝らはその敵の手に付されん 26我なんぢら
が杖とするパンを打くだかん時婦人十人一箇の爐にて汝
らのパンを燒き之を稱りて汝らに付さん汝等は食ふも飽
ざるべし 27汝らもし是のごとくなるも猶我に聽したがふ
ことをせず我に敵して事をなさば 28我も汝らに敵し怒り
て事をなすべし我すなはち汝らの罪をいましむることを
七倍おもくせん 29汝らはその男子の肉を食ひまたその
女子の肉を食ふにいたらん 30我なんぢらの崇邱を毀ち
汝らの柱の像を斫たふし汝らの偶像の尸の上に汝らの
死體を投すて吾心に汝らを忌きらはん 31またなんぢらの
邑々を滅し汝らの聖所を荒さんまた汝らの祭物の馨し
き香を聞じ 32我その地を荒すべければ汝らの敵の其處に
住る者これを奇しまん 33我なんぢらを國々に散し劍をぬ
きて汝らの後を追ん汝らの地は荒れ汝らの邑々は亡びん
34斯その地荒はてて汝らが敵の國に居んその間地は安息
を樂まん即ち斯る時はその地やすみて安息を樂むべし 35
是はその荒てをる日の間息まん汝らが其處に住たる間は
汝らの安息に此休息を得ざりしなり 36また汝らの中の遺
れる者にはその敵の地において我これに恐懼を懷かしめ
ん彼等は木葉の搖く聲にもおどろきて逃げその逃る事は
劍をさけて逃るがごとくまた追ものもなきに顚沛ばん 37
彼等は追ものも無に劍の前にあるが如くたがひに相つま
づきて倒れん汝等はその敵の前に立ことを得じ 38なんぢ
等はもろもろの國の中にありて滅うせんなんぢらの敵の
地なんぢらを呑つくすべし 39なんぢらの中の遺れる者は
なんぢらの敵の地においてその罪の中に瘦衰へまた己の
身につけるその先祖等の罪の中に瘦衰へん 40かくて後彼
らその罪とその先祖等の罪および己が我に悖りし咎と我
に敵して事をなせし事を懺悔せん 41我も彼等に敵して事
をなし彼らをその敵の地に曳いたりしが彼らの割禮を受
ざる心をれて卑くなり甘んじてその罪の罰を受るに至る
べければ 42我またヤコブとむすびし吾が契約およびイサ
クとむすびし吾が契約を追憶しまたアブラハムとむすび
しわが契約を追憶し且その地を眷顧ん 43彼等その地を離
るべければ地は彼等の之に居る者なくして荒てをる間そ
の安息をたのしまん彼等はまた甘じてその罪の罰を受ん
是は彼等わが律法を蔑如にしその心にわが法度を忌きら
ひたればなり 44かれ等斯のごときに至るもなほ我彼らが
敵の國にをる時にこれを棄ずまたこれを忌きらはじ斯我
かれらを滅ぼし盡してわがかれらと結びし契約をやぶる
ことを爲ざるべし我は彼らの神ヱホバなり 45我かれらの
先祖等とむすびし契約をかれらのために追憶さん彼らは
前に我がその神とならんとて國々の人の目の前にてエジ
プトの地より導き出せし者なり我はヱホバなり 46是等は
すなはちヱホバがシナイ山において己とイスラエルの
子孫の間にモーセによりて立たまひし法度と條規と律法
なり

第二十七章

1ヱホバ、モーセに告て言たまはく 2イスラエルの子孫につげてこれに言へ人もし誓願をかけなばなんぢの估價にしたがひてヱホバに献納物をなすべし 3なんぢの估價はかくすべしすなはち二十歳より六十歳までは男には其價を聖 所のシケルに循ひて五十シケルに估り 4女にはその價を三十シケルに估るべし 5また五歳より二十歳までは男 にはその價を二十シケルに估り女には十シケルに估るべし 6また一箇月より五歳までは男にはその價を銀五シケルに估り女にはその價を銀三シケルに估るべし 7また六十歳より上は男にはその價を十五シケルに估り女には十シケルに估るべし 8その人もし貧くして汝の估價に勝ざる時は祭司の前にいたり祭司の估價をうくべきなり祭司はその誓願者の力にしたがひて估價をなすべし 9人もしそのヱホバに禮物として献ることを爲すところの牲畜の中を取り誓願の物となしてヱホバに献る時は其物は都て聖し 10之を更むべからずまた佳を惡に惡を佳に易べからず若し牲畜をもて牲畜に易ることをせば其と其に易たる者ともに聖なるべし 11もし人のヱホバに禮物として献ることを爲ざるところの汚たる畜の中ならばその畜を祭司の前に牽いたるべし 12祭司はまたその佳惡にしたがひてこれが估價をなすべし即ちその價は祭司の估るところによりて定むべきなり 13その人若これを贖はんとせばその估る價にまた之が五分の一を加ふべし 14また人もしその家をヱホバに聖別ささげたる時は祭司その佳惡にしたがひて之が估價を爲べし即ちその價は祭司の估るところによりて定むべきなり 15その人もし家を贖はんとせばその估價の金にまた之が五分の一を加ふべし然せば是は自分の有とならん 16人もしその遺業の田野の中をヱホバに献る時は其處に撒るる種の多少にしたがひてこれが估價をなすべし即ち大麥の種一ホメルを五十シケルに算べきなり 17もしその田野をヨベルの年より献たる時はその價は汝の估れる所によりて定むべし 18もし又その田野をヨベルの後に献たる時は祭司そのヨベルの年までに遺れる年の數にしたがひてその金を算へこれに準じてその估價を減すべし 19その田野を献たる者若これを贖はんとせばその估價の金の五分の一をこれに加ふべし然せば是はその人に歸せん 20然ど若その田野を贖ふことをせず又はこれを他の人に賣ことをなさば再び贖ふことを得じ 21その田野はヨベルにおよびて出きたる時は永く奉納たる田野のごとくヱホバに歸して聖き者となり祭司の産業とならん 22若また自己が買たる田野にしてその遺業にあらざる者をヱホバに献たる時は 23祭司その人のために估價してヨベルの年までの金を推算べし彼は汝の估れる金高をその日ヱホバにたてまつりて聖物となすべし 24ヨベルの年にいたればその田野は賣主なるその本來の所有主に歸るべし 25汝の估價はみな聖 所のシケルにしたがびて爲べし二十ゲラを一シケルとなす 26但し牲畜の初子はヱホバに歸すべき初子なれば何人もこれを献べからず牛にもあれ羊にもあれ是はヱホバの所屬なり 27若し汚たる畜ならば汝の估價にしたがひこれにその五分の一を加へてその人これを贖ふべし若これを贖ふことをせずば汝の估價にしたがひて之を賣べし 28但し人がその凡て有る物の中より取て永くヱホバに納めたる奉納物は人にもあれ畜にもあれその遺業の田野にもあれ一切賣べからずまた贖ふべからず奉納物はみなヱホバに至聖物たるなり 29また人の中永く奉納られて奉納物となれる者も贖ふべからず必ず殺すべし 30地の十分の一は地の産物にもあれ樹の果にもあれ皆ヱホバの所屬にしてヱホバに聖きなり 31人もしその献る十分の一を贖はんとせば之にまたその五分の一を加ふべし 32牛または羊の十分の一については凡て杖の下を通る者の第十番にあたる者はヱホバに聖き者なるべし 33その佳惡をたづぬべからずまた之を易べからず若これを易る時は其とその易たる者ともに聖き者となるべしこれを贖ふことを得ず 34是等はヱホバがシナイ山においてイスラエルの子孫のためにモーセに命じたまひし誡命なり

民數紀略

第一章

1エジプトの國を出たる次の年の二月の一日にヱホバ、シナイの野に於て集會の幕屋の中にてモーセに告て言たまはく 2汝等イスラエルの子孫の全會衆の惣數をその宗族に依り其父祖の家に循ひて核べその諸の男丁の名の數と頭數とを得よ 3すなはちイスラエルの中凡て二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る者を汝とアロンその軍旅にしたがひて數ふべし 4また諸の支派おのおのその父祖の家の長たる者一人を出して汝等とともならしむべし 5汝らとともに立べき人々の名は是なり即ちルベンよりはシデウルの子エリヅル 6シメオンよりはツリシヤダイの子シルミエル 7ユダよりはアミナダブの子ナシヨン 8イツサカルよりはツアルの子ネタニエル 9ゼブルンよりはヘロンの子エリアブ 10ヨセフの子等の中にてはエフライムよりはアミホデの子エリシヤマ、マナセよりはバダヅルの子ガマリエル 11ベニヤミンよりはギデオニの子アビダン 12ダンよりはアミシヤダイの子アヒエゼル 13アセルよりはオクランの子バギエル 14ガドよりはデウエルの子エリアサフ 15ナフタリよりはエナンの子アヒラ 16是等は會衆の中より選み出されし者にてその父祖の支派の牧伯またイスラエルの千人の長なり 17かくてモーセとアロンここに名を擧たる人々を率領て 18二月の一日に會衆をことごとく集めければ彼等その宗族に循ひその父祖の家にしたがひその名の數にしたがひて自分の出生を述たりかく二十歳以上の者ことごとく核へらる 19ヱホバの命じたまひしごとくモーセ、シナイの野にて彼等を核數たり 20すなはちイスラエルの長子ルベンの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるに其名の數に依りその頭數によれば 21ルベンの支派の中にその核數られし者四萬六千五百人ありき 22またシメオンの子等より生れたる者等をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數に依りその頭數に依れば 23シメオンの支派の中にその核數られし者五萬九千三百人ありき 24またガドの子等より生れたる者をその宗族に依りその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭に出るに勝る男丁を數へたるにその名の數に依れば 25ガドの支派の中にその核數られし者四萬五千六百五十人ありき 26ユダの子等より生れたる者をその宗族に依りその父祖の家に循ひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數に依れば 27ユダの支派の中にその核數られし者七萬四千六百人ありき 28イツサカルの子等より生れたる者をその宗族に依りその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭に出るに勝る男丁を數へたるにその名の數に依ば 29イツサカルの支派の中にその核數られし者五萬四千四百人ありき 30ゼブルンの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數によれば 31ゼブルンの支派の中に其核數られし者五萬七千四百人ありき 32ヨセフの子等の中エフライムの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數に依ば 33エフライムの支派の中にその核數られし者四萬五百人ありき 34又マナセの子等より生れたる者をその宗族に依りその父祖の家に循ひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數に依ば 35マナセの支派の中にその核數られし者三萬二千二百人ありき 36ベニヤミンの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數によれば 37ベニヤミンの支派の中にその數へられし者三萬五千四百人ありき 38ダンの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數によれば 39ダンの支派の中にその核數られし者六萬二千七百人ありき 40アセルの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戰爭にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數によれば 41アセルの支派の中にその核數られし者四萬一千五百人ありき 42ナフタリの子等より生れたる者をその宗族によりその父祖の家

にしたがひて核べ二十歳以上にして戦争にいづるに勝る男丁を數へたるにその名の數によれば 43ナフタリの支派の中にその數へられし者五萬三千四百人ありき 44是すなはちその核數られし者にしてモーセとアロンとイスラエルの牧伯等の數ふる所是のごとしその牧伯等は十二人にして各々その父祖の家のために出たるなり 45斯イスラエルの子孫をその父祖の家にしたがひて核べ二十歳以上にして戦争にいづるに勝る男丁をイスラルの中に數へたるに 46其核數られし者都合六十萬三千五百五十人ありき 47但しレビの支派の人はその父祖にしたがひて核數らるること無りき 48即ちヱホバ、モーセに告て言たまひけらく 49惟レビの支派のみは汝これを核數べからずまたその總數をイスラエルの子孫とともに計ふべからざるなり 50なんぢレビ人をして律法の幕屋とその諸の器具と其に屬する諸の物を管理らしむべし彼等はその幕屋とその諸の器具を運搬ぶことを爲しまたこれが役事を爲し幕屋の四圍にその營を張べし 51幕屋を移す時はレビ人これを折卸し幕屋を立る時はレビ人これを組たつべし外人のこれに近く者は殺さるべし 52イスラエルの子孫はその軍旅に循ひて各々自己の營にその天幕を張り各人その隊の纛の下に天幕を張べし 53然どレビ人は律法の幕屋の四圍に營を張べし是イスラエルの子孫の全會衆の上に震怒のおよぶことなからん爲なりレビ人は律法の幕屋をあづかり守るべし 54是においてイスラエルの子孫ヱホバのモーセに命じたまひしごとくに凡て爲し斯おこなへり

第二章

1ヱホバ、モーセとアロンに告て言たまはく 2イスラエルの子孫は各々その隊の纛の下に營を張てその父祖の旗號の下に居るべくまた集會の幕屋の四圍において之にむかひて營を張べし 3即ち日の出る方東に於てはユダの營の纛の下につく者その軍旅にしたがひて營を張りアミナダブの子ナシヨン、ユダの子孫の牧伯となるべし 4その軍旅すなはちその核數られし者は七萬四千六百人 5その傍に營を張る者はイツサカルの支派なるべし而してツアルの子ネタニエル、イツサカルの子孫の牧伯となるべし 6その軍旅すなはちその核數られし者は五萬四千四百人 7またゼブルンの支派これと偕にありてヘロンの子エリアブ、ゼブルンの子孫の牧伯となるべし 8その軍旅すなはちその核數られし者は五萬七千四百人 9ユダの營の軍旅すなはち核數られし者は都合十八萬六千四百人是等の者首先に進むべし 10また南の方に於てはルベンの營の纛の下につく者その軍旅にしたがひて居りシデウルの子エリヅル、ルベンの子孫の牧伯となるべし 11その軍旅すなはちその核數られし者は四萬六千五百人 12その傍に營を張る者はシメオンの支派なるべし而してツリシヤダイの子シルミエル、シメオンの子孫の牧伯となるべし 13その軍旅すなはちその核數られし者は五萬九千三百人 14ガドの支派これに次ぎデウエルの子エリアサフ、ガドの子孫の牧伯となるべし 15その軍旅すなはちその核數られし者は四萬五千六百五十人 16ルベンの營の軍旅すなはちその核數られし者は都合十五萬一千四百五十人是等の者第二番に進むべし 17その次に律法の幕屋レビ人の營とともに諸營の眞中にありて進むべし彼等はその營を張がごとくに各々その隊にしたがひその纛にしたがひて進むべきなり 18また西の方においてはエフライムの營の纛の下につく者その軍旅にしたがひて居りアミホデの子エリシヤマ、エフライムの子孫の牧伯となるべし 19その軍旅すなはちその核數られし者は四萬五百人 20マナセの支派その傍にありてバダヅルの子ガマリエル、マナセの子孫の牧伯となるべし 21その軍旅すなはちその核數られし者は三萬二千二百人 22ベニヤミンの支派これに次ぎギデオニの子アビダン、ベニヤミンの子孫の牧伯となるべし 23その軍旅すなはちその數へられし者は三萬五千四百人 24ヱフライムの營の軍旅すなはちその核數られし者は都合十萬八千一百人是等の者第三番に進むべし 25また北の方に於てはダンの營の纛の下につく者その軍旅に循ひて居りアミシヤダイの子アヒエゼル、ダンの子孫の牧伯となるべし 26その軍旅すなはちその核數られし者は六萬二千七百人 27その傍に營を張る者はアセルの支派なるべし而してオクランの子パギエル、アセルの子孫の牧伯となるべし 28その軍旅すなはちその核數られし者は四萬一千五百人 29ナフタリの支派これに次ぎエナンの子アヒラ、ナフタリの子孫の牧伯となるべし 30その軍旅すなはちその核數られし者は五萬三千四百人 31ダンの營の核數られし者は都合十五萬七千六百人是等の者その旗號にしたがひて最後に進むべし 32イスラエルの子孫のその父祖の家にしたがひて核數られし者は是のごとし諸營の軍旅すなはちその核數られし者は都合六十萬三千五百五十人なりき 33但しレビ人はイスラエルの子孫とともに計へらるるこ

と無りきすなはちヱホバのモーセに命じたまへる如し 34是においてイスラエルの子孫ヱホバの凡てモーセに命じたまひしごとくに行ひ各々その宗族に依りその父祖の家に依りその隊の纛にしたがひて營を張りまた進むことを爲せり

第三章

1ヱホバ、シナイ山に於てモーセと語ひたまへる日にはアロンとモーセの一族左のごとくにてありき 2アロンの子孫は是のごとし長子はナダブ次はアビウ、エレアザル、イタマル 3是すなはちアロンの子等の名なり彼等は皆膏そそがれ祭司の職に任ぜられて祭司となれり 4ナダブとアビウはシナイの野にて異火をヱホバの前に献たる時にヱホバの前に死り子なしエレアザルとイタマルはその父アロンの目の前にて祭司の職を爲り 5ヱホバまたモーセに告て言たまはく 6レビの支派を召よせ祭司アロンの前に侍りてこれに事へしめよ 7彼らは集會の幕屋の前にありてアロンの職と全會衆の職に替り幕屋の役事をなすべきなり 8すなはち彼等は集會の幕屋の諸の器具を看守イスラエルの子孫の職に替りて幕屋の役事をなすべし 9汝レビ人をアロンとその子等に與ふべしイスラエルの子孫の中より彼等は全くアロンに與へられたる者なり 10汝アロンとその子等を立て祭司の職を行はしむべし外人の近づく者は殺されん 11ヱホバすなはちモーセに告て言たまはく 12視よ我イスラエルの子孫の中なる始に生れたる者すなはち首出の代にレビ人をイスラエルの子孫の中より取り 13首出はすべて吾が有なり我エジプトの國の中の首出をことごとく撃ころせる時イスラエルの首出を人も畜もことごとく聖別て我に歸せしめたり是はわが有となるべし我はヱホバなり 14ヱホバ、シナイの野にてモーセに告ていひたまはく 15汝レビの子孫をその父祖の家に依りその宗族にしたがひて核數よ即ちその一箇月以上の男子を核數べし 16是においてモーセ、ヱホバの言に循ひてその命ぜられしごとくに之を核數たり 17レビの子等の名は左のごとしゲルシヨン、コハテ、メラリ 18ゲルシヨンの子等の名はその宗族によれば左の如しリブニ、シメイ 19コハテの子等の名はその宗族に依ば左のごとしアムラム、イヅハル、ヘブロン、ウジエル 20メラリの子等の名はその宗族によればマヘリ、ムシなりレビ人の宗族はその父祖の家に依ば是のごとくなり 21ゲルシヨンよりリブニ人の族とシメイ人の族出たり是すなはちゲルシヨン人の族なり 22その核數られし者の數すなはち一箇月以上の男子の數は都合七千五百人 23ゲルシヨン人の族は凡て幕屋の後すなはち西の方に營を張べし 24而してラエルの子エリアサフ、ゲルシヨン人の牧伯となるべし 25集會の幕屋におけるゲルシヨンの子孫の職守は幕屋と天幕とその頂蓋および集會の幕屋の入口の幔と 26庭の幕および幕屋と壇の周圍なる庭の入口の幔ならびにその繩などすべて之に用ふる物を守るべき事なり 27またコハテよりアムラミ人の族イヅハリ人の族ヘブロン人の族ウジエリ人の族出たり是すなはちコハテ人の族なり 28一箇月以上の男子の數は都合八千六百人是みな聖所の職守を守るべき者なり 29コハテの子孫の族は凡て幕屋の南の方に營を張べし 30而してウジエルの子エリザパン、コハテ人の族の牧伯となるべし 31彼等の職守は律法の櫃案燈臺諸壇および聖所の役事に用ふる器具ならびに幔等凡て其處に用ふる物を守るべき事なり 32祭司アロンの子エレアザル、レビ人の牧伯の長となり且聖所の職を守る者を統轄るべし 33又メラリよりマヘリ人の族とムシ人の族出たり是すなはちメラリの族なり 34その核數られし者すなはち一箇月以上の男子の數は六千二百人 35アビハイルの子ツリエル、メラリの族の牧伯となり此族幕屋の北の方に營を張べし 36メラリの子孫の管理るべき者職守とすべき者は幕屋の板とその横木その柱その座その諸の器具および其に用ふる一切の物 37ならびに庭の周圍の柱とその座その釘およびその繩なり 38また幕屋の前その東の方すなはち集會の幕屋の東の方にはモーセとアロンおよびアロンの子等營を張りイスラエルの子孫の職守に代て聖所の職守を守るべし外人の近づく者は殺されん 39モーセとアロン、ヱホバの言に依りレビ人を悉く核數たるに一箇月以上の男子の數二萬二千ありき 40ヱホバまたモーセに言たまはく汝イスラエルの子孫の中の首出たる男子の一箇月以上なる者を盡く數へてその名の數を計れ 41我はヱホバなり我ために汝レビ人を取りてイスラエルの子孫の中なる諸の首出子に代へまたレビ人の家畜を取てイスラエルの子孫の家畜の中なる諸の首出に代べし 42モーセすなはちヱホバの己に命じたまへるごとくにイスラエルの子孫の中なる首出子を盡く數へたり 43その數へられし首出なる男子の一箇月以上なる者はその名の數に依ば都合二萬二千二百七十三人なりき 44すなはち

ヱホバ、モーセに告て言たまはく 45汝レビ人を取てイスラエルの子孫の中なる諸の首出子に代へまたレビ人の家畜を取て彼等の家畜に代よレビ人はわが所有とならん我はヱホバなり 46またイスラエルの子孫の首出子はレビ人より多きこと二百七十三人なれば是等をば贖ふべき者となし 47その頭數に依て一人ごとに五シケルを取べし即ち聖所のシケルに循ひて之を取べきなり一シケルは二十ゲラなり 48汝その餘れる者の贖の金をアロンとその子等に付すべし 49是においてモーセ、レビ人をもて贖ひ餘せるところの者の贖の金を取り 50即ちモーセ、イスラエルの子孫の首出子の中より聖所のシケルにしたがひて金千三百六十五シケルを取り 51その贖はるる者の金をヱホバの言にしたがひてアロンとその子等に付せりヱホバのモーセに命じたまひし如し

第四章

1ヱホバまたモーセとアロンに告て言たまはく 2レビの子孫の中よりコハテの子孫の總數をその宗族に依りその父祖の家にしたがひて計べ 3三十歳以上五十歳までにして能く軍団に入り集會の幕屋に働作をなすことを得る者をことごとく數へよ 4コハテの子孫が集會の幕屋においてなすべき勤務は至聖物に關る者にして是のごとし 5即ち營を進むる時はアロンとその子等まづ往て障蔽の幕を取おろし之をもて律法の櫃を覆ひ 6その上に獾の皮の蓋をほどこしまたその上に總青の布を打かけその杠を差いるべし 7また供前のパンの案の上には青き布を打かけその上に皿匙杓および酒を灌ぐ盌を置きまた常供のパンをその上にあらしめ 8紅の布をその上に打かけ獾の皮の蓋をもてこれを覆ひ而してその杠を差いるべし 9また青き布を取て燈臺とその盞その燈鉗その剪燈盤および其に用ふる諸の油の器を覆ひ 10獾の皮の蓋の内に燈臺とその諸の器をいれてこれを棹にかくべし 11また金の壇の上に青き布を打かけ獾の皮の蓋をもて之を蓋ひその杠を差いるべし 12また聖所の役事に用ふる役事の器をことごとく取青き布に裹み獾の皮の蓋をもてこれを蓋ひて棹にかくべし 13また壇の灰を取さりて紫の布をその壇に打かけ 14その上に役事をなすに用ふる諸の器具すなはち火鼎肉叉火鏟鉢および壇の一切の器具をこれに載せ獾の皮の蓋をその上に打かけ而してその杠を差とほすべし 15營を進むるにあたりてアロンとその子等聖所と聖所の一切の器具を蓋ふことを畢りたらば即ちコハテの子孫いり來りてこれを舁べし然ながら彼等は聖物に捫るべからず恐くは死ん集會の幕屋の中なる是等の物はコハテの子孫の擔ふべき者なり 16祭司アロンの子エレアザルは燈火の油 馨しき香常供の素祭および灌 膏を司どりまた幕屋の全體とその中なる一切の聖物および其處の諸の器具を司どるべし 17ヱホバまたモーセとアロンに告て言たまはく 18汝等コハテ人の宗族の者をしてレビ人の中より絶るるに至らしむる勿れ 19彼等が至聖物に近く時に生命を保ちて死ることなからん爲に汝等かく之に爲べし即ちアロンとその子等まづ入り彼等をして各箇その役事に就しめその擔ふべき物を取しむべし 20彼等は入て須臾も聖物を觀るべからず恐らくは死ん 21ヱホバまたモーセに告て言たまはく 22汝ゲルシヨンの子孫の總數をその父祖の家に依りその宗族に循ひてしらべ 23三十歳以上五十歳までにして能く軍團に入り集會の幕屋に動作をなすことを得る者をことごとく數へよ 24ゲルシヨン人の働く事と擔ふ物は是のごとし 25即ち彼等は幕屋の幕と集會の天幕およびその頂蓋とその上なる獾の皮の蓋ならびに集會の天幕の入口の幔を擔ひ 26庭の幕および幕屋と壇の周圍なる庭の門の入口の幔とその繩ならびにそれに用ふる諸の器具と其がために造る一切の物を擔ふべし斯動作べきなり 27ゲルシヨンの子孫の一切の役事すなはちその擔ふところと働くところはアロンとその子等の命に循ふべきなり汝等は彼等にその擔ふべき物を割交してこれを守らしむべし 28ゲルシヨンの子孫の宗族が集會の幕屋において爲べき動作は是のごとし彼等の守る所は祭司アロンの子イタマルこれを監督るべし 29メラリの子孫もまた汝これをその宗族に依りその父祖の家に循ひて計べ 30三十歳以上五十歳までにして能く軍團に入り集會の幕屋において勤務をなすことを得る者を盡く數へよ 31彼等が集會の幕屋において爲べき一切の役事すなはちその擔ひ守るべき物は是のごとし幕屋の板その横木その柱その座 32庭の四周の柱その座その釘その繩およびこれがために用ふる一切の器具なり彼等が擔ひ守るべき器具は汝等その名を按べて之を數ふべし 33是すなはちメラリの子孫の族がなすべき役事にして彼等は祭司アロンの子イタマルの監督をうけて集會の幕屋において此すべての役事を爲べきなり 34是においてモーセとアロンおよび會衆の牧伯等コハテの子孫をその宗族に依りその父祖

の家にしたがひてしらべ 35三十歳以上五十歳までにして能く軍團に入り集會の幕屋において勤務をなすことを得る者を盡く數へたるに 36その宗族にしたがひて數へられし者二千七百五十人ありき 37是すなはちコハテ人の族の數へられし者にして皆集會の幕屋に於て役事をなすことを得る者なりモーセとアロン、ヱホバがモーセによりて命じたまひし所にしたがひて之を數へたり 38またゲルシヨンの子孫をその宗族に依りその父祖の家に循ひて計べ 39三十歳以上五十歳までにして能く軍團に入り集會の幕屋において勤務をなすことを得る者を數へたるに 40その宗族に依りその父祖の家に循ひて數へられし者二千六百三十人ありき 41是すなはちゲルシヨンの子孫の族の數へられし者にして皆集會の幕屋において勤務をなすことを得る者なりモーセとアロン、ヱホバの命にしたがひて之を數へたり 42またメラリの子孫の族をその宗族に依りその父祖の家に循ひて計べ 43三十歳以上五十歳までにして能く軍團に入り集會の幕屋において勤務をなすことを得る者を數へたるに 44その宗族にしたがひて數へられし者三千二百人ありき 45是すなはちメラリの子孫の族の數へられし者なりモーセとアロン、ヱホバのモーセによりて命じたまひし所にしたがひて之を數へたり 46モーセとアロンおよびイスラエルの牧伯等レビ人をその宗族に依りその父祖の家にしたがひてしらべ 47三十歳以上五十歳までにして能く來りて集會の幕屋の役事を爲し且これを擔ふ業を爲す者を數へたるに 48その數へられしものの數都合八千五百八十人なりき 49ヱホバの命にしたがひてモーセかれらを數へ彼等をして各人その役事に就しめかつその擔ふ所をうけもたしめたりヱホバの命にしたがひて數へたるところ是のごとし

第五章

1ヱホバ、モーセに告て言たまはく 2イスラエルの子孫に命じて癩病人と流出ある者と死骸に汚されたる者とを盡く營の外に出さしめよ 3男女をわかたず汝等これを出して營の外に居しめ彼等をしてその營を汚さしむべからず我その諸營の中に住なり 4イスラエルの子孫かく爲して之を營の外に出せりすなはちヱホバのモーセに告たまひし如くにイスラエルの子孫然なしぬ 5ヱホバまたモーセに告て言たまはく 6イスラエルの子孫に告よ男または女もし人の犯す罪を犯してヱホバに悖りその身罪ある者とならば 7その犯せし罪を言あらはしその物の代價にその五分の一を加へてこれを己が罪を犯せる者に付してその償を爲べし 8然ど若その罪の償を受べき親戚その人にあらざる時はその罪の償をヱホバになして之を祭司に歸せしむべしまた彼のために用ひて贖をなすところの贖罪の牡羊も祭司に歸す 9イスラエルの子孫の擧祭となして祭司に携へ來る所の聖物は皆祭司に歸す 10諸の人の聖別て献る物は祭司に歸し凡て人の祭司に付す物は祭司に歸するなり 11ヱホバ、モーセに告て言たまはく 12イスラエルの子孫に告てこれに言へ人の妻道ならぬ事を爲てその夫に罪を犯すあり 13人かれと交合したるにその事夫の目にかくれて露顯ず彼その身を汚したれどこれが證人となる者なく彼またその時に執へられもせざるあり 14すなはち妻その身を汚したる事ありて夫猜疑の心を起してその妻を疑ふことあり又は妻その身を汚したる事なきに夫猜疑の心を起してその妻を疑ふことある時は 15夫その妻を祭司の許に携へきたり大麥の粉一エパの十分の一をこれがために禮物として持きたるべしその上に油を灌べからずまた乳香を加ふべからず是は猜疑の禮物記念の禮物にして罪を誌えしむる者なればなり 16祭司はまたその婦人を近く進ませてヱホバの前に立しめ 17瓦の器に聖水を入れ幕屋の下の地の土を取てその水に放ち 18其婦人をヱホバの前に立せ婦人にその頭を露さしめて記念の禮物すなはち猜疑の禮物をその手に持すべし而して祭司は詛を來らするところの苦き水を手に執り 19婦を誓せてこれに言べし人もし汝と寢たる事あらず汝また汝の夫を措て道ならぬ事を爲て汚穢に染しこと無ば詛を來する此苦水より害を受ること有ざれ 20然ど汝もし汝の夫を措き道ならぬ事を爲てその身を汚し汝の夫ならざる人と寢たる事あらば 21(祭司その婦人をして詛を來らする誓をなさしめて祭司その婦人に言べし)ヱホバ汝の腿を痩しめ汝の腹を脹れしめ汝をして汝の民の指て詛ふ者指て誓ふ者とならしめたまへ 22また詛を來らするこの水汝の腸にいりて汝の腹を脹れさせ汝の腿を痩させんとその時婦人はアーメン、アーメンと言べし 23而して祭司この詛を書に筆記しその苦水にて之を洗おとし 24婦人をしてその詛を來らする水を飲しむべしその詛を來らする水かれの中にいりて苦ならん 25祭司まづその婦人の手より猜疑の禮物を取りその禮物をヱホバの前に搖てこれを壇に持來り 26而して祭司其禮物の中より

記念の分一 握をとりて之を壇の上に焚き然る後婦人にその水を飲しむべし 27その水を之に飲しめたる時はもしかれその身を汚し夫に罪を犯したる事あるに於てはその 詛を來らする水かれの中に入て苦くなりその腹脹れその腿痩て自己はその民の指て詛ふ者とならん 28然ど彼もしその身を汚しし事あらずして潔からば害を受ずして能く子を生ん 29是すなはち猜疑の律法なり妻たる者その夫を措き道ならぬ事を爲て身を汚しし時 30また夫たる者猜疑の心を起してその妻を疑ふ時はその婦人をヱホバの前におきて祭司その律法のごとく之に行ふべきなり 31斯せば夫は罪なく妻はその罪を任ん

第六章

1ヱホバ、モーセに告て言たまはく 2イスラエルの子孫に告て之に言へ男または女 俗を離れてナザレ人の誓 願を立て俗を離れてその身をヱホバに歸せしむる時は 3葡萄酒と濃酒を斷ち葡萄酒の醋となれる者と濃酒の醋となれる者を飲ずまた葡萄の汁を飲ず葡萄の鮮なる者をも乾たる者をも食はざるべし 4その俗を離れをる日の間は都て葡萄の樹より取たる者はその核より皮まで一切食ふべからざるなり 5その誓 願を立て俗を離れをる日の間は都て薙刀をその頭にあつべからずその俗を離れて身をヱホバに歸せしめたる日の滿るまで彼は聖ければその頭髪を長しおくべし 6その俗を離れて身をヱホバに歸せしむる日の間は凡て死骸に近づくべからず 7其父母兄 弟姉妹の死たる時にもこれがために身を汚すべからず其はその俗を離れて神に歸したる記號その首にあればなり 8彼はその俗を離れをる日の間は凡てヱホバの聖 者なり 9もし人 計ずも彼の 傍 に死てそのナザレの頭を汚すことあらばその身を潔る日に頭を剃べしすなはち第七日にこれを剃べきなり 10而して第八日に鳩鳩二羽かまたは雛き 鴿 二羽を祭司に携へきたり集 會の幕屋の門にいたるべし 11斯て祭司はその一を罪祭に一を燔祭に献げ彼が 屍 に由て獲たる罪を贖ひまたその日にかれの首を聖潔すべし 12彼またその俗を離れてヱホバに歸するの日を新にし當歳の羔羊を携へきたりて愆祭となすべし彼その俗を離れをる時に身を汚したれば是より前の日はその中に算ふべからざるなり 13ナザレ人の律法は是のごとしその俗を離るるの日滿たる時はその人を集 會の幕屋の門に携へいたるべし 14斯てその人は禮 物をヱホバにささぐべし即ち當歳の羔羊の牡の全き者一匹を燔祭となし當歳の羔羊の牝の 全き者一匹を罪祭となし牡羊の全き者一匹を酬恩祭となし 15また無酵パン一筐麥粉に油を和て作れる菓子 油を塗たる酵いれぬ煎餅およびその素祭と灌 祭の物を持きたるべし 16斯て祭司これをヱホバの前に携へきたりその罪祭と酬恩祭を献げ 17またその牡羊を筐の中なる酵いれぬパンとあはせこれを酬恩祭の犧牲としヱホバに献ぐべし祭司またその素祭と灌 祭をも献ぐべきなり 18ナザレ人は集 會の幕屋の門に於てそのナザレの頭を剃りそのナザレの頭の髪を取てこれを酬恩祭の犧牲の下の火に放つべし 19祭司その牡羊の煮たる肩と筐の中の酵いれぬ菓子一箇と酵いれぬ煎餅一箇をとりてこれをナザレ人がそのナザレの頭を剃におよびてこれをその手に授け 20而して祭司ヱホバの前にて之を搖て搖祭となすべし是は聖 物にしてその搖る胸と擧たる腿とともに祭司に歸すべし斯て後ナザレ人は酒を飲ことを得 21是すなはち誓 願を立たるナザレ人がその俗を離れ居し事によりてヱホバに禮 物を献ぐるの律法なり此外にまたその能力の及ぶところの物を献ぐることを得べし即ちその立たる誓 願のごとくその俗を離るるの律法にしたがひて爲べきなり 22ヱホバまたモーセに告て言たまはく 23アロンとその子等に告て言へ汝等斯のごとくイスラエルの子孫を祝して言べし 24願くはヱホバ汝を恵み汝を守りたまへ 25願くはヱホバその面をもて汝を照し汝を憐みたまへ 26願くはヱホバその面を擧て汝 を眷み汝に平安を賜へと 27かくして彼等吾名をイスラエルの子孫に蒙らすべし然ば我かれらを恵まん

第七章

1モーセ幕屋を建をはり之に膏を灌ぎてこれを聖別めまたその一切の器具およびその壇とその一切の器具に膏を灌ぎて之を聖別たる日に 2イスラエルの牧伯等すなはちその諸宗族の長 諸支派の牧伯にしてその核數られし者を監督る者等 献 物を爲り 3彼等その禮 物をヱホバに持きたるに蓋ある車六輛と牛十二匹あり牧伯二人に車一輛 一人に牛一匹なり即ちこれか幕屋の前にひき至れり 4時にヱホバ、モーセに告て言たまはく 5汝これを彼等より取て集 會の幕屋の用に供へレビ人にその職分職分にしたがひて之を授すべし 6是においてモーセその車と牛を取て之をレビ人に授せり 7即ちゲルシヨンの子孫にはその職分を按へて車二輛と牛四匹を授し 8メラリの子孫にはその

職分を按へて車四輛と牛八匹を授し祭司アロンの子イタマルをしてこれを監督らしめたり 9然どコハテの子孫には何をも授さざりき是は彼等が聖 所になすべき職分はその肩をもて擔ふの事なるが故なり 10壇に膏を灌ぐ日に牧伯等壇奉納の禮 物を携へ來り牧伯等その禮 物を壇の上に献げたり 11エホバ先にモーセに言たまひけるは牧伯等は一日に一人宛その壇奉納の禮 物を献ぐべし 12第一日に禮 物を献げし者はユダの支派のアミナダブの子ナシヨンなり 13その禮 物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆 聖 所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 14また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 15また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 16罪祭に用ふる牡山羊一匹 17酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹アミナダブの子サションの禮 物は是の如し 18第二日にはイッサカルの牧伯ツアルの子ネタニエル献 納を爲り 19その献げし禮 物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆 聖 所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 20また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 21また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 22罪祭に用ふる牡山羊一匹 23酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹ツアルの子ネタニエルの禮 物は是のごとし 24第三日にはゼブルンの子孫の牧伯ヘロンの子エリアブ献 納を爲り 25その禮 物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆 聖 所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 26また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 27また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 28罪祭に用ふる牡山羊一匹 29酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹ヘロンの子エリアブの禮 物は是のごとし 30第四日にはルベンの子孫の牧伯シデウルの子エリヅル献 納を爲り 31その禮 物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆 聖 所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 32また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 33また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 34罪祭に用ふる牡山羊一匹 35酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹シデウルの子エリヅルの禮 物は是のごとし 36第五日にはシメオンの子孫の牧伯ツリシヤダイの子シルミエル献 物を爲り 37その禮 物は銀の皿一箇その 重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆 聖 所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 38また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 39また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 40罪祭に用ふる牡山羊一匹 41酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹ツリシヤダイの子シルミエルの禮 物は是のごとし 42第六日にはガドの子孫の牧伯デウエルの子エリアサフ献 納をなせり 43その禮 物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆 聖 所のシケルに循ふこの二者には麥粉に油を和 たる素祭の品を充す 44また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 45また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 46罪祭に用ふる牡山羊一匹 47酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹デウエルの子エリアサフの禮 物はかくのごとし 48第七日にはエフライムの子孫の牧伯アミホデの子エリシヤマ献 納をなせり 49その禮 物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆 聖 所のシケルに循ふ此二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 50また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 51また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 52罪祭に用ふる牡山羊一匹 53酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹アミホデの子エリシヤマの禮 物は是のごとし 54第八日にはマナセの子孫の牧伯パダヅルの子ガマリエル献 納をなせり 55その禮 物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケルみな聖 所のシケルに循ふこの二者には麥粉に油を和 たる素祭の品を充す 56また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 57また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 58罪祭に用ふる牡山羊一匹 59酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹パダヅルの子ガマリエルの禮 物は是のごとし 60第九日にはベニヤミンの子孫の牧伯ギデオニの子アビダン献 納をなせり 61その禮 物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケルみな聖 所のシケルに循 ふこの二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 62また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 63また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 64

罪祭に用ふる牡山羊一匹 65酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹ギデオニの子アビダンの禮物は是のごとし 66第十日にはダンの子孫の牧伯アミシヤダイの子アヒエゼル献納をなせり 67その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケル皆聖所のシケルに循ふこの二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 68また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 69また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 70罪祭に用ふる牡山羊一匹 71酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹アミシヤダイの子アヒエゼルの禮物は是のごとし 72第十一日にはアセルの子孫の牧伯オクランの子パギエル献納を爲せり 73その禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケルみな聖所のシケルに循ふこの二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 74亦金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 75亦燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 76罪祭に用ふる牡山羊一匹 77酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹オクランの子パギエルの禮物は是のごとし 78第十二日にはナフタリの子孫の牧伯エナンの子アヒラ献物をなせり 79其禮物は銀の皿一箇その重は百三十シケル銀の鉢一箇是は七十シケルみな聖所のシケルに循ふこの二者には麥粉に油を和たる素祭の品を充す 80また金の匙の十シケルなる者一箇是には香を充す 81また燔祭に用ふる若き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊一匹 82罪祭に用ふる牡山羊一匹 83酬恩祭の犠牲に用ふる牛二匹牡羊五匹牡山羊五匹當歳の羔羊五匹エナンの子アヒラの禮物は是のごとし 84是すなはち壇に油を灌げる日にイスラエルの牧伯等が献げたる壇奉納の禮物なり即ち銀の皿十二銀の鉢十二金の匙十二 85銀の皿は各々百三十シケル鉢は各々七十シケル聖所のシケルに依ばこの諸の銀の器はその重都合二千四百シケルなりき 86また香を充せる金の匙十二ありその重は聖所のシケルに依ば各々十シケルその匙の金は都合百二十シケルなりき 87また燔祭に用ふる者は牡牛十二牡羊十二當歳の羔羊十二あり其にその素祭の物を加ふまた罪祭の牡山羊十二あり 88また酬恩祭の犠牲に用ふる者は牡牛二十四牡羊六十牡山羊六十當歳の羔羊六十あり壇に膏を灌ぎて後に献たる壇奉納の禮物は是のごとし 89斯てモーセはヱホバと語はんとて集會の幕屋に入けるに律法の櫃の上なる贖罪所の上兩箇のケルビムの間より聲いでて己に語ふを聽り即ち彼と語へり

第八章

1ヱホバまたモーセに告て言たまはく 2アロンに告て之に言へ汝燈火を燃す時は七の燈 盞をして均く燈臺の前を照さしむべし 3アロンすなはち然なし燈火を燈臺の前の方にむけて燃せりヱホバのモーセに命じたまへる如し 4燈臺の作法は是のごとし是は槌にて椎て作れる者 即ちその臺座よりその花まで槌にて椎て作れる者なりモーセ、ヱホバの己に示したまへる式樣にてらしてこの燈臺を作れり 5ヱホバ、モーセに告て言たまはく 6レビ人をイスラエルの子孫の中より取てこれを潔めよ 7汝かく彼らに爲て之を潔むべし即ち罪を潔むる水を彼等に灑ぎかけ彼等にその身をことごとく剃しめその衣服を洗はしめて之を潔め 8而して彼等に若き牡牛一匹と麥粉に油を和たる者を取しめよ汝また別に若き牡牛を罪祭のために取べし 9斯て汝レビ人を集會の幕屋の前に携きたりてイスラエルの子孫の全會を集め 10而してレビ人をヱホバの前に進ましめてイスラエルの子孫に其手をレビ人の上に按しむべし 11而してイスラエルの子孫の爲にレビ人を搖祭となしてヱホバの前に献ぐべし是彼らをしてヱホバの勤務を爲しめんためなり 12斯て汝レビ人にその手をかの牛の頭に按しめその一を燔祭となしてヱホバに献げ之をもてレビ人のために贖罪をなすべし 13即ちレビ人をアロンとその子等の前に立しめ之を搖祭となしてヱホバに献ぐべし 14汝レビ人をイスラエルの子孫の中より區分ちレビ人をしてわが所屬とならしむべし 15斯て後レビ人は入て集會の幕屋の役事をなすべし汝かれらを潔め之を献げて搖祭となすべし 16彼らはイスラエルの子孫の中よりして我に献げらるる者なりイスラエルの子孫の中なる始に生れたる者すなはちその首出子の代に我かれらを取なり 17イスラエルの子孫の中の首出子は人たるも獣たるも凡てわが所屬となるべし其は我エジプトの地において首出子を盡く撃ころしたる時に彼等を聖者となして我に屬せしめたればなり 18是をもて我イスラエルの子孫の中の一切の首出子の代にレビ人を取なり 19我イスラエルの子孫の中よりレビ人を取て之をアロンとその子等に與へ之をして集合の幕屋においてイスラエルの子孫に代てその役事を爲しめまたイスラエルの子孫のために贖罪をなさしめ

ん是イスラエルの子孫が聖 所に近く時にイスラエルの
子孫の中に災害の起ざらんためなり 20モーセとアロンお
よびイスラエルの子孫の全會衆ヱホバがレビ人の事につ
きてモーセに命じたまへる所に悉くしたがひてレビ人
におこなへり即ちイスラエルの子孫かくの如く彼等に行
ひたり 21レビ人是に於てその身を潔め衣服を洗ひたれば
アロンかれらをヱホバの前に献て揺祭となしアロンまた
彼らのために贖罪をなして之を潔めたり 22斯て後レビ人
は集會の幕屋に入てアロンとその子等の前にてその役事
を爲り彼等はレビ人の事につきてヱホバのモーセに命じ
たまへる所に循ひて斯のごとく之を行ひたり 23ヱホバま
たモーセに告て言たまはく 24レビ人は斯なすべし即ち二
十五歳以上の者は軍団に入て集會の幕屋の役事をなすべ
し 25然ど五十歳よりは軍団を退きて休み重て役事をなす
べからず 26唯集會の幕屋においてその兄弟等をつかさ
どり且伺ひ守ることを勤むべし役事を爲すべからず汝レ
ビ人をしてその職務をなさしむるには斯のごとくなすべ
し

第九章

1エジプトの國を出たる次の年の正 月ヱホバ、シナイの
野にてモーセに告ていひたまはく 2イスラエルの子孫を
して逾越節をその期におよびて行はしめよ 3其期 即ち
此月の十四日の晩にいたりて汝等これを行ふべし汝等こ
れをおこなふにはその諸の條例とその諸の式法に循ふべ
きなり 4是においてモーセ、イスラエルの子孫に逾越節
を行ふべき事を告たれば 5彼等 正 月の十四日の晩にシナ
イの野にて逾越節を行へり即ちイスラエルの子孫はヱ
ホバのモーセに命じたまへる所に盡く循ひてこれを爲
ぬ 6時に人の死骸に身を汚して逾越節を行ふこと能ざる
人々ありてその日にモーセとアロンの前にいたれり 7そ
の人々すなはち彼に言ふ我等は人の死骸に身を汚したり
然ば我らはその期におよびてイスラエルの子孫と偕にヱ
ホバに禮物を献ることを得ざるべき乎 8モーセかれらに
言けるは姑く待てヱホバ汝らの事を如何に宣ふかを聽ん
9ヱホバ、モーセに告て言たまはく 10イスラエルの子孫に
告て言へ汝等または汝等の子孫の中死屍に身を汚したる
人も遠き途にある人も皆逾越節をヱホバにむかひて行
ふべきなり 11即ち二月の十四日の晩に之をおこなひ酵い
れぬパンと苦菜をそへて之を食ふべし 12朝までこれを
少許も遺しおくべからず又その骨を一本も折べからず
逾越節の諸の條例にしたがひて之を行ふべし 13然ど人
その身潔くありまた征途にもあらずして逾越節を行ふ
ことをせざる時はその人民の中より斷れん斯る人はその
期におよびてヱホバの禮物を持きたらざるが故にその罪
を任べきなり 14他國の人もし汝らの中に寄寓をりて
逾越節をヱホバにおこなはんとせば逾越節の條例に依
りその法式にしたがひて之をおこなふべし他國の人にも
自 國の人にもその條例は同一なるべし 15幕屋を建たる
日に雲幕屋を蔽へり是すなはち律法の幕屋なり而して夕
にいたれば幕屋の上に火のごとき者あらはれて朝におよ
べり 16即ち常に是のごとくにして晝は雲これを蔽ひ夜は
火のごとき者ありき 17雲幕屋を離れて上る時はイスラエ
ルの子孫 直に途に進みまた雲の止まる所にイスラエルの
子孫營を張り 18即ちイスラエルの子孫はヱホバの命によ
りて途に進みまたヱホバの命によりて營を張り幕屋の上
に雲の止まれる間は營を張をれり 19幕屋の上に雲の止る
こと日久しき時はイスラエルの子孫ヱホバの職守をまも
りて途に進まざりき 20また幕屋の上に雲の止まる事日
少き時も然り彼等は只ヱホバの命にしたがひて營を張り
ヱホバの命にしたがひて途に進めり 21また雲 夕より朝ま
で止り朝におよびてその雲昇る時は彼等途に進めり夜に
もあれ晝にもあれ雲の昇る時は即ち途に進めり 22二日に
もあれ一月にもあれまたは其よりも多くの日にもあれ
幕屋の上に雲の止り居る間はイスラエルの子孫營を張居
て途に進まずその昇るにおよびて途に進めり 23即ち彼等
はヱホバの命にしたがひて營を張りヱホバの命にしたが
ひて途に進み且モーセによりて傳はりしヱホバの命にし
たがひてヱホバの職守を守れり

第十章

1ヱホバ、モーセに告て言たまはく 2汝 銀の喇叭二本を製
れ即ち槌にて椎て之を製り之を用ひて人を呼集めまた營
を進ますべし 3この二者を吹ときは全會衆集會の幕屋
の門に集りて汝に就べし 4もし只その一を吹く時はイス
ラエルの千人の長たるその牧伯等 集りて汝に就べし 5
汝等これを吹鳴す時は東の方に營を張る者途に進むべし
6また二次これを吹ならす時は南の方に營を張る者途に
進むべし凡て途に進まんとする時は音長く喇叭を吹なら
すべし 7また會衆を集むる時にも喇叭をふくべし但し音

長くこれを吹ならすべからず 8アロンの子等の祭司たる者どもその喇叭を吹べし是すなはち汝らが代々ながく守るべき例たるなり 9また汝らの國において汝等その己を攻るところの敵と戰はんとて出る時は喇叭を吹ならすべし然せば汝等の神ヱホバ汝らを記憶て汝らをその敵の手より救ひたまはん 10また汝らの喜樂の日 汝らの節期および月々の朔日には燔祭の上と酬恩祭の犧牲の上に喇叭を吹ならすべし然せば汝らの神これに由て汝らを記憶たまはん我は汝らの神ヱホバ也 11斯て第二年の二月の二十日に雲律法の幕屋を離れて昇りければ 12イスラエルの子孫シナイの野より出でて途に進みたりしがパランの野にいたりて雲 止れり 13斯かれらはヱホバのモーセによりて命じたまへるところに遵ひて途に進むことを始めたり 14首先にはユダの子孫の營の纛の下につく者その軍旅にしたがひて進めりユダの軍旅の長はアミナダブの子ナシヨン 15イッサカルの子孫の支派の軍旅の長はツアルの子ネタニエル 16ゼブルンの子孫の支派の軍旅の長はヘロンの子エリアブなりき 17乃ち幕屋を取くづしゲルシヨンの子孫およびメラリの子孫幕屋を擔ひて進めり 18次にルベンの營の纛の下につく者その軍旅にしたがひて進めりルベンの軍旅の長はシデウルの子エリヅル 19シメオンの子孫の支派の軍旅の長はツリシヤダイの子シルミエル 20ガドの子孫の支派の軍旅の長はデウエルの子エリアサフなりき 21コハテ人 聖 所を擔ひて進めり是が至るまでに彼その幕屋を建をはる 22次にエフライムの子孫の營の纛の下につく者その軍旅にしたがひて進めりエフライムの軍旅の長はアミホデの子エリシヤマ 23マナセの子孫の支派の軍旅の長はパダヅルの子ガマリエル 24ベニヤミンの子孫の支派の軍旅の長はギデオニの子アビダンなりき 25次にダンの子孫の營の纛の下につく者その軍旅にしたがひて進めりこの軍旅は諸營の後驅なりきダンの軍旅の長 はアミシヤダイの子アヒエゼル 26アセルの子孫の支派の軍旅の長はオクランの子バギエル 27ナフタリの子孫の支派の軍旅の長はエナンの子アヒラなりき 28イスラエルの子孫はその途に進む時は是のごとくその軍旅にしたがひて進みたり 29茲にモーセその外舅なるミデアン人リウエルの子ホバブに言けるは我等はヱホバが嘗て我これを汝等に與へんと言たまひし處に進み行なり汝も我等とともに來れ我等 汝をして幸福ならしめん其はヱホバ、イスラエルに福祉を降さんと言たまひたればなり 30彼モーセに言ふ我は往じ我はわが國に還りわが親族に至らん 31モーセまた言けるは請ふ我等を棄去なかれ汝は我儕が曠野に營を張るを知ば願くは我儕の目となれ 32汝もし我儕とともに往ばヱホバの我儕に降したまふところの福祉を我儕また汝にもおよぼさん 33斯て彼等ヱホバの山をたち出て三日路ほど進み行りヱホバの契約の櫃その三日路の間 かれらに先だち行て彼等の休息 所を尋ね覓めたり 34彼等營を出て途に進むに當りて晝はヱホバの雲かれらの上にありき 35契約の櫃の進まんとする時にはモーセ言りヱホバよ起あがりたまへ然ば汝の敵は打散され汝を惡む者等は汝の前より逃さらんと 36またその止まる時は言りヱホバよ千萬のイスラエル人に歸りたまへ

第十一章

1茲に民災難に罹れる者のごとくにヱホバの耳に呟きぬヱホバその怨言を聞て震怒を發したまひければヱホバの火かれらに向ひて燃いでその營の極端を燒り 2是に於て民モーセに呼はりしがモーセ、ヱホバに祈ければその火鎭りぬ 3ヱホバの火かれらに向ひて燃出たるに因てその處の名をタベラ(燃)と稱ぶ 4茲に彼等の中なる衆多の寄集 人等慾心を起すイスラエルの子孫もまた再び哭て言ふ誰か我らに肉を與へて食しめんか 5憶ひ出るに我等エジプトにありし時は魚黄瓜水瓜韮 葱 靑蒜等を心のままに食へり 6然るに今は我儕の精神枯 衰ふ我らの目の前にはこのマナの外何も有ざるなりと 7マナは莞荽の實のごとくにしてその色はブドラクの色のごとし 8民行巡りてこれを斂め石磨にひき或は臼に搗てこれを釜の中に煮て餠となせりその味は油 菓子の 味 のごとし 9夜にいりて露營に降る時にマナその上に降れり 10モーセ聞に民の家々の者おのおのその天幕の門口に哭く是におひてヱホバ烈しく怒を發したまふこの事またモーセの目にも惡く見ゆ 11モーセすなはちヱホバに言けるは汝なんぞ僕を惡くしたまふ乎いかなれば我 汝の前に恩を獲ずして汝かくこの此すべての民をわが任となして我に負せたまふや 12この總體の民は我が姙みし者ならんや我が生し者ならんや然るに汝なんぞ我に慈父が乳哺子を抱くがごとくに彼らを懷 に抱きて汝が昔日かれらの先祖等に誓ひたまひし地に至れと言たまふや 13我何處より肉を得てこの總體の民に與へんや彼等は我にむかひて哭き我等に肉を與へて食しめよと言なり 14我は一人にてはこの總體の民をわが任

として負ことあたはず是は我には重きに過ればなり 15我もし汝の前に恩を獲ば請ふ斯我を爲んよりは寧ろ直に我を殺したまへ我をしてわが困苦を見せしめたまふ勿れ 16是においてヱホバ、モーセに言たまはくイスラエルの老人の中民の長老たり有司たるを汝が知るところの者七十人を我前に集め集會の幕屋に携きたりて其處に汝とともに立しめよ 17我降りて其處にて汝と言はん又われ汝の上にあるところの靈を彼等にも分ち與へん彼等汝とともに民の任を負ひ汝をして只一人にて之を負ふこと無らしむべし 18汝また民に告て言へ汝等身を潔めて明日を待て必ず肉を食ふことを得ん汝等ヱホバの耳に哭て誰か我等に肉を與へて食しめん我らエジプトにありし時は却て善りしと言たればヱホバなんぢらに肉を與へて食しめたまふべし 19汝等がこれを食ふは一日や二日や五日や十日や二十日にはあらずして 20一月におよび遂に汝らの鼻より出るにいたらん汝等これに饜はつべし是なんぢら己等の中にいますヱホバを軽んじてその前に哭き我等何とてエジプトより出しやと言たればなり 21モーセ言けるは我が偕にをる民は歩卒のみにても六十萬あり然るに汝は我かれらに肉を與へて一月の間食しめんと言たまふ 22羊と牛の群を宰るとも彼等を飽しむることを得んや海の魚をことごとく集むるとも彼等を飽しむることを得んや 23ヱホバ、モーセに言たまはくヱホバの手短からんや吾言の成と然らざるとは汝今これを見るあらん 24是に於てモーセ出きたりてヱホバの言を民に告げ民の長老七十人を集めて幕屋の四圍に立しめけるに 25ヱホバ雲の中にありて降りモーセと言ひモーセのうへにある靈をもてその長老七十人にも分ち與へたまひしがその靈かれらの上にやどりしかば彼等預言せり但し此後はかさねて爲ざりき 26時に彼等の中なる二人の者營に止まり居るその一人の名はエルダデといひ一人の名はメダデと曰ふ靈またかれらの上にもやどれり彼らは其名を録されたる者なりしが幕屋に往ざりければ營の中にて預言をなせり 27時に一人の少者奔りきたりモーセに告てエルダデとメダデ營の中にて預言すと言ければ 28その少時よりしてモーセの從者たりしヌンの子ヨシユアこたへて曰けるは吾主モーセこれを禁めたまへ 29モーセこれに言けるは汝わがために媚嫉を起すやヱホバの民の皆預言者とならんことまたヱホバのその靈を之に降したまはんことこそ願しけれ 30斯てモーセ、イスラエルの長老等とともに營に返れり 31茲にヱホバの許より風おこり出て海の方より鶉を吹きたりこれをして營の周圍に堕しめたりその堕ひろがれること營の四周此旁も大約一日路彼旁も大約一日路地の表より高きこと大約二キユビトなりき 32民すなはち起あがりてその日終日その夜終夜またその次の日終日鶉を拾ひ斂めけるが拾ひ斂むることの至て寡き者も十ホメルほど拾ひ斂めたり皆これを營の周圍に陳べおけり 33肉なほ歯のあひだにありていまだ食つくさざるにヱホバ民にむかひて怒を發しこれを撃ておほいに滅ぼしたまへり 34是をもてその處の名をキブロテハッタワ(慾心の墓)とよべり其は慾心をおこせる人々を其處に埋たればなり 35斯て民キブロテハツタワよりハゼロテに進みゆきてハゼロテに居ぬ

第十二章

1モーセはエテオピアの女を娶りたりしがそのエテオピアの女を娶りしをもてミリアムとアロン、モーセを謗れり 2彼等すなはち言けるはヱホバただモーセによりてのみ語りたまはんやまた我等によりても語り給ふにあらずやとヱホバこれを聞たまへり 3(モーセはその人と爲温柔なること世の中の諸の人に勝れり) 4是に於てヱホバ遽にモーセ、アロン及びミリアムに言たまはく汝等三人集會の幕屋に出きたれと三人すなはち出きたりければ 5ヱホバ雲の柱の中にありて降り幕屋の門に立てアロンとミリアムを呼たまひしがかれら二人進みたれば 6之に言たまはく汝等わが言を聽け汝らの中にもし預言者あらば我ヱホバ異象において我をこれに知しめまた夢において之と語らん 7わが僕モーセに於ては然らず彼はわが家に忠義なる者なり 8彼とは我口をもて相語り明かに言ひて隠語を用ひず彼はまたヱホバの形を見るなり然るを汝等なんぞわが僕モーセを謗ることを畏れざるやと 9ヱホバかれらに向ひ忿怒を發して去たまへり 10雲すなはち幕屋をはなれて去ぬその時ミリアムに癩病生じてその身雪のごとく爲りアロン、ミリアムを見かへるに既に癩病生じをる 11アロン是においてモーセに言けるは嗟わが主よ我等愚なる事をなして罪を犯したれど願くは其罪を我等に蒙らしむる勿れ 12彼をして母の胎より肉半分腐れて死て生れいづる者のごとくならしむる勿れ 13モーセすなはちヱホバに呼はりて言ふ嗚呼神よ願くは彼を醫したまへ 14ヱホバ、モーセに言たまひけるは彼の父その面に唾すること事ありてすら彼は七日の間羞をるべきに非ずや然ば七日

の間かれを營の外に禁鎖おきて然る後に歸り入しむべしと 15ミリアムはすなはち七日の間 營の外に禁鎖られぬ民はミリアムの歸り入るまで途に進まざりき 16その後民ハゼロテより進みてバランの曠野に營を張り

第十三章

1茲にヱホバ、モーセに告て言たまはく 2汝 人を遣して我がイスラエルの子孫に與ふるカナンの地を窺はしめよ 即ち支派ごとに一人を取て之を遣すべし其人々は皆かれらの中の牧伯たる者なるべし 3モーセすなはちヱホバの命にしたがひてバランの曠野よりこれを遣せりその人等は皆イスラエルの子孫の領袖たる者なり 4その名は是のごとしルベンの支派にてはザックルの子シヤンマ 5シメオンの支派にてはホリの子シヤパテ 6ユダの支派にてはエフンネの子カルブ 7イッサカルの支派にてはヨセフの子イガル 8エフライムの支派にてはヌンの子ホセア 9ベニヤミンの支派にてはラフの子パルテ 10ゼブルンの支派にてはソデの子ガデエル 11ヨセフの支派すなはちマナセの支派にてはスシの子ガデ 12ダンの支派にではゲマリの子アンミエル 13アセルの支派にてはミカエルの子セトル 14ナフタリの支派にてはワフシの子ナヘビ 15ガドの支派にてはマキの子ギウエル 16是すなはちモーセがその地を窺はしめんとて遣したる人々の名なり時にモーセ、ヌンの子ホセアをヨシユアと名けたり 17モーセかれらを遣はしてカナンの地を窺はしめんとして之に言けるは汝等その南の方に赴きて山に登り 18その地の如何と其處に住む民の強か弱か多か寡かを觀 19またその住ところの地は善か惡か其住ところの邑々は如何なるものなるか彼等は天幕に住をるか城の邑に住をるかを觀 20またその地は腴なるか瘦たるか其中に樹あるや否を觀よ汝等 勇しかれその地の果物を携へきたれよとこの時は葡萄の熟し始むる時なりき 21是において彼等上りゆきてその地を窺ひチンの曠野よりレホブにおよべり是はハマテに近し 22彼等すなはち南の方に上りゆきてヘブロンにいたれり此にはアナクの子アヒマン、セシヤイおよびタルマイあり(ヘブロンはエジプトのゾアンよりも七年前に建たる者なり) 23彼らつひにエシコルの谷にいたり其處より一球の葡萄のなれる枝を砍とりてこれを杠に貫き二人してこれを擔へりまた石榴と無花果を取り 24イスラエルの子孫其處より葡萄一球を砍とりしが故にその處をエシコル(一球の葡萄)の谷と稱ふ 25彼ら四十日を經その地を窺ふことを竟て歸り 26パランの曠野なるカデシに至りてモーセとアロンおよびイスラエルの子孫の全會衆に就きかれらと全會衆にその復命を申しその地の果物をこれに見せり 27彼等すなはちモーセに語りて言ふ我等は汝が遣しし地にいたれり誠に其處は乳と蜜とながる是その果物なり 28然ながらその地に住む民は猛くその邑々は堅固にして甚だ大なり我等またアナクの子孫の其處にをるを見たり 29またアマレキ人その南の地に住みヘテ人エブス人およびアモリ人その山々に住みカナン人その海邊とヨルダンの邊に住をると 30時にカルブ、モーセの前に民を靜めて言けるは我等 直に上りゆきて之を攻取ん我等は必ずこれに勝ことを得ん 31然ど彼とともに往たる人々は言ふ我等はかの民の所に攻上ることを得ず彼らは我らよりも強ければなりと 32彼等すなはちその窺ひたりし地の事をイスラエルの子孫の中に惡く言ふらして云く我等が行巡りて窺ひたる地は其中に住む者を呑ほろぼす地なり且またその中に我等が見し民はみな身幹たかき人なりし 33我等またアナクの子ネピリムを彼處に見たり是ネピリムより出たる者なり我儕は自ら見るに蝗のごとくまた彼らにも然見なされたり

第十四章

1是において會衆みな聲をあげて叫び民その夜哭あかせり 2すなはちイスラエルの子孫みなモーセとアロンに對ひて呟き全會衆かれらに言けるは嗚呼我等はエジプトの國に死たらば善りしものを又はこの曠野に死ば善らんものを 3何とてヱホバ我等をこの地に導きいりて劍に斃れしめんとし我らの妻子をして掠められしめんとするやエジプトに歸ること反て好らずやと 4互に相語り我等一人の長を立てエジプトに歸らんと云り 5是をもてモーセとアロンはイスラエルの子孫の全會衆の前において俯伏たり 6時にかの地を窺ひたりし者の中なるヌンの子ヨシユアとヱフンネの子カルブその衣服を裂き 7イスラエルの子孫の全會衆に語りて言ふ我等が行巡りて窺ひたりし地は甚だ善き地なり 8ヱホバもし我等を悦びたまはば我らをその地に導きいりて之を我等に賜はん是は乳と蜜との流るる地なるぞかし 9唯ヱホバに逆ふ勿れまたその地の民を懼るるなかれ彼等は我等の食物とならん彼等の影となる者は既に去りかつヱホバわれらと共にいますなり

彼等を懼るる勿れ 10然るに會衆みな石をもて之を撃んとせり時にヱホバの榮光集會の幕屋の中よりイスラエルの全體の子孫に顯れたり 11ヱホバすなはちモーセに言たまはく此民は何時まで我を藐視るや我 諸 の休徴をかれらの中間に行ひたるに彼等何時まで我を頼むことを爲ざるや 12我疫病をもてかれらを撃ち滅し汝をして彼等よりも大なる強き民とならしめん 13モーセ、ヱホバに言けるは汝がその權能をもてこの民をエジプトより導き出したまひし事はエジプト人唯これを聞し而已ならず 14また之をこの地に住る民に告たりまた彼等は汝ヱホバがこの民の中に在し汝ヱホバが明かにこれに顯れたまふことを聞きまたその上に汝の雲をりて汝が晝は雲の柱の中にあり夜は火の柱の中にありて之が前に行たまふを聞り 15然ば汝 もしこの民を一人のごとくに殺したまはば汝の名聲を聞る國人等言ん 16ヱホバこの民を導きてその之に誓ひたりし地に至ること能はざるが故に之を曠野に殺せりと 17吾主ねがはくは今 汝の權能を大ならしめて汝の言たまへる如したまへ 18汝 曾 言たまひけらくヱホバは怒ること遲く恩惠深く惡と過とを赦す者また罰すべき者をば必ず赦すことをせず父の罪を子に報いて三四代に及ぼす者と 19願くは汝の大なる恩惠をもち汝がエジプトより今にいたるまでこの民を赦しし如くにこの民の惡を赦したまへ 20ヱホバ言たまはく我汝の言にしたがひて之を赦す 21然ながら我の活るごとくまたヱホバの榮光の全世界に充わたらん如く 22かのわが榮光および我がエジプトと曠野においておこなひし休徴を見ながら斯十度も我を試みて我聲に聽したがはざる人々は 23皆かならず我がその先祖等に誓ひし地を見ざるべしまた我を藐視る人々も之を見ざるべし 24但しわが僕カルブはその心異にして我に全く從ひたれば彼の往たりし地に我かれを導きいらんその子孫これを有つに至るべし 25アマレキ人とカナン人谷にをれば明日汝等身を轉して紅海の路より曠野に退くべし 26ヱホバ、モーセとアロンに告て言たまはく 27我この我にむかひて呟くところの惡き會衆を何時まで赦しおかんや我イスラエルの子孫が我にむかひて呟くところの怨言を聞り 28彼等に言へヱホバ曰ふ我は活く汝等が我耳に言しごとく我汝等になすべし 29汝らの屍はこの曠野に横はらん 即ち汝ら核數られたる二十歳以上の者の中我に對ひて呟ける者は皆ことごとく此に斃るべし 30ヱフンネの子カルブとヌンの子ヨシュアを除くの外汝等は我が汝らを住しめんと手をあげて誓ひたりし地に至ることを得ず 31汝等が掠められんと言たりし汝等の子女等を我導きて入ん彼等は汝らが顧みざるところの地を知に至るべし 32汝らの屍はかならずこの曠野に横はらん 33汝らの子女等は汝らが屍となりて曠野に朽るまで四十年の間 曠野に流蕩て汝らの悖逆の罪にあたらん 34汝らはかの地を窺ふに日數四十日を經たれば其一日を一年として汝等四十年の間その罪を任ひ我が汝らを離たるを知べし 35我ヱホバこれを言り必ずこれをかの集りて我に敵する惡き會衆に盡く行なふべし彼らはこの曠野に朽ち此に死うせん 36モーセに遣されてかの地を窺ひに往き還り來りてその地を謗り全會衆をしてモーセに對ひて呟かしめたる人々 37即ちその地を惡く言なしたるかの人々は罰をうけてヱホバの前に死り 38但しその地を窺ひに往きたる人々の中ヌンの子ヨシユアとヱフンネの子カルブとは生のこれり 39モーセこれらの事をイスラエルの子孫に告ければ民痛く哀み 40朝蚤く起いでて山の嶺に登りて言ふ視よ我儕此にあり率ヱホバの約束したまひし地に上りゆかん我等罪を犯したればなり 41モーセ言けるは汝等なんぞ斯ヱホバの命に背くやこの事成就せざるべし 42汝ら上り行く勿れヱホバ汝らの中にいまさざれば恐くは汝らその敵の前に撃破られん 43アマレキ人とカナン人其處に汝らの前にあれば汝等は劍に斃るるならん汝らヱホバに遵はざりし故にヱホバ汝等と偕に在さざるべしと 44然るに彼等自擅に山の嶺に登れり但しヱホバの契約の櫃およびモーセは營を出ざりき 45斯りしかばその山に住るアマレキ人とカナン人下り來てこれを打敗りホルマまで追いたれり

第十五章

1茲にヱホバ、モーセに告て言たまはく 2イスラエルの子孫に告て之に言へ我が汝等に與へて住しむる地に汝等到り 3ヱホバに火祭を献る時すなはち願を還す時期又は自意の禮物を爲の時期または汝らの節期にあたりて牛あるひは羊をもて燔祭または犠牲を献げてヱホバに馨しき香を奉つる時は 4その禮物をヱホバに献る者もし羔羊をもて燔祭あるひは犠牲となすならば麥粉十分の一に油一ヒンの四分の一を混和たるをその素祭として供へ酒一ヒンの四分の一をその灌祭として供ふべし 5その禮物をヱホバに献る者もし羔羊をもて燔祭あるひは犠牲となすならば麥粉十分の一に油一ヒンの四分の一を混和たるを

その素祭として供へ酒一ヒンの四分の一をその灌祭として供ふべし 6若また牡羊を之に用ふるならば麥粉十分の二に油一ヒンの三分の一を混和たるをその素祭として供へ 7また酒一ヒンの三分の一をその灌祭として献げヱホバに馨しき香をたてまつるべし 8汝また願 還あるひは酬恩祭をヱホバになすに當りて牡牛をもて燔祭あるひは犧牲となすならば 9麥粉十分の三に油一ヒンの半を混和たるを素祭となしてその牡牛とともに献げ 10また酒一ヒンの半をその灌祭として献ぐべし是すなはち火祭にしてヱホバに馨しき香をたてまつる者なり 11牡牛あるひは牡羊あるひは羔羊あるひは羔山羊は一匹ごとに斯爲べきなり 12即ち汝らが献ぐるところの數にてらしその數にしたがひて一匹ごとに斯なすべし 13本國に生れたる者火祭を献げてヱホバに馨しき香をたてまつる時には凡て斯のごとく是等の事を行ふべし 14また汝らの中に寄寓る他國の人あるひは汝らの中に代々住ふところの人火祭をささげてヱホバに馨しき香をたてまつらんとする時は汝らの爲がごとくにその人もなすべきなり 15汝ら會衆および汝らの中に寄寓る他國の人は同一の例にしたがふべし是は汝らが代々永く守るべき例なり他國の人のヱホバの前に侍ることは汝等と異るところ無るべきなり 16汝らと汝らの中に宿寓る他國の人とは同一の法 同一の禮式にしたがふべし 17ヱホバまたモーセに告て言たまはく 18イスラエルの子孫に告てこれに言へ我が汝等を導き往ところの地に汝等いたらん時は 19その地の食物を食ふにあたりて汝ら擧祭をヱホバにささぐべし 20即ち汝らはその麥粉の初をもてパンを作りてこれを擧祭にそなふべし是は禾場より擧祭をそなふるが如くに擧てそなふべきなり 21汝ら代々その麥粉の初をもて擧祭をヱホバにたてまつるべし 22汝等もし誤りてヱホバのモーセに告たまへるこの諸の命令を行はず 23ヱホバがモーセをもて命じたまひし事等並にその命ずることを始めたまひし日より以來汝らの代々にも命じたまはんところの事等を行はざる事有ん時 24すなはち會衆誤りて犯す所ありて之を知ざることあらん時は全會衆少き牡牛一匹を燔祭にささげてヱホバに馨しき香とならしめ之にその素祭と灌祭を禮式のごとくに加へまた牡山羊一匹を罪祭にささぐべし 25而して祭司イスラエルの子孫の全會衆のために贖罪を爲べし斯せば是は赦されん是は過誤なればなり彼等はその禮物として火祭をヱホバにささげまたその過誤のために罪祭をヱホバの前にささぐべし 26然せばイスラエルの子孫の會衆みな赦されんまた彼等の中に寄寓る他國の人も然るべし其は民みな誤り犯せるなればなり 27人もし誤りて罪を犯さば當歳の牝山羊一匹を罪祭に献ぐべし 28祭司はまたその誤りて罪を犯せる人が誤りてヱホバの前に罪を獲たるが爲に贖罪をなしてその罪を贖ふべし然せば是は赦されん 29イスラエルの子孫の國の者にもあれまた其中に寄寓る他國の人にもあれ凡そ誤りて罪を犯す者には汝らその法を同じからしむべし 30本國の人にもあれ他國の人にもあれ凡そ擅横に罪を犯す者は是ヱホバを瀆すなればその人はその民の中より絶るべし 31斯る人はヱホバの言を軽んじその誡命を破るなるが故に必ず絶れその罪を身に承ん 32イスラエルの子孫曠野に居る時安息日に一箇の人の柴を拾ひあつむるを見たり 33是においてその柴を拾ひあつむるを見たる者等これをモーセとアロンおよび會衆の許に曳きたりけるが 34之を如何に爲べきか未だ示諭を蒙らざるが故に之を禁錮おけり 35時にヱホバ、モーセに言たまひけるはその人はかならず殺さるべきなり全會衆營の外にて石をもて之を撃べしと 36全會衆すなはち之を營の外に曳いだし石をもてこれを撃ころしヱホバのモーセに命じたまへるごとくせり 37ヱホバ亦モーセに告て言たまはく 38汝イスラエルの子孫に告げ代々その衣服の裾に纓をつけその裾の纓の上に青き紐をほどこすべしと之に命ぜよ 39此纓は汝らに之を見てヱホバの 諸の誡命を記憶して其をおこなはしめ汝らをしてその放縦にする自己の心と目の欲に從がふこと無らしむるための者なり 40斯して汝等吾もろもろの誡命を記憶して之を行ひ汝らの神の前に聖あるべし 41我は汝らの神ヱホバにして汝らの神とならんとて汝らをエジプトの地より導きいだせし者なり我は汝らの神ヱホバなるぞかし

第十六章

1茲にレビの子コハテの子イヅハルの子なるコラおよびルベンの子等なるエリアブの子ダタンとアビラム並にペレテの子オン等相結び 2イスラエルの子孫の會衆の中に選まれて牧伯となれるところの名ある人々二百五十人とともに起てモーセに逆らふ 3すなはち彼等集りてモーセとアロンに逆ひ之に言けるは汝らはその分を超ゆ會衆みな盡く聖者となりてヱホバその中に在すなるに汝ら尚ヱホバの會衆の上に立つや 4モーセこれを聞て俯伏たり

しが 5やがてコラとその一切の黨類に言けるは明日ヱホバ己の所屬は誰聖者は誰なるかを示して其者を己に近かせたまはん即ちその選びたまへる者を己に近かせたまふべし 6汝等かく爲よコラとその黨類よ汝等みな火盤を取り 7その中に火をいれその中に香を盛て明日ヱホバの前に至れその時ヱホバの選みたまふ人は聖者たるべしレビの人々よ汝等はその分を超るなり 8モーセまたコラに言けるは汝等レビの子等よ請ふ聽け 9イスラエルの神汝らをイスラエルの會衆の中より分ち己に近かせてヱホバの幕屋の役事を爲しめ會衆の前に立て之にかはりて勤務をなさしめたまふ是あに汝らにとりて小き事ならんや 10神すでに汝と汝の兄弟なるレビの兒孫等を己に近かせたまふに汝らまた祭司とならんことをも求むるや 11汝と汝の黨類は皆これがために集りてヱホバに敵するなりアロンを如何なる者として汝等これに對ひて呟くや 12かくてモーセ、エリアブの子ダタンとアビラムを呼に遣はしけるに彼等いひけるは我等は上り往じ 13汝は乳と蜜との流るる地より我らを導き出して曠野に我らを殺さんとす是あに小き事ならんや然るに汝また我等の上に君たらんとす 14且また汝は我らを乳と蜜との流るる地にも導きゆかずまた田畝をも葡萄園をも我らに與へて有たしめず汝この人々の目を抉りとらんとするや我等は上りゆかじ 15是においてモーセおほいに怒りヱホバに申しけるは汝かれらの禮物を顧みたまふ勿れ我はかれらより驢馬一匹をも取しことなくまた彼等を一人も害せしこと無し 16斯てモーセ、コラに言けるは汝と汝の黨類みなアロンと偕に明日ヱホバの前に至れ 17即ち汝らおのおの火盤を執てその中に香を盛り各人その火盤をヱホバの前に携へいたれその火祭は都合二百五十汝とアロンも各々その火盤を携へいたるべしと 18彼等すなはち各々火盤を執り火をその中にいれて香をその上に盛りモーセおよびアロンとともに集會の幕屋の門に立り 19コラ會衆をことごとく集會の幕屋の門に集めおきてかれら二人に敵せしめんとせしにヱホバの榮光全會衆に顯れ 20ヱホバ、モーセとアロンに告て言たまひけるは 21汝等この會衆を離れよ我これを直に滅さんとすと 22是においてかれら二人俯伏て言ふ神よ一切の血肉ある者の生命の神よこの一人の者罪を犯したればとて汝全會衆にむかひて怒を發したまふや 23ヱホバ、モーセに告て言たまはく 24汝會衆にむかひてコラとダタンとアビラムの居所の周圍を去れと言へと 25モーセすなはち起あがりてダタンとアビラムの所に往けるがイスラエルの長老等これに從がひいたれり 26而してモーセ會衆に告て言けるは汝らこの惡き人々の天幕を離れて去れ彼等の物には何にも捫る勿れ恐くは彼らの諸の罪のために汝らも滅ぼされん 27是において人々はコラとダタンとアビラムの居所を離れて四方に去ゆけりまたダタンとアビラムはその妻子ならびに幼兒とともに出てその天幕の門に立り 28モーセやがて言けるは汝等ヱホバがこの諸の事をなさせんとて我を遣したまへる事また我がこれを自分の心にしたがひて行ふにあらざる事を是によりて知べし 29すなはちこの人々もし一般の人の死るごとくに死に一般の人の罰せらるる如くに罰せられなばヱホバわれを遣したまはざるなり 30然どヱホバもし新しき事を爲たまひ地その口を開きてこの人々と之に屬する者を呑つくして生ながら陰府に下らしめなばこの人々はヱホバを瀆ししなりと汝ら知るべし 31モーセこの一切の言をのべ終れる時かれらの下なる土裂け 32地その口を開きてかれらとその家族の者ならびにコラに屬する一切の男等と一切の所有品を呑つくせり 33すなはち彼等とかれらに屬する者はみな生ながら陰府に下りて地その上に閉ふさがりぬ彼等かく會衆の中より滅ぼされたりしが 34その周圍に居たるイスラエル人は皆かれらの叫喊を聞て逃はしり恐くは地われらをも呑つくさんと言り 35且またヱホバの許より火いでてかの香をそなへたる者二百五十人を燒つくせり 36時にヱホバ、モーセに告て言たまはく 37 汝祭司アロンの子エレアザルに告てその燃る火の中より彼の火盤を取いださしめその中の火を遠 方に傾すてよその火盤は聖なりたればなり 38而してその罪を犯して生命を喪へる者等の火盤は之を濶き展版となして祭壇を包むに用ひよ彼等ヱホバの前にそなへしに因て是は聖なりたればなり斯是はイスラエルの子孫に徴と爲べし 39是において祭司エンアザル彼の燒死されし者等が用ひてそなへたる銅の火盤を取いだしければ之を濶く打展し之をもて祭壇を包み 40之をイスラエルの子孫の記念の物と爲り是はアロンの子孫たらざる外人が近りてヱホバの前に香を焚こと無らんため亦かかる人ありてコラとその黨類のごとくにならざらん爲なり是みなヱホバがモーセをもて彼にのたまひし所に依るなり 41その翌日イスラエルの子孫の會衆みなモーセとアロンにむかひて呟き汝等はヱホバの民を殺せりと言り 42會衆集りてモーセとアロン

に敵する時集會の幕屋を望み觀に雲ありてこれを覆ひヱホバの榮光顯れをる 43時にモーセとアロン集會の幕屋の前にいたりけるに 44ヱホバ、モーセに言たまひけるは 45汝らこの會衆をはなれて去れ我直にこれをほろぼさんとすと是において彼等二人は俯伏ぬ 46斯てモーセ、アロンに言けるは汝火盤を執り壇の火を之にいれ香をその上に盛て速かにこれを會衆の中に持ゆき之がために贖罪を爲せ其はヱホバ震怒を發したまひて疫病すでに始りたればなりと 47アロンすなはちモーセの命ぜしごとくに之を執て會衆の中に奔ゆきけるに疫病すでに民の中に始まり居たれば香を焚て民のために贖罪を爲し 48既に死る者と尚生る者との間に立ければ疫病止まれり 49コラの事によりて死たる者の外この疫病に死たる者は一萬四千七百人なりき 50而してアロンはモーセの許にかへり集會の幕屋の門にいたれり疫病は斯やみぬ

第十七章

1ヱホバ、モーセに告て言給はく 2汝イスラエルの子孫に語り之が中よりその各箇の父祖の家にしたがひて杖一本づつを取れ即ちその一切の牧伯等よりその父祖の家に循ひて杖都合十二本を取りその人等の名を各々その杖に書せ 3レビの杖には汝アロンの名を書せ其はその父祖の家の長たる者各箇杖一本を出すべければなり 4而して集會の幕屋の中我が汝等に會ふ處なる律法の櫃の前に汝之を置べし 5我が選める人の杖は芽さん我かくイスラエルの子孫が汝等にむかひて呟くところの怨言をわが前に止むべし 6モーセかくイスラエルの子孫に語りければその牧伯等おのおの杖一本づつを之に付せり即ち牧伯等おのおのその父祖の家にしたがひて一本づつを出したればその杖あはせて十二本アロンの杖もその杖の中にあり 7モーセその杖を皆律法の幕屋の中にてヱホバの前に置り 8斯てその翌日モーセ律法の幕屋にいりて視るにレビの家のために出せるアロンの杖芽をふき蕾をなし花咲て巴旦杏の果を結べり 9モーセその杖をことごとくヱホバの前よりイスラエルの子孫の所に取いだしければ彼ら見ておのおの自分の杖を取り 10時にヱホバまたモーセに言たまはく汝アロンの杖を律法の櫃の前に携へかへり其處にたくはへ置てこの背反者等のために徴とならしめよ斯して汝かれらの怨言を全く取のぞきかれらをして死ざらしむべし 11モーセすなはち然なしヱホバの己に命じたまへる如くせり 12イスラエルの子孫モーセに語りて曰ふ嗚呼我等は死ん我等は滅びん我等はみな滅びん 13凡そヱホバの幕屋に微にても近く者はみな死るなり我等はみな死斷べき歟

第十八章

1斯てヱホバ、アロンに告て言たまはく汝と汝の子等および汝の父祖の家の者は聖所に關れる罪をその身に擔當べしまた汝と汝の子等は汝らがその祭司の職について獲ところの罪をその身に擔當べし 2汝また汝の兄弟たるレビの支派の者すなはち汝の父祖の支派の者等をも率て汝に合せしめ汝に事しむべし但し汝と汝の子等は律法の幕屋の前に侍るべきなり 3彼らは汝の職守と聖所の職守とを守るべし只聖所の器具と壇とに近くべからず恐くは彼等も汝等も死るならん 4彼等は汝に合して集合の幕屋の職守を守り幕屋の諸の役事をなすべきなり外人は汝らに近づく可らず 5斯なんぢらは聖所の職守と祭壇の職守を守るべし然せばヱホバの震怒かさねてイスラエルの子孫に及ぶこと有じ 6視よ我なんぢらの兄弟たるレビ人をイスラエルの子孫の中より取りヱホバのために之を賜物として汝らに賜ふて集會の幕屋の役事を爲しむ 7汝と汝の子等は祭司の職を守りて祭壇の上と障蔽の幕の内の一切の事を執おこなひ斯ともに勤むべし我祭司の職の勤務と賜物として汝らに賜ふ外人の近く者は殺されん 8ヱホバ又アロンに言たまはく我イスラエルの子孫の諸の聖禮物の中我に擧祭とするところの者をもて汝に賜ひて得さす即ち我これを汝と汝の子等にあたへてその分となさしめ是を永く例となす 9斯のごとく至聖禮物の中火にて燒ざる者は汝に歸すべし即ちその我に献る諸の禮物素祭罪祭愆祭等みな至聖くして汝と汝らの子等に歸すべし 10至聖所にて汝これを食ふべし男子等はみなこれを食ふことを得是は汝に歸すべき聖物たるなり 11汝に歸すべき物は是なり即ちイスラエルの子孫の献る擧祭と搖祭の物我これを汝と汝の男子と女子に與へ是を永く例となす汝の家の者の中潔き者はみな之を食ふことを得るなり 12油の嘉者酒の嘉者穀物の嘉者など凡てヱホバに献るその初の物を我なんぢに與ふ 13最初に成る國の産物の中ヱホバに携へたる者は皆なんぢに歸すべし汝の家の者の中潔き者はみな之を食ふことを得るなり 14イスラエルの人の献納る物は皆汝に歸すべし 15凡そ血肉あ

る者の首出子にしてヱホバに献らるる者は人にもあれ畜にもあれ皆なんぢに歸すべし但し人の首出子は必ず贖ふべくまた汚れたる畜獣の首出子も贖ふべきなり 16之を贖ふにはその人の生れて一箇月に至れる後に汝その估價に依り聖 所のシケルに循ひて銀五シケルに之を贖ふべし一シケルはすなはち二十ゲラなり 17然ど牛の首出子 羊の首出子山羊の首出子は贖ふべからず是等は聖しその血を壇の上に灑ぎまたその脂を焚て火祭となしてヱホバに馨しき香をたてまつるべし 18その肉は汝に歸すべし搖る胸と右の腿とおなじく是は汝に歸するなり 19イスラエルの子孫がヱホバに献て擧祭とする所の聖 物はみな我これを汝 と汝の男子女子に與へこれを永く例となす是はヱホバの前において汝と汝の子孫に對する鹽の契約にして變らざる者なり 20ヱホバまたアロンに告たまはく汝はイスラエルの子孫の地の中に產業を有べからずまた彼等の中に何の分をも有べからず彼らの中において我は汝の分 汝の產業たるなり 21またレビの子孫たる者には我イスラエルの中において物の十分の一を與へて之が產業となし其なすところの役事すなはち集 會の幕屋の役事に報ゆ 22イスラエルの子孫はかさねて集 會の幕屋に近づくべからず恐 くは罪を負て死ん 23第レビ人集 會の幕屋の役事をなすべしまた彼らはその罪な自己の身に負べし彼等はイスラエルの子孫の中に產業の地を有ざる事をもてその例となして汝らの世代の子孫の中に永く之を守るべきなり 24イスラエルの子孫が十に一を取り擧祭としてヱホバに献るところの物を我レビ人に與へてその產業となさしむるが故に我かれらにつきて言り彼等はイスラエルの子孫の中に產業の地を得べからずと 25ヱホバ、モーセに告て言たまはく 26汝かくレビ人に告て之に言べし我がイスラエルの子孫より取て汝等に與へて產業となさしむるその什一の物を汝ら之より受る時はその什一の物の十分の一を献てヱホバの擧祭となすべし 27汝等の擧祭の物品は禾場よりたてまつる穀物の如く酒醡の内よりたてまつる酒のごとくに見做れん 28此のごとく汝等もまたイスラエルの子孫より受る一切の什一の物の中よりヱホバに擧祭を献げそのヱホバの擧祭を祭司アロンに與ふべし 29汝らの受る一切の禮 物の中より汝らはその嘉ところ即ちその聖き分を取てヱホバの擧祭を献べし 30汝かく彼等に言べし汝らその中より嘉ところを取て献るに於てはその殘餘の物は汝等レビ人におけること禾場より取る物のごとく酒醡より取る物のごとくならん 31汝等と汝らの眷屬何處にても之を食ふことを得べし是は汝らが集 會の幕屋に於て爲す役事の報酬たればなり 32汝らその嘉ところを献るに於ては之がために罪を負こと有じ汝らはイスラエルの子孫の聖別て献る物を汚すべからず恐くは汝ら死ん

第十九章

1ヱホバ、モーセとアロンに告て言たまはく 2ヱホバが命ずるところの律の例は是のごとし云くイスラエルの子孫に告て赤牝牛の全くして疵なく未だ軛を負しこと有ざる者を汝の許に牽きたらしめ 3汝ら之を祭司エレアザルに交すべし彼はまたこれを營の外に牽いだして自己の眼の前にこれを宰らしむべし 4而して祭司エレアザルこれが血を其指につけ集 會の幕屋の表にむかひてその血を七次灑ぎ 5やがてその牝牛を自己の眼の前に燒しむべしその皮その肉その血およびその糞をみな燒べし 6その時祭司香柏と牛膝草と紅 の絲をとりて之をその燒る牝牛の中に投いるべし 7かくて祭司はその衣服を浣ひ水にてその身を滌ぎて然る後營に入べし祭司の身は晚まで汚るるなり 8また之を燒たる者も水にその衣服を浣ひ水にその身を滌ぐべし彼も晚まで汚るるなり 9斯て身の潔き人一人その牝牛の灰をかき斂めてこれを營の外の清淨 處に蓄へ置べし是イスラエルの子孫の會 衆のために備へおきて汚穢を潔る水を作るべき者にして罪を潔むる物に當るなり 10その牝牛の灰をかき斂めたる者はその衣服を浣ふべしその身は晚まで汚るるなりイスラエルの子孫とその中に寄寓る他國の人とは永くこれを例とすべきなり 11人の死屍に捫る者は七日の間 汚る 12第三日と第七日にこの灰水を以て身を潔むべし然せば潔くならん然ど若し第三日と第七日に身を潔むることを爲ざれば潔くならじ 13凡そ死人の 屍 に捫りて身を潔むることを爲ざる者はヱホバの幕屋を汚すなればイスラエルより斷るべし汚穢を潔むる水をその身に灑ざるによりて潔くならずその汚穢なほ身にあるなり 14天幕に人の死ることある時に應用ふる 律は是なり即ち凡てその天幕に入る者凡てその天幕にある物は七日の間 汚るべし 15凡そ蓋を取はなして蓋はざりし所 の器皿はみな汚る 16凡そ刀劍にて殺されたる者または死屍または人の骨または墓等に野の表にて捫る者はみな七日の間 汚るべし 17汚れたる者ある時はかの罪を潔むる者たる燒る牝牛の灰をとりて器に入れ活 水を之に加ふべ

し 18而して身の潔き人一人牛膝草を執てその水にひたし之をその天幕と諸の器皿および其處に居あはせたる人々に灑ぐべくまたは骨あるひは殺されし者あるひは死たる者あるひは墓などに捫れる者に灑ぐべし 19即ち身の潔き人第三日と第七日にその汚れたる者に之を灑ぐべし而して第七日にはその人みづから身を潔むることを爲しその衣服をあらひ水に身を濯ぐべし然せば晩におよびて潔くなるべし 20然ど汚れて身を潔ることを爲ざる人はヱホバの聖 所を汚すが故にその身は會 衆の中より絶るべし汚穢を潔むる水を身に灑がざるによりてその人は潔くならざるなり 21彼等また永くこれを例とすべし即ち汚穢を潔むる水を人に灑げる者はその衣服を浣ふべしまた汚穢を潔むる水に捫れる者も晩まで汚るべし 22凡て汚れたる人の捫れる者は汚るべしまた之に捫る人も晩まで汚るべし

第二十章

1斯てイスラエルの子孫の全會 衆 正 月におよびてチンの曠野にいたれり而して民みなカデシに止りけるがミリアム其處にて死たれば之を其處に葬りぬ 2當時會 衆水を得ざるによりて相 集りてモーセとアロンに迫れり 3すなはち民モーセと爭ひ言けるは嚮に我らの兄 弟等がヱホバの前に死たる時に我等も死たらば善りしものを 4汝等何とてヱホバの會 衆をこの曠野に導き上りて我等とわれらの家畜を此に死しめんとするや 5汝らなんぞ我らをエジプトより上らしめてこの惡き處に導きいりしや此には種を播べき處なく無花果もなく葡萄もなく石榴も無くまた飲べき水も無し 6是においてモーセとアロンは會 衆の前を去り集 會の幕屋の門にいたりて俯伏けるにヱホバの榮 光かれらに顯れ 7ヱホバ、モーセに告て言たまはく 8汝 杖を執り汝の兄 弟アロンとともに會 衆を集めその眼の前にて汝ら磐に命ぜよ磐その中より水を出さん汝かく磐より水を出して會 衆とその獣畜に飲しむべしと 9モーセすなはちその命ぜられしごとくヱホバの前より杖を取り 10アロンとともに會 衆を磐の前に集めて之に言けるは汝ら背反者等よ聽け我等水をしてこの磐より汝らのために出しめん歟と 11モーセその手を擧げ杖をもて磐を二度撃けるに水多く湧出たれば會 衆とその獣畜ともに飲り 12時にヱホバ、モーセとアロンに言たまひけるは汝等は我を信ぜずしてイスラエルの子孫の目の前に我の聖を顯さざりしによりてこの會 衆をわが之に與へし地に導きいることを得じと 13是をメリバ(爭論)の水とよべりイスラエルの子孫是がためにヱホバにむかひて爭ひたりしかばヱホバつひにその聖ことを顯したまへり 14茲にモーセ、カデシより使者をエドムの王に遣して言けるは汝の兄 弟イスラエルかく言ふ汝はわれらが遭し 諸 の艱難を知る 15そもそも我らの先祖等エジプトに下りゆきて我ら年ひさしくエジプトに住をりしがエジプト人われらと我らの先祖等をなやましたれば 16我らヱホバに籲はりけるにヱホバわれらの聲を聽たまひ一箇の天の使を遣して我らをエジプトより導きいだしたまへり視よ我ら今は汝の邊境の邊端にあるカデシの邑に居るなり 17願くは我らをして汝 の國を通過しめよ我等は田畝をも葡萄園をも通過じまた井の水をも飲じ我らは第王の路を通過り汝の境をいづるまでは右にも左にもまがらじ 18エドム、モーセに言けるは汝 我の中を通過べからず恐くは我いでて劍をもて汝 にむかはん 19イスラエルの子孫エドムに言ふ我らは大道を通過ん若われらと我らの獣畜なんぢの水を飲ことあらばその値を償ふべし我は徒行にて通過のみなれば何事にもあらざるなりと 20然るにエドムは汝 通過べからずといひて許多の群衆を率ゐて出で大なる力をもて之にむかへり 21エドムかくイスラエルにその境の中を通過ことを容さざりければイスラエルは他にむかひて去り 22かくてイスラエルの子孫の會 衆みなカデシより進みてホル山にいたれり 23ヱホバ、エドムの國の境なるホル山にてモーセとアロンに告て言たまはく 24アロンはその死たる民に列らんイスラエルの子孫に我が與へし地に彼は入ことを得ざるべし是メリバの水のある處にて汝等わが言に背きたればなり 25汝アロンとその子エレアザルをひきつれてホル山に登り 26アロンにその衣服を脱せてこれをその子エレアザルに衣せよアロンは其處に死てその民に 列るべしと 27モーセすなはちヱホバの命じたまへるごとく爲し相つれだちて全會 衆の目の前にてホル山に登り 28而してモーセはアロンにその衣服をぬがせて之をその子エレアデルに衣せたりアロンは其處にて山の 嶺 に死り斯てモーセとエレアザル山よりくだりけるが 29會 衆みなアロンの死たるを見て三十日のあひだ哀哭をなせりイスラエルの家みな然せり

第二十一章

1茲に南の方に住るカナン人アラデ王といふ者イスラエル
が間者の道よりして來るといふを聞きイスラエルを攻う
ちてその中の數人を擄にせり 2是においてイスラエル
誓願をヱホバに立て言ふ汝もしこの民をわが手に付した
まはば我その城邑を盡く滅さんと 3ヱホバすなはちイス
ラエルの言を聽いれてカナン人を付したまひければ之と
その城邑をことごとく滅せり是をもてその處の名をホル
マ(殲滅)と呼なしたり 4民はホル山より進みゆき紅海の
途よりしてエドムを繞り通らんとせしがその途のために
民心を苦めたり 5すなはち民神とモーセにむかいて呟き
けるは汝等なんぞ我らをエジプトより導きのぼりて曠野
に死しめんとするや此には食物も無くまた水も無し我等
はこの粗き食物を心に厭ふなりと 6是をもてヱバホ火の
蛇を民の中に遣して民を咬しめたまひければイスラエル
の民の中死る者多かりき 7是によりて民モーセにいたり
て言けるは我らヱホバと汝にむかひて呟きて罪を獲たり
請ふ汝ヱホバに祈りて蛇を我等より取はなさしめよとモ
ーセすなはち民のために祈ければ 8ヱホバ、モーセに言
たまひけるは汝蛇を作りてこれを杆の上に載おくべし凡
て咬れたる者は之を仰ぎ觀なば生べし 9モーセすなはち
銅をもて一條の蛇をつくり之を杆の上に載おけり凡て
蛇に咬れたる者その銅の蛇を仰ぎ觀ば生たり 10イスラ
エルの子孫途に進みてオボテに營を張り 11またオボテよ
り進み往きモアブの東の方に亘るところの曠野において
イヱアバリムに營を張り 12また其處より進みゆきてゼレ
デの谷に營を張り 13其處より進みゆきてアルノンの彼旁
に營を張りアルノンはアモリの境より出て曠野に流るる
者にてモアブとアモリの間にありてモアブの界をなすな
り 14故にヱホバの戰爭の記に言るあり云くスパのワヘ
ブ、アルノンの河 15河の流 即ちアルの邑に落下りモアブ
の界に倚る者と 16かれら其處よりベエル(井)にいたれり
ヱホバがモーセにむかひて汝民を集めよ我これに水を與
へんと言たまひしはこの井なりき 17時にイスラエルこの
歌を歌へり云く井の水よ湧あがれ汝等これがために歌へ
よ 18此井は笏と杖とをもて牧伯等これを掘り民の君長等
之を掘りと斯て曠野よりマツタナにいたり 19マツタナよ
りナハリエルにいたりナハリエルよりバモテにいたり 20
バモテよりモアブの野にある谷に往き曠野に對するピス
ガの嶺にいたれり 21かくてイスラエル使者をアモリ人
の王シホンに遣して言しめけるは 22我をして汝の國を
通過しめよ我等は田畝にも葡萄園にも入じまた井の水を
も飲じ我らは汝の境を出るまでは唯王の道を通りて行ん
のみと 23然るにシホンはイスラエルに自己の境の中を通
る事を容さざりき而してシホンその民をことごとく集め
曠野にいでてイスラエルを攻んとしヤハヅに來りてイス
ラエルと戰ひけるが 24イスラエル刃をもて之を撃やぶり
その地をアルノンよりヤボクまで奪ひ取りアンモンの
子孫にまで至れりアンモンの子孫の境界は堅固なりき 25
イスラエルかくその城邑を盡く取り而してイスラエル
はアモリ人の諸の城邑に住みヘシボンとそれに附る諸の
村々に居る 26ヘシボンはアモリ人の王シホンの都城なり
シホンは曾てモアブの前の王と戰ひてかれの地をアルノ
ンまで盡くその手より奪ひ取しなり 27故に歌をもて云
るあり曰く汝らヘシボンに來れシホンの城邑を築き建よ
28ヘシボンより火出でシホンの都城より焔いでてモアブ
のアルを焚つくしアルノンの邊の高處を占る君王等を滅
ぼせり 29モアブよ汝は禍なる哉ケモシの民よ汝は滅ぼ
さるその男子は逃奔りその女子はアモリ人の王シホンに
擄らるるなり 30我等は彼らを撃たふしヘシボンを滅ぼし
てデボンに及び之を荒してまたノパに及びメデバにいた
る 31斯イスラエルの子孫はアモリ人の地に住たりしが 32
モーセまた人を遣はしてヤゼルを窺はしめ遂にその村々
を取て其處にをりしアモリ人を逐出し 33轉てバシヤンの
路に上り往きけるにバシヤンの王オグその民を盡く率
ゐて出で之を迎へてエデレイに戰はんとす 34ヱホバ、モ
ーセに言たまひけるは彼を懼るる勿れ我かれとその民と
その地を盡く汝の手に付す汝ヘシボンに住をりしアモ
リ人の王シホンに爲たるごとくに彼にも爲べしと 35是に
おいて彼とその子とその民をことごとく撃ころし一人も
生存る者なきに至らしめて之が地を奪ひたり

第二十二章

1かくてイスラエルの子孫また途に進みてモアブの平野
に營を張り此はヨルダンの此旁にしてエリコに對ふ 2チ
ッポルの子バラクはイスラエルが凡てアモリ人に爲たる
所を見たり 3是においてモアブ人大いにイスラエルの民
を懼る是その數多きに因てなりモアブ人かくイスラエル
の子孫のために心をなやましたれば 4すなはちミデアン
の長老等に言ふこの群衆は牛が野の草を餂食ふごとくに
我等の四圍の物をことごとく餂食はんとすとこの時には

チッポルの子バラク、モアブ人の王たり 5彼すなはち使者をペトルに遣してベオルの子バラムを招かしめんとすペトルはバラムの本國にありて河の邊に立りその之を招かしむる言に云く茲にエジプトより出來し民あり地の面を蓋ふて我の前にをる 6然ば請ふ汝 今來りて我ために この民を詛へ彼等は我よりも強ければなり然せば我これを擊やぶりて我國よりこれを逐はらふを得ることもあらん其は汝が祝する者は福徳を得 汝が詛ふ者は 禍 を受くと我しればなりと 7モアブの長老等とミデアンの長老等すなはち占卜の禮物を手にとりて出たちバラムにいたりてバラクの言をこれに告たれば 8バラムかれらに言ふ今晩は此に宿れヱホバの我に告るところに循ひて汝らに返答をなすべしと是をもてモアブの牧伯等バラムの許に居る 9時に神バラムに臨みて言たまはく汝の許にをる此人々は何者なるや 10バラム神に言けるはモアブの王チッポルの子バラク我に言つかはしけらく 11茲にエジプトより出きたりし民ありて地の面を蓋ふ請ふ今來りてわがために之を詛へ然せば我これに戰ひ勝てこれを逐はらふを得ることもあらんと 12神バラムに言たまひけるは汝かれらとともに往べからず亦この民を詛ふべからず是は祝福るる者たるなり 13是においてバラム朝起てバラクの牧伯等に言けるは汝ら國に歸れよヱホバ我が汝らとともに往く事をゆるさざるなりと 14モアブの牧伯たちすなはち起あがりてバラクの許にいたりバラムは我らとともに來ることを肯ぜずと告たれば 15バラクまた前の者よりも尊き牧伯等を前よりも多く遣せり 16彼らバラムに詣りて之に言けるはチッポルの子バラクかく言ふ願くは汝 何の障碍をも顧みずして我に來れ 17我 汝をして甚だ大なる尊榮を得させん汝が我に言ところは凡て我これを爲べし然ば願くは來りて我ためにこの民を詛へ 18バラム答へてバラクの臣僕等に言けるは假令バラクその家に盈るほどの金銀を我に與ふるとも我は事の大小を諭ずわが神ヱホバの言を踰ては何をも爲ことを得ず 19然ば請ふ汝らも今晩此に宿り我をしてヱホバの再び我に何と言たまふかを知しめよと 20夜にいりて神バラムにのぞみて之に言たまひけるはこの人々 汝を招きに來りたれば起あがりて之とともに往け但し汝は我が汝につぐる言のみを行ふべし 21バラム翌朝起あがりてその驢馬に鞍おきてモアブの牧伯等とともに往り 22然るにヱホバかれの往たるに縁て怒 を發したまひければヱホバの使者かれに敵せんとて途に立り彼は驢馬に乘その僕 二人はこれとともに在しが 23驢馬ヱホバの使者が劍を手に抜持て途に立るを見驢馬途より身を轉して田圃に入ければバラム驢馬を打て途にかへさんとせしに 24ヱホバの使者また葡萄園の途に立り其處には此旁にも石垣あり彼旁にも石垣あり 25驢馬ヱホバの使者を見石垣に貼依てバラムの足を石垣に貼依たればバラムまた之を打り 26然るにヱホバの使者また進みよりて狹き處に立けるが其處には右にも左にもまがる道あらざりしかば 27驢馬ヱホバの使者を見てバラムの下に臥たり是においてバラム怒を發し杖をもて驢馬を打けるに 28ヱホバ驢馬の口を啓きたまひたれば驢馬バラムにむかひて言ふ我なんぢに何を爲せばぞ汝かく三次我を打や 29バラム驢馬に言ふ汝われを侮るが故なり我手に劍あらば今 汝を殺さんものを 30驢馬またバラムに言けるは我は汝 の所有となりてより今日にいたるまで汝が常に乘ところの驢馬ならずや我つねに斯のごとく汝になしたるやとバラムこたへて否と言ふ 31時にヱホバ、バラムの目を啓きたまひければ彼ヱホバの使者の途に立て劍を手に抜持るを見身を鞠めて俯伏たるに 32ヱホバの使者これに言ふ汝 なにとて斯三度なんぢの驢馬を打や我 汝の道の直に滅亡にいたる者なるを見て汝に敵せんとて出きたれり 33驢馬はわれを見て斯みたび身を轉して我を避たるなり是もし身を轉らして我を避ずば我すでに汝を殺して是を生しおきしならん 34バラム、ヱホバの使者に言けるは我罪を獲たり我は汝が我に敵せんとて途に立るを知ざりしなり汝もし之を惡しとせば我は歸るべし 35ヱホバの使者バラムに言けるはこの人々とともに往け但し汝は我が汝に告る言詞のみを宣べしとバラムすなはちバラクの牧伯等とともに往り 36さてまたバラクはバラムの來るを聞てモアブの境の極處に流るるアルノンの旁の邑まで出ゆきて之を迎ふ 37バラクすなはちバラムに言けるは我ことさらに人を遣はして汝を招きしにあらずや汝なにゆゑ我許に來らざりしや我あに汝に尊榮を得さすることを得ざらんや 38バラム、バラクに言けるは視よ我つひに汝の許に來れり然ど今は我何事をも自ら言を得んや我はただ神の我口に授る言語を宣んのみと 39斯てバラムはバラクとともに往てキリアテホゾテに至りしが 40バラク牛と羊を宰りてバラムおよび之と偕なる牧伯等に餽れり 41而してその翌朝にいたりバラクはバラムを件ひこれを携へてバアルの崇 邱に登イスラエルの民の極端を望ましむ

第二十三章

1バラム、バラクに言けるは我ために此に七個の壇を築き此に七匹の牡牛と七匹の牡羊を備へよと 2バラクすなはちバラムの言るごとく爲しバラクとバラムその壇ごとに牡牛一匹と牡羊一匹を献げたり 3而してバラムはバラクにむかひ汝は燔祭の 傍 に立をれ我は往んとすヱホバあるひは我に來りのぞみたまはんその我に示したまふところの事は凡てこれを汝に告んと言て一の高處に登たるに 4神バラムに臨みたまひければバラムこれに言けるは我は七箇の壇を設けその壇ごとに牡牛一匹と牡羊一匹を献げたりと 5ヱホバ、バラムの口に言を授けて言たまはく汝バラクの許に歸りて斯いふべしと 6彼すなはちバラクの許に至るにバラクはモアブの諸の牧伯等とともに燔祭の 傍 に立をる 7バラムすなはちこの歌をのべて云くモアブの王バラク、スリアより我を招き寄せ東の邦の山より我を招き寄て云ふ來りて我ためにヤコブを詛へ來りてわがためにイスラエルを呪れと 8神の詛はざる者を我いかで詛ふことを得んやヱホバの呪らざる者を我いかで呪ることを得んや 9磐の 頂 より我これを觀岡の上より我これを望むこの民は獨り離れて居ん萬の民の中に列ぶことなからん 10誰かヤコブの塵を計へ得んやイスラエルの四分 一を數ふることを能せんや願くは義 人のごとくに我死ん願くはわが終これが終にひとしかれ 11是においてバラク、バラムに言けるは汝 我に何を爲や我はわが敵を詛はしめんとて汝を携きたりしなるに汝はかへつて全くこれを祝せり 12バラムこたへて言けるは我は愼みてヱホバの我口に授る事のみを宣べきにあらずや 13バラクこれに言けるは請ふ汝われとともに他の處に來りて其處より彼らを觀よ汝ただ彼らの極端のみを觀ん彼らを全くは觀ることを得ざるべし請ふ其處にて我ために彼らを詛へと 14やがて之を導きてピスガの 嶺 なる斥候の原に至り七箇の壇を築きて壇ごとに牡牛一匹と牡羊一匹を献たり 15時にバラム、バラクに言けるは汝 此にて燔祭の 傍 に立をれ我またも往て會見ゆることをせんと 16ヱホバまたバラムに臨みて言をその口に授け汝バラクの許に歸りてかく言へとのたまひければ 17彼バラクの許にかへりけるにバラクは燔祭の 傍 に立をりモアブの牧伯等これとともに居りしがバラクすなはちバラムにむかひヱホバ何と言しやと問ければ 18バラムまたこの歌を宣たり云くバラクよ起て聽けチッポルの子よ我に耳を傾けよ 19神は人のごとく謊ること无しまた人の子のごとく悔ること有ずその言ところは之を行はざらんやその語るところは之を成就ざらんや 20我はこれがために福祉をいのれとの命令を受く既に之に福祉をたまへば我これを變るあたはざるなり 21ヱホバ、ヤコブの中に惡き事あるを見ずイスラエルの中に憂患あるを見ずその神ヱホバこれとともに在し王を 喜びて呼はる聲その中にあり 22神かれらをエジプトより 導き出したまふイスラエルは強きこと兕のごとし 23ヤコブには魔術なしイスラエルには占卜あらず神はその爲ところをその時にヤコブに告げイスラエルにしめしたまふなり 24觀よこの民は牝獅子のごとくに起あがり牡獅子のごとくに身を興さん是はその攫 得たる物を食ひその殺しし物の血を飲では臥ことを爲じ 25是においてバラクはバラムに向ひ汝かれらを詛ふことをも祝することをも爲なかれと言けるに 26バラムこたへてバラクに言ふ我はヱホバの宣まふ事は凡てこれを爲ざるを得ずと汝に告おきしにあらずやと 27バラクまたバラムに言けるは請ふ來れ我なんぢを他の處に導き往ん神あるひは汝が其處より彼らを我ために詛ふことを善とせんと 28バラクすなはちバラムを導きて曠野に對するペオルの 嶺 に至るに 29バラム、バラクに言けるは我ために七箇の壇を此に築き牡牛七匹牡羊七匹を此に備へよと 30バラクすなはちバラムの言るごとく爲しその壇ごとに牡牛一匹と牡羊一匹を献たり

第二十四章

1バラムはイスラエルを祝することのヱホバの心に適ふを視たれば此度は前の時のごとくに往て法 術を求むる事を爲ずその面を曠野に向て居り 2バラム目を擧てイスラエルのその支派にしたがひて居るを觀たり時に神の靈かれに臨みければ 3彼すなはちこの歌をのべて云くベオルの子バラム言ふ目の啓きたる人言ふ 4神の言詞を聞し者能はざる無き者をまぼろしに觀し者倒れ臥て其目の啓けたる者言ふ 5ヤコブよ汝の天幕は美しき哉イスラエルよ汝 の住所は美しき哉 6是は谷々のごとくに布列ね河邊の園のごとくヱホバの栽し沈香樹のごとく水の邊の香柏のごとし 7その桶よりは水溢れんその種は水の邊に發育んその王はアガグよりも高くなりその國は振ひ興らん 8神これをエジプトより導き出せり是は強きこと兕のごとくその敵なる國々の民を呑つくしその骨を摧き矢をもて之を衝とほさん 9是は牡獅子のごとくに身をかがめ牝獅子

のごとくに臥す誰か敢てこれを起さんやなんぢを祝するものは福祉を得なんぢをのろふものは災禍をかうむるべし 10ここにおいてバラクはバラムにむかひて怒を發しその手を拍ならせり而してバラク、バラムにいひけるは我はなんぢをしてわが敵を詛はしめんとてなんぢを招きたるに汝は却て斯三度までも彼らを大に祝したり 11然ば汝今汝の處に奔り往け我は汝に大なる尊榮を得させんと思ひたれどヱホバ汝を阻めて尊榮を得るに至らざらしむ 12バラム、バラクに言けるは我は汝が我に遣しし使者等に告て言ざりしや 13假令バラクその家に盈るほどの金銀を我に與ふるとも我はヱホバの言を踰て自己の心のままに善も惡きも爲ことを得ず我はヱホバの宣まふ事のみを言べしと 14今われは吾民にかへる然ば來れ我この民が後の日に汝の民に爲んところの事を汝に告しらせんと 15すなはちこの歌をのべて云くベオルの子バラム言ふ目の啓きたる人言ふ 16神の言を聞るあり至高者を知の知識あり能はざる無き者をまぼろしに觀倒れ臥て其目の啓けたる者言ふ 17我これを見ん然ど今にあらず我これを望まん然ど近くはあらずヤコブより一箇の星いでんイスラエルより一條の杖おこりモアブを此旁より彼旁に至まで擊破りまた鼓譟者どもを盡く滅すべし 18其敵なるエドムは是が產業となりセイルは之が產業とならんイスラエルは盛になるべし 19權を秉る者ヤコブより出で遺れる者等を城より滅し絶ん 20バラム又アマレクを望みこの歌をのべて云くアマレクは國々の中の最初なる者なり其終には滅び絶るに至らん 21亦ケニ人を望みこの歌をのべて云く汝の住所は堅固なり汝は磐に巢をつくる 22然どカインは亡て終にアッスリアの爲に擄へ移されん 23彼亦この歌をのべて云く嗟神これを爲たまはん時は誰か生ることを得ん 24キッテムの方より船來てアッスリアを攻なやましエベルを攻なやますべし而して是もまた終に亡失ん 25斯てバラムは起あがりて自己の處に歸り往きぬバラクも亦去ゆけり

第二十五章

1イスラエルはシッテムに止まり居けるがその民モアブの婦女等と婬をおこなふことを始めたり 2その婦女等其神々に犧牲を獻る時に民を招けば民は往て食ふことを爲しかつその神々を拝めり 3イスラエルかくバアルベオルに附ければイスラエルにむかひてヱホバ怒を發したまへり 4ヱホバすなはちモーセに告て言たまはく民の首をことごとく携きたりヱホバのためにかの者等を日に曝せ然せばヱホバの烈しき怒イスラエルを離るるあらんと 5是においてモーセ、イスラエルの士師等にむかひ汝らおのおのその配下の人々のバアルベオルに附る者を殺せと言り 6モーセとイスラエルの子孫の全會衆集合の幕屋の門にて哭をる時一箇のイスラエル人ミデアンの婦人一箇を携きたり彼らの目の前にてその兄弟等の中に至れり 7祭司アロンの子なるエレアザルの子ピネハスこれを見會衆の中より起あがりて槍を手に執り 8そのイスラエルの人の後を追て之が寢室に入りイスラエルの人を衝きまたその婦女の腹を衝とほして二人を殺せり是において疫病のイスラエルの子孫におよぶこと止れり 9その疫病にて死たる者は二萬四千人なりき 10ヱホバ、モーセに告て言たまはく 11祭司アロンの子なるエレアザルの子ピネハスはわが熱心をイスラエルの子孫の中にあらはして吾怒をその中より取去り我として熱心をもてイスラエルの子孫を滅し盡すにいたらざらしめたり 12故に汝言へ我これに平和のわが契約をさづく 13即ち彼とその後の子孫永く祭司の職を得べし是は彼その神のために熱心にしてイスラエルの子孫のために贖をなしたればなり 14その殺されしイスラエル人すなはちミデアンの婦人とともに殺されし者はその名をジムリと言てサルの子にしてシメオン人の宗族の牧伯の一人なり 15またその殺されしミデアンの婦人は名をコズビと曰てツルの女子なりツルはミデアンの民の宗族の首なり 16ヱホバ、モーセに告て言たまはく 17ミデアン人に逼りてこれを擊て 18其は彼ら謀計をもて汝に逼りペオルの事とその姉妹なるミデアンの牧伯の女すなはちペオルのために疫病の起れる日に殺されしコズビの事において汝らを惑したればなり

第二十六章

1疫病の後ヱホバ、モーセと祭司アロンの子エレアザルに告て言たまはく 2イスラエルの全會衆の總數をその父祖の家にしたがひて核べイスラエルの中凡そ二十歳以上にして戰爭に出るに勝る者を數へよと 3モーセ及び祭司エレアザルすなはちヱリコに對してヨルダンの邊にあるモアブの平野に於てかれらに告て言けるは 4エジプトの地より出きたれるモーセとイスラエルの子孫にヱホバの命じ給へる如く汝ら其中の二十歳以上の者を計へよ

5イスラエルの長子はルベン、ルベンの子孫はヘノクよりヘノク人の族出でパルよりパル人の族出で 6ヘヅロンよりヘヅロン人の族出でカルミよりカルミ人の族出づ 7ルベンの宗族は是のごとくにしてその核數られし者は四萬三千七百三千人 8またパルの子はエリアブ 9エリアブの子はネムエル、ダタン、アビラムこのダタンとアビラムは會衆の中に名ある者にてコラの黨類とともにモーセとアロンに逆ひてヱホバに悖りし事ありしが 10地その口を開きて彼らとコラとを呑みその黨類二百五十人は火に燒れて死うせ人の鑑戒となれり 11但しコラの子等は死ざりき 12シメオンの子孫はその宗族に依ば左のごとしネムエルよりはネムエル人の族出でヤミンよりはヤミン人の族出でヤキンよりはヤキン人の族出で 13ゼラよりはゼラ人の族出でシヤウルよりはシヤウル人の族出づ 14シメオン人の宗族は是の如くにして其數られし者は二萬二千二百人 15ガドの子孫は其宗族に依ば左の如しゼポンよりはゼポン人の族出でハギよりはハギ人の族出でシユニよりはシユニ人の族出で 16オズニよりはオズニ人の族出でエリよりはエリ人の族出で 17アロドよりはアロド人の族出でアレリよりはアレリ人の族出づ 18ガドの宗族は是のごとくにしてその核數られし者は四萬五百人 19ユダの子等はエルとオナン、エルとオナンはカナンの地に死たり 20ユダの子孫はその宗族によれば左のごとしシラよりはシラ人の族出でペレヅよりはペレヅ人の族出でゼラよりはゼラ人の族出づ 21ペレヅの子孫は左のごとしヘヅロンよりはヘヅロン人の族出でハムルよりけハムル人の族出づ 22ユダの宗族は是のごとくにしてその核數られし者は七萬六千五百人 23イツサカルの子孫はその宗族によれば左のごとしトラよりはトラ人の族出でプワよりはプワ人の族出で 24ヤシユブよりはヤシユブ人の族出でシムロンよりはシムロン人の族出づ 25イッサカルの宗族は是のごとくにしてその數へられし者は六萬四千三百人 26ゼブルンの子孫はその宗族によれば左の如しセレデよりはセレデ人の族出でエロンよりはエロン人の族出でヤリエルよりはヤリエル人の族出づ 27ゼブルン人の宗族は是のごとくにしてその核數られし者は六萬五百人 28ヨセフの子等はその宗族に依ばマナセとエフライム 29マナセの子等の中マキルよりマキル人の族出づマキル、ギレアデを生りギレアデよりギレアデ人の族出づ 30ギレアデの子孫は左のごとしイエゼルよりはイエゼル人の族出でヘレクよりはヘレク人の族出で 31アスリエルよりはアスリエル人の族出でシケムよりはシケム人の族出で 32セミダよりはセミダ人の族出でヘペルよりはヘペル人の族出づ 33ヘペルの子ゼロペハデには男子なく惟女子ありしのみその名はマアラ、ノア、ホグラ、ミルカ、テルザと曰ふ 34マナセの宗族は是のごとくにしてその核數られし者は五萬二千七百人 35エフライムの子孫はその宗族によれば左のごとしシユテラよりはシユテラ人の宗族出でベケルよりはベケル人の族出でタハンよりはタハン人の族出づ 36シユテラの子孫は左のごとしエランよりエラン人の族出づ 37エフライムの子孫の宗族は是のごとくにしてその核數られし者は三萬二千五百人ヨセフの子孫はその宗族に依ば是のごとし 38ベニヤミンの子孫はその宗族によれば左のごとしベラよりはベラ人の族出でアシベルよりはアシベル人の族出でアヒラムよりはアヒラム人の族出で 39シユパムよりはシユパム人の族出でホパムよりはホパム人の族出づ 40ベラの子等はアルデとナアマン、アルデよりはアルデ人の族出でナアマンよりはナアマン人の族出づ 41ベニヤミンの子孫はその宗族に依ば是のごとくにしてその核數られし者は四萬五千六百人 42ダンの子孫はその宗族に依ば左のごとしシユハムよりシユハム人の族出づダンの宗族はその宗族によれば是の如し 43シユハム人の諸の族の中核數られし者は六萬四千四百人 44アセルの子孫はその宗族によれば左のごとしヱムナよりはヱムナ人の族出でヱスイよりはヱスイ人の族出でベリアよりはベリア人の族出づ 45ベリアの子孫の中ヘベルよりはヘベル人の族出でマルキエルよりはマルキエル人の族出づ 46アセルの女子の名はサラと曰ふ 47アセルの子孫の宗族は是のごとくにしてその核數られし者五萬三千四百人 48ナフタリの子孫はその宗族によれば左のごとしヤジエルよりヤジエル人の族出でグニよりグニ人の族出で 49ヱゼルよりヱゼル人の族出でシレムよりシレム人の族出づ 50ナフタリの宗族はその宗族によればかくのごとくにしてその核數られしものは四萬五千四百人 51すなはちイスラエルの子孫の核數られし者は六十萬一千七百三十人なりき 52ヱホバ、モーセに告て言たまはく 53この人々にその名の數にしたがひて地を分ち與へてこれが產業となさしむべし 54人衆には汝多くの產業を與へ人寡には少の產業を與ふべし即ちその核數られし數にしたがひておのおの產業を受べきなり 55但しその地は鬮

をもて之を分ちその父祖の支派の名にしたがひて之を獲べし 56即ち鬮をもてその産業を人衆き者と寡き者とに分つべきなり 57レビ人のその宗族にしたがひて數へられし者は左のごとしゲルションよりはゲルション人の族出でコハテよりはコハテ人の族出でメラリよりはメラリ人の族出づ 58レビの族は左のごとしリブニ人の族ヘブロン人の族マヘリ人の族ムシ人の族コラ人の族コハテ、アムラムを生り 59アムラムの妻の名はヨケベデといひてレビの女子なり是はエジプトにてレビに生れし者なりしがアムラムにそひてアロンとモーセおよびその姉妹ミリアムを生り 60アロンにはナダブ、アビウ、エレアザルおよびイタマル生る 61ナダブとアビウは異火をヱホバの前にささげし時死り 62その核數られし一箇月以上の男子は都合二萬三千人レビ人はイスラエルの子孫の中に産業を與へられざるが故にイスラエルの子孫の中に核數られざるなり 63是すなはちモーセと祭司エレアザルがヨルダンの邊なるヱリコに對するモアブの平野にて數へたるイスラエルの子孫の數なり 64但しその中にはモーセとアロンがシナイの曠野においてイスラエルの子孫をかぞへし時に數へたる者は一人もあらざりき 65其はヱホバ曾て彼らの事を宣て是はかならず曠野に死んといひたまひたればなり是をもてヱフンネの子カルブとヌンの子ヨシュアの外は一人も遺れる者あらざりき

第二十七章

1茲にヨセフの子マナセの族の中なるヘペルの子ゼロペハデの女子等きたれりヘペルはギレアデの子ギレアデはマキルの子マキルはマナセの子なりその女子等の名はマアラ、ノア、ホグラ、ミルカ、テルザといふ 2彼ら集會の幕屋の門にてモーセと祭司エレアザルと牧伯等と全會衆の前に立ち言けるは 3我等の父は曠野に死り彼はかのコラに與して集りてヱホバに逆ひし者等の中に加はらず自己の罪に死り然るに男子なし 4我らの父の名なんぞその男子あらざるがためにその族の中より削らるることある可んや我らの父の兄弟の中において我らにも産業を與へよと 5モーセすなはちその事をヱホバの前に陳けるに 6ヱホバ、モーセに告て言たまはく 7ゼロペハデの女子等の言ところは道理なり汝かならず彼らの父の兄弟の中において彼らに産業を與へて獲さすべし即ちその父の産業をこれに歸せしむべし 8汝イスラエルの子孫に告て言べし人もし男子なくして死ばその産業をこれが女子に歸せしむべし 9もしまた女子もあらざる時はその産業をその兄弟に與ふべし 10もし兄弟あらざる時はその産業をその父の兄弟に與ふべし 11もしまたその父に兄弟あらざる時はその親戚の最も近き者にその産業を與へて獲さすべしヱホバのモーセに命ぜしごとくイスラエルの子孫は永く之をもて律法の例とすべし 12茲にヱホバ、モーセに言たまはく汝このアバリム山にのぼり我イスラエルの子孫に與へし地を觀よ 13汝これを觀なばアロンの既に加はりしごとく汝もその民に加はるべし 14是チンの曠野において會衆の爭論をなせる砌に汝らわが命に悖りかの水の側にて我の聖き事をかれらの目のまへに顯すことを爲ざりしが故なり是すなはちチンの曠野のカデシにあるメリバの水なり 15モーセ、ヱホバに申して言けるは 16ヱホバ一切の血肉ある者の生命の神よ願くはこの會衆の上に一人を立て 17之をして彼等の前に出かれらの前に入り彼らを導き出し彼らを導き入る者とならしめヱホバの會衆をして牧者なき羊のごとくならざらしめたまへ 18ヱホバ、モーセに言たまはくヌンの子ヨシユアといふ霊のやどれる人を取り汝の手をその上に按き 19これを祭司エレアザルと全會衆の前に立せて彼らの前にて之に命ずる事をなすべし 20汝これに自己の尊榮を分ち與へイスラエルの子孫の全會衆をしてこれに順がはしむべし 21彼は祭司エレアザルの前に立べしエレアザルはウリムをもて彼のためにヱホバの前に問ことを爲べしヨシユアとイスラエルの子孫すなはちその全會衆はエレアザルの言にしたがひて出でエレアザルの言にしたがひて入べし 22是においてモーセはヱホバの己に命じたまへるごとく爲しヨシユアを取て之を祭司エレアザルと全會衆の前に立せ 23その手をこれが上に按き之に命ずることを爲しヱホバのモーセをもて命じたまへる如くなせり

第二十八章

1ヱホバ、モーセに告て言たまはく 2イスラエルの子孫に命じて之に言へわが禮物わが食物なる火祭わが馨香の物は汝らこれをその期にいたりて我に献ぐることを怠るべからず 3汝かれらに言べし汝らがヱホバに献ぐる火祭は是なり即ち當歲の全き羔羊二匹を日々に献げて常燔祭となすべし 4即ち一匹の羔羊を朝に献げ一匹の羔羊を夕に献ぐべし 5また麥粉一エパの十分の一に搗て

取たる油一ヒンの四分の一を混和て素祭となすべし 6是すなはちシナイ山において定めたる常 燔祭にしてヱホバに馨しき香としてたてまつる火祭なり 7またその灌 祭は羔羊一匹に一ヒンの四分の一を用ふべし即ち聖 所において濃酒をヱホバのために灌ぎて灌 祭となすべし 8夕にはまた今 一の羔羊を献ぐべしその素祭と灌 祭とは朝のごとくになし之を献げて火祭となしてヱホバに馨しき 香をたてまつるべし 9また安息日には當歳の羔羊の全き者二匹と麥粉十分の二に油をまじへたるその素祭とその灌 祭を献ぐべし 10是すなはち安息日ごとの燔祭にして常 燔祭とその灌 祭の外なる者なり 11また汝ら月々の朔日には燔祭をヱホバに献ぐべし即ち少き牡牛二匹牡羊一匹當歳の羔羊の全き者七匹を献げ 12牡牛一匹には麥粉十分の三に油を和たるをもてその素祭となし牡羊一匹には麥粉十分の二に油をまじへたるをもてその素祭となし 13羔羊一匹には麥粉十分の一に油を混和たるをもてその素祭となし之を馨しき香の燔祭としてヱホバに火祭をたてまつるべし 14またその灌 祭は牡牛一匹に酒一ヒンの半牡羊一匹に一ヒンの三分の一羔羊一匹に一ヒンの四分の一を用ふべし是すなはち年の月々の中月ごとに献ぐべき燔祭なり 15また常 燔祭とその灌 祭の外に牡山羊一匹を罪祭としてヱホバに献ぐべし 16正 月の十四日はヱホバの逾 越 節なり 17またその月の十五日は節 日なり七日の間 酵いれぬパンを食ふべし 18その首の日には聖 會をひらくべし汝等何の職 業をも爲べからず 19汝ら火祭を献げてヱホバに燔祭たらしむるには少き牡牛二匹牡羊一匹當歳の羔羊七匹をもてすべし是等は皆 全き者なるべし 20その素祭には麥粉に油を和たるを用べし即ち牡牛一匹には麥粉十分の三を献げ牡羊一匹には十分の二を献げ 21また羔羊は七匹ともその羔羊一匹ごとに十分の一を献ぐべし 22また牡山羊一匹を罪祭に献げて汝らのために贖罪をなすべし 23朝に献ぐる常 燔祭なる燔祭の外に汝ら是らを献ぐべし 24是のごとく汝ら七日の間 日ごとに火祭の食物を献げてヱホバに馨しき香をたてまつるべし是は常 燔祭とその灌 祭の外に献ぐべき者なり 25而して第七日には汝ら聖 會を開くべし何の職 業をも爲べからず 26七七日の後すなはち汝らが新しき素祭をヱホバに 携へきたる初穂の日にも汝ら聖 會を開くべし何の職 業をも爲べからず 27汝ら燔祭を献げてヱホバに馨しき香をたてまつるべし即ち少き牡牛二匹牡羊一匹當歳の羔羊七匹を献ぐべし 28その素祭には麥粉に油を混和たるを用ふべし即ち牡牛一匹に十分の三牡羊一匹に十分の二を用ひ 29また羔羊には七匹ともに羔羊一匹に十分の一を用ふべし 30また牡山羊一匹をささげて汝らのために贖罪をなすべし 31汝ら常 燔祭とその素祭とその灌 祭の外に是等を献ぐべし是みな全き者なるべし

第二十九章

1七月にいたりその月の朔日に汝ら聖 會を開くべし何の職 業をも爲べからず是は汝らが喇叭を吹べき日なり 2汝ら燔祭をささげてヱホバに馨しき香をたてまつるべし即ち少き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊の全き者七匹を献ぐべし 3その素祭には麥粉に油を混和たるを用ふべし即ち牡牛一匹に十分の三牡羊一匹に十分の二をもちひ 4また羔羊には七匹とも羔羊一匹に十分の一を用ふべし 5また牡山羊一匹を罪祭に献げて汝らのために贖罪をなすべし 6是は月々の朔日の燔祭とその素祭および日々の燔祭とその素祭と灌 祭の外なる者なり是らの物の例にしたがひて之をヱホバにたてまつりて馨しき香の火祭となすべし 7またその七月の十日に汝ら聖 會を開きかつ汝らの身をなやますべし何の職 業をも爲べからず 8汝らヱホバに燔祭を献げて馨しき香をたてまつるべし即ち少き牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊七匹是みな全き者なるべし 9その素祭には麥粉に油を混和たるを用ふべし即ち牡牛一匹に十分の三牡羊一匹に十分の二を用ひ 10また羔羊には七匹とも羔羊一匹に十分の一を用ふべし 11また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是等は贖罪の罪祭と常 燔祭とその素祭と灌 祭の外なる者なり 12七月の十五日に汝ら聖 會を開くべし何の職 業をも爲べからず汝ら七日の間ヱホバに向て節筵を守るべし 13汝ら燔祭を献げてヱホバに馨しき香の火祭をたてまつるべし即ち少き牡牛十三牡羊二匹當歳の羔羊十四是みな全き者なるべし 14その素祭には麥粉に油を混和たるを用ふべし即ちその十三の牡牛には各箇十分の三その二匹の牡羊には各箇十分の二を用ひ 15その十四の羔羊には各箇十分の一を用ふべし 16また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是等は常 燔祭およびその素祭と灌 祭の外なり 17第二日には少き牡牛十二牡羊二匹當歳の羔羊の全き者十四を献ぐべし 18その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌 祭はその數に循ひて例のごとくすべし 19また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是らは 常

燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 20第三日には少き牡牛十一牡羊二匹當歳の羔羊の全き者十四を献ぐべし 21その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數に循ひて例のごとくすべし 22また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是らは常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 23第四日には少き牡牛十匹牡羊二匹當歳の羔羊の全き者十四を献ぐべし 24その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數に循ひて例のごとくすべし 25また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是等は常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 26第五日には少き牡牛九匹牡羊二匹當歳の羔羊の全き者十四を献ぐべし 27その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數にしたがひて例のごとくすべし 28また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是らは常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 29第六日には少き牡牛八匹牡羊二匹當歳の羔羊の全き者十四を献ぐべし 30その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數にしたがひて例のごとくすべし 31また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是等は常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 32第七日には少き牡牛七匹牡羊二匹當歳の羔羊の全き者十四を献ぐべし 33その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數にしたがひて例のごとくすべし 34また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是等は常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 35第八日にはまた汝ら會をひらくべし何の職業をも爲べからず 36燔祭を献げてヱホバに馨しき香の火祭をたてまつるべし即ち牡牛一匹牡羊一匹當歳の羔羊の全き者七匹を献ぐべし 37その牡牛と牡羊と羔羊のために用ふる素祭と灌祭はその數にしたがひて例のごとくすべし 38また牡山羊一匹を罪祭に献ぐべし是らは常燔祭およびその素祭と灌祭の外なり 39汝らその節期にはヱホバに斯なすべし是らは皆汝らが願 還のために献げまたは自意の禮物として献ぐる所の燔祭素祭灌祭および酬恩祭の外なり 40モーセはヱホバのモーセに命じたまへる事をことごとくイスラエルの子孫に告たり

第三十章

1モーセ、イスラエルの子孫の支派の長等に告て云ふヱホバの命じたまふ事は是のごとし 2人もしヱホバに誓願をかけ又はその身に斷物をなさんと誓ひなばその言詞を破るべからずその口より出ししごとく凡て爲べし 3また女もし若くしてその父の家に居る時ヱホバに誓願をかけ又はその身斷物を爲ことあらんに 4その父これが誓願またはその身に斷し斷物を聞て之にむかひて言ふこと無ば其かけたる誓願を行ひまたその身に斷し斷物を守るべし 5然どその父これを聞る日に之を允さざるあらばその誓願およびその身に斷し斷物を凡て止ることを得べしその父の允さざるなればヱホバこれを赦したまふなり 6もしまた夫に適く身にして自ら誓願をかけまたはその身に斷物せんと軽々しく口より言いだすことあらんに 7その夫これを聞もそのこれを聞る日にこれに向ひて言ふこと無ばその誓願を行ひその身に斷し斷物を守るべし 8されど夫もし之を聞る日にこれを允さざるならば之がかけし誓願または之がその身に斷物せんと軽々しく口に出ししところの事を空うするを得べしヱホバはその女を赦したまふなり 9また寡婦あるひは去れたる婦人の誓願など凡てその身になしし斷物はこれを守るべし 10婦女もしその夫の家において誓願をかけ又はその身に斷物せんと誓ふことあらんに 11夫これを聞てこれに對ひて言ふことなく之を允さざること無ばその誓願は凡てこれを行ふべくその身に斷し斷物は凡てこれを守るべし 12然どその夫もしこれを聞る日に全くこれを空うせばその誓願またはその斷物につき口より出しし事は凡て守るに及ばずその夫これを空くなしたるなればヱホバその婦女を赦したまふなり 13凡の誓願および凡てその身をなやますところの誓約は夫これを堅うすることを得夫これを空うすることを得べし 14その夫もし之にむかひて言ふことなくして日をおくらば之が誓願またはこれが斷物を凡て堅うするなり彼これを聞る日に妻にむかひて言ふことを爲ざるに因て之を堅うせるなり 15然どその夫もしこれを聞たる後にいたりてこれを空うする事あらばその妻の罪を任べし 16是すなはちヱホバがモーセに命じたまへる法令にして夫と妻および父とその女子の少くして父の家にある者とにかかはる者なり

第三十一章

1茲にヱホバ、モーセに告て言たまはく 2汝イスラエルの子孫の仇をミデアン人に報ゆべし其後汝はその民に加はらん 3モーセすなはち民に告て言けるは汝らの中より人を選みて戰爭にいづる准備をなさしめ之をしてミデアン人に攻ゆかしめてヱホバの仇をミデアン人に報ゆべし 4

即ちイスラエルの諸の支派につきて各々の支派より千人づつを取りこれを戦争につかはすべしと 5是において各々の支派より千人づつを選みイスラエルの衆軍の中より一萬二千人を得て戦争にいづる准備をなさしむ 6モーセすなはち各々の支派より千人宛を戦争に遣しまた祭司エレアザルの子ピネハスに聖 器と吹鳴す喇叭を執しめて之とともに戦争に遣せり 7彼らヱホバのモーセに命じたまへるごとくミデアン人を攻撃ち遂にその中の男子をことごとく殺せり 8その殺しし者の外にまたミデアンの王五人を殺せりそのミデアンの王等はエビ、レケム、ツル、ホル、レバといふまたベオルの子バラムをも劍にかけて殺せり 9イスラエルの子孫すなはちミデアンの婦女等とその子女を生擒りその家畜と羊の群とその貨財をことごとく奪ひ取り 10その住居の邑々とその村々とを盡く火にて燒り 11かくて彼等はその奪ひし物と掠めし物を人と畜ともに取り 12エリコに對するヨルダンの邊なるモアブの平野の營にその生擒し者と掠めし物と奪ひし物とを携へきたりてモーセと祭司エレアザルとイスラエルの子孫の會 衆に詣れり 13時にモーセと祭司エレアザルおよび會 衆の牧伯等みな營の外に出て之を迎へたりしが 14モーセはその軍勢の領袖等すなはち戦争より歸りきたれる千人の長 等と百 人の長 等のなせる所を怒れり 15モーセすなはち彼等に言けるは汝らは婦女等をことごとく生し存しや 16視よ是等の者はバラムの謀 計によりイスラエルの子孫をしてペオルの事においてヱホバに罪を犯さしめ遂にヱホバの會 衆の中に疫病おこるにいたらしめたり 17然ばこの子等の中の男の子を 盡く殺しまた男と寝て男しれる婦人を 盡く殺せ 18但し未だ男と寝て男しれる事あらざる女の子はこれを汝らのために生し存べし 19而して汝らは七日の間 營の外に居れ汝らの中凡そ人を殺せし者または殺されし者に捫りたる者は第三日と第七日にその身を潔め且その俘囚を潔むべし 20また一切の衣服と一切の皮の器具および凡て山羊の毛にて作れる物と凡て木にて造れる物を潔むべしと 21祭司エレアザル戦 にいでし軍 人等に言けるはヱホバのモーセに命じたまへる律法の例は是のごとし 22金銀銅鐵錫 鉛など 23凡て火に勝る物は火の中を通すべし然せば潔くならん然ながら尚また潔淨の水をもてこれを潔むべしまた凡て火に勝ざる者は水の中を通すべし 24汝等は第七日にその衣服を洗ひて潔くなり然る後營にいるべし 25その時ヱホバ、モーセに告て言たまはく 26汝と祭司エレアザルおよび會 衆の族長等この取獲たる人と畜の總數をしらべ 27その獲物を二分に分てその一を戦争にいでて戦ひし者に予へその一 を全會 衆に予へよ 28而して戦ひに出し軍 人をして人または牛または驢馬または羊おのおの五百ごとに一をとりてヱホバに貢として奉つらしめよ 29即ち彼らの一半より之をとりヱホバの擧祭として祭司エレアザルに與へよ 30またイスラエルの子孫の一半よりはその獲たる人または牛または驢馬または羊または種々の獣畜五十ごとに一を取りヱホバの幕屋の職守を守るところのレビ人にこれを與へよと 31モーセと祭司エレアザルすなはちヱホバのモーセに命じたまへるごとく爲り 32その掠取物すなはち軍 人 等が奪ひ獲たる物の殘餘は羊六十七萬五千 33牛七萬二千 34驢馬六萬一千 35人三萬二千是みな未だ男と寝て男 しれる事あらざる女なり 36その一半すなはち戦争にいでし者の分は羊三十三萬七千五百 37ヱホバに貢として 奉つれる羊は六百七十五 38牛三萬六千その中よりヱホバに貢 とせし者は七十二 39驢馬三萬五百その中よりヱホバに貢 とせし者は六十一 40人一萬六千その中よりヱホバに貢 とせし者は三十二人 41モーセその貢すなはちヱホバの擧祭なる者を祭司エレアザルに與へたりヱホバのモーセに命じたまへる如し 42モーセが戦争に出しものより分ちとりてイスラエルの子孫に予へし一半 43すなはち會 衆に屬する一半は羊三十三萬七千五百 44牛三萬六千 45驢馬三萬五百 46人一萬六千 47すなはちイスラエルの子孫のその一半よりモーセ人と畜ともに各箇五十ごとに一を取りヱホバの幕屋の職守をまもるレビ人に之を與へたりヱホバのモーセに命じたまへるごとし 48時に其軍勢の帥士たりし者等すなはち千人の長 百 人の長 等モーセにきたり 49モーセに言けるは僕 等我らの手に屬する軍 人を數へたるにわれらの中一人も缺たる者なし 50是をもて我ら各人その獲たる金の飾 品すなはち鏈子 釧 指鐶耳環頸玉等をヱホバに携へきたりて禮物となし之をもて我らの生命のためにヱホバの前に贖罪をなさんとすと 51モーセと祭司エレアザルすなはち彼らよりその金を受たり是みな製りなせる飾 品なりき 52千人の長と百 人の長たちがヱホバに献げて擧祭となせしその金は都合一萬六千七百五十シケル 53軍 人は各箇その掠取物をもて自分の有となせり 54モーセと祭司エレアザルは千人の長と百 人の長 等よりそ

の金を受て集會の幕屋に携へいりヱホバの前におきてイスラエルの子孫の記念とならしむ

第三十二章

1ルベンの子孫とガドの子孫は甚だ多くの家畜の群を有り彼等ヤゼルの地とギレアデの地を觀るにその處は家畜に適き所なりければ 2ガドの子孫とルベンの子孫來りてモーセと祭司エレアザルと會衆の牧伯等に言けるは 3アタロテ、デボン、ヤゼル、ニムラ、ヘシボン、エレアレ、シバム、ネボ、ベオン 4即ちヱホバがイスラエルの會衆の前に撃ほろぼしたまひし國は家畜に適き所なるが我らは家畜あり 5また曰ふ然ば我らもし汝の目の前に恩を獲たらば請ふこの地を僕等に與へて產業となさしめ我らをしてヨルダンを濟ること無らしめよと斯いへり 6モーセ、ガドの子孫とルベンの子孫に言けるは汝らの兄弟たちは戰ひに往に汝らは此に坐しをらんとするや 7汝ら何ぞイスラエルの子孫の心を挫きてヱホバのこれに賜ひし地に濟ることを得ざらしめんとするや 8汝らの先祖等も我がカデシバルネアより其地を觀に遣せし時に然なせり 9即ち彼らエシコルの谷に至りて其地を觀し時イスラエルの子孫の心を挫きて之をしてヱホバの賜ひし地に往ことを得ざらしめたり 10その時ヱホバ怒を發し誓ひて言たまひけらく 11エジプトより出きたれる人々の二十歳以上なる者は一人も我がアブラハム、イサク、ヤコブに誓ひたる地を見ざるべし其はかれら我に全くは從はざればなり 12第ケナズ人ヱフンネの子カルブとヌンの子ヨシユアとを除く此二人はヱホバに全く從ひたればなり 13ヱホバかくイスラエルにむかひて怒を發し之をして四十年のあひだ曠野にさまよはしめたまひければヱホバの前に惡をなししその代の人みな終に亡ぶるに至れり 14抑　汝らはその父に代りて起れる者 即ち罪人の種にしてヱホバのイスラエルにむかひて懐たまふ烈しき怒を更に增んとするなり 15汝ら若反きてヱホバに從はずばヱホバまたこの民を曠野に遺おきたまはん然せば汝等すなはちこの民を滅ぼすにいたるべし 16彼らモーセの側に進みよりて言けるは我らは此に我らの群のために羊の圈を建我らの少者のために邑を建んとす 17然ど我らはイスラエルの子孫をその處に導きゆくまでは身をよろひて之が前に奮ひ進まん第われらの少者はこの國に住る者等のために堅固なる邑に居ざるを得ず 18我らはイスラエルの子孫が皆おのおのその產業を獲までは我らの家に歸らじ 19我らはヨルダンの彼旁において彼らと偕に產業を獲ことを爲じ我らはヨルダンの此旁すなはち東の方に產業を獲ればなり 20モーセかれらに言けるは汝らもしこの事を爲し汝らみな身をよろひてヱホバの前に往て戰ひ 21汝ら皆身をよろひヱホバの前にゆきてヨルダンを濟りヱホバのその敵を己の前より逐はらひたまひて 22この國のヱホバに服ふにおよびて後汝ら歸ばヱホバの前にもイスラエルの前にも汝ら罪なかるべし然せばこの地はヱホバの前において汝らの產業とならん 23然ど汝らもし然せずば是ヱホバにむかひて罪を犯すなれば必ずその罪汝らの身におよぶと知べし 24汝らその少者のために邑を建てその羊のために圈を建よ而して汝らの口より出せるところを爲せ 25ガドの子孫とルベンの子孫モーセにこたへて言けるはわが主の命じたまふごとく僕等行ふべし 26我らの少者と妻と羊と諸の家畜は此にギレアデの邑々に居べし 27然ど僕等はおのおの戰爭のために身をよろひてわが主の言たまふ如くヱホバの前に涉りゆきて戰ふべし 28是においてモーセかれらの爲に祭司エレアザルとヌンの子ヨシユアとイスラエルの支派の族長等に命ずる事ありき 29すなはちモーセかれらに言けるはガドの子孫とルベンの子孫もし汝らとともにヨルダンを濟りゆき各箇身をよろひてヱホバの前に戰ひてこの地汝らに服ふにいたらば汝らギレアデの地をかれらに與へて產業となさしむべし 30然ど彼らもし汝らとともに身をよろひて濟りゆかずば彼らはカナンの地に於て汝らの中に產業を獲ざる可らず 31ガドの子孫とルベンの子孫こたへて言ふヱホバが僕等に言たまふごとく我ら爲べし 32我らは身をよろひてヱホバの前にカナンの地に濟りゆきヨルダンの此旁なる我らの產業を保つことを爲べし 33是においてモーセはアモリ人の王シホンの國とバシヤンの王オグの國をもてガドの子孫とルベンの子孫とヨセフの子マナセの支派の半とに與へたり即ちその國およびその境の內の邑々とその邑々の周圍の地とを之に與ふ 34ガドの子孫はデボン、アタロテ、アロエル 35アテロテ、シヨバン、ヤゼル、ヨグベハ 36ベテニムラ、ベテハランなどの堅固なる邑を建て羊のために圈を建たり 37またルベンの子孫はヘシボン、エレアレ、キリヤタイム 38ネボ、バアルメオン等の邑を建てその名を更めまたシブマの邑を建たりその建たる邑々には新しき名をつけたり 39またマナセの子マキルの子孫はギレア

デに至りてこれを取り其處にをりしアモリ人を逐はらひければ 40モーセ、ギレアデをマナセの子マキルに與へて其處に住しむ 41またマナセの子ヤイルは往てその村々を取りこれをハヲテヤイル(ヤイル村)と名けたり 42またノバは往てケナテとその村々を取り自己の名にしたがひて之をノバと名けたり

第三十三章

1イスラエルの子孫がモーセとアロンに導かれ其軍旅にしたがひてエジプトの國より出きたりて經たる旅路は左のごとし 2モーセ、ヱホバの命に依りその旅路にしたがひてこれが發程を記せりその發程によればその旅路は左のごとくなり 3彼らは正 月の十五日にラメセスより出立り即ち逾越の翌日にイスラエルの子孫は一切のエジプト人の目の前にて高らかなる手によりて出たり 4時にエジプト人はヱホバに撃ころされし其長子を葬りて居りヱホバはまた彼らの神々にも罰をかうむらせたまへり 5イスラエルの子孫ラメセスより出立てスコテに營を張り 6スコテより出立て曠野の極端なるエタムに營を張り 7エタムより出立てバアルゼポンの前なるピハヒロテに轉りゆきてミグドルに營を張り 8ピハヒロテの前より出立ち海の中を通りて曠野にいりエタムの曠野に三日路ほど入てメラに營を張り 9メラより出立てヱリムに至れりエリムには泉十二棕櫚七十本あり乃ち此に營を張り 10かくてエリムより出たちて紅海の邊に營を張り 11紅海より出たちてシンの曠野に營を張り 12シンの曠野より出たちてドフカに營を張り 13ドフカより出たちてアルシに營を張り 14アルシより出たちてレピデムに營を張り此には民の飲む水あらざりき 15かくてレピデムより出たちてシナイの曠野に營を張り 16シナイの曠野より出たちてキブロテハッタワに營を張り 17キブロテハッタワより出たちてハゼロテに營を張り 18ハゼロテより出たちてリテマに營を張り 19リテマより出たちてリンモンパレツに營を張り 20リンモンパレツより出たちてリブナに營を張り 21リブナより出たちてリッサに營を張り 22リッサより出たちてケヘラタに營を張り 23ケヘラタより出たちてシヤペル山に營を張り 24シヤペル山より出たちてハラダに營を張り 25ハラダより出たちてマケロテに營を張り 26マケロテより出たちてタハテに營を張り 27タハテより出たちてテラに營を張り 28テラより出たちてミテカに營を張り 29ミテカより出たちてハシモナに營を張り 30ハシモナより出たちてモセラに營を張り 31モセラより出たちてベネヤカンに營を張り 32ベネヤカンより出たちてホルハギデガデに營を張り 33ホルハギデガデより出たちてヨテバタに營を張り 34ヨテバタより出たちてアブロナに營を張り 35アブロナより出たちてエジオングベルに營を張り 36エジオングベルより出たちてカデシのチンの曠野に營を張り 37カデシより出たちてエドムの國の界なるホル山に營を張り 38イスラエルの子孫がエジプトの國を出てより四十年の五月の朔日に祭司アロンはヱホバの命によりてホル山に登て其處に死り 39アロンはホル山に死たる時は百二十三歳なりき 40カナンの地の南に住るカナン人アラデ王といふ者イスラエルの子孫の來るを聞り 41かくてホル山より出たちてザルモナに營を張り 42ザルモナより出立てプノンに營を張り 43プノンより出たちてオボテに營を張り 44オボテより出たちてモアブの界なるイヱアバリムに營を張り 45イヒムより出たちてデボンガドに營を張り 46デボンガドより出たちてアルモンデブラタイムに營を張り 47アルモンデブラタイムより出たちてネボの前なるアバリムの山々に營を張り 48アバリムの山々より出たちてヱリコに對するヨルダンの邊なるモアブの平野に營を張り 49すなはちモアブの平野においてヨルダンの邊に營を張りベテヱシモテよりアベルシッテムにいたる 50ヱリコに對するヨルダンの邊なるモアブの平野においてヱホバ、モーセに告て言たまはく 51イスラエルの子孫に告てこれに言へ汝らヨルダンを濟りてカナンの地に入る時は 52その地に住る民をことごとく汝らの前より逐はらひその石の像をことごとく毀ちその鋳たる像を毀ちその崇邱をことごとく毀ちつくすべし 53汝らその地の民を逐はらひて其處に住べし其は我その地を汝らの產業として汝らに與へたればなり 54汝らの族にしたがひ鬮をもてその地を分ちて產業となし人多きには多くの產業を與へ人少きには少しの產業を與ふべし各人の分はその鬮にあたれる處にあるべきなり汝らその先祖の支派にしたがひて之を獲べし 55然ど汝らもしその地に住る民を汝らの前より逐はらはずば汝らが存しおくところの者 汝らの目に荊となり汝の脇に棘となり汝らの住む國において汝らを惱さん 56且また我は彼らに爲んと思ひし事を汝らに爲ん

第三十四章

1ヱホバ、モーセに告て言たまはく 2イスラエルの子孫に告てこれに言へ汝らがカナンの地にいる時に汝らに歸して産業となる地は是なり即ち是カナンの地その境に循へる者 3汝らの南の方はエドムに接するチンの曠野より起り南の界は鹽海の極端より東の方にいたるべし 4また汝らの界は南より繞りてアクラビムの坂にいたりてチンに赴き南よりカデシバルネアに亘りハザルアダルに進みアズモンに赴くべし 5その界はまたアズモンより繞りてエジプトの河にいたり海におよびて盡べし 6西の界においては大海をもてその界とすべし是を汝らの西の界とす 7汝らの北の界は是のごとし即ち大海よりホル山までを畫り 8ホル山よりハマテの入口までを畫りその界をしてゼダデまで亘らしむべし 9またその界はジフロンに進みハザルエノンにいたりて盡べし是を汝らの北の界とす 10汝らの東の界はハザルエノンよりシバムまでを畫るべし 11またその界はアインの東の方においてシバムよりリブラに下りゆくべし斯その界は下りてキンネレテの海の東の傍に抵り 12その界ヨルダンに下りゆきて鹽海におよびて盡べし汝らの國はその周圍の界に依ば是のごとくなるべし 13モーセ、イスラエルの子孫に命じて言けるは是すなはち汝らが鬮をもて獲べき地なりヱホバこれを九の支派と半支派とに與へよと命じたまふ 14そはルベンの子孫の支派とガドの子孫の支派はともにその宗族にしたがひてその産業を受けまたマナセの半支派もその産業を受たればなり 15この二の支派と半支派とはヱリコに對するヨルダンの彼旁すなはちその東 日の出る方においてその産業を受たり 16ヱホバまたモーセに告て言たまはく 17汝らに地を分つ人々の名は是なり即ち祭司エレアザルとヌンの子ヨシユア 18汝らまた各箇の支派より牧伯一人づつを簡びて地を分つことを爲しむべし 19その人々の名は是のごとしユダの支派にてはエフンネの子カルブ 20シメオンの子孫の支派にてはアミホデの子サムエル 21ベニヤミンの支派にてはキスロンの子エリダデ 22ダンの子孫の支派の牧伯はヨグリの子ブッキ 23ヨセフの子孫すなはちマナセの子孫の支派の牧伯はエポデの子ハニエル 24エフライムの子孫の支派の牧伯はシフタンの子ケムエル 25ゼブルンの子孫の支派の牧伯はパルナクの子エリザバン 26イッサカルの子孫の支派の牧伯はアザンの子パルテエル 27アセルの子孫の支派の牧伯はシロミの子アヒウデ 28ナフタリの子孫の支派の牧伯はアミホデの子パダヘル 29カナンの地においてイスラエルの子孫に産業を分つことをヱホバの命じたまへる人は是のごとし

第三十五章

1ヱリコに對するヨルダンの邊なるモアブの平野においてヱホバ、モーセに告て言たまはく 2イスラエルの子孫に命じてその獲たる産業の中よりレビ人に住べき邑々を與へしめよ汝らまたその邑々の周圍に郊地をつけてレビ人に與ふべし 3その邑々は彼らの住べき所その郊地は彼らの家畜貨財および諸の獸をおくところたるべし 4汝らがレビ人に與ふる邑々の郊地は邑の石垣より外四周一千キユビトなるべし 5すなはち邑の外に於て東の方に二千キユビト南の方に二千キユビト西の方に二千キユビト北の方に二千キユビトを量り邑をその中にあらしむべし彼らの邑の郊地は是のごとくなるべし 6汝らがレビ人に與ふる邑々は是のごとくなるべし即ち逃遁邑六を與ふべし是は人を殺せる者の其處に逃るべきための者なり此外にまた邑四十二を與ふべし 7汝らがレビ人に與ふる邑は都合四十八邑これを其郊地とともに與ふべし 8汝らイスラエルの子孫の産業の中よりレビ人に邑を與ふるには多く有る者は多く與へ少く有る者は少く與へ各人その獲たる産業にしたがひてその邑々を之に與ふべし 9ヱホバまたモーセに告て言たまはく 10イスラエルの子孫に告てこれに言へ汝らヨルダンを濟りてカナンの地に入ば 11汝らのために邑を設けて逃遁邑と爲し誤りて人を殺せる者をして其處に逃るべからしむべし 12其は汝らが仇打する者を避て逃るべき邑なり是あるは人を殺せる者が未だ會衆の前にたちて審判をうけざる先に殺さるること無らんためなり 13汝らが予ふる邑々の中六をもて逃遁邑とすべし 14すなはち汝らヨルダンの此旁において三の邑を予へカーナンの地において三の邑を予へて逃遁邑となすべし 15この六の邑はイスラエルの子孫と他國人およびその中に寄寓る者の逃遁場たるべし凡て誤りて人を殺せる者は其處に逃ることを得べし 16もし鐵の器をもて人を擊て死しめなば是故殺なり故殺人はかならず殺さるべし 17もし人を殺すほどの石を執て人を擊て死しめなば是故殺なり故殺人はかならず殺さるべし 18また人を殺すほどの木の器をとりて人を擊て死しめなば是故殺なり故殺人はかならず殺さるべし 19仇を打つ者その故殺人を殺すことを得すなはち之に遭ふところにて之を殺すことを得るなり

20もしまた怨恨のために人を推しまたは意ありて人に物を投うちて死しめ 21または敵の心を挟さみ手をもて人を撃て死しめなばその人を撃たる者は必ず殺さるべし是故殺なればなり仇を打つ者これに遭ふところにて之を殺すことを得べし 22然どもし敵の心なくして思はず人を推しまたは意なくして人に物を擲ち 23または人あるを見ずして人を殺すほどの石を之に投つけて死しむること有んにその人これが敵にもあらずまた之を害せんとせしにもあらざる時は 24會衆この律法によりてその人を殺せる者と仇打する者とに審判を言わたすべし 25即ち會衆はその人を殺せる者を仇打する者の手より救ひ出してこれをその逃れゆきたる逃遁邑に還すべしその者は聖膏を灌れたる祭司の長の死るまで其處に居べし 26然ど人を殺しし者その逃れし逃遁邑の境を出でたらんに 27仇打する者その逃遁邑の境の外にてこれに遭ことありて仇打する者すなはちその人を殺しし者を殺すことあるとも血をながせる罪あらじ 28其は彼は祭司の長の死るまでその逃遁邑に居べき者なればなり祭司の長の死たる後はその人を殺せし者おのれの産業の地にかへることを得べし 29汝ら代々その住所において之を審判の法度とすべし 30凡て人を殺せる者すなはち故殺人は證人の口にしたがひて殺さるべし然ど只一人の證人の言にしたがひて人を殺すことを爲べからず 31汝ら死に當る故殺人の生命を贖はしむべからず必ずこれを殺すべし 32また逃遁邑に逃れたる者の贖を容て祭司の死ざる前にこれを自己の地に歸り住しむる勿れ 33汝らその居ところの地を汚すべからず血は地を汚すなり地の上に流せる血は之を流せる者の血をもてするに非れば贖ふことを得ざるなり 34汝らその住ところの地すなはち我が居ところの地を汚すなかれ其は我ヱホバ、イスラエルの子孫の中に居ばなり

第三十六章

1ヨセフの子等の族の中マナセの子マキルの子なるギレアデの子等の族の族長等進みよりてモーセの前とイスラエルの子孫の族長たる牧伯等の前に語り 2言けるはイスラエルの子孫にその産業の地を鬮によりて與ふることをヱホバわが主に命じたまへり吾主またわれらの兄弟ゼロペハデの産業をその女子等に與ふべしとヱホバに命ぜられたまふ 3彼らもしイスラエルの子孫の中他の支派の人々に嫁ぎなば彼らの産業はわれらの父祖の産業の中より除去れてその適る支派の産業に加はるべし斯是は我らの産業の分の中より除去れん 4而して彼らの産業はイスラエルの子孫のヨベルに至りてその適る支派の産業に加はるべし斯かれらの産業は我らの父祖の支派の産業の中より除去れん 5モーセ、ヱホバの言にしたがひてイスラエルの子孫に命じて言ふヨセフの子等の支派の言ところは善し 6ゼロペハデの女子等の事につきてヱホバの命じたまふところは是のごとし云く彼らはその心に適ふ者に嫁ぐべけれど惟その父祖の支派の家にのみ嫁ぐべし 7然せばイスラエルの子孫の産業この支派よりかの支派に移ることあらじイスラエルの子孫はみな各箇その父祖の支派の産業に止まるべきなり 8イスラエルの子孫の支派の中凡そ産業を有る女は皆おのれの父の支派の家に嫁ぐべし然せばイスラエルの子孫おのおのその父祖の産業を保つことを得ん 9産業をしてこの支派よりかの支派に移らしむべからずイスラエルの子孫の支派の者は皆おのおの自己の産業にとどまるべし 10是においてゼロペハデの女子等はヱホバのモーセに命じたまへる如くせり 11即ちゼロペハデの女子等マアラ、テルザ、ホグラ、ミルカおよびノアはその父の兄弟の子等に嫁げり 12彼らはヨセフの子マナセの子等の家に嫁ぎたればその産業はその父の族の支派に止まれり 13是等はエリコに對するヨルダンの邊なるモアテの平野においてヱホバがモーセによりてイスラエルの子孫に命じたまひし命令と律法なり

申命記

第一章

1是はモーセがヨルダンの此旁の曠野紅海に對する平野に在てバラン、トベル、ラバン、ハゼロテ、デザハブの間にてイスラエルの一切の人に告たる言語なり 2ホレブよりセイル山の路を經てカデシバルネアに至るには十一日路あり 3第四十年の十一月にいたりその月の一日にモーセはイスラエルの子孫にむかひてヱホバが彼等のために自己に授けたまひし命令を悉く告たり 4是はモーセが

ヘシボンに住るアモリ人の王シホン及びエデレイのアシタロテに住るバシヤンの王オグを殺したる後なりき 5 即ちモーセ、ヨルダンの此旁なるモアブの地においてこの律法を解明すことを爲し始めたり曰く 6 我らの神ヱホバ、ホレブにて我らに告て言たまへり汝らはこの山に居ること日すでに久し 7 汝ら身を轉らして途に進みアモリ人の山に往き其に鄰れる處々に往き平野山地窪地南の地海邊カナン人の地レバノンおよび大河ユフラテ河に至れ 8 我この地を汝らの前に置り入てこの地を獲よ是はヱホバが汝らの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓ひて之を彼らとその後の子孫に與へんと言たまひし者なりと 9 彼時我なんぢらに語りて言り我は一人にては汝らをわが任として負ことあたはず 10 汝らの神ヱホバ汝らを衆多ならしめたまひたれば汝ら今日は天空の星のごとくに衆し 11 願くは汝らの先祖の神ヱホバ汝らをして今あるよりは千倍も多くならしめ又なんぢらに約束せしごとく汝らを祝福たまはんことを 12 我一人にては爭で汝らを吾任となしまた汝らの重負と汝らの爭競に當ることを得んや 13 汝らの支派の中より智慧あり知識ありて人に識れたる人々を簡べ我これを汝らの首長となさんと 14 時に汝ら答へて言り汝が言ところの事を爲は善しと 15 是をもて我汝らの支派の首長なる智慧ありて人に知れたる者等を取て汝らの首長となせり即ち之をもて千人の長百人の長五十人の長十人の長となしまた汝らの支派の中の官吏となせり 16 また彼時に我汝らの士師等に命じて言り汝らその兄弟の中の訴訟を聽き此人と彼人の間を正く審判くべし他國の人においても然り 17 汝ら人を視て審判すべからず小き者にも大なる者にも聽べし人の面を懼るべからず審判は神の事なればなり汝らにおいて斷定がたき事は我に持きたれ我これを聽ん 18 我かの時に汝らの爲べき事をことごとく汝らに命じたりき 19 我等の神ヱホバの我等に命じたまひしごとくに我等はホレブより出たち汝らが見知るかの大なる畏しき曠野を通りアモリ人の山を指てガデシバルネアに至れり 20 時に我なんぢらに言り汝らは我らの神ヱホバの我らに與へたまへるアモリ人の山に至れり 21 視よ汝の神ヱホバこの地を汝の前に置たまふ汝の先祖の神ヱホバの汝に言たまふごとく上り往てこれを獲よ懼るるなかれ猶豫なかれと 22 汝らみな我に近りて言り我等人を我らの先に遣してその地を伺察しめ彼らをして返て何の途より上るべきか何の邑々に入べきかを我らに告しめんと 23 この言わが目に善と見ければ我汝らの中より十二人の者を取り即ち一の支派より一人宛なりき 24 彼等前みゆきて山に登りエシコルの谷にいたり之を伺ひ 25 その地の菓物を手に取てわれらの許に持くだり我らに復命して言り我等の神ヱホバの我等に與へたまへる地は善地なりと 26 然るに汝等は上り往ことを好まずして汝らの神ヱホバの命令に背けり 27 すなはち汝らその天幕にて呟きて言りヱホバわれらを惡むが故に我らをアモリ人の手に付して滅ぼさんとてエジプトの國より我らを導き出せり 28 我等は何方に往べきや我らの兄弟等は言ふその民は我らよりも大にして身長たかく邑々は大にしてその石垣は天に達る我らまたアナクの子孫を其處に見たりと 29 斯いひて我らの氣を挫けりと 29 時に我なんぢらに言り怖る勿れ懼るるなかれ 30 汝らに先ち行たまふ汝らの神ヱホバ、エジプトにおいて汝らの爲に汝らの目の前にて 諸の事をなしたまひし如く今また汝らのために戰ひたまはん 31 曠野においては汝また汝の神ヱホバが人のその子を抱くが如くに汝を抱きたまひしを見たり汝らが此處にいたるまでその路すがら常に然ありしなりと 32 この言をなせども汝らはなほその神ヱホバを信ぜざりき 33 ヱホバは途にありては汝らに先ちゆきて汝らが營を張べき處を尋ね夜は火の中にあり晝は雲の中にありて汝らの行べき途を示したまへる者なり 34 ヱホバ汝らの言語の聲を聞て怒り誓て言たまひけらく 35 この惡き代の人々の中には我が汝らの先祖等に與へんと誓ひしかの善地を見る者一人も有ざるべし 36 只ヱフンネの子カルブのみ之を見ることを得ん彼が踐たりし地をもて我かれとかれの子孫に與ふべし其は彼まったくヱホバに從ひたればなり 37 ヱホバまた汝らの故をもて我をも怒て言たまへり汝もまた彼處に入ことを得ず 38 汝の前に侍るヌンの子ヨシユアかしこに入べし彼に力をつけよ彼イスラエルをして之を獲しむべし 39 また汝等が掠められんと言たりしその汝らの子女および當日になほ善惡を辨へざりし汝らの幼兒等彼ら即ちかしこに入べし我これを彼らに與へて獲さすべし 40 汝らは身をめぐらし紅海の途より曠野に進みいるべしと 41 然るに汝ら對て我にいへり我等はヱホバにむかひて罪を犯せり然ばわれらの神ヱホバの凡て我らに命じたまへるがごとく我ら上りゆきて戰はんと汝らおのおの武器を身に帶て輕々しく山に登らんとせり 42 時にヱホバわれに言たまひけるは汝かれらに言へ汝ら上りゆくなかれ又戰ふなか

れ我なんぢらの中間に居ざればなり汝ら恐らくはその敵に打敗られんと 43われかく汝らに告たるに汝ら聽ずしてヱホバの命令に背き自 擅に山に登りたりしが 44その山に住るアモリ人汝等にむかひて出きたり蜂の驅がごとくに汝 らを驅ちらしなんぢらをセイルに打敗りてホルマにおよべり 45斯りしかばなんぢら還りきたりてヱホバの前に哭きたりしがヱホバなんぢらの聲を聽たまはず汝らに耳を傾むけたまはざりき 46是をもてなんぢらは日久しくカデシに居りなんぢらが其處に居たる日數のごとし

第二章

1斯て我らは身を轉らしヱホバの我に命じたまへる如く紅海の途より曠野に進みいりて日久しくセイル山を行めぐりたりしが 2ヱホバつひに我に告て言たまはく 3汝等はこの山を行めぐること既に久し今よりは北に轉りて進め 4汝また民に命じて言へ汝らはセイルに住るヱサウの子孫なる汝らの兄弟の境界を通らんとす彼らはなんぢらを懼れん汝ら深く自ら謹むべし 5彼らを攻る勿れ彼らの地は足の跖に踐ほどをも汝らに與へじ其は我セイル山をエサウにあたへて産業となさしめたればなり 6汝ら金をもて彼らより食物を買て食ひまた金をもて彼らより水をもとめて飲め 7汝の神ヱホバ汝が手に作ところの諸の事において汝をめぐみ汝がこの大なる曠野を通るを看そなはしたまへり汝の神ヱホバこの四十年のあひだ汝とともに在したれば汝は乏しき所あらざりしなり 8我らつひにセイル山に住るエサウの子孫なる我らの兄弟を離れてアラバの路を通りエラテとエジオンゲベルを經て／轉りてモアブの曠野の路に進みいれり 9時にヱホバわれに言たまひけるはモアブ人をなやますなかれまた之を攻て戰ふなかれ彼らの地をば我なんぢらの産業に與へじ其は我ロトの子孫にアルをあたへて産業となさしめたればなりと 10(昔エミ人ここに住り是民は大にして數多くアナク人のごとくに身長高かり 11アナク人とおなじくレバイムと呼なされたりしがモアブ人はこれをエミ人とよべり 12ホリ人もまた昔セイルに住をりしがエサウの子孫これを逐滅し之にかはりて其處に住りイスラエルがヱホバに賜はりしその産業の地になせるが如し) 13茲に汝等今たちあがりゼレデ川を渉れとありければ我らすなはちゼレデ川を渉れり 14カデシバルネアを出てよりゼレデ川を渉るまでの間の日は三十八年にしてその代の軍人はみな亡果て 營中にあらずなりぬヱホバのかれらに誓ひたまひし如し 15誠にヱホバ手をもて之を攻めこれを營中より滅ぼしたまひければ終にみな亡はてたり 16かく軍人みなその民の中より死亡たる時にあたりて 17ヱホバ我に告て言たまひけらく 18汝は今日モアブの境なるアルを通らんとす 19汝アンモンの子孫に近く時に之をなやます勿れ之を攻るなかれアンモンの子孫の地は我これを汝らの産業に與へじ其は我これをロトの子孫にあたへて産業となさしめたればなり 20(是もまたレバイムの國とよびなされたり昔レバイムここに住ゐたればなりアンモン人はかれらをザムズミ人とよべり 21この民は大にして數多くアナク人のごとくに身長たかかりしがヱホバ、アンモン人の前に之を滅ぼしたまひたればアンモン人これを逐はらひて之にかはりて住り 22その事はセイルに住るエサウの子孫の前にホリ人を滅ぼしたまひしが如し彼らはホリ人を逐はらひ之にかはりて今日まで其處に住をるなり 23カフトルより出たるカフトリ人はまたかの村々に住ひてガザにまで到るととろのアビ人を滅ぼし之にかはりて其處に居る) 24汝ら起あがり進みてアルノン河を渉れ我ヘシボンの王アモリ人シホンとこれが國を汝らの手に付す進んで之を獲よ彼を攻て戰へ 25今日我一天下の國人に汝を畏ぢ汝を懼れしめん彼らは汝の名聲を聞て慄ひ汝の爲に心を苦めんと 26茲に我ケデモテの曠野よりヘシボンの王シホンに使者をおくり和好の言を述しめたり云く 27我に汝の國を通らしめよ我は大路を通りて行ん右にも左にも轉らじ 28汝 金をとりて食物を我に賣て食はせ金をとりて水を我にあたへて飲せよ我はただ徒歩にて通らんのみ 29セイルに住るエサウの子孫とアルに住るモアブ人とが我になしたる如くせよ然せば我はヨルダンを濟りて我らの神ヱホバの我らに賜ひし地にいたらんと 30然るにヘシボンの王シホンは我らの通ることを容さざりき是は汝の神ヱホバ彼を 汝の手に付さんとてその氣を頑梗しその心を剛愎にしたまひたればなり今日見るが如し 31時にヱホバ我に言たまひけるは視よ我いまシホンとこれが地を汝に與へんとす進んでその地を獲て汝の産業とせよと 32茲にシホンその民をことごとく率ゐて出きたりヤハヅに於て戰ひけるが 33我らの神ヱホバ彼をわれらに付したまひたれば我らかれとその子等とその一切の民を擊殺せり 34その時に我らは彼の邑々を盡く取りその一切の邑の男 女および兒童を滅して一人をも遺さざりき 35只その家畜および邑々より

取たる掠取物は我らこれを獲て自分の物となせり 36アルノンの河邊のアロエルおよび河の傍なる邑よりギレアデにいたるまで我らの攻取がたき邑とては一もあらざりき我らの神ヱホバこれを盡くわれらに付したまへり 37第アンモンの子孫の地ヤボク川の全岸山地の邑々など凡てわれらの神ヱホバが我らの往を禁じたまへる處には汝いたらざりき

第三章

1斯てわれら身をめぐらしてバシヤンの路に上り行けるにバシヤンの王オグその民をことごとく率ゐ出てエデレイに戰はんとせり 2時にヱホバわれに言たまひけらく彼を懼るるなかれ我かれとその一切の民とその地とを汝の手に付さん汝かのヘシボンに住たるアモリ人の王シホンになせし如く彼に爲べしと 3我らの神ヱホバすなはちバシヤンの王オグとその一切の民を我らの手に付したまひしかば我ら之を撃ころして一人をも遺さざりき 4その時に我らこれが邑々をことごとく取り取ざる邑は一も有ざりきその取る邑は六十是すなはちアルゴブの地にしてバシヤンにおけるオグの國なり 5この邑々はみな高き石垣あり門あり關ありて堅固なりき外にまた石垣あらざる邑甚だ多くありき 6我らはヘシボンの王シホンになせし如く之を滅しその一切の邑の男 女および兒童をことごとく滅せり 7惟その一切の家畜とその邑々よりの掠取物とはこれを獲てわれらの物となせり 8その時我らヨルダンの此旁の地をアルノン河よりヘルモン山までアモリ人の王二人の手より取り 9(ヘルモンはシドン人これをシリオンと呼びアモリ人これをセニルと呼ぶ) 10すなはち平野の一切の邑ギレアデの全地バシヤンの全地サルカおよびエデレイなどバシヤンに於るオグの國をことごとく取り 11彼レバイムの遺れる者はバシヤンの王オグ只一人なりき彼の寢臺は鐵の寢臺なりき是は今なほアンモンの子孫のラバにあるに非ずや人の肘によれば是はその長九キユビトその寬四キユビトあり 12その時に我らこの地を獲たりしがアルノン河の邊なるアロエルよりの地とギレアデの山地の半とその中の邑々とは我これをルベン人とガド人に與へたり 13またオグの國なりしギレアデの殘餘の地とバシヤンの全地とは我これをマナセの半支派に與へたりアルゴブの全地すなはちバシヤンの全體はレバイムの國と稱へらる 14マナセの子ヤイルはアルゴブの全地を取てゲシユルの境界とマアカの境界にまで至り自分の名にしたがひてバシヤンをハヲテヤイルと名けたりその名今日にいたる 15またマキルには我ギレアデを與へ 16ルベン人とガド人にはギレアデよりアルノン河までを與へその河の眞中をもて界となしまたアンモンの子孫の地の界なるヤボク河にまで至り 17またアラバおよびヨルダンとその邊の地をキンネレテよりアラバの海すなはち鹽海まで之にあたへて東の方ピスガの麓にいたる 18その時我なんぢらに命じて言り汝らの神ヱホバこの地を汝らに與へて産業となさしめたまへば汝ら軍人に身をよろひて汝らの兄弟なるイスラエルの子孫に先だちて渉りゆくべし 19但し汝らの妻と子女と家畜は我が汝らに與へし邑に止るべし我なんぢらが衆多の家畜を有を知なり 20ヱホバなんぢらに賜ひしごとく汝らの兄弟にも安息を賜ひて彼らもまたヨルダンの彼旁にて汝らの神ヱホバにたまはるところの地を獲て産業となすに至らば汝らおのおの我なんぢらに與へし産業に歸るべし 21かの時に我ヨシユアに命じて言り汝はこの二人の王に汝らの神ヱホバのおこなひたまふ所の事を目に視たりヱホバまた汝が往ところの諸の國にも斯のごとく行ひたまはん 22汝これを懼るる勿れ汝らの神ヱホバ汝らのために戰ひたまはんと 23當時われヱホバに求めて言り 24主ヱホバよ汝は汝の大なる事と汝の強き手を僕に見すことを始めたまへり天にても地にても何の神か能なんぢの如き事業を爲し汝のごとき能力を有んや 25願くは我をして渉りゆかしめヨルダンの彼旁なる美地美山およびレバノンを見ることを得させたまへと 26然るにヱホバなんぢらの故をもて我を怒り我に聽ことを爲たまはずヱホバすなはち我に言たまひけるは既に足りこの事を重て我に言なかれ 27汝ビスガの嶺にのぼり目を擧て西北 南 東を望み汝の目をもて其地を觀よ汝はヨルダンを濟ることを得ざるべければなり 28汝ヨシユアに命じ之に力をつけ之を堅うせよ其はこの民を率ゐて渉りゆき之に汝が見るところの地を獲さする者は彼なればなりと 29かくて我らはベテペオルに對する谷に居る

第四章

1今イスラエルよ我が汝らに敎ふる法度と律法を聽てこれを行へ然せば汝らは生ることを得汝らの先祖の神ヱホバの汝らに賜ふ地にいりて之を產業となすを得べし 2我が汝らに命ずる言は汝らこれを增しまたは減すべからず

我が汝らに命ずる汝らの神ヱホバの命令を守るべし 3 汝らはヱホバがバアルペオルの事によりて行ひたまひし所を目に観たり即ちバアルペオルに従ひたる人々は汝の神ヱホバことごとく之を汝らの中間より滅し去たまひしが 4 汝らの神ヱホバに附て離れざりし汝等はみな今日までも生ながらへ居るなり 5 我はわが神ヱホバの我に命じたまひし如くに法度と律法を汝らに教へ汝らをしてその往て獲ところの地において之を行はしめんとせり 6 然ば汝ら之を守り行ふべし然する事は國々の民の目の前において汝らの智慧たり汝らの知識たるなり彼らこの 諸 の法度を聞て言んこの大なる國人は必ず智慧あり知識ある民なりと 7 われらの神ヱホバは我らがこれに顧もとむるに常に我らに近く在すなり何の國人か斯のごとく大にして神これに近く在すぞ 8 また何の國人か斯のごとく大にして今日我が汝らの前に立るこの一切の律法の如き正しき法度と律法とを有るぞ 9 汝 深く自ら愼み汝の心を善く守れ恐くは汝その目に観たる事を忘れん恐くは汝らの生存らふる日の中に其等の事 汝の心を離れん汝それらの事を汝の子 汝の孫に教へよ 10 汝がホレブにおいて汝の神ヱホバの前に立る日にヱホバわれに言たまひけらく我ために民を集めよ我これに吾 言を聽しめ之をしてその世に存らふる日の間 我を畏ることを學ばせまたその子女を教ふることを爲しめんとすと 11 是において汝らは前みよりて山の麓に立ちけるが山は火にて燒てその燄は中天に沖り暗くして雲あり黑雲深かりき 12 時にヱホバ火の中より汝らに言ひたまひしが汝らは言詞の聲を聞る而已にて聲の外は何の像をも見ざりし 13 ヱホバすなはち其契約を汝 らに述て汝らに之を守れと命じたまへり是すなはち十誡にしてヱホバこれを二枚の石の板に書したまふ 14 かの時にヱホバ我に命じて汝らに法度と律法を教へしめたまへり是 汝らにその往て獲ところの地にて之を爲しめんとてなりき 15 ホレブにおいてヱホバ火の中より汝らに 言ひたまひし日には汝ら何の像をも見ざりしなり然ば汝ら深く自ら愼み 16 道をあやまりて自己のために偶像を刻む勿れ物の像は男の形にもあれ女の形にもあれ凡て造るなかれ 17 即ち地の上にをる 諸 の獣の像空に飛ぶ 諸 の鳥の像 18 地に匍ふもろもろの物の像地の下の水の中に居る諸　の魚の像など凡て造る勿れ 19 汝 目をあげて天を望み日月星辰など凡て天の衆群を觀 誘はれてこれを拝み之に事ふる勿れ是は汝の神ヱホバが一天下の萬國の人々に分ちたまひし者なり 20 ヱホバ汝らを取り汝らを鐵の爐の中すなはちエジプトより導きいだして自己の産業の民となしたまへること今日のごとし 21 然るにヱホバなんぢらの故によりて我を怒り我はヨルダンを濟りゆくことを得ずまた汝の神ヱホバが汝の産業に賜ひしその美地に入ことを得ずと誓ひたまへり 22 我はこの地に死ざるを得ず我はヨルダンを濟りゆくことあたはずなんぢらは濟りゆきて之を獲て産業となすことを得ん 23 汝ら自ら愼み汝らの神ヱホバが汝らに立たまひし契約を忘れて汝の神ヱホバの禁じたまふ偶像など凡て物の像を刻むことを爲なかれ 24 汝 の神ヱホバは燬盡す火嫉妬神なり 25 汝ら子を擧け孫を得てその地に長く居におよびて若し道をあやまりて偶像など凡て物の像を刻み汝の神ヱホバの惡と觀たまふ事をなしてその震怒を惹おこすことあらば 26 我今日天と地を呼て證となす汝らはかならずそのヨルダンを濟りゆきて獲たる地より速かに滅亡うせん汝らはその上に汝らの日を永うする能はず必ず滅びうせん 27 ヱホバなんぢらを國々に散したまへしヱホバの汝らを逐やりたまふ國々の中に汝らの遺る者はその數寡なからん 28 其處にて汝らは人の手の作なる見ことも聞ことも食ふことも嗅こともなき木や石の神々に事へん 29 但しまた其處にて汝その神ヱホバを求むるあらんに若し心をつくし精神を盡してこれを求めなば之に遇ん 30 後の日にいたりて汝 艱難にあひて此もろもろの事の汝に臨まん時に汝もしその神ヱホバにたち歸りてその言にしたがはば 31 汝の神ヱホバは慈悲ある神なれば汝を棄ず汝を滅さずまた汝の先祖に誓ひたりし契約を忘れたまはざるべし 32 試 に問へ汝の前に過さりし日神が地の上に人を造りたまひし日より已來天の此極より彼極までに曾て斯のごとき大なる事ありしや是のごとき事の聞えたる事ありしや 33 曾て人神が火の中より言 ふ聲を汝らが聞るごとくに聞て尚生る者ありしや 34 汝 らの神ヱホバがエジプトにおいて汝らの目の前にて汝 らの爲に 諸 の事を爲たまひし如く曾て試探と徴證と奇蹟と戰爭と強き手と伸たる腕と大なる恐嚇をもて來りこの民をかの民の中より領いださんとせし神ありしや 35 汝 にこの事を示ししはヱホバはすなはち神にしてその外には有ことなしと汝に知しめんがためなりき 36 汝を教へんためにヱホバ天より汝に聲を聞しめ地に於てはまたその大なる火を汝に示したまへり即ち汝はその言の火の中より出るを聞り 37 ヱホバ汝の先祖等を愛したまひしが故

にその後の子孫を選び大なる能力をもて親ら汝をエジプトより導き出したまひ 38汝よりも大にして強き國々の民を汝の前より逐はらひ汝をその地に導きいりて之を汝の産業に與へんとしたまふこと今日のごとくなり 39然ば汝今日知て心に思念べし上は天下は地においてヱホバは神にいましその外には神有こと無し 40今日わが汝に命ずるヱホバの法度と命令を守るべし然せば汝と汝の後の子孫祥　を得汝の神ヱホバの汝にたまふ地において汝その日を永うすることを得て疆なからん 41斯てモーセ、ヨルダンの此旁日の出る方にないて邑三を別てり 42是素より怨なきに誤りて人を殺せる者をして其處に逃れしむる爲なり其邑の一に逃るる時はその人生命を全うするを得べし 43即ち一は曠野の内の平野にあるベゼル是はルベン人のためなり一はギレアデのラモテ是はガド人のためなり一はバシヤンのゴラン是はマナセ人のためなり 44モーセがイスラエルの子孫の前に示しし律法は是なり 45イスラエルの子孫のエジプトより出たる後モーセこの誡命と法度と律法を之に述たり 46即ちヨルダンの此旁なるアモリ人の王シホンの地にありベテペオルに對する谷に於て之を述たりシホンはヘシボンに住をりしがモーセとイスラエルの子孫エジプトより出きたりし後これを撃ほろぼして 47之が地を獲またバシヤンの王オグの地を獲たり彼ら二人はアモリ人の王にしてヨルダンの此旁日の出る方に居り 48その獲たる地はアルノン河の邊なるアロエルよりヘルモンといふシオン山にいたり 49ヨルダンの此旁すなはちその東の方なるアラバの全部を括てアラバの鹽海に達しピスガの麓におよべり

第五章

1茲にモーセ、イスラエルをことごとく召て之に言ふイスラエルよ今日我がなんぢらの耳に語るところの法度と律法とを聽きこれを學びこれを守りて行へよ 2我らの神ヱホバ、ホレブに於て我らと契約を結びたまへり 3この契約はヱホバわれらの先祖等とは結ばずして我ら今日此に生存へをる者と結びたまへり 4ヱホバ山において火の中より汝らと面をあはせて言ひたまひしが 5その時我はヱホバと汝らの間にたちてヱホバの言を汝らに傳へたり汝ら火に懼れて山にのぼり得ざりければなり 6ヱホバすなはち言たまひけらく我は汝の神ヱホバ汝をエジプトの地その奴隷たる家より導き出せし者なり 7汝わが面の前に我の外何物をも神とすべからず 8汝自己のために何の偶像をも彫むべからず又上は天にある者下は地にある者ならびに地の下の水の中にある者の何の形状をも作るべからず 9之を拝むべからず之に事ふべからず我ヱホバ汝の神は嫉む神なれば我を惡む者にむかひては父の罪を子に報いて三四代におよぼし 10我を愛しわが誡命を守る者には恩惠を施して千代にいたるなり 11汝の神ヱホバの名を妄に口にあぐべからずヱホバは己の名を妄に口にあぐる者を罰せではおかざるべし 12安息日を守りて之を聖潔すること汝の神ヱホバの汝に命ぜしごとくすべし 13六日のあひだ勞きて汝の一切の業を爲べし 14七日は汝の神ヱホバの安息なれば何の業務をも爲べからず汝も汝の男子女子も汝の僕　婢も汝の牛驢馬も汝の　諸　の家畜も汝の門の中にをる他國の人も然り斯なんぢ僕　婢をして汝とおなじく息ましむべし 15汝　誌ゆべし汝かつてエジプトの地に奴隷たりしに汝の神ヱホバ強き手と伸べたる腕とをもて其處より汝を導き出したまへり是をもて汝の神ヱホバなんぢに安息日を守れと命じたまふなり 16汝の神ヱホバの汝に命じたまふごとく汝の父母を敬へ是汝の神ヱホバの汝に賜ふ地において汝の日の長からんため汝に　祥　のあらんためなり 17汝　殺す勿れ 18汝　姦淫する勿れ 19汝　盜むなかれ 20汝その隣に對して虚妄の證據をたつる勿れ 21汝　その隣人の妻を貪るなかれまた隣人の家　田野　僕　婢　牛　驢馬ならびに凡て汝の隣人の所有を貪るなかれ 22是等の言をヱホバ山において火の中雲の中黑雲の中より大なる聲をもて汝らの全會　衆に告たまひしが此外には言ことを爲ず之を二枚の石の版に書して我に授けたまへり 23時にその山は火にて燒をりしが汝ら黑暗の中よりその聲の出るを聞におよびて汝らの支派の長および長老等我に進みよりて 24言けるは視よ我らの神ヱホバその榮光とその大なる事を我らに示したまひて我らその聲の火の中より出るを聞り我ら今日ヱホバ人と言ひたまふてその人の尚生るを見る 25我らなんぞ死にいたるべけんや此大なる火われらを燒ほろぼさんとするなり我らもし此上になほ我らの神ヱホバの聲を聞は死べし 26凡そ肉身の者の中誰か能く活神の火の中より言ひたまふ聲を我らのごとくに聞てなほ生る者あらんや 27請ふ汝進みゆきて我らの神ヱホバの言たまふところを都て聽き我らの神ヱホバの汝に告給ふところを都て我らに告よ我ら聽て行はんと 28ヱホバなんぢらが我に語れる言の聲を聞てヱホバ我に言たまひ

けるは我この民が汝に語れる言の聲を聞り彼らの言ところろは皆善し 29只願しきは彼等が斯のごとき心を懐いて恒に我を畏れ吾が誡命を守りてその身もその子孫も永く福祉を得にいたらん事なり 30汝ゆきて彼らに言へ汝らおのおのその天幕にかへるべしと 31然ど汝は此にて我　傍に立て我なんぢに 諸 の誡命と法度と律法とを告しめさん汝これを彼らに教へ我が彼らに與へて産業となさしむる地において彼らにこれを行はしむべしと 32然ば汝らの神ヱホバの汝等に命じたまふごとくに汝ら謹みて行ふべし右にも左にも曲るべからず 33汝らの神ヱホバの汝らに命じたまふ一切の道に歩め然せば汝らは生ることを得かつ福祉を得て汝らの産業とする地に汝らの日を長うすることを得ん

第六章

1是すなはち汝らの神ヱホバが汝らに教へよと命じたまふところの誡命と法度と律法とにして汝らがその濟りゆきて獲ところの地にて行ふべき者なり 2是は汝と汝の子および汝の孫をしてその生命ながらふる日の間つねに 汝の神ヱホバを畏れしめて我が汝らに命ずるその 諸 の法度と誡命とを守らしめんため又なんぢの日を永からしめんための者なり 3然ばイスラエルよ聽て謹んでこれを行へ然せば汝は福祉を獲 汝の先祖の神ヱホバの汝に言たまひしごとく乳と蜜の流るる國にて汝の數おほいに増ん 4イスラエルよ聽け我らの神ヱホバは惟一のヱホバなり 5汝 心を盡し精神を盡し力を盡して汝の神ヱホバを愛すべし 6今日わが汝に命ずる是らの言は汝これをその心にあらしめ 7勤て汝の子等に教へ家に坐する時も路を歩む時も寝る時も興る時もこれを語るべし 8汝またこれを汝 の手に結びて號となし汝の目の間におきて誌となし 9また汝の家の柱と汝の門に書記すべし 10汝の神ヱホバその汝の先祖アブラハム、イサク、ヤコブにむかひて汝に與 んと誓ひたりし地に汝を入しめん時は汝をして汝が建たる者にあらざる大なる美しき邑々を得させ 11汝が盈せるに非る 諸 の佳物を盈せる家を得させ汝が堀たる者にあらざる堀井を得させたまふべし汝は食ひて飽ん 12然る時は汝 愼め汝をエジプトの地奴隷たる家より導き出ししヱホバを忘るる勿れ 13汝の神ヱホバを畏れてこれに事へその名を指て誓ふことをすべし 14汝ら他の神々すなはち汝の四周なる民の神々に従ふべからず 15汝らの中にいます汝の神ヱホバは嫉妬神なれば恐くは汝の神ヱホバ汝にむかひて怒を發し汝を地の面より滅し去たまはん 16汝マツサにおいて試みしごとく汝の神ヱホバを試むるなかれ 17汝らの神ヱホバの汝らに命じたまへる誡命と律法と法度とを汝ら謹みて守るべし 18汝ヱホバの義と視善と視たまふ事を行ふべし然せば汝 福祉を獲かつヱホバの汝の先祖に誓ひたまひしかの美地に入てこれを産業となすことを得ん 19ヱホバまたその言たまひし如く汝の敵をことごとく汝の前より逐はらひたまはん 20後の日に至りて汝の子なんぢに問てこの汝らの神ヱホバが汝らに命じたまひし誡命と法度と律法とは何のためなるやと言ば 21汝その子に告て言べし我らは昔エジプトにありてパロの奴隷たりしがヱホバ強き手をもて我らをエジプトより導き出したまへり 22即ちヱホバわれらの目の前において大なる畏るべき徴と奇蹟をエジプトとパロとその全家とに示したまひ 23我らを其處より導き出して其曾て我等の先祖に誓ひし地に我らを入せて之を我らに與へたまへり 24而してヱホバ我らにこの 諸 の法度を守れと命じたまふ是われらをして我らの神ヱホバを畏れて常に 幸 ならしめんため又ヱホバ今日のごとく我らを守りて生命を保たしめんとてなりき 25我らもしその命ぜられたるごとく此一切の誡命を我らの神ヱホバの前に謹んで守らば是われらの義となるべしと

第七章

1汝の神ヱホバ汝が往て獲べきところの地に汝を導きいり多の國々の民ヘテ人ギルガシ人アモリ人カナン人ペリジ人ヒビ人ヱブス人など汝よりも數多くして力ある七の民を汝の前より逐はらひたまはん時 2すなはち汝の神ヱホバかれらを汝に付して汝にこれを撃せたまはん時は 汝かれらをことごとく滅すべし彼らと何の契約をもなすべからず彼らを憫むべからず 3また彼らと婚姻をなすべからず汝の女子を彼の男子に與ふべからず彼の女子を汝の男子に娶るべからず 4其は彼ら汝の男子を惑はして我を離れしめ之をして他の神々に事へしむるありてヱホバこれがために汝らにむかひて怒を發し俄然に汝を滅したまふにいたるべければなり 5汝らは反て斯かれらに行ふべし即ちかれらの壇を毀ちその偶像を打擲きそのアシラ像を斫たふし火をもてその雕像を焚べし 6其は汝は汝の神ヱホバの聖 民なればなり汝の神ヱホバは地の面の 諸 の

民の中より汝を擇びて己の寶の民となしたまへり 7ヱホバの汝らを愛し汝らを擇びたまひしは汝らが萬の民よりも數多かりしに因にあらず汝らは萬の民の中にて最も小き者なればなり 8但ヱホバ汝らを愛するに因りまた汝らの先祖等に誓し誓を保たんとするに因てヱホバ強き手をもて汝らを導きいだし汝らを其奴隷たりし家よりエジプトの王パロの手より贖ひいだしたまへるなり 9汝 知べし汝 の神ヱホバは神にましまし眞實の神にましまして之を愛しその誡命を守る者には契約を保ち恩惠をほどこして千代にいたり 10また之を惡む者には覿面にその報をなしてこれを滅ぼしたまふヱホバは己を惡む者には 緩 ならず覿面にこれに報いたまふなり 11然ば汝わが今日 汝に命ずるところの誡命と法度と律法とを守りてこれを行ふべし 12汝らもし是らの律法を聽きこれを守り行はば汝の神ヱホバ汝の先祖等に誓ひし契約を保ちて汝に恩惠をほどこしたまはん 13即ち汝を愛し汝を惠み汝の數を増したまひその昔なんぢに與へんと汝らの先祖等に誓たりし地において汝の兒女をめぐみ汝の地の產物穀物酒 油 等を殖し汝の牛の產 汝の羊の產を増たまふべし 14汝は惠まるること萬の民に愈らん汝らの中および汝らの家畜の中には男 も女も子なき者は無るべし 15ヱホバまた 諸 の疾病を汝 の身より除きたまひ汝らが知る彼のエジプトの惡き病 を汝の身に臨ましめず但 汝を惡む者に之を臨ませたまふべし 16汝は汝の神ヱホバの汝に付したまはんところの民をことごとく滅しつくすべし彼らを憫み見べからずまた彼らの神に事ふべからずその事 汝の罟となればなり 17汝 是らの民は我よりも衆ければ我いかでか之を逐はらふことを得んと心に謂ふか 18汝かれらを懼るるなかれ 汝の神ヱホバがパロとエジプトに爲たまひしところの事を善く憶えよ 19即ち汝が眼に見たる大なる試煉と徴證と奇蹟と強き手と伸たる腕とを憶えよ汝の神ヱホバこれをもて汝を導き出したまへり是のごとく汝の神ヱホバまた汝 が懼るる一切の民に爲たまふべし 20即ち汝の神ヱホバ黄蜂を彼らの中に遣りて終に彼らの遺れる者と汝の面を避て匿れたる者とを滅したまはん 21汝かれらを懼るる勿れ其は汝の神ヱホバ能力ある畏るべき神 汝らの中にいませばなり 22汝の神ヱホバ是等の國人を漸々に汝の前より逐はらひたまはん汝は急速に彼らを滅しつくす可らず 恐くは野の獸 殖て汝に逼らん 23汝の神ヱホバかれらを汝に付し大にこれを惶れ慄かしめて終にこれを滅し盡し 24彼らの王等を汝の手に付したまはん汝かれらの名を天が下より削るべし汝には當ることを得る者なくして汝つひに之を滅ぼし盡すに至らん 25汝かれらの神の雕像を火にて焚べし之に著せたる銀あるひは金を貪るべからず之を 己に取べからず恐くは汝これに因て罟にかからん是は汝の神ヱホバの憎みたまふ者なれば也 26憎むべき物を汝の家に携へいるべからず恐くは汝も其ごとくに詛はるる者とならん汝これを大に忌み痛く嫌ふべし是は詛ふべき者なればなり

第八章

1我が今日なんぢに命ずるところの 諸 の誡命を汝ら謹んで行ふべし然せば汝ら生ることを得かつ殖増しヱホバの汝 の先祖等に誓たまひし地に入てこれを產業となすことを得ん 2汝 記念べし汝の神ヱホバこの四十年の間 汝をして曠野の路に歩ましめたまへり是 汝を苦しめて汝を試驗み汝の心の如何なるか汝がその誡命を守るや否やを知んためなりき 3即ち汝を苦しめ汝を饑しめまた汝も知ず汝の先祖等も知ざるところのマナを汝らに食はせたまへり是人はパン而已にて生る者にあらず人はヱホバの口より出る言によりて生る者なりと汝に知しめんが爲なり 4この四十年のあひだ汝の衣服は古びて朽ず汝の足は腫ざりし 5汝また心に念ふべし人のその子を懲戒ごとく 汝の神ヱホバも汝を懲戒たまふなり 6汝の神ヱホバの誡命を守りその道にあゆみてこれを畏るべし 7汝の神ヱホバ汝 をして美地に到らしめたまふ是は谷にも山にも水の流 あり泉あり潴水ある地 8小麥 大麥 葡萄 無花果および石榴ある地 油 橄欖および蜜のある地 9汝の食ふ食 物に缺るところなく汝に何も乏しきところあらざる地なりその地の石はすなはち鐵その山よりは 銅 を掘とるべし 10汝 は食ひて飽き汝の神ヱホバにその美地を己にたまひし事を謝すべし 11汝わが今日なんぢに命ずるヱホバの誡命と律法と法度とを守らずして汝の神ヱホバを忘るるにいたらざるやう愼めよ 12汝 食ひて飽き美しき家を建て住ふに至り 13また汝の牛 羊 殖増し汝の金銀殖増し汝の所有みな殖増にいたらん時に 14恐くは汝 心に驕りて汝の神ヱホバを忘れんヱホバは汝をエジプトの地奴隷たる家より導き出し 15汝をみちびきて彼の大にして畏るべき曠野すなはち蛇火の蛇 蠍などありて水あらざる乾ける地を通り汝らのために堅き磐の中より水を出し 16汝の先祖等の

知ざるマナを曠野にて汝に食せたまへり是みな汝を苦しめ汝を試みて終に福祉を汝にたまはんとてなりき 17汝我力とわが手の動作によりて我この資財を得たりと心に謂なかれ 18汝の神ヱホバを憶えよ其はヱホバ汝に資財を得の力をたまふなればなり斯したまふは汝の先祖等に誓し契約を今日の如く行はんとてなり 19汝もし汝の神ヱホバを忘れ果て他の神々に從がひ之に事へこれを拝むことを爲ば我今日 汝らに證をなす汝らはかならず滅亡ん 20ヱホバの汝らの前に滅ぼしたまひし國々の民のごとく汝らも滅亡べし是なんぢらの神ヱホバの聲に汝らしたがはざればなり

第九章

1イスラエルよ聽け汝は今日ヨルダンを濟りゆき汝よりも大にして強き國々に入てこれを取んとすその邑々は大にして石垣は天に達り 2その民は汝が知ところのアナクの子孫にして大くかつ身長たかし汝また人の言るを聞り云く誰かアナクの子孫の前に立ことを得んと 3汝 今日知る汝 の神ヱホバは燬つくす火にましまして汝の前に進みたまふとヱホバかならず彼らを滅ぼし彼らを汝の前に攻伏たまはんヱホバの汝に言たまひし如く汝かれらを逐はらひ速かに彼らを滅ぼすべし 4汝の神ヱホバ汝の前より彼らを逐はらひたまはん後に汝 心に言なかれ云く我の 義がためにヱホバ我をこの地に導きいりてこれを獲させたまへりとそはこの國々の民の惡きがためにヱホバ之を 汝の前より逐はらひたまふなり 5汝の往てその地を獲は 汝の義きによるにあらず又なんぢの心の直によるに非ずこの國々の民惡きが故に汝の神ヱホバこれを汝の前より逐はらひたまふなりヱホバの斯したまふはまた汝の先祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓たりし言を行はんとてなり 6汝 知る汝の神ヱホバの汝に此美地を與へて獲させたまふは汝の義きによるに非ず汝は項の強き民なればなり 7汝 曠野に於て汝の神ヱホバを怒せし事を憶えて忘るる勿れ汝らはエジプトの地を出し日より此處にいたる日まで常にヱホバに悖れり 8ホレブにおいて汝らヱホバを 怒せたればヱホバ汝らを怒りて汝らを滅ぼさんとしたまへり 9かの時われ石の板すなはちヱホバの汝らに立たまへる契約を載る石の板を受んとて山に上り四十日四十夜山に居りパンも食ず水も飲ざりき 10ヱホバ我に神の指をもて書しるしたる文字ある石の板二枚を授けたまへりその上には集會の日にヱホバが山において火の中より汝らに告たまひし言をことごとく載す 11すなはち四十日四十夜過し時ヱホバ我にその契約を載る板なる石の板二枚を授け 12而してヱホバ我に言たまひけるは汝 起あがりて速かに此より下れ汝がエジプトより導き出しし民は惡き事を行ふなり彼らは早くもわが彼らに命ぜし道を離れて自己のために偶像を鋳造れりと 13ヱホバまた我に言たまひけるは我この民を觀たり視よ是は項の強き民なり 14我を阻むるなかれ我かれらを滅ぼしその名を天が下より抹さり汝 をして彼らよりも強くまた大なる民とならしむべし 15是に於て我身をめぐらして山を下りけるが山は火にて燒をる又その契約の板二枚はわが兩の手にあり 16斯て我觀しに汝らはその神ヱホバにむかひて罪を犯し自己のために犢を鋳造りて早くもヱホバの汝らに命じたまひし道を離れたりしかば 17我その二枚の板をとりてわが兩の手よりこれを擲ち汝らの目の前にこれを碎けり 18而して我は前のごとく四十日四十夜ヱホバの前に伏て居りパンも食ず水も飲ざりき是は汝らヱホバの目の前に惡き事をおこなひ之を怒せて大に罪を獲たればなり 19ヱホバ忿怒を發し憤恨をおこし汝らを怒りて滅ぼさんとしたまひしかば我懼れたりしが此度もまたヱホバ我に聽たまへり 20ヱホバまた痛くアロンを怒りてこれを滅ぼさんとしたまひしかば我その時またアロンのために祈れり 21斯て我なんぢらが作りて罪を犯しし犢を取り火をもて之を燒きこれを搗きこれを善く打碎きて細き塵となしその塵を山より流れ下るところの渓流に投棄たり 22汝らはタベラ、マツサおよびキブロテハツタワにおいてもまたヱホバを怒らせたり 23またヱホバ、カデシバルネアより汝らを遣さんとせし時言たまひけるは汝ら上りゆきて我がなんぢらに與ふる地を獲て産業とせよと然るに汝らはその神ヱホバの命に悖り之を信ぜずまたその言を聽ざりき 24我が汝らを識し日より以來 汝らは常にヱホバに悖りしなり 25かの時ヱホバ汝らを滅さんと言たまひしに因て我最初に伏たる如く四十日四十夜ヱホバの前に伏し 26ヱホバに祈りて言けるは主ヱホバよ汝その大なる權能をもて贖ひ強き手をもてエジプトより導き出しし汝の民 汝の産業を滅したまふ勿れ 27汝の僕アブラハム、イサク、ヤコブを念たまへ此民の剛愎と惡と罪とを鑑みたまふ勿れ 28恐くは汝が我らを導き出したまひし國の人言んヱホバその約せし地にかれらを導きいること能はざるに因りまた彼らを惡むに

因て彼らを導き出して曠野に殺せりと 29 抑かれらは汝
の民汝の産業にして汝が強き能力をもて腕を伸て導き出
したまひし者なり

第十章

1 かの時ヱホバ我に言たまひけるは汝石の板二枚を前の
ごとくに斫て作りまた木の櫃一箇を作りて山に登り來れ
2 汝が砕きしかの前の板に載たる言を我その板に書さん
汝これをその櫃に蔵むべし 3 我すなはち合歓木をもて櫃
一箇を作りまた石の板二枚を前のごとくに斫て作りその
板二枚を手に執て山に登りしかば 4 ヱホバかの集會の日
に山において火の中より汝らに告たるその十誡を前に書
したるごとくその板に書し而してヱホバこれを我に授け
たまへり 5 是に於て我身を轉らして山より下りその板を
我が造りしかの櫃に蔵めたり今なほその中にありヱホバ
の我に命じたまへる如し 6 斯てイスラエルの子孫はヤカ
ン人の井より出たちてモセラにいたれりアロン其處に死
て其處に葬られその子エレアザルこれに代りて祭司とな
れり 7 又其處より出たちてグデゴダにいたりグデゴダよ
り出たちてヨテバにいたれりこの地には水の流多かりき
8 かの時ヱホバ、レビの支派を區分てヱホバの契約の櫃
を舁しめヱホバの前に立てこれに事へしめ又ヱホバの名
をもて祝することを爲せたまへり其事今日にいたる 9 是
をもてレビはその兄弟等の中に分なくまた産業なし惟ヱ
ホバその産業たり汝の神ヱホバの彼に言たまへる如し 10
我は前の日數のごとく四十日四十夜山に居しがヱホバそ
の時にもまた我に聽たまへりヱホバ汝を滅すことを好み
たまはざりき 11 斯てヱホバ我に言たまひけるは汝起あが
り民に先だちて進み行き彼らをして我が之に與へんとそ
の先祖に誓ひたる地に入てこれを獲せしめよ 12 イスラエ
ルよ今汝の神ヱホバの汝に要めたまふ事は何ぞや惟是の
み即ち汝がその神ヱホバを畏れその一切の道に歩み之を
愛し心を盡し精神を盡して汝の神ヱホバに事へ 13 又我が
今日汝らに命ずるヱホバの誡命と法度とを守りて身に
福祉を得るの事のみ 14 夫天と諸天の天および地とその中
にある者は皆汝の神ヱホバに屬す 15 然るにヱホバただ
汝の先祖等を悦こびて之を愛しその後の子孫たる汝らを
萬の民の中より選びたまへり今日のごとし 16 然ば汝ら
心に割禮を行へ重て項を強くする勿れ 17 汝の神ヱホバは
神の神主の主大にしてかつ權能ある畏るべき神にまし
し人を偏り視ずまた賄賂を受ず 18 孤兒と寡婦のために
審判を行ひまた旅客を愛してこれに食物と衣服を與へた
まふ 19 汝ら旅客を愛すべし其は汝らもエジプトの國に
旅客たりし事あればなり 20 汝の神ヱホバを畏れ之に事へ
これに附從がひその名を指て誓ふことをすべし 21 彼は汝
の讃べき者また汝の神にして汝が目に見たる此等の大な
る畏るべき事業をなしたまへり 22 汝の先祖等は僅か七十
人にてエジプトに下りたりしに今汝の神ヱホバ汝をして
天空の星のごとくに多くならしめたまへり

第十一章

1 然ば汝の神ヱホバを愛し常にその職守と法度と律法と
誡命とを守るべし 2 汝らの子女は知ずまた見ざれば我こ
れに言ず惟汝らに言ふ汝らは今日すでに汝らの神ヱホバ
の懲戒とその大なる事とその強き手とその伸たる腕とを
知り 3 またそのエジプトの中においてエジプト王パロと
その全國にむかひておこなひたまひし徴證と行爲とを知
り 4 またヱホバがエジプトの軍勢とその馬とその車とに
爲たまひし事すなはち彼らが汝らの後を追きたれる時に
紅海の水を彼らの上に覆ひかからしめ之を滅ぼして今日
までその跡方なからしめし事を知り 5 また此處にいたる
まで曠野に於て汝らに爲たまひし事等を知り 6 またその
ルベンの子孫なるエリアブの子等ダタンとアビラムに爲
たまひし事すなはちイスラエルの全家の眞中において地
その口を啓きて彼らとその家族とその天幕とその足下に
立つ者とを呑つくしし事を知なり 7 即ち汝らはヱホバの
行ひたまひし此諸の大なる作爲を目に覩たり 8 然ば汝
ら我今日汝らに命ずる誡命を盡く守るべし然せば汝ら
は強くなり汝らが濟りゆきて獲んとする地にいりて之を
獲ことを得 9 またヱホバが汝らと汝らの後の子孫にあた
へんと汝らの先祖等に誓たまひし地乳と蜜との流るる國
において汝らの日を長うすることを得ん 10 汝らが進みい
りて獲んとする地は汝らが出來りしエジプトの地のごと
くならず彼處にては汝ら種を播き足をもて之に灌溉げり
その狀蔬菜園におけるが如し 11 然ど汝らが濟りゆきて獲
ところの地は山と谷の多き地にして天よりの雨水を吸ふ
なり 12 その地は汝の神ヱホバの顧みたまふ者にして年の
始より年の終まで汝の神ヱホバの目常にその上に在り 13
汝らもし我今日なんぢらに命ずる吾命令を善守りて汝ら
の神ヱホバを愛し心を盡し精神を盡して之に事へなば 14

我なんぢらの地の雨を秋の雨春の雨ともに時に隨ひて降
し汝らをしてその穀物を收入しめ且酒と油を獲せしめ 15
また汝の家畜のために野に草を生ぜしむべし汝は食ひて
飽ん 16汝ら自ら愼むべし心 迷ひ翻へりて他の神々に事へ
これを拜む勿れ 17恐くはヱホバ汝らにむかひて怒を發し
て天を閉たまひ雨ふらず地物を生ぜずなりて汝らそのヱ
ホバに賜れる美地より速かに滅亡るに至らん 18汝ら是等
の我 言を汝らの心と 魂 との中に藏めまた之を汝らの手
に結びて徴となし汝らの目の間におきて誌となし 19之を
なんぢらの子等に教へ家に坐する時も路を歩む時も寢る
時も興る時もこれを語り 20また汝の家の柱となんぢの門
に之を書 記べし 21然せばヱホバが汝らの先祖等に與へん
と誓ひたまひし地に汝らのをる日および汝らの子等のを
る日は數多くして天の地を覆ふ日の久きが如くならん 22
汝 らもし我が汝らに命ずる此一切の誡命を善く守りてこ
れを行ひ汝等の神ヱホバを愛しその一切の道に歩み之に
附從がはば 23ヱホバこの國々の民をことごとく汝らの前
より逐はらひたまはん而して汝らは己よりも大にして
能力ある國々を獲にいたるべし 24凡そ汝らが足の蹠にて
踏む處は皆 汝らの有とならん即ち汝らの境界は曠野より
レバノンに亘りまたユフラテ河といふ河より西の海に亘
るべし 25汝らの前に立ことを得る人あらじ汝らの神ヱホ
バ汝らが踏いるところの地の人々をして汝らを怖ぢ汝ら
を畏れしめたまふこと其嘗て汝らに言たまひし如くなら
ん 26視よ我今日 汝らの前に祝福と呪詛とを置く 27汝らも
し我が今日なんぢらに命ずる汝らの神ヱホバの誡命に 遵
はば祝福を得ん 28汝らもし汝らの神ヱホバの誡命に遵は
ず翻へりて我が今日なんぢらに命ずる道を離れ素知ざり
し他の神々に從がひなば呪詛を蒙らん 29汝の神ヱホバ 汝
が往て獲んとする地に汝を導きいりたまふ時は汝ゲリジ
ム山に祝福を置きエバル山に呪詛をおくべし 30この二山
はヨルダンの彼旁アラバに住るカナン人の地において日
の出る方の道の後にありギルガルに對ひてモレの橡樹と
相去こと遠らざるにあらずや 31汝らはヨルダンを濟り 汝
らの神ヱホバの汝らに賜ふ地に進みいりて之を獲んとす
必 ずこれを獲て其處に住ことを得ん 32然ば我が今日なん
ぢらに授くるところの法度と律法を汝らことごとく守り
て行ふべし

第十二章

1是は汝の先祖等の神ヱホバの汝に與へて獲させたまふ
ところの地において汝らが世に生存ふる日の間 常に守り
行 ふべき法度と律法となり 2汝らが逐はらふ國々の民が
その神々に事へし處は山にある者も岡にある者も青樹の
下にある者もみな之を盡く毀ち 3その壇を毀ちその柱を
碎きそのアシラ像を火にて燒きまたその神々の雕像を斫
倒して之が名をその處より絶去べし 4但し汝らの神ヱホ
バには汝ら是のごとく爲べからず 5汝らの神ヱホバがそ
の名を置んとて汝らの支派の中より擇びたまふ處なるヱ
ホバの住居を汝ら尋ね求めて其處にいたり 6汝らの燔祭
と犧牲 汝らの什一と汝らの手の擧祭 汝らの願 還と自 意
の禮 物および汝らの牛 羊の首出等を汝ら其處に携へ詣
り 7其處にて汝らの神ヱホバの前に食をなし又 汝らと 汝
らの家族皆その手を勞して獲たる物をもて快樂を取べし
是なんぢの神ヱホバの祝福によりて獲たるものなればな
り 8汝ら彼處にては我らが今日此に爲ごとく各々その目
に善と見ところを爲べからす 9汝らは尚いまだ汝らの神
ヱホバの賜ふ安息と產業にいたらざるなり 10然ど汝らヨ
ルダンを渡り汝らの神ヱホバの汝らに與へて獲させたま
ふ地に住にいたらん時またヱホバ汝らの周圍の敵を除き
汝 らに安息を賜ひて汝等安泰に住ふにいたらん時は 11
汝 らの神ヱホバその名を置んために一の處を擇びたまは
ん汝ら其處に我が命ずる物を都て携へゆくべし即ち汝ら
の燔祭と犧牲と汝らの什一と汝らの手の擧祭および汝ら
がヱホバに誓 願をたてて獻んと誓ひし一切の佳物とを
携 へいたるべし 12汝らは汝らの男子女子 僕 婢とともに
汝 らの神ヱホバの前に樂むべしまた汝らの門の内にをる
レビ人とも然すべし其は是は汝らの中間に分なく產業な
き者なればなり 13汝 愼め凡て汝が自ら擇ぶ處にて燔祭
を献ることをする勿れ 14唯 汝らの支派の一の中にヱホバ
の選びたまはんその處に於て汝 燔祭を献げまた我が汝に
命ずる一切の事を爲べし 15彼處にては汝の神ヱホバの 汝
にたまふ祝福に循ひて汝その心に好む獸畜を汝の門の内
に殺してその肉を食ふことを得 即ち汚れたる人も潔き人
もこれを食ふを得ること羚羊と牡鹿に於けるが如し 16但
しその血は食ふべからず水の如くにこれを地に灌ぐべし
17汝の穀物と酒と油の什一および汝の牛 羊の首出ならび
に汝が立し誓 願を還すための禮 物と汝の自 意の禮 物お
よび汝の手の擧祭の品は汝これを汝の門の内に食ふべか
らず 18汝の神ヱホバの選びたまふ處において汝の神ヱホ

バの前に汝これを食ふべし即ち汝の男子女子僕婢およ
び汝の門の内にをるレビ人とともに之を食ひ汝の手を勞
して獲たる一切の物をもて汝の神ヱホバの前に快樂を取
べし 19汝愼め汝が世に生存ふる日の間レビ人を棄る勿
れ 20汝の神ヱホバ汝に言しごとくに汝の境界を廣くした
まふに及び汝心に肉を食ふことを欲して言ん我肉を食
はんと然る時は汝すべてその心に好む肉を食ふことを得
べし 21もし汝の神ヱホバのその名を置んとて擇びたまへ
る處汝と離るること遠からば我が汝に命ぜし如く汝そ
のヱホバに賜はれる牛羊を宰り汝の門の内にて凡てその
心に好む者を食ふべし 22牡鹿と羚羊を食ふがごとく汝こ
れを食ふことを得汚れたる者も潔き者も均くこれを食ふ
ことを得るなり 23唯堅く愼みてその血を食はざれ血はこ
れが生命なればなり汝その生命を肉とともに食ふべから
ず 24汝これを食ふ勿れ水のごとくにこれを地に灌ぐべし
25汝血を食はざれ汝もし斯ヱホバの善と觀たをふ事を爲
ば汝の身と汝の後の子孫とに福祉あらん 26唯汝の獻げた
る聖物と誓願の物とはこれをヱホバの擇びたまふ處に
携へゆくべし 27汝燔祭を献る時はその肉と血を汝の神
ヱホバの壇に供ふべくまた犧牲を献る時はその血を汝の
神ヱホバの壇の上に灌ぎその肉を食ふべし 28わが汝に命
ずる是等の言を汝聽て守れ汝かく汝の神ヱホバの善と觀
正と觀たまふ事を爲ば汝と汝の後の子孫に永く福祉あら
ん 29汝の神ヱホバ汝が往て逐はらはんとする國々の民を
汝の前より絶去たまひて汝つひにその國々を獲てその地
に住にいたらん時は 30汝みづから愼め彼らが汝の前に亡
びたる後汝かれらに倣ひて罟にかかる勿れまた彼らの神
を尋求めこの國々の民は如何なる樣にてその神々に事へ
たるか我もその如くにせんと言ことなかれ 31汝の神ヱホ
バに向ひては汝然す可らず彼らはヱホバの忌かつ憎みた
まふ諸の事をその神にむかひて爲しその男子女子をさ
へ火にて焚てその神々に献げたり 32我が汝らに命ずるこ
の一切の言をなんぢら守りて行ふべし汝これを増なかれ
また之を減すなかれ

第十三章

1汝らの中に預言者あるひは夢者興りて徴證と奇蹟を
汝に見し 2汝に告て我らは今より汝と我とが是まで識ざ
りし他の神々に從ひて之に事へんと言ことあらんにその
徴證または奇蹟これが言ごとく成とも 3汝その預言者ま
たは夢者の言に聽したがふ勿れ其は汝等の神ヱホバ汝
らが心を盡し精神を盡して汝らの神ヱホバを愛するや否
やを知んとて斯なんぢらを試みたまふなればなり 4汝ら
は汝らの神ヱホバに從ひて歩み之を畏れその誡命を守り
その言に遵ひ之に事へこれに附從ふべし 5その預言者ま
たは夢者をば殺すべし是は彼汝らをして汝らをエジプ
トの國より導き出し奴隷の家より贖ひ取たる汝らの神ヱ
ホバに背かせんとし汝の神ヱホバの汝に歩めと命ぜし道
より汝を誘ひ出さんとして語るに因てなり汝斯して汝の
中より惡を除き去べし 6汝の母の生る汝の兄弟または汝
の男子女子または汝の懐の妻または汝と身命を共にす
る汝の友潜に汝を誘ひて言あらん汝も汝の先祖等も識ざ
りし他の神々に我ら往て事へん 7即ち汝の周圍にある
國々の神の或は汝に近く或は汝に遠くして地の此極より
地の彼極までに鎭り坐る者に我ら事へんと斯言ことある
とも 8汝これに從ふ勿れ之に聽なかれ之を惜み視る勿れ
之を憐むなかれ之を庇ひ匿す勿れ 9汝かならず之を殺す
べし之を殺すには汝まづ之に手を下し然る後に民みな手
を下すべし 10彼はエジプトの國奴隷の家より汝を導き出
したまひし汝の神ヱホバより汝を誘ひ離さんと求めたれ
ば汝石をもて之を撃殺すべし 11然せばイスラエルみな聞
て懼れ重ねて斯る惡き事を汝らの中に行はざらん 12汝聞
に汝の神ヱホバの汝に與へて住しめたまへる汝の邑の一
に 13邪僻なる人々興り我らは今まで識ざりし他の神々に
往て事へんと言てその邑に住む人を誘ひ惑はしたりと言
あらば 14汝これを尋ね探り善問べし若その事眞にその
言確にして斯る憎むべき事汝らの中に行はれたらば 15
汝かならずその邑に住む者を刃にかけて撃ころしその邑
とその中に居る一切の者およびその家畜を刃にかけて
盡く撃ころすべし 16またその中より獲たる掠取物は凡
てこれをその衢に集め火をもてその邑とその一切の
掠取物をことごとく焚て汝の神ヱホバに供ふべし是は永
く荒邱となりて再び建なほさるること無るべきなり 17斯
汝この詛はれし物を少許も汝の手に附おく勿れ然せばヱ
ホバその烈しき怒を靜め汝に慈悲を加へて汝を憐れみ汝
の先祖等に誓ひしごとく汝の數を衆くしたまはん 18汝も
し汝の神ヱホバの言を聽き我が今日なんぢに命ずるその
一切の誡命を守り汝の神ヱホバの善と觀たまふ事を行は
ば是のごとくなるべし

第十四章

1汝らは汝等の神ヱホバの子等なり汝ら死る者のために
己が身に傷くべからずまた己が目の間にあたる頂の髮
を剃べからず 2其は汝は汝の神ヱホバの聖民なればなり
ヱホバは地の面の諸の民の中より汝を擇びて己の寶の
民となし給へり 3汝穢はしき物は何をも食ふ勿れ 4汝ら
が食ふべき獣畜は是なり即ち牛羊山羊 5牡鹿羚羊小鹿
麤麞麈麖など 6凡て獣畜の中蹄の分れ割て二つ
の蹄を成る反芻獣は汝ら之を食ふべし 7但し反芻者と蹄
の分れたる者の中汝らの食ふべからざる者は是なり即ち
駱駝兎および山鼠是らは反芻ども蹄わかれざれば汝ら
には汚れたる者なり 8また豚是は蹄わかるれども反芻こ
とをせざれば汝らには汚たる者なり汝ら是等の物の肉を
食ふべからずまたその死體に捫るべからず 9水にをる
諸の物の中是のごとき者を汝ら食ふべし即ち凡て翅と
鱗のある者は皆汝ら之を食ふべし 10凡て翅と鱗のあら
ざる者は汝らこれを食ふべからず是は汝らには汚たる者
なり 11また凡て潔き鳥は皆汝らこれを食ふべし 12但し
是等は食ふべからず即ち鵰黄鷹鳶 13鸇鷹黑鷹の類 14
各種の鴉の類 15駝鳥梟鴎雀鷹の類 16鸛鷺白鳥 17
鸅鸕大鷹鵜 18鶴鸚鵡の類鷸および蝙蝠 19また凡て
羽翼ありて匍ところの者は汝らには汚たる者なり汝らこ
れを食ふべからず 20凡て羽翼をもて飛ところの潔き物は
汝らこれを食ふべし 21凡そ自ら死たる者は汝ら食ふべか
らず汝の門の内にをる他國の人に之を與へて食しかべし
又これを異邦人に賣も可し汝は汝の神ヱホバの聖民なれ
ばなり汝山羊羔をその母の乳にて煮べからず 22汝かなら
ず年々に田畝に種蒔て獲ところの產物の什一を取べし 23
而して汝の神ヱホバの前すなはちヱホバのその名を置ん
とて擇びたまはん處において汝の穀物と酒と油の什一を
食ひまた汝の牛羊の首出を食ひ斯して汝の神ヱホバを常
に畏るることを學ぶべし 24但しその路行に勝がたくして
之を携へいたること能はざる時または汝の神ヱホバのそ
の名を置んとて擇びたまへる處汝を離るること餘りに
遠き時は汝もし汝の神ヱホバの恩惠に潤ふ身ならば 25そ
の物を金に易へその金を包みて手に執り汝の神ヱホバの
擇びたまへる處に往き 26凡て汝の心の好む物をその金に
易べし即ち牛羊葡萄酒濃酒など凡て汝が心に欲する物
をもとめ其處にて汝の神ヱホバの前にこれを食ひ汝と汝
の家族ともに樂むべし 27汝の門の内にをるレビ人を棄る
勿れ是は汝の中間に分なく產業なき者なればなり 28三年
の末に到る毎にその年の產物の十分の一を盡く持出し
てこれを汝の門の内に儲蓄ふべし 29然る時は汝の中間に
分なく產業なきレビ人および汝の門の内にをる他國の人
と孤子と寡婦など來りてこれを食ひて飽ん斯せば汝の神
ヱホバ汝が手をもて爲ところの諸の事において汝に
福祉を賜ふべし

第十五章

1七年の終に至るごとに汝放釋を行ふべし 2その放釋の例
は是のごとし凡てその鄰に貸ことを爲しその債主は之を
放釋べしその鄰またはその兄弟にこれを督促べからず是
はヱホバの放釋と稱へらるればなり 3異國の人には汝こ
れを督促ことを得されど汝の兄弟に貸たる物は汝の手よ
りこれを放釋べし 4斯せば汝らの中間に貧者なからん其
は汝の神ヱホバその汝に與へて產業となさしめたまふ地
において大に汝を祝福たまふべければなり 5只汝もし謹
みて汝の神ヱホバの言に聽したがひ我が今日なんぢに命
ずるこの誡命を盡く守り行ふに於ては是のごとくなる
べし 6汝の神ヱホバ汝に言しごとく汝を祝福たまふべけ
れば汝は衆多の國人に貸ことを得べし然ど借こと有じま
た汝は衆多の國人を治めん然ど彼らは汝を治むることあ
らじ 7汝の神ヱホバの汝に賜ふ地において若汝の兄弟の
貧き人汝の門の中にをらばその貧しき兄弟にむかひて
汝の心を剛愎にする勿れまた汝の手を閉る勿れ 8かなら
ず汝の手をこれに開き必ずその要むる物をこれに貸あた
へてこれが乏しきを補ふべし 9汝愼め心に惡き念を起し
第七年放釋の年近づけりと言て汝の貧き兄弟に目をかけ
ざる勿れ汝もし斯之に何をも與へずしてその人これがた
めに汝をヱホバに訴へなば汝罪を獲ん 10汝かならず之に
與ふることを爲べしまた之に與ふる時は心に惜むこと勿
れ其は此事のために汝の神ヱホバ汝の諸の事業と汝の
手の諸の働作とに於て汝を祝福たまふべければなり 11
貧き者は何時までも國にたゆること無るべければ我汝
に命じて言ふ汝かならず汝の國の中なる汝の兄弟の
困難者と貧乏者とに汝の手を開くべし 12汝の兄弟たるヘ
ブルの男またはヘブルの女汝の許に賣れたらんに若六年
なんぢに事へたらば第七年に汝これを放ちて去しむべし
13汝これを放ちて去しむる時は空手にて去しむべからず
14汝の群と禾場と搾場の中より贈物を取て之が肩に負す

べし即ち汝の神ヱホバの汝を祝福て賜ふところの物をこれに與ふべし 15汝記憶べし汝はエジプトの國に奴隷たりしが汝の神ヱホバ汝を贖ひ出したまへり是故に我今日この事を汝に命ず 16その人もし汝と汝の家を愛し汝と偕にをるを善として汝にむかひ我汝を離れて去を好まずと言ば 17汝錐を取て彼の耳を戸に刺とほすべし然せば彼は永く汝の僕たるべし汝の婢にもまた是のごとくすべし 18汝これを放ちて去しむるを難き事と見るべからず其は彼が六年汝に事へて働きしは工價を取る傭人の二倍に當ればなり汝斯なさば汝の神ヱホバ汝が凡て爲ところの事に於て汝をめぐみたまふべし 19汝の牛羊の產る初子は皆これを聖別て汝の神ヱホバに歸せしむべし汝の牛の初子をもちゐて何の工作をも爲べからず又汝の羊の初子の毛を剪べからず 20汝の神ヱホバの選びたまへる處にてヱホバの前に汝と汝の家族年々にこれを食ふべし 21然どその畜もし疵ある者すなはち跛足盲目なるなど凡て惡き疵ある者なる時は汝の神ヱホバにこれを宰りて獻ぐべからず 22汝の門の内にこれを食ふべし汚れたる者も潔き者も均くこれを食ふを得ること牡鹿と羚羊のごとし 23但しその血はこれを食ふべからず水のごとくにこれを地に灌ぐべし

第十六章

1汝アビブの月を守り汝の神ヱホバに對ひて逾越節を行なへ其はアビブの月に於て汝の神ヱホバ夜の間に汝をエジプトより導き出したまひたればなり 2汝すなはちヱホバのその名を置んとて擇びたまふ處にて羊および牛を宰り汝の神ヱホバの前に逾越節をなすべし 3酵いれたるパンを之とともに食ふべからず七日の間酵いれぬパン即ち憂患のパンを之とともに食ふべし其は汝エジプトの國より出る時は急ぎて出たればなり斯おこなひて汝その世に生存ふる日の間恒に汝がエジプトの國より出來し日を誌ゆべし 4その七日の間は汝の四方の境の内にパン酵の見ること有しむべからず又なんぢが初の日の薄暮に宰りたる者の肉を翌朝まで存しおくべからず 5汝の神ヱホバの汝に賜ふ汝の門の内にて逾越の牲畜を宰ることを爲べからず 6惟汝の神ヱホバのその名を置んとて選びたまふ處にて汝薄暮の日の入る頃汝がエジプトより出たる時刻に逾越の牲畜を宰るべし 7而して汝の神ヱホバの選びたまふ處にて汝これを燔て食ひ朝におよびて汝の天幕に歸り往くべし 8汝六日の間酵いれぬパンを食ひ第七日に汝の神ヱホバの前に會を開くべし何の職業をも爲べからず 9汝また七七日を計ふべし即ち穀物に鎌をいれ初る時よりしてその七七日を計へ始むべきなり 10而して汝の神ヱホバの前に七週の節筵を行なひ汝の神ヱホバの汝を祝福たまふ所にしたがひ汝の力に應じてその心に願ふ禮物を獻ぐべし 11斯して汝と汝の男子女子僕婢および汝の門の内に居るレビ人ならびに汝らの中間にをる寄旅と孤子と寡婦みなともに汝の神ヱホバのその名を置んとて選びたまふ處にて汝の神ヱホバの前に樂むべし 12汝その昔エジプトに奴隷たりしことを誌え是等の法度を守り行ふべし 13汝禾場と搾場の物を收藏たる時七日の間結茅節をおこなふべし 14節筵をなす時には汝と汝の男子女子僕婢および汝の門の内なるレビ人寄旅孤子寡婦など皆ともに樂むべし 15ヱホバの選びたまふ處にて汝七日の間なんぢの神ヱホバの前に節筵をなすべし汝の神ヱホバ汝の諸の產物と汝が手の諸の工事とについて汝を祝福たまふべければ汝かならず樂むことを爲べし 16汝の中間の男は皆なんぢの神ヱホバの擇びたまふ處にて一年に三次即ち酵いれぬパンの節と七週の節と結茅の節とに於てヱホバの前に出べし但し空手にてヱホバの前に出べからず 17各人汝の神ヱホバに賜はる恩惠にしたがひて其力におよぶ程の物を獻ぐべし 18汝の神ヱホバの汝に賜ふ一切の邑々に汝の支派に循がひて士師と官人を立べし彼らはまだ義き審判をもて民を審判べし 19汝裁判を枉べからず人を偏視るべからずまた賄賂を取べからず賄賂は智者の目を暗まし義者の言を枉ればなり 20汝ただ公義を而已求むべし然せば汝生存へて汝の神ヱホバの汝に賜ふ地を獲にいたらん 21汝の神ヱホバのために築くところの壇の傍にアシラの木像を立べからず 22また汝の神ヱホバの惡みたまふ偶像を己のために造るべからず

第十七章

1凡て疵あり惡き處ある牛羊は汝これを汝の神ヱホバに獻ぐべからず斯る者は汝の神ヱホバの忌嫌ひたまふ者なればなり 2汝の神ヱホバの汝に賜ふ邑々の中にて汝らの中間に若し或男または女汝の神ヱホバの目の前に惡事を行ひてその契約に悖り 3往て他の神々に事へてこれを拝み我が命ぜざる日や月や天の衆群などを拝むあらんに 4その事を汝に告る者ありて汝これを聞き細かにこれを查べ見るにその事眞にその言確にしてイスラエルの中

に斯る憎むべき事行はれ居たらば 5汝その惡き事を行へる男または女を汝の門に曳いだし石をもてその男または女を撃殺すべし 6殺すべき者は二人の證人または三人の證人の口に依てこれを殺すべし惟一人の證人の口のみをもて之を殺すことは爲べからず 7斯る者を殺すには證人まづその手を之に加へ然る後に民みなその手を加ふべし汝かく惡事を汝らの中より除くべし 8汝の門の内に訟へ爭ふ事おこるに當りその事件もし血を相流す事または權理を相爭ふ事または互に相擊たる事などにして汝に裁判かぬる者ならば汝起あがりて汝の神ヱホバの選びたまふ處に上り往き 9祭司なるレビ人と當時の士師とに詣りて問べし彼ら裁判の言詞を汝に示さん 10ヱホバの選びたまふ處にて彼らが汝に示す命令の言のごとくに汝行ひ凡て彼らが汝に教ふるごとくに愼みて爲べし 11即ち故らが汝に教ふる律法の命令に循がひ彼らが汝に告る裁判に依て行ふべし彼らが汝に示す言に違ふて右にも左にも偏るべからず 12人もし自ら擅斷にしその汝の神ヱホバの前に立て事ふる祭司またはその士師に聽したがはざる有ばその人を殺しイスラエルの中より惡を除くべし 13然せば民みな聞て畏れ重て擅斷に事をなさざらん 14汝の神ヱホバの汝に賜ふ地に汝いたり之を獲て其處に住におよべる時汝もし我周圍の一切の國人のごとくに我も王をわが上に立んと言あらば 15只なんぢの神ヱホバの選びたまふ人を汝の上にたてて王となすべしまた汝の上に王を立るには汝の兄弟の中の人をもてすべし汝の兄弟ならざる他國の人を汝の上に立べからず 16但し王となれる者は馬を多く得んとすべからず又馬を多く得んために民を率てエジプトに還るべからず其はヱホバなんぢらに向ひて汝らはこの後かさねて此路に歸るべからずと宣ひたればなり 17また妻を多くその身に有て心を迷すべからずまた金銀を己のために多く蓄積べからず 18彼その國の位に坐するにいたらば祭司なるレビ人の前にある書よりしてこの律法を一の書に書寫さしめ 19世に生存ふる日の間つねにこれを己の許に置て誦み斯してその神ヱホバを畏ることを學びこの律法の一切の言と是等の法度を守りて行ふべし 20然せば彼の心その兄弟の上に高ぶること無くまたその誡命を離れて右にも左にもまがること無してその子女とともにその國においてイスラエルの中にその日を永うすることを得ん

第十八章

1祭司たるレビ人およびレビの支派は都てイスラエルの中に分なく產業なし彼らはヱホバの火祭の品とその產業の物を食ふべし 2彼らはその兄弟の中間に產業を有じヱホバこれが產業たるたり即ちその曾て之に言たまひしが如し 3祭司が民より受べき分は是なり即ち凡て犧牲を獻ぐる者は牛にもあれ羊にもあれその肩と兩方の頰と胃とを祭司に與ふべし 4また汝の穀物と酒と油の初および羊の毛の初をも之にあたふべし 5其は汝の神ヱホバ汝の諸の支派の中より彼を選び出し彼とその子孫をして永くヱホバの名をもて立て奉事をなさしめたまへばなり 6レビ人はイスラエルの全地の中何の處に居る者にもあれその寄寓たる汝の邑を出てヱホバの選びたまふ處に到るあらば 7その人はヱホバの前に侍るその諸兄弟のレビ人とおなじくその神ヱホバの名をもて奉事をなすことを得べし 8その人の得て食ふ分は彼らと同じ但しその父の遺業を賣て獲たる物はこの外に彼に屬す 9汝の神ヱホバの汝に賜ふ地にいたるに及びて汝その國々の民の憎むべき行爲を倣ひ行ふなかれ 10汝らの中間にその男子女子をして火の中を通らしむる者あるべからずまた卜筮する者邪法を行なふ者禁厭する者魔術を使ふ者 11法印を結ぶ者憑鬼する者巫覡の業をなす者死人に詢ことをする者あるべからず 12凡て是等の事を爲す者はヱホバこれを憎たまふ汝の神ヱホバが彼らを汝の前より逐はらひたまひしも是等の憎むべき事のありしに因てなり 13汝の神ヱホバの前に汝完き者たれ 14汝が逐はらふ故の國々の民は邪法師卜筮師などに聽ことをなせり然ど汝には汝の神ヱホバ然する事を許したまはず 15汝の神ヱホバ汝の中汝の兄弟の中より我のごとき一箇の預言者を汝のために興したまはん汝ら之に聽ことをすべし 16是まったく汝が集會の日にホレブにおいて汝の神ヱホバに求めたる所なり即ち汝言けらく我をして重てこの我神ヱホバの聲を聞しむる勿れまた重てこの大なる火を見さする勿れ恐くは我死んと 17是においてヱホバ我に言たまひけるは彼らの言る所は善し 18我かれら兄弟の中より汝のごとき一箇の預言者を彼らのために興し我言をその口に授けん我が彼に命ずる言を彼ことごとく彼らに告べし 19凡て彼が吾名をもて語るところの吾言に聽したがはざる者は我これを罰せん 20但し預言者もし我が語れと命ぜざる言を吾名をもて縱肆に語りまたは他の神々の名をもて語ることを爲

すならばその預言者は殺さるべし 21汝あるひは心に謂ん
我ら如何にしてその言のヱホバの言たまふ者にあらざる
を知んと 22然ば若し預言者ありてヱホバの名をもて語る
ことをなすにその言就ずまた效あらざる時は是ヱホバの
語りたまふ言にあらずしてその預言者が縦肆に語るとこ
ろなり汝その預言者を畏るるに及ばす

第十九章

1汝の神ヱホバこの國々の民を滅し絶ち汝の神ヱホバこ
れが地を汝に賜ふて汝つひにこれを獲その邑々とその
家々に住にいたる時は 2汝の神ヱホバの汝に與へて産業
となさしめたまふ地の中に三の邑を汝のために區別べし
3而して汝これに道路を開きまた汝の神ヱホバの汝に與
へて産業となさしめたまふ地の全體を三の區に分ち凡て
人を殺せる者をして其處に逃れしむべし 4人を殺せる者
の彼處に逃れて生命を全うすべきその事は是のごとし 即
ち凡て素より惡むことも無く知ずしてその鄰人を殺せる
者 5例ば人木を伐んとてその鄰人とともに林に入り手に
斧を執て木を斫んと撃おろす時にその頭の鐵柯より脱て
その鄰人にあたりて之を死しめたるが如き是なり斯る人
は是等の邑の一に逃れて生命を全うすべし 6恐くは復仇
する者心熱してその殺人者を追かけ道路長きにおいて
は遂に追しきて之を殺さん然るにその人は素より之を惡
みたる者にあらざれば殺さるべき理あらざるなり 7是を
もて我なんぢに命じて三の邑を汝のために區別べしと言
り 8汝の神ヱホバ汝の先祖等に誓ひしごとく汝の境界を
廣め汝の先祖等に與へんと言し地を盡く汝に賜ふにい
たらん時 9即ち汝我が今日なんぢに命ずるこの一切の
誡命を守りてこれを行なひ汝の神ヱホバを愛し恒にその
道に歩まん時はこの三の外にまた三の邑を増加ふべし 10
是汝の神ヱホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地に
辜なき者の血を流すこと無らんためなり斯せずばその血
汝に歸せん 11然どもし人その隣人を惡みて之を附覘ひ起
かかり撃てその生命を傷ひて之を死しめ而してこの邑の
一に逃れたる事あらば 12その邑の長老等人を遣て之を
其處より曳きたらしめ復仇者の手にこれを付して殺さし
むべし 13汝かれを憫み視るべからず辜なき者の血を流せ
る咎をイスラエルより除くべし然せば汝に福祉あらん 14
汝の神ヱホバの汝に與へて獲させたまふ地の中において
汝が嗣ぐところの産業に汝の先人の定めたる汝の鄰の
地界を侵すべからず 15何の惡にもあれ凡てその犯すとこ
ろの罪は只一人の證人によりて定むべからず二人の
證人の口によりまたは三人の證人の口によりてその事
を定むべし 16もし偽妄の證人起りて某の人は惡事をなせ
りと言たつること有ば 17その相爭ふ二人の者ヱホバの前
に至り當時の祭司と士師の前に立べし 18然る時士師
詳細にこれを査べ視るにその證人もし偽妄の證人にし
てその兄弟にむかひて虚妄の證をなしたる者なる時は 19
汝兄弟に彼が蒙らさんと謀れる所を彼に蒙らし斯して
汝らの中より惡事を除くべし 20然せばその遺れる者等聞
て畏れその後かさねて斯る惡き事を汝らの中におこなは
じ 21汝憫み視ることをすべからず生命は生命眼は眼歯
は歯手は手足は足をもて償はしむべし

第二十章

1汝その敵と戰はんとて出るに當り馬と車を見また汝よ
りも數多き民を見るもこれに懼るる勿れ其は汝をエジプ
トの國より導き上りし汝の神ヱホバなんぢとともに在せ
ばなり 2汝ら戰闘に臨む時は祭司進みいで民に告て 3之
に言べしイスラエルよ聽け汝らは今日なんぢらの敵と戰
はんとて進み來れり心に臆する勿れ懼るるなかれ倉皇な
かれ彼らに怖るなかれ 4其は汝らの神ヱホバ汝らとと
もに行き汝らのために汝らの敵と戰ひて汝らを救ひたまふ
べければなりと 5斯てまた有司等民に告て言べし誰か新
しき家を建て之に移らざる者あるかその人は家に歸りゆ
くべし恐くは自己戰闘に死て他の人これに移らん 6誰か
菓物園を作りてその果を食はざる者あるかその人は家に
歸りゆくべし恐くは自己戰闘に死て他の人これを食はん
7誰か女と契りて之を娶らざる者あるかその人は家に歸
りゆくべし恐くは自己戰闘に死て他の人これを娶らんと
8有司等なほまた民に告て言べし誰か懼れて心に臆する
者あるかその人は家に歸りゆくべし恐くはその兄弟たち
の心これが心のごとく挫けんと 9有司等かく民に告るこ
とを終たらば軍勢の長等を立て民を率しむべし 10汝ある
邑に進みゆきて之を攻んとする時は先これに平穏に降る
ことを勸むべし 11その邑もし平穏に降らんと答へてその
門を汝に開かば其處なる民をして都て汝に貢を納しめ汝
に事へしむべし 12其もし平穏に汝に降ることを肯んぜず
して汝と戰かはんとせば汝これを攻べし 13而して汝の神
ヱホバこれを汝の手に付したまふに至らば刃をもてその

中の男を盡く撃殺すべし 14惟その婦女嬰孩家畜および凡てその邑の中にて汝が奪ひ獲たる物は盡く己に取べし抑汝がその敵より奪ひ獲たる物は汝の神ヱホバの汝に賜ふ者なれば汝これをもて樂むべし 15汝を離ることの遠き邑々すなはち是等の國々に屬せざるところの邑々には凡てかくのごとく行なふべし 16但し汝の神ヱホバの汝に與へて產業となさしめたまふこの國々の邑々においては呼吸する者を一人も生し存べからず 17即ちヘテ人 アモリ人 カナン人 ペリジ人 ヒビ人 ヱブス人などは汝かならずこれを滅ぼし盡して汝の神ヱホバの汝に命じたまへる如くすべし 18斯するは彼らがその神々にむかひて行ふところの憎むべき事を汝らに教へて之を倣ひおこなはしめ汝らをして汝らの神ヱホバに罪を獲せしむる事のなからんためなり 19汝 久しく邑を圍みて之を攻取んとする時においても斧を振ふて其處の樹を砍枯すべからず是は 汝の食となるべき者なり且その城攻において田野の樹あに人のごとく汝の前に立ふさがらんや 20但し果を結ばざる樹と知る樹はこれを砍り枯し汝と戰ふ邑にむかひて之をもて雲梯を築きその降るまで之を攻るも宜し

第二十一章

1汝の神ヱホバの汝に與へて獲させたまふ地において若し人殺されて野に仆れをるあらんに之を殺せる者の誰なるかを知ざる時は 2汝の長老等と士師等出きたりその人の殺されをる處よりその四周の邑々までを度るべし 3而してその人の殺されをる處に最も近き邑すなはちその邑の長老等は未だ使はず未だ軛を負せて牽ざるところの少き牝牛を取り 4邑の長老等その牝牛を耕すことも種蒔こともせざる流つきせぬ谷に牽ゆきその谷において牝牛の頸を折べし 5その時は祭司たるレビの子孫等其處に進み來るべし彼らは汝の神ヱホバが選びて己に事へしめまたヱホバの名をもて祝することを爲しめたまふ者にて一切の訴訟と一切の爭競は彼らの口によりて決定るべきが故なり 6而してその人の殺されをりし處に最も近き邑の長老等その谷にて頸を折たる牝牛の上において手を洗ひ 7答へて言べし我らの手はこの血を流さず我らの目はこれを見ざりしなり 8ヱホバよ汝が贖ひし汝の民イスラエルを赦したまへこの辜なき者の血を流せる罰を汝の民イスラエルの中に降したまふ勿れと斯せば彼らその血の罪を赦されん 9汝かくヱホバの善と觀たまふ事をおこなひその辜なき者の血を流せる咎を汝らの中より除くべし 10汝 出て汝の敵と戰ふにあたり汝の神ヱホバこれを汝の手に付したまひて汝これを俘虜となしたる時 11汝もしその俘虜の中に貌 美しき女あるを見てこれを悦び取て妻となさんとせば 12汝の家の中にこれを携へゆくべし而して彼はその髮を剃り爪を截り 13まだ俘虜の衣服を脫すてて汝の家に居りその父母のために一月のあひだ哀哭べし然る後なんぢ故の處に入りてこれが夫となりこれを汝の妻とすべし 14その後 汝もし彼を好まずなりなば彼の心のままに去ゆかしむべし決して金のためにこれを賣べからず汝すでにこれを犯したれば之を嚴く待遇べからざるなり 15人二人の妻ありてその一人は愛する者一人は惡む者ならんにその愛する者と惡む者の二人ともに男の子を生ありてその長子もし惡む婦の產る者なる時は 16その子等に己の所有を嗣しむる日にその惡む婦の產る長子を措てその愛する婦の產る子を長子となすべからず 17必ずその惡む者の產る子を長子となし己の所有を分つ時にこれには二倍を與ふべし是は己の力の始にして長子の權これに屬すればなり 18人にもし放肆にして背 悖る子ありその父の言にも母の言にも順はず父母これを責るも聽ことをせざる時は 19その父母これを執へてその處の門にいたり邑の長老等に就き 20邑の長老たちに言べし我らの此子は放肆にして背 悖る者我らの言にしたがはざる者放蕩にして酒に耽る者なりと 21然る時は邑の人みな石をもて之を擊殺すべし汝かく汝らの中より惡事を除き去べし然せばイスラエルみな聞て懼れん 22人もし死にあたる罪を犯して死刑に遇ことありて汝これを木に懸て曝す時は 23翌朝までその體を木の上に留おくべからず必ずこれをその日の中に埋むべし其は木に懸らるる者はヱホバに詛はるる者なればなり斯するは汝の神ヱホバの汝に賜ふて產業となさしめたまふ地の汚れざらんためなり

第二十二章

1汝の兄弟の牛または羊の迷ひをるを見てこれを見すて置べからず必ずこれを汝の兄弟に牽ゆきて歸すべし 2汝の兄弟もし汝に近からざるか又は汝かれを知ざる時はこれを汝の家に牽ゆきて汝の許におき汝の兄弟の尋ねきたるに及びて之を彼に還すべし 3汝の兄弟の驢馬におけるも是のごとく爲しまたその衣服におけるも斯なすべし凡て汝の兄弟の失ひたる遺失物を得たる時も汝かく爲べし

之を見すておくべからず 4また汝の兄弟の驢馬または牛の途に蹈れをるを見て見すておくべからず必ずこれを助け起すべし 5女は男の衣服を纏ふべからずまた男は女の衣裳を著べからず凡て斯する者は汝の神ヱホバこれを憎みたまふなり 6汝 鳥の巣の路の頭または樹の上または土の上にあるを見んに雛または卵その中にありて母鳥その雛または卵の上に伏をらばその母鳥を雛とともに取べからず 7かならずその母鳥を去しめ唯その雛のみをとるべし然せば汝 福祉を獲かつ汝の日を永うすることを得ん 8汝 新しき家を建る時はその屋蓋の周圍に欄杆を設くべし是は人その上より堕てこれが血の汝の家に歸することを無らんためなり 9汝 菓物園に異類の種を混て播べからず然せば汝が播たる種より産する物および汝の菓物園より出る菓物みな聖物とならん 10汝 牛と驢馬とを耦せて耕すことを爲べからず 11汝 毛と麻とをまじへたる衣服を著べからず 12汝が上に纏ふ衣服の裾の四方に縷をつくべし 13人もし妻を娶り之とともに寝て後これを嫌ひ 14我この婦人を娶りしが之と寝たる時にその處女なるを見ざりしと言て誹謗の辭柄を設けこれに惡き名を負せなば 15その女の父と母その女の處女なる證跡を取り門にをる邑の長老等にこれを差出し 16而してその女の父長老等に言べし我この人にわが女子を與へて妻となさしめしにこの人これを嫌ひ 17誹謗の辭柄を設けて言ふ我なんぢの女子の處女なるを見ざりしと然るに吾女子の處女なりし證跡は此にありと斯いひてその父母かの布を邑の長老等の前に展べし 18然る時は邑の長老等その人を執へてこれを鞭ち 19又これに銀百シケルを罰してその女の父に償はしむべし其はイスラエルの處女に惡き名を負せたればなり斯てその人はこれを妻とすべし一生これを去ことを得ず 20然どこの事もし眞にしてその女の處女なる證跡あらざる時は 21その女をこれが父の家の門に曳いだしその邑の人々石をもてこれを撃ころすべし其は彼その父の家にて淫なる事をなしてイスラエルの中に惡をおこなひたればなり汝かく惡事を汝らの中より除くべし 22もし夫に適し婦と寝る男あるを見ばその婦と寝たる男と其婦とをともに殺し斯して惡事をイスラエルの中より除くべし 23處女なる婦人すでに夫に適の約をなせる後ある男これに邑の内に遇てこれを犯さば 24汝らその二人を邑の門に曳いだし石をもてこれを撃ころすべし是その女は邑の内にありながら叫ぶことをせざるに因りまたその男はその鄰の妻を辱しめたるに因てなり汝かく惡事を汝らの中より除くべし 25然ど男もし人に適の約をなしし女に野にて遇ひこれを強て犯すあらば之を犯しし男のみを殺すべし 26その女には何をも爲べからず女には死にあたる罪なし人その鄰人に起むかひてこれを殺せるとその事おなじ 27其は男野にてこれに遇たるが故にその人に適の約をなしし女叫びたれども拯ふ者なかりしなり 28男もし未だ人に適の約をなさざる處女なる婦に遇ひこれを執へて犯すありてその二人見あらはされなば 29これを犯せる男その女の父に銀五十シケルを與へて之を己の妻とすべし彼その女を辱しめたれば一生これを去るべからざるなり 30人その父の妻を娶るべからずその父の被を掀開べからず

第二十三章

1外腎を傷なひたる者または玉莖を切りたる者はヱホバの會に入べからず 2私子はヱホバの會にいるべからず是は十代までもヱホバの會にいるべからざるなり 3アンモン人およびモアブ人はヱホバの會にいる可らず故らは十代までも何時までもヱホバの會にいるべからざるなり 4是汝らがエジプトより出きたりし時に彼らはパンと水とをもて汝らを途に迎へずメソポタミアのペトル人ベオルの子バラムを倩ひて汝を詛はせんと爲たればなり 5然れども汝の神ヱホバ、バラムに聽ことを爲給はずして汝の神ヱホバその呪詛を變て汝のために祝福となしたまへり 6是汝の神ヱホバ汝を愛したまふが故なり 6汝 一生いつまでも彼らのために平安をもまた福禄をも求むべからず 7汝エドム人を惡べからず是は汝の兄弟なればなりまたエジプト人を惡むべからず汝もこれが國に客たりしことあればなり 8彼等の生たる子等は三代におよばばヱホバの會にいることを得べし 9汝 軍旅を出して汝の敵を攻る時は諸の惡き事を自ら謹むべし 10汝らの中間にもし夜中計ずも汚穢にふれて身の潔からざる人あらば陣營の外にいづべし陣營の内に入べからず 11而して薄暮に水をもて身を洗ひ日の入て後陣營に入べし 12汝 陣營の外に一箇の處を設けおき便する時は其處に往べし 13また器具の中に小鍬を備へおき外に出て便する時はこれをもて土を掘り身を返してその汝より出たる物を蓋ふべし 14其は汝の神ヱホバ汝を救ひ汝の敵を汝に付さんとて汝の陣營の中を歩きたまへばなり是をもて汝の陣營を聖潔すべし然せば汝 の中に汚穢物あるを見て汝を離れたまふこと有ざるべ

し 15その主人を避て汝の許に逃きたる僕をその主人に交すべからす 16その者をして汝らの中に汝とともに居しめ汝の一の邑の中にて之が善と見て擇ぶ處に住しむべし之を虐遇べからず 17イスラエルの女子の中に娼妓あるべからずイスラエルの男子の中に男娼あるべからず 18娼妓の得たる價および狗の價を汝の神ヱホバの家に携へいりて何の誓願にも用ゐるべからず是等はともに汝の神ヱホバの憎みたまふ者なればなり 19汝の兄弟より利息を取べからず即ち金の利息食物の利息など凡て利息を生ずべき物の利息を取べからず 20他國の人よりは汝利息を取も宜し惟汝の兄弟よりは利息を取べからず然ば汝が往て獲ところの地において汝の神ヱホバ凡て汝が手に爲ところの事に福祥をくだしたまふべし 21汝の神ヱホバに誓願をかけなば之か還すことを怠るべからず汝の神ヱホバかならずこれを汝に要めたまふべし怠る時は汝罪あり 22汝誓願をかけざるも罪を獲ること有じ 23汝が口より出ししし事は守りて行ふべし凡て自意の禮物は汝の神ヱホバに汝が誓願し口をもて約せしごとくに行ふべし 24汝の鄰の葡萄園に至る時汝意にまかせてその葡萄を飽まで食ふも宜し然ど器の中に取いるべからず 25また汝の鄰の麥圃にいたる時汝手にてその穗を摘食ふも宜し然ど汝の鄰の麥圃に鎌をいるべからず

第二十四章

1人妻を取てこれを娶れる後恥べき所のこれにあるを見てこれを好まずなりたらば離縁状を書てこれが手に交しこれをその家より出すべし 2その婦これが家より出たる後往て他の人に嫁ぐことをせんに 3後の夫もこれを嫌ひ離縁状を書てその手にわたして之を家より出し又はこれを妻にめとれるその後の夫死るあるも 4是は已に身を汚玷したるに因て之を出したるその先の夫ふたたびこれを妻にめとるべからず是ヱホバの憎みたまふ事なればなり汝の神ヱホバの汝に與へて產業となさしめたまふ地に汝罪を負すなかれ 5人あらたに妻を娶りたる時は之を軍に出すべからずまた何の職務をもこれに任すべからずその人は一年家に閒居してその娶れる妻を慰むべし 6人その磨礱を質におくべからず是その生命をつなぐ物を質におくなればなり 7イスラエルの子孫の中なるその兄弟を拐帶してこれを使ひまたはこれを賣る人あるを見ばその拐帶者を殺し然して汝らの中より惡を除くべし 8汝癩病を愼み凡て祭司たるレビ人が汝らに敎ふる所を善く守りて行ふべし即ち我が彼らに命ぜしごとくに汝ら守りて行ふべし 9汝らがエジプトより出きたれる路にて汝の神ヱホバがミリアムに爲たまひしところの事を誌えよ 10凡て汝の鄰に物を貸あたふる時は汝みづからこれが家にいりてその質物を取べからず 11汝は外に立をり汝が貸たる人その質物を外に持いだして汝に付すべし 12その人もし困苦者ならば之が質物を留おきて睡眠に就べからず 13かならず日の入る頃その質物を之に還すべし然せばその人おのれの上衣をまとふて睡眠につくことを得て汝を祝せん是汝の神ヱホバの前において汝の義となるべし 14困苦る貧き傭人は汝の兄弟にもあれ又は汝の地にてなんぢの門の内に寄寓る他國の人にもあれ之を虐ぐべからず 15當日にこれが値をはらふべし日の入るまで延すべからず其は貧き者にてその心にこれを慕へばなり恐らくは彼ヱホバに汝を訴ふるありて汝罪を獲ん 16父はその子等の故によりて殺さるべからず子等はその父の故によりて殺さるべからず各人おのれの罪によりて殺さるべきなり 17汝他國の人または孤子の審判を曲べからずまた寡婦の衣服を質に取べからず 18汝誌ゆべし汝はエジプトに奴隸たりしが汝の神ヱホバ汝を其處より贖ひいだしたまへり是をもて我この事をなせと汝に命ずるなり 19汝田野にて穀物を刈る時もしその一束を田野に忘れおきたらば返りてこれを取べからず他國の人と孤子と寡婦とにこれを取すべし然せば汝の神ヱホバ凡て汝が手に作ところの事に祝福を降したまはん 20汝橄欖を打落す時は再びその枝をさがすべからずその遺れる者を他國の人と孤子と寡婦とに取すべし 21また葡萄園の葡萄を摘とる時はその遺れる者を再びさがすべからず他國の人と孤子と寡婦とにこれを取すべし 22汝誌ゆべし汝はエジプトの國に奴隸たりしなり是をもて我この事を爲せと汝に命ず

第二十五章

1人と人との間に爭辯ありて來りて審判を求むる時は士師これを鞫きその義き者を義とし惡き者を惡とすべし 2その惡き者もし鞭つべき者ならば士師これを伏せその罪にしたがひて數のごとく自己の前にてこれを扑すべし 3これを扑ことは四十を逾べからず若これを逾て是よりも多く扑ときは汝その汝の兄弟を賤め視にいたらん 4穀物を碾す牛に口籠をかく可らず 5兄弟ともに居んにそ

の中の一人死て子を遺さざる時はその死たる者の妻いで て他人に嫁ぐべからず其夫の兄弟これの所に入りこれ を娶りて妻となし斯してその夫の兄弟たる道をこれに盡 し 6而してその婦の生ところの初子をもてその死たる 兄弟の後を嗣しめその名をイスラエルの中に絶ざらしむ べし 7然どその人もしその兄弟の妻をめとることを肯ぜ ずばその兄弟の妻門にいたりて長老等に言べし吾夫の 兄弟はその兄弟の名をイスラエルの中に興ることを肯 ぜず吾夫の兄弟たる道を盡すことをせずと 8然る時はそ の邑の長老等かれを呼よせて諭すべし然るも彼堅く執て 我はこれを娶ることを好まずと言ば 9その兄弟の妻 長老等の前にて彼の側にいたりこれが鞋をその足より脱 せその面に唾して答て言べしその兄弟の家を興ることを 肯ぜざる者には斯のごとくすべきなりと 10またその人の 名は鞋を脱たる者の家とイスラエルの中に稱へらるべし 11人二人あひ爭そふ時に一人の者の妻その夫を撃つ者の 手より夫を救はんとて進みより手を伸てその人の陰所 を執ふるあらば 12汝その婦の手を切おとすべし之を憫れ み視るべからず 13汝の嚢の中に一箇は大く一箇は小き 二種の權衡石をいれおくべからず 14汝の家に一箇は大く 一箇は小き二種の升斗をおくべからず 15唯十分なる公正 き權衡を有べくまた十分なる公正き升斗を有べし然せば 汝の神ヱホバの汝にたまふ地に汝の日永からん 16凡て斯 る事をなす者凡て正しからざる事をなす者は汝の神ヱホ バこれを憎みたまふなり 17汝らがエジプトより出きたり し時その路においてアマレクが汝に爲たりし事を記憶よ 18即ち彼らは汝を途に迎へ汝の疲れ倦たるに乘じて汝の 後なる弱き者等を攻撃り斯かれらは神を畏れざりき 19然 ば汝の神ヱホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地に おいて汝の神ヱホバ汝にその周圍の敵を盡く攻ふせて 安泰ならしめたまふに至らば汝アマレクの名を天が下よ り塗抹て之をおぼゆる者なからしむべし

第二十六章

1汝その神ヱホバの汝に與へて産業となさしめたまふ地 にいりこれを獲てそこに住にいたらば 2汝の神ヱホバの 汝に與へたまへる地の諸の土産の初を取て筐にいれ汝 の神ヱホバのその名を置んとて選びたまふ處にこれを携 へゆくべし 3而して汝當時の祭司に詣り之にいふべし我 は今日なんぢの神ヱホバに申さん我はヱホバが我らに與 へんと我らの先祖等に誓ひたまひし地に至れりと 4然る 時は祭司汝の手よりその筐をとりて汝の神ヱホバの壇の まへに之を置べし 5汝また汝の神ヱホバの前に陳て言べ し我先祖は憫然なる一人のスリア人なりしが僅少の人を 將てエジプトに下りゆきて其處に寄寓をりそこにて終に 大にして強く人口おほき民となれり 6然るにエジプト人 我らに害を加へ我らを惱まし辛き力役を我らに負せたり しに因て 7我等先祖等の神ヱホバに向ひて呼はりければ ヱホバわれらの聲を聽き我らの艱難と勞苦と虐遇を顧み たまひ 8而してヱホバ強き手を出し腕を伸べ大なる威嚇 と徴證と奇跡とをもてエジプトより我らを導きいだし 9 この處に我らを携へいりてこの地すなはち乳と蜜との流 るる地を我らに賜へり 10ヱホバよ今我なんぢが我に賜ひ し地の產物の初を持きたれりと斯いひて汝その筐を汝の 神ヱホバの前にそなへ汝の神ヱホバの前に禮拜をなすべ し 11而して汝は汝の神ヱホバの汝と汝の家に降したまへ る諸の善事のためにレビ人および汝の中間なる旅客と ともに樂むべし 12第三年すなはち十に一を取の年に汝そ の諸の產物の什一を取りレビ人と客旅と孤子と寡婦と にこれを與へて汝の門の内に食ひ飽しめたる時は 13汝の 神ヱホバの前に言べし我は聖物を家より執いだしまたレ ビ人と客旅と孤子と寡婦とにこれを與へ全く汝が我に命 じたまひし命令のごとくせり我は汝の命令に背かずまた これを忘れざるなり 14我はこの聖物を喪の中に食ひし事 なくをた汚穢たる身をもて之を携へ出しし事なくまた死 人のためにこれを贈りし事なきなり我はわが神ヱホバの 言に聽したがひて凡て汝が我に命じたまへるごとく行へ り 15願くは汝の聖住所なる天より臨み觀汝の民イスラエ ルと汝の我らに與へし地とに福祉をくだしたまへ是は我 がわれらの先祖等に誓ひたまひし乳と蜜との流るる地な り 16今日汝の神ヱホバこれらの法度と律法とを行ふこと を汝に命じたまふ然ば汝心を盡し精心を盡してこれを 守りおこなふべし 17今日なんぢヱホバを認めて汝の神と なし且その道に歩みその法度と誡法と律法とを守りその 聲に聽したがはんと言り 18今日ヱホバまたその言しごと く汝を認めてその寶の民となし且汝にその諸の誡命を 守れと言たまへり 19ヱホバ汝の名譽と聲聞と榮耀とをし てその造れる諸の國の人にまさらしめたまはん汝はそ の神ヱホバの聖民となることその言たまひしごとくなら ん

第二十七章

1モーセ、イスラエルの長老等とともにありて民に命じて曰ふ我が今日なんぢらに命ずるこの誡命を汝ら全く守るべし 2汝らヨルダンを濟り汝の神ヱホバが汝に與へたまふ地にいる時は大なる石數箇を立て石灰をその上に塗り 3既に濟りて後この律法の 諸 の言語をその上に書すべし然すれば汝の神ヱホバの汝にたまふ地なる乳と蜜の流るる國に汝いるを得ること汝の先祖等の神ヱホバの汝に言たまひしごとくならん 4即ち汝らヨルダンを濟るにおよばば我が今日なんぢらに命ずるその石をエバル山に立て石灰をその上に塗べし 5また其處に汝の神ヱホバのために石の壇一座を築くべし但し之を築くには鐵の器を用ゐるべからず 6汝 新石をもて汝の神ヱホバのその壇を築きその上にて汝の神ヱホバに燔祭を献ぐべし 7汝また彼處にて酬恩祭を獻げその物を食ひて汝の神ヱホバの前に 樂むべし 8汝この律法の 諸 の言語をその石の上に明白に書すべし 9モーセまた祭司たるレビ人とともにイスラエルの全家に告て曰ふイスラエルよ謹みて聽け汝は今日 汝の神ヱホバの民となれり 10然ば汝の神ヱホバの聲に聽 從ひ我が今日 汝に命ずる之が誡命と法度をおこなふべし 11その日にモーセまた民に命じて言ふ 12汝らがヨルダンを渡りし後是らの者ゲリジム山にたちて民を祝すべし即ちシメオン、レビ、ユダ、イツサカル、ヨセフおよびベニヤミン 13また是らの者はエバル山にたちて呪詛ことをすべし即ちルベン、ガド、アセル、ゼブルン、ダンおよびナフタリ 14レビ人大聲にてイスラエルの人々に告て言べし 15偶像は工人の手の作にしてヱホバの憎みたまふ者なれば凡てこれを刻みまたは鑄造りて密に安置く人は詛はるべしと民みな對へてアーメンといふべし 16その父母を軽んずる者は詛はるべし民みな對てアーメンといふべし 17その鄰の地界を侵す者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 18盲者をして路に迷はしむる者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 19客旅孤子および寡婦の審判を枉る者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 20その父の妻と寢る者はその父を辱しむるなれば詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 21凡て獸畜と交る者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 22その父の女子またはその母の女子たる己の姉妹と寢る者は詛はるべし民みな對へてアーメンとふべし 23その妻の母と寢る者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 24暗の中にその鄰を擊つ者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 25報酬をうけて無辜者を殺してその血を流す者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし 26この律法の言を守りて行はざる者は詛はるべし民みな對へてアーメンといふべし

第二十八章

1汝もし善く汝の神ヱホバの言に聽したがひ我が今日なんぢに命ずるその一切の誡命を守りて行はば汝の神ヱホバ汝をして地の 諸 の國人の上に立しめたまふべし 2汝もし汝の神ヱホバの言に聽したがふ時はこの 諸 の福祉 汝に臨み汝におよばん 3汝は邑の内にても福祉を得田野にても福祉を得ん 4また汝の胎の産 汝の地の産 汝の家畜の産 汝の牛の産 汝の羊の産に福祉あらん 5また汝の飯籃と汝 の捏盤に福祉あらん 6汝は入にも福祉を得出るにも福祉を得べし 7汝の敵起て汝を攻るあればヱホバ汝をして之を打敗らしめたまふべし彼らは一條の路より攻きたり汝の前にて七條の路より逃はしらん 8ヱホバ命じて福祉を汝の倉庫に降しまた汝が手にて爲ところの事に降し汝の神ヱホバの汝に與ふる地においてヱホバ汝を祝福たまふべし 9汝もし汝の神ヱホバの誡命を守りてその道に歩まばヱホバ汝に誓ひしごとく汝を立て己の聖 民となしたまふべし 10然る時は地の民みな汝がヱホバの名をもて稱へらるるを視て汝を畏れん 11ヱホバが汝に與へんと汝 の先祖等に誓ひたまひし地においてヱホバ汝の佳物すなはち汝の身の産と汝の家畜の産と汝の地の産とを饒にしたまふべし 12ヱホバその寶の蔵なる天を啓き雨をその時にしたがびて汝の地に降し汝の手の 諸 の行爲に祝福をたまはん汝は許多の國々の民に貸ことをなすに至らん 借ことなかるべし 13ヱホバ汝をして首とならしめたまはん尾とはならしめたまはじ汝は只上におらん下には居じ 汝 もし我が今日 汝に命ずる汝の神ヱホバの誡命に聽したがひてこれを守りおこなはばかならず斯のごとくなるべし 14汝わが今日 汝に命ずるこの言語を離れ右または左にまがりて他の神々にしたがひ事ふることをすべからず 15汝もし汝の神ヱホバの言に聽したがはず我が今日なんぢに命ずるその一切の誡命と法度とを守りおこなはずば此もろもろの呪詛 汝に臨み汝におよぶべし 16汝は邑の内にても詛はれ田野にても詛はれん 17また汝の飯籃も汝の捏盤も詛はれん 18汝の胎の産 汝の地の産 汝の牛の産 汝

の羊の産も詛はれん 19汝は入にも詛はれ出るにも詛はれん 20ヱホバ汝をしてその凡て手をもて爲ところにおいて呪詛と恐懼と鑓責を蒙らしめたまふべければ汝は滅びて速かに亡はてん是は汝 惡き事をおこなひて我を棄るによりてなり 21ヱホバ疫病を汝の身に着せて遂に汝をその往て得るところの地より滅ぼし絶たまはん 22ヱホバまた癆瘵と熱病と傷寒と瘧疾と刀劍と枯死と汚腐とをもて汝 を撃なやましたまふべし是らの物 汝を追ひ汝をして滅びうせしめん 23汝の頭の上なる天は銅 のごとくになり汝の下なる地は鐵 のごとくになるべし 24ヱホバまた雨のかはりに沙と灰とを汝の地に降せたまはん是らの物天より汝の上に下りて遂に汝を滅ぼさん 25ヱホバまた 汝をして汝の敵に打敗られしめたまふべし汝は彼らにむかひて一條の路より進み彼らの前にて七條の路より逃はしらん而して汝はまた地の 諸 の國にて虐遇にあはん 26 汝の死屍は空の 諸 の鳥と地の獣の食とならん然るもこれを逐はらふ者あらじ 27ヱホバまたエジプトの瘍瘡と痔と癰と癬とをもて汝を撃たまはん汝はこれより愈ることあらじ 28ヱホバまた汝を撃ち汝をして狂ひ且目くらみて心に驚き悸れしめたまはん 29汝は瞽者が暗にたどるごとく眞晝においても尚たどらん汝その途によりて福祉を得ることあらじ汝は只つねに虐げられ掠められんのみ汝を救ふ者なかるべし 30汝 妻を娶る時は他の人これと寝ん 汝家を建るもその中に住ことを得ず葡萄園を作るもその葡萄を摘とることを得じ 31汝の牛 汝の目の前に宰らるるも汝は之を食ふことを得ず汝の驢馬は汝の目の前にて奪ひさられん再び汝にかへることあらじ又なんぢの羊は 汝の敵の有とならん然ど汝にはこれを救ふ道あらじ 32汝の男子と汝の女子は他邦の民の有とならん汝は終日これを慕ひ望みて目を喪ふに至らん汝の手には何の力もあらじ 33汝の地の産物および汝の努苦て得たる物は汝の識ざる民これを食はん汝は只つねに虐げられ窘められん而已 34汝 はその目に見るところの事によりて心 狂ふに至らん 35ヱホバ汝の膝と脛とに惡くして愈ざる瘡瘡を生ぜしめて終に足の蹠より頭の 頂 にまでおよぼしたまはん 36ヱホバ汝と汝が立たる王とを携へて汝も汝の先祖等も知ざりし國々に移し給はん汝は其處にて木または石なる他の神々に事ふるあらん 37汝はヱホバの汝を遣はしたまふ國々にて人の詑異む者となり諺語となり諷刺とならん 38汝 は多分の種を田野に携へ出すもその刈るところは少 かるべし蝗これを食ふべければなり 39汝 葡萄園を作りてこれに培ふもその酒を飲ことを得ずまたその果を斂むることを得じ蟲これを食ふべければなり 40汝の國には遍く橄欖の樹あらん然ど汝はその油を身に膏ことを得じ其果みな堕べければなり 41汝 男子女子を擧くるもこれを汝 の有とすることを得じ皆擄へゆかるべければなり 42汝 の 諸 の樹および汝の地の産物はみな蝗これを取て食ふべし 43汝の中間にある他國の人はますます高くなりゆきて汝の上に出で汝はますます卑くなりゆかん 44彼は 汝に貸ことをせん汝は彼に貸ことを得じ彼は首となり汝は尾とならん 45この 諸 の災禍 汝に臨み汝を追ひ汝に及びてつひに汝を滅ぼさん是は汝その神ヱホバの言に聽したがはず其なんぢに命じたまへる誡命と法度とを守らざるによるなり 46是等の事は恒になんぢと汝の子孫の上にありて徴證となり人を驚かす者となるべし 47なんぢ萬の物の豊饒なる中にて心に歓び樂みて汝の神ヱホバに事へざるに因り 48饑ゑ渇きかつ裸になり萬の物に乏しくしてヱホバの汝に攻きたらせたまふところの敵に事ふるに至らん彼鐵の軛をなんぢの頸につけて遂に汝をほろぼさん 49即 ちヱホバ遠 方より地の極 所より一の民を鵰の飛がごとくに汝に攻きたらしめたまはん是は汝がその言語を知ざる民 50その面の猛惡なる民にして老たる者の身を顧みず幼稚者を憐まず 51汝の家畜の産と汝の地の産を食ひて汝 をほろぼし穀物をも酒をも油をも牛の産をも羊の産をも汝のために遺さずして終に全く汝を滅さん 52その民は汝 の全國において汝の一切の邑々を攻圍み遂にその汝が頼む堅固なる高き石垣をことごとく打圮し汝の神ヱホバの汝にたまへる國の中なる一切の邑々をことごとく攻圍むべし 53汝は敵に圍まれ烈しく攻なやまさるるによりて終にその汝の神ヱホバに賜はれる汝の胎の産なる男子女子の肉を食ふにいたらん 54汝らの中の 柔 生育にして軟弱なる男すらもその兄 弟とその 懐 の妻とその遺れる子女とを疾 視 55自己の食ふその子等の肉をこの中の誰にも與ふることを好まざらん是は汝の敵 汝の一切の邑々を圍み烈しく汝を攻なやまして何物をも其人に遺さざればなり 56又 汝らの中の 柔 生育にして繊弱なる婦女すなはちその 柔 生育にして繊弱なるがために足の蹠を土につくることをも敢てせざる者すらもその 懐 の夫とその男子とその女子とを疾 視 57己の足の間より出る胞衣と己 の産ところの子を取て密にこれを食はん是は汝の敵な

んぢの邑々を圍み烈しくこれを攻なやますによりて何物をも得ざればなり 58汝もしこの書に記したるこの律法の一切の言を守りて行はず汝の神ヱホバと云 榮ある畏るべき名を畏れずば 59ヱホバ汝の災禍と汝の子孫の災禍を烈しくしたまはん其災禍は大にして久しくその疾病は重くして久しかるべし 60ヱホバまた汝が懼れし疾病なるエジプトの 諸 の疾病を持きたりて汝の身に纏ひ附しめたまはん 61また此律法の書に載ざる 諸 の疾病と 諸 の災害を汝の滅ぶるまでヱホバ汝に降したまはん 62汝らは空の星のごとくに衆多かりしも汝の神ヱホバの言に聽したがはざるによりて殘り寡に打なさるべし 63ヱホバさきに汝らを善して汝等を衆くすることを喜びしごとく今はヱホバ汝らを滅ぼし絶すことを喜びたまはん汝らは其往て獲ところの地より抜さらるべし 64ヱホバ地のこの極よりかの極までの國々の中に汝を散したまはん汝は其處にて汝も汝の先祖等も知ざりし木または石なる他の神々に事へん 65その國々の中にありて汝は安寧を得ずまた汝の足の跖を休むる所を得じ其處にてヱホバ汝をして心 慄き目昏み精神亂れしめたまはん 66汝の生命は細き糸に懸るが如く汝に見ゆ汝は夜晝となく恐怖をいだき汝の生命おぼつかなしと思はん 67汝 心に懼るる所によりまた目に見る所によりて朝においては言ん嗚呼 夕ならば善らんとまた夕においては言ん嗚呼 朝ならば善らんと 68ヱホバなんぢを舟にのせ彼の昔わが汝に告て汝は再びこれを見ることあらじと言たるその路より汝をエジプトに曳ゆきたまはん彼處にて人 汝らを賣て汝らの敵の奴婢となさん汝らを買ふ人もあらじ

第二十九章

1ヱホバ、モーセに命じモアブの地にてイスラエルの子孫と契約を結ばしめたまふその言は斯のごとし是はホレブにてかれらと結びし契約の外なる者なり 2モーセ、イスラエルの全家を呼あつめて之に言けるは汝らはヱホバがエジプトの地において汝らの目の前にてパロとその臣下とその全地とに爲たまひし一切の事を觀たり 3即ち其 大なる試煉と徴證と大なる奇跡とを汝 目に觀たるなり 4然るにヱホバ今日にいたるまで汝らの心をして悟ることなく目をして見ることなく耳をして聞ことなからしめたまへり 5四十年の間われ汝らを導きて曠野を通りしが汝らの身の衣服は古びず汝の足の鞋は古びざりき 6汝らはまたパンをも食はず葡萄酒をも濃酒をも飲ざりき斯ありて汝 らは我が汝らの神ヱホバなることを知り 7汝らこの 處に來りし時ヘシボンの王シホンおよびバシヤンの王オグ我らを迎へて戰ひしが我らこれを打敗りて 8その地を取りこれをルベン人とガド人とマナセの半支派とに與へて産業となさしめたり 9然ば汝らこの契約の言を守りてこれを行ふべし然れば汝らの凡て爲ところに 祥 あらん 10汝 らみな今日なんぢらの神ヱホバの前に立つ即ち汝らの首領等なんぢらの支派なんぢらの長老等および汝らの牧司等などイスラエルの一切の人 11汝らの小き者等 汝らの妻ならびに汝らの營の中にをる客旅など凡て汝のために薪を割る者より水を汲む者にいたるまで皆ヱホバの前に立て 12汝の神ヱホバの契約に入んとし又 汝の神ヱホバの汝にむかひて今日なしたまふところの誓に入んとす 13然ばヱホバさきに汝に言しごとくまた汝の先祖アブラハム、イサク、ヤコブに誓ひしごとく今日なんぢを立て己の民となし己みづから汝の神となりたまはん 14我はただ汝 らと而已此契約と誓とを結ぶにあらず 15今日此にてわれらの神ヱホバの前に我らとともにたちをる者ならびに今日われらとともに此にたち居ざる者ともこれを結ぶなり 16我らは如何にエジプトの地に住をりしか如何に國々を通り來りしか汝らこれを知り 17汝らはまた木石金銀にて造れる憎むべき物および偶像のその國々にあるを見たり 18然ば汝らの中に今日その心に我らの神ヱホバを離れて其等の國々の神に往て事ふる男 女 宗族支派などあるべからず又なんぢらの中に葦蘞または茵蔯を生ずる根あるべからず 19斯る人はこの呪詛の言を聞もその心に自ら幸福なりと思ひて言ん我はわが心を剛愎にして事をなすも尚平安なり終には酔飽る者をもて渇ける者を除くにいたらんと 20是のごとき人はヱホバかならず之を赦したまはじ還てヱホバの忿怒と嫉妬の火これが上に燃えまたこの書にしるしたる災禍みなその身に加はらんヱホバつひにその人の名を天が下より抹さりたまふべし 21ヱホバすなはちイスラエルの諸の支派の中よりその人を分ちてこれに災禍を下しこの律法の書にしるしたる契約中の 諸の呪詛のごとくしたまはん 22汝等の後に起る汝らの子孫の代の人および遠き國より來る客旅この地の災禍を見またヱホバがこの地に流行せたまふ疾病を見て言ところあらん 23即ち彼ら見るにその全地は硫黄となり鹽となり且焼土となりて種も蒔れず產する所もなく何の草もその上

に生せずして彼の昔ヱホバがその震怒と忿恨とをもて毀ちたましソドム、ゴモラ、アデマ、ゼポイムの毀たれたると同じかるべければ24彼らも國々の人もみな言んヱホバ何とて斯この地になしたるやこの烈しき大なる震怒は何事ぞやと25その時人應へて曰ん彼らはその先祖たちの神ヱホバがエジプトの地より彼らを導きいだして彼らと結びたるその契約を棄て26往て己の識ずまた授らざる他の神々に事へてこれを拝みたるが故なり27是をもてヱホバこの地にむかひて震怒を發しこの書にしるしたる諸の災禍をこれに下し28而してヱホバ震怒と忿恨と大なる憤怨をもて彼らをこの地より抜とりてこれを他の國に投やれりその状今日のごとし29隠微たる事は我らの神ヱホバに屬する者なりまた顯露されたる事は我らと我らの子孫に屬し我らをしてこの律法の諸の言を行はしむる者なり

第三十章

1我が汝らの前に陳たるこの諸の祝福と呪詛の事すでに汝に臨み汝その神ヱホバに逐やられたる諸の國々において此事を心に考ふるにいたり2汝と汝の子等ともに汝の神ヱホバに起かへり我が今日なんぢに命ずる所に全たく循がひて心をつくし精神をつくしてヱホバの言に聽したがはば3汝の神ヱホバ汝の俘擄を解て汝を憐れみ汝の神ヱホバ汝を顧みその汝を散しし國々より汝を集めたまはん4汝たとひ天涯に逐やらるるとも汝の神ヱホバ其處より汝を集め其處より汝を携へかへりたまはん5汝の神ヱホバ汝をしてその先祖の有ちし地に歸らしめたまふて汝またこれを有つにいたらんヱホバまた汝を善し汝を増て汝の先祖よりも衆からしめたまはん6而して汝の神ヱホバ汝の心と汝の子等の心に割禮を施こし汝をして心を盡し精神をつくして汝の神ヱホバを愛せしめ斯して汝に生命を得させたまふべし7汝の神ヱホバまた汝の敵と汝を惡み攻る者とにこの諸の災禍をかうむらせたまはん8然ど汝は再びヱホバの言に聽したがひ我が今日なんぢに命ずるその一切の誡命を行ふにいたらん9然る時は汝の神ヱホバ汝をして汝が手をかくる諸の物と汝の胎の産と汝の家畜の産と汝の地の産に富しめて汝を善したまはん即ちヱホバ汝の先祖たちを悦こびしごとく再び汝を悦こびて汝を善したまはん10是は汝その神ヱホバの言に聽したがひ此律法の書にしるされたる誡命と法度を守り心をつくし精神を盡して汝の神ヱホバに歸するによりてなり11我が今日なんぢに命ずる誡命は汝が理會がたき者にあらずまた汝に遠き者にあらず12是は天に在ならねば汝は誰か我らのために天にのぼりてこれを我らに持くだり我らにこれを聞せて行はせんかと曰ふにおよばず13また是は海の外にあるならねば汝は誰か我らのために海をわたりゆきてこれを我らに持きたり我らにこれを聞せて行はせんかと曰におよばず14是言は甚だ汝に近くして汝の口にあり汝の心にあれば汝これを行ふことを得べし15視よ我今日生命と福徳および死と災禍を汝の前に置り16即ち我今日汝にむかひて汝の神ヱホバを愛しその道に歩みその誡命と法度と律法とを守ることを命ずるなり然なさば汝 生ながらへてその數衆くならんまた汝の神ヱホバ汝が往て獲るところの地にて汝を祝福たまふべし17然ど汝もし心をひるがへして聽從がはず誘はれて他の神々を拝みまたこれに事へなば18我今日汝らに告ぐ汝らは必ず滅びん汝らはヨルダンを渡りゆきて獲るところの地にて汝らの日を永うすることを得ざらん19我今日天と地を呼て證となす我は生命と死および祝福と呪詛を汝らの前に置り汝 生命をえらぶべし然せば汝と汝の子孫生存らふることを得ん20即ち汝の神ヱホバを愛してその言を聽き且これに附從がふべし斯する時は汝 生命を得かつその日を永うすることを得ヱホバが汝の先祖アブラハム、イサク、ヤコブに與へんと誓ひたまひし地に住ことを得ん

第三十一章

1茲にモーセ往てイスラエルの一切の人にこの言をのべたり2即ちこれに言けるは我は今日すでに百二十歳なれば最早出入をすること能はず且またヱホバ我にむかひて汝はこのヨルダンを濟ることを得ずと宣へり3汝の神ヱホバみづから汝に先だちて渡りゆき汝の前よりこの國々の人を滅ぼしさりて汝にこれを獲させたまふべしまたヱホバのかつて宣まひしごとくヨシユア汝を率ゐて濟るべし4ヱホバさきにアモリ人の王シホンとオグおよび之が地になしたる如くまた彼らにも爲てこれを滅ぼしたまはん5ヱホバかれらを汝らの前に付したまふべければ汝らは我が汝らに命ぜし一切の命令のごとくこれに爲べし6汝ら心を強くしかつ勇め彼らを懼るる勿れ彼らの前に慄くなかれ其は汝の神ヱホバみづから汝とともに往きたまへばなり必ず汝を離れず汝を棄たまはじ7斯てモーセ、ヨ

シユアを呼びイスラエルの一切の人の目の前にてこれに言ふ汝はこの民とともに往き在昔ヱホバがかれらの先祖たちに與へんと誓ひたまひし地に入るべきが故に心を強くしかつ勇め汝 彼らにこれを獲さすることを得べし 8ヱホバみづから汝に先だちて往きたまはんまた汝とともに居り汝を離れず汝を棄たまはじ懼るる勿れ驚くなかれ 9モーセこの律法を書きヱホバの契約の櫃を舁ところのレビの子孫たる祭司およびイスラエルの諸の長老等に授けたり 10而してモーセ彼らに命じて言けるは七年の末 年すなはち放釋の年の節期にいたり結 茅の節において 11イスラエルの人皆なんぢの神ヱホバの前に出んとてヱホバの選びたまふ處に來らんその時に汝イスラエルの一切の人の前にこの律法を誦てこれに聞すべし 12即ち男 女子等および汝の門の内なる他國の人など一切の民を集め彼らをしてこれを聽かつ學ばしむべし然すれば彼等 汝らの神ヱホバを畏れてこの律法の言を守り行はん 13また彼らの子等のこれを知ざる者も之を聞て汝らの神ヱホバを畏るることを學ばん汝らそのヨルダンを濟りゆきて獲ところの地に存ふる日の間つねに斯すべし 14ヱホバまたモーセに言たまひけるは視よ汝の死る日近しヨシユアを召てともに集會の幕屋に立て我かれに命ずるところあらんとモーセとヨシユアすなはち往て集會の幕屋に立けるに 15ヱホバ幕屋において雲の柱の中に現はれたまへりその雲の柱は幕屋の門口の上に駐まれり 16ヱホバ、モーセに言たまひけるは汝は先祖たちとともに寢らん此民は起あがりその往ところの他國の神々を慕ひて之と姦淫を行ひかつ我を棄て我が彼らとむすびし契約を破らん 17その日には我かれらにむかひて怒を發し彼らを棄て吾面をかれらに隱すべければ彼らは呑ほろぼされ許多の災害と艱難かれらに臨まん是をもてその日に彼ら言ん是等の災禍の我らにのぞむは我らの神ヱホバわれらとともに在さざるによるならずやと 18然るも彼ら諸の惡をおこなひて他の神々に歸するによりて我その日にはかならず吾面をかれらに隱さん 19然ば汝ら今この歌を書きイスラエルの子孫にこれを教へてその口に念ぜしめ此歌をしてイスラエルの子孫にむかひて我の證とならしめよ 20我かれらの先祖たちに誓ひし乳と蜜の流るる地にかれらを導きいらんに彼らは食ひて飽き肥太るにおよばば翻へりて他の神々に歸してこれに事へ我を軽んじ吾契約を破らん 21而して許多の災禍と艱難彼らに臨むにいたる時はこの歌かれらに對ひて證をなす者とならん其はこの歌かれらの口にありて忘るることなかるべければなり我いまだわが誓ひし地に彼らを導きいらざるに彼らは早く已に思ひ量る所あり我これを知ると 22モーセすなはちその日にこの歌を書てこれをイスラエルの子孫に教へたり 23ヱホバまたヌンの子ヨシユアに命じて曰たまはく汝はイスラエルの子孫を我が其に誓ひし地に導きいるべきが故に心を強くしかつ勇め我なんぢとともに在べしと 24モーセこの律法の言をことごとく書に書しるすことを終たる時 25モーセ、ヱホバの契約の櫃を舁ところのレビ人に命じて言けるは 26この律法の書をとりて汝らの神ヱホバの契約の櫃の傍にこれを置き之をして汝にむかひて證をなす者たらしめよ 27我なんぢの悖る事と頑梗なるとを知る見よ今日わが生存へて汝らとともにある間すら汝らはヱホバに悖れり況てわが死たる後においてをや 28汝らの諸支派の長老等および牧伯たちを吾許に集めよ我これらの言をかれらに語り聞せ天と地とを呼てかれらに證をなさしめん 29我しる我が死たる後には汝ら必らず惡き事を行ひ我が汝らに命ぜし道を離れん而して後の日に災害なんぢらに臨まん是なんぢらヱホバの惡と觀たまふ事をおこなひ汝らの手の行爲をもてヱホバを怒らするによりてなり 30かくてモーセ、イスラエルの全會衆にこの歌の言をことごとく語り聞せたり

第三十二章

1天よ耳を傾むけよ我語らん地よ吾口の言を聽け 2わが教は雨の降るがごとし吾言は露のおくがごとく霧の若艸の上にふるごとく細雨の青艸の上にくだるが如し 3我はヱホバの御名を頌揚ん我らの神に汝ら榮光を歸せよ 4ヱホバは磐にましましてその御行爲は完くその道はみな正しまた眞實ある神にましまして惡きところ無し只正くして直くいます 5彼らはヱホバにむかひて惡き事をおこなふ者にてその子にはあらず只これが玷となるのみ其人と爲は邪僻にして曲れり 6愚にして智慧なき民よ汝らがヱホバに報ゆること是のごとくなるかヱホバは汝の父にして汝を贖ひまた汝を造り汝を建たまはずや 7昔の日を憶え過にし世代の年を念へよ汝の父に問べし彼 汝に示さん汝の中の年老に問べし彼ら汝に語らん 8至高者人の子を四方に散して萬の民にその產業を分ちイスラエルの子孫の數に照して諸の民の境界を定めたまへり 9ヱホバの分

はその民にしてヤユブはその産業たり 10ヱホバこれを荒野の地に見これに獣の吼る曠野に遇ひ環りかこみて之をいたはり眼の珠のごとくにこれを護りたまへり 11鷲のその巣雛を喚起しその子の上に翺翔ごとくヱホバその羽を展て彼らを載せその翼をもてこれを負たまへり 12ヱホバは只独にてかれを導きたまへり別神はこれとともならざりき 13ヱホバかれに地の高處を乗とほらせ田園の産物を食はせ石の中より蜜を吸しめ磐の中より油を吸しめ 14牛の乳羊の乳羔羊の脂バシヤンより出る牡羊牡山羊および小麥の最も佳き者をこれに食はせたまひき汝はまた葡萄の汁の紅き酒を飲り 15然るにヱシユルンは肥て踢ことを爲す汝は肥太りて大きくなり己を造りし神を棄て己が救拯の磐を軽んず 16彼らは別神をもて之が嫉妬をおこし憎むべき者をもて之が震怒を惹く 17彼らが犠牲をささぐる者は鬼にして神にあらず彼らが識ざりし鬼神近頃新に出たる者汝らの遠つ親の畏まざりし者なり 18汝を生し磐をば汝これを棄て汝を造りし神をば汝これを忘る 19ヱホバこれを見その男子女子を怒りてこれを棄たまふ 20すなはち曰たまはく我わが面をかれらに隠さん我かれらの終を觀ん彼らはみな背き悖る類の者眞實あらざる子等なり 21彼らは神ならぬ者をもて我に嫉妬を起させ虚き者をもて我を怒らせたれば我も民ならぬ者をもて彼らに嫉妬を起させ愚なる民をもて彼らを怒らせん 22即ちわが震怒によりて火燃いで深き陰府に燃いたりまた地とその産物とを燒つくし山々の基をもやさん 23我禍災をかれらの上に積かさね吾矢をかれらにむかひて射つくさん 24彼らは饑て痩おとろへ熱の病患と悪き疫とによりて滅びん我またかれらをして獣の歯にかからしめ地に匍ふ者の毒にあたらしめん 25外には劍内には恐惶ありて少き男をも少き女をも幼児をも白髪の人をも滅ぼさん 26我は曰ふ我彼等を吹掃ひ彼らの事をして世の中に記憶らるること無らしめんと 27然れども我は敵人の怒を恐る即ち敵人どれを見あやまりて言ん我らの手能くこれを爲り是はすべてヱホバの爲るにあらずと 28彼らはまつたく智慧なき民なりその中には知識ある者なし 29嗚呼彼らもし智慧あらば之を了りてその身の終を思慮らんものを 30彼らの磐これを賣ずヱホバこれを付さずば争か一人にて千人を逐ひ二人にて萬人を敗ることを得ん 31彼らの磐は我らの磐にしかず我らの敵たる者等も然認めたり 32彼らの葡萄の樹はソドムの葡萄の樹またゴモラの野より出たる者その葡萄は毒葡萄その球は苦し 33その葡萄酒は蛇の毒のごとく蝮の惡き毒のごとし 34是は我の許に蓄へありわが庫に封じこめ有にあらずや 35彼らの足の躓かん時に我仇をかへし應報をなさんその災禍の日は近く其がために備へられたる事は迅速にいたる 36ヱホバつひにその民を鞫きまたその僕に憐憫をくはへたまはん其は彼らの力のすでに去うせて繋がれたる者も繋がれざる者もあらずなれるを見たまへばなり 37ヱホバ言たまはん彼らの神々は何處にをるや彼らが頼める磐は何處ぞや 38即ちその犠牲の膏油を食ひその灌祭の酒を飲たる者は何處にをるや其等をして起て汝らを助けしめ汝らを護しめよ 39汝ら今觀よ我こそは彼なり我の外には神なし殺すこと活すこと撃こと愈すことは凡て我是を爲す我手より救ひ出すことを得る者あらず 40我天にむかひて手をあげて言ふ我は永遠に活く 41我わが閃爍く刃を磨ぎ審判をわが手に握る時はかならず仇をわが敵にかへし我を惡む者に返報をなさん 42我わが箭をして血に酔しめ吾劍をして肉を食しめん即ち殺るる者と擄らるる者の血を之に飲せ敵の髪おほき首の肉をこれに食はせん 43國々の民よ汝らヱホバの民のために歓悦をなせ其はヱホバその僕の血のために返報をなしその敵に仇をかへしその地とその民の汚穢をのぞきたまへばなり 44モーセ、ヌンの子ヨシユアとともに到りてこの歌の言をことごとく民に誦きかせたり 45モーセこの言語をことごとくイスラエルの一切の人に告をはりて 46これに言けるは我が今日なんぢらに對ひて證するこの一切の言語を汝ら心に蔵め汝らの子等にこの律法の一切の言語を守りおこなふことを命ずべし 47抑この言は汝らには虚しき言にあらず是は汝らの生命なりこの言によりて汝らはそのヨルダンを濟りゆきて獲ところの地にて汝らの生命を永うすることを得るなり 48この日にヱホバ、モーセに告て言たまはく 49汝ヱリコに對するモアブの地のアバリム山に登りてネボ山にいたり我がイスラエルの子孫にあたへて產業となさしむるカナンの地を觀わたせよ 50汝はその登れる山に死て汝の民に列ならん是汝の兄弟アロンがホル山に死てその民に列りしごとくなるべし 51是は汝らチンの曠野なるカデシのメリバの水の邊においてイスラエルの子孫の中間にて我に悖りイスラエルの子孫の中に我の聖きことを顯さざりしが故なり 52然ども汝は我がイスラエルの子孫に與ふる地を汝の前に觀わたすことを得ん但しその地には汝いることを得じ

第三十三章

1神の人モーセその死る前にイスラエルの子孫を祝せりその祝せし言は是のごとし云く 2ヱホバ、シナイより來りセイルより彼らにむかひて昇りバランの山より光明を發ちて出で千萬の聖者の中間よりして格りたまへりその右の手には輝やける火ありき 3ヱホバは民を愛したまふ其聖者は皆その手にあり皆その足下に坐りその言によりて起あがる 4モーセわれらに律法を命ぜり是はヤコブの會衆の産業たり 5民の首領等イスラエルの諸の支派あひ集れる時に彼はヱシユルンの中に王たりき 6ルベンは生ん死はせじ然どその人數は寡少ならん 7ユダにつきては斯いふヱホバよユダの聲を聽きこれをその民に引かへしたまへ彼はその手をもて己のために戰はん願くは汝これを助けてその敵にあたらしめたまへ 8レビについては言ふ汝のトンミムとウリムは汝の聖人に歸す汝かつてマツサにて彼を試みメリバの水の邊にてかれと爭へり 9彼はその父またはその母につきて言り我はこれを見ずと又彼は自己の兄弟を認ずまた自己の子等を顧みざりき是はなんぢの言に遵がひ汝の契約を守りてなり 10彼らは汝の式例をヤコブに教へ汝の律法をイスラエルに教へ又香を汝の鼻の前にそなへ燔祭を汝の壇の上にささぐ 11ヱホバよ彼の所有を祝し彼が手の作爲を悦こびて納れたまへ又起てこれに逆らふ者とこれを惡む者との腰を摧きて復起あがることあたはざらしめたまへ 12ベニヤミンについては言ふヱホバの愛する者安然にヱホバとともにあり日々にその庇護をかうむりてその肩の間に居ん 13ヨセフについては言ふ願くはその地ヱホバの祝福をかうむらんことを即ち天の寶物なる露淵の底なる水 14日によりて產する寶物月によりて生ずる寶物 15古山の嶺の寶物 老嶽の寶物 16地の寶物地の中の產物および柴の中に居たまひし者の恩惠などヨセフの首に臨みその兄弟と別になりたる者の頂に降らん 17彼の牛の首出はその身に榮光ありてその角は兕の角のごとく之をもて國々の民を衝たふして直に地の四方の極にまで至る是はエフライムの萬々是はマナセの千々なり 18ゼブルンについては言ふゼブルンよ汝は外に出て快樂を得よイツサカルよ汝は家に居て快樂を得よ 19彼らは國々の民を山に招き其處にて義の犧牲を献げん又海の中に盈る物を得て食ひ沙の中に藏れたる物を得て食はん 20ガドについては言ふガドをして大ならしむる者は讃べき哉ガドは獅子のごとくに伏し腕と首の頂とを掻裂ん 21彼は初穗の地を自己のために選べり其處には大將の分もこもれり彼は民の首領等とともに至りイスラエルとともにヱホバの公義と審判とをなこなへり 22ダンについては言ふダンは小獅子のごとくバシヤンより跳り出づ 23ナフタリについては言ふナフタリよ汝は大に福祉をかうむりヱホバの恩惠にうるほふて西と南の部を獲ん 24アセルについては言ふアセルは他の子等よりも幸福なりまた其兄弟等にこえて惠まれその足を膏の中に浸さん 25汝の門閂は鐵のごとく銅のごとし汝の能力は汝が日々に需むるところに循はん 26ヱシユルンよ全能の神のごとき者は外に無し是は天に乘て汝を助け雲に駕てその威光をあらはしたまふ 27永久に在す神は住所なり下には永遠の腕あり敵人を汝の前より驅はらひて言たまふ滅ぼせよと 28イスラエルは安然に住をりヤコブの泉は穀と酒との多き地に獨り在らんその天はまた露をこれに降すべし 29イスラエルよ汝は幸福なり誰か汝のごとくヱホバに救はれし民たらんヱホバは汝を護る楯汝の榮光の劍なり汝の敵は汝に諂ひ服せん汝はかれらの高處を踐ん

第三十四章

1斯てモーセ、モアブの平野よりネボ山にのぼりエリコに對するピスガの嶺にいたりければヱホバ之にギレアデの全地をダンまで見し 2ナフタリの全部エフライムとマナセの地およびユダの全地を西の海まで見し 3南の地と棕櫚の邑なるエリコの谷の原をゾアルまで見したまへり 4而してヱホバかれに言たまひけるは我がアブラハム、イサク、ヤコブにむかひ之を汝の子孫にあたへんと言て誓ひたりし地は是なり我なんぢをして之を汝の目に觀ることを得せしむ然ど汝は彼處に濟りゆくことを得ずと 5斯の如くヱホバの僕モーセはヱホバの言の如くモアブの地に死り 6ヱホバ、ベテペオルに對するモアブの地の谷にこれを葬り給へり今日までその墓を知る人なし 7モーセはその死たる時百二十歲なりしがその目は矇まずその氣力は衰へざりき 8イスラエルの子孫モアブの地において三十日のあひだモーセのために哭泣をなしけるがモーセのために哭き哀しむ日つひに滿り 9ヌンの子ヨシユアは心に智慧の充る者なりモーセその手をこれが上に按たるによりて然るなりイスラエルの子孫は之に聽したがひヱホバのモーセに命じたまひし如くおこなへり 10イスラエ

ルの中にはこの後モーセのごとき預言者おこらざりきモーセはヱホバが面を對せて知たまへる者なりき 11即ちヱホバ、エジプトの地においてかれをパロとその臣下とその全地とにつかはして諸々の徴證と奇蹟を行はせたまへり 12またイスラエルの一切の人の目の前にてモーセその大なる能力をあらはし大なる畏るべき事を行へり

ヨシュア記

第一章

1ヱホバの僕モーセの死し後ヱホバ、モーセの從者ヌンの子ヨシユアに語りて言たまはく 2わが僕モーセは已に死り然ば汝いま此すべての民とともに起てこのヨルダンを濟り我がイスラエルの子孫に與ふる地にゆけ 3凡そ汝らが足の蹠にて踏む所は我これを盡く汝らに與ふ我が前にモーセに語し如し 4汝らの疆界は荒野および此レバノンより大河ユフラテ河に至りてヘテ人の全地を包ね日の沒る方の大海に及ぶべし 5汝が生ながらふる日の間なんぢに當る事を得る人なかるべし我モーセと偕に在しごとく汝と偕にあらん我なんぢを離れず汝を棄じ 6心を強くしかつ勇め汝はこの民をして我が之に與ふることをその先祖等に誓ひたりし地を獲しむべき者なり 7惟 心を強くし勇み勵んで我 僕モーセが汝に命ぜし律法をことごとく守りて行へ之を離れて右にも左にも曲るなかれ然ば汝いづくに往ても利を得べし 8この律法の書を汝の口より離すべからず夜も晝もこれを念ひて其中に録したる所をことごとく守りて行へ然ば汝の途福利を得 汝かならず勝利を得べし 9我なんぢに命ぜしにあらずや心を強くしかつ勇め汝の凡て往く處にて汝の神ヱホバ偕に在せば懼るる勿れ戰慄なかれ 10茲にヨシユア民の有司等に命じて言ふ 11陣營の中を行めぐり民に命じて言へ汝等糧食を備へよ三日の内に汝らは此ヨルダンを濟り汝らの神ヱホバが汝らに與へて獲させんとしたまふ地を獲んために進みゆくべければなりと 12ヨシユアまたルベン人ガド人およびマナセの支派の半に告て言ふ 13ヱホバの僕モーセ前に汝らに命じて言り汝らの神ヱホバ今なんぢらに安息を賜へり亦この地を汝らに與へたまふべしと汝らこの言詞を記念よ 14汝らの妻子および家畜はモーセが汝らに與へしヨルダンの此旁の地に止まるべし然ど汝ら勇者は皆身をよろひて兄弟等の先にたち進濟りて之を助けよ 15而してヱホバが汝らに賜ひし如くなんぢらの兄弟等にも安息を賜ふにおよばば又かれらもなんぢらの神ヱホバの與へたまふ地を獲るにおよばば汝らヱホバの僕モーセより與へられしヨルダンの此旁日の出る方なる己が所有の地に還りてこれを保つべしと 16彼らヨシユアに應て言ふ汝が我等に命ぜし所は我等 盡く爲べし凡て汝が我らを遣す處には我ら往べし 17我らは一切の事モーセに聽したがひし如く亦なんぢに聽したがはん唯ねがはくは汝の神ヱホバ、モーセと偕にいましごとく汝と偕に在さんことを 18誰にもあれ汝が命令に背き凡て汝が命ずるところの言に聽したがはざる者あらば之を殺すべし唯なんぢ心を強くしかつ勇め

第二章

1茲にヌンの子ヨシユア、シツテムより潜かに二人の間者を發し之にいひけるは往てかの地およびヱリコを窺ひ探れ乃ち彼ら往て妓婦ラハブと名づくる者の家に入て其處に寢けるが 2或人ヱリコの王に告て觀よイスラエルの子孫の者この地を探らんとて今宵ここに入きたれりといふ 3是に於てヱリコの王ラハブに言つかはしけるは汝にきたりて汝の家に入し人を曳いだせ彼らは此全國を探らんとて來れるなり 4婦人かのふたりの人を將て之を匿し而して言ふ實にその人々はわが許に來れり然れども我その何處よりか知ざりしが 5黄昏どき門を閉るころに出されり我その人々の何處へ往しかを知ず急ぎその後を追へ然ば之に追及んと 6その實は婦すでにかれらを領て屋蓋に升り屋蓋の上に列べおきたる麻のなかに之をかくししなり 7かくてその人々彼らの後を追ひヨルダンの路をゆきて渡場に赴むけり、かれらの後を追ふ者出るや直に門を閉しぬ 8二人のもの未だ寢ずラハブ屋背に上りて彼らのもとに來り 9これに言けるはヱホバこの地を汝らに賜へり我らは甚く汝らを懼る此地の民 盡く汝らの前に消亡ん我この事を知る 10其は汝らがエジプトより出來し時ヱホバなんぢらの前にて紅海の水を乾たまひし事および汝らがヨルダンの彼旁にありしアモリ人の二箇の王シホンとオグとになししこと即ちことごとく之を滅ぼした

りし事を我ら聞たればなり 11我ら之を聞や心怯けなんぢらの故によりて人の魂きえうせたり汝らの神ヱホバは上の天にも下の地にも神たるなり 12然ば請ふ我すでに汝らに恩を施したれば汝らも今ヱホバを指て我父の家に恩をほどこさんことを誓ひて我に眞實の記號を與へよ 13又わが父母兄弟姉妹および凡て彼らに屬る者をながらへしめ我らの生命を拯ひて死を免かれしめんことを誓へよ 14二人のものこれに言けるは汝ら若しわれらの此事を洩すことなくば我らの生命汝らに代りて死ん又ヱホバわれらに此地を與へたまふ時には我らなんぢに恩を施し眞實を盡さん 15是においてラハブ繩をもて彼らを窓より縋おろせり是は其家邑の石垣の上にありてかれ石垣の上に住しによる 16ラハブかれらに言けるは恐らくは追者なんぢに遇ん汝ら山に往て三日が間そこに隱れをり追者の還るを待て後去ゆくべし 17二人のものかれに言けるは汝が我らに誓しし此誓につきては我ら罪を獲じ 18我らが此地に打いらん時は汝我らを縋おろしたりし窓に此一條の赤き紐を結つけ且つ汝の父母兄弟および汝の父の家の眷族を悉く汝の家に聚むべし 19凡て汝の家の門を出て街衢に來る者はその血自身の首に歸すべし我らは罪なし然どもし汝とともに家にをる者に手をくはふることをせばその血は我らの首に歸すべし 20將た汝もし我らのこの事を洩さば汝が我らに誓せたる誓に我らあづかることなし 21ラハブいひけるはなんぢらの言のごとくすべしと斯てかれらを出し去しめて赤き紐を窓に結べり 22かれら往て山にいり追來るもののかへるを待て三日が間そこに居れりおひ來れるもの徧ねく彼らを途に尋ねしかども終に獲ざりき 23而してかの二箇の人は山を下り河を濟りて歸りヌンの子ヨシユアに詣りて其有し事等をつぶさに陳ぶ 24またヨシユアにいふ誠にヱホバこの國をことごとく我らの手に付したまへりこの國の民は皆我らの前に消うせんと

第三章

1ヨシユア朝はやく起いでてイスラエルの人々とともにシツテムを打發てヨルダンにゆき之を濟らずして其處に宿りぬ 2斯て三日の後有司ら陣營の中をめぐり 3民に命じて曰ふ汝ら祭司等レビ人がなんぢらの神ヱホバの契約の櫃を舁出すを見ば其處を發出てその後に從がへ 4されど汝らとその櫃との間には量りて凡そ二千キユビト許の隔離あるべし之に近づく勿れなんぢらその行べき途を知んためなり汝らは未だこの途を經しことなかりき 5ヨシユアまた民に言ふ汝ら身を潔めよヱホバ明日なんぢらの中に妙なる事を行ひたまふべしと 6ヨシユア祭司等に告ていふ契約の櫃を舁き民に先だちて濟れと則ち契約の櫃を舁き民に先だちて進めり 7ヱホバ、ヨシユアに言たまひけるは今日よりして我イスラエルの衆の目の前に汝を尊くし我がモーセと偕にありし如く汝と偕にあることを之に知せん 8なんぢ契約の櫃を舁ところの祭司等に命じて言へ汝らヨルダンの水際にゆかばヨルダンにいりて立べしと 9ヨシユアでイスラエルの人々にむかひて汝ら此に近づき汝らの神ヱホバの言を聽けと 10而してヨシユア語りけらく活神なんぢらの中に在してカナン人ヘテ人ヒビ人ペリジ人ギルガジ人アモリ人ヱブス人を汝らの前より必ず逐はらひたまふべきを左の事によりてなんぢら知るべし 11視よ全地の主の契約の櫃なんぢらに先だちてヨルダンにすすみ入る 12然ば今イスラエルの支派の中より支派ごとに一人づつ合せて十二人を擧よ 13全地の主ヱホバの櫃を舁ところの祭司等の足の蹠ヨルダンの水の中に踏とどまらばヨルダンの水上より流れくだる水きれとどまり立てうづだかくならん 14かくて民はヨルダンを濟らんとてその幕屋を立出祭司等は契約の櫃を舁て之に先だちゆく 15抑々ヨルダンは収穫の頃には絶ずその岸にことごとく溢るるなれど櫃を舁く者等ヨルダンに到り櫃を舁ける祭司等の足水際に浸ると斉しく 16上より流れくだる水止まりて遥に遠き處まで涸れザレタンに近きアダム邑の邊にて積り起て堆かくなりアラバの海すなはち鹽海の方に流れくだる水まつたく截止りたれば民ヱリコにむかひて直に濟れり 17即ちヱホバの契約の櫃を舁る祭司等ヨルダンの中の乾ける地に堅く立をりてイスラエル人みな乾ける地を渉りゆき遂に民ことごとくヨルダンを濟りつくせり

第四章

1民ことごとくヨルダンを濟りつくしたる時ヱホバ、ヨシユアに語りて言たまはく 2汝ら民の中より支派ごとに一人づつ合せて十二人を擧げ 3これに命じて言へ汝らヨルダンの中祭司等の足を踏とめしその處より石十二を取あげてこれを負ひ濟り此夜なんぢらが宿る宿場に居ゑよと 4ヨシユアすなはちイスラエルの人々の中より支派ごとに預て一人づつを取て備へおきぬその十二人の者を召

よせ 5而してヨシユアこれに言けるは汝らの神エホバの契約の櫃の前に當りて汝らヨルダンの中にすすみ入りイスラエルの人々の支派の數に循ひて各々石ひとつを取あげて肩に負きたれ 6是は汝らの中に徴となるべし後の日にいたりて汝らの子輩是等の石は何のこころなりやと問て言ば 7之にいへ往昔ヨルダンの水エホバの契約の櫃の前にて裁斷りたる事を表はすなり即ちそのヨルダンを濟れる時にヨルダンの水きれ止まれりこの故にこれらの石を永くイスラエルの人々の記念となすべしと 8イスラエルのひとびとヨシユアの命ぜしごとく然なしエホバのヨシユアに告げたまひし如くイスラエルの人々の支派の數にしたがひてヨルダンの中より石十二を取あげ之を負わたりてその宿る處にいたり之を其處にすゑたり 9ヨシユアまたヨルダンの中において契約の櫃を舁る祭司等の足を踏立し處に石十二を立たりしが今日までも尚ほ彼處にあり 10櫃を舁る祭司等はエホバのヨシユアに命じて民に告しめたまひし事の悉く成るまでヨルダンの中に立をれり凡てモーセのヨシユアに命ぜし所に適へり民は急ぎて濟りぬ 11民の悉く濟りつくせるときエホバの櫃および祭司等は民の觀る前にて濟りたり 12ルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半モーセの之に言たりし如く身をよろひてイスラエルの人々に先だちて濟りゆき 13凡そ四萬人ばかりの者軍の裝に身を堅め攻戰はんとてエホバに先だち濟りてエリコの平野に至れり 14エホバこの日イスラエルの衆人の目の前にてヨシユアを尊くしたまひければ皆モーセを畏れしごとくに彼を畏る其一生の間常に然り 15エホバ、ヨシユアに語りて言たまひけるは 16なんぢ證詞の櫃を舁る祭司等にヨルダンを出きたれと命ぜよ 17ヨシユアすなはち祭司等に命じヨルダンを出きたれと言ければ 18エホバの契約の櫃を舁る祭司等ヨルダンの中より出きたる祭司等足の蹠を陸地に擧ると斉くヨルダンの水故の處に流れかへりて初のごとくその岸にことごとく溢れぬ 19正月の十日に民ヨルダンを出きたりエリコの東の境界なるギルガルに營を張り 20時にヨシユアそのヨルダンより取きたらせし十二の石をギルガルにたて 21イスラエルの人々に語りて言ふ後の日にいたりて汝らの子輩その父に問て是らの石は何の意なりやと言ば 22その子輩に告しらせて言へ在昔イスラエルこのヨルダンを陸地となして濟りすぎし事あり 23即ち汝らの神エホバ、ヨルダンの水を汝らの前に乾涸して汝らを濟らせたまへり其事は汝らの神エホバの我らの前に紅海を乾涸して我らを渡らせたまひし狀況の如くなりき 24斯なしたまひしは地の諸の民をしてエホバの手の力あるを知しめ汝らの神エホバを恒に畏れしめんためなり

第五章

1ヨルダンの彼旁に居るアモリ人の諸の王および海邊に居るカナン人の諸の王はエホバ、ヨルダンの水をイスラエルの人々の前に乾涸して我らを濟らせたまひしと聞きイスラエルの人々の事によりて神魂消え心も心ならざりき 2その時エホバ、ヨシユアに言たまひけるは汝石の小刀を作り重て復イスラエルの人々に割禮を行なへと 3ヨシユアすなはち石の小刀を作り陽皮山にてイスラエルの人々に割禮を行へり 4ヨシユアが割禮を行ひし所以は是なりエジプトより出きたりし民の中の一切の男すなはち軍人は皆エジプトを出し後途にて荒野に死たりしが 5その出來し民はみな割禮を受たる者なりき然どエジプトを出し後途にて荒野に生れし民には皆割禮を施こさざりき 6そもそもイスラエルの人々は四十年の間荒野を歩みをりて終にそのエジプトより出來し民すなはち軍人等ことごとく亡はてたり是エホバの聲に聽したがはざりしに因てなり是をもてエホバかれらの先祖等に誓ひて我等に與へんと宣まひし地なる乳と蜜との流るる地を之に見せじと誓たまへり 7かれらに継て興らしめたまひしその子輩にはヨシユア割禮を行へりかれらは途にて割禮を施さざりしによりて割禮なきものなりければなり 8一切の民に割禮を行ふこと畢りぬれば民は陣營に其儘居てその痊るを待り 9時にエホバ、ヨシユアにむかひて我今日エジプトの羞辱を汝らの上より轉ばし去りと宣まへり是をもてその處の名を今日までギルガル(轉)と稱ふ 10イスラエルの人々ギルガルに營を張りその月の十四日の晩ヱリコの平野にて逾越節を行へり 11而して逾越節の翌日その地の穀物酵いれぬパンおよび烘麥をその日に食ひけるが 12その地の穀物を食ひし翌日よりしてマナの降ることを止みてイスラエルの人々かさねてマナを獲ざりき其年はカナンの地の產物を食へり 13ヨシユア、エリコの邊にあひける時目を擧て觀しに一箇の人劍を手に抜持て己にむかひて立ゐければヨシユアすなはちその許にゆきて之に言ふ汝は我等を助くるか將われらの敵を助くるか 14かれいひけるは否われはエホバの軍旅の將として今來れる

なりとヨシユア地に俯伏て拝し我主なにを僕に告んとしたまふやと之に言り 15ヱホバの軍旅の將ヨシユアに言けるは汝の履を足より脱され汝が立をる處は聖きなりとヨシユア然なしぬ

第六章

1(イスラエルの人々の故によりてヱリコは堅く閉して出入する者なし) 2ヱホバ、ヨシユアに言ひたまひけるは觀よわれヱリコおよびその王と大勇士とを汝の手に付さん 3汝ら軍人みな邑を繞りて邑の周圍を一次まはるべし 汝六日が間かく爲よ 4祭司等七人おのおのヨベルの喇叭をたづさへて櫃に先だつべし而して第七日には汝ら七次邑をめぐり祭司等喇叭を吹ならすべし 5然して祭司等ヨベルの角を音ながくふきならして喇叭の聲なんぢらに聞ゆる時は民みな大に呼はり喊ぶべし然せばその邑の石垣崩れおちん民みな直に進て攻のぼるべしと 6ヌンの子ヨシユアやがて祭司等を召て之に言ふ汝ら契約の櫃を舁き祭司等七人ヨベルの喇叭 七をたづさへてヱホバの櫃に先だつべしと 7而して民に言ふ汝ら進みゆきて邑を繞れ甲 冑 のものどもヱホバの櫃に先だちて進むべしと 8ヨシユアかく民に語りしかば七人の祭司等おのおのヨベルの喇叭をたづさへヱホバに先だちすきみて喇叭を吹きヱホバの契約の櫃これにしたがふ 9即ち甲 冑のものどもは喇叭を吹くところの祭司等にさきだちて行き後軍は櫃の後 に行く祭司たちは喇叭を吹きつつすすめり 10ヨシユア民に命じて言ふ汝ら呼はる勿れ汝らの聲を聞えしむるなかれまた汝らの口より言を出すなかれわが汝らに呼はれと命ずる日におよびて呼はるべしと 11而してヱホバの櫃をもち邑を繞りて一周し陣營に來りて營中に宿れり 12又あくる朝ヨシユアはやく興いで祭司等ヱホバの櫃を舁き 13七人の祭司等おのおのヨベルの喇叭をたづさへヱホバの櫃に先だちて行き喇叭を吹きつつすすみ甲 冑の者等これに先だちて行き後軍はヱホバの櫃の後に行く祭司等喇叭をふきつつ進めり 14その次の日にも一次邑を繞りて陣營に歸り六日が間 然なせり 15第七日には夜明に早く興いで前のごとくして七次邑を繞れり唯この日のみ七次邑を繞りたり 16七次目にいたりて祭司等喇叭を吹くときにヨシユア民に言ふ汝ら呼はれヱホバこの邑を汝らに賜へり 17この邑およびその中の一切の物をば詛はれしものとしてヱホバに献ぐべし唯妓婦ラハブおよび凡て彼とともに家に在るものは生し存べしわれらが遣しし使者を匿したればなり 18唯汝ら詛はれし物を愼め恐らくは汝ら其を詛はれしものとして献ぐるに方りその詛はれし物を自ら取りてイスラエルの陣營をも詛はるるものとならしめ之をして惱ましむるに至らん 19但し銀金銅器鐵器などは凡てヱホバに聖別て奉まつるべきものなればヱホバの府庫にこれを携へいるべしと 20是において民よばはり祭司喇叭を吹ならしけるが民喇叭の聲をきくと斉しくみな大聲を擧て呼はりしかば石垣崩れおちぬ斯りしかば民おのおの直に邑に上りいりて邑を攻取り 21邑にある者は男 女 少きもの老たるものの區別なく 盡 くこれを刃にかけて滅ぼし且つ牛 羊 驢馬にまで及ぼせり 22時にヨシユアこの地を窺ひたりし二箇の人にむかひ汝らかの妓婦の家に入りかの婦人およびかれに屬る一切のものを携へいだしかれに誓ひし如くせよと言ければ 23間者たりし少き人等すなはち入てラハブおよびその父母兄弟ならびに彼につけるすべてのものを携へ出しまたその親戚をも携へ出しイスラエルの陣營の外にかれらを置り 24斯て火をもて邑とその中の一切のものを焚ぬ但し銀金銅器鐵器などはヱホバの室の府庫に納めたり 25妓婦ラハブおよびその父の家の一族と彼に屬る一切の者とはヨシユアこれを生し存ければラハブは今日までイスラエルの中に住をる是はヨシユアがヱリコを窺はせんとて遣はしし使者を匿したるに因てなり 26ヨシユアその時人衆に誓ひて命じ言けるは凡そ起てこのヱリコの邑を建る者はヱホバの前に詛はるべし其石礎をすゑなば長子を失ひその門を建なば季子を失はんと 27ヱホバ、ヨシユアとともに在してヨシユアの名あまねく此地に聞ゆ

第七章

1時にイスラエルの人々その詛はれし物につきて罪を犯せり即ちユダの支派の中なるゼラの子ザブデの子なるカルミの子アカン詛はれし物を取り是をもてヱホバ、イスラエルの人々にむかひて震怒を發ちたまへり 2ヨシユア、ヱリコより人を遣はしベテルの東に當りてベテアベンの邊にあるアイに到らしめんとし之に語りて言ふ汝ら上りゆきてかの地を窺へとその人々上りゆきてアイを窺ひけるが 3ヨシユアの許に歸て之に言ふ民を 盡 くは上りゆかしめざれ唯二三千人を上らせてアイを撃しめよかれらは寡ければ一切の民を彼處に遣て勞せしむるなかれと 4

是において民およそ三千人ばかり彼處に上りゆきけるが遂にアイの人の前より遁はしれり 5アイの人彼らを門の前より追てシバリムにいたり下坂にてその三十六人ばかりを撃り民は魂神消て水のごとくになりぬ 6斯りしかばヨシユア衣を裂きイスラエルの長老等とともにヱホバの櫃の前にて暮まで地に俯伏をり首に塵を蒙れり 7ヨシユア言けらく嗟主ヱホバよ何とて此民を導きてヨルダンを濟らせ我らをアモリ人の手に付して滅亡させんとしたまふや我等ヨルダンの彼旁に安んじ居しならば善りしものを 8嗟主よイスラエルすでに敵に背を見せたれば我また何をか言ん 9カナン人およびこの地の一切の民これを聞きわれらを攻かこみてわれらの名をこの世より絶ん然らば汝の大なる御名を如何にせんや 10ヱホバ、ヨシユアに言たまひけるは立よなんぢ何とて斯は俯伏すや 11イスラエルすでに罪を犯しわが彼らに命じおける契約を破れり即ち彼らは詛はれし物を取り窃みかつ詐りてこれを己の所有物の中にいれたり 12是をもてイスラエルの人々は敵に當ること能はず敵に背を見す是は彼らも詛はるる者となりたればなり汝ら其詛はれし物を汝らの中より絶にあらざれば我ふたたび汝らと偕にをらじ 13たてよ民を潔めて言へ汝ら身を潔めて明日を待てイスラエルの神ヱホバかく言たまふイスラエルよ汝の中に詛はれしものあり汝その詛はれし物を汝らの中より除き去るまでは汝の敵に當ること能はず 14然ば翌朝汝らその支派にしたがひて進みいづべし而してヱホバの掣たまふ支派はその宗族にしたがひて進み出でヱホバの掣たまふ宗族はその家にしたがひて進み出でヱホバの掣たまふ家は男ひとりびとりに從がひて進みいづべし 15凡そ掣れて詛はれし物を有りと定まる者は其一切の所有物とともに火に焚るべし是はヱホバの契約を破りイスラエルの中に愚なる事を行ひたるが故なりと 16ヨシユア是において朝はやく興いでてイスラエルをその支派にしたがひて進出しめけるにユダの支派掣れたれば 17ユダのもろもろの宗族を進み出でしめけるにゼラの宗族掣れゼラの宗族の人々を進み出しめけるにザブデ掣れ 18ザブデの家の人々を進み出しめけるにアカン掣れぬ彼はユダの支派なるゼラの子ザブデの子なるカルミの子なり 19ヨシユア、アカンに言けるは我子よ請ふイスラエルの神ヱホバに稱讃を歸し之にむかひて懺悔し汝の爲たる事を我に告よ其事を我に隱すなかれ 20アカン、ヨシユアに答へて言けるは實にわれはイスラエルの神ヱホバに對ひて罪ををかし如此々々行へり 21即ちわれ掠取物の中にバビロンの美しき衣服一枚に銀二百シケルと重量五十シケルの金の棒あるを見欲く思ひて其を取れりそれはわが天幕の中に地に埋め匿してあり銀も下にありと 22爰にヨシユア使者を遣はしければ即ち彼の天幕に奔りゆきて視しに其は彼の天幕の中に匿しありて銀も下にありき 23彼ら其を天幕の中より取出してヨシユアとイスラエルの一切の人々の所に携へきたりければ則ちそれをヱホバの前に置り 24ヨシユアやがてイスラエルの一切の人とともにゼラの子アカンを執へかの銀と衣服と金の棒およびその男子女子牛驢馬羊天幕など凡て彼の有る物をことごとく取てアコルの谷にこれを曳ゆけり 25而してヨシユア言けらく汝なんぞ我らを惱ましやヱホバ今日汝を惱ましたまふべしと頓てイスラエル人みな石をもて彼を撃ころし又その家族等をも石にて撃ころし火をもて之を焚けり 26而してアカンの上に大なる石堆を積揚たりしが今日まで存るかくてヱホバその烈しき忿怒を息たまへり是によりてその處の名を今日までアコル(惱)の谷と呼ぶ

第八章

1茲にヱホバ、ヨシユアに言たまひけるは懼るる勿れ戰慄なかれ軍人をことごとく率ゐ起てアイに攻のぼれ視よ我アイの王およびその民その邑その地を都て汝の手に授く 2汝さきにエリコとその王とに爲し如くアイとその王とに爲べし今回は其貨財およびその家畜を奪ひて自ら取べし汝まづ邑の後に伏兵を設くべしと 3ヨシユアすなはち起あがり軍人をことごとく將てアイに攻のぼらんとしまづ大勇士三萬人を選びて夜の中にこれを遣はせり 4ヨシユアこれに命じて言く汝らは邑に對ひて邑の後に伏すべし邑に遠く離れをる勿れ皆準備をなして待をれ 5我と我に從がふ民みな共に邑に攻よせん而して彼らが初のごとく我らにむかひて打出んとき我らは彼らの前より逃はしらん 6然せば彼ら我らを追て出來べければ我等つひに之を邑より誘き出すことを得ん其は彼等いはんこの人衆は初めのごとくまた我等の前より逃ぐと斯てわれらその前より逃はしらん 7汝らその伏をる處より起りて邑を取べし汝らの神ヱホバ之を汝らの手に付したまふべし 8汝ら邑を乘取たらば邑に火を放ちヱホバの言詞の如く爲べし我これを汝らに命ず努よやと 9かくてヨシユアか

れらを遺はしければ即はち往てアイの西の方にてベテルとアイとの間に身を伏せたりヨシユアはその夜民の中に宿れり 10ヨシユア朝はやく興いでて民をあつめイスラエルの長老等とともに民に先だちてアイにのぼりゆけり 11彼に從がふ軍人ことごとく上りゆきて攻寄せ邑の前に至りてアイの北に陣をとれり彼とアイの間には一の谷ありき 12ヨシユア五千人許を擧て邑の西の方にてベテルとアイとの間にこれを伏せおけり 13かく民の全軍を邑の北に置きその伏兵を邑の西に置てヨシユアその夜谷の中にいりぬ 14アイの王これを視しかばその邑の人々みな急ぎて蚤に起き進み出てイスラエルと戰ひけるが預て諜しあはせ置る頃には王とその一切の民アラバの前に進み來れり王は邑の後に伏兵ありて己を伺ふを知らざりき 15時にヨシユア、イスラエルの一切の人とともに彼らに打負し状して荒野の路を指て逃はしりしかば 16その邑の民みな之を追撃んとて呼はり集まりヨシユアの後を追て邑を出離れ 17アイにもベテルにもイスラエルを追ゆかずして遺りをる者は一人もなく皆邑を開き放してイスラエルの後を追り 18時にヱホバ、ヨシユアに言たまはく汝の手にある矛をアイの方に指伸よ我これを汝の手に授くべしとヨシユアすなはち己の手にある矛をアイの方に指伸るに 19伏兵たちまち其處より起りヨシユアが手を伸ると齊しく奔きたりて邑に打いり之を取りて直に邑に火をかけたり 20茲にアイの人々背をふりかへりて觀しに邑の焚る煙天に立騰りゐたれば此へも彼へも逃るに術なかりき斯る機しも荒野に逃ゆける民も身をかへして其追きたる者等に逼れり 21ヨシユアおよび一切のイスラエル人伏兵の邑を取て邑の焚る煙の立騰るを見身を還してアイの人々を殺しけるが 22かの兵また邑より出きたりて彼らに向ひければ彼方にも此方にもイスラエル人ありて彼らはその中間に挟まれぬイスラエル人かくして彼らを攻撃て一人をも餘さず逃さず 23つひにアイの王を生擒てヨシユアの許に曳きたれり 24イスラエル人己を荒野に追きたりしアイの民をことごとく野に殺し刃をもてこれを仆し盡すにおよびて皆アイに歸り刃をもてこれを擊ほろぼせり 25その日アイの人々ことごとく斃れたりその數男女あはせて一萬二千人 26ヨシユア、アイの民をことごとく滅ぼし絶まではその矛を指伸たる手を垂ざりき 27但しその邑の家畜および貨財はイスラエル人これを奪ひて自ら取り是はヱホバのヨシユアに命じたまひし言に依なり 28ヨシユア、アイを燬て永くこれを墟坵とならしむ是は今日まで荒地となりをる 29ヨシユアまたアイの王を薄暮まで木に掛てさらし日の沒におよびて命じてその死骸を木より取おろさしめ邑の門の入口にこれを投すて其上に石の大堆を積おこせり其は今日まで存る 30かくてヨシユア、エバル山にてイスラエルの神ヱホバに一の壇を築けり 31是はヱホバの僕モーセがイスラエルの子孫に命ぜしことに本づきモーセの律法の書に記されたる所に循がひて新石をもて作れる壇にて何人も鐵器をその上に振あげず人衆その上にてヱホバに燔祭を献げ酬恩祭を供ふ 32彼處にてヨシユア、モーセの書しるしし律法をイスラエルの子孫の前にて石に書うつせり 33かくてイスラエルの一切の人およびその長老官吏裁判人など他國の者も本國の者も打まじりてヱホバの契約の櫃を舁る祭司等レビ人の前にあたりて櫃の此旁と彼旁に分れ半はゲリジム山の前に半はエバル山の前に立り是ヱホバの僕モーセの命ぜし所にしたがひて最初に先イスラエルの民を祝せんとてなり 34然る後ヨシユア律法の書に凡てしるされたる所に循ひて祝福と呪詛とにかかはる律法の言をことごとく誦り 35モーセの命じたる一切の言の中にヨシユアがイスラエルの全會衆および婦人子等ならびにイスラエルの中にをる他國の人の前にて誦ざるは無りき

第九章

1茲にヨルダンの彼旁において山地平地レバノンに對へる大海の濱邊に居る諸の王すなはちヘテ人アモリ人カナン人ペリジ人ヒビ人ヱブス人たる者どもこれな聞て 2心を同うし相集まりてヨシユアおよびイスラエルと戰はんとす 3然るにギベオンの民ヨシユアがヱリコとアイとに爲たりし事を聞しかば 4己も詭計をめぐらして使者の狀にいでたち古き袋および古び破れたるを結びとめたる酒の革嚢を驢馬に負せ 5補ひたる古履を足にはき古衣を身にまとひ來れり其糧のパンは凡て乾きかつ黴てありき 6彼等ギルガルの陣營に來りてヨシユアの許にいたり彼とイスラエルの人々に言ふ我らは遠き國より來れり然ば今われらと契約を結べと 7イスラエルの人々ヒビ人に言けるは汝らは我等の中に住をるならんも計られねば我ら爭か汝らと契約を結ぶことを得んと 8彼ら又ヨシユアにむかひて我らは汝の僕なりと言ければヨシユアかれらに汝らは何人にして何處より來りしやと問しに 9彼らヨシユ

アに言けるは僕等は汝の神ヱホバの名の故によりて遥に遠き國より來れり其は我ら彼の聲譽および彼がエジプトにて行ひたりし一切の事を聞き 10 また彼がヨルダンの彼旁にをりしアモリ人の二箇の王すなはちヘシボンの王シホンおよびアシタロテにをりしバシヤンの王オグに爲たりし一切の事を聞たればなり 11 是をもて我らの長老および我らの國に住をるものみなわれらに告て言り汝ら旅路の糧を手に携さへ往てかれらを迎へて彼らに言へ我らは汝らの僕なり請ふ我らと契約を結べと 12 我らの此パンは汝らの所に來らんとて出たちし日に我ら家々より其なほ温煖なるをとり備へしなるが視よ今は已に乾きて黴たり 13 また酒をみたせるこれらの革嚢も新しかりしが破るるに至り我らのこの衣服も履も旅路の甚だ長きによりて古びぬと 14 然るに人々は彼らの糧を取りヱホバの口を問ことをせざりき 15 ヨシユアすなはち彼らと好を爲し彼らを生しおかんといふ契約を結び會中の長等かれらに誓ひたりしが 16 その彼らと契約を結びてより三日を經て後かれらは己に近き人にして己の中に住をる者なりと聞り 17 イスラエルの子孫やがて進みて第三日に彼らの邑々に至れり其邑はギベオン、ケピラ、ベエロテおよびキリアテヤリムなり 18 然れども會中の長等イスラエルの神ヱホバを指て彼らに誓ひたりしをもてイスラエルの子孫これを攻撃ざりき是をもて會衆みな長等にむかひて呟けり 19 然ど長等は凡て全會衆に言ふ我らイスラエルの神ヱホバを指て彼らに誓へり然ば今彼らに觸べからず 20 我ら斯かれらに爲て彼らを生しおかん然すれば彼らに誓ひし誓によりて震怒の我らに及ぶことあらじと 21 長等また人衆にむかひて彼らを生しおくべしと言ければ彼らは遂に全會衆のために薪を斬り水を汲ことをする者となれり長等の彼等に言たるが如し 22 ヨシユアすなはち彼らを召よせて彼らに語りて言けるは汝らは我らの中に住をりながら何とて我らは汝らに甚だ遠しと言て我らを誑かししや 23 然ば汝らは詛はる汝らは永く奴隷となり皆わが神の室のために薪を斬り水を汲ことをする者となるべしと 24 彼らヨシユアに應へて言けるは僕等はなんぢの神ヱホバその僕モーセに此地をことごとく汝らに與へ此地の民をことごとく汝らの前より滅ぼし去ことを命ぜしと明白に傳へ聞たれば汝らのために生命の危からんことを太く懼れて斯は爲けるなり 25 視よ我らは今汝の手の中にあり汝の我らに爲を善とし正當とする所を爲たまへと 26 ヨシユアすなはち其ごとく彼らに爲し彼らをイスラエルの子孫の手より救ひて殺さしめざりき 27 ヨシユアその日かれらをして會衆のためおよびヱホバの壇の爲に其えらびたまふ處において薪を斬り水を汲ことをする者とならしめたりしが今日まで然り

第十章

1 茲にエルサレムの王アドニゼデクはヨシユアがアイを攻取てこれを全く滅ぼし嚮にエリコとその王とに爲しごとくにアイとその王とにも爲たる事およびギベオンの民がイスラエルと好を爲て之が中にをる事を聞て 2 大に懼る是ギベオンは大なる邑にして都府に等しきに因りまたアイよりも大きくしてその内の人々凡て強きに因てなり 3 エルサレムの王アドニゼデク是においてヘブロンの王ホハム、ヤルムテの王ピラム、ラキシの王ヤピアおよびエグロンの王デビルに人を遣はして云ふ 4 我の處に上りきたりて我を助けよ我らギベオンを攻撃ん其はヨシユアおよびイスラエルの子孫と好を結びたればなりと 5 而してこのアモリ人の王五人すなはちエルサレムの王ヘブロンの王ヤルムテの王ラキシの王およびエグロンの王あひ集まりそり諸軍勢を率て上りきたりギベオンに對ひて陣を取り之を攻て戰ふ 6 ギベオンの人々ギルガルの陣營に人を遣はしヨシユアに言しめけるは僕等を助くることを緩うする勿れ迅速に我らの所に上り來りて我らを救ひ助けよ山地に住をるアモリ人の王みな相集りて我らを攻るなりと 7 ヨシユアすなはち一切の軍人および一切の大勇士を率ゐてギルガルより進みのぼれり 8 時にヱホバ、ヨシユアに言たまひけるは彼らを懼るるなかれ我かれらを汝の手に付す彼らの中には汝に當ることを得る者一人もあらじと 9 この故にヨシユア、ギルガルより終夜進みのぼりて猝然にかれらに攻よせしに 10 ヱホバかれらをイスラエルの前に敗りたまひければヨシユア、ギベオンにおいて彼らを夥多く擊殺しベテホロンの昇阪の路よりしてアゼカおよびマツケダまで彼らを追擊り 11 彼らイスラエルの前より逃はしりてベテホロンの降阪にありける時ヱホバ天より大石を降しそのアゼカに到るまで然したまひければ多く死りイスラエルの子孫が劍をもて殺しし者よりも雹石にて死し者の方衆かりき 12 ヱホバ、イスラエルの子孫の前にアモリ人を付したまひし日にヨシユア、ヱホバにむかひて申せしことあり即ちイスラエルの目の前に

て言けらく日よギベオンの上に止まれ月よアヤロンの谷にやすらへ 13民その敵を撃やぶるまで日は止まり月はやすらひぬ是はヤシヤルの書に記さるるにあらずや即ち日空の中にやすらひて急ぎ沒ざりしこと凡そ一日なりき 14是より先にも後にもヱホバ是のごとく人の言を聽いれたまひし日は有ず是時にはヱホバ、イスラエルのために戰ひたまへり 15かくてヨシユア一切のイスラエル人とともにギルガルの陣營に歸りぬ 16かの五人の王は逃ゆきてマツケダの洞穴に隱れたりしが 17五人の王はマツケダの洞穴に隱れをるとヨシユアに告て言ふ者ありければ 18ヨシユアいひけるは汝ら洞穴の口に大石を轉ばしその傍に人を置てこれを守らせよ 19但し汝らは止る勿れ汝らの敵の後を追てその殿軍を撃て彼らをその邑々に入しむる勿れ汝らの神ヱホバかれらを汝らの手に付したまへるぞかしと 20ヨシユアおよびイスラエルの子孫おびただしく彼らを撃殺して遂に殺し盡しその撃もらされて遺れる者等城々に逃いるにおよびて 21民みな安然にマツケダの陣營にかへりてヨシユアの許にいたりけるがイスラエルの子孫にむかひて舌を鳴すもの一人もなかりき 22時にヨシユア言ふ洞穴の口を開きて洞穴よりかの五人の王を我前に曳いだせと 23やがて然なしてかの五人の王すなはちエルサレムの王ヘブロンの王ヤルムテの王ラキシの王およびエグロンの王を洞穴より彼の前に曳いだせり 24かの王等をヨシユアの前に曳いだしし時ヨシユア、イスラエルの一切の人々を呼よせ己とともに往し軍人の長等に言けるは汝ら近よりて此王等の頸に足をかけよと乃はち近よりてその王等の頸に足をかけければ 25ヨシユアこれに言ふ汝ら懼るる勿れ慄く勿れ心を強くしかつ勇めよ汝らが攻て戰ふ諸の敵にはヱホバすべて斯のごとく爲たまふべしと 26かくて後ヨシユア彼らを撃て死しめ五個の木にかけて晩暮まで木の上にこれを曝しおきしが 27日の沒る時におよびてヨシユア命を下しければ之を木より取おろしその隱れたりし洞穴に投いれて洞穴の口に大石を置り是は今日が日までも存す 28ヨシユアかの日マツケダを取り刃をもて之とその王とを撃ち之とその中たる一切の人をことごとく滅して一人をも遺さずヱリコの王になしたるごとくにマツケダの王にも爲しぬ 29かくてヨシユア一切のイスラエル人を率ゐてマツケダよりリブナに進みてリブナを攻て戰ひけるに 30ヱホバまた之とその王をもイスラエルの手に付したまひしかば刃をもて之とその中なる一切の人を撃ほろぼし一人をもその中に遺さずヱリコの王に爲たるごとくにその王にも爲ぬ 31ヨシユアまた一切のイスラエル人を率ゐてリブナよりラキシに進み之にむかひて陣をとり之を攻めて戰ひけるに 32ヱホバでラキシをイスラエルの手に付したまひければ第二日にこれを取り刃をもて之とその中なる一切の人々を撃ちほろぼせり凡てリブナに爲たるがごとし 33時にゲゼルの王ホラム、ラキシを援けんとて上りきたりければヨシユアかれとその民とを撃ころして終に一人をも遺さざりき 34斯てヨシユア一切のイスラエル人を率ゐてラキシよりエグロンに進み之に對ひて陣を取りこれを攻て戰ひ 35その日にこれを取り刃をもて之を撃その中なる一切の人をことごとくその日に滅ぼせり凡てラキシに爲たるが如し 36ヨシユアまた一切のイスラエル人をひきゐてエグロンよりヘブロンに進みのぼり之を攻て戰ひ 37やがてこれを取り之とその王およびその一切の邑々とその中なる一切の人を刃にかけて撃ころして一人をも遺さざりき凡てエグロンに爲たるが如し即ち之とその中なる一切の人をことごとく滅ぼせり 38かくてヨシユア一切のイスラエル人を率ゐ歸りてデビルに至り之を攻て戰ひ 39之とその王およびその一切の邑を取り刃をもて之を撃てその中なる一切の人をことごとく滅ぼし一人をも遺さざりき其デビルと其王に爲たる所はヘブロンに爲たるが如く又リブナとその王に爲たるがごとくなりき 40ヨシユアかく此全地すなはち山地 南の地平地および山腹の地ならびに其すべての王等を撃ほろぼして人一箇をも遺さず凡て氣息する者は盡 くこれを滅ぼせりイスラエルの神ヱホバの命じたまひしごとし 41ヨシユア、カデシバルネアよりガザまでの國々およびゴセンの全地を撃ほろぼしてギベオンにまで及ぼせり 42イスラエルの神ヱホバ、イスラエルのために戰ひたまひしに因てヨシユアこれらの諸王およびその地を一時に取り 43かくてヨシユア一切のイスラエル人を率ゐてギルガルの陣營にかへりぬ

第十一章

1ハゾルの王ヤビン之を聞およびマドンの王ヨバブ、シムロンの王アクサフの王 2および北の地山地キンネロテの南 のアラバ平地西の方なるドルの高處などに居る王等 3すなはち東西のカナン人アモリ人ヘテ人ペリジ人山地のエブス人ミヅパの地なるヘルモンの麓のヒビ人などに人

を遺はせり 4爰に彼らその諸軍勢を率ゐて出きたれり其民の衆多ことは濱の砂の多きがごとくにして馬と車もまた甚だ多かりき 5これらの王たち皆あひ會して進みきたり共にメロムの水の邊に陣をとりてイスラエルと戰はんとす 6時にヱホバ、ヨシユアに言たまひけるは彼らの故によりて懼るる勿れ明日の今頃われ彼らをイスラエルの前に付して盡く殺さしめん汝かれらの馬の足の筋を截り火をもて彼らの車を焚べしと 7ヨシユアすなはち一切の軍人を率ゐて俄然にメロムの水の邊に押寄て之を襲ひけるに 8ヱホバこれをイスラエルの手に付したまひしかば則ち之を撃やぶりて大シドンおよびミスレポテマイムまで之を追ゆき東の方にては又ミヅバの谷までこれを追ゆき遂に一人をも遺さず撃とれり 9ヨシユアすなはちヱホバの己に命じたまひしことにしたがひて彼らに馬の足の筋を截り火をもてその車を焚り 10その時ヨシユア歸りきたりてハゾルを取り刃をもてその王を撃り在昔ハゾルは是らの諸國の盟主たりき 11即ち刃をもてその中なる一切の人を撃てことごとく之を滅ぼし氣息する者は一人だに遺さざりき又火をもてハゾルを焚り 12ヨシユアこれらの王の一切の邑々およびその諸王を取り刃をもてこれを撃て盡く滅ぼせり、ヱホバの僕モーセの命じたるがごとし 13但しその岡の上にたちたる邑々はイスラエルこれを焚ず唯ハゾルのみをヨシユア焚り 14是らの邑の 諸の貨財及び家畜はイスラエルの人々奪ひて自ら之を取り人はみな刃をもて撃て滅ぼし盡し氣息する者は一人だに遺さざりき 15ヱホバその僕モーセに命じたまひし所をモーセまたヨシユアに命じ置たりしがヨシユアその如くに行へり凡てヱホバのモーセに命じたまひし所はヨシユア一だに爲で置し事なし 16ヨシユア斯その全地すなはち山地 南の全地ゴセンの全地平地アラバ、イスラエルの山地およびその平地を取り 17セイルに上りゆくでハラク山よりヘルモン山の麓なるレバノン谷のバアルガデまでを獲その王等をことごとく執へて之を撃て死しめたり 18ヨシユア此すべての王等と戰爭をなすこと日ひさし 19ギベオンの民ヒビ人を除くの外はイスラエルの子孫と好をなしし邑なかりき皆戰爭をなしてこれを攻とりしなり 20そもそも彼らが心を剛愎にしてイスラエルに攻よせしはヱホバの然らしめたまひし者なり彼らは詛はれし者となり憐憫を乞ふこととせず滅ぼされんがためなりき是 全くヱホバのモーセに命じたまひしが如し 21その時ヨシユアまた往て山地ヘブロン、デビル、アナブ、ユダの一切の山地イスラエルの一切の山地などよりしてアナク人を絶ち而してヨシユア彼らの邑々をも與に滅ぼせり 22然からにイスラエルの子孫の地の内にはアナク人一人も遺りをらず只ガザ、ガテ、アシドドに少く遺りをる而已 23ヨシユアかく此地を 盡く取り全くヱホバのモーセに告たまひし如し而してヨシユア、イスラエルの支派の區別にしたがひ之を與へて產業となさしめたり遂に此地に戰爭やみぬ

第十二章

1偖ヨルダンの彼旁日の出る方に於てアルノンの谷よりヘルモン山および東アラバの全土までの間にてイスラエルの子孫が擊ほろぼして地を取たりし其國の王等は左のごとし 2先アモリ人の王シホン彼はヘシボンに住をれり其治めたる地はアルノンの谷の端なるアロエルより谷の中の邑およびギレアデの半を括てアンモンの子孫の境界なるヤボク河にいたり 3アラバをキンネレテの海の東まで括またアラバの海すなはち鹽海の東におよびてベテエシモテの路にいたり南の方ビスガの山腹にまで達す 4次にレバイムの殘餘なりしバシヤンの王オグの國 境を言んに彼はアシタロテとエデレイに住をり 5ヘルモン山サレカおよびバシヤンの全土よりしてゲシユリ人マアカ人およびギレアデの半を治めてヘシボンの王シホンと境を接ふ 6ヱホバの僕モーセ、イスラエルの子孫とともに彼らを撃ほろぼせり而してヱホバの僕モーセ之が地をルベン人ガド人およびマナセの支派の半に與へて產業となさしむ 7またヨルダンの此旁西の方においてレバノンの谷のバアルガデよりセイル山の上 途なるハラク山までの間にてヨシユアとイスラエルの子孫が擊ほろぼしたりし其國の王等は左のごとしヨシユア、イスラエルの支派の區別にしたがひその地をあたへて產業となさしむ 8是は山地平地アラバ山腹荒野 南の地などにしてヘテ人アモリ人カナン人ペリジ人ヒビ人ヱブス人等が有ちたりし者なり 9ヱリコの王一人ベテルの邊なるアイの王一人 10エルサレムの王一人ヘブロンの王一人 11ヤルムテの王一人ラキシの王一人 12エグロンの王一人ゲゼルの王一人 13デビルの王一人ゲデルの王一人 14ホルマの王一人アラデの王一人 15リブナの王一人アドラムの王一人 16マツケダの王一人ベテルの王一人 17タップアの王一人ヘペルの王一人 18ア

ペクの王一人ラシヤロンの王一人 19マドンの王一人ハゾルの王一人 20シムロンメロンの王一人アクサフの王一人 21タアナクの王一人メギドンの王一人 22ケデシの王一人カルメルのヨクネアムの王一人 23ドルの高處なるドルの王一人ギルガのゴイイムの王一人 24テルザの王一人合せて三十一王

第十三章

1ヨシユアすでに年邁みて老たりしがヱホバかれに言たまひけらく汝は年邁みて老たるが尚取るべき地の殘れる者 甚だおほし 2その尚のこれる地は是なりペリシテ人の全 州ゲシユル人の全土 3エジプトの前なるシホルより北の方カナン人に屬すると人のいふエクロンの境界までの部ペリシテ人の五人の主の地すなはちガザ人アシドド人アシケロン人ガテ人エクロン人の地 4南のアビ人カナン人の全地シドン人に屬するメアラおよびアモリ人の境界なるアベクまでの部 5またヘルモン山の麓なるバアルガデよりハマテの入口までに亘るゲバル人の地およびレバノンの東の全土 6レバノンよりミスレポテマイムまでの山地の一切の民すなはちシドン人の全土我かれらをイスラエルの子孫の前より逐はらふべし汝は我が命じたりしごとくその地をイスラエルに分ち與へて產業となさしめよ 7即ちその地を九の支派とマナセの支派の半とに分ちて產業となさしむべし 8マナセとともにルベン人およびガド人はヨルダンの彼旁東の方にてその產業をモーセより賜はり獲たりヱホバの僕モーセの彼らに與へし者は即ち是のごとし 9アルノンの谷の端にあるアロエルより此方の地谷の中にある邑デボンまでに亘るメデバの一切の平地 10ヘシボンにて世を治めしアモリ人の王シホンの一切の邑々よりしてアンモンの子孫の境界までの地 11ギレアデ、ゲシユル人及びマアカ人の境界に沿る地ヘルモン山の全土サルカまでバシヤン一圓 12アシタロテおよびエデレイにて世を治めしバシヤンの王オグの全國オグはレバイムの餘民の遺れる者なりモーセこれらを擊て逐はらへり 13但しゲシユル人およびマアカ人はイスラエルの子孫これを逐はらはざりきゲシユル人とマアカ人は今日までイスラエルの中に住をる 14唯レビの支派にはヨシユア何の產業をも與へざりき是イスラエルの神ヱホバの火祭これが產業たればなり其かれに言たまひしが如し 15モーセ、ルベンの子孫の支派にその宗族にしたがひて與ふる所ありしが 16その境界の內はアルノンの谷の端なるアロエルよりこなたの地谷の中なる邑メデバの邊の一切の平地 17ヘシボンおよびその平地の一切の邑々 デボン、バモテバアル、ベテバアルメオン 18ヤハズ、ケデモテ、メバアテ 19キリアタイム、シブマ、谷中の山のゼレテシヤル 20ベテペオル、ピスガの山腹ベテヱシモテ 21平地の一切の邑々 ヘシボンにて世を治めしアモリ人の王シホンの全國 モーセ、シホンをミデアンの貴族エビ、レケム、ツル、ホルおよびレバとあはせて擊ころせり是みなシホンの大臣にしてその地に住をりし者なり 22イスラエルの子孫またベオルの子卜筮師バラムをも刃にかけてその外に殺せし者等とともに殺せり 23ルベンの子孫はヨルダンおよびその河岸をもて己の境界とせり ルベンの子孫がその宗族に循がひて獲たる產業は是のごとくにして邑も村もこれに准らふ 24モーセまたガドの子孫たるガドの支派にもその宗族にしたがひて與ふる所ありしが 25その境界の內はヤゼル、ギレアデの一切の邑々アンモンの子孫の地の半ラバの前なるアロエルまでの地 26ヘシボンよりラマテミヅバまでの地およびベトニム、マナハイムよりデビルの境界までの地 27谷においてはベテハラム、ベテニムラ、スコテ、ザポンなどヘシボンの王シホンの國の殘れる部分 ヨルダンおよびその河岸よりしてヨルダンの東の方キンネレテの海の岸までの地 28ガドの子孫がその宗族にしたがひて獲たる產業は是のごとくにして邑も村も之に准らふ 29モーセまたマナセの支派の半にも與ふる所ありき是すなはちマナセの支派の半にその宗族にしたがひて與へしなり 30その境界の內はマナハイムより此方の地 バシヤンの全土 バシヤンの王オグの全國 バシヤンにあるヤイルの一切の邑すなはち其六十の邑 31ギレアデの半バシヤンにおけるオグの國の邑々 アシタロテおよびエデレイ是等はマナセの子マキルの子孫に歸せり即ちマキルの子孫の半その宗族にしたがひて之を獲たり 32ヨルダンの東の方に於てエリコに對ひをるモアブの野にてモーセが分ち與へし產業は是のごとし 33但しレビの支派にはモーセ何の產業をも與へざりきイスラエルの神ヱホバこれが產業たればなり其かれらに言たまひし如し

第十四章

1イスラエルの子孫がカナンの地にて取しその產業の地は左のごとし即ち祭司エレアザル、ヌンの子ヨシユアおよ

びイスラエルの子孫の支派の族長等これを彼らに分ち 2ヱホバがモーセによりて命じたまひしごとく産業の籤によりて之を九の支派および半の支派に與ふ 3其はヨルダンの彼旁にてモーセ已にかの二の支派と半の支派とに産業を與へたればなり但しレビ人には之が中に産業を與へざりき 4是はヨセフの子孫マナセ、エフライムの二の支派と成たるに因て然りレビ人には此地において何の分をも與へず唯その住べき邑々およびその家畜と貨財を置べき郊地を與へしのみ 5イスラエルの子孫ヱホバのモーセに命じたまひしごとく行ひてその地を分てり 6茲にユダの子孫ギルガルにてヨシユアの許に至りケニズ人ヱフンネの子カレブ、ヨシユアに言けるはヱホバ、カデシバルネアにて我と汝との事につきて神の人モーセに告たまひし事あり汝これを知る 7ヱホバの僕モーセが此地を窺はせんとて我をカデシバルネアより遣はしし時に我は四十歳なりき其時我は心に思ふまにまに彼に復命したり 8我とともに上り往しわが兄弟等は民の心を挫くことを爲たりしが我は全く我神ヱホバに從へり 9その日モーセ誓ひて言けらく汝の足の踐たる地は必ず永く汝と汝の子孫の産業となるべし汝まったく我神ヱホバに從がひたればなりと 10ヱホバこの言をモーセに語りたまひし時より已來イスラエルが荒野に歩みたる此四十五年の間かく其のたまひし如く我を生存らへさせたまへり視よ我は今日すでに八十五歳なるが 11今日もなほモーセの我を遣はしたりし日のごとく健剛なり我が今の力はかの時の力のごとくにして出入し戰闘をなすに堪ふ 12然ば彼日ヱホバの語りたまひし此山を我に與へよ汝も彼日聞たる如く彼處にはアナキ人をりその邑々は大にして堅固なり然ながらヱホバわれとともに在して我つひにヱホバの宣ひしごとく彼らを逐はらふことを得んと 13ヨシユア、ヱフンネの子カレブを祝しヘブロンをこれに與へて産業となさしむ 14是をもてヘブロンは今日までケニズ人ヱフンネの子カレブの産業となりをる是は彼まつたくイスラエルの神ヱホバに從がひたればなり 15ヘブロンの名は元はキリアテアルバと曰ふアルバはアナキ人の中の最も大なる人なりき茲にいたりてその地に戰爭やみぬ

第十五章

1ユダの子孫の支派がその宗族にしたがひて籤にて獲たる地はエドムの境界に達し南の方ヂンの荒野にわたり南の極端に及ぶ 2その南の境界は鹽海の極端なる南に向へる入海より起り 3アクラビムの坂の南にわたりてヂンに進みカデシバルネアの南より上りてヘヅロンに沿て進みアダルに上りゆきてカルカに環り 4アズモンに進みてエジプトの河にまで達しその境界海にいたりて盡く汝らの南の境界は是の如くなるべし 5その東の境界は鹽海にしてヨルダンの河口に達す北の方の境界はヨルダンの河口なる入海より起り 6上りてベテホグラにいたりベテアラバの北をすぎ上りてルベン人ボハンの石に達し 7またアコルの谷よりデビルに上りて北におもむき河の南にあるアドミムの坂に對するギルガルに向ひすすみてエンシメシの水に達しエンロゲルにいたりて盡く 8又その境界はベニヒンノムの谷に沿てヱブス人の地すなはちヱルサレムの南の脇に上りゆきヒンノムの谷の西面に横はる山の嶺に上る是はレバイムの谷の北の極處にあり 9而してその境界この山の嶺より延てネフトアの水の泉源にいたりエフロン山の邑々にわたりその境昇延てバアラにいたる是すなはちキリアテヤリムなり 10その境界バアラより西の方セイル山に環りヤリム山(すなはちケサロン)の北の脇をへてベテシメシに下りテムナに沿て進み 11エクロンの北の脇にわたり延てシツケロンに至りバアラ山に進みヤブネルに達し海にいたりて盡く 12また西の境界は大海にいたりその濱をもて限とすユダの子孫がその宗族にしたがひて獲たる地の四方の境界は是のごとし 13ヨシユアそのヱホバに命ぜられしごとくヱフンネの子カレブにユダの子孫の中にてキリアテアルバすなはちヘブロンを與へてその分となさしむ 14アルバはアナクの父なりカレブかしこよりアナクの子三人を逐はらへり是すなはちアナクより出たるセシヤイ、アヒマンおよびタルマイなり 15而して彼かしこよりデビルの民の所に攻上れりデビルの名は元はキリアテセペルといふ 16カレブ言けらくキリアテセペルを撃てこれを取る者には我女子アクサを妻に與へんと 17ケナズの子にしてカレブの弟なるオテニエルといふ者これを取ればカレブその女子アタサを之が妻に與へたり 18アクサ適く時田野をその父に求むべきことをオテニエルに勸め遂にみづから驢馬より下れりカレブこれに何を望むやと言ければ 19答へて言ふ我に粧奩を與へよ汝われを南の地に遣なれば水泉をも我に與へよと乃ち上の泉と下の泉とをこれに與ふ 20ユダの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業は是のごとし 21ユダ

の子孫の支派が南においてエドムの境界の方に有るその遠き邑々は左のごとしカブジエル、エデル、ヤグル 22キナ、デモナ、アダダ、 23ケデシ、ハゾル、イテナン、 24ジフ、テレム、ベアロテ 25ハゾルハダツタ、ケリオテヘヅロンすなはちハゾル 26アマム、シマ、モラダ 27ハザルガダ、ヘシモン、ベテパレテ 28ハザルシユアル、ベエルシバ、ビジヨテヤ 29バアラ、イヤム、エゼム 30エルトラデ、ケシル、ホルマ 31チクラグ、マデマンナ、サンサンナ 32レバオテ、シルヒム、アイン、リンモン、その邑あはせて二十九ならびに之に屬る村々なり 33平野にてはエシタオル、ゾラ、アシナ 34ザノア、エンガンニム、タップア、エナム 35ヤルムテ、アドラム、シヨコ、アゼカ 36シヤアライム、アデタイム、ゲデラ、ゲデロタイム合せて十四邑ならびに之に屬る村々なり 37ゼナン、ハダシヤ、ミグダルガデ 38デラン、ミヅバ、ヨクテル 39ラキシ、ボヅカテ、エグロン 40カボン、ラマム、キリテシ 41ゲデロテ、ベテダゴン、ナアマ、マツケダ合せて十六邑ならびに之に屬る村々なり 42またリブナ、エテル、アシヤン 43イフタ、アシナ、ネジブ 44ケイラ、アクジブ、マレシア合せて九 邑ならびに之に屬ける村々なり 45エクロンならびにその郷里および村々なり 46エクロンより海まで凡てアシドドの邊にある處 々ならびに之につける村々なり 47アシドドならびにその郷里および村々 ガザならびにその郷里および村々 エジプトの河および大海の濱にいたるまでの處 々なり 48山地にてはシヤミル、ヤツテル、シヨコ 49ダンナ、キリアテサンナすなはちデビル 50アナブ、エシテモ、アニム 51ゴセン、ホロン、ギロ、合せて十一邑ならびに之に屬る村々なり 52アラブ、ドマ、エシヤン 53ヤニム、ベテタツプア、アペカ 54ホムタ、キリアテアルバすなはちヘブロン、デオルあはせて九 邑ならびに之につける村々なり 55マオン、カルメル、ジフ、ユダ 56エズレル、ヨグテアム、ザノア 57カイン、ギベア、テムナあはぜて十邑ならびに之に屬る村々なり 58ハルホル、ベテズル、ゲドル 59マアラテ、ベテアノテ、エルテコンあはせて六邑ならびに之に屬る村々なり 60キリアテバアルすなはちキリアテヤリムおよびラバあはせて二邑ならびに之につける村々なり 61荒野にてはベテアラバ、ミデン、セカカ 62ニブシヤン鹽邑エングデあはせて六邑ならびに之につける村々なり 63エルサレムの民ヱブス人はユダの子孫これを逐はらふことを得ざりき是をもてヱブス人は今日までユダの子孫とともにエルサレムに住ぬ

第十六章

1ヨセフの子孫が籤によりて獲たる地の境界はヱリコの邊なるヨルダンすなはちヱリコの東の水の邊より起りてヱリコにかかり更に上りて山地を過ぎベテルにいたりて荒野に沿ひ行き 2ベテルよりルズにおもむきアルキ人の境界なるアタロテに進み 3また西の方ヤフレテ人の境界に下り下ベテホロンの境界に及びゲゼルにまで達し海にいたりて盡く 4かくヨセフの子孫マナセ及びエフライムその産業を受たり 5エフライムの子孫がその宗族にしたがひて獲たる地の境界は是のごとしその産業の境界 東はアタロテアダルにて上はベテホロンに達し 6ミクメタの北より西におもむき東にをれてタアナテシロにいたり之に沿てヤノアの東を過ぎ 7ヤノアより下りてアタロテおよびナアラにいたりヱリコに達しヨルダンにいたりて盡き 8タツプアよりして西に進みカナの河にまで達し海にいたりて盡くエフライムの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業は是のごとし 9この外にマナセの子孫の産業の中にてエフライムの子孫に別ち與へし邑々ありエフライムの一切の邑およびその村々を得たり 10但しゲゼルに住るカナン人をば逐はらはざりき是をもてカナン人は今日までエフライムの中に住み僕となりて之に使役せらる

第十七章

1マナセの支派が籤によりて獲たる地は左のごとしマナセはヨセフの長子なりきマナセの長子にしてギレアデの父なるマキルは軍人なるが故にギレアデとバシヤンを獲たり 2此餘のマナセの子等 即ちアビエゼルの子孫ヘレクの子孫アスリエルの子孫シケムの子孫ヘペルの子孫セミダの子孫などもその宗族にしたがひて獲る所ありき是等はヨセフの子マナセが男の子にしてその宗族に循ひて言るなり 3マナセの子マキルその子ギレアデその子ヘペルその子なるゼロペハデといふ者は女の子のみありて男の子あらざりきその女の子の名はマヘラ、ノア、ホグラ、ミルカ、テルザといふ 4彼等祭司エレアザル、ヌンの子ヨシユアおよび長等の前に進み出て言けらく我らの兄弟の中にて我らにも産業を與へよとヱホバ、モーセに命じおきたまへりヨシユアすなはちヱホバの命にしたがひて彼

らの父の兄弟の中にて彼らにも産業を與ふ 5マナセはヨルダンの彼旁にてギレアデおよびバシヤンの地の外になほ十部の地を獲たり 6是はマナセの女の子等もその男の子等の中にて産業を獲たればなりギレアデの地はマナセのその餘の子等に屬す 7マナセの境界はアセルよりシケムの前なるミクメタテに及び右におもむきてエンタツプアの民に達す 8タツプアの地はマナセに屬す但しマナセの境界にあるタツプアはエフライムの子孫に屬す 9またその境界カナの河に下りてその河の南に至る是等の邑はマナセの邑々の中にありてエフライムに屬すマナセの境界はその河の北にあり海にいたりて盡く 10その南の方はエフライムに屬し北の方はマナセに屬し海これらの境界を成すマナセは北はアセルに達し東はイツサカルに達す 11イツサカルおよびアセルの中にてマナセはベテシヤンとその郷里イブレアムとその郷里ドルの民とその郷里およびエンドルの民とその郷里タアナクの民とその郷里メギドンの民とその郷里など合せて三の高處を有り 12但しマナセの子孫は是らの邑の民を逐はらふことを得ざりければカナン人この地に固く住ひをりしが 13イスラエルの子孫強くなるに及びてカナン人を使役し之を盡く逐ことはせざりき 14茲にヨセフの子孫ヨシユアに語りて言けるはヱホバ今まで我を祝福たまひて我は大なる民となりけるに汝わが産業にとて只一の籤一の分のみを我に與へしは何ぞや 15ヨシユアかれらに言けるは汝もし大なる民となりしならば林に上りゆきて彼處なるペリジ人およびレバイム人の地を自ら斬ひらくべしエフライムの山地は汝には狹しと言ばなり 16ヨセフの子孫言けるは山地は我らには足ずかつ又谷の地にをるカナン人はベテシヤンとその郷里にをる者もヱズレルの谷にをる者も凡て鐵の戰車を有り 17ヨシユアかさねてヨセフの家すなはちエフライムとマナセに語りて言ふ汝は大なる民にして大なる力あり然れば只一籤のみを取てをる可らず 18山地をも汝の有とすべし是は林なれども汝これを斬ひらきてその極處を獲べしカナン人は鐵の戰車を有をりかつ強くあれども汝これを逐はらふことを得ん

第十八章

1かくてイスラエルの子孫の會衆ことごとくシロに集り集會の幕屋をかしこに立つその地は已に彼らに歸服ぬ 2この時なほイスラエルの子孫の中に未だその産業を分ち取ざる支派七のこりゐければ 3ヨシユア、イスラエルの子孫に言けるは汝らは汝らの先祖の神ヱホバの汝らに與へたまひし地を取に往くことを何時まで怠りをるや 4汝ら支派ごとに三人づつを擧よ我これを遣さん彼らは起てその地を歩きめぐりその産業にしたがひて之を描き寫して我に歸るべし 5彼らその地を分ちて七分となすべしユダは南にてその境界の内にをりヨセフの家は北にてその境界の内にをるべし 6汝らその地を描き寫して七分となし此にわが許に持きたれ我ここにて我等の神ヱホバの前になんぢらの爲に籤を掣ん 7レビ人は汝らの中に何の分をも有ずヱホバの祭司となることをもて其産業とす又ガド、ルベンおよびマナセの支派の半はヨルダンの彼旁東の方にて已にその産業を受たり是ヱホバの僕モーセの之に與へし者なりと 8その人々すなはち起て往り其地を描き寫さんとて出ゆける此者等にヨシユア命じて云ふ汝等ゆきてその地を歩きめぐり之を描き寫して我に歸りきたれ我シロにて此にヱホバの前にて汝らのために籤を掣んと 9その人々ゆきてその地を經めぐり邑にしたがひて之を七分となして書に描き寫しシロの營に歸りてヨシユアに詣りければ 10ヨシユア、シロにて彼らのためにヱホバの前に籤を掣り而してヨシユア彼所にてイスラエルの子孫の區分にしたがひて其地を分ち與へたり 11まづベニヤミンの子孫の支派のためにその宗族にしたがひて籤を掣りその籤によりて獲たる地の境界はユダの子孫とヨセフの子孫の間にわたる 12即ちその北の方の境界はヨルダンよりしてヱリコの北の脇に上り西の山地を逾てまた上りベテアベンの荒野にいたりて盡く 13彼處よりその境界ルズに進みルズの南の脇にいたるルズはベテルなり而して其境界下ベテホロンの南に横たはる山に沿てアタロテアダルに下り 14延て西の方にて南に曲りベテホロンの南面に横はるところの山より進みユダの子孫の邑キリアテバアル即ちキリアテヤリムにいたりて盡くその西の境界は是のごとし 15またその南の方はキリアテヤリムの極處よりして西におもむきてネフトアの水の源にいたり 16レバイムの谷の中の北の方にてベニヒンノムの谷の前に横たはる所の山の極處に下り其處よりしてヒンノムの谷に下りてヱブス人の南の脇にいたりエンロゲルに下り 17北に延てエンシメシにおもむきアドミムの阪に對へるゲリロテにおもむきルベン人、ボハンの石まで下り 18北の方にてアラバに對する處にわたりてアラバに下り 19ベテ

ホグラの北の脇にわたりヨルダンの南の極にて鹽海の北
の入海にいたりて盡くその南の境界は是のごとし 20東の
方にてはヨルダンその境界となる是すなはちベニヤミン
の子孫がその宗族にしたがひて獲たる産業の周圍の境界
なり 21ベニヤミンの子孫の支派がその宗族にしたがひて
獲たる邑々はエリコ、ベテホグラ、エメクケジツ 22ベテ
アラバ、ゼマライム、ベテル 23アビム、パラ、オフラ 24
ケパルアンモン、オフニ、ケバの十二邑ならびに之に屬
る村々なり 25ギベオン、ラマ、ベエロテ 26ミヅパ、ケピ
ラ、モザ 27レケム、イルピエル、タララ、 28ゼラ、エレ
フ、エブスすなはちエルサレム、ギベア、キリアテの十
四邑ならびに之につける村々是なり ベニヤミンの子孫が
その宗族にしたがひて獲たる産業は是のごとし

第十九章

1次にシメオンのため即ちシメオン子孫の支派のためにそ
の宗族にしたがひて籤を掣りその産業はユダの子孫の
産業の中にあり 2その有る産業はベエルシバ即ちシバ、
モラダ 3ハザルシユアル、バラ、エゼム 4エルトラデ、ベ
トル、ホルマ 5チクラグ、ベテマルカボテ、ハザルスサ 6
ベテレバオテ、シヤルヘンの十三邑並びに之につける
村々 7およびアイン、リンモン、エテル、アシヤンの四邑
ならびに之につける村々 8および此邑々の周圍にありて
バアラテベエルすなはち南のラマまでに至るところの
一切の村々等なりシメオンの子孫の支派がその宗族にし
たがひて獲たる産業は是のごとし 9シメオンの子孫の
産業はユダの子孫の分の中より出づ是ユダの子孫の分
自分のためには多かりしに因てシメオンの子孫のおのれ
の産業を彼らの産業の中に獲たるなり 10第三にゼブルン
の子孫のために其宗族にしたがひて籤を掣り其産業の
境界はサリデに及び 11また西に上りてマララに至りダバ
セテに達しヨグネアムの前なる河に達し 12サリデよりし
て東の方日のいづる方にまがりてキスロテタボルの境界
にいたりタベラに出でヤピアに上り 13彼處より東の方ガ
テヘペルにわたりてイツタカジンにいたりネアまで廣が
るところのリンモンに至りて盡き 14また北にまはりてハ
ンナトンにいたりイフタエルの谷にいたりて盡く 15カツ
タテ、ナハラル、シムロン、イダラ、ベテレヘムなどの
十二邑ならびに之につける村々あり 16ゼブルンの子孫が
その宗族にしたがひて獲たる産業およびその邑と村とは
是のごとし 17第四にイツサカルすなはちイツサカルの
子孫のためにその宗族にしたがひて籤を掣り 18その境界
の包括る處はヱズレル、ケスロテ、シユネム 19ハパライ
ム、シオン、アナハラテ 20ラビテ、キシン、エベツ 21レ
メテ、エンガンニム、エンハダ、ベテパツゼズなどなり
22その境界タボル、シヤハヂマおよびベテシメシに達し
その境界ヨルダンにいたりて盡く其邑あはせて十六また
之につける村々あり 23イツサカルの子孫の支派が其宗族
にしたがひて獲たる産業および其邑々村々は是の如し 24
第五にアセルの子孫の支派のために其宗族にしたがひて
籤を掣り 25其境界の内はヘルカテ、ハリ、ベテン、アク
サフ 26アランメレク、アマデ、ミシヤルなり其境界西の
方カルメルに達しまたシホルリブナテに達し 27日の出る
方に折てベテダゴンにいたりゼブルンに達し北の方イフ
タヱルの谷のベテエメク及びネイエルに達し左してカブ
ルに出で 28エプロン、レホブ、ハンモン、カナにわたり
て大シドンにまでいたり 29ラマに旋りツロの城に及びま
たホサに旋りアクジブの邊にて海にいたりて盡く 30また
ウンマ、アベクおよびレホブありその邑あはせて二十二
また之につける村々あり 31アセルの子孫の支派がその
宗族にしたがひて獲たる産業およびその邑々村々は是の
ごとし 32第六にナフタリの子孫のためにナフタリの子孫
の宗族にしたがひて籤を掣り 33その境界はヘレフより即
ちザアナイムの樫の樹より起りアダミネケブおよびヤブ
ニエルを經てラクムにいたりヨルダンにいたりて盡く 34
而して其境界西に旋りてアズノテタボルにいたり彼處よ
りホツコクに出で南はゼブルンに達し西はアセルに達し
日の出る方はヨルダンの邊にてユダに達す 35その堅固た
る邑々はヂデム、ゼル、ハンマテ、ラツカテ、キンネレ
テ 36アダマ、ラマ、ハゾル 37ケデシ、エデレイ、エンハ
ゾル 38イロン、ミグダルエル、ホレム、ベテアナテ、ベ
テシメシなど合せて十九邑亦これにつける村々あり 39ナ
フタリの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる産業
およびその邑々村々は是のごとし 40第七にダンの子孫の
支派のためにその宗族にしたがひて籤を掣り 41その産業
の境界の内はゾラ、エシタオル、イルシメシ 42シヤラビ
ム、アヤロン、イテラ 43エロン、テムナ、エクロン 44エ
ルテケ、ギベトン、バアラテ 45エホデ、ベネベラク、ガ
テリンモン 46メヤルコン、ラツコン、ヨツパと相對ふ地
などなり 47但しダンの子孫の境界は初よりは廣くなれり

其はダンの子孫上りゆきてライシを攻取り刃をもちてこれを撃ほろぼし之を獲て其處に住たればなり而してその先祖ダンの名にしたがびてライシをダンと名けたり 48ダンの子孫の支派がその宗族にしたがひて獲たる產業およびその邑々村々は是のごとし 49かく境界を畫りて產業の地を與ふることを終ぬ而してイスラエルの子孫おのれの中にてヌンの子ヨシユアに產業を與へたり 50すなはちヱホバの命にしたがひて彼にその求むる邑を與ふエフライムの山地なるテムナテセラ是なり彼その邑を建なほして其處に住む 51祭司エレアザル、ヌンの子ヨシユアおよびイスラエルの子孫の支派の族長等がシロにおいて集會の幕屋の門にてヱホバの前に籤をもて分與へし產業は是のごとし斯地を分つことを終たり

第二十章

1茲にヱホバ、ヨシユアに告て言たまひけるは 2汝イスラエルの子孫に告て言へ汝等モーセによりて我が汝らに語りおきし逃遁の邑を擇び定め 3誤りて知ずに人を殺せる者を其處に逃れしめよ是は汝らが仇打する者を避て逃るべき處なり 4斯る者は是等の邑の一に逃れゆき邑の門の入口に立てその邑の長老等の耳にその事情を述べし然る時は彼ら之をその邑に受いれ處を與へて己の中に住しむべし 5假令仇打する者追ゆくとも彼らその人を殺せる者を之が手に交すべからず其は彼知ずして人を殺せるにて素より之を惡みをりしに非ればなり 6その人は會衆の前に立て審判を受るまで其時の祭司の長の死る迄その邑に住をるべし然る後その人を殺せる者己の邑に歸り往てその家にいたり己が逃いでし邑に住むべし 7爰にナフタリの山地なるガリラヤのケデシ、エフライムの山地なるシケムおよびユダの山地なるキリアテアルバ(すなはちヘブロン)を之がために分ち 8またヨルダンの彼旁ヱリコの東の方にてはルベンの支派の中より平地なる荒野のベゼルを擇び定めガドの支派の中よりギレアデのラモテを擇び定めマナセの支派の中よりバシヤンのゴランを擇び定めたり 9是すなはちイスラエルの一切の子孫および之が中に寄寓をる他國人のために設けたる邑々にして凡て人を誤まり殺せる者を此に逃れしめ其會衆の前に立ざる中に仇打の手に死るがごときことなからしめんためなり

第二十一章

1茲にレビの族長等來りて祭司ヱレアザル、ヌンの子ヨシユアおよびイスラエルの子孫の支派の族長等の許にいたり 2カナンの地シロにおいて之に語りて言ふヱホバかつて我らに住べき邑々を與ふることおよびその郊地を我らの家畜のために與ふる事をモーセによりて命じおきたまへりと 3イスラエルの子孫すなはちヱホバの命にしたがひて自己の產業の中より左の邑々とその郊地とをレビ人に與ふ 4先コハテ人の宗族のために籤を掣り祭司アロンの子孫たるレビ人籤によりてユダの支派の中シメオンの支派の中およびベニヤミンの支派の中より十三の邑を獲 5その餘のコハテの子孫は籤によりてエフライムの支派の宗族の中ダンの支派の中マナセの支派の半の中より十の邑を獲たり 6またゲシヨンの子孫は籤によりてイツサカルの支派の宗族の中アセルの支派の中ナフタリの支派の中およびバシヤンにあるマナセの支派の半の中より十三の邑を獲たり 7またメラリの子孫は其宗族にしたがひてルベンの支派の中ガドの支派の中およびゼブルンの支派の中より十二の邑を獲たり 8イスラエルの子孫ヱホバのモーセによりて命じたまひし所にしたがひて此の邑々とその郊地とを籤によりてレビ人に與ふ 9即ち先ユダの子孫の支派の中およびシメオンの子孫の支派の中より左に名を擧たる邑々を與ふ 10是はレビの子孫コハテ人の宗族なるアロンの子孫に歸す其は彼ら第一の籤にあたりたればなり 11即ちユダの山地なるキリアテアルバ即ちヘブロンおよびその周圍の郊地をこれに與ふ此アルバはアナクの父なりき 12その邑の田野およびその村々はこれをエフンネの子カレブに與へて所有となさしむ 13祭司アロンの子孫に與へし者は即ち人を殺し者の逃るべき邑なるヘブロンとその郊地リブナとその郊地 14ヤツテルとその郊地エシテモアとその郊地 15ホロンとその郊地デビルとその郊地 16アインとその郊地ユツタとその郊地ベテシメシとその郊地此 九 の邑は此ふたつの支派の中より分ちしものなり 17またベニヤミンの支派の中よりギベオンとその郊地ゲバとその郊地 18アナトテとその郊地アルモンとその郊地など四の邑をあたへたり 19アロンの子孫たる祭司等の邑は合せて十三邑又之につける郊地あり 20この他のコハテの子孫なるレビ人の宗族籤によりてエフライムの支派の中より邑を獲たり 21即ち之に與へしは人を殺せる者の逃るべき邑なるエフライムの山地のシケムと

その郊地およびゲゼルとその郊地 22キブザイムとその郊地ベテホロンとその郊地など四の邑なり 23又ダンの支派の中より分ちて與へし者はエルテケとその郊地ギベトンとその郊地 24アヤロンとその郊地ガテリンモンとその郊地など四の邑なり 25又マナセの支派の半の中より分ちて與へし者はタアナクとその郊地ガテリンモンとその郊地など二の邑なり 26外のコハテの子孫の宗族の邑は合せて十また之につける郊地あり 27ゲルシヨンの子孫たるレビ人の宗族に與へし者はマナセの支派の半の中よりは人を殺せる者の逃るべき邑なるバシヤンのゴランとその郊地およびベエシテラとその郊地など二の邑なり 28イツサカルの支派の中よりはキシオンとその郊地ダベラとその郊地 29ヤルムテとその郊地エンガンニムとその郊地など四の邑なり 30アセルの支派の中よりはミシヤルとその郊地アブドンとその郊地 31ヘルカテとその郊地レホブとその郊地など四の邑なり 32ナフタリの支派の中よりは人を殺せる者の逃るべき邑なるガリラヤのケデシとその郊地およだハンモテドルとその郊地カルタンとその郊地など三の邑なり 33ゲルシヨン人がその宗族にしたがひて獲たる邑は合せて十三邑にして又これに屬る郊地あり 34この餘のレビ人なるメラリの子孫の宗族に與へし者はゼブルンの支派の中よりはヨクネアムと其郊地カルタとその郊地 35デムナとその郊地ナハラルとその郊地など四の邑なり 36ルベンの支派の中よりはベゼルとその郊地ヤハヅとその郊地 37ケデモテとその郊地メバアテとその郊地など四の邑なり 38ガドの支派の中よりは人を殺せる者の逃るべき邑なるギレアデのラモテとその郊地およびマハナイムとその郊地 39ヘシボンとその郊地ヤゼルとその郊地など合せて四の邑 40是みな外のレビ人なるメラリの子孫がその宗族にしたがひて獲たる邑々なり其籤によりて獲たる邑は合せて十二 41イスラエルの子孫の所有の中にレビ人が有る邑々は合せて四十八邑又之につける郊地あり 42この邑々は各々その周圍に郊地あり此邑々みな然り 43かくヱホバ、イスラエルに與へんとその先祖等に誓ひたまひし地をことごとく與へたまひければ彼ら之を獲て其處に住り 44ヱホバ凡てその先祖等に誓ひたまひし如く四方において彼らに安息を賜へり其すべての敵の中に一人も之に當ることを得る者なかりきヱホバかれらの敵をことごとくその手に付したまへり 45ヱホバがイスラエルの家に語りたまひし善事は一だに缺ずして悉くみな來りぬ

第二十二章

1茲にヨシユア、ルベン人ガド人およびマナセの支派の半を召て 2これに言けるは汝らはヱホバの僕モーセが汝らに命ぜし所をことごとく守り又わが汝らに命ぜし一切の事において我言に聽したがへり 3汝らは今日まで日ひさしく汝らの兄弟を離れずして汝らの神ヱホバの命令の言を守り來り 4今は已に汝らの神ヱホバなんぢらの兄弟に向に宣まひし如く安息を賜ふに至れり然ば汝ら身を轉らしヱホバの僕モーセが汝らに與へしヨルダンの彼方なる汝等の產業の地に歸りて自己の天幕にゆけ 5只ヱホバの僕モーセが汝らに命じおきし誡命と律法とを善く謹しみて行ひ汝らの神ヱホバを愛しその一切の途に歩みその命令を守りて之に附したがひ心を盡し精神を盡して之に事ふべしと 6かくてヨシユア彼らを祝して去しめければ彼らはその天幕に往り 7マナセの支派の半にはモーセ、バシヤンにて產業を與へおけりその他の半にはヨシユア、ヨルダンの此旁西の方にてその兄弟等の中に產業を與ふヨシユア彼らをその天幕に歸し遣るに當りて之を祝し 8之に告て言けるは汝ら衆多の貨財夥多しき家畜金銀銅鐵および夥多しき衣服をもちて汝らの天幕に歸り汝らの敵より獲たるその物を汝らの兄弟の中に分つべしと 9爰にルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半はヱホバのモーセによりて命じ給ひし所に循ひて己の所有の地すなはち已に獲たるギレアデの地に往んとてカナンの地のシロよりしてイスラエルの子孫に別れて歸りけるが 10ルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半カナンの地のヨルダンの岸邊にいたるにおよびて彼處にてヨルダンの傍に一の壇を築けりその壇は大にして遥に見えわたる 11イスラエルの子孫はルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半カナンの地の前の部にてヨルダンの岸邊イスラエルの子孫に屬する方にて一の壇を築けりと言を聞り 12イスラエルの子孫これを聞と斉しくイスラエルの子孫の會衆ことごとくシロに集まりて彼らの所に攻のぼらんとす 13イスラエルの子孫すなはち祭司エレアザルの子ピハネスをギレアデの地に遣はしてルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半の所に至らしめ 14イスラエルの各々の支派の中より父祖の家の牧伯

一人づつを擧て合せて十人の牧伯を之に伴なはしむ是みなイスラエルの家族の中にて父祖の家の長たる者なりき 15彼らギレアデの地に往きルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半にいたりて之に語りて言けらく 16ヱホバの全會衆かく言ふ汝らイスラエルの神にむかひて愆を犯し今日すでに翻へりてヱホバに從がはざらんとし即ち己のために一の壇を築きて今日ヱホバに叛かんとするは何事ぞや 17ベオルの罪われらに足ざらんや之がためにヱホバの會衆に災禍くだりたりしかども我ら今日までも尚身を潔めてその罪を棄ざるなり 18然るに汝らは今日ひるがへりてヱホバに從がはざらんとするや汝ら今日ヱホバに叛けば明日はヱホバ、イスラエルの全會衆を怒りたまふべし 19然ながら汝らの所有の地もし潔からずばヱホバの幕屋のたてるヱホバの產業の地に濟り來て我らの中にて所有を獲よ惟われらの神ヱホバの壇の外に壇を築きてヱホバに叛く勿れまた我らに悖るなかれ 20ゼラの子アカン詛はれし物につきて愆を犯しつひにイスラエルの全會衆に震怒臨みしにあらずや且また其罪にて滅亡し者は彼人ひとりにはあらざりき 21ルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの支派の半答へてイスラエルの宗族の長等に言けるは 22諸の神の神ヱホバ諸の神の神ヱホバ知しめすイスラエルも亦知んもし叛く事あるひはヱホバに罪を犯す事ならば汝今日我らを救ふなかれ 23我らが壇を築きし事もし翻がへりてヱホバに從がはざらんが爲なるか又は其上に燔祭素祭を献げんが爲なるか又はその上に酬恩祭の犧牲を獻げんがためならばヱホバみづからその罪を問討したまへ 24我等は遠き慮をもて故に斯なしたるなり即ち思ひけらく後の日にいたりて汝らの子孫われらの子孫に語りて言ならん汝らはイスラエルの神ヱホバと何の關係あらんや 25ルベンの子孫およびガドの子孫よヱホバ我らと汝らの間にヨルダンを界となしたまへり汝らはヱホバの中に分なしと斯いひてなんぢらの子孫われらの子孫としてヱホバを畏ることを息しめんと 26是故に我ら言けらく我らいま一の壇を我らのために築かんと是燔祭のために非ずまた犧牲のために非ず 27惟し之をして我らと汝らの間および我らの後の子孫の間に證とならしめて我ら燔祭犧牲および酬恩祭をもてヱホバの前にその職務をなさんがためなり然せば汝らの子孫後の日いたりて我らの子孫に汝らはヱホバの中に分なしと言こと無らん 28是をもて我ら言り彼らが我らまたは後の日に我らの子孫に然いはばその時我ら言ん我らの父祖の築きたりしヱホバの壇の模形を見よ是は燔祭のためにも非ずまた犧牲のためにもあらず我らと汝らとの間の證なり 29ヱホバに叛き翻へりて今日ヱホバに從がふことを息め我らの神ヱホバの幕屋の前にあるその祭壇の外に燔祭素祭犧牲などのために壇を築くことは我らの絶て爲ざる所なり 30祭司ピネハスおよび會衆の長等即ち彼とともなるイスラエルの宗族の首等はルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの子孫が述たる言を聞て善とせり 31祭司エレアザルの子ピネハスすなはちルベンの子孫ガドの子孫およびマナセの子孫に言けるは我ら今日ヱホバの我らの中に在すを知る其は汝らヱホバにむかひて此愆を犯さざればなり今なんぢらはイスラエルの子孫をヱホバの手より救ひいだせりと 32祭司エレアザルの子ピネハスおよび牧伯等すなはちルベンの子孫およびガドの子孫に別れてギレアデの地よりカナンの地に歸りイスラエルの子孫にいたりて復命しけるに 33イスラエルの子孫これを善とせり而してイスラエルの子孫神を讃めルベンの子孫およびガドの子孫の住をる國を滅ぼしに攻上らんと重ねて言ざりき 34ルベンの子孫およびガドの子孫その壇をエド(證)と名けて云ふ是は我らの間にありてヱホバは神にいますとの證をなす者なりと

第二十三章

1ヱホバ、イスラエルの四方の敵をことごとく除きて安息をイスラエルに賜ひてより久しき後すなはちヨシユア年邁みて老たる後 2ヨシユア一切のイスラエル人すなはち其長老首領裁判人官吏などを招きよせて之に言けるは 3我は年すすみて老ゆ汝らは已に汝らの神ヱホバが汝らのために此もろもろの國人に行ひたまひし事を盡く見たり即ち汝らの神ヱホバみづから汝らのために戰ひたまへり 4視よ我ヨルダンより日の入る方大海までの此もろもろの漏のこれる國々および已に滅ぼしたる一切の國々を籤にて汝らに分ちて汝らの支派の產業となさしめたり 5汝らの神ヱホバみづから汝らの前よりその國民を打攘ひ汝らの目の前よりこれを逐はらひたまはん而して汝らは汝らの神ヱホバの汝らに宣まひしごとく之が地を獲にいたるべし 6然ば汝ら勵みてモーセの律法の書に記されたる所を盡く守り行なへ之を離れて右にも左にも曲るなかれ 7汝らの中間に遺りをる是等の國人の中に往

なかれ彼らの神の名を唱ふるなかれ之を指て誓はしむる
勿れ又これに事へこれを拝むなかれ 8惟今日まで爲たる
ごとく汝らの神ヱホバに附したがへ 9それヱホバは大に
して且強き國民を汝らの前より逐はらひたまへり汝らに
は今日まで當ることを得る人一箇もあらざりき 10汝らの
一人は千人を逐ことを得ん其は汝らの神ヱホバ汝らに宣
まひしごとく自ら汝らのために戰ひたまへばなり 11然ば
汝ら自ら善く愼しみて汝らの神ヱホバを愛せよ 12然らず
して汝ら若後もどりしつつ是等の國人の漏のこりて汝ら
の中間に止まる者等と親しくなり之と婚姻をなして互に
相往來しなば 13汝ら確く知れ汝らの神ヱホバかさねて
是等の國人を汝らの目の前より逐はらひたまはじ彼ら反
て汝らの羂となり罟となり汝らの脇に鞭となり汝らの目
に荊となりて汝ら遂に汝らの神ヱホバの汝らに賜ひしこ
の美地より亡び絶ん 14視よ今日われは世人の皆ゆく途を
行んとす汝ら一心一念に善く知るならん汝らの神ヱホバ
の汝らにつきて宣まひし諸の善事は一も缺る所なかり
き皆なんぢらに臨みてその中一も缺たる者なきなり 15
汝らの神ヱホバの汝らに宣まひし諸の善事の汝らに臨
みしごとくヱホバまた諸の惡き事を汝らに降して汝ら
の神ヱホバの汝らに與へしこの美地より終に汝らを滅ぼ
し絶たまはん 16汝ら若なんぢらの神ヱホバの汝らに命じ
たまひしその契約を犯し往て他神に事へてこれに身を鞠
むるに於てはヱホバの震怒なんぢらに向ひて燃いでてな
んぢらヱホバに與へられし善地より迅速に亡びうせん

第二十四章

1茲にヨシユア、イスラエルの一切の支派をシケムに集め
イスラエルの長老首領裁判人官吏などを招きよせて諸共
に神の前に進みいで 2而してヨシユアすべての民に言け
るはイスラエルの神ヱホバかく言たまふ汝らの遠祖すな
はちアブラハムの父たりナホルの父たりしテラのごとき
は在昔河の彼旁に住て皆他神に事へたりしが 3我なんぢ
らの先祖アブラハムを河の彼旁より携へ出してカナンの
全地を導きてすぎその子孫を増んとして之にイサクを與
へたり 4而してイサクにヤコブとエサウを與へエサウに
セイル山を與へて獲させたりまたヤコブとその子等はエ
ジプトに下れり 5我モーセおよびアロンを遣はしまた
災禍をエジプトに降せり我がその中に爲たる所の事のご
とし而して後われ汝らを導び出せり 6我なんぢらの父
をエジプト入り導き出し汝ら海に至りしにエジプト人
戰車と騎兵とをもて汝らの後を追て紅海に來りけるが 7
汝らの父等ヱホバに呼はりければヱホバ黑暗を汝らとエ
ジプト人との間に置き海を彼らの上に傾むけて彼らを淹
へり汝らは我がエジプトにて爲たる事を目に觀たり斯て
汝らは日ひさしく曠野に住をれり 8我またヨルダンの
彼旁にすめるアモリ人の地に汝らを携へいれたり彼ら汝
らと戰ひければ我かれらを汝らの手に付しかれらの地を
なんぢらに獲しめ彼らを汝らの前より滅ぼし去り 9時に
モアブの王チツポルの子バラク起てイスラエルに敵し人
を遣はしてペオルの子バラムを招きて汝らを詛はせんと
したりしが 10我バラムに聽ことを爲ざりければ彼かへつ
て汝らを祝せり斯われ汝らを彼の手より拯出せり 11而し
て汝らヨルダンを濟りてヱリコに至りしにヱリコの人々
すなはちアモリ人ペリジ人カナン人ヘテ人ギルガシ人ヒ
ビ人ヱブス人等なんぢらに敵したりしが我かれらを汝ら
の手に付せり 12われ黃蜂を汝らの前に遣はして彼のアモ
リ人の王二人を汝らの前より逐はらへり汝らの劍または
汝らの弓を用ひて斯せしに非ず 13而して我なんちらが勞
せしに非ざる地を汝らに與へ汝らが建たるに非ざる邑を
汝らに與へたり汝らは今その中に住をる汝らは亦己が
作りたるに非ざる葡萄園と橄欖園とにつきて食ふ 14然ば
汝らヱホバを畏れ赤心と眞實とをもて之に事へ汝らの
先祖が河の彼邊およびエジプトにて事へたる神を除きて
ヱホバに事へよ 15汝ら若ヱホバに事ふることを惡とせば
汝らの先祖が河の彼邊にて事へし神々にもあれ又は汝ら
が今をる地のアモリ人の神々にもあれ汝らの事ふべき者
を今日選べ但し我と我家とは共にヱホバに事へん 16民こ
たへて言けるはヱホバを棄て他神に事ふることは我等き
はめて爲じ 17其は我らの神ヱホバみづから我等と我らの
先祖とをエジプトの地奴隸の家より導き上りかつ我らの
目の前にかの大なる徵を行ひ我らが往し一切の路にて我
らを守りまた我らが其中間を通りし一切の民の中にて我
らを守りたまひければなり 18而してヱホバ此地に住をり
しアモリ人などいふ一切の民を我らの前より逐はらひた
まへり然ば我らもヱホバに事へん彼は我らの神なればな
り 19ヨシユア民に言けるは汝らはヱホバに事ふること能
はざらん其は彼は聖神また妬みたまふ神にして汝らの
罪愆を赦したまはざればなり 20汝ら若ヱホバを棄て他神
に事へなば汝らに福祉を降したまへる後にも亦ひるがへ

りて汝らに災禍を降して汝らを滅ぼしたまはん 21民ヨシユアに言けるは否我ら必らずヱホバに事ふべしと 22ヨシユア民に向ひて汝らはヱホバを選びて之に事へんといへりなんぢら自らその證人たりと言ければ皆我らは證人なりと答ふ 23ヨシユアまた言り然ば汝らの中にある異なる神を除きてイスラエルの神ヱホバに汝らの心を傾むけよ 24民ヨシユアに言けるは我らの神ヱホバに我らは事へ其聲に我らは聽したがふべしと 25ヨシユアすなはち其日民と契約を結びシケムにおいて法度と定規とを彼らのために設けたり 26ヨシユアこれらの言を神の律法の書に書しるし大なる石をとり彼處にてヱホバの聖所の傍なる樫の樹の下に之を立て 27而してヨシユア一切の民に言けるは視よ此石われらの證となるべし是はヱホバの我らに語りたまひし言をことごとく聞たればなり然ば汝らが己の神を棄ること無らんために此石なんぢらの證となるべしと 28かくてヨシユア民を各々その産業に歸しさらしめたりき 29是らの事の後ヱホバの僕ヌンの子ヨシユア百十歳にして死り 30人衆これをその産業の地の内にてテムナテセラに葬むれりテムナテセラはエフライムの山地にてガアシ山の北にあり 31イスラエルはヨシユアの世にある日の間またヱホバがイスラエルのために行ひたまひし諸の事を識ゐてヨシユアの後に生存れる長老等の世にある日の間つねにヱホバに事へたり 32イスラエルの子孫のエジプトより携さへ上りしヨセフの骨を昔ヤコブが銀百枚をもてシケムの父ハモルの子等より買たりしシケムの中なる一の地に葬れり是はヨセフの子孫の産業となりぬ 33アロンの子エレアザルもまた死り人衆これを其子ピネハスがエフライムの山地にて受たりし岡に葬れり

士師記

第一章

1ヨシユアの死にたるのちイスラエルの子孫ヱホバに問ひていひけるはわれらの中孰か先に攻め登りてカナン人と戰ふべきや 2ヱホバいひたまひけるはユダ上るべし視よ我此國を其の手に付すと 3ユダその兄弟シメオンに言けるは我と共にわが領地にのぼりてカナン人と戰へわれもまた偕に汝の領地に往べしとここにおいてシメオンかれとともにゆけり 4ユダすなはち上りゆきけるにヱホバその手にカナン人とペリジ人とを付したまひたればベゼクにて彼ら一萬人を殺し 5またベゼクにおいてアドニベゼクにゆき逢ひこれと戰ひてカナン人とペリジ人を殺せり 6しかるにアドニベゼク逃れ去りしかばそのあとを追ひてこれを執へその手足の巨擘を斫りはなちたれば 7アドニベゼクいひけるは七十人の王たちかつてその手足の巨擘を斫られて我が食几のしたに屑を拾へり神わが曾て行ひしところをもてわれに報いたまへるなりと衆之を曳てエルサレムに至りしが其處にしねり 8ユダの子孫エルサレムを攻めてこれを取り刃をもてこれを擊ち邑に火をかけたり 9かくてのちユダの子孫山と南方の方および平地に住めるカナン人と戰はんとて下りしが 10ユダまづヘブロンに住るカナン人を攻めてセシヤイ、アヒマンおよびタルマイを殺せり〔ヘブロンの舊の名はキリアテアルバなり〕 11またそこより進みてデビルに住るものを攻む〔デビルの舊の名はキリアテセペルなり〕 12時にカレブいひけるはキリアテセペルをうちてこれを取るものにはわが女アクサをあたへて妻となさんと 13カレブの舍弟ケナズの子オテニエルこれを取ければすなはちその女アクサをこれが妻にあたふ 14アクサ往くときおのれの父に田圃を求めんことを夫にすすめたりしがつひにアクサ驢馬より下りければカレブこれは何事ぞやといふに 15答へけるはわれに惠賜をあたへよなんぢ南の地をわれにあたへたればねがはくは源泉をもわれにあたへよとここにおいてカレブ上の源泉と下の源泉とをこれにあたふ 16モーセの外舅ケニの子孫ユダの子孫と偕に棕櫚の邑よりアラドの南なるユダの野にのぼり來りて民のうちに住居せり 17茲にユダその兄弟シメオンとともに往きてゼバテに住るカナン人を擊ちて盡くこれを滅ぼせり是をもてその邑の名をホルマと呼ぶ 18ユダまたガザと其の境アシケロンとその境およびエクロンとその境を取り 19ヱホバ、ユダとともに在したればかれつひに山地を手に入れたりしが谷に住る民は鐵の戰車をもちたるが故にこれを逐出すこと能はざりき 20衆モーセのかつていひし如くヘブロンをカレブに與ふカレブそのところよりアナクの三人の子をおひ出せり 21ベニヤミンの子孫はエルサレム

に住るエブス人を追出さざりしりかばエブス人は今日に
至るまでベニヤミンの子孫とともにエルサレムに住ふ 22
茲にヨセフの族またベテルをさして攻め上るヱホバこれ
と偕に在しき 23 ヨセフの族すなはちベテルを窺察しむ
〔此邑の舊の名はルズなり〕 24 その間者邑より人の出來
るを見てこれにいひけるは請ふわれらに邑の入口を示せ
さらば汝に恩慈を施さんと 25 彼邑の入口を示したればす
なはち刃をもて邑を撃てり然ど彼の人と其家族をばみな
縦ち遣りぬ 26 その人ヘテ人の地にゆき邑を建てルズと名
けたり今日にいたるまでこれを其名となす 27 マナセはベ
テシヤンとその村里の民タアナクとその村里の民ドルと
その村里の民イプレアムとその村里の民メギドンとその
村里の民を逐ひ出さざりきカナン人はなほその地に住ひ
居る 28 イスラエルはその強なりしときカナン人をして貢
を納れしめたりしが之を全く追ひいだすことは爲ざりき
29 エフライムはゲゼルに住るカナン人を逐ひいださざり
きカナン人はゲゼルにおいてかれらのうちに住み居たり
30 ゼブルンはまたキテロンの民およびナハラルの民を逐
ひいださざりきカナン人かれらのうちに住みて貢ををさ
むるものとなりぬ 31 アセルはアツコの民およびシドン、
アヘラブ、アクジブ、ヘルバ、アピク、レホブの民を逐
ひ出さざりき 32 アセル人は其地の民なるカナン人のうち
に住み居たりそはこれを逐ひ出さざりしゆゑなり 33 ナフ
タリはベテシメシの民およびベテアナテの民を逐ひ出さ
ずその地の民なるカナン人のうちに住み居たりベテシメ
シとベテアナテの民はつひにかれらに貢を納むるものと
なりぬ 34 アモリ人ダンの子孫を山におひこみ谷に下るこ
とを得させざりき 35 アモリ人はなほヘレス山アヤロン、
シヤラビムに住ひ居りしがヨセフの家の手力勝りたれば
終に貢を納むるものとなりぬ 36 アモリ人の界はアクラビ
ムの阪よりセラを經て上に至れり

第二章

1 ヱホバの使者ギルガルよりボキムに上りていひけるは
我汝等をエジプトより上らしめわが汝らの先祖に誓ひた
る地に携へ來れりまた我いひけらくわれ汝らと締べる
契約を絶てやぶることあらじ 2 汝らはこの國の民と契約
を締ぶべからずかれらの祭壇を毀つべしとしかるに汝ら
はわが聲に從はざりき汝ら如何なれば斯ることをなせし
や 3 我またいひけらくわれ汝らの前より彼らを追ふべか
らずかれら反て汝等の肋を刺す荊棘とならんまた彼らの
神々は汝等の罟となるべし 4 ヱホバの使これらの言をイ
スラエルのすべての子孫に語しかば民聲をあげて哭ぬ 5
故に其所の名をボキム（哭者）と呼ぶかれら彼所にてヱ
ホバに祭物を獻げたり 6 ヨシユア民を去しめたればイス
ラエルの子孫おのおのその領地におもむきて地を獲たり
7 ヨシユアの世にありし間またヨシユアより後に生きの
こりたる長老等の世にありしあひだ民はヱホバに事へた
りこの長老等はヱホバのかつてイスラエルのために成し
たまひし諸の大なる行爲を見しものなり 8 ヱホバの僕ヌ
ンの子ヨシユア百十歳にて死り 9 衆人エフライムの山の
テムナテヘレスにあるかれらの産業の地においてガアシ
山の北にこれを葬れり 10 かくてまたその時代のものこと
ごとくその先祖のもとにあつめられその後に至りて他の
時代おこりしが是はヱホバを識ずまたそのイスラエルの
ために爲したまひし行爲をも識ざりき 11 イスラエルの
子孫ヱホバのまへに惡きことを作してバアリムにつかへ
12 かつてエジプトの地よりかれらを出したまひしその
先祖の神ヱホバを棄てて他の神すなはちその四周なる
國民の神にしたがひ之に跪づきてヱホバの怒を惹起せり
13 即ちかれらヱホバをすててバアルとアシタロテに事へ
たれば 14 ヱホバはげしくイスラエルを怒りたまひ掠むる
ものの手にわたして之を掠めしめかつ四周なるもろもろ
の敵の手にこれを賣たまひしかばかれらふたたびその敵
の前に立つことを得ざりき 15 かれらいづこに往くもヱホ
バの手これに災をなしぬ是はヱホバのいひたまひしご
とくヱホバのこれに誓ひたまひしごとしここにおいてか
れら惱むこと甚だしかりしが 16 ヱホバ士師を立てたま
ひたればかれらこれを掠むるものの手よりすくひ出した
り 17 然るにかれらその士師にもしたがはず反りて他の
神を慕て之と淫をおこなひ之に跪き先祖がヱホバの
命令に從がひて歩みたることろの道を頓に離れ去りてそ
の如くには行はざりき 18 かれらのためにヱホバ士師を
立てたまひし時に方りてはヱホバつねにその士師とと
もに在しその士師の世に在る間はヱホバかれらを敵の
手よりすくひ出したまへり此はかれらおのれを虐げくる
しむるものありしを呻きかなしめるによりてヱホバ之を
哀れみたまひたればなり 19 されどその士師の死しのち
また戻きて先祖よりも甚だしく邪曲を行ひ他の神にした
がひてこれに事へ之に跪きておのれの行爲を息めずそ

の頑固なる路を離れざりき 20是をもてヱホバはげしくイスラエルをいかりていひたまはく此民はわがかつてその列祖に命じたる契約を犯し吾聲に從がはざるがゆゑに 21我もまたいまよりはヨシユアがその死しときに存しおけるいづれの國民をもかれらのまへより逐ひはらはざるべし 22此は我イスラエルがその先祖の守りしごとくヱホバの道を守りてこれに歩むやいなやを試みんがためなりと 23ヱホバはこれらの國民を逐はらふことを速にせずして之を遺しおきてヨシユアの手に付したまはざりしなり

第三章

1ヱホバが凡てカナンの諸の戰爭を知ざるイスラエルの者どもをこころみんとて遺しおきたまへる國民は左のごとし 2〔こはただイスラエルの代々の子孫特にいまだ戰爭を知ざるものにこれををしへ知らしめんがためなり〕 3即ちペリシテ人の五人の伯すべてのカナン人シドン人およびレバノン山に住みてバアルヘルモンの山よりハマテに入るところまでを占めたるヒビ人是なり 4これらをもてイスラエルをこころみかれらがヱホバのモーセによりてその先祖に命じたまひし命令に遵ふや否を可知りしなり 5イスラエルの子孫はカナン人ヘテ人アモリ人 6ペリジ人ヒビ人エブス人のうちに住みかれらの女を妻に娶りまたおのれの女をかれらの子に與へかつかれらの神に事へたり 7斯くイスラエルの子孫ヱホバのまへに惡をおこなひ己れの神なるヱホバをわすれてバアリムおよびアシラに事へたり 8是においてヱホバはげしくイスラエルを怒りてこれをメソポタミヤの王クシヤンリシヤタイムの手に賣り付したまひしかばイスラエルの子孫はおよそ八年のあひだクシヤンリシヤタイムにつかへたり 9茲にイスラエルの子孫ヱホバによばはりしかばヱホバはイスラエルの子孫の爲にひとりの救者を起して之を救はしめ給ふすなはちカレブの舍弟ケナズの子オテニエル是なり 10ヱホバの靈オテニエルにのぞみたれば彼イスラエルを治め戰ひに出づヱホバ、メソポタミヤの王クシヤンリシヤタイムをその手に付したまひたればオテニエルの手クシヤンリシヤタイムに勝ことを得たり 11かくて國は四十年のあひだ太平なりきケナズの子オテニエルつひに死り 12イスラエルの子孫復ヱホバの眼のまへに惡をおこなふヱホバかれらがヱホバのまへに惡をおこなふによりてモアブの王エグロンをつよくなしてイスラエルに敵せしめたまへり 13エグロンすなはちアンモンおよびアマレクの子孫を招き聚め往きてイスラエルを撃ち櫚棚の邑を取り 14ここにおいてイスラエルの子孫は十八年のあひだモアブの王エグロンに事へたりしが 15イスラエルの子孫ヱホバに呼はりけるときヱホバかれらの爲に一個の救者を起したまふすなはちベニヤミン人ゲラの子なる左手利捷のエホデ是なりイスラエルの子孫かれを以てモアブの王エグロンに餽物せり 16エホデ長一キユビトなる兩刃の劍を作らせこれを衣のしたに右の股のあたりにおび 17餽物を齎してモアブの王エグロンのもとに詣るエグロンは甚だ肥たる人なりき 18さて餽物を獻ぐることをはりしかば彼餽物を負ひ來りしものをかへし去らしめ 19自らはギルガルの傍なる石像の在る所より引き回していひけるは王よ我爾に告ぐべき密事ありと王人拂を命じたればその旁に立つものみな出で去りぬ 20エホデすなはち王のところに入來れり時に王はひとり上なる涼殿に坐し居たりしがエホデ我神の命に由りて爾に傳ふべきことありといひければ王すなはち座より起に 21エホデ左の手を出し右の股より劍を取りてその腹を刺せり 22拆もまた刃とともに入りたりしが脂肉刃を塞ぎて之を腹より抜き出すことあたはずその鋒鋩うしろに出づ 23エホデすなはち廊をとほりてその後に樓の戸を閉てこれを鎖せり 24その出でしのち王の僕來りて樓の戸の鎖したるを見いひけるは王はかならず涼殿の間に足を蔽ひ居るならんと 25僕ども恥るまでに俟居たれど王樓の戸をひらかざれば鑰をとりて之を開き見るにその君は地に仆れて死をる 26エホデは彼等の猶豫ふ間に逃れて石像の在るところを過りセイラテに遁げゆけり 27かれ既に至りエフライムの山に筰を吹きければイスラエルの子孫これとともに山より下るエホデこれを導けり 28かれ人衆にいひけるは我に續て來れヱホバ汝等の敵モアブ人を汝等の手に付したまふなりここにおいてかれらエホデにしたがひて下りモアブにおもむくところのヨルダンの津を取りて一人も渡ることを允さざりき 29そのとき彼らモアブ人およそ一萬人を殺せり是皆肥太たる勇士なりそのうち一人も脱れたるものなし 30モアブはその日イスラエルの手に服せり而して國は八十年の間太平なりき 31エホデの後にアナテの子シヤムガルといふものあり牛の策を以てペリシテ人六百人を殺せり此人もまたイスラエルを救へり

第四章

1エホデの死たるのちイスラエルの子孫復ヱホバの目前に惡を行しかば 2ヱホバ、ハゾルにて世を治むるカナンの王ヤビンの手に之を賣たまふヤビンの軍勢の長はシセラといふ彼異邦人のハロセテに住居り 3鐵の戰 車九百 輛を有居て二十年の間イスラエルの子孫を甚だしく虐げしかばイスラエルの子孫ヱホバに呼はれり 4當時ラピドテの妻なる預言者デボラ、イスラエルの士 師なりき 5彼エフライムの山のラマとベテルの間に在るデボラの棕櫚の樹の下に坐せりイスラエルの子孫はその許に上りて審判を受く 6デボラ人をつかはしてケデシ、ナフタリよりアビノアムの子バラクを招きこれにいひけるはイスラエルの神ヱホバ汝に斯く命じたまふにあらずやいはく汝ナフタリの子孫とゼブルンの子孫とを一萬人ひきゐゆきてタボル山におもむけ 7我ヤビンの軍勢の長シセラおよびその戰 車とその群衆とをキシオン河に引き寄せて汝のもとに至らせ之を汝の手に付すべし 8バラク之にいひけるは汝もし我とともにゆかば我往べし然ど汝もし我とともに行ずば我行ざるべし 9デボラいひけるは我かならず汝とともに往くべし然ど汝は今往くところの途にては榮譽を得ることなからんヱホバ婦人の手にシセラを賣りたまふべければなりとデボラすなはち起ちてバラクと共にケデシに往けり 10バラク、ゼブルンとナフタリをケデシに招き一萬人を從へて上るデボラもまた之とともに上れり 11ここにケニ人ヘベルといふ者あり彼はモーセの外舅ホバブの裔なるがケニを離れてケデシの邊なるザアナイムの橡の樹のかたはらにその天幕を張り居たり 12衆 アビノアムの子バラクがタボル山に上れるよしをシセラに告げたりければ 13シセラそのすべての戰 車すなはち鐵の戰 車 九百輛およびおのれとともに在るすべての民を異邦人のハロセテよりキシオン河に招き集へたり 14デボラ、バラクにいひけるは起よ是ヱホバがシセラを汝の手に付したまふ日なりヱホバ汝に先き立ちて出でたまひしにあらずやとバラクすなはち一萬人をしたがへてタボル山より下る 15ヱホバ刃をもてシセラとその諸の戰 車および全軍をバラクの前に打敗りたまひたればシセラ戰 車 より飛び下り徒歩になりて遁れ走れり 16バラク戰 車 と軍勢とを追ひ擊て異邦人のハロセテに至れりシセラの軍勢は悉く刃にたふれて殘れるもの一人もなかりしが 17シセラは徒歩にて奔りケニ人ヘベルの妻ヤエルの天幕に來れり是はハゾルの王ヤビンとケニ人ヘベルの家とは互ひに睦じかりしゆゑなり 18ヤエル出來りてシセラを迎へ之にいひけるは來れわが主よ入り來れ怖るるなかれとシセラその天幕に入たればヤエル被をもてこれを覆へり 19シセラ之にいひけるはねがはくは少しの水をわれに飮ませよ我渴けりとヤエルすなはち乳 嚢を啓きて之に飮ませまた之を覆へり 20シセラまた之にいひけるは天幕の門邊に立て居れもし人來り汝にとふて誰かここに居るやといはば否と答ふべしと 21彼疲れて熟睡せしかばヘベルの妻ヤエル天幕の釘子を取り手に鎚を携へてそのかたはらに忍び寄り鬢のあたりに釘子をうちこみて地に刺し通したればシセラすなはち死たり 22バラク、シセラを追ひ來りしときヤエル之を出むかへていひけるは來れ我汝 の索るところの人を示さんとかれそのところに入て見にシセラ鬢のあたりに釘子うたれて死たふれをる 23その日に神カナンの王ヤビンをイスラエルの子孫のまへに打敗りたまへり 24かくてイスラエルの子孫の手ますます強くなりてカナンの王ヤビンに勝ちつひにカナンの王ヤビンを亡ぼすに至れり

第五章

1その日デボラとアビノアムの子バラク謳ひていはく 2イスラエルの首長みちびきをなし民また好んで出でたればヱホバを頌美よ 3もろもろの王よ聽けもろもろの伯よ耳をかたぶけよ我はそのヱホバに謳はん我はイスラエルの神ヱホバを讚へん 4ああヱホバよ汝セイルより出でエドムの野より進みたまひしとき地震ひ天また滴りて雲水を滴らせたり 5もろもろの山はヱホバのまへに撼動ぎ彼のシナイもイスラエルの神ヱホバのまへに撼動げり 6アナテの子シヤムガルのときまたヤエルの時には大路は通行る者なく途行く人は徑を歩み 7イスラエルの村莊には住者なく住む者あらずなりけるがつひに我デボラ起れり我起りてイスラエルに母となる 8人々 新しき神を選みければ戰鬪門におよべりイスラエルの四萬人のうちに盾或は鎗の見しことあらんや 9吾が心は民のうちに好んでいでたるイスラエルの有司等に傾けり汝らヱホバを頌美よ 10しろき驢馬に乘るもの毛氈に坐するものおよび路歩む人よ汝ら謳ふべし 11矢叫の聲に遠かり水汲むところにおいてヱホバの義しき所爲をとなへそのイスラエルを治理めたまふ義しき所爲を唱へよその時ヱホバの民は門

に下れり 12興よ起よデボラ興よ起よ歌を謳ふべし起てよバラク汝の俘虜を擄きたれアビノアムの子よ 13其時民の首長等の殘餘者くだり來るヱホバ勇士の中にいまして我にくだりたまふ 14エフライムより出る者ありその根アマレクにありベニヤミン汝のあとにつきて汝の民の中にありマキルよりは牧伯下りゼブルンよりは采配を執るものいたる 15イッサカルの伯たちはデボラとともに居るイッサカルはバラクとおなじく足の進みて平地に至るルベンの河邊にて大に心にはかる事あり 16何故に汝は圈のうちに止まりて羊の群に笛吹くを聽くやルベンの河邊にて大に心に考ふることあり 17ギレアデはヨルダンの彼方に臥し居る何故にダンは舟のかたはらに止まりしやアセルは濱邊に坐してその港に臥し居る 18ゼブルンは生命を捐て死を冒せる民なり野の高きところに居るナフタリまた是の如し 19もろもろの王來りて戰へる時にカナンのもろもろの王メギドンの水の邊においてタアナクに戰へり彼ら一片の貨幣をも獲ざりき 20天よりこれを攻るものありもろもろの星其の道を離れてシセラを攻む 21キシオンの河之を押し流しぬ是彼の古への河キシオンの河なりわが靈魂よ汝ますます勇みて進め 22その時馬の蹄は強きものの馳に馳るに由りて地を踏鳴せり 23ヱホバの使いひけるはメロズを詛ふべし汝ら重ね重ねその民を詛ふべきなり彼等來りてヱホバを助けずヱホバを助けて猛者を攻めざればなり 24ケニ人ヘベルの妻ヤエルは婦女のうちの最も頌むべき者なり彼は天幕に居る婦女のうち最も頌むべきものなり 25シセラ水を乞ふにヤエル乳を與ふ即ち貴き盤に乳の油を盛てささぐ 26ヤエル釘子に手をかけ右の手に重き椎をとりてシセラを打ちその頭を碎きその鬢のあたりをうちて貫ぬく 27シセラ、ヤエルの足の間に屈みて仆れ偃しその足のあはひに屈みて仆れその屈みたる所にて仆れ亡ぬ 28シセラの母窓より望み格子のうちより叫びて言ふ彼が車のきたること何て遲きや彼が馬の歩何てはかどらざるやと 29その賢き侍女こたへをなす（母また獨語して斯いへり） 30かれら獲ものしてこれを分たざらんや人ごとに一人二人の女子を獲んシセラの獲るものは彩る衣ならんその獲る者は彩る衣にして文繍を施せる者ならん即ち彩りて兩面に文繍をほどこせる衣をえてその頸にまとはんと 31ヱホバよ汝の敵みな是のごとくに亡びよかしまたヱホバを愛するものは日の眞盛に昇るが如くなれよかし とかくて後國は四十年のあひだ太平なりき

第六章

1イスラエルの子孫またヱホバの目のまへに惡を行ひたればヱホバ七年の間之をミデアン人の手に付したまふ 2ミデアン人の手イスラエルにかてりイスラエルの子孫はミデアン人の故をもて山にある窟と洞穴と要害とをおのれのために造れり 3イスラエル人蒔種してありける時しもミデアン人アマレキ人及び東方の民上り來りて押寄せ 4イスラエル人に向ひて陣を取り地の產物を荒してガザにまで至りイスラエルのうちに生命を維ぐべき物を遺さず羊も牛も驢馬も遺ざりき 5夫この衆人は家畜と天幕を携へ上り蝗蟲の如くに數多く來れりその人と駱駝は數ふるに勝ず彼ら國を荒さんとて入きたる 6かかりしかばイスラエルはミデアン人のために大いに衰へイスラエルの子孫ヱホバに呼れり 7イスラエルの子孫ミデアン人の故をもてヱホバに呼はりしかば 8ヱホバひとりの預言者をイスラエルの子孫に遣りて言しめたまひけるはイスラエルの神ヱホバ斯くいひたまふ我かつて汝らをエジプトより上らせ汝らを奴隸たるの家より出し 9エジプト人の手およびすべて汝らを虐ぐるものの手より汝らを拯ひいだし汝らの前より彼らを追ひはらひてその邦土を汝らに與へたり 10我また汝らに言り我は汝らの神ヱホバなり汝らが住ひ居るアモリ人の國の神を懼るるなかれとしかるに汝らは我が聲に從はざりき 11茲にヱホバの使者來りてアビエゼル人ヨアシの所有なるオフラの橡の樹のしたに坐す時にヨアシの子ギデオン、ミデアン人に奪はれざらんために酒榨のなかに麥を打ち居たりしが 12ヱホバの使之に現れて剛勇丈夫よヱホバ汝とともに在すといひたれば 13ギデオン之にいひけるはああ吾が主よヱホバ我らと偕にいまさばなどてこれらのことわれらの上に及びたるやわれらの先祖がヱホバは我らをエジプトより上らしめたまひしにあらずやといひて我らに告たりしその諸の不思議なる行爲は何處にあるや今はヱホバわれらを棄てミデアン人の手に付したまへり 14ヱホバ之を顧みていひたまひけるは汝此汝の力をもて行きミデアン人の手よりイスラエルを拯ひいだすべし我汝を遣すにあらずや 15ギデオン之にいひけるはああ主よ我何をもてかイスラエルを拯ふべき視よわが家はマナセのうちの最も弱きもの我はまた父の家の最も卑賤きものなり 16ヱホバ之にいひたまひけるは我かならず汝とともに在ん汝は一人を擊がごとくにミデアン人を擊つことを得ん 17ギデオン之にい

ひけるは我もし汝のまへに恩を蒙るならば請ふ我と語る
者の汝なる證據を見せたまへ 18ねがはくは我復び汝に來
りわが祭物をたづさへて之を汝のまへに供ふるまでここ
を去たまふなかれ彼いひたまひけるは我汝の還るまで待
つべし 19ギデオンすなはち往て山羊の羔を調へ粉一エパ
をもて無酵パンをつくり肉を筐にいれ羹を壺に盛り橡樹
の下にもち出て之を供へたれば 20神の使之にいひたまひ
けるは肉と無酵パンをとりて此巖のうへに置き之に羹を
斟げとすなはちそのごとくに行ふ 21ヱホバの使手にもて
る杖の末端を出して肉と無酵パンに觸れたりしかば巖よ
り火燃えあがり肉と無酵パンを燒き盡せりかくてヱホバ
の使去てその目に見ずなりぬ 22ギデオン是において彼が
ヱホバの使者なりしを覺りギデオンいひけるはああ神ヱ
ホバよ我面を合せてヱホバの使者を見たれば將如何せん
23ヱホバ之にいひたまひけるは心安かれ怖るる勿れ汝死
ぬることあらじ 24ここにおいてギデオン彼所にヱホバの
ために祭壇を築き之をヱホバシヤロムと名けたり是は
今日に至るまでアビエゼル人のオフラに存る 25其夜ヱホ
バ、ギデオンにいひ給ひけるは汝の父の少き牡牛および
七歳なる第二の牛を取り汝の父のもてるバアルの祭壇を
毀ち其上なるアシラの像を斫り仆し 26汝の神ヱホバのた
めにこの堡砦の頂において次序をただしくし祭壇を築
き第二の牛を取りて汝が斫り倒せるアシラの木をもて
燔祭を供ぐべし 27ギデオンすなはちその僕十人を携へて
ヱホバのいひたまひしごとく行へりされど父の家のもの
どもおよび邑の人を怖れたれば晝之をなすことを得ず夜
に入りて之を爲り 28邑の衆朝興出て視にバアルの祭壇
は摧け其の上なるアシラの像は斫仆されて居り新に築る
祭壇に第二の牛の供へてありしかば 29たがひに此は誰が
所爲ぞやと言ひつつ尋ね問ひけるに此はヨアシの子ギデ
オンの所爲なりといふものありたれば 30邑の人々ヨアシ
にむかひ汝の子を曳き出して死なしめよそは彼バアルの
祭壇を摧き其上に在しアシラの像を斫仆したればなりと
いふ 31ヨアシおのれの周圍に立るすべてのものにいひけ
るは汝らはバアルの爲に爭論ふや汝らは之を救んとする
や之が爲に爭論ふ者は朝の中に死べしバアルもし神なら
ば人其祭壇を摧きたれば自ら爭論ふ可なりと 32是をもて
人衆ギデオンその祭壇を摧きたればバアル自ら之といひ
あらそはんといひて此日かれをヱルバアル(バアルいひあ
らそはん)と呼なせり 33茲にミデアン人アマレク人および
東方の民相集まりて河を濟りヱズレルの谷に陣を取しが
34ヱホバの靈ギデオンに臨みてギデオン筩を吹たればア
ビエゼル人集りて之に從ふ 35ギデオン徧くマナセに使者
を遣りしかばマナセ人また集りて之に從ふ彼またアセ
ル、ゼブルン及びナフタリに使者を遣りしにその人々も
上りて之を迎ふ 36ギデオン神にいひけるは汝かつていひ
たまひしごとくわが手をもてイスラエルを救はんとした
まはば 37視よ我一箇の羊の毛を禾場におかん露もし羊毛
にのみおきて地はすべて燥きをらば我之れによりて汝が
かつて言たまひし如く吾が手をもてイスラエルを救ひた
まふを知んと 38すなはち斯ありぬ彼明る朝早く興きいで
羊毛をかき寄てその毛より露を搾りしに鉢に滿つるほど
の水いできたる 39ギデオン神にいひけるは我にむかひて
怒を發したまふなかれ我をしていま一回いはしめたまへ
ねがはくは我をして羊の毛をもていま一回試さしめたま
へねがはくは羊毛のみを燥して地には悉く露あらしめ
たまへと 40その夜神かくの如くに爲したまふすなはち
羊毛のみ燥きて地には凡て露ありき

第七章

1斯てエルバアルと呼るるギデオンおよび之とともにある
すべての民朝夙に興きいでてハロデの井のほとりに陣を
取るミデアン人の陣はかれらの北の方にあたりモレの山
に沿ひ谷のうちにありき 2ヱホバ、ギデオンにいひたま
ひけるは汝とともに在る民は餘りに多ければ我その手に
ミデアン人を付さじおそらくはイスラエル我に向ひ自ら
誇りていはん我わが手をもて己を救へりと 3されば民の
耳に告示していふべし誰にても懼れ慄くものはギレアデ
山より歸り去るべしとここにおいて民のかへりしもの二
萬二千人あり殘しものは一萬人なりき 4ヱホバまたギデ
オンにいひたまひけるは民なほ多し之を導きて水際に下
れ我かしこにて汝のために彼らを試みんおほよそ我が汝
に告て此人は汝とともに行くべしといはんものはすなは
ち汝とともに行くべしまたおほよそ我汝に告て此人は
汝とともに行くべからずといはんものはすなはち行くべ
からざるなり 5ギデオン民をみちびきて水際に下りしに
ヱホバ之にいひたまひけるはおほよそ犬の舐るがごとく
その舌をもて水を舐るものは汝之を別けおくべしまたお
ほよそ其の膝を折り屈みて水を飲むものをも然すべしと
6手を口にあてて水を舐しものの數は三百人なり餘の民

は盡くその膝を折り屈みて水を飲り 7ヱホバ、ギデオンにいひたまひけるは我水を舐たる三百人の者をもて汝らを救ひミデアン人を汝の手に付さん餘の民はおのおの其所に歸るべしと 8ここにおいて彼ら民の兵粮とその笳を手にうけとれりギデオンすなはちすべてのイスラエル人を各自その天幕に歸らせ彼の三百人を留めおけり時にミデアン人の陣はその下の谷のなかにありき 9その夜ヱホバ、ギデオンにいひたまはく起よ下りて敵陣に入るべし我之を汝の手に付すなり 10されど汝もし下ることを怖れなば汝の僕フラを伴ひ陣所に下りて 11彼らのいふ所を聞べし然せば汝の手強くなりて汝敵陣にくだることを得んとギデオンすなはち僕フラとともに下りて陣中にある隊伍のほとりに至るに 12ミデアン人アマレク人およびすべて東方の民は蝗蟲のごとくに數衆く谷のうちに堰しをりその駱駝は濱の砂の多きがごとくにして數ふるに勝ず 13ギデオン其處に至りしに或人その伴侶に夢を語りて居りすなはちいふ我夢を見たりしが夢に大麥のパンひとつミデアンの陣中に轉びいりて天幕に至り之をうち仆し覆 したれば天幕倒れ臥り 14其の伴侶答へていふ是イスラエルの人ヨアシの子ギデオンの劍に外ならず神ミデアンとすべての陣營を之が手に付したまふなりと 15ギデオン夢の説話とその解釋を聞しかば拜をなしてイスラエルの陣所にかへりいひけるは起よヱホバ汝らの手にミデアンの陣をわたしたまふと 16かくて三百人を三隊にわかち手に手に笳および空瓶を取せその瓶のなかに燈火をおかしめ 17これにいひけるは我を視てわが爲すところにならへ我が敵陣の邊に至らんときに爲すごとく汝らも爲すべし 18我およびわれとともに在るものすべて笳を吹ば汝らもまたすべて陣營の四方にて笳を吹き此ヱホバのためなりギデオンのためなりといへと 19而してギデオンおよび之とともなる百人中更の初に陣營の邊に至るにをりしも番兵を更代たるときなりければ笳を吹き手に携へたる瓶をうちくだけり 20即ち三隊の兵隊 笳を吹き瓶をうちくだき左の手には燈火を執り右の手には笳をもちて之を吹きヱホバの劍ギデオンの劍なるぞと叫べり 21かくておのおのその持場に立ち陣營を取り圍みたれば敵軍みな走り叫びてにげゆけり 22三百人のもの笳を吹くにあたりヱホバ敵軍をしてみなたがひに同士撃せしめたまひければ敵軍にげはしりてゼレラのベテシツダ、アベルメホラの境およびタバテに至る 23イスラエルの人々すなはちナフタリ、アセルおよびマナセ中より集ひ來りてミデアン人を追撃り 24ギデオン使者をあまねくエフライムの山に遣していはせけるは下りてミデアン人を攻めベタバラにいたる渡口およびヨルダンを遮斷るべしと是においてエフライムの人 盡く集ひ來りてベタバラにいたる渡口およびヨルダンを取り 25ミデアン人の君主オレブとゼエブの二人を俘へてオレブをばオレブ砦の上に殺しゼエブをばゼエブの酒搾のほとりに殺しまたミデアン人を追撃ちオレブとゼエブの首を携へてヨルダンの彼方よりギデオンの許にいたる

第八章

1エフライムの人々ギデオンにむかひ汝ミデアン人と戰はんとて往る時われらを召ざりしが斯ることを我らになすは何故ぞといひていたく之を詰りたり 2ギデオン之にいひけるは今吾が成るところは汝らのなせる所に比ぶべけんやエフライムの拾ひ得し遺餘の葡萄はアビエゼルの收穫し葡萄にも勝れるならずや 3神はミデアンの群伯オレブとゼエブを汝等の手に付したまへりわが成えたるところは汝らの成る所に比ぶべけんやとギデオン此の語をのべしかば彼らの 憤 解たり 4ギデオン自己に從がへる三百人とともにヨルダンに至りて之を濟り疲れながらも仍追撃しけるが 5遂にスコテの人々に言けるは願くは我にしたがへる民に食を與へよ彼等疲れをるに我ミデアンの王ゼバとザルムンナを追行なりと 6スコテの群伯等いひけるはゼバとザルムンナの手すでに汝の手のうちに在るや我らなんぞ汝の軍勢に食を與ふべけんや 7ギデオンいひけるは然らばヱホバの吾が手にゼバをザルムンナを付したまふときに我野の荊と棘とをもて汝の肉を打つべしと 8かくて其所よりペヌエルにのぼりおなじことを彼らにのべたるにペヌエルの人もスコテの人の答へしごとくに答へしかば 9またペヌエルの人につげていひけるは我平康に歸るときに此の城樓を毀つべしと 10偖ゼバとザルムンナはその軍勢おほよそ一萬五千人をひきゐてカルコルに居る是皆東方の人の全軍の中の生殘れるものなり戰死せし者は劍を抜ところのもの十二萬人ありき 11ギデオンすなはちノバとヨグベバの東にて天幕にすめるものの路より上りて敵軍の 慮 りなく居るを撃り 12ここにおいてゼバとザルムンナにげ走りたればギデオン之を追撃ちミデアンの二人の王ゼバとザルムンナを生捕て悉くそ

の軍勢を敗れり 13斯てヨアシの子ギデオン、ヘレシの阪よりして戦陣よりかへり 14スコテの人の少壮者一人を執へて之に尋ねたれば即ちスコテの群伯およびその長老等七十七人をこれがために書き録せり 15ギデオン、スコテの人の所に詣りていひけるは汝らが曾て我を罵りゼバとザルムンナの手すでに汝の手のうちにあるや我ら何ぞ汝の疲れたる人に食をあたふべけんやと言たりしそのゼバとザルムンナを見よと 16すなはちその邑の長老等を執へ野の荊と棘を取り之をもちてスコテの人を懲し 17またペヌヘルの城樓を毀ちて邑の人を殺せり 18かくてギデオン、ゼバとザルムンナにいひけるは汝らがタボルにて殺せしものは如何なるものなりしや答へていふ彼らは汝に似てみな王子の如くに見えたり 19ギデオンいひけるは彼らは我が兄弟我が母の子なりヱホバは活く汝らもし彼らを生し置たらば我汝らを殺すまじきをと 20すなはちその長子ヱテルに起て彼らを殺せといひたりしが彼の少者は年尚わかかりしかば懼れて劍を拔ざりき 21ここにおいてゼバとザルムンナいひけるは汝みづから起て我らを撃よ人の如何によりてその力量異る者なりとギデオンすなはち起てゼバとザルムンナを殺しその駱駝の頸にかけたる半月の飾を取り 22茲にイスラエルの衆ギデオンにいひけるは汝ミデアンの手より我らを救ひたれば汝と汝の子及び汝の孫我らを治めよ 23ギデオン之にいひけるは我汝らを治むることをせじまた我が子も汝らを治むべからずヱホバ汝らを治めたまふべし 24ギデオンまた之にいひけるは我汝らにひとつの願ふべきことあり汝らおのおの掠取の環を我にあたへよと是は彼らイシマエル人なるをもて金の環を着けたるに由る 25衆答へけるは我ら悦んで之を與へんとて衣を布きおのおの掠取の環を其うちに投げいれたり 26ギデオンが求め得たる金の環の重量は金一千七百シケルなり外に半月の飾および耳環とミデアンの王たちの着たる紫のころもおよび駱駝の頸にかけたる鏈などもありき 27ギデオン之をもて一箇のエポデを造り之をおのれの郷里オフラに藏むイスラエルみなこれを慕ひてこれと淫をおこなふこの物ギデオンと其家を陷るる罟となりぬ 28ミデアン人は是の如くイスラエルの子孫に攻ふせられてふたたびその頭を擡ることを得ざりきかくて國はギデオンの世にある中四十年の間平穩にてありき 29ヨアシの子ヱルバアル往ておのれの家に住り 30ギデオンは妻を多く有ちたれば其身より出たる子七十人ありき 31シケムに居しその妾またひとりの子を產たれば之をアビメレクと名けたり 32ヨアシの子ギデオン妙齡に遘みて死にアビエゼル人のオフラに在るその父ヨアシの墓に葬られたり 33ギデオンの死るに及びてイスラエルの子孫復ひるがへりてバアルを慕ひて之と淫をおこなひバアルベリテをおのれの神と爲り 34イスラエルの子孫その四周のもろもろの敵の手よりおのれを救ひ出したまひし神ヱホバを記憶えず 35またヱルバアルといふギデオンがイスラエルになせし諸の善行にしたがひて彼の家を厚く待ふことをせざりき

第九章

1ヱルバアルの子アビメレク、シケムに往きその母の兄弟のもとに至りて彼らおよびすべて其母の父の家の一族に語りて云ひけるは 2ねがはくはシケムのすべての民の耳に斯く告よヱルバアルのすべての子七十人して汝らを治むると一人して汝らを治むると孰れか汝らのためによきやまた我は汝らの骨肉なるを記えよと 3その母の兄弟アビメレクのことにつきて此等の言をことごとくシケムの人々の耳に語りしに是はわれらの兄弟なりといひて心をアビメレクに傾むけ 4バアルベリテの社より銀七十をとりて之に與ふアビメレクこれをもて遊蕩にして輕躁なる者等を傭ひておのれに從はせ 5オフラに在る父の家に往きてヱルバアルの子なるその兄弟七十人を一つの石の上に殺せり但しヱルバアルの季の子ヨタムは身を潜めしに由て遺されたり 6ここにおいてシケムのすべての民およびミロの諸の人集り往てシケムの碑の旁なる橡樹の邊にてアビメレクを立て王となしけるが 7ヨタムにかくと告るものありければ往てゲリジム山の巓に立ち聲を揚て號びかれらにいひけるはシケムの民よ我に聽よ神また汝らに聽たまはん 8樹木出ておのれのうへに王を立んとし橄欖の樹に汝われらの王となれよといひけるに 9橄欖の樹之にいふ我いかで人の我に取て神と人とを崇むるところのそのわが油を棄て往て樹木の上に戰ぐべけんやと 10樹木また無花果樹に汝來りて我らの王となれといひけるに 11無花果樹之にいひけらく我いかでわが甜美とわが善き果を棄て往きて樹木の上に戰ぐべけんやと 12樹木また葡萄の樹に汝來りて我らの王となれよといふに 13葡萄の樹之にいひけるは我いかで神と人を悦こばしむるわが葡萄酒を棄て往て樹木の上に戰ぐべけんやと

14 ここにおいてすべての樹木荊に汝來りて我らの王となれよといひければ 15 荊樹木にいふ汝らまことに我を立て汝らの王と爲さば來りて我が庇蔭に托れ然せずば荊より火出てレバノンの香柏を燒き殫すべしと 16 抑汝らがアビメレクを立て王となせしは眞實と誠意をもて爲しことなるや汝等はヱルバアルと其家を善く待ひかれの手のなせし所に循ひて之にむくいしや 17 夫わが父は汝らのため戰ひ生命を惜まずして汝らをミデアンの手より救ひ出したるに 18 汝ら今日おこりてわが父の家を攻めその子七十人を一つの石の上に殺しその侍妾の子アビメレクは汝らの兄弟なるをもて之を立てシケムの民の王となせり 19 汝らが今日ヱルバアルとその家になせしこと眞實と誠意をもてなせし者ならば汝らアビメレクのために悦べ彼も汝らのために悦ぶべし 20 若し然らずばアビメレクより火いでてシケムの民とミロの家を燬つくさんまたシケムの民とミロの家よりも火いでてアビメレクを燬つくすべしと 21 かくてヨタム走り遁れてベエルに往きその兄弟アビメレクの面を避て彼所に住めり 22 アビメレク三年の間イスラエルを治めたりしが 23 神アビメレクとシケムの民のあひだに惡鬼をおくりたまひたればシケムの民アビメレクを欺くにいたる 24 是ヱルバアルの七十人の子が受たる殘忍と彼らの血のこれを殺せしその兄弟アビメレクおよび彼の手に力をそへてその兄弟を殺さしめたるシケムの人々に報い來るなり 25 シケムの人伏兵を山の巓に置て彼を窺はしめ其途を經て傍を過る者を凡て攫しめたり或人之をアビメレクに告ぐ 26 ここにエベデの子ガアル其の兄弟とともにシケムに越ゆきたりしかばシケムの民かれを恃めり 27 民田野に出て葡萄を收穫れこれを踐み絞りて祭禮をなしその神の社に入り食ひかつ飮みてアビメレクを詛ふ 28 エベデの子ガアルいひけるはアビメレクは如何なるものシケムは如何なるものなればか我ら彼に從ふべき彼はヱルバアルの子に非ずやゼブルその輔佐なるにあらずやむしろシケムの父ハモルの一族に事ふべし我らなんぞ彼に事ふべけんや 29 嗚呼此の民を吾が手に屬しむるものもがな然ば我アビメレクを除かんと而してガアル、アビメレクに汝の軍勢を益て出きたれよと言り 30 邑の宰ゼブル、エベデの子ガアルの言をききて怒を發し 31 私かに使者をアビメレクに遣りていひけるはエベデの子ガアル及びその兄弟シケムに來り邑をさわがして汝に敵せしめんとす 32 然ば汝及び汝と共なる民夜の中に興て野に身を伏よ 33 而て朝に至り日の昇る時汝夙く興出て邑に攻かかれガアル及び之とともなる民出て汝に當らん汝機を見てこれに事をなすべし 34 アビメレクおよび之とともなるすべての民夜の中に興出て四隊に分れ身を伏てシケムを伺ふ 35 エベデの子ガアル出て邑の門の口に立るにアビメレク及び之とともなる民その伏たるところより起りしかば 36 ガアル民を見てゼブルにいひけるは視よ民山の峰々より下るとゼブル之に答へて汝山の影を見て人と做すのみといふ 37 ガアルふたたび語りていひけるは視よ民地の高處より下りまた一隊は法術士の橡樹の途より來ると 38 ゼブル之にいひけるは汝がかつてアビメレクは何者なればか我ら之に事ふべきといひしその汝の口今いづこに在るや是汝が侮りたる民にあらずや今乞ふ出て之と戰へよと 39 ここにおいてガアル、シケム人を率る往てアビメレクと戰ひしが 40 アビメレク之を追くづしたればガアル其まへより逃走れりかくて殺されて斃るるもの多くして邑の門の口までに及ぶ 41 かくてアビメレクはアルマに居しがゼブルはガアルおよびその兄弟等を逐いだしてシケムに居ることを得ざらしむ 42 あくる日民田畑に出しに人之をアビメレクに告げしかば 43 アビメレクおのれの民を率ゐてこれを三隊に分ち野に埋伏して伺ふに民邑より出來りたればすなはち起りて之を擊り 44 アビメレクおよび之とともに在る隊の者は襲ひゆきて邑の門の入口に立ち餘の二隊は野に在るすべてのものをおそふて之を殺せり 45 アビメレク其日終日邑を攻めつひに邑を取りてそのうちの民を殺し邑を破却ちて鹽を撒布ぬ 46 シケムの櫓の人みな之を聞てベリテ神の廟の塔に入たりしが 47 シケムの櫓の人のことごとく集れるよしアビメレクに聞えければ 48 アビメレク己とともなる民をことごとく率ゐてザルモン山に上りアビメレク手に斧を取り木の枝を斫落し之をおのれの肩に載せ偕に居る民にむかひて汝ら吾が爲ところを見る急ぎてわがごとく爲せよといひしかば 49 民もまた皆おのおのその枝を斫りおとしアビメレクに從ひて枝を塔に倚せかけ塔に火をかけて彼等を攻むここにおいてシケムの櫓の人もまた悉く死り男女およそ一千人なりき 50 茲にアビメレク、テベツに赴きテベツに對て陣を張て之を取しが 51 邑のなかに一の堅固なる櫓ありてすべての男女および邑の民みな其所に遁れ往き後を鎖して櫓の頂に上りたれば 52 アビメレクすなはち櫓のもとに押寄て之を攻め櫓の口に近きて火をもて之を焚んとせしに

53一人の婦アビメレクの頭に磨石の上層石を投げてその
脳骨を砕けり 54アビメレクおのれの武器を執る少者を急
ぎ召て之にいひけるは汝の劍を拔て我を殺せおそらくは
人吾をさして婦に殺されたりといはんと其少者之を刺し
通したればすなはち死り 55イスラエルの人々はアビメレ
クの死たるを見ておのおのおのれの處に歸り去りぬ 56神
はアビメレクがその七十人の兄弟を殺しておのれの父に
なしたる惡に斯く報いたまへり 57またシケムの民のすべ
ての惡き事をも神は彼等の頭に報いたまへりすなはちヱ
ルバアルの子ヨタムの詛彼らの上に及べるなり

第十章

1アビメレクの後イッサカルの人にてドドの子なるプワの
子トラ起りてイスラエルを救ふ彼エフライムの山のシヤ
ミルに住み 2二十三年の間イスラエルを審判しがつひに
死てシヤミルに葬らる 3彼の後にギレアデ人ヤイル起り
て二十二年の間イスラエルを審判たり 4彼に子三十人あ
りて三十の驢馬に乘る彼等三十の邑を有りギレアデの地
において今日までヤイルの村ととなふるものすなはち是
なり 5ヤイル死てカモンに葬らる 6イスラエルの子孫ふた
たびヱホバの目のまへに惡を爲しバアルとアシタロテ及
びスリヤの神シドンの神モアブの神アンモンの子孫の神
ペリシテ人の神に事へヱホバを棄て之に事へざりき 7ヱ
ホバ烈しくイスラエルを怒りて之をペリシテ人及びアン
モンの子孫の手に賣付したまへり 8其年に彼らイスラエ
ルの子孫を虐げ難せりヨルダンの彼方においてギレアデ
にあるところのアモリ人の地に居るイスラエルの子孫十
八年の間斯せられたりき 9アンモンの子孫またユダとベ
ニヤミンとエフライムの族とを攻んとてヨルダンを渡り
しかばイスラエル太く苦めり 10ここにおいてイスラエル
の子孫ヱホバに呼りていひけるは我らおのれの神を棄て
バアルに事へて汝に罪を犯したりと 11ヱホバ、イスラエ
ルの子孫にいひたまひけるは我かつてエジプト人アモリ
人アンモンの子孫ペリシテ人より汝らを救ひ出せしにあ
らずや 12又シドン人アマレク人及びマオン人の汝らを困
しめしとき汝ら我に呼りしかば我汝らを彼らの手より救
ひ出せり 13然るに汝ら我を棄て他の神に事ふれば我かさ
ねて汝らを救はざるべし 14汝らが擇める神々に往て呼れ
汝らの艱難のときに之をして汝らを救はしめよ 15イスラ
エルの子孫ヱホバに言けるは我ら罪を犯せりすべて汝の
目に善と見るところを我らになしたまへねがはくは唯
今日我らを救ひたまへと 16而して民おのれの中より異な
る神々を取除きてヱホバに事へたりヱホバの心イスラエ
ルの艱難を見るに忍びずなりぬ 17茲にアンモンの子孫
集てギレアデに陣を取りしがイスラエルの子孫は聚りて
ミヅパに陣を取り 18時に民ギレアデの群伯たがひにいひ
けるは誰かアンモンの子孫に打ちむかひて戰を始むべ
き人ぞ其人をギレアデのすべての民の首となすべしと

第十一章

1ギレアデ人ヱフタはたけき勇士にして妓婦の子なりギレ
アデ、ヱフタをうましめしなり 2ギレアデの妻子等をう
みしが妻の子等成長におよびてヱフタをおひいだしてこ
れにいひけるは汝は他の婦の子なればわれらが父の家を
嗣べきにあらずと 3ヱフタ其の兄弟の許より逃さりてト
ブの地に住けるに遊蕩者ヱフタのもとに集ひ來りて之と
ともに出ることをなせり 4程經てのちアンモンの子孫イ
スラエルとたたかふに至りしが 5アンモンの子孫のイス
ラエルとたたかへるときにギレアデの長老等ゆきてヱフ
タをトブの地より携來らんとし 6ヱフタにいひけるは汝
來りて吾らの大將となれ我らアンモンの子孫とたたかは
ん 7ヱフタ、ギレアデの長老等にいひけるは汝らは我を
惡みてわが父の家より逐いだしたるにあらずやしかるに
今汝らが艱める時に至りて何ぞ我に來るや 8ギレアデの
長老等ヱフタにこたへけるは其がために我ら今汝にかへ
る汝われらとともにゆきてアンモンの子孫とたたかはば
すべて我等ギレアデにすめるものの首領となすべしと 9
ヱフタ、ギレアデの長老等にいひけるは汝らもし我をた
づさへかへりてアンモンの子孫とたたかはしめんにヱホ
バ之を我に付したまはば我は汝らの首となるべし 10ギレ
アデの長老等ヱフタにいひけるはヱホバ汝と我との間の
證者たり我ら誓つて汝の言のごとくになすべし 11是に於
てヱフタ、ギレアデの長老等とともに往くに民之を立て
おのれの首領となし大將となせりヱフタ即ちミヅパにお
いてヱホバのまへにこの言をことごとく陳たり 12かくて
ヱフタ、アンモンの子孫の王に使者をつかはしていひけ
るは汝と我の間に何事ありてか汝われに攻めきたりてわ
が地に戰はんとする 13アンモンの子孫の王ヱフタの使者
に答へけるはむかしイスラエル、エジプトより上りきた
りし時にアルノンよりヤボクにいたりヨルダンに至るま

で吾が土地を奪ひしが故なり然ば今穏便に之を復すべし
14 ヱフタまた使者をアンモンの子孫の王に遣りて之にい
はせけるは 15 ヱフタ斯いへりイスラエルはモアブの地を
取ずまたアンモンの子孫の地をも取ざりしなり 16 夫イス
ラエルはエジプトより上りきたれる時に曠野を經て紅海
に到りカデシに來れり 17 而してイスラエル使者をエドム
の王に遣して言けるはねがはくは我をして汝の土地を
經過しめよと然るにエドムの王之をうけがはずまたおな
じく人をモアブの王に遣したれども是もうべなはざりし
かばイスラエルはカデシに留まりしが 18 遂にイスラエル
曠野を經てエドムの地およびモアブの地を繞りモアブの
地の東の方に出てアルノンの彼方に陣を取り然どモアブ
の界には入らざりきアルノンはモアブの界なればなり 19
かくてイスラエル、ヘシボンに王たりしアモリ人の王シ
ホンに使者を遣せりすなはちイスラエル之にいひけらく
ねがはくは我らをして汝の土地を經過てわがところにい
たらしめよと 20 然るにシホン、イスラエルを信ぜずして
その界をとほらしめずかへつてそのすべての民を集めて
ヤハヅに陣しイスラエルとたたかひしが 21 イスラエルの
神ヱホバ、シホンとそのすべての民をイスラエルの手に
付したまひたればイスラエル之を撃敗りてその土地にす
めるアモリ人の地を悉く手に入れ 22 アルノンよりヤボク
に至るまでまた曠野よりヨルダンに至るまですべてアモ
リ人の土地を手に入たり 23 斯のごとくイスラエルの神ヱ
ホバは其の民イスラエルのまへよりアモリ人を逐しりぞ
けたまひしに汝なほ之を取んとする乎 24 汝は汝の神ケモ
シが汝に取しむるものを取ざらんやわれらは我らの神ヱ
ホバが我らに取しむる物を取ん 25 汝は誠にモアブの王チ
ツポルの子バラクにまされる處ありとするかバラク曾て
イスラエルとあらそひしことありや曾て之とたたかひし
ことありや 26 イスラエルがヘシボンとその村里アロエル
とその村里およびアルノンの岸に沿ひたるすべての邑々
に住ること三百年なりしに汝などてかその間に之を回復
さざりしや 27 我は汝に罪を犯せしことなきに汝はわれと
たたかひて我に害をくはへんとす願くは審判をなしたま
ふヱホバ今日イスラエルの子孫とアンモンの子孫との 間
を鞫きたまへと 28 しかれどもアンモンの子孫の王はヱフ
タのいひつかはせる言を聽いれざりき 29 ここにヱホバの
靈 ヱフタに臨みしかばヱフタすなはちギレアデおよびマ
ナセを經過りギレアデのミヅパにいたりギレアデのミヅ
パよりすすみてアンモンの子孫に向ふ 30 ヱフタ、ヱホバ
に誓 願を立ていひけるは汝 誠にアンモンの子孫をわが
手に付したまはば 31 我がアンモンの子孫の所より安然か
に歸らんときに我家の戸より出きたりて我を迎ふるもの
必 ずヱホバの所有となるべし我之を燔祭となしてささげ
んと 32 ヱフタすなはちアンモンの子孫の所に進みゆきて
之と戰ひしにヱホバかれらをその手に付したまひしかば
33 アロエルよりミンニテにまで至りこれが二十の邑を
打敗りてアベルケラミムにいたり甚だ多の人をころせり
かくアンモンの子孫はイスラエルの子孫に攻伏られたり
34 かくてヱフタ、ミヅパに來りておのが家にいたるに其
女 鼓を執り舞ひ踊りて之を出で迎ふ是彼が獨子にて其
のほかには男子もなくまた女子も有ざりき 35 ヱフタ之を
視てその衣を裂ていひけるはああ吾が女よ汝 實に我を
傷 しむ汝は我を惱すものなり其は我ヱホバにむかひて口
を開きしによりて改むることあたはざればなり 36 女 之に
いひけるはわが父よ汝ヱホバにむかひて口をひらきたれ
ば汝の口より言出せしごとく我になせよ其はヱホバ汝の
ために汝の敵なるアンモンの子孫に仇を復したまひたれ
ばなり 37 女またその父にいひけるはねがはくは此事をわ
れに允せすなはち二月の間 我をゆるし我をしてわが友等
とともに往て山にくだりてわが處女たることを歎かしめ
よと 38 ヱフタすなはち往けといひて之を二月のあひだ出
し遣ぬ女その友等とともに往き山の上にておのれの處女
たるを歎きしが 39 二月滿てその父に歸り來りたれば父そ
の誓ひし誓 願のごとくに之に行へり女は終に男を知こと
なかりき 40 是よりして年々にイスラエルの女子等往て年
に四日ほどギレアデ人ヱフタの女のために哀哭ことをな
す是イスラエルの規矩となれり

第十二章

1 エフライムの人々つどひて北にゆきヱフタにいひけるは
汝 何故に往きてアンモンの子孫と戰ひながらわれらを
まねきて汝とともに行せざりしや我ら火をもて汝の家を
汝 とともに焚くべしと 2 ヱフタ之にいひけるは我とわが
民の曾てアンモンの子孫と大に爭ひしときに我 汝らをよ
びしに汝らかれらの手より我を救ふことをせざりき 3 我
汝 らが我を救はざるを見たればわが命をかけてアンモン
の子孫の所に攻ゆきしにヱホバかれらを我が手に付した
まへり然ば汝らなんぞ今日我が許に上り來りて我とたた

かはんとするやと 4エフタここにおいてギレアデの人をことごとくつどへてエフライムとたたかひしがギレアデの人々エフライムを撃破れり是はエフライム汝らギレアデ人はエフライムの逃亡者にしてエフライムとマナセの中にをるなりと言しに由る 5而してギレアデ人エフライムにおもむくところのヨルダンの津をとりきりしがエフライム人の逃れ來る者ありて我を渡らせよといへばギレアデの人之に汝はエフライム人なるかと問ひ彼もし然らずと言ときは 6また之に請ふシボレテといへといふに彼その音を正しくいひ得ずしてセボレテと言ばすなはち之を引捕へてヨルダンの津に屠せりその時にエフライム人のたふれし者四萬二千人なりき 7エフタ六年のあひだイスラエルを審きたりギレアデ人エフタつひに死てギレアデのある邑に葬むらる 8彼の後にベテレヘムのイブザン、イスラエルを審きたり 9彼に三十人の男子ありまた三十人の女子ありしがこれをば外に嫁がしめてその子息等のために三十人の女を外より娶れり彼七年のあひだイスラエルを審きたり 10イブザンつひに死てベテレヘムに葬むらる 11彼の後にゼブルン人エロン、イスラエルを審きたりゼブルン人エロン十年のあひだイスラエルを審きたり 12ゼブルン人エロンつひに死てゼブルンの地のアヤロンに葬むらる 13彼の後にピラトン人ヒレルの子アブドン、イスラエルを審きたり 14彼に四十人の男子および三十人の孫ありて七十の驢馬に乘る彼八年のあひだイスラエルを審けり 15ピラトン人ヒレルの子アブドンつひに死てエフライムの地のピラトンに葬むらる是はアマレク人の山にあり

第十三章

1イスラエルの子孫またヱホバのまへにて惡を行ひしかばヱホバこれを四十年の間ペリシテ人の手にわたしたまへり 2ここにダン人の族にて名をマノアとよべるゾラ人あり其の妻は石婦にして子を生みしことなし 3ヱホバの使その女に現れて之にいひけるは汝は石婦にして子を生しことあらず然ど汝 孕みて子をうまん 4されば汝つつしみて葡萄酒および濃き酒を飲むことなかれまたすべて穢たるものを食ふなかれ 5視よ汝 孕みて子を產ん其の頭には剃刀をあつべからずその兒は胎を出るよりして神のナザレ人〔神に身を獻げし者〕たるべし彼ペリシテ人の手よりイスラエルを拯ひ始めんと 6その婦人來りて夫に告て曰けるは神の人我にのぞめりその容貌は神の使の容貌のごとくにして甚おそろしかりしが我其のいづれより來れるやを問ず彼また其の名を我に告ざりき 7彼我にいひけるは視よ汝 孕みて子を產まん然ば葡萄酒および濃き酒を飲むなかれまたすべてけがれたるものを食ふなかれその兒は胎を出るより其の死る日まで神のナザレ人たるべしと 8マノア、ヱホバにこひ求めていひけるはああわが主よ汝がさきに遣はしたまひし神の人をふたたび我らにのぞませ之をして我らがその產るる兒になすべき事を教へしめたまへ 9神マノアの聲をききいれたまひて神の使者婦人の田野に坐しをる時に復之にのぞめり時に夫マノアは共にをらざりき 10是において婦いそぎ走りて夫に告て之にいひけるは先頃我にのぞみし人また我に現はれたりと 11マノアすなはち起て妻のあとに付て行き其人のもとに至りて之に汝はかつて此婦に語言し人なるかといふに然りとこたふ 12マノアいひけるは汝の言のごとく成ん時は其兒の養育方および之になすべき事は如何 13ヱホバの使者マノアにいひけるはわがさきに婦に言しところのことどもは婦 之をつつしむべきなり 14すなはち葡萄樹よりいづる者は凡て食ふべからず葡萄酒と濃き酒を飲ずまたすべて穢たるものを食ふべからずすべてわが彼に命じたることどもを彼守るべきなり 15マノア、ヱホバの使者にいひけるは請我らをして汝を款留しめ汝のまへに山羊羔を備へしめよ 16ヱホバの使者マノアにいひける 汝我を款留るも我は汝の食物をくらはじまた汝 燔祭をそなへんとならばヱホバにこれをそなふべしとマノアは彼がヱホバの使者なるを知ざりしなり 17マノア、ヱホバの使者にいひけるは汝の名はなにぞ汝の言の效驗あらんときは我ら汝を崇ん 18ヱホバの使者之にいひけるは我が名は不思議なり汝 何故に之をたづぬるやと 19マノア山羊羔と素祭物とをとり磐のうへにて之をヱホバにささぐ使者すなはち不思議なる事をなせりマノアとその妻之を視る 20すなはち火燄壇より天にあがれるときヱホバの使者壇の火燄のうちにありて昇れりマノアと其の妻これを視をりて地にひれふせり 21ヱホバの使者そののち重ねてマノアと其の妻に現はれざりきマノアつひに彼がヱホバの使者たりしを暁れり 22茲にマノアその妻にむかひ我ら神を視たれば必ず死ぬるならんといふに 23其の妻之にいひけるはヱホバもし我らを殺さんとおもひたまはばわれらの手より燔祭及び素祭をうけたまはざりしならんまたこ

れらの諸のことを我らに示すことをなしこたびのごとく我らに斯ることを告たまはざりしなるべしと 24かくて婦子を產てその名をサムソンと呼べりその子育ち行くヱホバこれを惠みたまふ 25ヱホバの靈ゾラとエシタオルのあひだなるマハネダンにて始て感動す

第十四章

1サムソン、テムナテに下り、ペリシテ人の女にてテムナテに住る一人の婦を見 2歸り上りておのが父母に語ていひけるは我ペリシテ人の女にてテムナテに住るひとりの婦を見たりされば今之をめとりてわが妻とせよと 3その父母之にいひけるは汝ゆきて割禮を受けざるペリシテ人のうちより妻を迎んとするは汝が兄弟等の女のうちもしくはわがすべての民のうちに婦女無が故なるかとしかるにサムソン父にむかひ彼婦わがこころに適へば之をわがために娶れと言り 4その父母はこの事のヱホバより出しなるを知ざりきサムソンはペリシテ人を攻んと釁をうかがひしなりそは其のころペリシテ人イスラエルを轄め居たればなり 5サムソン父母とともにテムナテに下りてテムナテの葡萄園にいたるに稚き獅子咆哮りて彼に向ひしが 6ヱホバの靈彼にのぞみたれば山羊羔を裂がごとくに之を裂たりしが手には何の武器も持ざりきされどサムソンはその爲せしことを父にも母にも告ずしてありぬ 7サムソンつひに下りて婦とうちかたらひしが婦その心にかなへり 8かくて日を經て後サムソンかれを娶らんとて立かへりしが身を轉して彼の獅子の屍を見るに獅子の體に蜂の群と蜜とありければ 9すなはちその蜜を手にとりて歩みつつ食ひ父母の許にいたりて之を與へけるに彼ら之を食へりされど獅子の體よりその蜜を取來れることをば彼らにかたらざりき 10斯て其の父下りて婦のもとに至りしかばサムソン少年の習例にしたがひてそこに饗宴をまうけたるに 11サムソンを見て三十人の者をつれ來りて之が伴侶とならしむ 12サムソンかれらにいひけるは我汝らにひとつの隱語をかけん汝ら七日の筵宴の内に之を解てあきらかに之を我に告なば我汝らに裏衣三十と衣三十襲をあたふべし 13然どもし之をわれに告得ずば汝ら我に裏衣三十と衣三十襲を與ふべしと彼等之にいひけるは汝の隱語をかけて我らに聽しめよ 14サムソン之にいひけるは食ふ者より食物出で強き者より甘き物出でたりと彼ら三日の中に之を解ことあたはざりしかば 15第七日にいたりてサムソンの妻にいひけるは汝の夫を説すすめて隱語を我らに明さしめよ然せずば火をもて汝と汝の父の家を焚ん汝らはわれらの物をとらんとてわれらを招けるなるか然るにあらずやと 16是においてサムソンの妻サムソンのまへに泣ていひけるは汝はわれを惡む而已われを愛せざるなり汝わが民の子孫に隱語をかけて之をわれに説あかさずとサムソン之にいふ我これをわが父や母にも説あかさざればいかで汝に説あかすべけんやと 17婦七日の筵宴のあひだ彼のまへに泣き居りしが第七日に至りてサムソンつひに之を彼に説あかせり其は太く強たればなり婦すなはち隱語をおのが民の子孫に明せり 18是において第七日に及びて日の沒るまへに邑の人々サムソンにいひけるは何ものか蜜よりあまからん何ものか獅子より強からんとサムソン之にいひけるは汝らわが牝犢をもて耕さざりしならばわが隱語を解得ざるなりと 19茲にヱホバの靈サムソンに臨みしかばサムソン、アシケロンに下りてかしこの者三十人を殺しその物を奪ひ彼の隱語を解し者等にその衣服を與へはげしく怒りて其父の家にかへり上れり 20サムソンの妻はサムソンの友となり居たるその伴侶の妻となりぬ

第十五章

1日を經てのち麥秋の時にサムソン山羊羔をたづさへて妻のもとを訪ていひけるは我室に入てわが妻に會んと然るに妻の父其の入ことをゆるさず 2其父すなはちいひけるはわれまことに汝は彼の婦を嫌ひたりと意ひしがゆゑに彼を汝の伴侶たりし者に與へたり彼が妹は彼よりも善にあらずやねがはくは彼に代て之を汝のものとせよ 3サムソン彼らにいひけるは今回はわれペリシテ人に害を加ふるとも彼らに對して罪なかるべしと 4サムソンすなはち往て山犬三百をとらへ火炬をとり尾と尾をあはせてその二つの尾の間に一つの火炬を結ひつけ 5火炬に火をつけてペリシテ人のいまだ刈ざる麥のなかにこれを放ち入れその束ね積たるものといまだ刈ざるものを焚き橄欖の園にまで及ぼせり 6ペリシテ人いひけるは是は誰の行爲なるやこたへて言ふテムナテ人の婿サムソンなりそは彼サムソンの妻をとりて其伴侶なりし者に與へたればなりとここにおいてペリシテ人上りきたりて彼の婦とその父とを火にて燒きうしなへり 7サムソンかれらに言ふ汝ら斯おこなへば我汝らに仇をむくはでは止じと 8すなはち脛

に腿に彼らを撃て大いに之を殺せりかくてサムソンは下りてエタムの巖間に居る 9ここにおいてペリシテ人上り來りてユダに陣を取りレヒに布き備へたれば 10ユダの人々いひけるは汝ら何の故にわれらに攻めのぼりたるやとかれらこたへけるはサムソンをしばりて彼がわれらに爲しごとくかれに爲んとてのぼれるなりと 11是をもてユダの人三千人エタムの巖間にくだりてサムソンにいふ汝ペリシテ人はわれらを轄るものなるを知らざるや汝などてかわれらに斯る事をなせしやサムソンかれらにいひけるは我は彼らが我に爲しごとく彼らに爲しなりと 12かれらまたサムソンにいひけるは我らは汝をしばりてペリシテ人の手にわたさんとて下りきたれりサムソンかれらにいひけるは汝らの自われを害すまじきことを我に誓へ 13彼ら之にかたりていふいなわれらはただ汝を縛りいましめてペリシテ人の手にわたさんのみわれらは必らず汝を殺さざるべしとすなはち二條の新しき索をもてかれをいましめて巖より之を携かへれり 14サムソン、レヒにいたれるときペリシテ人聲を揚てかれに近づきしが時しもヱホバの靈彼にのぞみたればその腕にかかれる索は火に焚たる麻のごとくになりて手のいましめ解はなれたり 15サムソンすなはち驢馬のあたらしき腮骨ひとつを見出し手をのべて之を取り其をもて一千人を殺し 16而して言ふ驢馬の腮骨をもて山をきづき山をつくる驢馬の腮骨をもて我一千人を撃殺せりと 17かく言終りてその手より腮骨をうちすて其處をラマテレヒと名けたり 18時に彼渇をおぼゆること甚だしかりしかばヱホバによばはりていふ汝のしもべの手をもて汝この大なる拯をほどこしたまへるにわれ今渇きて死に割禮を受けざるものの手におちいらんとすと 19ここにおいて神レヒに在るくぼめる所を裂きたまひしかば水そこより流れいでしがサムソン之を飲たれば精神舊に返りてふたたび爽になりぬ故に其名をエンハッコレ（呼はれるものの泉）と呼ぶ是今日にいたるまでレヒに在り 20サムソンはペリシテ人の治世の時に二十年イスラエルをさばけり

第十六章

1サムソン、ガザに往きかしこにて一人の妓を見てそれの處に入しに 2サムソンここに來れりとガザ人につぐるものありければすなはち之を取り圍みよもすがら邑の門に埋伏し詰朝におよび夜の明たる時に之をころすべしといひてよもすがら靜まりかへりて居る 3サムソン夜半までいね夜半にいたりて興き邑の門の扉とふたつの柱に手をかけて 楗 もろともに之をひきぬき肩に載てヘブロンの向ひなる山の 巓 に負のぼれり 4こののちサムソン、ソレクの谷に居る名はデリラと言ふ婦人を愛す 5ペリシテ人の群伯その婦のもとに上り來て之にいひけるは汝サムソンを説すすめてその大いなる力は何に在るかまたわれら如何にせば之に勝て之を縛りくるしむるを得べきかを見出せ然すればわれらおのおの銀千百枚づつをなんぢに與ふべし 6ここにおいてデリラ、サムソンにいひけるは汝 の大なる力は何にあるかまた如何せば汝を縛りて苦むることを得るや請ふ之をわれにつげよ 7サムソン之にいひけるは人もし乾きしことなき七條の新しき繩をもてわれを縛るときはわれ弱くなりて別の人のごとくならんと 8ここに於てペリシテ人の群伯乾きしことなき七條の 新しき繩を婦にもち來りければ婦 之を以てサムソンをしばりしが 9かねて室のうちに人しのび居て己とともにありたれば斯してサムソンにむかひサムソンよペリシテ人 汝に及ぶと言にサムソンすなはちその索を絶りあたかも麻絲の火にあひて斷るるがごとし斯其の力の原由知れざりき 10デリラ、サムソンにいひけるは視よ汝われを欺きてわれに 謊 を告たり請ふ何をもてせば汝を縛ることをうるや今我に告よ 11彼之にいひけるはもし人用ひたることなき新しき索をもてわれを縛りいましめなばわれ弱くなりて別の人のごとくならんと 12是をもてデリラあたらしき索をとり其をもて彼を縛りしかして彼にいふサムソンよペリシテ人 汝におよぶと時に室のうちに人しのび居たりしがサムソン絲の如くにその索を腕より絶おとせり 13デリラ、サムソンにいひけるに今までは汝われを欺きて我に 謊 をつげたるが何をもてせば汝をしばることをうるやわれに告よと彼之にいひけるは汝もしわが髪毛七縷を機の緯線とともに織ばすなはち可しと 14婦すなはち釘をもて之をとめおきて彼にいひけるはサムソンよペリシテ人 汝におよぶとサムソンすなはちその寢をさまし織機の釘と緯線とを曳拔り 15婦ここにおいてサムソンにいひけるは汝の心われに居ざるに汝いかでわれを愛すといふや汝すでに三次われをあざむきて汝が大なる力の何にあるかをわれに告ずと 16日々にその言をもて之にせまりうながして彼の心を死るばかりに苦ませたれば 17彼つひにその心をことごとく打明して之にいひけるはわが頭には

いまだかつて剃刀を當しことあらずそはわれ母の胎を出るよりして神のナザレ人たればなりもしわれ髪をそりおとされなばわが力われをはなれわれは弱くなりて別の人のごとくならんと 18デリラ、サムソンがことごとく其のこころを明したるを見人をつかはしてペリシテ人の群伯を召ていひけるはサムソンことごとくその心をわれに明したれば今ひとたび上り來るべしとここにおいてペリシテ人の群伯かの銀を携へて婦のもとにいたる 19婦おのが膝のうへにサムソンをねむらせ人をよびてその頭髪七綟をきりおとさしめ之を苦めはじめたるにその力すでにうせさりてあり 20婦ここにおいてサムソンよペリシテ人汝におよぶといひければ彼睡眠をさましていひけるはわれ毎のごとく出て身を振はさんと彼はヱホバのおのれをはなれたまひしを覺らざりき 21ペリシテ人すなはち彼を執へ眼を抉りて之をガザにひき下り銅の鏈をもて之を繋げりかくてサムソンは囚獄のうちに磨を挽居たりしが 22その髪の毛剃りおとされてのち復長はじめたり 23茲にペリシテ人の群伯共にあつまりてその神ダゴンに大なる祭物をささげて祝をなさんとしすなはち言ふわれらの神はわれらの敵サムソンをわれらの手に付したりと 24民サムソンを見ておのれの神をほめたたへて言ふわれらの神はわれらの敵たる者われらの地を荒せしものわれらを數多殺せしものをわれらの手に付したりと 25その心に喜びていひけるはサムソンを召てわれらのために戯技をなさしめよとて囚獄よりサムソンを召いだせしかばサムソン之がために戯技をなせり彼等サムソンを柱の間に立しめしに 26サムソンおのが手をひきをる少者にいひけるはわれをはなして此家の倚て立ところの柱をさぐりて之に倚しめよと 27その家には男 女 充ちペリシテ人の群伯もまたみな其處に居る又屋蓋のうへには三千ばかりの男女をりてサムソンの戯技をなすを觀てありき 28時にサムソン、ヱホバに呼はりいひけるはああ主ヱホバよねがはくは我を記念えたまへ嗚呼神よ願くは唯今一度われを強くしてわがふたつの眼のひとつのためにだにもペリシテ人に仇をむくいしめたまへと 29サムソンすなはちその家の倚てたつところの兩箇の中柱のひとつを右の手ひとつを左の手にかかへて身をこれによせたりしが 30サムソン我はペリシテ人とともに死なんといひて力をきはめて身をかがめたれば家はそのなかに居る群伯とすべての民のうへに倒れたりかくサムソンが死るときに殺せしものは生けるときに殺せし者よりもおほかりき 31こののちサムソンの兄弟およびその父の家族ことごとく下りて之を取り携へのぼりてゾラとエシタオルのあひだなる其の父マノアの墓にはうむれりサムソンがイスラエルをさばきしは二十年なりき

第十七章

1ここにエフライムの山の人にて名をミカとよべるものありしが 2その母に言けるは汝かつてその千百枚の銀を取れしことを吾が聞ところにて詛ひて語りしが視よその銀はわが手に在り我之を取るなりと母すなはちわが子よねがはくはヱホバ汝に祝福をたまへと言り 3彼千百枚の銀をその母にかへせしかば母いひけらくわれわが子のためにひとつの像を雕みひとつの像を鑄んためにその銀をわが手よりヱホバに納む然ばわれ今之を汝にかへすべしと 4ミカその銀を母にかへせしかば母その銀二百枚をとりて之を鑄物師にあたへてひとつの像をきざませひとつの像を鑄させたり其像はミカの家に在り 5このミカといふ人神の殿をもちをりエポデおよびテラピムを造りひとりの子を立ておのが祭司となせり 6此ときにはイスラエルに王なかりければ人々おのれの目に是とみゆることをおこなへり 7ここにひとりの少者ありてベテレヘムユダに於てユダの族の中にをる彼はレビ人にしてかしこに寓居るなり 8この人居べきところをたづねてその邑ベテレヘムユダを去しが遂に旅してエフライムの山にゆきてミカの家にいたりしに 9ミカ之にいひけるは汝いづこより來れるやと彼之にいふ我はベテレヘムユダのレビ人なるが居べきところをたづねに往くものなり 10ミカ之に言けるは汝われと偕に居りわがために父とも祭司ともなれよ然ばわれ年に銀十枚および衣服食物を汝にあたへんとレビ人すなはち入しが 11レビ人つひにその人と偕に居んことを肯ふ是においてその少者はかれの子の一人のごとくなりぬ 12ミカ、レビ人なるこの少者をたてて祭司となしたればすなはちミカの家に居る 13ミカここにおいて言ふ今われ知るヱホバわれに恩惠をたまはんそはこのレビ人われの祭司となればなり

第十八章

1當時イスラエルには王なかりしがダン人の支派其頃住むべき地を求めたり是は彼らイスラエルの支派の中にありて其日まで未だ產業の地を得ざりしが故なり 2ダンの

子孫すなはちゾラとエシタオルよりして自己の族の勇者五人を遣はしその境を出て土地を窺ひ探らしむ即ち彼等に言ふ往て土地を探れと彼等エフライムの山にいたりミカの家につきて其處に宿れり 3かれらミカの家の傍にある時レビ人なる少者の聲を聞認たれば身をめぐらして其處にいりて之に言ふ誰が汝を此に携きたりしや汝此處にて何をなすや此に何の用あるや 4其人かれらに言けるはミカ斯々我を待ひ我を雇ひて我その祭司となれりと 5彼等これに言ふ請ふ神に問ひ我等が往ところの途に利達あるや否を我等にしらしめよ 6その祭司かれらに言けるは安んじて往よ汝らが往ところの途はヱホバの前にあるなりと 7是に於て五人の者往てライシに至り其處に住る人民を視るに顧慮なく住ひをり其安穩にして安固なることシドン人のごとし此國には政權を握りて人を煩はす者絶てあらず其シドン人と隔たること遠くまた他の人民と交ることなし 8斯て彼等ゾラとエシタオルに返りてその兄弟等にいたるに兄弟等如何なりしやと彼等に問ければ 9答て言ふ起よ彼等の所に攻のぼらん我等その地を見るに甚だ善し汝等は安んじをるなり進みいたりてその地を取ることを怠るなかれ 10汝等往ば安固なる人民の所に至らんその地は堅横ともに廣し神これを汝らの手に與へたまふなり此處には世にある物一箇も缺ることあらず 11是に於てダン人の族の者六百人武器を帶てゾラとエシタオルより出ゆき 12上りてユダのキリヤテヤリムに陣を張り是をもてその處をマハネダンと名けしがその名今日に存る是はキリヤテヤリムの後にあり 13彼等其處よりエフライム山に進みミカの家に至りけるに 14夫のライシの國を窺ひに往たりし五人の者その兄弟等に告て言けるは是等の家にはエポデ、テラピムおよび雕める像と鑄たる像あるを汝等知や然ば汝ら今その爲べきことを考へよと 15乃ち其方に身をめぐらして夫のレビ人の少者の家なるミカの家に至りてその安否を問けるが 16武器を帶たる六百人のダンの子孫は門の入口に立り 17夫の土地を窺ひに往たりし五人の者上りて其處にいりその雕める像とエポデとテラピムおよび鑄たる像を取けるが祭司は武器を帶たる六百人の者とともに門の入口に立ゐたり 18此人々ミカの家にいりて其雕める像とエポデとテラピムと鑄たる像とを取しかば祭司かれらに汝ら何をなすやと言ふに 19彼等これに言けるは汝默せよ汝手を口にあてて我らとともに來り我らの父とも祭司ともなれよかし一人の家の祭司たるとイスラエルの一の支派一の族の祭司たるとは何か好や 20祭司すなはち心に悅びてエポデとテラピムと雕める像とを取て民の中に入る 21斯てかれら身をめぐらしその子女と家畜と財寶を前にたてて進みしが 22ミカの家を遙かに離れし時ミカの家に近きところの家の人々呼はり集てダンの子孫に追ひつき 23ダンの子孫を呼たれば彼等回顧てミカに言ふ汝何事ありて集りしや 24かれら言けるは汝らはわが造れる神々および祭司を奪ひさりたれば我尚何かあらん然るに汝等何ぞ我にむかひて何事ぞやと言や 25ダンの子孫かれに言けるは汝の聲を我らの中に聞えしむるなかれ恐くは心の荒き人々汝に擊かかるありて汝おのれの生命と家族の生命とを失ふにいたらんと 26而してダンの子孫進みゆきけるがミカは彼らが己よりも強きを見て身をめぐらして家に返れり 27彼等ミカが造りし者とその有し祭司をとりてライシにおもむき平穩にして安樂なる民の所にいたり刃をもて之を擊ち火をもてその邑を燬たりしが 28其シドンと隔たること遠きが上に他の人民と交際ざりしによりて之を救ふ者なかりきその邑はベテレホブの邊の谷にあり彼ら邑を建なほして其處に住み 29イスラエルの生たるその先祖ダンの名にしたがひて其邑の名をダンと名けたりその邑の名は本はライシなりき 30斯てダンの子孫その雕める像を安置りモーセの子なるゲルシヨムの子ヨナタンとその子孫ダンの支派の祭司となりて國の奪はるる時にまでおよべり 31神の家のシロにありし間恒に彼等はミカが造りしかの雕める像を安置おきぬ

第十九章

1其頃イスラエルに王なかりし時にあたりてエフライムの山の奥に一人のレビ人寄寓をりベテレヘムユダより一人の婦人をとりて妾となしたるに 2その妾彼に背きて姦淫を爲し去てベテレヘムユダなるその父の家にかへり其所に四月といふ日をおくれり 3是に於てその夫彼をなだめて携かへらんとてその僕と二頭の驢馬をしたがへ起てかれの後をしたひゆきければその父の家に之を導きいたりしに女の父これを見て之に遇ことを悅こべり 4而してその女の父なる外舅彼をひきとめたれば則ち三日これと共に居り皆食飮して其所に宿りしが 5四日におよびて朝早く起あがり彼たちて去んとしければ女の父その婿に言ふ少許の食物をもて汝の心を強くして然る後に去れよと 6

二人すなはち坐りて共に食飲しけるが女の父その人にいひけるは請ふ幸に今一夜を明し汝の心を樂ましめよと 7 其人起て去んとしけるに外舅これを強たれば遂に復其所に宿り 8 五日におよびて朝はやく起いでて去んとしたるに女の父これに言けるは請ふ汝の心を強くせよと是をもて日の昃るまでとどまりて共に食をなしけるが 9 其人つひに妾および僕とともに去んとて起あがりければ女の父彼に言ふ視よ今は日暮なんとす請ふ今一夜を明されよ視よ日昃たり汝此にやどりて汝の心をたのしませ明日蚤く起て出たち汝の家にいたれよと 10 然るに其人止宿ることを肯はずして起て去りヱブスの對面に至れり是はエルサレムなり鞍おける二の驢馬彼とともにあり妾も彼とともなりき 11 彼らヱブスの近傍にをる時日はや沒んとしければ僕その主人にいひけるは請ふ來れ我等身をめぐらしてヱブス人の此邑にいりて其所に宿らんと 12 その主人これに言けるは我等は彼所に身をめぐらしてイスラエルの子孫の邑ならざる外國の人の邑にいるべからずギベアに進みゆかんと 13 すなはちその僕にいひけるは來れ我らギベアかラマか是等の處の一に就て止宿んと 14 皆すすみ往きけるがベニヤミンのギベアの近邊にて日暮たれば 15 ギベアにゆきて宿らんとて其所に身をめぐらし入て邑の衢に坐しけるに誰も彼を家に接て宿らしむる者なかりき 16 時に一人の老人日暮に田野の働作をやめて歸りきたる此人はエフライム山の者にしてギベアに寄寓れるなり但し此處の人はベニヤミン人なり 17 彼目をあげて旅人の邑の衢にをるを見たり老人すなはちいひけるは汝は何所にゆくなるや何所より來れるやと 18 その人これにいひけるは我らはベテレヘムユダよりエフライム山の奥におもむく者なり我は彼所の者にて既にベテレヘムユダにゆき今ヱホバの室に詣らんとするなるが誰もわれを家に接ものあらず 19 然ど驢馬の藁も飼葮もあり又我と汝の婢および僕 等とともなる少者の用ふべき食物も酒も在て何も事缺るところなし 20 老人いひけるは願くは汝 安かれ汝が需むる者は我そなへん唯 衢に宿るなかれと 21 かれをその家に携れ驢馬に飼ふ彼らすなはち足をあらひて食飲せしが 22 その心を樂ませをる時にあたりて邑の人々の 邪 なる者その家をとりかこみ戸を打たたきて家の主人なる老人に言ふ汝の家にきたれる人をひき出せ我らこれを犯さんと 23 是に於て家の主人なる人かれらの所にいでゆきてこれに言けるは否わが兄 弟よ惡をなす勿れ此人すでにわが家にいりたればこの愚なる事をなすなかれ 24 我が處女なる女と此人の妾とあるにより我これを今つれいだすべければ汝らかれらを辱しめ汝等の好むところをこれに爲せ唯この人には斯る愚なる事を爲すなかれと 25 然るにその人々これを聽いれざるにより其人その妾をとりてこれを彼らの所にいだしやりければすなはちこれを犯して朝にいたるまで終夜これを辱しめ日のいづる頃にいたりて釋てり 26 是をもて婦 黎明にきたりてその夫のをる彼人の家の門に仆れ夜のあくるまで其處に臥をる 27 その主朝におよびておきいで家の戸をひらきて出去んとせしがその妾の婦の家の門にたふれをりて手を閾の上におくを見ければ 28 これにむかひ起よ我ら出往んと言たれども何の答もあらざりき是によりてその人これを驢馬にのせたちて己の所におもむきしが 29 家にいたるにおよびて刀をとり其妾を執へて骨ぐるみこれを十二分にたちわりて之をイスラエルの四方の境におくりければ 30 之を見る者皆いふイスラエルの子孫がエジプトの地より出のぼりし日より今日にいたるまで斯のごとき事は行はれしことなく見えしことなし思をめぐらし相議りて言ふことをせよ

第二十章

1 是に於てイスラエルの子孫ダンよりベエルシバにいたりギレアデの地にいたるまで皆出きたり其會衆一人のごとくにしてミヅパに於てヱホバの前に集り 2 衆民の長たる者すなはちイスラエルの諸の支派の長 等みづから神の民の集會に出づ劍をぬくところの歩兵四十萬人ありき 3 ベニヤミンの子孫はイスラエルの子孫がミヅパにのぼれることを聞り斯てイスラエルの子孫此惡事の様を語れと言ければ 4 彼殺されし婦の夫なるレビの人こたへていふわれわが妾とともにベニヤミンのギベアに宿らんとて往たるに 5 ギベアの人起りたちて我をせめ夜の間に我がをる家をとりかこみて我を殺さんと企て遂にわが妾を辱しめてこれを死しめたれば 6 我わが妾をとらへてこれをたちわり是をイスラエルの產業なる全地に遣れり是は彼らイスラエルにおいて淫事をなし愚なる事をなしたればなり 7 汝等は皆イスラエルの子孫なり今 汝らの意見と思考をのべよ 8 民みな一人のごとくに起ていひけるは我らは誰もおのれの天幕にゆかずまた誰もおのれの家におもむかじ 9 我らがギベアになさんところの事は是なりすなはち鬮にしたがひて之を攻ん 10 我らイスラエルの諸の支派の

中に於て百人より十人千人より百人萬人より千人を取りて民の糧 食を執せ之をしてベニヤミンのギベアにいたり彼らがイスラエルにおこなひたるその愚なる事にしたがひて事をなさしむべしと 11斯イスラエルの人々皆あつまりて此邑を攻んとせしが其相結べること一人のごとくなりき 12イスラエルの諸の支派遍く人をベニヤミンの支派の中に遣して言しめけるは汝らの中に此惡事のおこなはれしは何事ぞや 13然ばギベアにをるかの邪なる人々をわたせ我らこれを誅して惡をイスラエルに絶べしと然るにベニヤミンの子孫はその兄弟なるイスラエルの子孫の言を聽いれざりき 14却てベニヤミンの子孫は邑々よりギベアにあつまりて出てイスラエルの子孫と戰はんとす 15その時邑々より出たるベニヤミンの子孫を數ふるに劍をぬく所の人二萬六千あり外にまたギベアの居民ありて之をかぞふるに精兵七百人ありき 16この諸の民の中に左手利の精兵七百人あり皆能く投石器をもて石を投るに毫末もたがふことなし 17イスラエルの人を數ふるにベニヤミンを除きて劍をぬくところの者四十萬人ありき是みな軍人なり 18爰にイスラエルの子孫起あがりてベテルにのぼり神に問て我等の中孰か最初にのぼりてベニヤミンの子孫と戰ふべきやと言ふにヱホバ、ユダ最初にと言たまふ 19イスラエルの子孫すなはち朝おきてギベアにむかひて陣をとりけるが 20イスラエルの人々ベニヤミンと戰はんとて出でゆきイスラエルの人々行伍をたててギベアにて彼らと戰はんとしければ 21ベニヤミンの子孫ギベアより進みいで其日イスラエル人二萬二千を地に撃仆せり 22然るにイスラエルの民の人々みづから奮ひその初の日に行伍をたてし所にまた行伍をたてたり 23而してイスラエルの子孫上りゆきてヱホバの前に夕暮まで哭きヱホバに問て言ふ我復進みよりて吾兄弟なるベニヤミンの子孫とたたかふべきやとヱホバ彼に攻のぼれと言たまへり 24是に於てイスラエルの子孫次の日またベニヤミンの子孫の所に攻よするに 25ベニヤミンまた次の日ギベアより進みて之にいであい再びイスラエルの子孫一萬八千人を地に撃仆せり是みな劍をぬくところの者なりき 26斯在しかばイスラエルの子孫と民みな上りてベテルにいたりて哭き其處にてヱホバの前に坐りその日の夕暮まで食を斷ち燔祭と酬恩祭をヱホバの前に獻げ 27而してイスラエルの子孫ヱホバにとへり（その頃は神の契約の櫃彼處にありて 28アロンの子エレアザルの子なるピネハス當時これに事へたり）即ち言けるは我またも出てわが兄弟なるベニヤミンの子孫とたたかふべきや或は息べきやヱホバ言たまふ上れよ明日はわれ汝の手にかれらを付すべしと 29イスラエル是に於てギベアの周圍に伏兵を置き 30而してイスラエルの子孫三日目にまたベニヤミンの子孫の所に攻のぼり前のごとくにギベアにむかひて行伍をたてたれば 31ベニヤミンの子孫民に出あひしが遂に邑より誘出されたり彼等始は民を撃ち大路にて前のごとくイスラエルの人三十人許を殺せりその大路は一筋はベテルにいたり一筋は野のギベアに至る 32ベニヤミンの子孫すなはち言ふ彼らは初のごとく我らに撃破らると然るにイスラエルの人は云ふ我等逃て彼らを邑より大路に誘き出さんと 33イスラエルの人々みなその所を起て去りバアルタマルに行伍をたてたり而して伏兵その處より即ちギベアの野原より起れり 34イスラエルの全軍の中より選抜たる兵一萬來りてギベアを襲ひ其戰鬪はげしかりしがベニヤミン人は蓄害の己にのぞむを知ざりき 35ヱホバ、イスラエルのまへにベニヤミンを撃敗りたまひしかばイスラエルの子孫その日ベニヤミン人二萬五千一百人を殺せり是みな劍をぬくところの者なり 36ベニヤミンの子孫すなはち己の撃敗らるるを見たり偖イスラエルの人々そのギベアにむかひて設たる所の伏兵を恃てベニヤミン人を避て退きけるが 37伏兵急ぎてギベアに突いり伏兵進みて刃をもて邑を盡く撃り 38イスラエルの人々とその伏兵との間に定めたる合圖は邑より大なる黒烟をあげんとの事なりき 39イスラエルの人々戰陣より引き退ぞくベニヤミン初が程はイスラエルの人々を撃ちて三千人許を殺し乃ち言ふ彼等はまことに最初の戰のごとく我等に撃やぶらると 40然るに火焔烟の柱なして邑より上りはじめしかばベニヤミン人後を見かへりしに邑は皆烟となりて空にのぼる 41時にイスラエルの人々ふりかへりしかばベニヤミンの人々蓄害のおのれに迫るを見て狼狽へ 42イスラエルの人々の前より身をめぐらして野の途におもむきけるが戰鬪これに追せまりて遂にその邑々よりいでたる者どもその中に戰死す 43イスラエルの人すなはちベニヤミン人をとりまきて之を追うち容易くこれを踏たふして東の方ギベアの對面にまでおよべり 44ベニヤミンの仆るる者一萬八千人是みな勇士なり 45茲に彼等身をめぐらして野の方ににげリンモンの磐にいたれりイスラエルの人大路にて彼等五千人を伐とり尚もこれを追うちてギドム

にいたりその二千人を殺せり 46是をもて其日ベニヤミンの仆れし者は劍をぬくところの人あはせて二萬五千なりき是みな勇士なり 47但六百人の者身をめぐらして野の方にのがれリンモンの磐にいたりて四月があひだリンモンの磐にをる 48是に於てイスラエルの人々また身をかへしてベニヤミンの子孫をせめ刃をもて邑の人より畜にいたるまで凡て目にあたる者を撃ち亦その至るところの邑々に火をかけたり

第二十一章

1イスラエルの人々曾てミヅパにて誓ひ曰けるは我等の中一人もその女をベニヤミンの妻にあたふる者あるべからずと 2茲に民ベテルに至り彼處にて夕暮まで神の前に坐り聲を放ちて痛く哭き 3言けるはイスラエルの神ヱホバよなんぞイスラエルに斯ること起り今日イスラエルに一の支派の缺るにいたりしやと 4而して翌日民蚤に起て其處に壇を築き燔祭と酬恩祭をささげたり 5茲にイスラエルの子孫いひけるはイスラエルの支派の中に誰か會衆とともに上りてヱホバにいたらざる者あらんと其は彼らミヅパに來りてヱホバにいたらざる者の事につきて大なる誓をたてて其人をばかならず死しむべしと言たればなり 6イスラエルの子孫すなはち其兄弟ベニヤミンの事を憫然におもひて言ふ今日イスラエルに一の支派絶ゆ 7我等ヱホバをさして我らの女をかれらの妻にあたへじと誓ひたれば彼の遺る者等に妻をめとらしめんには如何にすべきや 8又言ふイスラエルの支派の中孰の者かミヅパにのぼりてヱホバにいたらざると而して視るにヤベシギレアデよりは一人も陣營にきたり集會に臨める者なし 9即ち民をかぞふるにヤベシギレアデの居民は一人も其處にをらざりき 10是に於て會衆勇士一萬二千を彼處に遣し之に命じて言ふ往て刃をもてヤベシギレアデの居民を撃て婦女兒女をも餘すなかれ 11汝ら斯おこなふべし即ち汝等男人および男と寢たる婦人をば悉く滅し盡すべし 12彼等ヤベシギレアデの居民の中にて四百人の若き處女を獲たり是は未だ男と寢て男しりしことあらざる者なり 13彼らすなはち之をシロの陣營に曳きたる是はカナンの地にあり 13斯て全會衆人をやりてリンモンの磐にをるベニヤミン人と語はしめ和睦をこれに宣しめたれば 14ベニヤミンすなはち其時に歸りきたれり是において彼らヤベシギレアデの婦人の中より生しおきたるところの女子を之にあたへけるが尚足ざりき 15ヱホバ、イスラエルの支派の中に缺を生ぜしめたまひしに因て民ベニヤミンの事を憫然におもへり 16會衆の長老等いひけるはベニヤミンの婦女絶たれば彼の遺れる者等に妻をめとらせんには如何すべきや 17又言けるはベニヤミンの中の逃れたる者等に產業あらしめん然らばイスラエルに一の支派の消ることなかるべし 18然ながら我等は我等の女子を彼らの妻にあたふべからず其はイスラエルの子孫誓をなしベニヤミンに妻を與ふる者は詛はれんと言たればなりと 19而して言ふ歲々シロにヱホバの祭ありと其處はベテルの北にあたりてベテルよりシケムにのぼるところの大路の東レバナの南にあり 20是に於てかれらベニヤミンの子孫に命じて言ふ汝らゆきて葡萄園に伏して窺ひ 21若シロの女等舞をどらんと出きたらば葡萄園より出でシロの女の中より各人妻を執てベニヤミンの地に往け 22若その父あるひは兄弟來りて我らに愬へなば我らこれに言ふべし請ふ幸に彼らを我らに取せよ我等戰爭の時に皆ことごとくその妻をとりしにあらざればなり汝等今かれらに與へしにあらざれば汝等は罪なしと 23ベニヤミンの子孫すなはちかく行なひその踊れる者等を執へてその中より己の數にしたがひて妻を取り往てその地にかへり邑々を建なほして其處に住り 24斯てイスラエルの子孫その時に其處を去て各人その支派に往きその族にいたれり即ち其處より出て各人その地にいたりぬ 25當時はイスラエルに王なかりしかば各人その目に善と見るところを爲り

ルツ記

第一章

1士師の世をさむる時にあたりて國に饑饉ありければ一箇の人その妻と二人の男子をひきつれてベテレヘムユダを去りモアブの地にゆきて寄寓る 2その人の名はエリメレクその妻の名はナオミその二人の男子の名はマロンおよびキリオンといふベテレヘムユダのエフラテ人なり 彼等モアブの地にいたりて其處にをりしが 3ナオミの夫エリメレク死てナオミとその二人の男子のこさる 4

彼等おのおのモアブの婦人を妻にめとる その一人の名はオルパといひ一人の名はルツといふ彼處にすむこと十年許にして 5マロンとキリオンの二人もまた死り斯ナオミは二人の男子と夫に後れしが 6モアブの地にて彼ヱホバその民を眷みて食物を之にたまふと聞ければその媳とともに起ちてモアブの地より歸らんとし 7その在ところを出たりその二人の媳これとともにあり 彼等ユダの地にかへらんと途にすすむ 8爰にナオミその二人の媳にいひけるは汝らはゆきておのおの母の家にかへれ 汝らがかの死たる者と我とを善く待ひしごとくにねがはくはヱホバまたなんぢらを善くあつかひたまへ 9ねがはくはヱホバなんぢらをして各々その夫の家にて安身處をえせしめたまへと 乃ちかれらに接吻しければ彼等聲をあげて哭き 10之にいひけるは我ら汝とともに汝の民にかへらんと 11ナオミいひけるは女子よ返れ 汝らなんぞ我と共にゆくべけんや 汝らの夫となるべき子猶わが胎にあらんや 12女子よかへりゆけ 我は老たれば夫をもつをえざるなり 假設われ指望ありといふとも今夜 夫を有つとも而してまた子を生むとも 13汝等これがために其子の生 長までまちをるべけんや 之がために夫をもたずしてひきこもりをるべけんや 女子よ然すべきにあらず 我はヱホバの手ののぞみてわれを攻しことを汝らのために痛くうれふるなり 14彼等また聲をあげて哭く 而してオルパはその姑に接吻せしがルツは之を離れず 15是によりてナオミまたいひけるは視よ汝の妯娌はその民とその神にかへり往く 汝も妯娌にしたがひてかへるべし 16ルツいひけるは汝を棄て汝をはなれて歸ることを我に催すなかれ我は汝のゆくところに往き汝の宿るところにやどらん 汝の民はわが民 汝の神はわが神なり 17汝の死るところに我は死て其處に葬らるべし 若死別にあらずして我なんぢとわかれなばヱホバわれにかくなし又かさねてかくなしたまへ 18彼 媳が固く心をさだめて己とともに來らんとするを見しかば之に言 ふことを止たり 19かくて彼等二人ゆきて終にベテレヘムにいたりしがベテレヘムにいたれる時 邑こぞりて之がためにさわぎたち婦女等是はナオミなるやといふ 20ナオミかれらにいひけるは我をナオミ(樂し)と呼なかれ マラ(苦し)とよぶべし 全能者痛く我を苦め給ひたればなり 21我盈足て出たるにヱホバ我をして空くなりて歸らしめたまふ ヱホバ我を攻め全能者われをなやましたまふに汝等なんぞ我をナオミと呼や 22斯ナオミそのモアブの地より歸れる 媳モアブの女ルツとともに歸り來れり 即ち彼ら大麥刈の初にベテレヘムにいたる

第二章

1ナオミにその夫の知己あり 即ちエリメレクの族にして大なる力の人なり その名をボアズといふ 2茲にモアブの女ルツ、ナオミにいひけるは請ふわれをして田にゆかしめよ 我何人かの目のまへに恩をうることあらばその人の後にしたがひて穗を拾はんと ナオミ彼に女子よ往べしといひければ 3乃ち往き遂に至りて刈者の後にしたがひ田にて穗を拾ふ 彼意はずもエリメレクの族なるボアズの田の中にいたれり 4時にボアズ、ベテレヘムより來り その刈者等刈者等に言ふ ねがはくはヱホバ汝等とともに在せと 彼等すなはち答てねがはくはヱホバ汝を祝たまへといふ 5ボアズその刈者を督る僕にいひけるは此は誰の女なるや 6刈者を督る人こたへて言ふ是はモアブの女にしてモアブの地よりナオミとともに還りし者なるが 7いふ請ふ我をして刈者の後にしたがひて禾束の間に穗をひろひあつめしめよと 而して來りて朝より今にいたるまで此にあり 其家にやすみし間は暫時のみ 8ボアズ、ルツにいひけるは女子よ聽け 他の田に穗をひろひにゆくなかれ又此よりいづるなかれわが婢等に離ずして此にをるべし 9人々の刈ところの田に目をとめてその後にしたがひゆけ 我少者等に汝にさはるなかれと命ぜしにあらずや 汝渇く時は器の所にゆきて少者の汲るを飲めと 10彼すなはち伏て地に拜し之にいひけるは我如何して汝の目の前に恩惠を得たるか なんぢ異邦人なる我を顧みると 11ボアズこたへて彼にいひけるは汝が夫の死たるより已來 姑に盡したる事 汝がその父母および生れたる國を離れて見ず識ずの民に來りし事皆われに聞えたり 12ねがはくはヱホバ汝の行爲に報いたまへ ねがはくはイスラエルの神ヱホバ即ち汝がその翼の下に身を寄んとて來れる者 汝に十分の報施をたまはんことを 13彼いひけるは主よ我をして 汝の目の前に恩をえせしめたまへ 我は汝の仕女の一人にも及ざるに汝かく我を慰め斯仕女に懇切に語りたまふ 14ボアズかれにいひけるは食事の時は此にきたりてこのパンを食ひ且 汝の食物をこの醋に濡せよと 彼すなはち刈者の傍に坐しければボアズ烘麥をかれに與ふ 彼くらひて飽き其餘を懷む 15かくて彼また穗をひろはんとて起あがりければボアズその少者に命じていふ 彼をして禾束の

間にても穂をひろはしめよ かれを羞しむるなかれ 16且手の穂を故に彼がために抽落しおきて彼に拾はしめよ叱るなかれ 17彼かく薄暮まで田に穂をひろひてその拾ひし者を撲しに大麥一斗 許ありき 18彼すなはち之を携へて邑にいり 姑 にその拾ひし者を看せ且その飽たる後に懐めおきたる者を取出して之にあたふ 19姑 かれにいひけるは汝 今日何處にて穂をひろひしや 何の處にて工作しや 願くは汝を眷顧たる者に福祉あれ 彼すなはち 姑 にその誰の所に工作しかを告ていふ 今日われに工作をなさしめたる人の名はボアズといふ 20ナオミ 媳にいひけるは願 はヱホバの恩かれに至れ 彼は生る者と死る者とを棄ずして恩をほどこす ナオミまた彼にいひけるは其人は我等に縁ある者にして我等の贖業者の一人なり 21モアブの女ルツいひけるは彼また我にかたりて汝わが穫刈の盡 く終るまでわが少者の 傍 をはなるるなかれといへりと 22ナオミその媳ルツにいひけるは女子よ汝かれの婢 等とともに出るは善し 然れば他の田にて人に見らるることを免かれん 23是によりて彼ボアズの婢 等の 傍 を離れずして穂をひろひ大麥刈と小麥刈の終にまでおよぶ 彼その 姑 とともにをる

第三章

1爰に 姑 ナオミ彼にいひけるは女子よ我 汝の安身所を求めて汝を 幸 ならしむべきにあらずや 2夫 汝が偕にありし婢 等を有る彼ボアズは我等の知己なるにあらずや 視よ彼は今夜 禾場にて大麥を簸る 3然ば汝の身を洗て膏をぬり衣服をまとひて禾場に下り汝をその人にしらせずしてその食飲を終るを待て 4而て彼が臥す時に汝その臥す所 を見とめおき入てその脚を掀開りて其處に臥せよ 彼なんぢの爲べきことを汝につげんと 5ルツ 姑 にいひけるは汝が我に言ところは我皆なすべしと 6すなはち禾場に下り凡てその 姑 の命ぜしごとくなせり 7偖ボアズは食飲をなしてその心をたのしませ往て麥を積る所の 傍 に臥す 是に於て彼 潜にゆきその足を掀開て其處に臥す 8夜半におよびて其人畏懼をおこし起かへりて見るに一人の 婦その足の方に臥ゐたれば 9汝は誰なるやといふに婦こたへて我は汝の婢ルツなり 汝の裾をもて婢を覆ひたまへ汝 は贖業者なればなり 10ボアズいひけるは女子よねがはくはヱホバの恩典なんぢにいたれ 汝の後の誠實は前のよりも勝る 其は汝 貧きと富とを論ず少き人に従ふことをせざればなり 11されば女子よ懼るなかれ 汝が言ふところの事は皆われ汝のためになすべし 其はわが邑の人皆なんぢの賢き女なるをしればなり 12我はまことに贖業者なりと雖も我よりも近き贖業者あり 13今夜は此に住宿れ 朝におよびて彼もし汝のために贖ふならば善し彼に贖はしめよ 然ど彼もし汝のために贖ふことを好まずばヱホバは活く我 汝のために贖はん 朝まで此に臥せよと 14ルツ朝までその足の方に臥て誰彼の辨がたき頃に起あがる ボアズ此 女の禾場に來りしことを人にしらしむべからずといへり 15而していひけるは汝の著る裆衣を將きたりて其を開げよと 即ち開げければ大麥六升を量りて之に負せたり斯して彼邑にいたりぬ 16爰にルツその 姑 の許に至るに 姑 いふ 女子よ如何ありしやと 彼すなはち其人の己になしたる事をことごとく之につげて 17而していひけるは彼空手にて汝の 姑 の許に往くなかれといひて此六升の大麥を我にあたへたり 18姑 いひけるは女子よ坐して待ち事の如何になりゆくかを見よ 彼人今日その事を爲終ずば安んぜざるべければなり

第四章

1爰にボアズ門の所にのぼり往て其處に坐しけるに前にボアズの言たる贖業者過りければ之に言ふ 某 よ來りて此に坐せよと 即ち來りて坐す 2ボアズまた邑の長老十人を招き汝等此に坐せよといひければ則ち坐す 3時に彼その贖業人にいひけるはモアブの地より還りしナオミ我等の兄 弟エリメレクの地を賣る 4我 汝につげしらせて此に坐する人々の前わが民の長老の前にて之を買へと言んと想へり 汝もし之を贖はんと思はば贖ふべし 然どもし之を贖 はずば吾に告てしらしめよ 汝の外に贖ふ者なければなり 我はなんぢの次なりと彼我これを贖はんといひければ 5ボアズいふ 汝ナオミの手よりその地を買ふ日には死る者の妻なりし モアブの女ルツをも買て死る者の名をその産業に存すべきなり 6贖業人いひけるは我はみづから贖 ふあたはず 恐くはわが産業を壞はん 汝みづから我にかはりてあがなへ 我あがなふことあたはざればなりと 7昔 イスラエルにて物を贖ひ或は交易んとする事につきて萬事を定めたる慣例は斯のごとし 即ち此人鞋を脱て彼人にわたせり 是イスラエルの中の證なりき 8是によりてその贖業人ボアズにむかひ汝みづから買ふべしといひて其鞋を脱たり 9ボアズ長老および諸の民にいひけるは汝等

今日見證をなす我エリメレクの凡の所有およびキリオンとマロンの凡の所有をナオミの手より買たり 10我またマロンの妻なりしモアブの女ルツを買て妻となし彼死る者の名をその産業に存すべし 是かの死る者の名を其兄弟の中とその處の門に絶ざらしめんためなり 汝等今日 證をなす 11門にをる人々および長老等いひけるはわれら證をなす 願くはヱホバ汝の家にいるところの婦人をして彼イスラエルの家を造りなしたるラケルとレアの二人のごとくならしめたまはんことを 願くは汝エフラタにて能を得べテレヘムにて名をあげよ 12ねがはくはヱホバが此若き婦よりして汝にたまはんところの子に由て汝の家かのタマルがユダに生たるペレズの家のごとくなるにいたれ 13斯てボアズ、ルツを娶りて妻となし彼の所にいりければヱホバ彼を孕ましめたまひて彼男子を生り 14婦女等ナオミにいひけるはヱホバは讃べきかな 汝を遺ずして今日汝 に贖業人あらしめたまふ その名イスラエルに揚れ 15彼は汝の心をなぐさむる者 汝の老を養ふ者とならん 汝を愛する汝の媳 即ち七人の子よりも汝に善もの之をうみたり 16ナオミその子をとりて之を 懐 に置き之が養育者となる 17その隣 人なる婦女等これに名をつけて云ふ ナオミに男子うまれたりと その名をオベデと稱り 彼はダビデの父なるヱサイの父なり 18偖ペレヅの系圖は左のごとし ペレヅ、ヘヅロンを生み 19ヘヅロン、ラムを生み ラム、アミナダブを生み 20アミナダブ、ナシヨンを生み ナシヨン、サルモンを生み 21サルモン、ボアズを生み ボアズ、オベデを生み 22オベデ、ヱサイを生み ヱサイ、ダビデを生り

サムエル前書

第一章

1エフライムの山地のラマタイムゾビムにエルカナと名くる人ありエフライテ人にしてエロハムの子なりエロハムはエリウの子エリウはトフの子トフはツフの子なり 2エルカナに二人の妻ありてひとりの名をハンナといひひとりの名をペニンナといふペニンナには子ありたれどもハンナには子あらざりき 3是人毎歳に其邑をいで上りてシロにおいて萬軍のヱホバを拝み之に祭物をささぐ其處にエリの二人の子ホフニとピネハスをりてヱホバに祭司たり 4エルカナ祭物をささぐる時其妻ペニンナと其すべての息子女子にわかちあたへしが 5ハンナには其倍をあたふ是はハンナを愛するが故なりされどヱホバ其孕みをとどめたまふ 6其敵もまた痛くこれをなやましてヱホバが其はらみをとどめしを怒らせんとす 7歳々ハンナ、ヱホバの家にのぼるごとにエルカナかくなせしかばペニンナかくのごとく之をなやます是故にハンナないてものくはざりき 8其夫エルカナ之にいひけるはハンナよ何故になくや何故にものくはざるや何故に心かなしむや我は汝のためには十人の子よりもまさるにあらずや 9かくてシロにて食飲せしのちハンナたちあがれり時に祭司エリ、ヱホバの宮の柱の傍にある壇に坐す 10ハンナ心にくるしみヱホバにいのりて甚く哭き 11誓をなしていひけるは萬軍のヱホバよ若し誠に婢の悩をかへりみ我を憶ひ婢を忘れずして婢に男子をあたへたまはば我これを一生のあひだヱホバにささげ剃髪刀を其首にあつまじ 12ハンナ、ヱホバのまへに長くいのりければエリ其口に目をとめたり 13ハンナ心の中にものいへば只唇うごくのみにて聲きこえず是故にエリこれを酔たる者と思ひ 14之にいひけるは何時まで酔ひをるか爾の酒をされよ 15ハンナこたへていひけるは主よ然るにあらず我は氣のわづらふ婦人にして葡萄酒をも濃き酒をものまず惟わが心をヱホバのまへに明せるなり 16婢を邪なる女となすなかれ我はわが憂と悲みの多きよりして今までかたれり 17エリ答へていひけるは安んじて去れ願くはイスラエルの神汝の求むる願ひを許したまはんことを 18ハンナいひけるはねがはくは仕女の汝のまへに恩をえんことをと斯てこの婦さりて食ひ其顔ふたたび哀しげならざりき 19是に於て彼等朝はやくおきてヱホバの前に拝をしかへりてラマの家にいたる而してエルカナ其つまハンナとまじはるヱホバ之をかへりみたまふ 20ハンナ孕みてのち月みちて男子をうみ我これをヱホバに求めし故なりとて其名をサムエル(ヱホバに聴る)となづく 21爰に其人エルカナ及び其家族みな上りて年々の祭物及び其誓ひし物をささぐ 22然どもハンナは上らず其夫にいひけるは我はこの子の乳ばなれするに及びてのち之をたづさへゆきヱホバのまへにあらはれしめ恒にかしこに居らしめん 23其夫エルカナ之にいひけるは汝の善と思ふところを爲し此子を乳ばなすまでとどまるべし只ヱホバの其言を確實ならしめ賜んことをねがふと斯くこの婦止まりて其子に乳をのませ其ちばなれするをまちしが 24乳ばなせしとき牛三頭粉一斗酒一嚢を取り其子をたづさへてシロにあるヱホバの家にいたる其子なほ幼稚し 25是に於て牛をころしその子をエリの許に携へゆきぬ 26ハンナいひけるは主よ汝のたましひは活くわれはかつてここにてなんぢの傍にたちヱホバにいのりし婦なり 27われ此子のためにいのりしにヱホバわが求めしものをあたへたまへり 28此故にわれまたこれをヱホバにささげん其一生のあひだ之をヱホバにささぐ斯てかしこにてヱホバををがめり

第二章

1ハンナ祷りて言けるは我心はヱホバによりて喜び我角はヱホバによりて高し我口はわが敵の上にはりひらく是は我汝の救拯によりて樂むが故なり 2ヱホバのごとく聖き者はあらず其は汝の外に有る者なければなり又われらの神のごとき磐はあることなし 3汝等重ねて甚く誇りて語るなかれ汝等の口より漫言を出すなかれヱホバは全知の神にして行爲を裁度りたまふなり 4勇者の弓は折れ倒るる者は勢力を帯ぶ 5飽足る者は食のために身を傭はせ饑たる者は憩へり石女は七人を生み多くの子を有る者は衰ふるにいたる 6ヱホバは殺し又生したまひ陰府に下し又上らしめたまふ 7ヱホバは貧からしめ又富しめたまひ卑くしまた高くしたまふ 8荏弱者を塵の中より擧げ窮乏者を埃の中より升せて王公の中に坐せしめ榮光の位をつ

がしめ給ふ地の柱はヱホバの所屬なりヱホバ其上に世界を置きたまへり 9ヱホバ其聖徒の足を守りたまはん惡き者は黑暗にありて默すべし其は人力をもて勝つべからざればなり 10ヱホバと爭ふ者は破碎かれんヱホバ天より雷 を彼等の上にくだしヱホバは地の極を審き其王に力を與へ其膏そそぎし者の角を高くし給はん 11エルカナ、ラマに往て其家にいたりしが稚子は祭司エリのまへにありてヱホバにつかふ 12さてエリの子は邪なる者にしてヱホバをしらざりき 13祭司の民に於る習慣は斯のごとし人祭物をささぐる時肉を烹るあひだに祭司の僕三の歯ある肉叉を手にとりて來り 14之を釜あるひは鍋あるひは鼎 又は炮烙に突きいれ肉叉の引きあぐるところの肉は祭司みなこれを己にとる是くシロに於て凡てそこに來るイスラエル人になせり 15脂をやく前にも亦祭司のしもべ來り祭物をささぐる人にいふ祭司のために燒くべき肉をあたへよ祭司は汝より烹たる肉を受けず生腥の肉をこのむと 16もし其人これにむかひ直ちに脂をやくべければ後心のこのむままに取れといはば僕之にいふ否今あたへよ然らずば我強て取んと 17故に其壯者の罪ヱホバのまへに甚だ大なりそは人々ヱホバに祭物をささぐることをいとひたればなり 18サムエルなほ幼して布のエポデを著てヱホバのまへにつかふ 19また其母これがために小き明衣をつくり歲毎にその夫とともに年の祭物をささげにのぼる時これをもちきたる 20エリ、エルカナとその妻を祝していひけるは汝がヱホバにささげたる者のためにヱホバ此婦よりして子を汝にあたへたまはんことをねがふと斯てかれら其鄉にかへる 21しかしてヱホバ、ハンナをかへりみたまひければハンナ孕みて三人の男子と二人の女子をうめり童子サムエルはヱホバのまへにありて生育てり 22ここにエリ甚だ老て其子等がイスラエルの人々になせし諸の事を聞きまた其集會の幕屋の門にいづる婦人たちと寢たるを聞て 23これにいひけるは何ぞ斯る事をなすや我このすべての民より汝らのあしき行をきく 24わが子よ然すべからず我きくところの風聞よからず爾らヱホバの民をしてあやまたしむ 25人もし人にむかひて罪ををかさば神之をさばかんされど人もしヱホバに向ひて罪ををかさば誰かこれがためにとりなしをなさんやとしかれども其子父のことばを聽ざりきそはヱホバかれらを殺さんと思ひたまへばなり 26童子サムエル生長ゆきてヱホバと人とに愛せらる 27茲に神の人エリの許に來りこれにいひけるはヱホバ斯くいひたまふ爾の父祖の家エジプトにおいてパロの家にありしとき我明かに之にあらはれしにあらずや 28我これをイスラエルの諸の支派のうちより選みてわが祭司となしわが壇の上に祭物をささげ香をたかしめ我前にエポデを衣しめまたイスラエルの人の火祭を悉く汝の父の家にあたへたり 29なんぞわが命ぜし犧牲と禮物を汝の家にてふみつくるや何ぞ我よりもなんぢの子をたふとみわが民イスラエルの諸の祭物の最も嘉きところをもて己を肥すや 30是ゆゑにイスラエルの神ヱホバいひたまはく我誠に曾ていへり汝の家および汝の父祖の家永くわがまへにあゆまんと然ども今ヱホバいひたまふ決めてしからず我をたふとむ者は我もこれをたふとむ我を賤しむる者はかろんぜらるべし 31視よ時いたらん我汝の腕と汝の父祖の家の腕を絶ち汝の家に老たるもの无らしめん 32我大にイスラエルを善すべけれど汝の家内には災見えん汝の家にはこののち永く老るものなかるべし 33またわが壇より絶ざる汝の族の者は汝の目をそこなひ汝の心をいたましめん又汝の家にうまれいづるものは壯年にして死なん 34汝のふたりの子ホフニとピネスの遇ところの事を其徵とせよ即ち二人ともに同じ日に死なん 35我はわがために忠信なる祭司をおこさん其人わが心とわが意にしたがひておこなはんわれその家をかたうせんかれわが膏そそぎし者のまへに恒にあゆむべし 36しかして汝の家にのこれる者は皆きたりてこれに屈み一厘の金と一片のパンを乞ひ且いはんねがはくは我を祭司の職の一に任じて些少のパンにても食ふことをえせしめよと

第三章

1童子サムエル、エリのまへにありてヱホバにつかふ當時はヱホバの言まれにして默示あること恒ならざりき 2偖エリ目漸くくもりて見ることをえず此時其室に寢たり 3神の燈なほきえずサムエル神の櫃あるヱホバの宮に寢ね 4時にヱホバ、サムエルをよびたまふ彼我此にありといひて 5エリの許に趨ゆきいひけるは汝われをよぶ我ここにありエリいひけるは我よばず反りて臥よと乃ちゆきていぬ 6ヱホバまたかさねてサムエルよとよびたまへばサムエルおきてエリのもとにいたりいひけるは汝われをよぶ我ここにありエリこたへけるは我よばずわが子よ反りていねよ 7サムエルいまだヱホバをしらずまたヱホバ

のことばいまだかれにあらはれず 8ヱホバ、三たびめに又サムエルをよびたまへばサムエルおきてエリの許にたりいひけるは汝われをよぶ我ここにありとエリ乃ちヱホバの童子をよびたまひしをさとる 9故にエリ、サムエルにいひけるはゆきて寝よ彼若し汝をよばば僕聽くヱホバ語りたまへといへとサムエルゆきて其室にいねしに 10ヱホバ來りて立ちまへの如くサムエル、サムエルとよびたまへばサムエル僕きく語りたまへといふ 11ヱホバ、サムエルにいひ賜けるは視よ我イスラエルのうちに一の事をなさんこれをきくものは皆其耳ふたつながら鳴ん 12其日にはわれ嘗てエリの家について言しことを始より終までことごとくエリになすべし 13われかつてエリに其惡事のために永くその家をさばかんとしめせりそは其子の詛ふべきことをなすをしりて之をとどめざればなり 14是故に我エリのいへに誓ひてエリの家の惡は犠牲あるひは禮物をもて永くあがなふ能はずといへり 15サムエル朝までいねてヱホバの家の戸を開きしが其異象をエリにしめすことをおそる 16エリ、サムエルをよびていひけるはわが子サムエルよ答へけるはわれここにあり 17エリいひけるは何事を汝につげたまひしや請ふ我にかくすなかれ汝もし其汝に告げたまひしところを一にてもかくすときは神汝にかくなし又かさねてかくなしたまへ 18サムエル其事をことごとくしめして彼に隱すことなかりきエリいひけるは是はヱホバなり其よしと見たまふことをなしたまへと 19サムエルそだちぬヱホバこれとともにいましてそのことばをして一も地におちざらしめたまふ 20ダンよりベエルシバにいたるまでイスラエルの人みなサムエルがヱホバの預言者とさだまれるをしれり 21ヱホバふたたびシロにてあらはれたまふヱホバ、シロにおいてヱホバの言によりてサムエルにおのれをしめしたまふなりサムエルの言あまねくイスラエル人におよぶ

第四章

1イスラエル人ペリシテ人にいであひて戰はんとしエベネゼルの邊に陣をとりペリシテ人はアベクに陣をとる 2ペリシテ人イスラエル人にむかひて陣列をなせり戰ふにおよびてイスラエル人ペリシテ人のまへにやぶるペリシテ人戰場において其軍四千人ばかりを殺せり 3民陣營にいたるにイスラエルの長老曰けるはヱホバ何故に今日我等をペリシテ人のまへにやぶりたまひしやヱホバの契約の櫃をシロより此にたづさへ來らん其櫃われらのうちに來らば我らを敵の手よりすくひいだすことあらんと 4かくて民人をシロにつかはしてケルビムの上に坐したまふ萬軍のヱホバの契約の櫃を其處よりたづさへきたらしむ時にエリの二人の子ホフニとピネハス神の契約のはこととともに彼處にありき 5ヱホバの契約の櫃陣營にいたりしときイスラエル人皆大によばはりさけびければ地なりひびけり 6ペリシテ人喊呼の聲を聞ていひけるはヘブル人の陣營に起れる此大なるさけびの聲は何ぞやと遂にヱホバの櫃の其陣營にいたれるを知る 7ペリシテ人おそれていひけるは神陣營にいたる又いひけるは嗚呼われら禍 なるかな今にいたるまで斯ることなかりき 8ああ我等 禍 なるかな誰かわれらを是らの強き神の手よりすくひいださんや此等の神は昔し諸の災を以てエジプト人を曠野に擊し者なり 9ペリシテ人よ強くなり豪傑のごとく爲せヘブル人がかつて汝らに事へしごとく汝らこれに事ふるなかれ豪傑のごとく爲して戰へよ 10かくてペリシテ人戰ひしかばイスラエル人やぶれて各々其天幕に逃かへる戰死はなはだ多くイスラエルの歩兵の仆れし者三萬人なりき 11又神の櫃は奪はれエリの二人の子ホフニとピネハス殺さる 12是日ベニヤミンの一人軍中より走來り其衣を裂き土をかむりてシロにいたる 13其いたれる時エリ道の傍に壇に坐して觀望居たり其心に神の櫃のことを思ひ煩らひたればなり其人いたり邑にて人々に告ければ邑こぞりてさけびたり 14エリ此呼號の聲をききていひけるは是喧嘩の聲は何なるやと其人いそぎきたりてエリにつぐ 15時にエリ九十八歳にして其目かたまりて見ることあたはず 16其人エリにいひけるは我は軍中より來れるもの我今日軍中より逃れたりエリいひけるは吾子よ事いかん 17使人答へていひけるはイスラエル人ペリシテ人の前に逃げ且民の中に大なる戰死ありまた汝の二人の子ホフニとピネハスは殺され神の櫃は奪はれたり 18神の櫃のことを演しときエリ其壇より仰けに門の傍におち頸をれて死ねり是はかれ老て身重かりければなり其イスラエルを鞫しは四十年なりき 19エリの媳ピネハスの妻孕みて子産ん時ちかかりしが神の櫃の奪はれしと舅と夫の死にしとの傳言を聞しかば其痛みおこりきたり身をかがめて子を產り 20其死なんとする時 傍 にたてる婦人これにいひけるは懼るるなかれ汝 男子を生りと然ども答へず又かへりみず 21只榮光イスラエルをさりぬといひて其子をイ

カボデ(榮なし)と名く是は神の櫃奪はれしによりまた舅と夫の故に因るなり 22またいひけるは榮光イスラエルをさりぬ神の櫃うばはれたればなり

第五章

1ペリシテ人神の櫃をとりて之をエベネゼルよりアシドドにもちきたる 2即ちペリシテ人神の櫃をとりて之をダゴンの家にもちきたりダゴンの傍に置ぬ 3アシドド人次の日夙く興きヱホバの櫃のまへにダゴンの俯伏に地にたふれをるをみ乃ちダゴンをとりて再びこれを本の處におく 4また翌朝夙く興きヱホバの櫃のまへにダゴン俯伏に地にたふれをるを見るダゴンの頭と其兩手門閾のうへに斷ち切れをり只ダゴンの體のみのこれり 5是をもてダゴンの祭司およびダゴンの家にいるもの今日にいたるまでアシドドにあるダゴンの閾をふまず 6かくてヱホバの手おもくアシドド人にくははりヱホバこれをほろぼし腫物をもてアシドドおよび其四周の人をくるしめたまふ 7アシドド人その斯るを見ていひけるはイスラエルの神の櫃を我らのうちにとどむべからず其は其手いたくわれらおよび我らの神ダゴンにくははればなり 8是故に人をつかはしてペリシテ人の諸君主を集めていひけるはイスラエルの神の櫃をいかにすべきや彼らいひけるはイスラエルの神のはこはガテに移さんと遂にイスラエルの神のはこをうつす 9之をうつせるのち神の手其邑にくははりて滅亡るもの甚だおほし即ち老たると幼とをいはず邑の人をうちたまひて腫物人々におこれり 10是において神のはこをエクロンにおくりたるに神の櫃エクロンにいたりしときエクロン人さけびていひけるは我等とわが民をころさんとてイスラエルの神のはこを我等にうつすと 11かくて人を遣してペリシテ人の諸君主をあつめていひけるはイスラエルの神の櫃をおくりて本のところにかへさん然らば我等とわが民をころすことなからん蓋は邑中に恐ろしき滅亡おこり神の手甚だおもく其處にくははればなり 12死なざる者は腫物にくるしめられ邑の號呼天に達せり

第六章

1ヱホバの櫃七月のあひだペリシテ人の國にあり 2ペリシテ人祭司と卜筮師をよびていひけるは我らヱホバの櫃をいかがせんや如何にして之をもとの所にかへすべきか我らにつげよ 3答へけるはイスラエルの神の櫃をかへすときはこれを空しくかへすなかれ必らず彼に過祭をなすべし然なさば汝ら愈ことをえ且彼の手の汝らをはなれざる故を知にいたらん 4人々いひけるは如何なる過祭を彼になすべきや答へけるはペリシテ人の諸君主の數にしたがひて五の金の腫物と五の金の鼠をつくれ是は汝らと汝らの諸伯におよべる災は一なるによる 5汝らの腫物の像および地をあらす鼠の像をつくりイスラエルの神に榮光を皈すべし庶幾はその手を汝等およびなんぢらの神と汝等の地にくはふることを軽くせん 6汝らなんぞエジプト人とパロの其心を頑にせしごとくおのれの心をかたくなにするや神かれらの中に數度其力をしめせしのち彼ら民をゆかしめ民つひにさりしにあらずや 7されば今あたらしき車一輛をつくり乳牛のいまだ軛をつけざるもの二頭をとり其牛を車に繋ぎ其犢をはなして家につれゆき 8ヱホバの櫃をとりて之を其車に載せ汝らが過祭として彼になす金の製作物を櫃にをさめて其傍におき之をおくりて去らしめ 9しかして見よ若し其境のみちよりベテシメシにのぼらばこの大なる災を我らになせるものは彼なり若ししかせずば我等をうちしは彼の手にあらずしてそのことの偶然なりしをしるべし 10人々つひに斯なし二つの乳牛をとりて之を車につなぎその犢を室にとぢこめ 11ヱホバの櫃および金の鼠と其腫物の像ををさめたる櫃を車に載す 12牝牛直にあゆみてベテシメシの路をゆき鳴つつ大路をすすみゆきて右左にまがらずペリシテ人の君主ベテシメシの境まで其うしろにしたがひゆけり 13時にベテシメシ人谷に麥を刈り居たりしが目をあげて其櫃をみ之を見るをよろこべり 14車ベテシメシ人ヨシユアの田にいりて其處にとどまる此に大なる石あり人々車の木を劈り其牝牛を燔祭としてヱホバにさささげたり 15レビの人ヱホバの櫃とこれとともなる櫃の金の製作物ををさめたる者をとりおろし之を其大石のうへにおくしかしてベテシメシ人此日ヱホバに燔祭をそなへ犧牲をささげたり 16ペリシテ人の五人の君主これを見て同じ日にエクロンにかへれり 17さてペリシテ人が過祭としてヱホバにたせし金の腫物はこれなり即ちアシドドのために一ガザのために一アシケロンのために一ガテのために一エクロンのために一なりき 18また金の鼠は城邑と郷里をいはず凡て五人の君主に屬するペリシテ人の邑の數にしたがひて造れりヱホバの櫃をおろせし大石今日にいたるまでベテシメシ人ヨシユアの田にあり 19ベ

テシメシの人々ヱホバの櫃をうかがひしによりヱホバこれをうちたまふ即ち民の中七十人をうてりヱホバ民をうちて大にこれをころしたまひしかば民なきさけべり 20ベテシメシ人いひけるは誰かこの聖き神たるヱホバのまへに立つことをえんヱホバ我らをはなれて何人のところにのぼりゆきたまふべきや 21かくて使者をキリアテヤリムの人に遣はしていひけるはペリシテ人ヱホバの櫃をかへしたれば汝らくだりて之を汝らの所に携へのぼるべし

第七章

1キリアテヤリムの人來りヱホバのはこを携へのぼりこれを山のうへなるアビナダブの家にもちきたり其子エレアザルを聖てヱホバの櫃をまもらしむ 2其櫃キリアテヤリムにとどまること久しくして二十年をへたりイスラエルの全家ヱホバをしたひて歎けり 3時にサムエル、イスラエルの全家に告ていひけるは汝らもし一心を以てヱホバにかへり異る神とアシタロテを汝らの中より棄て汝らの心をヱホバに定め之にのみ事へなばヱホバ汝らをペリシテ人の手より救ひださん 4ここにおいてイスラエルの人々バアルとアシタロテをすててヱホバにのみ事ふ 5サムエルいひけるはイスラエル人をことごとくミズパにあつめよ我汝らのためにヱホバにいのらん 6かれらミズパに集り水を汲て之をヱホバのまへに注ぎ其日断食して彼處にいひけるは我等ヱホバに罪ををかしたりとサムエル、ミズパに於てイスラエルの人を鞫く 7ペリシテ人イスラエルの人々のミズパに集れるを聞しかばペリシテ人の諸君主イスラエルにせめのぼれりイスラエル人これを聞てペリシテ人をおそれたり 8イスラエルの人々サムエルに云けるは我らのために我らの神ヱホバに祈ることをやむるなかれ然らばヱホバ我らをペリシテ人の手よりすくひださん 9サムエル哺乳 羊 をとり燔祭となしてこれをまつたくヱホバにささぐまたサムエル、イスラエルのためにヱホバにいのりければヱホバこれにこたへたまふ 10サムエル燔祭をささげ居し時ペリシテ人イスラエル人と戰はんとて近づきぬ是日ヱホバ大なる 雷 をくだしペリシテ人をうちて之を亂し賜ければペリシテ人イスラエル人のまへに敗れたり 11イスラエル人ミズパをいでてペリシテ人をおひ之をうちてベテカルの下にいたる 12サムエル一の石をとりてミズパとセンの間におきヱホバ是まで我らを助けたまへりといひて其名をエベネゼル(助けの石)と呼ぶ 13ペリシテ人攻伏られて再びイスラエルの境にいらずサムエルの一生のあひだヱホバの手ペリシテ人をふせげり 14ペリシテ人のイスラエルより取たる邑々はエクロンよりガテまでイスラエルにかへりぬまた其周圍の地はイスラエル人これをペリシテ人の手よりとりかへせりまたイスラエル人とアモリ人と好をむすべり 15サムエル一生のあひだイスラエルをさばき 16歳々ベテルとギルガルおよびミズパをめぐりて其處々にてイスラエル人をさばき 17またラマにかへれり此處に其家あり此にてイスラエルをさばき又此にてヱホバに壇をきづけり

第八章

1サムエル年老て其子をイスラエルの士師となす 2兄の名をヨエルといひ弟の名をアビヤといふベエルシバにありて士師たり 3其子父の道をあゆまずして利にむかひ賄賂をとりて審判を曲ぐ 4是においてイスラエルの長老みなあつまりてラマにゆきサムエルの許に至りて 5これにいひけるは視よ汝は老い汝の子は汝の道をあゆまずさればわれらに王をたててわれらを鞫かしめ他の國々のごとくならしめよと 6その我らに王をあたへて我らを鞫かしめよといふを聞てサムエルよろこばず而してサムエル、ヱホバにいのりしかば 7ヱホバ、サムエルにいひたまひけるは民のすべて汝にいふところのことばを聽け其は汝を棄るにあらず我を棄て我をして其王とならざらしめんとするなり 8かれらはわがエジプトより救ひいだせし日より今日にいたるまで我をすてて他の神につかへて種々の所行をなせしごとく汝にもまた然す 9然れどもいま其言をきけ但し深くいさめて其治むべき王の常例をしめすべし 10サムエル王を求むる民にヱホバのことばをことごとく告て 11いひけるは汝等ををさむる王の常例は斯のごとし汝らの男子をとり己れのために之をたてて車の御者となし騎兵となしまた其車の前驅となさん 12また之をおのれの爲に千夫長五十夫長となしまた其地をたがへし其作物を刈らしめまた武器と車器とを造らしめん 13また汝らの女子をとりて製香者となし厨婢となし炙麺者となさん 14又汝らの田畝と葡萄園と橄欖園の最も善きところを取て其臣僕にあたへ 15汝らの穀物と汝らの葡萄の什分一をとりて其官吏と臣僕にあたへ 16また汝らの僕婢および汝らの最も善き牛と汝らの驢馬を取て

おのれのために作かしめ 17又汝らの羊の十分一をとり又汝らを其僕となさん 18其日において汝等己のために擇みし王のことによりて呼號らんされどヱホバ其日に汝らに聽たまはざるべしと 19然るに民サムエルの言にしたがふことをせずしていひけるは否われらに王なかるべからず 20我らも他の國々の如くになり我らの王われらを鞫きわれらを率て我らの戰にたたかはん 21サムエル民のことばを盡く聞て之をヱホバの耳に告ぐ 22ヱホバ、サムエルにいひたまひけるはかれらのことばを聽きかれらのために王をたてよサムエル、イスラエルの人々にいひけるは汝らおのおの其邑にかへるべし

第九章

1茲にベニヤミンの人にてキシと名くる力の大なるものありキシはアビエルの子アビニルはゼロンの子ゼロンはベコラテの子ベコラテはアビヤの子アビヤはベニヤミンの子なり 2キシにサウルと名くる子あり壯にして美はしイスラエルの子孫の中に彼より美はしき者たく肩より上民のいづれの人よりも高し 3サウルの父キシの驢馬失ぬキシ其子サウルにいひけるは一人の僕をともなひ起ちてゆき驢馬を尋ねよ 4サウル、ニフライムの山地を通り過ぎシヤリシヤの地を通りすぐれども見あたらずシヤリムの地を通りすぐれども居らずベニヤミンの地をとほりすぐれども見あたらず 5かれらツフの地にいたれる時サウル其ともなへる僕にいひけるはいざ還らん恐らくはわが父驢馬の事を措て我等の事を思ひ煩はん 6僕これにいひけるは此邑に神の人あり尊き人にして其言ふところは皆必らず成る我らかしこにいたらんかれ我らがゆくべき路をわれらにしめすことあらん 7サウル僕にいひけるは我らもしゆかば何を其人におくらんか器のパンは既に罄て神の人におくるべき禮物あらず何かあるや 8僕またサウルにこたへていひけるは視よわが手に銀一シケルの四分の一あり我これを神の人にあたへて我らに路をしめさしめんと 9昔しイスラエルにおいては人神にとはんとてゆく時はいざ先見者にゆかんといへり其は今の預言者は昔しは先見者とよばれたればなり 10サウル僕にいひけるは善くいへりいざゆかんとて神の人のをる邑におもむけり 11かれら邑にいる坂をのぼれる時童女數人の水くみにいづるにあひ之にいひけるは先見者は此にをるや 12答ていひけるはをる視よ汝のまへにをる急ぎゆけ今日民崇邱にて祭をなすにより彼けふ邑にきたれり 13汝ら邑にる時かれが崇邱にのぼりて食に就くまへに直ちにかれにあはん其は彼まづ祭品を祝してしかるのち招かれたる者食ふべきに因りかれが來るまでは民食はざるなり故に汝らのぼれ今かれにあはんと 14かれら邑にのぼりて邑のなかにいるとき視よサムエル崇邱にのぼらんとてかれらにむかひて出きたりぬ 15ヱホバ、サウルのきたる一日まへにサムエルの耳につげていひたまひけるは 16明日いまごろ我ベニヤミンの地より一箇の人を汝につかはさん汝かれに膏を注ぎてわが民イスラエルの長となせかれわが民をペリシテ人の手より救ひいださんわが民のさけび我に達せしにより我是をかへりみるなり 17サムエル、サウルを見るときヱホバこれにいひたまひけるは視よわが汝につげしは此人なり是人わが民ををさむべし 18サウル門の中にてサムエルにちかづきいひけるは先見者の家はいづくにあるや請ふ我につげよ 19サムエル、サウルにこたへていひけるは我はすなはち先見者なり汝わがまへにゆきて崇邱にのぼれ汝ら今日我とともに食す可し明日われ汝をさらしめ汝の心にあることを悉く汝にしめさん 20三日まへに失たる汝の驢馬は既に見あたりたれば之をおもふなかれ抑もイスラエルの總ての寶は誰の者なるや即ち汝と汝の父の家のものならずや 21サウルこたへていひけるは我はイスラエルの支派の最も小き支派なるベニヤミンの人にしてわが族はベニヤミンの支派の諸の族の最も小き者に非やなんぞ斯る事を我にかたるや 22サムエル、サウルと其僕をみちびきて堂にいり招かれたる三十人ばかりの者の中の最も上に坐せしむ 23サムエル庖人にいひけるはわが汝にわたして汝の許におけといひし分をもちきたれ 24庖人肩と肩に屬る者をとりあげて之をサウルのまへに置くサムエルいひけるは視よ是は存へおきたる物なり汝のまへにおきて食へ其はわれ民をまねきし時よりこれを汝の爲にたくはへおきたればなりかくてサウル此日サムエルとともに食せり 25崇邱をくだりて邑にいりし時サムエル、サウルとともに屋背の上にてものがたる 26かれら早くおく即ちサムエル曙に屋背の上なるサウルをよびていけるは起よわれ汝をかへさんとサウルすなはちおきあがるサウルとサムエルともに外にいで 27邑の極處にくだれるときサムエル、サウルにいひけるは僕に命じて我等の先にゆかしめよ(僕先にゆく)しかして汝暫くとどまれ我汝に神の言をしめさん

第十章

1サムエルすなはち膏の瓶をとりてサウルの頭に沃ぎ口接して曰けるはヱホバ汝をたてて其産業の長となしたまふにあらずや 2汝今日我をはなれて去りゆく時ベニヤミンの境のゼルザにあるラケルの墓のかたはらにて二人の人にあふべしかれら汝にいはん汝がたづねにゆきし驢馬は見あたりぬ汝の父驢馬のことをすてて汝らのことをおもひわづらひわが子の事をいかがすべきやといへりと 3其處より汝尚すすみてタボルの橡の樹のところにいたらんに彼處にてベテルにのぼり神にまうでんとする三人の者汝にあはん一人は三頭の山羊羔を携へ一人は三團のパンをたづさへ一人は一嚢の酒をたづさふ 4かれら汝に安否をとひ二團のパンを汝にあたへん汝之を其手よりうくべし 5其の後汝神のギベアにいたらん其處にペリシテ人の代官あり汝彼處にゆきて邑にいるとき一群の預言者の瑟と鼗と笛と琴を前に執らせて預言しつつ崇邱をくだるにあはん 6其の時神のみたま汝にのぞみて汝かれらとともに預言し變りて新しき人とならん 7是らの徴汝の身におこらば手のあたるにまかせて事を爲すべし神汝とともにいませばなり 8汝我にさきだちてギルガルにくだるべし我汝の許にくだりて燔祭を供へ酬恩祭を献げんわが汝のもとに至り汝の爲すべきことを示すまで汝七日のあひだ待つべし 9サケウル背をかへしてサムエルを離れし時神之に新しき心をあたへたまふしかして此しるし皆其日におこれり 10ふたり彼處にゆきてギベアにいたれるときみよ一群の預言者これにあふしかして神の霊サウルにのぞみてサウルかれらの中にありて預言せり 11素よりサウルを識る人々サウルの預言者と偕に預言するを見て互ひにいひけるはキシの子サウル今何事にあふやサウルも預言者の中にあるやと 12其處の人ひとり答へて彼等の父は誰ぞやといふ是故にサウルも預言者の中にあるやといふは諺となれり 13サウル預言を終て崇邱にいたるに 14サウルの叔父サウルと僕にいひけるは汝らいづくに何處にゆきしやサウルいひけるは驢馬を尋ねに出しがいづくに何處にもをらざるを見てサムエルの許にいたれり 15サウルの叔父いひけるはサムエルは汝に何をいひしか請ふ我につげよ 16サウル叔父にいひけるは明かに驢馬の見あたりしを告げたりと然れどもサムエルが言る國王の事はこれにつげざりき 17サムエル民をミヅパにてヱホバのまへに集め 18イスラエルの子孫にいひけるはイスラエルの神ヱホバ斯くいひたまふ我イスラエルをみちびきてエジプトより出し汝らをエジプト人の手および凡て汝らを虐遇る國人の手より救ひいだせり 19然るに汝らおのれを患難と難苦のうちより救ひいだしたる汝らの神を棄て且否われらに王をたてよといへり是故にいま汝等の支派と群にしたがひてヱホバのまへに出よ 20サムエル、イスラエルの諸の支派を呼よせし時ベニヤミンの支派籤にあたりぬ 21またベニヤミンの支派を其族のかずにしたがひて呼よせしときマテリの族籤にあたりキシの子サウル籤にあたれり人々かれを尋ねしかども見出ざれば 22またヱホバに其人は此に來るや否やを問しにヱホバ答たまはく視よ彼は行李のあひだにかくると 23人々はせゆきて彼を其處よりつれきたれり彼民の中にたつに肩より以上民の何の人よりも高かりき 24サムエル民にいひけるは汝らヱホバの擇みたまひし人を見るか民のうちに是人の如き者とし民みなよばはりいひけるは願くは王いのちながかれ 25時にサムエル王國の典章を民にしめして之を書にしるし之をヱホバのまへに蔵めたりしかしてサムエル民をことごとく其家にかへらしむ 26サウルもまたギベアの家にかへるに神に心を感ぜられたる勇士等これとともにゆけり 27然れども邪なる人々は彼人いかで我らを救はんやといひて之を蔑視り之に禮物をおくらざりしかどサウルは唖のごとくせり

第十一章

1アンモニ人ナハシ、ギレアデのヤベシにのぼりて之を圍むヤベシの人々ナハシにいひけるは我らと約をなせ然らば汝につかへん 2アンモニ人ナハシこれに答へけるは我かくして汝らと約をなさん即ち我汝らの右の目を抉りてイスラエルの全地に恥辱をあたへん 3ヤベシの長老これにいひけるは我らに七日の猶予をあたへて使をイスラエルの四方の境におくることを得さしめよ而して若し我らを救ふ者なくば我ら汝にくだらん 4斯て使サウルのギベアにいたり此事を民の耳に告しかば民皆聲をあげて哭きぬ 5爰にサウル田より牛にしたがひて來るサウルいひけるは民何によりて哭くやと人々これにヤベシ人の事を告ぐ 6サウル之を聞るとき神の霊これに臨みてその怒甚だしく燃えたち 7一軛の牛をころしてこれを切り割き使の手をもてこれをイスラエルの四方の境にあまねくおくりていはしめけるは誰にてもサウルとサムエルにしたがひ

て出ざる者は其牛かくのごとくせらるべしと民ヱホバを畏み一人のごとく均くいでたり 8サウル、ベゼクにてこれを數ふるにイスラエルの子孫三十萬ユダの人三萬ありき 9斯て人々來れる使にいひけるはギレアデのヤベシの人にかくいへ明日日の熱き時汝ら助を得んと使かへりてヤベシ人に告げければ皆よろこびぬ 10是をもてヤベシの人云けるは明日汝らに降らん汝らの善と思ふところを爲せ 11明日サウル民を三隊にわかち暁更に敵の軍の中にいりて日の熱くなる時までアンモニ人をころしければ遺れる者は皆ちりぢりになりて二人倶にあるものなかりき 12民サムエルにいひけるはサウル豈我らの王となるべけんやと言しは誰ぞや其人を引き來れ我ら之をころさん 13サウルいひけるは今日ヱホバ救をイスラエルに施したまひたれば今日は人をころすべからず 14茲にサムエル民にいひけるはいざギルガルに往て彼處にて王國を新にせんと 15民みなギルガルにゆきて彼處にてヱホバのまへにサウルを王となし彼處にて酬恩祭をヱホバのまへに献げサウルとイスラエルの人々皆かしこにて大に祝へり

第十二章

1サムエル、イスラエルの人々にいひけるは視よ我汝らが我にいひし言をことごとく聽て汝らに王を立たり 2見よ今王汝らのまへにあゆむ我は老て髪しろし視よわが子ども汝らと共にあり我幼稚時より今日にいたるまで汝等のまへにあゆめり 3視よ我ここにありヱホバのまへと其膏そそぎし者のまへに我を訴へよ我誰の牛を取りしや誰の驢馬をとりしや誰を掠めしや誰を虐遇しや誰の手より賄賂をとりてわが目を矇せしや有ば我これを汝らにかへさん 4彼らいひけるは汝は我らをかすめずくるしめず又何をも人の手より取りしことなし 5サムエルかれらにいひけるは汝らが我手のうちに何をも見いださざるをヱホバ汝らに證したまふ其膏そそぎし者も今日證す彼ら答へけるは證したまふ 6サムエル民にいひけるはヱホバはモーセとアロンをたてし者汝らの先祖をエジプトの地より導きいだせしものなり 7立ちあがれヱホバが汝らおよび汝らの先祖になしたまひし諸の義しき行爲につきて我ヱホバのまへに汝らと論ぜん 8ヤコブのエジプトにいたるにおよびて汝らの先祖のヱホバに呼はりし時ヱホバ、モーセとアロンを遣はしたまひて此二人汝らの先祖をエジプトより導きいだして此處にすましめたり 9しかるに彼ら其神ヱホバを忘れしかばヱホバこれをハゾルの軍の長シセラの手とペリシテ人の手およびモアブ王の手にわたしたまへり斯て彼らこれを攻ければ 10民ヱホバに呼はりていひけるは我らヱホバを棄てバアルとアシタロテに事へてヱホバに罪を犯したりされど今我らを敵の手より救ひいだしたまへ我ら汝につかへんと 11是においてヱホバ、ヱルバアルとバラクとエフタとサムエルを遣はして汝らを四方の敵の手より救ひいだしたまひて汝ら安らかに住めり 12しかるに汝らアンモンの子孫の王ナハシの汝らを攻んとて來るを見て汝らの神ヱホバ汝らの王なるに汝ら我にいふ否我らををさむる王なかるべからずと 13今汝らが選みし王汝らがねがひし王を見よ視よヱホバ汝らに王をたてたまへり 14汝らもしヱホバを畏みて之につかへ其言にしたがひてヱホバの命にそむかずまた汝らと汝らををさむる王恒に汝らの神ヱホバに從はば善し 15しかれども汝らもしヱホバの言にしたがはずしてヱホバの命にそむかばヱホバの手汝らの先祖をせめしごとく汝らをせむべし 16汝ら今たちてヱホバが爾らの目のまへになしたまふ此大なる事を見よ 17今日は麥刈時にあらずや我ヱホバを呼んヱホバ雷と雨をくだして汝らが王をもとめてヱホバのまへに爲したる罪の大なるを見しらしめたまはん 18かくてサムエル、ヱホバをよびければヱホバ其日雷と雨をくだしたまへり民みな大にヱホバとサムエルを恐る 19民みなサムエルにいひけるは僕らのために汝の神ヱホバにいのりて我らを死なざらしめよ我ら諸の罪にまた王を求むるの惡をくはへたればなり 20サムエル民にいひけるは懼るなかれ汝らこの總ての惡をなしたりされどヱホバに從ふことを息ず心をつくしてヱホバに事へ 21虚しき物に迷ひゆくなかれ是は虚しき物なれば汝らを助くることも救ふことも得ざるなり 22ヱホバ其大なる名のために此民をすてたまはざるべし其はヱホバ汝らをおのれの民となすことを善としたまへばなり 23また我は汝らのために祈ることをやめてヱホバに罪ををかすことは決てせざるべし且われ善き正しき道をもて汝らををしへん 24汝ら只ヱホバをかしこみ心をつくして誠にこれにつかへよ而して如何に大なることをヱホバ汝らになしたまひしかを思ふ可し 25しかれども汝らもしなほ惡をなさば汝らと汝らの王ともにほろぼさるべし

第十三章

1サウル三十歳にて王の位に即く彼二年イスラエルををさめたり 2爰にサウル、イスラエル人三千を擇む其二千はサウルとともにミクマシおよびベテルの山地にあり其一千はヨナタンとともにベニヤミンのギベアにあり其餘の民はサウルおのおの其幕屋にかへらしむ 3ヨナタン、ゲバにあるペリシテ人の代官をころせりペリシテ人之れをきく是においてサウル國中にあまねくラツパを吹ていはしめけるはヘブル人よ聞くべし 4イスラエル人皆聞けるに云くサウル、ペリシテ人の代官を撃りしかしてイスラエル、ペリシテ人の中に惡まると斯て民めされてサウルにしたがひギルガルにいたる 5ペリシテ人イスラエルと戰はんとて集りけるが兵車三百騎兵六千にして民は濱の沙の多きがごとくなりき彼らのぼりてベテアベンにむかへるミクマシに陣をとれり 6イスラエルの人苦められ其危きを見て皆巖穴に林叢に崗巒に高塔に坎阱にかくれたり 7また或るヘブル人はヨルダンを渉りてガドとギレアデの地にいたる然るにサウルは尚ギルガルにあり民皆戰慄て之にしたがふ 8サウル、サムエルの定めし期にしたがひて七日とどまりしがサムエル、ギルガルに來らず民はなれて散ければ 9サウルいひけるは燔祭と酬恩祭を我にもちきたれと遂に燔祭をささげたり 10燔祭をささぐることを終しときに視よサムエルいたるサウル安否を問はんとてこれをいで迎ふに 11サムエルいひけるは汝何をなせしやサウルいひけるは我民の我をはなれてちりまた汝の定まれる日のうちに來らずしてペリシテ人のミクマシに集まれるを見しかば 12ペリシテ人ギルガルに下りて我をおそはんに我いまだヱホバをなごめずといひて勉て燔祭をささげたり 13サムエル、サウルにいひけるは汝おろかなることをなせり汝その神ヱホバのなんぢに命じたまひし命令を守らざりしなり若し守りしならばヱホバ、イスラエルををさむる位を永く汝に定めたまひしならん 14然どもいま汝の位たもたざるべしヱホバ其心に適ふ人を求めてヱホバ之に其民の長を命じたまへり汝がヱホバの命ぜしことを守らざるによる 15かくてサムエルたちてギルガルよりベニヤミンのギベアにのぼりいたる 16サウルおのれとともにある民をかぞふるに凡そ六百人ありき 17サウルおよび其子ヨナタン並にこれとともにある民はベニヤミンのゲバに居りペリシテ人はミクマシに陣を張る 18劫掠人三隊にわかれてペリシテ人の陣よりいで一隊はオフラの路にむかひてシユアルの地にいたり 19一隊はベテホロンの道に向ひ一隊は曠野の方にあるゼボイムの谷をのぞむ境の路にむかふ 20時にイスラエルの地のうち何處にも鐵工なかりき是はペリシテ人ヘブル人の劍あるひは槍を作ることを恐れたればなり 21イスラエル人皆其耜鋤斧 耒 即ち耜鋤三歯鍬斧の鍛に缺ありてこれを鍛ひ改さんとする時又は鞭を尖らさんとする時は常にペリシテ人の所にくだれり 22是をもて戰の日にサウルおよびヨナタンとともにある民の手には劍も槍も見えず只サウルと其子ヨナクンのみ持り 23茲にペリシテ人の先陣ミクマシの渡口に進む

第十四章

1其時サウルの子ヨナタン武器を執る若者にいひけるはいざ對面にあるペリシテ人の先陣に渉りゆかんと然ど其父には告ざりき 2サウル、ギベアの極においてミグロンにある石榴の樹の下に住まりしが倶にある民はおよそ六百人なりき 3又アヒヤ、エポデを衣てともにをるアヒヤはアヒトブの子アヒトブはイカボデの兄弟イカボデばピネハスの子ピネハスはシロにありてヱホバの祭司たりしエリの子なり民ヨナタンの行けるをしらざりき 4ヨナタンの渉りてペリシテ人の先陣にいたらんとする渡口の間に此傍に巉巖あり彼傍にも巉巖あり一の名をボゼツといひ一の名をセネといふ 5其一は北に向ひてミクマシに對し一に南にむかひてゲバに對す 6ヨナタン武器を執る少者にいふいざ我ら此割禮なき者どもの先陣にわたらんヱホバ我らのためにはたらきたまことあらん多くの人をもて救ふも少き人をもてすくふもヱホバにおいては妨げなし 7武器をとるもの之にいひけるは總て汝の心にあるところをなせ進めよ我汝の心にしたがひて汝とともにあり 8ヨナタンいひけるは見よ我らかの人々のところにわたり身をかれらにあらはさん 9かれら若し我らが汝らにいたるまでとどまれと斯く我らにいはば我らはこのままとどまりてかれらの所にのぼらじ 10されど若し我らのところにのぼれとかくいはば我らのぼらんヱホバかれらを我らの手にわたしたまふなり是を徴となさんと 11斯て二人其身をペリシテ人の先陣にあらはしければペリシテ人いひけるは視よヘブル人其かくれたる穴よりいで來ると 12すなはち先陣の人ヨナタンと其武器を執る者にこたへて我等の所に上りきたれ目に物見せんといひしかばヨナタン武器を執る者にいひけるは我にしたがひてのぼれヱホ

バ彼らをイスラエルの手にわたしたまふなり 13ヨナタン攀のぼり其武器を執るもの之にしたがふペリシテ人ヨナタンのまへに仆る武器をとる者も後にしたがひて之をころす 14ヨナタンと其武器を取るもの手はじめに殺せし者およそ二十人此事田畑半段の内になれり 15しかして野にある陣のものおよび凡ての民の中に戦慄おこり先陣の人および劫掠人もまたおののき地ふるひ動けり是は神よりの戦慄なりき 16ベニヤミンのギベアにあるサウルの戍卒望見しに視よペリシテ人の群衆くづれて此彼にちらばる 17時にサウルおのれとともなる民にいひけるは汝ら點驗て誰が我らの中よりゆきしかを見よとすなはちしらべたるにヨナタンとその武器を執るもの居らざりき 18サウル、アヒヤにエポデを持きたれといふ其はかれ此時イスラエルのまへにエポデを著たれば也 19サウル祭司にかたれる時ペリシテ人の軍の騒いよいよましたりければサウル祭司にいふ姑く汝の手を措けと 20かくてサウルおよびサウルと共にある民皆呼はりて戦ひに至るにペリシテ人おのおの劍を以て互に相撃ちければその敗績はなはだ大なりき 21また此時よりまへにペリシテ人とともにありてペリシテ人と共に上りて陣に來るところのヘブル人もまた翻へりてサウルおよびヨナタンと共にあるイスラエル人に合せり 22又エフライムの山地にかくれたるイスラエル人皆ペリシテ人の逃るを聞てまた戦ひに出て之を追撃り 23是の如くヱホバ此日イスラエルをすくひたまふ而して戦はベテアベンにうつれり 24されど此日イスラエル人苦めり其はサウル民を誓はせて夕まで即ちわが敵に仇をむくゆるまでに食物を食ふ者は呪詛れんと言たればなり是故に民の中に食物を味ひし者なし 25爰に民みな林森に至に地の表に蜜あり 26即ち民森にいたりて蜜のながるるをみる然ども民誓を畏るれば誰も手を口につくる者なし 27然にヨナタンは其父が民をちかはせしを聞ざりければ手にある杖の末をのばして蜜にひたし手を口につけたり是に由て其目あきらかになりぬ 28時に民のひとり答て言けるは汝の父かたく民をちかはせて今日食物をくらふ人は呪詛はれんと言り是に由て民つかれたり 29ヨナタンいひけるはわが父國を煩せり請ふ我この蜜をすこしく嘗しによりて如何にわが目の明かになりしかを見よ 30ましてや民今日敵よりうばひし物を十分に食しならばペリシテ人をころすこと更におほかるべきにあらずや 31イスラエル人かの日ペリシテ人を撃てミクマシよりアヤロンにいたる而して民はなはだ疲たり 32是において民劫掠物に走かかり羊と牛と犢とを取りて之を地のうへにころし血のままに之をくらふ 33人々サウルにつげていひけるは民肉を血のままに食ひて罪をヱホバにをかすとサウルいひけるは汝ら背けり直ちにわがもとに大石をまろばしきたれ 34サウルまたいひけるは汝らわかれて民のうちにいりていへ人 各 其牛と 各 其 羊をわがもとに引ききたり此處にてころしくらへ血のままにくらひて罪をヱホバに犯すなかれと此において民おのおのこの夜其牛を手にひききたりて之をかしこにころせり 35しかしてサウル、ヱホバに一つの壇をきづく是はサウルのヱホバに壇を築ける始なり 36斯てサウルいひけるは我ら夜のうちにペリシテ人を追くだり夜明までかれらを掠めて一人をも殘すまじ皆いひけるは凡て汝の目に善とみゆる所をなせと時に祭司いひけるは我ら此にちかより神にもとめんと 37サウル神に我ペリシテ人をおひくだるべきか汝かれらをイスラエルの手にわたしたまふやと問けれど此日はこたへたまはざりき 38是においてサウルいひけるは民の長たちよ皆此にちかよれ汝らみて今日のこの罪のいづくにあるを知れ 39イスラエルを救ひたまへるヱホバはいく假令わが子ヨナタンにもあれ必ず死なざるべからずとされど民のうち一人もこれにこたへざりき 40サウル、イスラエルの人々にいひけるはなんぢらは彼處にをれ我とわが子ヨナタンは此處にをらんと民いひけるは汝の目によしとみゆるところをなせ 41サウル、イスラエルの神ヱホバにいひけるはねがはくは眞實をしめしたまへとかくてヨナタンとサウル籤にあたり民はのがれたり 42サウルいひけるは我とわが子のあひだの鬮を掣けと即ちヨナタンこれにあたれり 43サウル、ヨナタンにいひけるは汝がなせしところを我に告よヨナタンつげていひけるは我は只わが手の杖の末をもて少許の蜜をなめしのみなるが我しなざるをえず 44サウルこたへけるは神かくなしまたかさねてかくなしたまへヨナタンよ汝死ざるべからず 45民サウルにいひけるはイスラエルの中に此大なるすくひをなせるヨナタン死ぬべけんや決めてしからずヱホバは生くヨナタンの髪の毛ひとすぢも地におつべからず其はかれ神とともに今日はたらきたればなりとかく民ヨナタンをすくひて死なざらしむ 46サウル、ペリシテ人を追ことを息てのぼりぬペリシテ人其國にかへれり 47かくてサウル、イスラエルの王の位につきて四方の敵を攻む即ちモ

アブ、アンモンの子孫エドム、ゾバの王たちおよびペリシテ人をせめけるに凡てむかふところにて勝利を得たり 48サウル力をえアマレク人をうちてイスラエルを其劫掠人の手よりすくひいだせり 49サウルの男子はヨナタン、ヱスイおよびマルキシユアなり其二人の女子の名は姉はメラブといひ妹はミカルといふ 50サウルの妻の名はアヒノアムといひてアヒマアズの女子なり其軍の長の名はアブネルといひてサウルの叔父なるネルの子なり 51サウルの父キシとアブネルの父ネルはアビエルの子なり 52サウルの一生のあひだ恒にペリシテ人と烈しき戰ありサウルは力ある人または勇ある人を見るごとにこれをかかへたり

第十五章

1茲にサムエル、サウルにいひけるはヱホバ我をつかはし汝に膏を沃ぎて其民イスラエルの王となさしめたりされば ヱホバの言の聲をきけ 2萬軍のヱホバかくいひたまふ我アマレクがイスラエルになせし事すなはちエジプトよりのぼれる時其途を遮りしをかへりみる 3今ゆきてアマレクを擊ち其有る物をことごとく滅しつくし彼らを憐むなかれ男 女 童稚哺乳兒牛 羊 駱駝驢馬を皆殺せ 4サウル民をよびあつめてこれをテライムに核ふ歩兵二十萬ユダの人一萬あり 5しかしてサウル、アマレクの邑にいたりて谷に兵を伏たり 6サウル、ケニ人にいひけるは汝らゆきてさりアマレク人をはなれくだるべし恐らくはかれらとともに汝らをほろぼすにいたらんイスラエルの子孫のエジプトよりのぼれる時 汝らこれに恩みをほどこしたりと 即ちケニ人アマレク人をはなれてさりぬ 7サウル、アマレク人をうちてハビラよりエジプトの東面なるシユルにいたる 8サウル、アマレク人の王アガグを生擒り刃をもて其民をことごとくほろぼせり 9然ども、サウルと民アガグをゆるしまた羊と牛の最も嘉きもの及び肥たる物並に羔と凡て善き物を殘して之をほろぼしつくすをこのまず但惡き弱き物をほろぼしつくせり 10時にヱホバの言 サムエルにのぞみていはく 11我サウルを王となせしを悔ゆ其は彼背きて我にしたがはずわが命をおこなはざればなりとサムエル憂て終夜ヱホバによばはれり 12かくてサムエル、サウルにあはんとて夙く起きけるにサムエルにつぐるものありていふサウル、カルメルにいたり勝利の表を立て轉り進みてギルガルにくだれりと 13サムエル、サウルの許に至りければサウルこれにいひけるは汝がヱホバより福祉を得んことをねがふ我ヱホバの命を行へりと 14サムエルいひけるは然らばわが耳にいる此羊の聲およびわがきく牛のこゑは何ぞや 15サウルいひけるは人々これをアマレク人のところより引ききたれり其は民汝の神ヱホバにささげんために羊と牛の最も嘉きものをのこせばなり其ほかは我らほろぼしつくせり 16サムエル、サウルにいけるは止まれ昨夜ヱホバの我にかたりたまひしことを汝につげんサウルいひけるはいへ 17サムエルいひけるはさきに汝が微き者とみづから憶へる時に爾イスラエルの支派の長となりしに非ずや即ちヱホバ汝に膏を注いでイスラエルの王となせり 18ヱホバ汝を途に遣はしていひたまはく往て惡人なるアマレク人をほろぼし其盡るまで戰へよと 19何故に汝ヱホバの言をきかずして敵の所有物にはせかかりヱホバの目のまへに惡をなせしや 20サウル、サムエルにひけるは我 誠にヱホバの言にしたがひてヱホバのつかはしたまふ途にゆきアマレクの王アガグを執きたりアマレクをほろぼしつくせり 21ただ民其ほろぼしつくすべき物の最初としてギルガルにて汝の神ヱホバにささげんとて敵の物の中より羊と牛をとれり 22サムエルいひけるはヱホバはその言にしたがふ事を善したまふごとく燔祭と犧牲を善したまふや夫れ順ふ事は犧牲にまさり聽く事は牡羔の脂にまさるなり 23其は違逆は魔術の罪のごとく抗 戻は虛しき物につかふる如くなり偶像につかふるがごとし汝ヱホバの言を棄たるによりヱホバもまた汝をすてて王たらざらしめたまふ 24サウル、サムエルにいひけるに我ヱホバの命と汝の言をやぶりて罪ををかしたり是は民をおそれて其言にしたがひたるによりてなり 25されば今ねがはくはわがつみをゆるし我とともにかへりて我をしてヱホバを拝することをえさしめよ 26サムエル、サウルにいひけるは我 汝とともにかへらじ汝ヱホバの言を棄たるによりヱホバ汝をすててイスラエルに王たらしめたまはざればなり 27サムエル去らんとて振還しときサウルその明衣の裾を捉へしかば裂たり 28サムエルかれにいひけるは今日ヱホバ、イスラエルの國を裂て汝よりはなし汝の隣なる汝より善きものにこれをあたへたまふ 29またイスラエルの能力たる者は謊らず悔ず其はかれは人にあらざればくゆることなし 30サウルいひけるは我罪ををかしたれどねがはくはわが民の長老のまへおよびイスラエルのまへにて我をたふとみて我とと

もにかへり我をして汝の神ヱホバを拝むことをえさしめよ 31ここにおいてサムエル、サウルにしたがひてかへるしかしてサウル、ヱホバを拝む 32時にサムエルいひけるは汝らわが許にアマレクの王アガグをひききたれとアガグ喜ばしげにサムエルの許にきたりアガグいひけるは死の苦みは必ず過さりぬ 33サムエルいひけるに汝の劍はおほくの婦人を子なき者となせりかくのごとく汝の母は婦人の中の最も子なき者となるべしとサムエル、ギルガルにてヱホバのまへにおいてアガグを斬り 34かくてサムエルはラマにゆきサウルはサウルのギベアにのぼりてその家にいたる 35サムエル其しぬる日までふたたびきたりてサウルをみざりきしかれどもサムエル、サウルのためにかなしめりまたヱホバはサウルをイスラエルの王となせしを悔たまへり

第十六章

1爰にヱホバ、サムエルにいひたまひけるは我すでにサウルを棄てイスラエルに王たらしめざるに汝いつまでかれのために歎くや汝の角に膏油を滿してゆけ我汝をベテレヘム人ヱサイの許につかはさん其は我其子の中にひとりの王を尋ねえたればなり 2サムエルいひけるは我いかで往くことをえんサウル聞て我をころさんヱホバいひたまひけるは汝一犢を携へゆきて言へヱホバに犠牲をささげんために來ると 3しかしてヱサイを犠牲の場によべ我汝が爲すべき事をしめさん我汝に告るところの人に膏をそそぐ可し 4サムエル、ヱホバの語たまひしごとくなしてベテレヘムにいたる邑の長老おそれて之をむかへいひけるは汝平康なる事のためにきたるや 5サムエルいひけるは平康なることのためなり我はヱホバに犠牲をささげんとてきたる汝ら身をきよめて我とともに犠牲の場にきたれと斯てヱサイと其諸子を潔めて犠牲の場によびきたる 6かれらが至れる時サムエル、エリアブを見ておもへらくヱホバの膏そそぐものは必ず此人ならんと 7しかるにヱホバ、サムエルにいひたまひけるは其容貌と身長を觀るなかれ我すでにかれをすてたりわが視るところは人に異なり人は外の貌を見ヱホバは心をみるなり 8ヱサイ、ヘアビナダブをよびてサムエルのまへを過しむサムエルいひけるは此人もまたヱホバ擇みたまはず 9ヱサイ、シヤンマを過しむサムエルいひけるは此人もまたヱホバえらみたまはず 10ヱサイ其七人の子をしてサムエルの前をすぎしむサムエル、ヱサイにいふヱホバ是等をえらみたまはず 11サムエル、ヱサイにいひけるは汝の男子は皆此にをるやヱサイいひけるは尚季子のこれり彼は羊を牧をるなりとサムエル、ヱサイにいひけるは彼を迎へきたらしめよかれが此にいたるまでは我ら食に就かざるべし 12是において人をつかはしてかれをつれきたらしむ其人色赤く目美しくして其貌麗しヱホバいひたまひけるは起てこれにあぶらを沃げ是其人なり 13サムエル膏の角をとりて其兄弟の中にてこれに膏をそそげり此日よりのちヱホバの靈ダビデにのぞむサムエルはたちてラマにゆけり 14かくてヱホバの靈サウルをはなれヱホバより來る惡鬼これを惱せり 15サウルの臣僕これにいひけるは視よ神より來れる惡鬼汝をなやます 16ねがはくはわれらの主汝のまへにつかふる臣僕に命じて善く琴を鼓く者一人を求めしめよ神よりきたれる惡鬼汝に臨む時彼手をもて琴を鼓て汝いゆることをえん 17サウル臣僕にいひけるはわがために巧に鼓琴者をたづねてわがもとにつれきたれ 18時に一人の少者こたへていひけるは我ベテレヘム人ヱサイの子を見しが琴に巧にしてまた豪氣して善くたたかふ辯舌さはやかなる美しき人なりかつヱホバこれとともにいます 19サウルすなはち使者をヱサイにつかはしていひけるは羊をかふ汝の子ダビデをわがもとに遣はせと 20ヱサイすなはち驢馬にパンを負せ一嚢の酒と山羊の羔を執りてこれを其子ダビデの手によりてサウルにおくれり 21ダビデ、サウルの許にいたりて其まへに事ふサウル大にこれを愛し其武器を執る者となす 22サウル人をヱサイにつかはしていひけるはねがはくはダビデをしてわが前に事へしめよ彼はわが心にかなへりと 23神より出たる惡鬼サウルに臨めるときダビデ琴を執り手をもてこれを弾にサウル慰さみて愈え惡鬼かれをはなる

第十七章

1爰にペリシテ人其軍を集めて戰はんとしユダに屬するシヨコにあつまりシヨコとアゼカの間なるバスダミムに陣をとる 2サウルとイスラエルの人々集まりてエラの谷に陣をとりペリシテ人にむかひて軍の陣列をたつ 3ペリシテ人は此方の山にたちイスラエルは彼方の山にたつ谷は其あひだにあり 4時にペリシテ人の陣よりガテのゴリアテと名くる挑戰者いできたる其身の長六キユビト半 5首に銅の盔を戴き身に鱗綴の鎧甲を着たり其よろ

ひの銅のおもさは五千シケルなり 6 また脛には銅の脛
當を着け肩の間に銅の矛戟を負ふ 7 其槍の柄は機の梁の
ごとく槍の鋒刃の鐵は六百シケルなり楯を執る者其前に
ゆく 8 ゴリアテ立てイスラエルの諸行伍によばはり云け
るは汝らはなんぞ陣列をなして出きたるや我はペリシテ
人にして汝らはサウルの臣下にあらずや汝ら一人をえら
みて我ところにくだせ 9 其人もし我とたたかひて我をこ
ろすことをえば我ら汝らの臣僕とならんされど若し我か
ちてこれを殺さば汝ら我らの僕となりて我らに事ふ可し
10 かくて此ペリシテ人いひけるは我今日イスラエルの
諸行伍を挑む一人をいだして我と戰はしめよと 11 サウル
およびイスラエルみなペリシテ人のこの言を聞き驚きて
大に懼れたり 12 抑ダビデはかのベテレヘムユダのエフ
ラタ人ヱサイとなづくる者の子なり此人八人の子ありし
がサウルの世には年邁みてすでに老たり 13 ヱサイの長子
三人ゆきてサウルにしたがひて戰爭にいづ其戰にいでし
三人の子の名は長をエリアブといひ次をアビナダブとい
ひ第三をシヤンマといふ 14 ダビデは季子にして其兄三人
はサウルにしたがへり 15 ダビデはサウルに往來してベテ
レヘムにて其父の羊を牧ふ 16 彼ペリシテ人四十日のあひ
だ朝夕近づきて前にたてり 17 時にヱサイ其子ダビデにい
ひけるは今汝の兄のために此烘麥一斗と此十のパンを取
りて陣營にをる兄のところにいそぎゆけ 18 また此十の
乾酪をとりて其千夫の長におくり兄の安否を視て其 返
事をもちきたれと 19 サウルと彼等およびイスラエルの人
は皆ペリシテ人とたたかひてエラの谷にありき 20 ダビデ
朝夙くおきて羊をひとりの牧者にあづけヱサイの命ぜし
ごとく携へゆきて車 營にいたるに軍勢いでて行伍をな
し鯨波をあげたり 21 しかしてイスラエルとペリシテ人
陣列をたてて行伍を行伍に相むかはせたり 22 ダビデ其荷
をおろして荷をまもる者の手にわたし行伍の中にはせゆ
きて兄の安否を問ふ 23 ダビデ彼等と倶に語れる時視よペ
リシテ人の行伍よりガテのペリシテのゴリアテとなづく
る彼の挑 戰 者のぼりきたり前のことばのごとく言し
かばダビデ之を聞けり 24 イスラエルの人其人を見て皆逃
て之をはなれ痛く懼れたり 25 イスラエルの人いひけるは
汝らこののぼり來る人を見しや誠にイスラエルを挑んと
て上りきたるなり彼をころす人は王 大なる富を以てこれ
をとまし其女子をこれにあたへて其父の家にはイスラエ
ルの中にて租稅をまぬかれしめん 26 ダビデ其 傍 にたて
る人々にかたりていひけるは此ペリシテ人をころしイス
ラエルの恥辱を雪ぐ人には如何なることをなすや此割禮
なきペリシテ人は誰なればか活る神の軍を搦む 27 民まへ
のごとく答へていひけるはかれを殺す人には斯のごとく
せらるべしと 28 兄エリアブ、ダビデが人々とかたるを聞
しかばエリアブ、ダビデにむかひて怒りを發しいひける
は汝なにのために此に下りしや彼の野にあるわづかの羊
を誰にあづけしや我 汝の傲慢と惡き心を知る其は 汝
戰爭を見んとて下ればなり 29 ダビデいひけるは我今なに
をなしたるや只一言にあらずやと 30 又ふりむきて他の人
にむかひ前のごとく語れるに民まへのごとく答たり 31
人々ダビデが語れる言をききてこれをサウルのまへにつ
げければサウルかれを召す 32 ダビデ、サウルにいひける
は人々かれがために氣をおとすべからず僕ゆきてかのペ
リシテ人とたたかはん 33 サウル、ダビデにいひけるは 汝
はかのペリシテ人をむかへてたたかふに勝ず其は汝は
少年なるにかれは若き時よりの戰 士なればなり 34 ダビ
デ、サウルにいひけるは僕さきに父の羊を牧るに獅子と
熊と來りて其群の羔を取たれば 35 其後をおひて之を搏ち
羔 を其口より援ひいだせりしかして其 獸 我に猛りかか
りたれば其鬚をとらへてこれを擊ちころせり 36 僕は既に
獅子と熊とを殺せり此割禮なきペリシテ人活る神の軍を
いどみたれば亦かの獸の一のごとくなるべし 37 ダビデま
たいひけるはヱホバ我を獅子の爪と熊の爪より援ひいだ
したまひたれば此ペリシテ人の手よりも援ひいだしたま
はんとサウル、ダビデにいふ往けねがはくはヱホバ汝と
ともにいませ 38 是においてサウルおのれの戎 衣をダビ
デに衣せ 銅 の盔を其 首にかむらせ亦鱗 綴の鎧をこれに
きせたり 39 ダビデ戎 衣のうへに劍を佩て往かんことを
試 む未だ驗せしことなければなりしかしてダビデ、サウ
ルにいひけるは我いまだ驗せしことなければ是を衣ては
往くあたはずと 40 ダビデこれを脱ぎすて手に杖をとり
谿間より五の光滑なる石を拾ひて之を其持てる牧羊者の
具なる袋に容れ手に投石索を執りて彼ペリシテ人にちか
づく 41 ペリシテ人進みきてダビデに近づけり楯を執るも
の其まへにあり 42 ペリシテ人環視てダビデを見て之を
藐視る其は少くして赤くまた美しき貌なればなり 43 ペリ
シテ人ダビデにいひけるは汝 杖を持てきたる我豈犬なら
んやとペリシテ人其神の名をもってダビデを呪詛ふ 44 し
かしてペリシテ人ダビデにいひけるは我がもとに來れ汝

の肉を空の鳥と野の獣にあたへんと 45ダビデ、ペリシテ人にいひけるは汝は劍と槍と矛戟をもて我にきたる然ど我は萬軍のヱホバの名すなはち汝が搦みたるイスラエルの軍の神の名をもて汝にゆく 46今日ヱホバ汝をわが手に付したまはんわれ汝をうちて汝の首級を取りペリシテ人の軍勢の尸體を今日空の鳥と地の野獣にあたへて全地をしてイスラエルに神あることをしらしめん 47且又この群衆みなヱホバは救ふに劍と槍を用ひたまはざることをしるにいたらん其は戰はヱホバによれば汝らを我らの手にわたしたまはんと 48ペリシテ人すなはち立あがり進みちかづきてダビデをむかへしかばダビデいそぎ陣にはせゆきてペリシテ人をむかふ 49ダビデ手を嚢にいれて其中より一つの石をとり投てペリシテ人の顙を撃ければ石其顙に突きいりて俯伏に地にたふれたり 50かくダビデ投石索と石をもてペリシテ人にかちペリシテ人をうちて之をころせり然どダビデの手には劍なかりしかば 51ダビデはしりてペリシテ人の上にのり其劍を取て之を鞘より抜きはなしこれをもて彼をころし其首級を斬りたり爰にペリシテの人々其勇士の死るを見てにげしかば 52イスラエルとユダの人おこり喊呼をあげてペリシテ人をおひガテの入口およびエクロンの門にいたるペリシテ人の負傷人シヤライムの路に仆れてガテおよびエクロンにおよぶ 53イスラエルの子孫ペリシテ人をおふてかへり其陣を掠む 54ダビデかのペリシテ人の首を取りて之をエルサレムにたづさへきたりしが其甲冑はおのれの天幕におけり 55サウル、ダビデがペリシテ人にむかひて出るを見て軍長アブネルにいひけるはアブネル此少者はたれの子なるやアブネルいひけるは王汝の霊魂は生くわれしらざるなり 56王いひけるはこの少年はたれの子なるかを尋ねよ 57ダビデかのペリシテ人を殺してかへれる時アブネルこれをひきて其ペリシテ人の首級を手にもてるままサウルのまへにつれゆきければ 58サウルかれにいひけるは若き人よ汝はたれの子なるやダビデこたへけるは汝の僕ベテレヘム人ヱサイの子なり

第十八章

1ダビデ、サウルにかたることを終しときヨナタンの心ダビデの心にむすびつきてヨナタンおのれの命のごとくダビデを愛せり 2此日サウル、ダビデをかかへて父の家にかへらしめず 3ヨナタンおのれの命のごとくダビデを愛せしかばヨナタンとダビデ契約をむすべり 4ヨナタンおのれの衣たる明衣を脱てダビデにあたふ其戎衣および其刀も弓も帯もまたしかせり 5ダビデは凡てサウルが遣はすところにいでゆきて功をあらはしければサウルかれを兵隊の長となせりしかしてダビデ民の心にかなひ又サウルの僕の心にもかなふ 6衆人かへりきたれる時すなはちダビデ、ペリシテ人をころして還れる時婦女イスラエルの邑々よりいできたり鼗と祝歌と磬をもちて歌ひまひつつサウル王を迎ふ 7婦人踊躍つつ相こたへて歌ひけるはサウルは千をうち殺しダビデは萬をうちころすと 8サウル甚だ怒りこの言をよろこばずしていひけるは萬をダビデに歸し千をわれに歸す此上かれにあたふべき者は唯國のみと 9サウルこの日より後ダビデを目がけたり 10次の日神より出たる惡鬼サウルにのぞみてサウル家のなかにて預言したりしかばダビデ故のごとく手をもつて琴をひけり時にサウルの手に投槍ありければ 11サウル我ダビデを壁に刺とほさんといひて其投槍をさしあげしがダビデ二度身をかはしてサウルをさけたり 12ヱホバ、サウルをはなれてダビデと共にいますによりてサウル彼をおそれたり 13是故にサウル彼を遠ざけて千夫長となせりダビデすなはち民のまへに出入す 14またダビデすべて其ゆくところにて功をあらはし且ヱホバかれとともにいませり 15サウル、ダビデが大に功をあらはすをみてこれを恐れたり 16しかれどもイスラエルとユダの人はみなダビデを愛せり彼が其前に出入するによりてなり 17サウル、ダビデにいひけるはわれわが長女メラブを汝に妻さん汝ただわがために勇みヱホバの軍に戰ふべしと其はサウルわが手にてかれを殺さでペリシテ人の手にてころさんとおもひたればなり 18ダビデ、サウルにいひけるは我は誰ぞわが命はなんぞわが父の家はイスラエルにおいて何なる者ぞや我いかでか王の婿となるべけんと 19然るにサウルの女子メラブはダビデに嫁ぐべき時におよびてメホラ人アデリエルに妻されたり 20サウルの女ミカル、ダビデを愛す人これを王に告ければサウル其事を善しとせり 21サウルいひけるは我ミカルをかれにあたへて彼を謀る手段となしペリシテ人の手にてかれを殺さんといひてサウル、ダビデにいひけるは汝今日ふたたびわが婿となるべし 22かくてサウル其僕に命じけるは汝ら密にダビデにかたりて言へ視よ王汝を悦び王の僕みな汝を愛すされば汝王の婿となるべしと 23サウルの僕此言をダビデの耳

に語りしかばダビデいひけるは王の婿となること汝らの目には易き事とみゆるや且われは貧しく賤しき者なりと 24サウルの僕サウルにつげてダビデ是の如くかたれりといへり 25サウルいひけるはなんぢらかくダビデにいへ王は聘禮を望まずただペリシテ人の陽皮一百をえて王の仇をむくいんことを望むと是はサウル、ダビデをペリシテ人の手に殞沒しめんとおもへるなり 26サウルの僕此言をダビデにつげしかばダビデは王の婿となることを善とせり斯て其時いまだ滿ざるあひだに 27ダビデ起て其從者とともにゆきペリシテ人二百人をころして其陽皮をたづさへきたり之を悉く王にささげて王の婿とならんとすサウル乃はち其女ミカルをダビデに妻せたり 28サウル見てヱホバのダビデとともにいますを知りぬまたサウルの女ミカルはダビデを愛せり 29サウルさらにますますダビデを恐れサウル一生のあひだダビデの敵となれり 30爰にペリシテ人の諸伯攻きたりしがダビデかれらが攻めきたるごとにサウルの諸の臣僕よりは多の功をたてしかば其名はなはだ尊まる

第十九章

1サウル其子ヨナタンおよび諸の臣僕にダビデをころさんとすることを語れり 2されどサウルの子ヨナタン深くダビデを愛せしかばヨナタン、ダビデにつげていひけるはわが父サウル汝をころさんことを求むこのゆゑに今ねがはくは汝翌朝謹恪で潜みをりて身を隱せ 3我いでゆきて汝がをる野にてわが父の傍にたちわが父とともに汝の事を談はんしかして我其事の如何なるを見て汝に告ぐべし 4ヨナタン其父サウルに向ひダビデを褒揚ていひけるは願くは王其僕ダビデにむかひて罪ををかすなかれ彼は汝に罪ををかさずまた彼が汝になす行爲ははなはだ善し 5またかれは生命をかけてかのペリシテ人をころしたりしかしてヱホバ、イスラエルの人々のためにおほいなる救をほどこしたまふ汝見てよろこべりしかるに何ぞゆゑなくしてダビデをころし無辜者の血をながして罪ををかさんとするや 6サウル、ヨナタンの言を聽いれサウル誓ひけるはヱホバはいくわれかならずかれをころさじ 7ヨナタン、ダビデをよびてヨナタン其事をみなダビデにつげ遂にダビデをサウルの許につれきたりければダビデさきのごとくサウルの前にをる 8爰に再び戰爭おこりぬダビデすなはちいでてペリシテ人とたたかひ大にかれらを殺せしかばかれら其まへを逃げされり 9サウル手に投槍を執て室に坐する時ヱホバより出たる惡鬼これにのりうつれり其時ダビデ乃ち手をもて琴を弾く 10サウル投槍をもてダビデを壁に刺とほさんとしたりしがダビデ、サウルのまへを避ければ投槍を壁に衝たてたりダビデ其夜逃さりぬ 11サウル使者をダビデの家につかはしてかれを守らしめ朝におよびてかれをころさしめんとすダビデの妻ミカル、ダビデにつげていひけるは若し今夜爾の命を援ずば明朝汝は殺されんと 12ミカル即ち牖よりダビデを縋おろしければ往て逃されり 13斯てミカル像をとりて其牀に置き山羊の毛の編物を其頭におき衣服をもて之をおほへり 14サウル、ダビデを執ふる使者をつかはしければミカルいふかれは疾ありと 15サウル使者をつかはしダビデを見させんとていひけるはかれを牀のまま我にたづさきたれ我これをころさん 16使者いりて見たるに牀には像ありて其頭に山羊の毛の編物ありき 17サウル、ミカルにいひけるはなんぞかく我をあざむきてわが敵を逃しやりしやミカル、サウルにこたへけるは彼我にいへり我をはなちてさらしめよ然らずば我汝をころさんと 18ダビデにげさりてラマにゆきサムエルの許にいたりてサウルがおのれになせしことをことごとくつげたりしかしてダビデとサムエルはゆきてナヨテにすめり 19サウルに告る者ありていふ視よダビデはラマのナヨテにをると 20サウル乃ちダビデを執ふる使者をつかはせしが彼等預言者の一群の預言しをりてサムエルが其中の長となりて立てるを見るにおよび神の霊サウルの使者にのぞみて彼等もまた預言せり 21人々これを告ければサウル他の使者を遣しけるにかれらも亦預言せしかばサウルまた三度使者を遣はしけるが彼等もまた預言せり 22是においてサウルもまたラマにゆきけるがセクの大井にいたれる時問ていひけるはサムエルとダビデは何處にをるや答ていふラマのナヨテにをる 23サウルかしこにゆきてラマのナヨテに至りけるに神の霊また彼にのぞみて彼ラマのナヨテにいたるまで歩きつつ預言せり 24彼もまた其衣服をぬぎすて同くサムエルのまへに預言し其一日一夜裸體にて仆臥たり是故に人々サウルもまた預言者のうちにあるかといふ

第二十章

1ダビデ、ラマのナヨテより逃きたりてヨナタンにいひけるは我何をなし何のあしき事あり汝の父のまへに何の罪

を得てか彼わが命を求むる 2ヨナタンかれにいひけるは
汝 決て殺さるることあらじ視よわが父は事の大なるも
小なるも我につげずしてなすことなしわが父なんぞこの
事を我にかくさんやこの事しからず 3ダビデまた誓ひて
いひけるは汝の父必ずわが汝のまへに恩恵をうるを知る
是をもてかれ思へらく恐らくはヨナタン悲むべければこ
の事をかれにしらしむべからずとしかれどもヱホバはい
くまたなんぢの霊魂はいくわれは死をさること只一歩の
み 4ヨナタン、ダビデにいひけるはなんぢの心なにをね
がふか我爾のために之をなさんと 5ダビデ、ヨナタンに
いひけるは明日は月朔なれば我王とともに食につかざる
べからず然ども我をゆるして去らしめ三日の晩まで野に
隠ることをえさしめよ 6若汝の父まことに我をもとめ
なば其時言へダビデ切に其邑ベテレヘムにはせゆかんこ
とを我に請り其は彼處に全家の歳祭あればなりと 7彼も
し善しといはば僕やすからんされど彼もし甚しく怒ら
ば彼の害をくはへんと決しを知れ 8汝ヱホバのまへに僕
と契約をむすびたれば願くは僕に恩をほどこせ然ど若我
に悪き事あらば汝自ら我をころせ何ぞ我を汝の父に引
ゆくべけんや 9ヨナタンいひけるは斯る事かならず汝に
あらざれ我わが父の害を汝にくはへんと決るをしらば必
ず之を汝につげん 10ダビデ、ヨナタンにいひけるは若し
汝の父荒々しく汝にこたふる時は誰か其事を我に告ぐべ
きや 11ヨナタン、ダビデにいひけるは來れ我ら野にいで
ゆかんと倶に野にいでゆけり 12しかしてヨナタン、ダビ
デにいひけるはイスラエルの神ヱホバよ明日か明後日の
今ごろ我わが父を窺ひて事のダビデのために善きを見な
がら人を汝に遣はして告しらさずばヱホバ、ヨナタンに
斯なしまた重て斯くなしたまへ 13されど若しわが父汝に
害をくはへんと欲せば我これを告げしらせて汝をにがし
汝を安らかにさらしめん願くはヱホバわが父とともに坐
せしごとく汝とともにいませ 14汝只わが生るあひだヱホ
バの恩を我にしめして死ざらしむるのみならず 15ヱホバ
がダビデの敵を悉く地の表より絶ちさりたまふ時にも
また汝わが家を永く汝の恩にはなれしむるなかれ 16かく
ヨナタン、ダビデの家と契約をむすぶヱホバ之に關てダ
ビデの敵を討したまへり 17しかしてヨナタンふたたびダ
ビデに誓はしむかれを愛すればなり即ちおのれの生命を
愛するごとく彼を愛せり 18またヨナタン、ダビデにいひ
けるは明日は月朔なるが汝の座空かるべければ汝 求め
らるべし 19汝三日とどまりて速かに下り嘗てかの事の日
に隠れたるところに至りてエゼルの石の傍に居るべし
20我的を射るごとくして其石の側に三本の矢をはなたん
21しかしてゆきて矢をたづねよといひて僮子をつかはす
べし我もし故に僮子に視よ矢は汝の此旁にあり其を取
と曰ばなんぢきたるべしヱホバは生く汝安くして何もな
かるべければなり 22されど若し我少年に視よ矢は汝の
彼旁にありといはば汝さるべしヱホバ汝をさらしめたま
ふなり 23汝と我とかたれることについては願はくはヱホ
バ恒に汝と我との間にいませと 24ダビデ即ち野にかくれ
ぬ偖月朔になりければ王坐して食に就く 25即ち王は常の
ごとく壁によりて座を占むヨナタン立あがりアブネル、
サウルの側に坐すダビデの座はなむし 26されど其日には
サウル何をも曰ざりき其は何事か彼におこりしならん彼
きよからず定て潔からずと思ひたればなり 27明日すなは
ち月の二日におよびてダビデの座なほ虚しサウル其子ヨ
ナタンにいひけるは何ゆゑにヱサイの子は昨日も今日も
食に來らざるや 28ヨナタン、サウルにこたへけるはダビ
デ切にベテレヘムにゆかんことを我にこひて曰けるは 29
ねがはくは我をゆるしてゆかしめよわが家邑にて祭をな
すによりわが兄我にきたることを命ぜり故に我もし汝の
まへにめぐみをえたるならばねがはくは我をゆるして去
しめ兄弟をみることを得さしめよと是故にかれは王の席
に來らざるなり 30サウル、ヨナタンにむかひて怒りを發
しかれにいひけるは汝は曲り且悖れる婦の子なり我あに
汝がヱサイの子を簡みて汝の身をはづかしめまた汝の母
の膚を辱しむることを知ざらんや 31ヱサイの子の此世に
ながらふるあひだは汝と汝の位固くたつを得ず是故に今
人をつかはして彼をわが許に引きたれ彼は死ぬべき者な
り 32ヨナタン父サウルに對へていひけるは彼なににより
て殺さるべきか何をなしたるやと 33ここにおいてサウ
ル、ヨナタンを撃んとて投槍をさしあげたりヨナタンす
なはち其父のダビデを殺さんと決しをしれり 34かくてヨ
ナタン烈しく怒りて席を立ち月の二日には食をなさざり
き其は其父のダビデをはづかしめしによりてダビデのた
めに憂へたればなり 35翌朝ヨナタン一小童子を從がへ
ダビデと約せし時刻に野にいでゆき 36童にいひけるは走
りて我はなつ矢をたづねよと童子はしる時ヨナタン矢を
彼のさきに發てり 37童子がヨナタンの發ちたる矢のとこ
ろにいたれる時ヨナタン童子のうしろに呼はりていふ矢

は汝のさきにあるにあらずや 38ヨナタンまた童子のうしろによばはりていひけるは速かにせよ急げ止まるなかれとヨナタンの童子矢をひろひあつめて其主人のもとにかへる 39されど童子は何をも知ざりき只ヨナタンとダビデ其事をしりたるのみ 40かくてヨナタン其武器を童子に授ていひけるは往けこれを邑に携へよと 41童子すなはち往けり時にダビデ石の傍より立ちあがり地にふして三たび拝せりしかしてふたり互に接吻してたがひに哭くダビデ殊にはなはだし 42ヨナタン、ダビデにいひけるは安じて往け我ら二人ともにヱホバの名に誓ひて願くはヱホバ恒に我と汝のあひだに坐し我が子孫と汝の子孫のあひだにいませといへりとダビデすなはちたちて去るヨナタン邑にいりぬ

第二十一章

1ダビデ、ノブにゆきて祭司アヒメレクにいたるアヒメレク懼れてダビデを迎へこれにいひけるは汝なんぞ獨にして誰も汝とともならざるや 2ダビデ祭司アヒメレクにいふ王我に一の事を命じて我にいふ我が汝を遣はすところの事およびわが汝に命じたる所については何をも人にしらするなかれと我某 處に我少者を出おけり 3いま何か汝の手にあるや我手に五のパンか或はなににてもある所を與よ 4祭司ダビデに對ていひけるは常のパンはわが手になしされど若し少者婦女をだに愼みてありしならば聖きパンあるなりと 5ダビデ祭司に對へていひけるは實にわがいでしより此三日は婦女われらにちかづかず且少者等の器は潔し又パンは常の物のごとし今日器に潔きパンあれば殊に然と 6祭司かれに聖きパンを與たり其はかしこに供前のパンの外はパン无りければなり即ち其パンは下る日に熱きパンをささげんとて之をヱホバのまへより取されるなり 7其日かしこにサウルの僕一人留められてヱホバのまへにあり其名をドエグといふエドミ人にしてサウルの牧者の長なり 8ダビデまたアヒメレクにいふ此に汝の手に槍か劍あらぬか王の事急なるによりて我は刀も武器も携へざりしと 9祭司いひけるは汝がエラの谷にて殺したるペリシテ人ゴリアテの劍布に裹みてエポデの後にあり汝もし之をとらんとおもはば取れ此にはほかの劍なしダビデいひけるはそれにまさるものなし我にあたへよと 10ダビデ其日サウルをおそれて立てガテの王アキシのところに逃げゆきぬ 11アキシの臣僕アキシに曰けるは此は其地の王ダビデにあらずや人々舞踏のうちにこの人のことを歌ひあひてサウルは千をうちころしダビデは萬をうちころすといひしにあらずや 12ダビデこの言を心に蔵め深くガテの王アキシをおそれ 13人々のまへに佯て其氣を變じ執はれて狂人のさまをなし門の扉に書き其涎沫を鬚にながれくだらしむ 14アキシ僕に云けるは汝らの見るごとく此人は狂人なり何ぞかれを我にひき來るや 15我なんぞ狂人を須ひんや汝ら此者を引きたりてわがまへに狂しめんとするや此者なんぞ吾が家にいるべけんや

第二十二章

1是故にダビデ其處をいでたちてアドラムの洞穴にのがる其兄弟および父の家みな聞きおよびて彼處にくだり彼の許に至る 2また惱める人負債者心に嫌ぬ者皆かれの許にあつまりて彼其長となれりかれとともにある者はおよそ四百人なり 3ダビデ其處よりモアブのミヅパにいたりモアブの王にいひけるは神の我をいかがなしたまふかを知るまでねがはくはわが父母をして出て汝らとともにをらしめよと 4遂にかれらをモアブの王のまへにつれきたるかれらはダビデが要害にをる間王とともにありき 5預言者ガデ、ダビデに云けるは要害に住るなかれゆきてユダの地にいたれとダビデゆきてハレテの叢林にいたる 6爰にサウル、ダビデおよびかれとともなる人々の見露されしを聞けり時にサウルはギベアにあり手に槍を執て岡巒の柳の樹の下にをり臣僕ども皆其傍にたてり 7サウル側にたてる僕にいひけるは汝らベニヤミン人聞けよヱサイの子汝らおのおのに田と葡萄園をあたへ汝らおのおのを千夫長百夫長となすことあらんや 8汝ら皆我に敵して謀り一人もわが子のヱサイの子と契約を結びしを我につげしらする者なしまた汝ら一人もわがために憂へずわが子が今日のごとくわが僕をはげまして道に伏て我をおそはしめんとするを我につげしらす者なし 9時にエドミ人ドエグ、サウルの僕の中にたち居りしが答へていひけるは我ヱサイの子のノブにゆきてアヒトブの子アヒメレクに至るを見しが 10アヒメレクかれのためにヱホバに問ひまたかれに食物をあたへペリシテ人ゴリアテの劍をあたへたりと 11王すなはち人をつかはしてアヒトブの子祭司アヒメレクなよびその父の家すなはちノブの祭司たる人々を召したればみな王の許にきたる 12サウル

いひけるは汝アヒトブの子聽よ答へけるは主よ我ここにあり 13サウルかれにいふ汝なんぞヱサイの子とともに我に敵して謀り汝かれにパンと劍をあたへ彼が爲に神に問ひかれをして今日のごとく道に伏て我をおそはしめんとするや 14アヒメレク王にこたへていひけるは汝の臣僕のうち誰かダビデのごとく忠義なる彼は王の婿にして親しく汝に見ゆるもの汝の家に尊まるる者にあらずや 15我其時かれのために神に問ことを始めしや決てしからずねがはくは王 僕およびわが父の全家に何をも歸するなかれ其は僕この事については多少をいはず何をもしらざればなり 16王いひけるはアヒメレク汝 必ず死ぬべし汝の父の全家もしかりと 17王 旁 にたてる前驅の人々にいひけるは身をひるがへしてヱホバの祭司を殺せかれらもダビデと力を合するが故またかれらダビデの逃たるをしりて我に告ざりし故なりと然ど王の僕 手をいだしてヱホバの祭司を擊ことを好まざれば 18王ドエグにいふ汝 身をひるがへして祭司をころせとエドミ人ドエグ乃ち身をひるがへして祭司をうち其日布のエポデを衣たる者八十五人をころせり 19かれまた刃を以て祭司の邑ノブを擊ち刃をもて男 女 童稚嬰孩牛驢馬 羊を殺せり 20アヒトブの子アヒメレクの一人の子アビヤタルとなづくる者逃れてダビデにはしり從がふ 21アビヤタル、サウルがヱホバの祭司を殺したることをダビデに告しかば 22ダビデ、アビヤタルにいふかの日エドミ人ドエグ彼處にをりしかば我かれが必らずサウルにつげんことを知れり我 汝の父の家の人々の生命を喪へる源由となれり 23汝 我とともに居れ懼るるなかれわが生命を求むる者 汝の生命をも求むるなり 汝我とともにあらば安全なるべし

第二十三章

1人々ダビデにつげていひけるは視よペリシテ人ケイラを攻め穀場を掠むと 2ダビデ、ヱホバに問ていひけるは我ゆきて是のペリシテ人を擊つべきかとヱホバ、ダビデにいひたまひけるは往てペリシテ人をうちてケイラを救へ 3ダビデの從者かれにいひけるは視よわれら此にユダにあるすら尚ほおそる況やケイラにゆきてペリシテ人の軍にあたるをやと 4ダビデふたたびヱホバに問ひけるにヱホバ答ていひたまひけるは起てケイラにくだれ我ペリシテ人を汝の手にわたすべし 5ダビデとその從者ケイラにゆきてペリシテ人とたたかひ彼らの家畜を奪ひとり大にかれらをうちころせりかくダビデ、ケイラの居民をすくふ 6アヒメレクの子アビヤタル、ケイラにのがれてダビデにいたれる時其手にエポデを執てくだれり 7爰にダビデのケイラに至れる事サウルに聞えければサウルいふ神かれを我手にわたしたまへり其はかれ門あり關ある邑にいりたれば閉こめらるればなり 8サウルすなはち民をことごとく軍によびあつめてケイラにくだりてダビデと其從者を圍んとす 9ダビデはサウルのおのれを害せんと謀るを知りて祭司アビヤタルにいひけるはエポデを持ちきたれと 10しかしてダビデいひけるはイスラエルの神ヱホバよ僕たしかにサウルがケイラにきたりてわがために此邑をほろぼさんと求むるを聞り 11ケイラの人々我をかれの手にわたすならんか僕のきけるごとくサウル下るならんかイスラエルの神ヱホバよ請ふ僕につげたまへとヱホバいひたまひけるは彼下るべしと 12ダビデいひけるはケイラの人々われとわが從者をサウルの手にわたすならんかヱホバいひたまひけるは彼らわたすべし 13是においてダビデと其六百人ばかりの從者起てケイラをいで其ゆきうる所にゆけりダビデのケイラをにげはなれしことサウルに聞えければサウルいづることを止たり 14ダビデは曠野にをり要害の地にをりまたジフの野にある山に居るサウル恒にかれを尋ねたれども神かれを其手にわたしたまはざりき 15ダビデ、サウルがおのれの生命を求めんために出たるを見る時にダビデはジフの野の叢林にをりしが 16サウルの子ヨナタンたちて叢林にいりてダビデにいたり神によりて其 力を強うせしめたり 17即ちヨナタンかれにいひけるに懼るるなかれわが父サウルの手 汝にとどくことあらじ汝はイスラエルの王とならん我は汝の次なるべし此事はわが父サウルもしれりと 18かくて彼ら二人ヱホバのまへに契約をむすびダビデは叢林にとどまりヨナタンは其家にかへれり 19時にジフ人ギベアにのぼりサウルの許にいたりていひけるはダビデは曠野の南にあるハキラの山の叢林の中なる要害に隱れて我らとともにをるにあらずや 20今王 汝のくだらんとする望のごとく下りたまへ我らはかれを王の手にわたさんと 21サウルいひけるは汝ら我をあはれめば願くは汝等ヱホバより福祉をえよ 22請ふゆきて尚ほ心を用ひ彼の踪跡ある處と誰がかれを見たるかを見きはめよ其は人我にかれが甚だ機巧く事を爲すを告たれば也 23されば汝ら彼が隱るる逃躲處を皆たしかに見きはめて再び我にきたれ我 汝らとともにゆか

ん彼もし其地にあらば我ユダの郡中をあまねく尋ねて彼を獲んと 24かれらたちてサウルに先てジフにゆけりダビデと其従者は曠野の南のアラバにあるマオンの野にをる 25斯てサウルと其従者ゆきて彼を尋ぬ人々これをダビデに告ければダビデ巌を下てマオンの野にをるサウル之を聞てマオンの野に至てダビデを追ふ 26サウルは山の此旁に行ダビデと其従者は山の彼旁に行ダビデは周章てサウルの前を避んとしサウルと其従者はダビデと其従者を圍んで之を取んとす 27時に使者サウルに來て言けるはペリシテ人國ををかす急ぎきたりたまへと 28故にサウル、ダビデを追ことを止てかへり往てペリシテ人にあたるここをもて人々その處をセラマレコテ(逃岩)となづく 29ダビデ其處よりのぼりてエンゲデの要害にをる

第二十四章

1サウル、ペリシテ人を追ふことをやめて還りし時人々かれにつげていひけるは視よダビデはエンゲデの野にありと 2サウル、イスラエルの中より選みたる三千の人を率ゐゆきて野羊の巌にダビデと其従者を尋ぬ 3途にて羊の棧にいたるに其處に洞穴ありサウル其足を掩んとていりぬ時にダビデと其従者洞の隅に居たり 4ダビデの從者これにいひけるはヱホバが汝に告て視よ我汝の敵を汝の手にわたし汝をして善と見るところを彼になさしめんといひたまひし日は今なりとダビデすなはち起てひそかにサウルの衣の裾をきれり 5ダビデ、サウルの衣の裾をきりしによりて後ち其心みづから責む 6ダビデ其従者にいひけるはヱホバの膏そそぎし者なるわが主にわが此事をなすをヱホバ禁じたまふかれはヱホバの膏そそぎし者なればかれに敵してわが手をのぶるは善らず 7ダビデ此ことばをもって其従者を止めサウルに撃ちかかる事を容さずサウルたちて洞を出て其道にゆく 8ダビデもまた後よりたちて洞をいでサウルのうしろに呼はりて我主王よといふサウル後をかへりみる時ダビデ地にふして拝す 9ダビデ、サウルにいひけるは汝なんぞダビデ汝を害せん事を求むといふ人の言を聽くや 10視よ今日 汝の目ヱホバの汝を洞のうちにて今日わが手にわたしたまひしことを見たり人々我に汝をころさんことを勸めたれども我 汝を惜めり我いひけらくわが主はヱホバの膏そそぎし者なればこれに敵してわが手をのぶべからずと 11わが父よ視よわが手にある汝の衣の裾を見よわが汝の衣の裾をきりて汝を殺さざるを見ばわが手には惡も罪過もなきことを汝 見て知るべし我 汝に罪ををかせしことなし然るに汝わが生命をとらんとねらふ 12ヱホバ我と汝の間を審きたまはんヱホバわがために汝に報いたまふべし然どわが手は 汝に加へざるべし 13古への諺にいふごとく惡は惡人よりいづされどわが手は汝にくはへざるべし 14イスラエルの王は誰を趕んとて出たるや汝たれを追ふや死たる犬をおひ一の蚤をおふなり 15ねがはくはヱホバ審判者となりて我と汝のあひだをさばきかつ見てわが訟を理し我を 汝の手よりすくひいだしたまはんことを 16ダビデこれらの言をサウルに語りをへしときサウルいひけるはわが子ダビデよ是は汝の聲なるかとサウル聲をあげて哭きぬ 17しかしてダビデにいひけるは汝は我よりも正し我は汝に惡をむくゆるに汝は我に善をむくゆ 18汝 今日いかに汝が我に善くなすかを明かにせりヱホバ我を爾の手にわたしたまひしに爾 我をころさざりしなり 19人もし其敵にあはばこれを安らかに去しむべけんや爾が今日我になしたる事のためにヱホバ爾に善をむくいたまふべし 20視よ我 爾が必ず王とならんことを知りまたイスラエルの王國の爾の手によりて堅くたたんことをしる 21今 爾ヱホバをさして我にわが後にてわが子孫を斷ずわが名をわが父の家に滅せざらんことを誓へと 22ダビデすなはちサウルにちかふ是においてサウルは家にかへりダビデと其従者は要害にのぼれり

第二十五章

1爰にサムエル死にしかばイスラエル人皆あつまりて之をかなしみラマにあるその家にてこれを葬むれりダビデたちてバランの野にくだる 2マオンに一箇の人あり其所有はカルメルにあり其人 甚だ大なる者にして三千の羊と一千の山羊をもちしがカルメルにて羊の毛を剪り居たり 3其人の名はナバルといひ其妻の名はアビガルといふアビガルは賢く顔美き婦なりされど其 夫は剛愎にして其爲すところ惡かりきかれはカレブの人なり 4ダビデ野にありてナバルが其 羊の毛を剪りをるを聞き 5ダビデ十人の少者を遣はすダビデ其少者にいひけるはカルメルにのぼりナバルにいたりわが名をもてかれに安否をとひ 6かくのごとくいへ願くは壽ながかれ爾 平安なれ爾の家やすらかなれ爾が有ところの物みなやすらかなれ 7我 爾が羊 毛を剪せをるを聞り爾の牧羊者は我らとともにありしが我

らこれを害せざりきまたかれらがカルメルにありしあひだかれらの物何も失たることなし 8爾の少者に問へかれら爾につげん願くは少者をして爾のまへに恩をえせしめよ我ら吉日に來る請ふ爾の手にあるところの物を爾の僕らおよび爾の子ダビデにあたへよ 9ダビデの少者いたりダビデの名をもって是らのことばの如くナバルに語りてやめり 10ナバル、ダビデの僕にこたへていひけるはダビデは誰なるヱサイの子は誰なる此頃は主人をすてて遁逃るる僕おほし 11我あにわがパンと水およびわが羊毛をきる者のために殺したる肉をとりて何處よりか知れざるところの人々にあたふべけんや 12ダビデの少者ふりかへりて其道に就き歸りきたりて此等の言のごとくダビデに告ぐ 13是においてダビデ其從者に爾らおのおの劍を帶よといひければ各劍をおぶダビデもまた劍をおぶ而して四百人ばかりダビデにしたがひて上り二百人は輜重のところに止れり 14時にひとりの少者ナバルの妻アビガルに告ていひけるは視よダビデ野より使者をおくりて我らの主人を祝したるに主人かれらを詈れり 15されどかの人々はわれらに甚だ善くなし我らは害をかうむらず亦われら野にありし時かれらとともにをるあひだはなにをも失なはざりき 16我らが羊をかひて彼らとともにありしあひだ彼らは日夜われらの墻となれり 17されば爾今しりてなにをなさんかを考ふべし其はわれらの主人および主人の全家に定めて害きたるべければなり主人は邪魔なる者にして語ることをえずと 18アビガルいそぎパン二百酒の革嚢二既に調へたる羊五烘麥五セア乾葡萄百球乾無花果の團塊二百を取て驢馬にのせ 19其少者にいひけるは我先に進め視よ我爾らの後にゆくと然ど其夫ナバルには告げざりき 20アビガル驢馬にのりて山の僻處にくだれる時視よダビデと其從者かれにむかひてくだりければかれ其人々にあふ 21ダビデかつていひけるは誠にわれ徒に此人の野にて有る物をみなまもりてその物をして何もうせざらしめたりかれは惡をもてわが善にむくゆ 22ねがはくは神ダビデの敵にかくなしまた重ねてかくなしたまへ明晨までに我はナバルに屬する總ての物の中ひとりの男をものこさざるべし 23アビガル、ダビデを視しとき急ぎ驢馬よりおりダビデのまへに地に俯して拝し 24其足もとにふしていひけるはわが主よ此咎を我に歸したまへ但し婢をして爾の耳にいふことを得さしめ婢のことばを聽たまへ 25ねがはくは我主この邪なる人ナバル(愚)の事を意に介むなかれ其はかれは其名の如くなればなりかれの名はナバルにしてかれは愚なりわれなんぢの婢はわが主のつかはせし少ものを見ざりき 26さればわがしゆよヱホバはいくまたなんぢのたましひはいくヱホバなんぢのきたりて血をながしまた爾がみづから仇をむくゆるを阻めたまへりねがはくは爾の敵たるものおよびわが主に害をくはへんとする者はナバルのごとくなれ 27さて仕女がわが主にもちきたりしこの禮物をねがはくはわが主の足迹にあゆむ少者にたてまつらしめたまへ 28請ふ婢の過をゆるしたまへヱホバ必ずわが主のために堅き家を立たまはん是はわが主ヱホバの軍に戰ふにより又世にいでてよりこのかた爾の身に惡きこと見えざるによりてなり 29人たちて爾を追ひ爾の生命を求むれどもわが主の生命は爾の神ヱホバとともに生命の包裏の中に包みあり爾の敵の生命は投石器のうちより投すつる如くヱホバこれをなげすてたまはん 30ヱホバその爾につきて語りたまひし諸の善き事をわが主になして爾をイスラエルの主宰に命じたまはん時にいたりて 31爾の故なくして血をながしたることも又わが主のみづから其仇をむくいし事も爾の憂となることなくまたわが主の心の責となることなかるべし但しヱホバのわが主に善くなしたまふ時にいたらばねがはくは婢を憶たまへ 32ダビデ、アビガルにいふ今日 汝をつかはして我をむかへしめたまふイスラエルの神ヱホバは頌美べきかな 33また汝の智慧はほむべきかな又 汝はほむべきかな汝 今日わがきたりて血をながし自ら仇をむくゆるを止めたり 34わが汝を害するを阻めたまひしイスラエルの神ヱホバは生く誠にもし汝いそぎて我を來り迎ずば必ず翌朝までにナバルの所にひとりの男ものこらざりしならんと 35ダビデ、アビガルの携へきたりし物を其手より受てかれにいひけるは安かに汝の家にかへりのぼれ視よわれ汝の言をききいれて汝の顔を立たり 36かくてアビガル、ナバルにいたりて視にかれは家に酒宴を設け居たり王の酒宴のごとしナバルの心これがために樂みて甚だしく酔たればアビガル多少をいはず何をも翌朝までかれにつげざりき 37朝にいたりナバルの酒のさめたる時妻かれに是等の事をつげたるに彼の心そのうちに死て其身石のごとくなりぬ 38十日ばかりありてヱホバ、ナバルを撃ちたまひければ死り 39ダビデ、ナバルの死たるを聞ていひけるはヱホバは頌美べきかなヱホバわが蒙むりたる恥辱の訟を理してナバルにむくい僕を

阻めて惡をおこなはざらしめたまふ其はヱホバ、ナバルの惡を其首に歸し賜へばなりと爰にダビデ、アビガルを妻にめとらんとて人を遣はしてこれとかたらはしむ 40ダビデの僕カルメルにをるアビガルの許にいたりてこれにかたりいひけるはダビデ汝を妻にめとらんとて我らを汝に遣はすと 41アビガルたちて地にふして拝しいひけるは視よ婢はわが主の僕等の足を洗ふ仕女なりと 42アビガルいそぎたちて驢馬に乗り五人の侍女とともにダビデの使者にしたがひゆきてダビデの妻となる 43ダビデまたヱズレルのアヒノアムを娶れり彼ら二人ダビデの妻となる 44但しサウルはダビデの妻なりし其女ミカルをガリムの人なるライシの子パルテにあたへたり

第二十六章

1ジフ人ギベアにきたりサウルの許にいたりてひけるはダビデは曠野のまへなるハキラの山にかくれをるにあらずやと 2サウルすなはち起ちジフの野にダビデを尋ねんとイスラエルの中より選みたる三千の人をしたがへてジフの野にくだる 3サウルは曠野のまへなるハキラの山において路のほとりに陣を取るダビデは曠野に居てサウルのおのれをおふて曠野にきたるをさとりければ 4ダビデ斥候を出してサウルの誠に來しをしれり 5ここにおいてダビデたちてサウルの陣をとれるところにいたりサウルおよび其軍の長ネルの子アブネルの寢たるところを見たりすなはちサウルは車營の中に寢ぬ民其まはりに陣をはれり 6ダビデ答へてヘテ人アヒメレクおよびゼルヤの子にしてヨアブの兄弟なるアビシヤイにいひけるは誰か我とともにサウルの陣にくだらんかとアビシヤイいふ我汝とともに下らん 7ダビデとアビシヤイすなはち夜にいりて民の所にいたるに視よサウルは車營のうちに寢臥し其槍地にさして枕邊にありアブネルと民は其まはりに寢たり 8アビシヤイ、ダビデにいひけるは神今日爾の敵を爾の手にわたしたまふ請ふいま我に槍をもてかれを一度地にさしとほさしめよ再びするにおよばじ 9ダビデ、アビシヤイにいふ彼をころすなかれ誰かヱホバの膏そそぎし者に敵して其手をのべて罪なからんや 10ダビデまたいひけるはヱホバは生くヱホバかれを撃たまはんあるひはその死ぬる日來らんあるひは戰ひにくだりて死うせん 11わがヱホバのあぶらそそぎしものに敵して手をのぶることはきはめて善らずヱホバ禁じたまふされどいま請ふ爾そのまくらもとの槍と水の瓶をとれしかして我らさりゆかんと 12ダビデ、サウルの枕邊より槍と水の瓶を取りてかれらさりゆきしが誰も見ず誰もしらず誰も目を醒さざりき其はかれら皆眠り居たればなり即ちヱホバかれらをふかく睡らしめたまふ 13かくてダビデは彼旁にわたりて遥に山の頂にたてり彼と此とのへだたり大なり 14ダビデ民とネルの子アブネルによばはりいひけるはアブネルよ爾こたへざるかアブネルこたへていふ王をよぶ爾はたれなるや 15ダビデ、アブネルにいひけるは爾は勇士ならずやイスラエルの中にて誰か爾に如ものあらんしかるに爾なんぞ爾の主なる王をまもらざるや民のひとり爾の主なる王を殺さんとていりぬ 16爾がなせる此事よからずヱホバは生くなんぢらの罪死にあたれり爾らヱホバの膏そそぎし爾らの主をまもらざればなり今王の槍と王の枕邊にありし水の瓶はいづくにあるかを見よ 17サウル、ダビデの聲をしりていひけるはわが子ダビデよ是は爾の聲なるかダビデいひけるは王わが主よわが聲なり 18ダビデまたいひけるはわが主なにゆゑに斯くその僕をおふや我なにをなせしや何の惡き事わが手にあるや 19王わが主よ請ふいま僕の言を聽きたまへ若しヱホバ爾を我に敵せしめたまふならばねがはくはヱホバ禮物をうけたまへされど若し人ならばねがはくは其人々ヱホバのまへにのろはれよ其は彼等爾ゆきて他の神につかへよといひて今日我を追ひヱホバの產業に連なることをえざらしむるが故なり 20ねがはくは我血をしてヱホバのまへをはなれて地におちしむるなかれそは人の山にて鷓鴣をおふがごとくイスラエルの王一の蚤をたづねにいでたればなり 21サウルいひけるは我罪ををかせりわが子ダビデよ歸れわが生命今日爾の目に寶と見なされたる故により我々かさねて爾に害を加へざるべし嗚呼われ愚なることをなして甚だしく過てり 22ダビデこたへていひけるは王よ槍を視よ請ひとりの少者をしてわたりてこれを取しめよ 23ねがはくはヱホバおのおのに其義と眞實とにしたがひて報いたまへ共はヱホバ今日爾をわが手にわたしたまひしに我ヱホバの受膏者に敵してわが手をのぶることをせざればなり 24爾の生命を今日わがおもんぜしごとくねがはくはヱホバわが生命をおもんじて諸の艱難のうちより我をすくひいだしたまへ 25サウル、ダビデにいひけるはわが子ダビデよ爾はほむべきかな爾大なる事を爲さん亦

かならず勝をえんとしかしてダビデは其道にさりサウルはおのれの所にかへれり

第二十七章

1ダビデ心の中にいひけるは是のごとくば我早晩サウルの手にほろびん速にペリシテ人の地にのがるるにまさることあらず然らばサウルかさねて我をイスラエルの四方の境にたづぬることをやめて我かれの手をのがれんと 2ダビデたちておのれとともな六百人のものとともにわたりてガテの王マオクの子アキシにいたる 3ダビデと其從者ガテにてアキシとともに住ておのおの其家族とともにをるダビデはその二人の妻すなはちヱズレル人アヒノアムとカルメル人ナバルの妻なりしアビガルとともにあり 4ダビデのガテににげしことサウルにきこえければサウルかさねてかれをたづねざりき 5ここにダビデ、アキシにいひけるは我もし爾のまへに恩を得たるならばねがはくは郷里にある邑のうちにて一のところを我にあたへて其處にすむことを得さしめよ僕なんぞ爾とともに王城にすむべけんやと 6アキシ其日チクラグをかれにあたへたり是故にヂクラグは今日にいたるまでユダの王に屬す 7タビデのペリシテ人の國にをりし日數は一年と四箇月なりき 8ダビデ其從者と共にのぼりゲシユル人ゲゼリ人アマレク人を襲ふたり昔より是等はシユルにいたる地にすみてエジプトの地にまでおよべり 9ダビデ其地をうちて男をも女をも生し存さず羊と牛と駱駝と衣服をとりて還りてアキシに至る 10アキシいひけるは爾ら今日何地を襲ひしやダビデいひけるはユダの南とヱラメルの南とケニ人の南ををかせりと 11ダビデ男も女も生存らしめずして一人をもガテにひきゆかざりき其はダビデ恐くは彼らダビデかくなせりといひて我儕の事を告んといひたればなりダビデ、ペリシテ人の地にすめるあひだは其なすところ常にかくのごとくなりき 12アキシ、ダビデを信じていひけるは彼は其民イスラエルをして全くおのれを惡ましむされば永くわが僕となるべし

第二十八章

1其頃ペリシテ人イスラエルと戰はんとて軍のために軍勢を集めたればアキシ、ダビデにいひけるは爾 明かにこれをしれ爾と爾の從者我とともに出て軍にくははるべし 2ダビデ、アキシにいひけるはされば爾 僕のなさんところをしるべしとアキシ、ダビデにさらば我 爾を永く我身をまもる者となさんといへり 3サムエルすでに死たればイスラエルみなこれをかなしみてこれをそのまちラマにはうむれりまたサウルは口寄者と卜筮師を其地よりおひいだせり 4ペリシテ人あつまりきたりてシユネムに陣をとりければサウル、イスラエルを悉くあつめてギルボアに陣をとれり 5サウル、ペリシテ人の軍を見しときおそれて其心大にふるへたり 6サウル、ヱホバに問ひけるにヱホバ對たまはず夢に因てもウリムによりても預言者によりてもこたへたまはず 7サウル僕等にいひけるは口寄の婦を求めよわれそのところにゆきてこれに尋ねんと僕等かれにいひけるは視よエンドルに口寄の婦あり 8サウル形を變へて他の衣服を著二人の人をともなひてゆき彼等夜の間に其婦の所にいたるサウルいひけるは請ふわがために口寄の術をおこなひてわが爾に言ふ人をわれに呼おこせ 9婦かれにいひけるはなんぢサウルのなしたる事すなはち如何にかれが口寄者と卜筮師を國より斷さりたるを知る爾なんぞ我を死しめんとてわが生命を亡す謀計をなすや 10サウル、ヱホバを指てかれに誓ひいひけるはヱホバは生く此事のためになんぢ罪にあふことあらじ 11婦いひけるは誰を我なんぢに呼起すべきかサウルいふサムエルをよびおこせ 12婦サムエルを見て大なる聲にてさけびいだせりしかして婦サウルにいひけるは爾なにゆゑに我を欺きしや爾はすなはちサウルなり 13王かれにいひけるは恐るるなかれ爾なにを見しや婦サウルにいひけるは我神の地よりのぼるを見たり 14サウルかれにいひけるは其形容は如何彼いひけるは一人の老翁のぼる其人明衣を衣たりサウル其人のサムエルなるをしりて地にふして拜せり 15サムエル、サウルにいひけるは爾なんぞ我をよびおこして我をわづらはすやサウルこたへけるは我いたく惱むペリシテ人我にむかひて軍をおこし又神我をはなれて預言者によりても又夢によりてもふたたび我にこたへたまはずこのゆゑに我なすべき事を爾にまなばんとて爾を呼り 16サムエルいひけるはヱホバ爾をはなれて爾の敵となりたまふに爾なんぞ我にとふや 17ヱホバわれをもて語りたまひしことをみづから行ひてヱホバ國を爾の手より割きはなち爾の隣人ダビデにあたへたまふ 18爾ヱホバの言にしたがはず其烈しき怒をアマレクにもらさざりしによりてヱホバ此事を今日爾になしたまふ 19ヱホバ、イスラエルをも爾とともにペリシテ人の手にわたしたまふべし明日爾と爾の子等我とともなるべしまたイ

スラエルの陣營をもヱホバ、ペリシテ人の手にわたしたまはんと 20サウル直ちに地に伸びたふれサムエルの言のために痛くおそれ又其力を失へり其はかれ其一日一夜物食ざりければなり 21かの婦サウルにいたり其痛く慄くを見てこれにいひけるは視よ仕女爾の言をききわが生命をかけて爾が我にいひし言にしたがへり 22されば請ふ爾も仕女の言を聽て我をして一口のパンを爾のまへにそなへしめよしかして爾くらひて途に就く時に力を得よ 23されどサウル否みて我は食はじといひしを其僕および婦強ければ其言をききいれて地より立あがり床のうへに坐せり 24婦の家に肥たる犢ありしかば急ぎて之を殺しまた粉をとり搏て酵いれぬパンを炊き 25サウルのまへと其僕等のまへに持ちきたりければ彼等くらひて立ちあがり其夜のうちにされり

第二十九章

1爰にペリシテ人其軍をことごとくアペクにあつむイスラエルはヱズレルにある泉水の傍に陣をとる 2ペリシテ人の君等あるひは百人或は千人をひきゐて進みダビデと其從者はアキシとともに其後にすすむ 3ペリシテ人の諸伯いひけるは是等のヘブル人は何なるやアキシ、ペリシテ人の諸伯にいひけるは此はイスラエルの王サウルの僕ダビデにあらずやかれ此日ごろ此年ごろ我とともにをりしがその逃げおちし日より今日にいたるまで我かれの身に咎あるを見ずと 4ペリシテ人の諸伯これを怒る即ちペリシテ人の諸伯彼にいひけるは此人をかへらしめて爾が之をおきし其所にふたたびいたらしめよ彼は我らとともに戰ひにくだるべからず然ば彼戰爭においてわれらの敵とならざるべしかれ其主と和がんとせば何をもてすべきやこの人々の首級をもてすべきにあらずや 5是はかつて人々が舞踏の中にて歌ひあひサウルは千をうちころしダビデは萬をうちころすといひたるダビデにあらずや 6アキシ、ダビデをよびてこれにいひけるはヱホバは生くまことになんぢは正し爾の我とともに陣營に出入するはわが目には善と見ゆ其は爾が我に來りし日より今日にいたるまで我爾の身に惡き事あるを見ざればなり然ど諸伯の目には爾よからず 7されば今かへりて安かにゆきペリシテ人の諸伯の目に惡く見ゆることをなすなかれ 8ダビデ、アキシにいひけるは我何をなせしやわが爾のまへに出し日より今日までに爾何を僕の身に見たればか我ゆきてわが主なるわうの敵とたたかふことをえざると 9アキシこたへてダビデにいひけるは我爾のわが目には神の使のごとく善きをしるされどペリシテ人の諸伯かれは我らとともに戰ひにのぼるべからずといへり 10されば爾およびの主の僕の爾とともにきたれる者明朝夙く起よ爾ら朝はやくおきて夜のあくるに及ばばさるべし 11是をもてダビデと其從者ペリシテ人の地にかへらんと朝はやく起てされりしかしてペリシテ人はヱズレルにのぼれり

第三十章

1ダビデと其從者第三日にチクラグにいたるにアマレク人すでに南の地とチクラグを侵したりかれらチクラグを撃ち火をもて之を燬き 2其中に居りし婦女を擄にし老たるをも若きをも一人も殺さずして之をひきて其途におもむけり 3ダビデと其從者邑にいたりて視に邑は火に燬けその妻と男子女子は擄にせられたり 4ダビデおよびこれとともにある民聲をあげて哭き終に哭く力もなきにいたれり 5ダビデのふたりの妻すなはちヱズレル人アヒノアムとカルメル人ナバルの妻なりしアビガルも虜にせられたり 6時にダビデ大に心を苦めたり其は民おのおの其男子女子のために氣をいらだてダビデを石にて撃んといひたればなりされどダビデ其神ヱホバによりておのれをはげませり 7ダビデ、アヒメレクの子祭司アビヤタルにいひけるは請ふエポデを我にもちきたれとアビヤタル、エポデをダビデにもちきたる 8ダビデ、ヱホバに問ていひけるは我此軍の後を追ふべきや我これに追つくことをえんかとヱホバかれにこたへたまはく追ふべし爾かならず追つきてたしかに取もどすことをえん 9ダビデおよびこれとともなる六百人の者ゆきてベソル川にいたれり後にのこれる者はここにとどまる 10即ちダビデ四百人をひきゐて追ゆきしが憊れてベソル川をわたることあたはざる者二百人はとどまれり 11衆人野にて一人のエジプト人を見これをダビデにひききたりてこれに食物をあたへければ食へりまたこれに水をのませたり 12すなはち一段の乾無花果と二球の乾葡萄をこれにあたへたり彼くらひて其氣ふたたび爽かになれりかれは三日三夜物をもくはず水をものまざりしなり 13ダビデかれにいひけるは爾は誰の人なる爾はいづくの者なるやかれいひけるは我はエジプトの少者にて一人のアマレク人の僕なり三日まへに我疾にかかりしゆゑにわが主人我をすてたり 14我らケレテ

人の南とユダの地とカレブの南ををかしまた火をもてチクラグをやけり 15ダビデかれにいひけるは爾我を此軍にみちびきくだるやかれいひけるは爾我をころさずまた我をわが主人の手にわたさざるを神をさして我に誓へ我爾を此軍にみちびきくだらん 16かれダビデをみちびきくだりしが視よ彼等はペリシテ人の地とユダの地より奪ひたる諸の大なる掠取物のためによろこびて飲食し踊りつつ地にあまねく散ひろがりて居る 17ダビデ暮あひより次日の晩にいたるまでかれらを撃しかば駱駝にのりて逃げたる四百人の少者の外は一人ものがれたるもの无りき 18ダビデはすべてアマレク人の奪ひたる物を取りもどせり其二人の妻もダビデとりもどせり 19小きも大なるも男子も女子も掠取物もすべてアマレク人の奪さりし物は一も失はずダビデことごとく取かへせり 20ダビデまた凡の羊と牛をとれり人々この家畜をそのまへに驅きたり是はダビデの掠取物なりといへり 21かくてダビデかの憊れてダビデにしたがひ得ずしてベソル川のほとりに止まりし二百人の者のところにいたるに彼らダビデをいでむかへまたダビデとともなる民をいでむかふダビデかの民にちかづきてその安否をたづぬ 22ダビデとともにゆきし人々の中の惡く邪なる者みなこたへていひけるは彼等は我らとともにゆかざりければ我らこれに取りもどしたる掠取物をわけあたふべからず唯おのおのにその妻子をあたへてこれをみちびきさらしめん 23ダビデ言けるはわが兄弟よヱホバ我らをまもり我らにせめきたりし軍を我らの手にわたしたまひたれば爾らヱホバのわれらにたまひし物をしかするは宜からず 24誰か爾らにかかることをゆるさんや戰ひにくだりし者の取る分のごとく輜重のかたはらに止まりし者の取る分もまた然あるべし共にひとしく取るべし 25この日よりのちダビデこれをイスラエルの法となし例となせり其事今日にいたる 26ダビデ、チクラグにいたりて其掠取物をユダの長老なる其朋友にわかちおくりて曰しめけるは是はヱホバの敵よりとりて爾らにおくる饋物なり 27ベテルにをるもの南のラモテにをるものヤツテルにをる者 28アロエルにをる者シフモテにをるものエシテモにをるもの 29ラカルにをるものヱラメル人の邑にをるものケニ人の邑にをるもの 30ホルマにをるものコラシヤンにをるものアタクにをるもの 31ヘブロンにをるものおよびすべてダビデが其従者とともに毎にゆきし所にこれをわかちおくれり

第三十一章

1ペリシテ人イスラエルと戰ふイスラエルの人々ペリシテ人のまへより逃げ負傷者ギルボア山に斃れたり 2ペリシテ人サウルと其子等に攻よりペリシテ人サウルの子ヨナタン、アビナダブおよびマルキシユアを殺したり 3戰はげしくサウルにせまりて射手の者サウルを射とめければ彼痛く射手の者のために苦しめり 4サウル武器を執る者にいひけるは爾の劍を抜き其をもて我を刺とほせ恐らくは是等の割禮なき者きたりて我を刺し我をはづかしめんと然ども武器をとるもの痛くおそれて肯ぜざればサウル劍をとりて其上に伏したり 5武器を執るものサウルの死たるを見ておのれも劍の上にふしてかれとともに死り 6かくサウルと其三人の子およびサウルの武器をとるもの並に其従者みな此日倶に死り 7イスラエルの人々の谷の對向にをるもの及びヨルダンの對面にをるものイスラエルの人々の逃るを見サウルと其子等の死るをみて諸邑を棄て逃ければペリシテ人きたりて其中にをる 8明日ペリシテ人戰没せる者を剥んとてきたりサウルと其三人の子のギルボア山にたふれをるを見たり 9彼等すなはちサウルの首を斬り其鎧甲をはぎとりペリシテ人の地の四方につかはして此好報を其偶像の家および民の中につげしむ 10またかれら其鎧甲をアシタロテの家におき其體をベテシヤンの城垣に釘けたり 11ヤベシギレアデの人々ペリシテ人のサウルになしたる事を聞きしかば 12勇士みなおこり終夜ゆきてサウルの體と其子等の體をベテシヤンの城垣よりとりおろしヤベシにいたりて之を其處に焚き 13其骨をとりてヤベシの柳樹の下にはうむり七日のあひだ斷食せり

サムエル後書

第一章

1サウルの死し後ダビデ、アマレク人を撃てかへりチクラグに二日とどまりけるが 2第三日に及びて一個の人其 衣を裂き頭に土をかむりて陣營より即ちサウルの所より來りダビデの許にいたり地にふして拝せり 3ダビデかれにいひけるは汝いづくより來れるやかれダビデにいひけるはイスラエルの陣營より逃れきたれり 4ダビデかれにいひけるは事いかん請ふ我につげよかれこたへけるは民戰 に敗れて逃げ民おほく仆れて死りまたサウルと其子ヨナタンも死り 5ダビデ其おのれにつぐる少 者にいひけるは汝いかにしてサウルと其子ヨナタンの死たるをしるや 6ダビデにつぐる少 者いひけるは我はからずもギルボア山にのぼり見しにサウル其槍に倚かかりをりて戰 車と騎兵かれにせめよらんとせり 7彼うしろにふりむきて我を見我をよびたれば我こたへて我ここにありといふ 8かれ我に汝は誰なるやといひければ我かれにこたへて我はアマレク人なりといふ 9かれまた我にいひけるはわが身いたく攣ば請ふ我うへにのりて我をころせわが生命なほわれの中にまつたければなりと 10我すなはちかれの上にのりてかれを殺したり其は我かれが既に仆て生ることをえざるをしりたればなりしかして我その首にありし冕 とその腕にありし釧を取りてこれをわが主に携へきたれり 11是においてダビデおのれの衣を執てこれを裂けりまた彼とともにある者も皆しかせり 12彼等サウルのためまた其子ヨナタンのためまたヱホバの民のためイスラエルの家のために哭きかなしみて晩まで食を斷り其は彼ら劍にたふれたればなり 13ダビデおのれに告し少 者にいひけるは汝は何處の者なるやかれこたへけるは我は他國の人すなはちアマレク人なりと 14ダビデかれにいひけるは汝なんぞ手をのばしてヱホバの膏そそぎし者をころすことを畏ざりしやと 15ダビデ一人の少者をよびていひけるは近よりてかれをころせとすなはちかれをうちければ死り 16ダビデかれにいひけるは汝の血は汝の首に歸せよ其は汝 口づから我ヱホバのあぶらそそぎし者をころせりといひて己にむかひて證をたつればなり 17ダビデ 悲 歌をもてサウルと其子ヨナタンを吊ふ 18ダビデ命じてこれをユダの 族 にをしへしむ即ち弓の歌是なり是はヤシル書に記さる 19イスラエルよ汝の榮耀は汝の崇 邱に殺さる嗚呼勇士は仆れたるかな 20此事をガテに告るなかれアシケロンの邑に傳るなかれ恐くはペリシテ人の女等 喜ばん恐くは割禮を受ざる者の女等 樂み祝はん 21ギルボアの山よ願は汝の上に雨露降ることあらざれ亦供 物の田園もあらざれ其は彼處に勇士の干棄らるればなり即ちサウルの干 膏を沃がずして彼處に棄らる 22殺せし者の血をのまずしてヨナタンの弓は退かず勇士の脂を食ずしてサウルの劍は空く歸らず 23サウルとヨナタンは愛らしく樂げにして生死ともに離れず二人は鷲よりも捷く獅子よりも強かりき 24イスラエルの女等よサウルのために哀けサウルは絳き衣をもて汝等を華麗に粧ひ金の飾を汝等の衣に着たり 25嗚呼勇士は 戰 の中に仆たるかなヨナタン汝の崇 邱 に殺されぬ 26兄 弟ヨナタンよ我 汝のために悲慟む汝 は大に我に樂き者なりき汝の我をいつくしめる愛は尋常ならず婦の愛にも勝りたり 27嗚呼勇士は仆たるかな戰 の具は失たるかな

第二章

1此のちダビデ、ヱホバに問ていひけるは我ユダのひとつの邑にのぼるべきやヱホバかれにいひたまひけるはのぼれダビデいひけるは何處にのぼるべきやヱホバいひたまひけるはヘブロンにのぼるべしと 2ダビデすなはち彼處にのぼれりその二人の妻ヱズレル人アヒノアムおよびカルメル人ナバルの妻なりしアビガルもともにのぼれり 3ダビデ其おのれとともにありし從者と其家族をことごとく將のぼりければ皆ヘブロンの諸巴にすめり 4時にユダの人々きたり彼處にてダビデに膏をそそぎてユダの家の王となせり 人々ダビデにつげてサウルを葬りしはヤベシギレアデの人なりといひければ 5ダビデ使者をヤベシギレアデの人におくりてこれにいひけるは汝らこの厚 意を汝らの主サウルにあらはしてかれを葬りたればねがはくは汝らヱホバより福祉をえよ 6ねがはくはヱホバ恩寵と眞實を汝等にしめしたまへ汝らこの事をなしたるにより我亦 汝らに此恩惠をしめすなり 7されば汝ら手をつよくして勇ましくなれ汝らの主サウルは死たり又ユダの家

我に膏をそそぎて我をかれらの王となしたればなりと 8
爰にサウルの軍の長ネルの子アブネル、サウルの子イシボセテを取りてこれをマナイムにみちびきわたり 9ギレアデとアシユリ人とヱズレルとエフライムとベニヤミンとイスラエルの衆の王となせり 10サウルの子イシボセテはイスラエルの王となりし時四十歳にして二年のあひだ位にありしがユダの家はダビデにしたがへり 11ダビデのヘブロンにありてユダの家の王たりし日數は七年と六ヶ月なりき 12ネルの子アブネル及びサウルの子なるイシボセテの臣僕等マハナイムを出てギベオンに至れり 13セルヤの子ヨアブとダビデの臣僕もいでゆけり彼らギベオンの池の傍にて出會一方は池の此畔に一方は池の彼畔に坐す 14アブネル、ヨアブにいひけるはいざ少者をして起て我らのまへに戯れしめんヨアブいひけるは起しめんと 15サウルの子イシボセテに屬するベニヤミンの人其數十二人及びダビデの臣僕十二人起て前み 16おのおの其敵手の首を執へて劍を其敵手の脅に刺し斯して彼等倶に斃れたり是故に其處はヘルカテハヅリム(利劍の地)と稱らる即ちギベオンにあり 17此日戰甚だ烈しくしてアブネルとイスラエルの人々ダビデの臣僕のまへに敗る 18其處にゼルヤの三人の子ヨアブ、アビシヤイ、アサヘル居たりしがアサヘルは疾足なること野にをる麀のごとくなりき 19アサヘル、アブネルの後を追ひけるが行に右左にまがらずアブネルの後をしたふ 20アブネル後を顧みていふ汝はアサヘルなるか彼しかりと答ふ 21アブネルかれにいひけるは汝の右か左に轉向て少者の一人を擒へて其戎服を取れと然どアサヘル、アブネルをおふことを罷て外に向ふを肯ぜず 22アブネルふたたびアサヘルにいふ汝我を追ことをやめて外に向へ我なんぞ汝を地に撃ち仆すべけんや然せば我いかでかわが面を汝の兄ヨアブにむくべけんと 23然どもかれ外にむかふことをいなむによりアブネル槍の後銛をもてかれの腹を刺しければ槍その背後にいでたりかれ其處にたふれて立時に死り斯しかばアサヘルの仆れて死るところに來る者は皆たちどまれり 24されどヨアブとアビシヤイはアブネルの後を追きたりしがギベオンの野の道傍にギアの前にあるアンマの山にいたれる時日暮ぬ 25ベニヤミンの子孫アブネルにしたがひて集まり一隊となりてひとつの山の頂にたてり 26爰にアブネル、ヨアブをよびていひけるは刀劍豈永久にほろぼさんや汝其終りには怨恨を結ぶにいたるをしらざるや
汝何時まで民に其兄弟を追ふことをやめてかへることを命ぜざるや 27ヨアブいひけるは神は活く若し汝が言出さざりしならば民はおのおの其兄弟を追はずして今晨のうちにさりゆきしならんと 28かくてヨアブ喇叭を吹きければ民皆たちどまりて再イスラエルの後を追はずまたかさねて戰はざりき 29アブネルと其從者終夜アラバを經ゆきてヨルダンを濟りビテロンを通りてマハナイムに至れり 30ヨアブ、アブネルを追ことをやめて歸り民をことごとく集めたるにダビデの臣僕十九人とアサヘル缺てをらざりき 31されどダビデの臣僕はベニヤミンとアブネルの從者三百六十人を撃ち殺せり 32人々アサヘルを取りあげてベテレヘムにある其父の墓に葬るヨアブと其從者は終夜ゆきて黎明にヘブロンにいたれり

第三章

1サウルの家とダビデの家の間の戰爭久しかりしがダビデは益強くなりサウルの家はますます弱くなれり 2ヘブロンにてダビデに男子等生る其首出の子はアムノンといひてヱズレル人アヒノアムより生る 3其次はギレアブといひてカルメル人ナバルの妻なりしアビガルより生る第三はアブサロムといひてゲシユルの王タルマイの女子マアカの子なり 4第四はアドニヤといひてハギテの子なり第五はシバテヤといひてアビタルの子なり 5第六はイテレヤムといひてダビデの妻エグラの子なり是等の子ヘブロンにてダビデに生る 6サウルの家とダビデの家の間に戰爭ありし間アブネルは堅くサウルの家に荷擔り 7嚮にサウル一人の妾を有り其名をリヅパといふアヤの女なり爰にイシボセテ、アブネルにいひけるは汝何ぞわが父の妾に通じたるや 8アブネル甚しくイシボセテの言を怒りていひけるは我今日汝の父サウルの家とその兄弟とその朋友に厚意をあらはし汝をダビデの手にわたさざるに汝今日婦人の過を擧て我を責む我あに犬の首ならんやユダにくみする者ならんや 9神アブネルに斯なしまたかさねて斯なしたまへヱホバのダビデに誓ひたまひしごとく我かれに然なすべし 10即ち國をサウルの家より移しダビデの位をダンよりベエルシバにいたるまでイスラエルとユダの上にたてん 11イシボセテ、アブネルを恐れたればかさねて一言も之にこたふるをえざりき 12アブネルおのれの代に使者をダビデにつかはしていひけるは此地は誰の所有なるや又いひけるは汝我と契約を爲せ我力

を汝に添へてイスラエルを悉く汝に歸せしめん 13ダビデいひけるは善し我汝と契約をなさん但し我一の事を汝に索む即ち汝來りてわが面を覿る時先づサウルの女ミカルを携きたらざれば我面を覿るを得じと 14ダビデ使者をサウルの子イシボセテに遣していひけるはわがペリシテ人の陽皮一百を以て聘たるわが妻ミカルを我に交すべし 15イシボセテ人をつかはしてかれを其夫ライシの子パルテより取しかば 16其夫哭つつ歩みて其後にしたがひて倶にバホリムにいたりしがアブネルかれに歸り往けといひければすなはち歸りぬ 17アブネル、イスラエルの長老等と語りていひけるは汝ら前よりダビデを汝らの王となさんことを求め居たり 18されば今これをなすべし其はヱホバ、ダビデに付て語りて我わが僕ダビデの手を以てわが民イスラエルをペリシテ人の手よりまたその諸の敵の手より救ひいださんといひたまひたればなりと 19アブネル亦ベニヤミンの耳に語れりしかしてアブネル自らイスラエルおよびベニヤミンの全家の善とおもふ所をヘブロンにてダビデの耳に告んとて往り 20すなはちアブネル二十人をしたがへてヘブロンにゆきてダビデの許にいたりければダビデ、アブネルと其したがへる從者のために酒宴を設けたり 21アブネル、ダビデにいひけるは我起てゆきイスラエルをことごとくわが主王の所に集めて彼等に汝と契約を立しめ汝をして心の望む所の者をことごとく治むるにいたらしめんと是においてダビデ、アブネルを歸してかれ安然に去り 22時にダビデの臣僕およびヨアブ人の國を侵して歸り大なる掠取物を携へきたれり然どアブネルはタビデとともにヘブロンにはをらざりき其はダビデかれを歸してかれ安然に去りたればなり 23ヨアブおよびともにありし軍兵皆かへりきたりしとき人々ヨアブに告ていひけるはネルの子アブネル王の所にきたりしが王かれを返してかれ安然にされりと 24ヨアブ王に詣りていひけるは汝何を爲したるやアブネル汝の所にきたりしに汝何故にかれを返して去ゆかしめしや 25汝ネルの子アブネルが汝を誑かさんとてきたり汝の出入を知りまた汝のすべて爲す所を知んために來りしを知ると 26かくてヨアブ、ダビデの所より出來り使者をつかはしてアブネルを追しめたれば使者シラの井よりかれを將返れりされどダビデは知ざりき 27アブネル、ヘブロンに返りしかばヨアブ彼と密に語らんとてかれを門の内に引きゆき其處にてその腹を刺てこれを殺し己の兄弟アサヘルの血をむくいたり 28其後ダビデ聞ていひけるは我と我國はネルの子アブネルの血につきてヱホバのまへに永く罪あることなし 29其罪はヨアブの首と其父の全家に歸せよねがはくはヨアブの家には白濁を疾ものか癩病人か杖に倚ものか劍に仆るものか食物に乏しき者か絶ゆることあらざれと 30ヨアブとその弟アビシヤイのアブネルを殺したるは彼がギベオンにて戰陣のうちにおのれの兄弟アサヘルをころせしによれり 31ダビデ、ヨアブおよびおのれとともにある民にいひけるは汝らの衣服を裂き麻の衣を著てアブネルのために哀哭くべしとダビデ王其棺にしたがふ 32人衆アブネルをヘブロンに葬れり王聲をあげてアブネルの墓に哭き又民みな哭けり 33王アブネルの爲に悲の歌を作りて云くアブネル如何にして愚なる人の如くに死けん 34汝の手は縛もあらず汝の足は鏈にも繋れざりしものを嗚呼汝は惡人のために仆る人のごとくにたふれたり斯て民皆再びかれのために哭けり 35民みな日のあるうちにダビデにパンを食はしめんとて來りしにダビデ誓ひていひけるは若し日の沒まへに我パンにても何にても味ひなば神我にかくなし又重ねて斯なしたまへと 36民皆見て之を其目に善しとせり凡て王の爲すところの事は皆民の目に善と見えたり 37其日民すなはちイスラエル皆ネルの子アブネルを殺たるは王の所爲にあらざるを知れり 38王その臣僕にいひけるは今日一人の大將大人イスラエルに斃る汝らこれをしらざるや 39我は膏そそがれし王なれども今日尚弱しゼルヤの子等なる此等の人我には制しがたしヱホバ惡をおこな者に其惡に隨ひて報いたまはん

第四章

1サウルの子はアブネルのヘブロンにて死たるを聞きしかば其手弱くなりてイスラエルみな憂へたり 2サウルの子隊長二人を有てり其一人をバアナといひ一人をレカブといふベニヤミンの支派なるベロテ人リンモンの子等なり其はベロテも亦ベニヤミンの中に數らるればなり 3昔にペロテ人ギツタイムに逃遁れて今日にいたるまで彼處に旅人となりて止まる 4サウルの子ヨナタンに跛足の子一人ありヱズレルよりサウルとヨナタンの事の報いたりし時には五歳なりき其乳媼かれを抱きて逃れたりしが急ぎ逃る時其子堕て跛者となれり其名をメピボセテといふ 5ベロテ人リンモンの子レカブとバアナゆきて日の熱き

頃イシボセテの家にいたるにイシボセテ午睡し居たり 6かれら麥を取らんといひて家の中にいりきたりかれの腹を刺りしかしてレカブと其兄弟バアナ逃げさりぬ 7彼等が家にいりしときイシボセテは其寢室にありて床の上に寢たりかれら即ちこれをうちころしこれを馘りて其首級をとり終夜アラバの道をゆきて 8イシボセテの首級をヘブロンにダビデの許に携へいたりて王にいひけるは汝の生命を求めたる汝の敵サウルの子イシボセテの首を視よヱホバ今日我主なる王の仇をサウルと其裔に報いたまへりと 9ダビデ、ベロテ人リンモンの子レカブと其兄弟バアナに答へていひけるはわが生命を諸の艱難の中に救ひたまひしヱホバは生く 10我は嘗て人の我に告て視よサウルは死りと言ひて自ら我に善き事を傳ふる者と思ひをりしを執てこれをチクラグに殺し其消息に報いたり 11況や惡人の義人を其家の床の上に殺したるをやされば我彼の血をながせる罪を汝らに報い汝らをこの地より絶ざるべけんやと 12ダビデ少者に命じければ少者かれらを殺して其手足を切離しヘブロンの池の上に懸たり又イシボセテの首を取りてヘブロンにあるアブネルの墓に葬れり

第五章

1爰にイスラエルの支派 咸くヘブロンにきたりダビデにいたりていひけるは視よ我儕は汝の骨肉なり 2前にサウルが我儕の王たりし時にも汝はイスラエルを率ゐて出入する者なりきしかしてヱホバ汝に汝わが民イスラエルを牧養はん汝イスラエルの君長とならんといひたまへりと 3斯くイスラエルの長老皆ヘブロンにきたり王に詣りければダビデ王ヘブロンにてヱホバのまへにかれらと契約をたてたり彼らすなはちダビデに膏を灑でイスラエルの王となす 4ダビデは王となりし時三十歳にして四十年の間位に在き 5即ちヘブロンにてユダを治むること七年と六箇月またエルサレムにてイスラエルとユダを全く治むること三十三年なり 6茲に王其從者とともにエルサレムに往き其地の居民エブス人を攻んとすエブス人ダビデに語りていひけるは汝此に入ること能はざるべし反て盲者跛者汝を追はらはんと是彼らダビデ此に入るあたはずと思へるなり 7然るにダビデ、シオンの要害を取り是即ちダビデの城邑なり 8ダビデ其日いひけるは誰にても水道にいたりてエブス人を擊ちまたダビデの心の惡める跛者と盲者を擊つ者は(首となし長となさん)と是により て人々盲者と跛者は家に入るべからずといひなせり 9ダビデ其要害に住て之をダビデの城邑と名けたりまたダビデ、ミロ(城塞)より内の四方に建築をなせり 10かくてダビデはますます大に成りゆき且萬軍の神ヱホバこれと共にいませり 11ツロの王ヒラム使者をダビデに遣はして香柏および木匠と石工をおくれり彼らダビデの爲に家を建つ 12ダビデ、ヱホバのかたく己をたててイスラエルの王となしたまへるを暁りまたヱホバの其民イスラエルのために其國を興したまひしを暁れり 13ダビデ、ヘブロンより來りし後エルサレムの中よりまた妾と妻を納たれば男子女子またダビデに生る 14エルサレムにて彼に生れたる者の名はかくのごとしシヤンマ、シヨバブ、ナタン、ソロモン 15イブハル、エリシユア、ネペグ、ヤピア 16エリシヤマ、エリアダ、エリバレテ 17爰に膏を沃いでダビデをイスラエルの王と爲し事ペリシテ人に聞えければペリシテ人皆ダビデを獲んとて上るダビデ聞て要害に下れり 18ペリシテ人臻りてレバイムの谷に布き備たり 19ダビデ、ヱホバに問ていひけるは我ペリシテ人にむかひて上るべきや汝かれらをわが手に付したまふやヱホバ、ダビデにいひたまひけるは上れ我必らずペリシテ人を汝の手にわたさん 20ダビデ、バアルペラジムに至りかれらを其所に擊ていひけるはヱホバ水の破壞り出るごとく我敵をわが前に破壞りたまへりと是故に其所の名をバアルペラジム(破壞の處)と呼ぶ 21彼處に彼等其偶像を遺たればダビデと其從者これを取あげたり 22ペリシテ人再び上りてレバイムの谷に布き備へたれば 23ダビデ、ヱホバに問にヱホバいひたまひけるは上るべからず彼等の後にまはりベカの樹の方より彼等を襲へ 24汝ベカの樹の上に進行の音を聞ばすなはち突出づべし其時にはヱホバ汝のまへにいでてペリシテ人の軍を擊たまふべければなりと 25ダビデ、ヱホバのおのれに命じたまひしごとくなしペリシテ人を擊てゲバよりガゼルにいたる

第六章

1ダビデ再びイスラエルの選抜の兵士三萬人を悉く集む 2ダビデ起ておのれと共にをる民とともにバアレユダに往て神の櫃を其處より昇上らんとす其櫃はケルビムの上に坐したまふ萬軍のヱホバの名をもて呼る 3すなはち神の櫃を新しき車に載せて山にあるアビナダブの家より昇

だせり 4アビナダブの子ウザとアヒオ神の櫃を載たる其新しき車を御しアヒオは櫃のまへにゆけり 5ダビデおよびイスラエルの全家琴と瑟と鼗と鈴と鐃鈸をもちて力を極め謡を歌ひてヱホバのまへに躍踴れり 6彼等がナコンの禾場にいたれる時ウザ手を神の櫃に伸してこれを扶へたり其は牛振たればなり 7ヱホバ、ウザにむかひて怒りを發し其誤謬のために彼を其處に撃ちたまひければ彼そこに神の櫃の傍に死ねり 8ヱホバ、ウザを撃ちたまひしによりてダビデ怒り其處をペレヅウザ(ウザ撃)と呼り其名今日にいたる 9其日ダビデ、ヱホバを畏れていひけるはヱホバの櫃いかで我所にいたるべけんやと 10ダビデ、ヱホバの櫃を己に移してダビデの城邑にいらしむるを好まず之を轉してガテ人オベデエドムの家にいたらしむ 11ヱホバの櫃ガテ人オベデエドムの家に在ること三月なりきヱホバ、オベデエドムと其全家を恵みたまふ 12ヱホバ神の櫃のためにオベデエドムの家と其所有を皆恵みたまふといふ事ダビデ王に聞えければダビデゆきて喜樂をもて神の櫃をオベデエドムの家よりダビデの城邑に昇上れり 13ヱホバの櫃を昇者六歩行](ゆき)}たる時ダビデ牛と肥たる者を献げたり 14ダビデ力を極めてヱホバの前に踊躍れり時にダビデ布のエポデを著け居たり 15ダビデおよびイスラエルの全家歓呼と喇叭の聲をもてヱホバの櫃を昇のぼれり 16神の櫃ダビデの城邑にいりし時サウルの女ミカル窻より窺ひてダビデ王のヱホバのまへに舞躍るを見其心にダビデを蔑視む 17人々ヱホバの櫃を昇入てこれをダビデが其爲に張たる天幕の中なる其所に置りしかしてダビデ燔祭と酬恩祭をヱホバのまへに献げたり 18ダビデ燔祭と酬恩祭を献ぐることを終し時萬軍のヱホバの名を以て民を祝せり 19また民の中即ちイスラエルの衆庶の中に男にも女にも倶にパン一箇肉一斤乾葡萄一塊を分ちあたへたり斯て民皆おのおの其家にかへりぬ 20爰にダビデ其家族を祝せんとて歸りしかばサウルの女ミカル、ダビデをいでむかへていひけるはイスラエルの王今日如何に威光ありしや自ら遊蕩者の其身を露すがごとく今日其臣僕の婢女のまへに其身を露したまへりと 21ダビデ、ミカルにいふ我はヱホバのまへに即ち汝の父よりもまたその全家よりも我を選みて我をヱホバの民イスラエルの首長に命じたまへるヱホバのまへに躍れり 22我は此よりも尚鄙からんまたみづから賤しと思はん汝が語る婢女等とともにありて我は尊榮をえんと 23是故にサウルの女ミカルは死ぬる日まで子あらざりき

第七章

1王其家に住にいたり且ヱホバ其四方の敵を壊てかれを安らかならしめたまひし時 2王預言者ナタンに云けるは視よ我は香柏の家に住む然ども神の櫃は幔幕の中にあり 3ナタン王に云けるはヱホバ汝と共に在せば往て凡て汝の心にあるところを爲せ 4其夜ヱホバの言ナタンに臨みていはく 5往てわが僕ダビデに言へヱホバ斯く言ふ汝わがために我の住むべき家を建んとするや 6我はイスラエルの子孫をエジプトより導き出せし時より今日にいたるまで家に住しことなくして但天幕と幕屋の中に歩み居たり 7我イスラエルの子孫と共に凡て歩める處にて汝らなにゆゑ我に香柏の家を建ざるやとわが命じてわが民イスラエルを牧養しめしイスラエルの士師の一人に一言も語りしことあるや 8然ば汝わが僕ダビデに斯く言ふべし萬軍のヱホバ斯く言ふ我汝を牧場より取り羊に隨ふ所より取りてわが民イスラエルの首長となし 9汝がすべて往くところにて汝と共にあり汝の諸の敵を汝の前より断さりて地の上の大なる者の名のごとく汝に大なる名を得さしめたり 10又我わが民イスラエルのために處を定めてかれらを植つけかれらをして自己の處に住て重て動くことなからしめたり 11また惡人昔のごとくまたわが民イスラエルの上に士師を立てたる時よりの如くふたたび之を惱ますことなかるべし我汝の諸の敵をやぶりて汝を安かならしめたり又ヱホバ汝に告ぐヱホバ汝のために家をたてん 12汝の日の滿て汝が汝の父祖等と共に寢らん時に我汝の身より出る汝の種子を汝の後にたてて其國を堅うせん 13彼わが名のために家を建ん我永く其國の位を堅うせん 14我はかれの父となり彼はわが子となるべし彼もし迷はば我人の杖と人の子の鞭を以て之を懲さん 15されど我の恩恵はわが汝のまへより除きしサウルより離れたるごとくに彼よりは離ることあらじ 16汝の家と汝の國は汝のまへに永く保つべし汝の位は永く堅うせらるべし 17ナタン凡て是等の言のごとくまたすべてこの異象のごとくダビデに語りければ 18ダビデ王入りてヱホバの前に坐していひけるは主ヱホバよ我は誰わが家は何なればか爾此まで我を導きたまひしや 19主ヱホバよ此はなほ汝の目には小き事なり汝また僕の家の遥か後の事を語りた

まへり主ヱホバよ是は人の法なり 20ダビデ此上何を汝に言ふを得ん其は主ヱホバ汝 僕を知たまへばなり 21汝の言のためまた汝の心に隨ひて汝此 諸の大なることを爲し僕に之をしらしめたまふ 22故に神ヱホバよ爾は大なり其は我らが凡て耳に聞る所に依ば汝の如き者なくまた汝の外に神なければなり 23地の何れの國か汝の民イスラエルの如くなる其は神ゆきてかれらを贖ひ己の民となして大なる名を得たまひまた彼らの爲に大なる畏るべき事を爲したまへばなり即ち汝がエジプトより贖ひ取たまひし民の前より國々の人と其 諸 神を逐拂ひたまへり 24汝は汝 の民イスラエルをかぎりなく汝の民として汝に定めたまへりヱホバよ汝はかれの神となりたまふ 25されば神ヱホバよ汝が僕と其家につきて語りたまひし言を永く堅うして汝のいひしごとく爲たまへ 26ねがはくは永久に汝の名を崇めて萬軍のヱホバはイスラエルの神なりと曰しめたまへねがはくは僕ダビデの家をして汝のまへに堅く立しめたまへ 27其は萬軍のヱホバ、イスラエルの神よ 汝僕 の耳に示して我 汝に家をたてんと言たまひたればなり 是故に僕 此祈祷を汝に爲す道を心の中に得たり 28主ヱホバよ汝は神なり汝の言は眞なり汝この恵を僕に語りたまへり 29願くは僕の家を祝福て汝のまへに永く続くことを得さしめたまへ其は主ヱホバ汝これを語りたまへばなりねがはくは汝の祝福によりて僕の家に永く祝福を 蒙らしめたまへ

第八章

1此後ダビデ、ペリシテ人を撃てこれを服すダビデまたペリシテ人の手よりメテグアンマをとれり 2ダビデまたモアブを撃ち彼らをして地に伏しめ繩をもてかれらを度れり即ち二條の繩をもて死す者を度り一條の繩をもて生しおく者を量度るモアブ人は貢物を納てダビデの臣僕となれり 3ダビデまたレホブの子なるゾバの王ハダデゼルがユフラテ河の邊にて其勢を新にせんとて往るを撃り 4しかしてダビデ彼より騎兵千七百 人歩兵二萬人を取りまたダビデ一 百の車の馬を存して其餘の車 馬は皆其筋を切斷り 5ダマスコのスリア人ゾバの王ハダデゼルを援んとて來りければダビデ、スリア人二萬二千を殺せり 6しかしてダビデ、ダマスコのスリアに代 官を置きぬスリア人は貢物を納てダビデの臣僕となれりヱホバ、ダビデを凡て其往く所にて助けたまへり 7ダビデ、ハダデゼルの臣僕等の持る金の楯を奪ひてこれをエルサレムに携きたる 8ダビデ王又ハダデゼルの邑ベタとベロタより甚だ多くの 銅 を取り 9時にハマテの王トイ、ダビデがハダデゼルの總の軍を撃破りしを聞て 10トイ其子ヨラムをダビデ王につかはし安否を問ひかつ祝を宣しむ其はハダデゼル嘗てトイと 戰 を爲したるにダビデ、ハダデゼルとたたかひてこれを撃やぶりたればなりヨラム銀の器と金の器と銅 の器を携へ來りければ 11ダビデ王其攻め伏せたる 諸の國民の中より取りて納めたる金銀と共に是等をもヱホバに納めたり 12即ちエドムよりモアブよりアンモンの子孫よりペリシテ人よりアマレクよりえたる物およびゾバの王レホブの子ハダデゼルより得たる掠取物とともにこれを納めたり 13ダビデ鹽谷にてエドム人一萬八千を撃て歸て名譽を得たり 14ダビデ、エドムに代 官を置り即ちエドムの全地に徧く代 官を置てエドム人は皆ダビデの臣僕となれりヱホバ、ダビデを凡て其往くところにて助け給へり 15ダビデ、イスラエルの全地を治め其民に公道と正義を行ふ 16ゼルヤの子ヨアブは軍の長アヒルデの子ヨシヤバテは史 官 17アヒトブの子ザドクとアビヤタルの子アヒメレクは祭司セラヤは書記 官 18ヱホヤダの子ベナヤはケレテ人およびペレテ人の長ダビデの子等は大臣なりき

第九章

1爰にダビデいひけるはサウルの家の遺存れる者尚あるや我ヨナタンの爲に其人に恩惠をほどこさんと 2サウルの家の僕なるヂバと名くる者ありければかれをダビデの許に召きたるに王かれにいひけるは汝はヂバなるか彼いふ僕 是なり 3王いひけるは尚サウルの家の者あるか我其人に神の恩惠をほどこさんとすヂバ王にいひけるはヨナタンの子尚あり跛足なり 4王かれにいひけるは其人はいづく何處にをるやヂバ王にいひけるはロデバルにてアンミエルの子マキルの家にをる 5ダビデ王人を遣はしてロデバルより即ちアンミエルの子マキルの家よりかれを携來らしむ 6サウルの子ヨナタンの子なるメピボセテ、ダビデの所に來り伏て拝せりダビデ、メピボセテよといひければ答て僕 此にありと曰ふ 7ダビデかれにいひけるは恐るるなかれ我 必ず汝の父ヨナタンの爲に恩惠を汝にしめさん我 汝の父サウルの地を 悉 く汝に復すべし又 汝は恒に我席において食ふべしと 8かれ拝して言けるは僕 何なれ

ばか汝死たる犬のごとき我を眷顧たまふ 9王サウルの僕ギバを呼てこれにいひけるは凡てサウルとその家の物は我皆汝の主人の子にあたへたり 10汝と汝の子等と汝の僕かれのために地を耕へして汝の主人の子に食ふべき食物を取りきたるべし但し汝の主人の子メピボセテは恒に我席において食ふべしとギバは十五人の子と二十人の僕あり 11ギバ王にいひけるは總て王わが主の僕に命じたまひしごとく僕なすべしとメピボセテは王の子の一人のごとくダビデの席にて食へり 12メピボセテに一人の若き子あり其名をミカといふギバの家に住る者は皆メピボセテの僕なりき 13メピボセテはエルサレムに住みたり其はかれ恒に王の席にて食ひたればなりかれは兩の足ともに跛たる者なり

第十章

1此後アンモンの子孫の王死て其子ハヌン之に代りて位に即く 2ダビデ我ナハシの子ハヌンにその父の我に恩惠を示せしごとく恩惠を示さんといひてダビデかれを其父の故によりて慰めんとて其僕を遣せりダビデの僕アンモンの子孫の地にいたるに 3アンモンの子孫の諸伯其主ハヌンにいひけるはダビデ慰者を汝に遣はしたるによりて彼汝の父を崇むと汝の目に見ゆるやダビデ此城邑を窺ひこれを探りて陷いれんために其僕を汝に遣はせるにあらずや 4是においてハヌン、ダビデの僕を執へ其鬚の半を剃り落し其衣服を中より斷て股までにしてこれを歸せり 5人々これをダビデに告たればダビデ人を遣はしてかれらを迎へしむ其人々大に恥たればなり即ち王いふ汝ら鬚の長るまでヱリコに止まりて然るのち歸るべしと 6アンモンの子孫自己のダビデに惡まるるを見しかばアンモンの子孫人を遣はしてベテレホブのスリア人とゾバのスリア人の歩兵二萬人およびマアカの王より一千人トブの人より一萬二千人を雇いれたり 7ダビデ聞てヨアブと勇士の惣軍を遣はせり 8アンモンの子孫出て門の入口に軍の陣列をなしたりゾバとレホブのスリア人およびトブの人とマアカの人は別に野に居り 9ヨアブ戰の前後より己に向ふを見てイスラエルの選抜の兵の中を選みてこれをスリア人に對ひて備へしめ 10其餘の民をば其兄弟アビシヤイの手に交してアンモンの子孫に向て備へしめて 11いひけるは若スリア人我に手強からば汝我を助けよ若アンモンの子孫汝に手剛からば我ゆきて汝をたすけん 12汝勇ましくなれよ我ら民のためとわれらの神の諸邑のために勇しくなれよ我ら民のためとわれらの神の諸邑のために勇しく爲んねがはくはヱホバ其目によしと見ゆるところをなしたまへ 13ヨアブ己と共に在る民と共にスリア人にむかひて戰んとて近づきければスリア人彼のまへより逃たり 14アンモンの子孫スリア人の逃たるを見て亦自己等もアビシヤイのまへより逃て城邑にいりぬヨアブすなはちアンモンの子孫の所より還りてエルサレムにいたる 15スリア人其イスラエルのまへに敗れたるを見て倶にあつまれり 16ハダデゼル人をやりて河の前岸にをるスリア人を將ゐ出して皆ヘラムにきたらしむハダデゼルの軍の長シヨバクかれらを率ゐたり 17其事ダビデに聞えければ彼イスラエルを悉く集めてヨルダンを渉りてヘラムに來れりスリア人ダビデに向ひて備へ之と戰ふ 18スリア人イスラエルのまへより逃ければダビデ、スリアの兵車の人七百騎兵四萬を殺し又其軍の長シヨバクを擊てこれを其所に死しめたり 19ハダデゼルの臣なる王等其イスラエルのまへに壞れたるを見てイスラエルと平和をなして之に事へたり斯スリア人は恐れて再びアンモンの子孫を助くることをせざりき

第十一章

1年歸りて王等の戰に出る時におよびてダビデ、ヨアブおよび自己の臣僕並にイスラエルの全軍を遣はせり彼等アンモンの子孫を滅ぼしてラバを圍めりされどダビデはエルサレムに止りぬ 2爰に夕暮にダビデ其床より興きいでて王の家の屋蓋のうへに歩みしが屋蓋より一人の婦人の體をあらふを見たり其婦は觀るに甚だ美し 3ダビデ人を遣して婦人を探らしめしに或人いふ此はエリアムの女ハテシバにてヘテ人ウリヤの妻なるにあらずやと 4ダビデ乃ち使者を遣はして其婦を取る婦彼に來りて彼婦と寢たりしかして婦其不潔を清めて家に歸りぬ 5かくて婦孕みければ人をつかはしてダビデに告ていひけるは我子を孕めりと 6是においてダビデ人をヨアブにつかはしてヘテ人ウリヤを我に遣はせといひければヨアブ、ウリヤをダビデに遣はせり 7ウリヤ、ダビデにいたりしかばダビデこれにヨアブの如何なると民の如何なると戰爭の如何なるを問ふ 8しかしてダビデ、ウリヤにいひけるは汝の家に下りて足を洗へとウリヤ王の家を出るに王の贈物其後に從ひてきたる 9然どウリヤは王の家の門に其主の僕等とともに寢ておのれの家にくだりいたらず 10

人々ダビデに告てウリヤ其家にくだり至らずといひければダビデ、ウリヤにいひけるは汝は旅路をなして來れるにあらずや何故に自己の家にくだらざるや 11ウリヤ、ダビデにいひけるは櫃とイスラエルとユダは小屋の中に住まりわが主ヨアブとわが主の僕は野の表に陣を取るに我いかでわが家にゆきて食ひ飲しまた妻と寢べけんや汝は生また汝の霊魂は活く我此事をなさじ 12ダビデ、ウリヤにいふ今日も此にとどまれ明日我汝を去しめんとウリヤ其日と次の日エルサレムにとどまりしが 13ダビデかれを召て其まへに食ひ飲せしめダビデかれを酔しめたり晩にいたりて彼出て其床に其主の僕と共に寢たりされどおのれの家にはくだりゆかざりき 14朝におよびてダビデ、ヨアブへの書を認めて之をウリヤの手によりて遣れり 15ダビデ其書に書ていはく汝らウリヤを烈しき戰の先鉾にいだしてかれの後より退きて彼をして戰死せしめよ 16是においてヨアブ城邑を窺ひてウリヤをば其勇士の居ると知る所に置り 17城邑の人出てヨアブと戰ひしかばダビデの僕の中の數人仆れヘテ人ウリヤも死り 18ヨアブ人をつかはして軍の事を悉くダビデに告げしむ 19ヨアブ其使者に命じていひけるは汝が軍の事を皆王に語り終しとき 20王もし怒りを發して汝に汝らなんぞ戰はんとて城邑に近づきしや汝らは彼らが石壇の上より射ることを知らざりしや 21エルベセテの子アビメレクを撃し者は誰なるや一人の婦が石垣の上より磨の上石を投て彼をテベツに殺せしにあらずや何ぞ汝ら城垣に近づきしやと言はば汝言べし汝の僕ヘテ人ウリヤもまた死りと 22使者ゆきてダビデにいたりヨアブが遣はしたるところのことをことごとく告げたり 23使者ダビデにいひけるは敵我儕に手強かりしが城外にいでて我儕にいたりしかば我儕これに迫りて門の入口にまでいたれり 24時に射手の者城垣の上より汝の僕を射たりければ王の僕の或者死に亦汝の僕ヘテ人ウリヤも死りと 25ダビデ使者にいひけるは斯汝ヨアブに言べし此事を憂ふるなかれ刀劍は此をも彼をも同じく殺すなり強く城邑を攻て戰ひ之を陷いるべしと汝かくヨアブを勵ますべし 26ウリヤの妻其夫ウリヤの死たるを聞て夫のために悲哀り 27其喪の過し時ダビデ人を遣はしてかれをおのれの家に召いる彼すなはちその妻となりて男子を生り但しダビデの爲たる此事はヨホバの目に惡かりき

第十二章

1ヨホバ、ナタンをダビデに遣はしたまへば彼ダビデに至りてこれにいひけるは一の邑に二箇の人あり一は富て一は貧し 2其富者は甚だ多くの羊と牛を有り 3されど貧者は唯自己の買て育てたる一の小き牝羔の外は何をも有ざりき其牝羔彼およびかれの子女とともに生長ちかれの食物を食ひかれの椀に飲みまた彼の懐に寢て彼には女子のごとくなりき 4時に一人の旅人其富る人の許に來りけるが彼おのれの羊と牛の中を取りてそのおのれに來れる旅人のために烹を惜みてかの貧き人の牝羔を取りて之をおのれに來れる人のために烹たり 5ダビデ其人の事を大に怒りてナタンにいひけるはヨホバは生く誠に此をなしたる人は死べきなり 6且彼此事をなしたるに因りまた憐憫まざりしによりて其牝羔を四倍になして償ふべし 7ナタン、ダビデにいひけるは汝は其人なりイスラエルの神ヨホバ斯いひたまふ我汝に膏を沃いでイスラエルの王となし我汝をサウルの手より救ひいだし 8汝に汝の主人の家をあたへ汝の主人の諸妻を汝の懐に與へまたイスラエルとユダの家を汝に與へたり若し少からば我汝に種々の物を増くはへしならん 9何ぞ汝ヨホバの言を藐視じて其目のまへに惡をなせしや汝刃劍をもてヘテ人ウリヤを殺し其妻をとりて汝の妻となせり即ちアンモンの子孫の劍をもて彼を斬殺せり 10汝我を軽んじてヘテ人ウリヤの妻をとり汝の妻となしたるに因て劍何時までも汝の家を離ることなかるべし 11ヨホバ斯いひたまふ視よ我汝の家の中より汝の上に禍を起すべし我汝の諸妻を汝の目のまへに取て汝の隣人に與へん其人此日のまへにて汝の諸妻とともに寢ん 12其は汝は密に事をなしたれど我はイスラエルの衆のまへと日のまへに此事をなすべければなりと 13ダビデ、ナタンにいふ我ヨホバに罪を犯したりナタン、ダビデにいひけるはヨホバまた汝の罪を除きたまへり汝死ざるべし 14されど汝此所行によりてヨホバの敵に大なる罵る機會を與へたれば汝に生れし其子必ず死べしと 15かくてナタン其家にかへれり爰にヨホバ、ウリヤの妻がダビデに生る子を撃たまひければ痛く疾めり 16ダビデ其子のために神に乞求め即ちダビデ斷食して入り終夜地に臥したり 17ダビデの家の年寄等彼の傍に立ちてかれを地より起しめんとせしかども彼肯ぜず又かれらとともに食を爲ざりき 18第七日に其子死りダビデの僕其子の死たることをダビデに告ることを恐れ

たりかれらいひけるは子の尚生る間に我儕彼に語たりし
に彼我儕の言を聽いれざりき如何ぞ彼に其子の死たるを
告ぐべけんや彼害を爲んと19然にダビデ其僕の私語くを
見てダビデ其子の死たるを暁れりダビデ乃ち其僕に子は
死たるやといひければかれら死りといふ20是においてダ
ビデ地よりおきあがり身を洗ひ膏をぬり其衣服を更てヱ
ホバの家にいりて拝し自己の家に至り求めておのれのた
めに食を備へしめて食へり21僕等彼にいひけるは此の
汝がなせる所は何事なるや汝子の生るあひだはこれが
ために斷食して哭きながら子の死る時に汝は起て食を爲
すと22ダビデいひけるは嬰孩の尚生るあひだにわが斷食
して哭きたるは我誰かヱホバの我を憐れみて此子を生し
めたまふを知んと思ひたればなり23されど今死たれば我
なんぞ斷食すべけんや我再びかれをかへらしむるを得ん
や我かれの所に往べけれど彼は我の所にかへらざるべし
24ダビデ其妻バテシバを慰めかれの所にいりてかれとと
もに寝たりければ彼男子を生りダビデ其名をソロモンと
呼ぶヱホバこれを愛したまひて25預言者ナタンを遣はし
其名をヱホバの故によりてヱデデア(ヱホバの愛する者)
と名けしめたまふ26爰にヨアブ、アンモンの子孫のラバ
を攻めて王城を取れり27ヨアブ使者をダビデにつかはし
ていひけるは我ラバを攻て水城を取れり28されば汝今
餘の民を集め斯城に向て陣どりて之を取れ恐らくは我此
城を取て人我名をもて之を呼にいたらんと29是において
ダビデ民を悉くあつめてラバにゆき攻て之を取り30し
かしてダビデ、アンモン王の冕を其首より取はなした
り其金の重は一タラントなりまた寶石を嵌たりこれをダ
ビデの首に置ダビデ其邑の掠取物を甚だ多く持出せり31
かくてダビデ其中の民を將いだしてこれを鋸と鐵の
千歯と鐵の斧にて斬りまた瓦陶の中を通行しめたり彼
斯のごとくアンモンの子孫の凡ての城邑になせりしかし
てタビデと民は皆エルサレムに還りぬ

第十三章

1此後ダビデの子アブサロムにタマルと名くる美しき妹
ありしがダビデの子アムノンこれを戀ひたり2アムノン
心を苦しめて遂に其姉妹タマルのためにわづらへり其は
タマルは處女なりければアムノンかれに何事をも爲しが
たしと思ひたればなり3然るにアムノンに一人の朋友あ
りダビデの兄弟シメアの子にして其名をヨナダブといふ
ヨナダブに甚だ有智き人なり4彼アムノンにいひけるは
汝王の子なんぞ日に日に斯く痩ゆくや汝我に告ざるや
アムノン彼にいひけるは我わが兄弟アブサロムの妹タ
マルを戀ふ5ヨナダブかれにいひけるは床に臥て病と佯
り汝の父の來りて汝を見る時これにいへ請ふわが妹タ
マルをして來りて我に食を予へしめわが見て彼の手より
食ふことをうる様にわが目のまへにて食物を調理しめよ
と6アムノンすなはち臥して病と佯りしが王の來りてお
のれを見る時アムノン王にいひけるは請ふ吾妹タマル
をして來りてわが目のまへにて二の菓子を作へしめて我
にかれの手より食ふことを得さしめよと7是においてダ
ビデ、タマルの家にいひつかはしけるは汝の兄アムノン
の家にゆきてかれのために食物を調理よと8タマル其兄
アムノンの家にいたるにアムノンは臥し居たりタマル乃
ち粉をとりて之を摶てかれの目のまへにて菓子を作へ其
菓子を燒き9鍋を取て彼のまへに傾出たりしかれども彼
食ふことを否めりしかしてアムノンいひけるは汝ら皆我
を離れていでよと皆かれをはなれていでたり10アムノ
ン、タマルにいひけるは食物を寝室に持きたれ我汝の手
より食はんとタマル乃ち己の作りたる菓子を取りて寝室
に持ゆきて其兄アムノンにいたる11タマル彼に食しめん
とて近く持いたれる時彼タマルを執へて之にいひけるは
妹よ來りて我と寝よ12タマルかれにいひける否兄上よ
我を辱しむるなかれ是のごとき事はイスラエルに行はれ
ず汝此愚なる事をなすべからず13我は何處にわが恥辱
を棄んか汝はイスラエルの愚人の一人となるべしされば
請ふ王に語れ彼我を汝に予ざることなかるべしと14然ど
もアムノン其言を聽ずしてタマルよりも力ありければタ
マルを辱しめてこれと偕に寝たりしが15遂にアムノン甚
だ深くタマルを惡むにいたる其かれを惡む所の惡みはか
れを戀ひたるところの戀よりも大なり即ちアムノンかれ
にいひけるは起て往けよ16かれアムノンにいひけるは我
を返して此惡を作るなかれ是は汝がさきに我になしたる
所の惡よりも大なりとしかれども聽いれず17其側に仕ふ
る少者を呼ていひけるは汝此女をわが許より遣りいだ
して其後に戸を樓せと18タマル振袖を着ゐたり王の女等
の處女なるものは斯のごとき衣服をもて粧ひたりアムノ
ンの侍者かれを外にいだして其後に戸を樓せり19タマル
灰を其首に蒙り着たる振袖を裂き手を首にのせて呼はり
つつ去ゆけり20其兄アブサロムかれにいひけるは汝の兄

アムノン汝と偕に在しや然ど妹よ默せよ彼は汝の兄なり此事を心に留るなかれとかくてタマルは其兄アブサロムの家に凄しく住み居れり 21ダビデ王是等の事を悉く聞て甚だ怒れり 22アブサロムはアムノンにむかひて善も惡きも語ざりき其はアブサロム、アムノンを惡みたればたり是はかれがおのれの妹タマルを辱しめたるに由り 23全二年の後アブサロム、エフライムの邊なるバアルハゾルにて羊の毛を剪しめ居て王の諸子を悉く招けり 24アブサロム王の所にいりていひけるは視よ僕羊の毛を剪しめをるねがはくは王と王の僕等僕とともに來りたまへ 25王アブサロムに云けるは否わが子よ我儕を皆いたらしむるなかれおそらくは汝の費を多くせんアブサロム、ダビデを強ふしかれどもダビデ往ことを肯ぜずして彼を祝せり 26アブサロムいひけるは若しからずば請ふわが兄アムノンをして我らとともに來らしめよ王かれにいひけるは彼なんぞ汝とともにゆくべけんやと 27されどアブサロムかれを強ければアムノンと王の諸子を皆アブサロムとともにゆかしめたり 28爰にアブサロム其少者等に命じていひけるは請ふ汝らアムノンの心の酒によりて樂む時を視すましてわが汝等にアムノンを擊てと言ふ時に彼を殺せ懼るるなかれ汝等に之を命じたるは我にあらずや汝ら勇しく武くなれと 29アブサロムの少者等アブサロムの命ぜしごとくアムノンになしければ王の諸子皆起て各其騾馬に乘て逃たり 30彼等が路にある時風聞ダビデにいたりていはくアブサロム王の諸子を悉く殺して一人も遺るものなしと 31王乃ち起ち其衣を裂きて地に臥す其臣僕皆衣を裂て其傍にたてり 32ダビデの兄弟シメアの子ヨナダブ答へていひけるは吾主よ王の御子等なる少年を皆殺したりと思たまふなかれアムノン獨り死るのみ彼がアブサロムの妹タマルを辱かしめたる日よりアブサロム此事をさだめおきたるなり 33されば吾主王よ王の御子等皆死りといひて此事をおもひ煩ひたまふなかれアムノン獨死たるなればなりと 34斯てアブサロムは逃れたり爰に守望ゐたる少者目をあげて視たるに視よ山の傍よりして己の後の道より多くの人來れり 35ヨナダブ王にいひけるは視よ王の御子等來る僕のいへるがごとくしかりと 36彼語ることを終し時視よ王の子等來り聲をあげて哭り王と其僕等も皆大に甚く哭り 37偖アブサロムは逃てゲシユルの王アミホデの子タルマイにいたるダビデは日々其子のために悲めり 38アブサロム逃てゲシユルにゆき三年彼處に居たり 39ダビデ王アブサロムに逢んと思ひ煩らふ其はアムノンは死たるによりてダビデかれの事はあきらめたればなり

第十四章

1ゼルヤの子ヨアブ王の心のアブサロムに趣くを知れり 2ヨアブ乃ちテコアに人を遣りて彼處より一人の哲婦を呼きたらしめて其婦にいひけるは請ふ汝喪にある眞似して喪の服を着油む身にぬらず死者のために久しく哀しめる婦のごとく爲りて 3王の所にいたり是のごとくかれに語るべしとヨアブ其語言をかれの口に授けたり 4テコアの婦王にいたり地に伏て拝し王にいひけるは王よ助けたまへ 5王婦にひけるは何事なるや婦いひけるは我は實に嫠婦にしてわが夫は死り 6仕女に二人の子あり倶に野に爭ひしが誰もかれらを排解ものなきにより此遂に彼を擊て殺せり 7是において視よ全家仕女に逼りていふ其兄弟を擊殺したる者を付せ我らかれをその殺したる兄弟の生命のために殺さんと斯く嗣子をも滅ぼし存れるわが炭火を熄てわが夫の名をも遺存をも地の面に無らしめんとす 8王婦にいひけるは汝の家に往け我汝の事につきて命令を下さん 9テコアの婦王にいひけるは王わが主よねがはくは其罪は我とわが父の家に歸して王と王の位には罪あらざれ 10王いひけるは誰にても爾に語る者をば我に將來れしかせば彼かさねて爾に觸ること无るべし 11婦いひけるは願くは王爾の神ヱホバを憶えてかの仇を報ゆる者をして重て滅すことを爲しめず我子を斷ことなからしめたまへと王いひけるはヱホバは生く爾の子の髪毛一すぢも地に隕ることなかるべし 12婦いひけるは請ふ仕女をして一言わが主王に言しめたまへダビデいひけるは言ふべし 13婦いひけるは爾なんぞ斯る事を神の民にむかひて思ひたるや王此言を言ふにより王は罪ある者のごとし其は王その放れたる者を歸らしめざればなり 14抑我儕は死ざるべからず我儕は地に瀉れたる水の再び聚る能はざるがごとし神は生命を取りたまはず方法を設けて其放れたる者をして己の所より放たれをることなからしむ 15我此事を王我主に言んとて來れるは民我を恐れしめたればなり故に仕女謂らく王に言ん王婢の言を行ひたまふならんと 16其は王聞て我とわが子を共に滅して神の產業に離れしめんとする人の手より婢を救ひいだしたまふべければなり 17仕女また思り王わが主の言は慰

となるべしと其は神の使のごとく王わが主は善も惡も聽たまへばなりねがはくは爾の神ヱホバ爾と共に在せと 18 王こたへて婦にいひけるは請ふわが爾に問んところの事を我に隱すなかれ婦いふ請ふ王わが主言たまへ 19 王いひけるは比すべての事においてはヨアブの手 爾とともにあるや婦 答へていひけるは爾の靈魂は活く王わが主よ凡て王わが主の言たまひしところは右にも左にもまがらず皆に爾の僕ヨアブ我に命じ是等の言を悉く仕女の口に授けたり 20 其事の見ゆるところを變んとて爾の僕ヨアブ此事をなしたるなり然どわが主は神の使の智慧のごとく智慧ありて地にある事を悉く知たまふと 21 是において王ヨアブにいひけるは視よ我此事を爲すされば往て少年アブサロムを携歸るべし 22 ヨアブ地に伏し拜し王を祝せりしかしてヨアブいひけるは王わが主よ王 僕の言を行ひたまへば今日 僕わが爾に惠るるを知ると 23 ヨアブ乃ち起てゲシユルに往きアブサロムをエルサレムに携きたれり 24 王いひけるは彼は其家に退くべしわが面を見るべからずと故にアブサロム己の家に退きて王の面を觀ざりき 25 偖イスラエルの中にアブサロムのごとく其美貌のために讃られたる人はなかりき其足の跖より頭の 頂 にいたるまで彼には瑕疵あることなし 26 アブサロム其 頭を剪る時其頭の髮を衡るに王の權衡の二百シケルあり毎年の終にアブサロム其 頭を剪り是は己の重によりて剪たるなり 27 アブサロムに三人の男子と一人のタマルといふ女子生れたりタマルは美 女なり 28 アブサロム二年のあひだエルサレムにをりたれども王の顏を見ざりき 29 是によりてアブサロム王に遣さんとてヨアブを呼に遣はしけるが彼來ることを肯ぜず再び遣せしかども來ることを肯ぜざりき 30 アブサロム其 僕にいひけるは視よヨアブの田地は我の近くにありて其處に大麥あり往て其に火を放てとアブサロムの僕 等田地に火を放てり 31 ヨアブ起てアブサロムの家に來りてこれにいひけるは何故に爾の僕 等田地に火を放 たるや 32 アブサロム、ヨアブにいひけるは我人を爾に遣はして此に來れ我 爾を王につかはさんと言り即ち爾をして王に我何のためにゲシユルよりきたりしや彼處に尚あらば我ためには反て善しと言しめんとせり然ば我今王の面を見ん若し我に罪あらば王我を殺すべし 33 ヨアブ王にいたりてこれに告たれば王アブサロムを召す彼王にいたりて王のまへに地に伏て拜せり王アブサロムに接吻す

第十五章

1 此後アブサロム己のために戰 車と馬ならびに己のまへに驅る者五十人を備たり 2 アブサロム夙く興きて門の途の 傍 にたち人の訴訟ありて王に裁判を求めんとて來る時はアブサロム其人を呼ていふ爾は何の邑の者なるやと其人 僕はイスラエルの某の支派の者なりといへば 3 アブサロム其人にいふ見よ爾の事は善くまた正し然ど爾に聽くべき人は王いまだ立ずと 4 アブサロム又嗚呼我を此地の士師となす者もがな然れば凡て訴訟と公事ある者は我に來りて我之に公義を爲しあたへんといふ 5 また人彼を拜せんとて近づく時は彼手をのばして其人を扶け之に接吻す 6 アブサロム凡て王に裁判を求めんとて來るイスラエル人に是のごとくなせり斯アブサロムはイスラエルの人々の心を取り 7 斯て四年の後アブサロム王にいひけるは請ふ我をして往てヘブロンにてヱホバに我嘗て立し願 を果さしめよ 8 其は僕スリアのゲシユルに居し時 願を立て若しヱホバ誠に我をエルサレムに携歸りたまはば我ヱホバに事へんと言たればなりと 9 王かれにいひけるは安然に往けと彼すなはち起てヘブロンに往り 10 しかしてアブサロム窺ふ者をイスラエルの支派の中に徧く遣はして言せけるは爾等喇叭の音を聞ばアブサロム、ヘブロンにて王となれりと思ふべしと 11 二百 人の招かれたる者エルサレムよりアブサロムとともにゆけり彼らは何 心なくゆきて何事をもしらざりき 12 アブサロム犧牲をささぐる時にダビデの議官ギロ人アヒトペルを其邑ギロより呼よせたり徒黨強くして民次第にアブサロムに加はりぬ 13 爰に使者ダビデに來りてイスラエルの人の心アブサロムにしたがふといふ 14 ダビデおのれと共にエルサレムに居る凡ての僕にいひけるは起てよ我ら逃ん然らずば我らアブサロムより遁るるあたはざるべし急ぎ往け恐らくは彼急ぎて我らに追ひつき我儕に害を蒙らせ刃をもて邑を擊ん 15 王の僕 等王にいひけるは視よ僕 等王わが主の選むところを凡て爲ん 16 王いでゆき其全家これにしたがふ王十人の妾なる婦を遺して家をまもらしむ 17 王いでゆき民みな之にしたがふ彼等 遠の家に息めり 18 かれの僕 等みな其傍 に進みケレテ人とペレテ人および彼にしたがひてガテよりきたれる六百 人のガテ人みな王のまへに進めり 19 時に王がガテ人イツタイにいひけるは何ゆゑに爾もまた我らとともにゆくや爾かへりて王とともにをれ爾は外國人にして移住て處をもとむる者なり 20 爾は昨日來れ

り我は今日わが得るところに往くなれば豈 爾をして我らとともにさまよはしむべけんや爾 歸り爾の兄 弟をも携歸るべしねがはくは恩と眞實 爾とともにあれ 21イツタイ王に答へていひけるはヱホバは活く王わが主は活く誠に王わが主いかなる處に坐すとも生死ともに僕もまた其處に居るべし 22ダビデ、イツタイにいひけるは進みゆけガテ人イツタイ乃ち進みかれのすべての從者およびかれとともにある妻子皆進めり 23國中皆大聲をあげて哭き民皆進む王もまたキデロン川を渡りて進み民皆進みて野の道におもむけり 24視よザドクおよび倶にあるレビ人もまた皆神の契約の櫃を舁ていたり神の櫃をおろして民の悉 く邑よりいづるをまてりアビヤタルもまたのぼれり 25ここに王ザドクにいひけるは神の櫃を邑に舁もどせ若し我ヱホバのまへに恩をうるならばヱホバ我を携かへりて我にこれを見し其往處を見したまはん 26されどヱホバもし汝を悦ばずと斯いひたまはば視よ我は此にあり其目に善と見ゆるところを我になしたまへ 27王また祭司ザドクにいひけるは汝 先見者 汝らの二人の子 即ち汝の子アヒマアズとアビヤタルの子ヨナタンを伴ひて安然に城邑に歸れ 28見よ我は汝より言のきたりて我に告るまで野の渡 場に留まらんと 29ザドクとアビヤタルすなはち神の櫃をエルサレムに舁もどりて彼處に止まれり 30ここにダビデ橄欖山の路を陟りしが陟るときに哭き其 首を蒙みて跣足にて行りかれと倶にある民皆 各 其 首を蒙みてのぼり哭つつのぼれり 31時にアヒトペルがアブサロムに與せる者の中にあることダビデに聞えければダビデいふヱホバねがはくはアヒトペルの計 策を愚ならしめたまへと 32ダビデ 嶺 にある神を拝する處に至れる時視よアルキ人ホシヤイ衣を裂き土を頭にかむりてきたりてダビデを迎ふ 33ダビデかれにいひけるは爾 若し我とともに進まば我の負となるべし 34されど汝もし城邑にかへりてアブサロムにむかひ王よ我 爾の僕となるべし此まで爾の父の僕たりしごとく今また汝の僕となるべしといはば爾はわがためにアヒトペルの計 策を敗るにいたらん 35祭司ザドクとアビヤタル爾とともに彼處にあるにあらずや是故に爾が王の家より聞たる事はことごとく祭司ザドクとアビヤタルに告べし 36視よかれらとともに彼處にはその二人の子即 ちザドクの子アヒマアズとアビヤタルの子ヨナタンをるなり爾ら其聞たる事をことごとく彼等の手によりて我に通ずべし 37ダビデの友ホシヤイすなはち城邑にいたりぬ時にアブサロムはエルサレムに入居たり

第十六章

1ダビデ少しく嶺 を過ゆける時視よメピボセテの僕ヂバ鞍おける二頭の驢馬を引き其上にパン二百 乾葡萄一 百 球乾 棗の團塊一 百 酒一 嚢を載きたりてダビデを迎ふ 2王ヂバにいひけるは此等は何なるかヂバいひけるは驢馬は王の家族の乗るためパンと乾 棗は少者の食ふため酒は野に困憊たる者の飲むためなり 3王いひけるは爾の主人の子は何處にあるやヂバ王にいひけるはかれはエルサレムに止まる其は彼イスラエルの家今日我父の國を我にかへさんと言をればなり 4王ヂバにいひけるは視よメピボセテの所有は悉く爾の所有となるべしヂバいひけるは我拝す王わが主よ我をして爾のまへに恩を蒙むらしめたまへ 5斯てダビデ王バホリムにいたるに視よ彼處よりサウルの家の族の者一人出きたる其名をシメイといふゲラの子なり彼出きたりて來りつつ詛へり 6又彼ダビデとダビデ王の 諸 の臣僕にむかひて石を投たり時に民と勇士皆王の左右にあり 7シメイ詛の中に斯いへり汝 血を流す人よ爾 邪 なる人よ出され出され 8爾が代りて位に登りしサウルの家の血を凡てヱホバ爾に歸したまへりヱホバ國を爾の子アブサロムの手に付したまへり視よ爾は血を流す人なるによりて禍患の中にあるなり 9ゼルヤの子アビシヤイ王にいひけるは此死たる犬なんぞ王わが主を詛ふべけんや請ふ我をして渉りゆきてかれの首を取しめよ 10王いひけるはゼルヤの子等よ爾らの與るところにあらず彼の詛ふはヱホバ彼にダビデを詛へと言たまひたるによるなれば誰か爾なんぞ然するやと言べけんや 11ダビデ又アビシヤイおよび己の諸の臣僕にいひけるは視よわが身より出たるわが子わが生命を求む況や此ベニヤミン人をや彼を聽して詛はしめよヱホバ彼に命じたまへるなり 12ヱホバわが艱難を俯視みたまふことあらん又ヱホバ今日彼の詛のために我に善を報いたまふことあらんと 13斯てダビデと其從者途を行けるにシメイはダビデに對へる山の 傍 に行て行つつ詛ひまた彼にむかひて石を投げ塵を揚たり 14王および倶にある民皆アエピムに來りて彼處に息をつげり 15偕アブサロムと總ての民イスラエルの人々エルサレムに至れりアヒトペルもアブサロムとともにいたる 16ダビデの友なるアルキ人ホシヤイ、アブサ

ロムの許に來りし時アブサロムにいふ願くは王 壽 かれ願くは王 壽 かれ 17アブサロム、ホシヤイにいひけるは此は爾が其友に示す厚 意なるや爾なんぞ爾の友と往ざるやと 18ホシヤイ、アブサロムにいひけるは然らずヱホバと此民とイスラエルの總の人々の選む者に我は屬し且其人とともに居るべし 19且又我誰に事ふべきか其子の前に事べきにあらずや我は爾の父のまへに事しごとく爾のまへに事べし 20爰にアブサロム、アヒトベルにいひけるは我儕如何に爲べきか爾等 計 を爲すべしと 21アヒトペル、アブサロムにいひけるは爾の父が遺して家を守らしむる妾 等の處に入れ然ばイスラエル皆 爾が其父に惡まるるを聞ん而して爾とともにをる總の者の手強くなるべしと 22是において屋脊にアブサロムのために天幕を張ければアブサロム、イスラエルの目のまへにて其父の妾 等の處に入りぬ 23當時アヒトペルが謀れる謀 計は神の言に問たるごとくなりきアヒトペルの謀 計は皆ダビデとアブサロムとに倶に是のごとく見えたりき

第十七章

1時にアヒトペル、アブサロムにいひけるは請ふ我に一萬二千の人を擇み出さしめよ我起て今夜ダビデの後を追ひ 2彼が憊れて手弱なりし所を襲ふて彼をおびえしめん而して彼とともにをる民の逃ん時に我王一人を擊とり 3 總の民を爾に歸せしむべし夫衆の歸するは爾が求むる此人に依なれば民みな平穩になるべし 4此 言アブサロムの目とイスラエルの總の長老の目に的當と見えたり 5アブサロムいひけるはアルキ人ホシヤイをも召きたれ我等彼が言ふ所をも聞んと 6ホシヤイ乃ちアブサロムに至るにアブサロムかれにかたりていひけるはアヒトペル是のごとく言り我等其 言を爲べきか若し可ずば爾 言ふべし 7ホシヤイ、アブサロムにいひけるは此時にあたりてアヒトペルが授けし計 略は善らず 8ホシヤイまたいひけるは爾の知るごとく爾の父と其從者は勇士なり且彼等は野にて其子を奪れたる熊の如く其氣激怒をれり又 爾の父は戰 士なれば民と共に宿らざるべし 9彼は今 何の穴にか何の 處にか匿れをる若し數人の者手 始に仆なば其を聞く者は皆アブサロムに從ふ者の中に敗ありと言はん 10しからば獅子の心のごとき心ある勇猛き夫といふとも全く挫碎ん其はイスラエル皆 爾の父の勇士にして彼とともにある者の勇猛き人なるをしればなり 11我は計議るイスラエルをダンよりベエルシバにいたるまで海濱の沙の多きが如くに悉く爾の處につどへ集めて爾 親ら戰陣に臨むべし 12我等彼の見出さるる處にて彼を襲ひ露の地に下るがごとく彼のうへに降らんしかして彼および彼とともにあるすべての人々を一人も遺さざるべし 13若し彼 何かの城邑に集らばイスラエル皆繩を其城邑にかけ我等これを河に曳きたふして其處に一の小石も見えざらしむべしと 14アブサロムとイスラエルの人々皆アルキ人ホシヤイの謀 計はアヒトペルの謀 計よりも善しといふ其はヱホバ、アブサロムに禍を降さんとてヱホバ、アヒトペルの善き謀 計を破ることを定めたまひたればなり 15爰にホシヤイ祭司ザドクとアビヤタルにいひけるはアヒトペル、アブサロムとイスラエルの長老等のために斯々に謀れりきた我は斯々に謀れり 16されば爾ら 速 に人を遣してダビデに告て今夜野の渡 場に宿ることなく 速 に渡りゆけといへおそらくは王および倶にある民皆呑つくされん 17時にヨナタンとアヒマアズはエンロゲルに俟居たり是は城邑にいるを見られざらんとてなり爰に一人の仕女ゆきて彼等に告げければ彼らダビデ王に告んとて往く 18しかるに一人の少者かれらを見てアブザロムにつげたりされど彼等二人は急ぎさりてバホリムの或人の家にいたる其人の庭に井ありてかれら其處にくだりければ 19婦 蓋をとりて井の口のうへに掩け其上に擣たる麥をひろげたり故に事知れざりき 20時にアブサロムの僕 等其 婦の家に來りていひけるはアヒマアズとヨナタンは何處にをるや婦かれらに彼人々は小川を濟れりといふかれら尋ねたれども見當 ざればエルサレムに歸れり 21彼等が去し時かの二人は井よりのぼりて往てダビデ王に告げたり即ちダビデに言けるは起て速かに水を濟れ其はアヒトベル斯爾等について謀 計を爲したればなりと 22ダビデ起て己とともにある凡ての民とともにヨルダンを濟れり 曙 には一人もヨルダンを濟らざる者はなかりき 23アヒトベルは其謀 計の行 れざるを見て其驢馬に鞍おき起て其邑に往て其家にいたり家の人に遺言して自ら縊れ死て其父の墓に葬らる 24爰にダビデ、マナハイムに至る又アブサロムは己とともにあるイスラエルの凡の人々とともにヨルダンを濟れり 25アブサロム、アマサをヨアブの代りに軍の長と爲りアマサは夫のナハシの女にてヨアブの母ゼルヤの 妹 なるアビガルに通じたるイシマエル人名はヱテルといふ人の子なり 26かくてイスラエルとアブサロムはギレアデの

地に陣どれり 27ダビデ、マハナイムにいたれる時アンモンの子孫の中なるラバのナハシの子シヨビとロデバルのアンミエルの子マキルおよびロゲリムのギレアデ人バルジライ 28臥床と鍋釜と 陶　器と小麥と大麥と粉と烘麥と豆と小豆の烘たる者と 29蜜と牛酪と羊と犢をダビデおよび倶にある民の食ふために持來れり其は彼等民は野にて饑憊れ渇くならんと謂たればなり

第十八章

1爰にダビデ己とともにある民を核べて其上に千夫の長百夫の長を立たり 2しかしてダビデ民を三に分ちて其一をヨアブの手に託け一をゼルヤの子ヨアブの兄弟アビシヤイの手に託け一をガテ人イツタイの手に託けたりかくして王民にいひけるは我もまた必ず汝らとともに出んと 3されど民いふ汝は出べからず我儕如何に逃るとも彼等は我儕に心をとめじ又我儕半死とも我儕に心をとめざるべしされど汝は我儕の一萬に等し故に汝は城邑の中より我儕を助けなば善し 4王かれらにいひけるは汝等の目に善と見ゆるところを爲すべしとかくて王門の　傍に立ち民皆 或は百 人 或は千人となりて出づ 5王ヨアブ、アビシヤイおよびイツタイに命じてわがために少年アブサロムを 寛 に待へよといふ王のアブサロムの事について諸の將官に命を下せる時民皆聞り 6爰に民イスラエルにむかひて野に出でエフライムの叢林に戰ひしが 7イスラエルの民其處にてダビデの臣僕のまへに敗る其日彼處の戰死 大にして二萬にいたれり 8しかして戰　徧く其地の表に廣がりぬ是日叢林の滅ぼせる者は刀劍の滅ぼせる者よりも多かりき 9爰にアブサロム、ダビデの臣僕に行き遭り時にアブサロム騾馬に乘居たりしが騾馬 大なる橡樹の繁き枝の下を過ければアブサロムの頭 其橡に繋りて彼天地のあひだにあがれり騾馬はかれの下より行過たり 10一箇の人見てヨアブに告ていひけるは我アブサロムが橡樹に懸りをるを見たりと 11ヨアブ其告たる人にいひけるはさらば爾 見て何故に彼を其處にて地に撃落さざりしや我 爾に銀十枚と一本の帶を與へんものを 12其人ヨアブにいひけるは假令わが手に銀千枚を受べきも我は手をいだして王の子に敵せじ其は王我儕の聞るまへにて爾とアビシヤイとイツタイに命じて爾ら 各 少年アブサロムを害するなかれといひたまひたればなり 13我若し反いてかれの生命を戕賊はば何事も王に隱るる所なければ 爾自 ら立て我を責んと 14時にヨアブ我かく爾とともに滯るべからずといひて手に三本の槍を携へゆきて彼の橡樹の中に尚生をるアブサロムの胸に之を衝通せり 15ヨアブの武器を執る十人の少者 繞きてアブサロムを撃ち之を死しめたり 16かくてヨアブ喇叭を吹ければ民イスラエルの後を追ふことを息てかへれりヨアブ民を止めたればなり 17衆　アブサロムを將て叢林の中なる大なる穴に投げいれ其上に甚だ大きく石を疊あげたり是においてイスラエル皆おのおの其天幕に逃かへれり 18アブサロム我はわが名を傳ふべき子なしと言て其生る間に己のために一の表柱を建たり王の谷にあり彼おのれの名を其表柱に與たり其表柱今日にいたるまでアブサロムの碑と稱らる 19爰にザドクの子アヒマアズいひけるは請ふ我をして趨りて王にヱホバの王をまもりて其敵の手を免かれしめたまひし音信を傳へしめよと 20ヨアブかれにいひけるは汝は今日音信を傳へしめよと 20ヨアブかれにいひけるは汝は今日音信を傳ふるものとなるべからず他 日に音信を傳ふべし今日は王の子死たれば汝 音信を傳ふべからず 21ヨアブ、クシ人にいひけるは往て爾が見たる所を王に告よクシ人ヨアブに禮をなして走れり 22ザドクの子アヒマアズ再びヨアブにいひけるは請ふ何にもあれ我をも亦クシ人の後より走ゆかしめよヨアブいひけるは我子よ爾は充分の音信を持ざるに何故に走りゆかんとするや 23かれいふ何れにもあれ我をして走りゆかしめよとヨアブかれにいふ走るべし是においてアヒマアズ低地の路をはしりてクシ人を走越たり 24時にダビデは二の門の間に坐しゐたり爰に守望者門の蓋上にのぼり石壙にのぼりて其目を擧て見るに視よ獨一人にて走きたる者あり 25守望者呼はりて王に告ければ王いふ若し獨ならば口に音信を持つならんと其人進み來りて近づけり 26守望者復一人の走りきたるを見しかば守望者 守 門 者に呼はりて言ふ獨一人にて走きたる者あり王いふ其人もまた音信を持ものなり 27守望者言ふ我 先 者の走を見るにザドクの子アヒマアズの走るが如しと王いひけるは彼は善人なり善き音信を持來るならん 28アヒマアズ呼はりて王にいひけるはねがはくは平安なれとかくて王のまへに地に伏していふ爾の神ヱホバは讃べきかなヱホバかの手をあげて王わが主に敵したる人々を付したまへり 29王いひけるは少年アブサロムは平安なるやアヒマアズこたへけるは王の僕ヨアブ僕を遣はせし時我 大なる噪を見たれども何をも知らざるなり 30王いひけるは側にいたりて其處に立よと乃ち側にいたり

て立つ 31時に視よクシ人來れりクシ人いひけるはねがはくは王音信を受たまへヱホバ今日 爾をまもりて凡て爾にたち逆ふ者の手を免かれしめたまへり 32王クシ人にいひけるは少年アブサロムは平安なるやクシ人いひけるはねがはくは王わが主の敵および凡て汝に起ち逆ひて害をなさんとする者は彼少年のごとくなれと 33王 大に感み門の樓にのぼりて哭り彼行ながらかくいへりわが子アブサロムよわが子わが子アブサロムよ嗚呼われ汝に代りて死たらん者をアブサロムわが子よわが子よ

第十九章

1時にヨアブに告る者ありていふ視よ王はアブサロムの爲に哭き悲しむと 2其日の勝利は凡の民の悲哀となれり其は民其日王は其子のために憂ふと言ふを聞たればなり 3其日民は戰爭に逃て羞たる民の竊て去がごとく竊て城邑にいりぬ 4王は其面を掩へり王大聲に叫てわが子アブサロムよアブサロムわが子よわが子よといふ 5ここにヨアブ家にいり王の許にいたりていひけるは汝 今日 汝の生命と汝の男子 汝の女子の生命および汝の妻等の生命と汝の妾 等の生命を救ひたる汝の凡の臣僕の顔を羞させたり 6是は汝おのれを惡む者を愛しおのれを愛する者を惡むなり汝 今日 汝が諸侯伯をも諸僕をも顧みざるを示せり今日我さとる若しアブサロム生をりて我儕皆死たらば汝の目に適ひしならん 7されど今立て出で汝の諸 僕を慰 めてかたるべし我ヱホバを指て誓ふ汝 若し出ずば今夜一人も汝とともに止るものなかるべし是は汝が若き時より今にいたるまでに蒙りたる 諸 の災禍よりも汝に惡かるべし 8是に於て王たちて門に坐す人々 凡の民に告て視よ王は門に坐し居るといひければ民皆王のまへにいたる然どイスラエルはおのむの其天幕に逃かへれり 9イスラエルの 諸 の支派の中に民皆 爭ひていひけるは王は我儕を敵の手より救ひいだしまた我儕をペリシテ人の手より助けいだせりされど今はアブサロムのために國を逃いでたり 10また我儕が膏そそぎて我儕の上にかきしアブサロムは戰爭に死ねりされば爾ら何ぞ王を導きかへらんことと言ざるや 11ダビデ王祭司ザドクとアビヤタルに言つかはしけるはユダの長老等に告て言へイスラエルの全家の言語王の家に達せしに爾ら何ぞ王を其家に導きかへる最後となるや 12爾等はわが兄弟 爾らはわが骨肉なりしかるになんぞ爾等王を導き歸る最後となるやと 13又アマサに言べし爾はわが骨肉にあらずや爾ヨアブにかはりて常にわがまへにて軍 長たるべし若しからずば神我に斯なし又重ねてかくなしたまへと 14かくダビデ、ユダの凡の人をして其心を傾けて一人のごとくにならしめければかれら王にねがはくは爾および爾の諸の臣僕歸りたまへといひおくれり 15是において王歸りてヨルダンにいたるにユダの人々王を迎へんとて來りてギルガルにいたり王を送りてヨルダンを濟らんとす 16時にバホリムのベニヤミン人ゲラの子シメイ急ぎてユダの人々とともに下りダビデ王を迓ふ 17一千のベニヤミン人彼とともにありまた亦サウルの家の僕ヂバも其十五人の男子と二十人の僕をしたがへて偕に居たりしが皆王のまへにむかひてヨルダンをこぎ渡れり 18時に王の家族を濟しまた王の目に善と見ゆるところを爲んとて濟 舟を濟せり爰にゲラの子シメイ、ヨルダンを濟れる時王のまへに伏して 19王にいひけるはわが主よねがはくは罪を我に歸するなかれまた王わが主のエルサレムより出たまへる日に僕が爲たる惡き事を記憶えたまふなかれねがはくは王これを心に置たまふなかれ 20其は僕 我罪を犯したるを知ればなり故に視よ我今日ヨセフの全家の最初に下り來りて王わが主を迓ふと 21然にゼルヤの子アビシヤイ答へていひけるはシメイはヱホバの膏そそぎし者を詛たるに因て其がために誅さるべきにあらずやと 22ダビデいひけるは爾らゼルヤの子よ爾 らのあづかるところにあらず爾等今日我に敵となる今日豈イスラエルの中にて人を誅すべけんや我豈わが今日イスラエルの王となりたるをしらざらんやと 23是をもて王はシメイに爾は誅されじといひて王かれに誓へり 24爰にサウルの子メピボセテ下りて王をむかふ彼は王の去し日より安かに歸れる日まで其足を飾らず其鬚を飾らず又其 衣を濯ざりき 26彼エルサレムよりきたりて王を迓ふる時王かれにいひけるはメビボセテ爾なんぞ我とともに往ざりしや 彼こたへけるはわが主王よわが僕 我を 欺けり僕はわれ驢馬に鞍おきて其に乘て王の處にゆかんといへり僕 跛者なればなり 27しかるに彼 僕を王わが主に讒言せり然ども王わが主は神の使のごとし故に爾の目に善と見るところを爲たまへ 28わが父の全家は王わが主のまへには死 人なるのみなるに爾 僕を爾の席にて食ふ者の中に置たまへりされば我何の 理 ありてか重ねて王に哀訴ることをえん 29王かれにいひけるは爾なんぞ重ねて爾 の事を言や我いふ爾とヂバ其地を分つべし 30メピボセ

テ王にいひけるは王わが主安然に其家に歸りたまひたれ
ばかれに之を悉くとらしめたまへと 31爰にギレアデ人
バルジライ、ロゲリムより下り王を送りてヨルダンを渡
らんとて王とともにヨルダンを濟れり 32バルジライは甚
だ老たる人にて八十歳なりきかれは甚だ大なる人なれば
王のマハナイムに留れる間王を養へり 33王バルジライに
いひけるは爾我とともに濟り來れ我エルサレムにて爾を
我とともに養はん 34バルジライ王にいひけるはわが生命
の年の日尚幾何ありてか我王とともにエルサレムに上ら
んや 35我は今日八十歳なり善きと惡きとを辨へるをえん
や僕其食ふところと飮ところを味ふをえんや我再び
謳歌之男と謳歌之女の聲を聽えんや僕なんぞ尚王わが
主の累となるべけんや 36僕は王とともにヨルダンを濟
りて只少しくゆかん王なんぞこの報賞を我に報ゆるに及
ばんや 37請ふ僕を歸らしめよ我自己の邑にてわが父母の
墓の側に死ん但し僕キムハムを視たまへかれを王わが主
とともに濟り往しめたまへ又爾の目に善と見る所を彼に
なしたまへ 38王いひけるはキムハム我とともに濟り往く
べし我爾の目に善と見ゆる所をかれに爲ん又爾が望み
て我に求むる所は皆我爾のために爲すべしと 39民皆ヨル
ダンを濟れり王渡りし時王バルジライに接吻してこれを
祝す彼遂に己の所に歸れり 40かくて王ギルガルに進むに
キムハムかれとともに進めりユダの民皆王を送れりイス
ラエルの民の半も亦しかり 41是にイスラエルの人々皆王
の所にいたりて王にいひけるは我儕の兄弟なるユダの
人々何故に爾を竊みさり王と其家族およびダビデとと
なる其凡の從者を送りてヨルダンを濟りしやと 42ユダの
人々皆イスラエルの人々に對へていふ王は我に近きが故
なり爾なんぞ此事について怒るや我儕王の物を食ひし
ことあるや王我儕に賜物を與へたることあるや 43イスラエ
ルの人ユダの人に對ていひけるは我は王のうちに十の分
を有ち亦ダビデのうちにも我は爾よりも多を有つなりし
かるに爾なんぞ我らを輕じたるやわが王を導きかへらん
と言しは我最初なるにあらずやとされどユダの人々の言
はイスラエルの人々の言よりも厲しかりき

第二十章

1爰に一人の邪なる人あり其名をシバといビクリの子に
してベニヤミン人なり彼喇叭を吹ていひけるは我儕はダ
ビデの中に分なし又ヱサイの子のうちに產業なしイスラ
エルよ各人其天幕に歸れよと 2是によりてイスラエルの
人皆ダビデに隨ふことを止てのぼりビクリの子シバにし
たがへり然どユダの人々は其王に附てヨルダンよりエル
サレムにいたれり 3ダビデ、エルサレムにある己の家に
いたり王其遺して家を守らせたる妾なる十人の婦をとり
てこれを一の室に守り置て養へりされどかれらの處には
入ざりき斯かれらは死る日まで閉こめられて生涯鰥婦に
てすごせり 4爰に王アマサにいひけるは我ために三日の
うちにユダの人々を召きたれしかして爾此處にをれ 5ア
マサ乃ちユダを召あつめんとて往たりしが彼ダビデが定
めたる期よりも長く留れり 6是においてダビデ、アビシ
ヤイにいひけるはビクリの子シバ今我儕にアブサロムよ
りもおほくの害をなさんとす爾の主の臣僕を率ゐて彼の
後を追へ恐らくは彼堅固なる城邑を獲て我儕の目を逃れ
んと 7是によりてヨアブの從者とケレテ人とペレテ人およ
び都の勇士彼にしたがひて出たり即ち彼等エルサレム
より出てビクリの子シバの後を追ふ 8彼等がギベオンに
ある大石の傍に居りし時アマサかれらにむかひ來れり
時にヨアブ戎衣に帶を結て衣服となし其上に刀を鞘に
をさめ腰に結びて帶び居たりしが其劍脫け墮ちたり 9ヨ
アブ、アマサにわが兄弟よ爾は平康なるやといひて右の
手をもてアマサの鬚を將て彼に接吻せんとせしが 10アマ
サはヨアブの手にある劍に意を留ざりければヨアブ其を
もてアマサの腹を刺して其腸を地に流しいだし重ねて
擊に及ばざらしめてこれをころせり かくてヨアブと其
兄弟アビシヤイ、ビクリの子シバの後を追り 11時にヨア
ブの少者の一人アマサの側にたちていふヨアブを助くる
者とダビデに附從ものはヨアブの後に隨へと 12アマサは
血に染て大路の中に轉び居たり斯人民の皆立どまるを見
てアマサを大路より田に移したるが其側にいたれる者
皆見て立ちとまりければ衣を其上にかけたり 13アマサ
大路より移されければ人皆ヨアブにしたがひ進みてビク
リの子シバの後を追ふ 14彼イスラエルの凡の支派の中を
行てアベルとベテマアカに至るに少年皆集りて亦かれに
したがひゆけり 15かくて彼等來りて彼をアベル、ベテマ
アカに圍み城邑にむかひて壘を築けり是は壕の中にたて
りかくしてヨアブとともにある民皆石垣を崩さんとてこ
れを擊居りしが 16一箇の哲き婦城邑より呼はりていふ
爾ら聽よ爾ら聽よ請ふ爾らヨアブに此に近よれ我爾に
言んと言へと 17かれ其婦にちかよるに婦いひけるは爾

はヨアブなるやかれ然りといひければ婦彼にいふ婢の言を聽けかれ我聽くといふ18婦 即ち語りていひけるは昔 人々誠に語りて人必ずアベルにおいて索問べしといひて事を終ふ19我はイスラエルの中の平和なる忠義なる者なりしかるに爾はイスラルの中にて母ともいふべき城邑を滅さんことを求む何ゆゑに爾ヱホバの產業を呑み盡さんとするや20ヨアブ答へていひけるは決めてしからず決めてしからずわれ呑み盡し或は滅ぼさんとすることなし21其事しからずエフライムの山地の人ビクリの子名はシバといふ者手を擧て王ダビデに敵せり爾ら只彼一人を付せ然らば我此邑をさらんと婦ヨアブにいひけるは視よ彼の首級は石垣の上より爾に投いだすべし22かくて婦其智慧をもて凡の民の所にいたりければかれらビクリの子シバの首級を刎てヨアブの所に投出せり是においてヨアブ喇叭を吹ならしければ人々散て邑より退きておのおの其天幕に還りぬヨアブはエルサレムにかへりて王の 處にいたれり23ヨアブはイスラエルの全軍の長なりヱホヤダの子ベナヤはケレテ人とペレテ人の長なり24アドラムは徴募 長なりアヒルデの子ヨシヤパテは史官なり25シワは書記 官なりザドクとアビヤタルは祭司なり26亦ヤイル人イラはダビデの大臣なり

第二十一章

1ダビデの世に年復年と三年饑饉ありければダビデ、ヱホバに問にヱホバ言たまひけるは是はサウルと血を流せる其家のためなり其は彼嘗てギベオン人を殺したればなりと2是において王ギベオン人を召てかれらにいへりギベオン人はイスラエルの子孫にあらずアモリ人の殘餘なりしがイスラエルの子孫 昔 彼等に誓をなしたり然るにサウル、イスラエルとユダの子孫に熱心なるよりして彼等を殺さんと求めたり3即ちダビデ、ギベオン人にいひけるは我汝等のために何を爲すべきか我何の賠償を爲さば汝等ヱホバの產業を祝するや4ギベオン人彼にいひけるは我儕はサウルと其家の金銀を取じ又 汝は我らのためにイスラエルの中の人一人をも殺すなかれダビデいひけるは汝等が言ふ所は我 汝らのために爲ん5彼等王にいひけるは我儕を滅したる人我儕を殲してイスラエルの境の中に居留ざらしめんとて我儕にむかひて 謀 を設けし人6請ふ其人の子孫七人を我儕に與へよ我儕ヱホバの選みたるサウルのギベアにて彼等をヱホバのまへに懸ん王いふ我與ふべしと7されど王サウルの子ヨナタンの子なるメピボセテを惜めり是は彼等のあひだ即ちダビデとサウルの子ヨナタンとの間にヱホバを指して爲る誓あるに因り8されど王アヤの女リヅパがサウルに生し二人の子アルモニとメピボセテおよびサウルの女メラブがメホラ人バルジライの子アデリエルに生し五人の子を取りて9かれらをギベオン人の手に與へければギベオン人かれらを山の上にてヱホバの前に懸たり彼等七人倶に斃れて刈穫の 初日 即ち大麥刈の初時に死り10アヤの女リヅパ麻布を取りて刈穫の初時より其 屍 上に天より雨ふるまでこれをおのれのために磐の上に布きおきて晝は空の鳥を 屍 の上に止らしめず夜は野の獸をちかよらしめざりき11爰にアヤの女サウルの妾リヅパの爲しことダビデに聞えければ12ダビデ往てサウルの骨と其子ヨナタンの骨をヤベシギレアデの人々の所より取り是はペリシテ人がサウルをギルボアに殺してベテシヤンの衢に懸たるをかれらが竊みさりたるものなり13ダビデ其處よりサウルの骨と其子ヨナタンの骨を携へ上れりまた人々其懸られたる者等の骨を斂たり14かくてサウルと其子ヨナタンの骨をベニヤミンの地のゼラにて其父キシの墓に葬り都て王の命じたる所を爲り比より後神其地のため祈祷を聽たまへり15ペリシテ人復イスラエルと戰爭を爲すダビデ其臣僕とともに下りてペリシテ人と戰ひけるがダビデ困憊居りければ16イシビベノブ、ダビデを殺さんと思へり(イシビベノブは巨人の子等の一人にて其槍の 銅 の重は三百シケルあり彼 新しき劒を帶たり) 17しかれどもゼルヤの子アビシヤイ、ダビデを助けて其ペリシテ人を擊ち殺せり是においてダビデの從者かれに誓ひていひけるは汝は再 我儕と共に戰爭に出べからず恐らくは爾イスラエルの燈光を消さんと18此後 再びゴブにおいてペリシテ人と 戰 あり時にホシヤ人シベカイ巨人の子等の一人なるサフを殺せり19爰に復ゴブにてペリシテ人と 戰 あり其處にてベテレヘム人ヤレオレギムの子エルハナン、ガテのゴリアテの兄弟ラミを殺せり其槍の柄は機の梁の如くなりき20又ガテに 戰 ありしが其處に一人の身長き人あり手には 各 六の指あり足には 各 六の指ありて其數合せて二十四なり彼もまた巨人の生る者なり21彼イスラエルを挑みしかばダビデに兄弟シメアの子ヨナタン彼を殺せり22是らの四人はガテにて巨人の生るものなりしがダビデの手と其臣僕の手に斃れたり

第二十二章

1ダビデ、ヱホバが己を諸の敵の手とサウルの手より救ひいだしたまへる日に此歌の言をヱホバに陳たり曰く 2ヱホバはわが巌わが要害我を救ふ者 3わが磐の神なりわれ彼に倚頼むヱホバはわが干わが救の角わが高 櫓わが逃躲處わが救主なり爾 我をすくひて暴き事を免れしめたまふ 4我ほめまつるべきヱホバに呼はりてわが敵より救はる 5死の波涛われを繞み邪曲なる者の河われをおそれしむ 6冥府の繩われをとりまき死の機檻われにのぞめり 7われ艱難のうちにヱホバをよびまたわが神に籲れりヱホバ其殿よりわが聲をききたまひわが喊呼其耳にいりぬ 8爰に地震ひ撼き天の基 動き震へりそは彼怒りたまへばなり 9烟 其鼻より出てのぼり火その口より出て燒きつくしおこれる炭かれより燃いづ 10彼天を傾けて下りたまふ黑雲その足の下にあり 11ケルブに乗て飛び風の翼の上にあらはれ 12其周圍に黑暗をおき集まれる水密 雲を幕としたまふ 13そのまへの光より炭火燃いづ 14ヱホバ天より雷 をくだし最高 者聲をいだし 15又箭をはなちて彼等をちらし 電 をはなちて彼等をうちやぶりたまへり 16ヱホバの叱咤とその鼻の氣吹の風によりて海の底あらはれいで地の基あらはになりぬ 17ヱホバ上より手をたれて我をとり洪水の中より我を引あげ 18またわが勁き敵および我をにくむ者より我をすくひたまへり彼等は我よりも強かりければなり 19彼等はわが菑災の日にわれに臨めりされどヱホバわが支柱となり 20我を廣き處にひきいだしわれを喜ぶがゆゑに我をすくひたまへり 21ヱホバわが 義 にしたがひて我に報い吾手の清潔にしたがひて我に酬したまへり 22其はわれヱホバの道をまもり惡をなしてわが神に離しことなければなり 23その律例は皆わがまへにあり其法憲は我これを離れざるなり 24われ神にむかひて完全かり又身を守りて惡を避たり 25故にヱホバわが 義 にしたがひ其目のまへにわが潔白あるに循ひてわれに報いたまへり 26矜恤者には爾 矜恤ある者のごとくし完全人には爾 完全者のごとくし 27潔白者には爾 潔白もののごとくし邪曲者には爾 嚴刻者のごとくしたまふ 28難る民は爾 これを救たまふ然ど矜高者は爾の目見て之を卑したまふ 29ヱホバ爾はわが燈火なりヱホバわが暗をてらしたまふ 30われ爾によりて軍隊の中を驅とほりわが神に由て石垣を飛こゆ 31神は其道まつたしヱホバの言は純粋なし彼は都て己に倚頼む者の干となりたまふ 32夫ヱホバのほか誰か神たらん我儕の神のほか敦か磐たらん 33神はわが強き堅衆にてわが道を全うし 34わが足を麀の如くなし我をわが崇 邱に立しめたまふ 35神わが手に 戰 を教へたまへばわが腕は 銅 の弓をも挽を得 36爾 我に爾の救の干を與へ爾の慈悲われを大ならしめたまふ 37爾わが身の下の歩 を恢廓しめたまへば我 踝 ふるへず 38われわが敵を追て之をほろぼし之を絶すまではかへらず 39われ彼等を絶し彼等を破碎ば彼等たちえずわが足の下にたふる 40 汝 戰 のために力をもて我に帶しめ又われに逆ふ者をわが下に拝 跪しめたまふ 41爾わが敵をして我に後を見せしめたまふ我を惡む者はわれ之をほろぼさん 42彼等環視せど救ふ者なしヱホバを仰視ど彼等に應たまはず 43地の塵の如くわれ彼等をうちくだき又衢間の泥のごとくわれ彼等をふみにぢる 44爾われをわが民の爭闘より救ひ又われをまもりて異邦人等の首長となしたまふわが知ざる民我につかふ 45異邦人等は我に媚び耳に聞と均しく我にしたがふ 46異邦人等は衰へ其衛所より戰慄て出づ 47ヱホバは活る者なりわが磐は讃べきかなわが救の磐の神はあがめまつるべし 48此神われに仇を報いしめ國々の民をわが下にくだらしめたまひ 49又わが敵の中よりわれを出し我にさからふ者の上に我をあげまた強暴人の許よりわれを救ひいだしたまふ 50是故にヱホバよわれ異邦人等のうちに 爾 をほめ爾の名を稱へん 51ヱホバその王の救をおほいにしその受 膏 者なるダビデと其裔に永久に恩を施したまふなり

第二十三章

1ダビデの最後の言は是なりヱサイの子ダビデの詔言 即ち高く擧られし人ヤコブの神に膏をそそがれし者イスラエルの善き歌人の詔言 2ヱホバの霊わが中にありて言たまふ其諭言わが舌にあり 3イスラエルの神いひたまふイスラエルの磐われに語たまふ人を正く治むる者神を畏れて治むる者は 4日の出の朝の光のごとく雲なき朝のごとく又雨の後の日の光明によりて地に茁いづる新草ごとし 5わが家かく神とともにあるにあらずや神 萬 具備りて鞏固なる永久の契約を我になしたまへり吾が救と 喜 を皆いかで生ぜしめたまはざらんや 6しかれども 邪 なる者は荊棘のごとくにして手をもて取がたければ皆ともにすてられん 7之にふるる人は鐵と槍の柯とを其身に備ふべし是は火にやけて燒たゆるにいたらん 8是等はダビデの

勇士の名なりタクモニ人ヤシヨベアムは三人衆の長なりしが一時八百人にむかひて槍を揮ひて之を殺せり 9彼の次はアホア人ドドの子エルアザルにして三勇士の中の者なり彼其處に戰はんとて集まれるペリシテ人にむかひて戰 を挑みイスラエルの人々の進みのぼれる時にダビデとともに居たりしが 10たちてペリシテ人を撃ち終に其手疲て其手劍に固着て離れざるにいたれり此日ヱホバ大なる救拯を行ひたまふ民は彼の跡にしたがひゆきて只褫取而已なりき 11彼の次はハラリ人アゲの子シヤンマなり一時ペリシテ人一隊となりて集まれり彼處に扁豆の滿たる地の處あり民ペリシテ人のまへより逃たるに 12彼其地の中に立て禦ぎペリシテ人を殺せりしかしてヱホバ大なる救拯を行ひたまふ 13刈穫の時に三十人衆の首長なる三人下りてアドラムの洞穴に往てダビデに詣れり時にペリシテ人の隊レパイムの谷に陣どれり 14其時ダビデは要害に居りペリシテ人の先陣はベテレヘムにあり 15ダビデ慕ひていひけるは誰かベテレヘムの門にある井の水を我にのましめんかと 16三勇士 乃ちペリシテ人の陣を衝き過 てベテレヘムの門にある井の水を汲取てダビデの許に携へ來れり然どダビデ之をのむことをせずこれをヱホバのまへに灌ぎて 17いひけるはヱホバよ我決てこれを爲じ是は生命をかけて往し人の血なりと彼これを飮ことを好まざりき三勇士は是等の事を爲り 18ゼルヤの子ヨアブの兄弟 アビシヤイは三十人衆の首たり彼三百人にむかひて槍を揮ひて殺せり彼其三十人衆の中に名を得たり 19彼は三十人衆の中の最も尊き者にして彼等の長とたれり 然ども三人衆には及ばざりき 20ヱホヤダの子カブジエルのベナヤは勇氣あり多くの功績ありし者なり彼モアブの人の獅子の如きもの二人を擊殺せり彼は亦雪の時に下りて穴の中にて獅子を擊殺せり 21彼また容貌魁偉たるエジプト人を擊殺せり其エジプト人は手に槍を持たるに彼は杖を執て下りエジプト人の手より槍を捩とりて其槍をもてこれを殺せり 22ヱホヤダの子ベナヤ是等の事を爲し三十勇士の中に名を得たり 23彼は三十人衆の中に尊かりしかども三人衆には及ばざりきダビデかれを參議の中に 列しむ 24三十人衆の中にはヨアブの兄弟アサヘル、ベテレヘムのドドの子エルハナン 25ハロデ人シヤンマ、ハロデ人エリカ 26パルデ人ヘレヅ、テコア人イツケシの子イラ 27アネトテ人アビエゼル、ホシヤ人メブンナイ 28アホア人ザルモン、ネトバ人マハライ 29ネトパ人バアナの子ヘレブ、ベニヤミンの子孫のギベアより出たるリバイの子イツタイ 30ヒラトン人ベナヤ、ガアシの谷のヒダイ 31アルパテ人アビアルボン、バホリム人アズマウテ 32シヤルボニ人エリヤバ、キゾニ人ヤセン 33ハラリ人シヤンマの子ヨナタン、アラリ人シヤラルの子アヒアム 34ウルの子エリパレテ、マアカ人ヘペル、ギロ人アヒトペルの子エリアム 35カルメル人ヘヅライ、アルバ人パアライ 36ゾバのナタンの子イガル、ガド人バニ 37アンモニ人ゼレク、ゼルヤの子ヨアブの武器を執る者ベエロデ人ナハライ 38エテリ人イラ、エテリ人ガレブ 39ヘテ人ウリヤあり都三十七人

第二十四章

1ヱホバ復イスラエルにむかひて怒を發しダビデを感動して彼等に敵對しめ往てイスラエルとユダを數へよと言しめたまふ 2王 乃ちヨアブおよびヨアブとともにある軍 長 等にいひけるは請ふイスラエルの諸の支派の中をダンよりベエルシバに至るまで行めぐりて民を核べ我をして民の數を知しめよ 3ヨアブ王にいひけるは幾何あるともねがはくは汝の神ヱホバ民を百 倍に增たまへ而して王わが主の目それを視るにいたれ然りといへども王わが主の此事を悅びたまふは何故ぞやと 4されど王の言ヨアブと軍 長 等に勝ればヨアブと軍 長 等王の前を退きてイスラエルの民を核べに往り 5かれらヨルダンを濟りアロエルより即ち河の中の邑より始めてガドにいたりヤゼルにいたり 6ギレアデにいたりタテムホデシの地にいたり又ダニヤンにいたりてシドンに旋り 7またツロの城にいたりヒビ人とカナン人の諸の邑にいたりユダの南に出てベエルシバにいたれり 8彼等國を徧く行めぐり九月と廿日を經てルサレムに至りぬ 9ヨアブ人口の數を王に告たり即ちイスラエルに劍を抜く壯士八十萬ありき又ユダの人は五十萬ありき 10ダビデ民の數を書し後其心 自ら責む是においてダビデ、ヱホバにいふ我これを爲して大に罪を犯したりねがはくはヱホバよ僕の罪を除きたまへ我 甚だ愚なる事を爲りと 11ダビデ朝興し時ヱホバの言ダビデの先見者なる預言者ガデに臨みて曰く 12往てダビデに言へヱホバ斯いふ我 汝に三を示す汝 其 一を擇べ我其を汝に爲んと 13ガデ、ダビデの許にいたりこれに告てこれにいひけるは汝の地に七年の饑饉いたらんか或は汝 敵に追れて三月其前に遁んか或は爾の地に三日の疫 病あら

んか爾 考へてわが如何なる答を我を遣はせし者に爲べきかを決めよ 14ダビデ、ガデにいひけるは我 大に苦しむ請ふ我儕をしてヱホバの手に陥らしめよ其憐憫 大なればなり我をして人の手に陥らしむるなかれ 15是においてヱホバ朝より集會の時まで疫病をイスラエルに降したまふダンよりベエルシバまでに民の死る者七萬人なり 16天の使 其手をエルサレムに伸てこれを滅さんとしたりしがヱホバ此害惡を悔て民を滅す天 使にいひたまひけるは足り今 汝の手を住めよと時にヱホバの使はヱブス人アラウナの禾場の 傍 にあり 17ダビデ民を撃つ天 使を見し時ヱホバに申していひけるは嗚呼我は罪を犯したり我は惡き事を爲たり然ども是等の羊群は何を爲たるや請ふ爾の手を我とわが父の家に對たまへと 18此日ガデ、ダビデの所 にいたりてかれにいひけるは上りてヱブス人アラウナの禾場にてヱホバに壇を建よ 19ダビデ、ガデの言に隨ひヱホバの命じたまひしごとくのぼれり 20アラウナ觀望て王と其臣僕の己の方に進み來るを見アラウナ出て王のまへに地に伏て拝せり 21かくてアラウナいひけるは何に因てか王わが主 僕の所にきませるやダビデひけるは汝より禾場を買ひとりヱホバに壇を築きて民に降る 災 をとどめんとてなり 22アラウナ、ダビデにいひけるはねがはくは王わが主其目に善と見ゆるものを取て献げたまへ燔祭には牛あり薪には打禾車と牛の器ありと 23アラリナこれを 悉 く王に奉呈ぐアラウナ又王にねがはくは爾の神ヱホバ爾を受納たまはんことをといふ 24王アラウナにいひけるは斯すべからず我 必ず値をはらひて爾より買とらん我 費なしに燔祭をわが神ヱホバに献ぐることをせじとダビデ銀五十シケルにて禾場と牛を買とれり 25ダビデ其處にてヱホバに壇を築き燔祭と酬恩祭を献げたり是においてヱホバ其地のために祈祷を聽たまひて 災 のイスラエルに降ること止りぬ

列王紀略上

第一章

1爰にダビデ王年邁みて老い寝衣を衣するも 温 らざりければ 2其臣僕等彼にいひけるは王わが主のために一人の若き處女を求めしめて之をして王のまへにたちて王の左右となり汝の 懐 に臥て王わが主を暖めしめんと 3彼等乃ちイスラエルの四方の境に 美 き童女を求めてシユナミ人アビシヤグを得て之を王に携きたれり 4此童女 甚だ美 くして王の左右となり王に事たり然ど王之と交はらざりき 5時にハギテの子アドニヤ自ら高くし我は王とならんと言て己のために戰 車と騎兵および自己のまへに驅る者五十人を備へたり 6其父は彼が生れてより已來 汝何故に然するやと言てかれを痛しめし事なかりきアドニヤも亦容貌の甚だ美き者にてアブサロムの次に生れたり 7彼ゼルヤの子ヨアブおよび祭司アビヤタルと商議ひしかば彼等之に從ひゆきて助けたり 8されど祭司ザドクとヱホヤダの子ベナヤと預言者ナタンおよびシメイとレイならびにダビデに屬したる勇士はアドニヤに與せざりき 9アドニヤ、エンロゲルの近邊なるゾヘレテの石の 傍 にて羊と牛と 肥 畜を宰りて王の子なる己の兄 弟および王の臣僕なるユダの人を 盡 く請けり 10されども預言者ナタンとベナヤと勇士とおのれの兄 弟ソロモンとをば招かざりき 11爰にナタン、ソロモンの母バテシバに語りていひけるは汝ハギテの子アドニヤが王となれるを聞ざるかしかるにわれらの主ダビデはこれを知ざるなり 12されば請ふ來れ我 汝に 計 を授て汝をして己の生命と汝の子ソロモンの生命を救しめん 13汝 往てダビデ王の所に入り之にいへ王わが主よ汝は婢に誓ひて汝の子ソロモンは我に継で王となりわが位に坐せんといひたまひしにあらずや然 にアドニヤ何故に王となれるやと 14われまた汝が尚其處にて王と語ふ時に汝に次て入り汝の言を證すべしと 15是においてバテシバ寝室に入りて王の所にいたるに王は甚だ老てシユナミ人アビシヤグ王に事へ居たり 16バテシバ躬を鞠め王を拝す王いふ何なるや 17かれ王にいひけるはわが主 汝は汝の神ヱホバを指て婢に汝の子ソロモンは我に継で王となりわが位に坐せんと誓ひたまへり 18しかるに視よ今アドニヤ王となれり而て王わが主 汝は知たまはず 19彼は牛と 肥 畜と羊を饒く宰りて王の諸子および祭司アビヤタルと軍の長ヨアブを招けりされど汝の 僕ソロモンをば招かざりき 20汝 王わが主よイスラエルの目皆 汝に注ぎ汝が彼等に誰が汝に継で王わが主の位に坐す

べきを告るを望む 21王わが主の其父祖と共に寝たまはん時に我とわが子ソロモンは罪人と見做さるるにいたらんと 22バテシバ尚王と語ふうちに視よ預言者ナタンも亦入きたりければ 23人々王に告て預言者ナタン此にありと曰ふ彼王のまへに入り地に伏て王を拝せり 24しかしてナタンいひけるは王わが主汝はアドニヤ我に継で王となりわが位に坐すべしといひたまひしや 25彼は今日下りて牛と肥畜と羊を饒く宰りて王の諸子と軍の長等と祭司アビヤタルを招けりしかして彼等はアドニヤのまへに飲食してアドニヤ王壽かれと言ふ 26されど汝の僕なる我と祭司ザドクとヱホヤダの子ベナヤと汝の僕ソロモンとは彼請かざるなり 27此事は王わが主の爲たまふ所なるかしかるに汝誰が汝に継で王わが主の位に坐すべきを僕に知せたまはざるなりと 28ダビデ王答ていふバテシバをわが許に召せと彼乃ち王のまへに入て王のまへにたつに 29王誓ひていひけるはわが生命を諸の艱難の中に救ひたまひしヱホバは活く 30我イスラエルの神ヱホバを指て誓ひて汝の子ソロモン我に継で王となり我に代りてわが位に坐すべしといひしごとくに我今日爲すべしと 31是においてバテシバ躬を鞠め地に伏て王を拝し願くはわが主ダビデ王長久に生ながらへたまへといふ 32ダビデ王いひけるはわが許に祭司ザドクと預言者ナタンおよびヱホヤダの子ベナヤを召と彼等乃ち王のまへに來る 33王彼等にいひけるは汝等の主の臣僕を伴ひわが子ソロモンをわが身の騾に乗せ彼をギホンに導き下り 34彼處にて祭司ザドクと預言者ナタンは彼に膏をそそぎてイスラエルの上に王と爲すべししかして汝ら喇叭を吹てソロモン王壽かれと言へ 35かくして汝ら彼に隨ひて上り來るべし彼は來りてわが位に坐し我に代りて王となるべし我彼を立てイスラエルとユダの上に主君となせりと 36ヱホヤダの子ベナヤ王に對へていひけるはアメンねがはくは王わが主の神ヱホバ然言たまはんことを 37ねがはくはヱホバ王わが主とともに在せしごとくソロモンとともに在してその位をわが主ダビデ王の位よりも大ならしめたまはんことを 38斯て祭司ザドクと預言者ナタンおよびヱホヤダの子ベナヤ並にケレテ人とペレテ人下りソロモンをダビデ王の騾に乗せて之をギホンに導きいたれり 39しかして祭司ザドク幕屋の中より膏の角を取てソロモンに膏そそげりかくて喇叭を吹きならし 40民みなソロモン王壽かれと言り民みなかれに隨ひ上りて笛を吹き大に喜祝ひ地はかれらの聲にて裂たり 41アドニヤおよび彼とともに居たる賓客其食を終たる時に皆これを聞りヨアブ喇叭の聲を聞ていひけるは城邑の中の聲音何ぞ喧譁やと 42彼が言をる間に視よ祭司アビヤタルの子ヨナタン來るアドニヤ彼にいひけるは入よ汝は勇ある人なり嘉音を持きたれるならん 43ヨナタン答へてアドニヤにいひけるは誠にわが主ダビデ王ソロモンを王となしたまへり 44王祭司ザドクと預言者ナタンおよびヱホヤダの子ベナヤ並にケレテ人とペレテ人をソロモンとともに遣したまふ即ち彼等はソロモンを王の騾に乗せてゆき 45祭司ザドクと預言者ナタン、ギホンにて彼に膏をそそぎて王となせり而して彼等其處より歓て上るが故に城邑は諠譁し汝らが聞る聲音は是なり 46又ソロモン國の位に坐し 47且王の臣僕來りてわれらの主ダビデ王に祝を陳て願くは汝の神ソロモンの名を汝の名よりも美し其位を汝の位よりも大たらしめたまへと言りしかして王は牀の上にて拝せり 48王また斯いへりイスラエルの神ヱホバはほむべきかなヱホバ今日わが位に坐する者を與たまひてわが目亦これを見るなりと 49アドニヤとともにある賓客皆驚愕き起て各其途に去りゆけり 50茲にアドニヤ、ソロモンの面を恐れ起て往き壇の角を執へたり 51或人ソロモンに告ていふアドニヤ、ソロモン王を畏る彼壇の角を執て願くはソロモン王今日我に劍をもて僕を殺じと誓ひ給へと言たりと 52ソロモンいひけるは彼もし善人となるならば其髪の毛一すぢも地におちざるべし然ど彼の中に惡の見るあらば死しむべしと 53ソロモン王乃ち人を遣て彼を壇より携下らしむ彼來りてソロモン王を拝しければソロモン彼に汝の家に往といへり

第二章

1ダビデ死ぬる日近よりければ其子ソロモンに命じていふ 2我は世人の皆往く途に往んとす汝は強く丈夫のごとく爲れ 3汝の神ヱホバの職守を守り其道に歩行み其法憲と其誡命と其律例と其證言とをモーセの律法に録されたるごとく守るべし然らば汝凡て汝の爲ところと凡て汝の向ふところにて榮ゆべし 4又ヱホバは其嘗に我の事に付て語りて若汝の子等其道を愼み心を盡し精神を盡して眞實をもて吾前に歩ばイスラエルの位に上る人汝に缺ることなかるべしと言たまひし言を堅したまはん 5又汝はゼルヤの子ヨアブが我に爲たる事即ち彼がイスラエルの

二人の軍の長ネルの子アブネルとエテルの子アマサに爲たる事を知る彼此二人を切殺し太平の時に戰の血を流し戰の血を己の腰の周圍の帶と其足の履に染たり 6故に汝の智慧にしたがひて事を爲し其白髮を安然に墓に下らしむるなかれ 7但しギレアデ人バルジライの子等には恩惠を施こし彼等をして汝の席にて食ふ者の中にあらしめよ彼等はわが汝の兄弟アブサロムの面を避て逃し時我に就たるなり 8視よ又バホリムのベニヤミン人ゲラの子シメイ汝とともに在り彼はわがマナハイムに往し時勵しき詛言をもて我を詛へり然ども彼ヨルダンに下りて我を迎へたれば我エホバを指て誓ひて我劍をもて汝を殺さじといへり 9然りといへども彼を辜なき者とする勿れ汝は智慧ある人なれば彼に爲べき事を知るなり血を流して其白髮を墓に下すべしと 10斯てダビデは其父祖と偕に寢りてダビデの城に葬らる 11ダビデのイスラエルに王たりし日は四十年なりき即ちヘブロンにて王たりし事七年エルサレムにて王たりし事三十三年 12ソロモン其父ダビデの位に坐し其國は堅固く定まりぬ 13爰にハギテの子アドニヤ、ソロモンの母バテシバの所に來りければバテシバいひけるは汝は平穩なる事のために來るや彼いふ平穩たる事のためなり 14彼又いふ我は汝に言さんとする事ありとバテシバいふ言されよ 15かれいひけるは汝の知ごとく國は我の有にしてイスラエル皆其面を我に向て王となさんと爲りしかるに國は轉てわが兄弟の有となれり其彼の有となれるはエホバより出たるなり 16今我一の願を汝に求む請ふわが面を黜くるなかれバテシバかれにいひけるは言されよ 17彼いひけるは請ふソロモン王に言て彼をしてシエナミ人アビシヤグを我に與て妻となさしめよ彼は汝の面を黜けざるべければなり 18バテシバいふ善し我汝のために王に言んと 19かくてバテシバ、アドニヤのために言とてソロモン王の許に至りければ王起てかれを迎へ彼を拜して其位に坐なほり王母のために座を設けしむ乃ち其右に坐せり 20しかしてバテシバいひけるは我一の細小き願を汝に求むわが面を黜くるなかれ王かれにいひけるは母上よ求めたまへ我汝の面を黜けざるなり 21彼いひけるは請ふシユナミ人アビシヤグをアドニヤに與て妻となさしめよ 22ソロモン王答て其母にいひけるは何ぞアドニヤのためにシユナミ人アビシヤグを求めらるるや彼のために國をも求められよ彼は我の兄なればなり彼と祭司アビヤタルとゼルヤの子ヨアブのために求められよと 23ソロモン王乃ちヱホバを指て誓ひていふ神我に斯なし又重ねて斯なしたまへアドニヤは其身の生命を喪はんとて此言を言いだせり 24我を立てわが父ダビデの位に上しめ其約せしごとく我に家を建たまひしヱホバは生くアドニヤは今日戮さるべしと 25ソロモン王ヱホヤダの子ベナヤを遣はしければ彼アドニヤを擊て死しめたり 26王また祭司アビヤタルにいひけるは汝の故田アナトテにいたれ汝は死に當る者なれども嚮にわが父ダビデのまへに神ヱホバの櫃を舁き又凡てわが父の艱難を受たる處にて汝も艱難を受たれば我今日は汝を戮さじと 27ソロモン、アビヤタルを逐いだしてヱホバの祭司たらしめざりき斯ヱホバがシロにてエリの家につきて言たまひし言應たり 28爰に其風聞ヨアブに達りければヨアブ、ヱホバの幕屋に遁れて壇の角を執たり其はヨアブは轉てアブサロムには隨はざりしかどもアドニヤに隨ひたればなり 29ヨアブがヱホバの幕屋に遁れて壇の傍に居ることソロモンに聞えければソロモン、ヱホヤダの子ベナヤを遣はしいひけるは往て彼を擊てと 30ベナヤ乃ちヱホバの幕屋にいたり彼にいひけるは王斯言ふ出來れ彼いひけるは否我は此に死んとベナヤ反て王に告てヨアブ斯言ひ斯我に答へたりと言ふ 31王ベナヤにいひけるは彼が言ふごとく爲し彼を擊て葬りヨアブが故なくして流したる血を我とわが父の家より除去べし 32又ヱホバはヨアブの血を其身の首に歸したまふべし其は彼は己よりも義く且善りし二の人を擊ち劍をもてこれを殺したればなり即ちイスラエルの軍の長ネルの子アブネルとユダの軍の長ヱテルの子アマサを殺せり然るに吾父ダビデは與り知ざりき 33されば彼等の血は長久にヨアブの首と其苗裔の首に皈すべし然どダビデと其苗裔と其家と其位にはヱホバよりの平安永久にあるべし 34ヱホヤダの子ベナヤすなはち上りて彼を擊ち彼を殺せり彼は野にある己の家に葬らる 35王乃ちヱホヤダの子ベナヤをヨアブに代て軍の長となせり王また祭司ザドクをしてアビヤタルに代しめたり 36又王人を遣てシメイを召て之に曰けるはエルサレムに於て汝の爲に家を建て其處に住み其處より此にも彼にも出るなかれ 37汝が出てキデロン川を濟る日には汝確に知れ汝必ず戮さるべし汝の血は汝の首に歸せん 38シメイ王にいひけるは此言は善し王わが主の言たまへるごとく僕然なすべしと斯シメイ日久しくエルサレムに住り 39三年の後シメイの二人の僕ガテの王マアカの子アキシの所に逃されり人々シメ

イに告ていふ視よ汝の僕はガテにありと 40シメイ乃ち起て其驢馬に鞍置きガテに往てアキシに至り其 僕を尋ねたり即ちシメイ往て其 僕をガテより携來りしが 41シメイのエルサレムよりガテにゆきて歸しことソロモンに聞えければ 42王人を遣てシメイを召て之にいひけるは我 汝をしてヱホバを指て誓しめ且 汝を戒めて汝 確に知れ汝が出て此 彼に歩く日には汝 必ず戮さるべしと言しにあらずや又 汝は我に我聞る言葉は善しといへり 43しかるに汝なんぞヱホバの誓とわが汝に命じたる命令を守ざりしや 44王又シメイにいひけるは汝は凡て汝の心の知る 諸 の惡即ち汝がわが父ダビデに爲たる所を知るヱホバ汝の惡を汝 の首に歸したまふ 45されどソロモン王は福祉を蒙らんまたダビデの位は永久にヱホバのまへに固く立べしと 46王ヱホヤダの子ベナヤに命じければ彼出てシメイを撃ちて死しめたりしかして國はソロモンの手に固く立り

第三章

1ソロモン、エジプトの王パロと縁を結びパロの女を娶て之を携來り自己の家とヱホバの家とエルサレムの周圍の石垣を建築ことを終るまでダビデの城に置り 2當時まではヱホバの名のために建たる家なかりければ民は崇 邱にて祭を爲り 3ソロモン、ヱホバを愛し其父ダビデの法憲に歩めり但し彼は崇 邱にて祭を爲し香を焚り 4爰に王ギベオンに往て其處に祭を爲んとせり其は彼處は大なる崇 邱なればなり即ちソロモン一千の燔祭を其壇に献たり 5ギベオンにてヱホバ夜の夢にソロモンに顯れたまへり神いひたまひけるは我何を汝に與ふべきか汝 求めよ 6ソロモンいひけるは汝は汝の僕わが父ダビデが誠實と公義と正心を以て汝と共に汝の前に歩みしに因て大なる恩惠を彼に示したまへり又 汝 彼のために此 大なる恩惠を存 て今日のごとくかれの位に坐する子を彼に賜へり 7わが神ヱホバ汝は僕をして我父ダビデに代て王とならしめたまへり而るに我は小き子にして出入することを知ず 8且 僕は汝の選みたまひし汝の民の中にあり即ち大なる民にて其數衆くして數ふることも書すことも能はざる者なり 9是故に聽き別る心を僕に與へて汝の民を鞫しめ我をして善惡を辨別ることを得さしめたまへ誰か汝の此夥多き民を鞫くことを得んと 10ソロモン此事を求めければ其 言 主の心にかなへり 11是において神かれにいひたまひけるは汝 此事を求めて己の爲に長壽を求めず又 己のために富有をも求めず又 己の敵の生命をも求めずして惟 訟 を聽き別る才智を求めたるに因て 12視よ我 汝の 言に循ひて爲り我 汝に賢明く聡慧き心を與ふれば汝の先には汝の如き者なく汝の後にも汝の如き者興らざるべし 13我亦 汝の求めざる者 即ち富と 貴 とをも汝に與ふれば汝の生の涯 王等の中に汝の如き者あらざるべし 14又 汝 若 汝 の父ダビデの歩し如く吾道に歩みてわが法憲と命令を守らば我 汝の日を長うせんと 15ソロモン目寤て視るに夢なりき斯てソロモン、エルサレムに至りヱホバの契約の櫃の前に立ち燔祭を献げ酬恩祭を爲して其 諸の臣僕に饗宴を爲り 16爰に娼妓なる二人の婦 王の所に來りて其前に立ちしが 17一人の婦いひけるはわが主よ我と此 婦は一 の家に住む我此 婦と偕に家にありて子を生り 18しかるにわが生し後第三日に此 婦もまた生りしかして我儕偕にありき家には他人の我らと偕に居りし者なし家には只我儕二人のみ 19然るに此 婦 其子の上に臥たるによりて夜の中に其子死たれば 20中夜に起て婢の眠れる間にわが子をわれの 側 より取りて之を己の 懐 に臥しめ己の死たる子をわが 懐 に臥しめたり 21朝に及びて我わが子に乳を飲せんとて興て見るに死ゐたり我朝にいたりて其を熟く視たるに其はわが生るわが子にはあらざりしと 22今一人の婦いふ否活るはわが子死るは汝の子なりと此 婦いふ否死るは汝の子活るはわが子なりと彼等斯王のまへに論り 23時に王いひけるは一人は此活るはわが子死るは汝の子なりと言ひ又一人は否死るは汝の子活るはわが子なりといふと 24王 乃ち劍を我に持來れといひければ劍を王の前に持來れり 25王いひけるは活る子を二に分て其 半を此に半を彼に與へよと 26時に其 活 子の母なる婦人 心 其子のために焚がごとくなりて王に言していひけるは請ふわが主よ活る子を彼に與へたまへ必ず殺したまふなかれと然ども他の一人は是を我のにも汝のにもならしめず判たせよと言り 27王 答ていひけるは活 子を彼に與へよ 必ず殺すなかれ彼は其母なるなりと 28イスラエル皆王の審理し所の判決を聞て王を畏れたり其は神の智慧の彼の中にありて審理を爲しむるを見たればなり

第四章

1ソロモン王はイスラエルの全地に王たり 2其有る群卿は左の如しザドクの子アザリヤは相 國 3シシヤの子エリホレフとアヒヤは書記 官アヒルデの子ヨシヤパテは史 官 4

ヱホヤダの子ベナヤは軍の長ザドクとアビヤタルは祭司
5ナタンの子アザリヤは代官の長ナタンの子ザブデは
大臣にして王の友たり 6アヒシヤルは宮内卿アブダの子
アドニラムは徴募長なり 7ソロモン又イスラエルの全地
に十二の代官を置り其人々王と其家のために食物を備
へたり即ち各一年に一月宛食物を備へたり 8其名左の
ごとしエフライムの山地にはベンホル 9マカヅとシヤラ
ビムとベテシメシとエロンベテハナンにはベンデケル 10
アルポテにはベンヘセデありシヨコとヘベルの全地とは
彼擔任り 11ドルの高地の全部にはベンアヒナダブあり彼
はソロモンの女タパテを妻とせり 12アルヒデの子バアナ
はタアナクとメギドとヱズレルの下にザルタナの邊にあ
るベテシヤンの全地とを擔任てベテシヤンよりアベルメ
ホラにいたりヨクネアムの外にまで及ぶ 13ギレアデのラ
モテにはベンゲベルあり彼はギレアデにあるマナセの子
ヤイルの諸村を擔任ち又バシヤンなるアルゴブの地にあ
る石垣と銅の關を有る大なる城六十を擔任り 14イドの
子アヒナダブはマハナイムを擔任り 15ナフタリにはアヒ
マアズあり彼もソロモンの女バスマテを妻に娶れり 16ア
セルとアロテにはホシヤイの子バアナあり 17イツサカル
にはパルアの子ヨシヤパテあり 18ベニヤミンにはエラの
子シメイあり 19アモリ人の王シホンの地およびバシヤン
の王オグの地なるギレアデの地にはウリの子ゲベルあり
其地にありし代官は唯彼一人のみ 20ユダとイスラエルの
人は多くして濱の沙の多きがごとくなりしが飲食して樂
めり 21ソロモンは河よりペリシテ人の地にいたるまでと
エジプトの境に及ぶまでの諸國を治めたれば皆禮物を餽
りてソロモンの一生の間事へたり 22偖ソロモンの一日
の食物は細麺三十石粗麺六十石 23肥牛十牧場の牛
二十羊一百其外に牡鹿羚羊小鹿および肥たる禽あり 24
其はソロモン河の此方をテフサよりガザまで盡く治め
たればなり即ち河の此方の諸王を悉く統治たり彼は
四方の臣僕より平安を得たりき 25ソロモンの一生の間ユ
ダとイスラエルはダンよりベエルシバに至るまで安然に
各其葡萄樹の下と無花果樹の下に住り 26ソロモン
戰車の馬の廐四千騎兵一萬二千を有り 27彼代官等各
其月にソロモン王のためおよび總てソロモン王の席に來
る者の爲に食を備へて缺るとこるなからしめたり 28又
彼等各其職に循ひて馬および疾足の馬に食する大麥と
藁蕘を其馬の在る處に携へ來れり 29神ソロモンに智慧と
聰明を甚だ多く賜ひ又廣大き心を賜ふ海濱の沙のごとし
30ソロモンの智慧は東洋の人々の智慧とエジプトの諸の
智慧よりも大なりき 31彼は凡の人よりも賢くエズラ人エ
タンよりも又マホルの子なるヘマンとカルコルおよびダ
ルダよりも賢くして其名四方の諸國に聞えたり 32彼箴言
三千を説り又其詩歌は一千五首あり 33彼又草木の事を論
じてレバノンの香柏より墻に生る苔に迄及べり彼亦獣と
鳥と匐行物と魚の事を論じたり 34諸の國の人々ソロモ
ンの智慧を聽んとて來り天下の諸の王ソロモンの智慧
を聞及びて人を遣はせり

第五章

1ツロの王ヒラム、ソロモンの膏そそがれて其父にかは
りて王となりしを聞て其臣僕をソロモンに遣せりヒラム
は恒にダビデを愛したる者なりければなり 2是に於てソ
ロモン、ヒラムに言遣はしけるは 3汝の知ごとく我父ダ
ビデは其周圍にありし戰爭に因て其神ヱホバの名のため
に家を建ること能はずしてヱホバが彼等を其足の跖の下
に置またふを待り 4然るに今わが神ヱホバ我に四方の
太平を賜ひて敵もなく殃もなければ 5我はヱホバのわが
父ダビデに語てわが汝の代に汝の位に上しむる汝の子
其人はわが名のために家を建べしと言たまひしに循ひて
わが神ヱホバの名のために家を建んとす 6されば汝命じ
てわがためにレバノンより香柏を砍出さしめよわが僕
汝の僕と共にあるべし又我は凡て汝の言ふごとく汝の
僕の賃銀を汝に付すべし其は汝の知ごとく我儕の中には
シドン人の如く木を砍に巧みなる人なければなりと 7ヒ
ラム、ソロモンの言を聞て大に喜び言けるは今日ヱホバ
に稱譽あれヱホバ、ダビデに此夥多しき民を治むる賢き
子を與たまへりと 8かくてヒラム、ソロモンに言遣りけ
るは我汝が言ひ遣したる所の事を聽り我香柏の材木と
松樹の材木とに付ては凡て汝の望むごとく爲すべし 9わ
が僕レバノンより海に持下らんしかして我これを海より
桴にくみて汝が我に言ひ遣す處におくり其處にて之をく
づすべし汝之を受よ又汝はわが家のために食物を與へ
てわが望を成せと 10斯てヒラムはソロモンに其凡て望む
ごとく香柏の材木と松の材木を與へたり 11又ソロモンは
ヒラムに其家の食物として小麥二萬石を與へまた清油
二十石をあたへたり斯ソロモン年々ヒラムに與へたり 12
ヱホバ其言たまひしごとくソロモンに智慧を賜へりまた

ヒラムとソロモンの間 睦しくして二人偕に契約を結べり 13爰にソロモン王イスラエルの全地に徴募人を興せり
其 徴募人の數は三萬人なり 14ソロモンかれらを一月
交代に一萬人づつレバノンに遣せり即ち彼等は一月レバ
ノンに二月家にありアドニラムは徴募人の督者なりき 15
ソロモン負載者七萬人山に於て石を砍る者八萬人あり 16
外に又其工事の長なる官吏三千三百 人ありて工事に作く
民を統たり 17かくて王命じて大なる石 貴き石を鑿出さし
め琢石を以て家の基礎を築かしむ 18ソロモンの建築者と
ヒラムの建築者およびゲバル人之を砍り斯彼等材木と石
を家を建るに備へたり

第六章

1イスラエルの子孫のエジプトの地を出たる後四百八十
年ソロモンのイスラエルに王たる第四年ジフの月 即ち二
月 にソロモン、ヱホバのために家を建ることを始めたり
2ソロモン王のヱホバの爲に建たる家は長六十キユビト
濶 二十キユビト高三十キユビトなり 3家の拝殿の廊は家
の濶に循ひて長二十キユビト家の前の其 濶十キユビトな
り 4彼家に造り附の格子ある窻を施たり 5又家の墻壁に
附て四周に連接屋を建て家の墻壁 即ち拝殿と神殿の墻壁
の周圍に環らせり又四周に旁房を造れり 6下層の連接屋
は濶五キユビト中層のは濶六キユビトを第三層のは濶七
キユビトなり即ち家の外に階級を造り環らして何者をも
家の墻壁に挿 入 ざらしむ 7家は建る時に鑿石 所にて鑿
り預備たる石にて造りたれば造れる間に家の中には鎚も
鑿も其外の鐵器も聞えざりき 8中層の旁房の戸は家の右
の方にあり螺旋梯より中層の房にのぼり中層の房より
第三層の房にいたるべし 9斯彼家を建終り香柏の椽と板
をもて家を葺り 10又家に附て五キユビトの高たる連接屋
を建 環し香柏をもて家に交接たり 11爰にヱホバの言ソロ
モンに臨みて曰く 12汝 今此家を建つ若し汝わが法憲に歩
みわが律例を行ひわが諸の誡命を守りて之にしたがひて
歩まばわれはが汝の父ダビデに言し語を汝に固うすべし
13我イスラエルの子孫の中に住わが民イスラエルを棄ざ
るべし 14斯ソロモン家を建終れり 15彼香柏の板を以て家
の墻壁の裏面を作れり即ち家の牀板より頂 格の墻壁まで
木をもて其裏面をはりまた松の板をもて家の牀板をはれ
り 16又家の奥に二十キユビトの室を牀板より墻壁まで
香柏をもて造れり即ち家の内に至聖所なる神殿を造れり
17家 即ち前にある拝殿は四十キユビトなり 18家の内の
香柏は瓠と咲る花を雕刻める者なり皆香柏にして石は見
えざりき 19神殿は彼其處にヱホバの契約の櫃を置んとて
家の内の中に設けたり 20神殿の内は長二十キユビト濶二
十キユビト高二十キユビトなり純 金をもて之を蔽ひ又
香柏の壇を覆へり 21又ソロモン純 金をもて家の内を蔽ひ
神殿の前に金の鏈をもて間隔を造り金をもて之を蔽へり
22又金をもて殘るところなく家を蔽ひ遂に家を飾ること
を 悉 く終たりまた神殿の 傍 にある壇は皆金をもて蔽へ
り 23神殿の内に橄欖の木をもて二のケルビムを造れり其
高 十キユビト 24其ケルブの一の翼は五キユビト又其ケル
ブの他の翼も五キユビトなり一の翼の末より他の翼の末
までは十キユビトあり 25他のケルブも十キユビトなり其
ケルビムは偕に同 量 同 形なり 26此ケルブの高十キユビ
ト彼ケルブも亦しかり 27ソロモン家の内の中にケルビム
を置ゑケルビムの翼を展しければ此ケルブの翼は此墻壁
に及び彼ケルブの翼は彼の墻壁に及びて其 兩 翼 家の中
にて相 接れり 28彼金をもてケルビムを蔽へり 29家の周圍
の墻壁には皆内外ともにケルビムと棕櫚と咲る花の形を
雕み 30家の牀板には内外ともに金を蔽へり 31神殿の入口
には橄欖の木の戸を造れり其木匡の門柱は五分の一なり
32其 二の扉も亦橄欖の木なりソロモン其上にケルビムと
棕櫚と咲る花の形を雕刻み金をもて蔽へり即ちケルビム
と棕櫚の上に金を鍍たり 33斯ソロモン亦拝殿の戸のため
に橄欖の木の門柱を造れり即ち四分の一なり 34其 二の戸
は松の木にして此戸の 兩 扉は摺むべく彼戸の 兩 扉も
摺むべし 35ソロモン其上にケルビムと棕櫚と咲る花を
雕刻み金をもてこれを蔽ひて善く其雕工に適はしむ 36ま
た鑿石三層と香柏の厚板一 層をもて内庭を造れり 37第四
年のジフの月にヱホバの家の基礎を築き 38第十一年のブ
ルの月 即ち八月に凡て其箇條のごとく其定例のごとくに
家成りぬ斯ソロモン之に建るに七年を渉れり

第七章

1ソロモン己の家を建しが十三年を經て全く其家を建終
たり 2彼レバノン森の家を建たり其 長は百キユビト其 濶
は五十キユビト其 高は三十キユビトなり香柏の柱 四行
ありて柱の上に香柏の梁あり 3四十五本の柱の上なる梁
の上は香柏にて蓋へり柱は一 行に十五本あり 4また窻
三行ありて牖と牖と三段に相對ふ 5戸と戸 柱は皆大木を

もて角に造り牖と牖と三段に相對へり 6又 柱の廊を造れ
り其 長五十キユビト其 濶三十キユビトなり柱のまへに
一 の廊ありまた其 柱のまへに柱と 階 あり 7又ソロモン
審判を爲すために位の廊 即ち審判の廊を造り牀板より
牀板まで香柏をもて蔽へり 8ソロモンの居住る家は其廊
の後の他の庭にありて其工作同じかりきソロモン亦其娶
りたるパロの女のために家を建しが此廊に同じかりき 9
是等は内外とも基礎より檐にいたるまで又外面にては
大庭にいたるまで皆鑿石の量にしたがひて 鋸 にて剖た
る貴き石をもて造れるものなり 10又基礎は貴き石 大なる
石 即ち十キユビトの石八キユビトの石なり 11其上には
鑿石の量に循ひて貴き石と香柏あり 12又大庭の周圍にに
三層の鑿石と一 層の香柏の厚板ありヱホバの家の内庭と
家の廊におけるが如し 13爰にソロモン人を遣はしてヒラ
ムをツロより召び來れり 14彼はナフタリの支派なる嫠婦
の子にして其父はツロの人にて 銅 の細工人なりヒラム
は 銅 の 諸 の細工を爲すの智慧と慧悟と知識の充ちたる
者なりしがソロモン王の所に來りて其 諸の細工を爲り 15
彼 銅 の柱 二を鋳たり其 高 各 十八キユビトにして 各
十二キユビトの繩を環らすべし 16又 銅 を鎔して柱 頭
を鋳て柱の顛に置ゆ此の頭の高も五キユビト彼の頭の 高
も五キユビトなり 17柱の上にある頭の爲に組物の網と 鏈
様の槎物を造れり此 頭に七つ彼 頭に七つあり 18又二 行
の石榴を一の網工の上の四周に造りて柱の上にある頭を
蓋ふ他の頭をも亦然せり 19柱の上にある頭は四キユビト
の百合花の形にして廊におけるがごとし 20二の柱の頭の
上には亦網工の外なる腹の所に接きて石榴あり他の柱の
四周にも石榴二百ありて相列べり 21此 柱を拝殿の廊に竪
つ即ち右の柱を立て其名をヤキンと名け左の柱を竪て其
名をボアズと名く 22其 柱の上に百合花の形あり斯其 柱
の作成り 23又海を鋳なせり此邊より彼邊まで十キユビト
にして其四周圓く其 高五キユビトなり其四周は三十キユ
ビトの繩を環らすべし 24其邊の下には四周に匏瓜ありて
之を環れり即ち一キユビトに十づつありて海の周圍を 圍
り其匏瓜は海を鋳たる時に二 行に鋳たるなり 25其海は十
二の牛の上に立り其三は北に向ひ三は西に向ひ三は南に
向ひ三は東に向ふ海其上にありて牛の後は皆内に向ふ 26
海の厚は手寛にして其邊は百合花にて 杯 の邊の如くに
作れり海は二千斗を容たり 27又 銅 の臺十を造れり一の
臺の長四キユビト其 濶四キユビト其 高三キユビトなり
28其臺の製作は左のごとし臺には嵌 板あり嵌 板は邊の中
にあり 29邊の中にある嵌 板の上に獅子と牛とケルビムあ
り又邊の上に座あり獅子と牛の下に花 飾の垂下物あり 30
其臺には 各 四の 銅 の輪と 銅 の軸あり其四の足には肩
のごとき者あり其肩のごとき者は洗盤の下にありて凡の
花 飾の 旁 に鋳つけたり 31其口は頭の内より上は一キユ
ビトなり其口は圓く一キユビト半にして座の作の如し又
其口には雕工あり其 鏡 板は四角にして圓からず 32四の
輪は鏡 板の下にあり輪の手は臺の中にあり輪は 各 高一
キユビト半 33輪の工作は戰 車の輪の工作の如し其手と
縁と輻と轂とは皆鋳物なり 34臺の四隅に四の肩の如き者
あり其肩のごとき者は臺より出づ 35臺の上の所の高 半キ
ユビトは其周圍圓し又臺の上の所の手と鏡 板も臺より出
づ 36其手の板と鏡 板には其 各 の隙處に循ひてケルビム
と獅子と棕櫚を雕刻み又其四周に花 飾を造れり 37是のご
とく十の臺を造れり其鋳法と量と形は皆同じ 38又 銅 の
洗盤十を造れり洗盤は 各 四十斗を容れ洗盤は 各 四キユ
ビトなり十の臺の上には 各 一の洗盤あり 39其臺 五を家
の右の旁に五を家の左の旁に置ゑ家の右の東 南に其海
を置り 40ヒラム又鍋と火鏟と鉢とを造れり斯ヒラム、ヱ
ホバの家の爲にソロモン王に爲る 諸 の細工を成終たり
41即ち二の柱と其 柱の上なる頭の二の毬と柱の上なる其
頭 の二の毬を蓋ふ二の網工と 42其 二の網工の爲の石榴
四百是は一の網工に石榴二 行ありて柱の上なる二の毬を
蓋ふ 43又十の臺と其臺の上の十の洗盤と 44一の海と其海
の下の十二の牛 45及び鍋と火鏟と鉢是也ヒラムがソロモ
ン王にヱホバの家のために造りし此等の器は皆光明ある
銅 なりき 46王ヨルダンの低地に於てスコテとザレタン
の間の粘土の地にて之を鋳たり 47ソロモン其 器 甚だし
く多かりければ皆 權ずに措り其 銅 の重しれざりき 48又
ソロモン、ヱホバの家の 諸 の器を造れり即ち金の壇と
供前のパンを載る金の案 49および純 金の燈臺是は神殿の
まへに五は右に五は左にあり又金の花と 燈 盞と燈鉗と
50純 金の盆と剪刀と鉢と皿と滅燈器と至聖所なる内の家
の戸のため及び拝殿なる家の戸のためなる金の肘鈕是な
り 51斯ソロモン王のヱホバの家のために爲る 諸 の細工
終れり是においてソロモン其父ダビデが奉納めたる物
即 ち金銀および器を携へいりてヱホバの家の寳物の中に
置り

第八章

1爰にソロモン、ヱホバの契約の櫃をダビデの城 即ちシオンより昇上らんとてイスラエルの長老と諸の支派の 首イスラエルの子孫の家の長等をエルサレムにてソロモン王の所に召集む 2イスラエルの人皆エタニムの月 即ち七月 の節筵に當てソロモン王の所に集まれり 3イスラエルの長老皆至り祭司櫃を執りあげて 4ヱホバの櫃と集會の幕屋と幕屋にありし 諸 の聖き器を昇上れり即ち祭司とレビの人之を昇のぼれり 5ソロモン王および其許に集れるイスラエルの會 衆皆彼と偕に櫃の前にありて羊と牛を獻げたりしが其數多くして書すことも數ふることも能はざりき 6祭司ヱホバの契約の櫃を其 處に昇いれたり即ち家の神殿なる至聖所の中のケルビムの翼の下に置めたり 7ケルビムは翼を櫃の所に舒べ且ケルビム上より櫃と其棹を掩へり 8杠長かりければ杠の末は神殿の前の聖所より見えたり然ども外には見えざりき其杠は今日まで彼處にあり 9櫃の内には二の石 牌の外何もあらざりき是はイスラエルの子孫のエジプトの地より出たる時ヱホバの彼等と契約を結たまへる時にモーセがホレブにて其處に置めたる者なり 10斯て祭司聖所より出けるに雲ヱホバの家に盈たれば 11祭司は雲のために立て供事ること能はざりき其はヱホバの榮 光ヱホバの家に盈たればなり 12是においてソロモンいひけるはヱホバは濃き雲の中に居んといひたまへり 13我 誠に汝のために住むべき家永 久に居べき所 を建たりと 14王其面を轉 てイスラエルの凡の會 衆を祝 せり時にイスラエルの會 衆は皆立゛たり 15彼言けるはイスラエルの神ヱホバは譽べきかなヱホバは其口をもて吾父ダビデに言ひ其手をもて之を成し遂げたまへり 16即 ち我は吾民イスラエルをエジプトより導き出せし日より我名を置べき家を建しめんためにイスラエルの 諸 の支派の中より何れの城邑をも選みしことなし但ダビデを選みてわが民イスラエルの上に立しめたりと言たまへり 17夫イスラエルの神ヱホバの名のために家を建ることはわが父ダビデの心にありき 18しかるにヱホバわが父ダビデにいひたまひけるはわが名のために家を建ること汝の心 にあり汝の心に此事あるは善し 19然ども汝は其家を建べからず汝の腰より出る汝の子其人吾名のために家を建べしと 20而してヱホバ其言たまひし言を行ひたまへり 即ち我わが父ダビデに代りて立ちヱホバの言たまひし如くイスラエルの位に坐しイスラエルの神ヱホバの名のために家を建たり 21我又其處にヱホバの契約を藏めたる櫃のために一の所を設けたり即ち我儕の父祖をエジプトの地より導き出したまひし時に彼等に爲したまひし者なりと 22ソロモン、イスラエルの凡の會 衆の前にてヱホバの壇のまへに立ち其手を天に舒て 23言けるはイスラエルの神ヱホバよ上の天にも下の地にも汝の如き神なし汝は契約を持ちたまひ心を全うして汝のまへに歩むところの汝の僕 等に恩惠を施したまふ 24汝は汝の僕わが父ダビデに語たまへる所を持ちたまへり汝は口をもて語ひ手をもて成し遂たまへること今日のごとし 25イスラエルの神ヱホバよ然ば汝が僕わが父ダビデに語りて若し汝の子孫其道を愼みて汝がわが前に歩めるごとくわが前に歩まばイスラエルの位に坐する人わがまへにて汝に缺ること無るべしといひたまひし事をダビデのために持ちたまへ 26然ばイスラエルの神よ爾が僕わが父ダビデに言たまへる爾の言 に效驗あらしめたまへ 27神果して地の上に住たまふや視よ天も 諸 の天の天も爾を容るに足ず況て我が建たる此家をや 28然どもわが神ヱホバよ僕の祈祷と懇願を顧みて其號呼と僕が今日 爾のまへに祈る祈祷を聽たまへ 29願くは爾の目を夜晝此家に即ち爾が我名は彼處に在べしといひたまへる處に向ひて開きたまへ願くは僕の此 處に向ひて祈らん祈祷を聽たまへ 30願くは僕と爾の民イスラエルが此 處に向ひて祈る時に爾 其懇願を聽たまへ爾は爾 の居處なる天において聽き聽て赦したまへ 31若し人其隣 人に對ひて犯せることありて其人 誓をもて誓ふことを要られんに來りて此家において爾の壇のまへに誓ひなば 32爾 天において聽て行ひ爾の僕 等を鞫き惡き者を罪して其道を其 首に歸し義しき者を義として其 義 に循ひて之に報いたまへ 33若 爾の民イスラエル爾に罪を犯したるがために敵の前に敗られんに爾に歸りて爾の名を崇め此家にて爾に祈り願ひなば 34爾 天において聽き爾の民イスラエルの罪を赦して彼等を爾が其父祖に與へし地に歸らしめたまへ 35若彼等が爾に罪を犯したるが爲に天閉て雨无らんに彼等若此 處にむかひて祈り爾の名を崇め爾が彼等を苦めたまふときに其罪を離れなば 36爾 天において聽き爾の僕 等 爾の民イスラエルの罪を赦したまへ 爾彼等に其歩むべき善道を敎へたまふ時は爾が爾の民に與へて產業となさしめたまひし爾の地に雨を降したまへ 37若國に饑饉あるか若くは疫 病 枯死朽腐噬亡ぼす蝗蟲あるか若くは其敵國にいりて彼等を其門に圍むか如何なる

災害如何なる病疾あるも 38若一人か或は爾の民イスラエル皆 各 己の心の 災 を知て此家に向ひて手を舒なば 其人如何なる祈祷如何なる懇願を爲とも 39爾の居處なる天に於て聽て赦し行ひ 各 の人に其 心を知給ふ如く其 道々にしたがひて報い給へ其は爾のみ凡の人の心を知たまへばなり 40爾かく彼等をして爾が彼等の父祖に與へたまへる地に居る日に常に爾を畏れしめたまへ 41且又 爾の民イスラエルの者にあらずして爾の名のために遠き國より來る異邦人は 42(其は彼等 爾の大なる名と強き手と伸たる腕を聞およぶべければなり)若來りて此家にむかひて祈らば 43爾の居處なる天に於て聽き凡て異邦人の爾に顧求むる如く爲たまへ爾かく地の諸の民をして爾の名をしらしめ爾の民イスラエルのごとく爾を畏れしめ又我が建たる此家は爾の名をもて稱呼るるといふことを知しめ給へ 44爾の民其敵と戰はんとて爾の遣はしたまふ所に出たる時彼等若 爾が選みたまへる城とわが爾の名のために建たる家の方に向ひてヱホバに祈らば 45爾 天において彼等の祈祷と懇願を聽て彼等を助けたまへ 46人は罪を犯さざる者なければ彼等 爾に罪を犯すことありて爾 彼等を怒り彼等を其敵に付し敵かれらを虜として遠 近を諭ず敵の地に引ゆかん時は 47若彼等 虜れゆきし地において自 ら顧みて悔い己を虜へゆきし者の地にて爾に願ひて我儕罪を犯し悖れる事を爲たり我儕惡を行ひたりと言ひ 48己を虜ゆきし敵の地にて一心一念に爾に歸り爾が其父祖に與へたまへる地 爾が選みたまへる城とわが爾の名のために建たる家の方に向ひて爾に祈らば 49爾の居處なる天において爾 彼等の祈祷と懇願を聽てかれらを助け 50爾 の民の爾に對て犯したる事と爾に對て過てる其 凡の罪過を赦し彼等を虜ゆける者の前にて彼等に 憐 を得させ其人々をして彼等を憐ましめたまへ 51其は彼等は爾がエジプトより即ち鐵の鑪の中よりいだしたまひし爾の民爾 の產業なればなり 52願くは僕の祈祷と爾の民イスラエルの祈願に爾の目を開きて凡て其 爾に顧求むる所を聽たまへ 53其は爾 彼等を地の凡の民の中より別ちて爾の產業となしたまへばなり神ヱホバ爾が我儕の父祖をエジプトより導き出せし時モーセによりて言給ひし如し 54ソロモン此祈祷と祈願を 悉 くヱホバに祈り終りし時其天にむかひて手を舒べ膝を屈 居たるを止てヱホバの壇のまへより起あがり 55立て大なる聲にてイスラエルの凡の會 衆を祝 して言けるは 56ヱホバは譽べきかなヱホバは凡て其言たまひし如く其民イスラエルに太平を與へたまへり其僕 モーセによりて言たまひし其善 言は皆 一も違はざりき 57願くは我儕の神ヱホバ我儕の父祖と偕に在せしごとく我儕とともに在せ我儕を離れたまふなかれ我儕を棄たまふなかれ 58願くは我儕の心をおのれに傾けたまひて其凡 の道に歩ましめ其我儕の父祖に命じたまひし誡命と法憲と律例を守らしめたまへ 59願くはヱホバの前にわが願 し是等の言 日夜われらの神ヱホバに近くあれ而してヱホバ日々の事に僕を助け其民イスラエルを助けたまへ 60斯して地の 諸 の民にヱホバの神なることと他に神なきことを知しめたまへ 61されば爾等我儕の神ヱホバとともにありて今日の如く爾らの心を完全しヱホバの法憲に歩み其誡命を守るべしと 62斯て王および王と偕にありしイスラエル皆ヱホバのまへに犧牲を献たり 63 ソロモン酬恩祭の犧牲を献げたり即ち之をヱホバに献ぐ其牛二萬二千 羊十二萬なりき斯王とイスラエルの子孫皆ヱホバの家を開けり 64其日に王ヱホバの家の前なる庭の中を聖別め其處にて燔祭と禮祭と酬恩祭の脂とを献げたり是はヱホバの前なる 銅 の壇 小くして燔祭と禮祭と酬恩祭の 脂とを受るにたらざりしが故なり 65其時ソロモン七日に七日 合て十四日我儕の神ヱホバのまへに節筵を爲りイスラエルの大なる會 衆ハマテの入處よりエジプトの河にいたるまで 悉 く彼と偕にありき 66第八日にソロモン民を歸せり民は王を祝しヱホバが其 僕ダビデと其民イスラエルに施したまひし 諸 の恩惠のために喜び且 心に樂みて其天幕に往り

第九章

1ソロモン、ヱホバの家と王の家を建る事を終へ且凡てソロモンが爲んと欲し望を遂し時 2ヱホバ 再 ソロモンに嘗てギベオンにて顯現たまひし如くあらはれたまひて 3彼に言たまひけるは我は爾が我まへに願し祈祷と祈願を聽たり我 爾が建たる此家を聖別てわが名を永く其處に置べし且わが目とわが心は恒に其處にあるべし 4爾 若 爾の父ダビデの歩みし如く心を完うして正しく我前に歩みわが爾 に命じたる如く凡て行ひてわが憲法と律例を守らば 5我は爾の父ダビデに告てイスラエルの位に上る人 爾に缺ること無るべしと言しごとく爾のイスラエルに王たる位を固うすべし 6若爾等又は爾等の子孫 全く轉きて我にしたがはずわが爾等のまへに置たるわが誡命と法憲を守ら

ずして往て他の神に事へ之を拝まば 7我イスラエルをわが與へたる地の面より絶ん又わが名のために我が聖別たる此家をば我わがまへより投げ棄んしかしてイスラエルは諸の民の中に諺語となり嘲笑となるべし 8且又此家は高くあれども其 傍 を過る者は皆之に驚き嘶きて言んヱホバ何故に此地に此家に斯爲たまひしやと 9人答へて彼等は己の父祖をエジプトの地より導き出せし其神ヱホバを棄て他の神に附 從ひ之を拝み之に事へしに因てヱホバ此の凡の害惡を其上に降せるなりと言ん 10ソロモン二十年を經て二の家 即ちヱホバの家と王の家を建をはりヒウムにガリラヤの地の城邑二十を與へたり 11其はツロの王ヒラムはソロモンに凡て其 望に循ひて香柏と松の木と金を供給たればなり 12ヒラム、ツロより出てソロモンが己 に與へたる諸邑を見しに其目に善らざりければ 13我兄 第 よ爾が我に與へたる此等の城邑は何なるやといひて之をカブルの地となづけたり其名今日までのこる 14嘗てヒラムは金 百二十タラントを王に遣れり 15ソロモン王の徴募人を興せし事は是なり即ちヱホバの家と自己の家とミロとエルサレムの石垣とハゾルとメギドンとゲゼルを建んが爲なりき 16エジプトの王パロ嘗て上りてゲゼルを取り火を以て之を燬き其邑に住るカナン人を殺し之をソロモンの妻なる其 女に與へて粧 奩と爲り 17ソロモン、ゲゼルと下ベテホロンと 18バアラと國の野にあるタデモル 19及びソロモンの有てる府庫の諸邑其 戰 車の諸邑其騎兵の諸邑 並にソロモンがエルサレム、レバノンおよび其 凡の領地に於て建んと欲し者を 盡く建たり 20凡てイスラエルの子孫に非るアモリ人ヘテ人ペリジ人ヒビ人ヱブス人の遺存る者 21其地に在て彼等の後に遺存る子孫即ちイスラエルの子孫の滅し盡すことを得ざりし者にソロモン奴隷の徴募を行ひて今日に至る 22然どもイステエルの子孫をばソロモン一人も奴隷と爲ざりき其は彼等は軍人 彼の臣僕牧伯大將たり戰 車と騎兵の長たればなり 23ソロモンの工事を管理れる首なる官吏は五百五十人にして工事に働く民を治めたり 24爰にパロの女ダビデの城より上りてソロモンが彼のために建たる家に至る其時にソロモン、ミロを建たり 25ソロモン、ヱホバに築きたる壇の上に年に三次燔祭と酬恩祭を献げ又ヱホバの前なる壇に香を焚りソロモン斯家を全うせり 26ソロモン王エドムの地紅海の濱に於てエラテの邊なるエジオンゲベルにて船數雙を造れり 27ヒラム海の事を知れる舟人なる其僕をソロモンの僕と偕に其船にて遣せり 28彼等オフルに至り其處より金四百二十タラントを取てこれをソロモン王の所に携來る

第十章

1シバの女王ヱホバの名に關るソロモンの風聞を聞き及び難問を以てソロモンを試みんとて來れり 2彼 甚だ多くの部從 香物と甚だ多くの金と寶石を負ふ駱駝を從へてエルサレムに至る彼ソロモンの許に來り其 心にある所を悉 く之に言たるに 3ソロモン彼に其 凡の事を告たり王の知ずして彼に告ざる事無りき 4シバの女王ソロモンの諸 の智慧と其建たる家と 5其席の食物と其臣僕の列坐る事と其侍 臣の伺 候および彼等の衣服と其酒人と其ヱホバの家に上る階級とを見て全く其氣を奪はれたり 6彼王にいひけるは我が自己の國にて爾の行爲と爾の智慧に付て聞たる言は眞實なりき 7然ど我來りて目に見るまでは其 言を信ぜざりしが今視るに其 半も我に聞えざりしなり爾の智慧と昌盛はわが聞たる風聞に越ゆ 8常に爾の前に立て爾の智慧を聽く是等の人 爾の臣僕は幸福なるかな 9爾の神ヱホバは讃べきかなヱホバ爾を悦び爾をイスラエルの位に上らせたまへりヱホバ永 久にイスラエルを愛したまふに因て爾を王となして公道と 義 を行はしめたまふなりと 10彼 乃ち金百二十タラント及び甚だ多くの香物と寶石とを王に饋れりシバの女王のソロモン王に饋りたるが如き多くの香物は重て至ざりき 11オフルより金を載來りたるヒラムの船は亦オフルより多くの白 檀 木と寶石とを運び來りければ 12王 白 檀 木を以てヱホバの家と王の家とに欄干を造り歌 謠 者のために琴と瑟を造れり是の如き白 檀 木は至らざりき亦今日までも見たることなし 13ソロモン王王の 例 に循ひてシバの女王に物を饋りたる外に又彼が望に任せて凡て其求むる物を饋れり斯て彼其臣僕等とともに歸りて其國に往り 14偖一年にソロモンの所に至れる金の重量は六百六十六タラントなり 15外に又商買および商 旅の交易 並にアラビヤの王等と國の知事等よりも至れり 16ソロモン王展金の大楯二 百を造れり其大楯には 各 六百シケルの金を用ひたり 17又展金の干三百を造れり一の干に三斤の金を用ひたり王是等をレバノン森林の家に置り 18王又象牙をもて大なる寶座を造り純 金を以て之を蔽へり 19其寶座に六の階級あり寶座の後に圓き頭あり坐する處の兩 旁に扶手ありて

扶手の側に二の獅子立てり 20又其六の階級に十二の獅子
此旁彼旁に立り是の如き者を作れる國はあらざりき 21ソ
ロモン王の用ひて飲る器は皆金なり又レバノン森林の家
の器も皆純金にして銀の物無りき銀はソロモンの世には
貴まざりしなり 22其は王海にタルシシの船を有てヒラム
の船と供にあらしめタルシシの船をして三年に一度金銀
象牙猿猴および孔雀を載て來らしめたればなり 23抑ソ
ロモン王は富有と智慧に於て天下の諸の王よりも大なり
ければ 24天下皆神がソロモンの心に授けたまへる智慧を
聽んとてソロモンの面を見んことを求めたり 25人々各
其禮物を携へ來る即ち銀の器金の器衣服甲冑香物馬騾
毎歳定分ありき 26ソロモン戰車と騎兵を集めたるに
戰車千四百輛騎兵壱萬二千ありきソロモン之を戰車
の城邑に置き或はエルサレムにて王の所に置り 27王エル
サレムに於て銀を石の如くに爲し香柏を平地の桑樹の如
くに爲して多く用ひたり 28ソロモンの馬を獲たるはエジ
プトとコアよりなり即ち王の商賣コアより價値を以て取
り 29エジプトより上り出る戰車一輛は銀六百にして馬
は百五十なりき斯のごとくヘテ人の凡の王等およびスリ
アの王等のために其手をもて取出せり

第十一章

1ソロモン王パロの女の外に多の外國の婦を寵愛せり即
ちモアブ人アンモニ人エドミ人シドン人ヘテ人の婦を
寵愛せり 2ヱホバ曾て是等の國民についてイスラエルの
子孫に言たまひけらく爾等は彼等と交るべからず彼等も
亦爾等と交るべからず彼等必ず爾等の心を轉して彼等の
神々に從はしめんとしかるにソロモン彼等を愛して離れ
ざりき 3彼妃公主七百人嬪三百人あり其妃等彼の心を
轉せり 4ソロモンの年老たる時妃等其心を轉移して他の
神に從はしめければ彼の心其父ダビデの心の如く其神ヱ
ホバに全からざりき 5其はソロモン、シドン人の神アシ
タロテに從ひアンモニ人の惡むべき者なるモロクに從ひ
たればなり 6ソロモン斯ヱホバの目のまへに惡を行ひ其
父ダビデの如く全くはヱホバに從はざりき 7爰にソロモ
ン、モアブの憎むべき者なるケモシの爲又アンモンの
子孫の憎むべき者なるモロクのためにエルサレムの前な
る山に崇邱を築けり 8彼又其異邦の凡の妃の爲にも然せ
しかば彼等は香を焚て己々の神を祭れり 9ソロモンの
心轉りてイスラエルの神ヱホバを離れしによりてヱホ
バ彼を怒りたまふヱホバ嘗て兩次彼に顯れ 10此事に付て
彼に他の神に從ふべからずと命じたまひけるに彼ヱホバ
の命じたまひし事を守らざりしなり 11ヱホバ、ソロモン
に言たまひけるは此事爾にありしに因り又汝わが契約
とわが爾に命じたる法憲を守らざりしに因て我必ず爾よ
り國を裂きはなして之を爾の臣僕に與ふべし 12然ど爾の
父ダビデの爲に爾の世には之を爲ざるべし我爾の子の手
より之を裂きはなさん 13但し我は國を盡くは裂きはな
さずしてわが僕ダビデのために又わが選みたるエルサレ
ムのために一の支派を爾の子に與へんと 14是に於てヱホ
バ、エドミ人ハダデを興してソロモンの敵と爲したまふ
彼はエドム王の裔なり 15曩にダビデ、エドムに事ありし
時軍の長ヨアブ上りて其戰死せし者を葬りエドムの男を
盡く擊殺しける時に方りて 16(ヨアブはエドムの男を
盡く絶までイスラエルの群衆と偕に六月其處に止れり)
17ハダデ其父の僕なる數人のエドミ人と共に逃てエジプ
トに往んとせり時にハダデは尚小童子なりき 18彼等ミデ
アンを起出てバランに至りパランより人を伴ひてエジプ
トに往きエジプトの王パロに詣るにパロ彼に家を與へ
食糧を定め且土地を與へたり 19ハダデ大にパロの心に
かなひしかばパロ己の妻の妹即ち王妃タペネスの妹
を彼に妻せり 20タペネスの妹彼に男子ゲヌバテを生け
ればタペネス之をパロの家の中にて乳離せしむゲヌバ
テ、パロの家にてパロの子の中にありき 21ハダデ、エジ
プトに在てダビデの其先祖と偕に寢りたると軍の長ヨア
ブの死たるを聞しかばハダデ、パロに言けるは我を去し
めてわが國に往しめよと 22パロ彼にいひけるは爾我とと
もにありて何の缺たる處ありてか爾の國に往ん事を求む
る彼言ふ何も無し然どもねがはくは我を去しめよ去しめ
よ 23神父エリアダの子レゾンを興してソロモンの敵とな
せり彼は其主人ゾバの王ハダデゼルの許を逃さりたる者
なり 24ダビデがゾバの人を殺したる時に彼人を自己に集
めて一隊の首領となりしが彼等ダマスコに往て彼處に住
みダマスコを治めたり 25ハダデが爲たる害の外にレゾ
ン、ソロモンの一生の間イスラエルの敵となれり彼イス
テエルを惡みてスリアに王たりき 26ゼレダのヱフラタ人
ネバテの子ヤラベアムはソロモンの僕なりしが其母の名
はゼルヤと曰て嫠婦なりき彼も亦其手を擧て王に敵す
27彼が手を擧て王に敵せし故は此なりソロモン、ミロを
築き其父ダビデの城の損缺を塞ぎ居たり 28其人ヤラベア

ムは大なる能力ある者なりしかばソロモン此少者が事に
勤むるを見て之を立てヨセフの家の凡の役を督どらしむ
29 其頃ヤラベアム、エルサレムを出し時シロ人なる
預言者アヒヤ路にて彼に遭へり彼は新しき衣服を著ゐた
りしが彼等二人のみ野にありき 30 アヒヤ其著たる新しき
衣服を執へて之を十二片に裂き 31 ヤラベアムに言けるは
爾 自ら十片を取れイスラエルの神ヱホバ斯言たまふ視
よ我國をソロモンの手より裂きはなして爾に十の支派を
與へん 32 (但し彼はわが僕ダビデの故に因り又わがイス
ラエルの凡の支派の中より選みたる城エルサレムの故に
因りて一の支派を有つべし) 33 其は彼等我を棄てシドン
人の神アシタロテとモアブの神ケモシとアンモンの子孫
の神モロクを拝み其父ダビデの如くわが道に歩てわが目
に適ふ事わが法ととわが律例を行はざればなり 34 然ども
我は國を盡くは彼の手より取ざるべし我が選みたるわ
が僕ダビデわが命令とわが法憲を守りたるに因て我彼が
爲にソロモンを一生の間主たらしむべし 35 然ど我其子
の手より國を取て其十の支派を爾に與へん 36 其子には我
一の支派を與へてわが僕ダビデをしてわが己の名を置ん
とてわがために擇みたる城エルサレムにてわが前に常に
一の光明を有しめん 37 我爾を取ん爾は凡て爾の心の望
む所を治めイスラエルの上に王となるべし 38 爾若わが
爾に命ずる凡の事を聽て吾が道に歩みわが目に適ふ事を
爲しわが僕ダビデが爲し如く我が法憲と誡命を守らば我
爾と偕にありてわがダビデのために建しごとく爾のため
に鞏固き家を建てイスラエルを爾に與ふべし 39 我之がた
めにダビデの裔を苦めんされど永遠には非じと 40 ソロモ
ン、ヤラベアムを殺さんと求めければヤラベアム起てエ
ジプトに逃遁れエジプトの王シシヤクに至りてソロモン
の死ぬるまでエジプトに居たり 41 ソロモンの其餘の行爲
と凡て彼が爲たる事および其智慧はソロモンの行爲の書
に記さるるにあらすや 42 ソロモンのエルサレムにてイス
ラエルの全地を治めたる日は四十年なりき 43 ソロモン其
父祖と偕に寝りて其父ダビデの城に葬らる其子レハベア
ム之に代て王となれり

第十二章

1 爰にレハベアム、シケムに往り其はイスラエル皆彼を王
と爲んとてシケムに至りたればなり 2 ネバテの子ヤラベ
アム尚エジプトに在て聞りヤラベアムはソロモン王の面
をさけて逃さりエジプトに住居たるなり 3 時に人衆人を
遣はして彼を招けり斯てヤラベアムとイスラエルの會衆
皆來りてレハベアムに告て言けるは 4 汝の父我儕の軛を
難くせり然ども爾今爾の父の難き役と爾の父の我儕に
蒙らせたる重き軛を軽くせよ然ば我儕爾に事へん 5 レハ
ベアム彼等に言けるは去て三日を經て再び我に來れと民
乃ち去り 6 レハベアム王其父ソロモンの生る間其前に立
たる老人等と計りていひけるは爾等如何に教へて此民に
答へしむるや 7 彼等レハベアムに告て言けるは爾若今日
此民の僕となり之に事へて之に答へ善き言を之に語らば
彼等永く爾の僕となるべしと 8 然に彼老人の教へし教を
棄て自己と倶に生長て己のまへに立つ少年等と計れり 9
即ち彼等に言けるは爾等何を教へて我儕をして此我に告
て爾の父の我儕に蒙むらせし軛を軽くせよと言ふ民に答
へしむるやと 10 彼と偕に生長たる少年彼に告ていひける
は爾に告て爾の父我儕の軛を重くしたれど爾これを我儕
のために軽くせよと言たる此民に爾斯言べし我が小指は
わが父の腰よりも太し 11 またわが父爾等に重き軛を負せ
たりしが我は更に爾等の軛を重くせん我父は鞭にて爾等
を懲したれども我は蠍をもて爾等を懲んと爾斯彼等に告
べしと 12 ヤラベアムと民皆王の告て第三日に再び我に來
れと言しごとく第三日にレハベアムに詣りしに 13 王荒々
しく民に答へ老人の教へし教を棄て 14 少年の教の如く
彼等に告て言けるは我父は爾等の軛を重くしたりしが我
は更に爾等の軛を重くせん我父は鞭を以て爾等を懲した
れども我は蠍をもて爾等を懲さんと 15 王斯民に聽ざりき
此事はヱホバより出たる者なり是はヱホバその嘗てシロ
人アヒヤに由てネバテの子ヤラベアムに告し言をおこな
はんとて爲たまへるなり 16 かくイスラエル皆王の己に聽
ざるを見たり是において民王に答へて言けるは我儕ダビ
デの中に何の分あらんやヱサイの子の中に產業なしイス
ラエルよ爾等の天幕に歸れダビデよ今爾の家を視よと而
してイスラエルは其天幕に去りゆけり 17 然どもユダの
諸邑に住るイスラエルの子孫の上にはレハベアム其王と
なれり 18 レハベアム王徴募頭なるアドラムを遣はしける
にイスラエル皆石にて彼を撃て死しめたればレハベアム
王急ぎて其車に登りエルサレムに逃たり 19 斯イスラエ
ル、ダビデの家に背きて今日にいたる 20 爰にイスラエル
皆ヤラベアムの歸りしを聞て人を遣して彼を集會に招き
彼をイスラエルの全家の上に王と爲りユダの支派の外は

ダビデの家に従ふ者なし 21ソロモンの子レハベアム、エルサレムに至りてユダの全家とベニヤミンの支派の者即ち壯年の武夫十八萬を集む斯してレハベアム國を己に皈さんがためにイスラエルの家と戰はんとせしが 22神の言 神の人シマヤに臨みて曰く 23ソロモンの子ユダの王レハベアムおよびユダとベニヤミンの全家 並に其餘の民に告て言べし 24ヱホバ斯言ふ爾等上るべからず爾等の兄弟なるイスラエルの子孫と戰ふべからず各人其家に歸れ此事は我より出たるなりと彼等ヱホバの言を聽きヱホバの言に循ひて轉り去りぬ 25ヤラベアムはエフライムの山地にシケムを建て其處に住み又其所より出てペヌエルを建たり 26爰にヤラベアム其心に謂けるは國は今ダビデの家に歸らん 27若此民エルサレムにあるヱホバの家に禮物を献げんとて上らば此民の心ユダの王なる其主レハベアムに歸りて我を殺しユダの王レハベアムに歸らんと 28是に於て王計議て二の金の犢を造り人々に言けるは爾らのエルサレムに上ること既に足りイスラエルよ爾をエジプトの地より導き上りし汝の神を視よと 29而して彼一をベテルに安ゐ一をダンに置り 30此事罪となれりそは民ダンに迄往て其一の前に詣たればなり 31彼又 崇 邱の家を建てレビの子孫にあらざる 凡 民を祭司となせり 32ヤラベアム八月に節期を定めたり即ち其月の十五日なりユダにある節期に等し而して壇の上に上りたりベテルにて彼斯爲し其作りたる犢に禮物を献げたり又彼其造りたる崇 邱の祭司をベテルに立たり 33かく彼其ベテルに造れる壇の上に八月の十五日に上れり是は彼が己の心より造り出したる月なり而してイスラエルの人々のために節期を定め壇の上にのぼりて香を焚り

第十三章

1視よ爰に神の人ヱホバの言に由てユダよりベテルに來れり時にヤラベアムは壇の上に立て香を焚ゐたり 2神の人乃ちヱホバの言を以て壇に向ひて呼はり言けるは壇よ壇よヱホバ斯言たまふ視よダビデの家にヨシアと名くる一人の子生るべし彼 爾の上に香を焚く所の崇 邱の祭司を爾の上に献げん且人の骨 爾の上に燒れんと 3是日彼異蹟を示して言けるは是はヱホバの言たまへる事の異蹟なり視よ壇は裂け其上にある灰は傾出んと 4ヤラベアム王神の人がベテルにある壇に向ひて呼はりたる言を聞る時其手を壇より伸し彼を執へよと言けるが其彼に向ひて伸したる手枯て再び屈縮ることを得ざりき 5しかして神の人がヱホバの言を以て示したる異蹟の如く壇は裂け灰は壇より傾出たり 6王 答て神の人に言けるは請ふ爾の神ヱホバの面を和めわが爲に祈りてわが手を本に復しめよ神の人 乃ちヱホバの面を和めければ王の手本に復りて前のごとくに成り 7是において王神の人に言けるは我と與に家に來りて身を息めよ我 爾に禮物を與へんと 8神の人王に言けるは爾 假令 爾の家の半を我に與ふるも我は 爾とともに入じ又此所にてパンを食ず水を飲ざるべし 9其はヱホバの言 我にパンを食ふなかれ水を飲なかれ又 爾が往る途より歸るなかれと命じたればなりと 10斯彼 他途を往き自己がベテルに來れる途よりは歸らざりき 11爰にベテルに一人の老たる預言者住ゐたりしが其子等來りて是日神の人がベテルにて爲たる諸事を彼に宣たり亦神の人の王に言たる言をも其父に宣たり 12其父彼等に彼は何の途を往しやといふ其子等ユダより來りし神の人の往たる途を見たればなり 13彼其子等に言けるは我ために驢馬に鞍おけと彼等驢馬に鞍おきければ彼之に乘り 14神の人の後に往きて橡の樹の下に坐するを見之にいひけるは汝はユダより來れる神の人なるか其人然りと言ふ 15彼其人にいひけるは我と偕に家に往てパンを食へ 16其人いふ我は汝と偕に歸る能はず汝と偕に入あたはず又我は此處にて爾と偕にパンを食ず水を飲じ 17其はヱホバの言 我に爾 彼處にてパンを食ふなかれ水を飲なかれ又 爾が至れる所の途より歸り往なかれと言たればなりと 18彼其人にいひけるは我も亦 爾の如く預言者なるが天の使ヱホバの言を以て我に告て彼を爾と偕に爾の家に携かへり彼にパンを食はしめ水を飲しめよといへりと是其人を 誑けるなり 19是において其人彼と偕に歸り其家にてパンを食ひ水を飲り 20彼等が席に坐せし時ヱホバの言 其人を携歸 し預言者に臨みければ 21彼ユダより來れる神の人に向ひて呼はり言けるはヱホバ斯言たまふ爾ヱホバの口に違き爾の神ヱホバの爾に命じたまひし命令を守らずして歸り 22ヱホバの爾にパンを食ふなかれ水を飲なかれと言たまひし處にてパンを食ひ水を飲たれば爾の 屍 は爾の父祖の墓に至らざるべしと 23其人のパンを食ひ水を飲し後彼其人のため即ち己が携歸りたる預言者のために驢馬に鞍おけり 24斯て其人往けるが獅子途にて之に遇ひて之を殺せり而して其 屍 は途に棄られ驢馬は其 傍 に立ち獅子も亦其 屍 の 側 に立り 25人々經過て途に棄られたる

屍 と其 屍 の側 に立る獅子を見て來り彼老たる預言者の住る邑にて語れり 26彼人を途より携歸りたる預言者聞て言けるは其はヱホバの口に違きたる神の人なりヱホバの彼に言たまひし言の如くヱホバ彼を獅子に付したまひて獅子彼を裂き殺せりと 27しかして其子等に語りて言けるは我ために驢馬に鞍おけと彼等鞍おきければ 28彼往て其 屍 の途に棄られ驢馬と獅子の其 屍 の傍 に立るを見たり獅子は 屍 を食はず驢馬をも裂ざりき 29預言者 乃ち神の人の 屍 を取あげて之を驢馬に載せて携歸れりしかして其老たる預言者邑に入り哀哭みて之を葬れり 30即ち其 屍 を自己の墓に置め皆之がために嗚呼わが兄 弟よといひて哀哭り 31彼人を葬りし後彼其子等に語りて言けるは我が死たる時は神の人を葬りたる墓に我を葬りわが骨を彼の骨の側に置めよ 32其は彼がヱホバの言を以てベテルにある壇にむかひ又サマリアの諸邑に在る崇 邱の 凡の家に向ひて呼はりたる言は必ず成べければなり 33斯事の後ヤラベアム其惡き途を離れ歸ずして復 凡 の民を崇 邱 の祭司と爲り即ち誰にても好む者は之を立てければ其人は崇 邱 の祭司と爲り 34此事ヤラベアムの家の罪戻となりて遂に之をして地の表面より消失せ滅亡に至らしむ

第十四章

1當時ヤラベアムの子アビヤ疾るたり 2ヤラベアム其妻に言けるは請ふ起て裝を改へ人をして汝がヤラベアムの妻なるを知しめずしてシロに往け彼處にわが此民の王となるべきを我に告たる預言者アヒヤをる 3汝の手に十のパン及び菓子と一瓶の蜜を取て彼の所に往け彼 汝に此子の如何になるかを示すべしと 4ヤラベアムの妻是爲し起てシロに往きアヒヤの家に至りしがアヒヤは年齢のために其目 凝 て見ることを得ざりき 5ヱホバ、アヒヤにいひたまひけるは視よヤラベアムの妻其子疾るに因て其に付て汝に一の事を諮んとて來る汝 斯々彼に言べし其は彼入り來る時其身を他の人とすべければなり 6彼が戸の所に入來れる時アヒヤ其履聲を聞て言けるはヤラベアムの妻入よ汝 何ぞ其身を他の人とするや我 汝に嚴酷き事を告るを命ぜらる 7往てヤラベアムに告べしイスラエルの神ヱホバ斯言たまふ我 汝を民の中より擧げ我民イスラエルの上に汝を君となし 8國をダビデの家より裂き離して之を汝に與へたるに汝は我 僕ダビデの我が命令を守りて一心に我に從ひ唯わが目に適ふ事のみを爲しが如くならずして 9汝の前に在し凡の者よりも惡を爲し往て汝のために他の神と鑄たる像を造り我が怒を激し我を汝の背後に棄たり 10是故に視よ我ヤラベアムの家に災害を下しヤラベアムに屬する男はイスラエルにありて繫がれたる者も繫がれざる者も 盡 く絶ち人の塵埃を殘りなく除くがごとくヤラベアムの家の後を除くべし 11ヤラベアムに屬する者の邑に死るをば犬之を食ひ野に死ぬるをば天空の鳥之を食はんヱホバ之を語たまへばなり 12爾 起て爾の家に往け爾の足の邑に入る時子は死ぬべし 13而してイスラエル皆彼のために哀みて彼を葬らんヤラベアムに屬する者は唯是のみ墓に入るべし其はヤラベアムの家の中にて彼はイスラエルの神ヱホバに向ひて善き意を懷けばなり 14ヱホバ、イスラエル上に一人の王を興さん彼其日にヤラベアムの家を斷絶べし但し何れの時なるか今 即ち是なり 15又ヱホバ、イスラエルを擊て水に搖撼ぐ葦の如くになしたまひイスラエルを其父祖に賜ひし此善地より抜き去りて之を河の外に散したまはん彼等其アシラ像を造りてヱホバの怒を激したればなり 16ヱホバ、ヤラベアムの罪の爲にイスラエルを棄たまふべし彼は罪を犯し又イスラエルに罪を犯さしめたりと 17ヤラベアムの妻起て去テルザに至りて家の閾に臻れる時子は死り 18イスラエル皆彼を葬り彼の爲に哀めりヱホバの其 僕 預言者アヒヤによりて言たまへる言の如し 19ヤラベアムの其餘の行爲彼が如何に戰ひしか如何に世を治めしかは視よイスラエルの王の歷代志の書に記載る 20ヤラベアムの王たりし日は二十二年なりき彼其父祖と偕に寢りて其子ナダブ之に代りて王となれり 21ソロモンの子レハベアムはユダに王たりきレハベアムは王と成る時四十一歲なりしがヱホバの其名を置んとてイスラエルの諸の支派の中より選みたまひし邑なるエルサレムにて十七年王たりき其母の名はナアマといひてアンモニ人なり 22ユダ其父祖の爲たる諸の事に超てヱホバの目の前に惡を爲し其犯したる罪に由てヱホバの震怒を激せり 23其は彼等も諸の高山の上と諸の青木の下に崇 邱と碑とアシラ像を建たればなり 24其國には亦男 色を行ふ者ありぎ彼等はヱホバがイスラエルの子孫の前より逐攘ひたまひし國民の中にありし諸の憎むべき事を倣ひ行へり 25レハベアム王の第五年にエジプトの王シシヤク、エルサレムに攻上り 26ヱホバの家の寶物と王の家の寶物を奪ひたり即ち 盡 く之を奪ひ亦ソロモ

ンの造りたる金の楯を皆奪ひたり 27 レハベアム王其代に銅の楯を造りて王の家の門を守る侍衛の長の手に付せり 28 王のヱホバの家に入る毎に侍衛之を負ひ復之を侍衛の房に携歸れり 29 レハベアムの其餘の行爲と其凡て爲たる事はユダの王の歷代志の書に記さるるに非ずや 30 レハベアムとヤラベアムの間に戰爭ありき 31 レハベアム其父祖と偕に寢りて其父祖と共にダビデの城に葬らる其母のナアマといひてアンモニ人なり其子アビヤム之に代りて王と爲り

第十五章

1 ネバテの子ヤラベアム王の第十八年にアビヤム、ユダの王となり 2 エルサレムにて三年世を治めたり其母の名はマアカといひてアブサロムの女なり 3 彼は其父が己のさきに爲たる諸の罪を行ひ其心其父ダビデの心の如く其神ヱホバに完全からざりき 4 然に其神ヱホバ、ダビデの爲にエルサレムに於て彼に一の燈明を與へ其子を其後に興しエルサレムを固く立しめ賜へり 5 其はダビデはヘテ人ウリヤの事の外は一生の間ヱホバの目に適ふ事を爲て其己に命じたまへる諸の事に背かざりければなり 6 レハベアムとヤラベアムの間には其一生の間戰爭ありき 7 アビヤムの其餘の行爲と凡て其爲たる事はユダの王の歷代志の書に記載さるるにあらずやアビヤムとヤラベアムの間に戰爭ありき 8 アビヤム其先祖と倶に寢りしかば之をダビデの城に葬りぬ其子アサ之に代りて王と爲り 9 イスラエルの王ヤラベアムの第二十年にアサ、ユダの王となり 10 エルサレムにて四十一年世を治めたり其母の名はマアカといひてアブサロムの女なり 11 アサは其父ダビデの如くヱホバの目に適ふ事を爲し 12 男色を行ふ者を國より逐ひ出し其父祖等の造りたる諸の偶像を除けり 13 彼は亦其母マアカのアシラの像を造りしがために之を貶して太后たらしめざりき而してアサ其像を毀ちてキデロンの谷に焚棄たり 14 但し崇邱は除かざりき然どアサの心は一生の間ヱホバに完全かりき 15 彼其父の獻納めたる物と己のをさめたる物金銀器をヱホバの家に携へいりぬ 16 アサとイスラエルの王バアシヤの間に一生の間戰爭ありき 17 イスラエルの王バアシヤ、ユダに攻上りユダの王アサの所に誰をも往來せざらしめん爲にラマを築けり 18 是に於てアサ王ヱホバの家の府庫と王の家の府庫に殘れる所の金銀を盡く將て之を其臣僕の手に付し之をダマスコに住るスリアの王ヘジヨンの子タブリモンの子なるベネハダデに遣はして言けるは 19 わが父と爾の父の間の如く我と爾の間に約を立ん視よ我爾に金銀の禮物を餽れり往て爾とイスラエルの王バアシヤとの約を破り彼をして我を離れて上らしめよ 20 ベネハダデ、アサ王に聽きて自己の軍勢の長等を遣はしてイスラエルの諸邑を攻めイヨンとダンとアベルベテマアカおよびキンネレテの全地とナフタリの全地とを擊り 21 バアシヤ聞及びラマを築くことを罷てテルザに止り 22 是に於てアサ王令をユダ全國に降したり一人も免かれし者なし斯して即ちバアシヤが用ひてラマを築きたる石と材木を取きたらしめアサ王之を用てベニヤミンのゲバとミズパを築けり 23 アサの其餘の行爲と其諸の功業と凡て其爲たる事および其建たる城邑はユダの王の歷代志の書に記載さるるにあらずや但し彼は年老るに及びて其足を病たり 24 アサ其父祖と時に寢りて其父ダビデの城に其父祖と偕に葬らる其子ヨシヤパテ之に代りて王と爲り 25 ユダの王アサの第二年にヤラベアムの子ナダブ、イスラエルの王と爲り二年イスラエルを治めたり 26 彼ヱホバの目のまへに惡を爲其父の道に歩行み其イスラエルに犯させたる罪を行へり 27 爰にイツサカルの家のアヒヤの子バアシヤ彼に敵して黨を結びペリシテ人に屬するギベトンにて彼を擊り其はナダブとイスラエル皆ギベトンを圍み居たればなり 28 ユダの王アサの第三年にバアシヤ彼を殺し彼に代りて王となれり 29 バアシヤ王となれる時ヤラベアムの全家を擊ち氣息ある者は一人もヤラベアムに殘さずして盡く之を滅せりヱホバの其僕シロ人アヒヤに由て言たまへる言の如し 30 是はヤラベアムが犯し又イスラエルに犯させたる罪の爲め又彼がイスラエルの神ヱホバの怒を惹き起したる事に因るなり 31 ナダブの其餘の行爲と凡て其爲たる事はイスラエルの王の歷代志の書に記載さるるにあらずや 32 アサとイスラエルの王バアシヤの間に一生のあひだ戰爭ありき 33 ユダの王アサの第三年にアヒヤの子バアシヤ、テルザに於てイスラエルの全地の王となりて二十四年を經たり 34 彼ヱホバの目のまへに惡を爲しヤラベアムの道にあゆみ其イスラエルに犯させたる罪を行へり

第十六章

1 爰にヱホバの言ハナニの子ヱヒウに臨みバアシヤを責て曰く 2 我爾を塵の中より擧て我民イスラエルの上に君と

なしたるに爾はヤラベアムの道に歩行みわが民イスラエルに罪を犯させて其罪をもて我怒を激したり 3されば我バアシヤの後と其家の後を除き爾の家をしてネバテの子ヤラベアムの家の如くならしむべし 4バアシヤに屬する者の城邑に死るをば犬之を食ひ彼に屬する者の野に死るをば天空の鳥これを食はんと 5バアシヤの其餘の行爲と其爲たる事と其功績はイスラエルの王の歴代志の書に記載さるるにあらずや 6バアシヤ其父祖と倶に寝りてテルザに葬らる其子エラ之に代りて王となれり 7エホバの言 亦ハナニの子エヒウに由て臨みバアシヤと其家を責む是は彼がエホバの目のまへに 諸 の惡事を行ひ其手の所爲を以てエホバの怒を激してヤラベアムの家に倣たるに縁り又其ナダブを殺したるに縁てなり 8ユダの王アサの第二十六年にバアシヤの子エラ、テルザに於てイスラエルの王となりて二年を經たり 9彼がテルザにありてテルザの宮殿の宰アルザの家において飲み酔たる時其 僕ジムリ戰 車の半を督どる者之に敵して黨を結べり 10即ちユダの王アサの第二十七年にジムリ入て彼を撃ち彼を殺し彼にかはりて王となれり 11彼王となりて其 位に上れる時バアシヤの全家を殺し男子は其親族にもあれ朋友にもあれ一人も之に遺さざりき 12ジムリ斯バアシヤの全家を滅ぼせりエホバが預言者エヒウに由てバアシヤを責て言たまへる言の如し 13是はバアシヤの 諸 の罪と其子エラの罪のためなり彼等は罪を犯し又イスラエルをして罪を犯し其 虚 物を以てイスラエルの神エホバの怒を激さしめたり 14エラの其餘の行爲と凡て其爲たる事はイスラエルの王の歴代志の書に記載さるるにあらずや 15ユダの王アサの第二十七年にジムリ、テルザにて七日の間 王たりき民はペリシテ人に屬するギベトンに向ひて陣どり居たりしが 16陣どれる民ジムリは黨を結び亦王を殺したりと言を聞り是に於てイスラエル皆其日陣營にて軍の長オムリをイスラエルの王となせり 17オムリ乃ちイスラエルの衆 と偕にギベトンより上りてテルザを圍り 18ジムリ其邑の陷るを見て王の家の天守に入り王の家に火をかけて其中に死り 19是は其犯したる罪によりてなり彼エホバの目のまへに惡を爲しヤラベアムの道にあゆみヤラベアムがイスラエルに罪を犯させて爲したるところの罪を行ひたり 20ジムリの其餘の行爲と其なしたる徒黨はイスラエルの王の歴代志の書に記載るるにあらずや 21其時にイスラエルの民 二に分れ民の半はギナラの子テブニに從ひて之を王となさんとし半はオムリに從へり 22オムリに從へる民ギナテの子テブニに從へる民に勝てテブニは死てオムリ王となれり 23ユダの王アサの第三十一年にオムリ、イスラエルの王となりて十二年を經たり彼テルザにて六年王たりき 24彼銀二タラントを以てセメルよりサマリア山を買ひ其上に邑を建て其建たる邑の名を其山の故主なりしセメルの名に循ひてサマリアと稱り 25オムリ、エホバの目のまへに惡を爲し其先に在し凡の者よりも惡き事を行へり 26彼はネバテの子ヤラベアムの凡の道にあゆみヤラベアムがイスラエルをして罪を犯し其 虚 物を以てイスラエルの神エホバの怒をおこさしめたる其罪を行へり 27オムリの爲たる其餘の行爲と其なしたる功績はイスラエルの王の歴代志の書に記載るるにあらずや 28オムリ其父祖と偕に寝りてサマリアに葬らる其子アハブ之に代りて王となれり 29ユダの王アサの第三十八年にオムリの子アハブ、イスラエルの王となれりオムリの子アハブ、サマリアに於て二十二年イスラエルに王たりき 30オムリの子アハブは其先に在し凡の者よりも多くエホバの目のまへに惡を爲り 31彼はネバテの子ヤラベアムの罪を行ふ事を軽き事となせしがシドン人の王エテバアルの女イゼベルを妻に娶り往てバアルに事へ之を拝めり 32彼其サマリアに建たるバアルの家の中にバアルのために壇を築けり 33アハブ又アシラ像を作れりアハブは其先にありしイスラエルの諸の王よりも甚だしくイスラエルの神エホバの怒を激すことを爲り 34其代にベテル人ヒエル、エリコを建たり彼其 基を置る時に長子アビラムを喪ひ其門を立る時に季子セグブを喪へりヌンの子ヨシユアによりてエホバの言たまへるがごとし

第十七章

1ギレアデに居住れるテシベ人エリヤ、アハブに言ふ吾事ふるイスララエルの神エホバは活くわが言なき時は數年雨露あらざるべしと 2エホバの言 彼に臨みて曰く 3爾 此より往て東に赴きヨルダンの前にあるケリテ川に身を匿せ 4爾 其川の水を飲べし我 鴉に命じて彼處にて爾を養はしむと 5彼往てエホバの言の如く爲り即ち往てヨルダンの前にあるケリテ川に住り 6彼の所に鴉 朝にパンと肉亦夕 にパンと肉を運べり彼は川に飲り 7しかるに國に雨なかりければ數日の後其川涸ぬ 8エホバの言 彼に臨みて曰 9起てシドンに屬するザレバテに往て其處に住め視よ我

彼處の嫠 婦に命じて爾を養はしむと 10彼起てザレパテに
往けるが邑の門に至れる時一人の嫠 婦の其處に薪を採
ふを見たり乃ち之を呼て曰けるは請ふ器に少許の水を我
に携來りて我に飲せよと 11彼之を携きたらんとて往る時
エリヤ彼を呼て言けるは請ふ爾の手に一口のパンを我に
取きたれと 12彼いひけるは爾の神ヱホバは活く我はパン
無し只桶に一 握の粉と瓶に少許の油あるのみ觀よ我は
二 の薪を採ふ我いりてわれとわが子のために調理て之を
くらひて死んとす 13エリヤ彼に言ふ懼るるなかれ往て 汝
がいへる如くせよ但し先其をもてわが爲に小きパン一を
作りて我に携きたり其後 爾のためと爾の子のために作る
べし 14其はヱホバの雨を地の面に降したまふ日までは其
桶の粉は竭ず其瓶の油は絶ずとイスラエルの神ヱホバ言
たまへばなりと 15彼ゆきてエリヤの言るごとくなし彼と
其家及びエリヤ久く食へり 16ヱホバのエリヤに由て言た
まひし言のごとく桶の粉は竭ず瓶の油は絶ざりき 17是等
の事の後其家の主母なる婦の子 疾に罹しが其 病 甚だ劇
くして氣息其中に絶て無きに至れり 18婦エリアに言ける
は神の人よ汝なんぞ吾事に關渉るべけんや汝はわが罪を
憶ひ出さしめんため又わが子を死しめんために我に來れ
るか 19エリヤ彼に爾の子を我に授せと言て之を其 懐 よ
り取り之を己の居る桜に抱のぼりて己の牀に臥しめ 20ヱ
ホバに呼はりていひけるは吾神ヱホバよ爾は亦吾ともに
宿る嫠に 菑 をくだして其子を死しめたまふやと 21而し
て三度身を伸して其子の上に伏しヱホバに呼はりて言ふ
わが神ヱホバ願くは此子の 魂 を中に歸しめたまへと 22
ヱホバ、エリヤの聲を聽いれたまひしかば其子の 魂 中
にかへりて生たり 23エリヤ乃ち其子を取て之を桜より家
に携くだり其母に與していひけるは視よ爾の子は生くと
24婦エリヤにいひけるは此に縁て我は爾が神の人にして
爾 の口にあるヱホバの言は眞實なるを知ると

第十八章

1衆多の日を經たるのち第三年にヱホバの言エリヤに臨
みて曰く往て爾の身をアハブに示せ我雨を地の面に降さ
んと 2エリヤ其身をアハブに示さんとて往り時に饑饉サ
マリアに 甚 しかりき 3茲にアハブ家 宰なるオバデヤを召
たり 4(オバデヤは大にヱホバを畏みたる者にてイゼベル
がヱホバの預言者を絶たる時にオバデヤ百 人の預言者を
取て之を五十人づつ洞穴に匿しパンと水をもて之を養へ
り) 5アハブ、オバデヤにいひけるは國中の水の諸の 源 と
諸 の川に往け馬と騾を生活むる草を得ることあらん然ば
我僨牲畜を 盡 くは失なふに至らじと 6彼等巡るべき地を
二人に分ちアハブは獨にて此途に往きオバデヤは獨にて
彼途に往けり 7オバデヤ途にありし時觀よエリヤ彼に遭
り彼エリヤを識て伏て言けるは我主エリヤ汝は此に居た
まふや 8エリヤ彼に言けるは然り往て汝の主にエリヤは
此にありと告よ 9彼言けるは我何の罪を犯したれば汝 僕
をアハブの手に付して我を殺さしめんとする 10汝の神ヱ
ホバは生くわが主の人を遣はして汝を尋ねざる民はなく
國はなし若しエリヤは在ずといふ時は其國其民をして 汝
を見ずといふ誓を爲しめたり 11汝 今言ふ往て汝の主にエ
リヤは此にありと告よと 12然ど我 汝をはなれて往ときヱ
ホバの靈 我しらざる處に汝を携へゆかん我至りてアハブ
に告て彼 汝を尋 獲ざる時は彼我を殺さん然ながら僕は
わが幼 少よりヱホバを畏むなり 13イゼベルがヱホバの
預言者を殺したる時に吾なしたる事 即ち我がヱホバの
預言者の中 百 人を五十人づつ洞穴に匿してパンと水を
以て之を養ひし事は吾主に聞えざりしや 14しかるに今
汝 言ふ往て汝の主にエリヤは此にありと告よと然らば
彼我を殺すならん 15エリヤいひけるは我が事ふる萬軍の
ヱホバは活く我は必ず今日わが身を彼に示すべしと 16オ
バデヤ乃ち往てアハブに會ひ之に告ければアハブはエリ
ヤに會んとて往きけるが 17アハブ、エリヤを見し時アハ
ブ、エリヤに言けるは汝イスラエルを惱ます者此にをる
か 18彼答へけるは我はイスラエルを惱さず但 汝と汝の父
の家之を惱すなり即ち汝等はヱホバの命令を棄て且 汝は
バアルに從ひたり 19されば人を遣てイスラエルの諸の人
およびバアルの預言者四百五十人 並にアシラ像の預言者
四百 人イゼベルの席に食ふ者をカルメル山に集めて我に
詣 しめよと 20是においてアハブ、イスラエルの都の子孫
の中に人を遣り預言者をカルメル山に集めたり 21時にエ
リヤ總の民に近づきて言けるは汝等何時まで二の物の 間
にまよふやヱホバ若し神ならば之に從へされどバアル若
し神ならば之に從へと民は一言も彼に答ざりき 22エリヤ
民に言けるは惟我一人存りてヱホバの預言者たり然どバ
アルの預言者は四百五十人あり 23然ば二の犢を我儕に與
へよ彼等は其 一の犢を選みて之を截り剖き薪の上に載せ
て火を縦たずに置べし我も其 一の犢を調理へ薪の上に載
せて火を縦ずに置べし 24斯して汝等は汝等の神の名を顧

べ我はヱホバの名を顱ん而して火をもて應る神を神と爲べしと民皆答て斯言は善と言り 25エリヤ、バアルの預言者に言けるは汝等は多ければ一の犢を選みて最初に調理へ汝等の神の名を呼ぶべし但し火を縦なかれと 26彼等乃ち其與られたる犢を取て調理へ朝より午にいたるまでバアルの名を顱てバアルよ我儕に應へたまへと言り然ど何の聲もなく又何の應る者もなかりければ彼等は其造りたる壇のまはりに踊れり 27日中におよびてエリヤ彼等を嘲りていひけるは大聲をあげて呼べ彼は神なればなり彼は默想をるか他處に行しか又は旅にあるか或は假寐て醒さるべきかと 28是において彼等は大聲に呼はり其例に循ひて刀劍と槍を以て其身を傷つけ血を其身に流すに至れり 29斯して午時すぐるに至りしが彼等なほ預言を言ひて晩の祭物を献ぐる時にまで及べり然ども何の聲もなく又何の應ふる者も无く又何の顧る者もなかりき 30時にエリヤ都の民にむかひて我に近よれと言ければ民皆彼に近よれり彼乃ち破壊たるヱホバの壇を修理へり 31エリヤ、ヤコブの子等の支派の數に循ひて十二の石を取れり(ヱホバの言昔ヤコブに臨みてイスラエルを汝の名とすべしと言り) 32彼其石にてヱホバの名を以て壇を築き壇の周圍に種子二セヤを容べき溝を作れり 33又薪を陳列べ犢を截剖て薪の上に載せて言けるは四の桶に水を滿て燔祭と薪の上に沃げ 34又いひけるは再び之を爲せと再びこれをなせしかば又言ふ三次これを爲せと三次これをなせり 35水に壇の周廻に流るまた溝にも水をみたしたり 36晩の祭物を献ぐる時に及て預言者エリヤ近よりて言けるはアブラハム、イサク、イスラエルの神ヱホバよ汝のイスラエルにおいて神なることおよび我が汝の僕にして汝の言に循ひて是等の諸の事を爲せることを今日知しめたまへ 37ヱホバよ我に應へたまへ我に應へたまへ此民をして汝ヱホバは神なることおよび汝は彼等の心を翻へしたまふといふことを知しめたまへと 38時にヱホバの火降りて燔祭と薪と石と塵とを焚つくせり亦溝の水を餡涸せり 39民皆見て伏ていひけるはヱホバは神なりヱホバは神なり 40エリヤ彼等に言けるはバアルの預言者を執へよ其一人をも逃遁しむる勿れと即ち之を執へたればエリヤ之をキシヨン川に曳下りて彼處に之を殺せり 41斯てエリヤ、アハブにいひけるは大雨の聲あれば汝上りて食飲すべしと 42アハブ乃ち食飲せんとて上れり然どエリヤはカルメルの嶺に登り地に伏て其面を膝の間に容ゐたりしが 43其少者にいひけるは請ふ上りて海の方を望めと彼上り望みて何もなしといひければ再び往けといひて遂に七次に及べり 44第七次に及びて彼いひけるは視よ海より人の手のごとく微の雲起るとエリヤいふ上りてアハブに雨に阻められざるやう車を備へて下りたまへと言ふべしと 45驟に雲と風おこり霄漢黒くなりて大雨ありきアハブはヱズレルに乗り往り 46ヱホバの能力エリヤに臨みて彼其腰を束帶びヱズレルの入口までアハブの前に趨りゆけり

第十九章

1アハブ、イゼベルにエリヤの凡て爲たる事及び其如何に諸の預言者を刀劍にて殺したるかを告しかば 2イゼベル使をエリヤに遣はして言けるは神等斯なし復重て斯なしたまへ我必ず明日の今時分汝の命を彼人々の一人の生命のごとくせんと 3かれ恐れて起ち其生命のために逃げ往てユダに屬するベエルシバに至り少者を其處に遺して 4自ら一日程ほど曠野に入り往て金雀花の下に坐し其身の死んことを求めていふヱホバよ足り今わが生命を取たまへ我はわが父祖よりも善にはあらざるなりと 5彼金雀花の下に伏して寝りしが天の使彼に捫り興て食へと言ければ 6彼見しに其頭の側に炭に焼きたるパンと一瓶の水ありき乃ち食ひ飲て復偃臥たり 7ヱホバの使者復再び來りて彼に捫りていひけるは興て食へ其は途長くして汝勝べからざればなりと 8彼興て食ひ且飲み其食の力に仗て四十日四十夜行て神の山ホレブに至る 9彼處にて彼洞穴に入りて其處に宿りしが主の言彼に臨みて彼に言けるはエリヤよ汝此にて何を爲や 10彼いふ我は萬軍の神ヱホバのために甚だ熱心なり其はイスラエルの子孫汝の契約を棄て汝の壇を毀ち刀劍を以て汝の預言者を殺したればなり惟我一人存るに彼等我生命を取んことを求むと 11ヱホバ言たまひけるは出てヱホバの前に山の上に立てと茲にヱホバ過ゆきたまふにヱホバのまへに當りて大なる強き風山を裂き岩石を碎しが風の中にはヱホバ在さざりき風の後に地震ありしが地震の中にはヱホバ在さざりき 12又地震の後に火ありしが火の中にはヱホバ在さざりき火の後に靜なる細微き聲ありき 13エリヤ聞て面を外套に蒙み出て洞穴の口に立ちけるに聲ありて彼に臨みエリヤよ汝此にて何をなすやといふ 14かれいふ我は萬軍の神ヱホバの爲に甚だ熱心なり其はイスラエルの子孫汝の契約を棄て汝の壇を毀ち刀劍を以て汝の預言者を殺した

ればなり惟我一人存れるに彼等我が生命を取んことを求むと 15ヱホバかれに言たまひけるは往て汝の途に返りダマスコの曠野に至り往てハザエルに膏を沃ぎてスリアの王となせ 16又汝ニムシの子エヒウに膏を注ぎてイスラエルの王となすべし又アベルメホラのシヤパテの子エリシヤに膏をそそぎ爾に代りて預言者とならしむべし 17ハザエルの刀劍を逃るる者をばエヒウ殺さんエヒウの刀劍を逃るる者をばエリシヤ殺さん 18又我イスラエルの中に七千人を遺さん皆其膝をバアルに跼めず其口を之に接ざる者なりと 19エリヤ彼處よりゆきてシヤパテの子エリシヤに遭ふ彼は十二軛の牛を其前に行しめて己は其第十二の牛と偕にありて耕し居たりエリヤ彼の所にわたりゆきて外套を其上にかけたれば 20牛を棄てエリヤの後に趨ゆきて言けるは請ふ我をしてわが父母に接吻せしめよしかるのち我 爾にしたがはんとエリヤかれに言けるは行け還れ我 爾に何をなしたるやと 21エリシヤ彼をはなれて還り一軛 の牛をとりて之をころし牛の器具を焚て其肉を煮て民にあたへて食はしめ起て往きエリヤに從ひて之に事へたり

第二十章

1スリアの王ベネハダデ其軍勢を悉く集む王三十二人彼と偕にあり又馬と戰 車とあり乃ち上りてサマリアを圍み之を攻む 2彼 使をイスラエルの王アハブに遣し邑に至りて彼に言しめけるはベネハダデ斯言ふ 3爾の金銀は我の所有なり亦 爾の妻等と爾の子等の美秀者は我の所有なり 4イスラエルの王答へて言けるは王わが主よ爾の言の如く我と我が有つ者は皆 爾の所有なり 5使者 再び來りて言けるはベネハダデ斯 語て言ふ我 爾に爾 我に爾の金銀妻子を付すべしと言遣れり 6然ど明日今頃我が僕を爾に遣 さん彼等 爾の家と爾の臣僕の家を探索りて凡て爾の日に好ましく見ゆる者を其手に置て取り去るべしと 7是においてイスラエルの王國の長老を皆召て言けるは請ふ爾等見て此人の害をなさんと求るを知れ彼人を我に遣りて我が妻子とわが金銀を索めたり而るに我之を謝絶ざりしと 8諸の長老および民皆彼に言けるは爾 聽なかれ許すなかれと 9是故に彼ベネハダデの使者に言けるは王わが主に告よ爾が最初に僕に言つかはしたる事は皆我爲べし然ど比事は我爲あたはずと使者往て反 命をなせり 10ベネハダデ彼に言つかはしけるは神等我に斯なし亦 重て斯なしたまへサマリアの塵は我に從ふ諸の民の手に滿るに足ざるべしと 11イスラエルの王答へて帶る者は解く者の如く誇るべからずと告よと言り 12ベネハダデ天幕にありて王等と飮ゐたりしが此事を聞て其臣僕に言けるは爾等陣列を爲せと即ち邑に向ひて陣列をなせり 13時に一人の預言者イスラエルの王アハブの許に至りて言けるはヱホバ斯言たまふ爾 此 諸の大軍を見るや視よ我今日之を 爾の手に付さん爾は我がヱホバなるを知にいたらんと 14アハブ言けるは誰を以てせんか彼いひけるはヱホバ斯いひたまふ諸省の牧伯の少者を以てすべしアハブ言ふ誰か戰爭を始むべき彼 答けるは爾なりと 15アハブ乃ち諸省の牧伯の少者を核るに二百三十二人あり次に凡の民 即ちイスラエルの凡の子孫を核るに七千人あり 16彼等日中出たちたりしがベネハダデは天幕にて王等 即ち己を助る三十二人の王等とともに飮て酔居たり 17諸省の牧伯の少者等先に出たりベネハダデ人を出すにサマリアより人衆出來ると彼に告ければ 18彼言けるは和睦のために出來るも之を生擒べし又戰爭のために出來るも之を生擒べしと 19諸省の牧伯の是等の少者および之に從ふ軍勢邑より出きたり 20各 其敵手を擊ち殺しければスリア人逃たりイスラエル之を追ふスリアの王ベネハダデは馬に乘り騎兵を從へて逃遁たり 21イスラエルの王出て馬と戰 車を擊ち又大にスリア人を擊殺せり 22茲に彼預言者イスラエルの王の許に詣て彼に言けるは往て爾の力を養ひ爾の爲すべき事を知り辨ふべし年歸らばスリアの王 爾に攻上るべければなりと 23スリアの王の臣僕王に言けるは彼等の神等は山崗の神なるが故に彼等は我等よりも強かりしなり然ども我等若平地に於て彼等と戰はば必ず彼等よりも強かるべし 24但し此事を爲せ即ち王等を除きて 各 其 處を 離しめ方伯を置て之に代べし 25又 爾の失ひたる軍勢に均き軍勢を爾のために備へ馬は馬 戰 車は戰 車をもて補ふべし斯して我儕平地において彼等と戰はば必ず彼等よりも強かるべしと彼其 言を聽いれて然なせり 26年かへるに及びてベネハダデ、スリア人を核めてアペクに上りイスラエルと戰はんとす 27イスラエルの子孫核められ兵 糧を受て彼等に出會んとて往けりイスラエルの子孫は山羊の 二の小群の如く彼等の前に陣どりしがスリア人は其地に充滿たり 28時に神の人至りてイスラエルの王に告ていひけるはヱホバ斯言たまふスリア人ヱホバは山嶽の神にして谿谷の神にあらずと言ふによりて我此 諸の大軍を爾の

手に付すべし爾等は我がヱホバなるを知に至らんと 29
彼等七日 互に相對て陣どり第七日におよびて戰爭を
交接しがイスラエルの子孫一日にスリア人の歩兵十萬人
を殺しければ 30其餘の者はアベクに逃て邑に入ぬ然るに
其石垣崩れて其存れる二萬七千人の上にたふれたりベネ
ハダデは逃て邑にいたり奥の間に入ぬ 31其臣僕彼にいひ
けるは我儕イスラエルの家の王等は仁慈ある王なりと聞
り請ふ我儕粗麻布を腰につけ繩を頭につけてイスラエル
の王の所にいたらん彼 爾の命を生むることあらんと 32斯
彼等粗麻布を腰にまき繩を頭にまきてイスラエルの王の
所にいたりていひけるは爾の僕ベネハダデ請ふ我が生命
を生しめたまへと言ふとアハブいひけるは彼は尚生をる
や彼はわが兄弟なりと 33其人々これを吉兆と爲し速に
彼の言を承て爾の兄弟ベネハダデといへり彼言けるは
爾等ゆきて彼を導ききたるべしと是においてベネハダデ
彼の所に出來りしかば彼之を車に登しめたり 34ベネハダ
デ彼に言けるは我父の爾の父より取たる諸邑は我返すべ
し又我が父のサマリアに造りたる如く爾ダマスコに於て
爾 のために街衢を作るべしアハブ言ふ我此契約を以て
爾 を歸さんと斯彼と契約を爲て彼を歸せり 35爰に預言者
の 徒 の一人ヱホバの言によりて其同儕に請我を擊てと
いひけるが其人彼を擊つことを肯ぜざりしかば 36彼其人
に言ふ汝ヱホバの言を聽ざりしによりて視よ汝の我をは
なれて往く時獅子 汝をころさんと其人彼の側を離れて往
きけるに獅子之に遇て之を殺せり 37彼また他の人に遭て
請ふ我を擊といひければ其人之を擊ち擊て傷けたり 38
預言者往て王を途に待ち其目に掩巾をあてて儀容を變ゐ
たりしが 39王の經過る時王に呼はりていひけるは僕 戰爭
の中に出しに人 轉りて一箇の人を我の所に曳きたりて言
けるは此人を守れ若彼失ゆく事あらば汝の生命を彼の
生命に代べし或は爾 銀一タラントを出すべしと 40而るに
僕 此 彼に事をなしゐたれば彼遂に失たりとイスラエル
の王彼にいひけるは爾の擬定は然なるべし爾 之を決めた
り 41彼急ぎて其目の掩巾を取除たればイスラエルの王彼
が預言者の一人なるを識り 42彼王に言けるはヱホバ斯言
たまふ爾はわが殲滅んと定めたる人を爾の手より放ちた
れば爾の命は彼の生命に代り爾の民は彼の民に代るべし
と 43イスラエルの王憂へ且 怒て其家に赴きサマリアに至
れり

第二十一章

1是等の事の後ヱズレル人ナボテ、ヱズレルに葡萄園を有
ちゐたりしがサマリアの王アハブの殿の側に在りければ
2アハブ、ナボテに語て言けるは爾の葡萄園は近くわが家
の側にあれば我に與へて蔬采の圃となさしめよ我之がた
めに其よりも美き葡萄園を爾に與へん若し爾の心にかな
はば其 價を銀にて爾に予へんと 3ナボテ、アハブに言け
るはわが父祖の産業を爾に與ふる事は決て爲べからずヱ
ホバ禁じたまふと 4アハブはヱズレル人ナボテの己に言
し言のために憂ひ且怒りて其家に入ぬ其は彼わが父祖の
産業を爾に與へじと言たればなりアハブ床に臥し其面を
轉けて食をなさざりき 5其妻イゼベル彼の處にいりて彼
に言けるは爾の心 何を憂へて爾 食を爲ざるや 6彼之に言
けるは我ヱズレル人ナボテに語りて爾の葡萄園を銀に易
て我に與へよ若また爾 好ば我其に易て葡萄園を爾に與
へんと彼に言たるに彼答へて我が葡萄園を爾に與へじと
言たればなりと 7其妻イゼベル彼に言けるは爾 今イステ
エルの國を治むることを爲すや興て食を爲し爾の心を 樂
ましめよ我ヱズレル人ナボテの葡萄園を爾に與へんと 8
彼アハブの名をもて書を書き彼の印を捺し其邑にナボテ
とともに住る長老と貴き人に其書をおくれり 9彼其書に
しるして曰ふ斷食を宣傳てナボテを民の中に高く坐せし
めよ 10又 邪なる人二人を彼のまへに坐せしめ彼に對ひ
て證を爲して爾 神と王を詛ひたりと言しめよ斯して彼を
曳出し石にて擊て死しめよと 11其邑の人 即ち其邑に住る
長老および貴き人等イゼベルが己に言つかはしたる如く
即ち彼が己に遣りたる書に書したる如く爲り 12彼等斷食
を宣達てナボテを民の中に高く坐せしめたり 13時に二人
の 邪なる人入來りて其前に坐し其 邪なる人民のまへに
てナボテに對て證をなして言ふナボテ神と王を詛ひたり
と人衆彼を邑の外に曳出し石にて之を擊て死しめたり 14
斯てイゼベルにナボテ擊れて死たりと言遣れり 15イゼベ
ル、ナボタの擊れて死たるを聞しかばイゼベル、アハブ
に言けるは起て彼ヱズレル人ナボテが銀に易て爾に與る
ことを拒みし葡萄園を取べし其はナボテは生をらず死た
ればなりと 16アハブ、ナボテの死たるを聞しかばアハブ
起ちヱズレル人ナボテの葡萄園を取んとて之に下れり 17
時にヱホバの言テシベ人エリヤに臨みて曰ふ 18起て下り
サマリアにあるイスラエルの王アハブに會ふべし彼はナ
ボテの葡萄園を取んとて彼處に下りをるなり 19爾 彼に告

て言べしエホバ斯言ふ爾は殺し亦取たるやと又爾彼に
告て言ふべしエホバ斯言ふ犬ナボテの血を銛し處にて犬
爾の身の血を銛べしと 20アハブ、エリヤに言けるは我敵
よ爾我に遇や彼言ふ我遇ふ爾エホバの目の前に惡を爲す
事に身を委しに縁り 21我災害を爾に降し爾の後裔を除き
アハブに屬する男はイスラエルにありて繋がれたる者も
繋がれざる者も悉く絶ん 22又爾の家をネバテの子ヤラ
ベアムの家の如くなしアヒヤの子バアシヤの家のごとく
なすべし是は爾我の怒を惹起しイスラエルをして罪を犯
させたるに因てなり 23イゼベルに關てエホバ亦語て言給
ふ犬エズレルの濠にてイゼベルを食はん 24アハブに屬す
る者の邑に死るをば犬之を食ひ野に死るをば天空の鳥之
を食はんと 25誠にアハブの如くエホバの目の前に惡をな
す事に身をゆだねし者はあらざりき其妻イゼベル之を
慫慂たるなり 26彼はエホバがイスラエルの子孫のまへよ
り逐退けたまひしアモリ人の凡てなせし如く偶像に從ひ
て甚だ惡むべき事を爲り 27アハブ此等の言を聞ける時其
衣を裂き粗麻布を體にまとひ食を斷ち粗麻布に臥し遲々
に歩行り 28茲にエホバの言テシベ人エリヤに臨みて言ふ
29爾アハブの我前に卑下るを見るや彼わがまへに卑下る
に縁て我災害を彼の世に降さずして其子の世に災害を彼
の家に降すべし

第二十二章

1スリアとイスラエルの間に戰爭なくして三年を經たり 2
第三年にユダの王ヨシヤパテ、イスラエルの王の所に降
れり 3イスラエルの王其臣僕に言けるはギレアデのラモ
テは我儕の所有なるを爾等知や然るに我儕はスリアの王
の手より之を取ることをせずして默しをるなり 4彼ヨシ
ヤパテに言けるは爾我と共にギレアデのラモテに戰ひに
ゆくやヨシヤパテ、イスラエルの王にいひけるは我は爾
のごとくわが民は爾の民の如くわが馬は爾の馬の如しと
5ヨシヤパテ、イスラエルの王に言けるは請ふ今日エホ
バの言を問へ 6是においてイスラエルの王預言者四百人
許を集めて之に言けるは我ギレアデのラモテに戰ひにゆ
くべきや又は罷べきや彼等曰けるは上るべし主之を王の
手に付したまふべしと 7ヨシヤパテ曰けるは外に我儕の
由て問べきエホバの預言者此にあらざるや 8イスラエル
の王ヨシヤパテに言けるは外にイムラの子ミカヤ一人あ
り之に由てエホバに問ふことを得ん然ど彼は我に關て
善事を預言せず唯惡事のみを預言すれば我彼を惡むなり
とヨシヤパテ曰けるは王然言たまふなかれと 9是により
てイスラエルの王一箇の官吏を呼てイムラの子ミカヤを
急ぎ來らしめよと言り 10イスラエルの王およびユダの王
ヨシヤパテ朝衣を著てサマリアの門の入口の廣場に各
其位に坐しゐたり預言者は皆其前に預言せり 11ケナアナ
の子ゼデキヤ鐵の角を造りて言けるはエホバ斯言給ふ爾
是等を以てスリア人を抵觸て之を盡すべしと 12預言者皆
斯預言して言ふギレアデのラモテに上りて勝利を獲たま
へエホバ之を王の手に付したまふべしと 13茲にミカヤを
召んとて往たる使者之に語りて言けるは預言者等の言
一の口の如くにして王に善し請ふ汝の言を彼等の一人の
言の如くならしめて善事を言へと 14ミカヤ曰けるはエホ
バは生くエホバの我に言たまふ事は我之を言んと 15かく
て彼王に至るに王彼に言けるはミカヤよ我儕ギレアデの
ラモテに戰ひに往くべきや又は罷べきや彼王に言けるは
上りて勝利を得たまへエホバ之を王の手に付したまふべ
しと 16王彼に言けるは我幾度汝を誓はせたらば汝エホバ
の名を以て唯眞實のみを我に告るや 17彼言けるは我イス
ラエルの皆牧者なき羊のごとく山に散をるを見たるにエ
ホバ是等の者は主なし各安然に其家に歸るべしと言た
まへりと 18イスラエルの王ヨシヤパテに言けるは我汝に
彼は我について善き事を預言せず唯惡き事のみを預言す
と告たるにあらすやと 19ミカヤ言けるは然ば汝エホバの
言を聽べし我エホバの其位に坐しゐたまひて天の萬軍
の其傍に右左に立つを見たるに 20エホバ言たまひける
は誰かアハブを誘ひて彼をしてギレアデのラモテに上り
て斃れしめんかと則ち一は此の如くせんと言ひ一は彼の
如くせんといへり 21遂に一の靈進み出てエホバの前に立
ち我彼を誘はんと言ければ 22エホバ彼に何を以てするか
と言たまふに我出て虛言を言ふ靈となりて其諸の預言者
の口にあらんと言りエホバ言たまひけるは汝は誘ひ亦之
を成し遂ん出て然なすべしと 23故に視よエホバ虛言を言
ふ靈を爾の此諸の預言者の口に入たまへり又エホバ爾に
關て災禍あらんことを言たまへりと 24ケナアナの子ゼデ
キヤ近よりてミカヤの頰を批て言けるはエホバの靈何途
より我を離れゆきて爾に語ふや 25ミカヤいひけるは爾奥
の間に入て身を匿す日に見るにいたらん 26イスラエルの
王言けるはミカヤを取て之を邑の宰アモンと王の子ヨア
シに曳かへりて言ふべし 27王斯言ふ此を牢に置れて苦惱

のパンと苦悩の水を以て之を養ひ我が平安に來るを待てと 28ミカヤ言けるは爾若眞に平安に歸るならばヱホバ我によりて言たまはざりしならん又曰けるは爾等民よ皆聽べし 29かくてイスラエルの王とユダの王ヨシヤパテ、ギレアデのラモテに上れり 30イスラエルの王ヨシヤパテに言けるは我裝を改て戰陣の中に入らん然ど爾は王 衣を衣るべしとイスラエルの王裝を改て戰陣の中にいりぬ 31スリアの王其 戰 車の長三十二人に命じて言けるは爾等 小 者とも 大 者とも戰ふなかれ惟イスラエルの王とのみ戰へと 32戰 車の長 等ヨシヤパテを見て是 必ずイスラエルの王ならんと言ひ身をめぐらして之と戰はんとしければヨシヤパテ號呼れり 33戰 車の長 彼がイスラエルの王にあらざるを見しかば之を追ふことをやめて返れり 34茲に一個の人 偶 然 弓を挽てイスラエルの王の胸當と艸摺の間を射たりければ彼其御者に言けるは我傷を受たれば爾の手を旋して我を軍中より出すべしと 35是日戰爭 嚴くなりぬ王は車の中に扶持られて立ちスリア人に對ひをりしが晩景にいたりて死たり創の血 車の中に流る 36日の沒る頃軍中に呼はりて曰ふあり各 其邑に 各 其鄉に歸るべしと 37王死て携へられてサマリアに至りたれば衆人王をサマリアに葬れり 38又其 車をサマリアの池に濯ひけるに犬其血を舐たり又遊女其所に身をあらへりヱホバの言たまへる言の如し 39アハブの其餘の行爲と凡て其爲たる事と其建たる象牙の家と其建たる諸の邑はイスラエルの王の歷代志の書に記載るにあらずや 40アハブ其父祖と共に寢りて其子アハジア之にかはりて王となれり 41アサの子ヨシヤパテ、イスラエルの王アハブの第四年にユダの王となれり 42ヨシヤパテ王となりし時三十五歲なりしがエルサレムにおいて二十五年王たりき其母の名はアズバといひてシルヒの女なり 43ヨシヤパテ其父アサの諸の道に歩行み轉て之を離れずヱホバの目に適ふ事をなせり但し崇 邱は除かざりき民尚 崇 邱に犧牲を獻げ香を焚り 44ヨシヤパテ、イスラエルの王と和好を結べり 45ヨシヤパテの其餘の行爲と其なせる功績および如何に戰爭をなせしかはユダの王の歷代志の書に記載るにあらずや 46彼其父アサの世に尚ほありし彼の男 色を行ふ者の殘餘を國の中より逐はらへり 47當時エドムには王なくして代 官 王たりき 48ヨシヤパテ、タルシシの船を造りて金を取ためにオフルに往しめんとしたりしが其船エジオンゲベルに壞れたれば遂に往に至らざりき 49是においてアハブの子アハジア、ヨシヤパテに言けるはわが僕をして爾の僕と偕に船にて往しめよと然どヨシヤパテ聽ざりき 50ヨシヤパテ其父祖とともに寢りて其父ダビデの城邑に其父祖と共に葬らる其子ヨラム之に代て王となれり 51アハブの子アハジア、ユダの王ヨシヤパテの第十七年にサマリアにてイスラエルの王となり二年イスラエルを治めたり 52彼はヱホバの目のまへに惡をなし其父の道と其母の道および彼のイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの道に歩行み 53バアルに事へて之を拜みイスラエルの神ヱホバの怒を激せり其父の凡て行へるがごとし

列王紀略下

第一章

1アハブの死しのちモアブ、イスラエルにそむけり 2アハジヤ、サマリヤにあるその 樓 の欄杆よりおちて病をおこせしかば使を遣さんとして之にいひけるは往てエクロンの神バアルゼブブにわがこの病の愈るや否を問べしと 3時にヱホバの使テシベ人エリヤにいひけるは起てサマリヤ王の使にあひて之に言べし汝等がエクロンの神バアルゼブブに問んとてゆくはイスラエルに神なきがゆゑなるか 4是によりてヱホバかくいふ汝はその登りし牀より下ることなかるべし汝かならず死んとエリヤ乃ち往り 5使者たちアハジアに返りければアハジア彼等に何故に返りしやといふに 6かれら之にいひけるは一箇の人上りきたりて我らに會ひわれらにいひけるは往てなんぢらを遣はせし王の所にかへり之にいふべしヱホバ斯いひたまふなんぢエクロンの神バアルゼブブに問んとて人を遣すはイスラエルに神なきがゆゑなるか然ば汝その登りし牀より下ることなかるべし汝かならず死んと 7アハジア彼等にいひけるはそののぼりきたりて汝等に會ひ此等の言を汝らに告たる人の形狀は如何なりしや 8かれら對へていひけるはそれは毛深き人にして腰に革の帶をむすび居た

り彼いひけるはその人はテシベ人エリヤなりと 9是に於て王五十人の長とその五十人をエリヤの所に遣はせり彼エリヤの所に上りゆくに視よエリヤは山の嶺に坐し居たりかれエリヤにいひけるは神の人よ王いひたまふ下るべし 10エリヤこたへて五十人の長にいひけるはわれもし神の人たらば火天より降りて汝と汝の五十人とを燒盡すべしと火すなはち天より降りて彼とその五十人とを燒盡せり 11アハジアまた他の五十人の長とその五十人をエリヤに遣せりかれ上りてエリヤにいひけるは神の人よ王かく言たまふ速かに下るべし 12エリヤ答て彼にいひけるはわれもし神の人たらば火天より降りて爾となんぢの五十人を燒盡すべしと神の火すなはち天より降りてかれとその五十人を燒盡せり 13かれまた第三の五十人の長とその五十人を遣せり第三の五十人の長のぼりいたりてエリヤのまへに跪きこれに願ひていひけるは神の人よ願くはわが生命となんぢの僕なるこの五十人の生命をなんぢの目に貴重き者と見なしたまへ 14視よ火天より降りて前の五十人の長二人とその五十人を燒盡せり然どわが生命をば汝の目に貴重き者となしたまへ 15時にヱホバの使エリヤに云けるはかれとともに下れかれをおそるることなかれとエリヤすなはち起てかれとともに下り王の許に至り 16之にいひけるはヱホバかくいひたまふ汝エクロンの神バアルゼブブに問んとて使者を遣るはイスラエルにその言を問ふべき神なきがゆゑなるか是によりて汝はその登し牀より下ることなかるべし汝かならず死んと 17彼エリヤの言たるヱホバの言の如く死けるが彼に子なかりしかばヨラムこれに代りて王となれり是はユダの王ヨシヤパテの子ヨラムの二年にあたる 18アハジヤのなしたる其餘の事業はイスラエルの王の歷代志の書に記載さるるにあらずや

第二章

1ヱホバ大風をもてエリヤを天に昇らしめんとしたまふ時エリヤはエリシヤとともにギルガルより出往り 2エリヤ、エリシヤにいひけるは請ふここに止まれヱホバわれをベテルに遣はしたまふなりとエリシヤいひけるはヱホバは活く汝の靈魂は活く我なんぢをはなれじと彼等つひにベテルに下れり 3ベテルに在る預言者の徒エリシヤの許に出きたりて之にいひけるはヱホバの今日なんぢの主をなんぢの首の上よりとらんとしたまふを汝知やかれいふ然りわれ知り汝等默すべし 4エリヤかれにいひけるはエリシヤよ請ふ汝ここに止れヱホバわれをヱリコに遣したまふなりとエリシヤいふヱホバは活くなんぢの靈魂は活く我なんぢを離じとかれらヱリコにいたる 5ヱリコに在る預言者の徒エリシヤに詣りて彼にいひけるはヱホバの今日なんぢの主をなんぢの首の上よりとらんとしたまふを汝知るやエリシヤ言ふ然り知り汝ら默すべしと 6エリヤまたかれにいひけるは請ふここに止れヱホバわれをヨルダンにつかはしたまふなりとかれいふヱホバは活くなんぢの靈魂は活くわれ汝をはなれじと二人進ゆくに 7預言者の徒五十人ゆきて遥に立て望めり彼ら二人はヨルダンの濱に立けるが 8エリヤその外套をとりて之を巻き水をうちけるに此旁と彼旁にわかれたれば二人は乾ける土の上をわたれり 9渉りける時エリヤ、エリシヤにいひけるは我が取れてなんぢを離るる前に汝わが汝になすべきことを求めよエリシヤいひけるはなんぢの靈の二の分の我にをらんことを願ふ 10エリヤいひけるは汝難き事を求む汝もしわが取れてなんぢを離るるを見ばこの事なんぢにならんしからずば此事なんぢにならじ 11彼ら進みながら語れる時火の車と火の馬あらはれて二人を隔てたりエリヤは大風にのりて天に昇れり 12エリシヤ見てわが父わが父イスラエルの兵車よその騎兵よと叫びしが／再びかれを見ざりき是においてエリシヤその衣をとらへて之を二片に裂き 13エリヤの身よりおちたるその外套をとりあげ返りてヨルダンの岸に立ち 14エリヤの身よりおちたる外套をとりて水をうちエリヤの神ヱホバはいづくにいますやと言ひ而して己も水をうちけるに水此旁と彼旁に分れたればエリシヤすなはち渡れり 15ヱリコにある預言者の徒對岸にありて彼を見て言けるはエリヤの靈エリシヤの上にとどまるとかれら來りてかれを迎へその前に地に伏て 16かれにいひけるは僕等に勇力者五十人あり請ふかれらをして往てなんぢの主を尋ねしめよ恐くはヱホバの靈かれを曳あげてこれを或山か或谷に放ちしならんとエリシヤ遣すなかれと言けれども 17かれら彼の愧るまでに強ければすなはち遣せといへり是に於てかれら五十人の者を遣しけるが三日の間たづねたれども彼を 18看いださざりしかば エリシヤの尚ヱリコに止れる時かれら返りてかれの許にいたりしにエリシヤかれらに言けるはわれ往ことなかれと汝らにいひしにあらずやと 19邑の人々エリシヤにいひけるは視よ吾主の見たまふごとく

此邑の建る處は善しされど水あしくしてこの地流産をおこす 20かれ言けるは新しき皿に鹽を盛て我に持ち來れよと乃ちもちきたりければ 21彼いでて水の源に至り鹽を其處になげ入ていひけるはヱホバかくいひたまふわれこの水を愈す此處よりして重て死あるひは流産おこらじと 22其水すなはちエリシヤのいひし如くに愈て今日にいたる 23かれそこよりベテルに上りしが上りて途にありけるとき小童等邑よりいでて彼を嘲り彼にむかひて禿首よのぼれ禿首よのぼれといひければ 24かれ回轉りてかれらをみヱホバの名をもてかれらを呪詛ひければ林の中より二頭の牝熊出てその兒子輩の中四十二人をさきたり 25かれ彼處よりカルメル山にゆき其處よりサマリヤにかへれり

第三章

1ユダの王ヨシヤパテの十八年にアハブの子ヨラム、サマリヤにありてイスラエルを治め十二年位にありき 2かれはヱホバの目のまへに惡をなせしかどもその父母の如くはあらざりきそは彼その父の造りしバアルの像を除きたればなり 3されど彼はかのイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの罪を行ひつづけて之をはなれざりき 4モアブの王メシヤは羊を有つ者にして十萬の羔と十萬の牡羊の毛とをイスラエルの王に納めをりしが 5アハブの死しのちモアブの王はイスラエルの王にそむけり 6是に於てヨラム王其時サマリヤを出てイスラエル人をことごとく集め 7また往て人をユダの王ヨシヤパテに遣していはしむモアブの王われに背けり汝われとともにモアブに攻ゆくやと彼いひけるは我上らん我は汝の如くわが民はなんぢの民のごとくまたわが馬は汝の馬の如しと 8ヨラムいひけるは我儕いづれの路より上らんかかれいふエドムの曠野の途よりせんと 9イスラエルの王すなはちユダの王およびエドムの王と共に出ゆきけるが行めぐること七日路にして軍勢とこれにしたがふ家畜の飲むべき水なかりしかば 10イスラエルの王いひけるは嗚呼ヱホバこの三人の王をモアブの手にわたさんと召し集めたまへりと 11ヨシヤバテいひけるは我儕が由てヱホバに問ふべきヱホバの預言者此にあらざるやとイスラエルの王の臣僕の一人答へていふエリヤの手に水をそそぎたるシヤパテの子エリシヤ此にあり 12ヨシヤパテいひけるはヱホバの言彼にありとかくてイスラエルの王およびヨシヤパテとエドムの王かれの許に下りゆきけるに 13エリシヤ、イスラエルの王に言けるはわれ汝と何の干與あらんや汝の父の預言者と汝の母の預言者の所にゆくべしとイスラエルの王かれにいひけるは然ずそはヱホバこの三人の王をモアブの手に付さんとて召集めたまへばなり 14エリシヤ言けるはわが事ふる萬軍のヱホバは活く我ユダの王ヨシヤパテのためにするにあらすばかならず汝を顧みず汝を見ざらんものを 15今樂人をわれにつれ來れと而して樂人の樂をなすにおよびてヱホバの手かれに臨みて 16彼いひけるはヱホバかくいひたまふ此谷に許多の溝を設けよ 17それヱホバかく言ひたまふ汝ら風を見ず雨をも見ざるに此谷に水盈て汝等と汝等の家畜および汝らの獸飲ことを得ん 18然るも是はヱホバの目には瑣細き事なりヱホバ、モアブ人をも汝らの手にわたしたまはん 19汝等は保障ある諸の邑と諸の美しき邑とを撃ち諸の佳樹を斫倒し諸の水の井を塞ぎ石をもて諸の善地を壞ふにいたらん 20かくて朝におよびて供物を献ぐる時に水エドムの途より流れきたりて水國に充つ 21偖またモアブ人はみな王等の己に攻のぼれるを聞しかば甲を著ることを得る以上の者を盡く集めてその境に備へしが 22朝はやく興いでしに水の上に日昇りゐて對面の水血の如くに赤かりければモアブ人これを見て 23いひけるはこれ乃はち血なり王たち戰ひて死たるならん互に相撃たるなるべし然ばモアブよ掠取に行けと 24而してモアブ人イスラエルの陣營に至るにイスラエル人起てこれを撃たればすなはちその前より逃はしれり是においてイスラエル人進みてモアブ人を撃てその國にいり 25その邑々を撃圮し各石を諸の善地に投てこれに填し水の井をことごとく塞ぎ佳樹をことごとく斫たふし唯キルハラセテにその石をのこせしのみなるに至る但し石を投るもの周りあるきてこれを撃り 26モアブ王戰鬪の手いたくして當りがたきを見て劍を抜く者七百人をひきゐてエドム王の所にまで衝きいたらんとせしが遂に果さざりしかば 27己の位を継べきその長子をとりてこれを石垣の上にささげて燔祭となしたり是に於てイスラエルに大なる憤怒おこりぬ彼等すなはちかれをすててその國に歸れり

第四章

1預言者の徒の妻の中なる一人の婦人エリシヤに呼はりていひけるは汝の僕なるわが夫死りなんぢの僕のヱホバ

を畏れしことはなんぢの知るところなり今債主きたりてわが二人の子をとりて奴僕となさんとすと 2エリシヤ之にいひけるはわれなんぢの爲に何をなすべきや汝の家に如何なる物あるかわれに告よ彼いひけるは僅少の油のほかは汝の婢の家に有ものなし 3彼いひけるは往て外より鄰の人々より器を借よ空たる器を借るべし少 許を借るなかれ 4而してなんぢ入て汝の子等とともに戸の内に閉こもりそのすべての器に油をつぎてその盈るところの者をとりのけおくべし 5婦人すなはち彼を離れて去りその子等とともに戸の内に閉こもり子等のもちきたる器に 油をつぎたりしが 6器のみな盈たるときその子にむかひ尚われに器をもちきたれといひけるに器はもはやあらずといひたればその油すなはち止る 7是においてその婦 神の人にいたりてかくと告ければかれいふ往て油をうりてその負債をつくのひその餘分をもて汝と汝の子等生計をなすべしと 8一日エリシヤ、シユネムにゆきしに其所に一人の大なる婦人ありてしきりにこれに食をすすめたれば彼かしこを過る毎にそこに入て食をなせり 9茲にその婦人 夫にいひけるは視よ此つねにわれらを過る人は我これを見るに神の聖き人なり 10請ふ小き室を石垣の上につくりそこに臥床と案と榻と燭 臺をかれのために備へんかれわれらに至る時はそこに入るべしと 11かくてのちある日エリシヤそこに至りその室に入てそこに臥たりしが 12その僕ゲハジにむかひ彼のシユナミ人を召きたれといへり彼かの婦人を召たればその前にきたりて立つに 13エリシヤ、ゲハジにいひけるは彼にかく言へ汝かく懇 に我らのために意を用ふ汝のために何をなすべきや王または軍勢の長に汝のことを告られんことを望むかと彼答へてわれはわが民の中にをるなりといふ 14エリシヤいひけるは然ばかれのために何をなすべきやゲハジ答へけるは誠にかれは子なくその夫は老たりと 15是においてエリシヤかれを召といひければこれを呼に來りて戸口に立たれば 16エリシヤいふ明る年の今頃 汝 子を抱くあらん彼いひけるはいなわが主神の人よなんぢの婢をあざむきたまふなかれと 17かくて婦つひに孕て明る年にいたりてエリシヤのいへるその頃に子を生り 18その子育ちてある日刈獲人の所にいでゆきてその父にいたりしが 19父にわが首わが首 といひたれば父少者に彼を母のもとに負ゆけと言り 20すなはちこれを負て母にいたりしに午まで母の膝に坐り居て遂に死たれば 21母のぼりゆきてこれを神の人の臥床の上に置きこれをとぢこめて出で 22その夫をよびていひけるは請ふ一人の僕と一頭の驢馬を我につかはせ我神の人の許にはせゆきて歸らんと 23夫いふ何故に汝は今日かれにいたらんとするや今日は朔日にもあらず安息日にもあらざるなり彼いひけるは宜しと 24婦すなはち驢馬に鞍おきてその僕にいひけるは驅て進め吾が命ずることなくば我が騎すすむることに緩漫あらしめざれと 25つひにカルメル山にゆきて神の人にいたるに／神の人 遥にかれの來るを見て僕ゲハジにいひけるは視よかしこにかのシユナミ人をる 26請ふ汝はしりゆきて彼をむかへて言へなんぢは平安なるやなんぢの夫はやすらかなるやなんぢの子はやすらかなるやと彼こたへて平安なりといひ 27遂に山にきたりて神の人にいたりその足を抱きたればゲハジこれを逐ひはらはんとて近よりしに神の人いひけるは容しおけ彼は心の中に 苦 あるなりまたヱホバその事を我にかくしていまだわれに告たまはざるなり 28婦いひけるはわれわが主に子を求めしやわれをあざむきたまふなかれとわれは言ざりしや 29エリシヤすなはちゲハジにいひけるはなんぢ腰をひきからげわが杖を手にもちて行け誰に逢も禮をなすべからず又なんぢに禮をなす者あるともそれに答ふることなかれわが杖をかの子の面の上におけよと 30その子の母いひけるはヱホバは活くなんぢの霊魂は生く我は汝を離れじと是をもてエリシヤついに起て婦に從ひ行ぬ 31ゲハジはかれらに先だちゆきて杖をかの子の面の上に置たるが聲もなく聞もせざりしかばかへりきたりてエリシヤに逢てこれに子いまだ目をさまさずと言ふ 32エリシヤここにおいて家に入て視に子は死ておのれの臥床の上に臥てあれば 33すなはち入り戸をとぢて二人内におりてヱホバに祈り 34而してエリシヤ上りて子の上に伏し己が口をその口におのが目をその目に己が手をその手の上にあて身をもてその子を掩しに子の身體やうやく温まり來る 35かくしてエリシヤかへり來て家の内に其處此處とあゆみをり又のぼりて身をもて子をおほひしに子七度 嚔して目をひらきしかば 36ゲハジを呼てかのシユナミ人をよべと言ければすなはちこれを呼り 37彼入來りしかばエリシヤなんぢの子を取ゆけと言りかれすなはち入りてエリシヤの足下に伏し地に身をかがめて其子を取あげて出づ 38斯てエリシヤまたギルガルにいたりしがその地に饑饉あり預言者の 徒 その前に坐しをる是において彼その僕にいひけるは大なる釜をすゑて預言者の 徒 の

ために羹を煮よと 39時に一人田野にゆきて菜蔬を摘しが野藤のあるを見て其より野瓜を一風呂鋪摘きたりて羹の釜の中に截こみたり其は皆それをしらざればなり 40斯てこれを盛て人々に食はせんとせしに彼等その羹を食はんとするにあたりて叫びて嗚呼神の人よ釜の中に死をきたらする者ありといひて得食はざりしかば 41エリシヤさらば粉をもちきたれといひてこれを釜になげ入れ盛て人々に食しめよと言り釜の中にはすなはち害物あらずなりぬ 42茲にバアルシヤリシヤより人來り初穂のパンと大麥のパン二十と圃の初物一袋とを神の人の許にもちいたりたればエリシヤ衆人にあたへて食はしめよと言ふに 43その奴僕いひけるは如何にとや我これを百人の前にそなふべきかと然るに彼また言ふ衆人にあたへて食しめよ夫ヱホバかくいひたまふかれら食ふて尚あます所あらんと 44すなはち之をその前にそなへたればみな食ふてなほ餘せりヱホバの言のごとし

第五章

1スリア王の軍勢の長ナアマンはその主君のまへにありて大なる者にしてまた貴き者なりき是はヱホバ曾て彼をもてスリアに拯救をほどこしたまひしが故なり彼は大勇士なりしが癩病をわづらひ居る 2昔にスリア人隊を組ていでたりし時にイスラエルの地より一人の小女を執へゆけり彼ナアマンの妻に事たりしが 3その女主にむかひわが主サマリヤに居る預言者の前にいまさば善らん者をかれその癩病を痊すならんと言たれば 4ナアマン入りてその主君に告てイスラエルの地よりきたれる女子斯々語りたりと言ふに 5スリヤ王いひけるは往よ往よ我イスラエルの王に書をおくるべしと是において彼いでゆき銀十タラントと金六千および衣服十襲をたづさへ 6イスラエルの王にその書をもちゆけりその文に曰くこの書汝にいたらば視よ我わが臣ナアマンをなんぢに遣はせるなりこは汝にその癩病を痊されんがためなり 7イスラエルの王その書を讀み衣を裂ていふ我神ならんや爭か殺すことをなし生すことをなしえん然るに此人なんぞ癩病の人を我に遣はしてこれを痊さしめんとするや然ば請ふ汝等彼が如何に我に爭を求むるかを見て知れと 8茲に神の人エリシヤ、イスラエルの王がその衣を裂たることをきき王に言遣しけるは汝何とて汝の衣をさきしや彼をわがもとにいたらしめよ然ば彼イスラエルに預言者のあることを知にいたるべし 9是においてナアマンその馬と車とをしたがへ來りてエリシヤの家の門に立けるに 10エリシヤ使をこれに遣して言ふ汝ゆきて身をヨルダンに七たび洗へ然ば汝の肉本にかへりて汝は清く爲べしと 11ナアマン怒りて去り言けるは我は彼かならず我もとにいできたりて立ちその神ヱホバの名を呼てその所の上に手を動して癩病を痊すならんと思へり 12ダマスコの河アバナとパルパルはイスラエルのすべての河水にまさるにあらずや我これらに身を洗ふて清まることを得ざらんやと乃ち身をめぐらし怒りて去る 13時にその僕等近よりてこれにいひけるは我父よ預言者なんぢに大なる事をなせと命ずるとも汝はそれを爲ざらんや況て彼なんぢに身を洗ひて清くなれといふをやと 14是においてナアマン下りゆきて神の人の言のごとくに七たびヨルダンに身を洗ひしにその肉本にかへり嬰兒の肉の如くになりて清くなりぬ 15かれすなはちその從者とともに神の人の許にかへりきたりてその前に立ていふ我いまイスラエルのほかは全地に神なしと知る然ば請ふ僕より禮物をうけよ 16エリシヤいひけるはわが事へまつるヱホバは活く肯て禮物をうけじとかれ強て之を受しめんとしたれども遂にこれを辭したり 17ナアマンいひけるは然ば請ふ騾馬に二駄の土を僕にとらせよ僕は今よりのち他の神には燔祭をも祭品をもささげずして只ヱホバにのみ献げんとす 18ねがはくは主この事につきて僕をゆるしたまへ即ちわが主君リンモンの宮にいりそこにて崇拝をなしてわが手に倚ることありまた我リンモンの宮にありて身をかがむることあらんわがリンモンの宮において身をかがむる時に願くはヱホバその事につきて僕をゆるしたまへと 19エリシヤ彼になんぢ安じて去れといひければ彼エリシヤをはなれて少しく進みゆきけるに 20神の人エリシヤの僕ゲハジいいひけるは吾が主人は此スリア人ナアマンをいたはりて彼が手に携へきたれるものを受ざりしがヱホバは活くわれ彼のあとを追かけて彼より少く物をとらんと 21ゲハジすなはちナアマンのあとをおひ行くにナアマンはおのれのあとに走り來る者あるを見て車より下りこれを迎へて皆平安やと言ふに 22彼言けるは皆平安しわが主我を遣していはしむ只今エフライムの山より預言者の徒なる二人の少者わが許に來れり請ふ汝かれらに銀一タラントと衣二襲をあたへよと 23ナアマンいひけるは望むらくは二タラントを取れとてかれを強ひ銀二タラントを二の袋にいれ衣二襲

を添て二人の僕に負せたれば彼等これをゲハジの前に負きたりしが 24彼岡に至りしとき之をかれらの手より取て室のうちにをさめかれらを放ちて去しめ 25而して入てその主人のまへに立つにエリシヤこれにいひけるはゲハジよ何處より來りしや答へていふ僕は何處にもゆかず 26エリシヤいひけるはその人が車をはなれ來りてなんぢを迎へし時にわが心其處にあらざりしや今は金をうけ衣をうけ橄欖園葡萄園羊牛僕婢をうくべき時ならんや 27然ばナアマンの癩病はなんぢにつき汝の子孫におよびて限なからんと彼その前より退ぞくに癩病發して雪のごとくになりぬ

第六章

1茲に預言者の徒エリシヤに言けるは視よ我儕が汝とともに住ふ所はわれらのために隘し 2請ふ我儕をしてヨルダンに往しめよ我儕おのおの彼處より一の材木を取て其處に我儕の住べき處を設けんエリシヤ往よと言ふ 3時にその一人希はくは汝も僕等と共に往けと言ければエリシヤ答へて我ゆかんと言ふ 4エリシヤかく彼等とともに往り彼等すなはちヨルダンにいたりて樹を砍りたふしけるが 5一人の材木を砍りたふすに方りてその斧水におちいりしかば叫びて嗚呼主よ是は乞得たる者なりと言ふ 6神の人其は何處におちいりしやと言ふにその處をしらせしかば則ち枝を切おとして其處に投いれてその斧を浮ましめ 7汝これを取れと言ければその人手を伸てこれを取り 8茲にスリアの王イスラエルと戰ひをりその臣僕と評議して斯々の處に我陣を張んと言たれば 9神の人イスラエルの王に言おくりけるは汝愼んで某の處を過るなかれ其はスリア人其處に下ればなりと 10イスラエルの王是において神の人が己に告げ己に敎たる處に人を遣して其處に自防しこと一二回に止まらざりき 11是をもてスリアの王是事のために心をなやましその臣僕を召て我儕の中誰がイスラエルの王と通じをるかを我に告ざるやと言ふに 12その臣僕の一人言ふ王わが主よ然るにあらず但イスラエルの預言者エリシヤ汝が寢室にて語る所の言語をもイスラエルの王に告るなり 13王いひけるは往て彼が安に居かを見よ我人をやりてこれを執へんと茲に彼はドタンに居ると王に告ていふ者ありければ 14王そこに馬と車および大軍をつかはせり彼等すなはち夜の中に來りてその邑を取かこみけるが 15神の人の從屬夙に興て出て見に軍勢馬と車をもて邑を取かこみ居ればその少者エリシヤに言けるは嗚呼わが主よ我儕如何にすべきや 16エリシヤ答へけるは懼るなかれ我儕とともにある者は彼等とともにある者よりも多しと 17エリシヤ祈りて願くはヱホバかれの目を開きて見させたまへと言ければヱホバその少者の眼を開きたまへり彼すなはち見るに火の馬と火の車山に盈てエリシヤの四面に在り 18スリア人エリシヤの所に下りいたれる時エリシヤ、ヱホバに祈りて言ふ願くは此人々をして目昏しめたまへと即ちエリシヤの言のごとくにその目を昏しめたまへり 19是においてエリシヤ彼らに言けるは是はその途にあらず是はその城にもあらず我に從ひて來れ我汝らを汝らが尋ぬる人の所に携ゆかんとて彼等をサマリヤにひき至れり 20彼等がサマリヤに至りし時エリシヤ言けるはヱホバよ此人々の目をひらきて見させたまへと即ちヱホバかれらの目を開きたまひたれば彼等見るにその身はサマリヤの中にあり 21イスラエルの王かれらを見てエリシヤに言けるはわが父よ我撃殺すべきや撃殺すべきや 22エリシヤ答けるは撃殺すべからず汝劍と弓をもて擄にせる者等を撃殺すことを爲んやパンと水と彼らの前にそなへて食飲せしめてその主君に往しむべきなり 23王すなはちかれらの爲に大なる饗宴をまうけ其食飲ををはるに及びてこれを去しめたればすなはち其主君に歸れり是をもてスリアの兵ふたたびイスラエルの地に入ざりき 24此後スリアの王ベネハダデその全軍を集めて上りきたりてサマリヤを攻圍みければ 25サマリヤ大に糧食に乏しくなれり即ちかれら之を攻かこみたれば遂に驢馬の頭一箇は銀八十枚にいたり鳩の糞一カブの四分の一は銀五枚にいたる 26茲にイスラエルの王石垣の上を通りをる時一人の婦人かれに呼はりて我主王よ助けたまへと言ければ 27彼言ふヱホバもし汝を助けたまはずば我何をもてか汝を助くることを得ん禾場の物をもてせんか酒榨の中の物をもてせんか 28王すなはち婦に何事なるやと言ば答へて言ふ此婦人我にむかひ汝の子を與へよ我儕今日これを食ひて明日わが子を食ふべしと言り 29斯われら吾子を煮てこれを食ひけるが我次の日にいたりて彼にむかひ汝の子を與へよ我儕これを食はんと言しに彼その子を隱したり 30王その婦人の言を聞て衣を裂き而して石垣の上を通りをりしが民これを見るにその膚に麻布を著居たり 31王言けるは今日シヤパテの子エリシヤの首その身の上にすわりをらば神われに斯なしまた重

ねてかく成たまへ 32時にエリシヤはその家に坐しをり長老等これと共に坐し居る王すなはち己の所より人を遣しけるがエリシヤはその使者の未だ己にいたらざる前に長老等に言ふ汝等この人を殺す者の子が我の首をとらんとて人を遣はすを見るや汝等觀てその使者至らば戸を閉てこれを戸の内にいるるなかれ彼の主君の足音その後にするにあらずやと 33斯彼等と語をる間にその使者かれの許に來りしが王もつづいて來り言けるは此 災 はヱホバより出たるなり我なんぞ此上ヱホバを待べけんや

第七章

1エリシヤ言けるは汝らヱホバの言を聽けヱホバかく言たまふ明日の今頃サマリヤの門にて麥粉一セアを一シケルに賣り大 麥二セアを一シケルに賣にいたらん 2時に一人の大 將すなはち王のその手に依る者神の人に答へて言けるは由やヱホバ天に窓をひらきたまふも此事あるべけんやエリシヤいひけるは汝は汝の目をもて之を見ん然どこれを食ふことはあらじ 3茲に城邑の門の入口に四人の癩病 人をりしが互に言けるは我儕なんぞ此に坐して死るを待べけんや 4我ら若邑にいらんと言ば邑には食 物竭てあれば我ら其處に死んもし又此に坐しをらば同く死ん然ば我儕ゆきてスリアの軍勢の所にいたらん彼ら我らを生しおかば我儕生ん若われらを殺すも死るのみなりと 5すなはちスリア人の陣營にいたらんとて黄昏に起あがりしがスリアの陣營の邊にいたりて視に一人も其處にをる者なし 6是より先に主スリアの軍勢をして車の聲馬の聲大軍の聲を聞しめたまひしかば彼ら互に言けるは視よイスラエルの王われらに敵せんとてヘテ人の王等およびエジプトの王等を傭ひきたりて我らを襲はんとすと 7すなはち黄昏に起て逃げその天幕と馬と驢馬とを棄て陣營をその儘になしおき生命を全うせんとて逃たり 8かの癩病 人等陣營の邊に至りしが遂に一の天幕にいりて食飲し其處より金銀衣服を持さりて往てこれを隱し又きたりて他の天幕にいり其處よりも持さりて往てこれを隱せり 9かくて彼等 互に言けるは我儕のなすところ善らず今日は好消息ある日なるに我儕は默し居る若夜明まで待ば菑害身におよばん然ば來れ往て王の眷屬に告んと 10すなはち來りて邑の門を守る者を呼びこれに告て言けるは我儕スリア人の陣營にいたりて視に其處には一人も居る者なく亦人の聲もせず但馬のみ繋ぎてあり驢馬のみ繋ぎてあり天幕は其儘なりと 11是において門を守る者呼はりてこれを王の家の中に報せたれば 12王夜の中に興いでてその臣下に言けるは我スリア人が我儕になせる所の如何を汝等に示さん彼等はわれらの饑たるを知が故に陣營を去て野に隱る是はイスラエル人邑を出なば生擒て邑に推いらんと言て然せるなり 13その臣下の一人對へて言けるは請ふ尚遺されて邑に存れる馬の中五匹を取しめよ我儕人を遣て窺はしめん視よ是等は邑の中に遺れるイスラエルの全群衆のごとし視よ是等は滅び亡たるイスラエルの全群衆のごとくなりと 14是において二輛の戰 車とその馬を取り王すなはち往て見よといひて人を遣はしてスリアの軍勢の跡を尾しめたれば 15彼らその跡を尾てヨルダンにいたりしが途には凡てスリア人が狼狽逃る時に棄たる衣服と器具盈りその使者かへりてこれを王に告ければ 16民いでてスリア人の陣營を掠めたり斯在しかば麥粉一セアは一シケルとなり大麥二セアは一シケルと成るヱホバの言のごとし 17爰に王その手に依ところの彼大 將を立て門を 司 らしめたるに民門にて彼を踐たれば死り即ち神の人が王のおのれに下り來し時に言たる言のごとし 18又神の人が王につげて明日の今頃サマリヤの門にて大麥二セアを一シケルに賣り麥粉二セアを一シケルに賣にいたらんと言しごとくに成ぬ 19彼大 將その時に神の人にこたへてヱホバ天に窓をひらきたまふも此事あるべけんやと言たりしかば答へて汝 目をもてこれを見べけれどもこれを食ふことはあらじと言たりしが 20そのごとくになりぬ即ち民門にてかれを踐て死しめたり

第八章

1エリシヤ嘗てその子を甦へらせて與へし婦に言しことあり曰く汝 起て汝の家族とともに往き汝の寄寓んとおもふ處に寄寓れ其はヱホバ饑饉を呼くだしたまひたれば七年の間この地に臨むべければなりと 2是をもて婦 起て神の人の言のごとくに爲しその家族とともに往てペリシテ人の地に七年寄寓ぬ 3かくて七年を經て後婦人ペリシテ人の地より歸りしが自己の家と田畝のために王に呼もとめんとて往り 4時に王は神の人の僕ゲハジにむかひ請ふエリシヤが爲し 諸 の大なる事等を我に告よと言てこれと談話をる 5即ち彼エリシヤが死人を甦らせしことを王にものがたりをる時にその子を彼が甦らせし婦 自己の家と田畝のために王に呼もとめければゲハジ言ふわが主

王よ是すなはちその婦人なり是すなはちエリシヤが 甦らせしその子なり 6王すなはちその婦に尋ねけるにこれを陳たれば王彼のために一人の官吏を派出して言ふ凡て彼に屬する物 並に彼がこの地を去し日より今にいたるまでの其田畝の産出物を 悉く彼に還せよと 7エリシヤ、ダマスコに至れる事あり時にスリアの王ベネハダデ病にかかりをりしがこれにつげて神の人此にきたると言ふ者ありければ 8王ハザエルに言ふ汝 手に禮物をとり往て神の人を迎へ彼によりてヱホバに吾この病は愈るやと言て問へ 9是においてハザエルかれを迎へんとて出往きダマスコのもろもろの佳物駱駝に四十駄を禮物に携へて到りて彼の前に立ち曰けるは汝の子スリアの王ベネハダデ我を汝につかはして吾この病は愈るやと言しむ 10エリシヤかれに言けるは往てかれに汝はかならず愈べしと告よ但しヱホバかれはかならず死んと我にしめしたまふなり 11而して神の人瞳子をさだめて彼の羞るまでに見つめ乃て哭いでたれば 12ハザエルわが主よ何て哭たまふやと言ふにエリシヤ答へけるは我 汝がイスラエルの子孫になさんところの害惡を知ばなり即ち汝は彼等の城に火をかけ壯年の人を劍にころし子等を挫ぎ孕 女を刳ん 13ハザエル言けるは汝の僕は犬なるか何ぞ斯る大なる事をなさんエリシヤ答へけるはヱホバ我にしめしたまふ汝はスリアの王となるにいたらん 14斯て彼エリシヤを離れて去てその主君にいたるにエリシヤは汝に何と言しやと尋ければ答へて彼 汝はかならず愈るあらんと我に告たりと言ふ 15翌日にいたりてハザエル粗き布をとりて水に浸しこれをもて王の面を覆ひたれば死りハザエルすなはち之にかはりて王となる 16イスラエルの王アハブの子ヨラムの五年にはヨシヤパテ尚ユダの王たりき此年にユダの王ヨシヤバテの子ヨラム位に即り 17彼は位に即し時三十二歳にして八年の間エルサレムにて世を治めたり 18彼はアハブの家のなせるがごとくにイスラエルの王等の道を行へりアハブの女かれの妻なりければなり斯彼はヱホバの目の前に惡をなせしかども 19ヱホバその僕ダビデのためにユダを滅すことを好みたまはざりき即ち彼にその子孫によりて恒に光明を與んと言たまひしがごとし 20ヨラムの代にエドム叛きてユダの手に服せず自ら王を立たれば 21ヨラムその一切の戰 車をしたがへてザイルに渉りしが遂に夜の中に起あがりて自己を圍めるエドム人を撃ちその戰 車の長 等を撃り斯して民はその天幕に逃ゆきぬ 22エドムは斯叛きてユダの手に服せずなりしが今日まで然り此時にあたりてリブナもまた叛けり 23ヨラムのその餘の行爲およびその凡て爲たる事等はユダの王の歴代志の書に記さるるにあらずや 24ヨラムその先祖等とともに寢りてダビデの邑にその先祖たちと同じく葬られその子アハジアこれに代りて王となれり 25イスラエルの王アハブの子ヨラムの十二年にユダの王ヨラムの子アハジア位に即り 26アハジアは位に即し時二十二歳にしてエルサレムにて一年世を治めたりその母はイスラエルの王オムリの孫女にして名をアタリヤといふ 27アハジアはアハブの家の道にあゆみアハブの家のごとくにヱホバの目の前に惡をなせり是かれはアハブの家の婿なりければなり 28茲にアハブの子ヨラム自身ゆきてスリアの王ハザエルとギレアデのラモテに戰ひけるがスリア人等ヨラムに傷を負せたり 29是に於てヨラム王はそのスリアの王ハザエルと戰ふにあたりてラマに於てスリア人に負せられたるところの傷を療さんとてヱズレルに歸れりユダの王ヨラムの子アハジアはアハブの子ヨラムが病をるをもてヱズレルに下りて之を訪ふ

第九章

1茲に預言者エリシヤ預言者の 徒 一人を呼てこれに言ふ汝 腰をひきからげ此 膏の瓶を手にとりてギレアデのラモテに往け 2而して汝かしこに到らばニムシの子なるヨシヤパテの子ヱヒウを其處に尋 獲て内に入り彼をその兄 弟の中より起しめて奥の間につれゆき 3膏の瓶をとりその首に灌ぎて言へヱホバかく言たまふ我 汝に膏をそそぎてイスラエルの王となすと而して戸を開きて逃されよ止 ること勿れ 4是において預言者の僕なるその少者ギレアデのラモテに往けるが 5到りて見るに軍勢の長 等坐してをりければ將 軍よ我 汝に告べき事ありと言ふにヱヒウこたへて我儕諸人の中の誰にかと言たれば將 軍よ汝にと言ふ 6ヱヒウすなはち起て家にいりければ彼その首に膏をそそぎて之に言ふイスラエルの神ヱホバかく言たまふ我 汝に膏をそそぎてヱホバの民イスラエルの王となす 7汝はその主アハブの家を撃ほろぼすべし其によりて我わが僕なる預言者等の血とヱホバの 諸 の僕 等の血をイゼベルの身に報いん 8アハブの家は全く滅亡べしアハブに屬する男はイスラエルにありて繋がれたる者も繋がれざる者もともに之を絶べし 9我アハブの家をネバテの子

ヤラベアムの家のごとくに爲しアヒヤの子バアシヤの家のごとくになさん 10ヱズレルの地において犬イゼベルを食ふべし亦これを葬るものあらじと而して戸を啓きて逃されり 11かくてヱヒウその主の臣僕等の許にいできたりたれば一人之に言ふ平安なるやこの狂る者何のために汝にきたりしやヱヒウこたへて汝等はかの人を知りまたその言ところを知なりと言ふに 12彼等言けらく謊なり其を我儕に告よと是においてヱヒウ言けるは彼斯々我につげて言りヱホバかく言たまふ我汝に膏をそそぎてイスラエルの王となすと 13彼等すなはち急ぎて各人その衣服をとりこれを階の上ヱヒウの下に布き喇叭を吹てヱヒウは王たりと言り 14ニムシの子なるヨシヤバテの子ヱヒウ斯ヨラムに叛けり(ヨラムはイスラエルを盡くひきゐてギレアデのラモテに於てスリアの王ハザエルを禦ぎたりしが 15ヨラム王はそのスリアの王ハザエルと戰ふ時にスリア人に負せられたるところの傷を痊さんとてヱズレルに歸りてをる)ヱヒウ言けるは若なんぢらの心にかなはば一人もこの邑より走いでてこれをヱズレルに言ふ者なからしめよと 16ヱヒウすなはちヱズレルをさして乘往りヨラムかしこに臥をればなりまたユダの王アハジアはヨラムを訪に下りてをる 17ヱズレルの戍樓に一箇の守望者立をりしがヱヒウの群衆のきたるを見て我群衆を見るといひければヨラム言ふ一人を馬に乘て遣し其に會しめて平安なるやと言しめよと 18是において一人馬にて行てこれに會ひ王かく宣まふ平安なるやと言ふにヱヒウ言けるは平安は汝の與るところならんや吾後にまはれと守望者また告て言ふ使者かれらの許に往たるが歸り來ずと 19是をもて再び人を馬にて遣したればその人かれらに到りて王かく宣まふ何か變事あるやと言ふにヱヒウ答て平安は汝の與るところならんや吾後にまはれと言ふ 20守望者また告て言ふ彼も彼等の所にまで到りしが歸り來ずその車を趨するはニムシの子ヱヒウが趨するに似狂ふて趨らせ來る 21是においてヨラム車を整へよと言ひけるが車整ひたればイスラエルの王ヨラムとユダの王アハジアおのおのその車にて出たり即ちかれらヱヒウにむかひて出きたりヱズレル人ナボテの地にて之に會けるが 22ヨラム、ヱヒウを見てヱヒウよ平安なるやといひたればヱヒウこたへて汝の母イゼベルの姦淫と魔術と斯多かれば何の平安あらんやと云り 23ヨラムすなはち手をめぐらして逃げアハジアにむかひ反逆なりアハジアよと言ふに 24ヱヒウ手に弓をひきしぼりてヨラムの肩の間を射たればその矢かれの心をいぬきて出で彼は車の中に偃ししづめり 25ヱヒウその將ビデカルに言けるは彼をとりてヱズレル人ナボテの地の中に投すてよ其は汝憶ふべし曾て我と汝と二人ともに乘て彼の父アハブに從へる時にヱホバ斯かれの事を預言したまへり 26曰くヱホバ言ふ誠に我昨日ナボテの血とその子等の血を見たりヱホバ言ふ我この地において汝にむくゆることあらんと然ば彼をとりてその地になげすててヱホバの言のごとくにせよ 27ユダの王アハジアはこれを視て園の家の途より逃ゆきけるがヱヒウその後を追ひ彼をも車の中に擊ころせと言しかばイブレアムの邊なるグルの坂にてこれを擊たればメギドンまで逃ゆきて其處に死り 28その臣僕等すなはち之を車にのせてエルサレムにたづさへゆきダビデの邑においてかれの墓にその先祖等とおなじくこれを葬れり 29アハブの子ヨラムの十一年にアハジアはユダの王となりしなり 30斯てヱヒウ、ヱズレルにきたりしかばイゼベル聞てその目を塗り髪をかざりて窓より望みけるが 31ヱヒウ門に入きたりたればその主を弑せしジムリよ平安なるやと言り 32ヱヒウすなはち面をあげて窓にむかひ誰か我に與ものあるや誰かあるやと言けるに二三の寺人ヱヒウを望みたれば 33彼を投おとせと言りすなはち之を投おとしたればその血牆と馬とにほどばしりつけりヱヒウこれを踏とほれり 34斯て彼内にいりて食飲をなし而して言けるは往てかの詛はれし婦を見これを葬れ彼は王の女子なればなりと 35是をもて彼を葬らんとて往て見るにその頭骨と足と掌とありしのみなりければ 36歸りで彼につぐるに彼言ふ是すなはちヱホバがその僕なるテシベ人エリヤをもて告たまひし言なり云くヱズレルの地において犬イゼベルの肉を食はん 37イゼベルの屍骸はヱズレルの地に於て糞土のごとくに野の表にあるべし是をもて是はイゼベルなりと指て言ふこと能ざらん

第十章

1アハブ、サマリヤに七十人の子あり茲にヱヒウ書をしたためてサマリヤにおくり邑の牧伯等と長老等とアハブの子等の師傅等とに傳へて云ふ 2汝らの主の子等汝らとともにあり又汝等は車も馬も城もあり且武器もあれば此書汝らの許にいたらば 3汝らの主の子等の中より最も優れる方正き者を選みだ出してその父の位に置ゑ汝等の主の

家のために戰へよ 4彼ら大に恐れて言ふ二人の王等すでに彼に當ることを得ざりしなれば我儕いかでか當ることを得んと 5乃ち家宰邑宰長老師傅等ヱヒウに言おくりけるは我儕は汝の僕なり凡て汝が我儕に命ずる事を爲ん我儕は王を立るを好まず汝の目に善と見ゆる所を爲せ 6是においてヱヒウ再度かれらに書をおくりて云ふ汝らもし我に與き我言にしたがふならば汝らの主の子なる人々の首をとりて明日の今頃ヱズレルにきたりて吾許にいたれと當時王の子七十人はその師傅なる邑の貴人等とともに居る 7その書かれらに至りしかば彼等王の子等をとらへてその七十人をことごとく殺しその首を籃につめてこれをヱズレルのヱヒウの許につかはせり 8すなはち使者いたりてヱヒウに告て人衆王の子等の首をたづさへ來れりと言ければ明朝までそれを門の入口に二山に積おけと言り 9朝におよび彼出て立ちすべての民に言ふ汝等は義し我はわが主にそむきて之を弑したり然ど此すべての者等を殺せしは誰なるぞや 10然ば汝等知れヱホバがアハブの家につきて告たまひしヱホバの言は一も地に隕ず即ちヱホバはその僕エリヤによりて告し事を成たまへりと 11斯てヱヒウはアハブの家に屬する者のヱズレルに遺れるを盡く殺しまたその一切の重立たる者その親き者およびその祭司等を殺して彼に屬する者を一人も遺さざりき 12ヱヒウすなはち起て往てサマリヤに至りしがヱヒウ途にある時牧者の集會所において 13ユダの王アハジアの兄弟等に遇ひ汝等は何人なるやと言けるに我儕はアハジアの兄弟なるが王の子等と王母の子等の安否を問んとて下るなりと答へたれば 14彼等を生擒れと言り即ちかれらを生擒りその集會所の穴の側にて彼等四十二人を盡く殺し一人をも遺さざりき 15斯てヱヒウ其處より進みゆきしがレカブの子ヨナダブの己を迎にきたるに遭ければその安否をとふてこれに汝の心はわが心の汝の心と同一なるがごとくに眞實なるやと言けるにヨナダブ答へて眞實なりと言たれば然ば汝の手を我に伸よと言ひその手を伸ければ彼を挽て己の車に登らしめて 16言ふ我とともに來りて我がヱホバに熱心なるを見よと斯かれを己の車に乗しめ 17サマリヤにいたりてアハブに屬する者のサマリヤに遺れるを盡く殺して遂にその一族を滅せりヱホバのエリヤに告たまひし言語のごとし 18茲にヱヒウ民をことごとく集てこれに言けるはアハブは少くバアルに事たるがヱヒウは大にこれに事へんとす 19然ば今バアルの諸の預言者諸の臣僕諸の祭司等を我許に召せ一人も來らざる者なからしめよ我大なる祭祀をバアルのためになさんとするなり凡て來らざる者は生しおかじと但しヱヒウ、バアルの僕等を滅さんとて偽りて斯なせるなり 20ヱヒウすなはちバアルの祭禮を設よと言ければ之を宣たり 21是てヱヒウあまねくイスラエルに人をつかはしたればバアルの僕たる者皆きたれり一人も來らずして遺れるものはあらざりき彼等バアルの家にいりたればバアルの家は末より末まで充わたれり 22時にヱヒウ衣裳を掌どる者てむかひ禮服をとりいだしてバアルの凡の僕等にあたへよといひければすなはち禮服をとりいだせり 23斯ありてヱヒウはレカブの子ヨナダブとともにバアルの家にいりしがバアルの僕等に言ふ汝等尋ね見て此には只バアルの僕のみあらしめヱホバの僕を一人も汝らの中にあらしめざれと 24彼等犧牲と燔祭を献げんとて入し時ヱヒウ八十人の者を外に置て言ふ凡てわがその手にわたすところの人を一人にても逃れしむる者は己の生命をもてその人の生命に代べしと 25期て燔祭を献ぐることの終りし時ヱヒウその士卒と諸將に言ふ入てかれらを殺せ一人をも出すなかれとすなはち刃をもて彼等を擊ころせり而して士卒と諸將これを投いだしてバアルの家の内殿に入り 26諸の像をバアルの家よりとりいだしてこれを燒り 27即ちかれらバアルの像をこぼちバアルの家をこぼち其をもて厠を造りしが今日までのこる 28ヱヒウかくイスラエルの中よりバアルを絶さりたりしかども 29ヱヒウは尚かのイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの罪に離るることをせざりき即ち彼なほベテルとダンにあるところの金の犢に事たり 30ヱホバ、ヱヒウに言たまひけらく汝わが義と視るところの事を行ふにあたりて善く事をなしまたわが心にある諸の事をアハブの家になしたれば汝の子孫は四代までイスラエルの位に坐せんと 31然るにヱヒウは心を盡してイスラエルの神ヱホバの律法をおこなはんとはせず尚かのイスラエルに罪を犯させたるヤラベアムの罪に離れざりき 32是時にあたりてヱホバ、イスラエルを割くことを始めたまへりハザエルすなはちイスラエルの一切の邊境を侵し 33ヨルダンの東においてギレアデの全地ガド人ルベン人マナセ人の地を侵しアルノン河の邊なるアロエルよりギレアデにいたりバシヤンにおよべり 34ヱヒウのその餘の行爲とその凡て爲たる事むよびその大なる能はイスラエルの王の歴代志の書に記さるるにあ

らずや 35エヒウその先祖等とともに寝りたればこれをサマリヤに葬りぬその子ヨホアハズこれに代て王となれり 36エヒウがサマリヤにをりてイスラエルに王たりし間は二十八年なりき

第十一章

1茲にアハジアの母アタリヤその子の死たるを見て起て王の種を盡く滅したりしが 2ヨラム王の女にしてアハジアの姉妹なるヨホシバといふ者アハジアの子ヨアシを王の子等の殺さるる者の中より竊みとり彼とその乳母を夜着の室にいれて彼をアタリヤに匿したれば終にころされざりき 3ヨアシは彼とともに六年ヨホバの家に隠れてをりアタリヤ國を治めたり 4第七年にいたりヨホヤダ人を遣して近衛兵の大將等を招きよせヨホバの家にきたりて己に就しめ彼等と契約を結び彼らにヨホバの家にて誓をなさしめて王の子を見し 5かれらに命じて言ふ汝等がなすべき事は是なり汝等安息日に入きたる者は三分の一は王の家をまもり 6三分の一はスル門にをり三分の一は近衛兵の後の門にをるべし斯なんぢら宮殿をまもりて人をいるべからず 7また凡て汝等安息日に出ゆく者はその二手ともにヨホバの家において王をまもるべし 8すなはち汝らおのおの武器を手にとりて王を環て立べし凡てその列を侵す者をば殺すべし汝等又王の出る時にも入る時にも王とともにをるべし 9是においてその將官等祭司ヨホヤダが凡て命ぜしごとくにおこなへり即ちかれらおのおの其手の人の安息日に入くべき者と安息日に出ゆくべき者とを率て祭司ヨホヤダに至りしかば 10祭司はヨホバの殿にあるダビデ王の槍と楯を大將等にわたせり 11近衛兵はおのおの手に武器をとりて王の四周にをり殿の右の端より左の端におよびて壇と殿にそひて立つ 12ヨホヤダすなはち王子を進ませて之に冠冕をいただかせ律法をわたし之を王となして之に膏をそそぎければ人衆手を拍て王長壽かれと言り 13茲にアタリヤ近衛兵と民の聲を聞きヨホバの殿にいりて民の所にいたり 14見るに王は常例のごとくに高座の上に立ち其傍に大將等と喇叭手立をり又國の民みな喜びて喇叭を吹をりしかばアタリヤ其衣を裂て反逆なり反逆なりと叫べり 15時に祭司ヨホヤダ大將等と軍勢の士官等に命じてこれに言ふ彼をして列の間をとほりて出しめよ彼に從がふ者をば劍をもて殺せと前にも祭司は彼をヨホバの家に殺すべからずと言おけり 16是をもて彼のために路をひらきければ彼王の家の馬道をとほりゆきしが遂に其處に殺されぬ 17斯てヨホヤダはヨホと王と民の間にその皆ヨホバの民とならんといふ契約を立しめたり亦王と民の間にもこれを立しめたり 18是をもて國の民みなバアルの家にいりてこれを毀ちその壇とその像を全く打碎きバアルの祭司マツタンをその壇の前に殺せり而して祭司ヨホバの家に監督者を設けたり 19ヨホヤダすなはち大將等と近衛兵と國の諸の民を率てヨホバの家より王をみちびき下り近衛兵の門の途よりして王の家にいたり王の位に坐せしめたり 20斯有しかば國の民はみな喜びて邑は平穩なりきアタリヤは王の家に殺されぬ 21ヨアシは位に即し時七歳なりき

第十二章

1ヨアシはヨヒウの七年に位に即きエルサレムにおいて四十年世を治めたりその母はベエルシバより出たるものにて名をヂビアといへり 2ヨアシは祭司ヨホヤダの己を誨ふる間は恒にヨホバの善と視たまふ事をおこなへり 3然ど崇邱は除かずしてあり民は尚その崇邱において犠牲をささげ香を焚り 4茲にヨアシ祭司等に言けるは凡てヨホバの家に聖別て献納るところの金即ち核數らるる人の金估價にしたがひて出すところの身の代の金および人々が心より願てヨホバの家に持きたるところの金 5これを祭司等おのおのその知人より受をさめ何處にても殿に破壞の見る時はこれをもてその破壞を修繕ふべしと 6然るにヨアシ王の二十三年におよぶまで祭司等殿の破壞を修繕ふにいたらざりしかば 7ヨアシ王祭司ヨホヤダおよびその他の祭司等を召てこれに言ふ汝等なぜて殿の破壞を修繕はざるや然ば今よりは汝等の知人より金を受て自己のためにすべからず唯殿の破壞の修理に其を供ふべしと 8祭司等は重て民より自己のために金を受ず又殿の破壞を修理ふことをせじと約せり 9斯て後祭司ヨホヤダ一箇の櫃をとりその蓋に孔を穿ちてこれをヨホバの家の入口の右において壇の傍に置り門守の祭司等すなはちヨホバの家に入きたるところの金をことごとくその中に入たり 10爰にその櫃の中に金の多くあることを見たれば王の書記と祭司長と上り來りてそのヨホバの家に積りし金を包みてこれを數へ 11その數へし金をこの工事をなす者に付せり即ちヨホバの家の監督者にこれを付しければ彼等またヨホバの家を修理ふところの木匠と建築師にこ

れを與へ12石工および琢石者に與へまたこれをもてヱホバの家の破壊を修繕ふ材木と琢石を買ひ殿を修理ふために用ふる諸の物のためにこれを費せり13但しヱホバの家にり來れるその金をもてヱホバの家のために銀の盂燈剪鉢喇叭金の器銀の器等を造ることはせざりき14唯これをその工事をなす者にわたして之をもてヱホバの家を修理はしめたり15またその金を手にわたして工人にはらはしめたる人々と計算をなすことをせざりき是は彼等忠厚に事をなしたればなり16愆金と罪金はヱホバの家にいらずして祭司に歸せり17當時スリアの王ハザエルのぼり來りてガテを攻てこれを取り而してハザエル、エルサレムに攻のぼらんとてその面をこれに向たり18是をもてユダの王ヨアシその先祖たるユダの王ヨシヤパテ、ヨラム、アハジア等が聖別て献げたる一切の物および自己が聖別て献げたる物ならびにヱホバの家の庫と王の家とにあるところの金を悉く取てこれをスリアの王ハザエルにおくりければ彼すなはちエルサレムを離れて去ぬ19ヨアシのその餘の行爲およびその凡て爲たる事はユダの王の歴代志の書に記さるるにあらずや20茲にヨアシの臣僕等おこりて黨をむすびシラに下るところのミロの家にてヨアシを弑せり21即ちその僕シメアテの子ヨザカルとシヨメルの子ヨザバデかれを弑して死しめたればその先祖とおなじくこれをダビデの邑に葬りその子アマジヤこれに代りて王となる

第十三章

1ユダの王アハジアの子ヨアシの二十三年にヱヒウの子ヨハアズ、サマリヤにおいてイスラエルの王となり十七年位にありき2彼はヱホバの目の前に惡をなし夫のイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの罪を行ひつづけて之に離れざりき3是においてヱホバ、イスラエルにむかひて怒を發しこれをその代のあひだ恒にスリアの王ハザエルの手にわたしおき又ハザエルの子ベネハダデの手に付し置たまひしが4ヨアハズ、ヱホバに請求めたればヱホバつひにこれを聽いれたまへり其はイスラエルの苦難を見そなはしたればなり即ちスリアの王これをなやませるなり5ヱホバつひに救者をイスラエルにたまひたればイスラエルの子孫はスリア人の手を脱れて疇昔の如くに己々の天幕に住にいたれり6但し彼等はイスラエルに罪を犯さしめたるヤラベアムの家の罪をはなれずして之をおこなひつづけたりサマリヤにも亦アシタロテの像たちをりぬ7嚮にスリアの王は民を滅し踐くだく塵のごとくに是をなして只騎兵五十人車十輛歩兵一萬人而已をヨアハズに遺せり8ヨアハズのその餘の行爲とその凡て爲たる事およびその能はイスラエルの王の歴代志の書にしるさるるに非ずや9ヨアハズその先祖等とともに寝りたればこれをサマリヤに葬れりその子ヨアシこれに代て王となる10ユダの王ヨアシの三十七年にヨアハズの子ヨアシ、サマリヤにおいてイスラエルの王となり十六年位にありき11彼ヱホバの目の前に惡をなし夫のイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの諸の罪にはなれずしてこれを行ひつづけたり12ヨアシのその餘の行爲とその凡て爲たる事およびそのユダの王アマジヤと戰ひし能はイスラエルの王の歴代志の書に記さるるに非ずや13ヨアシその先祖等とともに寝りてヤラベアム位にのぼれりヨアシはイスラエルの王等とおなじくサマリヤに葬らる14茲にエリシヤ死病にかかりて疾をりしかばイスラエルの王ヨアシ彼の許にくだり來てその面の上に涙をこぼし吾父吾父イスラエルの兵車よその騎兵よと言り15エリシヤかれにむかひ弓矢をとれと言ければすなはち弓矢をとれり16エリシヤまたイスラエルの王に汝の手を弓にかけよと言ければすなはちその手をかけたり是においてエリシヤその手を王の手の上に按て17東向の窓を開けと言たれば之を開きけるにエリシヤまた射よと言り彼すなはち射たればエリシヤ言ふヱホバよりの拯救の矢スリアに對する拯救の矢汝必らずアベクにおいてスリア人を擊やぶりてこれを滅しつくすにいたらん18エリシヤまた矢を取れと言ければ取りエリシヤまたイスラエルの王に地を射よといひけるに三次射て止たれば19神の人怒て言ふ汝は五回も六回も射るべかりしなり然せしならば汝スリアを擊やぶりて之を滅しつくすことを得ん然ど今然せざれば汝がスリアを擊やぶることは三次のみなるべしと20エリシヤ終に死たればこれを葬りしが年の立かへるに及てモアブの賊黨國にいりきたれり21時に一箇の人を葬らんとする者ありしが賊黨を見たればその人をエリシヤの墓におしいれけるにその人いりてエリシヤの骨にふるるや生かへりて起あがれり22スリアの王ハザエルはヨアハズの一生の間イスラエルをなやましたりしが23ヱホバそのアブラハム、イサク、ヤコブと契約をむすびしがためにイスラエルをめぐみ之を憐みこれを眷みた

まひ之を滅すことを好まず尚これをその前より棄はなちたまはざりき 24スリアの王ハザエルつひに死てその子ベネハダデこれに代りて王となれり 25是においてヨアズの子ヨアシはその父ヨアハズがハザエルに攻取れたる邑々をハザエルの子ベネハダデの手より取かへせり即ちヨアシは三次かれを敗りてイスラエルの邑々を取かへしぬ

第十四章

1イスラエルの王ヨアハズの子ヨアシの二年にユダの王ヨアシの子アマジヤ王となれり 2彼は王となれる時二十五歳にして二十九年の間エルサレムにて世を治めたりその母はエルサレムの者にして名をヱホアダンと云り 3アマジヤはヱホバの善と見たまふ事をなしたりしがその先祖ダビデのごとくはあらざりき彼は萬の事において其父ヨアシがなせしごとくに事をなせり 4惟崇 邱はのぞかずしてあり民はなほその崇 邱において犠牲をささげ香を焚り 5彼は國のその手に堅くたつにおよびてその父王を弑せし臣僕等を殺したりしが 6その弑殺人の子女等は殺さざりき是はモーセの律法の書に記されたる所にしたがへるなり即ちヱホバ命じて言たまはく子女の故によりて父を殺すべからず父の故によりて子女を殺すべからず人はみなその身の罪によりて死べき者なりと 7アマジヤまた鹽 谷においてエドミ人一萬を殺せり亦セラを攻とりてその名をヨクテルとなづけしが今日まで然り 8かくてアマジヤ使者をヱヒウの子ヨアハズの子なるイスラエルの王ヨアシにおくりて來れ我儕たがひに面をあはせんと言しめければ 9イスラエルの王ヨアシ、ユダの王アマジヤに言おくりけるはレバノンの荊棘かつてレバノンの香柏に汝の女子をわが子の妻にあたへよと言おくりたることありしにレバノンの野獣とほりてその荊棘を踏たふせり 10汝は大にエドムに勝たれば心に誇るその榮譽にやすんじて家に居れなんぞ禍 を惹おこして自己もユダもともに亡んとするやと 11然るにアマジヤ聽ことをせざりしかばイスラエルの王ヨアシのぼり來れり是において彼とユダの王アマジヤはユダのベテシメシにてたがひに面をあはせたりしが 12ユダ、イスラエルに敗られて各人その天幕に逃かへりぬ 13是においてイスラエルの王ヨアシはアジアの子ヨアシの子なるユダの王アマジヤをベテシメシに擒へ而してエルサレムにいたりてエルサレムの石垣をエフライムの門より隅の門まで凡そ四百キユビトを毀ち 14またヱホバの家と王の家の庫とにあるところの金銀および諸 の器をとりかつ人質をとりてサマリヤにかへれり 15ヨアシがなしたるその餘の行爲とその能およびそのイスラエルの王アマジヤと戰ひし事はイスラエルの王の歷代志の書にしるさるるにあらずや 16ヨアシその先祖等とともに寢りてイスラエルの王等とともにサマリヤに葬られその子ヤラベアムこれに代りて王となれり 17ヨアシの子なるユダの王アマジヤはヨアハズの子なるイスラエルの王ヨアシの死てより後なほ十五年生存へたり 18アマジヤのその餘の行爲はユダの王の歷代志の書にしるさるるにあらずや 19茲にエルサレムにおいて黨をむすびて彼に敵する者ありければ彼ラキシに逃ゆきけるにその人々ラキシに人をやりて彼を彼處に殺さしめたり 20人衆かれを馬に負せてもちきたりエルサレムにおいてこれをその先祖等とともにダビデの邑に葬りぬ 21ユダの民みなアザリヤをとりて王となしてその父アマジヤに代しめたり時に年十六なりき 22彼エラテの邑を建てこれを再びユダに歸せしめたり是はかの王がその先祖等とともに寢りし後なりき 23ユダの王ヨアシの子アマジヤの十五年にイスラエルの王ヨアシの子ヤラベアム、サマリヤにおいて王となり四十一年 位にありき 24彼はヱホバの目の前に惡をなし夫のイスラエルに罪を犯さしめたるネバテの子ヤラベアムの罪に離れざりき 25彼ハマテの入處よりアラバの海までイスラエルの邊境を恢復せりイスラエルの神ヱホバがガテヘペルのアミツタイの子なるその僕 預言者ヨナによりて言たまひし言のごとし 26ヱホバ、イスラエルの艱難を見たまふに其は甚だ苦かり即ち繫れたる者もあらず繫れざる者もあらず又イスラエルを助る者もあらず 27ヱホバは我イスラエルの名を天 下に塗抹んとすと言たまひしこと無し反てヨアシの子ヤラベアムの手をもてこれを拯ひたまへり 28ヤラベアムのその餘の行爲とその凡てなしたる事およびその戰爭をなせし能その昔にユダに屬し居たることありしダマスコとハマテを再びイスラエルに歸せしめたる事はイスラエルの王の歷代志の書に記さるるにあらずや 29ヤラベアムその先祖たるイスラエルの王等とともに寢りその子ザカリヤこれに代りて王となれり

第十五章

1イスラエルの王ヤラベアムの二十七年にユダの王アマジヤの子アザリヤ王となれり 2彼は王となれる時に十六歳なりしが五十二年の間エルサレムにおいて世を治めたりその母はエルサレムの者にして名をヱコリアと言ふ 3彼はヱホバの善と見たまふ事をなし萬の事においてその父アマジヤがなしたるごとく行へり 4惟崇邱は除かずしてあり民は尚その崇邱の上に犠牲をささげ香をたけり 5ヱホバ王を撃たまひしかばその死る日まで癩病人となり別殿に居ぬその子ヨタム家の事を管理て國の民を審判り 6アザリヤのその餘の行爲とその凡てなしたる事はユダの王の歴代志の書にしるさるるにあらずや 7アザリヤその先祖等とともに寝りたればこれをダビデの邑にその先祖等とともに葬れりその子ヨタムこれに代りて王となる 8ユダの王アザリヤの三十八年にヤラベアムの子ザカリア、サマリヤにおいてイスラエルの王となれりその間は六月 9彼その先祖等のなせしごとくヱホバの目の前に惡を爲し夫のイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの罪に離れざりき 10茲にヤベシの子シヤルム黨をむすびて之に敵し民の前にてこれを撃て弑しこれに代りて王となれり 11ザカリヤのその餘の行爲はイスラエルの王の歴代志の書に記さる 12ヱホバのヱヒウに告たまひし言は是なり云く汝の子孫は四代までイスラエルの位に坐せんと果して然り 13ヤベシの子シヤルムはユダの王ウジヤの三十九年に王となりサマリヤにおいて一月の間王たりき 14時にガデの子メナヘム、テルザより上りでサマリヤに來りヤベシの子シヤルムをサマリヤに撃てこれを殺し之にかはりて王となれり 15シヤルムのその餘の行爲とその徒黨をむすびし事はイスラエルの王の歴代志の書にしるさる 16その後メナヘム、テルザよりいたりてテフサとその中にあるところの者およびその四周の地を撃り即ちかれら己がために開くことをせざりしかばこれを撃てその中の孕婦をことごとく刳剔たり 17ユダの王アザリヤの三十九年にガデの子メナヘム、イスラエルの王となりサマリヤにおいて十年の間世を治めたり 18彼ヱホバの目の前に惡をなし彼のイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの罪に生涯離れざりき 19茲にアツスリヤの王ブルその地に攻きたりければメナヘム銀一千タラントをブルにあたへたり是は彼をして己を助けしめ是によりて國を己の手に堅く立しめんとてなりき 20即ちメナヘムその銀をイスラエルの諸の大富者に課しその人々に各々銀五十シケルを出さしめてこれをアツスリヤの王にあたへたり是をもてアツスリヤの王は歸りゆきて國に止ることをせざりき 21メナヘムのその餘の行爲とその凡てなしたる事はイスラエルの王の歴代志の書にしるさるるにあらずや 22メナヘムその先祖等とともに寝りその子ペカヒヤこれに代て王となれり 23メナヘムの子ペカヒヤはユダの王アザリヤの五十年にサマリヤにおいてイスラエルの王となり二年のあひだ位にありき 24彼ヱホバの目のまへに惡をなし彼のイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムの罪に離れざりき 25茲にその將官なるレマリヤの子ペカ黨をむすびて彼に敵しサマリヤにおいて王の家の奥の室にこれを撃ころしアルゴブとアリエをもこれとともに殺せり時にギレアデ人五十人ペカとともにありきペカすなはち彼をころしかれに代て王となれり 26ベカヒヤのその餘の行爲とその凡て爲たる事はイスラエルの王の歴代志の書にしるさる 27レマリヤの子ペカはユダの王アザリヤの五十二年にサマリヤに於てイスラエルの王となり二十年位にありき 28彼ヱホバの目の前に惡をなし彼のイスラエルに罪ををかさせたるネバテの子ヤラベアムの罪にはなれざりき 29イスラエルの王ペカの代にアツスリヤの王テグラテビレセル來りてイヨン、アベルベテマアカ、ヤノア、ケデシ、ハゾルおよびギレアデならびにナフタリの全地ガリラヤを取りその人々をアツスリヤに擄へうつせり 30茲にエラの子ホセア黨をむすびてレマリヤの子ペカに敵しこれを撃て殺しこれに代て王となれり是はウジヤの子ヨタムの二十年にあたれり 31ペカのその餘の行爲とその凡てなしたる事はイスラエルの王の歴代志の書にしるさる 32レマリヤの子イスラエルの王ペカの二年にウジヤの子ユダの王ヨタム王となれり 33彼は王となれる時二十五歳なりしがヱルサレムにて十六年世を治めたり母はザドクの女にして名をヱルシヤといへり 34彼はヱホバの目にかなふ事をなし凡てその父ウジヤのなしたるごとくにおこなへり 35惟崇邱は除かずしてあり民なほその崇邱の上に犠牲をささげ香を焚り彼ヱホバの家の上の門を建たり 36ヨタムのその餘の行爲とその凡てなしたる事はユダの王の歴代志の書にしるさるるにあらずや 37當時ヱホバ、スリアの王レヂンとレマリヤの子ペカをユダにせめきたらせたまへり 38ヨタムそ

の先祖等とともに寝りてその父ダビデの邑にその先祖等とともに葬られその子アハズこれに代りて王となれり

第十六章

1レマリヤの子ペカの十七年にユダの王ヨタムの子アハズ王となれり 2アハズは王となれる時二十歳にしてエルサレムにおいて十六年世を治めたりしがその神ヱホバの善と見たまふ事をその父ダビデのごとくは行はざりき 3彼はイスラエルの王等の道にあゆみまたその子に火の中を通らしめたり是はヱホバがイスラエルの子孫の前より逐はらひたまひし異邦人のおこなふところの憎むべき事にしたがへるなり 4彼は崇 邱の上丘の上一切の青木の下に犠牲をささげ香をたけり 5この頃スリアの王レヂンおよびレマリヤの子なるイスラエルの王ペカ、エルサレムにせめのぼりてアハズを圍みけるが勝ことを得ざりき 6この時にあたりてスリアの王レヂン復エラテをスリアに歸せしめユダヤ人をエラテより逐いだせり而してスリア人エラテにきたりて其處に住み今日にいたる 7是においてアハズ使者をアツスリヤの王テグラテピレセルにつかはして言しめけるは我は汝の臣僕汝の子なりスリアの王とイスラエルの王と我に攻かかりをれば請ふ上りきたりてかれらの手より我を救ひいだしたまへと 8アハズすなはちヱホバの家と王の家の庫とにあるところの銀と金をとりこれを禮物としてアツスリヤの王におくりしかば 9アツスリヤの王かれの請を容たりアツスリヤの王すなはちダマスコに攻のぼりて之をとりその民をキルに擄うつしまたレヂンを殺せり 10かくてアハズはアツスリヤの王テグラテピレセルに會んとてダマスコにゆきけるがダマスコにおいて一箇の祭壇を見たればアスス王その祭壇の工作にしたがひて委くこれが圖と式樣を制へて祭司ウリヤにこれをおくれり 11是において祭司ウリヤはアハズ王がダマスコよりおくりたる所にてらして一箇の祭壇をつくりアハズ王がダマスコより來るまでにこれを作りおけり 12茲に王ダマスコより歸りてその祭壇を見壇にちかよりてこれに上り 13壇の上に燔祭と素祭を焚き灌祭をそそぎ酬恩祭の血を灑げり 14彼またヱホバの前なる銅の壇を家の前より移せり即ちこれをかの新しき壇とヱホバの家の間より移してかの壇の北の方に置たり 15而してアハズ王祭司ウリヤに命じて言ふ朝の燔祭夕の素祭および王の燔祭とその素祭ならびに國中の民の燔祭とその素祭および灌祭はこの大なる壇の上に焚べし又この上に燔祭の牲の血と犠牲の物の血をすべて灑ぐべし彼の銅の壇の事はなほ考ふるあらん 16祭司ウリヤすなはちアハズ王のすべて命じたるごとくに然なせり 17またアハズ王臺の邊を削りて洗盤をその上よりうつしまた海をその下なる銅の牛の上よりおろして石の座の上に置ゑ 18また家に造りたる安息日用の遊廊および王の外の入口をアツスリヤの王のためにヱホバの家の中に變じたり 19アハズのなしたるその餘の行爲はユダの王の歷代志の書にしるさるるにあらずや 20アハズその先祖等とともに寝りてダビデの邑にその先祖等とともに葬られその子ヒゼキヤこれにかはりて王となれり

第十七章

1ユダの王アハズの十二年にエラの子ホセア王となりサマリヤにおいて九年イスラエルを治めたり 2彼ヱホバの目の前に惡をなせしがその前にありしイスラエルの王等のごとくはあらざりき 3アッスリヤの王シヤルマネセル攻のぼりたればホセアこれに臣服して貢を納たりしが 4アッスリヤの王つひにホセアの己に叛けるを見たり其は彼使者をエジプトの王ソにおくり且前に歳々なせしごとくに貢をアッスリヤ王に納ざりければなり是においてアツスリヤの王かれを禁錮て獄におけり 5すなはちアッスリヤの王せめ上りて國中を遍くゆきめぐりサマリヤにのぼりゆきて三年が間これをせめ圍みたりしが 6ホセアの九年におよびてアッスリヤの王つひにサマリヤを取りイスラエルをアッスリヤに擄へゆきてこれをハラとハボルとゴザン河の邊とメデアの邑々とにおきぬ 7此事ありしはイスラエルの子孫己をエジプトの地より導きのぼりてエジプトの王パロの手を脱しめたるその神ヱホバに對て罪を犯し他の神々を敬ひ 8ヱホバがイスラエルの子孫の前より逐はらひたまひし異邦人の法度にあゆみ又イスラエルの王等の設けし法度にあゆみたるに因てなり 9イスラエルの子孫義からぬ事をもてその神ヱホバを掩ひかくしその邑々に崇 邱をたてたり看守臺より城にいたるまで然り 10彼等一切の高丘の上一切の青樹の下に偶像とアシラ像を立て 11ヱホバがかれらの前より移したまひし異邦人のなせしごとくにその崇 邱に香を焚き又惡を行ひてヱホバを怒らせたり 12ヱホバかれらに汝等これらの事を爲べからずと言おきたまひしに彼等偶像に事ふるこ

とを爲しなり 13ヱホバ諸の預言者諸の先見者によりてイスラエルとユダに見證をたて汝等翻へりて汝らの惡き道を離れわが誡命わが法度をまもり我が汝等の先祖等に命じまたわが僕なる預言者等によりて汝等に傳へし法に率由ふやうにせよと言たまへり 14然るに彼ら聽ことをせずしてその項を強くせり彼らの先祖等がその神ヱホバを信ぜずしてその項を強くしたるが如し 15彼等はヱホバの法度を棄てヱホバがその先祖等と結びたまひし契約を棄てまたその彼等に見證したまひし證言を棄て且虛妄物にしたがひて虛浮なりまたその周圍なる異邦人の跡をふめり是はヱホバが是のごとくに事をなすべからずと彼らに命じ給ひし者なり 16彼等その神ヱホバの諸の誡命を遺て己のために二の牛の像を鑄なし又アシラ像を造り天の衆群を拜み且バアルに事へ 17またその子息息女に火の中を通らしめ卜筮および禁厭をなしヱホバの目の前に惡を爲ことに身を委ねてその怒を惹起せり 18是をもてヱホバ大にイスラエルを怒りこれをその前より除きたまひたればユダの支派のほかは遺れる者なし 19然るにユダもまたその神ヱホバの誡命を守ずしてイスラエルの立たる法度にあゆみたれば 20ヱホバ、イスラエルの苗裔ぞことごとく棄これを苦しめこれをその掠むる者の手に付して遂にこれをその前より打すてたまへり 21すなはちイスラエルをダビデの家より裂はなしたまひしかばイスラエル、ネバテの子ヤラベアムを王となせしにヤラベアム、イスラエルをしてヱホバにしたがふことを止しめてこれに大なる罪を犯さしめたりしが 22イスラエルの子孫はヤラベアムのなせし諸の罪をおこなひつづけてこれに離るることなかりければ 23遂にヱホバその僕なる諸の預言者をもて言たまひしごとくにイスラエルをその前より除きたまへりイスラエルはすなはちその國よりアッスリヤにうつされて今日にいたる 24斯てアッスリヤの王バビロン、クタ、アワ、ハマテおよびセパルワイムより人をおくりてこれをイスラエルの子孫の代にサマリヤの邑々に置ければその人々サマリヤを有ちてその邑々に住しが 25その彼處に始て住る時には彼等ヱホバを敬ふことをせざりしかばヱホバ獅子をかれらの中に送りたまひてその獅子かれら若干を殺せり 26是によりてアッスリヤの王に告て言ふ汝が移てサマリヤの邑々におきたまひしかの國々の民はこの地の神の道を知ざるが故にその神獅子をかれらの中におくりて獅子かれらを殺せり是は彼等その國の神の道を知ざるに因てなり 27アッスリヤの王すなはち命を下して言ふ汝等が彼處より曳きたりし祭司一人を彼處に携ゆけ即ち彼をして彼處にいたりて住しめその國の神の道をその人々に教へしめよと 28是に於てサマリヤより移れし祭司一人きたりてベテルに住みヱホバの敬ふべき事をかれらに教へたり 29その民はまた各々自分自分の神々を造りてこれをかのサマリア人が造りたる諸の崇邱に安置せり民みなその住る邑々において然なしぬ 30即ちバビロンの人々はスコテペノテを作りクタの人々はネルガルを作りハマテの人々はアシマを作り 31アビ人はニブハズとタルタクを作りセパルワイ人は其子女を火に焚てセパルワイムの神アデランメルクおよびアナンメルクに奉げたり 32彼ら又ヱホバを敬ひ凡俗の民をもて崇邱の祭司となしたれば其人これがために崇邱に家々にて職務をなせり 33斯その人々ヱホバを敬ひたりしが亦その携へ出されし國々の風俗にしたがひて自己自己の神々に事へたり 34今日にいたるまで彼等は前の習俗にしたがひて事をなしヱホバを敬はず彼等の法度をも例典をも行はず又ヱホバがイスラエルを名けたまひしヤコブの子孫に命じたまひし律法をも誡命をも行はざるなり 35昔ヱホバこれと契約をたてこれに命じて言たまひけらく汝等は他の神を敬ふべからずまたこれを拜みこれに事へこれに犧牲をささぐべからず 36只大なる能をもて腕を伸て汝等をエジプトの地より導き上りしヱホバをのみ汝等敬ひこれを拜みこれにこれに犧牲をささぐべし 37またその汝等のために録したまへる法度と例典と律法と誡命を汝等謹みて恒に守るべし他の神々を敬ふべからず 38我が汝等とむすびし契約を汝等忘るべからず又他の神々を敬ふべからず 39只汝らの神ヱホバを敬ふべし彼なんじらをその諸の敵の手より救ひいださん 40然るに彼等は聽ことをせずしてなほ前の習俗にしたがひて事を行へり 41偖この國々の民は斯ヱホバを敬ひまたその雕める像に事たりしがその子も孫も共に然りその先祖のなせしごとくに今日までも然なすなり

第十八章

1イスラエルの王エラの子ホセアの三年にユダの王アハズの子ヒゼキア王となれり 2彼は王となれる時二十五歳にしてエルサレムにて二十九年世ををさめたりその母はザカリヤの女にして名をアビといへり 3ヒゼキヤはその父

ダビデの凡てなせしごとくヱホバの善と見たまふ事をなし 4崇 邱を除き偶像を毀ちアシラ像を斫たふしモーセの造りし銅 の蛇を打砕けりこの時までイスラエルの子孫その蛇にむかひて香を焚たればなり人々これをネホシタン(銅物)と稱なせり 5ヒゼキヤはイスラエルの神ヱホバを頼り是をもて彼の後にも彼の先にもユダの 諸 の王等の中に彼に如ものなかりき 6即ち彼は固くヱホバに身をよせてこれに從ふことをやめずヱホバがモーセに命じたまひしその誡命を守れり 7ヱホバ彼とともに在したれば彼はその往ところにて凡て利達を得たり彼はアッスリヤの王に叛きてこれに事へざりき 8彼ペリシテ人を撃敗りてガザにいたりその境に達し看守臺より城にまで及べり 9ヒゼキヤ王の四年すなはちイスラエルの王エラの子ホセアの七年にアッスリヤの王シヤルマネセル、サマリヤに攻のぼりてこれを圍みけるが 10三年の後つひに之を取りサマリヤの取れしはヒゼキヤの六年にしてイスラエルの王ホセアの九年にあたる 11アッスリヤの王イスラエルをアッスリヤに擄へゆきてこれをハラとゴザン河の邊とメデアの邑々におきぬ 12是は彼等その神ヱホバの言に 遵 はずその契約を破りヱホバの僕モーセが凡て命じたる事をやぶりこれを聽ことも行ふこともせざるによりてなり 13ヒゼキヤ王の十四年にアッスリヤの王セナケリブ攻のぼりてユダの 諸 の堅き邑を取ければ 14ユダの王ヒゼキヤ人をラキシにつかはしてアッスリヤの王にいたらしめて言ふ我 過てり我を離れて歸りたまへ汝が我に蒙らしむる者は我これを爲べしとアッスリヤの王すなはち銀三 百タラント金三十タラントをユダの王ヒゼキヤに課したり 15是においてヒゼキヤ、ヱホバの家と王の家の庫とにあるところの銀をことごとく彼に與へたり 16此時ユダの王ヒゼキヤまた己が金を著たりしヱホバの宮の戸および 柱 を剥てこれをアッスリヤの王に與へたり 17アッスリヤの王またタルタン、ラブサリスおよびラブシヤケをしてラキシより大軍をひきゐてエルサレムにむかひてヒゼキヤ王の所にいたらしめたればすなはち上りてエルサレムにきたれり彼等 則ち上り來り漂布場の大路に沿るよの池塘の水道の邊にいたりて立り 18而して彼等王を呼たればヒルキヤの子なる宮内 卿エリアキム書記 官セブナおよびアサフの子なる史官ヨア出きたりて彼等に詣りけるに 19ラブシヤケこれに言けるは汝等ヒゼキヤに言べし大王アッスリヤの王かく言たまふ此 汝が頼むところの者は何ぞや 20汝 戰爭をなすの謀 計と勇力とを言も只これ口の先の言語たるのみ誰を恃みて我に叛くことをせしや 21視よ汝 は折かかれる葦の杖なるエジプトを頼む其は人の其に倚るあればすなはちその手を刺とほすなりエジプトの王パロは凡てこれを頼む者に斯あるなり 22汝等あるひは我はわれらの神ヱホバを頼むと我に言ん彼はヒゼキヤがその崇 邱と祭壇とを除きたる者にあらずやまた彼はユダとエルサレムに告て汝等はエルサレムに於てこの壇の前に祷拝をなすべしと言しにあらずや 23然ば請ふわが主君アッスリヤの王に約をなせ汝もし人を乘しむることを得ば我馬二千匹を汝にあたへん 24汝いかにしてか吾主君の諸臣の中の最も微き一 將だにも退くることを得ん汝なんぞエジプトを頼みて兵車と騎兵をこれに仰がんとするや 25また我とても今ヱホバの旨によらずして比 處を滅しに上れるならんやヱホバ我に此 處に攻のぼりてこれを滅せと言たり 26時にヒルキヤの子エリアキムおよびセブナとヨア、ラダシヤケにいひけるは請ふスリアの語をもて僕等に語りたまへ我儕これを識なり石垣の上にをる民の聞るところにてユダヤ語をもて我儕に言談たまふなかれ 27ラブシヤケかれらに言ふわが君唯我を汝の主と汝とにつかはして此 言をのべしめたまふならんや亦石垣の上に坐する人々にも我を遣して彼等をして汝等とともに自己の便溺を食ひ且飲にいたらしめんとしたまふにあらずやと 28而してラブシヤケ起あがりユダヤ語をもて大聲に呼はり言をいだして曰けるは汝等大王アッスリヤの王の言を聽け 29王かく言たまふ汝等ヒゼキヤに欺かるるなかれ彼は汝等をわが手より救ひいだすことをえざるなり 30ヒゼキヤがヱホバかならず我らを救ひたまはん此邑はアッスリヤの王の手に陥らじと言て汝らにヱホバを頼ましめんとするとも 31汝等ヒゼキヤの言を聽なかれアッスリヤの王かく言たまふ汝等約をなして我に降れ而して各人おのれの葡萄の樹の果を食ひ各人おのれの無花果樹の果をくらひ各人おのれの井水を飲めよ 32我來りて汝等を一の國に携ゆかん其は汝儕の國のごとき國穀と酒のある地パンと葡萄園のある地 油の出る橄欖と蜜とのある地なり汝等は生ることを得ん死ることあらじヒゼキヤ、ヱホバ我儕を救ひたまはんと言て汝らを勸るともこれを聽なかれ 33國々の神の中 執かその國をアッスリヤの王の手より救ひたりしや 34ハマテおよびアルパデの神々は何處にあるセパルワイム、ヘナおよびアワの神々は何處にあるやサマ

リヤをわが手より救ひ出せし神々あるや 35國々の神の中にその國をわが手より救ひいだせし者ありしや然ばヱホバいかでかエルサレムをわが手より救ひいだすことを得んと 36然ども民は默して一言もこれに應へざりき其は王命じてこれに應ふるなかれと言おきたればなり 37かくてヒルキヤの子なる宮内卿エリアキム書記官セブナおよびアサの子なる史官ヨアその衣をさきてヒゼキヤの許にいたりラブシヤケの言をこれに告たり

第十九章

1ヒゼキヤ王これを聞てその衣を裂き麻布を身にまとひてヱホバの家に入り 2宮内卿エリアキムと書記官セブナと祭司の中の長老等とに麻布を衣せてこれをアモツの子預言者イザヤに遣せり 3彼等イザヤに言けるはヒゼキヤかく言ふ今日は艱難の日懲罰の日打棄らるる日なり嬰孩すでに產門にいたりて之を產いだす力なき也 4ラブシヤケその主君なるアッスリヤの王に差遣れて來り活る神を謗る汝の神ヱホバあるひは彼の言を聞たまはん而して汝の神ヱホバその聞る言語を責罰たまふこともあらん然ば汝 この遺る者の爲に祈祷をたてまつれと 5ヒゼキヤ王の僕 等すなはちイザヤの許にいたりければ 6イザヤかれらに言けるは汝等の主君にかく言べしヱホバかく言たまふアッスリヤの王の臣僕等が我を謗るところの言を汝 聞て懼るるなかれ 7我かれの氣をうつして風聲を聞て己の國にかへるにいたらしめん我また彼をして自己の國に於て劍 に斃れしむべしと 8偖またラブシヤケは歸りゆきてアッスリヤの王がリブナに戰爭をなしをるところに至れり其は彼そのラキシを離れしを聞たればなり 9茲にアッスリヤの王はエテオピアの王テルハカ汝に攻きたると言ふを聞てまた使者をヒゼキヤにつかはして言しむ 10汝等ユダの王ヒゼキヤに告て言べし汝エルサレムはアッスリヤの王の手に陷らじと言て汝が賴むところの神に欺かるるなかれ 11汝はアッスリヤの王等が萬の國々になしたるところの事を知る即ちこれを滅しつくせしなり然ば汝いかで救らんや 12吾父等はゴザン、ハラン、レゼフおよびテラサルのエデンの人々等を滅ぼせしがその國々の神これを救ひたりしや 13ハマテの王アルバデの王セバルワイムの邑およびヘナとアワの王等は何處にあるや 14ヒゼキヤ使者の手より書を受てこれを讀みヱホバの家にのぼりゆきてヱホバの前にこれを展開げ 15而してヒゼキヤ、ヱホバの前に祈りて言けるはケルビムの間にいますイスラエルの神ヱホバよ世の國々の中において只 汝のみ神にいます也 汝は天地を造りたまひし者にいます 16ヱホバよ耳を傾けて聞たまへヱホバよ目を開きて見たまへセナケリブが活る神を謗りにおくれる言語を聞たまへ 17ヱホバよ 誠にアッスリヤの王等は 諸の民とその國々を滅し 18又その神々を火になげいれたり其等は神にあらず人の手の作れる者にして木石たればこれを滅せしなり 19今われらの神ヱホバよ願くは我らをかれの手より拯ひいだしたまへ 然ば世の國々皆 汝ヱホバのみ神にいますことを知にいたらん 20茲にアモツの子イザヤ、ヒゼキヤに言つかはしけるはイスラエルの神ヱホバかく言たまふ汝がセナケリブの事につきて我に祈るところの事は我これを聽り 21ヱホバが彼の事につきて言ふところの言語は是のごとし云く處女なる女子シオンは汝を藐視じ汝を嘲る女子エルサレムは汝にむかひて頭を搖る 22汝 誰を謗りかつ罵詈しや 汝 誰にむかひて聲をあげしや汝はイスラエルの聖 者にむかひて汝の目を高く擧たるなり 23汝 使者をもて主を謗 て言ふ我夥多き兵 車をひきゐて山々の 嶺 にのぼりレバノンの奥にいたり長高き香柏と美しき松 樹を斫たふす我その境の休息 所にいたりその園の林にいたる 24我は外國の地をほりて水を飲む我は足の跖をもてエジプトの河々をことごとくふみ涸すなり 25汝 聞ずや昔われ之を作し古時よりわれ之を定めたり今われ之をおこなふ即ち堅き邑々は汝のために坵墟となるなり 26是をもてそれらの中にすむ民は力 弱かり懼れかつ驚くなり彼等は野の草のごとく青菜のごとく屋蓋の草のごとく枯る苗のごとし 27汝 の止ると汝の出ると汝の入と汝の我にむかひて怒くるふとは我の知ところなり 28汝の怒くるふ事と汝の傲慢ところの事上りてわが耳にいりたれば我圈を汝の鼻につけ轡 を汝の 唇 にほどこして汝を元來し道へひきかへすべし 29是は汝にあたふる徵なり即ち一年は 穭 を食ひ第二年には又その 穭 を食ふあらん第三年には汝ら稼ことをし穡ことをし又葡萄園をつくりてその果を食ふべし 30ユダの家の逃れて遺れる者は復根を下に張り實を上に結ばん 31即ち殘餘者エルサレムより出で逃避たる者シオン山より出きたらんヱホバの熱心これを爲べし 32故にヱホバ、アッスリヤの王の事をかく言たまふ彼は此邑に入じ亦これに矢を發つことあらず楯を之にむかひて竪ることあらず亦壘をきづきてこれを攻ることあらじ 33彼はそ

の來し路より歸らん此邑にいることあらじヱホバこれを言ふ 34我わが身のため又わが僕ダビデのためにこの邑を守りてこれを救ふべし 35その夜ヱホバの使者いでてアッスリヤ人の陣營の者十八萬五千人を擊ころせり朝早く起いでて見るに皆死て屍となりをる 36アッスリヤの王セナケリブすなはち起いで歸りゆきてニネベに居しが 37その神ニスロクの家にありて禮拜をなしをる時にその子アデランメレクとシヤレゼル劍をもてこれを殺せり而して彼等はアララテの池に逃ゆけり是においてその子エサルハドンこれに代りて王となれり

第二十章

1當時ヒゼキヤ病て死なんとせしことありアモツの子預言者イザヤ彼の許にいたりて之にいひけるはヱホバかく言たまふ汝 家の人に遺命をなせ汝は死ん生ることを得じと 2是においてヒゼキヤその面を壁にむけてヱホバに祈り 3嗚呼ヱホバよ願くは我が眞實と一心をもて汝の前にあゆみ汝の目に適ふことを行ひしを記憶たまへと言て痛く泣り 4かくてイザヤ未だ中の邑を出はなれざる間にヱホバの言これに臨みて言ふ 5汝 還りてわが民の君ヒゼキヤに告よ汝の父ダビデの神ヱホバかく言ふ我 汝の祈祷を聽り汝の涙を看たり然ば汝を愈すべし第三日には汝ヱホバの家に入ん 6我 汝の齡を十五年増べし我 汝とこの邑とをアッスリヤの王の手より救ひ我名のため又わが僕ダビデのためにこの邑を守らんと 7是に於てイザヤ乾無花果の団塊一箇を持きたれと言ければすなはち之を持きたりてその腫物に貼たればヒゼキヤ愈ぬ 8ヒゼキヤ、イザヤに言けるはヱホバが我を愈したまふ事と第三日に我がヱホバの家にのぼりゆく事とにつきては何の徴あるや 9イザヤ言けるはヱホバがその言しところを爲たまはん事につきては汝ヱホバよりこの徴を得ん日影進めること十度なり若日影十度 退かば如何 10ヒゼキヤ答へけるは日影の十度進むは易き事なり然せざれ日影を十度しりぞかしめよ 11是において預言者イザヤ、ヱホバに籲はりければアハスの日晷の上に進みし日影を十度しりぞかしめたまへり 12その頃バラダンの子なるバビロンの王メロダクバラダン書および禮物をヒゼキヤにおくれり是はヒゼキヤの疾をるを聞たればなり 13ヒゼキヤこれがために喜びその寶物の庫金銀香物 貴き膏および武器庫ならびにその府庫にあるところの一切の物を之に見せたりその家にある物もその國の中にある物も何一箇としてヒゼキヤが彼等に見せざる者はなかりき 14茲に預言者イザヤ、ヒゼキヤ王のもとに來りてこれに言けるは夫の人々は何を言しや何處より來りしやヒゼキヤ言けるは彼等は遠き國より即ちバビロンより來れり 15イザヤ言ふ彼等は汝の家にて何を見しやヒゼキヤ答へて云ふ吾家にある物は皆かれら之を見たり我庫の中には我がかれに見せざる者なきなり 16イザヤすなはちヒゼキヤに言けるは汝ヱホバの言を聞け 17ヱホバ言たまふ視よ日いたる凡て汝の家にある物および汝の先祖等が今日までに積蓄へたる物はバビロンに携ゆかれん遺る者なかるべし 18汝の身より出る汝の生んところの子等の中を彼等 携へ去ん其等はバビロンの王の殿において官吏となるべし 19ヒゼキヤ、イザヤに言ふ汝が語れるヱホバの言は善し又いふ若わが世にある間に大平と眞實とあらば善にあらずや 20ヒゼキヤのその餘の行爲その能およびその池塘と水道を作りて水を邑にひきし事はユダの王の歴代志の書にしるさるるにあらずや 21ヒゼキヤその先祖等とともに寢りてその子マナセこれに代りて王となれり

第二十一章

1マナセ十二歳にして王となり五十五年の間エルサレムにて世を治めたりその母の名はヘフジバといふ 2マナセはヱホバの目の前に惡をなしヱホバがイスラエルの子孫の前より逐はらひたまひし國々の人がなすところの憎むべき事に傚へり 3彼はその父ヒゼキヤが毀たる崇 邱を改め築き又イスラエルの王アハブのなせしごとくバアルのために祭壇を築きアシラ像を作り天の衆群を拝みてこれに事へ 4またヱホバの家の中に數箇の祭壇を築けり是はヱホバがこれをさして我わが名をエルサレムにおかんと言たまひし家なり 5彼ヱホバの家の二の庭に祭壇を築き 6またその子に火の中を通らしめ卜占をなし魔術をおこなひ口寄者と卜筮師を取もちひヱホバの目の前に衆多の惡を爲てその震怒を惹おこせり 7彼はその作りしアシラの銅像を殿にたてたりヱホバこの殿につきてダビデとその子ソロモンに言たまひしことあり云く我この家と我がイスラエルの諸の支派の中より選みたるエルサレムとに吾名を永久におかん 8彼等もし我が凡てこれに命ぜし事わが僕モーセがこれに命ぜし一切の律法を謹みて行はば我これが足をしてわがその先祖等に與へし地より重てさま

よひ出ることなからしむべしと 9然るに彼等は聽ことをせざりきマナセが人々を誘ひて惡をなせしことはヱホバがイスラエルの子孫の前に滅したまひし國々の人よりも甚だしかりき 10是においてヱホバその僕なる預言者等をもて語て言給はく 11ユダの王マナセこれらの憎むべき事を行ひその前にありしアモリ人の凡て爲しところにも踰たる惡をなし亦ユダをしてその偶像をもて罪を犯させたれば 12イスラエルの神ヱホバかく言ふ視よ我ヱルサレムとユダに災害をくだす是を聞く者はその耳ふたつながら鳴ん 13我サマリヤを量りし繩とアハブの家にもちひし準繩をヱルサレムにほどこし人が皿を拭ひこれを拭ひて反覆がごとくにヱルサレムを拭ひさらん 14我わが產業の民の殘餘を棄てこれをその敵の手に付さん彼等はその諸の敵の擄掠にあひ掠奪にあふべし 15是は彼等その先祖等がエジプトより出し日より今日にいたるまで吾目の前に惡をおこなひて我を怒らするが故なり 16マナセはヱホバの目の前に惡をおこなひてユダに罪を犯させたる上にまた無辜者の血を多く流してヱルサレムのこの極よりかの極にまで盈せり 17マナセのその餘の行爲とその凡て爲たる事およびその犯したる罪はユダの王の歷代志の書にしるさるるにあらすや 18マナセその先祖等とともに寢りてその家の園すなはちウザの園に葬られその子アモンこれに代りて王となれり 19アモンは王となれる時二十二歲にしてヱルサレムにおいて二年世を治めたりその母はヨテバのハルツの女にしてその名をメシユレメテと云ふ 20アモンはその父マナセのなせしごとくヱホバの目の前に惡をなせり 21すなはち彼は凡てその父のあゆみし道にあゆみその父の事へし偶像に事へてこれを拜み 22その先祖等の神ヱホバを棄てヱホバの道にあゆまざりき 23茲にアモンの臣僕等黨をむすびて王をその家に弑したりしが 24國の民そのアモン王に敵して黨をむすびし者をことごとく擊ころせり而して國の民アモンの子ヨシアを王となしてそれに代らしむ 25アモンのなしたるその餘の行爲はユダの王の歷代志の書にしるさるるにあらずや 26アモンはウザの園にてその墓に葬られその子ヨシアこれに代りて王となれり

第二十二章

1ヨシアは八歲にして王となりヱルサレムにおいて三十一年世を治めたり其母はボヅカテのアダヤの女にして名をヱデダと曰ふ 2ヨシアはヱホバの目に適ふ事をなしその父ダビデの道にあゆみて右にも左にも轉らざりき 3ヨシア王の十八年に王メシユラムの子アザリヤの子なる書記官シヤパンをヱホバの家に遣せり即ちこれに言けらく 4汝 祭司の長ヒルキヤの許にのぼり行てヱホバの家にいりし銀すなはち門守が民よりあつめし者を彼に計算しめ 5工事を司どるヱホバの家の監督者の手にこれを付さしめ而してまた彼らをしてヱホの家にありて工事をなすところの者にこれを付さしめ殿の破壞を修理はしめよ 6即ち工匠と建築者と石工にこれを付さしめ又これをもて殿を修理ふ材木と斫石を買しむべし 7但し彼らは誠實に事をなせば彼らの手にわたすところの銀の計算をかれらとするには及ばざるなり 8時に祭司の長ヒルキヤ書記官シヤパンに言けるは我ヱホバの家において律法の書を見いだせりとヒルキヤすなはちその書をシヤパンにわたしたれば彼これを讀り 9かくて書記官シヤパン王の許にいたり王に返事まうして言ふ僕等殿にありし金を打あけてこれを工事を司どるヱホバの家の監督者の手に付せりと 10書記官シヤパンまた王につげて祭司ヒルキヤ我に一書をわたせりと言ひシヤパン其を王の前に讀けるに 11王その律法の書の言を聞やその衣を裂り 12而して王祭司ヒルキヤとシヤパンの子アヒカムとミカヤの子アクボルと書記官シヤパンと王の內臣アサヤとに命じて言ふ 13汝等往てこの見當し書の言につきて我のため民のためユダ全國のためにヱホバに問へ其は我儕の先祖等はこの書の言に聽したがひてその凡て我儕のために記されたるところを行ふことをせざりしに因てヱホバの我儕にむかひて怒を發したまふこと甚だしかるべければなり 14是において祭司ヒルキヤ、アヒカム、アクボル、シヤパンおよびアサヤ等シヤルムの妻なる女預言者ホルダの許にいたれりシヤルムはハルハスの子なるテクワの子にして衣裳の室を守る者なり時にホルダはヱルサレムの下邑に住をる彼等すなはちホルダに物語せしかば 15ホルダかれらに言けるはイスラエルの神ヱホバかく言たまふ汝等を我につかはせる人に告よ 16ヱホバかく言ふ我ユダの王が讀たるかの書の一切の言にしたがひて災害をこの處と此にすめる民に降さんとす 17彼等はわれを棄て他の神に香を焚きその手に作れる諸の物をもて我を怒らするなり是故に我この處にむかひて怒の火を發す是は滅ざるべし 18但し汝等をつかはして我に問しむるユダの王には汝等かく言

べし汝が聞る言につきてイスラエルの神ヱホバかく言たまふ 19汝はわが此 處と此にすめる民にむかひて是は荒地となり呪詛とならんと言しを聞たる時に心 柔 にしてヱホバの前に身を卑し衣を裂て吾前に泣たれば我もまた聽ことをなすなりヱホバこれを言ふ 20然ば視よ我なんぢを汝 の先祖等に歸せしめん汝は安全に墓に歸することをうべし汝はわが此 處にくだす 諸 の災害を目に見ることあらじと彼等すなはち王に返 事まうしぬ

第二十三章

1是において王人をつかはしてユダとヱルサレムの長老をことごとく集め 2而して王ヱホバの家にのぼれりユダの諸 の人々ヱルサレムの一切の民および祭司預言者ならびに大小の民みな之にしたがふ王すなはちヱホバの家に見あたりし契約の書の言をことごとくかれらの耳に讀きかせ 3而して王高座の上に立てヱホバの前に契約をなしヱホバにしたがひて歩み心をつくし精神をつくしてその誡命と律法と法度を守り此書にしるされたる此契約の 言をおこなはんと言り民みなその契約に加はりぬ 4かくして王祭司の長ヒルキヤとその下にたつところの祭司等および門守等に命じてヱホバの家よりしてバアルとアシラと天の衆群との爲に作りたる 諸 の器と執いださしめヱルサレムの外にてキデロンの野にこれを燒きその灰をベテルに持ゆかしめ 5又ユダの王等が立てダの邑々とヱルサレムの四圍なる崇 邱に香をたかしめたる祭司等を廢しまたバアルと日月星 宿と天の衆群とに香を焚く者等をも廢せり 6彼またヱホバの家よりアシラ像をとりいだしヱルサレムの外に持ゆきてキデロン川にいたりキデロン川においてこれを燒きこれを打碎きて粉となしその粉を民の墓に散し 7またヱホバの家の 旁 にある男 娼の家を毀てり其處はまた婦人がアシラのために天幕を織ところなりき 8彼またユダの邑々より祭司をことごとく召よせまた祭司が香をたきたる崇 邱をばゲバよりベエルシバまでこれを汚しまた門にある崇 邱を毀てり是等の崇 邱は一は邑の宰ヨシユアの門の入口にあり一は邑の門にありて之に入る人の左にあたる 9崇 邱の祭司等はエルサレムにおいてヱホバの壇にのぼることをせざりき但し彼等はその兄弟の中にありて無酵パンを食へり 10王また人がその子息息女に火の中を通らしめて之をモロクにささぐることなからんためにベンヒンノムの谷にあるトペテを汚し 11またユダの王等が日のためにささげてヱホバの家の門における馬をうつせりこの馬はパルリムにある侍從ナタンメレクの室にをりしなり彼また日の車を皆火に焚り 12またユダの王等がアハズの桜の屋背につくりたる祭壇とマナセがヱホバの家の兩の庭につくりたる祭壇とは王これを毀ちこれを其處より取くづしてその碎片をキデロン川になげ捨たり 13またイスラエルの王ソロモンが昔シドン人の憎むべき者なるアシタロテとモアブ人の憎むべき者なるケモシとアンモンの子孫の憎むべき者なるモロクのためにヱルサレムの前において殲滅山の右に築きたる崇 邱も王これを汚し 14また 諸 の像をうち碎きアシラ像をきりたふし人の骨をもてその處 々に充せり 15またベテルにある壇かのイスラエルに罪を犯させたるネバテの子ヤラベアムが造りし崇 邱すなはちその壇もその崇 邱も彼これを毀ちその崇 邱を焚てこれを粉にうち碎きかつアシラ像を焚り 16茲にヨシア身をめぐらして山に墓のあるを見人をやりてその墓より骨をとりきたらしめ之をその壇の上に焚てそれを汚せり即ち神の人が宣たるヱホバの言のごとし昔 神の人この言語を宣しことありしなり 17ヨシアまた其處に見ゆる碑は何なるやと言しに邑の人々これに告て其は汝がベテルの壇にむかひて爲るこの事等をユダより來りて宣たる神の人の墓なりと言ければ 18すなはち其には手をつくるなかれ誰もその骨を移すなかれと言り是をもてその骨とサマリヤより來りし預言者の骨には手をつけざりき 19またイスラエルの王等がサマリヤの邑々に造りてヱホバを怒せし崇 邱の家もみな皆ヨシアこれを取のぞき凡てそのベテルになせしごとくに之に事をなせり 20彼また其處にある崇 邱の祭司等を壇の上にころし人の骨を壇の上に焚てヱルサレムに歸りぬ 21而して王一切の民に命じて言ふ汝らこの契約の書に記されたるごとくに汝らの神ヱホバに逾越の節を執 行ふべしと 22士 師のイスラエルを治めし日より已來もまたユダの王等とイスラエルの王等の代にも斯のごとき逾越の節を守りしことはなかりしが 23ヨシア王の十八年にいたりてヱルサレムにて斯逾 越 節をヱホバに守りしなり 24ヨシアまた祭司ヒルキヤがヱホバの家にて見いだせし書に記されたる律法の言を世におこなはんために口寄者と卜筮師とテラピムと偶像およびユダの地とヱルサレムに見ゆる 諸 の憎むべき者を取のぞけり 25ヨシアの如くに心を盡し精神を盡し力を盡してモーセの法に全くした

がひてヱホに歸向せし王はヨシアの先にはあらざりきまた彼の後にも彼のごとき者はなし 26斯有しかどもヱホバはユダにむかひて怒を發したるその大いなる燃たつ震怒を息ることをしたまはざりき是はマナセ諸の憤らしき事をもてヱホバを怒らせしによるなり 27ヱホバすなはち言たまはく我イスラエルを移せし如くにユダをもわが目の前より拂ひ移し我が選みし此エルサレムの邑と吾名をそこに置んといひしこの殿とを棄べしと 28ヨシアのその餘の行爲とその凡て爲たる事はユダの王の歷代志の書にしるさるるにあらずや 29ヨシアの代にエジプトの王パロネコ、アッスリヤの王と戰はんとてユフラテ河をさして上り來しがヨシア王これを防がんとて進みゆきければ彼これに出あひてメギドンにこれを殺せり 30その僕等すなはちこれが死骸を車にのせてメギドンよりヱルサレムに持ゆきこれをその墓に葬れり國の民ここに於てヨシアの子ヱホアハズを取りこれに膏をそそぎて王となしてその父にかはらしめたり 31ヱホアハズは王となれる時二十三歲にしてヱルサレムにて三月世を治めたりその母はリブナのエレミヤの女にして名をハムタルと云ふ 32ヱホアハズはその先祖等が凡てなしたるごとくにヱホバの目の前に惡をなせしが 33パロネコ彼をハマテの地のリブラに繫ぎおきてヱルサレムにおいて王となりをることを得ざらしめ且銀百タラント金一タラントの罰金を國に課したり 34而してパロネコはヨシアの子エリアキムをしてその父ヨシアにかはりて王とならしめ彼の名をヱホヤキムと改めヱホアハズを曳て去ぬヱホアハズはエジプトにいたりて其處に死り 35ヱホヤキムは金銀をパロにおくれり即ち彼國に課してパロの命のままに金を出さしめ國の民各人に割つけて金銀を征取りてこれをパロネコにおくれり 36ヱホヤキムは二十五歲にして王となりヱルサレムにおいて十一年世を治めたりその母はルマのペダヤの女にして名をゼブタと云ふ 37ヱホヤキムはその先祖等が凡てなしたるごとくにヱホバの目の前に惡をなせり

第二十四章

1ヱホヤキムの代にバビロンの王ネブカデネザル上り來りければヱホヤキムこれに臣服して三年をへたりしが遂にひるがへりて之に叛けり 2ヱホバ、カルデヤの軍兵スリアの軍兵モアブの軍兵アンモンの軍兵をしてヱホヤキムの所に攻きたらしめたまへり即ちユダを滅さんがためにこれをユダに遣はしたまふヱホバがその僕なる預言者等によりて言たまひし言語のごとし 3この事は全くヱホバの命によりてユダにのぞみし者にてユダをヱホバの目の前より拂ひ除かんがためなりき是はマナセがその凡てなす所において罪を犯したるにより 4また無辜人の血をながし無辜人の血をヱルサレムに充したるによりてなりヱホバはその罪を赦すことをなしたまはざりき 5ヱホヤキムのその餘の行爲とその凡て爲たる事はユダの王の歷代志の書にしるさるるにあらずや 6ヱホヤキムその先祖等とともに寢りその子ヱコニアこれに代りて王となれり 7却説またエジプトの王は重てその國より出きたらざりき其はバビロンの王エジプトの河よりユフラテ河まで凡てエジプトの王に屬する者を悉く取たればなり 8ヱコニアは王となれる時十八歲にしてヱルサレムにて三月世を治めたりその母はヱルサレムのエルナタンの女にして名をネホシタと云ふ 9ヱコニアはその父の凡てなしたるごとくにヱホバの目の前に惡をなせり 10その頃バビロンの王ネブカデネザルの臣ヱルサレムに攻のぼりて邑を圍めり 11即ちバビロンの王ネブカデネザル邑に攻來りてその臣にこれを攻惱さしめたれば 12ユダの王ヱコニアその母その臣その牧伯等およびその侍從等とともに出てバビロンの王に降れりバビロンの王すなはち彼を執ふ是はその代の八年にあたれり 13而して彼ヱホバの家の諸の寶物および王の家の寶物を其處より携へ去りイスラルの王ソロモンがヱホバの宮に造りたる諸の金の器を切はがせりヱホバの言たまひしごとし 14彼またヱルサレムの一切の民および一切の牧伯等と一切の大なる能力ある者ならびに工匠と鍛冶とを一萬人擄へゆけり遺れる者は國の民の賤き者のみなりき 15彼すなはちヱコニアをバビロンに擄へゆきまた王の母王の妻等および侍從と國の中の能力ある者をもエルサレムよりバビロンに擄へうつせり 16凡て能力ある者七千人工匠と鍛冶一千人ならびに強壯して善戰ふ者是等をバビロンの王擄へてバビロンにうつせり 17而してバビロンの王またヱコニアの父の兄弟マツタニヤを王となしてヱコニアに代へ其が名をゼデキヤと改めたり 18ゼデキヤは二十一歲にして王となりヱルサレムにて十一年世を治めたりその母はリブナのヱレミヤの女にして名をハムタルと曰ふ 19ゼデキヤはエホヤキムが凡てなしたるごとくにヱホバの目の前に惡をなせり 20ヱルサレムとユダに斯る事ありしはヱホバの震怒によ

る者にしてヱホバつひにその人々を自己の前よりはらひ棄たまへり偖またゼデキヤはバビロンの王に叛けり

第二十五章

1茲にゼデキヤの代の九年の十月 十日にバビロンの王ネブカデネザルその諸軍勢を率てヱルサレムに攻きたりこれにむかひて陣を張り周圍に雲梯を建てこれを攻たり 2かくこの邑攻かこまれてゼデキヤ王の十一年にまでおよびしが 3その四月 九日にいたりて城邑の中饑ること甚だしくなりその地の民食物を得ざりき 4是をもて城邑つひに打破られければ兵卒はみな王の園の邊なる二箇の石垣の間の途より夜の中に逃いで皆平地の途にしたがひておちゆけり時にカルデア人は城邑を圍みをる 5茲にカルデア人の軍勢王を追ゆきヱリコの平地にてこれに追つきけるにその軍勢みな彼を離れて散しかば 6カルデア人王を執へてこれをリブラにをるバビロンの王の許に曳ゆきてその罪をさだめ 7ゼデキヤの子等をゼデキヤの目の前に殺しゼデキヤの目を抉しこれを鋼索につなぎてバビロンにたづさへゆけり 8バビロンの王ネブカデネザルの代の十九年の五月 七日にバビロンの王の臣侍衛の長ネブザラダン、ヱルサレムにきたり 9ヱホバの室と王の室を燒き火をもてヱルサレムのすべての室と一切の大なる室を燒り 10また侍衛の長とともにありしカルデア人の軍勢ヱルサレムの四周の石垣を毀てり 11侍衛の長ネブザラダンすなはち邑に遺されし殘餘の民およびバビロンの王に降りし降人と群衆の殘餘者を擄へうつせり 12但し侍衛の長その地の或貧 者をのこして葡萄をつくる者となし農夫となせり 13カルデア人またヱホバの家の銅の柱と洗盤の臺と銅の海をくだきてその銅をバビロンに運び 14また鍋と火鏟と燈剪と匙および凡て役事に用ふる銅の器を取り 15侍衛の長また火盤と鉢など金銀にて作れる物を取り 16またソロモンがヱホバの室に造しところの二の柱と一の海と臺とを取り此もろもろの銅の重は量るべからず 17この柱は高さ十八キユビトにしてその上に銅の頂ありその頂の高は三キユビトその頂の四周に網子と石榴とありて皆銅なり他の柱とその網子もこれに同じ 18侍衛の長は祭司の長セラヤと第二の祭司ゼパニヤと三人の門守を執へ 19また兵卒を督どる一人の寺人と王の前にはべる者の中邑にて遇しところの者五人とその地の民を募る軍勢の長なる書記官と城邑の中にて遇しところの六十人の者を邑より擄へされり 20侍衛の長ネブザラダンこれらを執へてリブラにをるバビロンの王の許にいたりければ 21バビロンの王ハマテの地のリブラにてこれらを撃殺せりかくユダはおのれの地よりとらへ移されたり 22かくてバビロンの王ネブカデネザルは自己が遺してユダの地に止らしめし民の上にシヤパンの子なるアヒカムの子ゲダリヤをたててこれをその督者となせり 23茲に軍勢の長等およびこれに屬する人々みなバビロンの王がゲダリヤを督者となせしことを聞しかばすなはちネタニヤの子イシマエル、カレヤの子ヨナハン、ネトパ人タンホメテの子セラヤおよび或マアカ人の子ヤザニヤならびに彼らに屬する人々ミヅパにきたりてゲダリヤの許にいたれり 24ゲダリヤすなはち彼等とかれらに屬する人々に誓ひてこれに言けるは汝等カルデア人の僕となることを恐るるなかれこの地に住てバビロンの王につかへなば汝等幸福ならんと 25然るに七月に王の血統なるエリシヤマの子ネタニヤの子なるイシマエル十人の者とともに來りてゲダリヤを撃ころし又彼とともにミヅパにをりしユダヤ人とカルデア人を殺せり 26是において大小の民およびび軍勢の長等みな起てエジプトにおもむけり是はカルデヤ人をおそれたればなり 27ユダの王ヱホヤキムがとらへ移れたる後三十七年の十二月二十七日バビロンの王エビルメロダクその代の一年にユダの王ヱホヤキムを獄より出してその首をあげしめ 28善言をもて彼をなぐさめその位をバビロンにともに居るところの王等の位よりも高くし 29その獄の衣服を易しめたりヱホヤキムは一生のあひだつねに王の前に食をなせり 30かれ一生のあひだたえず日々の分を王よりたまはりてその食物となせり

歴代志略上

第一章

1アダム、セツ、エノス 2ケナン、マハラレル、ヤレド 3エノク、メトセラ、ラメク 4ノア、セム、ハム、ヤペテ 5ヤベテの子等はゴメル、マゴグ、マデア、ヤワン、トバル、メセク、テラス 6ゴメルの子等はアシケナズ、リパテ、トガルマ 7ヤワンの子等はエリシヤ、タルシシ、キツテム、ドダニム 8ハムの子等はクシ、ミツライム、プテ、カナン 9クシの子等はセバ、ハビラ、サブタ、ラアマ、サブテカ、ラアマの子等はセバとデダン 10クシ、ニムロデを生り彼はじめて世の權力ある者となれり 11ミツライムはルデ族アナミ族レハビ族ナフト族 12パテロス族カスル族カフトリ族を生りカスル族よりペリシテ族出たり 13カナンその冢子シドンおよびヘテを生み 14またヱブス族アモリ族ギルガシ族 15ヒビ族アルキ族セニ族 16アルワデ族ゼマリ族ハマテ族を生り 17セムの子等はエラム、アシユル、アルバクサデ、ルデ、アラム、ウズ、ホル、ゲテル、メセク 18アルバクサデ、シラを生みシラ、エベルを生り 19エベルに二人の子生れたりその一人の名をペレグ(分)と曰ふ其は彼の代に地の人散り分れたればなりその弟の名をヨクタンと曰ふ 20ヨクタンはアルモダデ、シヤレフ、ハザルマウテ、ヱラ 21ハドラム、ウザル、デクラ 22エバル、アビマエル、シバ 23オフル、ハビラおよびヨハブを生り是等はみなヨクタンの子なり 24セム、アルバクサデ、シラ 25エベル、ペレグ、リウ 26セルグ、ナホル、テラ 27アブラム是すなはちアブラハムなり 28アブラハムの子等はイサクおよびイシマエル 29彼らの子孫は左のごとしイシマエルの冢子はネバヨテ次はケダル、アデビエル、ミブサム 30ミシマ、ドマ、マツサ、ハダデ、テマ 31ヱトル、ネフシ、ケデマ、イシマエルの子孫は是の如し 32アブラハムの妾ケトラの生る子は左のごとし彼ジムラン、ヨクシヤン、メダン、ミデアン、イシバク、シユワを生りヨクシヤンの子等はシバおよびデダン 33ミデアンの子等はエバ、エペル、ヘノク、アビダ、エルダア是等はみなケトラの生る子なり 34アブラハム、イサクを生りイザクの子等はヱサウとイスラエル 35エサウの子等はエリバズ、リウエル、エウシ、ヤラム、コラ 36エリバズの子等はテマン、オマル、ゼビ、ガタム、ケナズ、テムナ、アマレク 37リウエルの子等はナハテ、ゼラ、シヤンマ、ミツザ 38セイの子等はロタン、シヨバル、ヂベオン、アナ、デシヨン、エゼル、デシヤン 39ロタンの子等はホリとホマム、ロタンの妹はテムナ 40シヨバルの子等はアルヤン、マナハテ、エバル、シピ、オナム、ヂベオンの子等はアヤとアナ 41アナの子等はデシヨン、デシヨンの子等はハムラム、エシバン、イテラン、ケラン、 42エゼルの子等はビルハン、ザワン、ヤカン、デシヤンの子等はウズおよびアラン 43イスラエルの子孫を治むる王いまだ有ざる前にエドムの地を治めたる王等は左のごとしベオルの子ベラその都城の名はデナバといふ 44ベラ薨てボズラのゼラの子ヨバブこれに代りて王となり 45ヨバブ薨てテマン人の地のホシヤムこれにかはりて王となり 46ホシヤム薨てベダデの子ハダデこれにかはりて王となれり彼モアブの野にてミデアン人を撃りその都城の名はアビテといふ 47ハダデ薨てマスレカのサムラこれに代りて王となり 48サムラ薨て河の旁なるレホボテのサウルこれに代りて王となり 49サウル薨てアクボルの子バアルハナンこれに代りて王となり 50バアルハナン薨てハダデこれにかはりて王となれりその都城の名はパイといふその妻はマテレデの女子にして名をメヘタベルといへりマテレデはメザハブの女なり 51ハダデも薨たり／エドムの諸侯は左のごとし、テムナ侯アルヤ侯ヱテテ侯 52アホリバマ侯エラ侯ピノン侯 53ケナズ侯テマン侯ミブザル侯 54マグデエル侯イラム侯エドムの諸侯は是のごとし

第二章

1イスラエルの子等は左のごとしルベン、シメオン、レビ、ユダ、イツサカル、ゼブルン 2ダン、ヨセフ、ベニヤミン、ナフタリ、ガド、アセル 3ユダの子等はエル、オナン、シラなり この三人はカナンの女バテシユアがユダによりて生たるなり ユダの長子エルはヱホバの前に惡き事をなしたれば之を殺したまへり 4ユダの媳タマルはユダによりてペレヅとゼラとを生りユダの子等は都合五人なりき 5ペレヅの子等はヘヅロンおよびハムル 6ゼラの

子等はジムリ、エタン、ヘマン、カルコル、ダラ都合五人 7カルミの子はアカル、アカルは詛はれし物につきて罪を犯してイスラエルを惱ませし者なり 8エタンの子はアザリヤ 9ヘヅロンに生れたる子等はヱラメル、ラム、ケルバイ 10ラム、アミナダブを生みアミナダブ、ナシヨンを生りナシヨンはユダの子孫の牧伯なり 11ナシヨン、サルマを生みサルマ、ボアズを生み 12ボアズ、オベデを生み、オベデ、ヱツサイを生り 13ヱツサイの生る者は長子はエリアブ その次はアミナダブ その三はシヤンマ 14その四はネタンエル その五はラダイ 15その六はオゼム その七はダビデ 16かれらの姉妹はゼルヤとアビガル、ゼルヤの產る子はアビシヤイ、ヨアブ、アサヘルあはせて三人 17アビガルはアマサを產り アサの父はイシマエル人ヱテルといふ者なり 18ヘヅロンの子カレブはその妻アズバによりまたヱリオテによりて子を擧けたりその產る子等は左のごとし ヱシル、シヨバブおよびアルドン 19アズバ死たればカレブまたエフラタを娶れり エフラタ、カレブによりてホルを產り 20ホル、ウリを生み ウリ、ベザレルを生り 21その後ヘヅロンはギレアデの父マキルの女の所にいれりその之を娶れる時は六十歳なりき彼ヘヅロンによりてセグブを產り 22セグブ、ヤイルを生りヤイルはギレアデの地に邑二十三を有り 23然るにゲシユルおよびアラム彼等よりヤイルの邑々およびケナテとその鄉里など都合六十の邑を取り是皆ギレアデの父マキルの子等なりき 24ヘヅロン、カレブエフテタに死て後ヘヅロンの妻アビヤその子アシユルを生りアシユルはテコアの父なり 25ヘヅロンの長子ヱラメルの子等は長子はラム 次はブナ、オレン、オゼム、アヒヤ 26ヱラメルはまた他の妻をもてりその名をアタラといふ彼はオナムの母なり 27ヱラメルの長子ラムの子等はマアツ、ヤミン、エケル 28オナムの子等はシヤンマイ、ヤダ、シヤンマイの子等はナダブおよびアビシユル 29アビシユルの妻の名はアビハイルといふ彼アバンおよびモリデを生り 30ナダブの子等はセレデおよびアツパイム、セレデは子なくして死り 31アツパイムの子はイシ、イシの子はセシヤン、セシヤンの子はアヘライ 32シヤンマイの兄弟ヤダの子はヱテルおよびヨナタン、ヱテルは子なくして死り 33ヨナタンの子等はペレテおよびザザ、ヱラメルの子孫は斯のごとし 34セシヤンは男子なくして惟女子ありしのみなるがセシヤンにヤルハと名くるエジプトの僕ありければ 35セシヤンその女をこの僕ヤルハに與へて妻となさしめたり彼ヤルハによりてアツタイを生り 36アツタイ、ナタンを生みナタン、ザバデを生み 37ザバデ、エフラルを生み エフラル、オベデを生み 38オベデ、ヱヒウを生み ヱヒウ、アザリヤを生み 39アザリヤ、ヘレヅを生み ヘレヅ、エレアサを生み 40エレアサ、シスマイを生み シスマイ、シヤルムを生み 41シヤルム、ヱカミヤを生み ヱカミヤ、エリシヤマを生り 42ヱラメルの兄弟カレブの子等はその長子をメシヤといふ是はジフの父なり ジフの子はマレシヤ、マレシヤはヘブロンの父なり 43ヘブロンの子等はコラ、タツプア、レケム、シマ 44シマはラハムを生り ラハムはヨルカムの父なり レケムはシヤンマイを生り 45シヤンマイの子はマオン、マオンはベテスルの父なり 46カレブの妾エパでハラン、モザおよびガゼズを產り ハランはガゼズを生り 47ヱダイの子等はレゲム、ヨタム、ゲシヤン、ペレテ、エバ、シヤフ 48カレブの妾マアカはシベルおよびテルハナを生み 49またマデマンナの父シヤフおよびマクベナとギベアの父シワを生り カレブの女子はアクサといふ 50カレブの子孫は左のごとしエフラタの長子ホルの子はキリアテヤリムの父シヨバル 51ベテレヘムの父サルマおよびベテカデルの父ハレフ 52キリアタヤリムの父シヨバルの子等はハロエにメヌコテ人の半 53またキリアテヤリムの宗族はイテリ族プヒ族シユマ族ミシラ族 是等よりザレア族およびエシタオル族出たり 54サルマの子孫はベテレヘム、ネトバ族アタロテベテヨアブ、マナハテ族の半およびゾリ族 55ならびにヤベヅに住る諸士の宗族すなはちテラテ族シメアテ族スカテ族是等はケニ人にしてレカブの家の先祖ハマテより出たる者なり

第三章

1ヘブロンにて生れたるダビデの子等は左のごとし長子はアムノンといひてヱズレル人アヒノアムより生れ其次はダニエルといひてカルメル人アビガルより生る 2その三はアブサロムといひてゲシユルの王タルマイの女マアカの生る子其四はアドニヤといひてハギテの生る子なり 3その五はシバテヤといひてアビタルより生れ其六はイテレアムといひて妻エグラより生る 4この六人ヘブロンにてかれに生れたりダビデ彼處にて王たりし事七年と六箇月またヱルサレムにて王たりし事三十三年 5ヱルサレムにて生れたるその子等は左のごとしシメア、シヨバ

ブ、ナタン、ソロモンこの四人はアンミエルの女バテシユアより生る 6またイブハル、エリシヤマ、エリペレテ 7ノガ、ネペグ、ヤピア 8エリシヤマ、エリアダ、エリペレテの九人 9是みなダビデの子なり此外にまた妾等の生る子等あり彼らの姉妹にタマルといふ者あり 10ソロモンの子はレハベアムその子はアビヤその子はアサその子はヨシヤパテ 11その子はヨラムその子はアハジアその子はヨアシ 12その子はアマジヤその子はアザリヤモの子はヨタム 13その子はアハズその子はヒゼキヤその子はマナセ 14その子はアモンその子はヨシア 15ヨシアの子等は長子はヨハナンその次はヱホヤキムその三はゼデキヤその四はシヤルム 16ヱホヤキムの子等はその子はヱコニアその子はゼデキヤ 17俘擄人ヱコニアの子等はその子シヤルテル 18マルキラム、ペダヤ、セナザル、ヱカミア、ホシヤマ、ネダビヤ 19ペダヤの子等はゼルバベルおよびシメイ、ゼルバベルの子等はメシユラムおよびハナニヤその姉妹にシロミテといふ者あり 20またハシユバ、オヘル、ベレキヤ、ハサデヤ、ユサブヘセデの五人あり 21ハナニヤの子等はベラテヤおよびヱサヤまたレバヤの子等アルナンの子等オバデヤの子等シカニヤの子等あり 22シカニヤの子はシマヤ、シマヤの子等はハツトシ、イガル、バリア、ネアリア、シヤパテの六人 23ネアリアの子等はエリヨエナイ、ヒゼキヤ、アズリカムの三人 24エリヨエナイの子等はホダヤ、エリアシブ、ペラヤ、アツクブ、ヨハナン、デラヤ、アナニの七人

第四章

1ユダの子等はペレヅ、ヘヅロン、カルミ、ホル、シヨバル 2シヨバルの子レアヤ、ヤハテを生みヤハテ、アホマイおよびラハデを生り是等はザレア人の宗族なり 3エタムの父の生る者は左のごとしヱズレル、イシマおよびイデバシその姉妹の名はハゼレルポニといふ 4ゲドルの父ペヌエル、ホシヤの父エゼル是等はベテレヘムの父エフラタの長子ホルの子等なり 5テコアの父アシユルは二人の妻を有り即ちヘラとナアラ 6ナアラ、アシユルによりてアホザム、ヘペル、テメニおよびアハシタリを産り是等はナアラの産る子なり 7ヘラの産る子はゼレテ、ヱゾアル、エテナン 8ハツコヅはアヌブおよびゾベバを産り ハルムの子アハルヘルの宗族も彼より出づ 9ヤベヅはその兄弟の中にて最も尊ばれたる者なりきその母我くるしみてこれを産たればといひてその名をヤベヅ(くるしみ)と名けたり 10ヤベヅ、イスラエルの神に顧はり我を祝福に祝福て我境を擴め御手をもて我を助け我をして災難に罹りてくるしむこと無らしめたまへと言り神その求むる所を允したまふ 11シユワの兄弟ケルブはメヒルを生りメヒルはエシトンの父なり 12エシトンはベテラパ、パセアおよびイルハナシの父テヒンナを生り是等はレカの人なり 13ケナズの子等はオテニエルおよびセラヤ、オテニエルの子はハタテ 14メオノタイはオフラを生みセラヤはヨアブを生りヨアブはカラシム(工匠)谷の人々の父なり彼處のものは工匠なればかくいふ 15ヱフンネの子カレブの子等はイル、エラおよびナアム、エラの子等およびケナズ 16ヱハレレルの子等はジフ、ジバ、テリア、アサレル 17エズラの子等はヱテル、メレデ、エペル、ヤロン、メレデの妻はミリアム、シヤンマイおよびイシバを産り イシバはエシテモアの父なり 18そのユダヤ人なる妻はゲドルの父ヱレデとシヨコの父ヘベルとザノアの父ヱクテエルを産り是等はメレデが娶りたるパロの女ビテヤの生る子なり 19ナハムの姉妹なるホデヤの妻の生める子等はガルミ人ケイラの父およびマアカ人エシテモアなり 20シモンの子等はアムノン、リンナ、ベネハナン、テロン、イシの子等はゾヘテおよびベネゾヘテ 21ユダの子シラの子等はレカの父エル、マレシヤの父ラダおよび織布者の家の宗族すなはちアシベアの家の者等 22ならびにモアブに主たりしヨキム、コゼバの人々ヨアシおよびサラフ等なり またヤシユブ、レハムといふ者ありその記録は古し 23是等の者は陶工にしてネタイムおよびゲデラに住み王の地に居りてその用をなせり 24シメオンの子等はネムエル、ヤミン、ヤリブ、ゼラ、シヤウル 25シヤウルの子はシヤルム その子はミブサムその子はミシマ 26ミシマの子はハムエル その子はザツクル その子はシメイ 27シメイには男子十六人女子六人ありしがその兄弟等には多の子あらざりきまたその宗族の者は凡てユダの子孫ほどには殖増ざりき 28彼らの住る處はベエルシバ、モラダ、ハザルシユアル 29ビルハ、エゼム、トラデ 30ベトエル、ホルマ、チクラグ 31ベテマルカボテ、ハザルスシム、ベテビリ、シヤライム是等の邑はダビデの世にたるまで彼等の有たりき 32その村郷はエタム、アイン、リンモン、トケン、アシヤンの五の邑なり 33またこの邑々の周圍に衆多の村ありてバアルにまでおよべり彼らの

住處は是のごとくにして彼ら各々系譜あり 34メシヨバブ、ヤムレク、アマジヤの子ヨシヤ 35ヨエル、アシエルの曾孫セラヤの孫ヨシビアの子ヱヒウ 36ヱリオエナイ、ヤコバ、ヱシヨハヤ、アサヤ、アデヱル、ヱシミエル、ベナヤ 37およびシピの子ジザ、シピはアロンの子 アロンはヱダヤの子 ヱダヤはシムリの子 シムリはシマヤの子なり 38此に名を擧げたる者等はその宗族の中の長たる者にしてその宗家は大に蔓延り 39彼等はその群のために牧場を求めんとてゲドルの西におもむき谷の東の方にいたり 40つひに膏腴なる善き牧場を見いだせしがその地は廣く靜穩にして安寧なりき其は昔より其處に住たりし者はハム人なればなり 41即ち上にその名を記したる者等ユダの王ヒゼキヤの代に往て彼らの幕屋を擊やぶり彼らと其處に居しメウニ人を盡く滅ぼし之に代りて其處に住て今日にいたる是はその群を牧べき牧場其處にありたればなり 42またシメオンの子孫の者五百人許イシの子等ペラテア、ネアリア、レバヤ、ウジエルを長としてセイル山に攻ゆき 43アマレキ人の逃れて遺れる者を擊ほろぼして今日まで其處に住り

第五章

1イスラエルの長子ルベンの子等は左のごとしルベンは長子なりしがその父の床を瀆ししによりてその長子の權はイスラエルの子ヨセフの子等に與へらる然れども系譜は長子の權にしたがひて記すべきに非ず 2そはユダその諸兄弟に勝る者となりて君たる者その中より出ればなり但し長子の權はヨセフに屬す 3即ちイスラエルの長子ルベンの子等はハノク、パル、ヘヅロン、カルミ 4ヨエルの子はシマヤ その子はゴグ その子はシメイ 5その子はミカ その子はレアヤ その子はバアル 6その子はベエラ このベエラはアッスリヤの王テルガテピルネセルに擄へられてゆけり彼はルベン人の中に牧伯たる者なりき 7彼の兄弟 等はその宗族に依りその歷代の系譜によれば左のごとし長ヱイエルおよびゼカリヤ 8ベラ等なりベラはアザズの子シマの孫ヨエルの曾孫なりかれアロエルに住みて地をネボ、バアルメオンにまでおよぼししが 9ギレアデの地にてその家畜殖増ければまた地を東の方ユフラテ河の此方なる荒野の極端にまでおよぼせり 10またサウルの時にハガリ人と戰爭してこれを打破りギレアデの東の全部なる彼らの幕屋に住たり 11ガドの子孫はこれと相對ひてバシヤンの地にすみて地をサルカにまで及ぼせり 12長はヨエル次はシヤパム、ヤアナイ、シヤパテ共にバシヤンに居り 13彼らの兄弟等はその宗家によればミカエル、メシユラム、シバ、ヨライ、ヤカン、ジア、ヘベル都合七人 14是等はホリの子アビハイルの子等なり ホリはヤロアの子ヤロアはギレアデの子ギレアデはミカエルの子ミカエはヱシサイの子ヱシサイはヤドの子ヤドはブズの子 15アヒはアブデルの子アブデルはグニの子グニは其宗家の長たり 16彼らはギレアデとバシヤンと其鄉里とシヤロンの諸郊地に住て地を其四方の境に及ぼせり 17是等はみなユダの王ヨタムの世とイスラエルの王ヤラベアムの世に系譜に載たるなり 18ルベンの子孫とガド人とマナセの半 支派には出て戰ふべき者四萬四千七百六十人あり皆勇士にして能く楯と矛とを執り善く弓を彎きかつ善戰ふ者なり 19彼等ハガリ人およびヱトル、ネフシ、ノダブ等と戰爭しけるが 20助力をかうむりて攻擊たればハガリ人および之と偕なりし者等みな彼らの手におちいれり是は彼ら陣中にて神を呼びこれを賴みしによりて神これを聽いれたまひしが故なり 21かくて彼らその家畜を奪ひとりしに駱駝五萬 羊二十五萬 驢馬二千あり人十萬ありき 22またころされて倒れたる者衆しその戰爭神に由るがゆゑなり而して彼らはこれが地に代りて住その擄移さるる時におよべり 23マナセの半 支派の人々はこの地に住み殖 蔓りてつひにバシヤンよりバアルヘルモン、セニルおよびヘルモン山まで地をおよぼせり 24その宗家の長は左のごとし即ちエペル、イシ、エリエル、アズリエル、ヱレミヤ、ホダヤ、ヤデエル是みなその宗家の長にして名ある大勇士なりき 25彼等その先祖等の神にむかひて罪を犯し曾て彼等の前に神の滅ぼしたまひし國の民等の神を慕ひてこれと姦淫したれば 26イスラエルの神アッスリヤの王ブルの心を振興しまたアッスリヤの王テグラテビレセルの心を振興したまへり彼つひにルベン人とガド人とマナセの半 支派とを擄へゆきこれをハウラとハボルとハラとゴザンの河の邊とに移せり彼等は今日まで其處にあり

第六章

1レビの子等はゲルシヨン、コハテ、メラリ 2コハテの子等はアムラム、イヅハル、ヘブロン、ウジエル 3アムラムの子等はアロン、モーセ、ミリアム、アロンの子等

はナダブ、アビウ、エレアザル、イタマル 4エレアザル、ピネハスを生み ピネハス、アビシユアを生み 5アビシユア、ブツキを生み ブツキ、ウジを生み 6ウジ、ゼラヒヤを生み ゼラヒヤ、メラヨテを生み 7メラヨテ、アマリヤを生み アマリヤ、アヒトブを生み 8アヒトブ、ザドクを生み ザドク、アヒマアズを生み 9アヒマアズ、アザリヤを生み アザリヤ、ヨハナンを生み 10ヨハナン、アザリヤを生り此アザリヤはエルサレムなるソロモンの建たる宮にて祭司の職をなせし者なり 11アザリヤ、アマリヤを生み アマリヤ、アヒトブを生み 12アヒトブ、ザドクを生み ザドク、シヤルムを生み 13シヤルム、ヒルキヤを生み ヒルキヤ、アザリヤを生み 14アザリヤ、セラヤを生み セラヤ、ヨザダクを生む 15ヨザダグはヱホバ、ネブカデネザルの手をもてユダおよびエルサレムの人を擄へうつしたまひし時に擄へられて往り 16レビの子等はゲルシヨン、コハテおよびメラリ 17ゲルシヨンの子等の名は左のごとしリブニおよびシメイ 18コハテの子等はアムラム、イヅハル、ヘブロン、ウジエル 19メラリの子等はマヘリおよびムシ、レビ人の宗族はその宗家によれば是のごとし 20ゲシヨンの子はリブニ その子はヤハテ その子はジンマ 21その子はヨア その子はイド その子はゼラ その子はヤテライ 22コハテの子はアミナダブ その子はコラ その子はアシル 23その子はエルカナ その子はエビアサフ その子はアシル 24その子はタハテ その子はウリエル その子はウジヤ その子はシヤウル 25エルカナの子等はアマサイおよびアヒモテ 26エルカナについてはエルカナの子はゾバイ その子はナハテ 27その子はエリアブ その子はヱロハム その子はエルカナ 28サムエルの子等は長子はヨエル次はアビヤ 29メラリの子はマヘリ その子はリブニ その子はシメイ その子はウザ 30その子はシメア その子はハギヤ その子はアサヤなり 31契約の櫃を安置せし後ダビデ左の人々を立てヱホバの家にて謳歌事を司どらせたり 32彼等は集 會の幕屋の住所の前にて謳歌事をおこなひ來りしがソロモン、エルサレムにヱホバの室を建るにおよびその次序に循ひてその職をつとめたり 33立て奉事をなせるものおよびその子等は左のごとしコハテの子等の中ヘマンは謳歌師長たり ヘマンはヨルの子 ヨエルはサムエルの子 34サムエルはエルカナの子 エルカナはヱロハムの子 ヱロハムはエリエルの子 エリエルはトアの子 35トアはゾフの子 ゾフはエルカナの子 エルカナはマハテの子 マハテはアマサイの子 36アマサイはヱルカナの子 エルカナはヨエルの子 ヨエルはアザリヤの子 アザリヤはゼパニヤの子 37ゼパニヤはタハテの子 タハテはアシルの子 アシルはエビアサフの子 エビアサフはコラの子 38コラはイヅハルの子 イヅハルはコハテの子 コハテはレビの子 レビはイスラエルの子なり 39ヘマンの兄弟アサフ、ヘマンの右に立り アサフはベレキヤの子 ベレキヤはシメアの子 40シメアはミカエルの子 ミカエルはバアセヤの子 バアセヤはマルキヤの子 41マルキヤはエテニの子 エテニはゼラの子 ゼラはアダヤの子 42アダヤはエタンの子 エタンはジンマの子 ジンマはシメイの子 43シメイはヤハテの子 ヤハテはゲルシヨンの子 ゲルシヨンはレビの子なり 44また彼らの兄弟なるメラリ人等その左に立り其中のエタンはキシの子なり キシはアブデの子 アブデはマルクの子 45マルクはハシヤビヤの子 ハシヤビヤはアマジヤの子 アマジヤはヒルキヤの子 46ヒルキヤはアムジの子 アムジはバニの子 バニはセメルの子 47セメルはマヘリの子 マヘリはムシの子 ムシはメラリの子 メラリはレビの子なり 48彼らの兄弟なるレビ人等は神の室の幕屋の諸の職に任ぜられたり 49アロンおよびその子等は燔祭の壇と香壇の上に物を献ぐることを司どりまた至聖所の諸の工をなし且イスラエルのために贖をなすことを司どれり凡て神の僕モーセの命じたるごとし 50アロンの子孫は左のごとし アロンの子はエレアザル その子はピネハス その子はアビシユア 51その子はブツキ その子はウジ その子はゼラヒヤ 52その子はメラヨテ その子はアマリヤ その子はアヒトブ 53その子はザドク その子はアヒマアズ 54アロンの子孫の住處は四方の境の内にありその閭里に循ひていはば左の如し先コハテ人の宗族が籤によりて得たるところは是なり 55すなはちユダの地の中よりはヘブロンとその周圍の郊地を得たり 56但しその邑の田野と村々はヱフンネの子カレブに歸せり 57すなはちアロンの子孫の得たる邑は逃遁邑なるヘブロン、リブナとその郊地 ヤツテルおよびエシテモアとそれらの郊地 58ホロンとその郊地 デビルとその郊地 59アシヤンとその郊地 ベテシメシとその郊地なり 60またベニヤミンの支派の中よりはゲバとその郊地 アレメテとその郊地 アナトテとその郊地を得たり 彼らの邑はその宗族の中に都合十三ありき 61またコハテの子孫の支派の中此他なる者はかの半 支派の中 即ちマナセの半 支派の中より籤

によりて十の邑を得たり 62またゲルシヨンの子孫の宗族はイツサカルの支派アセルの支派ナフタリの支派及びバシヤンなるマナセの支派の中より十三の邑を得たり 63またメラリの子孫の宗族はルベンの支派ガドの支派およびゼブルンの支派の中より籤によりて十二の邑を得たり 64イスラエルの子孫は邑とその郊地とをレビ人に與へたり 65即ちユダの子孫の支派とシメオンの子孫の支派とベニヤミンの子孫の支派の中よりして此に名を擧たる是等の邑を籤によりて之に與へたり 66コハテの子孫の宗族はまたエフライムの支派の中よりも邑を得てその領地となせり 67即ちその得たる逃遁邑はエフライム山のシケムとその郊地およびゲゼルとその郊地 68ヨクメアムとその郊地ベテホロンとその郊地 69アヤロンとその郊地 ガテリンモンとその郊地なり 70またマナセの 半 支派の中よりはアネルとその郊地 ビレアムとその郊地是みなコハテの子孫の遺れる宗族に歸せり 71ゲルシヨンの子孫に歸せし者はマナセの 半 支派の宗族の中よりはバシヤンのゴランとその郊地 アシタロテとその郊地 72イツサカルの支派の中よりはケデシとその郊地 ダベラテとその郊地 73ラモテとその郊地 アネムとその郊地 74アセル支派の中よりはミシアルとその郊地 アブドンとその郊地 75ホコクとその郊地レホブとその郊地 76ナフタリの支派の中よりはガリラヤのケデシとその郊地 ハンモンとその郊地 キリアタイムとその郊地 77比外の者すなはちメラリの子孫に歸せし者はゼブルンの支派の中よりはリンモンとその郊地 タボルとその郊地 78エリコに對するヨルダンの彼旁すなはちヨルダンの東においてルベンの支派の中よりは曠野のベゼルとその郊地 ヤザとその郊地 79ケデモテとその郊地 メバアテとその郊地 80ガドの支派の中よりはギレアデのラモテとその郊地 マハナイムとその郊地 81ヘシボンとその郊地 ヤゼルとその郊地

第七章

1イツサカルの子等はトラ、プワ、ヤシユブ、シムロムの四人 2トラの子等はウジ、レバヤ、エリエル、ヤマイ、エブサム、サムエル是みなトラの子にして宗家の長なり其子孫の大勇士たる者はダビデの世にはその數二萬二千六百 人なりき 3ウジの子はイズラヒヤ、イズラヒヤの子等はミカエル、オバデヤ、ヨエル、イツシヤの五人是みな長たる者なりき 4その宗家によればその子孫の中に軍旅の士卒三萬六千人ありき是は彼等妻子を衆く有たればなり 5イツサカルの諸の宗族の中なるその兄弟等すなはち名簿に記載たる大勇士は都合八萬七千人 6ベニヤミンの子等はベラ、ベケル、エデアエルの三人 7ベラの子等はエヅボン、ウジ、ウジエル、エレモテ、イリの五人 皆その宗家の長なりその名簿に記載たる大勇士は二萬二千三十四人 8ベケルの子等はセミラ、ヨアシ、エリエゼル、エリオエナイ、オムリ、エレモテ、アビヤ、アナトテ、アラメテ是みなベケルの子等にして宗家の長なり 9その子孫の中名簿に記載たる大勇士は二萬二百 人なりき 10またエデアエルの子はビルハン、ビルハンの子等はエウシ、ベニヤミン、エホデ、ケナアナ、ゼタン、タルシシ、アビシヤハル 11是みなエデアエルの子にして宗家の長 たりきその子孫の中に能く陣にのぞみて戰ふ大勇士一萬七千二百 人ありき 12またイリの子等はシユパムおよびホパム、またアヘラの子はホシム 13ナフタリの子等はヤジエル、グニ、エゼル、シヤルム是みなビルハの産る子なり 14マナセの子等はその妻の産る者はアシリエルその妾 なるスリアの女の産る者はギレアデの父マキル 15マキルはホパムとシユバムの 妹 名はマアカとい者を妻に娶れりその次の者はゼロペハデといふゼロペハデには女子ありしのみ 16マキルの妻マアカ男子を產てその名をペレシとよべりその 弟 の名はシヤレシ、シヤレシの子等はウラムおよびラケム 17ウラムの子はベダン是等はマナセの子マキルの子なるギレアデの子等なり 18その 妹 ハンモレケテはイシホデ、アビエゼル、マヘラを產り 19セミダの子等はアヒアン、シケム、リキ、アニヤム 20エフライムの子はシユテラ その子はベレデ その子はタハテ その子はエラダ その子はタハテ 21その子はザバデ その子はシユテラ エゼルとエレアデはガテの土人等これを殺せり其は彼ら下りゆきてこれが家畜を奪はんとしたればなり 22その父エフライムこれがために哀むこと日久しかりければその兄弟等きたりてこれを慰さめたり 23かくて後エフライムその妻の所にいりけるに胎みて男子を生たればその名をベリア(災難)ごとなづけたりその家に災難ありたればなり 24エフライムの女子セラは上下のベテホロンおよびウゼンセラを建たり 25ベリアの子はレバおよびレセフ その子はテラ その子はタハン 26その子はラダン その子はアミホデ その子はエリシヤマ 27その子はヌン その子はヨシユア 28エフライムの子孫の產業と住 處はベ

テルとその郷里 また東の方にてはナアラン 西の方にてはゲゼルとその郷里 またシケムとその郷里 およびアワとその郷里 29またマナセの子孫の國境に沿てはベテシヤンとその郷里 タアナクとその郷里 メギドンとその郷里ドルとその郷里なり イスラエルの子ヨセフの子孫は是等の處に住り 30アセルの子等はイムナ、イシワ、エスイ、ベリアおよびその姉妹セラ 31ベリアの子等はヘベルおよびマルキエル、マルキエルはビルザヒテの父なり 32ヘベルはヤフレテ、シヨメル、ホタムおよびその姉妹シユワを生り 33ヤフレテの子等はバサク、ビムハル、アシワテ、ヤフレテの子等は是のごとし 34シヨメルの子等はアヒ、ロガ、ホバおよびアラム 35シヨメルの兄弟ヘレムの子等はゾバ、イムナ、シレン、アマル 36ゾバの子等はスア、ハルネペル、シユアル、ベリ、イムラ 37ベゼル、ホド、シヤンマ、シルシヤ、イテラン、ベエラ 38ヱテルの子等はヱフンネ、ピスパおよびアラ 39ウラの子等はアラ、ハニエルおよびリヂア 40是みなアセルの子孫にして宗家の長たり挺出たる大勇士たり將 官の長たりきその名簿に記載たる能く陣にのぞみて戰ふ者二萬六千人あり

第八章

1ベニヤミンの生る者は長子はベラ その次はアシベル その三はアハラ 2その四はアハ その五はラパ 3ベラの子等はアダル、ゲラ、アビウデ 4アビシユア、ナアマン、アホア 5ゲラ、シフパム、ヒラム 6エホデの子等は左のごとし是等はゲバの民の宗家の長なり是はマナハテに移されたり 7すなはちナアマンおよびアヒヤとともにゲラこれを移せるなりエホデの子等はすなはちウザとアヒウデ是なり 8シヤハライムはその妻ホシムとバアラを去し後モアブの國においてまた子等を擧けたり 9彼がその妻ホデシによりて擧けたる子等はヨバブ、ヂビア、メシヤ、マルカム 10ヱウツ、シヤキヤおよびミルマ是その子等にして宗家の長なり 11彼またホシムによりてアビトブとエルパアルを擧けたり 12エルパアルの子等はエベル、ミシヤムおよびシヤメル彼はオノとロドとその郷里を建たる者なり 13またベリア、シマあり是等はアヤロンの民の宗家の長たる者にしてガテの民を逐はらへり 14またアヒオ、シヤシヤク、エレモテ 15ゼバデヤ、アラデ、アデル 16ミカエル、イシパ、ヨハ是等はベリアの子等なり 17ゼバデヤ、メシユラム、ヘゼキ、ヘベル 18イシメライ、ヱズリア、ヨバブ是等はエルパアルの子等なり 19ヤキン、ジクリ、ザベデ 20エリエナイ、チルタイ、エリエル 21アダヤ、ベラヤ、シムラテ是等はシマの子等なり 22イシパン、ヘベル、エリエル 23アブドン、ジクリ、ハナン 24ハナニヤ、エラム、アントテヤ 25イペデヤ、ペヌエル是等はシヤシヤタの子等なり 26シヤムセライ、シハリア、アタリヤ 27ヤレシヤ、エリヤ、ジクリ是等はヱロハムの子等なり 28是等は歴代の宗家の長にして首たるものなり是らはエルサレムに住たり 29ギベオンの祖はギベオンに住りその妻の名はマアカといふ 30その長子はアブドン、次はツル、キシ、バアル、ナダブ 31ゲドル、アヒオ、ザケル 32ミクロテはシメアを生り是等も又その兄弟等とともにヱルサレムに住てこれに對ひ居り 33ネル、キシを生み キシ、サウルを生みサウルはヨナタン、マルキシユア、アビナダプ、エシバアルを生り 34ヨナタンの子はメリバアル、メリバアル、ミカを生り 35ミカの子等はピトン、メレク、ダレア、アハズ 36アハズはヱホアダを生みヱホアダはアレメテ、アズマウテおよびジムリを生み ジムリはモザを生み 37モザはビネアを生り その子はラパその子はニレアサ その子はアゼル 38アゼルには六人の子あり其名は左のごとしアズリカム、ボケル、イシマエル、シヤリヤ、オバデヤ、ハナン是みなアゼルの子なり 39その兄弟エセクの子等の長子はウラムその次はヱウンその三はエリペレテ 40ウラムの子等は大勇士にして善く弓を射る者なりき彼は孫子多くして百五十人もありき是みなベニヤミンの子孫なり

第九章

1イスラエルの人は皆名簿に記載られたり視よ是は皆イスラエルの列王紀に録さるユダはその罪のためにバビロンに擄へられてゆけり 2その産業の邑々に最初に住ひし者にイスラエル人 祭司等レビ人およびネテニ人等なり 3またヱルサレムにはユダの子孫ベニヤミンの子孫およびエフライムとマナセの子孫等住り 4即ちユダの子ペレヅの子孫の中にてはアミホデの子ウタイ、アミホデはオムリの子 オムリはイムリの子イムリはバニの子なり 5シロ族の中にてはシロの長子アサヤおよびその他の子等 6ゼラの子孫の中にてはユエルおよびその兄弟六百九十人 7ベニヤミンの子孫の中にてけハセヌアの子ハダヤの子なるメシユラムの子サル 8ヱロハムの子イブニヤ、ミクリ

の子なるウジの子エラおよびイブニヤの子リウエルの子なるシパテヤの子メシユラム 9並に彼らの兄弟等その世系によれば合せて九百五十六人是みなその宗家の長たる人々なり 10また祭司の中にてはヱダヤ、ヨアリブ、ヤキン 11およびヒルキヤの子アザリヤ、ヒルキヤはメシユラムの子 メシユラムはザドクの子 ザドクはメラヨテの子 メラヨテはアヒトブの子なり アザリヤは神の室の 宰たり 12またヱロハムの子アダヤ、ヱロハムはバシユルの子 バシユルはマルキヤの子なり またアデエルの子マアセヤ、アデエルはヤゼラの子 ヤゼラはメシユラムの子 メシユラムはメシレモテの子 メシレモテはインメルの子なり 13また彼らの兄弟等是等は宗家の長たる者にして合せて一千七百六十人あり皆神の室の奉事をなすの力あるものなり 14レビ人の中にてはハシユブの子シマヤ、ハシユブはアズリカムの子 アズリカムはハシヤビヤの子 是はメラリの子孫なり 15またバクバツカル、ヘレシ、ガラルおよびアサフの子ジクリの子なるミカの子マツタニヤ 16ならびにヱドトンの子ガラルの子なるシマヤの子オバデヤおよびエルカナの子なるアサの子ベレキヤ、エルカナはネトバ人の郷里に住たる者なり 17門を守る者はシヤルム、アツクブ、タルモン、アヒマンおよびその兄弟等にしてシヤレムその長たり 18彼は今日まで東の方なる王の門を守りをる是等はレビの子孫の營の門を守る者なり 19コラの子エビアサフの子なるコレの子シヤルムおよびその父の家の兄弟等などのコラ人は幕屋の門々を守る職務を主どれりその先祖等はヱホバの營の 傍 にありてその入口を守れり 20エレアザルの子ピネハス昔 彼らの主宰たりきヱホバ彼とともに在せり 21メシレミヤの子ゼカリヤは集 會の幕屋の門を守る者なりき 22是みな選ばれて門を守る者にて合せて二百十二人ありき皆その村々の名簿に記載たる者なりしがダビデと先見者サムエルこれをその職に任じたり 23彼等とその子孫は順 番にヱホバの室すなはち幕屋の門を司どれり 24門を守る者は西 東北 南の四方に居り 25またその村々に居る兄弟等は七日ごとに迭り來りて彼らを助けたり 26門を守る者の長たるこの四人のレビ人はその職にをりて神の室の 諸 の室と府庫とを司どれり 27彼らは番守をなす身なるに因て神の室の四周に舍れり而して朝ごとにこれを開くことをせり 28その中に奉事の器 皿を司どる者あり是はその數を按べて携へいりそり數を按べて携へいだすべき者なり 29またその他の器 皿すなはち聖 所の一切の器 皿および麥粉 酒 油 乳香 香料を司どる者あり 30また祭司の 徒 の中に香料をもて香 膏を製る者あり 31コラ人シヤルムの長子なるマツタテヤといふレビ人は鍋にて製るところの物を司どれり 32またコハテ人の子孫たるその兄弟等の中に供前のパンを司どりて安息日ごとにこれを調ふる者等あり 33レビ人の宗家の長たる是等の者は謳歌師にして殿の 諸 の室に居て他の職を爲ざりき其は日夜その職務にかかりをればなり 34是等はレビ人の歴代の宗家の長にして首長たる者なり是等はエルサレムに住り 35ギベオンの祖ヱヒエルはギベオンに住りその妻の名はマアカといふ 36その長子はアブドン次はツル、キシ、バアル、ネル、ナダブ 37ゲドル、アヒオ、ゼカリヤ、ミクロテ 38ミクロテ、シメアムを生り彼等もその兄弟等とともにエルサレムに住てその兄弟等と相對ひ居り 39ネルはキシを生み キシはサウルを生み サウルはヨナタン、マルキシユア、アビナダブおよびエシバアタを生り 40ヨナタンの子はメリバアル、メリバアル、ミカを生り 41ミカの子等はピトン、メレク、タレアおよびアハズ 42アハズはヤラを生み ヤラはアレメテ、アズマウテおよびジムリを生み ジムリはモザを生み 43モザはピネアを生り ピネアの子はレバヤ その子はエレアサ その子はアゼル 44アゼルは六人の子ありきその名は左のごとしアズリカム、ボケル、イシマエル、シヤリヤ、オバデヤ、ハナン是等はアゼルの子なり

第十章

1茲にペリシテ人イスラエルと戰ひけるがイスラエルの人々はペリシテ人の前より逃げギルボア山に殺されて倒れたり 2ペリシテ人はサウルとその子等を追撃しかしてペリシテ人サウルの子ヨナタン、アビナダブおよびマルキシユアを殺せり 3斯その戰鬪烈しうしてサウルにおし迫り射手の者等つひにサウルに追つきければサウルは射手の者等のために惱めり 4サウル是におひてその武器を執る者に言けるは汝の劍をぬき其をもて我を刺せ恐らくはこの割禮なき者等きたりて我を辱しめんと然るにその武器を執る者痛くおそれて肯はざりければサウルすなはちその劍をとりてその上に伏たり 5武器を執る者サウルの死たるを見て己もまた劍の上に伏て死り 6斯サウルとその三人の子等およびその家族みな共に死り 7谷に居るイスラエルの人々みな彼らの逃るを見またサウルとそ

の子等の死るを見てその邑々を棄て逃ければペリシテ人來りてその中に住り 8明る日ペリシテ人殺されたる者を剥んとて來りサウルとその子等のギルボア山にたふれをるを見 9すなはちサウルを剥てその首とその鎧甲を取りペリシテの國の四方に人を遣はしてこの事をその偶像と民に告しめ 10しかしてかれが鎧甲をその神の室に蔵め彼が首をダゴンの宮に釘けたり 11茲にペリシテ人がサウルになしたる事ことごとくヤベシギレアデ中に聞えければ 12勇士等みな起りサウルの體とその子等の體とを奪ひ取てこれをヤベシに持きたりヤベシの橡樹の下にその骨を葬りて七日のあひだ斷食せり 13斯サウルはヱホバにむかひて犯せし罪のために死たり即ち彼はヱホバの言を守らすまた憑鬼者に問ことを爲して 14ヱホバに問ことをせざりしなり是をもてヱホバかれを殺しその國を移してヱツサイの子ダビデに與へたまへり

第十一章

1茲にイスラエルの人みなヘブロンに集まりてダビデの許に詣り言けるは我らは汝の骨肉なり 2前にサウルが王たりし時にも汝はイスラエルを率ゐで出入する者なりき又なんぢの神ヱホバ汝にむかひて汝はわが民イスラエルを牧養ふ者となり我民イスラエルの君とならんと言たまへりと 3斯イスラエルの長老みなヘブロンにきたりて王の許にいたりければダビデ、ヘブロンにてヱホバの前に彼らと契約をたてたり彼らすなはちダビデに膏をそそぎてイスラエルの王となしサムエルによりて傳はりしヱホバの言のごとくせり 4かくてダビデはイスラエルの人々を率ゐてエルサレムに往りエルサレムは即ちヱブスなりその國の土人ヱブス人其處に居り 5是においてヱブスの民ダビデに言けるは汝は此に入べからずと然るにダビデはシオンの城を取り是すなはちダビデの邑なり 6この時ダビデいひけるは誰にもあれ第一にエブス人を撃やぶる者を首となし將となさんと斯てゼルヤの子ヨアブ先登して首となれり 7ダビデその城に住たればこれをダビデの邑と稱へたり 8ダビデまたその邑の四方すなはちミロ(城塞)より内の四方に建築をなせり邑の中のその餘の處はヨアブこれを修理へり 9斯てダビデはますます大になりゆけり萬軍のヱホバこれとともに在したればなり 10ダビデが有る勇士の重なる者は左のごとし是等はイスラエルの一切の人とともにダビデに力をそへて國を得させ終にこれを王となしてヱホバがイスラエルにつきて宣ひし言を果せり 11ダビデの有る勇士の數は是のごとし第一は三十人の長たるハクモニ人の子ヤシヨベアム彼は槍を揮ひて一時に三百人を衝殺せし事あり 12彼の次はアホア人ドドの子エレアザルにして三勇士の中なり 13彼ダビデとともにパスダミムに在けるにペリシテ人其處に集りきて戰へり其處に大麥の滿たる地一箇所あり時に民ペリシテ人の前より逃たりしが 14彼その地所の中に踐とどまり之を護りてペリシテ人を殺せり而してヱホバ大なる拯救をほどこして之を救ひたまへり 15三十人の長なる三人の者アドラムの洞穴に下り磐の處に往てダビデに詣りし事あり時にペリシテ人の軍兵はレパイムの谷に陣どれり 16その時ダビデは砦に居りペリシテ人の鎮臺兵はベテレヘムにありけるが 17ダビデ慕ひ望みて言けるは誰かベテレヘムの門にある井の水を持來りて我に飲せよかし 18この三人すなはちペリシテ人の軍兵の中を衝とほりてベテレヘムの門にある井の水を汲取てダビデの許に携へきたれり然どダビデこれを飲ことをせず之をヱホバの前に灌ぎて 19言けるは我神よ我決てこれを爲じ我いかで命をかけし此三人の血を飲べけんやと彼らその命をかけて之を携へきたりたればなり故にダビデこれを飲ことを爲ざりき此三勇士は是らの事を爲り 20ヨアブの兄弟アビシヤイは三人の長たり彼は槍を揮ひて三百人を衝ころし三人の中に名を得たり 21彼は第二の三人の中にて尤も貴くしてその首にせらる然ど第一の三人には及ばざりき 22ヱホヤダの子カブジエルのベナヤは勇氣あり衆多の功績ありし者なり彼はモアブのアリエルの二人の子を撃殺せりまた雪の日に下りゆきて穴の中にて獅子一匹を撃殺せし事ありき 23彼はまた長身五キユビト程なるエジプト人を殺せりそのエジプト人は機織の膝のごとき槍を手に執をりしに彼は杖をとりて之が許に下りゆきエジプト人の手よりその槍を捩とりてその槍をもて之を殺せり 24ヱホヤダの子ベナヤ是等の事を爲し三勇士の中に名を得たり 25彼は三十人の中にて尊かりしかども第一の三人には及ばざりきダビデかれを親兵の長となせり 26軍兵の中の勇士はヨアブの兄弟アサヘル、ベテレヘムのドドの子エルハナン 27ハロデ人シヤンマ、ペロニ人ヘレヅ 28テコア人イツケシの子イラ、アナトテ人アビエゼル 29ホシヤ人シベカイ、アホア人イライ 30ネトパ人マハライ、ネトパ人バナアの子ヘレデ 31ベニヤミンの子孫のギベアより出たるリバイの

子イツタイ、ピラトン人ベナヤ 32ガアシの谷のホライ、アルバテ人アビエル 33バハルム人アズマウテ、シヤルボニ人エリヤバ 34ギゾニ人ハセム、ハラリ人シヤゲの子ヨナタン 35ハラリ人サカルの子アヒアム、ウルの子エリパル 36メケラ人ヘペル、ペロニ人アヒヤ 37カルメル人ヘヅライ、エズバイの子ナアライ 38ナタンの兄弟ヨエル、ハグリの子ミブハル 39アンモニ人ゼレク、ゼルヤの子ヨアブの武器を執る者なるベエロテ人ナハライ 40エテリ人イラ、エテリ人ガレブ 41ヘテ人ウリヤ、アヘライの子ザバデ 42ルベン人シザの子アデナ是はルベン人の軍長の一人にして從者三十人を率ゐたり 43マアカの子ハナン、ミテニ人ヨシヤバテ 44アシテラ人ウジヤ、アロエル人ホタンの子等シヤマとヱイエル 45デジ人シムリの子エデアエルおよびその兄弟ヨハ、 46マハウ人エリエル、エルナアムの子等エリバイおよびヨシヤワヤ、モアブ人イテマ 47エリエル、オベデ、ソメバ人ヤシエル

第十二章

1ダビデがキシの子サウルの故によりて尚チクラグに閉こもり居ける時に彼處にゆきてダビデに就し者は左のごとしその人々は勇士の中にしてダビデを助けて戰ひたる者 2能く弓を彎き右左の手を用ゐて善く石を投げ弓矢を發つ者なりしが倶にベニヤミン人にしてサウルの宗族たり 3首はアヒエゼル次はヨアシ是らはギベア人シマアの子等なり又ヱジエルおよびペレテ是らはアズマウラの子等なり又ベラカおよびアナトテ人ヱヒウ 4またギベオン人イシマヤ彼は三十人の中の勇士にして三十人の首なり又エレミヤ、ヤハジエル、ヨハナン、ゲデラ人ヨザバデ 5エルザイ、エリモテ、ベアリヤ、シマリヤ、ハリフ人シバテヤ 6エルカナ、エシヤ、アザリエル、ヨエゼル、ヤシヨベアム是等はコラ人なり 7またゲドルのエロハムの子等たるヨエラおよびゼバデヤ 8ガド人の中より曠野の砦に脱きたりてダビデに歸せし者あり是みな大勇士にして善戰かふ軍人能く楯と戈とをつかふ者にてその面は獅子の面のごとくその捷きことは山にをる鹿のごとくなりき 9その首はエゼルその二はオバデヤその三はエリアブ 10その四はミシマンナその五はヱレミヤ 11その六はアツタイその六はエリエル 12その八はヨハナンその九はエルザバデ 13その十はヱレミヤその十一はマクバナイ 14是等はガドの人々にして軍旅の長たりそ最も小き者は百人に當りその最も大なる者は千人に當れり 15正月ヨルダンその全岸に溢れたる時に是らの者濟りゆきて谷々に居る者をことごとく東西に打奔らせたり 16茲にベニヤミンとユダの子孫の中の人々砦に來りてダビデに就きけるに 17ダビデこれを出むかへ應へて之に言けるは汝ら厚志をもて我を助けんとて來れるならば我心なんぢらと相結ばん然ど汝らもし我手に惡きこと有ざるに我を欺きて敵に付さんとせば我らの先祖の神ねがはくは之を監みて責たまへと 18時に聖霊三十人の長アマサイに臨みて彼すなはち言けるはダビデよ我らは汝に屬すヱツサイの子よ我らは汝を助けん願くは平安あれ汝にも平安あれ汝を助くる者にも平安あれ汝の神汝を助けたまふなりと是においてダビデ彼らを接いれて軍旅の長となせり 19前にダビデ、ペリシテ人とともにサウルと戰はんとて攻きたれる時マナセ人數人ダビデに屬り但しダビデ等は遂にペリシテ人を助けざりき其はペリシテ人の君等あひ謀り彼は我らの首級をもてその主君サウルに歸らんと言て彼を去しめたればなり 20斯てダビデ、チクラグに往る時マナセ人アデナ、ヨザバデ、ヱデアエル、ミカエル、ヨザバデ、エリウ、ヂルタイこれに歸せり皆マナセ人の千人の長たる者なりき 21彼等ダビデを助けて敵軍に當れり彼らは皆大勇士にして軍旅の長となれり 22當時ダビデに歸して之を助くる者日々に加はりて終に大軍となり神の軍旅のごとくなれり 23戰爭のために身をよろひヘブロンに來りてダビデに就きヱホバの言のごとくサウルの國をダビデに歸せしめんとしたる武士の數は左のごとし 24ユダの子孫にして楯と戈とを執り戰爭のために身をよろへる者は六千八百人 25シメオンの子孫にして善戰かふ大勇士は七千一百人 26レビの子孫たる者は四千六百人 27ヱホヤダ、アロン人を率ゐたり之に屬する者は三千七百人 28またザドクといふ年若き勇士ありきその宗家の長たる者二十二人ありたり 29サウルの宗族ベニヤミンの子孫たる者は三千人是ベニヤミン人は多くサウルの家に尚も忠義を盡しゐたればなり 30エフライムの子孫たる者は二萬八百人皆大勇士にしてその宗家の名ある人々たり 31マナセの半支派の者は一萬八千人皆名を録されたる者なるが來りてダビデを王にたてんとす 32イツサカルの子孫たる者の中より善く時勢に通じイスラエルの爲べきことを知る者きたれりその首二百人ありその兄弟等は皆これが指揮にしたがへり 33ゼブルンの者は五萬人皆よく身をよ

ろひ各種の武器をもて善く戰闘をなし一心に行伍を守る
者なりき 34ナフタリの者は將たる者千人楯と戈とを執て
これに從ふ者三萬七千人 35ダン人は二萬八千六百 人にし
て皆そなへを守る者なりき 36アセルの者は四萬人にして
皆よく陣にのぞみ且行伍を守る者なりき 37またヨルダン
の彼旁なるルベン人とガド人とマナセの 半 支派の者は
十二萬人みな各種の武器を執て戰爭にいづるに勝る者な
りき 38是等の行伍を守る軍 人等眞實の心を懷きてヘブロ
ンに來りダビデをもてイスラエル全國の王となさんとせ
り其餘のイスラエル人もまた心を一にしてダビデを王と
なさんとせり 39彼ら彼處に三日をりてダビデとともに食
ひかつ飲り其はその兄弟等これがために備をなしたれば
なり 40また近 處の者よりイツサカル、ゼブルンおよびナ
フタリの者に至るまでパンと麥粉の食物と乾無花果と
乾葡萄と酒と油 等を驢馬駱駝牛馬に載きたりかつ牛 羊
を多く携へいたれり是イスラエルみな喜びたればなり

第十三章

1茲にダビデ千人の長 百 人の長などの諸 將とあひ議り 2
而してダビデ、イスラエルの全會 衆に言けるは汝らもし
之を善とし我らの神ヱホバこれを允したまはば我ら徧く
人を遣してイスラエルの各地に留まれる我らの兄弟なら
びにその諸郊地の邑々にをる祭司とレビ人とに至らせ之
をして我らの所に集まらしめん 3而して我らまた我らの
神の契約の櫃を我らの所に移さんサウルの世には我ら之
に就て詢ことをせざりしなりと 4會 衆みな然すべしと言
り其は民みな此事を善と觀たればなり 5是においてダビ
デはキリアテヤリムより神の契約の櫃を舁きたらんとて
エジプトのジホルよりハマテの入口までのイスラエル人
をことごとく召あつめ 6而してダビデ、イスラエルの
一切の人とともにバアラといふユダのキリアテヤリムに
上り往きケルビムの上に坐したまふヱホバ神の名をもて
稱らるる契約の櫃を其處より舁のぼらんとし 7乃ち神の
契約の櫃を新しき車に載てアビナダブの家より牽いだし
ウザとアヒオその車を御せり 8ダビデおよびイスラエル
の人はみな歌と琴と瑟と鼗鼓と鐃鈸と喇叭などを以て力
をきはめ歌をうたひて神の前に踊れり 9かくてキドンの
禾場に至れる時ウザ手を神の契約の櫃に伸してこれを扶
へたり其は牛これを振たればなり 10ウザその手を伸て
契約の櫃につけたるによりてヱホバこれに向ひて忿怒を
發してこれを擊たまびければ其處にて神の前に死り 11ヱ
ホバ、ウザを擊たまひしに因てダビデ怒れり其 處は今日
までペレヅウザ(ウザ擊)と稱へらる 12その日ダビデ神を
畏れて言り我なんぞ神の契約の櫃を我 所に舁ゆくべけん
やと 13ダビデその契約の櫃を己のところダビデの城邑に
うつさず之を轉らしてガテ人オベデエドムの家に舁いら
しめたり 14神の契約の櫃オベデエドムの家にありて其
家族とともにおかかるること三月なりきヱホバ、オベデ
エドムの家とその一切の所有を祝福たまへり

第十四章

1茲にツロの王ヒラム使者をダビデに遣はし之がために
家を建させんとて香柏および木匠と石工をおくれり 2ダ
ビデはヱホバの固く己をたててイスラエルの王となした
まへるを暁れり其はその民イスラエルの故によりてその
國振ひ興りたればなり 3ダビデ、エルサレムにおいてま
た妻妾を納たり而してダビデまた男子女子を得たり 4そ
のエルサレムにて得たる子等の名は左のごとしシヤン
マ、シヨバブ、ナタン、ソロモン 5イブハル、エリシユ
ア、エルバレテ 6ノガ、ネベグ、ヤピア 7エリシヤマ、ベ
エリアダ、エリバレテ 8茲にダビデの膏そそがれてイス
ラエル全國の王となれる事ペリシテ人に聞えければペリ
シテ人みなダビデを獲んとて上れりダビデは聞て之に當
らんとて出たりしが 9ペリシテ人すでに來りてレバイム
の谷を侵したりき 10時にダビデ神に問て言けるは我ペリ
シテ人にむかひて攻上るべきや汝 彼らを吾手に付し給ふ
やヱホバ、ダビデに言たまひけるは攻上れ我かれらを 汝
の手に付さんと 11是において皆バアルベラジムに上りゆ
きけるがダビデつひに彼處にて彼らを打敗り而してダビ
デ言り神水の破壞り出るごとくに我手をもてわが敵を敗
りたまへりと是をもてその處の名をバアルペラジム(破壞
の處)と呼ぶなり 12彼ら其處にその神々を遺ゆきたれば
ダビデ命じて火をもてこれを焚せたり 13斯て後ペリシテ
人復谷を侵しければ 14ダビデまた神に問に神これに言た
まひけるは彼らを追て上るべからず彼らを離れて回りベ
カの樹の方よりこれを襲へ 15汝ベカの樹の上に進行の音
あるを聞ば即ち進んで戰ふべし神 汝のまへに進みいでペ
リシテ人の軍勢を擊たまふべければなりと 16ダビデすな
はち神の己に命じたまひし如くしてペリシテ人の軍勢を
擊やぶりつつギベオンよりガゼルにまでいたれり 17是に

おいてダビデの名 諸の國々に聞えわたりヱホバ諸の國人に彼を懼れしめたまへり

第十五章

1ダビデはダビデの邑の中に自己のために家を建て又神の契約の櫃のために處を備へてこれがために幕屋を張り 2而してダビデ言けるは神の契約の櫃を舁べき者は只レビ人のみ其はヱホバ神の契約の櫃を舁しめまた己に永く事しめんとてレビ人を擇びたまひたればなりと 3ダビデすなはちヱホバの契約の櫃をその之がために備へたる處に舁のぼらんとてイスラエルをことごとくエルサレムに召集めたり 4ダビデまたアロンの子孫とレビ人を集めたり 5即ちコハテの子孫の中よりはウリエルを長としてその兄弟 百二十人 6メラリの子孫の中よりはアサヤを長としてその兄弟二百二十人 7ゲルシヨンの子孫の中よりはヨエルを長としてその兄弟 百三十人 8エリザバンの子孫の中よりはシマヤを長としてその兄弟二百 人 9ヘブロンの子孫の中よりはエリエルを長としてその兄弟八十人 10ウジエルの子孫の中よりはアミナダブを長としてその兄弟 百十二人 11ダビデ祭司ザドクとアビヤタルおよびレビ人ウリエル、アサヤ、ヨエル、シマヤ、エリエル、アミナダブを召し 12これに言けるは汝らはレビ人の宗家の長たり汝らと汝らの兄弟共に身を潔めイスラエルの神ヱホバの契約の櫃を我が其の爲に備へたる處に舁のぼれよ 13前には之をかきしもの汝らにあらざりしに縁て我らの神ヱホバわれらを撃たまへり是は我らそのさだめにしたがひて之に求めざりしが故なりと 14是において祭司等とレビ人等イスラエルの神ヱホバの契約の櫃を舁のぼらんと身を潔め 15レビの子孫たる人々すなはちモーセがヱホバの言にしたがひて命じたるごとく神の契約の櫃をその貫ける枉によりて肩に負り 16ダビデまたレビ人の長等に告げその兄弟等を選びて謳歌者となし瑟と琴と鐃鈸などの樂器をもちて打はやして歓喜の聲を擧しめよと言たれば 17レビ人すなはちヨエルの子ヘマンとその兄弟ベレキヤの子アサフおよびメラリの子孫たる彼らの兄弟クシャヤの子エタンを選べり 18また之に次るその兄弟等これと偕にあり即ちゼカリヤ、ベン、ヤジエル、セミラモテ、ヱイエル、ウンニ、エリアブ、ベナヤ、マアセヤ、マツタテヤ、エリペレホ、ミクネヤおよび門を守る者なるオベデエドムとヱイエル 19謳歌者ヘマン、アサフおよびエタンは銅の鐃鈸をもて打はやす者となり 20ゼカリヤ、アジエル、セミラモテ、ヱイエル、ウンニ、エリアブ、マアセヤ、ベナヤは瑟をもて細き音を出し 21マツタテヤ、エリペレテ、ミクネヤ、オベデエドム、ヱイエル、アザジヤは琴をもて太き音を出して拍子をとれり 22ケナニヤはレビ人の長にして負舁事に通じをるによりて負舁事を指揮せり 23またベレキヤとエルカナは契約の櫃の門を守り 24祭司シバニヤ、ヨシヤパテ、ネタネル、アマサイ、ゼカリヤ、ベナヤ、エリエゼル等は神の契約の櫃の前に進みて喇叭を吹きオベデエドムとヱヒアは契約の櫃の門を守れり 25斯ダビデとイスラエルの長老および千人の長 等は往てオベデエドムの家よりヱホバの契約の櫃を歓び勇みて舁のぼれり 26神ヱホバの契約の櫃を舁ところのレビ人を助けたまひければ牡牛七匹牡羊七匹を献げたり 27ダビデは細布の衣をまとへり又契約の櫃を舁ところの一切のレビ人と謳歌者および負舁事を主どれるケナニヤも然りダビデはまた白布のエポデを着居たり 28斯てイスラエルみな聲を擧げ角を吹ならし喇叭と鐃鈸と瑟と琴とをもて打はやしてヱホバの契約の櫃を舁のぼれり 29ヱホバの契約の櫃ダビデの邑にいりし時サウルの女ミカル窻より窺ひてダビデ王の舞躍るを見その心にこれを藐視めり

第十六章

1人々神の契約の櫃を舁いりて之をダビデがその爲に張たる幕屋の中に置ゑ而して燔祭と酬恩祭を神の前に献げたり 2ダビデ燔祭と酬恩祭を献ぐることを終しかばヱホバの名をもて民を祝し 3イスラエルの衆庶に男にも女にも都てパン一箇肉一片乾葡萄 一 塊を分ち與へたり 4ダビデまたレビ人を立てヱホバの契約の櫃の前にて職事をなさしめ又イスラエルの神ヱホバを崇め讃めかつ頌へしめたり 5伶長はアサフその次はゼカリヤ、ヱイエル、セミラモテ、ヱヒエル、マツタテヤ、エリアブ、ベナヤ、オベデエドム、ヱイエルこれは瑟と琴とを弾じアサフは鐃鈸を打鳴し 6また祭司ベナヤとヤハジエルは喇叭をとりて恒に神の契約の櫃の前に侍れり 7當日ダビデ始めてアサフとその兄弟等を立てヱホバを頌へしめたり其 言に云く 8ヱホバに感謝しその名をよびその作たまへることをもろもろの民輩の中にしらしめよ 9ヱホバにむかひてうたへヱホバを讃うたへそのもろもろの奇しき跡をか

たれ 10そのきよき名をほこれヱホバをたづぬるものの心はよろこぶべし 11ヱホバとその能力とをたづねよ恒にその聖顔をたづねよ 12その僕イスラエルの裔よヤコダの子輩よそのえらびたまひし所のものよそのなしたまへる奇しき跡とその異事とその口のさばきとを心にとむれ 13その僕イスラエルの裔よヤコダの子輩よそのえらびたまひし所のものよそのなしたまへる奇しき跡とその異事とその口のさばきとを心にとむれ 14彼はわれらの神ヱホバなりそのおほくの審判は全地にあり 15なんぢらたえずその契約をこころに記よ此はよろづ代に命じたまひし聖言なり 16アブラハムとむすびたまひし契約イサクに與へたまひし誓なり 17之をかたくしヤコブのために律法となしイスラエルのためにとこしへの契約となして 18言たまひけるは我なんぢにカナンの地をたまひてなんぢらの嗣業の分となさん 19この時なんぢらの數おほからず甚すくなくしてかしこにて旅人となり 20この國よりかの國にゆきこの國よりほかの民にゆけり 21人のかれらを虐ぐるをゆるしたまはずかれらの故によりて王たちを懲しめて 22宣給くわが受膏者たちにふるるなかれわが預言者たちをそこなふなかれ 23全地よヱホバにむかひて謳へ日ごとにその拯救をのべつたへよ 24もろもろの國のなかにその榮光をあらはしもろもろの民のなかにその奇しきみわざを顯すべし 25そはヱホバはおほいなり大にほめたたふべきものなりまたもろもろの神にまさりて畏るべきものなり 26もろもろの民のすべての神はことごとく虚しされどヱホはもろもろの天をつくりたまへり 27尊貴と稜威とはその前にあり能とよろこびとはその聖所にあり 28もろもろのたみの諸族よ榮光とちからとをヱホバにあたへよヱホバにあたへよ 29その聖名にかなふ榮光をもてヱホバにあたへ献物をたづさへて其前にきたれきよき美はしき物をもてヱホバを拝め 30全地よその前にをののけ世界もかたくたちて動かさるることなし 31天はよろこび地はたのしむべしもろもろの國のなかにいへヱホバは統治たまふ 32海とそのなかに盈るものとはなりどよみ田畑とその中のすべての物とはよろこぶべし 33かくて林のもろもろの樹もまたヱホバの前によろこびうたはんヱホバ地をさばかんとて來りたまふ 34ヱホバに感謝せよそのめぐみはふかくその憐憫はかぎりなし 35汝ら言へ我らの拯救の神よ我らを救ひ我らを取り集め列邦のなかより救ひいだしたまへ我らは聖名に謝しなんぢのほむべき事をほこらん 36イスラエルの神ヱホバは窮なきより窮なきまでほむべきかなすべての民はアーメンととなへてヱホバを讃稱へたり 37ダビデはアサフとその兄弟等をヱホバの契約の櫃の前に留めおきて契約の櫃の前に常に侍りて日々の事を執行なはせたり 38オベデエドムとその兄弟等は合せて六十八人またヱドトンの子なるオベデエドムおよびホサは司門たり 39祭司ザドクおよびその兄弟たる祭司等はギベオンなる崇邱においてヱホバの天幕の前に侍り 40燔祭の壇の上にて朝夕斷ず燔祭をヱホバに献げ且ヱホバがイスラエルに命じたまひし律法に記されたる諸の事を行へり 41またヘマン、ヱドトンおよびその餘の選ばれて名を記されたる者等彼らとともにありてヱホバの恩寵の世々限なきを讃まつれり 42即ちヘマンおよびヱドトンかれらとともに居て喇叭鐃鈸など神の樂器を操て樂を奏せり又ヱドトンの子等は門を守れり 43かくて民みな各々その家にかへれり又ダビデはその家族を祝せんとて還りゆけり

第十七章

1ダビデその家に住にいたりてダビデ預言者ナタンに言けるは觀よ我は香柏の家に住む然れどもヱホバの契約の櫃は幕の下にありと 2ナタン、ダビデに言けるは神なんぢとともに在せば凡て汝の心にある所を爲せ 3その夜神の言ナタンに臨みて曰く 4往てわが僕ダビデに言へヱホバかく言ふ汝は我ために我の住べき家を建べからず 5我はイスラエルを導び上りし日より今日にいたるまで家に住しこと無して但幕屋より幕屋に移り天幕より天幕に遷れり 6我イスラエルの人々と共に歩みたる處々にて我わが民を牧養ふことを命じたるイスラエルの士師の一人にもなんぢ何故に香柏の家を我ために建ざるやと一言にても言し事ありや 7然ば汝わが僕ダビデに斯言べし萬軍のヱホバかく言ふ我なんぢを牧場より取り羊に隨がふ處より取て我民イスラエルの君長と爲し 8汝が凡て往る處にて汝と偕にあり汝の諸の敵を汝の前より斷されり我また世の中の大なる人の名のごとき名を汝に得させん 9かつ我わが民イスラエルのために處を定めて彼らを植つけ彼らをして自己の處に住て重て動くこと無らしめん 10又惡人昔のごとく即ち我民イスラエルの上に士師を立たる時より已來のごとく重ねて彼らを荒すこと無るべし我汝の諸の敵を圧服ん且今我汝に告ぐヱホバまた汝の

ために家を建ん 11汝の日の滿汝ゆきて先祖等と偕になる
時は我汝の生る汝の子を汝の後に立て且その國を堅うせ
ん 12彼わが爲に家を建ん我ながく彼の位を堅うせん 13我
は彼の父となり彼はわが子となるべし我は汝の先にあり
し者より取たるごとくに彼よりは我恩惠を取さらじ 14 却
て我かれを永く我家に我國に居置ん彼の位は何時までも
堅く立べし 15ナタン凡て是等の言のごとく凡てこの異象
のごとくダビデに語りければ 16ダビデ王入てヱホバの前
に坐して言けるはヱホバ神よ我は誰わが家は何なれば汝
此まで我を導きたまひしや 17神よ是はなほ汝の目には小
き事たりヱホバ神よ汝はまた僕の家の遥後の事を語り高
き者のごとくに我を見傚たまへり 18僕の名譽については
ダビデこの上何をか汝に望むべけん汝は僕を知たまふな
り 19ヱホバよ汝は僕のため又なんぢの心に循ひて此もろ
もろの大なる事を爲し此すべての大なる事を示たまへり
20ヱホバよ我らが凡て耳に聞る所に依ば汝のごとき者は
無くまた汝の外に神は無し 21地の何の國か汝の民イスラ
エルに如ん是は在昔神の往て贖ひて己の民となして大な
る畏るべき事を行なひて名を得たまひし者なり汝はその
エジプトより贖ひいだせし汝の民の前より國々の人を逐
はらひたまへり 22而して汝は汝の民イスラエルを永く汝
の民となしたまふヱホバよ汝は彼らの神となりたまへり
23然ばヱホバよ汝が僕とその家につきて宣まひし言を永
く堅うして汝の言し如く爲たまへ 24願くは汝の名の堅く
立ち永久に崇められて萬軍のヱホバ、イスラエルの神は
イスラエルに神たりと曰れんことを願くは僕ダビデの家
の汝の前に堅く立んことを 25我神よ汝は僕の耳に示して
之が爲に家を建んと宣へり是によりて僕なんぢの前に祈
る道を得たり 26ヱホバよ汝は即ち神にましまし此恩典を
僕に傳たまへり 27願くは今僕の家を祝福て汝の前に永
く在しめたまへ其はヱホバよ汝の祝福たまへる者は永く
祝福を蒙ればなり

第十八章

1此後ダビデ、ペリシテ人を撃てこれを服し又ペリシテ人
の手よりガテとその郷里を取り 2彼またモアダを撃けれ
ばモアブ人はダビデの臣となりて貢を納たり 3ダビデま
たハマテの邊にてゾバの王ハダレゼルを撃り是は彼がユ
フラテ河の邊にてその權勢を振はんとて往る時なりき 4
而してダビデ彼より車千輛騎兵七千歩兵二萬を取りダ
ビデまた一百の車の馬を存してその餘の車馬は皆その
足の筋を切り 5その時ダマスコのスリア人ゾバの王ハダ
レゼルを援けんとて來りければダビデそのスリア人二萬
二千を殺せり 6而してダビデ、ダマスコのスリアに鎮臺
を置ぬスリア人は貢を納てダビデの臣となれりヱホバ、
ダビデを凡てその往く處にて助たまへり 7ダビデ、ハダ
レゼルの臣僕等の持る金の楯を奪ひて之をエルサレムに
持きたり 8またハダレゼルの邑テブハテとクンより甚だ
衆多の銅を取きたれりソロモンこれを用て銅の海と柱
と銅の器具を造れり 9時にハマテの王トイ、ダビデがゾ
バの王ハダレゼルの總の軍勢を撃破りしを聞て 10その子
ハドラムをダビデ王に遣し安否を問ひかつこれを賀せし
む其はハダレゼル曾てトイと戰闘をなしたるにダビデ、
ハダレゼルと戰ひて之を撃やぶりたればなりハドラム
金銀および銅の種々の器を携へきたりければ 11ダビデ
王そのエドム、モアブ、アンモンの子孫ペリシテ人アマ
レクなどの諸の國民の中より取きたりし金銀とともに
是等をもヱホバに奉納たり 12ゼルヤの子アビシヤイ鹽谷
にてエドム人一萬八千を殺せり 13斯てダビデ、エドムに
鎮臺を置エドム人は皆ダビデの臣となりぬヱホバかくダ
ビデを凡その往處にて助けたまへり 14ダビデはイスラエ
ルの全地を治めてその諸の民に公平と正義を行へり 15ゼ
ルヤの子ヨアブは軍旅の長アヒルデの子ヨシヤパテは史
官 16アヒトブの子ザドクとアビヤタルの子アビメレクは
祭司シヤウシヤは書記官 17ヱホヤダの子ベナヤはケレテ
人とペレテ人の長ダビデの子等は王の座側に侍る大臣な
りき

第十九章

1此後アンモンの子孫の王ナハシ死ければその子これに代
りて王となりたり 2ダビデ言けるは我ナハシの子ヌンを
ねんごろに遇らはんかれが父われをねんごろにあしらひ
たればなりとダビデすなはち彼をその父の故によりて慰
めんとて使者を遣はせりダビデの臣僕等アンモンの子孫
の地に往きハヌンに詣りてこれを慰めけるに 3アンモン
の子孫の牧伯等ハヌンに言けるはダビデ慰籍者を汝につ
かはしたるに因て彼なんぢの父を尊ぶと汝の目に見ゆる
や彼の臣僕等は此國を窺ひ探りて滅ぼさんとて來れるな
らずやと 4是においてハヌン、ダビデの臣僕等を執へて
その鬚を剃おとしその衣服を中より斷て腎までにして

之を歸したりしが 5或人きたりて此人々の爲られし事をダビデに告ければダビデ人をつかはして之を迎へしめたりその人々おほいに愧たればなり即ち王いひけるは汝らの鬚の長るまでヱリコに止まりて然る後かへるべしと 6アンモンの子孫自己のダビデに惡まるる樣になれるを見しかばハヌンおよびアンモンの子孫すなはち銀一千タラントをおくりてメソポタミヤとスリアマアカおよびゾバより戰 車と騎兵とを雇ひいれたり 7即ち戰 車三萬二千 乘にマアカの王とその兵士を雇ひければ彼ら來りてメデバの前に陣を張り是においてアンモンの子孫その邑々より寄あつまりて戰はんとて來れり 8ダビデ聞てヨアブと勇士の惣軍を遣しけるに 9アンモンの子孫は出て邑の門の前に戰爭の陣列をなせり又援助に來れる王等は別に野に居り 10時にヨアブ前後より敵の攻寄るを見てイスラエルの倔強の兵士の中を抽擢て之をしてスリア人にむかひて陣列しめ 11その餘の民をばその兄弟アビシヤイの手に交してアンモンの子孫にむかひて陣列しめ 12而して言けるはスリア人もし我に手強からば汝 我を助けよアンモンの子孫もし汝に手強からば我なんぢを助けん 13汝 勇しくなれよ我儕の民のためと我らの神の諸邑のために我ら勇 しく爲ん願くはヱホバその目に善と見ゆる所をなしたまへと 14ヨアブ己に從へる民とともに進みよりてスリア人を攻撃けるにスリア人かれの前より潰 奔れり 15アンモンの子孫はスリア人の潰 奔れるを見て自己等もまたその兄弟アビシヤイの前より逃奔りて城邑にいりぬ是においてヨアブはヱルサレムに歸れり 16スリア人はそのイスラエルに撃やぶられたるを見て使者を遣はして河の彼旁なるスリア人を將ゐ出せりハダレゼルの軍旅の長シヨバク これを率ゆ 17その事ダビデに聞えければ彼イスラエルを悉 く集めヨルダンを渡りて彼らの所に來り之にむかひて戰爭の陣列を立たりダビデかく彼らにむかひて戰爭の陣列を立たれば彼らこれと戰へり 18然るにスリア人イスラエルの前に潰たればダビデ、スリアの兵 車の人七千歩兵四萬を殺しまた軍旅の長シヨバクを殺せり 19ハダレゼルの臣たる者等そのイスラエルに撃やぶられたるを見てダピデと和睦をなしてこれが臣となれりスリア人は此後ふたたびアンモンの子孫を助くることを爲ざりき

第二十章

1年かへりて王等の戰爭に出る時におよびてヨアブ軍勢を率ゐて出でアンモン人の地を打荒し往てラバを攻 圍りされどダビデはヱルサレムに止まりたりヨアブつひにラバを擊壞りてこれを滅ぼせり 2ダビデ彼らの王の冠冕をその首より取はなしたりしがその金の重を量り見るに一タラントありまたその中に寶石を嵌たるありき之をダビデの首に冠らせたり彼また甚だ衆多の掠取物をその邑より取り 3而して彼またその中の民を曳いだし 鋸 と鐵の打車 と斧とをもてこれを斬りダビデ、アンモンの子孫の一切の邑に斯く爲り而してダビデとその民はみなヱルサレムに歸りぬ 4この後ゲゼルにおいてペリシテ人と戰爭おこりたりしがその時にホシヤ人シベカイ巨 人の子孫の一人なるシバイを殺せり彼等つひに攻伏られき 5復ペリシテ人と戰爭ありしがヤイルの子エルハナン、ガテのゴリアテの兄弟ラミを殺せりラミの槍の柄は機の滕の如くなりき 6またガテに戰爭ありしが其處に一人の身長き人ありその手の指と足の趾は六宛にして合せて二十四あり彼も巨 人の生る者なりき 7彼イスラエルを挑みしかばダビデの兄弟シメアの子ヨナタンこれを殺せり 8是等はガテにて巨 人の生る者なりしがダビデの手とその臣僕の手に斃れたり

第二十一章

1茲にサタン起りてイスラエルに敵しダビデを感動してイスラエルを核數しめんとせり 2ダビデすなはちヨアブと民の牧伯等に言けるは汝等ゆきてベエルシバよりダンまでのイスラエル人を數へその數をとりきたりて我に知せよ 3ヨアブ答へけるは幾何あるとも願くはヱホバその民を百 倍に增たまへ然ながら王わが主よ是はみな我主の僕 ならずや然に何とて我主この事を爲んと要たまふや何ぞイスラエルをして之によりて罪を獲せしむべけんやと 4されど王つひにヨアブに言勝たればヨアブすなはち出ゆきイスラエルを徧く行めぐりてヱルサレムに還れり 5而してヨアブ民の總數をダビデに告たり即ちイスラエルの中には劍を帶る者一百十萬人ありユダの中には劍を帶る者四十七萬人ありき 6但しレビとベニヤミンとはその中に數へざりき其はヨアブ王の言を惡みたればなり 7この事神の目に惡かりければイスラエルを擊なやましたまへり 8ダビデ是において神に申しけるは我この事をなし

て大に罪を獲たり然ども今ねがはくは僕の罪を除きたまへ我はなはだ愚なる事をなせりと 9時にヱホバ、ダビデの先見者ガデにきて言たまひけるは 10往てダビデに告て言へヱホバかく言ふ我なんぢに三のものを示す汝その一を撰べ我それを汝に爲んと 11ガデすなはちダビデの許に至り之に言けるはヱホバかく言たまふ汝 擇べよ 12即ち三年の饑饉か又は汝 三月の間 汝の敵の前に敗れて汝の仇の劍に追しかれんか又は三日の間ヱホバの劍すなはち疫病この國にありてヱホバの使者イスラエルの四方の 境の中にて撃滅ぼすことをせんか我が如何なる答を我を 遣せし者に爲べきかを汝 決めよ 13ダビデ、ガデに言けるは我おほいに苦む請ふ我はヱホバの手に陥らん其憐憫 甚だおほいなればなり人の手には陥らじと 14是においてヱホバ、イスラエルに疫病を降したまひければイスラエルの人七萬人斃れたり 15神また使者をヱルサレムに遣してこれを滅ぼさんとしたまひしが其これを滅ぼすにあたりてヱホバ視てこの禍害をなせしを悔い其ほろぼす使者に言たまひけるは足り今なんぢの手を住めよと時にヱホバの使者はエブス人オルナンの打場の 傍 に立をる 16ダビデ目をあげて視るにヱホバの使者地と天の間に立て抜身の 劍を手にとりてヱルサレムの方にこれを伸をりければダビデと長老等麻布を衣て俯伏り 17而してダビデ神に申しけるは民を數へよと命ぜし者は我ならずや罪を犯し悪き事をなしたる者は我なり然れども是等の羊は何をなせしや我神ヱホバよ請ふ汝の手を我とわが父の家に加へたまへ惟 汝の民に加へて之を疫めたまふ勿れと 18時にヱホバの使者ガデに命じ汝ダビデに告てダビデをして上りゆきてエブス人オルナンの打場にてヱホバのために一箇の壇を築しめよと言り 19是においてダビデはガデがヱホバの名をもて告たる言にしたがひて上りゆけり 20オルナンは麥を打ゐけるが回顧て天の使の居るを視その四人の子等とともに匿れたり 21やがてダビデはオルナンの方に來りけるがオルナン望てダビデを見すなはち打場より出ゆきて面を地につけてダビデを拝せり 22ダビデ、オルナンに言けるは此打場の處を我に與へよ我そこにてヱホバに一箇の壇を築かん汝その十分の値をとりて之を我にあたへ災害の民におよぶことを止めしめよ 23オルナン、ダビデに言けるは請ふ之を取り王わが主の目に善と觀るところを爲たまへ我なんぢに献げて牛を燔祭の料とし打禾車を柴薪とし麥を素祭とせん我みなこれを奉呈ると 24ダビデ王オルナンに言けるは然るべからず我かならず十分の 値をはらひて之を買ん我は汝の物を取てヱホバに奉まつらじ又 費なしに燔祭を献ぐることをせじと 25ダビデすなはち其 處のために金六百シケルを衡りてオルナンに與へたり 26而してダビデ其處にてヱホバに一箇の祭壇を築き燔祭と酬恩祭を献げてヱホバを顧けるに天より燔祭の壇の上に火を降して之に應へたまへり 27ヱホバすなはちその使者に命じたまひければ彼その劍を鞘に蔵めたり 28その時ダビデはヱホバがエブス人オルナンの打場においてその 己 に應へたまふを見たれば其處にて犠牲を献ぐることを爲り 29モーセが荒野にて造りたるヱホバの幕屋と燔祭の壇とは當時ギベオンの崇 邱にありけるが 30ダビデはその前に進みゆきて神に求むることを得せざりき是は彼ヱホバの使者の劍のために懼れたるに因てなり

第二十二章

1ダビデ言けるはヱホバ神の室は此なりイスラエルの燔祭の壇は此なりと 2ダビデすなはち命じてイスラエルの地に居る異邦人を集めしめ又神の室を建るに用ふる石を琢ために石工を設けたり 3ダビデまた門の扉の釘および鎹に用ふる鐵を夥しく備へたり又 銅 を數しれぬほどに夥しく備へたり 4また香柏を備ふること數しれず是はシドン人およびツロの者夥多しく香柏をダビデの所に運びきたりたればなり 5ダビデ言けるは我子ソロモンは少くして弱し又ヱホバのために建る室は極めて高大にして萬國に名を得 榮を得る者たらざる可らず今我其がために準備をなさんとダビデその死る前に大に之が準備をなせり 6而して彼その子ソロモンを召てイスラエルの神ヱホバのために家を建ることを之に命ぜり 7即ちダビデ、ソロモンに言けるは我子よ我は我神ヱホバの名のために家を建る 志 ありき 8然るにヱホバの言われに臨みて言り汝は多くの血を流し大なる戰爭を爲したり汝 我前にて多 の血を地に流したれば我名の爲に家を建べからず 9視よ男子 汝に生れん是は平安の人なるべし我これに平安を賜ひてその四周の 諸 の敵に煩はさるること無らしめん故に彼の名はソロモン(平安)といふべし彼の世に我平安と靜謐をイスラエルに賜はん 10彼わが名のために家を建ん彼はわが子となり我は彼の父とならん我かれの國の 祚を固うして永くイスラエルの上に立しめん 11然ば我子よ願くはヱホバ汝とともに在し汝を盛ならしめ汝の神ヱホ

バの室を建させて其なんぢにつきて言たる如くしたまはんことを 12惟ねがはくはヱホバ汝に智慧と穎悟を賜ひ汝をイスラエルの上に立て汝の神ヱホバの律法を汝に守らせたまはんことを 13汝もしヱホバがイスラエルにつきてモーセに命じたまひし法度と例規を謹みて行はば汝旺盛になるべし心を強くしかつ勇め懼るる勿れ慄くなかれ 14視よ我患難の中にてヱホバの室のために金十萬タラント銀百萬タラントを備へまた 銅 と鐵とを數しれぬほど夥多しく備へたり又材木と石をも備へたり汝また之に加ふべし 15かつまた工人夥多しく汝の手にあり即ち石や木を琢刻む者および 諸 の工作を爲すところの工匠など都てあり 16夫金銀 銅 鐵は數限りなし汝 起て爲せ願くはヱホバ汝とともに在せと 17ダビデまたイスラエルの一切の牧伯等にその子ソロモンを助くることを命じて云く 18 汝らの神ヱホバなんぢらと偕に在すならずや四方において泰平を汝らに賜へるならずや即ちこの地の民を我手に付したまひてこの地はヱホバの前とその民の前に服せり 19然ば汝ら心をこめ精神をこめて汝らの神ヱホバを求めよ 汝 ら起てヱホバ神の聖所を建てヱホバの名のために建るその室にヱホバの契約の櫃と神の聖 器を携さへいるべし

第二十三章

1ダビデ老てその日滿ればその子ソロモンをイスラエルの王となせり 2ダビデ、イスラエルの一切の牧伯および祭司とレビ人をあつめたり 3レビ人の三十歳以上なる者を數へたるにその人々の頭 數は三萬八千 4その中二萬四千はヱホバの室の事幹を掌どり六千は有 司および裁判人たり 5四千は門を守る者たりまた四千はダビデが造れる讃美の樂器をとりてヱホバを頌ることをせり 6ダビデ、レビの子孫を分ちて班列を立たり即ちゲルシヨン、コハテおよびメラリ 7ゲルシヨン人たる者はラダンおよびシメイ 8ラダンの子等は長エヒエルにゼタムとヨエル合せて三人 9シメイの子等はシロミテ、ハジエル、ハランの三人是等はラダンの宗家の長たり 10シメイの子等はヤハテ、ジナ、ヱウシ、ベリア この四人はシメイの子なり 11ヤハデは長 ジナはその次 ヱウシ、ベリアは子多からざるが故に之をともに數へて一の宗家となせり 12コハテの子等はアムラム、イヅハル、ヘブロン、ウジエルの四人 13アムラムの子等はアロンとモーセ、アロンはその子等とともに永く區別れてその身を潔めて至聖者となりヱホバの前に香を焚き之に事へ恒にこれが名をもて祝することを爲り 14神の人モーセの子等はレビの支派の中に數へいれらる 15モーセの子等はゲルシヨンおよびエリエゼル 16ゲルシヨンの子等は長はシブエル 17エリエゼルの子等は長はレハビヤ、エリエゼルは此外に男子あらざりき但しレハビヤの子等は甚だ多かりき 18イヅハルの子等は長はシロミテ 19ヘブロンの子等は長子はヱリヤ その次はアマリヤ その三はヤハジエル その四はヱカメアム 20ウジエルの子等は長子はミカ 次はヱシヤ 21メラリの子等はマヘリおよびムシ、マヘリの子等はエレアザルおよびキシ 22エレアザルは男子なくして死り惟女子ありし而已その女子等はキシの子たるその兄弟等これを娶れり 23ムシの子等はマヘリ、エデル、ヱレモテの三人 24レビの子孫をその宗家に循ひて言ば是のごとし是皆かの頭 數を數へられその名を録されてヱホバの家の役事をなせる二十歳以上の者の宗家の長なり 25ダビデ言けらくイスラエルの神ヱホバその民を安んじて永くヱルサレムに住たまふ 26レビ人はまた重ねて幕屋およびその奉事の器 具を舁ことあらずと 27ダビデの最後の詞にしたがひてレビ人は二十歳以上よりして數へられたり 28彼らの職はアロンの子孫等の手に屬して神の家の役事を爲し庭と 諸 の室の用を爲し一切の聖 物を潔むるなど凡て神の家の役事を勤むるの事なりき 29また供前のパン素祭の麥粉酵いれぬ菓子鍋にて製る者燒て製る者などを掌どりまた凡て容積と長短を量度ることを掌どり 30また朝ごとに立てヱホバを頌へ讃ることを掌どれり夕もまた然り 31又安息日と朔日と節會においてヱホバに 諸 の燔祭を献げ其命ぜられたる所に循ひて數のごとくに斷ずこれをヱホバの前にたてまつる事を掌どれり 32是のごとく彼らは集 會 の幕屋の職守と聖 所の職守とアロンの子孫たるその兄弟等の職守とを守りてヱホバの家の役事をおこなふ可りしなり

第二十四章

1アロンの子孫の班列は左のごとしアロンの子等はナダブ、アビウ、エレアザル、イタマル 2ナダブとアビウはその父に先だちて死て子なかりければエレアザルとイタマル祭司となれり 3ダビデ、エレアザルの子孫ザドクおよびイタマルの子孫アヒメレクとともに彼らを分ちて

各 その職と務に任じたり 4エレアザルの子孫の中にはイタマルの子孫の中よりも長たる人多かりき是をもてその分かれし班列はエレアザルの子孫たる宗家の長には十六ありイタマルの子孫たる宗家の長には八あり 5斯彼らは籤によりて分たる彼と此と相等し其は聖 所の督者および神の督者はエレアザルの子孫の中よりも出でイタマルの子孫の中よりも出ればなり 6レビ人ネタネルの子シマヤといふ書記王と牧伯等と祭司ザドクとアビヤタルの子アヒメレクと祭司およびレビ人の宗家の長の前にて之を書しるせり即ちエレアザルのために宗家 一を取ばまたイタマルのために宗家 一を取り 7第一の籤はヨアリブに當り第二はヱダヤに當り 8第三はハリムに當り第四はセオリムに當り 9第五はマルキヤに當り第六はミヤミンに當り 10第七はハツコヅに當り第八はアビアに當り 11第九はヱシユアに當り第十はシカニヤに當り 12第十一はヱリアシブに當り第十二はヤキンに當り 13第十三はホツバに當り第十四はエシバブに當り 14第十五はビルガに當り第十六はインメルに當り 15第十七はヘジルに當り第十八はハビセツに當り 16第十九はベタヒヤに當り第二十はエゼキエルに當り 17第二十一はヤキンに當り第二十一はガムルに當り 18第二十三はデラヤに當り第二十四はマアジアに當れり 19是その職務の順序なり彼らは之にしたがひてヱホバの家にいり其先祖アロンより傳はりし例規によりて勤むべかりしなり即ちイスラエルの神ヱホバの彼に命じたまひしごとし 20その餘のレビの子孫は左の如しアムラムの子等の中にてはシユバエル、シユバエルの子等の中にてはヱデヤ 21レハビヤについてはレハビヤの子等の中にては長子イツシア 22イヅハリ人の中にてはシロミテ、シロミテの子等の中にてはヤハテ 23ヘブロンの子等の中にては長子ヱリヤ二子アマリヤ三子ヤハジエル四子ヱカメアム 24ウジエルの子等の中にてはミカ、ミカの子等の中にてはシヤミル 25ミカの兄弟をイツシアといふイツシアの子等の中にてはゼカリヤ 26メラリの子等はマヘリおよびムシ、ヤジアの子等はベノ 27メラリの子孫のヤジアより出たる者はベノ、シヨハム、ザツクル、イブリ 28マヘリよりエレアザル出たりエレアザルは子等なかりき 29キシについてはキシの子はヱラメル 30ムシの子等はマヘリ、エデル、ヱリモテ是等はレビの子孫にしてその宗家にしたがひて言る者なり 31是らの者もまたダビデ王とザドクとアヒメレクと祭司およびレビ人の宗家の長たる者等の前にてアロンの子孫たるその兄弟等のごとく籤を掣り兄の宗家も弟 の宗家も異なること無りき

第二十五章

1ダビデと軍旅の牧伯等またアサフ、ヘマンおよびヱドトンの子等を選びて職に任じ之をして琴と瑟と鐃鈸を執て預言せしむその職によれば伶人の數左のごとし 2アサフの子等はザツクル、ヨセフ、ネタニア、アサレラ 皆アサフの子等にしてアサフの手に屬すアサフは王の手につきて預言す 3ヱドトンについてはヱドトンの子等はゲダリア、ゼリ、ヱサヤ、ハシヤビヤ、マツタテヤの六人 皆琴を操てその父ヱドトンの手に屬すヱドトンはヱホバを讃めかつ頌へて預言す 4ヘマンについてはヘマンの子等たる者はブツキヤ、マツタニヤ、ウジエル、シブエル、ヱレモテ、ハナニヤ、ハナニ、エリアタ、ギダルテ、ロマムテエゼル、ヨシベカシヤ、マロテ、ホテル、マハジオテ 5是みな神の言をつたふる王の先見者ヘマンの子等にして角を擧ぐ 神ヘマンに男子十四人女子三人を賜へり 6是等の者は皆その父の手に屬しヱホバの家において歌を謡ひ鐃鈸と瑟と琴をもて神の家の奉事をなせり アサフ、ヱドトンおよびヘマンは王の手につけり 7彼等およびヱホバに歌を謡ふことを習へるその兄弟等 即ち巧なる者の數は二百八十八人 8彼ら大も小も巧なる者も習ふ者も皆ともにその職務の籤を掣けるが 9第一の籤はアサフの家のヨセフに當り第二はゲダリアに當れり彼もその兄弟等および子等十二人 10第三はザツクルに當れりその子等とその兄弟等十二人 11第四はイヅリに當れりその子等とその兄弟等十二人 12第五はネタニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 13第六はブツキアに當れりその子等とその兄弟等十二人 14第七はアサレラに當れりその子等とその兄弟等十二人 15第八はヱサヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 16第九はマツタニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 17第十はシメイに當れりその子等とその兄弟等十二人 18第十一はアザリエルに當れりその子等とその兄弟等十二人 19第十二はハシヤビアに當れりその子等とその兄弟等十二人 20第十三はシユバエルに當れりその子等とその兄弟等十二人 21第十四はマツタテヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 22第十五はヱレモテに當れりその子等とその兄弟等十二人 23第十六はハナニヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 24第十七はヨシベ

カシヤに當れりその子等とその兄弟等十二人 25第十八はでハナニに當れりその子等とその兄弟等十二人 26第十九はマロテに當れりその子等とその兄弟等十二人 27第二十はエリアタに當れりその子等とその兄弟等十二人 28第二十一はホテルに當れりその子等とその兄弟等十二人 29第二十二はギダルテに當れりその子等とその兄弟等十二人 30第二十三はマハジオテに富れりその子等とその兄弟等十二人 31第二十四はロマムテエゼルに當れりその子等とその兄弟等十二人

第二十六章

1門を守る者の班列は左のごとしコラ人の中にてはアサフの子コレの子なるメシレミヤ 2メシレミヤの子等は長子はゼカリヤその次はヱデアエルその三はゼバデヤその四はヤテニエル 3その五はエラムその六はヨハナンその七はエリヨエナイ 4またオベデエドムの子等は長子はシマヤその次はヨザバデその三はヨアその四はサカルその五はネタネル 5その六はアシミエルその七はイツサカルその八はピウレタイ是は神かれを祝福たまひしなり 6また彼の子シマヤにも數人の子生れたりしがその子等は大勇士にしてその父の家の主たる者なりき 7すなはちシマヤの子等はオテニ、レバエル、オベデ、エルザバデ、エルザバデの兄弟エリウとセマキヤは力ある人なりき 8是みなオベデエドムの孫子なり彼らとその子等および其兄弟等は合せて六十二人皆力ある者にしてその職に堪ふ是みなオベデエドムに屬する者なり 9メシレミヤも子等と兄弟等合せて十八人あり皆力ある者なりき 10メラリの子孫ホサもまた子等ありき其長はシムリ是は長子ならざりしかどもその父これを長となせしなり 11その次はヒルキヤその三はデバリヤその四はゼカリヤ、ホサの子等と兄弟等は合せて十三人 12門を守るところの班列此長等の中より出でみなその兄弟と等く勤務をなしてヱホバの家に仕ふ 13彼ら門々を分つために小も大もともにその宗家に循ひて籤を掣たりしが 14東の方の籤はシレミヤに當れり又その子ゼカリヤのために籤を掣けるに北の方の籤これに當れりゼカリヤは智慧ある議士なりき 15オベデエドムは南の方の籤に當りその子等は倉の籤に當れり 16シユパムおよびホサは西の方の籤にあたり坂の大路にあるシヤレケテの門の傍に居り守者はみな相對ふ 17東の方にはレビ人六人北の方には日々に四人南の方に日々に四人倉のかたはらには二人に二人 18西の方バルバルにおいては大路に四人バルバルに二人 19門を守る者の班列は是のごとし皆コラの子孫とメラリの子孫なり 20また神の府庫および聖物の府庫を司どれる彼らの兄弟なるレビ人は左のごとし 21ラダンの子孫すなはちラダンより出たるゲルシヨン人にしてゲルシヨン人ラダンの宗家の長たる者の中にてはヱヒエリ 22およびヱヒエリの子等ならびにその兄弟ゼタムとヨエル是らはヱホバの家の府庫を司どれり 23アムラミ人イヅハリ人ヘブロン人ウジエリ人の中においては左のごとし 24モーセの子ゲルシヨムの子なるシブエルは府庫の宰たり 25その兄弟にしてエリエゼルより出たる者は即ちエリエゼルの子レハビヤその子ヱサヤその子ヨラムその子ジクリその子シロミテ 26此シロミテとその兄弟等はすべての聖物の府庫を掌どれりその聖物はすなはちダビデ王宗家の長千人の長百人の長軍旅の長等などが奉納たる者なり 27即ち戰爭において獲たる物および掠取物を奉納てヱホバの家の修繕に供へたるなり 28凡て先見者サムエル、キシの子サウル、ネルの子アブネル、ゼルヤの子ヨアブ等が奉獻たる物および其他の奉納物は皆シロミテとその兄弟等の手の下にありき 29イヅハリ人の中にてはケナニヤとその子等イスラエルの外事を理め有司となり裁判人となれり 30ヘブロン人の中にてはハシヤビアおよびその兄弟などの勇士一千七百人ありてヨルダンの此旁すなはち西の方にてイスラエルの監督者となりヱホバの一切の事を行ひ王の用を爲り 31ヘブロン人の中にてはその系譜と宗家とに依ばヱリヤといふ者ヘブロン人の長なりダビデの治世の四十年に彼らを尋ね求めギレアデのヤゼルにおいて彼らの中より大勇士を得たり 32ヱリヤの兄弟たる勇士は二千七百人にして皆宗家の長たりダビデ王かれらをしてルベン人ガド人およびマナセの半支派を監督しめ神につける事と王につける事とを宰どらせたり

第二十七章

1イスラエルの子孫すなはち宗家の長千人の長百人の長およびその有司等は年の惣の月のあひだ月ごとに更り入り更り出で其班列の諸の事をつとめて王に事へたるが其數を按ふるに一班列に二萬四千人ありき 2先第一の班列すなはち正月の分はザブデエルの子ヤシヨベアムこれを率ゆ其班列は二萬四千人 3彼は正月の軍團の長等の

首たる者にしてペレヅの子孫なり 4二月の班列はアホア
人ドダイその班列の者とともにこれを率ゆミクロテとい
ふ宰あり其班列は二萬四千人 5三月の軍團を統る第三の
將は祭司の長ヱホヤダの子ベナヤその班列は二萬四千人
6このベナヤはかの三十人の中の勇士にして三十人の上
にたてり彼の子アミザバデその班列にあり 7四月の分を
統る第四の將はヨアブの弟アサヘルにしてその子ゼバ
デヤこれに次り其班列は二萬四千人 8五月の分を統る第
五の將はイズラヒ人シヤンモテその班列は二萬四千人 9
六月の分を統る第六の將はテコア人イツケシの子イラそ
の班列は二萬四千人 10七月の分を統る第七の將はエフラ
イムの子孫たるペロニ人ヘレヅその班列は二萬四千人 11
八月の分を統る第八の將はゼラの子孫たるホシヤ人シベ
カイその班列は二萬四千人 12九月の分をすぶる第九の將
はベニヤミンの子孫たるアナトテ人アビエゼルその班列
は二萬四千人 13十月の分をすぶる第十の將はゼラの子孫
たるネトパ人マハライその班列は二萬四千人 14十一月の
分をすぶる第十一の將はエフライムの子孫たるピラトン
人ベナヤその班列は二萬四千人 15十二月の分を統る第十
二の將はオテニエルの子孫たるネトパ人ヘルダイその
班列は二萬四千人 16イスラエルの支派を治むる者は左の
ごとしルベン人の牧伯はヂクリの子エリエゼル、シメオ
ンの牧伯はマアカの子シバテヤ 17レビ人の牧伯はケムエ
ルの子ハシヤビヤ、アロン人の牧伯はザドク 18ユダの
牧伯はダビデの兄弟エリウ、イツサカルの牧伯はミカエ
ルの子オムリ 19ゼブルンの牧伯はオバデヤの子イシマ
ヤ、ナフタリの牧伯はアズリエルの子ヱレモテ 20エフラ
イムの子孫の牧伯はアザジヤの子ホセア、マナセの半
支派の牧伯はペダヤの子ヨエル 21ギレアデなるマナセの
ご半支派の牧伯はゼカリヤの子イド、ベニヤミンの
牧伯はアブネルの子ヤシエル 22ダンの牧伯はヱロハムの
子アザリエル、イスラエルの支派の牧伯等は是のごとし
23二十歳以下なる者はダビデこれを數へざりき其はヱホ
バかつてイスラエルを増て天空の星のごとくにせんと言
たまひしことあればなり 24ゼルヤの子ヨアブ數ふること
を始めたりしがこれを爲をへざりきそのかぞふることに
よりて震怒イスラエルにおよべりその數はまたダビデ王
の記録の籍に載ざりき 25アデエルの子アズマウテは王の
府庫を掌どりウジヤの子ヨナタンは田野邑々村々城など
にある府庫を掌どり 26ケルブの子エズリは地を耕す農業
の人を掌どり 27ラマテ人シメイは葡萄園を掌どりシフミ
人ザブデはその葡萄園より取る葡萄酒の蔵を掌どり 28ゲ
デラ人バアルハナンは平野なる橄欖樹と桑樹を掌どりヨ
アシは油の蔵を掌どり 29シヤロン人シテナイはシヤロン
にて牧ふ牛の群を掌どりアデライの子シヤバテは谷々に
ある牛の群を掌どり 30イシマエル人オビルは駱駝を掌ど
りメロノテ人ヱデヤは驢馬を掌どり 31ハガリ人ヤジズは
羊の群を掌どれり是みなダビデ王の所有を掌どれる者な
り 32またダビデの叔父ヨナタンは議官たり彼は智慧あり
學識ある者なり又ハクモニの子ヱヒエルは王の子等の
補佐たり 33アヒトペルは王の議官たりアルキ人ホシヤイ
は王の伴侶たり 34アヒトペルに次ぐ者はベナヤの子ヱホ
ヤダおよびアビヤタル王の軍旅の長はヨアブ

第二十八章

1茲にダビデ、イスラエルの一切の長支派の長王に事ふ
る班列の長千人の長百人の長王とその子等の所有及び
家畜を掌どる者閹官有力者諸勇士などを盡くヱルサレ
ムに召集め 2而してダビデ王その足にて起て言けるは我
兄弟等我民よ我に聽け我はヱホバの契約の櫃のため我
らの神の足臺のために安居の家を建んとの志ありて已
にこれを建る準備をなせり 3然るに神我に言たまへり汝
は我名のために家を建べからず汝は軍人にして許多の血
を流したればなりと 4然りと雖もイスラエルの神ヱホバ
我父の全家の中より我を選びて永くイスラエルに王たら
しめたまふ即ちユダを選びて長となしユダの全家の中よ
り我父の家を選び我父の子等の中にて我を悦びイスラエ
ルの王とならしめたまふ 5而してヱホバ我に衆多の子を
たまひて其わが諸の子等の中より我子ソロモンを選び之
をヱホバの國の位に坐せしめてイスラエルを治めしめん
としたまふ 6ヱホバまた我に言たまひけるは汝の子ソロ
モンはわが家および我庭を作らん我かれを選びて吾子と
なせり我かれの父となるべし 7彼もし今日のごとく我
誡命と律法を堅く守り行はば我その國を永く堅うせんと
8然ば今ヱホバの會衆たるイスラエルの全家の目の前お
よび我らの神の聞しめす所にて汝らに勸む汝らその神ヱ
ホバの一切の誡命を守りかつ之を追もとむべし然せば
汝等この美地を保ちてこれを汝らの後の子孫に永く傳ふ
ることを得ん 9我子ソロモンよ汝の父の神を知り完全心
をもて喜び勇んで之に事へよヱホバは一切の心を探り

一切の思想を暁りたまふなり汝もし之を求めなば之に遇ん然ど汝もし之を棄なば永く汝を棄たまはん 10然ば汝謹めよヱホバ汝を選びて聖 所とすべき家を建させんと爲たまへば心を強くしてこれを爲べしと 11而してダビデは殿の廊およびその家その府庫その上の室その内の室贖罪 所の室などの式様をその子ソロモンに授け 12また其心に思ひはかれる一切の物すなはちヱホバの家の庭四周の 諸 の室神の家の府庫聖 物の府庫などの式様を授け 13また祭司およびレビ人の班列とヱホバの家の 諸 の奉事の工とヱホバの家の 諸 の奉事の器 皿とにつきて諭すところあり 14また 諸 の奉事に用ふる金の器 皿を作る金の重量を定め又 諸 の奉事の器に用ふる 諸 の銀の器 皿の銀の重量を定む 15即ち金の燈臺とその金の燈 盞の重量を宣て一切の燈臺とその燈 盞の重量を定め又銀の燈臺につきても各々の燈臺の用法にしたがひて燈臺とその燈 盞の重量を定め 16また供前のパンの案につきてはその 各 の案のために金の重量を定め又銀の案のためにも銀を定め 17又肉鉤盂 杓のために用ふる純 金の重量を定め金の大 叵につきてもまた各々の大 叵のために重量を定め銀の一切の大 叵のためにも重量を定め 18また香壇のために用ふる精金の重量を定めかつ車なるケルビムの式様の金を定む此ケルビムはその翼を展てヱホバの契約の櫃を覆ふ 19而してダビデ言けらく此工事の式様は皆ことごとくヱホバのその手を我上にくだして我を教へて書せたまひし者なりと 20かくてダビデその子ソロモンに言けるは汝 心を強くし勇みてこれを爲せ懼るる勿れ慄くなかれヱホバ神我神 汝とともに在さん彼かならず汝 を離れず汝を棄ず汝をしてヱホバの家の奉事の 諸 の工を成終しめたまふべし 21視よ神の家の 諸 の役事をなすためには祭司とレビ人の班列あり又 諸 の工と從事を悦こびて爲ところの 諸 の技巧者 汝とともに在り且また牧伯等および一切の民 汝の命ずるところを悉く行はん

第二十九章

1ダビデ王また全會衆に言けるは我子ソロモンは神の惟獨 選びたまへる者なるが少くして弱く此工事は大なり此殿は人のために非ずヱホバ神のためにする者なればなり 2是をもて我 力を盡して我神の家のために物を備へたり即ち金の物を作る金 銀の物の銀 銅 の物の銅 鐵の物の鐵 木の物の木を備へたり又葱珩 嵌石 黒石火 崗 諸の寶石蝋石など夥多し 3かつまた我わが神の家を悦ぶが故に聖 所のために備へたる一切の物の外にまた自己の所有なる金銀をわが神の家に献ぐ 4即ちオフルの金三千タラント精銀七千タラントを献げてその家々の壁を蔽ふに供ふ 5金は金の物に銀は銀の物に凡て工人の手にて作るものに用ふべし誰か今日 自ら進んでヱホバのためにその手に物を盈さんかと 6是において宗家の長イスラエルの支派の牧伯等千人の長 百 人の長および王の工事を 掌どる者等誠意より献 物をなせり 7その神の家の奉事のために献げたるものは金五千タラント一萬ダリク銀一萬タラント 銅 一萬八千タラント鐵十萬タラント 8また寶石ある者はゲルシヨン人ヱヒエルの手に託て之を神の家の府庫に納めたり 9彼ら斯誠意よりみづから進んでヱホバに献げたれば民その献ぐるを喜べりダビデ王もまた大に喜 びぬ 10茲にダビデ全會衆の前にてヱホバを頌へたりダビデの曰く我らの先祖イスラエルの神ヱホバよ汝は世々 限なく頌へまつるべきなり 11ヱホバよ權勢と能力と榮光と光輝と威光とは汝に屬す凡て天にある者地にある者はみな汝に屬すヱホバよ國もまた汝に屬す汝は萬有の首 と崇られたまふ 12富と 貴 とは共に汝より出づ汝は萬有を主 宰たまふ汝の手には權勢と能力あり汝の手は能く一切をして大たらしめ又強くならしむるなり 13然ば我儕の神よ我儕今なんぢに感謝し汝の尊き名を讃美す 14但し我ら斯のごとく自ら進んで献ぐることを得たるも我は何ならんやまた我民は何ならんや萬の物は汝より出づ我らは只 汝の手より受て汝に献げたるなり 15汝の前にありては我らは先祖等のごとく旅客たり寄寓者たり我らの世にある日は影のごとし望む所ある無し 16我らの神ヱホバよ汝の聖名のために汝に家を建んとて我らが備へたる此衆多の物は凡て汝の手より出づ亦皆なんぢの所有なり 17我神よ我また知る汝は心を鑒みたまひ又正直を悦びたまふ我は正き心をもて眞實より此一切の物を献げたり今我また此にある汝の民が眞實より献 物をするを見て喜悦にたへざるなり 18我らの先祖アブラハム、イサク、イスラエルの神ヱホバよ汝の民をして此精神を何時までもその心の思念に保たしめその心を固く汝に歸せしめたまへ 19又わが子ソロモンに完全 心を與へ汝の誡命と汝の證言と汝の法度を守らせて之をことごとく行はせ我が備をなせるその殿を建させたまへ 20ダビデまた全會衆にむかひて汝ら今なんぢらの神ヱホバを頌へよと言ければ全

會衆その先祖等の神ヱホバを頌へ俯てヱホバと王とを拝せり 21而して其翌日に至りてイスラエルの一切の人のためにヱホバに犠牲を献げヱホバに燔祭を献げたり其牡牛一千牡羊一千羔羊一千またその灌祭と祭物夥多しかりき 22その日彼ら大に喜びてヱホバの前に食ひかつ飲み／さらに改めてダビデの子ソロモンを王となしヱホバの前にてこれに膏をそそぎて主君となし又ザドクを祭司となせり 23かくてソロモンはヱホバの位に坐しその父ダビデに代りて王となりその繁榮を極むイスラエルみな之に從がふ 24また一切の牧伯等勇士等およびダビデ王の諸の子等みなソロモン王に服事す 25ヱホバ、イスラエルの目の前にてソロモンを甚だ大ならしめ彼より前のイスラエルの王の未だ得たること有ざる王威を之に賜へり 26夫ヱツサイの子ダビデはイスラエルの全地を治めたり 27そのイスラエルを治めし間は四十年なり即ちヘブロンにて七年世を治めヱルサレムにて三十三年世を治めたりき 28遐齢にいたり年も富も尊貴も滿足て死り其子ソロモンこれに代りて王となる 29ダビデ王が始より終まで爲たる事等は先見者サムエルの書預言者ナタンの書および先見者ガドの書に記さる 30其中にはまた彼の政治とその能力および彼とイスラエルと國々の諸の民に臨みしところの事等を載す

歴代志略下

第一章

1ダビデの子ソロモン堅くその國にたてりその神ヱホバこれとともに在して之を甚だ大ならしめたまひき 2茲にソロモン、イスラエルの一切の人々すなはち千人の長百人の長裁判人ならびにイスラエルの全地の諸の牧伯等宗家の長などに告る所あり 3而してソロモンおよび全會衆ともにギベオンなる崇邱に往りヱホバの僕モーセが荒野にて作りたる神の集會の幕屋かしこにあればなり 4されど神の契約の櫃はダビデすでにキリアテヤリムよりこれが爲に備へたる處に携へ上れりダビデ曩にヱルサレムにて之が爲に幕屋を張まうけたりき 5またホルの子ウリの子なるベザレルが作りたる銅の壇彼處においてヱホバの幕屋の前にありソロモンおよび會衆これに就きて求む 6即ちソロモン彼處に上りゆき集會の幕屋の中にあるヱホバの前なる銅の壇に就き燔祭一千を其上に献げたり 7その夜神ソロモンに顯れてこれに言たまひけるは我なんぢに何を與ふべきか求めよ 8ソロモン神に申しけるは汝は我父ダビデに大なる恩恵をほどこし又我をして彼に代りて王とならしめたまへり 9今ヱホバ神よ願くは我父ダビデに宣ひし事を堅うしたまへ其は汝地の塵のごとき衆多の民の上に我を王となしたまへばなり 10我が此民の前に出入することを得んために今我に智慧と智識とを與へたまへ斯のごとき大なる汝の民を誰か鞫きえんや 11神ソロモンに言たまひけるは此事なんぢの心にあり汝は富有をも財寶をも尊貴をも汝を惡む者の生命をも求めずまた壽長からんことをも求めず惟智慧と智識とを己のためにもとめて我が汝を王となしたる我民を鞫かんとすれば 12智慧と智識は已に汝に授かれり我また汝の前の王等の未だ得たること有ざる程の富有と財寶と尊貴とを汝に與へん汝の後の者もまた是のごときを得ざるべし 13斯てソロモンはギベオンの崇邱を去り集會の幕屋の前を去りてヱルサレムに歸りイスラエルを治めたり 14ソロモン戰車と騎兵とを集めしに戰車一千四百輛騎兵一萬二千人ありきソロモンこれを戰車の邑々に置き又ヱルサレムにて王の所に置り 15王銀と金とを石のごとくヱルサレムに多からしめまた香柏を平野の桑樹のごとく多からしめたり 16ソロモンの有る馬は皆エジプトよりひききたれり王の商買一群一群となして之を取いだし群ごとに價金をはらへり 17エジプトより取いだして携へ上る戰車一輛は銀六百馬一匹は百五十なりき是のごとくヘテ人の諸の王等およびスリアの王等のためにもその手をもて取いだせり

第二章

1茲にソロモン、ヱホバの名のために一の家を建てまた己の國のために一の家を建んとし 2ソロモンすなはち荷を負べき者七萬人山において木や石を斫べき者八萬人是等を監督すべき者三千六百人を數へ出せり 3ソロモンまづツロの王ヒラムに人を遣して言しめけるは汝はわが父ダビデにその住むべき家を建る香柏をおくれり請ふ彼になせしごとく亦我にもせよ 4今我わが神ヱホバの名の

ために一の家を建て之を聖別て彼に奉つり彼の前に馨し
き香を焚き常に供前のパンを供へ燔祭を朝夕に献げまた
安息日月朔ならびに我らの神ヱホバの節期などに献げん
とす是はイスラエルの永く行ふべき事なればなり 5我建
る家は大なり其は我らの神は諸の神よりも大なればなり
6然ながら天も諸天の天も彼を容ること能はざれば誰か
彼のために家を建ることを得んや我は何人ぞや爭か彼の
ために家を建ることを得ん唯彼の前に香を焚くためのみ
7然ば請ふ今金銀銅鐵の細工および紫 赤青の製造に精し
く雕刻の術に巧なる工人一箇を我に遣り我父ダビデが備
へおきたるユダとヱルサレムのわが工人とともに操作し
めよ 8請ふ汝また香柏松木および白 檀をレバノンより我
におくれ我なんぢの僕 等がレバノンにて木を斫ることを
善するを知るなり我 僕また汝の僕と共に操作べし 9是の
ごとくして我ために材木を多く備へしめよ其は我が建ん
とする家は高大を極むる者なるべければなり 10我は木を
斫る汝の僕に搗麥二萬石大麥二萬石酒二萬バテ油二萬バ
テを與ふべしと 11是においてツロの王ヒラム書をソロモ
ンにおくりて之に答へて云ふヱホバその民を愛するが故
に汝をもて之が王となせりと 12ヒラムまた言けるは天地
の造 主なるイスラエルの神ヱホバは讃べきかな彼はダビ
デ王に賢き子を與へて之に分別と才智とを賦け之をして
ヱホバのために家を建てまた己の國のために家を建るこ
とを得せしむ 今我わが達人ヒラムといふ才智ある工人
一人を汝におくる 14彼はダンの子孫たる婦の產る者にて
其父はツロの人なるが金銀銅鐵木石の細工および 紫 布
青布細布赤布の織法に精しく又能く各 種の雕刻を爲し
奇巧を凝して 諸 の工をなすなり然ば彼を用ひてなんぢ
の工人および汝の父わが主ダビデの工人とともに操作し
めよ 15是については我主の宣まへる小麥大麥 油および酒
をその僕 等に遣りたまへ 16汝の凡て需むるごとく我らレ
バノンより木を斫いだしこれを筏にくみて海よりヨツバ
におくるべければ汝これをエルサレムに運びのぼりたま
へと 17ここにおいてソロモンその父ダビデが核數しごと
くイスラエルの國にをる異邦人をことごとく核數みるに
合せて十五萬三千六百 人ありければ 18その七萬人をもて
荷を負ふ者となし八萬人をもて山にて木や石を斫る者と
なし三千六百 人をもて民を操作かしむる監督者となせり

第三章

1ソロモン、ヱルサレムのモリア山にヱホバの家を建るこ
とを始む彼處はその父ダビデにヱホバの顯はれたまひし
所 にて即ちヱブス人オルナンの打場の中にダビデが備へ
し處なり 2之を建ることを始めたるはその治世の四年の
二月 二日なり 3神の家を建るためにソロモンの置たる 基
は是のごとし長六十キユビト濶二十キユビト皆 古 の 尺
に循がふ 4家の前の廊は家の濶にしたがひてその長二十
キユビトまたその高は百二十キユビトその内は純 金をも
て蔽ふ 5またその大殿は松の木をもて張つめ美 金をもて
之を蔽ひその上に棕櫚と鏈索の形を施こし 6また寶石を
もてその家を美しく飾るその金はパルワイムの金なり 7
彼また金をもてその家その樑その閾その壁およびその戸
を蔽ひ壁の上にケルビムを刻つく 8また至 聖 所の家を造
りしがその長は家の濶にしたがひて二十キユビトその 濶
も二十キユビト、美 金をもてこれを蔽ふその金六百タラ
ント 9その釘の金は重五十シケルまた上の室も金にて覆
ふ 10また至 聖 所の家の内に刻 鏤めたる二のケルビムを
造り金をこれに覆ふ 11そのケルビムの翼は長二十キユビ
ト此ケルブの一の翼は五キユビトにして家の壁に達しそ
の他の翼も五キユビトにして彼のケルブの翼に達す 12ま
た彼ケルブの一の翼は五キユビトにして家の壁に達しそ
の他の翼も五キユビトにして此ケルブの翼と相接はる 13
是等のケルビムの翼はその舒ひろがること二十キユビト
共にその足にて立ちその面を家に向く 14彼また青 紫 赤
の布および細布をもて障蔽の幕を作りケルビムをその上
に繍ふ 15また家の前に柱 二本を作るその高は三十五キユ
ビトその 頂 の頭は五キユビト 16また環 飾を造り鏈索を
之に繞らしてこれを柱の 頂 に施こし石榴一百をつくり
てその鏈索の上に施こす 17この柱を拝殿の前に竪て一本
を右に一本を左に置ゑ右なる者をヤキンと名け左なる者
をボアズと名く

第四章

1ソロモンまた銅 の壇を作れりその長二十キユビト濶二
十キユビトその高十キユビト 2また海を鋳造れり此邊よ
り彼邊まで十キユビトにしてその周圍は圓くその高は五
キユビトその周圍には三十キユビトの繩をめぐらすべし
3その下には牛の像ありてその周圍を繞る即ち一キユビ
トに十宛ありて海の周圍を繞れり此牛は二 行にして海を
鋳る時に鋳付たるなり 4その海は十二の牛の上に立りそ

の三は北にむかひ三は西にむかひ三は南にむかひ三は 東
にむかふ海はその上にありて牛の後はみな内にむかふ 5
その厚は手寛その邊は百合花形にして 杯 の邊の如くに
作れり是は三千バテを受容る 6彼また洗盤十箇を作りて
五箇を右に五箇を左に置たり是はものを洗ふ所にして
燔祭の品をその中にて灌ぐ海は祭司が其身を洗ふ處なり
7また金の燈臺十をその例規に從ひて作り拝殿の中に 五
を右に五を左に置き 8また案 十を作りて拝殿の中に五を
右に五を左に据ゆ又金の鉢一百を作れり 9彼また祭司の
庭と大庭および庭の戸を作り 銅 をもてその扉を覆ふ 10
海は東のかた右の方に置て南に向はしむ 11ヒラムまた鍋
と火鏟と鉢とを作れり／斯ヒラムはソロモン王のために
なせる神の家の 諸 の工事を終たり 12即ち二の柱と毬と
その二の柱の 頂 の頭およびその柱の 頂 なる頭の二の毬
を包む二の網工 13ならびに其ふたつの網工の上にほどこ
す石榴四百この石榴は各々の網工の上に二 行づつありて
柱 の 頂 なる頭の二の毬を包む 14また臺を作り臺の上の
洗盤を作れり 15また一の海とその下なる十二の牛 16およ
び鍋火鏟肉叉などヱホバの家の 諸 の器 具を達人ヒラム
ソロモン王の爲に作りたり是みな磨 銅 なり 17王ヨルダ
ンの窪地に於てスコテとゼレダタの間の黏土の地にて
是等を鋳させたり 18是のごとくソロモン是らの 諸 の
器 皿を甚だ多く造りたればその 銅 の重は測られざりき
19ソロモン神の家の一切の器 皿を造れり即ち金の壇供前
のパンを載る案 20また定規のごとく神殿の前にて火をと
もすべき純 金の燈臺およびその燈 盞 21その花その 燈 盞
その燈鉗是等は金の純 精なる者なり 22また剪刀鉢匙火盤
是等も純 金なり又家の内の戸すなはち至 聖 所の戸およ
び拝殿の戸の肘鈕是も金なり

第五章

1斯ソロモンがヱホバの家のために爲る一切の工事をは
れり是においてソロモンその父ダビデが奉納たる物なる
金銀および 諸 の器 皿を携へいりて神の家の府庫の中に
置り 2茲にソロモン、ヱホバの契約の櫃をダビデの邑シ
オンより昇のぼらんとてイスラエルの長老者と諸の支派
の長 等イスラエルの子孫の宗家の長をエルサレムに召集
めければ 3イスラエルの人みな七月の節筵に當りて王の
所 に集まり 4イスラエルの長老等みな至りレビ人契約の
櫃を執あげ 5その契約の櫃と集 會の幕屋と幕屋にありし
諸 の聖 器を昇のぼれり即ち祭司レビ人これを昇のぼり
ぬ 6時にソロモン王および彼の許に集まれるイスラエル
の會 衆契約の櫃の前にありて羊と牛を献げたりしがその
數多くして書すことも數ふることも能はざりき 7かくて
祭司等ヱホバの契約の櫃をその處に昇いれたり即ち室の
神殿なる至 聖 所の中のケルビムの翼の下に昇いりぬ 8ケ
ルビムは翼を契約の櫃の所の上に舒べケルビム上より
契約の櫃とその杠を掩ふ 9杠長かりければ杠の末は神殿
の前の契約の櫃より見えたり然れども外には見えざりき
其は今日まで彼處にあり 10契約の櫃の内には二枚の板の
外何もあらず是はイスラエルの子孫のエジプトより出た
る時ヱホバが彼らと契約を結びたまへる時にモーセがホ
レブにて蔵めたる者なり 11斯て祭司等は聖所より出たり
此にありし祭司はみな身を潔めその班列によらずして
職務をなせり 12またレビ人の謳歌者すなはちアサフ、ヘ
マン、エドトン及び彼らの子等と兄 弟等はみな細布を纏
ひ鐃鈸と瑟と琴とを操て壇の東に立りまた祭司百二十人
彼らとともにありて喇叭を吹り 13喇叭を吹く者と謳歌者
とは一人のごとくに聲を斉うしてヱホバを讃かつ頌へた
りしが彼ら喇叭鐃鈸等の樂器をもちて聲をふりたて善か
なヱホバその矜憫は世々 限なしと言てヱホバを讃ける時
に雲その室すなはちヱホバの室に充り 14祭司は雲の故を
もて立て奉事をなすことを得ざりきヱホバの榮 光神の室
に充たればなり

第六章

1是においてソロモン言けるはヱホバは濃き雲の中に居
んと言たまひしが 2我 汝のために住むべき家永 久に居べ
き所を建たりと 3而して王その面をふりむけてイスラエ
ルの全 會 衆を祝せり時にイスラエルの會 衆は皆立をれ
り 4彼いひけるはイスラエルの神ヱホバは讃べき哉ヱホ
バはその口をもて吾父ダビデに言ひその手をもて之を成
とげたまへり 5即ち言たまひけらく我はわが民をエジプ
トの地より導き出せし日より我名を置べき家を建しめん
ためにイスラエルの 諸 の支派の中より何の邑をも選み
しこと無く又何人をも選みて我民イスラエルの君となせ
しこと無し 6只我はわが名を置くためにエルサレムを選
みまた我民イスラエルを治めしむるためにダビデを選め
り 7夫イスラエルの神ヱホバの名のために家を建ること
は我父ダビデの心にありき 8然るにヱホバわが父ダビデ

に言たまひけるは我名のために家を建ること汝の心にあり汝の心にこの事あるは善し 9然れども汝はその家を建べからず汝の腰より出る汝の子その人わが名のために家を建べしと 10而してヱホバその言たまひし言をおこなひたまへり即ち我わが父ダビデに代りて立ちヱホバの言たまひしごとくイスラエルの位に坐しイスラエルの神ヱホバの名のために家を建て 11その中にヱホバがイスラエルの子孫になしたまひし契約を容る櫃をささめたりと 12ソロモン、イスラエルの全會衆の前にてヱホバの壇の前に立てその手を舒ぶ 13ソロモンさきに長五キユビト濶五キユビト高三キユビトの銅の臺を造りてこれを庭の眞中に据おきたりしが乃ちその上に立ちイスラエルの全會衆の前にて膝をかがめ其手を天に舒て 14言けるはイスラエルの神ヱホバ天にも地にも汝のごとき神なし汝は契約を保ちたまひ心を全うして汝の前に歩むところの汝の僕等に恩恵を施こしたまふ 15汝は汝の僕わが父ダビデにのたまひし所を保ちたまへり汝は口をもて言ひ手をもて成就たまへること今日のごとし 16イスラエルの神ヱホバよ然ば汝が僕わが父ダビデに語りて若し汝の子孫その道を愼みて汝がわが前に歩めるごとくに我律法にあゆまばイスラエルの位に坐する人わが前にて汝に缺ること無るべしと言たまひし事をダビデのために保ちたまへ 17然ばイスラエルの神ヱホバよ汝が僕ダビデに言たまへるなんぢの言に效驗あらしめたまへ 18但し神果して地の上に人とともに居たまふや夫天も諸天の天も汝を容るに足ず況て我が建たる此家をや 19然れども我神ヱホバよ僕の祈祷と懇願をかへりみて僕が今汝の前に祈るその號呼と祈祷を聽たまへ 20願くは汝の目を夜晝此家の上即ち汝が其名を置んと言たまへる所の上に開きたまへ願くは僕がこの處にむかひて祈らん祈祷を聽たまへ 21願くは僕と汝の民イスラエルがこの處にむかひて祈る時にその懇願を聽たまへ請ふ汝の住處なる天より聽き聽て赦したまへ 22人その隣人にむかひて罪を犯せることありてその人誓をもて誓ふことを要められんに若し來りてこの家において汝の壇の前に誓ひなば 23汝天より聽て行ひ汝の僕等を鞫き惡き者に返報をなしてその道をその首に歸し義者を義としてその義にしたがひて之を待ひたまへ 24汝の民イスラエルなんぢに罪を犯したるがために敵の前に敗れんに若なんぢに歸りて汝の名を崇め此家にて汝の前に祈り願ひなば 25汝天より聽て汝の民イスラエルの罪を赦し汝が彼等とその先祖に與へし地に彼等を歸らしめたまへ 26彼らが汝に罪を犯したるがために天閉て雨なからんに彼ら若この處にむかひて祈り汝の名を崇め汝が彼らを苦しめたまふ時にその罪を離れなば 27汝天より聽きて汝の僕等なんぢの民イスラエルの罪を赦したまへ汝既にかれらにその歩むべき善道を敎へたまへり汝の民に與へて產業となさしめたまひし汝の地に雨を降したまへ 28若くは國に饑饉あるか若くは疫病枯死朽腐蝨賊稻蠹あるか若くは其敵かれらをその國の邑に圍む等如何なる災禍如何なる疾病あるとも 29もし一人或は汝の民イスラエルみな各々おのれの災禍と憂患を知てこの家にむかひて手を舒なば如何なる祈祷如何なる懇願をなすとも 30汝の住處なる天より聽て赦し各々の人にその心を知たまふごとくその道々にしたがひて報いたまへ其は汝のみ人々の心を知たまへばなり 31汝かく彼らをして汝が彼らの先祖に與へたまへる地に居る日の間つねに汝を畏れしめ汝の道に歩ましめたまへ 32且汝の民イスラエルの者にあらずして汝の大なる名と強き手と伸たる腕とのために遠き國より來れる異邦人においてもまた若來りてこの家にむかひて祈らば 33汝の住處なる天より聽き凡て異邦人の汝に顧もとむるごとく成たまへ汝かく地の諸の民をして汝の名を知らしめ汝の民イスラエルの爲ごとくに汝を畏れしめ又わが建たる此家は汝の名をもて稱らるるといふことを知しめたまへ 34汝の民その敵と戰はんとて汝の遣はしたまふ道に進める時もし汝が選びたまへるこの邑およびわが汝の名のために建たる家にむかひて汝に祈らば 35汝天より彼らの祈祷と懇願を聽て彼らを助けたまへ 36人は罪を犯さざる者なければ彼ら汝に罪を犯すことありて汝かれらを怒り彼らをその敵に付したまひて敵かれらを虜として遠き地または近き地に曳ゆかん時 37彼らその擄れゆきし地において自ら心に了るところあり其俘擄の地において翻へりて汝に祈り我らは罪を犯し悖れる事を爲し惡き事を行ひたりと言ひ 38その擄へゆかれし俘擄の地にて一心一念に汝に立歸り汝がその先祖に與へたまへる地にむかひ汝が選びたまへる邑と我が汝の名のために建たる家にむかひて祈らば 39汝の住處なる天より彼らの祈祷と懇願を聽て彼らを助け汝の民が汝にむかひて罪を犯したるを赦したまへ 40然ば我神よ願くは此處にて爲す祈祷に汝の目を開き耳を傾むけたまへ 41ヱホバ神よ今汝および汝の力ある契約の櫃起て汝の安居の所にいりた

まへヱホバ神よ願くは汝の祭司等に拯救の衣を纏はせ汝の聖徒等に恩恵を喜こばせたまへ 42ヱホバ神よ汝の膏そそぎし者の面を黜ぞけたまふ勿れ汝の僕ダビデの徳行を記念たまへ

第七章

1ソロモン祈ることを終し時天より火くだりて燔祭と犠牲とを焚きヱホバの榮光その家に充り 2ヱホバの榮光ヱホバの家に充しに因て祭司はヱホバの家に入ことを得ざりき 3イスラエルの子孫は皆火の降れるを見またヱホバの榮光のその家にのぞめるを見て敷石の上にて地に俯伏て拝しヱホバを讃て云り善かなヱホバその恩恵は世々限なしと 4斯て王および民みなヱホバの前に犠牲を献ぐ 5ソロモン王の献げたる犠牲は牛二萬二千 羊十二萬斯王と民みな神の家を開けり 6祭司は立てその職をなしレビ人はヱホバの樂器を執て立つ其樂器はダビデ王彼らの手によりて讃美をなすに當り自ら作りてヱホバの恩恵は世々限なしと頌へしめし者なり祭司は彼らの前にありて喇叭を吹きイスラエルの人は皆立をる 7ソロモンまたヱホバの家の前なる庭の中を聖め其處にて燔祭と酬恩祭の脂とを献げたり是はソロモンの造れる銅の壇その燔祭と素祭と脂とを受るに足ざりしが故なり 8その時ソロモン七日の間節筵をなしけるがイスラエル全國の人々すなはちハマテの入口よりエジプトの河までの人々あつまりて彼とともにあり其會はなはだ大なりき 9かくて第八日に聖會を開けり彼らは七日のあひだ壇奉納の禮をおこなひまた七日のあひだ節筵を守りけるが 10七月の二十三日にいたりてソロモン民をその天幕に歸せり皆ヱホバがダビデ、ソロモンおよびその民イスラエルに施こしたまひし恩恵のために喜こび且心に樂しみて去り 11ソロモン、ヱホバの家と王の家とを造了へヱホバの家と己の家とにつきて爲んと心に思ひし事を盡く成就たり 12時にヱホバ夜ソロモンに顯れて之に言たまひけるは我すでに汝の祈祷を聽きまた此處をわがために選びて犠牲を献ぐる家となす 13我天を閉て雨なからしめ又は蝗賊に命じて地の物を食はしめ又は疫病を我民の中におくらんに 14我名をもて稱らるる我民もし自ら卑くし祈りてわが面を求めその惡き道を離れなば我天より聽てその罪を赦しその地を醫さん 15今より我この處の祈祷に目を啓き耳を傾むけん 16今我すでに此家を選びかつ聖別む我名は永く此にあるべしまた我目もわが心も恒に此にあるべし 17汝もし汝の父ダビデの歩みしごとく我前に歩み我が汝に命じたるごとく凡て行ひてわが法度と律例を守らば 18我は汝の父ダビデに契約してイスラエルを治むる人汝に缺ることと無るべしと言しごとく汝の國の祚を堅うすべし 19然ど汝ら若ひるがへり我が汝らの前に置たる法度と誡命を棄て往て他の神々に事へかつ之を拝まば 20我かれらを我が與へたる地より抜さるべし又我名のために我が聖別たる此家は我これを我前より投棄て萬國の中に諺語となり嘲笑とならしめん 21且又この家は高くあれども終にはその傍を過る者は皆これに驚きて言ん ヱホバ何故に此地に此家に斯なしたるやと 22人これに答へて言ん 彼ら己の先祖をエジプトの地より導き出ししその神ヱホバを棄て他の神々に附從がひ之を拝み之に事へしによりてなりヱホバ之がためにこの諸の災禍を彼らに降せりと

第八章

1ソロモン二十年を經てヱホバの家と己の家を建をはりけるが 2ヒラム邑幾何をソロモンに歸しければソロモンまた之を建なほしイスラエルの子孫をしてその中に住しむ 3ソロモンまたハマテゾバに往て之に勝り 4彼また曠野のタデモルを建てハマテの諸の府庫邑を建つ 5また上ベテホロンおよび下ベテホロンを建つ是は堅固の邑にして石垣あり門あり關木あり 6ソロモンまたバアラテとおのが有る府庫の邑々と戰車の諸の邑々と騎兵の邑々ならびにそのエルサレム、レバノンおよび己が治むるところの全地に建んと望みし者を盡く建つ 7凡てイスラエルの子孫にあらざるヘテ人アモリ人ペリジ人ヒビ人ヱブス人の遺れる者 8その地にありて彼らの後に遺れるその子孫即ちイスラエルの子孫の滅ぼし盡さざりし民はソロモンこれを使役して今日にいたる 9然れどもイスラエルの子孫をばソロモン一人も奴隷となして其工事に使ふことをせざりき彼らは軍人となり軍旅の長となり戰車と騎兵の長となれり 10ソロモン王の有司の首は二百五十人ありて民を統ぶ 11ソロモン、パロの女をダビデの邑より携へのぼりて曩にこれがために建おきたる家にいたる彼すなはち言り我妻はイスラエルの王ダビデの家に居べからずヱホバの契約の櫃のいたれる處は皆聖ければなりと 12茲にソロモン曩に廊の前に築きおきたるヱホバの壇の上にてヱホバに燔祭を献ぐることをせり 13即ちモーセの

命令にしたがひて毎日例のごとくに之を献げ安息日月朔および年に三次の節會すなはち酵いれぬパンの節と七週の節と結茅節とに之を献ぐ 14ソロモンその父ダビデの定めたる所にしたがひて祭司の班列を定めてその職に任じ又レビ人をその勤務に任じて日々例のごとく祭司の前にて頌讃をなし奉事をなさしめ又門を守る者をしてその班列にしたがひて諸門を守らしむ神の人ダビデの命ぜしところ是の如くなりければなり 15祭司とレビ人は諸の事につきまた府庫の事につきて王に命ぜられたる所に違ざりき 16ソロモンはヱホバの家の基を置る日までにその工事の準備をことごとく爲しおきて遂に之を成をへたればヱホバの家は全備せり 17茲にソロモン、ヱドムの地の海邊にあるエジオンゲベルおよびエロテに往り 18時にヒラムその僕等の手に託て船を彼に遣りまた海の事を知る僕等を遣りけるが彼等すなはちソロモンの僕とともにオフルに往て彼處より金四百五十タラントを取てソロモン王の許に携へ來れり

第九章

1茲にシバの女王ソロモンの風聞を聞および難問をもてソロモンを試みんとて甚だ衆多の部從をしたがへ香物と夥多き金と寶石とを駱駝に負せてヱルサレムに來りソロモンの許にいたりてその心にある所をことごとく之に陳けるに 2ソロモンこれが問に盡く答へたりソロモンの知ずして答へざる事は無りき 3シバの女王ソロモンの智慧とその建たる家を觀 4またその席の食物とその諸臣の列坐る状とその侍臣の伺候状と彼らの衣服およびその酒人とその衣服ならびに彼がヱホバの家に上りゆく昇道を觀におよびて全くその氣を奪はれたり 5是において彼王に言けるは我が自己の國にて汝の行爲と汝の智慧とにつきて聞およびたる言は眞實なりき 6然るに我は來りて目に觀るまではその言を信ぜざりしが今視ば汝の智慧の大なる事我が聞たるはその半分にも及ばざりき汝は我が聞たる風聞に愈れり 7汝の人々は幸福なるかな汝の前に常に立て汝の智慧を聽る此なんぢの臣僕等は幸福なるかな 8汝の神ヱホバは讃べき哉彼なんぢを悦こびてその位に上らせ汝の神ヱホバの爲に汝を王となしたまへり汝の神イスラエルを愛して永く之を堅うせんとするが故に汝を之が王となして公平と正義を行はせたまふなりと 9すなはち金百二十タラントおよび莫大の香物と寶石とを王に饋れりシバの女王がソロモン王に饋りたるが如き香物は未だ曾て有ざりしなり 10(かのオフルより金を取きたりしヒラムの臣僕とソロモンの臣僕等また白檀木と寶石とをも携さへいたりければ 11王その白檀木をもてヱホバの家と王の宮とに段階を作りまた謳歌者のために琴と瑟とを作れり是より前には是のごとき者ユダの地に見しこと無りき) 12ソロモン王シバの女王に物を饋りてその携へきたれる所に報いたるが上にまた之が望にまかせて凡てその求むる者を與へたり斯て彼はその臣僕とともに去てその國に還りぬ 13一年にソロモンの所に來れる金の重量は六百六十六タラントなり 14この外にまた商賣および商旅の携へきたる者ありアラビアの一切の王等および國の知事等もまた金銀をソロモンに携へ至れり 15ソロモン王展金の大楯二百を作れりその大楯一枚には展金六百シケルを用ふ 16また展金の小干三百を作れり其小干一枚には金三百シケルを用ふ王これらをレバノン森の家に置り 17王また象牙をもて大なる寶座一を造り純金をもて之を蔽へり 18その寶座には六の階級あり又金の足臺ありて共にその寶座に連なりその坐する處の此旁彼旁に按手ありて按手の側に二頭の獅子立をり 19その六の階級に十二の獅子ありて此旁彼旁に立り是のごとき者を作れる國は未だ曾て有ざりしなり 20ソロモン王の用ゐる飲料の器は皆金なりまたレバノン森の家の器もことごとく精金なり銀はソロモンの世には何とも算ざりしなり 21其は王の舟ヒラムの僕を乗てタルシシに往き三年毎に一回その舟タルシシより金銀象牙猿および孔雀を載て來りたればたり 22ソロモン王は天下の諸王に勝りて富有と智慧とをもちたれば 23天下の諸王みな神がソロモンの心に授けたまへる智慧を聽んとてソロモンの面を見んことを求め 24各々その禮物を携さへ來る即ち銀の器金の器衣服甲冑香物馬騾など年々定分ありき 25ソロモン戰車の馬四千厩騎兵一萬二千あり王これを戰車の邑々に置きまたヱルサレムにて自己の所に置り 26彼は河よりペリシテの地とエジプトの界までの諸王を統治めたり 27王は銀を石のごとくヱルサレムに多からしめまた香柏を平野の桑木のごとく多からしめたり 28また人衆エジプトなどの諸國より馬をソロモンに率いたれり 29ソロモンのその餘の始終の行爲は預言者ナタンの書とシロ人アヒヤの預言と先見者イドがネバテの子ヤラベアムにつきて述たる默旨の中に記さるるにあらずや 30ソロモンはヱルサレム

にて四十年の間イスラエルの全地を治めたり 31 ソロモンその先祖等と倶に寝りてその父ダビデの邑に葬られ其子レハベアムこれに代りて王となれり

第十章

1 爰にレハベアム、シケムに往り其はイスラエルみな彼を王となさんとてシケムに到りたればたり 2 ネバテの子ヤラベアムはさきにソロモン王の面を避てエジプトに逃れ居しがこのことを聞てエジプトより歸れり 3 人衆人を遣はして之を招きたるなり斯てヤラベアムとイスラエルの人みな來りてレハベアムに語りて言けるは 4 汝の父我らの軛を苦しくせり然ば汝 今 汝の父の苦しき役とその我らに蒙むらせたる重き軛を軽くしたまへ然れば我儕なんぢに事へん 5 レハベアムかれらに言けるは汝ら三日を經て再び我に來れと民すなはち去り 6 是においてレハベアム王その父ソロモンの生る間これが前に立たる老人等に計りて言けるは汝ら如何に教へて此民に答へしむるや 7 彼らレハベアムに語りて言けるは汝もし此民を厚く待ひ之を悦こばせ善言を之に語らば永く汝の僕たらんと 8 然るに彼その老人等の教へし教を棄て自己とともに生長て己の前に立ところの少年等と計れり 9 即ち彼らに言けるは汝ら如何に教へて我らをして此我に語りて汝の父の我らに蒙むらせし軛を軽くせよと言ふ民に答へしむるやと 10 彼とともに生長たる少年等かれに語りて言けるは汝に語りて汝の父我らの軛を重くしたれば汝これを我らのために軽くせよと言たる此民に汝かく答へ斯これに言べし吾小指は我父の腰よりも太し 11 我父は汝らに重き軛を負せたりしが我は更に汝らの軛を重くせん我父は鞭をもて汝らを懲せしが我は蠍をもて汝らを懲さんと 12 偕またヤラベアムと民等は皆王の告て第三日に再び我にきたれと言しごとく第三日にレハベアムに詣りしに 13 王荒々しく彼らに答へたり即ちレハベアム王老人の教を棄て 14 少年の教のごとく彼らに告て言けるは我父は汝らの軛を重くしたりしが我は更に之を重くせん我父は鞭をもて汝らを懲せしが我は蠍をもて汝らを懲さんと 15 王かく民に聽ことをせざりき此事は神より出たる者にしてその然るはヱホバかつてシロ人アヒヤによりてネバテの子ヤラベアムに告たる言を成就んがためなり 16 イスラエルの民みな王の己に聽ざるを見しかば王に答へて言けるは我らダビデの中に何の分あらんやヱッサイの子の中には所有なしイスラエルよ汝ら各々その天幕に歸れダビデ族よ今おのれの家を顧みよと斯イスラエルは皆その天幕に歸れり 17 但しユダの邑々に住るイスラエルの子孫の上にはレハベアムなほ王たりき 18 レハベアム王役夫の頭なるアドラムを遣はしけるにイスラエルの子孫石をもてこれを撃て死しめたればレハベアム王急ぎてその車に登りてエルサレムに逃かへれり 19 是のごとくイスラエルはダビデの家に背きて今日にいたる

第十一章

1 茲にレハベアム、ヱルサレムに至りてユダとベニヤミンの家より倔強の武者十八萬を集め而してレハベアム國を己に歸さんためにイスラエルと戰はんとせしに 2 ヱホバの言 神の人シマヤに臨みて云ふ 3 ソロモンの子ユダの王レハベアムおよびユダとベニヤミンにあるイスラエルの人々に告て言べし 4 ヱホバかく言ふ汝ら攻上るべからず又なんぢらの兄弟と戰ふべからず各々その家に歸れ此事は我より出たる者なりと彼ら乃はちヱホバの言にしたがひヤラベアムに攻ゆくことを止て歸れり 5 斯てレハベアム、ヱルサレムに居りユダに守衛の邑々を建たり 6 即ちその建たる者はベテレヘム、エタム、テコア 7 ベテズル、シヨコ、アドラム 8 ガテ、マレシヤ、ジフ 9 アドライム、ラキシ、アゼカ 10 ゾラ、アヤロン、ヘブロン是等はユダとベニヤミンにありて守衛の邑なり 11 彼その守衛の邑々を堅固にし之に軍長を置き糧食と油と酒とを貯はへ 12 またその一切の邑に盾と矛とを備へて之を甚だ強からしむユダとベニヤミンこれに附り 13 イスラエルの全地の祭司とレビ人は四方の境より來りてレハベアムに投ず 14 即ちレビ人はその郊地と産業とを離れてユダとヱルサレムに至れり是はヤラベアムとその子等かれらを廢して祭司の職をヱホバの前に爲しめざりし故なり 15 ヤラベアムは崇邱と牡山羊と己が作れる犢とのために自ら祭司を立つ 16 またイスラエルの一切の支派の中凡てその心を傾むけてイスラエルの神ヱホバを求むる者はその先祖の神ヱホバに禮物を献げんとてレビ人にしたがひてヱルサレムに至れり 17 是のごとく彼等ユダの國を固うしソロモンの子レハベアムをして三年の間強からしめたり即ち民は三年の間ダビデとソロモンの道に歩めり 18 レハベアムはダビデの子ヱレモテの女マハラテを妻に娶れりマハラテはヱッサイの子エリアブの女アビハイルの産し者なり

19彼エウシ、シヤマリヤおよびザハムの三子を産む 20また之が後にアブサロムの女マアカを娶れり彼アビヤ、アツタイ、ジザおよびシロミテを産む 21レハベアムはアブサロムの女マアカをその一切の妻と妾とにまさりて愛せり彼は妻十八人妾六十人を取り男子二十八人女子六十人を擧く 22レハベアム、マアカの子アビヤを王となさんと思ふが故に之を立て首となしその兄弟の長となせり 23斯るが故に慧く取行ひ其男子等を盡くユダとベニヤミンの地なる守衛の邑々に散し置き之に糧食を多く與へかつ衆多の妻を求得させたり

第十二章

1レハベアムその國を固くしその身を強くするに及びてエホバの律法を棄たりイスラエルみな之に倣ふ 2彼ら斯エホバにむかひて罪を犯すによりてレハベアムの五年にエジプトの王シシヤク、エルサレムに攻のぼれり 3その戰車は一千二百騎兵は六萬また彼に從がひてエジプトより來れる民ルビ人スキ人エテオピヤ人等は數しれず 4彼すなはちユダの守衛の邑々を取り進てエルサレムに至る 5是においてレハベアムおよびユダの牧伯等シシヤクの故によりてエルサレムに集まり居けるに預言者シマヤこれが許にいたりて之に言けるはエホバかく言たまふ汝等は我を棄たれば我も汝らをシシヤクの手に遺おけりと 6是をもてイスラエルの牧伯等および王は自ら卑くしてエホバは義と言り 7エホバかれらが自ら卑くするを見たまひければエホバの言シマヤに臨みて言ふ彼等は自ら卑くしたれば我かれらを滅ぼさず少く拯救を彼らに施こさん我シシヤクの手をもて我忿怒をエルサレムに洩さじ 8然ながら彼等は之が臣とならん是彼らが我に事ふる事と國々の王等に事ふる事との辨をしらん爲なりと 9エジプトの王シシヤクすなはちエルサレムに攻のぼりエホバの家の寶物と王の家の寶物とを奪ひて盡くこれを取り又ソロモンの作りたる金の楯を奪ひされり 10是をもてレハベアム王その代に銅の楯を作り王の家の門を守る侍衛の長等の手にこれを交し置けるが 11王エホバの家に入る時には侍衛きたりて之を負ひまた侍衛の房にこれを持かへれり 12レハベアム自ら卑くしたればエホバの忿怒かれを離れこれを盡く滅ぼさんとは爲たまはず又ユダにも善事ありき 13レハベアム王はエルサレムにありてその力を強くし世を治めたり即ちレハベアムは四十一歳のとき位に即き十七年の間エルサレムにて世を治む是すなはちエホバがその名を置んとてイスラエルの一切の支派の中より選びたまへる邑なり彼の母はアンモニ人にしてその名をナアマといふ 14レハベアムはエホバを求むる事に心を傾けずして惡き事を行へり 15レハベアムの始終の行爲は預言者シマヤの書および先見者イドの書の中に系圖の形に記さるるに非ずやレハベアムとヤラベアムの間には絶ず戰爭ありき 16レハベアムその先祖等とともに寢りてダビデの邑に葬られ其子アビヤ之にかはりて王となれり

第十三章

1ヤラベアム王の十八年にアビヤ、ユダの王となり 2エルサレムにて三年の間世を治めたり其母はギベアのウリエルの女にして名をミカヤといふ茲にアビヤとヤラベアムの間に戰爭あり 3アビヤは四十萬の軍勢をもて戰闘に備ふ是みな倔強の猛き武夫なり又ヤラベアムは倔強の人八十萬をもて之にむかひて戰爭の行伍を立つ是また大勇士なり 4時にアビヤ、エフライムの山地なるゼマライム山の上に立て言けるはヤラベアムおよびイスラエルの人々皆聽よ 5汝ら知ずやイスラエルの神エホバ鹽の契約をもてイスラエルの國を永くダビデとその子孫に賜へり 6然るにダビデの子ソロモンの臣たるネバテの子ヤラベアム興りてその主君に叛き 7邪曲なる放蕩者これに集り附き自ら強くしてソロモンの子レハベアムに敵せしがレハベアムは少くまた心弱くして之に當る力なかりき 8今またなんぢらはダビデの子孫の手にあるエホバの國に敵對せんとす汝らは大軍なり又ヤラベアムが作りて汝らの神と爲たる金の犢なんぢらと偕にあり 9汝らはアロンの子孫たるエホバの祭司とレビ人とを逐放ち國々の民の爲がごとくに祭司を立るにあらずや即ち誰にもあれ少き牡牛一匹牡羊七匹を携へきたりて手に充す者は皆かの神ならぬ者の祭司となることを得るなり 10然ど我儕に於てはエホバ我儕の神にましまして我儕は之を棄ずまたエホバに事ふる祭司はアロンの子孫にして役事をなす者はレビ人なり 11彼ら朝ごと夕ごとにエホバに燔祭を献げ香を焚くことを爲し又供前のパンを純精の案の上に供へまた金の燈臺とその燈盞を整へて夕ごとに點すなり斯われらは我らの神エホバの職守を守れども汝らは却て彼を棄たり 12視よ神みづから我らとともに在して我らの大將となり

たまふまた其祭司等は喇叭を吹ならして汝らを攻むイスラエルの子孫よ汝らの先祖の神ヱホバに敵して戰ふ勿れ汝ら利あらざるべければなりと 13ヤラベアム伏兵を彼らの後に回らせたればイスラエルはユダの前にあり伏兵は其後にあり 14ユダ後を顧みるに敵前後にありければヱホバにむかひて號呼り祭司等喇叭を吹り 15ユダの人々すなはち吶喊を擧けるがユダの人々吶喊を擧るにあたりて神ヤラベアムとイスラエルの人々をアビヤとユダの前に打敗り給ひしかば 16イスラエルの子孫はユダの前より逃はしれり神かく彼らを之が手に付したまひければ 17アビヤとその民彼らを夥多く撃殺せりイスラエルの殺されて倒れし者は五十萬人みな倔強の人なりき 18是時にはイスラエルの子孫打負されユダの子孫勝を得たり是は彼らその先祖の神ヱホバを頼みしが故なり 19アビヤすなはちヤラベアムを追撃て邑數箇を彼より取れり即ちベテルとその鄉里ヱシヤナとその鄉里エフロンとその鄉里是なり 20ヤラベアムはアビヤの世に再び權勢を奮ふことを得ずヱホバに撃れて死り 21然どアビヤは權勢を得妻十四人を娶り男子二十二人女子十六人を擧けたり 22アビヤのその餘の作爲とその行爲とその言は預言者イドの註釋に記さる

第十四章

1アビヤその先祖等とともに寢りてダビデの邑に葬られその子アサこれに代りて王となれりアサの代になりて其國十年の間平穩なりき 2アサはその神ヱホバの目に善と視正義と視たまふ事を行へり 3即ち異なる祭壇を取のぞき諸の崇邱を毀ち柱像を打碎きアシラ像を斫倒し 4ユダに命じてその先祖等の神ヱホバを求めしめその律法と誡命を行はしめ 5ユダの一切の邑々より崇邱と日の像とを取除けり而して國は彼の前に平穩なりき 6彼また守衛の邑數箇をユダに建たり是はその國平安を得て此年頃戰爭なかりしに因る即ちヱホバ彼に安息を賜ひしなり 7彼すなはちユダに言けるは我儕是等の邑を建てその四周に石垣を築き戍樓を起し門と門閂とを設けん我儕の神ヱホバを我儕求めしに因て此國なほ我儕の前にあり我ら彼を求めたれば四方において我らに平安を賜へりと斯彼ら阻滯なく之を建了たり 8アサの軍勢はユダより出たる者三十萬ありて楯と戈とを執りベニヤミンより出たる者二十八萬ありて小楯を執り弓を彎く是みな大勇士なり 9茲にエテオピア人ゼラ軍勢百萬人戰車三百輛を率ゐて攻きたりマレシヤに至りければ 10アサこれにむかひて進み出で共にマレシヤのゼパタの谷において戰爭の陣列を立つ 11時にアサその神ヱホバにむかひて呼はりて言ふヱホバよ力ある者を助くるも力なき者を助くるも汝においては異ること無し我らの神ヱホバよ我らを助けたまへ我らは汝に倚賴み汝の名に託りて往て此群集に敵るヱホバよ汝は我らの神にましませり人をして汝に勝せたまふ勿れと 12ヱホバすなはちアサの前とユダの前においてエテオピア人を撃敗りたまひしかばエテオピア人逃はしりけるに 13アサと之に從がふ民かれらをゲラルまで追撃り斯エテオピア人は倒れて再び振ふことを得ざりき其は彼等ヱホバとその軍旅に打敗られたればなりユダの人々の得たる掠取物は甚だ多りき 14かれらはまたゲラルの四周の邑々を盡く撃やぶれり是その邑々ヱホバを畏れたればなり是において彼らその一切の邑より物を掠めたりしがその中より得たる掠取物は夥多かりき 15また家畜のをる天幕を襲ふて羊と駱駝を多く奪ひ取り而してヱルサレムに歸りぬ

第十五章

1茲に神の靈オデデの子アザリヤに臨みければ 2彼出ゆきてアサを迎へ之に言けるはアサおよびユダとベニヤミンの人々よ我に聽け汝等がヱホバと偕にをる間はヱホバも汝らと偕に在すべし汝ら若かれを求めなば彼に遇ん然どかれを棄なば彼も汝らを棄たまはん 3抑イスラエルには眞の神なく教訓を施こす祭司なく律法なきこと日久しかりしが 4患難の時にイスラエルの神ヱホバに立かへりて之を求めたれば即ちこれに遇り 5當時は出る者にも入る者にも平安なく惟大なる苦患くにぐにの民に臨めり 6國は國に邑は邑に擊碎かる其は神諸の患難をもて之を苦しめたまへばなり 7然ば汝ら強かれよ汝らの手を弱くする勿れ汝らの行爲には賞賜あるべければなりと 8アサこれらの言および預言者オデデの預言を聽て力を得憎むべき者をユダとベニヤミンの全地より除きまた其エフライムの山地に得たる邑々より除きヱホバの廊の前なるヱホバの壇を再興せり 9彼またユダとベニヤミンの人々およびエフライム、マナセ、シメオンより來りて寄寓る者を集めたりイスラエルの人々の中ヱホバ神のアサと偕に在すを見てアサに降れる者夥多しかりしなり 10彼等すなはちアサの治世の十五年の三月にヱルサレムに集り 11其

たづさへ來れる掠取物の中より牛七百 羊七千をその日ヱホバに献げ 12皆契約を結びて曰く心を盡し精神を盡して先祖の神ヱホバを求めん 13凡てイスラエルの神ヱホバを求めざる者は大小男女の區別なく之を殺さんと 14而して大聲を擧げ號呼をなし喇叭を吹き角を鳴してヱホバに誓 を立て 15ユダみなその誓を喜べり即ち彼ら一心をもて誓 を立て一念にヱホバを求めたればヱホバこれに遇ひ四方において之に安息をたまへり 16偖またアサ王の母マアカ、アシラ像を作りしこと有ればアサこれを貶して太后たらしめずその像を斫たふして粉々に碎きキデロン川にてこれを焚り 17但し崇 邱は尚イスラエルより除かざりき然どもアサの心は一 生の間 全かりしなり 18彼はまたその父の納めたる物および己が納めたる物すなはち金銀ならびに器 皿等をヱホバの家に携へいれり 19アサの治世の三十五年までは再び戰爭あらざりき

第十六章

1アサの治世の三十六年にイスラエルの王バアシヤ、ユダに攻のぼりユダの王アサの所に誰をも往來せざらしめんとてラマを建たり 2是においてアサ、ヱホバの家と王の家との府庫より金銀を取いだしダマスコに住るスリアの王ベネハダデに餽りて言けるは 3我父と汝の父の間の如く我と汝の間に約を立ん視よ我今 汝に金銀を餽れり往て汝とイスラエルの王バアシヤとの約を破り彼をして我を離れて去しめよ 4ベネハダデすなはちアサ王に聽き自己の軍勢の長 等をイスラエルの邑々に攻遣ければ彼等イヨン、ダン、アベルマイムおよびナフタリの一切の府庫の邑々を擊たり 5バアシヤ聞てラマを建ることを罷めその工事を廢せり 6是においてアサ王ユダ全國の人を率゜バアシヤがラマを建るに用ひたる石と材木を運びきたらしめ之をもてゲバとミズパを建たり 7その頃先見者ハナニ、ユダの王アサの許にいたりて之に言けるは汝はスリアの王に倚賴みて汝の神ヱホバに倚賴まざりしに因てスリア王の軍勢は汝の手を脫せり 8かのエテオピア人とルビ人は大軍にして戰 車および騎兵はなはだ多かりしにあらずや然るも汝ヱホバに倚賴みたればヱホバかれらを汝 の手に付したまへり 9ヱホバは全世界を徧く見そなはし己にむかひて心を全うする者のために力を顯したまふこの事において汝は愚なる事をなせり故に此後は汝に戰爭あるべしと 10然るにアサその先見者を怒りて之を獄舍にいれたり其は烈しくこの事のために彼を怒りたればなりアサまた其頃民を虐げたる事ありき 11アサの始終の行爲はユダとイスラエルの列王の書に記さる 12アサはその治世の三十九年に足を病みその病患つひに劇しくなりしがその病患の時にもヱホバを求めずして醫師を求めたり 13アサその先祖等と偕に寢りその治世の四十一年に死り 14人衆これをその己のためにダビデの邑に堀おける墓に葬り製 香の術をもて製したる種々の香物を盈せる床の上に置き之がために夥多しく焚物をなせり

第十七章

1アサの子ヨシヤパテ、アサに代りて王となりイスラエルにむかひて力を強くし 2ユダの一切の堅固なる邑々に兵を置きユダの地およびその父アサが取たるエフライムの邑々に鎭臺を置く 3ヱホバ、ヨシヤパテとともに在せり其は彼その父ダビデの最初の道に歩みてバアル等を求めず 4その父の神を求めてその誡命に歩みイスラエルの行爲に傚はざればなり 5このゆゑにヱホバ國を彼の手に堅く立たまへりまたユダの人衆みなヨシヤパテに禮物を餽れり彼は富と 貴 とを極めたり 6是において彼ヱホバの道にその心を勵まし遂に崇 邱とアシラ像とをユダより除けり 7彼またその治世の三年にその牧伯ベネハイル、オバデヤ、ゼカリヤ、ネタンエルおよびミカヤを遣はしてユダの邑々にて教誨をなさしめ 8またレビ人の中よりシマヤ、ネタニヤ、ゼバデヤ、アサヘル、セミラモテ、ヨナタン、アドニヤ、トビヤ、トバドニヤなどいふレビ人を遣して之と偕ならしめ且祭司エリシヤマとヨラムをも之と偕に遣はしけるが 9彼らはヱホバの律法の書を 携へユダにおいて教誨をなしユダの邑々を 盡 く行めぐりて民を教へたり。 10是においてユダの周圍の地の國々みなヱホバを懼れてヨシヤパテを攻ることをせざりき 11またペリシテ人の中に禮物および貢の銀をヨシヤパテに餽れる者あり且又アラビヤ人は家畜をこれに餽れり即ち牡羊七千七百 牡山羊七千七百 12ヨシヤパテは益々 大になりゆきてユダに城および府庫邑を多く建て 13ユダの邑々に多くの工事を爲し大勇士たる軍 人をエルサレムに置り 14彼等を數ふるにその宗家に循へば左のごとしユダより出たる千人の長の中にはアデナといふ軍 長あり大勇士三十萬これに從がふ 15その次は軍 長ヨハナン之に從 ふ者は二十八萬人 16その次はジクリの子アマシヤ彼は

悦びてその身をヱホバに献げたり大勇士二十萬これに從がふ 17ベニヤミンより出たる者の中にはエリアダといふ大勇士あり弓および楯を持もの二十萬これに從がふ 18その次はヨザバデ戰門の準備をなせる者十八萬これに從がふ 19是等は皆王に事ふる者等なり此外にまたユダ全國の堅固なる邑々に王の置る者あり

第十八章

1ヨシヤパテは富と貴とを極めアハブと縁を結べり 2かれ數年の後サマリアに下りてアハブを訪ければアハブ彼およびその部從のために牛羊を多く宰りギレアデのラモテに倶に攻上らんことを彼に勸む 3すなはちイスラエルの王アハブ、ユダの王ヨシヤパテに言けるは汝我とともにギレアデのラモテに攻ゆくやヨシヤパテこれに答へけるは我は汝のごとく我民は汝の民のごとし汝とともに戰門に臨まんと 4ヨシヤパテまたイスラエルの王に言けるは請ふ今日ヱホバの言を問たまへと 5是においてイスラエルの王預言者四百人を集めて之に言けるは我らギレアデのラモテに往て戰ふべきや又は罷べきや彼等いひけるは攻上りたまへ神これを王の手に付したまふべしと 6ヨシヤパテいひけるは此外に我らの由て問べきヱホバの預言者此にあらざるや 7イスラエルの王こたへてヨシヤパテに言けるは外になほ一人あり我ら之によりてヱホバに問ことを得ん然ど彼は今まで我につきて善事を預言せず恒に惡き事のみを預言すれば我彼を惡むなり其者は即ちイムラの子ミカヤなりと然るにヨシヤパテこたへて王しか宣ふ勿れと言ければ 8イスラエルの王一人の官吏を呼てイムラの子ミカヤを急ぎ來らしめよと言り 9イスラエルの王およびユダの王ヨシヤパテは朝衣を纏ひサマリアの門の入口の廣場にて各々その位に坐し居り預言者は皆その前に預言せり 10時にケナアナの子ゼデキヤ鐵の角を造りて言けるはヱホバかく言たまふ汝是等をもてスリア人を衝て滅ぼし盡すべしと 11預言者みな斯預言して云ふギレアデのラモテに攻上りて勝利を得たまへヱホバこれを王の手に付したまふべしと 12茲にミカヤを召んとて往たる使者これに語りて言けるは預言者等の言は一の口より出るがごとくにして王に善し請ふ汝の言をも彼らの一人のごとくなして善事を言へ 13ミカヤ言けるはヱホバは活く我神の宣ふ所を我は陳べんと 14かくて王に至るに王彼に言けるはミカヤよ我らギレアデのラモテに往て戰かふべきや又は罷べきや彼言けるは上りゆきて利を得たまへ彼らは汝の手に付されんと 15王かれに言けるは我幾度なんぢを誓はせたらば汝ヱホバの名をもて唯眞實のみを我に告るや 16彼言けるは我イスラエルが皆牧者なき羊のごとく山に散をるを見たるがヱホバ是等の者は主なし各々やすらかに其家に歸るべしと言たまへり 17イスラエルの王是においてヨシヤパテに言けるは我なんぢに告て彼は善事を我に預言せず只惡き事のみを預言せんと言しに非ずやと 18ミカヤまた言けるは然ば汝らヱホバの言を聽べし我視しにヱホバその位に坐し居たまひて天の萬軍その傍に右左に立をりしが 19ヱホバ言たまひけるは誰かイスラエルの王アハブを誘ひて彼をしてギレアデのラモテにのぼりゆきて彼處に斃れしめんかと即ち一は此ごとくせんと言ひ一は彼ごとくせんと言ければ 20遂に一の靈すすみ出てヱホバの前に立ち我かれを誘はんと言たればヱホバ何をもてするかと之に問たまふに 21我いでて虚言を言ふ靈となりてその諸の預言者の口にあらんと言りヱホバ言たまひけるは汝は誘なひ且これを成就ん出て然すべしと 22故に視よヱホバ虚言を言ふ靈を汝のこの預言者等の口に入たまへり而してヱホバ汝に災禍を降さんと定めたまふと 23時にケナアナの子ゼデキヤ近よりてミカヤの頬を批て言けるはヱホバの靈何の途より我を離れゆきて汝と言ふや 24ミカヤ言けるは汝奥の室にいりて身を匿す日に見るべし 25イスラエルの王いひけるはミカヤを取てこれを邑の宰アモンおよび王の子ヨアシに曳かへりて言べし 26王かく言ふ我が安然に歸るまで此者を牢にいれて苦惱のパンを食せ苦惱の水を飲せよと 27ミカヤ言けるは汝もし眞に平安に歸るならばヱホバ我によりて斯宣ひし事あらずと而してまた言り汝ら民よ皆聽べしと 28かくてイスラエルの王およびユダの王ヨシヤパテはギレアデのラモテに上りゆけり 29イスラエルの王時にヨシヤパテに言けるは我は服装を變て戰陣の中にいらん汝は朝衣を纏ひたまへとイスラエルの王すなはち服装を變へ二人倶に戰陣の中にいれり 30スリアの王その戰車の長等にかねて命じおけり云く汝ら小き者とか大なる者とも戰ふなかれ惟イスラエルの王とのみ戰へと 31戰車の長等ヨシヤパテを見て是はイスラエルの王ならんと言ひ身をめぐらして之と戰はんとせしがヨシヤパテ號呼ければヱホバこれを助けたまへり即ち神彼らを感動して之を離れしめたまふ 32戰車の長等彼がイスラエルの王にあら

ざるを見しかば之を追ことをやめて引返せり 33茲に一箇の人何心なく弓を彎てイスラエルの王の胸當と草摺の間に射あてたれば彼その御者に言けるは我傷を受たれば汝 手を旋らして我を軍中より出せと 34此日戰爭烈しくなりぬイスラエルの王は車の中に自ら扶持て立ち薄暮までスリア人をささへをりしが日の沒る頃にいたりて死り

第十九章

1ユダの王ヨシヤパテは恙なくヱルサレムに歸りてその家に至れり 2時に先見者ハナニの子ヱヒウ、ヨシヤパテ王を出むかへて之に言けるは汝 惡き者を助けヱホバを惡む者を愛して可らんや之がためにヱホバの前より震怒なんぢの上に臨む 3然ながら善事もまた汝の身に見ゆ即ち 汝はアシラ像を國中より除きかつ心を傾けて神を求むるなりと 4ヨシヤパテはヱルサレムに住をりしが復出てベヱルシバよりエフライムの山地まで民の間を行めぐりその先祖の神ヱホバにこれを導き歸せり 5彼またユダの一切の堅固なる邑に裁判人を立つ國中の邑々みな然り 6而して裁判人に言けるは汝等その爲ところを愼め汝らは人のために裁判するに非ずヱホバのために裁判するなり裁判する時にはヱホバ汝らと偕にいます 7然ば汝らヱホバを畏れ愼みて事をなせ我らの神ヱホバは惡き事なく人を偏 視ことなく賄賂を取こと無ればなり 8ヨシヤパテまたレビ人祭司およびイスラエルの族長を選びてヱルサレムに置きヱホバの事および訴訟を審判しむ彼らはヱルサレムにかへれり 9ヨシヤパテこれに命じて云く汝らヱホバを畏れ眞實と誠心をもて斯おこなふべし 10凡てその邑々に住む汝らの兄弟血を相流せる事または律法と誡命法度と條例などの事につきて汝らに訴へ出ること有ばこれを諭してヱホバに罪を犯さざらしめよ恐らくは震怒なんぢと汝らの兄弟にのぞまん汝ら斯おこなはば愆なかるべし 11視よ祭司の長アマリヤ汝らの上にありてヱホバの事を凡て司どりユダの家の宰イシマエルの子ゼバデヤ王の事を凡て司どる亦レビ人 汝らの前にありて官吏とならん汝 ら心を強くして事をなせヱホバ善人を祐けたまふべし

第二十章

1この後モアブの子孫アンモンの子孫およびマオニ人等ヨシヤパテと戰はんとて攻きたれり 2時に或人きたりてヨシヤパテに告て云ふ海の彼旁スリアより大衆 汝に攻きたる視よ今ハザゾンタマルにありとハザゾンタマルはすなはちエンゲデなり 3是においてヨシヤパテ懼れ面をヱホバに向てその助を求めユダ全國に斷食を布令しめたれば 4ユダ擧て集りヱホバの助を求めたり即ちユダの一切の邑より人々きたりてヱホバを求む 5時にヨシヤパテ、ヱホバの室の新しき庭の前においてユダとヱルサレムの會衆の中に立ち 6言けるは我らの先祖の神ヱホバよ汝は天の神にましますに非ずや異邦人の諸國を統たまふに非ずや汝の手には能力あり權勢ありて誰もなんぢを禦ぐことを能はざるに非ずや 7我らの神よ汝は此國の民を汝の民イスラエルの前より逐はらひて汝の友アブラハムの子孫に之を永く與へたまひしに非ずや 8彼らは此に住み汝の名のために此に聖所を建て言へり 9刑罰の劍 疫病饑饉などの災禍われらに臨まん時は我らこの家の前に立て汝の前にをりその苦難の中にて汝に呼號らんしかして汝 聽て助けたまはん汝の名はこの家にあればなりと 10今アンモン、モアブおよびセイル山の子孫を視たまへ在昔イスラエル、エジプトの國より出きたれる時 汝イスラエルに是等を侵さしめたまはざりしかば之を離れさりて滅ぼさざりしなり 11かれらが我らに報ゆる所を視たまへ彼らは汝 がわれらに有たしめたまへる汝の產業より我らを逐はらはんとす 12我らの神よ汝かれらを鞫きたまはざるや我らは此斯く攻よせたる此の大衆に當る能力なく又爲ところを知ず唯 汝を仰ぎ望むのみと 13ユダの人々はその 小者および妻子とともに皆ヱホバの前に立をれり 14時に會衆の中にてヱホバの靈アサフの子孫たるレビ人ヤハジエルに臨めりヤハジエルはゼカリヤの子ゼカリヤはベナヤの子ベナヤはヱイエルの子ヱイエルはマツタニヤの子なり 15ヤハジエルすなはち言けるはユダの人衆およびヱルサレムの居民ならびにヨシヤパテ王よ聽べしヱホバかく汝らに言たまふ此大衆のために懼るる勿れ慄くなかれ汝 らの戰に非ずヱホバの戰なればなり 16なんぢら明日彼らの所に攻くだれ彼らはヂヅの坡より上り來る汝らヱルエルの野の前なる谷の口にて之に遇ん 17この戰爭には汝 ら戰ふにおよばずユダおよびヱルサレムよ汝ら惟進みいでて立ち汝らとともに在すヱホバの拯救を見よ懼る勿れ慄くなかれ明日彼らの所に攻いでよヱホバ汝らとともに在せばなりと 18是においてヨシヤパテ首をさげて地に俯伏りユダの人衆およびヱルサレムの民もヱホバの前に伏てヱホバを拜す 19時にコハテの子孫およびコラの子孫たるレビ人立あがり聲を高くあげてイスラエルの神ヱホ

バを讃美せり 20かくて皆朝はやく起てテコアの野に出ゆけり其いづるに當りてヨシヤパテ立て言けるはユダの人衆およびヱルサレムの民よ我に聽け汝らの神ヱホバを信ぜよ然ば汝ら堅くあらんその預言者を信ぜよ然ば汝ら利あらん 21彼また民と議りて人々を選び之をして聖き飾を著て軍勢の前に進ましめヱホバにむかひて歌をうたひ且これを讃美せしめヱホバに感謝せよ其恩惠は世々かぎりなしと言しむ 22その歌を歌ひ讃美をなし始むるに當りてヱホバ伏兵を設けかのユダに攻きたれるアンモン、モアブ、セイル山の子孫をなやましたまひければ彼ら打敗られたり 23即ちアンモンとモアブの子孫起てセイル山の民にむかひ盡くこれを殺して滅ししがセイルの民を殺し盡すに及びて彼らも亦力をいだして互に滅ぼしあへり 24ユダの人々野の觀望所に至りてかの群衆を觀たりければ唯地に仆れたる死屍のみにして一人だに逃れし者なかりき 25是においてヨシヤパテおよびその民彼らの物を奪はんとて來り觀にその死屍の間に財寶衣服および珠玉などおびただしく在たれば則ち各々これを剥とりけるが餘に多くして携さへ去こと能はざる程なりき其物多かりしに因て之を取に三日を費しけるが 26第四日にベラカ(感謝)の谷に集り其處にてヱホバに感謝せり是をもてその處の名を今日までベラカ(感謝)の谷と呼ぶ 27而してユダとヱルサレムの人々みな各々歸りきたりヨシヤパテの後にしたがひ歡びてヱルサレムに至れり其はヱホバ彼等をしてその敵の故によりて歡喜を得させたまひたればなり 28即ち彼ら瑟と琴および喇叭を合奏してヱルサレムに往てヱホバの室にいたる 29諸の國の民ヱホバがイスラエルの敵を攻撃たまひしことを聞て神を畏れたれば 30ヨシヤパテの國は平穩なりき即ちその神四方において之に安息を賜へり 31ヨシヤパテはユダの王となり三十五歳のときその位に即き二十五年の間ヱルサレムにて世を治めたり其母はシルヒの女にして名をアズバといふ 32ヨシヤパテはその父アサの道にあゆみて之を離れずヱホバの目に善と觀たまふ事を行へり 33然れども崇邱はいまだ除かず又民はいまだその先祖の神に心を傾けざりき 34ヨシヤパテのその餘の始終の行爲はハナニの子ヱヒウの書に記さるヱヒウの事はイスラエルの列王の書に載す 35ユダの王ヨシヤパテ後にイスラエルの王アハジアと相結べりアハジアは大に惡を行ふ者なりき 36ヨシヤパテ、タルシシに遣る舟を造らんとて彼と相結びてエジオンゲベルにて共に舟數隻を造れり 37時にマレシヤのドダワの子エリエゼル、ヨシヤパテにむかひて預言して云ふ汝アハジアと相結びたればヱホバなんぢの作りし者を毀ちたまふと即ちその舟は皆壞れてタルシシに往くことを得ざりき

第二十一章

1ヨシヤパテその先祖等とともに寢りてダビデの邑にその先祖等とともに葬られその子ヨラムこれに代て王となる 2ヨシヤパテの子たるその兄弟はアザリヤ、ヱヒエル、ゼカリヤ、アザリヤ、ミカエルおよびシバテヤ是みなイスラエルの王ヨシヤパテの子なり 3その父彼らに金銀寶物の賜物を多く與へまたユダの守衛の邑々を與へけるが國はヨラムに與へたりヨラム長子なりければなり 4ヨラムその父の位に登りて力つよくなりければその兄弟等をことごとく劍にかけて殺し又イスラエルの牧伯等數人を殺せり 5ヨラムは三十二歳の時位に即ヱルサレムにて八年の間世を治めたり 6彼はアハブの家のなせるごとくイスラエルの王等の道にあゆめりアハブの女を妻となしたればなり斯かれヱホバの目に惡と觀たまふ事をなせしかども 7ヱホバ曩にダビデに契約をなし且彼とその子孫とに永遠に光明を與へんと言たまひし故によりてダビデの家を滅ぼすことを欲み給はざりき 8ヨラムの世にエドム人叛きてユダの手に服せず自ら王を立たれば 9ヨラム其牧伯等および一切の戰車をしたがへて渉りゆき夜の中に起いでて自己を圍めるエドム人を擊ちその戰車の長等を擊り 10エドム人は斯叛きてユダの手に服せずなりしが今日まで然り此時にあたりてリブナもまた叛きてユダの手に服せずなりぬ是はヨラムその先祖の神ヱホバを棄たるに因てなり 11彼またユダの山々に崇邱を作りてヱルサレムの民に姦淫をおこなはせユダを惑はせり 12時に預言者エリヤの書ヨラムの許に達せり其言に云く汝の先祖ダビデの神ヱホバかく言たまふ汝はその父ヨシヤパテの道にあゆまずまたユダの王アサの道にあゆまずして 13イスラエルの王等の道にあゆみユダの人とヱルサレムの民をしてアハブの家の姦淫をなせるごとくに姦淫を行はしめまた汝の父の家の者にて汝に愈れるところの汝の兄弟等を殺せり 14故にヱホバ大なる災禍をもて汝の民汝の子女汝の妻等および汝の一切の所有を擊たまふべし 15汝はまた臟腑の疾を得て大病になりその疾日々に重りて臟腑つひに墜んと 16即ちヱホバ、ヨラムを

攻させんとてエテオピアに近きところのペリシテ人とアラビヤ人の心を振起したまひければ 17彼らユダに攻のぼりて之を侵し王の家に在ところの貨財を盡く奪ひ取りまたヨウムの子等と妻等をも携へ去れり是をもてその末子ヱホアハズの外には一人も遺れる者なかりき 18此もろもろの事の後ヱホバ彼を撃て臓腑に愈ざる疾を生ぜしめたまひければ 19月日を送り二年を經るにおよびてその臓腑疾のために墜ち重き病苦によりて死ねり民かれの先祖のために焚物をなせし如く彼のためには焚物をなさざりき 20彼は三十二歳の時位に即き八年の間エルサレムにて世を治めて終に薨去れり之を惜む者なかりき人衆これをダビデの邑に葬れり但し王等の墓にはあらず

第二十二章

1エルサレムの民ヨラムの季子アハジアを王となして之に継しむ其は曾てアラビヤ人とともに陣營に攻きたりし軍兵その長子をことごとく殺したればなり是をもてユダの王ヨラムの子アハジア王となれり 2アハジアは四十二歳の時位に即きエルサレムにて一年の間世を治めたりその母はオムリの女にして名をアタリヤといふ 3アハジアもまたアハブの家の道に歩めり其母かれを教へて惡をなさしめたるなり 4即ち彼はアハブの家のごとくにヱホバの目の前に惡をおこなへり其父の死し後彼かくアハブの家の者の教にしたがひたれば終に身を滅ぼすに至れり 5アハジアまた彼らの教にしたがひイスラエルの王アハブの子ヨラムとともにギレアデのラモテにゆきてスリアの王ハザエルと戰ひけるにスリア人ヨラムに傷を負せたり 6是においてヨラムはそのスリアの王ハザエルと戰ふにあたりてラムにて負たる傷を療さんとてヱズレルに歸れりユダの王ヨラムの子アザリヤはアハブの子ヨラムが病をるをもてヱズレルに下りてこれを訪ふ 7アハジアがヨラムを訪ふて害に遇しは神の然らしめたまへるなり即ちアハジアは來り居てヨラムとともに出てニムシの子ヱヒウを迎へたりヱヒウはヱホバが曩にアハブの家を絶去しめんとて膏を沃ぎたまひし者なり 8ヱヒウ、アハブの家を罰するに方りてユダの牧伯等およびアハジアの兄弟等の子等がアハジアに奉へをるに遇て之を殺せり 9アハジアはサマリヤに匿れたりしがヱヒウこれを探求めければ人々これを執へヱヒウの許に曳きたりて之を殺せり但し彼は心を盡してヱホバを求めたるヨシヤパテの子なればとてこれを葬れり斯りしかばアハジアの家は國を統治むる力なくなりぬ 10茲にアハジアの母アタリヤその子の死たるを見て起てユダの家の王子をことごとく滅ぼしたりしが 11王の女ヱホシバ、アハジアの子ヨアシを王の子等の殺さるる者の中より竊み取り彼とその乳媼を夜衣の室におきて彼をアタリヤに匿したればアタリヤかれを殺さざりきヱホシバはヨラム王の女アハジアの妹にして祭司ヱホヤダの妻なり 12かくてヨアシはヱホバの家に匿れて彼らとともにをること六年アタリヤ國に王たりき

第二十三章

1第七年にいたりヱホヤダ力を強してヱロハムの子アザリヤ、ヨハナンの子イシマエル、オベデの子アザリア、アダヤの子マアセヤ、ジクリの子エシヤパテなどいふ百人の長等を招きて己と契約を結ばしむ 2是において彼らユダを行めぐりてユダの一切の邑よりレビ人を集めまたイスラエルの族長を集めてエルサレムに歸り 3而してその會衆みな神の家において王と契約を結べり時にヱホヤダかれらに言けるけるはダビデの子孫の事につきてヱホバの宣まひしごとく王の子位に即べきなり 4然ば汝ら斯なすべし汝ら祭司およびレビ人の安息日に入きたる者は三分の一は門を守り 5三分の一は王の家に居り三分の一は基礎の門に居り民はみなヱホバの室の庭に居べし 6祭司と奉事をするレビ人の外は何人もヱホバの家に入べからず彼らは聖者なれば入ことを得るなり民はみなヱホバの殿を守るべし 7レビ人はおのおの手に武器を執て王を繞りて立べし家に入る者をば凡て殺すべし汝らは王の出る時にも入る時にも王とともに居れと 8是においてレビ人およびユダの人衆は祭司ヱホヤダが凡て命じたる如くに行ひ各々その手の人の安息日に入來べき者と安息日に出ゆくべき者とを率ゐ居れり祭司ヱホヤダ班列の者を去せざればなり 9祭司ヱホヤダすなはち神の家にあるダビデ王の鎗および大楯小楯を百人の長等に交し 10一切の民をして各々武器を手に執て王の四周に立ち殿の右の端より殿の左の端におよびて壇と殿にそふて居しむ 11斯て人衆王の子を携へ出し之に冠冕を戴かせ證詞をわたして王となし祭司ヱホヤダおよびその子等これに膏をそそげり而して皆王長壽かれと言ふ 12茲にアタリヤ民と近衛兵と王を讃る者との聲を聞きヱホバの室に入て民の所に至り 13視に王は入口にてその柱の傍に立ち王の側に

軍長と喇叭手立をり亦國の民みな喜びて喇叭を吹き
謳歌者樂を奏し先だちて讃美を歌ひをりしかばアタリヤ
その衣を裂き叛逆なり叛逆なりと言り 14時に祭司ヱホ
ヤダ軍兵を統る百人の長等を呼出してこれに言ふ彼を
して列の間を通りて出しめよ凡て彼に從がふ者をば劍を
もて殺すべしと祭司は彼をヱホバの室に殺すべからずと
て斯いへるなり 15是をもて之がために路をひらき王の家
の馬の門の入口まで往しめて其處にて之を殺せり 16斯て
ヱホヤダ己と一切の民と王との間にわれらは皆ヱホバの
民とならんことの契約を結べり 17是において民みなバア
ルの室にゆきて之を毀ちその壇とその像を打碎きバアル
の祭司マツタンを壇の前に殺せり 18ヱホヤダまたヱホバ
の室の職事を祭司レビ人の手に委ぬ昔ダビデ、レビ人を
班列にわかちてヱホバの室におきモーセの律法に記され
たる所にしたがひて歓喜と謳歌とをもてヱホバの燔祭を
献げしめたりき今このダビデの例に倣ふ 19彼またヱホバ
の室の門々に看守者を立せ置き身の汚れたる者には何に
よりて汚れたるにもあれ凡て入ことを得ざらしむ 20斯て
ヱホヤダ百人の長等と貴族と民の牧伯等および國の
一切の民を率ゐてヱホバの家より王を導きくだり上の門
よりして王の家にいり王を國の位に坐せしめたり 21斯り
しかば國の民みな喜こびて邑は平穏なりきアタリヤは劍
にて殺さる

第二十四章

1ヨアシは七歳の時位に即きヱルサレムにて四十年の間
世を治めたりその母はベエルシバより出たる者にして名
をヂビアといふ 2ヨアシは祭司ヱホヤダの世にある日の
間は恒にヱホバの善と觀たまふことを行へり 3ヱホヤダ
彼のために二人の妻を娶れり男子女子生る 4此後ヨア
シ、ヱホバの室を修繕んと志し 5祭司とレビ人を集めて
之に言けるは汝ら出てユダの邑々に往き汝らの神ヱホバ
の室を歳々修繕ふべき金子をイスラエルの人衆より聚む
べし其事を亟にせよと然るにレビ人これを亟にせざり
き 6王ヱホヤダ長を召てこれに言けるは汝なんぞレビ人
に求めてヱホバの僕モーセおよびイスラエルの會衆の
古昔證詞の幕屋のために集めたるが如き税をユダとヱル
サレムより取きたらせざるやと 7かの惡き婦アタリヤの
子等神の家を壞りかつヱホバの家の諸の奉納物をバア
ルに供へたり 8是において王の命にしたがひて一箇の匱
を作りヱホバの室の門の外にこれを置き 9ユダとヱルサ
レムに宣布て汝ら神の僕モーセが荒野にてイスラエルに
課したる如き税をヱホバに携へきたれと言けるに 10一切
の牧伯等および一切の民みな喜びて携へきたりその匱に
投いれて遂に納めをはれり 11レビ人その匱に金の多くあ
るを見てこれを王の廳に携へゆく時は王の書記と祭司の
長の下役きたりてその匱を傾むけ復これを取て本の處に
持ゆけり日々に斯のごとくして金を聚むること夥多し 12
而して王とヱホヤダこれをヱホバの家の工事を爲す者に
付し石工および木匠を雇ひてヱホバの室を修繕はせまた
鐵工および銅工を雇ひてヱホバの室を修復せしめけるが
13工人動作てその工事を成をへ神の室を本の状に復して
これを堅固にす 14その既に成るにおよびて餘れる金を王
とヱホヤダの前に持いたりければ其をもてヱホバの室の
ために器皿を作れり即ち奉事の器献祭の器および匙な
らびに金銀の器を作れりヱホヤダが世に在る日の間はヱ
ホバの室にて燔祭をささぐること絶ざりき 15ヱホヤダは
年邁み日滿て死りその死る時は百三十歳なりき 16人衆ダ
ビデの邑にて王等の中間にこれを葬むる其は彼イスラエ
ルの中において神とその殿とにむかひて善事をおこなひ
たればなり 17ヱホヤダの死たる後ユダの牧伯等きたりて
王を拝す是において王これに聽したがふ 18彼らその先祖
の神ヱホバの室を棄てアシラ像および偶像に事へたれば
その愆のために震怒ユダとヱルサレムに臨めり 19ヱホバ
かれらを己にひきかへさんとて預言者等を遣はし之にむ
かひて證をたてさせたまひしかども聽ことをせざりき 20
是において神の霊祭司ヱホヤダの子ゼカリヤに臨みけれ
ば彼民の前に高く起あがりて之に言けるは神かく宣ふ汝
らヱホバの誡命を犯して災禍を招くは何ぞや汝らヱホバ
を棄たればヱホバも汝らを棄たまふと 21然るに人衆かれ
を害せんと謀り王の命によりて石をもてこれをヱホバの
室の庭にて撃殺せり 22斯ヨアシ王はゼカリヤの父ヱホヤ
ダが己にほどこせし恩を念ずしてその子を殺せり彼死る
時にヱホバこれを顧みこれを問討したまへと言り 23かく
てその年の終るにおよびてスリアの軍勢かれにむかひて
攻のぼりユダとヱルサレムにいたりて民の牧伯等をこと
ごとく民の中より滅ぼし絶ちその掠取物を凡てダマスコ
の王に遣れり 24この時スリアの軍勢は小勢にて來りける
にヱホバ大軍をこれが手に付したまへり是はその先祖の
神ヱホバを棄たるが故なり斯かれらヨアシを罰せり 25ス

リア人ヨアシに大傷をおはせて遺去けるがヨアシの臣僕等祭司ヱホヤダの子等の血のために黨をむすびて之に叛き之をその床の上に弑して死しめたり人衆これをダビデの邑に葬れり但し王の墓には葬らざりき 26黨をむすびて之に叛きし者はアンモンの婦シメアテの子ザバデおよびモアブの婦シムリテの子ヨザバデなりき 27ヨアシの子等の事ヨアシの告られし預言および神の室を修繕し事などは列王の書の註釋に記さるヨアシの子アマジヤこれに代りて王となれり

第二十五章

1アマジヤは二十五歳の時位に即きヱルサレムにて二十九年の間世を治めたりその母はヱルサレムの者にして名をヱホアダンといふ 2アマジヤはヱホバの善と視たまふ事を行なひしかども心を全うしてこれを爲ざりき 3彼國のおのが手に堅く立つにおよびてその父王を弑せし臣僕等を殺せり 4然どその子女等をば殺さずしてモーセの書の律法に記せるごとく爲り即ちヱホバ命じて言たまはく父はその子女の故によりて殺さるべからず子女はその父の故によりて殺さるべからず各々おのれの罪によりて殺さるべきなりと 5アマジヤ、ユダの人を集めその父祖の家にしたがひて或は千人の長に附屬せしめ或に百人の長に附屬せしむユダとベニヤミンともに然り且二十歳以上の者を數へ戈と楯とを執て戰闘に臨む倔強の士三十萬を得 6また銀百タラントをもてイスラエルより大勇士十萬を傭へり 7時に神の人かれに詣りて言けるは王よイスラエルの軍勢をして汝とともに往しむる勿れヱホバはイスラエル人すなはちエフライムの子孫とは偕にいまさざるなり 8汝もし往ば心を強くして戰闘を爲せ神なんぢをして敵の前に斃れしめたまはん神は助くる力ありまた倒す力あるなり 9アマジヤ神の人にいひけるは然ば已にイスラエルの軍隊に與へたる百タラントを如何にすべきや神の人答へけるはヱホバは其よりも多き者を汝に賜ふことを得るなりと 10是においてアマジヤかのエフライムより來りて己に就る軍隊を分離してその處に歸らしめければ彼らユダにむかひて烈しく怒を發し火のごとくに怒りてその處に歸れり 11かくてアマジヤは力を強くしその民を率ゐて鹽の谷に往きセイル人一萬を擊殺せり 12ユダの子孫またこの外に一萬人を生擒て磐の頂に曳ゆき磐の頂よりこれを投おとしければ皆微塵に碎けたり 13前にアマジヤが己とともに戰闘に往べからずとして歸し遣たる軍卒等サマリアよりベテホロンまでのユダの邑々を襲ひ人三千を擊ころし物を多く奪ふ 14アマジヤ、エドム人を戮して歸る時にセイル人の神々を携さへ來り之を安置して己の神となしその前に禮拜をなし之に香を焚り 15是をもてヱホバ、アマジヤにむかひて怒を發し預言者をこれに遣はして言しめたまひけるは彼民の神々は己の民を汝の手より救ふことを得ざりし者なるに汝なにとて之を求むるや 16彼かく王に語れる時王これにむかひ我儕汝を王の議官となせしや止よ汝なんぞ擊殺されんとするやと言ければ預言者すなはち止て言り我知る汝この事を行びて吾諫を聽いれざるによりて神なんぢを滅ぼさんと決めたまふと 17斯てユダの王アマジヤ相議りて人をヱヒウの子ヱホアハズの子なるイスラエルの王ヨアシに遣し來れ我儕たがひに面をあはせんと言しめければ 18イスラエルの王ヨアシ、ユダの王アマジヤに言おくりけるはレバノンの荊棘かつてレバノンの香柏に汝の女子を我子の妻に與へよと言おくりたること有しにレバノンの野獣とほりてその荊棘を踏たふせり 19汝はエドム人を擊破れりと謂ひ心にたかぶりて誇る然ば汝家に安んじ居れ何ぞ禍を惹おこして自己もユダもともに亡びんとするやと 20然るにアマジヤ聽ことをせざりき此事は神より出たる者にて彼らをその敵の手に付さんがためなり是は彼らエドムの神々を求めしに因る 21是においてイスラエルの王ヨアシ上りきたりユダのベテシメシにてユダの王アマジヤと面をあはせたりしが 22ユダ、イスラエルに擊敗られて各々その天幕に逃かへりぬ 23時にイスラエルの王ヨアシはヱホアハズの子ヨアシの子なるユダの王アマジヤをベテシメシに執へてヱルサレムに携へゆきヱルサレムの石垣をエフライムの門より隅の門まで四百キユビト程を毀ち 24また神の室の中にてオベデエドムが守り居る一切の金銀および諸の器皿ならびに王の家の財寶を取りかつ人質をとりてサマリアに歸れり 25ユダの王ヨアシの子アマジヤはイスラエルの王ヱホアハズの子ヨアシの死てより後なほ十五年生存らへたり 26アマジヤのその餘の始終の行爲はユダとイスラエルの列王の書に記さるるにあらずや 27アマジヤ翻へりてヱホバに從がはずなりし後ヱルサレムにおいて黨を結びて彼に敵する者ありければ彼ラキシに逃ゆきけるにその人々ラキシに人をやりて彼を

其處に殺さしめたり 28人衆これを馬に負せてきたりユダの邑にてその先祖等とともにこれを葬りぬ

第二十六章

1是においてユダの民みなウジヤをとりて王となしてその父アマジヤに代らしめたり時に年十六なりき 2彼エラテの邑を建てこれを再びユダに歸せしむ是はかの王がその先祖等とともに寢りし後なりき 3ウジヤは十六歳の時位に即きヱルサレムにて五十二年の間世を治めたりその母はヱルサレムの者にして名をヱコリアといふ 4ウジヤはその父アマジヤが凡てなしたる如くヱホバの善と觀たまふ事を行ひ 5神の默示に明なりしかのゼカリヤの世にある日の間心をこめてヱホバを求めたりそのヱホバを求むる間は神これをして幸福ならしめたまへり 6彼いでてペリシテ人と戰ひガテの石垣ヤブネの石垣およびアシドドの石垣を圮しアシドドの地ならびにペリシテ人の中間に邑を建つ 7神かれを助けてペリシテ人グルバアルに住むアラビヤ人およびメウニ人を攻撃しめたまへり 8アンモニ人はまたウジヤに貢を納るウジヤの名つひにエジプトの入口までも廣まれり其は甚だ強くなりければなり 9ウジヤ、ヱルサレムの隅の門谷の門および角隅に戍樓を建てこれを堅固にし 10また荒野に戍樓を建て許多の水溜を掘り其は家畜を多く有たればなり亦平野にも平地にも家畜を有り又山々およびカルメルには農夫と葡萄を修る者を有り農事を好みたればなり 11ウジヤ戰士一旅團あり書記ヱイエルと牧伯マアセヤの數調査により て隊々にわかれて戰爭に出づ皆王の軍長ハナニヤの手に屬す 12大勇士の族長の數は都合二千六百 13その手に屬する軍勢は三十萬七千五百人みな大なる力をもて戰ひ王を助けて敵に當る 14ウジヤその全軍のために楯戈兜鎧弓および投石器の石を備ふ 15彼またヱルサレムにおいて工人に機械を案へ造らしめ之を戍樓および石垣に施こし之をもて矢ならびに大石を射出せり是においてその名遠く廣まれり其は非常の援助を蒙りて旺盛になりたればなり 16然るに彼旺盛になるにおよびその心に高ぶりて惡き事を行なへり即ち彼その神ヱホバにむかひて罪を犯しヱホバの殿に入て香壇の上に香を焚んとせり 17時に祭司アザリヤ、ヱホバの祭司たる勇者八十人を率ゐて彼の後にしたがひ入り 18ウジヤ王を阻へてこれに言けるはウジヤよヱホバに香を焚ことは汝のなすべき所にあらずアロンの子孫にして香を焚ために潔められたる祭司等のなすべき所なり聖所より出よ汝は罪を犯せりヱホバ神なんぢに榮を加へたまはじと 19是においてウジヤ怒を發し香爐を手にとりて香を焚んとせしがその祭司にむかひて怒を發しをる間に癩病その額に起れり時に彼はヱホバの室にて祭司等の前にあたりて香壇の側にをる 20祭司の長アザリヤおよび一切の祭司等彼を見しに已にその額に癩病 生じゐたれば彼を其處より 速 にいだせり彼もまたヱホバの己を擊たまへるを見て自ら急ぎて出去り 21ウジヤ王はその死る日まで癩病人となり居しがその癩病人となるにおよびては別殿に住りヱホバの室より斷れたればなり其子ヨタム王の家を管理て國の民を審判り 22ウジヤのその餘の始終の行爲はアモツの子預言者イザヤこれを書記したり 23ウジヤその先祖等とともに寢りたれば彼は癩病人なりとて王等の墓に連接る地にこれを葬りてその先祖等とともならしむその子ヨタムこれに代りて王となれり

第二十七章

1ヨタムは二十五歳の時位に即きヱルサレムにて十六年の間世を治めたり其母はザドクの女にして名をヱルシヤといふ 2ヨタムはその父ウジヤの凡て爲たるごとくヱホバの善と視たまふ事をなせり但しヱホバの殿には入ざりき民は尚惡き事を爲り 3彼ヱホバの家の上の門を建なほしオペルの石垣を多く築き增し 4ユダの山地に數箇の邑を建て林の間に城および戍樓を築けり 5彼アンモニ人の王と戰ひこれに勝り其年アンモンの子孫銀百タラント小麥一萬石大麥一萬石を彼におくれりアンモンの子孫は第二年にも第三年にも是のごとく彼に貢をいる 6ヨタムその神ヱホバの前においてその行を堅うしたるに因て權能ある者となれり 7ヨタムのその餘の行爲その一切の戰闘およびその行などはイスラエルとユダの列王の書に記さる 8彼は二十五歳の時位に即きヱルサレムにて十六年の間世を治めたり 9ヨタムその先祖等とともに寢りたればダビデの邑にこれを葬りその子アハズこれに代りて王となる

第二十八章

1アハズは二十歳の時位に即きヱルサレムにて十六年の間世を治めたりしがその父ダビデと異にしてヱホバの善と觀たまふ所を行はず 2イスラエルの王等の道にあゆ

み亦 諸のバアルのために像を鋳造り 3ベンヒンノムの谷にて香を焚きその子を火に焼きなどしてヱホバがイスラエルの子孫の前より逐はらひたまひし異邦人の行ふところの憎むべき事に傚ひ 4また崇 邱の上丘の上一切の青木の下にて犠牲をささげ香を焚り 5是故にその神ヱホバかれをスリアの王の手に付したまひてスリア人つひに彼を撃破りその人々を衆く虜囚としてダマスコに曳ゆけり彼はまたイスラエルの王の手にも付されたればイスラエルの王かれを撃て大にその人を殺せり 6すなはちレマリヤの子ペカ、ユダにおいて一日の中に十二萬人を殺せり皆勇士なりき是は彼らその先祖の神ヱホバを棄しによるなり 7その時にエフライムの勇士ジクリといふ者王の子マアセヤ宮内卿アズリカムおよび王に亞ぐ人エルカナを殺せり 8イスラエルの子孫つひにその兄弟の中より婦人ならびに男子女子など合せて二十萬人を俘擄にしまた衆多の掠取物を爲しその掠取物をサマリアに携へゆけり 9時に彼處にヱホバの預言者ありその名をオデデといふ彼サマリアに歸れる軍勢の前に進みいでて之に言けるは汝らの先祖の神ヱホバ、ユダを怒りてこれを汝らの手に付したまひしが汝らは天に達するほどの忿怒をもて之を殺せり 10然のみならず汝ら今ユダとヱルサレムの子孫を圧つけて己の奴婢となさんと思ふ然ども汝ら自身もまた汝らの神ヱホバに罪を獲たる身にあらずや 11然ば今我に聽き汝らがその兄弟の中より擄へ來りし俘擄を放ち歸せヱホバの烈しき怒なんぢらの上に臨まんとすればなりと 12是においてエフライム人の長たる人々すなはちヨハナンの子アザリヤ、メシレモテの子ベレキヤ、シヤルムの子ヒゼキヤ、ハデライの子アマサ等戰爭より歸れる者等の前に立ふさがりて 13之にいひけるは汝ら俘擄を此に曳いるべからず汝らは我らをしてヱホバに愆を得せしめて更に我らの罪愆を増んとす我らの愆は大にして烈しき怒イスラエルにのぞまんとするなりと 14是において兵卒等その俘擄と掠取物を牧伯等と全會衆の前に遺おきければ 15上に名を擧げたる人々たちて俘擄を受取り掠取物の中より衣服を取てその裸なる者に着せ之に靴を穿せ食飲を爲しめ膏油を沃ぎ等しその弱き者をば盡く驢馬に乗せ斯して之を棕櫚の邑ヱリコに導きゆきてその兄弟に詣らしめ而してサマリアに歸れり 16當時アハズ王人をアツスリヤの王等に遣はして援助を乞しむ 17其はエドム人また來りてユダを攻撃ち民を擄へて去たればなり 18ベリシテ人もまた平野の邑々およびユダの南の邑々を侵してベテシメシ、アヤロン、ゲデロテおよびシヨコとその鄉里テムナとその鄉里ギムゾとその鄉里を取て其處に住めり 19イスラエルの王アハズの故をもてヱホバかくユダを卑くしたまふ其は彼ユダの中に淫逸なる事を行ひかつヱホバにむかひて大に罪を犯したればなり 20アツスリヤの王テグラテピレセルは彼の所に來りしかども彼に力をそへずして反てこれを煩はせり 21アハズ、ヱホバの家と王の家および牧伯等の家の物を取てアツスリヤの王に與へけれどもアハズを援くることをせざりき 22このアハズ王はその困難の時に當りてますますヱホバに罪を犯せり 23即ち彼おのれを撃るダマスコの神々に犠牲を献げて言ふスリアの王等の神々はその王等を助くれば我もこれに犠牲を献げん然ば彼ら我を助けんと然れども彼等はかへつてアハズとイスラエル全國を仆す者となれり 24アハズ神の室の器皿を取聚めて神の室の器皿を切やぶりヱホバの室の戸を閉ぢヱルサレムの隅々に凡て祭壇を造り 25ユダの一切の邑々に崇 邱を造りて別 神に香を焚き等してその先祖の神ヱホバの忿怒を惹おこせり 26アハズのその餘の始終の行爲およびその一切の行跡はユダとイスラエルの列王の書に記さる 27アハズその先祖等とともに寝りたればエルサレムの邑にこれを葬れり然どイスラエルの王等の墓にはこれを持ゆかざりき其子ヒゼキヤこれに代りて王となる

第二十九章

1ヒゼキヤは二十五歳の時 位に即きヱルサレムにて二十九年の間 世を治めたりその母はゼカリヤの女にして名をアビヤといふ 2ヒゼキヤはその父ダビデの凡てなしたる如くヱホバの目に善と視たまふ事をなせり 3即ち彼その治世の第一年一月にヱホバの室の戸を開きかつ之を修繕ひ 4祭司およびレビ人を携さへいりて東の廣場にこれを集め 5而して之にいひけるはレビ人よ我に聽け汝等いま身を潔めて汝等の先祖の神ヱホバの室を潔め汚穢を聖所より除きされ 6夫我らの先祖は罪を犯し我らの神ヱホバの目に惡しと見たまふことを行ひてヱホバを棄てヱホバの住所に面を背けて後をこれに向け 7また廊の戸を閉ぢ燈火を消し聖所にてイスラエルの神に香を焚ず燔祭を献げざりし 8是をもてヱホバの忿怒ユダとヱルサレムに臨みヱホバ彼等をして打ただよはされしめ詫異とならしめ

胡盧とならしめたまへり汝らが目に覩るごとし 9即ち我儕の父は劍に斃れ我らの男子女子及び妻等はこれがために俘擄となれり 10今我イスラエルの神ヱホバと契約を結ばんとする意志ありその烈しき怒我らを離るることあらん 11我子等よ今は怠たる勿れヱホバ汝らを擇びて己の前に立て事へしめ己に事ふる者となし香を焚く者となしたまひたればなりと 12是においてレビ人起り即ちコハテの子孫の中にてはアマサイの子マハテおよびアザリヤの子ヨエル、メラリの子孫の中にてはアブデの子キシおよびヱハレレルの子アザリヤ、ゲルシヨン人の中にてはジンマの子ヨアおよびヨアの子エデン 13エリザパンの子孫の中にてはシムリおよびヱイエル、アサフの子孫の中にてはゼカリヤおよびマツタニヤ 14ヘマンの子孫の中にてはヱヒエルおよびシメイ、ヱドトンの子孫の中にてはシマヤおよびウジエル 15かれらその兄弟を集へて身を潔めヱホバの言に依りて王の傳へし命令にしたがひてヱホバの室を潔めんとて入きたり 16祭司等ヱホバの室の奥に入りてこれを潔めヱホバの殿にありし汚穢をことごとくヱホバの室の庭に携へいだせばレビ人それを受て外にいだしキデロン河に持いたる 17彼ら正月の元日に潔むることを始めてその月の八日にヱホバの廊におよびまたヱホバの家を潔むるに八日を費し正月の十六日にいたりて之を終れり 18かくて彼らヒゼキヤ王の處に入て言ふ我らヱホバの室をことごとく潔めまた燔祭の壇とその一切の器具および供前のパンの案とその一切の器皿とを潔めたり 19またアハズ王がその治世に罪を犯して棄たりし一切の器皿をも整へてこれを潔めヱホバの壇の前にこれを据置りと 20是においてヒゼキヤ王蚤に起いで邑の牧伯等をあつめてヱホバの家にのぼり往き 21牡牛七匹牡羊七匹羔羊七匹牡山羊七匹を牽きたらしめ國と聖所とユダのためにこれを罪祭となしアロンの子孫たる祭司等に命じてこれをヱホバの壇の上に献げしむ 22即ち牡牛を宰れば祭司等その血を受て壇に灑ぎまた牡羊を宰ればその血を壇に灑ぎまた羔羊を宰ればその血を壇に灑げり 23かくて人々罪祭の牡山羊を王と會衆の前に牽きたりければ彼らその上に手を按り 24而して祭司これを宰りその血を罪祭として壇の上に献げてイスラエル全國のために贖罪をなせり是は王イスラエル全國の爲に燔祭および罪祭を献ぐることを命じたるに因る 25王レビ人をヱホバの室に置きダビデおよび王の先見者ガデと預言者ナタンの命令にしたがひて之に鐃鈸瑟および琴を執しむ是はヱホバがその預言者によりて命じたまひし所なり 26是においてレビ人はダビデの樂器をとり祭司は喇叭をとりて立つ 27時にヒゼキヤ燔祭を壇の上に献ぐることを命ぜり燔祭をささげ始むるときヱホバの歌をうたひ喇叭を吹きイスラエルの王ダビデの樂器をならしはじめたり 28しかして會衆みな禮拜をなし謳歌者歌をうたひ喇叭手喇叭を吹ならし燔祭の終るまで凡て斯ありしが 29献ぐる事の終るにおよびて王および之と偕に在る者皆身をかがめて禮拜をなせり 30かくて又ヒゼキヤ王および牧伯等レビ人に命じダビデと先見者アサフの詞をもてヱホバを讃美せしむ彼等喜樂をもて讃美し首をさげて禮拜す 31時にヒゼキヤこたへて言けるは汝らすでにヱホバに事へんために身を潔めたれば進みよりてヱホバの室に犠牲および感謝祭を携へきたれと會衆すなはち犠牲および感謝祭を携へきたる又 志ある者はみな燔祭を携ふ 32會衆の携へきたりし燔祭の數は牡牛七十牡羊一百羔羊二百是みなヱホバに燔祭として奉つる者なり 33また奉納物は牛六百羊三千なりき 34然るに祭司寡くしてその燔祭の物の皮を剥つくすこと能はざりければその兄弟たるレビ人これを助けてその工を終ふ斯る間に他の祭司等も身を潔むレビ人は祭司よりも心正しくして身を潔めたり 35燔祭夥多しくあり酬恩祭の脂及びすべての燔祭の酒も然り斯ヱホバの室の奉事備はれり 36この事俄なりしかども神かく民の爲に備をなしたまひしに因てヒゼキヤおよび一切の民喜べり

第三十章

1茲にヒゼキヤ、イスラエルとユダに遍ねく人を遣しまた書をエフライムとマナセに書おくりヱルサレムなるヱホバの室に來りてイスラエルの神ヱホバに逾越節を行はんことを勸む 2王すでにその牧伯等およびヱルサレムにある會衆と議り二月をもて逾越節を行はんと定めたり 3其は祭司の身を潔めし者足ず民またヱルサレムに集らざりしに因て彼時にこれを行ふことを得ざればなり 4王も會衆もこの事を見て善となし 5即ちこの事を定めてベエルシバよりダンまでイスラエルに遍ねく宣布しめしヱルサレムに來りてイスラエルの神ヱホバに逾越節を行はんことを勸む是はその録されたるごとくにこれを行ふ事久しく無りしが故なり 6飛脚すなはち王とその牧伯等

が授けし書をもちてイスラエルとユダを遍ねく行めぐり
王の命を傳へて云ふイスラエルの子孫よ汝らアブラハ
ム、イサク、イスラエルの神ヱホバに起歸れ然ばヱホ
バ、アツスリヤの王等の手より逃れて遺るところの汝ら
に歸りたまはん 7汝らの父および兄弟の如くならざれ彼
らその先祖の神ヱホバにむかひて罪を犯したればこれを
滅亡に就しめたまへり汝らが見るごとし 8然ば汝らの父
のごとく汝ら項を強くせずしてヱホバに歸服しその永久
に聖別たまひし聖所に入り汝らの神ヱホバに事へよ然れ
ばその烈しき怒なんぢらを離れん 9汝ら若ヱホバに歸ら
ば汝らの兄弟および子女その己を擄へゆきし者の前に
矜憫を得て遂にまた此國にかへらん汝らの神ヱホバは
恩惠あり憐憫ある者にましませば汝らこれに起かへるに
おいては面を汝らに背けたまはじと 10かくのごとく飛脚
エフライム、マナセの國にいりて邑より邑に行めぐりて
遂にゼブルンまで至りしが人衆これを嘲り笑へり 11但し
アセル、マナセおよびゼブルンの中より身を卑くしてヱ
ルサレムに來りし者もあり 12またユダに於ては神その力
をいだして人々に心を一にせしめ王と牧伯等がヱホバの
言に依て傳へし命令を之に行はしむ 13斯りしかば二月に
いたりて民酵いれぬパンの節をおこなはんとて多くヱル
サレムに來り集れりその會はなはだ大なりき 14彼等すな
はち起てヱルサレムにある諸の壇を取のぞきまた一切
の香壇を取のぞきてこれをキデロン川に投すて 15二月の
十四日に逾越の物を宰れり是において祭司等およびレビ
人は自ら恥ぢ身を潔めてヱホバの室に燬祭を携へきたり
16神の人モーセの律法に循ひ例に依て各々その所に立ち
而して祭司等レビ人の手より血を受て灑げり 17時に會衆
の中に未だ身を潔めざる者多かりければレビ人その潔か
らざる一切の人々に代りて逾越の物を宰りてヱホバに潔
め献ぐ 18また衆多の民すたはちエフライム、マナセ、イ
ツサカル、ゼブルンより來りし衆多の者未だ身を潔むる
事をせずその書録されし所に違ひて逾越の物を食へり是
をもてヒゼキヤこれがために祈りて云ふ 19惠ふかきヱホ
バよ凡そその心を傾けて神を求めその先祖の神ヱホバを
求むる者は假令聖所の潔斎に循はざるとも願くは是を赦
したまへと 20ヱホバ、ヒゼキヤに聽て民を醫したまへり
21ヱルサレムにきたれるイスラエルの子孫は大なる喜悦
をいだきて七日の間酵いれぬパンの節をおこなへり又レ
ビ人と祭司は日々にヱホバを讃美し高聲の樂を奏してヱ
ホバを頌へたり 22ヒゼキヤ、ヱホバの奉事に善通じをる
一切のレビ人を深く勞らふ斯人衆酬恩祭を献げその先祖
の神ヱホバに感謝して七日のあひだ節の物を食へり 23か
くて又全會あひ議りて更に七日を守らんと決め喜悦をい
だきてまた七日を守れり 24時にユダの王ヒゼキヤは牡牛
一千羊七千を會衆に餽り又牧伯等は牡牛一千羊一萬を
會衆に餽れり祭司もまた衆く身を潔めたり 25ユダの全
會衆および祭司レビ人ならびにイスラエルより來れる全
會衆およびイスラエルの地より來れる異邦人とユダに住
む異邦人みな喜べり 26かくヱルサレムに大なる喜悦あり
きイスラエルの王ダビデの子ソロモンの時より以來かく
のごとき事ヱルサレムに在ざりしなり 27この時祭司レビ
人起て民を祝しけるにその言聽れその祈祷ヱホバの聖き
住所なる天に達せり

第三十一章

1この事すべて終りしかば其處に在しイスラエル人みな
ユダの邑々に出ゆき柱像を碎きアシラ像を斫たふしユダ
とベニヤミンの全地より崇邱と祭壇を崩し絶ちエフラ
イム、マナセにも及ぼして遂にまつたく之を毀ち而して
イスラエルの子孫おのおのその邑々に還りて己の産業に
いたれり 2ヒゼキヤ祭司およびレビ人の班列を定めその
班列にしたがひて各々にその職を行はしむ即ち祭司とレ
ビ人をして燔祭および酬恩祭を献げしめヱホバの營の門
において奉事をなし感謝をなし讃美をなさしめ 3また己
の財産の中より王の分を出して燔祭のためにす即ち朝夕
の燔祭および安息日朔日節會などの燔祭のために之を出
してヱホバの律法に記さるる如くす 4彼またヱルサレム
に住む民に祭司とレビ人にその分を與へんことを命ず是
かれらをしてヱホバの律法に身を委ねしめんとてなり 5
其命令の傳はるや否やイスラエルの子孫穀物酒油蜜な
らびに田野の諸の產物の初を多く献げまた一切の物の
什一を夥多しく携へきたる 6ユダの邑々に住るイスラエ
ルとユダの子孫もまた牛羊の什一ならびにその神ヱホバ
に納むべき聖物の什一を携へきたりてこれを積疊ぬ 7三
月に之を積疊ぬることを始め七月にいたりて之を終れり
8ヒゼキヤおよび牧伯等きたりて其積疊ねたる物を見ヱ
ホバとその民イスラエルを祝せり 9ヒゼキヤその積疊ね
たる物の事を祭司とレビ人に問尋ねければ 10ザドクの家
より出し祭司の長アザリヤ彼に應へて言けるは民ヱホバ

の室に禮物を携ふることを始めしより以來我儕飽までに
食ひしがその餘れる所はなはだ多しヱホバその民をめぐ
みたまひたればなりその餘れる所かくのごとく夥多しと
11ヒゼキヤ、ヱホバの家の内に室を設くることを命じけ
れば則ちこれを設け 12忠實にその禮物什一および奉納物
を携へいれりレビ人コナニヤこれを主どりその兄弟シメ
イこれに副ふ 13ヱヒエル、アザジヤ、ナハテ、アサヘ
ル、ヱレモテ、ヨザバデ、ヱリエル、イスマキヤ、マハ
テ、ベナヤ等ヒゼキヤ王および神の室の宰アザリヤの命
に依りコナニヤ及びその兄弟シメイの手下につきてこれ
が監督者となる 14東の門を守る者レビ人ヱムナの子コレ
神に献ぐる誠意よりの禮物を司どりてヱホバの献納物お
よび至聖物を頒つ 15その手につく者はエデン、ミニヤミ
ン、ヱシユア、シマヤ、アマリヤおよびシカニヤみな
祭司の邑々に居てその職を盡しその兄弟に班列に依て之
を頒つ大小ともに均し 16此外にまた凡て名簿に載たる
男子三歳以上にしてヱホバの室に入りその班列にしたが
ひて日々の職分を盡し擔任の勤務を爲すところの者に之
を頒つ 17またその宗家にしたがひて名簿に載られその
班列にしたがひて擔任の事を執行ふところの祭司および
二十歳以上のレビ人 18ならびに名簿に載たるその小き者
その妻その男子その女子などに盡く之を頒つ會中すべ
て然り即ち彼等は潔白忠實にその職を盡せり 19また邑々
の郊地に居るアロンの子孫たる祭司等のためには邑ごと
に人を名指し選び祭司の中の一切の男およびレビ人の中
の名簿に載せたる一切の者にその分を予へしむ 20ヒゼキ
ヤ、ユダ全國に斯のごとく爲し善事正き事忠實なる事を
その神ヱホバの前に行へり 21凡てその神の室の職務につ
き律法につき誡命につきて行ひ始めてその神を求めし工
は悉く心をつくして行ひてこれを成就たり

第三十二章

1ヒゼキヤが此等の事を行ひ且つ忠實なりし後アツスリヤ
の王セナケリブ來りてユダに入り堅固なる邑々にむかひ
て陣を張り之を攻取んとす 2ヒゼキヤ、セナケリブの既
に來りヱルサレムに攻むかはんとするを見 3その牧伯等
および勇士等と謀りて邑の外なる一切の泉水を塞がんと
す彼等これを助く 4衆多の民あつまりて一切の泉水およ
び國の中を流れわたる渓河を塞ぎていひけるはアツスリ
ヤの王等來りて水を多く得ば豈で可らんやと 5ヒゼキヤ
また力を強くし破れたる石垣をことごとく建なほして之
を戍樓まで築き上げその外にまた石垣をめぐらしダビデ
の邑のミロを堅くし戈盾を多く造り 6軍長を多く民の上
に立て邑の門の廣場に民を集めてこれを努ひて言ふ 7汝
ら心を強くし且勇めアツスリヤの王のためにも彼ととも
なる群衆のためにも懼るる勿れ慄く勿れ我らとともなる
者は彼とともになる者よりも多きぞかし 8彼とともなる
者は肉の腕なり然れども我らとともなる者は我らの神ヱ
ホバにして我らを助け我らに代りて戰かひたまふべしと
民はユダの王ヒゼキヤの言に安んず 9此後アツスリヤの
王セナケリブその全軍をもてラキシを攻圍み居りて臣僕
をヱルサレムに遣はしてユダの王ヒゼキヤおよびヱルサ
レムにをる一切のユダ人に告しめて云く 10アツスリヤの
王セナケリブかく言ふ汝ら何を恃みてヱルサレムに閉籠
りをるや 11ヒゼキヤ我らの神ヱホバ、アツスリヤの王の
手より我らを救ひ出したまはんと言て汝らを餓かし汝ら
をして饑渇て死しめんとするに非ずや 12此ヒゼキヤはす
なはちヱホバの諸の崇邱と祭壇を取のぞきユダとヱル
サレムとに命じて汝らは唯一の壇の前にて崇拝を爲しそ
の上に香を焚べしと言し者にあらずや 13汝らは我および
わが先祖等が諸の國の民に爲したる所を知ざるか其等
の國々の民の神少許にてもその國をわが手より救ひ取る
ことを得しや 14わが先祖等の滅ぼし盡せし國民の諸の
神の中誰か己の民をわが手より救ひ出すことを得し者あ
らんや然れば汝らの神いかでか汝らをわが手より救ひい
だすことを得ん 15然れば斯ヒゼキヤに欺かるる勿れ浚か
さるる勿れまた彼を信ずる勿れ何の民何の國の神もその
民を我手または我父祖の手より救ひ出すことを得ざりし
なれば況て汝らの神いかでか我手より汝らを救ひ出すこ
とを得んと 16セナケリブの臣僕等この外にも多くヱホバ
神およびその僕ヒゼキヤを誹れり 17セナケリブまた書を
かきおくりてイスラエルの神ヱホバを嘲りかつ誹り諸國
の民の神々その民をわが手より救ひいださざりし如くヒ
ゼキヤの神もその民をわが手より救ひ出さじと云ふ 18彼
ら遂に大聲を擧げユダヤ語をもて石垣の上なるヱルサレ
ムの民に語ひ之を威しかつ擾せり是は邑を取んとてなり
19斯かれらはヱルサレムの神を論ずること人の手の作な
る地上の民の神々を論ずるがごとくせり 20是によりてヒ
ゼキヤ王およびアモツの子預言者イザヤともに祈祷て天
に呼はりければ 21ヱホバ天の使一箇を遣はしてアツスリ

ヤ王の陣營にある一切の大勇士および將 官 軍長等を絶しめたまへり斯りしかば王面を赧らめて己の國に還りけるがその神の家にいりし時其身より出たる者等 劍をもて之を其處に弑せり 22是のごとくヱホバ、ヒゼキヤとヱルサレムの民をアツスリヤの王セナケリブの手および諸 人 の手より救ひいだし四方において之を守護たまへり 23是において衆多の人献納物をヱルサレムに携へきたりてヱホバに奉 りまた財寶をユダの王ヒゼキヤに餽れり此後ヒゼキヤは萬國の民に尊び見らる 24當時ヒゼキヤ病て死んとせしがヱホバに祈りければヱホバこれに告をなし之に休徴を賜へり 25然るにヒゼキヤその蒙むりし恩に酬ゆることをせずして心に高ぶりければ震怒これに臨まんとしまたユダとヱルサレムに臨まんとせしが 26ヒゼキヤその心に高 慢を悔て身を卑くしヱルサレムの民も同じく然なしたるに因てヒゼキヤの世にはヱホバの震怒かれらに臨まざりき 27ヒゼキヤは富と貴 を極め府庫を造りて金銀寶石香物楯および各種の寶貴き器 物を蔵め 28また倉廩を造りて穀物酒 油などの産物を蔵め圏を造りて種々の家畜を置き牢を造りて羊の群を置き 29また許多の邑を設けかつ牛 羊を夥多しく有り是は神貨財を甚だ多くこれに賜ひしが故なり 30このヒゼキヤまたギホンの水の上の 源 を塞ぎてこれを下より眞直にダビデの邑の西の方に引り斯りヒゼキヤはその一切の工を善なし就たり 31但しバビロンの君等が使者を遣はしてこの國にありし奇蹟を問しめたる時には神かれを棄おきたまへり是その心に有ところの事を 盡 く知んがために之を試みたまへるなり 32ヒゼキヤのその餘の行爲およびその徳行はユダとイスラエルの列王紀の書の中なるアモツの子預言者イザヤの默示の中に記さる 33ヒゼキヤその先祖等と偕に寝りたればダビデの子孫の墓の中なる高き處にこれを葬りユダの人々およびヱルサレムの民みな厚くその死を送れり其子マナセこれに代りて王となる

第三十三章

1マナセは十二歳の時 位に即きヱルサレムにて五十五年の間 世を治めたり 2彼はヱホバの目に惡と觀たまふことを爲しイスラエルの子孫の前よりヱホバの逐はらひたまひし國人の行ふところの憎むべき事に傚へり 3即ちその父ヒゼキヤの毀ちたりし崇 邱を改め築き 諸 のバアルのために壇を設けアシラ像を作り天の衆群を拝みて之に事へ 4またヱホバが我名は永くヱルサレムに在べしと宣まひしヱホバの室の内に數箇の壇を築き 5天の衆群のためにヱホバの室の兩の庭に壇を築き 6またベンヒンノムの谷にてその子女に火の中を通らせかつ占卜を行ひ魔術をつかひ禁厭を爲し憑鬼者と卜筮師を取用ひなどしてヱホバの目に惡と視たまふ事を多く行ひてその震怒を惹起せり 7彼またその作りし偶像を神の室に安置せり神此室につきてダビデとその子ソロモンに言たまひし事あり云く我この室と我がイスラエルの諸の支派の中より選びたるヱルサレムとに我名を永く置ん 8彼らもし我が凡て命ぜし事すなはちモーセが傳へし一切の律法と法度と例典を謹みて行はば我が汝らの先祖のために定めし地より我これが足を重てうつさじと 9マナセかくユダとヱルサレムの民とを迷はして惡を行はしめたり其状イスラエルの子孫の前にヱホバの滅ぼしたまひし異邦人よりも甚だし 10ヱホバ、マナセおよびその民を諭したまひしかども聽ことをせざりき 11是をもてヱホバ、アッスリヤの王の軍勢の諸 將をこれに攻來らせたまひて彼等つひにマナセを鉤にて擄へ之を桎械に繋ぎてバビロンに曳ゆけり 12然るに彼患難に罹るにおよびてその神ヱホバを和めその先祖の神の前に大に身を卑くして 13神に祈りければその祈祷を容れその懇願を聽きこれをヱルサレムに携へかへりて再び國に莅ましめたまへり是によりてマナセ、ヱホバは誠に神にいますと知り 14この後かれダビデの邑の外にてギホンの西の方なる谷の内に石垣を築き魚門の入口までに及ぼし又オベルに石垣を環らして甚だ高く之を築き上げユダの一切の堅固なる邑に軍 長を置き 15またヱホバの室より異邦の神々および偶像を取除きヱホバの室の山とヱルサレムとに自ら築きし一切の壇を取のぞきて邑の外に投すて 16ヱホバの壇を修復ひて酬恩祭および感謝祭をその上に献げユダに命じてイスラエルの神ヱホバに事へしめたり 17然れども民は猶 崇 邱にて犠牲を献ぐることなを爲り但しその神ヱホバに而已なりき 18マナセのその餘の行爲その神になせし祈祷およびイスラエルの神ヱホバの名をもて彼を諭せし先見者等の言はイスラエルの列王の言行録に見ゆ 19またその祈祷を爲たる事その聽れたる事その 諸 の罪愆その身を卑くする前に崇 邱を築きてアシラ像および刻たる像を立たる處 々などはホザイの言行録の中に記さる 20マナセその先祖とともに寝りたれば之をその家に葬れり其子アモンこれに代りて王とな

る 21アモンは二十二歳の時位に即きヱルサレムにて二年の間世を治めたり 22彼は其父マナセの爲しごとくヱホバの目に惡と觀たまふ事を爲り即ちアモンその父マナセが作りたる諸の刻たる像に犧牲を献げてこれに事へ 23その父マナセが身を卑くせしごとくヱホバの前に身を卑くすることを爲ざりき斯このアモン愈その愆を増たりしが 24その臣僕黨を結びて之に叛きこれをその家の内に弑せり 25然るに國の民その黨を結びてアモン王に叛きし者等を盡く誅し而して國の民その子ヨシアを王となしてその後を嗣しむ

第三十四章

1ヨシアは八歳の時位に即きヱルサレムにて三十一年の間世を治めたり 2彼はヱホバの善と觀たまふ事を爲しその父ダビデの道にあゆみて右にも左にも曲らざりき 3即ち尚若かりしかどもその治世の八年にその父ダビデの神を求むる事を始めその十二年には崇邱アシラ像刻たる像鋳たる像などを除きてユダとヱルサレムを潔むることを始め 4諸のバアルの壇を己の前にて毀たしめ其上に立る日の像を斫たふしアシラ像および雕像鋳像を打砕きて粉々にし是等に犧牲を献げし者等の墓の上に其を撒ちらし 5祭司の骨をその諸の壇の上に焚き斯してユダとヱルサレムを潔めたり 6またマナセ、エフライム、シメオンおよびナフタリの荒たる邑々にも斯なし 7諸壇を毀ちアシラ像および諸の雕像を微塵に打砕きイスラエル全國の日の像を盡く斫たふしてヱルサレムに歸りぬ 8ヨシアその治世の十八年にいたりて已に國と殿とを潔め了りその神ヱホバの家を修繕はしめんとてアザリヤの子シヤパン邑の知事マアセヤおよびヨアハズの子史官ヨアを遣せり 9彼ら祭司の長ヒルキヤの許に至りてヱホバの室に入し金を交せり是は門守のレビ人がマナセ、エフライムおよび其餘の一切のイスラエル人ならびにユダとベニヤミンの人およびヱルサレムの民の手より斂めたる者なり 10やがてヱホバの室を監督するところの工師等の手にこれを交しければ彼等ヱホバの室にて操作ところの工人にこれを交して室を繕ひ修めしむ 11即ち木匠および建築者に之を交しユダの王等が壊りたる家々のために琢石および骨木を買しめ梁木をととのはしむ 12その人々忠實に操作けりその監督者はメラリの子孫たるヤハテ、オバデヤおよびコハテの子孫たるゼカリヤ、メシユラムなどのレビ人なりき彼等すなはち之を主どる又樂器を弄ぶに精巧なるレビ人凡て之に伴なふ 13彼等亦荷を負ものを監督し種々の工事に操作ところの諸の工人をつかさどれり別のレビ人書記となり役人となり門守となれり 14ヱホバの室にいりし金を取いだすに當りて祭司ヒルキヤ、モーセの傳へしヱホバの律法の書を見いだせり 15ヒルキヤ是において書記官シヤパンにきて言けるは我ヱホバの室にて律法の書を見いだせりと而してヒルキヤその書をシヤパンに付しければ 16シヤパンその書を王の所に持ゆき王に復命まうして言ふ僕等その手に委ねられし所を盡く爲し 17ヱホバの室にありし金を打あけて之を監督者の手および工人の手に交せりと 18書記官シヤパン亦王に告て祭司ヒルキヤ我に一の書を交せりと言ひシヤパンそれを王の前に讀けるに 19王その律法の言を聞て衣服を裂り 20而して王ヒルキヤとシヤパンの子アヒカムとミカの子アブドンと書記官シヤパンと王の内臣アサヤとに命じて言ふ 21汝ら往てこの見當りし書の言につきて我の爲またイスラエルとユダに遺れる者等のためにヱホバに問へ我らの先祖等はヱホバの言を守らず凡て此書に記されたる所を行ふことを爲ざりしに因てヱホバ我等に大なる怒を斟ぎ給ふべければなりと 22是においてヒルキヤおよび王の人々シヤルムの妻なる女預言者ホルダの許に往りシヤルムはハルハスの子なるテクワの子にして衣裳を守る者なり時にホルダはヱルサレムの第二の邑に住をれり彼等すなはちホルダに斯と語りしかば 23ホルダこれに答へけるはイスラエルの神ヱホバかく言たまふ汝らを我に遣はせる人に告よ 24ヱホバかく言たまふユダの王の前に讀し書に記されたる諸の呪詛に循ひて我この處と此に住む者に災害を降さん 25其は彼ら我を棄て他の神に香を焚きおのが手にて作れる諸の物をもて我怒を惹起さんとしたればなりこの故にわが震怒この處に斟ぎて滅ざるべし 26されど汝らを遣はしてヱホバに問しむるユダの王には汝ら斯いふべしイスラエルの神ヱホバかく言たまふ汝が聞る言につきては 27汝此處と此にすむ者を責る神の言を聞し時に心やさしくして神の前に於て身を卑くし我前に身を卑くし衣服を裂て我前に泣たれば我も汝に聽りとヱホバ宣まふ 28然ば我汝をして汝の先祖等に列ならしめん汝は安然に墓に歸する事を得べし汝は我が此處と此に住む者に降すところの諸の災害を目に見る事あらじと彼等即ち王に復命まうしぬ 29是において王人を遣はし

てユダとエルサレムの長老をことごとく集め30而して王エホバの室に上りゆけりユダの人々エルサレムの民祭司レビ人及び一切の民大より小にいたるまでことごとく之にともなふ王すなはちエホバの室に見あたりし契約の書の言を盡く彼らの耳に讀聞せ31而して王己の所に立ちてエホバの前に契約を立てエホバにしたがひて歩み心を盡し精神を盡してその誡命と證詞と法度を守り此書にしるされたる契約の言を行はんと言ひ32エルサレムおよびベニヤミンの有ゆる人々をみな之に加はらしめたりエルサレムの民すなはちその先祖の神にまします御神の契約にしたがひて行へり33かくてヨシア、イスラエルの子孫に屬する一切の地より憎むべき者を盡く取のぞきイスラエルの有ゆる人をしてその神エホバに事まつらしめたりヨシアの世にある日の間は彼らその先祖の神エホバに從ひて離れざりき

第三十五章

1茲にヨシア、エルサレムにおいてエホバに逾越節を行はんとし正月の十四日に逾越の物を宰らしめ2祭司をしてその職を執行はせ之を勵してエホバの室の務をなさしめ3またエホバの聖者となりてイスラエルの人衆を誨ふるレビ人に言ふ汝らイスラエルの王ダビデの子ソロモンが建たる家に聖契約の匱を放け再び肩に擔ふこと有ざるべし然ば今汝らの神エホバおよびその民イスラエルに事ふべし4汝らまたイスラエルの王ダビデの書およびその子ソロモンの書に本づきて父祖の家に循がひその班列に依て自ら準備をなし5汝らの兄弟なる民の人々の宗家の區分に循ひて聖所に立ち之にレビ人の宗族の分缺ること無らしむべし6汝ら逾越の物を宰り身を潔め汝らの兄弟のために準備をなしモーセが傳へしエホバの言のごとく行ふべしと7ヨシアすなはち羔羊および羔山羊を民の人々に餽る其數三萬また牡牛三千を餽る是みな王の所有の中より出して其處に居る一切の人のために逾越の祭物となせるなり8その牧伯等も民と祭司とレビ人に誠意より與ふる所ありまた神の室の長等ヒルキヤ、ゼカリヤ、ヱヒエルも綿羊二千六百牛三百を祭司に與へて逾越の祭物と爲す9またレビ人の長たる人々すなはちコナニヤおよびその兄弟シマヤ、ネタンエル並にハシヤビヤ、ヱイエル、ヨザバデなども綿羊五千牛五百をレビ人に餽りて逾越の祭物となす10是のごとく献祭の事備はりぬれば王の命にしたがひて祭司等はその擔任場に立ちレビ人はその班列に循がひ居り11やがて逾越の物を宰りければ祭司その血をこれが手より受て洒げりレビ人その皮を剥り12かくて燔祭の物を移して民の人々の父祖の家の區分に付してエホバに献げしむモーセの書に記されたるが如し其牛に行ふところも亦是のごとし13而して例規のごとくに逾越の物を火にて炙りその他の聖物を鍋釜鼎などに烹て一切の民の人々に奔配れり14かくて後かれら自身のためと祭司等のために備ふ其はアロンの子孫たる祭司等は燔祭と脂を献げて夜に入たればなり是に因て斯レビ人自分のためとアロンの子孫たる祭司等のために備ふるなり15アサフの子孫たる謳歌者等はダビデ、アサフ、ヘマンおよび王の先見者ヱドトンの命にしたがひてその擔任場に居り門を守る者等は門々に居てその職務を離るるに及ばざりき其はその兄弟たるレビ人これがために備へたればなり16斯のごとく其日エホバの献祭の事ことごとく備はりければヨシア王の命にしたがひて逾越節を行ひエホバの壇に燔祭を献げたり17即ち其處に來れるイスラエルの子孫その時逾越節を行ひ七日の間酵いれぬパンの節を行へり18預言者サムエルの日より以來イスラエルにて是のごとくに逾越節を行ひし事なし又イスラエルの諸王の中にはヨシアが祭司レビ人ならびに來りあつまれるユダとイスラエルの諸人およびエルサレムの民とともに行ひし如き逾越節を行ひし者一人もあらず19この逾越節はヨシアの治世の十八年に行ひしなり20是のごとくヨシア殿をととのへし後エジプトの王ネコ、ユフラテの邊なるカルケミシを攻撃んとて上り來りけるにヨシアこれを禦がんとて出往り21是においてネコ使者をかれに遣はして言ふユダの王よ是あに汝の與る所ならんや今日は汝を攻んとには非ず我敵の家を攻んとするなり神われに命じて急がしむ神われとともにあり汝神に逆ふことを罷よ恐らくは彼なんぢを滅ぼしたまはんと22然るにヨシア面を轉して去ことを肯はず却てこれと戰はんとて服装を變へ神の口より出しネコの言を聽いれずしてメギドンの谷に到りて戰ひけるが23射手の者等ヨシア王に射中たれば王その臣僕にむかひて我を扶け出せ我太痍を負ふと言り24是においてその臣僕等かれをその車より扶けおろし其引せたる次の車に乗てエルサレムにつれゆきけるが遂に死たればその先祖の墓にこれを葬りぬユダとエルサレムみなヨシアのために哀しめり25時にエレミ

ヤ、ヨシアのために哀歌を作れり謳歌男謳歌女今日にいたるまでその哀歌の中にヨシアの事を述べイスラエルの中に之を例となせりその詞は哀歌の中に書さる 26ヨシアのその餘の行爲そのヱホバの律法に録されたる所にしたがひて爲し徳行 27およびその始終の行爲などはイスラエルとユダの列王の書に記さる

第三十六章

1是において國の民ヨシアの子ヱホアハズを取りヱルサレムにてその父にかはりて王とならしむ 2ヱホアハズは二十三歳の時位に即きヱルサレムにて三月が間世を治めけるが 3エジプトの王ヱルサレムにて彼を廢し且銀百タラント金一タラントの罰金を國に課せり 4而してエジプトの王ネコ彼の兄弟エリアキムをもてユダとヱルサレムの王となして之が名をヱホヤキムと改めその兄弟ヱホアハズを執へてエジプトに曳ゆけり 5ヱホヤキムは二十五歳の時位に即きヱルサレムにて十一年の間世を治めその神ヱホバの惡と視たまふことを爲り 6彼の所にバビロンの王ネブカデネザル攻のぼりバビロンに曳ゆかんとて之を桎械に繋げり 7ネブカデネザルまたヱホバの家の器具をバビロンに携へゆきてバビロンにあるその宮にこれを蔵めたり 8ヱホヤキムのその餘の行爲その行ひし憎むべき事等およびその心に企みし事などはイスラエルとユダの列王の書に記さる其子ヱホヤキンこれに代りて王となる 9ヱホヤキンは八歳の時位に即きヱルサレムにて三月と十日の間世を治めヱホバの惡と視たまふ事を爲けるが 10歳の歸るにおよびてネブカデネザル王人を遣はして彼とヱホバの室の貴き器皿とをバビロンに携へいたらしめ之が兄弟ゼデキヤをもてユダとヱルサレムの王となせり 11ゼデキヤは二十一歳の時位に即きヱルサレムにて十一年の間世を治めたり 12彼はその神ヱホバの惡と視たまふ事を爲しヱホバの言を傳ふる預言者ヱレミヤの前に身を卑くせざりき 13ネブカデネザル彼をして神を指て誓はしめたりしにまた之にも叛けり彼かくその項を強くしその心を剛愎にしてイスラエルの神ヱホバに立かへらざりき 14祭司の長等および民もまた凡て異邦人の中にある諸の憎むべき事に傚ひて太甚しく大に罪を犯しヱホバのヱルサレムに聖め置たまへるその室を汚せり 15其先祖の神ヱホバその民とその住所とを恤むが故に頻りにその使者を遣はして之を諭したまひしに 16彼ら神の使者等を嘲けり其御言を軽んじその預言者等を罵りたればヱホバの怒その民にむかひて起り遂に救ふべからざるに至れり 17即ちヱホバ、カルデヤ人の王を之に攻きたらせたまひければ彼その聖所の室にて劍をもて少者を殺し童男をも童女をも老人をも白髪の者をも憐まざりき皆ひとしく彼の手に付したまへり 18神の室の諸の大小の器皿ヱホバの室の貨財王とその牧伯等の貨財など凡て之をバビロンに携へゆき 19神の室を焚きヱルサレムの石垣を崩しその中の宮殿を盡く火にて焚きその中の貴き器を盡く壞なへり 20また劍をのがれし者等はバビロンに擄れゆきて彼處にて彼とその子等の臣僕となりペルシヤの國の興るまで斯てありき 21是ヱレミヤの口によりて傳はりしヱホバの言の應ぜんがためなりき斯この地遂にその安息を享たり即ち是はその荒をる間安息して終に七十年滿ぬ 22ペルシヤ王クロスの元年に當りヱホバ曩にヱレミヤの口によりて傳へたまひしその聖言を成んとてペルシヤ王クロスの心を感動したまひければ王すなはち宣命をつたへ詔書を出して徧く國中に告示して云く 23ペルシヤ王クロスかく言ふ天の神ヱホバ地上の諸國を我に賜へりその家をユダのエルサレムに建ることを我に命ず凡そ汝らの中もしその民たる者あらばその神ヱホバの助を得て上りゆけ

エズラ書

第一章

1ペルシヤ王クロスの元年に當りヱホバ曩にエレミヤの口によりて傳へたまひしその聖言を成んとてペルシヤ王クロスの心を感動したまひければ王すなはち宣命をつたへ詔書を出して徧く國中に告示して云く 2ペルシヤ王クロスかく言ふ天の神ヱホバ地上の諸國を我に賜へり その家をユダのエルサレムに建ることを我に命ず 3凡そ汝らの中もしその民たる者あらばその神の助を得てユダのエルサレムに上りゆきヱルサレムなるイスラエルの神ヱホバの室を建ることをせよ 彼は神にましませり 4その民

にして生存れる者等の寓りをる處の人々は之に金銀貨財家畜を予へて助くべし その外にまたヱルサレムなる神の室のために物を誠意よりささぐべしと 5是にユダとベニヤミンの宗家の長 祭司レビ人など凡て神にその心を感動せられし者等ヱルサレムなるヱホバの室を建んとて起おこれり 6その周圍の人々みな銀の器 黄金貨財家畜および寶物を予へて之に力をそへこの外にまた各種の物を誠意より獻げたり 7クロス王またネブカデネザルが前にヱルサレムより携へ出して己の神の室に納めたりしヱホバの室の器 皿を取いだせり 8即ちペルシヤ王クロス庫 官ミテレダテの手をもて之を取いだしてユダの牧伯セシバザルに數へ交付せり 9その數は是のごとし 金の盤三十 銀の盤一千 小刀二十九 10金の大 斗三十、二等の銀の大 斗四 百十 その他の器 具一千 11金銀の器 皿は合せて五千四百ありしがセシバザル俘擄人等をバビロンよりヱルサレムに將て上りし時に之をことごとく携さへ上れり

第二章

1往昔バビロンの王ネブカデネザルに擄へられバビロンに遷されたる者のうち俘囚をゆるされてヱルサレムおよびユダに上りおのおの己の邑に歸りし此州の者は左の如し 2是皆ゼルバベル、ヱシユア、ネヘミヤ、セラヤ、レエラヤ、モルデカイ、ビルシヤン、ミスパル、ビグワイ、レホム、バアナ等に隨ひ來れり 其イスラエルの民の人數は是のごとし 3パロシの子孫二千 百七十二人 4シパテヤの子孫三百七十二人 5アラの子孫七百七十五人 6ヱシユアとヨアブの族たるパハテモアブの子孫二千八百十二人 7エラムの子孫千二百五十四人 8ザツトの子孫九百四十五人 9ザツカイの子孫七百六十人 10バニの子孫六百四十二人 11ベバイの子孫六百二十三人 12アズガデの子孫千二 百二十二人 13アドニカムの子孫六百六十六人 14ビグワイの子孫二千五十六人 15アデンの子孫四百五十四人 16ヒゼキヤの家のアテルの子孫九十八人 17ベザイの子孫三百二十三人 18ヨラの子孫 百十二人 19ハシユムの子孫二百二十三人 20ギバルの子孫九十五人 21ベテレヘムの子孫 百二十三人 22ネトパの人五十六人 23アナトテの人 百二十八人 24アズマウテの民四十二人 25キリアテヤリム、ケピラおよびベエロテの民七百四十三人 26ラマおよびゲバの民六百二十一人 27ミクマシの人 百二十二人 28ベテルおよびアイの人二百二十三人 29ネボの民五十二人 30マグビシの民 百五十六人 31他のエラムの民千二百五十四人 32ハリムの民三百 二十人 33ロド、ハデデおよびオノの民七百二十五人 34ヱリコの民三百四十五人 35セナアの民三千六百三十人 36祭司はヱシユアの家のヱダヤの子孫九百七十三人 37インメルの子孫千五十二人 38パシュルの子孫千二百四十七人 39ハリムの子孫千十七人 40レビ人はホダヤの子等ヱシユアとカデミエルの子孫七十四人 41謳歌者はアサフの子孫百 二十八人 42門を守る者の子孫はシヤルムの子孫アテルの子孫タルモンの子孫アツクブの子孫ハテタの子孫シヨバイの子孫合せて百三十九人 43ネテニ人はヂハの子孫ハスパの子孫タバオテの子孫 44ケロスの子孫シアハの子孫パドンの子孫 45レバナの子孫ハガバの子孫アツクブの子孫 46ハガブの子孫シヤルマイの子孫ハナンの子孫 47ギデルの子孫ガハルの子孫レアヤの子孫 48レヂンの子孫ネコダの子孫ガザムの子孫 49ウザの子孫パセアの子孫ベサイの子孫 50アスナの子孫メウニムの子孫ネフシムの子孫 51バクブクの子孫ハクパの子孫ハルホルの子孫 52バヅリテの子孫メヒダの子孫ハルシヤの子孫 53バルコスの子孫シセラの子孫テマの子孫 54ネヂアの子孫ハテパの子孫等なり 55ソロモンの僕たりし者等の子孫すなはちソタイの子孫ハッソペレテの子孫ペリダの子孫 56ヤアラの子孫ダルコンの子孫ギデルの子孫 57シパテヤの子孫ハッテルの子孫ポケレテハツゼバイムの子孫アミの子孫 58ネテニ人とソロモンの僕たりし者等の子孫とは合せて三百九十二人 59またテルメラ、テルハレサ、ケルブ、アダンおよびインメルより上り來れる者ありしがその宗家の長とその血統とを示してイスラエルの者なるを明かにすることを得ざりき 60是すなはちデラヤの子孫トビヤの子孫ネコダの子孫にして合せて六百五十二人 61祭司の子孫たる者の中にハバヤの子孫ハッコヅの子孫バルジライの子孫ありバルジライはギレアデ人バルジライの女を妻に娶りてその名を名りしなり 62是等の者譜系に載たる者等の中におのが名を尋ねたれども在ざりき 是の故に汚れたる者として祭司の中より除かれたり 63テルシヤタは之に告てウリムとトンミムを帶る祭司の興るまでは至聖物を食ふべからずと言り 64會衆あはせて四萬二千三百六十人 65この外にその僕 婢七千三百三十七人 謳歌 男 女二百 人あり 66その馬七百三十六匹 その騾二百四十五匹 67その駱駝四百 三十五匹 驢馬六千七百二十匹 68宗家の長 數人ヱルサレムなるヱホバの室にいたるにおよびてヱホバの室をそ

の本の處に建んとて物を誠意より獻げたり 69即ちその力にしたがひて工事のために庫を納めし者は金六萬一千ダリク銀五千斤祭司の衣服百 襲なりき 70祭司レビ人民等謳歌者門を守る者およびネテニ人等その邑々に住み一切のイスラエル人その邑々に住り

第三章

1イスラエルの子孫かくその邑々に住居しが七月に至りて民一人のごとくにヱルサレムに集まれり 2是に於てヨザダクの子ヱシユアとその兄弟なる祭司等およびシヤルテルの子ゼルバベルとその兄弟等立おこりてイスラエルの神の壇を築けり 是神の人モーセの律法に記されたる所に循ひてその上に燔祭を獻げんとてなりき 3彼等は壇をその本の處に設けたり 是國々の民を懼れしが故なり而してその上にて燔祭をヱホバに獻げ朝夕にこれを獻ぐ 4またその録されたる所に循ひて結 茅 節を行ひ毎日の分を按へて例に照し數のごとくに日々の燔祭を獻げたり 5是より後は常の燔祭および月朔とヱホバの一切のきよき節會とに用ゐる供物ならびに人の誠意よりヱホバにたてまつる供物を獻ぐることをす 6即ち七月の一日よりして燔祭をヱホバに獻ぐることを始めけるがヱホバの殿の基礎は未だ置ざりき 7是において石工と木工に金を交付しまたシドンとツロの者に食物飲物および油を與へてペルシヤの王クロスの允准にしたがひてレバノンよりヨツパの海に香柏を運ばしめたり 8斯てヱルサレムより神の室に歸りたる次の年の二月にシヤルテルの子ゼルバベル、ヨザダクの子ヱシユアおよびその兄弟たる他の祭司レビ人など凡て俘囚をゆるされてヱルサレムに歸りし者等を始め二十歳以上のレビ人を立てヱホバの室の工事を監督せしむ 9是に於てユダの子等なるヱシユアとその子等および兄弟カデミエルとその子等齊しく立て神の家の工人を監督せり ヘナダデの子等およびその子等と兄弟等のレビ人も然り 10かくて建築者ヱホバの殿の基礎を置る時祭司等禮服を衣て喇叭を執りアサフの子孫たるレビ人鐃鈸を執りイスラエルの王ダビデの例に循ひてヱホバを讃美す 11彼等班列にしたがひて諸共に歌を謠ひてヱホバを讃めかつ頌へヱホバは恩ふかく其矜恤は永遠にたゆることなければなりと言り そのヱホバを讃美する時に民みな大聲をあげて呼はれり ヱホバの室の基礎を据ればなり 12されど祭司レビ人宗家の長等の中に以前の室を見たりし老人ありけるが今この室の基礎をその目の前に置るを見て多く聲を放ちて泣り また喜悦のために聲をあげて呼はる者も多かりき 13是をもて人衆民の歡こびて呼はる聲と民の泣く聲とを聞わくることを得ざりき そは民大聲に呼はり叫びければその聲遠くまで聞えわたりたればなり

第四章

1茲にユダとベニヤミンの敵たる者等夫俘囚より歸り來りし人々イスラエルの神ヱホバのために殿を建ると聞き 2乃ちゼルバベルと宗家の長等の許に至りて之に言ける は我儕をして汝等と共に之を建しめよ 我らは汝らと同じく汝らの神を求む アッスリヤの王エサルハドンが我儕を此に携へのぼりし日より以來我らはこれに犧牲を獻ぐるなりと 3然るにゼルバベル、ヱシユアおよびその餘のイスラエルの宗家の長等これに言ふ 汝らは我らの神に室を建ることに與るべからず 我儕獨りみづからイスラエルの神ヱホバのために建ることを爲べし 是ペルシヤの王クロス王の我らに命ぜし所なりと 4是に於てその地の民ユダの民の手を弱らせてその建築を妨げ 5之が計る所を敗らんために議官に賄賂して之に敵せしむペルシヤ王クロスの世にある日よりペルシヤ王ダリヨスの治世まで常に然り 6アハシユエロスの治世すなはち其治世の初に彼らは表を上りてユダとヱルサレムの民を誣訟へたり 7またアルタシヤスタの世にビシラム、ミテレダテ、タビエルおよびその餘の同僚同じく表をペルシヤの王アルタシヤスタに上つれり その書の文はスリヤの文字にて書きスリヤ語にて陳述たる者なりき 8方伯レホム書記官シムシヤイ書をアルタシヤスタ王に書おくりてヱルサレムを誣ゆ左のごとし 9即ち方伯レホム書記官シムシヤイおよびその餘の同僚デナ人アパルサテカイ人タルペライ人アパルサイ人アルケロイ人バビロン人シユシヤン人デハウ人エラマイ人 10ならびに其他の民すなはち大臣オスナパルが移してサマリアの邑および河外ふのその他の地に置し者等云々 11其アルタシヤスタ王に上りし書の稿は是なく云く河外ふの汝の僕等云々 12王知たまへ汝の所より上り來りしユダヤ人ヱルサレムに到りてわれらの中にいりかの背き悖る惡き邑を建なほし石垣を築きあげその基礎を固うせり 13然ば王いま知たまへ 若この邑を建て石垣を築きあげなば彼ら必ず貢賦租稅稅金などを納じ 然すれば終に

王等の不利とならん 14そもそも我らは王の鹽を食む者なれば王の輕んぜらるるを見るに忍びず 茲に人を遣はし王に奏聞す 15列祖の記録の書を稽へたまへ必ずその記録の書の中において此邑は背き悖る邑にして諸王と諸州とに害を加へし者なるを見その中に古來叛逆の事ありしを知たまふべし此邑の滅ぼされしは此故に縁るなり 16我ら王に奏聞す 若この邑を建て石垣を築きあげなばなんぢは之がために河外ふの領分をうしなふなるべしと 17王すなはち方伯レホム書記官シムシヤイこの餘サマリアおよび河外ふのほかの處に住る同僚に答書をおくりて云く平安あれ云々 18汝らが我儕におくりし書をば我前に讀解しめたり 19我やがて詔書を下して稽考しめしに此邑の古來起りて諸王に背きし事その中に反亂謀叛のありし事など詳悉なり 20またヱルサレムには在昔大なる王等ありて河外ふをことごとく治め貢賦租稅税金などを己に納しめたる事あり 21然ば汝ら詔言を傳へて其人々を止め我が詔言を下すまで此邑を建ること無らしめよ 22汝ら愼め之を爲ことを忽にする勿れ 何ぞ損害を増て王に害を及ぼすべけんやと 23アルタシヤスタ王の書の稿をレホム及び書記官シムシヤイとその同僚の前に讀あげければ彼等すなはちヱルサレムに奔ゆきてユダヤ人に就き腕力と權威とをもて之を止めたり 24此をもてヱルサレムなる神の室の工事止みぬ 即ちペルシヤ王ダリヨスの治世の二年まで止みたりき

第五章

1爰に預言者ハガイおよびイドの子ゼカリヤの二人の預言者ユダとヱルサレムに居るユダヤ人に向ひてイスラエルの神の名をもて預言する所ありければ 2シヤルテルの子ゼルバベルおよびヨザダクの子ヱシユア起あがりてヱルサレムなる神の室を建ることを始む 神の預言者等これと共に在て之を助く 3その時に河外の總督タテナイといふ者セタルボズナイおよびその同僚とともにその所に來り誰が汝らに此室を建て此石垣を築きあぐることを命ぜしやと斯言ひ 4また此建物を建る人々の名は何といふやと斯これに問り 5然るにユダヤ人の長老等の上にはその神の目そそぎゐたれば彼等これを止むること能はずして遂にその事をダリヨスに奏してその返答の來るを待り 6河外ふの總督タテナイおよびセタルボズナイとその同僚なる河外ふのアパルサカイ人がダリヨス王に上まつりし書の稿は左のごとし 7即ち其上まつりし書の中に書しるしたる所は是のごとし 云く願くはダリヨス王に大なる平安あれ 8王知たまへ我儕ユダヤ州に往てかの大神の室に至り視しに巨石をもて之を建て材木を組て壁を作り居り其工事おほいに捗どりてその手を下すところ成ざる無し 9是に於て我儕その長老等に問てこれに斯いへり 誰が汝らに此室を建てこの石垣を築きあぐることを命ぜしやと 10我儕またその首長たる人々の名を書しるして汝に奏聞せんがためにその名を問り 11時に彼等かく我らに答へて言り 我儕は天地の神の僕にして年久しき昔に建おかれし殿を再び建るなり 是は素イスラエルの大なる王　某の建築きたる者なしりが 12我らの父等天の神の震怒を惹起せしに縁てつひに之をカルデヤ人バビロンの王ネブカデネザルの手に付したまひければ彼この殿を毀ち民をバビロンに擄へゆけり 13然るにバビロンの王クロスの元年にクロス王神のこの室を建べしとの詔言を下したまへり 14然のみならず ヱルサレムの殿よりネブカデネザルが取いだしてバビロンの殿に携へいれし神の室の金銀の器皿もクロス王これをバビロンの殿より取いだし其立たる總督セシバザルと名くる者に之を付し 15而して彼に言けらく是等の器皿を取り往て之をヱルサレムの殿に携へいれ神の室をその本の處に建よと 16是において其セシバザル來りてヱルサレムなる神の室の石礎を置たりき其時よりして今に至るまで之を建つつありしが猶いまだ竣らざるなりと 17然ば今王もし善となされなば請ふ御膝下バビロンにある所の王の寶蔵を査べたまひて神のこの室を建べしとの詔言のクロス王より出しや否を稽へ而して王此事につきて御旨を我らに諭したまえ

第六章

1是に於てダリヨス王詔言を出しバビロンにて寶物を蔵むる所の文庫に就て査べ稽しめしに 2メデア州の都城アクメタにて一の巻物を得たり その内に書しるせる記録は是のごとし 3クロス王の元年にクロス王詔言を出せり云くヱルサレムなる神の室の事につきて諭す その犠牲を獻ぐる所なる殿を建てその石礎を堅く置ゑ其室の高を六十キユビトにし其濶を六十キユビトにし 4巨石三行新木一行を以せよ 其費用は王の家より授くべし 5またネブカデネザルがヱルサレムの殿より取いだしてバビロンに携へきたりし神の室の金銀の器皿は之を還してヱルサレム

の殿に持ゆかしめ神の室に置てその故の所にあらしむべしと 6然ば河外ふの總督タテナイおよびセタルボズナイとその同僚なる河外ふのアパルサカイ人汝等これに遠ざかるべし 7神のその室の工事を妨ぐる勿れ ユダヤ人の牧伯とユダヤ人の長老等に神のその家を故の處に建しめよ 8我また詔言を出し其神の家を建ることにつきて汝らが此ユダヤ人の長老等に爲べきことを示す 王の財寶の中すなはち河外ふの租税の中より迅速に費用をその人々に與へよその工事を滯ほらしむる勿れ 9又その需むる物 即ち天の神にたてまつる燔祭の小牛牡羊および羔羊ならびに麥鹽酒 油など凡てヱルサレムにをる祭司の定むる所に循ひて日々に怠慢なく彼等に與へ 10彼らをして馨しき香の犧牲を天の神に獻ぐることを得せしめ王とその子女の生命のために祈ることを得せしめよ 11かつ我詔言を出す誰にもせよ此言を易る者あらば其家の梁を抜きとり彼を擧て之に釘ん その家はまた之がために厠にせらるべし 12凡そ之を易へまたヱルサレムなるその神の室を毀たんとて手を出す王あるひは民は彼處にその名を留め給ふ神ねがはくはこれを倒したまへ 我ダリヨス詔言を出せり 迅速に之を行なへ 13ダリヨス王かく諭しければ河外ふの總督タテナイおよびセタルボズナイとその同僚迅速に之を行なへり 14ユダヤ人の長老等すなはち之を建て預言者ハガイおよびイドの子ゼカリヤの預言に由て之を成就たり 彼等イスラエルの神の命に循ひクロス、ダリヨスおよびペルシヤ王アルタシヤスタの詔言に依て之を建竣ぬ 15ダリヨス王の治世の六年アダルの月の三日にこの室成り 16是に於てイスラエルの子孫祭司レビ人およびその餘の俘擄人よろこびて神のこの室の落成禮を行なへり 17即ち神のこの室の落成禮において牡牛一百 牡羊二百 羔羊四百 を獻げまたイスラエルの支派の數にしたがひて牡山羊十二を獻げてイスラエル全體のために罪祭となし 18祭司をその分別にしたがひて立て レビ人をその班列にしたがひて立て ヱルサレムに於て神に事へしむ 凡てモーセの書に書しるしたるが如し 19斯て俘囚より歸り來りし人々 正 月の十四日に逾越節を行へり 20即ち祭司レビ人共に身を潔めて皆潔くなり一切俘囚より歸り來りし人々のため其兄弟たる祭司等のため又自己のために逾越の物を宰れり 21擄はれゆきて歸り來しイスラエルの子孫および其國の異邦人の汚穢を棄て是等に附てイスラエルの神ヱホバを求むる者等すべて之を食ひ 22喜びて七日の間 酵いれぬパンの節を行へり 是はヱホバかれらを喜ばせアッスリヤの王の心を彼らに向はせ彼をしてイスラエルの神にましまします神の家の工事を助けさせたまひしが故なり

第七章

1是等の事の後ペルシヤ王アルタシヤスタの治世にエズラといふ者あり エズラはセラヤの子セラヤはアザリヤの子アザリヤはヒルキヤの子 2ヒルキヤはシヤルムの子シヤルムはザドクの子ザドクはアヒトブの子 3アヒトブはアマリヤの子アマリヤはアザリヤの子アザリヤはメラヨテの子 4メラヨテはゼラヒヤの子ゼラヒヤはウジの子ウジはブツキの子 5ブツキはアビシユアの子アビシユアはピネハスの子ピネハスはエレアザルの子エレアザルは祭司の長アロンの子なり 6此エズラ、バビロンより上り來れり 彼はイスラエルの神ヱホバの授けたまひしモーセの律法に精しき學士なりき 其神ヱホバの手これが上にありしに因てその求むる所を王ことごとく許せり 7アルタシヤスタ王の七年にイスラエルの子孫および祭司レビ人謳歌者門を守る者ネテニ人など多くヱルサレムに上れり 8王の七年の五月にエズラ、ヱルサレムに到れり 9即ち正月の一日にバビロンを出たちて五月の一日にヱルサレムに至る 其神のよき手これが上にありしに因てなり 10エズラは心をこめてヱホバの律法を求め之を行ひてイスラエルの中に法度と例規とを教へたりき 11ヱホバの誡命の言に精しく且つイスラエルに賜ひし法度に明かなる學士にて祭司たるエズラにアルタシヤスタ王の與へし書の言は是のごとし 12諸王の王アルタシヤスタ天の神の律法の學士なる祭司エズラに諭す 願くは全 云々 13我詔言を出す 我國の内にをるイスラエルの民およびその祭司レビ人の中凡てヱルサレムに往んと 志す者は皆なんぢと偕に往べし 14汝はおのが手にある汝の神の律法に照してユダとヱルサレムの模樣とを察せんために王および七人の議官に遣はされて往くなり 15且 汝は王とその議官がヱルサレムに宮居するところのイスラエルの神のために誠意よりささぐる金銀を携へ 16またバビロン全州にて汝が獲る一切の金銀および民と祭司とがヱルサレムなる其神の室のために誠意よりする禮物を携さふ 17然ば汝その金をもて牡牛牡羊羔羊およびその素祭と灌祭の品を 速 に買ひヱルサレムにある汝らの神の室の壇の上にこれを獻ぐべし 18また汝と汝の兄弟等その餘れる金銀をもて爲んと

欲する所あらば汝らの神の旨にしたがひて之を爲せ 19 また汝の神の室の奉事のために汝が賜はりし器皿は汝これをヱルサレムの神の前に納めよ 20 その外汝の神の室のために需むる所あらば汝の用ひんとする所の者をことごとく王の府庫より取て用ふべし 21 我や我アルタシヤスタ王河外ふの一切の庫官に詔言を下して云ふ天の神の律法の學士祭司エズラが汝らに需むる所は凡てこれを迅速に爲べし 22 即ち銀は百タラント小麥は百石酒は百バテ油は百バテ鹽は量なかるべし 23 天の神の室のために天の神の命ずる所は凡て謹んで之を行なへしからずば王とその子等との國に恐くは震怒のぞまん 24 かつ我儕なんぢらに諭す祭司レビ人謳歌者門を守る者ネテニ人および神のその室の役者などには貢賦租稅稅金などを課すべからず 25 汝エズラ汝の手にある汝の神の智慧にしたがひて有司および裁判人を立て河外ふの一切の民すなはち汝の神の律法を知る者等を盡く裁判しめよ汝らまた之を知ざる者を敎へよ 26 凡そ汝の神の律法および王の律法を行はざる者をば迅速にその罪を定めて或は殺し或は追放ち或はその貨財を沒收し或は獄に繫ぐべし 27 我らの先祖の神ヱホバは讃べき哉斯王の心にヱルサレムなるヱホバの室を飾る意を起させ 28 また王の前とその議官の前と王の大臣の前にて我に矜恤を得させたまへり我神ヱホバの手わが上にありしに因て我は力を得イスラエルの中より首領たる人々を集めて我とともに上らしむ

第八章

1 アルタシヤスタ王の治世に我とともにバビロンより上り來りし者等の宗家の長およびその系譜は左のごとし 2 ピネハスの子孫の中にてはゲルシヨム、イタマルの子孫の中にてはダニエル、ダビデの子孫の中にてはハットシ 3 シカニヤの子孫の中パロシの子孫の中にてはゼカリヤ彼と偕にありて名簿に載られたる男子百五十人 4 パハテモアブの子孫の中にてはゼラヒヤの子エリヨエナイ彼と偕なる男二百人 5 シカニヤの子孫の中にてはヤハジエルの子彼と偕なる男三百人 6 アデンの子孫の中にてはヨナタンの子エベデ彼とともなる男五十人 7 エラムの子孫の中にてはアタリヤの子ヱサヤ彼と偕なる男七十人 8 シパテヤの子孫の中にてはミカエルの子ゼバデヤ彼とともなる男八十人 9 ヨハブの子孫の中にてはヱヒエルの子オバデヤ彼とともなる男二百十八人 10 シロミテの子孫の中にてはヨシピアの子彼とともなる男百六十人 11 ベバイの子孫の中にてはベバイの子ゼカリヤ彼と偕なる男二十八人 12 アズガデの子孫の中にてはハッカタンの子ヨハナン彼とともなる男百十人 13 アドニカムの子孫の中の後なる者等あり其名をエリペレテ、ユエル、シマヤといふ彼らと偕なる男六十人 14 ビグワイの子孫の中にてはウタイおよびザブデ彼等とともなる男七十人 15 我かれらをアハワに流るる所の河の邊に集めて三日が間かしこに天幕を張居たりしが我民と祭司とを閱せしにレビの子孫一人も其處に居ざりければ 16 すなはち人を遣てエリエゼル、アリエル、シマヤ、エルナタン、ヤリブ、エルナタン、ナタン、ゼカリヤ、メシユラムなどいふ長たる人々を招きまた敎晦を施こす所のヨヤリブおよびエルナタンを招けり 17 而して我カシピアといふ處の長イドの許に彼らを出し遣せり即ち我カシピアといふ處にをるイドとその兄弟なるネテニ人に告ぐべき詞を之が口に授け我等の神の室のために役者を我儕に携へ來れと言けるが 18 我らの神よく我儕を助けたまひて彼等つひにイスラエルの子レビの子マヘリの子孫イシケセルを我らに携さへ來り又セレビヤといふ者およびその子等と兄弟十八人 19 ハシヤビヤならびにメラリの子孫のヱサヤおよびその兄弟とその子等二十人を携へ 20 またネテニ人すなはちダビデとその牧伯等がレビ人に事へしむるために設けたりしネテニ人二百二十人を携へ來れり此等の者は皆その名を掲げられたり 21 斯て我かしこなるアハワの河の邊にて斷食を宣傳へ我儕の神の前にて我儕身を卑し我らと我らの小き者と我らの諸の所有のために正しき途を示されんことを之に求む 22 其は我儕さきに王に告て我らの神は己を求むる者を凡て善く助けまた己を棄る者にはその權能と震怒とをあらはしたまふと言しに因て我道路の敵を防ぎて我儕を護るべき步兵と騎兵とを王に請ふを羞ぢたればなり 23 かくてこのことを我ら斷食して我儕の神に求めけるに其祈禱を容たまへり 24 時に我祭司の長十二人即ちセレビヤ、ハシヤビヤおよびその兄弟十人を之とともに擇び 25 金銀および器皿すなはち王とその議官とその牧伯と彼處の一切のイスラエル人とが我らの神の室のために獻げたる奉納物を量りて彼らに付せり 26 その量りて彼らの手に付せし者は銀六百五十タラント銀の器百タラント金百タラントなりき 27 また金の大甁二十あり一千ダリクに當るまた光り輝く精銅の器二箇あり其貴きこと

金のごとし 28而して我かれらに言り汝等はヱホバの聖者なり 此器皿もまた聖し又この金銀は汝らの先祖の神ヱホバに奉まつりし誠意よりの禮物なり 29汝等ヱルサレムに至りてヱホバの家の室に於て祭司レビ人の長等およびイスラエルの宗家の首等の前に量るまで之を伺ひ守るべしと 30是に於て祭司およびレビ人その金銀および器皿をヱルサレムなる我らの神の室に携へゆかんとて其重にしたがひて之を受取れり 31我ら正月の十二日にアハワの河邊を出たちてヱルサレム赴きけるが我らの神その手を我らの上におき我らを救ひて敵の手また路に伏て窺ふ者の手に陷らしめたまはざりき 32我儕すなはちヱルサレムに至りて三日かしこに居しが 33四日にいたりて我らの神の室においてその金銀および器皿をウリヤの子祭司メレモテの手に量り付せり ピネハスの子エレアザル彼に副ふ又ヱシユアの子ヨザバデおよびビンヌイの子ノアデヤの二人のレビ人かれらに副ふ 34即ちその一々の重と數を查べ其重をことごとく其時かきとめたり 35俘囚の人々のその俘囚をゆるされて歸り來し者イスラエルの神に燔祭を獻げたり 即ちイスラエル全體にあたる牡牛十二を獻げまた牡羊九十六羔羊七十七罪祭の牡山羊十二を獻げたり 是みなヱホバにたてまつりし燔祭なり 36彼等王の勅諭を王の代官と河外ふの總督等に示しければその人々民を助けて神の室を建しむ

第九章

1是等の事の成し後牧伯等我許にきたりて言ふ イスラエルの民祭司およびレビ人は諸國の民とはなれずしてカナン人ヘテ人ペリジ人エビス人アンモニ人モアブ人エジプト人アモリ人などの中なる憎むべき事を行へり 2即ち彼等の女子を自ら娶りまたその男子に娶れば聖種諸國の民と相雜れり牧伯たる者長たる者さきだちてこの愆を犯せりと 3我この事を聞て我衣と袍を裂き頭髮と鬚を抜き驚き呆れて坐せり 4イスラエルの神の言を戰慄おそるる者はみな俘囚より歸り來し者等の愆の故をもて我許に集まりしが我は晩の供物の時まで驚きつつ茫然として坐しぬ 5晩の供物の時にいたり我その苦行より起て衣と袍とを裂たるまま膝を屈めてわが神ヱホバにむかひ手を舒て 6言けるは我神よ我はわが神に向ひて面を擧るを羞て赧らむ 其は我らの罪積りて頭の上に出で我らの愆重りて天に達すればなり 7我らの先祖の日より今日にいたるまで我らは大なる愆を身に負り 我らの罪の故によりて我儕と我らの王等および祭司たちは國々の王等の手に付され劍にかけられ擄へゆかれ掠められ面に恥をかうぶれり 今日のごとし 8然るに今われらの神ヱホバ暫く恩典を施こして逃れ存すべき者を我らの中に殘し我らをしてその聖所にうちし釘のごとくならしめ斯して我らの神われらの目を明にし我らをして奴隸の中にありて少く生る 心地せしめたまへり 9そもそも我らは奴隸の身なるがその奴隸たる時にも我らの神われらを忘れず反てペルシヤの王等の目の前にて我らに憐憫を施こして我らに活る心地せしめ我らの神の室を建しめ其破壞を修理はしめユダとヱルサレムにて我らに石垣をたまふ 10我らの神よ已に是のごとくなれば我ら今何と言のべんや 我儕はやくも汝の命令を棄たればなり 11汝かつて汝の僕なる預言者等によりて命じて宣へり 云く汝らが往て獲んとする地はその各地の民の汚穢により其憎むべき事によりて汚れたる地にして此極より彼極までその汚穢盈わたるなり 12然ば汝らの女子を彼らの男子に與ふる勿れ 彼らの女子をなんぢらの男子に娶る勿れ 又何時までもかれらの爲に平安をも福祿をも求むべからず 然すれば汝ら旺盛にしてその地の佳物を食ふことを得永くこれを汝らの子孫に傳へて產業となさしむることを得んと 13我らの惡き行により我らの大なる愆によりて此事すべて我儕に臨みたりしが汝 我らの神はわれらの罪よりも輕く我らを罰して我らの中に是のごとく人を遺したまひたれば 14我儕再び汝の命令を破りて是等の憎むべき行ある民と緣を結ぶべけんや 汝 我らを怒りて終に滅ぼし盡し遺る者も逃るる者も無にいたらしめたまはざらんや 15イスラエルの神ヱホバよ汝は義し 即ち我ら逃れて遺ること今日のごとし 今我ら罪にまとはれて汝の前にあり 是がために一人として汝の前に立ことを得る者なきなり

第十章

1エズラ神の室の前に泣伏して禱りかつ懺悔しをる時に男 女および兒女はなはだし多くイスラエルの中より集ひて彼の許に聚り來れり すべての民はいたく泣かなしめり 2時にエラムの子ヱヒエルの子シカニヤ答へてエズラに言ふ 我らはわれらの神に對ひて罪を犯し此地の民なる異邦人の婦女を娶れり 然ながら此事につきてはイスラエルに今なほ望あり 3然ば我儕わが主の教晦にしたがひ又

我らの神の命令に戰慄く人々の教晦にしたがひて斯る妻をことごとく出し之が產たる者を去んといふ契約を今われらの神に立てん 而して律法にしたがひて之を爲べし 4起よ是事は汝の主どる所なり 我ら汝を助くべし心を強くして之を爲せと 5エズラやがて起あがり祭司の長等レビ人およびイスラエルの人衆をして此 言のごとく爲んと誓はしめたり 彼ら乃ち誓へり 6かくてエズラ神の家の前より起いでてエリアシブの子ヨハナンの室に入しが彼處に至りてもパンを食ず水を飲ざりき 是は俘囚より歸り來りし者の愆を憂へたればなり 7斯てユダおよびエルサレムに遍ねく宣て俘囚の人々に盡く示して云ふ 汝ら皆エルサレムに集まるべし 8凡そ牧伯等と長老等の諭言にしたがひて三日の内に來らざる者は皆その一切の所有を取あげられ俘擄人の會より黜けらるべしと 9是においてユダとベニヤミンの人々みな三日の内にエルサレムに集まれり 是は九月にして恰もその月の廿日なりき 民みな神の室の前なる廣場に坐して此事のためまた大雨のために震ひ慄けり 10時に祭司エズラ起て之に言けるは汝らは罪を犯し異邦の婦人を娶りてイスラエルの愆を增り 11然ば今なんぢらのの先祖の神ヱホバに懺悔してその御旨を行へ即ち汝等この地の民等および異邦の婦人とはなるべしと 12會衆みな聲をあげて答へて言ふ 汝が我らに諭せるごとく我儕かならず爲べし 13然ど民は衆し 又今は大雨の候なれば我儕外に立こと能はず 且これは一日二日の事業にあらず 其は我らこの事について大に罪を犯したればなり 14然ば我らの牧伯等この全會衆のために立れよ 凡そ我儕の邑の内にもし異邦の婦人を娶りし者あらば皆定むる時に來るべし 又その各々の邑の長老および裁判人これに伴ふべし 斯して此事を成ば我らの神の烈しき怒つひに我らを離るるあらんと 15その時立てこれに逆ひし者はアサヘルの子ヨナタンおよびテクワの子ヤハジア而已メシユラムおよびレビ人シヤベタイこれを贊く 16俘囚より歸り來りし者つひに然なし 祭司エズラおよび宗家の長數人その宗家にしたがひて名指して撰ばれ十月の一日より共に坐してこの事を査べ 17正 月の一日に至りてやうやく異邦の婦人を娶りし人々を盡く査べ畢れり 18祭司の徒 の中にて異邦の婦人を娶りし者は即ちヨザダクの子ヱシユアの子等およびその兄弟マアセヤ、エリエゼル、ヤリブ、ゲダリヤ 19彼らはその妻を出さんといふ誓をなし已に愆を獲たればとて牡羊一匹をその愆のために獻げたり 20インメルの子孫ハナニおよびゼバデヤ 21ハリムの子孫マアセヤ、エリヤ、シマヤ、ヱヒエル、ウジヤ 22パシユルの子孫エリオエナイ、マアセヤ、イシマエル、ネタンエル、ヨザバデ、エラサ 23レビ人の中にてはヨザバデ、シメイ、ケラヤ（即ちケリタ）ペタヒヤ、ユダ、エリエゼル 24謳歌者の中にてはエリアシブ 門を守る者の中にてはシヤルム、テレムおよびウリ 25イスラエルの中にてはパロシの子孫ラミヤ、エジア、マルキヤ、ミヤミン、エレアザル、マルキヤ、ベナヤ 26エラムの子孫マッタニヤ、ゼカリヤ、ヱヒエル、アブデ、ヱレモテ、エリヤ 27ザットの子孫エリオエナイ、エリアシブ、マッタニヤ、ヱレモテ、ザバデ、アジザ 28ベバイの子孫ヨハナン、ハナニヤ、ザバイ、アテライ 29バニの子孫メシユラム、マルク、アダヤ、ヤシュブ、シヤル、ヱレモテ 30パハテモアブの子孫アデナ、ケラル、ベナヤ、マアセヤ、マッタニヤ、ベザレル、ビンヌイ、マナセ 31ハリムの子孫エリエゼル、ヱシヤ、マルキヤ、シマヤ、シメオン 32ベニヤミン、マルク、シマリヤ 33ハシュムの子孫マッテナイ、マツタタ、ザバデ、エリパレテ、ヱレマイ、マナセ、シメイ 34バニの子孫マアダイ、アムラム、ウエル 35ベナヤ、ベデヤ、ケルヒ 36ワニヤ、メレモテ、エリアシブ 37マッタニヤ、マッテナイ、ヤアス 38バニ、ビンヌイ、シメイ 39シレミヤ、ナタン、アダヤ 40マクナデバイ、シヤシヤイ、シヤライ 41アザリエル、シレミヤ、シマリヤ 42シヤルム、アマリヤ、ヨセフ 43ネボの子孫ヱイエル、マッタテヤ、ザバデ、ゼビナ、イド、ヨエル、ベナヤ 44是みな異邦の婦人を娶りし者なり その婦人の中には子女を產し者もありき

ネヘミヤ記

第一章

1ハカリヤの子ネヘミヤの言詞／第二十年キスレウの月我シユシヤンの都にありける時 2わが兄弟の一人なるハナニ數人の者とともにユダより來りしかば我俘虜人の遺餘なる夫の逃れかへりしユダヤ人の事およびヱルサレムの事を問たづねしに 3彼ら我に言けるは俘虜人の遺餘なる夫の州内の民は大なる患難に遭ひ凌辱に遭ふ又ヱルサレムの石垣は打崩され其門は火に焚たりと 4我この言を聞坐りて泣き數日の間哀しみ斷食し天の神に祈りて言ふ 5天の神ヱホバ大なる畏るべき神己を愛し己の誡命を守る者にむかひて契約を保ち恩惠を施こしたまふ者よ 6ねがはくは耳を傾むけ目を開きて僕の祈祷を聽いれたまへ我いま汝の僕なるイスラエルの子孫のために日夜なんぢの前に祈り我儕イスラエルの子孫が汝にむかひて犯せし罪を懺悔す誠に我も我父の家も罪を犯せり 7我らは汝にむかひて大に惡き事を行ひ汝の僕モーセに汝の命じたまひし誡命をも法度をも例規をも守らざりき 8請ふ汝の僕モーセに命じたまひし言を憶ひたまへ其言に云く汝ら若罪を犯さば我汝らを國々に散さん 9然れども汝らもし我にたちかへり我誡命を守りてこれを行なはば暇令逐れゆきて天の涯にをるとも我そこより汝等をあつめ我名を住はせんとて撰びし處にきたらしめんと 10そもそも是等の者は汝が大なる能力と強き手をもて贖ひたまひし汝の僕なんぢの民なり 11主よ請ふ僕の祈祷および汝の名を畏むことを悦こぶ汝の僕等の祈祷に耳を傾けたまへ願くは今日僕を助けて此人の目の前に憐憫を得させたまへこの時我は王の酒人なりき

第二章

1茲にアルタシヤスタ王の二十年ニサンの月王の前に酒のいでし時我酒をつぎて王にたてまつれり我は今まで王の前にて憂色を帶しこと有ざりき 2王われに言けるは汝は疾病も有ざるに何とて面に憂色を帶るや是他ならず心に憂ふる所あるなりと是において我甚だ大に懼れたりしが 3遂に王に奏して曰ふ願くは王長壽かれ我が先祖の墓の地たるその邑は荒蕪その門は火にて焚たれば我いかで顔に憂色を帶ざるを得んやと 4王われに向ひて然らば汝何をなさんと願ふやと言ければ我すなはち天の神に祈りて 5王に言けるは王もし之を善としたまひ我もし汝の前に恩を得たる者なりせば願くはユダにあるわが先祖の墓の邑に我を遣はして我にこれを建起さしめたまへと 6時に后妃も傍に坐しをりしが王われに言けるは汝が往てをる間は何程なるべきや何時頃歸りきたるやと王かく我を遣はすことを善としければ我期を定めて奏せり 7而して我また王に言けるは王もし善としたまはば請ふ河外ふの總督等に與ふる書を我に賜ひ彼らをして我をユダまで通さしめたまへ 8また王の山林を守るアサフに與ふる書をも賜ひ彼をして殿に屬する城の門を作り邑の石垣および我が入べき家に用ふる材木を我に授けしめたまへと我神善く我を助けたまひしに因て王これを我に允せり 9是に於て我河外ふの總督等に詣りて王の書をこれに付せり王は軍長數人に騎兵をそへて我に伴なはせたり 10時にホロニ人サンバラテおよびアンモニ人奴隸トビヤこれを聞きイスラエルの子孫の安寧を求むる人來れりとて大に憂ふ 11我ついにヱルサレムに到りて彼處に三日居りける後 12夜中に起いでたり數人の者われに伴なふ我はわが神がヱルサレムのために爲せんとて我心に入たまひし所の事を何人にも告しらせず亦我が乘る一匹の畜の外には畜を引つれざりき 13我すなはち夜中に立いで谷の門を通り龍井の對面を經糞門に至りてヱルサレムの石垣を閲せしにその石垣は頽れをりその門は已に火に焚てありき 14かくて又前みて泉の門にゆき王の池にいたりしに我が乘る畜の通るべき處なかりき 15我亦その夜の中に渓川に沿て進みのぼりて石垣を觀めぐり頓て身を反して谷の門より歸りいりぬ 16然るに牧伯等は我が何處に往しか何を爲しかを知ざりき我また未だこれをユダヤ人にも祭司にも貴き人にも方伯等にも其他の役人にも告しらせざりしが 17遂に彼らに言けるは汝らの見るごとく我儕の境遇は惡くヱルサレムは荒はてその門は火に焚たり來れ我儕ヱルサレムの石垣を築きあげて再び世の凌辱をうくることなからんと 18而して我わが神の善われを助けたまひし事を彼らに告げまた王の我に語りし言詞をも告しらせければ去來起て築かんと言ひ皆奮ひてこの美事を爲んとす 19時にホロ

ニ人サンバラテ、アンモニ人奴隷トビヤおよびアラビヤ人ガシムこれを聞て我らを嘲けり我儕を悔りて言ふ汝ら何事をなすや王に叛かんとするなるかと 20我すなはち答へて彼らに言ふ天の神われらをして 志 を得させたまはん故に其 僕たる我儕起て築くべし然ど汝らはエルサレムに何の分もなく權理もなく記念もなしと

第三章

1茲に祭司の長エリアシブその兄 弟の祭司等とともに起て羊の門を建て之を聖別てその扉を設け尚も之を聖別てハンメアの戍樓に及ぼし又ハナネルの戍樓に及ぼせり 2その次にはエリコの人々を築き建て其次にはイムリの子ザツクル築き建たり 3魚の門はハツセナアの子等これを建構へその扉を設けて之に鎖と 閂 を施こせり 4その次にはハツコヅの子ウリヤの子メレモタ修繕をなし其次にはメシザベルの子ベレキヤの子メシユラム修繕をなしその次にはバアナの子ザドク修繕をなし 5その次にはテコア人等修繕をなせり但しその貴き族はその主の工事に服せざりき 6古門はパセアの子ヨイアダおよびベソデヤの子メシユラムこれを修繕ひ構へその扉を設けて之に鎖と閂 を施せり 7その次にはギベオン人メラテヤ、メロノテ人ヤドン河外ふの總督の管轄に屬するギベオンとミヅパの人々等修繕をなせり 8その次にはハルハヤの子ウジエルなどの金工修繕をなし其次には製香者ハナニヤなど修繕をなしエルサレムを堅うして石垣の廣き處にまで及べり 9その次にはエルサレムの郡の半の知事ホルの子レパヤ修繕をなせり 10その次にはハルマフの子ヱダヤ己の家と相對ふ處を修繕りその次にはハシヤブニヤの子ハツトシ修繕をなせり 11ハリムの子マルキヤおよびバハテモアブの子ハシユブも一方を修繕ひまた爐戍樓を修繕へり 12その次にはエルサレムの郡の半の知事ハロヘシの子シヤルムその女子等とともに修繕をなせり 13谷の門はハヌン、ザノアの民と偕に之を修繕ひ之を建なほしてその 扉を設け之に鎖と 閂 を施しまた糞の門までの石垣一千キユビトを修繕り 14糞の門はベテハケレムの郡の半の知事レカブの子マルキヤこれを修繕ひ之を建なほしてその 扉を設け之に鎖と 閂 を施こせり 15泉の門はミヅパの郡の知事コロホゼの子シヤルンこれを修繕ひ之を建なほして覆ひその扉を設け之に鎖と 閂 を施こしまた王の園の 邊なるシラの池に沿る石垣を修繕てダビデの邑より下るところの階級にまで及ぼせり 16その後にはベテズルの郡の半 の知事アズブクの子ネヘミヤ修繕をなしてダビデの墓に對ふ處にまで及ぼし堀池に至り勇士宅に至れり 17その後にはバニの子レホムなどのレビ人修繕をなし其次にはケイラの郡の半の知事ハシヤビヤその郡の爲に修繕をなせり 18その後にはケイラの郡の半の知事ヘナダデの子バワイなどいふ其兄弟修繕をなし 19その次にはヱシユアの子ミヅパの知事エゼル石垣の彎にある武器庫に上る 所に對へる部分を修繕ひ 20その後にはザバイの子バルク 力を竭して石垣の彎より祭司の長エリアシブの家の門までの部分を修繕ひ 21その次にはハツコヅの子ウリヤの子メレモテ、エリアシブの家の門よりエジアシブの家の極までの部分を修繕ひ 22その次には窪地の人なる祭司等修繕をなし 23その次にはベニヤミンおよびハシユブ己の家と相對ふ處を修繕ひ其次にはアナニヤの子マアセヤの子アザリヤ己の家に近き處を修繕ひ 24その次にはヘナダデの子ビンヌイ、アザリヤの家より石垣の彎 角までの部分を修繕へり 25ウザイの子パラルは石垣の彎に對ふ處および王の上の家より聳え出たる戍樓に對ふ處を修繕り是は侍衛の廳に近し其次にはパロシの子ペダヤ修繕をなせり 26時にネテニ人オペルに住をりて東の方水の門に對ふ 處および聳え出たる戍樓に對ふ處まで及べり 27その次にはテコア人 聳 出たる大戍樓に對ふところの部分を修繕てオペルの石垣に及ぼせり 28馬の門より上は祭司等おのおのその己の家と相對ふ處を修繕り 29その次にはインメルの子ザドク己の家と相對ふ處を修繕ひ其次にはシカニヤの子シマヤといふ東の門を守る者修繕をなし 30その次にはシレミヤの子ハナニヤおよびザラフの第六の子ハヌン一方を修繕ひその後にはベレキヤの子メシユラム己の室と相對ふ處を修繕へり 31その次には金工の一人マルキヤといふ者ハンミフカデの門と相對ふ處を修繕ひて隅の昇 口に至りネテニ人および商人の家に及ぼせり 32また隅の昇 口と羊の門の間は金工および商人等これを修繕へり

第四章

1茲にサンバラテわれらが石垣を築くを聞て怒り大に憤ほりてユダヤ人を罵れり 2即ち彼その兄 弟等およびサマリアの軍 兵の前に語りて言ふ此軟弱しきユダヤ人何を爲や自 ら強くせんとするか獻祭をなさんとするか一日に事を終んとするか塵堆の中の石は既に燬たるに之を取出して

活さんとするかと 3時にアンモニ人トビヤその 傍 にありてまた言ふ彼らの築く石垣は狐 上るも圮るべしと 4我らの神よ聽たまへ我らは侮らる願くは彼らの出す凌 辱をその身の首に歸し彼らを他國に擄はれしめ掠られしめたまへ 5彼らの愆を蔽ひたまふ勿れ彼らの罪を汝の前より消去しめたまはざれ其は彼ら築 建 者の前にて汝の怒を惹おこしたればなり 6斯われら石垣を築きけるが石垣はみな已に相連なりてその高さの半にまで及べり其は民 心をこめて操作たればなり 7然るにサンバラテ、トビヤ、アラビヤ人アンモニ人アシドド人等ヱルサレムの石垣改修れ其破壞も次第に塞がると聞て大に怒り 8皆ともに相結びてヱルサレムに攻來らんとしその中に擾亂をおこさんとせり 9是において我ら神に祈禱をなしかれらのために日夜守望者を置て之に備ふ 10ユダ人は言り荷を負ふ者の力 衰へしが上に灰土おびただしくして我ら石垣を築くこと能はずと 11我らの敵は言り彼等が知ずまた見ざる間に我ら其中に入り之を殺してその工事を止めんと 12又彼らの邊に住るユダヤ人來る時は我らに告て言ふ汝ら我らの所に歸らざるべからずと其事十次にも及べり 13是に因て我石垣の後の顯露なる低き處に民を置き劍 鎗または弓を持せてその宗族にしたがひて之をそなふ 14我觀めぐり起て貴き人々および牧伯等ならびにその餘の民に告て云ふ汝ら彼等のために懼るる勿れ主の大にして畏るべきを憶ひ汝らの兄 弟のため男子女子のため妻および家のために戰かへよと 15我らの敵おのが事の我らに知れたるをききておのが謀 計を神に破られたるを聞しによりて我ら皆石垣に歸り各々その工事をなせり 16其時より後わが 僕半 は工事に操作き半は鎗楯弓などを持て鎧を着たり牧伯等はユダの全家の後にありき 17石垣を築く者および荷を負ひはこぶ者は各々片手もて工事を爲し片手に武器を執り 18築 建 者はおのおのその腰に劍を帶て築き建つ又喇叭を吹く者は我 傍 にあり 19我 貴き人々および牧伯等ならびにその餘の民に告て云ふ此工事は大にして廣ければ我儕石垣にありて彼此に相 離ること遠し 20何處にもあれ汝ら喇叭の音のきこゆるを聞ば其處に奔あつまりて我らに就け我らの神われらのために戰ひたまふべしと 21我ら斯して工事をなしけるが半の者は東雲の出るより星の現はるるまで鎗を持をれり 22當時われ亦民に言らく皆おのおのその僕とともにヱルサレムの中に宿り夜は我らの防守となり晝は工事をつとむべしと 23而して我もわが兄 弟等もわが僕も我に從がふ防守の人々もその衣服を脱ず水を汲に出るにも皆武器を執れり

第五章

1茲に民その妻とともにその兄 弟なるユダヤ人にむかひて大に叫べり 2或人言ふ我儕および我らの男子女子は多し我ら穀物を得食ふて生ざるべからず 3或人は言ふ我らは我らの田畑葡萄園および家をも質となすなり既に饑に迫れば我らに穀物を獲させよ 4或は言ふ我らは我らの田畝および葡萄園をもて金を貸て王の租稅を納む 5然ど我らの肉も我らの兄 弟の肉と同じく我らの子女も彼らの子女と同じ視よ我らは男子女子を人に伏從はせて奴隸となす我らの女子の中すでに人に伏從せし者もあり如何とも爲ん方法なし其は我らの田畝および葡萄園は別の人の有となりたればなりと 6我は彼らの叫および是等の言を聞て大に怒れり 7是において我 心に思ひ計り貴き人々および牧伯等を責てこれに言けるは汝らは各々その兄 弟より利息を取るなりと而して我かれらの事につきて大 會を開き 8彼らに言けるは我らは異邦人の手に賣れたる我らの兄 弟ユダヤ人を我らの力にしたがひて贖へり然るにまた汝等は己の兄 弟を賣んとするやいかで之をわれらの手に賣るべけんやと彼らは默して言なかりき 9我また言けるは汝らの爲すところ善らず汝らは我らの敵たる異邦人の誹謗をおもひて我儕の神を畏れつつ事をなすべきに非ずや 10我もわが兄 弟および僕 等も同じく金と穀物とを貸て利息を取ことをなす願くは我らこの利息を廢ん 11請ふ汝ら今日にも彼らの田畝葡萄園橄欖園および家を彼らに還しまた彼らに貸あたへて金穀物および酒 油などの百分の一を取ることを廢よと 12彼ら即ち言けるは我ら之を還すべし彼らに何をも要めざらん汝の言るごとく我ら然なすべしと是に於て我祭司を呼び彼らをして此 言のごとく行なふといふ誓を立しめたり 13而して我わが胸懷を打拂ひて言ふ此 言を行はざる者をば願くは神是のごとく凡て打拂ひてその家およびその業を離れさせたまへ即ちその人は斯打拂はれて空しくなれかしと時に會 衆みなアーメンと言てヱホバを讃美せり而して民はこの言のごとくに行へり 14且また我がユダの地の總督に任ぜられし時より即ちアルタシヤユタ王の二十年より三十二年まで十二年の間は我もわが兄 弟も總督の受べき祿を食ざりき 15わが以前にありし舊の總督等は民に重荷を負せてパンと酒

とを是より取り其外にまた銀四十シケルを取れり然のみならずその僕等も亦民を圧せり然ども我は神を畏るるに因て然せざりき 16我は反てこの石垣の工事に身を委ね我儕は何の田地をも買しこと無し我僕は皆かしこに集りて工事をなせり 17且また我席にはユダヤ人および牧伯等百五十人あり其外にまた我らの周圍の異邦人の中より我らに來れる者等もありき 18是をもて一日に牛一匹肥たる羊六匹を備へ亦 鶏 をも許多備へ十日に一回種々の酒を多く備へたり是ありしかどもこの民の役おもきに因て我は總督の受くべき禄を要めざりき 19わが神よ我が此民のために爲る一切の事を憶ひ仁 慈をもて我をあしらひ給へ

第六章

1サンバラテ、トビヤおよびアラビヤ人ガシムならびにその餘の我らの敵我が石垣を築き終りて一の破壊も遺らずと聞り(然どその時は未だ門に扉を設けざりしなり) 2是においてサンバラテとガシム我に言つかはしけるは來れ我らオノの平野なる某の村にて相 會せんとその實は我を害せんと思ひしなり 3我すなはち使者を彼らに遣はして言らく我は大なる工事をなし居れば下りゆくことを得ずなんぞ工事を離れ汝らの所に下りゆきてその間 工事を休ますべけんやと 4彼ら四次まで是のごとく我に言遣はしけるが我は何時もかくのごとく之に答へたり 5是においてサンバラテまた五次目にその僕を前のごとく我に遣はせり其手には封ぜざる書を携さふ 6その文に云く國々にて言傳ふガシムもまた然いふ汝はユダヤ人とともに叛かんとして之がために石垣を築けり而して汝はその王とならんとすとその言ところ是のごとし 7また汝は預言者を設けて汝の事をヱルサレムに宣しめユダに王ありと言しむといひ傳ふ恐くはその事この言のごとく王に聞えん然ば汝いま來れ我ら共に相議らんと 8我すなはち彼に言つかはしけるは汝が言るごとき事を爲し事なし惟なんぢ之を己の心より作りいだせるなりと 9彼らは皆われらを懼れしめんとせり彼ら謂らく斯なさば彼ら手弱りて工事を息べければ工事成ざるべしと今ねがはくは我手を強くしたまへ 10かくて後我メヘタベルの子デラヤの子シマヤの家に往しに彼閉こもり居て言らく我ら神の室に到りて神殿の内に相 會し神殿の戸を閉おかん彼ら汝を殺さんとて來るべければなり必ず夜のうちに汝を殺さんとて來るべしと 11我言けるは我ごとき人いかで逃べけんや我ごとき身にして誰か神殿に入て生命を全うすることを爲んや我は入じと 12我暁れるに神かれを遣はしたまひしに非ず彼が我にむかひて此預言を説しはトビヤとサンバラテ彼に賄賂したればなり 13彼に賄賂せしは此事のためなり 即ち我をして懼れて然なして罪を犯さしめ悪き名を我に負する種を得て我を辱しめんとてなりき 14わが神よトビヤ、サンバラテおよび女 預言者ノアデヤならびにその他の預言者など凡て我を懼れしめんとする者等を憶えてその行爲に報をなしたまへ 15石垣は五十二日を歴てエルルの月の二十五日に成 就せり 16我らの敵皆これを聞ければ我らの周圍の異邦人は凡て怖れ大に面目をうしなへり其は彼等この工事は我らの神の爲たまひし者なりと暁りたればなり 17其頃ユダの貴き人々しばしば書をトビヤにおくれりトビヤの書もまた彼らに來れり 18トビヤはアラの子シカニヤの婿なるをもてユダの中に彼と盟を結べる者多かりしが故なりトビヤの子ヨハナンも亦ベレキヤの子メシユラムの女子を妻に娶りたり 19彼らはトビヤの善 行を我前に語りまた我 言を彼に通ぜりトビヤは常に書をおくりて我を懼れしめんとせり

第七章

1石垣を築き扉を設け門を守る者謳歌者およびレビ人を立るにおよびて 2我わが兄 弟ハナニおよび城の宰ハナニヤをしてヱルサレムを治めしむ彼は忠信なる人にして衆多の者に超りて神を畏るる者なり 3我かれらに言ふ日の熱くなるまではヱルサレムの門を啓くべからず人々の立て守りをる間に門を閉させて汝らこれを堅うせよ汝らヱルサレムの民を番兵に立て各々にその所を守らしめ各々にその家と相對ふ處を守らしめよと 4邑は廣くして大なりしかどもその内の民は寡くして家は未だ建ざりき 5我神はわが心に貴き人々牧伯等および民を集めてその名簿をしらぶる思念を起さしめたまへり我最先に上り來りし者等の系圖の書を得て見にその中に書しるして曰く 6往昔バビロンの王ネブカデネザルに擄へられバビロンに遷されたる者のうち俘囚をゆるされてヱルサレムおよびユダに上りおのおの己の邑に歸りし此州の者は左の如し 是皆ゼルバベル、ヱシユア、ネヘミヤ、アザリヤ、ラアミヤ、ナハマニ、モルデカイ、ビルシヤン、ミスペレテ、ビグワイ、ネホム、バアナ等に隨ひ來れり 7そのイスラエルの民の人數は是のごとし 8パロシの子孫二千 百

七十二人 9シパテヤの子孫三百七十二人 10アラの子孫六百五十二人 11エシユアとヨアブの族たるパハテモアブの子孫二千八百十八人 12エラムの子孫千二百五十四人 13ザツトの子孫八百四十五人 14ザツカイの子孫七百六十人 15ビンヌイの子孫六百四十八人 16ベバイの子孫六百二十八人 17アズガデの子孫二千三百二十二人 18アドニカムの子孫六百六十七人 19ビグワイの子孫二千六十七人 20アデンの子孫六百五十五人 21ヒゼキヤの家のアテルの子孫九十八人 22ハシユムの子孫三百二十八人 23ベザイの子孫三百二十四人 24ハリフの子孫百十二人 25ギベオンの子孫九十五人 26ベテレヘムおよびネトパの人百八十八人 27アナトテの人百二十八人 28ベテアズマウテの人四十二人 29キリアテヤリム、ケピラおよびベエロテの人七百四十三人 30ラマおよびゲバの人六百二十一人 31ミクマシの人百二十二人 32ベテルおよびアイの人百二十三人 33他のネボの人五十二人 34他のエラムの民千二一百五十四人 35ハリムの民三百二十人 36エリコの民三百四十五人 37ロド、ハデデおよびオノの民七百二十一人 38セナアの子孫三千九百三十人 39祭司はエシユアの家のヱダヤの子孫九百七十三人 40インメルの子孫千五十二人 41パシユルの子孫一千二百四十七人 42ハリムの子孫一千十七人 43レビ人はホデワの子等エシユアとカデミエルの子孫七十四人 44謳歌者はアサフの子孫百四十八人 45門を守る者はシヤルムの子孫アテルの子孫タルモンの子孫アツクブの子孫ハテタの子孫シヨバイの子孫百三十八人 46ネテニ人はジハの子孫ハスパの子孫タバオテの子孫 47ケロスの子孫シアの子孫パドンの子孫 48レバナの子孫ハガバの子孫サルマイの子孫 49ハナンの子孫ギデルの子孫ガハルの子孫 50レアヤの子孫レヂンの子孫ネコダの子孫 51ガザムの子孫ウザの子孫パセアの子孫 52ベサイの子孫メウニムの子孫ネフセシムの子孫 53バクブクの子孫ハクパの子孫ハルホルの子孫 54バヅリテの子孫メヒダの子孫ハルシヤの子孫 55バルコスの子孫シセラの子孫テマの子孫 56ネヂアの子孫ハテパの子孫等なり 57ソロモンの僕たりし者等の子孫は即ちソタイの子孫ソペレテの子孫ペリダの子孫 58ヤアラの子孫ダルコンの子孫ギデルの子孫 59シパテヤの子孫ハツテルの子孫ポケレテハツゼバイムの子孫アモンの子孫 60ネテニ人とソロモンの僕たりし者等の子孫とは合せて三百九十二人 61またテルメラ、テルハレサ、ケルブ、アドンおよびインメルより上り來れる者ありしがその宗家とその血統とを示してイスラエルの者なるを明かにすることを得ざりき 62是すなはちデラヤの子孫トビヤの子孫ネコダの子孫にして合せて六百四十二人 63祭司の中にホバヤの子孫ハツコヅの子孫バルジライの子孫ありバルジライはギレアデ人バルジライの女を妻に娶りてその名を名りしなり 64是等の者系圖に載る者等の中にその籍を尋ねたれども在ざりき是故に汚れたる者として祭司の中より除かれたり 65テルシヤタ即ち之に告てウリムとトンミムを帶る祭司の興るまでは至聖物を食ふべからずと言り 66會衆あはせて四萬二千三百六十人 67この外にその僕婢七千三百三十七人謳歌男女二百四十五人あり 68その馬七百三十六匹その騾二百四十五匹 69駱駝四百三十五匹驢馬六千七百二十匹 70宗家の長の中工事のために物を納めし人々ありテルシヤタは金一千ダリク鉢五十祭司の衣服五百三十襲を施して庫に納む 71また宗家の長數人は金二萬ダリク銀二千二百斤を工事のために庫に納む 72その餘の民の納めし者は金二萬ダリク銀二千斤祭司の衣服六十七襲なりき 73かくて祭司レビ人門を守る者謳歌者民等ネテニ人およびイスラエル人すべてその邑々に住り／イスラエルの子孫かくてその邑々に住みをりて七月にいたりぬ

第八章

1茲に民みな一人のごとくになりて水の門の前なる廣場に集り學士エズラに請てヱホバのイスラエルに命じたまひしモーセの律法の書を携へきたらんことを求めたり 2この日すなはち七月一日祭司エズラ律法を携へ來りてその集りをる男女および凡て聽て了ることを得るところの人々の前に至り 3水の門の前なる廣場にて曙より日中まで男女および了り得る者等の前にこれを誦めり民みな律法の書に耳を傾く 4學士エズラこの事のために預て設けたる木の臺の上に立たりしがその傍には右の方にマツタテヤ、シマ、アナヤ、ウリヤ、ヒルキヤおよびマアセヤ立をり左の方にペダヤ、ミサエル、マルキヤ、ハシユム、ハシバダナ、ゼカリヤおよびメシユラム立をる 5エズラ一切の民の目の前にその書を開けり(彼一切の民より高きところに立たり)かれが開きたる時に民みな起あがれり 6エズラすなはち大神ヱホバを祝しければ民みなその手を擧て應へてアーメン、アーメンと言ひ首を下げ地に俯伏てヱホバを拜めり 7ヱシユア、バニ、セレビ

ヤ、ヤミン、アツクブ、シヤベタイ、ホデヤ、マアセヤ、ケリタ、アザリヤ、ヨザバテ、ハナン、ペラヤおよびレビ人等民に律法を了らしめたり民はその所に立をる 8彼等その書に就て神の律法を朗かに誦み且その意を解あかしてその誦ところを之に了らしむ 9時にテルシヤタたるネヘミヤ祭司たる學士エズラおよび民を教ふるレビ人等一切の民にむかひて此日は汝らの神ヱホバの聖日なり哭くなかれ泣なかれと言り其は民みな律法の言を聽て泣たればなり 10而して彼らに言けるは汝ら去て肥たる者を食ひ甘き者を飲め而してその備をなし得ざる者に之を分ちおくれ此日は我らの主の聖日なり汝ら憂ふることをせざれヱホバを喜ぶ事は汝らの力なるぞかしと 11レビ人も亦一切の民を靜めて言ふ汝ら默せよ此日は聖きぞかし憂ふる勿れと 12一切の民すなはち去りて食ひかつ飲み又人に分ちおくりて大なる喜悦をなせり是はその誦きかされし言を了りしが故なり 13その翌日一切の民の族長等祭司およびレビ人等律法の語を學ばんとて學士エズラのもとに集り來り 14律法を視るにヱホバのモーセによりて命じたまひし所を録して云く七月の節會にはイスラエルの子孫茅廬に居るべしと 15又云く一切の邑々及びヱルサレムに布傳へて言べし汝ら山に出ゆき橄欖の枝 油 木の枝烏拈の枝棕櫚の枝および茂れる木の枝を取きたりて録されたるごとくに茅廬を造れと 16是において民出ゆきて之を取きたり各々その家の屋背の上あるひはその庭あるひは神の室の庭あるひは水の門の廣場あるひはエフライムの門の廣場に茅廬を造れり 17擄はれゆきて歸り來りし會衆みな斯茅廬を造りて茅廬に居りヌンの子ヨシユアの日より彼日までにイスラエルの子孫斯おこなひし事なし是をもてその喜悦はなはだ大なりき 18初の日より終の日までエズラ日々に神の律法の書を誦り人衆七日の間節筵をおこなひ第八日にいたり例にしたがひて聖會を開けり

第九章

1その月の二十四日にイスラエルの子孫あつまりて斷食し麻布を纏ひ土を蒙れり 2イスラエルの裔たる者一切の異邦人とはなれ而して立て己の罪と先祖の愆とを懺悔し 3皆おのおのがその處に立てこの日の四分の一をもてその神ヱホバの律法の書を誦み他の四分の一をもて懺悔をなしその神ヱホバを拝めり 4時にヱシユア、バニ、カデミエル、シバニヤ、ブンニ、セレビヤ、バニ、ケナニ等レビ人の臺に立ち大聲を擧てその神ヱホバに呼はれり 5斯てまたヱシユア、カデミエル、バニ、ハシヤブニヤ、セレビヤ、ホデヤ、セバニヤ、ペタヒヤなどのレビ人言けらく汝ら起あがり永遠より永遠にわたりて在す汝らの神ヱホバを讃よ汝の尊き御名は讃べきかな是は一切の讃にも崇にも遠く超るなり 6汝は唯なんぢのみヱホバにましまし汝は天と諸天の天およびその萬象地とその上の一切の物ならびに海とその中の一切の物を造り之をことごとく保存せたまふなり天軍なんぢを拝す 7汝はヱホバ神にましまし汝は在昔アブラムを撰みてカルデヤのウルより之を導きいだしアブラハムといふ名をこれにつけ 8その心の汝の前に忠信なるを觀そなはし之に契約を立てカナン人ヘテ人アモリ人ペリジ人ヱブス人およびギルガシ人の地をこれに與へその子孫に授けんと宣まひて終に汝 の言を成たまへり汝は實に義し 9汝は我らの先祖がエジプトにて艱難を受るを鑒みその紅海の邊にて呼はり叫ぶを聽いれ 10異兆と奇蹟とをあらはしてパロとその諸臣とその國の庶 民とを攻たまへりそはかれらは傲りて我らの先祖等を攻しことを知たまへばなり而して汝の名を揚たまへること尚今日のごとし 11汝はまた彼らの前にあたりて海を分ち彼らをして旱ける地を踏て海の中を通らしめ彼らを追ふ者をば石を大水に投いるるごとくに淵に投いれたまひ 12また晝は雲の柱をもて彼らを導き夜は火の柱をもて其往べき路を照したまひき 13汝はまたシナイ山の上に降り天より彼らと語ひ正しき例規および眞の律法善き法度および誡命を之に授け 14汝の聖安息日を之に示し汝の僕モーセの手によりて誡命と法度と律法を之に命じ 15天より食物を之に與へてその餓をとどめ磐より水を之がために出してその渇を濕し且この國をなんぢらに與へんと手を擧て誓ひ給ひしその國に入これを獲べきことをかれらに命じたまへり 16然るに彼等すなはち我らの先祖みづから傲りその項を強くして汝の誡命に聽したがはず 17聽 從ふことを拒み亦なんぢが其中にて行ひたまひし奇蹟を憶はず還てその項を強くし悖りて自ら一人の首領を立てその奴隸たりし處に歸らんとせり然りと雖も汝 は罪を赦す神にして恩惠あり憐憫あり怒ること遅く慈悲厚くましまして彼らを棄たまはざりき 18また彼ら 自ら一箇の犢を鋳造りて是は汝をエジプトより導き上りし汝 の神なりと言て大に震怒をひきおこす事を行ひし時にすら 19汝は重 々も憐憫を垂て彼らを荒野に棄たまはず

晝は雲の柱その上を離れずして之を途に導き夜は火の柱離れずして之を照しその行べき路を示したりき 20汝はまた汝の善霊を賜ひて彼らを訓へ汝のマナを常に彼らの口にあたへまた水を彼らに與へてその渇をとどめ 21四十年の間かれらを荒野に養ひたまたれば彼らは何の缺る所もなくその衣服も古びずその足も腫ざりき 22而して汝 諸國諸民を彼らにあたへて之を各々に分ち取しめ給へりかれらはシホンの地ヘシボンの王の地およびバシヤンの王オグの地を獲たり 23斯てまた汝は彼らの子孫を増て空の星のごなくならしめ前にその先祖等に入て獲よと宣まひたる地に之を導きいりたまひしかば 24則ちその子孫入てこの地を獲たり斯て汝この地にすめるカナン人をかれらの前に打伏せその王等およびその國の民をかれらの手に付して意のままに之を待はしめたまひき 25斯りしかば彼ら堅固なる邑々および膏腴なる地を取り各種の美物の充る家鑿井葡萄園橄欖園および許多の菓の樹を獲乃はち食ひて飽き肥太り汝の大なる恩惠に沾ひて樂みたりしが 26尚も悖りて汝に叛き汝の律法を後に拋擲ち己を戒しめて汝に歸らせんとしたる預言者等を殺し大に震怒を惹おこす事を行なへり 27是に因て汝かれらをその敵の手に付して窘しめさせたまひしが彼らその艱難の時に汝に呼はりければ汝天より之を聽て重々も憐憫を加へ彼らに救ふ者を多く與へて彼らをその敵の手より救はせたまへり 28然るに彼らは安を獲の後復も汝の前に惡き事を行ひしかば汝かれらをその敵の手に棄おきて敵にこれを治めしめたまひけるが彼ら復立歸りて汝に呼はりたれば汝天よりこれを聽き憐憫を加へてしばしば彼らを助け 29彼らを汝の律法に引もどさんとして戒しめたまへり然りと雖も彼らは自ら傲りて汝の誡命に聽したがはず汝の例規(人のこれを行はば之によりて生べしといふ者)を犯し肩を聳かし項を強くして聽ことをせざりき 30斯りしかど汝は年ひさしく彼らを容しおき汝の預言者等に由て汝の霊をもて彼らを戒めたまひしが彼等つひに耳を傾けざりしに因て彼らを國々の民等の手に付したまへり 31されど汝は憐憫おほくして彼らを全くは絶さず亦彼らを棄たまふことをも爲たまはざりき汝は恩惠あり憐憫ある神にましませばなり 32然ば我らの神大にして力強く且畏るべくして契約を保ち恩惠を施こしたまふ御神ねがはくはアッスリヤの王等の日より今日にいたるまで我儕の王等牧伯等祭司預言者我らの先祖汝の一切の民等に臨みし諸の苦難を小き事と觀たまはざれ 33我らに臨みし諸の事につきては汝義く在せり汝の爲たまひし所は誠實にして我らの爲しところは惡かりしなり 34我らの王等牧伯等祭司父祖等は汝の律法を行はず汝が用ひて彼らを戒めたまひしその誡命と證詞に聽從はざりき 35即ち彼らは己の國に居り汝の賜ふ大なる恩惠に沾ひ汝が與へてその前に置たまひし廣き膏腴なる地にありける時に汝に事ふることを爲ず又ひるがへりて自己の惡き業をやむる事もせざりしなり 36嗚呼われらは今日奴隸たり汝が我らの先祖に與へてその中の產出物およびその中の佳物を食はせんとしたまひし地にて我らは奴隸となりをるこそはかなけれ 37この地は汝が我らの罪の故によりて我らの上に立たまひし王等のために衆多の產物を出すなり且また彼らは我らの身をも我らの家畜をも意のままに左右することを得れば我らは大難の中にあるなり 38此もろもろの事のために我ら今堅き契約を立てこれを書しるし我らの牧伯等我らのレビ人我らの祭司これに印す

第十章

1印を捺る者はハカリヤの子テルシヤタ、ネヘミヤおよびゼデキヤ 2セラヤ、アザリヤ、ヱレミヤ 3パシユル、アマリヤ、マルキヤ、 4ハツトシ、シバニヤ、マルク 5ハリム、メレモテ、オバデヤ 6ダニエル、ギンネトン、バルク 7メシユラム、アビヤ、ミヤミン 8マアジア、ビルガ、シマヤ是等は祭司なり 9レビ人は即ちアザニヤの子ヱシユア 、ヘナダデの子ビンヌイ、カデミエル 10ならびに其兄弟シバ二ヤ、ホデヤ、ケリタ、ペラヤ、ハナン 11ミカ、レホブ、ハシヤビヤ 12ザツクル、セレビヤ、シバ二ヤ 13ホデヤ、バニ、ベニヌ 14民の長たる者はパロシ、パハテモアブ、エラム、ザツト、バニ 15ブンニ、アズカデ、ベバイ 16アドニヤ、ビグワイ、アデン 17アテル、ヒゼキヤ、アズル 18ホデヤ、ハシユム、ベザイ 19ハリフ、アナトテ、ノバイ 20マグピアシ、メシユラム、ヘジル 21メシザベル、ザドク、ヤドア 22ペラテヤ、ハナン、アナニヤ 23ホセア、ハナニヤ、ハシユブ 24ハロヘシ、ピルハ、シヨベク 25レホム、ハシヤブナ、マアセヤ 26アヒヤ、ハナン、アナン 27マルク、ハリム、バアナ 28その餘の民祭司レビ人門をまもる者謳歌者ネテニ人ならびに都て國々の民等と離れて神の律法に附る者およびその妻その男子女子など凡そ事を知り辨まふる者は 29皆その兄弟

たる貴き人々に附したがひ呪詛に加はり誓を立て云く我ら神の僕モーセによりて傳はりし神の律法に歩み我らの主ヱホバの一切の誡命およびその例規と法度を守り行はん 30我らは此地の民等に我らの女子を與へじ亦われらの男子のために彼らの女子を娶らじ 31比地の民等たとひ貨物あるひは食物を安息日に携へ來りて賣んとするとも安息日または聖日には我儕これを取じ又七年ごとに耕作を廢め一切の負債を免さんと 32我らまた自ら例を設けて年々にシケルの三分の一を出して我らの神の室の用となし 33供物のパン常素祭常燔祭のため安息日月朔および節會の祭物のため聖物のためイスラエルの贖をなす罪祭および我らの神の家の諸の工のために之を用ゐることを定む 34また我ら祭司レビ人および民籤を擲き律法に記されたるごとく我らの神ヱホバの壇の上に焚べき薪木の禮物を年々定まれる時にわれらの宗家にしたがひて我らの神の室に納むる者を定め 35かつ誓ひて云ふ我らの產物の初および各種の樹の果の初を年々ヱホバの室に携へきたらん 36また我らの子等および我らの獸畜の首出および我らの牛羊の首出を律法に記されたるごとく我らの神の室に携へ來りて我らの神の室に事ふる祭司に交し 37我らの麥粉の初われらの擧祭の物各種の樹の果および酒油を祭司の許に携へ到りて我らの神の家の室に納め我らの產物の什一をレビ人に與へんレビ人は我らの一切の農作の邑においてその什一を受べき者なればなり 38レビ人什一を受る時にはアロンの子孫たる祭司一人そのレビ人と偕にあるべし而してまたレビ人はその什一の十分の一を我らの神の家に携へ上りて府庫の諸室に納むべし 39即ちイスラエルの子孫およびレビの子孫は穀物および酒油の擧祭を携さへいたり聖所の器皿および奉事をする祭司門を守る者謳歌者などが在るところの室に之を納むべし我らは我らの神の家を棄じ

第十一章

1民の牧伯等はヱルサレムに住りその餘の民もまた籤を擲き十人の中よりして一人宛を聖邑ヱルサレムに來りて住しめその九人を他の邑々に住しめたり 2又すべて自ら進でヱルサレムに住んと言ふ人々は民これを祝せり 3イスラエル祭司レビ人ネテニ人およびソロモンの臣僕たりし者等の子孫すべてユダの邑々にありておのおのその邑々なる自己の所有地に住をれり此州の貴き人々のヱルサレムに住をりし者は左のごとし 4即ちユダの子孫およびベニヤミンの子孫のヱルサレムに住る者は是なりユダの子孫はウジヤの子アタヤ、ウジヤはゼカリヤの子ゼカリヤはアマリヤの子アマリヤはシパテヤの子シパテヤはマハラレルの子是はペレズの子孫なり 5又バルクの子マアセヤといふ者ありバルクはコロホゼの子コロホゼはハザヤの子ハザヤはアダヤの子アダヤはヨヤリブの子ヨヤリブはゼカリヤの子ゼカリヤはシロニ人の子なり 6ペレズの子孫のヱルサレムに住る者は合せて四百六十八人にして皆勇士なり 7ベニヤミンの子孫は左のごとしメシユラムの子サル、メシユラムはヨエデの子ヨエデはペダヤの子ペダヤはコラヤの子コラヤはマアセヤの子マアセヤはイテエルの子イテエルはヱサヤの子なり 8その次はガバイおよびサライなどにして合せて九百二十八人 9ジクリの子ヨエルかれらの監督たりハツセヌアの子ユダこれに副ふて邑を治む 10祭司はヨヤリブの子ヱダヤ、ヤキン 11および神の室の宰セラヤ、セラヤはヒルヤキの子ヒルキヤはメシユラムの子メシユラムはザドクの子ザドクはメラヨテの子メラヨテはアヒトブの子なり 12殿の職事をするその兄弟八百二十二人あり又アダヤといふ者ありアダヤはヱロハムの子ヱロハムはペラリヤの子ペラリヤはアムジの子アムジはゼカリヤの子ゼカリヤはパシホルの子パシホルはマルキヤの子なり 13アダヤの兄弟たる宗家の長二百四十二人あり又アマシサイといふ者ありアマシサイはアザリエルの子アザリエルはアハザイの子アハザイはメシレモテの子メシレモテはイシメルの子なり 14その兄弟たる勇士百二十八人ありハツゲドリムの子ザブデエル彼らの監督たり 15レビ人はハシユブの子シマヤ、ハシユブはアズリカムの子アズリカムはハシヤビヤの子ハシヤビヤはブンニの子なり 16またシヤベタイおよびヨザバデあり是等はレビ人の長にして神の室の外の事を掌どれり 17またマツタニヤといふ者ありマツタニヤはミカの子ミカはザブデの子ザブデはアサフの子なりマツタニヤは祈禱の時に感謝の詞を唱へはじむる者なり彼の兄弟の中にてバクブキヤといふ者かれに次り又アブダといふ者ありアブダはシヤンマの子シヤンマはガラルの子ガラルはヱドトンの子なり 18聖邑にあるレビ人は合せて二百八十四人 19門を守る者アツクブ、タルモンおよびその兄弟等合せて百七十二人あり皆門々にありて伺守ることをせり 20その餘のイスラエル人祭司およびレビ人は皆ユダ

の一切の邑々にありて各々おのれの産業に居り 21但しネテニ人はオペルに居りヂハ及びギシパ、ネタニ人を統ぶ 22エルサレムにをるレビ人の監督はウジといふ者なりウジはバニの子バニはハシヤビヤの子ハシヤビヤはマツタニヤの子マツタニヤはミカの子なり是は謳歌者なるアサフの子孫なりその職務は神の室の事にかかはる 23王より命令ありて是らの事を定め謳歌者に日々の定まれる分を與へしむ 24ユダの子ゼラの子孫メシザベルの子ペタヒヤといふ者王の手に屬して民に關る一切の事を取あつかへり 25又村荘とその田圃につきてはユダの子孫の者キリアテアルバとその郷里デボンとその郷里およびヱカブジエルとその村荘に住み 26エシユア、モラダおよびベテペレテに住み 27ハザルシユアルおよびベエルシバとその郷里に住み 28ヂクラグおよびメコナとその郷里に住み 29エンリンモン、ザレア、ヤルムテに住み 30ザノア、アドラムおよび其等の村荘ラキシとその田野およびアゼカとその郷里に住り斯かれらはベエルシバよりヒンノムの谷までに天幕を張り 31ベニヤミンの子孫はまたゲバよりしてミクマシ、アヤおよびベテルとその郷里に住み 32アナトテ、ノブ、アナニヤ 33ハゾル、ラマ、ギツタイム 34ハデデ、ゼボイム、ネバラテ 35ロド、オノ工匠谷に住り 36レビ人の班列のユダにある者の中ベニヤミンに合せし者もありき

第十二章

1シヤルテルの子ゼルバベルおよびヱシユアと偕に上りきたりし祭司とレビ人は左のごとしセラヤ、エレミヤ、エズラ 2アマリヤ、マルク、ハツトシ 3シカニヤ、レホム、メレモテ 4イド、ギンネトイ、アビヤ 5ミヤミン、マアデヤ、ビルガ 6シマヤ、ヨヤリブ、エダヤ 7サライ、アモク、ヒルキヤ、ヱダヤ是等の者はヱシユアの世に祭司およびその兄弟等の長たりき 8またレビ人はヱシユア、ビンヌイ、カデミエル、セレビヤ、ユダ、マツタニヤ、マツタニヤはその兄弟とともに感謝の事を掌どれり 9またその兄弟バクブキヤおよびウンノ之と相對ひて職務をなせり 10ヱシユア、ヨアキムを生みヨアキム、エリアシブを生みエリアシブ、ヨイアダを生み 11ヨイアダ、ヨナタンを生みヨナタン、ヤドアを生り 12ヨアキムの日に祭司等の宗家の長たりし者はセラヤの族にてはメラヤ、エレミヤの族にてはハナニヤ 13エズラの族にてはメシユラム、アマリヤの族にてはヨハナン 14マルキの族にてはヨナタン、シバニヤの族にてはヨセフ 15ハリムの族にてはアデナ、メラヨテの族にてはヘルカイ 16イドの族にではゼカリヤ、ギンネトン膳良にてはメシユラム 17アビヤの族にてはジクリ、ミニヤミンの族モアデヤの族にてはピルタイ 18ビルガの族にてはシヤンマ、シマヤの族にてはヨナタン 19ヨヤリブの族にてはマツテナイ、エダヤの族にてはウジ 20サライの族にてはカライ、アモクの族にてはエベル 21ヒルキヤの族にてはハシヤビヤ、エダヤの族にてはネタンエル 22エリアシブ、ヨイアダ、ヨハナンおよびヤドアの日にレビ人の宗家の長等冊に録さる亦ペルシヤ王ダリヨスの治世に祭司等も然せらる 23宗家の長たるレビ人はエリアシブの子ヨハナンの日まで凡て歴代志の書に記さる 24レビ人の長はハシヤビヤ、セレビヤおよびカデミエルの子ヱシユアなりその兄弟等これと相對ひて居る即ち彼らは班列と班列とあひむかひ居り神の人ダビデの命令に本づきて讃美と感謝とをつとむ 25マツタニヤ、バクブキヤ、オバデヤ、メシユラム、タルモン、アツクブは門を守る者にして門の内の府庫を伺ひ守れり 26是等はヨザダクの子ヱシユアの子ヨアキムの日に在りまた總督ネヘミヤおよび學士たる祭司エズラの日に在りし者なり 27エルサレムの石垣の落成せし節會に當りてレビ人をその一切の處より招きてエルサレムに來らせ感謝と歌と鐃鈸と瑟と琴とをもて歓喜を盡してその落成の節會を行はんとす 28是において謳歌ふ徒輩エルサレムの周圍の窪地およびネトパ人の村々より集り來り 29またベテギルガルおよびゲバとアズマウテとの野より集り來れりこの謳歌者等はエルサレムの周圍に己の村々を建たりき 30茲に祭司およびレビ人身を潔めまた民および諸の門と石垣とを潔めければ 31我すなはちユダの牧伯等をして石垣の上に上らしめ又二の大なる隊を作り設けて之に感謝の詞を唱へて並進ましむ即ちその一は糞の門を指て石垣の上を右に進めり 32その後につきて進める者はホシヤヤおよびユダの牧伯の半 33ならびにアザリヤ、エズラ、メシユラム 34ユダ、ベニヤミン、シマヤ、エレミヤなりき 35又祭司の徒數人喇叭を吹て伴ふあり即ちヨナタンの子ゼカリヤ、ヨナタンはシマヤの子シマヤはマツタニヤの子マツタニヤはミカヤの子ミカヤはザツクルの子ザツクルはアサフの子なり 36またゼカリヤの兄弟シマヤ、アザリエル、ミラライ、ギラライ、マアイ、ネタン

エル、ユダ、ハナニ等ありて神の人ダビデの樂器を執り學士エズラこれに先だつ 37而して彼ら泉の門を經ただちに進みて石垣の上口に於てダビデの城の段階より登りダビデの家の上を過て東の方水の門に至れり 38また今一隊の感謝する者は彼らに對ひて進み我は民の半とともにその後に從がへり而して皆石垣の上を行き爐戍樓の上を過て石垣の廣き處にいたり 39エフライムの門の上を通り舊門を過ぎ魚の門およびハナニエルの戍樓とハンメアの戍樓を過て羊の門に至り牢の門に立どまれり 40かくて二隊の感謝する者神の室にいりて立り我もそこにたち牧伯等の半われと偕にありき 41また祭司エリアキム、マアセヤ、ミニヤミン、ミカヤ、エリヨエナイ、ゼカリヤ、ハナニヤ等喇叭を執て居り 42マアセヤ、シマヤ、エレアザル、ウジ、ヨナハン、マルキヤ、エラム、エゼル之と偕にあり謳歌ふ者聲高くうたへりヱズラヒヤはその監督なりき 43斯してその日みな大なる犧牲を献げて喜悦を盡せり其は神かれらをして大に喜こび樂ませたまひたればなり婦女小兒までも喜悦り是をもてヱルサレムの喜悦の聲とほくまで聞えわたりぬ 44その日府庫のすべての室を掌どるべき人々を撰びて擧祭の品初物および什一など律法に定むるところの祭司とレビ人との分を邑々の田圃に准ひて取あつめてすべての室にいることを掌どらしむ是は祭司およびレビ人の立て奉ふるをユダ人喜こびたればなり 45彼らは神の職守および潔齋の職守を勤む謳歌者および門を守る者も然り皆ダビデとその子ソロモンの命令に依る 46在昔ダビデおよびアサフの日には謳歌者の長一人ありて神に讃美感謝をたてまつる事ありき 47またゼルバベルの日およびネヘミヤの日にはイスラエル人みな謳歌者と門を守る者に日々の分を與へまたレビ人に物を聖別て與へレビ人またこれを聖別てアロンの子孫に與ふ

第十三章

1その日モーセの書を讀て民に聽しめけるに其中に録して云ふアンモニ人およびモアブ人は何時までも神の會に入べからず 2是は彼らパンと水とをもてイスラエルの子孫を迎へずして還て之を詛はせんとてバラムを傭ひたりしが故なり斯りしかども我らの神はその呪詛を變て祝福となしたまへりと 3衆人この律法を聞てのち雜りたる民をことごとくイスラエルより分ち離てり 4是より先我らの神の家の室を掌れる祭司エリアシブといふ者トビヤと近くなりたれば 5彼のために大なる室を備ふ其室は元來素祭の物乳香器皿および例によりてレビ人謳歌者門を守る者等に與ふる穀物酒油の什一ならびに祭司に與ふる擧祭の物を置し處なり 6當時は我ヱルサレムに居ざりき我はバビロンの王アルタシヤスタの三十二年に王の所に往たりしが數日の後王に暇を乞て 7エルサレムに來りエリアシブがトビヤのために爲たる惡事すなはちかれがために神の家の庭に一の室を備へし事を詳悉にせり 8我はなはだこれを憂ひてトビヤの家の器皿をことごとくその室より投いだし 9頓て命じてすべての室を潔めさせ而して神の家の器皿および素祭乳香などを再び其處に携へいれたり 10我また查べ觀しにレビ人そのうくべき分を與へられざりきこの故に其職務をなす所のレビ人および謳歌者等各々おのれの田に奔り歸りぬ 11是において我何故に神の室を棄させしやと言て牧伯等を詰り頓てまたレビ人を招き集めてその故の所に立しめたり 12斯りしかばユダ人みな穀物酒油の什一を府庫に携へ來れり 13その時我祭司シレミヤ學士ザドクおよびレビ人ペダヤを府庫の有司とし之にマツタニヤの子ザツクルの子ハナンを副て庫をつかさどらしむ彼らは忠信なる者と思はれたればなり其職は兄弟等に分配るの事なりき 14わが神よ此事のために我を記念たまへ我神の室とその職事のために我が行ひし善事を拭ひ去たまはざれ 15當時われ觀しにユダの中にて安息日に酒榨を踏む者あり麥束を持きたりて驢馬に負するあり亦酒葡萄無花果および各種の荷を安息日にヱルサレムに携へいるるあり我かれらが食物を鬻ぎをる日に彼らを戒しめたり 16彼處にまたツロの人々も住をりしが魚および各種の貨物を携へいりて安息日にユダの人々に之を鬻ぎかつヱルサレムにて商賣せり 17是において我ユダの貴き人々を詰りて之に言ふ汝ら何ぞ此惡き事をなして安息日を瀆すや 18汝らの先祖等も斯おこなはざりしや我らの神これが爲にこの一切の災禍を我らとこの邑とに降したまひしにあらずや然るに汝らは安息日を瀆して更に大なる震怒をイスラエルに招くなりと 19而して安息日の前の日ヱルサレムの門々暗くならんとする頃ほひに我命じてその扉を閉させ安息日の過さるまで之を開くべからずと命じ我僕數人を門々に置て安息日に荷を携へいるる事なからしめたり 20斯りしかば商賣および各種の品を賣る者等一二回ヱルサレムの外に宿れり 21我これを戒め

てこれに言ふ汝ら石垣の前に宿るは何ぞや汝等もし重ねて然なさば我なんぢらに手をかけんと其時より後は彼ら
安息日には來らざりき 22我またレビ人に命じてその身を
潔めさせ來りて門を守らしめて安息日を聖くす我神よ我
ために此事を記念し汝の大なる仁慈をもて我を憫みたま
へ 23當時われアシドド、アンモン、モアブなどの婦女を
娶りしユダヤ人を見しに 24その子女はアシドドの言語を
半雜へて言ひユダヤの言語を言ことあたはず各國の
言語を雜へ用ふ 25我彼等を詰りまた詛りその中の數人を
撻ちその毛を抜き神を指て誓はしめて言ふ汝らは彼らの
男子におのが女子を與ふべからず又なんぢらの男子ある
ひはおのれ自身のために彼らの女子を娶るべからず 26是
らの事についてイスラエルの王ソロモンは罪を獲たるに
非ずや彼がごとき王は衆多の國民の中にもあらずして神
に愛せられし者なり神かれをイスラエル全國の王となし
たまへり然るに尚ほ異邦の婦女等はこれに罪を犯さしめ
たり 27然ば汝らが異邦の婦女を娶りこの一切の大惡をな
して我らの神に罪を犯すを我儕聽し置べけんや 28祭司の
長エリアシブの子ヨイアダの一人の子はホロニ人サンバ
ラテの婿なりければ我これを逐出して我を離れしむ 29わ
が神よ彼らは祭司の職を汚し祭司およびレビ人の契約に
背きたり彼らのことを忘れたまふ勿れ 30我かく人衆を潔
めて異邦の物を盡く棄しめ祭司およびレビ人の班列を
立て各々その職務に服せしめ 31また人衆をして薪柴の
禮物をその定まる期に献げしめかつ初物を奉つらしむ我
神よ我を憶ひ仁慈をもて我を待ひたまへ

エステル書

第一章

1アハシユエロスすなはち印度よりエテオピヤまで百二十
七州を治めたるアハシユエロスの世 2アハシユエロス王
シユシヤンの城にてその國の祚に坐しをりける当時 3そ
の治世の第三年にその牧伯等および臣僕等のために酒宴
を設けたり ペルシヤとメデアの武士および貴 族と諸州
の牧伯等その前にありき 4時に王その盛なる國の富有と
その大なる威光の榮を示して衆多の日をわたり百八十日
に及びぬ 5これらの日のをはりし時王また王の宮の園の
庭にてシユシヤンに居る大小のすべての民のために七日
の間 酒宴を設けたり 6白 緑 青の帳幔ありて細布と紫色の
紐にて銀の環および蝋石の柱に繋がるまた牀榻は金銀に
して赤白黄黒の蝋石の上に居らる 7金の酒盃にて酒を賜
ふその酒盃は此と彼おのおの異なり王の用ゐる酒をたま
ふこと夥だし王の富有に適へり 8その飲むことは法にか
なひて誰も強ることを爲ず 其は王人として各々おのれの
好むごとく爲しむべしとその宮内のすべての有司に命じ
たればなり 9后ワシテもまたアハシユエロス王に屬する
王宮の内にて婦女のために酒宴をまうけたり 10第七日に
アハシユエロス王酒のために心 樂み王の前に事ふる七
人の侍從メホマン、ビスタ、ハルボナ、ビグタ、アバグ
タ、セタルおよびカルカスに命じ 11后ワシテをして后の
冠冕をかぶりて王の前に來らしめよと言り 是は彼觀に
美しければその美麗を民等と牧伯等に見さんとてなり
き 12しかるに后ワシテ侍從が傳へし王の命に從ひて來る
ことを肯はざりしかば王おほいに憤ほりて震怒その衷に
燃ゆ 13是において王時を知る智者にむかひて言ふ(王は
すべて法律と審理に明かなる者にむかひて是の如くする
を常とせり 14時に彼の次にをりし者はペルシヤおよびメ
デアの七人の牧伯カルシナ、セタル、アデマタ、タルシ
シ、メレス、マルセナ、メムカンなりき 是みな王の面を
見る者にして國の第一に位せり) 15后ワシテ、アハシユエ
ロス王が侍從をもて傳へし命を爲ざれば法律にしたがひ
て如何に彼になすべきや 16メムカン王と牧伯たちの前に
答へて曰ふ 后ワシテは唯王にむかひて惡き事をなしたる
而已ならず一切の牧伯たちおよびアハシユエロス王の各
州のもろもろの民にむかひてもまた之を爲るなり 17后の
この事あまねく一切の婦女に聞えて彼らつひにその夫を
藐め觀て言ん アハシユエロス王 后ワシテに己のまへに
來れと命じたりしに來らざりしと 18而して后の此所行を
聞るペルシヤとメデアの諸夫人もまた今日王のすべての
牧伯等に是のごとく言ん然すれば必らず藐視と忿怒多く
起るべし 19王もし之を善としたまはばワシテは此後ふた
たびアハシユエロス王の前に來るべからずといふ王命を
下し之をペルシヤとメデアの律法の中に書いれて更るこ
と無らしめ而してその后の位を彼に勝れる他の者に與へ

たまへ 20王の下したまはん御詔この大なる御國に徧ねく聞えわたる時は妻たる者ことごとくその夫を大小となく共に敬まふべしと 21王と牧伯等この言を善としければ王メムカンの言のごとく爲たり 22かくて王の諸州に徧ねく書をおくりもろもろの州にその文字にしたがひて書おくりもろもろの民にその言語にしたがひて書おくり凡て男子たる者はその家の主となるべくまたおのれの民の言を用ひてものいふべしと諭しぬ

第二章

1これらの事の後アハシユエロス王忿怒とけてワシテおよび彼が爲たる所またその彼にむかひて議定めしところの事を憶ひおこせり 2ここに王の前に事ふる僕等いひけるは請ふ美しき少き處女等を王のために尋もとめん 3願はくは王御國の各州において官吏を擇び之をして美はしき處女をことごとくシユシヤンの城に集めしめ婦人を管理る王の侍從ヘガイの手にわたして婦人の局に入らしめ而して潔淨の物をこれに與へたまへ 4斯して王の御意に適ふ女子を取りワシテに代りて后とならしめたまへと王この事を善として然なしぬ 5茲にシユシヤンの城に一人のユダヤ人ありその名をモルデカイと曰ひキシの曾孫シメイの孫ヤイルの子にしてベニヤミン人なり 6かれはバビロンの王ネブカデネザルが擄へゆきしユダのエコニヤとともに擄はれ往る俘囚の中にありてヱサレムより移されたる者なり 7かれその叔父の女ハダツサすなはちエステルを養ひ育てたり 是は父も母もなかりければなり このをんなごかほかたちすぐ女子顔貌勝れてうるはしかりしがその父母の死たる後モルデカイこれを取ておのれの女となせるなり 8王の命令と詔言の聞え傳はり衆多の女子シユシヤンの城にあつめられてヘガイの手にわたされし時エステルも亦王の家に携へられてゆき婦人を管理るヘガイの手に交されしが 9この女子ヘガイの意にかなひて之が恵を受たり即はちヘガイすみやかに之に潔淨の物およびその分を與へまた王の家の中より七人の侍女を擧てこれに附そはしめ彼とその侍女等を婦人の局の中なる最も佳き處に移しぬ 10エステルはおのれの民をもおのれの宗族をも顯はさざりき其はモルデカイこれを顯はすなかれと彼に言ふくめたればなり 11またモルデカイはエステルの模樣およびその如何になれるかを知んため日々に婦人の局の庭の前をあゆめり 12女子はおのおの婦人の則にしたがひて十二ヶ月を經しかる後順番にいりてアハシユエロス王にいたる是その潔淨の日を終るはかくのごとくなるが故なり 即ち沒藥の油を用ふること六ヶ月また各種の薫物および婦人の潔淨ごとにあつる物等を用ふること六ヶ月 13女子の王にいたるは是のごとしその婦人の局より出て王の家にゆく時には凡てその望む物をことごとく與へらる 14而して夕に往き朝におよびて婦人の第二の局に還り妃嬪をつかさどる王の侍從シヤシガスの手に屬す王これを喜こびて名をさして召すにあらざれば重ねて王にいたることなし 15ここにモルデカイの叔父アビハイルの女すなはちモルデカイが取ておのれの女となしたるエステル入て王にいたるべき順番にあたりけるが彼は婦人をつかさどる王の侍從ヘガイが言きかせたる事の外には何をももとめざりき エステルは凡て彼を見る者によろこばれたり 16かくエステルは王の家に召いれられてアハシユエロス王にいたれり是その治世の第七年十月 即ちテベテの月なり 17王一切の婦人に超てエステルを愛しければエステルはすべての處女にまさりて王の前に恩寵と厚情を得たり 王つひに后の冕をかれの首に戴かせ彼をしてワシテにかはりて后とならしむ 18ここにおいて王おほいなる酒宴を設けてそのもろもろの牧伯と臣僕を饗す これをエステルの酒宴と稱ふまた諸州に租税をゆるし王の富有にかなひて物を賜ふ 19再度處女の集められし時モルデカイは王の門に坐しをりぬ 20エステルはモルデカイがかれに言ふくめたる如くして未だおのれの宗族をもおのれの民をも顯はさざりき エステルはモルデカイの言語にしたがふことその彼に養なひ育てられし時と異ならざりき 21當時モルデカイ王の門に坐し居ける時王の侍從にて戸を守る者の中ビグタンおよびテレシの二人怨むる事ありてアハシユエロス王を弑せんともとめたりしが 22その事モルデカイに知れければモルデカイこれを后エステルに告げエステルまたモルデカイの名をもてこれを王に告げたり 23ここにおいて此事をしらべさせしにその然ること顯はれければ彼ら二人は木にかけられその事は王の前なる日誌の書にかきしるさる

第三章

1これらの事の後アハシユエロス王アガグ人ハンメダタの子ハマンを貴びこれを高くして己とともにある一切の牧伯の上にその席を定めしむ 2王の門にある主の諸臣み

な跪づきてハマンを拝せり 是は王斯かれになすことを命じたればなり 然れどもモルデカイは跪まづかず又これを拝せざりき 3ここをもて王の門にある王の諸臣モデカイにむかひて言ふ 汝いかなれば王の命に背くやと 4かれらモルデカイに日々かく言ふといへども聽ざりければその事の爲をふさるべきか否を見んとてハマンにこれを告たり 其はモルデカイおのれのユダヤ人なることを語りたればなり 5ハマン、モルデカイの跪づかずまた己を拝せざるを見たれば ハマン忿怒にたへざりしが 6ただモルデカイ一人を殺すは事小さしと思へり彼らモルデカイの屬する民をハマンに顯はしければハマンはアハシユエロスの國の中にある一切のユダヤ人すなはちモルデカイの屬する民をことごとく殺さんと謀れり 7アハシユエロス王の十二年 正 月 即ちニサンの月にハマンの前にて十二月すなはちアダルの月まで一日一日のため一月一月のためにプルを投しむプルは即ち籤なり 8ハマンかくてアハシユエロス王に言けるは御國の各州にある諸民の中に散されて別れ別れになりをる一の民ありその律法は一切の民と異り また王の法律を守らずこの故にこれを容しおくは王の益にあらず 9王もしこれを善としたまはば願くは彼らを滅ぼせと書くだしたまへ さらば我王の事をつかさどる者等の手に銀一萬タラントを秤り交して王の府庫に入しめん 10王すなはち指環をその手より取はづしアガグ人ハンメダタの子ハマンすなはちユダヤ人の敵たる者に交し 11しかしてハマンに言けるはその銀はなんぢに與ふ その民もまた汝にあたふれば汝に善と見ゆるごとく爲よ 12ここにおいて正 月の十三日に王の書記 官を召あつめ王に屬する州牧各州の方伯およびもろもろの民の牧伯にハマンが命ぜんとする所をことごとく書しるさしむ 即ちもろもろの州におくるものは其文字をもちひ もろもろの民におくるものはその言語をもちひ おのおのアハシユエロス王の名をもてこれを書き王の指環をもてこれに印したり 13しかして驛 卒をもて書を王の諸州におくり十二 月すなはちアダルの月の十三日において一日の内に一切のユダヤ人を若き者老たる者小兒婦人の差別なくことごとく滅ぼし殺し絶しかつその所有物を奪ふべしと諭しぬ 14この詔 旨を諸州に傳へてかの日のために準備をなさしめんとてその書る物の寫本を一切の民に開きて示せり 15驛 卒 王の命によりて急ぎて出ゆきぬ この詔 書はシユシヤンの城に於て出されたり かくて王とハマンは坐して酒飲るたりしがシユシヤンの邑は惑ひわづらへり

第四章

1モルデカイ凡てこの爲れたる事を知しかばモルデカイ衣服を裂き麻布を纏ひ灰をかぶり邑の中に行て大に哭き痛く號び 2王の門の前までも斯して來れり 其は麻布をまとふては王の門の内に入ること能はざればなり 3すべて王の命とその詔 書と到れる諸州にてはユダヤ人の中におほいなる哀みあり斷食哭泣號呼おこれり また麻布をまとふて灰の上に坐する者おほかりき 4ここにエステルの侍女およびその侍從等きたりてこれを告ければ后はなはだしく憂ひ衣服をおくり之をモルデカイにきせてその麻布を脱しめんとしたりしがうけざりき 5ここをもてエステルは王の侍從の一人すなはち王の命じて己に侍らしむるハタクといふ者を召しモルデカイの許に往きてその何事なるか何故なるかを知きたれと命ぜり 6ハタクいでて王の門の前なる邑の廣場にをるモルデカイにいたりしに 7モルデカイおのれの遇たるところを具にこれに語りかつハマンがユダヤ人を滅ぼす事のために王の府庫に秤りいれんと約したる銀の額を告げ 8またその彼等をほろぼさしむるためにシユシヤンにおいて書て與へられし詔 書の寫本を彼にわたし之をエステルに見せかつ解あかし また彼に王の許にゆきてその民のためにこれに矜恤を請ひその前に願ふことを爲べしと言つたへよと言り 9ハタクかへり來りてモルデカイの言詞をエステルに告ければ 10エステル、ハタクに命じモルデカイに言をつたへしむ云く 11王の諸臣がよび王の諸州の民みな知る男にもあれ女にもあれ凡て召れずして内庭に入て王にいたる者は必ず殺さるべき一の法律あり されど王これに金圭を伸れば生るを得べし かくて我此三十日は王にいたるべき召をかうむらざるなり 12エステルの言をモルデカイに告げけるに 13モルデカイ命じてエステルに答へしめて曰く 汝王の家にあれば一切のユダヤ人の如くならずして免かるべしと心に思ふなかれ 14なんぢ若この時にあたりて默して言ずば他の處よりして助援と拯救ユダヤ人に興らんされど汝どなんぢの父の家は亡ぶべし 汝が后の位を得たるは此のごとき時のためなりしやも知るべからず 15エステルまたモルデカイに答へしめて曰く 16なんぢ往きシユシヤンにをるユダヤ人をことごとく集めてわがために斷食

せよ 三日の間 夜晝とも食ふことも飲むこともするなかれ 我とわが侍女等もおなじく斷食せん しかして我法律にそむく事なれども王にいたらん 我もし死べくば死べし 17 ここにおいてモルデカイ往てエステルが凡ておのれに命じたるごとく行なへり

第五章

1 第三日にエステル后の服を着王の家の内庭にいり王の家にむかひて立つ王は王宮の玉座に坐して王宮の戸口にむかひをりしが 2 王后エステルが庭にたちをるを見てこれに恩をくはへ其手にある金圭をエステルの方に伸しければエステルすすみよりてその圭の頭にさはれり 3 王かれに言けるは后エステルなんぢ何をもとむるやなんぢの願意は何なるや國の半分にいたるとも汝にあたふべし 4 エステルいひけるは王もし善としたまはば願くは今日わが王のために設けたる酒宴に王とハマンと臨みたまへ 5 ここに於て王ハマンを急がしめてエステルの言るごとくならしめよと命じ王とハマンやがてエステルが設けたる酒宴に臨めり 6 酒宴の時王またエステルに言けるは汝の所求は何なるやかならずゆるさるべし なんぢの願意は何なるや國の半分にいたるとも成就らるべし 7 エステル言けるは我が所求わが願意は是なり 8 われもし王の目の前に恩を得 王もしわが所求をゆるしわが願意を成就しむることを善としたまはば願くは王とハマンまたわが設けんとする酒宴に臨みたまへ われ明日王の宣まへる言にしたがはん 9 かくてハマンはその日よろこび心たのしみて出きたりけるがハマン、モルデカイが王の門に居て己にむかひて起もあがらず身動もせざるを見しかば 痛くモルデカイを怒れり 10 されどもハマン耐忍びて家にかへりその朋友等および妻ゼレシをまねき來らしめ 11 而してハマンその富の榮耀とその子の衆多ことと凡て王の己を貴びし事また己をたかくして王の牧伯および臣僕の上にあらしむることを之に語れり 12 しかしてハマンまた言けらく后 エステル酒宴を設けたりしが我のほかは何人をも王とともに之に臨ましめず明日もまた我は王とともに后に招かれをるなり 13 然れどユダヤ人モルデカイが王の門に坐しをるを見る間は是らの事も快樂からず 14 時にその妻ゼレシとその一切の朋友かれに言けるは請ふ高五十キユビトの木を立しめ明日の朝モルデカイをその上に懸んことを王に奏せ而して王とともに樂しみてその酒宴におもむけとハマンこの事を善としてその木を立しめたり

第六章

1 その夜王ねむること能はざりければ命じて日々の事を記せる記録の書を持きたらしめ王の前にこれを讀しめけるに 2 モルデカイ曾て王の侍從の二人戸を守る者なるビグタンとテレシがアハシユエロス王を殺さんと謀れるを告たりと記せるに遇ふ 3 王すなはち言けるは之がために何の榮譽と爵位をモルデカイにあたへしや 王に事ふる臣僕等こたへて何をも彼にあたへしこと無しといへり 4 ここにおいて王誰ぞ庭にあるやと問ふ この時ハマンは己がモルデカイのために設けたる木にモルデカイを懸ることを王に奏せんとして已に王の家の外庭に來りて居る 5 王の臣僕等王につげてハマン庭に立をると言ければ王かれをして入來らしめよと言ふ 6 ハマンやがて入きたりしに王かれにいひけるは王の尊とばんと欲する人には如何になさば善らんかとハマン心におもひけるは王の尊ばんとずる者は我にあらずして誰ぞやと 7 ハマンすなはち王にいひけるは王の尊ばんと欲する人のためには 8 王の着たまへる衣服を携さへ來らしめかつ王の乘たまへる馬即ち其頭に王の冠冕を戴ける馬をひき來らしめ 9 これを王の最も貴とき一人の牧伯の手にわたし王の尊ばんとする人に其衣服を衣せしめこれを馬にのせて邑の街衢をみちびき通り 王の尊とばんと欲する人には是のごとくなすべしと呼はらしむべし 10 王ハマンに言けるは急ぎなんぢが言しごとくその衣服と馬とを取り王の門に坐するユダヤ人モルデカイに斯なせよ なんぢが言しところを一も缺こと無らしめよ 11 ここにおいてハマン衣服と馬とを取りモルデカイにその衣服を着せ彼をして邑の街衢を乘とほらしめその前に呼はりて云ふ王の尊ばんと欲する人には是のごとくなすべしと 12 かくてモルデカイは王の門にかへりたりしがハマンは愁へなやみ首をおほふておのれの家にはしりゆき 13 しかしてハマンおのが遇る事をことごとくその妻ゼレシとその朋友等に告げるにその智者等およびその妻ゼレシかれに言けるは 彼のモルデカイすなはちなんぢがその前に敗れはじめたる者もしユダヤ人ならば汝これに勝ことを得じ必らずその前にやぶれんと 14 かれら尚ハマンとものいひをる間に王の侍從きたりてハマンをうながしエステルが設けたる酒宴にのぞましむ

第七章

1王またハマンとともに后エステルと酒宴せんとて來れり 2この第二の酒宴の日に王またエステルに言けるは后エステルよなんぢのもとめは何なるや かならず許さるべし 汝 のねがひは何なるや國の半分にいたるとも成就らるべし 3后エステルこたへて言けるは王よ我もし王の御目の前に恩を得王もし善と見たまはばわがもとめにしたがりこわが生命をわれに賜へ またわが願にしたがひてわが民を我に賜へ 4我とわが民は賣れて滅ぼされ殺され絶されんとす 我らもし奴婢に賣れたるならんには我默してはべらん 敵人は王の損害を償なふ事能はざるなり 5アハシユエロス王 后エステルにこたへて言けるは之をなさんと心にたくめる者は誰また何處にをるや 6エステルいひけるはその敵その仇人は即ちこの惡きハマンなりと 是によりてハマンは王と后の前にありて懼れたり 7王怒り酒宴の席をたちて宮殿の園に往きければハマンたちあがりて后 エステルに生命を乞り 其はかれ王のおのれに禍災をなさんと決めしを見たればなり 8王宮殿の園より歸りて酒宴の場にいたりしにエステルのをる牀榻の上にハマン俯伏ゐたれば王いひけるは彼はまた家の内にてわが前に后 を辱しめんとするかと此ことば王の口より出るや人々ハマンの面をおほへり 9時に王の前にある一人の侍從ハルボナいひけるは王の爲に善き事を言たりしかのモルデカイを懸んとてハマンが作りたる五十キユビトの木ハマンの家に立をるなりと王いひけるは彼をその上に懸よ 10人々ハマンを其モルデカイをかけんとて設けし木の上に懸たり 王の震怒つひに解く

第八章

1その日アハシユエロス王ユダヤ人の敵ハマンの家を后エステルに賜ふ モダカイもまた王の前に來れり 是はエステル彼が己と何なる係りなるかを告たればなり 2王ハマンより取かへせし己の指環をはづしてモルデカイに與ふ而してエステル、モルデカイをしてハマンの家をつかさどらしむ 3エステルふたたび王の前に奏してその足下にひれふしアガグ人ハマンがユダヤ人を害せんと謀りしその謀 計を除かんことを涙ながらに乞求めたり 4王エステルにむかひて金圭を伸ければエステル起て王の前に立ち 5言けるは王もし之を善としたまひ我もし王の前に恩を得この事もし王に正と見え我もし御目にかなひたらば アガグ人ハンメダタの子ハマンが王の諸州にあるユダヤ人をほろぼさんと謀りて書おくりたる書をとりけすべき旨を書くだしたまへ 6われ豈わが民に臨まんとする禍害を見るに忍びんや 豈わが宗族のほろぶるを見るにしのびんや 7アハシユエロス王 后エステルとユダヤ人モルデカイにいひけるはハマン、ユダヤ人を殺さんとしたれば我すでにハマンの家をエステルに與へまたハマンを木にかけたり 8なんぢらも亦おのれの好むごとく王の名をもて書をつくり王の指環をもてこれに印してユダヤ人につたへよ王の名をもて書き王の指環をもて印したる書は誰もとりけすこと能はざればなり 9ここをもてその時また王の書記 官を召あつむ是三月すなはちシワンの月の二十三日なりきしかして印度よりエテオピアまでの百二十七州のユダヤ人州牧諸州の方伯牧伯等にモルデカイが命ぜんとするところを盡く書しるさしむ 即ちもろもろの州におくるものはその文字をもちひ 諸 の民におくるものはその言語をもちひて書おくりユダヤ人におくるものはその文字と言語をもちふ 10かれアハシユエロス王の名をもてこれをかき王の指環をもてこれに印し驛 卒をして御 厩にてそだてたる逸足の御用馬にのりてその書をおくりつたへしむ 11その中に云ふ王すべての邑にあるユダヤ人に許す彼らあひ集まり立ておのれの生命を保護しおのれを襲ふ諸國諸州の一切の兵民をその妻子もろともにほろぼし殺し絶し且その所有物を奪ふべし 12アハシユエロス王の諸州において十二月すなはちアダルの月の十三日一日の内かくのごとくするを許さる 13この詔 旨を諸州につたへんがためまたユダヤ人をしてかの日のために準備してその敵に仇をかへさしめんがためにその書る物の寫本を一切の民に開きて示せり 14驛 卒 逸足の御用馬にのり王の命によりて急がせられせきたてられて出ゆけりこの詔 書はシユシヤンの城において出されたり 15かくてモルデカイは藍と白の朝服を着 大なる金の 冠 を戴き紫色の細布の外衣をまとひて王の前よりいできたれり シユシヤンの邑中聲をあげて喜びぬ 16ユダヤ人には光輝あり喜悦あり快樂あり尊榮ありき 17いづれの州にても何の邑にても凡て王の命令と詔 書のいたるところにてはユダヤ人よろこび樂しみ酒宴をひらきて此日を吉日となせりしかして國の民おほくユダヤ人となれり 是はユダヤ人を畏るる心 おこりたればなり

第九章

1十二月すなはちアダルの月の十三日王の命令と詔書のおこなはるべき時いよいよ近づける時すなはちユダヤ人の敵ユダヤ人を打伏んとまちかまへたりしに却てユダヤ人おのれを惡む者を打ふする事となりける其日に 2ユダヤ人アハシユエロス王の各州にある己の邑々に相あつまりおのれを害せんとする者どもを殺さんとせり誰も彼らに敵ることを得る者なかりき 其は一切の民ユダヤ人を畏れたればなり 3諸州の牧伯州牧方伯など凡て王の事を辨理ふ者は皆ユダヤ人をたすけたり 是モルデカイを畏るるによりてたり 4モルデカイは王の家にて大なる者となりその名各州にきこえわたれり斯その人モルデカイはますます大になりゆきぬ 5ユダヤ人すなはち刀刃をもてその一切の敵を撃て殺し滅ぼしおのれを惡む者を意のままに爲したり 6ユダヤ人またシユシヤンの城においても五百人を殺しほろぼせり 7パルシヤンダタ、ダルポン、アスパタ 8ポラタ、アダリヤ、アリダタ 9パルマシタ、アリサイ、アリダイ、ワエザタ 10これらの者すなはちハンメダタの子ユダヤ人の敵たるハマンの十人の子をも彼ら殺せりされどその所有物には手をかけざりき 11シユシヤンの城の内にて殺されし者の數をその日王にまうしあげければ 12王きさきエステルにいひけるはユダヤ人シユシヤンの城の内にて五百人を殺しまたハマンの十人の子をころせり王のその餘の諸州においては幾何なりしぞや 汝また何か求むるところあるやかならず許さるべし尚何かねがふところあるや必らず成就らるべし 13エステルいひけるは王もし之を善としたまはば願くはシユシヤンにあるユダヤ人に允して明日も今日の詔旨のごとくなさしめ且ハマンの十人の子を木に懸しめたまへ 14王かく爲せと命じシユシヤンにおいて詔旨を出せりマンの十人の子は木に懸らる 15アダルの月の十四日にシユシヤンのユダヤ人また集まりシユシヤンの内にて三百人をころせり然れどもその所有物には手をかけざりき 16王の諸州にあるその餘のユダヤ人もまた相あつまり立ておのれの生命を保護しその敵に勝て安んじおのれを惡む者七萬五千人をころせり然れどもその所有には手をかけざりき 17アダルの月の十三日にこの事をおこなひ十四日にやすみてその日に酒宴をなして喜こべり 18されどシユシヤンにをるユダヤ人はその十三日と十四日とにあひ集まり十五日にやすみてその日に酒宴をなして喜こべり 19これによりて村々のユダヤ人すなはち石垣なき邑々にすめる者はアダルの月の十四日をもて喜樂の日酒宴の日吉日となして互に物をやりとりす 20モルデカイこれらの事を書しるしてアハシユエロス王の諸州にをるユダヤ人に遠きにも近きにも書をおくり 21アダルの月の十四日と十五日を年々にいはふことを命じ 22この兩の日にユダヤ人その敵に勝て休みこの月は彼のために憂愁より喜樂にかはり悲哀より吉日にかはりたれば是らの日に酒宴をなして喜びたがひに物をやりとりし貧しき者に施與をなすべしと諭しぬ 23ここをもてユダヤ人はその已にはじめたるごとくモルデカイがかれらに書おくりしごとく行なひつづけたり 24アガグ人ハンメダタの子ハマンすなはちすべてのユダヤ人の敵たる者ユダヤ人を滅ぼさんと謀りプルすなはち籤を投てこれを滅ぼし絶さんとしたりしが 25その事王の前に明かになりし時王書をおくりて命じハマンがユダヤ人を害せんとはかりしその惡き謀計をしてハマンのかうべに歸らしめ彼とその子等を木に懸しめたり 26このゆゑに此兩の日をそのプルの名にしたがひてプリムとなづけたり斯りしかばこの書のすべての詞によりこの事につきて見たるところ己の遇たるところに依て 27ユダヤ人あひ定め年々その書るところにしたがひその定めたる時にしたがひてこの兩の日をまもり己とおのれの子孫および凡て已につらなる者これを行ひつづけて廢すること無く 28この兩の日をもて代々家々州々邑々において必ず記念てまもるべき者となしこれらのプリムの日をしてユダヤ人の中に廢せらるること無らしめまたこの記念をしてその子孫の中に絶ること無らしむ 29かくてアビハイルの女なる后エステルとユダヤ人モルデカイおほいなる力をもて此プリムの第二の書を書おくりてこれを堅うす 30すなはちモルデカイ、アハシユエロスの國の百二十七州にある一切のユダヤ人に平和と眞實の言語をもて書をおくり 31斷食と悲哀のことにつきてプリムのこれらの日を堅うしてその定めたる時を守らしむすなはちユダヤ人モルデカイと后エステルが曾てかれらに命じたるごとくまたユダヤ人等が曾てみづから己のためおよびおのれの子孫のために定めたるがごとし 32エステルの語プリムにかかはる是等の事をかたうせり是は書にしるされたり

第十章

1アハシユエロス王國土および海の島々に貢をたてまつらしむ 2アハシユエロス王が權勢と能力をもて爲たる一切の事業および彼がモルデカイを高くして大いなる者とならしめたる事の委き話はメデアとペルシヤの列王の日誌の書に記さるるにあらずや 3ユダヤ人モルデカイはアハシユエロス王に次ぐ者となりユダヤ人の中にありて大なる者にしてその衆多の兄弟によろこばれたり彼はその民の福祉をもとめその一切の宗族に平和の言をのべたりき

ヨブ記

第一章

1ウヅの地にヨブと名くる人あり 其人と爲完全かつ正くして神を畏れ惡に遠ざかる 2その生る者は男の子七人 女の子三人 3その所有物は羊七千 駱駝三千 牛五百 軛牝驢馬五百 僕も夥多しくあり 此人は東の人の中にて 最も大なる者なり 4その子等おのおの己の家にて己の日に宴筵を設くる事を爲し その三人の姉妹をも招きて與に食飲せしむ 5その宴筵の日はつる毎にヨブかならず彼らを召よせて潔む 即ち朝はやく興き彼ら一切の數にしたがひて燔祭を獻ぐ 是はヨブ我子ら罪を犯し心を神を忘れたらんも知べからずと謂てなり ヨブの爲ところ常に是のごとし 6或日神の子等きたりてヱホバの前に立つ サタンも來りてその中にあり 7ヱホバ、サタンに言たまひけるは 汝 何處より來りしや サタン、ヱホバに應へて言けるは 地を行めぐり此彼經あるきて來れり 8ヱホバ、サタンに言たまひけるは汝 心をもちひてわが僕ヨブを觀しや 彼のごとく完全かつ正くして神を畏れ惡に遠ざかる人世にあらざるなり 9サタン、ヱホバに應へて言けるはヨブあにもとむることなくして神を畏れんや 10汝 彼とその家およびその一切の所有物の周圍に藩屏を設けたまふにあらずや 汝かれが手に爲ところを盡く成就せしむるがゆゑにその所有物地に遍ねし 11然ど汝の手を伸て彼の一切の所有物を擊たまへ 然ば必ず汝の面にむかひて汝を詛はん 12ヱホバ、サタンに言たまひけるは視よ彼の一切の所有物を汝の手に任す 唯かれの身に汝の手をつくる勿れサタンすなはちヱホバの前よりいでゆけり 13或日ヨブの子 女 等その第一の兄の家にて物食ひ酒飲ゐたる時 14使者ヨブの許に來りて言ふ 牛 耕しをり牝驢馬その 傍 に草食をりしに 15シバ人襲ひて之を奪ひ刃をもて少 者を打殺せり 我ただ一人のがれて汝に告んとて來れりと 16彼なほ語ひをる中に又一人きたりて言ふ 神の火天より降りて羊 および少 者を焚て滅ぼせり 我ただ一人のがれて汝に告んとて來れりと 17彼なほ語ひをる中に又一人きたりて言ふ カルデヤ人三隊に分れ來て駱駝を襲ひてこれを奪ひ刃 をもて少 者を打殺せり 我ただ一人のがれて汝に告んとて來れりと 18彼なほ語ひをる中に又一人來りて言ふ 汝の子 女 等その第一の兄の家にて物食ひ酒飲をりしに 19荒野の方より大風ふき來て家の四隅を擊ければ夫の若き人々の上に潰れおちて皆しねり 我これを汝に告んとて只一人のがれ來れりと 20是においてヨブ起あがり外衣を裂き髪を斬り地に伏して拜し 21言ふ我 裸にて母の胎を出たり 又 裸にて彼處に歸らん ヱホバ與へヱホバ取たまふなり ヱホバの御名は讃べきかな 22この事においてヨブは全く罪を犯さず神にむかひて愚なることを言ざりき

第二章

1或日神の子等きたりてヱホバの前に立つ サタンも來りその中にありてヱホバの前に立つ 2ヱホバ、サタンに言たまひけるは汝 何處より來りしや サタン、ヱホバに應へて言けるは地を行めぐり此彼經あるきて來れり 3ヱホバ、サタンに言たまひけるは汝 心をもちひて我 僕ヨブを見しや 彼のごとく完全かつ正くして神を畏れ惡に遠ざかる人世にあらざるなり 汝われを勸めて故なきに彼を打 惱さしめしかど彼なほ己を完うして自ら堅くす 4サタン、ヱホバに應へて言けるは皮をもて皮に換るなれば人はその一切の所有物をもて己の生命に換ふべし 5然ど今なんぢの手を伸て彼の骨と肉とを擊たまへ 然ば必らず汝 の面にむかひて汝を詛はん 6ヱホバ、サタンに言たまひけるは彼を汝の手に任す 只かれの生命を害ふ勿れと 7サタンやがてヱホバの前よりいでゆきヨブを擊てその足の跖より 頂 までに惡き腫物を生ぜしむ 8ヨブ土瓦の碎片を取り其をもて身を掻き灰の中に坐りぬ 9時にその妻かれに言けるは汝は尚も己を完たうして自ら堅くするや 神

を詛ひて死るに如ずと 10然るに彼はこれに言ふ汝の言ところは愚なる婦の言ところに似たり 我ら神より福祉を受るなれば災禍をも亦受ざるを得んやと 此事においてはヨブまつたくその 唇 をもて罪を犯さざりき 11時にヨブの三人の友この一切の災禍の彼に臨めるを聞き各々おのれの處よりして來れり 即ちテマン人エリパズ、シユヒ人ビルダデおよびマアナ人ゾパル是なり 彼らヨブを弔りかつ慰 めんとて互に約してきたりしが 12目を擧て遙に觀しに其ヨブなるを見識がたき程なりければ齊く聲を擧て泣き各 おのれの外衣を裂き天にむかひて塵を撒て己の頭の上にちらし 13乃ち七日七夜かれと偕に地に坐しゐて 一言も彼に言かくる者なかりき 彼が苦惱の甚だ大なるを見たればなり

第三章

1斯て後ヨブ口を啓きて自己の日を詛へり 2ヨブすなはち言詞を出して云く 3我が生れし日亡びうせよ 男子胎にやどれりと言し夜も亦然あれ 4その日は暗くなれ 神上よりこれを顧みたまはざれ 光これを照す勿れ 5暗闇および死蔭これを取もどせ 雲これが上をおほえ 日を暗くする者これを懼しめよ 6その夜は黑暗の執ふる所となれ 年の日の中に加はらざれ 月の數に入ざれ 7その夜は孕むこと有ざれ 歡喜の聲その中に興らざれ 8日を詛ふ者レビヤタンを激發すに巧なる者これを詛へ 9その夜の晨 星は暗かれ その夜には光明を望むも得ざらしめ 又東雲の眼蓋を見ざらしめよ 10是は我母の胎の戸を闔ずまた我目に憂を見ること無らしめざりしによる 11何とて我は胎より死て出ざりしや 何とて胎より出し時に氣息たえざりしや 12如何なれば膝ありてわれを接しや 如何なれば乳房ありてわれを養ひしや 13否らずば今は我偃て安んじかつ眠らん 然ばこの身やすらひをり 14かの荒墟を自己のために築きたりし世の君等臣等と偕にあり 15かの黃金を有ち白銀を家に充したりし牧伯等と偕にあらん 16又人しれず墮る胎兒のごとくにして世に出ず また光を見ざる赤子のごとくならん 17彼處にては惡き者 虐遇を息め倦 憊たる者安息を得 18彼處にては俘囚人みな共に安然に居りて驅使者の聲を聞ず 19小き者も大なる者も同じく彼處にあり僕も主の手を離る 20如何なれば艱難にをる者に光を賜ひ 心 苦しむ者に生命をたまひしや 21斯る者は死を望むなれどもきたらず これをもとむるは藏れたる寶を掘るよりも甚だし 22もし墳墓を尋ねて獲ば大に喜こび樂しむなり 23その道かくれ神に取籠られをる人に如何なれば光明を賜ふや 24わが歎息はわが食物に代り我呻吟は水の流れそそぐに似たり 25我が戰慄き懼れし者我に臨み我が怖懼れたる者この身に及べり 26我は安然ならず 穩 ならず安息を得ず唯艱難のみきたる

第四章

1時にテマン人エリパズ答へて曰く 2人もし汝にむかひて言詞を出さば汝これを厭ふや 然ながら誰か言で忍ぶことを得んや 3さきに汝は衆多の人を誨へ諭せり 手の垂たる者をばこれを強くし 4つまづく者をば言をもて扶けおこし 膝の弱りたる者を強くせり 5然るに今この事 汝に臨めば汝 悶え この事なんぢに加はれば汝おぢまどふ 6汝は神を畏こめり 是なんぢの依賴む所ならずや 汝はその道を全うせり 是なんぢの望ならずや 7請ふ想ひ見よ 誰か罪なくして亡びし者あらん 義 者の絶れし事いづくに在や 8我の觀る所によれば不義を耕へし惡を播く者はその穫る所も亦是のごとし 9みな神の氣吹によりて滅びその鼻の息によりて消うす 10獅子の吼 猛き獅子の聲ともに息み 少き獅子の牙折れ 11大獅子獲物なくして亡び小獅子散失す 12前に言の密に我に臨めるありて我その細聲を耳に聞得たり 13即ち人の熟睡する頃我夜の異象によりて想ひ 煩ひをりける時 14身に恐懼をもよほして戰慄き 骨節ことごとく振ふ 15時に靈ありて我面の前を過ければ我は身の毛よだちたり 16その物立とまりしが我はその狀を見わかつことえざりき 唯 一の物の象わが目の前にあり 時に我しづかなる聲を聞けり云く 17人いかで神より正義からんや 人いかでその造 主より潔からんや 18彼はその僕をさへに恃みたまはず 其使者をも足ぬ者と見做たまふ 19況んや土の家に住をりて塵を基とし蛀蝕のごとく亡ぶる者をや 20是は朝より夕までの間に亡びかへりみる者もなくして永く失逝る 21その魂の緒あに絶ざらんや皆悟ること無して死うす

第五章

1請ふなんぢ顧びて看よ 誰か汝に應ふる者ありや 聖 者の中にて誰に汝むかはんとするや 2夫 愚なる者は憤 恨のために身を殺し 癡き者は嫉娼のために己を死しむ 3我みづから愚なる者のその根を張るを見たりしがすみやかにその家を詛へり 4その子等は助援を獲ることなく 門にて惱

まさる 之を救ふ者なし 5その穡とれる物は饑たる人これを食ひ 荊棘の籬の中にありてもなほ之を奪ひいだし 縄をその所有物にむかひて口を張る 6災禍は塵より起らず艱難は土より出ず 7人の生れて艱難をうくるは火の子の上に飛がごとし 8もし我ならんには我は必らず神に告求め 我事を神に任せん 9神は大にして測りがたき事を行ひたまふ 其不思議なる事を爲たまふこと數しれず 10雨を地の上に降し 水を野に遣り 11卑き者を高く擧げ 憂ふる者を引興して幸福ならしめたまふ 12神は狡しき者の謀計を敗り 之をして何事をもその手に成就ること能はざらしめ 13慧き者をその自分の詭計によりて執へ 邪なる者の謀計をして敗れしむ 14彼らは晝も暗黒に遇ひ 卓午にも夜の如くに摸り惑はん 15神は惱める者を救ひてかれらが口の劍を免かれしめ 強き者の手を免かれしめたまふ 16是をもて弱き者 望あり 惡き者口を閉づ 17神の懲したまふ人は幸福なり 然ば汝 全能者の徹責を輕んずる勿れ 18神は傷け又裹み 擊ていため又その手をもて善醫したまふ 19彼はなんぢを六の艱難の中にて救ひたまふ 七の中にても災禍なんぢにのぞまじ 20饑饉の時にはなんぢを救ひて死を免れしめ 戰爭の時には劍の手を免れしめたまふ 21汝は舌にて鞭たるる時にも隱ることを得 壞滅の來る時にも懼ること有じ 22汝は壞滅と饑饉を笑ひ地の獸をも懼ること無るべし 23田野の石なんぢと相結び野の獸なんぢと和がん 24汝はおのが幕屋の安然なるを知ん 汝の住處を見まはるに缺たる者なからん 25汝また汝の子等の多くなり 汝の裔の地の草の如くになるを知ん 26汝は遐齡におよびて墓にいらん 宛然麥束を時にいたりて運びあぐるごとくなるべし 27視よ我らが尋ね明めし所かくのごとし 汝 これを聽て自ら知れよ

第六章

1ヨブ應へて曰く 2願はくは我憤 恨の善く權られ 我懊惱の之とむかひて天秤に懸られんことを 3然すれば是は海の沙よりも重からん 斯ればこそ我 言 躁妄なりけれ 4それ全能者の箭わが身にいりわが魂神その毒を飮り 神の畏怖我を襲ひ攻む 5野驢馬あに青草あるに鳴んや 牛あに食物あるに吽らんや 6淡き物あに鹽なくして食はれんや 蛋 の白あに味あらんや 7わが心の觸ることを嫌ふ物是は我が厭ふ所の食物のごとし 8願はくは我求むる所を得んことを願はくは神わが 希 ふ所の物を我に賜はらんことを 9願はくは神われを滅ぼすを善とし 御手を伸て我を絶たまはんことを 10然るとも我は尚みづから慰むる所あり 烈しき苦痛の中にありて喜ばん 是は我聖者の言に悖りしことなければなり 11我何の氣力ありてか尚俟ん 我の終 いかなれば我なほ耐へ忍ばんや 12わが氣力あに石の氣力のごとくならんや 我肉あに銅 のごとくならんや 13わが助われの中に無にあらずや 救拯我より逐はなされしにあらずや 14憂患にしづむ者はその友これを憐れむべし然らずば全能者を畏るることを廢ん 15わが兄弟はわが望 を充さざること溪川のごとく 溪川の流のごとくに過さる 16是は氷のために黑くなり 雪その中に藏るれども 17温暖になる時は消ゆき熱くなるに及てはその處に絶はつ 18隊旅客身をめぐらして去り空曠處にいたりて亡ぶ 19テマの隊旅客これを望みシバの旅客これを慕ふ 20彼等これを望みしによりて愧恥を取り 彼處に至りてその面を赧くす 21かく汝等も今は虛しき者なり 汝らは怖ろしき事を見れば則ち懼る 22我あに汝等我に予へよと言しこと有んや 汝 らの所有物の中より物を取て我ために饋れと言しこと有んや 23また敵人の手より我を救ひ出せと言しことあらんや 虐ぐる者の手より我を贖へと言しことあらんや 24我を教へよ 然らば我默せん 請ふ我の過てる所を知せよ 25正しき言は如何に力あるものぞ 然ながら汝らの規諫る所 は何の規諫とならんや 26汝らは言を規正んと想ふや望 の絶たる者の語る所は風のごときなり 27汝らは孤子のために籤を掣き 汝らの友をも商 貨にするならん 28今ねがはくは我に向へ 我は汝らの面の前に僞はらず 29請ふ再びせよ 不義あらしむる勿れ 請ふ再びせよ 此事においては我正義し 30我舌に不義あらんや 我口惡き物を辨へざらんや

第七章

1それ人の世にあるは戰鬪にあるがごとくならずや 又其日は傭 人の日のごとくなるにあらずや 2奴僕の暮を冀がふが如く傭 人のその價を望むがごとく 3我は苦しき月を得させられ 憂はしき夜をあたへらる 4我臥ば乃はち言ふ何時夜あけて我おきいでんかと 曙 まで頻に輾轉ぶ 5わが肉は蟲と土塊とを衣服となし 我皮は愈てまた腐る 6わが日は機の梭よりも迅速なり 我望む所なくし之を送る 7想ひ見よ わが生命が氣息なる而已 我目は再び福祉を見ること有じ 8我を見し者の眼かさねて我を見ざらん 汝 目

を我にむくるも我は已に在ざるべし 9雲の消て逝がごとく陰府に下れる者は重ねて上りきたらじ 10彼は再びその家に歸らず 彼の鄉里も最早かれを認めじ 11然ば我はわが口を禁めず 我心の痛によりて語ひ わが神魂の苦しきによりて歎かん 12我あに海ならんや鰐ならんや 汝なにとて我を守らせおきたまふぞ 13わが牀われを慰め わが寢床わが愁を解んと思ひをる時に 14汝 夢をもて我を驚かし異象をもて我を懼れしめたまふ 15是をもて我心は氣息の閉んことを願ひ我この骨よりも死を冀がふ 16われ生命を厭ふ 我は永く生るをことを願はず 我を捨おきたまへ 我日は氣のごときなり 17人を如何なる者として汝これを大にし 之を心に留 18朝ごとに之を看そなはし 時わかず之を試みたまふや 19何時まで汝われに目を離さず 我が津を咽む間も我を捨おきたまはざるや 20人を鑒みたまふ者よ我罪を犯したりとて汝に何をか爲ん 何ぞ我を汝の的となして我にこの身を厭はしめたまふや 21汝なんぞ我の愆を赦さず我罪を除きたまはざるや 我いま土の中に睡らん 汝 我を尋ねたまふとも我は在ざるべし

第八章

1時にシユヒ人ビルダデ答へて曰く 2何時まで汝かかる事を言や 何時まで汝の口の言語を大風のごとくにするや 3神あに審判を曲たまはんや 全能者あに公義を曲たまはんや 4汝の子等かれに罪を獲たるにや之をその愆の手に付したまへり 5汝もし神に求め 全能者に祈り 6清くかつ正しうしてあらば必ず今 汝を顧み汝の義き家を榮えしめたまはん 7然らば汝の始は微小くあるとも汝の終は甚だ大ならん 8請ふ汝 過にし代の人に問へ 彼らの父祖の尋究めしところの事を學べ 9(我らは昨日より有しのみにて何をも知ず 我らが世にある日は影のごとし) 10彼等なんぢを教へ汝を諭し 言をその心より出さざらんや 11葦あに泥なくして長んや 萩あに水なくしてそだたんや 12是はその青くして未だ刈ざる時にも他の一切の草よりは早く槁る 13神を忘るる者の道は凡て是のごとく 悖る者の望は空しくなる 14その恃む所は絶れ その倚ところは蜘蛛網のごとし 15その家に倚かからんとすれば家立ず 之に堅くとりすがるも保たじ 16彼日の前に青緑を呈はし その枝を園に蔓延らせ 17その根を石堆に盤みて石の屋を眺むれども 18若その處より取のぞかれなばその處これを認めずして我は汝を見たる事なしと言ん 19視よその道の喜樂是のごとし 而してまた他の者地より生いでん 20それ神は完全人を棄たまはず また惡き者の手を執りたまはず 21遂に哂笑をもて汝の口に充し歡喜を汝の 唇 に置たまはん 22汝を惡む者は羞恥を着せられ 惡き者の住所は無なるべし

第九章

1ヨブこたへて言けるは 2我まことに其事の然るを知り 人いかでか神の前に義かるべけん 3よし人は神と辨爭はんとするとも千の一も答ふること能はざるべし 4神は心 慧く力 強くましますなり 誰か神に逆ひてその身安からんや 5彼山を移したまふに山しらず 彼震怒をもて之を飜倒したまふ 6彼地を震ひてその所を離れしめたまへばその柱 ゆるぐ 7日に命じたまへば日いでず 又星辰を封じたまふ 8唯かれ獨 天を張り海の濤を覆たまふ 9また北斗 參 宿 昴 宿および南方の密室を造りたまふ 10大なる事を行ひたまふこと測られず奇しき業を爲たまふこと數しれず 11視よ彼わが前を過たまふ 然るに我これを見ず彼すすみゆき賜ふ 然るに我之を曉ず 12彼奪ひ去賜ふ 誰か能之を沮まん 誰か之に汝 何を爲やと言ことを得爲ん 13神其震怒を息賜はず ラハブを助る者等之が下に屈む 14然ば我 爭か彼に回答を爲ことを得ん 爭われ言を選びて彼と 論 ふ事をえんや 15假令われ義かるとも彼に回答をせじ 彼は我を審判く者なれば我彼に哀き求ん 16假令我彼を呼て彼われに 答たまふともわが言を聽いれ賜ひしとは我信ぜざるなり 17彼は大風をもて我を擊碎き 故なくして我に衆多の傷を負せ 18我に息をつかさしめず 苦き事をもて我身に充せ賜ふ 19強き者の力量を言んか 視よ此にあり 審判の事ならんか誰か我を喚出すことを得爲ん 20假令われ義かるとも我口われを惡しと爲ん 假令われ完全かるとも尚われを罪ありとせん 21我は全し 然ども我はわが心を知ず 我生命を 賤む 22皆同一なり 故に我は言ふ神は完全者と惡 者とを等しく滅したまふと 23災禍の俄然に人を誅す如き事あれば彼は辜なき者の苦痛を笑ひ見たまふ 24世は惡き者の手に交されてあり 彼またその裁判人の面を蔽ひたまふ 若彼ならずば是誰の行爲なるや 25わが日は驛 使よりも迅く徒に過さりて福祉を見ず 26其はしること葦舟のごとく 物を攫まんとて飛かける鷲のごとし 27たとひ我わが愁を忘れ面色を改めて笑ひをらんと思ふとも 28尚この 諸 の苦痛のために戰 慄くなり 我思ふに汝われを釋し放ちたまはざらん 29我は罪ありとせらるるなれば何ぞ徒然に勞

すべけんや 30われ雪水をもて身を洗ひ 灰汁をもて手を潔むるとも 31汝われを汚はしき穴の中に陥いれたまはん 而して我 衣も我を厭ふにいたらん 32神は我のごとく人にあらざれば我かれに答ふべからず 我ら二箇して共に裁判に臨むべからず 33また我らの間には我ら二箇の上に手を置べき仲保あらず 34願くは彼その杖を我より取はなし その震怒をもて我を懼れしめたまはざれ 35然らば我 言語て彼を畏れざらん 其は我みづから斯る者と思はざればなり

第十章

1わが心 生命を厭ふ 然ば我わが憂愁を包まず言あらはし わが魂神の苦きによりて語はん 2われ神に申さん 我を罪ありしとしたまふ勿れ 何故に我とあらそふかを我に示したまへ 3なんぢ虐遇を爲し 汝の手の作を打棄て悪き者の謀計を照すことを善としたまふや 4汝は肉眼を有たまふや 汝の觀たまふ所は人の觀るがごとくなるや 5なんぢの日は人間の日のごとく 汝の年は人の日のごとくなるや 6何とて汝わが愆を尋ねわが罪をしらべたまふや 7されども汝はすでに我の罪なきを知たまふ また汝の手より救ひいだし得る者なし 8汝の手われをいとなみ我をことごとく作れり 然るに汝 今われを滅ぼしたまふなり 9請ふ記念たまへ 汝は土塊をもてすてるがごとくに我を作りたまへり 然るに復われを塵に歸さんとしたまふや 10汝は我を乳のごとく斟ぎ牛酪のごとくに凝しめたまひしに非ずや 11汝 は皮と肉とを我に着せ骨と筋とをもて我を編み 12生命と恩惠とをわれに授け我を眷顧てわが魂神を守りたまへり 13然はあれど汝これらの事を御 心に藏しおきたまへり我この事 汝の心にあるを知る 14我もし罪を犯さば汝われをみとめてわが罪を赦したまはじ 15我もし行状あしからば禍 あらん 假令われ義かるとも我 頭を擧じ 其は我は衷に羞恥充ち 眼にわが患難を見ればなり 16もし頭を擧なば獅子のごとくに汝われを追打ち 我身の上に復なんぢの奇しき能力をあらはしたまはん 17汝はしばしば證する者を入かへて我を攻め 我にむかひて汝の震怒を増し新手に新手を加へて我を攻めたまふ 18何とて汝われを胎より出したまひしや 然らずば我は息絶え目に見らるること無く 19曾て有ざりし如くならん 即ち我は胎より墓に持ゆかれん 20わが日は幾時も无きに非ずや 願くは彼姑らく息て我を離れ我をして少しく安んぜしめんことを 21我が往て復返ることなきその先に斯あらしめよ 我は暗き地死の蔭の地に往ん 22この地は暗くして晦冥に等しく死の蔭にして區分なし 彼處にては光明も黑暗のごとし

第十一章

1是においてナアマ人ゾパル答へて言けるは 2言語多からば豈答へざるを得んや 口おほき人あに義とせられんや 3汝 も空しき言あに人をして口を閉しめんや 汝 嘲らば人なんぢをして羞しめざらんや 4汝は言ふ 我 教は正し 我は汝の目の前に潔しと 5願くは神 言を出し 汝にむかひて口を開き 6智慧の秘密をなんぢに示してその知識の相倍するを顯したまはんことを 汝しれ神はなんぢの罪よりも輕くなんぢを處置したまふなり 7なんぢ神の深 事を窮むるを得んや 全能者を全く窮むることを得んや 8その高きことは天のごとし 汝なにを爲し得んや 其深きことは陰府のごとし 汝なにを知えんや 9その量は地よりも長く海よりも濶し 10彼もし行めぐりて人を執へて召集めたまふ時は誰か能くこれを阻まんや 11彼は僞る人を善く知りたまふ 又惡事は顧みること無して見知たまふなり 12虚しき人は悟性なし その生るるよりして野驢馬の駒のごとし 13汝もし彼にむかひて汝の心を定め 汝の手を舒べ 14手に罪のあらんには之を遠く去れ 惡をなんぢの幕屋に留むる勿れ 15然すれば汝 面を擧て玷なかるべく堅く 立て懼るる事なかるべし 16すなはち汝 憂愁を忘れん 汝のこれを憶ゆることは流れ去し水のごとくならん 17なんぢの生存らふる日は眞晝よりも輝かん 假令暗き事あるとも是は平旦のごとくならん 18なんぢは望あるに因て安んじ 汝の周圍を見めぐりて安然に寐るにいたらん 19なんぢは何にも懼れさせらるること無して偃やまん 必ず衆多の者なんぢを悦こばせんと務むべし 20然ど惡き者は目矇み逃遁處を失なはん 其 望は氣の斷ると等しかるべし

第十二章

1ヨブこたへて言ふ 2なんぢら而已まことに人なり 智慧は汝 らと共に死ん 3我もなんぢらと同じく心あり 我はなんぢらの下に立ず 誰か汝らの言し如き事を知ざらんや 4我は神に顧はりて聽るる者なるに 今その友に嘲けらるる者となれり 嗚呼正しくかつ完たき人あざけらる 5安逸なる者は思ふ 輕侮は不 幸なる者に附そひ足のよろめく者を俟と 6掠 奪ふ者の天幕は繁榮え 神を怒らせ自己の手に神を携ふる者は安泰なり 7今請ふ獸に問へ然ば汝に教へん 天空の鳥に問へ然ばなんぢに語らん 8地に言へ然ばなん

ぢに教へん 海の魚もまた汝に述べし 9誰かこの一切の者に依てヱホバの手のこれを作りしなるを知ざらんや 10一切の生物の生氣および一切の人の靈魂ともに彼の手の中にあり 11耳は説話を辨へざらんや その状あたかも口の食物を味ふがごとし 12老たる者の中には智慧あり 壽長 者の中には穎悟あり 13智慧と權能は神に在り 智謀と穎悟も彼に屬す 14視よ彼毀てば再び建ること能はず 彼人を閉こむれば開き出すことを得ず 15視よ彼水を止むれば則ち涸れ 水を出せば則ち地を滅ぼす 16權能と穎悟は彼に在り 惑はさるる者も惑はす者も共に彼に屬す 17彼は議士を裸體にして擄へゆき 審判人をして愚なる者とならしめ 18王等の權威を解て反て之が腰に繩をかけ 19祭司等を裸體にして擄へゆき 權力ある者を滅ぼし 20言 爽なる者の言語を取除き 老たる者の了知を奪ひ 21侯伯たる者等に恥辱を蒙らせ 強き者の帶を解き 22暗中より隱れたる事等を顯し 死の蔭を光明に出し 23國々を大にしまた之を滅ぼし 國々を廣くしまた之を舊に歸し 24地の民の長たる者等の了知を奪ひ これを路なき荒野に吟行はしむ 25彼らは光明なき暗にたどる 彼また彼らを醉る人のごとくによろめかしむ

第十三章

1視よわが目これを盡く觀 わが耳これを聞て通達れり 2汝らが知るところは我もこれを知る 我は汝らに劣らず 3然りと雖ども我は全能者に物言ん 我は神と論ぜんことをのぞむ 4汝らは只謊言を造り設くる者 汝らは皆無用の醫師なり 5願くは汝ら全く默せよ 然するは汝らの智慧なるべし 6請ふわが論ずる所を聽き 我が唇にて辨爭ふ所を善く聽け 7神のために汝ら惡き事を言や 又かれのために虚僞を述るや 8汝ら神の爲に偏るや またかれのために爭はんとするや 9神もし汝らを鑒察たまはば豈善らんや 汝等人を欺むくごとくに彼を欺むき得んや 10汝等もし密に私しするあらば彼かならず汝らを責ん 11その威光なんぢらを懼れしめざらんや 彼を懼るる畏懼なんぢらに臨まざらんや 12なんぢらの諭言は灰に譬ふべし なんぢらの城は土の城となる 13默して我にかかはらざれ 我言語んとす 何事にもあれ我に來らば來れ 14我なんぞ我肉をわが齒の間に置き わが生命をわが手に置かんや 15彼われを殺すとも我は彼に依賴まん 唯われは吾道を彼の前に明かにせんとす 16彼また終に我救拯とならん 邪曲なる者は彼の前にいたること能はざればなり 17なんぢら聽よ 我言を聽け我が述る所をなんぢらの耳に入しめよ 18視よ我すでに吾事を言竝べたり 必ず義しとせられんと自ら知る 19誰か能われと辨論ふ者あらん 若あらば我は口を緘て死ん 20惟われに二の事を爲たまはざれ 然ば我なんぢの面をさけて隱れじ 21なんぢの手を我より離したまへ 汝の威嚴をもて我を懼れしめたまはざれ 22而して汝われを召たまへ 我こたへん 又われにも言はしめて汝われに答へたまへ 23我の愆われの罪いくばくなるや 我の背反と罪とを我に知しめたまへ 24何とて御顔を隱し我をもて汝の敵となしたまふや 25なんぢは吹廻さるる木の葉を威し 干あがりたる籾殻を追たまふや 26汝は我につきて苦き事等を書しるし 我をして我が幼稚時の罪を身に負しめ 27わが足を足械にはめ 我すべての道を伺ひ 我足の周圍に限界をつけたまふ 28我は腐れたる者のごとくに朽ゆき 蠹に食るる衣服に等し

第十四章

1婦の產む人はその日少なくして艱難多し 2その來ること花のごとくにして散り 其馳ること影のごとくにして止まらず 3なんぢ是のごとき者に汝の目を啓きたまふや 汝われを汝の前にひきて審判したまふや 4誰か清き物を汚れたる物の中より出し得る者あらん 一人も無し 5その日既に定まり その月の數なんぢに由り 汝これが區域を立て越ざらしめたまふなれば 6是に目を離して安息を得させ之をして傭人のその日を樂しむがごとくならしめたまへ 7それ木には望あり 假令砍るるとも復芽を出してその枝絶ず 8たとひ其根地の中に老い 幹土に枯るとも 9水の潤霑にあへば即ち芽をふき枝を出して若樹に異ならず 10然ど人は死れば消うす 人氣絶なば安に在んや 11水は海に竭き河は涸てかわく 12是のごとく人も寢臥てまた興ず 天の盡るまで目覺ず睡眠を醒さざるなり 13願はくは汝われを陰府に藏し 汝の震怒の息むまで我を掩ひ 我ために期を定め而して我を念ひたまへ 14人もし死ばまた生んや 我はわが征戰の諸日の間 望みをりて我が變更の來るを待ん 15なんぢ我を呼たまはん 而して我こたへん 汝かならず汝 の手の作を顧みたまはん 16今なんぢは我に歩履を數へたまふ 我罪を汝うかがひたまはざらんや 17わが愆は凡て囊 の中に封じてあり 汝わが罪を縫こめたまふ 18それ山も倒れて終に崩れ巖石も移りてその處を離る 19水は石を鑿

ち 浪は地の塵を押流す 汝は人の望を斷たまふ 20なんぢは彼を永く攻なやまして去ゆかしめ 彼の面 容の變らせて逐やりたまふ 21その子尊貴なるも彼は之を知ず 卑賤なるもまた之を曉らざるなり 22只 己みづからその肉に痛苦を覺え己みづからその心に哀く而已

第十五章

1テマン人エリパズ答へて曰く 2智者あに虚しき知識をもて答へんや豈東 風をその腹に充さんや 3あに裨なき談 益なき詞をもて辨論はんや 4まことに汝は神を畏るる事を棄て その前に禱ることを止む 5なんぢの罪なんぢの口を教ふ 汝はみづから擇びて狡猾人の舌を用ふ 6なんぢの口みづから汝の罪を定む 我には非ず汝の 唇 なんぢの惡きを證す 7汝あに最初に世に生れたる人ならんや 山よりも前に出來しならんや 8神の御謀議を聞しならんや 智慧を獨 にて藏めをらんや 9なんぢが知る所は我らも知ざらんや 汝が曉るところは我らの心にも在ざらんや 10我らの中には白髪の人および老たる人ありて汝の父よりも年高し 11神の慰藉および夫の柔かき言詞を汝 小しとするや 12なんぢ何ぞかく心 狂ふや 何ぞかく目をしばたたくや 13なんぢ是のごとく神に對ひて氣をいらだて 斯る言詞をなんぢの口よりいだすは如何ぞや 14人は如何なる者ぞ 如何してか 潔からん 婦の產し者は如何なる者ぞ 如何してか 義からん 15それ神はその聖 者にすら信を置たまはず 諸の天もその目の前には潔からざるなり 16況んや罪を取ること水を飲がごとくする憎むべき穢れたる人をや 17我なんぢに語る所あらん 聽よ 我見たる所を述ん 18是すなはち智者等が父祖より受て隱すところ無く傳へ來し者なり 19彼らに而已この地は授けられて外國人は彼等の中に往來せしこと無りき 20惡き人はその生る日の間つねに悶へ苦しむ 強暴人の年は數へて定めおかる 21その耳には常に懼怖しき音きこえ平安の時にも滅ぼす者これに臨む 22彼は幽暗を出得るとは信ぜず 目ざされて劒に付さる 23彼食物は何處にありやと言つつ尋ねありき 黑暗日の備へられて己の側にあるを知る 24患難と苦痛とはかれを懼れしめ 戰鬪の準備をなせる王のごとくして彼に打勝ん 25彼は手を伸て神に敵し 傲りて全能者に悖り 26頸を強くし 厚き楯の面を向て之に馳かかり 27面に肉を滿せ 腰に脂を凝し 28荒されたる邑々に住居を設けて人の住べからざる家石堆となるべき所に居る 29是故に彼は富ず その貨物は永く保たず その所有物は地に蔓延ず 30また自己は黑暗を出づるに至らず 火燄その枝葉を枯さん 而してその身は神の口の氣吹によりて亡ゆかん 31彼は虚 妄を恃みて自ら欺くべからず 其報は虚 妄なるべければなり 32彼の日の來らざる先に其事成べし 彼の枝は綠ならじ 33彼は葡萄の樹のその熟せざる果を振落すがごとく 橄欖の樹のその花を落すがごとくなるべし 34邪曲なる者の宗族は零落れ賄賂の家は火に焚ん 35彼等は惡 念を孕み 虚 妄を生みその胎にて詭計を調ふ

第十六章

1ヨブ答へて曰く 2斯る事は我おほく聞り 汝らはみな人を慰 めんとして却つて人を煩はす者なり 3虚しき言語あに終極あらんや 汝なにに勵されて應答をなすや 4我もまた汝 らの如くに言ことを得 もし汝らの身わが身と處を換なば我は言語を練て汝らを攻め 汝らにむかひて首を搖ことを得 5また口をもて汝らを強くし 唇 の慰藉をもて 汝らの憂愁を解ことを得るなり 6たとひ我 言を出すとも我憂愁は解ず 默するとても何ぞ我身の安くなること有んや 7彼いま已に我を疲らしむ 汝わが宗族をことごとく荒せり 8なんぢ我をして皺らしめたり 是われに向ひて見證をなすなり 又わが痩おとろへたる狀貌わが面の前に現はれ立て我を攻む 9かれ怒てわれを撕裂きかつ窘しめ 我にむかひて齒を嚙鳴し我敵となり目を銳して我を看る 10彼ら我にむかひて口を張り 我を賤しめてわが頰を打ち 相集まりて我を攻む 11神われを邪曲なる者に交し 惡き者の手に擲ちたまへり 12我は安穩なる身なりしに彼いたく我を打 惱まし 頸を執へて我をうちくだき遂に我を立て鵠となしたまひ 13その射手われを遶り圍めり やがて情もなく我腰を射透し わが膽を地に流れ出しめたまふ 14彼はわれを打敗りて破壞に破壞を加へ 勇士のごとく我に奔かかりたまふ 15われ麻布をわが肌に縫つけ我角を塵にて汚せり 16我面は泣て頽くなり 我目縁には死の蔭あり 17然れども我手には不義あること無く わが祈祷は清し 18地よ我血を掩ふなかれ 我號呼は休む處を得ざれ 19視よ今にても我證となる者天にあり わが眞實を表明す者高き處にあり 20わが朋友は我を嘲けれども我目は神にむかひて涙を注ぐ 21願くは彼人のために神と論辨し 人の子のためにこれが朋友と論辨せんことを 22數年すぎさらば我は還らぬ旅路に往べし

第十七章

1わが氣息は已にくさり 我日すでに盡なんとし墳墓われを待つ 2まことに嘲弄者等わが 傍 に在り 我目は彼らの辨爭ふを常に見ざるを得ず 3願くは 質 を賜ふて汝みづから我の保證となりたまへ 誰か他にわが手をうつ者あらんや 4汝 彼らの心を閉て悟るところ無らしめたまへり必ず彼らをして愈らしめたまはじ 5朋友を交付して掠奪に遭しむる者は其子等の目潰るべし 6彼われを世の民の笑柄とならしめたまふ 我は面に唾せらるべき者となれり 7かつまた我目は憂愁によりて昏み 肢體は凡て影のごとし 8義しき者は之に驚き 無辜者は邪曲なる者を見て憤ほる 9然ながら義しき者はその道を堅く持ち 手の潔淨き者はますます力を得るなり 10請ふ汝ら皆ふたたび來れ 我は汝らの中に一人も智き者あるを見ざるなり 11わが日は已に過ぎ わが計る所わが心に 冀 ふ所は已に敗れたり 12彼ら夜を晝に變ふ 黑暗の前に光明ちかづく 13我もし俟つところ有ば是わが家たるべき陰府なるのみ 我は黑暗にわが牀を展ぶ 14われ朽腐に向ひては汝はわが父なりと言ひ蛆に向ひては汝は我母わが姉妹なりと言ふ 15然ばわが 望はいづくにかある 我 望は誰かこれを見る者あらん 16是は下りて陰府の關に到らん 之と齊しく我身は塵の中に臥靜まるべし

第十八章

1シユヒ人ビルダデこたへて曰く 2汝等いつまで言語を獵求むることをするや 汝ら先曉るべし 然る後われら辨論はん 3われら何ぞ獸畜とおもはるべけんや 何ぞ汝らの目に汚穢たる者と見らるべけんや 4なんぢ怒りて身を裂く者よ 汝のためとて地あに棄られんや 磐あに其 處 より移されんや 5惡き者の光明は滅され 其火の焰は照じ 6その天幕の內なる光明は暗くなり其が上の燈火は滅さるべし 7またその強き步履は狹まり 其計るところは自分を陷 いる 8すなはち其足に逐れて網に到り また陷 阱の上を步むに 9索はその踵に纏り 羂これを執ふ 10索かれを執ふるために地に隱しあり 羂かれを陷しいるるために路に設けあり 11怖ろしき事四方において彼を懼れしめ 其足にしたがひて彼をおふ 12その力は餓ゑ 其 傍 には災禍そなはり 13その膚の肢は蝕壞らる 即ち死の初子これが肢を蝕壞るなり 14やがて彼はその恃める天幕より曳離されて懼怖の王の許に驅やられん 15彼に屬せざる者かれの天幕に住み 硫礦かれの家の上に降ん 16下にてはその根枯れ上にてはその枝砍る 17彼の跡は地に絶え 彼の名は街衢に傳はらじ 18彼は光明の中より黑暗に逐やられ 世の中より驅出されん 19彼はその民の中に子も無く孫も有じ また彼の住所には一人も遺る者なからん 20之が日を見るにおいて後に來る者は駭ろき 先に出し者は怖おそれん 21かならず惡き人の住所は是のごとく 神を知ざる者の所は是のごとくなるべし

第十九章

1ヨブこたへて曰く 2汝ら我 心をなやまし 言語をもて我を打くだくこと何時までぞや 3なんぢら已に十次も我を辱 しめ我を惡く待ひてなほ愧るところ無し 4假令われ眞に過ちたらんもその 過 は我の身に止れり 5なんぢら眞に我に向ひて誇り我身に羞べき行爲ありと證するならば 6神われを虐げその網羅をもて我を包みたまへりと知るべし 7我 虐げらるると叫べども答なく 呼はり求むれども審理なし 8彼わが路の周圍に垣を結めぐらして逾る能はざらしめ 我が行く途に黑暗を蒙むらしめ 9わが光榮を褫ぎ我冠冕を首より奪ひ 10四方より我を毀ちて失しめ 我望 を樹のごとくに根より拔き 11我にむかひて震怒を燃し我を敵の一人と見たまへり 12その軍旅ひとしく進み途を高くして我に攻寄せ わが天幕の周圍に陣を張り 13彼わが兄弟 等をして遠くわれを離れしめたまへり 我を知る人々は全く我に疎くなりぬ 14わが親 戚は往來を休め わが朋友はわれを忘れ 15わが家に寄寓る者およびわが婢 等は我を見て外 人のごとくす 我かれらの前にては異國人のごとし 16われわが僕を喚どもこたへず 我口をもて彼に請はざるを得ざるなり 17わが氣息はわが妻に厭はれ わが臭氣はわが同 胎の子等に嫌はる 18童子等さへも我を侮どり 我起あがれば即ち我を嘲ける 19わが親しき友われを惡みわが愛したる人々ひるがへりてわが敵となれり 20わが骨はわが皮と肉とに貼り 我は僅に齒の皮を全うして逃れしのみ 21わが友よ汝等われを憐れめ 我を憐れめ 神の手われを擊り 22汝らなにとて神のごとくして我を攻め わが肉に饜ことなきや 23望むらくは我 言の書留られんことを 望むらくは我 言 書に記されんことを 24望むらくは 鐵 の筆と鉛とをもて之を永く磐石に鐫つけおかんことを 25われ知る我を贖ふ者は活く 後の日に彼かならず地の上に立ん 26わがこの皮この身の朽はてん後 われ肉を離れて神を

見ん 27我みづから彼を見たてまつらん 我目かれを見んに
識らぬ者のごとくならじ 我が心これを望みて焦る 28なん
ぢら若われら如何に彼を攻んかと言ひ また事の根われに
在りと言ば 29劍を懼れよ 忿怒は劍の罰をきたらす 斯な
んぢら遂に審判のあるを知ん

第二十章

1ナアマ人ゾパルこたへて曰く 2これに因てわれ答をなす
の思念を起し心しきりに之がために急る 3我を辱しむる
警語を我聞ざるを得ず 然しながらわが了知の性われをし
て答ふることを得せしむ 4なんぢ知ずや古昔より地に人
の置れしより以來 5惡き人の勝誇は暫時にして邪曲なる
者の歡樂は時の間のみ 6その高天に達しその首雲に及ぶ
とも 7終には己の糞のごとくに永く亡絶べし 彼を見識る
者は言ん彼は何處にありやと 8彼は夢の如く過さりて復
見るべからず 夜の幻のごとく追はらはれん 9彼を見た
る目かさねてかれを見ることあらず 彼の住たる處も再び
かれを見ること無らん 10その子等は貧しき者に寃待を求
めん 彼もまたその取し貨財を手づから償さん 11その骨に
少壯氣勢充り 然れどもその氣勢もまた塵の中に彼とおな
じく臥ん 12かれ惡を口に甘しとして舌の底に藏め 13愛み
て捨ず 之を口の中に含みをる 14然どその食物 腸の中に
て變り 腹の内にて蝮の毒とならん 15かれ貨財を呑たれど
も復之を吐いださん 神これを彼の腹より推いだしたまふ
べし 16かれは蝮の毒を吸ひ 虺の舌に殺されん 17かれは
蜂蜜と牛酪の湧て流るる河川を視ざらん 18その勞苦て獲
たる物は之を償して自ら食はず 又それを求めたる所有よ
りは快樂を得じ 19是は彼貧しき者を虐遇げて之を棄たれ
ばなり 假令家を奪ひとるとも之を改め作ることを得ざら
ん 20かれはその腹に飽ことを知ざるが故に自己の深く喜
ぶ物をも保つこと能はじ 21かれが遺して食はざる物とて
は一も無し 是によりてその福祉は永く保たじ 22その繁榮
の眞盛において彼は艱難に迫られ 乏しき者すべて手をこ
れが上に置ん 23かれ腹を充さんとすれば神烈しき震怒を
その上に下し その食する時にこれをその上に降したまふ
24かれ鐵の器を避れば 銅の弓これを射透す 25是に於て
之をその身より拔ば閃く鏃その膽より出きたりて畏懼こ
れに臨む 26各種の黑暗これが寶物ををほろぼすために
蓄へらる 又人の吹おこせしに非る火かれを焚き その天
幕に遺りをる者をも焚ん 27天かれの罪を顯はし 地興りて
彼を攻ん 28その家の儲蓄は亡て神の震怒の日に流れ去ん
29是すなはち惡き人が神より受る分 神のこれに定めたま
へる數なり

第二十一章

1ヨブこたへて曰く 2請ふ汝等わが言を謹んで聽き 之をも
て汝らの慰藉に代よ 3先われに容して言しめよ 我が言る
後なんぢ嘲るも可し 4わが怨言は世の人の上につきて起
れる者ならんや 我なんぞ氣をいらだつ可らざらんや 5な
んぢら我を視て驚き手を口にあてよ 6われ思ひまはせば
畏 しくなりて身體しきりに戰慄く 7惡き人何とて生なが
らへ 老かつ勢力強くなるや 8その子等はその周圍にあり
てその前に堅く立ち その子孫もその目の前に堅く立べし
9またその家は平安にして畏懼なく 神の杖その上に臨ま
じ 10その牡牛は種を與へて過らず その牝牛は子を產てそ
こなふ事なし 11彼等はその少き者等を外に出すこと群の
ごとし その子等は舞をどる 12彼等は鼓と琴とをもて歌ひ
笛の音に由て樂み 13その日を幸福に暮し まばたくまに
陰府にくだる 14然はあれども彼等は神に言らく我らを離
れ賜へ 我らは汝の道をしることを好まず 15全能者は何者
なれば我らこれに事ふべき 我儕これに祈るとも何の益を
得んやと 16視よ彼らの福祿は彼らの力に由にあらざるな
り 惡人の希圖は我の與する所にあらず 17惡人のその
燈火を滅るる事幾度ありしか その滅亡のこれに臨む事
神の怒りて之に艱苦を蒙らせたまふ事幾度有しか 18かれ
ら風の前の藁の如く 暴風に吹さらるる籾殻の如くなるこ
と幾度有しか 19神かれの愆を積たくはへてその子孫に報
いたまふか 之を彼自己の身に報い知しむるに如ず 20かれ
をして自らその滅亡を目に視させ かつ全能者の震怒を飮
しめよ 21その月の數すでに盡るに於ては何ぞその後の家
に關はる所あらん 22神は天にある者等をさへ審判たまふ
なれば誰か能これに知識を敎へんや 23或人は繁榮を極め
全 く平穩にかつ安康にして死に 24その器に乳充ち その
骨の髓は潤ほへり 25また或人は心を苦しめて死し 終に
福祉をあぢはふる事なし 26是等は俱に齊しく塵に臥して
蛆におほはる 27我まことに汝らの思念を知り 汝らが我を
攻擊んとするの計略を知る 28なんぢらは言ふ王侯の家は
何 に在る 惡人の住所は何にあると 29汝らは路往く人々
に詢ざりしや 彼等の證據を曉らざるや 30すなはち滅亡の
日に惡人遺され 烈しき怒の日に惡人たづさへ出さる 31誰

か能かれに打向ひて彼の行爲を指示さんや 誰か能彼の爲たる所を彼に報ゆることを爲ん 32彼は昇れて墓に到り 塚の上にて守護ることを爲す 33谷の土塊も彼には 快し 一切の人その後に從ふ 其前に行る者も數へがたし 34既に是の如くなるに汝等なんぞ 徒 に我を慰さめんとするや 汝 らの答ふる所はただ虚僞のみ

第二十二章

1是においてテマン人エリパズこたへて曰く 2人神を益する事をえんや 智 人も唯みづから益する而已なるぞかし 3なんぢ義かるとも全能者に何の歡喜かあらん なんぢ行爲を全たふするとも彼に何の利益かあらん 4彼 汝の畏懼の故によりて汝を責め汝を鞫きたまはんや 5なんぢの惡 大なるにあらずや 汝の罪はきはまり無し 6即はち汝 は故なくその兄 弟の物を抑へて質となし 裸なる者の衣服を剥て取り 7渇く者に水を與へて飲しめず 饑る者に食物を施こさず 8力ある者土地を得 貴き者その中に住む 9なんぢは寡婦に手を空しうして去しむ 孤子の腕は折る 10是をもて網羅なんぢを環り 畏懼にはかに汝を擾す 11なんぢ黑暗を見ずや 洪水のなんぢを覆ふを見ずや 12神は天の高に在すならずや 星辰の 巓 ああ如何に高きぞや 13是によりて汝は言ふ 神なにをか知しめさん 豈よく黑雲の中より審判するを得たまはんや 14濃雲かれを蔽へば彼は見たまふ所なし 唯天の蒼穹を歩みたまふ 15なんぢ古昔の世の道を行なはんとするや 是あしき人の踐たりし者ならずや 16彼等は時いまだ至らざるに打絶れ その根基は大水に押流されたり 17彼ら神に言けらく我儕を離れたまへ全能者われらのために何を爲ことを得んと 18しかるに彼は却つて佳物を彼らの家に盈したまへり 但し惡人の計 畫は我に與する所にあらず 19義しき者は之を見て喜び無辜者は彼らを笑ふ 20曰く我らの仇は誠に滅ぼされ 其盈餘れる物は火にて焚つくさる 21請ふ汝 神と和らぎて平安を得よ 然らば福祿なんぢに來らん 22請ふかれの口より教晦を受け その言語をなんぢの心に藏めよ 23なんぢもし全能者に歸向り且なんぢの家より惡を除き去ば 汝の身再 び興されん 24なんぢの寳を土の上に置き オフルの黃金を谿河の石の中に置け 25然れば全能者なんぢの寳となり汝のために白銀となりたまふべし 26而してなんぢは又全能者を喜び且神にむかひて面をあげん 27なんぢ彼に祈らば彼なんぢに聽たまはん 而して汝その誓願をつくのひ果さん 28なんぢ事を爲んと定めなばその事なんぢに成ん 汝の道には光 照ん 29其卑く降る時は汝いふ昇る哉と彼は謙遜者を拯ひたまふべし 30かれは罪なきに非ざる者をも拯ひたまはん 汝の手の潔淨によりて斯る者も拯はるべし

第二十三章

1ヨブこたへて曰く 2我は今日にても尚つぶやきて服せず わが禍災はわが嘆息よりも重し 3ねがはくは神をたづねて何處にか遇まつるを知り其御座に參いたらんことを 4我この愁訴をその御前に陳べ口を極めて辨論はん 5我その我に答へたまふ言を知り また其われに言たまふ所を了らん 6かれ大なる能をもて我と爭ひたまはんや 然らじ反つて我を眷みたまふべし 7彼處にては正義人かれと辨爭ふことを得 斯せば我を鞫く者の手を永く免かるべし 8しかるに我 東に往くも彼いまさず 西に往くも亦見たてまつらず 9北に工作きたまへども遇まつらず 南に隱れ居たまへば望むべからず 10わが平生の道は彼知たまふ 彼われを試みたまはば我は金のごとくして出きたらん 11わが足は彼の步履に堅く隨がへり 我はかれの道を守りて離れざりき 12我はかれの 脣 の命令に違はず 我が法よりも彼の口の言語を重ぜり 13かれは一に居る者にまします 誰か能かれをして意を變しめん 彼はその心に慾する所をかならず爲たまふ 14然ば我に向ひて定めし事を必らず成就たまはん 是のごとき事を多く彼は爲たまふなり 15是故に我かれの前に慄ふ 我 考ふれば彼を懼る 16神わが心を弱くならしめ 全能者われをして懼れしめたまふ 17かく我は暗の來らぬ先わが面を黑暗の覆ふ前に打絶れざりき

第二十四章

1なにゆゑに全能者時期を定めおきたまはざるや 何故に彼を知る者その日を見ざるや 2人ありて地界を侵し群畜を奪ひて牧ひ 3孤子の驢馬を驅去り 寡婦の牛を取て質となし 4貧しき者を路より推退け 世の受難者をして盡く身を匿さしむ 5視よ彼らは荒野にをる野驢馬のごとく出て業を爲て食を求め 野原よりその子等のために食物を得 6圃にて惡き者の麥を刈り またその葡萄の遺餘を摘む 7かれらは衣服なく裸にして夜を明し 覆ふて寒氣を禦ぐべき物なし 8山の暴風に濡れ 庇はるるところ無して岩を抱く 9孤子を母の 懷 より奪ふ者あり 貧しき者の身につける物を取て質となす者あり 10貧き者衣服なく裸にて歩き

饑つつ麥束を擔ふ 11人の垣の内にて油を搾め また渇きつつ酒醡を踐む 12邑の中より人々の呻吟たちのぼり 傷けられたる者の叫喚おこる 然れども神はその怪事を省みたまはず 13また光明に背く者あり 光の道を知ず 光の路に 止らず 14人を殺す者昧爽に興いで 受難者や貧しき者を殺し 夜は盜賊のごとくす 15姦淫する者は我を見る目はなからんと言てその目に昏暮をうかがひ待ち而してその面に覆ふ物を當つ 16また夜分家を穿つ者あり 彼等は晝は閉こもり居て光明を知らず 17彼らには晨は死の蔭のごとし 是死の蔭の怖ろしきを知ばなり 18彼は水の面に疾ながるる物の如し その產業は世の中に詛はる その身重ねて葡萄圃の路に向はず 19亢旱および炎熱は雪水を直に乾涸す 陰府が罪を犯せし者におけるも亦かくのごとし 20これを宿せし腹これを忘れ 蛆これを好みて食ふ 彼は最早世におぼえらるること無く その惡は樹を折るが如くに折る 21是すなはち孕まず產ざりし婦人をなやまし 寡婦を憐れまざる者なり 22神はその權能をもて強き人々を保存へさせたまふ 彼らは生命あらじと思ふ時にも復興る 23神かれらに安泰を賜へば彼らは安らかなり 而してその目をもて彼らの道を見そなはしたまふ 24かれらは旺盛になり暫時が 間に無なり卑くなりて一切の人のごとくに沒し麥の穗のごとくに斷る 25すでに是のごとくなれば誰か我の謬まれるを示してわが言語を空しくすることを得ん

第二十五章

1時にシユヒ人ビルダデこたへて曰く 2神は大權を握りたまふ者 畏るべき者にましまし 高き處に平和を施したまふ 3その軍旅數ふることを得んや 其光明なに物をか照さざらん 4然ば誰か神の前に正義かるべき 婦人の產し者いかでか清かるべき 5視よ月も輝かず 星も其目には清明ならず 6いはんや蛆のごとき人 蟲のごとき人の子をや

第二十六章

1ヨブこたへて曰く 2なんぢ能力なき者を如何に助けしや 氣力なきものを如何に救ひしや 3智慧なき者を如何に誨へしや 穎悟の道を如何に多く示ししや 4なんぢ誰にむかひて言語を出ししや なんぢより出しは誰が靈なるや 5陰靈水またその中に居る者の下に慄ふ 6かれの御前には陰府も顯露なり 滅亡の坑も蔽ひ匿す所なし 7彼は北の天を虛空に張り 地を物なき所に懸けたまふ 8水を濃雲の中に包みたまふてその下の雲裂ず 9御寶座の面を隱して雲をその上に展べ 10水の面に界を設けて光と暗とに限を立たまふ 11かれ叱咤たまへば天の柱 震ひかつ怖る 12その權能をもて海を靜め その智慧をもてラハブを擊碎き 13その氣噓をもて天を輝かせ 其手をもて逃る蛇を衝とほしたまふ 14視よ是等はただその御工作の端なるのみ 我らが聞ところの者は如何にも微細なる耳語ならずや 然どその權能の雷轟に至りては誰かこれを曉らんや

第二十七章

1ヨブまた語を繼ぎていはく 2われに義しき審判を施したまはざる神 わが心魂をなやまし給ふ全能者此神は活く 3（わが生命なほ全くわれの衷にあり 神の氣息なほわが鼻にあり） 4わが口は惡を言ず わが舌は謊言を語らじ 5我決めて汝等を是とせじ 我に死るまで我が罪なきを言ことを息じ 6われ堅くわが正義を持ちて之を棄じ 我は今まで一日も心に責られし事なし 7我に敵する者は惡き者と成り我を攻る者は義からざる者と成るべし 8邪曲なる者もし神に絶れその魂神を脫とらるるに於ては何の望かあらん 9かれ艱難に罹る時に神その呼號を聽いれたまはんや 10かれ全能者を喜こばんや 常に神を顧んや 11われ神の御手を汝等に教へん 全能者の道を汝等に隱さじ 12視よ汝等もみな自らこれを觀たり 然るに何ぞ斯愚蒙をきはむるや 13惡き人の神に得る分 強暴の人の全能者より受る業は是なり 14その子等蕃れば劍に殺さる その子孫は食物に飽ず 15その遺れる者は疫病に斃れて埋められ その妻等は哀哭をなさず 16かれ銀を積こと塵のごとく衣服を備ふること土のごとくなるとも 17その備ふる者は義き人これを着ん またその銀は無辜者これを分ち取ん 18その建る家は蟲の巢のごとく また番人の造る茅家のごとし 19彼は富る身にて寢臥し重ねて興ること無し また目を開けば即ちその身きえ亡す 20懼ろしき事大水のごとく彼に追及き 夜の暴風かれを奪ひ去る 21東風かれを颺げて去り 彼をその處より吹はらふ 22神かれを射て恤まず 彼その手より逃れんともがく 23人かれに對ひて手を鳴し 嘲りわらひてその處をいでゆかしむ

第二十八章

1白銀掘いだす坑あり 煉るところの黃金は出 處あり 2鐵 は土より取り 銅 は石より鎔して獲るなり 3人すなはち黑暗を破り極より極まで尋ね窮めて黑暗および死蔭の石を求む 4その穴を穿つこと深くして上に住む人と遠く

相離れ その上を歩む者まつたく之を覺えず 是のごとく
身を縋下げ 遙に人と隔りて空に懸る 5地その上は食物を
出し 其下は火に覆へさるるがごとく覆へる 6その石の中
には碧の玉のある處あり 黄金の沙またその内にあり 7そ
の逕は鷲 鳥もこれを知ず 鷹の目もこれを看ず 8鷙き獣も
未だこれを踐ず 猛き獅子も未だこれを通らず 9人堅き磐
に手を加へまた山を根より倒し 10岩に河を掘り各種の 貴
き物を目に見とめ 11水路を塞ぎて漏ざらしめ隠れたる
寶物を光明に取いだすなり 12然ながら智慧は何處よりか
覓め得ん 明哲の在る所は何處ぞや 13人その價を知ず人の
すめる地に獲べからず 14淵は言ふ我の内に在ずと 海は言
ふ我と偕ならずと 15精金も之に換るに足ず 銀も秤りてそ
の價となすを得ず 16オフルの金にてもその價を量るべか
らず 貴き青玉も碧玉もまた然り 17黄金も玻璃もこれに
並ぶ能はず 精金の器皿も之に換るに足ず 18珊瑚も水晶
も論にたらず 智慧を得るは眞珠を得るに勝る 19エテオビ
アより出る黄玉もこれに並ぶあたはず 純金をもてする
ともその價を量るべからず 20然ば智慧は何處より來るや
明哲の在る所は何處ぞや 21是は一切の生物の目に隠れ
天空の鳥にも見えず 22滅亡も死も言ふ 我等はその風聲を
耳に聞し而已 23神その道を曉り給ふ 彼その所を知りたま
ふ 24そは彼は地の極までも觀そなはし天が下を看きはめ
たまへばなり 25風にその重量を與へ 水を度りてその量を
定めたまひし時 26雨のために法を立て 雷霆の光のために
途を設けたまひし時 27智慧を見て之を顯はし之を立て 試
みたまへり 28また人に言たまはく視よ主を畏るるは是
智慧なり 惡を離るるは明哲なり

第二十九章

1ヨブまた語をつぎて曰く 2嗚呼過にし年月のごとくなら
まほし 神の我を護りたまへる日のごとくならまほし 3か
の時には彼の燈火わが首の上に輝やき彼の光明によりて
我黒暗を歩めり 4わが壯なりし日のごとくならまほし
彼時には神の恩惠わが幕屋の上にありき 5かの時には
全能者なほ我とともに在し わが子女われの周圍にありき
6乳ながれてわが足跡を洗ひ 我が傍なる磐 油を灌ぎい
だせり 7かの時には我いでて邑の門に上りゆき わが座を
街衢に設けたり 8少き者は我を見て隠れ 老たる者は起あ
がりて立ち 9牧伯たる者も言談ずしてその口に手を當て
10貴き者も聲ををさめてその舌を上顎に貼たりき 11我事
を耳に聞る者は我を幸福なりと呼び 我を目に見たる者は
わがために證據をなしぬ 12是は我助力を求むる貧しき者
を拯ひ 孤子および助くる人なき者を拯ひたればなり 13亡
びんとせし者われを祝せり 我また寡婦の心をして喜び歌
はしめたり 14われ正義を衣また正義の衣る所となれり 我
が公義は袍のごとく冠冕のごとし 15われは盲目の目とな
り跛者の足となり 16貧き者の父となり 知ざる者の訴訟の
由を究め 17惡き者の牙を折り その齒の間より獲物を取い
だせり 18我すなはち言けらく 我はわが巢に死ん 我が日
は砂の如く多からん 19わが根は水の邊に蔓り 露わが枝に
終夜おかん 20わが榮光はわが身に新なるべくわが弓はわ
が手に何時も強からんと 21人々われに聽き默して我が 教
を俟ち 22わが言し後は彼等 言を出さず 我説ところは
彼等に甘露のごとく 23かれらは我を望み待つこと雨のご
とく 口を開きて仰ぐこと春の雨のごとくなりき 24われ
彼等にむかひて笑ふとも彼等は敢て眞實とおもはず我面
の光を彼等は除くことをせざりき 25われは彼等のために
道を擇び その首として座を占め 軍中の王のごとくして
居り また哀哭者を慰さむる人のごとくなりき

第三十章

1然るに今は我よりも年少き者等われを笑ふ 彼等の父は
我が賤しめて群の犬と並べ置くことをもせざりし者なり
2またかれらの手の力もわれに何の用をかなさん 彼らは
其氣力すでに衰へたる者なり 3かれらは缺乏と饑とによ
りて痩おとろへ 荒かつ廢れたる暗き野にて乾ける地を咬
む 4すなはち灌木の中にて藜を摘み苕の根を食物となす
5彼らは人の中より逐いださる 盜賊を追ふがごとくに人
かれらを追て呼はる 6彼等は懼ろしき谷に住み 土坑およ
び磐穴に居り 7灌木の中に嘶なき 荊棘の下に偃す 8彼ら
は愚蠢なる者の子 卑むべき者の子にして國より撃いだ
さる 9しかるに今は我かれらの歌謡に成り 彼らの嘲哢と
なれり 10かれら我を厭ふて遠く我を離れ またわが面に
唾することを辭まず 11神わが繩を解て我をなやましたま
へば彼等もわが前にその轡を縦せり 12この 輩 わが右に
起あがり わが足を推のけ我にむかひて滅亡の路を築く 13
彼らは自ら便なき者なれども尚わが逕を毀ち わが滅亡を
促す 14かれらは石垣の大なる崩口より入がごとくに進
み來り 破壞の中にてわが上に乗かかり 15懼ろしき事わが
身に臨み 風のごとくに我が尊榮を吹はらふ わが福祿は

雲のごとくに消失す 16今はわが心われの衷に鎔て流れ
患難の日かたく我を執ふ 17夜にいれば我骨刺れて身を離
る わが身を噬む者つひに休むこと無し 18わが疾病の大な
る能によりてわが衣服は醜き様に變り 裏衣の襟の如くに
我身に固く附く 19神われを泥の中に投こみたまひて我は
塵灰に等しくなれり 20われ汝にむかひて呼はるに汝 答へ
たまはず 我立をるに 汝 只われをながめ居たまふ 21なん
ぢは我にむかひて無情なりたまひ 御手の能力をもて我を
攻撃たまふ 22なんぢ我を擧げ風の上に乗て負去しめ 大風
の音とともに消亡しめたまふ 23われ知る汝はわれを死に
歸らしめ一切の生物の終に集る家に歸らしめたまはん 24
かれは必ず荒垤にむかひて手を舒たまふこと有じ 假令人
滅亡に陥るとも是等の事のために號呼ぶことをせん 25 苦
みて日を送る者のために我哭ざりしや 貧しき者のために
我 心うれへざりしや 26われ吉事を望みしに凶 事きたり
光明を待しに黒暗きたれり 27わが 腸 沸かへりて安から
ず 患難の日我に追及ぬ 28われは日の光を蒙らずして哀し
みつつ歩き 公 會の中に立て助を呼もとむ 29われは山犬
の兄 弟となり 駝鳥の友となれり 30わが皮は黒くなりて
剥落ち わが骨は熱によりて焚け 31わが琴は 哀 の音とな
り わが笛は哭の聲となれり

第三十一章

1我わが目と約を立たり 何ぞ小艾を慕はんや 2然せば上よ
り神の降し給ふ分は如何なるべきぞ 高 處より全能者の
與へ給ふ業は如何なるべきぞ 3惡き人には滅亡きたらざ
らんや 善らぬ事を爲す者には常ならぬ災禍あらざらんや
4彼わが道を見そなはし わが歩履をことごとく數へたま
はざらんや 5我虚誕とつれだちて歩みし事ありや わが足
虚僞に奔從がひし事ありや 6請ふ公平き權衡をもて我を
稱れ 然ば神われの正しきを知たまはん 7わが歩履もし道
を離れ わが心もしわが目に隨がひて歩み わが手にもし
汚 のつきてあらば 8我が播たるを人食ふも善し わが產物
を根より拔るるも善し 9われもし婦人のために心まよへ
る事あるか 又は我もしわが隣の門にありて伺ひし事あら
ば 10わが妻ほかの人のために臼磨き ほかの人々かれの上
に寢るも善し 11其は是は重き罪にして裁判人に罰せらる
べき惡事なればなり 12是はすなはち滅亡にまでも燬いた
る火にしてわが一切の產をことごとく絶さん 13わが僕あ
るひは婢の我と辯 爭ひし時に我もし之が權理を輕んぜし
事あらば 14神の起あがりたまふ時には如何せんや 神の臨
みたまふ時には何と答へまつらんや 15われを胎内に造り
し者また彼をも造りたまひしならずや われらを腹の内に
形 造りたまひし者は唯 一の者ならずや 16我もし貧き者
にその願ふところを獲しめず 寡婦をしてその目おとろへ
しめし事あるか 17または我 獨みづから食物を啖ひて孤子
にこれを啖はしめざりしこと有るか 18(却つて彼らは我
が若き時より我に育てられしこと父におけるが如し 我は
胎内を出てより以來 寡を導びく事をせり) 19われ衣服な
くして死んとする者あるひは身を覆ふ物なくして居る人
を見し時に 20その腰もし我を祝せず また彼もしわが羊の
毛にて温まらざりし事あるか 21われを助くる者の門にを
るを見て我みなしごに向ひて手を上し事あるか 22然あり
しならば肩骨よりしてわが肩おち骨とはなれてわが腕折
よ 23神より出る災禍は我これを懼る その威光の前には我
能力なし 24我もし金をわが望となし 精金にむかひて汝わ
が所賴なりと言しこと有か 25我もしわが富の大なるとわ
が手に物を多く獲たることを喜びしことあるか 26われ日
の輝くを見または月の輝わたりて歩むを見し時 27心 竊
にまよひて手を口に接しことあるか 28是もまた裁判人に
罪せらるべき惡事なり 我もし斯なせし事あらば上なる神
に背しなり 29我もし我を惡む者の滅亡るを喜び 又は其
災禍に罹るによりて自ら誇りし事あるか 30 (我は之が
生命を呪ひ索めて我口に罪を犯さしめし如き事あらず)
31わが天幕の人は言ずや彼の肉に飽ざる者いづこにか在
んと 32旅人は外に宿らず わが門を我は街衢にむけて啓け
り 33我もしアダムのごとくわが罪を蔽ひ わが惡事を胸に
隱せしことあるか 34すなはち大衆を懼れ宗族の輕蔑に怖
ぢて口を閉ぢ門を出ざりしごとき事あるか 35嗚呼われの
言ところを聽わくる者あらまほし(我が花押ここに在り
願くは全能者われに答へたまへ)我を訴ふる者みづから
訴訟状を書け 36われ必らず之を肩に負ひ冠冕のごとくこ
れを首に結ばん 37我わが歩履の數を彼に述ん 君王たる者
のごとくして彼に近づかん 38わが田圃號呼りて我を攻め
その阡陌ことごとく泣さけぶあるか 39若われ金を出さず
してその產物を食ひ またはその所有主をして生命を失は
しめし事あらば 40小麥の代に蒺藜生いで 大麥のかはりに
雜草おひ出るとも善し ヨブの詞をはりぬ

第三十二章

1ヨブみづから見て己の正義とするに因て此三人の者之に答ふる事を止む 2時にラムの族ブジ人バラケルの子エリフ怒を發せり ヨブ神よりも己を正しとするに因て彼ヨブにむかひて怒を發せり 3またヨブの三人の友答ふるに詞なくして猶ヨブを罪ありとせしによりて彼らにむかひて怒を發せり 4エリフはヨブに言ふことをひかへて俟をりぬ 是は自己よりも彼等年老たればなり 5茲にエリフこの三人の口に答ふる詞の有ざるを見て怒を發せり 6ブジ人バラケルの子エリフすなはち答へて曰く 我は年少く汝等は年老たり是をもて我はばかりて我意見をなんぢらに陳ることを敢てせざりき 7我意へらく日を重ねたる者宜しく言を出すべし 年を積たる者宜しく智慧を教ふべしと 8但し人の衷には靈あり 全能者の氣息人に聰明を與ふ 9大なる人すべて智慧あるに非ず 老たる者すべて道理に明白なるに非ず 10然ば我言ふ 我に聽け 我もわが意見を陳ん 11視よ我は汝らの言語を俟ち なんぢらの辯論を聽き なんぢらが言ふべき言語を尋ね盡すを待り 12われ細に汝らに聽しが汝らの中にヨブを駁折る者一人も無く また彼の言詞に答ふる者も無し 13おそらくは汝等いはん 我ら智慧を見得たり 彼に勝つ者は唯神のみ 人は能はずと 14彼はその言語を我に向て發さざりき 我はまた汝らの言ふ所をもて彼に答へじ 15彼らは愕ろきて復答ふる所なく言語かれらの衷に浮ばず 16彼等ものいはず立とどまりて重ねて答へざればとて我あに俟をるべけんや 17我も自らわが分を答へわが意見を吐露さん 18われには言滿ち わが衷の心しきりに迫る 19わが腹は口を啓かざる酒のごとし 新しき皮囊のごとく今にも裂んとす 20われ説いだして胸を安んぜんとす われ口を啓きて答へん 21かならず我は人に偏らず 人に諂はじ 22我は諂らふことを知ず もし諂らはば我の造化主ただちに我を絶たまふべし

第三十三章

1然ばヨブよ請ふ我が言ふ事を聽け わが一切の言語に耳を傾むけよ 2視よ我口を啓き 舌を口の中に動かす 3わが言ふ所は正義き心より出づ わが唇 あきらかにその知識を陳ん 4神の靈われを造り 全能者の氣息われを活しむ 5汝 もし能せば我に答へよ わが前に言をいひつらねて立て 6我も汝とおなじく神の者なり 我もまた土より取てつくられしなり 7わが威嚴はなんぢを懼れしめず わが 勢はなんぢを壓せず 8汝わが聽くところにて言談り 我なんぢの言語の聲を聞けり云く 9われは潔淨くして愆なし 我は辜なく惡き事わが身にあらず 10視よ彼われを攻る釁隙を尋ね われを己の敵と算へ 11わが脚を桎に夾めわが一切の擧動に目を着たまふと 12視よ我なんぢに答へん なんぢ此事において正義からず 神は人よりも大なる者にいませり 13彼その凡て行なふところの理由を示したまはずとて汝 かれにむかひて辯爭そふは何ぞや 14まことに神は一度二度と告示したまふなれど人これを曉らざるなり 15人 熟睡する時または床に睡る時に夢あるひは夜の間の異象の中にて 16かれ人の耳をひらき その教ふるところを印して堅うし 17斯して人にその惡き業を離れしめ 傲慢を人の中より除き 18人の魂靈を護りて墓に至らしめず 人の生命を護りて劍にほろびざらしめたまふ 19人床にありて疼痛に攻られ その骨の中に絶ず戰鬪のあるあり 20その 氣食物を厭ひ その魂靈うまき物をも嫌ふ 21その肉は瘦おちて見えず その骨は見えざりし者までも顯露になり 22その魂靈は墓に近より その生命は滅ぼす者に近づく 23しかる時にもし彼とともに一箇の使者あり 千の中の一箇にして中保となり 正しき道を人に示さば 24神かれを憫れみて言給はん 彼を救ひて墓にくだること無らしめよ 我すでに收贖の物を得たりと 25その肉は小兒の肉よりも瑞々しくなり その若き時の形狀に歸らん 26かれ若し神に祷らば神かれを顧りみ 彼をしてその御面を喜こび見ることを得せしめたまはん 神は人の正義に報をなしたまふべし 27かれ人の前に歌ひて言ふ 我は罪を犯し正しきを枉たり 然ど報を蒙らず 28神わが魂靈を贖ひて墓に下らしめず わが生命光明を見ん 29そもそも神は是等のもろもろの事をしばしば人におこなひ 30その魂靈を墓より牽かへし生命の光明をもて彼を照したまふ 31ヨブよ耳を傾むけて我に聽け 請ふ默せよ 我かたらん 32なんぢもし言ふべきことあらば我にこたへよ 請ふ語れ 我なんぢを義とせんと慾すればなり 33もし無ば我に聽け 請ふ默せよ 我なんぢに智慧を教へん

第三十四章

1エリフまた答へて曰く 2なんぢら智慧ある者よ我 言を聽け 知識ある者よ我に耳を傾むけよ 3口の食物を味はふごとく耳は言詞を辨まふ 4われら自ら是非を究め われらもろともに善惡を明らかにせん 5それヨブは言ふ我は義し神われに正しき審判を施こしたまはず 6われは義しかれ

ども僞る者とせらる 我は愆なけれどもわが身の矢創愈がたしと 7何人かヨブのごとくならん彼は罵言を水のごとくに飲み 8惡き事を爲す者等と交はり 惡人とともに歩むなり 9すなはち彼いへらく 人は神と親しむとも身に益なしと 10然ばなんぢら心ある人々よ我に聽け 神は惡を爲すことを決めて無く 全能者は不義を行ふこと決めて無し 11却つて人の所爲をその身に報い 人をしてその行爲にしたがひて獲るところあらしめたまふ 12かならず神は惡き事をなしたまはず全能者は審判を枉たまはざるなり 13たれかこの地を彼に委ねし者あらん 誰か全世界を定めし者あらん 14神もしその心を己にのみ用ひ その靈と氣息とを己に收回したまはば 15もろもろの血肉ことごとく亡び人も亦塵にかへるべし 16なんぢもし曉ることを得ば請ふ我に聽けわが言詞の聲に耳を側だてよ 17公義を惡む者あに世ををさむるを得んや なんぢあに至義き者を惡しとすべけんや 18王たる者にむかひて汝は邪曲なりと言ひ 牧伯たる者にむかひて汝らは惡しといふべけんや 19まして君王たる者をも偏視ず貧しき者に超て富る者をかへりみるごとき事をせざる者にむかひてをや 斯爲たまふは彼等みな同じくその御手の作るところなればなり 20彼らは 瞬く時間に死に 民は夜の間に滅びて消失せ 力ある者も人手によらずして除かる 21それ神の目は人の道の上にあり 神は人の一切の歩履を見そなはす 22惡を行なふ者の身を匿すべき黑暗も無く死蔭も无し 23神は人をして審判を受しむるまでに長くその人を窺がふに及ばず 24權勢ある者をも查ぶることを須ひずして打ほろぼし他の人々を立て之に替たまふ 25かくの如く彼らの所爲を知り 夜の間に彼らを覆がへしたまへば彼らは乃て滅ぶ 26人の觀るところにて彼等を惡人のごとく擊たまふ 27是は彼ら背きて之に從はずその道を全たく顧みざるに因る 28かれら是のごとくして遂に貧しき者の號呼を彼の許に達らしめ患難者の號呼を彼に聽しむ 29かれ平安を賜ふ時には誰か惡しと言ふことをえんや 彼面をかくしたまふ時には誰かこれを見るを得んや 一國におけるも一人におけるも凡て同じ 30かくのごとく邪曲なる者をして世を治むること無らしめ 民の機檻となることなからしむ 31人は宜しく神に申すべし 我は已に懲しめられたり再度惡き事を爲じ 32わが見ざる所 は請ふ我にをしへたまへ 我もし惡き事を爲たるならば重ねて之をなさじと 33かれ豈なんぢの好むごとくに應報をなしたまはんや 然るに汝はこれを咎む 然ばなんぢ自ら之を選ぶべし 我は爲じ 汝の知るところを言へ 34心ある人々は我に言ん 我に聽ところの智慧ある人々は言ん 35ヨブの言ふ所は辨知なし その言詞は明哲からずと 36ねがはくはヨブ終まで試みられんことを其は惡き人のごとくに應答をなせばなり 37まことに彼は自己の罪に愆を加へわれらの中間にありて手を拍ちかつ言詞を繁くして神に逆らふ

第三十五章

1エリフまた答へて曰く 2なんぢは言ふ 我が義しきは神に愈れりと なんぢ之を正しとおもふや 3すなはち汝いへらく 是は我に何の益あらんや 罪を犯すに較ぶれば何の愈るところか有んと 4われ言詞をもて汝およびなんぢにそへる汝の友等に答へん 5天を仰ぎて見よ 汝の上なる高き空を望め 6なんぢ罪を犯すとも神に何の害か有ん 愆を熾んにするとも神に何を爲えんや 7汝 正義かるとも神に何を與るを得んや 神なんぢの手より何をか受たまはん 8なんぢの惡は只なんぢに同じき人を損ぜん而已 なんぢの善は只人の子を益せんのみ 9暴虐の甚だしきに因て叫び權勢ある者の腕に壓れて呼はる人々あり 10然れども一人として我を造れる神は何處にいますやといふ者なし 彼は人をして夜の中に歌を歌ふに至らしめ 11地の獸畜よりも善くわれらを教へ 空の鳥よりも我らを智からしめたまふ 12惡き者等の驕傲ぶるに因て斯のごとく人々叫べども應ふる者あらず 13虛しき語は神かならず之を聽たまはず 全能者これを顧みたまはじ 14汝は我かれを見たてまつらずと言といへども審判は神の前にあり この故に汝彼を待べきなり 15今かれ震怒をもて罰することを爲ず罪愆を深く心に留たまはざる(が如くなる)に因て 16ヨブ口を啓きて虛しき事を述べ無知の言語を繁くす

第三十六章

1エリフまた言詞を繼て曰く 2暫らく我に容せ我なんぢに示すこと有ん 尚神のために言ふべき事あればなり 3われ廣くわが知識を取り我の造化主に正義を歸せんとす 4わが言語は眞實に虛僞ならず 知識の完全き者なんぢの前にあり 5視よ神は權能ある者にましませども何をも藐視めたまはず その了知の能力は大なり 6惡しき者を生し存ず艱難者のために審判を行ひたまふ 7義しき者に目を離さず 位にある王等とともに永遠に坐せしめて之を貴くしたまふ 8もし彼ら鏈索に繫がれ 艱難の繩にかかる時は 9彼

らの所行と愆尤とを示してその驕れるを知せ 10彼らの耳を開きて教を容れしめ かつ惡を離れて歸れよと彼らに命じたまふ 11もし彼ら聽したがひて之に事へなば繁昌てその日を送り 樂しくその年を渉らん 12若かれら聽したがはずば刀劍にて亡び 知識を得ずして死なん 13しかれども心 の邪曲なる者等は忿怒を蓄はへ 神に縛しめらるるとも祈ることを爲ず 14かれらは年わかくして死亡せ 男娼とその生命をひとしうせん 15神は艱難者を艱難によりて救ひ 之が耳を虐遇によりて開きたまふ 16然ば神また汝を狹きところより出して狹からぬ廣き所に移したまふあらん 而して汝の席に陳ぬる物は凡て肥たる物ならん 17今は惡人の鞫罰なんぢの身に充り 審判と公義となんぢを執ふ 18なんぢ忿怒に誘はれて嘲笑に陷いらざるやう愼しめよ 收贖の大なるが爲に自ら誤るなかれ 19なんぢの號叫なんぢを艱難の中より出さんや 如何に力を盡すとも所益あらじ 20世の人のその處より絶る其夜を慕ふなかれ 21愼しみて惡に傾むくなかれ 汝は艱難よりも寧ろ之を取んとせり 22それ神はその權能をもて大なる事を爲したまふ 誰か能く彼のごとくに教晦を垂んや 23たれか彼のためにその道を定めし者あらんや 誰かなんぢは惡き事をなせりと言ふことを得ん 24なんぢ神の御所爲を讃歎ふることを忘れざれ これ世の人の歌ひ崇むる所なり 25人みな之を仰ぎ觀る 遠き方より人これを視たてまつるなり 26神は大なる者にいまして我儕かれを知たてまつらず その御年の數は計り知るべからず 27かれ水を細にして引あげたまへば霧の中に滴り出て雨となるに 28雲これを降せて人々の上に沛然に灌ぐなり 29たれか能く雲の舒展る所以 またその幕屋の響く所以を了知んや 30視よ彼その光明を自己の周圍に繞らし また海の底をも蔽ひたまひ 31これらをもて民を鞫き また是等をもて食物を豐饒に賜ひ 32電 光をもてその兩手を包み その電 光に命じて敵を擊しめたまふ 33その鳴聲かれを顯はし 家畜すらも彼の來ますを知らすなり

第三十七章

1之がためにわが心わななき その處を動き離る 2神の聲の響 およびその口より出る轟聲を善く聽け 3これを天が下に放ち またその電 光を地の極にまで至らせたまふ 4その後聲ありて打響き 彼威光の聲を放ちて鳴わたりたまふ その御聲聞えしむるに當りては電 光を押へおきたまはず 5神奇しくも御聲を放ちて鳴わたり 我儕の知ざる大なる事を行ひたまふ 6かれ雪にむかひて地に降れと命じたまふ 雨すなはちその權能の大雨にも亦しかり 7斯かれ一切の人の手を封じたまふ 是すべての人にその御工作を知しめんがためなり 8また獸は穴にいりてその洞に居る 9南方の密室より暴風きたり 北より寒氣きたる 10神の氣吹によりて氷いできたり 水の寬狹くせらる 11かれ水をもて雲に搭載せまた電光の雲を遠く散したまふ 12是は神の導引によりて週る 是は彼の命ずるところを盡く世界の表面に爲んがためなり 13その之を來らせたまふは或は懲罰のため あるひはその地のため 或は恩惠のためなり 14ヨブよ是を聽け 立ちて神の奇妙き工作を考がへよ 15神いかに是等に命を傳へその雲の光明をして輝やかせたまふか汝これを知るや 16なんぢ雲の平衡知識の全たき者の奇妙き工作を知るや 17南 風によりて地の穩かになる時なんぢの衣服は熱くなるなり 18なんぢ彼とともに彼の堅くして鑄たる鏡のごとくなる蒼穹を張ることを能せんや 19われらが彼に言ふべき事を我らに教へよ 我らは暗昧して言詞を列ぬること能はざるなり 20われ語ることありと彼に告ぐべけんや 人あに滅ぼさるることを望まんや 21人いまは雲霄に輝やく光明を見ること能はず 然れど風きたりて之を吹清む 22北より黄金いできたる 神には畏るべき威光あり 23全能者はわれら測りきはむることを得ず 彼は能 おほいなる者にいまし審判をも公義をも枉たまはざるなり 24この故に人々かれを畏る 彼はみづから心に有智とする者をかへりみたまはざるなり

第三十八章

1茲にヱホバ大風の中よりヨブに答へて宣まはく 2無智の言詞をもて道を暗からしむる此者は誰ぞや 3なんぢ腰ひきからげて丈夫のごとくせよ 我なんぢに問ん 汝われに答へよ 4地の基を我が置たりし時なんぢは何處にありしや 汝もし穎悟あらば言へ 5なんぢ若知んには誰が度量を定めたりしや 誰が準繩を地の上に張りたりしや 6その基は何の上に奠れたりしや その隅石は誰が置たりしや 7かの時には晨星あひともに歌ひ 神の子等みな歡びて呼はりぬ 8海の水ながれ出で 胎内より涌いでし時誰が戸をもて之を閉こめたりしや 9かの時我雲をもて之が衣服となし 黑暗をもて之が襁褓となし 10これに我法度を定め關 および門を設けて 11曰く此までは來るべし此を越べからず 汝の高浪ここに止まるべしと 12なんぢ生れし日より

以來 朝にむかひて命を下せし事ありや また黎明にその所 を知しめ 13これをして地の縁を取へて惡き者をその上より振落さしめたりしや 14地は變りて土に印したるごとくに成り 諸 の物は美はしき衣服のごとくに顯る 15また惡人はその光明を奪はれ 高く擧たる手は折らる 16なんぢ海の泉源にいたりしことありや 淵の底を歩みしことありや 17死の門なんぢのために開けたりしや 汝 死蔭の門を見たりしや 18なんぢ地の廣を看きはめしや 若これを 盡く知ば言へ 19光明の在る所に往く路は孰ぞや 黑暗の在る所 は何處ぞや 20なんぢ之をその境に導びき得るや その家の路を知るや 21なんぢ之を知ならん汝はかの時すでに生れをり また汝の經たる日の數も多ければなり 22なんぢ雪の庫にいりしや 雹の庫を見しや 23これ我が艱難の時にために蓄はへ 戰爭および戰鬪の日のために蓄はへ置くものなり 24光明の發散る道 東 風の地に吹わたる所の路は何處ぞや 25誰が大雨を灌ぐ水路を開き雷電の光の過る道を開き 26人なき地にも人なき荒野にも雨を降し 27荒かつ廢れたる處 々を潤ほし かつ若菜蔬を生出しむるや 28雨に父ありや 露の珠は誰が生る者なるや 29氷は誰が胎より出るや 空の霜は誰が產むところなるや 30水かたまりて石のごとくに成り 淵の面こほる 31なんぢ昴 宿の鏈索を結びうるや 參 宿の繫繩を解うるや 32なんぢ十二宮をその時にしたがひて引いだし得るや また北斗とその子星を導びき得るや 33なんぢ天の常經を知るや 天をして其權力を地に施こさしむるや 34なんぢ聲を雲に擧げ滂沛の水をして汝を掩はしむるを得るや 35なんぢ閃 電を遣はして往しめ なんぢに答へて我儕は此にありと言しめ得るや 36胸の中の智慧は誰が與へし者ぞ 心の内の聰明は誰が授けし者ぞ 37たれか能く智慧をもて雲を數へんや たれか能く天の瓶を傾むけ 38塵をして一塊に流れあはしめ土塊をしてあひかたまらしめんや 39なんぢ牝獅子のために食物を獵や また小獅子の食氣を滿すや 40その洞穴に伏し 森の中に隱れ伺がふ時なんぢこの事を爲うるや 41また鴉の子 神にむかひて呼はり 食物なくして徘徊る時 鴉に餌を與ふる者は誰ぞや

第三十九章

1なんぢ岩間の山羊が子を產む時をしるや また麀鹿の產に臨むを見しや 2なんぢ是等の在 胎の月を數へうるや また是等が產む時を知るや 3これらは身を鞠めて子を產みその痛苦を出す 4またその子は強くなりて野に育ち 出ゆきて再たびその親にかへらず 5誰が野驢馬を放ちて自由にせしや 誰が野驢馬の繫繩を解しや 6われ野をその家となし 荒野をその住所となせり 7是は邑の喧 鬧を賤しめ馭者の號呼を聽いれず 8山を走まはりて草を食ひ 各種の青き物を尋ぬ 9兕 肯て汝に事へ なんぢの飼草槽の 傍 にとどまらんや 10なんぢ兕に綱附て阡陌をあるかせ得んや 是あに汝にしたがひて谷に馬鉦を牽んや 11その力おほいなればとて汝これに恃まんや またなんぢの工事をこれに任せんや 12なんぢこれにたよりて己が穀物を運びかへらせ之を打禾場にあつめしめんや 13駝鳥は歡 然にその 翼を皷ふ 然どもその羽と毛とはあに鶴にしかんや 14是はその卵を土の中に棄おき これを砂の中にて暖たまらしめ 15足にてその潰さるべきと 野の獸のこれを踐むべきとを思はず 16これはその子に情なくして宛然おのれの子ならざるが如くし その劬勞の空しくなるも繫念ところ無し 17是は神これに智慧を授けず穎悟を與へざるが故なり 18その身をおこして走るにおいては馬をもその騎手をも嘲けるべし 19なんぢ馬に力を與へしや その頸に勇ましき 鬣 を粧 ひしや 20なんぢ之を蝗蟲のごとく飛しむるや その嘶なく聲の響は畏るべし 21谷を踟躕て力に誇り 自ら進みて兵士に向ふ 22懼ることを笑ひて驚ろくところ無く 劍にむかふとも退ぞかず 23矢筒その上に鳴り 鎗に矛あひきらめく 24猛りつ狂ひつ地を一呑にし 喇叭の聲鳴わたるも立どまる事なし 25喇叭の鳴ごとにハーハーと言ひ遠方より戰鬪を嗅つけ 將 帥の大聲および吶喊聲を聞しる 26鷹の飛かけり その羽翼を舒て南に向ふは豈なんぢの智慧によるならんや 27鷲の翔のぼり 高き處に巢を營むは豈なんぢの命令に依んや 28これは岩の上に住所を構へ 岩の尖所または峻險き所に居り 29其處よりして攫むべき物をうかがふ その目のおよぶところ遠し 30その子等もまた血を吸ふ 凡そ殺されし者のあるところには是そこに在り

第四十章

1ヱホバまたヨブに對へて言たまはく 2非難する者ヱホバと爭はんとするや 神と論ずる者これに答ふべし 3ヨブ是においてヱホバに答へて曰く 4嗚呼われは賤しき者なり 何となんぢに答へまつらんや 唯手をわが口に當んのみ 5われ已に一度言たり 復いはじ 已に再度せり 重ねて述じ 6是に於てヱホバまた大風の中よりヨブに應へて言たま

はく 7なんぢ腰ひきからげて丈夫のごとくせよ 我なんぢに問ん なんぢ我にこたへよ 8なんぢ我審判を廢んとするや 我を非として自身を是とせんとするや 9なんぢ神のごとき腕ありや 神のごとき聲をもて轟きわたらんや 10されば なんぢ威光と尊貴とをもて自ら飾り 榮光と華美とをもて身に纏へ 11なんぢの溢るる震怒を洩し 高ぶる者を視とめて之をことごとく卑くせよ 12すなはち高ぶる者を見てこれを盡く鞠ませ また惡人を立所に踐つけ 13これを塵の中に埋め これが面を隱れたる處に閉こめよ 14さらば我もなんぢを讃てなんぢの右の手なんぢを救ひ得ると爲ん 15今なんぢ我がなんぢとともに造りたりし河馬を視よ 是は牛のごとく草を食ふ 16觀よその力は腰にあり その勢力は腹の筋にあり 17その尾の搖く様は香柏のごとく その腿の筋は彼此に盤互ふ 18その骨は銅の管ごとくその肋骨は鐵の棒のごとし 19これは神の工の第一なる者にして之を造りし者これに劍を賦けたり 20山もこれがために食物を產出し もろもろの野獸そこに遊ぶ 21これは蓮の樹の下に臥し 葦蘆の中または沼の裏に隱れをる 22蓮の樹その蔭をもてこれを覆ひ また河の柳これを環りかこむ 23たとひ河荒くなるとも驚ろかず ヨルダンその口に注ぎかかるも惶てず 24その目の前にて誰か之を執ふるを得ん 誰か綱をその鼻に貫ぬくを得ん

第四十一章

1なんぢ鈎をもて鱷を釣いだすことを得んや その舌を糸にひきかくることを得んや 2なんぢ葦の繩をその鼻に通し また鈎をその顋に衝とほし得んや 3是あに頻になんぢに願ふことをせんや 柔かになんぢに言談んや 4あに汝と契約を爲んや なんぢこれを執て永く僕と爲しおくを得んや 5なんぢ鳥と戲むるる如くこれとたはむれ また汝の婦人等のために之を繫ぎおくを得んや 6また漁夫の社會これを商 貨と爲して商賈人の中間に分たんや 7なんぢ漁叉をもてその皮に滿し 魚矛をもてその頭を衝とほし得んや 8手をこれに下し見よ 然ばその戰鬪をおぼえて再びこれを爲ざるべし 9視よその望は虛し 之を見てすら倒るるに非ずや 10何人も之に激する勇氣あるなし 然ば誰かわが前に立うる者あらんや 11誰か先に我に與へしところありて我をして之に酬いしめんとする者あらん 普天の下にある者はことごとく我有なり 12我また彼者の肢體とその著るしき力とその美はしき身の構造とを言では措じ 13誰かその外甲を剥ん 誰かその雙鬪の間に入ん 14誰かその面の戸を開きえんや その周圍の齒は畏るべし 15その並列る鱗甲は之が誇るところ その相闔たる様は堅く封じたるがごとく 16此と彼とあひ接きて風もその中間にいるべからず 17一々あひ連なり堅く膠て離すことを得ず 18嚔すれば即はち光發す その目は曙光の眼瞼(を開く)に似たり 19その口よりは炬火いで火花發し 20その鼻の孔よりは煙いできたりて宛然葦を焚く釜のごとし 21その氣息は炭火を熱し 火燄その口より出づ 22力氣その頸に宿る 懼るる者その前に彷徨まよふ 23その肉の片は密に相連なり 堅く身に着て動かす可らず 24その心の堅硬こと石のごとく その堅硬こと下磨のごとし 25その身を興す時は勇士も戰慄き 恐怖によりて狼狽まどふ 26劍をもて之を擊とも利ず 鎗も矢も漁叉も用ふるところ無し 27是は鐵を見ること稿のごとくし 銅を見ること朽木のごとくす 28弓箭もこれを逃しむること能はず 投石機の石も稿屑と見做る 29棒も是には稿屑と見ゆ 鎗の閃めくを是は笑ふ 30その下腹には瓦礫の碎片を連ね 泥の上に麥打車を引く 31淵をして鼎のごとく沸かへらしめ 海をして香 油の釜のごとくならしめ 32己が後に光る道を遺せば淵は白髮をいただけるかと疑がはる 33地の上には是と並ぶ者なし 是は恐怖なき身に造られたり 34是は一切の高大なる者を輕視ず 誠に諸 の誇り高ぶる者の王たるなり

第四十二章

1ヨブ是に於てヱホバに答へて曰く 2我知る汝は一切の事をなすを得たまふ また如何なる意 志にても成あたはざる無し 3無知をもて道を蔽ふ者は誰ぞや 斯われは自ら了解らざる事を言ひ 自ら知ざる測り難き事を述たり 4請ふ聽たまへ 我言ふところあらん 我なんぢに問まつらん 我に答へたまへ 5われ汝の事を耳にて聞るたりしが今は目をもて汝を見たてまつる 6是をもて我みづから恨み塵灰の中にて悔ゆ 7ヱホバ是等の言語をヨブに語りたまひて後ヱホバ、テマン人エリパズに言たまひけるは我なんぢと汝の二人の友を怒る 其はなんぢらが我に關て言述べたるところはわが僕ヨブの言たることのごとく正當からざればなり 8然ば汝ら牡牛七頭 牡羊七頭を取てわが 僕ヨブに至り汝らの身のために燔祭を獻げよ わが僕ヨブなんぢらのために祈らん われかれを嘉納べければ之により て汝らの愚を罰せざらん 汝らの我について言述たるとこ

ろは我僕ヨブの言たることのごとく正當からざればなり
9是においてテマン人エリパズ、シユヒ人ビルダデ、ナア
マ人ゾパル往てヱホバの自己に宣まひしごとく爲ければ
ヱホバすなはちヨブを嘉納たまへり 10ヨブその友のため
に祈れる時 ヱホバ、ヨブの艱難をときて舊に復ししかし
てヱホバつひにヨブの所有物を二倍に増たまへり 11是に
おいて彼の諸の兄弟 諸の姉妹およびその舊相識る者等
ことごとく來りて彼とともにその家にて飮食を爲しかつ
ヱホバの彼に降したまひし一切の災難につきて彼をいた
はり慰さめ また各 金一ケセタと金の環一箇を之に贈れ
り 12ヱホバかくのごとくヨブをめぐみてその終を初より
も善したまへり 即ち彼は綿羊一萬四千匹 駱駝六千匹 牛
一千軛 牝驢馬一千匹を有り 13また男子七人 女子三人あ
りき 14かれその第一の女をエミマと名け第二をケジアと
名け 第三をケレンハツプクと名けたり 15全國の中にてヨ
ブの女子等ほど美しき婦人は見えざりき その父之にその
兄弟 等とおなじく產業をあたへたり 16この後ヨブは 百
四十年いきながらへてその子その孫と四代までを見たり
17かくヨブは年老い日滿て死たりき

詩篇

第一篇

1惡きものの謀略にあゆまず つみびとの途にたたず 嘲るものの座にすわらぬ者はさいはひなり 2かかる人はヱホバの法をよろこびて日も夜もこれをおもふ 3かかる人は水流のほとりにうゑし樹の期にいたりて實をむすび 葉もまた凋まざるごとく その作ところ皆さかえん 4あしき人はしからず 風のふきさる粃糠のごとし 5然ばあしきものは審判にたへず罪人は義きものの會にたつことを得ざるなり 6そはヱホバはただしきものの途をしりたまふ されど惡きものの途はほろびん

第二篇

1何なればもろもろの國人はさわぎたち諸民はむなしきことを謀るや 2地のもろもろの王はたちかまへ群伯はともに議り ヱホバとその受膏者とにさからひていふ 3われらその械をこぼち その繩をすてんと 4天に坐するもの笑ひたまはん 主かれらを嘲りたまふべし 5かくて主は忿恚をもてものいひ大なる怒をもてかれらを怖まどはしめて 宣給ふ 6しかれども我わが王をわがきよきシオンの山にたてたりと 7われ詔命をのべんヱホバわれに宣まへり なんぢはわが子なり今日われなんぢを生り 8われに求めよさらば汝にもろもろの國を嗣業としてあたへ地の極をなんぢの有としてあたへん 9汝くろがねの杖をもて彼等をうちやぶり陶工のうつはもののごとくに打碎かんと 10されば汝等もろもろの王よ さとかれ地の審士輩をしへをうけよ 11畏をもてヱホバにつかへ戰慄をもてよろこべ 12子にくちつけせよ おそらくはかれ怒をはなちなんぢら途にほろびんその忿恚はすみやかに燃べければなり すべてかれに依賴むものは福ひなり

第三篇

ダビデその子アブサロムを避しときのうた

1ヱホバよ我にあたする者のいかに蔓延れるや 我にさからひて起りたつもの多し 2わが霊魂をあげつらひて かれは神にすくはるることなしといふ者ぞおほき セラ 3されどヱホバよ なんぢは我をかこめる盾わが榮わが首をもたげ給ふものなり 4われ聲をあげてヱホバによばはればその聖山より我にこたへたまふ セラ 5われ臥していね また目さめたり ヱホバわれを支へたまへばなり 6われをかこみて立かまへたる千萬の人をも我はおそれじ 7ヱホバよねがはくは起たまへ わが神よわれを救ひたまへ なんぢ曩にわがすべての仇の頬骨をうち惡きものの歯ををりたまへり 8救はヱホバにあり ねがはくは恩惠なんぢの民のうへに在んことを セラ

第四篇

琴にあはせて伶長にうたはしめたるダビデの歌

1わが義をまもりたまふ神よ ねがはくはわが呼るときに答へたまへ わがなやみたる時なんぢ我をくつろがせたまへり ねがはくは我をあはれみ わが祈をききたまへ 2人の子よなんぢらわが榮をはぢしめて幾何時をへんとするかなんぢらむなしき事をこのみ虚偽をしたひていくそのときを經んとするか セラ 3然どなんぢら知れ ヱホバは神をうやまふ人をわかちて己につかしめたまひしことを われヱホバによばはらば聽たまはん 4なんぢら愼みをののきて罪ををかすなかれ 臥床にておのが心にかたりて默せセラ 5なんぢら義のそなへものを献てヱホバに依賴め 6おほくの人はいふたれか嘉事をわれらに見するものあらんやと ヱホバよねがはくは聖顔の光をわれらの上にのぼらせたまへ 7なんぢのわが心にあたへたまひし歓喜はかれらの穀物と酒との豊かなる時にまさりき 8われ安然にして臥またねぶらん ヱホバよわれを獨にて坦然にをらしむるものは汝なり

第五篇

簫にあはせて伶長にうたはしめたるダビデのうた

1ヱホバよねがはくは我がことばに耳をかたむけ わが思にみこころを注たまへ 2わが王よわが神よ わが號呼のこゑをききたまへ われ汝にいのればなり 3ヱホバよ朝になんぢわが聲をききたまはん 我あしたになんぢの爲にそなへして俟望むべし 4なんぢは惡きことをよろこびたまふ神にあらず 惡人はなんぢの賓客たるを得ざるなり 5たかぶる者はなんぢの目前にたつをえず なんぢはすべて邪曲をおこなふものを憎みたまふ 6なんぢは虚偽をいふ者を

ほろぼしたまふ 血をながすものと詭計をなすものとは ヱホバ憎みたまふなり 7然どわれは豊かなる仁 慈によりてなんぢの家にいらん われ汝をおそれつつ聖 宮にむかひて拝まん 8ヱホバよ願くはわが仇のゆゑになんぢの義をもて我をみちびき なんぢの途をわが前になほくしたまへ 9かれらの口には眞實なく その衷はよこしま その喉はあばける墓 その舌はへつらひをいへばなり 10神よねがはくはかれらを刑なひ その謀略によりてみづから仆れしめ その愆のおほきによりて之をおひいだしたまへ かれらは汝にそむきたればなり 11されど凡てなんぢに依頼む者をよろこばせ永遠によろこびよばはらせたまへ なんぢ斯る人をまもりたまふなり 名をいつくしむ者にもなんぢによりて歓喜をえしめたまへ 12ヱホバよなんぢに義 者にさいはひし盾のごとく恩恵をもて之をかこみたまはん

第六篇

八音ある琴にあはせて伶長にうたはしめたるダビデのうた

1ヱホバよねがはくは忿恚をもて我をせめ烈しき怒をもて我をこらしめたまふなかれ 2ヱホバよわれを憐みたまへ われ萎みおとろふなり ヱホバよ我を醫したまへ わが骨わななきふるふ 3わが霊魂さへも甚くふるひわななく ヱホバよかくて幾何時をへたまふや 4ヱホバよ歸りたまへ わがたましひを救ひたまへ なんぢの仁 慈の故をもて我をたすけたまへ 5そは死にありては汝をおもひいづることなし 陰府にありては誰かなんぢに感謝せん 6われ歎息にてつかれたり 我よなよな床をただよはせ涙をもてわが衾をひたせり 7わが目うれへによりておとろへ もろもろの仇ゆゑに老ぬ 8なんぢら邪曲をおこなふ者ことごとく我をはなれよ ヱホバはわが泣こゑをききたまひたり 9ヱホバわが懇求をききたまへり ヱホバわが祈をうけたまはん 10わがもろもろの仇ははぢて大におぢまどひ あわただしく恥てしりぞきぬ

第七篇

ベニヤミンの人クシの言につきダビデ、ヱホバに對ひてうたへるシガヨンの歌

1わが神ヱホバよわれ汝によりたのむ 願くはすべての逐せまるものより我をすくひ我をたすけたまへ 2おそらくはかれ獅の如くわが霊魂をかきやぶり援るものなき間にさきてずたずたに爲ん 3わが神ヱホバよ もしわれ此事をなししならんには わが手によこしまの纏りをらんには 4故なく仇ずるものをさへ助けしに禍害をもてわが友にむくいしならんには 5よし仇人わがたましひを逐とらへ わが生命をつちにふみにじりわが榮を塵におくとも その作にまかせよ セラ 6ヱホバよなんぢの怒をもて起わが仇のいきどほりにむかひて立たまへ わがために目をさましたまへ なんぢは審判をおほせ出したまへり 7もろもろの國人の會がなんぢのまはりに集はしめ 其上なる高座にかへりたまへ 8ヱホバはもろもろの民にさばきを行ひたまふ ヱホバよわが正義とわが衷なる完全とにしたがひて我をさばきたまへ 9ねがはくは惡きものの曲事をたちて義しきものを堅くしたまへ ただしき神は人のこころと腎とをさぐり知たまふ 10わが盾をとるものは心のなほきものをすくふ神なり 11神はただしき審士ひごとに忿恚をおこしたまふ神なり 12人もしかへらずば神はその劍をとぎ その弓をはりてかまへ 13これに死の器をそなへ その矢に火をそへたまはん 14視よその人はよこしまを産んとしてくるしむ 殘害をはらみ虚偽をうむなり 15また坑をほりてふかくし己がつくれるその溝におちいれり 16その殘害はおのが首にかへり その強暴はおのが頭上にくだらん 17われその義によりてヱホバに感謝し いとたかきヱホバの名をほめうたはん

第八篇

ギテトの琴にあはせて伶長にうたはしめたるダビデの歌

1われらの主ヱホバよなんぢの名は地にあまねくして 尊きかな その榮光を天におきたまへり 2なんぢは嬰兒ちのみごの口により力の基をおきて敵にそなへたまへり こは仇人とうらみを報るものを鎮靜めんがためなり 3我なんぢの指のわざなる天を觀なんぢの設けたまへる月と星とをみるに 4世人はいかなるものなればこれを聖念にとめたまふや 人の子はいかなるものなればこれを顧みたまふや 5只すこしく人を神よりも卑つくりて榮と尊貴とをかうぶらせ 6またこれに手のわざを治めしめ萬 物をその足下におきたまへり 7すべての羊うしまた野の獣 8そらの鳥うみの魚もろもろの海路をかよふものをまで皆しかなせり 9われらの主ヱホバよなんぢの名は地にあまねくして尊きかな

第九篇

ムツラベン（調子の名）にあはせて伶長にうたはしめたるダビデのうた

1われ心をつくしてヱホバに感謝し そのもろもろの奇しき事迹をのべつたへん 2われ汝によりてたのしみ且よろこばん 至上者よなんぢの名をほめうたはん 3わが仇しりぞくとき躓きたふれて御前にほろぶ 4なんぢわが義とわが訟とをまもりたまへばなり なんぢはだしき審判をしつつ寶座にすわりたまへり 5またもろもろの國をせめ惡きものをほろぼし 世々かぎりなくかれらが名をけしたまへり 6仇はたえはてて世々あれすたれたり 汝のくつがへしたまへるもろもろの邑はうせてその跡だにもなし 7ヱホバはとこしへに聖位にすわりたまふ 審判のためにその寶座をまうけたまひたり 8ヱホバは公義をもて世をさばき 直をもてもろもろの民に審判をおこなひたまはん 9ヱホバは虐げらるるものの城また難みのときの城なり 10聖名をしるものはなんぢに依賴ん そはヱホバよなんぢを尋るものの棄られしこと斷てなければなり 11シオンに住たまふヱホバに對ひてほめうたへ その事迹をもろもろの民のなかにのべつたへよ 12血を問糺したまふものは苦しむものを心にとめてその號呼をわすれたまはず 13ヱホバよ我をあはれみたまへ われを死の門よりすくひいだしたまへる者よ ねがはくは仇人のわれを難むるを視たまへ 14さらば我なんぢのすべての頌美をのぶるを得またシオンのむすめの門にてなんぢの救をよろこばん 15もろもろの國民はおのがつくれる阱におちいり そのかくしまうけたる網におのが足をとらへらる 16ヱホバは己をしらしめ審判をおこなひたまへり あしき人はおのが手のわざなる羂にかかれり ヒガイオン セラ 17あしき人は陰府にかへるべし 神をわするるもろもろの國民もまたしからん 18貧 者 はつねに忘らるるにあらず苦しむものの望はとこしへに滅ぶるにあらず 19ヱホバよ起たまへ ねがはくは勝を人にえしめたまふなかれ御前にてもろもろのくにびとに審判をうけしめたまへ 20ヱホバよ願くはかれらに懼をおこさしめたまへ もろもろの國民におのれただ人なることを知しめたまへ セラ

第十篇

1ああヱホバよ何ぞはるかに立たまふや なんぞ患難のときに匿れたまふや 2あしき人はたかぶりて苦しむものを甚だしくせむ かれらをそのくはだての謀略にとらはれしめたまへ 3あしきひとは己がこころの欲望をほこり 貪るものを祝してヱホバをかろしむ 4あしき人はほこりかにいふ 神はさぐりもとむることをせざるなりと 凡てそのおもひに神なしとせり 5かれの途はつねに堅く なんぢの審判はその眼よりはなれてたかし 彼はそのもろもろの敵をくちさきらにて吹く 6かくて己がこころの中にいふ 我うごかさるることなく世々われに禍害なかるべしと 7その口にはのろひと虚偽としへたげとみち その舌のしたには殘害とよこしまとあり 8かれは村里のかくれたる處にをり隱やかなるところにて罪なきものをころす その眼はひそかに倚仗なきものをうかがひ 9窟にをる獅のごとく潜みまち苦しむものをとらへんために伏ねらひ 貧しきものをその網にひきいれてとらふ 10また身をかがめて 蹲まるその強勁によりて依仗なきものは仆る 11かれ心のうちにいふ 神はわすれたり神はその面をかくせり神はみることなかるべしと 12ヱホバよ起たまへ 神よ手をあげたまへ 苦しむものを忘れたまふなかれ 13いかなれば惡きもの神をいやしめて 心 中になんぢ探 求むることをせじといふや 14なんぢは鑒たまへりその殘害と怨恨とを見てこれに手をくだしたまへり 倚仗なきものは身をなんぢに委ぬ なんぢは昔しより孤子をたすけたまふ者なり 15ねがはくは惡きものの臂ををりたまへあしきものの惡 事を一つだにのこらぬまでに探 究したまへ 16ヱホバはいやとほながに王なり もろもろの國民はほろびて神の國より跡をたちたり 17ヱホバよ汝はくるしむものの懇求をききたまへりその心をかたくしたまはん なんぢは耳をかたぶけてき 18孤子と虐げらる者とのために審判をなし地につける人にふたたび恐 嚇をもちひざらしめ給はん

第十一篇

うたのかみに謳はしめたるダビデのうた

1われヱホバに依賴めり なんぢら何ぞわが霊魂にむかひて鳥のごとくなんぢの山にのがれよといふや 2視よあしきものは暗處にかくれ心なほきものを射んとて弓をはり絃に矢をつがふ 3基みなやぶれたらんには義 者なにをなさんや 4ヱホバはその聖 宮にいます ヱホバの寶座は天にありその目はひとのこを鑒 その眼瞼はかれらをこころみたまふ 5ヱホバは義 者をこころむ そのみこころは惡きものと強暴をこのむ者とをにくみ 6羂をあしきもののうへに降したまはん火と硫磺ともゆる風とはかれらの酒杯にうくべきものなり 7ヱホバはただしき者にして義きことを愛したまへばなり 直きものはその聖顔をあふぎみん

第十二篇

八音にあはせて伶長にうたはしめたるダビデのうた

1ああヱホバよ助けたまへ そは神をうやまふ人はたえ誠あるものは人の子のなかより消失るなり 2人はみな虚偽をもてその隣とあひかたり滑なるくちびると貳心とをもてものいふ 3ヱホバはすべての滑なるくちびると大なる言をかたる舌とをほろぼし給はん 4かれらはいふ われら舌をもて勝をえん この口唇はわがものなり誰かわれらに主たらんやと 5ヱホバのたまはく 苦しむもの掠められ貧しきもの歎くがゆゑに我いま起てこれをその慕ひもとむる平安におかん 6ヱホバの言はきよきことばなり 地にまうけたる爐にてねり七次きよめたる白銀のごとし 7ヱホバよ汝はかれらをまもり之をたすけてとこしへにこの類より免れしめたまはん 8人の子のなかに穢しきことの崇められるるときは悪者ここやかしこにあるくなり

第十三篇

伶長にうたはしめたるダビデのうた

1ああヱホバよ かくて幾何時をへたまふや 汝とこしへに我をわすれたまふや 聖顔をかくしていくそのときを歴たまふや 2われ心のうちに終日かなしみをいだき 籌 晝をたましひに用ひて幾何時をふべきか わが仇はわがうへに崇められて幾何時をふべきか 3わが神ヱホバよ我をかへりみて答をなしたまへ わが目をあきらかにしたまへ 恐らくはわれ死の睡につかん 4おそらくはわが仇いはん 我かれに勝りと おそらくはわが敵わがうごかさるるによりて喜ばん 5されど我はなんぢの憐憫によりたのみ わが心はなんぢの救によりてよろこばん 6ヱホバはゆたかに我をあしらひたまひたれば われヱホバに對ひてうたはん

第十四篇

うたのかみに謳はしめたるダビデのうた

1愚なるものは心のうちに神なしといへり かれらは腐れたり かれらは憎むべき事をなせり 善をおこなふ者なし 2ヱホバ天より人の子をのぞみみて悟るもの神をたづぬる者ありやと見たまひしに 3みな逆きいでてことごとく腐れたり 善をなすものなし一人だになし 4不義をおこなふ者はみな智覺なきか かれらは物くふごとくわが民をくらひ またヱホバをよぶことをせざるなり 5視よかかる時かれらは大におそれたり 神はただしきものの類のなかに在せばなり 6なんぢらは苦しめるものの謀略をあなどり辱かしむ されどヱホバはその避所なり 7ねがはくはシオンよりイスラエルの救のいでんことを ヱホバその民のとらはれたるを返したまふときヤコブはよろこびイスラエルは樂まん

第十五篇

ダビデのうた

1ヱホバよなんぢの帷幄のうちにやどらん者はたれぞ なんぢの聖山にすまはんものは誰ぞ 2直くあゆみ義をおこなひ そのこころに眞實をいふものぞその人なる 3かかる人は舌をもてそしらず その友をそこなはず またその 隣をはぢしむる言をあげもちひず 4惡にしづめるものを見ていとひかろしめ ヱホバをおそるるものをたふとび 誓ひしことはおのれに禍害となるも變ることなし 5貨をかして過たる利をむさぼらず 賄賂をいれて無 辜をそこなはざるなり 斯ることどもを行ふものは永遠にうごかさるることなかるべし

第十六篇

ダビデがミクタムの歌

1神よねがはくは我を護りたまへ 我なんぢに依賴む 2われヱホバにいへらくなんぢはわが主なり なんぢのほかにわが福祉はなしと 3地にある聖徒はわが極めてよろこぶ勝れしものなり 4ヱホバにかへて他神をとるものの悲哀はいやまさん 我かれらがささぐる血の御酒をそそがず その名を口にとなふることをせじ 5ヱホバはわが嗣業またわが酒杯にうくべき有なり なんぢはわが所領をまもりたまはん 6準繩はわがために樂しき地におちたり 宜われよき嗣業をえたるかな 7われは訓諭をさづけたまふヱホバをほめまつらん 夜はわが心われををしふ 8われ常にヱホバをわが前におけり ヱホバわが右にいませばわれ動かさるることなかるべし 9このゆゑにわが心はたのしみ わが榮はよろこぶ わが身もまた平安にをらん 10そは汝わがたましひを陰府にすておきたまはず なんぢの聖者を墓のなかに朽しめたまはざる可ればなり 11なんぢ生命の道をわれに示したまはん なんぢの前には充足るよろこびありなんぢの右にはもろもろの快樂とこしへにあり

第十七篇

ダビデの祈祷

1ああヱホバよ公義をききたまへ わが哭聲にみこころをとめたまへ いつはりなき口唇よりいづる我がいのりに耳をかたぶけたまへ 2ねがはくはわが宣告みまへよりいでてなんぢの目公平をみたまはんことを 3なんぢわが心をこころみ また夜われにのぞみたまへり 斯てわれを糺したまへど我になにの惡 念あるをも見出たまはざりき わが口はつみを犯すことなからん 4人の行爲のことをいはば我なんぢのくちびるの言によりて暴るものの途をさけたり 5わが歩はかたくなんぢの途にたちわが足はよろめくことなかりき 6神よなんぢ我にこたへたまふ 我なんぢをよべり ねがはくは汝の耳をかたぶけてわが陳るところをききたまへ 7なんぢに依賴むものを右手をもて仇するものより救ひたまふ者よ ねがはくはなんぢの妙なる仁慈をあらはしたまへ 8願くはわれを瞳のごとくにまもり汝のつばさの蔭にかくし 9我をなやむるあしき者また我をかこみてわが命をそこなはんとする仇よりのがれしめ給へ 10かれらはおのが心をふさぎ その口をもて誇かにものいへり 11いづこにまれ往ところにてわれらを打圍みわれらを地にたふさんと目をとむ 12かれは抓裂んといらだつ獅のごとく隱やかなるところに潛みまつ壯獅のごとし 13ヱホバよ起たまへ ねがはくはかれに立對ひてこれをたふし御劍をもて惡きものよりわが靈魂をすくひたまへ 14ヱホバよ手をもて人より我をたすけいだしたまへ おのがうくべき有をこの世にてうけ 汝のたからにてその腹をみたさるる世人より我をたすけいだし給へ かれらはおほくの子にあきたり その富ををさなごに遺す 15されどわれは義にありて聖顏をみ目さむるとき容光をもて飽足ることをえん

第十八篇

伶長にうたはしめたるヱホバの僕ダビデの歌、このうたの詞はもろもろの仇およびサウルの手より救れしときヱホバに對ひてうたへるなり 云く

1ヱホバわれの力よ われ切になんぢを愛しむ 2ヱホバはわが巖 わが城 われをすくふ者 わがよりたのむ神 わが堅固なるいはほ わが盾 わがすくひの角 わがたかき櫓なり 3われ讃稱ふべきヱホバをよびて仇人よりすくはるることをえん 4死のつな我をめぐり惡のみなぎる流われをおそれしめたり 5陰間のなは我をかこみ死のわな我にたちむかへり 6われ窮苦のうちにありてヱホバをよび又わが神にさけびたり ヱホバはその宮よりわが聲をききたまふ その前にてわがよびし聲はその耳にいれり 7このときヱホバ怒りたまひたれば地はふるひうごき山の基はゆるぎうごきたり 8烟その鼻よりたち火その口よりいでてやきつくし炭はこれがために燃あがれり 9ヱホバは天をたれて臨りたまふ その足の下はくらきこと甚だし 10かくてケルブに乘りてとび風のつばさにて翔り 11闇をおほひとなし水のくらきとそらの密雲とをそのまはりの幕となしたまへり 12そのみまへの光輝よりくろくもをへて雹ともえたる炭とふりきたれり 13ヱホバは天に雷鳴をとどろかせたまへり 至上者のこゑいでて雹ともえたる炭とふりきたり 14ヱホバ矢をとばせてかれらを打ちらし數しげき電光をはなちてかれらをうち敗りたまへり 15ヱホバよ斯るときになんぢの叱咤となんぢの鼻のいぶきとによりて水の底みえ地の基あらはれいでたり 16ヱホバはたかきより手をのべ我をとりて大水よりひきあげ 17わがつよき仇とわれを憎むものとより我をたすけいだしたまへり かれらは我にまさりて最強かりき 18かれらはわが災害の日にせまりきたれり 然どヱホバはわが支柱となりたまひき 19ヱホバはわれを悦びたまふがゆゑにわれをたづさへ廣處にだして助けたまへり 20ヱホバはわが正義にしたがひて恩賜をたまひ わが手のきよきにしたがひて報賞をたれたまへり 21われヱホバの道をまもり惡をなしてわが神よりはなれしことなければなり 22そのすべての審判はわがまへにありて われその律法をすてしことなければなり 23われ神にむかひて缺るところなく己をまもりて不義をはなれたり 24この故にヱホバはわがただしきとその目前にわが手のきよきとにしたがひて我にむくいをなし給へり 25なんぢ憐憫あるものには憐みあるものとなり完全ものには全きものとなり 26きよきものには潔きものとなり僻むものにはひがむ者となりたまふ 27そは汝くるしめる民をすくひたまへど高ぶる目をひくくしたまふ可ればなり 28なんぢわが燈火をともし給ふべければなり わが神ヱホバわが暗をてらしたまはん 29我なんぢによりて軍の中をはせとほり わが神によりて垣ををどりこゆ 30神はしもその途またくヱホバの言はきよし ヱホバはすべて依賴むものの盾なり 31そはヱホバのほかに神はたれぞや われらの神のほかに巖はたれぞや 32神はちからをわれに帶しめ わが途を全きものとなしたまふ 33神はわが足を麀のあしのごとくし我をわが高 處にたたせたまふ 34神はわが手を

たたかひにならはせてわが臂に銅弓をひくことを得しめたまふ 35 又なんぢの救の盾をわれにあたへたまへり なんぢの右手われをささへなんぢの謙卑われを大ならしめたまへり 36 なんぢわが歩むところを寛濶ならしめたまひたれば わが足ふるはざりき 37 われ仇をおひてこれに追及かれらのほろぶるまでは歸ることをせじ 38 われかれらを撃てたつことを得ざらしめん かれらはわが足の下にたふるべし 39 そはなんぢ戰爭のために力をわれに帶しめ われにさからひておこりたつ者をわが下にかがませたまひたればなり 40 我をにくむ者をわが滅しえんがために汝またわが仇の背をわれにむけしめ給へり 41 かれら叫びたれども救ふものなく ヱホバに對ひてさけびたれども答へたまはざりき 42 我かれらを風のまへの塵のごとくに搗碎き ちまたの埿のごとくに打棄たり 43 なんぢわれを民のあらそひより助けいだし我をたててもろもろの國の長となしたまへり わがしらざる民われにつかへん 44 かれらわが事をききて立刻われにしたがひ異邦人はきたりて佞りつかへん 45 ことくにびとは衰へてその城よりをののきいでん 46 ヱホバは活ていませり わが磐はほむべきかな わがすくひの神はあがむべきかな 47 わがために讎をむくい異邦人をわれに服はせたまふはこの神なり 48 神はわれを仇よりすくひたまふ實になんぢは我にさからひて起りたつ者のうへに我をあげ あらぶる人より我をたすけいだし給ふ 49 この故にヱホバよ われもろもろの國人のなかにてなんぢに感謝し なんぢの名をほめうたはん 50 ヱホバはおほいなる救 をその王にあたへ その受膏者ダビデとその裔とに世々かぎりなく憐憫をたれたまふ

第十九篇

うたのかみに謳はしめたるダビデのうた

1 もろもろの天は神のえいくわうをあらはし 穹蒼はその手のわざをしめす 2 この日ことばをかの日につたへこの夜知識をかの夜におくる 3 語らずいはずその聲きこえざるに 4 そのひびきは全地にあまねく そのことばは地のはてにまでおよぶ 神はかしこに帷幄を日のためにまうけたまへり 5 日は新婿がいはひの殿をいづるごとく勇士がきそひはしるをよろこぶに似たり 6 そのいでたつや天の涯よりし その運りゆくや天のはてにいたる 物としてその和煦をかうぶらざるはなし 7 ヱホバの法はまたくして靈魂をいきかへらしめ ヱホバの證詞はかたくして愚なるものを智からしむ 8 ヱホバの訓諭はなほくして心をよろこばしめ ヱホバの誡命はきよくして眼をあきらかならしむ 9 ヱホバを惶みおそるる道はきよくして世々にたゆることなく ヱホバのさばきは眞實にしてことごとく正し 10 これを黄金にくらぶるもおほくの純 精 金にくらぶるも彌増りてしたふべく これを蜜にくらぶるも蜂のすの滴瀝にくらぶるもいやまさりて甘し 11 なんぢの僕はこれらによりて儆戒をうく これらをまもらば大なる報賞あらん 12 たれかおのれの過失をしりえんや ねがはくは我をかくれたる愆より解放ちたまへ 13 願くはなんぢの僕をひきとめて故意なる罪ををかさしめず それをわが主たらしめ給ふなかれ さればわれ玷なきものとなりて大なる愆をまぬかるるをえん 14 ヱホバわが磐わが贖 主よ わがくちの言わがこころの思念なんぢのまへに悦ばるることを得しめたまへ

第二十篇

伶長にうたはしめたるダビデのうた

1 ねがはくはヱホバなやみの日になんぢにこたへヤユブのかみの名なんぢを高にあげ 2 聖所より援助をなんぢにおくりシオンより能力をなんぢにあたへ 3 汝のもろもろの献 物をみこころにとめ なんぢの燔祭をうけたまはんことを セラ 4 ねがはくはなんちがこころの願望をゆるしなんぢの謀略をことごとく遂しめたまはんことを 5 我儕なんぢの救によりて歓びうたひ われらの神の名によりて旗をたてん ねがはくはヱホバ汝のもろもろの求をとげしめたまはんことを 6 われ今ヱホバその受膏者をすくひたまふを知る ヱホバそのきよき天より右手なるすくひの力にてかれに應へたまはん 7 あるひは車をたのみあるひは馬をたのみとする者あり されどわれらはわが神ヱホバの名をとなへん 8 かれらは屈みまた仆るわれらは起てかたくたてり 9 ヱホバよ王をすくひたまへ われらがよぶとき應へたまへ

第二十一篇

伶長にうたはしめたるダビデのうた

1 ヱホバよ王はなんぢの力によりてたのしみ汝のすくひによりて奈何におほいなる歓喜をなさん 2 なんぢ彼がこころの願望をゆるし そのくちびるの求をいなみ給はざりき セラ 3 そはよきたまものの恵をもてかれを迎へ まじりなきこがねの冕弁をもてかれの首にいただかせ給ひたり

4かれ生命をもとめしに汝これをあたへてその齢の日を
世々かぎりなからしめ給へり 5なんぢの救によりてその
榮光おほいなり なんぢは尊貴と稜威とをかれに衣せた
まふ 6そは之をとこしへに福ひなるものとなし聖顔のま
への歓喜をもて樂しませたまへばなり 7王はヱホバに
依頼み いとたかき者のいつくしみを蒙るがゆゑに動かさ
るることなからん 8なんぢの手はそのもろもろの仇をた
づねいだし 汝のみぎの手はおのれを憎むものを探ねいだ
すべし 9なんぢ怒るときは彼等をもゆる爐のごとくにせ
んヱホバはげしき怒によりてかれらを呑たまはん 火はか
れらを食つくさん 10汝かれらの裔を地よりほろぼし かれ
らの種を人の子のなかよりほろぼさん 11かれらは汝にむ
かひて悪事をくはだて遂がたき謀略をおもひまはせば
なり 12汝かれらをして背をむけしめ その面にむかひて
弓絃をひかん 13ヱホバよ能力をあらはしてみづからを高
くしたまへ 我儕はなんぢの稜威をうたひ且ほめたたへん

第二十二篇

あけぼのの鹿の調にあはせて伶長にうたはしめたるダビデの歌

1わが神わが神なんぞ我をすてたまふや 何なれば遠くは
なれて我をすくはず わが歎きのこゑをきき給はざるか 2
ああわが神われ晝よばはれども汝こたへたまはず 夜よば
はれどもわれ平安をえず 3然はあれイスラエルの讃美の
なかに住たまふものよ汝はきよし 4われらの列祖はなん
ぢに依頼めり かれら依頼みたればこれを助けたまへり 5
かれら汝をよびて援をえ汝によりたのみて恥をおへるこ
となかりき 6然はあれどわれは蟲にして人にあらず 世に
そしられ民にいやしめらる 7すべてわれを見るものはわ
れをあざみわらひ 口唇をそらし首をふりていふ 8かれは
ヱホバによりたのめりヱホバ助くべし ヱホバかれを悦び
たまふが故にたすくべしと 9されど汝はわれを胎内より
いだし給へるものなり わが母のふところにありしとき既
になんぢに依頼ましめたまへり 10我うまれいでしより汝
にゆだねられたり わが母われを生しときより汝はわが神
なり 11われに遠ざかりたまふなかれ 患難ちかづき又すく
ふものなければなり 12おほくの牡牛われをめぐりバサン
の力つよき牡牛われをかこめり 13かれらは口をあけて我
にむかひ物をかきさき吼うだく獅のごとし 14われ水のご
とくそそぎいだされ わがもろもろの骨ははづれ わが心
は蝋のごとくなりて腹のうちに鎔たり 15わが力はかわき
て陶器のくだけのごとく わが舌は齶にひたつけり なん
ぢわれを死の塵にふさせたまへり 16そは犬われをめぐり
悪きものの群われをかこみてわが手およびわが足をさし
つらぬけり 17わが骨はことごとく數ふるばかりになりぬ
悪きものの目をとめて我をみる 18かれらたがひにわが衣
をわかち我がしたぎを鬮にす 19ヱホバよ遠くはなれ居た
まふなかれ わが力よねがはくは速きたりてわれを授けた
まへ 20わがたましひを劍より助けいだし わが生命を犬の
たけきいきほひより脱れしめたまへ 21われを獅の口また
野牛のつのより救ひいだしたまへ なんぢ我にこたへたま
へり 22われなんぢの名をわが兄弟にのべつたへ なんぢを
會のなかにて讃たたへん 23ヱホバを懼るるものよヱホバ
をほめたたへよ ヤコブのもろもろの裔よヱホバをあがめ
よ イスラエルのもろもろのすゑよヱホバを畏め 24ヱホバ
はなやむものの辛苦をかろしめ棄たまはず これに聖顔を
おほふことなくしてその叫ぶときにききたまへばなり 25
大なる會のなかにてわが汝をほめたたふるは汝よりいづ
るなり わが誓ひしことはヱホバをおそるる者のまへにて
ことごとく償はん 26謙遜者はくらひて飽ことをえ ヱホ
バをたづねもとむるものはヱホバをほめたたへん 願くは
なんぢらの心とこしへに生んことを 27地のはては皆おも
ひいだしてヱホバに歸りもろもろの國の族はみな前にふ
しをがむべし 28國はヱホバのものなればなり ヱホバはも
ろもろの國人をすべをさめたまふ 29地のこえたるものは
皆くらひてヱホバををがみ塵にくだるものと己がたまし
ひを存ふること能はざるものと皆そのみまへに拝跪かん
30たみの裔のうちにヱホバにつかる者あらん 主のことは
代々にかたりつたへらるべし 31かれら來りて此はヱホバ
の行爲なりとてその義を後にうまるる民にのべつたへん

第二十三篇

ダビデのうた

1ヱホバは我が牧者なり われ乏しきことあらじ 2ヱホバは
我をみどりの野にふさせ いこひの水濱にともなひたまふ
3ヱホバはわが霊魂をいかし名のゆゑをもて我をただし
き路にみちびき給ふ 4たとひわれ死のかげの谷をあゆむ
とも禍害をおそれじ なんぢ我とともに在せばなり なん
ぢの笞なんぢの杖われを慰む 5なんぢわが仇のまへに我
がために筵をまうけ わが首にあぶらをそそぎたまふ わ
が酒杯はあふるるなり 6わが世にあらん限りはかならず

恩惠と憐憫とわれにそひきたらん 我はとこしへにヱホバの宮にすまん

第二十四篇

ダビデのうた

1地とそれに充るもの世界とその中にすむものとは皆ヱホバのものなり 2ヱホバはそのもとゐを大海のうへに置これを大川のうへに定めたまへり 3ヱホバの山にのぼるべきものは誰ぞ その聖所にたつべき者はたれぞ 4手きよく心いさぎよき者そのたましひ虚きことを仰ぎのぞまず偽りの誓をせざるものぞ その人なる 5かかる人はヱホバより福祉をうけ そのすくひの神より義をうけん 6斯のごとき者は神をしたふものの族類なり ヤコブの神よなんぢの聖顔をもとむる者なり セラ 7門よなんぢらの首をあげよ とこしへの戸よあがれ 榮光の王いりたまはん 8えいくわうの王はたれなるか ちからをもちたまふ猛きヱホバなり 戰闘にたけきヱホバなり 9門よなんぢらの首をあげよ とこしへの戸よあがれ 榮光の王いりたまはん 10この榮光の王はたれなるか 萬軍のヱホバ是ぞえいくわうの王なる セラ

第二十五篇

ダビデのうた

1ああヱホバよ わがたましひは汝をあふぎ望む 2わが神よわれなんぢに依賴めり ねがはくはわれに愧をおはしめたまふなかれ わが仇のわれに勝誇ることなからしめたまへ 3實になんぢを俟望むものははぢしめられず 故なくして信をうしなふものは愧をうけん 4ヱホバよなんぢの大路をわれにしめし なんぢの徑をわれにをしへたまへ 5我をなんぢの眞理にみちびき我ををしへたまへ 汝はわがすくひの神なり われ終日なんぢを俟望む 6なんぢのあはれみと仁慈とはいにしへより絶ずあり ヱホバよこれを思ひいだしたまへ 7わがわかきときの罪とわが愆とはおもひいでたまふなかれ ヱホバよ汝のめぐみの故になんぢの仁慈にしたがひて我をおもひいでたまへ 8ヱホバはめぐみ深くして直くましませり 斯るがゆゑに道をつみびとにをしへ 9謙だるものを正義にみちびきたまはん その道をへりくだる者にしめしたまはん 10ヱホバのもろもろの道はそのけいやくと證詞とをまもるものには仁慈なり眞理なり 11わが不義はおほいなり ヱホバよ名のために之をゆるしたまへ 12ヱホバをおそるる者はたれなるか 之にそのえらぶべき道をしめしたまはん 13かかる人のたましひは平安にすまひ その裔はくにをつぐべし 14ヱホバの親愛はヱホバをおそるる者とともにあり ヱホバはその契約をかれらに示したまはん 15わが目はつねにヱホバにむかふ ヱホバわがあしを網よりとりいだしたまふ可ればなり 16ねがはくは歸りきたりて我をあはれみたまへ われ獨わびしくまた苦しみをるなり 17願くはわが心のうれへをゆるめ我をわざはひより脱かれしめたまへ 18わが患難わが辛苦をかへりみ わがすべての罪をゆるしたまへ 19わが仇をみたまへ かれらの數はおほし情なき憾をもてわれをにくめり 20わがたましひをまもり我をたすけたまへ われに愧をおはしめたまふなかれ 我なんぢに依賴めばなり 21われなんぢを挨望むねがはくは完全と正直とわれをまもれかし 22神よすべての憂よりイスラエルを贖ひいだしたまへ

第二十六篇

ダビデの歌

1ヱホバよねがはくはわれを鞫きたまへわれわが完全によりてあゆみたり 然のみならず我たゆたはずヱホバに依賴めり 2ヱホバよわれを糺しまた試みたまへ わが腎とこころとを錬きよめたまへ 3そは汝のいつくしみわが眼前にあり 我はなんぢの眞理によりてあゆめり 4われは虚しき人とともに座らざりき 惡をいつはりかざる者とともにはゆかじ 5惡をなすものの會をにくみ惡者とともにすわることをせじ 6われ手をあらひて罪なきをあらはすヱホバよ斯てなんぢの祭壇をめぐり 7感謝のこゑを聞えしめ すべてなんぢの奇しき事をのべつたへん 8ヱホバよ我なんぢのまします家となんぢが榮光のとどまる處とをいつくしむ 9願くはわがたましひを罪人とともに わが生命を血をながす者とともに取收めたまふなかれ 10かかる人の手にはあしきくはだてあり その右の手は賄賂にてみつ 11されどわれはわが完全によりてあゆまん願くはわれをあがなひ我をあはれみたまへ 12わがあしは平坦なるところにたつ われもろもろの會のなかにてヱホバを讃まつらん

第二十七篇

ダビデの歌

1ヱホバはわが光わが救なり われ誰をかおそれん ヱホバはわが生命のちからなり わが懼るべきものはたれぞや 2われの敵われの仇なるあしきもの襲ひきたりてわが肉を

くらはんとせしが蹶きかつ仆れたり 3縦ひいくさびと營をつらねて我をせむるともわが心おそれじ たとひ戰ひおこりて我をせむるとも我になほ恃あり 4われ一 事をヱホバにこへり我これをもとむ われヱホバの美しきを仰ぎその宮をみんがためにわが世にあらん限りはヱホバの家にすまんとこそ願ふなれ 5ヱホバはなやみの日にその行宮のうちに我をひそませその幕屋のおくにわれをかくし 巖のうへに我をたかく置たまふべければなり 6今わが首はわれをめぐれる仇のうへに高くあげらるべし この故にわれヱホバのまくやにて歓喜のそなへものを献ん われうたひてヱホバをほめたたへん 7わが聲をあげてさけぶときヱホバよきき給へ また憐みてわれに應へたまへ 8なんぢらわが面をたづねもとめよと(斯る聖言のありしとき)わが心なんぢにむかひてヱホバよ我なんぢの聖顔をたづねんといへり 9ねがはくは聖顔をかくしたまふなかれ 怒りてなんぢの僕をとほざけたまふなかれ汝はわれの助なり 噫わがすくひの神よ われをおひいだし我をすてたまふなかれ 10わが父母われをすつるともヱホバわれを迎へたまはん 11ヱホバよなんぢの途をわれにをしへ わが仇のゆゑに我をたひらかなる途にみちびきたまへ 12いつはりの 證をなすもの暴厲を吐もの我にさからひて起りたてり 願くはわれを仇にわたしてその心のままに爲しめたまふなかれ 13われもしヱホバの恩 寵をいけるものの地にて見るの侍 なからましかば奈何ぞや 14ヱホバを俟望ぞめ雄々しかれ汝のこころを堅うせよ 必ずやヱホバをまちのぞめ

第二十八篇

ダビデの歌

1ああヱホバよわれ汝をよばん わが磐よねがはくは我にむかひて暗唖となりたまふなかれ なんぢ默したまはば恐らくはわれ墓にいるものとひとしからん 2われ汝にむかひてさけび聖所の奥にむかひて手をあぐるときわが懇求のこゑをききたまへ 3あしき人また邪曲をおこなふ者とともに我をとらへてひきゆき給ふなかれ かれらはその隣にやはらぎをかたれども心には殘害をいだけり 4その事にしたがひそのなす惡にしたがひて彼等にあたへ その手の行爲にしたがひて與へこれにその受べきものを報いたまへ 5かれらはヱホバのもろもろの事とその手のなしわざとをかへりみず この故にヱホバかれらを毀ちて建たまふことなからん 6ヱホバは讃べきかな わが祈のこゑをききたまひたり 7ヱホバはわが力わが盾なり わがこころこれに依頼みたれば我たすけをえたり 然るゆゑにわが心 いたくよろこぶ われ歌をもてほめまつらん 8ヱホバはその民のちからなり その受膏者のすくひの城なり 9なんぢの民をすくひなんぢの嗣業をさきはひ且これをやしなひ之をとこしなへに懐きたすけたまへ

第二十九篇

ダビデの歌

1なんぢら神の子らよ ヱホバに獻げまつれ榮と能とをヱホバにささげまつれ 2その名にふさはしき榮光をヱホバにささげ奉れ きよき衣をつけてヱホバを拝みまつれ 3ヱホバのみこゑは水のうへにあり えいくわうの神は雷をとどろかせたまふ ヱホバは大水のうへにいませり 4ヱホバの聲はちからあり ヱホバのみこゑは稜威あり 5ヱホバのみこゑは香柏ををりくだく ヱホバ、レバノンのかうはくを折くだきたまふ 6これを犢のごとくをどらせレバノンとシリオンとをわかき野牛のごとくをどらせたまふ 7ヱホバのみこゑは火焔をわかつ 8ヱホバのみこゑは野をふるはせヱホバはカデシの野をふるはせたまふ 9ヱホバのみこゑは鹿に子をうませ また林木をはだかにす その宮にあるすべてのもの呼はりて榮光なるかなといふ 10ヱホバは洪水のうへに坐したまへり ヱホバは寶座にざして永遠に王なり 11ヱホバはその民にちからをあたへたまふ 平安をもてその民をさきはひたまはん

第三十篇

殿をささぐるときに謳へるダビデのうた

1ヱホバよわれ汝をあがめん なんぢ我をおこしてわが仇のわがことによりて喜ぶをゆるし給はざればなり 2わが神ヱホバよわれ汝によばはれば汝 我をいやしたまへり 3ヱホバよ汝わがたましひを陰府よりあげ我をながらへしめて墓にくだらせたまはざりき 4ヱホバの聖徒よ ヱホバをほめうたへ奉れ きよき名に感謝せよ 5その怒はただしばしにてその恵はいのちとともにながし 夜はよもすがら泣かなしむとも朝にはよろこびうたはん 6われ安けかりしときに謂く とこしへに動かさるることなからんと 7ヱホバよなんぢ恵をもてわが山をかたく立せたまひき 然はあれどなんぢ面をかくしたまひたれば我おぢまどひたり 8ヱホバよわれ汝によばはれり 我ひたすらヱホバにねがへり 9われ墓にくだらばわが血なにの益あらん 塵はなん

ぢを讃たたへんや なんぢの眞理をのべつたへんや 10ヱホバよ聽たまへ われを憐みたまへ ヱホバよ願くはわが助となりたまへ 11なんぢ踴躍をもてわが哀哭にかへわが麁服をとき歡喜をもてわが帶としたまへり 12われ榮をもてほめうたひつつ默すことなからんためなり わが神ヱホバよわれ永遠になんぢに感謝せん

第三十一篇

伶長にうたはしめたるダビデのうた

1ヱホバよわれ汝によりたのむ 願くはいづれの日までも愧をおはしめたまふなかれ なんぢの義をもてわれを助けたまへ 2なんぢの耳をかたぶけて速かにわれをすくひたまへ 願くはわがためにかたき磐となり我をすくふ保障の家となりたまへ 3なんぢはわが磐わが城なり されば名のゆゑをもてわれを引われを導きたまへ 4なんぢ我をかれらが密かにまうけたる網よりひきいだしたまへ なんぢはわが保砦なり 5われ霊魂をなんぢの手にゆだぬ ヱホバまことの神よなんぢはわれを贖ひたまへり 6われはいつはりの虚きことに心をよする者をにくむ われは獨ヱホバによりたのむなり 7我はなんぢの憐憫をよろこびたのしまん なんぢわが艱難をかへりみ わがたましひの禍害をしり 8われを仇の手にとぢこめしめたまはず わが足をひろきところに立たまへばなり 9われ迫りくるしめり ヱホバよ我をあはれみたまへ わが目はうれひによりておとろふ霊魂も身もまた衰へぬ 10わが生命はかなしみによりて消えゆき わが年華はなげきによりて消ゆけばなり わが力はわが不義によりておとろへ わが骨はかれはてたり 11われもろもろの仇ゆゑにそしらる わが隣にはわけて甚だし相識ものには忌憚られ衢にてわれを見るもの避てのがる 12われは死たるもののごとく忘られて人のこころに置れず われはやぶれたる器もののごとくなれり 13そは我おほくの人のそしりをきい到るところに懼あり かれら我にさからひて互にはかりしが わが生命をさへとらんと企てたり 14されどヱホバよわれ汝によりたのめり また汝はわが神なりといへり 15わが時はすべてなんぢの手にあり ねがはくはわれを仇の手よりたすけ われに追迫るものより助けいだしたまへ 16なんぢの僕のうへに聖顔をかがやかせなんぢの仁慈をもて我をすくひたまへ 17ヱホバよわれに愧をおはしめ給ふなかれ そは我なんぢをよべばなり 願くはあしきものに恥をうけしめ陰府にありて口をつぐましめ給へ 18傲慢と軽侮とをもて義きものにむかひ妄りにののしるいつはりの口唇をつぐましめたまへ 19汝をおそるる者のためにたくはへ なんぢに依頼むもののために人の子のまへにてほどこしたまへる汝のいつくしみは大なるかな 20汝かれらを御前なるひそかなる所にかくして人の謀略よりまぬかれしめ また行宮のうちにひそませて舌のあらそひをさけしめたまはん 21讃べきかなヱホバは堅固なる城のなかにて奇しまるるばかりの仁慈をわれに顯したまへり 22われ驚きあわてていへらく なんぢの目のまへより絶れたりと 然どわれ汝によびもとめしとき汝 わがねがひの聲をききたまへり 23なんぢらもろもろの聖徒よヱホバをいつくしめ ヱホバは眞實あるものをまもり傲慢者におもく報をほどこしたまふ 24すべてヱホバを俟望むものよ雄々しかれ なんぢら心をかたうせよ

第三十二篇

ダビデの訓諭のうた

1その愆をゆるされその罪をおほはれしものは福ひなり 2不義をヱホバに負せられざるもの心にいつはりなき者はさいはひなり 3我いひあらはさざりしときは終日かなしみさけびたるが故にわが骨ふるびおとろへたり 4なんぢの手はよるも晝もわがうへにありて重し わが身の潤澤はかはりて夏の旱のごとくなれり セラ 5斯てわれなんぢの前にわが罪をあらはしわが不義をおほはざりき 我いへらくわが愆をヱホバにいひあらはさんと 斯るときしも汝 わがつみの邪曲をゆるしたまへり セラ 6されば神をうやまふ者はなんぢに遇ことをうべき間になんぢに祈らん大水あふれ流るるともかならずその身におよばじ 7汝はわがかくるべき所なり なんぢ患難をふせぎて我をまもり救のうたをもて我をかこみたまはん セラ 8われ汝ををしへ汝をあゆむべき途にみちびき わが目をなんぢに注てさとさん 9汝等わきまへなき馬のごとく騾馬のごとくなるなかれ かれらは鑣たづなのごとき具をもてひきとめずば近づききたることなし 10惡き者はかなしみ多かれどヱホバに依頼むものは憐憫にてかこまれん 11ただしき者よヱホバを喜びたのしめ 凡てこころの直きものよ喜びよばふべし

第三十三篇

1ただしき者よヱホバによりてよろこべ 讃美はなほきものに適はしきなり 2琴をもてヱホバに感謝せよ 十絃のこ

とをもてヱホバをほめうたへ 3あたらしき歌をヱホバにむかひてうたひ歓喜の聲をあげてたくみに琴をかきならせ 4ヱホバのことばは直く そのすべて行ひたまふところ眞實なればなり 5ヱホバは義と公平とをこのみたまふ その仁慈はあまねく地にみつ 6もろもろの天はヱホバのみことばによりて成り てんの萬軍はヱホバの口の氣によりてつくられたり 7ヱホバはうみの水をあつめてうづだかくし深淵を庫にをさめたまふ 8全地はヱホバをおそれ世にすめるもろもろの人はヱホバをおぢかしこむべし 9そはヱホバ言たまへば成り おほせたまへば立るがゆゑなり 10ヱホバはもろもろの國のはかりごとを虛くし もろもろの民のおもひを徒勞にしたまふ 11ヱホバの謀略はとこしへに立ち そのみこころのおもひは世々にたつ 12ヱホバをおのが神とする國はさいはひなり ヱホバ嗣業にせんとて撰びたまへるその民はさいはひなり 13ヱホバ天よりうかがひてすべての人の子を見 14その在すところより地にすむもろもろの人をみたまふ 15ヱホバはすべてかれらの心をつくり その作ところをことごとく鑒みたまふ 16王者いくさびと多をもて救をえず勇士ちから大なるをもて助をえざるなり 17馬はすくひに益なく その大なるちからも人をたすくることなからん 18視よヱホバの目はヱホバをおそるるもの並その憐憫をのぞむもののうへにあり 19此はかれらのたましひを死よりすくひ饑饉たるときにも世にながらへしめんがためなり 20われらのたましひはヱホバを俟望めり ヱホバはわれらの援われらの盾なり 21われらはきよき名にりたのめり 斯てぞわれらの心はヱホバにありてよろこばん 22ヱホバよわれら汝をまちのぞめり これに循ひて憐憫をわれらのうへに垂たまへ

第三十四篇

ダビデ、アビメレクのまへにて狂へる状をなし逐れていでさりしときに作れるうた

1われつねにヱホバを祝ひまつらんその頌詞はわが口にたえじ 2わがたましひはヱホバによりて誇らん 謙だるものは之をききてよろこばん 3われとともにヱホバを崇めよ われらともにその名をあげたたへん 4われヱホバを尋ねたればヱホバわれにこたへ我をもろもろの畏懼よりたすけいだしたまへり 5かれらヱホバを仰ぎのぞみて光をかうぶれり かれらの面ははぢあからむことなし 6この苦しむもの叫びたればヱホバこれをきき そのすべての患難よりすくひいだしたまへり 7ヱホバの使者はヱホバをおそるる者のまはりに營をつらねてこれを援く 8なんぢらヱホバの恩恵ふかきを嘗ひしれ ヱホバによりたのむ者はさいはひなり 9ヱホバの聖徒よヱホバを畏れよヱホバをおそるるものには乏しきことなければなり 10わかき獅はともしくして饑ることあり されどヱホバをたづぬるものは嘉物にかくることあらじ 11子よきたりて我にきけ われヱホバを畏るべきことを汝等にをしへん 12福祉をみんがために生命をしたひ存へんことをこのむ者はたれぞや 13なんぢの舌をおさへて惡につかしめず なんぢの口唇をおさへて虛偽をいはざらしめよ 14惡をはなれて善をおこなひ和睦をもとめて切にこのことを勉めよ 15ヱホバの目はただしきものをかへりみ その耳はかれらの號呼にかたぶく 16ヱホバの聖顔はあくをなす者にむかひてその跡を地より斷滅したまふ 17義 者さけびたればヱホバ之をききてそのすべての患難よりたすけいだしたまへり 18ヱホバは心のいたみかなしめる者にちかく在してたましひの悔頽れたるものをすくひたまふ 19ただしきものは患難おほし されどヱホバはみなその中よりたすけいだしたまふ 20ヱホバはかれがすべての骨をまもりたまふ その一つだに折らるることなし 21惡はあしきものをころさん 義 人をにくむものは刑なはるべし 22ヱホバはその僕 等のたましひを贖ひたまふ ヱホバに依頼むものは一人だにつみなはるることなからん

第三十五篇

ダビデのうた

1ヱホバよねがはくは我にあらそふ者とあらそひ我とたたかふものと戰ひたまへ 2干と大盾とをとりてわが援にたちいでたまへ 3戟をぬきいだしたまひて我におひせまるものの途をふさぎ且わが霊魂にわれはなんぢの救なりといひたまへ 4願くはわが霊魂をたづぬるものの恥をえていやしめられ 我をそこなはんと謀るものの退けられてあわ惶てふためかんことを 5ねがはくはかれらが風のまへなる粃糠のごとくなりヱホバの使者におひやられんことを 6願くはかれらの途をくらくし滑らかにしヱホバの使者にかれらを追ゆかしめたまはんことを 7かれらは故なく我をとらへんとて網をあなにふせ 故なくわが霊魂をそこなはんとて阱をうがちたればなり 8願くはかれらが思ひよらぬ間にほろびきたり己がふせたる網にとらへられ自

らその滅におちいらんことを 9然ときわが霊魂はヱホバによりてよろこび その救をもて樂しまん 10わがすべての骨はいはん ヱホバよ汝はくるしむものを之にまさりて力つよきものより並くるしむもの貧しきものを掠めうばふ者よりたすけいだし給ふ 誰かなんぢに比ふべき者あらんと 11こころあしき證人おこりてわが知ざることを詰りとふ 12かれらは惡をもてわが善にむくい我がたましひを依仗なきものとせり 13然どわれかれらが病しときには麁服をつけ糧をたちてわが霊魂をくるしめたり わが祈はふところにかへれり 14わがかれに作ることはわが友わが兄弟にことならず母の喪にありて痛哭がごとく哀しみうなたれたり 15然どかれらはわが倒れんとせしとき喜びつどひわが知ざりしとき匪類あつまりきたりて我をせめわれを裂てやめざりき 16かれらは洒宴にて穢きことをのぶる嘲笑者のごとく我にむかひて歯をかみならせり 17主よいたづらに見るのみにして幾何時をへたまふや 願くはわがたましひの彼等にほろぼさるるを脱れしめ わが生命をわかき獅よりまぬかれしめたまへ 18われ大なる會にありてなんぢに感謝し おほくの民のなかにて汝をほめたたへん 19虚偽をもてわれに仇するもののわが故によろこぶことを容したまなかれ 故なくして我をにくむ者のたがひに眴せすることなからしめたまへ 20かれらは平安をかたらず あざむきの言をつくりまうけて國内におだやかにすまふ者をそこなはんと謀る 21然のみならず我にむかひて口をあけひろげ ああ視よや視よやわれらの眼これをみたりといへり 22ヱホバよ汝すでにこれを視たまへり ねがはくは默したまふなかれ主よわれに遠ざかりたまふなかれ 23わが神よわが主よ おきたまへ醒たまへ ねがはくはわがために審判をなしわが訟ををさめたまへ 24わが神ヱホバよなんぢの義にしたがひて我をさばきたまへ わが事によりてかれらに歓喜をえしめたまふなかれ 25かれらにその心 裡にて ああここちよきかな觀よこれわが願ひしところなりといはしめたまふなかれ 又われらかれを呑つくせりといはしめたまふなかれ 26願くはわが害なはるるを喜ぶもの皆はぢて惶てふためき 我にむかひてはこりかに高ぶるものの愧とはづかしめとを衣んことを 27わが義をよみする者をばよろこび謳はしめ大なるかなヱホバその僕のさいはひを悦びたまふと恒にいはしめたまへ 28わが舌は終日なんぢの義となんぢの譽とをかたらん

第三十六篇

伶長にうたはしめたるヱホバの僕ダビデのうた

1あしきものの愆はわが心のうちにかたりて その目のまへに神をおそるるの畏あることなしといふ 2かれはおのが邪曲のあらはるることなく憎まるることなからんとて自からその目にて諂る 3その口のことばは邪曲と虚偽となり智をこばみ善をおこなふことを息たり 4かつその寝床にてよこしまなる事をはかり よからぬ途にたちとまりて惡をきらはず 5ヱホバよなんぢの仁慈は天にあり なんぢの眞實は雲にまでおよぶ 6汝のただしきは神の山のごとく なんぢの審判はおほいなる淵なり ヱホバよなんぢは人とけものとを護りたまふ 7神よなんぢの仁慈はたふときかな 人の子はなんぢの翼の蔭にさけどころを得 8なんぢの屋のゆたかなるによりてことごとく飽ことをえん なんぢはその歓樂のかはの水をかれらに飲しめたまはん 9そはいのちの泉はなんぢに在り われらはなんぢの光によりて光をみん 10ねがはくはなんぢを知るものにたえず憐憫をほどこし心なほき者にたえず正義をほどこしたまへ 11たかぶるものの足われをふみ惡きものの手われを逐去ふをゆるし給ふなかれ 12邪曲をおこなふ者はかしこに仆れたり かれら打伏られてまた起ことあたはざるべし

第三十七篇

ダビデのうた

1惡をなすものの故をもて心をなやめ 不義をおこなふ者にむかひて嫉をおこすなかれ 2かれらはやがて草のごとくかりとられ青菜のごとく打萎るべければなり 3ヱホバによりたのみて善をおこなへ この國にとどまり眞實をもて糧とせよ 4ヱホバによりて歓喜をなせ ヱホバはなんぢが心のねがひを汝にあたへたまはん 5なんぢの途をヱホバにゆだねよ 彼によりたのまば之をなしとげ 6光のごとくなんぢの義をあきらかにし午日のごとくなんぢの訟をあきらかにしたまはん 7なんぢヱホバのまへに口をつぐみ忍びてこれを俟望め おのが途をあゆみて榮るものの故をもて あしき謀略をとぐる人の故をもて心をなやむるなかれ 8怒をやめ忿恚をすてよ 心をなやむるなかれ これ惡をおこなふ方にうつらん 9そは惡をおこなふものは斷滅され ヱホバを俟望むものは國をつぐべければなり 10あしきものは久しからずしてうせん なんぢ細密にその處をおもひみるともあることなからん 11されど謙だるも

のは國をつぎ また平安のゆたかなるを樂まん 12惡きものは義きものにさからはんとて謀略をめぐらし之にむかひて切歯す 13主はあしきものを笑ひたまはん かれが日のきたるを見たまへばなり 14あしきものは劍をぬき弓をはりて苦しむものと貧しきものとをたふし行ひなほきものを殺さんとせり 15されどその劍はおのが胸をさしその弓はをらるべし 16義 人のもてるもののすくなきは多くの惡きものの豊かなるにまされり 17そは惡きものの臂はをらるれどヱホバは義きものを扶 持たまへばなり 18ヱホバは完全もののもろもろの日をしりたまふ かれらの嗣業はかぎりなく久しからん 19かれらは禍害にあふとき愧をおはず饑饉の日にもあくことを得ん 20あしき者ははろびヱホバのあたは牧場のさかえの枯るがごとくうせ烟のごとく消ゆかん 21あしき者はものかりて償はず 義きものは恵 ありて施しあたふ 22神のことほぎたまふ人は國をつぎ神ののろひたまふ人は斷滅さるべし 23人のあゆみはヱホバによりて定めらる そのゆく途をヱホバよろこびたまへり 24縦ひその人たふることありとも全くうちふせらるることなし ヱホバかれが手をたすけ支へたまへばなり 25われむかし年わかくして今おいたれど 義 者のすてられ或はその裔の糧こひありくを見しことなし 26ただしきものは終日めぐみありて貸あたふ その裔はさいはひなり 27惡をはなれて善をなせ 然ばなんぢの住居とこしへならん 28ヱホバは公平をこのみ その聖徒をすてたまはざればなり かれらは永遠にまもりたすけらるれど惡きもののすゑは斷滅さるべし 29ただしきものは國をつぎ その中にすまひてとこしへに及ばん 30ただしきものの口は智慧をかたり その舌は公平をのぶ 31かれが神の法はそのこころにあり そのあゆみは一歩だにすべることあらじ 32あしきものは義 者をひそみうかがひて之をころさんとはかる 33ヱホバは義 者をあしきものの手にのこしおきたまはず審判のときに罰ひたまふことなし 34ヱホバを俟望みてその途をまもれ さらば汝をあげて國をつがせたまはん なんぢ惡 者のたちほろぼさるる時にこれをみん 35我あしきものの猛くしてはびこれるを見るに生立たる地にさかえしげれる樹のごとし 36然れどもかれは逝ゆけり 視よたちまちに無なりぬ われ之をたづねしかど邁ことをえざりき 37完 人に目をそそぎ直 人をみよ 和平なる人には後あれど 38罪ををかすものらは共にほろぼされ惡きものの後はかならず斷るべければなり 39ただしきものの救はヱホバよりいづ ヱホバはかれらが辛苦のときの保砦なり 40ヱホバはかれらを助け かれらを解脱ちたまふ ヱホバはかれらを惡 者よりときはなちて救ひたまふ かれらはヱホバをその避所とすればなり

第三十八篇

記念のためにつくれるダビデのうた

1ヱホバよねがはくは忿 恚をもて我をせめ はげしき怒をもて我をこらしめ給ふなかれ 2なんぢの矢われにあたり なんぢの手わがうへを壓へたり 3なんぢの怒によりてわが肉には全きところなく わが罪によりてわが骨には健かなるところなし 4わが不義は首をすぎてたかく重荷のごとく負がたければなり 5われ愚なるによりてわが傷あしき臭をはなちて腐れただれたり 6われ折屈みていたくなげきうなたれたり われ終日かなしみありく 7わが腰はことごとく燒るがごとく肉に全きところなければなり 8我おとろへはて甚くきずつけられわが心のやすからざるによりて欷歔さけべり 9ああ主よわがすべての願望はなんぢの前にあり わが嘆息はなんぢに隠るることなし 10わが胸をどりわが力おとろへ わが眼のひかりも亦われをはなれたり 11わが友わが親めるものはわが痍をみて遥にたち わが隣もまた遠かりてたてり 12わが生命をたづぬるものは羂をまうけ我をそこなはんとするものは惡 言をいひまた終日たばかりを謀る 13然はあれどわれは聾者のごとくきかず われは口をひらかぬ唖者のごとし 14如此われはきかざる人のごとく口にことあげせぬ人のごときなり 15ヱホバよ我なんぢを俟望めり 主わが神よなんぢかならず答へたまふべければなり 16われ曩にいふ おそらくはかれらわが事によりて喜び わが足のすべらんとき我にむかひて誇りかにたかぶらんと 17われ仆るるばかりになりぬ わが悲哀はたえずわが前にあり 18そは我みづから不義をいひあらはし わが罪のためにかなしめばなり 19わが仇はいきはたらきてたけく故なくして我をうらむるものおほし 20惡をもて善にむくゆるものはわれ善事にしたがふが故にわが仇となれり 21ヱホバよねがはくは我をはなれたたまふなかれ わが神よわれに遠かりたまふなかれ 22主わがすくひよ速きたりて我をたすけたまへ

第三十九篇

伶長エドトンにうたはしめたるダビデのうた

1われ曩にいへり われ舌をもて罪ををかさざらんために
我すべての途をつつしみ惡き者のわがまへに在るあひだは
わが口に銜をかけんと 2われ默して唖となり善言すらこ
とばにいださず わが憂なほおこれり 3わが心わがうちに
熱し おもひつづくるほどに火もえぬればわれ舌をもてい
へらく 4ヱホバよ願くはわが終とわが日の數のいくばく
なるとを知しめたまへ わが無常をしらしめたまへ 5觀よ
なんぢわがすべての日を一掌にすぎさらしめたまふ わが
かいのち主前にてはなきにことならず實にすべての人は
皆その盛 時だにもむなしからざるはなし セラ 6人の世
にあるは影にことならず その思ひなやむことはむなしか
らざるなし その積蓄ふるものはたが手にをさまるをし
らず 7主よわれ今なにをかまたん わが望はなんぢにあり
8ねがはくは我ぞすべて愆より助けいだしたまへ 愚なる
ものに誹らるることなからしめたまへ 9われは默して口
をひらかず 此はなんぢの成したまふ者なればなり 10願く
はなんぢの責をわれよりはなちたまへ 我なんぢの手にう
ちこらさるるによりて亡ぶるばかりになりぬ 11なんぢ罪
をせめて人をこらし その慕ひよろこぶところのものを蠹
のくらふがごとく消うせしめたまふ 實にもろもろの人は
むなしからざるなし セラ 12ああヱホバよねがはくはわが
祈 をききわが號呼に耳をかたぶけたまへ わが涙をみて
默したまふなかれ われはなんぢに寄る旅客すべてわが
列祖のごとく宿れるものなり 13我ここを去てうせざる先
になんぢ面をそむけてわれを爽快ならしめたまへ

第四十篇

伶長にうたはしめたるダビデのうた

1我たへしのびてヱホバを俟望みたり ヱホバ我にむかひ
てわが號呼をききたまへり 2また我をほろびの阱より泥
のなかよりとりいだしてわが足を磐のうへにおきわが 歩
をかたくしたまへり 3ヱホバはあたらしき歌をわが口に
いれたまへり 此はわれらの神にささぐる讃美なり おほく
の人はこれを見ておそれ かつヱホバによりたのまん 4ヱ
ホバをおのが賴となし高るものによらず虛偽にかたぶく
者によらざる人はさいはひなり 5わが神ヱホバよなんぢ
の作たまへる奇しき迹と われらにむかふ念とは甚おほく
して汝のみまへにつらねいふことあたはず 我これをいひ
のべんとすれどその數かぞふることあたはず 6なんぢ
犧牲と祭 物とをよろこびたまはず汝わが耳をひらきたま
へり なんぢ燔祭と罪祭とをもとめたまはず 7そのとき我
いへらく 觀よわれきたらんわがことを書の巻にしるした
り 8わが神よわれは聖意にしたがふことを樂む なんぢの
法はわが心のうちにありと 9われ大なる會にて義をつげ
しめせり 視よわれ口唇をとぢず ヱホバよなんぢ之をし
りたまふ 10われなんぢの義をわが心のうちにひめおかず
なんぢの眞實となんぢの拯救とをのべつたへたり 我なん
ぢの仁 慈となんぢの眞理とをおほいなる會にかくさざり
き 11ヱホバよなんぢ憐憫をわれにをしみたまふなかれ
仁 慈と眞理とをもて恒にわれをまもりたまへ 12そはかぞ
へがたき禍害われをかこみ わが不義われに追及てあふぎ
みること能はぬまでになりぬ その多きことわが首の髪に
もまさり わが心きえうするばかりなればなり 13ヱホバよ
願 くはわれをすくひたまへ ヱホバよ急ぎきたりて我を
たすけたまへ 14願くはわが霊魂をたづねほろぼさんとす
るものの皆はぢあわてんことを わが害はるるをよろこぶ
もののみな後にしりぞきて恥をおはんことを 15われにむ
かひて ああ視よや視よやといふ者おのが恥によりておど
ろきおそれんことを 16願くはなんぢを尋 求むるものの皆
なんぢによりて樂みよろこばんことを なんぢの救をした
ふものの恒にヱホバは大なるかなととなへんことを 17わ
れはくるしみ且ともし 主われをねんごろに念ひたまふ
なんぢはわが助なり われをすくひたまふ者なり ああわ
が神よねがはくはためらひたまふなかれ

第四十一篇

うたのかみに謳はしめたるダビデのうた

1よわき人をかへりみる者はさいはひなり ヱホバ斯るも
のを禍ひの日にたすけたまはん 2ヱホバ之をまもり之を
ながらへしめたまはん かれはこの地にありて福祉をえん
なんぢ彼をその仇ののぞみにまかせて付したまふなかれ
3ヱホバは彼がわづらひの床にあるをたすけ給はん なん
ぢかれが病るときその衾褥をしきかへたまはん 4我いへ
らくヱホバよわれを憐みわがたましひを醫したまへ われ
汝 にむかひて罪ををかしたりと 5わが仇われをそしりて
いへり 彼いづれのときに死いづれのときにその名ほろび
んと 6かれ又われを見んとてきたるときは虛偽をかたり
邪曲をその心にあつめ 外にいでてはこれを述ぶ 7すべて
われをにくむもの互ひにささやき我をそこなはんとて相
謀る 8かつ云 かれに一のわざはひつきまとひたれば仆れ

ふしてふたたび起ることなからんと 9わが恃みしところわが糧をくらひしところのわが親しき友さへも我にそむきてその踵をあげたり 10然はあれどヱホバよ汝ねがはくは我をあはれみ我をたすけて起したまへ されば我かれらに報ることをえん 11わが仇われに打勝てよろこぶこと能はざるをもて汝がわれを愛いつくしみたまふを我しりぬ 12わが事をいはば なんぢ我をわが完全うちにてたもち我をとこしへに面のまへに置たまふ 13イスラエルの神ヱホバはとこしへより永遠までほむべきかな アーメン アーメン

第四十二篇

伶長にうたはしめたるコラの子のをしへの歌

1ああ神よしかの渓水をしたひ喘ぐがごとく わが霊魂もなんぢをしたひあへぐなり 2わがたましひは渇けるごとくに神をしたふ 活神をぞしたふ 何れのときにか我ゆきて神のみまへにいでん 3かれらが終日われにむかひて なんぢの神はいづくにありやとののしる間はただわが涙のみ晝夜そそぎてわが糧なりき 4われむかし群をなして祭日をまもる衆人とともにゆき歓喜と讃美のこゑをあげてかれらを神の家にともなへり 今これらのことを追想してわが衷よりたましひを注ぎいだすなり 5ああわが霊魂よ なんぢ何ぞうなたるるや なんぞわが衷におもひみだるるや なんぢ神をまちのぞめ われに聖顔のたすけありて我なほわが神をほめたたふべければなり 6わが神よわがたましひはわが衷にうなたる 然ばわれヨルダンの地よりヘルモンよりミザルの山より汝をおもひいづ 7なんぢの大瀑のひびきによりて淵々よびこたへ なんぢの波なんぢの猛浪ことごとくわが上をこえゆけり 8然はあれど晝はヱホバその憐憫をほどこしたまふ 夜はその歌われとともにあり 此うたはわがいのちの神にささぐる祈なり 9われわが磐なる神にいはん なんぞわれを忘れたまひしや なんぞわれは仇のしへたげによりて悲しみありくや 10わが骨もくだくるばかりにわがてきはひねもす我にむかひて なんぢの神はいづくにありやといひののしりつつ我をそしれり 11ああわがたましひよ 汝なんぞうなたるるや 何ぞわがうちに思ひみだるるや なんぢ神をまちのぞめ われ尚わがかほの助なるわが神をほめたたふべければなり

第四十三篇

1神よねがはくは我をさばき 情しらぬ民にむかひてわが訟 をあげつらひ詭計おほきよこしまなる人より我をたすけいだし給へ 2なんぢはわが力の神なり なんぞ我をすてたまひしや 何ぞわれは仇の暴虐によりてかなしみありくや 3願くはなんぢの光となんぢの眞理とをはなち我をみちびきてその聖山とその帷幄とにゆかしめたまへ 4さらばわれ神の祭壇にゆき又わがよろこびよろこぶ神にゆかん ああ神よわが神よわれ琴をもてなんぢを讃たたへん 5ああわが霊魂よなんぢなんぞうなたるるや なんぞわが衷におもひみだるるや なんぢ神によりて望をいだけ 我なほわが面のたすけなるわが神をほめたたふべければなり

第四十四篇

伶長にうたはしめたるコラの子のをしへの歌

1ああ神よむかしわれらの列祖の日になんぢがなしたまひし事迹をわれら耳にきけり 列祖われらに語れり 2なんぢ手をもてもろもろの國人をおひしりぞけ われらの列祖をうゑ並もろもろの民をなやましてわれらの列祖をはびこらせたまひき 3かれらはおのが劍によりて國をえしにあらず おのが臂によりて勝をえしにあらず 只なんぢの右の手なんぢの臂なんぢの面のひかりによれり 汝かれらを恵みたまひたればなり 4神よなんぢはわが王なり ねがはくはヤコブのために救をほどこしたまへ 5われらは汝によりて敵をたふし また我儕にさからひて起りたつものをなんぢの名によりて踐壓ふべし 6そはわれわが弓によりたのまず わが劍もまた我をすくふことあたはざればなり 7なんぢわれらを敵よりすくひ またわれらを惡むものを辱かしめたまへり 8われらはひねもす神によりてほこり われらは永遠になんぢの名に感謝せん セラ 9しかるに今はわれらをすてて恥をおはせたまへり われらの軍人とともに出ゆきたまはず 10われらを敵のまへより退かしめたまへり われらを惡むものその任意にわれらを掠めうばへり 11なんぢわれらを食にそなへらるる羊のごとくにあたへ斯てわれらをもろもろの國人のなかにちらし 12得るところなくしてなんぢの民をうり その價によりてなんぢの富をましたまはざりき 13汝われらを隣人にそしらしめ われらを環るものにあなどらしめ 嘲けらしめたまへり 14又もろもろの國のなかにわれらを談柄となし もろもろの民のなかにわれらを頭ふらるる者となしたまへり 15わが凌辱ひねもす我がまへにあり わがかほの恥われを

おほへり 16 こは我をそしり我をののしるものの聲により
我にあだし我にうらみを報るものの故によるなり 17 これ
らのこと皆われらに臨みきつれどわれらなほ汝をわすれ
ず なんぢの契約をいつはりまもらざりき 18 われらの心し
りぞかずわれらの歩履なんぢの道をはなれず 19 然どなん
ぢは野犬のすみかにてわれらをきずつけ死蔭をもてわれ
らをおほひ給へり 20 われらもしおのれの神の名をわすれ
或はわれらの手を異神にのべしことあらんには 21 神は
これを糺したまはざらんや 神はこころの隠れたることを
も知たまふ 22 われらは終日なんぢのために死にわたされ
屠られんとする羊の如くせられたり 23 主よさめたまへ何
なればねぶりたまふや起たまへ われらをとこしへに棄た
まふなかれ 24 いかなれば聖顔をかくしてわれらがうくる
苦難と虐待とをわすれたまふや 25 われらのたましひはか
がみて塵にふし われらの腹は土につきたり 26 ねがはくは
起てわれらをたすけたまへ なんぢの仁慈のゆゑをもて
われらを贖ひたまへ

第四十五篇

百合花のしらべにあはせて伶長にうたはしめたるコラの子のを
しへのうた 愛のうた

1 わが心はうるはしき事にてあふる われは王のために詠
たるものをいひいでん わが舌はすみやけく寫字人の筆な
り 2 なんぢは人の子輩にまさりて美しく文雅そのくちび
るにそそがる このゆゑに神はとこしへに汝をさいはひし
たまへり 3 英雄よなんぢその劍その榮その威をこしに佩
べし 4 なんぢ眞理と柔和とただしきとのために威をたく
ましくし勝をえて乗すすめ なんぢの右手なんぢに畏るべ
きことををしへん 5 なんぢの矢は鋭して王のあたの胸を
つらぬき もろもろの民はなんぢの下にたふる 6 神よなん
ぢの寳座はいやとほ永くなんぢの國のつゑは公平のつゑ
なり 7 なんぢは義をいつくしみ惡をにくむ このゆゑに神
なんぢの神はよろこびの膏をなんぢの侶よりまさりて汝
にそそぎたまへり 8 なんぢの衣はみな沒薬蘆薈肉桂のか
をりあり 琴瑟の音ざうげの諸殿よりいでて汝をよろこば
しめたり 9 なんぢがたふとき婦のなかにはもろもろの王
のむすめあり 皇后はオフルの金をかざりてなんぢの右に
たつ 10 女よきけ目をそそげ なんぢの耳をかたぶけよ な
んぢの民となんぢが父の家とをわすれよ 11 さらば王はな
んぢの美麗をしたはん 王はなんぢの主なりこれを伏拝
め 12 ツロの女は贈物をもてきたり民間のとめるものも
亦なんぢの惠をこひもとめん 13 王のむすめは殿のうちに
ていとど榮えかがやき そのころもは金をもて織なせり 14
かれは鍼繍せる衣をきて王のもとにいざなはる 之にとも
なへる處女もそのあとにしたがひて汝のもとにみちびか
れゆかん 15 かれらは歓喜と快樂とをもていざなはれ斯し
て王の殿にいらん 16 なんぢの子らは列祖にかはりてたち
なんぢはこれを全地に君となさん 17 我なんぢの名をよろ
づ代にしらしめん この故にもろもろの民はいやとほ永く
なんぢに感謝すべし

第四十六篇

女音のしらべにしたがひて伶長にうたはしめたるコラの子のう
た

1 神はわれらの避所また力なり なやめるときの最ちかき
助なり 2 さればたとひ地はかはり山はうみの中央にうつ
るとも我儕はおそれじ 3 よしその水はなりとどろきてさ
わぐとも その溢れきたるによりて山はゆるぐとも何かあ
らん セラ 4 河ありそのながれは神のみやこをよろこばし
め至上者のすみたまふ聖所をよろこばしむ 5 神そのなか
にいませば都はうごかじ 神は朝つとにこれを助けたまは
ん 6 もろもろの民はさわぎたち もろもろの國はうごきた
り 神その聲をいだしたまへば地はやがてとけぬ 7 萬軍の
ヱホバはわれらとともなり ヤコブの神はわれらのたかき
櫓なり セラ 8 きたりてヱホバの事跡をみよ ヱホバはお
ほくの懼るべきことを地になしたまへり 9 ヱホバは地の
はてまでも戰闘をやめしめ弓ををり戈をたち戰車を火
にてやきたまふ 10 汝等しづまりて我の神たるをしれ われ
はもろもろの國のうちに崇められ全地にあがめらるべし
11 萬軍のヱホバはわれらと偕なり ヤコブの神はわれらの
高きやぐらなり セラ

第四十七篇

伶長にうたはしめたるコラの子のうた

1 もろもろのたみよ手をうち歓喜のこゑをあげ神にむか
ひてさけべ 2 いとたかきヱホバはおそるべく また地をあ
まねく治しめす大なる王にてましませばなり 3 ヱホバは
もろもろの民をわれらに服はせ もろもろの國をわれらの
足下にまつろはせたまふ 4 又そのいつくしみたまふヤコ
ブが譽とする嗣業をわれらのために選びたまはん セラ 5
神はよろこびさけぶ聲とともにのぼり ヱホバはラッパの

聲とともにのぼりたまへり 6ほめうたへ神をほめうたへ頌歌へわれらの王をほめうたへ 7かみは地にあまねく王なればなり 教訓のうたをうたひてほめよ 8神はもろもろの國をすべをさめたまふ 神はそのきよき寶座にすわりたまふ 9もろもろのたみの諸侯はつどひきたりてアブラハムの神の民となれり 地のもろもろの盾は神のものなり神はいとたふとし

第四十八篇

コラの子のうたなり讃美なり

1ヱホバは大なり われらの神の都そのきよき山のうへにて甚くほめたたへられたまふべし 2シオンの山はきたの端たかくしてうるはしく喜悦を地にあまねくあたふ ここは大なる王のみやこなり 3そのもろもろの殿のうちに神はおのれをたかき櫓としてあらはしたまへり 4みよ王等はつどひあつまりて偕にすぎゆきぬ 5かれらは都をみてあやしみ且おそれて忽ちのがれされり 6戰慄はかれらにのぞみ その苦痛は子をうまんとする婦のごとし 7なんぢは東風をおこしてタルシシの舟をやぶりたまふ 8曩にわれらが聞しごとく今われらは萬軍のヱホバの都われらの神のみやこにて之をみることをえたり 神はこの都をとこしへまで固くしたまはん セラ 9神よ我らはなんぢの宮のうちにて仁 慈をおもへり 10神よなんぢの譽はその名のごとく地の極にまでおよべり なんぢの右手はただしきにて充り 11なんぢのもろもろの審判によりてシオンの山はよろこびユダの女 輩はたのしむべし 12シオンの周圍をありき徧くめぐりてその櫓をかぞへよ 13その石垣に目をとめよ そのもろもろの殿をみよ なんぢらこれを後代にかたりつたへんが爲なり 14そはこの神はいや遠長にわれらの神にましましてわれらを死るまでみちびきたまはん

第四十九篇

伶長にうたはしめたるコラの子のうた

1もろもろの民よきけ賤きも貴きも富るも貧きもすべて地にすめる者よ なんぢらともに耳をそばだてよ

伶長にうたはしめたるコラの子のうた

2もろもろの民よきけ賤きも貴きも富るも貧きもすべて地にすめる者よ なんぢらともに耳をそばだてよ 3わが口はかしこきことをかたり わが心はさときことを思はん 4われ耳を喩言にかたぶけ琴をならしてわが幽玄なる語をときあらはさん 5わが踵にちかかる不義のわれを打圍むわざはひの日もいかで懼ることあらんや 6おのが富をたのみ財おほきを誇るもの 7たれ一人おのが兄弟をあがなふことあたはず之がために贖 價を神にささげ 8之をとこしへに生 存へしめて朽ざらしむることあたはず（霊魂をあがなふには費いとおほくして此事をとこしへに捨置ざるを得ざればなり） 9之をとこしへに生 存へしめて朽ざらしむることあたはず（霊魂をあがなふには費いとおほくして此事をとこしへに捨置ざるを得ざればなり） 10そは智きものも死 おろかものも獣心者もひとしくほろびてその富を他 人にのこすことは常にみるところなり 11かれら竊におもふ わが家はとこしへに存りわがすまひは世々にいたらんと かれらはその地におのが名をおはせたり 12されど人は譽のなかに永くとどまらず亡びうする 獣のごとし 13斯のごときは愚かなるものの途なり 然はあれど後 人はその言をよしとせん セラ 14かれらは羊のむれのごとくに陰府のものと定めらる 死これが牧者とならん 直きもの朝にかれらををさめん その美 容は陰府にほろぼされて宿るところなかるべし 15されど神われを接たまふべければわが霊魂をあがなひて陰府のちからより脱かれしめたまはん セラ 16人のとみてその家のさかえくははらんとき汝おそるるなかれ 17かれの死るときは何一つたづさへゆくことあたはず その榮はこれにしたがひて下ることをせざればなり 18かかる人はいきながらふるほどに己がたましひを祝するとも みづからを厚うするがゆゑに人々なんぢをほむるとも 19なんぢ列祖の世にゆかん かれらはたえて光をみざるべし 20尊貴なかにありて暁らざる人はほろびうする獣のごとし

第五十篇

アサフのうた

1ぜんのうの神ヱホバ詔 命して日のいづるところより日のいるところまであまねく地をよびたまへり 2かみは美 麗の極なるシオンより光をはなちたまへり 3われらの神はきたりて默したまはじ火その前にものをやきつくし暴風その四周にふきあれん 4神はその民をさばかんとて上なる天および地をよびたまへり 5いはく祭 物をもて我とけいやくをたてしわが聖徒をわがもとに集めよと 6もろもろの天は神の義をあらはせり 神はみづから審 士たればなり セラ 7わが民よきけ我ものいはんイスラエルよ きけ我なんぢにむかひて證をなさん われは神なんぢの神

なり 8わがなんぢを責るは祭物のゆゑにあらず なんぢの燔祭はつねにわが前にあり 9我はなんぢの家より牡牛をとらず なんぢの牢より牡山羊をとらず 10林のもろもろのけもの山のうへの千々の牲畜はみなわが有なり 11われは山のすべての鳥をしる 野のたけき獣はみなわがものなり 12世界とそのなかに充るものとはわが有なれば縦ひわれ饑るともなんぢに告じ 13われいかで牡牛の肉をくらひ牡山羊の血をのまんや 14感謝のそなへものを神にささげよ なんぢのちかひを至上者につくのへ 15なやみの日にわれをよべ我なんぢを援けん而してなんぢ我をあがむべし 16然はあれど神あしきものに言給く なんぢは教をにくみ わが言をその後にすつるものなるに何のかかはりありてわが律法をのべ わがけいやくを口にとりしや 17然はあれど神あしきものに言給く なんぢは教をにくみ わが言をその後にすつるものなるに何のかかはりありてわが律法をのべ わがけいやくを口にとりしや 18なんぢ盗人をみれば之をよしとし姦淫をおこなふものの伴侶となれり 19なんぢその口を悪にわたす なんぢの舌は詭計をくみなせり 20なんぢ坐りて兄弟をそしり己がははの子を誣ののしれり 21汝これらの事をなししをわれ默しぬれば なんぢ我をおのれに恰にたるものとおもへり されど我なんぢを責めてその罪をなんぢの目前につらぬべし 22神をわするるものよ今このことを念へ おそらくは我なんぢを抓さかんとき助るものあらじ 23感謝のそなへものを献るものは我をあがむ おのれの行爲をつつしむ者にはわれ神の救をあらはさん

第五十一篇

ダビデがバテセバにかよひしのち預言者ナタンの來れるときよみて伶長にうたはしめたる歌

1ああ神よねがはくはなんぢの仁慈によりて我をあはれみ なんぢの憐憫のおほきによりてわがもろもろの愆をけしたまへ 2わが不義をことごとくあらひさり我をわが罪よりきよめたまへ 3われはわが愆をしる わが罪はつねにわが前にあり 4我はなんぢにむかひて獨なんぢに罪ををかし聖前にあしきことを行へり されば汝ものいふときは義とせられ なんぢ鞫くときは咎めなしとせられ給ふ 5視よわれ邪曲のなかにうまれ罪ありてわが母われをはらみたりき 6なんぢ眞實をこころの衷にまでのぞみ わが隱れたるところに智慧をしらしめ給はん 7なんぢヒソブをもて我をきよめたまへ さらばわれ淨まらん 我をあらひたまへ さらばわれ雪よりも白からん 8なんぢ我によろこびと快樂とをきかせ なんぢが碎きし骨をよろこばせたまへ 9ねがはくは聖顔をわがすべての罪よりそむけ わがすべての不義をけしたまへ 10ああ神よわがために清心をつくり わが衷になほき霊をあらたにおこしたまへ 11われを聖前より棄たまふなかれ 汝のきよき霊をわれより取りたまふなかれ 12なんぢの救のよろこびを我にかへし自由の霊をあたへて我をたもちたまへ 13さらばわれ愆ををかせる者になんぢの途ををしへん罪人はなんぢに歸りきたるべし 14神よわが救のかみよ血をながしし罪より我をたすけいだしたまへ わが舌は聲たからかになんぢの義をうたはん 15主よわが口唇をひらきたまへ 然ばわが口なんぢの頌美をあらはさん 16なんぢは祭物をこのみたまはず もし然らずば我これをささげん なんぢまた燔祭をも悦びたまはず 17神のもとめたまふ祭物はくだけたる霊魂なり 神よなんぢは碎けたる悔しこころを藐しめたまふまじ 18ねがはくは聖意にしたがひてシオンにさいはひし ヱルサレムの石垣をきづきたまへ 19その時なんぢ義のそなへものと燔祭と全きはんさいとを悦びたまはん かくて人々なんぢの祭壇に牡牛をささぐべし

第五十二篇

エドム人ドエグ、サウルにきたりてダビデはアビメレクの家にきぬと告しときダビデがよみて伶長にうたはしめたる教訓のうた

1猛者よなんぢ何なればあしき企圖をもて自らほこるや 神のあはれみは恒にたえざるなり 2なんぢの舌はあしきことをはかり利き剃刀のごとくいつはりをおこなふ 3なんぢは善よりも惡をこのみ正義をいふよりも虚偽をいふをこのむ セラ 4たばかりの舌よなんぢはすべての物をくひほろぼす言をこのむ 5されば神とこしへまでも汝をくだき また汝をとらへてその幕屋よりぬきいだし生るものの地よりなんぢの根をたやしたまはん セラ 6義者はこれを見ておそれ彼をわらひていはん 7神をおのが力となさず その富のゆたかなるをたのみ その惡をもて己をかたくせんとする人をみよと 8然はあれどわれは神の家にあるあをき橄欖の樹のごとし 我はいやとほながに神のあはれみに依賴まん 9なんぢこの事をおこなひ給ひしによ

りて我とこしへになんぢに感謝し なんぢの聖徒のまへにて聖名をまちのぞまん こは宜しきことなればなり

第五十三篇

マハラツ(樂器の名、あるひはいふ調べの名)にあはせて伶長にうたはしめたるダビデの教訓のうた

1愚かなるものは心のうちに神なしといへり かれらは腐れたりかれらは憎むべき不義をおこなへり善をおこなふ者なし 2神は天より人の子をのぞみて悟るものと神をたづぬる者とありやなしやを見たまひしに 3みな退ぞきてことごとく汚れたり善をなすものなし一人だになし 4不義をおこなふものは知覺なきか かれらは物くふごとくわが民をくらひ また神をよばふことをせざるなり 5かれらは懼るべきことのなきときに大におそれたり 神はなんぢにむかひて營をつらぬるものの骨をちらしたまへばなり 神かれらを棄たまひしによりて汝かれらを辱かしめたり 6願くはシオンよりイスラエルの救のいでんことを 神その民のとらはれたるを返したまふときヤコブはよろこびイスラエルは樂まん

第五十四篇

ジフ人のサウルにきたりてダビデはわれらの處にかくれをるにあらずやといひたりしとき ダビデうたのかみに琴にてうたはしめたる教訓のうた

1神よねがはくは汝の名によりて我をすくひ なんぢの 力をもて我をさばきたまへ 2神よわが祈をききたまへ わが口のことばに耳をかたぶけたまへ 3そは外人はわれにさからひて起りたち強暴人はわがたましひを索むるなり かれらは神をおのが前におかざりき セラ 4みよ神はわれをたすくるものなり 主はわがたましひを保つものとともに在せり 5主はわが仇にそのあしきことの報をなしたまはん 願くはなんぢの眞實によりて彼等をほろぼしたまへ 6我よろこびて祭物をなんぢに献ん ヱホバよ我なんぢの名にむかひて感謝せん こは宜しきことなればなり 7そはヱホバはすべての患難より我をすくひたまへり わが目はわが仇につきての願望をみたり

第五十五篇

ダビデうたのかみに琴にてうたはしめたる教訓のうた

1神よねがはくは耳をわが祈にかたぶけたまへ わが懇求をさけて身をかくしたまふなかれ 2われに聖意をとめ 我にこたへたまへ われ歎息によりてやすからず悲みうめくなり 3これ仇のこゑと惡きものの暴虐とのゆゑなり そはかれら不義をわれに負せ いきどほりて我におひせまるなり 4わが心わがうちに憂ひいたみ死のもろもろの恐懼わがうへにおちたり 5おそれと戰慄とわれにのぞみ甚だしき恐懼われをおほへり 6われ云ねがはくは鴿のごとく羽翼のあらんことを さらば我とびさりて平安をえん 7みよ我はるかにのがれさりて野にすまん セラ 8われ速かにのがれて暴風と狂風とをはなれん 9われ都のうちに強暴とあらそひとをみたり 主よねがはくは彼等をほろぼしたまへ かれらの舌をわかれしめたまへ 10彼等はひるもよるも石垣のうへをあるきて邑をめぐる 邑のうちには邪曲とあしき企圖とあり 11また惡きこと邑のうちにあり しへたげと欺詐とはその街衢をはなるることなし 12われを謗れるものは仇たりしものにあらず もし然りしならば尚しのばれしなるべし 我にむかひて己をたかくせし者はわれを恨たりしものにあらず若しかりしならば身をかくして彼をさけしなるべし 13されどこれ汝なり われとおなじきもの わが友われと親しきものなり 14われら互にしたしき語らひをなし また會衆のなかに在てともに神の家にのぼりたりき 15死は忽然かれらにのぞみ その生るままにて陰府にくだらんことを そは惡事その住處にありその中にあればなり 16されど我はただ神をよばんヱホバわれを救ひたまふべし 17夕にあしたに晝にわれなげき且かなしみうめかん ヱホバわが聲をききたまふべし 18ヱホバは我をせむる戰闘よりわが霊魂をあがなひいだして平安をえしめたまへり そはわれを攻るもの多かりければなり 19太古よりいます者なる神はわが聲をききてかれらを悩めたまべし セラ かれらには變ることなく神をおそるることなし 20かの人はおのれと睦みをりしものに手をのべてその契約をけがしたり 21その口はなめらかにして乳酥のごとくなれどもその心はたたかひなり その言はあぶらに勝りてやはらかなれどもぬきたる劍にことならず 22なんぢの荷をヱホバにゆだねよさらば汝をささへたまはんただしき人のうごかさるることを常にゆるしたまふまじ 23かくて神よなんぢはかれらを亡の坑におとしいれたまはん血をながすものと詭計おほきものとは生ておのが日の半にもいたらざるべし 然はあれどわれは汝によりたのまん

第五十六篇

ダビデがガテにてペリシテ人にとらへられしとき詠て「遠きところにをる音をたてぬ鴿」のしらべにあはせて伶長にうたはしめたるミクタムの歌

1ああ神よねがはくは我をあはれみたまへ 人いきまきて我をのまんとし終日たたかひて我をしへたぐ 2わが仇ひねもす急喘てわれをのまんとす誇りたかぶりて我とたたかふものおほし 3われおそるるときは汝によりたのまん 4われ神によりてその聖言をほめまつらん われ神に依頼みたればおそることあらじ肉體われになにをなし得んや 5かれらは終日わがことばを曲るなり その思念はことごとくわれにわざはひをなす 6かれらは群つどひて身をひそめ わが歩に目をとめてわが霊魂をうかがひもとむ 7かれらは不義をもてのがれんとおもへり 神よねがはくは憤ほりてもろもろの民をたふしたまへ 8汝わがあまた土の流離をかぞへたまへり なんぢの革嚢にわが涙をたくはへたまへ こは皆なんぢの冊にしるしあるにあらずや 9わがよびもとむる日にはわが仇しりぞかん われ神のわれを守りたまふことを知る 10われ神によりてその聖言をはめまつらん 我ヱホバによりてそのみことばを讃まつらん 11われ神によりたのみたれば懼ることあらじ 人はわれに何をなしえんや 12神よわがなんぢにたてし誓はわれをまとへり われ感謝のささげものを汝にささげん 13汝わがたましひを死よりすくひたまへばなり なんぢ我をたふさじとわが足をまもり生命の光のうちにて神のまへに我をあゆませ給ひしにあらずや

第五十七篇

ダビデが洞にいりてサウルの手をのがれしとき詠て「ほろぼすなかれ」にといふ調にあはせて伶長にうたはしめたるミクタムのうた

1我をあはれみたまへ神よわれをあはれみたまへ わが霊魂はなんぢを避所とす われ禍害のすぎさるまではなんぢの翼のかげを避所とせん 2我はいとたかき神によばはん わがために百 事をなしをへたまふ神によばはん 3神はたすけを天よりおくりて我をのまんとする者のそしるときに我を救ひたまはん セラ 神はその憐憫その眞實をおくりたまはん 4わがたましひは群ゐる獅のなかにあり 火のごとくもゆる者 その歯は戈のごとく矢のごとくその舌はとき剣のごとき人の子のなかに我ふしぬ 5神よねがはくはみづからを天よりも高くしみさかえを全地のうへに擧たまへ 6かれらはわが足をとらへんとて網をまうく わが霊魂はうなたる かれらはわがまへに阱をほりたり而してみづからその中におちいれり セラ 7わが心さだまれり神よわがこころ定まれり われ謳ひまつらん頌まつらん 8わが榮よさめよ 箏よ琴よさめよ われ黎明をよびさまさん 9主よわれもろもろの民のなかにてなんぢに感謝し もろもろの國のなかにて汝をほめうたはん 10そは汝 のあはれみは大にして天にまでいたり なんぢの眞實は雲にまでいたる 11神よねがはくは自からを天よりも高くし光榮をあまねく地のうへに擧たまへ

第五十八篇

ダビデがよみて「ほろぼすなかれ」といふ調にあはせて伶長にうたはしめたるミクタムのうた

1なんぢら默しゐて義をのべうるか 人の子よなんぢらなほき審判をおこなふや 2否なんぢらは心のうちに惡 事をおこなひ その手の強暴をこの地にはかりいだすなり 3あしきものは胎をはなるるより背きとほざかり生れいづるより迷ひていつはりをいふ 4かれらの毒は蛇のどくのごとし かれらは蠱術をおこなふものの甚たくみにまじなふその聲をだにきかざる耳ふさぐ聾ひの蝮のごとし 5かれらの毒は蛇のどくのごとし かれらは蠱術をおこなふものの甚たくみにまじなふその聲をだにきかざる耳ふさぐ 聾ひの蝮のごとし 6神よかれらの口の歯ををりたまへ ヱホバよ壯獅の牙をぬきくだきたまへ 7願くはかれらを流れゆく水のごとくに消失しめ その矢をはなつときは折れたるごとくなし給はんことを 8また融てきえゆく蝸牛のごとく婦のときならず產たる目をみぬ嬰のごとくならしめ給へ 9なんぢらの釜いまだ荊棘の火をうけざるさきに 青をも燃たるをもともに狂風にて吹さりたまはん 10義 者はかれらが讎かへさるるを見てよろこび その足をあしきものの血のなかにてあらはん 11かくて人はいふべし實にただしきものに報賞あり實にさばきをほどこしたまふ神はましますなりと

第五十九篇

サウル、ダビデを殺さんとし人をおくりてその家をうかがはしめし時ダビデがよみて「ほろぼすなかれ」といふ調にあはせて伶長にうたはしめたるミクタムの歌

1わが神よねがはくは我をわが仇よりたすけいだし われを高處におきて我にさからひ起 立つものより脱かれしめ

たまへ 2邪曲をおこなふものより我をたすけいだし血をながす人より我をすくひたまへ 3視よかれらは潜みかくれてわが霊魂をうかがひ猛者むれつどひて我をせむ ヱホバよ此はわれに愆あるにあらず われに罪あるにあらず 4かれら趨りまはりて過失なきに我をそこなはんとて 備をなす ねがはくは我をたすくるために目をさまして見たまへ 5なんぢヱホバ萬軍の神イスラエルの神よ ねがはくは目をさましてもろもろの國にのぞみたまへ あしき罪人にあはれみを加へたまふなかれ セラ 6かれらは夕にかへりきたり犬のごとくほえて邑をへありく 7視よかれらは口より悪をはく そのくちびるに劍あり かれらおもへらく誰ありてこの言をきかんやと 8されどヱホバよ汝はかれらをわらひ もろもろの國をあざわらひたまはん 9わが力 よわれ汝をまちのぞまん 神はわがたかき櫓なり 10 憐憫をたまふ神はわれを迎へたまはん 神はわが仇につきての願望をわれに見させたまはん 11願くはかれらを殺したまふなかれ わが民つひに忘れやはせん 主われらの盾よ 大能をもてかれらを散し また卑したまへ 12かれらがくちびるの言はその口のつみなり かれらは詛と虚偽とをいひいづるによりてその傲慢のためにとらへられしめたまへ 13忿恚をもてかれらをほろぼしたまへ 再びながらふることなきまでに彼等をほろぼしたまへ ヤコブのなかに神いまして統治めたまふことをかれらに知しめて地の極にまでおよぼしたまへ セラ 14かれらは夕にかへりきたり犬のごとくほえて邑をへありくべし 15かれらはゆききして食物をあさり もし飽ことなくば終夜とどまれり 16 されど我はなんぢの大能をうたひ清晨にこゑをあげてなんぢの憐憫をうたひまつらん なんぢわが迫りくるしみたる日にたかき櫓となり わが避所となりたまひたればなり 17わがちからよ我なんぢにむかひて頌辭をうたひまつらん 神はわがたかき櫓われにあはれみをたまふ神なればなり

第六十篇

ダビデ、ナハライムのアラムおよびゾバのアラムとたたかひをりしがヨアブかへりゆき鹽谷にてエドム人一萬二千をころししとき教訓をなさんとてダビデがよみて「證詞の百合花」といふ調にあはせて伶長にうたはしめたるミクタムの歌

1神よなんぢわれらを棄れらをちらし給へり なんぢは憤ほりたまへり ねがはくは再びわれらを歸したまへ 2なんぢ國をふるはせてこれを裂たまへり ねがはくはその多くの隙をおぎなひたまへ そは國ゆりうごくなり 3なんぢはその民にたへがたきことをしめし 人をよろめかする酒をわれらに飲しめ給へり 4なんぢ眞理のために擧しめんとて汝をおそるるものに一つの旗をあたへたまへり セラ 5ねがはくは右の手をもて救をほどこし われらに答をなして愛しみたまふものに助をえしめたまへ 6神はその 聖をもていひたまへり われ甚くよろこばん われシケムをわかちスコテの谷をはからん 7ギレアデはわがもの マナセはわが有なり エフライムも亦わが首のまもりなり ユダはわが杖 8モアブはわが足盥なり エドムにはわが履をなげん ベリシテよわが故によりて聲をあげよと 9たれかわれを堅固なる邑にすすましめんや 誰かわれをみちびきてエドムにゆきたるか 10神よなんぢはわれらを棄たまひしにあらずや 神よなんぢはわれらの軍とともにいでゆきたまはず 11ねがはくは助をわれにあたへて敵にむかはしめたまへ 人のたすけは空しければなり 12われらは神によりて勇しくはたらかん われらの敵をみたまふものは神なればなり

第六十一篇

琴にあはせて伶長にうたはしめたるダビデのうた

1ああ神よねがはくはわが哭聲をききたまへ わが祈にみこころをとめたまへ 2わが心くづほるるとき地のはてより汝をよばん なんぢ我をみちびきてわが及びがたきほどの高き磐にのぼらせたまへ 3なんぢはわが避所われを仇よりのがれしむる堅固なる櫓なればなり 4われ永遠になんぢの帷幄にすまはん我なんぢの翼の下にのがれん セラ 5神よなんぢはわがもろもろの誓をきき名をおそるるものにたまふ嗣業をわれにあたへたまへり 6なんぢは王の生命をのばし その年を幾代にもいたらせたまはん 7王はとこしへに神のみまへにとどまらん ねがはくは仁慈と眞實とをそなへて彼をまもりたまへ 8さらば我とこしへに名をほめうたひて日ごとにわがもろもろの誓をつくのひ果さん

第六十二篇

エドトンの體にしたがひて伶長にうたはしめたるダビデのうた

1わがたましひは默してただ神をまつ わがすくひは神よりいづるなり 2神こそはわが磐わがすくひなれ またわが高き櫓にしあれば我いたくは動かされじ 3なんぢらは何のときまで人におしせまるや なんぢら相共にかたぶける

石垣のごとく揺ぎうごける籬のごとくに人をたふさんとするか 4かれらは人をたふとき位よりおとさんとのみ謀り いつはりをよろこびまたその口にてはいはひその心にてはのろふ セラ 5わがたましひよ默してただ神をまて そはわがのぞみは神よりいづ 6神こそはわが磐わがすくひなれ 又わがたかき櫓にしあれば我はうごかされじ 7わが救とわが榮とは神にあり わがちからの磐わがさけどころは神にあり 8民よいかなる時にも神によりたのめ その前になんぢらの心をそそぎいだせ 神はわれらの避所なり セラ 9實にひくき人はむなしくたかき人はいつはりなり すべてかれらを權衡におかば上にあがりて虛しきものよりも軽きなり 10暴虐をもて恃とするなかれ 掠奪ふをもてほこるなかれ 富のましくははる時はこれに心をかくるなかれ 11ちからは神にあり神ひとたび之をのたまへりわれ二次これをきけり 12ああ主よあはれみも亦なんぢにあり なんぢは人おのおのの作にしたがひて報をなしたまへばなり

第六十三篇

ユダの野にありしときに詠るダビデのうた

1ああ神よなんぢはわが神なり われ切になんぢをたづねもとむ 水なき燥きおとろへたる地にあるごとくわが霊魂はかわきて汝をのぞみ わが肉體はなんぢを戀したふ 2曩にも我かくのごとく大權と榮光とをみんことをねがひ聖所にありて目をなんぢより離れしめざりき 3なんぢの仁慈はいのちにも勝れるゆゑにわが口唇はなんぢを讃まつらん 4斯われはわが生るあひだ汝をいはひ名によりてわが手をあげん 5われ床にありて汝をおもひいで夜の更るままになんぢを深くおもはん時 わがたましひは髄と脂とにて饗さるるごとく飽ことをえ わが口はよろこびの口唇をもてなんぢを讃たたへん 6われ床にありて汝をおもひいで夜の更るままになんぢを深くおもはん時 わがたましひは髄と脂とにて饗さるるごとく飽ことをえ わが口はよろこびの口唇をもてなんぢを讃たたへん 7そはなんぢわが助となりたまひたれば 我なんぢの翼のかげに入てよろこびたのしまん 8わがたましひはなんぢを慕追ふみぎの手はわれを支ふるなり 9然どわがたましひを滅さんとて尋ねもとむるものは地のふかきところにゆき 10又つるぎの刃にわたされ野犬の獲るところとなるべし 11しかれども王は神をよろこばん 神によりて誓をたつるものはみな誇ることをえん 虚偽をいふものの口はふさがるべければなり

第六十四篇

伶長にうたはしめたるダビデのうた

1神よわがなげくときわが聲をききたまへ わが生命をまもりて仇のおそれより脱かれしめたまへ 2ねがはくは汝われをかくして惡をなすものの陰かなる謀略よりまぬかれしめ不義をおこなふものの喧嘩よりまぬかれしめ給へ 3かれらは劍のごとくおのが舌をとぎ その弓をはり矢をつがへるごとく苦言をはなち 4隠れたるところにて全者を射んとす俄かにこれを射ておそるることなし 5また彼此にあしき企圖をはげまし共にはかりてひそかに羂をまうく 斯ていふ誰かわれらを見んと 6かれらはさまざまの不義をたづねいだして云われらは懇ろにたづね終れりと おのおのの衷のおもひと心とはふかし 7然はあれど神は矢にてかれらを射たまふべし かれらは俄かに傷をうけん 8斯てかれらの舌は其身にさからふがゆゑに遂にかれらは蹟かん これを見るものみな逃れさるべし 9もろもろの人はおそれん而して神のみわざをのべつたへ その作たまへることを考ふべし 10義 者はヱホバをよろこびて之によりたのまん すべて心のなほきものは皆ほこることを得ん

第六十五篇

伶長にうたはしめたる歌ダビデの讃美なり

1ああ神よさんびはシオンにて汝をまつ 人はみまへにて誓 をはたさん 2祈をききたまふものよ諸人こぞりて汝にきたらん 3不義のことば我にかてり なんぢ我儕のもろもろの愆をきよめたまはん 4汝にえらばれ汝にちかづけられて大庭にすまふ者はさいはひなり われらはなんぢの家なんぢの宮のきよき處のめぐみにて飽ことをえん 5われらが救のかみよ 地と海とのもろもろの極なるきはめて遠 ものの恃とするなんぢは公義によりて畏るべきことをもて我儕にこたへたまはん 6かみは大能をおび その權力によりてもろもろの山をかたくたたしめ 7海のひびき狂瀾のひびき もろもろの民のかしがましきを鎮めたまへり 8されば極遠にすめる人々もなんぢのくさぐさの豫兆をみておそる なんぢ朝 夕のいづる處をよろこび謳はしめたまふ 9なんぢ地にのぞみて潅そぎおほいに之をゆたかにしたまへり 神のかはに水みちたり なんぢ如此そな

へをなして穀物をかれらにあたへたまへり 10なんぢ畝をおほいにうるほし畝をたひらにし白雨にてこれをやはらかにし その萌芽るを祝し 11また恩恵をもて年の冕弁としたまへり なんぢの途には膏したたれり 12その恩滴は野の牧場をうるほし小山はみな歓びにかこまる 13牧場はみな羊のむれを衣もろもろの谷は穀物におほはれたり かれらは皆よろこびてよばはりまた謳ふ

第六十六篇

伶長にうたはしめたる讃美なり 歌なり

1全地よ神にむかひて歓びよばはれ 2その名の榮光をうたへその頌美をさかえしめよ 3かみに告まつれ 汝のもろもろの功用はおそるべきかな大なる力によりてなんぢの仇はなんぢに畏れしたがひ 4全地はなんぢを拝みてうたひ名をほめうたはんと セラ 5來りて神のみわざをみよ 人の子輩にむかひて作たまふことはおそるべきかな 6神はうみをかへて乾ける地となしたまへり ひとびと歩行にて河をわたりき その處にてわれらは神をよろこべり 7神はその大能をもてとこしへに統治め その目は諸國をみたまふ そむく者みづからを崇むべからず セラ 8もろもろの民よ われらの神をほめまつれ神をほめたたふる聲をきこえしめよ 9神はわれらの霊魂をながらへしめ われらの足のうごかさるることをゆるしたまはず 10神よなんぢはわれらを試みて白銀をねるごとくにわれらを錬たまひたればなり 11汝われらを網にひきいれ われらの腰におもき荷をおき 12人々をわれらの首のうへに騎こえしめたまひき われらは火のなか水のなかをすぎゆけり されど汝その中よりわれらをひきいたし豊盛なる處にいたらしめたまへり 13われ燔祭をもてなんぢの家にゆかん 迫りくるしみたるときにわが口唇のいひいでわが口ののべし誓をなんぢに償はん 14われ燔祭をもてなんぢの家にゆかん 迫りくるしみたるときにわが口唇のいひいでわが口ののべし誓をなんぢに償はん 15われ肥たるものを燔祭とし牡羊を馨香として汝にささげ牡牛と牡山羊とをそなへまつらん セラ 16神をおそるる人よ みな來りてきけ われ神のわがたましひのために作たまへることをのべん 17われわが口をもて神によばはり また舌をもてあがむ 18然るにわが心にしれる不義あらば主はわれにききたまふまじ 19されどまことに神はききたまへり聖意をわがいのりの聲にとめたまへり 20神はほむべきかな わが祈をしりぞけず その憐憫をわれよりとりのぞきたまはざりき

第六十七篇

琴にあはせて伶長にうたはしめたる歌なり 讃美なり

1ねがはくは神われらをあはれみ われらをさきはひてその聖顔をわれらのうへに照したまはんことを セラ 2此はなんぢの途のあまねく地にしられ なんぢの救のもろもろの國のうちに知れんがためなり 3かみよ庶民はなんぢに感謝し もろもろの民はみな汝をほめたたへん 4もろもろの國はたのしみ又よろこびうたふべし なんぢ直をもて庶民をさばき地のうへなる萬の國ををさめたまべければなり セラ 5神よたみらはなんぢに感謝し もろもろの民はみな汝をほめたたへん 6地は產 物をいだせり 神わが神はわれらを福ひたまはん 7神われらをさきはひたまふべし かくて地のもろもろの極ことごとく神をおそれん

第六十八篇

伶長にうたはしめたるダビデのうたなり 讃美なり

1ねがはくは神おきたまへ その仇はことごとくちり 神をにくむものは前よりにげさらんことを 2烟のおひやらるるごとくかれらを驅逐たまへ 惡きものは火のまへに蝋のとくるごとく 神のみまへにてほろぶべし 3されど義きものには歓喜あり かれら神の前にてよろこびをどらん實にたのしみて喜ばん 4神のみまへにうたへ その名をほめたたへよ 乘て野をすぐる者のために大道をきづけ かれの名をヤハとよぶ その前によろこびをどれ 5きよき住居にまします神はみなしごの父やもめの審 士なり 6神はよるべなきものを家族の中にをらしめ囚人をとき福祉にみちびきたまふ されど悖逆者はうるほひなき地にすめり 7神よなんぢは民にさきだちいでて野をすすみゆきたまひき セラ 8そのとき地ふるひ天かみのみまへに漏る シナイの山すら神イスラエルの神の前にふるひうごけり 9神よなんぢの嗣業の地のつかれおとろへたるとき豊かなる雨をふらせて之をかたくしたまへり 10曩になんぢの公會はその中にとどまれり 神よなんぢは惠をもて貧きもののために預備をなしたまひき 11主みことばを賜ふ その佳音をのぶる婦女はおほくして群をなせり 12もろもろの軍旅の王たちはにげさる 逃去りたれば家なる婦女はその掠物をわかつ 13なんぢら羊の牢のうちにふすときは鴿のつばさの白銀におほはれその毛の黄金におほはるるがごとし 14

全能者かしこにて列王をちらし給へるときはサルモンの山に雪ふりたるがごとくなりき 15バシャンのやまは神の山なりバシャンのやまは峰かさなれる山なり 16峰かさなれるもろもろの山よ なんぢら何なれば神の住所にえらびたまへる山をねたみ見るや 然れヱホバは永遠にこの山にすみたまはん 17神の戦車はよろづに萬をかさね千にちぢをくはふ 主その中にいませり 聖所にいますがごとくシナイの山にいましがごとし 18なんぢ高處にのぼり虜者をとりこにしてひきゐ禮物を人のなかよりも叛逆者のなかよりも受たまへり ヤハの神ここに住たまはんが爲なり 19日々にわれらの荷をおひたまふ主われらのすくひの神はほむべきかな セラ 20神はしばしばわれらを助けたまへる神なり 死よりのがれうるは主ヱホバに由る 21神はその仇のかうべを撃やぶりたまはん 愆のなかにとどまるものの髪おほき顱頂をうちやぶりたまはん 22主いへらく我バシャンよりかれらを携へかへり海のふかき所よりたづさへ歸らん 23斯てなんぢの足をそのあたの血にひたし之をなんぢの犬の舌になめしめん 24神よすべての人はなんぢの進行きたまふをみたり わが神わが王の聖所にすすみゆきたまふを見たり 25謳うつ童女のなかにありて謳ふものは前にゆき琴ひくものは後にしたがへり 26なんぢらすべての會にて神をほめよイスラエルのみなもとより出るなんぢらよ 主をほめまつれ 27彼處にかれらを統るとしわかきベニヤミンあり ユダの諸侯とその群衆とありまたゼブルンのきみたちナフタリの諸侯あり 28なんぢの神はなんぢの力をたてたまへり 神よなんぢ我儕のためになしたまひし事をかたくしたまへ 29ヱルサレムなるなんぢの宮のために列王なんぢに禮物をささげん 30ねがはくは葦間の獣むらがれる牯犢のごときもろもろの民をいましめてかれらに白銀をたづさへきたり みづから服ふことを爲しめたまへ 神はたたかひを好むもろもろの民をちらしたまへり 31諸侯はエジプトよりきたり エテオピアはあわただしく神にむかひて手をのべん 32地のもろもろのくによ神のまへにうたへ主をほめうたへ セラ 33上古よりの天の天にのりたま者にむかひてうたへ みよ主はみこゑを發したまふ勢力ある聲をいだしたまふ 34なんぢらちからを神に歸せよその稜威はイスラエルの上にとどまり その大能は雲のなかにあり 35神のおそるべき状はきよき所よりあらはる イスラエルの神はその民にちからと勢力とをあたへたまふ 神はほむべきかな

第六十九篇

百合花にあはせて伶長にうたはしめたるダビデのうた

1神よねがはくは我をすくひたまへ 大水ながれきたりて我がたましひにまでおよべり 2われ立止なきふかき泥の中にしづめり われ深水におちいるおほみづわが上をあふれすぐ 3われ歎息によりてつかれたり わが喉はかわきわが目はわが神をまちわびておとろへぬ 4故なくしてわれをにくむ者わがかしらの髪よりもおほく謂なくしてわが仇となり我をほろぼさんとするものの勢力つよし われ掠めざりしものをも償はせらる 5神よなんぢはわが愚なるをしりたまふ わがもろもろの罪はなんぢにかくれざるなり 6萬軍のヱホバ主よ ねがはくは汝をまちのぞむ者をわが故によりて辱かしめらるることなからしめたまへ イスラエルの神よねがはくはなんぢを求むる者をわが故によりて恥をおはしめらるることなからしめたまへ 7我はなんぢのために謗をおひ恥はわが面をおほひたればなり 8われわが兄弟には旅人のごとく わが母の子には外人のごとくなれり 9そはなんぢの家をおもふ熱心われをくらひ汝をそしるものの謗われにおよべり 10われ涙をながして食をたち わが霊魂をなげかすれば反てこれによりて謗をうく 11われ麁布をころもとなししにかれらが諺語となりぬ 12門にすわる者はわがうへをかたる われは酔狂たるものに謳ひはやされたり 13然はあれどヱホバよわれは恵のときに汝にいのる ねがはくは神よなんぢの憐憫のおほきによりて汝のすくひの眞實をもて我にこたへたまへ 14ねがはくは泥のなかより我をたすけいだして沈ざらしめたまへ 我をにくむものより深水よりたすけいだしたまへ 15大水われを淹ふことなく淵われをのむことなく坑その口をわがうへに閉ることなからしめたまへ 16ヱホバよねがはくは我にこたへたまへ なんぢの仁慈うるはしければなり なんぢの憐憫はおほしわれに歸りきたりたまへ 17面をなんぢの僕にかくしたまふなかれ われ迫りくるしめり ねがはくは速かに我にこたへたまへ 18わがたましひに近くよりて之をあがなひわが仇のゆゑに我をすくひたまへ 19汝はわがうくる謗とはぢと侮辱とをしりたまへり わが敵はみな汝のみまへにあり 20譏謗わが心をくだきぬれば我いたくわづらへり われ憐憫をあたふる者をまちたれど一人だになく慰むるものを俟たれど一人をもみざりき 21かれら苦草をわがくひものにあたへ わが渇けるときに醋をのませたり 22ねがはくは彼等のまへなる筵

は網となり そのたのむ安逸はつひに綱となれ 23その目をくらくして見しめず その腰をつねにふるはしめたまへ 24願くはなんぢの忿恚をかれらのうへにそそぎ汝のいかりの猛烈をかれらに追及せたまへ 25かれらの屋をむなしくせよ その幕屋に人をすまはするなかれ 26かれらはなんぢが撃たまひたる者をせめ なんぢが傷けたまひたるものの痛をかたりふるればなり 27ねがはくはれらの不義に不義をくはへてなんぢの義にあづからせ給ふなかれ 28かれらを生命の冊よりけして義きものとともに記さるることなからしめたまへ 29斯てわれはくるしみ且うれひあり神よねがはくはなんぢの救われを高 處におかんことを 30われ歌をもて神の名をほめたたへ 感謝をもて神をあがめまつらん 31此はをうしまたは角と蹄とある力つよき牡牛にまさりてヱホバよろこびたまはん 32謙遜者はこれを見てよろこべり 神をしたふ者よなんぢらの心はいくべし 33ヱホバは乏しきものの聲をきき その俘 囚をかろしめたまはざればなり 34天地はヱホバをほめ蒼海とその中にうごくあらゆるものとはヱホバを讃まつるべし 35神はシオンをすくひユダのもろもろの邑を建たまふべければなり かれらは其處にすみ且これをおのが有とせん 36そのしもべ のすゑも亦これを嗣その名をいつくしむ者その中にすまん

第七十篇

伶長にうたはしめたるダビデが記念のうた

1神よねがはくは我をすくひたまへ ヱホバよ速きたりて我をたすけたまへ 2わが霊魂をたづぬるものの恥あわてんことを わが害はるるをよろこぶものの後にしりぞきて恥をおはんことを 3ああ視よや視よやといふもののおのが恥によりて後にしりぞかんことを 4すべて汝をたづねもとむる者のなんぢによりて樂みよろこばんことを なんぢの救をしたふもののつねに神は大なるかなととなへんことを 5われは苦しみ且ともし神よいそぎて我にきたりたまへ 汝はわが助われを救ふものなり ヱホバよねがはくは猶豫たまふなかれ

第七十一篇

1ヱホバよ我なんぢに依頼む ねがはくは何の日までも恥うくることなからしめ給へ 2なんぢの義をもて我をたすけ我をまぬかれしめたまへ なんぢの耳をわれに傾けて我をすくひたまへ 3ねがはくは汝わがすまひの磐となりたまへ われ恒にそのところに往ことを得ん なんぢ我をすくはんとて勅 命をいだしたまへり そは汝はわが磐わが城なり 4わが神よあしきものの手より不義殘忍なる人のてより 我をまぬかれしめたまへ 5主ヱホバよなんぢはわが望なり わが幼少よりの恃なり 6われ胎をはなるるより汝 にまもられ母の腹にありしときより汝にめぐまれたり我つねに汝をほめたたへん 7我おほくの人にあやしまるるごとき者となれり 然どなんぢはわが堅固なる避 所なり 8なんぢの頌 辭となんぢの頌美とは終日わが口にみちん 9わが年老ぬるとき我をすてたまふなかれ わが力おとろふるとき我をはなれたまなかれ 10わが仇はわがことを論 ひ ひわが霊魂をうかがふ者はたがひに議ていふ 11神かれを離れたり彼をたすくる者なし かれを追てとらへよと 12神よわれに遠ざかりたまふなかれ わが神よとく來りて我をたすけたまへ 13わがたましひの敵ははぢ且おとろへ我をそこなはんとするものは謗と辱とにおほはれよ 14されど我はたえず望をいだきていやますます汝をほめたたへん 15わが口はひねもす汝の義となんぢの救とをかたらん われその數をしらざればなり 16われは主ヱホバの大能の事跡をたづさへゆかん われは只なんぢの義のみをかたらん 17神よなんぢわれを幼少より教へたまへり われ今にいたるまで汝のくすしき事跡をのべつたへたり 18神よねがはくはわれ老て頭髪しろくなるとも我がなんぢの力 を次代にのべつたへ なんぢの大能を世にうまれいづる凡のものに宣傳ふるまで我をはなれ給ふなかれ 19神よなんぢの義もまた甚たかし なんぢは大なることをなしたまへり 神よたれか汝にひとしき者あらんや 20汝われらを多 のおもき苦難にあはせたまへり なんぢ再びわれらを活しわれらを地の深 所よりあげたまはん 21ねがはくは我をいよいよ大ならしめ歸りきたりて我をなぐさめ給へ 22わが神よさらばわれ箏をもて汝をほめ なんぢの眞實をほめたたへん イスラエルの聖者よわれ琴をもてなんぢを讃うたはん 23われ聖前にうたときわが口唇よろこびなんぢの贖ひたまへるわが霊魂おほいに喜ばん 24わが舌もまた終日なんぢの義をかたらん われを害はんとするもの愧恥つればなり

第七十二篇

ソロモンのうた

1神よねがはくは汝のもろもろの審判を王にあたへ なんぢの義をわうの子にあたへたまへ 2かれは義をもてなんぢの民をさばき公平をもて苦しむものを鞫かん 3義によりて山と岡とは民に平康をあたふべし 4かれは民のくるしむ者のために審判をなし乏しきものの子輩をすくひ虐ぐるものを壊きたまはん 5かれらは日と月とのあらんかぎり世々おしなべて汝をおそるべし 6かれは苅とれる牧にふる雨のごとく地をうるほす白雨のごとくのぞまん 7かれの世にただしき者はさかえ平和は月のうするまで豊かならん 8またその政治は海より海にいたり河より地のはてにおよぶべし 9野にをる者はそのまへに屈み そり仇は塵をなめん 10タルシシおよび島々の王たちは貢ををさめ シバとセバの王たちは禮物をささげん 11もろもろの王はそのまへに俯伏し もろもろの國はかれにつかへん 12かれは乏しき者をその叫ぶときにすくひ 助けなき苦しむ者をたすけ 13弱きものと乏しき者とをあはれみ乏しきものの霊魂をすくひ 14かれらのたましひを暴虐と強暴とよりあがなひたまふ その血はみまへに貴かるべし 15かれらは存ふべし 人はシバの黄金をささげてかれのために恒にいのり終日かれをいははん 16國のうち五穀ゆたかにしてその實はレバノンのごとく山のいただきにそよぎ 邑の人々は地の草のごとく榮ゆべし 17かれの名はつねにたえず かれの名は日の久しきごとくに絶ることなし 人はかれによりて福祉をえん もろもろの國はかれをさいはひなる者ととなへん 18ただイスラエルの神のみ奇しき事跡をなしたまへり 神ヱホバはほむべきかな 19その榮光の名はよよにほむべきかな全地はその榮光にて滿べしアーメン アーメン 20エッサイの子ダビデの祈はをはりぬ

第七十三篇

アサフのうた

1神はイスラエルにむかひ心のきよきものに對ひてまことに恵あり 2然はあれどわれはわが足つまづくばかりわが歩すべるばかりにてありき 3こはわれ悪きものの榮ゆるを見てその誇れる者をねたみしによる 4かれらは死るに苦しみなくそのちからは反てかたし 5かれらは人のごとく憂にをらず人のごとく患難にあふことなし 6このゆゑに傲慢は妝飾のごとくその頸をめぐり強暴はころものごとく彼等をおほへり 7かれら肥ふとりてその目とびいで心の欲にまさりて物をうるなり 8また嘲笑をなし悪をもて暴虐のことばをいだし高ぶりてものいふ 9その口を天におきその舌を地にあまねく往しむ 10このゆゑにかれの民はここにかへり水のみちたる杯をしぼりいだして 11いへらく神いかで知たまはんや至上者に知識あらんやと 12視よかれらは悪きものなるに常にやすらかにしてその富ましくははれり 13誠に我はいたづらに心をきよめ罪ををかさずして手をあらひたり 14そはわれ終日なやみにあひ朝ごとに責をうけしなり 15われもし斯ることを述んといひしならば我なんぢが子輩の代をあやまらせしならん 16われこれらの道理をしらんとして思ひめぐらししにわが眼いたく痛たり 17われ神の聖所にゆきてかれらの結局をふかく思へるまでは然りき 18誠になんぢはかれらを滑かなるところにおきかれらを滅亡におとしいれ給ふ 19かれらは瞬 間にやぶれたるかな彼等は恐怖をもてことごとく滅びたり 20主よなんぢ目をさましてかれらが像をかろしめたまはんときは夢みし人の目さめたるがごとし 21わが心はうれへ わが腎はささされたり 22われおろかにして知覺なし聖前にありて獣にひとしかりき 23されど我つねになんぢとともにあり汝わが右手をたもちたまへり 24なんぢその訓諭をもて我をみちびき後またわれをうけて榮光のうちに入たまはん 25汝のほかに我たれをか天にもたん地にはなんぢの他にわが慕ふものなし 26わが身とわが心とはおとろふ されど神はわがこころの磐わがとこしへの嗣業なり 27視よなんぢに遠きものは滅びん 汝をはなれて姦淫をおこなふ者はみななんぢ之をほろぼしたまひたり 28神にちかづき奉るは我によきことなり われは主ヱホバを避所としてそのもろもろの事跡をのべつたへん

第七十四篇

アサフの教訓のうた

1神よいかなれば汝われらをかぎりなく棄たまひしや 奈何ばなんぢの草苑の羊にみかいかりの煙あがれるや 2ねがはくは往昔なんぢが買求めたまへる公會ゆづりの支派となさんとて贖ひたまへるものを思ひいでたまへ又なんぢが住たまふシオンの山をおもひいで給へ 3とこしへの滅亡の跡にみあしを向たまへ仇は聖所にてもろもろの悪きわざをおこなへり 4なんぢの敵はなんぢの集のなかに吼たけびおのが旗をたてて誌とせり 5かれらは林のしげみにて斧をあぐる人の状にみゆ 6いま鉞と鎚とをもて聖所のなかなる彫刻めるものをことごとく毀ちおとせ

り 7かれらはなんぢの聖所に火をかけ名の居所をけがして地におとしたり 8かれら心のうちにいふ われらことごとく之をこぼちあらさんと かくて國内なる神のもろもろの會堂をやきつくせり 9われらの誌はみえず預言者も今はなし 斯ていくその時をかふべき われらのうちに知るものなし 10神よ敵はいくその時をふるまでそしるや 仇はなんぢの名をとこしへに汚すならんか 11いかなれば汝その手みぎの手をひきたまふや ねがはくは手をふところよりいだしてかれらを滅したまへ 12神はいにしへよりわが王なり すくひを世の中におこなひたまへり 13なんぢその力をもて海をわかち水のなかなる龍の首をくだき 14鰐のかうべをうちくだき野にすめる民にあたへて食となしたまへり 15なんぢは泉と水流とをひらき又もろもろの大河をからしたまへり 16晝はなんぢのもの夜も又汝のものなり なんぢは光と日とをそなへ 17あまねく地のもろもろの界をたて夏と冬とをつくりたまへり 18ヱホバよ仇はなんぢをそしり愚かなる民はなんぢの名をけがせり この事をおもひいでたまへ 19願くはなんぢの鴿のたましひを野のあらき獣にわたしたまふなかれ 苦しむものに命をとこしへに忘れたまふなかれ 20契約をかへりみたまへ地のくらきところは強暴の宅にて充たればなり 21ねがはくは虐げらるるものを慚退かしめ給ふなかれ 悩るものと苦しむものとに聖名をほめたたへしめたまへ 22神よおきてなんぢの訟をあげつらひ愚かなるものの終日なんぢを謗れるをみこころに記たまへ 23なんぢの敵の聲をわすれたまふなかれ 汝にさからひて起りたつ者のかしがましき聲はたえずあがれり

第七十五篇

「滅すなかれ」といふ調にあはせて伶長にうたはしめたるアサフの歌なり讃美なり

1神よわれら汝にかんしやす われら感謝すなんぢの名はちかく坐せばなり もろもろの人はなんぢの奇しき事跡をかたりあへり 2定りたる期いたらば我なほき審判をなさん 3地とすべての之にすむものと消去しとき我そのもろもろの柱をたてたり セラ 4われ誇れるものに誇りかにおこなふなかれといひ 惡きものに角をあぐるなかれといへり 5なんぢらの角をたかく擧るなかれ頸をかたくして 高りいふなかれ 6擧ることは東よりにあらず西よりにあらずまた南よりにもあらざるなり 7ただ神のみ審士にましませば此をさげ彼をあげたまふ 8ヱホバの手にさかづきありて酒あわだてり その中にものまじりてみつ 神これをそそぎいだせり 誠にその滓は地のすべてのあしき者しぼりて飲むべし 9されど我はヤコブの神をのべつたへんとこしへに讃うたはん 10われ惡きもののすべての角をきりはなたん 義きものの角はあげらるべし

第七十六篇

琴にあはせて伶長にうたはしめたるアサフの歌なり讃美なり

1神はユダにしられたまへり その名はイスラエルに大なり 2またサレムの中にその幕屋あり その居所はシオンにあり 3彼所にてかれは弓の火矢ををり盾と劍と戰陣とをやぶりたまひき セラ 4なんぢ榮光あり掠めうばふ山よりもたふとし 5心のつよきものは掠められる かれらは睡にしづみ勇ましきものは皆その手を見うしなへり 6ヤコブの神よなんぢの叱咤によりて戰 車と馬とともに深 睡につけり 7神よなんぢこそ懼るべきものなれ 一たび怒りたまふときは誰かみまへに立えんや 8なんぢ天より宣告をのりたまへり 地のへりくだる者をみなすくはんとて神のさばきに立たまへるとき地はおそれて默したり セラ 9なんぢ天より宣告をのりたまへり 地のへりくだる者をみなすくはんとて神のさばきに立たまへるとき地はおそれて默したり セラ 10實に人のいかりは汝をほむべし 怒のあまりは汝おのれの帶としたまはん 11なんぢの神ヱホバにちかひをたてて償へ そのまはりなるすべての者はおそるべきヱホバに禮物をささぐべし 12ヱホバはもろもろの諸侯のたましひを絶たまはん ヱホバは地の王たちのおそるべき者なり

第七十七篇

エドトンの體にしたがひて伶長にうたはしめたるアサフのうた

1我わがこゑをあげて神によばはん われ聲を神にあげなばその耳をわれにかたぶけたまはん 2わがなやみの日にわれ主をたづねまつれり 夜わが手をのべてゆるむることなかりき わがたましひは慰められるるをいなみたり 3われ神をおもひいでて打なやむ われ思ひなげきてわが靈魂おとろへぬ セラ 4なんぢはわが眼をささへて閉がしめたまはず 我はものいふこと能はぬほどに惱みたり 5われむかしの日いにしへの年をおもへり 6われ夜わが歌をむもひいづ 我わが心にてふかくおもひわが靈魂はねもころに尋ねもとむ 7主はとこしへに棄たまふや 再びめぐみを垂た

まはざるや 8その憐憫はのこりなく永遠にさり そのちかひは世々ながく廢れたるや 9神は恩をほどこすことを忘れたまふや 怒をもてそのあはれみを絨たまふや セラ 10斯るときに我いへらく此はただわが弱きがゆゑのみいで至上者のみぎの手のもろもろの年をおもひいでん 11われヤハの作爲をのべとなへん われ往古よりありし汝がくすしきみわざを思ひいたさん 12また我なんぢのすべての作爲をおもひいで汝のなしたまへることを深くおもはん 13神よなんぢの途はいときよし 神のごとく大なる神はたれぞや 14なんぢは奇きみわざをなしたまへる神なり もろもろの民のあひだにその大能をしめし 15その臂をもてヤコブ、ヨセフの子輩なんぢの民をあがなひたまへり セラ 16かみよ大水なんぢを見たり おほみづ汝をみてをののき淵もまたふるへり 17雲はみづをそそぎいだし空はひびきをいだし なんぢの矢ははしりいでたり 18なんぢの雷鳴のこゑは暴風のうちにありき 電光は世をてらし地はふるひうごけり 19なんぢの大道は海のなかにあり なんぢの徑はおほみづの中にあり なんぢの蹤跡はたづねがたかりき 20なんぢその民をモーセとアロンとの手によりて羊の群のごとくみちびきたまへり

第七十八篇

アサフの教訓のうた

1わが民よわが教訓をきき、わが口のことばになんぢらの耳をかたぶけよ 2われ口をひらきて譬喩をまうけ いにしへの玄幽なる語をかたりいでん 3是われらが曩にききしところ知しところ又われらが列祖のかたりつたへし所なり 4われら之をその子孫にかくさずヱホバのもろもろの頌美と能力とそのなしたまへる奇しき事跡とをきたらんとする世につげん 5そはヱホバ證詞をヤコブのうちにたて律法をイスラエルのうちに定めてその子孫にしらすべきことをわれらの列祖におほせたまひたればなり 6これ來らんとする代のちに生るる子孫がこれを知みづから起りてそのまた子孫につたへ 7かれらをして神によりたのみ神のみわざを忘れずその誡命をまもらしめん爲なり 8またその列祖のごとく頑固にしてそむくものの類となりそのこころ修まらず そのたましひ神に忠ならざる類とならざらん爲なり 9エフライムのこらは武具ととのへ弓をたづさへしに戰ひの日にうしろをそむけたり 10かれら神のちかひをまもらず そのおきてを履ことをいなみ 11ヱホバのなしたまへることとかれらに示したまへる奇しき事跡とをわすれたり 12神はエジプトの國にてゾアンの野にて妙なる事をかれらの列祖のまへになしたまへり 13すなはち海をさきてかれらを過ぎしめ水をつみて堆かくしたまへり 14ひるは雲をもてかれらをみちびき夜はよもすがら火の光をもてこれを導きたまへり 15神はあれのにて磐をさき大なる淵より汲がごとくにかれらに飲しめ 16また磐より流をひきて河のごとくに水をながれしめたまへり 17然るにかれら尚たえまなく罪ををかして神にさからひ荒野にて至上者にそむき 18またおのが慾のために食をもとめてその心のうちに神をこころみたり 19然のみならずかれらは神にさからひていへり 神は荒野にて筵をまうけたまふを得んや 20みよ神いはを撃たまへば水ほどばしりいで流あぶれたり 糧をもあたへたまふを得んや神はその民のために肉をそなへたまはんやと 21この故にヱホバこれを聞ていきどほりたまひき 火はヤコブにむかひてもえあがり怒はイスラエルにむかひて立騰れり 22こはかれら神を信ぜずその救にたのまざりし故なり 23されどなほ神はうへなる雲に命じて天の戸をひらき 24彼等のうへにマナをふらせて食はしめ天の穀物をあたへたまへり 25人みな勇士の糧をくらへり 神はかれらに食物をおくりて飽足らしめたまふ 26神は天に東風をふかせ大能もて南の風をみちびきたまへり 27神はかれらのうへに塵のごとく肉をふらせ海の沙のごとく翼ある鳥をふらせて 28その營のなかその住所のまはりに落したまへり 29斯てかれらは食ひて飽たりぬ 神はこれにその欲みしものを與へたまへり 30かれらが未だその慾をはなれず食物のなほ口のうちにあるほどに 31神のいかり既にかれらに對ひてたちのぼり彼等のうちにて最もこえたる者をころしイスラエルのわかき男をうちたふしたまへり 32これらの事ありしかど彼等はなほ罪ををかしてその奇しきみわざを信ぜざりしかば 33神はかれらの日を空しくすぐさせ その年をおそれつつ過させたまへり 34神かれらを殺したまへる時かれら神をたづね歸りきたりて懇ろに神をもとめたり 35かくて神はおのれの磐いとたき神はおのれの贖 主なることをおもひいでたり 36然はあれど彼等はただその口をもて神にへつらひその舌をもて神にいつはりをいひたりしのみ 37そはかれらのこころは神にむかひて堅からず その契約をまもるに忠信ならざりき 38されど神はあはれみに充たまへばかれらの不義をゆるして亡したまはず屢ばそ

のみいかりを轉してことごとくは忿恚をふりおこし給はざりき 39又かれがただ肉にして過去ばふたたび歸りこぬ風なるをおもひいで給へり 40かれらは野にて神にそむき荒野にて神をうれへしめしこと幾次ぞや 41かれらかへすがへす神をこころみイスラエルの聖者をはづかしめたり 42かれらは神の手をも敵より贖ひたまひし日をもおもひいでざりき 43神はそのもろもろの豫兆をエジプトにあらはしその奇しき事をゾアンの野にあらはし 44かれらの河を血にかはらせてその流を飲あたはざらしめ 45また蝿の群をおくりてかれらをくはしめ蛙をおくりてかれらを亡させたまへり 46神はかれらの田 産を蟲賊にわたし かれらの勤勞を蝗にあたへたまへり 47神は雹をもてかれらの葡萄の樹をからし霜をもてかれらの桑の樹をからし 48その家畜をへうにわたしその群をもゆる閃電にわたし 49かれらの上にはげしき怒といきどほりと怨恨となやみと禍害のつかひの群とをなげいだし給へり 50神はその怒をもらす道をまうけ かれらのたましひを死よりまぬかれしめず そのいのちを疫癘にわたし 51エジプトにてすべての初子をうちハムの幕屋にてかれらの力の始をうちたまへり 52されどおのれの民を羊のごとくに引いだし かれらを曠野にてけだものの群のごとくにみちびき 53かれらをともなひておそれなく安けからしめ給へり されど海はかれらの仇をおほへり 54神はその聖所のさかひ その右の手にて購たまへるこの山に彼らを携へたまへり 55又かれらの前にてもろもろの國人をおもひいだし準繩をもちゐ その地をわかちて嗣業となし イスラエルの族をかれらの幕屋にすまはせたまへり 56然はあれど彼等はいとたかき神をこころみ之にそむきてそのもろもろの證詞をまもらず 57叛きしりぞきてその列祖の如く眞實をうしなひ くるへる弓のごとくひるがへりて逸ゆけり 58高 處をまうけて神のいきどほりをひき刻める像にて神の嫉妬をおこしたり 59神ききたまひて甚だしくいかり大にイスラエルを憎みたまひしかば 60人々の間におきたまひし幕屋なるシロのあげばりを棄さり 61その力をとりことならしめ その榮光を敵の手にわたし 62その民を劍にあたへ その嗣業にむかひて甚だしく怒りたまへり 63火はかれらのわかき男 をやきつくし かれらの處女はその婚姻の歌によりて譽らるることなく 64かれらの祭司はつるぎにて仆れ かれらの寡婦は喪のなげきだにせざりき 65斯るときに主はねぶりし者のさめしごとく勇士の酒によりてさけぶがごとく目さめたまひて 66その敵をうちしりぞけ とこしへの辱をかれらに負せたまへり 67またヨセフの幕屋をいなみエフライムの族をえらばず 68ユダの族そのいつくしみたまふシオンの山をえらびたまへり 69その聖所を山のごとく永遠にさだめたまへる地のごとくに立たまへり 70またその僕ダビデをえらびて羊の牢のなかよりとり 71乳をあたふる牝羊にしたがひゆく勤のうちより携へきたりてその民ヤコブその嗣業イスラエルを牧はせたまへり 72斯てダビデはそのこころの完全にしたがひてかれらを牧ひ その手のたくみをもて之をみちびけり

第七十九篇

アサフのうた

1ああ神よもろもろの異邦人はなんぢの嗣業の地ををかし なんぢの聖宮をけがしヱルサレムをこぼちて礫堆となし 2なんぢの僕のしかばねをそらの鳥に與へて餌となし なんぢの聖徒の肉を地のけものにあたへ 3その血をヱルサレムのめぐりに水のごとく流したりされど之をはうむる人なし 4われらは隣人にそしられ四周のひとびとに侮られ嘲けらるるものとなれり 5ヱホバよ斯て幾何時をへたまふや 汝とこしへに怒たまふや なんぢのねたみは火のごとく燃るか 6願くはなんぢを識ざることくにびと聖名をよばざるもろもろの國のうへに烈怒をそそぎたまへ 7かれらはヤコブを呑その住處をあらしたればなり 8われらにむかひて先祖のよこしまなるわざを記念したまふなかれ願くはなんぢの憐憫をもて速かにわれらを迎へたまへ われらは貶されて甚だしく卑くなりたればなり 9われらのすくひの神よ名のえいくわうのために我儕をたすけ名のためにわれらを救ひ われらの罪をのぞきたまへ 10いかなれば異邦人はいふ かれらの神はいづくにありやと 願くはなんぢの僕等がながされし血の報をわれらの目前になして異邦人にしらしめたまへ 11ねがはくは汝のみまへにとらはれびとの嘆息のとどかんことを なんぢの大なる能力により死にさだめられし者をまもりて存へしめたまへ 12主よわれらの隣人のなんぢをそしりたる謗を七倍ましてその懐にむくいかへしたまへ 13然ばわれらなんぢの民なんぢの草苑のひつじは永遠になんぢに感謝しその頌辭を世々あらはさん

第八十篇

證詞の百合花といへる調にあはせて伶長にうたはしめたるアサフの歌

1イスラエルの牧者よひつじの群のごとくヨセフを導きたまものよ 耳をかたぶけたまへ ケルビムのうへに坐したまふものよ 光をはなちたまへ 2エフライム、ベニヤミン、マナセの前になんぢの力をふりおこし來りてわれらを救ひたまへ 3神よふたたびわれらを復し なんぢの聖顔のひかりをてらしたまへ 然ばわれら救をえん 4ばんぐんの神ヱホバよなんぢその民の祈にむかひて何のときまで怒りたまふや 5汝かれらになみだの糧をくらはせ涙を量器にみちみつるほどあたへて飲しめ給へり 6汝われらを隣人のあひあらそふ種料となしたまふ われらの仇はたがひにあざわらへり 7萬軍の神よふたたびわれらを復したまへ 汝のみかほの光をてらしたまへ さらばわれら救をえん 8なんぢ葡萄の樹をエジプトより携へいだしもろもろの國人をおひしりぞけて之をうゑたまへり 9汝そのまへに地をまうけたまひしかば深く根して國にはびこれり 10その影はもろもろの山をおほひ そのえだは神の香柏のごとくにてありき 11その樹はえだを海にまでのべその若枝を河にまでのべたり 12汝いかなればその垣をくづして路ゆくすべての人に嫡取らせたまふや 13はやしの猪はこれをあらし野のあらき獣はこれをくらふ 14ああ萬軍の神よねがはくは歸りたまへ 天より俯視てこの葡萄の樹をかへりみ 15なんぢが右の手にてうゑたまへるもの自己のために強くなしたまへる枝をまもりたまへ 16そのの樹は火にて燒れまた斫たふさる かれらは聖顔のいかりにて亡ぶ 17ねがはくはなんぢの手をその右の手の人のうへにおき自己のためにつよくなしたまへる人の子のうへにおきたまへ 18さらばわれら汝をしりぞき離ることなからん 願くはわれらを活したまへ われら名をよばん 19ああ萬軍の神ヱホバよふたたび我儕をかへしたまへ なんぢの聖顔のひかりを照したまへ 然ばわれら救をえん

第八十一篇

ギテトの琴にあはせて伶長にうたはしめたるアサフのうた

1われらの力なる神にむかひて高らかにうたひヤコブの神にむかひてよろこびの聲をあげよ 2歌をうたひ鼓とよき音のことと箏とをもちきたれ 3新月と滿月とわれらの節會の日とにラッパをふきならせ 4これイスラエルの律法ヤコブのかみの格なり 5神さきにエジプトを攻たまひしときヨセフのなかに之をたてて證となしたまへり 我かしこにて未だしらざりし方言をきけり 6われかれの肩より重荷をのぞき かれの手を籃よりまぬかれしめたり 7汝 なやめるとき呼しかば我なんぢをすくへり われ雷鳴のかくれたるところにて汝にこたへメリバの水のほとりにて汝をこころみたり セラ 8わが民よきけ我なんぢに證せん イスラエルよ汝がわれに從はんことをもとむ 9汝のうちに他 神あるべからず なんぢ他 神ををがむべからず 10われはエジプトの國よりなんぢを携へいでたる汝の神ヱホバなり なんぢの口をひろくあけよ われ物をみたしめん 11されどわが民はわか聲にしたがはず イスラエルは我をこのまず 12このゆゑに我かれらが心のかたくななるにまかせ彼等がその任意にゆくにまかせたり 13われはわが民のわれに從ひイスフルのわが道にあゆまんことを求む 14さらば我すみやかにかれらの仇をしたがへ わが手をかれらの敵にむけん 15斯てヱホバをにくみし者もかれらに從ひ かれらの時はとこしへにつづかん 16神はむぎの最嘉をもてかれらをやしなひ 磐よりいでたる蜜をもて汝をあかしむべし

第八十二篇

アサフのうた

1かみは神のつどひの中にたちたまふ 神はもろもろの神のなかに審判をなしたまふ 2なんぢらは正からざる審判をなし あしきものの身をかたよりみて幾何時をへんとするや セラ 3よわきものと孤兒とのためにさばき苦しむものと乏しきものとのために公平をほどこせ 4弱きものと貧しきものとをすくひ彼等をあしきものの手よりたすけいだせ 5かれらは知ることなく悟ることなくして暗中をゆきめぐりぬ 地のもろもろの基はうごきたり 6我いへらく なんぢらは神なりなんぢらはみな至上者の子なりと 7然どなんぢらは人のごとくに死もろもろの侯のなかの一人のごとく仆れん 8神よおきて全地をさばきたまへ 汝もろもろの國を嗣たまふべければなり

第八十三篇

アサフの歌なり讃美なり

1神よもだしたまふなかれ神よものいはで寂靜たまふなかれ 2視よなんぢの仇はかしがきしき聲をあげ汝をにくむものは首をあげたり 3かれらはたくみなる謀略をもて

なんぢの民にむかひ相共にはかりて汝のかくれたる者にむかふ 4かれらいひたりき 來かれらを斷滅してふたたび國をたつることを得ざらしめイスラエルの名をふたたび人にしられざらしめんと 5かれらは心を一つにしてともにはかり互にちかひをなしてなんぢに逆ふ 6こはエドムの幕屋にすめる人イシマエル人モアブ、ハガル人 7ゲバル、アンモン、アマレク、ペリシテおよびツロの民などなり 8アッスリヤも亦かれらにくみせり 斯てロトの子輩のたすけをなせり セラ 9なんぢ曩にミデアンになしたまへる如くキションの河にてシセラとヤビンとに作たまへるごとく彼等にもなしたまへ 10かれらはエンドルにてほろび地のために肥料となれり 11かれらの貴人をオレブ、ゼエブのごとくそのもろもろの侯をゼバ、ザルムンナのごとくなしたまへ 12かれらはいへり われら神の草苑をえてわが有とすべしと 13わが神よかれらをまきあげらるる塵のごとく風のまへの藁のごとくならしめたまへ 14林をやく火のごとく山をもやす焔のごとく 15なんぢの暴風をもてかれらを追ひなんぢの旋風をもてかれらを怖れしめたまへ 16かれらの面に恥をみたしめたまへ ヱホバよ然ばかれらなんぢの名をもとめん 17かれらをとこしへに恥おそれしめ惶てまどひて亡びうせしめたまへ 18然ばかれらはヱホバてふ名をもちたまふ汝のみ全地をしろしめす至上者なることを知るべし

第八十四篇

ギテトの琴にあはせて伶長にうたはしめたるコラの子のうた

1萬軍のヱホバよなんぢの帷幄はいかに愛すべきかな 2わが靈魂はたえいるばかりにヱホバの大庭をしたひ わが心わが身はいける神にむかひて呼ふ 3誠やすずめは窩をえ燕子はその雛をいるる巣をえたり萬軍のヱホバわが王わが神よ これなんぢの祭壇なり 4なんぢの家にすむものは福ひなり かかるひとはつねに汝をたたへまつらん セラ 5その力なんぢにあり その心シオンの大路にある者はさいはひなり 6かれらは涙の谷をすぐれども其處をおほくの泉あるところとなす また前の雨はもろもろの惠をもて之をおほへり 7かれらは力より力にすすみ遂におのおのシオンにいたりて神にまみゆ 8ばんぐんの神ヱホバよわが祈をききたまへ ヤコブの神よ耳をかたぶけたまへ セラ 9われらの盾なる神よ みそなはして なんぢの受膏者の顔をかへりみたまへ 10なんぢの大庭にすまふ一日は千日にもまされり われ惡の幕屋にをらんよりは 寧ろわが神のいへの門守とならんことを欲ふなり 11そは神ヱホバは日なり盾なり ヱホバは恩とえいくわうとをあたへ直くあゆむものに善物をこばみたまふことなし 12萬軍のヱホバよなんぢに依賴むものはさいはひなり

第八十五篇

伶長にうたはしめたるコラの子のうた

1ヱホバよなんぢは御國にめぐみをそそぎたまへり なんぢヤコブの俘囚をかへしたまひき 2なんぢおのが民の不義をゆるしそのもろもろの罪をおほひたまひき セラ 3汝 すべての怒をすてその烈しきいきどほりを遠けたまへり 4われらのすくひの神よかへりきたり我儕にむかひて忿怒をやめたまへ 5なんぢ永遠にわれらをいかり萬世にみいかりをひきのべたまふや 6汝によりてなんぢの民の喜悅をえんが爲に我儕を活したまはざるか 7ヱホバよなんぢの憐憫をわれらにしめし汝のすくひを我儕にあたへたまへ 8わが神ヱホバのいたりたまふ事をきかん ヱホバはその民その聖徒に平和をかたりたまへばなり さればかれらは愚かなる行爲にふたたび歸るなかれ 9實にそのすくひは神をおそるる者にちかし かくて榮光はわれらの國にとどまらん 10あはれみと眞實とともにあひ義と平和とたがひに接吻せり 11まことは地よりはえ義は天よりみおろせり 12ヱホバ善物をあたへたまへばわれらの國は物 產 をいださん 13義はヱホバのまへにゆきヱホバのあゆみたまふ跡をわれに踏しめん

第八十六篇

ダビデの祈祷

1ヱホバよなんぢ耳をかたぶけて我にこたへたまへ 我はくるしみかつ乏しければなり 2ねがはくはわが靈魂をまもりたまへ われ神をうやまふ者なればなり わが神よなんぢに依賴める汝のしもべを救ひ給へ 3主よわれを憐みたまへ われ終日なんぢによばふ 4なんぢの僕のたましひを悅ばせたまへ 主よわが靈魂はなんぢを仰ぎのぞむ 5主よなんぢは惠ふかくまた赦をこのみたまふ 汝によばふ凡てのものを豊かにあはれみたまふ 6ヱホバよわがいのりに耳をかたぶけ わが懇求のこゑをききたまへ 7われわが患難の日になんぢに呼はん なんぢは我にこたへたまふべし 8主よもろもろの神のなかに汝にひとしきものはなく汝 のみわざに侔しきものはなし 9主よなんぢの造れるも

ろもろの國はなんぢの前にきたりて伏拝まん かれらは聖名をあがむべし 10なんぢは大なり奇しき事跡をなしたまふ 唯なんぢのみ神にましませり 11ヱホバよなんぢの道をわれに教へたまへ我なんぢの眞理をあゆまん ねがはくは我をして心ひとつに聖名をおそれしめたまへ 12主わが神よ我 心をつくして汝をほめたたへ とこしへに聖名をあがめまつらん 13そはなんぢの憐憫はわれに大なり わがたましひを陰府のふかき處より助けいだしたまへり 14神よたかぶれるものは我にさからひて起りたち暴ぶる人の會 はわがたましひをもとめ 斯てなんぢを己がまへに置ざりき 15されど主よなんぢは憐憫とめぐみとにとみ怒をおそくし愛しみと眞實とにゆたかなる神にましませり 16我をかへりみ我をあはれみたまへ ねがはくは汝のしもべに能力を與へ汝のはしための子をすくひたまへ 17我にめぐみの憑據をあらはしたまへ 然ばわれをにくむ者これをみて恥をいだかん そはヱホバよなんぢ我をたすけ我をなぐさめたまへばなり

第八十七篇

コラの子のうたなり讃美なり

1ヱホバの基はきよき山にあり 2ヱホバはヤコブのすべての住居にまさりてシオンのもろもろの門を愛したまふ 3神の都よなんぢにつきておほくの榮光のことを語りはやせり セラ 4われはラハブ、バビロンをも我をしるものの中にあげん ペリシテ、ツロ、エテオピアを視よこの人はかしこに生れたりといはん 5シオンにつきては如此いはん 此もの彼ものその中にうまれたり至上者みづからシオンを立たまはんと 6ヱホバもろもろの民をしるしたまふ時このものは彼處にうまれたりと算へあげたまはん セラ 7うたふもの踊るもの皆いはん わがもろもろの泉はなんぢの中にありと

第八十八篇

マハラテ、レアノテの調にあはせて伶長にうたはしめたるコラの子のうたなり 讃美なり、エズフ人ヘマンのをしへの歌なり

1わがすくひの神ヱホバよわれ晝も夜もなんぢの前にさけべり 2願くはわが祈をみまへにいたらせ汝のみみをわが號呼のこゑにかたぶけたまへ 3わがたましひは患難にてみち我がいのちは陰府にちかづけり 4われは穴にいるものとともにかぞへられ依仗なき人のごとくなれり 5われ墓のうちなる殺されしもののごとく死者のうちにすてらる汝かれらを再びこころに記たまはず かれらは御手より斷滅されしものなり 6なんぢ我をいとふかき穴 くらき處 ふかき淵におきたまひき 7なんぢの怒はいたくわれにせまれり なんぢそのもろもろの浪をもて我をくるしめ給へり セラ 8わが相識ものを我よりとほざけ我をかれらに憎ませたまへり われは錮閉されていづることあたはず 9わが眼はなやみの故をもておとろへぬ われ日ごとに汝をよべり ヱホバよなんぢに向ひてわが兩手をのべたり 10なんぢ死者にくすしき事跡をあらはしたまはんや 亡にしもの立てなんぢを讃たたへんや セラ 11汝のいつくしみは墓のうちに汝のまことは滅亡のなかに宣傳へられんや 12汝 のくすしきみわざは幽暗になんぢの義は忘失のくにに知るることあらんや 13されどヱホバよ我なんぢに向ひてさけべり わがいのりは朝にみまへに達らん 14ヱホバよなんぢ何なればわが靈魂をすてたまふや何なればわれに面をかくしたまふや 15われ幼稚よりなやみて死るばかりなり我なんぢの恐嚇にあひてくるしみまどへり 16汝のはげしき怒わがうへをすぐ汝のおびやかし我をほろぼせり 17これらの事ひねもす大水のごとく我をめぐり ことごとく來りて我をかこみふさげり 18なんぢ我をいつくしむ者とわが友とをとほざけ わが相識るものを幽暗にいれたまへり

第八十九篇

エズラ人エタンのをしへの歌

1われヱホバの憐憫をとこしへにうたはん われ口もてヱホバの眞實をよろづ代につげしらせん 2われいふ あはれみは永遠にたてらる 汝はその眞實をかたく天にさだめたまはんと 3われわが撰びたるものと契約をむすびわが 僕ダビデにちかひたり 4われなんぢの裔をとこしへに固うしなんぢの座位をたてて代々におよばしめん セラ 5ヱホバよもろもろの天はなんぢの奇しき事跡をほめん なんぢの眞實もまた潔きものの會にてほめらるべし 6蒼天にてたれかヱホバに類ふものあらんや 神の子のなかに誰かヱホバのごとき者あらんや 7神はきよきものの公會のなかにて畏むべきものなり その四周にあるすべての者にまさりて懼るべきものなり 8萬軍の神ヱホバよヤハよ汝のごとく大能あるものは誰ぞや なんぢの眞實はなんぢをめぐりたり 9なんぢ海のあるるををさめ その浪のたちあがらんときは之をしづめたまふなり 10なんぢラハブを殺され

しもののごとく撃砕きおのれの仇どもを力ある腕をもて打散したまへり 11もろもろの天はなんぢのもの地もまた汝のものなり世界とその中にみつるものとはなんぢの基したまへるなり 12北と南はなんぢ造りたまへり タボル、ヘルモンはなんぢの名によりて歓びよばふ 13なんぢは大能のみうでをもちたまふ なんぢの手はつよく汝のみぎの手はたかし 14義と公平はなんぢの寶座のもとゐなりあはれみと眞實とは聖顔のまへにあらはれゆく 15よろこびの音をしる民はさいはひなり ヱホバよかれらはみかほの光のなかをあゆめり 16かれらは名によりて終日よろこび 汝の義によりて高くあげられたり 17かれらの力の榮光はなんぢなり 汝の恵によりてわれらの角はたかくあげられん 18そはわれらの盾はヱホバに屬われらの王はイスラエルの聖者につけり 19そのとき異象をもてなんぢの聖徒につげたまはく われ佑助をちからあるものに委ねたり わが民のなかより一人をえらびて高くあげたり 20われわが僕ダビデをえて之にわが聖 膏をそそげり 21わが手はかれとともに堅くわが臂はかれを強くせん 22仇かれをしへたぐることなし惡の子かれを苦しむることなからん 23われかれの前にそのもろもろの敵をたふし彼をにくめるものを撃ん 24されどわが眞實とわが憐憫とはダビデとともに居り わが名によりてその角はたかくあげられん 25われ亦かれの手を海のうへにおき そのみぎの手を河のうへにおかん 26ダビデ我にむかひて汝はわが父わが神わがすくひの岩なりとよばん 27われまた彼をわが初子となし地の王たちのうち最もたかき者となさん 28われとこしへに憐憫をかれがためにたもち 之とたてし契約はかはることなかるべし 29われまたその裔をとこしへに存へ そのくらゐを天の日數のごとくながらへしめん 30もしその子わが法をはなれ わが審判にしたがひて歩まず 31わが律法をやぶりわが誡命をまもらずば 32われ杖をもてかれらの愆をただし鞭をもてその邪曲をただすべし 33されど彼よりわが憐憫をことごとくはとりさらず わが眞實をおとろへしむることなからん 34われおのれの契約をやぶらず 己のくちびるより出しことをかへじ 35われ曩にわが聖をさして誓へり われダビデに虚偽をいはじ 36その裔はとこしへにつづきその座位は日のごとく恒にわが前にあらん 37また月のごとく永遠にたてられん空にある證人はまことなり セラ 38されどその受膏者をとほざけて棄たまへりなんぢ之をいきどほりたまへり 39なんぢ己がしもべの契約をいみ 其かんむりをけがして地にまでおとし給へり 40またその垣をことごとく倒し その保砦をあれすたれしめたまへり 41その道をすぐるすべての者にかすめられ隣人にののしらる 42なんぢかれが敵のみぎの手をたかく擧そのもろもろの仇をよろこばしめたまへり 43なんぢかれの劍の刃をふりかへして戰闘にたつに堪へざらしめたまひき 44またその光輝をけしその座位を地になげおとし 45その年若き日をちぢめ恥をそのうへに覆たまへり セラ 46ヱホバよかくて幾何時をへたまふや自己をとこしへに隠したまふや忿怒は火のもゆるごとくなるべきか 47ねがはくはわが時のいかに短かきかを思ひたまへ 汝いたづらにすべての人の子をつくりたまはんや 48誰かいきて死をみず又おのがたましひを陰府より救ひうるものあらんやセラ 49主よなんぢが眞實をもてダビデに誓ひたまへる昔日のあはれみはいづこにありや 50主よねがはくはなんぢの僕のうくる謗をみこころにとめたまへ ヱホバよ汝のもろもろの仇はわれをそしりなんぢの受膏者のあしあとをそしれり 我もろもろの民のそしりをわが懐中にいだく 51主よねがはくはなんぢの僕のうくる謗をみこころにとめたまへ ヱホバよ汝のもろもろの仇はわれをそしりなんぢの受膏者のあしあとをそしれり 我もろもろの民のそしりをわが懐中にいだく 52ヱホバは永遠にほむべきかな アーメン アーメン

第九十篇

神の人モーセの祈祷

1主よなんぢは往古より世々われらの居所にてましませり 2山いまだ生いでず汝いまだ地と世界とをつくりたまはざりしとき 永遠よりとこしへまでなんぢは神なり 3なんぢ人を塵にかへらしめて宣はく 人の子よなんぢら歸れと 4なんぢの目前には千年もすでにすぐる昨日のごとくまた夜間のひとときにおなじ 5なんぢこれらを大水のごとく流 去らしめたまふ かれらは一夜の寝のごとく朝にはえいづる青草のごとし 6朝にはえいでてさかえ夕にはかられて枯るなり 7われらはなんぢの怒によりて消うせ汝のいきどほりによりて怖まどふ 8汝われらの不義をみまへに置 われらの隠れたるつみを聖顔のひかりのなかにおきたまへり 9われらのもろもろの日はなんぢの怒によりて過去り われらがすべての年のつくるは一息のごとし 10われらが年をふる日は七十歳にすぎず あるひは壯やか

にして八十歳にいたらん されどその誇るところはただ勤勞とかなしみとのみ その去ゆくこと速かにしてわれらもまた飛去れり 11誰かなんぢの怒のちからを知らんや たれか汝をおそるる畏にたくらべて汝のいきどほりをしらんや 12願くはわれらにおのが日をかぞふることををしへて智慧のこころを得しめたまへ 13ヱホバよ歸りたまへ斯ていくそのときを歷たまふや ねがはくは汝のしもべらに係れるみこころを變へたまへ 14ねがはくは朝にわれらを汝のあはれみにてあきたらしめ 世をはるまで喜びたのしませたまへ 15汝がわれらを苦しめたまへるもろもろの日と われらが禍害にかかれるもろもろの年とにたくらべて我儕をたのしませたまへ 16なんぢの作爲をなんぢの僕等に なんぢの榮光をその子等にあらはしたまへ 17斯てわれらの神ヱホバの佳美をわれらのうへにのぞましめわれらの手のわざをわれらのうへに確からしめたまへ願くはわれらの手のわざを確からしめたまへ

第九十一篇

1至上者のもとなる隱れたるところにすまふその人は全能者の蔭にやどらん 2われヱホバのことを宣て ヱホバはわが避所わが城わがよりたのむ神なりといはん 3そは神なんぢを狩人のわなと毒をながす疫癘よりたすけいだしたまふべければなり 4かれその翮をもてなんぢを庇ひたまはん なんぢその翼の下にかくれん その眞實は盾なり干なり 5夜はおどろくべきことあり晝はとびきたる矢あり 6幽暗にはあゆむ疫癘あり日午にはそこなふ勵しき疾あり されどなんぢ畏るることあらじ 7千人はなんぢの左にたふれ萬人はなんぢの右にたふる されどその災害はなんぢに近づくことなからん 8なんぢの眼はただこの事をみるのみ なんぢ惡者のむくいを見ん 9なんぢ曩にいへりヱホバはわが避所なりと なんぢ至上者をその住居となしたれば 10災害なんぢにいたらず苦難なんぢの幕屋に近づかじ 11そは至上者なんぢのためにその使者輩におほせて 汝があゆむもろもろの道になんぢを守らせ給へばなり 12彼ら手にてなんぢの足の石にふれざらんために 汝をささへん 13なんぢは獅と蝮とをふみ壯獅と蛇とを足の下にふみにじらん 14彼その愛をわれにそそげるがゆゑに我これを助けん かれわが名をしるがゆゑに我これを高 處におかん 15かれ我をよはば我こたへん 我その苦難のときに偕にをりて之をたすけ之をあがめん 16われ長寿 をもてかれを足はしめ且わが救をしめさん

第九十二篇

安息日にもちゐる歌なり 讃美なり

1いとたかき者よヱホバにかんしやし聖名をほめたたふるは善かな 2あしたに汝のいつくしみをあらはし 夜々なんぢの眞實をあらはすに 3十絃のなりものと箏とをもちゐ 琴の妙なる音をもちゐるはいと善かな 4そはヱホバよなんぢその作爲をもて我をたのしませたまへり 我なんぢの手のわざをよろこびほこらん 5ヱホバよ汝のみわざは大 なるかな汝のもろもろの思念はいとふかし 6無知者はしることなく愚なるものは之をさとらず 7惡きものは草のごとくもえいで 不義をおこなふ衆庶はさかゆるともつひに遂にはとこしへにほろびん 8されどヱホバよ汝はとこしへに高 處にましませり 9ヱホバよ吁なんぢの仇ああなんぢの仇はほろびん 不義をおこなふ者はことごとく散されん 10されど汝わが角をたかくあげて 野の牛のつののごとくならしめたまへり 我はあたらしき膏をそそがれたり 11又わが目はわが仇につきて願へることを見わが耳はわれにさからひておこりたつ惡をなすものにつきて願へることをききたり 12義しきものは棕櫚の樹のごとく榮え レバノンの香柏のごとくそだつべし 13ヱホバの宮にうゑられしものはわれらの神の大庭にさかえん 14かれらは年老てなほ果をむすび豊かにうるほひ緑の色みちみちて 15ヱホバの直きものなることを示すべし ヱホバはわが巖なりヱホバには不義なし

第九十三篇

1ヱホバは統治たまふ ヱホバは稜威をきたまへり ヱホバは能力をころもとなし帶となしたまへり さればまた世界もかたくたちて動かさるることなし 2なんぢの寶座はいにしへより堅くたちぬ 汝はとこしへより在せり 3大水はこゑをあげたり ヱホバよおほみづは聲をあげたり おほみづは浪をあぐ 4ヱホバは高 處にいましてその威力はおほくの水のこゑ海のさかまくにまさりて盛んなり 5なんぢの證詞はいとかたし ヱホバよ聖潔はなんぢの家にとこしへまでも適 應なり

第九十四篇

1ヱホバよ仇をかへすは汝にあり神よあたを報すはなんぢにあり ねがはくは光をはなちたまへ 2世をさばきたま

ふものよ 願くは起てたかぶる者にそのうくべき報をなしたまへ 3ヱホバよ惡きもの幾何のときを經んとするや あしきもの勝誇りていくそのとしを經るや 4かれらはみだりに言をいだして誇りものいふ すべて不義をおこなふ者はみづから高ぶれり 5ヱホバよ彼等はなんぢの民をうちくだき なんぢの業をそこなふ 6かれらは嫠婦と旅人との生命をうしなひ孤子をころす 7かれらはいふ ヤハは見ずヤコブの神はさとらざるべしと 8民のなかなる無知よなんぢらさとれ 愚かなる者よ いづれのときにか智からん 9みみを植るものきくことをせざらんや 目をつくれるもの見ることをせざらんや 10もろもろの國ををしふる者ただすことを爲ざらんや 人に知識をあたふる者しることなからんや 11ヱホバは人の思念のむなしきを知りたまふ 12ヤハよなんぢの懲めたまふ人なんぢの法ををしへらるる人は さいはひなるかな 13かかる人をわざはひの日よりのがれしめ 惡きもののために坑のほらるるまで これに平安をあたへたまはん 14そはヱホバその民をすてたまはず その嗣業をはなれたまはざるなり 15審判はただしきにかへり心のなほき者はみなその後にしたがはん 16誰かわがために起りたちて惡きものを責んや 誰か我がために立て不義をおこなふ者をせめんや 17もしヱホバ我をたすけたまはざりせば わが霊魂はとくに幽寂ところに住ひしならん 18されどわが足すべりぬといひしとき ヱホバよなんぢの憐憫われをささへたまへり 19わがうちに憂 慮のみつる時 なんぢの安慰わがたましひを喜ばせたまふ 20律法をもて害ふことをはかる惡の位はなんぢに親むことを得んや 21彼等はあひかたらひて義 人のたましひをせめ罪なき血をつみに定む 22然はあれどヱホバはわがたかき櫓わが神はわが避所の磐なりき 23神はかれらの邪曲をその身におはしめ かれらをその惡き事のなかに滅したまはん われらの神ヱホバはこれを滅したまはん

第九十五篇

1率われらヱホバにむかひてうたひ すくひの磐にむかひてよろこばしき聲をあげん 2われら感謝をもてその前にゆき ヱホバにむかひ歌をもて歓ばしきこゑをあげん 3そはヱホバは大なる神なり もろもろの神にまされる大なる王なり 4地のふかき處みなその手にあり 山のいただきもまた神のものなり 5うみは神のものその造りたまふところ旱ける地もまたその手にて造りたまへり 6いざわれら拝みひれふし我儕をつくれる主ヱホバのみまへに曲跪くべし 7彼はわれらの神なり われらはその草苑の民その手のひつじなり 今日なんぢらがその聲をきかんことをのぞむ 8なんぢらメリバに在りしときのごとく 野なるマサにありし日の如く その心をかたくなにするなかれ 9その時なんぢらの列祖われをこころみ我をためし 又わがわざをみたり 10われその代のためにうれへて四十年を歴 われいへり かれらは心あやまれる民わが道を知ざりきと 11このゆゑに我いきどほりて彼等はわが安息にいるべからずと誓ひたり

第九十六篇

1あたらしき歌をヱホバにむかひてうたへ 全地よヱホバにむかひて謳ふべし 2ヱホバに向ひてうたひその名をほめよ 日ごとにその救をのべつたへよ 3もろもろの國のなかにその榮光をあらはし もろもろの民のなかにその奇しきみわざを顯すべし 4そはヱホバはおほいなり大にほめたたふべきものなり もろもろの神にまさりて畏るべきものなり 5もろもろの民のすべての神はことごとく虚しされどヱホバはもろもろの天をつくりたまへり 6尊貴と稜威とはその前にあり能と善美とはその聖所にあり 7もろもろの民のやからよ榮光とちからとをヱホバにあたへよヱホバにあたへよ 8その聖名にかなふ榮光をもてヱホバにあたへ 献物をたづさへてその大庭にきたれ 9きよき美しきものをもてヱホバををがめ 全地よその前にをののけ 10もろもろの國のなかにいへ ヱホバは統治たまふ 世界もかたくたちて動かさるることなし ヱホバは正直をもてすべての民をさばきたまはんと 11天はよろこび地はたのしみ海とそのなかに盈るものとはなりどよみ 12田畑とその中のすべての物とはよろこぶべし かくて林のもろもろの樹もまたヱホバの前によろこびうたはん 13ヱホバ來りたまふ地をさばかんとて來りたまふ 義をもて世界をさばきその眞實をもてもろもろの民をさばきたまはん

第九十七篇

1ヱホバは統治たまふ 全地はたのしみ多くの島々はよろこぶべし 2雲とくらきとはその周環にあり 義と公平とはその寶座のもとゐなり 3火ありそのみまへにすすみ その四周の敵をやきつくす 4ヱホバのいなびかりは世界をてらす 地これを見てふるへり 5もろもろの山はヱホバのみまへ全地の主のみまへにて蝋のごとくとけぬ 6もろもろ

の天はその義をあらはし よろづの民はその榮光をみたり 7すべてきざめる像につかへ虚しきものによりてみづから誇るものは恥辱をうくべし もろもろの神よみなヱホバをふしをがめ 8ヱホバよなんぢの審判のゆゑによりシオンはききてよろこびユダの女 輩はみな樂しめり 9ヱホバよなんぢ全地のうへにましまして至高く なんぢもろもろの神のうへにましまして至貴とし 10ヱホバを愛しむものよ惡をにくめ ヱホバはその聖徒のたましひをまもり之をあしきものの手より助けいだしたまふ 11光はただしき人のためにまかれ 欣喜はこころ直きもののために播れたり 12義 人よヱホバにより喜べ そのきよき名に感謝せよ

第九十八篇

歌なり

1あたらしき歌をヱホバにむかひてうたへ そは妙なる事をおこなひその右の手そのきよき臂をもて 己のために救 をなし畢たまへり 2ヱホバはそのすくひを知しめ その義をもろもろの國人の目のまへにあらはし給へり 3又その憐憫と眞實とをイスラエルの家にむかひて記念したまふ 地の極もことごとくわが神のすくひを見たり 4全地よヱホバにむかひて歓ばしき聲をあげよ 聲をはなちてよろこびうたへ讃うたへ 5琴をもてヱホバをほめうたへ 琴の音と歌のこゑとをもてせよ 6ラッパと角笛をふきならし王ヱホバのみまへによろこばしき聲をあげよ 7海とそのなかに盈るもの 世界とせかいにすむものと鳴響むべし 8大水はその手をうち もろもろの山はあひともにヱホバの前によろこびうたふべし 9ヱホバ地をさばかんために來りたまへばなり ヱホバ義をもて世界をさばき 公平をもてもろもろの民をさばきたまはん

第九十九篇

1ヱホバは統治たまふ もろもろの民はをののくべし ヱホバはケルビムの間にいます 地ふるはん 2ヱホバはシオンにましまして大なり もろもろの民にすぐれてたふとし 3かれらは汝のおほいなる畏るべき名をほめたたふべし ヱホバは聖なるかな 4王のちからは審判をこのみたまふ 汝はかたく公平をたてヤコブのなかに審判と公義とをおこなひたまふ 5われらの神ヱホバをあがめ その承足のもとにて拝みまつれ ヱホバは聖なるかな 6その祭司のなかにモーセとアロンとあり その名をよぶ者のなかにサムエルありかれらヱホバをよびしに應へたまへり 7ヱホバ雲の柱のうちにましましてかれらに語りたまへり かれらはその證詞とその賜はりたる律法とを守りたりき 8われらの神ヱホバよなんぢ彼等にこたへたまへり かれらのなしし事にむくいたまひたれど また赦免をあたへたまへる神にてましませり 9われらの神ヱホバを崇めそのきよき山にてをがみまつれ そはわれらの神ヱホバは聖なるなり

第百篇

感謝のうた

1全地よヱホバにむかひて歓ばしき聲をあげよ 2欣喜をいだきてヱホバに事へ うたひつつその前にきたれ 3知れヱホバこそ神にますなれ われらを造りたまへるものはヱホバにましませば我儕はその屬なり われらはその民その草苑のひつじなり 4感謝しつつその門にいり ほめたたへつつその大庭にいれ 感謝してその名をほめたたへよ 5ヱホバはめぐみふかくその憐憫かぎりなく その眞實よろづ世におよぶべければなり

第百一篇

ダビデのうた

1われ憐憫と審判とをうたはん ヱホバよ我なんぢを讃うたはん 2われ心をさとくして全き道をまもらん なんぢいづれの時われにきたりたまふや 我なほき心をもてわが家のうちをありかん 3われわが眼前にいやしき事をおかずわれ叛くものの業をにくむ そのわざは我につかじ 4僻めるこころは我よりはなれん 惡きものを知ることをこのまず 5隠にその友をそしるものは我これをほろぼさん 高ぶる眼また驕れる心のものは我これをしのばじ 6わが眼は國のうちの忠なる者をみて之をわれとともに住はせん 全き道をあゆむ人はわれに事へん 7欺くことをなす者はわが家のうちに住むことをえず 虚偽をいふものはわが目前にたつことを得じ 8われ朝な朝なこの國のあしき者をことごとく滅し ヱホバの邑より不義をおこなふ者をことごとく絶除かん

第百二篇

なやみたる者おもひくづほれてその歎息をヱホバの前にそそぎいだせるときの祈祷

1ヱホバよわが祈をききたまへ 願くはわが號呼のこゑの御前にいたらんことを 2わが窮苦の日みかほを蔽ひたまふなかれ なんぢの耳をわれにかたぶけ 我がよぶ日にす

みやかに我にこたへたまへ 3わがもろもろの日は煙のごとくきえ わが骨はたきぎのごとく焚るるなり 4わがこころは草のごとく撃れてしほれたり われ糧をくらふを忘れしによる 5わが歎息のこゑによりてわが骨はわが肉につく 6われは野の鶺鴒のごとく荒たる跡のふくろふのごとくになりぬ 7われ醒てねぶらず ただ友なくして屋蓋にをる雀のごとくなれり 8わが仇はひねもす我をそしる 猖狂ひて我をせむるもの我をさして誓ふ 9われは糧をくらふごとくに灰をくらひ わが飲ものには涙をまじへたり 10これは皆なんぢの怒と忿恚とによりてなり なんぢ我をもたげてなげすて給へり 11わが齢はかたぶける日影のごとしまたわれは草のごとく萎れたり 12されどヱホバよなんぢは永遠にながらへ その名はよろづ世にながらへん 13なんぢ起てシオンをあはれみたまはん そはシオンに恩恵をほどこしたまふときなり そのさだまれる期すでに來れり 14なんぢの僕はシオンの石をもよろこび その塵をさへ愛しむ 15もろもろの國はヱホバの名をおそれ 地のもろもろの王はその榮光をおそれん 16ヱホバはシオンをきづき榮光をもてあらはれたまへり 17ヱホバは乏しきものの祈をかへりみ彼等のいのりを藐しめたまはざりき 18來らんとするのちの世のためにこの事をしるさん 新しくつくられたる民はヤハをほめたたふべし 19ヱホバその聖所のたかき所よりみおろし天より地をみたまへり 20こは俘囚のなげきをきき死にさだまれる者をときはなち 21人々のシオンにてヱホバの名をあらはしヱルサレムにてその頌美をあらはさんが爲なり 22かかる時にもろもろの民もろもろの國つどひあつまりてヱホバに事へまつらん 23ヱホバはわがちからを途にておとろへしめ わが齢をみじかからしめ給へり 24我いへりねがはくはわが神よわがすべての日のなかばにて我をとりさりたまふなかれ 汝のよはひは世々かぎりなし 25汝いにしへ地の基をすゑたまへり 天もまたなんぢの手の工なり 26これらは亡びん されど汝はつねに存らへたまはん これらはみな衣のごとくふるびん 汝これらを袍のごとく更たまはん されば彼等はかはらん 27然れども汝はかはることなし なんぢの齢はをはらざるなり 28汝のしもべの子輩はながらへん その裔はかたく前にたてらるべし

第百三篇

ダビデのうた

1わが霊魂よヱホバをほめまつれ わが衷なるすべてのものよその聖名をほめまつれ 2わがたましひよヱホバを讃まつれ そのすべての恩恵をわするるなかれ 3ヱホバはなんぢがすべての不義をゆるし汝のすべての疾をいやし 4なんぢの生命をほろびより贖ひいだし 仁慈と憐憫とを汝にかうぶらせ 5なんぢの口を嘉物にてあかしめたまふ 斯てなんぢは壯ぎて鷲のごとく新になるなり 6ヱホバはすべて虐げらるる者のために公義と審判とをおこなひたまふ 7おのれの途をモーセにしらしめ おのれの作爲をイスラエルの子輩にしらしめ給へり 8ヱホバはあはれみと恩恵にみちて怒りたまふことおそく仁慈ゆたかにましませり 9恒にせむることをせず永遠にいかりを懐きたまはざるなり 10ヱホバはわれらの罪の量にしたがひて我儕をあしらひたまはず われらの不義のかさにしたがひて報いたまはざりき 11ヱホバをおそるるものにヱホバの賜ふそのあはれみは大にして 天の地よりも高きがごとし 12そのわれらより愆をとほざけたまふことは東の西より遠きがごとし 13ヱホバの己をおそるる者をあはれみたまふことは父がその子をあはれむが如し 14ヱホバは我儕のつくられし状をしり われらの塵なることを念ひ給へばなり 15人のよはひは草のごとく その榮はのの花のごとし 16風すぐれば失てあとなくその生いでし處にとへど尚しらざるなり 17然はあれどヱホバの憐憫はとこしへより永遠までヱホバをおそるるものにいたり その公義は子孫のまた子孫にいたらん 18その契約をまもりその訓諭を心にとめて行ふものぞその人なる 19ヱホバはその寶座をもろもろの天にかたく置たまへり その政權はよろづのもののうへにあり 20ヱホバにつかふる使者よ ヱホバの聖言のこゑをきき その聖言をおこなふ勇士よ ヱホバをほめまつれ 21その萬軍よ その聖旨をおこなふ僕等よ ヱホバをほめまつれ 22その造りたまへる萬物よ ヱホバの政權の下なるすべての處にてヱホバをほめよ わがたましひよヱホバを讃まつれ

第百四篇

1わが霊魂よヱホパをほめまつれ わが神ヱホバよなんぢは至大にして尊貴と稜威とを衣たまへり 2なんぢ光をころものごとくにまとひ天を幕のごとくにはり 3水のなかにおのれの殿の棟梁をおき 雲をおのれの車となし 風の翼にのりあるき 4かぜを使者となし焔のいづる火を僕と

なしたまふ 5ヱホバは地を基のうへにおきて 永遠にうごくことなからしめたまふ 6衣にておほふがごとく大水にて地をおほひたまへり 水たたへて山のうへをこゆ 7なんぢ叱咤すれば水しりぞき 汝いかづちの聲をはなてば水たちまち去ぬ 8あるひは山にのぼり或ひは谷にくだりて 汝のさだめたまへる所にゆけり 9なんぢ界をたてて之をこえしめず ふたたび地をおほふことなからしむ 10ヱホバはいづみを谷にわきいだし給ふ その流は山のあひだにはしる 11かくて野のもろもろの獣にのましむ 野の驢馬もその渇をやむ 12空の鳥もそのほとりにすみ 樹梢の間よりさえづりうたふ 13ヱホバはその殿よりもろもろの山に灌漑たまふ 地はなんぢのみわざの實によりて飽足ぬ 14ヱホバは草をはえしめて家畜にあたへ 田産をはえしめて人の使用にそなへたまふ かく地より食物をいだしたまふ 15人のこころを歓ばしむる葡萄酒 ひとの顔をつややかならしむるあぶら 人のこころを強からしむる糧どもなり 16ヱホバの樹とその植たまへるレバノンの香柏とは飽足ぬべし 17鳥はそのなかに巣をつくり鶴は松をその棲とせり 18たかき山は山羊のすまひ磐石は山 鼠のかくるる所なり 19ヱホバは月をつくりて時をつかさどらせたまへり 日はその西にいることをしる 20なんぢ黒暗をつくりたまへば夜あり そのとき林のけものは皆しのびしのびに出きたる 21わかき獅ほえて餌をもとめ神にくひものをもとむ 22日いづれば退きてその穴にふす 23人はいでて工をとりその勤勞はゆふべにまでいたる 24ヱホバよなんぢの事跡はいかに多なる これらは皆なんぢの智慧にてつくりたまへり 汝のもろもろの富は地にみつ 25かしこに大なるひろき海あり そのなかに數しられぬ匍ふもの小なる大なる生るものあり 26舟そのうへをはしり汝のつくりたまへる鰐そのうちにあそびたはぶる 27彼ら皆なんぢを俟望む なんぢ宜時にくひものを之にあたへたまふ 28彼等はなんぢの予へたまふ物をひろふ なんぢ手をひらきたまへばかれら嘉物にあきたりぬ 29なんぢ面をおほひたまへば彼等はあわてふためく 汝かれらの氣息をとりたまへばかれらは死て塵にかへる 30なんぢ霊をいだしたまへば百 物みな造らるなんぢ地のおもてを新にしたまふ 31願くはヱホバの榮光とこしへにあらんことを ヱホバそのみわざを喜びたまはんことを 32ヱホバ地をみたまへば地ふるひ山にふれたまへば山は煙をいだす 33生るかぎりはヱホバに向ひてうたひ我ながらふるほどはわが神をほめうたはん 34ヱホバをおもふわが思念はたのしみ深からん われヱホバによりて喜ぶべし 35罪人は地より絶滅され あしきものは復あらざるべし わが霊魂よヱホバをほめまつれヱホバを讃稱へよ

第百五篇

1ヱホバに感謝してその名をよび そのなしたまへる事をもろもろの民輩のなかにしらしめよ 2ヱホバにむかひてうたへヱホバを讃うたへ そのもろもろの妙なる事跡をかたれ 3そのきよき名をほこれ ヱホバをたづねもとむるものの心はよろこぶべし 4ヱホバとその能力とをたづねもとめよ つねにその聖顔をたづねよ 5その僕アブラムの裔よヤコブの子輩よ そのえらびたまひし所のものよ そのなしたまへる妙なるみわざと奇しき事跡とその口のさばきとを心にとむれ 6その僕アブラムの裔よヤコブの子輩よ そのえらびたまひし所のものよ そのなしたまへる妙なるみわざと奇しき事跡とその口のさばきとを心にとむれ 7彼はわれらの神ヱホバなり そのみさばきは全地にあり 8ヱホバはたえずその契約をみこころに記たまへり 此はよろづ代に命じたまひし聖言なり 9アブラハムとむすびたまひし契約イサクに與へたまひし誓なり 10之をかたくしヤコブのために律法となし イスラエルのためにとこしへの契約となして 11言たまひけるは我なんぢにカナンの地をたまひてなんぢらの嗣業の分となさん 12この時かれらの數おほからず甚すくなくしてかしこにて旅人となり 13この國よりかの國にゆき この國よりほかの民にゆけり 14人のかれらを虐ぐるをゆるし給はず かれらの故によりて王たちを懲しめて 15宣給くわが受膏者たちにふるるなかれ わが預言者たちをそこなふなかれ 16ヱホバは饑饉たを地にまねき 人の杖とする糧をことごとく碎きたまへり 17又かれらの前にひとりを遣したまへり ヨセフはうられて僕となりぬ 18かれら足械をもてヨセフの足をそこなひ くろかねの鏈をもてその霊魂をつなげり 19斯てそのことばの驗をうるまでに及ぶ ヱホバのみことば彼をこころみたまへり 20王は人をつかはしてこれを解き もろもろの民の長はこれをゆるし 21之をその家司となし その財寶をことごとく司どらせ 22その心のままにかの國のきみたちを縛しめ 長老たちに智慧ををしへしむ 23イスラエルも亦エジプトにゆき ヤコブはハムの地にやどれり 24ヱホバはその民を大にましくはへ之をその敵よりも強くした

まへり 25また敵のこころをかへておのれの民をにくましめ おのれの僕輩をあざむき待さしめたまへり 26又そのしもべモーセとその選びたまへるアロンとを遣したまへり 27かれらはヱホバの預兆をハムの地におこなひ またその國にくすしき事をおこなへり 28ヱホバは闇をつかはして暗くしたまへり かれらその聖言にそむくことをせざりき 29彼等のすべての水を血にかへてその魚をころしたまへり 30かれらの國は蛙むれいでて王の殿のうちにまでみちふさがりぬ 31ヱホバいひたまへば蝿むらがり蚤そのすべての境にいりきたりぬ 32また雨にかへて霰をかれらに與へもゆる火をかれらの國にふらし 33かれらの葡萄の樹といちじくの樹とをうちその境のもろちろの樹ををりくだきたまへり 34ヱホバいひたまへば算しられぬ蝗と蟲賊きたり 35かれらの國のすべての田 產をはみつくしその地のすべての實を食つくせり 36ヱホバはかれらの國のすべての首出者をうち かれらのすべての力の始をうちたまへり 37しろかね黄金をたづさへて彼等をいでゆかしめたまへり その家族のうちに一人のよわき者もなかりき 38エジプトはかれらの出るをよろこべり かれらをおそるるの念そのうちにおこりたればなり 39ヱホバは雲をしきて蓋となし夜は火をもて照したまへり 40又かれらの求によりて鶉をきたらしめ天の餅にてかれらを飽しめたまへり 41磐をひらきたまへば水ほどばしりいで 潤ひなきところに川をなして流れいでたり 42ヱホバそのきよき聖言とその僕アブラハムとをおもひいでたまひたればなり 43その民をみちびきて歓びつついでしめ そのえらべる民をみちびきて謳ひつついでしめたまへり 44もろもろの國人の地をかれらに與へたまひしかば 彼等もろもろのたみの勤勞をおのが有とせり 45こは彼等がその律にしたがひその法をまもらんが爲なり ヱホバをほめたたへよ

第百六篇

1ヱホバをほめたたへヱホバに感謝せよ そのめぐみはふかくその憐憫はかぎりなし 2たれかヱホバの力ある事跡をかたり その讃べきことを悉とくいひあらはし得んや 3審判をまもる人々つねに正義をおこなふ者はさいはひなり 4ヱホバよなんぢの民にたまふ恵をもて我をおぼえなんぢの救をもてわれに臨みたまへ 5さらば我なんぢの撰びたまへる者のさいはひを見 なんぢの國の歓喜をよろこび なんぢの嗣業とともに誇ることをせん 6われら列祖とともに罪ををかせり 我儕よこしまをなし悪をおこなへり 7われらの列祖はなんぢがエジプトにてなしたまへる奇しき事跡をさとらず 汝のあはれみの豊かなるを心にとめず 海のほとり即ち紅海のほとりにて逆きたり 8されどヱホバはその名のゆゑをもて彼等をすくひたまへり こは大なる能力をしらしめんとてなり 9また紅海を叱咤したまひたれば乾きたり かくて民をみちびきて野をゆくがごとくに淵をすぎしめ 10恨むるものの手よりかれらをすくひ 仇の手よりかれらを贖ひたまへり 11水その敵をおほひたればその一人だにのこりし者なかりき 12このとき彼等そのみことばを信じその頌美をうたへり 13彼等しばしがほどにその事跡をわすれその訓誨をまたず 14野にていたくむさぼり荒野にて神をこころみたりき 15ヱホバはかれらの願欲をかなへたまひしかど その霊魂をやせしめたまへり 16たみは營のうちにてモーセを嫉みヱホパの聖者アロンをねたみしかば 17地ひらけてダタンを呑みアビラムの黨類をおほひ 18火はこのともがらの中にもえおこり 焔はあしき者をやきつくせり 19かれらはホレブの山にて犢をつくり鑄たる像ををがみたり 20かくの如くおのが榮光をかへて草をくらふ牛のかたちに似す 21救主なる神はエジプトにて大なるわざをなし 22ハムの地にて奇しき事跡をなし紅海のほとりにて懼るべきことを爲たまへり かれは斯る神をわすれたり 23この故にヱホバかれらを亡さんと宣まへり されど神のえらみたまへる者モーセやぶれの間隙にありてその前にたちその烈怒をひきかへして滅亡をまぬかれしめたり 24かれら美しき地を蔑しそのみことばを信ぜず 25剰さへその幕屋にてつぶやきヱホバの聲をもきかざりき 26この故に手をあげて彼等にむかひたまへり これ野にてかれらを斃れしめんとし 27又もろもろの國のうちにてその裔をたふれしめ もろもろの地にかれらを散さんとしたまへるなり 28彼らはバアルベオルにつきて死るものの祭物をくらひたり 29斯のごとくその行爲をもてヱホバの烈怒をひきいだしければえやみ侵しいりたり 30そのときピネハスたちて裁判をなせり かくて疫癘はやみぬ 31ピネハスは萬代までとこしへにこのことを義とせられたり 32民メリバの水のほとりにてヱホバの烈怒をひきおこししかば かれらの故によりてモーセも禍害にあへり 33かれら神の霊にそむきしかばモーセその口唇にて妄にものいひたればなり 34かれらはヱホバの命じたまへる事にしたがはずしてもろもろの民をほろぼさず 35反ても

ろもろの國人とまじりをりてその行爲にならひ 36おのが
羈となりしその偶像につかへたり 37かれらはその子 女
を鬼にささぐ 38罪なき血すなはちカナンの偶像にささげ
たる己がむすこむすめの血をながしぬ 斯てくには血にて
けがされたり 39またそのわざは自己をけがし そのおこな
ふところは姦淫なり 40このゆゑにヱホバの怒その民にむ
かひて起り その嗣業をにくみて 41かれらをもろもろの國
の手にわたしたまへり 彼等はおのれを恨るものに制へら
れ 42おのれの仇にしへたげられ その手の下にうちふせら
れたり 43ヱホバはしばしば助けたまひしかどかれらは
謀略をまうけて逆き そのよこしまに卑くせられたり 44
されどヱホバはかれらの哭聲をききたまひしとき その
患難をかへりみ 45その契約をかれらの爲におもひいだし
その憐憫のゆたかなるにより聖意をかへさせ給ひて 46か
れらを己がとりこにせられたる者どもに憐まることを
得しめたまへり 47われらの神ヱホバよ われらをすくひて
列邦のなかより取集めたまへ われらは聖名に謝し なん
ぢのほむべき事をほこらん 48イスラエルの神ヱホバはと
こしへより永遠までほむべきかな すべての民はアーメン
ととなふべし ヱホバを讃稱へよ

第百七篇

1ヱホバに感謝せよ ヱホバは惠ふかくましましてその
憐憫かぎりなし 2ヱホバの救贖をかうぶる者はみな然い
ふべきなり 3ヱホバは敵の手よりかれらを贖ひもろもろ
の地よ東 西北 南よりとりあつめたまへり 4かれら野にて
あれはてたる路にさまよひその住ふべき邑にあはざりき
5かれら饑また渇きそのうちの霊魂おとろへたり 6斯てそ
の困苦のうちにてヱホバをよばはりたればヱホバこれを
患難よりたすけいだし 7住ふべき邑にゆかしめんとて直
き路にみちびきたまへり 8願くはすべての人はヱホバの
惠により人の子になしたまへる奇しき事跡によりてヱホ
バを讃稱へんことを 9ヱホバは渇きしたふ霊魂をたらは
せ饑たるたましひを嘉物にてあかしめ給へばなり 10くら
きと死の蔭とに居るもの患難とくろがねとに縛しめらる
るもの 11神の言にそむき至高者のをしへを蔑しめければ
12勤勞をもてその心をひくうしたまへり かれら仆れたれ
ど助くるものもなかりき 13斯てその困苦のうちにてヱホ
バをよばはりたればヱホバこれを患難よりすくひ 14くら
きと死のかげより彼等をみちびき出してその械をこぼち
たまへり 15願くはすべての人はヱホバの惠により人の子
になしたまへる奇しき事跡によりてヱホバを讃稱へんこ
とを 16そはあかがねの門をこぼち くろがねの關木をた
ちきりたまへり 17愚かなる者はおのが愆の道により己が
よこしまによりて惱めり 18かれらの霊魂はすべての食物
をきらひて死の門にちかづく 19かくてその困苦のうちに
てヱホバをよばふ ヱホバこれを患難よりすくひたまふ 20
その聖言をつかはして之をいやし之をその滅亡よりたす
けいだしたまふ 21願くはすべての人ヱホバのめぐみによ
り人の子になしたまへる奇しき事跡によりてヱホバをほ
めたたへんことを 22かれらは感謝のそなへものをささげ
喜びうたひてその事跡をいひあらはすべし 23舟にて海に
うかび大洋にて事をいとなむ者は 24ヱホバのみわざを見
また淵にてその奇しき事跡をみる 25ヱホバ命じたまへば
あらき風おこりてその浪をあぐ 26かれら天にのぼりまた
淵にくだり患難によりてその霊魂とけさり 27左た右たに
かたぶき酔たる者のごとく踉蹌てなす所をしらず 28かく
てその困苦のうちにてヱホバをよばふ ヱホバこれを患難
よりたづさへいで 29狂風をしづめて浪をおだやかになし
給へり 30かれらはおのが靜かなるをよろこぶ 斯てヱホバ
はかれらをその望むところの湊にみちびきたまふ 31願く
はすべての人ヱホバの惠により人の子になしたまへる奇
しき事跡によりてヱホバをほめたたへんことを 32かれら
民の會にてこれをあがめ長老の座にてこれを讃稱ふべし
33ヱホバは河を野にかはらせ泉をかわける地に變らせ 34
また豊かなる地にすめる民の惡によりてそこを鹵の地に
かはらせ給ふ 35野を池にかはらせ乾ける地をいづみにか
はらせ 36ここに餓たるものを住はせたまふ されば彼らは
己がすまひの邑をたて 37畠にたねをまき葡萄園をまうけ
てそのむすべる實をえたり 38ヱホバはかれらの甚くふえ
ひろごれるまでに惠をあたへ その牲畜のへることをも許
したまはず 39されどまた虐待くるしみ悲哀によりて減ゆ
き且うなたれたり 40ヱホバもろもろの君に侮辱をそそぎ
道なき荒地にさまよはせたまふ 41然はあれど貧しきもの
を患難のうちより擧てその家族をひつじの群のごとくな
らしめたまふ 42直きものは之をみて喜びもろもろの不義
はその口をふさがん 43すべて慧者はこれらのことに心を
よせヱホバの憐憫をさとるべし

第百八篇

ダビデの歌なり讃美なり

1神よわが心はさだまれり われ謳ひまつらん 稱まつらんわが榮をもてたたへまつらん 2箏よ琴よさむべし われ黎明をよびさまさん 3ヱホバよ我もろもろの民のなかにてなんぢに感謝し もろもろの國のなかにてなんぢをほめうたはん 4そは汝のあはれみは大にして天のうへにあがり なんぢの眞實は雲にまでおよぶ 5神よねがはくはみづからを天よりもたかくし榮光を全地のうへに擧たまへ 6ねがはくは右の手をもて救をほどこし われらに答をなして愛しみたまふものに助をえしめたまへ 7神はその聖をもていひたまへり われ甚くよろこばん我シケムをわかちスコテの谷をはからん 8ギレアデはわがものマナセはわが有なりエフライムも亦わが首のまもりなりユダはわが杖 9モアブはわが足盥なりエドムにはわが履をなげんペリシテよわが故によりて聲をあげよと 10誰かわれを堅固なる邑にすすましめんや 誰かわれをみちびきてエドムにゆきしや 11神よなんぢはわれらを棄たまひしにあらずや神よなんぢはわれらの軍とともに出ゆきたまはず 12ねがはくは助をわれにあたへて敵にむかはしめたまへ 人のたすけは空しければなり 13われらは神によりて勇しくはたらかん われらの敵をふみたまふものは神なればなり

第百九篇

伶長にうたはしめたるダビデのうた

1わが讃たたふる神よもだしたまふなかれ 2かれらは惡の口とあざむきの口とをあけて我にむかひ いつはりの舌をもて我にかたり 3うらみの言をもて我をかこみ ゆゑなく我をせめて鬪ふことあればなり 4われ愛するにかれら反りてわが敵となる われただ祈るなり 5かれらは惡をもてわが善にむくい恨をもてわが愛にむくいたり 6ねがはくは彼のうへに惡人をたてその右方に敵をたたしめたまへ 7かれが鞫かるるときはその罪をあらはにせられ又そのいのりは罪となり 8その日はすくなく その職はほかの人にえられ 9その子輩はみなしごとなり その妻はやもめとなり 10その子輩はさすらひて乞丐 そのあれたる處よりいできたりて食をもとむべし 11彼のもてるすべてのものは債主にうばはれ かれの勤勞は外人にかすめらるべし 12かれに惠をあたふる人ひとりだになく かれの孤子をあはれむ者もなく 13その裔はたえその名はつぎの世にきえうすべし 14その父等のよこしまはヱホバのみこころに記されその母のつみはきえざるべし 15かれらは恒にヱホバの前におかれ その名は地より斷るべし 16かかる人はあはれみを施すことをおもはず反りて貧しきもの乏しきもの 心のいためる者をころさんとして攻たりき 17かかる人は詛ふことをこのむ この故にのろひ己にいたる惠むことをたのしまず この故にめぐみ己にとほざかれり 18かかる人はころものごとくに詛をきる この故にのろひ水のごとくにおのれの衷にいり油のごとくにおのれの骨にいれり 19ねがはくは詛をおのれのきたる衣のごとく帶のごとくなして恒にみづから纏はんことを 20これらの事はわが敵とわが霊魂にさからひて惡言をいふ者とにヱホバのあたへたまふ報なり 21されど主ヱホバよなんぢの名のゆゑをもて我をかへりみたまへ なんぢの憐憫はいとふかし ねがはくは我をたすけたまへ 22われは貧しくして乏し わが心うちにて傷をうく 23わがゆく状はゆふ日の影のごとく またいなごのごとく吹さらるるなり 24わが膝は斷食によりてよろめき わが肉はやせおとろふ 25われは彼等にそしらるる者となれり かれら我をみるときは首をふる 26わが神ヱホバよねがはくは我をたすけその憐憫にしたがひて我をすくひたまへ 27ヱホバよこれらは皆なんぢの手よりいで 汝のなしたまへることなるを彼等にしらしめたまへ 28かれらは詛へども汝はめぐみたまふ かれらの立ときは恥かしめらるれどもなんぢの僕はよろこばん 29わがもろもろの敵はあなどりを衣おのが恥を外袍のごとくにまとふべし 30われはわが口をもて大にヱホバに謝し おほくの人のなかにて讃まつらむ 31ヱホバはまづしきものの右にたちてその霊魂を罪せんとする者より之をすくひたまへり

第百十篇

ダビデのうた

1ヱホバわが主にのたまふ 我なんぢの仇をなんぢの承足とするまではわが右にざすべし 2ヱホバはなんぢのちからの杖をシオンよりつきいださしめたまはん 汝はもろもろの仇のなかに王となるべし 3なんぢのいきほひの日になんぢの民は聖なるうるはしき衣をつけ 心よりよろこびて己をささげん なんぢは朝の胎よりいづる壯きものの露をもてり 4ヱホバ誓をたてて聖意をかへさせたまふことなし 汝はメルキセデクの状にひとしくとこしへに祭司たり 5主はなんぢの右にありてそのいかりの日に王等をう

ちたまへり 6主はもろもろの國のなかにて審判をおこなひたまはん 此處にも彼處にも屍をみたしめ 寛濶なる地をすぶる首領をうちたまへり 7かれ道のほとりの川より汲てのみ斯てかうべを擧ん

第百十一篇

1ヱホバを讃たたへよ 我はなほきものの會あるひは公會にて心をつくしてヱホバに感謝せん 2ヱホバのみわざは大なりすべてその事跡をしたふものは之をかんがへ究む 3その行ひたまふところは榮光ありまた稜威あり その公義はとこしへに失することなし 4ヱホバはその奇しきみわざを人のこころに記しめたまへり ヱホバはめぐみと憐憫とにて充たまふ 5ヱホバは己をおそるるものに糧をあたへたまへり またその契約をとこしへに心にとめたまはん 6ヱホバはもろもろの國の所領をおのれの民にあたへてその作爲のちからを之にあらはしたまへり 7その手のみわざは眞實なり公義なり そのもろもろの訓諭はかたし 8これらは世々かぎりなく堅くたち眞實と正直とにてなれり 9ヱホバはそのたみに救贖をほどこし その契約をとこしへに立たまへり ヱホバの名は聖にしてあがむべきなり 10ヱホバをおそるるは智慧のはじめなり これらを行ふものは皆あきらかなる聰ある人なり ヱホバの頌美はとこしへに失ることなし

第百十二篇

1ヱホバを讃まつれヱホバを畏れてそのもろもろの誡命をいたく喜ぶものはさいはひなり 2かかる人のすゑは地にてつよく直きものの類はさいはひを得ん 3富と財とはその家にあり その公義はとこしへにうすることなし 4直き者のために暗きなかにも光あらはる 彼は惠ゆたかに憐憫にみつる義しきものなり 5惠をほどこし貸ことをなす者はさいはひなり かかる人は審判をうくるときおのが訴をささへうべし 6又とこしへまで動かさるることなからん義 者はながく忘れらるることなかるべし 7彼はあしき音信によりて畏れず その心ヱホバに依頼みてさだまれり 8その心かたくたちて懼るることなく敵につきての願望をつひに見ん 9彼はちらして貧 者にあたふ その正義はとこしへにうすることなし その角はあがめをうけて擧られん 10惡者はこれを見てうれへもだえ切歯しつつ消さらん また惡きものの願望はほろぶべし

第百十三篇

1ヱホバをほめまつれ汝等ヱホバの僕よほめまつれヱホバの名をほめまつれ 2今より永遠にいたるまでヱホバの名はほむべきかな 3日のいづる處より日のいる處までヱホバの名はほめらるべし 4ヱホバはもろもろの國の上にありてたかく その榮光は天よりもたかし 5われらの神ヱホバにたぐふべき者はたれぞや 寶座をその高 處にすゑ己をひくくして天と地とをかへりみ給ふ 6われらの神ヱホバにたぐふべき者はたれぞや 寶座をその高 處にすゑ己をひくくして天と地とをかへりみ給ふ 7まづしきものを塵よりあげ乏しきものを糞土よりあげて 8もろもろの諸侯とともにすわらせ その民のきみたちと共にすわらせたまはん 9又はらみなき婦に家をまもらせ おほくの子女のよろこばしき母たらしめたまふ ヱホバを讃まつれ

第百十四篇

1イスラエルの民エジプトをいで ヤコブのいへ異 言の民をはなれしとき 2ユダはヱホバの聖所となりイスラエルはヱホバの所 領となれり 3海はこれを見てにげヨルダンは後にしりぞき 4山は牡羊のごとくをどり小山はこひつじのごとく躍れり 5海よなんぢ何とてにぐるやヨルダンよなんぢ何とて後にしりぞくや 6山よなにとて牡羊のごとくをどるや小山よなにとて小 羊のごとく躍るや 7地よ主のみまへヤコブの神の前にをののけ 8主はいはを池にかはらせ石をいづみに變らせたまへり

第百十五篇

1ヱホバよ榮光をわれらに歸するなかれ われらに歸するなかれ なんぢのあはれみと汝のまことゝの故によりてただ名にのみ歸したまへ 2もろもろの國人はいかなればいふ 今かれらの神はいづくにありやと 3然どわれらの神は天にいます 神はみこころのままにすべての事をおこなひ給へり 4かれらの偶像はしろかねと金にして人の手のわざなり 5その偶像は口あれどいはず目あれどみず 6耳あれどきかず鼻あれどかがず 7手あれどとらず脚あれどあゆまず喉より聲をいだすことなし 8此をつくる者とこれに依賴むものとは皆これにひとしからん 9イスラエルよなんぢヱホバに依賴め ヱホバはかれらの助かれらの盾なり 10アロンの家よなんぢらヱホバによりたのめ ヱホバはかれらの助かれらの盾なり 11ヱホバを畏るるものよヱホバに依賴め ヱホバはかれらの助かれらの盾なり 12ヱホバは我儕をみこころに記たまへり われらを惠みイスラエル

の家をめぐみアロンのいへをめぐみ 13また小なるも大なるもヱホバをおそるる者をめぐみたまはん 14願くはヱホバなんぢらを増加へ なんぢらとなんぢらの子孫とをましくはへ給はんことを 15なんぢらは天地をつくりたまへるヱホバに恵まるる者なり 16天はヱホバの天なり されど地は人の子にあたへたまへり 17死人も幽寂ところに下れるものもヤハを讃稱ふることなし 18然どわれらは今より永遠にいたるまでヱホバを讃まつらむ 汝等ヱホバをほめたたへよ

第百十六篇

1われヱホバを愛しむ そはわが聲とわが願望とをききたまへばなり 2ヱホバみみを我にかたぶけたまひしが故にわれ世にあらんかぎりヱホバを呼まつらむ 3死の繩われをまとひ陰府のくるしみ我にのぞめり われは患難とうれへとにあへり 4その時われヱホバの名をよべり ヱホバよ願くはわが霊魂をすくひたまへと 5ヱホバは恩恵ゆたかにして公義ましませり われらの神はあはれみ深し 6ヱホバは愚かなるものを護りたまふ われ卑くせられしがヱホバ我をすくひたまへり 7わが霊魂よなんぢの平安にかへれ ヱホバは豊かになんぢを待ひたまへばなり 8汝はわがたましひを死より わが目をなみだより わが足を顛蹶よりたすけいだしたまひき 9われは活るものの國にてヱホバの前にあゆまん 10われ大になやめりといひつつもなほ信じたり 11われ惶てしときに云らく すべての人はいつはりなりと 12我いかにしてその賜へるもろもろの恩恵をヱホバにむくいんや 13われ救のさかづきをとりてヱホバの名をよびまつらむ 14我すべての民のまへにてヱホバにわが誓をつくのはん 15ヱホバの聖徒の死はそのみまへにて貴とし 16ヱホバよ誠にわれはなんぢの僕なり われはなんぢの婢女の子にして汝のしもべなり なんぢわが縲紲をときたまへり 17われ感謝をそなへものとして汝にささげんわれヱホバの名をよばん 18我すべての民のまへにてヱホバにわがちかひを償はん 19エルサレムよ汝のなかにてヱホバのいへの大庭のなかにて此をつくのふべし ヱホバを讃まつれ

第百十七篇

1もろもろの國よなんぢらヱホバを讃まつれ もろもろの民よなんぢらヱホバを稱へまつれ 2そはわれらに賜ふその憐憫はおほいなり ヱホバの眞實はとこしへに絶ることなし ヱホバをほめまつれ

第百十八篇

1ヱホバに感謝せよヱホバは恩恵ふかくその憐憫とこしへに絶ることなし 2イスラエルは率いふべし その憐憫はとこしへにたゆることなしと 3アロンの家はいざ言ふべし そのあはれみは永遠にたゆることなしと 4ヱホバを畏るるものは率いふべし その憐憫はとこしへにたゆることなしと 5われ患難のなかよりヱホバをよべば ヱホバこたへて我をひろき處におきたまへり 6ヱホバわが方にいませばわれにおそれなし 人われに何をなしえんや 7ヱホバはわれを助くるものとともに我がかたに坐す この故にわれを憎むものにつきての願望をわれ見ることをえん 8ヱホバに依頼むは人にたよるよりも勝りてよし 9ヱホバによりたのむはもろもろの侯にたよるよりも勝りてよし 10もろもろの國はわれを圍めり われヱホバの名によりて彼等をほろぼさん 11かれらは我をかこめり我をかこめりヱホバの名によりて彼等をほろぼさん 12かれらは蜂のごとく我をかこめり かれらは荊の火のごとく消たり われはヱホバの名によりてかれらを滅さん 13汝われを倒さんとしていたく刺つれど ヱホバわれを助けたまへり 14ヱホバはわが力わが歌にしてわが救となりたまへり 15歓喜とすくひとの聲はただしきものの幕屋にあり ヱホバのみぎの手はいさましき動作をなしたまふ 16ヱホバのみぎの手はたかくあがりヱホバの右の手はいさましき動作をなしたまふ 17われは死ることなからん 存へてヤハの事跡をいひあらはさん 18ヤハはいたく我をこらしたまひしかど死には付したまはざりき 19わがために義の門をひらけ 我そのうちにいりてヤハに感謝せん 20こはヱホバの門なりただしきものはその内にいるべし 21われ汝に感謝せん なんぢ我にこたへてわが救となりたまへばなり 22工師のすてたる石はすみの首石となれり 23これヱホバの成たまへる事にしてわれらの目にあやしとする所なり 24これヱホバの設けたまへる日なり われらはこの日によろこびたのしまん 25ヱホバよねがはくはわれらを今すくひたまへ ヱホバよねがはくは我儕をいま榮えしめたまへ 26ヱホバの名によりて來るものは福ひなり われらヱホバの家よりなんぢらを祝せり 27ヱホバは神なり われらに光をあたへたまへり 繩をもて祭壇の角にいけにへをつなげ 28なんぢはわ

が神なり我なんぢに感謝せん なんぢはわが神なり我なんぢを崇めまつらん 29ヱホバにかんしやせよ ヱホバは恩恵ふかくその憐憫とこしへに絶ることなし

第百十九篇

アレフ

1おのが道をなほくしてヱホバの律法をあゆむ者はさいはひなり 2ヱホバのもろもろの證詞をまもり 心をつくしてヱホバを尋求むるものは福ひなり 3かかる人は不義をおこなはずしてヱホバの道をあゆむなり 4ヱホバよなんぢ訓諭をわれらに命じてねんごろに守らせたまふ 5なんぢわが道をかたくたててその律法をまもらせたまはんことを 6われ汝のもろもろの誡命にこころをとむるときは恥ることあらじ 7われ汝のただしき審判をまなばば 直き心 をもてなんぢに感謝せん 8われは律法をまもらん われを棄はてたまふなかれ

○ベテ

9わかき人はなににによりてかその道をきよめん 聖言にしたがひて愼むのほかぞなき 10われ心をつくして汝をたづねもとめたり 願くはなんぢの誡命より迷ひいださしめ給ふなかれ 11われ汝にむかひて罪ををかすまじき爲になんぢの言をわが心のうちに蔵へたり 12讃べきかなヱホバよねがはくは律法をわれに教へたまへ 13われわが口唇をもてなんぢの口よりいでしもろもろの審判をのべつたへたり 14我もろもろの財貨をよろこぶごとくに汝のあかしの道をよろこべり 15我なんぢの訓諭をおもひ汝のみちに心をとめん 16われは律法をよろこび聖言をわするることなからん

○ギメル

17ねがはくは汝のしもべを豊にあしらひて存へしめたまへ さらばわれ聖言をまもらん 18なんぢわが眼をひらきなんぢの法のうちなる奇しきことを我にみせたまへ 19われは世にある旅客なり 我になんぢの誡命をかくしたまふなかれ 20斷るときなくなんぢの審判をしたふが故にわが霊魂はくだくるなり 21汝はたかぶる者をせめたまへり なんぢの誡命よりまよひづる者はのろはる 22我なんぢの證詞をまもりたり 我より謗とあなどりとを取去たまへ 23又もろもろの侯は坐して相語りわれをそこなはんとせり然はあれど汝のしもべは律法をふかく思へり 24汝のもろもろの證詞はわれをよろこばせわれをさとす者なり

○ダレテ

25わが霊魂は塵につきぬ なんぢの言にしたがひて我をいかしたまへ 26我わがふめる道をあらはししかば汝こたへを我になしたまへり なんぢの律法をわれに教へたまへ 27なんぢの訓諭のみちを我にわきまへしめたまへ われ汝のくすしき事跡をふかく思はん 28わがたましひ痛めるによりてとけゆく ねがはくは聖言にしたがひて我にちからを予へたまへ 29願くはいつはりの道をわれより遠ざけ なんぢの法をもて我をめぐみたまへ 30われは眞實のみちをえらび 恒になんぢのもろもろの審判をわが前におけり 31我なんぢの證詞をしたひて離れず ヱホバよねがはくは我をはづかしめ給ふなかれ 32われ汝のいましめの道をはしらん その時なんぢわが心をひろく爲たまふべし

○ヘ

33ヱホバよ願くはなんぢの律法のみちを我にをしへたまへ われ終にいたるまで之をまもらん 34われに智慧をあたへ給へ さらば我なんぢの法をまもり心をつくして之にしたがはん 35われに汝のいましめの道をふましめたまへ われその道をたのしめばなり 36わが心をなんぢの證詞にかたぶかしめて 貪利にかたぶかしめ給ふなかれ 37わが眼をほかにむけて虚しきことを見ざらしめ 我をなんぢの途にて活し給へ 38ひたすらに汝をおそるる汝のしもべに 聖言をかたくしたまへ 39わがおそるる謗をのぞきたまへ そはなんぢの審判はきはめて善し 40我なんぢの訓諭をしたへり 願くはなんぢの義をもて我をいかしたまへ

○ワウ

41ヱホバよ聖言にしたがひてなんぢの憐憫なんぢの拯救を我にのぞませたまへ 42さらば我われを謗るものに答ふることをえん われ聖言によりたのめばなり 43又わが口より眞理のことばをことごとく除き給ふなかれ われなんぢの審判をのぞみたればなり 44われたえずいや永久になんぢの法をまもらん 45われなんぢの訓諭をもとめたるにより障なくしてあゆまん 46われまた王たちの前になんぢの證詞をかたりて恥ることあらじ 47我わが愛するなんぢの誡命をもて己をたのしましめん 48われ手をわがあいする汝 のいましめに擧げ なんぢの律法をふかく思はん

○ザイン

49ねがはくは汝のしもべに宣ひたる聖言をおもひいだしたまへ 汝われに之をのぞましめ給へり 50なんぢの聖言は

われを活ししがゆゑに 今もなほわが艱難のときの安慰なり 51高ぶる者おほいに我をあざわらへり されど我なんぢの法をはなれざりき 52ヱホバよわれ汝がふるき往昔よりの審判をおもひいだして自から慰めたり 53なんぢの法をすつる惡者のゆゑによりて 我はげしき怒をおこしたり 54なんぢの律法はわが旅の家にてわが歌となれり 55ヱホバよわれ夜間になんぢの名をおもひいだして なんぢの法をまもれり 56われ汝のさとしを守りしによりてこの事をえたるなり

○ヘテ

57ヱホバはわがうくべき有なり われ汝のもろもろの言をまもらんといへり 58われ心をつくして汝のめぐみを請求めたり ねがはくは聖言にしたがひて我をあはれみたまへ 59我わがすべての途をおもひ 足をかへしてなんぢの證詞にむけたり 60我なんぢの誡命をまもるに速けくしてたゆたはざりき 61惡きものの繩われに纏ひたれども 我なんぢの法をわすれざりき 62我なんぢのただしき審判のゆゑに夜半におきてなんぢに感謝せん 63われは汝をおそるる者またなんぢの訓諭をまもるものの侶なり 64ヱホバよ汝のあはれみは地にみちたり 願くはなんぢの律法をわれにをしへたまへ

○テテ

65ヱホバよなんぢ聖言にしたがひ惠をもてその僕をあしらひたまへり 66われ汝のいましめを信ず ねがはくはわれに聰明と智識とををしへたまへ 67われ苦しまざる前にはまよひいでぬ されど今はわれ聖言をまもる 68なんぢは善にして善をおこなひたまふ ねがはくは汝のおきてを我にをしへたまへ 69高ぶるもの虛偽をくはだてて我にさからへり われ心をつくしてなんぢの訓諭をまもらん 70かれらの心はこえふとりて脂のごとし されど我はなんぢの法をたのしむ 71困苦にあひたりしは我によきことなり 此によりて我なんぢの律法をまなびえたり 72なんぢの口の法はわがためには千々のこがね白銀にもまされり

○ヨーデ

73なんぢの手はわれを造りわれを形づくれり ねがはくは智慧をあたへて我になんぢの誡命をまなばしめたまへ 74なんぢを畏るるものは我をみて喜ばん われ聖言によりて望をいたきたればなり 75ヱホバよ我はなんぢの審判のただしく又なんぢが眞實をもて我をくるしめたまひしを知る 76ねがはくは汝のしもべに宣ひたる聖言にしたがひて汝の仁慈をわが安慰となしたまへ 77なんぢの憐憫をわれに臨ませたまへ さらばわれ生ん なんぢの法はわが樂しめるところなり 78高ぶるものに恥をかうぷらせたまへかれらは虛偽をもて我をくつがへしたればなり されど我なんぢの訓諭をふかくおもはん 79汝をおそるる者となんぢの證詞をしるものとを我にかへらしめたまへ 80わがこころを全くして汝のおきてを守らしめたまへ さらばわれ恥をかうぶらじ

○カフ

81わが靈魂はなんぢの救をしたひてたえいるばかりなり 然どわれなほ聖言によりて望をいだく 82なんぢ何のときわれをなぐさむるやといひつつ 我みことばを慕ふによりて眼おとろふ 83我は煙のなかの革嚢のごとくなりぬれども尚なんぢの律法をわすれず 84汝のしもべの日は幾何ありや 汝いづれのとき我をせむるものに審判をおこなひたまふや 85たかぶる者われを害はんとて阱をほれり かれらはなんぢの法にしたがはず 86なんぢの誡命はみな眞實なり かれらは虛偽をもて我をせむ ねがはくは我をたすけたまへ 87かれらは地にてほとんど我をほろぼせり されど我はなんぢの訓諭をすてざりき 88願くはなんぢの仁慈にしたがひて我をいかしたまへ 然ばわれ御口よりいづる證詞をまもらん

○ラメテ

89ヱホバよみことばは天にてとこしえに定まり 90なんぢの眞實はよろづ世におよぶ なんぢ地をかたく立たまへば地はつねにあり 91これらのものはなんぢの命令にしたがひ 恒にありて今日にいたる 萬のものは皆なんぢの僕なればなり 92なんぢの法わがたのしみとならざりしならば我はつひに患難のうちに滅びたるならん 93われ恒になんぢの訓諭をわすれじ 汝これをもて我をいかしたまへばなり 94我はなんぢの有なりねがはくは我をすくひたまへ われ汝のさとしを求めたり 95惡きものは我をほろぼさんとして窺ひぬ われは唯なんぢのもろもろの證詞をおもはん 96我もろもろの純全に限あるをみたり されど汝のいましめはいと廣し

○メム

97われなんぢの法をいつくしむこといかばかりぞや われ終日これを深くおもふ 98なんぢの誡命はつねに我とともに

にありて 我をわが仇にまさりて慧からしむ 99我はなんぢの證詞をふかくおもふが故に わがすべての師にまさりて智慧おほし 100我はなんぢの訓諭をまもるがゆゑに 老たる者にまさりて事をわきまふるなり 101われ聖言をまもらんために わが足をとどめてもろもろのあしき途にゆかしめず 102なんぢ我ををしへたまひしによりて 我なんぢの審判をはなれざりき 103みことばの滋味はわが膕にあまきこといかばかりぞや 蜜のわが口に甘きにまされり 104我なんぢの訓諭によりて智慧をえたり このゆゑに虚偽のすべての途をにくむ

○ヌン

105なんぢの聖言はわがあしの燈火わが路のひかりなり 106われなんぢのただしき審判をまもらんことをちかひ且かたくせり 107われ甚いたく苦しめり ヱホバよねがはくは聖言にしたがひて我をいかしたまへ 108ヱホバよねがはくは誠意よりするわが口の献 物をうけて なんぢの審判ををしへたまへ 109わが霊魂はつねに危険ををかす されど我なんぢの法をわすれず 110あしき者わがために羂をまうけたり されどわれ汝のさとしより迷ひいでざりき 111われ汝のもろもろの證詞をとこしへにわが嗣業とせり これらの證詞はわが心をよろこばしむ 112われ汝のおきてを終までとこしへに守らんとて之にこころを傾けたり

○サメク

113われ二心のものをにくみ汝のおきてを愛しむ 114なんぢはわが匿るべき所わが盾なり われ聖言によりて望をいだく 115悪きをなすものよ我をはなれされ われわが神のいましめを守らん 116聖言にしたがひ我をささへて生存しめたまへ わが望につきて恥なからしめたまへ 117われを支へたまへ さらばわれ安けかるべし われ恒になんぢの律法にこころをそそがん 118すべて律法よりまよひいづるものを汝かろしめたまへり かれらの欺詐はむなしければなり 119なんぢは地のすべての悪きものを渣滓のごとく除きさりたまふ この故にわれ汝のあかしを愛す 120わが肉體なんぢを懼るるによりてふるふ 我はなんぢの審判をおそる

○アイン

121われは審判と公義とをおこなふ 我をすてて虐ぐるものに委ねたまふなかれ 122汝のしもべの中保となりて福祉をえしめたまへ 高ぶるものの我をしへたぐるを容したまふなかれ 123わが眼はなんぢの救となんぢのただしき聖言とをしたふによりておとろふ 124ねがはくはなんぢの憐憫にしたがひてなんぢの僕をあしらひ 我になんぢの律法ををしへたまへ 125我はなんぢの僕なり われに智慧をあたへてなんぢの證詞をしらしめたまへ 126彼等はなんぢの法をすてたり 今はヱホバのはたらきたまふべき時なり 127この故にわれ金よりもまじりなき金よりもまさりて汝のいましめを愛す 128この故にもろもろのことに係るなんぢの一切のさとしを正しとおもふ 我すべてのいつはりの途をにくむ

○ペ

129汝のあかしは妙なり かかるが故にわが霊魂これをまもる 130聖言うちひらくれば光をはなちて 愚かなるものをさとからしむ 131我なんぢの誡命をしたふが故に わが口をひろくあけて喘ぎもとめたり 132ねがはくは聖名を愛するものに恒になしたまふごとく身をかへして我をあはれみたまへ 133聖言をもてわが歩履をととのへ もろもろの邪曲をわれに主たらしめたまふなかれ 134われを人のしへたげより贖ひたまへ さらばわれ訓諭をまもらん 135ねがはくは聖顔をなんぢの僕のうへにてらし 汝のおきてを我にをしへ給へ 136人なんぢの法をまもらざるによりて わが眼のなみだ河のごとくに流る

○ツァデー

137ヱホバよなんぢは義しくなんぢの審判はなほし 138汝ただしきと此上なき眞實とをもて その證詞を命じ給へり 139わが敵なんぢの聖言をわすれたるをもて わが熱心われをほろぼせり 140なんぢの聖言はいときよし 此故になんぢの僕はこれを愛す 141われは微なるものにて人にあなどらるれども汝のさとしを忘れず 142なんぢの義はとこしへの義なり汝ののりは眞理なり 143われ患難と憂とにかかれども 汝のいましめはわが喜樂なり 144なんぢの證詞はとこしへに義し ねがはくはわれに智慧をたまへ 我ながらふることを得ん

○コフ

145われ心をつくしてよばはれり ヱホバよ我にこたへたまへ 我なんぢの律法をまもらん 146われ汝をよばはれり ねがはくはわれを救ひ給へ 我なんぢの證詞をまもらん 147われ詰朝おきいでて呼はれり われ聖言によりて望をいだけり 148夜の更のきたらぬに先だち わが眼はさめて 汝

のみことばを深くおもふ 149ねがはくはなんぢの仁慈にしたがひてわが聲をききたまへ ヱホバよなんぢの審判にしたがひて我をいかしたまへ 150惡をおひもとむるものは我にちかづけり 彼等はなんぢの法にとほくはなる 151ヱホバよ汝はわれに近くましませり なんぢのすべての誡命はまことなり 152われ早くよりなんぢの證詞によりて汝がこれを永遠にたてたまへることを知れり

◯レシ

153ねがはくはわが患難をみて我をすくひたまへ 我なんぢの法をわすれざればなり 154ねがはくはわが訟をあげつらひて我をあがなひ 聖言にしたがひて我をいかしたまへ 155すくひは惡きものより遠くはなる かれらはなんぢの律法をもとめざればなり 156ヱホバよなんぢの憐憫はおほいなり 願くはなんぢの審判にしたがひて我をいかしたまへ 157我をせむる者われに敵するものおほし 我なんぢの證詞をはなるることなかりき 158虛偽をおこなふもの汝のみことばを守らざるにより 我かれらを見てうれへたり 159ねがはくはわが汝のさとしを愛すること幾何なるをかへりみたまへ ヱホバよなんぢの仁慈にしたがひて我をいかしたまへ 160なんぢのみことばの總計はまことなり 汝のただしき審判はとこしへにいたるまで皆たゆることなし

◯シン

161もろもろの侯はゆゑなくして我をせむ 然どわが心はただ汝のみことばを畏る 162われ人のおほいなる掠物をえたるごとくに 汝のみことばをよろこぶ 163われ虛偽をにくみ之をいみきらへども 汝ののりを愛す 164われ汝のただしき審判のゆゑをもて 一日に七次なんぢを讃稱ふ 165なんぢの法をあいするものには大なる平安あり かれらには躓礙をあたふる者なし 166ヱホバよ我なんぢの救をのぞみ 汝のいましめをおこなへり 167わが霊魂はなんぢの證詞をまもれり 我はいたく之をあいす 168われなんぢの訓諭となんぢの證詞とをまもりぬ わがすべての道はみまへにあればなり

◯タウ

169ヱホバよ願くはわがよぶ聲をみまへにちかづけ 聖言にしたがひて我にちゑをあたへたまへ 170わが願をみまへにいたらせ 聖言にしたがひて我をたすけたまへ 171わがくちびるは讃美をいだすべし 汝われに律法ををしへ給へばなり 172わが舌はみことばを謳ふべし なんぢの一切のいましめは義なればなり 173なんぢの手をつねにわが助となしたまへ われなんぢの訓諭をえらび用ゐたればなり 174ヱホバよ我なんぢの救をしたへり なんぢの法はわがたのしみなり 175願くはわが霊魂をながらへしめたまへ さらば汝をほめたたへん 汝のさばきの我をたすけんことを 176われは亡はれたる羊のごとく迷ひいでぬ なんぢの僕をたづねたまへ われ汝のいましめを忘れざればなり

第百二十篇

京詣のうた

1われ困苦にあひてヱホバをよびしかば我にこたへたまへり 2ヱホバよねがはくは虛偽のくちびる欺詐の舌よりわが霊魂をたすけいだしたまへ 3あざむきの舌よなんぢに何をあたへられ 何をくはへらるべきか 4ますらをの利き箭と金雀花のあつき炭となり 5わざはひなるかな我はメセクにやどりケダルの幕屋のかたはらに住めり 6わがたましひは平安をにくむものと偕にすめり 7われは平安をねがふ されど我ものいふときにかれら戰爭をこのむ

第百二十一篇

京まうでの歌

1われ山にむかひて目をあぐ わが扶助はいづこよりきたるや 2わがたすけは天地をつくりたまへるヱホバよりきたる 3ヱホバはなんぢの足のうごかさるるを容したまはず 汝をまもるものは微睡たまふことなし 4視よイスラエルを守りたまふものは微睡こともなく寢ることもなからん 5ヱホバは汝をまもる者なり ヱホバはなんぢの右手をおほふ蔭なり 6ひるは日なんぢをうたず夜は月なんぢを傷じ 7ヱホバはなんぢを守りてもろもろの禍害をまぬかれしめ並なんぢの霊魂をまもりたまはん 8ヱホバは今よりとこしへにいたるまで 汝のいづると入るとをまもりたまはん

第百二十二篇

ダビデがよめる京まうでの歌

1人われにむかひて率ヱホバのいへにゆかんといへるとき我よろこべり 2ヱルサレムよわれらの足はなんぢの門のうちにたてり 3ヱルサレムよなんぢは稠くつらなりたる邑のごとく固くたてり 4もろもろのやから即ちヤハの支派かしこに上りきたり イスラエルにむかひて證詞をな

し またヱホバの名にかんしやをなす 5彼處にさばきの寳座まうけらる これダビデの家のみくらなり 6ヱルサレムのために平安をいのれ ヱルサレムを愛するものは榮ゆべし 7ねがはくはなんぢの石垣のうちに平安あり なんぢの諸殿のうちに福祉あらんことを 8わが兄弟のためわが侶のために われ今なんぢのなかに平安あれといはん 9われらの神ヱホバのいへのために我なんぢの福祉をもとめん

第百二十三篇

京まうでの歌

1天にいますものよ我なんぢにむかひて目をあぐ 2みよ 僕その主の手に目をそそぎ 婢女その主母の手に目をそそぐがごとく われらはわが神ヱホバに目をそそぎて そのわれを憐みたまはんことをまつ 3ねがはくはわれらを憐みたまへ ヱホバよわれらを憐みたまへ そはわれらに軽侮はみちあふれぬ 4おもひわづらひなきものの凌辱と たかぶるものの軽侮とはわれらの霊魂にみちあふれぬ

第百二十四篇

ダビデのよめる京まうでの歌

1今イスラエルはいふべし ヱホバもしわれらの方にいまさず 2人々われらにさからひて起りたつとき ヱホバもし我儕のかたに在さざりしならんには 3かれらの怒のわれらにむかひておこりし時 われらを生るままにて呑しならん 4また水はわれらをおほひ 流はわれらの霊魂をうちこえ 5高ぶる水はわれらの霊魂をうちこえしならん 6ヱホバはほむべきかな我儕をかれらの歯にわたして噛くらはせたまはざりき 7我儕のたましひは捕鳥者のわなをのがるる鳥のごとくにのがれたり 羅はやぶれてわれらはのがれたり 8われらの助は天地をつくりたまへるヱホバの名にあり

第百二十五篇

みやこ詣のうた

1ヱホバに依頼むものはシオンの山のうごかさるることなくして永遠にあるがごとし 2ヱルサレムを山のかこめるごとくヱホバも今よりとこしへにその民をかこみたまはん 3惡の杖はただしきものの所領にとどまることなかるべし斯てただしきものはその手を不義にのぶることあらじ 4ヱホバよねがはくは善人とこころ直きものとに

福祉をほどこしたまへ 5されどヱホバは轉へりておのが曲れる道にいるものを惡きわざをなすものとともに去しめたまはん 平安はイスラエルのうへにあれ

第百二十六篇

京まうでの歌

1ヱホバ、シオンの俘 囚をかへしたまひし時 われらは夢みるもののごとくなりき 2そのとき笑はわれらの口にみち歌はわれらの舌にみてり ヱホバかれらのために大なることを作たまへりといへる者もろもろの國のなかにありき 3ヱホバわれらのために大なることをなしたまひたれば我儕はたのしめり 4ヱホバよ願くはわれらの俘 囚をみなみの川のごとくに歸したまへ 5涙とともに播くものは歡喜とともに穫らん 6その人は種をたづさへ涙をながしていでゆけど禾束をたづさへ喜びてかへりきたらん

第百二十七篇

ソロモンがよめる京まうでのうた

1ヱホバ家をたてたまふにあらずば 建るものの勤勞はむなしく ヱホバ城をまもりたまふにあらずば衛士のさめをるは徒勞なり 2なんぢら早くおき遅くいねて辛苦の糧をくらふはむなしきなり 斯てヱホバその愛しみたまふものに寢をあたへたまふ 3みよ子輩はヱホバのあたへたまふ嗣業にして 胎の實はその報のたまものなり 4年壯きころほひの子はますらをの手にある矢のごとし 5矢のみちたる箙をもつ人はさいはひなり かれら門にありて仇とものいふとき恥ることあらじ

第百二十八篇

京まうでの歌

1ヱホバをおそれその道をあゆむものは皆さいはひなり 2そはなんぢおのが手の勤勞をくらふべければなり なんぢは福祉をえまた安處にをるべし 3なんぢの妻はいへの奥にをりておほくの實をむすぶ葡萄の樹のごとく汝の子輩はなんぢの筵に円居してかんらんの若樹のごとし 4見よヱホバをおそるる者はかく福祉をえん 5ヱホバはシオンより恵をなんぢに賜はん なんぢ世にあらんかぎりエルサレムの福祉をみん 6なんぢおのが子輩の子をみるべし 平安はイスラエルの上にあり

第百二十九篇

京まうでのうた

1今イスラエルはいふべし彼等はしばしば我をわかきときより惱めたり 2かれらはしばしば我をわかきときより惱めたり されどわれに勝ことを得ざりき 3耕すものはわが背をたがへしてその畝をながくせり 4ヱホバは義し あしきものの繩をたちたまへり 5シオンをにくむ者はみな恥をおびてしりぞかせらるべし 6かれらは長たざるさきにかるる屋上の草のごとし 7これを刈るものはその手にみたず 之をつかぬるものはその束ふところに盈ざるなり 8かたはらを過るものはヱホバの惠なんぢの上にあれといはず われらヱホバの名によりてなんぢらを祝すといはず

第百三十篇

京まうでの歌

1ああヱホバよわれふかき淵より汝をよべり 2主よねがはくはわが聲をきき汝のみみをわが懇求のこゑにかたぶけたまへ 3ヤハよ主よなんぢ若もろもろの不義に目をとめたまはば誰たれかよく立ことをえんや 4されどなんぢに赦あれば人におそれかしこまれ給ふべし 5我ヱホバを俟望む わが靈魂はまちのぞむ われはその聖言によりて望をいだく 6わがたましひは衛士があしたを待にまさり 誠にゑじが旦をまつにまさりて主をまてり 7イスラエルよヱホバによりて望をいだけ そはヱホバにあはれみありまたゆたかなる救贖あり 8ヱホバはイスラエルをそのもろもろの邪曲よりあがなひたまはん

第百三十一篇

ダビデのよめる京まうでのうた

1ヱホバよわが心おごらずわが目たかぶらず われは大なることと我におよばぬ奇しき事とをつとめざりき 2われはわが靈魂をもださしめまた安からしめたり 乳をたちし嬰兒のその母にたよるごとく 我がたましひは乳をたちし嬰兒のごとくわれに恃れり 3イスラエルよ今よりとこしへにヱホバにたよりて望をいだけ

第百三十二篇

京まうでの歌

1ヱホバよねがはくはダビデの爲にそのもろもろの憂をこころに記たまへ 2ダビデ、ヱホバにちかひヤコブの全能者にうけひていふ 3われヱホバのために處をたづねいだし ヤコブの全能者のために居所をもとめうるまでは 我家の幕屋にいらず わが臥床にのぼらず わが目をねぶらしめず わが眼瞼をとぢしめざるべしと 4われヱホバのために處をたづねいだし ヤコブの全能者のために居所をもとめうるまでは 我家の幕屋にいらず わが臥床にのぼらず わが目をねぶらしめず わが眼瞼をとぢしめざるべしと 5われヱホバのために處をたづねいだし ヤコブの全能者のために居所をもとめうるまでは 我家の幕屋にいらず わが臥床にのぼらず わが目をねぶらしめず わが眼瞼をとぢしめざるべしと 6われらエフラタにて之をききヤアルの野にて見とめたり 7われらはその居所にゆきて その承足のまへに俯伏さん 8ヱホバよねがはくは起きて なんぢの稜威の櫃とともになんぢの安居 所にいりたまへ 9なんぢの祭司たちは義を衣 なんぢの聖徒はみな 歓びよばふべし 10なんぢの僕ダビデのためになんぢの受膏者の面をしりぞけたまふなかれ 11ヱホバ眞實をもてダビデに誓ひたまひたれば之にたがふことあらじ 曰くわれなんぢの身よりいでし者をなんぢの座位にざせしめん 12なんぢの子輩もしわがをしふる契約と證詞とをまもらばかれらの子輩もまた永遠になんぢの座位にざすべしと 13ヱホバはシオンを擇びておのが居所にせんとのぞみたまへり 14曰くこれは永遠にわが安居 處なり われここに住ん そはわれ之をのぞみたればなり 15われシオンの糧をゆたかに祝し くひものをもてその貧 者をあかしめん 16われ救をもてその祭司たちに衣せん その聖徒はみな聲たからかによろこびよばふべし 17われダビデのためにかしこに一つの角をはえしめん わが受膏者のために燈火をそなへたり 18われかれの仇にはぢを衣せん されどかれはその冠弁さかゆべし

第百三十三篇

ダビデがよめる京まうでの歌

1觀よはらから相睦てともにをるはいかに善いかに樂きかな 2首にそそがれたる貴きあぶら鬚にながれ アロンの鬚にながれ その衣のすそにまで流れしたたるるがごとく 3またヘルモンの露くだりてシオンの山にながるるがごとし そはヱホバかしこに福祉をくだし窮なき生命をさへあたへたまへり

第百三十四篇

京まうでの歌

1夜間ヱホバの家にたちヱホバに事ふるもろもろの僕よ
ヱホバをほめまつれ 2なんぢら聖所にむかひ手をあげて
ヱホバをほめまつれ 3ねがはくはヱホバ天地をつくりた
まへるもの シオンより汝をめぐみたまはんことを

第百三十五篇

1なんぢらヱホバを讃稱へよ ヱホバの名をほめたたへよ
ヱホバの僕 等ほめたたへよ 2ヱホバの家われらの神のい
への大庭にたつものよ讃稱へよ 3ヱホバは惠ふかし なん
ぢらヱホバをほめたたへよ その聖名はうるはし讃うたへ
4そはヤハおのがためにヤコブをえらみ イスラエルをえ
らみてその珍寶となしたまへり 5われヱホバの大なると
われらの主のもろもろの神にまされるとをしれり 6ヱホ
バその聖旨にかなふことを天にも地にも海にも淵にもみ
なことごとく行ひ給ふなり 7ヱホバは地のはてより霧を
のぼらせ 雨のために電光をつくりその庫より風をいだし
たまふ 8ヱホバは人より畜類にいたるまでエジプトの
首出をうちたまへり 9エジプトよヱホバはなんぢの中に
しるしと奇しき事跡とをおくりて パロとその僕とに臨ま
せ給へり 10ヱホバはおほくの國々をうち 又いきほひある
王等をころし給へり 11アモリ人のわうシホン、バシヤン
の王オグならびにカナンの國々なり 12かれらの地をゆづ
りとしその民イスフルの嗣業としてあたへ給へり 13ヱホ
バよなんぢの名はとこしへに絶ることなし ヱホバよなん
ぢの記念はよろづ世におよばん 14ヱホバはその民のため
に審判をなしその僕 等にかかはれる聖意をかへたまふ可
ればなり 15もろもろのくにの偶像はしろかねと金にして
人の手のわざなり 16そのぐうざうは口あれどいはず目あ
れど見ず 17耳あれどきかず またその口に氣息あることな
し 18これを造るものと之によりたのむものとは皆これに
ひとしからん 19イスラエルの家よヱホバをほめまつれ ア
ロンのいへよヱホバをほめまつれ 20レビの家よヱホバを
ほめまつれ ヱホバを畏るるものよヱホバをほめまつれ 21
ヱルサレムにすみたまふヱホバはシオンにて讃まつるべ
きかな ヱホバをほめたたへよ

第百三十六篇

1ヱホバに感謝せよヱホバはめぐみふかし その憐憫はと
こしへに絶ることなければなり 2もろもろの神の神にか
んしやせよ その憐憫はとこしへにたゆることなければな
り 3もろもろの主の主にかんしやせよ その憐憫はとこし
へにたゆることなければなり 4ただ獨りおほいなる奇跡
なしたまふものに感謝せよ その憐憫はとこしへにたゆる
ことなければなり 5智慧をもてもろもろの天をつくりた
まへるものに感謝せよ そのあはれみはとこしへにたゆる
ことなければなり 6地を水のうへに布たまへるものに
感謝せよ そのあはれみは永遠にたゆることなければなり
7巨大なる光をつくりたまへる者にかんしやせよ その
憐憫はとこしへに絶ることなければなり 8晝をつかさど
らするために日をつくりたまへる者にかんしやせよ その
憐憫はとこしへにたゆることなければなり 9夜をつかさ
どらするために月ともろもろの星とをつくりたまへる者
にかんしやせよ その憐憫はとこしへにたゆることなけれ
ばなり 10もろもろの首出をうちてエジプトを責たまへる
ものに感謝せよ そのあはれみは永遠にたゆることなけれ
ばなり 11イスラエルを率てエジプト人のなかより出した
まへる者にかんしやせよ そのあはれみはとこしへに絶る
ことなければなり 12臂をのばしつよき手をもて之をひき
いだしたまへる者にかんしやせよ その憐憫はとこしへに
たゆることなければなり 13紅海をふたつに分たまへる者
にかんしやせよ その憐憫はとこしへにたゆることなけれ
ばなり 14イスラエルをしてその中をわたらしめ給へるも
のに感謝せよ そのあはれみは永遠にたゆることなければ
なり 15パロとその軍兵とを紅海のうちに仆したまへるも
のに感謝せよ そのあはれみは永遠にたゆることなければ
なり 16その民をみちびきて野をすぎしめたまへる者にか
んしやせよ その憐憫はとこしへにたゆることなければな
り 17大なる王たちを撃たまへるものに感謝せよ そのあは
れみは永遠にたゆることなければなり 18名ある王等をこ
ろしたまへる者にかんしやせよ その憐憫はとこしへに絶
ることなければなり 19アモリ人のわうシホンをころした
まへる者にかんしやせよ その憐憫はとこしへにたゆるこ
となければなり 20バシヤンのわうオグを誅したまへるも
のに感謝せよ そのあはれみは永遠にたゆることなければ
なり 21かれらの地を嗣業としてあたへたまへる者にかん
しやせよ その憐憫はとこしへにたゆることなければなり
22その僕イスラエルにゆづりとして之をあたへたまへる
ものに感謝せよ そのあはれみは永遠にたゆることなけれ
ばなり 23われらが微賤かりしときに記念したまへる者に
かんしやせよ その憐憫はとこしへに絶ることなければな
り 24わが敵よりわれらを助けいだしたまへる者にかんし

やせよ その憐憫はとこしへに絶ることなければなり 25すべての生るものに食物をあたへたまふものに感謝せよ そのあはれみはとこしへに絶ることなければなり 26天の神にかんしやせよ その憐憫はとこしへに絶ることなければなり

第百三十七篇

1われらバビロンの河のほとりにすわり シオンをおもひいでて涙をながしぬ 2われらそのあたりの柳にわが琴をかけたり 3そはわれらを虜にせしものわれらに歌をもとめたり 我儕をくるしむる者われらにおのれを歓ばせんとて シオンのうた一つうたへといへり 4われら外邦にありていかでヱホバの歌をうたはんや 5エルサレムよもし我なんぢをわすれなばわが右の手にその巧をわすれしめたまへ 6もしわれ汝を思ひいでず もしわれヱルサレムをわがすべての歓喜の極となさずばわが舌をわが腭につかしめたまへ 7ヱホバよねがはくはヱルサレムの日にエドムの子輩がこれを掃除けその基までもはらひのぞけといへるを聖意にとめたまへ 8ほろぼさるべきバビロンの女よなんぢがわれらに作しごとく汝にむくゆる人はさいはひなるべし 9なんぢの嬰兒をとりて岩のうへになげうつものは福ひなるべし

第百三十八篇

ダビデのうた

1われはわが心をつくしてなんぢに感謝し もろもろの神のまへにて汝をほめうたはん 2我なんぢのきよき宮にむかひて伏拝み なんぢの仁慈とまことゝの故によりて聖名にかんしやせん そは汝そのみことばをもろもろの聖名にまさりて高くしたまひたればなり 3汝わがよばはりし日にわれにこたへ わが霊魂にちからをあたへて雄々しからしめたまへり 4ヱホバよ地のすべての王はなんぢに感謝せん かれらはなんぢの口のもろもろの言をききたればなり 5かれらはヱホバのもろもろの途についてうたはん ヱホバの榮光おほいなればなり 6ヱホバは高くましませども卑きものを顧みたまふ されど亦おごれるものを遠よりしりたまへり 7縦ひわれ患難のなかを歩むとも 汝われをふたたび活し その手をのばしてわが仇のいかりをふせぎ その右の手われをすくひたまふべし 8ヱホバはわれに係れることを全うしたまはん ヱホバよなんぢの憐憫はとこしへにたゆることなし願くはなんぢの手のもろもろの事跡をすてたまふなかれ

第百三十九篇

伶長にうたはしめたるダビデの歌

1ヱホバよなんぢは我をさぐり我をしりたまへり 2なんぢはわが坐るをも立をもしり 又とほくよりわが念をわきまへたまふ 3なんぢはわが歩むをもわが臥をもさぐりいだし わがもろもろの途をことごとく知たまへり 4そはわが舌に一言ありとも觀よヱホバよなんぢことごとく知たまふ 5なんぢは前より後よりわれをかこみ わが上にその手をおき給へり 6かかる知識はいとくすしくして我にすぐまた高くして及ぶことあたはず 7我いづこにゆきてなんぢの聖霊をはなれんや われいづこに往てなんぢの前をのがれんや 8われ天にのぼるとも汝かしこにいまし われわが榻を陰府にまうくるとも 觀よなんぢ彼處にいます 9我あけぼのの翼をかりて海のはてにすむとも 10かしこにても尚なんぢの手われをみちびき汝のみぎの手われをたもちたまはん 11暗はかならず我をおほひ 我をかこめる光は夜とならんと我いふとも 12汝のみまへには暗ものをかくすことなく 夜もひるのごとくに輝けり なんぢにはくらきも光もことなることなし 13汝はわがはらわたをつくり 又わがははの胎にわれを組成たまひたり 14われなんぢに感謝す われは畏るべく奇しくつくられたり なんぢの事跡はことごとくくすし わが霊魂はいとつばらに之をしれり 15われ隠れたるところにてつくられ地の底所にて妙につづりあはされしとき わが骨なんぢにかくるることなかりき 16わが體いまだ全からざるに なんぢの目ははやくより之をみ 日々かたちづくられしわが百體の一だにあらざりし時に ことごとくなんぢの冊にしるされたり 17神よなんぢりもろもろの思念はわれに寶きこといかばかりぞや そのみおもひの總計はいかに多きかな 18我これを算へんとすれどもそのかずは沙よりもおほし われ眼さむるときも尚なんぢとともにをる 19神よなんぢはかならず惡者をころし給はん されば血をながすものよ我をはなれされ 20かれらはあしき企圖をもて汝にさからひて言ふなんぢの仇はみだりに聖名をとなふるなり 21ヱホバよわれは汝をにくむ者をにくむにあらずや なんぢに逆ひておこりたつものを厭ふにあらずや 22われ甚くかれらをにくみてわが仇とす 23神よねがはくは我をさぐりてわが心を

しり 我をこころみてわがもろもろの思念をしりたまへ 24 ねがはくは我によこしまなる途のありやなしやを見て われを永遠のみちに導きたまへ

第百四十篇

伶長にうたはしめたるダビデのうた

1 ヱホバよねがはくは悪人よりわれを助けいだし 我をまもりて強暴人よりのがれしめたまへ 2 かれらは心のうちに殘害をくはだて たえず戰闘をおこす 3 かれらは蛇のごとくおのが舌を利す そのくちびるのうちに蝮の毒ありセラ 4 ヱホバよ願くはわれを保ちてあしきひとの手よりのがれしめ 我をまもりてわが足をつまづかせんと謀るあらぶる人よりのがれしめ給へ 5 高ぶるものはわがために羂と索とをふせ 路のほとりに網をはり かつ機をまうけたり セラ 6 われヱホバにいへらく汝はわが神なり ヱホバよねがはくはわが祈のこゑをきき給へ 7 わが救のちからなる主の神よ なんぢはたたかひの日にわが首をおほひたまへり 8 ヱホバよあしきひとの欲のままにすることをゆるしたまふなかれ そのあしき企圖をとげしめたまふなかれ おそらくは彼等みづから誇らん セラ 9 われを圍むものの首はおのれのくちびるの殘害におほはるべし 10 もえたる炭はかれらのうへにおち かれらは火になげいれられふかき穴になげいれられて再びおきいづることあたはざるべし 11 惡言をいふものは世にたてられず 暴ぶるものはわざはひに追及れてたふさるべし 12 われは苦しむものの訴とまづしきものの義とをヱホバの守りたまふを知る 13 義者はかならず聖名にかんしやし直者はみまへに住ん

第百四十一篇

ダビデのうた

1 ヱホバよ我なんぢを呼ふ ねがはくは速かにわれにきたりたまへ われ汝をよばふときわが聲に耳をかたぶけたまへ 2 われは薫物のごとくにわが祈をみまへにささげ 夕のそなへものの如くにわが手をあげて聖前にささげんことをねがふ 3 ヱホバよねがはくはわが口に門守をおきて わがくちびるの戸をまもりたまへ 4 惡事にわがこころを傾かしめて邪曲をおこなふ者とともに惡きわざにあづからしめ給ふなかれ 又かれらの珍饈をくらはしめたまふなかれ 5 義者われをうつとも我はこれを愛しみとしその我をせむるを頭のあぶらとせん わが頭はこれを辭まず かれらが禍害にあふときもわが祈はたえじ 6 その審士ははほの崖になげられん かれらわがことばの甘美によりて聽ことをすべし 7 人つちを耕しうがつがごとく我儕のほねははかの口にちらさる 8 されど主ヱホバよわが目はなほ汝にむかふ 我なんぢに依賴めり ねがはくはわが霊魂をともしきままに捨おきたまなかれ 9 我をまもりてかれらがわがためにまうくる羂とよこしまを行ふものの機とをまぬかれしめたまへ 10 われは全くのがれん あしきものをおのれの網におちいらしめたまへ

第百四十二篇

ダビデが洞にありしときよみたる教へのうたなり祈なり

1 われ聲をいだしてヱホバによばはり 聲をいだしてヱホバにこひもとむ 2 われはその聖前にわが歎息をそそぎいだし そのみまへにわが患難をあらはす 3 わが霊魂わがうちにきえうせんとするときも汝わがみちを識たまへり 人われをとらへんとてわがゆくみちに羂をかくせり 4 願くはわがみぎの手に目をそそぎて見たまへ 一人だに我をしるものなし われには避所なくまたわが霊魂をかへりみる人なし 5 ヱホバよわれ汝をよばふ 我いへらく汝はわがさけどころ有生の地にてわがうべき分なりと 6 ねがはくはわが號呼にみこころをとめたまへ われいたく卑くせられたればなり 我をせむる者より助けいだしたまへ 彼等はわれにまさりて強ければなり 7 願くはわがたましひを囹圄よりいだし われに聖名を感謝せしめたまへ なんぢ豊かにわれを待ひたまふべければ 義者われをめぐらん

第百四十三篇

ダビデのうた

1 ヱホバよねがはくはわが祈をきき わが懇求にみみをかたぶけたまへ なんぢの眞實なんぢの公義をもて我にこたへたまへ 2 汝のしもべの審判にかかつらひたまふなかれそはいけるもの一人だにみまへに義とせらるるはなし 3 仇はわがたましひを迫めわが生命を地にうちすて 死てひさしく世を經たるもののごとく我をくらき所にすませたり 4 又わがたましひはわが衷にきえうせんとし わが心はわがうちに曠さびれたり 5 われはいにしへの日をおもひいで 汝のおこなひたまひし一切のことを考へ なんぢの手のみわざをおもふ 6 われ汝にむかひてわが手をのべわがたましひは燥きおとろへたる地のごとく汝をしたへり セラ 7 ヱホバよ速かにわれにこたへたまへ わが霊魂は

おとろふ われに聖顔をかくしたまふなかれ おそらくは
われ穴にくだるもののごとくならん 8朝になんぢの仁慈
をきかしめたまへ われ汝によりたのめばなり わが歩む
べき途をしらせたまへ われわが霊魂をなんぢに挙ればな
り 9ヱホバよねがはくは我をわが仇よりたすけ出したま
へ われ匿れんとして汝にはしりゆく 10汝はわが神なり
われに聖旨をおこなふことををしへたまへ 恵ふかき聖霊
をもて我をたひらかなる國にみちびきたまへ 11ヱホバよ
ねがはくは聖名のために我をいかし なんぢの義によりて
わがたましひを患難よりいだしたまへ 12又なんぢの仁慈
によりてわが仇をたち 霊魂をくるしむる者をことごとく
滅したまへ そは我なんぢの僕なり

第百四十四篇

ダビデのうた

1戦することをわが手にをしへ 闘ふことをわが指にをし
へたまふ わが磐ヱホバはほむべきかな 2ヱホバはわが
仁慈わが城なり わがたかき櫓われをすくひたまふ者な
り わが盾わが依頼むものなり ヱホバはわが民をわれに
したがはせたまふ 3ヱホバよ人はいかなる者なれば之を
しり 人の子はいかなる者なれば之をみこころに記たまふ
や 4人は氣息にことならず その存らふる日はすぎゆく影
にひとし 5ヱホバよねがはくはなんぢの天をたれてくだ
り 手を山につけて煙をたたしめたまへ 6電光をうちいだ
して彼等をちらし なんぢの矢をはなちてかれらを敗りた
まへ 7上より手をのべ我をすくひて 大水より外人の手よ
りたすけいだしたまへ 8かれらの口はむなしき言をいひ
その右の手はいつはりのみぎの手なり 9神よわれ汝にむ
かひて新らしき歌をうたひ 十絃の琴にあはせて汝をほめ
うたはん 10なんぢは王たちに救をあたへ 僕ダビデをわざ
はひの劍よりすくひたまふ 神なり 11ねがはくは我をすく
ひて外人の手よりたすけいだしたまへ かれらの口はむ
なしき言をいひ その右の手はいつはりのみぎの手なり 12
われらの男子はとしわかきとき育ちたる草木のごとくわ
れらの女子は宮のふりにならひて刻みいだしし隅の石の
ごとくならん 13われらの倉はみちたらひてさまざまのも
のをそなへ われらの羊は野にて千萬の子をうみ 14われら
の牡牛はよく物をおひ われらの衢にはせめいることなく
亦おしいづることなく叫ぶこともなからん 15かかる状の
民はさいはひなり ヱホバをおのが神とする民はさいはひ
なり

第百四十五篇

ダビデの讃美のうた

1わがかみ王よわれ汝をあがめ 世かぎりなく聖名をほめ
まつらん 2われ日ごとに汝をほめ世々かぎりなく聖名を
はめたたへん 3ヱホバは大にましませば最もほむべきか
な その大なることは尋ねしることかたし 4この代はかの
代にむかひてなんぢの事跡をほめたたへ なんぢの大能の
はたらきを宣つたへん 5われ汝のほまれの榮光ある稜威
となんぢの奇しきみわざとを深くおもはん 6人はなんぢ
のおそるべき動作のいきほひをかたり 我はなんぢの大な
ることを宣つたへん 7かれらはなんぢの大なる恵の跡を
いひいで なんぢの義をほめうたはん 8ヱホバは恵ふかく
憐憫みち また怒りたまふことおそく憐憫おほいなり 9ヱ
ホバはよろづの者にめぐみあり そのふかき憐憫はみわざ
の上にあまねし 10ヱホバよ汝のすべての事跡はなんぢに
感謝し なんぢの聖徒はなんぢをほめん 11かれらは御國の
えいくわうをかたり汝のみちからを宣つたへて 12その
大能のはたらきとそのみくにの榮光あるみいづとを人の
子輩にしらすべし 13なんぢの國はとこしへの國なり なん
ぢの政治はよろづ代にたゆることなし 14ヱホバはすべて
倒れんとする者をささへ かがむものを直くたたしめたま
ふ 15よろづのものの目はなんぢを待 なんぢは時にしたが
ひてかれらに糧をあたへ給ふ 16なんぢ手をひらきてもろ
もろの生るものの願望をあかしめたまふ 17ヱホバはその
すべての途にただしく そのすべての作爲にめぐみふかし
18すべてヱホバをよぶもの 誠をもて之をよぶものに ヱホ
バは近くましますなり 19ヱホバは己をおそるるものの
願望をみちたらしめ その號呼をききて之をすくひたまふ
20ヱホバはおのれを愛しむものをすべて守りたまへど
惡者をことごとく滅したまはん 21わが口はヱホバの頌美
をかたり よろづの民は世々かぎりなくそのきよき名をほ
めまつるべし

第百四十六篇

1ヱホバを讃稱へよ わがたましひよヱホバをほめたたへ
よ 2われ生るかぎりはヱホバをほめたたへ わがながらふ
るほどはわが神をほめうたはん 3もろもろの君によりた
のむことなく 人の子によりたのむなかれ かれらに助あ

ることなし 4その氣息いでゆけばかれ土にかへる その日かれがもろもろの企圖はほろびん 5ヤコブの神をおのが助としその望をおのが神ヱホバにおくものは福ひなり 6此はあめつちと海とそのなかなるあらゆるものを造りとこしへに眞實をまもり 7虐げらるるもののために審判をおこなひ饑ゑたるものに食物をあたへたまふ神なり ヱホバはとらはれたる人をときはなちたまふ 8ヱホバはめしひの目をひらき ヱホバは屈者をなほくたたせ ヱホバは義しきものを愛しみたまふ 9ヱホバは他邦人をまもり孤子と寡婦とをささへたまふ されど惡きものの徑はくつがへしたまふなり 10ヱホバはとこしへに統治めたまはんシオンよなんぢの神はよろづ代まで統治めたまはん ヱホバをほめたたへよ

第百四十七篇

1ヱホバをほめたたへよ われらの神をほめうたふは善ことなり樂しきことなり 稱へまつるはよろしきに適へり 2ヱホバはヱルサレムをきづきイスラエルのさすらへる者をあつめたまふ 3ヱホバは心のくだけたるものを醫しその傷をつつみたまふ 4ヱホバはもろもろの星の數をかぞへてすべてこれに名をあたへたまふ 5われらの主はおほいなりその能力もまた大なりその智慧はきはまりなし 6ヱホバは柔和なるものをささへ惡きものを地にひきおとし給ふ 7ヱホバに感謝してうたへ琴にあはせてわれらの神をほめうたへ 8ヱホバは雲をもて天をおほひ地のために雨をそなへ もろもろの山に草をはえしめ 9くひものを獸にあたへ並なく小鴉にあたへたまふ 10ヱホバは馬のちからを喜びたまはず 人の足をよみしたまはず 11ヱホバはおのれを畏るるものと おのれの憐憫をのぞむものとを好したまふ 12ヱルサレムよヱホバをほめたたへよ シオンよなんぢの神をほめたたへよ 13ヱホバはなんぢの門の關木をかたうし 汝のうちなる子輩をさきはひ給ひたればなり 14ヱホバは汝のすべての境にやはらぎをあたへ いと嘉麥をもて汝をあかしめたまふ 15ヱホバはそのいましめを地にくだしたまふ その聖言はいとすみやかにはしる 16ヱホバは雪をひつじの毛のごとくふらせ霜を灰のごとくにまきたまふ 17ヱホバは氷をつちくれのごとくに擲ちたまふ たれかその寒冷にたふることをえんや 18ヱホバ聖言をくだしてこれを消し その風をふかしめたまへばもろもろの水はながる 19ヱホバはそのみことばをヤコブに示し そのもろもろの律法とその審判とをイスラエルにしめしたまふ 20ヱホバはいづれの國をも如此あしらひたまひしにあらず ヱホバのもろもろの審判をかれらはしらざるなり ヱホバをほめたたへよ

第百四十八篇

1ヱホバをほめたたへよ もろもろの天よりヱホバをほめたたへよ もろもろの高所にてヱホバをほめたたへよ 2その天使よみなヱホバをほめたたへよ その萬軍よみなヱホバをほめたたへよ 3日よ月よヱホバをほめたたへよ ひかりの星よみなヱホバをほめたたへよ 4もろもろの天のてんよ 天のうへなる水よ ヱホバをほめたたへよ 5これらはみなヱホバの聖名をほめたたふべし そはヱホバ命じたまひたればかれらは造られたり 6ヱホバまた此等をいやとほながに立たまひたり 又すぎうすまじき詔命をくだしたまへり 7龍よ すべての淵よ地よりヱホバをほめたたへよ 8火よ霰よ雪よ霧よみことばにしたがふ狂風よ 9もろもろの山もろもろのをか實をむすぶ樹すべての香柏よ 10獸もろもろの牲畜はふもの翼ある鳥よ 11地の王たち もろもろのたみ 地の諸侯よ 地のもろもろの審士よ 12少きをのこ 若きをみな 老たる人 をさなきものよ 13みなヱホバの聖名をほめたたふべし その聖名はたかくして類なくそのえいくわうは地よりも天よりもうへにあればなり 14ヱホバはその民のために一つの角をあげたまへり こはそもろもろの聖徒のほまれ ヱホバにちかき民なるイスラエルの子輩のほまれなり ヱホバを讃稱へよ

第百四十九篇

1ヱホバをほめたたへよ ヱホバに對ひてあたらしき歌をうたへ 聖徒のつどひにてヱホバの頌美をうたへ 2イスラエルはおのれを造りたまひしものをよろこび シオンの子輩は己が王のゆゑによりて樂しむべし 3かれらをどりつつその聖名をほめたたへ 琴 鼓にてヱホバをほめうたべし 4ヱホバはおのが民をよろこび 救にて柔和なるものを美しくしたまへばなり 5聖徒はえいくわうの故によりてよろこび その寢牀にてよろこびうたふべし 6その口に神をほむるうたあり その手にもろはの劍あり 7こはもろもろの國に仇をかへし もろもろの民をつみなひ 8かれらの王たちを鏈にてかれらの貴人をくろかねの械にていましめ 9録したる審判をかれらに行ふべきためなり 斯るほまれはそのもろもろの聖徒にあり ヱホバをほめたたへよ

第百五十篇

1ヱホバをほめたたへよ その聖所にて神をほめたたへよ その能力のあらはるる穹蒼にて神をほめたたへよ 2その大能のはたらきのゆゑをもて神をほめたたへよ その秀ておほいなることの故によりてヱホバをほめたたへよ 3ラッパの聲をもて神をほめたたへよ 箏と琴とをもて神をほめたたへよ 4つづみと蹈舞とをもて神をほめたたへよ 絃簫をもて神をほめたたへよ 5音のたかき鐃鈸をもて神をほめたたへよ なりひびく鐃鈸をもて神をほめたたへよ 6氣息あるものは皆ヤハをほめたたふべし なんぢらヱホバをほめたたへよ

箴言

第一章

1ダビデの子イスラエルの王ソロモンの箴言 2こは人に智慧と訓誨とをしらしめ哲 言を暁らせ 3さとき訓と公義と公平と正直とをえしめ 4拙 者にさとりを與へ少 者に知識と謹愼とを得させん爲なり 5智慧ある者は之を聞て學にすすみ哲 者は智略をうべし 6人これによりて箴言と譬喩と智慧ある者の言とその隱語とを悟らん 7ヱホバを畏るるは知識の本なり 愚なる者は智慧と訓誨とを軽んず 8我が子よ汝の父の教をきけ 汝の母の法を棄ることなかれ 9これ汝の首の美しき 冠 となり 汝の項の妝飾とならん 10わが子よ惡 者なんぢ誘ふとも從ふことなかれ 11彼等なんぢにむかひて請ふ われらと偕にきたれ 我儕まちぶせして人の血を流し 無辜ものを故なきに伏てねらひ 12陰府のごとく彼等を活たるままにて呑み 壯健なる者を墳に下る者のごとくになさん 13われら各樣のたふとき財貨をえ 奪ひ取たる物をもて我儕の家に盈さん 14汝われらと偕に籤をひけ 我儕とともに一の金 嚢を持べしと云とも 15我が子よ彼等とともに途を歩むことなかれ 汝の足を禁めてその路にゆくこと勿れ 16そは彼らの足は惡に趨り 血を流さんとて急げばなり 17(すべて鳥の目の前にて羅を張は徒勞なり) 18彼等はおのれの血のために埋伏し おのれの命をふしてねらふ 19凡て利を貪る者の途はかくの如し 是その持主をして生命をうしなはしむるなり 20智慧外に呼はり衢に其聲をあげ 21熱鬧しき所にさけび 城市の門の口邑の中にその言をのべていふ 22なんぢら拙 者のつたなきを愛し 嘲笑者のあざけりを樂しみ 愚なる者の知識を惡むは幾時までぞや 23わが督斥にしたがひて心を改めよ 視よわれ我が霊を汝らにそそぎ 我が言をなんぢらに示さん 24われ呼たれども汝らこたへず 手を伸たれども顧 る者なく 25かへつて我がすべての勸告をすて我が督斥を受ざりしに由り 26われ汝らが禍災にあふとき之を笑ひ 汝らの恐懼きたらんとき嘲るべし 27これは汝らのおそれ颶風の如くきたり 汝らのほろび颶風の如くきたり 艱難とかなしみと汝らにきたらん時なり 28そのとき彼等われを呼ばん 然れどわれ應へじ 只管に我を求めん されど我に遇じ 29かれら知識を憎み又ヱホバを畏ることを悦 ばず 30わが勸に從はず凡て我督斥をいやしめたるによりて 31己の途の果を食ひおのれの策 略に飽べし 32拙 者の違逆はおのれを殺し 愚なる者の幸福はおのれを滅さん 33されど我に聞ものは平穩に住ひかつ禍害にあふ恐怖なくして安然ならん

第二章

1我が子よ汝もし我が言をうけ 我が誡命を汝のこころに蔵め 2斯て汝の耳を智慧に傾け汝の心をさとりにむけ 3もし知識を呼求め聰明をえんと汝の聲をあげ 4銀の如くこれを探り 秘れたる寶の如くこれを尋ねば 5汝ヱホバを畏ることを暁り 神を知ることを得べし 6そはヱホバは智慧をあたへ 知識と聰明とその口より出づればなり 7かれは義 人のために聰明をたくはへ 直く行む者の盾となる 8そは公平の途をたもち その聖徒の途すぢを守りたまへばなり 9斯て汝はつひに公義と公平と正直と一切の善道を暁らん 10すなはち智慧なんぢの心にいり 知識なんぢの霊魂に樂しからん 11謹愼なんぢを守り 聰明なんぢをたもちて 12惡き途よりすくひ虚偽をかたる者より救はん 13彼等は直き途をはなれて幽暗き路に行み 14惡を行ふを樂しみ 惡 者のいつはりを悦び 15その途はまがり その行爲は邪曲なり 16聰明はまた汝を妓女より救ひ 言をもて諂ふ婦 より救はん 17彼はわかき時の侶をすて その神に契約せしことを忘るるなり 18その家は死に下り その途は陰府に赴く 19凡てかれにゆく者は歸らず また生命の途に達ら

ざるなり 20聰明 汝をたもちてよき途に行ませ 義 人の途を守らしめん 21そは義 人は地にながらへをり 完全者は地に止らん 22されど惡 者は地より亡され悖逆者は地より抜さらるべし

第三章

1我が子よわが法を忘るるなかれ 汝の心にわが誡命をまもれ 2さらば此事は汝の日をながくし生命の年を延べ平康をなんぢに加ふべし 3仁慈と眞實とを汝より離すことなかれ 之を汝の項にむすび これを汝の心の 碑 にしるせ 4さらばなんぢ神と人との前に恩寵と好名とを得べし 5汝 こころを盡してヱホバに倚頼め おのれの聰明に倚ることなかれ 6汝すべての途にてヱホバをみとめよ さらばなんぢの途を直くしたまふべし 7自から看て聰明とする勿れ ヱホバを畏れて惡を離れよ 8これ汝の身に良薬となり汝の骨に滋潤とならん 9汝の貨財と汝がすべての産 物 の初生をもてヱホバをあがめよ 10さらば汝の倉庫はみちて餘り 汝の酒醡は新しき酒にて溢れん 11我子よ汝 ヱホバの懲治をかろんずる勿れ その譴責を受くるを厭ふこと勿れ 12それヱホバはその愛する者をいましめたまふ あたかも父のその愛する子を譴むるが如し 13智慧を求め得る人および聰明をうる人は 福 なり 14そは智慧を獲るは銀を獲るに愈りその利は精金よりも善ければなり 15智慧は眞珠よりも尊し 汝の凡ての財貨も之と比ぶるに足らず 16其右の手には長 壽あり その左の手には富と尊貴とあり 17その途は樂しき途なり その徑すぢは 悉く平康し 18これは執る者には生命の樹なり これ持ものは福 なり 19ヱホバ智慧をもて地をさだめ 聰明をもて天を置たまへり 20その知識によりて海洋はわきいで 雲は露をそそぐなり 21我が子よこれらを汝の眼より離す勿れ 聰明と謹愼とを守れ 22然ばこれは汝の靈魂の生命となり汝の項の妝飾とならん 23かくて汝やすらかに汝の途をゆかん 又なんぢの足つまづかじ 24なんぢ臥とき怖るるところあらず 臥ときは酣く睡らん 25なんぢ猝然なる恐懼をおそれず 惡 者の滅亡きたる時も之を怖るまじ 26そはヱホバは汝 の倚頼むものにして汝の足を守りてとらはれしめたまはざるべければなり 27汝の手善をなす力あらば之を爲すべき者に爲さざること勿れ 28もし汝に物あらば汝の鄰に向ひ 去て復來れ明日われ汝に予へんといふなかれ 29汝の鄰 なんぢの 傍 に安らかに居らば之にむかひて惡を謀ること勿れ 30人もし汝に惡を爲さずば故なく之と爭ふことなかれ 31暴 虐 人を羨むことなく そのすべての途を好とすることなかれ 32そは邪曲なる者はヱホバに惡まるればなり されど義 者はその親き者とせらるべし 33ヱホバの呪詛は惡 者の家にあり されど義 者の室はかれにめぐまる 34彼は嘲笑者をあざけり 謙 る者に恩惠をあたへたまふ 35智 者は尊榮をえ 愚なる者は羞辱之をとりさるべし

第四章

1小子等よ父の訓をきけ 聰明を知んために耳をかたむけよ 2われ善 教を汝らにさづく わが律を棄つることなかれ 3われも我が父には子にして 我が母の目には獨の愛 子なりき 4父われを教へていへらく我が言を汝の心にとどめわが誡命をまもれ 然らば生べし 5智慧をえ聰明をえよ これを忘るるなかれ また我が口の言に身をそむくるなかれ 6智慧をすつることなかれ彼なんぢを守らん 彼を愛せよ彼なんぢを保たん 7智慧は第一なるものなり 智慧をえよ凡て汝の得たる物をもて聰明をえよ 8彼を尊べ さらば彼なんぢを高く擧げん もし彼を懐かば彼 汝を尊榮からしめん 9かれ美しき飾を汝の首に置き 榮の冠弁を汝に予へん 10我が子よきけ 我が言を納れよ さらば汝の生命の年おほからん 11われ智慧の道を汝に教へ義しき徑筋に汝を導 けり 12歩くとき汝の歩は艱まず 趨るときも躓かじ 13堅く訓誨を執りて離すこと勿れ これを守れ これは汝の生命なり 14邪曲なる者の途に入ることなかれ 惡 者の路をあやむこと勿れ 15これを避よ 過ること勿れ 離れて去れ 16そは彼等は惡を爲さざれば睡らず 人を躓かせざればいねず 17不義のパンを食ひ暴虐の酒を飲めばなり 18義 者 の途は旭光のごとし いよいよ光輝をまして晝の正午にいたる 19惡 者の途は幽冥のごとし 彼らはその躓くもののなになるを知ざるなり 20わが子よ我が言をきけ 我が語るところに汝の耳を傾けよ 21之を汝の目より離すこと勿れ 汝の心のうちに守れ 22是は之を得るものの生命にしてまたその全體の良薬なり 23すべての操守べき物よりもまさりて汝の心を守れ そは生命の流これより出ればなり 24虚偽の口を汝より棄さり 惡き口唇を汝より遠くはなせ 25汝の目は正く視 汝の眼瞼は汝の前を眞直に視るべし 26汝の足の徑をかんがへはかり 汝のすべての道を直くせよ 27右にも左にも偏ること勿れ汝の足を惡より離れしめよ

第五章

1我が子よわが智慧をきけ 汝の耳をわが聰明に傾け 2しかしてなんぢ謹愼を守り汝の口唇に知識を保つべし 3娼妓の口唇は蜜を滴らし 其口は脂よりも滑 なり 4されど其終 は茵蔯の如くに苦く兩刃の劍の如くに利し 5その足は死に下り その歩は陰府に趣く 6彼は生命の途に入らず 其徑はさだかならねども自ら之を知ざるなり 7小子等よいま我にきけ 我が口の言を棄つる勿れ 8汝の途を彼より遠く離れしめよ 其家の門に近づくことなかれ 9恐くは汝の榮 を他人にわたし 汝の年を憐憫なき者にわたすにいたらん 10恐くは他人なんぢの資財によりて盈され 汝の勞苦は他人の家にあらん 11終にいたりて汝の身なんぢの體 亡ぶる時なんぢ泣 悲みていはん 12われ教をいとひ 心に譴責をかろんじ 13我が師の聲をきかず 我を教ふる者に耳を傾けず 14あつまりの中會 衆のうちにてほとんど 諸 の惡に陷れりと 15汝おのれの水溜より水を飲み おのれの泉 より流るる水をのめ 16汝の流をほかに溢れしめ 汝の河の水を衢に流れしむべけんや 17これを自己に歸せしめ他人をして汝と偕にこに與らしむること勿れ 18汝の泉に福祉を受しめ 汝の少き時の妻を樂しめ 19彼は愛しき麀のごとく美しき鹿の如し その乳房をもて常にたれりとしその愛をもて常によろこべ 20我子よ何なればあそびめをたのしみ 淫婦の胸を懷くや 21それ人の途はヱホバの目の前にあり 彼はすべて其行爲を量りたまふ 22惡 者はおのれの愆にとらへられ その罪の繩に繫る 23彼は訓誨なきによりて死 その多くの愚なることに由りて亡ぶべし

第六章

1我子よ汝もし朋友のために保證をなし 他人のために 汝の手を拍ば 2汝その口の言によりてわなにかかり その口の言によりてとらへらるるなり 3我子よ汝 友の手に陷りしならば斯して自ら救へ すなはち往て自ら謙だり只管なんぢの友に求め 4汝の目をして睡らしむることなく 汝の眼瞼をして閉しむること勿れ 5かりうどの手より鹿ののがるるごとく 鳥とる者の手より鳥ののがるる如くしてみづからを救へ 6惰者よ蟻にゆき其爲すところを觀て智慧をえよ 7蟻は首領なく有司なく君主なけれども 8夏のうちに食をそなへ 収穫のときに糧を斂む 9惰者よ汝いづれの時まで臥息むや いづれの時まで睡りて起ざるや 10しばらく臥ししばらく睡り 手を叉きてまた片時やすむ 11さらば汝の貧窮は盜人の如くきたり汝の缺乏は兵士の如くきたるべし 12邪曲なる人あしき人は虛僞の言をもて事を行ふ 13彼は眼をもて眴せし 脚をもてしらせ 指をもて示す 14その心に虛僞をたもち 常に惡をはかり 爭端を起す 15この故にその禍害にはかに來り 援助なくして立刻に敗らるべし 16ヱホバの憎みたまふもの六あり 否その心に嫌ひたまふもの七あり 17即ち驕る目いつはりをいふ舌 つみなき人の血を流す手 18惡き謀計をめぐらす心 すみやかに惡に趨る足 19詐僞をのぶる證 人 および兄弟のうちに爭端をおこす者なり 20我子よ汝の父の誡命を守り 汝の母の法を棄る勿れ 21常にこれを汝の心にむすび之をなんぢの頸に佩よ 22これは汝のゆくとき汝をみちびき 汝の寢るとき汝をまもり 汝の寤るとき汝とかたらん 23それ誡命は燈火なり 法は光なり 教訓の懲治は生命の道なり 24これは汝をまもりて惡き婦よりまぬかれしめ 汝をたもちて淫婦の舌の諂媚にまどはされざらしめん 25その艷 美を心 に戀ふことなかれ その眼瞼に捕へらるること勿れ 26それ娼妓のために人はただ僅に一 撮の糧をのこすのみにいたる 又淫婦は人の尊き生命を求むるなり 27人は火を懷 に抱きてその衣を焚れざらんや 28人は熱 火を踏て其足を焚れざらんや 29その隣の妻と姦淫をおこなふ者もかくあるべし 凡て之に捫る者は罪なしとせられず 30竊む者もし饑しときに其饑を充さん爲にぬすめるならば人これを藐ぜじ 31もし捕へられなばその七倍を償ひ其家の所有をことごとく出さざるべからず 32婦と姦淫をおこなふ者は智慧なきなり 之を行ふ者はおのれの靈魂を亡し 33傷と陵辱とをうけて其恥を雪ぐこと能はず 34妒忌その夫をして忿怒をもやさしむればその怨を報ゆるときかならず寛さじ 35いかなる贖 物をも顧みず 衆多の饋 物をなすともやはらがざるべし

第七章

1我子よわが言をまもり我が誡命を汝の心にたくはへよ 2我が誡命をまもりで生命をえよ 我 法を守ること汝の眸子を守るが如くせよ 3これを汝の指にむすび これを 汝の心の碑に銘せ 4なんぢ智慧にむかひて汝はわが姉妹なりといひ 明理にむかひて汝はわが友なりといへ 5さらば汝 をまもりて淫婦にまよはざらしめ 言をもて媚る娼妓にとほざからしめん 6われ我室の牖により櫺子よりのぞきて 7拙き者のうち幼弱者のうちに一人の智慧なき者あ

るを觀たり 8彼 衢をすぎ婦の門にちかづき其家の路にゆき 9黄昏に半宵に夜半に黒暗の中にあるけり 10時に娼妓の衣を着たる狡らなる婦かれにあふ 11この婦は譁しくしてつつしみなく 其足は家に止らず 12あるときは衢にあり或時はひろばにあり すみずみにたちて人をうかがふ 13この婦かれをひきて接吻し恥しらぬ面をもていひけるは 14われ酬恩祭を献げ今日すでにわが誓願を償せり 15これによりて我なんぢを迎へんとていで 汝の面をたづねて汝に逢へり 16わが榻には美しき褥およびエジプトの文枲をしき 17沒藥蘆薈桂皮をもて我が榻にそそげり 18來れわれら詰朝まで情をつくし愛をかよはして相なぐさめん 19そは夫 は家にあらず遠く旅立して 20手に金 嚢をとれり 望月ならでは家に歸らじと 21多の 婉　言 をもて惑し口唇の諂媚をもて誘へば 22わかき人ただちにこれに隨へり あだかも牛の宰地にゆくが如く 愚なる者の桎梏をかけらるるがごとし 24 為にゆくが如し 23遂には矢その肝を刺さん 鳥の速かに羅にいりてその生命を喪ふに至るを知ざるがごとし 24 小子等よいま我にきけ 我が口の言に耳を傾けよ 25なんぢの心を淫婦の道にかたむくること勿れ またこれが徑に迷ふこと勿れ 26そは彼は多の人を傷つけて仆せり 彼に殺されたる者ぞ多かる 27その家は陰府の途にして死の室に下りゆく

第八章

1智慧は呼はらざるか 聰明は聲を出さざるか 2彼は路のほとりの高 處また街衢のなかに立ち 3邑のもろもろの門邑の口および門々の入口にて呼はりいふ 4人々よわれ汝をよび 我が聲をもて人の子等をよぶ 5拙き者よなんぢら聰明に明かなれ 愚なる者よ汝ら明かなる心を得よ 6汝きけ われ善事をかたらん わが口唇をひらきて 正 事をいださん 7我が口は眞實を述べ わが口唇はあしき事を憎むなり 8わが口の言はみな義し そのうちに虚偽と奸邪とあることなし 9是みな智 者の明かにするところ 知識をうる者の正とするところなり 10なんぢら銀をうくるよりは我が教 をうけよ 精金よりもむしろ知識をえよ 11それ智慧は眞珠に愈れり 凡の寶も之に比ぶるに足らず 12われ智慧は聰明をすみかとし 知識と謹愼にいたる 13エホバを畏るるとは惡を憎むことなり 我は傲慢と驕奢 惡 道と虚偽の口とを憎む 14謀 略と聰明は我にあり 我は了知なり 我は能力あり 15我に由て王者は 政 をなし 君たる者は義しき律 をたて 16我によりて主たる者および牧伯たちなど凡て地の審判人は世ををさむ 17われを愛する者は我これを愛す 我を切に求むるものは我に遇ん 18富と榮とは我にあり貴 き寶と公義とも亦然り 19わが果は金よりも精金よりも愈り わが利は精銀よりもよし 20我は義しき道にあゆみ公平なる路徑のなかを行む 21これ我を愛する者に貨財をえさせ 又その庫を充しめん爲なり 22エホバいにしへ其御わざをなしそめたまへる前に その道の始として我をつくりたまひき 23永遠より元始より地の有ざりし前より我は立られ 24いまだ海洋あらず いまだ大なるみづの泉あらざりしとき我すでに生れ 25山いまださだめられず 陵いまだ有ざりし前に我すでに生れたり 26即ち神いまだ地をも野をも地の塵の根元をも造り給はざりし時なり 27かれ天をつくり海の面に穹蒼を張たまひしとき我かしこに在りき 28彼うへに雲氣をかたく定め 淵の泉をつよくならしめ 29 海にその限界をたて 水をしてその岸を踰えざらしめ また地の基を定めたまへるとき 30我はその 傍 にありて創造者となり 日々に欣び恒にその前に樂み 31その地にて樂 み又世の人を喜べり 32されば小子等よ いま我にきけわが道をまもる者は福ひなり 33教をききて智慧をえよ 之を棄ることなかれ 34凡そ我にきき 日々わが門の 傍 にまち わが戸口の柱のわきにたつ人は福ひなり 35そは我を得る者は生命をえ エホバより恩寵を獲ればなり 36我を失ふものは自己の生命を害ふ すべて我を惡むものは死を愛するなり

第九章

1智慧はその家を建て その七の柱を砍成し 2その畜を宰りその酒を混和せ その 筵 をそなへ 3その婢女をつかはして邑の高 處に呼はりいはしむ 4 拙 者よここに來れと また智慧なき者にいふ 5汝等きたりて我が糧を食ひ わがまぜあはせたる酒をのみ 6拙劣をすてて生命をえ 聰明のみちを行め 7嘲笑者をいましむる者は恥を己にえ 惡 人を責むる者は疵を己にえん 8嘲笑者を責むることなかれ 恐くは彼なんぢを惡まん 智慧ある者をせめよ 彼なんぢを愛せん 9智慧ある者に授けよ 彼はますます智慧をえん 義 者 を教へよ 彼は知識に進まん 10エホバを畏ることは智慧の根本なり 聖者を知るは聰明なり 11我により 汝の日は多くせられ 汝のいのちの年は増べし 12汝もし智慧あらば自己のために智慧あるなり 汝もし嘲らば汝ひとり

之を負ん 13愚なる婦は囂しく且つたなくして何事をも知らず 14その家の門に坐し邑のたかき處にある座にすわり 15道をますぐに過る往來の人を招きていふ 16拙 者よここに來れと また智慧なき人にむかひては之にいふ 17竊みたる水は甘く密かに食ふ糧は美味ありと 18彼處にある者は死し者その客は陰府のふかき處にあることを是等の人は知らざるなり

第十章

1ソロモンの箴言 智慧ある子は父を欣ばす 愚なる子は母の憂なり 2不義の財は益なし されど正義は救ひて死を脱かれしむ 3ヱホバは義 者の靈魂を餓ゑしめず 惡 者にその欲するところを得ざらしむ 4手をものうくして動くものは貧くなり 勤めはたらく者の手は富を得 5夏のうちに斂むる者は智き子なり 収穫の時にねむる者は辱をきたす子なり 6義 者の首には福祉きたり 惡 者の口は強 暴を掩ふ 7義 者の名は讃られ 惡 者の名は腐る 8心の智き者は誡命を受く されど口の頑愚なる者は滅さる 9直くあゆむ者はそのあゆむこと安し されどその途を曲ぐる者は知らるべし 10眼をもて眴せする者は憂をおこし 口の頑愚なる者は亡さる 11義 者の口は生命の泉なり 惡 者の口は強 暴を掩ふ 12怨恨は爭端をおこし 愛はすべての愆を掩ふ 13哲 者のくちびるには智慧あり 智慧なき者の背のためには鞭あり 14智慧ある者は知識をたくはふ 愚かなる者の口はいまにも滅亡をきたらす 15富 者の資財はその堅き城なり 貧 者のともしきはそのほろびなり 16義 者が動作は生命にいたり 惡 者の利得は罪にいたる 17教をまもる者は生命の道にあり 懲戒をすつる者はあやまりにおちいる 18怨をかくす者には虚偽のくちびるあり 誹謗をいだす者は愚かなる者なり 19言おほければ罪なきことあたはず その口唇を禁むるものは智慧あり 20義 者の舌は精銀のごとし 惡 者の心は値すくなし 21義 者の口唇はおほくの人をやしなひ 愚なる者は智慧なきに由て死ぬ 22ヱホバの祝福は人を富す 人の勞苦はこれに加ふるところなし 23愚かなる者は惡をなすを戯れごとのごとくす 智慧のさとかる人にとりても是のごとし 24惡 者の怖るるところは自己にきたり 義 者のねがふところはあたへらる 25狂風のすぐるとき惡 者は無に歸せん 義 者は窮なくたもつ基のごとし 26惰る者のこれを遣すものに於るは酢の歯に於るが如く煙の目に於るが如し 27ヱホバを畏ることは人の日を多くす されど惡 者の年はちぢめらる 28義 者の望は喜悦にいたり 惡 者の望は絶べし 29ヱホバの途は直 者の城となり 惡を行ふものの滅亡となる 30義 者は何時までも動かされず 惡 者は地に住むことを得じ 31義 者の口は智慧をいだすなり 虚偽の舌は抜るべし 32義 者のくちびるは喜ばるべきことをわきまへ 惡 者の口はいつはりを語る

第十一章

1いつはりの權衡はヱホバに惡まれ 義しき法馬は彼に欣ばる 2驕傲きたれば辱も亦きたる謙だる者には智慧あり 3直 者の端荘は己を導き悖逆者の邪曲は己を亡す 4寶は震怒の日に益なし されど正義は救ふて死をまぬかれしむ 5完全者はその正義によりてその途を直くせられ 惡 者はその惡によりて跌るべし 6直 者はその正義によりて救はれ 悖逆者は自己の惡によりて執へらる 7惡 人は死るときにその望たえ 不義なる者の望もまた絶べし 8義 者は艱難より救はれ 惡 者はこれに代る 9邪曲なる者は口をもてその鄰を亡す されど義しき者はその知識によりて救はる 10義しきもの幸福を受ればその城邑に歓喜あり 惡きもの亡さるれば歓喜の聲おこる 11城邑は直 者の祝ふに倚て高く擧られ 惡 者の口によりて亡さる 12その鄰を侮る者は智慧なし 聰明人はその口を噤む 13往て人の是非をいふ者は密 事を洩し 心の忠信なる者は事を隠す 14はかりごとなければ民たふれ 議士多ければ平安なり 15他人のために保證をなす者は苦難をうけ 保證を嫌ふ者は平安なり 16柔順なる婦は榮譽をえ 強き男子は資財を得 17慈悲ある者は己の霊魂に益をくはへ 殘忍者はおのれの身を擾はす 18惡 者の獲る報はむなしく 義を播くものの得る報賞は確し 19堅く義をたもつ者は生命にいたり 惡を追もとむる者はおのれの死をまねく 20心の戻れる者はヱホバに憎まれ直く道を歩む者は彼に悦ばる 21手に手をあはするとも惡 人は罪をまぬかれず 義 人の苗裔は救を得 22美しき婦のつつしみなきは金の環の豕の鼻にあるが如し 23義 人のねがふところは凡て福祉にいたり 惡 人ののぞむところは震怒にいたる 24ほどこし散して反りて増ものあり 與ふべきを吝みてかへりて貧しきにいたる者あり 25施與を好むものは肥え 人を潤ほす者はまた利潤をうく 26穀物を蔵めて糶ざる者は民に詛はる 然れど售る者の首には祝福あり 27善をもとむる者は恩恵をえん 惡をもとむる者には

悪き事きたらん 28おのれの富を恃むものは仆れん されど
義 者 は樹の青葉のごとくさかえん 29おのれの家をくる
しむるものは風をえて所有とせん 愚なる者は心の智きも
のの僕とならん 30義 人の果は生命の樹なり 智慧ある者
は人を捕ふ 31みよ義 人すらも世にありて報をうくべし
況て悪 人と罪人とをや

第十二章

1訓誨を愛する者は知識を愛す 懲戒を悪むものは畜のご
とし 2善人はヱホバの恩寵をうけ 悪き謀 略を設くる人は
ヱホバに罰せらる 3人は悪をもて堅く立ことあたはず
義 人 の根は動くことなし 4賢き婦はその夫の冠弁なり
辱をきたらする婦は夫をしてその骨に腐あるが如くなら
しむ 5義 者のおもひは直し 悪 者の計るところは虚偽な
り 6悪 者の言は人の血を流さんとて伺ふ されど直 者の
口は人を救ふなり 7悪 者はたふされて無ものとならん さ
れど義 者の家は立べし 8人はその聰明にしたがひて譽ら
れ心の悖れる者は藐めらる 9卑賤してしもべある者は 自
らたかぶりて食に乏き者に愈る 10義 者はその畜の生命
を顧みる されど悪 者は殘忍をもてその憐憫とす 11おの
れの田地を耕すものは食にあく 放蕩なる人にしたがふ者
は智慧なし 12悪 者はあしき人の獲たる物をうらやみ
義 者 の根は芽をいだす 13悪 者はくちびるの愆によりて
罟に陥る されど義 者は患難の中よりまぬかれいでん 14
人はその口の徳によりて福祉に飽ん 人の手の行爲はその
人の身にかへるべし 15愚なる者はみづからその道を見て
正しとす されど智慧ある者はすすめを容る 16愚なる者は
ただちに怒をあらはし 智きものは恥をつつむ 17眞實をい
ふものは正義を述べ いつはりの證 人は虚偽をいふ 18妄
りに言をいだし劍をもて刺がごとくする者あり されど
智慧ある者の舌は人をいやす 19眞理をいふ口唇は何時ま
でも存つ されど虚偽をいふ舌はただ瞬息のあひだのみな
り 20悪 事をはかる者の心には欺詐あり 和平を謀る者に
は歓喜あり 21義 者には何の禍害も來らず 悪 者はわざは
ひをもて充さる 22いつはりの口唇はヱホバに憎まれ 眞實
をおこなふ者は彼に悦ばる 23 賢 人は知識をかくす され
ど愚なる者のこころは愚なる事を述ぶ 24勤めはたらく者
の手は人ををさむるにいたり 惰 者は人に服ふるにいた
る 25うれひ人の心にあれば之を屈ます されど善 言はこ
れを樂します 26義 者はその友に道を示す されど悪 者は
自ら途にまよふ 27 惰 者はおのれの猟獲たる物をも燔ず
勉めはたらくことは人の貴とき寶なり 28義しき道には
生命ありその道すぢには死なし

第十三章

1智慧ある子は父の教訓をきき 戯謔者は懲治をきかず 2人
はその口の徳によりて福祉をくらひ悖逆者の霊魂は強暴
をくらふ 3その口を守る者はその生命を守る その口唇を
大きくひらく者には滅亡きたる 4惰る者はこころに慕へ
ども得ることなし 勤めはたらく者の心は豊饒なり 5
義 者 は虚偽の言をにくみ 悪 者ははぢをかうむらせ面を
赤くせしむ 6義は道を直くあゆむ者をまもり 悪は罪人を
倒す 7自ら富めりといひあらはして些少の所有もなき者
あり 自ら貧しと稱へて資財おほき者あり 8人の資財はそ
の生命を贖ふものとなるあり 然ど貧 者は威嚇をきくこ
とあらず 9義 者の光は輝き悪 者の燈火はけさる 10驕傲
はただ爭端を生ず 勸告をきく者は智慧あり 11詭計をもて
得たる資財は減る されど手をもて聚めたくはふる者はこ
れを増すことを得 12望を得ること遅きときは心を疾しめ
願ふ所 既にとぐるときは生命の樹を得たるがごとし 13御
言 をかろんずる者は亡され 誡命をおそるる者は報賞を
得 14智慧ある人の教訓はいのちの泉なり 能く人をして死
の罟を脱れしむ 15善にして哲きものは恩を蒙る されど
悖逆者の途は艱難なり 16凡そ 賢 者は知識に由りて事を
おこなひ 愚なる者はおのれの痴を顯す 17悪き使者は災禍
に陥る されど忠信なる使者は良薬の如し 18貧乏と恥 辱
とは教訓をすつる者にきたる されど譴責を守る者は尊ま
る 19望を得れば心に甘し 愚なる者は悪を棄つることを嫌
ふ 20智慧ある者と偕にあゆむものは智慧をえ 愚なる者の
友となる者はあしくなる 21わざはひは罪人を追ひ 義 者
は善 報をうく 22善人はその産業を子孫に遺す されど
罪人の資財は義 者のために蓄へらる 23貧しき者の新田
にはおほくの糧あり されど不義によりて亡る者あり 24鞭
をくはへざる者はその子を憎むなり 子を愛する者はしき
りに之をいましむ 25義しき者は食をえて飽く されど
悪 者の腹は空し

第十四章

1智慧ある婦はその家をたて 愚なる婦はおのれの手をも
て之を毀つ 2直くあゆむ者はヱホバを畏れ 曲りてあゆむ
者はこれを侮る 3愚なる者の口にはその傲のために鞭笞

あり 智者の口唇はおのれを守る 4牛なければ飼葮倉むなし牛の力によりて生産る物おほし 5忠信の證人はいつはらず 虚偽のあかしびとは謊言を吐く 6嘲笑者は智慧を求むれどもえず 哲者は知識を得ること容易し 7汝おろかなる者の前を離れされ つひに知識の彼にあるを見ざるべし 8賢者の智慧はおのれの道を暁るにあり 愚なる者の痴は欺くにあり 9おろかなる者は罪をかろんず されど義者の中には恩恵あり 10心の苦みは心みづから知る其よろこびには他人あづからず 11惡者の家は亡され 正直き者の幕屋はさかゆ 12人のみづから見て正しとする途にしてその終はつひに死にいたる途となるものあり 13笑ふ時にも心に悲あり 歓樂の終に憂あり 14心の悖れる者はおのれの途に飽かん 善人もまた自己に飽かん 15拙者はすべての言を信ず 賢者はその行を愼む 16智慧ある者は怖れて惡をはなれ 愚なる者はたかぶりて怖れず 17怒り易き者は愚なることを行ひ 惡き謀計を設くる者は惡まる 18拙者は愚なる事を得て所有となし 賢者は知識をもて冠弁となす 19惡者は善者の前に俯伏し 罪ある者は義者の門に俯伏す 20貧者はその鄰にさへも惡まる されど富者を愛する者はおほし 21その鄰を藐むる者は罪あり 困苦者を憐むものは幸福あり 22惡を謀る者は自己をあやまるにあらずや 善を謀る者には憐憫と眞實とあり 23すべての勤勞には利益あり されど口唇のことばは貧乏をきたらするのみなり 24智慧ある者の財寳はその冠弁となる 愚なる者のおろかはただ痴なり 25眞實の證人は人のいのちを救ふ 謊言を吐く者は偽人なり 26ヱホバを畏るることは堅き依賴なり その兒輩は逃避場をうべし 27ヱホバを畏ることは生命の泉なり 人を死の罟より脱れしむ 28王の榮は民の多きにあり 牧伯の衰敗は民を失ふにあり 29怒を遲くする者は大なる知識あり 氣の短き者は愚なることを顯す 30心の安穩なるは身のいのちなり 娼嫉は骨の腐なり 31貧者を虐ぐる者はその造主を侮るなり 彼をうやまふ者は貧者をあはれむ 32惡者はその惡のうちにて亡され 義者はその死ぬる時にも望あり 33智慧は哲者の心にとどまり 愚なる者の衷にある事はあらはる 34義は國を高くし罪は民を辱しむ 35さとき僕は王の恩を蒙ぶり 辱をきたらす者はその震怒にあふ

第十五章

1柔和なる答は憤恨をとどめ厲しき言は怒を激す 2智慧ある者の舌は知識を善きものとおもはしめ 愚なる者の口はおろかをはく 3ヱホバの目は何處にもありて惡人と善人とを鑒みる 4温柔き舌は生命の樹なり 悖れる舌は霊魂を傷ましむ 5愚なる者はその父の訓をかろんず 誡命をまもる者は賢者なり 6義者の家には多くの資財あり 惡者の利潤には擾累あり 7智者のくちびるは知識をひろむ 愚なる者の心は定りなし 8惡者の祭物はヱホバに憎まれ 直き人の祈は彼に悦ばる 9惡者の道はヱホバに憎まれ 正義をもとむる者は彼に愛せらる 10道をはなるる者には嚴しき懲治あり 譴責を惡む者は死ぬべし 11陰府と沉淪とはヱホバの目の前にあり 況て人の心をや 12嘲笑者は誡められるることを好まず また智慧ある者に近づかず 13心に喜樂あれば顔色よろこばし 心に憂苦あれば氣ふさぐ 14哲者のこころは知識をたづね 愚なる者の口は愚をくらふ 15艱難者の日はことごとく惡く 心の懽べる者は恒に酒宴にあり 16すこしの物を有てヱホバを畏るるは多の寳をもちて擾煩あるに愈る 17蔬菜をくらひて互に愛するは肥たる牛を食ひて互に恨むるに愈る 18憤ほり易きものは爭端をおこし怒をおそくする者は爭端をとどむ 19惰者の道は棘の籬に似たり 直者の途は平坦なり 20智慧ある子は父をよろこばせ 愚なる人はその母をかろんず 21無知なる者は愚なる事をよろこび 哲者はその途を直くす 22相議ることあらざれば謀計やぶる 議者おほければ謀計かならず成る 23人はその口の答によりて喜樂をう 言語を出して時に適ふはいかに善らずや 24智人の途は生命の路にして上へ昇りゆく これ下にあるところの陰府を離れんが爲なり 25ヱホバはたかぶる者の家をほろぼし 寡婦の地界をさだめたまふ 26あしき謀計はヱホバに憎まれ 温柔き言は潔白し 27不義の利をむさぼる者はその家をわづらはせ 賄賂をにくむ者は活ながらふべし 28義者の心は答ふべきことを考へ 惡者の口は惡を吐く 29ヱホバは惡者に遠ざかり義者の祈祷をききたまふ 30目の光は心をよろこばせ 好音信は骨をうるほす 31生命の誡命をきくところの耳は智慧ある者の中間に駐まる 32教をすつる者は自己の生命をかろんずるなり 懲治をきく者は聰明を得 33ヱホバを畏ることは智慧の訓なり 謙遜は尊貴に先だつ

第十六章

1心に謀るところは人にあり 舌の答はヱホバより出づ 2
人の途はおのれの目にことごとく潔しと見ゆ 惟ヱホバ
霊魂をはかりたまふ 3なんぢの作爲をヱホバに託せよ さ
らば汝の謀るところ必ず成るべし 4ヱホバはすべての物
をおのおのその用のために造り 悪人をも悪き日のため
に造りたまへり 5すべて心たかぶる者はヱホバに惡まれ
手に手をあはするとも罪をまぬかれじ 6憐憫と眞實とに
よりて愆は贖はる ヱホバを畏るることによりて人惡を離
る 7ヱホバもし人の途を喜ばば その人の敵をも之と和が
しむべし 8義によりて得たるところの僅少なる物は不義
によりて得たる多の資財にまさる 9人は心におのれの途
を考へはかる されどその歩履を導くものはヱホバなり 10
王のくちびるには神のさばきあり 審判するときその口あ
やまる可らず 11公平の權衡と天秤とはヱホバのものなり
嚢にある法馬もことごとく彼の造りしものなり 12惡をお
こなふことは王の憎むところなり 是その位は公義により
て堅く立ばなり 13義しき口唇は王によろこばる 彼等は
正直をいふものを愛す 14王の怒は死の使者のごとし 智慧
ある人はこれをなだむ 15王の面の光には生命あり その
恩寵は春雨の雲のごとし 16智慧を得るは金をうるよりも
更に善らずや 聰明をうるは銀を得るよりも望まし 17惡を
離るるは直き人の路なり おのれの道を守るは霊魂を守る
なり 18驕傲は滅亡にさきだち誇る心は傾跌にさきだつ 19
卑き者に交りて謙だるは驕ぶる者と偕にありて贓物をわ
かつに愈る 20愼みて御 言をおこなふ者は益をうべし ヱ
ホバに倚頼むものは 福 なり 21心に智慧あれば哲 者と稱
へらる くちびる甘ければ人の知識をます 22明哲はこれを
持つものに生命の泉となる 愚なる者をいましむる者はお
のれの痴 是なり 23智慧ある者の心はおのれの口ををしへ
又おのれの口唇に知識をます 24こころよき言は蜂蜜のご
とくにして 霊魂に甘く骨に良薬となる 25人の自から見て
正しとする途にして その終はつひに死にいたる途となる
ものあり 26勞をるものは飲食のために骨をる 是その口お
のれに迫ればなり 27邪曲なる人は惡を掘る その口唇には
烈しき火のごときものあり 28いつはる者はあらそひを起
し つけぐちする者は朋友を離れしむ 29強暴人はその 鄰
をいざなひ 之を善らざる途にみちびく 30その目を閉て惡
を謀り その口唇を蹙めて惡 事を成遂ぐ 31白髪は榮の
冠弁なり 義しき途にてこれを見ん 32怒を遅くする者は
勇士に愈り おのれの心を治むる者は城を攻取る者に愈る
33人は籤をひく されど事をさだむるは全くヱホバにあり

第十七章

1睦じうして一 塊の乾けるパンあるは あらそひありて宰
れる畜の盈たる家に愈る 2かしこき僕は恥をきたらする
子ををさめ 且その子の兄弟の中にありて産業を分ち取
る 3銀を試むる者は坩堝 金を試むる者は鑪 人の心を試む
る者はヱホバなり 4惡を行ふものは虚偽のくちびるにき
き 虚偽をいふ者はあしき舌に耳を傾ぶく 5貧 人を嘲る
ものはその造 主をあなどるなり 人の災禍を喜ぶものは
罪をまぬかれず 6孫は老人の冠弁なり 父は子の榮なり 7
勝れたる事をいふは愚なる人に適はず 況て虚偽をいふ
口唇は君たる者に適はんや 8贈 物はこれを受る者の目に
は貴き珠のごとし その向ふところにて凡て幸福を買ふ 9
愛を追求むる者は人の過失をおほふ 人の事を言ひふるる
者は朋友をあひ離れしむ 10一句の誡命の智 人に徹るは
百回扑つことの愚なる人に徹るよりも深し 11叛きもとる
者はただ惡きことのみをもとむ 比故に彼にむかひて殘忍
なる使者遣はさる 12愚なる者の愚妄をなすにあはんより
は寧ろ子をとられたる牝熊にあへ 13惡をもて善に報ゆる
者は惡その家を離れじ 14爭端の起源は堤より水をもらす
に似たり この故にあらそひの起らざる先にこれを止むべ
し 15惡者を義とし義 者を惡しとするこの二の者はヱホ
バに憎まる 16愚なる者はすでに心なし何ぞ智慧をかはん
とて手にその價の金をもつや 17朋友はいづれの時にも愛
す 兄弟は危難の時のために生る 18智慧なき人は手を拍
てその友の前にて保證をなす 19爭端をこのむ者は罪を好
み その門を高くする者は敗壞を求む 20邪曲なる心ある者
はさいはひを得ず その舌をみだりにする者はわざはひに
陥る 21愚なる者を産むものは自己の憂を生じ 愚なる者
の父は喜樂を得ず 22心のたのしみは良薬なり 霊魂のう
れひは骨を枯す 23惡者は人の 懐 より賄賂をうけて審判
の道をまぐ 24智慧は哲 者の面のまへにあり されど愚な
る者は目を地の極にそそぐ 25愚なる子は其父の憂となり
亦これを生る母の煩勞となる 26義 者を罰するは善らず
貴き者をその義きがために扑は善らず 27言を寡くする者
は知識あり 心の靜なる者は哲 人なり 28愚なる者も默す
るときは智慧ある者と思はれ その口唇を閉るときは
哲 者とおもはるべし

第十八章

1自己を人と異にする者はおのれの欲するところのみを求めてすべての善き考察にもとる 2愚なる者は明哲を 喜ばず 惟おのれの心意を顯すことを喜ぶ 3惡 者きたれば 藐視したがひてきたり 恥きたれば凌 辱もともに來る 4人の口の言は深 水の如し 湧てながるる川 智慧の泉なり 5惡 者を偏 視るは善らず 審判をなして義 者を惡しとするも亦善らず 6愚なる者の口唇はあらそひを起し その口は打るることを招く 7愚なる者の口はおのれの敗壞となりその口唇はおのれの靈魂の罟となる 8人の是非をいふものの言はたはぶれのごとしといへども反つて腹の奥にいる 9その行爲をおこたる者は滅すものの兄 弟なり 10ヱホバの名はかたき櫓のごとし 義 者は之に走りいりて救を得 11富 者の資財はその堅き城なり これを高き石垣の如くに思ふ 12人の心のたかぶりは滅亡に先だち 謙 遜はたふとまるる事にさきだつ 13いまだ事をきかざるさきに應ふる者は愚にして辱をかうぶる 14人の心は尚其 疾を忍ぶべし されど心の傷める時は誰かこれに耐んや 15哲 者の心 は知識をえ 智慧ある者の耳は知識を求む 16人の贈 物はその人のために道をひらき かつ貴きものの前にこれを導 く 17先に訴訟の理由をのぶるものは正義に似たれどもその鄰 人きたり詰 問ひてその事を明かにす 18籤は爭端をとどめ且つよきものの間にへだてとなる 19怒れる兄 弟はかたき城にもまさりて説き伏せがたし 兄 弟のあらそひは櫓の貫 木のごとし 20人は口の徳によりて腹をあかしその口唇の徳によりて自ら飽べし 21死生は舌の權能にあり これを愛する者はその果を食はん 22妻を得るものは美物を得るなり 且ヱホバより恩寵をあたへらる 23貧 者は哀 なる言をもて乞ひ 富 人は厲しき答をなす 24多の友をまうくる人は遂にその身を亡す 但し兄 弟よりもたのもしき知己もまたあり

第十九章

1ただしく歩むまづしき者は くちびるの悖れる愚なる者に愈る 2心に思慮なければ善らず 足にて急ぐものは道にまよふ 3人はおのれの痴によりて道につまづき 反て心にヱホバを怨む 4資財はおほくの友をあつむ されど貧 者はその友に疎まる 5虚偽の證 人は罰をまぬかれず 謊言をはくものは避ることをえず 6君に媚る者はおほし 凡そ人は贈 物を與ふる者の友となるなり 7貧 者はその兄 弟すらも皆これをにくむ 況てその友これに遠ざからざらんや 言をはなちてこれを呼とも去てかへらざるなり 8智慧を得る者はおのれの霊魂を愛す 聰明をたもつ者は善福を得ん 9虚偽の證 人は罰をまぬかれず 謊言をはく者はほろぶべし 10愚なる者の驕奢に居るは適当からず 況て僕にして上に在る者を治むることをや 11聰明は人に怒をしのばしむ 過失を宥すは人の榮譽なり 12王の怒は獅の吼るが如く その恩典は草の上におく露のごとし 13愚なる子はその父の災禍なり 妻の相爭そふは雨漏のたえぬにひとし 14家と資財とは先祖より承嗣ぐもの 賢き妻はヱホバより賜ふものなり 15懶惰は人を酣寐せしむ 懈怠人は饑べし 16誡命を守るものは自己の霊魂を守るなり その道をかろむるものは死ぬべし 17貧 者をあはれむ者はヱホバに貸すなり その施濟はヱホバ償ひたまはん 18望ある間に汝の子を打て これを殺すこころを起すなかれ 19怒ることの烈しき者は罰をうく 汝もしこれを救ふともしばしば然せざるを得じ 20なんぢ勸をきき訓をうけよ 然ばなんぢの終に智慧あらん 21人の心には多くの計畫あり されど惟ヱホバの旨のみ立べし 22人のよろこびは施濟をするにあり 貧 者は謊 人 に愈る 23ヱホバを畏るることは人をして生命にいたらしめ かつ恒に飽足りて災禍に遇ざらしむ 24惰 者はその手を盤にいるるも之をその口に擧ることをだにせず 25嘲笑者を打て さらば 拙 者も愼まん 哲 者を譴めよ さらばかれ知識を得ん 26父を煩はし母を逐ふは羞赧をきたらし凌 辱をまねく子なり 27わが子よ哲 言を離れしむる 教 を聽くことを息めよ 28惡き證 人は審判を嘲り 惡 者の口は惡を呑む 29審判は嘲笑者のために備へられ 鞭は愚なる者の背のために備へらる

第二十章

1酒は人をして嘲らせ 濃酒は人をして騒がしむ 之に迷はさるる者は無智なり 2王の震怒は獅の吼るがごとし 彼を怒らする者は自己のいのちを害ふ 3 穏 かに居りて爭はざるは人の榮譽なりすべて愚なる者は怒り爭ふ 4 惰 者は寒ければとて耕さず この故に収穫のときにおよびて求るとも得るところなし 5人の心にある謀 計は深き井の水のごとし 然れど哲 人はこれを汲出す 6凡そ人は各自おのれの善を誇る されど誰か忠信なる者に遇しぞ 7身を正しくして歩履む義 人はその後の子孫に福祉あるべし 8審判の位 に坐する王はその目をもてすべての惡を散す 9たれか

我わが心をきよめ わが罪を潔められたりといひ得るや 10二種の權衡二種の斗量は等しくヱホバに憎まる 11幼子といへどもその動作によりておのれの根性の清きか或は正しきかをあらはす 12聽くところの耳と視るところの眼とはともにヱホバの造り給へるものなり 13なんぢ睡眠を愛すること勿れ 恐くは貧窮にいたらん 汝の眼をひらけ 然らば糧に飽べし 14買者はいふ惡し惡しと 然れど去りて後はみづから誇る 15金もあり眞珠も多くあれど貴き器は知識のくちびるなり 16人の保證をなす者よりは先その 衣をとれ 他人の保證をなす者をばかたくとらへよ 17欺きとりし糧は人に甜し されど後にはその口に沙を充されん 18謀計は相議るによりて成る 戰はんとせば先よく議るべし 19あるきめぐりて人の是非をいふ者は密事をもらす 口唇をひらきてあるくものと交ること勿れ 20おのれの父母を罵るものはその燈火くらやみの中に消ゆべし 21初に俄に得たる產業はその終さいはひならず 22われ惡に報いんと言ふこと勿れ ヱホバを待て 彼なんぢを救はん 23二種の法馬はヱホバに憎まる 虛偽の權衡は善らず 24人の歩履はヱホバによる 人いかで自らその道を明かにせんや 25漫に誓願をたつることは其人の罟となる 誓願をたてて のちに考ふることも亦然り 26賢き王は箕をもて簸るごとく惡人を散し 車輪をもて碾すごとく之を罰す 27人の靈魂はヱホバの燈火にして人の心の奥を窺ふ 28王は仁慈と眞實をもて自らたもつ その位もまた恩惠のおこなひによりて堅くなる 29少者の榮はその力 おいたる者の美しきは白髮なり 30傷つくまでに打たば惡きところきよまり 打てる鞭は腹の底までもとほる

第二十一章

1王の心はヱホバの手の中にありて恰かも水の流れのごとし 彼その聖旨のままに之を導きたまふ 2人の道はおのれの目に正しとみゆ されどヱホバは人の心をはかりたまふ 3正義と公平を行ふは犧牲よりも愈りてヱホバに悅ばる 4高ぶる目と驕る心とは惡人の光にしてただ罪のみ 5勤めはたらく者の圖るところは遂にその身を豊裕ならしめ 凡てさわがしく急ぐ者は貧乏をいたす 6虛偽の舌をもて財を得るは吹はらはるる雲烟のごとし 之を求むる者は死を求むるなり 7惡者の殘虐は自己を亡す これ義しきを行ふことを好まざればなり 8罪人の道は曲り 潔者の行爲は直し 9相爭ふ婦と偕に室に居らんよりは屋蓋の隅にをるはよし 10惡者の靈魂は惡をねがふ その鄰も彼にあはれみ見られず 11あざけるもの罰をうくれば 拙者は智慧を得 ちゑあるもの教をうくれば知識を得 12義しき神は惡者の家をみとめて惡者を滅亡に投いれたまふ 13耳を掩ひて貧者の呼ぶ聲をきかざる者は おのれ自ら呼ぶときもまた聽れざるべし 14潛なる饋物は忿恨をなだめ 懷中の賄賂は烈しき瞋恚をやはらぐ 15公義を行ふことは義者の喜樂にして 惡を行ふものの敗壞なり 16さとりの道を離るる人は死し者の集會の中にをらん 17宴樂を好むものは貧人となり 酒と膏とを好むものは富をいたさじ 18惡者は義者のあがなひとなり 悖れる者は直き者に代る 19爭ひ怒る婦と偕にをらんよりは荒野に居るはよし 20智慧ある者の家には貴き寶と膏とあり 愚なる人は之を呑つくす 21正義と憐憫と追求むる者は生命と正義と尊貴とを得べし 22智慧ある者は強者の城にのぼりて その堅く頼むところを倒す 23口と舌とを守る者はその靈魂を守りて患難に遇せじ 24高ぶり驕る者を嘲笑者となづく これ驕奢を逞しくして行ふものなり 25惰者の情慾はおのれの身を殺す 是はその手を肯て働かせざればなり 26人は終日しきりに慾を圖る されど義者は與へて吝まず 27惡者の獻物は憎まる 況て惡き事のために獻ぐる者をや 28虛偽の證人は滅さる 然れど聽く人は恒にいふべし 29惡人はその面を厚くし 義者はその道を謹む 30ヱホバにむかひては智慧も明哲も謀略もなすところなし 31戰闘の日のために馬を備ふ されど勝利はヱホバによる

第二十二章

1嘉名は大なる富にまさり恩寵は銀また金よりも佳し 2富者と貧者と偕に世にをる 凡て之を造りし者はヱホバなり 3賢者は災禍を見てみづから避け 拙者はすすみて罰をうく 4謙遜とヱホバを畏るる事との報は富と尊貴と生命となり 5悖れる者の途には荊棘と罟とあり 靈魂を守る者は遠くこれを離れん 6子をその道に從ひて教へよ 然ばその老たる時も之を離れじ 7富者は貧者を治め借者は貸人の僕となる 8惡を播くものは禍害を穡り その怒の杖は廢るべし 9人を見て惠む者はまた惠まる 此はその糧を貧者に與ふればなり 10嘲笑者を逐へば爭論も亦さり 且鬪諍も恥辱もやむ 11心の潔きを愛する者はその口唇に憐憫をもてり 王その友とならん 12ヱホバの目は知識ある者を守る 彼は悖れる者の言を敗りたまふ 13惰者はいふ

獅そとにあり われ衢にて殺されんと 14妓婦の口は深き坑なり ヱホバに憎まるる者これに陥らん 15痴なること子の心の中に繋がる 懲治の鞭これを逐いだす 16貧 者を虐げて自らを富さんとする者と富 者に與ふる者とは遂にかならず貧しくなる 17汝の耳を傾ぶけて智慧ある者の言をきき且なんぢの心をわが知識に用ゐよ 18之を汝の腹にたもちて 盡くなんぢの口唇にそなはらしめば樂しかるべし 19汝をしてヱホバに倚頼ましめんが爲にわれ今日これを汝 に教ふ 20われ勸言と知識とをふくみたる勝れし言を汝 の爲に録ししにあらずや 21これ汝をして眞の言の確實なることを暁らしめ 且なんぢを遣しし者に眞の言を持歸らしめん爲なり 22弱き者を弱きがために掠むることなかれ 艱難者を門にて壓つくること勿れ 23そはヱホバその訴 を糺し且かれらを害ふものの生命をそこなはん 24怒る者と交ること勿れ 憤ほる人とともに往ことなかれ 25恐くは汝その道に效ひてみづから罟に陥らん 26なんぢ人と手をうつ者となることなかれ 人の負債の保證をなすこと勿れ 27汝もし償ふべきものあらずば人なんぢの下なる臥牀までも奪ひ取ん 是豈よからんや 28なんぢの先祖がたてし古き地界を移すこと勿れ 29汝その業に巧なる人を見るか 斯る人は王の前に立ん かならず賤者の前にたたじ

第二十三章

1なんぢ侯たる者とともに坐して食ふときは 愼みて汝の前にある者の誰なるかを思へ 2汝もし食を嗜む者ならば 汝 の喉に刀をあてよ 3その珍饈を貪り食ふこと勿れ これ迷惑の食物なればなり 4富を得んと思 煩らふこと勿れ 自己の明哲を恃むこと勿れ 5なんぢ虚しきに歸すべき者に目をとむるか 富はかならず自ら翅を生じて鷲のごとく天に飛さらん 6惡 目をする者の糧をくらふことなく その珍饈をむさぼりねがふことなかれ 7そはその心に思ふごとくその人となりも亦しかればなり 彼なんぢに食へ飲めといふこといへどもその心は汝に眞實ならず 8汝つひにその食へる物を吐出すにいたり 且その出しし懇懃の言もむなしくならん 9愚なる者の耳に語ること勿れ 彼なんぢが言の示す明哲を藐めん 10古き地界を移すことなかれ 孤子の畑を侵すことなかれ 11そはかれが贖 者は強し 必ず汝に對らひて之が訴をのべん 12汝の心を教に用ゐ 汝の耳を知識の言に傾けよ 13子を懲すことを爲ざるなかれ 鞭をもて彼を打とも死ることあらじ 14もし鞭をもて彼をうたばその霊魂を陰府より救ふことをえん 15わが子よもし汝 のこころ智からば我が心もまた歓び 16もし汝の口唇ただしき事をいはば我が腎腸も喜ぶべし 17なんぢ心に罪人をうらやむ勿れ ただ終日ヱホバを畏れよ 18そは必ず應報ありて汝の望は廢らざればなり 19わが子よ 汝ききて智慧をえ かつ汝の心を道にかたぶけよ 20酒にふけり肉をたしむものと交ること勿れ 21それ酒にふける者と肉を嗜む者とは貧しくなり 睡眠を貪る者は敝れたる衣をきるにいたらん 22汝を生る父にきけ 汝の老たる母を軽んずる勿れ 23眞理を買へ これを售るなかれ 智慧と誡命と知識とまた然あれ 24義き者の父は大によろこび 智慧ある子を生る者はこれがために樂しまん 25汝の父母を樂しませ 汝を生る者を喜ばせよ 26わが子よ汝の心を我にあたへ 汝の目にわが途を樂しめ 27それ妓婦は深き坑のごとく 淫婦は狭き井のごとし 28彼は盗賊のごとく人を窺ひ かつ世の人の中に悖れる者を増なり 29禍害ある者は誰ぞ 憂愁ある者は誰ぞ 爭端をなす者は誰ぞ 煩慮ある者は誰ぞ 故なくして傷をうくる者は誰ぞ 赤 目ある者は誰ぞ 30是すなはち酒に夜をふかすもの 往て混和せたる酒を味ふる者なり 31酒はあかく 盃 の中に泡だち滑かにくだる 汝これを見るなかれ 32是は終に蛇のごとく噬み蝮の如く刺すべし 33また汝の目は怪しきものを見 なんぢの心は謊言をいはん 34汝は海のなかに偃すもののごとく帆桅の上に偃すもののごとし 35汝いはん人われを撃ども我いたまず 我を拷けども我おぼえず 我さめなばまた酒を求めんと

第二十四章

1なんぢ惡き人を羨むことなかれ 又これと偕に居らんことを願ふなかれ 2そはその心に暴虐をはかり その口唇に人を害ふことをいへばなり 3家は智慧によりて建られ 明哲によりて堅くせられ 4また室は知識によりて各種の貴く美しき寶にて充されん 5智慧ある者は強し 知識ある人は力をます 6汝よき謀計をもて戰鬪をなせ 勝利は議 者の多きによる 7智慧は高くして愚なる者の及ぶところにあらず 愚なる者は門にて口を啓くことをえず 8惡をなさんと謀る者を邪曲なる者と稱ふ 9愚なる者の謀るところは罪なり 嘲笑者は人に憎まる 10汝もし患難の日に氣を挫かば汝の力は弱し 11なんぢ死地に曳れゆく者を拯へ 滅亡によろめきゆく者をすくはざる勿れ 12汝われら之を知らずといふとも心をはかる者これを暁らざらんや 汝の

霊魂をまもる者これを知ざらんや 彼はおのおのの行爲によりて人に報ゆべし 13わが子よ蜜を食へ 是は美ものなり また蜂のすの滴瀝を食へ 是はなんぢの口に甘し 14智慧の汝 の霊魂におけるも是の如しと知れ これを得ばかならず報いありて汝の望すたれじ 15惡 者よ義 者の家を窺ふことなかれ その安居 所を攻ること勿れ 16そは義 者は七次たふるるともまた起く されど惡 者は禍災によりて亡ぶ 17汝の仇たふるるとき樂しむこと勿れ 彼の亡ぶるときこころに喜ぶことなかれ 18恐くはヱホバこれを見て惡しとし その震怒を彼より離れしめたまはん 19なんぢ惡 者を怒ることなかれ 邪曲なる者を羨むなかれ 20それ惡 者には後の善 賚なし 邪曲なる者の燈火は滅されん 21わが子よヱホバと王とを畏れよ 叛逆者に交ること勿れ 22斯るものらの災禍は 速 におこる この兩 者の滅亡はたれか知えんや 23是等もまた智慧ある者の箴言なり 偏り鞫するは善らず 24罪人に告て汝は義しといふものをは衆人これを詛ひ諸民これを惡まん 25これを譴る者は恩をえん また福祉これにきたるべし 26ほどよき應答をなす者は口唇に接吻するなり 27外にて汝の工をととのへ田圃にてこれを自己のためにそなへ 然るのち汝の家を建よ 28故なく汝 の鄰に敵して證することなかれ 汝なんぞ口唇をもて欺 くべけんや 29彼の我に爲しし如く我も亦かれになすべし われ人の爲ししところに循ひてこれに報いんといふことなかれ 30われ曾て 惰 人の田圃と智慧なき人の葡萄園とをすぎて見しに 31荊棘あまねく生え薊その地面を掩ひ その石垣くづれゐたり 32我これをみて心をとどめ これを觀て教をえたり 33しばらく臥し 暫らく睡り 手を叉きて又しばらく休む 34さらば汝の貧窮は盜人のごとく汝の缺乏は兵士の如くきたるべし

第二十五章

1此等もまたソロモンの箴言なり ユダの王ヒゼキヤに屬せる人々これを輯めたり 2事を隱すは神の榮譽なり 事を窮むるは王の榮譽なり 3天の高さと地の深さと 王たる者の心とは測るべからず 4銀より渣滓を除け さらば銀工の用ふべき器いでん 5王の前より惡 者をのぞけ 然ばその位 義によりて堅く立ん 6王の前に自ら高ぶることなかれ 貴 人の場に立つことなかれ 7なんぢが目に見る王の前にて下にさげらるるよりは ここに上れといはるること愈れり 8汝かろがろしく出でて爭ふことなかれ 恐くは終にいたりて汝の鄰に辱しめられん その時なんぢ如何になさんとするか 9なんぢ鄰と爭ふことあらば只これと爭へ 人の密事を洩すなかれ 10恐くは聞者なんぢを卑しめん 汝そしられて止ざらん 11機にかなひて語る言は銀の彫刻物に金の林檎を嵌たるが如し 12智慧をもて譴むる者の之をきく者の耳におけることは 金の耳環と精金の飾のごとし 13忠信なる使者は之を遣す者におけること穡收の日に冷かなる雪あるがごとし 能その主の心を喜ばしむ 14おくりものすと偽りて誇る人は雨なき雲風の如し 15怒を緩くすれば君も言を容る 柔かなる舌は骨を折く 16なんぢ蜜を得るか 惟これを足る程に食へ 恐くは食ひ過して之を吐出さん 17なんぢの足を鄰の家にしげくするなかれ 恐くは彼なんぢを厭ひ惡まん 18その鄰に敵して虛僞の證をたつる人は斧 刃または利き箭のごとし 19艱難に遇ふとき忠實ならぬ者を賴むは惡しき歯または跛たる足を恃むがごとし 20心 の傷める人の前に歌をうたふは寒き日に衣をぬぐが如く 曹達のうへに酢を注ぐが如し 21なんぢの仇もし饑ゑなば之に糧をくらはせ もし渇かば之に水を飲ませよ 22なんぢ斯するは火をこれが首に積むなり ヱホバなんぢに報いたまふべし 23北風は雨をおこし かげごとをいふ舌は人の顔をいからす 24爭ふ婦と偕に室に居らんより屋蓋の隅にをるは宜し 25遠き國よりきたる好き消息は渇きたる人における冷かなる水のごとし 26義 者の惡 者の前に服するは井の濁れるがごとく泉の汚れたるがごとし 27蜜をおほく食ふは善らず 人おのれの榮譽をもとむるは榮譽にあらず 28おのれの心を制へざる人は石垣なき壞れたる城のごとし

第二十六章

1榮譽の愚なる者に適はざるは夏の時に雪ふり 穡收の時に雨ふるがごとし 2故なき詛は雀の翔り燕の飛ぶが如くにきたるものにあらず 3馬の爲には策あり 驢馬の爲には銜 あり 愚なる者の背のために杖あり 4愚なる者の痴にしたがひて答ふること勿れ 恐くはおのれも是と同じからん 5愚なる者の痴にしたがひて之に答へよ 恐くは彼おのれの目に自らを智 者と見ん 6愚なる者に托して事を言おくる者はおのれの足をきり身に害をうく 7跛者の足は用なし 愚なる者の口の 箴 もかくのごとし 8榮譽を愚なる者に與ふるは石を投石索に繋ぐが如し 9愚なる者の口にたもつ箴言は酔へるものの刺ある杖を手にて擧ぐるがごと

し 10愚なる者を傭ひ流浪者を傭ふ者は すべての人を傷くる射手の如し 11狗のかへり來りてその吐たる物を食ふがごとく 愚なる者は重ねてその痴なる事をおこなふ 12汝おのれの目に自らを智慧ある者とする人を見るか 彼よりも却て愚なる人に望あり 13 惰 者は途に獅あり 衢に獅ありといふ 14戸の蝶鉸によりて轉るごとく 惰 者はその牀に輾轉す 15 惰 者はその手を盤にいるるも之をその口に擧ることを厭ふ 16 惰 者はおのれの目に自らを善く答ふる七人の者よりも智慧ありとなす 17路をよぎり自己に關りなき爭擾にたづさはる者は狗の耳をとらふる者のごとし 18既にその鄰を欺くことをなして我はただ戯れしのみといふ者は 火箭または鎗または死を擲つ狂人のごとし 19既にその鄰を欺くことをなして我はただ戯れしのみといふ者は 火箭または鎗または死を擲つ狂人のごとし 20 薪なければ火はきえ 人の是非をいふ者なければ爭端はやむ 21熾火に炭をつぎ火に薪をくぶるがごとく 爭論を好む人は爭論を起す 22人の是非をいふものの言はたはぶれのごとしと雖もかへつて腹の奥に入る 23温かき口唇をもちて惡き心あるは銀の滓をきせたる瓦片のごとし 24恨むる者は口唇をもて自ら飾れども 心の衷には虚偽をいだく 25彼その聲を和らかにするとも之を信ずるなかれ その心に七の憎むべき者あればなり 26たとひ虚偽をもてその恨をかくすとも その惡は會集の中に顯はる 27坑を掘るものは自ら之に陷らん 石を轉ばしあぐる者の上にはその石まろびかへらん 28虚偽の舌はおのれの害す者を憎み 諂ふ口は滅亡をきたらす

第二十七章

1なんぢ明日のことを誇るなかれ そは一日の生ずるところの如何なるを知ざればなり 2汝おのれの口をもて自ら讃むることなく人をして己を讃めしめよ 自己の口唇をもてせず 他人をして己をほめしめよ 3石は重く沙は軽からず 然ど愚なる者の怒はこの二よりも重し 4忿怒は猛く憤恨は烈し されど嫉妬の前には誰か立ことをを得ん 5明白に譴むるに秘に愛するに愈る 6愛する者の傷つくるは眞實よりし 敵の接吻するは偽詐よりするなり 7飽るものは蜂の蜜をも踐つく されど饑たる者には苦き物さへもすべて甘し 8その家を離れてさまよふ人は その巣を離れてさまよふ鳥のごとし 9膏と香とは人の心をよろこばすなり 心よりして勸言を與ふる友の美しきもまた斯のごとし 10なんぢの友と汝の父の友とを棄るなかれ なんぢ患難にあふ日に兄弟の家にいることなかれ 親しき隣は疏き兄弟に愈れり 11わが子よ智慧を得てわが心を悦ばせよ 然ば我をそしる者に我こたふることを得ん 12 賢 者は禍害を見てみづから避け 拙 者はすすみて罰をうく 13人の保證をなす者よりは先その衣をとれ 他人の保證をなす者をば固くとらへよ 14晨はやく起て大聲にその鄰を祝すれば却て呪詛と見なされん 15相 爭ふ婦は雨ふる日に絶ずある雨漏のごとし 16これを制ふるものは風をおさふるがごとく 右の手に膏をつかむがごとし 17鐵は鐵をとぐ 斯のごとくその友の面を研なり 18無花果の樹をまもる者はその果をくらふ 主を貴ぶものは譽を得 19水に照せば面と面と相肖るがごとく 人の心は人の心に似たり 20陰府と沈淪とは飽ことなく 人の目もまた飽ことなし 21坩堝によりて銀をためし鑪によりて金をためし その讃らるる所によりて人をためす 22なんぢ愚なる者を臼にいれ杵をもて麥と偕にこれを搗ともその愚は去らざるなり 23なんぢの羊 の情況をよく知り なんぢの群に心を留めよ 24富は永く保つものにあらず いかで位は世々にたもたん 25艸枯れ苗いで山の蔬菜あつめらる 26羔羊はなんぢの衣服を出し 牝 羊は田圃を買ふ價となり 27牝 羊の乳はおほくして 汝となんぢの家 人の糧となり汝の女をやしなふにたる

第二十八章

1惡 者は逐ふ者なけれども逃げ 義 者は獅子のごとくに勇まし 2國の罪によりて侯伯多くなり 智くして知識ある人によりて國は長く保つ 3弱 者を虐ぐる 貧 人は糧をのこさざる暴しき雨のごとし 4律法を棄るものは惡 者をほめ律法を守る者はこれに敵す 5惡 人は義きことを覺らず ヱホバを求むる者は凡の事をさとる 6義しくあゆむ貧 者は曲れる路をあゆむ富 者に愈る 7律法を守る者は智 子なり 放蕩なる者に交るものは父を辱かしむ 8利息と高利とをもてその財產を增すものは 貧 人をめぐむ者のために之をたくはふるなり 9耳をそむけて律法を聞ざる者はその祈 すらも憎まる 10義 者を惡き道に惑す者はみづから自己の阱に陷らん されど質直なる者は福祉をつぐべし 11富 者はおのれの目に自らを智慧ある者となす されど聰明ある貧 者は彼をはかり知る 12義 者の喜ぶときは大なる榮あり 惡 者の起るときは民身を匿す 13その罪を隱すものは榮ゆることなし 然ど認らはして之を離るる者は

憐憫をうけん 14恒に畏るる人は幸福なり その心を剛愎にする者は災禍に陥るべし 15貧しき民を治むるあしき侯伯は吼る獅子あるひは饑たる熊のごとし 16智からざる君はおほく暴虐をおこなふ 不義の利を悪む者は遐 齢をうべし 17人を殺してその血を心に負ふ者は墓に奔るなり 人これを阻むること勿れ 18義く行む者は救をえ 曲れる路に行む者は直に跌れん 19おのれの田地を耕す者は糧にあき放蕩なる者に従ふものは貧乏に飽く 20忠信なる人は多くの幸福をえ 速かに富を得んとする者は罪を免れず 21人を偏視るはよからず 人はただ一片のパンのために愆を犯すなり 22悪目をもつ者は財をえんとて急がはしく 却て貧窮のおのれに來るを知らず 23人を譴むる者は舌をもて諂ふ者よりも大なる感謝をうく 24父母の物を竊みて罪ならずといふ者は滅す者の友なり 25心に貧る者は争端を起し ヱホバに倚頼むものは豊饒になるべし 26おのれの心を恃む者は愚なり 智慧をもて行む者は救をえん 27貧 者に賙すものは乏しからず その目を掩ふ者は詛を受ること多し 28悪 者の起るときは人匿れ その滅るときは義 者ます

第二十九章

1しばしば責られてもなほ強項なる者は救はるることなくして猝然に滅されん 2義 者ませば民よろこび 悪きもの權を掌らば民かなしむ 3智慧を愛する人はその父を 悦ばせ 妓婦に交る者はその財産を費す 4王は公義をもて國を堅うす されど租税を征取る者はこれを滅す 5その鄰に諂ふ者はかれの脚の前に羅を張る 6悪人の罪の中には罟あり 然ど義 者は歓び樂しむ 7義きものは貧きものの 訟をかへりみる 然ど悪人は之を知ることを願はず 8嘲笑人は城邑を擾し 智慧ある者は怒をしづむ 9智慧ある人おろかなる人と爭へば或は怒り或は笑ひて休むことなし 10血をながす人は直き人を悪む されど義き者はその生命を救はんことを求む 11愚なる者はその怒をことごとく露はし 智慧ある者は之を心に蔵む 12君王もし虚偽の言を聽かばその臣みな悪し 13貧 者と苛酷者と偕に世にをる ヱホバは彼等の目に光をあたへ給ふ 14眞實をもて弱 者を審判する王はその位つねに堅く立つべし 15鞭と譴責とは智慧をあたふ 任意になしおかれたる子はその母を辱しむ 16悪きもの多ければ罪も亦おほし 義 者は彼等の傾覆をみん 17なんぢの子を懲せ さらば彼なんぢを安からしめ 又なんぢの心に喜樂を與へん 18默示なければ民は放肆にす 律法を守るものは福ひなり 19僕は言をもて譴むるとも 改めず 彼は知れども従はざればなり 20なんぢ言を謹まざる人を見しや 彼よりは却て愚なる者に望あり 21僕をその幼なき時より柔かに育てなば終には子の如くならしめん 22怒る人は爭端を起し 憤 る人は罪おほし 23人の傲慢はおのれを卑くし 心に謙だる者は榮譽を得 24盗人に黨する者はおのれの霊魂を悪むなり 彼は誓を聽けども説述べず 25人を畏るれば罟におちいる ヱホバをたのむ者は護られん 26君の慈悲を求むる者はおほし 然れど人の事を定むるはヱホバによる 27不義をなす人は義 者の悪むところ 義くあゆむ人は悪 者の悪むところなり

第三十章

1ヤケの子アグルの語なる箴言 かれイテエルにむかひて之をいへり 即ちイテエルとウカルとにいへる所のものなり 2我は人よりも愚なり 我には人の聰明あらず 3我いまた智慧をならひ得ず またいまだ至聖きものを暁ることをえず 4天に昇りまた降りし者は誰か 風をその掌中に聚めし者は誰か 水を衣につつみし者は誰か 地のすべての限界を定めし者は誰か その名は何ぞ その子の名は何ぞ 汝 これを知るや 5神の言はみな潔よし 神は彼を頼むものの盾なり 6汝その言に加ふること勿れ 恐くは彼なんぢをせめ 又なんぢを譌る者となしたまはん 7われ二の事をなんぢに求めたり 我が死ざる先にこれをたまへ 8即ち虚假と譌言とを我より離れしめ 我をして貧からしめずまた富しめず 惟なくてならぬ糧をあたへ給へ 9そは我あきて神を知ずといひヱホバは誰なりやといはんことを恐れ またまづしくして窃盗をなし我が神の名を汚さんことを恐るればなり 10なんぢ僕をその主に讒ることなかれ 恐くは彼なんぢを詛ひてなんぢ罪せられん 11その父を詛ひその母を祝せざる世類あり 12おのれの目に自らを潔 者となして尚その汚穢を滌はれざる世類あり 13また一の世類あり 嗚呼その眼はいかに高きぞや その瞼 は昂れり 14その歯は劍のごとく その牙は刃のごとき世類あり 彼等は貧き者を地より呑み 窮乏者を人の中より食ふ 15蛭に二人の女あり與へよ與へよと呼はる 飽ことを知ざるもの三あり 否な四あり皆たれりといはず 16即ち陰府 姙まざる胎水に滿されざる地 足りといはざる火これなり 17おのれの父を嘲り母に従ふことをいやしとする眼は 谷の鴉これを抜いだし

鷲の雛これを食はん 18わが奇とするもの三あり否な四あり 共にわが識ざる者なり 19即ち空にとぶ鷲の路 磐の上にはふ蛇の路 海にはしる舟の路 男の女にあふの路これなり 20淫婦の途も亦しかり 彼は食ひてその口を拭ひ われ悪きことを爲ざりきといふ 21地は三の者によりて震ふ否な四の者によりて耐ることあたはざるなり 22即ち僕たるもの王となるに因り愚なるもの糧に飽るにより 23厭忌はれたる婦の嫁ぐにより婢女その主母に續に因りてなり 24地に四の物あり微小といへども最 智し 25蟻は力なき者なれどもその糧を夏のうちに備ふ 26山 鼠ば強からざれどもその室を磐につくる 27蝗は王なけれどもみな隊を立ていづ 28守宮は手をもてつかまり王の宮にをる 29善あゆむもの三あり否な四あり皆よく歩く 30獣の中にて最も強くもろもろのものの前より退かざる獅子 31肚帯せし戰馬 牡野羊 および當ること能はざる王これなり 32汝もし愚にして自から高ぶり或は惡きことを計らば汝の手を口に當つべし 33それ乳を搾れば乾酪いで鼻を搾れば血いで 怒を激ふれば爭端おこる

第三十一章

1レムエル王のことば即ちその母の彼に教へし箴言なり 2わが子よ何を言んか わが胎の子よ何をいはんか 我が願ひて得たる子よ何をいはんか 3なんぢの力を女につひやすなかれ 王を滅すものに汝の途をまかする勿れ 4レムエルよ酒を飲は王の爲べき事に非ず 王の爲べき事にあらず醇醪を求むるは牧伯の爲すべき事にあらず 5恐くは酒を飲て律法をわすれ 且すべて惱まさるる者の審判を枉げん 6醇醪を亡びんとする者にあたへ 酒を心の傷める者にあたへよ 7かれ飲てその貧窮をわすれ 復その苦楚を憶はざるべし 8なんぢ瘖者のため又すべての孤者の訟のために口をひらけ 9なんぢ口をひらきて義しき審判をなし 貧 者と窮乏者の訟を糺せ 10誰か賢き女を見出すことを得ん その價は眞珠よりも貴とし 11その夫の心は彼を恃み その産業は乏しくならじ 12彼が存命ふる間はその夫に善事をなして惡き事をなさず 13彼は羊の毛と麻とを求め喜びて手から操き 14商賈の舟のごとく遠き國よりその糧を運び 15夜のあけぬ先に起てその家人に糧をあたへ その婢女に日用の分をあたふ 16田畝をはかりて之を買ひ その手の操作をもて葡萄園を植ゑ 17力をもて腰に帶し その手を強くす 18彼はその利潤の益あるを知る その燈火は終夜きえず 19かれ手を紡線 車にのべ その指に紡錘をとり 20手を貧 者にのべ 手を困苦者に舒ぶ 21彼は家人の爲に雪をおそれず 蓋その家人みな蕃紅の衣をきればなり 22彼はおのれの爲に美しき褥子をつくり 細布と 紫 とをもてその衣とせり 23その夫はその地の長老とともに邑の門に坐するによりて人に知るるなり 24彼は細布の衣を製りてこれをうり 帶をつくりて商賈にあたふ 25彼は筋力と尊貴とを衣とし且のちの日を笑ふ 26彼は口を啓きて智慧をのぶ仁愛の教誨その舌にあり 27かれはその家の事を鑒み怠惰の糧を食はず 28その衆子は起て彼を祝す その夫も彼を讃ていふ 29賢く事をなす女子は多けれども 汝はすべての女子に愈れり 30艶麗はいつはりなり 美色は呼吸のごとし 惟エホバを畏るる女は譽られん 31その手の操作の果をこれにあたへ その行爲によりてこれを邑の門にほめよ

傳道之書

第一章

1ダビデの子 エルサレムの王 傳道者の言 2傳道者言く 空の空 空の空なる哉 都て空なり 3日の下に人の勞して爲ところの 諸 の動作はその身に何の益かあらん 4世は去り世は來る 地は永久に長存なり 5日は出で日は入り またその出し處に喘ぎゆくなり 6風は南に行き又轉りて北にむかひ 旋轉に旋りて行き 風復その旋轉る處にかへる。 7河はみな海に流れ入る 海は盈ること無し 河はその出きたれる處に復還りゆくなり 8萬の物は勞苦す 人これを言つくすことあたはず 目は見に飽ことなく耳は聞に充ること無し 9曩に有し者はまた後にあるべし 曩に成し事はまた後に成べし 日の下には新しき者あらざるなり 10見よ是は新しき者なりと指て言べき物あるや 其は我等の前にありし世々に既に久しくありたる者なり 11己前のものの事はこれを記憶ることなし 以後のものの事もまた後に出る者これをおぼゆることあらじ 12われ傳道者はエルサレムにありてイスラエルの王たりき 13我 心を盡し智慧をもちひて天が下に行はるる 諸 の事を尋ねかつ考覈たり此苦

しき事件は神が世の人にさづけて之に身を勞せしめたまふ者なり 14我日の下に作ところの 諸 の行爲を見たり 嗚呼皆空にして風を捕ふるがごとし 15曲れる者は直からしむるあたはず 缺たる者は數をあはするあたはず 16我心 の中に語りて言ふ 嗚呼我は大なる者となれり 我より先にヱルサレムにをりしすべての者よりも我は多くの智慧を得たり 我 心は智慧と知識を多く得たり 17我 心を盡して智慧を知んとし狂妄と愚癡を知んとしたりしが是も亦風を捕ふるがごとくなるを暁れり 18夫智慧多ければ憤 激多し 知識を増す者は憂患を増す

第二章

1我わが心に言けらく 來れ我 試みに汝をよろこばせんとす 汝 逸樂をきはめよと 嗚呼是もまた空なりき 2我 笑を論ふ是は狂なり 快樂を論ふ是何の爲ところあらんやと 3我 心に智慧を懐きて居つつ酒をもて肉身を肥さんと試みたり 又世の人は天が下において生涯如何なる事をなさば善らんかを知んために我は愚なる事を行ふことをせり 4我は大なる事業をなせり 我はわが爲に家を建て葡萄園を設け 5園をつくり囿をつくり 又菓のなる 諸 の樹を其處に植ゑ 6また水の塘池をつくりて樹木の生茂れる 林に其より水を灌がしめたり 7我は僕 婢を買得たり また家の子あり 我はまた凡て我より前にヱルサレムにをりし者よりも衆多の牛 羊を有り 8我は金銀を積み 王等と國々の財寶を積あげたり また歌詠之 男 女を得 世の人の 樂なる妻妾を多くえたり 9斯我は大なる者となり 我より前にヱルサレムにをりし諸の人よりも大になりぬ 吾智慧もまたわが身を離れざりき 10凡そわが目の好む者は我これを禁ぜす 凡そわが心の悦ぶ者は我これを禁ぜざりき 即ち我はわが 諸 の勞苦によりて快樂を得たり 是は我が 諸 の勞苦によりて得たるところの分なり 11我わが手にて爲たる 諸 の事業および我が勞して事を爲たる勞苦を顧みるに 皆空にして風を捕ふるが如くなりき 日の下には益となる者あらざるなり 12我また身を轉らして智慧と狂妄と愚癡とを觀たり 抑 王に嗣ぐところの人は如何なる事を爲うるや その既になせしところの事に過ざるべし 13光明の黒暗にまさるがごとく智慧は愚癡に勝るなり 我これを暁れり 14智者の目はその頭にあり愚者は黒暗に歩む 然ど我しる其みな遇ふところの事は同一なり 15我 心に謂けらく 愚者の遇ふところの事に我もまた遇ふべければ我なんぞ智慧のまさる所あらんや 我また心に謂り是も亦空なるのみと 16夫智者も愚者と均しく永く世に記念らるることなし 來らん世にいたれば皆早く既に忘らるるなり 嗚呼智者の愚者とおなじく死るは是如何なる事ぞや 17是に於て我世にながらふることを厭へり 凡そ日の下に爲ところの事は我に惡く見ればなり 即ち皆空にして風を捕ふるがごとし 18我は日の下にわが勞して 諸 の動作をなしたるを恨む其は我の後を嗣ぐ人にこれを遺さざるを得ざればなり 19其人の智愚は誰かこれを知らん然るにその人は日の下に我が勞して爲し智慧をこめて爲たる 諸 の工作を管理るにいたらん是また空なり 20我身をめぐらし日の下にわが勞して爲たる 諸 の動作のために望を失へり 21今茲に人あり 智慧と知識と才能をもて勞して事をなさんに終には之がために勞せざる人に一切を遺してその所有となさしめざるを得ざるなり 是また空にして大に惡し 22夫人はその日の下に勞して爲ところの 諸 の動作とその心 勞によりて何の得ところ有るや 23その世にある日には常に憂患あり その勞苦は苦し その心は夜の間も安んずることあらず 是また空なり 24人の食飲をなしその勞苦によりて心を樂しましむるは幸福なる事にあらず 是もまた神の手より出るなり 我これを見る 25誰かその食ふところその歓樂を極むるところに於て我にまさる者あらん 26神はその心に適ふ人には智慧と知識と喜樂を賜ふ 然れども罪を犯す人には勞苦を賜ひて斂めかつ積ことを爲さしむ 是は其を神の心に適ふ人に與へたまはんためなり 是もまた空にして風を捕ふるがごとし

第三章

1天が下の萬の事には期あり 萬の事務には時あり 2生るるに時あり死るに時あり 植るに時あり植たる者を抜に時あり 3殺すに時あり醫すに時あり 毀つに時あり建るに時あり 4泣に時あり笑ふに時あり 悲むに時あり躍るに時あり 5石を擲つに時あり石を斂むるに時あり 懐くに時あり懐くことをせざるに時あり 6得に時あり失ふに時あり 保つに時あり棄るに時あり 7裂に時あり縫に時あり 默すに時あり語るに時あり 8愛しむに時あり惡むに時あり 戰ふに時あり和ぐに時あり 9働く者はその勞して爲ところより して何の益を得んや 10我神が世の人にさづけて身をこれに勞せしめたまふところの事件を視たり 11神の爲したまふところは皆その時に適ひて美麗しかり 神はまた人の

心に永遠をおもふの思念を賦けたまへり 然ば人は神のなしたまふ作爲を始より終まで知明むることを得ざるなり 12我知る人の中にはその世にある時に快樂をなし善をおこなふより外に善事はあらず 13また人はみな食飲をなしその勞苦によりて逸樂を得べきなり 是すなはち神の賜物たり 14我知る凡て神のなしたまふ事は限なく存せん是は加ふべき所なく是は減すべきところ無し 神の之をなしたまふは人をしてその前に畏れしめんがためなり 15 昔ありたる者は今もあり 後にあらん者は既にありし者なり神はその遂やられし者を索めたまふ 16我また日の下を見るに審判をおこなふ所に邪曲なる事あり 公義を行ふところに邪曲なる事あり 17 我すなはち心に謂けらく神は義 者と惡 者とを鞫きたまはん 彼處において萬の事と萬の所爲に時あるなり 18我また心に謂けらく是事あるは是世の人のためなり 即ち神は斯世の人を撿して之にその獸のごとくなることを自ら暁らしめ給ふなり 19世の人に臨むところの事はまた獸にも臨む この二者に臨むところの事は同一にして是も死ば彼も死るなり 皆同一の呼吸に依れり 人は獸にまさる所なし皆空なり 20皆 一の所に往く 皆塵より出で皆塵にかへるなり 21誰か人の 魂 の上に昇り獸の 魂 の地にくだることを知ん 22然ば人はその動作によりて逸樂をなすに如はなし 是その分なればなり我これを見る その身の後の事は誰かこれを携へゆきて見さしむる者あらんや

第四章

1茲に我身を轉して日の下に行はるる 諸 の虐遇を視たり嗚呼 虐げらる者の涙ながる 之を慰むる者あらざるなりまた虐ぐる者の手には權力あり 彼等はこれを慰むる者あらざるなり 2我は猶生る生者よりも既に死たる死者をもて 幸 なりとす 3またこの二者よりも 幸 なるは未だ世にあらずして日の下におこなはるる惡事を見ざる者なり 4我また 諸 の勞苦と 諸 の工事の精巧とを觀るに 是は人のたがひに嫉みあひて成せる者たるなり 是も空にして風を捕ふるが如し 5愚なる者は手を束ねてその身の肉を食ふ 6片手に物を盈て平穩にあるは 兩手に物を盈て勞苦て風を捕ふるに愈れり 7我また身をめぐらし日の下に空なる事のあるを見たり 8茲に人あり只 獨にして伴侶もなく子もなく兄弟もなし 然るにその勞苦は都て 窮 なくの目は富に飽ことなし 彼また言ず嗚呼我は誰がために勞するや何とて我は心を樂ませざるやと 是もまた空にして勞力の苦 き者なり 9二人は一人に愈る其はその勞苦のために善報 を得ればなり 10即ちその跌倒る時には一箇の人その伴侶を扶けおこすべし 然ど孤身にして跌倒る者は憐なるかな之を扶けおこす者なきなり 11又二人ともに寢れば温暖なり一人ならば爭で温暖ならんや 12人もしその一人を攻撃ば二人してこれに當るべし 三根の繩は容易く斷ざるなり 13貧くして賢き童子は 老て愚にして諫を納れざる王に愈る 14彼は牢獄より出て王となれり 然どその國に生れし時は貧かりき 15我日の下にあゆむところの群生が彼王に続てこれに代りて立ところの童子とともにあるを觀たり 16民はすべて際限なし その前にありし者みな然り後にきたる者また彼を悦ばず 是も空にして風を捕ふるがごとし

第五章

1汝ヱホバの室にいたる時にはその足を愼め 進みよりて聽聞は愚なる者の犧牲にまさる 彼等はその惡をおこなひをることを知ざるなり 2汝 神の前にありては軽々し口を開くなかれ 心を攝めて妄に言をいだすなかれ 其は神は天にいまし汝は地にをればなり 然ば汝の言詞を少からしめよ 3夫夢は事の繁多によりて生じ 愚なる者の聲は言の衆多によりて識るなり 4汝 神に誓 願をかけなば之を還すことを怠るなかれ 神は愚なる者を悦びたまはざるなり 汝 はそのかけし誓 願を還すべし 5誓 願をかけてこれを還さざるよりは寧ろ誓 願をかけざるは汝に善し 6汝の口をもて汝の身に罪を犯さしむるなかれ 亦使者の前に其は過誤なりといふべからず 恐くは神 汝の言を怒り汝の手の所爲を滅したまはん 7夫夢多ければ空なる事多し 言詞の多きもまた然り 汝ヱホバを畏め 8汝 國の中に貧き者を虐遇る事および公道と公義を枉ることあるを見るもその事あるを怪むなかれ 其はその位 高き人よりも高き者ありてその人を伺へばなり又其等よりも高き者あるなり 9國の利益は全く是にあり 即ち王者が農事に勤むるにあるなり 10銀を好む者は銀に飽こと無し 豊富ならんことを好む者は得るところ有らず 是また空なり 11貨財増せばこれを食む者も増すなり その所有主は唯目にこれを看るのみその外に何の益かあらん 12勞する者はその食ふところは多きも少きも 快く睡るなり 然れども富 者はその貨財の多きがために睡ることを得せず 13我また日の下に患の 大

なる者あるを見たり すなはち財寶のこれを蓄ふる者の身に害をおよぼすことある是なり 14その財寶はまた災難によりて失落ことあり 然ばその人子を擧ることあらんもその手には何物もあることなし 15人は母の胎より出て來りしごとくにまた裸體にして皈りゆくべし その勞苦によりて得たる者を毫厘も手にとりて携へゆくことを得ざるなり 16人は全くその來りしごとくにまた去ゆかざるを得ず 是また患の大なる者なり 抑 風を追て勞する者何の益をうること有んや 17人は生命の涯 黑暗の中に食ふことを爲す また憂愁多かり 疾病身にあり 憤怒あり 18視よ我は斯觀たり 人の身にとりて善かつ美なる者は 神にたまはるその生命の極 食飮をなし 且その日の下に勞して働ける勞苦によりて得るところの福禄を身に享るの事なり是その分なればなり 19何人によらず神がこれに富と財を與へてそれに食ことを得せしめ またその分を取りその勞苦によりて快樂を得ることをせさせたまふあれば その事は神の賜物たるなり 20かかる人はその年齡の日を憶ゆること深からず 其は神これが心の喜ぶところにしたがひて應ることを爲したまへばなり

第六章

1我觀るに日の下に一件の患あり是は人の間に恒なる者なり 2すなはち神富と財と 貴 を人にあたへて その心に慕ふ者を一件もこれに缺ることなからしめたまひながらも 神またその人に之を食ふことを得せしめたまはずして他人のこれを食ふことあり 是空なり惡き疾なり 3假令人百 人の子を擧けまた長 壽してその年齡の日多からんも若その心 景福に滿足せざるか又は葬らるることを得ざるあれば 我言ふ流 産の子はその人にまさるたり 4夫 流 産の子はその來ること空しくして黑暗の中に去ゆきその名は黑暗の中にかくるるなり 5又是は日を見ることなく物を知ることなければ彼よりも安泰なり 6人の壽命千年に倍するとも福祉を蒙れるにはあらず 皆 一 所に往くにあらずや 7人の勞苦は皆その口のためなり その心はなほも飽ざるところ有り 8 賢 者なんぞ愚 者に勝るところあらんや また世人の前に歩行ことを知ところの貧 者も何の勝るところ有んや 9目に觀る事物は心のさまよひ歩くに愈るなり 是また空にして風を捕ふるがごとし 10嘗て在し者は久しき前にすでにその名を命られたり 即ち是は人なりと知る 然ば是はかの自己よりも力 強き者と爭ふことを得ざるなり 11衆多の言論ありて虚浮き事を増す然ど人に何の益あらんや 12人はその虚空き生命の日を影のごとくに送るなり 誰かこの世において如何なる事か人のために善き者なるやを知ん 誰かその身の後に日の下にあらんところの事を人に告うる者あらんや

第七章

1名は美 膏に愈り 死る日は生るる日に愈る 2哀傷の家に入は宴樂の家に入に愈る 其は一切の人の終かくのごとくなればなり 生る者またこれをその心にとむるあらん 3悲哀は嬉笑に愈る 其は面に憂色を帶るなれば心も善にむかへばなり 4賢き者の心は哀傷の家にあり 愚なる者の 心は喜樂の家にあり 5賢き者の勸責を聽は愚なる者の歌詠を聽に愈るなり 6愚なる者の笑は釜の下に焚る荊棘の聲のごとし是また空なり 7賢き人も虐待る事によりて狂するに至るあり賄賂は人の心を壞なふ 8事の終はその始よりも善し 容忍 心ある者は傲慢 心ある者に勝る 9汝 氣を急くして怒るなかれ 怒は愚なる者の胸にやどるなり 10昔 の今にまさるは何故ぞやと汝 言なかれ 汝の斯る問をなすは是智慧よりいづる者にあらざるなり 11智慧の上に財產をかぬれば善し 然れば日を見る者等に利益おほかるべし 12智慧も身の護庇となり銀子も身の護庇となる 然ど智恵はまたこれを有る者に生命を保しむ 是知識の殊勝たるところなり 13汝 神の作爲を考ふべし 神の曲たまひしものは誰かこれを直くすることを得ん 14幸福ある日には 樂め 禍患ある日には考へよ 神はこの二者をあひ交錯て降したまふ 是は人をしてその後の事を知ることなからしめんためなり 15我この空の世にありて各樣の事を見たり 義 人の義をおこなひて亡ぶるあり 惡 人の惡をおこなひて長 壽あり 16汝 義 に過るなかれまた 賢 に過るなかれ 汝 なんぞ身を滅すべけんや 17汝 惡に過るなかれまた 愚なる勿れ 汝なんぞ時いたらざるに死べけんや 18汝 此を執は善しまた彼にも手を放すなかれ 神を畏む者はこの一切の者の中より逃れ出るなり 19智慧の智者を幇くることは邑の豪雄者十人にまさるなり 20正義して善をおこなひ罪を犯すことなき人は世にあることなし 21人の言出す言詞には凡て心をとむる勿れ 恐くは汝の僕の汝を詛ふを聞こともあらん 22汝も 屢 人を詛ふことあるは汝の心に知ところなり 23我智慧をもてこの一切の事を試み我は智者とならんと謂たりしが遠くおよばざるなり 24事物の

理は遠くして甚だ深し 誰かこれを究むることを得ん 25我は身をめぐらし心をもちひて物を知り事を探り 智慧と道理を索めんとし 又惡の愚たると愚癡の狂妄たるを知んとせり 26我了れり 婦人のその心 羅と網のごとくその手縲紲のごとくなる者は是死よりも苦き者なり 神の悦びたまふ者は之を避ることを得ん罪人は之に執らるべし 27傳道者言ふ 視よ我その數を知んとして一々に算へてつひに此事を了る 28我なほ尋ねて得ざる者は是なり 我千人の中には一箇の男子を得たれども その數の中には一箇の女子をも得ざるなり 29我了れるところは唯是のみ 即ち神は人を正直者に造りたまひしに人衆多の計略を案 出せしなり

第八章

1誰か智者に如ん誰か事物の理を解ことを得ん 人の智慧はその人の面に光輝あらしむ 又その粗暴面も變改べし 2我言ふ王の命を守るべし既に神をさして誓ひしことあれば然るべきなり 3早まりて王の前を去ることなかれ 惡き事につのること勿れ 其は彼は凡てその好むところを爲ばなり 4王の言語には權力あり 然ば誰か之に汝 何をなすやといふことを得ん 5命令を守る者は禍患を受るに至らず 智者の心は時期と判斷を知なり 6萬の事務には時あり 判斷あり是をもて人 大なる禍患をうくるに至るあり 7人は後にあらんところの事を知ず また誰か如何なる事のあらんかを之に告る者あらん 8靈魂を掌 管て靈魂を留めうる人あらず 人はその死る日には權力あること无し 此戰爭には釋 放たるる者あらず 又罪惡はこれを行ふ者を救ふことを得せざるなり 9我この一切の事を見また日の下におこなはるる 諸の事に心を用ひたり時としては 此人彼人を治めてこれに害を蒙らしむることあり 10我見しに惡人の葬られて安息にいるあり また善をおこなふ者の聖 所を離れてその邑に忘らるるに至るあり是また空なり 11惡き事の報 速にきたらざるが故に世人 心を 專にして惡をおこなふ 12罪を犯す者百次惡をなして猶長 命 あれども 我知る神を畏みてその前に畏怖をいだく者には幸福あるべし 13但し惡人には幸福あらず またその生命も長からずして影のごとし 其は神の前に畏怖をいだくことなければなり 14我日の下に空なる事のおこなはるるを見たり 即ち義 人にして惡人の遭べき所に遭ふ者あり 惡人にして義 人の遭べきところに遭ふ者あり 我謂り是もまた空なり 15是に於て我喜樂を讃む 其は食飲して樂むよりも好き事は日の下にあらざればなり 人の勞して得る物の中是こそはその日の下にて神にたまはる生命の日の間その身に離れざる者なれ 16茲に我 心をつくして智慧を知らんとし世に爲ところの事を究めんとしたり 人は夜も晝もその目をとぢて眠ることをせざるなり 17我神の 諸 の作爲を見しが人は日の下におこなはるるところの事を究むるあたはざるなり 人これを究めんと勞するもこれを究むることを得ず 且又智者ありてこれを知ると思ふもこれを究むることあたはざるなり

第九章

1我はこの一切の事に心を用ひてこの一切の事を明めんとせり 即ち義き者と賢き者およびかれらの爲ところは神の手にあるなるを明めんとせり 愛むや惡むやは人これを知ることなし一切の事はその前にあるなり 2諸の人に臨む所は皆同じ 義き者にも惡き者にも善者にも 淨 者にも穢れたる者にも 犧牲を献ぐる者にも犧牲を献げぬ者にもその臨むところの事は同一なり 善人も罪人に異ならず 誓 をなす者も誓をなすことを畏るる者に異ならず 3諸の人に臨むところの事の同一なるは是日の下におこなはるる事の中の惡き者たり 抑 人の心には惡き事充をり その生る間は心に狂妄を懷くあり 後には死 者の中に往くなり 4凡 活る者の中に列る者は望あり 其は生る犬は死る獅子に愈ればなり 5生 者はその死んことを知る 然ど死る者は何事をも知ずまた應報をうくることも重てあらず その記憶らるる事も遂に忘れらるるに至る 6またその 愛も 惡 も嫉も既に消うせて彼等は日の下におこなはるる事に最早何時までも關係ことあらざるなり 7汝 往て喜悦をもて汝のパンを食ひ樂き心をも汝の酒を飲め 其は神久しく汝の行爲を嘉納たまへばなり 8汝の衣服を常に白からしめよ 汝の頭に膏を絶しむるなかれ 9日の下に汝が賜はるこの汝の空なる生命の日の間 汝その愛する妻とともに喜びて度生せ 汝の空なる生命の日の間しかせよ 是は汝が世にありて受る分 汝が日の下に働ける勞苦によりて得る者なり 10凡て汝の手に堪ることは力をつくしてこれを爲せ 其は汝の往んところの陰府には工作も計 謀も知識も智慧もあることなければなり 11我また身をめぐらして日の下を觀るに 迅速者走ることに勝にあらず強 者戰爭に勝にあらず 智慧者食物を獲にあらず 明哲人財貨

を得にあらず 知識人恩顧を得にあらず 凡て人に臨むところの事は時ある者偶然なる者なり 12人はまたその時を知ず 魚の 禍 の網にかかり鳥の鳥羅にかかるが如くに世の人もまた禍患の時の計らざるに臨むに及びてその禍患にかかるなり 13我日の下に是事を觀て智慧となし大なる事となせり 14すなはち茲に一箇の小き邑ありて その中の人は鮮かりしが大なる王これに攻きたりてこれを圍みこれに向ひて大なる雲梯を建たり 15時に邑の中に一人の智慧ある貧しき人ありてその智慧をもて邑を救へり 然るに誰ありてその貧しき人を記念もの無りし 16是において我言り智慧は勇力に愈る者なりと 但しかの貧しき人の智慧は藐視られその言詞は聽れざりしなり 17靜に聽る智者の言は愚者の君長たる者の號呼に愈る 18智慧は軍の器 に勝れり一人の惡人は許多の善事を壞ふなり

第十章

1死し蠅は和香者の膏を臭くしこれを腐らす 少許の愚癡は智慧と尊榮よりも重し 2智者の心はその右に愚者の 心はその左に行くなり 3愚者は出て途を行にあたりてその心 たらず自己の愚なることを一切の人に告ぐ 4君長たる者 汝にむかひて腹たつとも汝の本處を離るる勿れ温 順は大なる愆を生ぜしめざるなり 5我日の下に一の患事あるを見たり是は君長たる者よりいづる過誤に似たり 6すなはち愚なる者高き位に置かれ貴き者卑き處に坐る 7我また僕たる者が馬に乘り王侯たる者が僕のごとく地の上に歩むを觀たり 8坑を掘る者はみづから之におちいり石垣を毀つ者は蛇に咬れん 9石を打くだく者はそれがために傷を受け木を割る者はそれがために危難に遭ん 10鐵の鈍くなれるあらんにその刃を磨ざれば力を多く之にもちひざるを得ず 智慧は功を成に益あるなり 11蛇もし呪術を聽ずして咬ば呪術師は用なし 12智者の口の言語は恩徳あり 愚者の 唇 はその身を呑ほろぼす 13愚者の口の言は始は愚なり またその言は終は狂 妄にして惡し 14愚者は言詞を衆くす 人は後に有ん事を知ず 誰かその身の後にあらんところの事を述るを得ん 15愚者の勞苦はその身を疲らす彼は邑にいることをも知ざるなり 16その王は童子にしてその侯伯は朝に食をなす國よ 汝は 禍 なるかな 17その王は貴族の子またその侯伯は酔 樂むためならず力を補 ふために適宜き時に食をなす國よ 汝は 福 なるかな 18懶惰ところよりして屋背は落ち 手を垂をるところよりして家屋は漏る 19食事をもて笑ひ喜ぶの物となし酒をもて快樂を取れり 銀子は何事にも應ずるなり 20汝 心の中にても王たる者を詛ふなかれ また寢室にても富 者を詛なかれ 天空の鳥その聲を傳へ羽翼ある者その事を布べければなり

第十一章

1汝の糧食を水の上に投げよ 多くの日の後に汝ふたたび之を得ん 2汝 一箇の分を七また八にわかて 其は汝 如何なる災害の地にあらんかを知ざればなり 3雲もし雨の充るあれば地に注ぐ また樹もし南か北に倒るるあればその樹は倒れたる處にあるべし 4風を伺ふ者は種播ことを得ず 雲を望む者は刈ことを得ず 5汝は風の道の如何なるを知ず また孕める婦の胎にて骨の如何に生長つを知ず 斯汝 は萬事を爲たまふ神の作爲を知ことなし 6汝 朝に種を播け 夕にも手を歇るなかれ 其はその實る者は此なるか彼なるか又は二者ともに美なるや汝これを知ざればなり 7夫光明は 快 き者なり 目に日を見るは樂し 8人多くの年生ながらへてその中凡て幸福なるもなほ幽暗の日を憶ふべきなり 其はその數も多かるべければなり 凡て來らんところの事は皆空なり 9少 者よ汝の少き時に快樂をなせ 汝の少き日に汝の心を悦ばしめ汝の心の道に歩み汝の目に見るところを爲せよ 但しその 諸 の行爲のために神汝 を鞫きたまはんと知べし 10然ば汝の心より憂を去り汝 の身より惡き者を除け 少き時と壯なる時はともに空なればなり

第十二章

1汝の少き日に汝の造 主を記えよ 即ち惡き日の來り年のよりて我は早何も樂むところ無しと言にいたらざる先 2また日や光明や月や星の暗くならざる先 雨の後に雲の返らざる中に汝 然せよ 3その日いたる時は家を守る者は慄ひ 力ある人は屈み 磨 碎 者は寡きによりて息み 窓より窺 ふ者は目昏むなり 4磨こなす聲低くなれば衢の門は閉づ その人は鳥の聲に起あがり 歌の女子はみな身を卑くす 5かかる人々は高き者を恐る畏しき者多く途にあり 巴旦杏は花咲くまた蝗もその身に重くその嗜欲は廢る 人永遠の家にいたらんとすれば哭婦 衢にゆきかふ 6然る時には 銀 の紐は解け金の盞は碎け吊瓶は泉の側に壞れ轆轤は井の 傍 に破ん 7而して塵は本の如くに土に皈り靈魂はこれを賦けし神にかへるべし 8傳道者云ふ空の空

なるかな皆空なり 9また傳道者は智慧あるが故に恒に知識を民に教へたり 彼は心をもちひて尋ね究め許多の箴言を作れり 10傳道者は務めて佳美き言詞を求めたり その書しるしたる者は正直して眞實の言語なり 11智者の言語は刺鞭のごとく 會衆の師の釘たる釘のごとくにして 一人の牧者より出し者なり 12わが子よ是等より訓誡をうけよ 多く書をつくれば竟なし 多く學べば體疲る 13事の全體の畢する所を聽べし 云く 神を畏れその誡命を守れ 是は諸の人の本分たり 14神は一切の行爲ならびに一切の隠れたる事を善惡ともに審判たまふなり

雅歌

第一章

1これはソロモンの雅歌なり 2ねがはしきは彼その口の接吻をもて我にくちつけせんことなり 汝の愛は酒よりもまさりぬ 3なんぢの香 膏は其香味たへに馨しくなんぢの名はそそがれたる香 膏のごとし 是をもて女子等なんぢを愛す 4われを引たまへ われら汝にしたがひて走らん 王われをたづさへてその後宮にいれたまへり 我らは汝によりて歡び樂しみ酒よりも勝りてなんぢの愛をほめたたふ 彼らは直きこころをもて汝を愛す 5エルサレムの女子等よ われは黑けれどもなほ美はし ケダルの天幕のごとくまたソロモンの帷帳に似たり 6われ色くろきが故に日のわれを燒たるが故に我を視るなかれ わが母の子等われを怒りて我に葡萄園をまもらしめたり 我はおのが葡萄園をまもらざりき 7わが心の愛する者よなんぢは何處にてなんぢの群を牧ひ 午時いづこにて之を息まするや請ふわれに告よ なんぞ面を覆へる者の如くしてなんぢが伴侶の群のかたはらにをるべけんや 8婦女の最も美はしき者よ なんぢ若しらずば群の足跡にしたがひて出ゆき 牧羊者の天幕のかたはらにて汝の羔山羊を牧へ 9わが佳耦よ 我なんぢをパロの車の馬に譬ふ 10なんぢの臉には鏈索を垂れ なんぢの頭には珠玉を陳ねて至も美はし 11われら白銀の星をつけたる黃金の鏈索をなんぢのために造らん 12王其席につきたまふ時 わがナルダ其香味をいだせり 13わが愛する者は我にとりてはわが胸のあひだにおきたる沒藥の袋のごとし 14わが愛する者はわれにとりてはエンゲデの園にあるコペルの英華のごとし 15ああ美はしきかな わが佳耦よ ああうるはしきかな なんぢの目は鴿のごとし 16わが愛する者よ ああなんぢは美はしくまた樂しきかな われらの牀は青緑なり 17われらの家の棟梁は香柏 その垂木は松の木なり

第二章

1われはシャロンの野花 谷の百合花なり 2女子等の中にわが佳耦のあるは荊棘の中に百合花のあるがごとし 3わが愛する者の男子等の中にあるは林の樹の中に林檎のあるがごとし 我ふかく喜びてその蔭にすわれり その實はわが口に甘かりき 4彼われをたづさへて酒宴の室にいれたまへり その我上にひるがへしたる旗は愛なりき 5請ふ なんぢら乾葡萄をもてわが力をおぎなへ 林檎をもて我に力をつけよ 我は愛によりて疾わづらふ 6彼が左の手はわが頭の下にあり その右の手をもて我を抱く 7エルサレムの女子等よ我なんぢらに獐と野の鹿とをさし誓ひて請ふ 愛のおのづから起るときまでは殊更に喚起し且つ醒すなかれ 8わが愛する者の聲きこゆ 視よ 山をとび 岡を躍りこえて來る 9わが愛する者は獐のごとくまた小鹿のごとし 視よ彼われらの壁のうしろに立ち 窓より覗き 格子より窺ふ 10わが愛する者われに語りて言ふ わが佳耦よ わが美はしき者よ 起ていできたれ 11視よ 冬すでに過ぎ 雨もやみてはやさりぬ 12もろもろの花は地にあらはれ 鳥のさへづる時すでに至り 班鳩の聲われらの地にきこゆ 13無花果樹はその青き果を赤らめ 葡萄の樹は花さきてその馨はしき香氣をはなつ わが佳耦よ わが美しき者よ 起て出きたれ 14磐間にをり 斷崖の匿 處にをるわが鴿よ われに汝の面を見させよ なんぢの聲をきかしめよ なんぢの聲は愛らしく なんぢの面はうるはし 15われらのために狐をとらへよ 彼の葡萄園をそこなふ小狐をとらへよ 我等の葡萄園は花盛なればなり 16わが愛する者は我につき我はかれにつく 彼は百合花の中にてその群を牧ふ 17わが愛する者よ 日の涼しくなるまで 影の消るまで身をかへして出ゆき 荒き山々の上にありて獐のごとく 小鹿のごとくせよ

第三章

1夜われ床にありて我心の愛する者をたづねしが尋ねたれども得ず 2我おもへらく今おきて邑をまはりありき わが心の愛する者を街衢あるひは大路にてたづねんと 乃ちこれを尋ねたれども得ざりき 3邑をまはりありく夜巡者らわれに遇ければ 汝らわが心の愛する者を見しやと問ひ 4これに別れて過ゆき間もなくわが心の愛する者の遇たれば 之をひきとめて放さず 遂にわが母の家にともなひゆき 我を産し者の室にいりぬ 5ヱルサレムの女子等よ 我なんぢらに獐と野の鹿とをさし誓ひて請ふ 愛のおのづから起る時まで殊更に喚起し且つ醒すなかれ 6この沒藥乳香など商人のもろもろの薫物をもて身をかをらせ 煙の柱のごとくして荒野より來る者は誰ぞや 7視よ こはソロモンの乘輿にして 勇士六十人その周圍にあり イスラエルの勇士なり 8みな刀劍を執り 戰鬪を善す 各人腰に刀劍を帶て夜の警誡に備ふ 9ソロモン王レバノンの木をもて己のために輿をつくれり 10その柱は白銀 その欄杆は黃金 その座は紫色にて作り その內部にはイスラエルの女子等が愛をもて繍たる物を張つく 11シオンの女子等よ出きたりてソロモン王を見よ かれは婚姻の日 心の喜べる日にその母の己にかうぶらしし冠冕を戴けり

第四章

1ああなんぢ美はしきかな わが佳耦よ ああなんぢうるはしきかな なんぢの目は面帕のうしろにありて鴿のごとし なんぢの髮はギレアデ山の腰に臥たる山羊の群に似たり 2なんぢの齒は毛を剪たる牝羊の浴塲より出たるがごとし おのおの雙子をうみてひとつも子なきものはなし 3なんぢの唇は紅色の線維のごとく その口は美はし なんぢの頰は面帕のうしろにありて石榴の半片に似たり 4なんぢの頸項は武器庫にとて建たるダビデの戍樓のごとし その上には一千の盾を懸け列ぬ みな勇士の大楯なり 5なんぢの兩乳房は牝獐の雙子なる二箇の小鹿が百合花の中に草はみをるに似たり 6日の涼しくなるまで 影の消るまでわれ沒藥の山また乳香の岡に行べし 7わが佳耦よ なんぢはことごとくうるはしくしてすこしのきずもなし 8新婦よ レバノンより我にともなへ レバノンより我とともに來れ アマナの巓 セニルまたヘルモンの巓より望み 獅子の穴また豹の山より望め 9わが妹わが新婦よ なんぢはわが心を奪へり なんぢは只一目をもてまた頸玉の一をもてわが心をうばへり 10わが妹わが新婦よ なんぢの愛は樂しきかな なんぢの愛は酒よりも遙にすぐれ なんぢの香 膏の馨は一切の香物よりもすぐれたり 11新婦よ なんぢの 唇 は蜜を滴らす なんぢの舌の底には蜜と乳とありなんぢの衣裳の香氣はレバノンの香氣のごとし 12わが妹わがはなよめよ なんぢは閉たる園 閉たる水源 封じたる泉水のごとし 13なんぢの園の中に生いづる者は石榴及びもろもろの佳果またコペル及びナルダの草 14ナルダ 番紅花 菖蒲 桂枝さまざまの乳香の木および沒藥 蘆薈 一切の貴とき香物なり 15なんぢは園の泉水 活る水の井 レバノンよりいづる流水なり 16北風よ起れ 南風よ來れ わが園を吹てその香氣を揚よ ねがはくはわが愛する者のおのが園にいりきたりてその佳き果を食はんことを

第五章

1わが妹わがはなよめよ 我はわが園にいり わが沒藥と薫物とを採り わが蜜房と蜜とを食ひ わが酒とわが乳とを飮り わが伴侶等よ 請ふ食へ わが愛する人々よ 請ふ飮あけよ 2われは睡りたれどもわが心は醒ゐたり 時にわが愛する者の聲あり 即はち門をたたきていふ わが妹わが佳耦 わが鴿 わが完きものよ われのために開け わが首には露滿ち わが髮の毛には夜の點滴みてりと 3われすでにわが衣服を脫り いかでまた着るべき 已にわが足をあらへり いかでまた汚すべき 4わが愛する者戶の穴より手をさしいれしかば わが心かれのためにうごきたり 5やがて起いでてわが愛する者の爲に開かんとせしとき 沒藥わが手より沒藥の汁わが指よりながれて關木の把柄のうへにしたたれり 6我わが愛する者の爲に開きしに わが愛する者は已に退き去りぬ さきにその物いひし時はわが心さわぎたり 我かれをたづねたれども遇ず 呼たれども答應なかりき 7邑をまはりありく夜巡者等われを見てうちて傷つけ 石垣をまもる者らはわが上衣をはぎとれり 8ヱルサレムの女子等よ 我なんぢらにかたく請ふ もしわが愛する者にあはば汝ら何とこれにつぐべきや 我愛によりて疾わづらふと告よ 9なんぢの愛する者は別の人の愛する者に何の勝れるところありや 婦女の中のいと美はしき者よなんぢが愛する者は別の人の愛する者に何の勝れるところありて斯われらに固く請ふや 10わが愛する者は白くかつ紅にして萬人の上に越ゆ 11その頭は純金のごとく その髮はふさやかにして黑きこと烏のごとし 12その目は谷

川の水のほとりにをる鴿のごとく 乳にて洗はれて美はしく嵌れり 13その頬は馨しき花の床のごとく 香草の壇のごとし その唇は百合花のごとくにして沒藥の汁をしたたらす 14その手はきばみたる碧玉を嵌し黄金の釧のごとく 其躰は青玉をもておほひたる象牙の彫刻物のごとし 15その脛は蝋石の柱を黄金の臺にてたてたるがごとく その相貌はレバノンのごとく その優れたるさまは香柏のごとし 16その口ははなはだ甘く誠に彼には一つだにうつくしからぬ所なし ヱルサレムの女子等よ これぞわが愛する者 これぞわが伴侶なる

第六章

1婦女のいと美はしきものよ 汝の愛する者は何處へゆきしや なんぢの愛する者はいづこへおもむきしや われら汝とともにたづねん 2わが愛するものは己の園にくだり香しき花の床にゆき 園の中にて群を牧ひ また百合花を採る 3我はわが愛する者につき わが愛する者はわれにつく 彼は百合花の中にてその群を牧ふ 4わが佳耦よ なんぢは美はしきことテルザのごとく 華やかなることヱルサレムのごとく 畏るべきこと旗をあげたる軍旅のごとし 5なんぢの目は我をおそれしむ 請ふ我よりはなれしめよ なんぢの髪はギレアデ山の腰に臥たる山羊の群に似たり 6なんぢの齒は毛を剪たる牝羊の浴場より出たるがごとしおのおの雙子をうみてひとつも子なきものはなし 7なんぢの頬は面帕の後にありて石榴の半片に似たり 8后六十人 妃嬪八十人 數しられぬ處女あり 9わが鴿わが完き者はただ一人のみ 彼はその母の獨子にして產たる者の喜ぶところの者なり 女子等は彼を見て幸福なる者ととなへ后等 妃嬪等は彼を見て讃む 10この晨光のごとくに見えわたり 月のごとくに美はしく 日のごとくに輝やき 畏るべきこと旗をあげたる軍旅のごとき者は誰ぞや 11われ胡桃の園にくだりゆき 谷の青き草木を見 葡萄や芽ししし石榴の花や咲しと見回しをりしに 12意はず知ず我が心われをしてわが貴とき民の車の中間にあらしむ 13歸れ歸れシユラミの婦よ 歸れ歸れ われら汝を觀んことをねがふ なんぢら何とてマハナイムの跳舞を觀るごとくにシユラミの婦を觀んとねがふや

第七章

1君の女よ なんぢの足は鞋の中にありて如何に美はしきかな 汝の腿はまろらかにして玉のごとく 巧匠の手にて作りたるがごとし 2なんぢの臍は美酒の缺ることあらざる圓き杯盤のごとく なんぢの腹は積かさねたる麥のまはりを百合花もてかこめるが如し 3なんぢの兩乳房は牝鹿の雙子なる二の小鹿のごとし 4なんぢの頸は象牙の戍樓の如く 汝の目はヘシボンにてバテラビムの門のほとりにある池のごとく なんぢの鼻はダマスコに對へるレバノンの戍樓のごとし 5なんぢの頭はカルメルのごとく なんぢの頭の髪は紫花のごとし 王その垂たる髪につながれたり 6ああ愛よ もろもろの快樂の中にありてなんぢは如何に美はしく如何に悦ばしき者なるかな 7なんぢの身の長は棕櫚の樹に等しく なんぢの乳房は葡萄のふさのごとし 8われ謂ふこの棕櫚の樹にのぼり その枝に執つかんと なんぢの乳房は葡萄のふさのごとく なんぢの鼻の氣息は林檎のごとく匂はん 9なんぢの口は美酒のごとし わが愛する者のために滑かに流れくだり 睡れる者の口をして動かしむ 10われはわが愛する者につき 彼はわれを戀したふ 11わが愛する者よ われら田舍にくだり 村里に宿らん 12われら夙におきて葡萄や芽ししし莟やいでし石榴の花やさきし いざ葡萄園にゆきて見ん かしこにて我わが愛をなんぢにあたへん 13戀茄かぐはしき香氣を發ち もろもろの佳き果物古き新らしき共にわが戸の上にあり わが愛する者よ我これをなんぢのためにたくはへたり

第八章

1ねがはくは汝わが母の乳をのみしわが兄弟のごとくならんことを われ戸外にてなんぢに遇ふとき接吻せん 然するとも誰ありてわれをいやしむるものあらじ 2われ汝をひきてわが母の家にいたり 汝より教晦をうけん 我かぐはしき酒 石榴のあまき汁をなんぢに飲しめん 3かれが左の手はわが頭の下にあり その右の手をもて我を抱く 4ヱルサレムの女子等よ 我なんぢ等に誓ひて請ふ 愛のおのづから起る時まで殊更に喚起し且つ醒すなかれ 5おのれの愛する者に倚かかりて荒野より上りきたる者は誰ぞや 林檎の樹の下にてわれなんぢを喚さませり なんぢの母かしこにて汝のために劬勞をなし なんぢを產し者かしこにて劬勞をなしぬ 6われを汝の心におきて印のごとくし なんぢの腕におきて印のごとくせよ 其の愛は強くして死のごとく 嫉妬は堅くして陰府にひとし その焔は火のほのほのごとし いともはげしき焔なり 7愛は大水も消ことあたはず 洪水も溺らすことあたはず 人その家の

一切の物をことごとく與へて愛に換んとするとも尚いやしめらるべし 8われら小さき妹子あり 未だ乳房あらず われらの妹子の問聘をうくる日には之に何をなしてあたへんや 9かれもし石垣ならんには我ら白銀の城をその上にたてん 彼もし戸ならんには香柏の板をもてこれを圍まん 10われは石垣わが乳房は戍樓のごとし 是をもてわれは 情をかうむれる者のごとく彼の目の前にありき 11バアルハモンにソロモンの葡萄園をもてり これをその守る者等に あづけおき 彼等をしておのおの銀一千をその果のために 納めしむ 12われ自らの有なる葡萄園われの手にあり ソロモンなんぢは一千を獲よ その果をまもる者も二百を獲べし 13なんぢ園の中に住む者よ 伴侶等なんぢの聲に耳をかたむく 請ふ我にこれを聽しめよ 14わが愛する者よ 請ふ急ぎはしれ 香はしき山々の上にありて獐のごとく 小鹿のごとくあれ

イザヤ書

第一章

1アモツの子イザヤがユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤのときに示されたるユダとエルサレムとに係る異象 2天よきけ地よ耳をかたぶけよ エホバの語りたまふ言あり 曰く われ子をやしなひ育てしにかれらは我にそむけり 3牛はその主をしり驢馬はそのあるじの厩をしる然どイスラエルは識ず わが民はさとらず 4ああ罪ををかせる國人よこしまを負ふたみ 惡をなす者のすゑ 壞りそこなふ種族 かれらはエホバをすてイスラエルの聖者をあなどり之をうとみて退きたり 5なんぢら何ぞかさねがさね悖りて猶撻れんとするか その頭はやまざる所なくその心はつかれはてたり 6足のうらより頭にいたるまで全きところなくただ創痍と打傷と腫物とのみなり 而してこれを合すものなく包むものなく亦あぶらにて軟らぐる者もなし 7なんぢらの國はあれすたれなんぢらの諸邑は火にてやかれなんぢらの田畑はその前にて外人にのまれ既にあだし人にくつがへされて荒廢れたり 8シオンの女はぶだうぞのの廬のごとく瓜田の假舍のごとくまた圍をうけたる城のごとく唯ひとり遺れり 9萬軍のエホバわれらに少しの遺をとどめ給ふことなくば我儕はソドムのごとく又ゴモラに同じかりしならん 10なんぢらソドムの有司よエホバの言をきけ なんぢらゴモラの民よ われらの神の律法に耳をかたぶけよ 11エホバ言たまはくなんぢらが獻ぐるおほくの犧牲はわれに何の益あらんや 我はをひつじの燔祭とこえたるけものの膏とにあけり われは牡牛あるひは小羊あるひは牡山羊の血をよろこばず 12なんぢらは我に見えんとてきたる このことを誰がなんぢらに要めしや 徒らにわが庭をふむのみなり 13むなしき祭物をふたたび携ふることなかれ 燻物はわがにくむところ 新月および安息日また會 衆をよびあつむることも我がにくむところなり なんぢらは聖會に惡を兼ぬ われ容すにたへず 14わが心はなんぢらの新月と節會とをきらふ 是わが重荷なり われ負にうみたり 15我なんぢらが手をのぶるとき目をおほひ 汝等がおほくの祈禱をなすときも聞ことをせじ なんぢらの手には血みちたり 16なんぢら己をあらひ己をきよくしわが眼前よりその惡業をさり 惡をおこなふことを止め 17善をおこなふことをならひ 公平をもとめ虐げらるる者をたすけ 孤子に公平をおこなひ 寡婦の訟をあげつらへ 18エホバいひたまはく 率われらともに論らはん なんぢらの罪は緋のごとくなるも雪のごとく白くなり 紅のごとく赤くとも羊の毛のごとくにならん 19若なんぢら肯ひしたがはば地の美產をくらふことを得べし 20もし汝等こばみそむかば劍にのまるべし 此はエホバその御口よりかたりたまへるなり 21忠信なりし邑いかにして妓女とはなれる 昔しは公平にてみち正義その中にやどりしに今は人をころす者ばかりとなりぬ 22なんぢの白銀は滓となり なんぢの葡萄酒は水をまじへ 23なんぢの長輩はそむきて盜人の伴侶となり おのおの賄賂をよろこび贓財をおひもとめ 孤子に公平をおこなはず 寡婦の訟はかれらの前にいづること能はず 24このゆゑに主萬軍のエホバ、イスラエルの全能者のたまはく 唉われ敵にむかひて念をはらし仇にむかひて報をすべし 25我また手をなんぢの上にそへ なんぢの滓をことごとく淨くし なんぢの鉛をすべて取去り 26なんぢの審士を舊のごとく なんぢの議官を始のごとくに復すべし 然るのちなんぢは正義の邑忠信の邑ととなへられん 27シオンは公平をもてあが

なはれ 歸來るものも正義をもて贖はるべし 28されど愆
ををかすものと罪人とはともに敗れ ヱホバをすつる者も
また亡びうせん 29なんぢらはその喜びたる櫃樹によりて
恥をいだき そのえらびたる園によりて慙赧むべし 30な
んぢらは葉のかるる櫃樹のごとく水なき園のごとくなら
ん 31權勢あるものは麻のごとく その工は火花のごとく
二つのもの一同もえてこれを撲滅すものなし

第二章

1アモツの子イザヤが示されたるユダとヱルサレムとにか
かる言 2すゑの日にヱホバの家の山はもろもろの山のい
ただきに堅立ち もろもろの嶺よりもたかく擧り すべて
の國は流のごとく之につかん 3おほくの民ゆきて相語い
はん 率われらヱホバの山にのぼりヤコブの神の家にゆか
ん 神われらにその道ををしへ給はん われらその路をあ
ゆむべしと そは律法はシオンよりいでヱホバの言はヱル
サレムより出べければなり 4ヱホバはもろもろの國のあ
ひだを鞫き おほくの民をせめたまはん 斯てかれらはそ
の劒をうちかへて鋤となし その鎗をうちかへて鎌となし
國は國にむかひて劍をあげず 戰鬪のことを再びまなばざ
るべし 5ヤコブの家よきたれ 我儕ヱホバの光にあゆまん
6主よなんぢはその民ヤコブの家をすてたまへり 此はか
れらのなかに東のかたの風俗みち 皆ペリシテ人のごとく
陰陽師となり 異邦人のともがらと手をうちて盟をたてし
が故なり 7かれらの國には黃金白銀みちて財寶の數かぎ
りなし かれらの國には馬みちて戰 車のかず限りなし 8
かれらの國には偶像みち 皆おのが手の工その指のつくれ
る者ををがめり 9賤しきものは屈められ尊きものは卑せ
らる かれらを容したまふなかれ 10なんぢ岩間にいり ま
た土にかくれて ヱホバの畏るべき容貌とその稜威の光輝
とをさくべし 11この日には目をあげて高ぶるもの卑せら
れ驕る人かがめられ 唯ヱホバのみ高くあげられ給はん
12そは萬軍のヱホバの一の日あり すべて高ぶる者おごる
者みづからを崇るものの上にのぞみて之をひくくし 13ま
たレバノンのたかく聳たるすべての香柏バシヤンのすべ
ての櫃樹 14もろもろの高山もろもろの聳えたる嶺 15すべ
てのたかき櫓すべての堅固なる石垣 16およびタルシシの
すべての舟すべての慕ふべき美はしきものに臨むべし 17
この日には高ぶる者はかがめられ 驕る人はひくくせられ
唯ヱホバのみ高くあげられ給はん 18かくて偶像はことご
とく亡びうすべし 19ヱホバたちて地を震 動したまふと
き人々そのおそるべき容貌とその稜威の光輝とをさけて
巖の洞と地の穴とにいらん 20その日人々おのが拜せんと
て造れる白銀のぐうざうと黃金のぐうざうとを鼴鼠のあ
な蝙蝠の穴になげすて 21岩々の隙けはしき山峽にいり ヱ
ホバの起て地をふるひうごかしたまふその畏るべき容貌
と稜威のかがやきとを避ん 22なんぢら鼻より息のいでい
りする人に倚ることをやめよ斯るものは何ぞかぞふるに
足らん

第三章

1みよ主ばんぐんのヱホバ、ヱルサレムおよびユダの賴む
ところ倚ところなる凡てその賴むところの糧 すべてその
賴むところの水 2勇士 戰士 審士 預言者 卜筮者 長老 3
五十人の首 貴顯者 議官 藝に長たる者および言語たくみ
なるものを除去りたまはん 4われ童子をもてかれらの君
とし嬰兒にかれらを治めしめん 5民たがひに相虐げ 人お
のおのその隣をしへたげ 童子は老たる者にむかひて高ぶ
り 賤しきものは貴きものに對ひてたかぶらん 6そのとき
人ちちの家にて兄弟にすがりていはん 汝なほ衣あり わ
れらの有司となりてこの荒敗をその手にてをさめよと 7
その日かれ聲をあげていはん 我なんぢらを愈すものとな
るを得じ わが家に糧なくまた衣なし 我をたてて民の
有司とすることなかれと 8是かれらの舌と行爲とはみな
ヱホバにそむきてその榮光の目ををかししが故に ヱル
サレムは敗れユダは仆れたればなり 9かれらの面色はそ
の惡きことの證をなし ソドムのごとくその罪をあらはし
て隱すことをせざるなり かれらの靈魂はわざはひなるか
な自らその惡の報をとれり 10なんぢら義人にいへ かな
らず福祉をうけんと 彼等はそのおこなひの實をくらふべ
ければなり 11惡者はわざはひなる哉かならず災禍をうけ
ん その手の報きたるべければなり 12わが民はをさなごに
虐げられ婦女にをさめらる 唉わが民よなんぢを導くも
のは反てなんぢを迷はせ汝のゆくべき途を絶つ 13ヱホバ
立いでて公理をのべ起てもろもろの民を審判し給ふ 14ヱ
ホバ來りておのが民の長老ともろもろの君とをさばきて
言給はん なんぢらは葡萄園をくひあらせり 貧きものよ
り掠めとりたる物はなんぢらの家にあり 15いかなれば
汝等わが民をふみにじり貧きものの面をすりくだくやと
これ主萬軍のヱホバのみことばなり 16ヱホバまた言給は

くシォンの女輩はおごり 項をのばしてあるき 眼にて媚をおくり 徐々としてあゆみゆくその足にはりんりんと音あり 17このゆゑに主シオンのむすめらの頭をかぶろにしヱホバ彼らの醜 所をあらはし給はん 18その日主かれらが足にかざれる美はしき釧をとり 瓔珞 半 月 飾 19耳環 手釧 面帕 20華冠 脛飾 紳 香盒 符 嚢 21指環 鼻環 22公服 上衣 外 帔 金嚢 23鏡 細布の衣 首帕 被衣などを取除きたまはん 24而して馨はしき香はかはりて臭 穢となり 紳はかはりて繩となり 美はしく編たる髪はかぶろとなり 華かなる衣はかはりて麁布のころもとなり 麗 顔はかはりて烙鐵せられたる痕とならん 25なんぢの男はつるぎにたふれ なんぢの勇士はたたかひに仆るべし 26その門はなげきかなしみ シオンは荒廃れて地にすわらん

第四章

1その日七人のをんな一人の男にすがりていはん 我儕おのれの糧をくらひ己のころもを着るべし ただ我儕になんぢの名をとなふることを許してわれらの恥をとりのぞけと 2その日ヱホバの枝はさかえて輝かん 地よりなりいづるものの實はすぐれ並うるはしくして逃れのこれるイスラエルの益となるべし 3而してシオンに遺れるもの ヱルサレムにとどまれる者 すべて此等のヱルサレムに存ふる者のなかに録されたるものは聖ととなへられん 4そは主さばきするみたまと燒つくす靈とをもてシオンのむすめらの汚をあらひ ヱルサレムの血をその中よりのぞきたまふ期きたるべければなり 5爰にヱホバはシオンの山のすべての住所と もろもろの聚會とのうへに 晝は雲と煙とをつくり夜はほのほの光をつくり給はん あまねく榮のうへに覆庇あるべし 6また一つの假廬ありて 晝はあつさをふせぐ陰となり 暴風と雨とをさけてかくるる所となるべし

第五章

1われわが愛する者のために歌をつくり 我があいするものの葡萄園のことをうたはん わが愛するものは土肥たる山にひとつの葡萄園をもてり 2彼その園をすきかへし石をのぞきて嘉ぶだうをうゑ そのなかに望樓をたて酒榨をほりて嘉葡萄のむすぶを望みまてり 然るに結びたるものは野葡萄なりき 3さればヱルサレムに住るものとユダの人よ 請なんぢら我とわがぶだうぞのとの間をさばけ 4わが葡萄園にわれの作たるほか何のなすべき事ありや 我はよきぶだうの結ぶをのぞみまちしに 何なれば野葡萄をむすびしや 5然ばわれわが葡萄園になさんとすることを汝等につげん 我はぶだうぞのの籬芭をとりさりてその食あらさるるにまかせ その垣をこぼちてその踐あらさるるにまかせん 6我これを荒してふたたび剪ことをせず耕すことをせず棘と荊とをはえいでしめん また雲に命せてそのうへに雨ふることなからしめん 7それ萬軍のヱホバの葡萄園はイスラエルの家なり その喜びたまふところの植物はユダの人なり これに公平をのぞみたまひしに反りて血をながし これに正義をのぞみ給ひしにかへりて號呼あり 8禍ひなるかな彼らは家に家をたてつらね 田圃に田圃をましくはへて 餘地をあまさず 己ひとり國のうちに住んとす 9萬軍のヱホバ我耳につげて宣はく 實におほくの家はあれすたれ大にして美しき家は人のすむことなきにいたらん 10十段のぶだうぞの僅かに一バテをみのり一ホメルの穀種はわづかに一エパを實るべし 11禍ひなるかなかれらは朝つとにおきて濃酒をおひもとめ 夜のふくるまで止まりてのみ 酒にその身をやかるるなり 12かれらの酒宴には琴あり 瑟あり 鼓あり 笛あり 葡萄酒あり されどヱホバの作爲をかへりみずその手のなしたまふところに目をとめず 13斯るが故にわが民は無知にして虜にせられ その貴顯者はうゑ そのもろもろの民は渇によりて疲れはてん 14また陰府はその欲望をひろくし その度られざる口をはる かれらの榮華 かれらの群衆 かれらの饒富 および喜びたのしめる人みなその中におつべし 15賤しき者はかがめられ 貴きものは卑くせられ 目をあげて高ぶる者はひくくせらるべし 16されど萬軍のヱホバは公平によりてあがめられ 聖なる神は正義によりて聖とせられ給ふべし 17而して小羊おのが牧場にあるごとくに草をはみ 豐かなるものの田はあれて旅客にくらはれん 18禍ひなるかな彼等はいつはりを繩となして惡をひき 索にて車をひくごとく罪をひけり 19かれらは云 その成んとする事をいそぎて速かになせ 我儕これを見ん イスラエルの聖者のさだむることを逼來らせよ われらこれを知んと 20禍ひなるかな かれらは惡をよびて善とし善をよびて惡とし 暗をもて光とし光をもて暗とし 苦をもて甘とし甘をもて苦 とする者なり 21わざはひなる哉 かれらは己をみて 智しとし自らかへりみて聰とする者なり 22禍ひなるかな かれらは葡萄酒をのむに丈夫なり 濃酒を和するに勇者なり 23かれらは賄賂によりて惡きものを義となし 義人よりそ

の義をうばふ 24此によりて火舌の刈株をくらふがごとく また枯草の火焔のなかにおつるがごとく その根はくちはてその花は塵のごとくに飛さらん かれらは萬軍のヱホバの律法をすててイスラエルの聖者のことばを蔑したればなり 25この故にヱホバその民にむかひて怒をはなち 手をのべてかれらを撃たまへり 山はふるひうごきかれらの屍は衢のなかにて糞土のごとくなれり 然はあれどヱホバの怒やまずして尚その手を伸したまふ 26かくて旗をたててとほき國々をまねき彼等をよびて地の極より來らしめたまはん 視よかれら趨りて速かにきたるべし 27その中には疲れたふるるものなく眠りまたは寢るものなし その腰の帶はとけずその履の紐はきれず 28その矢は鋭その弓はことごとく張り その馬のひづめは石のごとくその車の輪は疾風のごとしと稱へられん 29その嘷ること獅のごとく また小獅のごとく嘷うなりつつ獲物をつかみて掠去れども之をすくふ者なし 30その日かれらが嘯響めくこと海のなりどよめくがごとし もし地をのぞまば暗と難とありて光は黒雲のなかにくらくなりたるを見ん

第六章

1ウジヤ王のしにたる年われ高くあがれる御座にヱホバの坐し給ふを見しにその衣裾は殿にみちたり 2セラピムその上にたつ おのおの六の翼あり その二をもて面をおほひ その二をもて足をおほひ 其二をもて飛翔り 3たがひに呼いひけるは聖なるかな聖なるかな聖なるかな萬軍のヱホバ その榮光は全地にみつ 4斯よばはる者の聲によりて閾のもとゐ搖うごき家のうちに煙みちたり 5このとき我いへり 禍ひなるかな我ほろびなん 我はけがれたる唇 の民のなかにすみて穢たるくちびるの者なるに わが眼ばんぐんのヱホバにまします王を見まつればなりと 6爰にかのセラピムのひとり鉗をもて壇の上よりとりたる熱炭を手にたづさへて我にとびきたり 7わが口に觸ていひけるは 視よこの火なんぢの 唇 にふれたれば既になんぢの惡はのぞかれ なんぢの罪はきよめられたりと 8我またヱホバの聲をきく曰く われ誰をつかはさん誰かわれらのために往べきかと そのとき我いひけるはわれ此にあり我をつかはしたまへ 9ヱホバいひたまはく 往てこの民にかくのごとく告よ なんぢら聞てきけよ然どさとらざるべし 見てみよ然どしらざるべしと 10なんぢこの民のこころを鈍くしその耳をものうくし その眼をおほへ 恐らくは彼らその眼にて見その耳にてきき その心にてさとり翻へりて醫さるることあらん 11ここに我いひけるは 主よいつまで如此あらんか 主こたへたまはく 邑はあれすたれて住むものなく 家に人なく 邦ことごとく荒土となり 12人々ヱホバに遠方までうつされ 廢りたるところ國 中におほくならん時まで 如此あるべし 13そのなかに十分の一のこる者あれども 此もまた呑つくされん されど聖裔のこりてこの地の根となるべし彼のテレビントまたは橿樹がきらるることありともその根ののこるがごとし

第七章

1ウジヤの子ヨタムその子ユダヤ王アハズのとき アラムの王レヂンとレマリヤの子イスラエル王ペカと上りきたりてヱルサレムを攻しがつひに勝ことあたはざりき 2ここにアラムとエフライムと結 合なりたりとダビデの家につぐる者ありければ 王のこころと民の心とは林 木の風にうごかさるるが如くに動けり 3その時ヱホバ、イザヤに言たまひけるは今なんぢと汝の子シヤルヤシユブと共にいでて布をさらす野の大路のかたはらなる上 池の樋口にゆきてアハズを迎へ 4これに告べし なんぢ 謹みて靜かなれ アラムのレヂン及びレマリヤの子はげしく怒るとも二 の燼餘りたる煙れる片柴のごとし 懼るるなかれ心をよわくするなかれ 5アラム、エフライム及びレマリヤの子なんぢにむかひて惡き謀ごとを企てていふ 6われらユダに攻上りて之をおびやかし我儕のためにこれを破りとり タビエルの子をその中にたてて王とせんと 7されど主ヱホバいひたまはく この事おこなはれずまた成ことなし 8アラムの首はダマスコ、ダマスコの首はレヂンなり エフライムは六十五年のうちに敗れて國をなさざるべし 9またエフライムの首はサマリヤ、サマリヤの首はレマリヤの子なり 若なんぢら信ぜずばかならず立ことを得じと 10ヱホバ再びアハズに告ていひたまはく 11なんぢの神ヱホバに一の豫兆をもとめよ 或はふかき處あるひは上のたかき處にもとめよ 12アハズいひけるは我これを求めじ 我はヱホバを試むることをせざるべし 13イザヤいひけるはダビデのいへよ請なんぢら聞 なんぢら人をわづらはしこれを小事として亦わが神をも煩はさんとするか 14この故に主みづから一の豫兆をなんぢらに賜ふべし 視よをとめ孕みて子をうまん その名をインマヌエルと稱ふべし 15かれ惡をすて善をえらぶことを知ころほひにいたりて乳酥

と蜂蜜とをくらはん 16そはこの子いまだ惡をすて善をえらぶことを知ざるさきになんぢが忌きらふ兩の王の地はすてらるべし 17ヱホバはエフライムがユダを離れし時よりこのかた臨みしことなき日を汝となんぢの民となんぢの父の家とにのぞませ給はん是アツスリヤの王なり 18其日ヱホバ、エジプトなる河々のほとりの蠅をまねきアツスリヤの地の蜂をよびたまはん 19皆きたりて荒たるたに岩穴すべての荊棘すべての牧場のうへに止まるべし 20その日主はかはの外ふより雇へるアツスリヤの王を剃刀として首と足の毛とを剃たまはん また髯をも除きたまふべし 21その日人わかき牝犢ひとつと羊ふたつとを飼をらん 22その出すところの乳おほきによりて乳酥をくらふことを得ん すべて國のうちに遺れるものは乳酥と蜂蜜とをくらふべし 23その日千株に銀一千の價をえたる葡萄ありし處もことごとく荊と棘はえいづべし 24荊とおどろと地にあまねきがゆゑに人々矢と弓とをもて彼處にゆくなり 25鋤をもて掘たがへしたる山々もいばらと棘のために人おそれてその中にゆくことを得じ その地はただ牛をはなち羊にふましむる處とならん

第八章

1ヱホバ我にいひたまひけるは一の大なる牌をとり そのうへに平常の文字にてマヘル シャラル ハシ バズと録せ 2われ信實の證者なる祭司ウリヤおよびエベレキヤの子ゼカリヤをもてその證をなさしむ 3われ預言者の妻にちかづきしとき彼はらみて子をうみければ ヱホバ我にいひたまはく その名をマヘル シャラル ハシ バズと稱へよ 4そはこの子いまだ我が父わが母とよぶことを知らざるうちに ダマスコの富とサマリヤの財寶はうばはれてアツスリヤ王のまへに到るべければなり 5ヱホバまた重て我につげたまへり云く 6この民はゆるやかに流るるシロアの水をすててレヂンとレマリヤの子とをよろこぶ 7此によりて主はいきほひ猛くみなぎりわたる大河の水をかれらのうへに堰入たまはん 是はアツスリヤ王とそのもろもろの威勢とにして 百の支流にはびこり もろもろの岸をこえ 8ユダにながれいり 溢れひろごりてその項にまで及ばん インマヌエルよ そののぶる翼はあまねくなんぢの地にみちわたらん 9もろもろの民よ さばめき騒げなんぢら 摧かるべし 遠きくにぐにの者よ きけ 腰におびせよ 汝等くだかるべし 腰に帶せよ なんぢら摧かるべし 10なんぢら互にはかれ つひに徒勞ならん なんぢら言をいだせ遂におこなはれじ そは神われらとともに在せばなり 11ヱホバつよき手をもて此如われに示し この民の路にあゆまざらんことを我にさとして言給はく 12此民のすべて叛逆ととなふるところの者をなんぢら叛逆ととなふるなかれ彼等のおそるるところを汝等おそるるなかれ慴くなかれ 13なんぢらはただ萬軍のヱホバを聖としてこれを畏みこれを恐るべし 14然らばヱホバはきよき避所となりたまはん 然どイスラエルの兩の家には躓く石となり妨ぐる磐とならん ヱルサレムの民には網罟となり機濫とならん 15おほくの人々これによりて蹶きかつ仆れやぶれ 網せられまた捕へらるべし 16證詞をつかね律法をわが弟子のうちに封べし 17いま面をおほひてヤコブの家をかへりみ給はずといへども 我そのヱホバを待そのヱホバを望みまつらん 18視よわれとヱホバが我にたまひたる子輩とはイスラエルのうちの豫兆なり奇しき標なり 此はシオンの山にいます萬軍のヱホバの與へたまふ所なり 19もし人なんぢらにつげて巫女および魔術者のさえづるがごとく細語がごとき者にもとめよといはば民はおのれの神にもとむべきにあらずや いかで活者のために死者にもとむることを爲んといへ 20ただ律法と證詞とを求むべし 彼等のいふところ此言にかなはずば晨光あらじ 21かれら國をへあるきて苦みうゑん その饑るとき怒をはなち己が王おのが神をさして誼ひかつその面をうへに向ん 22また地をみればなやみ艱難と幽暗とくるしみの闇とあり かれらは昏黒におひやられん

第九章

1今くるしみを受れども後には闇なかるべし 昔しはゼブルンの地ナフタリの地をあなどられしめ給ひしかど 後には海にそひたる地ヨルダンの外の地 ことくに人のガリラヤに榮をうけしめ給へり 2幽暗をあゆめる民は大なる光をみ 死蔭の地にすめる者のうへに光てらせり 3なんぢ民をましその歡喜を大にしたまひければ かれらは收穫時によろこぶがごとく掠物をわかつときに樂むがごとく汝の前によろこべり 4そは汝かれらがおへる軛とその肩の笞と虐ぐるものの杖とを折り これを折りてミデアンの日のごとくなし給ひたればなり 5すべて亂れたたかふ兵士のよろひと血にまみれたる衣とはみな火のもえくさとなりて焚るべし 6ひとりの嬰兒われらのために生れたり 我儕

はひとりの子をあたへられたり 政事はその肩にあり その名は奇妙また議士 また大能の神とこしへのちち 平和の君ととなへられん 7その政事と平和とはましくははりて窮りなし 且ダビデの位にすわりてその國ををさめ今よりのちとこしへに公平と正義とをもてこれを立これを保ちたまはん 萬軍のヱホバの熱心これを成たまふべし 8主一言をヤコブにおくり之をイスラエルの上にのぞませ給へり 9すべてのこの民エフライムとサマリヤに居るものとは知ならん かれらは高ぶり誇る心をもていふ 10瓦くづるるともわれら斫石をもて建 くはの木きらるるともわれら香柏をもて之にかへんと 11この故にヱホバ、レヂンの敵をあげもちゐてイスラエルを攻しめ その仇をたけび勇しめたまはん 12前にアラム人あり後にペシリテ人あり口をはりてイスラエルを呑んとす 然はあれどヱホバの怒やまずして尚その手をのばしたまふ 13然どこの民はおのれをうつものに歸らず萬軍のヱホバを求めず 14斯るゆゑにヱホバ一日のうちに首と尾と椰櫚のえだと葦とをイスラエルより斷切たまはん 15その首とは老たるもの尊きもの その尾とは謊言をのぶる預言者をいふなり 16この民をみちびく者はこれを迷はせその引導をうくる者はほろぶるなり 17このゆゑに主はその少壯者をよろこびたまはず その孤兒と寡婦とを憐みたまはざるべし 是その民はことごとく邪まなり惡をおこなふ者なり おのおのの口は愚かなる言をかたればなり 然はあれどヱホバの怒やまずして尚その手をのばしたまふ 18惡は火のごとくもえ棘と荊とを食つくし茂りあふ林をやくべければみな煙となりむらがりて上騰らん 19萬軍のヱホバの怒によりて地はくろく燒 その民は火のもえくさとなり人々たがひに相憐むことなし 20人みぎに攫めどもなほ饑 ひだりに食へどもなほあかず おのおのその腕の肉をくらふべし 21マナセはエフライムを エフライムはマナセをくらひ 又かれら相合てユダを攻めん 然はあれどヱホバの怒やまずして尚その手をのばしたまふ

第十章

1不義のおきてをさだめ暴虐のことばを録すものは禍ひなるかな 2かれらは乏きものの訴をうけず わが民のなかの貧しきものの權利をはぎ寡婦の資産をうばひ孤兒のものを掠む 3なんぢら懲しめらるる日きたらば何をなさんとするか 敗壞とほきより來らんとき何をなさんとするか なんぢら逃れゆきて誰にすくひを求めんとするか また何處になんぢらの榮をのこさんとするか 4ただ縛められたるものの下にかがみ 殺されたるもののしたに伏仆れんのみ 然はあれどヱホバのいかり止ずして尚ほその手をのばしたまふ 5咄アツスリヤ人 なんぢはわが怒の杖なり その手の笞はわが忿恚なり 6われ彼をつかはして邪曲なる國をせめ我かれに命じて我がいかれる民をせめてその所有をかすめその財寶をうばはしめ かれらを街の泥のごとくに蹂躪らしめん 7されどアツスリヤ人のこころざしは斯のごとくならず その心の念もまた斯のごとくならず そのこころは敗壞をこのみ あまたの國をほろぼし絶ん 8かれ云 わが諸侯はみな王にあらずや 9カルノはカルケミシの如く ハマテはアルパデの如く サマリヤはダマスコの如きにあらずや 10わが手は偶像につかふる國々を得たり その彫たる像はエルサレムおよびサマリヤのものに勝れたり 11われ既にサマリヤとその偶像とに行へるごとく亦エルサレムとその偶像とにおこなはざる可んやと 12このゆゑに主いひたまふ 我シオンの山とエルサレムとに爲んとする事をことごとく遂をはらんとき 我アツスリヤ王のおごれる心の實とその高ぶり仰ぎたる眼とを罰すべし 13そは彼いへらく われ手の力と智慧とによりて之をなせり 我はかしこし 國々の境をのぞき その獲たるものをうばひ 又われは丈夫にしてかの位に坐するものを下したり 14わが手もろもろの民のたからを得たりしは巣をとるが如く また天が下を取收めたりしは遺しすてたる卵をとりあつむるが如くなりき あるひは翼をうごかし あるひは口をひらき あるひは喃々する者もなかりしなりと 15斧はこれをもちゐて伐ものにむかひて己みづから誇ることをせんや 鋸は これを動かす者にむかひて己みづから高ぶることをせんや 此はあだかも笞がおのれを擧るものを動かし杖みづから木にあらざるものを擧んとするにひとし 16このゆゑに主萬軍のヱホバは肥たるものを瘠しめ 且その榮光のしたに火のもゆるが如き火焔をおこし給はん 17イスラエルの光は火のごとく その聖者はほのほの如くならん 斯て一日のうちに荊とおどろとを燒ほろぼし 18又かの林と土肥たる田圃の榮をうせしめ 靈魂をも身をもうせしめて病るものの衰へたるが如くなさん 19かつ林のうちに殘れる木わづかにして童子も算へうるが如くになるべし 20その日イスラエルの遺れる者とヤコブの家ののがれたる者とは再びおのれを撃し者にたよらず誠意をもてイ

スラエルの聖者ヱホバにたよらん 21その遺れるものヤコブの遺れるものは大能の神にかへるべし 22ああイスラエルよ なんぢの民は海の沙のごとしといへども遺りて歸りきたる者はただ僅少ならん そは敗壞すでにさだまり義にて溢るべければなり 23主萬軍のヱホバの定めたまへる敗壞はこれを徧く國内におこなひ給ふべし 24このゆゑに主萬軍のヱホバいひたまはく シオンに住るわが民よアツスリヤ人エジプトの例にならひ笞をもて汝をうち杖をあげて汝をせむるとも懼るるなかれ 25ただ頃刻にして忿恚はやまん 我がいかりは彼等をほろぼして息ん 26萬軍のヱホバむかしミデアン人をオレブの巖のあたりにて撃たまひしごとくに禍害をおこして之をせめ 又その杖を海のうへに伸しエジプトの例にしたがひてこれを擧たまはん 27その日かれの重荷はなんぢの肩より下 かれの軛はなんぢの頸よりはなれ その軛はあぶらの故をもて壞れん 28かれアイにきたりミグロンを過ミクマシにてその輜重をとどめ 29渡口をすぎてゲバに宿る ここに於てラマはをののきサウルギベア人は逃れはしれり 30ガリムの女よなんぢ聲をあげて叫べ ライシよ耳をかたぶけて聽け アナトテよなんぢも聲をあげよ 31マデメナはさすらひゲビムの民はのがれ走れり 32この日かれノブに立とどまり シオンのむすめの山ヱルサレムの岡にむかひて手をふりたり 33主ばんぐんのヱホバは雄々しくたけびてその枝を斷たまはん 丈高きものは伐おとされ聳えたる者はひくくせらるべし 34また鋮をもて茂りあふ林をきり給はん レバノンは能力あるものに倒さるべし

第十一章

1ヱツサイの株より一つの芽いで その根より一つの枝はえて實をむすばん 2その上にヱホバの靈とどまらん これ智慧聰明の靈 謀略才能の靈 知識の靈 ヱホバをおそるるの靈なり 3かれはヱホバを畏るるをもて歡樂とし また目みるところによりて審判をなさず 耳きくところによりて斷定をなさず 4正義をもて貧しき者をさばき 公平をもて國のうちの卑しき者のために斷定をなし その口の杖をもて國をうちその口唇の氣息をもて惡人をころすべし 5正義はその腰の帶となり 忠信はその身のおびとならん 6おほかみは小羊とともにやどり 豹は小山羊とともにふし 犢 をじし 肥たる家畜ともに居てちひさき童子にみちびかれ 7牝牛と熊とはくひものを同にし 熊の子と牛の子とともにふし 獅はうしのごとく藁をくらひ 8乳兒は毒蛇のほらにたはふれ 乳ばなれの兒は手をまむしの穴にいれん 9斯てわが聖山のいづこにても害ふことなく傷ることなからん そは水の海をおほへるごとくヱホバをしるの知識地にみつべければなり 10その日ヱツサイの根たちてもろもろの民の旗となり もろもろの邦人はこれに服ひきたり 榮光はそのとどまる所にあらん 11その日主はまたふたたび手をのべてその民ののこれる僅かのものをアツスリヤ、エジプト、パテロス、エテオピア、エラム、シナル、ハマテおよび海のしまじまより贖ひたまふべし 12ヱホバは國々の爲に旗をたててイスラエルの逐やられたる者をあつめ 地の四極よりユダの散失たるものを集へたまはん 13またエフライムの猜はうせ ユダを惱ますものは斷れ エフライムはユダをそねまず ユダはエフライムを惱ますことなかるべし 14かれらは西なるペリシテ人の境にとびゆき相共にひがしの子輩をかすめ その手をエドムおよびモアブにのべアンモンの子孫をおのれに服はしめん 15ヱホバ、エジプトの海汊をからし河のうへに手をふりて熱風をふかせ その河をうちて七の小流となし 履をはきて渉らしめたまはん 16斯てその民ののこれる僅かのものの爲にアツスリヤより來るべき一つの大路あり 昔しイスラエルがエジプトの地よりいでし時のごとくなるべし

第十二章

1その日なんぢ言ん ヱホバよ我なんぢに感謝すべし 汝さきに我をいかり給ひしかどその怒はやみて我をなぐさめたまへり 2視よ神はわが救なり われ依賴ておそるるところなし 主ヱホバはわが力わが歌なり ヱホバは亦わが救となりたまへりと 3此故になんぢら欣喜をもて救の井より水をくむべし 4その日なんぢらいはん ヱホバに感謝せよ その名をよべ その行爲をもろもろの民の中につたへよ その名のあがむべきことを語りつげよと 5ヱホバを頌うたへ そのみわざは高くすぐれたればなり これを全地につたへよ 6シオンに住るものよ聲をあげてよばはれ イスラエルの聖者はなんぢの中にて大なればなり

第十三章

1アモツの子イザヤが示されたるバビロンにかかる重負の預言 2なんぢらかぶろの山に旗をたて聲をあげ手をふり彼等をまねきて貴族の門にいらしめよ 3われ既にきよめ別ちたるものに命じ わが丈夫ほこりかにいさめる者をよ

びて わが怒をもらさしむ 4山におほくの人の聲きこゆ 大なる民あるがごとし もろもろの國民のよりつどひて喧めく聲きこゆ これ萬軍のヱホバたたかひの軍兵を召したまふなり 5かれらはとほき國より天の極よりきたる これヱホバとその忿恚をもらす器とともに全國をほろぼさんとて來るなり 6なんぢら泣號ぶべしヱホバの日ちかづき全能者よりいづる敗亡きたるべければなり 7この故にすべての手はたれ凡の人のこころは消ゆかん 8かれら慄きおそれ艱難と憂とにせまられ 子をうまんとする婦のごとく苦しみ互におどろき 相みあひてその面は燄のごとくならん 9視よヱホバの日苛くして忿恚とはげしき怒とをもて來り この國をあらしその中よりつみびとを絶滅さん 10天のもろもろの星とほしの宿は光をはなたず 日はいでてくらく月は その光をかがやかさざるべし 11われ惡ことのために世をつみし 不義のために惡きものをばつし 驕れるものの誇をとどめ 暴ぶるものの傲慢をひくくせん 12われ人をして精金よりもすくなくオフルの黄金よりも少なからしめん 13かくて亦われ萬軍のヱホバの忿恚のとき烈しき怒りの日に天をふるはせ地をうごかしてその處をうしなはしむべし 14かれらは逐るる鹿のごとく集むるものなき羊のごとくなりて各自おのれの民にかへりおのれの國にのがれゆかん 15すべて其處にあるもの見出さるれば 刺れ 拘留らるるものは劍にたふされ 16彼等の嬰兒はその目前にてなげくだかれ その家財はかすめうばはれその妻はけがさるべし 17視よわれ白銀をもかへりみず黄金をもよろこばざるメデア人をおこして之にむかはしめん 18かれらは弓をもて若きものを射くだき腹の實をあはれむことなく 小子をみてをしむことなし 19すべての國の中にてうるはしくカルデヤ人がほこり飾となせるバビロンはむかし神にほろぼされたるソドム、ゴモラのごとくならん 20ここに住むもの永くたえ世々にいたるまで居ものなく アラビヤ人もかしこに幕屋をはらず牧人もまたかしこにはその群をふさすることなく 21ただ猛 獣かしこにふし 吼るものその家にみち 鴕鳥かしこにすみ牡山羊かしこに躍らん 22豺狼その城のなかになき野犬えいぐわの宮にさけばん その時のいたるは近きにあり その日は延ることなかるべし

第十四章

1ヱホバ、ヤコブを憐みイスラエルをふたたび撰びて之をおのれの地におきたまはん 異邦人これに加りてヤコブの家にむすびつらなるべし 2もろもろの民はかれらをその處にたづさへいたらん而してイスラエルの家はヱホバの地にてこれを奴 婢となし曩におのれを虜にしたるものを虜にし おのれを虐げたるものを治めん 3ヱホバなんぢの憂と艱難とをのぞき 亦なんぢが勤むるからき役をのぞきて安息をたまふの日 4なんぢこの歌をとなへバビロン王をせめていはん虐ぐる者いかにして息みしや 金をはたる者いかにして息みしやと 5ヱホバあしきものの笞ともろもろの有司の杖とををりたまへり 6かれらは怒をもてもろもろの民をたえず撃てはうち 忿恚をもてもろもろの國ををさむれど その暴虐をとどむる者なかりき 7今は全地やすみを得おだやかを得 ことごとく聲をあげてうたふ 8實にまつの樹およびレバノンの香柏さへもなんぢの故により歡びていふ 汝すでに仆たれば樵夫のぼりきたりてわれらを攻ることなしと 9下の陰府はなんぢの故により動きて汝のきたるをむかへ世のもろもろの英雄の亡靈をおこし國々のもろもろの王をその位より起おこらしむ 10かれらは皆なんぢに告ていはん 汝もわれらのごとく弱くなりしや 汝もわれらと同じくなりしやと 11なんぢの榮華となんぢの琴の音はすでに陰府におちたり 蛆なんぢの下にしかれ蚯蚓なんぢをおほふ 12あしたの子 明 星よいかにして天より隕しや もろもろの國をたふしし者よいかにして斫れて地にたふれしや 13汝さきに心 中におもへらく われ天にのぼり我くらゐを神の星のうへにあげ北の極なる集會の山にざし 14たかき雲漢にのぼり至上者のごとくなるべしと 15然どなんぢは陰府におとされ坑の最下にいれられん 16なんぢを見るものは熟々なんぢを視なんぢに目をとめていはん この人は地をふるはせ列國をうごかし 17世を荒野のごとくし もろもろの邑をこぼち捕へたるものをその家にときかへさざりしものなるかと 18もろもろの國の王たちはことごとく皆たふとき狀にておのおのその家にねぶる 19然どなんぢは忌きらふべき枝のごとく おのが墓のそとにすてられその周圍には劍にて刺ころされ坑におろされ 石におほはれたる者ありて踐つけらるる屍にことならず 20汝おのれの國をほろぼし おのれの民をころししが故に かれらとおなじく葬らるることあたはず それ惡をおこなふものの裔はとこしへに名をよ

ばるることなかるべし 21先祖のよこしまの故をもて その子孫のために戮場をそなへ 彼等をしてたちて地をとり世界のおもてに邑をみたすことなからしめよ 22萬軍のヱホバのたまはく 我立てかれらを攻めバビロンよりその名と遺りたるものとを絶滅し その子その孫をたちほろぼさんと これヱホバの聖言なり 23われバビロンを刺蝟のすみかとし沼とし且ほろびの箒をもてこれを掃除かんとこれ萬軍のヱホバのみことばなり 24萬軍のヱホバ誓をたてて言給はくわがおもひし事はかならず成 わがさだめし事はかならず立ん 25われアツスリヤ人をわが地にてうちやぶり わが山々にてふみにじらん ここにおいて彼がおきし軛はイスラエル人よりはなれ 彼がおはせし重負はイスラエル人の肩よりはなるべし 26これは全地のことにつきて定めたる謀略なり 是はもろもろの國のうへに伸したる手なり 27萬軍のヱホバさだめたまへり誰かこれを破ることを得んや その手をのばしたまへり誰かこれを押返すことを得んや 28アハズ王の死たる年おもにの預言ありき 29曰く ペリシテの全地よなんぢをうちし杖をれたればとて喜ぶなかれ 蛇の根より蝮いでその果はとびかける巨蛇となるべければなり 30いと貧しきものはものくひ乏しきものは安然にふさん われ饑饉をもてなんぢの根をしなせ汝がのこれる者をころすべし 31門よなげけ邑よさけべ ペリシテよなんぢの全地きえうせたり そはけぶり北よりいできたり その軍兵の列におくるるものなし 32その國の使者たちに何とこたふべきや 答へていはん ヱホバ、シオンの基をおきたまへり その民のなかの苦しむものは避所をこの中にえん

第十五章

1モアブにかかる重負のよげん 曰く／モアブのアルは一夜の間にあらされて亡びうせ モアブのキルは一夜のまに荒されてほろびうせん 2かれバイテおよびデボンの高所にのぼりて哭き モアブはネボ及びメデバの上にてなげきさけぶ おのおのその頭を禿にしその鬚をことごとく剃たり 3かれら麁服をきてその衢にあり 屋蓋または廣きところにて皆なきさけび悲しむこと甚だし 4ヘシボンとエレアレと叫びてその聲ヤハズにまで聞ゆ この故にモアブの軍兵こゑをあげ その靈魂うちに在てをののけり 5わが心モアブのために叫びよばはれり その貴族はゾアルおよびヱグラテシリシヤにのがれ 哭つつルヒテの坂をのぼり ホロナイムの途にて敗亡の聲をあぐ 6ニムリムの水はかわき草はかれ苗はつきて緑蔬あらず 7このゆゑに彼等はその獲たる富とその藏めたる物をたづさへて柳の河をわたらん 8その泣號のこゑはモアブの境をめぐり悲歎のこゑはエグライムにいたり なげきの聲はベエルエリムにいたる 9デモンの水は血にて充 われデモンの上にひとしほ禍害をくはへ モアブの遁れたる者とこの地の遺りたるものとに獅をおくらん

第十六章

1なんぢら荒野のセラより羔羊をシオンの女の山におくりて國の首にをさむべし 2モアブの女輩はアルノンの津にありてさまよふ鳥のごとく巣をおはれたる雛のごとくなるべし 3相謀りて審判をおこなひ 亭午にもなんぢの蔭を夜のごとくならしめ 驅逐人をかくし 遁れきたるものを顯はすなかれ 4わが驅逐人をなんぢとともに居しめ 汝モアブの避所となりて之をそこなふ者のまへより脱れしめよ 勒索者はうせ害ふものはたえ暴虐者は地より絶れん 5ひとつの位あはれみをもて堅くたち眞實をおこなふ者そのうへに坐せん 彼ダビデの幕屋にをりて審判をなし公平をもとめて義をおこなふに速し 6われらモアブの傲慢をきけり その高ぶること甚だし われらその誇とたかぶりと忿恚とをきけり その大言はむなし 7この故にモアブはモアブの爲になきさけび民みな哭さけぶべし なんぢら必らず甚だしく心をいためてキルハレステの乾葡萄のためになげくべし 8そはヘシボンの畑とシブマのぶだうの樹とは凋みおとろへたり その枝さきにはヤゼルにまでいたりて荒野にはびこりのびて海をわたりしが 國々のもろもろの主その美はしき枝ををりたり 9この故にわれヤゼルの哭とひとしくシブマの葡萄の樹のためになかんヘシボンよエレアレよわが涙なんぢをひたさん そは闘聲なんぢが果物なんぢが收穫の實のうへにおちきたればなり 10欣喜とたのしみとは土肥たる畑より取さられ葡萄園には謳ふことなく歡呼ばふことなく酒榨にはふみて酒をしぼるものなし 我そのよろこびたつる聲をやめしめたり 11このゆゑにわが心腸はモアブの故をもて琴のごとく鳴ひびき キルハレスの故をもてわが衷もまた然り 12モアブは高處にいでて倦つかれその聖所にきたりて祈るべけれど驗あらじ 13こはヱホバが曩にモアブに就てかたりたまへる聖言なり 14されど今ヱホバかたりて言たま

はくモアブの榮はその大なる群衆とともに傭人の期にひとしく 三年のうちに恥かしめをうけ 遺れる者はなはだ少なくして力なからん

第十七章

1ダマスコにかかはる重負の預言 いはく／視よダマスコは邑のすがたをうしなひて荒墟となるべし 2アロエルの諸邑はすてられん獣畜のむれそこにすみてその伏やすめるをおびやかす者もなからん 3エフライムの城はすたりダマスコの政治はやみ スリアの遺れる者はイスラエルの子輩のさかえのごとく消うせん 是は萬軍のヱホバの聖言なり 4その日ヤコブの榮はおとろへその肥たる肉はやせて 5あだかも收穫人の麥をかりあつめ腕をもて穗をかりたる後のごとくレパイムの谷に穗をひろひたるあとの如くならん 6されど橄欖樹をうつとき二つ三の核を 杪にのこし あるひは四つ五をみのりおほき樹の外面のえだに遺せるが如く採のこさるるものあるべし 是イスラエルの神ヱホバの聖言なり 7その日人おのれを造れるものを仰ぎのぞみイスラエルの聖者に目をとめん 8斯ておのれの手の工なる祭壇をあふぎ望まず おのれの指のつくりたるアシラの像と日の像とに目をとめじ 9その日かれが堅固なるまちまちは 昔イスラエルの子輩をさけてすてさりたる森のなか嶺のうへに今のこれる荒跡のごとく荒地となるべし 10そは汝おのがすくひの神をわすれ 己がちからとなるべき磐を心にとめざりしによる このゆゑになんぢ美くしき植物をうゑ異やうの枝をさし 11かつ植たる日に籬をまはし朝に芽をいださしむれども 患難の日といたましき憂の日ときたりて收穫の果はとびさらん 12唉おほくの民はなりどよめけり海のなりどよめく如くかれらも鳴動めけり もろもろの國はなりひびけり大水のなりひびくが如くかれらも鳴響けり 13もろもろの國はおほくの水のなりひびくがごとく鳴響かん されど神かれらを攻たまふべし かれら遠くのがれて風にふきさらるる山のうへの粃糠のごとく また旋風にふきさらるる塵のごとくならん 14視よゆふぐれに恐怖あり いまだ黎明にいたらずして彼等は亡たり これ我儕をかすむる者のうくべき報われらを奪ふもののひくべき鬮なり

第十八章

1唉エテオピアの河の彼方なるさやさやと羽音のきこゆる地 2この地兼のふねを水にうかべ海路より使者をつかはさんとてその使者にいへらく 疾走る使よなんぢら河々の流のわかるる國にゆけ丈たかく肌なめらかなる 始めより今にいたるまで懼るべく繩もてはかり人を踐にじる民にゆけ 3すべて世にをるもの地にすむものよ 山のうへに旗のたつとき汝等これを見ラッパの鳴響くときなんぢら之をきけ 4そはヱホバわれに如此いひ給へりいはく 空はれわたり日てり收穫の熱むしてつゆけき雲のたるる間われわが居所にしづかに居てながめん 5收穫のまへにその芽またく生その花ぶだうとなりて熟せんとするとき かれ鎌をもて蔓をかり枝をきり去ん 6斯てみな山のたけきとりと地の獣とになげあたへらるべし 猛鳥そのうへにて夏をすごし地のけものその上にて冬をわたらん 7そのとき河々の流のわかるる國の丈たかく肌なめらかなる 始めより今にいたるまで懼るべく繩もてはかり人をふみにじる民より 萬軍のヱホバにささぐる禮物をたづさへて萬軍のヱホバの聖名のところシオンの山にきたるべし

第十九章

1エジプトにかかる重負のよげん いはく／ヱホバははやき雲にのりてエジプトに來りたまふ エジプトのもろもろの偶像はその前にふるひをののき エジプト人のこころはその衷にて消ゆかん 2我エジプト人をたけび勇ましめてエジプト人を攻しめん斯てかれら各自その兄弟をせめおのおのその鄰をせめ 邑は邑をせめ國はくにを攻べし 3エジプト人の靈魂うせてその中むなしくならん われその謀略をほろぼすべし かれらは偶像および呪文をとなふるもの巫女魔術者にもとむることを爲ん 4われエジプト人を苛酷なる主人の手にわたさん あらあらしき王かれらを治むべし是主萬軍のヱホバの聖言なり 5海の水はつき河もまた涸てかわかん 6また河々はくさき臭をはなちエジプトの埠はみな漸次にへりてかわき葦と蘆とかれはてん 7ナイルのほとりの草原ナイルの岸にほどちかき所すべてナイルの最寄にまきたる者はことごとく枯てちりうせん 8漁者もまた歎き すべてナイルに釣をたるる者はかなしみ網を水のうへに施ものはおとろふべし 9練たる麻にて物つくるもの白布を織ものは恥あわて 10その柱はくだけ一切のやとはれたる者のこころ憂ひかなしまん 11誠やゾアンの諸侯は愚なりパロの最もかしこき議官のはかりごとは癡鈍べし 然ばなんぢら何でパロにむかひて我はかしこきものの子 われは古への王の子なりといふを得ん

や 12なんぢの智 者いづくにありや 彼らもし萬軍のヱホバの定めたまひしエジプトに係はることを暁得ばこれをなんぢに告るこそよけれ 13ゾアンのもろもろの諸侯は愚かなり ノフの諸侯は惑ひたり かれらはエジプトのもろもろの支派の隅石なるに却てエジプトをあやまらせたり 14ヱホバ曲れる心をその中にまじへ給ひしにより 彼等はエジプトのすべて作ところを謬らせ恰かも酔る人の哇吐ときによろめくが如くならしめたり 15エジプトにて或は首あるひは尾あるひは椰櫚のえだまたは葦すべてその作ところの工なかるべし 16その日エジプトは婦女のごとくならん 萬軍のヱホバの動かしたまふ手のその上にうごくが故におそれをののくべし 17ユダの地はエジプトに懼れらる この事をかたりつぐれば聴くもの皆おそる これ萬軍のヱホバ、エジプトに對ひて定めたまへる謀略の故によるなり 18その日エジプトの地に五の邑あり カナンの方言をかたりまた萬軍のヱホバに誓ひをたてん その中のひとつは日邑ととなへらるべし 19その日エジプトの地の中にヱホバをまつる一つの祭壇あり その境にヱホバをまつる一 柱あらん 20これエジプトの地にて萬軍のヱホバの徴となり證となるなり かれら暴虐者の故によりてヱホバに號求むべければ ヱホバは救ふもの護るものを遣してこれを助けたまはん 21ヱホバおのれをエジプトに知せたまはん その日エジプト人はヱホバをしり犠牲と祭物とをもて之につかへん 誓願をヱホバにたてて成とぐべし 22ヱホバ、エジプトを撃たまはん ヱホバこれを撃これを醫したまふ この故にかれらヱホバに歸らん ヱホバその懇求をいれて之をいやし給はん 23その日エジプトよりアツスリヤにかよふ大路ありて アツスリヤ人はエジプトにきたり エジプト人はアツスリヤにゆき エジプト人とアツスリヤ人と相共につかふることをせん 24その日イスラエルはエジプトとアツスリヤとを共にし三あひならび地のうへにて福祉をうくる者となるべし 25萬軍のヱホバこれを祝して言たまはく わが民なるエジプトわが手の工なるアツスリヤわが產業なるイスラエルは福ひなるかな

第二十章

1アツスリヤのサルゴン王タルタンを遣してアシドドにゆかしむ 彼がアシドドを攻てとりし年にあたり 2この時ヱホバ、アモツの子イザヤに托てかたりたまはく 往なんぢの腰よりあらたへの衣をとき汝の足より履をぬげ ここに於てかれその如くなし赤裸跣足にて歩めり 3ヱホバ言 給く わが僕イザヤは三年の間はだかはだしにてあゆみ エジプトとエテオピアとの豫兆となり奇しき標となりたり 4斯のごとくエジプトの虜とエテオピアの俘 囚とはアツスリヤの王にひきゆかれ その若きも老たるもみな赤裸跣足にて 臀までもあらはしエジプトの恥をしめすべし 5かれらはその恃とせるエテオピアその誇とせるエジプトのゆゑをもて懼れはぢん 6その日この濱邊の民いはん 視よ われらの恃とせる國われらが遁れゆきて助をもとめアツスリヤ王の手より救出されんとせし國すでに斯のごとし 我儕はいかにして脱かるるを得んやと

第二十一章

1うみべの荒野にかかる重負のよげん いはく／荒野よりおそるべき地より南のかたの暴風のふきすぐるが如くきたれり 2われ苛き默示をしめされたり 欺騙者はあざむき荒すものはあらすべし エラムよ上れメデアよかこめ 我すでにすべての歎息をやめしめたり 3この故にわが腰は甚だしくいたみ 產にのぞめる婦人の如き苦しみ我にせまれり われ悶へ苦しみて聞ことあたはず我をののきて見ことあたはず 4わが心みだれまどひて慴き怖ること甚だし わが樂しめる夕はかはりて懼れとなりぬ 5彼らは席をまうけ筵をしきてくひのみす もろもろの君よたちて盾にあぶらぬれ 6ヱホバかく我にいひ給へり 汝ゆきて斥候をおきその見るところを告しめよ 7かれ馬にのりて二列にならび來るものを見 また驢馬にのりたると駱駝にのりたるとをみば 耳をかたぶけて詳細にきくことをせしめよと 8かれ獅の如く呼はりて曰けるは わが主よわれ終日やぐらに立よもすがら斥候の地にたつ 9馬にのりて二列にならびたる者きたれり 彼こたへていはくバビロンは倒れたり 倒れたりそのもろもろの神の像はくだけて地にふしたり 10蹂躙らるるわが民よわが打場のたなつものよ 我イスラエルの神萬軍のヱホバに聞るところのものを汝につげたり 11ドマに係るおもにの預言 いはく／人ありセイルより我をよびていふ 斥候よ夜はなにのときぞ 斥候よ夜はなにの時ぞ 12ものみ答へていふ 朝きたり夜またきたる 汝もしとはんとおもはば問 なんぢら歸りきたるべし 13アラビヤにかかる重負のよげん 曰く／デダンの客 商よなんぢらはアラビヤの林にやどらん 14テマの地のたみよ

水をたづさへて渇ける者をむかへ糧をもて逃遁れたるものを迎へよ 15かれらは刃をさけ既にぬきたる劍すでに張たる弓およびたたかひの艱難をさけて逃きたれり 16そは主われにいひたまはく 傭人の期にひとしく一年のうちにケダルのすべての榮華はつきはてん 17そののこれる弓士のかずとケダルの子孫のますらをとは少なかるべし 此はイスラエルの神ヱホバのかたり給へるなり

第二十二章

1異象の谷にかかる重負のよげん 曰く／なんぢら何故にみな屋蓋にのぼれるか 2汝はさわがしく喧すしき邑ほこりたのしむ邑 なんぢのうちの殺されたるものは劍をもて殺されしにあらず 亦たたかひにて死しにもあらず 3なんぢの有司はみな共にのがれゆきしかど弓士にいましめられ 汝の民はとほくにげゆきしかど見出されて皆ともに縛められたり 4この故にわれいふ回顧てわれを見るなかれ 我いたく哭かなしまん わが民のむすめの害はれたるによりて我をなぐさめんと勉むるなかれ 5そは主萬軍のヱホバ異象のたにに騒亂ふみにじり惶 惑の日をきたらせたまふ 垣はくづれ號呼のこゑは山々にきこゆ 6エラムは箙をおひたり 歩兵と騎兵とありキルは盾をあらはせり 7かくて戰 車はなんぢの美しき谷にみち 騎兵はその門にむかひてつらなれり 8ユダの庇護はのぞかる その日なんぢは林のいへの武具をあふぎのぞめり 9なんぢらダビデのまちの壞おほきを見る なんぢら下のいけの水をあつめ 10またヱルサレムの家をかぞへ且その家をこぼちて垣をかたくし 11一つの水坑をかきとかきとの間につくりて古池の水をひけりされどこの事をなし給へるものを仰望まず この事をむかしより營みたまへる者をかへりみざりき 12その日主萬軍のヱホバ命じて哭かなしみ首をかぶろにし麁服をまとへと仰せたまひしかど 13なんぢらは喜びたのしみ牛をほふり羊をころし肉をくらひ酒をのみていふ 我儕くらひ且のむべし明日はしぬべければなりと 14萬軍のヱホバ默示をわが耳にきかしめたまはく まことにこの邪曲はなんぢらが死にいたるまで除き清めらるるを得ずと これ主萬軍のヱホバのみことばなり 15主ばんぐんのヱホバ如此のたまふ ゆけ宮ををさめ庫をつかさどるセブナにゆきていへ 16なんぢここに何のかかはりありや また茲にいかなる人のありとして己がために墓をほりしや彼はたかきところに墓をほり磐をうがちて己がために住所をつくれり 17視よヱホバはつよき人のなげうつ如くに汝をなげうち給はん 18なんぢを包みかためふりまはして闊かなる地に球のごとくなげいだしたまはん 主人のいへの恥となるものよ汝そこにて死そのえいぐわの車もそこにあらん 19我なんぢをその職よりおひその位よりひきおとさん 20その日われわが僕ヒルキヤの子エリアキムを召て 21なんぢの衣をきせ汝の帶をもて固め なんぢの政權をその手にゆだぬべし 斯て彼ヱルサレムの民とユダの家とに父とならん 22我またダビデのいへの鑰をその肩におかん 彼あくればとづるものなく彼とづればあくるものなし 23我かれをたてて堅 處にうちし釘のごとくすべし 而してかれはその父の家のさかえの位とならん 24その父の家のもろもろの榮は彼がうへに懸る その子その孫およびすべての器のちひさきもの皿より瓶子にいたるまでも然らざるなし 25萬軍のヱホバのたまはくその日かたき處にうちたる釘はぬけいで斫れておちん そのうへにかかれる負もまた絶るべし こはヱホバ語り給へるなり

第二十三章

1ツロに係るおもにの預言 いはく／タルシシのもろもろの舟よなきさけべ ツロは荒廢れて屋なく入べきところなければなり かれら此事をキツテムの地にて告しらせらる 2うみべの民よもだせ 曩には海をゆきかふシドンの商賈くさぐさの物をかしこに充せたり 3ツロは大なる水をわたりくるシホルの種物とナイルがはの穀物とによりて収納をえたり ツロはもろもろの國のつどふ市なりき 4シドンよはづべし そは海すなはち海城かくいへり曰く われ苦しまずうまず壯 男をやしなはず處女をそだてざりきと 5この音信のエジプトにいたるとき彼等ツロのおとづれによりて甚くうれふべし 6なんぢらタルシシにわたれ 海邊のたみよ汝等なきさけぶべし 7これは上れる世いにしへよりありし邑おのが足にてうつり遠くたびずまひせる邑なんぢらの樂しみの邑なりしや 8斯のごとくツロに對ひてはかりしは誰なるか ツロは冕をさづけし邑 その中のあきうどは君 その中の貿易するものは地のたふとき者なりき 9これ萬軍のヱホバの定め給ふところにしてすべて華美にかざれる驕奢をけがし地のもろもろの貴者をひくくしたまはんが爲なり 10タルシシの女よナイルのごとく己が地にあふれよ なんぢを結びかたむる帶ふたたびなかるべし 11ヱホバその手を海の上にのべて

國々をふるひうごかし給へり ヱホバ、カナンにつきて詔命をいだしその保砦をこぼたしめたまふ 12彼いひたまはく虐げられたる處女シドンのむすめよ 汝ふたたびよろこぶことなかるべし 起てキツテムにわたれ彼處にてなんぢまた安息をえじ 13カルデヤ人のくにを視よ この民はふたたびあることなし アツスリヤ人この國を野のけものの居所にさだめたり かれら櫓をたてもろもろの殿をこぼちて荒墟となせり 14タルシシのもろもろの舟よなきさけべ なんぢの保砦はくだかれたり 15その日ツロは七十年のあひだ忘れらるべし ひとりの王のながらふる日のかずなり七十年終りてのちツロは妓女のうたの如くならん 16さきに忘れられたるうかれめよ琴をとりて城市をへめぐり巧に弾じておほくの歌をうたひ人にふたたび記念らるべし 17七十年をはりてヱホバまたツロを顧みたまはん ツロはふたたびその利潤をえて地のおもてにあるもろもろの國と淫をおこなふべし 18その貿易とその獲たる利潤とはきよめてヱホバに獻ぐべければ之をたくはへず積ことをせざるなり その貿易はヱホバの前にをるものの用となり飽くらふ料となり華美なるころもの料とならん

第二十四章

1視よヱホバこの地をむなしからしめ荒廃れしめこれを覆へしてその民をちらしたまふ 2かくて民も祭司もひとしく 僕も主もひとしく 下婢も主婦もひとしく 買ものも賣ものもひとしく 貸ものも借ものもひとしく 利をはたるものも利をいだす者もひとしくこの事にあふべし 3地はことごとく空しくことごとく掠められん こはヱホバの言たまへるなり 4地はうれへおとろへ世は萎おとろへ地のたふときものも萎はてたり 5民おきてにそむき法ををかし とこしへの契約をやぶりたるがゆゑに 地はその下にけがされたり 6このゆゑに呪詛は地をのみつくしそこに住るものは罪をうけまた地の民はやかれて僅かばかり遺れり 7あたらしき酒はうれへ葡萄はなえ 心たのしめるものはみな歎息せざるはなし 8鼓のおとは寂まり歓ぶものの聲はやみ琴の音もまたしづまれり 9彼等はふたたび歌うたひ酒のまず濃酒はこれをのむものに苦くなるべし 10騒ぎみだれたる邑はすでにやぶられ毎家はことごとく閉て人のいるなし 11街頭には酒の故によりて叫ぶこゑあり すべての歓喜はくらくなり地のたのしみは去ゆけり 12邑はあれすたれたる所のみのこり その門もこぼたれて破れぬ 13地のうちにてもろもろの民のなかにて遺るものは橄欖の樹のうたれしのちの果の如く葡萄の収穫はてしのちの實のごとし 14これらのもの聲をあげてよばはん ヱホバの稜威のゆゑをもて海より歓びよばはん 15この故になんぢら東にてヱホバをあがめ 海のしまじまにてイスラエルの神ヱホバの名をあがむべし 16われら地の極より歌をきけり いはく榮光はただしきものに歸すと／われ云らく我やせおとろへたり我やせおとろへたり 我はわざはひなるかな 欺騙者はあざむき欺騙者はいつはりをもて欺むけり 17地にすむものよ恐怖と陥阱と罟とはなんぢに臨めり 18おそれの聲をのがるる者はおとしあなに陥り おとしあなの中よりいづるものは罟にかかるべし そは高 處の窓ひらけ地の基ふるひうごけばなり 19地は砕けにくだけ地はやぶれにやぶれ地は搖にゆれ 20地はゑへる者のごとく蹌きによろめき假廬のごとくふりうごく その罪はその うへにおもく遂にたふれて再びおくることなし 21その日ヱホバはたかき處にて高きところの軍兵を征め 地にて地のもろもろの王を征めたまはん 22かれらは囚人が阱にあつめらるるごとく集められて 獄 中にとざされ多くの日をへてのち刑せらるべし 23かくて萬軍のヱホバ、シオンの山およびエルサレムにて統治め かつその長老たちのまへに榮光あるべければ 月は面あからみ日ははぢて色かはるべし

第二十五章

1ヱホバよ汝はわが神なり 我なんぢを崇めなんぢの名をほめたたへん 汝さきに妙なる事をおこなひ 古時より定めたることを眞實をもて成たまひたればなり 2なんぢ邑をかへて石堆となし 堅固なる城を荒墟となし 外人の京都を邑とならしめず永遠にたつることを得ざらしめたまへり 3この故につよき民はなんぢをあがめ 暴びたる國々の城はなんぢをおそるべし 4そはなんぢ弱きものの保砦となり 乏しきものの難のときの保砦となり 雨風のふききたりて垣をうつごとく暴ぶるものの荒きたるときの避所となり 熱をさくる蔭となりたまへり 5なんぢ外人の喧嘩をおさへて旱ける地より熱をとりのぞく如くならしめ 暴ぶるものの凱歌をとどめて雪の陰をもて熱をとどむる如くならしめたまはん 6萬軍のヱホバこの山にてもろもろの民のために肥たるものをもて宴をまうけ 久しくたくはへたる葡萄酒をもて宴をまうく 膸おほき肥た

るもの久しくたくはへたる清るぶだう酒の宴なり 7又この山にてもろもろの民のかぶれる面帕と もろもろの國のおほへる外帔をとりのぞき 8とこしへまで死を呑たまはん 主ヱホバはすべての面より涙をぬぐひ 全地のうへよりその民の凌辱をのぞき給はん これはヱホバの語りたまへるなり 9その日此如いはん これはわれらの神なりわれら俟望めり 彼われらを救ひたまはん 是ヱホバなりわれらまちのぞめり 我儕そのすくひを歓びたのしむべしと 10ヱホバの手はこの山にとどまり モアブはその處にてあくたの水のなかにふまるる藁のごとく蹂躙られん 11彼そのなかにて游者のおよがんとして手をのばすが如く己が手をのばさん 然どヱホバその手の脆計とともにその傲慢を伏たまはん 12なんぢの垣たかき堅固なる城はヱホバかたぶけたふし 地におとして塵にまじへたまはん

第二十六章

1その日ユダの國にてこの歌をうたはん われらに堅固なる邑あり 神すくひをもてその垣その藩となしたまふべし 2なんぢら門をひらきて忠信を守るただしき國民をいれよ 3なんぢは平康にやすきをもて心志かたき者をまもりたまふ 彼はなんぢに依頼めばなり 4なんぢら常盤にヱホバによりたのめ 主ヱホバはとこしへの巌なり 5たかきに居るものを仆し そびえたる城をふせしめ 地にふせしめて塵にまじへ給へり 6かくて足これをふまん 苦しむものは足にて之をふみ 貧しき者はその上をあゆまん 7義きものの道は直からざるなし なんぢ義きものの途を直く平らかにし給ふ 8ヱホバよ審判をおこなひたまふ道にてわれら汝をまちのぞめり われらの心はなんぢの名となんぢの記念の名とをしたふなり 9わがこころ夜なんぢを慕ひたり わがうちなる靈あしたに汝をもとめん そは汝のさばき地におこなはるるとき世にすめるもの正義をまなぶべし 10悪者はめぐまるれども公義をまなばず 直き地にありてなほ不義をおこなひヱホバの稜威を見ることをこのまず 11ヱホバよなんぢの手たかく擧れどもかれら顧みず然どなんぢが民をすくひたまふ熱心を見ばはぢをいだかん 火なんぢの敵をやきつくすべし 12ヱホバよ汝はわれらのために平和をまうけたまはん 我儕のおこなひしことは皆なんぢの成たまへるなり 13ヱホバわれらの神よなんぢにあらぬ他の主ども曩にわれらを治めたり 然どわれらはただ汝によりて汝の名をかたりつげん 14かれら死たればまたいきず 亡靈となりたればまた復らず なんぢかれらを紊してこれを滅ぼし その記念の名をさへ悉くうせしめたまへり 15ヱホバよなんぢこの國民をましたまへり此くにびとを増たまへり なんぢは尊ばれたまふ なんぢ地の界をことごとく擴めたまへり 16ヱホバよかれら苦難のときに汝をあふぎのぞめり 彼等なんぢの懲罰にあへるとき切になんぢに禱告せり 17ヱホバよわれらは孕める婦のうむとき近づきてくるしみ その痛みによりて叫ぶがごとく汝のまへに然ありき 18われらは孕みまた苦しみたれどその產るところは風ににたり われら救を地にほどこさず世にすむ者うまれいでざりき 19なんぢの死者はいきわが民の屍はおきん 塵にふすものよ醒てうたうたふべし なんぢの露は草木をうるほす露のごとく地はなきたまをいださん 20わが民よゆけ なんぢの室にいり汝のうしろの戸をとぢて忿恚のすぎゆくまで暫時かくるべし 21視よヱホバはその處をいでて地にすむものの不義をただしたまはん 地はその上なる血をあらはにして殺されたるものをまた掩はざるべし

第二十七章

1その日ヱホバは硬く大いなるつよき劍をもて 疾走るへびレビヤタン曲りうねる蛇レビヤタンを罰しまた海にある鱷をころし給ふべし 2その日如此うたはん うるはしき葡萄園あり之をうたへよ 3われヱホバこれを護り をりをり水そそぎ 夜も晝もまもりて害ふものあらざらしめん 4我にいきどほりなし願はくは荊 棘のわれと戰はんことを 然ばわれすすみ迎へて皆もろともに焚盡さん 5寧ろわが力にたよりて我とやはらぎを結べ われと平和をむすぶべし 6後にいたらばヤコブは根をはりイスラエルは芽をいだして花さきその實せかいの面にみちん 7ヤコブ主にうたるるといへども彼をうちしものの主にうたるるが如きことあらんや ヤコブの殺さるるは彼をころししものの殺さるるが如きことあらんや 8汝がヤコブを逐たまへる懲罰は度にかなひぬ 東風のふきし日なんぢあらき風をもてこれをうつし給へり 9斯るがゆゑにヤコブの不義はこれによりて潔められん これに因てむすぶ果は罪をのぞくことをせん 彼は祭壇のもろもろの石を碎けたる石灰のごとくになし アシラの像と日の像とをふたたび建ることなからしめん 10堅固なる邑はあれてすさまじく棄去れたる家のごとく また荒野のごとし 犢このところにて草をは

み此所にてふし 且そこなる樹のえだをくらはん 11その枝かるるとき折とらる 婦人きたりてこれを燒ん これは無知の民なるが故に之をつくれる者あはれまず これを形づくれるもの惠まざるべし 12その日なんぢらイスラエルの子輩よ ヱホバは打落したる果をあつむるごとく大河の流よりエジプトの川にいたるまでなんぢらを一つ一つにあつめたまふべし 13その日大なるラッパ鳴ひびきアツスリヤの地にさすらひたる者 エジプトの地におひやられたる者 きたりてヱルサレムの聖山にてヱホバを拜むべし

第二十八章

1酔るものなるエフライム人よなんぢらの誇の冠はわざはひなるかな 酒におぼるるものよ肥たる谷の首にある凋んとする花のうるはしき飾はわざはひなるかな 2みよ主はひとりの力ある强剛者をもち給へり それは雹をまじへたる暴風のごとく壞りそこなふ狂風のごとく大水のあぶれ漲るごとく烈しくかれを地になげうつべし 3酔るものなるエフライム人のほこりの冠は足にて踐にじられん 4肥たる谷のかしらにある凋んとする花のうるはしきかざりは 夏こぬに熟したる初結の無花果のごとし 見るものこれをみて取る手おそしと呑いるるなり 5その日萬軍のヱホバその民ののこれる者のために榮のかんむりとなり美しき冠となり給はん 6さばきの席にざするものには審判の靈をあたへ軍を門よりおひかへす者には力をあたへ給ふべし 7然どかれらも酒によりてよろめき濃酒によりてよろぼひたり 祭司と預言者とは濃酒によりてよろめき 酒にのまれ濃酒によりてよろぼひ 而して默示をみるときにもよろめき審判をおこなふときにも躓けり 8すべて膳には吐たるものと穢とみちて潔きところなし 9かれは誰にをしへて知識をあたへんとするか 誰にしめして音信を暁らせんとするか 乳をたち 懷 をはなれたる者にするならんか 10そは誡命にいましめをくはへ誡命にいましめをくはへ 度にのりをくはへ度にのりをくはへ 此にもすこしく彼にもすこしく敎ふ 11このゆゑに神あだし唇 と異なる舌とをもてこの民にかたりたまはん 12曩にかれらに言たまひけるは此は安息なり疲困者にやすみをあたへよ 此は安慰なりと されど彼らは聞ことをせざりき 13斯るがゆゑにヱホバの言かれらにくだりて 誡命にいましめをくはへ誡命にいましめをくはへ 度にのりをくはへ度にのりをくはへ 此にもすこしく彼にもすこしく敎ふ 14なんぢら此エルサレムにある民ををさむるところの輕慢者よヱホバの言をきけ 15なんぢらは云り 我ら死と契約をたて陰府とちぎりをむすべり漲りあふるる禍害のすぐるときわれらに來らじ そはわれら虛僞をもて避所となし欺詐をもて身をかくしたればなりと 16このゆゑに神ヱホバかくいひ給ふ 視よわれシオンに一つの石をすゑてその基となせり これは 試 をへたる石たふとき隅石かたくすゑたる石なり これに依賴むものはあわつることなし 17われ公平を準 繩とし正義を錘とす 斯て雹はいつはりにてつくれる避所をのぞきさり水はその匿れたるところに漲りあふれん 18汝らが死とたてし契約はきえうせ陰府とむすべるちぎりは成ことなし されば漲り溢るるわざはひのすぐるとき汝等はこれに踐たふさるべし 19その過るごとになんぢらを捕へん 朝 々にすぎ晝も夜もすぐ この音信をきき わきまふるのみにても憚きをるなり 20その狀は床みじかくして身をのぶることあたはず 衾せまくして身をおほふこと能はざるが如し 21そはヱホバ往昔ペラヂムの山にて起たまひしがごとくにたち ギベオンの谷にて忿恚をはなちたまひしが如くにいきどほり 而してその所爲をおこなひ給はん 奇しき所爲なり その工を成たまはん 異なる工なり 22この故になんぢら侮るなかれ 恐くはなんぢらの縲紲きびしくならん 我すでに全地のうへにさだまれる敗亡あるよしを主萬軍のヱホバより聞たればなり 23なんぢら耳をかたぶけてわが聲をきけ 懇ろにわが言をきくべし 24農夫たねをまかんに何で日々たがへし日々その地をすき その土塊をくだくことのみを爲んや 25もし地の面をたひらかにせばいかで罌粟をまき 馬芹の種をおろし 小麥をうねにうゑ大麥をさだめたる處にうゑ 粗麥を畔にうゑざらんや 26斯のごときはかれの神これに智慧をあたへて敎へたまへるなり 27けしは連枷にてうたず 馬芹はそのうへに車輪をきしらせず罌粟をうつには杖をもちひ 馬芹をうつには棒をもちふ 28麥をくだくか否くるまにきしらせ馬にふませて落すことはすれども斷ずしかするにあらず これを碎くことをせざるべし 29此もまた萬軍のヱホバよりいづ その謀略はくすしくその智慧はすぐれたり

第二十九章

1ああアリエルよアリエルよ ああダビデの營をかまへたる邑よ としに年をくはへ節會まはりきたらば 2われアリエルをなやまし之にかなしみと歎息とあらしめん 彼をアリエルのごとき者となすべし 3われ汝のまはりに營をかまへ保砦をきづきて汝をかこみ櫓をたててなんぢを攻べし 4かくてなんぢは卑くせられ 地にふしてものいひ塵のなかより低聲をいだしてかたらん 汝のこゑは巫女のこゑのごとく地よりいで汝のことばは塵のなかより囀づるがごとし 5然どなんぢのあだの群衆はこまやかなる塵の如く あらぶるものの群衆はふきさらるる粃糠の如くならん 俄にまたたく間にこの事あるべし 6萬軍のヱホバはいかづち 地震 おほごゑ 暴風 つむじかぜ及びやきつくす火の燄をもて臨みたまふべし 7斯てアリエルを攻てたたかふ國々のもろもろ アリエルとその城とをせめたたかひて難ますものは みな夢のごとく夜のまぼろしの如くならん 8饑たるものの食ふことを夢みて醒きたればその心なほ空しきがごとく 渇けるものの飲ことを夢みて醒きたれば 疲れかつ頻にのまんことを欲するがごとく シオンの山をせめて戰ふくにぐにの群衆もまた然あらん 9なんぢらためらへ而しておどろかん なんぢら放肆にせよ而して目くらまん かれらは酔りされど酒のゆゑにあらず かれらはよろめけりされど濃酒のゆゑにあらず 10そはヱホバ酣睡の靈をなんぢらの上にそそぎ 而してなんぢらの目をとぢ なんぢらの面をおほひたまへり その目は預言者そのかほは先知者なり 11かかるが故にすべての默示はなんぢらには封じたる書のことばのごとくなり 文字しれる人にわたして請これを讀といはんに答へて封じたるがゆゑによむこと能はずといはん 12また文字しらぬ人にわたして請これをよめといはんにこたへて文字しらざるなりといはん 13主いひ給はく この民は口をもて我にちかづき口唇をもてわれを敬へども その心はわれに遠かれり そのわれを畏みおそるるは人の誡命によりてをしへられしのみ 14この故にわれこの民のなかにて再びくすしき事をおこなはん そのわざは奇しくしていとあやし かれらの中なる智者のちゑはうせ聰明者のさときはかくれん 15己がはかりごとをヱホバに深くかくさんとする者はわざはひなるかな 暗中にありて事をおこなひていふ 誰かわれを見んや たれか我をしらんやと 16なんぢらは曲れり いかで陶 工をみて土塊のごとくおもふ可んや 造られし者おのれを作れるものをさして我をつくれるにあらずといふをえんや 形づくられたる器はかたちづくりし者をさして智慧なしといふを得んや 17暫くしてレバノンはかはりて良田となり 良田は林のごとく見ゆるとききたるならずや 18その日聾者はこの書のことばをきき盲者の目はくらきより闇よりみることを得べし 19謙だるものはヱホバによりてその歡喜をまし 人のなかの貧きものはイスラエルの聖者によりて快樂をうべし 20暴るものはたえ侮慢者はうせ 邪曲の機をうかがふ者はことごとく斷滅さるべければなり 21かれらは訟をきく時まげて人をつみし 邑門にていさむるものを謀略におとしいれ 虚しき語をかまへて義 人をしりぞく 22この故にむかしアブラハムを贖ひたまひしヱホバはヤコブの家につきて如此いひたまふ ヤコブは今より恥をかうむらず その面はいまより色をうしなはず 23かれの子孫はその中にわがおこなふ手のわざをみん その時わが名を聖としヤコブの聖者を聖としてイスラエルの神をおそるべし 24心あやまれるものも知識をえ つぶやけるものも教誨をまなばん

第三十章

1ヱホバのたまはく 悖る子輩はわざはひなるかな かれら謀略をすれども我によりてせず 盟をむすべどもわが靈にしたがはず ますます罪につみをくはへん 2かれらわが口にとはずしてエジプトに下りゆきパロの力をかりておのれを強くしエジプトの蔭によらん 3パロのちからは反てなんぢらの恥となり エジプトの蔭によるは反てなんぢらの辱かしめとなるべし 4かれの君たちはゾアンにあり かれの使者たちはハネスにきたれり 5かれらは皆おのれを益することあたはざる民によりて恥をいだく かの民はたすけとならず益とならず かへりて恥となり謗となれり 6南のかたの牲畜にかかる重負のよげん 曰く／かれらその財貨を若き驢馬のかたにおはせ その寶物を駱駝の背におはせて 牝獅 牡獅 まむし及びとびかける蛇のいづる苦しみと艱難との國をすぎて 己をえきすること能はざる民にゆかん 7そのエジプトの助はいたづらにして虚しこのゆゑに我はこれを休みをるラハブとよべり 8いま往てこれをその前にて牌にしるし書にのせ 後の世に傳へてとこしへに證とすべし 9これは悖れる民いつはりをいふ子輩ヱホバの律法をきくことをせざる子輩なり 10かれら見るものに對ひていふ見るなかれと 默示をうる者にむかひていふ直きことを示すなかれ 滑かなることをかたれ

虚僞をしめせ 11なんぢら大道をさり逕をはなれ われらが前にイスラエルの聖者をあらしむるなかれと 12此によりてイスラエルの聖者かくいひ給ふ なんぢらこの言をあなどり暴虐と邪曲とをたのみて之にたよれり 13斯るがゆゑにこの不義なんぢらには凸出ておちんとするたかき垣のさけたるところのごとく その破壊にはかに暫しが間にきたらんと 14主これを破りあだかも陶 工の瓶をくだきやぶるがごとくして惜みたまはず その砕のなかに爐より火をとり池より水をくむほどの一片だに見出すことなからん 15主ヱホバ、イスラエルの聖者かくいひたまへり なんぢら立かへりて靜かにせば救をえ 平穏にして依頼まば力 をうべしと 然どなんぢらこの事をこのまざりき 16なんぢら反ていへり 否われら馬にのりて逃走らんと この故になんぢら逃走らん 又いへりわれら疾きものに乗んとこの故になんぢらを追もの疾かるべし 17ひとり叱咤すれば千人にげはしり 五人しつたすればなんぢら逃走りてその遺るものは僅かに山 嶺にある杆のごとく 岡のうへにある旗のごとくならん 18ヱホバこれにより俟てのち恩恵を汝等にほどこし これにより上りてのちなんぢらを憐 れみたまはん ヱホバは公平の神にましませり 凡てこれを俟望むものは福ひなり 19シオンにをりヱルサレムにをる民よ なんぢは再びなくことあらじ そのよばはる聲に應じて必ずなんぢに恵をほどこしたまはん 主ききたまふとき直にこたへたまふべし 20主はなんぢらになやみの糧とくるしみの水とをあたへ給はん なんぢを教るもの再びかくれじ 汝の目はその教るものを恒にみるべし 21なんぢ右にゆくも左にゆくもその耳に これは道なりこれを歩むべしと後邊にてかたるをきかん 22又なんぢら白銀をおほひし刻める像 こがねをはりし鑄たる像をけがれとし 穢 物のごとく打棄ていはん 去れと 23なんぢが地にまく種に主は雨をあたへ また地になりいづる糧をたまふその土 産こえて豐かならん その日なんぢの家畜はひろき牧場に草をはむべし 24地をたがへす牛と驢馬とは團扇にてあふぎ箕にてとほし鹽をくはへたる飼料をくらはん 25大なる殺戮の日やぐらのたふるる時もろもろのたかき山もろもろのそびえたる嶺に河とみづの流とあるべし 26かくてヱホバその民のきずをつつみ そのうたれたる創痍をいやしたまふ日には月のひかりは日の光のごとく日のひかりは七倍をくはへて七の日のひかりの如くならん 27視よヱホバの名はとほき所よりきたり そのはげしき怒はもえあがる焔のごとく その唇 はいきどほりにてみち その舌はやきつくす火のごとく 28その氣息はみなぎりて項にまでいたる流のごとし 且ほろびの篩にてもろもろの國をふるひ又まどはす轡をもろもろの民の口におきたまはん 29なんぢらは歌うたはん節會をまもる夜のごとし なんぢらは心によろこばん笛をならしヱホバの山にきたりイスラエルの磐につくときの如し 30ヱホバはその稜威のこゑをきかしめ 烈しき怒をはなちて燒つくす火のほのほと暴風と大雨と雹とをもて その臂のくだることを示したまはん 31ヱホバのこゑによりてアツスリヤ人はくじけん 主はこれを笞にてうち給ふべし 32ヱホバの豫じめさだめたまへる杖をアツスリヤのうへにくはへたまふごとに 鼓をならし琴をひかん 主はうごきふるふ戰闘をもてかれらとたたかひ給ふべし 33トペテは往古よりまうけられ また王のために備へられたり これを深くしこれを廣くしここに火とおほくの薪とをつみおきたり ヱホバの氣息これを硫黄のながれのごとくに燃さん

第三十一章

1助をえんとてエジプトにくだり馬によりたのむものは禍 ひなるかな 戰 車おほきが故にこれにたのみ騎兵はなはだ強きがゆゑに之にたのむ されどイスラエルの聖者をあふがずヱホバを求ることをせざるなり 2然はあれどもヱホバもまた智慧あるべし かならず禍害をくだしてその言 をひるがへしたまはず 起てあしきものの家をせめ また不義を行ふ者の助をせめ給はん 3かのエジプト人は人にして神にあらずその馬は肉にして靈にあらず ヱホバその手をのばしたまはば助くるものも蹟き たすけらるる者もたふれてみなひとしく亡びん 4ヱホバ如此われにいひたまふ 獅のほえ壯獅の獲物をつかみてほえたけれるとき許多のひつじかひ相呼つどひてむかひゆくとも その聲によりて挫けずその喧譁しきによりて臆せざるごとく 萬軍のヱホバくだりてシオンの山およびその岡にて戰ひ給ふべし 5鳥の雛をまもるがごとく萬軍のヱホバはヱルサレムをまもりたまはん これを護りてこれをすくひ踰越てこれを援けたまはん 6イスラエルの子輩よなんぢらさきには甚だしく主にそむけり 今たちかへるべし 7なんぢらおのが手につくりて罪ををかしし白銀のぐうざう黄金の偶像をその日おのおのなげすてん 8爰にアツスリヤびとは劍にてたふれん されど人のつるぎにあらず 劍かれら

をほろぼさん されど世の人のつるぎにあらず かれら劍のまへより逃はしりその壯きものは役丁とならん 9かれらの磐はおそれによりて逝去り その君たちは旗をみてくじけん こはヱホバの御言なり ヱホバの火はシオンにありヱホバの爐はヱルサレムにあり

第三十二章

1茲にひとりの王あり 正義をもて統治め その君たちは公平をもて宰さどらん 2また人ありて風のさけどころ暴雨ののがれどころとなり 旱ける地にある水のながれのごとく 倦つかれたる地にある大なる岩陰の如くならん 3見るものの目はくらまず 聞ものの耳はかたぶけきくをうべし 4躁がしきものの心はさとりて知識をえ 吃 者の舌はすみやけくあざやかに語るをうべし 5愚かなる者はふたたび尊貴とよばるることなく 狡猾なる者はふたたび大人とよばるることなかるべし 6そは愚なるものは愚なることをかたり その心に不義をかもし邪曲をおこなひ ヱホバにむかひて妄なることをかたり 饑たる者のこころを空しくし渇けるものの飲料をつきはてしむ 7狡猾なるものの用ゐる器はあしし 彼あしき企圖をまうけ虚僞のことばをもて苦しむ者をそこなひ 乏しき者のかたること正理なるも尚これを害へり 8たふとき人はたふとき謀略をまうけ恒にたふとき事をおこなふ 9安逸にをる婦等よおきてわが聲をきけ 思 煩ひなき女 等よわが言に耳を傾けよ 10思 煩 ひなきをんなたちよ一年あまりの日をすぎて摺きあわてん そは葡萄の収穫むなしく果ををさむる期きたるまじければなり 11やすらかにをる婦 等よふるひおそれよおもひわづらひなき者よをののきあわてよ 衣をぬぎ裸體になりて腰に麁服をまとへ 12かれら良田のため實りゆたかなる葡萄の樹のために胸をうたん 13棘と荊わが民の地にはえ 樂みの邑なるよろこびの家々にもはえん 14そは殿はすてられ にぎはひたる邑はあれすたれ オペルと櫓とはとこしへに洞穴となり 野の驢馬のたのしむところ羊のむれの草はむところとなるべし 15されど遂には靈うへより我儕にそそぎて 荒野はよき田となり 良田は林のごとく見ゆるとききたらん 16そのとき公平はあれのにすみ 正義はよき田にをらん 17かくて正義のいさをは平和 せいぎのむすぶ果はとこしへの平隱とやすきなり 18わが民はへいわの家にをり 思ひわづらひなき住所にをり 安らかなる休息所にをらん 19されどまづ雹ふりて林くだけ邑もことごとくたふるべし 20なんぢらもろもろの水のほとりに種をおろし 牛および驢馬の足をはなちおく者はさいはひなり

第三十三章

1 禍 ひなるかななんぢ害はれざるに人をそこなひ 欺かれざるに人をあざむけり なんぢが害ふこと終らば汝そこなはれ なんぢが欺くことはてなば汝あざむかるべし 2ヱホバよわれらを恵み給へわれらなんぢを俟望めり なんぢ朝ごとにわれらの臂となり また患難のときにわれらの救となりたまへ 3なりとどろく聲によりてもろもろの民にげはしり なんぢの起たまふによりてもろもろの國はちりうせぬ 4蝟 賊のものをはみつくすがごとく人なんぢらの 財をとり盡さん また蝗のとびつどふがごとく人なんぢらの財 にとびつどふべし 5ヱホバは最たかし高 處にすみたまふなり ヱホバはシオンに公正と正義とを充せたまひたり 6なんぢの代はかたくたち 救と智恵と知識とはゆたかにあらん ヱホバをおそるるは國の寶なり 7視よかれらの勇士は外にありてさけび 和をもとむる使者はいたく哭く 8大路あれすたれて旅客たえ 敵は契約をやぶり諸邑をなみし人をもののかずとせず 9地はうれへおとろへ レバノンは恥らひて枯れ シヤロンはアラバの如くなり バシヤンとカルメルとはその葉をおとす 10ヱホバ言給はく われ今おきん今たたん 今みづからを高くせん 11なんぢらの孕むところは枇糠のごとく なんぢらの生ところは藁のごとし なんぢらの氣息は火となりてなんぢらを食ひつくさん 12もろもろの民はやかれて灰のごとくなり 荊のきられて火にもやされたるが如くならん 13なんぢら遠にあるものよ わが行ひしことをきけ なんぢら近にあるものよ わが能力をしれ 14シオンの罪人はおそる 戰慄はよこしまなる者にのぞめり われらの中たれか燒つくす火に止ることを得んや 我儕のうち誰かとこしへに燒るなかに止るをえんや 15義をおこなふもの直をかたるもの虐げてえたる利をいとひすつるもの手をふりて賄賂をとらざるもの 耳をふさぎて血をながす謀略をきかざるもの 目をとぢて惡をみざる者 16かかる人はたかき處にすみ かたき磐はその櫓となり その糧はあたへられその水はともしきことなからん 17なんぢの目はうるはしき狀なる王を見 とほくひろき國をみるべし 18汝の心はかの懼しかりしことどもを思ひいでん 會計せし者はいづくにありや 貢をはかりし

者はいづくにありや 櫓をかぞへし者はいづくにありや 19 汝 ふたたび暴民をみざるべし かの民の言語はふかくして悟りがたくその舌は異にして解がたし 20 われらの節會の邑シオンを見よ なんぢの目はやすらかなる居所となれるヱルサレムを見ん ヱルサレムはうつさるることなき幕屋にして その杙はとこしへにぬかれず その繩は一すぢだに斷れざるなり 21 ヱホバ我らとともに彼處にいまして稜威をあらはし給はん 斯てそのところはひろき川ひろき流あるところとなりて その中には漕舟もいらず巨艦もすぐることなかるべし 22 ヱホバはわれらを鞫きたまふものの ヱホバはわれらに律法をたてたまひし者 ヱホバはわれらの王にましまして我儕をすくひ給ふべければなり 23 なんぢの船纜はとけたり その桅杆のもとを結びかたむることあたはず 帆をあぐることあたはず その時おほくの財をわかち跛者までも掠物あらん 24 かしこに住るものの中われ病りといふ者なし彼處にをる民の咎はゆるされん

第三十四章

1 もろもろの國よちかづきてきけ もろもろの民よ耳をかたぶけよ 地と地にみつるもの世界とせかいより出るすべての者きけ 2 ヱホバはよろづの國にむかひて怒り そのよろづの軍にむかひて忿恚り かれらをことごとく滅し かれらを屠らしめたまふ 3 かれらは殺されて拋棄られ その屍の臭氣たちのぼり山はその血にて融されん 4 天の萬象はきえうせ もろもろの天は書巻のごとくにまかれん その萬象のおつるは葡萄の葉のおつるがごとく無花果のかれたる葉のおつるが如くならん 5 わが劍は天にてうるほひたり 視よエドムの上にくだり滅亡に定めたる民のうへにくだりて之をさばかん 6 ヱホバの劍は血にてみち脂にてこえ小羊と山羊との血 牡羊の腎のあぶらにて肥ゆ ヱホバはボズラにて牲のけものをころしエドムの地にて大にほふることをなし給へり 7 その屠場には野牛 こうし牡牛もともに下る そのくには血にてうるほされ その塵はあぶらにて肥さるべし 8 こはヱホバの仇をかへしたまふ日にしてシオンの訟のために報をなしたまふ年なり 9 エドムのもろもろの河はかはりて樹脂となり その塵はかはりて硫磺となり その土はかはりてもゆる樹脂となり 10 晝も夜もきえずその烟つくる期なく上騰らん かくて世々あれすたれ永遠までもその所をすぐる者なかるべし 11 鵜と刺猬とそこを己がものとなし鷺と鴉とそこにすまんヱホバそのうへに亂をおこす繩をはり空虛をきたらする錘をさげ給ふべし 12 國をつぐべき者をたてんとて貴者ふたたび呼集ることをせじ もろもろの諸侯はみな失てなくなるべし 13 その殿にはことごとく荊はえ 城にはことごとく刺草と薊とはえ 野犬のすみか駝鳥の場とならん 14 野のけものと豺狼とここにあひ 牡山羊その友をよび鴟鴞もまた宿りてここを安 所とせん 15 蛇ここに穴をつくり卵をうみてこれを孚しおのれの影の下に子をあつむ鳶もまたその偶とともに此處にあつまらん 16 なんぢらヱホバの書をつまびらかにたづねて讀べし これらのもの一つも缺ることなく又ひとつもその偶をかくものあらじ そはヱホバの口このことを命じ その靈これらを集めたまふべければなり 17 ヱホバこれらのものに鬮をひかせ手づから繩をもて量り この地をわけあたへて永くかれらに保たしめ 世々にいたるまでここに住しめたまはん

第三十五章

1 荒野とうるほひなき地とはたのしみ 沙漠はよろこびて番紅の花のごとくに咲かがやかん 2 盛に咲かがやきてよろこび且よろこび且うたひ レバノンの榮をえカルメルおよびシヤロンの美しきを得ん かれらはヱホバのさかえを見われらの神のうるはしきを見るべし 3 なんぢら萎たる手をつよくし弱りたる膝をすこやかにせよ 4 心さわがしきものに對ていへ なんぢら雄々しかれ懼るるなかれ なんぢらの神をみよ 刑罰きたり神の報きたらん 神きたりてなんぢらを救ひたまふべし 5 そのとき瞽者の目はひらけ聾者の耳はあくことを得べし 6 そのとき跛者は鹿の如くにとびはしり唖者の舌はうたうたはん そは荒野に水わきいで沙漠に川ながるべければなり 7 やけたる沙は池となり うるほひなき地はみづの 源となり 野犬のふしたるすみかは蘆葦のしげりあふ所となるべし 8 かしこに大路あり そのみちは聖道ととなへられん 穢れたるものはこれを過ることあたはず ただ主の民のために備へらる これを歩むものはおろかなりとも迷ふことなし 9 かしこに獅をらず あらき獣もその路にのぼることなし 然ばそこにて之にあふ事なかるべし ただ贖はれたる者のみそこを歩まん 10 ヱホバに贖ひすくはれし者うたうたひつつ歸てシオンにきたり その首にとこしへの歡喜をいただき 樂とよろこびとをえん 而して悲哀となげきとは逃さるべし

第三十六章

1ヒゼキヤ王の十四年にアツスリヤの王セナケリブ上りきたりてユダのもろもろの堅固なる邑をせめとれり 2アツスリヤ王ラキシよりラブシヤケをエルサレムに遣はし大軍をひきゐてヒゼキヤ王のもとに往しむ ラブシヤケ漂工の野のおほぢの傍なる上の池の樋にそひてたてり 3この時ヒゼキヤの子なる家司エリアキム 書記セブナ、アサフの子なる史官ヨア出てこれを迎ふ 4ラブシヤケかれらにいひけるは なんぢら今ヒゼキヤにいへ大王アツスリヤの王かくいへり なんぢの恃とするその恃むところは何なるか 5我いふ なんぢが説ところの軍のはかりごととその能力とはただ口唇のことばのみ 今なんぢ誰によりたのみて我にさかふことをなすや 6視よなんぢエジプトに依頼めり これ傷める葦の杖によりたのめるがごとし もし人これに倚もたれなばその手をつきさされん エジプト王パロがすべて己によりたのむものに對するは斯のごとし 7汝われらはわれらの神ヱホバに依頼めりと我にいはんかそは曩にヒゼキヤが高きところと祭壇とをみな取去てユダとヱルサレムとにむかひ汝等ここなる一つの祭壇のまへにて拝すべしといへる夫ならずや 8いま請わが君アツスリヤ王に賭をせよ われ汝に二千の馬を與ふべければ汝よりこれに乗ものをいだせ 果して出しうべしや 9然ばいかで我君のいとちひさき僕の長一人をだに退くることを得んや なんぞエジプトによりたのみて戦 車と騎兵とをえんとするや 10いま我のぼりきたりてこの國をせめほろぼすはヱホバの旨にあらざるべけんや ヱホバわれにいひたまはく のぼりゆきてこの國をせめほろぼせと 11爰にエリアキムとセブナとヨアと共にラブシヤケにいひけるは請スリアの方言にて僕輩にかたれ我儕これをさとりうるなり石垣のうへなる民のきくところにてはユダヤの方言をもてわれらに語るなかれ 12ラブシヤケいひけるはわが君はこれらのことをなんぢの君となんぢとにのみ語らんために我をつかはししならんや なんぢらと共におのが糞をくらひおのが溺をのまんとする石垣のうへに坐する人々にも我をつかはししならずや 13斯てラブシヤケたちてユダヤの方言もて大聲によばはりいひけるは なんぢら大王アツスリヤ王のことばをきくべし 14王かくのたまへり なんぢらヒゼキヤに惑はさるるなかれ 彼なんぢらを救ふことあたはず 15ヒゼキヤがなんぢらをヱホバに頼しめんとする言にしたがふなかれ 彼いへらく ヱホバかならず我儕をすくひこの邑はアツスリヤ王の手にわたさるることなしと 16ヒゼキヤに聽従ふなかれ アツスリヤ王かくのたまへり なんぢらわれと親和をなし出できたりて我にくだれ おのおのその葡萄とその無花果とをくらひ かのおのその井の水をのむことを得べし 17遂には我きたりて汝等をほかの國にたづさへゆかん その國はなんぢの國のごとき國にして 穀物 ぶだう酒 パンおよび葡萄園あり 18おそらくはをヒゼキヤなんぢらに説てヱホバわれらを救ふべしといはん 然どももろもろの國の神等のなかにその國をアツスリヤ王の手より救へる者ありしや 19ハマテ、アルバデの神等いづこにありや セバルワイムの神等いづこにありや 又わが手よりサマリヤを救出ししかみありや 20これらの國のもろもろの神のなかに誰かその國をわが手よりすくひいだしし者ありや さればヱホバも何でわが手よりヱルサレムを救ひいだし得んと 21如此ありければ民は默して一言をもこたへざりき そは之にこたふるなかれとの王のおほせありつればなり 22そのときヒルキヤの子なる家司エリアキム書記セブナおよびアサフの子なる史官ヨアころもを裂てヒゼキヤにゆき之にラブシヤケの言をつげたり

第三十七章

1ヒゼキヤ王これをききてその衣をさき麁衣をまとひてヱホバの家にゆき 2家司エリアキム書記セブナおよび祭司のなかの長老等をして皆あらたへをまとはせてアモツの子預言者イザヤのもとにゆかしむ 3かれらイザヤにいひけるは ヒゼキヤ如此いへり けふは患難と責と辱かしめの日なり そは子うまれんとして之をうみいだすの力なし 4なんぢの神ヱホバあるひはラブシヤケがもろもろの言をききたまはん 彼はその君アツスリヤ王につかはされて活る神をそしれり なんぢの神ヱホバその言をききて或はせめたまふならん されば請なんぢこの遺れるもののために祈禱をささげよと 5かくてヒゼキヤ王の諸僕イザヤにいたる 6イザヤかれらに言けるは なんぢらの君につげよ ヱホバ斯いひたまへり曰く アツスリヤ王のしもべら我をののしりけがせり なんぢらその聞しことばによりて懼るるなかれ 7視よわれかれが意をうごかすべければ 一つの風聲をききておのが國にかへらん かれをその國にて劍にたふれしむべし 8爰にラブシヤケはアツスリヤ王がラキシを離れさりしとききて歸りけるとき際しも王はリブナを攻をれり 9このときエテオピアの王テルハ

カの事についてきけり云く かれいでて汝とたたかふべしと このことをききて使者をヒゼキヤに遣していふ 10なんぢらユダの王ヒゼキヤにつげて如此いへ なんぢが頼める神なんぢを欺きてヱルサレムはアツスリヤ王の手にわたされじといふを聽ことなかれ 11視よアツスリヤの王等もろもろの國にいかなることをおこなひ如何してこれを悉くほろぼししかを汝ききしならん されば汝すくはることを得んや 12わが先祖たちの滅ぼししゴザン、ハラン、レゼフおよびテラサルなるエデンの族など此等のくにぐにの神はその國をすくひたりしや 13ハマテの王アルバデの王セバルワイムの都の王ヘナの王およびイワの王はいづこにありやと 14ヒゼキヤつかひの手より書をうけて之を讀り しかしてヒゼキヤ、ヱホバの宮にのぼりゆきヱホバの前にこのふみを展ぶ 15ヒゼキヤ、ヱホバに祈ていひけるは 16ケルビムの上に坐したまふ萬軍のヱホバ、イスラエルの神よ ただ汝のみ地のうへなるよろづの國の神なり なんぢは天地をつくりたまへり 17ヱホバよ耳をかたむけて聽たまへ ヱホバよ目をひらきて視たまへ セナケリブ使者して活る神をそしらしめし言をことごとくききたまへ 18ヱホバよ實にアツスリヤの王等はもろもろの國民とその地とをあらし毀ち 19かれらの神たちを火になげいれたり これらのものは神にあらず 人の手の工にして あるひは木あるひは石なり 斯るがゆゑに滅ぼされたり 20さればわれらの神ヱホバよ 今われらをアツスリヤ王の手より救ひいだして 地のもろもろの國にただ汝のみヱホバなることを知しめたまへ 21ここにアモツの子イザヤ人をつかはしてヒゼキヤにいはせけるは イスラエルの神ヱホバかくいひたまふ 汝はアツスリヤ王セナケリブのことにつきて我にいのれり 22ヱホバが彼のことにつきて語り給へるみことばは是なり いはくシオンの處女はなんぢを侮りなんぢをあざけり ヱルサレムの女子はなんぢの背後より頭をふれり 23汝がそしりかつ罵れるものは誰ぞなんぢが聲をあげ目をたかく向てさからひたるものはたれぞ イスラエルの聖者ならずや 24なんぢその使者によりて主をそしりていふ 我はおほくの戰 車をひきゐて山々のいただきに登りレバノンの奥にまでいりぬ 我はたけたかき香柏とうるはしき松樹とをきり またその境なるたかき處にゆき腴たる地の林にゆかん 25我は井をほりて水をのみたり われは足跖をもてエジプトの河々をからさんと 26なんぢ聞ずや これらのことはわが昔よりなす所 いにしへの日よりさだめし所なり 今なんぢがこの堅城をこぼちあらして石堆となすも亦わがきたらしし所なり 27そのなかの民はちから弱くをののきて恥をいだき 野草のごとく青き菜のごとく屋蓋の草のごとく未だそだたざる苗のごとし 28我なんぢが居ること出入すること又われにむかひて怒りさけべることをしる 29なんぢが我にむかひて怒りさけべると汝がほこれる言とわが耳にいりたれば我なんぢの鼻に環をはめ汝のくちびるに鑣をつけて汝がきたれる路よりかへらしめん 30ヒゼキヤよ我がなんぢにたまふ徴はこれなり なんぢら今年は落穂より生たるものを食ひ 明年は蘖生より出たるものを食はん 三年にあたりては種ことをなし收ことをなし 葡萄ぞのを作りてその果を食ふべし 31ユダの家ののがれて遺れる者はふたたび下は根をはり上は果を結ぶべし 32そは遺るものはヱルサレムよりいで脱るるものはシオンの山よりいづるなり 萬軍のヱホバの熱心これを成たまふべし 33この故にヱホバ、アツスリヤの王については如此いひたまふ 彼はこの城にいらず ここに箭をはなたず盾を城のまへにならべず壘をきづきて攻ることなし 34かれはそのきたりし道よりかへりてこの城にいらず 35我おのれの故によりて僕ダビデの故によりて この城をまもり この城をすくはん これヱホバ宣給るなり 36ヱホバの使者いできたりアツスリヤの陣營のなかにて十八萬五千人をうちころせり早晨におきいでて見ればみな死てかばねとなれり 37アツスリヤ王セナケリブ起てかへりゆきニネベにとどまる 38一日おのが神ニスロクのみやにて禮拜をなし居しにその子アデランメレクとシヤレゼルと劍をもて彼をころし而してアララテの地ににげゆけり かれが子エサルハドンつぎて王となりぬ

第三十八章

1そのころヒゼキヤやみて死んとせしにアモツの子預言者イザヤきたりて彼にいふ ヱホバ如此いひたまはく なんぢ家に遺言をとどめよ 汝しにて活ることあたはざればなり 2爰にヒゼキヤ面を壁にむけてヱホバに祈りいひけるは 3ああヱホバよ 願くはわがなんぢの前に眞實をもて一心をもてあゆみ なんぢの目によきことを行ひたるをおもひいでたまへ 斯てヒゼキヤ甚くなきぬ 4ヱホバの言イザヤにのぞみて曰く 5なんぢ往てヒゼキヤにいへ なんぢの祖ダビデの神ヱホバかくいひ給はく 我なんぢの禱告

をききなんぢの涙をみたり 我なんぢの齢を十五年ましくはへ 6且なんぢとこの城とを救ひてアツスリヤわうの手をのがれしめん又われこの城をまもるべし 7ヱホバ語りたまひたる此事を成たまふ證にこの徴をなんぢに賜ふ 8視よわれアハズの日晷にすすみたる日影を十度しりぞかしめんといひければ乃ちひぼかりにすすみたる日影十度しりぞきぬ 9ユダの王ヒゼキヤ病にかかりてその病のいえしのち記しし書は左のごとし 10我いへり わが齢ひの全盛のとき陰府の門にいりわが餘 年をうしなはんと 11我いへり われ再びヱホバを見 奉ることあらじ再びいけるものの地にてヱホバを見 奉ることあらじ われは無ものの中にいりてふたたび人を見ることあらじ 12わが住所はうつされて牧人の幕屋をとりさるごとくに我をはなるわがいのちは織工の布をまきをはりて機より翦はなすごとくならん なんぢ朝 夕のあひだに我をたえしめたまはん 13われは天明におよぶまで己をおさへてしづめたり 主は獅のごとくに我もろもろの骨を碎きたまふ なんぢ朝 夕の間にわれを絶しめたまはん 14われは燕のごとく鶴のごとくに哀みなき鳩のごとくにうめき わが眼はうへを視ておとろふ ヱホバよわれは迫りくるしめらる 願くはわが中保となりたまへ 15主はわれとものいひ且そのごとくみづから成たまへり われ何をいふべきか わが世にある間わが靈魂の苦しめる故によりて愼みてゆかん 16主よこれらの事によりて人は活るなり わが靈魂のいのちもまた全くこれらの事によるなり 願くはわれを醫しわれを活したまへ 17視よわれに甚しき艱苦をあたへたまへるは我に平安をえしめんがためなり 汝わがたましひを愛して滅亡の穴をまぬかれしめ給へり そはわが罪をことごとく背後にすてたまへり 18陰府はなんぢに感謝せず 死はなんぢを讃美せず 墓にくだる者はなんぢの誠實をのぞまず 19唯いけるもののみ活るものこそ汝にかんしやするなれ わが今日かんしやするが如し 父はなんぢの誠實をその子にしらしめん 20ヱホバ我を救ひたまはん われら世にあらんかぎりヱホバのいへにて琴をひきわが歌をうたはん 21イザヤいへらく無花果の一 團をとりきたりて腫物のうへにつけよ 王かならずいえん 22ヒゼキヤも亦いへらく わがヱホバの家にのぼることにつきては何の兆あらんか

第三十九章

1そのころバラダンの子バビロン王メロダクバラダン、ヒゼキヤが病をうれへて愈しことをききければ書と禮物とをおくれり 2ヒゼキヤその使者のきたるによりて喜びこれに財物 金銀 香料 たふとき油ををさめたる家およびすべての軍器ををさめたる家また庫のなかなる物をことごとく見す おほよそヒゼキヤのいへの裏にあるものと全國のうちにあるものと 見せざるものは一もあらざりき 3ここに預言者イザヤ、ヒゼキヤ王のもとに來りていひけるは この人々はなにをいひしや何處よりなんぢのもとに來りしや ヒゼキヤ曰けるは かれらはとほき國よりバビロンより我にきたれり 4イザヤいふ 彼等はなんぢの家にてなにを見たりしや ヒゼキヤ答ふ かれらはわが家にあるものを皆みたり又わが庫のなかにあるものは一つをもかれらに見せざるものなかりき 5イザヤ、ヒゼキヤにいふなんぢ萬軍のヱホバの言をきけ 6みよ日きたらん なんぢの家のものなんぢの列祖がけふまで蓄へたるものは皆バビロンにたづさへゆかれて遺るもの一もなかるべし 是はヱホバのみことばなり 7なんぢの身より生れいでん者もとらはれ寺人とせられてバビロン王の宮のうちにあらん 8ヒゼキヤ、イザヤにいひけるは 汝がかたるヱホバのみことばは善し また云 わが世にあるほどは太平と眞理とあるべしと

第四十章

1なんぢらの神いひたまはく なぐさめよ汝等わが民をなぐさめよ 2懇ろにヱルサレムに語り之によばはり告よ その服役の期すでに終り その咎すでに赦されたり そのもろもろの罪によりてヱホバの手よりうけしところは倍したりと 3よばはるものの聲きこゆ云く なんぢら野にてヱホバの途をそなへ沙漠にわれらの神の大路をなほくせよと 4もろもろの谷はたかくもろもろの山と岡とはひくくせられ 曲りたるはなほく崎嶇はたひらかにせらるべし 5斯てヱホバの榮光あらはれ人みな共にこれを見ん こはヱホバの口より語りたまへるなり 6聲きこゆ云く よばはれ答へていふ何とよばはるべきか いはく人はみな草なりその榮華はすべて野の花のごとし 7草はかれ花はしぼむヱホバの息そのうへに吹ければなり 實に民はくさなり 8草はかれ花はしぼむ 然どわれらの神のことばは永遠にたたん 9よき音信をシオンにつたふる者よ なんぢ高山にの

ぼれ 嘉おとづれをヱルサレムにつたふる者よ なんぢ強く聲をあげよ こゑを揚ておそるるなかれ ユダのもろもろの邑につけよ なんぢらの神きたり給へりと 10みよ主ヱホバ能力をもちて來りたまはん その臂は統治めたまはん 賞賜はその手にあり はたらきの値はその前にあり 11主は牧者のごとくその群をやしなひ その臂にて小羊をいだき之をその懷中にいれてたづさへ乳をふくまする者をやはらかに導きたまはん 12たれか掌心をもてもろもろの水をはかり指をのばして天をはかり また地の塵を量器にもり天秤をもてもろもろの山をはかり權衡をもてもろもろの岡をはかりしや 13誰かヱホバの靈をみちびきその議士となりて教しや 14ヱホバは誰とともに議りたまひしや たれかヱホバを聰くしこれに公平の道をまなばせ知識をあたへ明通のみちを示したりしや 15視よもろもろの國民は桶のひとしづくのごとく 權衡のちりのごとくに思ひたまふ 島々はたちのぼる塵 埃のごとし 16レバノンは柴にたらずそのなかの獸は燔祭にたらず 17ヱホバの前にはもろもろの國民みななきにひとし ヱホバはかれらを無もののごとく空きもののごとく思ひたまふ 18然ばなんぢら誰をもて神にくらべ いかなる肖像をもて神にたぐふか 19偶像はたくみ鑄てつくり 金工こがねをもて之をおほひ白銀をもて之がために鏈をつくれり 20かかる寶物をそなへえざる貧しきものは朽まじき木をえらみ良匠をもとめてうごくことなき像をたたしむ 21なんぢら知ざるか なんぢら聞ざるか 始よりなんぢらに傳へざりしか なんぢらは地の基をおきしときより悟らざりしか 22ヱホバは地のはるか上にすわり地にすむものを蝗のごとく視たまふ おほぞらを薄絹のごとく布き これを住ふべき幕屋のごとくはり給ふ 23又もろもろの君をなくならしめ地の審士をむなしくせしむ 24かれらは僅かに植られ僅かに播れ その幹わづかに地に根ざししに 神そのうへを吹たまへば即ちかれて藁のごとく暴風にまきさらるべし 25聖者いひ給はく さらばなんぢら誰をもて我にくらべ我にたぐふか 26なんぢら眼をあげて高をみよ たれか此等のものを創造せしやをおもへ 主は數をしらべてその萬象をひきいだしおのおのの名をよびたまふ 主のいきほひ大なり その力のつよきがゆゑに一も缺ることなし 27ヤコブよなんぢ何故にわが途はヱホバにかくれたりといふや イスラエルよ汝なにゆゑにわが訟はわが神の前をすぎされりとかたるや 28汝しらざるか聞ざるかヱホバはとこしへの神地のはての創造者にして倦たまふことなく また疲れたまふことなく その聰明こと測りがたし 29疲れたるものには力をあたへ勢力なきものには強きをまし加へたまふ 30年少きものもつかれてうみ壯んなるものも衰へおとろふ 31然はあれどヱホバを俟望むものは新なる力をえん また鷲のごとく翼をはりてのぼらん 走れどもつかれず歩めども倦ざるべし

第四十一章

1もろもろの島よわがまへに默せ もろもろの民よあらたなる力をえて近づききたれ 而して語れ われら寄集ひて論らはん 2たれか東より人をおこししや われは公義をもて之をわが足下に召し その前にもろもろの國を服せしめ また之にもろもろの王ををさめしめ かれらの劍をちりのごとくかれらの弓をふきさらるる藁のごとくならしむ 3斯て彼はこれらのものを追 その足いまだ行ざる道をやすらかに過ゆけり 4このことは誰がおこなひしや たが成しや たが太初より世々の人をよびいだししや われヱホバなり 我ははじめなり終なり 5もろもろの島はこれを見ておそれ地の極はをののきて寄集ひきたれり 6かれら互にその隣をたすけ その兄弟にいひけるは なんぢ雄々しかれ 7木匠は鐵工をはげまし鎚をもて平らぐるものは鐵礎をうつものを勵ましていふ 接合せいとよしと また釘をもて堅うして搖くことなからしむ 8然どわが僕イスラエルよ わが選めるヤコブわが友アブラハムの裔よ 9われ地のはてより汝をたづさへきたり地のはしよりなんぢを召かくて汝にいへり 汝はわが僕われ汝をえらみて棄ざりきと 10おそるるなかれ 我なんぢとともにあり 驚くなかれ我なんぢの神なり われなんぢを強くせん 誠になんぢを助けん 誠にわがただしき右手なんぢを支へん 11視よなんぢにむかひて怒るものはみな恥をえて惶てふためかん なんぢと爭ふものは無もののごとくなりて滅亡せん 12なんぢ尋ぬるとも汝とたたかふ人々にあはざるべし 汝といくさする者はなきものの如くなりて虛しくなるべし 13そは我ヱホバなんぢの神はなんぢの右手をとりて汝にいふ 懼るるなかれ我なんぢを助けんと 14またヱホバ宣給ふ なんぢ虫にひとしきヤコブよイスラエルの人よ おそるるなかれ我なんぢをたすけん汝をあがなふものはイスラエルの聖者なり 15視よわれ汝をおほくの鋭歯ある新しき打麥の器となさん なんぢ山をうちて細微にし岡を粃糠のごとくにすべし 16なんぢ簸げば風これを巻さり 狂風これを吹

ちらさん 汝はヱホバによりて喜びイスラエルの聖者によりて誇らん 17貧しきものと乏しきものと水を求めて水なくその舌かわきて衰ふるとき われヱホバ聽てこたへん 我イスラエルの神かれらを棄ざるなり 18われ河をかぶろの山にひらき泉を谷のなかにいだし また荒野を池となし乾ける地を水の源と變ん 19我あれのに香柏 合歡樹 もちの樹 および油の樹をうゑ沙漠に松 杉 及び黄楊をともに置ん 20かくて彼等これを見てヱホバの手の作たまふところイスラエルの聖者の造り給ふ所なるをしり且こころをとめ且ともどもにさとらん 21ヱホバ言 給く なんぢらの道理をとり出せ ヤコブの王いひたまはく 汝等のかたき證をもちきたれ 22これを持來りてわれらに後ならんとする事をしめせ そのいやさきに成るべきことを示せ われら心をとめてその終をしらん 或はきたらんとする事をわれらに聞すべし 23なんぢら後ならんとすることをしめせ 我儕なんぢらが神なることを知らん なんぢら或はさいはひし或はわざはひせよ 我儕ともに見ておどろかん 24視よ なんぢらは無もののごとし なんぢらの事はむなし なんぢらを撰ぶものは憎むべきものなり 25われ一人を起して北よりきたらせ我が名をよぶものを東よりきたらしむ 彼きたりもろもろの長をふみて泥のごとくにし陶工のつちくれを踐がごとくにせん 26たれか初よりこれらの事をわれらに告てしらしめたりや たれか上古よりわれらに告てこは是なりといはしめたりや 一人だに告るものなし一人だに聞するものなし 一人だになんぢらの言をきくものなし 27われ豫じめシオンにいはん なんぢ視よ かれらを見よと われ又よきおとづれを告るものをヱルサレムに予へん 28われ見るに一人だになし かれらのなかに謀略をまうくるもの一人だになし 我かれらに問どこたふるもの一人だになし 29かれらの爲はみな徒然にして無もののごとし その偶像は風なりまた空しきなり

第四十二章

1わが扶くるわが僕わが心よろこぶわが撰人をみよ 我わが靈をかれにあたへたり かれ異邦人に道をしめすべし 2かれは叫ぶことなく聲をあぐることなくその聲を街頭にきこえしめず 3また傷める蘆ををることなくほのくらき燈火をけすことなく 眞理をもて道をしめさん 4かれは衰へず喪膽せずして道を地にたてをはらん もろもろの島はその法言をまちのぞむべし 5天をつくりてこれをのべ地とそのうへの產 物とをひらき そのうへの民に息をあたへ その中をあゆむものに靈をあたへたまふ神ヱホバかく言給ふ 6云くわれヱホバ公義をもてなんぢを召たり われなんぢの手をとり汝をまもり なんぢを民の契約とし異邦人のひかりとなし 7而して瞽の目を開き俘 囚を獄よりいだし 暗にすめるものを檻のうちより出さしめん 8われはヱホバなり是わが名なり 我はわが榮光をほかの者にあたへず わがほまれを偶像にあたへざるなり 9さきに預言せるところはや成れり 我また新しきことをつげん 事いまだ兆さざるさきに我まづなんぢらに聞せんと 10海にうかぶもの 海のなかに充るもの もろもろの島およびその民よ ヱホバにむかひて新しき歌をうたひ 地の極よりその頌美をたたへまつれ 11荒野とその中のもろもろの邑とケダル人のすめるもろもろの村里はこゑをあげよ セラの民はうたひて山のいただきよりよばはれ 12榮光をヱホバにかうぶらせ その頌美をもろもろの島にて語りつげよ 13ヱホバ勇士のごとく出たまふ また戰士のごとく熱心をおこし 聲をあげてよばはり大能をあらはして仇をせめ給はん 14われ久しく聲をいださず默して己をおさへたり 今われ子をうまんとする婦人のごとく叫ばん 我いきづかしくかつ喘がん 15われ山と岡とをあらし且すべてその上の木草をからし もろもろの河を島としもろもろの池を涸さん 16われ瞽者をその未だしらざる大路にゆかしめ その未だしらざる徑をふましめ 暗をその前に光となし 曲れるをその前になほくすべし 我これらの事をおこなひて彼らをすてじ 17刻みたる偶像にたのみ鑄たる偶像にむかひて汝等はわれらの神なりといふものは退けられて大に恥をうけん 18聾者よきけ 瞽者よ眼をそそぎてみよ 19瞽者はたれぞ わが僕にあらずや 誰かわがつかはせる使者の如き瞽者あらんや 誰かわが友の如きめしひあらんや 誰かヱホバの僕のごときめしひあらんや 20汝おほくのことを見れども顧みず 耳をひらけども聞ざるなり 21ヱホバおのれ義なるがゆゑに大にしてたふとき律法をたまふをよろこび給へり 22然るにこの民はかすめられ奪はれてみな穴中にとらはれ獄のなかに閉こめらる 斯てその掠めらるるを助くる者なく その奪はれたるを償へといふ者なし 23なんぢらのうち誰かこのことに耳をかたぶけん たれか心をもちゐて後のために之をきかん 24ヤコブを奪はせしものは誰ぞ かすむる者にイスラエルをわたしし者はたれぞ 是ヱホバにあらずや われらヱホバに罪ををかし

その道をあゆまず その律法にしたがふことを好まざりき
25 この故にヱホバ烈しき怒をかたぶけ 猛きいくさをきたらせ その烈しきこと火の如く四圍にもゆれども彼しらず その身に焚せまれども心におかざりき

第四十三章

1 ヤコブよなんぢを創造せるヱホバいま如此いひ給ふ イスラエルよ汝をつくれるもの今かく言給ふ おそるるなかれ我なんぢを贖へり 我なんぢの名をよべり汝はわが有なり 2 なんぢ水中をすぐるときは我ともにあらん河のなかを過るときは水なんぢの上にあふれじ なんぢ火中をゆくとき焚ることなく火焔もまた燃つかじ 3 我はヱホバなんぢの神イスラエルの聖者 なんぢの救主なり われエジプトを予えてなんぢの贖 代となし エテオピアとセバとをなんぢに代ふ 4 われ看てなんぢを寶とし尊きものとして亦なんぢを愛す この故にわれ人をもてなんぢにかへ民をなんぢの命にかへん 5 懼るるなかれ我なんぢとともにあり 我なんぢの裔を東よりきたらせ西より汝をあつむべし 6 われ北にむかひて釋せといひ南にむかひて留るなかれといはん わが子輩を遠きよりきたらせ わが女らを地の極よりきたらせよ 7 すべてわが名をもて稱へらるる者をきたらせよ 我かれらをわが榮光のために創造せり われ曩にこれを造りかつ成をはれり 8 目あれども瞽者のごとく耳あれど聾者のごとき民をたづさへ出よ 9 國々はみな相集ひもろもろの民はあつまるべし 彼等のうち誰かいやさきに成るべきことをつげ之をわれらに聞することを得んや その證人をいだして己の是なるをあらはすべし 彼等ききて此はまことなりといはん 10 ヱホバ宣給くなんぢらはわが證人わがえらみし僕なり 然ばなんぢら知てわれを信じわが主なるをさとりうべし 我よりまへにつくられし神なく我よりのちにもあることなからん 11 ただ我のみ我はヱホバなり われの外にすくふ者あることなし 12 われ前につげまた救をほどこし また此事をきかせたり 汝等のうちには他神なかりき なんぢらはわが證人なり 我は神なり これヱホバ宣給るなり 13 今よりわれは主なりわが手より救ひいだし得るものなし われ行はば誰かとどむることを得んや 14 なんぢらを贖ふものイスラエルの聖者ヱホバかく言たまふ なんぢらの爲にわれ人をバビロンにつかはし彼處にあるカルデヤ人をことごとく下らせその宴樂の船にのりてのがれしむ 15 われはヱホバなんぢらの聖者イスラエルを創造せしもの又なんぢらの王なり
16 ヱホバは海のなかに大路をまうけ大なる水のなかに徑をつくり 17 戰車および馬軍兵武士をいできたらせ ことごとく仆れて起ることあたはず 皆ほろびて燈火のきえうするが如くならしめ給へり 18 ヱホバ言給く なんぢら往昔のことを思ひいづるなかれ また上古のことをかんがふるなかれ 19 視よわれ新しき事をなさん頓ておこるべし なんぢら知ざるべけんや われ荒野に道をまうけ沙漠に河をつくらん 20 野の獸われを崇むべし 野犬および駝鳥もまた然り われ水を荒野にいだし河を沙漠にまうけてわが民わがえらびたる者にのましむべければなり 21 この民はわが頌美をのべしめんとて我おのれのために造れるなり 22 然るにヤコブよ汝われを呼たのまざりき イスラエルよ汝 われを厭ひたり 23 なんぢ燔祭のひつじを我にもちきたらず犧牲をもて我をあがめざりき われ汝にそなへものの荷をおはせざりき また乳香をもて汝をわづらはせざりき 24 なんぢは銀貨をもて我がために菖蒲をかはず 犧牲のあぶらをもて我をあかしめず 反てなんぢの罪の荷をわれに負せ なんぢの邪曲にて我をわづらはせたり 25 われこそ我みづからの故によりてなんぢの咎をけし汝のつみを心にとめざるなれ 26 なんぢその是なるをあらはさんがために己が事をのべて我に記念せしめよ われら相共にあげつらふべし 27 なんぢの遠祖つみををかし汝のをしへの師われにそむけり 28 この故にわれ聖所の長たちを汚さしめヤコブを詛はしめイスラエルをののしらしめん

第四十四章

1 されどわが僕ヤコブよわが撰みたるイスラエルよ今きけ 2 なんぢを創造し なんぢを胎内につくり又なんぢを助くるヱホバ如此いひたまふ わがしもべヤコブよわが撰みたるヱシュルンよおそるるなかれ 3 われ渇けるものに水をそそぎ乾たる地に流をそそぎ わが靈をなんぢの子輩にそそぎ わが恩惠をなんぢの裔にあたふべければなり 4 斯てかれらは草のなかにて川のほとりの柳のごとく生そだつべし 5 ある人はいふ我はヱホバのものなりと ある人はヤコブの名をとなへん ある人はヱホバの有なりと手にしるしてイスラエルの名をなのらん 6 ヱホバ、イスラエルの王イスラエルをあがなふもの萬軍のヱホバ如此いひたまふ われは始なりわれは終なり われの外に神あることなし 7 我いにしへの民をまうけしより以來 たれかわれの

ごとく後事をしめし又つげ又わが前にいひつらねんや
試みに成んとすること來らんとすることを告よ 8なんぢ
ら懼るるなかれ慴くなかれ我いにしへより聞せたるにあ
らずや告しにあらずや なんぢらはわが證人なり われの
ほか神あらんや 我のほかには磐あらず われその一つだ
に知ことなし 9偶像をつくる者はみな空しく かれらが慕
ふところのものは益なし その證を見るものは見ことなく
知ことなし 斯るがゆゑに恥をうくべし 10たれか神をつく
り又えきなき偶像を鑄たりしや 11視よその伴侶はみなは
ぢん その匠工らは人なり かれら皆あつまりて立ときは
おそれてもろともに恥るなるべし 12鐵匠は斧をつくるに
炭の火をもてこれをやき鎚もてこれを鍛へつよき碗をも
てこれをうちかたむ 饑れば力おとろへ水をのまざればつ
かれはつべし 13木匠はすみなはをひきはり朱にてゑがき
鏨にてけづり文回をもて畫き 之を人の形にかたどり人
の美しき容にしたがひて造り 而して家のうちに安置す 14
あるひは香柏をきりあるひは槲をとり あるひは櫃をとり
或ははやしの樹のなかにて一をえらび あるひは杉をう
ゑ雨をえて長たしむ 15而して人これを薪となし之をもて
おのが身をあたため又これを燃してパンをやき又これを
神につくりてをがみ偶像につくりてその前にひれふす 16
その半は火にもやしその半は肉をにて食ひ あるひは肉を
あぶりてくひあき また身をあたためていふ ああ我あた
たまれり われ熱きをおぼゆ 17斯てその餘をもて神につく
り偶像につくりてその前にひれふし之ををがみ之にいの
りていふ なんぢは吾神なり我をすくへと 18これらの人は
知ことなく悟ることなし その眼ふさがりて見えず その
心とぢてあきらかならず 19心のうちに思ふことをせず
智識なく明悟なきがゆゑに我そのなかばを火にもやしそ
の炭火のうへにパンをやき肉をあぶりて食ひ その木のあ
まりをもて我いかで憎むべきものを作るべけんや 我いか
で木のはしくれに俯伏すことをせんやといふ者もなし 20
かかる人は灰をくらひ 迷へる心にまどはされて己がたま
しひを救ふあたはず またわが右手にいつはりあるにあら
ずやとおもはざるなり 21ヤコブよ イスラエルよ 此等の
ことを心にとめよ 汝はわが僕なり 我なんぢを造れり な
んぢわが僕なり イスラエルよ我はなんぢを忘れじ 22我な
んぢの愆を雲のごとくに消し なんぢの罪を霧のごとくに
ちらせり なんぢ我にかへれ我なんぢを贖ひたればなり 23
天よ うたうたへヨホバこのことを成たまへり 下なる地
よよばはれ もろもろの山よ林およびその中のもろもろの
木よ こゑを發ちてうたふべし ヨホバはヤコブを贖へり
イスラエルのうちに榮光をあらはし給はん 24なんぢを
贖ひなんぢを胎内につくれるヨホバかく言たまふ 我は
ヨホバなり我よろづのものを創造し ただ我のみ天をのべ
みづから地をひらき 25いつはるものの豫兆をむなしくし
卜者をくるはせ智者をうしろに退けてその知識をおろ
かならしむ 26われわが僕のことばを遂しめ わが使者のは
かりごとを成しめ ヨルサレムについては民また住はんと
いひ ユダのもろもろの邑については重ねて建らるべし我
その荒廢たるところを舊にかへさんといふ 27また淵に命
ず かわけ我なんぢのもろもろの川をほさんと 28又クロス
については彼はわが牧者すべてわが好むところを成しむ
る者なりといひ ヨルサレムについてはかさねて建られそ
の宮の基すゑられんといふ

第四十五章

1われヨホバわが受膏者クロスの右手をとりてもろもろ
の國をそのまへに降らしめ もろもろの王の腰をとき扉を
その前にひらかせて門をとづるものなからしめん 2われ
汝のまへにゆきて崎嶇をたひらかにし 銅の門をこぼち
くろがねの關木をたちきるべし 3われなんぢに暗ところ
の財貨とひそかなるところに藏せるたからとを予へ なん
ぢに我はヨホバなんぢの名をよべるイスラエルの神なる
を知しめん 4わが僕ヤコブわが撰みたるイスラエルのた
めに我なんぢの名をよべり 汝われを知ずといへどわれ名
をなんぢに賜ひたり 5われはヨホバなり 我のほかに神な
し 一人もなし 汝われをしらずといへども我なんぢを固
うせん 6而して日のいづるところより西のかたまで人々
我のほかに神なしと知べし 我はヨホバなり他にひとりも
なし 7われは光をつくり又くらきを創造す われは平和を
つくりまた禍害をさうざうす 我はヨホバなり 我すべて
これらの事をなすなり 8天ようへより滴らすべし 雲よ義
をふらすべし 地はひらけて救を生じ義をもともに萌いだ
すべし われヨホバ之を創造せり 9世人はすゑものの中の
ひとつの陶器なるに己をつくれる者とあらそふはわざは
ひなるかな 泥塊はすゑものつくりにむかひて汝なにを作
るかといふべけんや 又なんぢの造りたる者なんぢを手な
しといふべけんや 10父にむかひて汝なにゆゑに生むこと
をせしやといひ 婦にむかひて汝なにゆゑに產のくるしみ

をなししやといふ者はわざはひなるかな 11ヱホバ、イスラエルの聖者イスラエルを造れるもの如此いひたまふ 後きたらんとすることを我にとへ またわが子女とわが手の工とにつきて汝等われに言せよ 12われ地をつくりてそのうへに人を創造せり われ自らの手をもて天をのべ その萬象をさだめたり 13われ義をもて彼のクロスを起せり われそのすべての道をなほくせん 彼はわが邑をたてわが俘 囚 を價のためならず報のためならずして釋すべし これ萬軍のヱホバの聖言なり 14ヱホバ如此いひたまふ エジプトがはたらきて得しものとエテオピアがあきなひて得しものとはなんぢの有とならん また身のたけ高きセバ人きたりくだりて汝にしたがひ繩につながれて降り なんぢのまへに伏しなんぢに祈りていはん まことに神はなんぢの中にいませり このほかに神なし一人もなしと 15救をほどこし給ふイスラエルの神よ まことに汝はかくれています神なり 16偶像をつくる者はみな恥をいだき辱かしめをうけ諸共にはぢあわてて退かん 17されどイスラエルはヱホバにすくはれて永遠の救をえん なんぢらは世々かぎりなく恥をいだかず辱かしめをうけじ 18ヱホバは天を創造したまへる者にしてすなはち神なり また地をもつくり成てこれを堅くし徒然にこれを創造し給はず これを人の住所につくり給へり ヱホバかく宣給ふ われはヱホバなり我のほかに神あることなしと 19われは隠れたるところ地のくらき所にてかたらず 我はヤコブの裔になんぢらが我をたづぬるは徒然なりといはず 我ヱホバはただしき事をかたり直きことを告ぐ 20汝等もろもろの國より脱れきたれる者よ つどひあつまり共にすすみききたれ 木の像をになひ救ふことあたはざる神にいのりするものは無智なるなり 21なんぢらその道理をもちきたりて述よ また共にはかれ 此事をたれか上古より示したりや 誰かむかしより告たりしや 此はわれヱホバならずや 我のほかに神あることなし われは義をおこなひ救をほどこす神にして我のほかに神あることなし 22地の極なるもろもろの人よなんぢら我をあふぎのぞめ然ばすくはれん われは神にして他に神なければなり 23われは己をさして誓ひたり この言はただしき口よりいでたれば反ることなし すべての膝はわがまへに屈み すべての舌はわれに誓をたてん 24人われに就ていはん正義と力とはヱホバにのみありと 人々ヱホバにきたらん すべてヱホバにむかひて怒るものは恥をいだくべし 25イスラエルの裔はヱホバによりて義とせられ且ほこらん

第四十六章

1ベルは伏しネボは屈む かれらの像はけものと家畜とのうへにあり なんぢらが擡げあるきしものは荷となりて疲れおとろへたるけものの負ところとなりぬ 2かれらは屈みかれらは共にふし その荷となれる者をすくふこと能はずして己とらはれゆく 3ヤコブの家よイスラエルのいへの遺れるものよ 腹をいでしより我におはれ胎をいでしより我にもたげられしものよ 皆われにきくべし 4なんぢらの年老るまで我はかはらず白髪となるまで我なんぢらを負ん 我つくりたれば擡ぐべし我また負ひかつ救はん 5なんぢら我をたれに比べ たれに配ひ たれに擬らへ かつ相くらぶべきか 6人々ふくろより黄金をかたぶけいだし 權衡をもて白銀をはかり金工をやとひてこれを神につくらせ之にひれふして拝む 7彼等はこれをもたげて肩にのせ 負ひゆきてその處に安置す すなはち立てその處をはなれず 人これにむかひて呼はれども答ふること能はず 又これをすくひて苦難のうちより出すことあたはず 8なんぢら此事をおもひいでて堅くたつべし 悖逆者よこのことを心にとめよ 9汝等いにしへより以來のことをおもひいでよ われは神なり我のほかに神なし われは神なり我のごとき者なし 10われは終のことを始よりつげ いまだ成ざることを昔よりつげ わが謀 畧はかならず立つといひすべて我がよろこぶことを成んといへり 11われ東より鷲をまねき遠國よりわが定めおける人をまねかん 我このことを語りたれば必らず來らすべし 我このことを謀りたればかならず成すべし 12なんぢら心かたくなにして義にとほざかるものよ我にきけ 13われわが義をちかづかしむ可ればその來ること遠からず わが救おそからず 我すくひをシオンにあたへ わが榮光をイスラエルにあたへん

第四十七章

1バビロンの處女よ くだりて塵のなかにすわれ カルデヤ人のむすめよ座にすわらずして地にすわれ 汝ふたたび婀娜にして嬌なりととなへらることなからん 2 碾 をとりて粉をひけ 面 帕をとりさり裙をぬぎ髄をあらはして河をわたれ 3なんぢの肌はあらはれなんぢの恥はみゆべし われ仇をむくいて人をかへりみず 4われらを贖ひたまふ者はその名を萬軍のヱホバ、イスラエルの聖者といふ

5カルデヤ人のむすめよ なんぢ口をつぐみてすわれ 又くらき所にいりてをれ 汝ふたたびもろもろの國の主母ととなへらるることなからん 6われわが民をいきどほりわが産業をけがして之をなんぢの手にあたへたり 汝これに憐憫をほどこさず年老たるもののうへに甚だおもき軛をおきたり 7汝いへらく我とこしへに主母たらんと 斯てこれらのことを心にとめず亦その終をおもはざりき 8なんぢ歡樂にふけり安らかにをり 心のうちにただ我のみにして我のほかに誰もなく我はやもめとなりてをらず また子をうしなふことを知まじとおもへる者よなんぢ今きけ 9子をうしなひ寡婦となるこの二つのこと一日のうちに俄になんぢに來らん汝おほく魔術をおこなひひろく呪詛をほどこすと雖もみちみちて汝にきたるべし 10汝おのれの惡によりたのみていふ 我をみるものなしと なんぢの智慧となんぢの聰明とはなんぢを惑せたり なんぢ心のうちにおもへらくただ我のみにして我のほかに誰もなしと 11この故にわざはひ汝にきたらん なんぢ呪ひてこれを除くことをしらず 艱難なんぢに落きたらん 汝これをはらふこと能はず なんぢの思ひよらざる荒廢にはかに汝にきたるべし 12今なんぢわかきときより勤めおこなひたる呪詛とおほくの魔術とをもて立むかふべしあるひは益をうることあらん あるひは敵をおそれしむることあらん 13なんぢは謀畧おほきによりて倦つかれたり かの天をうらなふもの星をみるもの新月をうらなふ者もし能はば いざたちて汝をきたらんとする事よりまぬかれしむることをせよ 14彼らは藁のごとくなりて火にやかれん おのれの身をほのほの勢力よりすくひいだすこと能はず その火は身をあたたむべき炭火にあらず又その前にすわるべき火にもあらず 15汝がつとめて行ひたる事は終にかくのごとくならん 汝のわかきときより汝とうりかひしたる者おのおのその所にさすらひゆきて一人だになんぢを救ふものなかるべし

第四十八章

1ヤコブの家よなんぢら之をきけ 汝らはイスラエルの名をもて稱へられ ユダの根源よりいでヱホバの名によりて誓ひイスラエルの神をかたりつぐれども 眞實をもてせず 正義をもてせざるなり 2かれらはみづから聖 京のものとなへイスラエルの神によりたのめり その名は萬軍のヱホバといふ 3われ今よりさきに成しことを既にいにしへより告たり われ口よりいだして既にのべつたへたり 我にはかにこの事をおこなひ而して成ぬ 4われ汝がかたくなにして項の筋はくろがねその額はあかがねなるを知れり 5このゆゑに我はやくよりかの事をなんぢにつげ その成ざるさきに之をなんぢに聞しめたり 恐くはなんぢ云んわが偶像これを成せり刻みたるざう鑄たる像これを命じたりと 6なんぢ既にきけり 凡てこれを視よ 汝ら之をのべつたへざるか われ今より新なる事なんぢが未だしらざりし秘事をなんぢに示さん 7これらの事はいま創造せられしにて上古よりありしにあらず この日よりさきに汝これを聞ざりき 然らずば汝いはん視よわれこれを知れりと 8汝 これを聞こともなく知こともなく なんぢの耳はいにしへより開けざりき 我なんぢが欺きあざむきて生れながら悖逆者ととなへられしを知ればなり 9わが名のゆゑによりて我いかりを遲くせん わが頌美のゆゑにより我しのびてなんぢを絶滅すことをせじ 10視よわれなんぢを煉たり されど白銀の如くせずして患難の爐をもてこころみたり 11われ己のため我おのれの爲にこれを成ん われ何でわが名をけがさしむべき 我わが榮光をほかの者にあたることをせじ 12ヤコブよわが召たるイスラエルよ われにきけ われは是なり われは始また終なり 13わが手は地のもとゐを置わが右の手は天をのべたり 我よべば彼等はもろともに立なり 14汝ら皆あつまりてきけ ヱホバの愛するものヱホバの好みたまふ所をバビロンに成し その腎はカルデヤ人のうへにのぞまん 彼等のうち誰かこれらの事をのべつげしや 15ただ我のみ我かたれり 我かれをめし我かれをきたらせたり その道さかゆべし 16なんぢら我にちかよりて之をきけ 我はじめより之をひそかに語りしにあらず その成しときより我はかしこに在り いま主ヱホバわれとその靈とをつかはしたまへり 17なんぢの贖 主イスラエルの聖者ヱホバかく言 給く われはなんぢの神ヱホバなり 我なんぢに益することを教へ なんぢを導きてそのゆくべき道にゆかしむ 18願くはなんぢわが命令にききしたがはんことを もし然らばなんぢの平安は河のごとく 汝の義はうみの波のごとく 19なんぢの裔はすなのごとく 汝 の體よりいづる者は細沙のごとくになりて その名はわがまへより絶ることなく亡さることなからん 20なんぢらバビロンより出てカルデヤ人よりのがれよ なんらぢ 歡 の聲をもてのべきかせ地のはてにいたるまで語りつたへ ヱホバはその僕ヤコブをあがなひ給へりといへ 21

ヱホバかれらをして沙漠をゆかしめ給へるとき彼等はかわきたることなかりき ヱホバ彼等のために磐より水をながれしめ また磐をさきたまへば水ほどばしりいでたり 22 ヱホバいひたまはく 惡きものには平安あることなし

第四十九章

1 もろもろの島よ我にきけ 遠きところのもろもろの民よ 耳をかたむけよ 我うまれいづるよりヱホバ我を召し われ母の胎をいづるよりヱホバわが名をかたりつげたまへり 2 ヱホバわが口を利劍となし我をその手のかげにかくし 我をとぎすましたる矢となして箙にをさめ給へり 3 また我にいひ給はく 汝はわが僕なり わが榮光のあらはるべきイスラエルなりと 4 されど我いへり われは徒然にはたらき益なくむなしく力をつひやしぬと 然はあれど誠にわが審判はヱホバにあり わが報はわが神にあり 5 ヤコブをふたたび己にかへらしめイスラエルを己のもとにあつまらせんとて 我をうまれいでしより立ておのれの僕となし給へるヱホバいひ給ふ(我はヱホバの前にたふとくせらる 又わが神はわが力となりたまへり) 6 その聖言にいはく なんぢわが僕となりてヤコブのもろもろの支派をおこし イスラエルのうちののこりて全うせしものを歸らしむることはいと輕し 我また汝をたてて異邦人の光となし 我がすくひを地のはてにまで到らしむ 7 ヱホバ、イスラエルの贖 主イスラエルの聖者は人にあなどらるるもの 民にいみきらはるるもの 長たちに役せらるる者にむかひて如此いひたまふ もろもろの王は見てたちもろもろの君はみて拜すべし これ信實あるヱホバ、イスラエルの聖者なんぢを選びたまへるが故なり 8 ヱホバ如此いひたまふ われ惠のときに汝にこたへ救の日になんぢを助けたり われ汝をまもりて民の契約とし國をおこし荒すたれたる地をまた產業としてかれらにつがしめん 9 われ縛しめられたる者にいでよといひ暗にをるものに顯れよといはん かれら途すがら食ふことをなし もろもろの禿なる山にも牧草をうべし 10 かれらは饑ずかわかず 又やけたる砂もあつき日もうつことなし 彼等をあはれむもの之をみちびきて泉のほとりに和かにみちびき給ければなり 11 我わがもろもろの山を路とし わが大路をたかくせん 12 視よ人々あるひは遠きよりきたり あるひは北また西よりきたらん 或はまたシニムの地よりきたるべし 13 天ようたへ地よよろこべ もろもろの山よ聲をはなちてうたへ ヱホバはその民をなぐさめその苦むものを憐みたまへばなり 14 然どシオンはいへりヱホバ我をすて主われをわすれたまへりと 15 婦その乳兒をわすれて己がはらの子をあはれまざることあらんや 縱ひかれら忘るることありとも我はなんぢを忘るることなし 16 われ 掌 になんぢを彫刻めり なんぢの石垣はつねにわが前にあり 17 なんぢの子輩はいそぎ來り なんぢを毀つもの汝をあらす者は汝より出さらん 18 なんぢ目をあげて環視せよ これらのもの皆あひあつまりて 汝がもとに來るべし ヱホバ宣給く われは活なんぢ此等をみな身によそほひて飾となし 新婦の帶のごとくに之をまとふべし 19 なんぢの荒かつ廢れたるところ毀たれたる地は このののち住ふもの多くして狹きをおぼえん なんぢを呑つくししもの遙にはなれ去るべし 20 むかし別れたりしなんぢの子輩はのちの日なんぢの耳のあたりにて語りあはん云く ここは我がために狹し なんぢ外にゆきて我にすむべき所をえしめよと 21 その時なんぢ心 裏にいはん 誰かわがために此等のものを生しや われ子をうしなひて獨 居りかつ俘れ且さすらひたり 誰かこれを育てしや 視よわれ一人のこされたり 此等はいづこに居しや 22 主ヱホバいひたまはく 視よわれ手をもろもろの國にむかひてあげ 旗をもろもろの民にむかひてたてん 斯てかれらはその懷中になんぢの子輩をたづさへ その肩になんぢの女輩をのせきたらん 23 もろもろの王はなんぢの養 父となり その后妃はなんぢの乳母となり かれらはその面を地につけて汝にひれふし なんぢの足の塵をなめん 而して汝わがヱホバなるをしり われを俟望むものの恥をかうぶることなきを知るならん 24 勇士がうばひたる掠物をいかでとりかへし 強暴者がかすめたる虜をいかで救いだすことを得んや 25 されどヱホバ如此いひたまふ云く ますらをが掠めたる虜もとりかへされ 強暴者がうばひたる掠物もすくひいださるべし そは我なんぢを攻るものをせめてなんぢの子輩をすくふべければなり 26 我なんぢを虐ぐるものにその肉をくらはせ またその血をあたらしき酒のごとくにのませて酔しめん 而して萬 民はわがヱホバにして汝をすくふ者なんぢを贖ふものヤコブの全能者なることを知るべし

第五十章

1 ヱホバかくいひ給ふ わがなんぢらの母をさりたる離書はいづこにありや 我いづれの債主になんぢらを賣わたし

しや 視よなんぢらはその不義のために賣られ なんぢらの母は汝らの咎戻のために去られたり 2わがきたりし時なにゆゑ一人もをらざりしや 我よびしとき何故ひとりも答ふるものなかりしや わが手みぢかくして贖ひえざるかわれ救ふべき力なからんや 視よわれ叱咤すれば海はかれ河はあれのとなりそのなかの魚は水なきによりかわき死て臭氣をいだすなり 3われ黑きころもを天にきせ龕布をもて蔽となす 4主ヱホバは教をうけしものの舌をわれにあたへ言をもて疲れたるものを扶支ふることを知得しめたまふ また朝ごとに醒しわが耳をさまして教をうけし者のごとく聞ことを得しめたまふ 5主ヱホバわが耳をひらき給へり われは逆ふことをせず退くことをせざりき 6われを撻つものにわが背をまかせわが鬚をぬくものにわが頬をまかせ 恥と唾とをさくるために面をおほふことをせざりき 7主ヱホバわれを助けたまはん この故にわれ恥ることなかるべし 我わが面を石の如くして恥しめらるることなきを知る 8われを義とするもの近きにあり たれか我とあらそはんや われら相共にたつべし わが仇はたれぞや近づききたれ 9主ヱホバわれを助け給はん 誰かわれを罪せんや 視よかれらはみな衣のごとくふるび蠹のためにくひつくされん 10汝等のうちヱホバをおそれその僕の聲をきくものは誰ぞや 暗をあゆみて光をえざるともヱホバの名をたのみおのれの神にたよれ 11火をおこし火把を帶るものよ汝等みなその火のほのほのなかをあゆめ 又なんぢらの燃したる火把のなかをあゆめ なんぢら斯のごとき事をわが手よりうけて悲みのうちに臥べし

第五十一章

1義をおひ求めヱホバを尋ねもとむるものよ我にきけ なんぢらが斫出されたる磐となんぢらの掘出されたる穴とをおもひ見よ 2なんぢらの父アブラハム及びなんぢらを生たるサラをおもひ見よ われ彼をその唯一人なりしときに召しこれを祝してその子孫をまし加へたり 3そはヱホバ、シオンを慰め またその凡てあれたる所をなぐさめてその荒野をエデンのごとくその沙漠をヱホバの園のごとくなしたまへり 斯てその中によろこびと歡樂とあり感謝とうたうたふ聲とありてきこゆ 4わが民よわが言にこころをとめよ わが國人よわれに耳をかたぶけよ 律法はわれより出づ われわが途をかたく定めてもろもろの民の光となさん 5わが義はちかづきわが救はすでに出たり わが臂はもろもろの民をさばかん もろもろの島はわれを俟望み わがかひなに依賴ん 6なんぢら目をあげて天を觀また下なる地をみよ 天は烟のごとくきえ地は衣のごとくふるびその中にすむ者これとひとしく死ん されどわが救はとこしへにながらへ わが義はくだくることなし 7義をしるものよ心のうちにわが律法をたもつ民よ われにきけ 人のそしりをおそるるなかれ人ののののしりに慴くなかれ 8そはかれら衣のごとく蠹にはまれ羊の毛のごとく蟲にはまれん されどわが義はとこしへに存らへ わがすくひ萬代におよぶべし 9さめよ醒よヱホバの臂よちからを着よ さめて古への時むかしの代にありし如くなれ ラハブをきりころし鱷をさしつらぬきたるは汝にあらずや 10海をかわかし大なる淵の水をかわかし また海のふかきところを贖はれたる人のすぐべき路となししは汝にあらずや 11ヱホバに贖ひすくはれしもの歌うたひつつ歸りてシオンにきたり その首にとこしへの歡喜をいただきて快樂とよろこびとをえん 而してかなしみと歎息とはにげさるべし 12我こそ我なんぢらを慰むれ 汝いかなる者なれば死べき人をおそれ草の如くなるべき人の子をおそるるか 13いかなれば天をのべ地の基をすゑ汝をつくりたまへるヱホバを忘れしや 何なれば汝をほろぼさんとて豫備するに虐ぐるものの憤れるをみて常にひねもす懼るるか 虐ぐるものの忿恚はいづこにありや 14身をかがめゐる俘 囚はすみやかに解れて 死ることなく穴にくだることなくその食はつくること無るべし 15我は海をふるはせ波をなりどよめかする汝の神ヱホバなり その御名を萬軍のヱホバといふ 16我わが言をなんぢの口におきわが手のかげにて汝をおほへり かくてわれ天をうゑ地の基をすゑ シオンにむかひて汝はわが民なりといはん 17エルサレムよさめよさめよ起よ なんぢ前にヱホバの手よりその忿恚のさかづきをうけて飲み よろめかす大 杯をのみ且すひほしたり 18なんぢの生るもろもろの子のなかに汝をみちびく者なく 汝のそだてたるもろもろの子の中にてなんぢの手をたづさふる者なし 19この二のこと汝にのぞめり誰かなんぢのために歎んや 荒廢の饑饉ほろびの劍なんぢに及べり我いかにして汝をなぐさめんや 20なんぢの子らは息たえだえにして網にかかれる羚羊のごとくし街 衢の口にふす ヱホバの忿恚となんぢの神のせめとはかれらに滿たり 21このゆゑに苦しめるもの酒にあらで酔たるものよ之をきけ 22なんぢの主ヱホバおのが民の訟をあげつ

らひ給ふ なんぢの神かくいひ給ふ 我よろめかす酒杯を
なんぢの手より取除き わがいきどほりの大 杯をとりの
ぞきたり 汝ふたたびこれを飲ことあらじ 23我これを汝を
なやますものの手にわたさん 彼らは曩になんぢの靈魂に
むかひて云らく なんぢ伏せよわれら越ゆかんと 而して
なんぢその背を地のごとくし衢のごとくし彼等のこえゆ
くに任せたり

第五十二章

1シオンよ醒よさめよ汝の力を衣よ 聖 都エルサレムよな
んぢの美しき衣をつけよ 今より割禮をうけざる者および
潔からざるものふたたび汝にいること無るべければなり
2なんぢ身の塵をふりおとせ エルサレムよ起よすわれ 俘
れたるシオンのむすめよ汝がうなじの繩をときすてよ 3
そはヱホバかく言給ふ なんぢらは價なくして賣られたり
金なくして贖はるべし 4主ヱホバ如此いひ給ふ 曩にわが
民エジプトにくだりゆきて彼處にとどまれり アツスリヤ
人ゆゑなくして彼等をしへたげたり 5ヱホバ宣給く わが
民はゆゑなくして俘れたり されば我ここに何をなさん
ヱホバのたまはく 彼等をつかさどる者さけびよばはり
わが名はつねに終日けがさるるなり 6この故にわが民は
わが名をしらん このゆゑにその日には彼らこの言をかた
るものの我なるをしらん 我ここに在り 7よろこびの音信
をつたへ平和をつげ 善おとづれをつたへ救をつげ シオ
ンに向ひてなんぢの神はすべ治めたまふといふものの足
は山 上にありていかに美しきかな 8なんぢが斥候の聲き
こゆ かれらはヱホバのシオンに歸り給ふを目と目とあひ
あはせて視るが故にみな聲をあげてもろともにうたへり
9ヱルサレムの荒廢れたるところよ 聲をはなちて共にう
たふべし ヱホバその民をなぐさめヱルサレムを贖ひたま
ひたればなり 10ヱホバそのきよき手をもろもろの國人の
目のまへにあらはしたまへり 地のもろもろの極までもわ
れらの神のすくひを見ん 11なんぢら去よされよ 彼處をい
でて汚れたるものに觸るなかれ その中をいでよ ヱホバ
の器をになふ者よ なんぢら潔くあれ 12なんぢら急ぎいづ
るにあらず趨りゆくにあらず ヱホバはなんぢらの前にゆ
きイスラエルの神はなんぢらの軍後となり給ふべければ
なり 13視よわがしもべ智慧をもておこなはん 上りのぼり
て甚だたかくならん 14曩にはおほくの人かれを見ておど
ろきたり(その面貌はそこなはれて人と異なりその形容
はおとろへて人の子とことなれり) 15後には彼おほく
國民にそそがん 王たち彼によりて口を緘まん そはかれ
ら未だつたへられざることを見いまだ聞ざることを悟る
べければなり

第五十三章

1われらが宣るところを信ぜしものは誰ぞや ヱホバの手
はたれにあらはれしや 2かれは主のまへに芽えのごとく
燥きたる土よりいづる樹株のごとくそだちたり われらが
見るべきうるはしき容なく うつくしき貌はなく われら
がしたふべき艶色なし 3かれは侮られて人にすてられ
悲哀の人にして病患をしれり また面をおほひて避ること
をせらるる者のごとく侮られたり われらも彼をたふとま
ざりき 4まことに彼はわれらの病患をおひ我儕のかなし
みを擔へり 然るにわれら思へらく彼はせめられ神にうた
れ苦しめらるるなりと 5彼はわれらの愆のために傷けら
れ われらの不義のために碎かれ みづから懲罰をうけて
われらに平安をあたふ そのうたれし痍によりてわれらは
癒されたり 6われらはみな羊のごとく迷ひておのおの己
が道にむかひゆけり 然るにヱホバはわれら凡てのものの
不義をかれのうへに置たまへり 7彼はくるしめらるれど
もみづから謙だりて口をひらかず 屠場にひかるる羔羊の
如く毛をきる者のまへにもだす羊の如くしてその口をひ
らかざりき 8かれは虐待と審判とによりて取去れたり そ
の代の人のうち誰か彼が活るものの地より絶れしことを
思ひたりしや 彼はわが民のとがの爲にうたれしなり 9そ
の墓はあしき者とともに設けられたれど 死るときは富る
ものとともになれり かれは暴をおこなはずその口には
虛僞なかりき 10されどヱホバはかれを碎くことをよろこ
びて之をなやましたまへり 斯てかれの靈魂とがの獻物
をなすにいたらば彼その末をみるを得その日は永からん
かつヱホバの悦び給ふことは彼の手によりて榮ゆべし 11
かれは己がたましひの煩勞をみて心たらはん わが義しき
僕 はその知識によりておほくの人を義とし又かれらの
不義をおはん 12このゆゑに我かれをして大なるものとと
もに物をわかち取しめん かれは強きものとともに掠物を
わかちとるべし 彼はおのが靈魂をかたぶけて死にいたら
しめ愆あるものとともに數へられたればなり 彼はおほく
の人の罪をおひ愆あるものの爲にとりなしをなせり

第五十四章

1なんぢ孕まず子をうまざるものよ歌うたふべし 産のくるしみなきものよ聲をはなちて謳ひよばはれ 夫なきものの子はとつげるものの子よりおほしと 此はヱホバの聖言なり 2汝が幕屋のうちを廣くし なんぢが住居のまくをはりひろげて吝むなかれ 汝の綱をながくしなんぢの杙をかたくせよ 3そはなんぢが右に左にひろごり なんぢの裔はもろもろの國をえ 荒廢れたる邑をもすむべき所となさしむべし 4懼るるなかれなんぢ恥ることなからん 惶てためくことなかれ汝はぢしめらるることなからん 若きときの恥をわすれ寡婦たりしときの恥 辱をふたたび覺ることなからん 5なんぢを造り給へる者はなんぢの夫なり その名は萬軍のヱホバ なんぢを贖ひ給ふものはイスラエルの聖者なり 全世界の神ととなへられ給ふべし 6ヱホバ汝をまねきたまふ 棄られて心うれふる妻また若きとき嫁てさられたる妻をまねくがごとしと 此はなんぢの神のみことばなり 7我しばし汝をすてたれど大なる憐憫をもて汝をあつめん 8わが忿恚あふれて暫くわが面をなんぢに隱したれど 永遠のめぐみをもて汝をあはれまんと 此はなんぢをあがなひ給ふヱホバの聖言なり 9このこと我にはノアの洪水のときのごとし 我むかしノアの洪水をふたたび地にあふれ流るることなからしめんと誓ひしが そのごとく我ふたたび汝をいきどほらず 再びなんぢを責じとちかひたり 10山はうつり岡はうごくとも わが仁慈はなんぢよりうつらず 平安をあたふるわが契約はうごくことなからんと 此はなんぢを憐みたまふヱホバのみことばなり 11なんぢ苦しみをうけ暴風にひるがへされ 安慰をえざるものよ 我うるはしき彩色をなしてなんぢの石をすゑ 青き玉をもてなんぢの基をおき 12くれなゐの玉をもてなんぢの櫓をつくり むらさきの玉をもてなんぢの門をつくり なんぢの境 内はあまねく寶石にてつくるべし 13又なんぢの子輩はみなヱホバに教をうけ なんぢの子輩のやすきは大ならん 14なんぢ義をもて堅くたち 虐待よりとほざかりて慄ることなく また恐懼よりとほざかるべし そは恐懼なんぢに近づくことなければなり 15縦ひかれら群集ふとも我によるにあらず 凡てむれつどひて汝をせむる者はなんぢの故にたふるべし 16みよ炭火をふきおこして用ゐるべき器をいだす鐵工はわが創造するところ 又あらし滅ぼす者もわが創造するところなり 17すべてなんぢを攻んとてつくられしうつはものは利あることなし 興起ちてなんぢとあらそひ訴ふる舌はなんぢに罪せらるべし これヱホバの僕等のうくる產業なり 是かれらが我よりうくる義なりとヱホバのたまへり

第五十五章

1噫なんぢら渇ける者ことごとく水にきたれ 金なき者もきたるべし 汝等きたりてかひ求めてくらへ きたれ金なく價なくして葡萄酒と乳とをかへ 2なにゆゑ糧にもあらぬ者のために金をいだし 飽ことを得ざるもののために勞するや われに聽從へ さらばなんぢら美物をくらふをえ 脂をもてその靈魂をたのしまするを得ん 3耳をかたぶけ我にきたりてきけ 汝等のたましひは活べし われ亦なんぢらととこしへの契約をなしてダビデに約せし變らざる惠をあたへん 4視よわれ彼をたててもろもろの民の證とし又もろもろの民の君となし命令する者となせり 5なんぢは知ざる國民をまねかん 汝をしらざる國民はなんぢのもとに走りきたらん 此はなんぢの神ヱホバ、イスラエルの聖者のゆゑによりてなり ヱホバなんぢを尊くしたまへり 6なんぢら遇ことをうる間にヱホバを尋ねよ 近くゐたまふ間によびもとめよ 7惡きものはその途をすて よこしまなる人はその思念をすててヱホバに反れ さらば憐憫をほどこしたまはん 我等の神にかへれ豐に赦をあたへ給はん 8ヱホバ宣給くわが思はなんぢらの思とことなり わが道はなんぢらのみちと異なれり 9天の地よりたかきがごとく わが道はなんぢらの道よりも高く わが思はなんぢらの思よりもたかし 10天より雨くだり雪おちて復かへらず 地をうるほして物をはえしめ 萌をいださしめて播ものに種をあたへ 食ふものに糧をあたふ 11如此わが口よりいづる言もむなしくは我にかへらず わが喜ぶところを成し わが命じ遣りし事をはたさん 12なんぢらは喜びて出きたり平穩にみちびかれゆくべし 山と岡とは聲をはなちて前にうたひ野にある樹はみな手をうたん 13松樹はいばらにかはりてはえ岡拈樹は棘にかはりてはゆべし 此はヱホバの頌美となり並とこしへの徵となりて絶ることなからん

第五十六章

1ヱホバ如此いひ給ふ なんぢら公平をまもり正義をおこなふべし わが救のきたるはちかく わが義のあらはるるは近ければなり 2安息日をまもりて汚さず その手をおさへて惡きことをなさず 斯おこなふ人かく堅くまもる人の子はさいはひなり 3ヱホバにつらなれる異邦人はいふな

かれ ヱホバ必ず我をその民より分ち給はんと 寺人もまたいふなかれ われは枯たる樹なりと 4ヱホバ如此いひたまふ わが安息日をまもり わが悦ぶことをえらみて我が契約を堅くまもる寺人には 5我わが家のうちにてわが垣のうちにて子にも女にもまさる記念のしるしと名とをあたへ 並とこしへの名をたまふて絶ることなからしめん 6またヱホバにつらなりこれに事へ ヱホバの名を愛しその僕となり 安息日をまもりて汚すことなく凡てわが契約をかたくまもる異邦人は 7我これをわが聖山にきたらせわが祈の家のうちにて樂ましめん かれらの燔祭と犠牲とはわが祭壇のうへに納められるべし わが家はすべての民のいのりの家ととなへらるべければなり 8イスラエルの放逐れたるものを集めたまふ主ヱホバのたまはく 我さらに人をあつめて既にあつめられたる者にくはへん 9野獣よみなきたりてくらへ 林にをるけものよ皆きたりてくらへ 10斥候はみな瞽者にしてしることなし みな唖なる犬にして吠ることあたはず みな夢みるもの臥ゐるもの眠ることをこのむ者なり 11この犬はむさぼること甚だしくして飽ことをしらず かれらは悟ることを得ざる牧者にして皆おのが道にむかひゆき 何れにをる者もおのおの己の利をおもふ 12かれら互にいふ請われ酒をたづさへきたらん われら濃酒にのみあかん かくて明日もなほ今日のごとく大にみち足はせんと

第五十七章

1義 者ほろぶれども心にとむる人なく 愛しみ深き人々とりさらるれども義きものの禍害のまへより取去るるなるを悟るものなし 2かれは平安にいり 直きをおこなふ者はその寐床にやすめり 3なんぢら巫女の子 淫 人また妓女の裔よ 近ききたれ 4なんぢら誰にむかひて戯れをなすや 誰にむかひて口をひらき舌をのばすや なんぢらは悖逆の子 輩いつはりの黨類にあらずや 5なんぢらは橿樹のあひだ緑りなる木々のしたに心をこがし 谷のなか岩の狹間に子をころせり 6なんぢは谷のなかの滑かなる石をうくべき嗣業とし これをなんぢが所有とす なんぢ亦これに灌祭をなし 之にそなへものを献げたり われ之によりていかで心をなだむべしや 7なんぢは高くそびえたる山の上になんぢの床をまうけ かつ其處にのぼりゆきて犠牲をささげたり 8また戸および柱のうしろに汝の記念をおけり なんぢ我をはなれて他人に身をあらはし 登りゆきてその床をひろくし かれらと誓をなし 又かれらの床を愛し これがためにその所をえらびたり 9なんぢ香 膏とおほくの薫物とをたづさへて王にゆき 又なんぢの使者をとほきにつかはし陰府にまで己をひくくせり 10なんぢ途のながきに疲れたれどなほ望なしといはず なんぢ力をいきかへされしによりて衰弱ざりき 11なんぢ誰をおそれ誰のゆゑに慴きていつはりをいひ 我をおもはず亦そのことを心におかざりしや われ久しく默したれど汝かへりて我をおそれざりしにあらずや 12我なんぢの義をつげしめさん なんぢの作はなんぢに益せじ 13なんぢ呼るときその集めおきたるもの汝をすくへ 風はかれらを悉くあげさり 息はかれらを吹さらん 然どわれに依賴むものは地をつぎわが聖山をうべし 14また人いはん 土をもり土をもりて途をそなへよ わが民のみちより躓 礙をとりされと 15至高く至上なる永遠にすめるもの聖者となづくるもの如此いひ給ふ 我はたかき所きよき所にすみ 亦こころ砕けてへりくだる者とともにすみ 謙だるものの靈をいかし 砕けたるものの心をいかす 16われ限なくは爭はじ我たえずは怒らじ 然らずば人のこころ我がまへにおとろへん わが造りたる靈はみな然らん 17彼のむさぼりの罪により我いかりて之をうちまた面をおほひて怒りたり 然るになほ悖りて己がこころの途にゆけり 18されど我その途をみたり 我かれを愈すべし 又かれを導きてふたたび安慰をかれとその中のかなしめる者とにかへすべし 19我くちびるの果をつくれり 遠きものにも近きものにも平安あれ平安あれ 我かれをいやさん 此はヱホバのみことばなり 20然はあれど惡 者はなみだつ海のごとし 靜かなること能はずしてその水つねに濁と泥とをいだせり 21わが神いひたまはく 惡きものには平安あることなしと

第五十八章

1大によばはりて聲ををしむなかれ 汝のこゑをラッパのごとくあげ わが民にその愆をつげヤコブの家にその罪をつげしめせ 2かれらは日々われを尋求めわが途をしらんことをこのむ 義をおこなひ神の法をすてざる國のごとく義しき法をわれにもとめ神と相近づくことをこのめり 3かれらはいふ われら斷食するになんぢ見たまはず われら心をくるしむるになんぢ知たまはざるは何ぞやと 視よなんぢらの斷食の日にはおのがこのむ作をなし その工 人 をことごとく惱めつかふ 4視よなんぢら斷食すると

きは相あらそひ相きそひ惡の拳をもて人をうつ なんぢらの今のだんじきはその聲をうへに聞えしめんとにあらざるなり 5斯のごとき斷食はわが悦ぶところのものならんや かくのごときは人その靈魂をなやますの日ならんやその首を葦のごとくにふし麁服と灰とをその下にしくをもて斷食の日またヱホバに納らるる日ととなふべけんや 6わが悦ぶところの斷食はあくの繩をほどき 軛のつなをとき虐げらるるものを放ちさらしめ すべての軛をるなどの事にあらずや 7また饑たる者になんぢのパンを分ちあたへ さすらへる貧 民をなんぢの家にいれ裸かなるものを見てこれに衣せ おのが骨肉に身をかくさざるなどの事にあらずや 8しかる時はなんぢのひかり 暁 の如くにあらはれいで 汝すみやかに愈さるることを得 なんぢの義はなんぢの前にゆき ヱホバの榮光はなんぢの軍後となるべし 9また汝よぶときはヱホバ答へたまはん なんぢ叫ぶときは我ここに在りといひ給はん／もし汝のなかより軛 をのぞき指點をのぞき惡きことをかたるを除き 10なんぢの靈魂の欲するものをも饑たる者にほどこし 苦しむものの心を滿足しめば なんぢの光くらきにてりいで なんぢの闇は晝のごとくならん 11ヱホバは常になんぢをみちびき 乾けるところにても汝のこころを滿足しめ なんぢの骨をかたうし給はん なんぢは潤ひたる園のごとく水のたえざる泉のごとくなるべし 12汝よりいづる者はひさしく荒廢れたる所をおこし なんぢは累代やぶれたる基をたてん 人なんぢをよびて破隙をおぎなふ者といひ 市街をつくろひてすむべき所となす者といふべし 13もし安息日になんぢの歩行をとどめ 我聖日になんぢの好むわざをおこなはず 安息日をとなへて樂 日となし ヱホバの聖日をとなへて尊むべき日となし 之をたふとみて己が道をおこなはず おのが好むわざをなさず おのが言をかたらずば 14その時なんぢヱホバを樂しむべし ヱホバなんぢを地のたかき處にのらしめ なんぢが先祖ヤコブの產業をもて汝 をやしなひ給はん こはヱホバ口より語りたまへるなり

第五十九章

1ヱホバの手はみぢかくして救ひえざるにあらず その耳はにぶくして聞えざるにあらず 2惟なんぢらの邪曲なる業なんぢらとなんぢらの神との間をへだてたり 又なんぢらの罪その面をおほひて聞えざらしめたり 3そはなんぢらの手は血にてけがれ なんぢらの指はよこしまにて汚れなんぢらのくちびるは虛僞をかたり なんぢらの舌は惡をささやき 4その一人だに正義をもてうつたへ眞實をもて論 らふものなし 彼らは虛浮をたのみ虛僞をかたり 惡しきくはだてをはらみ不義をうむ 5かれらは蝮の卵をかへし蛛網をおる その卵をくらふものは死るなり 卵もし踐るればやぶれて毒蛇をいだす 6その織るところは衣になすあたはず その工をもて身をおほふこと能はず かれらの工はよこしまの工なり かれらの手には暴虐のおこなひあり 7かれらの足はあくにはしり罪なき血をながすに速し かれらの思念はよこしまの思念なり 殘害と滅亡とその路徑にのこれり 8彼らは平穩なる道をしらず その過るところに公平なく又まがれる小徑をつくる 凡てこれを踐ものは平穩をしらず 9このゆゑに公平はとほくわれらをはなれ正義はわれらに追及ず われら光をのぞめど暗をみ光輝をのぞめど闇をゆく 10われらは瞽者のごとく牆をさぐりゆき目なき者のごとく模りゆき正午にても日暮のごとくにつまづき 強壯なる者のなかにありても死るもののごとし 11我儕はみな熊のごとくにほえ鴿のごとくに甚くうめき 審判をのぞめどもあることなく 救をのぞめども遠くわれらを離る 12われらの愆はなんぢの前におほく われらのつみは證してわれらを訟へ われらのとがは我らとともに在り われらの邪曲なる業はわれら自らしれり 13われら罪ををかしてヱホバを棄われらの神にはなれてしたがはず 暴虐と悖逆とをかたり虛僞のことばを心にはらみて説出すなり 14公平はうしろに退けられ正義ははるかに立り そは 眞實は衢間にたふれ 正直はいることを得ざればなり 15眞實はかけてなく惡をはなるるものは掠めうばはる／ヱホバこれを見てその公平のなかりしを悦びたまはざりき 16ヱホバは人なきをみ中保なきを奇しみたまへり 斯てその臂をもてみづから助け その義をもてみづから支たまへり 17ヱホバ義をまとひて護胸とし救をその 頭にいただきて兜となし 仇をまとひて衣となし 熱心をきて外服となしたまへり 18かれらの作にしたがひて報をなし敵にむかひていかり仇にむかひて報をなし また島々にむくいをなし給はん 19西方にてヱホバの名をおそれ 日のいづる所にてその榮光をおそるべし ヱホバは堰ぎとめたる河のその氣息にふき潰えたるがごとくに來りたまふ可ればなり 20ヱホバのたまはく贖 者シオンにきたりヤコブのなかの愆をはなるる者につかんと 21ヱホバいひ

給く なんぢの上にあるわが靈なんぢの口におきたるわがことばは 今よりのち永遠になんぢの口よりなんぢの裔の口より汝のすゑの裔の口よりはなれざるべし わがかれらにたつる契約はこれなりと此はヱホバのみことばなり

第六十章

1起よひかりを發て なんぢの光きたりヱホバの榮光なんぢのうへに照出たればなり 2視よくらきは地をおほひ闇はもろもろの民をおほはん されど汝の上にはヱホバ照出たまひてその榮光なんぢのうへに顯はるべし 3もろもろの國はなんぢの光にゆき もろもろの王はてり出るなんぢが光輝にゆかん 4なんぢの目をあげて環視せ かれらは皆つどひて汝にきたり 汝の子輩はとほきより來り なんぢの女輩はいだかれて來らん 5そのときなんぢ視てよろこびの光をあらはし なんぢの心おどろきあやしみ且ひろらかになるべし そは海の富はうつりて汝につき もろもろの國の貨財はなんぢに來るべければなり 6おほくの駱駝ミデアンおよびエバのわかき駱駝なんぢの中にあまねくみち シバのもろもろの人こがね乳香をたづさへきたりてヱホバの譽をのべつたへん 7ケダルのひつじの群はみな汝にあつまりきたり ネバヨテの牡羊はなんぢに事へ わが祭壇のうへにのぼりて受納られん 斯てわれわが榮光の家をかがやかすべし 8雲のごとくにとび鳩のその窠にとびかへるが如くしてきたる者はたれぞ 9もろもろの島はわれを俟望み タルシシのふねは首先になんぢの子輩をとほきより載きたり 並かれらの金銀をともにのせきたりてなんぢの神ヱホバの名にささげ イスラエルの聖者にささげん ヱホバなんぢを輝かせたまひたればなり 10異邦人はなんぢの石垣をきづき かれらの王等はなんぢに事へん そは我いかりて汝をうちしかどまた惠をもて汝を憐みたればなり 11なんぢの門はつねに開きて夜も日もとざすことなし こは人もろもろの國の貨財をなんぢに携へきたりその王等をひきゐ來らんがためなり 12なんぢに事へざる國と民とはほろび そのくにぐには全くあれすたるべし 13レバノンの榮はなんぢにきたり 松 杉 黄楊はみな共にきたりて我が聖所をかがやかさん われ亦わが足をおく所をたふとくすべし 14汝を苦しめたるものの子輩はかがみて汝にきたり 汝をさげしめたる者はことごとくなんぢの足下にふし 斯て汝をヱホバの都イスラエルの聖者のシオンととなへん 15なんぢ前にはすてられ憎まれてその中をすぐる者もなかりしが 今はわれ汝をとこしへの華美よよの歡喜となさん 16なんぢ亦もろもろの國の乳をすひ王たちの乳房をすひ 而して我ヱホバなんぢの救主なんぢの贖主 ヤコブの全能者なるを知るべし 17われ黄金をたづさへきたりて赤銅にかへ 白銀をたづさへきたりて鐵にかへ 赤銅を木にかへ 鐵を石にかへ なんぢの施政者をおだやかにし なんぢを役するものを義うせん 18強暴のこと再びなんぢの地にきこえず 殘害と敗壞とはふたたびなんぢの境にきこえず 汝その石垣をすくひととなへ その門を譽ととなへん 19晝は日ふたたびなんぢの光とならず 月もまた輝きてなんぢを照さず ヱホバ永遠になんぢの光となり なんぢの神はなんぢの榮となり給はん 20なんぢの日はふたたび落ず なんぢの月はかくることなかるべし そはヱホバ永遠になんぢの光となり 汝のかなしみの日畢るべければなり 21汝の民はことごとく義 者となりてとこしへに地を嗣ん かれはわが植たる樹株わが手の工わが榮光をあらはす者となるべし 22その小きものは千となり その弱きものは強國となるべし われヱホバその時いたらば速かにこの事をなさん

第六十一章

1主ヱホバの靈われに臨めり こはヱホバわれに膏をそそぎて貧きものに福音をのべ傳ふることをゆだね 我をつかはして心の傷める者をいやし俘 囚にゆるしをつげ 縛められたるものに解 放をつげ 2ヱホバのめぐみの年とわれらの神の刑罰の日とを告しめ 又すべて哀むものをなぐさめ 3灰にかへ 冠 をたまひてシオンの中のかなしむ者にあたへ 悲哀にかへて歡喜のあぶらを予へ うれひの心にかへて讃美の衣をかたへしめたまふなり かれらは義の樹 ヱホバの植たまふ者 その榮光をあらはす者ととなへられん 4彼等はひさしく荒たる處をつくろひ 上古より廢れたる處をおこし 荒たる邑々をかされて新にし 世々すたれたる處をふたたび建べし 5外人はたちてなんぢらの群をかひ 異邦人はなんぢらの畑をたがへす者となり 葡萄をつくる者とならん 6然どなんぢらはヱホバの祭司ととなへられ われらの神の役者とよばれ もろもろの國の富をくらひ かれらの榮をえて自らほこるべし 7曩にうけし恥にかへ倍して賞賜をうけ凌辱にかへ嗣業をえて樂むべし 而してその地にありて倍したる賞賜をたもち永遠によろこびを得ん 8われヱホバは公平をこのみ邪曲なるかすめ

ごとをにくみ眞實をもて彼等にむくいをあたへ 彼等ととこしへの契約をたつべければなり 9かれらの裔はもろもろの國のなかに知れ かれらの子輩はもろもろの民のなかに知れん すべてこれを見るものはそのヱホバの祝したまへる裔なるを辨ふべし 10われヱホバを大によろこび わが靈魂はわが神をたのしまん そは我にすくひの衣をきせ義の外服をまとはせて 新郎が 冠 をいただき新婦が玉こがねの飾をつくるが如くなしたまへばなり 11地は芽をいだし畑はまけるものを生ずるがごとく 主ヱホバは義と譽 とをもろもろの國のまへに生ぜしめ給ふべし

第六十二章

1われシオンの義あさ日の光輝のごとくにいで ヱルサレムの救もゆる松火のごとくになるまではシオンのために默さずヱルサレムのために休まざるべし 2もろもろの國はなんぢの義を見 もろもろの王はみななんぢの榮をみん 斯てなんぢはヱホバの口にて定め給ふ新しき名をもて稱へらるべし 3また汝はうるはしき 冠 のごとくヱホバの手にあり 王の 冕 のごとくなんぢの神のたなごころにあらん 4人ふたたび汝をすてられたる者といはず 再びなんぢの地をあれたる者といはじ 却てなんぢをヘフジバ(わが悦ぶところ)ととなへ なんぢの地をベウラ(配偶)ととなふべし そはヱホバなんぢをよろこびたまふ なんぢの地は配偶をえん 5わかきものの處女をめとる如くなんぢの子輩はなんぢを娶らん 新郎の新婦をよろこぶごとくなんぢの神なんぢを喜びたまふべし 6ヱルサレムよ我なんぢの石垣のうへに斥候をおきて終日終夜たえず默すことなからしむ なんぢらヱホバに記念したまはんことを求むるものよ 自らやすむなかれ 7ヱホバ、ヱルサレムをたてて全地に譽をえしめ給ふまでは息め奉るなかれ 8ヱホバその右手をさしその大能の臂をさし誓ひて宣給く われ再びなんぢの五穀をなんぢの敵にあたへて食はせず 異邦人はなんぢが勞したる酒をのまざるべし 9収穫せしものは之をくらひてヱホバを讃たたへ 葡萄をあつめし者はわが聖所の庭にて之をのむべし 10門よりすすみゆけ進みゆけ民の途をそなへ土をもり土をもりて大路をまうけよ 石をとりのぞけ もろもろの民に旗をあげて示せ 11ヱホバ地の極にまで告てのたまはく 汝等シオンの女にいへ 視よなんぢらの救きたる 視よ主の手にその恩賜あり はたらきの價はその前にあり 12而してかれらはきよき民またヱホバにあがなはれたる者ととなへられん なんぢは人にもとめ尋らるるもの棄られざる邑ととなへらるべし

第六十三章

1このエドムよりきたり緋 衣をきてボヅラよりきたる者はたれぞ その服飾はなやかに大なる能力をもて嚴しく歩みきたる者はたれぞ これは義をもてかたり大にすくひをほどこす我なり 2なんぢの服飾はなにゆゑに赤くなんぢの衣はなにゆゑに酒榨をふむ者とひとしきや 3我はひとりにて酒榨をふめり もろもろの民のなかに我とともにする者なし われ怒によりて彼等をふみ忿恚によりてかれらを蹈にじりたれば かれらの血わが衣にそそぎわが服飾をことごとく汚したり 4そは刑罰の日わが心の中にあり 救贖の歳すでにきたれり 5われ見てたすくる者なく扶る者なきを奇しめり この故にわが臂われをすくひ我いきどほり我をささへたり 6われ怒によりてもろもろの民をふみおさへ 忿恚によりてかれらを酔しめ かれらの血を地に流れしめたり 7われはヱホバのわれらに施したまへる各種のめぐみとその譽とをかたりつげ 又その憐憫にしたがひ其おほくの恩惠にしたがひてイスラエルの家にほどこし給ひたる大なる恩寵をかたり告ん 8ヱホバいひたまへり 誠にかれらはわが民なり 虚僞をせざる子輩なりと斯てヱホバはかれらのために救主となりたまへり 9かれらの艱難のときはヱホバもなやみ給ひてその面前の使をもて彼等をすくひ その愛とその憐憫とによりて彼等をあがなひ彼等をもたげ昔時の日つねに彼等をいだきたまへり 10然るにかれらは悖りてその聖 靈をうれへしめたる故にヱホバ翻 然かれらの仇となりて自らこれを攻たまへり 11爰にその民いにしへのモーセの日をおもひいでて曰けるは かれらとその群の牧者とを海より携へあげし者はいづこにありや 彼等のなかに聖 靈をおきしものは何處にありや 12榮光のかひなをモーセの右にゆかしめ 彼等のまへに水をさきて自らとこしへの名をつくり 13彼等をみちびきて馬の野をはしるがごとく躓かで淵をすぎしめたりし者はいづこに在りや 14谷にくだる家畜の如くにヱホバの靈かれらをいこはせ給へり 主よなんぢは斯おのれの民をみちびきて榮光の名をつくり給へり 15ねがはくは天より俯觀なはし その榮光あるきよき居所より見たまへ なんぢの熱心となんぢの大能あるみわざとは今いづこにありや なんぢの切なる仁慈と憐憫とはおさへられて

我にあらはれず 16汝はわれらの父なり アブラハムわれらを知ず イスラエルわれらを認めず されどヱホバよ汝はわれらの父なり 上古よりなんぢの名をわれらの贖 主といへり 17ヱホバよ何故にわれらをなんぢの道より離れまどはしめ我儕のこころを頑固にして汝を畏れざらしめたまふや 願くはなんぢの僕等のためになんぢの産業なる支派のために歸りたまへ 18汝のきよきたみ地をえて久しからざるにわれらの敵なんぢの聖所をふみにじれり 19我儕はなんぢに上古より治められざる者のごとく なんぢの名をもて稱られざる者のごとくなりぬ

第六十四章

1願くはなんぢ天を裂てくだり給へ なんぢのみまへに山々ふるひ動かんことを 2火の柴をもやし火の水を沸すがごとくして降りたまへ かくて名をなんぢの敵にあらはし もろもろの國をなんぢのみまへに戰 慄かしめたまへ 3汝 われらが逆料あたはざる懼るべき事をおこなひ給ひしときに降りたまへり 山々はその前にふるひうごけり 4上古よりこのかた汝のほかに何なる神ありて俟望みたる者にかかる事をおこなひしや いまだ聽ず いまだ耳にいらず いまだ目にみしことなし 5汝はよろこびて義をおこなひなんぢの途にありてなんぢを紀念するものを迎へたまふ 視よなんぢ怒りたまへり われらは罪ををかせり かかる狀なること既にひさし 我儕いかで救はるるを得んや 6我儕はみな潔からざる物のごとくなり われらの義はことごとく汚れたる衣のごとし 我儕はみな木葉のごとく枯れ われらのよこしまは暴風のごとく我らを吹去れり 7なんぢの名をよぶ者なく みづから勵みて汝によりすがる者なし なんぢ面をおほひてわれらを顧みたまはず われらが邪曲をもてわれらを消失せしめたまへり 8されどヱホバよ汝はわれらの父なり われらは泥塊にしてなんぢは陶工なり 我らは皆なんぢの御手のわざなり 9ヱホバよいたく怒りたまふなかれ 永くよこしまを記念したまふなかれ 願くは顧みたまへ 我儕はみななんぢの民なり 10汝のきよき諸邑は野となりシオンは野となりヱルサレムは荒廢れたり 11我らの先祖が汝を讃たたへたる榮光ある我儕のきよき宮は火にやかれ 我儕のしたひたる處はことごとく荒はてたり 12ヱホバよこれらの事あれども汝なほみづから制へたまふや なんぢなほ默してわれらに深くくるしみを受しめたまふや

第六十五章

1我はわれを求めざりしものに問もとめられ 我をたづねざりしものに見出され わが名をよばざりし國にわれ曰らく われは此にあり我はここに在と 2善らぬ途をあゆみおのが思念にしたがふ悖れる民をひねもす手をのべて招けり 3この民はまのあたり恒にわが怒をひき 園のうちにて犧牲をささげ 瓦の壇にて香をたき 4墓のあひだにすわり隱密なる處にやどり 猪の肉をくらひ憎むべきものの 羹をその器 皿にもりて 5人にいふなんぢ其處にたちて我にちかづくなかれ そは我なんぢよりも聖しと 彼らはわが鼻のけぶり終日もゆる火なり 6視よこの事わが前にしるされたり われ默さずして報いかへすべし 必ずかれらの懷中に報いかへすべし 7ヱホバいひ給く なんぢらの邪曲となんぢらが列 祖のよこしまとはともに報いかへすべし かれらは山 上にて香をたき岡のうへにて我を汚ししがゆゑに 我まづその作をはかりてその懷中にかへすべし 8ヱホバ如此いひたまふ 人ぶだうのなかに汁あるを見ばいはん これを壞るなかれ福祉その中にあればなりと 我わが僕等のために如此おこなひてことごとくは壞らじ 9ヤコブより一 裔をいだしユダよりわれ山々をうけつぐべき者をいださん わが撰みたる者はこれをうけつぎ我がしもべらは彼處にすむべし 10シヤロンは羊のむれの牧場となりアコルの谷はうしの群のふす所となりて我をたづねもとめたるわが民の有とならん 11然どなんぢらヱホバを棄わがきよき山をわすれ 机をガド(禍福の神)にそなへ雜合せたる酒をもりてメニ(運命の神)にささぐる者よ 12われ汝 らを劍にわたすべく定めたり なんぢらは皆かがみて屠らるべし 汝等はわが呼しときこたへず わが語りしときかず わが目にあしき事をおこなひ わが好まざりし事をえらみたればなり 13このゆゑに主ヱホバかく言給ふ わが僕等はくらへども汝等はうゑ わが僕等はのめども汝等はかわき 我しもべらは喜べどもなんぢらははぢ 14わが僕等はこころ樂きによりて歌うたへども汝等はこころ哀きによりて叫び また靈魂うれふるによりて泣噪ぶべし 15なんぢらが遺名はわが撰みたるものの呪詛の料とならん 主ヱホバなんぢらを殺したまはん 然どおのれの僕等をほかの名をもて呼たまふべし 16斯るがゆゑに地にありて己のために福祉をねがふものは眞實の神にむかひて福祉をもとめ 地にありて誓ふものは眞實の神をさして誓ふべし さきの困難は忘れられてわが目よりかくれ失た

るに因る 17視よわれ新しき天とあたらしき地とを創造す
人さきのものを記念することなく之をその心におもひ出
ることなし 18然どなんぢらわが創造する者によりて永遠
にたのしみよろこべ 視よわれはヱルサレムを造りてよろ
こびとしその民を快樂とす 19われヱルサレムを喜びわが
民をたのしまん 而して泣聲とさけぶ聲とはふたたびその
中にきこえざるべし 20日數わづかにして死る嬰兒といの
ちの日をみたさざる老人とはその中にまたあることなか
るべし 百歲にて死るものも尚わかしとせられ 百歲にて
死るものを詛れたる罪人とすべし 21かれら家をたてて之
にすみ葡萄園をつくりてその果をくらふべし 22かれらが
建るところにほかの人すまず かれらが造るところの果は
ほかの人くらはず そはわが民のいのちは樹の命の如く
我がえらみたる者はその手の工ふるびうするとも存ふべ
ければなり 23かれらの勤勞はむなしからず その生ところ
の者はわざはひにかからず 彼等はヱホバの福祉をたまひ
しものの裔にしてその子輩もあひ共にをる可ればなり 24
かれらが呼ざるさきにわれこたへ 彼らが語りをへざるに
我きかん 25豺狼とこひつじと食物をともにし 獅は牛のご
とく藁をくらひ 蛇はちりを糧とすべし 斯てわが聖山の
いづこにても害ふことなく傷ることなからん これヱホバ
の聖言なり

第六十六章

1ヱホバ如此いひたまふ 天はわが位 地はわが足臺なり な
んぢら我がために如何なる家をたてんとするか 又いかな
る處かわが休憩の場とならん 2ヱホバ宣給く 我手はあら
ゆる此等のものを造りてこれらの物ことごとく成れり 我
はただ苦しみまた心をいため我がことばを畏れをののく
ものを顧みるなりと 3牛をほふるものは人をころす者の
ごとく 羔を犧牲とするものは狗をくびりころす者のご
とく 祭物をささぐるものは豕の血をささぐる者のごと
く 香をたくものは偶像をほむる者のごとし 彼等はおの
が途をえらみその心ににくむべき者をたのしみとせり 4
我もまた災禍をえらびて彼等にあたへ その懼るるところ
の事を彼らに臨ましめん そは我よびしとき應ふるものな
く我かたりしとき聽ことをせざりき わが目にあしき事を
おこなひわが好まざる事をえらみたればなり 5なんぢら
ヱホバの言をおそれをののく者よヱホバの言をきけ なん
ぢらの兄弟なんぢらを憎みなんぢらをわが名のために
逐出していふ 願くはヱホバその榮光をあらはして我儕
になんぢらの歡喜を見せしめよと 然どかれらは恥をうけ
ん 6騷亂るこゑ邑よりきこえ聲ありて宮よりきこゆ 此
はヱホバその仇にむくいをなしたまふ聲なり 7シオンは
産のなやみを知ざるさきに生 その劬勞きたらざるさきに
男子をうみいだせり 8誰がかかる事をききしや誰がかか
る類をみしや 一の國はただ一日のくるしみにて成べけん
や 一つの國民は一時にうまるべけんや 然どシオンはく
るしむ間もなく直にその子輩をうめり 9ヱホバ言給く わ
れ產にのぞましめしに何でうまざらしめんや なんぢの神
いひたまはく 我はうましむる者なるにいかで胎をとざさ
んや 10ヱルサレムを愛するものよ皆かれとともに喜べ か
れの故をもてたのしめ 彼のために悲めるものよ皆かれと
ともに喜びたのしめ 11そはなんぢら乳をすふ如くヱルサ
レムの安慰をうけて飽ことを得ん また乳をしぼるごとく
その豐なる榮をうけておのづから心さわやかならん 12ヱ
ホバ如此いひたまふ 視よわれ河のごとく彼に平康をあた
へ 漲ぎる流のごとく彼にもろもろの國の榮をあたへん
而して汝等これをすひ背におはれ膝におかれて樂しむべ
し 13母のその子をなぐさむるごとく我もなんぢらを慰め
ん なんぢらはヱルサレムにて安慰をうべし 14なんぢら見
て心よろこばん なんぢらの骨は若草のさかゆるごとくだ
るべし ヱホバの手はその僕等にあらはれ又その仇をはげ
しく怒りたまはん 15視よヱホバは火中にあらはれて來り
たまふその 車輦ははやちのごとし 烈しき威勢をもてそ
の怒をもらし火のほのほをもてその譴をほどこし給はん
16ヱホバは火をもて劍をもてよろづの人を刑ひたまはん
ヱホバに刺殺さるるもの多かるべし 17ヱホバ宣給く みづ
からを潔くしみづからを別ちて園にゆき その中にある木
の像にしたがひ 豕の肉けがれたる物および鼠をくらふ者
はみな共にたえうせん 18我かれらの作爲とかれらの思念
とをしれり 時きたらばもろもろの國民ともろもろの族と
をあつめん 彼等きたりてわが榮光をみるべし 19我かれ
らのなかに一つの休徵をたてて逃れたる者をもろもろの
國すなはちタルシシよく弓をひくプル、ルデおよびトバ
ル、ヤワン又わが聲名をきかずわが榮光をみざる遙かな
る諸島につかはさん 彼等はわが榮光をもろもろの國に
のべつたふべし 20ヱホバいひ給ふ かれらはイスラエルの
子輩がきよき器にそなへものをもりてヱホバの家にたづ
さへきたるが如く なんぢらの兄弟をもろもろの國の中

よりたづさへて馬 車 轎 騾 駱駝にのらしめ わが聖山エルサレムにきたらせてヱホバの祭物とすべし 21ヱホバいひ給ふ 我また彼等のうちより人をえらびて祭司としレビ人とせんと 22ヱホバ宣給く わが造らんとする新しき天とあたらしき地とわが前にながくとどまる如く なんちの裔となんぢの名はながくとどまらん 23ヱホバいひ給ふ新月ごとに安息日ごとによろづの人わが前にきたりて崇拝をなさん 24かれら出てわれに逆きたる人の屍をみん その蛆しなずその火きえず よろづの人にいみきらはるべし

ヱレミヤ記

第一章

1こはベニヤミンの地アナトテの祭司の一人なるヒルキヤの子ヱレミヤの言なり 2アモンの子ユダの王ヨシヤの時すなはちその治世の十三年にヱホバの言ヱレミヤに臨めり 3その言またヨシヤの子ユダの王ヱホヤキムの時にものぞみてヨシヤの子ユダの王ゼデキヤの十一年のをはり即ちその年の五月ヱルサレムの民の移されたる時までにいたれり 4ヱホバの言我にのぞみて云ふ 5われ汝を腹につくらざりし先に汝をしり汝が胎をいでざりし先に汝を聖め汝をたてて萬國の預言者となせりと 6我こたへけるは噫主ヱホバよ視よわれは幼少により語ることを知らず 7ヱホバわれにいひたまひけるは汝われは幼少といふ勿れすべて我汝を遣すところにゆき我汝に命ずるすべてのことを語るべし 8なんぢ彼等の面を畏るる勿れ蓋われ汝と偕にありて汝をすくふべければなりとヱホバいひたまへり 9ヱホバ遂にその手をのべて我口につけヱホバ我にいひたまひけるは視よわれ我言を汝の口にいれたり 10みよ我けふ汝を萬民のうへと萬國のうへにたて汝をして或は抜き或は毀ち或は滅し或は覆し或は建て或は植しめん 11ヱホバの言また我に臨みていふヱレミヤよ汝何をみるや我こたへけるは巴旦杏の枝をみる 12ヱホバ我にいひたまひけるは汝善く見たりそはわれ速に我言をなさんとすればなり 13ヱホバの言ふたたび我に臨みていふ汝何をみるや我こたへけるは沸騰たる鑊をみるその面は北より此方に向ふ 14ヱホバ我にいひたまひけるは災北よりおこりてこの地に住るすべての者にきたらん 15ヱホバいひたまひけるはわれ北の國々のすべての族をよばん彼等きたりてヱルサレムの門の入口とその周圍のすべての石垣およびユダのすべての邑々に向ひておのおのその座を設けん 16われかれらの凡の惡事のために我鞫をかれにつげん是はかれら我をすてて別の神に香を焚きおのれの手にて作りし物を拝するによる 17汝腰に帯して起ちわが汝に命ずるすべての事を彼等につげよその面を畏るる勿れ否らざれば我かれらの前に汝を辱かしめん 18視よわれ今日この全國とユダの王とその牧伯とその祭司とその地の民の前に汝を堅き城鐵の柱銅の牆となせり 19彼等なんぢと戦はんとするも汝に勝ざるべしそはわれ汝とともにありて汝をすくふべければなりとヱホバいひたまへり

第二章

1ヱホバの言我にのぞみていふ 2ゆきてヱルサレムに住る者の耳につげよヱホバ斯くいふ我汝につきて汝の若き時の懇切なんぢが契をなせしときの愛曠野なる種播ぬ地にて我に従ひしことを憶ゆと 3イスラエルはヱホバの聖物にしてその初に結べる實なりすべて之を食ふものは罰せられ災にあふべしとヱホバ云ひたまへり 4ヤコブの家とイスラエルの家の諸の族よヱホバの言をきけ 5ヱホバかくいひたまふ汝等の先祖は我に何の惡事ありしを見て我に遠かり虚しき物にしたがひて虚しくなりしや 6かれらは我儕をエジプトの地より導きいだし曠野なる岩穴ある荒たる地旱きたる死の蔭の地人の過ぎざる地人の住はざる地を通らしめしヱホバはいづこにあるといはざりき 7われ汝等を導きて園のごとき地にいれ其實と佳物をくらはしめたり然ど汝等此處にいり我地を汚し我産業を憎むべきものとなせり 8祭司はヱホバは何處にいますといはず律法をあつかふ者は我を知らず牧者は我に背き預言者はバアルによりて預言し益なきものに従へり 9故にわれ尚汝等とあらそはん且汝の子孫とあらそふべしとヱホバいひたまふ 10汝等キッテムの諸島にわたりて觀よまた使者をケダルにつかはし斯のごとき事あるや否やを詳細に察せしめよ 11その神を神にあらざる者に易たる國ありや然るに我民はその榮を益なき物にかへたり 12天よこの事を驚け慄けいたく怖れよとヱホバいひたまふ 13蓋わが民はふたつの惡事をなせり即ち活る水の源なる我をすて自己水溜を掘れりすなはち壞れたる水溜にして水を有たざる者なり 14イスラエルはしもべなるか家にうまれし僕なるかいかにして擄掠となれるや 15わかき獅子かれにむかひて哮えその聲をあげてその地を荒せりその諸邑は焚れて住む人なし 16ノフとタパネスの諸子も汝の頭首の髪をくらはん 17汝の神ヱホバの汝を途にみちびきたまへる時に汝これを棄たるによりて此事汝におよぶにあらずや 18汝ナイルの水を飲んとてエジプトの路にある

は何ゆゑぞまた河の水を飲んとてアツスリヤの路にある
は何故ぞ 19汝の惡は汝をこらしめ汝の背は汝をせめん斯
く汝が汝の神ヱホバをすてたると我を畏ることの汝の
衷にあらざるとは惡く且つ苦きことなるを汝 見てしるべ
しと主なる萬軍のヱホバいひ給ふ 20汝 昔より汝の軛を
をり汝の縛を截ちていひけるは我つかふることをせじと
即ち汝すべての高山のうへと諸の青木の下に妓女のごと
く身をかがめたり 21われ汝を植て佳き葡萄の樹となし 全
き眞の種となせしにいかなれば汝われに向ひて異なる
葡萄の樹の惡き枝にかはりしや 22たとひ嚥昕をもて自ら
濯ひまたおほくの灰汁を加ふるも汝の惡はわが前に汚れ
たりと主ヱホバいひ給ふ 23汝いかで我は汚れずバアルに
從はざりしといふことを得んや汝 谷の中のおこなひを
觀よ汝のなせしことを知れ汝は疾走るわかき牝の駱駝に
してその途にさまよへり 24汝は曠野になれたる野の
牝驢馬なり其欲のために風にあへぐその欲のうごくとき
は誰かこれをとどめえん凡てこれを尋る者は自ら勞する
におよばすその月の中に之にあふべし 25汝 足をつつしみ
て跣足にならざるやうにし喉をつつしみて渇かぬやうに
せよしかるに汝いふ是は徒然なり然りわれ異なる國の者
を愛してこれに從ふなりと 26盜人の執へられて恥 辱をう
くるがごとくイスラエルの家恥 辱をうく彼等その王その
牧伯その祭司その預言者みな然り 27彼等木にむかひて 汝
は我父なりといひまた石にむかひて汝は我を生みたりと
いふ彼等は背を我にむけて其面をわれに向けずされど
彼等 災 にあふときは起てわれらを救ひ給へといふ 28 汝
がおのれの爲に造りし神はいづこにあるやもし汝が 災
にあふときかれら汝を救ふを得ば起つべきなりそはユダ
よ汝の神は汝の邑の數に同じければなり 29汝等なんぞ我
とあらそふや汝らは皆我に背けりとヱホバいひ給ふ 30我
が汝らの衆子を打しは益なかりき彼等は懲治をうけず
汝等の劍は猛き獅子のごとく汝等の預言者を滅せり 31な
んぢらこの世の人よヱホバの言をきけ我はイスラエルの
ために曠野となりしや暗き地となりしや何故にわが民は
われら徘徊りて復 汝に來らじといふや 32それ處女はその
飾 物を忘れんや新婦はその帶をわすれんや然ど我民の我
を忘れたる日は數へがたし 33汝 愛を得んとて如何に汝の
途を美くするぞよされば汝の 行 はあしき事を爲すに慣
たり 34また汝の裾に辜なき貧 者の生命の血ありわれ
盜人の穿たる所にて之を見ずしてすべて此等の上にこれ
を見る 35されど汝いふわれは辜なし故にその怒はかなら
ず我に臨まじとみよ汝われ罪を犯さざりしといふにより
我 汝とあらそふべし 36なんぢ何故にその途を易んとて迅
くはしるや汝アツスリヤに恥 辱をうけしごとくエジプト
にも亦恥 辱をうけん 37汝 兩手を頭に置てかしこよりも
出去らんそはヱホバ汝のたのむところの者を棄れば 汝
彼等によりて望を遂ること無るべければなり

第三章

1世にいへるあり人もしその妻をいださんに去りゆきて
ほかの人の妻とならば其 夫ふたたび彼に歸るべけんやさ
すれば其地はおほいに汚れざらんや汝はおほくの者と
姦淫を行へりされど汝われに皈れよとヱホバいひ給ふ 2
汝 目をあげてもろもろの童山をみよ姦淫を行はざる 所
はいづこにあるや汝は曠野にをるアラビヤ人の爲すがご
とく路に坐して人をまてり汝は姦淫と惡をもて此地を汚
せり 3この故に雨はとどめられ春の雨はふらざりし然れ
ど汝 娼妓の額あれば肯て恥ず 4汝いまより我を呼ていは
ざらんや我父よ汝はわが少 時の交友なり 5窮なくその 怒
を含まんや恒に之を存たんやと視よ汝はかくいへど力を
きはめて惡を爲すなり 6ヨシヤ王のときヱホバまた我に
いひ給ひけるは汝そむけるイスラエルのなせしことを見
しや彼はすべての高山にのぼりすべての青木の下にゆき
て其處に姦淫を行へり 7彼このすべての事を爲せしのち
我かれに汝われに歸れと言しかどもわれに歸らざりき其
悖れる姊妹なるユダ之を見たり 8我に背けるイスラエル
姦淫をなせしにより我かれを出して離緣状をあたへたれ
どその悖れる姊妹なるユダは懼れずして往て姦淫を行ふ
我これを見る 9また其姦淫の噪をもてこの地を汚し且石
と木とに姦淫を行へり 10此 諸 の事あるも仍其悖れる
姊妹なるユダは眞心をもて我にかへらず僞れるのみとヱ
ホバいひたまふ 11ヱホバまた我にいひたまひけるは背け
るイスラエルは悖れるユダよりも自己を義とす 12汝ゆき
て北にむかひ此 言を宣ていふべしヱホバいひたまふ背け
るイスラエルよ歸れわれ怒の面を汝らにむけじわれは
矜恤ある者なり怒を限なく含みをることあらじとヱホバ
いひたまふ 13汝ただ汝の罪を 認 はせそは汝の神ヱホバ
にそむき經めぐりてすべての青木の下にて異邦人にゆき
汝等わが聲をきかざればなりとヱホバいひ給ふ 14ヱホバ
いひたまふ背ける衆子よ我にかへれそはわれ汝等を娶れ

ばなりわれ邑より一人支派より二人を取りて汝等をシオンにつれゆかん 15われ我心に合ふ牧者を汝等にあたへん彼等は知識と明哲をもて汝等を養ふべし 16ヱホバいひたまふ汝等地に増して多くならんときは人々復ヱホバの契約の櫃といはず之を想ひいでず之を憶えずこれを尋ねずこれを作らざるべし 17その時ヱルサレムはヱホバの座位と稱へられ萬國の民ここに集るべし即ちヱホバの名によりてヱルサレムに集り重て其惡き心の剛愎なるにしたがひて行まざるべし 18その時ユダの家はイスラエルの家とともに行みて北の地よりいで我汝らの先祖たちに與へて嗣しめし地に偕にきたるべし 19我いへり嗚呼われいかにして汝を諸子の中に置き萬國の中にて最も美しき産業なる此美地を汝にあたへんと我またいへり汝われを我父とよび亦我を離れざるべしと 20然にイスラエルの家よ妻の誓に違きてその夫を棄るがごとく汝等われに背けりとヱホバいひたまふ 21聲山のうへに聞ゆ是はイスラエルの民の悲み祈るなり蓋彼等まがれる途にあゆみ其神ヱホバを忘るればなり 22背ける諸子よ我に歸れわれ汝の退違をいやさん／視よ我儕なんぢに到る汝はわれらの神ヱホバなればなり 23信に諸の岡とおほくの山に救を望むはいたづらなり誠にイスラエルの救はわれらの神ヱホバにあり 24羞恥はわれらの幼時より我儕の先祖の產業すなはち其多の羊とそのおほくの牛および其子その女を呑盡せり 25われらは羞恥に臥し我らは恥辱に覆はるべしそは我儕とわれらの列祖は我らの幼時より今日にいたるまで罪をわれらの神ヱホバに犯し我儕の神ヱホバの聲に遵はざればなり

第四章

1ヱホバいひたまふイスラエルよ汝もし歸らば我に歸れ汝もし憎むべき者を我前より除かば流蕩はじ 2かつ汝は眞實と正直と公義とをもてヱホバは活くと誓はんさらば萬國の民は彼によりて福祉をうけ彼によりて誇るべし 3ヱホバ、ユダとヱルサレムの人々にかくいひ給ふ汝等の新田を耕せ荊棘の中に種くなかれ。 4ユダの人々とヱルサレムに住める者よ汝等みづから割禮をおこなひてヱホバに屬きおのれの心の前の皮を去れ然らざれば汝等の惡行のためわが怒火の如くに發して燃えんこれを滅すものなかるべし 5汝等ユダに告げヱルサレムに示していへ篴を國の中に吹けとまた大聲に呼はりていへ汝等あつまれ我儕堅き邑にゆくべしと 6シオンに指示す合圖の旗をたてよ逃よ留まる勿れそは我北より災とおほいなる敗壞をきたらすればなり 7獅子は其森よりいでて上り國々を滅すものは進みきたる彼汝の國を荒さんとて既にその處よりいでたり汝の諸邑は滅されて住む者なきに至らん 8この故に汝等麻の衣を身にまとひて悲み哭けそはヱホバの烈しき怒いまだ我儕を離れざればなり 9ヱホバいひたまひけるはその日王と牧伯等はその心をうしなひ祭司は驚き預言者は異むべし 10我いひけるは嗚呼主ヱホバよ汝はまことに此民とヱルサレムを大にあざむきたまふすなはち汝はなんぢら安かるべしと云給ひしに劍命にまでおよべり 11その時この民とヱルサレムにいふものあらん熱き風曠野の童山よりわが民の女にふききたると此は簸るためにあらず潔むる爲にもあらざるなり 12これよりも猶はげしき風われより來らん今我かれらに鞫を示さん 13みよ彼は雲のごとく上りきたらん其車は颶風のごとくにしてその馬は鷹よりも疾し嗚呼われらは禍なるかな我儕滅さるべし 14ヱルサレムよ汝の心の惡をあらひ潔めよ然ばすくはれん汝の惡き念いつまで汝のうちにあるや 15ダンより告ぐる聲ありエフライムの山より災を知するなり 16汝ら國々の民に告げまたヱルサレムに知らせよ攻めかこむ者遠き國より來りユダの諸邑にむかひて其聲を揚ぐと 17彼らは田圃をまもる者のごとくにこれを圍むこは我に從はざりしに由るとヱホバいひ給ふ 18汝の途と汝の行これを汝に招けりこれは汝の惡なり誠に苦くして汝の心におよぶ 19嗚呼わが腸よ我腸よ痛苦心の底におよびわが心胸とどろくわれ默しがたし我靈魂よ汝篴の聲と軍の鬨をきくなり 20敗滅に敗滅のしらせありこの地は皆荒されわが幕屋は頃刻にやぶられ我幕は忽ち破られたり 21我が旗をみ篴の聲をきくは何時までぞや 22それ我民は愚にして我を識らず拙き子等にして曉ることなし彼らは惡を行ふに智けれども善を行ふことを知ず 23われ地を見るに形なくして空くあり天を仰ぐに其處に光なし 24我山を見るに皆震へまた諸の丘も動けり 25我見に人あることなし天空の鳥も皆飛されり 26我みるに肥美なる地は沙漠となり且その諸の邑はヱホバの前にその烈しき怒の前に毀たれたり 27そはヱホバかくいひたまへりすべて此地は荒地とならんされど我ことごとくは之を滅さじ 28故に地は皆哀しみ上なる天は暗くならん我すでに之をいひ且これを定めて悔いずまた之をなす事を止ざればな

り 29邑の人みな騎兵と射者の咄喊のために逃て叢林にいり又岩の上に升れり邑はみな棄られて其處に住む人なし 30滅されたる者よ汝何をなさんとするや設令汝くれなゐの衣をき金の飾物をもて身を粧ひ目をぬりて大くするとも汝が身を粧ふはいたづらなり汝の戀人らは汝をいやしめ汝のいのちを索るなり 31われ子をうむ婦のごとき聲首子をうむ者の苦むがごとき聲を聞く是れシオンの女の聲なりかれ自ら歎き手をのべていふ嗚呼われは禍なるかな我靈魂殺す者のために疲れはてぬ

第五章

1汝等エルサレムの邑をめぐりて視且察りその街を尋ねよ汝等もし一人の公義を行ひ眞理を求る者に逢はばわれ之(エルサレム)を赦すべし 2彼らヱホバは活くといふとも實は僞りて誓ふなり 3ヱホバよ汝の目は誠實を顧みるにあらずや汝彼らを撻どもかれら痛苦をおぼえず彼等を滅せどもかれら懲治をうけず其面を磐よりも硬くして歸ることを拒めり 4故に我いひけるは此輩は惟いやしき愚なる者なればヱホバの途と其神の鞫を知ざるなり 5われ貴人にゆきて之に語らんかれらはヱホバの途とその神の鞫を知るなり然に彼らも皆軛を折り縛を斷り 6故に林よりいづる獅子は彼らを殺しアラバの狼はかれらを滅し豹はその邑をねらふ此處よりいづる者は皆裂るべしそは其罪おほくその背違はなはだしければなり 7我なに故に汝をゆるすべきや汝の諸子われを棄て神にあらざる神を指して誓ふ我すでに彼らを誓はせたれど彼ら姦淫して娼妓の家に群集る 8彼らは肥たる牡馬のごとくに行めぐりおのおの嘶きて隣の妻を慕ふ 9ヱホバいひたまふ我これらの事のために彼らを罰せざらんや我心はかくの如き民に仇を復さざらんや 10汝等その石垣にのぼりて滅せされど悉くはこれを滅す勿れその枝を截除けヱホバのものに有ざればなり 11イスラエルの家とユダの家は大に我に悖るなりとヱホバいひたまふ 12彼等はヱホバを認ずしていふヱホバはある者にあらず災われらに來らじ我儕劍と饑饉をも見ざるべし 13預言者は風となり言はかれらの衷にあらず斯彼らになるべしと 14故に萬軍の神ヱホバかくいひたまふ汝等この言を語により視よわれ汝の口にある我言を火となし此民を薪となさんその火彼らを焚盡すべし 15ヱホバいひ給ふイスラエルの家よみよ我遠き國人をなんぢらに來らしめん其國は強くまた古き國なり 汝等その言をしらず其語ることをも曉らざるなり 16その箙は啓きたる墓のごとし彼らはみな勇士なり 17彼らは汝の穡れたる物と汝の糧食を食ひ汝の子女を食ひ汝の羊と牛を食ひ汝の葡萄の樹と無花果の樹を食ひまた劍をもて汝の賴むところの堅き邑を滅さん 18されど其時われことごとくは汝を滅さじとヱホバいひたまふ 19汝等何ゆゑにわれらの神ヱホバ此等の諸のことを我儕になしたまふやといはば汝かれらに答ふべし汝ら我をすて汝らの地に於て異なる神に奉へしごとく汝らのものにあらざる地に於て異邦人につかふべしと 20汝これをヤコブの家にのべまたこれをユダに示していへ 21愚にして了知なく目あれども見えず耳あれども聞えざる民よこれをきけ 22ヱホバいひ給ふ汝等われを畏れざるか我前に戰慄かざるか我は沙を置て海の界となしこれを永遠の限界となし踰ることをえざらしむ其浪さかまきいたるも勝ことあたはず澎湃もこれを踰るあたはざるなり 23然るにこの民は背き且悖れる心あり既に背きて去れり 24彼らはまた我儕に雨をあたへて秋の雨と春の雨を時にしたがひて下し我儕のために收穫の時節を定め給へる我神ヱホバを畏るべしと其心にいはざるなり 25汝等の愆はこれらの事を退け汝等の罪は嘉物を汝らに來らしめざりき 26我民のうちに惡者あり網を張る者のごとくに身をかがめてうかがひ罟を置て人をとらふ 27樊籠に鳥の盈るがごとく不義の財彼らの家に充つこの故に彼らは大なる者となり富る者となる 28彼らは肥て光澤あり其惡き行は甚し彼らは訟をただざず孤の訟を糺さずして利達をえ亦貧者の訴を鞫かず 29ヱホバいひ給ふわれかくのごときことを罰せざらんや我心は是のごとき民に仇を復さざらんや 30この地に驚くべき事と憎むべきこと行はる 31預言者は僞りて預言をなし祭司は彼らの手によりて治め我民は斯る事を愛すされど汝等その終に何をなさんとするや

第六章

1ベニヤミンの子等よエルサレムの中より逃れテコアに筴をふきベテハケレムに合圖の火をあげよそは北より災と大なる敗壞のぞめばなり 2われ美しき窈窕なるシオンの女を滅さん 3牧者は其群を牽て此處にきたりその周圍に天幕をはらん群はおのおのその處にて草を食はん 4汝ら戰端を開きて之を攻べし起よわれら日午にのぼらん嗚呼惜かな日ははや昃き夕日の影長くなれり 5起よわ

れら夜の間にのぼりてその諸の殿舎を毀たん 6萬軍のヱホバかくいひたまへり汝ら樹をきりヱルサレムに向ひて壘を築けこれは罰すべき邑なりその中には唯暴逆のみあり 7源の水をいだすがごとく彼その惡を流すその中に暴逆と威虐きこゆ我前に憂と傷たえず 8ヱルサレムよ汝訓戒をうけよ然らざれば我心汝をはなれ汝を荒蕪となし住む人なき地となさん 9萬軍のヱホバかくいひたまふ彼らは葡萄の遺餘を摘みとるごとくイスラエルの遺れる者を摘とらん汝葡萄を摘取者のごとく屢手を筐に入るべし 10我たれに語り誰を警めてきかしめんや視よその耳は割禮をうけざるによりて聽えず彼らはヱホバの言を嘲りこれを悦ばず 11ヱホバの怒わが身に充つわれ忍ぶに倦むこれを衢街にある童子と集れる年少者とに泄すべし夫も婦も老たる者も年邁し者も執へらるるにいたらん 12その家と田地と妻はともに佗人にわたらん其はわれ手を擧てこの地に住る者を擊ばなりとヱホバいひたまふ 13夫彼らは少さき者より大なる者にいたるまで皆貪婪者なり又預言者より祭司にいたるまで皆詭詐をなす者なればなり 14かれら淺く我民の女の傷を醫し平康からざる時に平康平康といへり 15彼らは憎むべき事を爲て恥辱をうくれども毫も恥ずまた愧を知らずこの故に彼らは傾仆るる者と偕にたふれん我來るとき彼ら躓かんとヱホバいひたまふ 16ヱホバかくいひたまふ汝ら途に立て見古き徑に就て何か善道なるを尋ねて其途に行めさらば汝らの靈魂安を得ん然ど彼らこたへて我儕はそれに行まじといふ 17我また汝らの上に守望者をたて笳の聲をきけといへり然ど彼等こたへて我儕は聞じといふ 18故に萬國の民よきけ會衆よかれらの遇ところを知れ 19地よきけわれ災をこの民にくださんこは彼らの思の結ぶ果なりかれら我言とわが律法をきかずして之を棄るによる 20シバより我許に乳香きたり遠き國より菖蒲きたるは何のためぞやわれは汝らの燔祭をよろこばず汝らの犧牲を甘しとせず 21故にヱホバかくいひたまふみよ我この民の前に躓礙をおく父と子とそれに躓き隣人とその友偕に滅ぶべし 22ヱホバかくいひたまふみよ民北の國よりきたる大なる民地の極より起る 23彼らは弓と槍をとる殘忍にして憫なしその聲は海の如く鳴るシオンの女よかれらは馬に乘り軍人のごとく身をよろひて汝を攻めん 24我儕その風聲をききたれば我儕の手弱り子をうむ婦のごとき苦痛と劬勞われらに迫る 25汝ら田地に出る勿れまた路に行むなかれ敵の劍と畏怖四方にあればなり 26我民の女よ麻衣を身にまとひ灰のうちにまろび獨子を喪ひしごとくに哀みていたく哭けそは毀滅者突然に我らに來るべければなり 27われ汝を民のうちに立て金を驗る者のごとくなし又城のごとくなすこは汝をしてその途を知しめまた試みしめんためなり 28彼らは皆いたく悖れる者なり歩行て人を謗る者なり彼らは銅のごとく鐵のごとし皆邪なる者なり 29韝は火に焚け鉛はつき鎔匠はいたづらに鎔す惡者いまだ除かれざればなり 30ヱホバ彼らを棄たまふによりて彼等は棄られたる銀と呼ばれん

第七章

1ヱホバよりヱレミヤにのぞめる言云ふ 2汝ヱホバの室の門にたち其處にてこの言を宣て言へヱホバを拜まんとてこの門にいりしユダのすべての人よヱホバの言をきけ 3萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいひ給ふ汝らの途と汝らの行を改めよさらばわれ汝等をこの地に住しめん 4汝ら是はヱホバの殿なりヱホバの殿なりヱホバの殿なりと云ふ僞の言をたのむ勿れ 5汝らもし全くその途と行を改め人と人との間を正しく鞫き 6異邦人と孤兒と寡を虐げず無辜者の血をこの處に流さず他の神に從ひて害をまねかずば 7我なんぢらを我汝等の先祖にあたへしこの地に永遠より永遠にいたるまで住しむべし 8みよ汝らは益なき僞の言を賴む 9汝等は盜み殺し姦淫し妄りて誓ひバアルに香を焚き汝らがしらざる他の神にしたがふなれど 10我名をもて稱へらるるこの室にきたりて我前にたちわれらはこれらの憎むべきことを行ふとも救はるるなりといふは何にぞや 11わが名をもて稱へらるる此室は汝らの目には盜賊の巢と見ゆるや我も之をみたりとヱホバいひたまふ 12汝等わが初シロに於て我名を置し處にゆき我がイスラエルの民の惡のために其處になせしところのことをみよ 13ヱホバいひたまふ今汝ら此等のすべての事をなす又われ汝らに語り頻にかたりたれども聽かず汝らを呼びたれども答へざりき 14この故に我シロになせしごとく我名をもて稱へらるる此室になさんすなはち汝等が賴むところ我汝らと汝らの先祖にあたへし此處になすべし 15またわれ汝等のすべての兄弟すなはちエフライムのすべての裔を棄てしごとく我前より汝らをも棄つべし 16故に汝この民のために祈る勿れ彼らの爲に歎くなかれ求むるなかれ又我にとりなしをなす勿れわれ汝にきかじ 17汝

かれらがユダの邑とエルサレムの街になすところを見ざるか 18諸子は薪を拾め父は火を燃き婦は麺を捏ねパンをつくりて之を天后にそなふ又かれら他の神の前に酒をそそぎて我を怒らす 19エホバいひたまふ彼ら我を怒らするか是れおのが面を 辱 むるにあらずや 20是故に主エホバかくいひたまふ視よわが震怒とわが憤 怒はこの處と人と獣 と野の樹および地の果にそそがん且燃て滅ざるべし 21萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝らの犠牲に燔祭の物をあはせて肉をくらへ 22そはわれ汝等の先祖をエジプトより導きいだせし日に燔祭と犠牲とに就てかたりしことなく又命ぜしことなし 23惟われこの事を彼等に命じ汝ら我聲を聽ばわれ汝らの神となり汝ら我民とならん且わが汝らに命ぜしすべての道を行みて福祉をうべしといへり 24されど彼らはきかず其耳を傾けずおのれの惡き心の 謀 と剛愎なるとにしたがひて行みまた後を我にむけて其面を向けざりき 25汝らの先祖がエジプトの地をいでし日より今日にいたるまでわれ我 僕なる預言者を汝らにつかはし日々晨より之をつかはせり 26されど彼らは我にきかず耳を傾けずして其 項を強くしその列祖よりも愈りて惡をなすなり 27汝 彼らに此等のすべてのことばを語るとも汝にきかずかれらを呼ぶとも汝にこたへざるべし 28汝かく彼らに語れこれは其神エホバの聲を聽ずその 訓 を受ざる民なり眞實はうせてその口に絕たり 29(シオンの女よ)汝の髪を剃りてこれを棄て山の上に哀哭の聲をあげよエホバその怒るところの世の人をすててこれを離れたまへばなり 30エホバいひたまふユダの民は我前に惡を行へり即ちその憎むべき者を我名をもて稱へらるる室に置てこれを汚せり 31又ベンヒンノムの谷に於てトペテの崇 邱を築きてその子 女を火に焚かんとせり我これを命ぜずまた斯ることを思はざりし 32エホバいひたまふ然ば視よ此處をトペテまたはベンヒンノムの谷と稱へずして殺戮の谷と稱ふる日きたらん其は葬るべき地所なきまでにトペテに葬るべければなり 33この民の屍 は天空の鳥と地の獣の食物とならんこれを逐ふものなかるべし 34その時われユダの邑とエルサレムの街に欣喜の聲 歡樂の聲 新婿の聲 新婦の聲なからしむべしこの地荒蕪ればなり

第八章

1エホバいひたまふその時人ユダの王等の骨とその牧伯等の骨と祭司の骨と預言者の骨とエルサレムの民の骨をその墓よりほりいだし 2彼等の愛し奉へ從ひ求め且祭れるところの日と月と天の衆群の前にこれを曝すべし其骨はあつむる者なく葬る者なくして糞土のごとくに地の面にあらん 3この惡き民の中ののこれる餘遺の者すべてわが逐やりしところに餘れる者皆生るよりも死ぬることを願んと萬軍のエホバ云たまふ 4汝また彼らにエホバかくいふと語るべし人もし仆るれば起きかへるにあらずやもし離るれば歸り來るにあらずや 5何故にエルサレムにをる此民は恒にわれを離れて歸らざるや彼らは詐僞をかたく執て歸ることを否めり 6われ耳を側てて聽に彼らは善ことを云ず一人もその惡を悔いてわがなせし事は何ぞやといふ者なし彼らはみな戰場に馳入る馬のごとくにその途に歸るなり 7天空の鶴はその定期を知り斑鳩と燕と鴿はそのきたる時を守るされど我民はエホバの律法をしらざるなり 8汝いかで我ら智慧ありわれらにはエホバの律法ありといふことをえんや視よまことに書記の 僞の筆之を僞とせり 9智慧ある者は辱しめられまたあわてて執へらる視よ彼等エホバの言を棄たり彼ら何の智慧あらんや 10故にわれその妻を他人にあたへ其田圃を他人に嗣しめん彼らは小さき者より大なる者にいたるまで皆貪婪者また預言者より祭司にいたるまで皆詭詐をなす者なればなり 11彼ら我民の女の傷を淺く醫し平康からざる時に平康平康といへり 12彼ら憎むべき事をなして恥 辱らる然れど毫も恥ずまた恥を知らずこの故に彼らは仆るる者と偕に仆れんわが彼らを罰するときかれら躓くべしとエホバいひたまふ 13エホバいひたまふ我彼らをことごとく滅さん葡萄の樹に葡萄なく無花果の樹に無花果なしその葉も槁れたり故にわれ殲滅者を彼らにつかはす. 14我ら何ぞ此にとどまるやあつまれよ我ら堅き城邑にゆきて其處に滅ん我儕エホバに罪を犯せしによりて我らの神エホバ我らを滅し毒なる水を飲せたまへばなり 15われら平康を望めども善こと來らず慰めらるる時を望むにかへつて恐懼きたる 16その馬の 嘶 はダンよりきこえこの地みなその強き馬の聲によりて震ふ彼らきたりて此地とその上にある者および邑とその中に住る者を食ふ 17視よわれ呪詛のきかざる蛇 蝮 を汝らのうちに遣はさん是 汝らを嚙べしとエホバいひたまふ 18嗚呼われ憂ふいかにして

慰藉をえんや我衷の心悩む 19みよ遠き國より我民の女の
聲ありていふヱホバはシオンに在さざるか其王はその中
に在ざるかと(ヱホバいひたまふ)彼らは何故にその偶像
と異邦の虚き物をもて我を怒らせしやと 20收穫の時は過
ぎ夏もはや畢りぬされど我らはいまだ救はれず 21我民の
女の傷によりて我も傷み且悲しむ恐懼我に迫れり 22ギレ
アデに乳香あるにあらずや彼處に醫者あるにあらずやい
かにして我民の女はいやされざるや

第九章

1ああ我わが首を水となし我目を涙の泉となすことをえ
んものを我民の女の殺されたる者の爲に晝夜哭かん 2
嗚呼われ曠野に旅人の寓 所をえんものを我民を離れて
さりゆかん彼らはみな姦淫するもの悖れる者の 族 なれ
ばなり 3彼らは弓を援くがごとく其舌をもて 僞 をいだす
彼らは此地において眞實のために強からず惡より惡にす
すみまた我を知ざるなりとヱホバいひたまふ 4汝らおの
おの其 隣 に心せよ何の兄 弟 をも信ずる勿れ兄 弟 はみな
欺 きをなし隣はみな讒りまはればなり 5彼らはおのおの
其 隣 を欺きかつ眞實をいはず其舌に 譌 をかたることを
教へ惡をなすに勞る 6汝の住居は詭譎の中にあり彼らは
詭譎のために我を識ことをいなめりとヱホバいひたまふ
7故に萬軍のヱホバかくいひたまへり視よ我かれらを鎔
し試むべしわれ我民の女の事を如何になすべきや 8彼ら
の舌は殺す矢のごとしかれら 詭 をいふまた其口をもて
隣 におだやかにかたれども其 心 の中には害をはかるな
り 9ヱホバいひたまふ我これらの事のために彼らを罰せ
ざらんや我 心 はかくのごとき民に仇を復さざらんや 10わ
れ山のために泣き咷び野の牧場のために悲むこれらは焚
れて過る人なしまたここに牛 羊 の聲をきかず天空の鳥も
獣 も皆逃てさりぬ 11われヱルサレムを邱 墟 とし山犬の巣
となさんまたユダの諸の邑々を荒して住む人なからしめ
ん 12智慧ありてこの事を暁る人は誰ぞやヱホバの口の 言
を受てこれを示さん者は誰ぞやこの地滅されまた野のご
とく焚れて過る者なきにいたりしは何故ぞ 13ヱホバいひ
たまふ是彼ら我その前に立しところの律法をすて我聲を
きかず之に從はざるによりてなり 14彼らはその心の剛愎
なるとその列祖たちがおのれに教へしバアルとに從へり
15この故に萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいひたま
ふ視よわれ彼等すなはち斯民に茵蓯を食はせ毒なる水を
飲せ 16彼らもその先祖たちもしらざりし國人のうちに彼
らを散しまた彼らを滅し盡すまで其 後 に劍をつかはさん
17萬軍のヱホバかくいひたまふ汝らよく考へ哭 婦 をよび
きたれ又人を遣して智き婦をまねけよ 18彼らは 速 にき
たりて我儕のために哭哀しみ我儕の目に涙をこぼさせ
我儕の目蓋より水を溢れしめん 19シオンより 哀 の聲き
こゆ云く嗚呼われら滅され我ら痛く 辱 められる我らは其
地を去り彼らはわが住家を毀ちたり 20婦たちよヱホバの
言 をきけ汝らの耳に其口の言をいれよ汝らの女に哭こと
を教へおのおのその隣に 哀 の歌を教ふべし 21そは死の
ぼりてわれらの窓よりいり我らの殿舎に入り外にある
諸子を絶し街にある壯 年を殺さんとすればなり 22ヱホバ
かくいへりと汝 云ふべし人の 屍 は糞土のごとく田野に
墮ちんまた收穫者のうしろに殘りて斂めずにある把のご
とくならんと 23ヱホバかくいひたまふ智慧ある者はその
智慧に誇る勿れ力ある者は其 力 に誇るなかれ富 者 はそ
の富に誇ること勿れ 24誇る者はこれをもて誇るべし即ち
明哲して我を識る事とわがヱホバにして地に仁恵と公道
と公義とを行ふ者なるを知る事是なり我これらを悦ぶな
りとヱホバいひたまふ 25ヱホバいひたまひけるは視よわ
れすべて陽の皮に割禮をうけたる者すなはちエジプトと
ユダとエドムとアンモンの子孫とモアブと野にをりてそ
の鬢を剃る者とを罰する日きたらんそはすべて異邦人は
割禮をうけずまたイスラエルの家も心に割禮をうけざれ
ばなり 26ヱホバいひたまひけるは視よわれすべて陽の皮
に割禮をうけたる者すなはちエジプトとユダとエドムと
アンモンの子孫とモアブと野にをりてその鬢を剃る者と
を罰する日きたらんそはすべて異邦人は割禮をうけずま
たイスラエルの家も心に割禮をうけざればなり

第十章

1イスラエルの家よヱホバの汝らに語たまふ言をきけ 2ヱ
ホバかくいひたまふ汝ら異邦人の途に效ふ勿れ異邦人は
天にあらはるる徴を懼るるとも汝らはこれを懼るる勿れ
3異國人の風俗はむなしその崇むる者は林より斫たる木
にして木匠の手に斧をもて作りし者なり 4彼らは銀と金
をもてこれを飾り釘と鎚をもて之を堅めて搖動かざらし
む 5こは圓き柱のごとくにして言はずまた歩むこと能は
ざるによりて人にたづさへらる是は災害をくだし亦は
福祉をくだすの權なきによりて汝らこれを畏るる勿れ 6

ヱホバよ汝に比ふべき者なし汝は大なり汝の名は其權威
のために大なり 7汝 萬國の王たる者よ誰か汝を畏れざる
べきや汝を畏るるは當然なりそは萬國のすべての博士た
ちのうちにもその諸國のうちにも汝に比ふべき者なけれ
ばなり 8彼らはみな獸のことくまた痴愚なり虛しき者の
教は惟木のみ 9タルシシより携へ來し銀箔ウパズより 携
へ來し金は鍛冶と鑄匠の作りし物なり青と 紫 をその 衣
となす是はすべて巧みなる細工人の工作なり 10ヱホバは
眞 の神なり彼は活る神なり永遠の王なり其 怒によりて
地は震ふ萬國はその憤 怒にあたること能はず 11汝等かく
彼らにいふべし天地を造らざりし諸神は地の上よりこの
天の下より失さらんと 12ヱホバはその能をもて地をつく
り其智慧をもて世界を建てその明哲をもて天を舒べたま
へり 13かれ聲をいだせば天に衆の水ありかれ雲を地の極
よりいだし 電 と雨をおこし風をその府庫よりいだす 14
すべての人は獸の如くにして智なしすべての鑄匠はその
作りし像のために辱をとる其鑄るところの像は僞 物に
してその中に靈魂なければなり 15是らは虛き者にして
迷妄の工作なりその罰せらるるときに滅ぶべし 16ヤコブ
の分は是のごとくならず彼は萬物の造化主なりイスラエ
ルはその產業の杖なりその名は萬軍のヱホバといふなり
17圍の中に坐する者よ汝の包を地より取りあげよ 18ヱホ
バかくいひたまふみよ我この地にすめる者を此度 擲たん
且かれらをせめなやまして攄へられしむべし 19われ毀傷
をうく嗚呼われは 禍 なるかな我傷は重し我いふこれま
ことにわが患難なりわれ之を忍べし 20わが幕屋はやぶれ
わが繩索は 悉 く斷れ我衆子は我をすてゆきて居ずなり
ぬ幕屋を張る者なくわが幃をかくる者なし 21牧者は愚に
してヱホバを求めず故に利達ずその群はみな散れり 22き
けよ風聲あり北の國より大なる騷きたる是ユダの諸邑を
荒して山犬の巢となさん 23ヱホバよわれ知る人の途は
自己によらず且歩行む人は自らその歩履を定むること能
はざるなり 24ヱホバよ我を懲したまへ但道にしたがひ怒
らずして懲したまへおそらくは我無に歸せん 25汝を知ざ
る國人と汝の名を顧ざる族に汝の怒を斟ぎたまへ彼らは
ヤコブを噬ひ之をくらふて滅しその牧場を荒したればな
り

第十一章

1ヱホバよりヱレミヤにのぞめる言いふ 2汝らこの契約の
言 をききユダの人とヱルサレムにすめる者に告よ 3汝か
れらに語れイスラエルの神ヱホバかくいひたまふこの
契約の言に遵はざる人は詛はる 4この契約はわが汝らの
先祖をエジプトの地鐵の爐の中より導き出せし日にかれ
らに命ぜしものなり即ち我いひけらく汝ら我聲をきき我
汝 らに命ぜし諸の事に從ひて行はば汝らは我民となり我
は汝らの神とならん 5われ汝らの先祖に乳と蜜の流るる
地を與へんと誓ひしことを成就んと即ち今日のごとしそ
の時我こたへてアーメン、ヱホバといへり 6またヱホバ
我にいひたまひけるは汝すべて此等の言をユダの諸邑と
ヱルサレムの衢にしめし汝ら此契約の言をききてこれを
行 へといふべし 7われ汝らの列祖をエジプトの地より
導 出せし日より今日にいたるまで切に彼らを戒め頻に
戒 めて汝ら我聲に遵へといへり 8然ど彼らは遵はずその
耳を傾けずおのおの其惡き心の剛愎なるにしたがひて歩
めり故にわれ此契約の言を彼等にきたらす是はわがかれ
らに之を行へと命ぜしかども彼等がおこなはざりし者な
り 9またヱホバ我にいひたまひけるはユダの人々とヱル
サレムに住る者の中に叛逆の事あり 10彼らは我 言をきく
ことを好まざりしところのその先祖の罪にかへり亦他の
神に從ひて之に奉へたりイスラエルの家とユダの家はわ
がその列祖たちと締たる契約をやぶれり 11この故にヱホ
バかくいひ給ふみよわれ災禍をかれらにくださん彼らこ
れを免かるることをえざるべし彼ら我をよぶとも我聽じ
12ユダの邑とヱルサレムに住る者はゆきてその香を焚し
神を顧んされど是等はその災禍の時に絕てかれらを救ふ
ことあらじ 13ユダよ汝の神の數は汝の邑の數のごとし且
汝 らヱルサレムの衢の數にしたがひて恥べき者に壇をた
てたり即ちバアルに香を焚んとて壇をたつ 14故に汝この
民の爲に祈る勿れ又その爲に泣きあるひは求る勿れ彼ら
がその災禍のために我を呼ときわれ彼らに聽ざるべし 15
わが愛する者は我室にて何をなすや惡き 謀 をなすや 願
と聖き肉 汝に 災 を脫れしむるやもし然らば汝よろこぶ
べし 16ヱホバ汝の名を嘉果ある美しき青橄欖の樹と稱た
まひしがおほいなる喧嚷の聲をもて之に火をかけ且その
枝を折りたまふ 17汝を植し萬軍のヱホバ汝の 災 をさだ
め給へりこれイスラエルの家とユダの家みづから害ふの
惡をなしたるによるなり即ちバアルに香を焚きてわれを

怒らせたり 18ヱホバ我に知せたまひければ我これを知るその時 汝 彼らの作爲を我にしめしたまへり 19我は牽れて宰られにゆく羔 の如く彼らが我をそこなはんとて謀　をなすを知ず彼らいふいざ我ら樹とその果とを共に滅 さんかれを生る者の地より絕てその名を人に忘れしむべしと 20義き鞫をなし人の心腸を察りたまふ萬軍のヱホバよ我わが 訴 を汝にのべたればわれをして汝が彼らに仇を報すを見せしめたまへ 21是をもてヱホバ、アナトテの人々につきてかくいひたまふ彼等 汝の生命を取んと索めて言ふ汝ヱホバの名をもて預言する勿れ恐らくは汝 我らの手に死んと 22故に萬軍のヱホバかくいひ給ふみよ我かれらを罰すべし壯 丁は劍に死にその子 女は饑饉にて死なん 23餘る者なかるべし我 災 をアナトテの人々にきたらしめわが彼らを罰するの年をきたらしめん

第十二章

1ヱホバよわが汝と爭ふ時に汝は義し惟われ鞫の事につきて汝と言ん惡人の途のさかえ悖れる者のみな 福 なるは何故ぞや 2汝かれらを植たり彼らは根づき成長て實を結べりその口は汝に近けどもその心は汝に遠ざかる 3ヱホバ汝われを知り我を見またわが心の汝にむかひて何なるかを試みたまふ羊を宰りに牽いだすがごとく彼らを牽いだし殺す日の爲にかれらをそなへたまへ 4いつまでこの地は哭きすべての畑の蔬菜は枯をるべけんやこの地に住る者の惡によりて畜獸と鳥は滅さる彼らいふ彼は我らの終をみざるべしと 5汝もし歩行者とともに趨てつかれなばいかで騎 馬 者と競はんや汝 平安なる地を恃まばいかでヨルダンの傍の 叢 に居ることをえんや 6汝の兄 弟と汝の父の家も汝を欺きまた大聲をあげて汝を追ふかれらしたしく汝に語るともこれを信ずる勿れ 7われ我家を離れわが產業をすて我靈魂の愛するところの者をその敵の手にわたせり 8わが產業は林の獅子のごとし我にむかひて其聲を揚ぐ故にわれ之を惡めり 9我產業は我におけること班駁ある鳥のごとくならずや鳥之を圍むにあらずや野のすべての獸きたりあつまれ來てこれを食へ 10衆の牧者わが葡萄 園をほろぼしわが地を踐踏しわがうるはしき地を荒野となせり 11彼らこれを荒地となせりその荒地我にむかひて哭くなり一人もかへりみる者なければこの全地は荒たり 12毀滅者は野のすべての童山のうへに來れりヱホバの劍 地のこの極よりかの極までを滅ぼすすべて血氣ある者は安をえず 13彼らは麥を播て荊棘をかる勞れども得るところなし汝らはその作 物のために恥るにいたらん是ヱホバの烈き怒によりてなり 14わがイスラエルの民に嗣しむる產業をせむるところのすべてのわが惡き 隣にむかひてヱホバかくいふみよわれ彼等をその地より拔出しまたユダの家を彼らの中より拔出すべし 15われ彼らを拔出せしのちまた彼らを恤みておのおのを其產業にかへし各人をその地に歸らしめん 16彼等もし我民の道をまなび我名をさしてヱホバは活くと誓ふこと嘗て我民を教へてバアルを指て誓はしめし如くせば彼らはわが民の中に建らるべし 17されど彼らもし聽かざれば我かならずかかる民を全く拔出して滅すべしとヱホバいひたまふ

第十三章

1ヱホバかくいひたまへり汝ゆきて麻の帶をかひ汝の腰にむすべ水に入る勿れ 2われすなはちヱホバの言に遵ひ帶をかひてわが腰にむすべり 3ヱホバの言ふたたび我にのぞみて云ふ 4汝が買て腰にむすべる帶を取り起てユフラテにゆき彼處にてこれを磐の穴にかくせと 5ここに於てわれヱホバの命じたまひし如く往てこれをユフラテの涯 にかくせり 6おほくの日を經しのちヱホバ我にいひたまひけるは起てユフラテにゆきわが汝に命じて彼處にかくさしめし帶を取れと 7われすなはちユフラテにゆき帶を我隱せしところより掘取りしにその帶は朽て用ふるにたへず 8またヱホバの言われにのぞみて云ふ 9ヱホバかくいふ我かくの如くユダの驕傲とエルサレムの大なる驕傲をやぶらん 10この惡き民はわが言を聽ことをこばみ己 の心の剛愎なるにしたがひて行み且他の神に從ひてこれにつかへ之を拜す彼等は此帶の用ふるにたへざるが如くなるべし 11ヱホバいふ帶の人の腰に附がごとくわれイスラエルのすべての家とユダのすべての家を我に附しめ之を我民となし名となし譽となし榮となさんとせり然るに彼等はきかざりき 12故に汝この言を彼らに語るべしイスラエルの神ヱホバかくいふ酒壺には皆酒盈つと彼 汝にこたへていはん我儕豈酒壺に酒の盈ることを知ざらんやと 13其時 汝かれらにいふべしヱホバかくいふみよわれ此地に住るすべての者とダビデの位に坐する王等と祭司と預言者およびヱルサレムに住るすべての者に醉を盈せ 14彼らを此と彼と打あはせて碎かん父と子をも然すべしわれ彼らを恤まず惜まず憐まずして滅さん 15汝らきけ耳

を傾けよ驕る勿れヱホバかたりたまふなり 16汝らの神ヱホバに其いまだ暗を起したまはざる先汝らの足のくらき山に躓かざる先に榮光を皈すべし汝ら光明を望まんにヱホバ之を死の蔭に變へ之を昏黒となしたまふにいたらん 17汝ら若これを聽ずば我靈魂は汝らの驕を隱なるところに悲まん又ヱホバの群の掠めらるるによりて我目いたく泣て涙をながすべし 18なんぢ王と大后につげよ汝ら自ら謙りて坐せそはなんぢらの美しき冕汝らの首より落べければなり 19南の諸邑は閉てこれを啓く人なしユダは皆擄移され盡くとらへ移さる 20汝ら目を擧げて北より來る者をみよ汝らが賜はりし群汝のうるはしき群はいづこにあるや 21かれ汝の親み馴たる者を汝の上にたてて首領となさんとき汝何のいふべきことあらんや汝の痛は子をうむ婦のごとくならざらんや 22汝心のうちに何故にこの事我にきたるやといふか汝の罪の重によりて汝の裾は掲げられなんぢの踵はあらはさるるなり 23エテオピア人その膚をかへうるか豹その斑駁をかへうるか若これを爲しえば惡に慣たる汝らも善をなし得べし 24故にわれ彼らを散して野の風に吹散さるる皮売のごとくせん 25ヱホバいひたまふこは汝の得べき分わが量て汝にあたふる產業なり汝我をわすれて虛假を依賴ばなり 26故にわれ汝の前の裳を剥ぎて汝の羞恥をあらはさん 27われ汝の姦淫と汝の嘶と汝が岡のうへと野になせし汝の亂淫の罪と汝の憎むべき行をみたりヱルサレムよ汝は禍なるかな汝の潔くせらるるには尚いくばくの時を經べきや

第十四章

1乾旱の事につきてヱレミヤにのぞみしヱホバの言は左のごとし 2ユダは悲むその門は傾き地にたふれて哭くヱルサレムの吶は上る 3その侯伯等は僕をつかはして水を汲しむ彼ら井にいたれども水を見ず空き器をもちて歸り恥かつ憂へてその首をおほふ 4地に雨ふらずして土燥裂たるにより農夫は恥て首を掩ふ 5また野にある麀は子をうみて之を棄つ草なければなり 6野の驢馬は童山のうへにたちて山犬のごとく喘ぎ草なきによりて目眩む 7ヱホバよ我儕の罪われらを訟へて證をなすとも願くは汝の名の爲に事をなし給へ我儕の違背はおほいなり我儕汝に罪を犯したり 8イスラエルの企望なる者その艱るときに救ひたまふ者よ汝いかなれば此地に於て他邦人のごとくし一夜寄宿の旅客のごとくしたまふや 9汝いかなれば呆てをる人のごとくし救をなすこと能はざる勇士のごとくしたまふやヱホバよ汝は我らの間にいます我儕は汝の名をもて稱へらるる者なり我らを棄たまふ勿れ 10ヱホバこの民にかくいひたまへり彼らかく好んでさまよひ其足を禁めざればヱホバ彼らを悦ばずいまその愆をおぼえ其罪を罰すべし 11ヱホバまた我にいひたまひけるは汝この民のために恩をいのる勿れ 12彼ら斷食するとも我その呼籲をきかず燔祭と素祭を献るとも我これをうけず却てわれ劍と饑饉と疫病をもて彼らを滅すべし 13われいひけるは嗚呼主ヱホバよみよ預言者たちはこの民にむかひ汝ら劍を見ざるべし饑饉は汝らにきたらじわれ此處に鞏固なる平安を汝らにあたへんといへり 14ヱホバ我にいひたまひけるは預言者等は我名をもて詭を預言せりわれ之を遣さず之に命ぜずまた之にいはず彼らは虛誕の默示と卜筮と虛きことと己の心の詐を汝らに預言せり 15この故にかの吾が遣さざるに我名をもて預言して劍と饑饉はこの地にきたらじといへる預言者等につきてヱホバかくいふこの預言者等は劍と饑饉に滅さるべし 16また彼等の預言をうけし民は饑饉と劍によりてヱルサレムの街に擲棄られんこれを葬る者なかるべし彼等とその妻および其子その女みな然りそはわれ彼らの惡をその上に斟げばなり 17汝この言を彼らに語るべしわが目は夜も晝もたえず涙を流さんそは我民の童女大なる滅と重き傷によりて亡さるればなり 18われ出て畑にゆくに劍に死る者あり我邑にいるに饑饉に艱むものあり預言者も祭司もみなその地にさまよひて知ところなし 19汝はユダを悉くすてたまふや汝の心はシオンをきらふや汝いかなれば我儕を撃て愈しめざるか我ら平安を望めども善ことあらず又醫さるる時を望むに却て驚懼あり 20ヱホバよ我らはおのれの惡と先祖の愆を知るわれら汝に罪を犯したり 21汝の名のために我らを棄たまふ勿れ汝の榮の位を辱めたまふ勿れ汝のわれらに立し契約をおぼえて毀りたまふなかれ 22異邦の虛き物の中に雨を降せうるものあるや天みづから白雨をくだすをえんや我らの神ヱホバ汝これを爲したまふにあらずや我ら汝を望むそは汝すべて此等を悉く作りたまひたればなり

第十五章

1ヱホバ我にいひたまひけるはたとひモーセとサムエルわが前にたつとも我こころは斯民を顧ざるべしかれらを

我前より逐ひていでさらしめよ 2彼らもし汝にわれら何處にいでさらんやといはば汝 彼らにヱホバかくいへりといへ死に定められたる者は死にいたり劍に定められたる者は劍にいたり饑饉に定められたる者は饑饉にいたり虜 に定められたる者は虜にいたるべしと 3ヱホバ云たまひけるはわれ四の物をもて彼らを罰せんすなはち劍をもて戮し犬をもて噬せ天空の鳥および地の獣をもて食ひ滅さしめん 4またユダの王ヒゼキヤの子マナセがヱルサレムになせし事によりわれ彼らをして地のすべての國に艱難をうけしめん 5エルサレムよ誰か汝を憐まんたれか汝 のために嘆かん誰かちかづきて汝の安否を問はん 6ヱホバいひたまふ汝われをすてたり汝 退けり故にわれ手を汝のうへに伸て汝を滅さんわれ憫 に倦り 7われ風扇をもて我民をこの地の門に煽がんかれらは其途を離れざるによりて我その子を絶ち彼らを滅すべし 8彼らの寡婦はわが前に海濱の沙よりも多し晝われほろぼす者を携へきたりて彼らと壮 者の母とをせめ驚駭と恐懼を突然にかれの上におこさん 9七人の子をうみし婦は衰へて氣たえ尚晝なるにその日は早く沒る彼は 辱 められて面をあからめん其餘れる者はわれ之をその敵の劍に付さんとヱホバいひたまふ 10嗚呼われは 禍 なるかな我母よ汝なに故に我を生しや全國の人我と爭ひ我を攻むわれ人に貸さず人また我に貸さず皆我を詛ふなり 11ヱホバいひたまひけるは我 實に汝に益をえせしめんために汝を惱す我まことに敵をして其 艱の時と 災 の時に汝に求むることをなさしめん 12 鐵 いかで北の 鐵 と 銅 を砕かんや 13われ汝の資産と汝の資財を擄掠物とならしめ價をうることなからしめん是 汝のすべての罪によるなりすべて汝の境のうちにかくなさん 14われ汝の敵をして汝を汝の識ざる地にとらへ移さしめん夫我 怒によりて火燃え汝を焚んとするなり 15ヱホバよ汝これを知りたまふ我を憶え我をかへりみたまへ我を迫害るものに仇を復したまへ汝の容忍によりて我をとらへられしむる勿れ我 汝の爲に 辱 を受るを知りたまへ 16われ汝の言を得て之を食へり汝の言はわが心の欣喜快樂なり萬軍の神ヱホバよわれは汝の名をもて稱へらるるなり 17われ嬉笑者の 會 に坐せずまた喜ばずわれ汝 の手によりて獨り坐す汝 憤 怒をもて我に充したまへり 18何故にわが痛は息ずわが傷は重くして愈ざるか汝はわれにおけること水をたもたずして人を欺く溪河のごとくなるや 19是をもてヱホバかくいひたまへり汝もし歸らば我また汝をかへらしめて我前に立しめん汝もし賤 をすてて 貴 をいださば我口のごとくならん彼らは汝に歸らんされど汝は彼らにかへる勿れ 20われ汝をこの民の前に堅き 銅 の牆となさんかれら汝を攻るとも汝にかたざるべしそはわれ汝と偕にありて汝をたすけ汝を救へばなりとヱホバいひたまへり 21我 汝を惡人の手より救ひとり汝 を怖るべき者の手より放つべし

第十六章

1ヱホバの言また我にのぞみていふ 2汝この處にて妻を娶るなかれ子 女を得るなかれ 3此 處に生るる子 女とこの地に之を生む母と之を生む父とに就てヱホバかくいひたまふ 4彼らは慘しき病に死し哀まれず葬られずして糞土のごとくに田地の面にあらんまた劍と饑饉に滅されて其屍 は天空の鳥と地の獣の食物とならん 5ヱホバかくいひたまへり喪ある家にいる勿れまた往て之を哀み嗟く勿れそはわれ我平安と恩寵と矜恤をこの民より取ばなりとヱホバいひたまへり 6大なる者も小さき者もこの地に死べし彼らは葬られずまた彼らのために哀む者なく自ら 傷くる者なく髪をそる者なかるべし 7またその哀むときパンをさきて其死 者のために之を慰むるものなく又父あるひは母のために慰藉の 杯 を彼らに飲しむる者なかるべし 8汝また筵宴の家にいりて偕に坐して食飲する勿れ 9萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よ汝の目の前 汝の世に在るときにわれ欣喜の聲と歡樂の聲と新娶者の聲と新婦の聲とを此 處に絶しめん 10汝このすべての言を斯民に告るとき彼ら汝に問ふてヱホバわれらを責てこの大なる 災 を示したまふは何故ぞやまたわれらに何の惡 事あるやわが神ヱホバに背きてわれらのなせし罪は何ぞやといはば 11汝かれらに答ふべしヱホバいひたまふ是 汝らの先祖われを棄て他の神に從ひこれに奉へこれを拜しまた我をすてわが律法を守らざりしによる 12 汝らは汝らの先祖よりも多く惡をなせりみよ汝らはおのおの自己の惡き心の剛愎なるにしたがひて我にきかず 13故にわれ汝らを此の地より逐ひて汝らと汝らの先祖の識ざる地にいたらしめん汝らかしこにて晝夜ほかの神に奉へん是わが汝らを憐まざるによるなりと 14ヱホバいひたまふ然ばみよ此後イスラエルの民をエジプトの地より導きいだせしヱホバは活くといふことなくして 15イスラエルの民を北の地とそのすべて逐やられし地より導 出せし

ヱホバは活くといふ日きたらん我かれらを我その先祖に
與へしかれらの地に導きかへるべし 16ヱホバいひたまふ
みよ我おほくの漁 者をよび來りて彼らを漁らせまたそ
の後おほくの獵者を呼來りて彼らを 諸 の山もろもろの
岡および岩の穴より獵いださしめん 17我目はかれらの 諸
の途を鑒る皆我にかくるるところなし又その惡は我目に
匿れざるなり 18われまづ倍して其惡とその罪に報いんそ
は彼らその汚れたる者の 屍 をもて我地を汚しその惡む
べきものをもて我產業に充せばなり 19ヱホバ我の力 我の
城 難の時の逃場よ萬國の民は地の極より汝にきたりわ
れらの先祖の嗣るところの者は惟 謊 と虛浮事と益なき
物のみなりといはん 20人豈神にあらざる者をおのれの神
となすべけんや 21故にみよわれ此度かれらに知らしむる
ところあらん即ち我手と我 能をかれらに知らしめん彼ら
は我名のヱホバなるを知るべし

第十七章

1ユダの罪は鐵の筆金剛石の尖をもてしるされその心の
碑と汝らの祭壇の角に 鐫 らるるなり 2彼らはその子女を
おもふが如くに青木の下と高岡のうへなるその祭壇とア
シラをおもふ 3われ野に在る我山と汝の資產と汝のもろ
もろの財產および汝の四方の境の內なる汝の罪を犯せる
崇 邱 を擄掠物とならしめん 4わが汝にあたへし產業より
汝 手をはなさん又われ汝をして汝の識ざる地に於て 汝
の敵につかへしめんそは汝ら我をいからせて限なく燃る
火を發したればなり 5ヱホバかくいひたまふおほよそ人
を恃み肉をその臂とし心にヱホバを離るる人は詛るべし
6彼は荒野に棄られたる者のごとくならん彼は善事のき
たるをみず荒野の燥きたる處 鹽あるところ人の住ざる地
に居らん 7おほよそヱホバをたのみヱホバを其 恃とする
人は福 なり 8彼は水の旁に植たる樹の如くならん其根を
河にのべ炎熱きたるも恐るるところなしその葉は青く
亢旱の年にも憂へずして絕ず果を結ぶべし 9心は萬 物よ
りも僞る者にして甚だ惡し誰かこれを知るをえんや 10わ
れヱホバは心腹を察り腎 腸を試みおのおのに其途に順ひ
その行爲の果によりて報ゆべし 11鷓鴣のおのれの生ざる
卵 をいだくが如く不義をもて財を獲る者あり其人は命の
半 にてこれに離れその終に愚なる者とならん 12榮の位よ
原始より高き者わが聖 所たる者 13イスラエルの望なる
ヱホバよ凡て汝を離るる者は 辱 められん我を棄る者は
土に錄されん此はいける水の 源 なるヱホバを離るるに
よる 14ヱホバよ我を醫し給へ然らばわれ愈んわれを救ひ
たまへさらば我救はれん汝はわが頌るものなり 15彼ら我
にいふヱホバの言は何にあるやいま之をのぞましめよと
16われ牧者の職を退かずして汝にしたがひ又 禍 の日を
願はざりき汝これを知りたまふ我 唇 よりいづる者は 汝
の面の前にあり 17汝 我を懼れしむる者となり給ふ勿れ
禍 の時に汝は我避場なり 18我を攻る者を辱しめ給へ我
を辱しむるなかれ彼らを怖れしめよ我を怖れしめ給ふな
かれ 禍 の日を彼らに來らしめ滅亡を倍して之を滅し給
へ 19ヱホバ我にかくいひ給へり汝ゆきてユダの王等の
出入する民の門及びエルサレムの諸の門に立て 20彼らに
いへ此門より入る所のユダの王等とユダのすべての民と
エルサレムに住るすべての者よ汝らヱホバの言をきけ 21
ヱホバかくいひたまふ汝ら自ら愼め安息日に荷をたづさ
へてエルサレムの門にいる勿れ 22また安息日に汝らの家
より荷を出す勿れ諸の工作をなす勿れ我 汝らの先祖に命
ぜしごとく安息日を聖くせよ 23されど彼らは遵はず耳を
傾 けずまたその項を強くして聽ず 訓 をうけざるなり 24
ヱホバいひ給ふ汝らもし謹愼て我にきき安息日に荷をた
づさへてこの邑の門にいらず安息日を聖くなして諸の
工作をなさざれば 25ダビデの位に坐する王等牧伯たちユダ
の民エルサレムに住る者 車と馬に乘てこの邑の門よりい
ることをえんまた此邑には限なく人すまはん 26また人々
ユダの邑とエルサレムの四周およびベニヤミンの地と
平地と山と南の方よりきたり燔祭 犧牲 素祭 馨香 謝祭を
携 へてヱホバの室にいらん 27されど汝らもし我に聽ずし
て安息日を聖くせず安息日に荷をたづさへてエルサレム
の門にいらばわれ火をその門の內に燃してエルサレムの
殿舍を燬んその火は滅ざるべし

第十八章

1ヱホバよりヱレミヤにのぞめる言いふ 2汝 起て陶 人の
屋にくだれ我かしこに於てわが言を汝に聞しめんと 3わ
れすなはち陶 人の屋にくだり視るに轆轤をもて物をつく
りをりしが 4その泥をもて造れるところの器 陶 人の手の
うちに傷ねたれば彼その心のままに之をもて別の器をつ
くれり 5時にヱホバの言 我にのぞみていふ 6ヱホバいふ
イスラエルの家よこの陶 人のなすが如くわれ汝になすこ
とをえざるかイスラエルの家よ陶 人の手に泥のあるごと

く汝らはわが手にあり 7われ急に民あるひは國をぬくべし敗るべし滅すべしといふことあらんに 8もし我いひしところの國その惡を離れなば我之に災を降さんとおもひしことを悔ん 9我また急に民あるいは國を立べし植べしといふことあらんに 10もし其國わが目に惡く見ゆるところの事を行ひわが聲に遵はずば我これに福祉を錫へんといひしことを悔ん 11汝いまユダの人々とヱルサレムに住る者にいへヱホバかくいへり視よ我汝らに災をくださんと思ひめぐらし汝らをはかる計策を設く故に汝らおのおの其惡き途を離れ其途と行をあらためよと 12しかるに彼らいふ是は徒然なりわれらは自己の圖維ところにしたがひ各自その惡き心の剛愎なるを行はんと 13この故にヱホバかくいひたまふ汝ら異國のうちに問へ斯の如きことを聞し者ありやイスラエルの處女はいと驚くべきことをなせり 14レバノンの雪豈野の磐を離れんや遠方より流くる冷なる水豈涸かんや 15しかるに我民は我をわすれて虛き物に香を焚り是等の物彼らをその途すなはち古き途に躓かせまた徑すなはち備なき道に行しめ 16その地を荒して恒に人の笑とならしめん凡て其處を過る者は驚きてその首を搖らん 17われ東風のごとくに彼らをその敵の前に散さん其滅亡の日にはわれ背を彼らに向て面をむけじ 18彼らいふ去來われら計策を設てヱレミヤをはからんそれ祭司には律法あり智慧ある者には謀畧あり預言者には言ありて失ざるべし去來われら舌をもて彼を擊ちその諸の言を聽ことをせざらんと 19ヱホバよ我にききたまへ又我と爭ふ者の聲をききたまへ 20惡をもて善に報ゆべきものならんや彼らはわが生命をとらん爲に坑を掘れりわが汝の前に立て彼らを善く言ひ汝の憤怒を止めんとせしを憶えたまへ 21さればかれらの子女を饑饉にあたへ彼らを劍の刃にわたしたまへ其妻は子を失ひ且寡となり其男は死をもて亡されその少者は劍をもて戰に殺されよかし 22汝突然に敵をかれらに臨ませたまふ時號呼をその家の内より聞えしめよそは彼ら坑を掘りて我を執へんとしまた機檻を置てわが足を執へんとすればなり 23ヱホバよ汝はかれらが我を殺さんとするすべての謀畧を知りたまふ其惡を赦すことなく其罪を汝の前より抹去りたまふなかれ彼らを汝の前に仆れしめよ汝の怒りたまふ時にかく彼らになしたまへ

第十九章

1ヱホバかくいひたまふ往て陶人の瓦罈をかひ民の長老と祭司の長老の中より數人をともなひて 2陶人の門の前にあるベンヒンノムの谷にゆき彼處に於てわが汝に告んところの言を宣よ 3云くユダの王等とヱルサレムに住る者よヱホバの言をきけ萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よ我災を此處にくだすべし凡そ之をきく者の耳はかならず鳴らん 4こは彼ら我を棄てこの處を瀆し此にて自己とその先祖およびユダの王等の知ざる他の神に香を焚き且辜なきものの血をこの處に盈せばなり 5又彼らはバアルの爲に崇邱を築き火をもて己の兒子を焚き燔祭となしてバアルにささげたり此わが命ぜしことにあらず我いひしことにあらず又我心に意はざりし事なり 6ヱホバいひたまふされば視よ此處をトペテまたはベンヒンノムの谷と稱ずして屠戮の谷と稱ふる日きたらん 7また我この處に於てユダとヱルサレムの謀をむなしうし劍をもて彼らを其敵の前とその生命を索る者の手に仆しまたその屍を天空の鳥と地の獸の食物となし 8かつ此邑を荒して人の胡盧とならしめん凡そここを過る者はその諸の災に驚きて笑ふべし 9また彼らがその敵とその生命を索る者とに圍みくるしめらるる時我彼らをして己の子の肉女の肉を食はせん又彼らは互にその友の肉を食ふべし 10汝ともに行く人の目の前にてその瓦罈を毀ちて彼らにいふべし 11萬軍のヱホバかくいひ給ふ一回毀てば復全うすること能はざる陶人の器を毀つが如くわれ此民とこの邑を毀たんまた彼らは葬るべき地なきによりてトペテに葬られん 12ヱホバいひ給ふ我この處とこの中に住る者とに斯なし此邑をトペテの如くなすべし 13且ヱルサレムの室とユダの王等の室はトペテの處のごとく汚れん其は彼らすべての室の屋蓋のうへにて天の衆群に香をたき他の神に酒をそそげばなり 14ヱレミヤ、ヱホバの己を遣はして預言せしめたまひしトペテより歸りきたりヱホバの室の庭に立ちすべての民に語りていひけるは 15萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よわれ我いひし諸の災をこの邑とその諸の鄉村にくださん彼らその項を強くして我言を聽ざればなり

第二十章

1祭司インメルの子ヱホバの室の宰の長なるパシユル、ヱレミヤがこの言を預言するをきけり 2是に於てパシユル預言者ヱレミヤを打ちヱホバの室にある上のベニヤミン

の門の桎梏に繋げり 3翌日パシユル、エレミヤを桎梏より釋はなちしにエレミヤ彼にいひけるはヱホバ汝の名をパシユルと稱ずしてマゴルミッサビブ(驚懼周圍にあり)と稱び給ふ 4即ちヱホバかくいひたまふ視よわれ汝をして汝と汝のすべての友に恐怖をおこさしむる者となさん彼らはその敵の劍に仆れん汝の目はこれを見べし我またユダのすべての民をバビロン王の手に付さん彼は彼らをバビロンに移し劍をもて殺すべし 5我またこの邑のすべての貨財とその得たる諸の物とその諸の珍 寶とユダの王等のすべての儲蓄を其敵の手に付さん彼らはこれを掠めまた民を擄へてバビロンに移すべし 6パシユルよ汝と汝 の家にすめる者は悉く擄へ移されん汝はバビロンにいたりて彼處に死にかしこに葬られん汝も汝が僞りて預言せし言を聽し友もみな然らん 7ヱホバよ汝われを勸めたまひてわれ其 勸に從へり汝 我をとらへて我に勝給へりわれ日々に人の笑となり人皆我を嘲りぬ 8われ語り呼はるごとに暴 逆殘虐の事をいふヱホバの言 日々にわが身の恥 辱となり嘲弄となるなり 9是をもて我かさねてヱホバの事を宣ず又その名をもてかたらじといへり然どヱホバのことば我 心にありて火のわが骨の中に閉こもりて燃るがごとくなれば忍耐につかれて堪難し 10そは我おほくの人の讒をきく驚懼まはりにあり訴へよ彼を訴へんわが親しき者はみな我 蹶くことあらんかと窺ひて互にいふ彼 誘はるることあらんしからば我儕彼に勝て仇を報ゆることをえんと 11然どヱホバは強き勇士のごとくにして我と偕にいます故に我を攻る者は蹶きて勝ことをえずそのなし遂ざるが爲に大なる恥辱を取ん其羞恥は何時迄も忘られざるべし 12義 人を試み人の心 腸を見たまふ萬軍のヱホバよ我 汝に 訴 を申たれば我をして汝が彼らに仇を報すを見せしめよ 13ヱホバに歌を謠へよヱホバを頌めよそは貧 者の生命を惡 者の手より救ひ給へばなり 14ああ我生れし日は詛はれよ我母のわれを生し日は祝せられざれ 15わが父に男子 汝に生れしと告て父を大に喜ばせし人は詛はれよ 16其人はヱホバの憫まずして滅したまひし邑のごとくなれよ彼をして朝に號呼をきかしめ午間に鬨 聲 をきかしめよ 17彼我を胎のうちに殺さず我母を我の墓となさず常にその胎を大ならしめざりしが故なり 18我何なれば胎をいでて艱難と憂患をかうむり恥辱をもて日を送るや

第二十一章

1ゼデキヤ王マルキヤの子パシユルと祭司マアセヤの子ゼパニヤをエレミヤに遣し 2バビロンの王ネブカデネザル我らを攻むれば汝われらの爲にヱホバに求めよヱホバ恒のごとくそのもろもろの奇なる跡をもて我らを助けバビロンの王を我らより退かしめたまふことあらんと曰しむ其時ヱホバの言エレミヤに臨めり 3エレミヤ彼らにこたへけるは汝らゼデキヤにかく語ふべし 4イスラエルの神ヱホバかくいひたまふ視よわれ汝らがこの邑の外にありて汝らを攻め圍むところのバビロン王およびカルデヤ人とたたかひて手に持ところのその武器をかへし之を邑のうちに聚めん 5われ手を伸べ臂をつよくし震怒と憤恨と烈き怒をもて汝らをせむべし 6我また此邑にすめる人と畜を擊ん皆重き疫病によりて死べし 7ヱホバいひたまふ此後われユダの王ゼデキヤとその諸臣および民此邑に疫病と劍と饑饉をまぬかれて遺れる者をバビロンの王ネブカデネザルの手と其敵の手および凡そその生命を索る者の手に付さんバビロンの王は劍の刃をもて彼らを擊ちかれらを惜まず顧みず恤れまざるべし 8汝また此民にヱホバかくいふと語るべし視よわれ生命の道と死の道を汝らの前に置く 9この邑にとどまる者は劍と饑饉と疫病に死べしされど汝らを攻め圍むところのカルデヤ人に出降る者はいきん其 命はおのれの掠取物となるべし 10ヱホバいひたまふ我この邑に面を向しは 福 をあたふる爲にあらず 禍 をあたへんが爲なりこの邑はバビロンの王の手に付されん彼火をもて之を焚くべし 11またユダの王の家に告べし汝らヱホバの言をきけ 12ダビデの家よヱホバかくいふ汝 朝ごとに義く鞫をなし物を奪はるる人をその暴逆者の手より救へ否ざれば汝らの 行 の惡によりて我怒 火のごとくに發で燃て滅ざるべし 13ヱホバいひたまふ谷と平原の磐とにすめる者よみよ我 汝に敵す汝らは誰か降て我儕を攻んや誰かわれらの居 處にいらんやといふ 14我 汝らをその 行 の果によりて罰せん又其 林に火を起し其四周をことごとく焚つくすべしとヱホバいひたまふ

第二十二章

1ヱホバかくいひたまへり汝ユダの王の室にくだり彼處にこの言をのべていへ 2ダビデの位に坐するユダの王よ汝 と汝の臣および此門よりいる汝の民ヱホバの言をきけ 3ヱホバかくいふ汝ら公道と公義を行ひ物を奪はるる人

をその暴虐者の手より救ひ異邦人と孤子と嫠婦をなやまし虐ぐる勿れまた此處に無辜の血を流す勿れ 4汝らもし此言を眞に行はばダビデの位に坐する王とその臣および其民は車と馬に乗てこの室の門にいることをえん 5然ど汝らもし此言を聽ずばわれ自己を指して誓ふ此室は荒地となるべしとヱホバいひたまふ 6ヱホバ、ユダの王の家につきてかく曰たまふ汝は我におけることギレアデのごとくレバノンの巓のごとし然どわれかならず汝を荒野となし人の住はざる邑となさん 7われ破壞者をまふけて汝を攻めしめん彼ら各人その武器を執り汝の美しき香柏を斫てこれを火に投いれん 8多の國の人此邑をすぎ互に語てヱホバ何なれば此大なる邑にかく爲せしやといはんに 9人こたへて是は彼等其神ヱホバの契約をすてて他の神を拜し之に奉へしに由なりといはん 10死者の爲に泣くことなくまた之が爲に嗟くこと勿れ寧擄へ移されし者の爲にいたく嗟くべし彼は再び歸てその故園を見ざるべければなり 11ユダの王ヨシヤの子シヤルム即ちその父に繼で王となりて遂に此處をいでたる者につきてヱホバかくいひたまへり彼は再び此處に歸らじ 12彼はその移されし處に死んふたたび此地を見ざるべし 13不義をもて其室をつくり不法をもて其樓を造り其隣人を傭て何をも與へず其價を拂はざる者は禍なるかな 14彼いふ我己の爲に廣厦と涼しき樓をつくり又己の爲に窓を造り香柏をもて之を蔽ひ赤く之を塗んと 15汝香柏を爭ひもちふるによりて王たるを得るか汝の父は食飲せざりしや公義と公道を行ひて福を得ざりしや 16彼は貧者と患艱者の訟を理して祥をえたりかく爲すは我を識ことに非ずやとヱホバいひ給ふ 17然ど汝の目と心は惟貪をなさんとし無辜の血を流さんとし虐遇と暴逆をなさんとするのみ 18故にヱホバ、ユダの王のヨシヤの子ヱホヤキムにつきてかく曰たまふ衆人は哀しいかな我兄かなしいかな我姉といひて嗟かず又哀しいかな主よ哀しいかな其榮と曰て嗟かじ 19彼は驢馬を埋るがごとく埋られん即ち曳れてヱルサレムの門の外に投棄らるべし 20汝レバノンに登りて呼ばはりバシヤンに汝の聲を揚げアバリムより呼はれ其は汝の愛する者悉く滅されたればなり 21汝の平康なる時我汝に語しかども汝は我にきかじといへり汝いとけなき時よりわが聲を聽ずこれ汝の故習なり 22汝の牧者はみな風に呑つくされ汝の愛する者はとらへ移されん其時汝はおのれの諸の惡のために痛く恥べし 23汝レバノンにすみ巢を香柏につくる者よ汝の劬勞子を產む婦の痛苦のごとくにきたらんとき汝の哀慘はいかにぞや 24ヱホバいひたまふ我は活くユダの王ヱホヤキムの子ヱコニヤは我右の手の指環なれども我これを拔ん 25われ汝の生命を索る者の手および汝が其面を畏るる者の手すなはちバビロンの王ネブカデネザルの手とカルデヤ人の手に汝を付さん 26われ汝と汝を生し母を汝等がうまれざりし他の地に逐やらん汝ら彼處に死べし 27彼らの靈魂のいたく歸らんことを願ふところの地に彼らは歸ることをえず 28この人ヱコニヤは賤しむべき壞れたる器ならんや好ましからざる器具ならんや如何なれば彼と其子孫は逐出されてその識ざる地に投やらるるや 29地よ地よ地よヱホバの言をきけ 30ヱホバかくいひたまふこの人を子なくして其生命の中に榮えざる人と錄せそはその子孫のうちに榮えてダビデの位に坐しユダを治る人かさねてなかるべければなり

第二十三章

1ヱホバいひ給ひけるは嗚呼わが養ふ群を滅し散す牧者は禍なるかな 2故にイスラエルの神ヱホバ我民を養ふ牧者につきて斯いふ汝らはわが群を散しこれを逐はなちて顧みざりき視よわれ汝らの惡き行により て汝等に報ゆべしとヱホバいふ 3われ我群の遺餘たる者をその逐はなちたる諸の地より集め再びこれを其牢に歸さん彼らは子を產て多くなるべし 4我これを養ふ牧者をその上に立ん彼等はふたたび慄かず懼ずまた失じとヱホバいひたまふ 5ヱホバいひたまひけるは視よわがダビデに一の義き枝を起す日來らん彼王となりて世を治め榮え公道と公義を世に行ふべし 6其日ユダは救をえイスラエルは安に居らん其名はヱホバ我儕の義と稱らるべし 7この故にヱホバいひ給ふ視よイスラエルの民をエジプトの地より導出せしヱホバは活くと人衆復いはずして 8イスラエルの家の裔を北の地と其諸て逐やりし地より導出せしヱホバは活くといふ日來らん彼らは自己の地に居るべし 9預言者輩のために我心はわが衷に壞れわが骨は皆震ふ且ヱホバとその聖言のためにわれは醉る人のごとく酒に勝るる人のごとし 10この地は姦淫をなすもの盈ち地は呪詛によりて憂へ曠野の艸は枯る彼らの途はあしく其力は正しからず 11預言者と祭司は偕に邪惡なりわれ我家に於てすら彼等の惡を見たりとヱホバいひたまふ 12故に

かれらの途は暗に在る滑なる途の如くならん彼等推れて其途に仆るべし我災をその上にのぞましめん是彼らが刑罰らるる年なりとヱホバいひたまふ 13われサマリヤの預言者の中に愚昧なる事あるをみたり彼等はバアルに託りて預言し我民イスラエルを惑はせり 14我ヱルサレムの預言者の中にも憎むべき事あるを見たり彼等は姦淫をなし詐僞をおこなひ惡人の手を堅くして人をその惡に離れざらしむ彼等みな我にはソドムのごとく其民はゴモラのごとし 15この故に萬軍のヱホバ預言者につきてかくいひたまふ視よわれ茵蔯を之に食はせ毒水をこれに飲せんそは邪惡ヱルサレムの預言者よりいでて此全地に及べばなり 16萬軍のヱホバかくいひたまふ汝等に預言する預言者の言を聽く勿れ彼等は汝らを欺きヱホバの口よりいでざるおのが心の默示を語るなり 17常に彼らは我を藐忽ずる者にむかひて汝等平安をえんとヱホバいひたまへりといひ又己が心の剛愎なるに循ひて行むところのすべての者に向ひて災汝らに來らじといへり 18誰かヱホバの議會に立て其言を見聞せし者あらんや誰か其耳を傾けて我言を聽し者あらんや 19みよヱホバの暴風あり怒と旋轉風いでて惡人の首をうたん 20ヱホバの怒はかれがその心の思を行ひてこれを遂げ給ふまでは息じ末の日に汝ら明にこれを曉らん 21預言者等はわが遣さざるに趨り我告ざるに預言せり 22彼らもし我議會に立ちしならば我民にわが言をきかしめて之をその惡き途とその惡き行に離れしめしならん 23ヱホバいひ給ふ我はただ近くにおいてのみ神たらんや遠くに於ても神たるにあらずや 24ヱホバいひたまふ人我に見られざる様に密かなる處に身を匿し得るかヱホバいひたまふ我は天地に充るにあらずや 25われ我名をもて謊を預言する預言者等がわれ夢を見たりわれ夢を見たりと曰ふをきけり 26謊を預言する預言者等はいつまで此心をいだくや彼らは其心の詐僞を預言するなり 27彼らは其先祖がバアルによりて我名を忘れしごとく互に夢をかたりて我民にわが名を忘れしめんと思ふや 28夢をみし預言者は夢を語るべし我言を受し者は誠實をもて我言を語るべし糠いかで麥に比擬ことをえんやとヱホバいひたまふ 29ヱホバ言たまはく我言は火のごとくならずや又磐を打碎く槌の如くならずや 30故に視よわれ我言を相互に竊める預言者の敵となるとヱホバいひたまふ 31視よわれは彼いひたまへりと舌をもて語るところの預言者の敵となるとヱホバいひたまふ 32ヱホバいひたまひけるは視よわれ僞の夢を預言する者の敵となる彼らは之を語りまたその謊と其誇をもて我民を惑はす我かれらを遣さずかれらに命ぜざるなり故に彼らは斯民に益なしとヱホバいひ給ふ 33この民或は預言者又は祭司汝に問てヱホバの重負は何ぞやといはば汝彼等にこたへてヱホバの重負は我汝等を棄んとヱホバの云たまひし事是なりといふべし 34ヱホバの重負といふところの預言者と祭司と民には我その人と其家にこれを降さん 35汝らはおのおの斯互に言ひその兄弟にいふべしヱホバは何と應へたまひしやヱホバは何と云たまひしやと 36汝ら復びヱホバの重負といふべからず人の重負となる者は其人の言なるべし汝らは活る神萬軍のヱホバなる我らの神の言を枉るなり 37汝かく預言者にいふべしヱホバは汝に何と答へ給ひしやヱホバは何といひたまひしやと 38汝らもしヱホバの重負といはばヱホバそれにつきてかくいひたまふ我人を汝らに遣して汝等ヱホバの重負といふべからずといはしむるも汝らはヱホバの重負といふ此言をいふによりて 39われ必ず汝らを忘れ汝らと汝らの先祖にあたへし此邑と汝らとを我前より棄ん 40且われ永遠の辱と永遠なる忘らるることなき恥を汝らにかうむらしめん

第二十四章

1バビロンの王ネブカデネザル、ユダの王ヱホヤキムの子ヱコニヤおよびユダの牧伯等と木匠と鐵匠をヱルサレムよりバビロンに移せしのちヱホバ我にヱホバの殿の前に置れたる二筐の無花果を示したまへり 2その一の筐には始に熟せしがごとき至佳き無花果ありその一の筐にはいと惡くして食ひ得ざるほどなる惡き無花果あり 3ヱホバ我にいひ給ひけるはヱレミヤよ汝何を見しや我答へけるは無花果なりその佳き無花果はいと佳しその惡きものは至惡しくして食ひ得ざるほどに惡し 4ヱホバの言また我にのぞみていふ 5イスラエルの神ヱホバかくいふ我わが此處よりカルデヤ人の地に逐ひやりしユダの虜人を此佳き無花果のごとくに顧みて惠まん 6我彼等に目をかけて之をめぐみ彼らを此地にかへし彼等を建て仆さず植て拔じ 7我彼らに我のヱホバなるを識るの心をあたへん彼等我民となり我彼らの神とならん彼等は一心をもて我に歸るべし 8ヱホバかくいひたまへり我ユダの王ゼデキヤとその牧伯等およびヱルサレムの人の遺りて此地にを

る者ならびにエジプトの地に住る者とを此悪くして食はれざる悪き無花果のごとくになさん 9我かれらをして地のもろもろの國にて虐遇と災害にあはしめん又彼らをしてわが逐やらん諸の處にて 辱 にあはせ諺となり 嘲と詛に遭しめん 10われ劍と饑饉と疫病をかれらの間におくりて彼らをしてわが彼らとその先祖にあたへし地に絕るにいたらしめん

第二十五章

1ユダの王ヨシヤの子エホヤキムの四年バビロンの王ネブカデネザルの元年にユダのすべての民にかかはる言エレミヤにのぞめり 2預言者エレミヤこの言をユダのすべての民とエルサレムにすめるすべての者に告ていひけるは 3ユダの王アモンの子ヨシヤの十三年より今日にいたるまで二十三年のあひだエホバの言我にのぞめり我これを汝等に告げ頻にこれを語りしかども汝らきかざりし 4エホバその僕なる預言者を汝らに遣し頻に遣したまひけれども汝らはきかず又きかんとて耳を傾けざりき 5彼らいへり汝等おのおのいま其惡き途とその惡き行 を棄よ然ばエホバが汝らと汝らの先祖に與へたまひし地に永遠より永遠にいたるまで住ことをえん 6汝ら他の神に從ひこれに事へこれを拜み汝らの手にて作りし物をもて我を怒らする勿れ然ば我 汝らを害はじ 7然ど汝らは我にきかず汝等の手にて作りし物をもて我を怒らせて自ら害へりとエホバいひたまふ 8この故に萬軍のエホバかく云たまふ汝ら我 言を聽ざれば 9視よ我北の諸の族と我 僕なるバビロンの王ネブカデネザルを招きよせ此地とその民と其四圍の諸國を攻 滅さしめて之を詫 異 物となし人の嗤笑となし永遠の荒地となさんとエホバいひたまふ 10またわれ欣喜の聲 歡樂の聲 新夫の聲 新婦の聲 磐磨の音および燈 の光を彼らの中にたえしめん 11この地はみな空曠となり詫 異 物とならん又その諸國は七十年の間バビロンの王につかふべし 12エホバいひたまふ七十年のをはりし後我バビロンの王と其民とカルデヤの地をその罪のために罰し永遠の空曠となさん 13我かの地につきて我かたりし諸の言をその上に臨しめん是エレミヤが萬國の事につきて預言したる者にて皆この書に錄さるるなり 14多の國々と大なる王等は彼らをして己につかへしめん我かれらの行爲とその手の所作に循ひてこれに報いん 15イスラエルの神エホバかく我に云たまへり我手より此 怒の 杯をうけて我 汝を遣はすところの國々の民に飮しめよ 16彼らは飮てよろめき狂はんこは我かれらの中に劍をつかはすによりてなり 17是に於てわれエホバの手より 杯 をうけエホバのわれを遣したまふところの國々の民に飮しめたり 18即ちエルサレムとユダの諸の邑とその王等およびその牧伯等に飮せてこれをほろぼし詫 異 物となし人の嗤笑となし詛るる者となせり今日のごとし 19またエジプトの王パロと其臣僕その牧伯等その諸の民と 20 諸 の雜種の民およびウズの諸の王等およびペリシテ人の地の諸 の王等アシケロン、ガザ、エクロン、アシドドの遺餘の者 21エドム、モアブ、アンモンの子孫 22ツロのすべての王等シドンのすべての王等海のかなたの島々の王等 23デダン、テマ、ブズおよびすべて鬢をそる者 24アラビヤのすべての王等曠野の雜種の民の諸の王等 25ジムリの 諸の王等エラムの諸の王等メデアのすべての王等 26北のすべての王等その彼と此とにおいて或は遠 者 或は近きもの凡 地の面にある世の國々の王等はこの 杯 を飮んセシヤク王はこれらの後に飮べし 27故に汝かれらに語ていへ萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ我汝等の中に劍を遣すによりて汝らは飮みまた醉ひまた吐き又仆 て再び起ざれと 28彼等もし汝の手より此 杯 を受て飮ずば汝 彼らにいへ萬軍のエホバかくいひたまふ汝ら必ず飮べし 29視よわれ我名をもて稱へらるるこの邑にすら災 を降すなり汝らいかで罰を免るることをえんや汝らは罰を免れじ蓋われ劍をよびて地に住るすべての者を攻べければなりと萬軍のエホバいひたまふ 30汝 彼等にこの諸 の言を預言していふべしエホバ高き所より呼號り其聖 宮より聲を出し己の住家に向てよばはり地に住る諸の者にむかひて葡萄を踐む者のごとく咷たまはん 31號咷地の極まで聞ゆ蓋エホバ列國と爭ひ萬民を審き惡人を劍に付せば也とエホバ曰たまへり 32萬軍のエホバかく曰たまふ視よ災 いでて國より國にいたらん大なる暴風地の極よりおこるべし 33其日エホバの戮したまふ者は地の此極より地の彼の極に及ばん彼等は哀まれず殮められず葬られずして地の面に糞土とならん 34牧者よ哭き叫べ群の長等よ汝ら灰の中に轉ぶべし蓋 汝らの屠らるる日滿れば也我 汝らを散すべければ汝らは貴き器のごとく墮べし 35牧者は避場なく群の長等は逃る處なし 36牧者の呼號の聲と群の長等の哀哭きこゆ蓋エホバ其牧場を滅したまへば也 37エホバの烈き怒によりて平安なる牧場は滅さる 38彼

は獅子の如く其巣を出たり滅す者の怒と其烈き忿によりて彼らの地は荒されたり

第二十六章

1ユダの王ヨシヤの子エホヤキムが位に即し初のころエホバより此言いでていふ 2エホバかくいふ汝エホバの室の庭に立我汝に命じていはしむる諸の言をユダの邑々より來りてエホバの室に拜をする人々に告よ一言をも減す勿れ 3彼等聞ておのおの其惡き途を離ることあらん然ば我かれらの行の惡がために災を彼らに降さんとせることを悔べし 4汝彼等にエホバかくいふといへ汝等もし我に聽ずわが汝らの前に置し律法を行はず 5我汝らに遣し切に遣せし我僕なる預言者の言を聽ずば(汝らは之をきかざりき) 6我この室をシロの如くになし又この邑を地の萬國に詛はるる者となすべし 7祭司と預言者及び民みなエレミヤがエホバの室に立てこの言をのぶるをきけり 8エレミヤ、エホバに命ぜられし諸の言を民に告畢りしとき祭司と預言者および諸の民彼を執へいひけるは汝は必ず死べし 9汝何故にエホバの名をもて預言し此室はシロの如くになりこの邑は荒蕪となりて住む者なきにいたらんと云しやと民みなエホバの室にあつまりてエレミヤを攻む 10ユダの牧伯等この事をききて王の家をいでエホバの室にのぼりてエホバの家の新しき門の入口に坐せり 11祭司と預言者等牧伯等とすべての民に訴ていふ此人は死にあたる者なり是は汝らが耳に聽しごとくこの邑にむかひて惡き預言をなしたるなり 12是に於てエレミヤ牧伯等とすべての民にいひけるはエホバ我を遣し汝らが聽る諸の言をもて此宮とこの邑にむかひて預言せしめたまふ 13故に汝らいま汝らの途と行爲をあらためて汝らの神エホバの聲にしたがへ然ばエホバ汝らに災を降さんとせしことを悔たまふべし 14みよ我は汝らの手にあり汝らの目に善とみゆるところ義とみゆることを我に行へ 15然ど汝ら善くこれを知れ汝らもし我を殺さば必ず無辜ものの血なんぢらの身とこの邑と其中に住る者に歸せんエホバ我を遣してこの諸の言を汝らの耳につげしめたまひしなればなり 16牧伯等とすべての民すなはち祭司と預言者にいひけるは此人は死にあたる者にあらず是は我らの神エホバの名によりて我儕に語りしなりと 17時にこの地の長老數人立て民のすべての集れる者につげていひけるは 18ユダの王ヒゼキヤの代にモレシテ人ミカ、ユダの民に預言して云けらく萬軍のエホバかくいひ給ふシオンは田地のごとく耕されエルサレムは邱墟となり此室の山は樹深き崇邱とならんと 19ユダの王ヒゼキヤとすべてのユダ人は彼を殺さんとせしことありしやヒゼキヤ、エホバを畏れエホバに求ければエホバ彼らに降さんと告給ひし災を悔給ひしにあらずや我儕かく爲すは自己の靈魂をそこなふ大なる惡をなすなり 20又前にエホバの名をもて預言せし人あり即ちキリヤテヤリムのシマヤの子ウリヤなり彼エレミヤの凡ていへるごとく此邑とこの地にむかひて預言せり 21エホヤキム王と其すべての勇士とすべての牧伯等その言を聽り是において王彼を殺さんと欲ひしがウリヤこれをきき懼てエジプトに逃ゆきしかば 22エホヤキム王人をエジプトに遣せり即ちアクボルの子エルナタンに數人をそへてエジプトにつかはしければ 23彼らウリヤをエジプトより引出しエホヤキム王の許に携きたりしに王劍をもて之を殺し其屍骸を賤者の墓に棄させたりと 24時にシヤパンの子アヒカム、エレミヤをたすけこれを民の手にわたして殺さざらしむ

第二十七章

1ユダの王ヨシヤの子エホヤキムが位に即し初のころエホバより此言エレミヤに臨みていふ 2すなはちエホバかく我に云たまへり汝索と軛をつくりて汝の項に置き 3之をエルサレムにきたりてゼデキヤ王にいたるところの使臣等の手によりてエドムの王モアブの王アンモン人の王ツロの王シドンの王に送るべし 4汝彼らに命じて其主にいはしめよ萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝ら其主にかく告べし 5われ我大なる能力と伸たる臂をもて地と地の上にをる人と獸とをつくり我心のままに地を人にあたへたり 6いま我この諸の地を我僕なるバビロンの王ネブカデネザルの手にあたへ又野の獸を彼にあたへてかれにつかへしむ 7かれの地の時期いたるまで萬國民は彼と其子とその孫につかへん其時いたらばおほくの國と大なる王は彼を己に事へしむべし 8バビロンの王ネブカデネザルに事へずバビロンの王の軛をその項に負ざる國と民は我彼の手をもて悉くこれを滅すまで劍と饑饉と疫病をもてこれを罰せんとエホバいひたまふ 9故に汝らの預言者なんぢらの占筮師汝らの夢みる者汝らの法術士汝らの魔法士汝らに告て汝らはバビロンの王に事ふることあらじといふとも聽なかれ 10彼らは謊

を汝らに預言して汝らをその國より遠く離れしめ且我をして汝らを逐しめ汝らを滅さしむるなり 11然どバビロンの王の軛をその項に負ふて彼に事ふる國々の人は我これをその故土に存し其處に耕し住しむべしとヱホバいひたまふ 12我この諸の言のごとくユダの王ゼデキヤに告ていひけるは汝らバビロンの王の軛を汝らの項に負ふて彼と其民につかへよ然ば生べし 13汝と汝の民なんぞヱホバがバビロンの王につかへざる國につきていひたまひし如く劍と饑饉と疫病に死ぬべけんや 14故に汝らはバビロンの王に事ふることあらじと汝等に告る預言者の言を聽なかれ彼らは譌を汝らに預言するなり 15ヱホバいひたまひけるは我彼らを遣さざるに彼らは我名をもて譌を預言す是をもて我汝らを逐はなち汝らと汝らに預言する預言者等を滅すにいたらん 16我また祭司とこのすべての民に語りていひけるはヱホバかくいひたまふ視よヱホバの室の器皿いま速にバビロンより持歸さるべしと汝らに預言する預言者の言をきく勿れそは彼ら譌を汝らに預言すればなり 17汝ら彼らに聽なかれバビロンの王に事へよ然ば生べしこの邑を何ぞ荒蕪となすべけんや 18もし彼ら預言者にしてヱホバの言かれらの衷にあらばヱホバの室とユダの王の家とヱルサレムとに餘れるところの器皿のバビロンに移されざることを萬軍のヱホバに求むべきなり 19萬軍のヱホバ柱と海と臺およびこの邑に餘れる器皿につきてかくいひたまふ 20是はバビロンの王ネブカデネザルがユダの王ヱホヤキムの子ヱコニヤおよびユダとヱルサレムのすべての牧伯等をヱルサレムよりバビロンにとらへ移せしときに掠ざりし器皿なり 21すなはち萬軍のヱホバ、イスラエルの神ヱホバの室とユダの王の室とヱルサレムとに餘れる器皿につきてかくいひたまふ 22これらはバビロンに携へゆかれ我これを顧る日まで彼處にあらん其後我これを此處にたづさへ歸らしめんとヱホバいひたまふ

第二十八章

1この年すなはちユダの王ゼデキヤが位に即し初その四年の五月ギベオンのアズルの子なる預言者ハナニヤ、ヱホバの室にて祭司と凡の民の前にて我に語りいひけるは 2萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいひたまふ我バビロンの王の軛を摧けり 3二年の内にバビロンの王ネブカデネザルがこの處より取てバビロンに携へゆきしヱホバの室の器皿を再び悉くこの處に歸らしめん 4我またユダの王ヱホヤキムの子ヱコニヤおよびバビロンに住しユダのすべての擄人をこの處に歸らしめんそは我バビロンの王の軛を摧くべければなりとヱホバいひたまふ 5是に於て預言者ヱレミヤ、ヱホバの家に立る祭司の前とすべての民の前にて預言者ハナニヤと語ふ 6預言者ヱレミヤすなはちいひけるはアーメン願くはヱホバかくなし給へ願くはバビロンに携へゆかれしヱホバの室の器皿及びすべて虜へうつされし者をヱホバ、バビロンより復びこの處に歸らしめたまはんと汝の預言せし言の成らんことを 7然ど汝いま我なんぢの耳と諸の民の耳に語らんとする此言をきけ 8我と汝の先にいでし預言者は古昔より多くの地と大なる國につきて戰鬪と災難と疫病の事を預言せり 9泰平を預言するところの預言者は若しその預言者の言とげなばその誠にヱホバの遣したまへる者なることを知らるべし 10ここに於て預言者ハナニヤ預言者ヱレミヤの項より軛を取てこれを摧けり 11ハナニヤ諸の民の前にて語りヱホバかくいひたまふわれ二年のうちに是の如く萬國民の項よりバビロン王ネブカデネザルの軛を摧きはなさんといふ預言者ヱレミヤ遂に去りぬ 12預言者ハナニヤ預言者ヱレミヤの項より軛を摧きはなせし後ヱホバの言ヱレミヤに臨みていふ 13汝ゆきてハナニヤにヱホバかくいふと告よ汝木の軛を摧きたれども之に代て鐵の軛を作れり 14萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいふ我鐵の軛をこの萬國民の項に置きてバビロンの王ネブカデネザルに事へしむ彼ら之につかへんわれ野の獸をもこれに與へたり 15また預言者ヱレミヤ預言者ハナニヤにいひけるはハナニヤよ請ふ聽けヱホバ汝を遣はし給はず汝はこの民に譌を信ぜしむるなり 16是故にヱホバいひ給ふ我汝を地の面よりのぞかん汝ヱホバに叛くことを教ふるによりて今年死ぬべしと 17預言者ハナニヤはこの年の七月死ねり

第二十九章

1預言者ヱレミヤ、ヱルサレムより書をかの擄へうつされて餘れるところの長老および祭司と預言者ならびにネブカデネザルがヱルサレムよりバビロンに移したるすべての民に送れり 2是より先ヱコニヤ王と王后と寺人およびユダとヱルサレムの牧伯等および木匠と鐵匠はヱルサレムをされり 3ヱレミヤその書をシヤパンの子エラサおよ

びヒルキヤの子ゲマリヤ即ちユダの王ゼデキヤがバビロンにつかはしてバビロンの王ネブカデネザルにいたらしむる者の手によりて送れり其書にいはく 4萬軍のヱホバ、イスラエルの神すべて擄うつされし者 即ち我エルサレムよりバビロンに移さしめし者にかくいふ 5汝ら屋を建てこれに住ひ圃をつくりてその果をくらへ 6妻を娶て子 女をうみ又汝らの子に媳を娶り汝らの女を嫁がしめ彼らに子 女を生しめよ此は汝等かしこに減ずして増んがためなり 7我汝らを擄移さしめしところの邑の安を求めこれが爲にヱホバにいのれその邑の安によりて汝らもまた安をうればなり 8萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝らの中の預言者と卜筮士に惑はさるる勿れまた汝ら自ら作りしところの夢に聽したがふ勿れ 9それは彼ら我名をもて譌を汝らに預言すればなり我彼らを遣さずヱホバいひたまふ 10ヱホバかくいひたまふバビロンに於て七十年滿なばわれ汝らを眷み我嘉言を汝らになして汝らをこの處に歸らしめん 11ヱホバいひたまふ我が汝らにむかひて懐くところの念は我これを知るすなはち災をあたへんとにあらず平安を與へんとおもひ又汝らに後と望をあたへんとおもふなり 12汝らわれに籲はり往て我にいのらん我汝らに聽べし 13汝らもし一心をもて我を索めなば我に尋ね遇はん 14ヱホバいひたまふ我汝らの遇ところとならんわれ汝らの俘擄を解き汝らを萬國よりすべて我汝らを逐やりし處より集め且我汝らをして擄らはれて離れしめしその處に汝らをひき歸らんとヱホバいひたまふ 15ヱホバわれらの爲にバビロンに於て預言者を立たまひしと汝らはいふ 16ダビデの位に坐する王とこの邑に住るすべての民 汝らと偕にとらへ移されざりし兄弟につきてヱホバかくいひたまふ 17萬軍のヱホバかくいふ視よわれ劍と饑饉と疫病を彼らにおくり彼らを惡くして食はれざる惡き無花果のごとくになさん 18われ劍と饑饉と疫病をもて彼らを逐ひまた彼らを地の萬國にわたして虐にあはしめ我彼らを逐やる諸國に於て呪詛となり詫異となり人の嗤笑となり恥辱とならしめん 19是彼ら我言を聽ざればなりとヱホバいひたまふ我この言を我僕なる預言者によりて遣り頻におくれども汝ら聽ざるなりとヱホバいひたまふ 20わがヱルサレムよりバビロンにおくりし諸の俘擄人よ汝らヱホバの言をきけ 21我名をもて譌を汝らに預言するコラヤの子アハブとマアセヤの子ゼデキヤにつきて萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいふ視よわれ彼らをバビロンの王ネブカデネザルの手に付さん彼これを汝らの目の前に殺すべし 22バビロンにあるユダの俘擄人は皆彼らをもて詛となし願くはヱホバ汝をバビロンの王が火にて焚しゼデキヤとアハブのごとき者となしたまはん事をといふ 23こは彼らイスラエルの中に惡をなし鄰の妻を犯し且我彼らに命ぜざる譌の言をわが名をもて語りしによる我これを知りまた證すとヱホバいひたまふ 24汝ネヘラミ人シマヤにかく語りいふべし 25萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいふ汝おのれの名をもて書をエルサレムにある諸の民と祭司マアセヤの子ゼパニヤおよび諸の祭司に送りていふ 26ヱホバ汝を祭司ヱホヤダに代て祭司となし汝らをヱホバの室の監督となしたまふ此すべて狂妄ひ且みづから預言者なりといふ者を獄と桎梏につながしめんためなり 27然るに汝いま何故に汝らにむかひてみづから預言者なりといふところのアナトテのヱレミヤを斥責めざるや 28そは彼バビロンにをる我儕に書を送り時尚長ければ汝ら家を建て之に住ひ圃をつくりてその實をくらへといへり 29祭司ゼパニヤこの書を預言者ヱレミヤに讀きかせたり 30時にヱホバの言ヱレミヤにのぞみていふ 31諸の俘擄人に書をおくりて云べしネヘラミ人シマヤの事につきてヱホバかくいふ我シマヤを遣さざるに彼汝らに預言し汝らに譌を信ぜしめしによりて 32ヱホバかくいふ視よ我ネヘラミ人シマヤと其子孫を罰すべし彼ヱホバに逆くことを教へしによりて此民のうちに彼に屬する者一人も住ふことなからん且我民に吾がなさんとする善事をみざるべしとヱホバいひたまふ

第三十章

1ヱホバよりヱレミヤにのぞめる言いふ 2イスラエルの神ヱホバかく告ていふ我汝に言し言をことごとく書に錄せ 3ヱホバいふわれ我民イスラエルとユダの俘囚人を返す日きたらんヱホバこれをいふ我彼らをその先祖にあたへし地にかへらしめん彼らは之をたもたん 4ヱホバのイスラエルとユダにつきていひたまひし言は是なり 5ヱホバかくいふ我ら戰慄の聲をきく驚懼あり平安あらず 6汝ら子を產む男あるやを尋ね觀よ我 男が皆子を產む婦のごとく手をその腰におき且その面色皆青く變るをみるこはなにゆゑ何故ぞや 7哀しいかなその日は大にして之に擬ふべき日なし此はヤコブの患難の時なり然ど彼はこれより救出さ

れん 8萬軍のヱホバいふ其日我なんぢの項よりその軛をくだきはなし汝の繩目をとかん異邦人は復彼を使役はざるべし 9彼らは其神ヱホバと我彼らの爲に立んところの其王ダビデにつかふべし 10ヱホバいふ我僕ヤコブよ懼るる勿れイスラエルよ驚く勿れ我汝を遠方より救ひかへし汝の子孫を其とらへ移されし地より救ひかへさんヤコブは歸りて平穩と寧靜をえん彼を畏れしむる者なかるべし 11ヱホバいふ我汝と偕にありて汝を救はん設令われ汝を散せし國々を悉く滅しつくすとも汝をば滅しつくさじされど我道をもて汝を懲さん汝を全たく罰せずにはおかざるべし 12ヱホバかくいふ汝の創は愈ず汝の傷は重し 13汝の訟を理す者なく汝の創を裹む膏藥あらず 14汝の愛する者は皆汝を忘れて汝を求めず是汝の愆の多きと罪の數多なるによりて我仇敵の擊がごとく汝を擊ち嚴く汝を懲せばなり 15何ぞ汝の創のために叫ぶや汝の患は愈ることなし汝の愆の多きと罪の數多なるによりて我これを汝になすなり 16然どすべて汝を食ふ者は食はれすべて汝を虐ぐる者は皆とらはれ汝を掠むる者は掠められん凡て汝の物を奪ふ者は我これをして奪はるる事にあはしむべし 17ヱホバいふ我汝に膏藥を貼り汝の傷を醫さんそは人汝を棄られし者とよび尋る者なきシオンといへばなり 18ヱホバかくいふ視よわれかの擄移されたるヤコブの天幕をかへし其住居をあはれまん斯邑はその故の丘垤に建られん城には宜き樣に人住はん 19感謝と歡樂者の聲とその中よりいでん我かれらを增ん彼ら少からじ我彼らを崇せん彼ら藐められじ 20其子は疇昔のごとくあらん其集會は我前に固く立ん凡かれを虐ぐる者は我これを罰せん 21其首領は本族よりいで其督者はその中よりいでん我彼をちかづけ彼に近かん誰かその生命を繫て我に近くものあらんやとヱホバいふ 22汝等は我民となり我は汝らの神とならん 23みよヱホバの暴風あり怒と旋轉風いでて惡人の首をうたん 24ヱホバの烈き忿はかれがその心の思を行ひてこれを遂るまでは息じ末の日に汝ら明にこれを曉らん

第三十一章

1ヱホバいひたまふ其時われはイスラエルの諸の族の神となり彼らは我民とならん 2ヱホバかくいひたまふ劍をのがれて遺りし民は曠野の中に恩を獲たりわれ往て彼イスラエルに安息をあたへん 3遠方よりヱホバ我に顯れていひたまふ我窮なき愛をもて汝を愛せり故にわれたえず汝をめぐむなり 4イスラエルの童女よわれ復び汝を建んなんぢ汝は建らるべし汝ふたたび鼗をもて身を飾り歡樂者の舞にいでん 5汝また葡萄の樹をサマリヤの山に植ん植る者は植てその果を食ふことをえん 6エフライムの山の上に守望者の立て呼はる日きたらんいはく汝ら起よ我らシオンにのぼりて我儕の神ヱホバにまうでんと 7ヱホバかくいひたまふ汝らヤコブの爲に歡びて呼はり萬國の首なる者のために叫べ汝ら示し且歌ひて言へヱホバよ願くはイスラエルの遺れる者 汝の民を救ひたまへと 8みよ我彼らを北の地よりひきかへり彼らを地の極より集めん彼らの中には瞽者 跛者 孕める婦 子を產みし婦ともに居る彼らは大なる群をなして此處にかへらん 9彼ら悲泣來らん我かれらをして祈禱をもて來らしめ直くして躓かざる途より水の流に歩みいたらしめん我はイスラエルの父にしてエフライムは我長子なればなり 10萬國の民よ汝らヱホバの言をきき之を遠き諸島に示していえへイスラエルを散せしものこれを聚め牧者のその群を守るが如く之を守らん 11すなはちヱホバ、ヤコブを贖ひ彼等よりも強き者の手よりかれを救出したまへり 12彼らは來てシオンの 頂によばはりヱホバの賜ひし 福 なる麥と酒と油および若き羊と牛の爲に寄集はんその靈魂は灌ふ園のごとくならん彼らは重て愁ふること無るべし 13その時童女は舞てたのしみ壯者と老 者もろともに樂しまん我かれらの 悲 をかへて 喜 となしかれらの愁をさりてこれを慰さめん 14われ膏をもて祭司の心を飫しめ我 恩をもて我民に滿しめんとヱホバ言たまふ 15ヱホバかくいひたまふ歎き悲みいたく憂ふる聲ラマに聞ゆラケルその兒子のために歎きその兒子のあらずなりしによりて 慰 をえず 16ヱホバかくいひ給ふ汝の聲を禁て哭こと勿れ汝の目を禁て淚を流すこと勿れ汝の工に報あるべし彼らは其敵の地より歸らんとヱホバいひたまふ 17汝の後の日に望あり兒子等その 境に歸らんとヱホバいひたまふ 18われ固にエフライムのみづから歎くをきけり云く汝は我を懲しめたまふ我は軛に馴ざる犢のごとくに懲治を受たりヱホバよ汝はわが神なれば我を牽轉したまへ然ば我轉るべし 19われ轉りし後に悔い教を承しのちに我髀を擊つ我幼時の羞を身にもてば恥ぢかつ辱しめらるるなりと 20ヱホバいひたまふエフライムは我愛するところの子 悅ぶところの子ならずや我彼にむかひてかたるごとに彼を念はざるを得ず是をもて我

腸 かれの爲に痛む我必ず彼を恤むべし 21汝のために
指路號を置き汝のために柱をたてよ汝のゆける道なる
大路に心をとめよイスラエルの童女よ歸れこの汝の邑々
にかへれよ 22違ける女よ汝いつまで流蕩ふやヱホバ新し
き事を地に創造らん女は男を抱くべし 23萬軍のヱホバ、
イスラエルの神かくいひ給ふ我かの俘囚し者を返さん時
人々復ユダの地とその邑々に於て此言をいはん義き居所
よ聖き山よ願くはヱホバ汝を祝みたまへと 24ユダとその
諸の邑々に農夫と群を牧ふもの偕に住はん 25われ疲れた
る靈魂を飫しめすべての憂ふる靈魂をなぐさむるなり 26
茲にわれ目を醒しみるに我眠は甘かりし 27ヱホバいひた
まふ視よ我が人の種と畜の種とをイスラエルの家とユダ
の家とに播く日いたらん 28我彼らを抜き毀ち覆し滅し 難
さんとうかがひし如くまた彼らを建て植ゑんとうかがふ
べしとヱホバいひ給ふ 29その時彼らは父が酸き葡萄を食
ひしによりて兒子の齒齷くと再びいはざるべし 30人はお
のおの自己の惡によりて死なん凡そ酸き葡萄をくらふ人
はその齒齷く 31ヱホバいひたまふみよ我イスラエルの家
とユダの家とに新しき契約を立つる日きたらん 32 この
契約は我彼らの先祖の手をとりてエジプトの地よりこれ
を導きいだせし日に立しところの如きにあらず我かれら
を娶りたれども彼らはその我契約を破れりとヱホバいひ
たまふ 33然どかの日の後に我イスラエルの家に立んとこ
ろの契約は此なり即ちわれ我律法をかれらの衷におきそ
の心の上に錄さん我は彼らの神となり彼らは我民となる
べしとヱホバいひたまふ 34人おのおの其隣とその兄弟
に教へて汝ヱホバを識と復いはじそは小より大にいたる
まで悉く我をしるべければなりとヱホバいひたまふ我
彼らの不義を赦しその罪をまた思はざるべし 35ヱホバか
く言すなはち是日をあたへて晝の光となし月と星をさだ
めて夜の光となし海を激してその濤を鳴しむる者その名
は萬軍のヱホバと言なり 36ヱホバいひたまふもし此等の
規律我前に廢らばイスラエルの子孫も我前に廢りて永遠
も民たることを得ざるべし 37ヱホバかくいひたまふ若し
上の天量ることを得下の地の基探ることをえば我またイ
スラエルのすべての子孫を其もろもろの行のために棄
べしヱホバこれをいふ 38ヱホバいひたまふ視よ此邑ハナ
ネルの塔より隅の門までヱホバの爲に建つ日きたらん 39
量繩ふたたび直ちにガレブの岡をこえゴアテの方に轉る
べし 40屍と灰の谷またケデロンの溪にいたるまでと東
の方の馬の門の隅にいたるまでの諸の田地皆ヱホバの聖
き處となり永遠におよぶまで再び拔れまた覆さるる事な
かるべし

第三十二章

1ユダの王ゼデキヤの十年即ちネブカデネザルの十八年
の頃ヱホバの言ヱレミヤにのぞめり 2その時バビロンの
軍勢ヱルサレムを攻環み居て預言者ヱレミヤはユダの王
の室にある獄の庭の内に禁錮られたり 3ユダの王ゼデキ
ヤ彼を禁錮ていひけるは汝何故に預言してヱホバかく云
たまふといふや云く視よ我この邑をバビロン王の手に付
さん彼之を取るべし 4またユダの王ゼデキヤはカルデヤ
人の手より脱れず必ずバビロン王の手に付され口と口と
あひ語り目と目あひ觀るべし 5彼ゼデキヤをバビロンに
携きゆかんゼデキヤはわが彼を顧る時まで彼處に居ん
とヱホバいひたまふ汝らカルデヤ人と戰ふとも勝ことを
得じと 6ヱレミヤいふヱホバの言われに臨みていはく 7
みよ汝の叔父シヤルムの子ハナメル汝にきたりていはん
汝アナトテに在るわが田地を買へそは之を贖ふ事は汝の
分なればなりと 8かくてヱホバの言のごとく我叔父の子
ハナメル獄の庭にて我に來り云けるは願くは汝ベニヤミ
ンの地のアナトテに在るわが田地を買へそは之を嗣ぎこ
れを贖ふことは汝の分なれば汝みつからこれを買ひとれ
とここに於てわれ此はヱホバの言なりと知りたれば 9我
叔父の子ハナメルがアナトテにもてる田地をかひて彼に
銀十七シケルを稱てあたふ 10すなはち我その契券を書て
これに封印し證人をたて權衡をもて銀を稱て與ふ 11而し
てわれその約定をのするところの封印せし買券とその
開きたるものを取り 12わが叔父の子ハナメルと買券に印
せし證人の前および獄の庭に坐するユダ人の前にてその
買券をマアセヤの子なるネリヤの子バルクに與へ 13彼ら
の前にてわれバルクに命じていひけるは 14萬軍のヱホ
バ、イスラエルの神かく云たまふ汝これらの契券すなは
ち此買券の封印せし者と開きたるものを取り之を瓦器の
中に貯へて多くの日の間保たしめよ 15萬軍のヱホバ、イ
スラエルの神かくいひたまふそは此地に於て人復屋と
田地と葡萄園を買ふにいたらんと 16われ買契をネリヤの
子バルクに付せしのちヱホバに祈りて云ひけるは 17嗚呼
主ヱホバよ汝はその大なる能力と伸たる腕をもて天と地
を造りたまへり汝には爲す能はざるところなし 18汝は

恩寵を千萬人に施し又父の罪をその後の子孫の 懷 に報
いたまふ汝は大なる全能の神にいまして其名は萬軍のヱ
ホバとまうすなり 19汝の謀略は大なり汝は事をなすに 能
あり汝の目は人のこどもらの 諸 の途を鑒はしおのおの
の行に循ひその行爲の果によりて之に報いたまふ 20 汝
休徴と奇 跡をエジプトの地に行ひたまひて今日にまで
いたるまたイスラエルと他の民の中にも然りかくして
今日のごとくに汝の名を揚たまへり 21汝は休徴と 奇 跡
と強き手と伸たる腕と大なる怖しき事をもて汝の民イス
ラエルをエジプトの地より導きいだし 22 この地を彼らに
たまへり是 即ち汝がかれらの先祖等に與へんと誓ひたま
ひし乳と蜜の流るる地なり 23彼等すなはち入てこれを獲
たりしかども汝の聲に遵はず汝の例典を行はず凡て汝が
なせと命じたまひし事を爲ざりしによりて汝この 災 を
其上にくだらしむ 24みよ壘成れり是この邑を取んとて來
れるなり劍と饑饉と疫病のためにこの邑は之を攻むるカ
ルデヤ人の手に付さる汝のいひたまひしことば既に成れ
り汝 之を見たまふなり 25主ヱホバよ汝われに銀をもて
田地を買へ證 人を立よといひたまへり然るにこの邑はカ
ルデヤ人の手に付さる 26時にヱホバの言ヱレミヤに臨み
ていふ 27みよ我はヱホバなりすべて血氣ある者の神なり
我に爲す能はざるところあらんや 28故にヱホバかくいふ
視よわれ此邑をカルデヤ人の手とバビロンの王ネブカデ
ネザルの手に付さん彼これを取るべし 29この邑を攻ると
ころのカルデヤ人きたり火をこの邑に放ちて之を焚ん
屋蓋のうへにて人がバアルに香を焚き他の神に酒をそそ
ぎて我を怒らせしその屋をも彼ら亦焚ん 30そはイスラエ
ルの子孫とユダの子孫はその幼少時よりわが前に惡き事
のみをなしまたイスラエルの民はその手の作爲をもて我
をいからする事のみをなしたればなりヱホバ之をいふ 31
此邑はその建し日より今日にいたるまで我震怒を惹き我
憤 恨をおこすところの者なれば我前よりわれ之を除かん
とするなり 32 こはイスラエルの民とユダの民 諸 の惡を
行 ひて我を怒らせしによりてなり彼らその王等その
牧伯等その祭司その預言者およびユダの人々とヱルサレ
ムに住る者皆然なせり 33彼ら背を我にむけて面を我にむ
けずわれ彼らををしへ頻に教ふれどもかれらは教をきか
ずしてうけざるなり 34彼らは憎むべき物をわが名をもて
稱へらるる室にたてて之を汚し 35又ベンヒンノムの谷に
あるバアルの崇 邱を築きその子 女をモロクに献げたり
われは彼らにこの憎むべきことを行ひてユダに罪を犯さ
しむることを命ぜず斯る事は我 心におこらざりしなり 36
いまイスラエルの神ヱホバこの邑すなはち汝らが劍と
饑饉と疫病のためにバビロン王の手に付されんといひし
ところの邑につきて斯いひたまふ 37みよわれ我震怒と
憤 恨と大なる怒をもて彼らを逐やりし 諸 の國より彼ら
を集め此 處に導きかへりて安然に居らしめん 38彼らは
我民となり我は彼らの神とならん 39われ彼らに一の心と
一 の途をあたへて常に我を畏れしめんこは彼らと其子孫
とに 福 をえせしめん爲なり 40われ彼らを棄ずして恩を
施 すべしといふ永遠の契約をかれらにたて我を畏るるの
畏 をかれらの心におきて我を離れざらしめん 41われ悦び
て彼らに恩を施し心を盡し精神をつくして誠に彼らを此
地に植べし 42ヱホバかくいひたまふわれ此 諸 の大なる
災 をこの民に降せしごとくわがかれらに言し 諸 の 福
を彼等に降さん 43人衆この地に田野を買はん是汝等が荒
て人も畜もなきにいたりカルデヤ人の手に付されしとい
へる地なり 44人衆ベニヤミンの地とヱルサレムの四周と
ユダの邑々と山の邑々と平地の邑々と南の方の邑々にお
いて銀をもて田野をかひ契券を書きてこれに封印し又
證 人をたてんそは我かの俘囚者を歸らしむればなりと
ヱホバいひたまふ

第三十三章

1ヱレミヤ尚 獄の庭に禁錮られてをる時ヱホバの言ふた
たび彼に臨みていふ 2事をおこなふヱホバ事をなして之
を成就るヱホバ其名をヱホバと名る者かく言ふ 3汝 我に
籲求めよわれ汝に應へん又 汝が知ざる大なる事と秘密た
る事とを汝に示さん 4イスラエルの神ヱホバ壘と劍によ
りて毀たれたる此邑の室とユダの王の室につきてかくい
ひ給ふ 5彼らカルデヤ人と戰はんとて來る是には我震怒
と憤 恨をもて殺すところの人々の屍體充るにいたらん我
かれらの 諸 の惡のためにわが面をこの邑に蔽ひかくせ
り 6視よわれ卷布と良 藥をこれに持きたりて人々を醫し
平康と眞實の豐厚なるをこれに示さん 7我ユダの俘囚人
とイスラエルの俘囚人を歸らしめ彼らを建て從前のごと
くになすべし 8われ彼らが我にむかひて犯せし一切の罪
を潔め彼らが我にむかひて犯し且 行ひし一切の罪を赦さ
ん 9此邑は地のもろもろの民の中において我がために
欣喜の名となり頌美となり榮耀となるべし彼等はわが

此民にほどこすところの諸の恩恵を聞ん而してわがこの邑にほどこすところの諸の恩恵と諸の福祿のために發振へ且身を動搖さん 10エホバかくいひ給へり汝らが荒れて人もなく畜もなしといひしこの處 即ち荒れて人もなく住む者もなく畜もなきユダの邑とヱルサレムの街に 11再び欣喜の聲 歡樂の聲 新娶者の聲 新婦の聲およびの萬軍のヱホバをあがめよヱホバは善にしてその矜恤は窮なしといひて其感謝の祭物をヱホバの室に携ふる者の聲聞ゆべし蓋われこの地の俘囚人を返らしめて初のごとくになすべければなりヱホバ之をいひたまふ 12萬軍のヱホバかくいひたまふ荒れて人もなく畜もなきこの處と其すべての邑々に再び牧者のその群を伏しむる牧場あるにいたらん 13山の邑と平地の邑と南の方の邑とベニヤミンの地とヱルサレムの四周とユダの邑において群ふたたびその之を核ふる者の手の下を過らんとヱホバいひたまふ 14ヱホバ言たまはく視よ我イスラエルの家とユダの家に語りし善言を成就ぐる日きたらん 15その日その時にいたらばわれダビデの爲に一の義き枝を生ぜしめん彼は公道と公義を地に行ふべし 16その日ユダは救をえヱルサレムは安らかに居らんその名はヱホバ我儕の義と稱へらるべし 17ヱホバかくいひたまふイスラエルの家の位に坐する人ダビデに缺ることなかるべし 18また我前に燔祭をささげ素祭を燃し恒に犧牲を献ぐる人レビ人なる祭司に絕ざるべし 19ヱホバのことばヱレミヤに臨みていふ 20ヱホバかくいふ汝らもし我晝につきての契約と我夜につきての契約を破りてその時々に晝も夜もなからしむることをえば 21僕ダビデに吾が立し契約もまた破れその子はかれの位に坐して王となることをえざらんまたわが我に事ふるレビ人なる祭司に立し契約も破れん 22天の星は數へられず濱の沙は量られずわれその如く我 僕ダビデの裔と我に事ふるレビ人を增ん 23ヱホバの言またヱレミヤに臨みていふ 24汝この民の語りてヱホバはその選みし二の族を棄たりといふを聞ざるか彼らはかく我民を藐じてその眼にこれを國と見なさざるなり 25ヱホバかくいひ給ふもしわれ晝と夜とについての契約を立ずまた天地の律法を定めずば 26われヤコブと我 僕ダビデとの裔をすてて再びかれの裔の中よりアブラハム、イサク、ヤコブの裔を治むる者を取ざるべし我その俘囚し者を返らしめこれを恤れむべし

第三十四章

1バビロンの王ネブカデネザルその全軍および己の手の下に屬するところの地の列國の人および諸の民を率てヱルサレムとその諸邑を攻めて戰ふ時ヱホバの言ヱレミヤに臨みていふ 2イスラエルの神ヱホバかくいふ汝ゆきてユダの王ゼデキヤに告ていふべしヱホバかくいひたまふ視よわれ此邑をバビロン王の手に付さん彼火をもてこれを焚べし 3汝はその手を脫れず必ず擒へられてこれが手に付されん汝の目はバビロン王の目をみ又かれの口は汝の口と語ふべし汝はバビロンにゆくにいたらん 4然どユダの王ゼデキヤよヱホバの言をきけヱホバ汝の事につきてかくいひたまふ汝は劍に死じ 5汝は安らかに死なん民は汝の先祖たる汝の先の王等の爲に香を焚しごとく汝のためにも香を焚き且汝のために嘆て嗚呼主よといはん我この言をいふとヱホバいひたまふ 6預言者エレミヤすなはち此言をことごとくヱルサレムにてユダの王ゼデキヤにつげたり 7時にバビロン王の軍勢はヱルサレムおよび存れるユダの諸の邑を攻めラキシとアゼカを攻て戰ひをる其はユダの諸邑のうちに是等の城の邑尚存りゐたればなり 8ゼデキヤ王ヱルサレムに居る諸の民と契約を立てて彼らに釋放の事を宣示せし後ヱホバの言ヱレミヤに臨めり 9その契約はすなはち人をしておのおの其僕 婢なるヘブルの男 女を釋たしめその兄弟なるユダヤ人を奴隸となさざらしむる者なりき 10この契約をなせし牧伯等とすべての民は人おのおのその僕 婢を釋ちて再び之を奴隸となすべからずといふをききて遂にそれに聽したがひてこれを釋ちしが 11後に心をひるがへしてその釋ちし僕 婢をひきかへりて再び之を伏從はしめて僕 婢となせり 12是故にヱホバの言ヱホバよりヱレミヤにのぞみて云 13イスラエルの神ヱホバかくいふ我 汝らの先祖をエジプトの地その奴隸たりし宅より導きいだせし時彼らと契約を立ていひけらく 14汝らの兄弟なるヘブル人の身を汝らに賣たる者をば七年の終に汝らおのおのこれを釋つべし彼六年 汝につかへたらば之を釋つべしと然るに汝らの先祖等は我に聽ず亦その耳を傾けざりし 15然ど汝らは今日 心をあらためておのおの其鄰人に釋放の事を示してわが目に正とみゆる事を行ひ且我名をもて稱へらるる室に於て我前に契約を立たり 16然るに汝ら再び心をひるがへして我名を汚し各自釋ちて其心に任せしめたる僕 婢をひき歸り再び之を伏從はしめて汝らの僕 婢とな

せり 17この故にヱホバかくいひたまふ汝ら我に聽ておのおの其兄弟とその鄰に釋放の事を示さざりしによりて視よわれ汝らの爲に釋放を示して汝らを劍と饑饉と疫病にわたさん我汝らをして地の諸の國にて艱難をうけしむべし 18ヱホバこれを云ふ犢を兩にさきて其二個の間を過り我前に契約をたてて却つて其言に從はずわが契約をやぶる人々 19即ち兩に分ちし犢の間を過りしユダの牧伯等ヱルサレムの牧伯等と寺人と祭司とこの地のすべての民を 20われ其敵の手とその生命を索る者の手に付さんその屍體は天空の鳥と野の獸の食物となるべし 21且われユダの王ゼデキヤとその牧伯等をその敵の手其生命を索むる者の手汝らを離れて去しバビロン王の軍勢の手に付さん 22ヱホバいひたまふ視よ我彼らに命じて此邑に歸らしめん彼らこの邑を攻て戰ひ之を取り火をもて焚くべしわれユダの諸邑を住人なき荒地となさん

第三十五章

1ユダの王ヨシヤの子ヱホヤキムの時ヱレミヤにのぞみしヱホバの言いふ 2汝レカブ人の家に往て彼らとかたり彼らをヱホバの室の一房に携きたりて酒をのませよと 3是に於てわれハバジニヤの子なるヱレミヤの子ヤザニヤとその兄弟とその諸子およびレカブ人の全家を取り 4これをヱホバの室にあるハナンの諸子の房につれきたれりハナンはイグダリヤの子にして神の人なり其房は牧伯等の房の次にして門を守るシヤレムの子マアセヤの房のうへに在り 5我すなはちレカブ人の家の諸子の前に酒を滿したる壺と杯を置き彼らに告て汝ら酒を飲めといひければ 6彼らこたへけるは我儕は酒をのまず蓋レカブの子なる我らの先祖ヨナダブ我らに命じて汝等と汝らの子孫はいつまでも酒をのむべからず 7また汝ら屋を建ず種をまかず葡萄園を植ざれ亦これを有べからず汝らの生存ふるあひだ幕屋にをれ然らば汝らが寄寓ところの地に於て汝らの生命長からんと云たればなり 8斯我らはレカブの子なるわれらの先祖ヨナダブの凡て命ぜし言に遵ひて我儕とわれらの妻と子女は生存ふるあひだ酒を飲ず 9我らは住べき屋を建てず葡萄園も田野も種も有ずして 10幕屋にをりすべて我儕の先祖ヨナダブが我らに命ぜしごとく行へり 11然どバビロンの王ネブカデネザルがこの地に上り來りしとき我ら云けるは我らカルデヤ人の軍勢とスリア人の軍勢を畏るれば去來ヱルサレムにゆかんとすなはち我らはヱルサレムに住へり 12時にヱホバの言ヱレミヤにのぞみていふ 13萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいふ汝ゆきてユダの人々とヱルサレムに住る者とに告よヱホバいひたまふ汝らは我言を聽て教を受ざるか 14レカブの子ヨナダブがその子孫に酒をのむべからずと命ぜし言は行はる彼らは今日に至るまで酒をのまず其先祖の命令に遵ふなり然るに汝らは吾汝らに語り頻りに語れども我にきかざるなり 15我また我僕なる預言者たちを汝らに遣し頻りにこれを遣していはせけるは汝らいまおのおの其惡き道を離れて歸り汝らの行をあらためよ他の神に從ひて之に奉ふる勿れ然ば汝らはわが汝らと汝らの先祖に與へたるこの地に住ことをえんと然ど汝らは耳を傾けず我にきかざりき 16レカブの子ヨナダブの子孫はその先祖が彼らに命ぜしところの命令に遵ふなり然ど此民は我に聽ず 17この故に萬軍の神ヱホバ、イスラエルの神かくいふ視よわれユダとヱルサレムに住る者とに我彼らにつきていひし所の災を降さん我かれらに語れども聽ずかれらを召ども應へざればなり 18茲にヱレミヤ、レカブ人の家にいひけるは萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝らはその先祖ヨナダブの命に遵ひその凡の誡を守り彼が汝らに命ぜしことを行ふ 19是によりて萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいひたまふレカブの子ヨナダブには我前に立つ人いつまでも缺ることあらじ

第三十六章

1ユダの王ヨシヤの子ヱホヤキムの四年にこの言ヱホバよりヱレミヤに臨みていふ 2汝巻物をとり我汝に語りし日即ちヨシヤの日より今日に至るまでイスラエルとユダと萬國とにつきてわが汝に語りしすべての言を之に錄せ 3ユダの家わが降さんと擬るところの災をききて各自その惡き途をはなれて轉ることもあらん然ばわれ其愆とその罪を赦すべし 4是に於てヱレミヤ、ネリヤの子バルクを召べりバルクすなはちヱレミヤの口にしたがひヱホバの彼に告たまひし言をことごとく巻物に錄せり 5ヱレミヤ、バルクに云ひけるはわれは禁錮られたればヱホバの室に往くことを得ず 6故に汝ゆきて汝が我の口にしたがひて巻物に錄したるヱホバの言をよみ斷食の日にヱホバの室に於て民の耳にこれを聽しめよまた之を讀みてユダの人々のその邑々より來れる者の耳に聽しむべし 7彼らヱホバの前にその祈禱を献り各自其惡き途をはなれて

轉ることもあらんヱホバの此民につきてのべたまひし怒と憤は大なり 8斯てネリヤの子バルクは凡て預言者ヱレミヤが己に命ぜしごとくヱホバの室にてその巻物よりヱホバの言を讀り 9ユダの王ヨシヤの子ヱホヤキムの五年九月ヱルサレムの諸の民およびユダの諸邑よりヱルサレムに來れる諸の民にヱホバの前に斷食を行ふべきこと宣示さる 10バルク、ヱホバの室の上庭に於てヱホバの室の新しき門の入口の旁にあるシヤパンの子なる書記ゲマリヤの房にてその書よりヱレミヤの言を民に讀きかせたり 11シヤパンの子なるゲマリヤの子ミカヤその書のヱホバの言を盡くききて 12王の宮にある書記の房にくだりいたるに諸の牧伯等即ち書記エリシヤマ、シマヤの子デラヤ、アカボルの子エルナタン、シヤパンの子ゲマリヤ、ハナニヤの子ゼデキヤおよび諸の牧伯等そこに坐せり 13ミカヤ、バルクが書を讀て民の耳に聽せしときに己が聽しところのすべての言を彼らに告ければ 14牧伯等クシの子シレミヤの子なるネタニヤの子エホデをバルクに遣はしていはせけるは汝が民に讀きかせしその巻物を手に取て來れとネリヤの子バルクすなはち手に巻物を取りて彼らの許にきたりたれば 15彼らバルクにいひけるは請ふ坐して之を我らに讀きかせよとバルクすなはち彼らに讀聞せたり 16彼らその諸の言をききて倶に懼れバルクにいひけるは我ら必ずこの諸の言を王に告んと 17またバルクに問ていひけるは請ふ汝いかにこの諸の言をかれの口にしたがひて錄せしや我らに告よ 18バルク答へけるは彼その口をもてこの諸の言を我に述べたればわれ墨をもて之を書に錄せり 19牧伯等バルクにいひけるは汝ゆきてヱレミヤとともに身を匿し在所を人に知しむべからずと 20すなはち巻物を書記エリシヤマの房に置きて庭にいり王に詣りてこの諸の言を王につげければ 21王その巻物を持來らせんとてヱホデを遣せりヱホデすなはち書記エリシヤマの房より巻物を取來りて之を王と王の側に立るすべての牧伯等に讀みきかせたり 22時は九月にして王冬の室に坐せり其前に火の燃る爐あり 23ヱホデ三枚か四枚を讀けるとき王小刀をもてその巻物を切割き爐の火に投いれて之を盡く爐の火に焚り 24王とその臣僕等はこの諸の言をきけども懼れず亦その衣を裂ざりき 25エルナタン、デラヤ、ゲマリヤ等王にその巻物を焚たまふ勿れと求めたれども聽ざりき 26王ハンメレクの子ヱラメルとアヅリエルの子セラヤとアブデルの子セレミヤに書記バルクと預言者ヱレミヤを執へよと命ぜしがヱホバかれらを匿したまへり 27王巻物およびバルクがヱレミヤの口にしたがひて記せし言を焚しのちヱホバの言ヱレミヤに臨みていふ 28汝また他の巻物をとりユダの王ヱホヤキムが焚しところの前の巻物の中の言をことごとく其に錄せ 29汝 またユダの王ヱホヤキムに告よヱホバかくいふ汝かの巻物を焚ていへり汝 何なれば此巻物に錄してバビロンの王 必ず來りてこの地を滅し此に人と畜を絕さんと云しやと 30この故にヱホバ、ユダの王ヱホヤキムにつきてかくいひ給ふ彼にはダビデの位に坐する者無にいたらん且かれの屍は棄られて晝は熱氣にあひ夜は寒氣にあはん 31我また彼とその子孫とその臣僕等をその惡のために罰せんまた彼らとヱルサレムの民とユダの人々には我わが彼らにつきて語りしかども彼らが聽ことをせざりし所の禍 を降すべし 32是に於てエレミヤ他の巻物を取てネリヤの子書記バルクにあたふバルクすなはちユダの王ヱホヤキムが火に焚たるところの書の諸の言をヱレミヤの口にしたがひて之に錄し外にまた斯る言を多く之に加へたり

第三十七章

1ヨシヤの子ゼデキヤ、ヱホヤキムの子コニヤに代りて王となるバビロンの王ネブカデネザル彼をユダの地に王となせしなり 2彼もその臣僕等もその地の人々もヱホバが預言者ヱレミヤによりて示したまひし言を聽ざりき 3ゼデキヤ王シレミヤの子ユカルとマアセヤの子祭司ゼパニヤを預言者ヱレミヤに遣して請ふ汝 我らの爲に我らの神ヱホバに祈れといはしむ 4ヱレミヤは民の中に出入せりそはいまだ獄に入られざればなり 5パロの軍勢のエジプトより來りしかばヱルサレムを攻圍みたるカルデヤ人は其音信をききてヱルサレムを退けり 6時にヱホバの 言預言者ヱレミヤにのぞみていふ 7イスラエルの神ヱホバかくいふ汝らを遣して我に求めしユダの王にかくいへ 汝らを救はんとて出きたりしパロの軍勢はおのれの地エジプトへ歸らん 8カルデヤ人 再び來りてこの邑を攻て戰ひこれを取り火をもて焚べし 9ヱホバかくいふ汝らカルデヤ人は必ず我らをはなれて去んといひて自ら欺く勿れ彼らは去ざるべし 10設令 汝らおのれを攻て戰ふところのカルデヤ人の軍勢を 悉く擊ちやぶりてその中に負傷人のみを遺すとも彼らはおのおの其幕屋に起ちあがり火をも

て此邑を焚かん 11茲にカルデヤ人の軍勢パロの軍勢を懼れてヱルサレムを退きければ 12ヱレミヤ、ベニヤミンの地にて民の中にその分を分ち取らんとてヱルサレムを出でてかの地に行きしが 13ベニヤミンの門にいりし時そこにハナニヤの子シレミヤの子なるイリヤと名くる門守をり預言者ヱレミヤを執へて汝はカルデヤ人に降るなりといふ 14ヱレミヤいひけるは詐なり我はカルデヤ人に降るにあらずと然どイリヤこれを聽ずヱレミヤを執へて侯伯等の許に引ゆけり 15侯伯等すなはち怒りてヱレミヤを撻ちこれを書記ヨナタンの室の獄にいれたり蓋この室を獄となしたればなり 16ヱレミヤ獄にいり土牢に入りてそこに多の日を送りしのち 17ゼデキヤ王人を遣して彼をひきいださしむ而して王室にて竊にかれにいひけるはヱホバより臨める言あるやとヱレミヤ答へていひけるは有り汝はバビロン王の手に付されん 18ヱレミヤまたゼデキヤ王にいひけるは我汝あるいは汝の臣僕或はこの民に何なる罪を犯したれば汝ら我を獄にいれしや 19汝らに預言してバビロンの王は汝らにも此地にも攻來らじといひし汝らの預言者はいま何處にあるや 20されば王わが君よ願くはいま我に聽たまへ請ふわが願望を受納れ給へ我を書記ヨナタンの家に歸らしめたまふなかれ恐らくは我彼處に死なんと 21是においてゼデキヤ王命じてヱレミヤを獄の庭にいれしめ且邑のパンの悉く盡るまでパンを製る者の街より日々に一片のパンを彼に與へしむ即ちヱレミヤは獄の庭にをる

第三十八章

1マツタンの子シパテヤ、パシユルの子ゲダリヤ、シレミヤの子ユカル、マルキヤの子パシユル、ヱレミヤがすべての民に告たるその言を聞り 2云くヱホバかくいひたまふこの邑に留まるものは劍と饑饉と疫病に死べし然どいでてカルデヤ人に降る者は生んすなはちその生命をおのれの掠取物となして生べし 3ヱホバかくいひたまふこの邑は必ずバビロン王の軍勢の手に付されん彼之を取べしと 4是をもてかの牧伯等王にいひけるは請ふこの人を殺したまへ彼はかくの如き言をのべて此邑に遺れる兵卒の手と民の手を弱くす夫人は民の安を求めずして其害を求むるなりと 5ゼデキヤ王いひけるは視よ彼は汝らの手にあり王は汝らに逆ふこと能はざるなりと 6彼らすなはちヱレミヤを取て獄の庭にあるハンメレクの子マルキヤの阱に投いる即ち索をもてヱレミヤを縋下せしがその阱は水なくして汚泥のみなりければヱレミヤは汚泥のなかに沈めり 7王の室の寺人エテオピア人エベデメレク彼らがヱレミヤを阱になげいれしを聞り時に王ベニヤミンの門に坐しゐたれば 8エベデメレク王の室よりいでゆきて王にいひけるは 9王わが君よかの人々が預言者ヱレミヤに行ひし事は皆好らず彼らこれを阱になげ入たり邑の中に食物なければ彼はその居るところに餓死せん 10王エテオピヤ人エベデメレクに命じていひけるは汝ここより三十人を携へゆきて預言者ヱレミヤをその死ざる先にを阱より曳あげよ 11エベデメレクすなはちその人々を携へて王の室の庫の下にいり其處より破れたる舊き衣の布片をとり索をもてこれをを阱にをるヱレミヤの所に縋下せり 12而してエテオピア人エベデメレク、ヱレミヤに告て汝この破れたる舊き衣の布片を汝の腋の下にはさみて索に當よと云ければヱレミヤ然なせり 13彼らすなはち索をもてヱレミヤを阱より曳あげたりヱレミヤは獄の庭にをる 14かくてゼデキヤ王人を遣はして預言者ヱレミヤをヱホバの室の第三の門につれきたらしめ王ヱレミヤにいひけるは我汝に問ことあり毫もわれに隱す勿れ 15ヱレミヤ、ゼデキヤにいひけるは我もし汝に示さば汝かならず我を殺さざらんや假令われ汝を勸むるとも汝われに聽じ 16ゼデキヤ王密にヱレミヤに誓ひていひけるは我らにこの靈魂を造りあたへしヱホバは活く我汝を殺さず汝の生命を索むる者の手に汝を付さじ 17ヱレミヤ、ゼデキヤにいひけるは萬軍の神イスラエルの神ヱホバかくいひたまふ汝もしまことにバビロン王の牧伯等に降らば汝の生命活んまた此邑は火にて焚れず汝と汝の家の者はいくべし 18然ど汝もし出てバビロンの王の牧伯等に降らずば此邑はカルデヤ人の手に付されん彼らは火をもて之を焚ん汝はその手を脱れざるべし 19ゼデキヤ王ヱレミヤに云けるは我カルデヤ人に降りしところのユダ人を恐る恐くはカルデヤ人我をかれらの手に付さん彼ら我を辱しめん 20ヱレミヤいひけるは彼らは汝を付さじ願くはわが汝に告しヱホバの聲に聽したがひたまへさらば汝 祥 をえん汝の生命いきん 21然ど汝もし降ることを否まばヱホバこの 言 を我に示し給ふ 22すなはちユダの王の室に遺れる婦は皆バビロンの王の牧伯等の所に曳いだされん其婦 等いはん汝 の朋友等は汝を誘ひて汝に勝り汝の足は泥に沈む彼らは退き去る 23汝の妻たちと汝の子女等はカルデヤ人の 所

に曳出されん汝は其手を脱れじバビロンの王の手に執へられん汝 此邑をして火に焚しめん 24ゼデキヤ、エレミヤにいひけるは汝この事を人に知する勿れさらば汝 殺されじ 25もし牧伯等わが汝と語りしことを我儕に告げよ我らに隠す勿れ然ば我ら汝を殺さじ又王の汝に語りしことを告よといはば 26汝 彼らに答へて我王に求めて我をヨナタンの家に歸して彼處に死しむること勿れといへりといふべし 27かくて牧伯等エレミヤにきたりて問けるに彼王の命ぜし言のごとく彼らに告たればその事露はれざりき是をもて彼ら彼とものいふことを罷たり 28エレミヤはエルサレムの取るる日まで獄の庭に居りしがエルサレムの取れし時にも彼處にをれり

第三十九章

1ユダの王ゼデキヤの九年十月バビロンの王ネブカデネザルその全軍をひきゐエルサレムにきたりて之を攻圍みけるが 2ゼデキヤの十一年四月 九日にいたりて城邑破れたれば 3バビロンの王の牧伯等 即ちネルガルシヤレゼル、サムガルネボ 寺人の長サルセキム 博士の長ネルガルシヤレゼルおよびバビロンの王のその外の牧伯等皆ともに入て中の門に坐せり 4ユダの王ゼデキヤおよび兵卒ども之を見て逃げ夜の中に王の園の途より兩の石垣の間の門より邑をいでてアラバの途にゆきしが 5カルデヤ人の軍勢これを追ひエリコの平地にてゼデキヤにおひつき之を執へてハマテの地リブラにをるバビロンの王ネブカデネザルの許に曳ゆきければ王かしこにて彼の罪をさだめたり 6すなはちバビロンの王リブラにてゼデキヤの諸子をかれの目の前に殺せりバビロンの王またユダのすべての牧伯等を殺せり 7王またゼデキヤの目を抉さしめ彼をバビロンに曳ゆかんとて銅索に縛げり 8またカルデヤ人火をもて王の室と民の家をやき且エルサレムの石垣を毀てり 9かくて侍衛の長ネブザラダンは邑の中に餘れる民とおのれに降りし者およびその外の遺れる民をバビロンに移せり 10されど侍衛の長ネブザラダンはその時民の貧しくして所有なき者等をユダの地に遺し葡萄園と田地とをこれにあたへたり 11爰にバビロンの王ネブカデネザル、エレミヤの事につきて侍衛の長ネブザラダンに命じていひけるは 12彼を取りて善く待へよ害をくはふる勿れ彼が汝に云ふごとくなすべしと 13是をもて侍衛の長ネブザラダン寺人の長ネブシヤスバン博士の長ネルガルシヤレゼルおよびバビロンの王の牧伯等 14人を遣してエレミヤを獄の庭よりたづさへ來らしめシヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤに付して之を家につれゆかしむ斯彼民の中に居る 15エレミヤ獄の庭に禁錮られをる時エホバの言 彼にのぞみていふ 16汝ゆきてエテオピア人エベデメレクに告よ萬軍のエホバ、イスラエルの神かくいふわれ我語しところの 禍 を此邑に降さん 福 はこれに降さじその日この事 汝の目前にならん 17エホバいひたまふその日にはわれ汝を救はん汝はその畏るるところの人衆の手に付されじ 18われ必ず汝を救はん汝は劍をもて殺されじ 汝の生命は汝の掠取物とならん汝われに倚頼めばなりとエホバいひたまふ

第四十章

1侍衛の長ネブザラダンかのバビロンにとらへ移さるるエルサレムとユダの人々の中にエレミヤを鏈につなぎおきてこれを執へゆきけるが遂にこれを放ちてラマを去しめたりその後エホバの言エレミヤにのぞめり 2 茲 に侍衛の長エレミヤを召てこれにいひけるは汝の神エホバ此 處 にこの 災 あらんことを言り 3エホバこれを降しその云し如く行へり汝らエホバに罪を犯しその聲に聽したがはざりしによりてこの事 汝らに來りしなり 4視よ我今日 汝の手の鏈を解て汝を放つ汝もし我とともにバビロンにゆくことを善とせば來れわれ汝を善くあしらはん 汝もし我と偕にバビロンにゆくを惡とせば留れ視よこの地は皆 汝の前に在り汝の善とする所 汝の心に合ふところに往べし 5エレミヤいまだ答へざるに彼またいひけるは汝 バビロンの王がユダの諸邑の上にたてて有司となせしシヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤの許に歸り彼とともに民の中に居れ或は汝の善とおもふところにゆくべしと侍衛の長 彼に食糧と禮物をとらせて去しめたり 6エレミヤすなはちミヅパに往きてアヒカムの子ゲダリヤに詣りその地に遺れる民のうちに彼と偕にをる 7茲に田舍にある軍勢の長 等および彼らに屬する人々バビロンの王がアヒカムの子ゲダリヤを立てこの地の有司となしをとこをんなこども 男 女 嬰孩および國の中のバビロンに移されざる貧 者を彼にあづけたることをききしかば 8即ちネタニヤの子イシマエルとカレヤの子ヨハナンとヨナタンおよびタンホメテの子セラヤとネトパ人なるエパイの諸子と或マアカ人の子ヤザニヤおよび彼らに屬する人々ミヅパにゆきて

ゲダリヤの許にいたる 9シヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤ彼らと彼らに屬する人々に誓ひていひけるは汝らカルデヤ人に事ることを怖るる勿れこの地に住てバビロンの王に事へなば汝ら幸福ならん 10我はミヅパに居り我らに來らんところのカルデヤ人に事へん汝らは葡萄酒と菓物と油とをあつめて之を器に蓄へ汝らが獲るところの諸邑に住めと 11又モアブとアンモン人の中およびエドムと諸の邦にをるところのユダヤ人はバビロンの王がユダに人を遺したるシヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤを立てこれが有司となしたることを聞り 12是においてそのユダヤ人皆その追やられし諸の處よりかへりてユダの地のミヅパに來りゲダリヤに詣れり而して多くの葡萄酒と菓物をあつむ 13又カレヤの子ヨハナンおよび田舍にをりし軍勢の長たちミヅパにきたりてゲダリヤの許にいたり 14彼にいひけるは汝アンモン人の王バアリスが汝を殺さんとてネタニヤの子イシマエルを遣せしを知るやと然どアヒカムの子ゲダリヤこれを信ぜざりしかば 15カレヤの子ヨハナン、ミヅパにて密にゲダリヤに語りて言けるは請ふわれゆきて人知ずにネタニヤの子イシマエルを殺さんいかで彼汝を殺し汝に集れるユダ人を散しユダの遺れる者を滅すべけんやと 16然るにアヒカムの子ゲダリヤ、カレヤの子ヨハナンにいひけるは汝この事をなすべからず汝イシマエルにつきて僞をいふなり

第四十一章

1七月ごろ王の血統なるエリシヤマの子ネタニヤの子イシマエル王の十人の牧伯等とともにミヅパにゆきてアヒカムの子ゲダリヤにいたりミヅパにて偕に食をなせしが 2ネタニヤの子イシマエルおよび偕にをりし十人の者起上りバビロンの王がこの地の有司となせしシヤパンの子アヒカムの子なるゲダリヤを刀にて殺せり 3イシマエルまたミヅパにゲダリヤと偕にをりし諸のユダヤ人と彼處にをりしカルデヤ人の兵卒を殺したり 4彼がゲダリヤを殺してより二日の後いまだ誰も之を知ざりし時 5ある人八十人その鬚を薙り衣を裂き身に傷つけ手に素祭の物と香を携へてシケム、シロ、サマリヤよりきたりてヱホバの室にいたらんとせしかば 6ネタニヤの子イシマエル、ミヅパよりいでて哭きつつ行て彼らを迎へ彼等に逢てアヒカムの子ゲダリヤの許に來れといへり 7而して彼ら邑の中に入しときネタニヤの子イシマエル己と偕にある人々とともに彼らを殺してその屍を阱に投いれたり 8但しその中の十人イシマエルにむかひ我らは田地に小麥麰麥 油および蜜を藏し有り我らをころすなかれと言たれば彼らをその兄弟と偕に殺さずして已ぬ 9イシマエルがゲダリヤの名をもて殺せし人の屍を投入れし阱はアサ王がイスラエルの王バアシヤを怖れて鑿し阱なりネタニヤの子イシマエルその殺せし人々を之に充せり 10イシマエルはミヅパに遺りをる諸の民即ち王の諸女と侍衞の長ネブザラダンがアヒカムの子ゲダリヤに交付しところのミヅパに遺れる諸の民とを擄にせりネタニヤの子イシマエルすなはち彼らを擄にしアンモン人に往んとて去れり 11カレヤの子ヨハナンおよび彼と偕に在る軍勢の長たちネタニヤの子イシマエルの爲し諸の惡事を聞ければ 12その衆卒を率てネタニヤの子イシマエルと戰はんとて出でギベオンの池の旁にて彼に遇ふ 13イシマエルと偕に在る人々はカレヤの子ヨハナンおよび彼とともに在る軍勢の長たちを見て欣べり 14是をもてイシマエルがミヅパより擄へきたりし所の人々身をめぐらしてカレヤの子ヨハナンの許にゆけり 15ネタニヤの子イシマエルは八人の者と偕にヨハナンを避け逃てアンモン人に往り 16カレヤの子ヨハナンおよび彼とともにある軍勢の長等はネタニヤの子イシマエルがアヒカムの子ゲダリヤを殺してミヅパより擄へゆけるところの彼遺れる民すなはち兵卒婦人兒女寺人等を其手より取りかへして之をギベオンより携かへりしが 17進てエジプトにいたらんとてベツレヘムの近傍にあるキムハムの住處に往て留れり 18こはネタニヤの子イシマエルがバビロンの王の此地の有司となしたるアヒカムの子ゲダリヤを殺せしによりカルデヤ人を懼たればなり

第四十二章

1茲に軍勢の長たちおよびカレヤの子ヨハナンとホシャヤの子ヱザニヤ並に民の至微者より至大者にいたるまで 2皆預言者ヱレミヤの許に來りて言けるは汝の前に我らの求の受納られんことを願ふ請ふ我ら遺れる者の爲に汝の神ヱホバに祈れ(今汝の目に見がごとく我らは衆多の中の遺れる者にして寡なり) 3さらば汝の神ヱホバ我らの行むべき途となすべき事を示したまはん 4預言者ヱレミヤ彼らに云けるは我汝らに聽り汝らの言に循ひて汝らの神ヱホバに祈らん凡そヱホバが汝らに應へたまふ

ことはわれ隠す所なく汝らに告べし 5彼らヱレミヤにいひけるは願くはヱホバ我儕の間にありて眞實なる信ずべき證者となりたまへ我らは汝の神ヱホバの汝を遣して我らに告しめたまふ諸の事に遵ひて行ふべし 6我らは善にまれ惡きにまれ我らが汝を遣すところの我らの神ヱホバの聲に遵はん斯我らの神ヱホバの聲に遵ひてわれら 福をうけん 7十日の後ヱホバの言ヱレミヤにのぞみしかば 8ヱレミヤ、カレヤの子ヨハナンおよび彼と偕に在る軍勢の長たち並に民の至微者より至大者までを悉く招きて 9これにいひけるは汝らが我を遣して汝らの祈を献げしめしところのイスラエルの神ヱホバかくいひ給ふ 10汝らもし信に此地に留らばわれ汝らを建てて倒さず汝らを植て抜じそは我汝らに災を降せしを悔ればなり 11ヱホバいひたまふ汝らが畏るるところのバビロンの王を畏る勿れ彼をおそるる勿れわれ汝らとともにありて汝らを救ひ彼の手より汝らを拯ふべし 12われ汝らを恤みまた彼をして汝らを恤ませ汝らを故土に歸らしめん 13然ど汝らもし我らはこの地に留らじ汝らの神ヱホバの聲に遵はじと言ひ 14また然りわれらはかの戰爭を見ず笳の聲をきかず食物に乏しからざるエジプトの地にいたりて彼處に住はんといはば 15汝らユダの遺れる者よヱホバの言をきけ萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝らもし強てエジプトにゆきて彼處に住はば 16汝らが懼るるところの劍エジプトの地にて汝らに臨み汝らが恐るるところの饑饉エジプトにて汝らにおよばん而して汝らは彼處に死べし 17凡そエジプトにおもむき至りて彼處に住はんとする人々は劍と饑饉と疫病に死べしその中には我彼らに降さんところの災を脱れて遺る者無るべし 18萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいひたまふ我震怒と憤恨のヱルサレムに住る者に注ぎし如くわが憤恨汝らがエジプトにいらん時に汝らに注がん汝らは呪詛となり詫異となり罵詈となり凌辱とならん汝らは再びこの處を見ざるべしと 19ユダの遺れる者よヱホバ汝らにつきていひたまへり汝らエジプトにゆく勿れと汝ら今日わが汝らを警めしことを確に知れ 20汝ら我を汝らの神ヱホバに遣して言へり我らの爲に我らの神ヱホバに祈り我らの神ヱホバの汝に示したまふ事をことごとく我らに告よ我ら之を行はんと斯なんぢら自ら欺けり 21われ今日汝らに告たれど汝らは汝らの神ヱホバの聲に遵はず汝らはヱホバが我を遣して命ぜしめたまひし事には都て遵はざりき 22然ば汝らはその往て住んとねがふ處にて劍と饑饉と疫病に死ることを今確に知るべし

第四十三章

1ヱレミヤ諸の民にむかひて其神ヱホバの言を盡く宣べその神ヱホバが己を遣して言しめたまへる其諸の言を宣をはりし時 2ホシャヤの子アザリヤ、カレヤの子ヨハナンおよび驕る人皆ヱレミヤに語りていひけるは汝は謊をいふ我らの神ヱホバはエジプトにゆきて彼處に住む勿れと汝をつかはして云せたまはざるなり 3ネリヤの子バルク汝を唆して我らに逆はしむ是我らをカルデヤ人の手に付して殺さしめバビロンに移さしめん爲なり 4斯カレヤの子ヨハナンと軍勢の長等および民皆ヱホバの聲に遵はずしてユダの地に住ことをせざりき 5斯てカレヤの子ヨハナンと軍勢の長等はユダに遺れる者 即ちその逐やられし國々よりユダの地に住んとて皈りし者 6 男女 嬰孩王の女たちおよび凡て侍衞の長ネブザラダンがシヤパンの子なるアヒカムの子ゲダリヤに付し置し者並に預言者ヱレミヤとネリヤの子バルクを取て 7エジプトの地に至れり彼ら斯ヱホバの聲に遵はざりき而して遂にタパネスに至れり 8ヱホバの言タパネスにてヱレミヤに臨みていふ 9汝 大なる石を手に取りユダの人々の目の前にてこれをタパネスに在るパロの室の入口の旁なる磚窯の泥土の中に藏して 10彼らにいへ萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいひたまふ視よわれ使者を遣はしてわが僕なるバビロンの王ネブカデネザルを召きその位をこの藏したる石の上に置しめん彼錦繡をその上に敷べし 11かれ來りてエジプトの地を撃ち死に定まれる者を死しめ虜に定まれる者を虜にし劍に定まれる者を劍にかけん 12われエジプトの諸神の室に火を燃さんネブカデネザル之を焚きかれらを虜にせん而して羊を牧ふ者のその身に衣を纏ふがごとくエジプトの地をその身に纏はん彼安然に其處をさるべし 13彼はエジプトの地のベテシメシの偶像を毀ち火をもてエジプト人の諸神の室を焚べし

第四十四章

1エジプトの地に住るところのユダの人衆すなはちミグドル、タパネス、ノフ、パテロスの地に住る者の事につきてヱレミヤに臨みし言に曰く 2萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいふ汝らは我エルサレムとユダの諸邑に降せしところの災をみたり視よこれらは今日すでに空曠

となりて住む人なし 3こは彼ら悪をなして我を怒らせしによる即ちかれらは己も汝らも汝らの先祖等も識ざるところの他の神にゆきて香を焚き且これに奉へたり 4われ我僕なる預言者たちを汝らに遣し頻にこれを遣して請ふ汝らわが嫌ふところの此憎むべき事を行ふ勿れといはせけるに 5彼ら聴かず耳を傾けず他の神に香を焚きてその悪を離れざりし 6是によりて我震怒とわが憤恨ユダの諸邑とヱルサレムの街にそそぎて之を焚たれば其等は今日のごとく荒れかつ傾圮たり 7萬軍の神イスラエルの神ヱホバいまかくいふ汝ら何なれば大なる悪をなして己の靈魂を害しユダの中より汝らの男と女と孩童と乳哺子を絕て一人も遺らざらしめんとするや 8何なれば汝ら其手の行爲をもて我を怒らせ汝らが往て住ふところのエジプトの地に於て他の神に香を焚きて己の身を滅し地の萬國の中に呪詛となり凌辱とならんとするや 9ユダの地とヱルサレムの街にて行ひし汝らの先祖等の惡ユダの王等の惡其妻等の惡および汝らの身の惡汝らの妻等の惡を汝ら忘れしや 10彼らは今日にいたるまで悔いずまた畏れず汝らと汝らの先祖等の前に立たる我律法とわが典例に循ひて行まざるなり 11是故に萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいふ視よわれ面を汝らにむけて災を降しユダの人衆を悉く絕ん 12又われエジプトの地にすまんとてその面をこれにむけて往しところの彼ユダの遺れる者を取らん彼らは皆滅されてエジプトの地に仆れん彼らは劍と饑饉に滅され微者も大者も劍と饑饉によりて死べし而して呪詛となり詫異となり罵詈となり凌辱とならん 13われヱルサレムを罰せし如く劍と饑饉と疫病をもてエジプトに住る者を罰すべし 14是をもてエジプトの地に往て彼處に住るところのユダの遺れる者の中に一人も逃れまたは遺りてその心にしたひて歸り住はんとねがふところのユダの地に歸るもの無るべし逃るる者の外には歸る者無るべし 15是に於てその妻が香を他の神に焚しことを知れる人々および其處に立てる婦人等の大なる群衆並にエジプトの地のパテロスに住るところの民ヱレミヤに答へて云けるは 16汝がヱホバの名をもてわれらに述し言は我ら聽かじ 17我らは必ず我らの口より出る言を行ひ我らが素なせし如く香を天后に焚きまた酒をその前に灌ぐべし即ちユダの諸邑とヱルサレムの街にて我らと我らの先祖等および我らの王等と我らの牧伯等の行ひし如くせん當時われらは糧に飽き福をえて災に遇ざりし 18我ら天后に香を焚くことを止め酒をその前に灌がずなりし時より諸の物に乏しくなり劍と饑饉に滅されたり 19我らが天后に香を焚き酒をその前に灌ぐに方りて之に象りてパンを製り酒を灌ぎしは我らの夫等の許せし事にあらずや 20ヱレミヤ即ち男女の諸の人衆および此言をもて答へたる諸の民にいひけるは 21ユダの諸邑とヱルサレムの街にて汝らと汝らの先祖等および汝等の王等と汝らの牧伯等および其地の民の香を焚しことはヱホバ之を憶えまた心に思ひたまふにあらずや 22ヱホバは汝らの惡き爲のため汝らの憎むべき行の爲に再び忍ぶことをえせざりきこの故に汝らの地は今日のごとく荒地となり詫異となり呪詛となり住む人なき地となれり 23汝ら香を焚きヱホバに罪を犯しヱホバの聲に聽したがはずその律法と憲法と證詞に循ひて行まざりしに由て今日のごとく此災　汝らにおよべり 24ヱレミヤまたすべての民と婦等にいひけるはエジプトの地に居るユダの子孫よヱホバの言をきけ 25萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいひたまふ汝らと汝らの妻等は口をもていひ手をもて成し我ら香を天后に焚き酒を灌ぎて立しところの誓を必ず成就んといふ汝ら必ず誓をたてかならず其誓を成就んとす 26この故にエジプトの地に住るユダの人々よヱホバの言をきけヱホバいひたまふわれ我大なる名を指て誓ふエジプトの全地にユダの人々一人もその口に主ヱホバは活くといひて再び我名を稱ふることなきにいたらん 27視よわれ彼らをうかがはん是福をあたふる爲にあらず禍をくださん爲なりエジプトの地に居るユダの人々は劍と饑饉に滅びて絕るにいたらん 28然ど劍を逃るる僅少の者はエジプトの地を出てユダの地に歸らん又エジプトの地にゆきて彼處に寄寓れるユダの遺れる者はその立ところの言は我のなるか彼らのなるかを知るにいたるべし 29ヱホバいひ給ふわがこの處にて汝らを罰する兆は是なり我かくして我汝らに禍をくださんといひし言の必ず立ことを知しめん 30すなはちヱホバかくいひたまふ視よわれユダの王ゼデキヤを其生命を索むる敵なるバビロンの王ネブカデネザルの手に付せしが如くエジプトの王パロホフラを其敵の手その生命を索むる者の手に付さん

第四十五章

1ユダの王ヨシヤの子ヱホヤキムの四年ネリヤの子バルクが此等の言をヱレミヤの口にしたがひて書に錄せしとき

預言者ヱレミヤこれに語りていひけるは 2バルクよイスラエルの神ヱホバ汝にかくいひ給ふ 3汝曾ていへり嗚呼我は禍なるかなヱホバ我憂に悲を加へたまへり我は歎きて疲れ安きをえずと 4汝かく彼に語れヱホバかくいひたまふ視よわれ我建しところの者を毀ち我植しところの者を抜ん是この全地なり 5汝己れの爲に大なる事を求むるかこれを求むる勿れ視よわれ災をすべての民に降さん然ど汝の生命は我汝のゆかん諸の處にて汝の掠物とならしめんとヱホバいひたまふ

第四十六章

1茲にヱホバの言預言者ヱレミヤに臨みて諸國の事を論ふ 2先エジプトの事すなはちユフラテ河の邊なるカルケミシの近傍にをるところのエジプト王パロネコの軍勢の事を論ふ是はユダの王ヨシヤの子ヱホヤキムの四年にバビロンの王ネブカデネザルが撃やぶりし者なり其言にいはく 3汝ら大楯小干を備へて進み戰へ 4馬を車に繋ぎ馬に乘り盔を被りて立て戈を磨き甲を着よ 5われ見るに彼らは懼れて退きその勇士は打敗られ狼狽遁て後をかへりみず是何故ぞや畏懼かれらのまはりにありとヱホバいひたまふ 6快足なる者も逃えず強者も遁れえず皆北の方にてユフラテ河の旁に躓き仆れん 7かのナイルのごとくに湧あがり河のごとくに其水さかまく者は誰ぞや 8エジプトはナイルの如くに湧あがりその水は河の如くに逆まくなり而していふ我上りて地を蔽ひ邑とその中に住る者とを滅さん 9汝等馬に乘り車を驅馳らせよ勇士よ盾を執るエテオピア人プテ人および弓を張り挽くルデ人よ進みいづべし 10此は主なる萬軍のヱホバの復仇の日即ちその敵に仇を復し給ふ日なり劍は食ひて飽きその血に醉はん主なる萬軍のヱホバ北の地にてユフラテ河の旁に宰ることをなし給へばなり 11處女よエジプトの女よギレアデに上りて乳香を取れ汝多くの藥を用ふるも益なし汝は愈ざるべし 12汝の恥辱は國々にきこえん汝の號泣は地に滿てり勇士は勇士にうち觸てともに仆る 13バビロンの王ネブカデネザルが來りてエジプトの地を撃んとする事につきてヱホバの預言者ヱレミヤに告たまひし言 14汝らエジプトに宣べミグドルに示し又ノフ、タパネスに示しいふべし汝ら堅く立ちて自ら備よ劍なんぢの四周を食ひたればなり 15汝の力ある者いかにして拂ひ除かれしやその立ざるはヱホバこれを仆したまふに由るなり 16彼多の者を躓かせたまふ人其友の上に仆れかさなり而していふ起よ我ら滅すところの劍を避けてわが國にかへり故土にいたらんと 17人彼處に叫びてエジプトの王パロは滅されたり彼は機會を失へりといふ 18萬軍のヱホバと名りたまふところの王いひたまふ我は活く彼は山々の中のタボルのごとく海の旁のカルメルのごとくに來らん 19エジプトに住る女よ汝移轉の器皿を備へよそはノフは荒蕪となり燒れて住む人なきにいたるべければなり 20エジプトは至美しき牝の犢のごとし蜚虻きたり北の方より來る 21また其中の傭人は肥たる犢のごとし彼ら轉向てともに逃げ立ことをせず是その滅さるる日いたり其罰せらるる時來りたればなり 22彼は蛇の如く聲をいだす彼ら軍勢を率ゐて來り樵夫の如く斧をもて之にのぞめり 23ヱホバいひ給ふ彼らは探りえざるに由りて彼の林を砍仆せり彼等は蝗蟲よりも多して數へがたし 24エジプトの女は辱められ北の民の手に付されん 25萬軍のヱホバ、イスラエルの神いひ給ふ視よわれノフのアモンとパロとエジプトとその諸神とその王等すなはちパロとかれを賴むものとを罰せん 26われ彼らを其生命を索むる者の手とバビロンの王ネブカデネザルの手とその臣僕の手に付すべしその後この地は昔のごとく人の住むところとならんとヱホバいひたまふ 27我僕ヤコブよ怖るる勿れイスラエルよ驚く勿れ視よわれ汝を遠方より救ひきたり汝の子孫をその擄移されたる地より救ひとるべしヤコブは歸りて平安と寧靜をえん彼を畏れしむる者なかるべし 28ヱホバいひたまふ我僕ヤコブよ汝怖るる勿れ我汝と偕にあればなり我汝を逐やりし國々を悉く滅すべけれど汝をば悉くは滅さじわれ道をもて汝を懲し汝を全くは罪なき者とせざるべし

第四十七章

1パロがガザを撃ざりし先にペリシテ人の事につきて預言者ヱレミヤに臨みしヱホバの言 2ヱホバかくいひたまふ視よ水北より起り溢れながれて此地と其中の諸の物とその邑と其中に住る者とに溢れかかるべしその時人衆は叫びこの地に住る者は皆哭くべし 3その逞しき馬の蹄の蹴たつる音のため其車の響のため其輪の轟のために父は手弱りて己の子女を顧みざるなり 4是ペリシテ人を滅しつくしツロとシドンにのこりて助力をなす者を悉く絶す日來ればなりヱホバ、カフトルの地に遺れるペリシテ人を滅したまふべし 5ガザには髪を剃るの事は

じまるアシケロンと其剰餘の平地は滅ぼさる汝いつまで
身に傷くるや 6ヱホバの劍よ汝いつまで息まざるや汝の
鞘に歸りて息み靜まれ 7ヱホバこれに命じたるなればい
かで息むことをえんやアシケロンと海邊を攻ることを定
めたまへり

第四十八章

1萬軍のヱホバ、イスラエルの神モアブの事につきてか
くいひたまふ嗚呼ネボは禍なるかな是滅されたりキリ
ヤタイムは辱められて取られミスガブは辱められて毀
たる 2モアブの榮譽は失さりぬヘシボンにて人衆モアブ
の害を謀り去來之を絕ちて國をなさざらしめんといふマ
デメンよ汝は滅されん劍 汝を追はん 3ホロナイムより
號咷の聲きこゆ毀敗と大なる滅亡あり 4モアブ滅されて
その嬰孩等の號咷聞ゆ 5彼らは哭き哭きてルヒテの坂を
登る敵はホロナイムの下り路にて滅亡の號咷をきけり 6
逃て汝らの生命を救へ曠野に棄られたる者の如くなれ 7
汝 は汝の工作と財寶を賴むによりて汝も執へられん又ケ
モシは其祭司およびその牧伯等と偕に擄へうつさるべし
8殘害者 諸の邑に來らん一の邑も免れざるべし谷は滅さ
れ平地は荒されんヱホバのいひたまひしがごとし 9翼を
モアブに予へて飛さらしむ其諸邑は荒て住者なからん 10
ヱホバの事を行ふて怠る者は詛はれ又その劍をおさへて
血を流さざる者は詛はる 11モアブはその幼 時より安然
にして酒の其滓のうへにとざまりて此 器よりかの器に斟
うつされざるが如くなりき彼 擄うつされざりしに由て其
味 尚存ちその香氣變らざるなり 12ヱホバいひたまふ此
故にわがこれを傾くる者を遣はす日來らん彼らすなはち
之を傾け其 器をあけ其 罈を碎くべし 13モアブはケモシ
のために羞をとらん是イスラエルの家がその恃めるとこ
ろのベテルのために羞をとりしが如くなるべし 14汝ら何
ぞ我らは勇士なり強き軍人なりといふや 15モアブはほろ
ぼされその諸邑は騰りその選擇の壯者は下りて殺さる
萬軍のヱホバと名る王これをいひ給ふ 16モアブの滅亡
近けりその禍 速に來る 17凡そ其四周にある者よ彼の
ために歎けその名を知る者よ強き竿美しき杖いかにして
折しやといへ 18デボンに住る女よ榮をはなれて下り燥け
る地に坐せよモアブを敗る者 汝にきたりて汝の城を滅さ
ん 19アロエルに住る婦よ道の側にたちて闥ひ逃きたる
者と脫れいたる者に事いかんと問へ 20モアブは敗られて
羞をとる汝ら呼はり咷びモアブは滅されたりとアルノン
に告よ 21鞫災平地に臨みホロン、ヤハヅ、メパアテ 22デ
ボン、ネボ、ベテデブラタイム 23キリヤタイム、ベテガ
ムル、ベテメオン 24ケリオテ、ボズラ、モアブの地の
諸邑の遠き者にも近き者にも臨めり 25モアブの角は碎け
其臂は折たりとヱホバいひたまふ 26汝らモアブを醉はし
めよ彼ヱホバにむかひて驕 傲ればなりモアブは其吐た
る物に轉びて笑 柄とならん 27イスラエルは汝の笑 柄に
あらざりしや彼盜人の中にありしや汝 彼の事を語るごと
に首を搖たり 28モアブに住る者よ汝ら邑を離れて磐の間
にすめ穴の口の側に巢を作る斑鳩の如くせよ 29われら
モアブの驕傲をきけり其驕傲は甚だし即ち其驕慢矜高
驕誇およびその心の自ら高くするを聞り 30ヱホバいひた
まふ我モアブの驕傲とその言の虛きとを知る彼らは 僞
を行ふなり 31この故に我モアブの爲に咷びモアブの全地
の爲に呼はるキルハレスの人々の爲に嗟歎あり 32シブマ
の葡萄の樹よわれヤゼルの哭泣にこえて汝の爲になげく
べし汝の蔓は海を踰え延てヤゼルの海にまでいたる
掠奪者來りて汝の果と葡萄をとらん 33欣喜と歡樂園とモ
アブの地をはなれ去る我酒醡に酒無からしめん呼はりて
葡萄を踐もの無るべし其喚呼は葡萄をふむ喚呼にあらざ
らん 34ヘシボンよりエレアレとヤハヅにいたりゾアルよ
りホロナイムとエグラテシリシヤにいたるまで人聲を揚
ぐそはニムリムの水までも絕たればなり 35ヱホバいひた
まふ我祭 物を崇 邱に獻げ香をその諸神に焚くところの
者をモアブの中に滅さんと 36この故に我 心はモアブの爲
に簫のごとく歎き我 心はキルハレスの人衆のために簫の
ごとく歎く是其獲たるところの財うせたればなり 37人み
なその髮を剃り皆その鬚をそり皆その手に傷け腰に麻布
をまとはん 38モアブにては家蓋の上と街のうちに遍く
悲哀ありそはわれ心に適ざる器のごとくにモアブを碎き
たればなりとヱホバいひたまふ 39嗚呼モアブはほろびた
り彼らは咷ぶ嗚呼モアブは羞て面を背けたりモアブはそ
の四周の者の笑 柄となり恐懼となれり 40ヱホバかくいひ
たまふ視よ敵鷲のごとくに飛來りて翼をモアブのうへに
舒ん 41ケリオテは取られ城はみな奪はるその日にはモア
ブの勇士の心 子を產む婦のごとくになるべし 42モアブは
ヱホバにむかひて傲りしゆゑに滅ぼされて再び國を成ざ
るべし 43ヱホバいひたまふモアブにすめる者よ恐怖と
陷阱と罟 汝に臨めり 44恐怖をさけて逃るものは陷阱にお

ちいり陥阱より出るものは罟にとらへられん其はわれモアブにその罰をうくべき年をのぞましむればなりヱホバこれをいふ 45遁逃者は力なくしてヘシボンの蔭に立つ是は火ヘシボンより出で火焔シホンのうちより出てモアブの地および喧閙をなす者の首の頂を燒ばなり 46嗚呼禍なるかなモアブよケモシの民は亡びたり即ち汝の諸子は擄へうつされ汝の女等は執へゆかれたり 47然ど末の日に我モアブの擄移されたる者を返さんとヱホバいひ給ふ此まではモアブの鞫をいへる言なり

第四十九章

1アンモン人の事につきてヱホバかくいひたまふイスラエルに子なからんや嗣子なからんや何なれば彼らの王ガドを受嗣ぎ彼の民その邑々に住や 2ヱホバいひたまふ是故に視よわが戰鬪の號呼をアンモン人のラバに聞えしむる日いたらんラバは荒垤となりその女等は火に焚れんその時イスラエルはおのれの嗣者となりし者等の嗣者となるべしヱホバこれをいひたまふ 3ヘシボンよ咷べアイは滅びたりラバの女たちよ呼はれ麻布を身にまとひ嗟て籬のうちに走れマルカムとその祭司およびその牧伯等は偕に擄へ移されたり 4汝何なれば谷の事を誇るや背ける女よ汝の谷は流るるなり汝財貨に倚頼みていふ誰か我に來らんと 5主なる萬軍のヱホバいひたまふ視よ我畏懼を汝の四周の者より汝に來らしめん汝らおのおの逐れて直にすすまん逃る者を集むる人無るべし 6然ど後にいたりてわれアンモン人の擄移されたる者を返さんとヱホバいひたまふ 7エドムの事につきて萬軍のヱホバかくいひたまふテマンの中には智慧あることなきにいたりしや明哲者には謀略あらずなりしやその智慧は盡はてしや 8デダンに住る者よ逃よ遁れよ深く竄れよ我エサウの滅亡をかれの上にのぞませ彼を罰する時をきたらしむべし 9葡萄を斂むる者もし汝に來らば少許の果をも餘さざらんもし夜間盜人きたらばその飽まで滅さん 10われエサウを裸にし又その隱處を露にせん彼は身を匿すことをえざるべしその裔も兄弟も隣舍も滅されん而して彼は在ずなるべし 11汝の孤子を遺せわれ之を生存へしめん汝の嫠は我に倚頼むべし 12ヱホバかくいひ給ふ視よ杯を飲べきにあらざる者もこれを飲ざるをえざるなれば汝まつたく罰を免るることをえんや汝は罰を免れじ汝これを飲ざるべからず 13ヱホバいひたまふ我おのれを指して誓ふボズラは詫異となり羞辱となり荒地となり呪詛とならんその諸邑は永く荒地となるべし 14われヱホバより音信をきけり使者遣されて萬國にいたり汝ら集りて彼に攻めきたり起て戰へよといへり 15視よわれ汝を萬國の中に小者となし人々の中に藐めらるる者となせり 16磐の隱場にすみ山の高處を占る者よ汝の恐ろしき事と汝の心の驕傲汝を欺けり汝鷹のごとくに巢を高き處に作りたれどもわれ其處より汝を取り下さんとヱホバいひたまふ 17エドムは詫異とならん凡そ其處を過る者は驚きその災害のために笑ふべし 18ヱホバいひたまふソドムとゴモラとその隣の邑々の滅しがごとく其處に住む人なく其處に宿る人の子なかるべし 19視よ敵獅子のヨルダンの叢より上るがごとく堅き宅に攻めきたらんわれ直に彼を其處より逐奔らせわが選みたる者をその上に立てん誰か我のごとき者あらん誰か我爲に時期を定めんや孰の牧者か我前にたつことをえん 20さればエドムにつきてヱホバの謀りたまひし御謀とテマンに住る者につきて思ひたまひし思をきけ群の弱者はかならず曳ゆかれん彼かならずかれらの住宅を滅すべし 21その傾圮の響によりて地は震ふ號咷ありその聲紅海にきこゆ 22みよ彼鷹のごとくに上り飛びその翼をボズラの上に舒べんその日エドムの勇士の心は子を産む婦の心の如くならん 23ダマスコの事 ハマテとアルパデは羞づそは凶き音信をきけばなり彼らは心を喪へり海の上に恐懼あり安き者なし 24ダマスコは弱り身をめぐらして逃んとす恐懼これに及び憂愁と痛劬子を產む婦にあるごとくこれにおよぶ 25頌美ある邑我欣ぶところの邑を何なれば棄さらざるや 26さればその日に壯者は街に仆れ兵卒は悉く滅されんと萬軍のヱホバいひたまふ 27われ火をダマスコの石垣の上に燃しベネハダデの殿舍をことごとく焚くべし 28バビロンの王ネブカデネザルが攻め擊たるケダルとハゾルの諸國の事につきて／ヱホバかくいひたまふ汝ら起てケダルに上り東の衆人を滅せ 29その幕屋とその羊の群は彼等これを取りその幕とその諸の器と駱駝とは彼等これを奪ひとらん人これに向ひ惶懼四方にありと呼るべし 30ヱホバいひたまふハゾルに住る者よ逃よ急に走りゆき深き處に居れバビロンの王ネブカデネザル汝らをせむる謀略を運らし汝らをせむる術計を設けたればなり 31ヱホバいひ給ふ汝ら起て穩なる安かに住める民の所に攻め上れ彼らは門もなく關もなくして獨り居ふなり 32その駱駝は擄掠とせられその多の畜は奪

はれん我かの毛の角を剪る者を四方に散しその滅亡を
八方より來らせんとヱホバいひたまふ 33ハゾルは山犬の
窟となり何までも荒蕪となりをらん彼處に住む人なく
彼處に宿る人の子なかるべし 34ユダの王ゼデキヤが位に
即し初のころヱホバの言 預言者ヱレミヤに臨みてエラム
の事をいふ 35萬軍のヱホバかくいひたまふ視よわれエラ
ムが權能として頼むところの弓を折らん 36われ天の四方
より四方の風をエラムに來らせ彼らを四方の風に散さん
エラムより追出さるる者のいたらざる國はなかるべし 37
ヱホバいひたまふわれエラムをしてその敵の前とその
生命を索むるものの前に懼れしめん我 災 をくだし我烈
しき怒をその上にいたらせんまたわれ劍をその後につか
はしてこれを滅し盡すべし 38われ我 位をエラムに居ゑ王
と牧伯等を其處より滅したたんとヱホバいひたまふ 39然
ど末の日にいたりてわれエラムの擄 移されたる者を返す
べしとヱホバいひたまふ

第五十章

1ヱホバ預言者ヱレミヤによりてバビロンとカルデヤ人
の地のことを語り給ひし言 2汝ら國々の中に告げまた
宣示せ纛を樹よ隱すことなく宣示して言へバビロンは取
られベルは 辱 められメロダクは碎かれ其像は 辱 められ
其木像は碎かると 3そは北の方より一の國人きたりて之
を攻めその地を荒して其處に住む者無らしむればなり人
も畜も皆逃去れり 4ヱホバいひたまふその日その時イス
ラエルの子孫かへり來らん彼らと偕にユダの子孫かへり
來るべし彼らは哭きつつ行てその神ヱホバに請求むべし
5彼ら面をシオンに向てその路を問ひ來れ我らは永遠わ
するることなき契約をもてヱホバにつらならんといふべ
し 6我民は迷へる羊の群なりその牧者之をいざなひて山
にふみ迷はしめたれば山より岡とゆきめぐりて其休息所
を忘れたり 7之に遇ふもの皆之を食ふその敵いへり我ら
は罪なし彼らヱホバすなはち義きの在 所その先祖の望み
しところなるヱホバに罪を犯したるなり 8汝らバビロン
のうちより逃よカルデヤ人の地より出よ群の前にゆくと
ころの牡山羊のごとくせよ 9視よわれ大なる國々より人
を起しあつめて北の地よりバビロンに攻め來らしめん彼
ら之にむかひて備をたてん是すなはち取るべし彼らの矢
は空しく返らざる狡き勇士の矢のごとくなるべし 10カル
デヤは人に掠められん之を掠むる者は皆飽ことをえんと
ヱホバ曰たまふ 11我產業を掠る者よ汝らは喜び樂み穀物
を碾す犢のごとくに躍り牡馬のごとく嘶けども 12汝らの
母は痛く 辱 められん汝らを生しものは恥べし視よ國々
の中の終末の者荒野となり燥ける地となり沙漠とならん
13ヱホバの怒りの爲に之に住む者なくして 悉 く荒地と
なるべしバビロンを過る者は皆その 禍 に驚き且嗤はん 14
凡そ弓を張る者よバビロンの四周に備をなして攻め矢を
惜まずして之を射よそは彼ヱホバに罪を犯したればなり
15その四周に喊き叫びて攻めかかれ是手を伸ぶその城堞
は倒れその石垣は崩る是ヱホバ仇を復したまふなり汝ら
これに仇を復せ是の行ひしごとく是に行へ 16播種者およ
び穡收時に鎌を執る者をバビロンに絕せその滅すところ
の劍を怖れて人おのおの其民に歸り 各 その故土に逃べ
し 17イスラエルは散されたる羊にして獅子之を追ふ初に
アツスリヤの王之を食ひ後にこのバビロンの王ネブカデ
ネザルその骨を碎けり 18この故に萬軍のヱホバ、イスラ
エルの神かくいひたまふ視よわれアツスリヤの王を罰せ
しごとくバビロンの王とその地を罰せん 19われイスラエ
ルを再びその牧場に歸さん彼カルメルとバシヤンの上に
草をくらはんまたエフライムとギレアデの山にてその 心
を飽すべし 20ヱホバいひたまふ其日その時にはイスラエ
ルの愆を尋るも有らず又ユダの罪を尋るも遇じそはわれ
我存せしところの者を赦すべければなり 21ヱホバいひた
まふ汝ら上りて悖れる國罰を受べき民を攻めその後より
之を荒し全くこれを滅せ我 汝らに命ぜしごとく行ふべし
22その地に戰鬪の吶と大なる敗壞あり 23嗚呼全地を搥き
し鎚折れ碎くるかな嗚呼バビロン國々の中に荒地となる
かな 24バビロンよわれ汝をとるために罟を置けり汝は擒
へらるれども知ず汝ヱホバに敵せしにより尋られて獲へ
らるるなり 25ヱホバ庫を啓きてその怒りの武器をいだし
たまふ是主なる萬軍のヱホバ、カルデヤ人の地に事をな
さんとしたまへばなり 26汝ら終の者にいたるまで來りて
これを攻めその庫を啓き之を積て塵埃のごとくせよ 盡
くこれを滅ぼして其處に遺る者なからしめよ 27その牡牛
を 悉 く殺せこれを屠場にくだらしめよ其等は 禍 なるか
な其日その罰を受べき時來れり 28バビロンの地より逃げ
て遁れ來し者の聲ありて我らの神ヱホバの仇 復その殿の
仇 復をシオンに宣ぶ 29射者をバビロンに召集めよ凡そ弓
を張る者よその四周に陣どりて之を攻め何人をも逃す勿
れその作爲に循ひて之に報いそのすべて行ひし如くこれ

に行へそは彼イスラエルの聖者なるヱホバにむかひて驕りたればなり 30是故にその日壯者は衢に踣れその兵卒は悉く絕されんとヱホバいひたまふ 31主なる萬軍のヱホバいひたまふ驕傲者よ視よわれ汝の敵となる汝の日わが汝を罰する時きたれり 32驕傲者は蹶きて仆れん之を扶け起す者なかるべしわれ火をその諸邑に燃しその四周の者を燒盡さん 33萬軍のヱホバかくいひたまふイスラエルの民とユダの民は偕に虐げらる彼らを擄にせし者は皆固くこれを守りて釋たざるなり 34彼らを贖ふ者は強しその名は萬軍のヱホバなり彼必ずその訴を理してこの地に安を與へバビロンに住る者を戰慄しめ給はん 35ヱホバいひたまふカルデヤ人の上バビロンに住る者の上およびその牧伯等とその智者等の上に劍あり 36劍 僞る者の上にあり彼ら愚なる者とならん劍その勇士の上にあり彼ら懼れん 37劍その馬の上にあり其車の上にあり又その中にあるすべての援兵の上にあり彼ら婦女のごとくにならん劍その寶の上にあり是掠めらるべし 38旱その水の上にあり是涸かん斯は偶像の地にして人々偶像に迷へばなり 39是故に野の獸彼處に山犬と偕に居り鴕鳥も彼處に棲べし何時までも其地に住む人なく世々ここに住む人なかるべし 40ヱホバいひたまふ神のソドム、ゴモラとその近隣の邑々を滅せしごとく彼處に住む人なく彼處に宿る人の子なかるべし 41視よ北の方より民きたるあらん大なる國の人とおほくの王たち地の極より起らん 42彼らは弓と槍をとる情なく矜恤なしその聲は海のごとくに鳴るバビロンの女よ彼らは馬に乘り戰士のごとくに備へて汝を攻ん 43バビロンの王その風聲をききしかば其手弱り苦痛と子を產む婦の如き劬勞彼に迫る 44視よ敵獅子のヨルダンの叢より上るが如く堅き宅に攻めきたらんわれ直に彼等を其處より逐奔らせわが選みたる者をその上に立ん誰か我のごとき者あらんや誰かわが爲に時期を定めんや何の牧者か我前に立ことをえん 45さればバビロンにつきてヱホバの謀りたまひし御謀とカルデヤ人の地につきて思ひたまひし思想をきけ群の弱者必ず曳ゆかれん彼必ずかれらの住居を滅すべし 46バビロンは取れたりとの聲によりて地震へその號咷國々の中に聞ゆ

第五十一章

1ヱホバかくいひたまふ視よわれ滅すところの風を起してバビロンを攻め我に悖る者の中に住む者を攻べし 2われ簸者をバビロンに遣さん彼らこれを簸てその地を空くせん彼らすなはちその禍の日にこれを四方より攻むべし 3弓を張る者に向ひまた鎧を被て立あがる者に向ひて射者の者其弓を張らん汝らその壯者を憫れまず其軍勢を悉く滅すべし 4然ば殺さるる者カルデヤ人の地に踣れ刺るる者その街に踣れん 5イスラエルとユダはその神萬軍のヱホバに棄てられず彼らの地にはイスラエルの至聖者にむかひて犯せるところの罪充つ 6汝らバビロンのうちより逃げいでておのおの其生命をすくへ其の罪のために滅さるる勿れ今はヱホバの仇をかへしたまふ時なれば報をそれになしたまふなり 7バビロンは金の杯にしてヱホバの手にあり諸の地を醉せたり國々その酒を飮めり是をもて國々狂へり 8バビロンは忽ち踣れて壞る之がために哭けその傷のために乳香をとれ是或は愈ん 9われらバビロンを醫さんとすれども愈ず我らこれをすてて各 その國に歸るべしそはその罰天におよび雲にいたればなり 10ヱホバわれらの義をあらはしたまふ來れシオンに於て我らの神ヱホバの作爲をのべん 11矢を磨ぎ楯を取れヱホバ、メデア人の王等の心を激發したまふヱホバ、バビロンをせめんと謀り之を滅さんとしたまふ是ヱホバの復仇その殿の復仇たるなり 12バビロンの石垣に向ひて纛を樹て圍を堅くし番兵を設け伏兵をそなへよ蓋ヱホバ、バビロンに住める者をせめんとて謀りその言しごとく行ひたまへばなり 13おほくの水の傍に住み多くの財寶をもてる者よ汝の終 汝の貪婪の限 來れり 14萬軍のヱホバおのれを指して誓ひいひ給ふ我まことに人を蝗のごとくに汝の中に充さん彼ら汝に向ひて鯨波の聲を揚ぐべし 15ヱホバその能力をもて地をつくり其知慧をもて世界を建てその明哲をもて天を舒たまへり 16彼聲を發したまふ時は天に衆の水いづかれ雲を地の極より起らしめ電光と雨をおこし風をその庫よりいだしたまふ 17すべての人は獸のごとくにして智慧なし諸の鑄物師はその作りし像のために辱を取る其鑄るところの像は僞の者にしてその中に靈なし 18其等は空しき者にして迷妄の工作なりわが臨むとき其等は滅べし 19ヤコブの分は此の如くならず彼は萬物およびその產業の族の造化主なりその名は萬軍のヱホバといふ 20汝はわが鎚にして戰の器具なりわれ汝をもて諸の邦を碎き汝をもて萬國を滅さん 21われ汝をもて馬とその騎る者を摧き汝をもて車とその御する者を碎かん 22われ汝をもて男と女をくだき汝をもて老

たる者と幼き者をくだき汝をもて壯者と童女をくだくべし 23われ汝をもて牧者とその群をくだき汝をもて農夫とその軛を負ふ牛をくだき汝をもて方伯等と督宰等をくだかん 24汝らの目の前にて我バビロンとカルデヤに住るすべての者がシオンになせし諸の惡きことに報いんとヱホバいひたまふ 25ヱホバ言ひたまはく全地を滅したる滅す山よ視よわれ汝の敵となるわれ手を汝の上に伸て汝を巖より轉ばし汝を焚山となすべし 26ヱホバいひたまふ人汝より石を取て隅石となすことあらじ亦汝より石を取りて基礎となすことあらじ汝はいつまでも荒地となりをらん 27纛を地に樹て箴を國々の中に吹き國々の民をあつめて之を攻めアララテ、ミンニ、アシケナズの諸國を招きて之を攻め軍長をたてて之を攻め恐しき蝗のごとくに馬をすすめよ 28國々の民をあつめて之を攻めメデア人の王等とその方伯等とその督宰等およびそのすべての領地の人をあつめて之を攻めよ 29地は震ひ搖かんそはヱホバその意旨をバビロンになしバビロンの地をして住む人なき荒地とならしめたまふべければなり 30バビロンの勇者は戰をやめて其城にこもりその力失せて婦のごとくにならん其宅は燒けその門閂は折れん 31馹は趨て馹にあひ使者は趨て使者にあひバビロンの王につげて邑は盡く取られ 32渡口は取られ沼は燒れ兵卒は怖るといはん 33萬軍のヱホバ、イスラエルの神かくいひたまふバビロンの女は禾場のごとしその踏るる時きたれり暫くありてその苅るる時いたらん 34バビロンの王ネブカデネザル我を食ひ我を滅し我を空き器のごとくなし龍の如くに我を呑みわが珍饈をもて其腹を充し我を逐出せり 35シオンに住る者いはんわがうけし虐遇と我肉はバビロンにかかるべしエルサレムいはん我血はカルデヤに住める者にかかるべしと 36さればヱホバかくいひたまふ視よわれ汝の訟を理し汝の爲に仇を復さん我その海を涸かし其泉を乾かすべし 37バビロンは頽壘となり山犬の巣窟となり詫異となり嗤笑となり人なき所とならん 38彼らは獅子のごとく共に吼え小獅のごとくに吼ゆ 39彼らの慾の燃る時にわれ筵を設けてかれらを醉せ彼らをして喜ばしめながき寢にいりて目を醒すことなからしめんとヱホバいひたまふ 40われ屠る羔羊のごとく又牡羊と牡山羊のごとくにかれらをくだらしめん 41セシヤクいかにして取られしや全地の人の頌美者いかにして執へられしや國々の中にバビロンいかにして詫異となりしや 42海バビロンに溢れかかりその多くの波濤これを覆ふ 43その諸邑は荒れて燥ける地となり沙漠となり住む人なき地とならん人の子そこを過ることあらじ 44われベルをバビロンに罰しその呑みたる者を口より取出さん國々はまた川の如くに彼に來らじバビロンの石垣踣れん 45我民よ汝らその中よりいで各ヱホバの烈しき怒をまぬかれてその命を救へ 46汝ら心を弱くする勿れ此地にてきく所の浮言によりて畏るる勿れ浮言は此年も來り次の年も亦きたらん此地に強暴あり宰者と宰者とあひ攻むることあらん 47故に視よ我バビロンの偶像を罰する日來らんその全地は辱められ其殺さるる者は悉くその中に踣れん 48然して天と地とその中にあるところのすべての者はバビロンの事の爲に歡び歌はんそは敗壞者北の方より此處に來ればなりヱホバこれをいひたまふ 49バビロンがイスラエルの殺さるる者を踣せし如く全地の殺さるる者バビロンに踣るべし 50劍を逃るる者よ往け止る勿れ遠方よりヱホバを憶えヱルサレムを汝らの心に置くべし 51罵言をきくによりて我ら羞づ異邦人ヱホバの室の聖處にいるによりて我らの面には羞恥盈つ 52この故にヱホバいひたまふ視よわがその偶像を罰する日いたらん傷けられたる者はその全國に呻吟べし 53たとひバビロン天に昇るとも其城を高くして堅むるとも敗壞者我よりいでて彼らにいたらんとヱホバいひたまふ 54バビロンに號咷の聲ありカルデヤ人の地に大なる敗壞あり 55ヱホバ、バビロンをほろぼし其中に大なる聲を絕したまふ其波濤は巨水のごとくに鳴りその聲は響わたる 56破滅者これに臨みバビロンにいたる其勇士は執へられ其弓は折らるるヱホバは施報をなす神なればかならず報いたまふなり 57われその牧伯等と博士等と督宰等と勇士とを醉せん彼らは永き寢にいりて目を醒すことあらじ萬軍のヱホバと名くる王これをいひ給ふ 58萬軍のヱホバかくいひたまふバビロンの闊き石垣は悉く毀たれその高き門は火に焚れん斯民の勞苦は徒となるべし民は火のために憊れん 59これマアセヤの子なるネリヤの子セラヤがユダの王ゼデキヤとともに其治世の四年にバビロンに往くときにあたりて豫言者ヱレミヤがこれに命ぜし言なりこのセラヤは侍從の長なり 60ヱレミヤ、バビロンにのぞまんとする諸の災を書にしるせり是即ちバビロンの事につきて錄せる此すべての言なり 61ヱレミヤ、セラヤにいひけるは汝バビロンに往しとき愼みてこの諸の言を讀め 62而して汝いふべしヱホバよ汝はこの處を滅し

人と畜をいはず凡て此處に住む者なからしめて窮なくこれを荒地となさんと此處にむかひていひたまへり 63汝この書を讀畢りしとき之に石をむすびつけてユフラテの中に投いれよ 64而していふべしバビロンは我これに災菑をくだすによりて是しづみて復おこらざるべし彼らは絶はてんと／此まではヱレミヤの言なり

第五十二章

1ゼデキヤは位に即きしとき二十一歳なりしがヱルサレムに於て十一年世ををさめたりその母の名はハムタルといひてリブナのヱレミヤの女なり 2ゼデキヤはヱホヤキムが凡てなしたる如くヱホバの目の前に惡をなせり 3すなはちヱホバ、ヱルサレムとユダとを怒りて之をその前より棄てはなちたまふ／是に於てゼデキヤ、バビロンの王に叛けり 4ゼデキヤの世の九年十月 十日にバビロンの王ネブカデネザルその軍勢をひきゐてヱルサレムに攻めきたり之に向ひて陣をはり四周に戍樓を建て之を攻めたり 5かくこの邑攻圍まれてゼデキヤ王の十一年にまでおよびしが 6その四月 九日にいたりて城邑のうち饑ること 甚だしくなり其地の民食物をえざりき 7是をもて城邑つひに打破られたれば兵卒は皆逃て夜の中に王の園の邊なる二個の石垣の間の門より城邑をぬけいで平地の途に循ひておちゆけり時にカルデヤ人は城邑を圍みをる 8茲にカルデヤ人の軍勢王を追ひゆきヱリコの平地にてゼデキヤに追付けるにその軍勢みな彼を離れて散りしかば 9カルデヤ人王を執へて之をハマテの地のリブラにをるバビロンの王の所に曳きゆきければ王彼の罪をさだめたり 10バビロンの王すなはちゼデキヤの子等をその目の前に殺さしめユダの牧伯等を悉くリブラに殺さしめ 11またゼデキヤの目を抉さしめたり斯てバビロンの王かれを銅索に繋ぎてバビロンに携へゆきその死る日まで獄に置けり 12バビロン王ネブカデネザルの世の十九年の五月 十日バビロンの王の前につかふる侍衛の長ネブザラダン、ヱルサレムにきたり 13ヱホバの室と王の室を燒き火をもてヱルサレムのすべての室と大なる諸の室を燒けり 14また侍衛の長と偕にありしカルデヤ人の軍勢ヱルサレムの四周の石垣を悉く毀てり 15侍衛の長ネブザラダンすなはち民のうちの貧乏者城邑の中に餘れる者およびバビロンの王に降りし人と民の餘れる者を擄へ移せり 16但し侍衛の長ネブザラダンその地のある貧者を遺して葡萄を耕る者となし農夫となせり 17カルデヤ人またヱホバの室の銅の柱と洗盥の臺と銅の海を碎きてその銅を悉くバビロンに運び 18また鍋と火鑪と燭剪と鉢と匙およびすべて用ふるところの銅器を取れり 19侍衛の長もまた洗盥と火盤と鉢と鍋と燭臺と匙と罌など凡て金銀にて作れる者を取り 20またソロモン王がヱホバの室に造りしところの二つの柱と一の海と臺の下なる十二の銅の牛を取れりこのもろもろの銅の重は稱る可らず 21この柱は高さ十八キユビトなり又紐をもてその周圍を測るに十二キユビトあり指四本の厚にして空なり 22その上に銅の頂ありその頂の高さは五キユビトその周圍は銅の網子と石榴にて飾れり他の柱とその石榴も之におなじ 23その四方に九十六の石榴あり網子の上なるすべての石榴の數は百なり 24侍衛の長は祭司の長セラヤと第二の祭司ゼパニヤと三人の門守を執へ 25また兵卒を督る一人の寺人と王の前にはべるもののうち城邑にて遇しところの者七人とその地の民を募る軍勢の長なる書記と城邑の中にて遇しところの六十人の者を邑よりとらへされり 26侍衛の長ネブザラダンこれらを執へてリブラに居るバビロンの王の許にいたれり 27バビロンの王ハマテの地のリブラにこれを擊ち殺せりかくユダはおのれの地よりとらへ移されたり 28ネブカデネザルがとらへ移せし民は左の如し第七年にユダ人三千二十三人 29またネブカデネザルその十八年にヱルサレムより八百三十二人をとらへ移せり 30ネブカデネザルの二十三年に侍衛の長ネブザラダン、ユダ人七百四十五人をとらへ移したり其總ての數は四千六百人なりき 31ユダの王ヱホヤキンがとらへ移されたる後三十七年の十二月二十五日バビロンの王エビルメロダクその治世の一年にユダの王ヱホヤキンを獄よりいだしてその首をあげしめ 32善言をもて彼を慰めその位をバビロンに偕に居るところの王等の位よりもたかくし 33其獄の衣服を易へしむヱホヤキンは一生の間つねに王の前に食せり 34かれ其死る日まで一生の間たえず日々の分をバビロンの王よりたまはりて其食物となせり

エレミヤの哀歌

第一章

1ああ哀しいかな古昔は人のみちみちたりし此都邑 いまは凄しき様にて坐し 寡婦のごとくになれり 嗟もろもろの民の中にて大いなりし者 もろもろの州の中に女王たりし者 いまはかへつて貢をいるる者となりぬ 2彼よもすがら痛く泣きかなしみて涙 面にながる その戀人の中にはこれを慰むる者ひとりだに無く その朋これに背きてその仇となれり 3ユダは艱難の故によりまた大いなる苦役のゆゑによりて擄はれゆき もろもろの國に住ひて安息を得ず これを追ふものみな狭隘にてこれに追しきぬ 4シオンの道路は節會の上り來る者なきがために哀しみ その門はことごとく荒れ その祭司は歎き その處女は憂へ シオンもまた自から苦しむ 5その仇は首となり その敵は享ゆ その愆の多きによりてヱホバこれをなやませたまへるなり そのわかき子等は擄はれて仇の前にゆけり 6シオンの女よりはその榮華ことごとく離れされり またその牧伯等は草を得ざる鹿のごとくに成り おのれを追ふものの前に力つかれて歩みゆけり 7エルサレムはその艱難と窘迫の時むかしの代にありしもろもろの樂しき物を思ひ出づ その民仇の手におちいり誰もこれを助くるものなき時 仇人これを見てその荒はてたるを笑ふ 8エルサレムははなはだしく罪ををかしたれば汚穢たる者のごとくになれり 前にこれを尊とびたる者もその裸體を見しによりて皆これをいやしむ 是もまたみづから嗟き身をそむけて退ぞけり 9その汚穢これが裾にあり 彼その終局をおもはざりき 此故に驚ろくまでに零落たり 一人の慰さむる者だに無し ヱホバよわが艱難をかへりみたまへ 敵は勝ほこれり 10敵すでに手を伸てその財寶をことごとく奪ひたり 汝さきに異邦人等はなんぢの公會にいるべからずと命じおきたまひしに 彼らが聖所を侵しいるをシオンは見たり 11その民はみな哀きて食物をもとめ その生命を支へんがために財寶を出して食にかへたり ヱホバよ見そなはし我のいやしめらるるを顧りみたまへ 12すべて行路人よ なんぢら何ともおもはざるか ヱホバその烈しき震怒の日に我をなやましてわれに降したまへるこの憂苦にひとしき憂苦また世にあるべきや考がへ見よ 13ヱホバ上より火をくだしわが骨にいれて之を克服せしめ 網を張りわが足をとらへて我を後にむかしめ 我をして終日 心さびしくかつ疾わづらはしめたまふ 14わが愆尤の軛は主の御手にて結ばれ諸 の愆あひ纏はりてわが項にのれり 是はわが力をしておとろへしむ 主われを敵たりがたき者の手にわたしたまへり 15主われの中なる勇士をことごとく除き 節會をもよほして我を攻め わが少き人を打ほろぼしたまへり 主 酒榨をふむがごとくにユダの處女をふみたまへり 16これがために我なげく わが目やわが目には水ながる わがたましひを活すべき慰さむるものわれに遠ければなり わが子等は敵の勝るによりて滅びうせにき 17シオンは手をのぶれども誰もこれを慰さむる者なし ヤコブにつきてはヱホバ命をくだしてその周圍の民をこれが敵とならしめたまふ ヱルサレムは彼らの中にありて汚れたる者のごとくなりぬ 18ヱホバは正し 我その命令にそむきたるなり 一切の民よわれに聽け わが憂苦をかへりみよ わが處女もわかき男も俘囚て往り 19われわが戀人を呼たれども彼らはわれを欺むけり わが祭司およびわが長老は生命を繋がんとて食物を求むる間に都邑の中にて氣息たえたり 20ヱホバよかへりみたまへ 我はなやみてをり わが腸わきかへり わが心わが衷に顛倒す 我 甚しく悖りたればなり 外には劍ありてわが子を殺し 内には死のごとき者あり 21かれらはわが嗟歎をきけり 我をなぐさむるもの一人だに无し わが敵みなわが艱難をききおよび 汝のこれを爲たまひしを喜こべり 汝はさきに告しらせしその日を來らせたまはん 而して彼らもつひに我ごとくに成るべし 22ねがはくは彼等が與へし艱難をことごとくなんぢの御前にあらはし 前にわがもろもろの罪愆のために我におこなひし如く彼らにも行ひたまへ わが嗟歎は多くわが心はうれひかなしむなり

第二章

1ああヱホバ震怒をおこし 黑雲をもてシオンの女を蔽ひたまひ イスラエルの榮光を天より地におとし その震怒の日に己の足凳を心にとめたまはざりき 2主ヤコブのすべての住居を呑つくしてあはれまず 震怒によりてユダの女 の保砦を毀ち これを地にたふし その國とその牧伯等を辱かしめ 3烈しき震怒をもてイスラエルのすべての角を絶ち 敵の前にて己の右の手をひきちぢめ 四面を焚きつくす燃る火のごとくヤコブを焚き 4敵のごとく弓を張り 仇のごとく右の手を挺て立ち 凡て目に喜こばしきものを滅し シオンの女の幕屋に火のごとくその怒をそそぎたまへり 5主敵のごとくに成たまひてイスラエルを呑ほ

ろぼし その諸の殿を呑ほろぼし そのもろもろの保砦を
こぼち ユダの女の上に憂愁と悲哀を増くはへ 6園のごと
く己の幕屋を荒し その集會の所をほろぼしたまへり ヱ
ホバ節會と安息日とをシオンに忘れしめ 烈しき怒により
て王と祭司とをいやしめ棄たまへり 7主その祭壇を忌棄
て その聖所を嫌ひ憎みて その諸の殿の石垣を敵の手に
わたしたまへり 彼らは節會の日のごとくヱホバの室にて
聲をたつ 8ヱホバ、シオンの女の石垣を毀たんと思ひさ
だめ 繩を張り こぼち進みてその手をひかず 壕と石垣と
をして哀しましめたまふ 是らは共に憂ふ 9その門は地に
埋もれ ヱホバその關木をこぼちくだき その王ともろも
ろの牧伯は律法なき國人の中にあり その預言者はヱホバ
より異象を蒙らず 10シオンの女の長老等は地に坐りて默
し 首に灰をかむり 身に麻をまとふ ヱルサレムの處女は
首 を地に低る 11わが目は涙の爲に潰れんとし わが腸 は
沸かへり わが肝は地に塗る わが民の女ほろぼされ 幼少
ものや乳哺子は疲れはてて邑の街衢に氣息たへなんとす
ればなり 12かれらは疵を負る者の如く邑のちまたにて
氣息たえなんとし 母の 懐 にその靈魂をそそがんとし 母
にむかひて言ふ 穀物と酒とはいづくにあるやと 13ヱルサ
レムの女よ 我なにをもて汝にあかしし 何をもて汝にな
らべんや シオンの處女よ われ何をもて汝になぞらへて
汝 をなぐさめんや 汝のやぶれは海のごとく大なり 嗟た
れか能く汝を醫さんや 14なんぢの預言者は虚しき事と 愚
なることとなんぢに預言し かつて汝の不義をあらはして
その俘囚をまぬかれしめんとはせざりき その預言すると
ころは唯むなしき重荷および追放たるる根本となるべき
事のみ 15すべて往來の人なんぢにむかひて手を拍ち ヱル
サレムの女にむかひて嘲りわらひ かつ頭をふりて言ふ
美麗の極 全地の欣喜ととなへたりし邑は是なるかと 16
なんぢのもろもろの敵はなんぢに對ひて口を開け あざけ
り笑ひて切齒をなす 斯て言ふわれら之を呑つくしたり
是われらが望みたりし日なり 我ら已に之にあへり 我ら
すでに之を見たりと 17ヱホバはその定めたまへることを
成し いにしへより其命じたまひし言を果したまへり ヱ
ホバはほろぼして憐れまず 敵をして汝にかちほこらしめ
汝 の仇の角をたかくしたまへり 18かれらの心は主にむか
ひて呼はれり シオンの女の墻垣よ なんぢ夜も晝も河の
如く涙をながせ みづから安んずることをせず 汝の瞳子
を休むることなかれ 19なんぢ夜の初更に起いでて呼さけ
べ 主の御前に汝の心を水のごとく灌げ 街衢のほとりに
饑たふるるなんぢの幼兒の生命のために主にむかひて
兩手をあげよ 20ヱホバよ視たまへ 汝これを誰におこなひ
しか 願はくは顧みたまへ 婦人おのが實なるその懐き育
てし孩兒を食ふべけんや 祭司預言者等主の聖所において
殺さるべけんや 21をさなきも老たるも街衢にて地に臥し
わが處女も若き男も刃にかかりて斃れたり なんぢはその
震怒の日にこれを殺し これを屠りて恤れみたまはざりき
22なんぢ節會の日のごとくわが懼るるところの者を四方
より呼あつめたまへり ヱホバの震怒の日には遁れたる者
なく又のこりたる者なかりき わが懐き育てし者はみなわ
が敵のためにほろぼされたり

第三章

1我はかれの震怒の笞によりて艱難に遭たる人なり 2かれ
は我をひきて黑暗をあゆませ光明にゆかしめたまはず 3
まことに屢々その手をむけて終日われを攻なやまし 4わ
が肉と肌膚をおとろへしめ わが骨を摧き 5われにむかひ
て患苦と艱難を築きこれをもて我を圍み 6われをして
長久に死し者のごとく暗き處に住しめ 7我をかこみて出
ること能はざらしめわが鏈索を重くしたまへり 8我さけ
びて助をもとめしとき彼わが祈禱をふせぎ 9斫たる石を
もてわが道を塞ぎわが途をまげたまへり 10その我に對す
ることは伏て伺がふ熊のごとく潜みかくるる獅子のごと
し 11われに路を離れしめ 我をひきさきて獨くるしましめ
12弓を張りてわれを矢先の的となし 13矢筒の矢をもてわ
が腰を射ぬきたまへり 14われはわがすべての民のあざけ
りとなり 終日うたひそしらる 15かれ我をして苦き物に飽
しめ茵蔯を飲しめ 16小石をもてわが齒を摧き灰をもて我
を蒙ひたまへり 17なんぢわが靈魂をして平和を遠くはな
れしめたまへば我は福祉をわすれたり 18是において我み
づから言り わが氣力うせゆきぬ ヱホバより何を望むべ
きところ無しと 19ねがはくは我が艱難と苦楚茵蔯と膽汁
とを心に記たまへ 20わがたましひは今なほ是らの事を想
ひてわが衷に鬱ぐ 21われこの事を心におもひ起せり この
故に望をいだくなり 22われらの尚ほろびざるはヱホバの
仁愛によりその憐憫の盡ざるに因る 23これは朝ごとに
新なり なんぢの誠實はおほいなるかな 24わが靈魂は言
ふ ヱホバはわが分なり このゆゑに我彼を待ち望まん 25
ヱホバはおのれを待ち望む者とおのれを尋ねもとむる人

に恩恵をほどこしたまふ 26ヱホバの救拯をのぞみて靜にこれを待は善し 27人わかき時に軛を負は善し 28ヱホバこれを負せたまふなれば獨坐して默すべし 29口を塵につけよ あるひは望あらん 30おのれを擊つ者に頰をむけ 充足れるまでに恥辱をうけよ 31そは主は永久に棄ることを爲たまはざるべければなり 32かれは患難を與へ給ふといへどもその慈悲おほいなればまた憐憫を加へたまふなり 33心より世の人をなやましかつ苦しめ給ふにはあらざるなり 34世のもろもろの俘囚人を脚の下にふみにじり 35至高者の面の前にて人の理を枉げ 36人の詞訟を屈むることは主のよろこび給はざるところなり 37主の命じたまふにあらずば誰か事を述んにその事即ち成んや 38禍も福もともに至高者の口より出るにあらずや 39活る人なんぞ怨言べけんや人おのれの罪の罰せらるるをつぶやくべけんや 40我等みづからの行をしらべかつ省みてヱホバに歸るべし 41我ら天にいます神にむかひて手とともに心をも擧べし 42われらは罪ををかし我らは叛きたり なんぢこれを赦したまはざりき 43なんぢ震怒をもてみづから蔽ひ我らを追攻め殺してあはれまず 44雲をもてみづから蔽ひ祈禱をして通ぜざらしめ 45もろもろの民の中にわれらを塵埃となしたまへり 46敵は皆われらにむかひて口を張れり 47恐懼と陷阱また暴行と滅亡我らに來れり 48わが民の女の滅亡によりてわが眼には涙の河ながる 49わが目は斷ず涙をそそぎて止ず 50天よりヱホバの臨み見て顧みたまふ時にまで至らん 51わが邑の一切の女等の故によりてわが眼はわが心をいたましむ 52故なくして我に敵する者ども鳥を追ごとくにいたく我をおひ 53わが生命を坑の中にほろぼし わが上に石を投かけ 54また水わが頭の上に溢る 我みづから言り滅びうせぬと 55ヱホバよ われ深き坑の底より汝の名を呼り 56なんぢ我が聲を聽たまへりわが哀歎と祈求に耳をおほひたまふなかれ 57わが汝を顧たりし時なんぢは近よりたまひて恐るるなかれと宣へり 58主よなんぢはわが靈魂の訴を助け伸べ わが生命を贖ひ給へり 59ヱホバよ なんぢは我がかうむりたる不義を見たまへり 願はくは我に正しき審判を與へたまへ 60なんぢは彼らが我を怨み われを害せんとはかるを凡て見たまへり 61ヱホバよなんぢは彼らが我を詈り 我を害せんとはかるを凡て聞たまへり 62かの立て我に逆らふ者等の言語およびその終日われを攻んとて運らす謀計もまた汝これを聞たまへり 63ねがはくは彼らの起居をかんがみたまへ 我はかれらに歌ひそしらる 64ヱホバよ なんぢは彼らが手に爲すところに循がひて報をなし 65かれらをして心くらからしめたまはん なんぢの呪詛かれらに歸せよ 66なんぢは震怒をもてかれらを追ひ ヱホバの天の下よりかれらをほろぼし絶たまはん

第四章

1ああ黃金は光をうしなひ純金は色を變じ 聖所の石はもろもろの街衢の口に投すてられたり 2ああ精金にも比ぶべきシオンの愛子等は陶器師の手の作なる土の器のごとくに見做る 3山犬さへも乳房をたれてその子に乳を哺す然るにわが民の女は殘忍荒野の鴕鳥のごとくなれり 4乳哺兒の舌は渇きて上顎にひたと貼き 幼兒はパンをもとむるも擘てあたふる者なし 5肥甘物をくらひ居りし者はおちぶれて街衢にあり 紅の衣服にて育てられし者も今は塵堆を抱く 6今我民の女のうくる愆の罰はソドムの罪の罰よりもおほいなり ソドムは古昔人に手を加へらるることなくして瞬く間にほろぼされしなり 7わが民の中なる貴き人は從前には雪よりも皎潔に乳よりも白く 珊瑚よりも躰紅色にしてその形貌のうるはしきこと藍玉のごとくなりしが 8いまはその面くろきが上に黑く 街衢にあるとも人にしられず その皮は骨にひたと貼き 乾きて枯木のごとくなれり 9劍にて死る者は饑て死る者よりもさいはひなり そは斯る者は田圃の產 物の罄るによりて漸々におとろへゆき刺れし者のごとくに成ばなり 10わが民の女 のほろぶる時には情愛ふかき婦人等さへも手づから己 の子等を煮て食となせり 11ヱホバその憤恨をことごとく洩し 烈しき怒をそそぎ給ひ シオンに火をもやしてその基礎までも燒しめ給へり 12地の諸王も世のもろもろの民もすべてヱルサレムの門に仇や敵の打いらんとは信ぜざりき 13斯なりしはその預言者の罪によりその祭司の愆によれり かれらは即ち正しき者の血をその邑の中にながしたりき 14今かれらは盲人のごとく街衢にさまよひ 身は血にて汚れをれば人その衣服にふるるあたはず 15人かれらに向ひて呼はり言ふ 去れよ穢らはし 去れ去れ觸るなかれと 彼らはしり去りて流離ば異邦人の中間にても人々また言ふ 彼らは此に寓るべからずと 16ヱホバ怒れる面をもてこれを散し給へり 再びこれを顧みたまはじ人々祭司の面をも尊ばず長老をもあはれまざりき 17われらは賴まれぬ救援を望みて目つかれおとろふ 我らは俟ゐ

たりしが救拯をなすこと能はざる國人を待をりぬ 18敵われらの脚をうかがへば我らはおのれの街衢をも歩くことあたはず 我らの終ちかづけり 我らの日つきたり 即ち我らの終きたりぬ 19我らを追ふものは天空ゆく鷲よりも迅し 山にて我らを追ひ 野に伏てわれらを伺ふ 20かの我らが鼻の氣息たる者ヱホバに膏そそがれたるものは陷阱にて執へられにき 是はわれらが異邦にありてもこの蔭に住んとおもひたりし者なり 21ウズの地に住むエドムの女よ 悦び樂しめ 汝にもまたつひに杯めぐりゆかん なんぢも醉て裸になるべし 22シオンの女よ なんぢが愆の罰はをはれり 重ねてなんぢを擄へゆきたまはじ エドムの女よ なんぢの愆を罰したまはん 汝の罪を露はしたまはん

第五章

1ヱホバよ我らにありし所の事をおもひたまへ 我らの恥辱をかへりみ觀たまへ 2われらの產業は外國人に歸しわれらの家屋は他國人の有となれり 3われらは孤子となりて父あらず われらの母は寡婦にひとし 4われらは金を出して自己の水を飮み おのれの薪を得るにも價をはらふ 5われらを追ふ者われらの頸に迫る 我らは疲れて休むことを得ず 6食物を得て饑を凌がんとてエジプト人およびアッスリヤ人に手を與へたり 7われらの父は罪ををかして已に世にあらず 我らその罪を負ふなり 8奴僕等われらを制するに誰ありて我らを之が手よりすくひ出すものなし 9荒野の刀兵の故によりて我ら死を冒して食物を得 10饑饉の烈しき熱氣によりてわれらの皮膚は爐のごとく熱し 11シオンにて婦人等をかされユダの邑々にて處女等けがさる 12侯伯たる者も敵の手にて吊され 老たる者の面も尊とばれず 13少き者は石磨を擔はせられ 童子は薪を負ふてよろめき 14長老は門にあつまることを止め 少き者はその音樂を廢せり 15我らが心の快樂はすでに罷み われらの跳舞はかはりて悲哀となり 16われらの冠冕は首より落たり われら罪ををかしたれば 禍なるかな 17これが爲に我らの心うれへ これらのために我らが目くらくなれり 18シオンの山は荒はて 山犬はその上を歩くなり 19ヱホバよなんぢは永遠に在す なんぢの御位は世々かぎりなし 20何とて我らを永く忘れ われらを斯ひさしく棄おきたまふや 21ヱホバよねがはくは我らをして汝に歸らしめたまへ われら歸るべし 我らの日を新にして昔日の日のごとくならしめたまへ 22さりとも汝まつたく我らを棄てたまひしや 痛くわれらを怒りゐたまふや

エゼキエル書

第一章

1第三十年四月の五日に我ケバル河の邊にてかの擄うつされたる者の中にをりしに天ひらけて我神の異象を見たり 2是ヱコニヤ王の擄ゆかれしより第五年のその月の五日なりき 3時にカルデヤ人の地に於てケバル河の邊にてヱホバの言 祭司ブシの子エゼキエルに臨めりヱホバの手かしこにて彼の上にあり 4我見しに視よ烈き風 大なる雲および燃る火の團塊北より出きたる又雲の周圍に輝光ありその中よりして火の中より熱たる金族のごときもの出づ 5其火の中に四箇の生物にて成る一箇の形あり其狀は是のごとし即ち人の象あり 6 各 四の面あり 各 四の翼あり 7その足は直なる足その足の跖は犢牛の足の跖のごとくにして磨ける 銅 のごとくに光れり 8その生物の四方に翼 の下に人の手ありこの四箇の物皆面と翼あり 9その 翼はたがひに相つらなれりその往ときに回轉ずして 各 その面の向ふところに行く 10その面の形は人の面のごとし四箇の者右には獅子の面あり四箇の者 左には牛の面あり 又四箇の者鷲の面あり 11その面とその翼は上にて分るその各箇の翼 二箇は彼と此と相つらなり二箇はその身を覆ふ 12各箇その面の向ふところへ行き靈のゆかんとする方に行く又行にまはることなし 13その生物の形は爇る炭の火のごとく松明のごとし火生物の中に此 彼に行き火 輝きてその火の中より電 光いづ 14その生物奔りて電 光の如くに往來す 15我生物を觀しに生物の近邊にあたりてその四箇の面の前に地の上に輪あり 16其輪の形と作は黄金色の玉のごとしその四箇の形は皆同じその形と作は輪の中に輪のあるがごとくなり 17その行く時は四方に行く行にまはることなし 18その輪輞は高くして畏懼かり 輪輞は四箇ともに皆 遍く目あり 19生物の行く時は輪その傍 に行き生物地をはなれて上る時は輪もまた上る 20凡て靈のゆかんとする所には生物その靈のゆかんとする方に往く輪またその 傍 に上る是生物の靈輪の中にあれば

なり 21此の行く時は彼もゆき此の止る時は彼も止り此地
をはなれて上る時は輪も共にあがる是生物の靈輪の中に
あればなり 22生物の首の上に畏しき水晶のごとき穹蒼あ
りてその首の上に展開る 23穹蒼の下に其翼直く開きて
此と彼とあひ連る又 各 二箇の翼ありその 各 の二箇の
翼 此方彼方にありて身をおほふ 24我その行く時の羽聲
を聞に大水の聲のごとく全能者の聲のごとし其聲音の 響
は軍勢の聲のごとしその立どまる時は翼を垂る 25その 首
の上なる穹蒼の上より聲ありその立どまる時は翼を垂る
26首の上なる穹蒼の上に青玉のごとき寶位の狀式ありそ
の寶位の狀式の上に人のごとき者在す、 27又われその中
と周圍に磨きたる 銅 のごとく火のごとくなる者を見る
其人の腰より上も腰より下も火のごとくに見ゆ其周圍に
輝光あり 28その周圍の輝光は雨の日に雲にあらはるる虹
のごとしヱホバの榮光かくのごとく見ゆ我これを見て
俯伏したるに語る者の聲あるを聞く

第二章

1彼われに言たまひけるは人の子よ起あがれ我なんぢに
語 はんと 2斯われに言給ひし時 靈われにきたりて我を立
あがらしむ爰に我その我に語りたまふを聞くに 3われに
言たまひけるは人の子よ我なんぢをイスラエルの子孫に
遣 すすなはち我に叛ける叛逆の民につかはさん彼等と
その先祖我に悖りて今日にいたる 4その子女等は厚顔に
して心の剛愎なる者なり我 汝をかれらに遣す汝かれらに
主ヱホバかくいふと告べし 5彼等は悖逆る族なり彼等は
之を聽も之を拒むも預言者の己等の中にありしを知ん 6
汝 人の子よたとひ薊と棘 汝の周圍にあるとも亦汝 蠍
の中に住ともこれを懼るるなかれその言をおそるるなか
れ夫かれらは悖逆る族なり汝その言をおそるるなかれ其
面に慄くなかれ 7彼等は悖逆る族なり彼らこれを聽もこ
れを拒むも汝 吾 言をかれらに告よ 8人の子よわが汝に言
ところを聽け汝かの悖逆る族のごとく悖るなかれ汝の口
を開きてわが汝にあたふる者をくらふべし 9時に我見に
吾方に伸たる手ありて其中に卷物あり 10彼これをわが前
に開けり卷物は裏と表に文字ありて上に嗟嘆と悲哀と
憂患とを錄す

第三章

1彼また我に言たまひけるは人の子よ汝 獲るところの者
を食へ此卷物を食ひ往てイスラエルの家に告よ 2是に於
て我口をひらけばその卷物を我に食はしめて 3我にいひ
給ひけるは人の子よわが汝にあたふる此卷物をもて腹を
やしなへ腸 にみたせよと我すなはち之をくらふに其わ
が口に甘きこと蜜のごとくなりき 4彼また我にいひたま
ひけるは人の子よイスラエルの家にゆきて吾 言を之につ
げよ 5我なんぢを 唇 の深き舌の重き民につかはすにあら
ずイスラエルの家につかはすなり 6汝がその言語をしら
ざる 唇 の深き舌の重き多くの國人に汝をつかはすにあ
らず我もし汝を彼らに遣さば彼等 汝に聽べし 7然どイス
ラエルの家は我に聽ことを好まざれば汝に聽ことをせざ
るべしイスラエルの全家は厚顔にして心の剛愎なる者な
ればなり 8視よ我かれらの面のごとく汝の面をかたくし
かれらの額のごとく汝の額を堅くせり 9我なんぢの額を
金剛石のごとくし磐よりも堅くせり彼らは背逆る族なり
汝 かれらを懼るるなかれ彼らの面に戰慄くなかれ 10又わ
れに言たまひけるは人の子よわが汝にいふところの凡の
言 を汝の心にをさめ汝の耳にきけよ 11往てかの擄へ移さ
れたる汝の民の子孫にいたりこれに語りて主ヱホバかく
言たまふと言へ彼ら聽も拒むも汝 然すべし 12時に靈われ
を上に擧しが我わが後に大なる響の音ありてヱホバの
榮光のその處より出る者は讃べきかなと云ふを聞けり 13
また生物の互にあひ連る翼の聲とその 傍 にある輪の聲
および大なる響の音を聞く 14靈われを上にあげて携へゆ
けば我苦々しく思ひ心を熱くして往くヱホバの手強くわ
が上にあり 15爰に我ケバル河の邊にてテラアビブに居る
かの擄 移れたる者に至り驚きあきれてその坐する所に
七日倶に坐せり 16七日すぎし後ヱホバの言われにのぞみ
て言ふ 17人の子よ我なんぢを立てイスラエルの家の爲に
守望者となす汝わが口より言を聽き我にかはりてこれを
警 むべし 18我惡人に汝かならず死べしと言んに汝かれを
警 めず彼をいましめ語りその惡き道を離れしめて之が
生命を救はずばその惡人はおのが惡のために死んされど
其血をば我 汝の手に要むべし 19然ど汝 惡人を警めんに
彼その惡とその惡き道を離れずば彼はその惡の爲に死ん
汝 はおのれの靈魂を救ふなり 20又 義 人その義 事をす
てて惡を行はんに我 躓 礙をその前におかば彼は死べし
汝 かれを警めざれば彼はその罪のために死てそのおこな
ひし義き事を記ゆる者なきにいたらん然ば我その血を 汝
の手に要むべし 21然ど汝もし義き人をいましめ義き人に
罪ををかさしめずして彼罪を犯すことをせずば彼は警戒

をうけたるがためにかならずその生命をたもたん汝はおのれの靈魂を救ふなり 22茲にヱホバの手かしこにてわが上にあり彼われに言たまひけるは起て平原にいでよ我そこにて汝にかたらん 23我すなはち起て平原に往にヱホバの榮光わがケバル河の邊にて見し榮光のごとく其處に立ければ俯伏たり 24時に靈われの中にいりて我を立あがらせ我にかたりていふ往て汝の家にこもれ 25人の子よ彼等汝に繩をうちかけ其をもて汝を縛らん汝はかれらの中に出ゆくことを得ざるべし 26我なんぢの舌を上顎に堅く着しめて汝を啞となし彼等を譬めざらしむべし彼等は悖逆る族なればなり 27然ど我汝に語る時は汝の口をひらかん汝 彼らにいふべし主ヱホバかく言たまふ聽者は聽べし拒む者は拒むべし彼等は悖逆る族なり

第四章

1人の子よ汝 磚瓦をとりて汝の前に置きその上にヱルサレムの邑を畫け 2而して之を取圍み之にむかひて雲梯を建て壘を築き陣營を張り邑の周圍に破城槌を備へて之を攻めよ 3汝また鐵の鍋を取り汝と邑の間に置て鐵の石垣となし汝の面を之に向よ斯この邑圍まる汝 之を圍むべし是すなはちイスラエルの家にあたふる徴なり 4又汝 左側を下にして臥しイスラエルの家の罪を其上に置よ汝が斯臥ところの日の數は是なんぢがその罪を負ふ者なり 5我かれらが罪を犯せる年を算へて汝のために日の數となす即ち三百九十日の間 汝イスラエルの家の罪を負ふべし 6汝 これを終なば復右側を下にして臥し四十日の間ユダの家の罪を負ふべし我 汝のために一日を一年と算ふ 7汝ヱルサレムの圍に面を向け腕を袒して其の事を預言すべし 8視よ我索を汝にかけて汝の圍の日の終るまで右 左に動くことを得ざらしめん 9汝 小麥 大麥 豆 扁豆 粟および稗 麥を取て之を一箇の器にいれ汝が横はる日の數にしたがひてこれを食とせよ即ち三百九十日の間これを食ふべし 10汝 食を權りて一日に二十シケルを食へ時々これを食ふべし 11又 汝 水を量りて一ヒンの六分一を飲め時々これを飲むべし 12汝 大麥のパンの如くにして之を食へ即ち彼等の目のまへにて人の糞をもて之を烘べし 13ヱホバいひ給ふ是のごとくイスラエルの民はわが追やらんところの國々においてその汚穢たるパンを食ふべし 14是において我いふ嗚呼主ヱホバよわが 魂 は絶て汚れし事なし我は幼少時より今にいたるまで自ら死し者や裂殺れし者を食ひし事なし又絶て汚れたる肉わが口にいりしことなし 15ヱホバ我にいひ給ふ我牛の糞をもて人の糞にかふることを汝にゆるす其をもて汝のパンを調ふべし 16又われに言たまふ人の子よ視よ我ヱルサレムに於て人の杖とするパンを打碎かん彼等は食をはかりて惜みて食ひ水をはかりて驚きて飲まん 17斯 食と水と乏しくなりて彼ら互 に面を見あはせて駭きその罪に亡びん

第五章

1人の子よ汝 利き刀を執り之を剃刀となして汝の頭と頷をそり權衡をとりてその毛を分てよ 2而して圍城の日の終る時邑の中にて火をもて其三分の一を燒き又三分の一を取り刀をもて邑の周圍を擊ち三分の一を風に散すべし我 刀をぬきて其後を追ん 3汝その毛を少く取りて裾に包み 4又その中を取りてこれを火の中になげいれ火をもて之をやくべし火その中より出てイスラエルの全家におよばん 5主ヱホバかくいひ給ふ我このヱルサレムを萬國の中におき列邦をその四圍に置けり 6ヱルサレムは異邦よりも惡くわが律法に悖り其四圍の國々よりもわが法憲に悖る即ち彼等はわが律法を蔑如にしわが法憲に歩行まざるなり 7故に主ヱホバかくいひたまふ汝等はその周圍の異邦人よりも甚だしく噪ぎたち吾憲にあゆまず吾 法をおこなはず又 汝らの周圍なる異邦人の法のごとくに行ふことすらもせざるなり 8是故に主ヱホバかくいひ給ふ視よ我 われは汝を攻め異邦人の目の前にて汝の中に鞫をおこなはん 9なんぢの爲せし 諸 の惡むべき事のために我わが未だ爲ざりしところの事此後ふたたび其ごとく爲ざるべきところの事を汝になさん 10是がために汝の中にて父たる者はその子を食ひ子たる者はその父を食はん我 汝の中に鞫をおこなひ汝の中の餘れる者を 盡 く四方の風に散さん 11是故に主ヱホバいひ給ふ我は活く汝その忌むべき物とその憎むべきところの事とをもてわが聖 所を穢したれば我かならず汝を減さん我目なんぢを惜み見ず我なんぢを憐まざるべし 12汝の三分の一は汝の中において疫病にて死に饑饉にて滅びん又三分の一は汝の四周にて刀 に仆れん又三分の一をば我四方の風に散し刀をぬきて其後をおはん 13斯我 怒を洩し盡しわが 憤 を彼らの上にかうむらせて心を安んぜん我わが 憤 を彼らの上に洩し盡す時は彼ら我ヱホバの熱心をもてかたりたる事をしるに至らん 14我 汝を荒地となし汝の周圍の國々の中に汝を

笑柄となし凡て往來の人の目に斯あらしむべし 15我 怒と 憤 と重き責をもて鞫を汝に行ふ時は汝はその周圍の邦々の笑柄となり 嘲 となり警戒となり驚懼とならん我ヱホバこれを言ふ 16即ち我饑饉の惡き矢を彼等に放たん是は滅亡すための者なり我 汝らを滅さんために之を放つべし我なんぢらの上に饑饉を增しくはへ汝らが杖とするところのパンを打碎かん 17我饑饉と惡き獸を汝等におくらん是 汝をして子なき者とならしめん又疫病と血なんぢの間に行わたらん我 刀を汝にのぞましむべし我ヱホバこれを言ふ

第六章

1ヱホバの言われに臨みて言ふ 2人の子よ汝の面をイスラエルの山々にむけて預言して言ふべし 3イスラエルの山よ主ヱホバの言を聽け主ヱホバ山と岡と谷と平原にむかひて斯いひたまふ視よ我 劍を汝等に遣り汝らの崇 邱を滅ぼす 4汝等の壇は荒され日の像は毀たれん我 汝らの中の殺さるる者をして汝らの偶像の前に仆れしむべし 5我イスラエルの子孫の尸骸をその偶像の前に置ん汝らの骨をその壇の周圍に散さん 6凡て汝らの住ところにて邑々は滅され崇 邱は荒されん斯して汝らの壇は壞れて荒れ汝 らの偶像は毀たれて滅び汝等の日の像は斫たふされ汝等の作りし者は絕されん 7又殺さるる者なんぢらの中に仆れん汝等これに由て吾ヱホバなるを知るにいたらん 8我或者を汝らにのこす即ち劍をのがれて異邦の中にをる者國々の中にちらさるる者是なり 9汝等の中の逃れたる者はその擄ゆかれし國々において我を記念ふに至らん是は我かれらの我をはなれたるその姦淫をなすの心を挫き且かれらの姦淫を好みてその偶像を慕ふところの目を挫くに由てなり而して彼等はその 諸 の憎むべき者をもて爲たるところの惡のために自ら恨むべし 10斯彼等はわがヱホバなるを知るにいたらん吾がこの災害をかれらになさんと語しことは徒然にならざるなり 11主ヱホバかく言たまふ汝 手をもて擊ち足を踏ならして言へ嗚呼凡てイスラエルの家の惡き憎むべき者は 禍 なるかな皆 刀と饑饉と疫病に仆るべし 12遠方にある者は疫病にて死に近方にある者は刀に仆れん又生存りて身を全うする者は饑饉に死ぬべし斯我わが憤 怒を彼等に洩しつくすべし 13彼等の殺さるる者その偶像の中にありその壇の周圍にあり諸の高岡にあり諸の山の 頂 にあり諸の青樹の下にあり諸の茂れる橡樹の下にあり彼等が馨しき香をその 諸 の偶像にささげたる處にあらん其時汝等はわがヱホバなるを知るべし 14我手をかれらの上に伸べ凡てかれらの住居ところにて其地を荒してデブラの野にもまさる荒地となすべし是によりて彼らはわがヱホバなるを知るにいたらん

第七章

1ヱホバの言また我にのぞみて言ふ 2汝 人の子よ主ヱホバかくいふイスラエルの地の末期いたる此國の四方の境の末期來れり 3今 汝の末期いたる我わが忿怒を汝に洩らし汝 の 行 にしたがひて汝を鞫き汝の 諸 の憎むべき物のために汝を罰せん 4わが目は汝を惜み見ず我なんぢを憫まず汝の 行 の爲に汝を罰せん汝のなせし憎むべき事の 報 汝 の中にあるべし是によりて汝等はわがヱホバなるを知らん 5主ヱホバかくいひ給ふ視よ災禍あり非常災禍きたる 6末期きたる其末期きたる是起りて汝に臨む視よ來る 7此地の人よ汝の命數いたる時いたる日ちかし山々には擾亂のみありて喜樂の聲なし 8今我すみやかに吾 憤 恨を汝 に蒙らせわが怒氣を汝に洩しつくし汝の行爲にしたがひて汝を鞫き汝の 諸 の憎むべきところの事のために 汝を罰せん 9わが目は汝を惜み見ず我 汝をあはれまず汝の行 のために汝を罰せん汝の爲し憎むべき事の果報 汝の中にあるべし是によりて汝等は我ヱホバの汝を擊なるを知ん 10視よ日きたる視よ來れり命數いたりのぞむ杖花咲き驕傲茁す 11暴 逆おこりて惡の杖と成る彼等もその群衆もその驕奢も皆失んかれらの中には何も殘る者なきにいたるべし 12時きたる日ちかづけり買者は喜ぶなかれ賣者は思ひわづらふなかれ怒その群衆におよぶべければなり 13賣者は假令その生命ながらふるともその賣たる者に歸ることあたはじ此地の全の群衆をさすところの預言は廢らざるべければなり其惡の中にありて生命を全うする者なかるべし 14人衆ラツパを吹て凡て預備をなせども 戰にいづる者なし其はわが怒その全の群衆におよべばなり 15外には劍あり内には疫 病と饑饉あり田野にをる者は 劍に死なん邑の中にをる者は饑饉と疫 病これをほろぼすべし 16その中の逃るる者は逃れて谷の鴿のごとくに山の上にをりて皆その罪のために悲しまん 17手みな弱くなり膝みな水となるべし 18彼等は麻の衣を身にまとはん恐懼かれらを蒙まん諸の面には羞あらはれ諸の首は髮をそりお

とされん 19彼等その銀を街にすてん其金はかれらに塵芥のごとくなるべしヱホバの怒の日にはその金銀もかれらを救ふことあたはざるなり是等はその心魂を滿足せしめず其腹を充さず唯彼等をつまづかせて惡におとしいるる者なり 20彼の美しき飾物を彼等驕傲のために用ひ又これをもてその憎べき偶像その憎むべき物をつくれり是をもて我これを彼らに芥とならしむ 21我これを外國人にわたして奪はしめ地の惡人にわたして掠めしめん彼等すなはちこれを汚すべし 22我かれらにわが面を背くべければ彼等わが密たる所を汚さん強暴人其處にいりてこれを汚すべし 23汝 鏈索を作れよ死にあたる罪國に滿ち暴逆邑に充たり 24我國々の中の惡き者等を招きて彼らの家を奪しめん我強者の驕傲を止めんその聖所は汚さるべし 25滅亡きたれり彼等平安を求むれども得ざるなり 26災害に災害くははり注進に注進くははる彼等預言者に默示を求めん律法は祭司の中に絕え謀略は長老の中に絕べし 27王は哀き牧伯は驚惶を身に纏ひ國の民の手は慄へん我その行爲に循ひて彼らを處置ひその審判に循ひて彼らを罰せん彼等は我ヱホバなるを知にいたるべし

第八章

1爰に六年の六月五日に我わが家に坐しをりユダの長老等わがまへに坐りゐし時主ヱホバの手われの上に降れり 2我すなはち視しに火のごとくに見ゆる形象あり腰より下は火のごとく見ゆ腰より上は光輝て見え燒たる金屬の色のごとし 3彼手のごとき者を伸て吾が頭髮を執りしかば靈われを地と天の間に曳あげ神の異象の中に我をヱルサレムに携へゆき北にむかへる内の門の口にいたらしむ其處に嫉妬をおこすところの嫉妬の像たてり 4彼處にイスラエルの神の榮光あらはる吾が平原にて見たる異象のごとし 5彼われに言たまふ人の子よ目をあげて北の方をのぞめと我すなはち目をあげて北の方を望むに視よ壇の門の北にあたりてその入口に此嫉妬の像あり 6彼また我にいひたまふ人の子よ汝かれらが爲ところ即ちイスラエルの家が此にてなすところの大なる憎むべき事を見るや我これがために吾が聖所をはなれて遠くさるべし汝 身を轉らせ復大なる憎むべき事等を見ん 7斯て彼われを領て庭の門にいたりたまふ我見しに其壁に一の穴あり 8彼われに言たまふ人の子よ壁を穿てよと我すなはち壁を鑿つに一箇の戸あるを視る 9茲に彼われにいひ給ひけるは入て彼等が此になすところの惡き憎むべき事等を見よと 10便ち入りて見るに諸の爬蟲と憎むべき獸畜の形およびイスラエルの家の諸の偶像その周圍の壁に畫きてあり 11イスラエルの家の長老七十人その前に立てりシヤパンの子ヤザニヤもかれらの中に立ちてあり 各手に香爐を執るその香の煙雲のごとくにのぼれり 12彼われに言たまひけるは人の子よ汝イスラエルの家の長老等が暗におこなふ事即ちかれらが各人その偶像の間におこなふ事を見るや彼等いふヱホバは我儕を見ずヱホバこの地を棄てたりと 13また我に言たまはく汝 身を轉らせ復かれらが爲すところの大なる憎むべき事等を見ん 14斯て彼我を携てヱホバの家の北の門の入口にいたるに其處に婦女等坐してタンムズのために哭をる 15彼われに言たまふ人の子よ汝これを見るや又身を轉らせよ汝これよりも大なる憎むべき事等を見ん 16彼また我を携てヱホバの家の內庭にいたるにヱホバの宮の入口にて廊と壇の間に二十五人ばかりの人その後をヱホバの宮にむけ面を東にむけ東にむかひて日の前に身を鞠めをる 17彼われに言たまふ人の子よ汝これを見るやユダの家はその此におこなふところの憎むべき事等をもて瑣細き事となすにや亦暴逆を國に充して大に我を怒らす彼等は枝をその鼻につくるなり 18然ば我また怒をもて事をなさん吾目はかれらを惜み見ず我かれらを憫まじ彼等大聲にわが耳に呼はるとも我かれらに聽じ

第九章

1斯て彼大聲に吾耳に呼はりて言たまふ邑を主どる者等各々剪滅の器具を手にとりて前み來れと 2即ち北にむかへる上の門の路より六人の者おのおの打壞る器具を手にとりて來る其中に一人布の衣を着筆記人の墨盂を腰におぶる者あり彼等來りて銅の壇の傍に立てり 3爰にイスラエルの神の榮光その居るところのケルブの上より起あがりて家の閾にいたり彼の布の衣を着て腰に筆記人の墨盂をおぶる者を呼ぶ 4時にヱホバかれに言たまひけるは邑の中ヱルサレムの中を巡れ而して邑の中に行はるるところの諸の憎むべき事のために歎き哀しむ人々の額に記號をつけよと 5我聞に彼またその他の者等にいひたまふ彼にしたがひて邑を巡りて擊てよ汝等の目人を惜み見るべからず憐れむべからず 6老人も少者も童女も孩子も婦人も悉く殺すべし然ど身に記號ある者には觸べか

らず先わが聖 所より始めよと彼等すなはち家の前にをりし老人より始む 7彼またかれらに言たまふ家を汚し死人をもて庭に充せよ汝等往けよと彼等すなはち出ゆきて邑の中に人を撃つ 8彼等人を撃ちける時我遺されたれば俯伏て叫び言ふ嗚呼主ヱホバよ汝 怒をヱルサレムにもらしてイスラエルの殘餘者を悉くほろぼしたまふや 9彼われに言たまひけるはイスラエルとユダの家の罪 甚だ大なり國には血盈ち邑には邪曲充つ即ち彼等いふヱホバは此地を棄てたりヱホバは見ざるなりと 10然ば亦わが目かれらを惜み見ず我かれらを憐まじ彼らの行ふところを彼等の首に報いん 11時にかの布の衣を着て腰に筆記人の墨盂をおぶる人復 命まをして言ふ汝が我に命じたまひしごとく爲たりと

第十章

1茲に我見しにケルビムの首の上なる穹蒼に青玉のごときものありて寶位の形に見ゆ彼そのケルビムの上にあらはれたまひて 2かの布の衣を着たる人に告て言たまひけるはケルビムの下なる輪の間に入りて汝の手にケルビムの 間の炭火を盈し之を邑に散すべしとすなはち吾目の前にて其處に入しが 3其人の入る時ケルビムは家の右に立をり雲その内庭に盈り 4茲にヱホバの榮光ケルブの上より昇りて家の閾にいたる又家には雲滿ちその庭にはヱホバの榮光の輝光盈てり 5時にケルビムの羽音外庭に聞ゆ全能の神の言語たまふ聲のごとし 6彼布の衣を着たる人に命じて輪の間ケルビムの間より火を取れと言たまひければ即ち入りて輪の傍に立ちけるに 7一のケルブその手をケルビムの間より伸てケルビムの間の火を取り之をかの布の衣を着たる人の手に置れたれば彼これを取りて出づ 8ケルビムに人の手の形の者ありて其 翼の下に見ゆ 9我見しにケルビムの 側 に四箇の輪あり此ケルブにも一箇の輪あり彼ケルブにも一箇の輪あり輪の式は黄金色の玉のごとくに見ゆ 10その式は四箇みな同じ形にして輪の中に輪のあるがごとし 11その行ときは四方に行く行にまはることなし首の向ふところに從ひ行く行にまはることなし 12その全身その脊その手その翼および輪には四周に徧く目ありその四箇みな輪あり 13我聞に轉回れと輪にむかひてよばはるあり 14其は各々四の面あり第一の面はケルブの面第二の面は人の面第三のは獅子の面第四のは鷲の面なり 15ケルビムすなはち昇れり是わがケバル河の邊にて見たるところの生物なり 16ケルビムの行く時は輪もその傍 に行きケルビム翼をあげて地より飛上る時は輪またその 傍 を離れず 17その立つときは立ちその上る時は倶に上れりその生物の靈は其等の中にあり 18時にヱホバの榮光家の閾より出ゆきてケルビムの上に立ちければ 19ケルビムすなはちその翼をあげ出ゆきてわが目の前にて地より飛のぼれり輪はその 傍 にあり而して遂にヱホバの家の東の門の入口にいたりて止るイスラエルの神の榮光その上にあり 20是すなはち吾がケバル河の邊にてイスラエルの神の下に見たるところの生物なり吾そのケルビムなるを知れり 21是等には各々四宛の面あり各箇四の翼あり又人の手のごとき物その翼の下にあり 22その面の形は吾がケバル河の邊にて見たるところの面なりその姿も身も然り各箇その面にしたがひて行けり

第十一章

1茲に靈我を擧げてヱホバの室の東の門に我を携へゆけり門は東に向ふ視るにその門の入口に二十五人の人あり我その中にアズルの子ヤザニヤおよびベナヤの子ペラテヤ即ち民の牧伯等を見る 2彼われに言たまひけるは人の子よ此邑において惡き事を考へ惡き計 謀をめぐらす者は此人々なり 3彼等いふ家を建ることは近からず此邑は鍋にして我儕は肉なりと 4是故にかれらに預言せよ人の子よ預言すべし 5時にヱホバの靈わが上に降りて我にいひ給ひけるはヱホバかく言ふと言べしイスラエルの家よ汝等は斯いへり汝等の心におこる所の事は我これを知るなり 6汝等は此邑に殺さるる者を増し死人をもて街衢に充せり 7是故に主ヱホバ斯いふ汝等が邑の中に置くところのその殺されし者はすなはち肉にして邑は鍋なり然ど人邑の中より汝等を曳いだすべし 8汝等は刀劍を懼る我劍 を汝等にのぞましめんと主ヱホバいひたまふ 9我なんぢらを其中よりひき出し外國人の手に付して汝等に罰をかうむらすべし 10汝等は劍に踣れん我イスラエルの境にて汝等を罰すべし汝等は是によりてわがヱホバなるを知るにいたらん 11是は汝らの鍋とならず汝らはその中の肉たることを得ざるなりイスラエルの境にて我汝らに罰をかうむらすべし 12汝ら即ちわがヱホバなるを知にいたらん汝らはわが憲法に遵はずわが律法を行はずしてその周圍の外國人の慣例のごとくに事をなせり 13斯てわが預言しをる時にベナヤの子ペラテヤ死たれば我俯向に伏

て大聲に叫び嗚呼主ヱホバよイスラエルの遺餘者を 盡く滅ぼさんとしたまふやといふに 14ヱホバの言われに臨みていふ 15人の子よ汝の兄弟 汝の兄弟たる者は汝の親族の人々にして即ちイスラエルの全家全躰なりヱルサレムに居る人々は是にむかひて汝等は遠くヱホバをはなれて居れ此地はわれらの所有としてあたへらると言ふ 16是故に汝 言ふべしヱホバかく言ひたまふ我かれらを遠く逐やりて國々に散したればその往る國々に於て暫時の 間かれらの聖所となると 17是故に言ふべし主ヱホバかく言たまふ我なんぢらを 諸 の民の中より集へ汝等をその散されたる國々より聚めてイスラエルの地を汝らに與へん 18彼等は彼處に到りその 諸 の汚たる者とその 諸 の憎むべき者を彼處より取除かん 19我かれらに唯一の心を與へ新しき靈を汝らの衷に賦けん我かれらの身の中より石の心を取さりて肉の心を與へ 20彼らをしてわが憲法に遵はしめ吾律法を守りて之を行はしむべし彼らはわが民となり我はかれらの神とならん 21然どその汚れたる者とその憎むべき者の心をもておのれの心となす者等は我これが行ふところをその首に報ゆべし主ヱホバこれを言ふ 22茲にケルビムその翼をあぐ輪その 傍 にありイスラエルの神の榮光その上に在す 23ヱホバの榮光つひに邑の中より昇りて邑の東の山に立てり 24時に靈われを擧げ神の 靈に由りて異象の中に我をカルデヤに携へゆきて俘囚者の所にいたらしむ吾見たる異象すなはちわれを離れて昇れり 25かくて我ヱホバの我にしめしたまひし言を 盡く俘囚者に告たり

第十二章

1ヱホバの言また我にのぞみて云ふ 2人の子よ汝は背戻る家の中に居る彼等は見る目あれども見ず聞く耳あれども聞ず背戻る家なり 3然ば人の子よ移住の器具を備へかれらの目の前にて晝の中に移れ彼らの目の前にて汝の處より他の處に移るべし彼等は背戻る家なれども或は見て考ふることあらん 4汝 移住の器具のごとき器具を彼等の目の前にて晝の中に持いだせ而して移住者の出ゆくがごとく彼等の目の前にて宵の中に出ゆくべし 5即ちかれらの目の前にて壁をやぶりて之を其處より持いだせ 6彼らの目の前にてこれを肩に負ひ黒暗の中にこれを持いだすべし汝の面を掩へ地を見るなかれ我 汝を豫兆となしてイスラエルの家に示すなり 7我すなはち命ぜられしごとく爲し移住の器具のごとき器具を晝の中に持いだし又宵に手をもて壁をやぶり黒暗の中にこれを持いだし彼らの目の前にてこれを肩に負り 8明旦におよびてヱホバの言われに臨みて言ふ 9人の子よ背戻る家なるイスラエルの家 汝にむかひて汝なにを爲やと言しにあらずや 10汝かれらに言ふべし主ヱホバかく言たまふこの負荷はヱルサレムの君主および彼等の中なるイスラエルの全家に當るなり 11汝 また言ふべし我は汝等の豫兆なりわが爲るごとく彼等然なるべし彼等は擄へうつされん 12彼らの中の君主たる者黒暗のうちに物を肩に載て出ゆかん彼等壁をやぶりて其處より物を持いだすべし彼はその面を覆ひて土地を目に見ざらん 13我わが網を彼の上に打かけん彼はわが羅にかかるべし我かれをカルデヤ人の地に曳ゆきてバビロンにいたらしめん然れども彼はこれを見ずして其處に死べし 14凡て彼の四周にありて彼を助くる者およびその軍兵は皆我これを四方に散し刀刃をぬきて其後をおふべし 15吾がかれらを 諸 の民の中に散し國々に撒布さん時にいたりて彼らは我のヱホバなるをしるべし 16但し我かれらの中に僅少の人を遺して劍と饑饉と疫病を免れしめ彼らをしてそのおこなひし 諸 の憎むべき事をその到るところの民の中に述しめん彼等はわがヱホバなるを知るにいたらん 17ヱホバの言また我にのぞみて言ふ 18人の子よ汝發震て食物を食ひ戰慄と恐懼をもて水を飲め 19而してこの地の民に言べし主ヱホバ、ヱルサレムの民のイスラエルにをる者に斯いひたまふ彼等は懼れて食物を食ひ驚きて水を飲にいたるべし是はその地凡てその中に住る者の暴逆のために富饒をうしなひて荒地となるが故なり 20人の住る邑々は荒はて國は滅亡ぶべし汝等すなはち我がヱホバなるを知ん 21ヱホバの言われに臨みて言ふ 22人の子よイスラエルの國の中に汝等いふ日は延び默示はみな空しくなれりと是何の言ぞや 23是故に汝 彼等に言べし主ヱホバかくいひ給ふ我この言を止め彼等をして再びこれをイスラエルの中に言ことなからしめん即ち汝かれらに言へ其日とその 諸 の默示の言は近づけりと 24イスラエルの家には此後重ねて空浮き默示と虚僞の占卜あらざるべし 25夫我はヱホバなり我わが言をいださん吾いふところは必ず成んかさねて延ることあらじ背戻る家よ汝等が世にある日に我 言を發して之を成すべし主ヱホバこれを言ふ 26ヱホバの言また我にのぞみて言ふ 27人の子よ視よイスラエルの家言ふ彼が見たる默示は許多の日の後の事に

して彼は遙後の事を預言するのみと 28是故にかれらに言ふべし主ヱホバかくいひたまふ我言はみな重ねて延ず吾がいへる言は成べしと主ヱホバこれを言ふなり

第十三章

1ヱホバの言われに臨みて言ふ 2人の子よ預言を事とするイスラエルの預言者にむかひて預言せよ彼のおのれの心のままに預言する者等に言ふべし汝らヱホバの言を聽け 3主ヱホバかくいひ給ふ彼の何をも見ずして己の心のままに行ふところの愚なる預言者は禍なるかな 4イスラエルよ汝の預言者は荒墟にをる狐のごとくなり 5汝等は破壞口を守らずまたイスラエルの家の四周に石垣を築きてヱホバの日に防ぎ戰はんともせざるなり 6彼らは虛浮者および虛妄の占卜を見る彼等はヱホバいひたまふと言ふといへどもヱホバはかれらを遣さざるなり然るに彼らその言の成らんことを望む 7汝らは空しき異象を見虛妄の占卜を宣べ吾が言ふことあらざるにヱホバいひ給ふと言ふにあらずや 8是故に主ヱホバかくいひたまふ汝等空虛き事を言ひ虛僞の物を見るによりて我なんぢらを罰せん主ヱホバこれをいふ 9我手はかの虛浮き事を見虛僞の事を卜ひいふところの預言者等に加はるべし彼等はわが民の會にをらずなりイスラエルの家の籍にしるされずイスラエルの地にいることをえざるべし汝等すなはち吾のヱホバなるをしるにいたらん 10かれらは吾民を惑し平安あらざるに平安といふ又わが民の屏を築くにあたりて彼等灰砂をもて之を坼る 11是故にその灰砂を坼る者に是は圮るべしと言へ大雨くだらん雹よ降れ大風よ吹べし 12視よ屏は圮る然ば人々汝等が用ひて坼たる灰砂は何處にあるやと汝等に言ざらんや 13即ち主ヱホバかく言たまふ我憤恨をもて大風を吹せ忿怒をもて大雨を注がせ憤恨をもて雹を降せてこれを毀つべし 14我なんぢらが灰砂をもて坼たる屏を毀ちてこれを地に倒しその基礎を露にすべし是すなはち圮れん汝等はその中にほろびて吾のヱホバなるを知にいたらん 15斯われその屏とこれを灰砂にてぬれる者とにむかひてわが憤恨を洩しつくして汝等にいふべし屏はあらずなり又灰砂にてこれを坼る者もあらずなれりと 16是すなはちイスラエルの預言者等なり彼等はヱルサレムにむかひて預言をなし其處に平安のあらざるに平安の默示を見たりといへり主ヱホバこれをいふ 17人の子よ汝の民の女等の其心のままに預言する者に汝の面をむけ之にむかひて預言し 18言べし主ヱホバかくいひたまふ吾手の節々の上に小枕を縫つけ諸の大さの頭に帽子を造り蒙せて靈魂を獵んとする者は禍なるかな汝等はわが民の靈魂を獵て己の靈魂を生しめんとするなり 19汝等小許の麥のため小許のパンのために吾民の前にて我を汚しかの僞言を聽いるる吾民に僞言を陳て死べからざる者を死しめ生べからざる者を生しむ 20是故に主ヱホバかくいひたまふ我汝等が用ひて靈魂を獵ところの小枕を奪ひ靈魂を飛さらしめん我なんぢらの臂より小枕を裂とりて汝らが獵ところの靈魂を釋ち其靈魂を飛さらしむべし 21我なんぢらの帽子を裂き吾民を汝らの手より救ひいださん彼等はふたたび汝等の手に陷りて獵れざるべし汝らは吾ヱホバなるを知にいたらん 22汝等虛僞をもて義者の心を憂へしむ我はこれを憂へしめざるなり又汝等惡者の手を強くし之をしてその惡き道を離れかへりて生命を保つことをなさしめず 23是故に汝等は重ねて虛浮き物を見ることを得ず占卜をなすことを得ざるに至るべし我わが民を汝らの手より救ひいださん汝等すなはちわがヱホバなるを知にいたるべし

第十四章

1爰にイスラエルの長老の中の人々我にきたりて吾前に坐しけるに 2ヱホバの言われに臨みて言ふ 3人の子よこの人々はその偶像を心の中に立しめ罪に陷いるるところの障礙をその面の前に置なり我あに是等の者の求を容べけんや 4然ば汝かれらに告げて言ふべし主ヱホバかくいひたまふ凡そイスラエルの家の人のその心の中に偶像を立しめその面のまへに罪に陷いるるところの障礙を置きて預言者に來る者には我ヱホバその偶像の多衆にしたがひて應をなすべし 5斯して我イスラエルの家の人の心を執へん是かれら皆その偶像のために我を離れたればなり 6是故にイスラエルの家に言ふべし主ヱホバかくいひたまふ汝等悔い汝らの偶像を棄てはなるべし汝等面を回らしてその諸の憎むべき物を離れよ 7凡てイスラエルの家およびイスラエルに寓るところの外國人若われを離れてその偶像を心の中に立しめ其面の前に罪に陷るるところの障礙をおきて預言者に來りその心のままに我に求むる時は我ヱホバわが心のままにこれに應ふべし 8即ち我面をその人にむけこれを滅して兆象となし諺語となし之をわが民の中より絕さるべし汝等これによりて我がヱホバ

なるを知るにいたらん 9もし預言者 欺かれて言を出すことあらば我ヱホバその預言者を欺けるなり我かれの上にわが手を伸べ吾民イスラエルの中より彼を絶さらん 10彼等その罪を負ふべしその預言者の罪はかの問求むる者の罪のごとくなるべし 11是イスラエルの民をして重ねて我を離れて迷はざらしめ重ねてその 諸 の愆に汚れざらしめんため又かれらの吾民となり我の彼らの神とならんためなり主ヱホバこれをいふ 12ヱホバの言また我にのぞみて言ふ 13人の子よ國もし悖れる事をおこなひて我に罪を犯すことあり我手をその上に伸て其杖とたのむところのパンを打砕き饑饉を之におくりて人と畜とをその中より絶ことある時には 14其處にかのノア、ダニエル、ヨブの三人あるも只其 義 によりて己の生命を救ふことをうるのみなり主ヱホバこれをいふ 15我もし惡き獣を國に行めぐらしめて之を子なき處となし荒野となして其 獣のために其處を通る者なきに至らん時には 16主ヱホバ言ふ我は活く此三人そこにをるもその子 女を救ふことをえず只その身を救ふことを得るのみ國は荒野となるべし 17又は我 劍を國に臨ませて劍よ國を行めぐるべしと言ひ人と畜 をそこより絶さらん時には 18主ヱホバいふ我は活く此三人そこにをるもその子 女をすくふことをえず只その身をすくふことを得るのみ 19又われ疫 病を國におくり血をもてわが怒をその上にそそぎ人と畜をそこより絶さらん時には 20主ヱホバいふ我は活くノア、ダニエル、ヨブそこにをるもその子 女を救ふことをえず只その 義 によりて己の生命を救ふことを得るのみ 21主ヱホバかくいひたまふ然ばわが四箇の厳しき罰すなはち劍と饑饉と惡き獣 と疫 病をヱルサレムにおくりて人と畜をそこより絶さらんとする時は如何にぞや 22其中に逃れて遺るところの男子女子あり彼等 携へ去らるべし彼ら出ゆきて汝等の所 にいたらん汝らかれらの行爲と擧動を見ば吾がヱルサレムに災 をくだせし事につきて心をやすむるにいたるべし 23汝ら彼らの行爲と擧動を見ばこれがためにその 心 をやすむるにいたりわがこれに爲たる事は皆故なくして爲たるにあらざるなるをしるにいたらん主ヱホバこれを言ふ

第十五章

1ヱホバの言われに臨みて言ふ 2人の子よ葡萄の樹森の中にあるところの葡萄の枝なんぞ他の樹に勝るところあらんや 3其木物をつくるに用ふべけんや又人これを用ひて器 をかくる木釘を造らんや 4視よ是は火に投いれられて燃ゆ火もしその兩の端を燒くあり又その中間焦たらば爭でか物をつくるに勝べけんや 5是はその全かる時すらも物を造るに用ふべからざれば況て火のこれを焚焦したる時には爭で物をつくるに用ふべけんや 6是故に主ヱホバかく言たまふ我森の樹の中なる葡萄の樹を火になげいれて焚く如くにヱルサレムの民をも然するなり 7我面をかれらに向けて攻む彼らは火の中より出たれども火なほこれを燒つくすべし我面をかれらにむけて攻むる時に汝らは我のヱホバなるをしらん 8彼等悖逆る事をおこなひしに由て我かの地を荒地となすべし主ヱホバこれを言ふ

第十六章

1ヱホバの言また我にのぞみて言ふ 2人の子よヱルサレムに其憎むべき事等を示して 3言ふべし主ヱホバ、ヱルサレムに斯いひたまふ汝の起本 汝の誕生はカナンの地なり汝 の父はアモリ人 汝の母はヘテ人なり 4汝の誕生を言んに汝の生れし日に汝の臍帯を斷ことなく又水にて汝を洗ひ潔むることなく鹽をもて汝を擦ることなく又布に裹むことなかりき 5一人も汝を憐み見 憫をもて是等の事の 一をも汝になせし者なし汝の生れたる日に人 汝の生命を忌て汝を野原に棄たり 6我 汝のかたはらを通りし時 汝が血の中にをりて踐るるを見 汝が血の中にある時 汝に生よと言り即ち我なんぢが血の中にある時に汝に生よといへり 7我野の百卉のごとくに汝を増して千萬となせり汝は生長て大きくなり美しき姿となるにいたり乳は堅くなり髪は長たりしが衣なくして裸なりき 8茲に我 汝の 傍 を通りて汝を見に今は汝の時 汝の愛せらるべき時なりければ我衣服の裾をもて汝を覆ひ汝の恥るところを蔽し而して汝に誓ひ汝に契約をたてたり汝すなはち吾所屬となれり主ヱホバこれを言ふ 9斯て我水をもてなんぢを洗ひ 汝の血を滌ぎおとして膏を汝にぬり 10文繍あるものを着せ皮の鞋を穿たしめ細布を蒙らせ絹をもて汝の身を罩めり 11而して飾 物をもて汝をかざり腕環をなんぢの手にはめ金索を汝の項にかけしめ 12鼻には鼻環 耳には耳環 首には華美なる冠冕をほどこせり 13汝すなはち金銀をもて身を飾り細布と絹および文 繍をその衣服となし麥粉と蜜と油とを食へり汝は甚だ美しくして遂に榮えて王の權勢に進みいたる 14汝の美 貌のために汝の名は國々にひろま

れり是わが汝にほどこせしわれの飾物によりて汝の美麗
極りたればなり主ヱホバこれを言ふ 15然るに汝その
美麗を恃み汝の名によりて姦淫をおこなひ凡て其 傍を
過る者と縦恣に姦淫をなしたり是その人の所屬となる 16
汝 おのれの衣服をとりて崇 邱を彩り作りその上に姦淫
をおこなへり是爲べからず有べからざる事なり 17汝はわ
が汝にあたへし金銀の飾の品を取り男の像を造りて之と
姦淫をおこなひ 18汝の繡 衣を取りて之に纏ひ吾の膏と
香をその前に陳へ 19亦わが汝にあたへし我の食物我が用
ひて汝をやしなふところの麥粉 油および蜜を其前に陳へ
て馨しき香氣となせり是事ありしと主ヱホバいひ給ふ 20
汝 またおのれの我に生たる男子女子をとりてこれをその
像にそなへて食はしむ汝が姦淫なほ小き事なるや 21汝わ
が子等を殺し亦火の中を通らしめてこれに献ぐ 22汝その
諸 の憎むべき事とその姦淫とをおこなふに當りて汝が
若かりし日に衣なくして裸なりしことおよび汝が血のう
ちにをりて蹈れしことを想はざるなり 23主ヱホバまた言
たまふ汝は 禍 なるかな 禍 なるかな 24汝その 諸 の惡を
おこなひし後街衢街衢に 樓 をしつらひ臺を造り 25また
路の辻々に臺をつくりて汝の美麗を汚辱むることを爲し
凡て 傍 を過るところの者に足をひらきて大に姦淫をお
こなふ 26汝かの肉の大なる汝の隣 人エジプトの人々と
姦淫をおこなひ大に姦淫をなして我を怒らせたれば 27我
手を汝の上にのべて汝のたまはる分を減し彼の汝を惡み
汝 の淫なる行爲を羞るところのペリシテ人の女等の心に
汝 をまかせたり 28然るに汝は厭ことなければ亦アツスリ
ヤの人々と姦淫をおこなひしが之と姦淫をおこなひたる
も尚厭ことなかりき 29汝また大に姦淫をおこなひてカナ
ンの國カルデヤに迄およびしが是にても尚厭ことなし 30
主ヱホバいひたまふ汝の心 如何に戀 煩ふにや汝この 諸
の事を爲り是氣隨なる遊女の行爲なり 31汝 道の辻々に
樓 をしつらひ衢 々に臺を造りしが金錢を輕んじたれば
娼妓のごとくならざりき 32夫淫婦はその夫のほかに他人
と通ずるなり 33人は凡て娼妓に物を贈るなるに汝はその
諸 の戀人に物をおくり且 汝と姦淫せんとて四方より 汝
に來る者に報金を與ふ 34汝は姦淫をおこなふに當りて他
の婦と反す即ち人 汝を戀求むるにあらざるなり汝 金錢
を人にあたへて人金錢を汝にあたへざるは是その相反す
るところなり 35然ば娼妓よヱホバの言を聽け 36主ヱホバ
かく言たまふ汝 金銀を撒散し且 汝の戀人と姦淫して 汝
の恥 處を露したるに由り又 汝の憎むべき 諸 の偶像と 汝
が之にささげたる汝の子等の血の故により 37視よ我 汝が
交れる 諸 の戀人および凡て汝が戀たる者 並に凡て汝が
惡みたる者を集め四方よりかれらを汝の所に集め汝の
恥 處 を彼らに現さん彼ら汝の恥 處を 悉く見るべし 38
我姦淫を爲せる婦および血をながせる婦を鞫くがごとく
に汝を鞫き汝をして忿怒と嫉妬の血とならしむべし 39我
汝 を彼等の手に付せば彼等 汝の 樓 を毀ち汝の臺を倒し
なんぢの衣服を褫取り汝の美しき飾を奪ひ汝をして衣服
なからしめ裸にならしむべし 40彼等群衆をひきゐて汝の
所 にのぼり石をもて汝を擊ち劍をもて汝を切さき 41火を
もて汝の家を焚き多くの婦女の目の前にて汝を鞫かん斯
われ汝をして姦淫を止しむべし汝は亦ふたたび金錢をあ
たふることなからん 42我ここに於て汝に對するわが怒を
息め汝にかかはるわが嫉妬を去り心をやすんじて復怒ら
ざらん 43主ヱホバいひたまふ汝その若かりし日の事を
記憶えずしてこの 諸 の事をもて我を怒らせたれば視よ
我も汝の行ふところを汝の首に報ゆべし汝その 諸 の憎
むべき事の上に此惡事をなしたるにあらざるなり 44視よ
諺語をもちふる者みな汝を指てこの 諺 を用ひ言ん母の
ごとくに女も然りと 45汝の母はその夫と子女を棄たり 汝
はその女なり汝の姉妹はその夫と子女を棄たり汝はその
姉妹なり汝の母はヘテ人 汝の父はアモリ人なり 46汝の姉
はサマリヤなり彼その女子等とともに汝の左に住む汝の
妹 はソドムなり彼その女子等とともに汝の右に住む 47
汝 は只少しく彼らの道に歩み彼らの憎むべきところの
事等を行ひしのみにあらず汝の爲る事は皆かれらのより
も惡かりき 48主ヱホバ言たまふ我は活く汝の妹ソドムと
其女子らが爲しところは汝とその女子らが爲しところの
如くはあらざりき 49汝の妹ソドムの罪は是なり彼は傲り
食物に飽きその女子らとともに安泰にをり而して難める
者と貧しき者を助けざりき 50かれらは傲りわが前に憎む
べき事をなしたれば我見てかれらを掃ひ除けり 51サマリ
ヤは汝の罪の半分ほども罪を犯さざりき汝は憎むべき
事等を彼らよりも多く行ひ増し汝の爲たる 諸 の憎むべ
き事のために汝の姉妹等をして義きが如くならしめたり
52然ば汝が曾てその姉妹等の蒙るべき者と定めたるとこ
ろの恥辱を汝もまた蒙れよ汝が彼等よりも多くの憎むべ
き事をなしたるその罪の爲に彼等は汝よりも義くなれり
然ば汝も 辱 を受け恥を蒙れ是は汝その姉妹等を義き者

となしたればなり 53我ソドムとその女等の俘囚をかへしサマリヤとその女等の俘囚をかへさん時に其と同じ擄はれたる汝の俘囚人を歸し 54汝をして恥を蒙らしめ汝が凡て爲たるところの事を羞しむべし汝かく彼らの慰となら ん 55汝の姉妹ソドムとその女子等は舊の様に歸りサマリヤとその女子等は舊の様に歸らん又 汝と汝の女子等も舊の様にかへるべし 56汝はその驕傲れる日には汝の姉妹ソドムの事を口に述ざりき 57汝の惡の露れし時まで即ちスリアの女子等と凡て汝の周圍の者ペリシテ人の女 等が四方より汝を嬲りて辱しめし時まで汝は是のごとくなりき 58ヱホバいひたまふ汝の淫なる行爲と汝のもろもろの憎むべき事とは汝みづからこれを身に負ふなり 59主ヱホバかく言たまふ誓言を輕んじて契約をやぶりたるところの汝には我 汝の爲るところにしたがひて爲べし 60我 汝の若かりし日に汝になせし契約を記憶え汝と限りなき契約をたてん 61汝その姉妹の汝より大なる者と小き者とを得る時にはおのれの行爲をおぼえて羞ん彼等は 汝の契約に屬する者にあらざれども我かれらを汝にあたへて女となさしむべし 62我 汝と契約をたてん汝すなはち吾のヱホバなるを知にいたらん 63我なんぢの凡て行ひしところの事を赦す時には汝 憶えて羞ぢその恥辱のために再び口を開くことなかるべし主ヱホバこれを言ふ

第十七章

1爰にヱホバの言 我にのぞみて言ふ 2人の子よ汝イスラエルの家に謎をかけ譬言を語りて 3言べし主ヱホバかく言たまふ大なる翼 長き羽ありて種々の色の毛の滿たる大鷲レバノンに來りて香柏の梢を採り 4其芽の 巔 を摘みカナンの地にこれを持きたりて商人の邑に置きけるが 5又その地の種をとりて之を種 田に播けりすなはち之を水の多き處にもちゆきて柳のごとくにこれを樹しに 6成長ちて丈卑き垂さがりたる葡萄樹となり其枝は鷲にむかひその根は鷲の下にあり遂に葡萄樹となりて芽をふき葉を出す 7此に又 大なる翼 多くの羽ある一箇の大鷲ありしがその葡萄樹根をこれにむかひて張り枝をこれにむかひて伸べ之をしてその植りたる地の外より水を灌がしめんとす 8抑　是を善き圃に多くの水の 旁 に植たるは根を張り實をむすびて盛なる葡萄樹とならしめんためなりき 9なんぢ主ヱホバかく言ふといふべし是旺盛になるや鷲その根を拔きその果を絕ちて之を枯しめざらんや其芽の若葉は皆枯ん之を根より擧るには強き腕と多くの人を用ふるにおよばざるなり 10是は樹られたれども旺盛にならんや東風これに當らば枯果ざらんや是その生たるところの地に枯べし 11ヱホバの言また我にのぞみて言ふ 12背ける家に言ふべし汝等此の何たるを知ざるかと又言へ視よバビロンの王ヱルサレムに來りその王とその牧伯等を執へてこれをバビロンに曳ゆけり 13彼また王の族の一人を取てこれと契約を立て誓言をなさしめ又國の強き者等を執へゆけり 14是この國を卑くして自ら立つことを得ざらしめその人をして契約を守りてこれを堅うせしめんがためなりき 15然るに彼これに背きて使者をエジプトに遣し馬と多くの人を己におくらしめんとせり彼旺盛にならんや是を爲る者逃るることをえんや彼その契約をやぶりたり爭で逃るることを得んや 16主ヱホバいひたまふ我は活く必ず彼は己を王となしたる彼王の處に偕にをりてバビロンに死べし彼その王の誓言を輕んじ其契約を破りたるなり 17夫壘を築き雲梯を建てて衆多の人を殺さんとする時にはパロ大なる軍勢と衆多の人をもて彼のために戰爭をなさじ 18彼は誓言を輕んじて契約を破る彼手を與へて却て此等の事をなしたれば逃るることを得ざるべし 19故に主ヱホバかく言たまふ我は活く彼が我の誓言を輕んじ我の契約をやぶりたる事を必ずかれの首にむくいん 20我わが網をかれの上にうちかけ彼をわが羅にとらへてバビロンに曳ゆき彼が我にむかひて爲しところの叛逆につきて彼を鞫くべし 21彼の諸の軍隊の逃脫者は皆 刀に仆れ生殘れる者は八方に散さるべし汝等は我ヱホバがこれを言しなるを知にいたらん 22主ヱホバかく言たまふ我高き香柏の梢 の一を取てこれを樹ゑその芽の 巔 より若芽を摘みとりて之を高き勝れたる山に樹べし 23イスラエルの高山に我これを植ん是は枝を生じ果をむすびて榮華なる香柏となり 諸 の類の鳥皆その下に棲ひその枝の蔭に住はん 24是に於て野の樹みな我ヱホバが高き樹を卑くし卑き樹を高くし綠なる樹を枯しめ枯木を綠ならしめしことを知ん我ヱホバこれを言ひ之を爲なり

第十八章

1ヱホバの言また我にのぞみて言ふ 2汝等なんぞイスラエルの地に於て此諺語を用ひ父等酸き葡萄を食ひたれば子等の齒齶くと言ふや 3主ヱホバいふ我は生く汝等ふたたびイスラエルに於てこの諺語をもちふることなかるべ

し 4夫凡の靈魂は我に屬す父の靈魂も子の靈魂も我に屬するなり罪を犯せる靈魂は死べし 5若人正義して公道と公義を行ひ 6山の上に食をなさず目をあげてイスラエルの家の偶像を仰がず人の妻を犯さず穢れたる婦女に近づかず 7何人をも虐げず質物を還し物を奪はずその食物を饑る者に與へ裸なる者に衣を着せ 8利を取て貸さず息を取ず手をひきて惡を行はず眞實の判斷を人と人の間になし 9わが法憲にあゆみ又吾が律例を守りて眞實をおこなはば是義者なり彼は生べし主ヱホバこれを言ふ 10然ど彼子を生んにその子暴き者にして人の血をながし是の如き事の一箇を行ひ 11是をば凡て行はずして山の上に食をなし人の妻を犯し 12惱める者と貧しき者を虐げ物を奪ひ質物を還さず目をあげて偶像を仰ぎ憎むべき事をおこなひ 13利をとりて貸し息を取ば彼は生べきや彼は生べからず彼この諸の憎むべき事をなしたれば必ず死べしその血はかれに歸せん 14又子生れんに其子父のなせる諸の罪を視しかども視て斯有ことを行はず 15山の上に食をなさず目をあげてイスラエルの家の偶像を仰がず人の妻を犯さず 16何人をも虐げず質物を存留めず物を奪はず饑る者にその食物を與へ裸なる者に衣を着せ 17その手をひきて惱める者を苦めず利と息を取ずわが律法を行ひわが法度に歩まば彼はその父の惡のために死ことあらじ必ず生べし 18その父は甚だしく人を掠めその兄弟を痛く虐げその民の中に善らぬ事をなしたるに由てその惡のために死べし 19しかるに汝等は子なんぞ父の惡を負ざるやと言ふ夫子は律法と公義を行ひわが凡ての法度を守りてこれを行ひたれば必ず生べし 20罪を犯せる靈魂は死べし子は父の惡を負ず父は子の惡を負ざるなり義人の義はその人に歸し惡人の惡はその人に歸すべし 21然ど惡人もしその凡て行ひしところの惡を離れわが諸の法度を守り律法と公義を行ひなばかならず生ん死ざるべし 22その爲しところの咎は皆記念られざるべしその爲し義き事のために彼は生べし 23主ヱホバ言たまふ我爭で惡人の死を好まんや寧ろ彼がその道を離れて生んことを好まざらんや 24若義人その義をはなれて惡を行ひ惡人の爲る諸の憎むべき事をなさば生べきや其なせし義き事は皆記念られざるべし彼はその爲る咎とその犯せる罪とのために死べし 25然るに汝等主の道は正しからずと言ふ然ばイスラエルの家よ聽け吾道正しからざるやその正しからざる者は汝らの道にあらずや 26若義人その義をはなれて惡を爲し其がために死ることあらば是その爲る惡のために死るなり 27若惡人その爲る惡をはなれて律法と公義を行はばその靈魂を生しむることをえん 28彼もし視てその行ひし諸の咎を離れなば必ず生ん死ざるべし 29然るにイスラエルの家は主の道は正しからずといふイスラエルの家よわが道正しからざるやその正しからざる者は汝らの道にあらずや 30主ヱホバいひ給ふ是故に我汝らをば各その道にしたがひて審くべし汝らその諸の咎を悔改めよ然らば惡汝らを躓かせて滅ぼすことなかるべし 31汝等その行ひし諸の罪を棄去り新しき心と新しき靈魂を起すべしイスラエルの家よ汝らなんぞ死べけんや 32我は死者の死を好まざるなり然ば汝ら悔て生よ主ヱホバこれを言ふ

第十九章

1汝イスラエルの君等のために哀の詞をのべて 2言ふべし汝の母なる牝獅は何故に牡獅の中に伏し小獅の中にその子を養ふや 3彼その一の子を育てたれば小獅となりて食を攫ことを學ひ遂に人を食へり 4國々の人これの事を聞きこれを陷阱にて執へ鼻環をほどこしてこれをエジプトの地にひきいたれり 5牝獅姑く待しがその望を失ひしを見たれば又一個の子を取てこれを小獅とならしむ 6是すなはち牝獅の中に歩みて小獅となり食を攫ことを學ひしが亦人を食ひ 7其寡婦をしりその邑々を滅せりその咆哮聲によりてその地とその中に盈る者荒たり 8是をもて四方の國人その國々より攻來り網をこれにうちかけ陷阱にてこれを執へ 9鼻環をほどこして籠にいれ之をバビロンの王の許に曳いたりて城の中に携へ入れ其聲を再びイスラエルの山々に聞えざらしむ 10汝の母は汝の血にして水の側に植たる葡萄樹のごとし水の多きがために結實多く蔓はびこれり 11是に強き枝ありて君王等の杖となすべし是の長は雲に至りその衆多の枝のために高く聳えて見へたり 12然るに是怒をもて拔れて地に擲たる東風その實を吹乾かしその強き枝は折れて枯れ火に焚る 13今これは荒野にて乾ける水なき地に植りてあり 14その枝の芽より火いでてその果を燒けば復強き枝の君王等の杖となるべき者其になし是哀の詞なり哀の詞となるべし

第二十章

1七年の五月十日にイスラエルの長老の中の人々ヱホバに問んとて來りてわが前に坐しけるに 2ヱホバの言我に

のぞみて云ふ 3人の子よイスラエルの長老等に告て之にいふべし主ヱホバかく言ふ汝等我に問んとて來れるや主ヱホバいふ我は活く我汝らの問を容じと 4汝かれらを鞫かんとするや人の子よ汝かれらを鞫かんとするや彼等の先祖等のなしたる憎むべき事等をかれらに知しめて 5言べし主ヱホバかくいふ我イスラエルを選みヤコブの家の裔にむかひてわが手をあげエジプトの地にて我をかれらに知せかれらにむかひて吾手をあげて我は汝らの神ヱホバなりと言し日 6その日に我かれらにむかひて吾手をあげエジプトの地よりかれらをいだし吾がかれらのために求め得たるその乳と蜜の流るる地に導かんとせり是諸の地の中の美しき者なり 7而して我かれらに言けらく各人その目にあるところの憎むべき事等を棄てよエジプトの偶像をもてその身を汚すなかれ我は汝らの神ヱホバなりと 8然るに彼らは我に背きて我に聽したがふことを好まざりき彼等一人もその目にあるところの憎むべき者を棄てずエジプトの偶像を棄てざりしかば我エジプトの地の中において吾憤恨をかれらに注ぎわが忿怒をかれらに洩さんと言り 9然れども我わが名のために事をなして彼らをエジプトの地より導きいだせり是吾名の異邦人等の前に汚されざらんためなりその異邦人等の中に彼等居り又その前にて我おのれを彼等に知せたり 10すなはち我エジプトの地より彼等を導き出して曠野に携ゆき 11わが法憲をこれに授けわが律法をこれに示せり是は人の行ひて之に由て生べき者なり 12我また彼らに安息日を與へて我と彼らの間の徴となしかれらをして吾ヱホバが彼らを聖別しを知しめんとせり 13然るにイスラエルの家は曠野にて我に背き人の行ひて之によりて生べき者なるわが法度にあゆまず吾が律法を輕んじ大に吾が安息日を汚したれば曠野にてわが憤恨をかれらに注ぎてこれを滅さんと言ひたりしが 14我わが名のために事をなせり是わが彼らを導きいだして見せしところの異邦人等の目のまへにわが名を汚されざらしめんためなりき 15但し我曠野にて彼らにむかひて吾手をあげ彼らをわが與へしその乳と蜜の流るる地に導かじと誓へり是は諸の地の中の美しき者なり 16是かれら心にその偶像を慕ひてわが律法を輕んじ棄てわが法憲にあゆまずわが安息日を汚したればなり 17然りといへども吾かれらを惜み見てかれらを滅ぼさず曠野にて彼らを絕さざりき 18我曠野にてかれらの子等に言り汝らの父の法度にあゆむなかれ汝らの律法を守るなかれ汝らの偶像をもて汝らの身を汚すなかれ 19我は汝らの神ヱホバなり吾法度にあゆみ吾律法を守りてこれを行ひ 20わが安息日を聖くせよ是は我と汝らの間の徴となりて汝らをして我が汝らの神ヱホバなるを知しめんと 21然るにその子等我にそむき人の行ひてこれによりて活べき者なるわが法度にあゆまず吾律法をまもりて之をおこなはずわが安息日を汚したれば我わが憤恨を彼らにそそぎ曠野にてわが忿怒をかれらに洩さんと言たりしが 22吾手を翻してわが名のために事をなせり是わが彼らを導き出して見せしところの異邦人等の目のまへにわが名を汚されざらしめんためなりき 23但し我汝らを國々に散し處々に撒んと曠野にてかれらにむかひて我手を擧たり 24是かれらわが律法を行はずわが法度を輕じわが安息日をけがしその父の偶像を目に慕ひたればなり 25我かれらに善らぬ法度を與へかれらが由て活べからざる律法を與へ 26彼らをしてその禮物によりて己の身を汚さしむ即ちかれらその長子をして火の中を通過しめたり是は我彼らを滅し彼らをして我のヱホバなるを知しめんためなり 27然ば人の子よイスラエルの家につげて之にいふべし主ヱホバかくいひたまふ彼らの父等は更にまた不忠の罪ををかし我を瀆せり 28我わが彼らに與へんと手をあげし此地にかれらを導きいれしに彼ら諸の高丘と諸の茂樹を尋ね得てその犧牲を其處に供へその憤らしき禮物をそこに獻げその馨しき佳氣をそこに奉つりその神酒をそこに灌げり 29我かれらに言り汝らが往ところの崇き處は何なるやと其名は今日にいたるまでバマと言ふなり 30この故にイスラエルの家に言ふべし主ヱホバかくいひたまふ汝らの先祖の途をもて汝らはその身を汚し彼等の憎むべき物をしたひてこれと姦淫を行ふにあらずや 31汝等はその禮物を獻げその子女に火の中を通らしめて今日にいたるまで汝らの諸の偶像をもてその身を汚すなり然ばイスラエルの家よ我なんぢらの問を容るべけんや主ヱホバいふ我は活く我は汝らの問を容ざるなり 32汝ら我儕は木と石に事へて異邦人の如くなり國々の宗族のごとくならんと言ば汝らの心に起るところの事は必ず成ざるべし 33主ヱホバいふ我は生く我かならず強き手と伸たる腕をもて怒を注ぎて汝らを治めん 34我強き手と伸たる腕をもて怒を注ぎて汝らを國々より曳いだし汝らが散れたる處々より汝らを集め 35國々の曠野に汝らを導き其處にて面をあはせて汝らを鞫かん 36主ヱホバいふ我エジプトの曠野にて汝ら

の先祖等を鞫きしごとくに汝らを鞫くべし 37我なんぢらをして杖の下を通らしめ契約の索に汝らを入しめ 38汝らの中より背ける者および我に悖れる者を別たんその寓れる地より我かれらをいだすべし彼らはイスラエルの地に來らざるべし汝らすなはち我のヱホバなるを知ん 39然ばイスラエルの家よ主ヱホバかくいふ汝等おのおの往てその偶像に事へよ然ど後には汝らかならず我に聽て重てその禮物と偶像をもてわが名を汚さざるべし 40主ヱホバいふ吾が聖山の上イスラエルの高山の上にてイスラエルの全家その地の者皆我に事へん其處にて我かれらを悦びて受納ん其處にて我なんぢらの獻物および初成の禮物すべて汝らが聖別たる者を求むべし 41我汝らを國々より導き出し汝らが散されたる處々より汝らを集むる時馨しき香氣のごとくに汝らを悦びて受納れ汝らによりて異邦人等の目のまへに我の聖ことをあらはすべし 42我が汝らをイスラエルの地すなはちわが汝らの先祖等にあたへんと手をあげしところの地にいたらしめん時に汝等は我のヱホバなるを知るにいたらん 43汝らは其身を汚したるところの汝らの途と汝らのもろもろの行爲を彼處にて憶え其なしたる諸の惡き作爲のために自ら恨み視ん 44イスラエルの家よ我汝らの惡き途によらず汝らの邪なる作爲によらずして吾名のために汝等を待はん時に汝らは我のヱホバなるを知るにいたらん主ヱホバこれを言ふなり 45ヱホバの言また我にのぞみて言ふ 46人の子よ汝の面を南方に向け南にむかひて言を垂れ南の野の森の事を預言せよ 47すなはち南の森に言ふべしヱホバの言を聽け主ヱホバかく言ふ視よ我なんぢの中に火を燃さん是なんぢの中の諸の青樹と諸の枯木を焚べしその烈しき火焔消ることなし南より北まで諸の面これがために燒ん 48肉ある者みな我ヱホバのこれを燒しなるを見ん是は消ざるべし 49我是において言り嗚呼主ヱホバよ人われを指て言ふ彼は譬言をもて語るにあらずやと

第二十一章

1ヱホバの言われにのぞみて言ふ 2人の子よ汝の面をヱルサレムに向け聖き處々にむかひて言を垂れイスラエルの地にむかひて預言し 3イスラエルの地に言ふべしヱホバかく言ふ視よ我汝を責め吾刀を鞘より拔はなし義者と惡者とを汝の中より絕ん 4我義者と惡者とを汝の中より絕んとすればわが刀鞘より脱出て南より北までの凡て肉ある者を責ん 5肉ある者みな我ヱホバのその刀を鞘より拔はなちしを知らん是は歸りをさまらざるべし 6人の子よ腰の碎くるまでに歎き彼らの目のまへにて痛く歎け 7人汝に何て歎くやと言ば汝言べし來るところの風聞のためなり心みな鎔け手みな痿え魂みな弱り膝みな水とならん視よ事いたれりかならず成ん主ヱホバこれを言ふ 8ヱホバの言我にのぞみて言ふ 9人の子よ預言して言ふべしヱホバかく言ふ劍あり研ぎ且磨きたる劍あり 10是は大に殺す事をなさんがために研てあり光り閃かんがために磨きてあり我子の杖は萬の樹を藐視ずとて我等喜ぶべけんや 11是を手に執んために與へて磨かしむ是劍は殺す者の手に付さんために之を研かつ磨かしむるなり 12人の子よ叫び哭け其は是わが民の上に臨みイスラエルの諸の牧伯等の上に臨めばなり彼らはわが民とともに劍に仆る故に汝腿を擊べし 13その試すでに成る若かの藐視ずるところの杖きたらずば如何ぞや主ヱホバこれを言ふ 14人の子よ汝預言し手を拍べし劍人を刺透すところの劍三倍に働かん是は人を刺透し大なる者を殺すところの劍にして彼らを責る者なり 15彼らの心を鎔し礙く物を增んがために我拔身の劍をその諸の門に立つ嗚呼是は光ひらめき脱いでて人を殺さんとす 16汝合して右に向へ進んで左に向へ汝の刃の向ふところに隨へ 17我また吾手を拍ちわが怒を靜めん我ヱホバこれを言ふなり 18ヱホバの言また我にのぞみて言ふ 19人の子よバビロンの王の劍の由て來るべき二の途を設けよ其二の途を一の國より出しめて道標の記號を畫き邑の途の首處にこれを畫くべし 20汝またアンモンの子孫のラバとユダの堅き城の邑ヱルサレムとに劍のきたるべき途を設けよ 21バビロンの王その道の首處その途の岐處に止りて占卜をなし箭を搖りテラピムに問ひ肝を察べをるなり 22彼の右にヱルサレムといふ占卜いづ云く破城槌を備へ口をひらきて喊き殺し聲をあげて吶喊を作り門にむかひて破城槌を備へ壘をきづき雲梯を建べしと 23是はかれらの目には虛僞の占考と見ゆ聖き誓言かれらに在ばなり然れども彼罪を憶ひおこさしむ即ちかれらは取るべし 24是故に主ヱホバかく言ふ汝らすでにその罪を憶おこさしめて汝らの愆著明になりたれば汝らの罪その諸の行爲に顯る汝ら既に憶いださるれば必ず手に執へらるべし 25汝刺透さるる者罪人イスラエルの君主よ汝の罪その終を來らしめて汝の罰せらるる日至る 26主ヱホバかく言ふ冕旒を去り冠冕を除り離せ是は

是ならざるべし卑き者は高くせられ高き者は卑くせられん 27我 顚 覆をなし顚 覆をなし顚 覆を爲ん權威を持べき者の來る時まで是は有ことなし彼に我之を與ふ 28人の子よ汝 預言して言べし主ヱホバ、アンモンの子孫とその嘲笑につきて斯言ふと即ち汝 言べし劍あり劍あり是殺すことのために拔てあり滅すことのために磨きありて 光ひらめくなり 29人なんぢに虛淨を預言し汝に假僞の占考を示して汝をその殺さるる惡人の頸の上に置んとす彼らの罪その終を來らしめて彼らの罰せらるる日いたる 30これをその鞘にかへし納めよ汝の造られし處なんぢの生れし地にて我 汝を鞫き 31わが怒を汝に斟ぎ吾憤 恨の火を汝 にむかひて燃し狂暴人 滅すことに巧なる者の手に 汝を付すべし 32汝は火の薪となり汝の血は國の中にあらん汝 は重ねて憶えらるることなかるべし我ヱホバこれを言ばなり

第二十二章

1ヱホバの言われに臨みて言ふ 2人の子よ汝 鞫かんとするや此血を流すところの邑を鞫かんとするや汝これにその諸 の憎むべき事を示して 3言へ主ヱホバかく言ふ己の中に血を流してその罰せらるる時を來らせ己の中に偶像を作りてその身を汚すところの邑よ 4汝はその流せる血によりて罪を得その作れる偶像をもて身を汚し汝の日を近づかせすでに汝の年にいたれり是故に我 汝を國々の嘲 とならしめ萬國の笑とならしむべし 5汝に近き者も遠き者も汝が名の汚れたると混亂の多きとを笑はん 6視よイスラエルの君等 各 その力にしたがひて血を流さんと汝の中にをる 7彼ら汝の中にて父母を賤め汝の中にて他國の人を虐げ汝の中にて孤兒と寡婦を惱ますなり 8 汝わが聖き物を賤めわが安息日を汚す 9人を譖づる者血を流さんと汝の中にあり人 汝の中にて山の上に食をなし汝 の中にて邪淫をおこなひ 10汝の中にてその父の妻に交 り汝の中にて月經のさはりに穢れたる婦女を犯す 11又汝 の中にその鄰の妻と憎むべき事をおこなふものあり邪淫をおこなひてその嫁を犯すものありその父の女なる己 の姊 妹を犯すものあり 12人 汝の中にて賄賂をうけて血を流すことをなすなり汝は利と息を取り汝の隣の物を掠め取り又我を忘る主ヱホバこれを言ふ 13見よ我 汝が掠めとる事をなし且血を汝の中に流すによりて我手を拍つ 14我が汝を攻る日には汝の心 堅く立ち汝の手強くあることを得んや我ヱホバこれを言ひこれをなすなり 15我 汝を異邦の中に散し國々の中に播き全く汝の汚穢を取のぞくべし 16汝は己の故によりて異邦人の目に汚れたる者と見えん而して汝 我のヱホバなるを知べし 17ヱホバの言また我にのぞみて言ふ 18人の子よイスラエルの家は我に渣滓のごとくなれり彼等は凡て爐の中の 銅 錫 鐵 鉛のごとし彼らは 銀 の渣滓のごとく成れり 19此故に主ヱホバかく言ふ汝らは皆渣滓となりたれば視よ我なんぢらをエルサレムの中に集む 20人の 銀 銅 鐵 鉛 錫を爐の中に集め火を吹かけて鎔すが如く我 怒と 憤 をもて汝らを集め入て鎔すべし 21即ち我 汝らを集め吾 怒の火を汝らに吹かけん汝らはその中に鎔ん 22 銀 の爐の中に鎔るがごとくに汝らはその中に鎔け我ヱホバが怒を汝らに斟ぎしを知にいたらん 23ヱホバの言われに臨みて言ふ 24人の子よ是に言ふべし汝は怒の日に日も照らず雨もふらざる地なり 25預言者等の徒黨その中にありその食を撕くところの吼ゆる獅子のごとくに彼らは靈魂を呑み財寶と貴き物を取り寡婦をその中に多くす 26その祭司等はわが法を犯しわが聖き物を汚し聖きと聖からざるとの區別をなさず潔 きと穢たるとの差別を敎へずその目を掩ひてわが安息日を顧みず我はかれらの中に汚さる 27その中にある公伯等は食を撕くところの豺狼のごとくにして血をながし靈魂を滅し物を掠めとらんとす 28その預言者等は灰砂をもて是等を塗り虛浮物を見 僞の占卜を人になしヱホバの告あらざるに主ヱホバかく言たまふと言ふなり 29國の民は暴虐をおこなひ奪ふ事をなし難める者と貧き者を掠め道に反きて他國の人を虐ぐ 30我一箇の人の國のために石垣を築き我前にあたりてその破壞處に立ち我をして之を滅さしめざるべき者を彼等の中に尋れども得ざるなり 31主ヱホバいふ是故に我わが怒を彼らに斟ぎわが 憤の火をもて彼らを滅し彼らの行爲をその首に報ゆ

第二十三章

1ヱホバの言われに臨みて言ふ 2人の子よ爰に二人の婦女あり一人の母の女子なり 3彼等エジプトにおいて淫を 行ひその少き時に淫を行へり即ち彼處において人かれらの乳を拈り彼處においてその處女の乳房に觸る 4その名は姊はアホラ妹はアホリバと云ふ彼ら我に歸して男子女子を生り彼らの本 名はアホラはサマリヤと言ひアホリバはヱルサレムと云ふなり 5アホラは我有たる間に淫を行ひ

てその戀人等に焦れたり是すなはちその隣なるアツスリヤ人にして 6 紫の衣を着る者牧伯たる者督宰たる者なり是等は皆美麗き秀でたる人馬に乘る者なり 7 彼凡てアツスリヤの秀でたる者と淫を行ひ且その焦れたる諸の者すなはちその諸の偶像をもてその身を汚せり 8 彼またエジプトよりの淫行を捨ざりき即ち彼の少き時に彼ら彼と寢ねその處女の乳房にさはりその淫慾を彼の身の上に洩せり 9 是故に我彼をその戀人の手に付しその焦れたるアツスリヤの子孫の手に付せり 10 是に於て彼等かれの陰所を露しその子女を奪ひ劍をもて彼を殺して婦人の中にその名を聞えしめその身の上に鞫を行へり 11 彼の妹アホリバこれを見彼よりも甚だしくその慾を縱恣にしその姊の淫行よりもましたる淫行をなし 12 その隣なるアツスリヤの人々に戀焦れたり彼らはすなはち牧伯たる者督宰たる者華美に粧ひたる者馬に騎る者にして皆美しき秀でたる者なり 13 我かれがその身を汚せしを見たり彼らは共に一の途をあゆめり 14 彼その淫行を増り彼壁に彫つけたる人々を見たり是すなはち朱をもて壁に彫つけたるカルデヤ人の像にして 15 腰には帶を結び首には垂さがれる帓巾を戴けり是等は皆君王たる者の形ありてその生れたる國なるカルデヤのバビロン人に似たり 16 彼その目に是等を見てこれに戀焦れ使者をカルデヤにおくりて之にいたらしむ 17 是に於てバビロンの人々彼の許にきたりて戀の床に就きその淫行をもて彼を汚したりしが彼らにその身を汚さるるにおよびて彼その心にかれらを疎んず 18 彼その淫行を露しその陰所を顯したれば我心彼を疎んず吾心かれの姊を疎んじたるがごとし 19 彼その淫行を増しその少き日にエジプトに於て淫をおこなひし事を憶え 20 彼らの戀人に焦るその人の肉は驢馬の肉のごとく其精は馬の精のごとし 21 汝は己の少き時にエジプト人が汝の處女の乳房のために汝の乳にさはりたる時の淫行を顧みるなり 22 この故に主ヱホバかく言ふアホリバよ我汝が心に疎んずるに至りしところの戀人等を激して汝を攻しめ彼らをして四方より汝に攻きたらしむべし 23 即ちバビロンの人々およびカルデヤの諸の人々ペコデ、シヨワ、コア並にアツスリヤの諸の人々美しき秀でたる人々牧伯等および督宰等大君および名高き人凡て馬に騎る者 24 鋒車および輪を持ち衆多の民をひきゐて汝に攻め來り大楯小楯および兜をそなへて四方より汝に攻かからん我裁判をかれらに委ぬべし彼らすなはち其律法によりて汝を鞫かん 25 我汝にむかひてわが嫉妬を發すれば彼ら怒をもて汝を待ひ汝の鼻と耳を切とるべし汝のうちの存れる者は劍に仆れん彼ら汝の子女を奪ふべし汝の中の殘れる者は火に燒ん 26 彼ら汝の衣を剝脫り汝の美しき妝飾を取べし 27 我汝の淫行を除き汝がエジプトの地より行ひ來れるところの邪淫を除き汝をして重て彼らに目をつけざらしめ再びエジプトの事を憶はざらしめん 28 主ヱホバかく言ふ視よ我汝が惡む者の手汝が心に疎ずる者の手に汝を付せば 29 彼ら怨憎をもて汝を待ひ汝の得たる物を盡く取り汝を赤裸に成おくべし是をもて汝が淫をおこなへる陰所露にならん汝の淫行と邪淫もしかり 30 汝異邦人を慕ひて淫をおこなひ彼らの偶像をもて身を汚したるに由て是等の事汝におよぶなり 31 汝その姊の途に歩みたれば我かれの杯を汝の手に交す 32 主ヱホバかく言ふ汝その姊の深き大なる杯を飲べし是は笑と嘲を充す者なり 33 醉と憂汝に滿ちん汝の姊サマリヤの杯は駭異と滅亡の杯なり 34 汝これを飲み乾しこれを吸つくしその碎片を咬み汝の乳房を摘去ん我これを言ふと主ヱホバ言ふ 35 然ば主ヱホバかく言ふ汝我を忘れ我を後に棄たれば汝またその淫行と邪淫の罪を負べし 36 斯てヱホバ我にいひたまふ人の子よ汝アホラとアホリバを鞫かんとするや然らば彼らにその憎むべき事等を示せ 37 夫彼らは姦淫をおこなへり又血その手にあり彼らその偶像と姦淫をおこなひ又その我に生たる男子等に火の中をとほらしめてこれを燒り 38 加之また是をなせり即ち彼ら同日にわが聖處を汚しわが安息日を犯せり 39 彼らその偶像のために男子等を宰りしその日にわが聖處に來りてこれを汚し斯わが家の中に事をなせり 40 且又彼らは使者をやりて遠方より人を招きて至らしむ其人々のために汝身を洗ひ目を畫き妝飾を着け 41 華美なる床に坐し臺盤をその前に備へその上にわが香とわが膏を置り 42 斯て群衆の喧噪その中に靜りしがその多衆の人々の上にまた曠野よりサバ人を招き寄たり彼らは手に腕環をはめ首に美しき冠を戴けり 43 我かの姦淫のために衰弱たる女の事を云り今は早彼の姦淫その姦淫をなしをはらんかと 44 彼らは遊女のところにいるごとくに彼の所に入たり斯かれらすなはち淫婦アホラとアホリバの所に入ぬ 45 義人等姦婦の律法に照し故殺の律法に照して彼らを鞫かん彼らは姦婦にしてまたその手に血あればなり 46 主ヱホバかく言ふ我群衆を彼等に攻きたらしめ彼らを是に付して虐と掠にあはし

めん 47群衆かれらを石にて撃ち剣をもて斬りその子 女を殺し火をもてその家を焼べし 48斯我この地に邪淫を絕さん婦女みな自ら警めて汝らのごとくに邪淫をおこなはざるべし 49彼ら汝らの邪淫の罪を汝らに報いん汝らはその偶像の罪を負ひ而して我の主ヱホバなるを知にいたるべし

第二十四章

1九年の十月 十日にヱホバの言 我にのぞみて言ふ 2人の子よ汝 此日すなはち今日の名を書せバビロンの王今日ヱルサレムを攻をるなり 3汝 背ける家に譬喩をかたりて之に言へ主ヱホバかく言たまふ釜を居ゑ居ゑてこれに水を斟いれ 4其肉の凡て佳き所を集めて股と肩とを之に入れ佳き骨をこれに充し 5羊の選擇者を取れ亦 薪 一束を取り下に入れて骨を煮釜を善く煮たて亦その中の骨を煮よ 6是故に主ヱホバかく言ふ 禍 なるかな血の流るる邑銹のつきたる釜 その銹これを離れざるなり肉を一箇一箇に取いだせ之がために籤を掣べからず 7彼の血はその中にあり彼乾ける磐の上にこれを置りこれを土にそそぎて塵に覆はれしめず 8我 怒を來らせ仇を復さんがためにその血を乾ける磐の上に置て塵に覆はれざらしめたり 9是故に主ヱホバかく言ふ 禍 なるかな血の流るる邑我またその薪 の束を大にすべし 10薪を積かさね火を燃し肉を善く煮てこれを煮つくしその骨をも燒しむべし 11而して釜を空にして炭火の上に置きその 銅 をして熱くなりて燒しめ其汚穢をして中に鎔しめその銹を去しむべし 12既に手を盡したれどもその大なる銹さらざればその銹を火に投棄べし 13汝の汚穢の中に淫行あり我 汝を淨めんとしたれども汝 淨まらざりしに因てわが怒を汝に洩しつくすまでは汝 その汚穢をはなれて淨まることあらじ 14我ヱホバこれを言り是至る我これを爲べし止ず惜まず悔ざるなり汝の道にしたがひ汝の行爲にしたがひて彼ら汝を鞫かん主ヱホバこれを言ふ 15ヱホバの言われに臨みて言ふ 16人の子よ我頓死をもて汝の目の喜ぶ者を取去ん汝 哀かず泣ず涙 をながすべからず 17聲をたてずして哀け死人のために哀哭をなすなかれ冠 物を戴き足に鞋を穿べし鬚を掩ふなかれ人のおくれる食 物を食ふべからず 18朝に我人々に語りしが夕にわが妻死ねり明 朝におよびて我命ぜられしごとくなせり 19茲に人々我に言けるは此 汝がなすところの事は何の意なるや我らに告ざるや 20我かれらに言けるはヱホバの言 我にのぞみて言ふ 21イスラエルの家にいふべし主ヱホバかく言ふ視よ我 汝らの勢力の榮 汝らの目の喜愛 汝らの心の望なるわが聖 所を汚さん汝らが遺すところの子 女 等は劍に仆れん 22汝らもわが爲るごとくなし鬚を覆はず人のおくれる食 物を食はず 23首に冠 物を戴 き足に履を穿き哀かず泣ずその罪の中に痩 衰へて 互に呻かん 24斯エゼキエル汝らに兆とならん彼がなしたるごとく汝ら爲ん是事の至らん時に汝ら我の主ヱホバなるを知べし 25人の子よわが彼らの力かれらの樂むところの榮 その目の喜愛その心の望その子 女を取去る日 26その日に逃亡者 汝の許に來り汝の耳に告ることあらん 27その日に汝 逃亡者にむかひて口を啓き語りて再び默せざらん斯 汝かれらに兆となるべし彼らは遂に我のヱホバなるを知ん

第二十五章

1ヱホバの言 我に臨みて言ふ 2人の子よ汝の面をアンモンの人々に向けこれに向ひて預言し 3アンモンの人々に言べし汝ら主ヱホバの言を聽け主ヱホバかく言ひたまふ汝わが聖 處の汚さるる事につきイスラエルの地の荒さるる事につき又ユダの家の擄へ移さるることにつきて嗚呼心地善しと言り 4是故に視よ我 汝を東方の人々に付して所有と爲さしめん彼等 汝の中に畜 圈を設け汝の中にその住宅を建て汝の作 物を食ひ汝の乳を飲ん 5ラバをば我駱駝を豢ふ地となしアンモンの人々の地をば羊の臥す 所となすべし汝ら我のヱホバなるを知にいたらん 6主ヱホバかく言たまふ汝イスラエルの地の事を見て手を拍ち足を蹈み傲慢を極めて心に喜べり 7是故に視よ我わが手を汝 に伸べ汝を國々に付して掠奪に遭しめ汝を國民の中より絕ち諸國に斷し滅すべし汝 我のヱホバなるを知るにいたらん 8主ヱホバかく言たまふモアブとセイル言ふユダの家は他の諸の國と同じと 9是故に我モアブの肩を闢くべし即ちその邑々その最遠の邑にして國の莊嚴なるベテエシモテ、バアルメオンおよびキリヤタイムよりこれを闢き 10之をアンモンの人々に添て東方の人々に與へその所有となさしめアンモンの人々をして國々の中に記憶らるること无しめん 11我モアブに鞫を行ふべし彼ら我のヱホバなるを知にいたらん 12主ヱホバかく言たまふエドムは怨恨をふくんでユダの家に事をなし且これに怨を復して大に罪を得たり 13是故に主ヱホバかく言たまふ我エド

ムの上にわが手を伸して其中より人と畜を絶去り之をテマンより荒地となすべしデダンの者は劍に仆れん 14我わが民イスラエルの手をもてエドムにわが仇を報いん彼らわが怒にしたがひわが 憤 にしたがひてエドムに行ふべしエドム人すなはち我が仇を復すなるを知ん主ヱホバこれを言ふ 15主ヱホバかく言たまふペリシテ人は怨を含みて事をなし心に傲りて仇を復し舊き恨を懷きて滅すことをなせり 16是故に主ヱホバかく言たまふ視よ我ペリシテ人の上に手を伸べケレテ人を絶ち海邊に遺れる者を滅すべし 17我 怒の罰をもて大なる復仇を彼らに爲ん我仇を彼らに復す時に彼らは我のヱホバなるを知べし

第二十六章

1十一年の月の首の日にヱホバの言 我にのぞみて言ふ 2人の子よツロはヱルサレムの事につきて言り嗚呼心地よし諸 の國民の門破る是我に移るならん我は豐滿になるべし彼は荒はてたりと 3是故に主ヱホバかく言たまふツロよ我 汝を攻め海のその波濤を起すが如く多くの國人を汝 に攻きたらしむべし 4彼らツロの石壘を毀ちその櫓を倒さん我その塵を拂ひ去りて是を乾ける磐と爲べし 5是は海の中の網を張る處とならん我これを言ばなりと主ヱホバいひたまふ是は諸 の國人に掠めらるべし 6その野にをる女子等は劍に殺されん彼らすなはち我のヱホバなるを知べし 7主ヱホバかく言たまふ視よ我王の王なるバビロンの王ネブカデネザルをして馬 車騎兵群衆および多くの民を率て北よりツロに攻きたらしむべし 8野にをる 汝の女子等をば彼 劍にかけて殺し又 汝にむかひて雲梯を建て汝にむかひて壘を築き汝にむかひて干を備へ 9 破城槌を汝の石垣に向けその斧をもて汝の櫓を打碎かん 10その衆多の馬の煙塵 汝を覆はん彼等敵れたる城に入るごとくに汝の門々に入來らん時その騎兵と輪と車の聲のために汝の石垣震動べし 11彼その馬の蹄をもて汝の 諸の衢を踏あらし劍をもて汝の民を殺さん汝の榮光の柱 地に仆るべし 12彼ら汝の財寶を奪ひ汝の商 貨を掠め汝の石垣を打崩し汝の樂き舘を毀ち汝の石と木と土を水に沈めん 13我 汝の歌の聲を止めん汝の琴の音は復聞えざるべし 14我 汝を乾ける磐となさん汝は網を張る處となり再び建ことなかるべし我ヱホバこれを言ふと主ヱホバ言たまふ 15主ヱホバ、ツロにかく言たまふ島々 汝の仆るる聲手負の呻吟 および汝の中の殺戮によりて震動ざらんや 16海の君主等皆その座を下り朝服を脫ぎ繡ある衣を去り恐懼を身に纏ひ地に坐し時となく怖れ汝の事を驚かん 17彼ら汝の爲に 哀 の詞を擧て汝に言ふべし汝 海より出たる住處名の高き邑自己もその居民も共に海に於て勢力ある者その凡の居民に己を恐れしむる者よ汝 如何にして亡びたるや 18それ島々は汝の仆るる日に震ひ海の島々は 汝の亡ぶるに驚くなり 19主ヱホバかく言たまふ我 汝を荒たる邑となし人の住はざる邑々のごとく爲し洋海を沸あがらしめて大水に汝を掩沒しめん時 20汝を墓に往る者等の所 昔時の民の所に下し汝をして下の國に住しめ古昔よりの墟址に於て彼の墓に下れる者等とともに居しめ汝の中に復人の住こと无らしむべし而して我活る人の地に 榮を創造いださん 21我 汝をもて人の戒懼となすべし汝は復有ることなし人 汝を尋るも終に汝を看ざるべし主ヱホバこれを言ふなり

第二十七章

1ヱホバの言また我に臨みて言ふ 2人の子よ汝ツロのために 哀 の詞を宣べ 3ツロに言べし汝 海の口に居りて 諸の國人の商人となり多衆の島々に通ふ者よ主ヱホバかく言たまふツロよ汝 言ふ我の美は極れりと 4汝の國は海の中にあり汝を建る者 汝の美を盡せり 5人セニルの樅をもて船板を作りレバノンより香柏を取て汝のために 檣 を作り 6バシヤンの樫をもて汝の槳を作りキッテムの島より至れる黃楊に象牙を嵌て汝の坐板を作れり 7汝の帆はエジプトより至れる文布にして旗に用ふべし汝の天遮はエリシヤの島より至れる藍と 紫 の布なり 8汝の水手はシドンとアルワデの人なりツロよ汝の中にある賢き者 汝の舵師となる 9ゲバルの老人等およびその賢き者 汝の中にをりて汝の漏を繕ひ海の 諸 の船およびその舟子 汝の中にありて汝の貨物を交易す 10ペルシヤ人ルデ人フテ人 汝の軍にありて汝の戰 士となる彼等 汝の中に干と兜を懸け 汝に光輝を與ふ 11アルワデの人々および汝の軍勢 汝の四周の石垣の上にあり勇士等 汝の檣にあり彼等 汝の四周の石垣にその楯をかけ汝の美を盡せり 12その 諸 の貨物に富るがためにタルシシ汝と商をなし銀 鐵 錫および鉛をもて汝と交易を爲り 13ヤワン、トバルおよびメセクは 汝の商賈にして人の身と 銅 の器をもて汝と貿易を行ふ 14トガルマの族 馬と騎馬および 騾 をもて汝と交易し 15デダンの人々 汝と 商 をなせり衆の島々 汝の手にありて

交易し象牙と黒檀をもて汝と貿易せり 16汝の製造品の多がためにスリア汝と商をなし赤玉 紫貨 繡 貨 細布 珊瑚および瑪瑙をもて汝と交易す 17ユダとイスラエルの地汝に商をなしミンニテの麥と菓子と蜜と油と乳香をもて汝と交易す 18汝の製造物の多がため諸の貨物の多きがためにダマスコ、ヘルボンの酒と曝毛をもて汝と交易せり 19ウザルのベダンとヤワン熟鐵をもて汝と交易す肉桂と菖蒲汝の市にあり 20デダン車の毛氈を汝に商へり 21アラビヤとケダルの君等とは汝の手に在りて商をなし羔羊と牡羊と牡山羊をもて汝と交易す 22シバとラアマの商人汝と商をなし諸の貴き香料と諸の寶石と金をもて汝と交易せり 23ハランとカンネとエデンとシバの商賈とアツスリヤとキルマデ汝と商をなし 24華美なる物と紫色なる繡の衣服と香柏の箱の綾を盛て紐にて結たる者とをもて汝の市にあり 25タルシシの船汝のために往來して商賣を爲す汝は海の中にありて豐滿にして榮あり 26水手汝を蕩て大水の中にいたるに海の中にて東風汝を打破る 27汝の財寶汝の商貨物汝の交易の物汝の舟子汝の舵師汝の漏を繕ふ者汝の貨物を商ふ者汝の中にあるところの凡ての軍人並に汝の中の乘者みな汝の壞るる日に海の中に陷るべし 28汝の舵師等の叫號の聲にその處々震ふ 29凡て棹を執る者舟子および凡て海の舵師その船より下りて陸に立ち 30汝のために聲を擧げて痛く哭き塵を首に蒙り灰の中に輾轉び 31汝のために髮を剃り麻布を纏ひ汝のために心を痛めて泣き甚く哭くべし 32彼等悲みて汝のために哀の詞を宣べ汝を弔ひて言ふ孰かツロの如くなる海の中に滅びたる者の如くなると 33汝の商貨の海より出し時は汝衆多の國民を厭しめ汝の衆多の財寶と貨物をもて世の王等を富しめたりしが 34汝海に壞れて深き水にあらん時は汝の貨物汝の乘人みな陷らん 35島々に住る者皆汝に駭かんその君等大に恐れてその面を振はすべし 36國々の商賈汝のために嘶かん汝は人の戒懼となり限りなく失果ん

第二十八章

1ヱホバの言われに臨みて言ふ 2人の子よツロの君に言ふべし主ヱホバかく言たまふ汝心に高ぶりて言ふ我は神なり神の座に坐りて海の中にありと汝は人にして神にあらず而して神の心のごとき心を懷くなり 3夫汝はダニエルよりも賢かり隱れたる事として汝に明ならざるは无し 4汝の智慧と明哲によりて汝富を獲金銀を汝の庫に收め 5汝の大なる智慧と汝の貿易をもて汝の富有を增しその富有のために心に高ぶれり 6是故に主ヱホバかく言ふ汝神の心のごとき心を懷くに因り 7視よ我異國人を汝に攻きたらしめん是國々の暴き人々なり彼ら劍を抜きて汝が智慧をもて得たるところの美しき者に向ひ汝の美を汚し 8汝を穴に投いれん汝は海の中にて殺さるる者のごとき死を遂べし 9汝は人にして神にあらず汝を殺す者の手にあるも尚その己を殺す者の前に我は神なりと言んとするや 10汝は割禮をうけざる者の死を異國人の手に遂べし我これを言ばなりとヱホバ言たまふ 11ヱホバの言我にのぞみて言ふ 12人の子よツロの王のために哀の詞を述べこれに言べし主ヱホバかく言たまふ汝は全く整へたる者の印智慧の充ち美の極れる者なり 13汝神の園エデンに在りき諸の寶石赤玉 黄玉 金剛石 黄綠玉 葱珩 碧 玉 青玉 紅 玉 瑪瑙および金汝を覆へり汝の立らるる日に手鼓と笛汝のために備へらる 14汝は膏そそがれしケルブにして掩ふことを爲り我汝を斯なせしなり汝神の聖山に在り又火の石の間に歩めり 15汝はその立られし日より終に汝の中に惡の見ゆるにいたるまでは其行全かりき 16汝の交易の多きがために汝の中には暴逆滿ちて汝罪をを犯せり是故に掩ふことを爲ところのケルブよ我神の山より汝を汚し出し火の石の間より汝を滅し去べし 17汝その美麗のために心に高ぶり其榮耀のために汝の智慧を汚したれば我汝を地に擲ち汝を王等の前に置て觀物とならしむべし 18汝正しからざる交易をなして犯したる多くの罪を以て汝の聖所を汚したれば我なんぢの中より火を出して汝を燒き凡て汝を見る者の目の前にて汝を地に灰となさん 19國々の中にて汝を知る者は皆汝に驚かん汝は人の戒懼となり限なく失果てん 20ヱホバの言我にのぞみて言ふ 21人の子よ汝の面をシドンに向けこれに向ひて預言し 22言べし主ヱホバかく言たまふシドンよ視よ我汝の敵となる我汝の中において榮耀を得ん我彼らを鞫き我の聖き事を彼らに顯す時彼ら我のヱホバなるを知ん 23われ疫病を是におくりその衢に血あらしめんその四方より是に來るところの劍に殺さるる者その中に仆るべし彼らすなはち我のヱホバなるを知ん 24イスラエルの家にはその周圍にありて之を賤むる者の所より重て惡き荊棘苦き芒薊來ることなし彼らは我の主ヱホバなるを知にいたらん 25主ヱホバかく言ふ我イスラエルの家をその散された

る國々より集めん時彼らに由りて我の聖き事を異國人の目の前にあらはさん彼らはわが僕ヤコブに與へたるその地に住ん 26彼ら彼處に安然に住み家を建て葡萄園を作らん彼らの周圍にありて彼らを藐視る者を悉く我が鞫かん時彼らは安然に住み我ヱホバの己の神なるを知らん

第二十九章

1十年の十月の十二日にヱホバの言 我にのぞみて言ふ 2人の子よ汝の面をエジプトの王パロにむけ彼とエジプト全國にむかひて預言し 3語りて言べし主ヱホバかく言たまふエジプトの王パロよ視よ我 汝の敵となる汝その河に臥すところの鱷よ汝いふ河は我の所有なり我自己のためにこれを造れりと 4我鉤を汝の腮に鉤け汝の河の魚をして汝の鱗に附しめ汝および汝の鱗に附る 諸 の魚を汝の河より曳いだし 5汝と汝の河の 諸 の魚を曠野に投すてん汝 は野の面に仆れん汝を取あぐる者なく集むる者なかるべし我 汝を地の獣と天の鳥の餌に與へん 6エジプトの人々皆我のヱホバなるを知ん彼等のイスラエルの家におけるは葦の杖のごとくなりき 7イスラエル汝の手を執ば汝 折れてその肩を盡く裂き又 汝に倚ば汝 破れてその腰を盡く振へしむ 8是故に主ヱホバかく言ふ視よ我 劍を汝 に持きたり人と畜を汝の中より絕ん 9エジプトの地は荒て空曠なるべし彼らすなはち我のヱホバなるを知ん彼河は我の有なり我これを作れりと言ふ 10是故に我 汝と汝 の河々を罰しエジプトの地をミグドルよりスエネに至りエテオピアの境に至るまで 盡く荒して空曠くせん 11人の足此を渉らず獣の足此を渉らじ四十年の間 此に人の住ことなかるべし 12我エジプトの地を荒して荒たる國々の中にあらしめんその邑々は荒て四十年の間 荒たる邑々の中にあるべし我エジプト人を 諸 の民の中に散し 諸 の國に散さん 13但し主ヱホバかく言たまふ四十年の後我エジプト人をその散されたる 諸 の民の中より集めん 14 即ちエジプトの俘囚人を歸しその生れし國なるバテロスの地にかへらしむべし彼らは其處に卑き國を成ん 15是は諸 の國よりも卑くして再び國々の上にいづることなかるべし我かれらを小くすれば彼らは重て國々を治むることなし 16彼らは再びイスラエルの家の恃とならじイスラエルはこれに心をよせてその罪をおもひ出さしむることなかるべし彼らすなはち我の主ヱホバなるを知ん 17茲に二十七年の一月の一日にヱホバの言 我にのぞみて言ふ 18人の子よバビロンの王ネブカデネザルその軍勢をしてツロにむかひて大に働かしむ皆 首 禿げ皆肩破る然るに彼もその軍勢もその爲るところの事業のためにツロよりその報を得ず 19是故に主ヱホバかくいふ視よ我バビロンの王ネブカデネザルにエジプトの地を與へん彼その衆多の財寶を取り物を掠め物を奪はん是その軍勢の報たらん 20彼の勞動る値として我エジプトの地をかれに與ふ彼わがために之をなしたればなり主ヱホバこれを言ふ 21當日に我イスラエルの家に一の角を生ぜしめ汝をして彼らの中に口を啓くことを得せしめん彼等すなはち我がヱホバなるを知べし

第三十章

1ヱホバの言 我にのぞみて言ふ 2人の子よ預言して言へ主ヱホバかく言たまふ汝ら叫べ其日は禍なるかな 3その日近しヱホバの日近し是雲の日これ異邦人の時なり 4劍エジプトに臨まん殺さるる者のエジプトに仆るる時エテオピアに痛苦あるべし敵その財寶を奪はんその基址は毀たるべし 5エテオピア人フテ人ルデ人凡て加勢の 兵 およびクブ人ならびに同盟の國の人々彼らとともに劍にたふれん 6ヱホバかく言ふエジプトを扶くる者は仆れ其驕るところの勢力は失せんミグドルよりスエネにいたるまで人劍 によりて己の中に仆るべし主ヱホバこれを言なり 7其は荒て荒地の中にあり其邑々は荒たる邑の中にあるべし 8我火をエジプトに降さん時又是を助くる者の皆ほろびん時は彼等我のヱホバなるを知ん 9その日には使者船にて我より出てかの心強きエテオピア人を懼れしめんエジプトの日にありし如く彼等の中に苦痛あるべし視よ是は至る 10主ヱホバかく言たまふ我バビロンの王ネブカデネザルをもてエジプトの喧噪を止むべし 11彼および彼にしたがふ民 即ち國民の中の暴き者を召來りてその國を滅さん彼ら劍をぬきてエジプトを攻めその殺せる者を國に滿すべし 12我その河々を涸し國を惡き人の手に賣り外國人の手をもて國とその中の物を荒すべし我ヱホバこれを言り 13主ヱホバかく言たまふ我偶像を毀ち神々をノフに絕さんエジプトの國よりは再び君のいづることなかるべし我エジプトの國に畏怖を蒙らしめん 14我バテロスを荒しゾアンに火を擧げノに鞫を行ひ 15わが怒をエジプトの要害なるシンに洩しノの群衆を絕つべし 16我火をエジプトに降さんシンは苦痛に悶えノは打破られノフは日中敵

をうけん 17アベンとピベセテの少者は劍に仆れ其中の人々は擄ゆかれん 18テバネスに於ては吾がエジプトの軛を其處に摧く時に日暗くならんその誇るところの勢力は失せん雲これを覆はんその女子等は擄へゆかれん 19かく我エジプトに鞫をおこなはん彼等すなはち我のヱホバなるを知べし 20十一年の一月の七日にヱホバの言われに臨みて言ふ 21人の子よ我エジプトの王パロの腕を折れり是は再び束へて藥を施し裹布を巻て之を裹み強く爲して劍を執にたへしむること能はざるなり 22是故に主ヱホバかく言たまふ視よ我エジプトの王パロを罰し其強き腕と折たる腕とを倶に折り劍をその手より落しむべし 23我エジプト人を 諸 の民の中に散し 諸 の國に散さん 24而してバビロンの王の腕を強くして我劍をこれに授けん然ど我パロの腕を折れば彼は刺透されたる者の呻くが如くにその前に呻かん 25我バビロンの王の腕を強くせんパロの腕は弱くならん我わが劍をバビロンの王の手に授けて彼をしてエジプトにむかひて之を伸しむる時は人衆我のヱホバなるを知ん 26我エジプト人を 諸 の民の中に散し 諸 の國に散さん彼らすなはち我のヱホバなるを知るべし

第三十一章

1十一年の三月の一日にヱホバの言 我に臨みて云ふ 2人の子よエジプトの王パロとその群衆に言へ汝はその大なること誰に似たるや 3アツスリヤはレバノンの香柏のごとし其枝 美しくして生茂りその丈高くして其 巓 雲に至る 4水これを大ならしめ大水これを高からしむ其川々その植れる處を環りその流を野の 諸 の樹に及ぼせり 5是によりてその長野の 諸 の樹よりも高くなりその生長にあたりて多の水のために枝葉茂りその枝長く伸たり 6その枝葉に空の 諸 の鳥巣をくひ其枝の下に野の 諸 の獣 子を生みその蔭に 諸 の國民住ふ 7是はその大なるとその枝の長きとに由て美しかりき其根多くの水の 傍 にありたればなり 8神の園の香柏これを蔽ふことあたはず樅もその枝葉に及ばず槻もその枝に如ず神の園の樹の中その美しき事これに如ものあらざりき 9我これが枝を多してこれを美しくなせりエデンの樹の神の園にある者皆これを羨めり 10是故に主ヱホバかく言ふ汝その長高くなれり是は其 巓 雲に至りその心 高く驕れば 11我これを萬國の君たる者の手に付さん彼これを處置せん其惡のために我これを打棄たり 12他國人國々の暴き者これを截倒して棄つ其枝葉は山々に谷々に墮ち其枝は碎けて地の諸の谷川にあり地の萬民その蔭を離れてこれを遺つ 13その倒れたる上に空の 諸 の鳥止まり其枝の上に野の 諸 の獣 居る 14是水の邊の樹その高のために誇ることなくその 巓 を雲に至らしむることなからんためまた水に濕ふ者の高らかに自ら立ことなからんためなり夫是等は皆死に付されて下の國に入り他の人々の中にあり墓に下る者等と偕なるべし 15主ヱホバかく言たまふ彼が下の國に下れる日に我哀哭あらしめ之がために大水を蓋ひその川々をせきとめたれば大水止まれり我レバノンをして彼のために哭かしめ野の 諸 の樹をして彼のために痩衰へしむ 16我かれを陰府に投くだして墓に下る者と共ならしむる時に國々をしてその墮る響に震動しめたり又エデンの 諸 の樹レバノンの勝れたる最 美しき者凡て水に濕ふ者皆下の國に於て 慰を得たり 17彼等も彼とともに陰府に下り劍に刺れたる者の處にいたる是すなはちその助者となりてその蔭に坐し萬國民の中にをりし者なり 18エデンの樹の中にありて汝は其 榮とその大なること孰に似たるや汝は斯エデンの樹とともに下の國に投下され劍に刺透されたる者とともに割禮を受ざる者の中にあるべしパロとその群衆は是のごとし主ヱホバこれを言ふ

第三十二章

1茲にまた十二年の十二月の一日にヱホバの言 我にのぞみて言ふ 2人の子よエジプトの王パロのために哀 の詞を述て彼に言ふべし汝は自ら萬國の中の獅子に擬へたるが汝 は海の鱷の如くなり汝 河の中に跳起き足をもて水を濁しその河々を蹈みだす 3主ヱホバかく言たまふ我衆多の國民の中にてわが網を汝に打掛け彼らをしてわが網にて汝を引あげしめん 4而して我 汝を地上に投すて汝を野の面に擲ち空の 諸 の鳥をして汝の上に止らしめ全地の獣 をして汝に飽しむべし 5我 汝の肉を山々に遺て汝の屍 を堆くして谷々を埋むべし 6我 汝の溢るる血をもて地を濕し山にまで及ぼさん谷川には汝 盈べし 7我 汝を滅する時は空を蔽ひその星を暗くし雲をもて日を掩はん月はその光を發たざるべし 8我空の照る光明を 盡く汝の上に暗くし汝の地を黒暗となすべし主ヱホバこれを言ふ 9我なんぢの滅亡を 諸 の民 汝の知ざる國々の中に知しめて衆多の民をして心を傷ましめん 10我衆多の民をして 汝に驚かしめんその王等はわが其前にわれの劍を振ふ時に

戦慄かん汝の仆るる日には彼ら各人その生命のために絶ず發振ん 11即ち主ヱホバかく言たまふバビロンの王の劍汝に臨まん 12我汝の群衆をして勇士の劍に仆れしめん彼等は皆國々の暴き者なり彼らエジプトの驕傲を絶さん其の群衆は皆ほろぼさるべし 13我その家畜を盡く多の水の傍より絶去ん人の足再び之を濁すことなく家畜の蹄これを濁すことなかるべし 14我すなはちその水を清しめ其河々をして油のごとく流れしめん主ヱホバこれを云ふ 15我エジプトの國を荒地となしてその國荒てこれが富を失ふ時また我その中に住る者を盡く撃つ時人々我のヱホバなるを知ん 16是哀の詞なり人悲みてこれを唱へん國々の女等悲みて之を唱ふべし即ち彼等エジプトとその諸の群衆のために悲みて之を唱へん主ヱホバこれを言ふ 17十二年の月の十五日にヱホバの言また我に臨みて言ふ 18人の子よエジプトの群衆のために哀き是と大なる國々の女等とを下の國に投くだし墓にくだる者と共ならしめよ 19汝美しき事誰に勝るや下りて割禮なき者とともに臥せよ 20彼らは劍に殺さるる者の中に仆るべし劍已に付してあり是とその諸の群衆を曳下すべし 21勇士の強き者陰府の中より彼にその助者と共に言ふ割禮を受ざる者劍に殺されたる者彼等下りて臥す 22彼處にアツスリアとその凡の群衆をりその周圍に之が墓あり彼らは皆殺され劍に仆れたる者なり 23かれの墓は穴の奥に設けてありその群衆墓の四周にあり是皆殺されて劍に仆れたる者生者の地に畏怖をおこせし者なり 24彼處にエラムありその凡の群衆その墓の周圍にあり是皆ころされて劍に仆れ割禮を受ずして下の國に下りし者生者の地に畏怖をおこせし者にて夫穴に下れる者等とともに恥辱を蒙るなり 25殺されたる者の中にその床を置きてその凡の群衆と共にすその墓周圍にあり彼等は皆割禮を受ざる者にして劍に殺さる彼ら生者の地に畏怖をおこしたれば穴に下れる者とともに恥辱を蒙るなり彼は殺されし者の中に置る 26彼處にメセクとトバルおよびその凡の群衆ありその墓周圍にあり彼らは皆割禮を受ざる者にして劍に殺さる是生者の地に畏怖をおこしたればなり 27彼らは割禮を受ずして仆れたる勇士とともに臥さず是等はその武器を持て陰府に下りその劍を枕にすその罪は骨にあり是生者の地に於て勇士を畏れしめたればなり 28汝は割禮を受ざる者の中に打碎け劍に殺されたる者とともに臥ん 29彼處にエドムとその王等とその諸の君等あり彼らは勇力をもちながら劍に殺さるる者の中に入り割禮なき者および穴に下れる者とともに臥すべし 30彼處に北の君等皆あり又シドン人皆あり彼らは殺されし者等とともに下り人を怖れしむる勇力をもちて羞辱を受く彼處に彼らは割禮を受ずして劍に殺されたる者とともに臥し穴に下れる者とともに恥辱を蒙る 31パロかれらを見その諸の群衆の事につきて心を安めんパロとその軍勢皆劍に殺さる主ヱホバこれを言ふ 32我かれをして生者の地に畏怖をおこさしめたりパロとその諸の群衆は割禮をうけざる者の中にありて劍に殺されし者とともに臥す主ヱホバこれを言ふ

第三十三章

1爰にヱホバの言われに臨みて言ふ 2人の子よ汝の民の人々に告て之に言へ我劍を一の國に臨ましめん時その國の民おのれの國人の中より一人を選みて之を守望人となさんに 3かれ國に劍の臨むを見ラッパを吹てその民を警むることあらん 4然るに人ラッパの音を聞て自ら警めず劍つひに臨みて其人を失ふにいたらばその血はその人の首に歸すべし 5彼ラッパの音を聞て自ら警むることを爲ざればその血は己に歸すべし然どもし自ら警むることを爲ばその生命を保つことを得ん 6然れども守望者劍の臨むを見てラッパを吹ず民警戒をうけざるあらんに劍のぞみて其中の一人を失はば其人は己の罪に死るなれど我その血を守望者の手に討問めん 7然ば人の子よ我汝を立てイスラエルの家の守望者となす汝わが口より言を聞き我にかはりて彼等を警むべし 8我惡人に向ひて惡人よ汝死ざるべからずと言んに汝その惡人を警めてその途を離るるやうに語らずば惡人はその罪に死んなれどその血をば我汝の手に討問むべし 9然ど汝もし惡人を警めて翻りてその途を離れしめんとしたるに彼その途を離れずば彼はその罪に死ん而して汝はおのれの生命を保つことを得ん 10然ば人の子よイスラエルの家に言へ汝らは斯語りて言ふ我らの愆と罪は我らの身の上にあり我儕はその中にありて消失ん爭でか生ることを得んと 11汝かれらに言べし主ヱホバ言たまふ我は活く我惡人の死るを悦ばず惡人のその途を離れて生るを悦ぶなり汝ら翻へり翻へりてその惡き道を離れよイスラエルの家よ汝等なんぞ死べけんや 12人の子よ汝の民の人々に言べし義人の義はその人の罪を犯せる日にはその人を救ふことあたはず惡人はその惡を離れたる日にはその惡のために仆るることあらじ義人

はその罪を犯せる日にはその義のために生ることを得じ
13我義人に汝かならず生べしと言んに彼その義を恃みて
罪ををかさばその義は悉く忘らるべし其をかせる罪の
ために彼は死べし 14我惡人に汝かならず死べしと言んに
彼その惡を離れ公道と公義を行ふことあらん 15即ち惡人
質物を歸しその奪ひし者を還し惡をなさずして生命の
憲法にあゆみなば必ず生ん死ざるべし 16その犯したる
各種の罪は記憶らるることなかるべし彼すでに公道と
公義を行ひたれば必ず生べし 17汝の民の人々は主の道正
しからずと言ふ然ど實は彼等の道の正しからざるなり 18
義人もしその義を離れて罪ををかさば是がために死べし
19惡人もしその惡を離れて公道と公義を行ひなば是がた
めに生べし 20然るに汝らは主の道正しからずといふイス
ラエルの家よ我各人の行爲にしたがひて汝等を鞫くべし
21我らが擄へうつされし後すなはち十二年の十月の五日
にエルサレムより脱逃者きたりて邑は擊敗られたりと言
ふ 22その逃亡者の來る前の夜ヱホバの手我に臨み彼が 朝
におよびて我に來るまでに我口を開けり斯わが口開けた
れば我また默せざりき 23即ちヱホバの言われに臨みて言
ふ 24人の子よイスラエルの地の彼の墟址に住る者語りて
云ふアブラハムは一人にして此地を有てり我等は衆多し
此地はわれらの所有に授かると 25是故に汝かれらに言ふ
べし主ヱホバかく言ふ汝らは血のままに食ひ汝らの偶像
を仰ぎ且血を流すなれば尚此地を有つべけんや 26汝等は
劍を恃み憎むべき事を行ひ各々人の妻を汚すなれば此地
を有つべけんや 27汝かれらに斯言べし主ヱホバかく言ふ
我は活くかの荒場に居る者は劍に仆れん野の表にをる者
をば我獸にあたへて噬はしめん要害と洞穴とにをる者は
疫病に死ん 28我この國を全く荒さん其誇るところの權勢
は終に至らんイスラエルの山々は荒て通る者なかるべし
29彼らが行ひたる 諸 の憎むべき事のために我その國を
全く荒さん時に彼ら我のヱホバなるを知ん 30人の子よ
汝 の民の人々垣の下家の門にて汝の事を論じ互に語りあ
ひ各々その兄弟に言ふ去來われら如何なる言のヱホバよ
り出るかを聽んと 31彼ら民の集會のごとくに汝に來り吾
民のごとくに汝の前に坐して汝の言を聞ん然ども之を 行
はじ彼らは口に悦ばしきところの事をなし其心は利にし
たがふなり 32彼等には汝 悦ばしき歌 美しき聲美く奏る
者のごとし彼ら汝の言を聞ん然ど之をおこなはじ 33視よ
その事至る其事のいたる時には彼らおのれの中に預言者
あるを知べし

第三十四章

1ヱホバの言われに臨みて言ふ 2人の子よ汝イスラエルの
牧者の事を預言せよ預言して彼ら牧者に言ふべし主ヱホ
バかく言ふ己を牧ふところのイスラエルの牧者は 禍 な
るかな牧者は群を牧ふべき者ならずや 3汝らは脂を食ひ
毛を纏ひ肥たる物を屠りその群をば牧はざるなり 4汝ら
其弱き者を強くせずその病る者を醫さずその傷ける者を
裹まず散されたる者をひきかへらず失たる者を尋ねず
手荒に嚴刻く之を治む 5是は牧者なきに因て散り失せ野
の 諸 の獸の餌となりて散失するなり 6我 羊は 諸 の山々
に 諸 の高丘に迷ふ我 羊 全地の表に散りをれど之を索す
者なく尋ぬる者なし 7是故に牧者よ汝らヱホバの言を聽
け 8主ヱホバ言たまふ我は活く我 羊 掠められわが羊 野の
諸 の獸の餌となる又牧者あらず我牧者わが羊を尋ねず
牧者 己を牧ふてわが羊を牧はず 9是故に牧者よ汝らヱホ
バの言を聞け 10主ヱホバ斯言たまふ視よ我牧者等を罰し
吾 羊を彼らの手に討問め彼等をしてわが群を牧ふことを
止しめて再び己を牧ふことなからしめ又わが羊をかれら
の口より救とりてかれらの食とならざらしむべし 11主ヱ
ホバかく言たまふ我みづからわが群を索して之を守らん
12牧者がその散たる羊の中にある日にその群を守るごと
く我わが群を守り之がその雲深き暗き日に散たる諸の 處
よりこれを救ひとるべし 13我かれらを 諸 の民の中より
導き出し 諸 の國より集めてその國に携へいりイスラエ
ルの山の上と谷の中および國の凡の住居處にて彼らを 養
はん 14善き牧場にて我かれらを牧はんその休息處はイス
ラエルの高山にあるべし彼處にて彼らは善き休息所に臥
しイスラエルの山々の上にて肥たる牧場に草を食はん 15
主ヱホバいひたまふ我みづから我群を牧ひ之を偃しむべ
し 16亡たる者は我これを尋ね逐はなたれたる者はこれを
引返り傷けられたる者はこれを裹み病る者はこれを強く
せん然ど肥たる者と強き者は我これを滅さん我公道をも
て之を牧ふべし 17主ヱホバかく言たまふ汝等わが群よ我
羊 と羊の間および牡羊と牡山羊の間の審判をなさん 18
汝等は善き牧場に草食ひ足をもてその殘れる草を蹈あら
し又清たる水を飲み足をもてその殘餘を濁す是汝等にと
りて小き事ならんや 19わが群汝等が足にて蹈あらしたる

者を食ひ汝等が足にて濁したる者を飲べけんや 20是をもて主ヱホバ斯かれらに言たまふ視よ我肥たる羊と痩たる羊の間を審判くべし 21汝等は脅と肩とをもて擠し角をもて弱き者を盡く衝て遂に之を外に逐散せり 22是によりて我わが群を助けて再び掠められざらしめ又羊と羊の間をさばくべし 23我かれらの上に一人の牧者をたてんその人かれらを牧ふべし是わが僕ダビデなり彼はかれらを牧ひ彼らの牧者となるべし 24我ヱホバかれらの神とならん吾僕ダビデかれらの中に君たるべし我ヱホバこれを言ふ 25我かれらと平和の契約を結び國の中より悪き獣を滅し絶つべし彼らすなはち安かに野に住み森に眠らん 26我彼らおよび吾山の周圍の處々に福祉を下し時に隨ひて雨を降しめん是すなはち福祉の雨なるべし 27野の樹はその實を結び地はその産物を出さん彼等は安然にその國にあるべし我がかれらの軛を碎き彼らをその僕となせる人の手より救ひいだす時に彼等は我のヱホバなるを知べし 28彼等は重ねて國々の民に掠めらるる事なく野の獣かれらを食ふことなかるべし彼等は安然に住はん彼等を懼れしむる者なかるべし 29我かれらのために一の栽植處を起してその名を聞えしめん彼等は重ねて國の饑饉に滅ぶることなく再び外邦人の凌辱を蒙ることなかるべし 30彼らはその神なる我ヱホバが己と共にあるを知り自己イスラエルの家はわが民なることを知るべし主ヱホバこれを言ふ 31汝等はわが羊わが牧場の群なり汝等は人なり我は汝らの神なりと主ヱホバ言たまふ

第三十五章

1爰にヱホバの言われに臨みて言ふ 2人の子よ汝の面をセイル山にむけ之にむかひて預言し 3之にいふべし主ヱホバかく言ふセイル山よ視よ我汝を罰し汝にむかひてわが手を伸べ汝を全く荒し 4汝の邑々を滅すべし汝は荒はてん而して我のヱホバなるを知にいたらん 5汝果しなき恨を懐きてイスラエルの人々をその艱難の時その終の罪の時に劍の手に付せり 6是故に主ヱホバ言ふ我は活く我汝を血になさん血汝を追べし汝血を嫌はざれば血汝を追ん 7我セイル山を全く荒し其處に往來する者を絶ち 8殺されし者をその山々に滿すべし劍に殺されし者汝の岡々谷々および窪地窪地に仆れん 9我汝を長に荒地となさん汝の邑々には人の住むことあらじ汝等すなはち我のヱホバなるを知にいたらん 10汝言ふこの二箇の民二箇の國は我が所有なり我等これを獲んとヱホバ其處に居せしなり 11是故に主ヱホバいふ我は活く汝が恨をもて彼らに示したる忿怒と嫉惡に循ひて我汝に事をなさん我汝を鞫くことを以て我を彼等に示すべし 12汝は我ヱホバの汝がイスラエルの山々にむかひて是は荒はて我儕の食に授かるといひて吐たるところの諸の謗讒を聞たることを知 13汝等口をもて我にむかひて誇り我にむかひて汝等の言を多くせり我これを聞く 14主ヱホバ斯いひたまふ全地の歓ぶ時に我汝を荒地となさん 15汝イスラエルの家の産業の荒るを喜びたれば我汝をも然なすべしセイル山よ汝荒地とならんエドムも都て然るべし人衆すなはち我のヱホバなるを知にいたらん

第三十六章

1人の子よ汝イスラエルの山々に預言して言べしイスラエルの山々よヱホバの言を聽け 2主ヱホバかく言たまふ敵汝等の事につきて言ふ嗚呼是等の舊き高處我儕の所有となると 3是故に汝預言して言へ主ヱホバかく言ふ彼等汝らを荒し四方より汝らを呑り是をもて汝等は國民の中の殘餘者の所有となり亦人の口歯にかかりて噂せらる 4然ばイスラエルの山々よ主ヱホバの言を聞け主ヱホバ山と岡と窪地と谷と滅びたる荒跡と人の棄たる邑々即ちその周圍に殘れる國民に掠められ嘲けらるる者にかく言たまふ 5即ち主ヱホバかく言たまふ我まことに吾が嫉妬の火焔をもやして國民の殘餘者とエドム全國の事を言り是等は心に歓樂を極め心に誇りて吾地をおのれの所有となし之を奪ひ掠めし者なり 6然ばイスラエルの國の事を預言し山と岡と窪地と谷とに言ふべし主ヱホバかく言たまふ汝等諸の國民の羞辱を蒙りしに因て我わが嫉妬と忿怒を發して語れり 7是をもて主ヱホバかく言たまふ我わが手を擧ぐ汝の周圍の諸の國民は必ず自身羞辱を蒙るべし 8然どイスラエルの山々よ汝等は枝を生じわが民イスラエルのために實を結ばん此事遠からず成ん 9視よ我汝らに臨み汝らを眷みん汝らは耕されて種をまかるべし 10我汝等の上に人を殖さん是皆悉くイスラエルの家の者なるべし邑々には人住み墟址は建直さるべし 11我なんぢらの上に人と牲畜を殖さん是等は殖て多く子を生んわれなんぢら我汝らの上に昔時のごとくに人を住しめ汝らの初の時よりもまされる恩恵を汝等に施すべし汝等は我がヱホバなるを知にいたらん 12我わが民イスラエルの人を汝らの上

に歩ましめん彼等汝を有つべし汝はかれらの産業となり
重ねて彼等に子なからしむることあらじ 13主ヱホバかく
言ひたまふ彼等汝らに向ひ汝は人を食ひなんぢの民をし
て子なからしめたりと言ふ 14是故に主ヱホバ言たまふ汝
ふたたび人を食ふべからず再び汝の民を躓かしむべから
ず 15我汝をして重ねて國々の民の嘲笑を聞しめじ汝は重
ねて國々の民の羞辱を蒙ることあらず汝の民を躓かしむ
ることあらじ主ヱホバこれを言ふ 16ヱホバの言また我に
のぞみて言ふ 17人の子よ昔イスラエルの家その國に住み
己の途と行爲とをもて之を汚せりその途は月穢ある婦の
穢のごとくに我に見えたり 18彼等國に血を流し且その
偶像をもて國を汚したるに因て我わが怒を彼等に斟ぎ 19
彼らを諸の國の民の中に散したれば則ち諸の國に散ぬ
我かれらの道と行爲とにしたがひて彼等を鞫けり 20彼等
その往ところの國々に至りしが遂にわが聖き名を汚せり
即ち人かれらを見てこれはヱホバの民にしてかれの國よ
り出來れる者なりと言り 21是をもて我イスラエルの家が
その至れる國々にて瀆せしわが聖き名を惜めり 22此故に
汝イスラエルの家に言べし主ヱホバかく言たまふイスラ
エルの家よ我汝らのために之をなすにあらず汝らがその
至れる國々にて汚せしわが聖き名のためになすなり 23我
國々の民の中に汚されたるわが大なる名即ち汝らがかれ
らの中にありて汚したるところの者を聖くせん國々の民
はわが汝らに由て我の聖き事をその目の前にあらはさん
時我がヱホバなるを知ん 24我汝等を諸の民の中より導
き出し諸の國より集めて汝らの國に携いたり 25清き水
を汝等に灑ぎて汝等を清くならしめ汝等の諸の汚穢と
諸の偶像を除きて汝らを清むべし 26我新しき心を汝等
に賜ひ新しき靈魂を汝らの衷に賦け汝等の肉より石の心
を除きて肉の心を汝らに與へ 27吾靈を汝らの衷に置き汝
らをして我が法度に歩ましめ吾律を守りて之を行はしむ
べし 28汝等はわが汝らの先祖等に與へし地に住て吾民と
ならん我は汝らの神となるべし 29我汝らを救ひてその
諸の汚穢を離れしめ穀物を召て之を增し饑饉を汝らに
臨ませず 30樹の果と田野の作物を多くせん是をもて汝ら
は重て饑饉の羞を國々の民の中に蒙ることあらじ 31汝ら
はその惡き途とその善らぬ行爲を憶えてその罪とその憎
むべき事のために自ら恨みん 32主ヱホバ言たまふ我が之
を爲は汝らのためにあらず汝らこれを知れよイスラエル
の家よ汝らの途を愧て悔むべし 33主ヱホバかく言たまふ
我汝らの諸の罪を清むる日に邑々に人を住しめ墟址を
再興しめん 34荒たる地は前に往來の人々の目に荒地と見
たるに引かへて耕さるるに至るべし 35人すなはち言ん此
荒たりし地はエデンの園のごとくに成り荒滅び圮れたり
し邑々は堅固なりて人の住に至れりと 36汝らの周圍に殘
れる國々の民はすなはち我ヱホバが圮れし者を再興し荒
たるところに栽植することを知にいたらん我ヱホバこれ
を言ふ之を爲ん 37主ヱホバかく言たまふイスラエルの家
我が是を彼らのために爲んことをまた我に求むべきなり
我群のごとくに彼ら人々を殖さん 38荒たる邑々には聖き
群のごとくヱルサレムの節日の群のごとくに人の群滿ん
人々すなはち我がヱホバなるを知べし

第三十七章

1爰にヱホバの手我に臨みヱホバ我をして靈にて出行し
め谷の中に我を放賜ふ其處には骨充てり 2彼その周圍に
我をひきめぐりたまふに谷の表には骨はなはだ多くあり
皆はなはだ枯たり 3彼われに言たまひけるは人の子よ
是等の骨は生るや我言ふ主ヱホバよ汝知たまふ 4彼我に
言たまふ是等の骨に預言し之に言べし枯たる骨よヱホバ
の言を聞け 5主ヱホバ是らの骨に斯言たまふ視よ我汝ら
の中に氣息を入しめて汝等を生しめん 6我筋を汝らの上
に作り肉を汝らの上に生ぜしめ皮をもて汝らを蔽ひ氣息
を汝らの中に與へて汝らを生しめん汝ら我がヱホバなる
を知ん 7我命ぜられしごとく預言しけるが我が預言する
時に音あり骨うごきて骨と骨あひ聯る 8我見しに筋その
上に出きたり肉生じ皮上よりこれを蔽ひしが氣息その中
にあらず 9彼また我に言たまひけるは人の子よ氣息に
預言せよ人の子よ預言して氣息に言へ主ヱホバかく言た
まふ氣息よ汝四方の風より來り此殺されし者等の上に
呼吸きて是を生しめよ 10我命ぜられしごとく預言せしか
ば氣息これに入て皆生きその足に立ち甚だ多くの群衆と
なれり 11斯て彼われに言たまふ人の子よ是等の骨はイス
ラエルの全家なり彼ら言ふ我らの骨は枯れ我らの望は竭
く我儕絕はつるなりと 12是故に預言して彼らに言へ主ヱ
ホバかく言たまふ吾民よ我汝等の墓を啓き汝らをその墓
より出きたらしめてイスラエルの地に至らしむべし 13わ
が民よ我汝らの墓を開きて汝らを其墓より出きたらしむ
る時汝らは我のヱホバなるを知ん 14我わが靈を汝らの中
におきて汝らを生しめ汝らをその地に安んぜしめん汝等

すなはち我ヱホバがこれを言ひ之を爲たることを知にいたるべし 15ヱホバの言我にのぞみて言ふ 16人の子よ汝一片の木を取てその上にユダおよびその侶なるイスラエルの子孫と書き又一片の木をとりてその上にヨセフおよびその侶なるイスラエルの全家と書べし是はエフライムの木なり 17而して汝これを俱にあはせて一の木となせ是汝の手の中にて相聯らん 18汝の民の人々汝に是は何の意なるか我儕に示さざるやと言ふ時は 19これに言ふべし主ヱホバかく言たまふ我エフライムの手にあるヨセフとその侶なるイスラエルの支派の木を取り之をユダの木に合せて一の木となしわが手にて一とならしめん 20汝が書つけたるところの木を彼らの目のまへにて汝の手にあらしめ 21かれらに言ふべし主ヱホバかく言たまふ我イスラエルの子孫をその往るところの國々より出し四方よりかれを集めてその地に導き 22その地に於て汝らを一の民となしてイスラエルの山々にをらしめん一人の王彼等全體の王たるべし彼等は重て二の民となることあらず再び二の國に分れざるべし 23彼等またその偶像とその憎むべき事等およびその諸の愆をもて身を汚すことあらじ我かれらをその罪を犯せし諸の住處より救ひ出してこれを清むべし而して彼らはわが民となり我は彼らの神とならん 24わが僕ダビデかれらの王とならん彼ら全體の者の牧者は一人なるべし彼らはわが律法にあゆみ吾法度をまもりてこれを行はん 25彼らは我僕ヤコブに我が賜ひし地に住ん是其先祖等が住ひし所なり彼處に彼らとその子及びその子の子とこしなへに住はん吾僕ダビデ長久にかれらの君たるべし 26我かれらと和平の契約を立ん是は彼らに永遠の契約となるべし我かれらを堅うし彼らを殖しわが聖所を長久にかれらの中におかん 27我が住所は彼らの上にあるべし我かれらの神となり彼らわが民とならん 28わが聖所長久にかれらの中にあるにいたらば國々の民は我のヱホバにしてイスラエルを清むる者なるを知ん

第三十八章

1ヱホバの言我にのぞみて言ふ 2人の子よロシ、メセクおよびトバルの君たるマゴグの地の王ゴグに汝の面をむけ之にむかひて預言し 3言べし主ヱホバかく言たまふロシ、メセク、トバルの君ゴグよ視よ我なんぢを罰せん 4我汝をひきもどし汝の腮に鉤をほどこして汝および汝の諸の軍勢と馬とその騎者を曳いだすべし是みな其服粧に美を極め大楯小楯をもち凡て劍を執る者にして大軍なり 5ペルシヤ、エテオピアおよびフテこれとともにあり皆楯と盔をもつ 6ゴメルとその諸の軍隊北の極のトガルマの族とその諸の軍隊など衆多の民汝とともにあり 7汝準備をなせ汝と汝にあつまれるところの軍隊みな備をせよ而して汝かれらの保護となれ 8衆多の日の後なんぢ罰せられん末の年に汝かの劍をのがれてかへり衆多の民の中より集りきたれる者の地にいたり久しく荒ゐたるイスラエルの山々にいたらん是は國々より導きいだされて皆安然に住ふなり 9汝その諸の軍隊および衆多の民をひきゐて上り暴風のごとく至り雲のごとく地を覆はん 10主ヱホバかくいひたまふ其日に汝の心に思想おこり惡き謀計をくはだてて 11言ん我平原の邑にのぼり穩にして安然に住る者等にいたらん是みな石垣なくして居り關も門もあらざる者なりと 12斯して汝物を奪ひ物を掠め汝の手をかへして彼の人の住むにいたれる墟址を攻め又かの國々より集りきたりて地の墺區にすみて群と財寶をもつところの民をせめんとす 13シバ、デダン、タルシシの商賈およびその諸の小獅子汝に言ん汝物を奪はんとて來れるや汝物を掠めんために軍隊をあつめしや金銀をもちさり群と財寶を取り多くの物を奪はんとするやと 14是故に人の子よ汝預言してゴグに言へ主ヱホバかくいひたまふ其日に汝わが民イスラエルの安然に住むを知ざらんや 15汝すなはち北の極なる汝の處より來らん衆多の民汝とともにあり皆馬に乘る其軍隊は大にしてその軍勢は夥多し 16而して汝わが民イスラエルに攻きたり雲のごとくに地を覆はんゴグよ末の日にこの事あらんすなはち我汝をわが地に攻きたらしめ汝をもて我の聖き事を國々の民の目のまへにあらはして彼らに我をしらしむべし 17主ヱホバかく言たまふ我の昔日わが僕なるイスラエルの預言者等をもて語りし者は汝ならずや即ち彼ら其頃年ひさしく預言して我汝を彼らに攻きたらしめんと言り 18主ヱホバいひたまふ其日すなはちゴグがイスラエルの地に攻來らん日にわが怒面にあらはるべし 19我嫉妬と燃たつ怒をもて言ふ其日には必ずイスラエルの地に大なる震動あらん 20海の魚空の鳥野の獸凡て地に匍ふところの昆蟲凡て地にある人わが前に震へん又山々崩れ嶄巖たふれ石垣みな地に仆れん 21主ヱホバいひたまふ我劍をわが諸の山に召きたりて彼をせめしめん人々の劍その兄弟

を撃べし 22我疫病と血をもて彼の罪をただされん我漲ぎる雨と雹と火と硫磺を彼とその軍勢および彼とともなる多の民の上に降すべし 23而して我わが大なることと聖きことを明かにし衆多の國民の目のまへに我を示さん彼らはすなはち我のヱホバなることをしるべし

第三十九章

1人の子よゴグにむかひ預言して言へ主ヱホバかく言たまふロシ、メセク、トバルの君ゴグよ視よ我 汝を罰せん 2我 汝をひきもどし汝をみちびき汝をして北の極より上りてイスラエルの山々にいたらしめ 3汝の左の手より弓をうち落し右の手より矢を落しむべし 4汝と汝の諸の軍勢および汝とともなる民はイスラエルの山々に仆れん我 汝を 諸 の類の鷙鳥と野の獣にあたへて食しむべし 5汝 は野の表面に仆れん我これを言ばなりと主ヱホバ言たまふ 6我マゴグと島々に安然に住る者とに火をおくり彼らをして我のヱホバなるを知しめん 7我わが聖き名をわが民イスラエルの中に知しめ重てわが聖き名を汚さしめじ國々の民すなはち我がヱホバにしてイスラエルにありて聖 者なることを知るにいたらん 8主ヱホバいひたまふ視よ是は來れり成れり是わが言る日なり 9茲にイスラエルの邑々に住る者出きたり甲冑 大楯 小楯 弓 矢 手鎗 手矛および槍を燃し焚き之をもて七年のあひだ火を燃さん 10彼ら野より木をとりきたること無く林より木をきりとらずして甲冑をもて火を燃しまた己を掠めし者をかすめ己の物を奪ひし者の物を奪はん主ヱホバこれを言ふ 11其日に我イスラエルにおいて墓地をゴグに與へん是往來の人の谷にして海の東にあり是往來の人を礙げん其處に人ゴグとその群衆を埋めこれをゴグの群衆の谷となづけん 12イスラエルの家之を埋めて地を清むるに七月を費さん 13國の民みなこれを埋め之によりて名をえん是我が榮光をあらはす日なり 14彼等 定れる人を選む其人國の中をゆきめぐりて往來の人とともにかの地の面に遺れる者を埋めてこれを清む七月の終れる後かれら尋ぬることをなさん 15國を行巡る者往來し人の骨あるを見るときはその 傍 に標をたつれば死人を埋むる者これをゴグの群衆の谷に埋む 16邑の名もまた群衆ととなへられん斯かれら國を清めん 17人の子よ主ヱホバかく言ふ汝 諸 の類の鳥と野の 諸 の獣に言べし汝等集ひ來り我が汝らのために殺せるところの犠牲に四方より聚れ即ちイスラエルの山々の上なる大なる犠牲に臨み肉を食ひ血を飲め 18汝ら勇士の肉を食ひ地の君等の血を飲め 牡羊 羔羊 牡山羊 牡牛など凡てバシヤンの肥たる畜を食へ 19汝らわが汝らのために殺せるところの犠牲につきて飽まで脂を食ひ醉まで血を飲べし 20汝らわが席につきて馬と騎者と勇士と諸 の軍 人に饜べしと主ヱホバいひたまふ 21我わが榮光を國々の民にしめさん國々の民みな我がおこなふ審判を見我がかれらの上に加ふる手を見るべし 22是日より後イスラエルの家我ヱホバの己の神なることを知ん 23又國々の民イスラエルの家の擄へうつされしは其惡によりしなるを知べし彼等われに背きたるに因て我わが面を彼らに隱し彼らをその敵の手に付したれば皆 劍に仆れたり 24我かれらの汚穢と愆惡とにしたがひて彼らを待ひわが面を彼等に隱せり 25然ば主ヱホバかく言たまふ我今ヤコブの俘擄人を歸しイスラエルの全家を憐れみ吾聖き名のために熱中せん 26彼らその地に安然に住ひて誰も之を怖れしむる者なきに至る時はその我にむかひて爲たるところの諸 の悖れる行爲のために愧べし 27我かれらを國々より導きかへりその敵の國々より集め彼らをもて我の聖き事を衆多の國民にしめす時 28彼等すなはち我ヱホバの己の神なるを知ん是は我かれらを國々に移し又その地にひき歸りて一人をも其處にのこさざればなり 29我わが靈をイスラエルの家にそそぎたれば重て吾面を彼らに隱さじ主ヱホバこれを言ふ

第四十章

1我らの擄へ移されてより二十五年邑の撃破られて後十四年その年の初の月の十日其日にヱホバの手われに臨み我を彼處に携へ往く 2即ち神異象の中に我をイスラエルの地にたづさへゆきて甚だ高き山の上におろしたまふ其處に南の方にあたりて邑のごとき者建てり 3彼我をひきて彼處にいたり給ふに一箇の人あるを見るその面 容は銅 のごとくにして手に麻の繩と間 竿を執り門に立てり 4其人われに言けるは人の子よ汝 目をもて視耳をもて聞き我が汝にしめす諸の事に心をとめよ汝を此にたづさへしはこれを汝にしめさんためなり汝が見るところの事を盡 くイスラエルの家に告よと 5斯ありて視るに家の外の四周に墻垣ありその人の手に六キユビトの間 竿ありそのキユビトは各 一キユビトと一手濶なり彼その墻の厚を量るに一竿ありその高もまた一竿あり 6彼東向の門に

いたりその階をのぼりて門の閾を量るに其濶一竿あり
即ち第一の閾の濶一竿なり 7守房は長一竿廣一竿
守房と守房の間は五キユビトあり内の門の廊の傍なる
門の閾も一竿あり 8内の門の廊を量るに一竿あり 9又門
の廊を量るに八キユビトありその柱は二キユビトなりそ
の門の廊は内にあり 10東向の門の守房は此旁に三箇
彼處に三箇あり此三みな其寸尺おなじ柱もまた此處彼處
ともにその寸尺おなじ 11門の入口の廣をはかるに十キユ
ビトあり門の長は十三キユビトなり 12守房の前に一キユ
ビトの界あり彼旁の界も一キユビトなり守房は此旁彼旁
ともに六キユビトなり 13彼また此守房の屋背より彼屋背
まで門をはかるに入口より入口まで二十五キユビトあり
14柱は六十キユビトに作れる者なり門のまはりに庭あり
て柱にまでおよぶ 15入口の門の前より内の門の廊の前に
いたるまで五十キユビトあり 16守房と門の内面の周圍の
柱とに閉窓あり墻垣の差出たる處にもしかり内面の周圍
には窓あり柱には棕櫚あり 17彼また我を外庭に携ゆくに
庭の周圍に設けたる室と鋪石あり鋪石の上に三十の室あ
り 18鋪石は門の側にありて門の長におなじ是下鋪石なり
19彼下の門の前より内庭の外の前までの廣を量るに東と
北とに百キユビトあり 20又外庭なる北向の門の長と寛を
はかれり 21守房その此旁に三箇彼旁に三箇あり柱および
差出たる處もあり是は前の門の寸尺のごとく長五十キユ
ビト濶二十五キユビトなり 22その窓と差出たる處と棕櫚
は東向の門にある者の寸尺と同じ七段の階級を經て上
るに差出たる處その前にあり 23内庭の門は北と東の門に
向ふ彼門より門までを量るに百キユビトあり 24彼また我
を南に携ゆくに南向の門ありその柱と差出たる處をはか
るに前の寸尺の如し 25是とその差出たる處の周圍に窓あ
り彼窓のごとしその門は長五十キユビト濶二十五キユビ
トなり 26七段の階級をへて登るべし差出たる處その前に
ありその柱の上には此旁に一箇彼旁に一箇の棕櫚あり 27
内庭に南向の門あり門より門まで南の方をはかるに百キ
ユビトあり 28彼我を携へて南の門より内庭に至る彼南の
門をはかるにその寸尺前のごとし 29その守房と柱と
差出たる處は前の寸尺のごとしその門と差出たる處の
周圍とに窓あり門の長五十キユビト濶二十五キユビトな
り 30差出たる處周圍にありその長二十五キユビト濶五キ
ユビト 31其差出たる處は外庭に出づその柱の上に棕櫚あ
り八段の階級をへて升るべし 32彼また内庭の東の方に我
をたづさへゆきて門をはかるに前の寸尺の如し 33その
守房と柱および差出たる處は寸尺前のごとしその門と
差出たる處の周圍とに窓あり門の長五十キユビト濶二十
五キユビト 34その差出たる處は外庭にいづ柱の上には
此旁彼旁に棕櫚あり八段の階級をへて升るべし 35彼われ
を北の門にたづさへゆきてこれを量るに寸尺おなじ 36そ
の守房と柱と差出たる處ありその周圍に窓あり門の長五
十キユビト濶二十五キユビト 37その柱は外庭に出づ柱の
上に此旁彼旁に棕櫚あり八段の階級をへて升るべし 38門
の柱の傍に戸のある室あり其處は燔祭の牲を洗ふとこ
ろなり 39門の廊に此旁に二の臺彼旁に二の臺あり其上に
燔祭罪祭愆祭の牲畜を屠るべし 40北の門の入口に升る
に外面に於て門の廊の傍に二の臺あり亦他の旁にも二
の臺あり 41門の側に此旁に四の臺彼旁に四の臺ありて
八なり其上に屠ることを爲す 42升口に琢石の四の臺あり
長一キユビト半廣一キユビト半高一キユビトなり燔祭
および犧牲を宰るところの器具をその上に置く 43内の
周圍に一手寛の曲釘うちてあり犧牲の肉は臺の上におか
る 44内の門の外において内庭に謳歌人の室あり一は北の
門の側にありて南にむかひ一は南の門の側にありて北
にむかふ 45彼われに言ふ此南にむかへる室は殿をまもる
祭司のための者 46北にむかへる室は壇をまもる祭司のた
めの者なり彼等はレビの子孫の中なるザドクの後裔にし
てヱホバに近よりて之に事ふるなり 47而して彼庭をはか
るに長百キユビト寛百キユビトにして四角なり殿の前
に壇あり 48彼殿の廊に我をひきゆきて廊の柱を量るに
此旁も五キユビト彼方も五キユビトあり門の廣は此旁三
キユビト彼旁三キユビトなり 49廊の長は二十キユビト寛
は十一キユビト階級によりて升るべし柱にそふて柱あり
此旁に一箇彼旁に一箇

第四十一章

1彼殿に我をひきゆきて柱を量るに此旁の寛六キユビト
彼旁の寛六キユビト幕屋の寛なり 2戸の寛は十キユビト
戸の側柱は此旁も五キユビト彼旁も五キユビト彼量るに
其長四十キユビト廣二十キユビトあり 3内にいりて戸の
柱を量るに二キユビトあり戸は六キユビト戸の濶は七キ
ユビト 4彼量るに其長二十キユビト廣二十キユビトにし
て殿に向ふ彼我に言けるは是至聖所なり 5彼室の壁を
量るに六キユビトあり室の周圍の連接屋の寛は四キユビ

トなり 6連接屋は三階にして各三十の間あり室の壁周圍の連接屋の側にありて連接屋は之に連りて堅く立つ然れども室の壁に挿入て堅く立るにあらず 7連接屋は上にいたるに隨ひて廣くなり行く即ち家の圍牆家の四周に高くのぼれば家は上廣くして下のより上のにのぼる様は中の割合にしたがふなり 8我室に高き處あるを見る連接屋の基は一竿に足てその連接る處まで六キユビトなり 9連接屋にある外の壁の厚は五キユビト室の連接屋の傍の隙もまた然り 10室の間にあたりて家の四周に廣二十キユビトの處あり 11連接屋の戸は皆かの隙にむかふ一の戸は北にむかひ一の戸は南にむかふ其隙たる處は四周にありて廣五キユビトなり 12西の方にあたる離處の前の建物は廣七十キユビトその建物の周圍の壁は厚五キユビト長九十キユビト 13彼殿をはかるにその長百キユビトあり離處とその建物とその壁は長百キユビト 14殿の面および離處の東面は廣百キユビトなり 15彼後なる離處の前の建物の長を量れり其此旁彼旁の廊下は百キユビトありまた内殿と庭の廊を量り 16彼の三にある處の闥と閉窓と周圍の廊下を量れり闥の對面に當りて周圍に嵌板あり窓まで地を量りしが窓は皆蔽ふてあり 17戸の上なる處内室と外の處および内外の周圍の諸の壁まで量ることをなせり 18ケルビムと棕櫚と造りてあり二のケルビムの間毎に一本の棕櫚ありケルブには二の面あり 19此旁には人の面ありて棕櫚にむかひ彼旁には獅子の面ありて棕櫚にむかふ家の周圍に凡て是のごとく造りてあり 20地より戸の上までケルビムと棕櫚の設あり殿の壁も然り 21殿には四角の戸柱あり聖所の前にも同形の者あり 22壇は木にして高三キユビト長二キユビトなり是に隅木ありその臺と其周圍も木なり彼われに言けるは是はヱホバの前の壇なり 23殿と聖所とには二の戸あり 24その戸に二の扉あり是二の開扉なり此戸に二箇彼戸に二箇の扉あり 25殿の戸にケルビムと棕櫚つくりてあり壁におけるがごとし外の廊の前に木の段あり 26廊の横壁と家の連接屋と段には此旁彼旁に閉窓と棕櫚あり

第四十二章

1彼われを携へ出して北におもむく路よりして外庭にいたり我を室に導く是は北の方にありて離處に對ひ建物に對ひをる 2その百キユビトの長ある所の前に至るに戸は北の方にあり寛は五十キユビト 3内庭の二十キユビトなる處に對ひ外庭の鋪石に對ふ廊下の上に廊下ありて三なり 4室の前に寛十キユビトの路あり又内庭にいたるところの百キユビトの路あり室の戸は北にむかふ 5その建物の上の室は下のと中のとに比れば狭し是は廊下の爲に其場を削らるればなり 6是等は三階にして庭の柱の如くは柱あらず是をもて上のは下のと中のよりもその場狭し 7室の前にあたりて外に垣あり室にそひて外庭にいたる其長五十キユビト 8外庭の室の長は五十キユビトにして殿に對ふ所は百キユビトあり 9その下の方より是等の室いづ外庭よりこれに往ときは其入口東にあり 10南の庭垣の廣き方にあたり離處とその建物にむかひて室あり 11北の方なる室のごとく其前に路ありその長寛およびその出口その建築みな同じ 12その入口のごとく南の方なる室の入口も然り路の頭に入口あり是は垣に連るところの路にて東より來る路なり 13彼われに言けるは離處の前なる北の室と南の室は聖き室にしてヱホバに近くところの祭司の至聖き物を食ふべき所なり其處にかれら最聖き物素祭罪祭愆祭の物を置べし其處は聖ければなり 14祭司は入たるときは聖所より外庭に出べからず彼等職掌を行ふところの衣服を其處に置べし是聖ければなり而して他の衣を着て民に屬するの處に近くべし 15彼内室を量ることを終て東向の門の路より我を携へ出して四方を量れり 16彼間竿をもて東面を量るにその周圍間竿五百竿あり 17又北面をはかるにその周圍間竿五百竿あり 18また南面をはかるに間竿五百竿あり 19また西面にまはりて量るに間竿五百竿あり 20斯四方を量れり周圍に牆ありその長五百竿寛五百竿聖所と俗所とを區別つなり

第四十三章

1彼われを携へて門にいたる其門は東に向ふ 2時にイスラエルの神の榮光東よりきたりしがその聲大水の音のごとくにして地その榮光に照さる 3其狀を見るに我がこの邑を滅しに來りし時に見たるところの狀の如くに見ゆ又ケバル河の邊にて我が見しところの形のごとき形の者あり我すなはち俯伏す 4ヱホバの榮光東向の門よりきたりて室に入る 5靈われを引あげて内庭にたづさへいるにヱホバの榮光室に充をる 6我聽に室より我に語ふ者あり又人ありてわが傍に立つ 7彼われに言たまひけるは人の子よ吾位のある所我脚の跖のふむ所此にて我長久にイス

ラエルの子孫の中に居んイスラエルの家とその王等 再びその姦淫とその王等の屍骸およびその崇 邱をもてわが聖き名を汚すことなかるべし 8彼らその閾をわが閾の側 に設け其門 柱をわが門 柱の 傍 に設けたれば我と其等との間には只壁一重ありしのみ而して彼ら憎むべき事等をおこなひて吾が聖名を汚したるが故に我怒りてかれらを滅したり 9彼ら今はその姦淫とその王等の屍骸をわが前より除き去ん我また彼らの中に長 久に居べし 10人の子よ汝この室をイスラエルの家に示せ彼らその惡を愧ぢまたこの式様を量らん 11彼らその爲たる 諸 の事を愧なば彼らに此室の製 法とその式様その出口入口その一切の製法その一切の則その一切の製法その一切の法をしらしめよ是をかれらの目の前に書て彼らにその諸の製法とその一切の則を守りてこれを爲しむべし 12室の法は是なり山の 頂 の上なるその地は四方みな最聖し是室の法なり 13壇の寸 尺はキユビトをもて言ば左のごとしそのキユビトは一キユビトと手寛あり壇の底は一キユビト寛一キユビトその周圍の邊は半キユビト是壇の臺なり 14土に坐れる底座より下の層まで二キユビト寛一キユビト又 小き層 より大なる層まで四キユビト寛一キユビトなり 15正 壇は四キユビト壇の 上の面に四の角あり 16壇の 上の面 は長十二キユビト寛十二キユビトにしてその四面角なり 17その層は四方とも長十四キユビト寛十四キユビトその四周の縁は半キユビトその底は四方一キユビトその階 は東に向ふ 18彼われに言けるは人の子よ主ヱホバかく言たまふ壇を建て其上に燔祭を献げ血を灑ぐ日には是をその則とすべし 19主ヱホバかく言ふ汝レビの支派ザドクの裔にして我にちかづき事ふるところの祭司等に犢なる牡牛を罪祭として與ふべし 20又その血を取てこれをその四の角と層の四隅と四周の邊に抹り斯して之を清め 潔ようすべし 21汝 罪祭の牛を取てこれを聖 所の外にて殿の中の定まれる處に焚べし 22第二日に汝 全き牡山羊を罪祭に献ぐべし即ちかれら牡牛をもて清めしごとく之をもて壇を清むべし 23汝 潔 禮を終たる時は犢なる牡牛の全 き者および群の全き牡羊を献ぐべし 24汝これをヱホバの前に持きたるべし祭司等これに鹽を撒かけ燔祭としてヱホバに献ぐべし 25七日の間 汝 日々に牡山羊を罪祭に供ふべしまた彼ら犢なる牡牛と群の牡羊との全き者を供ふべし 26七日の間かれら壇を潔ようしこれを清めその手を滿すべし 27是等の日滿て八日にいたりて後は祭司等汝 らの燔祭と酬恩祭をその壇の上に奉へん我 悦びて 汝らを受納べし主ヱホバこれを言たまふ

第四十四章

1斯て彼我を引て聖 所の東 向なる外の門の路にかへるに門は閉てあり 2ヱホバすなはち我に言たまひけるは此門は閉おくべし開くべからず此より誰も入るべからずイスラエルの神ヱホバ此より入たれば是は閉おくべきなり 3その君は君たるが故にこの内に坐してヱホバの前に食をなさん彼は門の廊の路より入りまたその路より出ん 4彼また我をひきて北の門の路より家の前に至りしが視るにヱホバの榮 光ヱホバの家に滿ゐたれば我俯伏けるに 5ヱホバわれに言たまふ人の子よヱホバの家の諸の則とその諸 の法につきて我が汝に告るところの諸の事に心を用ひ目を注ぎ耳を傾け又殿の入口と聖 所の諸の出口に心を用ひよ 6而して悖れる者なるイスラエルの家に言べし主ヱホバ斯いふイスラエルの家よ汝らその行ひし 諸 の憎むべき事等をもて足りとせよ 7即ち汝 等は心にも割禮をうけず肉にも割禮をうけざる外國人をひききたりて吾聖 所にあらしめてわが家を汚し又わが食なる脂と血を献ぐることを爲り斯汝らの 諸 の憎むべき事の上に彼等また吾契約を破れり 8汝ら我が聖 物を守る職守を怠り彼らをして我が聖 所において汝らにかはりて我の職守を守らしめたり 9主ヱホバかく言たまふイスラエルの子孫の中に居るところの 諸 の異邦人の中凡て心に割禮をうけず肉に割禮をうけざる異邦人はわが聖 所に入るべからず 10亦レビ人も迷へるイスラエルがその憎むべき偶像をしたひて我を棄て迷ひし時に我を棄ゆきたる者はその罪を蒙るべし 11即ち彼らは吾が聖 所にありて下僕となり家の門を守る者となり家にて下僕の業をなさん又彼ら民のために燔祭および犠牲の牲畜を殺し民のまへに立てこれに事へん 12彼等その偶像の前にて民に事へイスラエルの家を礙かせて罪におちいらしめたるが故に主ヱホバ言ふ我手をあげて彼らを罰し彼らをしてその罪を蒙らしめたり 13彼らは我に近づきて祭司の職をなすべからず至聖 所にきたりわが 諸 の聖き物に近よるべからずその恥とその行ひし 諸 の憎むべき事等の報を蒙るべし 14我かれらをして宮守の職務をおこなはしめ宮の 諸 の業および其中に行ふべき 諸 の事を爲しむべし 15然どザドクの裔なるレビの祭司等すなはちイスラエルの子孫が我を

棄て迷謬し時にわが聖 所の職守を守りたる者等は我に
近づきて事へ我まへに立ち脂と血をわれに獻げん主ヱホ
バこれを言ふなり 16即ち彼等わが聖 所にいり吾が臺に
ちかづきて我に事へわが職守を守るべし 17彼等内庭の門
にいる時は麻の衣を衣べし内庭の門および家において 職
をなす時は毛服を身につくべからず 18首には麻の 冠 を
いただき腰には麻の袴を穿つべし汗のいづるごとくに身
をよそほふべからず 19彼ら外庭にいづる時すなはち外庭
にいでて民に就く時はその職をなせるところの衣服を脱
てこれを聖き室に置き他の衣服をつくべし是その服をも
て民を聖くすること無らんためなり 20彼ら頭を剃べから
ず又髪を長く長すべからずその頭髪を剪るべし 21祭司た
る者は内庭に入ときに酒をのむべからず 22又寡婦および
去れたる婦を妻にめとるべからず唯イスラエルの家の 出
なる處女を娶るべし又は祭司の妻の寡となりし者を娶る
べし 23彼らわが民を教へ聖き物と俗の物の區別および汚
れたる物と 潔 き物の區別を之に知しむべし 24爭論ある
時は彼ら起ちて判決き吾定例にしたがひて斷決をなさん
我が 諸 の節期において彼らわが法と憲を守るべく又わ
が安息日を聖くすべし 25死人の許にいたりて身を汚すべ
からず只父のため母のため息子のため息女のため兄弟の
ため夫なき姉妹のためには身を汚すも宜し 26斯る人には
その潔齋の後なほ七日を數へ加ふべし 27彼 聖 所にいた
り内庭にいり聖 所にて職を執 行ふ日には罪祭を獻ぐべ
し主ヱホバこれを言ふ 28彼らの産業は是なり即ち我これ
が産業たり汝らイスラエルの中にて彼らに所有を與ふべ
からず我すなはちこれが所有たるなり 29祭物および罪祭
愆祭の物是等を彼等食ふべし凡てイスラエルの中の
奉納物は彼らに歸す 30諸の物の初實の初および凡て汝ら
が獻ぐる 諸 の獻 物みな祭司に歸すべし汝等その諸の
麥粉の初を祭司に與ふべし是 汝の家に幸福あらしめんた
めなり 31鳥にもあれ獸にもあれ凡て自ら死にたる者又は
裂ころされし者をば祭司たる者食ふべからず

第四十五章

1汝ら籤をひき地をわかちて産業となす時は地の一分を
取り聖き者となしてヱホバに獻ぐべし其 長は二萬五千寛
は一萬なるべし是は其四方周圍凡て聖し 2此中 聖 所に屬
する者は長五百 寛五百にして周圍四角なり又五十キユビ
トの隙地その周圍にあり 3汝この量りたる處より長二萬
五千寛一萬の場を度り取るべし此うちに聖 所 至 聖 所
を設くべし 4是は地の聖場なりヱホバに近づき事ふる
聖 所 の役 者なる祭司等に屬すべし是かれらの家を建て
また聖 所を設くる聖地なり 5又 長二萬五千寛一萬の 處
家に事ふるレビ人に屬し其所有に二十の室あるべし 6そ
の獻げたる聖地に並びて汝ら寛五千 長二萬五千の處を分
ち邑の所有となすべし是はイスラエルの全家に屬す 7又
君たる者の分はかの獻げたる聖地と邑の所有の此處彼處
にあり獻げたる聖地に沿ひ邑の所有に沿ひ西は西にわた
り東は東に渉るべし西の極より東の極まで其 長は支派の
分の一と等し 8イスラエルの中に彼が有ところの者は地
にあり吾君等は重てわが民を虐ぐることなくイスラエル
の家にその支派にしたがひて地を與へおかん 9主ヱホバ
かく言たまふイスラエルの君等よ汝ら足ことを知れ虐ぐ
ることと掠むる事を止め公道と公義を行へ我民を逐放す
ことを止よ主ヱホバこれを言ふ 10汝ら公平き權衡公平き
エパ公平きバテを用ふべし 11エパとバテとはその量を同
じうすべし即ちバテもホメルの十分一を容れエパもホメ
ルの十分一を容るべしホメルに準じてその度量を定むべ
し 12シケルは二十ゲラに當る二十シケル二十五シケル十
五シケルを汝等マネとなすべし 13汝らが獻ぐべき獻 物は
左のごとし一ホメルの小麥の中よりエパの六分一を獻げ
一ホメルの大麥の中よりエパの六分一を獻ぐべし 14油の
例 油のバテは是のごとし一コルの中よりバテの十分一を
獻ぐべしコルは十バテを容る者にて即ちホメルなり十バ
テ一ホメルとなればなり 15又イスラエルの腴なる地より
群二百ごとに一箇の羊を出して素祭および燔祭 酬恩祭の
物に供へ民の罪を贖ふことに用ひしむべし主ヱホバこれ
を言ふ 16國の民みなこの獻 物をイスラエルの君にもちき
たるべし 17又君たる者は祭日朔日安息日およびイスラエ
ルの家の 諸 の節期に燔祭 素祭 灌 祭を奉ぐべし即ち彼イ
スラエルの家の贖罪をなすために罪祭 素祭 燔祭 酬恩祭
を執行なふべし 18主ヱホバかく言たまふ正 月の元 日に
汝 犢なる全き牡牛を取り聖 所を清むべし 19又祭司は
罪祭の牲の血を取りて殿の門 柱にぬり壇の層の四隅と
内庭の門の柱に塗べし 20月の七日に汝等また迷ふ人およ
び拙き者のために斯なして殿のために 贖 をなすべし 21
正 月の十四日に汝ら逾越節を守り七日の間 祝をなし
無酵パンを食ふべし 22その日に君は己のため又國の諸の
民のために牡牛を備へて罪祭となし 23七日の節筵の 間

七箇の牡牛と七箇の牡羊の全き者を日々に七日の間 備へてヱホバに燔祭となし又牡山羊を日々に備へて罪祭となすべし 24彼また素祭として一エパを牡牛のために一エパを牡山羊のために備へ油一ヒンをエパに加ふべし 25七月の十五日の節筵に彼また罪祭 燔祭 素祭および油を是のごとく七日の間 備ふべし

第四十六章

1主ヱホバかく言たまふ内庭の東向の門は事務をなすところの六日の間は閉ぢ置き安息日にこれを開き又月朔にこれを開くべし 2君たる者は外より門の廊の路をとほりて入り門の柱の 傍 に立つべし祭司等その時かれの爲に燔祭と酬恩祭を備ふべし彼は門の閾において禮拜をなして出べし但し門は暮まで閉べからず 3國の民は安息日と月朔とにその門の入口においてヱホバの前に禮拜をなすべし 4君が安息日にヱホバに獻ぐる燔祭には六の全き羔羊と一の全き牡羊を用ふべし 5又素祭は牡羊のために一エパを用ふべし羔羊のために用ふる素祭はその手の出しうる程を以し一エパに油一ヒンを加ふべし 6月朔には犢なる一頭の全き牡牛および六の羔羊と一の牡羊の全き者を用ふべし 7素祭は牛のために一エパ牡羊のために一エパ羔羊のために其手のおよぶ程を備へ一エパに油一ヒンを加ふべし 8君は來る時に門の廊の路より入りまたその路より出べし 9國の民祭日にヱホバの前に來る時は北の門よりいりて禮拜をなせる者は南の門より出で南の門より入る者は北の門より出べし其入りたる門より歸るべからず眞直に進みて出べし 10君彼らの中にありてその入る時に入りその出る時に出べし 11祭日と祝日には素祭として牛のために一エパ牡羊のために一エパ羔羊のためにその手の出し得る程を備へ一エパに油一ヒンを加ふべし 12君もし自ら好んでヱホバに燔祭を備へんとし又は自ら好んで酬恩祭を備へんとせば彼のために東向の門を開くべし彼は安息日に爲ごとくその燔祭と酬恩祭を備ふべし又彼が出たる時はその出たる後に門を閉べし 13汝 日々に一歲の全き羔羊一箇を燔祭としてヱホバに備ふべし即ち朝ごとにこれを備ふべし 14汝 朝ごとに素祭をこれに加ふべし即ち一エパの六分一と麥粉を濕す油一ヒンの三分一とを素祭としてヱホバに獻ぐべし是は長久に續くところの例典なり 15即ち朝ごとに羔羊と素祭と油とを燔祭にそなへて止ことなかるべし 16主ヱホバかく言たまふ君もし其子の一人に讓物をなす時は是その人の産業となりその子孫に傳はりて之が所有となるべし 17然ど若その産業の中をその僕の一人に與ふる時は是は解放の年までその人に屬し居て遂に君にかへるべし彼の産業は只その子孫にのみ傳はるべきなり 18君たる者は民の産業を取て民をその所有より逐放すべからず只 己の所有の中をその子等に傳ふべし是わが民のその所有をはなれて散ことなからんためなり 19斯て彼門の傍の入口より我をたづさへいりて北向なる祭司の聖き室にいたるに西の奥に一箇の處あり 20彼われに言けるは是は祭司が愆祭および罪祭の物を烹 素祭の物を拷ところなり斯するはこれを外庭に携へいでて民を聖くすることなからんためなり 21彼また我を外庭に携へいだして庭の四隅をとほらしむるに庭の隅々にまた庭あり 22即ち庭の四隅に庭の設ありてその長四十キユビト廣三十キユビトなり四隅の處その寸尺みな同じ 23凡てその四の周圍なるその建物の下に烹飪の處 造りてあり 24彼われに云けるは是等は家の役 者等が民の犧牲の品を烹る厨房なり

第四十七章

1斯てかれ我を室の門に携へかへりしが室の閾の下より水の東の方に流れ出るあり室の面は東にむかひをりその水下より出で室の右の方よりして壇の南より流れ下る 2彼北の門の路より我を携へいだして外面をまはらしめ東にむかふ外の門にいたらしむるに水門の右の方より流れ出づ 3その人 東に進み手に度 繩を持て一千キユビトを度り我に水をわたらしむるに水踝骨にまでおよぶ 4彼また一千を度り我を渉らしむるに水膝にまでおよぶ而してまた一千を度り我を渉らしむるに水腰にまで及ぶ 5彼また一千を度るに早わが渉るあたはざる河となり水高くして泅ぐほどの水となり徒渉すべからざる河とはなりぬ 6彼われに言けるは人の子よ汝これを見とめたるやと乃ち河の岸に沿て我を將かへれり 7我歸るに河の岸の此方彼方に甚だ衆多の樹々生ひ立るあり 8彼われに言ふこの水 東の境に流れゆきアラバにおち下りて海に入る是海に入ればその水すなはち醫ゆ 9凡そ此河の往ところには 諸 の動くところの生物みな生ん又 甚だ衆多の魚あるべし此水到るところにて醫すことをなせばなり此河のいたる處にては物みな生べきなり 10漁 者その 傍 に立んエンゲデよりエネグライムまでは網を張る處となるべしその魚はその

類にしたがひて大海の魚のごとく甚だ多からん 11但しその澤地と濕地とは愈ることあらずして鹽地となりをるべし 12河の傍その岸の此旁彼旁に食はるる果を結ぶ諸の樹生そだたんその葉は枯ずその果は絕ず月々新しき果をむすぶべし是その水かの聖所より流れいづればなりその果は食となりその葉は藥とならん 13主ヱホバかく言たまふ汝らイスラエルの十二の支派の中に地を分ちてその產業となさしむるにはその界を斯さだむべしヨセフは二分を得べきなり 14汝ら各々均しく之を獲て產業とすべし是は我が手をあげて汝らの先祖等に與へし者なり斯この地汝らに歸して產業とならん 15地の界は左のごとし北は大海よりヘテロンの路をへてゼダデの方にいたり 16ハマテ、ベロクにいたりダマスコの界とハマテの界の間なるシブライムにいたりハウランの界なるハザルハテコンにいたる 17海よりの界はダマスコの界のハザルエノンにいたる北の方においてはハマテその界たり北の方は是のごとし 18東の方はハウラン、ダマスコ、ギレアデとイスラエルの地との間にヨルダンあり汝らかの界より東の海までを量るべし東の方は斯のごとし 19南の方はタマルよりメリボテカデシにおよび河に沿て大海にいたる南の方は是のごとし 20西の方は大海にしてこの界よりハマテにおよぶ西の方は是のごとし 21汝らイスラエルの支派にしたがひて此地を汝らの中にわかつべし 22汝ら籤をもて之を汝らの中に分ち又汝らの中にをりて汝らの中に子等を擧けたる異邦人の中に分ちて產業となすべし斯る人は汝らにおけることイスラエルの子孫の中に生れたる本國人のごとし彼らも汝らと共に籤をひきてイスラエルの支派の中に產業を得べし 23異邦人にはその住ところの支派の中にて汝ら之に產業を與ふべし主ヱホバこれを言たまふ

第四十八章

1支派の名は是のごとしダンの一分は北の極よりヘテロンの路の傍にいたりハマテにいたり北におもむきてダマスコの界なるハザルエノンにいたりハマテの傍におよぶ是その東の方と西の方なり 2アセルの一分はダンの界にそひて東の方より西の方にわたる 3ナフタリの一分はアセルの界にそひて東の方より西の方にわたる 4マナセの一分はナフタリの界にそひて東の方より西の方にわたる 5エフライムの一分はマナセの界にそひて東の方より西の方にわたる 6ルベンの一分はエフライムの界にそひて東の方より西の方にわたる 7ユダの一分はルベンの界にそひて東の方より西の方にわたる 8ユダの界にそひて東の方より西の方にわたる處をもて汝らが獻ぐるところの獻納地となすべし其廣二萬五千其東の方より西の方にわたる長は他の一の分のごとし聖所はその中にあるべし 9即ち汝らがヱホバに獻ぐるところの獻納地は長二萬五千廣一萬なるべし 10この聖き獻納地は祭司に屬し北は二萬五千西は廣一萬東は廣一萬南は長二萬五千ヱホバの聖所その中にあるべし 11ザドクの子孫たる者すなはち我が職守をまもりイスラエルの子孫が迷謬し時にレビ人の迷ひしごとく迷はざりし者の中聖別られて祭司となれる者に是は屬すべし 12その獻げたる地の中より一分の至聖き獻納地かれらに屬してレビの境界に沿ふ 13レビ人の地は祭司の地にならびて其長二萬五千廣一萬なり即ちその都の長二萬五千その廣一萬なり 14彼らこれを賣べからず換べからず又その地の初實は人にわたすべからず是ヱホバに屬する聖物なればなり 15彼二萬五千の處に沿て殘れる廣五千の處は俗地にして邑を建て住家を設くべし又郊地となすべし邑その中にあるべし 16その廣狹は左のごとし北の方四千五百南の方四千五百東の方四千五百西の方四千五百 17邑の郊地は北二百五十南二百五十東二百五十西二百五十 18聖き獻納地にならびて餘れる處の長は東へ一萬西へ一萬なり是は聖き獻納地に並びその產物は邑の役人の食物となるべし 19邑の役人はイスラエルの諸の支派より出てその職をなすべし 20その獻納地の惣體は堅二萬五千横二萬五千なりこの聖き獻納地の四分の一にあたる處を取て邑の所有となすべし 21聖き獻納地と邑の所有との此旁彼旁に餘れる處は君に屬すべし是はすなはち獻納地の二萬五千なる所に沿て東の界にいたり西はかの二萬五千なる所にそひて西の界に至りて支派の分と相並ぶ是君に屬すべし聖き獻納地と室の聖所とはその中間にあるべし 22君に屬する所の中間にあるレビ人の所有と邑の所有の兩傍ユダの境とベニヤミンの境の間にある所は君の所有たり 23その餘の支派はベニヤミンの一分東の方より西の方にわたる 24シメオンの一分はベニヤミンの境にそひて東の方より西の方にわたる 25イッサカルの一分はシメオンの境にそひて東の方より西の方にわたる 26ゼブルンの一分はイッサカルの境にそひて東の方より西の方にわたる 27ガドの一分はゼブルンの境にそひて東の方より西の方にわたる 28南の方は

その界ガドの境界にそひてタマルよりメリボテカデシにおよび河に沿て大海にいたる 29是は汝らが籤をもてイスラエルの支派の中にわかちて産業となすべき地なりその分は斯のごとし主ヱホバこれを言たまふ 30邑の出口は斯のごとしすなはち北の方の廣四千五百あり 31邑の門はイスラエルの支流の名にしたがひ北に三あり即ちルベンの門一ユダの門一レビの門一 32東の方も四千五百にして三の門あり即ちヨセフの門一ベニヤミンの門一ダンの門一 33南の方も四千五百にして三の門ありすなはちシメオンの門一イツサカルの門一ゼブルンの門一 34西の方も四千五百にしてその門三あり即ちガドの門一アセルの門一ナフタリの門一 35四周は一萬八千あり邑の名は此日よりヱホバ此に在すと云ふ

ダニエル書

第一章

1ユダの王エホヤキムの治世の第三年にバビロンの王ネブカデネザル、ヱルサレムにきたりて之を攻圍みしに 2主ユダの王ヱホヤキムと神の家の器具幾何とをかれの手にわたしたまひければ則ちこれをシナルの地に携へゆきて己の神の家にいたりその器具を己の神の庫に蔵めたり 3茲に王寺人の長アシベナズに命じてイスラエルの子孫の中より王の血統の者と貴族たる者幾何を召寄しむ 4即ち身に疵なく容貌美しくして一切の智慧の道に頴く知識ありて思慮深く王の宮に侍るに足る能幹ある少き者を召寄しめこれにカルデヤ人の文學と言語とを學ばせんとす 5是をもて王は命を下して日々に王の用ゐる饌と王の飲む酒とを彼らに與へしめ三年の間かく彼らを養ひ育てしめんとす是その後に彼らをして王の前に立ことを得せしめんとてなり 6是等の中にユダの人ダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル、アザリヤありしが 7寺人の長かれらに名をあたへてダニエルをベルテシヤザルと名けハナニヤをシヤデラクと名けミシヤエルをメシヤクと名けアザリヤをアベデネゴと名く 8然るにダニエルは王の用ゐる饌と王の飲む酒とをもて己の身を汚すまじと心に思ひさだめたれば己の身を汚さざらしめんことを寺人の長に求む 9以前よりヱホバ、ダニエルをして寺人の長の慈悲と寵愛とを蒙らしめたまふ 10是において寺人の長ダニエルに言けるは吾主なる王すでに命をくだして汝らの食物と汝らの飲物とを頒たしめたまへば我かれを畏る恐くは彼なんぢらの面の其同輩の少者等と異にして憂色あるを見ん然る時は汝らのために我首王の前に危からん 11寺人の長はメルザル官をしてダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル及びアザリヤを監督らせ置たればダニエル之に言けるは 12請ふ十日の間僕等を驗したまへ即ち我らには菜蔬を與へて食せ水を與へて飲せよ 13而して我らの面と王の饌を食ふ少者どもの面とを較べ見汝の視るところにしたがひて僕等を待ひたまへと 14是において彼この事を聽いれ十日のあひだ彼らを驗しけるが 15十日の後にいたりて見るに王の饌を食へる諸の少者よりも彼らの面は美しくまた肥え膩つきてありければ 16メルザル官すなはち彼らの分なる饌と彼らの飲べき酒とを撤きさりて菜蔬をこれに與へたり 17この四人の少者には神知識を得させ諸の文學と智慧に頴からしめたまへりダニエはまた能く各諸の異象と夢兆を暁る 18王かねて命をくだし少者どもを召いるる迄に經べき日を定めおきしがその日數も過たるに因て寺人の長かれらを引てネブカデザルの前にいたりければ 19王かれらと言談へり彼ら一切の中にはダニエル、ハナニヤ、ミシヤエル、アザリヤに比ぶ者あらざりければこの四人は王の前に侍れり 20王かれらに諸の事を詢たづね見に彼らは智慧の學においてその全國の博士と法術士に愈ること十倍なり 21ダニエルはクロス王の元年までありき

第二章

1ネブカデネザルの治世の二年にネブカデネザル夢を見それがために心に思ひなやみて復睡ること能はざりき 2是をもて王は命を下し王のためにその夢を解せんとて博士と法術士と魔術士とカルデヤ人とを召しめたれば彼ら來りて王の前に立つ 3王すなはち彼らにむかひ我夢を見その夢の義を知んと心に思ひなやむと言ければ 4カルデヤ人等スリア語をもて王に申しけるは願くは王長壽かれ請ふ僕等にその夢を語りたまへ我らその解明を進めたてまつらんと 5王こたへてカルデヤ人に言けるは我すでに

命を出せり汝等もしその夢とこれが解明とを我に示さざるにおいては汝らの身は切裂れ汝らの家は厠にせられん
6又汝らもしその夢とこれが解明を示さば賻物と賞賚と大なる尊榮とを我より獲ん然ばその夢と之が解明を我に示せ 7彼らまた對へて言けるは願くは王僕どもにその夢を語りたまへ然ば我らその解明を奏すべしと 8王こたへて言けるは我あきらかに知る汝らは吾命の下りしを見るが故に時を延さんことを望むなり 9汝らもしその夢を我に示さずば汝らを處置するの法は只一のみ汝らは相語らひて虚言と妄誕なる詞を我前にのべて時の變るを待んとするなり汝ら今先その夢を我に示せ然すれば汝らがその解明をも我にしめし得ることを我しらんと 10カルデヤ人等こたへて王の前に申しけるは世の中には王のその事を示し得る人一箇もなし是をもて王たる者主たる者君たる者等の中に斯る事を博士または法術士またはカルデヤ人に問たづねし者絶てあらざるなり 11王の問たまふその事は甚だ難し肉身なる者と共に居ざる神々を除きては王の前にこれを示すことを得る者無るべしと 12斯りしかば王怒を發し大に憤りバビロンの智者をことごとく殺せと命じたり 13即ち此命くだりければ智者等は殺されんとせり又ダニエルとその同僚をも殺さんともとめたり 14茲に王の侍衛の長アリオク、バビロンの智者等を殺さんとて出きたりければダニエル遠慮と智慧とをもて之に應答せり 15すなはち王の高官アリオクに對へて言けるは王なにとて斯すみやかにこの命を下したまひしやとアリオクその事をダニエルに告しらせたれば 16ダニエルいりて王に乞求めて言ふ暫くの時日を賜へ然ばその解明を王に奏せんと 17斯てダニエルその家にかへりその同僚ハナニヤ、ミシヤエルおよびアザリヤにこの事を告しらせ 18共にこの秘密につき天の神の憐憫を乞ひダニエルとその同僚等をしてその他のバビロンの智者とともに滅びさらしめんことを求めたりしが 19ダニエルつひに夜の異象の中にこの秘密を示されければダニエル天の神を稱贊ふ 20即ちダニエル應へて言けるは永遠より永遠にいたるまでこの神の御名は讃まつるべきなり智慧と權能はこれが有なればなり 21彼は時と期とを變じ王を廢し王を立て智者に智慧を與へ賢者に知識を賜ふ 22彼は深妙秘密の事を顯し幽暗にあるところの者を知たまふまた光明彼の裏にあり 23わが先祖等の神よ汝は我に智慧と權能を賜ひ今われらが汝に乞求めたるところの事を我にしめし給へば我感謝して汝を稱贊ふ即ち汝は王のかの事を我らに示したまへり 24是においてダニエルは王がバビロンの智者等を殺すことを命じおけるアリオクの許にいたり即ちいりてこれに言けるはバビロンの智者等を殺す勿れ我を王の前に引いたれよ我その解明を王に奏上ぐべしと 25アリオクすなはちダニエルを引て急ぎ王の前にいたり王にまうしけるは我ユダの俘囚人の中に一箇の人を得たり是者その解明を王にまうしあげん 26王こたへてベルテシヤザルと名くるダニエルに言けるは汝は我が見たる夢とその解明とを我に知らすことを得るやと 27ダニエルすなはち應へて王の前に言けるは王の問たまふ秘密は智者法術士博士卜筮師など之を王に奏上ぐることを得ず 28然ど天に一の神ありて秘密をあらはし給ふ彼後の日に起らんところの事の如何なるかをネブカデネザル王にしらせたまふなり汝の夢汝が牀にありて想見たまひし汝の腦中の異象は是なり 29王よ汝牀にいりし時將來の事の如何を想ひまはしたまひしが秘密を顯す者將來の事の如何を汝にしめし給へり 30我がこの示現を蒙れるは凡の生る者にまさりて我に智慧あるに由にあらず唯その解明を王に知しむる事ありて王のつひにその心に想ひたまひし事を知にいたり給はんがためなり 31王よ汝は一箇の巨なる像の汝の前に立るを見たまへり其像は大くしてその光輝は常ならずその形は畏ろしくあり 32其像は頭は純金胸と兩腕とは銀腹と腿とは銅 33脛は鐵脚は一分は鐵一分は泥土なり 34汝見て居たまひしに遂に一箇の石人手によらずして鑿れて出でその像の鐵と泥土との脚を撃てこれを碎けり 35斯りしかばその鐵と泥土と銅と銀と金とは皆ともに碎けて夏の禾場の糠のごとくに成り風に吹はらはれて止るところ無りき而してその像を撃たる石は大なる山となりて全地に充り 36是その夢なり我らその解明を王の前に陳ん 37王よ汝は諸王の王にいませり即ち天の神汝に國と權威と能力と尊貴とを賜へり 38また人の子等野の獸畜および天空の鳥は何處にをる者にもあれ皆これを汝の手に與へて汝にこれをことごとく治めしめたまふ汝はすなはち此金の頭なり 39汝の後に汝に劣る一の國おこらんまた第三に銅の國おこりて全世界を治めん 40第四の國は堅きこと鐵のごとくならん鐵は能く萬の物を毀ち碎くなり鐵の是等をことごとく打碎くがごとく其國は毀ちかつ碎くことをせん 41汝その足と足の趾を見たまひしに一分は陶人の泥土一分は鐵なりければその國は分裂

たる者ならん又汝鐵と粘土との混和たるを見たまひたればその國は鐵のごとく強からん 42その足の趾の一分は鐵一分は泥土なりしごとくその國は強きところもあり脆きところも有ん 43汝が鐵と粘土との混りたるを見たまひしごとく其等は人草の種子と混らん然ど鐵と泥土との相合せざるごとく彼と此と相合すること有じ 44この王等の日に天の神一の國を建たまはん是は何時までも滅ぶることなく此國は他の民に歸せず却てこの諸の國を打破りてこれを滅せん是は立ちて永遠にいたらん 45かの石の人手によらずして山より鑿れて出で鐵と銅と泥土と銀と金とを打碎きしを汝が見たまひしは即ちこの事なり大御神この後に起らんところの事を王にしらせたまへるなりその夢は眞にしてこの解明は確なり 46是においてネブカデネザル王は俯伏てダニエルを拝し禮物と香をこれに献ぐることを命じたり 47而して王こたへてダニエルに言けるは汝がこの秘密を明かに示すことを得たるを見れば誠に汝らの神は神等の神王等の主にして能く秘密を示す者なりと 48かくて王はダニエルに高位を授け種々の大なる賜物を與へてこれをバビロン全州の總督となしまたバビロンの智者等を統る者の首長となせり 49王またダニエルの願によりてシヤデラクとメシヤクとアベデネゴを擧てバビロン州の事務をつかさどらしめたりダニエルは王の宮にをる

第三章

1茲にネブカデネザル王一箇の金の像を造れりその高は六十キユビトその横の廣は六キユビトなりき即ちこれをバビロン州のドラの平野に立たり 2而してネブカデネザル王は州牧將軍方伯刑官庫官法官士師および州郡の諸有司を召集めそのネブカデネザル王の立たる像の告成禮に臨ましめんとせり 3是においてその州牧將軍方伯刑官庫官法官士師および州郡の諸有司等はネブカデネザル王の立たる像の告成禮に臨みそのネブカデネザル王の立たる像の前に立り 4時に傳令者大聲に呼はりて言ふ諸民諸族諸音よ汝らは斯命ぜらる 5汝ら喇叭簫琵琶琴瑟篳篥などの諸の樂器の音を聞く時は俯伏しネブカデネザル王の立たまへる金像を拝すべし 6凡て俯伏て拝せざる者は即時に火の燃る爐の中に投こまるべしと 7是をもて諸民等喇叭簫琵琶琴瑟などの諸の樂器の音を聞くや直に諸民諸族諸音みな俯伏しネブカデネザル王の立たる金像を拝したり 8その時或カルデヤ人等進みきたりてユダヤ人を讒奏せり 9即ち彼らネブカデネザル王に奏聞して言ふ願くは王長壽かれ 10王よ汝は命を出して宣へり凡て喇叭簫琵琶琴瑟篳篥などの諸の樂器の音を聞く者はみな俯伏しこの金像を拝すべし 11凡て俯伏し拝せざる者はみな火の燃る爐の中に投こまるべしと 12此に汝が立てバビロン州の事務を司どらせ給へるユダヤ人シヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴあり王よ此人々は汝を尊ばず汝の神々にも事へず汝の立たまへる金像をも拝せざるなりと 13是においてネブカデネザル怒りかつ憤りてシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴを召寄よと命じければ即ちこの人々を王の前に引きたりしに 14ネブカデネザルかれらに問て言けるはジヤデラク、メシヤク、アベデネゴよ汝ら我神に事へずまた我が立たる金像を拝せざるは是故意にするなるか 15汝らもし何の時にもあれ喇叭簫琵琶琴瑟篳篥などの諸の樂器の音を聞く時に俯伏し我が造れる像を拝することを爲ば可し然ど汝らもし拝することをせずば即時に火の燃る爐の中に投こまるべし何の神か能く汝らをわが手より救ひいだすことをせん 16シヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴ對へて王に言けるはネブカデネザルよこの事においては我ら汝に答ふるに及ばず 17もし善らんには王よ我らの事ふる我らの神我らを救ふの能あり彼その火の燃る爐の中と汝の手の中より我らを救ひいださん 18假令しからざるも王よ知たまへ我らは汝の神々に事へずまた汝の立たる金像を拝せじ 19是においてネブカデネザル怒氣を充しシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴにむかひてその面の容を變へ即ち爐を常に熱くするよりも七倍熱くせよと命じ 20またその軍勢の中の力強き人々を喚てシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴを縛りてこれを火の燃る爐の中に投こめと命じたり 21是をもて此人々はその褲子羽織外套およびその他の服装を着たるままにて縛られて火の燃る爐の中に投こまれたりしが 22王の命はなはだ急にして爐は甚だしく熱しゐたれば彼のシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴを引抱へゆける者等はその火焔に燒ころされたり 23また此シヤデラク、メシヤク、デベデネゴの三人は縛られたるままにて燃る爐の中に落いりぬ 24時にネブカデネザル王驚きて急忙しくたちあがり大臣等に言ふ我らは三人を縛りて火の中に投いれざりしや彼ら王にこたへて言ふ王よ然りと 25王また應へて言ふ今我見るに四人の者

縲縛解て火の中に歩みをり凡て何の害をも受ずまたその第四の者の容は神の子のごとしと 26ネブカデネザルすなはちその火の燃る爐の口に進みよりて呼て言ふ至高神の僕シヤデラク、メシヤク、アベデネゴよ汝ら出きたれと是においてシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴその火の中より出きたりしかば 27州牧將軍方伯および王の大臣等集りて比人々を見たり此人々の身は火もこれを害する力なかりきまたその頭の髪は燒けずその衣裳は傷ねず火の臭氣もこれに付ざりき 28ネブカデネザルすなはち宣て曰くシヤデラク、メシヤク、アベデネゴの神は讃べき哉彼その使者を遣りて己を賴む僕を救へりまた彼らは自己の神の外には何の神にも事へずまた拝せざらんとて王の命をも用ひず自己の身をも捨んとせり 29然ば我今命を下す諸民諸族諸音の中凡てシヤデラク、メシヤクおよびアベダネゴの神を詈る者あらばその身は切裂れその家は厠にせられん其は是のごとくに救を施す神他にあらざればなりと 30かくて王またシヤデラク、メシヤクおよびアベデネゴの位をすすめてバビロン州にをらしむ

第四章

1ネブカデネザル王全世界に住める諸民諸族諸音に諭す願くは大なる平安汝らにあれ 2至高神我にむかひて徴證と奇蹟を行へり我これを知しむることを善と思ふ 3嗚呼大なるかなその徴證嗚呼盛なるかなその奇蹟その國は永遠の國その權は世々限なし 4我ネブカデネザルわが家に安然に居りわが宮に榮え居れり 5我一の夢を見て之がために懼れ即ち床にありてその事を想ひめぐらしその我腦中の異象のために心をなやませり 6是に於て我命を下しバビロンの智者をことごとく我前に召よせしめてその夢の解明を我にしめさせんと爲たれば 7すなはち博士法術士カルデヤ人卜筮師等きたりしに囚て我その夢を彼らに語りけるに彼らはその解明を我にしめすことを得ざりき 8かくて後ダニエルわが前に來れり彼の名は吾神の名にしたがひてベルテシヤザルと稱へられその裏には聖神の霊やどれり我その夢を彼の前に語りて曰けらく 9博士の長ベルテシヤザルよ我しる汝の裏には聖神の霊やどれば如何なる秘密も汝には難き事なし我が夢に見たるところの事等を聞きその解明を我に告げよ 10我が床にありて見たる吾腦中の異象は是のごとし我觀しに地の當中に一の樹ありてその丈高かりしが 11その樹長じて強固なり天に達するほどの高となりて地の極までも見えわたり 12その葉は美しくその菓は饒にして一切の者その中より食を得また野の獣その蔭に臥し空の鳥その枝に棲み凡て血氣ある者みな是によりて身を養ふ 13我床にありて得たる腦中の異象の中に一箇の警寤者一箇の聖者の天より下るを見たりしが 14彼聲高く呼はりて斯いへり此樹を伐たふしその枝を斫はなしその葉を搖おとしその果を打散し獣をしてその下より逃はしらせ鳥をしてその枝を飛さらしめよ 15但しその根の上の斬株を地に遺しおき鐵と銅の索をかけて之を野の草の中にあらしめよ是は天よりくだる露に濕れまた地の草の中にて獣とその分を同じうせん 16又その心は變りて人間の心のごとくならず獣の心を稟て七の時を經ん 17この事は警寤者等の命によりこの事は聖者等の言による是至高者人間の國を治めて自己の意のままにこれを人に與へまた人の中の最も賤き者をその上に立たまふといふ事を一切の者に知しめんがためなり 18我ネブカデネザル王この夢を見たりベルテシヤザルよ汝その解明を我に述よ我國の智者は執も皆その解明を我に示すことを得ざりしが汝は之を能せん其は汝の裏には聖神の霊やどればなりと 19その時ダニエル又の名はベルテシヤザルとい者暫時の間驚き居り心に深く懼れたれば王これに告て言りベルテシヤザルよ汝この夢とその解明のために懼るるにおよばずとベルテシヤザルすなはち答へて言けらく我主よ願くはこの夢汝を惡む者の上にかからん事を願くは此解明汝の敵にのぞまんことを 20汝が見たまひし樹すなはちその長じて強くなり天に達するほどの高となりて地の極までも見えわたり 21その葉は美しくその果は饒にして一切の者その中より食を得またその下に野の獣臥しその枝に空の鳥棲たる者 22王よ是はすなはち汝なり汝は長じて強くなり汝の勢ひは盛にして天におよび汝の權は地の極にまでおよべり 23王また一箇の警寤者一箇の聖者の天より下りて斯言ふを見たまへり云くこの樹を伐たふして之をそこなへ但し其根の上の斬株を地に遺しおき鐵と銅の索をかけて之を野の草の中にあらしめよ是は天より下る露に濡れ野の獣とその分を同じうして七の時を經ん 24王よその解明は是の如し是即ち至高者の命にして王我主に臨まんとする者なり 25即ち汝は逐れて世の人と離れ野の獣とともに居り牛のごとくに草を食ひ天よりくだる露に濡れん是の如くにして七の時を經て汝つひに知ん至高者人間の國

を治めて自己の意のままに之を人に與へ給ふと 26又彼らその樹の根の上の斬株を遺しおけと言たれば汝の國は汝が天は主たりと知にいたる時まで汝を離れん 27然ば王よ吾諫を容れ義をおこなひて罪を離れ貧者を憐みて惡を離れよ然らば汝の平安あるひは長く続かんと 28この事みなネブカデネザル王に臨めり 29十二箇月を經て後王バビロンの王宮の上に歩みをり 30王すなはち語りて言ふ此大なるバビロンは我が大なる力をもて建て京城となし之をもてわが威光を耀かす者ならずや 31その言なほ王の口にある中に天より聲降りて言ふネブカデネザル王よ汝に告ぐ汝は國の位を失はん 32汝は逐れて世の人と離れ野の獣と共に居り牛のごとくに草を食はん斯の如くにして七の時を經て汝つひに知ん至高者人間の國を治めて己れの意のままにこれを人に與へたまふと 33その時直にこの事ネブカデネザルに臨み彼は逐れて世の人に離れ牛のごとくに草を食ひてその身は天よりくだる露に濡れ終にその髪毛は鷲の羽のごとくになりその爪は鳥の爪のごとくになりぬ 34斯てその日の滿たる後我ネブカデネザル目をあげて天を望みしにわが分別性我に歸りたれば我至高者に感謝しその永遠に生る者を讃かつ崇めたり彼の御宇は永遠の御宇彼の國は世々かぎり無し 35地上の居民は凡て無き者のごとし天の衆群にも地の居民にも彼はその意のままに事をなしたまふ誰も彼の手をおさへて汝なんぞ然するやと言ことを得る者なし 36この時わが分別性かく我に歸りたりしがわが國の榮光につきてはまた我の尊嚴と光耀我にかへれり且また大臣牧伯等我に請求めて我ふたたび國の祚を踐み前よりも著しく威光を増たり 37是において我ネブカデネザル今は天の王を讃頌へかつ崇む彼の作爲は凡て眞實彼の道は正義自ら高ぶる者は彼能くこれを卑くしたまふ

第五章

1ベルシヤザル王その大臣一千人のために酒宴を設けその一千人の者の前に酒を飲たりしが 2酒の進むにいたりてベルシヤザルはその父ネブカデネザルがヱルサレムの宮より取きたりし金銀の器を携へいたれと命ぜり是王とその大臣および王の妻妾等みな之をもて酒を飲んとてなりき 3是をもてそのヱルサレムなる神の宮の内院より取たりし金の器を携へいたりければ王とその大臣および王の妻妾等これをもて飲めり 4すなはち彼らは酒をのみて金銀銅鐵木石などの神を讃たたへたりしが 5その時に人の手の指あらはれて燭臺と相對する王の宮の粉壁に物書り王その物書る手の末を見たり 6是において王の愉快なる顔色は變りその心は思ひなやみて安からず腿の關節はゆるみ膝はあひ撃り 7王すなはち大聲に呼はりて法術士カルデヤ人卜筮師等を召きたらしめ而して王バビロンの智者等に告て言ふこの文字を讀みその解明を我に示す者には紫の衣を衣せ頸に金の鏈をかけさせて之を國の第三の牧伯となさんと 8王の智者等は皆きたりしかどもその文字を讀こと能はずまたその解明を王にしめすこと能はざりければ 9ベルシヤザル王おほいに思ひなやみてその顔色を失へりその大臣等もまた驚き懼れたり 10時に大后王と大臣等の言を聞てその酒宴の室にいりきたり大后すなはち陳て言ふ願くは王長壽かれ汝心に思ひなやむ勿れまた顔色を失ふにおよばず 11汝の國に聖神の靈のやどれる一箇の人あり汝の父の代に彼聰明了知および神の智慧のごとき智慧あることを顯せり汝の父ネブカデネザル王すなはち汝の父の王彼を立てて博士法術士カルデヤ人卜筮師等の長となせり 12彼はダニエルといへる者なるが王これにベルテシヤザルといふ名を與へたり彼は心の殊勝たる者にて了知あり知識ありて能く夢を解き隱語を解き難問を解くなり然ばダニエルを召されよ彼その解明をしめさんと 13是においてダニエル召れて王の前に至りければ王ダニエルに語りて言ふ汝は吾父の王がユダより曳きたりしユダの俘囚人なるそのダニエルなるか 14我聞になんぢの裏には神の靈やどりをりて汝は聰明了知および非凡の智慧ありと云ふ 15我智者法術士等を吾前に召よせてこの文字を讀しめその解明を我にしめさせんと爲たれども彼らはこの事の解明を我にしめすことを得ず 16我聞に汝は能く物事の解明をなしかつ難問を解くと云ふ然ば汝もし能くこの文字を讀みその解明を我に示さば汝に紫の衣を衣せ金の索を汝の頸にかけさせて汝をこの國の第三の牧伯となさんと 17ダニエルこたへて王に言けるは汝の賜物は汝みづからこれを取り汝の饒物はこれを他の人に與へたまへ然ながら我は王のためにその文字を讀みその解明をこれに知せたてまつらん 18王よ至高神汝の父ネブカデネザルに國と權勢と榮光と尊貴を賜へり 19彼に權勢を賜ひしによりて諸民諸族諸音みな彼の前に慄き畏れたり彼はその欲する者を殺しその欲する者を活しその欲する者を上げその欲する者を下ししなり 20而

して彼心に高ぶり氣を剛愎にして驕りしかばその國の
位をすべりてその尊貴を失ひ 21逐れて世の人と離れその
心は獣のごとくに成りその住所は野馬の中にあり牛のご
とくに草を食ひてその身は天よりの露に濡たり是のごと
くにして終に彼は至高神の人間の國を治めてその意のま
まに人を立たまふといふことをしるにいたれり 22ベルシ
ヤザルよ汝は彼の子にして此事を盡く知るといへども
猶その心を卑くせず 23却つて天の主にむかひて自ら高ぶ
りその家の器皿を汝の前に持きたらしめて汝と汝の大臣
と汝の妻妾等それをもて酒を飲み而して汝は見ことも聞
ことも知こともあらぬ金銀銅鐵木石の神を讃頌ふること
を爲し汝の生命をその手に握り汝の一切の道を主どりた
まふ神を崇むることをせず 24是をもて彼の前よりこの手
の末いできたりてこの文字を書るなり 25その書る文字は
是のごとしメネ、メネ、テケル、ウバルシン 26その言の
解明は是のごとしメネ(數へたり)は神汝の治世を數へて
これをその終に至らせしを謂なり 27テケル(秤れり)は汝
が權衡にて秤られて汝の重の足らざることの顯れたるを
謂なり 28ペレス(分たれたり)は汝の國の分たれてメデア
とペルシヤに與へらるるを謂なり 29是においてベルシヤ
ザル命を降してダニエルに紫の衣を着せしめ金の鏈を
これが頸にかけさせて彼は國の第三の牧伯なりと布告せ
り 30カルデヤ人の王ベルシヤザルはその夜の中に殺され
31メデア人ダリヨスその國を獲たり此時ダリヨスは六十
二歳なりき

第六章

1ダリヨスはその國に百二十人の牧伯を立ることを善と
し即ちこれを立て全國を治理しめ 2また彼らの上に監督
三人を立たりダニエルはその一人なりき是その州牧をし
て此三人の前にその職を述しめて王に損失の及ぶこと無
らしめんためなりき 3ダニエルは心の殊勝たる者にして
その他の監督および州牧等に勝りたれば王かれを立て
全國を治めしめんとせり 4是においてその監督と州牧等
國事につきてダエルを訟ふる隙を得んとしたりしが何の
隙をも何の咎をも見いだすことを得ざりき其は彼は忠義
なる者にてその身に何の咎もなく何の過失もなかりけれ
ばなり 5是においてその人々言けるはこのダニエルはそ
の神の例典について之が隙を獲にあらざればついにこれ
を訟るに由なしと 6すなはちその監督と州牧等王の許に
集り來りて斯王に言りダリヨス王よ願くは長壽かれ 7國
の監督將軍州牧牧伯方伯等みな相議りて王に一の律法
を立て一の禁令を定めたまはんことを求めんとす王よそ
の事は是の如し即ち今より三十日の内は唯汝にのみ願事
をなさしめ若汝をおきて神または人にこれをなす者あら
ば凡て獅子の穴に投いれんといふ是なり 8然ば王よねが
はくはその禁令を立てその詔書を認めメデアとペルシヤ
の廢ることなき律法のごとくに之をして變らざらしめた
まへと 9王すなはち詔書をしたためてその禁令を出せり
10茲にダニエルはその詔書を認めたることを知りて家に
かへりけるがその二階の窓のヱルサレムにむかひて開け
る處にて一日に三度づつ膝をかがめて祷りその神に向て
感謝せり是その時の前よりして斯なし居たればなり 11斯
りしかばその人々馳よりてダニエルがその神にむかひて
祷りかつ求めをるを見あらはせり 12而して彼ら進みきた
り王の禁令の事につきて王に奏上して言けるは王よ汝は
禁令をしたため出し今より三十日の内には只なんぢにの
み願事をなさしめ若し汝をおきて神または人にこれをな
す者あらば凡てその者を獅子の穴に投いれんと定めたま
へるならずやと王こたへて言ふ其事は眞實にしてメデア
とペルシヤの律法のごとく廢べからざる者なり 13彼らま
た對へて王の前に言けるは王よユダの俘擄人なるダニエ
ルは汝をも汝の認め出し給ひし禁令をも顧みずして一日
に三度づつ祈祷をなすなりと 14王この事を聞てこれがた
めに大に愁ひダニエルを救はんと心を用ひ即ちこれを拯
けんと力をつくして日の入る頃におよびければ 15その
人々また王の許に集ひきたりて王に言けるは王よ知りた
まへメデアとペルシヤの律法によれば王の立たる禁令ま
たは法度は變べからざる者なりと 16是において王命を下
しければダニエルを曳きたりて獅子の穴に投いれたり王
ダニエルに語りて言ふ願くは汝が恒に事ふる神汝を救は
んことをと 17時に石を持きたりてその穴の口を塞ぎけれ
ば王おのれの印と大臣等の印をもてこれに封印をなせり
是ダニエルの處置をして變ることなからしめんためなり
き 18斯て後王はその宮にかへりけるがその夜は食をなさ
ずまた嬪等を召よせずして全く寢ることをせざりき 19而
して王は朝まだきに起いでてその獅子の穴に急ぎいたり
しが 20穴にいたりける時哀しげなる聲をあげてダニエル
を呼りすなはち王ダニエルに言けるは活神の僕ダニエル
よ汝が恒に事ふる神汝を救ふて獅子の害を免れしむるこ

とを得しや 21ダニエル王にいひけるは願くは王長壽かれ 22吾神その使をおくりて獅子の口を閉させたまひたれば 獅子は我を害せざりき其は我の辜なき事かれの前に明かなればなり王よ我は汝にも惡しき事をなさざりしなりと 23是において王おほいに喜びダニエルを穴の中より出せと命じければダニルは穴の中より出されけるがその身に何の害をも受をらざりき是は彼おのれの神を頼みたるによりてなり 24かくて王また命を下しかのダニエルを讒奏せし者等を曳きたらせて之をその妻子とともに獅子の穴に投いれしめたるにその穴の底につかざる内に獅子はやくも彼らを攫みてその骨までもことごとく咬碎けり 25是においてダリヨス王全世界に住る諸民諸族諸音に詔書を頒てり云く願くは大なる平安なんぢらにあれ 26今我詔命を出す我國の各州の人みなダニエルの神を畏れ敬ふべし是は活神にして永遠に立つ者またその國は亡びずその權は終極まで続くなり 27是は救を施し拯をなし天においても地においても休徵をほどこし奇蹟をおこなふ者にてすなはちダニエルを救ひて獅子の力を免れしめたりと 28このダニエルはダリヨスの世とペルシヤ人クロスの世においてその身榮えたり

第七章

1バビロンの王ベルシヤザルの元 年にダニエルその牀にありて夢を見 腦中に異象を得たりしが即ちその夢を記してその事の大意を述ぶ 2ダニエル述て曰く我夜の異象の中に見てありしに四方の天風大海にむかひて烈しく吹きたり 3四箇の大なる獣 海より上りきたれりその形はおのおの異なり 4第一のは獅子の如くにして鷲の翼ありけるが我見てをりしに是はその翼を抜とられまた地より起され人のごとく足にて立せられ且人の心を賜はれり 5第二の獣は熊のごとくなりき是はその體の一方を擧げその口の歯の間に三の脇骨を啣へ居けるが之にむかひて言る者あり曰く起あがりて許多の肉を食へと 6その後に我見しに豹のごとき獣いでたりしがその背には鳥の翼 四ありこの獣はまた四の頭ありて統 轄 權をたまはれり 7我夜の異象の中に見しにその後第四の獣いでたりしが是は畏しく猛く大に強くして大なる 鐵 の歯あり食ひかつ咬碎きてその殘餘をば足にて踏つけたり是はその前に出たる 諸の獣とは異なりてまた十の角ありき 8我その角を考へ觀つつありけるにその中にまた一箇の小き角出きたりしがこの小き角のために先の角三箇その根より抜おちたりこの小き角には人の目のごとき目ありまた大なる事を言ふ口あり 9我觀つつありしに遂に寶座を置列ぶるありて日の老たる者座を占めたりしがその衣は雪のごとくに白くその髪 毛は漂 潔めたる羊の毛のごとし又その寶座は火の焔にしてその車輪は燃る火なり 10而して彼の前より一道の火の流わきいづ彼に仕ふる者は千々彼の前に侍る者は萬々審判すなはち始りて書を開けり 11その角の大なる事を言ふ聲によりて我觀つつありけるが我が見る間にその獣は終に殺され體を壞はれて燃る火に投いれられたり 12またその餘の獣はその權威を奪はれたりしがその生命は時と期の至るまで延されたり 13我また夜の異象の中に觀てありけるに人の子のごとき者雲に乗て來り日の老たる者の許に到りたればすなはちその前に導きけるに 14之に權と榮と國とを賜ひて諸民諸族諸音をしてこれに事へしむその權は永遠の權にして移りさらず又その國は亡ぶることなし 15是において我ダニエルその體の内の魂 を憂へしめわが腦中の異象のために思ひなやみたれば 16すなはち其處にたてる者の一箇に就てこの一切の事の眞意を問けるに其者われにこの事の解 明を告しらせて云く 17この四の大なる獣は地に興らんとする四人の王なり 18然ど終には至高者の聖徒國を受け長久にその國を保ちて世々限りなからんと 19是において我またその第四の獣の眞意を知んと欲せり此 獣は他の獣と異なりて至畏ろしくその歯は 鐵 その爪は 銅 にして食ひかつ咬碎きてその殘餘を足にて踏つけたり 20此 獣の頭には十の角ありしが其他にまた一の角いできたりしかば之がために三の角抜おちたり此角には目ありまた大なる事を言ふ口ありてその状はその同類よりも強く見えたり我またこの事を知んと欲せり 21我觀つつありけるに此角聖徒と戰ひてこれに勝たりしが 22終に日の老たる者來りて至高者の聖徒のために公義をおこなへり而してその時いたりて聖徒國を獲たり 23彼かく言り第四の獣は地上の第四の國なり是は一切の國と異なり全世界を并呑しこれを踏つけかつ打破らん 24その十の角はこの國に興らんところの十人の王なり之が後にまた一人興るべし是は先の者と異なり且その王三人を倒すべし 25かれ至高者に敵して言を出しかつ至高者の聖徒を惱まさん彼また時と法とを變んことを望まん聖徒は一時と二時と半時を經るまで彼の手に付されてあらん 26斯て後審判はじまり彼はその權を奪はれて

終極まで滅び亡ん 27而して國と權と天下の國々の勢力とはみな至高者の聖徒たる民に歸せん至高者の國は永遠の國なり諸國の者みな彼に事へかつ順はんと 28その事此にて終れり我ダニエルこれを思ひまはして大に憂へ顏色も變りぬ我この事を心に藏む

第八章

1我ダニエル前に異象を得たりしが後またベルシヤザルの第三年にいたりて異象を得たり 2我異象を見たり我これを見たる時に吾身はエラム州なるシユシヤンの城にありわが異象を見たるはウライ河の邊においてなりき 3我目を擧て觀しに河の上に一匹の牡羊立をり之に二の角ありてその角共に長かりしが一の角はその他の角よりも長かりきその長き者は後に長たるなり 4我觀しにその牡羊西北南にむかひて牴觸りけるが之に敵ることを得る獸一匹も無くまたその手より救ひいだすことを得る者絶てあらざりき是はその意にまかせて事をなしその勢威はなはだ盛なりき 5我これを考へ見つつありけるにて一匹の牡山羊全地の上を飛わたりて西より來りしがその足は土を履ざりきこの牡山羊は目の間に著明しき一の角ありき 6此者さきに我が河の上に立るを見たる彼の二の角ある牡羊に向ひ來り熾盛なる力をもて之の所に跑いたりけるが 7我觀てあるに牡羊に近づくに至りて之にむかひて怒を發し牡羊を擊てその二の角を碎きたるに牡羊には之に敵る力なかりければこれを地に打倒して踏つけたり然るにその牡羊をこれが手より救ひ得る者あらざりき 8而してその牡山羊甚だ大きくなりけるがその盛なる時にあたりてかの大なる角折れその代に四の著明しき角生じて天の四方に對へり 9またその角の一よりして一の小き角いできたり南にむかひ東にむかひ美地にむかひて甚だ大きくなり 10天軍におよぶまでに高くなりその軍と星數箇を地に投くだしてこれを踏つけ 11また自ら高ぶりてその軍の主に敵しその常供の物を取のぞきかつその聖所を毀てり 12一軍罪の故によりて常供の物とともに棄られたり彼者はまた眞理を地に擲ち事をなしてその意志を得たり 13かくて我聞に一箇の聖者語ひをりしが又一箇の聖者ありてその語ひをる聖者にむかひて言ふ常供の物と荒廢を來らする罪とにつきて異象にあらはれたるところの事聖所とその軍との棄られて踏つけらるる事は何時まで斯てあるべきかと 14彼すなはち我に言けるは二千三百の朝夕をかさぬるまで斯てあらん而して聖所は潔めらるべし 15我ダニエルこの異象を見てその意義を知んと求めをりける時人のごとく見ゆる者わが前に立り 16時に我聞にウライ河の兩岸の間より人の聲出て呼はりて言ふガブリエルよこの異象をその人に暁らしめよと 17彼すなはち我の立る所にきたりしがその到れる時に我おそれて仆れ伏たるに彼われに言けるは人の子よ暁れ此異象は終の時にかかはる者なりと 18彼の我に語ひける時我は氣を喪へる狀にて地に俯伏をりしが彼我に手をつけて我を立せ言けるは 19視よ我忿怒の終に起らんところの事を汝に知せん此事は終末の期におよびてあらん 20汝が見たるかの二の角ある牡羊はメデアとペルシヤの王なり 21またかの牡山羊はギリシヤの王その目の間の大なる角はその第一の王なり 22またその角をれてその代に四の角生じたればその民よりして四の國おこらん然ど第一の者の權勢には及ばざるなり 23彼らの國の末にいたり罪人の罪貫盈におよびて一人の王おこらんその顏は猛惡にして巧に詭譎を言ひ 24その權勢は熾盛ならん但し自己の能力をもて之を致すに非ずその毀滅ことを爲は常ならず意志を得て事を爲し權能ある者等と聖民とを滅さん 25彼は機巧をもて詭譎をその手に行ひ遂げ心にみづから高ぶり平和の時に衆多の人を打滅しまた君の君たる者に敵せん然ど終には人手によらずして滅されん 26前に告たる朝夕の異象は眞實なり汝その異象の事を秘しおけ是は衆多の日の後にある事なり 27是において我ダニエル疲れはてて數日の間病わづらひて後興いでて王の事務をおこなへり我はこの異象の事を案ひて駭けり人もまたこれを暁ることを得ざりき

第九章

1メデア人アハシユエロスの子ダリヨスがカルデヤ人の王とせられしその元年 2すなはちその世の元年に我ダニエル、ヱホバの言の預言者ヱレミヤにのぞみて告たるその年の數を書によりて暁れり即ちその言にヱルサレムは荒て七十年を經んとあり 3是にかいて我面を主ヱホバに向け斷食をなし麻の衣を着灰を蒙り祈りかつ願ひて求むることをせり 4即ち我わが神ヱホバに禱り懺悔して言り嗚呼大にして畏るべき神なる主自己を愛し自己の誡命を守る者のために契約を保ち之に恩惠を施したまふ者よ 5我等は罪を犯し悖れる事を爲し惡を行ひ叛逆を爲して

汝の誡命と律法を離れたり 6我等はまた汝の僕なる
預言者等が汝の名をもて我らの王等君等先祖等および
全國の民に告たる所に聽したがはざりしなり 7主よ公義
は汝に歸し羞辱は我らに歸せりその狀今日のごとし即ち
ユダの人々ヱルサレムの居民およびイスラエルの全家の
者は近き者も遠き者も皆汝の逐やりたまひし諸の國々
にて羞辱を蒙れり是は彼らが汝に背きて獲たる罪により
て然るなり 8主よ羞辱は我儕に歸し我らの王等君等およ
び先祖等に歸す是は我儕なんぢに向ひて罪を犯したれば
なり 9憐憫と赦宥は主たる我らの神の裏にあり其は我ら
これに叛きたればなり 10我らはまた我らの神ヱホバの言
に遵はずヱホバがその僕なる預言者等によりて我らの前
に設けたまひし律法を行はざりしなり 11抑イスラエル
の人は皆汝の律法を犯し離れさりて汝の言に遵はざりき
是をもて神の僕モーセの律法に記したる呪詛と誓詞我ら
の上に斟ぎかかれり是は我らこれに罪を獲たればなり 12
即ち神は大なる災害を我らに蒙らせたまひてその前に我
らと我らを鞫ける士師とにむかひて宣ひし言を行ひとげ
たまへりかのエルサレムに臨みたる事の如きは普天の下
に未だ曾て有ざりしなり 13モーセの律法に記したる如く
にこの災害すべて我らに臨みしかども我らはその神ヱホ
バの面を和めんとも爲ずその惡を離れて汝の眞理を暁ら
んとも爲ざりき 14是をもてヱホバ心にかけて災害を我ら
に降したまへり我らの神ヱホバは何事をなしたまふも凡
て公義いますなり然るに我らはその言に遵はざりき 15主
たる我らの神よ汝は強き手をもて汝の民をエジプトの地
より導き出して今日のごとく汝の名を揚たまふ我らは罪
を犯し惡き事を行へり 16主よ願くは汝が是まで公義き御
行爲を爲たまひし如く汝の邑ヱルサレム汝の聖山より
汝の忿怒と憤恨を取離し給へ其は我らの罪と我らの
先祖の惡のためにヱルサレムと汝の民は我らの周圍の者
の笑柄となりたればなり 17然ば我らの神よ僕の祷と願を
聽たまへ汝は主にいませばかの荒る汝の聖所に汝の
面を耀かせたまへ 18我神よ耳を傾けて聽たまへ目を啓き
て我らの荒蕪たる狀を觀汝の名をもて稱へらるる邑を觀
たまへ我らが汝の前に祈祷をたてまつるは自己の公義に
よるに非ず唯なんぢの大なる憐憫によるなり 19主よ聽い
れたまへ主よ赦したまへ主よ聽いれて行ひたまへこの事
を遲くしたまふなかれわが神よ汝みづからのために之を
なしたまへ其は汝の邑と汝の民は汝の名をもて稱へらる
ればなり 20我かく言て祈りかつわが罪とわが民イスラエ
ルの罪を懺悔し我神の聖山の事につきてわが神ヱホバの
まへに願をたてまつりをる時 21即ち我祈祷の言をのべを
る時我が初に異象の中に見たるかの人ガブリエル迅速に
飛て晩の祭物を献ぐる頃我許に達し 22我に告げ我に語り
て言けるはダニエルよ今我なんぢを教へて了解を得せし
めんとて出きたれり 23汝が祈祷を始むるに方りて我言を
受たれば之を汝に示さんとて來れり汝は大に愛せらるる
者なり此言を了りその現れたる事の義を暁れ 24汝の民と
汝の聖邑のために七十週を定めおかる而して惡を抑へ
罪を封じ愆を贖ひ永遠の義を携へ入り異象と預言を封じ
至聖者に膏を灌がん 25汝暁り知べしヱルサレムを建な
ほせといふ命令の出づるよりメッシヤたる君の起るまで
に七週と六十二週ありその街と石垣とは擾亂の間に建な
ほされん 26その六十二週の後にメッシャ絶れん但し是は
自己のために非ざるなりまた一人の君の民きたりて邑と
聖所とを毀たんその終は洪水に由れる如くなるべし
戰爭の終るまでに荒蕪すでに極る 27彼一週の間衆多の
者と固く契約を結ばん而して彼その週の半に犠牲と供物
を廢せんまた殘暴可惡者羽翼の上に立たん斯てつひに
その定まれる災害殘暴るる者の上に斟ぎくだらん

第十章

1ペルシヤの王クロスの三年にベルテシヤザルといふダニ
エル一の事の默旨を得たるがその事は眞實にしてその
戰爭は大なり彼その事を暁りその示現の義を暁れり 2當
時我ダニエル三七日の間哀めり 3即ち三七日の全く滿る
までは旨き物を食ず肉と酒とを口にいれずまた身に膏油
を抹ざりき 4正月の二十四日に我ヒデケルといふ大河の
邊に在り 5目を擧て望觀しに一箇の人ありて布の衣を衣
ウバズの金の帶を腰にしめをり 6その體は黄金色の玉の
ごとくその面は電光の如くその目は火の焔のごとくその
手とその足の色は磨ける銅のごとくその言ふ聲は群衆
の聲の如し 7この示現は唯我ダニエル一人これを觀たり
我と偕なる人々はこの示現を見ざりしが何となくその身
大に慄きて逃かくれたり 8故に我ひとり遺りたるがこの
大なる示現を觀るにおよびて力ぬけさり顔色まつたく變
りて毫も力なかりき 9我その語ふ聲を聞けるがその語ふ
聲を聞る時我は氣を喪へる狀にて俯伏し面を土につけゐ
たりしに 10一の手ありて我に捫りければ我戰ひながら跪

づきて手をつきたるに 11彼われに言けるは愛せらるる人ダニエルよ我が汝に告る言を暁れよ汝まづ起あがれ我は今汝の許に遣されたるなりと彼がこの言を我に告る時に我は戰ひて立り 12彼すなはち我に言けるはダニエルよ懼るる勿れ汝が心をこめて悟らんとし汝の神の前に身をなやませるその初の日よりして汝の言はすでに聽れたれば我汝の言によりて來れり 13然るにペルシヤの國の君二十一日の間わが前に立塞がりけるが長たる君の一なるミカエル來りて我を助けたれば我勝留りてペルシヤの王等の傍にをる 14我は末の日に汝の民に臨まんとするところの事を汝に暁らせんとて來れりまた後の日に關はる所の異象ありと 15かれ是等の言を我に宣たる時に我は面を土につけて居り辭を措ところ無りしが 16人の子のごとき者わが唇に捫りければ我すなはち口を開きわが前に立る者に陳て言り我主よこの示現によりて我は畏怖にたへず全く力を失へり 17此わが主の僕いかでか此わが主と語ふことを得んとその時は我まつたく力を失ひて氣息も止らんばかりなりしが 18人の形のごとき者ふたたび我に捫り我に力をつけて 19言けるは愛せらるる人よ懼るる勿れ安んぜよ心強かれ心強かれと斯われに言ければ我力づきて曰り我主よ語りたまへ汝われに力をつけたまへりと 20彼われに言けるは汝は我が何のために汝に臨めるかを知るや我今また歸りゆきてペルシヤの君と戰はんとす我が出行ん後にギリシヤの君きたらん 21但し我まづ眞實の書に記されたる所を汝に示すべし我を助けて彼らに敵る者は汝らの君ミカエルのみ

第十一章

1我はまたメデア人ダリヨスの元 年にかれを助け彼に力をそへたる事ありしなり 2我いま眞實を汝に示さん視よ此後ペルシヤに三人の王興らんその第四の者は富ること一切の者に勝りその富強の大なるを恃みて一切を激發してギリシヤの國を攻ん 3また一箇の強き王おこり大なる威權を振ふて世を治めその意のままに事を爲ん 4但し彼の正に旺盛なる時にその國は破裂して天の四方に分れん其は彼の兒孫に歸せず又かれの振ひしほどの威權あらず即ち彼の國は抜とられて是等の外なる者等に歸せん 5南の王は強からん然どその大臣の一人これに逾て強くなり威權を振はんその威權は大なる威權なるべし 6年を經て後彼等相結ばん即ち南の王の女子北の王に適て和好を圖らん然どその腕には力なしまたその王およびその腕は立ことを得じこの女とこれを導ける者とこれを生せたる者とこれに力をつけたる者はみな時におよびて付されん 7斯て後この女の根より出たる芽興りて之に代り北の王の軍勢にむかひて來りこれが城に打いりて之を攻て勝を得 8之が神々鑄像および金銀の貴き器具をエジプトに携へさらん彼は北の王の上に立て年を重ねん 9彼南の王の國に打入ことあらん然ど自己の國に退くべし 10その子等また憤激して許多の大軍を聚め進みきたり溢れて往來しその城まで攻寄せん 11是において南の王大に怒り出きたりて北の王と戰ふべし彼大軍を興してこれに當らん然れどもその軍兵はこれが手に付されん 12大軍すなはち興りて彼心に高ぶり數萬人を仆さん然れどもその勢力はこれがために増さじ 13また北の王は退きて初よりも大なる軍兵を興し或時すなはち或年數を經て後かならず大兵を率ゐ莫大の輜重を備へて攻來らん 14是時にあたりて衆多の者興りて南の王に敵せん又なんぢの民の中の奸惡人等みづから高ぶりて事を爲しつひに預言をして應ぜしめん即ち彼らは自ら仆るべし 15茲に北の王襲ひきたり壘を築きて堅城を攻おとさん南の王の腕はこれに當ることを得じ又その撰抜の民もこれに當る力なかるべし 16之に攻きたる者はその意に任せて事をなさんその前に立ことを得る者なかるべし彼は美しき地に到らんその地はこれがために荒さるべし 17彼その全國の力を盡して打入んとその面をこれに向べけれどまたこれと和好をなして婦人の女子を之に與へん然るにその婦人の女子は之がために身を滅すに至り何事をも成あたはす毫も彼のために益する所なかるべし 18彼またその面を島々にむけて之を多く取らん茲に一人の大將ありて彼が與へたる恥辱を雪ぎその恥辱をかれの身に與へかへさん 19かくて彼その面を自己の國の城々に向ん而して終に躓き仆れて亡ん 20彼に代りて興る者は榮光の國に人を出して租稅を征斂しめん但し彼は忿怒にも戰鬥にもよらずして數日の内に滅亡せん 21また之にかはりて起る者は賤まるる者にして國の尊榮これに歸せざらん然れども彼不意に來り巧言をもて國を獲ん 22洪水のごとき軍勢かれのために押流されて敗れん契約の君たる者も然らん 23彼は之に契約をむすびて後詭計を行ひ上りきたりて僅少の民をもて勢を得ん 24彼すなはち不意にきたりてその國の膏腴なる處に攻いりその父もその父の父も爲ざりしところの事を行はん彼はその奪ひた

る物掠めたる物および財寶を衆人の中に散すべし彼は謀略をめぐらして堅固なる城々を攻取べし時の至るまで斯のごとくならん 25彼はその勢力を奮ひ心を勵まし大軍を率ゐて南の王に攻よせん南の王もまた自ら奮ひ甚だ大なる強き軍勢をもて迎へ戰はん然ど謀略をめぐらして攻るが故にこれに當ることを得ざるべし 26すなはち彼の珍膳に與り食ふ者彼を倒さんその軍兵溢れん打死する者衆かるべし 27此二人の王は害をなさんと心にはかり同席に共に食して詭計を言ん然どもその志ならざるべし定まれる時のいたる迄は其事終らじ 28彼は莫大の財寶をもちて自己の國に歸らん彼は聖約に敵する心を懷きて事をなし而してその國にかへらん 29定まれる時にいたりて彼また進みて南に到らん然ど後の模様は先の模様のごとくならざらん 30即ちキツテムの船かれに到るべければ彼力をおとして還り聖約にむかひて忿怒をもらして事をなさん而して彼歸りゆき聖約を棄る者と相謀らん 31彼より腕おこりて聖所すなはち堅城を汚し常供の物を撤除かせかつ殘暴可惡者を立ん 32彼はまた契約に關て罪を獲る者等を巧言をもて引誘して背かせん然どその神を知る人々は力ありて事をなさん 33民の中の穎悟者ども衆多の人を教ふるあらん然ながら彼らは暫時の間刃にかかり火にやかれ擄はれ掠められ等して仆れん 34その仆るる時にあたりて彼らは少しく扶助を獲ん又衆多の人詐りて彼らに合せん 35また穎悟者等の中にも仆るる者あらん斯のごとく彼らの中に試むる事淨むる事潔よくする事おこなはれて終の時にいたらん即ち定まれる時まで然るべし 36此王その意のままに事をおこなひ萬の神に逾て自己を高くし自己を大にし神々の神たる者にむかひて大言を吐き等して忿怒の息む時までその志を得ん其はその定まれるところの事成ざるべからざればなり 37彼はその先祖の神々を顧みず婦女の愉快を思はずまた何の神をも顧みざらん其は彼一切に逾て自己を大にすればなり 38彼は之の代に軍神を崇め金銀珠玉および寶物をもてその先祖等の識ざりし神を崇めん 39彼はこの異邦の神に由り要害の城々にむかひて事を爲ん凡て彼を尊ぶ者には彼加ふるに榮を以てし之をして衆多の人を治めしめ土地をこれに分ち與へて賞賜とせん 40終の時にいたりて南の王彼と戰はん北の王は車と馬と衆多の船をもて大風のごとく之に攻寄せ國に打いりて潮のごとく溢れ渉らん 41彼はまた美しき國に進み入ん彼のために亡ぶる者多かるべし然どエドム、モアブ、アンモン人の中の第一なる者などは彼の手を免かれん 42彼國々にその手を伸さんエジプトの地も免かれがたし 43彼は遂にエジプトの金銀財寶を手に入れんリブア人とエテオピア人は彼の後に從はん 44彼東と北より報知を得て周章ふためき許多の人を滅し絶んと大に忿りて出ゆかん 45彼は海の間において美しき聖山に天幕の宮殿をしつらはん然ど彼つひにその終にいたらん之を助くる者なかるべし

第十二章

1その時汝の民の人々のために立ところの大なる君ミカエル起あがらん是艱難の時なり國ありてより以來その時にいたるまで斯る艱難ありし事なかるべしその時汝の民は救はれん即ち書にしるされたる者はみな救はれん 2また地の下に睡りをる者の中衆多の者目を醒さんその中永生を得る者ありまた恥辱を蒙りて限なく羞る者あるべし 3穎悟者は空の光輝のごとくに耀かんまた衆多の人を義に導ける者は星のごとくなりて永遠にいたらん 4ダニエルよ終末の時まで此言を秘し此書を封じおけ衆多の者跋渉らん而して知識増べしと 5茲に我ダニエル觀に別にまた二箇の者ありて一箇は河の此旁の岸にあり一箇は河の彼旁の岸にありけるが 6その一箇の者かの布の衣を衣て河の水の上に立る人にむかひて言り此奇跡は何の時にいたりて終るべきやと 7我聞にかの布の衣を衣て河の水の上に立る人天にむかひてその右の手と左の手を擧げ永久に生る者を指て誓ひて言りその間は一時と二時と半時なり聖民の手の碎くること終らん時に是等の事みな終るべしと 8我聞たれども暁ることを得ざりき我また言りわが主よ是等の事の終は何ぞやと 9彼いひけるはダニエルよ往け此言は終極の時まで秘しかつ封じ置るべし 10衆多の者淨められ潔よくせられ試みられん然ど惡き者は惡き事を行はん惡き者は一人も暁ること無るべし然ど穎悟者は暁るべし 11常供の者を除き殘暴可惡者を立ん時よりして一千二百九十日あらん 12待をりて一千三百三十五日に至る者は幸福なり 13汝終りに進み行け汝は安息に入り日の終りに至り起て汝の分を享ん

ホセア書

第一章

1 これユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの世イスラエルの王ヨアシの子ヤラベアムの世にベエリの子ホセアに臨めるヱホバの言なり 2 ヱホバはじめホセアによりて語りたまへる時ヱホバ、ホセアに宣はく汝ゆきて淫行の婦人を娶り淫行の子等を取れ この國ヱホバに遠ざかりてはなはだしき淫行をなせばなり 3 是において彼ゆきてデブライムの女子ゴメルを妻に娶りけるがその婦はらみて男子を産り 4 ヱホバまた彼にいひ給ひけるは汝その名をヱズレルと名くべし 暫時ありて我ヱズレルの血をヱヒウの家に報いイスラエルの家の國をほろぼすべければなり 5 その日われヱズレルの谷にてイスラエルの弓を折べしと 6 ゴメルまた孕みて女子を産ければヱホバ、ホセアに言たまひけるは汝その名をロルマハ(憐まれぬ者)と名くべしそは我もはやイスラエルの家をあはれみて赦すが如きことを爲ざるべければなり 7 然どわれユダの家をあはれまん その神ヱホバによりて之をすくはん 我は弓 劍 戰爭 馬騎兵などによりてすくふことをせじ 8 ロルハマ乳をやめゴメルまた孕みて男子を産けるに 9 ヱホバ言たまひけるはその子の名をロアンミ(吾民に非ざる者)と名くべし 其は汝らは吾民にあらず我は汝らの神に非ざればなり 10 然どイスラエルの子孫の數は濱の沙石のごとくに成ゆきて量ることも數ふる事も爲しがたく前になんぢらわが民にあらずと言れしその處にて汝らは活 神の子なりと言れんとす 11 斯てユダの子孫とイスラエルの子孫は共に集り一人の首をたててその地より上り來らん ヱズレルの日は大なるべし

第二章

1 汝らの兄弟に向ひてはアンミ(わが民)と言ひ汝らの姉妹にむかひてはルハマ(憐まるる者)と言へ 2 なんぢらの母とあげつらへ論辨ふことをせよ彼はわが妻にあらず我はかれの夫にあらざるなりなんぢら斯してかれにその面より淫行を除かせその乳房の間より姦淫をのぞかしめよ 3 然らざれば我かれを剥て赤體にしその生れいでたる日のごとくにしまた荒野のごとくならしめ潤ひなき地のごとくならしめ渇によりて死しめん 4 我その子等を憐まじ淫行の子等なればなり 5 かれらの母は淫行をなせりかれらを生る者は恥べき事をおこなへり蓋かれいへる言ありわれはわが戀人等につきしたがはん彼らはわがパンわが水わが羊毛わが麻わが油わが飲物などを我に與ふるなりと 6 この故にわれ荊棘をもてなんぢの路をふさぎ垣をたてて彼にその徑をえざらしむべし 7 彼はその戀人たちの後をしたひゆけども追及ことなく之をたづぬれども遇ことなし是において彼いはん我ゆきてわが前の夫にかへるべしかのときのわが狀態は今にまさりて善りきと 8 彼が得る穀物と酒と油はわが與ふるところ彼がバアルのために用ゐたる金銀はわが彼に增あたへたるところなるを彼はしらざるなり 9 これによりて我わが穀物をその時におよびて奪ひわが酒をその季にいたりてうばひ又かれの裸體をおほふに用ゆべきわが羊毛およびわが麻をとらん 10 今われかれの恥るところをその戀人等の目のまへに露すべし彼をわが手より救ふものあらじ 11 我かれがすべての喜樂すなはち祝筵新月のいはひ安息日および一切の節會をして息しめん 12 また彼の葡萄の樹と無花果樹をそこなはん彼さきに此等をさしてわが戀人の我にあたへし賞賜なりと言しがわれこれを林となし野の獸をしてくらはしめん 13 われかれが耳環頸玉などを掛てその戀人らをしたひゆき我をわすれ香をたきて事へしもろもろのバアルの日のゆゑをもてその罪を罰せんヱホバかく言たまふ 14 斯るがゆゑに我かれを誘ひて荒野にみちびきいり 終にかれの心をなぐさめ 15 かしこを出るや直ちにわれかれにその葡萄園を與へアコル(艱難)の谷を望の門となしてあたへん彼はわかかりし時のごとくエジプトの國より上りきたりし時のごとくかしこにて歌うたはん 16 ヱホバ言たまふその日にはなんぢ我をふたたびバアリとよばずしてイシ(わが夫)とよばん 17 我もろもろのバアルの名をかれが口よりとりのぞき重ねてその名を世に記憶せらるること無らしめん 18 その日には我かれら(我民)のために野の獸そらの鳥および地の昆蟲と誓約をむすびまた弓箭ををり戰爭を全世界よりのぞき彼らをして安らかに居しむべし 19 われ汝をめとりて永遠にいたらん公義と公平と寵愛と憐憫とをもてなんぢを娶り 20 かはることなき眞實をもて汝を

めとるべし汝ヱホバをしらん 21ヱホバいひ給ふその日われ應へん我は天にこたへ天は地にこたへ 22地は穀物と酒と油とに應へまた是等のものはヱズレルに應へん 23我わがためにかれを地にまき憐まれざりし者をあはれみわが民ならざりし者にむかひて汝はわが民なりといはんかれらは我にむかひて汝はわが神なりといはん

第三章

1ヱホバわれに言給ひけるは汝ふたたび往てヱホバに愛せらるれども轉りてほかのもろもろの神にむかひ葡萄の菓子を愛するイスラエルの子孫のごとく そのつれそふものに愛せらるれども姦淫をおこなふ婦人をあいせよ 2われ銀十五枚おほむぎ一ホメル半をもてわが爲にその婦人をえたり 3我これにいひけるは汝おほくの日わがために とどまりて淫行をなすことなく他の人にゆくことなかれ我もまた汝にむかひて然せん 4イスラエルの子輩は多くの日王なく君なく犧牲なく表 柱なくエボデなくテラビムなくして居らん 5その後イスラエルの子輩はかへりてその神ヱホバとその王ダビデをたづねもとめ末 日にをののきてヱホバとその恩惠とにむかひてゆかん

第四章

1イスラエルの子輩よヱホバの言を聽けヱホバこの地に住る者と爭辨たまふ其は此地には誠實なく愛 情なく神を知る事なければなり 2ただ詛 偽 凶殺 盜 姦淫のみにして互に相襲ひ血血につづき流る 3このゆゑにその地うれひにしづみ之にすむものはみな野のけもの空のとりとともにおとろへ海の魚もまた絶はてん 4されど何人もあらそふべからずいましむ可らず汝の民は祭司と爭ふ者の如くなれり 5汝は晝つまづき汝と偕なる預言者は夜つまづかん我なんぢの母を亡すべし 6わが民は知識なきによりて亡さるなんぢ知識を棄つるによりて我もまた汝を棄ててわが祭司たらしめじ汝おのが神の律法を忘るるによりて我もなんぢの子等を忘れん 7彼らは大なるにしたがひてますます我に罪を犯せば我かれらの榮を辱に變ん 8彼らはわが民の罪をくらひ心をかたむけてその罪ををかすを願へり 9このゆゑに民の遇ふところは祭司もまた同じわれその途をかれらにきたらせその行爲をもて之にむくゆべし 10かれらは食へども飽ず淫行をなせどもその數まさずその心をヱホバにとむることを止ればなり 11淫行と酒と新しき酒はその人の心をうばふ 12わが民木にむかひて事をとふその杖かれらに事をしめす是かれら淫行の霊にまよはされその神の下を離れて淫行を爲すなり 13彼らは山々の 巓 にて犧牲を献げ岡の上にて香を焚き橡樹 楊 樹 栗 樹の下にてこの事をおこなふ此はその樹蔭の美 しきによりてなりここをもてなんぢらの女子は淫行をなしなんぢらの兒婦は姦淫をおこなふ 14我なんぢらのむすめ淫行をなせども罰せずなんぢらの兒婦かんいんをおこなへども刑せじ其はなんぢらもみづから離れゆきて妓女とともに居り淫婦とともに献 物をそなふればなり 悟らざる民はほろぶべし 15イスラエルよ汝 淫行をなすともユダに罪を犯さする勿れギルガルに往なかれベテアベンに上るなかれヱホバは活くと曰て誓ふなかれ 16イスラエルは頑強なる牛のごとくに頑強なり今ヱホバ恙羊をひろき野にはなてるが如くして之を牧はん 17エフライムは偶像にむすびつらなれりその爲にまかせよ 18かれらの酒はくされかれらの淫行はやまずかれらの楯となるべき者等は恥を愛しいたく之を愛せり 19かれは風の翼につつまれかれらはその禮 物によりて恥辱をかうむらん

第五章

1祭司等よこれを聽けイスラエルの家よ耳をかたむけよ王のいへよ之にこころを注よ さばきは汝等にのぞまんそは我らはミズパに設くる羂タボルに張れる網のごとくなればなり 2悖逆者はふかく罪にしづみたり我かれらをことごとく懲しめん 3我はエフライムを知る イスラエルはわれに隱るるところ無し エフライムよなんぢ今すでに淫行をなせりイスラエルはすでに汚れたり 4かれらの行爲かれらをしてその神に歸ること能はざらしむ そは淫行の霊その衷にありてヱホバを知ることなければなり 5イスラエルの驕傲はその面にむかひて證をなしその罪によりてイスラエルとエフライムは仆れユダもまた之とともにたふれん 6かれらは羊のむれ牛の群をたづさへ往てヱホバを尋ね求めん然どあふことあらじヱホバ既にかれらより離れ給ひたればなり 7かれらヱホバにむかひ貞操を守らずして他人の子を産り新月かれらとその產業とをともに滅さん 8なんぢらギベアにて角をふきラマにてラッパを吹ならしベテアベンにて呼はりて言へベニヤミンよなんぢの後にありと 9罰せらるるの日にエフライムは荒廢れん我イスラエルの支派の中にかならず有るべきことを示せり 10ユダの牧伯等は境界をうつすもののご

とくなれり我わが震怒を水のごとくに彼らのうへに斟がん 11エフライムは甘んじて人のさだめたるところに從ひあゆむがゆゑに鞫をうけて虐げられ圧られん 12われエフライムには蠹のごとくユダの家には腐朽のごとし 13エフライムおのれに病あるを見ユダおのれに傷あるをみたり斯てエフライムはアツスリヤに往きヤレブ王に人をつかはしたれど彼はなんぢらを醫すことをえず又なんぢらの傷をのぞきさることを得ざるべし 14われエフライムには獅子のごとくユダの家にはわかき獅子のごとし我しも我は抓劈てさり掠めゆけども救ふ者なかるべし 15我ふたたびわが處にかへりゆき彼らがその罪をくいてひたすらわが面をたづね求むるまで其處にをらん彼らは艱難によりて我をたづねもとむることをせん

第六章

1來れわれらヱホバにかへるべし ヱホバわれらを抓劈たまひたれどもまた醫すことをなし我儕をうち給ひたれどもまたその傷をつつむことを爲したまふ可ればなり 2ヱホバは二日ののちわれらむ活かへし三日にわれらを起せたまはん 我らその前にて生ん 3この故にわれらヱホバをしるべし切にヱホバを知ることを求むべしヱホバは晨光のごとく必ずあらはれいで雨のごとくわれらにのぞみ後の雨のごとく地をうるほし給ふ 4エフライムよ我なんぢに何をなさんやユダよ我なんぢに何をなさんやなんぢの愛情はあしたの雲のごとくまたただちにきゆる露のごとし 5このゆゑにわれ預言者等をもてかれらを撃ちわが口の言をもてかれらえを殺せりわが審判はあらはれいづる光明のごとし 6われは愛情をよろこびて犠牲をよろこばず神をしるを悦ぶこと燔祭にまされり 7然るに彼らはアダムのごとく誓をやぶりかしこにて不義をわれにおこなへり 8ギレアデは惡をおこなふものの邑にして血の足跡そのなかに徧し 9祭司のともがらは山賊の群のごとく伏伺して人をそこなひシケムに往く大路にて人をころす彼等はかくのごとき惡きことをおこなへり 10われイスラエルのいへに憎むべきことあるを見たりかの處にてエフライムは淫をおこなふイスフルは汚れたり 11ユダよ我わが民の俘囚をかへさんときまた汝のためにも穫刈をそなへん

第七章

1われイスラエルを醫さんときエフライムの愆とサマリヤのあしきわざと露るかれらは詐詭をおこなひ内には偸盗いるあり外には山賊のむれ掠めさるあり 2かれら心にわがその一切の惡をしたためたることを思はず今その行爲はかれらを圍みふさぎて皆わが目前にあり 3かれらはその惡をもて王を悦ばせその詐詭をもてもろもろの牧伯を悦ばせり 4かれらはみな姦淫をおこなふ者にしてパンを作るものに燒るる爐のごとし捏粉をこねてその發酵ときまでしばらく火をおこすことをせざるのみなり 5われらの王の日にもろもろの牧伯は酒の熱によりて疾し王は嘲るものとともに手を伸ぶ 6かれら伏伺するほどに心を爐のごとくして備をなすそのパンを燒くものは終夜ねむりにつき朝におよべばまた焔のごとく燃ゆ 7かれらはみな爐のごとくに熱してその審士をやくそのもろもろの王はみな仆るかれらの中には我をよぶもの一人だになし 8エフライムは異邦人にいりまじるエフライムはかへさざる餡餅となれり 9かれは他邦人らにその力をのまるれども之をしらず白髪その身に雑り生れどもこれをさとらず 10イスラエルの驕傲はその面にむかひて證をなすかれらは此もろもろの事あれどもその神ヱホバに歸ることをせず又もとむることをせざるなり 11エフライムは智慧なくして愚なる鴿のごとし彼等はエジプトにむかひて呼求めまたアツスリヤに往く 12我かれらの往ときわが網をその上にはりて天空の鳥のごとくに引墮し前にその公會に告しごとくかれらを懲しめん 13禍なるかなかれらは我をはなれて迷ひいでたり敗壊かれらにきたらんかれらは我にむかひて罪ををかしたり我かれらを贖はんとおもへどもかれら我にさからひて謊言をいへり 14かれら誠心をもて我をよばず唯牀にありて哀號べりかれらは穀物とあたらしき酒のゆゑをもて相集りかつわれに逆らふ 15我かれらを教へその腕をつよくせしかども彼らはわれにもとりて惡きことを謀る 16かれらは歸るされども至高者にかへらず彼らはたのみがたき弓のごとし彼らのもろもろの牧伯はその舌のあらき言によりて劍にたふれん彼らは之がためにエジプトの國にて嘲笑をうくべし

第八章

1ラッパをなんぢの口にあてよ敵は鷲のごとくヱホバの家にのぞめりこの民わが契約をやぶりわが律法を犯しし

による 2かれら我にむかひてわが神よわれらイスラエルはなんぢを知れりと叫ばん 3イスラエルは善をいみきらへり敵これを追ん 4かれら王をたてたり然れども我によりず立しにあらずかれら牧伯をたてたり然れども我がしらざるところなり彼らまたその金銀をもて己がために偶像をつくれりその造れるは毀ちすてられんが爲にせしにことならず 5サマリヤよなんぢの犢は忌きらふべきものなりわが怒かれらにむかひて燃ゆかれら何れの時にか罪なきにいたらん 6この犢はイスラエルより出づ匠人のつくれる者にして神にあらずサマリヤの犢はくだけて粉とならん 7かれらは風をまきて狂風をかりとらん種ところは生長る穀物なくその穂はみのらざるべしたとひ實るとも他邦人これを呑ん 8イスラエルは既に呑れたり彼等いま列國の中において悦ばれざる器のごとく視做るるなり 9彼らは獨ゐし野の驢馬のごとくアッスリヤにゆけりエフライムは物を餽りて戀人を得たり 10かれら列國の民に物を餽りたりと雖も今われ彼等をつどへ集む彼らは　諸侯伯の王に負せらるる重擔のために衰へ始めん 11エフライムは多くの祭壇を造りて罪を犯すこの祭壇はかれらが罪に陥る階とはなれり 12我かれらのために律法をしるして數件の箇條を示したれど彼らは反て之を 異 物とおもへり 13かれらは我に献ふべき物を献ふれども只肉をそなへて己みづから之を食ふヱホバは之を納たまはず今かれらの愆を記え彼らの罪を罰したまはん彼らはエジプトに歸るべし 14イスラエルは己が造 主を忘れてもろもろの社廟を建てユダは塀をとりまはせる邑を多く増し加へたり然どわれ火をその邑々におくりて 諸 の城を燒 亡さん

第九章

1イスラエルよ異邦人のごとく喜びすさむ勿れなんぢ淫行をなして汝の神を離る汝すべての麥の打場にて賜はる淫行の賞賜を愛せり 2打場と酒榨とはかれらを養はじ亦あたらしき酒もむなしくならん 3かれらはヱホバの地にとどまらずエフライムはエジプトに歸りアッスリヤにて汚穢たる物を食はん 4彼等はヱホバにむかひて酒を灌ぐべき者にあらずその祭 物はヱホバの悦びたまふ所にあらずかれらの犠牲は喪に居ものののパンのごとし凡てこれを食ふものは汚るべし彼等のパンは只おのが食ふためにのみ用ゐべくしてヱホバの家に入るべきにあらず 5なんぢら集會の日とヱホバの節會の日に何をなさんとするや 6視よかれら滅亡の故によりて去ゆきぬエジプトかれらをあつめメンピスかれらを葬らん蕀藜かれらが銀の寶 物を獲いばら彼らの天幕に蔓らん 7刑罰の日きたり應報の日きたれりイスラエルこれを知ん預言者は愚なるもの靈に感じたるものは狂へるものなりこれ汝の惡おほく汝の怨恨おほいなるに因る 8エフライムは我が神にならべて他の神をも佇望めり預言者の一切の途は鳥を捕ふる者の網のごとく且その神の室の中にて怨恨を懐けり 9かれらはギベアの日のごとく甚だしく惡き事を行へりヱホバはその惡をこころに記てその罪を罰したまはん 10在昔われイスラエルを見ること荒野の葡萄のごとく汝らの先祖等を看ること無花果樹の始にむすべる最先の果の如くなししに彼等はバアルペオルにゆきて身を恥辱にゆだねその愛する物とともに憎むべき者とはなれり 11エフライムの榮光は鳥のごとく飛さらん即ち產ことも孕むことも妊娠ことももなかるべし 12假令かれら子等を育つるとも我その子を喪ひて遺る人なきにいたらしめん我が離るる時かれらの禍　大なる哉 13われエフライムを美地に植てツロのごとくなししかどもエフライムはその子等を携へいだして人を殺すに付さんとす 14ヱホバよ彼らに與へたまへ汝なにを與へんとしたまふや孕まざる胎と乳なき乳房とを與へたまへ 15かれらが凡の惡はギルガルにあり此故に我かしこにて之を惡めりその行爲あしければ我が家より逐いだし重て愛することをせじその牧伯等はみな悖れる者なり 16エフライムは撃れその根はかれて果を結ぶまじ若し產ことあらば我その胎なる愛しむ實を殺さん 17かれら聽從はざるによりて我が神これを棄たまふべしかれらは列　國民のうちに流離人とならん

第十章

1イスラエルは果をむすびて茂り榮る葡萄の樹その果の多くなるがままに祭壇をましその地の饒かなるがままに偶像を美しくせり 2かれらは二心をいだけり今かれら罪せらるべし神はその祭壇を打毀ちその偶像を折 棄てたまはん 3かれら今いふべし我儕神を畏れざりしに因て我らに王なしこの王はわれらのために何をかなさんと 4かれらは虚しき言をいだし 偽 の誓をなして約をたつ審判は畑 の畝にもえいづる茵蔯のごとし 5サマリヤの居民はベテアベンの犢の故によりて戰慄かんその民とこれを悦ぶ祭司等はその榮のうせたるが爲になげかん 6犢はアッス

リヤに携へられ禮物としてヤレブ王に献げらるべしエフライムは羞をかうむりイスラエルはおのが計議を恥ぢん 7サマリヤはほろびその王は水のうへの木片のごとし 8イスラエルの罪なるアベンの崇邱は荒はてて荊棘と蒺藜その壇のうへにはえ茂らんその時かれら山にむかひて我儕をおほへ陵にむかひて我儕のうへに倒れよといはん 9イスラエルよ汝はギベアの日より罪ををかせり彼等はそこに立り邪惡のひとびとを攻たりし戰爭はギベアにてかれらに及ばざりき 10我思ふままに彼等をいましめん彼等その二の罪につながれん時もろもろの民あつまりて之をせめん 11エフライムは馴されたる牝牛のごとくにして穀をふむことを好むされどわれその美しき頸に物を負しむべし我エフライムに軛をかけんユダは耕しヤコブは土塊をくだかん 12なんぢら義を生ずるために種をまき憐憫にしたがひてかりとり又新地をひらけ今はヱホバを求むべき時なり終にはヱホバきたりて義を雨のごとく汝等のうへに降せたまはん 13なんぢらは惡をたがへし不義を穫をさめ虚偽の果をくらへりこは汝おのれの途をたのみ己が勇士の數衆きをたのめるに縁る 14この故になんぢらの民のなかに擾亂おこりて汝らの城はことごとく打破られんシャルマンが戰鬥の日にベテアルベルを打破りしにことならず母その子とともに碎かれたり 15なんぢらの大なる惡のゆゑによりてベテル如此なんぢらに行へるなりイスラエルの王はあしたに滅びん

第十一章

1イスラエルの幼かりしとき我これを愛しぬ我わが子をエジプトより呼いだしたり 2かれらは呼るるに隨ひていよいよその呼者に遠ざかり且もろもろのバアルに犠牲をささげ雕たる偶像に香を焚り 3われエフライムに歩むことををしへ彼等をわが腕にのせて抱けり然どかれらは我にいやされたるを知ず 4われ人にもちゐる索すなはち愛のつなをもて彼等をひけり我がかれらを待ふは軛をその腮より擧のくるもののごとくにして彼等に食物をあたへたり 5かれらはエジプトの地にかへらじ然どかれらがヱホバに歸らざるによりてアッスリヤ人その王とならん 6劍かれらの諸邑にまはりゆきてその關門をこぼち彼らをその謀計の故によりて滅さん 7わが民はともすれば我にはなれんとする心あり人これを招きて上に在るものに屬しめんとすれども身をおこすもの一人だになし 8エフライムよ我いかで汝をすてんやイスラエルよ我いかで汝をわたさんや我いかで汝をアデマのごとくせんや爭でなんぢをゼボイムのごとく爲んやわが心わが衷にかはりて我の愛憐ことごとく燃おこれり 9我わが烈しき震怒をほどこすことをせじ我かさねてエフライムを滅すことをせじ我は人にあらず神なればなり我は汝のうちにいます聖者なりいかりをもて臨まじ 10かれらは獅子の吼るごとくに聲を出したまふヱホバに隨ひて歩まんヱホバ聲を出したまへば子等は西より急ぎ來らん 11かれらエジプトより鳥のごとくアッスリヤより鴿のごとくに急ぎ來らん我かれらをその家々に住はしむべし是ヱホバの聖言なり 12エフライムは謊言をもてイスラエルの家は詐僞をもて我を圍めりユダは神と信ある聖者とに屬きみつかずみ漂蕩をれり

第十二章

1エフライムは風をくらひ東風をおひ日々に詐僞と暴逆とを増くはへアッスリヤと契約を結び油をエジプトに餽れり 2ヱホバはユダと爭辨をなしたまふヤコブをその途にしたがひて罰しその行爲にしたがひて報いたまふ 3ヤコブは胎にゐし時その兄弟の踵をとらへまた己が力をもて神と角力あらそへり 4かれは天の使と角力あらそひて勝ちなきて之に恩をもとめたり彼はベテルにて神にあへり其處にて神われらに語ひたまへり 5これは萬軍の神ヱホバなりヱホバは其記念の名なり 6然ばなんぢの神にかへり矜恤と公義とをまもり恒になんぢの神を仰ぐべし 7彼はカナン人(商賈)なりその手に詭詐の權衡をもち好であざむき取ことをなす 8エフライムはいふ誠にわれは富る者となれり我は身に財寶をえたり凡てわが勞したることの中に罪をうべき不義を見いだす者なかるべし 9我ヱホバはエジプトの國をいでしより以來なんぢらの神なり我いまも尚なんぢを幕屋にすまはせて節會の日のごとくならしめん 10我もろもろの預言者にかたり又これに益々おほく異象をしめしたり我もろもろの預言者に托して譬喩をまうく 11ギレアデは不義なる者ならずや彼らは全く虚しかれらはギルガルにて牛を犠牲に献ぐかれらの祭壇は圃の畝につみたる石の如し 12ヤコブはアラムの野ににげゆけりイスラエルは妻を得んために人に事へ妻を得んために羊を牧へり 13ヱホバ一人の預言者をもてイスラエルをエジプトより導きいだし一人の預言者をもて之

を護りたまへり 14エフライムは怒を激ふること極てはなはだしその主かれが流しし血をかれが上にとどめその恥辱をかれに歸らせたまはん

第十三章

1エフライム言を出せば人をののけり彼はイスラエルのなかに己をたかうしバアルにより罪を犯して死たりしが 2今も尚ますます罪を犯しその銀をもて己のために像を鋳その機巧にしたがひて偶像を作る是みな工人の作なるなり彼らは之につきていふ犠牲を献ぐる者はこの犢に吻を接べしと 3是によりて彼らは朝の雲のごとく速にきえうする露のごとく打場より大風に吹散さるる穀殻のごとく窓より出ゆく煙のごとくならん 4されど我はエジプトの國をいでてより以來なんぢの神ヱホバなり爾われの外に神を知ことなし我のほかに救者なし 5我さきに荒野にて水なき地にて爾を顧みたり 6かれらは秣場によりて食に飽き飽くによりてその心たかぶり是によりて我を忘れたり 7斯るがゆゑに我かれらに對ひて獅子の如くなり途の傍にひそみうかがふ豹のごとくならん 8われ子をうしなへる熊のごとく彼らに向ひてその心膜を裂き獅子の如くこれを食はん野の獣これを攫斷るべし 9イスラエルよ汝の滅ぶるは我に背き汝を助くる者に背くが故なり 10汝のもろもろの邑に汝を助くべき汝の王は今いづくにかあるなんぢらがその王と牧伯等とを我に與へよと言たりし 士師等は今いづくにかある 11われ忿怒をもて汝に王を與へ憤恨をもて之をうばひたり 12エフライムの不義は包まれてありその罪はをさめたくはへられたり 13劬勞にかかれる婦のかなしみ之に臨まん彼は愚なる子なり時に臨みてもなほ産門に入らず 14我かれらを陰府の手より贖はん我かれらを死より贖はん死よなんぢの疫は何處にあるか陰府よなんぢの災は何處にあるか悔改はかくれて我が目にみえず 15彼は兄弟のなかにて果を結ぶこと多けれども東風吹きたりヱホバの息荒野より吹おこらん之がためにその泉は乾その源は涸れんその積蓄へたるもろもろの寶貴器皿は掠め奪はるべし 16サマリヤはその神にそむきたれば刑せられ劍に斃れんその嬰兒はなげくだかれその孕たる婦は剖れん

第十四章

1イスラエルよ汝の神ヱホバに歸れよ汝は不義のために仆れたり 2汝ら言詞をたづさへ來りヱホバに歸りていへ諸の不義は赦して善ところを受納れたまへ斯て我らは唇をもて牛のごとくに汝に献げん 3アッスリヤはわれらを救ひじ我らは馬に騎らじまたふたたび我儕みづからの手にて作れる者にむかひわが神なりと言じ孤兒は爾によりて憐憫を得べければなりと 4我かれらの反逆を醫し悦びて之を愛せん我が怒はかれを離れ去たり 5我イスラエルに對しては露のごとくならん彼は百合花のごとく花さきレバノンのごとく根をはらん 6その枝は茂りひろがり其美麗は橄欖の樹のごとくその芬芳はレバノンのごとくならん 7その蔭に住む者かへり來らんかれらは穀物のごとく活かへり葡萄樹のごとく花さきその馨香はレバノンの酒のごとくなるべし 8エフライムはいふ我また偶像となに何のあづかる所あらんやと我これに應へたり我かれを顧みん我は蒼翠の松のごとし汝われより果を得ん 9誰か智慧ある者ぞその人はこの事を暁らん誰か顕悟ある者ぞその人は之を知んヱホバの道は凡て直し義者は之を歩む然ど罪人は之に躓かん

ヨエル書

第一章

1ペトエルの子ヨエルに臨めるヱホバの言 2老たる人よ汝ら是を聽け すべて此地に住む者汝ら耳を傾けよ 汝らの世あるは汝らの先祖の世にも是のごとき事ありしや 3汝ら之を子に語り子はまた之をその子に語りその子之を後の代に語りつたへよ 4噬くらふ蝗虫の遺せる者は群ゐる蝗虫のくらふ所となりその遺せる者はなめつくすおほねむしのくらふ所となりその遺せる者は喫ほろぼす蝗虫の食ふ所となれり 5醉る者よ汝ら目を醒して泣け すべて酒をのむ者よ哭きさけべ あたらしき酒なんぢらの口に絶えたればなり 6そはことなる民わが國に攻よすればなり その勢ひ強くその數はかられずその歯は獅子の歯のごとくその牙は牝獅子の牙のごとし 7彼等わが葡萄の樹を荒しわが無花果の樹を折りその皮をはぎはだかにして之を棄つ その枝白くなれり 8汝ら哀哭かなしめ 貞女その若かりしときの夫のゆゑに麻布を腰にまとひて哀哭かなしむが

ごとくせよ 9素祭灌祭ともにヱホバの家に絶えヱホバに
事ふる祭司等哀傷をなす 10田は荒れ地は哀傷む 是穀物荒
はて新しき酒つき油たえんとすればなり 11こむぎ大むぎ
の故をもて農夫羞ぢよ 葡萄をつくり哭けよ 田の禾稼う
せはてたればなり 12葡萄樹は枯れ無花果樹は萎れ石榴
椰子林檎および野の諸の樹は凋みたり 是をもて世の人の
喜樂かれうせぬ 13祭司よ汝ら麻布を腰にまとひてなきか
なしめ 祭壇に事ふる者よ汝らなきさけべ 神に事ふる者
よなんぢら來り麻布をまとひて夜をすごせ 其は素祭も
灌祭も汝らの神の家に入ことあらざればなり 14汝ら斷食
を定め集會を設け長老等を集め國の居民をことごとく
汝らの神ヱホバの家に集めヱホバにむかひて號呼れよ 15
ああその日は禍なるかな ヱホバの日近く暴風のごとく
に全能者より來らん 16我らがまのあたりに食物絶えしに
あらずや 我らの神の家に歡喜と快樂絶しにあらずや 17種
は土の下に朽ち倉は壞れ廩は圮る そは穀物ほろぼされ
たればなり 18いかに畜獸は哀み鳴くや 牛の群は亂れ迷ふ
草なければなり 羊の群もまた死喪ん 19ヱホバよ我なんぢ
に向ひて呼はらん 荒野の諸の草は火にて燒け野の諸の樹
は火焰にてやけつくればなり 20野の獸もまた汝にむかひ
て呼はらん 其は水の流涸はて荒野の草火にてやけつく
ればなり

第二章

1汝らシオンにて喇叭を吹け 我聖山にて音たかく之を吹
鳴せ 國の民みな慄ひわななかん そはヱホバの日きたら
んとすればなり すでに近づけり 2この日は黑くをぐらき
日雲むらがるまぐらき日にしてしののめの山々にたなび
くが如し 數おほく勢さかんなる民むれいたらん かかる
者はいにしへよりありしことなくのちの代々の年にもあ
ることなかるべし 3火彼らの前を焚き火焰かれらの後に
もゆ その過さる前は地エデンのごとくその過しのちは荒
はてたる野の如し 此をのがれうるもの一としてあること
なし 4彼らの狀は馬のかたちのごとく其馳ありくことは
軍馬のごとし 5その山の嶺にとびをどる音は車の轟聲
がごとし また火の稭株をやくおとの如くしてその樣強
き民の行伍をたてて戰陣にのぞむに似たり 6そのむかふ
ところ諸民戰慄きその面みな色を失ふ 7彼らは勇士の如
くに趨あるき軍人のごとくに石垣に攀のぼる 彼ら各々
おのが道を進みゆきてその列を亂さず 8彼ら互に推あは
ず各々その道にしたがひて進み行く 彼らは刃に觸るとも
身を害はず 9彼らは邑をかけめぐり石垣の上に奔り家に
攀登り盜賊のごとくに窓より入る 10そのむかふところ地
ゆるぎ天震ひ日も月も暗くなり星その光明を失ふ 11ヱホ
バその軍勢の前にて聲をあげたまふ 其軍旅ははなはだ大な
ればなり 其言を爲とぐる者は強し ヱホバの日は大にし
て甚だ畏るべきが故に誰かこれに耐ることを得んや 12然
どヱホバ言たまふ 今にても汝ら斷食と哭泣と悲哀とをな
し心をつくして我に歸れ 13汝ら衣を裂かずして心を裂き
汝等の神ヱホバに歸るべし 彼は恩惠あり憐憫ありかつ怒
ることゆるく愛憐大にして災害をなすを悔たまふなり
14誰か彼のあるひは立歸り悔て祝福をその後にとめのこ
し汝らをして素祭と灌祭とをなんぢらの神ヱホバにささ
げしめたまはじと知んや 15汝らシオンにて喇叭を吹きな
らし斷食を定め公會をよびつどへ 16民を集めその會を潔
くし老たる人をあつめ孩童と乳哺子を集め新郎をその室
より呼いだし新婦をその密室より呼いだせ 17而してヱホ
バに事ふる祭司等は廊と祭壇の間にて泣て言へ ヱホバ
よ汝の民を赦したまへ 汝の產業を恥辱しめらるるに任せ
之を異邦人に治めさする勿れ 何ぞ異邦人をして彼らの神
は何處にあると言しむべけんや 18然せばヱホバ己の地に
ために嫉妬を起しその民を憐みたまはん 19ヱホバ應へて
その民に言たまはん 視よ我穀物とあたらしき酒と油を
汝におくる 汝ら之に飽ん 我なんぢらをして重ねて
異邦人の中に恥辱を蒙らしめじ 20我北よりきたる軍を遠
く汝らより離れしめうるほひなき荒地に逐やらん 其前軍
を東の海にその後軍を西の海に入れん その臭味立ちそ
の惡臭騰らん 是大なる事を爲たるに因る 21地よ懼るる
勿れ喜び樂しめ ヱホバ大なる事を行ひたまふなり 22野
の獸よ懼るる勿れ あれ野の牧草はもえいで樹は果を結び
無花果樹葡萄樹はその力をめざすなり 23シオンの子等よ
汝らの神ヱホバによりて樂め喜べ ヱホバは秋の雨を
適當なんぢらに賜ひまた前のごとく秋の雨と春の雨とを
汝らの上に降せたまふ 24打場には穀物盈ち甕にはあたら
しき酒と油溢れん 25我が汝らに遣しし大軍すなはち群ゐ
る蝗なめつくす蝗喫ほろぼす蝗噬くらふ蝗の觸あらせ
る年をわれ汝らに賠はん 26汝らは食ひ食ひて飽き よのつ
ねならずなんぢらを待ひたまひし汝らの神ヱホバの名を
ほめ頌へん 我民はとこしへに辱しめらるることなかるべ
し 27かくて汝らはイスラエルの中に我が居るを知り汝ら

の神ヱホバは我のみにて外に無きことを知らん 我民は永遠に辱かしめらるることなかるべし 28その後われ吾靈を一切の人に注がん 汝らの男子女子は預言せん 汝らの老たる人は夢を見 汝らの少き人は異象を見ん 29その日我またわが靈を僕 婢に注がん 30また天と地に徴證を顯さん 即ち血あり火あり煙の柱あるべし 31ヱホバの大なる畏るべき日の來らん前に日は暗く月は血に變らん 32凡てヱホバの名を籲ぶ者は救はるべし そはヱホバの宣ひし如くシオンの山とヱルサレムとに救はれし者あるべければなり 其遺れる者の中にヱホバの召し給へるものあらん

第三章

1觀よ我ユダとヱルサレムの俘囚人を歸さん その日その時 2萬國の民を集め之を携へてヨシヤパテの谷にくだりかしこにて我民我ゆづりの產なるイスラエルのために彼らをさばかん 彼らこれを國々に散してその地を分ち取りたればなり 3彼らは籤をひきて我民を取り童子を娼妓に換へ童女を賣り酒に換て飮めり 4ツロ、シドンよベリシテのすべての國よ 汝ら我と何のかかはりあらんや 汝ら我がなししことに返をなさんとするや 若し我に返報をなさんとならば我 忽ち迅速に汝らがなししことをもてその首に歸らしめん 5是は汝らは我の金銀を取り我のしたふべき寶を汝らの宮にたづさへゆき 6またユダの人とヱルサレムの人をギリシヤ人に賣りてその本國より遠く離らせたればなり 7視よ我かれを起して汝らが賣りたる處より出し汝らがなししことをもてその首にかへらしめん 8我はなんぢらの男子女子をユダの人の手に賣り彼らは之を遠き民なるシバ人に賣らん ヱホバこれを言ふ 9もろもろの國に宣つたへよ 戰爭の準備を爲し勇士をはげまし軍人をことごとくちかより來らしめよ 10汝等の鋤を劍に打かへ汝らの鎌を鎗に打かへよ 弱き者も我は強しと言へ 11四周の國々の民よ汝ら急ぎ上りて集れ ヱホバよ汝の勇士をかしこに降したまへ 12國々の民よ起て上りヨシヤパテの谷に至れ 彼處に我座をしめて四周の國々の民をことごとく鞫かん 13鎌をいれよ 穀物は熟せり 來り踏めよ 酒榨は盈ち甕は溢る 彼らの惡 大なればなりと 14かまびすしきかな無數の民審判の谷にありてかまびすし ヱホバの日審判の谷に近づくが故なり 15日も月も暗くなり星その光明を失ふ 16ヱホバ、シオンよりよびとどろかしヱルサレムより聲をはなち天地を震ひうごかしたまふ 然れどヱホバはその民の避所イスラエルの子孫の城となりたまはん 17かくて汝ら我はヱホバ汝等の神にして我聖山シオンに住むことをしるべし ヱルサレムは聖き所となり他國の人は重ねてその中をかよふまじ 18その日山にあたらしき酒 滴り岡に乳流れユダのもろもろの河に水流れヱホバの家より泉水流れいでてシッテムの谷に灌がん 19エジプトは荒すたれエドムは荒野とならん 是はかれらユダの子孫を虐げ辜なき者の血をその國に流したればなり 20されどユダは永久にすまひヱルサレムは世々に保たん 21我さきにはかれらが流しし血の罪を報いざりしが今はこれをむくいん ヱホバ、シオンに住みたまはん

アモス書

第一章

1テコアの牧者の中なるアモスの言 是はユダの王ウジヤの世 イスラエルの王ヨアシの子ヤラベアムの世 地震の二年前に彼が見されたる者にてイスラエルの事を論るなり 其言に云く 2ヱホバ、シオンより呼號りエルサレムより聲を出したまふ 牧者の牧場は哀きカルメルの巓は枯る 3ヱホバかく言たまふ ダマスコは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らは鐵の打禾車をもてギレアデを打り 4我ハザエルの家に火を遣りベネハダデの宮殿を焚ん 5我ダマスコの關を碎きアベンの谷の中よりその居民を絶のぞきベテエデンの中より王の杖を執る者を絶のぞかん スリアの民は擄へられてキルにゆかん ヱホバこれを言ふ 6ヱホバかく言たまふ ガザは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らは俘囚をことごとく曳ゆきてこれをエドムに付せり 7我ガザの石垣の内に火を遣り一切の殿を焚ん 8我アシドドの中よりその居民を絶のぞきアシケロンの中より王の杖を執る者を絶除かん 我また手を反してエクロンを擊ん ペリシテ人の遺れる者亡ぶべし 主ヱホバこれを言ふ 9ヱホバかく言たまふ ツロは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らは俘囚をことごとくエドムに付しまた兄弟の契約を忘れたり 10我ツロの石垣の内に火を遣り一切の殿を焚ん 11ヱホバかく言たまふ エドムは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼は劍をもてその兄弟を追ひ全く憐憫の情を斷ち恒に怒りて人を害し永くその憤恨をたくはへたり 12我テマンに火を遣りボヅラの一切の殿を焚ん 13ヱホバかく言たまふ アンモンの人々は三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らはその國境を廣めんとてギレアデの孕める婦を剖たり 14我ラバの石垣の内に火を放ちその一切の殿を焚ん 是は戰鬪の日に吶喊の聲をもて爲され暴風の日に旋風をもて爲されん 15彼らの王はその牧伯等と諸共に擄へられて往ん ヱホバこれを言ふ

第二章

1ヱホバかく言たまふ モアブは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼はエドムの王の骨を燒て灰となせり 2我モアブに火を遣りケリオテの一切の殿を焚ん モアブは噪擾と吶喊の聲と喇叭の音の中に死ん 3我その中より審判長を絶除きその諸の牧伯を之とともに殺さん ヱホバはこれを言ふ 4ヱホバかく言たまふ ユダは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らはヱホバの律法を輕んじその法度を守らずその先祖等が從ひし僞の物に惑はさる 5我ユダに火を遣りエルサレムの諸の殿を焚ん 6ヱホバかく言たまふ イスラエルは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らは義者を金のために賣り貧者を鞋一足のために賣る 7彼らは弱き者の頭に地の塵のあらんことを喘ぎて求め柔かき者の道を曲げ又父子共に一人の女子に行て我聖名を汚す 8彼らは質に取れる衣服を一切の壇の傍に敷きてその上に偃し罰金をもて得たる酒をその神の家に飮む 9嚮に我はアモリ人を彼らの前に絶たり アモリ人はその高きこと香柏のごとくその強きこと橡の樹のごとくなりしが我その上の果と下の根とをほろぼしたり 10我は汝らをエジプトの地より携へのぼり四十年のあひだ荒野において汝らを導き終にアモリ人の地を汝らに獲させたり 11我は汝らの子等の中より預言者を興し汝らの少者の中よりナザレ人を興したり イスラエルの子孫よ然るにあらずや ヱホバこれを言ふ 12然るに汝らはナザレ人に酒を飮ませ預言者に命じて預言するなかれと言り 13視よ我麥束を積滿せる車の物を壓するがごとく汝らを壓せん 14その時は疾走者も逃るに暇あらず 強き者もその力を施すを得ず 勇士も己の生命を救ふこと能はず 15弓を執る者も立ことを得ず 足駿の者も自ら救ふ能はず 馬に騎れる者も己の生命を救ふこと能はず 16勇士の中の心剛き者もその日には裸にて逃ん ヱホバこれを言ふ

第三章

1イスラエルの子孫よヱホバが汝らにむかひて言ところ我がエジプトの地より導き上りし全家にむかひて言ところの此言を聽け 2地の諸の族の中にて我ただ汝ら而已を知れり この故に我なんぢらの諸の罪のために汝らを

罰せん 3二人もし相會せずば爭で共に歩かんや 4獅子もし獲物あらずば豈林の中に吼んや 猛獅子もし物を攫まずば豈その穴より聲を出さんや 5もし羂の設なくば鳥あに地に張れる網にかからんや 網もし何の得るところもなくば豈地よりあがらんや 6邑にて喇叭を吹かば民おどらかざらんや 邑に災禍のおこるはヱホバのこれを降し給ふならずや 7夫主ヱホバはその隱れたる事をその僕なる預言者に傳へずしては何事をも爲たまはざるなり 8獅子吼ゆ 誰か懼れざらんや 主ヱホバ言語たまふ 誰か預言せざらんや 9アシドドの一切の殿に傳へエジプトの地の一切の殿に宣て言へ 汝等サマリヤの山々に集りその中にある大なる紛亂を觀その中間におこなはるる虐遇を觀よ 10ヱホバいひたまふ 彼らは正義をおこなふことを知ず虐げ取し物と奪ひたる物とをその宮殿に積蓄ふ 11是故に主ヱホバかく言たまふ 敵ありて此國を攻かこみ汝の權力を汝より取下さん 汝の一切の殿は掠めらるべし 12ヱホバかく言たまふ 牧羊者は獅子の口より羊の兩足あるひは片耳を取かへし得るのみ サマリヤに於て床の隅またはダマスコ錦の榻に坐するイスラエルの子孫もその救はるることを是のごとくならん 13萬軍の神 主ヱホバかく言たまふ 汝ら聽てヤコブの家に證せよ 14我イスラエルの諸の罪を罰する日にはベテルの壇を罰せん 其壇の角は折て地に落べし 15我また冬の家および夏の家をうたん 象牙の家ほろび大きなる家失ん ヱホバこれを言ふ

第四章

1バシヤンの牝牛等よ汝ら此言を聽け 汝らはサマリヤの山に居り弱者を虐げ貧者を壓し又その主にむかひて此に持きたりて我らに飲せよと言ふ 2主ヱホバ己の聖を指し誓ひて云ふ 視よ日 汝らの上に臨む その日には人 汝らを鉤にかけ汝等の遺餘者を釣魚鉤にかけて曳いださん 3汝らは各々その前なる石垣の破壞たる處より奔出てハルモンに逃往ん ヱホバこれを言ふ 4汝らベテルに往て罪を犯しギルガルに往て益々おほく罪を犯せ 朝ごとに汝らの犧牲を携へゆけ 三日ごとに汝らの什一を携へゆけ 5酵いれたる者を感謝祭に獻げ願意よりする禮物を召てこれを告示せ イスラエルの子孫よ 汝らは斯するを好むなりと主ヱホバ言たまふ 6また我 汝らの一切の邑に於て汝らの齒を清からしめ汝らの一切の處において汝らの食を乏しからしめたり 然るに汝らは我に歸らずとヱホバ言給ふ 7また我収穫までには尚三月あるに雨をとどめて汝らに下さず かの邑には雨を降しこの邑には雨をふらさざりき 此田圃は雨を得 彼田圃は雨を得ずして枯れたり 8二 三の邑別の一の邑に躓めきゆきて水を飲ども飽ことあたはず然るに汝らは我に歸らずとヱホバ言たまふ 9我枯死殼と朽腐穗とをもて汝等を擊なやませり また汝らの衆多の園と葡萄園と無花果樹と橄欖樹とは蝗これを食へり 然るに 汝らは我に歸らずとヱホバ言たまふ 10我なんぢらの中にエジプトに爲し如く疫病をおこし劍をもて汝らの少き人を殺し又汝らの馬を奪さり汝らの營の臭氣をして騰りて 汝らの鼻を撲しめたり 然るも汝らは我に歸らずとヱホバいひたまふ 11我なんぢらの中の邑を滅すことソドム、ゴモラを神の滅したまひし如くしたれば汝らは焔の中より取いだしたる燃柴のごとくなれり 然るも汝らは我に歸らずとヱホバ言たまふ 12イスラエルよ然ば我かく汝に行はん 我是を汝に行ふべければイスラエルよ汝の神に會ふ準備をせよ 13彼は即ち山を作りなし風を作り出し人の思想の如何なるをその人に示しまた晨光をかへて黑暗となし地の高處を踏む者なり その名を萬軍の神ヱホバといふ

第五章

1イスラエルの家よ我が汝らに對ひて宣る此言を聽け 是は哀歎の歌なり 2處女イスラエルは仆れて復起あがらず 彼は己の地に扑倒さる 之を扶け起す者なし 3主ヱホバかく言たまふ イスラエルの家においては前に千人出たる邑は只百人のみのこり前に百人出たる邑は只十人のみのこらん 4ヱホバかくイスラエルの家に言たまふ 汝ら我を求めよ さらば生べし 5ベテルを求むるなかれ ギルガルに往なかれ ベエルシバに赴く勿れ ギルガルは必ず擄へられゆきベテルは無に歸せん 6汝らヱホバを求めよ 然ば生べし 恐くはヱホバ火のごとくにヨセフの家に落くだりたまひてその火これを燒ん ベテルのためにこれを熄す者一人もあらじ 7汝ら公道を茵蓯に變じ正義を地に擲つる者よ 8昴宿および參宿を造り死の蔭を變じて朝となし晝を暗くして夜となし海の水を呼て地の面に溢れさする者を求めよ 其名はヱホバといふ 9彼は滅亡を忽然強者に臨ましむ 滅亡つひに城に臨む 10彼らは門にありて勸戒る者を惡み正直を言ふ者を忌嫌ふ 11汝らは貧者を踐つけ麥の贐物を之より取る この故に汝らは鑿石の家を建しと

雖どもその中に住ことあらじ 美しき葡萄園を作りしと雖どもその酒を飲ことあらじ 12我知る汝らの愆は多く汝らの罪は大なり 汝らは義き者を虐げ賄賂を取り門において貧き者を推枉ぐ 13是故に今の時は賢き者默す 是惡き時なればなり 14汝ら善を求めよ 惡を求めざれ 然らば汝ら生べし また汝らが言ごとく萬軍の神ヱホバ汝らと偕に在さん 15汝ら惡を惡み善を愛し門にて公義を立よ 萬軍の神ヱホバあるひはヨセフの遺れる者を憐れみたまはん 16是故に主たる萬軍の神ヱホバかく言たまふ 諸の街衢にて啼ことあらん 諸の大路にて人 哀 哉 哀 哉と呼ん 又農夫を呼きたりて哀哭しめ啼 女を招きて啼しめん 17また諸 の葡萄園にも啼こと有べし 其は我 汝らの中を通るべければなり ヱホバこれを言たまふ 18ヱホバの日を望む者は 禍 なるかな 汝ら何とてヱホバの日を望むや 是は昏くして光なし 19人獅子の前を逃れて熊に遇ひ又家にいりてその手を壁に附て蛇に咬るるに宛も似たり 20ヱホバの日は昏くして光なく暗にして 耀 なきに非ずや 21我は汝らの節筵を惡みかつ藐視む また汝らの集 會を悦ばじ 22 汝ら我に燔祭または素祭を獻ぐるとも我之を受納れじ 汝らの肥たる犢の感謝祭は我これを顧みじ 23汝らの歌の聲を我前に絶て汝らの琴の音は我これを聽じ 24公道を水のごとくに正義をつきざる河のごとくに流れしめよ 25イスラエルの家よ汝らは四十年荒野に居し間 犧牲と供 物を我に獻げたりしや 26かへつて汝らは汝らの王シクテを負ひ汝 らの偶像キウンを負へり 是 即ち汝らの神とする星にして汝らの自ら造り設けし者なり 27然ば我 汝らをダマスコの外に移さん 萬軍の神ととなふるヱホバこれを言たまふ

第六章

1身を安くしてシオンに居る者 思ひわづらはずしてサマリヤの山に居る者 諸 の國にて勝れたる國の中なる聞高くしてイスラエルの家に就きしたがはるる者は 禍 なるかな 2カルネに渉りゆき彼處より大ハマテに至りまたペリシテ人のガテに下りて視よ其等は此二國に愈るや 彼らの土地は汝らの土地よりも大なるや 3汝等は災禍の日をもて尚遠しと爲し強 暴の座を近づけ 4自ら象牙の牀に臥し寢臺の上に身を伸し群の中より羔羊を取り圈の中より犢牛を取て食ひ 5琴の音にあはせて唄ひ嘆ぎダビデのごとくに樂器を製り出し 6大 斝をもて酒を飲み最も貴き膏 を身に抹りヨセフの艱難を憂へざるなり 7是故に今彼等は擄はれて俘囚人の眞先に立て往んかの身を伸したる者等の嘈の聲止べし 8萬軍の神ヱホバ言たまふ 主ヱホバ己を指て誓へり 我ヤコブが誇る所の物を忌嫌ひその宮殿を惡む 我この邑とその中に充る者とを付すべし 9 一の家に十人遺りをるとも皆死ん 10而してその親戚すなはち之を焚く者その死骸を家より運びいださんとて之を取あげまたその家の奥に潛み居る者に向ひて他になほ汝とともに居る者あるやと言ふとき對へて一人も無しと言ん 此時かの人また言べし 默せよヱホバの名を口に擧ること有べからずと 11視よヱホバ命を下し大なる家を擊て墟址とならしめ小き家を擊て微塵とならしめたまふ 12馬あに能く岩の上を走らんや 人あに牛をもて岩を耕へすことを得んや 然るに汝らは公道を毒に變じ正義の果を茵蔯に變じたり 13汝らは無物を喜び我儕は自分の力をもて角を得しにあらずやと言ふ 14是をもて萬軍の神ヱホバ言たまふ イスラエルの家よ我 一の國を起して汝らに敵せしめん 是はハマテの入口よりアラバの川までも汝らをなやまさん

第七章

1主ヱホバの我に示したまへるところ是のごとし 即ち草の再び生ずる時にあたりて彼 蝗を造りたまふ その草は王の刈たる後に生じたるものなり 2その蝗 地の青物を食盡しし後我言り 主ヱホバよ願くは赦したまへ ヤコブは小し 爭でか立ことを得んと 3ヱホバその行へる事につきて悔をなし我これを爲じと言たまふ 4主ヱホバの我に示したまへる所 是のごとし 即ち主ヱホバ火をもて罰せんとて火を呼たまひければ火大淵を焚きまた産業の地を焚かんとす 5時に我言り 主ヱホバよ願くは止みたまへ ヤコブは小し 爭でか立ことを得んと 6ヱホバその行へる事につきて悔をなし我これをなさじと主ヱホバ言たまふ 7また我に示したまへるところ是のごとし 即ち準 繩をもて築ける石垣の上にヱホバ立ちその手に準 繩を執たまふ 8而してヱホバ我にむかひアモス汝 何を見るやと言たまひければ準 繩を見ると我答へしに主また言たまはく我 準 繩を我民イスラエルの中に設く 我 再び彼らを見過しにせじ 9イサクの崇 邱は荒されイスラエルの聖 所は毀たれん 我 劍をもちてヤラベアムの家に起むかはん 10時にベテルの祭司アマジヤ、イスラエルの王ヤラベアムに

言遺しけるはイスラエルの家の眞中にてアモス汝に叛け り 彼の 諸 の言には此地も堪るあたはざるなり 11即ちア モスかく言り ヤラベアムは劍によりて死ん イスラエル は必ず擄へられてゆきてその國を離れんと 12而してアマ ジヤ、アモスに言けるは先見者よ 汝 往てユダの地に逃 れ彼處にて預言して汝の食 物を得よ 13然どベテルにては 重ねて預言すべからず 是は王の聖所王の宮なればなり 14 アモス對へてアマジヤに言けるは我は預言者にあらず ま た預言者の子にも非ず 我は牧者なり 桑の樹を作る者な りと 15然るにヱホバ羊に從ふ所より我を取り往て我民イ スラエルに預言せよとヱホバわれに宣へり 16今ヱホバの 言 を聽け 汝は言ふイスラエルにむかひて預言する勿れ イサクの家にむかひて言を出すなかれと 17是故にヱホバ かく言たまふ 汝の妻は邑の中にて妓婦となり汝の男子 女子は劍に斃れ汝の地は繩をもて分たれん 而して汝は穢 れたる地に死にイスラエルは擄られゆきてその國を離れ ん

第八章

1主ヱホバの我に示したまへるところ是のごとし 即ち 熟 したる果物一筐あり 2ヱホバわれにむかひてアモス汝 何 を見るやと言たまひければ熟したる果物一筐を見ると答 へしにヱホバ我に言たまはく我民イスラエルの終いたれ り 我ふたたび彼らを見過しにせじ 3主ヱホバ言たまふ 其 日には宮殿の歌は哀哭に變らん 死屍おびただしくあり 人これを遍き處に投棄ん 默せよ 4汝ら喘ぎて貧しき者に 迫り且地の困難者を滅す者よ之を聽け 5汝らは言ふ月朔 は何時過去んか 我等穀物を賣んとす 安息日は何時過去 んか 我ら麥倉を開かんとす 我らエパを小くしシケルを 大くし僞の權衡をもて欺く事をなし 6銀をもて賤しき者 を買ひ鞋一足をもて貧き者を買ひかつ屑麥を賣いださん と 7ヱホバ、ヤコブの榮光を指て誓ひて言たまふ 我かな らず彼等の一切の行爲を何時までも忘れじ 8之がために 地震はざらんや地に住る者みな哭かざらんや 地みな河の ごとく噴あがらん エジプトの河のごとく湧あがり又沈ま ん 9主ヱホバ言たまふ其日には我日をして眞晝に沒せし め地をして白晝に暗くならしめ 10汝らの節筵を悲傷に變 らせ汝らの歌を 盡 く哀哭に變らせ一切の人に麻布を腰 に纏はしめ一切の人に 頂 を剃しめ其日をして獨子を 喪 へる哀傷のごとくならしめ其 終 をして苦き日のごとくな らしめん 11主ヱホバ言たまふ 視よ日至らんとす その時 我饑饉たを此國におくらん 是はパンに乏しきに非ず 水 に渇くに非ず ヱホバの言を聽ことの饑饉なり 12彼らは海 より海とさまよひ歩き北より東と奔まはりてヱホバの 言 を求めん 然ど之を得ざるべし 13その日には美しき處女も 少き男もともに渇のために絶いらん 14かのサマリヤの罪 を指て誓ひダンよ汝の神は活くと言ひまたベエルシバの 路は活くと言る者等は必ず仆れん 復興ることあらじ

第九章

1我觀るに主壇の上に立て言たまはく柱の頭を擊て閾を 震はせ之を打碎きて一切の人の首に落かからしめよ 其遺 れる者をば我 劍をもて殺さん 彼らの逃る者も逃おほす ることを得ず 彼らの遁るる者もたすからじ 2假令かれら 陰府に掘くだるとも我手をもて之を其處より曳いださん 假令かれら天に攀のぼるとも我これを其處より曳おろさ ん 3假令かれらカルメルの巓 に匿るるとも我これを搜し て其處より曳いださん 假令かれら海の底に匿れて我目を 逃るるとも我蛇に命じて其處にて之を咬しめん 4假令か れらその敵に擄はれゆくとも我 劍に命じて其處にて之を 殺さしめん 我かれらの上に我目を注ぎて災禍を降さん 福祉を降さじ 5主たる萬軍のヱホバ地に捫れば地鎔けそ の中に住む者みな哀む 即ち全地は河のごとくに噴あがり エジプトの河のごとくにまた沈むなり 6彼は樓閣を天に 作り穹蒼の基を地の上に置ゑまた海の水を呼て地の面に これを斟ぐなり 其名をヱホバといふ 7ヱホバ言たまふ イ スラエルの子孫よ 我は汝らを視ことエテオピア人を觀が ごとくするにあらずや 我はイスラエルをエジプトの國よ りペリシテ人をカフトルよりスリア人をキルより導き來 りしにあらずや 8視よ我主ヱホバその目を此罪を犯すと ころの國に注ぎ之を地の面より滅し絶ん 但し我はヤコブ の家を 盡 くは滅さじ ヱホバこれを言ふ 9我すなはち命 を下し篩にて物を篩ふがごとくイスラエルの家を萬國の 中にて篩はん 一粒も地に落ざるべし 10我民の罪人 即ち 災禍われらに及ばず我らに降らじと言をる者等は皆 劍に よりて死ん 11其日には我ダビデの倒れたる幕屋を興しそ の破壞を修繕ひその傾\圮たるを興し古代の日のごとく に之を建なほすべし 12而して彼らはエドムの遺餘者およ び我名をもて稱へらるる一切の民を獲ん 此事を行ふ ヱ ホバかく言なり 13ヱホバ言ふ 視よ日いたらんとす その

時には耕 者は刈者に相繼ぎ葡萄を踐む者は播種者に相繼がん また山々には酒 滴り岡は皆鎔て流れん 14我わが民イスラエルの俘囚を返さん 彼らは荒たる邑々を建なほして其處に住み葡萄園を作りてその酒を飲み園圃を作りてその果を食はん 15我かれらをその地に植つけん 彼らは我がこれに與ふる地より重ねて抜とらるることあらじ 汝 の神ヱホバこれを言ふ

オバデヤ書

第一章

1オバデヤの預言 主ヱホバ、エドムにつきて斯いひたまふ 我らヱホバより出たる音信を聞けり 一人の使者國々の民の中に遣されて云ふ 起よ我儕起てエドムを攻撃んと 2我 汝をして國々の中において小き者たらしむ 汝は大に藐視らるるなり 3山崖の巖屋に居り高き處に住む者よ 汝が心の傲慢なんぢを欺けり 汝 心の中に謂ふ誰か我を地に曳くだすことを得んと 4汝たとひ鷲のごとくに高く擧り星の間に巣を造るとも我そこより汝を曳くださん ヱホバこれを言たまふ 5盜賊 汝に來り 強盜夜なんぢに來り竊むともその心に滿るときは止ざらんや 嗚呼なんぢは滅されて絶ゆ 葡萄を摘む者 汝にいたるも尚 幾何を遺さざらんや 6嗚呼エサウは捜されその隱しおける物は探りいださる 7汝と盟約を結べる人々はみな汝を國 境に逐やり 汝と和好をなせる人々はみな汝を欺きて汝に勝ち汝の食物を食ふ者等は汝の下に羂を設く 彼の中には穎悟あらず 8ヱホバ言たまふ當日には我智慧ある者をエドムより絶除き穎悟をエサウの山より絶除かざらんや 9テマンよ汝の勇士は驚き懼れん 而して人みな終に殺されてエサウの山より絶除かるべし 10汝はその兄弟ヤコブに暴虐を加へたるに因て恥辱なんぢを蒙はん 汝は永遠に至るまで絶るべし 11汝が遠く離れて立をりし日 即ち異邦人これが財寶を奪ひ他國人これが門に進み入りエルサレムのために籤を擲たる日には汝も彼らの一人のごとくなりき 12汝は汝の兄弟の日すなはちその災禍の日を觀るべからず 又ユダの子孫の滅亡の日を喜ぶべからず その苦難の日には 汝 口を大きく開べからざるなり 13我民の滅ぶる日には 汝 その門に入べからず其滅ぶる日には汝その患難を見べからず 又その滅ぶる日には汝その財寶に手をかく可らず 14汝 路の辻々に立て その逃亡者を斬べからず 其患難の日にこれが遺る者を付すべからず 15ヱホバの日萬國に臨むこと邇し 汝の爲せるごとく汝も爲られ汝の應報なんぢの首に歸すべし 16汝等のわが聖山にて飲しごとく萬國の民も恒に飲ん 即ちみな飲かつ啜りて從前より有ざりし者のごとく成ん 17シオン山には救はるる者等をりてその山聖所とならん またヤコブの家はその産業を獲ん 18ヤコブの家は火となりヨセフの家は火燄となりエサウの家は藁とならん 即ち彼等これが上に燃てこれを焚ん エサウの家には遺る者一人も無にいたるべし ヱホバこれを言なり 19南の人はエサウの山を獲 平地の人はペリシテを獲ん 又彼らはエフライムの地およびサマリヤの地を獲 ベニヤミンはギレアデを獲ん 20かの擄はれゆきしイスラエルの軍旅はカナン人に屬する地をザレパテまで取ん セパラデにあるエルサレムの俘擄人は南の邑々を獲ん 21然る時に救者シオンの山に上りてエサウの山を鞫かん而して國はヱホバに歸すべし

ヨナ書

第一章

1ヱホバの言アミタイの子ヨナに臨めりいはく 2起てかの大 なる邑ニネベに往きこれを呼はり責めよ そは其惡わが前に上り來ればなりと 3然るにヨナはヱホバの面をさけてタルシシへ逃れんと起てヨツパに下り行けるが機しもタルシシへ往く舟に遇ければその價値を給へヱホバの面をさけて偕にタルシシへ行んとてその舟に乗れり 4時にヱホバ大風を海の上に起したまひて烈しき颶風海にありければ舟は幾んど破れんとせり 5かかりしかば船夫恐れて 各 おのれの神を呼び又舟を輕くせんとてその中なる載荷を海に投すてたり 然るにヨナは舟の奥に下りゐて

臥て酣睡せり 6船長來りて彼に云けるは汝なんぞかく
酣睡するや起て汝の神を呼べあるひは彼われらを眷顧て
淪亡ざらしめんと 7かくて人衆 互に云けるは此 災 の
我儕にのぞめるは誰の故なるかを知んがため去來鬮を掣
んと やがて鬮をひきしに鬮ヨナに當りければ 8みな彼に
云けるはこの災禍なにゆゑに我らにのぞめるか請ふ告げ
よ 汝の業は何なるや 何處より來れるや 汝の國は何處ぞ
や 何處の民なるや 9ヨナ彼等にいひけるは我はヘブル人
にして海と陸とを造りたまひし天の神ヱホバを畏るる者
なり 10是に於て船夫 甚だしく懼れて彼に云けるは汝なん
ぞ其事をなせしやと その人々は彼がヱホバの面をさけて
逃れしなるを知れり 其はさきにヨナ彼等に告たればなり
11遂に船夫彼にいひけるは我儕のために海を靜かにせん
には汝に如何がなすべきや 其は海いよいよ甚だしく狂蕩
たればなり 12ヨナ彼等に曰けるはわれを取りて海に投い
れよ さらば海は汝等の爲に靜かにならん そはこの大な
る颶風の汝等にのぞめるはわが故なるを知ればなり 13さ
れど船夫は陸に漕もどさんとつとめたりしが終にあたは
ざりき 其は海かれらにむかひていよいよ烈しく蕩たれば
なり 14ここにおいて彼等ヱホバに呼はりて曰けるはヱホ
バよこひねがはくは此人の命の爲に我儕を滅亡したまふ
勿れ 又罪なきの血をわれらに歸し給ふなかれ そはヱホ
バよ汝 聖意にかなふところを爲し給へるなればなりと 15
すなわちヨナを取りて海に投入たり しかして海のあるる
ことやみぬ 16かかりしかばその人々おほいにヱホバを畏
れヱホバに犧牲を獻げ誓 願を立たり 17さてヱホバすでに
大 なる魚を備へおきてヨナを呑しめたまへり ヨナは
三日三夜魚の腹の中にありき

第二章

1ヨナ魚の腹の中よりその神ヱホバに祈祷て 2曰けるは わ
れ患難の中よりヱホバを呼びしに彼われこたへたまへり
われ陰府の腹の中より呼はりしに汝わが聲を聽たまへり
3汝 我を淵のうち海の中心に投いれたまひて海の水我を
環り汝の波濤と巨浪すべて我上にながる 4われ曰けるは
我なんぢの目の前より逐れたれども復 汝の聖 殿を望ま
ん 5水われを環りて 魂 にも及ばんとし淵我をとりかこ
み海草わが頭に纏へり 6われ山の根基にまで下れり 地の
關 木いつも我うしろにありき しかるに我神ヱホバよ 汝
はわが命を深き穴より救ひあげたまへり 7わが靈魂衰に
弱りしとき我ヱホバをおもへり しかしてわが祈なんぢに
至りなんぢの聖 殿におよべり 8いつはりなる虛き者につ
かふるものは自己の恩たる者を棄つ 9されど我は感謝の
聲をもて汝に獻 祭をなし 又わが誓 願をなんぢに償さん
救 はヱホバより出るなりと 10ヱホバ其魚に命じたまひけ
ればヨナを陸に吐出せり

第三章

1ヱホバの言ふたたびヨナに臨めり 曰く 2起てかの大なる
府ニネベに往きわが汝に命ずるところを宣よ 3ヨナすな
はちヱホバの言に循ひて起てニネベに往り ニネベは甚だ
大 なる邑にしてこれをめぐるに三日を歷る程なり 4ヨナ
その邑に入はじめ一日路を行つつ呼はり曰けるは四十日
を歷ばニネベは滅亡さるべし 5かかりしかばニネベの
人々神を信じ斷食を宣れ大なる者より小き者に至るまで
みな麻布を衣たり 6この言ニネベの王に聞えければ彼 位
より起ち朝服を脫ぎ麻布を身に纏ふて灰の中に坐せり 7
また王大臣とともに命をくだしてニネベ中に宣しめて曰
く人も畜も牛も羊もともに何をも味ふべからず 又物をく
らひ水を飲べからず 8人も畜も麻布をまとひ只管神に呼
はり且おのおの其惡き途および其手に作す邪惡を離るべ
し 9或は神その聖旨をかへて悔い其烈しき怒を息てわれ
らを滅亡さざらん 誰かその然らざるを知んや 10神かれら
の爲すところをかんがみ其あしき途を離るるを見そなは
し彼等になさんと言し所の災禍を悔て之をなしたまはざ
りき

第四章

1ヨナこの事を甚だ惡しとして烈く怒り 2ヱホバに祈りて
曰けるはヱホバよ我なほ本國にありし時斯あらんと曰し
に非ずや さればこそ前にタルシシへ逃れたるなれ 其は
我なんぢは矜恤ある神 憐憫あり 怒ること遲く慈悲深く
して災禍を悔たまふものなりと知ばなり 3ヱホバよ願く
は今わが命を取たまへ 其は生ることよりも死るかた我に
善ればなり 4ヱホバ曰たまひけるは汝の怒る事いかで宜
しからんや 5ヨナは邑より出てその東の方に居り己が爲
に其處に一の小屋をしつらひその蔭の下に坐して府の
如何に成行くかを見る 6ヱホバ神 瓢を備へこれをして
發生てヨナの上を覆はしめたり こはヨナの首の爲に庇蔭
をまうけてその憂を慰めんが爲なりき ヨナはこの瓢の木
によりて甚だ喜べり 7されど神あくる日の夜明に虫をそ

なへて其ひさごを噛せたまひければ瓢は枯たり 8かくて日の出し時神暑き東風を備へ給ひ又日ヨナの首を照しければ彼よわりて心の中に死ることを願ひて言ふ生ることよりも死るかた我に善し 9神またヨナに曰たまひけるは瓢の爲に汝のいかる事いかで宜しからんや 彼曰けるはわれ怒りて死るともよろし 10ヱホバ曰たまひけるは汝はその勞をくはへず生育ざる此の一夜に生じて一夜に亡びし瓢を惜めり 11まして十二萬餘の右左を辨へざる者と許多の家畜とあるこの大なる府ニネベをわれ惜まざらんや

ミカ書

第一章

1ユダの王ヨタム、アハズおよびヒゼキヤの代にモレシテ人ミカに臨めるヱホバの言 是すなはちサマリアとエルサレムの事につきて彼が示されたる者なり 2萬民よ聽け 地とその中の者よ耳を傾けよ 主ヱホバ汝らに對ひて證を立たまはん 即ち主その聖殿より之を立たまふべし 3視よヱホバその處より出てくだり地の高處を踏たまはん 4山は彼の下に融け谷は裂けたり 火の前なる蝋のごとく坡に流るる水の如し 5是みなヤコブの咎の故イスラエルの家の罪のゆゑなり ヤコブの愆とは何か サマリヤにあらずやユダの崇邱とは何か エルサレムにあらずや 6是故に我サマリヤを野の石堆となし葡萄を植る處と爲し又その石を谷に投おとしその基を露さん 7その石像はみな碎かれその獲たる價金はみな火にて焚れん 我その偶像をことごとく毀たん 彼妓女の價金よりこれを積たれば是はまた歸りて妓女の價金となるべし 8我これがために哭き咷ばん 衣を脱ぎ裸體にて歩行ん 山犬のごとくに哭き駝鳥のごとくに啼ん 9サマリヤの傷は醫すべからざる者にてすでにユダに至り我民の門エルサレムにまでおよべり 10ガテに傳ふるなかれ 泣さけぶ勿れ ベテレアフラにて我塵の中に輾びたり 11サピルに住る者よ 汝ら裸になり辱を蒙りて進みゆけ ザアナンに住る者は敢て出ず ベテエゼルののの哀哭によりて汝らは立處を得ず 12マロテに住る者は己の幸福につきて思ひなやむ 其は災禍ヱホバより出てエルサレムの門に臨めばなり 13ラキシに住る者よ馬に車をつなげ ラキシはシオンの女の罪の根本なり イスラエルの愆は汝の中に見ゆ 14この故に汝モレセテガテに離別の饋物を與へよ アクジブの家々はイスラエルの王等におけることを人を欺く溪川のごとくなるべし 15マレシヤにすめる者よ 我また汝の地を獲べき者を汝に携へ往べし イスラエルの榮光アドラムに往ん 16汝その悦ぶところの子等の故によりて汝の髪を剃おろせ 汝の首の剃し處を大きくして鷲のごとくにせよ 其は彼等擄へられて汝を離るればなり

第二章

1その牀にありて不義を圖り惡事を工夫る者等には 禍あるべし 彼らはその手に力あるが故に天亮におよべばこれを行ふ 2彼らは田圃を貪りてこれを奪ひ家を貪りて是を取りまた人を虐げてその家を掠め人を虐げてその產業をかすむ 3是故にヱホバかく言たまふ 視よ我此族にむかひて災禍を降さんと謀る 汝らはその頸を是より脱することを能はじ また首をあげて歩くこと能はざるべし 其時は災禍の時なればなり 4その日には人汝らにつきて詩を作り悲哀の歌をもて悲哀て言ん 事既にいたれり 我等は悉く滅さる 彼わが民の產業を人に與ふ 如何なれば我よりこれを離すや 我僭の田圃を違逆者に分ち與ふ 5然ば汝らヱホバの會衆の中には籤によりて繩をうつ者一人も有じ 6預言する勿れ 彼らは預言す 彼らは是等の者等にむかひて預言せじ 恥辱彼らを離れざるべし 7汝ヤコブの家と稱へらるる者よ ヱホバの氣短からんや ヱホバの行爲是のごとくならんや 我言は品行正直者の益とならざらんや 8然るに我民は近頃起りて敵となれり 汝らは夫の戰爭を避て心配なく過るところの者等に就てその衣服の外衣を奪ひ 9我民の婦女をその悦ぶところの家より逐いだしその子等より我の妝飾を永く奪ふ 10起て去れ 是は汝らの安息の地にあらず 是は已に汚れたれば必ず汝らを滅さん 其滅亡は劇かるべし 11人もし風に歩み謊言を宣べ我葡萄酒と濃酒の事につきて汝に預言せんと言ことあらばその人はこの民の預言者とならん 12ヤコブよ我かならず汝をことごとく集へ 必ずイスラエルの遺餘者を聚めん 而して我之を同一に置てボヅラの羊のごとく成しめん 彼らは人數衆きによりて牧場の中なる群のごとくにその聲をたてん 13打破者かれらに先だちて登彼ら遂に門を打敗り之

を通りて出ゆかん 彼らの王その前にたちて進みヱホバその首に立たまふべし

第三章

1我言ふヤコブの首領よイスラエルの家の侯伯よ 汝ら聽け公義は汝らの知べきことに非ずや 2汝らは善を惡み惡を好み民の身より皮を剥ぎ骨より肉を剔り 3我民の肉を食ひその皮を剥ぎその骨を碎きこれを切きざみて鍋に入る物のごとくし鼎の中にいるる肉のごとくす 4然ば彼時に彼らヱホバに呼はるともヱホバかれらに應へたまはじ却てその時には面を彼らに隱したまはん 彼らの行 惡ければなり 5我民を惑す預言者は齒にて噛べき物を受る時は平安あらんと呼はれども何をもその口に與へざる者にむかひては戰門の準備をなす ヱホバ彼らにつきて斯いひたまふ 6然ば汝らは夜に遭べし 復異象を得じ 黑暗に遭べし 復卜兆を得じ 日はその預言者の上をはなれて沒りその上は晝も暗かるべし 7見者は愧を抱き卜者は面を赧らめ皆共にその 唇 を掩はん 神の垂應あらざればなり 8然れども我はヱホバの御靈によりて能力身に滿ち公義および勇氣衷に滿ればヤコブにその愆を示しイスラエルにその罪を示すことを得 9ヤコブの家の首領等およびイスラエルの家の牧伯等公義を惡み一切の正直事を曲る者よ 汝ら之を聽け 10彼らは血をもてシオンを建て不義をもてエルサレムを建つ 11その首領等は賄賂をとりて審判をなしその祭司等は値錢を取て教晦をなす 又その預言者等は銀子を取て占卜を爲しヱホバに倚賴みて云ふヱホバわれらと偕に在すにあらずや 然ば災禍われらに降らじと 12是によりてシオンは汝のゆゑに田圃となりて耕へされエルサレムは石堆となり宮の山は樹の生しげる高 處とならん

第四章

1末の日にいたりてヱホバの家の山 諸 の山の 巔 に立ち諸 の嶺にこえて高く聳へ萬民河のごとく之に流れ歸せん 2即ち衆多の民來りて言ん 去來我儕ヱホバの山に登ヤコブの神の家にゆかん ヱホバその道を我らに教へて我らにその路を歩ましめたまはん 律法はシオンより出でヱホバの言はエルサレムより出べければなり 3彼衆多の民の間 を鞫き強き國を規戒め遠き處にまでも然したまふべし彼らはその劍を鋤に打かへその鎗を鎌に打かへん 國と國とは劍を擧て相攻めず また重て戰爭を習はじ 4皆その葡萄の樹の下に坐しその無花果樹の下に居ん 之を懼れしむる者なかるべし 萬軍のヱホバの口之を言ふ 5一切の民はみな各々その神の名によりて歩む 然れども我らはわれらの神ヱホバの名によりて永遠に歩まん 6ヱホバ言たまふ 其日には我かの足蹇たる者を集へかの散されし者および我が苦しめし者を聚め 7その足蹇たる者をもて遺餘民となし遠く逐やられたりし者をもて強き民となさん 而してヱホバ、シオンの山において今より永遠にこれが王とならん 8羊 樓シオンの女の山よ最初の權 汝に歸らん 即ちエルサレムの女の國祚なんぢに歸るべし 9汝なにとて喚 叫ぶや 汝の中に王なきや 汝の議者絶果しや 汝は產婦のごとくに痛苦を懷くなり 10シオンの女よ產婦のごとく劬勞て產め 汝は今邑を出て野に宿りバビロンに往ざるを得ず 彼處にて汝 救はれん ヱホバ汝を彼處にて汝の敵の手より贖ひ取り給ふべし 11今許多の國民あつまりて汝におしよせて言ふ 願くはシオンの汚されんことを 我ら目にシオンを觀てなぐさまんと 12然ながら彼らはヱホバの思念を知ずまたその御謀議を曉らず ヱホバ麥束を打場にあつむるごとくに彼らを聚め給へり 13シオンの女よ起てこなせ 我なんぢの角を 鐵 にし汝の蹄を 銅 にせん 汝 許多の國民を打碎くべし 汝かれらの掠取物をヱホバに獻げ彼らの財產を全地の主に奉納べし

第五章

1軍隊の女よ今なんぢ集りて隊をつくれ 敵われらを攻圍み杖をもてイスラエルの士師の頰を擊つ 2ベテレヘム、エフラタ汝はユダの郡中にて小き者なり 然れどもイスラエルの君となる者 汝の中より我ために出べし その出る事は古昔より永遠の日よりなり 3是故に產婦の產おとすまで彼等を付しおきたまはん 然る後その遺れる兄弟イスラエルの子孫とともに歸るべし 4彼はヱホバの力に由りその神ヱホバの名の威光によりて立てその群を牧ひ之をして安然に居しめん 今彼は大なる者となりて地の極にまでおよばん 5彼は平和なり アッスリヤ人われらの國に入り我らの宮殿を踏あらさんとする時は我儕七人の牧者八人の人君を立てこれに當らん 6彼ら劍をもてアッスリヤの地をほろぼしニムロデの地の邑々をほろぼさんアッスリヤの人我らの地に攻いり我らの境を踏あらす時には彼その手より我らを救はん 7ヤコブの遺餘者は衆多の民の中に在こと人に賴ず世の人を俟ずしてヱホバより

降る露の如く青草の上にふりしく雨の如くならん 8ヤコブの遺餘者の國々にをり衆多の民の中にをる様は林の獣の中に獅子の居るごとく羊の群の中に猛き獅子の居るごとくならん その過るときは踏みかつ裂ことをなす救ふ者なし 9望らくは汝の手 汝が 諸 の敵の上にあげられ汝がもろもろの仇ことごとく絶れんことを 10エホバ言たまふ其日には我なんぢの馬を汝の中より絶ち汝の車を毀ち 11 汝 の國の邑々を絶し汝の一切の城をことごとく圮さん 12我また汝の手より魔術を絶ん 汝の中に卜筮師無にいたるべし 13我なんぢの彫像および柱 像 を汝の中より絶ん 汝の手にて作れる者を汝 重て拝むこと無るべし 14我また汝 のアシラ像を汝の中より抜たふし汝の邑々を滅さん 15 而して我忿怒と憤 恨 をもてその聽 從はざる國民に仇を報いん

第六章

1請ふ汝らヱホバの宣まふところを聽け 汝 起あがりて山の前に辨爭へ 崗 に汝の聲を聽しめよ 2山々よ地の易ることなき基よ 汝らヱホバの辨爭を聽け ヱホバその民と辨爭を爲しイスラエルと論ぜん 3我民よ我何を汝になしし や 何において汝を疲勞たるや 我にむかひて證せよ 4我はエジプトの國より汝を導きのぼり奴隸の家より汝を贖ひいだしモーセ、アロンおよびミリアムを遣して汝に先だたしめたり 5我民よ請ふモアブの王バラクが謀りし事およびベオルの子バラムがこれに應へし事を念ひシツテムよりギルガルにいたるまでの事等を念へ 然らば汝ヱホバの正義を知ん 6我ヱホバの前に何をもちゆきて高き神を拝せん 燔祭の物および當歳の犢をもてその御前にいたるべきか 7ヱホバ數千の牡羊萬流の油を悦びたまはんか 我愆のためにわが長子を獻げんか 我靈魂の罪のために我身の産を獻げんか 8人よ彼さきに善事の何なるを汝に告たり ヱホバの汝に要めたまふ事は唯正義を行ひ憐憫を愛し謙遜りて汝の神とともに歩む事ならずや 9ヱホバの聲邑にむかひて呼はる 智慧ある者はなんぢの名を仰がん 汝 ら笞杖および之をおくらんと定めし者に聽け 10惡人の家に猶惡財ありや 詛ふべき縮小たる升ありや 11我もし正 からざる權衡を用ひ袋に 僞 の碼子をいれおかば爭で潔からんや 12その富る人は強暴にて充ち其居民は謊言を言ひその舌は口の中にて欺くことを爲す 13是をもて我も汝 を撃て重傷を負はせ汝の罪のために汝を滅す 14汝は食ふとも飽ず腹はつねに空ならん 汝は移すともつひに拯ふことを得じ 汝が拯ひし者は我これを劍に付すべし 15汝は種播とも刈ることあらず 橄欖 を踐ともその油を身に抹ることあらず 葡萄 を踐ともその酒を飲ことあらじ 16汝らはオムリの法度を守りアハブの家の一切の行爲を行ひて彼等の謀 計 に遵ふ 是は我をして汝を荒さしめ且その居民を胡盧となさしめんが爲なり 汝らはわが民の恥辱を任べし

第七章

1我は 禍 なるかな 我の景況は夏の菓物を採る時のごとく遺れる葡萄を斂むる時に似たり 食ふべき葡萄あること無く我が心に嗜む初結の無花果あること無し 2善人地に絶ゆ 人の中に直き者なし 皆血を流さんと伏て伺ひ各々網をもてその兄 弟 を獵る 3両手は惡を善なすに急がし 牧伯 は要求め裁判人は賄賂を取り力ある人はその心の惡き 望 を言あらはし斯共にその惡をあざなひ合す 4彼らの最も善き者も荊棘のごとく最も直き者も刺ある樹の垣より惡し 汝の觀望人の日すなはち汝の刑罰の日いたる 彼らの中に今混亂あらん 5汝ら伴侶を信ずる勿れ 朋友 を恃むなかれ 汝の 懐 に寝る者にむかひても汝の口の戸を守れ 6男子は父を藐視め女子は母の背き媳は 姑 に背かん 人の敵はその家の者なるべし 7我はヱホバを仰ぎ望み我を救ふ神を望み俟つ 我神われに聽たまふべし 8我敵人よ我につきて喜ぶなかれ 我仆るれば興あがる 幽暗 に居ればヱホバ我の光となりたまふ 9ヱホバわが訴訟を理し我ために審判をおこなひたまふまで我は忍びてその忿怒をかうむらん 其は我これに罪を得たればなり ヱホバつひに我を光明に携へいだし給はん 而して我ヱホバの正義を見ん 10わが敵これを見ん 汝の神ヱホバは何處にをるやと我に言る者恥辱をかうむらん 我かれを目に見るべし 彼は街衢の泥のごとくに踏つけらるべし 11汝の垣を築く日いたらん 其日には法度遠く徙るべし 12その日にはアッスリヤよりエジプトの邑々より人々 汝 に來りエジプトより河まで海より海まで山より山までの人々 汝 に來り就ん 13その日地はその居民の故によりて荒はつべし 是その行爲の果報なり 14汝の杖をもて汝の民 即ち 獨 離れてカルメルの中の林にをる汝の産業の羊を牧養ひ之をして古昔の日のごとくバシヤンおよびギレアデにおいて草を食はしめたまへ 15汝がエジプトの國より出來し日のごとく我ふし

ぎなる事等を彼にしめさん 16國々の民見てその一切の
能力を恥ぢその手を口にあてん その耳は聾となるべし 17
彼らは蛇のごとくに塵を舐め地に匍ふ者の如くにその城
より振ひて出で戰慄て我らの神ヱホバに詣り汝のために
懼れん 18何の神か汝に如ん 汝は罪を赦しその產業の
遺餘者の愆を見過したまふなり 神は憐憫を悅ぶが故にそ
の震怒を永く保ちたまはず 19ふたたび顧みて我らを憐み
我らの愆を踏つけ我らの 諸 の罪を海の底に投しづめた
まはん 20汝 古昔の日われらの先祖に誓ひたりし其眞實を
ヤコブに賜ひ憐憫をアブラハムに賜はん

ナホム書

第一章

1ニネベに關る重き預言 エルコシ人ナホムの異象の書 2ヱ
ホバは妬みかつ仇を報ゆる神 ヱホバは仇を報ゆる者また
忿怒の主 ヱホバは己に逆らふ者に仇を報い己に敵する者
にむかひて憤 恨を含む者なり 3ヱホバは怒ることの遲く
能力の大なる者 また罰すべき者をば必ず赦すことを爲ざ
る者 ヱホバの道は旋風に在り 大風に在り 雲はその足の
塵なり 4彼海を指斥て之を乾かし河々をしてことごとく
涸しむ バシヤンおよびカルメルの草木は枯れレバノンの
花は凋む 5彼の前には山々ゆるぎ嶺々溶く 彼の前には地
墳上り世界およびその中に住む者皆ふきあげらる 6誰か
その憤 恨に當ることを得ん 誰かその燃る忿怒に堪るこ
とを得ん 其震怒のそそぐこと火のごとし 巖も之がため
に裂く 7ヱホバは善なる者にして患難の時の要害なり 彼
は己に倚賴む者を善知たまふ 8彼みなぎる洪水をもてそ
の處を全く滅し己に敵する者を幽暗處に逐やりたまはん
9汝らヱホバに對ひて何を謀るや 彼 全く滅したまふべし
患難かさねて起らじ 10彼等むすびからまれる荊棘のごと
くなるとも酒に浸りをるとも乾ける藁のごとくに焚つく
さるべし 11ヱホバに對ひて惡 事を謀る者一人 汝の中より
出て邪曲なる事を勸む 12ヱホバかく言たまふ 彼等 全く
してその數夥多しかるとも必ず芟たふされて皆絶ん 我前
にはなんぢを苦めたれども重て汝を苦めじ 13いま我かれ
が汝に負せし軛を碎き汝の縛を切はなすべし 14ヱホバ 汝
の事につきて命令を下す 汝の名を負ふ者 再び播るるこ
と有じ 汝の神々の室より我雕像および鑄像を除き絶べし
我 汝の墓を備へん 汝 輕ければなり 15嘉音信を傳ふる者
の脚山の上に見ゆ 彼平安を宣ぶ ユダよ汝の節筵を行ひ
汝 の誓 願を果せ 邪曲なる者 重て汝の中を通らざるべし
彼は全く絶る

第二章

1撃破者攻のぼりて汝の前に至る 汝 城を守り路を窺ひ腰
を強くし汝の力を大に強くせよ 2ヱホバはヤコブの榮を
舊に復してイスラエルの榮のごとくしたまふ 其は掠奪者
これを掠めその葡萄蔓を壞ひたればなり 3その勇士は楯
を 紅 にしその軍 兵は 紅 に身を甲ふ 其行伍を立つる時
には戰 車の鐵灼燦て火のごとし 鎗また閃めきふるふ 4
戰 車 街衢に狂ひ奔り大路に推あふ 其形狀火炬のごとく
其疾く馳すること電光の如し 5彼その將士を憶ひいだす
彼らはその途にて躓き仆れその石垣に奔ゆき大楯を備ふ
6河々の門啓け宮消うせん 7この事定まれり 彼は裸にせ
られて擄はれゆきその宮女胸を打て鴿のごとくに啼くべ
し 8ニネベはその建し日より以來水の滿る池に似たりし
がその民今は逃奔る 止れ止れと呼ども後を顧みる者なし
9白銀を奪へよ 黃金を奪へよ その寶物 限なく 諸 の貴と
き器用夥多し 10滅亡たり 空虛なれり 荒果たり 心は消え
膝は慄ひ腰には凡て劇しき痛あり 面はみな色を失ふ 11
獅子の穴は何處ぞや 少き獅子の物を食ふ處は何處ぞや
雄獅子雌獅子その小獅子とともに彼處に歩むに之を懼れ
しむる者なし 12雄獅子は小獅子のために物を噛ころし
雌獅子の爲に物をくびり殺しその掠獲たる物をもて穴に
充しその裂殺しし物をもて住所に滿す 13萬軍のヱホバ言
たまふ 視よ我なんぢに臨む 我なんぢの戰 車を焚て煙と
なすべし 汝の少き獅子はみな劍の殺す所とならん 我ま
た汝の獲物を地より絶べし 汝の使者の聲かさねて聞ゆる
こと無らん

第三章

1禍 なるかな血を流す邑 その中には全く詭譎および
暴 行 充ち掠め取ること息まず 2鞭の音あり輪の轟く音あ
り 馬は躍り跳ね車は輾り行く 3騎兵馳のぼり劍きらめき
鎗ひらめく 殺さるる者夥多しくして死屍山を爲し死骸
限 なし 皆死屍に躓きて倒る 4是はかの魔術の主なる美し

き妓女多く淫行を行ひその淫行をもて諸國を奪ひその
魔術をもて諸族を惑したるに因てなり 5萬軍のヱホバ言
たまふ 視よ我なんぢに臨む 我なんぢの裳裾を掲げて面
の上にまで及ぼし汝の陰 所を諸民に見し汝の羞る所を
諸國に見すべし 6我また穢はしき物を汝の上に投かけて
汝 を辱しめ汝をして賽物とならしめん 7凡て汝を見る者
はみな汝を避て奔り去りニネベは亡びたりと言ん 誰か
汝 のために哀かんや 何處よりして我なんぢを弔ふ者を
尋ね得んや 8汝あにノアモンに愈らんや ノアモンは河々
の間に立ち水をその周圍に環らし海をもて壕となし海を
もて垣となせり 9かつその勢力たる者はエテオピア人お
よびエジプト人などにして限あらず フテ人ルビ人等 汝
を助けたりき 10然るに是も俘囚となりて擄はれてゆきそ
の子女は一切の衢の隅々にて投付られて碎け又その
尊貴者は籤にて分たれ其 大なる者はみな鏈に繋がれたり
11汝もまた酔せられて終に隠匿ん 汝もまた敵を避て逃る
る處を尋ね求めん 12汝の城々はみな初に結びし果のなれ
る無花果樹のごとし 之を撼がせばその果落て食はんとす
る者の口にいる 13汝の中にある民は婦人のごとし 汝の地
の門はみな汝の敵の前に廣く開きてあり 火なんぢの關を
焚ん 14汝 水を汲て圍まるる時の用に備へ汝の城々を堅く
し泥の中に入て踐て石灰を作りかつ瓦燒窯を修理へよ 15
其處にて火 汝を燒き劍なんぢを斬ん 其なんぢを滅すこ
と吸蝗のごとくなるべし 汝 吸蝗のごとく數多からば多
かれ 汝 群蝗のごとく數多からば多かれ 16汝はおのれの
商賣を空の星よりも多くせり 吸蝗掠めて飛さる 17汝の
重臣は群蝗のごとく汝の軍 長は蝗の群のごとし 寒き日
には垣に巣窟を構へ日出きたれば飛て去る その在る處を
知る者なし 18アッスリヤの王よ汝の牧者は睡り汝の貴族
は臥す 又なんぢの民は山々に散さる 之を聚むる者なし
19汝の傷は愈ること無し 汝の創は重し 汝の事を聞およぶ
者はみな汝の故によりて手を拍ん 誰か汝の惡 行を恒に
身に受ざる者やある

ハバクク書

第一章

1預言者ハバククが示を蒙りし預言の重負 2ヱホバよ我呼
はるに汝の我に聽たまはざること何時までぞや 我なんぢ
にむかひて強 暴を訴ふれども汝は助けたまはざるなり 3
汝 なにとて我に害惡を見せたまふや 何とて艱難を瞻望
居たまふや 奪 掠および強 暴わが前に行はる且爭論あり
鬪諍おこる 4是によりて律法弛み公義正しく行はれず惡
き者義しき者を圍むが故に公義曲りて行はる 5汝ら國々
の民の中を望み觀おどろけ駭け 汝らの日に我 一の事を
爲ん 之を告る者あるとも汝ら信ぜざらん 6視よ我カルデ
ヤ人を興さんとす 是すなはち猛くまた荒き國人にして地
を縦横に行めぐり 己の有ならざる住 處を奪ふ者なり 7
是は懼るべく又 驚くべし 其是非威光は己より出づ 8その
馬は豹よりも迅く夜求食する豺狼よりも疾し 其騎兵は跑
まはる 即ちその騎兵は遠き處より來る 其飛ことは物を
食はんと急ぐ鷲のごとし 9是は全く強 暴のために來り 其
面を前にむけて頻に進むその俘虜を寄集むることは砂の
ごとし 10是は王等を侮り君等を笑ひ 諸 の城々を笑ひ土
を積あげてこれを取ん 11斯て風のごとくに行めぐり進み
わたりて罪を獲ん 是は己の力を神とす 12ヱホバわが神わ
が聖者よ 汝は永遠より在すに非ずや 我らは死なじ ヱホ
バよ汝は是を審判のために設けたまへり 磐よ汝は是を
懲戒のために立たまへり 13汝は目清くして肯て惡を觀た
まはざる者 肯て不義を視たまはざる者なるに何ゆゑ邪曲
の者を觀すて置たまふや 惡き者を己にまさりて義しき者
を呑噬ふに何ゆゑ汝 默し居たまふや 14汝は人をして海の
魚のごとくならしめ君あらぬ昆蟲のごとくならしめたま
ふ 15彼鈎をもて之を 盡く釣あげ網をもて之を寄せ集め
引網をもて之を捕ふるなり 是に因て彼 歡び樂しむ 16
是故に彼その網に犠牲を獻げその引網に香を焚く 其は之
がためにその分肥まさりその食 饒になりたればなり 17
然ど彼はその網を傾けつつなほたえず國々の人を惜みな
く殺すことをするならんか

第二章

1我わが觀望所に立ち戍樓に身を置ん 而して我 候ひ望み
て其われに何と宣まふかを見 わが訴言に我みづから何と
答ふべきかを見ん 2ヱホバわれに答へて言たまはく 此
默示を書しるして之を板の上に明白に鐫つけ奔りながら

も之を讀むべからしめよ 3この默示はなほ定まれる時を俟てその終を急ぐなり 僞ならず若し遲くあらば待べし必ず臨むべし 濡滯りはせじ 4視よ彼の心は高ぶりその中にありて直からず 然ど義き者はその信仰によりて活べし 5かの酒に耽る者は邪曲なる者なり 驕傲者にして安んぜず彼はその情慾を陰府のごとくに濶くす また彼は死のごとし 又足ことを知ず 萬國を集へて己に歸せしめ萬民を聚めて己に就しむ 6其等の民みな諺語をもて彼を評し嘲弄の詩歌をもて彼を諷せざらんや 即ち言ん己に屬せざる物を積累ぬる者は 禍 なるかな 斯て何の時にまでおよばんや 嗟かの質物の重荷を身に負ふ者よ 7汝を噬む者にはかに興らざらんや 汝を惱ます者醒出ざらんや 汝は之に掠めらるべし 8汝 衆多の國民を掠めしに因てその 諸の民の遺れる者なんぢを掠めん 是人の血を流ししに因るまた強 暴を地上に行ひて邑とその内に住る一切の者とに及ぼせしに因るなり 9災禍の手を免れんが爲に高き處に巢を構へんとして己の家に不義の利を取る者は 禍 なるかな 10汝は事を圖りて己の家に恥辱を來らせ衆多の民を滅 して自ら罪を取れり 11石垣の石叫び建物の梁これに應へん 12血をもて邑を建て惡をもて城を築く者は 禍 なるかな 13諸 の民は火のために勞し 諸 の國人は虛空事のために疲る 是は萬軍のヨホバより出る者ならずや 14ヨホバの榮光を認むるの知識地上に充て宛然海を水の掩ふが如くならん 15人に酒を飮せ己の忿怒を酌和へて之を醉せ而して之が陰 所を見んとする者は 禍 なるかな 16汝は榮譽に飽ずして羞辱に飽り 汝もまた飮て汝の不割禮を露はせヨホバの右の手の 杯 汝に巡り來るべし 汝は汚なき物を吐て榮耀を掩はん 17汝がレバノンに爲たる強 暴と獸を懼れしめしその殲滅とは汝の上に報いきたるべし 是人の血を流ししに因りまた強 暴を地上に行ひて邑とその内に住る一切の者とに及ぼししに因るなり 18雕像はその作者これを刻みたりとて何の益あらんや 又鑄像および僞師は語 はぬ偶像なればその像の作者これを作りて賴むとも何の益あらんや 19木にむかひて興ませと言ひ 語はぬ石にむかひて起たまへと言ふ者は 禍 なるかな 是あに敎晦を爲んや 視よ是は金銀に着せたる者にてその中には全く氣息なし 20然りといへどもヨホバはその聖 殿に在ますぞかし全地その御前に默すべし

第三章

1シギヨノテに合せて歌へる預言者ハバククの祈禱 2ヨホバよ我なんぢの宣ふ所を聞て懼る ヨホバよこの 諸 の年の中間に汝の運動を活 蘯かせたまへ 此 諸 の年の間に之を顯現したまへ 怒る時にも憐憫を忘れ給はざれ 3神テマンより來り聖者パラン山より臨みたまふ セラ 其 榮光諸天を蔽ひ其讃美世界に徧ねし 4その朗耀は日のごとく光 線その手より出づ 彼處はその權能の隱るる所なり 5疫 病その前に先だち行き熱 病その足下より出づ 6彼立て地を震はせ觀まはして萬國を戰慄しめたまふ 永久の山は崩れ常磐の岡は陷る 彼の行ひたまふ道は永久なり 7我觀るにクシヤンの天幕は艱難に罹りミデアンの地の幃幕は震ふ 8ヨホバよ汝は馬を驅り汝の拯救の車に乘りたまふ是河にむかひて怒りたまふなるか 河にむかひて汝の忿怒を發したまふなるか 海にむかひて汝の憤 恨を洩し給ふなるか 9汝の弓は全く囊を出で杖は言をもて言かためらる セラ 汝は地を裂て河となし給ふ 10山々 汝を見て震ひ洪水溢れわたり淵聲を出してその手を高く擧ぐ 11汝の奔る矢の光のため汝の鎗の電 光のごとき閃燦のために日月その住 處に立とどまる 12汝は憤ほりて地を行めぐり 怒りて國民を踏つけ給ふ 13汝は汝の民を救んとて出きたり汝 の膏 沃げる者を救はんとて臨みたまふ 汝は惡き者の家の頭を碎きその石礎を露はして頸におよぼし給へり セラ 14汝は彼の鎗をもてその將 帥の首を刺とほし給ふ 彼らは我を散さんとて大風のごとくに進みきたる 彼らは貧 き者を密に呑ほろぼす事をもてその 樂 とす 15汝は 汝の馬をもて海を乘とほり大水の逆巻ところを涉りたまふ 16我聞て 腸 を斷つ 我 唇 その聲によりて震ふ 腐朽わが骨に入り我下體わななく 其は我患難の日の來るを待ばなり 其時には即ち此民に攻寄る者ありて之に押逼らん 17その時には無花果の樹は花咲ず葡萄の樹には果ならず 橄欖の樹の產は空くなり 田圃は食糧を出さず圈には羊 絶え小屋には牛なかるべし 18然ながら我はヨホバによりて 樂み わが拯救の神によりて喜ばん 19主ヨホバは我 力にして我足を鹿の如くならしめ 我をして我高き處を步ましめ給ふ 伶 長これを我琴にあはすべし

ゼパニヤ書

第一章

1アモンの子ユダの王ヨシヤの世にゼパニヤに臨めるヱホバの言 ゼパニヤはクシの子 クシはゲダリアの子 ゲダリアはアマリヤの子 アマリヤはヒゼキヤの子なり 2ヱホバ言たまふ われ地の面よりすべての物をはらひのぞかん 3われ人と獣畜をほろぼし空の鳥 海の魚および躓礙になる者と悪人とを滅さん 我かならず地の面より人をほろぼし絶ん ヱホバこれを言ふ 4我ユダとエルサレムの一切の居民との上に手を伸ん 我 この處よりかの漏のこれるバアルを絶ちケマリムの名を祭司と與に絶ち 5また屋上にて天の衆軍を拜む者ヱホバに誓を立てて拜みながらも亦おのれの王を指て誓ふことをする者 6ヱホバに悖り離るる者ヱホバを求めず尋ねざる者を絶ん 7汝 主ヱホバの前に默せよ そはヱホバの日近づきヱホバすでに犠牲を備へその招くべき者をさだめ給ひたればなり 8ヱホバの犠牲の日に我もろもろの牧伯と王の子等および凡て異邦の衣服を着る者を罰すべし 9その日には我また凡て閾をとびこえ強暴と詭譎をもて獲たる物をおのが主の家に滿す者等を罰せん 10ヱホバ曰たまはく その日には魚の門より號呼の聲おこり下邑より喚く聲おこり山々より大なる敗壞おこらん 11マクテシの民よ汝ら叫べ 其は商賣する民悉 くほろび銀を擔ふ者 悉く絶たればなり 12その時はわれ燈をもちてエルサレムの中を尋ねん 而して滓の上に居着て心の中にヱホバは福をもなさず災をもなさずといふものを罰すべし 13かれらの財寶は掠められ彼らの家は荒果ん かれら家を造るともその中に住ことを得ず葡萄を植るともその葡萄酒を飲ことを得ざるべし 14ヱホバの大なる日近づけり 近づきて速かに來る 聽よ是ヱホバの日なるぞ 彼處に勇士のいたく叫ぶあり 15その日は忿怒の日 患難および痛苦の日 荒かつ亡ぶるの日 黑暗またをぐらき日 濃き雲および黑雲の日 16筧をふき鯨聲をつくり堅き城を攻め高き櫓を攻るの日なり 17われ人々に患難を蒙らせて盲者のごとくに惑ひあるかしめん 彼らヱホバにむかひて罪を犯したればなり 彼らの血は流されて塵のごとくになり彼らの肉は捨られて糞土のごとくなるべし 18かれらの銀も金もヱホバの烈き怒の日には彼らを救ふことあたはず 全地その嫉妬の火に呑るべし 即ちヱホバ地の民をことごとく滅したまはん 其事まことに 速なるべし

第二章

1汝等羞恥を知ぬ民早く自ら内に省みよ 2夫日は糠粃の如く過ぎさる 然ば詔 言のいまだ行はれざる先ヱホバの 烈き怒のいまだ汝等に臨まざる先ヱホバの忿怒の日のいまだ汝等にきたらざるさきに自ら省みるべし 3すべてヱホバの律法を行ふ斯地の 遜 るものよ 汝等ヱホバを求め公義を求め謙遜を求めよ 然すれば汝等ヱホバの忿怒の日に或は匿さるることあらん 4夫ガザは棄られアシケロンは荒はてアシドドは白晝に逐はらはれエクロンは抜さらるべし 5海邊に住る者およびケレテの國民は 禍 なるかなペリシテ人の國カナンよ ヱホバの言なんぢらを攻む 我なんぢを滅して住者なきに至らしむべし 6海邊は必ず牧場となり牧者の洞および羊の牢そこに在ん 7此地はユダの家の殘餘れる者に歸せん 彼ら其處にて草飼ひ暮に至ればアシケロンの家に臥ん そは彼らの神ヱホバかれらを顧みその俘囚を歸したまふべければなり 8我すでにモアブの嘲弄とアンモンの子孫の罵言を聞けり 彼らはわが民を嘲り自ら誇りて之が境界を侵せしなり 9是故に萬軍のヱホバ、イスラエルの神 言たまふ 我は活く 必ずモアブはソドムのごとくになりアンモンの子孫はゴモラのごとくにならん 是は共に蕁麻の蔓延る處となり鹽坑の地となりて長久に荒はつべし 我民の遺れる者かれらを掠めわが國民の餘されたる者かれらを獲ん 10この事の彼らに臨むはその傲慢による 即ち彼ら萬軍のヱホバの民を嘲りて自 ら誇りたればなり 11ヱホバは彼等に對ひては畏ろしくましまし地の 諸 の神や饑し滅したまふなり 諸 の國の民おのおのその處より出てヱホバを拜まん 12エテオピア人よ汝等もまたわが劍にかかりて殺さる 13ヱホバ北に手を伸てアッスリヤを滅したまはん 亦ニネベを荒して荒野のごとき旱地となしたまはん 14而して畜の群もろもろの類 の生物その中に伏し鸛鶴および刺猬其 柱の 頂 に住み囀る者の聲窓の内にきこえ荒落たる物 閾の上に積り香柏の板の細工露顯になるべし 15是邑は驕り傲ぶりて

安泰に立をり 唯我あり 我の外には誰もなしと心の中に
言つつありし者なるが斯も荒はてて畜獣の臥す處となる
者かな 此を過る者はみな嘶きて手をふるはん

第三章

1此暴虐を行ふ悖りかつ汚れたる邑は 禍 なるかな 2是は
聲を聽いれず教晦を承ずヱホバに依頼まずおのれの神に
近よらず 3その中にをる牧伯等は吼る獅子の如くその
審士は明旦までに何をも遺さざる 夜求食する 狼 のごと
し 4その預言者は傲りかつ詐る人なり その祭司は聖 物を
汚し律法を破ることをなせり 5その中にいますヱホバは
義 くして不義を行なひたまはず朝な朝な己の公義を顯し
て缺ることなし 然るに不義なる者は恥を知ず 6我國々の
民を滅したればその櫓は凡て荒たり 我これが街を荒涼れ
しめたれば往來する者なし その邑々は滅びて人なく住む
者なきに至れり 7われ前に言り 汝ただ我を畏れまた警教
を受べし 然らばその住家は我が凡て之につきて定めたる
所 の如くに滅されざるべしと 然るに彼等は夙に起て 己
の一切の行状を壞れり 8ヱホバ曰たまふ 是ゆゑに汝らわ
が起て獲物をする日いたるまで我を俟て 我もろもろの民
を集へ 諸 の國を聚めてわが憤 恨とわが烈き忿怒を 盡 く
その上にそそがんと思ひ定む 全地はわが嫉妬の火に燒ほ
ろぼさるべし 9その時われ國々の民に清き 唇 をあたへ彼
らをして凡てヱホバの名を呼しめ心をあはせて之につか
へしめん 10わが散せし者等の女 即ち我を拜む者エテオ
ピアの河々の彼旁よりもきたりて我に禮ものをささぐべ
し 11その日には汝われに對てをかしきたりし 諸 の行爲
をもて羞を得ことなかるべし その時には我なんぢの中よ
り高ぶり樂む者等を除けば汝かさねてわが聖 山にて傲り
高ぶることなければなり 12われ柔和にして貧き民をなん
ぢの中にのこさん 彼らはヱホバの名に依賴むべし 13イス
ラエルの遺れる者は惡を行はず 謊 をいはず その口のう
ちには詐僞の舌なし 彼らは草食ひ臥やすまん 之を懼れ
しむる者なかるべし 14シオンの女よ歡喜の聲を擧よ イス
ラエルよ樂み呼はれ エルサレムの女よ心のかぎり喜び
樂 め 15ヱホバすでに汝の鞫を止め汝の敵を逐はらひたま
へり イスラエルの王ヱホバ汝の中にいます 汝はかさね
て災禍にあふことあらじ 16その日にはエルサレムに向ひ
て言あらん 懼るるなかれ シオンよ 汝の手をしなえ垂る
るなかれと 17なんぢの神ヱホバなんぢの中にいます 彼は
拯救を施す勇士なり 彼なんぢのために喜び樂み愛の餘り
に默し汝のために喜びて呼はりたまふ 18われ節會のこと
につきて憂ふるものを集めん 彼等は汝より出し者なり
恥辱かれらに蒙むること重負のごとし 19視よその時われ
汝 を虐遇る者を 盡 く處置し足蹇たるものを救ひ逐はな
たれたる者を集め彼らをして其羞 辱を蒙りし一切の國に
て稱譽を得させ名を得さすべし 20その時われ汝らを携へ
その時われ汝らを集むべし 我なんぢらの目の前において
汝 らの俘囚をかへし汝らをして地上の萬國に名を得させ
稱譽を得さすべし ヱホバこれを言ふ

ハガイ書

第一章

1ダリヨス王の二年六月 其月の一日にヱホバの言 預言者
ハガイによりてシヤルテルの子ユダの方伯ゼルバベルお
よびヨザダクの子 祭司の長ヨシユアに臨めりいはく 2
萬軍のヱホバかくいひたまふ是民はヱホバの殿を建べき
時期未だ來らずといへり 3ヱホバの言また預言者ハガイ
によりて臨めり曰く 4此殿かく毀壞をれば汝等板をもて
はれる家に居るべき時ならんや 5されば今萬軍のヱホバ
かく曰たまふ 汝等おのれの行爲を省察べし 6汝らは多く
播ども收入るところは少く食へども飽ことを得ず 飲ども
滿足ことを得ず 衣れども 暖 きことを得ず 又工價を得る
ものは之を破れたる袋に入る 7萬軍のヱホバまた曰たま
ふ 汝等おのれの行爲を省察べし 8山に上り木を携へ來て
殿を建てよ さすれば我これを悦び又榮光を受ん ヱホバ
これを言ふ 9なんぢら多く得んと望みたりしに反て少か
りき 又汝等これを家に携へ歸りしとき我これを吹はらへ
り 萬軍のヱホバいひたまふ 是何故ぞや 是は我が殿破壞
をるに汝等おのおの己の室に走り至ればなり 10この故に
なんぢらの上の天は雨露を止め地はその產物を止めたり
11且われ地にも山にも穀物にも新酒にも油にも地の生ず
る物にも人にも家畜にも手のもろもろの工にもすべて
毀壞を召きかうむらしめたり 12シヤルテルの子ゼルバベ

ルとヨザダクの子祭司の長ヨシユアおよびその殘れるすべての民ともに其神ヱホバの聲と預言者ハガイの言に聽したがへり 是は其神ヱホバかれを遣したまひしに因る民みなヱホバの前に敬畏たり 13時にヱホバの使者ハガイ、ヱホバの命により民に告て曰けるは我なんぢらと偕に在りとヱホバ曰たまふと 14ヱホバ、シヤルテルの子ユダの方伯ゼルバベルの心とヨザダクの子 祭司の長ヨシユアの心およびその殘れるすべての民の心をふりおこしたまひければ彼等來りて其神萬軍のヱホバの殿にて工作を爲り 15これダリヨス王の二年六月二十四日なりき

第二章

1七月 其月の二十一日ヱホバの言 預言者ハガイによりて臨めり曰く 2シヤルテルの子ユダの方伯ゼルバベルとヨザダクの子祭司の長ヨシユアおよびその殘れる一切の民に告よ 3なんぢら遺れる者の中この殿の從前の榮光を見しものは誰ぞや 今これを如何に見るや かの殿にくらぶれば是は汝らの目に何もなきが如く見ゆるにあらずや 4ヱホバ曰たまふゼルバベルよ自ら強くせよ ヨザダクの子祭司の長ヨシユアよ自ら強くせよ ヱホバ言たまふ この地の民よ自らつよくしてはたらけ 我なんぢらとともに在り 萬軍のヱホバこれを言ふ 5汝らがエジプトよりいでし時わがなんぢらに約せし言およびわが靈なほなんぢらの中に留れり 懼るるなかれ 6萬軍のヱホバかくいひたまふいま一度しばらくありてわれ天と地と海と陸とを震動はん 7又われ萬國を震動はん また萬國の願ふところのもの來らん 又われ榮光をもてこの殿に充滿さん 萬軍のヱホバこれを言ふ 8銀も我ものなり 金もわが物なりと萬軍のヱホバいひたまふ 9この殿の後の榮光は從前の榮光より大ならんと萬軍のヱホバいひたまふ この處においてわれ平康をあたへんと萬軍のヱホバいひたまふ 10ダリヨスの二年九月二十四日ヱホバのことば預言者ハガイによりて臨めり曰く 11萬軍のヱホバかく曰たまふ 律法につきて祭司に問ふて曰ふべし 12人 衣の裾にて聖肉を携へたらんにその裾もしパン或は羹 あるひは酒あるひは油あるひは他の食物に捫らばそれらは聖ものとなるや 祭司たち答へて曰けるはしからず 13ハガイまたいひけるは屍體に捫りて汚れしもの若これらの物にさはらば其ものはけがるべきや 祭司等こたへて曰けるは汚れん 14ここに於てハガイ答へて曰けるはヱホバ曰たまふ 我前此民もかくの如くまた此國もかくの如し 又其手の一切のわざもかくのごとく彼等がその處に獻ぐるものもけがれたるものなり 15また今われ汝らに乞 この日より以前すなはちヱホバの殿にて石の上に石の置れざりし時を憶念べし 16かの時には二十舛もあるべき麥束につきてわづかに十を得 また酒榨につきて五十桶汲んとせしにただ二十を得たるのみ 17汝が手をもて爲せる一切の事に於てわれ不實穗と朽腐穗と雹を以てなんぢらを擊り されど汝ら我にかへらざりき ヱホバこれを言ふ 18なんぢらこの日より以前を憶念みよ 即ち九月二十四日よりヱホバの殿の基を置し日までをおもひ見よ 19種子なほ倉にあるや 葡萄の樹 無花果の樹 石榴の樹 橄欖の樹もいまだ實を結ばざりき 此日よりのちわれ汝らを惠まん 20此月の二十四日にヱホバのことば再びハガイに臨めり曰く 21ユダの方伯ゼルバベルに告よ われ天地を震動ん 22列國の位を倒さん また異邦の諸國の權勢を滅さん 又 車および之に駕る者を倒さん 馬および之に騎る者もおのおの其伴侶の劍によりてたふれん 23萬軍のヱホバ曰たまはくシヤルテルの子わが僕 ゼルバベルよヱホバいふその日に我なんぢを取りなんぢを印の如くにせん そはわれ汝をえらびたればなり 萬軍のヱホバこれを言ふ

ゼカリヤ書

第一章

1ダリヨスの二年八月のヱホバの言イドの子ベレキヤの子なる預言者ゼカリヤに臨めり云く 2ヱホバいたく汝らの父等を怒りたまへり 3萬軍のヱホバかく言ふと汝かれらに告よ萬軍のヱホバ言ふ汝ら我に歸れ萬軍のヱホバいふ我も汝らに歸らん 4汝らの父等のごとくならざれ前の預言者等かれらに向ひて呼はりて言り萬軍のヱホバかく言たまふ請ふ汝らその惡き道を離れその惡き行 を棄てて歸れと然るに彼等は聽ず耳を我に傾けざりきヱホバこれを言ふ 5汝らの父等は何處にありや預言者たち永 遠に生んや 6然ながら我 僕なる預言者等に我が命じたる吾 言とわが法度とは汝らの父等に追及たるに非ずや然ゆゑに

彼らかへりて言り萬軍のヱホバ我らの道に循ひ我らの
行 に循ひて我らに爲んと思ひたまひし事を我らに爲た
まへりと 7ダリヨスの二年十一月すなはちセバテといふ
月の二十四日にヱホバの言イドの子ベレキヤの子なる
預言者ゼカリヤに臨めり云く 8我夜觀しに一箇の人赤馬
に乘て谷の裏なる鳥拈樹の中に立ちその後に赤馬 駁 馬
白馬をる 9我わが主よ是等は何ぞやと問けるに我と語ふ
天の使われにむかひて是等の何なるをわれ汝に示さんと
言り 10鳥拈樹の中に立る人答へて言けるは是等は地上を
遍く歩かしめんとてヱホバの遣したまひし者なりと 11彼
ら答へて鳥拈樹の中に立るヱホバの使に言けるは我ら
地上を行めぐり觀しに全地は 穩 にして安し 12ヱホバの
使 こたへて言ふ萬軍のヱホバよ汝いつまでヱルサレムと
ユダの邑々を恤みたまはざるか汝はこれを怒りたまひて
すでに七十年になりぬと 13ヱホバ我と語ふ天の使に嘉事
慰 事 をもて答へたまへり 14かくて我と語ふ天の使 我に
言けるは汝 呼はりて言へ萬軍のヱホバかく言たまふ我ヱ
ルサレムのためシオンのために甚だしく心を熱して嫉妬
おもひ 15安居せる國々の民を太く怒る其は我すこしく怒
りしに彼ら力を出して之に害を加へたればなり 16ヱホバ
かく言ふ是故に我憐憫をもてヱルサレムに歸る萬軍のヱ
ホバのたまふ我室その中に建られ量 繩ヱルサレムに張ら
れん 17汝また呼はりて言へ萬軍のヱホバかく宣ふ我邑々
には再び嘉物あふれんヱホバふたたびシオンを慰め再び
ヱルサレムを簡びたまふべしと 18かくて我目を擧て觀し
に四の角ありければ 19我に語ふ天の使に是等は何なるや
と問しに彼われに答へけるは是等はユダ、イスラエルお
よびヱルサレムを散したる角なりと 20時にヱホバ四箇の
鍛冶を我に見し給へり 21我是等は何を爲んとて來れるや
と問しに斯こたへ給へり是等の角はユダを散して人にそ
の頭を擧しめざりし者なるが今この四箇の者來りて之を
威しかのユダの地にむかひて角を擧て之を散せし諸國の
角を擲たんとす

第二章

1茲に我目を擧て觀しに一箇の人量 繩を手に執居ければ 2
汝 は何處へ往くやと問しにヱルサレムを量りてその廣と
長 の幾何なるを觀んとすと我に答ふ 3時に我に語ふ天の
使 出行たりしが又一箇の天の使 出きたりて之に會ひ 4之
に言けるは走ゆきてこの少き人に告て言へヱルサレムは
その中に人と畜と饒なるによりて野原のごとくに廣く亘
るべし 5ヱホバ言たまふ我その四周にて火の垣となりそ
の中にて榮光とならん 6ヱホバいひたまふ來れ來れ北の
地より逃きたれ我なんぢらを四方の天 風のごとくに行わ
たらしむればなりヱホバこれを言ふ 7來れバビロンの
女子とともに居るシオンよ遁れ來れ 8萬軍のヱホバかく
言たまふヱホバ汝等を擄へゆきし國々へ榮光のために
我儕を遣したまふ汝らを打つ者は彼の目の珠を打なれば
なり 9即ち我手をかれらの上に搖ん彼らは己に事へし者
の俘虜となるべし汝らは萬軍のヱホバの我を遣したまへ
るなるを知ん 10ヱホバ言たまふシオンの女子よ喜び樂め
我きたりて汝の中に住ばなり 11その日には許多の民ヱホ
バに附て我民とならん我なんぢの中に住べし汝は萬軍の
ヱホバの我を遣したまへるなるを知ん 12ヱホバ聖地の中
にてユダを取て己の分となし再びヱルサレムを簡びたま
ふべし 13ヱホバ起てその聖住所よりいでたまへば凡そ
血肉ある者ヱホバの前に肅然たれ

第三章

1彼祭司の長ヨシユアがヱホバの使の前に立ちサタンのそ
の右に立てこれに敵しをるを我に見す 2ヱホバ、サタン
に言たまひけるはサタンよヱホバ汝をせむべし即ちヱル
サレムを簡びしヱホバ汝をいましむ是は火の中より取い
だしたる燃柴ならずやと 3ヨシユア汚なき衣服を衣て 使
の前に立をりしが 4ヱホバ己の前に立る者等に告て汚な
き衣服を之に脱せよと宣ひまたヨシユアに向ひて觀よ我
なんぢの罪を汝の身より取のぞけり汝に美服を衣すべし
と宣へり 5我また潔き冠冕をその首に冠らせよと言り是
において潔き冠冕をその首に冠らせ衣服をこれに衣すヱ
ホバの使は立をる 6ヱホバの使 證してヨシユアに言ふ 7
萬軍のヱホバかく言たまふ汝もし我道を歩みわが職守を
守らば我家を司どり我庭を守ることを得ん我また此に立
る者等の中に往來する路を汝に與ふべし 8祭司の長ヨシ
ユアよ請ふ汝と汝の前に坐する汝の同僚とともに聽べし
彼らは即ち前表となるべき人なり我かならず我 僕たる枝
を來らすべし 9ヨシユアの前に我が立るところの石を視
よ此一箇の石の上に七箇の目あり我 自らその彫刻をなす
萬軍のヱホバこれを言ふなり我この地の罪を一日の内に
除くべし 10萬軍のヱホバ言たまふ其日には汝等おのおの
互 に相招きて葡萄の樹の下無花果の樹の下にあらん

第四章

1我に語へる天の使また來りて我を呼醒せり我は睡れる人の呼醒されしごとくなりき 2彼我にむかひて汝何を見るやと言ければ我いへり我觀に惣金の燈臺一箇ありてその頂に油を容る器ありまた燈臺の上に七箇の燭盞ありその燭盞は燈臺の頂にありて之に各七本づつの管あり 3また燈臺の側に橄欖の樹二本ありて一は油を容る器の右にあり一はその左にあり 4我答へて我と語ふ天の使の問言けるは我主よ是等は何ぞやと 5我と語ふ天の使我に答へて汝是等の何なるを知ざるかと言しにより我主よ知ずとわれ言り 6彼また答へて我に言けるはゼルバベルにヱホバの告たまふ言は是のごとし萬軍のヱホバ宣ふ是は權勢に由らず能力に由らず我靈に由るなり 7ゼルバベルの前にあたれる大山よ汝は何者ぞ汝は平地とならん彼は恩惠あれ之に恩惠あれと呼はる聲をたてて頭石を曳いださん 8ヱホバの言われに臨めり云く 9ゼルバベルの手この室の石礎を置たり彼の手これを成終ん汝しらん萬軍のヱホバ我を汝等に遣したまひしと 10誰か小き事の日を藐視むる者ぞ夫の七の者は遍く全地に往來するヱホバの目なり準繩のゼルバベルの手にあるを見て喜ばん 11我また彼に問て燈臺の右左にある此二本の橄欖の樹は何なるやと言ひ 12重ねてまた彼に問て此二本の金の管によりて金の油をその中より斟ぎ出す二枝の橄欖は何ぞやと言しに 13彼われに答へて汝是等の何なるを知ざるかと言ければ我主よ知ずと言けるに 14彼言らく是等は油の二箇の子にして全地の主の前に立つ者なり

第五章

1我また目を擧て觀しに卷物の飛あり 2彼われに汝何を見るやと言ければ我言ふ我卷物の飛ぶを見る其長は二十キユビトその寛は十キユビト 3彼またわれに言けるは是は全地の表面を往めぐる呪詛の言なり凡て竊む者は卷物のこの面に照して除かれ凡て誓ふ者は卷物の彼の面に照して除かるべし 4萬軍のヱホバのたまふ我これを出せり是は竊盜者の家に入りまた我名を指て僞り誓ふ者の家に入てその家の中に宿りその木と石とを並せて盡く之を燒べしと 5我に語へる天の使進み來りて我に言けるは請ふ目を擧てこの出きたれる物の何なるを見よ 6これは何なるやと我言ければ彼言ふ此出來れる者はエパ舛なり又言ふ全地において彼等の形狀は是のごとしと 7かくて鉛の圓き蓋を取あぐれば一人の婦人エパ舛の中に坐し居る 8彼是は罪惡なりと言てその婦人をエパ舛の中に投いれ鉛の錘をその舛の口に投かぶらせたり 9我また目を擧て觀しに婦人二人出きたれり之に鶴の翼のごとき翼ありてその翼風を含む彼等そのエパ舛を天地の間に持擧ぐ 10我すなはち我に語ふ天の使にむかひて彼等エパ舛を何處へ携へゆくなるやと言けるに 11彼我に言ふシナルの地にて之がために家を建んとてなり是は彼處に置られてその臺の上に立ん

第六章

1我また目を擧て觀しに四輛の車二の山の間より出きたれりその山は銅の山なり 2第一の車には赤馬を着け第二の車には黑馬を着け 3第三の車には白馬を着け第四の車には白點なる強馬を着く 4我すなはち我に語ふ天の使に問て我主よ是等は何なるやと言けるに 5天の使こたへて我に言ふ是は四の天風にして全地の主の前より罷り出たる者なり 6黑馬は北の地をさして進み行き白馬その後に從ふ又白點馬は南の地をさして進みゆき 7強馬は進み出て地を徧く行めぐらんとす彼汝ら往き地を徧くめぐれと言たまひければ則ち地を行めぐれり 8彼われを呼て我に告て言ふこの北の地に往る者等は北の地にて我靈を安んず 9ヱホバの言われに臨めり曰く 10汝かの囚虜人の中の者ヘルダイ、トビヤおよびヱダヤより取ことをせよ即ちその日に汝かれらがバビロンより歸りて宿りをるゼパニヤの子ヨシヤの家に到り 11金銀を取て冠冕を造りヨザダクの子なる祭司の長ヨシユアの首にこれを冠らせ 12彼に語りて言べし萬軍のヱホバ斯言たまふ視よ人ありその名を枝といふ彼おのれの處より生いでてヱホバの宮を建んと 13即ち彼者ヱホバの宮を建て尊榮を帶びその位に坐して政事を施しその位にありて祭司とならん此二の者の間に平和の計議あるべし 14偖またその冠冕はヘレム、トビヤ、ユダヤおよびゼパニヤの子ヘンの記念のために之をヱホバの殿に納むべし 15遠き處の者等來りてヱホバの殿を建ん而して汝らは萬軍のヱホバの我を遣したまひしなるを知にいたらん汝らもし汝らの神ヱホバの聲に聽したがはば是のごとくなるべし

第七章

1ダリヨス王の四年の九月すなはちキスリウといふ月の四日にヱホバの言ゼカリヤに臨めり 2ベテルかの時シヤ

レゼル、レゲンメレクおよびその從者を遣してヱホバを
和めさせ 3かつ萬軍のヱホバの室にをる祭司に問しめ且
預言者に問しめて言けらく我今まで年久しく爲きたりし
ごとく尚五月をもて哭きかつ齋戒すべきやと 4ここにお
いて萬軍のヱホバの言 我に臨めり云く 5國の諸民および
祭司に告て言へ汝らは七十年のあひだ五月と七月とに
斷食しかつ哀哭せしがその斷食せし時果して我にむかひ
て斷食せしや 6汝ら食ひかつ飮は全く己のために食ひ 己
のために飮ならずや 7在昔ヱルサレムおよび周圍の邑々
人の住ふありて平安なりし時 南の地および平野にも人の
住ひをりし時に已往の預言者によりてヱホバの宣ひたり
し言を汝ら知ざるや 8ヱホバの言ゼカリヤに臨めり云く
9萬軍のヱホバかく宣へり云く正義き審判を行ひ互に
相愛しみ相憐め 10寡婦孤兒旅客および貧 者を虐ぐるな
かれ人を害せんと心に圖る勿れと 11然るに彼等は肯て耳
を傾けず背を向け耳を鈍くして聽ず 12且その心を金剛石
のごとくし萬軍のヱホバがその御靈をもて已往の預言者
に由て傳へたまひし律法と言詞に聽したがはざりき是を
もて大なる怒 萬軍のヱホバより出て臨めり 13彼かく呼は
りたれども彼等聽ざりき其ごとく彼ら呼はるとも我聽じ
萬軍のヱホバこれを言ふ 14我かれらをその識ざる 諸 の
國に吹散すべし其後にてこの地は荒て往來する者なきに
至らん彼等かく美しき國を荒地となす

第八章

1萬軍のヱホバの言われに臨めり曰く 2萬軍のヱホバかく
言たまふ我シオンのために甚だしく心を熱して妬く思ひ
大 なる忿怒を起して之がために妬く思ふ 3ヱホバかく言
たまふ今我シオンに歸れり我エルサレムの中に住んエル
サレムは誠實ある邑と稱へられ萬軍のヱホバの山は聖 山
と稱へらるべし 4萬軍のヱホバかく言たまふエルサレム
の街衢には再び老たる男 老たる女 坐せん皆年高くして
各々杖を手に持べし 5またその邑の街衢には男の兒 女の
兒滿て街衢に遊び戲れん 6萬軍のヱホバかく言たまふこ
の事その日には此民の遺餘者の目に奇といふとも我目に
何の奇きこと有んや萬軍のヱホバこれを言ふ 7萬軍のヱ
ホバかく言たまふ視よ我わが民を日の出る國より日の入
る國より救ひ出し 8かれらを携へ來りてエルサレムの中
に住しめん彼らは我民となり我は彼らの神となりて共に
誠實と正義に居ん 9萬軍のヱホバかく言たまふ汝ら萬軍
のヱホバの室なる殿を建んとて其基礎を置たる日に起り
し預言者等の口の言詞を今日聞く者よ汝らの腕を強くせ
よ 10此日の先には人も工の價を得ず獸畜も工の價を得ず
出 者も入者も仇の故をもて安然ならざりき即ち我人々を
して互に相攻しめたり 11然れども今は我此民の遺餘者に
對すること曩の日の如くならずと萬軍のヱホバ言たまふ
12即ち平安の種子あるべし葡萄の樹は果を結び地は產物
を出し天は露を與へん我この民の遺餘者にこれを 盡 く
獲さすべし 13ユダの家およびイスラエルの家よ汝らが
國々の中に呪詛となりしごとく此度は我なんぢらを救ふ
て祝言とならしめん懼るる勿れ汝らの腕を強くせよ 14
萬軍のヱホバかく言たまふ在昔 汝らの先祖我を怒らせし
時に我これに災禍を降さんと思ひて之を悔ざりき萬軍の
ヱホバこれを言ふ 15是のごとく我また今日エルサレムと
ユダの家に福祉を降さんと思ふ汝ら懼るる勿れ 16汝らの
爲べき事は是なり汝ら各々たがひに眞實を言べし又汝等
の門にて審判する時は眞實を執て平和の審判を爲べし 17
汝等すべて人の災害を心に圖る勿れ 僞 の誓を好む勿れ
是等はみな我が惡む者なりとヱホバ言たまふ 18萬軍のヱ
ホバの言われに臨めり云く 19萬軍のヱホバかく言たまふ
四月の斷食五月の斷食七月の斷食十月の斷食かへつてユ
ダの家の宴樂となり欣喜となり佳 節となるべし惟なんぢ
ら眞實と平和を愛すべし 20萬軍のヱホバかく言たまふ
國々の民および衆多の邑の居民來り就ん 21即ちこの邑の
居民往てかの邑の者に向ひ我儕すみやかに往てヱホバを
和め萬軍のヱホバを求めんと言んに我も往べしと答へん
22衆多の民強き國民エルサレムに來りて萬軍のヱホバを
求めヱホバを和めん 23萬軍のヱホバかく言たまふ其日に
は 諸 の國 語の民十人にてユダヤ人一箇の裾を拉へん 即
ち之を拉へて言ん我ら汝らと與に往べし其は我ら神の 汝
らと偕にいますを聞たればなり

第九章

1ヱホバの言詞の重負ハデラクの地に臨むダマスコはそ
の止る所なりヱホバ世の人を眷みイスラエルの一切の
支派を眷みたまへばなり 2之に界するハマテも然りツ
ロ、シドンも亦はなはだ怜悧ければ同じく然るべし 3ツ
ロは自己のために城 郭を構へ銀を塵のごとくに積み金
を街衢の土のごとくに積めり 4視よ主これを攻取り海に
て之が力を打ほろぼしたまふべし是は火にて焚うせん 5

アシケロンこれを見て懼れガザもこれを見て太く慄ふエクロンもその望む所の者辱しめらるるに因て亦然りガザには王絶えアシケロンには住者なきに至らん 6アシドドにはまた雑種の民すまん我ペリシテ人が誇る所の者を絶べし 7我これが口より血を取除き之が歯の間より憎むべき物を取除かん是も遺りて我儕の神に歸しユダの牧伯のごとくに成べしまたエクロンはヱブス人のごとくになるべし 8我わが家のために陣を張て敵軍に當り之をして往來すること無らしめん虐遇者かさねて逼ること無るべし我いま我目をもて親ら見ればなり 9シオンの女よ大に喜べヱルサレムの女よ呼はれ視よ汝の王汝に來る彼は正義して拯救を賜り柔和にして驢馬に乘る即ち牝驢馬の子なる駒に乘るなり 10我エフライムより車を絶ちヱルサレムより馬を絶ん戰爭弓も絶るべし彼國々の民に平和を諭さん其政治は海より海に及び河より地の極におよぶべし 11汝についてはまた汝の契約の血のために我かの水なき坑より汝の被俘人を放ち出さん 12望を懷く被俘人よ汝等城に歸れ我今日もなほ告て言ふ我かならず倍して汝等に賚ふべし 13我ユダを張て弓となしエフライムを矢となして之につがへんシオンよ我汝の人々を振起してギリシヤの人々を攻しめ汝をして大丈夫の劍のごとくならしむべし 14ヱホバこれが上に顯れてその箭を電光のごとくに射いだしたまはん主ヱホバ喇叭を吹ならし南の暴風に乘て出來まさん 15萬軍のヱホバ彼らを護りたまはん彼等は食ふことを爲し投石器の石を踏つけん彼等は飲ことを爲し酒に醉るごとくに聲を擧ん其これに盈さるることは血を盛る鉢のごとく祭壇の隅のごとくなるべし 16彼らの神ヱホバ當日に彼らを救ひその民を羊のごとくに救ひたまはん彼等は冠冕の玉のごとくになりて其地に輝くべし 17その福祉は如何計ぞや其美麗は如何計ぞや穀物は童男を長ぜしめ新酒は童女を長ぜしむ

第十章

1汝ら春の雨の時に雨をヱホバに乞へヱホバは電光を造り大雨を人々に賜ひ田野において草蔬を各々に賜ふべし 2夫テラピムは空虚き事を言ひ卜筮師はその見る所眞實ならずして虚僞の夢を語る其慰むる所は徒然なり是をもて民は羊のごとくに迷ひ牧者なきに因て惱む 3我牧者にむかひて怒を發す我牡山羊を罰せん萬軍のヱホバその群なるユダの家を顧み之をしてその美しき軍馬のごとくならしめたまふ 4隅石彼より出で釘かれより出で軍弓かれより出で宰たる者みな齊く彼より出ん 5彼等戰ふ時は勇士のごとくにして街衢の泥の中に敵を蹂躙らんヱホバかれらとともに在せば彼ら戰はん馬に騎れる者等すなはち媿を抱くべし 6我ユダの家を強くしヨセフの家を救はん我かれらを恤むが故に彼らをして歸り住しめん彼らは我に棄られし事なきが如くなるべし我は彼らの神ヱホバなり我かれらに聽べし 7エフライム人は勇士に等しくして酒を飲たるごとく心に歡ばん其子等は見て喜びヱホバに因て心に樂しまん 8我かれらに向ひて嘯きて之を集めん其は我これを贖ひたればなり彼等は昔殖増たる如くに殖増ん 9我かれらを國々の民の中に捲ん彼等は遠き國において我をおぼへん彼らは其子等とともに生ながらへて歸り來るべし 10我かれらをエジプトの國より携へかへりアッスリヤより彼等を集めギレアデの地およびレバノンに彼らを携へゆかんその居處も無きほどなるべし 11彼艱難の海を通り海の浪を撃破りたまふナイルの淵は盡く涸るアッスリヤの傲慢は卑くせられエジプトの杖は移り去ん 12我彼らをしてヱホバに由て強くならしめん彼等はヱホバの名をもて歩まんヱホバこれを言たまふ

第十一章

1レバノンよ汝の門を啓き火をして汝の香柏を焚しめよ 2松よ叫べ香柏は倒れ威巖樹はそこなはれたりバシヤンの橡よ叫べ高らかなる林は倒れたり 3牧者の叫ぶ聲あり其榮そこなはれたればなり猛き獅子の吼る聲ありヨルダンの叢そこなはれたればなり 4我神ヱホバかく言たまふ宰らるべき羔を牧へ 5之を買ふ者は之を宰るとも罪なし之を賣る者は言ふ我富を得ればヱホバを祝すべしと其牧者もこれを惜まざるなり 6ヱホバ言たまふ我かさねて地の居民を惜まじ視よ我人を各々その隣人の手に付しその王の手に付さん彼ら地を荒すべし我これを彼らの手より救ひ出さじ 7我すなはち其宰らるべき羊を牧り是は最も憫然なる羊なり我みづから二本の杖を取り一を恩と名け一を結と名けてその羊を牧り 8我一月に牧者三人を絶り我心に彼らを厭ひしが彼等も心に我を惡めり 9我いへり我は汝らを飼はじ死る者は死に絶るる者は絶れ遺る者は互にその肉を食ひあふべし 10我恩といふ杖を取て之を折れり是諸の民に立し我契約を廢せんとてなりき 11是は其日に廢せられたり是に於てかの我に聽したがひし

憫然なる羊は之をヱホバの言なりしと知れり 12我彼らに向ひて汝等もし善と視なば我價を我に授けよ若しからずば止めよと言ければ彼等すなはち銀三十を權りて我價とせり 13ヱホバ我に言たまひけるは彼等に我が估價せられしその善價を陶人に投あたへよと我すなはち銀三十を取てヱホバの室に投いれて陶人に歸せしむ 14我また結といふ杖を折れり是ユダとイスラエルの間の和好を絶んとてなりき 15ヱホバ我に言たまはく汝また愚なる牧者の器を取れ 16視よ我地に一人の牧者を興さん彼は亡ぶる者を顧みず迷へる者を尋ねず傷つける者を醫さず健剛なる者を飼はず肥たる者の肉を食ひ且その蹄を裂ん 17其羊の群を棄る惡き牧者は禍なるかな劍その腕に臨みその右の目に臨まん其腕は全く枯えその右の目は全く盲れん

第十二章

1イスラエルにかかはるヱホバの言詞の重負 ヱホバ即ち天を舒べ地の基を置ゑ人のうちの靈魂を造る者言たまふ 2視よ我ヱルサレムをしてその周圍の國民を蹌踉はする杯 とならしむべしヱルサレムの攻圍まるる時是はユダにも及ばん 3其日には我ヱルサレムをして 諸 の國民に對ひて重石とならしむべし之を持擧る者は大傷を受ん地上の諸國みな集りて之に攻寄べし 4ヱホバ言たまふ當日には我一切の馬を撃て駭かせその騎手を撃て狂はせん而して我ユダの家の上に我目を開き 諸 の國民の馬を撃て 盲になすべし 5ユダの牧伯等その心の中に謂んヱルサレムの居民はその神萬軍のヱホバに由て我 力となるべしと 6當日には我ユダの牧伯等をして薪の下にある火盤のごとく麥束の下にある炬火のごとくならしむべし彼等は右 左にむかひその周圍の國民を 盡 く焚んヱルサレム人はなほヱルサレムにてその本の處に居ことを得べし 7ヱホバまづユダの幕屋を救ひたまはん是ダビデの家の榮およびヱルサレムの居民の榮のユダに勝ること無らんためたり 8當日ヱホバ、ヱルサレムの居民を護りたまはん彼らの中の弱き者もその日にはダビデのごとくなるべしまたダビデの家は神のごとく彼らに先だつヱホバの使のごとくなるべし 9その日には我ヱルサレムに攻きたる國民をことごとく滅すことを務むべし 10我ダビデの家およびヱルサレムの居民に恩惠と祈禱の靈をそそがん彼等はその刺たりし我を仰ぎ觀獨子のため哭くがごとく之がために哭き長子のために悲しむがごとく之がために痛く悲しまん 11その日にはヱルサレムに大なる哀哭あらん是はメギドンの谷なるハダデリンモンに在し哀哭のごとくなるべし 12國中の族おのおの別れ居て哀哭べし即ちダビデの族 別れ居て哀哭きその妻等別れ居て哀哭きナタンの家の族 別れ居て哀哭きその妻等別れ居て哀哭きシメイの族 別れ居て哀哭きその妻等別れ居て哀哭きシメイの族 別れ居て哀哭きその妻等わかれ居て哀哭かん 13レビの家の 族 別れ居て哀哭きその妻等別れ居て哀哭きシメイの族 別れ居て哀哭きその妻等別れ居て哀哭かん 14その他の族も凡て然りすなはち族おのおの別れ居て哀哭きその妻等別れ居て哀哭くべし

第十三章

1その日罪と汚穢を清むる一の泉ダビデの家とヱルサレムの居民のために開くべし 2萬軍のヱホバ言たまふ其日には我地より偶像の名を絶のぞき重て人に記憶らるること無らしむべし我また預言者および汚穢の靈を地より去しむべし 3人もしなほ預言することあらば其生の父母これに言ん汝は生べからず汝はヱホバの名をもて虚僞を語るなりと而してその生の父母これが預言しをるを刺ん 4その日には預言者等預言するに方りてその異象を羞ん重て人を欺かんために毛衣を纔はじ 5彼言ん我は預言者にあらず地を耕へす者なり即ち我は若き時より人に買れたりと 6若これに向ひて然らば汝の兩手の間の傷は何ぞやと言あらば是は我が愛する者の家にて受たる傷なりと答へん 7萬軍のヱホバ言たまふ劍よ起て我牧者わが伴侶なる人を攻よ牧者を撃て然らばその羊散らん我また我手を小き者等の上に伸べし 8ヱホバ言たまふ全地の人二分は絶れて死に三分の一はその中に遺らん 9我その三分の一を携へて火にいれ銀を熬分るごとくに之を熬分け金を 試むるごとくに之を試むべし彼らわが名を呼ん我これにこたへん我これは我民なりと言ん彼等またヱホバは我神なりと言ん

第十四章

1視よヱホバの日來る汝の貨財奪はれて汝の中にて分たるべし 2我萬國の民を集めてヱルサレムを攻撃しめん邑は取られ家は掠められ婦女は犯され邑の人は半は擄へられてゆかん然どその餘の民は邑より絶れじ 3その時ヱホバ出きたりて其等の國人を攻撃たまはん在昔その軍陣の日に戰ひたまひしごとくなるべし 4其日にはヱルサレムの前に當りて東にあるところの橄欖山の上に彼の足立たん而して橄欖山その眞中より西東に裂て甚だ大なる谷を

成しその山の半は北に半は南に移るべし 5汝らは我山の谷に逃いらん其山の谷はアザルにまで及ぶべし汝らはユダの王ウジヤの世に地震を避て逃しごとくに逃ん我神ヱホバ來りたまはん 諸 の聖者なんぢとともなるべし 6その日には光明なかるべく輝く者消うすべし 7茲に只 一の日あるべしヱホバこれを知たまふ是は晝にもあらず夜にもあらず夕暮の頃に明くなるべし 8その日に活る水ヱルサレムより出でその半は東の海にその半は西の海に流れん夏も冬も然あるべし 9ヱホバ全地の王となりたまはん其日には只ヱホバのみ只その御名のみにならん 10全地はアラバのごとくなりてゲバよりヱルサレムの南のリンモンまでの間のごとくなるべし而してヱルサレムは高くなりてその故の處に立ちベニヤミンの門より第一の門の處に及び隅の門にいたりハナニエルの戍樓より王の酒榨倉までに渉るべし 11その中には人住ん重て呪詛あらじヱルサレムは安然に立べし 12ヱルサレムを攻撃し 諸 の民にヱホバ災禍を降してこれを撃なやましたまふこと是のごとくなるべし即ち彼らその足にて立をる中に肉腐れ目その孔の中にて腐れ舌その口の中にて腐れん 13その日にはヱホバかれらをして大に狼狽しめたまはん彼らは各々人の手を執へん此手と彼手撃あふべし 14ユダもまたヱルサレムに於て戰ふべしその四周の一切の國人の財寶金銀衣服など甚だ多く聚められん 15また馬騾駱駝驢馬およびその諸營の一切の家畜の蒙る災禍もこの災禍のごとくなるべし 16ヱルサレムに攻きたりし 諸 の國人の遺れる者はみな歳々に上りきてその王なる萬軍のヱホバを拜み 結 茅の節を守るにいたるべし 17地上の諸族の中その王なる萬軍のヱホバを拜みにヱルサレムに上らざる者の上には凡て雨ふらざるべし 18例ばエジプトの族もし上り來らざる時はその上に雨ふらじヱホバその結 茅の節を守りに上らざる一切の國人を撃なやます災禍を之に降したまふべし 19エジプトの罪凡て結 茅の節を守りに上り來らざる國人の罪是のごとくなるべし 20その日には馬の鈴にまでヱホバに聖としるさん又ヱホバの家の鍋は壇の前の鉢と等しかるべし 21ヱルサレムおよびユダの鍋は都て萬軍のヱホバの聖 物となるべし凡そ犧牲を獻ぐる者は來りてこれを取り其中にて祭肉を煮ん其日には萬軍のヱホバの室に最早カナン人あらざるべし

マラキ書

第一章

1これマラキに托てイスラエルに臨めるヱホバの言の重負なり 2ヱホバ曰たまふ我汝らを愛したり 然るに汝ら云ふ 汝いかに我儕を愛せしやと ヱホバいふエサウはヤコブの兄に非ずや されど我はヤコブを愛し 3エサウを惡めり 且つわれ彼の山を荒し其嗣業を山犬にあたへたり 4エドムは我儕ほろぼされたれども再び荒たる所を建んといふによりて萬軍のヱホバかく曰たまふ 彼等は建ん されど我これを倒さん 人は彼等を惡境とよび又ヱホバの恒に怒りたまふ人民と稱へん 5汝らこれを目に見て云んヱホバはイスラエルの地に大なりと 6子は其父を敬ひ 僕はその主を敬ふ されば我もし父たらば我を敬ふこと安にあるや 我もし主たらば我をおそるること安にあるや なんぢら我が名を藐視る祭司よと萬軍のヱホバいひたまふ然るに汝曹はいふ我儕何に汝の名を藐視りしやと 7汝ら汚れたるパンをわが壇の上に獻げしかして言ふ我儕何に爾 を汚せしやと 汝曹ヱホバの臺は卑しきなりと云しがゆゑなり 8汝ら盲目なる者を犧牲に獻ぐるは惡に非ずや 又跛足なるものと病 者を獻ぐるは惡に非ずや 今これを汝 の方伯に獻げよ されば彼なんぢを悦ぶや 汝を受納るや 萬軍のヱホバこれをいふ 9請ふ汝ら神に我らをあはれみ給はんことをもとめよ これらは凡て汝らの手になれり 彼なんぢらを納んや 萬軍のヱホバこれを言ふ 10汝らがわが壇の上にいたづらに火をたくこと無らんために汝らの中一人 扉を閉づる者あらまほし われ汝らを悦ばず 又なんぢらの手より獻 物を受じと萬軍のヱホバいひ給ふ 11日の出る處より沒る處までの列國の中に我名は大ならん 又何處にても香と潔き獻 物を我名に獻げん そはわが名列國の中に大なるべければなりと萬軍のヱホバいひ給ふ 12しかるになんぢら之を褻したり そは爾曹はヱホバの臺は汚れたり また其果すなはちその食物は卑しと云ばなり 13なんぢらは又如何に煩勞しきことにあらずやといひ且これを藐視たり 萬軍のヱホバこれをいふ 又なんぢらは奪ひし物跛足たる者病る者を携へ來れり 汝らかく獻 物

を携へ來ればわれ之を汝らの手より受べけんや ヱホバこれをいひ給へり 14群の中に牡あるに誓を立てて疵あるものをヱホバに獻ぐる詐僞者は詛はるべし そは我は大なる王また我名は列國に畏れらるべきなればなり 萬軍のヱホバこれをいふ

第二章

1祭司等よ今この命令なんぢらにあたへらる 2萬軍のヱホバいひたまふ汝等もし聽きしたがはず又これを心にとめず我名に榮光を歸せずばわれ汝らの上に詛を來らせん 又なんぢらの祝福を詛はん われすでに此等を詛へり 汝らこれを心にとめざりしに因てなり 3視よ我なんぢらのために種をいましめん また糞すなはち汝らの犧牲の糞を汝らの面の上に撒さん 汝らこれとともに携へさられん 4わが此命令をなんぢらに下し與ふるは我契約をしてレビに保たしめんためなるを汝ら知るべし 萬軍のヱホバこれをいふ 5わが彼と結びし契約は生命と平安とにあり 我がこれを彼に與へしは彼に我を畏れしめんが爲なり 彼われを懼れわが名の前にをののけり 6眞理の法 彼の口に在て不義その口唇にあらず 彼平安と公義をとりて我とともにあゆみ又 多の人を不義より立歸らせたりき 7夫れ祭司の口唇に知識を持べく又人彼の口より法を諮詢べし そは祭司は萬軍のヱホバの使者なればなり 8しかるに汝らは道を離れ衆多の人を法に躓礙かせレビの契約を壞りたり 萬軍のヱホバこれをいふ 9汝らは我道を守らず法をおこなふに當りて人に偏りし故にわれも汝らを一切の民の前に輕められまた賤められしむ 10我儕の父は皆同一なるにあらずや われらを造りし神は同一なるにあらずや 我儕先祖等の契約を破りて各々おのれの兄弟にいつはりを行ふは何ぞ 11ユダは誓約にそむけり イスラエル及びエルサレムの中には憎むべき事 行はる すなはちユダはヱホバの愛したまふ聖所を褻して他 神の女をめとれり 12ヱホバこれをおこなふ人をば主なるものをも事ふる者をもヤコブの幕屋よりのぞきたまはん 萬軍のヱホバに獻物をささぐるものにてもまた然り 13つぎに又なんぢらはこれをなせり 即ち涙と泣と歎とをもてヱホバの壇をおほはしめたり 故に彼もはや獻物を顧みずまたこれを汝らの手より悦び納たまはざるなり 14汝らはなほ何故ぞやと言ふ そは是はヱホバ汝となんぢの若き時の妻の間にいりて證をなしたまへばなり 彼はなんぢの伴侶 汝が契約をなせし妻なるに汝 誓約に背きてこれを棄つ 15ヱホバは只一 を造りたまひしにあらずや されども彼にはなほ靈の餘 ありき 何故にひとつのみなりしや 是は神を敬虔の裔を得んが爲なりき 故になんぢら心に謹みその若き時の妻を誓約にそむきて棄るなかれ 16イスラエルの神ヱホバいひたまふ われは離縁を惡みまた虐遇をもて其 衣を蔽ふ人を惡む 故に汝ら誓約にそむきて妻を待遇はざるやう心 につつしむべし 萬軍のヱホバこれをいふ 17なんぢらは言をもてヱホバを煩勞はせり されど汝ら言ふ 何にわづらはせしやと 如何となればなんぢら凡て惡をなすものはヱホバの目に善と見えかつ彼に悦ばると言ひ また審判の神は安にあるやといへばなり

第三章

1視よ我わが使者を遣さん かれ我面の前に道を備へん また汝らが求むるところの主すなはち汝らの悦樂ぶ契約の使者忽然その殿に來らん 視よ彼來らんと萬軍のヱホバ云たまふ 2されど其來る日には誰か堪えんや その顯著る時には誰か立えんや 彼は金をふきわくる者の火の如く布 晒の灰汁のごとくならん 3かれは銀をふきわけてこれを潔むる者のごとく坐せん 彼はレビの裔を潔め金銀の如くかれらをきよめん 而して彼等は義をもて獻物をヱホバにささげん 4その時ユダとエルサレムの獻物はむかし日の如く又先の年のごとくヱホバに悦ばれん 5われ汝らにちかづきて審判をなし巫術者にむかひ姦淫を行ふ者にむかひ僞の誓をなせる者にむかひ傭人の價金をかすめ寡婦と孤子をしへたげ異邦人を推枉げ我を畏れざるものどもにむかひて 速 に證をなさんと萬軍のヱホバ云たまふ 6それわれヱホバは易らざる者なり 故にヤコブの子等よ汝らは亡されず 7なんぢら其先祖等の日よりこのかたわが律例をはなれてこれを守らざりき 我にかへれ われ亦なんぢらに歸らん 萬軍のヱホバこれを言ふ 然るに汝らはわれら何においてかへるべきやと言り 8ひと神の物をぬすむことをせんや されど汝らはわが物を盜めり 汝らは又何において汝の物をぬすみしやといへり 十分の一および獻物に於てなり 9汝らは呪詛をもて詛はる またなんぢら一切の國人はわが物をぬすめり 10わが殿に食物あらしめんために汝ら什一をすべて我倉にたづさへきたれ而して是をもて我を試みわが天の窓をひらきて容べきところなきまでに恩澤を汝らにそそぐや否やを見るべし

萬軍のヱホバこれを言ふ 11我また噬食ふ者をなんぢらの爲に抑へてなんぢらの地の産物をやぶらざらしめん 又なんぢらの葡萄の樹をして時のいたらざる前にその實を圃におとさざらしめん 萬軍のヱホバこれをいふ 12又萬國の人なんぢらを幸福なる者ととなへん そは汝ら樂しき地となるべければなり 萬軍のヱホバこれをいふ 13ヱホバ云たまふ 汝らは言詞をはげしくして我に逆らへり しかるも汝らは我儕なんぢらにさからひて何をいひしやといへり 14汝らは言らく神に服事ることは徒然なり われらその命令をまもりかつ萬軍のヱホバの前に悲みて歩みたりとて何の益あらんや 15今われらは驕傲ものを幸福なりと稱ふ また惡をおこなふものも盛になり 神を試むるものすらも救はると 16その時ヱホバをおそるる者 互に相かたりヱホバ耳をかたむけてこれを聽たまへり またヱホバを畏るる者およびその名を記憶る者のためにヱホバの前に記念の書をかきしるせり 17萬軍のヱホバいひたまふ 我わが設くる日にかれらをもて我寶となすべし また人の己につかふる子をあはれむがごとく我彼等をあはれまん 18その時 汝らは更にまた義 者と惡きものと神に服事るものと事へざる者との區別をしらん

第四章

1萬軍のヱホバいひたまふ 視よ爐のごとくに燒る日來らん すべて驕傲者と惡をおこなふ者は藁のごとくにならん 其きたらんとする日彼等を燒つくして根も枝ものこらざらしめん 2されど我名をおそるる汝らには義の日いでて昇らん その翼には醫す能をそなへん 汝らは牢よりいでし犢の如く躍跳ん 3又なんぢらは惡人を踐つけん 即ちわが設くる日にかれらは汝らの脚の掌の下にありて灰のごとくならん 萬軍のヱホバこれを言ふ 4なんぢらわが僕モーセの律法をおぼえよ すなはち我がホレブにてイスラエル全體のために彼に命ぜし法度と誡命をおぼゆべし 5視よヱホバの大なる畏るべき日の來るまへにわれ預言者エリヤを汝らにつかはさん

新約聖書

6かれ父の心にその子女の心を慈はせ 子女の心にその父をおもはしめん 是は我が來りて詛をもて地を擊ことなからんためなり

新約聖書

大正改譯（大正六年・一九一七年）

マタイ傳福音書

第一章

1アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系圖。 2アブラハム、イサクを生み、イサク、ヤコブを生み、ヤコブ、ユダとその兄弟らとを生み、 3ユダ、タマルによりてパレスとザラとを生み、パレス、エスロンを生み、エスロン、アラムを生み、 4アラム、アミナダブを生み、アミナダブ、ナアソンを生み、ナアソン、サルモンを生み、 5サルモン、ラハブによりてボアズを生み、ボアズ、ルツによりてオベデを生み、オベデ、エツサイを生み、 6エツサイ、ダビデ王を生めり。ダビデ、

ウリヤの妻たりし女によりてソロモンを生み、7ソロモン、レハベアムを生み、レハベアム、アビヤを生み、アビヤ、アサを生み、8アサ、ヨサパテを生み、ヨサパテ、ヨラムを生み、ヨラム、ウジヤを生み、9ウジヤ、ヨタムを生み、ヨタム、アハズを生み、アハズ、ヒゼキヤを生み、10ヒゼキヤ、マナセを生み、マナセ、アモンを生み、アモン、ヨシヤを生み、11バビロンに移さるる頃、ヨシヤ、エコニヤとその兄弟らとを生めり。12バビロンに移されて後、エコニヤ、サラテルを生み、サラテル、ゾロバベルを生み、13ゾロバベル、アビウデを生み、アビウデ、エリヤキムを生み、エリヤキム、アゾルを生み、14アゾル、サドクを生み、サドク、アキムを生み、アキム、エリウデを生み、15エリウデ、エレアザルを生み、エレアザル、マタンを生み、マタン、ヤコブを生み、16ヤコブ、マリヤの夫ヨセフを生めり。此のマリヤよりキリストと稱ふるイエス生れ給へり。17されば總て世をふる事、アブラハムよりダビデまで十四代、ダビデよりバビロンに移さるるまで十四代、バビロンに移されてよりキリストまで十四代なり。18イエス・キリストの誕生は左のごとし。その母マリヤ、ヨセフと許嫁したるのみにて、未だ偕にならざりしに、聖靈によりて孕り、その孕りたること顯れたり。19夫ヨセフは正しき人にして、之を公然にするを好まず、私に離縁せんと思ふ。20かくて、これらの事を思ひ回らしをるとき、視よ、主の使、夢に現れて言ふ『ダビデの子ヨセフよ、妻マリヤを納るる事を恐るな。その胎に宿る者は聖靈によるなり。21かれ子を生まん、汝その名をイエスと名づくべし。己が民をその罪より救ひ給ふ故なり』22すべて此の事の起りしは、預言者によりて主の云ひ給ひし言の成就せん爲なり。曰く、23『視よ、處女みごもりて子を生まん。その名はインマヌエルと稱へられん』之を釋けば、神われらと偕に在すといふ意なり。24ヨセフ寐より起き、主の使の命ぜし如くして妻を納れたり。25されど子の生るるまでは、相知る事なかりき。かくてその子をイエスと名づけたり。

第二章

1イエスはヘロデ王の時、ユダヤのベツレヘムに生れ給ひしが、視よ、東の博士たちエルサレムに來りて言ふ、2『ユダヤ人の王とて生れ給へる者は、何處に在すか。我ら東にてその星を見たれば、拜せんために來れり』3ヘロデ王これを聞きて惱みまどふ、エルサレムも皆然り。4王、民の祭司長・學者らを皆あつめて、キリストの何處に生るべきを問ひ質す。5かれら言ふ『ユダヤのベツレヘムなり。それは預言者によりて、6「ユダの地ベツレヘムよ、汝はユダの長たちの中にて最小き者にあらず、汝の中より一人の君いでて、わが民イスラエルを牧せん」と録されたるなり』7ここにヘロデ密に博士たちを招きて、星の現れし時を詳細にし、8彼らをベツレヘムに遣さんとして言ふ『往きて幼兒のことを細にたづね、之にあはば我に告げよ。我も往きて拜せん』9彼ら王の言をききて往きしに、視よ、前に東にて見し星、先だちゆきて、幼兒の在すところの上に止る。10かれら星を見て、歡喜に溢れつつ、11家に入りて、幼兒のその母マリヤと偕に在すを見、平伏して拜し、かつ寶の匣をあけて、黄金・乳香・沒藥など禮物を献げたり。12かくて夢にてヘロデの許に返るなとの御告を蒙り、ほかの路より己が國に去りゆきぬ。13その去り往きしのち、視よ、主の使、夢にてヨセフに現れていふ『起きて、幼兒とその母とを携へ、エジプトに逃れ、わが告ぐるまで彼處に留れ。ヘロデ幼兒を索めて亡さんとするなり』14ヨセフ起きて、夜の間に幼兒とその母とを携へて、エジプトに去りゆき、15ヘロデの死ぬるまで彼處に留りぬ。これ主が預言者によりて『我エジプトより我が子を呼び出せり』と云ひ給ひし言の成就せん爲なり。16ここにヘロデ、博士たちに賺されたりと悟りて、甚だしく憤ほり、人を遣し、博士たちに由りて詳細にせし時を計り、ベツレヘム及び凡てその邊の地方なる、二歳以下の男の兒をことごとく殺せり。17ここに預言者エレミヤによりて云はれたる言は成就したり。曰く、18『聲ラマにありて聞ゆ、慟哭なり、いとどしき悲哀なり。ラケル己が子らを歎き、子等のなき故に慰めらるるを厭ふ』19ヘロデ死にてのち、視よ、主の使、夢にてエジプトなるヨセフに現れて言ふ、20『起きて、幼兒とその母とを携へ、イスラエルの地にゆけ。幼兒の生命を索めし者どもは死にたり』21ヨセフ起きて、幼兒とその母とを携へ、イスラエルの地に到りしに、22アケラオその父ヘロデに代りてユダヤを治むと聞き、彼處に往くことを恐る。また夢にて御告を蒙り、ガリラヤの地方に退き、23ナザレといふ町に到りて住みたり。これは預言者たちに由りて、『彼は

ナザレ人と呼ばれん』と云はれたる言の成就せん爲なり。

第三章

1その頃バプテスマのヨハネ來り、ユダヤの荒野にて教を宣べて言ふ 2『なんぢら悔改めよ、天國は近づきたり』 3これ預言者イザヤによりて、斯く云はれし人なり、曰く『荒野に呼はる者の聲す「主の道を備へ、その路すぢを直くせよ」』 4このヨハネは駱駝の毛織衣をまとひ、腰に皮の帶をしめ、蝗と野蜜とを食とせり。 5ここにエルサレム及びユダヤ全國、またヨルダンの邊なる全地方の人々、ヨハネの許に出できたり、 6罪を言ひ表し、ヨルダン川にてバプテスマを受けたり。 7ヨハネ、パリサイ人およびサドカイ人のバプテスマを受けんとて、多く來るを見て、彼らに言ふ『蝮の裔よ、誰が汝らに、來らんとする御怒を避くべき事を示したるぞ。 8さらば悔改に相應しき果を結べ。 9汝ら「われらの父にアブラハムあり」と心のうちに言はんと思ふな。我なんぢらに告ぐ、神は此らの石よりアブラハムの子らを起し得給ふなり。 10斧ははや樹の根に置かる。されば凡て善き果を結ばぬ樹は、伐られて火に投げ入れらるべし。 11我は汝らの悔改のために、水にてバプテスマを施す。されど我より後にきたる者は、我よりも能力あり、我はその鞋をとるにも足らず、彼は聖靈と火とにて汝らにバプテスマを施さん。 12手には箕を持ちて禾場をきよめ、その麥は倉に納め、殻は消えぬ火にて燒きつくさん』 13ここにイエス、ヨハネにバプテスマを受けんとて、ガリラヤよりヨルダンに來り給ふ。 14ヨハネ之を止めんとして言ふ『われは汝にバプテスマを受くべき者なるに、反つて我に來り給ふか』 15イエス答へて言ひたまふ『今は許せ、われら斯く正しき事をことごとく爲遂ぐるは、當然なり』ヨハネ乃ち許せり。 16イエス、バプテスマを受けて直ちに水より上り給ひしとき、視よ、天ひらけ、神の御靈の、鴿のごとく降りて己が上にきたるを見給ふ。 17また天より聲あり、曰く『これは我が愛しむ子、わが悦ぶ者なり』

第四章

1ここにイエス御靈によりて荒野に導かれ給ふ、惡魔に試みられんとするなり。 2四十日四十夜斷食して、後に飢ゑたまふ。 3試むる者きたりて言ふ『汝もし神の子ならば、命じて此等の石をパンと爲らしめよ』 4答へて言ひ給ふ『「人の生くるはパンのみに由るにあらず、神の口より出づる凡ての言に由る」と録されたり』 5ここに惡魔イエスを聖なる都につれゆき、宮の頂上に立たせて言ふ、 6『汝もし神の子ならば己が身を下に投げよ。それは「なんぢの爲に御使たちに命じ給はん。彼ら手にて汝を支へ、その足を石にうち當つること無からしめん」と録されたるなり』 7イエス言ひたまふ『「主なる汝の神を試むべからず」と、また録されたり』 8惡魔またイエスを最高き山につれゆき、世のもろもろの國と、その榮華とを示して言ふ、 9『汝もし平伏して我を拜せば、此等を皆なんぢに與へん』 10ここにイエス言ひ給ふ『サタンよ、退け「主なる汝の神を拜し、ただ之にのみ事へ奉るべし」と録されたるなり』 11ここに惡魔は離れ去り、視よ、御使たち來り事へぬ。 12イエス、ヨハネの囚はれし事をききて、ガリラヤに退き、 13後ナザレを去りて、ゼブルンとナフタリとの境なる、海邊のカペナウムに到りて住み給ふ。 14これは預言者イザヤによりて云はれたる言の成就せん爲なり。曰く 15『ゼブルンの地、ナフタリの地、海の邊、ヨルダンの彼方、異邦人のガリラヤ、 16暗きに坐する民は、大なる光を見、死の地と死の蔭とに坐する者に、光のぼれり』 17この時よりイエス教を宣べはじめて言ひ給ふ『なんぢら悔改めよ、天國は近づきたり』 18かくて、ガリラヤの海邊をあゆみて、二人の兄弟ペテロといふシモンとその兄弟アンデレとが、海に網うちをるを見給ふ、かれらは漁人なり。 19これに言ひたまふ『我に從ひきたれ、さらば汝らを人を漁る者となさん』 20かれら直ちに網をすてて從ふ。 21更に進みゆきて、また二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとが、父ゼベダイとともに舟にありて網を繕ひをるを見て呼び給へば、 22直ちに舟と父とを置きて從ふ。 23イエスあまねくガリラヤを巡り、會堂にて教をなし、御國の福音を宣べつたへ、民の中のもろもろの病、もろもろの疾患をいやし給ふ。 24その噂あまねくシリヤに弘り、人々すべての惱めるもの、即ちさまざまの病と苦痛とに罹れるもの、惡鬼に憑かれたるもの、癲癇および中風の者などを連れ來りたれば、イエス之を醫したまふ。 25ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ及びヨルダンの彼方より、大なる群衆きたり從へり。

第五章

1イエス群衆を見て、山にのぼり、座し給へば、弟子たち御許にきたる。 2イエス口をひらき、教へて言ひたまふ、 3『幸福なるかな、心の貧しき者。天國はその人のものなり。 4幸福なるかな、悲しむ者。その人は慰められん。 5幸福なるかな、柔和なる者。その人は地を嗣がん。 6幸福なるかな、義に飢ゑ渇く者。その人は飽くことを得ん。 7幸福なるかな、憐憫ある者。その人は憐憫を得ん。 8幸福なるかな、心の清き者。その人は神を見ん。 9幸福なるかな、平和ならしむる者。その人は神の子と稱へられん。 10幸福なるかな、義のために責められたる者。天國はその人のものなり。 11我がために、人なんぢらを罵り、また責め、詐りて各樣の惡しきことを言ふときは、汝ら幸福なり。 12喜びよろこべ、天にて汝らの報は大なり。汝 等より前にありし預言者たちをも、斯く責めたりき。 13汝らは地の鹽なり、鹽もし效力を失はば、何をもてか之に鹽すべき。後は用なし、外にすてられて人に蹈まるるのみ。 14汝らは世の光なり。山の上にある町は隱るることなし。 15また人は燈火をともして升の下におかず、燈臺の上におく。かくて燈火は家にある凡ての物を照すなり。 16かくのごとく汝らの光を人の前にかがやかせ。これ人の汝らが善き行爲を見て、天にいます汝らの父を崇めん爲なり。 17われ律法また預言者を毀つために來れりと思ふな。毀たんとて來らず、反つて成就せん爲なり。 18誠に汝らに告ぐ、天 地の過ぎ往かぬうちに、律法の一點、一畫も廢ることなく、ことごとく全うせらるべし。 19この故にもし此 等のいと小き誡命の一つをやぶり、且その如く人に教ふる者は、天國にて最 小き者と稱へられ、之を行ひ、かつ人に教ふる者は、天國にて大なる者と稱へられん。 20我なんぢらに告ぐ、汝らの義、學者・パリサイ人に勝らずば、天國に入ること能はず。 21古への人に「殺すなかれ、殺す者は審判にあふべし」と云へることあるを汝 等きけり。 22されど我は汝らに告ぐ、すべて兄弟を怒る者は、審判にあふべし。また兄弟に對ひて、愚 者よといふ者は、衆議にあふべし。また痴者よといふ者は、ゲヘナの火にあふべし。 23この故に汝もし供物を祭壇にささぐる時、そこにて兄弟に怨まるる事あるを思ひ出さば、 24供物を祭壇のまへに遺しおき、先づ往きて、その兄弟と和睦し、然るのち來りて、供物をささげよ。 25なんぢを訴ふる者とともに途に在るうちに、早く和解せよ。恐らくは、訴ふる者なんぢを審判 人にわたし、審判 人は下役にわたし、遂になんぢは獄に入れられん。 26まことに汝に告ぐ、一 厘ものこりなく償はずば、其處をいづること能はじ。 27「姦淫するなかれ」と云へることあるを汝 等きけり。 28されど我は汝らに告ぐ、すべて色 情を懷きて女を見るものは、既に心のうち姦淫したるなり。 29もし右の目なんぢを躓かせば、抉り出して棄てよ、五體の一つ亡びて、全身ゲヘナに投げ入れられぬは益なり。 30もし右の手なんぢを躓かせば、切りて棄てよ、五體の一つ亡びて、全身ゲヘナに往かぬは益なり。 31また「妻をいだす者は離緣状を與ふべし」と云へることあり。 32されど我は汝らに告ぐ、淫行の故ならで其の妻をいだす者は、これに姦淫を行はしむるなり。また出されたる女を娶るものは、姦淫を行ふなり。 33また古への人に「いつはり誓ふなかれ、なんぢの誓は主に果すべし」と云へる事あるを汝ら聞けり。 34されど我は汝らに告ぐ、一切ちかふな、天を指して誓ふな、神の御座なればなり。 35地を指して誓ふな、神の足臺なればなり。エルサレムを指して誓ふな、大君の都なればなり。 36己が頭を指して誓ふな、なんぢ頭髪 一筋だに白くし、また黒くし能はねばなり。 37ただ然り然り、否 否といへ、之に過ぐるは惡より出づるなり。 38「目には目を、齒には齒を」と云へることあるを汝ら聞けり。 39されど我は汝らに告ぐ、惡しき者に抵抗ふな。人もし汝の右の頰をうたば、左をも向けよ。 40なんぢを訟へて下衣を取らんとする者には、上衣をも取らせよ。 41人もし汝に一里ゆくことを強ひなば、共に二里ゆけ。 42なんぢに請ふ者にあたへ、借らんとする者を拒むな。 43「なんぢの隣を愛し、なんぢの仇を憎むべし」と云へることあるを汝 等きけり。 44されど我は汝らに告ぐ、汝らの仇を愛し、汝らを責むる者のために祈れ。 45これ天にいます汝らの父の子とならん爲なり。天の父は、その日を惡しき者のうへにも善き者のうへにも昇らせ、雨を正しき者にも正しからぬ者にも降らせ給ふなり。 46なんぢら己を愛する者を愛すとも何の報をか得べき、取稅人も然するにあらずや。 47兄弟にのみ挨拶すとも何の勝ることかある、異邦人も然するにあらずや。 48さらば汝らの天の父の全きが如く、汝らも全かれ。

第六章

1汝ら見られんために己が義を人の前にて行はぬやうに心せよ。然らずば、天にいます汝らの父より報を得じ。2さらば施濟をなすとき、僞善者が人に崇められんとて會堂や街にて爲すごとく、己が前にラッパを鳴すな。誠に汝らに告ぐ、彼らは既にその報を得たり。3汝は施濟をなすとき、右の手のなすことを左の手に知らすな。4是はその施濟の隱れん爲なり。さらば隱れたるに見たまふ汝の父は報い給はん。5なんぢら祈るとき、僞善者の如くあらざれ。彼らは人に顯さんとて、會堂や大路の角に立ちて祈ることを好む。誠に汝らに告ぐ、かれらは既にその報を得たり。6なんぢは祈るとき、己が部屋にいり、戸を閉ぢて隱れたるに在す汝の父に祈れ。さらば隱れたるに見給ふなんぢの父は報い給はん。7また祈るとき、異邦人の如くいたづらに言を反復すな。彼らは言多きによりて聽かれんと思ふなり。8さらば彼らに效ふな、汝らの父は求めぬ前に、なんぢらの必要なる物を知りたまふ。9この故に汝らは斯く祈れ。「天にいます我らの父よ、願はくは御名の崇められん事を。10御國の來らんことを。御意の天のごとく地にも行はれん事を。11我らの日用の糧を今日もあたへ給へ。12我らに負債ある者を我らの免したる如く、我らの負債をも免し給へ。13我らを嘗試に遇はせず、惡より救ひ出したまへ」14汝 等もし人の過失を免さば、汝らの天の父も汝らを免し給はん。15もし人を免さずば、汝らの父も汝らの過失を免し給はじ。16なんぢら斷食するとき、僞善者のごとく、悲しき面容をすな。彼らは斷食することを人に顯さんとて、その顏色を害ふなり。誠に汝らに告ぐ、彼らは既にその報を得たり。17なんぢは斷食するとき、頭に油をぬり、顏をあらへ。18これ斷食することの人に顯れずして、隱れたるに在す汝の父にあらはれん爲なり。さらば隱れたるに見たまふ汝の父は報い給はん。19なんぢら己がために財寶を地に積むな、ここは蟲と錆とが損ひ、盜人うがちて盜むなり。20なんぢら己がために財寶を天に積め、かしこは蟲と錆とが損はず、盜人うがちて盜まぬなり。21なんぢの財寶のある所には、なんぢの心もあるべし。22身の燈火は目なり。この故に汝の目ただしくば、全身あかるからん。23されど汝の目あしくば、全身くらからん。もし汝の內の光、闇ならば、その闇いかばかりぞや。24人は二人の主に兼ね事ふること能はず、或はこれを憎み彼を愛し、或はこれに親しみ彼を輕しむべければなり。汝ら神と富とに兼ね事ふること能はず。25この故に我なんぢらに告ぐ、何を食ひ、何を飮まんと生命のことを思ひ煩ひ、何を著んと體のことを思ひ煩ふな。生命は糧にまさり、體は衣に勝るならずや。26空の鳥を見よ、播かず、刈らず、倉に收めず、然るに汝らの天の父は、これを養ひたまふ。汝らは之よりも遙に優るる者ならずや。27汝らの中たれか思ひ煩ひて身の長一尺を加へ得んや。28又なにゆゑ衣のことを思ひ煩ふや。野の百合は如何にして育つかを思へ、勞せず、紡がざるなり。29されど我なんぢらに告ぐ、榮華を極めたるソロモンだに、その服裝この花の一つにも及かざりき。30今日ありて明日 爐に投げ入れらるる野の草をも、神はかく裝ひ給へば、まして汝らをや、ああ信仰うすき者よ。31さらば何を食ひ、何を飮み、何を著んとて思ひ煩ふな。32是みな異邦人の切に求むる所なり。汝らの天の父は、凡てこれらの物の汝らに必要なるを知り給ふなり。33まづ神の國と神の義とを求めよ、さらば凡てこれらの物は汝らに加へらるべし。34この故に明日のことを思ひ煩ふな、明日は明日みづから思ひ煩はん。一日の苦勞は一日にて足れり。

第七章

1なんぢら人を審くな、審かれざらん爲なり。2己がさばく審判にて己もさばかれ、己がはかる量にて己も量らるべし。3何ゆゑ兄弟の目にある塵を見て、おのが目にある梁木を認めぬか。4視よ、おのが目に梁木のあるに、いかで兄弟にむかひて、汝の目より塵をとり除かせよと言ひ得んや。5僞善者よ、まづ己が目より梁木をとり除け、さらば明かに見えて、兄弟の目より塵を取りのぞき得ん。6聖なる物を犬に與ふな。また眞珠を豚の前に投ぐな。恐らくは足にて蹈みつけ、向き返りて汝らを噛みやぶらん。7求めよ、さらば與へられん。尋ねよ、さらば見出さん。門を叩け、さらば開かれん。8すべて求むる者は得、たづぬる者は見いだし、門をたたく者は開かるるなり。9汝 等のうち、誰かその子パンを求めんに石を與へ、10魚を求めんに蛇を與へんや。11さらば、汝ら惡しき者ながら、善き賜物をその子らに與ふるを知る。まして天にいます汝らの父は、求むる者に善き物を賜はざらんや。12さらば凡て人に爲られんと思ふことは、人

にも亦その如くせよ。これは律法なり、預言者なり。13狹き門より入れ、滅にいたる門は大きく、その路は廣く、之より入る者おほし。14生命にいたる門は狹く、その路は細く、之を見出す者すくなし。15僞預言者に心せよ、羊の扮裝して來れども、内は奪ひ掠むる豺狼なり。16その果によりて彼らを知るべし。茨より葡萄を、薊より無花果をとる者あらんや。17斯く、すべて善き樹は善き果をむすび、惡しき樹は惡しき果をむすぶ。18善き樹は惡しき果を結ぶこと能はず、惡しき樹はよき果を結ぶこと能はず。19すべて善き果を結ばぬ樹は、伐られて火に投げ入れらる。20さらばその果によりて彼らを知るべし。21我に對ひて主よ主よといふ者、ことごとくは天國に入らず、ただ天にいます我が父の御意をおこなふ者のみ、之に入るべし。22その日おほくの者われに對ひて「主よ、主よ、我らは汝の名によりて預言し、汝の名によりて惡鬼を逐ひいだし、汝の名によりて多くの能力ある業を爲ししにあらずや」と言はん。23その時われ明白に告げん「われ斷えて汝らを知らず、不法をなす者よ、我を離れされ」と。24さらば凡て我がこれらの言をききて行ふ者を、磐の上に家をたてたる慧き人に擬へん。25雨ふり流みなぎり、風ふきてその家をうてど倒れず、これ磐の上に建てられたる故なり。26すべて我がこれらの言をききて行はぬ者を、沙の上に家を建てたる愚なる人に擬へん。27雨ふり流みなぎり、風ふきて其の家をうてば、倒れてその顛倒はなはだし』28イエスこれらの言を語りをへ給へるとき、群衆その教に驚きたり。29それは學者らの如くならず、權威ある者のごとく教へ給へる故なり。

第八章

1イエス山を下り給ひしとき、大なる群衆これに從ふ。2視よ、一人の癩病人みもとに來り、拜して言ふ『主よ、御意ならば、我を潔くなし給ふを得ん』3イエス手をのべ、彼につけて『わが意なり、潔くなれ』と言ひ給へば、癩病ただちに潔れり。4イエス言ひ給ふ『つつしみて誰にも語るな、ただ往きて己を祭司に見せ、モーセが命じたる供物を献げて、人々に證せよ』5イエス、カペナウムに入り給ひしとき、百卒長きたり、6請ひていふ『主よ、わが僕、中風を病み、家に臥しゐて甚く苦しめり』7イエス言ひ給ふ『われ往きて醫さん』8百卒長こたへて言ふ『主よ、我は汝をわが屋根の下に入れまつるに足らぬ者なり。ただ御言のみを賜へ、さらば我が僕はいえん。9我みづから權威の下にある者なるに、我が下にまた兵卒ありて、此に「ゆけ」と言へば往き、彼に「きたれ」と言へば來り、わが僕に「これを爲せ」といへば爲すなり』10イエス聞きて怪しみ、從へる人々に言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、かかる篤き信仰はイスラエルの中の一人にだに見しことなし。11又なんぢらに告ぐ、多くの人、東より西より來り、アブラハム、イサク、ヤコブとともに天國の宴につき、12御國の子らは外の暗きに逐ひ出され、そこにて哀哭・切齒することあらん』13イエス百卒長に『ゆけ、汝の信ずるごとく汝になれ』と言ひ給へば、このとき僕いえたり。14イエス、ペテロの家に入り、その外姑の熱を病みて臥しをるを見、15その手に觸り給へば、熱去り、女おきてイエスに事ふ。16夕になりて、人々、惡鬼に憑かれたる者をおほく御許につれ來りたれば、イエス言にて靈を逐ひいだし、病める者をことごとく醫し給へり。17これは預言者イザヤによりて『かれは自ら我らの疾患をうけ、我らの病を負ふ』と云はれし言の成就せん爲なり。18さてイエス群衆の己を環れるを見て、ともに彼方の岸に往かんことを弟子たちに命じ給ふ。19一人の學者きたりて言ふ『師よ、何處にゆき給ふとも、我は從はん』。20イエス言ひたまふ『狐は穴あり、空の鳥は塒あり、されど人の子は枕する所なし』21また弟子の一人いふ『主よ、先づ、往きて、我が父を葬ることを許したまへ』22イエス言ひたまふ『我に從へ、死にたる者にその死にたる者を葬らせよ』23かくて舟に乘り給へば、弟子たちも從ふ。24視よ、海に大なる暴風おこりて、舟波に蔽はるるばかりなるに、イエスは眠りゐ給ふ。25弟子たち御許にゆき、起して言ふ『主よ、救ひたまへ、我らは亡ぶ』26彼らに言ひ給ふ『なにゆゑ臆するか、信仰うすき者よ』乃ち起きて、風と海とを禁め給へば、大なる凪となりぬ。27人々あやしみて言ふ『こは如何なる人ぞ、風も海も從ふとは』28イエス彼方にわたり、ガダラ人の地にゆき給ひしとき、惡鬼に憑かれたる二人のもの、墓より出できたりて之に遇ふ。その猛きこと甚だしく、其處の途を人の過ぎ得ぬほどなり。29視よ、かれら叫びて言ふ『神の子よ、われら汝と何の關係あらん、未だ時いたらぬに、我らを責めんとて此處にきたり給ふか』30遙にへだたり

て多くの豚の一群、食しゐたりしが、31悪鬼ども請ひて言ふ『もし我らを逐ひ出さんとならば、豚の群に遣したまへ』32彼らに言ひ給ふ『ゆけ』悪鬼いでて豚に入りたれば、視よ、その群みな崖より海に駈け下りて、水に死にたり。33飼ふ者ども逃げて町にゆき、すべての事と悪鬼に憑かれたりし者の事とを告げたれば、34視よ、町人こぞりてイエスに逢はんとて出できたり、彼を見て、この地方より去り給はんことを請へり。

第九章

1イエス舟にのり、渡りて己が町にきたり給ふ。2視よ、中風にて床に臥しをる者を、人々みもとに連れ來れり。イエス彼らの信仰を見て、中風の者に言ひたまふ『子よ、心安かれ、汝の罪ゆるされたり』3視よ、或學者ら心の中にいふ『この人は神を瀆すなり』4イエスその思を知りて言ひ給ふ『何ゆゑ心に惡しき事をおもふか。5汝の罪ゆるされたりと言ふと、起きて歩めと言ふと、孰か易き。6人の子地にて罪を赦す權威あることを汝らに知らせん爲に』――ここに中風の者に言ひ給ふ――『起きよ、床をとりて汝の家にかへれ』7彼おきてその家にかへる。8群衆これを見ておそれ、かかる能力を人にあたへ給へる神を崇めたり。9イエス此處より進みて、マタイといふ人の收稅所に坐しをるを見て『我に從へ』と言ひ給へば、立ちて從へり。10家にて食事の席につき居給ふとき、視よ、多くの取稅人・罪人ら來りて、イエス及び弟子たちと共に列る。11パリサイ人これを見て弟子たちに言ふ『なに故なんぢらの師は、取稅人・罪人らと共に食するか』12之を聞きて、言ひたまふ『健かなる者は醫者を要せず、ただ、病める者これを要す。13なんぢら往きて學べ「われ憐憫を好みて、犧牲を好まず」とは如何なる意ぞ。我は正しき者を招かんとにあらで、罪人を招かんとて來れり』14ここにヨハネの弟子たち御許にきたりて言ふ『われらとパリサイ人は斷食するに、何故なんぢの弟子たちは斷食せぬか』15イエス言ひたまふ『新郎の友だち、新郎と偕にをる間は、悲しむことを得んや。されど新郎をとらるる日きたらん、その時には斷食せん。16誰も新しき布の裂を舊き衣につぐことは爲じ、補ひたる裂は、その衣をやぶりて、破綻さらに甚だしかるべし。17また新しき葡萄酒をふるき革嚢に入るることは爲じ。もし然せば、嚢はりさけ酒ほどばしり出でて、嚢もまた廢らん。新しき葡萄酒は新しき革嚢にいれ、かくて兩ながら保つなり』18イエス此等のことを語りゐ給ふとき、視よ、一人の司きたり、拜して言ふ『わが娘いま死にたり。されど來りて御手を之におき給はば活きん』19イエス起ちて彼に伴ひ給ふに、弟子たちも從ふ。20視よ、十二年血漏を患ひゐたる女、イエスの後にきたりて、御衣の總にさはる。21それは、御衣にだに觸らば救はれんと心の中にいへるなり。22イエスふりかへり、女を見て言ひたまふ『娘よ、心安かれ、汝の信仰なんぢを救へり』女この時より救はれたり。23かくてイエス司の家にいたり、笛ふく者と騷ぐ群衆とを見て言ひたまふ、24『退け、少女は死にたるにあらず、寐ねたるなり』人々イエスを嘲笑ふ。25群衆の出されし後、いりてその手をとり給へば、少女おきたり。26この聲聞あまねく其の地に弘りぬ。27イエス此處より進みたまふ時、ふたりの盲人さけびて『ダビデの子よ、我らを憫みたまへ』と言ひつつ從ふ。28イエス家にいたり給ひしに、盲人ども御許に來りたれば、之に言ひたまふ『我この事をなし得と信ずるか』彼等いふ『主よ、然り』29爰にイエスかれらの目に觸りて言ひたまふ『なんぢらの信仰のごとく汝らに成れ』30乃ち彼らの目あきたり。イエス嚴しく戒めて言ひたまふ『愼みて誰にも知らすな』31されど彼ら出でて、あまねくその地にイエスの事をいひ弘めたり。32盲人どもの出づるとき、視よ、人々、惡鬼に憑かれたる唖者を御許につれきたる。33惡鬼おひ出されて唖者ものいひたれば、群衆あやしみて言ふ『かかる事は未だイスラエルの中に顯れざりき』34然るにパリサイ人いふ『かれは惡鬼の首によりて惡鬼を逐ひ出すなり』35イエスあまねく町と村とを巡り、その會堂にて教へ、御國の福音を宣べつたへ、もろもろの病、もろもろの疾患をいやし給ふ。36また群衆を見て、その牧ふ者なき羊のごとく惱み、且たふるるを甚く憫み、37遂に弟子たちに言ひたまふ『收穫はおほく勞動人はすくなし。38この故に收穫の主に、勞動人をその收穫場に遣し給はんことを求めよ』

第十章

1かくてイエスその十二弟子を召し、穢れし靈を制する權威をあたへて、之を逐ひ出し、もろもろの病、もろもろの疾患を醫すことを得しめ給ふ。2十二使徒の名は左

のごとし。先づペテロといふシモン及びその兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブ及びその兄弟ヨハネ、3ピリポ及びバルトロマイ、トマス及び取税人マタイ、アルパヨの子ヤコブ及びタダイ、4熱心黨のシモン及びイスカリオテのユダ、このユダはイエスを賣りし者なり。5イエスこの十二人を遣さんとて、命じて言ひたまふ。『異邦人の途にゆくな、又サマリヤ人の町に入るな。6むしろイスラエルの家の失せたる羊にゆけ。7往きて宣べつたへ「天國は近づけり」と言へ。8病める者をいやし、死にたる者を甦へらせ、癩病人をきよめ、惡鬼を逐ひいだせ。價なしに受けたれば價なしに與へよ。9帶のなかに金・銀または錢をもつな。10旅の嚢も、二枚の下衣も、鞋も、杖ももつな。勞動人の、その食物を得るは相應しきなり。11いづれの町いづれの村に入るとも、その中にて相應しき者を尋ねいだして、立ち去るまでは其處に留れ。12人の家に入らば平安を祈れ。13その家もし之に相應しくば、汝らの祈る平安はその上に臨まん。もし相應しからずば、その平安はなんぢらに歸らん。14人もし汝らを受けず、汝らの言を聽かずば、その家その町を立ち去るとき、足の塵をはらへ。15まことに汝らに告ぐ、審判の日には、その町よりもソドム、ゴモラの地のかた耐へ易からん。16視よ、我なんぢらを遣すは、羊を豺狼のなかに入るるが如し。この故に蛇のごとく慧く、鴿のごとく素直なれ。17人々に心せよ、それは汝らを衆議所に付し、會堂にて鞭うたん。18また汝等わが故によりて、司たち王たちの前に曳かれん。これは彼らと異邦人とに證をなさん爲なり。19かれら汝らを付さば、如何に何を言はんと思ひ煩ふな、言ふべき事は、その時さづけらるべし。20これ言ふものは汝等にあらず、其の中にありて言ひたまふ汝らの父の靈なり。21兄弟は兄弟を、父は子を死に付し、子どもは親に逆ひて之を死なしめん。22又なんぢら我が名のために凡ての人に憎まれん。されど終まで耐へ忍ぶものは救はるべし。23この町にて責められる時は、かの町に逃れよ。誠に汝らに告ぐ、なんぢらイスラエルの町々を巡り盡さぬうちに人の子は來るべし。24弟子はその師にまさらず、僕はその主にまさらず、25弟子はその師のごとく、僕はその主の如くならば足れり。もし家主をベルゼブルと呼びたらんには、ましてその家の者をや。26この故に、彼らを懼るな。蔽はれたるものに露れぬはなく、隱れたるものに知られぬは無ければなり。27暗黒にて我が告ぐることを光明にて言へ。耳をあてて聽くことを屋の上にて宣べよ。28身を殺して靈魂をころし得ぬ者どもを懼るな、身と靈魂とをゲヘナにて滅し得る者をおそれよ。29二羽の雀は一錢にて賣るにあらずや、然るに、汝らの父の許なくば、その一羽も地に落つること無からん。30汝らの頭の髮までも皆かぞへらる。31この故におそるな、汝らは多くの雀よりも優るるなり。32されど凡そ人の前にて我を言ひあらはす者を、我もまた天にいます我が父の前にて言ひ顯さん。33されど人の前にて我を否む者を、我もまた天にいます我が父の前にて否まん。34われ地に平和を投ぜんために來れりと思ふな。平和にあらず、反つて劍を投ぜん爲に來れり。35それ我が來れるは、人をその父より、娘をその母より、嫁をその姑嫜より分たん爲なり。36人の仇はその家の者なるべし。37我よりも父または母を愛する者は、我に相應しからず。我よりも息子または娘を愛する者は、我に相應しからず。38又おのが十字架をとりて我に從はぬ者は、我に相應しからず。39生命を得る者はこれを失ひ、我がために生命を失ふ者はこれを得べし。40汝らを受くる者は、我を受くるなり。我をうくる者は、我を遣し給ひし者を受くるなり。41預言者たる名の故に預言者をうくる者は、預言者の報をうけ、義人たる名のゆゑに義人をうくる者は、義人の報を受くべし。42凡そわが弟子たる名の故に、この小き者の一人に冷かなる水一杯にても與ふる者は、まことに汝らに告ぐ、必ずその報を失はざるべし』

第十一章

1イエス十二弟子に命じ終へてのち、町々にて教へ、かつ、宣傳へんとて、此處を去り給へり。2ヨハネ牢舍にてキリストの御業をきき、弟子たちを遣して、3イエスに言はしむ『來るべき者は汝なるか、或は、他に待つべきか』4答へて言ひたまふ『ゆきて、汝らが見聞する所をヨハネに告げよ。5盲人は見、跛者はあゆみ、癩病人は潔められ、聾者はきき、死人は甦へらせられ、貧しき者は福音を聞かせらる。6おほよそ我に躓かぬ者は幸福なり』7彼らの歸りたるをり、ヨハネの事を群衆に言ひ出でたまふ『なんぢら何を眺めんとて野に出でし、風にそよぐ葦なるか。8さらば何を見んとて出でし、柔かき衣を著たる人なるか。視よ、やはらかき衣を著たる者

は、王の家に在り。9さらば何のために出でし、預言者を見んとてか。然り、汝らに告ぐ、預言者よりも勝る者なり。10「視よ、わが使をなんぢの顔の前につかはす。彼はなんぢの前に、なんぢの道をそなへん」と録されたるは此の人なり。11誠に汝らに告ぐ、女の産みたる者のうち、バプテスマのヨハネより大なる者は起らざりき。されど天國にて小き者も、彼よりは大なり。12バプテスマのヨハネの時より今に至るまで、天國は烈しく攻められる、烈しく攻むる者はこれを奪ふ。13凡ての預言者と律法との預言したるは、ヨハネの時までなり。14もし汝等わが言をうけんことを願はば、來るべきエリヤは此の人なり、15耳ある者は聽くべし。16われ今の代を何に比へん、童子、市場に坐し、友を呼びて、17「われら汝等のために笛吹きたれど、汝ら踊らず、歎きたれど、汝ら胸うたざりき」と言ふに似たり。18それは、ヨハネ來りて飲食せざれば「惡鬼に憑かれたる者なり」といひ、19人の子來りて飲食すれば、「視よ、食を貪り酒を好む人、また取税人・罪人の友なり」と言ふなり。されど智慧は己が業によりて正しとせらる』20爰にイエス多くの能力ある業を行ひ給へる町々の悔改めぬによりて、之を責めはじめ給ふ、21『禍害なる哉コラジンよ、禍害なる哉ベツサイダよ、汝らの中にて行ひたる能力ある業を、ツロとシドンとにて行ひしならば、彼らは早く荒布を著、灰の中にて悔改めしならん。22されば汝らに告ぐ、審判の日にはツロとシドンとのかた汝等よりも耐へ易からん。23カペナウムよ、なんぢは天にまで擧げらるべきか、黄泉にまで下らん。汝のうちにて行ひたる能力ある業を、ソドムにて行ひしならば、今日までもかの町は遺りしならん。24されば汝らに告ぐ、審判の日にはソドムの地のかた汝よりも耐へ易からん』25その時イエス答へて言ひたまふ『天地の主なる父よ、われ感謝す、此等のことを智き者慧き者にかくして、嬰兒に顯し給へり。26父よ、然り、かくの如きは御意に適へるなり。27すべての物は我わが父より委ねられたり。子を知る者は父の外になく、父をしる者は子または子の欲するままに顯すところの者の外になし。28凡て勞する者・重荷を負ふ者、われに來れ、われ汝らを休ません。29我は柔和にして心卑ければ、我が軛を負ひて我に學べ、さらば靈魂に休息を得ん。30わが軛は易く、わが荷は輕ければなり』

第十二章

1その頃イエス安息日に麥畠をとほり給ひしに、弟子たち飢ゑて穗を摘み、食ひ始めたるを、2パリサイ人見てイエスに言ふ『視よ、なんぢの弟子は安息日に爲まじき事をなす』3彼らに言ひ給ふ『ダビデがその伴へる人々とともに飢ゑしとき、爲しし事を讀まぬか。4即ち神の家に入りて、祭司のほかは、己もその伴へる人々も食ふまじき供のパンを食へり。5また安息日に祭司らは宮の内にて安息日を犯せども、罪なきことを律法にて讀まぬか。6われ汝らに告ぐ、宮より大なる者ここに在り。7「われ憐憫を好みて犧牲を好まず」とは、如何なる意かを汝ら知りたらんには、罪なき者を罪せざりしならん。8それ人の子は安息日の主たるなり』9イエス此處を去りて、彼らの會堂に入り給ひしに、10視よ、片手なえたる人あり。人々イエスを訴へんと思ひ、問ひていふ『安息日に人を醫すことは善きか』11彼らに、言ひたまふ『汝等のうち一匹の羊をもてる者あらんに、もし安息日に穴に陷らば、之を取りあげぬか。12人は羊より優ることは如何ばかりぞ。さらば安息日に善をなすは可し』13ここにかの人に言ひ給ふ『なんぢの手を伸べよ』かれ伸べたれば、他の手のごとく癒ゆ。14パリサイ人いでていかにしてかイエスを亡さんと議る。15イエス之を知りて此處を去りたまふ。多くの人したがひ來りたれば、ことごとく之を醫し、16かつ我を人に知らすなと戒め給へり。17これ預言者イザヤによりて云はれたる言の成就せんためなり。曰く、18『視よ、わが選びたる我が僕、わが心の悦ぶ我が愛しむ者、我わが靈を彼に與へん、彼は異邦人に正義を告げ示さん。19彼は爭はず、叫ばず、その聲を大路にて聞く者なからん。20正義をして勝ち遂げしむるまでは、傷へる葦を折ることなく、煙れる亞麻を消すことなからん。21異邦人も彼の名に望をおかん』22ここに惡鬼に憑かれたる盲目の唖者を御許に連れ來りたれば、之を醫して、唖者の物言ひ見ゆるやうに爲し給ひぬ。23群衆みな驚きて言ふ『これはダビデの子にあらぬか』24然るにパリサイ人ききて言ふ『この人、惡鬼の首ベルゼブルによらでは、惡鬼を逐ひ出すことなし』25イエス彼らの思を知りて言ひ給ふ『すべて分れ爭ふ國はほろび、分れ爭ふ町また家はたたず。26サタンもしサタンを逐ひ出さば、自ら分れ爭ふなり。さらばその國いかで立つべき。27我もしベルゼブルによりて惡鬼を逐ひ出さば、汝

らの子は誰によりて之を逐ひ出すか。この故に彼らは汝らの審判人となるべし。28されど我もし神の靈によりて惡鬼を逐ひ出さば、神の國は既に汝らに到れるなり。29人まづ強き者を縛らずば、いかで強き者の家に入りて、その家財を奪ふことを得ん、縛りて後その家を奪ふべし。30我と偕ならぬ者は我にそむき、我とともに集めぬ者は散すなり。31この故に汝らに告ぐ、人の凡ての罪と瀆とは赦されん、されど御靈を瀆すことは赦されじ。32誰にても言をもて人の子に逆ふ者は赦されん、されど言をもて聖靈に逆ふ者は、この世にても後の世にても赦されじ。33或は樹をも善しとし、果をも善しとせよ。或は樹をも惡しとし、果をも惡しとせよ。樹は果によりて知らるるなり。34蝮の裔よ、なんぢら惡しき者なるに、爭で善きことを言ひ得んや。それ心に滿つるより口に言はるるなり。35善き人は善き倉より善き物をいだし、惡しき人は惡しき倉より惡しき物をいだす。36われ汝らに告ぐ、人の語る凡ての虛しき言は、審判の日に糺さるべし。37それは汝の言によりて義とせられ、汝の言によりて罪せらるるなり』38ここに或學者・パリサイ人ら答へて言ふ『師よ、われら汝の徵を見んことを願ふ』39答へて言ひたまふ『邪曲にして不義なる代は徵を求む、されど預言者ヨナの徵のほかに徵は與へられじ。40即ち「ヨナが三日 三夜、大魚の腹の中に在りし」ごとく、人の子も三日 三夜、地の中に在るべきなり。41ニネベの人、審判のとき今の代の人とともに立ちて之が罪を定めん、彼らはヨナの宣ぶる言によりて悔改めたり。視よ、ヨナよりも勝るもの此處に在り。42南の女王、審判のとき今の代の人とともに起きて之が罪を定めん、彼はソロモンの智慧を聽かんとて地の極より來れり。視よ、ソロモンよりも勝る者ここに在り。43穢れし靈、人を出づるときは、水なき處を巡りて休を求む、而して得ず。44乃ち「わが出でし家に歸らん」といひ、歸りて、その家の空きて掃き淨められ、飾られたるを見、45遂に往きて己より惡しき他の七つの靈を連れきたり、共に入りて此處に住む。されば其の人の後の狀は前よりも惡しくなるなり。邪曲なる此の代もまた斯くの如くならん』46イエスなほ群衆にかたり居給ふとき、視よ、その母と兄弟たちと、彼に物 言はんとて外に立つ。47或 人イエスに言ふ『視よ、なんぢの母と兄弟たちと、汝に物 言はんとて外に立てり』48イエス告げし者に答へて言ひたまふ『わが母とは誰ぞ、わが兄弟とは誰ぞ』49かくて手をのべ、弟子たちを指して言ひたまふ『視よ、これは我が母、わが兄弟なり。50誰にても天にいます我が父の御意をおこなふ者は、即ち我が兄弟、わが姉妹、わが母なり』

第十三章

1その日イエスは家を出でて、海邊に坐したまふ。2大なる群衆みもとに集りたれば、イエスは舟に乘りて坐したまひ、群衆はみな岸に立てり。3譬にて數多のことを語りて言ひたまふ、『視よ、種播く者まかんとて出づ。4播くとき路の傍らに落ちし種あり、鳥きたりて啄む。5土うすき磽地に落ちし種あり、土 深からぬによりて速かに萠え出でたれど、6日の昇りし時やけて根なき故に枯る。7茨の地に落ちし種あり、茨そだちて之を塞ぐ。8良き地に落ちし種あり、あるひは百 倍、あるひは六十倍、あるひは三十 倍の實を結べり。9耳ある者は聽くべし』10弟子たち御許に來りて言ふ『なにゆゑ譬にて彼らに語り給ふか』11答へて言ひ給ふ『なんぢらは天國の奥義を知ることを許されたれど、彼らは許されず。12それ誰にても、有てる人は與へられて愈々 豐ならん。されど有たぬ人は、その有てる物をも取らるべし。13この故に彼らには譬にて語る、これ彼らは見ゆれども見ず、聞ゆれども聽かず、また悟らぬ故なり、14かくてイザヤの預言は、彼らの上に成就す。曰く、「なんぢら聞きて聞けども悟らず、見て見れども認めず。15この民の心は鈍く、耳は聞くに懶く、目は閉ぢたればなり。これ目にて見、耳にて聽き、心にて悟り、飜へりて、我に醫さる事なからん爲なり」16されど汝らの目なんぢらの耳は、見るゆゑに聞くゆゑに、幸福なり。17まことに汝らに告ぐ、多くの預言者・義人は、汝らが見る所を見んとせしが見ず、なんぢらが聞く所を聞かんとせしが聞かざりしなり。18されば汝ら種播く者の譬を聽け。19誰にても天國の言をききて悟らぬときは、惡しき者きたりて、其の心に播かれたるものを奪ふ。路の傍らに播かれしとは斯かる人なり。20磽地に播かれしとは、御言をききて、直ちに喜び受くれども、21己に根なければ暫し耐ふるのみにて、御言のために艱難あるひは迫害の起るときは、直ちに躓くものなり。22茨の中に播かれしとは、御言をきけども、世の心 勞と財貨の惑とに、御言を塞

がれて實らぬものなり。23良き地に播かれしとは、御言をききて悟り、實を結びて、あるひは百倍、あるひは六十倍、あるひは三十倍に至るものなり』24また他の譬を示して言ひたまふ『天國は良き種を畑にまく人のごとし。25人々の眠れる間に、仇きたりて麥のなかに毒麥を播きて去りぬ。26苗はえ出でて實りたるとき、毒麥もあらはる。27僕ども來りて家主にいふ「主よ、畑に播きしは良き種ならずや、然るに如何にして毒麥あるか」28主人いふ「仇のなしたるなり」僕ども言ふ「さらば我らが往きて之を抜き集むるを欲するか」29主人いふ「いな、恐らくは毒麥を抜き集めんとて、麥をも共に抜かん。30兩ながら收穫まで育つに任せよ。收穫のとき我かる者に「まづ毒麥を抜きあつめて、焚くために之を束ね、麥はあつめて我が倉に納れよ」と言はん」』31また他の譬を示して言ひたまふ『天國は一粒の芥種のごとし、人これを取りてその畑に播くときは、32萬の種よりも小けれど、育ちては他の野菜よりも大く、樹となりて、空の鳥きたり其の枝に宿るほどなり』33また他の譬を語りたまふ『天國はパンだねのごとし、女これを取りて、三斗の粉の中に入るれば、ことごとく脹れいだすなり』34イエスすべて此等のことを、譬にて群衆に語りたまふ、譬ならでは何事も語り給はず。35これ預言者によりて云はれたる言の成就せん爲なり。曰く、『われ譬を設けて口を開き、世の創より隱れたる事を言ひ出さん』36ここに群衆を去らしめて、家に入りたまふ。弟子たち御許に來りて言ふ『畑の毒麥の譬を我らに解きたまへ』37答へて言ひ給ふ『良き種を播く者は人の子なり、38畑は世界なり、良き種は天國の子どもなり、毒麥は惡しき者の子どもなり、39之を播きし仇は惡魔なり、收穫は世の終なり、刈る者は御使たちなり。40されば毒麥の集められて火に焚かるる如く、世の終にも斯くあるべし。41人の子その使たちを遣さん。彼ら御國の中より凡ての顚躓となる物と不法をなす者とを集めて、42火の爐に投げ入るべし、其處にて哀哭・切齒することあらん。43其のとき義人は父の御國にて日のごとく輝かん。耳ある者は聽くべし。44天國は畑に隱れたる寶のごとし。人見出さば、之を隱しおきて、喜びゆき、有てる物をことごとく賣りて其の畑を買ふなり。45また天國は良き眞珠を求むる商人のごとし。46價たかき眞珠一つを見出さば、往きて有てる物をことごとく賣りて、之を買ふなり。47また天國は、海におろして各樣のものを集むる網のごとし。48充つれば岸にひきあげ、坐して良きものを器に入れ、惡しきものを棄つるなり。49世の終にも斯くあるべし。御使たち出でて、義人の中より惡人を分ちて、50之を火の爐に投げ入るべし。其處にて哀哭・切齒することあらん。51汝等これらの事をみな悟りしか』彼等いふ『然り』52また言ひ給ふ『この故に、天國のことを教へられたる凡ての學者は、新しき物と舊き物とをその倉より出す家主のごとし』53イエスこれらの譬を終へて此處を去りたまふ。54己が鄉にいたり、會堂にて教へ給へば、人々おどろきて言ふ『この人はこの智慧と此等の能力とを何處より得しぞ。55これ木匠の子にあらずや、其の母はマリヤ、其の兄弟はヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダにあらずや。56又その姉妹も皆われらと共にをるに非ずや。然るに此等のすべての事は何處より得しぞ』57遂に人々かれに躓けり。イエス彼らに言ひたまふ『預言者は、おのが鄉おのが家の外にて尊ばれざる事なし』58彼らの不信仰によりて其處にては多くの能力ある業を爲し給はざりき。

第十四章

1そのころ、國守ヘロデ、イエスの噂をききて、2侍臣どもに言ふ『これバプテスマのヨハネなり。かれ死人の中より甦へりたり、さればこそ此等の能力その内に働くなれ』3ヘロデ先に、己が兄弟ピリポの妻ヘロデヤの爲にヨハネを捕へ、縛りて獄に入れたり。4ヨハネ、ヘロデに『かの女を納るるは宜しからず』と言ひしに因る。5かくてヘロデ、ヨハネを殺さんと思へど、群衆を懼れたり。群衆ヨハネを預言者とすればなり。6然るにヘロデの誕生日に當り、ヘロデヤの娘その席上に舞をまひてヘロデを喜ばせたれば、7ヘロデ之に何にても求むるままに與へんと誓へり。8娘その母に唆かされて言ふ『バプテスマのヨハネの首を盆に載せてここに賜はれ』9王憂ひたれど、その誓と席に在る者とに對して、之を與ふることを命じ、10人を遣し獄にてヨハネの首を斬り、11その首を盆にのせて持ち來らしめ、之を少女に與ふ。少女はこれを母に捧ぐ。12ヨハネの弟子たち來り、屍體を取りて葬り、往きて、イエスに告ぐ。13イエス之を聞きて人を避け、其處より舟にのりて寂しき處に往き給ひしを群衆ききて町々より徒歩にて從ひゆく。14イエス出でて

大なる群衆を見、これを憫みて、その病める者を醫し
給へり。15夕になりたれば、弟子たち御許に來りて言ふ
『ここは寂しき處、はや時も晩し、群衆を去らしめ、
村々に往きて、己が爲に食物を買はせ給へ』16イエス言
ひ給ふ『かれら往くに及ばず、汝ら之に食物を與へよ』
17弟子たち言ふ『われらが此處にもてるは、唯五つのパ
ンと二つの魚とのみ』18イエス言ひ給ふ『それを我に持
ちきたれ』19かくて群衆に命じて草の上に坐せしめ、五
つのパンと二つの魚とを取り、天を仰ぎて祝し、パンを
裂きて、弟子たちに與へ給へば、弟子たち之を群衆に與
ふ。20凡ての人食ひて飽く、裂きたる餘を集めしに十二
の筐に滿ちたり。21食ひし者は、女と子供とを除きて凡
そ五千人なりき。22イエス直ちに弟子たちを強ひて舟
に乘らせ、自ら群衆をかへす間に、彼方の岸に先に往か
しむ。23かくて群衆を去らしめてのち、祈らんとて竊に
山に登り、夕になりて獨そこにゐ給ふ。24舟ははや陸よ
り數丁はなれ、風逆ふによりて波に難されゐたり。25
夜明の四時ごろ、イエス海の上を歩みて、彼らに到り給
ひしに、26弟子たち其の海の上を歩み給ふを見て心騒
ぎ、變化の者なりと言ひて懼れ叫ぶ。27イエス直ちに彼
らに語りて言ひたまふ『心安かれ、我なり、懼るな』
28ペテロ答へて言ふ『主よ、もし汝ならば我に命じ、水
を蹈みて御許に到らしめ給へ』29『來れ』と言ひ給へ
ば、ペテロ舟より下り、水の上を歩みてイエスの許に往
く。30然るに風を見て懼れ、沈みかかりければ、叫びて
言ふ『主よ、我を救ひたまへ』31イエス直ちに御手を伸
べ、これを捉へて言ひ給ふ『ああ信仰うすき者よ、何ぞ
疑ふか』32相共に舟に乘りしとき、風やみたり。33舟
に居る者どもイエスを拜して言ふ『まことに汝は神の子
なり』34遂に渡りてゲネサレの地に著きしに、35その處
の人々イエスを認めて、あまねく四方に人をつかはし、
又すべての病める者を連れきたり、36ただ御衣の總にだ
に觸らしめ給はんことを願ふ、觸りし者はみな醫されたり。

第十五章

1ここにパリサイ人・學者ら、エルサレムより來りてイエ
スに言ふ、2『なにゆゑ汝の弟子は、古への人の言傳を
犯すか、食事のときに手を洗はぬなり』3答へて言ひ給
ふ『なにゆゑ汝らは、また汝らの言傳によりて神の誡命
を犯すか。4即ち神は「父母を敬へ」と言ひ「父または
母を罵る者は必ず殺さるべし」と言ひたまへり。5然る
に汝らは「誰にても父または母に對ひて、我が負ふ所の
ものは供物となりたりと言はば、6父または母を敬ふに
及ばず」と言ふ。斯くその言傳によりて神の言を空しう
す。7僞善者よ、宜なる哉、イザヤは汝らに就きて能く
預言せり。曰く、8「この民は口唇にて我を敬ふ、され
ど其の心は我に遠ざかる。9ただ徒らに我を拜む。人の
訓誡を教とし教へて」』10かくて群衆を呼び寄せて言ひ
たまふ『聽きて悟れ。11口に入るものは人を汚さず、さ
れど口より出づるものは、これ人を汚すなり』12ここに
弟子たち御許に來りていふ『御言をききてパリサイ人の
躓きたるを知り給ふか』13答へて言ひ給ふ『わが天の父
の植ゑ給はぬものは、みな拔かれん。14彼らを捨てお
け、盲人を手引する盲人なり、盲人もし盲人を手引せ
ば、二人とも穴に落ちん』15ペテロ答へて言ふ『その譬
を我らに解き給へ』16イエス言ひ給ふ『なんぢらも今な
ほ悟りなきか。17凡て口に入るものは腹にゆき、遂に厠
に棄てらるる事を悟らぬか。18されど口より出づるもの
は心より出づ、これ人を汚すものなり。19それ心より惡
しき念いづ、すなはち殺人・姦淫・淫行・竊盜・僞證・
誹謗、20これらは人を汚すものなり、されど洗はぬ手に
て食する事は人を汚さず』21イエスここを去りてツロと
シドンとの地方に往き給ふ。22視よ、カナンの女その邊
より出できたり、叫びて『主よ、ダビデの子よ、我を憫
み給へ、わが娘、惡鬼につかれて甚く苦しむ』と言ふ。
23されどイエス一言も答へ給はず。弟子たち來り請ひて
言ふ『女を歸したまへ、我らの後より叫ぶなり』24答へ
て言ひたまふ『我はイスラエルの家の失せたる羊のほか
に遣されず』25女きたり拜して言ふ『主よ、我を助けた
まへ』26答へて言ひたまふ『子供のパンをとりて小狗に
投げ與ふるは善からず』27女いふ『然り、主よ、小狗も
主人の食卓よりおつる食屑を食ふなり』28ここにイエス
答へて言ひたまふ『をんなよ、汝の信仰は大なるかな、
願のごとく汝になれ』娘この時より癒えたり。29イエス
此處を去り、ガリラヤの海邊にいたり、而して山に登
り、そこに坐し給ふ。30大なる群衆、跛者・不具・
盲人・唖者および他の多くの者を連れ來りて、イエスの
足下に置きたれば、醫し給へり。31群衆は、唖者の物い
ひ、不具の癒え、跛者の歩み、盲人の見えたるを見て之

を怪しみ、イスラエルの神を崇めたり。32イエス弟子たちを召して言ひ給ふ『われ此の群衆をあはれむ、既に三日われと偕にをりて食ふべき物なし。飢ゑたるままにて歸らしむるを好まず、恐らくは途にて疲れ果てん』33弟子たち言ふ『この寂しき地にて、斯く大なる群衆を飽かしむべき多くのパンを、何處より得べき』34イエス言ひ給ふ『パン幾つあるか』彼らいふ『七つ、また小き魚すこしあり』35イエス群衆に命じて地に坐せしめ、36七つのパンと魚とを取り、謝して之をさき弟子たちに與へ給へば、弟子たちこれを群衆に與ふ。37凡ての人くらひて飽き、裂きたる餘を拾ひしに、七つの籃に滿ちたり。38食ひし者は、女と子供とを除きて四千人なりき。39イエス群衆をかへし、舟に乘りてマガダンの地方に往き給へり。

第十六章

1パリサイ人とサドカイ人と來りてイエスを試み、天よりの徴を示さんことを請ふ。2答へて言ひたまふ『夕には汝ら「空あかき故に晴ならん」と言ひ、3また朝には「そら赤くして曇る故に、今日は風雨ならん」と言ふ。なんぢら空の氣色を見分くることを知りて、時の徴を見分くること能はぬか。4邪曲にして不義なる代は徴を求む、されどヨナの徴の外に徴は與へられじ』かくて彼らを離れて去り給ひぬ。5弟子たち彼方の岸に到りしに、パンを携ふることを忘れたり。6イエス言ひたまふ『愼みてパリサイ人とサドカイ人とのパン種に心せよ』7弟子たち互に『我らはパンを携へざりき』と語り合ふ。8イエス之を知りて言ひ給ふ『ああ信仰うすき者よ、何ぞパン無きことを語り合ふか。9未だ悟らぬか、五つのパンを五千人に分ちて、その餘を幾籃ひろひ、10また七つのパンを四千人に分ちて、その餘を幾籃ひろひしかを覺えぬか。11我が言ひしはパンの事にあらぬを何ぞ悟らざる。唯パリサイ人とサドカイ人とのパンだねに心せよ』12ここに弟子たちイエスの心せよと言ひ給ひしは、パンの種にはあらで、パリサイ人とサドカイ人との教なることを悟れり。13イエス、ピリポ・カイザリヤの地方にいたり、弟子たちに問ひて言ひたまふ『人々は人の子を誰と言ふか』14彼等いふ『或人はバプテスマのヨハネ、或人はエリヤ、或人はエレミヤ、また預言者の一人』15彼らに言ひたまふ『なんぢらは我を誰と言ふか』16シモン・ペテロ答へて言ふ『なんぢはキリスト、活ける神の子なり』17イエス答へて言ひ給ふ『バルヨナ・シモン、汝は幸福なり、汝に之を示したるは血肉にあらず、天にいます我が父なり。18我はまた汝に告ぐ、汝はペテロなり、我この磐の上に我が教會を建てん、黄泉の門はこれに勝たざるべし。19われ天國の鍵を汝に與へん、凡そ汝が地にて縛ぐ所は天にても縛ぎ、地にて解く所は天にても解くなり』20ここにイエス、己がキリストなる事を誰にも告ぐなと、弟子たちを戒め給へり。21この時よりイエス・キリスト、弟子たちに、己のエルサレムに往きて、長老・祭司長・學者らより多くの苦難を受け、かつ殺され、三日めに甦へるべき事を示し始めたまふ。22ペテロ、イエスを傍にひき戒め出でて言ふ『主よ、然あらざれ、此の事なんぢに起らざるべし』23イエス振反りてペテロに言ひ給ふ『サタンよ、我が後に退け、汝はわが躓物なり、汝は神のことを思はず、反つて人のことを思ふ』24ここにイエス弟子たちに言ひたまふ『人もし我に從ひ來らんと思はば、己をすて、己が十字架を負ひて、我に從へ。25己が生命を救はんと思ふ者は、これを失ひ、我がために己が生命をうしなふ者は、之を得べし。26人、全世界を贏くとも、己が生命を損せば、何の益あらん、又その生命の代に何を與へんや。27人の子は父の榮光をもて、御使たちと共に來らん。その時おのおのの行爲に隨ひて報ゆべし。28まことに汝らに告ぐ、ここに立つ者のうちに、人の子のその國をもて來るを見るまでは、死を味はぬ者どもあり』

第十七章

1六日の後、イエス、ペテロ、ヤコブ及びヤコブの兄弟ヨハネを率きつれ、人を避けて高き山に登りたまふ。2かくて彼らの前にてその狀かはり、其の顔は日のごとく輝き、その衣は光のごとく白くなりぬ。3視よ、モーセとエリヤとイエスに語りつつ彼らに現る。4ペテロ差出でてイエスに言ふ『主よ、我らの此處に居るは善し。御意ならば我ここに三つの廬を造り、一つを汝のため、一つをモーセのため、一つをエリヤの爲にせん』5彼なほ語りをるとき、視よ、光れる雲かれらを覆ふ。また雲より聲あり、曰く『これは我が愛しむ子、わが悦ぶ者なり、汝ら之に聽け』6弟子たち之を聞きて倒れ伏し、懼るること甚だし。7イエスその許にきたり之に觸りて

『起きよ、懼るな』と言ひ給へば、8彼ら目を擧げしに、イエス一人の他は誰も見えざりき。9山を下るとき、イエス彼らに命じて言ひたまふ『人の子の死人の中より甦へるまでは、見たることを誰にも語るな』10弟子たち問ひて言ふ『さらばエリヤ先づ來るべしと學者らの言ふは何ぞ』11答へて言ひたまふ『實にエリヤ來りて萬の事をあらためん。12我なんぢらに告ぐ、エリヤは既に來れり。されど人々これを知らず、反つて心のままに待へり。かくのごとく人の子もまた人々より苦しめらるべし』13ここに弟子たちバプテスマのヨハネを指して言ひ給ひしなるを悟れり。14かれら群衆の許に到りしとき、或人御許にきたり跪づきて言ふ、15『主よ、わが子を憫みたまへ。癲癇にて難み、しばしば火の中に、しばしば水の中に倒るるなり。16之を御弟子たちに連れ來りしに、醫すこと能はざりき』17イエス答へて言ひ給ふ『ああ信なき曲れる代なるかな、我いつまで汝らと偕にをらん、何時まで汝らを忍ばん。その子を我に連れきたれ』18遂にイエスこれを禁め給へば、惡鬼いでてその子この時より癒えたり。19ここに弟子たち竊にイエスに來りて言ふ『われらは何故に逐ひ出し得ざりしか』20彼らに言ひ給ふ『なんぢら信仰うすき故なり。まことに汝らに告ぐ、もし芥種一粒ほどの信仰あらば、この山に「此處より彼處に移れ」と言ふとも移らん、かくて汝ら能はぬこと無かるべし』21[なし]22彼らガリラヤに集ひをる時、イエス言ひたまふ『人の子は人の手に付され、23人々は之を殺さん、かくて三日めに甦へるべし』弟子たち甚く悲しめり。24彼らカペナウムに到りしとき、納金を集むる者どもペテロに來りて言ふ『なんぢらの師は納金を納めぬか』25ペテロ『納む』と言ひ、やがて家に入りしに、逸速くイエス言ひ給ふ『シモンいかに思ふか、世の王たちは稅または貢を誰より取るか、己が子よりか、他の者よりか』26ペテロ言ふ『ほかの者より』イエス言ひ給ふ『されば子は自由なり。27されど彼らを躓かせぬ爲に、海に往きて釣をたれ、初に上る魚をとれ、其の口をひらかば銀貨一つを得ん、それを取りて我と汝との爲に納めよ』

第十八章

1そのとき弟子たちイエスに來りて言ふ『しからば天國にて大なるは誰か』2イエス幼兒を呼び、彼らの中に置きて言ひ給ふ3『まことに汝らに告ぐ、もし汝ら飜へりて幼兒の如くならずば、天國に入るを得じ。4されば誰にても此の幼兒のごとく己を卑うする者は、これ天國にて大なる者なり。5また我が名のために、かくのごとき一人の幼兒を受くる者は、我を受くるなり。6されど我を信ずる此の小き者の一人を躓かする者は、寧ろ大なる碾臼を頸に懸けられ、海の深處に沈められんかた益なり。7この世は躓物あるによりて禍害なるかな。躓物は必ず來らん、されど躓物を來らする人は禍害なるかな。8もし汝の手または足なんぢを躓かせば、切りて棄てよ。不具または蹇跛にて生命に入るは、兩手兩足ありて永遠の火に投げ入れらるるよりも勝るなり。9もし汝の眼なんぢを躓かせば、抜きて棄てよ。片眼にて生命に入るは、兩眼ありて火のゲヘナに投げ入れらるるよりも勝るなり。10汝ら愼みて此の小き者の一人をも侮るな。我なんぢらに告ぐ、彼らの御使たちは天にありて、天にいます我が父の御顏を常に見るなり。11[なし]12汝等いかに思ふか、百匹の羊を有てる人あらんに、若しその一匹まよはば、九十九匹を山に遺しおき、往きて迷へるものを尋ねぬか。13もし之を見出さば、まことに汝らに告ぐ、迷はぬ九十九匹に勝りて此の一匹を喜ばん。14かくのごとく此の小き者の一人の亡ぶるは、天にいます汝らの父の御意にあらず。15もし汝の兄弟罪を犯さば、往きてただ彼とのみ相對して諫めよ。もし聽かば其の兄弟を得たるなり。16もし聽かずば、一人・二人を伴ひ往け、これ二三の證人の口に由りて、凡ての事の慥められん爲なり。17もし彼等にも聽かずば、教會に告げよ。もし教會にも聽かずば、之を異邦人または取稅人のごとき者とすべし。18まことに汝らに告ぐ、すべて汝らが地にて縛ぐ所は天にても縛ぎ、地にて解く所は天にても解くなり。19また誠に汝らに告ぐ、もし汝等のうち二人、何にても求むる事につき地にて心を一つにせば、天にいます我が父は之を成し給ふべし。20二三人わが名によりて集る所には、我もその中に在るなり。21ここにペテロ御許に來りて言ふ『主よ、わが兄弟われに對して罪を犯さば幾たび赦すべきか、七度までか』22イエス言ひたまふ『否、われ「七度まで」とは言はず「七度を七十倍するまで」と言ふなり。23この故に、天國はその家來どもと計算をなさんとする王のごとし。24計算を始めしとき、一萬タラントの負債ある家來つれ

來られしが、25償ひ方なかりしかば、其の主人、この者とその妻子と凡ての所有とを賣りて償ふことを命じたるに、26その家來ひれ伏し拜して言ふ「寛くし給へ、さらば悉とく償はん」27その家來の主人あはれみて之を解き、その負債を免したり。28然るに其の家來いでて、己より百デナリを負ひたる一人の同僚にあひ、之をとらへ、喉を締めて言ふ「負債を償へ」29その同僚ひれ伏し、願ひて「寛くし給へ、さらば償はん」と言へど、30肯はずして往き、その負債を償ふまで之を獄に入れたり。31同僚ども有りし事を見て甚く悲しみ、往きて有りし凡ての事をその主人に告ぐ。32ここに主人かれを呼び出して言ふ「惡しき家來よ、なんぢ願ひしによりて、かの負債をことごとく免せり。33わが汝を憫みしごとく、汝もまた同僚を憫むべきにあらずや」34斯くその主人、怒りて、負債をことごとく償ふまで彼を獄卒に付せり。35もし汝等おのおの心より兄弟を赦さずば、我が天の父も亦なんぢらに斯のごとく爲し給ふべし』

第十九章

1イエスこれらの言を語り終へて、ガリラヤを去り、ヨルダンの彼方なるユダヤの地方に來り給ひしに、2大なる群衆したがひたれば、此處にて彼らを醫し給へり。3パリサイ人ら來り、イエスを試みて言ふ『何の故にかかはらず、人その妻を出すは可きか』4答へて言ひたまふ『人を造り給ひしもの、元始より之を男と女とに造り、而して、5「かかる故に人は父母を離れ、その妻に合ひて、二人のもの一體となるべし」と言ひ給ひしを未だ讀まぬか。6されば、はや二人にはあらず、一體なり。この故に神の合せ給ひし者は、人これを離すべからず』7彼らイエスに言ふ『さらば何故モーセは離縁状を與へて出すことを命じたるか』8彼らに言ひ給ふ『モーセは汝の心つれなきによりて妻を出すことを許したり。されど元始より然にはあらぬなり。9われ汝らに告ぐ、おほよそ淫行の故ならで其の妻をいだし他に娶る者は、姦淫を行ふなり』10弟子たちイエスに言ふ『人もし妻のことに於てかくのごとくば、娶らざるに如かず』11彼らに言ひたまふ『凡ての人この言を受け容るるにはあらず、ただ授けられたる者のみなり。12それ生れながらの閹人あり、人に爲られたる閹人あり、また天國のために自らなりたる閹人あり、之を受け容れうる者は受け容るべし』

13ここに人々イエスの手をおきて祈り給はんことを望みて、幼兒らを連れ來りしに、弟子たち禁めたれば、14イエス言ひたまふ『幼兒らを許せ、我に來るを止むな、天國はかくのごとき者の國なり』15かくて手を彼らの上におきて此處を去り給へり。16視よ、或人みもとに來りて言ふ『師よ、われ永遠の生命をうる爲には、如何なる善き事を爲すべきか』17イエス言ひたまふ『善き事につきて何ぞ我に問ふか、善き者は唯ひとりのみ。汝もし生命に入らんと思はば誡命を守れ』18彼いふ『孰を』イエス言ひたまふ『「殺すなかれ」「姦淫するなかれ」「盜むなかれ」「僞證を立つる勿れ」19「父と母とを敬へ」また「己のごとく汝の隣を愛すべし」』20その若者いふ『我みな之を守れり、なほ何を缺くか』21イエス言ひたまふ『なんぢ若し全からんと思はば、往きて汝の所有を賣りて貧しき者に施せ、さらば財寶を天に得ん。かつ來りて我に從へ』22この言をききて、若者悲しみつつ去りぬ。大なる資産を有てる故なり。23イエス弟子たちに言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、富める者の天國に入るは難し。24復なんぢらに告ぐ、富める者の神の國に入るよりは、駱駝の針の孔を通るかた反つて易し』25弟子たち之をきき、甚だしく驚きて言ふ『さらば誰か救はるることを得ん』26イエス彼らに目を注めて言ひ給ふ『これは人に能はねど、神は凡ての事をなし得るなり』27ここにペテロ答へて言ふ『視よ、われら一切をすてて汝に從へり、されば何を得べきか』28イエス彼らに言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、世あらたまりて人の子その榮光の座位に坐するとき、我に從へる汝等もまた十二の座位に坐して、イスラエルの十二の族を審かん。29また凡そ我が名のために、或は家、あるひは兄弟、あるひは姉妹、あるひは父、あるひは母、あるひは子、あるひは田畑を棄つる者は、數倍を受け、また永遠の生命を嗣がん。30されど多くの先なる者後に、後なる者先になるべし。

第二十章

1天國は勞動人を葡萄園に雇ふために、朝早く出でたる主人のごとし。2一日一デナリの約束をなして、勞動人どもを葡萄園に遣す。3また九時ごろ出でて市場に空しく立つ者どもを見て、4「なんぢらも葡萄園に往け、相當のものを與へん」といへば、彼らも往く。5十二時頃と三時頃とに復いでて前のごとくす。6五時頃また

出でしに、なほ立つ者どものあるを見ていふ「何ゆゑ終日ここに空しく立つか」 7かれら言ふ「たれも我らを雇はぬ故なり」主人いふ「なんぢらも葡萄園に往け」 8夕になりて葡萄園の主人その家 司に言ふ「労動人を呼びて、後の者より始め、先の者にまで賃銀をはらへ」 9かくて五 時ごろに雇はれしもの來りて、おのおの一デナリを受く。 10先の者きたりて、多く受くるならんと思ひしに、之も亦おのおの一デナリを受く。 11受けしとき、家主にむかひ呟きて言ふ、 12「この後の者どもは僅に一時間はたらきたるに、汝は一日の勞と暑さとを忍びたる我らと均しく之を遇へり」 13主人こたへて其の一人に言ふ「友よ、我なんぢに不正をなさず、汝は我と一デナリの約束をせしにあらずや。 14己が物を取りて往け、この後の者に汝とひとしく與ふるは、我が意なり。 15わが物を我が意のままにするは可からずや、我よきが故に汝の目あしきか」 16かくのごとく後なる者は先に、先なる者は後になるべし』 17イエス、エルサレムに上らんとし給ふとき、竊に十二 弟子を近づけて、途すがら言ひ給ふ、 18『視よ、我らエルサレムに上る、人の子は祭司長・學者らに付されん。彼ら之を死に定め、 19また嘲弄し、鞭うち、十字架につけん爲に異邦人に付さん、かくて彼は三日めに甦へるべし』 20ここにゼベダイの子らの母、その子らと共に御許にきたり、拝して何事か求めんとしたるに、 21イエス彼に言ひたまふ『何を望むか』かれ言ふ『この我が二人の子が汝の御國にて、一人は汝の右に、一人は左に坐せんことを命じ給へ』 22イエス答へて言ひ給ふ『なんぢらは求むる所を知らず、我が飲まんとする酒杯を飲み得るか』かれら言ふ『得るなり』 23イエス言ひたまふ『實に汝らは我が酒杯を飲むべし、されど我が右 左に坐することは、これ我の與ふべきものならず、我が父より備へられたる人こそ與へらるるなれ』 24十 人の弟子これを聞き、二人の兄 弟の事によりて憤ほる。 25イエス彼らを呼びて言ひたまふ『異邦人の君のその民を宰どり、大なる者の民の上に權を執ることは、汝らの知る所なり。 26汝らの中にては然らず、汝らの中に大ならんと思ふ者は、汝らの役者となり、 27首たらんと思ふ者は汝らの僕となるべし。 28かくのごとく、人の子の來れるも事へらるる爲にあらず、反つて事ふることをなし、又おほくの人の贖償として己が生命を與へん爲なり』 29彼らエリコを出づるとき、大なる群衆イエスに從へり。 30視よ、二人の盲人、路の傍らに坐しをりしが、イエスの過ぎ給ふことを聞き、叫びて言ふ『主よ、ダビデの子よ、我らを憫みたまへ』 31群衆かれらを禁めて默さしめんとしたれど、愈々叫びて言ふ『主よ、ダビデの子よ、我らを憫み給へ』 32イエス立ちどまり、彼らを呼びて言ひ給ふ『わが汝らに何を爲さんことを望むか』 33彼ら言ふ『主よ、目の開かれんことなり』 34イエスいたく憫みて彼らの目に觸り給へば、直ちに物 見ることを得て、イエスに從へり。

第二十一章

1彼らエルサレムに近づき、オリブ山の邊なるベテパゲに到りし時、イエス二人の弟子を遣さんとして言ひ給ふ、 2『向の村にゆけ、やがて繋ぎたる驢馬のその子とともに在るを見ん、解きて我に牽ききたれ。 3誰かもし汝らに何とか言はば「主の用なり」と言へ、さらば直ちに之を遣さん』 4此の事の起りしは、預言者によりて云はれたる言の成就せん爲なり。曰く、 5『シオンの娘に告げよ、「視よ、汝の王、なんぢに來り給ふ。柔和にして驢馬に乘り、軛を負ふ驢馬の子に乘りて」』 6弟子たち往きて、イエスの命じ給へる如くして、 7驢馬とその子とを牽ききたり、己が衣をその上におきたれば、イエス之に乘りたまふ。 8群衆の多くはその衣を途にしき、或者は樹の枝を伐りて途に敷く。 9かつ前にゆき後にしたがふ群衆よばはりて言ふ『ダビデの子にホサナ、讃むべきかな、主の御名によりて來る者。いと高き處にてホサナ』 10遂にエルサレムに入り給へば、都 擧りて騒 立ちて言ふ『これは誰なるぞ』 11群衆いふ『これガリラヤのナザレより出でたる預言者イエスなり』 12イエス宮に入り、その内なる凡ての賣買する者を逐ひいだし、兩替する者の臺、鴿を賣る者の腰掛を倒して言ひ給ふ、 13『「わが家は祈の家と稱へらるべし」と録されたるに、汝らは之を強盜の巣となす』 14宮にて盲人・跛者どもイエスの爲し給へる不思議なる業と、宮にて呼はり『ダビデの子にホサナ』と言ひをる子 等とを見、憤ほりて、 16イエスに言ふ『なんぢ彼らの言ふところを聞くか』イエス言ひ給ふ『然り「嬰兒 乳兒の口に讃美を備へ給へり」とあるを未だ讀まぬか』 17遂に彼らを離れ、都を出でてベタニヤにゆき、そこに宿り給ふ。 18朝 早く

都にかへる時、イエス飢ゑたまふ。19路の傍なる一もとの無花果の樹を見て、その下に到り給ひしに、葉のほかに何をも見出さず、之に對ひて『今より後いつまでも果を結ばざれ』と言ひ給へば、無花果の樹たちどころに枯れたり。20弟子たち之を見、怪しみて言ふ『無花果の樹の斯く立刻に枯れたるは何ぞや』21イエス答へて言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、もし汝ら信仰ありて疑はずば、啻に此の無花果の樹にありし如きことを爲し得るのみならず、此の山に「移りて海に入れ」と言ふとも亦成るべし。22かつ祈のとき何にても信じて求めば、ことごとく得べし』23宮に到りて教へ給ふとき、祭司長・民の長老ら御許に來りて言ふ『何の權威をもて此 等の事をなすか、誰がこの權威を授けしか』24イエス答へて言ひたまふ『我も一言なんぢらに問はん、もし夫を告げなば、我もまた何の權威をもて此 等のことを爲すかを告げん。25ヨハネのバプテスマは何處よりぞ、天よりか、人よりか』かれら互に論じて言ふ『もし天よりと言はば「何 故かれを信ぜざりし」と言はん。26もし人よりと言はんか、人みなヨハネを預言者と認むれば、我らは群衆を恐る』27遂に答へて『知らず』と言へり。イエスもまた言ひたまふ『我も何の權威をもて此 等のことを爲すか汝らに告げじ。28なんぢら如何に思ふか、或人ふたりの子ありしが、その兄にゆきて言ふ「子よ、今日、葡萄園に往きて働け」29答へて「主よ、我ゆかん」と言ひて終に往かず。30また弟にゆきて同じやうに言ひしに、答へて「往かじ」と言ひたれど、後くいて往きたり。31この二人のうち孰か父の意を爲しし』彼らいふ『後の者なり』イエス言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、取税人と遊女とは汝らに先だちて神の國に入るなり。32それヨハネ義の道をもて來りしに、汝らは彼を信ぜず、取税人と遊女とは信じたり。然るに汝らは之を見し後も、なほ悔改めずして信ぜざりき。33また一つの譬を聽け、ある家主、葡萄園をつくりて籬をめぐらし、中に酒槽を掘り、櫓を建て、農夫どもに貸して遠く旅立せり。34果期ちかづきたれば、その果を受取らんとて僕らを農夫どもの許に遣ししに、35農夫どもその僕らを執へて、一人を打ちたたき、一人をころし、一人を石にて擊てり。36復ほかの僕らを前よりも多く遣ししに、之をも同じやうに遇へり。37「わが子は敬ふならん」と言ひて、遂にその子を遣ししに、38農夫ども此の子を見て互に言ふ「これは世嗣なり、いざ殺して、その嗣業を取らん」39かくて之をとらへ、葡萄園の外に逐ひ出して殺せり。40さらば葡萄園の主人きたる時、この農夫どもに何を爲さんか』41かれら言ふ『その惡人どもを飽くまで滅し、果期におよびて果を納むる他の農夫どもに葡萄園を貸し與ふべし』42イエス言ひたまふ『聖書に、「造家者らの棄てたる石は、これぞ隅の首石となれる、これ主によりて成れるにて、我らの目には奇しきなり」とあるを汝ら未だ讀まぬか。43この故に汝らに告ぐ、汝らは神の國をとられ、其の果を結ぶ國人は、之を與へらるべし。44この石の上に倒るる者はくだけ、又この石、人のうへに倒るれば、其の人を微塵とせん』45祭司長・パリサイ人ら、イエスの譬をきき、己らを指して語り給へるを悟り、46イエスを執へんと思へど群衆を恐れたり、群衆かれを預言者とするに因る。

第二十二章

1イエスまた譬をもて答へて言ひ給ふ 2『天國は己が子のために婚筵を設くる王のごとし。3婚筵に招きおきたる人々を迎へんとて僕どもを遣ししに、來るを肯はず。4復ほかの僕どもを遣すとて言ふ「招きたる人々に告げよ、視よ、晝餐は既に備りたり。我が牛も肥えたる畜も屠られて、凡ての物 備りたれば、婚筵に來れと」5然るに人々 顧みずして、或 者は己が畑に、或 者は己が商賣に往けり。6また他の者は僕を執へて、辱しめかつ殺したれば、7王 怒りて軍勢を遣し、かの兇行者を滅して其の町を燒きたり。8かくて僕どもに言ふ「婚筵は既に備りたれど、招きたる者どもは相應しからず。9されば汝ら街に往きて、遇ふほどの者を婚筵に招け」10僕ども途に出でて、善きも惡しきも遇ふほどの者をみな集めたれば、婚禮の席は客にて滿てり。11王、客を見んとて入り來り、一人の禮服を著けぬ者あるを見て、12之に言ふ「友よ、如何なれば禮服を著けずして此處に入りたるか」かれ默しゐたり。13ここに王、侍者らに言ふ「その手 足を縛りて外の暗黒に投げいだせ、其處にて哀哭・切齒することあらん」14それ招かるる者は多かれど、選ばるる者は少し』15ここにパリサイ人ら出でて、如何にしてかイエスを言の網に係けんと相 議り、16その弟子らをヘロデ黨の者どもと共に遣して言はしむ『師よ、我らは知る、なんじは眞にして、眞をもて神の道を教へ、か

つ誰をも憚りたまふ事なし、人の外貌を見給はぬ故なり。17されば我らに告げたまへ、貢をカイザルに納むるは可きか、惡しきか、如何に思ひたまふ』18イエスその邪曲なるを知りて言ひたまふ『僞善者よ、なんぞ我を試むるか。19貢の金を我に見せよ』彼らデナリ一つを持ち來る。20イエス言ひ給ふ『これは誰の像、たれの號なるか』21彼ら言ふ『カイザルのなり』ここに彼らに言ひ給ふ『さらばカイザルの物はカイザルに、神の物は神に納めよ』22彼ら之を聞きて怪しみ、イエスを離れて去り往けり。23復活なしといふサドカイ人ら、その日みもとに來り問ひて言ふ24『師よ、モーセは「人もし子なくして死なば、其の兄弟かれの妻を娶りて、兄弟のために世嗣を擧ぐべし」と云へり。25我らの中に七人の兄弟ありしが、兄めとりて死に、世嗣なくして其の妻を弟に遺したり。26その二その三より、その七まで皆かくの如く爲し、27最後にその女も死にたり。28されば復活の時、その女は七人のうち誰の妻たるべきか、彼ら皆これを妻としたればなり』29イエス答へて言ひ給ふ『なんぢら聖書をも神の能力をも知らぬ故に誤れり。30それ人よみがへりの時は、娶らず嫁がず、天に在る御使たちの如し。31死人の復活に就きては、神なんぢらに告げて、32「我はアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神なり」と言ひ給へることを未だ讀まぬか。神は死にたる者の神にあらず、生ける者の神なり』33群衆これを聞きて其の教に驚けり。34パリサイ人ら、イエスのサドカイ人らを黙さしめ給ひしことを聞きて相集り、35その中なる一人の教法師、イエスを試むる爲に問ふ36『師よ、律法のうち孰の誡命が大なる』37イエス言ひ給ふ『「なんぢ心を盡し、精神を盡し、思を盡して主なる汝の神を愛すべし」38これは大にして第一の誡命なり。39第二もまた之にひとし「おのれの如くなんぢの隣を愛すべし」40律法全體と預言者とは此の二つの誡命に據るなり』41パリサイ人らの集りたる時、イエス彼らに問ひて言ひ給ふ42『なんぢらはキリストに就きて如何に思ふか、誰の子なるか』かれら言ふ『ダビデの子なり』43イエス言ひ給ふ『さらばダビデ御靈に感じて何故かれを主と稱ふるか。曰く44「主わが主に言ひ給ふ、われ汝の敵を汝の足の下に置くまでは、我が右に坐せよ」45斯くダビデ彼を主と稱ふれば、爭でその子ならんや』46誰も一言だに答ふること能はず、その日より敢へて復イエスに問ふ者なかりき。

第二十三章

1ここにイエス群衆と弟子たちとに語りて言ひ給ふ、2『學者とパリサイ人とはモーセの座を占む。3されば凡てその言ふ所は守りて行へ、されどその所作には效ふな、彼らは言ふのみにて行はぬなり。4また重き荷を括りて人の肩にのせ、己は指にて之を動かさんともせず。5凡てその所作は人に見られん爲にするなり。即ちその經札を幅ひろくし、衣の總を大くし、6饗宴の上席、會堂の上座、7市場にての敬禮、また人にラビと呼ばるることを好む。8されど汝らはラビの稱を受くな、汝らの師は一人にして、汝等はみな兄弟なり。9地にある者を父と呼ぶな、汝らの父は一人、すなはち天に在す者なり。10また導師の稱を受くな、汝らの導師はひとり、即ちキリストなり。11汝等のうち大なる者は、汝らの役者とならん。12凡そおのれを高うする者は卑うせられ、己を卑うする者は高うせらるるなり。13禍害なるかな、僞善なる學者、パリサイ人よ、なんぢらは人の前に天國を閉して自ら入らず、入らんとする人の入るをも許さぬなり。14[なし]15禍害なるかな、僞善なる學者、パリサイ人よ、汝らは一人の改宗者を得んために海陸を經めぐり、既に得れば、之を己に倍したるゲヘナの子となすなり。16禍害なるかな、盲目なる手引よ、なんぢらは言ふ「人もし宮を指して誓はば事なし、宮の黄金を指して誓はば果さざるべからず」と。17愚にして盲目なる者よ、黄金と黄金を聖ならしむる宮とは孰か貴き。18なんぢら又いふ「人もし祭壇を指して誓はば事なし、其の上の供物を指して誓はば果さざるべからず」と。19盲目なる者よ、供物と供物を聖ならしむる祭壇とは孰か貴き。20されば祭壇を指して誓ふ者は、祭壇とその上の凡ての物とを指して誓ふなり。21宮を指して誓ふ者は、宮とその内に住みたまふ者とを指して誓ふなり。22また天を指して誓ふ者は、神の御座とその上に坐したまふ者とを指して誓ふなり。23禍害なるかな、僞善なる學者、パリサイ人よ、汝らは薄荷・蒔蘿・クミンの十分の一を納めて、律法の中にて尤も重き公平と憐憫と忠信とを等閑にす。されど之は行ふべきものなり、而して、彼もまた等閑にすべきものならず。24盲目なる手引よ、汝らは蚋

を漉し出して駱駝を呑むなり。25禍害なるかな、僞善なる學者、パリサイ人よ、汝らは酒杯と皿との外を潔くす、されど内は貪慾と放縱とにて滿つるなり。26盲目なるパリサイ人よ、汝まづ酒杯の内を潔めよ、さらば外も潔くなるべし。27禍害なるかな、僞善なる學者、パリサイ人よ、汝らは白く塗りたる墓に似たり、外は美しく見ゆれども、内は死人の骨とさまざまの穢とにて滿つ。28かくのごとく汝らも外は人に正しく見ゆれども、内は僞善と不法とにて滿つるなり。29禍害なるかな、僞善なる學者、パリサイ人よ、汝らは預言者の墓をたて、義人の碑を飾りて言ふ、30「我らもし先祖の時にありしならば、預言者の血を流すことに與せざりしものを」と。31かく汝らは預言者を殺しし者の子たるを自ら證す。32なんぢら己が先祖の桝目を充せ。33蛇よ、蝮の裔よ、なんぢら爭でゲヘナの刑罰を避け得んや。34この故に視よ、我なんぢらに預言者・智者・學者らを遣さんに、其の中の或 者を殺し、十字架につけ、或 者を汝らの會 堂にて鞭うち、町より町に逐ひ苦しめん。35之によりて義人アベルの血より、聖所と祭壇との間にて汝らが殺ししバラキヤの子ザカリヤの血に至るまで、地上にて流したる正しき血は、皆なんぢらに報い來らん。36まことに汝らに告ぐ、これらの事はみな今の代に報い來るべし。37ああエルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、遣されたる人々を石にて擊つ者よ、牝鷄のその雛を翼の下に集むるごとく、我なんぢの子どもを集めんとせしこと幾度ぞや、されど汝らは好まざりき。38視よ、汝らの家は廢てられて汝らに遺らん。39われ汝らに告ぐ「讃むべきかな、主の名によりて來る者」と、汝 等のいふ時の至るまでは、今より我を見ざるべし』

第二十四章

1イエス宮を出でてゆき給ふとき、弟子たち宮の建造物を示さんとて御許に來りしに、2答へて言ひ給ふ『なんぢら此の一切の物を見ぬか。誠に汝らに告ぐ、此處に一つの石も崩されずしては石の上に遺らじ』3オリブ山に坐し給ひしとき、弟子たち竊に御許に來りて言ふ『われらに告げ給へ、これらの事は何時あるか、又なんぢの來り給ふと世の終とには、何の兆あるか』4イエス答へて言ひ給ふ『なんぢら人に惑されぬやうに心せよ。5多くの者わが名を冒し來り「我はキリストなり」と言ひて多くの人を惑さん。6又なんぢら戰爭と戰爭の噂とを聞かん、愼みて懼るな。かかる事はあるべきなり、されど未だ終にはあらず。7即ち「民は民に、國は國に逆ひて起たん」また處々に饑饉と地震とあらん、8此 等はみな産の苦難の始なり。9そのとき人々なんぢらを患難に付し、また殺さん、汝 等わが名の爲に、もろもろの國人に憎まれん。10その時おほくの人つまづき、且たがひに付し、互に憎まん。11多くの僞 預言者おこりて、多くの人を惑さん。12また不法の增すによりて、多くの人の愛ひややかにならん。13されど終まで耐へしのぶ者は救はるべし。14御國のこの福音は、もろもろの國人に證をなさんため全世界に宣傳へられん、而してのち終は至るべし。15なんぢら預言者ダニエルによりて言はれたる「荒す惡むべき者」の聖なる處に立つを見ば（讀む者さとれ）16その時ユダヤに居る者どもは山に遁れよ。17屋の上に居る者はその家の物を取り出さんとして下るな。18畑にをる者は上衣を取らんとて歸るな。19その日には孕りたる者と乳を哺ませる者とは禍害なるかな。20汝らの遁ぐることの冬または安息日に起らぬように祈れ。21そのとき大なる患難あらん、世の創より今に至るまでかかる患難はなく、また後にも無からん。22その日もし少くせられずば、一人だに救はるる者なからん、されど選民の爲にその日 少くせらるべし。23その時あるひは「視よ、キリスト此處にあり」或は「此處にあり」と言ふ者ありとも信ずな。24僞キリスト・僞 預言者おこりて、大なる徵と不思議とを現し、爲し得べくば選民をも惑さんとするなり。25視よ、あらかじめ之を汝らに告げおくなり。26されば人もし汝らに「視よ、彼は荒野にあり」といふとも出で往くな「視よ、彼は部屋にあり」と言ふとも信ずな。27電光の東より出でて西にまで閃きわたる如く、人の子の來るも亦 然らん。28それ死骸のある處には鷲あつまらん。29これらの日の患難ののち直ちに日は暗く、月は光を發たず、星は空より隕ち、天の萬象ふるひ動かん。30そのとき人の子の兆、天に現れん。そのとき地上の諸族みな嘆き、かつ人の子の能力と大なる榮光とをもて、天の雲に乘り來るを見ん。31また彼は使たちを大なるラッパの聲とともに遣さん。使たちは天の此の極より彼の極まで、四方より選民を集めん。32無花果の樹よりの譬をまなべ、その枝すでに柔かくなりて葉芽ぐめば、夏の近きを知る。33かくのごとく汝らも此 等のす

べての事を見ば、人の子すでに近づきて門邊に到るを知れ。34誠に汝らに告ぐ、これらの事ことごとく成るまで、今の代は過ぎ往くまじ。35天 地は過ぎゆかん、されど我が言は過ぎ往くことなし。36その日その時を知る者なし、天の使たちも知らず、子も知らず、ただ父のみ知り給ふ。37ノアの時のごとく人の子の來るも然あるべし。38曾て洪水の前ノア方舟に入る日までは、人々 飲み食ひ、娶り嫁がせなどし、39洪水の來りて悉とく滅すまでは知らざりき、人の子の來るも然あるべし。40そのとき二人の男 畑にをらんに、一人は取られ一人は遺されん。41二人の女 磨ひき居らんに、一人は取られ一人は遺されん。42されば目を覺しをれ、汝らの主のきたるは、何れの日なるかを知らざればなり。43汝 等これを知れ、家主もし盜人いづれの時きたるかを知らば、目をさまし居て、その家を穿たすまじ。44この故に汝らも備へをれ、人の子は思はぬ時に來ればなり。45主人が時に及びて食物を與へさする爲に、家の者のうへに立てたる忠實にして慧き僕は誰なるか。46主人のきたる時、かく爲し居るを見らるる僕は幸福なり。47まことに汝らに告ぐ、主人すべての所有を彼に掌どらすべし。48もしその僕 惡しくして、心のうちに主人は遲しと思ひて、49その同輩を扑きはじめ、酒徒らと飲食を共にせば、50その僕の主人おもはぬ日しらぬ時に來りて、51之を烈しく笞うち、その報を僞善者と同じうせん。其處にて哀哭・切齒することあらん。

第二十五章

1このとき天國は、燈火を執りて新郎を迎へに出づる、十 人の處女に比ふべし。2その中の五 人は愚にして五人は慧し。3愚なる者は燈火をとりて油を携へず、4慧きものは油を器に入れて燈火とともに携へたり。5新郎 遲かりしかば、皆まどろみて寢ぬ。6夜半に「やよ、新郎なるぞ、出で迎へよ」と呼はる聲す。7ここに處女みな起きてその燈火を整へたるに、8愚なる者は慧きものに言ふ「なんぢらの油を分けあたへよ、我らの燈火きゆるなり」9慧きもの答へて言ふ「恐らくは我らと汝らとに足るまじ、寧ろ賣るものに往きて己がために買へ」10彼ら買はんとて往きたる間に新郎きたりたれば、備へをりし者どもは彼とともに婚筵にいり、而して門は閉されたり。11その後かの他の處女ども來りて「主よ、主よ、われらの爲にひらき給へ」と言ひしに、12答へて「まことに汝らに告ぐ、我は汝らを知らず」と言へり。13されば目を覺しをれ、汝らは其の日その時を知らざるなり。14また或 人とほく旅立せんとして、其の僕どもを呼び、之に己が所有を預くるが如し。15各人の能力に應じて、或者には五タラント、或 者には二タラント、或 者には一タラントを與へ置きて旅立せり。16五タラントを受けし者は、直ちに往き、之をはたらかせて他に五タラントを贏け、17二タラントを受けし者も同じく他に二タラントを贏く。18然るに一タラントを受けし者は、往きて地を掘り、その主人の銀をかくし置けり。19久しうして後この僕どもの主人きたりて彼らと計算したるに、20五タラントを受けし者は他に五タラントを持ちきたりて言ふ「主よ、なんぢ我に五タラントを預けたりしが、視よ、他に五タラントを贏けたり」21主人いふ「宜いかな、善かつ忠なる僕、なんぢは僅なる物に忠なりき。我なんぢに多くの物を掌どらせん、汝の主人の勸喜に入れ」22二タラントを受けし者も來りて言ふ「主よ、なんぢ我に二タラントを預けたりしが、視よ、他に二タラントを贏けたり」23主人いふ「宜いかな、善かつ忠なる僕、なんぢは僅なる物に忠なりき。我なんぢに多くの物を掌どらせん、汝の主人の勸喜にいれ」24また一タラントを受けし者もきたりて言ふ「主よ、我はなんぢの嚴しき人にて、播かぬ處より刈り、散らさぬ處より斂むることを知るゆゑに、25懼れてゆき、汝のタラントを地に藏しおけり。視よ、汝はなんぢの物を得たり」26主人こたへて言ふ「惡しくかつ惰れる僕、わが播かぬ處より刈り、散さぬ處より斂むることを知るか。27さらば我が銀を銀行にあづけ置くべかりしなり、我きたりて利子とともに我が物をうけ取りしものを。28されば彼のタラントを取りて十タラントを有てる人に與へよ。29すべて有てる人は、與へられて愈々 豐ならん。されど有たぬ者は、その有てる物をも取らるべし。30而して此の無 益なる僕を外の暗黑に逐ひいだせ、其處にて哀哭・切齒することあらん」31人の子その榮光をもて、もろもろの御使を率ゐきたる時、その榮光の座位に坐せん。32かくてその前にもろもろの國人あつめられん、之を別つこと牧羊者が羊と山羊とを別つ如くして、33羊をその右に、山羊をその 左におかん。34ここに王その右にをる者どもに言はん「わが父に祝せられたる者よ、來りて世の創より汝 等のた

めに備へられたる國を嗣げ。35なんぢら我が飢ゑしときに食はせ、渇きしときに飲ませ、旅人なりし時に宿らせ、36裸なりしときに衣せ、病みしときに訪ひ、獄に在りしときに來りたればなり」37ここに、正しき者ら答へて言はん「主よ、何時なんぢの飢ゑしを見て食はせ、渇きしを見て飲ませし。38何時なんぢの旅人なりしを見て宿らせ、裸なりしを見て衣せし。39何時なんぢの病みまた獄に在りしを見て、汝にいたりし」40王こたへて言はん「まことに汝らに告ぐ、わが兄弟なる此等のいと小き者の一人になしたるは、即ち我に爲したるなり」41かくてまた左にをる者どもに言はん「詛はれたる者よ、我を離れて惡魔とその使らとのために備へられたる永遠の火に入れ。42なんぢら我が飢ゑしときに食はせず、渇きしときに飲ませず、43旅人なりしときに宿らせず、裸なりしときに衣せず、病みまた獄にありしときに訪はざればなり」44ここに彼らも答へて言はん「主よ、いつ汝の飢ゑ、或は渇き、或は旅人、あるひは裸、あるひは病み、或は獄に在りしを見て事へざりし」45ここに王こたへて言はん「誠になんぢらに告ぐ、此等のいと小きものの一人に爲さざりしは、即ち我になさざりしなり」と。46かくて、これらの者は去りて永遠の刑罰にいり、正しき者は永遠の生命に入らん』

第二十六章

1イエスこれらの言をみな語りをへて、弟子たちに言ひ給ふ2『なんぢらの知るごとく、二日の後は過越の祭なり、人の子は十字架につけられん爲に賣らるべし』3そのとき祭司長・民の長老ら、カヤパといふ大祭司の中庭に集り、4詭計をもてイエスを捕へ、かつ殺さんと相議りたれど、5又いふ『まつりの間は爲すべからず、恐らくは民の中に亂起らん』6イエス、ベタニヤにて癩病人シモンの家に居給ふ時、7ある女、石膏の壺に入りたる貴き香油を持ちて、近づき來り、食事の席に就き居給ふイエスの首に注げり。8弟子たち之を見て憤ほり言ふ『何故かく濫なる費をなすか。9之を多くの金に賣りて、貧しき者に施すことを得たりしものを』10イエス之を知りて言ひたまふ『何ぞこの女を惱すか、我に善き事をなせるなり。11貧しき者は常に汝らと偕にをれど、我は常に偕に居らず。12この女の我が體に香油を注ぎしは、わが葬りの備をなせるなり。13まことに汝らに告ぐ、全世界いずこにても、この福音の宣傳へらるる處には、この女のなしし事も記念として語らるべし』14ここに十二弟子の一人イスカリオテのユダといふ者、祭司長らの許にゆきて言ふ15『なんぢらに彼を付さば、何ほど我に與へんとするか』彼ら銀三十を量り出せり。16ユダこの時よりイエスを付さんと好き機を窺ふ。17除酵祭の初の日、弟子たちイエスに來りて言ふ『過越の食をなし給ふために、何處に我らが備ふる事を望み給ふか』18イエス言ひたまふ『都にゆき、某のもとに到りて「師いふ、わが時近づけり。われ弟子たちと共に過越を汝の家にて守らん」と言へ』19弟子たちイエスの命じ給ひし如くして、過越の備をなせり。20日暮れて十二弟子とともに席に就きて、21食するとき言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、汝らの中の一人われを賣らん』22弟子たち甚く憂ひて、おのおの『主よ、我なるか』と言ひいでしに、23答へて言ひたまふ『我とともに手を鉢に入るる者われを賣らん。24人の子は己に就きて録されたる如く逝くなり。されど人の子を賣る者は禍害なるかな、その人は生れざりし方よかりしものを』25イエスを賣るユダ答へて言ふ『ラビ、我なるか』イエス言ひ給ふ『なんぢの言へる如し』26彼ら食しをる時、イエス、パンをとり、祝してさき、弟子たちに與へて言ひ給ふ『取りて食へ、これは我が體なり』27また酒杯をとりて謝し、彼らに與へて言ひ給ふ『なんぢら皆この酒杯より飲め。28これは契約のわが血なり、多くの人のために、罪の赦を得させんとて流す所のものなり。29われ汝らに告ぐ、わが父の國にて新しきものを汝らと共に飲む日までは、われ今より後この葡萄の果より成るものを飲まじ』30彼ら讃美を歌ひて後オリブ山に出でゆく。31ここにイエス弟子たちに言ひ給ふ『今宵なんぢら皆われに就きて躓かん「われ牧羊者を打たん、さらば群の羊散るべし」と録されたるなり。32されど我よみがへりて後、なんぢらに先だちてガリラヤに往かん』33ペテロ答へて言ふ『假令みな汝に就きて躓くとも我はいつまでも躓かじ』34イエス言ひ給ふ『まことに汝に告ぐ、こよひ鷄鳴く前に、なんぢ三たび我を否むべし』35ペテロ言ふ『我なんぢと共に死ぬべき事ありとも汝を否まず』弟子たち皆かく言へり。36ここにイエス彼らと共にゲツセマネといふ處にいたりて、弟子たちに言ひ給ふ『わが彼處にゆきて祈る間、なんぢら此處に坐せよ』37かくてペテロとゼ

ベダイの子二人とを伴ひゆき、憂ひ悲しみ出でて言ひ給ふ、38『わが心いたく憂ひて死ぬばかりなり。汝ら此處に止りて我と共に目を覺しをれ』39少し進みゆきて、平伏し祈りて言ひ給ふ『わが父よ、もし得べくば此の酒杯を我より過ぎ去らせ給へ。されど我が意の儘にとにはあらず、御意のままに爲し給へ』40弟子たちの許にきたり、その眠れるを見てペテロに言ひ給ふ『なんぢら斯く一時も我と共に目を覺し居ること能はぬか。41誘惑に陷らぬやう、目を覺しかつ祈れ。實に心は熱すれども肉體よわきなり』42また二度ゆき祈りて言ひ給ふ『わが父よ、この酒杯もし我飲までは過ぎ去りがたくば、御意のままに成し給へ』43復きたりて彼らの眠れるを見たまふ、是その目疲れたるなり。44また離れゆきて、三たび同じ言にて祈り給ふ。45而して弟子たちの許に來りて言ひ給ふ『今は眠りて休め。視よ、時近づけり、人の子は罪人らの手に付さるるなり。46起きよ、我ら往くべし。視よ、我を賣るもの近づけり』47なほ語り給ふほどに、視よ、十二弟子の一人なるユダ來る、祭司長・民の長老らより遣されたる大なる群衆、劍と棒とをもちて之に伴ふ。48イエスを賣る者あらかじめ合圖を示して言ふ『わが接吻する者はそれなり、之を捕へよ』49かくて直ちにイエスに近づき『ラビ、安かれ』といひて接吻したれば、50イエス言ひたまふ『友よ、何とて來る』このとき人々すすみてイエスに手をかけて捕ふ。51視よ、イエスと偕にありし者のひとり、手をのべ劍を拔きて、大祭司の僕をうちて、その耳を切り落せり。52ここにイエス彼に言ひ給ふ『なんぢの劍をもとに收めよ、すべて劍をとる者は劍にて亡ぶるなり。53我わが父に請ひて、十二軍に餘る御使を今あたへらるること能はずと思ふか。54もし然せば、斯くあるべく録したる聖書はいかで成就すべき』55この時イエス群衆に言ひ給ふ『なんぢら強盜に向ふごとく劍と棒とをもち、我を捕へんとて出で來るか。我は日々宮に坐して教へたりしに、汝ら我を捕へざりき。56されどかくの如くなるは、みな預言者たちの書の成就せん爲なり』ここに弟子たち皆イエスを棄てて逃げさりぬ。57イエスを捕へたる者ども、學者・長老らの集り居る大祭司カヤパの許に曳きゆく。58ペテロ遠く離れ、イエスに從ひて大祭司の中庭まで到り、その成行を見んとて、そこに入り下役どもと共に坐せり。59祭司長らと全議會と、イエスを死に定めんとて、いつはりの證據を求めたるに、60多くの僞證者いでたれども得ず。後に二人の者いでて言ふ61『この人は「われ神の宮を毀ち三日にて建て得べし」と云へり』62大祭司たちてイエスに言ふ『この人々が汝に對して立つる證據に何をも答へぬか』63されどイエス默し居給ひたれば、大祭司いふ『われ汝に命ず、活ける神に誓ひて我らに告げよ、汝はキリスト、神の子なるか』64イエス言ひ給ふ『なんぢの言へる如し。かつ我なんぢらに告ぐ、今より後、なんぢら人の子の全能者の右に坐し、天の雲に乘りて來るを見ん』65ここに大祭司おのが衣を裂きて言ふ『かれ瀆言をいへり、何ぞ他に證人を求めん。視よ、なんぢら今この瀆言をきけり。66いかに思ふか』答へて言ふ『かれは死に當れり』67ここに彼等その御顏に唾し、拳にて搏ち、或者どもは手掌にて批きて言ふ68『キリストよ、我らに預言せよ、汝をうちし者は誰なるか』69ペテロ外にて中庭に坐しゐたるに、一人の婢女きたりて言ふ『なんぢもガリラヤ人イエスと偕にゐたり』70かれ凡ての人の前に肯はずして言ふ『われは汝の言ふことを知らず』71かくて門まで出で往きたるとき、他の婢女かれを見て、其處にをる者どもに向ひて『この人はナザレ人イエスと偕にゐたり』と言へるに、72重ねて肯はず、契ひて『我はその人を知らず』といふ。73暫くして其處に立つ者ども近づきてペテロに言ふ『なんぢも慥にかの黨與なり、汝の國訛なんぢを表せり』74ここにペテロ盟ひかつ契ひて『我その人を知らず』と言ひ出づるをりしも、鷄鳴きぬ。75ペテロ『にはとり鳴く前に、なんぢ三度われを否まん』と、イエスの言ひ給ひし御言を思ひだし、外に出でて甚く泣けり。

第二十七章

1夜明けになりて、凡ての祭司長・民の長老ら、イエスを殺さんと相議り、2遂に之を縛り、曳きゆきて總督ピラトに付せり。3ここにイエスを賣りしユダ、その死に定められ給ひしを見て悔い、祭司長・長老らに、かの三十の銀をかへして言ふ、4『われ罪なきの血を賣りて罪を犯したり』彼らいふ『われら何ぞ干らん、汝みづから當るべし』5彼その銀を聖所に投げすてて去り、ゆきて自ら縊れたり。6祭司長らその銀をとりて言ふ『これは血の價なれば、宮の庫に納むるは可からず』7かくて相議り、その銀をもて陶工の畑を買ひ、旅人らの墓地

とせり。 8之によりて其の畑は、今に至るまで血の畑と稱へらる。 9ここに預言者エレミヤによりて云はれたる言は成就したり。曰く『かくて彼ら値積られしもの、即ちイスラエルの子らが値積りし者の價の銀三十をとりて、 10陶工の畑の代に之を與へたり。主の我に命じ給ひし如し』 11さてイエス、總督の前に立ち給ひしに、總督問ひて言ふ『なんぢはユダヤ人の王なるか』イエス言ひ給ふ『なんぢの言ふが如し』 12祭司長・長老ら訴ふれども、何をも答へ給はず。 13ここにピラト彼に言ふ『聞かぬか、彼らが汝に對して如何におほくの證據を立つるを』 14されど總督の甚く怪しむまで、一言をも答へ給はず。 15祭の時には、總督群衆の望にまかせて、囚人一人を之に赦す例あり。 16ここにバラバといふ隱れなき囚人あり。 17されば人々の集れる時、ピラト言ふ『なんぢら我が誰を赦さんことを願ふか。バラバなるか、キリストと稱ふるイエスなるか』 18これピラト彼らのイエスを付ししは嫉に因ると知る故なり。 19彼なほ審判の座にをる時、その妻、人を遣して言はしむ『かの義人に係ることを爲な、我けふ夢の中にて彼の故にさまざま苦しめり』 20祭司長・長老ら、群衆にバラバの赦されん事を請はしめ、イエスを亡さんことを勸む。 21總督こたへて彼らに言ふ『二人の中いづれを我が赦さん事を願ふか』彼らいふ『バラバなり』 22ピラト言ふ『さらばキリストと稱ふるイエスを我いかにすべきか』皆いふ『十字架につくべし』 23ピラト言ふ『かれ何の惡事をなしたるか』彼ら烈しく叫びていふ『十字架につくべし』 24ピラトは何の效なく反つて亂にならんとするを見て、水をとり群衆のまへに手を洗ひて言ふ『この人の血につきて我は罪なし、汝等みづから當れ』 25民みな答へて言ふ『其の血は、我らと我らの子孫とに歸すべし』 26ここにピラト、バラバを彼らに赦し、イエスを鞭うちて、十字架につくる爲に付せり。 27ここに總督の兵卒ども、イエスを官邸につれゆき、全隊を御許に集め、 28その衣をはぎて、緋色の上衣をきせ、 29茨の冠冕を編みて、その首に冠らせ、葦を右の手にもたせ、且その前に跪づき、嘲弄して言ふ『ユダヤ人の王、安かれ』 30また之に唾し、かの葦をとりて其の首を叩く。 31かく嘲弄してのち、上衣を剥ぎて、故の衣をきせ、十字架につけんとて曳きゆく。 32その出づる時、シモンといふクレネ人にあひしかば、強ひて之にイエスの十字架をおはしむ。 33かくてゴルゴタといふ處、即ち髑髏の地にいたり、 34苦味を混ぜたる葡萄酒を飲ませんとしたるに、嘗めて、飲まんとし給はず。 35彼らイエスを十字架につけてのち、籤をひきて其の衣をわかち、 36且そこに坐して、イエスを守る。 37その首の上に『これはユダヤ人の王イエスなり』と記したる罪標を置きたり。 38ここにイエスとともに二人の強盜、十字架につけられ、一人はその右に、一人はその左におかる。 39往來の者どもイエスを譏り、首を振りていふ、 40『宮を毀ちて三日のうちに建つる者よ、もし神の子ならば己を救へ、十字架より下りよ』 41祭司長らもまた同じく、學者・長老らとともに嘲弄して言ふ、 42『人を救ひて己を救ふこと能はず。彼はイスラエルの王なり、いま十字架より下りよかし、さらば我ら彼を信ぜん。 43彼は神に依り頼めり、神かれを愛しまば今すくひ給ふべし「我は神の子なり」と云へり』 44ともに十字架につけられたる強盜どもも、同じ事をもてイエスを罵れり。 45晝の十二時より地の上あまねく暗くなりて、三時に及ぶ。 46三時ごろイエス大聲に叫びて『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』と言ひ給ふ。わが神、わが神、なんぞ我を見棄て給ひしとの意なり。 47そこに立つ者のうち或人々これを聞きて『彼はエリヤを呼ぶなり』と言ふ。 48直ちにその中の一人はしりゆきて海綿をとり、醯き葡萄酒を含ませ、葦につけてイエスに飲ましむ。 49その他の者ども言ふ『まて、エリヤ來りて彼を救ふや否や、我ら之を見ん』 50イエス再び大聲に呼はりて息絶えたまふ。 51視よ、聖所の幕、上より下まで裂けて二つとなり、また地震ひ、磐さけ、 52墓ひらけて、眠りたる聖徒の屍體おほく活きかへり、 53イエスの復活ののち墓をいで、聖なる都に入りて、多くの人に現れたり。 54百卒長および之と共にイエスを守りゐたる者ども、地震とその有りし事とを見て甚く懼れ『實に彼は神の子なりき』と言へり。 55その處にて遙に望みゐたる多くの女あり、イエスに事へてガリラヤより從ひ來りし者どもなり。 56その中には、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、及びゼベダイの子らの母などもゐたり。 57日暮れて、ヨセフと云ふアリマタヤの富める人きたる。彼もイエスの弟子なるが、 58ピラトに往きてイエスの屍體を請ふ。ここにピラト之を付すことを命ず。 59ヨセフ屍體をとりて淨き亞麻布につつみ、 60岩にほりたる己が新しき墓に納め、墓の入口に大なる石を轉しおき

て去りぬ。61其處にはマグダラのマリヤと他のマリヤと墓に向ひて坐しゐたり。62あくる日、即ち準備 日の翌日、祭司長らとパリサイ人らとピラトの許に集りて言ふ、63『主よ、かの惑すもの生き居りし時「われ三日の後に甦へらん」と言ひしを、我ら思ひいだせり。64されば命じて三日に至るまで墓を固めしめ給へ、恐らくはその弟子ら來りて之を盜み、「彼は死人の中より甦へれり」と民に言はん。然らば後の惑は前のよりも甚だしからん』65ピラト言ふ『なんぢらに番兵あり、往きて力 限り固めよ』66乃ち彼らゆきて石に封印し、番兵を置きて墓を固めたり。

第二十八章

1さて安息 日をはりて、一週の初の日のほの明き頃、マグダラのマリヤと他のマリヤと墓を見んとて來りしに、2視よ、大なる地震あり、これ主の使、天より降り來りて、かの石を轉し退け、その上に坐したるなり。3その状は電光のごとく輝き、その衣は雪のごとく白し。4守の者ども彼を懼れたれば、戰きて死人の如くなりぬ。5御使こたへて女たちに言ふ『なんぢら懼るな、我なんぢらが十字架につけられ給ひしイエスを尋ぬるを知る。6此處には在さず、その言へる如く甦へり給へり。來りてその置かれ給ひし處を見よ。7かつ速かに往きて、その弟子たちに「彼は死人の中より甦へり給へり。視よ、汝らに先だちてガリラヤに往き給ふ、彼處にて謁ゆるを得ん」と告げよ。視よ、汝らに之を告げたり』8女たち 懼と大なる歡喜とをもて、速かに墓を去り、弟子たちに知らせんとて走りゆく。9視よ、イエス彼らに遇ひて『安かれ』と言ひ給ひたれば、進みゆき、御足を抱きて拜す。10ここにイエス言ひたまふ『懼るな、往きて我が兄弟たちに、ガリラヤにゆき、彼處にて我を見るべきことを知らせよ』11女たちの往きたるとき、視よ、番兵のうちの數人、都にいたり、凡て有りし事どもを祭司長らに告ぐ。12祭司長ら、長老らと共に集りて相 議り、兵卒どもに多くの銀を與へて言ふ、13『なんぢら言へ「その弟子ら夜きたりて、我らの眠れる間に彼を盜めり」と。14この事もし總督に聞えなば、我ら彼を宥めて汝らに憂なからしめん』15彼ら銀をとりて言ひ含められたる如くしたれば、此の話ユダヤ人の中にひろまりて、今日に至れり。16十一弟子たちガリラヤに往きて、イエスの命じ給ひし山にのぼり、17遂に謁えて拜せり。されど疑ふ者もありき。18イエス進みきたり、彼らに語りて言ひたまふ『我は天にても地にても一切の權を與へられたり。19されば汝ら往きて、もろもろの國人を弟子となし、父と子と聖 靈との名によりてバプテスマを施し、20わが汝らに命ぜし凡ての事を守るべきを教へよ。視よ、我は世の終まで常に汝らと偕に在るなり』

マルコ傳福音書

第一章

1神の子イエス、キリストの福音の始。2預言者イザヤの書に、『視よ、我なんぢの顏の前に、わが使を遣す、彼なんぢの道を設くべし。3荒野に呼はる者の聲す、「主の道を備へ、その路すぢを直くせよ」』と録されたる如く、4バプテスマのヨハネ出で、荒野にて罪の赦を得さする悔 改のバプテスマを宣傳ふ。5ユダヤ全國またエルサレムの人々、みな其の許に出で來りて罪を言ひあらはし、ヨルダン川にてバプテスマを受けたり。6ヨハネは駱駝の毛織を著、腰に皮の帶して、蝗と野蜜とを食へり。7かれ宣傳へて言ふ『我よりも力ある者、わが後に來る。我は屈みてその鞋の紐をとくにも足らず、8我は水にて汝らにバプテスマを施せり。されど彼は聖 靈にてバプテスマを施さん』9その頃イエス、ガリラヤのナザレより來り、ヨルダンにてヨハネよりバプテスマを受け給ふ。10かくて水より上るをりしも、天さけゆき、御靈、鴿のごとく己に降るを見 給ふ。11かつ天より聲出づ『なんぢは我が愛しむ子なり、我なんぢを悅ぶ』12かくて御靈ただちにイエスを荒野に逐ひやる。13荒野にて四十 日の間サタンに試みられ、獸とともに居給ふ、御使たち之に事へぬ。14ヨハネの囚はれし後、イエス、ガリラヤに到り、神の福音を宣傳へて言ひ給ふ、15『時は滿てり、神の國は近づけり、汝ら悔改めて福音を信ぜよ』16イエス、ガリラヤの海にそひて歩みゆき、シモンと其の兄弟アンデレとが、海に網うちをるを見 給ふ。かれらは漁 人なり。17イエス言ひ給ふ『われに從ひき

たれ、汝 等をして人を漁る者とならしめん』 18彼ら直ちに網をすてて従へり。 19少し進みゆきて、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとを見給ふ、彼らも舟にありて網を繕ひゐたり。 20直ちに呼び給へば、父ゼベダイを雇人とともに舟に遺して従ひゆけり。 21かくて彼らカペナウムに到る、イエス直ちに安息日に會堂にいりて教へ給ふ。 22人々その教に驚きあへり。それは學者の如くならず、權威ある者のごとく教へ給ふゆゑなり。 23時にその會堂に、穢れし靈に憑かれたる人あり、叫びて言ふ 24『ナザレのイエスよ、我らは汝と何の關係あらんや、汝は我らを亡さんとて來給ふ。われは汝の誰なるを知る、神の聖者なり』 25イエス禁めて言ひ給ふ『默せ、その人を出でよ』 26穢れし靈その人を痙攣けさせ、大聲をあげて出づ。 27人々みな驚き相問ひて言ふ『これ何事ぞ、權威ある新しき教なるかな、穢れし靈すら命ずれば從ふ』 28ここにイエスの噂あまねくガリラヤの四方に弘りたり。 29會堂をいで、直ちにヤコブとヨハネとを伴ひて、シモン及びアンデレの家に入り給ふ。 30シモンの外姑、熱をやみて臥しゐたれば、人々ただちに之をイエスに告ぐ。 31イエス往きて、その手をとり、起し給へば、熱さりて女かれらに事ふ。 32夕となり、日いりてのち、人々すべての病ある者・惡鬼に憑かれたる者をイエスに連れ來り、 33全町こぞりて門に集る。 34イエスさまざまの病を患ふ多くの人をいやし、多くの惡鬼を逐ひいだし、之に物言ふことを免し給はず、惡鬼イエスを知るに因りてなり。 35朝まだき暗き程に、イエス起き出でて、寂しき處にゆき、其處にて祈りゐたまふ。 36シモン及び之と偕にをる者ども、その跡を慕ひゆき、 37イエスに遇ひて言ふ『人みな汝を尋ぬ』 38イエス言ひ給ふ『いざ最寄の村々に往かん、われ彼處にも教を宣ぶべし、我はこの爲に出で來りしなり』 39遂にゆきて、徧くガリラヤの會堂にて教を宣べ、かつ惡鬼を逐ひ出し給へり。 40一人の癩病人みもとに來り、跪づき請ひて言ふ『御意ならば、我を潔くなし給ふを得ん』 41イエス憫みて、手をのべ彼につけて『わが意なり、潔くなれ』と言ひ給へば、 42直ちに癩病さりて、その人きよまれり。 43やがて彼を去らしめんとて、嚴しく戒めて言ひ給ふ 44『つつしみて誰にも語るな、唯ゆきて己を祭司に見せ、モーセが命じたる物を汝の潔のために献げて、人々に證せよ』 45されど彼いでて此の事を大に述べつたへ、徧く弘め始めたれば、この後イエスあらはに町に入りがたく、外の寂しき處に留りたまふ。人々 四方より御許に來れり。

第二章

1數日の後、またカペナウムに入り給ひしに、その家に在ることを聞きて、 2多くの人あつまり來り、門口すら隙間なき程なり。イエス彼らに御言を語り給ふ。 3ここに四人に擔はれたる中風の者を人々つれ來る。 4群衆によりて御許にゆくこと能はざれば、在す所の屋根を穿ちあけて、中風の者を床のまま縋り下せり。 5イエス彼らの信仰を見て、中風の者に言ひたまふ『子よ、汝の罪ゆるされたり』 6ある學者たち其處に坐しゐたるが、心の中に、 7『この人なんぞ斯く言ふか、これは神を瀆すなり、神ひとりの外は誰か罪を赦すことを得べき』と論ぜしかば、 8イエス直ちに彼 等がかく論ずるを心に悟りて言ひ給ふ『なにゆゑ斯かることを心に論ずるか、 9中風の者に「なんぢの罪ゆるされたり」と言ふと「起きよ、床をとりて歩め」と言ふと、孰か易き。 10人の子の地にて罪を赦す權威ある事を、汝らに知らせん爲に』——中風の者に言ひ給ふ—— 11『なんぢに告ぐ、起きよ、床をとりて家に歸れ』 12彼おきて直ちに床をとりあげ、人々の眼前いで往けば、皆おどろき、かつ神を崇めて言ふ『われら斯くの如きことは斷えて見ざりき』 13イエスまた海邊に出でゆき給ひしに、群衆みもとに集ひ來りたれば、之を教へ給へり。 14かくて過ぎ往くとき、アルパヨの子レビの收稅所に坐しをるを見て『われに從へ』と言ひ給へば、立ちて從へり。 15而して其の家にて食事の席につき居給ふとき、多くの取稅人・罪人ら、イエス及び弟子たちと共に席に列る、これらの者おほく居て、イエスに從へるなり。 16パリサイ人の學者ら、イエスの罪人・取稅人とともに食し給ふを見て、その弟子たちに言ふ『なにゆゑ取稅人・罪人とともに食するか』 17イエス聞きて言ひ給ふ『健かなる者は醫者を要せず、ただ病ある者これを要す。我は正しき者を招かんとにあらで、罪人を招かんとて來れり』 18ヨハネの弟子とパリサイ人とは、斷食しゐたり。人々イエスに來りて言ふ『なにゆゑヨハネの弟子とパリサイ人の弟子とは斷食して、汝の弟子は斷食せぬか』 19イエス言ひ給ふ『新郎の友だち、新郎と偕にをるうちは斷食し得べきか、新郎と偕にをる間は、斷食するを得ず。 20されど新郎をとらるる日

きたらん、その日には斷食せん。21誰も新しき布の裂を舊き衣に縫ひつくることは爲じ。もし然せば、その補ひたる新しきものは、舊き物をやぶり、破綻さらに甚だしからん。22誰も新しき葡萄酒を、ふるき革嚢に入るることは爲じ。もし然せば、葡萄酒は嚢をはりさきて、葡萄酒も嚢も廢らん。新しき葡萄酒は、新しき革嚢に入るるなり』23イエス安息日に麥畠をとほり給ひしに、弟子たち歩みつつ穗を摘み始めたれば、24パリサイ人、イエスに言ふ『視よ、彼らは何ゆゑ安息日に爲まじき事をするか』25答へ給ふ『ダビデその伴へる人々と共に乏しくして飢ゑしとき爲しし事を未だ讀まぬか。26即ち大祭司アビアタルの時、ダビデ神の家に入りて、祭司のほかは食ふまじき供のパンを取りて食ひ、おのれと偕なる者にも與へたり』27また言ひたまふ『安息日は人のために設けられて、人は安息日のために設けられず。28されば人の子は安息日にも主たるなり』

第三章

1また會堂に入り給ひしに、片手なえたる人あり。2人々イエスを訴へんと思ひて、安息日にかの人を醫すや否やと窺ふ。3イエス手なえたる人に『中に立て』といひ、4また人々に言ひたまふ『安息日に善をなすと惡をなすと、生命を救ふと殺すと、孰かよき』彼ら默然たり。5イエスその心の頑固なるを憂ひて、怒り見回して、手なえたる人に『手を伸べよ』と言ひ給ふ。かれ手を伸べたれば癒ゆ。6パリサイ人いでて、直ちにヘロデ黨の人とともに、如何にしてイエスを亡さんと議る。7イエスその弟子とともに海邊に退き給ひしに、ガリラヤより來れる夥多しき民衆も從ふ。又ユダヤ、8エルサレム、イドマヤ、ヨルダンの向の地、およびツロ、シドンの邊より夥多しき民衆その爲し給へる事を聞きて、御許に來る。9イエス群衆のおしなやますを逃れんとて、小舟を備へ置くことを弟子に命じ給ふ。10これ多くの人を醫し給ひたれば、凡て病に苦しむもの、御體に觸らんとて押迫る故なり。11また穢れし靈イエスを見る毎に、御前に平伏し、叫びて『なんぢは神の子なり』と言ひたれば、12我を顯すなとて、嚴しく戒め給ふ。13イエス山に登り、御意に適ふ者を召し給ひしに、彼ら御許に來る。14ここに十二人を擧げたまふ。是かれらを御側におき、また教を宣べさせ、15惡鬼を逐ひ出す權威を用ひさする爲に、遣さんとてなり。16此の十二人を擧げて、シモンにペテロといふ名をつけ、17ゼベダイの子ヤコブ、その兄弟ヨハネ、此の二人にボアネルゲ、即ち雷霆の子といふ名をつけ給ふ。18又アンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心黨のシモン、19及びイスカリオテのユダ、このユダはイエスを賣りしなり。かくてイエス家に入り給ひしに、20群衆また集り來りたれば、食事する暇もなかりき。21その親族の者これを聞き、イエスを取押へんとて出で來る、イエスを狂へりと謂ひてなり。22又エルサレムより下れる學者たちも『彼はベルゼブルに憑かれたり』と言ひ、かつ『惡鬼の首によりて惡鬼を逐ひ出すなり』と言ふ。23イエス彼らを呼びよせ、譬にて言ひ給ふ『サタンはいかでサタンを逐ひ出し得んや。24もし國分れ爭はば、其の國立つこと能はず。25もし家分れ爭はば、其の家立つこと能はざるべし。26もしサタン己に逆ひて分れ爭はば、立つこと能はず、反つて亡び果てん。27誰にても先づ強き者を縛らずば、強き者の家に入りて其の家財を奪ふこと能はじ、縛りて後その家を奪ふべし。28まことに汝らに告ぐ、人の子らの凡ての罪と、けがす瀆とは赦されん。29されど聖靈をけがす者は、永遠に赦されず、永遠の罪に定めらるべし』30これは彼らイエスを『穢れし靈に憑かれたり』と云へるが故なり。31ここにイエスの母と兄弟と來りて外に立ち、人を遣してイエスを呼ばしむ。32群衆イエスを環りて坐したりしが、或者いふ『視よ、なんぢの母と兄弟姉妹と外にありて汝を尋ぬ』33イエス答へて言ひ給ふ『わが母、わが兄弟とは誰ぞ』34かくて周圍に坐する人々を見回して言ひたまふ『視よ、これは我が母、わが兄弟なり。35誰にても神の御意を行ふものは、是わが兄弟、わが姉妹、わが母なり』

第四章

1イエスまた海邊にて教へ始めたまふ。夥多しき群衆、みもとに集りたれば、舟に乘り海に泛びて坐したまひ、群衆はみな海に沿ひて陸にあり。2譬にて數多の事をを教へ、教の中に言ひたまふ、3『聽け、種播くもの、播かんとて出づ。4播くとき、路の傍らに落ちし種あり、鳥きたりて啄む。5土うすき磽地に落ちし種あり、土深からぬによりて、速かに萠え出でたれど、6日出でてや

け、根なき故に枯る。7茨の中に落ちし種あり、茨そだち塞ぎたれば、實を結ばず。8良き地に落ちし種あり、生え出でて茂り、實を結ぶこと、三十倍、六十倍、百倍せり』9また言ひ給ふ『きく耳ある者は聽くべし』10イエス人々を離れ居給ふとき、御許にをる者ども、十二弟子とともに、此等の譬を問ふ。11イエス言ひ給ふ『なんぢらには神の國の奥義を與ふれど、外の者には、凡て譬にて教ふ。12これ「見るとき見ゆとも認めず、聽くとき聞ゆとも悟らず、飜へりて赦さるる事なからん」爲なり』13また言ひ給ふ『なんぢら此の譬を知らぬか、さらば爭でもろもろの譬を知り得んや。14播く者は御言を播くなり。15御言の播かれて路の傍らにありとは、かかる人をいふ、即ち聞くとき、直ちにサタン來りて、その播かれたる御言を奪ふなり。16同じく播かれて磽地にありとは、かかる人をいふ、即ち御言をききて、直ちに喜び受くれども、17その中に根なければ、ただ暫し保つのみ、御言のために患難また迫害にあふ時は、直ちに躓くなり。18また播かれて茨の中にありとは、かかる人をいふ、19すなはち御言をきけど、世の心勞、財貨の惑、さまざまの慾いりきたり、御言を塞ぐによりて、遂に實らざるなり。20播かれて良き地にありとは、かかる人をいふ、即ち御言を聽きて受け、三十倍、六十倍、百倍の實を結ぶなり』21また言ひたまふ『升のした、寢臺の下におかんとて、燈火をもち來るか、燈臺の上におく爲ならずや。22それ顯るる爲ならで隱るるものなく、明かにせらるる爲ならで秘められるるものなし。23聽く耳ある者は聽くべし』24また言ひ給ふ『なんぢら聽くことに心せよ、汝らが量る量にて量られ、更に増し加へらるべし。25それ有てる人は、なほ與へられ、有たぬ人は、有てる物をも取らるべし』26また言ひたまふ『神の國は、或人たねを地に播くが如し、27日夜起臥するほどに、種はえ出でて育てども、その故を知らず。28地はおのづから實を結ぶものにして、初には苗、つぎに穗、つひに穗の中に充ち足れる穀なる。29實みのれば直ちに鎌を入る、收穫時の到れるなり』30また言ひ給ふ『われら神の國を何になずらへ、如何なる譬をもて示さん。31一粒の芥種のごとし、地に播く時は、世にある萬の種よりも小けれど、32既に播きて生え出づれば、萬の野菜よりは大く、かつ大なる枝を出して、空の鳥その蔭に棲み得るほどになるなり』33かくのごとき數多の譬をもて、人々の聽きうる力に隨ひて、御言を語り、34譬ならでは語り給はず、弟子たちには、人なき時に凡ての事を釋き給へり。35その日、夕になりて言ひ給ふ『いざ彼方に往かん』36弟子たち群衆を離れ、イエスの舟にゐ給ふまま共に乘り出づ、他の舟も從ひゆく。37時に烈しき颶風おこり、浪うち込みて、舟に滿つるばかりなり。38イエスは艫の方に茵を枕として寢ねたまふ。弟子たち呼び起して言ふ『師よ、我らの亡ぶるを顧み給はぬか』39イエス起きて風をいましめ、海に言ひたまふ『默せ、鎭れ』乃ち風やみて、大なる凪となりぬ。40かくて弟子たちに言ひ給ふ『なに故かく臆するか、信仰なきは何ぞ』41かれら甚く懼れて互に言ふ『こは誰ぞ、風も海も順ふとは』

第五章

1かくて海の彼方なるゲラセネ人の地に到る。2イエスの舟より上り給ふとき、穢れし靈に憑かれたる人、墓より出でて直ちに遇ふ。3この人、墓を住處とす、鏈にてすら今は誰も繋ぎ得ず。4彼はしばしば足械と鏈とにて繋がれたれど、鏈をちぎり、足械をくだきたり、誰も之を制する力なかりしなり。5夜も晝も、絶えず墓あるひは山にて叫び、己が身を石にて傷つけゐたり。6かれ遙にイエスを見て、走りきたり、御前に平伏し、7大聲に叫びて言ふ『いと高き神の子イエスよ、我は汝と何の關係あらん、神によりて願ふ、我を苦しめ給ふな』8これはイエス『穢れし靈よ、この人より出で往け』と言ひ給ひしに因るなり。9イエスまた『なんぢの名は何か』と問ひ給へば『わが名はレギオン、我ら多きが故なり』と答へ、10また己らを此の地の外に逐ひやり給はざらんことを切に求む。11彼處の山邊に豚の大なる群、食しゐたり。12惡鬼どもイエスに求めて言ふ『われらを遣して豚に入らしめ給へ』13イエス許したまふ。穢れし靈いでて、豚に入りたれば、二千匹ばかりの群、海に向ひて崖を駈けくだり、海に溺れたり。14飼ふ者ども逃げ往きて、町にも里にも告げたれば、人々何事の起りしかを見んとて出づ。15かくてイエスに來り、惡鬼に憑かれたりし者、即ちレギオンをもちたりし者の、衣服をつけ、慥なる心にて坐しをるを見て、懼れあへり。16かの惡鬼に憑かれたる者の上にありし事と、豚の事とを見し者ども、之を具に告げたれば、17人々イエスにその境を去り給はん事を求む。18イエス舟に乘らんとし給ふとき、

惡鬼に憑かれたりしもの偕に在らん事を願ひたれど、19許さずして言ひ給ふ『なんぢの家に、親しき者に歸りて、主がいかに大なる事を汝に爲し、いかに汝を憫み給ひしかを告げよ』20彼ゆきて、イエスの如何に大なる事を己になし給ひしかを、デカポリスに言ひ弘めたれば、人々みな怪しめり。21イエス舟にて復かなたに渡り給ひしに、大なる群衆みもとに集る、イエス海邊に在せり。22會堂司の一人、ヤイロという者きたり、イエスを見て、その足下に伏し、23切に願ひて言ふ『わが稚なき娘、いまはの際なり、來りて手をおき給へ、さらば救はれて活くべし』24イエス彼と共にゆき給へば、大なる群衆したがひつつ御許に押迫る。25ここに十二年血漏を患ひたる女あり。26多くの醫者に多く苦しめられ、有てる物をことごとく費したれど、何の效なく、反つて增々惡しくなりたり。27イエスの事をききて、群衆にまじり、後に來りて、御衣にさはる、28『その衣にだに觸らば救はれん』と自ら謂へり。29かくて血の泉ただちに乾き、病のいえたるを身に覺えたり。30イエス直ちに能力の己より出でたるを自ら知り、群衆の中にて、振反り言ひたまふ『誰が我の衣に觸りしぞ』31弟子たち言ふ『群衆の押迫るを見て、誰が我に觸りしぞと言ひ給ふか』32イエスこの事を爲しし者を見んとて見回し給ふ。33女おそれ戰き、己が身になりし事を知り、來りて御前に平伏し、ありしままを告ぐ。34イエス言ひ給ふ『娘よ、なんぢの信仰なんぢを救へり、安らかに往け、病いえて健かになれ』35かく語り給ふほどに、會堂司の家より人々きたりて言ふ『なんぢの娘は早や死にたり、爭でなほ師を煩はすべき』36イエス其の告ぐる言を傍より聞きて、會堂司に言ひたまふ『懼るな、ただ信ぜよ』37かくてペテロ、ヤコブその兄弟ヨハネの他は、ともに往く事を誰にも許し給はず。38彼ら會堂司の家に來る。イエス多くの人の、甚く泣きつ叫びつする騷を見、39入りて言ひ給ふ『なんぞ騷ぎかつ泣くか、幼兒は死にたるにあらず、寐ねたるなり』40人々イエスを嘲笑ふ。イエス彼等をみな外に出し、幼兒の父と母と己に伴へる者とを率きつれて、幼兒のをる處に入り、41幼兒の手を執りて『タリタ、クミ』と言ひたまふ。少女よ、我なんぢに言ふ、起きよ、との意なり。42直ちに少女たちて歩む、その歳十二なりければなり。彼ら直ちに甚く驚きおどろけり。43イエス此の事を誰にも知れぬやうにせよと、堅く彼らを戒め、また食物を娘に與ふることを命じ給ふ。

第六章

1かくて其處をいで、己が鄉に到り給ひしに、弟子たちも從へり。2安息日になりて、會堂にて教へ始め給ひしに、聞きたる多くのもの驚きて言ふ『この人は此等のことを何處より得しぞ、此の人の授けられたる智慧は何ぞ、その手にて爲すかくのごとき能力あるわざは何ぞ。3此の人は木匠にして、マリヤの子、またヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ならずや、其の姉妹も此處に我らと共にをるに非ずや』遂に彼に躓けり。4イエス彼らに言ひたまふ『預言者は、おのが鄉、おのが親族、おのが家の外にて尊ばれざる事なし』5彼處にては、何の能力ある業をも行ひ給ふこと能はず、ただ少數の病める者に、手をおきて醫し給ひしのみ。6彼らの信仰なきを怪しみ給へり。かくて村々を歷巡りて教へ給ふ。7また十二弟子を召し、二人づつ遣しはじめ、穢れし靈を制する權威を與へ、8かつ旅のために、杖一つの他は、何をも持たず、糧も囊も帶の中に錢をも持たず、9ただ草鞋ばかりをはきて、二つの下衣をも著ざることを命じ給へり。10かくて言ひたまふ『何處にても人の家に入らば、その地を去るまで其處に留れ。11何地にても汝らを受けず、汝らに聽かずば、其處を出づるとき、證のために足の裏の塵を拂へ』12ここに弟子たち出で往きて、悔改むべきことを宣傳へ、13多くの惡鬼を逐ひいだし、多くの病める者に油をぬりて醫せり。14かくてイエスの名顯れたれば、ヘロデ王ききて言ふ『バプテスマのヨハネ死人の中より甦へりたり。この故に此等の能力その中に働くなり』15或人は『エリヤなり』といひ、或人は『預言者、いにしへの預言者のごとき者なり』といふ。16ヘロデ聞きて言ふ『わが首斬りしヨハネ、かれ甦へりたるなり』17ヘロデ先にその娶りたる己が兄弟ピリポの妻ヘロデヤの爲に、みづから人を遣し、ヨハネを捕へて獄に繫げり。18ヨハネ、ヘロデに『その兄弟の妻を納るるは宜しからず』と言へるに因る。19ヘロデヤ、ヨハネを怨みて殺さんと思へど能はず。20それはヘロデ、ヨハネの義にして聖なる人たるを知りて、之を畏れ、之を護り、且つその教をききて、大に惱みつつも、なほ喜びて聽きたる故なり。21然るに機よき日來れり。ヘロデ己が

誕生日に、大臣・將校・ガリラヤの貴人たちを招きて 6 饗宴せしに、22かのヘロデヤの娘いり來りて、舞をまひ、ヘロデと其の席に列れる者とを喜ばしむ。王、少女に言ふ『何にても欲しく思ふものを求めよ、我あたへん』23また誓ひて言ふ『なんぢ求めば、我が國の半までも與へん』24娘いでて母にいふ『何を求むべきか』母いふ『バプテスマのヨハネの首を』25娘ただちに急ぎて王の許に入りきたり、求めて言ふ『ねがはくは、バプテスマのヨハネの首を盆に載せて速かに賜はれ』26王いたく憂ひたれど、その誓と席に在る者とに對して拒むことを好まず、27直ちに衞兵を遣し、之にヨハネの首を持ち來ることを命ず、衞兵ゆきて、獄にてヨハネを首斬り、28その首を盆にのせ、持ち來りて少女に與ふ、少女これを母に與ふ。29ヨハネの弟子たち聞きて來り、その屍體を取りて墓に納めたり。30使徒たちイエスの許に集りて、その爲ししこと、教へし事をことごとく告ぐ。31イエス言ひ給ふ『なんぢら人を避け、寂しき處に、いざ來りて暫し息へ』これは往來の人おほくして、食する暇だになかりし故なり。32かくて人を避け、舟にて寂しき處にゆく。33其の往くを見て、多くの人それと知り、その處を指して、町々より徒歩にてともに走り、彼 等よりも先に往けり。34イエス出でて大なる群衆を見、その牧ふ者なき羊の如くなるを甚く憫みて、多くの事を教へはじめ給ふ。35時すでに晩くなりたれば、弟子たち御許に來りていふ『ここは寂しき處、はや時も晩し。36人々を去らしめ、周圍の里また村に往きて、己がために食物を買はせ給へ』37答へて言ひ給ふ『なんぢら食物を與へよ』弟子たち言ふ『われら往きて二 百デナリのパンを買ひ、これに與へて食はすべきか』38イエス言ひ給ふ『パン幾つあるか、往きて見よ』彼ら見ていふ『五つ、また魚 二つあり』39イエス凡ての人の組々となりて、青 草の上に坐することを命じ給へば、40或は百 人、あるひは五 十 人、畝のごとく列びて坐す。41かくてイエス五つのパンと二つの魚とを取り、天を仰ぎて祝し、パンをさき、弟子たちに付して人々の前に置かしめ、二つの魚をも人 毎に分け給ふ。42凡ての人 食ひて飽きたれば、43パンの餘、魚の殘を集めしに、十二の筐に滿ちたり。44パンを食ひたる男は五 千 人なりき。45イエス直ちに、弟子たちを強ひて舟に乘らせ、自ら群衆を返す間に、彼方なるベツサイダに先に往かしむ。46群衆に別れてのち、祈らんとて山にゆき給ふ。47夕になりて、舟は海の眞中にあり、イエスはひとり陸に在す。48風 逆ふに因りて、弟子たちの漕ぎ煩ふを見て、夜明の四時ごろ、海の上を歩み、その許に到りて、往き過ぎんとし給ふ。49弟子たち其の海の上を歩み給ふを見、變化の者ならんと思ひて叫ぶ。50皆これを見て心 騷ぎたるに因る。イエス直ちに彼らに語りて言ひ給ふ『心 安かれ、我なり、懼るな』51かくて弟子たちの許にゆき、舟に登り給へば、風やみたり。弟子たち心の中にて甚く驚く、52彼らは先のパンの事をさとらず、反つて其の心 鈍くなりしなり。53遂に渡りてゲネサレの地に著き、舟がかりす。54舟より上りしに、人々ただちにイエスを認めて、55徧くあたりを馳せまはり、その在すと聞く處 々に、患ふ者を床のままつれ來る。56その到りたまふ處には、村にても、町にても、里にても、病める者を市場におきて、御衣の總にだに觸らしめ給はんことを願ふ。觸りし者は、みな醫されたり。

第七章

1パリサイ人と或 學者らと、エルサレムより來りてイエスの許に集る。2而して、その弟子たちの中に、潔からぬ手、即ち洗はぬ手にて食事する者のあるを見たり。3パリサイ人および凡てのユダヤ人は、古への人の言 傳を固く執りて、懇ろに手を洗はねば食はず。4また市場より歸りては、まず禊がざれば食はず。このほか酒杯・鉢・銅 の器を濯ぐなど、多くの傳を承けて固く執りたり。5パリサイ人および學者らイエスに問ふ『なにゆゑ汝 の弟子たちは、古への人の言 傳に遵ひて歩まず、潔からぬ手にて食事するか』6イエス言ひ給ふ『イザヤは 汝ら僞善者につきて能く預言せり。「この民は口唇にて我を敬ふ、されどその心は我に遠ざかる。7ただ徒らに我を拜む、人の訓誡を教へとし教へて」と録したり。8なんぢらは神の誡命を離れて、人の言 傳を固く執る』9また言ひたまふ『汝 等はおのれの言 傳を守らんとて、能くも神の誡命を棄つ。10即ちモーセは「なんぢの父、なんぢの母を敬へ」といひ「父また母を詈る者は、必ず殺さるべし」といへり。11然るに汝らは「人もし父また母にむかひ、我が汝に對して負ふ所のものは、コルバン即ち供物なりと言はば可し」と言ひて、12そののち人をして、父また母に事ふること無からしむ。13かく汝らの傳へたる言 傳によりて、神の言を空しうし、又おほく此の

類の事をなしをるなり』14更に群衆を呼び寄せて言ひ給ふ『なんぢら皆われに聽きて悟れ。15外より人に入りて、人を汚し得るものなし、されど人より出づるものは、これ人を汚すなり』16[なし]17イエス群衆を離れて家に入り給ひしに、弟子たち其の譬を問ふ。18彼らに言ひ給ふ『なんぢらも然か悟なきか、外より人に入る物の、人を汚しえぬを悟らぬか、19これ心には入らず、腹に入りて厠におつるなり』かく凡ての食物を潔しとし給へり。20また言ひたまふ『人より出づるものは、これ人を汚すなり。21それ内より、人の心より、惡しき念いづ、即ち淫行・竊盜・殺人、22姦淫・慳貪・邪曲・詭計・好色・嫉妬・誹謗・傲慢・愚痴。23すべて此等の惡しき事は、内より出でて人を汚すなり』24イエス起ちて此處を去り、ツロの地方に往き、家に入りて人に知られじとし給ひたれど、隱るること能はざりき。25ここに穢れし靈に憑かれたる稚なき娘をもてる女、ただちにイエスの事をきき、來りて御足の許に平伏す。26この女はギリシヤ人にて、スロ・フェニキヤの生なり。その娘より惡鬼を逐ひ出し給はんことを請ふ。27イエス言ひ給ふ『まづ子供に飽かしむべし、子供のパンをとりて小狗に投げ與ふるは善からず』28女こたへて言ふ『然り、主よ、食卓の下の小狗も子供の食屑を食ふなり』29イエス言ひ給ふ『なんぢ此の言によりて［安んじ］往け、惡鬼は既に娘より出でたり』30をんな家に歸りて見るに、子は寢臺の上に臥し、惡鬼は既に出でたり。31イエスまたツロの地方を去りて、シドンを過ぎ、デカポリスの地方を經て、ガリラヤの海に來り給ふ。32人々、耳聾にして物言ふこと難き者を連れ來りて、之に手をおき給はんことを願ふ。33イエス群衆の中より、彼をひとり連れ出し、その兩耳に指をさし入れ、また唾して其の舌に觸り、34天を仰ぎて嘆じ、その人に對ひて『エパタ』と言ひ給ふ、ひらけよとの意なり。35かくてその耳ひらけ、舌の縺ただちに解け、正しく物いへり。36イエス誰にも告ぐなと人々を戒めたまふ。されど戒むるほど反つて愈々言ひ弘めたり。37また甚だしく打驚きて言ふ『かれの爲しし事は皆よし、聾者をも聞えしめ、唖者をも物いはしむ』

第八章

1その頃また大なる群衆にて食ふべき物なかりしかば、イエス弟子たちを召して言ひ給ふ、2『われ此の群衆を憫む、既に三日われと偕にをりて、食ふべき物なし。3飢ゑしままにて其の家に歸らしめば、途にて疲れ果てん。其の中には遠くより來れる者あり』4弟子たち答へて言ふ『この寂しき地にては、何處よりパンを得て、この人々を飽かしむべき』5イエス問ひ給ふ『パン幾つあるか』答へて『七つ』といふ。6イエス群衆に命じて地に坐せしめ、七つのパンを取り、謝して之を裂き、弟子たちに與へて群衆の前におかしむ。弟子たち乃ちその前におく。7また小き魚すこしばかりあり、祝して、之をもその前におけと言ひ給ふ。8人々食ひて飽き、裂きたる餘を拾ひしに、七つの籃に滿ちたり。9その人おほよそ四千人なりき。イエス彼らを歸し、10直ちに弟子たちと共に舟に乘りて、ダルマヌタの地方に往き給へり。11パリサイ人いで來りて、イエスと論じはじめ、之を試みて天よりの徵をもとむ。12イエス心に深く歎じて言ひ給ふ『なにゆゑ今の代は徵を求むるか、まことに汝らに告ぐ、徵は今の代に斷えて與へられじ』13かくて彼らを離れ、また舟に乘りて彼方に往き給ふ。14弟子たちパンを携ふることを忘れ、舟には唯一つの他パンなかりき。15イエス彼らを戒めて言ひたまふ『愼みて、パリサイ人のパンだねと、ヘロデのパンだねとに心せよ』16弟子たち互に、これはパン無き故ならんと語り合ふ。17イエス知りて言ひたまふ『何ぞパン無き故ならんと語り合ふか、未だ知らぬか、悟らぬか、汝らの心なほ鈍きか。18目ありて見ぬか、耳ありて聽かぬか。又なんぢら思ひ出でぬか、19五つのパンを裂きて、五千人に與へし時、その餘を幾筐ひろひしか』弟子たち言ふ『十二』20『七つのパンを裂きて四千人に與へし時、その餘を幾籃ひろひしか』弟子たち言ふ『七つ』21イエス言ひたまふ『未だ悟らぬか』22彼ら遂にベツサイダに到る。人々、盲人をイエスに連れ來りて、觸り給はんことを願ふ。23イエス盲人の手をとりて、村の外に連れ往き、その目に唾し、御手をあてて『なにか見ゆるか』と問ひ給へば、24見上げて言ふ『人を見る、それは樹の如き物の歩くが見ゆ』25また御手をその目にあて給へば、視凝めたるに、癒えて凡てのもの明かに見えたり。26かくて『村にも入るな』と言ひて、その家に歸し給へり。27イエス其の弟子

たちとピリポ・カイザリヤの村々に出でゆき、途にて弟子たちに問ひて言ひたまふ『人々は我を誰と言ふか』28答へて言ふ『バプテスマのヨハネ、或人はエリヤ、或人は預言者の一人』29また問ひ給ふ『なんぢらは我を誰と言ふか』ペテロ答へて言ふ『なんぢはキリストなり』30イエス己がことを誰にも告ぐなと、彼らを戒め給ふ。31かくて人の子の必ず多くの苦難をうけ、長老・祭司長・學者らに棄てられ、かつ殺され、三日の後に甦へるべき事を教へはじめ、32此の事をあらはに語り給ふ。ここにペテロ、イエスを傍にひきて戒め出でたれば、33イエス振反りて弟子たちを見、ペテロを戒めて言ひ給ふ『サタンよ、わが後に退け、汝は神のことを思はず、反つて人のことを思ふ』34かくて群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言ひたまふ『人もし我に從ひ來らんと思はば、己をすて、己が十字架を負ひて我に從へ。35己が生命を救はんと思ふ者は、これを失ひ、我が爲また福音の爲に己が生命をうしなふ者は、之を救はん。36人、全世界を贏くとも、己が生命を損せば、何の益あらん、37人その生命の代に何を與へんや。38不義なる罪深き今の代にて、我または我が言を恥づる者をば、人の子もまた、父の榮光をもて、聖なる御使たちと共に來らん時に恥づべし』

第九章

1また言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、此處に立つ者のうちに、神の國の、權能をもて來るを見るまでは、死を味はぬ者どもあり』2六日の後、イエスただペテロ、ヤコブ、ヨハネのみを率きつれ、人を避けて高き山に登りたまふ。かくて彼らの前にて其の状かはり、3其の衣かがやきて甚だ白くなりぬ、世の晒布者を爲し得ぬほど白し。4エリヤ、モーセともに彼らに現れて、イエスと語りゐたり。5ペテロ差出でてイエスに言ふ『ラビ、我らの此處に居るは善し。われら三つの廬を造り、一つを汝のため、一つをモーセのため、一つをエリヤのためにせん』6彼等いたく懼れたれば、ペテロ何と言ふべきかを知らざりしなり。7かくて雲おこり、彼らを覆ふ。雲より聲出づ『これは我が愛しむ子なり、汝ら之に聽け』8弟子たち急ぎ見回すに、イエスと己らとの他には、はや誰も見えざりき。9山をくだる時、イエス彼らに、人の子の、死人の中より甦へるまでは、見しことを誰にも語るなと戒め給ふ。10彼ら此の言を心にとめ『死人の中より甦へる』とは、如何なる事ぞと互に論じ合ふ。11かくてイエスに問ひて言ふ『學者たちは、何故エリヤまづ來るべしと言ふか』12イエス言ひ給ふ『實にエリヤ先づ來りて、萬の事をあらたむ。さらば人の子につき、多くの苦難を受け、かつ蔑せらるる事の録されたるは何ぞや。13されど我なんぢらに告ぐ、エリヤは既に來れり。然るに彼に就きて録されたる如く、人々心のままに之を待へり』14相共に弟子たちの許に來りて、大なる群衆の之を環り、學者たちの之と論じゐたるを見給ふ。15群衆みなイエスを見るや否や、いたく驚き、御許に走り往きて禮をなせり。16イエス問ひ給ふ『なんぢら何を彼らと論ずるか』17群衆のうちの一人こたふ『師よ、唖の靈に憑かれたる我が子を御許に連れ來れり。18靈いづこにても彼に憑けば、痙攣け泡をふき、齒をくひしばり、而して痩せ衰ふ。御弟子たちに之を逐ひ出すことを請ひたれど能はざりき』19ここに彼らに言ひ給ふ『ああ信なき代なるかな、我いつまで汝らと偕にをらん、何時まで汝らを忍ばん。その子を我が許に連れきたれ』20乃ち連れきたる。彼イエスを見しとき、靈ただちに之を痙攣けたれば、地に倒れ、泡をふきて轉び廻る。21イエスその父に問ひ給ふ『いつの頃より斯くなりしか』父いふ『をさなき時よりなり。22靈しばしば彼を火のなか水の中に投げ入れて亡さんとせり。されど汝なにか爲し得ば、我らを憫みて助け給へ』23イエス言ひたまふ『爲し得ばと言ふか、信ずる者には、凡ての事なし得らるるなり』24その子の父ただちに叫びて言ふ『われ信ず、信仰なき我を助け給へ』25イエス群衆の走り集るを見て、穢れし靈を禁めて言ひたまふ『唖にて耳聾なる靈よ、我なんぢに命ず、この子より出でよ、重ねて入るな』26靈さけびて甚だしく痙攣けさせて出でしに、その子、死人の如くなりたれば、多くの者これを死にたりと言ふ。27イエスその手を執りて起し給へば立てり。28イエス家に入り給ひしとき、弟子たち竊に問ふ『我等いかなれば逐ひ出し得ざりしか』29答へ給ふ『この類は祈に由らざれば、如何にすとも出でざるなり』30此處を去りてガリラヤを過ぐ。イエス人の此の事を知るを欲し給はず。31これは弟子たちに教をなし、かつ『人の子は人々の手にわたされ、人々これを殺し、殺されて三日ののち甦へるべし』と言ひ給ふが故なり。32弟子たちはその言を悟らず、また問

ふ事を恐れたり。 33かくてカペナウムに到る。イエス家に入りて弟子たちに問ひ給ふ『なんぢら途すがら何を論ぜしか』 34弟子たち默然たり、これは途すがら、誰か大ならんと、互に爭ひたるに因る。 35イエス坐して十二弟子を呼び、之に言ひたまふ『人もし頭たらんと思はば、凡ての人の後となり、凡ての人の役者となるべし』 36かくてイエス幼兒をとりて彼らの中におき、之を抱きて言ひ給ふ、 37『おほよそ我が名のために斯かる幼兒の一人を受くる者は、我を受くるなり。我を受くる者は、我を受くるにあらず、我を遣しし者を受くるなり』 38ヨハネ言ふ『師よ、我らに從はぬ者の、御名によりて惡鬼を逐ひ出すを見しが、我らに從はぬ故に、之を止めたり』 39イエス言ひたまふ『止むな、我が名のために能力ある業をおこなひ、俄に我を譏り得る者なし。 40我らに逆はぬ者は、我らに附く者なり。 41キリストの者たるによりて、汝らに一杯の水を飮ませる者は、我まことに汝らに告ぐ、必ずその報を失はざるべし。 42また我を信ずる此の小き者の一人を躓かする者は、寧ろ大なる碾臼を頸に懸けられて、海に投げ入れられんかた勝れり。 43もし汝の手なんぢを躓かせば、之を切り去れ、不具にて生命に入るは、兩手ありてゲヘナの消えぬ火に往くよりも勝るなり。 44[なし] 45もし汝の足なんぢを躓かせば、之を切り去れ、蹇跛にて生命に入るは、兩足ありてゲヘナに投げ入れらるるよりも勝るなり。 46[なし] 47もし汝の眼なんぢを躓かせば、之を抜き出せ、片眼にて神の國に入るは、兩眼ありてゲヘナに投げ入れらるるよりも勝るなり。 48「彼處にては、その蛆つきず、火も消えぬなり」 49それ人はみな火をもて鹽つけらるべし。 50鹽は善きものなり、されど鹽もし其の鹽氣を失はば、何をもて之に味つけん。汝ら心の中に鹽を保ち、かつ互に和ぐべし』

第十章

1イエス此處をたちて、ユダヤの地方およびヨルダンの彼方に來り給ひしに、群衆またも御許に集ひたれば、常のごとく教へ給ふ。 2時にパリサイ人ら來り試みて問ふ『人その妻を出すはよきか』 3答へて言ひ給ふ『モーセは汝らに何と命ぜしか』 4彼ら言ふ『モーセは離縁状を書きて出すことを許せり』 5イエス言ひ給ふ『汝らの心つれなきによりて、此の誡命を録ししなり。 6されど開闢の初より「人を男と女とに造り給へり」 7「かかる故に人はその父母を離れて、 8二人のもの一體となるべし」さればはや二人にはあらず、一體なり。 9この故に神の合せ給ふものは、人これを離すべからず』 10家に入りて弟子たち復この事を問ふ。 11イエス言ひ給ふ『おほよそ其の妻を出して他に娶る者は、その妻に對して姦淫を行ふなり。 12また妻もし其の夫を棄てて他に嫁がば、姦淫を行ふなり』 13イエスの觸り給はんことを望みて、人々幼兒らを連れ來りしに、弟子たち禁めたれば、 14イエス之を見、いきどほりて言ひたまふ『幼兒らの我に來るを許せ、止むな、神の國は斯くのごとき者の國なり。 15まことに汝らに告ぐ、凡そ幼兒の如くに神の國をうくる者ならずば、之に入ること能はず』 16かくて幼兒を抱き、手をその上におきて祝し給へり。 17イエス途に出で給ひしに、一人はしり來り、跪づきて問ふ『善き師よ、永遠の生命を嗣ぐためには、我なにを爲すべきか』 18イエス言ひ給ふ『なにゆゑ我を善しと言ふか、神ひとりの他に善き者なし。 19誡命は汝が知るところなり「殺すなかれ」「姦淫するなかれ」「盜むなかれ」「僞證を立つるなかれ」「欺き取るなかれ」「汝の父と母とを敬へ」』 20彼いふ『師よ、われ幼き時より皆これを守れり』 21イエス彼に目をとめ、愛しみて言ひ給ふ『なんぢ尚ほ一つを缺く、往きて汝の有てる物をことごとく賣りて、貧しき者に施せ、さらば財寶を天に得ん。且きたりて我に從へ』 22この言によりて、彼は憂を催し、悲しみつつ去りぬ、大なる資産をもてる故なり。 23イエス見回して弟子たちに言ひたまふ『富ある者の神の國に入るは如何に難いかな』 24弟子たち此の御言に驚く。イエスまた答へて言ひ給ふ『子たちよ、神の國に入るは如何に難いかな、 25富める者の神の國に入るよりは、駱駝の針の孔を通るかた反つて易し』 26弟子たち甚く驚きて互に言ふ『さらば誰か救はるる事を得ん』 27イエス彼らに目を注めて言ひたまふ『人には能はねど、神には然らず、夫れ神は凡ての事をなし得るなり』 28ペテロ、イエスに對ひて『我らは一切をすてて汝に從ひたり』と言ひ出でたれば、 29イエス言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、我がため、福音のために、或は兄弟、あるひは姉妹、或は父、或は母、或は子、或は田畑をすつる者は、 30誰にても今、今の時に百倍を受けぬはなし。即ち家・兄弟・姉妹・母・子・田畑を迫害と共に受け、また後の世にては、永遠の

生命を受けぬはなし。31されど多くの先なる者は後に、後なる者は先になるべし』32エルサレムに上る途にて、イエス先だち往き給ひしかば、弟子たち驚き、隨ひ往く者ども懼れたり。イエス再び十二弟子を近づけて、己が身に起らんとする事どもを語り出で給ふ33『視よ、我らエルサレムに上る。人の子は祭司長・學者らに付されん。彼ら死に定めて、異邦人に付さん。34異邦人は嘲弄し、唾し、鞭うち、遂に殺さん、かくて彼は三日の後に甦へるべし』35ここにゼベダイの子ヤコブ、ヨハネ御許に來りて言ふ『師よ、願はくは我らが何にても求むる所を爲したまへ』36イエス言ひ給ふ『わが汝らに何を爲さんことを望むか』37彼ら言ふ『なんぢの榮光の中にて、一人をその右に、一人をその左に坐せしめ給へ』38イエス言ひ給ふ『なんぢらは求むる所を知らず、汝等わが飲む酒杯を飲み、我が受くるバプテスマを受け得るか』39彼等いふ『得るなり』イエス言ひ給ふ『なんぢら我が飲む酒杯を飲み、また我が受くるバプテスマを受くべし。40されど我が右左に坐することは、我の與ふべきものならず、ただ備へられたる人こそ與へらるるなれ』41十人の弟子これを聞き、ヤコブとヨハネとの事により憤ほり出でたれば、42イエス彼らを呼びて言ひたまふ『異邦人の君と認めらるる者の、その民を宰どり、大なる者の、民の上に權を執ることは、汝らの知る所なり。43されど汝らの中にては然らず、反つて大ならんと思ふ者は、汝らの役者となり、44頭たらんと思ふ者は、凡ての者の僕となるべし。45人の子の來れるも、事へらるる爲にあらず、反つて事ふることをなし、又おほくの人の贖價として己が生命を與へん爲なり』46かくて彼らエリコに到る。イエスその弟子たち及び大なる群衆と共に、エリコを出でたまふ時、テマイの子バルテマイといふ盲目の乞食、路の傍に坐しをりしが、47ナザレのイエスなりと聞き、叫び出して言ふ『ダビデの子イエスよ、我を憫みたまへ』48多くの人かれを禁めて默さしめんとしたれど、ますます叫びて『ダビデの子よ、我を憫みたまへ』と言ふ。49イエス立ち止りて『かれを呼べ』と言ひ給へば、人々盲人を呼びて言ふ『心安かれ、起て、なんぢを呼びたまふ』50盲人うはぎを脱ぎ捨て、躍り上りて、イエスの許に來りしに、51イエス答へて言ひ給ふ『わが汝に何を爲さんことを望むか』盲人いふ『わが師よ、見えんことなり』52イエス彼に『ゆけ、汝の信仰なんぢを救へり』と言ひ給へば、直ちに見ることを得、イエスに從ひて途を往けり。

第十一章

1彼らエルサレムに近づき、オリブ山の麓なるベテパゲ及びベタニヤに到りし時、イエス二人の弟子を遣さんとして言ひ給ふ、2『むかひの村にゆけ、其處に入らば、やがて人の未だ乘りたることなき驢馬の子の繋ぎあるを見ん、それを解きて牽き來れ。3誰かもし汝らに「なにゆゑ然するか」と言はば「主の用なり、彼ただちに返さん」といへ』4弟子たち往きて、門の外の路に驢馬の子の繋ぎあるを見て解きたれば、5其處に立つ人々のうちの或者『なんぢら驢馬の子を解きて何とするか』と言ふ。6弟子たちイエスの告げ給ひし如く言ひしに、彼ら許せり。7かくて弟子たち驢馬の子をイエスの許に牽ききたり、己が衣をその上に置きたれば、イエス之に乘り給ふ。8多くの人は己が衣を、或人は野より伐り取りたる樹の枝を途に敷く。9かつ前に往き後に從ふ者ども呼はりて言ふ『「ホサナ、讃むべきかな、主の御名によりて來る者」10讃むべきかな、今し來る我らの父ダビデの國。「いと高き處にてホサナ」』11遂にエルサレムに到りて宮に入り、凡ての物を見回し、時はや暮に及びたれば、十二弟子と共にベタニヤに出で往きたまふ。12あくる日かれらベタニヤより出で來りし時、イエス飢ゑ給ふ。13遙に葉ある無花果の樹を見て、果をや得んと其のもとに到り給ひしに、葉のほかに何をも見出し給はず、是は無花果の時ならぬに因る。14イエスその樹に對ひて言ひたまふ『今より後いつまでも、人なんぢの果を食はざれ』弟子たち之を聞けり。15彼らエルサレムに到る。イエス宮に入り、その内にて賣買する者どもを逐ひ出し、兩替する者の臺、鴿を賣るものの腰掛を倒し、16また器物を持ちて宮の内を過ぐることを免し給はず。17かつ教へて言ひ給ふ『「わが家は、もろもろの國人の祈の家と稱へらるべし」と録されたるにあらずや、然るに汝らは之を「強盜の巢」となせり』18祭司長・學者ら之を聞き、如何にしてかイエスを亡さんと謀る、それは群衆みな其の教に驚きたれば、彼を懼れしなり。19夕になる毎に、イエス弟子たちと共に都を出でゆき給ふ。20彼ら朝早く路をすぎしに、無花果の樹の根より枯れたるを見る。21ペテロ思ひ出してイエスに言ふ『ラビ、見給へ、

詛ひ給ひし無花果の樹は枯れたり』22イエス答へて言ひ給ふ『神を信ぜよ。23まことに汝らに告ぐ、人もし此の山に「移りて海に入れ」と言ふとも、其の言ふところ必ず成るべしと信じて、心に疑はずば、その如く成るべし。24この故に汝らに告ぐ、凡て祈りて願ふ事は、すでに得たりと信ぜよ、さらば得べし。25また立ちて祈るとき、人を怨む事あらば免せ、これは天に在す汝らの父の、汝らの過失を免し給はん爲なり』26[なし]27かれら又エルサレムに到る。イエス宮の内を歩み給ふとき、祭司長・學者・長老たち御許に來りて、28『何の權威をもて此等の事をなすか、誰が此等の事を爲すべき權威を授けしか』と言ふ。29イエス言ひ給ふ『われ一言なんぢらに問はん、答へよ、さらば我も何の權威をもて、此等の事を爲すかを告げん。30ヨハネのバプテスマは、天よりか、人よりか、我に答へよ』31彼ら互に論じて言ふ『もし天よりと言はば「何故かれを信ぜざりし」と言はん。32されど人よりと言はんか……』彼ら群衆を恐れたり、人みなヨハネを實に預言者と認めたればなり。33遂にイエスに答へて『知らず』と言ふ。イエス言ひ給ふ『われも何の權威をもて此等の事を爲すか、汝らに告げじ』

第十二章

1イエス譬をもて彼らに語り出で給ふ『ある人、葡萄園を造り、籬を環らし、酒槽の穴を掘り、櫓をたて、農夫どもに貸して、遠く旅立せり。2時いたりて農夫より葡萄園の所得を受取らんとて、僕をその許に遣ししに、3彼ら之を執へて打ちたたき、空手にて歸らしめたり。4又ほかの僕を遣ししに、その首に傷つけ、かつ辱しめたり。5また他の者を遣ししに、之を殺したり。又ほかの多くの僕をも、或は打ち或は殺したり。6なほ一人あり、即ち其の愛しむ子なり「わが子は敬ふならん」と言ひて、最後に之を遣ししに、7かの農夫ども互に言ふ「これは世嗣なり、いざ之を殺さん、さらばその嗣業は、我らのものとなるべし」8乃ち執へて之を殺し、葡萄園の外に投げ棄てたり。9さらば葡萄園の主、なにを爲さんか、來りて農夫どもを亡し、葡萄園を他の者どもに與ふべし。10汝ら聖書に「造家者らの棄てたる石は、これぞ隅の首石となれる。11これ主によりて成れるにて、我らの目には奇しきなり」とある句をすら讀まぬか』12ここに彼等イエスを執へんと思ひたれど、群衆を恐れたり、この譬の己らを指して言ひ給へるを悟りしに因る。遂にイエスを離れて去り往けり。13かくて彼らイエスの言尾をとらへて陷入れん爲に、パリサイ人とヘロデ黨との中より、數人を御許に遣す。14その者ども來りて言ふ『師よ、我らは知る、汝は眞にして、誰をも憚りたまふ事なし、人の外貌を見ず、眞をもて神の道を教へ給へばなり。我ら貢をカイザルに納むるは、宜きか、惡しきか、納めんか、納めざらんか』15イエス其の詐僞なるを知りて『なんぞ我を試むるか、デナリを持ち來りて我に見せよ』と言ひ給へば、16彼ら持ち來る。イエス言ひ給ふ『これは誰の像、たれの號なるか』『カイザルのなり』と答ふ。17イエス言ひ給ふ『カイザルの物はカイザルに、神の物は神に納めよ』彼らイエスに就きて甚だ怪しめり。18また復活なしと云ふサドカイ人ら、イエスに來り問ひて言ふ19『師よ、モーセは、人の兄弟もし子なく妻を遺して死なば、その兄弟かれの妻を娶りて、兄弟のため嗣子を擧ぐべしと、我らに書き遺したり。20ここに七人の兄弟ありて、兄妻を娶り、嗣子なくして死に、21第二の者その女を娶り、また嗣子なくして死に、第三の者もまた然なし、22七人とも嗣子なくして死に、終には其の女も死にたり。23復活のとき彼らみな甦へらんに、この女は誰の妻たるべきか、七人これを妻としたればなり』24イエス言ひ給ふ『なんぢらの誤れるは、聖書をも神の能力をも知らぬ故ならずや。25人、死人の中より甦へる時は、娶らず、嫁がず、天に在る御使たちの如くなるなり。26死にたる者の甦へる事に就きては、モーセの書の中なる柴の條に、神モーセに「われはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神なり」と告げ給ひし事あるを、未だ讀まぬか。27神は死にたる者の神にあらず、生ける者の神なり。なんぢら大に誤れり』28學者の一人、かれらの論じをるを聞き、イエスの善く答へ給へるを知り、進み出でて問ふ『すべての誡命のうち、何か第一なる』29イエス答へたまふ『第一は是なり「イスラエルよ聽け、主なる我らの神は唯一の主なり。30なんぢ心を盡し、精神を盡し、思を盡し、力を盡して、主なる汝の神を愛すべし」31第二は是なり「おのれの如く汝の隣を愛すべし」此の二つより大なる誡命はなし』32學者いふ『善きかな師よ「神は唯一にして他に神なし」と言ひ給へるは眞なり。33「こころを盡し、

知慧を盡し、力を盡して神を愛し、また己のごとく隣を愛する」は、もろもろの燔祭および犠牲に勝るなり』 34イエスその聰く答へしを見て言ひ給ふ『なんぢ神の國に遠からず』此の後たれも敢へてイエスに問ふ者なかりき。 35イエス宮にて教ふるとき、答へて言ひ給ふ『なにゆゑ學者らはキリストをダビデの子と言ふか。 36ダビデ聖靈に感じて自らいへり「主わが主に言ひ給ふ、我なんぢの敵を汝の足の下に置くまでは、我が右に坐せよ」と。 37ダビデ自ら彼を主と言ふ、されば爭でその子ならんや』大なる群衆は喜びてイエスに聽きたり。 38イエスその教のうちに言ひたまふ『學者らに心せよ、彼らは長き衣を著て歩むこと、市場にての敬禮、 39會堂の上座、饗宴の上席を好み、 40また寡婦らの家を呑み、外見をつくりて長き祈をなす。その受くる審判は更に嚴しからん』 41イエス賽錢函に對ひて坐し、群衆の錢を賽錢函に投げ入るるを見給ふ。富める多くの者は、多く投げ入れしが、 42一人の貧しき寡婦きたりて、レプタ二つを投げ入れたり、即ち五厘ほどなり。 43イエス弟子たちを呼び寄せて言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、この貧しき寡婦は、賽錢函に投げ入るる凡ての人よりも多く投げ入れたり。 44凡ての者は、その豐なる内よりなげ入れ、この寡婦は其の乏しき中より、凡ての所有、即ち己が生命の料をことごとく投げ入れたればなり』

第十三章

1イエス宮を出で給ふとき、弟子の一人いふ『師よ、見給へ、これらの石、これらの建造物、いかに盛ならずや』 2イエス言ひ給ふ『なんぢ此等の大なる建造物を見るか、一つの石も崩されずしては石の上に殘らじ』 3オリブ山にて宮の方に對ひて坐し給へるに、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレ竊に問ふ 4『われらに告げ給へ、これらの事は何時あるか、又すべて此等の事の成し遂げられんとする時は、如何なる兆あるか』 5イエス語り出で給ふ『なんぢら人に惑されぬやうに心せよ。 6多くの者わが名を冒し來り「われは夫なり」と言ひて多くの人を惑さん。 7戰爭と戰爭の噂とを聞くとき懼るな、かかる事はあるべきなり、されど未だ終にはあらず。 8即ち「民は民に、國は國に逆ひて起たん」また處々に地震あり、饑饉あらん、これらは産の苦難の始なり。 9汝等みづから心せよ、人々なんぢらを衆議所に付さん。なんぢら會堂に曳かれて打たれ、且わが故によりて、司たち及び王たちの前に立てられん、これは證をなさん爲なり。 10かくて福音は先づもろもろの國人に宣傳へらるべし。 11人々なんぢらを曳きて付さんとき、何を言はんと預じめ思ひ煩ふな、唯そのとき授けらるることを言へ、これ言ふ者は汝等にあらず、聖靈なり。 12兄弟は兄弟を、父は子を死にわたし、子らは親たちに逆ひ立ちて死なしめん。 13又なんぢら我が名の故に凡ての人に憎まれん、されど終まで耐へ忍ぶ者は救はるべし。 14「荒す惡むべき者」の立つべからざる所に立つを見ば（讀むもの悟れ）その時ユダヤにをる者どもは、山に遁れよ。 15屋の上にをる者は、内に下るな。また家の物を取り出さんとて内に入るな。 16畑にをる者は上衣を取らんとて歸るな。 17其の日には孕りたる女と、乳を哺ませる女とは禍害なるかな。 18この事の冬おこらぬやうに祈れ、 19その日は患難の日なればなり。神の萬物を造り給ひし開闢より今に至るまで、かかる患難はなく、また後にもなからん。 20主その日を少くし給はずば、救はるる者一人だになからん。されど其の選び給ひし選民の爲に、その日を少くし給へり。 21其の時なんぢらに「視よ、キリスト此處にあり」「視よ、彼處にあり」と言ふ者ありとも信ずな。 22僞キリスト・僞預言者ら起りて、徴と不思議とを行ひ、爲し得べくは、選民をも惑さんとするなり。 23汝らは心せよ、あらかじめ之を皆なんぢらに告げおくなり。 24其の時、その患難ののち、日は暗く、月は光を發たず。 25星は空より隕ち、天にある萬象ふるひ動かん。 26其のとき人々、人の子の大なる能力と榮光とをもて、雲に乘り來るを見ん。 27その時かれは使者たちを遣して、地の極より天の極まで、四方より其の選民をあつめん。 28無花果の樹よりの譬を學べ、その枝すでに柔かくなりて葉芽ぐめば、夏の近きを知る。 29かくの如く此等のことの起るを見ば、人の子すでに近づきて門邊にいたるを知れ。 30まことに汝らに告ぐ、これらの事ことごとく成るまで、今の代は過ぎ逝くことなし。 31天地は過ぎゆかん、されど我が言は過ぎ逝くことなし。 32その日その時を知る者なし。天にある使者たちも知らず、子も知らず、ただ父のみ知り給ふ。 33心して目を覺しをれ、汝等その時の何時なるかを知らぬ故なり。 34例へば家を出づる時、その僕どもに權を委ねて、各自の務を定め、更に門守に、目を覺しをれと命じ置きて、遠く旅立

したる人のごとし。35この故に目を覺しをれ、家の主人の歸るは、夕か、夜半か、鷄 鳴くころか、夜明か、いづれの時なるかを知らねばなり。36恐らくは俄に歸りて、汝らの眠れるを見ん。37わが汝らに告ぐるは、凡ての人に告ぐるなり。目を覺しをれ』

第十四章

1さて過越と除酵との祭の二日 前となりぬ。祭司長・學者ら詭計をもてイエスを捕へ、かつ殺さんと企てて言ふ 2『祭の間は爲すべからず、恐らくは民の亂あるべし』 3イエス、ベタニヤに在して、癩病人シモンの家にて食事の席につき居給ふとき、或 女、價 高き混なきナルドの香 油の入りたる石膏の壺を持ち來り、その壺を毀ちてイエスの首に注ぎたり。4ある人々、憤ほりて 互に言ふ『なに故かく濫に油を費すか、 5この油を三 百デナリ餘に賣りて、貧しき者に施すことを得たりしものを』而して甚く女を咎む。6イエス言ひ給ふ『その爲すに任せよ、何ぞこの女を惱すか、我に善き事をなせり。 7貧しき者は常に汝らと偕にをれば、何時にても心のままに助け得べし、されど我は常に汝らと偕にをらず。 8此の女は、なし得る限をなして、我が體に香 油をそそぎ、あらかじめ葬りの備をなせり。9まことに汝らに告ぐ、全世界いづこにても、福音の宣傳へらるる處には、この女の爲しし事も記念として語らるべし』 10ここに十二 弟子の一人なるイスカリオテのユダ、イエスを賣らんとて祭司長の許にゆく。11彼 等これを聞きて喜び、銀を與へんと約したれば、ユダ如何にしてか機 好くイエスを付さんと謀る。12除酵祭の初の日、即ち過越の羔羊を屠るべき日、弟子たちイエスに言ふ『過越の食をなし給ふために、我らが何處に往きて備ふることを望み給ふか』 13イエス二人の弟子を遣さんとして言ひたまふ『都に往け、然らば水をいれたる瓶を持つ人、なんぢらに遇ふべし。之に從ひ往き、 14その入る所の家 主に「師いふ、われ弟子らと共に過越の食をなすべき座敷は何處なるか」と言へ。15さらば調へ備へたる大なる二階 座敷を見すべし。其處に我らのために備へよ』 16弟子たち出で往きて都に入り、イエスの言ひ給ひし如くなるを見て、過越の設備をなせり。17日 暮れてイエス十二 弟子とともに往き、 18みな席に就きて食するとき言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、我と共に食する汝らの中の一人、われを賣らん』 19弟子たち憂ひて一人 一人『われなるか』と言ひ出でしに、 20イエス言ひたまふ『十二のうちの一人にて、我と共にパンを鉢に浸す者は夫なり。 21實に人の子は己に就きて録されたる如く逝くなり。されど人の子を賣る者は禍害なるかな、その人は生れざりし方よかりしものを』 22彼ら食しをる時、イエス、パンを取り、祝してさき、弟子たちに與へて言ひたまふ『取れ、これは我が體なり』 23また酒杯を取り、謝して彼らに與へ給へば、皆この酒杯より飲めり。 24また言ひ給ふ『これは契約の我が血、おほくの人の爲に流す所のものなり。 25まことに汝らに告ぐ、神の國にて新しきものを飲む日までは、われ葡萄の果より成るものを飲まじ』 26かれら讃美をうたひて後、オリブ山に出でゆく。 27イエス弟子たちに言ひ給ふ『なんぢら皆 躓かん、それは「われ牧羊者を打たん、さらば羊 散るべし」と録されたるなり。 28されど我よみがへりて後、なんぢらに先だちてガリラヤに往かん』 29時にペテロ、イエスに言ふ『假令みな躓くとも、我は然らじ』 30イエス言ひ給ふ『まことに汝 に告ぐ、今日この夜、 鷄 ふたたび鳴く前に、なんぢ三たび我を否むべし』 31ペテロ力をこめて言ふ『われ汝とともに死ぬべき事ありとも、汝を否まず』弟子たち皆かく言へり。 32彼らゲツセマネと名づくる處に到りし時、イエス弟子たちに言ひ給ふ『わが祈る間、ここに座せよ』 33かくてペテロ、ヤコブ、ヨハネを伴ひゆき、甚く驚き、かつ悲しみ出でて言ひ給ふ 34『わが心いたく憂ひて死ぬばかりなり、汝ら此處に留りて目を覺しをれ』 35少し進みゆきて、地に平伏し、若しも得べくば此の時の己より過ぎ往かんことを祈りて言ひ給ふ 36『アバ父よ、父には能はぬ事なし、此の酒杯を我より取り去り給へ。されど我が意のままを成さんとにあらず、御意のままを成し給へ』 37來りて、その眠れるを見、ペテロに言ひ給ふ『シモンよ、なんぢ眠るか、一 時も目を覺しをること能はぬか。 38なんぢら誘惑に陷らぬやう、目を覺しかつ祈れ。實に心は熱すれども肉體よわきなり』 39再びゆき、同じ言にて祈り給ふ。 40また來りて彼らの眠れるを見たまふ、是その目いたく疲れたるなり、彼ら何と答ふべきかを知らざりき。 41三度 來りて言ひたまふ『今は眠りて休め、足れり、時きたれり、視よ、人の子は罪人らの手に付さるるなり。 42起て、われらは往くべし。視よ、我を賣る者ちかづけり』 43なほ語りゐ給ふほどに、

十二弟子の一人なるユダ、やがて近づき來る、祭司長・學者・長老らより遣されたる群衆、劍と棒とを持ちて之に伴ふ。44イエスを賣るもの、あらかじめ合圖を示して言ふ『わが接吻する者はそれなり、之を捕へて確と引きゆけ』45かくて來りて直ちに御許に往き『ラビ』と言ひて接吻したれば、46人々イエスに手をかけて捕ふ。47傍らに立つ者のひとり、劍を抜き、大祭司の僕を撃ちて、耳を切り落せり。48イエス人々に對ひて言ひ給ふ『なんぢら強盜にむかふ如く、劍と棒とを持ち、我を捕へんとて出で來るか。49我は日々なんぢらと偕に宮にありて教へたりしに、我を執へざりき、されど是は聖書の言の成就せん爲なり』50其のとき弟子みなイエスを棄てて逃げ去る。51ある若者、素肌に亞麻布を纏ひて、イエスに從ひたりしに、人々これを捕へければ、52亞麻布を棄て裸にて逃げ去れり。53人々イエスを大祭司の許に曳き往きたれば、祭司長・長老・學者ら皆あつまる。54ペテロ遠く離れてイエスに從ひ、大祭司の中庭まで入り、下役どもと共に坐して火に煖まりゐたり。55さて祭司長ら及び全議會、イエスを死に定めんとて、證據を求むれども得ず。56それはイエスに對して僞證する者多くあれども、其の證據あはざりしなり。57遂に或者ども起ちて僞證して言ふ58『われら此の人の「われは手にて造りたる此の宮を毀ち、手にて造らぬ他の宮を三日にて建つべし」と云へるを聞けり』59然れど尚この證據もあはざりき。60ここに大祭司、中に立ちイエスに問ひて言ふ『なんぢ何をも答へぬか、此の人々の立つる證據は如何に』61されどイエス默して何をも答へ給はず。大祭司ふたたび問ひて言ふ『なんぢは頌むべきものの子キリストなるか』62イエス言ひ給ふ『われは夫なり、汝ら、人の子の全能者の右に坐し、天の雲の中にありて來るを見ん』63此のとき大祭司おのが衣を裂きて言ふ『なんぞ他に證人を求めん。64なんぢら此の瀆言を聞けり、如何に思ふか』かれら擧りてイエスを死に當るべきものと定む。65而して或者どもはイエスに唾し、又その顏を蔽ひ、拳にて搏ちなど爲始めて言ふ『預言せよ』下役どもイエスを受け、手掌にてうてり。66ペテロ下にて中庭にをりしに、大祭司の婢女の一人きたりて、67ペテロの火に煖まりをるを見、これに目を注めて『汝もかのナザレ人イエスと偕に居たり』と言ふ。68ペテロ肯はずして『われは汝の言ふことを知らず、又その意をも悟らず』と言ひて庭口に出でたり。69婢女かれを見て、また傍らに立つ者どもに『この人はかの黨與なり』と言ひ出でしに、70ペテロ重ねて肯はず、暫くしてまた傍らに立つ者どもペテロに言ふ『なんぢは慥にかの黨與なり、汝もガリラヤ人なり』71此の時ペテロ盟ひかつ誓ひて『われは汝らの言ふ其の人を知らず』と言ひ出づ。72その折しも、また鷄なきぬ。ペテロ『にはとり二度なく前に、なんぢ三度われを否まん』とイエスの言ひ給ひし御言を思ひいだし、思ひ反して泣きたり。

第十五章

1夜明るや直ちに、祭司長・長老・學者ら、即ち全議會ともに相議りて、イエスを縛り、曳きゆきてピラトに付す。2ピラト、イエスに問ひて言ふ『なんぢはユダヤ人の王なるか』答へて言ひ給ふ『なんぢの言ふが如し』3祭司長らさまざまに訴ふれば、4ピラトまた問ひて言ふ『なにも答へぬか、視よ、如何に多くの事をもて訴ふるか』5されどピラトの怪しむばかり、イエス更に何をも答へ給はず。6さて祭の時には、ピラト民の願に任せて、囚人ひとりを赦す例なるが、7ここに一揆を起し、人を殺して繋がれをる者の中に、バラバといふ者あり。8群衆すすみ來りて、例の如くせんことを願ひ出でたれば、9ピラト答へて言ふ『ユダヤ人の王を赦さんことを願ふか』10これピラト、祭司長らのイエスを付ししは、嫉に因ると知る故なり。11されど祭司長ら群衆を唆かし、反つてバラバを赦さんことを願はしむ。12ピラトまた答へて言ふ『さらば汝らがユダヤ人の王と稱ふる者をわれ如何にすべきか』13人々また叫びて言ふ『十字架につけよ』14ピラト言ふ『そも彼は何の惡事を爲したるか』かれら烈しく叫びて『十字架につけよ』と言ふ。15ピラト群衆の望を滿さんとて、バラバを釋し、イエスを鞭うちたるのち、十字架につくる爲にわたせり。16兵卒どもイエスを官邸の中庭に連れゆき、全隊を呼び集めて、17彼に紫色の衣を著せ、茨の冠冕を編みて冠らせ、18『ユダヤ人の王、安かれ』と禮をなし始め、19また葦にて其の首をたたき、唾し、跪づきて拜せり。20かく嘲弄してのち、紫色の衣を剥ぎ、故の衣を著せ、十字架につけんとて曳き出せり。21時にアレキサンデルとルポスとの父シモンといふクレネ人、田舍より來りて通りかかりしに、強ひてイエスの十字架を負はせ、22イエスを

ゴルゴダ、釋けば髑髏といふ處に連れ往けり。23かくて沒藥を混ぜたる葡萄酒を與へたれど、受け給はず。24彼らイエスを十字架につけ、而して誰が何を取るべきと、鬮を引きて其の衣を分つ、25イエスを十字架につけしは、朝の九時頃なりき。26その罪標には『ユダヤ人の王』と書せり。27イエスと共に、二人の強盜を十字架につけ、一人をその右に、一人をその左に置く。28[なし]29往來の者どもイエスを譏り、首を振りて言ふ『ああ、宮を毀ちて三日のうちに建つる者よ、30十字架より下りて己を救へ』31祭司長らも亦同じく、學者らと共に嘲弄して互に言ふ『人を救ひて、己を救ふこと能はず、32イスラエルの王キリスト、いま十字架より下りよかし、さらば我ら見て信ぜん』共に十字架につけられたる者どもも、イエスを罵りたり。33晝の十二時に、地のうへ徧く暗くなりて、三時に及ぶ。34三時にイエス大聲に『エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ』と呼はり給ふ。之を釋けば、わが神、わが神、なんぞ我を見棄て給ひし、との意なり。35傍らに立つ者のうち或人々これを聞きて言ふ『視よ、エリヤを呼ぶなり』36一人はしり往きて、海綿に醯き葡萄酒を含ませて葦につけ、イエスに飲ましめて言ふ『待て、エリヤ來りて、彼を下すや否や、我ら之を見ん』37イエス大聲を出して息絶え給ふ。38聖所の幕、上より下まで裂けて二つとなりたり。39イエスに向ひて立てる百卒長、かかる樣にて息絶え給ひしを見て言ふ『實にこの人は神の子なりき』40また遙に望み居たる女たちあり、その中にはマグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセとの母マリヤ、及びサロメなども居たり。41彼らはイエスのガリラヤに居給ひしとき、從ひ事へし者どもなり。此の他イエスと共にエルサレムに上りし多くの女もありき。42日既に暮れて、準備日すなはち安息日の前の日となりたれば、43貴き議員にして、神の國を待ち望める、アリマタヤのヨセフ來りて、憚らずピラトの許に往き、イエスの屍體を乞ふ。44ピラト、イエスは早や死にしかと訝り、百卒長を呼びて、その死にしより時經しや否やを問ひ、45既に死にたる事を百卒長より聞き知りて、屍體をヨセフに與ふ。46ヨセフ亞麻布を買ひ、イエスを取下して之に包み、岩に鑿りたる墓に納め、墓の入口に石を轉し置く。47マグダラのマリヤとヨセの母マリヤと、イエスを納めし處を見ゐたり。

第十六章

1安息日終りし時、マグダラのマリヤ、ヤコブの母マリヤ及びサロメ、往きてイエスに抹らんとて香料を買ひ、2一週の首の日、日の出でたる頃いと早く墓にゆく。3誰か我らの爲に墓の入口より石を轉すべきと語り合ひしに、4目を擧ぐれば、石の既に轉しあるを見る。この石は甚だ大なりき。5墓に入り、右の方に白き衣を著たる若者の坐するを見て甚く驚く。6若者いふ『おどろくな、汝らは十字架につけられ給ひしナザレのイエスを尋ぬれど、既に甦へりて、此處に在さず。視よ、納めし處は此處なり。7されど往きて弟子たちとペテロとに告げよ「汝らに先だちてガリラヤに往き給ふ、彼處にて謁ゆるを得ん、曾て汝らに言ひ給ひしが如し」』8女たち甚く驚きののき、墓より逃げ出でしが、懼れたれば一言をも人に語らざりき。9［一週の首の日の拂曉、イエス甦へりて先づマグダラのマリヤに現れたまふ、前にイエスが七つの惡鬼を逐ひいだし給ひし女なり。10マリヤ往きて、イエスと偕にありし人々の、泣き悲しみ居るときに之を告ぐ。11彼らイエスの活き給へる事と、マリヤに見え給ひし事とを聞けども信ぜざりき。12此の後その中の二人、田舍に往く途を步むほどに、イエス異なりたる姿にて現れ給ふ。13此の二人ゆきて、他の弟子たちに之を告げたれど、なほ信ぜざりき。14其ののち十一弟子の食しをる時に、イエス現れて、己が甦へりたるを見し者どもの言を信ぜざりしにより、其の信仰なきと、其の心の頑固なるとを責め給ふ。15かくて彼らに言ひたまふ『全世界を巡りて凡ての造られしものに福音を宣傳へよ。16信じてバプテスマを受くる者は救はるべし、然れど信ぜぬ者は罪に定めらるべし。17信ずる者には此等の徵ともなはん。即ち我が名によりて惡鬼を逐ひいだし、新しき言をかたり、18蛇を握るとも、毒を飮むとも、害を受けず、病める者に手をつけなば癒えん』19語り終へてのち、主イエスは天に擧げられ、神の右に坐し給ふ。20弟子たち出でて、あまねく福音を宣傳へ、主も亦ともに働き、伴ふところの徵をもて、御言を確うし給へり〕

ルカ傳福音書

第一章

1我らの中に成りし事の物語につき、始よりの目撃者にして、2御言の役者となりたる人々の、我らに傳へし其のままを書き列ねんと、手を著けし者あまたある故に、3我も凡ての事を最初より詳細に推し尋ねたれば、4テオピロ閣下よ、汝の教へられたる事の慥なるを悟らせん爲に、これが序を正して書き贈るは善き事と思はるるなり。5ユダヤの王ヘロデの時、アビヤの組の祭司に、ザカリヤという人あり。その妻はアロンの裔にて、名をエリサベツといふ。6二人ながら神の前に正しくして、主の誡命と定規とを、みな缺なく行へり。7エリサベツ石女なれば、彼らに子なし、また二人とも年邁みぬ。8さてザカリヤその組の順番に當りて、神の前に祭司の務を行ふとき、9祭司の慣例にしたがひて、籤をひき主の聖所に入りて、香を燒くこととなりぬ。10香を燒くとき、民の群みな外にありて祈りゐたり。11時に主の使あらはれて、香壇の右に立ちたれば、12ザカリヤ之を見て、心さわぎ懼を生ず。13御使いふ『ザカリヤよ、懼るな、汝の願は聽かれたり。汝の妻エリサベツ男子を生まん、汝その名をヨハネと名づくべし。14なんぢに喜悦と歡樂とあらん、又おほくの人もその生るるを喜ぶべし。15この子、主の前に大ならん、また葡萄酒と濃き酒とを飲まず、母の胎を出づるや聖靈にて滿されん。16また多くのイスラエルの子らを、主なる彼らの神に歸らしめ、17且エリヤの靈と能力とをもて、主の前に往かん。これ父の心を子に、戻れる者を義人の聰明に歸らせて、整へたる民を主のために備へんとてなり』18ザカリヤ御使にいふ『何に據りてか此の事あるを知らん。我は老人にて、妻もまた年邁みたり』19御使こたへて言ふ『われは神の御前に立つガブリエルなり、汝に語りてこの嘉き音信を告げん爲に遣さる。20視よ、時いたらば必ず成就すべき我が言を信ぜぬに因り、なんぢ物言へずなりて、此らの事の成る日までは語ること能はじ』21民はザカリヤを俟ちゐて、其の聖所の内に久しく留るを怪しむ。22遂に出で來りたれど語ること能はねば、彼らその聖所の内にて異象を見たることを悟る。ザカリヤは、ただ首にて示すのみ、なほ唖なりき。23かくて務の日滿ちたれば、家に歸りぬ。24此の後その妻エリサベツ孕りて、五月ほど隱れをりて言ふ、25『主わが恥を人の中に雪がせんとて、我を顧み給ふときは、斯く爲し給ふなり』26その六月めに、御使ガブリエル、ナザレといふガリラヤの町にをる處女のもとに、神より遣さる。27この處女はダビデの家のヨセフといふ人と許嫁せし者にて、其の名をマリヤと云ふ。28御使、處女の許にきたりて言ふ『めでたし、惠まるる者よ、主なんぢと偕に在せり』29マリヤこの言によりて心いたく騷ぎ、斯かる挨拶は如何なる事ぞと思ひ廻らしたるに、30御使いふ『マリヤよ、懼るな、汝は神の御前に惠を得たり。31視よ、なんぢ孕りて男子を生まん、其の名をイエスと名づくべし。32彼は大ならん、至高者の子と稱へられん。また主たる神、これに其の父ダビデの座位をあたへ給へば、33ヤコブの家を永遠に治めん。その國は終ることなかるべし』34マリヤ御使に言ふ『われ未だ人を知らぬに、如何にして此の事のあるべき』35御使こたへて言ふ『聖靈なんぢに臨み、至高者の能力なんぢを被はん。此の故に汝が生むところの聖なる者は、神の子と稱へらるべし。36視よ、なんぢの親族エリサベツも、年老いたれど、男子を孕めり。石女といはれたる者なるに、今は孕りてはや六月になりぬ。37それ神の言には能はぬ所なし』38マリヤ言ふ『視よ、われは主の婢女なり。汝の言のごとく、我に成れかし』つひに御使はなれ去りぬ。39その頃マリヤ立ちて山里に急ぎ往き、ユダの町にいたり、40ザカリヤの家に入りてエリサベツに挨拶せしに、41エリサベツその挨拶を聞くや、兒は胎内にて躍れり。エリサベツ聖靈にて滿され、42聲高らかに呼はりて言ふ『をんなの中にて汝は祝福せられ、その胎の實もまた祝福せられたり。43わが主の母われに來る、われ何によりてか之を得し。44視よ、なんぢの挨拶の聲、わが耳に入るや、我が兒、胎内にて喜びをどれり。45信ぜし者は幸福なるかな、主の語り給ふことは必ず成就すべければなり』46マリヤ言ふ、『わがこころ主をあがめ、47わが靈はわが救主なる神を喜びまつる。48その婢女の卑しきをも顧み給へばなり。視よ、今よりのち萬世の人われを幸福とせん。49全能者われに大なる事を爲したまへばなり。その御名は聖なり、50そのあはれみは代々かしこみ恐るる者に臨むなり。51神は御腕にて權力をあらはし、心の念に高ぶる者を散し、52權勢ある者を座位より下し、いやしき者を高うし、53飢ゑたる者を善き物に飽かせ、富める者を空しく去らせ給ふ。54また我らの先祖に告げ給ひし如く、

55アブラハムとその裔とに對するあはれみを永遠に忘れじとて、僕イスラエルを助けたまへり』 56かくてマリヤは、三月ばかりエルザベツと偕に居りて、己が家に歸れり。 57さてエリサベツ産む期みちて男子を生みたれば、 58その最寄のもの親族の者ども、主の大なる憐憫をエリサベツに垂れ給ひしことを聞きて、彼とともに喜ぶ。 59八日めになりて、其の子に割禮を行はんとて人々きたり、父の名に因みてザカリヤと名づけんとせしに、 60母こたへて言ふ『否、ヨハネと名づくべし』 61かれら言ふ『なんぢの親族の中には此の名をつけたる者なし』 62而して父に首にて示し、いかに名づけんと思ふか、問ひたるに、 63ザカリヤ書板を求めて『その名はヨハネなり』と書きしかば、みな怪しむ。 64ザカリヤの口たちどころに開け、舌ゆるみ、物いひて神を讃めたり。 65最寄に住む者みな懼をいだき、又すべて此等のこと徧くユダヤの山里に言ひ囃されたれば、 66聞く者みな之を心にとめて言ふ『この子は如何なる者にか成らん』主の手かれと偕に在りしなり。 67かくて父ザカリヤ聖靈にて滿され預言して言ふ、 68『讃むべきかな、主イスラエルの神、その民をかへりみて贖罪をなし、 69我らのために救の角を、その僕ダビデの家に立て給へり。 70これぞ古へより聖預言者の口をもて言ひ給ひし如く、 71我らを仇より、凡て我らを憎む者の手より、取り出したまふ救なる。 72我らの先祖に憐憫を垂れ、その聖なる契約を思し、 73我らの先祖アブラハムに立て給ひし御誓を忘れずして、 74我らを仇の手より救ひ、生涯、主の御前に、 75聖と義とをもて懼なく事へしめたまふなり。 76幼兒よ、なんぢは至高者の預言者と稱へられん。これ主の御前に先だちゆきて、其の道を備へ、 77主の民に罪の赦による救を知らしむればなり。 78これ我らの神の深き憐憫によるなり。この憐憫によりて朝のひかり、上より臨み、 79暗黒と死の蔭とに坐する者をてらし、我らの足を平和の路にみちびかん』 80かくて幼兒は漸に成長し、その靈強くなり、イスラエルに現るる日まで荒野にゐたり。

第二章

1その頃、天下の人を戸籍に著かすべき詔令、カイザル・アウグストより出づ。 2この戸籍登録は、クレニオ、シリヤの總督たりし時に行はれし初のものなり。 3さて人みな戸籍に著かんとて、各自その故郷に歸る。 4ヨセフもダビデの家系また血統なれば、既に孕める許嫁の妻マリヤとともに、戸籍に著かんとて、ガリラヤの町ナザレを出でてユダヤに上り、ダビデの町ベツレヘムといふ處に到りぬ。 5ヨセフもダビデの家系また血統なれば、既に孕める許嫁の妻マリヤとともに、戸籍に著かんとて、ガリラヤの町ナザレを出でてユダヤに上り、ダビデの町ベツレヘムといふ處に到りぬ。 6此處に居るほどに、マリヤ月滿ちて、 7初子をうみ、之を布に包みて馬槽に臥させたり。旅舍にをる處なかりし故なり。 8この地に野宿して、夜群を守りをる牧者ありしが、 9主の使その傍らに立ち、主の榮光その周圍を照したれば、甚く懼る。 10御使かれらに言ふ『懼るな、視よ、この民一般に及ぶべき、大なる歡喜の音信を我なんぢらに告ぐ。 11今日ダビデの町にて汝らの爲に救主うまれ給へり、これ主キリストなり。 12なんぢら布にて包まれ、馬槽に臥しをる嬰兒を見ん、是その徴なり』 13忽ちあまたの天の軍勢、御使に加はり、神を讃美して言ふ、 14『いと高き處には榮光、神にあれ。地には平和、主の悦び給ふ人にあれ』 15御使等さりて天に往きしとき、牧者たがひに語る『いざ、ベツレヘムにいたり、主の示し給ひし起れる事を見ん』 16乃ち急ぎ往きて、マリヤとヨセフと、馬槽に臥したる嬰兒とに尋ねあふ。 17既に見て、この子につき御使の語りしことを告げたれば、 18聞く者はみな牧者の語りしことを怪しみたり。 19而してマリヤは凡て此等のことを心に留めて思ひ囘せり。 20牧者は御使の語りしごとく凡ての事を見聞せしによりて、神を崇めかつ讃美しつつ歸れり。 21八日みちて幼兒に割禮を施すべき日となりたれば、未だ胎内に宿らぬ先に御使の名づけし如く、その名をイエスと名づけたり。 22モーセの律法に定めたる潔の日滿ちたれば、彼ら幼兒を携へてエルサレムに上る。 23これは主の律法に『すべて初子に生るる男子は、主につける聖なる者と稱へらるべし』と録されたる如く、幼兒を主に献げ、 24また主の律法に『山鳩一つがひ或は家鴿の雛二羽』と云ひたるに遵ひて、犧牲を供へん爲なり。 25視よ、エルサレムにシメオンといふ人あり。この人は義かつ敬虔にして、イスラエルの慰められんことを待ち望む。聖靈その上に在す。 26また聖靈に、主のキリストを見ぬうちは死を見ずと示されたれしが、 27此とき御靈に感じて宮に入る。兩親その子イエスを携へ、この子のために律法の慣例に

遵ひて行はんとて來りたれば、28シメオン、イエスを取りいだき、神を讃めて言ふ、29『主よ、今こそ御言に循ひて、僕を安らかに逝かしめ給ふなれ。30わが目は、はや主の救を見たり。31是もろもろの民の前に備へ給ひし者、32異邦人をてらす光、御民イスラエルの榮光なり』33かく幼兒に就きて語ることを、其の父母あやしみ居たれば、34シメオン彼らを祝して母マリヤに言ふ『視よ、この幼兒は、イスラエルの多くの人の或は倒れ、或は起たん爲に、また言ひ逆ひを受くる徴のために置かる。35——劍なんぢの心をも刺し貫くべし——これは多くの人の心の念の顯れん爲なり』36ここにアセルの族パヌエルの娘に、アンナといふ預言者あり、年いたく老ゆ。處女のとき、夫に適きて七年ともに居り、37八十四年寡婦たり。宮を離れず、夜も晝も斷食と祈祷とを爲して神に事ふ。38この時すすみ寄りて神に感謝し、また凡てエルサレムの拯贖を待ちのぞむ人に、幼兒のことを語れり。39さて主の律法に遵ひて、凡ての事を果したれば、ガリラヤに歸り、己が町ナザレに到れり。40幼兒は漸に成長して健かになり、智慧みち、かつ神の惠その上にありき。41かくてその兩親、過越の祭には年毎にエルサレムに往きぬ。42イエスの十二歳のとき、祭の慣例に遵ひて上りゆき、43祭の日終りて歸る時、その子イエスはエルサレムに止りたまふ。兩親は之を知らずして、44道伴のうちに居るならんと思ひ、一日路ゆきて、親族・知邊のうちを尋ぬれど、45遇はぬに因りて復たづねつつエルサレムに歸り、46三日ののち、宮にて教師のなかに坐し、かつ聽き、かつ問ひゐ給ふに遇ふ。47聞く者は皆その聰と答とを怪しむ。48兩親イエスを見て、いたく驚き、母は言ふ『兒よ、何故かかる事を我らに爲しぞ、視よ、汝の父と我と憂ひて尋ねたり』49イエス言ひたまふ『何故われを尋ねたるか、我はわが父の家に居るべきを知らぬか』50兩親はその語りたまふ事を悟らず。51かくてイエス彼等とともに下り、ナザレに往きて順ひ事へたまふ。其の母これらの事をことごとく心に藏む。52イエス智慧も身のたけも彌まさり、神と人とにますます愛せられ給ふ。

第三章

1テベリオ・カイザル在位の十五年、ポンテオ・ピラトはユダヤの總督、ヘロデはガリラヤ分封の國守、その兄弟ピリポはイツリヤ及びテラコニテの地の分封の國守、ルサニヤはアビレネ分封の國守たり、2アンナスとカヤパとは大祭司たりしとき、神の言、荒野にてザカリヤの子ヨハネに臨む。3かくてヨルダン河の邊なる四方の地にゆき、罪の赦を得さする悔改のバプテスマを宣傳ふ。4預言者イザヤの言の書に『荒野に呼はる者の聲す。「主の道を備へ、その路すじを直くせよ。5諸の谷は埋められ、諸の山と岡とは平げられ、曲りたるは直く、嶮しきは坦かなる路となり、6人みな神の救を見ん」』と録されたるが如し。7さてヨハネ、バプテスマを受けんとて出できたる群衆にいふ『蝮の裔よ、誰が汝らに、來らんとする御怒を避くべき事を示したるぞ。8さらば悔改に相應しき果を結べ。なんぢら「我らの父にアブラハムあり」と心のうちに言ひ始むな。我なんぢらに告ぐ、神はよく此らの石よりアブラハムの子等を起し得給ふなり。9斧ははや樹の根に置かる。されば凡て善き果を結ばぬ樹は、伐られて火に投げ入れらるべし』10群衆ヨハネに問ひて言ふ『さらば我ら何を爲すべきか』11答へて言ふ『二つの下衣をもつ者は、有たぬ者に分け與へよ。食物を有つ者もまた然せよ』12取稅人もバプテスマを受けんとて來りて言ふ『師よ、我ら何を爲すべきか』13答へて言ふ『定りたるものの外、なにをも促るな』14兵卒もまた問ひて言ふ『我らは何を爲すべきか』答へて言ふ『人を劫かし、また誣ひ訴ふな、己が給料をもて足れりとせよ』15民、待ち望みゐたれば、みな心の中にヨハネをキリストならんかと論ぜしに、16ヨハネ凡ての人に答へて言ふ『我は水にて汝らにバプテスマを施す、されど我よりも能力ある者きたらん、我はその鞋の紐を解くにも足らず。彼は聖靈と火とにて汝らにバプテスマを施さん。17手には箕を持ちたまふ。禾場をきよめ、麥を倉に納めんとてなり。而して殼は消えぬ火にて焚きつくさん』18ヨハネこの他なほ、さまざまの勸をなして、民に福音を宣傳ふ。19然るに國守ヘロデ、その兄弟の妻ヘロデヤの事につき、又その行ひたる凡ての惡しき事につきて、ヨハネに責められたれば、20更に復一つの惡しき事を加へて、ヨハネを獄に閉ぢこめたり。21民みなバプテスマを受けし時、イエスもバプテスマを受けて祈りゐ給へば、天ひらけ、22聖靈、形をなして鴿のごとく其の上に降り、かつ天より聲あり、曰く『なんぢは我が愛しむ子なり、我なんぢを悦ぶ』23イエスの、教

を宣べ始め給ひしは、年おほよそ三十の時なりき。人にはヨセフの子と思はれ給へり。ヨセフの父はヘリ、24その先はマタテ、レビ、メルキ、ヤンナイ、ヨセフ、25マタテヤ、アモス、ナホム、エスリ、ナンガイ、26マハテ、マタテヤ、シメイ、ヨセク、ヨダ、27ヨハナン、レサ、ゾロバベル、サラテル、ネリ、28メルキ、アデイ、コサム、エルマダム、エル、29ヨセ、エリエゼル、ヨリム、マタテ、レビ、30シメオン、ユダ、ヨセフ、ヨナム、エリヤキム、31メレヤ、メナ、マタタ、ナタン、ダビデ、32エツサイ、オベデ、ボアズ、サラ、ナアソン、33アミナダブ、アデミン、アルニ、エスロン、パレス、ユダ、34ヤコブ、イサク、アブラハム、テラ、ナホル、35セルグ、レウ、ペレグ、エベル、サラ、36カイナン、アルパクサデ、セム、ノア、ラメク、37メトセラ、エノク、ヤレデ、マハラレル、カイナン、38エノス、セツ、アダムに至る。アダムは神の子なり。

第四章

1さてイエス聖靈にて滿ち、ヨルダン河より歸り、荒野にて四十日のあひだ御靈に導かれ、2惡魔に試みられ給ふ。この間なにをも食はず、日數滿ちてのち餓ゑ給ひたれば、3惡魔いふ『なんぢ若し神の子ならば、此の石に命じてパンと爲らしめよ』4イエス答へたまふ『「人の生くるはパンのみに由るにあらず」と録されたり』5惡魔またイエスを携へのぼりて、瞬間に天下のもろもろの國を示して言ふ、6『この凡ての權威と國々の榮華とを汝に與へん。我これを委ねられたれば、我が欲する者に與ふるなり。7この故にもし我が前に拜せば、ことごとく汝の有となるべし』8イエス答へて言ひたまふ『「主なる汝の神を拜し、ただ之にのみ事ふべし」と録されたり』9惡魔またイエスをエルサレムに連れゆき、宮の頂上に立たせて言ふ『なんぢ若し神の子ならば、此處より己が身を下に投げよ。10それは「なんぢの爲に御使たちに命じて守らしめ給はん」11「かれら手にて汝をささへ、その足を石に打當つる事なからしめん」と録されたるなり』12イエス答へて言ひたまふ『「主なる汝の神を試むべからず」と云ひてあり』13惡魔あらゆる嘗試を盡してのち、暫くイエスを離れたり。14イエス御靈の能力をもてガリラヤに歸り給へば、その聲聞あまねく四方の地に弘る。15かくて諸會堂にて教をなし、凡ての人に崇められ給ふ。16偖その育てられ給ひし處のナザレに到り、例のごとく安息日に會堂に入りて、聖書を讀まんとて立ち給ひしに、17預言者イザヤの書を與へたれば、其の書を繙きて、かく録されたる所を見出し給ふ。18『主の御靈われに在す。これ我に油を注ぎて貧しき者に福音を宣べしめ、我をつかはして囚人に赦を得ることと、盲人に見ゆることとを告げしめ、壓へらるる者を放ちて自由を與へしめ、19主の喜ばしき年を宣傳へしめ給ふなり』20イエス書を巻き、係の者に返して坐し給へば、會堂に居る者みな之に目を注ぐ。21イエス言ひ出でたまふ『この聖書は今日なんぢらの耳に成就したり』22人々みなイエスを譽め、又その口より出づる惠の言を怪しみて言ふ『これヨセフの子ならずや』23イエス言ひ給ふ『なんぢら必ず我に俚諺を引きて「醫者よ、みづから己を醫せ、カペナウムにて有りしといふ我らが聞ける事どもを、己が鄉なる此の地にても爲せ」と言はん』24また言ひ給ふ『われ誠に汝らに告ぐ、預言者は己が鄉にて喜ばるることなし。25われ實をもて汝らに告ぐ、エリヤのとき三年六个月、天とぢて、全地大なる饑饉なりしが、イスラエルの中に多くの寡婦ありたれど、26エリヤは其の一人にすら遣されず、唯シドンなるサレプタの一人の寡婦にのみ遣されたり。27また預言者エリシヤの時、イスラエルの中に多くの癩病人ありしが、其の一人だに潔められず、唯シリヤのナアマンのみ潔められたり』28會堂にをる者みな之を聞きて憤恚に滿ち、29起ちてイエスを町より逐ひ出し、その町の建ちたる山の崖に引き往きて、投げ落さんとせしに、30イエスその中を通りて去り給ふ。31かくてガリラヤの町カペナウムに下りて、安息日ごとに人を教へ給へば、32人々その教に驚きあへり。その言、權威ありたるに因る。33會堂に穢れし惡鬼の靈に憑かれたる人あり、大聲に叫びて言ふ、34『ああ、ナザレのイエスよ、我らは汝となにの關係あらんや。我らを亡さんとて來給ふか。我はなんぢの誰なるを知る、神の聖者なり』35イエス之を禁めて言ひ給ふ『默せ、その人より出でよ』惡鬼その人を人々の中に倒し、傷つけずして出づ。36みな驚き語り合ひて言ふ『これ如何なる言ぞ、權威と能力とをもて命ずれば、穢れし惡鬼すら出で去る』37ここにイエスの噂あまねく四方の地に弘りたり。38イエス會堂を立ち出でて、シモンの家に入り給ふ。シモンの外姑おもき熱を患ひ居たれ

ば、人々これが爲にイエスに願ふ。39その傍らに立ちて熱を責めたまへば、熱去りて女たちどころに起きて彼らに事ふ。40日のいる時、さまざまの病を患ふ者をもつ人、みな之をイエスに連れ來れば、一々その上に手を置きて醫し給ふ。41惡鬼もまた多くの人より出でて叫びつつ言ふ『なんぢは神の子なり』之を責めて物言ふことを免し給はず、惡鬼そのキリストなるを知るに因りてなり。42明くる朝イエス出でて寂しき處にゆき給ひしが、群衆たづねて御許に到り、その去り往くことを止めんとせしに、43イエス言ひ給ふ『われ又ほかの町々にも神の國の福音を宣傳へざるを得ず、わが遣されしは之が爲なり』44かくてユダヤの諸會堂にて教を宣べたまふ。

第五章

1群衆おし迫りて神の言を聽きをる時、イエス、ゲネサレの湖のほとりに立ちて、2渚に二艘の舟の寄せあるを見たまふ、漁人は舟をいでて網を洗ひ居たり。3イエスその一艘なるシモンの舟に乘り、彼に請ひて陸より少しく押し出さしめ、坐して舟の中より群衆を教へたまふ。4語り終へてシモンに言ひたまふ『深處に乘りいだし、網を下して漁れ』5シモン答へて言ふ『君よ、われら終夜勞したるに、何をも得ざりき、されど御言に隨ひて網を下さん』6かくて然せしに、魚の夥多しき群を圍みて、網裂けかかりたれば、7他の一艘の舟にをる組の者を差招きて來り助けしむ。來りて魚を二艘の舟に滿したれば、舟沈まんばかりになりぬ。8シモン・ペテロ之を見て、イエスの膝下に平伏して言ふ『主よ、我を去りたまへ。我は罪ある者なり』9これはシモンも偕に居る者もみな、漁りし魚の夥多しきに驚きたるなり。10ゼベダイの子にしてシモンの侶なるヤコブもヨハネも同じく驚けり。イエス、シモンに言ひたまふ『懼るな、なんぢ今よりのち人を漁らん』11かれら舟を陸につけ、一切を棄ててイエスに從へり。12イエス或町に居給ふとき、視よ、全身癩病をわづらふ者あり。イエスを見て平伏し、願ひて言ふ『主よ、御意ならば、我を潔くなし給ふを得ん』13イエス手をのべ彼につけて『わが意なり、潔くなれ』と言ひ給へば、直ちに癩病されり。14イエス之を誰にも語らぬやうに命じ、かつ言ひ給ふ『ただ往きて己を祭司に見せ、モーセが命じたるごとく汝の潔のために獻物して、人々に證せよ』15されど彌增々イエスの事ひろまりて、大なる群衆、あるひは教を聽かんとし、或は病を醫されんとして集り來りしが、16イエス寂しき處に退きて祈り給ふ。17或日イエス教をなし給ふとき、ガリラヤの村々、ユダヤ及びエルサレムより來りしパリサイ人、教法學者ら、そこに坐しゐたり。病を醫すべき主の能力イエスと偕にありき。18視よ、人々、中風を病める者を、床にのせて擔ひきたり、之を家に入れて、イエスの前に置かんとすれど、19群衆によりて擔ひ入るべき道を得ざれば、屋根にのぼり、瓦を取り除けて、床のまま人々の中に、イエスの前につり縋り下せり。20イエス彼らの信仰を見て言ひたまふ『人よ、汝の罪ゆるされたり』21ここに學者・パリサイ人ら論じ出でて言ふ『瀆言をいふ此の人は誰ぞ、神より他に誰か罪を赦すことを得べき』22イエス彼らの論ずる事をさとり、答へて言ひ給ふ『なにを心のうちに論ずるか。23「なんぢの罪ゆるされたり」と言ふと「起きて歩め」と言ふと孰か易き、24人の子の地にて罪をゆるす權威あることを汝らに知らせん爲に』——中風を病める者に言ひ給ふ——『なんぢに告ぐ、起きよ、床をとりて家に往け』25かれ立刻に人々の前にて起きあがり、臥しゐたる床をとりあげ、神を崇めつつ己が家に歸りたり。26人々みな甚く驚きて神をあがめ懼に滿ちて言ふ『今日われら珍しき事を見たり』27この事の後イエス出でて、レビといふ取稅人の收稅所に坐しをるを見て『われに從へ』と言ひ給へば、28一切を棄ておき、起ちて從へり。29レビ己が家にて、イエスの爲に大なる饗宴を設けしに、取稅人および他の人々も多く食事の席に列りゐたれば、30パリサイ人および其の曹輩の學者ら、イエスの弟子たちに向ひ、咤きて言ふ『なにゆゑ汝らは取稅人・罪人らと共に飮食するか』31イエス答へて言ひたまふ『健康なる者は醫者を要せず、ただ病ある者これを要す。32我は正しき者を招かんとにあらで、罪人を招きて悔改めさせんとて來れり』33彼らイエスに言ふ『ヨハネの弟子たちは、しばしば斷食し祈祷し、パリサイ人の弟子たちも亦然するに、汝の弟子たちは飮食するなり』34イエス言ひたまふ『新郎の友だち新郎と偕にをるうちは、彼らに斷食せしめ得んや。35されど日來りて新郎をとられん、その日には斷食せん』36イエスまた譬を言ひ給ふ『たれも新しき衣を切り取りて、舊き衣を繕ふ者はあらじ。もし然せば、新しきものも破れ、かつ新しきものより取りたる裂

も舊きものに合はじ。37誰も新しき葡萄酒を、ふるき革嚢に入るることは爲じ。もし然せば、葡萄酒は嚢をはりさき漏れ出でて、嚢も廢らん。38新しき葡萄酒は、新しき革嚢に入るべきなり。39誰も舊き葡萄酒を飲みての ち、新しき葡萄酒を望む者はあらじ。「舊きは善し」と云へばなり』

第六章

1イエス安息 日に麥 畠を過ぎ給ふとき、弟子たち穗を摘み、手にて揉みつつ食ひたれば、2パリサイ人のうち或者ども言ふ『なんぢらは何ゆゑ安息 日に爲まじき事をするか』3イエス答へて言ひ給ふ『ダビデその伴へる人々とともに飢ゑしとき、爲しし事をすら讀まぬか。4即ち神の家に入りて、祭司の他は食ふまじき供のパンを取りて食ひ、己と偕なる者にも與へたり』5また言ひたまふ『人の子は安息 日の主たるなり』6又ほかの安息 日に、イエス會 堂に入りて教をなし給ひしに、此處に人あり、其の右の手なえたり。7學者・パリサイ人ら、イエスを訴 ふる廉を見出さんと思ひて、安息 日に人を醫すや否やを窺ふ。8イエス彼らの念を知りて、手なえたる人に『起きて中に立て』と言ひ給へば、起きて立てり。9イエス彼らに言ひ給ふ『われ汝らに問はん、安息 日に善をなすと惡をなすと、生命を救ふと亡すと、孰かよき』10かくて一同を見まはして、手なえたる人に『なんぢの手を伸べよ』と言ひ給ふ。かれ然なしたれば、その手 癒ゆ。11然るに彼ら狂氣の如くなりて、イエスに何をなさんと語り合へり。12その頃イエス祈らんとて山にゆき、神に祈りつつ夜を明したまふ。13夜明になりて弟子たちを呼び寄せ、その中より十二 人を選びて、之を使徒と名づけたまふ。14即ちペテロと名づけ給ひしシモンと其の兄弟アンデレと、ヤコブとヨハネと、ピリポとバルトロマイと、15マタイとトマスと、アルパヨの子ヤコブと熱心 黨と呼ばるるシモンと、16ヤコブの子ユダとイスカリオテのユダとなり。このユダはイエスを賣る者となりたり。17イエス此 等とともに下りて、平かなる處に立ち給ひしに、弟子の大なる群 衆、およびユダヤ全國、エルサレム又ツロ、シドンの海邊より來りて、或は教を聽かんとし、或は病を醫されんとする民の大なる群も、そこにあり。18穢れし靈に惱されたる者も醫される。19能力イエスより出でて、凡ての人を醫せば、群 衆みなイエスに觸らん事を求む。20イエス目をあげ弟子たちを見て言ひたまふ『幸福なるかな、貧しき者よ、神の國は汝らの有なり。21幸福なる哉、いま飢うる者よ、汝ら飽くことを得ん。幸福なる哉、いま泣く者よ、汝ら笑ふことを得ん。22人なんぢらを憎み、人の子のために遠ざけ、謗り、汝らの名を惡しとして棄てなば、汝ら幸福なり。23その日には喜び躍れ。視よ、天にて汝らの報は大なり、彼らの先祖が預言者たちに爲ししも斯くありき。24されど禍害なるかな、富む者よ、汝らは既にその慰安を受けたり。25禍害なる哉、いま飽く者よ、汝らは飢ゑん。禍害なる哉、いま笑ふ者よ、汝らは、悲しみ泣かん。26凡ての人、なんぢらを譽めなば、汝ら禍害なり。彼らの先祖が虚僞の預言者たちに爲ししも斯くありき。27われ更に汝ら聽くものに告ぐ、なんじらの仇を愛し、汝らを憎む者を善くし、28汝らを詛ふ者を祝し、汝らを辱しむる者のために祈れ。29なんぢの頰を打つ者には、他の頰をも向けよ。なんぢの上衣を取る者には下衣をも拒むな。30すべて求むる者に與へ、なんぢの物を奪ふ者に復索むな。31なんぢら人に爲られんと思ふごとく、人にも然せよ。32なんぢら己を愛する者を愛せばとて、何の嘉すべき事あらん、罪人にても己を愛する者を愛するなり。33汝 等おのれに善をなす者に善を爲すとも、何の嘉すべき事あらん、罪人にても然するなり。34なんぢら得る事あらんと思ひて人に貸すとも、何の嘉すべき事あらん、罪人にても均しきものを受けんとて罪人に貸すなり。35汝らは仇を愛し、善をなし、何をも求めずして貸せ、さらば、その報は大ならん。かつ至高者の子たるべし。至高者は、恩を知らぬもの惡しき者にも、仁慈あるなり。36汝らの父の慈悲なるごとく、汝らも慈悲なれ。37人を審くな、さらば汝らも審かるる事あらじ。人を罪に定むな、さらば、汝らも罪に定められるる事あらじ。人を赦せ、さらば汝らも赦されん。38人に與へよ、さらば汝 らも與へられん。人は量をよくし、押し入れ、搖り入れ、溢るるまでにして、汝らの懷中に入れん。汝 等おのが量る量にて量らるべし』39また譬にて言ひたまふ『盲人は盲人を手引するを得んや。二人とも穴に落ちざらんや。40弟子はその師に勝らず、凡そ全うせられたる者は、その師の如くならん。41何ゆゑ兄弟の目にある塵を見て、己が目にある梁木を認めぬか。42おのが目にある梁木を見ずして、爭で兄弟に向ひて「兄弟よ、汝の

目にある塵を取り除かせよ」といふを得んや。僞善者よ、先づ己が目より梁木を取り除け。さらば明かに見えて、兄弟の目にある塵を取りのぞき得ん。43惡しき果を結ぶ善き樹はなく、また善き果を結ぶ惡しき樹はなし。44樹はおのおの其の果によりて知らる。茨より無花果を取らず、野荊より葡萄を收めざるなり。45善き人は心の善き倉より善きものを出し、惡しき人は惡しき倉より惡しき物を出す。それ心に滿つるより、口は物言ふなり。46なんぢら我を「主よ主よ」と呼びつつ、何ぞ我が言ふことを行はぬか。47凡そ我にきたり我が言を聽きて行ふ者は、如何なる人に似たるかを示さん。48即ち家を建つるに、地を深く掘り岩の上に基を据ゑたる人のごとし。洪水いでて流その家を衝けども動かすこと能はず、これ固く建てられたる故なり。49されど聽きて行はぬ者は、基なくして家を土の上に建てたる人のごとし。流その家を衝けば、直ちに崩れて、その破壞はなはだし』

第七章

1イエス凡て此らの言を民に聞かせ終へて後、カペナウムに入り給ふ。2時に或百卒長、その重んずる僕やみて死ぬばかりなりしかば、3イエスの事を聽きて、ユダヤ人の長老たちを遣し、來りて僕を救ひ給はんことを願ふ。4彼らイエスの許にいたり、切に請ひて言ふ『かの人は此の事を爲らるるに相應し。5わが國人を愛し、我らのために會堂を建てたり』6イエス共に往き給ひて、その家はや程近くなりしとき、百卒長、數人の友を遣して言はしむ『主よ、自らを煩はし給ふな。我は汝をわが屋根の下に入れまつるに足らぬ者なり。7されば御前に出づるにも相應しからずと思へり、ただ御言を賜ひて我が僕をいやし給へ。8我みづから權威の下に置かるる者なるに、我が下にまた兵卒ありて、此に「往け」と言へば往き、彼に「來れ」と言へば來り、わが僕に「これを爲せ」と言へば爲すなり』9イエス聞きて彼を怪しみ、振反りて從ふ群衆に言ひ給ふ『われ汝らに告ぐ、イスラエルの中にだに斯かるあつき信仰は見しことなし』10遣されたる者ども家に歸りて僕を見れば、既に健康となれり。11その後イエス、ナインといふ町にゆき給ひしに、弟子たち及び大なる群衆も共に往く。12町の門に近づき給ふとき、視よ、舁き出さるる死人あり。これは獨息子にて母は寡婦なり、町の多くの人々これに伴ふ。13主、寡婦を見て憫み『泣くな』と言ひて、14近より、柩に手をつけ給へば、舁くもの立ち止る。イエス言ひたまふ『若者よ、我なんぢに言ふ、起きよ』15死人、起きかへりて物言ひ始む。イエス之を母に付したまふ。16人々みな懼をいだき、神を崇めて言ふ『大なる預言者われらの中に興れり』また言ふ『神その民を顧み給へり』17この事ユダヤ全國および最寄の地に徧くひろまりぬ。18偖ヨハネの弟子たち、凡て此等のことを告げたれば、19ヨハネ兩三人の弟子を呼び、主に遣して言はしむ『來るべき者は汝なるか、或は他に待つべきか』20彼ら御許に到りて言ふ『バプテスマのヨハネ、我らを遣して言はしむ「來るべき者は汝なるか、或は他に待つべきか」』21この時イエス多くの者の病・疾患を醫し、惡しき靈を逐ひいだし、又おほくの盲人に見ることを得しめ給ひしが、22答へて言ひたまふ『往きて汝らが見聞せし所をヨハネに告げよ。盲人は見、跛者はあゆみ、癩病人は潔められ、聾者はきき、死人は甦へらせられ、貧しき者は福音を聞かせらる。23おほよそ我に躓かぬ者は幸福なり』24ヨハネの使の去りたる後、ヨハネの事を群衆に言ひいで給ふ『なんぢら何を眺めんとて野に出でし、風にそよぐ葦なるか。25さらば何を見んとて出でし、柔かき衣を著たる人なるか。視よ、華美なる衣をきて奢り暮す者は王宮に在り。26さらば何を見んとて出でし、預言者なるか。然り、我なんぢらに告ぐ、預言者よりも勝る者なり。27「視よ、わが使を汝の顏の前につかはす。かれは汝の前になんじの道をそなへん」と録されたるは此の人なり。28われ汝らに告ぐ、女の産みたる者の中、ヨハネより大なる者はなし。されど神の國にて小き者も、彼よりは大なり。29（凡ての民これを聞きて、取稅人までも神を正しとせり。ヨハネのバプテスマを受けたるによる。30されどパリサイ人・教法師らは、其のバプテスマを受けざりしにより、各自にかかはる神の御旨をこばみたり）31さればわれ今の代の人を何に比へん。彼らは何に似たるか。32彼らは、童市場に坐し、たがひに呼びて「われら汝らの爲に笛吹きたれど、汝ら躍らず。歎きたれど、汝ら泣かざりき」と云ふに似たり。33それはバプテスマのヨハネ來りて、パンをも食はず葡萄酒をも飮まねば、「惡鬼に憑かれたる者なり」と汝ら言ひ、34人の子きたりて飮食すれば「視よ、食を貪り、酒を好む人、また取稅人・罪人の友なり」と汝ら言ふなり。35さ

れど智慧は己が凡ての子によりて正しとせらる』 36ここ
に或パリサイ人ともに食せん事をイエスに請ひたれば、
パリサイ人の家に入りて、席につき給ふ。 37視よ、この
町に罪ある一人の女あり。イエスのパリサイ人の家にて
食事の席にゐ給ふを知り、香 油の入りたる石膏の壺を
持ちきたり、 38泣きつつ御足 近く後にたち、涙にて御足
をうるほし、頭の髪にて之を拭ひ、また御足に接吻して
香 油を抹れり。 39イエスを招きたるパリサイ人これを
見て、心のうちに言ふ『この人もし預言者ならば、觸る
者の誰、如何なる女なるかを知らん、彼は罪人なるに』
40イエス答へて言ひ給ふ『シモン、我なんぢに言ふこと
あり』シモンいふ『師よ、言ひたまへ』 41『或 債主に
二人の負債者ありて、一人はデナリ五 百、一人は五 十
の負債せしに、 42償ひかたなければ、債主この二人を共
に免せり。されば二人のうち債主を愛すること孰か多
き』 43シモン答へて言ふ『われ思ふに、多く免されたる
者ならん』イエス言ひ給ふ『なんぢの判斷は當れり』 44
かくて女の方に振向きてシモンに言ひ給ふ『この女を見
るか。我なんぢの家に入りしに、なんぢは我に足の水を
與へず、此の女は涙にて我 足を濡し、頭髪にて拭へり。
45なんぢは我に接吻せず、此の女は我が入りし時より、
我が足に接吻して止まず。 46なんぢは我が頭に油を抹ら
ず、此の女は我が足に香 油を抹れり。 47この故に我な
んぢに告ぐ、この女の多くの罪は赦されたり。その愛す
ること大なればなり。赦さるる事の少き者は、その愛す
る事もまた少し』 48遂に女に言ひ給ふ『なんぢの罪は赦
されたり』 49同席の者ども心の内に『罪をも赦す此の人
は誰なるか』と言ひ出づ。 50ここにイエス女に言ひ給ふ
『なんぢの信仰なんぢを救へり、安らかに往け』

第八章

1この後イエス教を宣べ、神の國の福音を傳へつつ、町々
村々を廻り給ひしに、十二 弟子も伴ふ。 2また前に惡し
き靈を逐ひ出され、病を醫されなどせし女たち、即ち七
つの惡鬼のいでしマグラダと呼ばるるマリヤ、 3ヘロデ
の家 司クーザの妻ヨハンナ及びスザンナ、此の他にも多
くの女ともなひゐて、其の財産をもて彼らに事へたり。
4大なる群衆むらがり、町々の人みもとに寄り集ひたれ
ば、譬をもて言ひたまふ、 5『種 播く者その種を播かん
とて出づ。播くとき路の傍らに落ちし種あり、踏みつけ
られ、また空の鳥これを啄む。 6岩の上に落ちし種あ
り、生え出でたれど潤澤なきによりて枯る。 7茨の中に
落ちし種あり、茨も共に生え出でて之を塞ぐ。 8良き地
に落ちし種あり、生え出でて百 倍の實を結べり』これ
らの事を言ひて呼はり給ふ『きく耳ある者は聽くべし』
9弟子たち此の譬の如何なる意なるかを問ひたるに、 10
イエス言ひ給ふ『なんぢらは神の國の奥義を知ることを
許されたれど、他の者は譬にてせらる。彼らの見て見
ず、聞きて悟らぬ爲なり。 11譬の意は是なり。種は神の
言 なり。 12路の傍らなるは、聽きたるのち、惡魔きた
り、信じて救はるる事のなからんために、御言をその 心
より奪ふ所の人なり。 13岩の上なるは、聽きて御言を 喜
び受くれども、根なければ、暫く信じて嘗試のときに 退
く所の人なり。 14茨の中に落ちしは、聽きてのち 過ぐる
ほどに、世の心 勞と財貨と快樂とに塞がれて實らぬ 所
の人なり。 15良き地なるは、御言を聽き、正しく善き 心
にて之を守り、忍びて實を結ぶ所の人なり。 16誰も燈火
をともし器にて覆ひ、または寢臺の下におく者なし、入
り來る者のその光を見んために、之を燈臺の上に置くな
り。 17それ隱れたるものの顯れぬはなく、秘めたるもの
の知られぬはなく、明かにならぬはなし。 18されば汝ら
聽くこと如何にと心せよ、誰にても有てる人はなほ與へ
られ、有たぬ人はその有てりと思ふ物をも取らるべし』
19さてイエスの母と兄弟と來りたれど、群衆によりて近
づくこと能はず。 20或 人イエスに『なんぢの母と兄弟
と、汝に逢はんとて外に立つ』と告げたれば、 21答へて
言ひたまふ『わが母わが兄弟は、神の言を聽き、かつ
行ふ此らの者なり』 22或 日イエス弟子たちと共に舟に
乘りて『みづうみの彼方にゆかん』と言ひ給へば、乃ち
船出す。 23渡るほどにイエス眠りたまふ。颶風みづうみ
に吹き下し、舟に水 滿ちんとして危かりしかば、 24弟子
たち御側により、呼び起して言ふ『君よ、君よ、我らは
亡ぶ』イエス起きて風と浪とを禁め給へば、ともに鎭り
て凪となりぬ。 25かくて弟子たちに言ひ給ふ『なんぢら
の信仰いづこに在るか』かれら懼れ怪しみて互に言ふ
『こは誰ぞ、風と水とに命じ給へば順ふとは』 26遂にガ
リラヤに對へるゲラセネ人の地に著く。 27陸に上りたま
ふ時、その町の人にて惡鬼に憑かれたる者きたり遇ふ。
この人は久しきあひだ衣を著ず、また家に住まずして墓
の中にゐたり。 28イエスを見てさけび、御前に平伏して

大聲にいふ『至高き神の子イエスよ、我は汝と何の關係あらん、願はくは我を苦しめ給ふな』 29これはイエス穢れし靈に、この人より出で往かんことを命じ給ひしに因る。この人けがれし靈にしばしば拘へられ、鏈と足械とにて繋ぎ守られたれど、その繋をやぶり、惡鬼に逐はれて荒野に往けり。 30イエス之に『なんぢの名は何か』と問ひ給へば『レギオン』と答ふ、多くの惡鬼その中に入りたる故なり。 31彼らイエスに、底なき所に往くを命じ給はざらんことを請ふ。 32彼處の山に、多くの豚の一群、食し居たりしが、惡鬼ども其の豚に入るを許し給はんことを請ひたれば、イエス許し給ふ。 33惡鬼、人を出でて豚に入りたれば、その群、崖より湖水に駈け下りて溺れたり。 34飼ふ者ども此の起りし事を見て、逃げ往きて、町にも里にも告げたれば、 35人々ありし事を見んとて出で、イエスに來りて、惡鬼の出でたる人の、衣服をつけ慥なる心にて、イエスの足下に坐しをるを見て懼れあへり。 36かの惡鬼に憑かれたる人の救はれし事柄を見し者ども、之を彼らに告げたれば、 37ゲラセネ地方の民衆、みなイエスに出で去り給はんことを請ふ。これ大に懼れたるなり。ここにイエス舟に乘りて歸り給ふ。 38時に惡鬼の出でたる人、ともに在らんことを願ひたれど、之を去らしめんとて、 39言ひ給ふ『なんぢの家に歸りて、神が如何に大なる事を汝になし給ひしかを具に告げよ』彼ゆきて、イエスの如何に大なる事を己になし給ひしかを、徧くその町に言ひ弘めたり。 40かくてイエスの歸り給ひしとき、群衆これを迎ふ、みな待ちゐたるなり。 41視よ、會堂司にてヤイロといふ者あり、來りてイエスの足下に伏し、その家にきたり給はんことを願ふ。 42おほよそ十二歳ほどの一人娘ありて、死ぬばかりなる故なり。イエスの往き給ふとき、群衆かこみ塞がる。 43ここに十二年このかた血漏を患ひて、醫者の爲に己が身代をことごとく費したれども、誰にも癒され得ざりし女あり。 44イエスの後に來りて、御衣の總にさはりたれば、血の出づること立刻に止みたり。 45イエス言ひ給ふ『我に觸りしは誰ぞ』人みな否みたれば、ペテロ及び共にをる者ども言ふ『君よ、群衆なんぢを圍みて押迫るなり』 46イエス言ひ給ふ『われに觸りし者あり、能力の我より出でたるを知る』 47女おのれが隱れ得ぬことを知り、戰き來りて御前に平伏し、觸りし故と立刻に癒えたる事を、人々の前にて告ぐ。 48イエス言ひ給ふ『むすめよ、汝の信仰なんぢを救へり、安らかに往け』 49かく語り給ふほどに、會堂司の家より人きたりて言ふ『なんぢの娘は早や死にたり、師を煩はすな』 50イエス之を聞きて會堂司に答へたまふ『懼るな、ただ信ぜよ。さらば娘は救はれん』 51イエス家に到りて、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ及び子の父母の他は、ともに入ることを誰にも許し給はず。 52人みな泣き、かつ子のために歎き居たりしが、イエス言ひたまふ『泣くな、死にたるにあらず、寢ねたるなり』 53人々その死にたるを知れば、イエスを嘲笑ふ。 54然るにイエス子の手をとり、呼びて『子よ、起きよ』と言ひ給へば、 55その靈かへりて立刻に起く。イエス食物を之に與ふることを命じ給ふ。 56その兩親おどろきたり。イエス此の有りし事を誰にも語らぬやうに命じ給ふ。

第九章

1イエス十二弟子を召し寄せて、もろもろの惡鬼を制し、病をいやす能力と權威とを與へ、 2また神の國を宣傳へしめ、人を醫さしむる爲に、之を遣さんとして言ひ給ふ、 3『旅のために何をも持つな、杖も袋も糧も銀も、また二つの下衣をも持つな。 4いづれの家に入るとも、其處に留れ、而して其處より立ち去れ。 5人もし汝らを受けずば、その町を立ち去るとき、證のために足の塵を拂へ』 6ここに弟子たち出でて村々を歷巡り、あまねく福音を宣傳へ、醫すことを爲せり。 7さて國守ヘロデ、ありし凡ての事をききて周章てまどふ。或人はヨハネ死人の中より甦へりたりといひ、 8或人はエリヤ現れたりといひ、また或人は、古への預言者の一人よみがへりたりと言へばなり。 9ヘロデ言ふ『ヨハネは我すでに首斬りたり、然るに斯かる事のきこゆる此の人は誰なるか』かくてイエスを見んことを求めゐたり。 10使徒たち歸りきて、其の爲しし事を具にイエスに告ぐ。イエス彼らを携へて竊にベツサイダといふ町に退きたまふ。 11されど群衆これを知りて從ひ來りたれば、彼らを接けて、神の國の事を語り、かつ治療を要する人々を醫したまふ。 12日傾きたれば、十二弟子きたりて言ふ『群衆を去らしめ、周圍の村また里にゆき、宿をとりて食物を求めさせ給へ。我らは斯かる寂しき所に居るなり』 13イエス言ひ給ふ『なんぢら食物を與へよ』弟子たち言ふ『我らただ五つのパンと二つの魚とあるのみ、此の多くの人

のために、往きて買はねば他に食物なし』 14男おほよそ五千人ゐたればなり。イエス弟子たちに言ひたまふ『人々を組にして五十人づつ坐せしめよ』 15彼等その如くなして、人々をみな坐せしむ。 16かくてイエス五つのパンと二つの魚とを取り、天を仰ぎて祝し、擘きて弟子たちに付し、群衆のまへに置かしめ給ふ。 17彼らは食ひて皆飽く。擘きたる餘を集めしに十二筐ほどありき。 18イエス人々を離れて祈り居給ふとき、弟子たち偕にをりしに、問ひて言ひたまふ『群衆は我を誰といふか』 19答へて言ふ『バプテスマのヨハネ、或人はエリヤ、或人は古への預言者の一人よみがへりたりと言ふ』 20イエス言ひ給ふ『なんぢらは我を誰と言ふか』ペテロ答へて言ふ『神のキリストなり』 21イエス彼らを戒めて、之を誰にも告げぬやうに命じ、かつ言ひ給ふ 22『人の子は必ず多くの苦難をうけ、長老・祭司長・學者らに棄てられ、かつ殺され、三日めに甦へるべし』 23また一同の者に言ひたまふ『人もし我に從ひ來らんと思はば、己をすて、日々おのが十字架を負ひて我に從へ。 24己が生命を救はんと思ふ者は之を失ひ、我がために己が生命を失ふその人は之を救はん。 25人、全世界を贏くとも、己をうしなひ己を損せば、何の益あらんや。 26我と我が言とを恥づる者をば、人の子もまた、己と父と聖なる御使たちとの榮光をもて來らん時に恥づべし。 27われ實をもて汝らに告ぐ、此處に立つ者のうちに、神の國を見るまでは死を味はぬ者どもあり』 28これらの言をいひ給ひしのち八日ばかり過ぎて、ペテロ、ヨハネ、ヤコブを率きつれ、祈らんとて山に登り給ふ。 29かくて祈り給ふほどに、御顔の状かはり、其の衣白くなりて輝けり。 30視よ、二人の人ありてイエスと共に語る。これはモーセとエリヤとにて、 31榮光のうちに現れ、イエスのエルサレムにて遂げんとする逝去のことを言ひゐたるなり。 32ペテロ及び共にをる者いたく睡氣ざしたれど、目を覺してイエスの榮光および偕に立つ二人を見たり。 33二人の者イエスと別れんとする時、ペテロ、イエスに言ふ『君よ、我らの此處に居るは善し、我ら三つの廬を造り、一つを汝のため、一つをモーセのため、一つをエリヤの爲にせん』彼は言ふ所を知らざりき。 34この事を言ひ居るほどに、雲おこりて彼らを覆ふ。雲の中に入りしとき、弟子たち懼れたり。 35雲より聲出でて言ふ『これは我が選びたる子なり、汝ら之に聽け』 36聲出でしとき、唯イエスひとり見え給ふ。弟子たち默して、見し事を何一つ其の頃たれにも告げざりき。 37次の日、山より下りたるに、大なる群衆イエスを迎ふ。 38視よ、群衆のうちの或人さけびて言ふ『師よ、願はくは我が子を顧みたまへ、之は我が獨子なり。 39視よ、靈の憑くときは俄に叫ぶ、痙攣けて沫をふかせ、甚く害ひ、漸くにして離るるなり。 40御弟子たちに之を逐ひ出すことを請ひたれど、能はざりき』 41イエス答へて言ひ給ふ『ああ信なき曲れる代なる哉、われ何時まで汝らと偕にをりて、汝らを忍ばん。汝の子をここに連れ來れ』 42乃ち來るとき、惡鬼これを打ち倒し、甚く痙攣けさせたり。イエス穢れし靈を禁め、子を醫して、その父に付したまふ。 43人々みな神の稜威に驚きあへり。人々みなイエスの爲し給ひし凡ての事を怪しめる時、イエス弟子たちに言ひ給ふ、 44『これらの言を汝らの耳にをさめよ。人の子は人々の手に付さるべし』 45かれら此の言を悟らず、辨へぬやうに隱されたるなり。また此の言につきて問ふことを懼れたり。 46ここに弟子たちの中に、誰か大ならんとの爭論おこりたれば、 47イエスその心の爭論を知りて、幼兒をとり御側に置きて言ひ給ふ、 48『おほよそ我が名のために此の幼兒を受くる者は、我を受くるなり。我を受くる者は、我を遣しし者を受くるなり。汝らの中にて最も小き者は、これ大なるなり』 49ヨハネ答へて言ふ『君よ、御名によりて惡鬼を逐ひいだす者を見しが、我等とともに從はぬ故に、之を止めたり』 50イエス言ひ給ふ『止むな。汝らに逆はぬ者は、汝らに附く者なり』 51イエス天に擧げらるる時滿ちんとしたれば、御顏を堅くエルサレムに向けて進まんとし、 52己に先だちて使を遣したまふ。彼ら往きてイエスの爲に備をなさんとて、サマリヤ人の或村に入りしに、 53村人そのエルサレムに向ひて往き給ふさまなるが故に、イエスを受けず、 54弟子のヤコブ、ヨハネ、これを見て言ふ『主よ、我らが天より火を呼び下して彼らを滅すことを欲し給ふか』 55イエス顧みて彼らを戒め、 56遂に相共に他の村に往きたまふ。 57途を往くとき、或人イエスに言ふ『何處に往き給ふとも我は從はん』 58イエス言ひたまふ『狐は穴あり、空の鳥は塒あり、されど人の子は枕する所なし』 59また或人に言ひたまふ『我に從へ』かれ言ふ『まづ往きて我が父を葬ることを許し給へ』 60イエス言ひたまふ『死にたる者に、その死にたる者を葬らせ、汝は往きて

神の國を言ひ弘めよ』61また或人いふ『主よ、我なんぢに從はん、されど先づ家の者に別を告ぐることを許し給へ』62イエス言ひたまふ『手を鋤につけてのち後を顧みる者は、神の國に適ふ者にあらず』

第十章

1この事ののち、主、ほかに七十人をあげて、自ら往かんとする町々處々へ、おのれに先だち二人づつを遣さんとして言ひ給ふ、2『收穫はおほく、勞働人は少し。この故に收穫の主に、勞働人をその收穫場に遣し給はんことを求めよ。3往け、視よ、我なんぢらを遣すは、羔羊を豺狼のなかに入るるが如し。4財布も袋も鞋も携ふな。また途にて誰にも挨拶すな。5孰の家に入るとも、先づ平安この家にあれと言へ。6もし平安の子そこに居らば、汝らの祝する平安はその上に留らん。もし然らずば、其の平安は汝らに歸らん。7その家にとどまりて、與ふる物を食ひ飲みせよ。勞働人のその値を得るは相應しきなり。家より家に移るな。8孰の町に入るとも、人々なんぢらを受けなば、汝らの前に供ふる物を食し、9其處にをる病のものを醫し、また「神の國は汝らに近づけり」と言へ。10孰の町に入るとも、人々なんじらを受けずば、大路に出でて、11「我らの足につきたる汝らの町の塵をも、汝らに對して拂ひ棄つ、されど神の國の近づけるを知れ」と言へ。12われ汝らに告ぐ、かの日にはソドムの方その町よりも耐へ易からん。13禍害なる哉、コラジンよ、禍害なる哉、ベツサイダよ、汝らの中にて行ひたる能力ある業を、ツロとシドンとにて行ひしならば、彼らは早く荒布をき、灰のなかに坐して、悔改めしならん。14されば審判には、ツロとシドンとのかた汝等よりも耐へ易からん。15カペナウムよ、汝は天にまで擧げらるべきか、黄泉にまで下らん。16汝等に聽く者は我に聽くなり、汝らを棄つる者は我を棄つるなり。我を棄つる者は我を遣し給ひし者を棄つるなり』17七十人よろこび歸りて言ふ『主よ、汝の名によりて惡鬼すら我らに服す』18イエス彼らに言ひ給ふ『われ天より閃く電光のごとくサタンの落ちしを見たり。19視よ、われ汝らに蛇・蠍を踏み、仇の凡ての力を抑ふる權威を授けたれば、汝らを害ふもの斷えてなからん。20されど靈の汝らに服するを喜ぶな、汝らの名の天に録されたるを喜べ』21その時イエス聖靈により喜びて言ひたまふ『天地の主なる父よ、われ感謝す、此等のことを智きもの慧き者に隱して、嬰兒に顯したまへり。父よ、然り、此のごときは御意に適へるなり。22凡ての物は我わが父より委ねられたり。子の誰なるを知る者は、父の外になく、父の誰なるを知る者は、子また子の欲するままに顯すところの者の外になし』23かくて弟子たちを顧み竊に言ひ給ふ『なんぢらの見る所を見る眼は幸福なり。24われ汝らに告ぐ、多くの預言者も、王も、汝らの見るところを見んと欲したれど見ず、汝らの聞く所を聞かんと欲したれど聞かざりき』25視よ、或教法師、立ちてイエスを試みて言ふ『師よ、われ永遠の生命を嗣ぐためには何をなすべきか』26イエス言ひたまふ『律法に何と録したるか、汝いかに讀むか』27答へて言ふ『なんぢ心を盡し精神を盡し、力を盡し、思を盡して、主たる汝の神を愛すべし。また己のごとく汝の隣を愛すべし』28イエス言ひ給ふ『なんぢの答は正し。之を行へ、さらば生くべし』29彼おのれを義とせんとしてイエスに言ふ『わが隣とは誰なるか』30イエス答へて言ひたまふ『或人エルサレムよりエリコに下るとき強盜にあひしが、強盜どもその衣を剥ぎ、傷を負はせ、半死半生にして棄て去りぬ。31或祭司たまたま此の途より下り、之を見てかなたを過ぎ往けり。32又レビ人も此處にきたり、之を見て同じく彼方を過ぎ往けり33然るに或るサマリヤ人、旅して其の許にきたり、之を見て憫み、34近寄りて油と葡萄酒とを注ぎ、傷を包みて己が畜にのせ、旅舍に連れゆきて介抱し、35あくる日デナリ二つを出し、主人に與へて「この人を介抱せよ。費もし增さば、我が歸りくる時に償はん」と言へり。36汝いかに思ふか、此の三人のうち、孰か強盜にあひし者の隣となりしぞ』37かれ言ふ『その人に憐憫を施したる者なり』イエス言ひ給ふ『なんぢも往きて其の如くせよ』38かくて彼ら進みゆく間に、イエス或村に入り給へば、マルタと名づくる女おのが家に迎へ入る。39その姉妹にマリヤといふ者ありて、イエスの足下に坐し、御言を聽きをりしが、40マルタ饗應のこと多くして心いりみだれ、御許に進みよりて言ふ『主よ、わが姉妹われを一人のこして働かするを、何とも思ひ給はぬか、彼に命じて我を助けしめ給へ』41主、答へて言ひ給ふ『マルタよ、マルタよ、汝さまざまの事により、思ひ煩ひて心勞す。42されど無くてなら

ぬものは多からず、唯一つのみ、マリヤは善きかたを選びたり。此は彼より奪ふべからざるものなり』

第十一章

1イエス或 處にて祈り居給ひしが、その終りしとき、弟子の一人いふ『主よ、ヨハネの其の弟子に教へし如く、祈ることを我らに教へ給へ』 2イエス言ひ給ふ『なんぢら祈るときに斯く言へ「父よ、願はくは御名の崇められん事を。御國の來らん事を。 3我らの日用の糧を日毎に與へ給へ。 4我らに負債ある凡ての者を我ら免せば、我らの罪をも免し給へ。我らを嘗試にあはせ給ふな」』 5また言ひ給ふ『なんぢらの中たれか友あらんに、夜半にその許に往きて「友よ、我に三つのパンを貸せ。 6わが友、旅より來りしに、之に供ふべき物なし」と言ふ時、 7かれ内より答へて「われを煩はすな、戸ははや閉ぢ、子らは我と共に臥所にあり、起ちて與へ難し」といふ事ありとも、 8われ汝らに告ぐ、友なるによりては起ちて與へねど、求の切なるにより、起きて其の要するの程のものを與へん。 9われ汝らに告ぐ、求めよ、さらば與へられん。尋ねよ、さらば見出さん。門を叩け、さらば開かれん。 10すべて求むる者は得、尋ぬる者は見出し、門を叩く者は開かるるなり。 11汝 等のうち父たる者、たれか其の子 魚を求めんに、魚の代に蛇を與へ、 12卵 を求めんに蠍を與へんや。 13さらば汝ら惡しき者ながら、善き賜物をその子らに與ふるを知る。まして天の父は、求むる者に聖 靈を賜はざらんや』 14さてイエス唖の惡鬼を逐ひいだし給へば、惡鬼いでて唖もの言ひしにより、群 衆あやしめり。 15其の中の或 者ども言ふ『かれは惡鬼の首ベルゼブルによりて惡鬼を逐ひ出すなり』 16また或 者どもは、イエスを試みんとて天よりの徴を求む。 17イエスその思を知りて言ひ給ふ『すべて分れ爭ふ國は亡び、分れ爭ふ家は倒る。 18サタンもし分れ爭はば、その國いかで立つべき。汝 等わが惡鬼を逐ひ出すを、ベルゼブルに由ると言へばなり。 19我もしベルゼブルによりて惡鬼を逐ひ出さば、汝らの子は誰によりて之を逐ひ出すか。この故に彼らは汝らの審判 人となるべし。 20されど我もし神の指によりて惡鬼を逐ひ出さば、神の國は既に汝らに到れるなり。 21強きもの武具をよろひて己が屋敷を守るときは、其の所有 安全なり。 22されど更に強きもの來りて之に勝つときは、恃とする武具をことごとく奪ひて、分捕物を分たん。 23我と偕ならぬ者は我にそむき、我と共に集めぬ者は散すなり。 24穢れし靈、人を出づる時は、水なき處を巡りて休を求む。されど得ずして言ふ「わが出でし家に歸らん」 25歸りて其の家の掃き淨められ、飾られたるを見、 26遂に往きて己よりも惡しき他の七つの靈を連れきたり、共に入りて此處に住む。さればその人の後の状は、前よりも惡しくなるなり』 27此 等のことを言ひ給ふとき、群 衆の中より或女、聲をあげて言ふ『幸福なるかな、汝を宿しし胎、なんぢの哺ひし乳房は』 28イエス言ひたまふ『更に幸福なるかな、神の言を聽きて之を守る人は』 29群 衆おし集れる時、イエス言ひ出でたまふ『今の世は邪曲なる代にして徴を求む。されどヨナの徴のほかに徴は與へられじ。 30ヨナがニネベの人に徴となりし如く、人の子もまた今の代に然らん。 31南の女王、審判のとき、今の代の人と共に起きて之が罪を定めん。彼はソロモンの智慧を聽かんとて地の極より來れり。視よ、ソロモンよりも勝るもの此處にあり。 32ニネベの人、審判のとき、今の代の人と共に立ちて之が罪を定めん。彼らはヨナの宣ぶる言によりて悔改めたり。視よ、ヨナよりも勝るもの此處に在り。 33誰も燈火をともして、穴藏の中または升の下におく者なし。入り來る者の光を見んために、燈臺の上に置くなり。 34汝の身の燈火は目なり、汝の目 正しき時は、全身 明るからん。されど惡しき時は、身もまた暗からん。 35この故に汝の内の光、闇にはあらぬか、省みよ。 36もし汝の全身 明るくして暗き所なくば、輝ける燈火に照さるる如く、その身 全く明るからん』 37イエスの語り給へるとき、或パリサイ人その家にて食事し給はん事を請ひたれば、入りて席に著きたまふ。 38食事 前に手を洗ひ給はぬを、此のパリサイ人 見て怪しみたれば、 39主これに言ひたまふ『今や汝らパリサイ人は、酒杯と盆との外を潔くす、されど汝らの内は貪慾と惡とにて滿つるなり。 40愚なる者よ、外を造りし者は、内をも造りしならずや。 41唯その内にある物を施せ。さらば一切の物なんぢらの爲に潔くなるなり。 42禍害なるかな、パリサイ人よ、汝らは薄荷・芸香その他あらゆる野菜の十分の一を納めて、公平と神に對する愛とを等閑にす、されど之は行ふべきものなり。而して彼もまた等閑にすべきものならず。 43禍害なるかな、パリサイ人よ、汝らは會堂の上座、市場にての敬禮を喜ぶ。 44禍害なるかな、汝らは

露れぬ墓のごとし。其の上を歩む人これを知らぬなり』
45教法師の一人、答へて言ふ『師よ、斯かることを言ふは、我らをも辱しむるなり』 46イエス言ひ給ふ『なんぢら教法師も禍害なる哉。なんぢら擔ひ難き荷を人に負せて、自ら指一つだに其の荷につけぬなり。 47禍害なるかな、汝らは預言者たちの墓を建つ、之を殺しし者は汝らの先祖なり。 48げに汝らは先祖の所作を可しとする證人ぞ。それは彼らは之を殺し、汝らは其の墓を建つればなり。 49この故に神の智慧いへる言あり、われ預言者と使徒とを彼らに遣さんに、その中の或者を殺し、また逐ひ苦しめん。 50世の創より流されたる凡ての預言者の血、 51即ちアベルの血より、祭壇と聖所との間にて殺されたるザカリヤの血に至るまでを、今の代に糺すべきなり。然り、われ汝らに告ぐ、今の代は糺さるべし。 52禍害なるかな教法師よ、なんぢらは知識の鍵を取り去りて自ら入らず、入らんとする人をも止めしなり』 53此處より出で給へば、學者・パリサイ人ら烈しく詰め寄せて、様々のことを詰りはじめ、 54その口より何事をか捉へんと待構へたり。

第十二章

1その時、無數の人あつまりて、群衆ふみ合ふばかりなり。イエスまづ弟子たちに言ひ出で給ふ『なんぢら、パリサイ人のパンだねに心せよ、これ僞善なり。 2蔽はれたるものに露れぬはなく、隱れたるものに知られぬはなし。 3この故に汝らが暗きにて言ふことは、明るきにて聞え、部屋の内にて耳によりて語りしことは、屋の上にて宣べらるべし。 4我が友たる汝らに告ぐ。身を殺して後に何をも爲し得ぬ者どもを懼るな。 5懼るべきものを汝らに示さん。殺したる後ゲヘナに投げ入るる權威ある者を懼れよ。われ汝らに告ぐ、げに之を懼れよ。 6五羽の雀は二錢にて賣るにあらずや、然るに其の一羽だに神の前に忘れらるる事なし。 7汝らの頭の髪までもみな數へらる。懼るな、汝らは多くの雀よりも優るるなり。 8われ汝らに告ぐ、凡そ人の前に我を言ひあらはす者を、人の子もまた神の使たちの前にて言ひあらはさん。 9されど人の前にて我を否む者は、神の使たちの前にて否まれん。 10凡そ言をもて人の子に逆ふ者は赦されん。されど聖靈を瀆すものは赦されじ。 11人なんぢらを會堂、或は司、あるひは權威ある者の前に引きゆかん時、いかに何を答へ、または何を言はんと思ひ煩ふな。 12聖靈そのとき言ふべきことを教へ給はん』 13群衆のうちの或人いふ『師よ、わが兄弟に命じて、嗣業を我に分たしめ給へ』 14之に言ひたまふ『人よ、誰が我を立てて汝らの裁判人また分配者とせしぞ』 15かくて人々に言ひたまふ『愼みて凡ての慳貪をふせげ、人の生命は所有の豐なるには因らぬなり』 16また譬を語りて言ひ給ふ『ある富める人、その畑豐に實りたれば、 17心の中に議りて言ふ「われ如何にせん、我が作物を藏めおく處なし」 18遂に言ふ「われ斯く爲さん、わが倉を毀ち、更に大なるものを建てて、其處にわが穀物および善き物をことごとく藏めん。 19かくてわが靈魂に言はん、靈魂よ、多年を過すに足る多くの善き物を貯へたれば、安んぜよ、飮食せよ、樂しめよ」 20然るに神かれに「愚なる者よ、今宵なんぢの靈魂とらるべし、さらば汝の備へたる物は、誰がものとなるべきぞ」と言ひ給へり。 21己のために財を貯へ、神に對して富まぬ者は斯くのごとし』 22また弟子たちに言ひ給ふ『この故にわれ汝らに告ぐ、何を食はんと生命のことを思ひ煩ひ、何を著んと體のことを思ひ煩ふな。 23生命は糧にまさり、體は衣に勝るなり。 24鴉を思ひ見よ、播かず、刈らず、納屋も倉もなし。然るに神は之を養ひたまふ、汝ら鳥に優ること幾許ぞや。 25汝らの中たれか思ひ煩ひて、身の長一尺を加へ得んや。 26されば最小き事すら能はぬに、何ぞ他のことを思ひ煩ふか。 27百合を思ひ見よ、紡がず、織らざるなり。されど我なんぢらに告ぐ、榮華を極めたるソロモンだに、其の服裝この花の一つにも及かざりき。 28今日ありて、明日爐に投げ入れらるる野の草をも、神は斯く裝ひ給へば、況て汝らをや、ああ信仰うすき者よ、 29なんぢら何を食ひ何を飮まんと求むな、また心を動かすな。 30是みな世の異邦人の切に求むる所なれど、汝らの父は、此等の物のなんぢらに必要なるを知り給へばなり。 31ただ父の御國を求めよ。さらば此等の物は、なんぢらに加へらるべし。 32懼るな、小き群よ、なんぢらに御國を賜ふことは、汝らの父の御意なり。 33汝らの所有を賣りて施濟をなせ。己がために舊びぬ財布をつくり、盡きぬ財寶を天に貯へよ。かしこは盜人も近づかず、蟲も壞らぬなり、 34汝らの財寶のある所には、汝らの心もあるべし。 35なんぢら腰に帶し、燈火をともして居れ。 36主人、婚筵より歸り來りて戸を叩かば、直ちに開くために待つ

人のごとくなれ。37主人の來るとき、目を覺しをるを見らるる僕どもは幸福なるかな。われ誠に汝らに告ぐ、主人帶して其の僕どもを食事の席に就かせ、進みて給仕すべし。38主人、夜の半ごろ若くは夜の明くる頃に來るとも、かくの如くなるを見らるる僕どもは幸福なり。39なんぢら之を知れ、家主もし盜人いづれの時來るかを知らば、その家を穿たすまじ。40汝らも備へをれ。人の子は思はぬ時に來ればなり』41ペテロ言ふ『主よ、この譬を言ひ給ふは我らにか、また凡ての人にか』42主いひ給ふ『主人が時に及びて僕どもに定の糧を與へさする爲に、その僕どもの上に立つる忠實にして慧き支配人は誰なるか、43主人のきたる時、かく爲し居るを見らるる僕は幸福なるかな。44われ實をもて汝らに告ぐ、主人すべての所有を彼に掌どらすべし。45若しその僕、心のうちに、主人の來るは遲しと思ひ、僕・婢女をたたき、飮食して醉ひ始めなば、46その僕の主人、おもはぬ日 知らぬ時に來りて、之を烈しく答うち、その報を不 忠 者と同じうせん。47主人の意を知りながら用意せず、又その 意に從はぬ僕は、答うたるること多からん。48されど知らずして打たるべき事をなす者は、答うたるること少からん。多く與へらるる者は、多く求められん。多く人に托くれば、更に多くその人より請ひ求むべし。49我は火を地に投ぜんとて來れり。此の火すでに燃えたらんには、我また何をか望まん。50されど我には受くべきバプテスマあり。その成し遂げらるるまでは、思ひ逼ること如何ばかりぞや。51われ地に平和を與へんために來ると思ふか。われ汝らに告ぐ、然らず、反つて分爭なり。52今よりのち一家に五 人あらば、三人は二人に、二人は三人に分れ爭はん。53父は子に、子は父に、母は娘に、娘は母に、姑姆は嫁に、嫁は姑姆に分れ爭はん』54イエスまた群衆に言ひ給ふ『なんぢら雲の西より起るを見れば、直ちに言ふ「急雨きたらん」と、果して然り。55また南風ふけば、汝 等いふ「強き暑あらん」と、果して然り。56僞善者よ、汝ら天 地の氣色を辨ふることを知りて、今の時を辨ふること能はぬは何ぞや。57また何 故みづから正しき事を定めぬか。58なんぢ訴ふる者とともに司に往くとき、途にて和解せんことを力めよ。恐らくは訴 ふる者なんぢを審判 人に引きゆき、審判 人なんぢを下役にわたし、下役なんぢを獄に投げ入れん。59われ汝に告ぐ、一レプタも殘りなく償はずば、其處に出づること能はじ』

第十三章

1その折しも或 人々きたりて、ピラトがガリラヤ人らの血を彼らの犧牲にまじへたりし事をイエスに告げたれば、2答へて言ひ給ふ『かのガリラヤ人は斯かることに遭ひたる故に、凡てのガリラヤ人に勝れる罪人なりしと思ふか。3われ汝らに告ぐ、然らず、汝らも悔改めずば皆おなじく亡ぶべし。4又シロアムの櫓たふれて、壓し殺されし十 八人は、エルサレムに住める凡ての人に勝りて、罪の負債ある者なりしと思ふか。5われ汝らに告ぐ、然らず、汝らも悔改めずば、みな斯くのごとく亡ぶべし』6又この譬を語りたまふ『或 人おのが葡萄園に植ゑありし無花果の樹に來りて、果を求むれども得ずして、7園 丁に言ふ「視よ、われ三年きたりて此の無花果の樹に果を求むれども得ず。これを伐り倒せ、何ぞ徒らに地を塞ぐか」8答へて言ふ「主よ、今年も容したまへ、我その周圍を掘りて肥料せん。9そののち果を結ばば善し、もし結ばずば伐り倒したまへ」』10イエス安息日に或 會堂にて教えたまふ時、11視よ、十 八 年のあひだ病の靈に憑かれたる女あり、屈まりて少しも伸ぶること能はず。12イエスこの女を見、呼び寄せて『女よ、なんぢは病より解かれたり』と言ひ、13之に手を按きたまへば、立刻に身を直にして神を崇めたり。14會堂 司イエスの安息 日に病を醫し給ひしことを憤ほり、答へて群衆に言ふ『働くべき日は六日あり、その間に來りて醫されよ。安息 日には爲ざれ』15主こたへて言ひたまふ『僞善者らよ、汝 等おのおの安息 日には、己が牛または驢馬を小屋より解きいだし、水 飼はんとて牽き往かぬか。16さらば長き十 八 年の間サタンに縛られたるアブラハムの娘なる此の女は、安息 日にその繫より解かるべきならずや』17イエス此 等のことを言ひ給へば、逆ふ者はみな恥ぢ、群衆は擧りてその爲し給へる榮光ある凡ての業を喜べり。18かくてイエス言ひたまふ『神の國は何に似たるか、我これを何に擬へん、19一粒の芥 種のごとし。人これを取りて己の園に播きたれば、育ちて樹となり、空の鳥その枝に宿れり』20また言ひたまふ『神の國を何に擬へんか、21パン種のごとし。女これを取りて、三 斗の粉の中に入るれば、ことごとく脹れいだすな

り』 22イエス教へつつ町々村々を過ぎて、エルサレムに旅し給ふとき、 23或人いふ『主よ、救はるる者は少きか』 24イエス人々に言ひたまふ『力を盡して狹き門より入れ。我なんぢらに告ぐ、入らん事を求めて入り能はぬ者おほからん。 25家主おきて門を閉ぢたる後、なんぢら外に立ちて「主よ、我らに開き給へ」と言ひつつ門を叩き始めんに、主人こたへて「われ汝らが何處の者なるかを知らず」と言はん。 26その時「われらは御前にて飲食し、なんぢは、我らの町の大路にて教へ給へり」と言ひ出でんに、 27主人こたへて「われ汝らが何處の者なるかを知らず、惡をなす者どもよ、皆われを離れ去れ」と言はん。 28汝らアブラハム、イサク、ヤコブ及び凡ての預言者の、神の國に居り、己らの逐ひ出さるるを見ば、其處にて哀哭・切齒する事あらん。 29また人々、東より西より南より北より來りて、神の國の宴に就くべし。 30視よ、後なる者の先になり、先なる者の後になる事あらん』 31そのとき或パリサイ人らイエスに來りて言ふ『いでて此處を去り給へ、ヘロデ汝を殺さんとす』 32答へて言ひ給ふ『往きてかの狐に言へ。視よ、われ今日 明日、惡鬼を逐ひ出し、病を醫し、而して三日めに全うせられん。 33されど今日も明日も次の日も我は進み往くべし。それ預言者のエルサレムの外にて死ぬることは有るまじきなり。 34噫エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、遣されたる人々を石にて擊つ者よ、牝鷄の己が雛を翼のうちに集むるごとく、我なんぢの子どもを集めんとせしこと幾度ぞや。されど汝らは好まざりき。 35視よ、汝らの家は棄てられて汝らに遺らん。我なんぢらに告ぐ、「讃むべきかな、主の名によりて來る者」と、汝らの言ふ時の至るまでは、我を見ざるべし』

第十四章

1イエス安息日に食事せんとて、或パリサイ人の頭の家に入り給へば、人々これを窺ふ。 2視よ、御前に水腫をわづらふ人ゐたれば、 3イエス答へて教法師とパリサイ人とに言ひたまふ『安息日に人を醫すことは善しや、否や』 4かれら默然たり。イエスその人を執り、醫して去らしめ、 5且かれらに言ひ給ふ『なんぢらの中その子あるひは其の牛、井に陷らんに、安息日には直ちに之を引揚げぬ者あるか』 6彼等これに對して物言ふこと能はず。 7イエス招かれたる者の上席をえらぶを見、譬をかたりて言ひ給ふ、 8『なんぢ婚筵に招かるるとき、上席に著くな。恐らくは汝よりも貴き人の招かれんに、 9汝と彼とを招きたる者きたりて「この人に席を讓れ」と言はん。さらば其の時なんぢ恥ぢて末席に往きはじめん。 10招かるるとき、寧ろ往きて末席に著け、さらば招きたる者きたりて「友よ、上に進め」と言はん。その時なんぢ同席の者の前に譽あるべし。 11凡そおのれを高うする者は卑うせられ、己を卑うする者は高うせらるるなり』 12また己を招きたる者にも言ひ給ふ『なんぢ晝餐または夕餐を設くるとき、朋友・兄弟・親族・富める隣人などをよぶな。恐らくは彼らも亦なんぢを招きて報をなさん。 13饗宴を設くる時は、寧ろ貧しき者・不具・跛者・盲人などを招け。 14彼らは報ゆること能はぬ故に、なんぢ幸福なるべし。正しき者の復活の時に報いらるるなり』 15同席の者の一人これらの事を聞きてイエスに言ふ『おほよそ神の國にて食事する者は幸福なり』 16之に言ひたまふ『或人、盛なる夕餐を設けて、多くの人を招く。 17夕餐の時いたりて、招きおきたる者の許に僕を遣して「來れ、既に備りたり」と言はしめたるに、 18皆ひとしく辭りはじむ。初の者いふ「われ田地を買へり。往きて見ざるを得ず。請ふ、許されんことを」 19他の者いふ「われ五耜の牛を買へり、之を驗すために往くなり。請ふ、許されんことを」 20また他も者いふ「われ妻を娶れり、此の故に往くこと能はず」 21僕かへりて此等の事をその主人に告ぐ、家主いかりて僕に言ふ「とく町の大路と小路とに往きて、貧しき者・不具者・盲人・跛者などを此處に連れきたれ」 22僕いふ「主よ、仰のごとく爲したれど、尚ほ餘の席あり」 23主人、僕に言ふ「道や籬の邊にゆき、人々を強ひて連れきたり、我が家に充たしめよ。 24われ汝らに告ぐ、かの招きおきたる者のうち、一人だに我が夕餐を味ひ得る者なし」』 25さて大なる群衆イエスに伴ひゆきたれば、顧みて之に言ひたまふ、 26『人もし我に來りて、その父 母・妻 子・兄弟・姉妹・己が生命までも憎まずば、我が弟子となるを得ず。 27また己が十字架を負ひて我に從ふ者ならでは、我が弟子となるを得ず。 28汝らの中たれか櫓を築かんと思はば、先づ坐して其の費をかぞへ、己が所有、竣工までに足るか否かを計らざらんや。 29然らずして基を据ゑ、もし成就すること能はずば、見る者みな嘲笑ひて、 30「この人は築きかけて成就すること能はざ

りき」と言はん。31又いづれの王か出でて他の王と戰爭をせんに、先づ坐して、此の一萬人をもて、かの二萬人を率ゐきたる者に對ひ得るか否か籌らざらんや。32もし及かずば、敵なほ遠く隔るうちに、使を遣して和睦を請ふべし。33かくのごとく、汝らの中その一切の所有を退くる者ならでは、我が弟子となるを得ず。34鹽は善きものなり、然れど鹽もし效力を失はば、何によりてか味つけられん。35土にも肥料にも適せず、外に棄てらるるなり。聽く耳ある者は聽くべし』

第十五章

1取税人、罪人ども、みな御言を聽かんとて近寄りたれば、2パリサイ人・學者ら呟きて言ふ、『この人は罪人を迎へて食を共にす』3イエス之に譬を語りて言ひ給ふ、4『なんぢらの中たれか百匹の羊を有たんに、若その一匹を失はば、九十九匹を野におき、往きて失せたる者を見出すまでは尋ねざらんや。5遂に見出さば、喜びて之を己が肩にかけ、6家に歸りて其の友と隣人とを呼び集めて言はん「我とともに喜べ、失せたる我が羊を見出せり」7われ汝らに告ぐ、かくのごとく悔改むる一人の罪人のためには、悔改の必要なき九十九人の正しき者にも勝りて、天に歡喜あるべし。8又いづれの女か銀貨十枚を有たんに、若しその一枚を失はば、燈火をともし、家を掃きて見出すまでは懇ろに尋ねざらんや。9遂に見出さば、其の友と隣人とを呼び集めて言はん、「我とともに喜べ、わが失ひたる銀貨を見出せり」10われ汝らに告ぐ、かくのごとく悔改むる一人の罪人のために、神の使たちの前に歡喜あるべし』11また言ひたまふ『或人に二人の息子あり、12弟、父に言ふ「父よ、財産のうち我が受くべき分を我にあたへよ」父その身代を二人に分けあたふ。13幾日も經ぬに、弟おのが物をことごとく集めて、遠國にゆき、其處にて放蕩にその財産を散せり。14ことごとく費したる後、その國に大なる饑饉おこり、自ら乏しくなり始めたれば、15往きて其の地の或人に依附りしに、其の人かれを畑に遣して豚を飼はしむ。16かれ豚の食ふ蝗豆にて、己が腹を充さんと思ふ程なれど、何をも與ふる人なかりき。17此のとき我に反りて言ふ『わが父の許には食物あまれる雇人いくばくぞや、然るに我は飢ゑてこの處に死なんとす。18起ちて我が父にゆき「父よ、われは天に對し、また汝の前に罪を犯したり。19今より汝の子と稱へらるるに相應しからず、雇人の一人のごとく爲し給へ』と言はん」20乃ち起ちて其の父のもとに往く。なほ遠く隔りたるに、父これを見て憫み、走りゆき、其の頸を抱きて接吻せり。21子、父にいふ「父よ、我は天に對し又なんぢの前に罪を犯したり。今より汝の子と稱へらるるに相應しからず」22されど父、僕どもに言ふ「とくとく最上の衣を持ち來りて之に著せ、その手に指輪をはめ、其の足に鞋をはかせよ。23また肥えたる犢を牽ききたりて屠れ、我ら食して樂しまん。24この我が子、死にて復生き、失せて復得られたり」かくて彼ら樂しみ始む。25然るに其の兄、畑にありしが、歸りて家に近づきたるとき、音樂と舞踏との音を聞き、26僕の一人を呼びてその何事なるかを問ふ。27答へて言ふ「なんぢの兄弟歸りたり、その恙なきを迎へたれば、汝の父肥えたる犢を屠れるなり」28兄怒りて内に入ることを好まざりしかば、父いでて勸めしに、29答へて父に言ふ「視よ、我は幾歳もなんぢに仕へて、未だ汝の命令に背きし事なきに、我には小山羊一匹だに與へて友と樂しましめし事なし。30然るに遊女らと共に、汝の身代を食ひ盡したる此の汝の子歸り來れば、之がために肥えたる犢を屠れり」31父いふ「子よ、なんぢは常に我とともに在り、わが物は皆なんぢの物なり。32されど此の汝の兄弟は死にて復生き、失せて復得られたれば、我らの樂しみ喜ぶは當然なり」』

第十六章

1イエスまた弟子たちに言ひ給ふ『或富める人に一人の支配人あり、主人の所有を費しをりと訴へられたれば、2主人かれを呼びて言ふ「わが汝につきて聞く所は、これ何事ぞ、務の報告をいだせ、汝このののち支配人たるを得じ」3支配人心のうちに言ふ「如何にせん、主人わが職を奪ふ。われ土掘るには力なく、物乞ふは恥かし。4我なすべき事こそ知りたれ、斯く爲ば職を罷めらるるとき、人々その家に我を迎ふるならん」とて、5主人の負債者を一人一人呼びよせて、初の者に言ふ「なんぢ我が主人より負ふところ何程あるか」6答へて言ふ「油、百樽」支配人いふ「なんぢの證書をとり、早く坐して五十と書け」7又ほかの者に言ふ「負ふところ何程あるか」答へて言ふ「麥、百石」支配人いふ「なんぢの證書をとりて八十と書け」8ここに主人、不義なる

支配人の爲しし事の巧なるによりて、彼を譽めたり。この世の子らは、己が時代の事には光の子らよりも巧なり。9われ汝らに告ぐ、不義の富をもて、己がために友をつくれ。さらば富の失する時、その友なんぢらを永遠の住居に迎へん。10小事に忠なる者は大事にも忠なり。小事に不忠なる者は大事にも不忠なり。11さらば汝等もし不義の富に忠ならずば、誰か眞の富を汝らに任すべき。12また汝等もし人のものに忠ならずば、誰か汝等のものを汝らに與ふべき。13僕は二人の主に兼ね事ふること能はず、或は之を憎み彼を愛し、或は之に親しみ彼を輕しむべければなり。汝ら神と富とに兼ね事ふること能はず』14ここに慾深きパリサイ人ら、この凡ての事を聞きてイエスを嘲笑ふ。15イエス彼らに言ひ給ふ『なんぢらは人のまへに己を義とする者なり。されど神は汝らの心を知りたまふ。人のなかに尊ばるる者は、神のまへに憎まるる者なり。16律法と預言者とはヨハネまでなり、その時より神の國は宣傳へられ、人みな烈しく攻めて之に入る。17されど律法の一畫の落つるよりも、天地の過ぎ往くは易し。18凡てその妻を出して、他に娶る者は、姦淫を行ふなり。また夫より出されたる女を娶る者も、姦淫を行ふなり。19或富める人あり、紫色の衣と細布とを著て、日々奢り樂しめり。20又ラザロといふ貧しき者あり、腫物にて腫れただれ、富める人の門に置かれ、21その食卓より落つる物にて飽かんと思ふ。而して犬ども來りて其の腫物を舐れり。22遂にこの貧しきもの死に、御使たちに携へられてアブラハムの懷裏に入れり。富める人もまた死にて葬られしが、23黄泉にて苦惱の中より目を擧げて、遙にアブラハムと其の懷裏にをるラザロとを見る。24乃ち呼びて言ふ「父アブラハムよ、我を憐みて、ラザロを遣し、その指の先を水に浸して我が舌を冷させ給へ、我はこの焔のなかに悶ゆるなり」25アブラハム言ふ「子よ、憶へ、なんぢは生ける間なんぢの善き物を受け、ラザロは惡しき物を受けたり。今ここにて彼は慰められ、汝は悶ゆるなり。26然のみならず、此處より汝らに渡り往かんとすとも得ず、其處より我らに來り得ぬために、我らと汝らとの間に大なる淵定めおかれたり」27富める人また言ふ「さらば父よ、願はくは我が父の家にラザロを遣したまへ。28我に五人の兄弟あり、この苦痛のところに來らぬよう、彼らに證せしめ給へ」29アブラハム言ふ「彼らにはモーセと預言者とあり、之に聽くべし」30富める人いふ「いな、父アブラハムよ、もし死人の中より彼らに往く者あらば、悔改めん」31アブラハム言ふ「もしモーセと預言者とに聽かずば、たとひ死人の中より甦へる者ありとも、其の勸を納れざるべし」』

第十七章

1イエス弟子たちに言ひ給ふ『躓物は必ず來らざるを得ず、されど之を來らす者は禍害なるかな。2この小き者の一人を躓かするよりは、寧ろ碾臼の石を頸に懸けられて、海に投げ入れられんかた善きなり。3汝等みづから心せよ。もし汝の兄弟罪を犯さば、これを戒めよ。もし悔改めなば之をゆるせ。4もし一日に七度なんぢに罪を犯し、七たび「悔改む」と言ひて、汝に歸らば之をゆるせ』5使徒たち主に言ふ『われらの信仰を増したまへ』6主いひ給ふ『もし芥種一粒ほどの信仰あらば、此の桑の樹に「拔けて海に植れ」と言ふとも汝らに從ふべし。7汝等のうち誰か或は耕し、或は牧する僕を有たんに、その僕畑より歸りたる時、これに對ひて「直ちに來り食に就け」と言ふ者あらんや。8反つて「わが夕餐の備をなし、我が飮食するあひだ、帶して給仕せよ、然る後に、なんぢ飮食すべし」と言ふにあらずや。9僕、命ぜられし事を爲したればとて、主人これに謝すべきか。10かくのごとく汝らも命ぜられし事をことごとく爲したる時「われらは無益なる僕なり、爲すべき事を爲したるのみ」と言へ』11イエス、エルサレムに往かんとて、サマリヤとガリラヤとの間をとほり、12或村に入り給ふとき、十人の癩病人これに遇ひて、遙に立ち止り、13聲を揚げて言ふ『君イエスよ、我らを憫みたまへ』14イエス之を見て言ひたまふ『なんぢら往きて身を祭司らに見せよ』彼ら往く間に潔められたり。15その中の一人、おのが醫されたるを見て、大聲に神を崇めつつ歸りきたり、16イエスの足下に平伏して謝す。これはサマリヤ人なり。17イエス答へて言ひたまふ『十人みな潔められしならずや、九人は何處に在るか。18この他國人のほかは、神に榮光を歸せんとて歸りきたる者なきか』19かくて之に言ひたまふ『起ちて往け、なんぢの信仰なんぢを救へり』20神の國の何時きたるべきかをパリサイ人に問はれし時、イエス答へて言ひたまふ『神の國は見ゆべき狀にて來らず。21また「視よ、此處に在り」

「彼處に在り」と人々 言はざるべし。視よ、神の國は汝らの中に在るなり』22かくて弟子たちに言ひ給ふ『なんぢら人の子の日の一日を見んと思ふ日きたらん、されど見ることを得じ。23そのとき人々なんぢらに「見よ彼處に、見よ此處に」と言はん、されど往くな、從ふな。24それ電光の天の彼方より閃きて、天の此方に輝くごとく、人の子もその日には然あるべし。25されど人の子は先づ多くの苦難を受け、かつ今の代に棄てらるべきなり。26ノアの日にありし如く、人の子の日にも然あるべし。27ノア方舟に入る日までは、人々 飲み食ひ娶り嫁ぎなど爲たりしが、洪水きたりて彼 等をことごとく滅せり。28ロトの日にも斯くのごとく、人々 飲み食ひ、賣り買ひ、植ゑつけ、家 造りなど爲たりしが、29ロトのソドムを出でし日に、天より火と硫黄と降りて、彼 等をことごとく滅せり。30人の子の顯るる日にも、その如くなるべし。31その日には、人もし屋の上にをりて、器 物 家の内にあらば、之を取らんとて下るな。畑にをる者も同じく歸るな。32ロトの妻を憶へ。33おほよそ己が生命を全うせんとする者はこれを失ひ、失ふ者はこれを保つべし。34われ汝らに告ぐ、その夜ふたりの男、一つ寢臺に居らんに、一人は取られ一人は遺されん。35二人の女ともに臼ひき居らんに、一人は取られ一人は遺されん』36[なし] 37弟子たち答へて言ふ『主よ、それは何處ぞ』イエス言ひたまふ『屍體のある處には鷲も亦あつまらん』

第十八章

1また彼らに、落膽せずして常に祈るべきことを、譬にて語り言ひ給ふ 2『或 町に、神を畏れず人を顧みぬ裁判人あり。3その町に寡婦ありて、屢次その許にゆき「我がために仇を審きたまへ」と言ふ。4かれ久しく聽き入れざりしが、其ののち心の中に言ふ「われ神を畏れず、人を顧みねど、5此の寡婦われを煩はせば、我かれが爲に審かん、然らずば絶えず來りて我を惱さん」と』6主いひ給ふ『不義なる裁判人の言ふことを聽け、7まして神は夜晝よばはる選民のために、たとひ遲くとも遂に審き給はざらんや。8我なんぢらに告ぐ、速かに審き給はん。されど人の子の來るとき地上に信仰を見んや』9また己を義と信じ、他人を輕しむる者どもに、此の譬を言ひたまふ、10『二人のもの祈らんとて宮にのぼる、一人はパリサイ人、一人は取税人なり。11パリサイ人たちて心の中に斯く祈る「神よ、我はほかの人の、強奪・不義・姦淫するが如き者ならず、又この取税人の如くならぬを感謝す。12我は一週のうちに二度 斷食し、凡て得るものの十分の一を献ぐ」13然るに取税人は遙に立ちて、目を天に向くる事だにせず、胸を打ちて言ふ「神よ、罪人なる我を憫みたまへ」14われ汝らに告ぐ、この人は、かの人よりも義とせられて、己が家に下り往けり。おほよそ己を高うする者は卑うせられ、己を卑うする者は高うせらるるなり』15イエスの觸り給はんことを望みて、人々 嬰兒らを連れ來りしに、弟子たち之を見て禁めたれば、16イエス幼兒らを呼びよせて言ひたまふ『幼兒らの我に來るを許して止むな、神の國はかくのごとき者の國なり。17われ誠に汝らに告ぐ、おほよそ幼兒のごとくに神の國をうくる者ならずば、之に入ることは能はず』18或 司 問ひて言ふ『善き師よ、われ何をなして永遠の生命を嗣ぐべきか』19イエス言ひ給ふ『なにゆゑ我を善しと言ふか、神ひとりの他に善き者なし。20誡命はなんぢが知る所なり「姦淫するなかれ」「殺すなかれ」「盜むなかれ」「僞證を立つる勿れ」「なんぢの父と母とを敬へ」』21彼いふ『われ幼き時より皆これを守れり』22イエス之をききて言ひたまふ『なんぢなほ足らぬこと一つあり、汝の有てる物をことごとく賣りて、貧しき者に分ち與へよ、然らば財寶を天に得ん。かつ來りて我に從へ』23彼は之をききて甚く悲しめり、大に富める者なればなり。24イエス之を見て言ひたまふ『富める者の神の國に入るは如何に難いかな。25富める者の神の國に入るよりは、駱駝の針の穴をとほるは反つて易し』26之をきく人々いふ『さらば誰か救はるる事を得ん』27イエス言ひたまふ『人のなし得ぬところは、神のなし得る所なり』28ペテロ言ふ『視よ、我等わが物をすてて汝に從へり』29イエス言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、神の國のために、或は家、或は妻、或は兄弟、あるひは兩親、あるひは子を棄つる者は、誰にても、30今の時に數倍を受け、また後の世にて永遠の生命を受けぬはなし』31イエス十二弟子を近づけて言ひたまふ『視よ、我らエルサレムに上る。人の子につき預言者たちによりて録されたる凡ての事は、成し遂げらるべし。32人の子は異邦人に付され、嘲弄せられ、辱しめられ、唾せられん。33彼 等これを鞭うち、かつ殺さん。かくて彼は

三日めに甦へるべし』 34弟子たち此 等のことを一つだに悟らず、此の言かれらに隠れたれば、その言ひ給ひしことを知らざりき。 35イエス、エリコに近づき給ふとき、一人の盲人、路の傍らに坐して、物 乞ひ居たりしが、 36群衆の過ぐるを聞きて、その何事なるかを問ふ。 37人々ナザレのイエスの過ぎたまふ由を告げたれば、 38盲人よばはりて言ふ『ダビデの子イエスよ、我を憫みたまへ』 39先だち往く者ども、彼を禁めて默さしめんと爲たれど、増々さけびて言ふ『ダビデの子よ、我を憫みたまへ』 40イエス立ち止り、盲人を連れ來るべきことを命じ給ふ。かれ近づきたれば、 41イエス問ひ給ふ『わが汝に何を爲さんことを望むか』彼いふ『主よ、見えんことなり』 42イエス彼に『見ることを得よ、なんぢの信仰なんぢを救へり』と言ひ給へば、 43立 刻に見ることを得、神を崇めてイエスに從ふ。民みな之を見て神を讃美せり。

第十九章

1エリコに入りて過ぎゆき給ふとき、 2視よ、名をザアカイといふ人あり、取税人の長にて富める者なり。 3イエスの如何なる人なるかを見んと思へど、丈 矮うして群衆のために見ること能はず、 4前に走りゆき、桑の樹にのぼる。イエスその路を過ぎんとし給ふ故なり。 5イエス此處に至りしとき、仰ぎ見て言ひたまふ『ザアカイ、急ぎおりよ、今日われ汝の家に宿るべし』 6ザアカイ急ぎおり、喜びてイエスを迎ふ。 7人々みな之を見て咢きて言ふ『かれは罪人の家に入りて客となれり』 8ザアカイ立ちて主に言ふ『主、視よ、わが所有の半を貧しき者に施さん、若しわれ誣ひ訴へて人より取りたる所あらば、四 倍にして償はん』 9イエス言ひ給ふ『けふ救はこの家に來れり、此の人もアブラハムの子なればなり。 10それ人の子の來れるは、失せたる者を尋ねて救はん爲なり』 11人々これらの事を聽きゐたるとき、譬を加へて言ひ給ふ。これはイエス、エルサレムに近づき給ひ、神の國たちどころに現るべしと彼らが思ふ故なり。 12乃ち言ひたまふ『或 貴人、王の權を受けて歸らんとて遠き國へ往くとき、 13十 人の僕をよび、之に金 十ミナを付して言ふ「わが歸るまで商 賣せよ」 14然るに其の地の民かれを憎み、後より使を遣して「我らは此の人の我らの王となることを欲せず」と言はしむ。 15貴人、王の權をうけて歸り來りしとき、銀を付し置きたる僕どもの、如何に商 賣せしかを知らんとて彼らを呼ばしむ。 16初のもの進み出でて言ふ「主よ、なんぢの一ミナは十ミナを贏けたり」 17王いふ「善いかな、良き僕、なんぢは小事に忠なりしゆゑ、十の町を司どるべし」 18次の者きたりて言ふ「主よ、なんぢの一ミナは五ミナを贏けたり」 19王また言ふ「なんぢも五つの町を司どるべし」 20また一人きたりて言ふ「主、視よ、なんぢの一ミナは此處に在り。我これを袱紗に包みて藏め置きたり。 21これ汝の嚴しき人なるを懼れたるに因る。なんぢは置かぬものを取り、播かぬものを刈るなり」 22王いふ「惡しき僕、われ汝の口によりて汝を審かん。我の嚴しき人にて、置かぬものを取り、播かぬものを刈るを知るか。 23何ぞわが金を銀行に預けざりし、さらば我きたりて元金と利子とを請求せしものを」 24かくて傍らに立つ者どもに言ふ「かれの一ミナを取りて十ミナを有てる人に付せ」 25彼 等いふ「主よ、かれは既に十ミナを有てり」 26「われ汝らに告ぐ、凡て有てる人はなほ與へられ、有たぬ人は有てるものをも取らるべし。 27而して我が王たる事を欲せぬ、かの仇どもを此處に連れきたり、我が前にて殺せ」』 28イエス此 等のことを言ひてのち、先だち進みてエルサレムに上り給ふ。 29オリブといふ山の麓なるベテパゲ及びベタニヤに近づきし時、イエス二人の弟子を遣さんとして言ひ給ふ、 30『向の山にゆけ、其處に入らば、一度も人の乘りたる事なき驢馬の子の繫ぎあるを見ん、それを解きて牽ききたれ。 31誰かもし汝らに「なにゆゑ解くか」と問はば、斯く言ふべし「主の用なり」と』 32遣されたる者ゆきたれば、果して言ひ給ひし如くなるを見る。 33かれら驢馬の子をとく時、その持主ども言ふ『なにゆゑ驢馬の子を解くか』 34答へて言ふ『主の用なり』 35かくて驢馬の子をイエスの許に牽ききたり、己が衣をその上にかけて、イエスを乘せたり。 36その往き給ふとき、人々おのが衣を途に敷く。 37オリブ山の下りあたりまで近づき來り給へば、群れゐる弟子たち皆 喜びて、その見しところの能力ある御業につき、聲 高らかに神を讃美して言ひ始む、 38『讃むべきかな、主の名によりて來る王。天には平和、至高き處には榮光あれ』 39群衆のうちの或パリサイ人ら、イエスに言ふ『師よ、なんぢの弟子たちを禁めよ』 40答へて言ひ給ふ『われ汝らに告ぐ、此のともがら默さば、石 叫ぶべし』 41既に近づきたるとき、都を見やり、之がために泣きて言ひ給ふ、 42

『ああ汝、なんぢも若しこの日の間に、平和にかかはる事を知りたらんには――されど今なんぢの目に隠れたり。43日きたりて敵なんぢの周圍に壘をきづき、汝を取圍みて四方より攻め、44汝とその内にある子らとを地に打倒し、一つの石をも石の上に遺さざるべし。なんぢ眷顧の時を知らざりしに因る』45かくて宮に入り、商ひする者どもを逐ひ出しはじめ、46之に言ひたまふ『「わが家は祈の家たるべし」と録されたるに、汝らは之を強盜の巢となせり』47イエス日々宮にて教へたまふ。祭司長・學者ら及び民の重立ちたる者ども、之を殺さんと思ひたれど、48民みな耳を傾けてイエスに聽きたれば、爲すべき方を知らざりき。

第二十章

1或日イエス宮にて民を教へ、福音を宣べゐ給ふとき、祭司長・學者らは、長老どもと共に近づき來り、2イエスに語りて言ふ『なにの權威をもて此等の事をなすか、此の權威を授けし者は誰か、我らに告げよ』3答へて言ひ給ふ『われも一言なんぢらに問はん、答へよ。4ヨハネのバプテスマは天よりか、人よりか』5彼ら互に論じて言ふ『もし「天より」と言はば「なに故かれを信ぜざりし」と言はん。6もし「人より」と言はんか、民みなヨハネを預言者と信ずるによりて、我らを石にて撃たん』7遂に何處よりか知らぬ由を答ふ。8イエス言ひたまふ『われも何の權威をもて此等の事をなすか、汝らに告げじ』9かくて次の譬を民に語りいで給ふ『ある人、葡萄園を造りて農夫どもに貸し、遠く旅立して久しくなりぬ。10時至りて、葡萄園の所得を納めしめんとて、一人の僕を農夫の許に遣ししに、農夫ども之を打ちたたき、空手にて歸らしめたり。11又ほかの僕を遣ししに、之をも打ちたたき、辱しめ、空手にて歸らしめたり。12なほ三度めの者を遣ししに、之をも傷つけて逐ひ出したり。13葡萄園の主いふ「われ何を爲さんか。我が愛しむ子を遣さん、或は之を敬ふなるべし」14農夫ども之を見て互に論じて言ふ「これは世嗣なり。いざ殺して其の嗣業を我らの物とせん」15かくてこれを葡萄園の外に逐ひ出して殺せり。さらば葡萄園の主かれらに何を爲さんか、16來りてかの農夫どもを亡し、葡萄園を他の者どもに與ふべし』人々これを聽きて言ふ『然はあらざれ』17イエス彼らに目を注めて言ひ給ふ『されば「造家者らの棄てる石は、これぞ隅の首石となれる」と録されたるは何ぞや。18凡そその石の上に倒るる者は碎け、又その石、人の上に倒るれば、その人を微塵にせん』19此のとき學者・祭司長ら、イエスに手をかけんと思ひたれど、民を恐れたり。この譬の己どもを指して言ひ給へるを悟りしに因る。20かくて彼ら機を窺ひ、イエスを司の支配と權威との下に付さんとて、その言を捉ふるために、義人の樣したる間諜どもを遣したれば、21其の者どもイエスに問ひて言ふ『師よ、我らは汝の正しく語り、かつ教へ、外貌を取らず、眞をもて神の道を教へ給ふを知る。22われら貢をカイザルに納むるは、善きか、惡しきか』23イエスその惡巧を知りて言ひ給ふ、24『デナリを我に見せよ。これは誰の像、たれの號なるか』『カイザルのなり』と答ふ。25イエス言ひ給ふ『さらばカイザルの物はカイザルに、神の物は神に納めよ』26かれら民の前にて其の言をとらへ得ず、且その答を怪しみて默したり。27また復活なしと言張るサドカイ人の或者ども、イエスに來り問ひて言ふ、28『師よ、モーセは、人の兄弟もし妻あり子なくして死なば、其の兄弟かれの妻を娶りて、兄弟のために嗣子を擧ぐべしと、我らに書き遺したり。29さて茲に七人の兄弟ありて、兄、妻を娶り、子なくして死に、30第二、第三の者も之を娶り、31七人みな同じく子を殘さずして死に、32後には其の女も死にたり。33されば復活の時、この女は誰の妻たるべきか、七人これを妻としたればなり』34イエス言ひ給ふ『この世の子らは娶り嫁ぎすれど、35かの世に入るに、死人の中より甦へるに相應しとせらるる者は、娶り嫁ぎすることなし。36彼等ははや死ぬること能はざればなり。御使たちに等しく、また復活の子どもにして、神の子供たるなり。37死にたる者の甦へる事は、モーセも柴の條に、主を「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」と呼びて之を示せり。38神は死にたる者の神にあらず、生ける者の神なり。それ神の前には皆生けるなり』39學者のうちの或者ども答へて『師よ、善く言ひ給へり』と言ふ。40彼等ははや何事をも問ひ得ざりし故なり。41イエス彼らに言ひたまふ『如何なれば人々、キリストをダビデの子と言ふか。42ダビデ自ら詩篇に言ふ「主わが主に言ひたまふ、43われ汝の敵を汝の足臺となすまでは、わが右に坐せよ」44ダビデ斯く彼を主と稱ふれば、爭でその子ならんや』45民の皆ききをる中にて、

イエス弟子たちに言ひ給ふ、46『學者らに心せよ。彼らは長き衣を著て歩むことを好み、市場にての敬禮、會堂の上座、饗宴の上席を喜び、47また寡婦らの家を呑み、外見をつくりて長き祈をなす。其の受くる審判は更に嚴しからん』

第二十一章

1イエス目を擧げて、富める人々の納物を賽錢函に投げ入るるを見、2また或貧しき寡婦のレプタ二つを投げ入るるを見て言ひ給ふ、3『われ實をもて汝らに告ぐ、この貧しき寡婦は、凡ての人よりも多く投げ入れたり。4彼らは皆その豐なる内より納物の中に投げ入れ、この寡婦はその乏しき中より、己が有てる生命の料をことごとく投げ入れたればなり』5或人々、美麗なる石と献物とにて宮の飾られたる事を語りしに、イエス言ひ給ふ、6『なんぢらが見る此等の物は、一つの石も崩されずして石の上に殘らぬ日きたらん』7彼ら問ひて言ふ『師よ、さらば此等のことは何時あるか、又これらの事の成らんとする時は如何なる兆あるか』8イエス言ひ給ふ『なんぢら惑されぬように心せよ、多くの者わが名を冒し來り「われは夫なり」と言ひ「時は近づけり」と言はん、彼らに從ふな。9戰爭と騷亂との事を聞くとき、怖づな。斯かることは先づあるべきなり。然れど終は直ちに來らず』10また言ひたまふ『「民は民に、國は國に逆ひて起たん」11かつ大なる地震あり、處々に疫病・饑饉あらん。懼るべき事と天よりの大なる兆とあらん。12すべて此等のことに先だちて、人々なんぢらに手をくだし、汝らを責めん、即ち汝らを會堂および獄に付し、わが名のために王たち司たちの前に曳きゆかん。13これは汝らに證の機とならん。14されば汝ら如何に答へんと預じめ思慮るまじき事を心に定めよ。15われ汝らに、凡て逆ふ者の言ひ逆ひ言ひ消すことをなし得ざる、口と智慧とを與ふべければなり。16汝らは兩親・兄弟・親族・朋友にさへ付されん。又かれらは汝らの中の或者を殺さん。17汝等わが名の故に凡ての人に憎まるべし。18然れど汝らの頭の髮一すぢだに失せじ。19汝らは忍耐によりて其の靈魂を得べし。20汝らエルサレムが軍勢に圍まるるを見ば、其の亡近づけりと知れ。21その時ユダヤに居る者どもは山に遁れよ、都の中にをる者どもは出でよ、田舍にをる者どもは都に入るな、22これ録されたる凡ての事の遂げらるべき刑罰の日なり。23その日には孕りたる者と、乳を哺ませる者とは禍害なるかな。地に大なる艱難ありて、御怒この民に臨み、24彼らは劍の刃に斃れ、又は捕はれて諸國に曳かれん。而してエルサレムは異邦人の時滿つるまで、異邦人に蹂躙らるべし。25また日・月・星に兆あらん。地にては國々の民なやみ、海と濤との鳴り轟くによりて狼狽へ、26人々おそれ、かつ世界に來らんとする事を思ひて膽を失はん。これ天の萬象ふるひ動けばなり。27其のとき人々、人の子の能力と大なる榮光とをもて、雲に乘りきたるを見ん。28これらの事起り始めなば、仰ぎて首を擧げよ。汝らの贖罪近づけるなり』29また譬を言ひたまふ『無花果の樹また凡ての樹を見よ、30既に芽ざせば、汝等これを見てみづから夏の近きを知る。31斯くのごとく此等のことの起るを見ば、神の國の近きを知れ。32われ誠に汝らに告ぐ、これらの事ことごとく成るまで、今の代は過ぎゆくことなし。33天地は過ぎゆかん、されど我が言は過ぎゆくことなし。34汝等みづから心せよ、恐らくは飲食にふけり、世の煩勞にまとはれて心鈍り、思ひがけぬ時、かの日羂のごとく來らん。35これは徧く地の面に住める凡ての人に臨むべきなり。36この起るべき凡ての事をのがれ、人の子のまへに立ち得るやう、常に祈りつつ目を覺しをれ』37イエス晝は宮にて教へ、夜は出でてオリブといふ山に宿りたまふ。38民はみな御教を聽かんとて、朝とく宮にゆき、御許に集れり。

第二十二章

1さて過越といふ除酵祭近づけり。2祭司長・學者らイエスを殺さんとし、その手段いかにと求む、民を懼れたればなり。3時にサタン、十二の一人なるイスカリオテと稱ふユダに入る。4ユダ乃ち祭司長・宮守頭どもに往きて、イエスを如何にして付さんと議りたれば、5彼ら喜びて銀を與へんと約す。6ユダ諾ひて、群衆の居らぬ時にイエスを付さんと好き機をうかがふ。7過越の羔羊を屠るべき除酵祭の日來りたれば、8イエス、ペテロとヨハネとを遣さんとして言ひたまふ『往きて我らの食せん爲に過越の備をなせ』9彼ら言ふ『何處に備ふることを望み給ふか』10イエス言ひたまふ『視よ、都に入らば、水をいれたる瓶を持つ人なんぢらに遇ふべし、之に

從ひゆき、その入る所の家にいりて、11家の主人に「師なんぢに言ふ、われ弟子らと共に過越の食をなすべき座敷は何處なるか」と言へ。12さらば調へたる大なる二階座敷を見すべし。其處に備へよ』13かれら出で往きて、イエスの言ひ給ひし如くなるを見て、過越の設備をなせり。14時いたりてイエス席に著きたまひ、使徒たちも共に著く。15かくて彼らに言ひ給ふ『われ苦難の前に、なんぢらと共にこの過越の食をなすことを望みに望みたり。16われ汝らに告ぐ、神の國にて過越の成就するまでは、我復これを食せざるべし』17かくて酒杯を受け、かつ謝して言ひ給ふ『これを取りて互に分ち飲め。18われ汝らに告ぐ、神の國の來るまでは、われ今よりのち葡萄の果より成るものを飲まじ』19またパンを取り謝してさき、弟子たちに與へて言ひ給ふ『これは汝らの爲に與ふる我が體なり。我が記念として之を行へ』20夕餐ののち酒杯をも然して言ひ給ふ『この酒杯は、汝らの爲に流す我が血によりて立つる新しき契約なり。21されど視よ、我を賣る者の手、われと共に食卓の上にあり、22實に人の子は定められたる如く逝くなり。されど之を賣る者は禍害なるかな』23弟子たち己らの中にて此の事をなす者は、誰ならんと互に問ひ始む。24また彼らの間に、己らの中たれか大ならんとの爭論おこりたれば、25イエス言ひたまふ『異邦人の王はその民を宰どり、また民を支配する者は恩人と稱へらる。26されど汝らは然あらざれ、汝等のうち大なる者は若き者のごとく、頭たる者は事ふる者の如くなれ。27食事の席に著く者と事ふる者とは、何れか大なる。食事の席に著く者ならずや、されど我は汝らの中にて事ふる者のごとし。28汝らは我が嘗試のうちに絶えず我とともに居りし者なれば、29わが父の我に任じ給へるごとく、我も亦なんぢらに國を任ず。30これ汝らの我が國にて我が食卓に飲食し、かつ座位に坐してイスラエルの十二の族を審かん爲なり。31シモン、シモン、視よ、サタン汝らを麥のごとく篩はんとて請ひ得たり。32されど我なんぢの爲に、その信仰の失せぬやうに祈りたり、なんぢ立ち歸りてのち兄弟たちを堅うせよ』33シモン言ふ『主よ、我は汝とともに獄にまでも、死にまでも往かんと覺悟せり』34イエス言ひ給ふ『ペテロよ、我なんぢに告ぐ、今日なんぢ三度われを知らずと否むまでは、鷄鳴かざるべし』35かくて弟子たちに言ひ給ふ『財布・嚢・鞋をも持たせずして汝らを遣ししとき、缺けたる所ありしや』彼ら言ふ『無かりき』36イエス言ひ給ふ『されど今は財布ある者は之を取れ、嚢ある者も然すべし。また劍なき者は衣を賣りて劍を買へ。37われ汝らに告ぐ「かれは愆人と共に數へられたり」と録されたるは、我が身に成し遂げらるべし。凡そ我に係る事は成し遂げらるればなり』38弟子たち言ふ『主、見たまへ、茲に劍二振あり』イエス言ひたまふ『足れり』39遂に出でて、常のごとくオリブ山に往き給へば、弟子たちも從ふ。40其處に至りて彼らに言ひたまふ『誘惑に入らぬやうに祈れ』41かくて自らは石の投げらるる程かれらより隔り、跪づきて祈り言ひたまふ、42『父よ、御旨ならば、此の酒杯を我より取り去りたまへ、されど我が意にあらずして御意の成らんことを願ふ』43時に天より御使あらはれて、イエスに力を添ふ。44イエス悲しみ迫り、いよいよ切に祈り給へば、汗は地上に落つる血の雫の如し。45祈を了へ、起ちて弟子たちの許にきたり、その憂によりて眠れるを見て言ひたまふ、46『なんぞ眠るか、起て、誘惑に入らぬやうに祈れ』47なほ語りゐ給ふとき、視よ、群衆あらはれ、十二の一人なるユダ先だち來り、イエスに接吻せんとて近寄りたれば、48イエス言ひ給ふ『ユダ、なんぢは接吻をもて人の子を賣るか』49御側に居る者ども事の及ばんとするを見て言ふ『主よ、われら劍をもて擊つべきか』50その中の一人、大祭司の僕を擊ちて、右の耳を切り落せり。51イエス答へて言ひたまふ『之にてゆるせ』而して僕の耳に手をつけて醫し給ふ。52かくて己に向ひて來れる祭司長・宮守頭・長老らに言ひ給ふ『なんぢら強盜に向ふごとく、劍と棒とを持ちて出できたるか。53我は日々なんぢらと共に宮に居りしに、我が上に手を伸べざりき。されど今は汝らの時、また暗黑の權威なり』54遂に人々イエスを捕へて、大祭司の家に曳きゆく。ペテロ遠く離れて從ふ。55人々、中庭のうちに火を焚きて、諸共に坐したれば、ペテロもその中に坐す。56或婢女ペテロの火の光を受けて坐し居るを見、これに目を注ぎて言ふ『この人も彼と偕にゐたり』57ペテロ肯はずして言ふ『をんなよ、我は彼を知らず』58暫くして他の者ペテロを見て言ふ『なんぢも彼の黨與なり』ペテロ言ふ『人よ、然らず』59一時ばかりして又ほかの男、言張りて言ふ『まさしく此の人も彼とともに在りき、是ガリラヤ人なり』60ペテロ言ふ『人よ、我なんぢの言ふことを知ら

ず』なほ言ひ終へぬに、やがて鷄 鳴きぬ。61主、振反りてペテロに目をとめ給ふ。ここにペテロ、主の『今日にはとり鳴く前に、なんぢ三度われを否まん』と言ひ給ひし御言を憶ひいだし、62外に出でて甚く泣けり。63守る者どもイエスを嘲弄し、之を打ち、64その目を蔽ひ問ひて言ふ『預言せよ、汝を撃ちし者は誰なるか』65この他なほ多くのことを言ひて譏れり。66夜明になりて、民の長老・祭司長・學者ら相集り、イエスをその議會に曳き出して言ふ、67『なんぢ若しキリストならば、我らに言へ』イエス言ひ給ふ『われ言ふとも汝ら信ぜじ、68又われ問ふとも汝ら答へじ。69されど人の子は今よりのち神の能力の右に坐せん』70皆いふ『されば汝は神の子なるか』答へ給ふ『なんぢらの言ふごとく我はそれなり』71彼ら言ふ『何ぞなほ他に證據を求めんや。我ら自らその口より聞けり』

第二十三章

1民衆みな起ちて、イエスをピラトの前に曳きゆき、2訴へ出でて言ふ『われら此の人が、わが國の民を惑し、貢をカイザルに納むるを禁じ、かつ自ら王なるキリストと稱ふるを認めたり』3ピラト、イエスに問ひて言ふ『なんぢはユダヤ人の王なるか』答へて言ひ給ふ『なんぢの言ふが如し』4ピラト祭司長らと群衆とに言ふ『われ此の人に愆あるを見ず』5彼等ますます言ひ募り『かれはユダヤ全國に教をなして民を騒がし、ガリラヤより始めて、此處に至る』と言ふ。6ピラト之を聞き、そのガリラヤ人なるかを問ひて、7ヘロデの權下の者なるを知り、ヘロデ此の頃エルサレムに居たれば、イエスをその許に送れり。8ヘロデ、イエスを見て甚く喜ぶ。これは彼に就きて聞く所ありたれば、久しく逢はんことを欲し、何をか徴を行ふを見んと望み居たる故なり。9かくて多くの言をもて問ひたれど、イエス何をも答へ給はず。10祭司長・學者ら起ちて激甚くイエスを訴ふ。11ヘロデその兵卒と共にイエスを侮り、かつ嘲弄し、華美なる衣を著せて、ピラトに返す。12ヘロデとピラトと前には仇たりしが、此の日たがひに親しくなれり。13ピラト、祭司長らと司らと民とを呼び集めて言ふ、14『汝らこの人を民を惑す者として曳き來れり。視よ、われ汝らの前にて訊したれど、其の訴ふる所に就きて、この人に愆あるを見ず。15ヘロデも亦然り、彼を我らに返したり。視よ、彼は死に當るべき業を爲さざりき。16されば懲しめて之を赦さん』17[なし]18民衆ともに叫びて言ふ『この人を除け、我らにバラバを赦せ』19此のバラバは、都に起りし一揆と殺人との故によりて、獄に入れられたる者なり。20ピラトはイエスを赦さんと欲して、再び彼らに告げたれど、21彼ら叫びて『十字架につけよ、十字架につけよ』と言ふ。22ピラト三度まで『彼は何の惡事を爲ししか、我その死に當るべき業を見ず、故に懲しめて赦さん』と言ふ。23されど人々、大聲をあげ迫りて、十字架につけんことを求めたれば、遂にその聲勝てり。24ここにピラトその求の如くすべしと言渡し、25その求むるままに、かの一揆と殺人との故によりて獄に入れられたる者を赦し、イエスを付して彼らの心の隨ならしめたり。26人々イエスを曳きゆく時、シモンといふクレネ人の田舍より來るを執へ、十字架を負はせてイエスの後に從はしむ。27民の大なる群と、歎き悲しめる女たちの群と之に從ふ。28イエス振反りて女たちに言ひ給ふ『エルサレムの娘よ、わが爲に泣くな、ただ己がため、己が子のために泣け。29視よ「石婦、兒産まぬ腹、哺ませぬ乳は幸福なり」と言ふ日きたらん。30その時ひとびと「山に向ひて我らの上に倒れよ、岡に向ひて我らを掩へ」と言ひ出でん。31もし青樹に斯く爲さば、枯樹は如何にせられん』32また他に二人の惡人をも、死罪に行はんとてイエスと共に曳きゆく。33髑髏といふ處に到りて、イエスを十字架につけ、また惡人の一人をその右、一人をその左に十字架につく。34かくてイエス言ひたまふ『父よ、彼らを赦し給へ、その爲す所を知らざればなり』彼らイエスの衣を分ちて鬮取にせり、35民は立ちて見るたり。司たちも嘲りて言ふ『かれは他人を救へり、もし神の選び給ひしキリストならば、己をも救へかし』36兵卒どもも嘲弄しつつ、近よりて酸き葡萄酒をさし出して言ふ、37『なんぢ若しユダヤ人の王ならば、己を救へ』38又イエスの上には『これはユダヤ人の王なり』との罪標あり。39十字架に懸けられたる惡人の一人、イエスを譏りて言ふ『なんぢはキリストならずや、己と我らとを救へ』40他の者これに答へ禁めて言ふ『なんぢ同じく罪に定められながら、神を畏れぬか。41我らは爲ししことの報を受くるなれば當然なり。されど此の人は何の不善をも爲さざりき』42また言ふ『イエスよ、御國に入りたまふとき、我を憶えたまえ』43イエス言ひ給ふ『われ誠

に汝に告ぐ、今日なんぢは我と偕にパラダイスに在るべし』 44晝の十二 時ごろ、日、光をうしなひ、地のうへ徧く暗くなりて、三時に及び、 45聖所の幕、眞中より裂けたり。 46イエス大聲に呼はりて言ひたまふ『父よ、わが靈を御手にゆだぬ』斯く言ひて息 絶えたまふ。 47百 卒 長この有りし事を見て、神を崇めて言ふ『實にこの人は義人なりき』 48これを見んとて集りたる群 衆も、ありし事どもを見て、みな胸を打ちつつ歸れり。 49凡てイエスの相識の者およびガリラヤより從ひ來れる女たちも、遙に立ちて此 等のことを見たり。 50議員にして善かつ義なるヨセフといふ人あり。 51――この人はかの評議と仕業とに與せざりき――ユダヤの町なるアリマタヤの者にて、神の國を待ちのぞめり。 52此の人ピラトの許にゆき、イエスの屍體を乞ひ、 53これを取りおろし、亞麻布にて包み、巖に鑿りたる未だ人を葬りし事なき墓に納めたり。 54この日は準備 日なり、かつ安息 日 近づきぬ。 55ガリラヤよりイエスと共に來りし女たち後に 從ひ、その墓と屍體の納められたる樣とを見、 56歸りて香料と香 油とを備ふ。かくて誡命に遵ひて、安息 日を休みたり。

第二十四章

1一 週の初の日、朝まだき、女たち備へたる香料を携へて墓にゆく。 2然るに石の既に墓より轉し除けあるを見、 3内に入りたるに、主イエスの屍體を見ず、 4これが爲に狼狽へをりしに、視よ、輝ける衣を著たる二人の人その傍らに立てり。 5女たち懼れて面を地に伏せたれば、その二人の者いふ『なんぞ死にし者どもの中に生ける者を尋ぬるか。 6彼は此處に在さず、甦へり給へり。尚ガリラヤに居給へるとき、如何に語り給ひしかを憶ひ出でよ。 7即ち「人の子は必ず罪ある人の手に付され、十字架につけられ、かつ三日めに甦へるべし」と言ひ給へり』 8ここに彼らその御言を憶ひ出で、 9墓より歸りて、凡て此 等のことを十 一 弟子および凡て他の弟子たちに告ぐ。 10この女たちはマグダラのマリヤ、ヨハンナ及びヤコブの母マリヤなり、而して彼らと共に在りし他の女たちも、之を使徒たちに告げたり。 11使徒たちは其の言を妄語と思ひて信ぜず。 12［ペテロは起ちて墓に走りゆき、屈みて布のみあるを見、ありし事を怪しみつつ歸れり］ 13視よ、この日 二人の弟子、エルサレムより三里ばかり隔りたるエマオといふ村に往きつつ、 14凡て有りし事どもを互に語りあふ。 15語りかつ論じあふ程に、イエス自ら近づきて共に往き給ふ。 16されど彼らの目 遮へられて、イエスたるを認むること能はず。 17イエス彼らに言ひ給ふ『なんぢら歩みつつ互に語りあふ言は何ぞや』かれら悲しげなる狀にて立ち止り、 18その一人なるクレオパと名づくるもの答へて言ふ『なんぢエルサレムに寓り居て、獨り此の頃かしこに起りし事どもを知らぬか』 19イエス言ひ給ふ『如何なる事ぞ』答へて言ふ『ナザレのイエスの事なり、彼は神と凡ての民との前にて、業にも言にも能力ある預言者なりしに、 20祭司長ら及び我が司らは、死罪に定めんとて之を付し遂に十字架につけたり。 21我らはイスラエルを贖ふべき者は、この人なりと望みゐたり、然のみならず、此の事の有りしより今日ははや三日めなるが、 22なほ我等のうちの或 女たち、我らを驚かせり、即ち彼ら朝 夙く墓に往きたるに、 23屍體を見ずして歸り、かつ御使たち現れて、イエスは活き給ふと告げたりと言ふ。 24我らの朋輩の數人もまた墓に往きて見れば、正しく女たちの言ひし如くにしてイエスを見ざりき』 25イエス言ひ給ふ『ああ愚にして預言者たちの語りたる凡てのことを信ずるに心 鈍き者よ。 26キリストは必ず此らの苦難を受けて、其の榮光に入るべきならずや』 27かくてモーセ及び凡ての預言者をはじめ、己に就きて凡ての聖書に録したる所を説き示したまふ。 28遂に往く所の村に近づきしに、イエスなほ進みゆく樣なれば、 29強ひて止めて言ふ『我らと共に留れ、時 夕に及びて、日も早や暮れんとす』乃ち留らんとて入りたまふ。 30共に食事の席に著きたまふ時、パンを取りて祝し、擘きて與へ給へば、 31彼らの目 開けてイエスなるを認む、而してイエス見えずなり給ふ。 32かれら互に言ふ『途にて我らと語り、我らに聖書を説明し給へるとき、我らの心、内に燃えしならずや』 33かくて直ちに立ちエルサレムに歸りて見れば、十 一 弟子および之と偕なる者あつまり居て言ふ、 34『主は實に甦へりて、シモンに現れ給へり』 35二人の者もまた途にて有りし事と、パンを擘き給ふによりてイエスを認めし事とを述ぶ。 36此 等のことを語る程に、イエスその中に立ち［『平安なんぢらに在れ』と言ひ］給ふ。 37かれら怖ぢ懼れて、見る所のものを靈ならんと思ひしに、 38イエス言ひ給ふ『なんぢら何ぞ心 騷ぐか、何ゆゑ心に疑惑お

こるか、 39我が手わが足を見よ、これ我なり。我を撫でて見よ、靈には肉と骨となし、我にはあり、汝らの見るごとし』 40［斯く言ひて手と足とを示し給ふ］ 41かれら歡喜の餘に信ぜずして怪しめる時、イエス言ひたまふ『此處に何か食物あるか』 42かれら炙りたる魚一片を捧げたれば、 43之を取り、その前にて食し給へり。 44また言ひ給ふ『これらの事は、我がなほ汝らと偕に在りし時に語りて、我に就きモーセの律法・預言者および詩篇に録されたる凡ての事は、必ず遂げらるべしと言ひし所なり』 45ここに聖書を悟らしめんとて、彼らの心を開きて言ひ給ふ、 46『かく録されたり、キリストは苦難を受けて、三日めに死人の中より甦へり、 47且その名によりて罪の赦を得さする悔改は、エルサレムより始りて、もろもろの國人に宣傳へらるべしと。 48汝らは此等のことの證人なり。 49視よ、我は父の約し給へるものを汝らに贈る。汝ら上より能力を著せらるるまでは都に留れ』 50遂にイエス彼らをベタニヤに連れゆき、手を擧げて之を祝したまふ。 51祝する間に、彼らを離れ［天に擧げられ］給ふ。 52彼ら［之を拜し］大なる歡喜をもてエルサレムに歸り、 53常に宮に在りて、神を讃めゐたり。

ヨハネ傳福音書

第一章

1太初に言あり、言は神と偕にあり、言は神なりき。 2この言は太初に神とともに在り、 3萬の物これに由りて成り、成りたる物に一つとして之によらで成りたるはなし。 4之に生命あり、この生命は人の光なりき。 5光は暗黒に照る、而して暗黒は之を悟らざりき。 6神より遣されたる人いでたり、その名をヨハネといふ。 7この人は證のために來れり、光に就きて證をなし、また凡ての人の彼によりて信ぜん爲なり。 8彼は光にあらず、光に就きて證せん爲に來れるなり。 9もろもろの人をてらす眞の光ありて、世にきたれり。 10彼は世にあり、世は彼に由りて成りたるに、世は彼を知らざりき。 11かれは己の國にきたりしに、己の民は之を受けざりき。 12されど之を受けし者、即ちその名を信ぜし者には、神の子となる權をあたへ給へり。 13かかる人は血脈によらず、肉の欲によらず、人の欲によらず、ただ、神によりて生れしなり。 14言は肉體となりて我らの中に宿りたまへり、我らその榮光を見たり、實に父の獨子の榮光にして、恩惠と眞理とにて滿てり。 15ヨハネ彼につきて證をなし、呼はりて言ふ『「わが後にきたる者は我に勝れり、我より前にありし故なり」と、我が曾ていへるは此の人なり』 16我らは皆その充ち滿ちたる中より受けて、恩惠に恩惠を加へらる。 17律法はモーセによりて與へられ、恩惠と眞理とはイエス・キリストによりて來れるなり。 18未だ神を見し者なし、ただ父の懐裡にいます獨子の神のみ之を顯し給へり。 19さてユダヤ人、エルサレムより祭司とレビ人とをヨハネの許に遣して『なんぢは誰なるか』と問はせし時、ヨハネの證はかくのごとし。 20乃ち言ひあらはして諱まず『我はキリストにあらず』と言ひあらはせり。 21また問ふ『さらば何、エリヤなるか』答ふ『然らず』問ふ『かの預言者なるか』答ふ『いな』 22ここに彼ら言ふ『なんぢは誰なるか、我らを遣しし人々に答へ得るやうにせよ、なんぢ己につきて何と言ふか』 23答へて言ふ『我は預言者イザヤの云へるが如く「主の道を直くせよと、荒野に呼はる者の聲」なり』 24かの遣されたる者はパリサイ人なりき。 25また問ひて言ふ『なんぢ若しキリストに非ず、またエリヤにも、かの預言者にも非ずば、何故バプテスマを施すか』 26ヨハネ答へて言ふ『我は水にてバプテスマを施す。なんじらの中に汝らの知らぬもの一人たてり。 27即ち我が後にきたる者なり、我はその鞋の紐を解くにも足らず』 28これらの事は、ヨハネのバプテスマを施しゐたりしヨルダンの向なるベタニヤにてありしなり。 29明くる日ヨハネ、イエスの己が許にきたり給ふを見ていふ『視よ、これぞ世の罪を除く神の羔羊。 30われ曾て「わが後に來る人あり、我にまされり、我より前にありし故なり」と云ひしは此の人なり。 31我もと彼を知らざりき。然れど彼のイスラエルに顯れんために、我きたりて水にてバプテスマを施すなり』 32ヨハネまた證をなして言ふ『われ見しに、御靈鴿のごとく天より降りて、その上に止れり。 33我もと彼を知らざりき。されど我を遣し水にてバプテスマを施させ給ふもの、我に告げて「なんぢ御靈くだりて或人の上に止るを見ん、これぞ聖靈にてバプテスマを施す者なる」といひ給へり。 34われ之を見て、その神の子たるを證せしなり』 35明くる日ヨハネまた二人の弟子とともに立ちて、 36イエスの歩み給ふを見ていふ『視よ、これぞ神の羔羊』 37かく語るをききて、二人の弟子イエスに從ひゆきたれば、 38イエス振反りて、その從ひきたるを見て言ひたまふ『何を求むるか』彼等いふ『ラビ（釋きていへば師）いづこに留り給ふか』 39イエス言ひ給ふ『きたれ、さらば見ん』彼ら往きてその留りたまふ所を見、この日ともに留れり、時は第十時ごろなりき。 40ヨハネより聞きてイエスに從ひし二人のうち一人は、シモン・ペテロの兄弟アンデレなり。 41この人まづ其の兄弟シモンに遇ひ『われらメシヤ（釋けばキリスト）に遇へり』と言ひて、 42彼をイエスの許に連れきたれり。イエス之に目を注めて言ひ給ふ『なんぢはヨハネの子シモンなり、汝ケパ（釋けばペテロ）と稱へらるべし』 43明くる日イエス、ガリラヤに往かんとし、ピリポにあひて言ひ給ふ『われに從へ』 44ピリポはアンデレとペテロとの町なるベツサイダの人なり。 45ピリポ、ナタナエルに遇ひて言ふ『我らはモーセが律法に録ししところ、預言者た

ちが録しし所の者に遇へり、ヨセフの子ナザレのイエスなり』 46ナタナエル言ふ『ナザレより何の善き者か出づべき』ピリポいふ『來りて見よ』 47イエス、ナタナエルの己が許にきたるを見、これを指して言ひたまふ『視よ、これ眞にイスラエル人なり、その衷に虚僞なし』 48ナタナエル言ふ『如何にして我を知り給ふか』イエス答えて言ひたまふ『ピリポの汝を呼ぶまへに、我なんぢが無花果の樹の下に居るを見たり』 49ナタナエル答ふ『ラビ、なんぢは神の子なり、汝はイスラエルの王なり』 50イエス答へて言ひ給ふ『われ汝が無花果の樹の下にをるを見たりと言ひしに因りて信ずるか、汝これよりも更に大なる事を見ん』 51また言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、天ひらけて、人の子のうへに神の使たちの昇り降りするを汝ら見るべし』

第二章

1三日めにガリラヤのカナに婚禮ありて、イエスの母そこに居り、 2イエスも弟子たちと共に婚禮に招かれ給ふ。 3葡萄酒つきたれば、母イエスに言ふ『かれらに葡萄酒なし』 4イエス言ひ給ふ『をんなよ、我と汝となにの關係あらんや、我が時は未だ來らず』 5母 僕どもに『何にても其の命ずる如くせよ』と言ひおく。 6彼處にユダヤ人の潔の例にしたがひて、四 五 斗 入りの石甕 六個ならべあり。 7イエス僕に『水を甕に滿せ』といひ給へば、口まで滿す。 8また言ひ給ふ『いま汲み取りて饗宴長に持ちゆけ』乃ち持ちゆけり。 9饗宴 長、葡萄酒になりたる水を嘗めて、その何處より來りしかを知らざれば（水を汲みし僕どもは知れり）新郎を呼びて言ふ、 10『おほよそ人は先よき葡萄酒を出し、醉のまはる頃ほひ劣れるものを出すに、汝はよき葡萄酒を今まで留め置きたり』 11イエス此の第一の徴をガリラヤのカナにて行ひ、その榮光を顯し給ひたれば、弟子たち彼を信じたり。 12この後イエス及びその母・兄弟・弟子たちカペナウムに下りて、そこに數日 留りたり。 13かくてユダヤ人の過越の祭ちかづきたれば、イエス、エルサレムに上り給ふ。 14宮の内に牛・羊・鴿を賣るもの、兩替する者の坐するを見て、 15繩を鞭につくり、羊をも牛をもみな宮より逐ひ出し、兩替する者の金を散し、その臺を倒し、 16鴿をうる者に言ひ給ふ『これらの物を此處より取り去れ、わが父の家を商賣の家とすな』 17弟子たち『なんじの家をおもふ熱心われを食はん』と録されたるを憶ひ出せり。 18ここにユダヤ人こたへてイエスに言ふ『なんぢ此 等の事をなすからには、我らに何の徴を示すか』 19答へて言ひ給ふ『なんぢら此の宮をこぼて、われ三日の間に之を起さん』 20ユダヤ人いふ『この宮を建つるには四十 六 年を經たり、なんぢは三日のうちに之を起すか』 21これはイエス己が體の宮をさして言ひ給へるなり。 22然れば死人の中より甦へり給ひしのち、弟子たち斯く言ひ給ひしことを憶ひ出して、聖書とイエスの言ひ給ひし言とを信じたり。 23過越のまつりの間、イエス、エルサレムに在すほどに、多くの人々その爲し給へる徴を見て御名を信じたり。 24されどイエス己を彼らに任せ給はざりき。それは凡ての人を知り、 25また人の衷にある事を知りたまへば、人に就きて證する者を要せざる故なり。

第三章

1ここにパリサイ人にて名をニコデモといふ人あり、ユダヤ人の宰なり。 2夜イエスの許に來りて言ふ『ラビ、我らは汝の神より來る師なるを知る。神もし偕に在さずば、汝が行ふこれらの徴は誰もなし能はぬなり』 3イエス答へて言ひ給ふ『まことに誠に汝に告ぐ、人あらたに生れずば、神の國を見ること能はず』 4ニコデモ言ふ『人はや老いぬれば、爭で生るる事を得んや、再び母の胎に入りて生るることを得んや』 5イエス答へ給ふ『まことに誠に汝に告ぐ、人は水と靈とによりて生れずば、神の國に入ること能はず、 6肉によりて生るる者は肉なり、靈によりて生るる者は靈なり。 7なんぢら新に生るべしと我が汝に言ひしを怪しむな。 8風は己が好むところに吹く、汝その聲を聞けども、何處より來り何處へ往くを知らず。すべて靈によりて生るる者も斯くのごとし』 9ニコデモ答へて言ふ『いかで斯かる事どものあり得べき』 10イエス答へて言ひ給ふ『なんぢはイスラエルの師にして、猶かかる事どもを知らぬか。 11誠にまことに汝に告ぐ、我ら知ることを語り、また見しことを證す、然るに汝らその證を受けず。 12われ地のことを言ふに汝ら信ぜずば、天のことを言はんには爭で信ぜんや。 13天より降りし者、即ち人の子の他には、天に昇りしものなし。 14モーセ荒野にて蛇を擧げしごとく、人の子もまた必ず擧げらるべし。 15すべて信ずる者の彼によりて

永遠の生命を得ん爲なり』16それ神はその獨子を賜ふほどに世を愛し給へり、すべて彼を信ずる者の亡びずして、永遠の生命を得んためなり。17神その子を世に遣したまへるは、世を審かん爲にあらず、彼によりて世の救はれん爲なり。18彼を信ずる者は審かれず、信ぜぬ者は既に審かれたり。神の獨子の名を信ぜざりしが故なり。19その審判は是なり。光、世にきたりしに、人その行爲の惡しきによりて、光よりも暗黒を愛したり。20すべて惡を行ふ者は光をにくみて光に來らず、その行爲の責められざらん爲なり。21眞をおこなふ者は光にきたる、その行爲の神によりて行ひたることの顯れん爲なり。22この後イエス、弟子たちとユダヤの地にゆき、其處にともに留りてバプテスマを施し給ふ。23ヨハネもサリムに近きアイノンにてバプテスマを施しゐたり、其處に水おほくある故なり。人々つどひ來りてバプテスマを受く。24ヨハネは未だ獄に入れられざりしなり。25ここにヨハネの弟子たちと一人のユダヤ人との間に、潔につきて論起りたれば、26彼らヨハネの許に來りて言ふ『ラビ、視よ、汝とともにヨルダンの彼方にありし者、なんぢが證せし者、バプテスマを施し、人みなその許に往くなり』27ヨハネ答へて言ふ『人は天より與へられずば、何をも受くること能はず。28「我はキリストにあらず」唯「その前に遣されたる者なり」と我が言ひしことに就きて證する者は汝らなり。29新婦をもつ者は新郎なり、新郎の友は、立ちて新郎の聲をきくとき大に喜ぶ、この我が勸喜いま滿ちたり。30彼は必ず盛になり、我は衰ふべし』31上より來るものは凡ての物の上にあり、地より出づるものは地の者にして、その語ることも地の事なり。天より來るものは凡ての物の上にあり。32彼その見しところ聞きしところを證したまふに、誰もその證を受けず。33その證を受くる者は、印して神を眞なりとす。34神の遣し給ひし者は神の言をかたる、神、御靈を賜ひて量りなければなり。35父は御子を愛し、萬物をその手に委ね給へり。36御子を信ずる者は永遠の生命をもち、御子に從はぬ者は生命を見ず、反つて神の怒その上に止るなり。

第四章

1主、おのれの弟子を造り、之にバプテスマを施すこと、ヨハネよりも多しと、パリサイ人に聞えたるを知り給ひし時、2（その實イエス自らバプテスマを施したまふにあらず、その弟子たちなり）3ユダヤを去りて復ガリラヤに往き給ふ。4サマリヤを經ざるを得ず。5サマリヤのスカルといふ町にいたり給へるが、この町はヤコブその子ヨセフに與へし土地に近くして、6此處にヤコブの泉あり。イエス旅路に疲れて泉の傍らに坐し給ふ、時は第六時頃なりき。7サマリヤの或女、水を汲まんとて來りたれば、イエス之に『われに飲ませよ』と言ひたまふ。8弟子たちは食物を買はんとて町にゆきしなり。9サマリヤの女いふ『なんぢはユダヤ人なるに、如何なればサマリヤの女なる我に、飲むことを求むるか』これはユダヤ人とサマリヤ人とは交りせぬ故なり。10イエス答へて言ひ給ふ『なんぢ若し神の賜物を知り、また「我に飲ませよ」といふ者の誰なるを知りたらんには、之に求めしならん、さらば汝に活ける水を與へしものを』11女いふ『主よ、なんぢは汲む物を持たず、井は深し、その活ける水は何處より得しぞ。12汝はこの井を我らに與へし我らの父ヤコブよりも大なるか、彼も、その子らも、その家畜も、これより飲みたり』13イエス答へて言ひ給ふ『すべて此の水をのむ者は、また渇かん。14されど我があたふる水を飲む者は、永遠に渇くことなし。わが與ふる水は彼の中にて泉となり、永遠の生命の水湧きいづべし』15女いふ『主よ、わが渇くことなく、又ここに汲みに來ぬために、その水を我にあたへよ』16イエス言ひ給ふ『ゆきて夫をここに呼びきたれ』17女こたへて言ふ『われに夫なし』イエス言ひ給ふ『夫なしといふは宜なり。18夫は五人までありしが、今ある者はなんぢの夫にあらず。無しと云へるは眞なり』19女いふ『主よ、我なんぢを預言者とみとむ。20我らの先祖たちは此の山にて拜したるに、汝らは拜すべき處をエルサレムなりと言ふ』21イエス言ひ給ふ『をんなよ、我が言ふことを信ぜよ、此の山にもエルサレムにもあらで、汝ら父を拜する時きたるなり。22汝らは知らぬ者を拜し、我らは知る者を拜す、救はユダヤ人より出づればなり。23されど眞の禮拜者の、靈と眞とをもて父を拜する時きたらん、今すでに來れり。父はかくのごとく拜する者を求めたまふ。24神は靈なれば、拜する者も靈と眞とをもて拜すべきなり』25女いふ『我はキリストと稱ふるメシヤの來ることを知る、彼きたらば諸般のことを我らに告げん』26イエス言ひ給ふ『なんぢと語る我はそれなり』27時に弟子た

ち歸りきたりて、女と語り給ふを怪しみたれど、何を求め給ふか、何故かれと語り給ふかと問ふもの誰もなし。
28 ここに女その水瓶を遺しおき、町にゆきて人々にいふ、29『來りて見よ、わが爲しし事をことごとく我に告げし人を。この人あるいはキリストならんか』30人々町を出でてイエスの許にゆく。31この間に弟子たち請ひて言ふ『ラビ、食し給へ』32イエス言ひたまふ『我には汝らの知らぬ我が食する食物あり』33弟子たち互にいふ『たれか食する物を持ち來りしか』34イエス言ひ給ふ『われを遣し給へる物の御意を行ひ、その御業をなし遂ぐるは、是わが食物なり。35なんぢら收穫時の來るには、なほ四月ありと言はずや。我なんぢらに告ぐ、目をあげて畑を見よ、はや黄ばみて收穫時になれり。36刈る者は價を受けて永遠の生命の實を集む。播く者と刈る者とともに喜ばん爲なり。37俚諺に、彼は播き此は刈るといへるは、斯において眞なり。38我なんぢらを遣して、勞せざりしものを刈らしむ。他の人々さきに勞し、汝らはその勞を收むるなり』39此の町の多くのサマリヤ人、女の『わが爲しし事をことごとく告げし』と證したる言によりてイエスを信じたり。40かくてサマリヤ人御許にきたりて、此の町に留らんことを請ひたれば、此處に二日とどまり給ふ。41御言によりて猶もおほくの人信じたり。42かくて女に言ふ『今われらの信ずるは、汝のかたる言によるにあらず、親しく聽きて、これは眞に世の救主なりと知りたる故なり』43二日の後、イエスここを去りてガリラヤに往き給ふ。44イエス自ら證して、預言者は己が鄉にて尊ばるる事なしと言ひ給へり。45かくてガリラヤに往き給へば、ガリラヤ人これを迎へたり。前に彼らも祭に上り、その祭の時にエルサレムにて行ひ給ひし事を見たる故なり。46イエス復ガリラヤのカナに往き給ふ、ここは前に水を葡萄酒になし給ひし處なり。時に王の近臣あり、その子カペナウムにて病みゐたれば、47イエスのユダヤよりガリラヤに來り給へるを聞き、御許にゆきて、カペナウムに下りその子を醫し給はんことを請ふ、子は死ぬばかりなりしなり。48ここにイエス言ひ給ふ『なんぢら徵と不思議とを見ずば、信ぜじ』49近臣いふ『主よ、わが子の死なぬ間に下り給へ』50イエス言ひ給ふ『かへれ、汝の子は生くるなり』彼はイエスの言ひ給ひしことを信じて歸りしが、51下る途中、僕ども往き遇ひて、その子の生きたることを告ぐ。52その癒えはじめし時を問ひしに『昨日の第七時に熱去れり』といふ。53父その時の、イエスが『なんぢの子は生くるなり』と言ひ給ひし時と同じきを知り、而して己も家の者もみな信じたり。54是はイエス、ユダヤよりガリラヤに往きて爲し給へる第二の徵なり。

第五章

1この後ユダヤ人の祭ありて、イエス、エルサレムに上り給ふ。2エルサレムにある羊門のほとりに、ヘブル語にてベテスダといふ池あり、之にそひて五つの廊あり。3その内に病める者、盲人、跛者、痩せ衰へたる者ども夥多しく臥しゐたり。（水の動くを待てるなり。4それは御使のをりをり降りて水を動かすことあれば、その動きたるのち最先に池にいる者は、如何なる病にても癒ゆる故なり）5爰に三十八年病になやむ人ありしが、6イエスその臥し居るを見、かつその病の久しきを知り、之に『なんぢ癒えんことを願ふか』と言ひ給へば、7病める者こたふ『主よ、水の動くとき、我を池に入るる者なし、我が往くほどに、他の人さきだち下るなり』8イエス言ひ給ふ『起きよ、床を取りあげて歩め』9この人たちまちに癒え、床を取りあげて歩めり。その日は安息日に當りたれば、10ユダヤ人醫されたる人にいふ『安息日なり、床を取りあぐるは宜しからず』11答ふ『われを醫ししその人「床を取りあげて歩め」と云へり』12かれら問ふ『「取りあげて歩め」と言ひし人は誰なるか』13されど醫されし者は、その誰なるを知らざりき、そこに群衆ゐたればイエス退き給ひしに因る。14この後イエス宮にて彼に遇ひて言ひたまふ『視よ、なんぢ癒えたり。再び罪を犯すな、恐らくは更に大なる惡しきこと汝に起らん』15この人ゆきてユダヤ人に、おのれを醫したる者のイエスなるを告ぐ。16ここにユダヤ人、かかる事を安息日になすとて、イエスを責めたれば、17イエス答へ給ふ『わが父は今にいたるまで働き給ふ、我もまた働くなり』18此に由りてユダヤ人いよいよイエスを殺さんと思ふ。それは安息日を破るのみならず、神を我が父といひて、己を神と等しき者になし給ひし故なり。19イエス答へて言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、子は父のなし給ふことを見て行ふほかは、自ら何事をも爲し得ず、父のなし給ふことは子もまた同じく爲すなり。20父は子を愛して、その爲す所をことごとく子に示したまふ。ま

た更に大なる業を示し給はん、汝 等をして怪しましめん爲なり。21父の死にし者を起して活し給ふごとく、子もまた己が欲する者を活すなり。22父は誰をも審き給はず、審判をさへみな子に委ね給へり。23これ凡ての人の父を敬ふごとくに子を敬はん爲なり。子を敬はぬ者は、之を遣し給ひし父をも敬はぬなり。24誠にまことに汝らに告ぐ、わが言をききて我を遣し給ひし者を信ずる人は、永遠の生命をもち、かつ審判に至らず、死より生命に移れるなり。25誠にまことに汝らに告ぐ、死にし人、神の子の聲をきく時きたらん、今すでに來れり、而して聞く人は活くべし。26これ父みづから生命を有ち給ふごとく、子にも自ら生命を有つことを得させ、27また人の子たるに因りて、審判する權を與へ給ひしなり。28汝ら之を怪しむな、墓にある者みな神の子の聲をききて出づる時きたらん。29善をなしし者は生命に甦へり、惡を行ひし者は審判に甦へるべし。30我みづから何事もなし能はず、ただ聞くままに審くなり。わが審判は正し、それは我が意を求めずして、我を遣し給ひし者の御意を求むるに因る。31我もし己につきて證せば、我が證は眞ならず。32我につきて證する者は他にあり、その我につきて證する證の眞なるを我は知る。33なんぢら前に人をヨハネに遣ししに、彼は眞につきて證せり。34我は人よりの證を受くる事をせねど、唯なんぢらの救はれん爲に之を言ふ。35かれは燃えて輝く燈火なりしが、汝 等その光にありて暫時よろこぶ事をせり。36されど我にはヨハネの證よりも大なる證あり。父の我にあたへて成し遂げしめ給ふわざ、即ち我がおこなふ業は、我につきて父の我を遣し給ひたるを證し、37また我をおくり給ひし父も、我につきて證し給へり。汝らは未だその御聲を聞きし事なく、その御形を見し事なし。38その御言は汝らの衷にとどまらず、その遣し給ひし者を信ぜぬに因りて知らるるなり。39汝らは聖書に永遠の生命ありと思ひて之を査ぶ、されどこの聖書は我につきて證するものなり。40然るに汝ら生命を得んために我に來るを欲せず。41我は人よりの譽をうくる事をせず、42ただ汝らの衷に神を愛する事なきを知る。43我はわが父の名によりて來りしに、汝 等われを受けず、もし他の人おのれの名によりて來らば之を受けん。44互に譽をうけて、唯一の神よりの 譽を求めぬ汝らは、爭で信ずることを得んや。45われ父に汝 らを訴へんとすと思ふな、訴ふるもの一人あり、汝らが頼とするモーセなり。46若しモーセを信ぜしならば、我を信ぜしならん、彼は我につきて録したればなり。47されど彼の書を信ぜずば、爭で我が言を信ぜんや』

第六章

1この後イエス、ガリラヤの海、即ちテベリヤの海の彼方にゆき給へば、2大なる群衆これに從ふ、これは病みたる者に行ひたまへる徴を見し故なり。3イエス山に登りて、弟子たちと共にそこに坐し給ふ。4時はユダヤ人の祭なる過越に近し。5イエス眼をあげて大なる群衆のきたるを見て、ピリポに言ひ給ふ『われら何處よりパンを買ひて、此の人々に食はすべきか』6かく言ひ給ふはピリポを試むるためにて、自ら爲さんとする事を知り給ふなり。7ピリポ答へて言ふ『二 百デナリのパンありとも、人々すこしづつ受くるになほ足らじ』8弟子の一人にてシモン・ペテロの兄弟なるアンデレ言ふ9『ここに一人の童子あり、大麥のパン五つと小き肴 二つとをもてり、されど此の多くの人には何にかならん』10イエス言ひたまふ『人々を坐せしめよ』その處に多くの草ありて人々 坐せしが、その數おほよそ五 千 人なりき。11ここにイエス、パンを取りて謝し、坐したる人々に分ちあたへ、また肴をも然なして、その欲するほど與へ給ふ。12人々の飽きたるのち弟子たちに言ひたまふ『廢るもののなきように擧きたる餘をあつめよ』13乃ち集めたるに、五つの大麥のパンの擧きたるを食ひしものの餘、十二の筐に滿ちたり。14人々その爲し給ひし徴を見ていふ『實にこれは世に來るべき預言者なり』15イエス彼らが來りて己をとらへ、王となさんとするを知り、復ひとりにて山に遁れたまふ。16夕になりて弟子たち海にくだり、17船にのり海を渡りて、カペナウムに往かんとす。既に暗くなりたるに、イエス未だ來りたまはず。18大風ふきて海ややに荒出づ。19かくて四 五 十 丁こぎ出でしに、イエスの海の上をあゆみ、船に近づき給ふを見て懼れたれば、20イエス言ひたまふ『我なり、懼るな』21乃ちイエスを船に歓び迎へしに、船は直ちに往かんとする地に著けり。22明くる日、海のかなたに立てる群衆は、一艘のほかに船なく、又イエスは弟子たちと共に乗りたまはず、弟子たちのみ出でゆきしを見たり。23（時にテベリヤより數艘の船、主の謝して人々にパンを食はせ給ひし處の近くに來る）24ここに群衆はイエスも居給は

ず、弟子たちも居らぬを見て、その船に乗り、イエスを尋ねてカペナウムに往けり。25遂に海の彼方にてイエスに遇ひて言ふ『ラビ、何時ここに來り給ひしか』26イエス答へて言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、汝らが我を尋ぬるは、徴を見し故ならで、パンを食ひて飽きたる故なり。27朽ちる糧のためならで、永遠の生命にまで至る糧のために働け。これは人の子の汝らに與へんとするものなり、父なる神は印して彼を證し給ひたるに因る』28ここに彼ら言ふ『われら神の業を行はんには何をなすべきか』29イエス答へて言ひたまふ『神の業はその遣し給へる者を信ずる是なり』30彼ら言ふ『さらば我らが見て汝を信ぜしために、何の徴をなすか、何を行ふか。31我らの先祖は荒野にてマナを食へり、録して「天よりパンを彼らに與へて食はしめたり」と云へるが如し』32イエス言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、モーセは天よりのパンを汝らに與へしにあらず、されど我が父は天よりの眞のパンを與へたまふ。33神のパンは天より降りて生命を世に與ふるものなり』34彼等いふ『主よ、そのパンを常に與へよ』35イエス言ひ給ふ『われは生命のパンなり、我にきたる者は飢ゑず、我を信ずる者はいつまでも渇くことなからん。36されど汝らは我を見てなほ信ぜず、我さきに之を告げたり。37父の我に賜ふものは皆われに來らん、我にきたる者は我これを退けず。38夫わが天より降りしは、我が意をなさん爲にあらず、我を遣し給ひし者の御意をなさん爲なり。39我を遣し給ひし者の御意は、すべて我に賜ひし者を、我その一つをも失はずして、終の日に甦へらする是なり。40わが父の御意は、すべて子を見て信ずる者の永遠の生命を得る是なり。われ終の日にこれを甦へらすべし』41ここにユダヤ人ら、イエスの『われは天より降りしパンなり』と言ひ給ひしにより、42呟きて言ふ『これはヨセフの子イエスならずや、我等はその父母を知る、何ぞ今「われは天より降れり」と言ふか』43イエス答へて言ひ給ふ『なんぢら呟き合ふな、44我を遣しし父ひき給はずば、誰も我に來ること能はず、我これを終の日に甦へらすべし。45預言者たちの書に「彼らみな神に教へられん」と録されたり。すべて父より聽きて學びし者は我にきたる。46これは父を見し者ありとにあらず、ただ神よりの者のみ父を見たり。47まことに誠になんぢらに告ぐ、信ずる者は永遠の生命をもつ。48我は生命のパンなり。49汝らの先祖は、荒野にてマナを食ひしが死にたり。50天より降るパンは、食ふ者をして死ぬる事なからしむるなり。51我は天より降りし活けるパンなり、人このパンを食はば永遠に活くべし。我が與ふるパンは我が肉なり、世の生命のために之を與へん』52ここにユダヤ人たがひに爭ひて言ふ『この人はいかで己が肉を我らに與へて食はしむることを得ん』53イエス言ひ給ふ『まことに誠になんぢらに告ぐ、人の子の肉を食はず、その血を飲まずば、汝らに生命なし。54わが肉をくらひ、我が血をのむ者は、永遠の生命をもつ、われ終の日にこれを甦へらすべし。55夫わが肉は眞の食物、わが血は眞の飲物なり。56わが肉をくらひ我が血をのむ者は、我に居り、我もまた彼に居る。57活ける父の我をつかはし、我の父によりて活くるごとく、我をくらふ者も我によりて活くべし。58天より降りしパンは、先祖たちが食ひてなほ死にし如きものにあらず、此のパンを食ふものは永遠に活きん』59此等のことはイエス、カペナウムにて教ふるとき、會堂にて言ひ給ひしなり。60弟子たちの中おほくの者これを聞きて言ふ『こは甚だしき言なるかな、誰か能く聽き得べき』61イエス弟子たちの之に就きて呟くを自ら知りて言ひ給ふ『このことは汝らを躓かするか。62さらば人の子のもと居りし處に昇るを見ば如何に。63活すものは靈なり、肉は益する所なし、わが汝らに語りし言は、靈なり、生命なり。64されど汝らの中に信ぜぬ者どもあり』イエス初より、信ぜぬ者どもは誰、おのれを賣る者は誰なるかを知り給へるなり。65かくて言ひたまふ『この故に我さきに汝らに告げて、父より賜はりたる者ならずば我に來るを得ずと言ひしなり』66ここにおいて、弟子たちのうち多くの者かへり去りて、復イエスと共に歩まざりき。67イエス十二弟子に言ひ給ふ『なんじらも去らんとするか』68シモン・ペテロ答ふ『主よ、われら誰にゆかん、永遠の生命の言は汝にあり。69又われらは信じかつ知る、なんぢは神の聖者なり』70イエス答へ給ふ『われ汝ら十二人を選びしにあらずや、然るに汝らの中の一人は惡魔なり』71イスカリオテのシモンの子ユダを指して言ひ給へるなり、彼は十二弟子の一人なれど、イエスを賣らんとする者なり。

第七章

1この後イエス、ガリラヤのうちを巡りる給ふ、ユダヤ人の殺さんとするに因りて、ユダヤのうちを巡ることを欲し給はぬなり。 2ユダヤ人の假廬の祭ちかづきたれば、 3兄弟たちイエスに言ふ『なんぢの行ふ業を弟子たちにも見せんために、此處を去りてユダヤに往け。 4誰にても自ら顯れんことを求めて、隱に業をなす者なし。汝これらの事を爲すからには、己を世にあらはせ』 5是その兄弟たちもイエスを信ぜぬ故なり。 6ここにイエス言ひ給ふ『わが時はいまだ到らず、汝らの時は常に備れり。 7世は汝らを憎むこと能はねど我を憎む、我は世の所作の惡しきを證すればなり。 8なんぢら祭に上れ、わが時いまだ滿たねば、我は今この祭にのぼらず』 9かく言ひて尚ガリラヤに留り給ふ。 10而して兄弟たちの祭にのぼりたる後、あらはならで潛びやかに上り給ふ。 11祭にあたりユダヤ人らイエスを尋ねて『かれは何處に居るか』と言ふ。 12また群衆のうちに囁く者おほくありて、或は『イエスは善き人なり』といひ、或は『いな、群衆を惑すなり』と言ふ。 13されどユダヤ人を懼るるに因りて、誰もイエスのことを公然に言はず。 14祭も、はや半となりし頃、イエス宮にのぼりて教へ給へば、 15ユダヤ人あやしみて言ふ『この人は學びし事なきに、如何にして書を知るか』 16イエス答へて言ひ給ふ『わが教はわが教にあらず、我を遣し給ひし者の教なり。 17人もし御意を行はんと欲せば、此の教の神よりか、我が己より語るかを知らん。 18己より語るものは己の榮光をもとむ、己を遣しし者の榮光を求むる者は眞なり、その中に不義なし。 19モーセは汝らに律法を與へしにあらずや、されど汝等のうちに律法を守る者なし。汝ら何ゆゑ我を殺さんとするか』 20群衆こたふ『なんぢは惡鬼に憑かれたり、誰が汝を殺さんとするぞ』 21イエス答へて言ひ給ふ『われ一つの業をなしたれば、汝等みな怪しめり。 22モーセは汝らに割禮を命じたり（これはモーセより起りしとにあらず、先祖より起りしなり）この故に汝ら安息日にも人に割禮を施す。 23モーセの律法の廢らぬために、安息日に人の割禮を受くる事あらば、何ぞ安息日に人の全身を健かにせしとて我を怒るか。 24外貌によりて裁くな、正しき審判にて審け』 25ここにエルサレムの或人々いふ『これは人々の殺さんとする者ならずや。 26視よ、公然に語るに、之に對して何をも言ふ者なし、司たちは此の人のキリストたるを眞に認めしならんか。 27されど我らは此の人の何處よりかを知る、キリストの來る時には、その何處よりかを知る者なし』 28ここにイエス宮にて教へつつ呼はりて言ひ給ふ『なんぢら我を知り、亦わが何處よりかを知る。されど我は己より來るにあらず、眞の者ありて我を遣し給へり。汝らは彼を知らず、 29我は彼を知る。我は彼より出で、彼は我を遣し給ひしに因りてなり』 30ここに人々イエスを捕へんと謀りたれど、彼の時いまだ到らぬ故に手出する者なかりき。 31かくて群衆のうち多くの人々イエスを信じて『キリスト來るとも、此の人の行ひしより多く徵を行はんや』と言ふ。 32イエスにつきて群衆のかく囁くことパリサイ人の耳に入りたれば、祭司長・パリサイ人ら彼を捕へんとて下役どもを遣ししに、 33イエス言ひ給ふ『我なほ暫く汝らと偕に居り、而してのち我を遣し給ひし者の御許に往く。 34汝ら我を尋ねん、されど逢はざるべし、汝等わが居る處に往くこと能はず』 35ここにユダヤ人ら互に云ふ『この人われらの逢ひ得ぬいづこに往かんとするか、ギリシヤ人のうちに散りをる者に往きて、ギリシヤ人を教へんとするか。 36その言に「なんぢら我を尋ねん、然れど逢はざるべし、汝ら我がをる處に往くこと能はず」と云へるは何ぞや』 37祭の終の大なる日に、イエス立ちて呼はりて言ひたまふ『人もし渇かば我に來りて飲め。 38我を信ずる者は、聖書に云へるごとく、その腹より活ける水、川となりて流れ出づべし』 39これは彼を信ずる者の受けんとする御靈を指して言ひ給ひしなり。イエス未だ榮光を受け給はざれば、御靈いまだ降らざりしなり。 40此等の言をききて群衆のうちの或人は『これ眞にかの預言者なり』といひ、 41或人は『これキリストなり』と言ひ、又ある人は『キリストいかでガリラヤより出でんや、 42聖書に、キリストはダビデの裔またダビデの居りし村ベツレヘムより出づと云へるならずや』と言ふ。 43斯くイエスの事によりて、群衆のうちに紛爭おこりたり。 44その中には、イエスを捕へんと欲する者もありしが、手出する者なかりき。 45而して下役ども、祭司長・パリサイ人らの許に歸りたれば、彼ら問ふ『なに故かれを曳き來らぬか』 46下役ども答ふ『この人の語るごとく語りし人は未だなし』 47パリサイ人等これに答ふ『なんぢらも惑されしか、 48司たち又はパリサイ人のうちに、一人だに彼を信ぜし者ありや、 49律法を知らぬ

この群衆は詛はれたる者なり』 50彼 等のうちの一人にてさきにイエスの許に來りしニコデモ言ふ、 51『われらの律法は、先その人に聽き、その爲すところを知るにあらずば、審く事をせんや』 52かれら答へて言ふ『なんぢもガリラヤより出でしか、査べ見よ、預言者はガリラヤより起る事なし』 53［斯くておのおの己が家に歸れり。

第八章

1イエス、オリブ山にゆき給ふ。 2夜明ごろ、また宮に入りしに、民みな御許に來りたれば、坐して教へ給ふ。 3ここに學者・パリサイ人ら、姦淫のとき捕へられたる女を連れきたり、眞中に立ててイエスに言ふ、 4『師よ、この女は姦淫のをり、そのまま捕へられたるなり。 5モーセは律法に、斯かる者を石にて撃つべき事を我らに命じたるが、汝は如何に言ふか』 6かく云へるは、イエスを試みて、訴ふる種を得んとてなり。イエス身を屈め、指にて地に物 書き給ふ。 7かれら問ひて止まざれば、イエス身を起して『なんぢらの中、罪なき者まづ石を擲て』と言ひ、 8また身を屈めて地に物 書きたまふ。 9彼等これを聞きて良心に責められ、老人をはじめ若き者まで一人 一人いでゆき、唯イエスと中に立てる女とのみ遺れり。 10イエス身を起して、女のほかに誰も居らぬを見て言ひ給ふ『をんなよ、汝を訴へたる者どもは何處にをるぞ、汝を罪する者なきか』 11女いふ『主よ、誰もなし』イエス言ひ給ふ『われも汝を罪せじ、往け、この後ふたたび罪を犯すな』］ 12かくてイエスまた人々に語りて言ひ給ふ『われは世の光なり、我に從ふ者は暗き中を歩まず、生命の光を得べし』 13パリサイ人ら言ふ『なんぢは己につきて證す、なんぢの證は眞ならず』 14イエス答へて言ひ給ふ『われ自ら己につきて證すとも、我が證は眞なり、我は何處より來り何處に往くを知る故なり。汝らは我が何處より來り、何處に往くを知らず、 15なんぢらは肉によりて審く、我は誰をも審かず。 16されど我もし審かば、我が審判は眞なり、我は一人ならず、我と我を遣し給ひし者と偕なるに因る。 17また汝らの律法に、二人の證は眞なりと録されたり。 18我みづから己につきて證をなし、我を遣し給ひし父も我につきて證をなし給ふ』 19ここに彼ら言ふ『なんぢの父は何處にあるか』イエス答へ給ふ『なんぢらは我をも我が父をも知らず、我を知りしならば、我が父をも知りしならん』 20イエス宮の内にて教へし時、これらの事を賽錢函の傍らにて語り給ひしが、彼の時いまだ到らぬ故に、誰も捕ふる者なかりき。 21かくてまた人々に言ひ給ふ『われ往く、なんぢら我を尋ねん。されど己が罪のうちに死なん、わが往くところに汝ら來ること能はず』 22ユダヤ人ら言ふ『「わが往く處に汝ら來ること能はず」と云へるは、自殺せんとてか』 23イエス言ひ給ふ『なんぢらは下より出で、我は上より出づ、汝らは此の世より出で、我は此の世より出でず。 24之によりて我なんぢらは己が罪のうちに死なんと云へるなり。汝 等もし我の夫なるを信ぜずば、罪のうちに死ぬべし』 25彼ら言ふ『なんぢは誰なるか』イエス言ひ給ふ『われは正しく汝らに告げ來りし所の者なり。 26われ汝らに就きて語るべきこと審くべきこと多し、而して我を遣し給ひし者は眞なり、我は彼に聽きしその事を世に告ぐるなり』 27これは父をさして言ひ給へるを、彼らは悟らざりき。 28ここにイエス言ひ給ふ『なんぢら人の子を擧げしのち、我の夫なるを知り、又わが己によりて何事をも爲さず、ただ父の我に教へ給ひしごとく、此 等のことを語りたるを知らん。 29我を遣し給ひし者は、我とともに在す。我つねに御意に適ふことを行ふによりて、我を獨おき給はず』 30此 等のことを語り給へるとき、多くの人々イエスを信じたり。 31ここにイエス己を信じたるユダヤ人に言ひたまふ『汝 等もし常に我が言に居らば、眞にわが弟子なり。 32また眞理を知らん、而して眞理は汝らに自由を得さすべし』 33かれら答ふ『われはアブラハムの裔にして、未だ人の奴隷となりし事なし。如何なれば「なんぢら自由を得べし」と言ふか』 34イエス答へ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、すべて罪を犯す者は罪の奴隷なり。 35奴隷はとこしへに家に居らず、子は永遠に居るなり。 36この故に子もし汝らに自由を得させば、汝ら實に自由とならん。 37我は汝らがアブラハムの裔なるを知る、されど我が言なんぢらの衷に留らぬ故に、我を殺さんと謀る。 38我はわが父の許にて見しことを語り、汝らは又なんぢらの父より聞きしことを行ふ』 39かれら答へて言ふ『われらの父はアブラハムなり』イエス言ひ給ふ『もしアブラハムの子ならば、アブラハムの業をなさん。 40然るに汝らは今、神より聽きたる眞理を汝らに告ぐる者なる我を殺さんと謀る。アブラハムは斯かることを爲さざりき。 41汝らは汝らの父の業を爲すなり』かれら言ふ『われら淫行によ

りて生れず、我らの父はただ一人、即ち神なり』 42イエス言ひたまふ『神もし汝らの父ならば、汝ら我を愛せん、われ神より出でて來ればなり。我は己より來るにあらず、神われを遣し給へり。 43何故わが語ることを悟らぬか、是わが言をきくこと能はぬに因る。 44汝らは己が父 惡魔より出でて、己が父の慾を行はんことを望む。彼は最初より人殺なり、また眞その中になき故に眞に立たず、彼は虛僞をかたる毎に己より語る、それは虛僞 者にして虛僞の父なればなり。 45然るに我は眞を告ぐるによりて、汝ら我を信ぜず、 46汝 等のうち誰か我を罪ありとして責め得る。われ眞を告ぐるに、我を信ぜぬは何 故ぞ。 47神より出づる者は神の言をきく、汝らの聽かぬは神より出でぬに因る』 48ユダヤ人こたへて言ふ『なんぢはサマリヤ人にて惡鬼に憑かれたる者なりと、我らが云へるは宜ならずや』 49イエス答へ給ふ『われは惡鬼に憑かれず、反つて我が父を敬ふ、なんぢらは我を輕んず。 50我はおのれの榮光を求めず、之を求めかつ審判し給ふ者あり。 51誠にまことに汝らに告ぐ、人もし我が言を守らば、永遠に死を見ざるべし』 52ユダヤ人いふ『今ぞなんぢが惡鬼に憑かれたるを知る。アブラハムも預言者たちも死にたり、然るに汝は「人もし我が言を守らば、永遠に死を味はざるべし」と云ふ。 53汝われらの父アブラハムよりも大なるか、彼は死に、預言者たちも死にたり、汝はおのれを誰とするか』 54イエス答へたまふ『我もし己に榮光を歸せば、我が榮光は空し。我に榮光を歸する者は我が父なり、即ち汝らが己の神と稱ふる者なり。 55然るに汝らは彼を知らず、我は彼を知る。もし彼を知らずと言はば、汝らの如く僞 者たるべし。されど我は彼を知り、且その御言を守る。 56汝らの父アブラハムは、我が日を見んとて樂しみ且これを見て喜べり』 57ユダヤ人いふ『なんぢ未だ五十歳にもならぬにアブラハムを見しか』 58イエス言ひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、アブラハムの生れいでぬ前より我は在るなり』 59ここに彼ら石をとりてイエスに擲たんとしたるに、イエス隱れて宮を出で給へり。

第九章

1イエス途 往くとき、生れながらの盲人を見 給ひたれば、 2弟子たち問ひて言ふ『ラビ、この人の盲目にて生れしは、誰の罪によるぞ、己のか、親のか』 3イエス答へ給ふ『この人の罪にも親の罪にもあらず、ただ彼の上に神の業の顯れん爲なり。 4我を遣し給ひし者の業を我ら晝の間になさざる可からず。夜きたらん、その時は誰も働くこと能はず。 5われ世にをる間は世の光なり』 6かく言ひて地に唾し、唾にて泥をつくり、之を盲人の目にぬりて言ひ給ふ、 7『ゆきてシロアム（釋けば遣されたる者）の池にて洗へ』乃ちゆきて洗ひたれば、見ゆることを得て歸れり。 8ここに隣 人および前に彼の乞食なるを見し者ども言ふ『この人は坐して物 乞ひゐたるにあらずや』 9或 人は『夫なり』といひ、或 人は『否、ただ似たるなり』といふ。かの者『われは夫なり』と言ひたれば、 10人々いふ『さらば汝の目は如何にして開きたるか』 11答ふ『イエスといふ人、泥をつくり我が目に塗りて言ふ「シロアムに往きて洗へ」と、乃ち往きて洗ひたれば、物 見ることを得たり』 12彼ら『その人は何處に居るか』と言へば『知らず』と答ふ。 13人々さきに盲目なりし者をパリサイ人らの許に連れきたる。 14イエスの泥をつくりて其の人の目をあけし日は安息 日なりき。 15パリサイ人らも亦いかにして物 見ることを得しかと問ひたれば、彼いふ『かの人わが目に泥をぬり、我これを洗ひて見ゆることを得たり』 16パリサイ人の中なる或 人は『かの人、安息 日を守らぬ故に、神より出でし者にあらず』と言ひ、或 人は『罪ある人いかで斯かる徵をなし得んや』と言ひて互に相 爭ひたり。 17ここにまた盲目なりし人に言ふ『なんぢの目をあけしに因り、汝は彼に就きて如何にいふか』彼いふ『預言者なり』 18ユダヤ人ら、彼が盲目なりしに見ゆるやうになりしことを、未だ信ぜずして、目の開きたる人の兩親を呼び、 19問ひて言ふ『これは盲目にて生れしと言ふ汝らの子なりや、さらば今いかにして見ゆるか』 20兩親こたへて言ふ『かれの我が子なることと、盲目にて生れたる事とを知る。 21されど今いかにして見ゆるかを知らず、又その目をあけしは誰なるか、我らは知らず、彼に問へ、年 長けたれば自ら己がことを語らん』 22兩親のかく言ひしはユダヤ人を懼れたるなり。ユダヤ人ら相 議りて『若しイエスをキリストと言ひ顯す者あらば、除名すべし』と定めたるに因る。 23兩親の『かれ年 長けたれば彼に問へ』と云へるは此の故なり。 24かれら盲目なりし人を再び呼びて言ふ『神に榮光を歸せよ、我等はかの人の罪人たるを知る』 25答ふ『かれ罪人なるか、我は知らず、ただ一つの事を

しる、即ち我さきに盲目たりしが、今見ゆることを得たる是なり』26彼ら言ふ『かれは汝に何をなししか、如何にして目をあけしか』27答ふ『われ既に汝らに告げたれど聽かざりき。何ぞまた聽かんとするか、汝らもその弟子とならんことを望むか』28かれら罵りて言ふ『なんぢは其の弟子なり、我等モーセの弟子なり。29モーセに神の語り給ひしことを知れど、此の人の何處よりかを知らず』30答へて言ふ『その何處よりかを知らずとは怪しき事なり、彼わが目をあけしに。31神は罪人に聽き給はねど、敬虔にして御意をおこなふ人に聽き給ふことを我らは知る。32世の太初より、盲目にて生れし者の目をあけし人あるを聞きし事なし。33かの人もし神より出でずば、何事をも爲し得ざらん』34かれら答へて『なんぢ全く罪のうちに生れながら、我らを教ふるか』と言ひて、遂に彼を追ひ出せり。35イエスその追ひ出されしことを聞き、彼に逢ひて言ひ給ふ『なんぢ人の子を信ずるか』36答へて言ふ『主よ、それは誰なる乎、われ信ぜまほし』37イエス言ひ給ふ『なんぢ彼を見たり、汝と語る者は夫なり』38ここに彼『主よ、我は信ず』といひて拜せり。39イエス言ひ給ふ『われ審判の爲にこの世に來れり。見えぬ人は見え、見ゆる人は盲目とならん爲なり』40パリサイ人の中イエスと共に居りし者、これを聞きて言ふ『我らも盲目なるか』41イエス言ひ給ふ『もし盲目なりしならば、罪なかりしならん、されど見ゆと言ふ汝らの罪は遺れり』

第十章

1『まことに誠に汝らに告ぐ、羊の檻に門より入らずして、他より越ゆる者は、盜人なり、強盜なり。2門より入る者は、羊の牧者なり。3門守は彼のために開き、羊はその聲をきき、彼は己の羊の名を呼びて牽きいだす。4悉とく其の羊をいだしし時、これに先だちゆく、羊その聲を知るによりて從ふなり。5他の者には從はず、反つて逃ぐ、他の者どもの聲を知らぬ故なり』6イエスこの譬を言ひ給へど、彼らその何事をかたり給ふかを知らざりき。7この故にイエス復いひ給ふ『まことに誠に汝らに告ぐ、我は羊の門なり。8すべて我より前に來りし者は、盜人なり、強盜なり、羊は之に聽かざりき。9我は門なり、おほよそ我によりて入る者は救はれ、かつ出入をなし、草を得べし。10盜人のきたるは盜み、殺し、亡さんとするの他なし。わが來るは羊に生命を得しめ、かつ豐に得しめん爲なり。11我は善き牧者なり、善き牧者は羊のために生命を捨つ。12牧者ならず、羊も己がものならぬ雇人は、豺狼のきたるを見れば羊を棄てて逃ぐ、――豺狼は羊をうばひ且ちらす――13彼は雇人にて、その羊を顧みぬ故なり。14我は善き牧者にして、我がものを知り、我がものは我を知る、15父の我を知り、我の父を知るが如し、我は羊のために生命を捨つ。16我には亦この檻のものならぬ他の羊あり、之をも導かざるを得ず、彼らは我が聲をきかん、遂に一つの群ひとりの牧者となるべし。17之によりて父は我を愛し給ふ、それは我ふたたび生命を得んために生命を捨つる故なり。18人これを我より取るにあらず、我みづから捨つるなり。我は之をすつる權あり、復これを得る權あり、我この命令をわが父より受けたり』19これらの言によりて復ユダヤ人のうちに紛爭おこり、20その中なる多くの者いふ『かれは惡鬼に憑かれて氣狂へり、何ぞ之にきくか』21他の者ども言ふ『これは惡鬼に憑かれたる者の言にあらず、惡鬼は盲人の目をあけ得んや』22その頃エルサレムに宮潔の祭あり、時は冬なり。23イエス宮の内、ソロモンの廊を歩みたまふに、24ユダヤ人ら之を取圍みて言ふ『何時まで我らの心を惑しむるか、汝キリストならば明白に告げよ』25イエス答へ給ふ『われ既に告げたれど汝ら信ぜず、わが父の名によりて行ふわざは、我に就きて證す。26されど汝らは信ぜず、我が羊ならぬ故なり。27わが羊はわが聲をきき、我は彼らを知り、彼らは我に從ふ。28我かれらに永遠の生命を與ふれば、彼らは永遠に亡ぶることなく、又かれらを我が手より奪ふ者あらじ。29彼らを我にあたへ給ひし我が父は、一切のものよりも大なれば、誰にても父の御手よりは奪ふこと能はず。30我と父とは一つなり』31ユダヤ人また石を取りあげてイエスを擊たんとす。32イエス答へ給ふ『われは父によりて多くの善き業を汝らに示したり、その孰の業ゆゑに我を石にて擊たんとするか』33ユダヤ人こたふ『なんぢを石にて擊つは善きわざの故ならず、瀆言の故にして、なんぢ人なるに、己を神とする故なり』34イエス答へ給ふ『なんぢらの律法に「われ言ふ、汝らは神なり」と録されたるに非ずや。35かく神の言を賜はりし人々を神と云へり。聖書は廢るべきにあらず、36然るに父の潔め別ちて世に遣し給ひし者が「われは神の子なり」と言

へばとて、何ぞ「瀆言を言ふ」といふか。37我もし我が父のわざを行はずば、我を信ずな、38もし行はば、假令われを信ぜずとも、その業を信ぜよ。さらば父の我にをり、我の父に居ることを知りて悟らん』39かれら復イエスを捕へんとせしが、その手より脱れて去り給へり。40かくてイエス復ヨルダンの彼方、ヨハネの最初にバプテスマを施したる處にいたり、其處にとどまり給ひしが、41多くの人みもとに來りて『ヨハネは何の徴をも行はざりしかど、この人に就きてヨハネの言ひし事は、ことごとく眞なりき』と言ふ。42而して多くの人かしこにてイエスを信じたり。

第十一章

1ここに病める者あり、ラザロと云ふ、マリヤとその姉妹マルタとの村ベタニヤの人なり。2此のマリヤは、主に香 油をぬり、頭髪にて御足を拭ひし者にして、病めるラザロはその兄弟なり。3姉妹ら人をイエスに遣して『主、視よ、なんぢの愛し給ふもの病めり』と言はしむ。4之を聞きてイエス言ひ給ふ『この病は死に至らず、神の榮光のため、神の子のこれに由りて榮光を受けんためなり』5イエスはマルタと、その姉妹と、ラザロとを愛し給へり。6ラザロの病みたるを聞きて、その居給ひし處になほ二日とどまり、7而してのち弟子たちに言ひ給ふ『われら復ユダヤに往くべし』8弟子たち言ふ『ラビ、この程もユダヤ人、なんぢを石にて撃たんとせしに、復かしこに往き給ふか』9イエス答へたまふ『一日に十二時あるならずや、人もし晝あるかば、此の世の光を見るゆゑに躓くことなし。10夜あるかば、光その人になき故に躓くなり』11かく言ひて復その後いひ給ふ『われらの友ラザロ眠れり、されど我よび起さん爲に往くなり』12弟子たち言ふ『主よ、眠れるならば癒ゆべし』13イエスは彼が死にたることを言ひ給ひしなれど、弟子たちは寢ねて眠れるを言ひ給ふと思へるなり。14ここにイエス明白に言ひ給ふ『ラザロは死にたり。15我かしこに居らざりし事を汝 等のために喜ぶ、汝 等をして信ぜしめんとてなり。されど我ら今その許に往くべし』16デドモと稱ふるトマス、他の弟子たちに言ふ『われらも往きて彼と共に死ぬべし』17さてイエス來り見 給へば、ラザロの墓にあること既に四日なりき。18ベタニヤはエルサレムに近くして、二十五丁ばかりの距離なるが、19數多のユダヤ人、マルタとマリヤとをその兄弟の事につき慰めんとて來れり。20マルタはイエス來給ふと聞きて出で迎へたれど、マリヤはなほ家に坐し居たり。21マルタ、イエスに言ふ『主よ、もし此處に在ししならば、我が兄弟は死なざりしものを。22されど今にても我は知る、何事を神に願ひ給ふとも、神は與へ給はん』23イエス言ひ給ふ『なんぢの兄弟は甦へるべし』24マルタ言ふ『をはりの日、復活のときに甦へるべきを知る』25イエス言ひ給ふ『我は復活なり、生命なり、我を信ずる者は死ぬとも生きん。26凡そ生きて我を信ずる者は、永遠に死なざるべし。汝これを信ずるか』27彼いふ『主よ然り、我なんぢは世に來るべきキリスト、神の子なりと信ず』28かく言ひて後、ゆきて竊にその姉妹マリヤを呼びて『師きたりて汝を呼びたまふ』と言ふ。29マリヤ之をきき、急ぎ起ちて御許に往けり。30イエスは未だ村に入らず、尚マルタの迎へし處に居給ふ。31マリヤと共に家に居りて慰め居たるユダヤ人、その急ぎ立ちて出でゆくを見、かれは歎かんとて墓に往くと思ひて後に隨へり。32かくてマリヤ、イエスの居給ふ處にいたり、之を見てその足下に伏し『主よ、もし此處に在ししならば、我が兄弟は死なざりしものを』と言ふ。33イエスかれが泣き居り、共に來りしユダヤ人も泣き居るを見て、心を傷め悲しみて言ひ給ふ、34『かれを何處に置きしか』彼ら言ふ『主よ、來りて見 給へ』35イエス涙をながし給ふ。36ここにユダヤ人ら言ふ『視よ、いかばかり彼を愛せしぞや』37その中の或 者ども言ふ『盲人の目をあけし此の人にして、彼を死なざらしむること能はざりしか』38イエスまた心を傷めつつ墓にいたり給ふ。墓は洞にして石を置きて塞げり。39イエス言ひ給ふ『石を除けよ』死にし人の姉妹マルタ言ふ『主よ、彼ははや臭し、四日を經たればなり』40イエス言ひ給ふ『われ汝に、もし信ぜば神の榮光を見んと言ひしにあらずや』41ここに人々石を除けたり。イエス目を擧げて言ひたまふ『父よ、我にきき給ひしを謝す。42常にきき給ふを我は知る。然るに斯く言ふは、傍らに立つ群衆の爲にして、汝の我を遣し給ひしことを之に信ぜしめんとてなり』43斯く言ひてのち、聲 高く『ラザロよ、出で來れ』と呼はり給へば、44死にしもの布にて足と手とを巻かれたるまま出で來る、顔も手拭にて包まれたり。イエス『これを解きて往かしめよ』と言ひ給ふ。45かくてマリヤの許に來り

て、イエスの爲し給ひし事を見たる多くのユダヤ人、かれを信じたりしが、46或者はパリサイ人に往きて、イエスの爲し給ひし事を告げたり。47ここに祭司長・パリサイ人ら議會を開きて言ふ『われら如何に爲すべきか、此の人おほくの徴を行ふなり。48もし彼をこのまま捨ておかば、人々みな彼を信ぜん、而してロマ人きたりて、我らの土地と國人とを奪はん』49その中の一人にて此の年の大祭司なるカヤパ言ふ『なんぢら何をも知らず。50ひとりの人、民のために死にて、國人すべての滅びぬは、汝らの益なるを思はぬなり』51これは己より云へるに非ず、この年の大祭司なれば、イエスの國人のため、52又ただに國人の爲のみならず、散りたる神の子らを一つに集めん爲に死に給ふことを預言したるなり。53彼等この日よりイエスを殺さんと議れり。54されば此の後イエス顯にユダヤ人のなかを歩み給はず、此處を去りて、荒野にちかき處なるエフライムといふ町に往き、弟子たちと偕に其處に留りたまふ。55ユダヤ人の過越の祭近づきたれば、多くの人々身を潔めんとて、祭のまへに田舎よりエルサレムに上れり。56彼らイエスをたづね、宮に立ちて互に言ふ『なんぢら如何に思ふか、彼は祭に來らぬか』57祭司長・パリサイ人らは、イエスを捕へんとて、その在處を知る者あらば、告げ出づべく預て命令したりしなり。

第十二章

1過越の祭の六日前に、イエス、ベタニヤに來り給ふ、ここは死人の中より甦へらせ給ひしラザロの居る處なり。2此處にてイエスのために饗宴を設け、マルタは事へ、ラザロはイエスと共に席に著ける者の中にあり。3マリヤは價高き混りなきナルドの香油一斤を持ち來りて、イエスの御足にぬり、己が頭髪にて御足を拭ひしに、香油のかをり家に滿ちたり。4御弟子の一人にて、イエスを賣らんとするイスカリオテのユダ言ふ、5『何ぞこの香油を三百デナリに賣りて、貧しき者に施さざる』6かく云へるは貧しき者を思ふ故にあらず、おのれ盜人にして、財嚢を預り、その中に納むる物を掠めゐたればなり。7イエス言ひ給ふ『この女の爲すに任せよ、我が葬りの日のために之を貯へたるなり。8貧しき者は常に汝らと偕に居れども、我は常に居らぬなり』9ユダヤの多くの民ども、イエスの此處に居給ふことを知りて來る、これはイエスの爲のみにあらず、死人の中より甦へらせ給ひしラザロを見んとてなり。10かくて祭司長ら、ラザロをも殺さんと議る。11彼のために多くのユダヤ人さり往きてイエスを信ぜし故なり。12明くる日、祭に來りし多くの民ども、イエスのエルサレムに來り給ふをきき、13棕梠の枝をとりて出で迎へ、『「ホサナ、讃むべきかな、主の御名によりて來る者」イスラエルの王』と呼はる。14イエスは小驢馬を得て之に乘り給ふ。これは録して、15『シオンの娘よ、懼るな。視よ、なんぢの王は驢馬の子に乘りて來り給ふ』と有るが如し。16弟子たちは最初これらの事を悟らざりしが、イエスの榮光を受け給ひし後に、これらの事のイエスに就きて録されたると、人々が斯く爲ししとを思ひ出せり。17ラザロを墓より呼び起し、死人の中より甦へらせ給ひし時に、イエスと偕に居りし群衆、證をなせり。18群衆のイエスを迎へたるは、かかる徴を行ひ給ひしことを聞きたるに因りてなり。19パリサイ人ら互に言ふ『見るべし、汝らの謀ることの益なきを。視よ、世は彼に從へり』20禮拜せんとて祭に上りたる者の中に、ギリシヤ人數人ありしが、21ガリラヤなるベツサイダのピリポに來り、請ひて言ふ『君よ、われらイエスに謁えんことを願ふ』22ピリポ往きてアンデレに告げ、アンデレとピリポと共に往きてイエスに告ぐ。23イエス答へて言ひ給ふ『人の子の榮光を受くべき時きたれり。24誠にまことに汝らに告ぐ、一粒の麥、地に落ちて死なずば、唯一つにて在らん、もし死なば、多くの果を結ぶべし。25己が生命を愛する者は、これを失ひ、この世にてその生命を憎む者は、之を保ちて永遠の生命に至るべし。26人もし我に事へんとせば、我に從へ、わが居る處に我に事ふる者もまた居るべし。人もし我に事ふることをせば、我が父これを貴び給はん。27今わが心さわぐ、われ何を言ふべきか。父よ、この時より我を救ひ給へ、されど我この爲にこの時に到れり。28父よ、御名の榮光をあらはし給へ』ここに天より聲いでて言ふ『われ既に榮光をあらはしたり、復さらに顯さん』29傍らに立てる群衆これを聞きて『雷霆鳴れり』と言ひ、ある人々は『御使かれに語れるなり』と言ふ。30イエス答へて言ひ給ふ『この聲の來りしは、我が爲にあらず、汝らの爲なり。31今この世の審判は來れり、今この世の君は逐ひ出さるべし。32我もし地より擧げられなば、凡ての人をわが許に引きよせん』33かく言

ひて、己が如何なる死にて死ぬるかを示し給へり。 34
群衆こたふ『われら律法によりて、キリストは永遠に
存へ給ふと聞きたるに、汝いかなれば人の子は擧げらる
べしと言ふか、その人の子とは誰なるか』 35イエス言ひ
給ふ『なほ暫し光は汝らの中にあり、光のある間に歩み
て、暗黒に追及かれぬやうにせよ、暗き中を歩む者は
往方を知らず。 36光の子とならんために、光のある間に
光を信ぜよ』イエス此等のことを語りてのち、彼らを
避けて隠れ給へり。 37かく多くの徴を人々の前におこな
ひ給ひたれど、なほ彼を信ぜざりき。 38これ預言者イザ
ヤの言の成就せん爲なり。曰く『主よ、我らに聞きたる
言を誰か信ぜし。主の御腕は誰にあらはれし』 39彼らが
信じ得ざりしは此の故なり。即ちイザヤまた云へらく、
40『彼らの眼を暗くし、心を頑固にし給へり。これ目に
て見、心にて悟り、ひるがへりて、我に醫さるる事なか
らん爲なり』 41イザヤの斯く云へるは、その榮光を見し
故にて、イエスに就きて語りしなり。 42されど司たちの
中にもイエスを信じたるもの多かりしが、パリサイ人の
故によりて言ひ顯すことをせざりき、除名せられん事を
恐れたるなり。 43彼らは神の譽よりも人の譽を愛でしな
り。 44イエス呼はりて言ひ給ふ『われを信ずる者は我を
信ずるにあらず、我を遣し給ひし者を信じ、 45我を見る
者は我を遣し給ひし者を見るなり。 46我は光として世に
來れり、すべて我を信ずる者の暗黒に居らざらん爲な
り。 47人たとひ我が言をききて守らずとも、我は之を審
かず。夫わが來りしは世を審かん爲にあらず、世を救は
ん爲なり。 48我を棄て我が言を受けぬ者を審く者あり、
わが語れる言こそ終の日に之を審くなれ。 49我はおのれ
に由りて語れるにあらず、我を遣し給ひし父みづから、
我が言ふべきこと語るべきことを命じ給ひし故なり。 50
我その命令の永遠の生命たるを知る。されば我は語るに
我が父の我に言ひ給ふままを語るなり』

第十三章

1過越のまつりの前に、イエスこの世を去りて父に往くべ
き己が時の來れるを知り、世に在る己の者を愛して、極
まで之を愛し給へり。 2夕餐のとき、惡魔早くもシモン
の子イスカリオテのユダの心に、イエスを賣らんとする
思を入れたるが、 3イエス父が萬物をおのが手にゆだね
給ひしことと、己の神より出でて神に到ることを知り、
4夕餐より起ちて上衣をぬぎ、手巾をとりて腰にまとひ、
5盥で盥に水をいれて、弟子たちの足をあらひ、纏ひた
る手巾にて之を拭ひはじめ給ふ。 6かくてシモン・ペテ
ロに至り給へば、彼いふ『主よ、汝わが足を洗ひ給ふ
か』 7イエス答へて言ひ給ふ『わが爲すことを汝いまは
知らず、後に悟るべし』 8ペテロ言ふ『永遠に我が足を
あらひ給はざれ』イエス答へ給ふ『我もし汝を洗はず
ば、汝われと關係なし』 9シモン・ペテロ言ふ『主よ、
わが足のみならず、手をも頭をも』 10イエス言ひ給ふ
『すでに浴したる者は足のほか洗ふを要せず、全身きよ
きなり。斯く汝らは潔し、されど悉とくは然らず』 11こ
れ己を賣る者の誰なるを知りたまふ故に『ことごとくは
潔からず』と言ひ給ひしなり。 12彼らの足をあらひ、己
が上衣をとり、再び席につきて後いひ給ふ『わが汝らに
爲したることを知るか。 13なんぢら我を師また主ととな
ふ、然か言ふは宜なり、我は是なり。 14我は主また師な
るに、尚なんぢらの足を洗ひたれば、汝らも互に足を洗
ふべきなり。 15われ汝らに模範を示せり、わが爲ししご
とく汝らも爲さんためなり。 16誠にまことに汝らに告
ぐ、僕はその主よりも大ならず。遣されたる者は之を遣
す者よりも大ならず。 17汝等これらの事を知りて之を
行はば幸福なり。 18これ汝ら凡ての者につきて言ふにあ
らず、我はわが選びたる者どもを知る。されど聖書に
「我とともにパンを食ふ者、われに向ひて踵を擧げた
り」と云へることは、必ず成就すべきなり。 19今その事
の成らぬ前に之を汝らに告ぐ、事の成らん時、わが夫な
るを汝らの信ぜんためなり。 20誠にまことに汝らに告
ぐ、わが遣す者を受くる者は我をうくるなり。我を受く
る者は我を遣し給ひし者を受くるなり』 21イエス此等の
ことを言ひ終へて、心さわぎ證をなして言ひ給ふ『まこ
とに誠に汝らに告ぐ、汝らの中の一人われを賣らん』 22
弟子たち互に顔を見合せ、誰につきて言ひ給ふかを訝
る。 23イエスの愛したまふ一人の弟子、イエスの御胸に
よりそひ居たれば、 24シモン・ペテロ首にて示し『誰の
ことを言ひ給ふか、告げよ』といふ。 25彼そのまま御胸
によりかかりて『主よ、誰なるか』と言ひしに、 26イエ
ス答へ給ふ『わが一撮の食物を浸して與ふる者は夫な
り』かくて一撮の食物を浸して、シモンの子イスカリオ
テのユダに與へたまふ。 27ユダ一撮の食物を受くるや、
惡魔かれに入りたり。イエス彼に言ひたまふ『なんぢが

爲すことを速かに爲せ』28席に著きゐたる者は一人として、何故かく言ひ給ふかを知らず。29ある人々は、ユダが財嚢を預るによりて『祭のために要する物を買へ』とイエスの言ひ給へるか、また貧しき者に何か施さしめ給ふならんと思へり。30ユダ一撮の食物を受くるや、直ちに出づ、時は夜なりき。31ユダの出でし後、イエス言ひ給ふ『今や人の子、榮光をうく、神も彼によりて榮光をうけ給ふ。32神かれに由りて榮光をうけ給はば、神も己によりて彼に榮光を與へ給はん、直ちに與へ給ふべし。33若子よ、我なほ暫く汝らと偕にあり、汝らは我を尋ねん、されど曾てユダヤ人に「なんぢらは我が往く處に來ること能はず」と言ひし如く、今汝らにも然か言ふなり。34われ新しき誡命を汝らに與ふ、なんぢら相愛すべし。わが汝らを愛せしごとく、汝らも相愛すべし。35互に相愛する事をせば、之によりて人みな汝らの我が弟子たるを知らん』36シモン・ペテロ言ふ『主よ、何處にゆき給ふか』イエス答へ給ふ『わが往く處に、なんぢ今は從ふこと能はず。されど後に從はん』37ペテロ言ふ『主よ、いま從ふこと能はぬは何故ぞ、我は汝のために生命を棄てん』38イエス答へ給ふ『なんぢ我がために生命を棄つるか、誠にまことに汝に告ぐ、なんぢ三度われを否むまでは、鷄鳴かざるべし』

第十四章

1『なんぢら心を騒がすな、神を信じ、また我を信ぜよ。2わが父の家には住處おほし、然らずば我かねて汝らに告げしならん。われ汝等のために處を備へに往く。3もし往きて汝らの爲に處を備へば、復きたりて汝らを我がもとに迎へん、わが居るところに汝らも居らん爲なり。4汝らは我が往くところに至る道を知る』5トマス言ふ『主よ、何處にゆき給ふかを知らず、いかでその道を知らんや』6イエス彼に言ひ給ふ『われは道なり、眞理なり、生命なり、我に由らでは誰にても父の御許にいたる者なし。7汝等もし我を知りたらば、我が父をも知りしならん。今より汝ら之を知る、既に之を見たり』8ピリポ言ふ『主よ、父を我らに示し給へ、さらば足れり』9イエス言ひ給ふ『ピリポ、我かく久しく汝らと偕に居りしに、我を知らぬか。我を見し者は父を見しなり、如何なれば「我らに父を示せ」と言ふか。10我の父に居り、父の我に居給ふことを信ぜぬか。わが汝等にいふ言は、己によりて語るにあらず、父われに在して御業をおこなひ給ふなり。11わが言ふことを信ぜよ、我は父にをり、父は我に居給ふなり。もし信ぜずば、我が業によりて信ぜよ。12誠にまことに汝らに告ぐ、我を信ずる者は我がなす業をなさん、かつ之よりも大なる業をなすべし、われ父に往けばなり。13汝らが我が名によりて願ふことは、我みな之を爲さん、父、子によりて榮光を受け給はんためなり。14何事にても我が名によりて我に願はば、我これを成すべし。15汝等もし我を愛せば、我が誡命を守らん。16われ父に請はん、父は他に助主をあたへて、永遠に汝らと偕に居らしめ給ふべし。17これは眞理の御靈なり、世はこれを受くること能はず、これを見ず、また知らぬに因る。なんぢらは之を知る、彼は汝らと偕に居り、また汝らの中に居給ふべければなり。18我なんぢらを遺して孤兒とはせず、汝らに來るなり。19暫くせば世は復われを見ず、されど汝らは我を見る、われ活くれば汝らも活くべければなり。20その日には、我わが父に居り、なんぢら我に居り、われ汝らに居ることを汝ら知らん。21わが誡命を保ちて之を守るものは、即ち我を愛する者なり。我を愛する者は我が父に愛せられん、我も之を愛し、之に己を顯すべし』22イスカリオテならぬユダ言ふ『主よ、何故おのれを我らに顯して、世には顯し給はぬか』23イエス答へて言ひ給ふ『人もし我を愛せば、わが言を守らん、わが父これを愛し、かつ我等その許に來りて住處を之とともにせん。24我を愛せぬ者は、わが言を守らず。汝らが聞くところの言は、わが言にあらず、我を遣し給ひし父の言なり。25此等のことは我なんぢらと偕にありて語りしが、26助主すなはちわが名によりて父の遣したまふ聖靈は、汝らに萬の事ををしへ、又すべて我が汝らに言ひしことを思ひ出さしむべし。27われ平安を汝らに遺す、わが平安を汝らに與ふ。わが與ふるは世の與ふる如くならず、なんぢら心を騒がすな、また懼るな。28「われ往きて汝らに來るなり」と云ひしを汝ら既に聞けり。もし我を愛せば、父にわが往くを喜ぶべきなり、父は我よりも大なるに因る。29今その事の成らぬ前に、これを汝らに告げたり、事の成らんとき汝らの信ぜんためなり。30今より後われ汝らと多く語らじ、この世の君きたる故なり。彼は我に對して何の權もなし、31されど斯くなるは、我の、父を愛し、父の命じ給ふところに遵ひて行ふ

ことを、世の知らん爲なり。起きよ、いざ此處を去るべし。

第十五章

1我は眞の葡萄の樹、わが父は農夫なり。2おほよそ我にありて果を結ばぬ枝は、父これを除き、果を結ぶものは、いよいよ果を結ばせん爲に之を潔めたまふ。3汝らは既に潔し、わが語りたる言に因りてなり。4我に居れ、さらば我なんぢらに居らん。枝もし樹に居らずば、自ら果を結ぶこと能はぬごとく、汝らも我に居らずば亦然り。5我は葡萄の樹、なんぢらは枝なり。人もし我にをり、我また彼にをらば、多くの果を結ぶべし。汝ら我を離るれば、何事をも爲し能はず。6人もし我に居らずば、枝のごとく外に棄てられて枯る、人々これを集め火に投げ入れて燒くなり。7汝 等もし我に居り、わが言なんぢらに居らば、何にても望に隨ひて求めよ、さらば成らん。8なんぢら多くの果を結ばば、わが父は榮光を受け給ふべし、而して汝 等わが弟子とならん。9父の我を愛し給ひしごとく、我も汝らを愛したり、わが愛に居れ。10なんぢら若しわが誡命をまもらば、我が愛にをらん、我わが父の誡命を守りて、その愛に居るがごとし。11我これらの事を語りたるは、我が喜悦の汝らに在り、かつ汝らの喜悦の滿されん爲なり。12わが誡命は是なり、わが汝らを愛せしごとく互に相 愛せよ。13人その友のために己の生命を棄つる、之より大なる愛はなし。14汝 等もし我が命ずる事をおこなはば、我が友なり。15今よりのち我なんぢらを僕といはず、僕は主人のなす事を知らざるなり。我なんぢらを友と呼べり、我が父に聽きし凡てのことを汝らに知らせたればなり。16汝ら我を選びしにあらず、我なんぢらを選べり。而して汝らの往きて果を結び、且その果の殘らんために、又おほよそ我が名によりて父に求むるものを、父の賜はんために汝らを立てたり。17これらの事を命ずるは、汝らの互に相 愛せん爲なり。18世もし汝らを憎まば、汝 等より先に我を憎みたることを知れ。19汝 等もし世のものならば、世は己がものを愛するならん。汝らは世のものならず、我なんぢらを世より選びたり。この故に世は汝らを憎む。20わが汝らに「僕はその主人より大ならず」と告げし言をおぼえよ。人もし我を責めしならば、汝 等をも責め、わが言を守りしならば、汝らの言をも守らん。21すべて此 等のことを我が名の故に汝らに爲さん、それは我を遣し給ひし者を知らぬに因る。22われ來りて語らざりしならば、彼ら罪なかりしならん。されど今はその罪いひのがるべき樣なし。23我を憎むものは我が父をも憎むなり。24我もし誰もいまだ行はぬ事を彼らの中に行はざりしならば、彼ら罪なかりしならん。されど今ははや我をも我が父をも見たり、また憎みたり。25これは彼らの律法に「ひとびと故なくして我を憎めり」と録したる言の成就せん爲なり。26父の許より我が遣さんとする助主、すなはち父より出づる眞理の御靈のきたらんとき、我につきて證せん。27汝 等もまた初より我とともに在りたれば證するなり。

第十六章

1我これらの事を語りたるは、汝らの躓かざらん爲なり。2人なんぢらを除名すべし、然のみならず、汝らを殺す者みな自ら神に事ふと思ふとき來らん。3これらの事をなすは、父と我とを知らぬ故なり。4我これらの事を語りたるは、時いたりて我が斯く言ひしことを汝らの思ひいでん爲なり。初より此 等のことを言はざりしは、我なんぢらと偕に在りし故なり。5今われを遣し給ひし者にゆく、然るに汝らの中、たれも我に「何處にゆく」と問ふ者なし。6唯これらの事を語りしによりて、憂なんぢらの心にみてり。7されど、われ實を汝らに告ぐ、わが去るは汝らの益なり。我さらずば助主なんぢらに來らじ、我ゆかば之を汝らに遣さん。8かれ來らんとき、世をして罪につき、義につき、審判につきて、過てるを認めしめん。9罪に就きてとは、彼ら我を信ぜぬに因りてなり。10義に就きてとは、われ父にゆき、汝ら今より我を見ぬに因りてなり。11審判に就きてとは、此の世の君さばかるるに因りてなり。12我なほ汝らに告ぐべき事あまたあれど、今なんぢら得 耐へず。13されど彼すなはち眞理の御靈きたらん時、なんぢらを導きて眞理をことごとく悟らしめん。かれ己より語るにあらず、凡そ聞くところの事を語り、かつ來らんとする事どもを汝らに示さん。14彼はわが榮光を顯さん、それは我がものを受けて汝らに示すべければなり。15すべて父の有ち給ふものは我がものなり、此の故に我がものを受けて汝らに示さんと云へるなり。16暫くせば汝ら我を見ず、また暫くして我を見るべし』17ここに弟子たちのうち或 者たがひに

言ふ『「暫くせば我を見ず、また暫くして我を見るべし」と言ひ、かつ「父に往くによりて」と言ひ給へるは、如何なることぞ』 18復いふ『この暫くとは如何なることぞ、我等その言ひ給ふところを知らず』 19イエスその問はんと思へるを知りて言ひ給ふ『なんぢら「暫くせば我を見ず、また暫くして我を見るべし」と我が言ひしを尋ねあふか。 20誠にまことに汝らに告ぐ、なんぢらは泣き悲しみ、世は喜ばん。汝ら憂ふべし、然れどその憂は喜悦とならん。 21をんな産まんとする時は憂あり、その期いたるに因りてなり。子を産みてのちは苦痛をおぼえず、世に人の生れたる喜悦によりてなり。 22斯く汝らも今は憂あり、されど我ふたたび汝らを見ん、その時なんぢらの心よろこぶべし、その喜悦を奪ふ者なし。 23かの日には汝ら何事をも我に問ふまじ。誠にまことに汝らに告ぐ、汝 等のすべて父に求むる物をば、我が名によりて賜ふべし。 24なんぢら今までは何をも我が名によりて求めたることなし。求めよ、然らば受けん、而して汝らの喜悦みたさるべし。 25我これらの事を譬にて語りたりしが、また譬にて語らず、明白に父のことを汝らに告ぐるとき來らん。 26その日には汝 等わが名によりて求めん。我は汝らの爲に父に請ふと言はず、 27父みづから汝らを愛し給へばなり。これ汝 等われを愛し、また我の父より出で來りしことを信じたるに因る。 28われ父より出でて世にきたれり、また世を離れて父に往くなり』 29弟子たち言ふ『視よ、今は明白に語りて聊かも譬をいひ給はず。 30我ら今なんぢの知り給はぬ所なく、また人の汝 に問ふを待ち給はぬことを知る。之によりて汝の神より出できたり給ひしことを信ず』 31イエス答へ給ふ『なんぢら今、信ずるか。 32視よ、なんぢら散されて各自おのが處にゆき、我をひとり遺すとき到らん、否すでに到れり。然れど我ひとり居るにあらず、父われと偕に在すなり。 33此 等のことを汝らに語りたるは、汝ら我に在りて平安を得んが爲なり。なんぢら世にありては患難あり、されど雄々しかれ。我すでに世に勝てり』

第十七章

1イエスこれらの事を語りはて、目を擧げ天を仰ぎて言ひ給ふ『父よ、時 來れり、子が汝の榮光を顯さんために、汝の子の榮光を顯したまへ。 2汝より賜はりし凡ての者に、永遠の生命を與へしめんとて、萬民を治むる權威を子に賜ひたればなり。 3永遠の生命は、唯一の眞の神にいます汝と、なんぢの遣し給ひしイエス・キリストとを知るにあり。 4我に成さしめんとて汝の賜ひし業を成し遂げて、我は地上に汝の榮光をあらはせり。 5父よ、まだ世のあらぬ前に、わが汝と偕にもちたりし榮光をもて、今 御前にて我に榮光あらしめ給へ。 6世の中より我に賜ひし人々に、われ御名をあらはせり。彼らは汝の有なるを我に賜へり、而して彼らは汝の言を守りたり。 7今かれらは、凡て我に賜ひしものの汝より出づるを知る。 8我は我に賜ひし言を彼らに與へ、彼らは之を受け、わが汝より出でたるを眞に知り、なんぢの我を遣し給ひしことを信じたるなり。 9我かれらの爲に願ふ、わが願ふは世のためにあらず、汝の我に賜ひたる者のためなり、彼らは即ち汝のものなり。 10我がものは皆なんぢの有、なんぢの有は我がものなり、我かれらより榮光を受けたり。 11今より我は世に居らず、彼らは世に居り、我は汝にゆく。聖なる父よ、我に賜ひたる汝の御名の中に彼らを守りたまへ。これ我等のごとく、彼らの一つとならん爲なり。 12我かれらと偕にをる間、われに賜ひたる汝の御名の中に彼らを守り、かつ保護したり。其のうち一人だに亡びず、ただ亡の子のみ亡びたり、聖書の成就せん爲なり。 13今は我なんぢに往く、而して此等のことを世に在りて語るは、我が喜悦を彼らに全からしめん爲なり。 14我は御言を彼らに與へたり、而して世は彼らを憎めり、我の世のものならぬごとく、彼らも世のものならぬに因りてなり。 15わが願ふは、彼らを世より取り給はんことならず、惡より免れさらせ給はんことなり。 16我の世のものならぬ如く、彼らも世のものならず。 17眞理にて彼らを潔め別ちたまへ、汝の御言は眞理なり。 18汝われを世に遣し給ひし如く、我も彼らを世に遣せり。 19また彼 等のために我は己を潔めわかつ、これ眞理にて彼らも潔め別たれん爲なり。 20我かれらの爲のみならず、その言によりて我を信ずる者のためにも願ふ。 21これ皆 一つとならん爲なり。父よ、なんぢ我に在し、我なんぢに居るごとく、彼らも我らに居らん爲なり、是なんぢの我を遣し給ひしことを世の信ぜん爲なり。 22我は汝の我に賜ひし榮光を彼らに與へたり、是われらの一つなる如く、彼らも一つとならん爲なり。 23即ち我かれらに居り、汝われに在し、彼ら一つとなりて全くせられん爲なり、是なんぢの我を遣し給ひしことと、

我を愛し給ふごとく彼らをも愛し給ふこととを、世の知らん爲なり。24父よ、望むらくは、我に賜ひたる人々の我が居るところに我と偕にをり、世の創の前より我を愛し給ひしによりて、汝の我に賜ひたる我が榮光を見んことを。25正しき父よ、げに世は汝を知らず、されど我は汝を知り、この者どもも汝の我を遣し給ひしことを知れり。26われ御名を彼らに知らしめたり、復これを知らしめん。これ我を愛し給ひたる愛の、彼らに在りて、我も彼らに居らん爲なり』

第十八章

1此等のことを言ひ終へて、イエス弟子たちと偕にケデロンの小川の彼方に出でたまふ。彼処に園あり、イエス弟子たちとともども入り給ふ。2ここは弟子たちと屢々あつまり給ふ處なれば、イエスを賣るユダもこの處を知れり。3かくてユダは一組の兵隊と祭司長・パリサイ人等よりの下役どもとを受けて、炬火・燈火・武器を携へて此處にきたる。4イエス己に臨まんとする事をことごとく知り、進みいでて彼らに言ひたまふ『誰を尋ぬるか』5答ふ『ナザレのイエスを』イエス言ひたまふ『我はそれなり』イエスを賣るユダも彼らと共に立てり。6『我はそれなり』と言ひ給ひし時、かれら後退して地に倒れたり。7ここに再び『たれを尋ぬるか』と問ひ給へば『ナザレのイエスを』と言ふ。8イエス答へ給ふ『われは夫なりと既に告げたり、我を尋ぬるならば此の人々の去るを容せ』9これさきに『なんぢの我に賜ひし者の中より、われ一人をも失はず』と言ひ給ひし言の成就せん爲なり。10シモン・ペテロ劍をもちたるが、之を抜き大祭司の僕を撃ちて、その右の耳を斬り落す、僕の名はマルコスと云ふ。11イエス、ペテロに言ひたまふ『劍を鞘に収めよ、父の我に賜ひたる酒杯は、われ飲まざらんや』12ここにかの兵隊・千卒長・ユダヤ人の下役ども、イエスを捕へて縛り、13先づアンナスの許に曳き往く、アンナスはその年の大祭司なるカヤパの舅なり。14カヤパはさきにユダヤ人に、一人、民のために死ぬるは益なる事を勸めし者なり。15シモン・ペテロ及び他の一人の弟子、イエスに從ふ。この弟子は大祭司に知られたる者なれば、イエスと共に大祭司の庭に入りしが、16ペテロは門の外に立てり。ここに大祭司に知られたる彼の弟子いでて、門を守る女に物言ひてペテロを連れ入れしに、17門を守る婢女、ペテロに言ふ『なんぢも彼の人の弟子の一人なるか』かれ言ふ『然らず』18時寒くして僕・下役ども炭火を熾し、その傍らに立ちて煖まり居りしに、ペテロも共に立ちて煖まりゐたり。19ここに大祭司、イエスにその弟子とその教とにつきて問ひたれば、20イエス答へ給ふ『われ公然に世に語れり、凡てのユダヤ人の相集ふ會堂と宮とにて常に教へ、密には何をも語りし事なし。21何ゆゑ我に問ふか、我が語れることは聽きたる人々に問へ。視よ、彼らは我が言ひしことを知るなり』22かく言ひ給ふとき、傍らに立つ下役の一人、手掌にてイエスを打ちて言ふ『かくも大祭司に答ふるか』23イエス答へ給ふ『わが語りし言もし惡しくば、その惡しき故を證せよ。善くば何とて打つぞ』24ここにアンナス、イエスを縛りたるままにて、大祭司カヤパの許に送れり。25シモン・ペテロ立ちて煖まり居たるに、人々いふ『なんぢも彼が弟子の一人なるか』否みて言ふ『然らず』26大祭司の僕の一人にて、ペテロに耳を斬り落されし者の親族なるが言ふ『われ汝が園にて彼と偕なるを見しならずや』27ペテロまた否む折しも鷄鳴きぬ。28かくて人々イエスをカヤパの許より官邸にひきゆく、時は夜明なり。彼ら過越の食をなさんために、汚穢を受けじとて己らは官邸に入らず。29ここにピラト彼らの前に出でゆきて言ふ『この人に對して如何なる訴訟をなすか』30答へて言ふ『もし惡をなしたる者ならずば汝に付さじ』31ピラト言ふ『なんぢら彼を引取り、おのが律法に循ひて審け』ユダヤ人いふ『我らに人を殺す權威なし』32これイエス、己が如何なる死にて死ぬるかを示して、言ひ給ひし御言の成就せん爲なり。33ここにピラトまた官邸に入り、イエスを呼び出して言ふ『なんぢはユダヤ人の王なるか』34イエス答へ給ふ『これは汝おのれより言ふか、將わが事を人の汝に告げたるか』35ピラト答ふ『我はユダヤ人ならんや、汝の國人・祭司長ら汝を我に付したり、汝なにを爲ししぞ』36イエス答へ給ふ『わが國はこの世のものならず、若し我が國この世のものならば、我が僕ら我をユダヤ人に付さじと戰ひしならん。然れど我が國は此の世よりのものならず』37ここにピラト言ふ『されば汝は王なるか』イエス答へ給ふ『われの王たることは汝の言へるごとし。我は之がために生れ、之がために世に來れり、即ち眞理につきて證せん爲なり。凡て眞理に屬する者は我が聲をき

く』 38ピラト言ふ『眞理とは何ぞ』かく言ひて再びユダヤ人の前に出でて言ふ『我この人に何の罪あるをも見ず。 39過越のとき我なんぢらに一人の囚人を赦す例あり、されば汝らユダヤ人の王をわが赦さんことを望むか』 40彼らまた叫びて『この人ならず、バラバを』と言ふ、バラバは強盗なり。

第十九章

1ここにピラト、イエスをとりて鞭うつ。 2兵卒ども茨にて冠冕をあみ、その首にかむらせ、紫色の上衣をきせ、 3御許に進みて言ふ『ユダヤ人の王やすかれ』而して手掌にて打てり。 4ピラト再び出でて人々にいふ『視よ、この人を汝らに引出す、これは何の罪あるをも我が見ぬことを汝らの知らん爲なり』 5ここにイエス茨の冠冕をかむり、紫色の上衣をきて出で給へば、ピラト言ふ『視よ、この人なり』 6祭司長・下役どもイエスを見て叫びいふ『十字架につけよ、十字架につけよ』ピラト言ふ『なんぢら自らとりて十字架につけよ、我は彼に罪あるを見ず』 7ユダヤ人こたふ『我らに律法あり、その律法によれば死に當るべき者なり、彼はおのれを神の子となせり』 8ピラトこの言をききて増々おそれ、 9再び官邸に入りてイエスに言ふ『なんぢは何處よりぞ』イエス答をなし給はず。 10ピラト言ふ『われに語らぬか、我になんぢを赦す權威あり、また十字架につくる權威あるを知らぬか』 11イエス答へ給ふ『なんぢ上より賜はらずば、我に對して何の權威もなし。この故に我をなんぢに付しし者の罪は更に大なり』 12ここにおいてピラト、イエスを赦さんことを力む。されどユダヤ人さけびて言ふ『なんぢ若しこの人を赦さば、カイザルの忠臣にあらず、凡そおのれを王となす者はカイザルに叛くなり』 13ピラトこれらの言をききて、イエスを外にひきゆき、敷石（ヘブル語にてガバタ）といふ處にて審判の座につく。 14この日は過越の準備日にて、時は第六時ごろなりき。ピラト、ユダヤ人にいふ『視よ、なんぢらの王なり』 15かれら叫びていふ『除け、除け、十字架につけよ』ピラト言ふ『われ汝らの王を十字架につくべけんや』祭司長ら答ふ『カイザルの他われらに王なし』 16ここにピラト、イエスを十字架に釘くるために彼らに付せり。彼らイエスを受取りたれば、 17イエス己に十字架を負ひて、髑髏（ヘブル語にてゴルゴダ）といふ處に出でゆき給ふ。 18其處にて彼らイエスを十字架につく。又ほかに二人の者をともに十字架につけ、一人を右に、一人を左に、イエスを眞中に置けり。 19ピラト罪標を書きて十字架の上に掲ぐ『ユダヤ人の王、ナザレのイエス』と記したり。 20イエスを十字架につけし處は都に近ければ、多くのユダヤ人この標を讀む、標はヘブル、ロマ、ギリシヤの語にて記したり。 21ここにユダヤ人の祭司長らピラトに言ふ『ユダヤ人の王と記さず、我はユダヤ人の王なりと自稱せりと記せ』 22ピラト答ふ『わが記したることは記したるままに』 23兵卒どもイエスを十字架につけし後、その衣をとりて四つに分け、おのおの其の一つを得たり。また下衣を取りしが、下衣は縫目なく、上より惣て織りたる物なれば、 24兵卒ども互にいふ『これを裂くな、誰がうるか鬮にすべし』これは聖書の成就せん爲なり。曰く『かれら互にわが衣をわけ、わが衣を鬮にせり』兵卒ども斯くなしたり。 25さてイエスの十字架の傍らには、その母と母の姉妹と、クロパの妻マリヤとマグダラのマリヤと立てり。 26イエスその母とその愛する弟子との近く立てるを見て、母に言ひ給ふ『をんなよ、視よ、なんぢの子なり』 27また弟子に言ひたまふ『視よ、なんぢの母なり』この時より、その弟子かれを己が家に接けたり。 28この後イエス萬の事の終りたるを知りて、——聖書の全うせられん爲に——『われ渇く』と言ひ給ふ。 29ここに酸き葡萄酒の滿ちたる器あり、その葡萄酒のふくみたる海綿をヒソプに著けてイエスの口に差附く。 30イエスその葡萄酒をうけて後いひ給ふ『事畢りぬ』遂に首をたれて靈をわたし給ふ。 31この日は準備日なれば、ユダヤ人、安息日に屍體を十字架のうへに留めおかじとて（殊にこの度の安息日は大なる日なるにより）ピラトに、彼らの脛ををりて屍體を取除かんことを請ふ。 32ここに兵卒ども來りて、イエスとともに十字架に釘けられたる第一の者と他のものとの脛を折り、 33而してイエスに來りしに、はや死に給ふを見て、その脛を折らず。 34然るに一人の兵卒、鎗にてその脅をつきたれば、直ちに血と水と流れいづ。 35之を見しもの證をなす、其の證は眞なり、彼はその言ふことの眞なるを知る、これ汝等にも信ぜしめん爲なり。 36此等のことの成りたるは『その骨くだかれず』とある聖句の成就せん爲なり。 37また他に『かれら己が刺したる者を見るべし』と云へる聖句あり。 38この後、アリマタヤの

ヨセフとて、ユダヤ人を懼れ密にイエスの弟子たりし者、イエスの屍體を引取らんことをピラトに請ひたれば、ピラト許せり、乃ち往きてその屍體を引取る。39また曾て夜御許に來りしニコデモも、沒藥・沈香の混和物を百斤ばかり携へて來る。40ここに彼らイエスの屍體をとり、ユダヤ人の葬りの習慣にしたがひて、香料とともに布にて巻けり。41イエスの十字架につけられ給ひし處に園あり、園の中にいまだ人を葬りしことなき新しき墓あり。42ユダヤ人の準備日なれば、この墓の近きままに其處にイエスを納めたり。

第二十章

1一週のはじめの日、朝まだき暗きうちに、マグダラのマリヤ墓にきたりて、墓より石の取除けあるを見る。2乃ち走りゆき、シモン・ペテロとイエスの愛し給ひしかの弟子との許に到りて言ふ『たれか主を墓より取去れり、何處に置きしか我ら知らず』3ペテロと、かの弟子といでて墓にゆく。4二人ともに走りたれど、かの弟子ペテロより疾く走りて先に墓にいたり、5屈みて布の置きたるを見れど、内には入らず。6シモン・ペテロ後れ來り、墓に入りて布の置きたるを視、7また首を包みし手拭は布とともに在らず、他のところに巻きてあるを見る。8先に墓にきたれる彼の弟子もまた入り、之を見て信ず。9彼らは聖書に録したる、死人の中よりその甦へり給ふべきことを未だ悟らざりしなり。10遂に二人の弟子おのが家にかへれり。11然れどマリヤは墓の外に立ちて泣き居りしが、泣きつつ屈みて墓の内を見るに、12イエスの屍體の置かれし處に、白き衣をきたる二人の御使、首の方にひとり足の方にひとり坐しゐたり。13而してマリヤに言ふ『をんなよ、何ぞ泣くか』マリヤ言ふ『誰かわが主を取去れり、何處に置きしか我しらず』14かく言ひて後に振反れば、イエスの立ち居給ふを見る、されどイエスたるを知らず。15イエス言ひ給ふ『をんなよ、何ぞ泣く、誰を尋ぬるか』マリヤは園守ならんと思ひて言ふ『君よ、汝もし彼を取去りしならば、何處に置きしかを告げよ、われ引取るべし』16イエス『マリヤよ』と言ひ給ふ。マリヤ振反りて『ラボニ』（釋けば師よ）と言ふ。17イエス言ひ給ふ『われに觸るな、我いまだ父の許に昇らぬ故なり。我が兄弟たちに往きて「我はわが父すなはち汝らの父、わが神すなはち汝らの神に昇る」といへ』18マグダラのマリヤ往きて弟子たちに『われは主を見たり』と告げ、また云々の事を言ひ給ひしと告げたり。19この日すなはち一週のはじめの日の夕、弟子たちユダヤ人を懼るるに因りて、居るところの戸を閉ぢおきしに、イエスきたり彼らの中に立ちて言ひたまふ『平安なんぢらに在れ』20斯く言ひてその手と脅とを見せたまふ、弟子たち主を見て喜べり。21イエスまた言ひたまふ『平安なんぢらに在れ、父の我を遣し給へるごとく、我も亦なんぢらを遣す』22斯く言ひて、息を吹きかけ言ひたまふ『聖靈をうけよ。23なんじら誰の罪を赦すとも其の罪ゆるされ、誰の罪を留むるとも其の罪とどめらるべし』24イエス來り給ひしとき、十二弟子の一人デドモと稱ふるトマスともに居らざりしかば、25他の弟子これに言ふ『われら主を見たり』トマスいふ『我はその手に釘の痕を見、わが指を釘の痕にさし入れ、わが手をその脅に差入るるにあらずば信ぜじ』26八日ののち弟子たちまた家にをり、トマスも偕に居りて戸を閉ぢおきしに、イエス來り、彼らの中に立ちて言ひたまふ『平安なんぢらに在れ』27またトマスに言ひ給ふ『なんぢの指をここに伸べて、わが手を見よ、汝の手をのべて、我が脅にさしいれよ、信ぜぬ者とならで信ずる者となれ』28トマス答へて言ふ『わが主よ、わが神よ』29イエス言ひ給ふ『なんぢ我を見しによりて信じたり、見ずして信ずる者は幸福なり』30この書に録さざる外の多くの徴を、イエス弟子たちの前にて行ひ給へり。31されど此等の事を録ししは、汝等をしてイエスの神の子キリストたることを信ぜしめ、信じて御名により生命を得しめんが爲なり。

第二十一章

1この後、イエス復テベリヤの海邊にて己を弟子たちに現し給ふ、その現れ給ひしこと左のごとし。2シモン・ペテロ、デドモと稱ふるトマス、ガリラヤのカナのナタナエル、ゼベダイの子ら及びほかの弟子二人もともに居りしに、3シモン・ペテロ『われ漁獵にゆく』と言へば、彼ら『われらも共に往かん』と言ひ、皆いでて舟に乗りしが、その夜は何をも得ざりき。4夜明の頃イエス岸に立ち給ふに、弟子たち其のイエスなるを知らず。5イエス言ひ給ふ『子どもよ、獲物ありしか』彼ら『なし』と答ふ。6イエス言ひたまふ『舟の右のかたに網を

おろせ、然らば獲物あらん』乃ち網を下したるに、魚おびただしくして、網を曳き上ぐること能はざりしかば、7イエスの愛し給ひし弟子、ペテロに言ふ『主なり』シモン・ペテロ『主なり』と聞きて、裸なりしを上衣をまとひて海に飛びいれり。8他の弟子たちは陸を離るること遠からず、僅に五十間ばかりなりしかば、魚の入りたる網を小舟にて曳き來り、9陸に上りて見れば、炭火ありてその上に肴あり、又パンあり。10イエス言ひ給ふ『なんぢらの今とりたる肴を少し持ちきたれ』11シモン・ペテロ舟に往きて網を陸に曳き上げしに、百五十三尾の大なる魚滿ちたり、斯く多かりしが網は裂けざりき。12イエス言ひ給ふ『きたりて食せよ』弟子たちその主なるを知れば『なんぢは誰ぞ』と敢へて問ふ者もなし。13イエス進みてパンをとり彼らに與へ、肴をも然なし給ふ。14イエス死人の中より甦へりてのち、弟子たちに現れ給ひし事、これにて三度なり。15かくて食したる後、イエス、シモン・ペテロに言ひ給ふ『ヨハネの子シモンよ、汝この者どもに勝りて我を愛するか』ペテロいふ『主よ、然り、わが汝を愛する事は、なんぢ知り給ふ』イエス言ひ給ふ『わが羔羊を養へ』16また二度いひ給ふ『ヨハネの子シモンよ、我を愛するか』ペテロ言ふ『主よ、然り、わが汝を愛する事は、なんぢ、知り給ふ』イエス言ひ給ふ『わが羊を牧へ』17三度いひ給ふ『ヨハネの子シモンよ、我を愛するか』ペテロ三度『われを愛するか』と言ひ給ふを憂ひて言ふ『主よ、知りたまはぬ處なし、わが汝を愛する事は、なんぢ識りたまふ』イエス言ひ給ふ『わが羊をやしなへ。18まことに誠になんぢに告ぐ、なんぢ若かりし時は自ら帶して欲する處を歩めり、されど老いては手を伸べて他の人に帶せられ、汝の欲せぬ處に連れゆかれん』19これペテロが如何なる死にて神の榮光を顯すかを示して言ひ給ひしなり。斯く言ひて後かれに言ひ給ふ『われに從へ』20ペテロ振反りて、イエスの愛したまひし弟子の從ふを見る。これはさきに夕餐のとき御胸に倚りかかりて『主よ、汝を賣る者は誰か』と問ひし弟子なり。21ペテロこの人を見てイエスに言ふ『主よ、この人は如何に』22イエス言ひ給ふ『よしや我、かれが我の來るまで留るを欲すとも、汝になにの關係あらんや、汝は我に從へ』23ここに兄弟たちの中に、この弟子死なずと云ふ話つたはりたり。されどイエスは死なずと言ひ給ひしにあらず『よしや我、かれが我の來るまで留るを欲すとも、汝になにの關係あらんや』と言ひ給ひしなり。24これらの事につきて、證をなし、又これを録しし者は、この弟子なり、我等はその證の眞なるを知る。25イエスの行ひ給ひし事は、この外なほ多し、もし一つ一つ録さば、我おもふに世界もその録すところの書を載するに耐へざらん。

使徒行傳

第一章

1テオピロよ、我さきに前の書をつくりて、凡そイエスの行ひはじめ教へはじめ給ひしより、2その選び給へる使徒たちに、聖靈によりて命じたるのち、擧げられ給ひし日に至るまでの事を記せり。3イエスは苦難をうけしのち、多くの慥なる證をもて、己の活きたることを使徒たちに示し、四十日の間、しばしば彼らに現れて、神の國のことを語り、4また彼等とともに集りゐて命じたまふ『エルサレムを離れずして、我より聞きし父の約束を待て。5ヨハネは水にてバプテスマを施ししが、汝らは日ならずして聖靈にてバプテスマを施されん』6弟子たち集れるとき問ひて言ふ『主よ、イスラエルの國を回復し給ふは此の時なるか』7イエス言ひたまふ『時また期は父おのれの權威のうちに置き給へば、汝らの知るべきにあらず。8然れど聖靈なんぢらの上に臨むとき、汝ら能力をうけん、而してエルサレム、ユダヤ全國、サマリヤ、及び地の極にまで我が證人とならん』9此等のことを言ひ終りて、彼らの見るがうちに擧げられ給ふ。雲これを受けて見えざらしめたり。10その昇りゆき給ふとき、彼ら天に目を注ぎゐたりしに、視よ、白き衣を著たる二人の人かたはらに立ちて言ふ、11『ガリラヤの人々よ、何ゆゑ天を仰ぎて立つか、汝らを離れて天に擧げられ給ひし此のイエスは、汝らが天に昇りゆくを見たるその如く復きたり給はん』12ここに彼等オリブといふ山よりエルサレムに歸る。この山はエルサレムに近く、安息日の道程なり。13既に入りてその留りをる高樓に登る。

ペテロ、ヨハネ、ヤコブ及びアンデレ、ピリポ及びトマス、バルトロマイ及びマタイ、アルパヨの子ヤコブ、熱心黨のシモン及びヤコブの子ユダなり。 14この人々はみな女たち及びイエスの母マリヤ、イエスの兄弟たちと共に、心を一つにして只管いのりを務めゐたり。 15その頃ペテロ、百二十名ばかり共に集りて群をなせる兄弟たちの中に立ちて言ふ、 16『兄弟たちよ、イエスを捕ふる者どもの手引となりしユダにつきて、聖靈ダビデの口によりて預じめ言ひ給ひし聖書は、かならず成就せざるを得ざりしなり。 17彼は我らの中に數へられ、此の務に與りたればなり。 18（この人は、かの不義の價をもて地所を得、また俯伏に墜ちて直中より裂けて臟腑みな流れ出でたり。 19この事エルサレムに住む凡ての人に知られて、その地所は國語にてアケルダマと稱へらる、血の地所との義なり） 20それは詩篇に録して「彼の住處は荒れ果てよ、人その中に住はざれ」と云ひ、又「その職はほかの人に得させよ」と云ひたり。 21然れば主イエス我等のうちに往來し給ひし間、 22即ちヨハネのバプテスマより始り、我らを離れて擧げられ給ひし日に至るまで、常に我らと偕に在りし此の人々のうち一人、われらと共に主の復活の證人となるべきなり』 23ここにバルサバと稱へられ、またの名をユストと呼ばるるヨセフ及びマツテヤの二人をあげ、 24祈りて言ふ『凡ての人の心を知りたまふ主よ、ユダ己が所に往かんとて此の務と使徒の職とより墮ちたれば、その後を繼がするに、此の二人のうち孰を選び給ふか示したまへ』 25祈りて言ふ『凡ての人の心を知りたまふ主よ、ユダ己が所に往かんとて此の務と使徒の職とより墮ちたれば、その後を繼がするに、此の二人のうち孰を選び給ふか示したまへ』 26かくて鬮せしに、鬮はマツテヤに當りたれば、彼は十一の使徒に加へられたり。

第二章

1五旬節の日となり、彼らみな一處に集ひ居りしに、 2烈しき風の吹ききたるごとき響、にはかに天より起りて、その坐する所の家に滿ち、 3また火の如きもの舌のやうに現れ、分れて各人の上にとどまる。 4彼らみな聖靈にて滿され、御靈の宣べしむるままに異邦の言にて語りはじむ。 5時に敬虔なるユダヤ人ら、天下の國々より來りてエルサレムに住み居りしが、 6この音おこりたれば群衆あつまり來り、おのおの己が國語にて使徒たちの語るを聞きて騒ぎ合ひ、 7かつ驚き怪しみて言ふ『視よ、この語る者は皆ガリラヤ人ならずや、 8如何にして我等おのおのの生れし國の言をきくか。 9我等はパルテヤ人、メヂヤ人、エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポント、アジヤ、 10フルギヤ、パンフリヤ、エジプト、リビヤのクレネに近き地方などに住む者、ロマよりの旅人——ユダヤ人および改宗者—— 11クレテ人およびアラビヤ人なるに、我が國語にて彼らが神の大なる御業をかたるを聞かんとは』 12みな驚き惑ひて互に言ふ『これ何事ぞ』 13或者どもは嘲りて言ふ『かれらは甘き葡萄酒にて滿されたり』 14ここにペテロ十一の使徒とともに立ち、聲を揚げ宣べて言ふ『ユダヤの人々および凡てエルサレムに住める者よ、汝等わが言に耳を傾けて、この事を知れ。 15今は朝の九時なれば、汝らの思ふごとく彼らは醉ひたるに非ず、 16これは預言者ヨエルによりて言はれたる所なり。 17「神いひ給はく、末の世に至りて、我が靈を凡ての人に注がん。汝らの子女は預言し、汝らの若者は幻影を見、なんぢらの老人は夢を見るべし。 18その世に至りて、わが僕・婢女にわが靈を注がん、彼らは預言すべし。 19われ上は天に不思議を、下は地に徴をあらはさん、即ち血と火と煙の氣とあるべし。 20主の大なる顯著しき日のきたる前に、日は闇に月は血に變らん。 21すべて主の御名を呼び頼む者は救はれん」 22イスラエルの人々よ、これらの言を聽け。ナザレのイエスは、汝らの知るごとく、神かれに由りて汝らの中に行ひ給ひし能力ある業と不思議と徴とをもて、汝らに證し給へる人なり。 23この人は神の定め給ひし御旨と、預じめ知り給ふ所とによりて付されしが、汝ら不法の人の手をもて釘磔にして殺せり。 24然れど神は死の苦難を解きて之を甦へらせ給へり。彼は死に繋がれをるべき者ならざりしなり。 25ダビデ彼につきて言ふ「われ常に我が前に主を見たり、我が動かされぬ爲に我が右に在せばなり。 26この故に我が心は樂しみ、我が舌は喜べり、かつ我が肉體もまた望の中に宿らん。 27汝わが靈魂を黄泉に棄て置かず、汝の聖者の朽果つることを許し給はざればなり。 28汝は生命の道を我に示し給へり、御顔の前にて我に歡喜を滿し給はん」 29兄弟たちよ、先祖ダビデに就きて、われ憚らず汝らに言ふを得べし、彼は死にて葬られ、その墓は今日に至るまで我らの中に

あり。30即ち彼は預言者にして、己の身より出づる者をおのれの座位に坐せしむることを、誓をもて神の約し給ひしを知り、31先見して、キリストの復活に就きて語り、その黄泉に棄て置かれず、その肉體の朽果てぬことを言へるなり。32神はこのイエスを甦へらせ給へり、我らは皆その證人なり。33イエスは神の右に擧げられ、約束の聖靈を父より受けて、汝らの見聞する此のものを注ぎ給ひしなり。34それダビデは天に昇りしことなし、然れど自ら言ふ「主わが主に言ひ給ふ、35我なんぢの敵を汝の足臺となすまでは、わが右に坐せよ」と。36然ればイスラエルの全家は確と知るべきなり。汝らが十字架に釘けし此のイエスを、神は立てて主となし、キリストとなし給へり』37人々これを聞きて心を刺され、ペテロと他の使徒たちとに言ふ『兄弟たちよ、我ら何をなすべきか』38ペテロ答ふ『なんぢら悔改めて、おのおの罪の赦を得んために、イエス・キリストの名によりてバプテスマを受けよ、然らば聖靈の賜物を受けん。39この約束は汝らと汝らの子らと、凡ての遠き者すなはち主なる我らの神の召し給ふ者とに屬くなり』40この他なほ多くの言をもて證し、かつ勸めて『この曲れる代より救ひ出されよ』と言へり。41かくてペテロの言を聽納れし者はバプテスマを受く。この日、弟子に加はりたる者、おほよそ三千人なり。42彼らは使徒たちの教を受け、交際をなし、パンを擘き、祈祷をなすことを只管つとむ。43ここに人みな敬畏を生じ、多くの不思議と徴とは使徒たちに由りて行はれたり。44信じたる者はみな偕に居りて諸般の物を共にし、45資産と所有とを賣り、各人の用に從ひて分け與へ、46日々、心を一つにして弛みなく宮に居り、家にてパンをさき、勸喜と眞心とをもて食事をなし、47神を讃美して一般の民に悦ばる。かくて主は救はるる者を日々かれらの中に加へ給へり。

第三章

1晝の三時いのりの時に、ペテロとヨハネと宮に上りしが、2ここに生れながらの跛者かかれて來る。宮に入る人より施濟を乞ふために、日々宮の美麗といふ門に置かるるなり。3ペテロとヨハネとの宮に入らんとするを見て施濟を乞ひたれば、4ペテロ、ヨハネと共に目を注めて『我らを見よ』と言ふ。5かれ何をか受くるならんと、彼らを見つめたるに、6ペテロ言ふ『金銀は我になし、然れど我に有るものを汝に與ふ、ナザレのイエス・キリストの名によりて歩め』7乃ち右の手を執りて起しに、足の甲と踝骨とたちどころに強くなりて、8躍り立ち歩み出して、且あゆみ且をどり、神を讃美しつつ彼らと共に宮に入れり。9民みな其の歩み、また神を讃美するを見て、10彼が前に乞食にて宮の美麗門に坐しゐたるを知れば、この起りし事に就きて驚駭と奇異とに充ちたり。11かくて彼がペテロとヨハネとに取りすがり居るほどに、民みな甚だしく驚きてソロモンの廊と稱ふる廊に馳せつどふ。12ペテロこれを見て民に答ふ『イスラエルの人々よ、何ぞ此の事を怪しむか、何ぞ我らが己の能力と敬虔とによりて此の人を歩ませしごとく、我らを見つむるか。13アブラハム、イサク、ヤコブの神、われらの先祖の神は、その僕イエスに榮光あらしめ給へり。汝 等このイエスを付し、ピラトの之を釋さんと定めしを、其の前にて否みたり。14汝らは、この聖者・義人を否みて、殺人者を釋さんことを求め、15生命の君を殺したれど、神はこれを死人の中より甦へらせ給へり、我らは其の證人なり。16斯くてその御名を信ずるに因りてその御名は、汝らの見るところ識るところの此の人を健くしたり。イエスによる信仰は、汝 等もろもろの前にて斯かる全癒を得させたり。17兄弟よ、われ知る、汝らが、かの事を爲しは知らぬに因りてなり。汝らの司たちも亦然り。18然れど神は凡ての預言者の口をもて、キリストの苦難を受くべきことを預じめ告げ給ひしを、斯くは成就し給ひしなり。19然れば汝ら罪を消されん爲に、悔改めて心を轉ぜよ。20これ主の御前より慰安の時きたり、汝らの爲に預じめ定め給へるキリスト・イエスを遣し給はんとてなり。21古へより神が、その聖なる預言者の口によりて語り給ひし、萬物の革まる時まで、天は必ずイエスを受けおくべし。22モーセ云へらく「主なる神は汝らの兄弟の中より我がごとき預言者を起し給はん。その語る所のことは汝 等ことごとく聽くべし。23凡てこの預言者に聽かぬ者は民の中より滅し盡さるべし」24又サムエル以來かたりし預言者も、皆この時につきて宣傳へたり。25汝らは預言者たちの子孫なり、又なんぢらの先祖たちに神の立て給ひし契約の子孫なり、即ち神アブラハムに告げ給はく「なんぢの裔によりて地の諸族はみな祝福せらるべし」26神はその僕を甦へらせ、まづ

汝らに遣し給へり、これ汝ら各人を、その罪より呼びかへして祝福せん爲なり』

第四章

1かれら民に語り居るとき、祭司ら・宮守頭およびサドカイ人ら近づき來りて、2その民を教へ、又イエスの事を引きて死人の中よりの復活を宣ぶるを憂ひ、3手をかけて之を捕へしに、はや夕になりたれば、明くる日まで留置場に入れたり。4然れど、その言を聽きたる人々の中にも信ぜし者おほくありて、男の數おほよそ五千人となりたり。5明くる日、司・長老・學者らエルサレムに會し、6大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレキサンデル及び大祭司の一族みな集ひて、7その中にかの二人を立てて問ふ『如何なる能力いかなる名によりて此の事を行ひしぞ』8この時ペテロ聖靈にて滿され、彼らに言ふ『民の司たち及び長老たちよ、9我らが病める者になしし善き業に就き、その如何にして救はれしかを今日もし訊さるるならば、10汝ら一同およびイスラエルの民みな知れ、この人の健かになりて汝らの前に立つは、ナザレのイエス・キリスト、即ち汝らが十字架に釘け、神が死人の中より甦へらせ給ひし者の名に頼ることを。11このイエスは汝ら造家者に輕しめられし石にして、隅の首石となりたるなり。12他の者によりては救を得ることなし、天の下には我らの頼りて救はるべき他の名を、人に賜ひし事なければなり』13彼らはペテロとヨハネとの臆することなきを見、その無學の凡人なるを知りたれば、之を怪しみ、且そのイエスと偕にありし事を認む。14また醫されたる人の之とともに立つを見るによりて、更に言ひ消す辭なし。15ここに、命じて彼らを衆議所より退け、相共に議りて言ふ、16『この人々を如何にすべきぞ。彼等によりて顯著しき徴の行はれし事は、凡てエルサレムに住む者に知られ、我ら之を否むこと能はねばなり。17然れど愈々ひろく民の中に言ひ弘らぬやうに、彼らを脅かして、今より後かの名によりて誰にも語る事なからしめん』18乃ち彼らを呼び、一切イエスの名によりて語り、また教へざらんことを命じたり。19ペテロとヨハネと答へていふ『神に聽くよりも汝らに聽くは、神の御前に正しきか、汝ら之を審け。20我らは見しこと聽きしことを語らざるを得ず』21民みな此の有りし事に就きて神を崇めたれば、彼らを罰するに由なく、更にまた脅かして釋せり。22かの徴によりて醫されし人は四十歳餘なりしなり。23彼ら釋されて、その友の許にゆき、祭司長・長老らの言ひし凡てのことを告げたれば、24之を聞きて皆心を一つにし、神に對ひ、聲を揚げて言ふ『主よ、汝は天と地と海と、其の中のあらゆる物とを造り給へり。25曾て聖靈によりて、汝の僕われらの先祖ダビデでの口をもて「何ゆゑ異邦人は騷ぎ立ち、民らは空しき事を謀るぞ。26世の王たちは共に立ち、司らは一つにあつまりて、主および其のキリストに逆ふ」と宣給へり。27果してヘロデとポンテオ・ピラトとは、異邦人およびイスラエルの民等とともに、汝の油そそぎ給ひし聖なる僕イエスに逆ひて、此の都にあつまり、28御手と御旨とにて、斯く成るべしと預じめ定め給ひし事をなせり。29主よ、今かれらの脅喝を御覽し、僕らに御言を聊かも臆することなく語らせ、30御手をのべて醫を施させ、汝の聖なる僕イエスの名によりて、徴と不思議とを行はせ給へ』31祈り終へしとき、其の集りをる處ふるひ動き、みな聖靈にて滿され、臆することなく神の御言を語れり。32信じたる者の群は、おなじ心おなじ思となり、誰一人その所有を己が者と謂はず、凡ての物を共にせり。33かくて使徒たちは大なる能力をもて、主イエスの復活の證をなし、みな大なる恩惠を蒙りたり。34彼らの中には一人の乏しき者もなかりき。これ地所あるいは家屋を有てる者、これを賣り、その賣りたる物の價を持ち來りて、35使徒たちの足下に置きしを、各人その用に隨ひて分け與へられたればなり。36ここにクプロに生れたるレビ人にて、使徒たちにバルナバ（釋けば慰籍の子）と稱へらるるヨセフ、37畑ありしを賣りて其の金を持ちきたり、使徒たちの足下に置けり。

第五章

1然るにアナニヤと云ふ人、その妻サツピラと共に資産を賣り、2その價の幾分を匿しおき、殘る幾分を持ちきたりて使徒たちの足下に置きしが、3妻も之を與れり。ここにペテロ言ふ『アナニヤよ、何故なんぢの心サタンに滿ち、聖靈に對し詐りて、地所の價の幾分を匿したるぞ。4有りし時は汝の物なり、賣りて後も汝の權の内にあるに非ずや、何とて斯ることを心に企てし。なんぢ人に對してにあらず、神に對して詐りしなり』5アナニヤこの言をきき、倒れて息絶ゆ。これを聞く者みな大なる

懼を懐く。6若者ども立ちて彼を包み、舁き出して葬れり。7凡そ三時間を經て、その妻この有りし事を知らずして入り來りしに、8ペテロ之に向ひて言ふ『なんぢら此程の價にてかの地所を賣りしか、我に告げよ』女いふ『然り、此程なり』9ペテロ言ふ『なんぢら何ぞ心を合せて主の御靈を試みんとせしか、視よ、なんぢの夫を葬りし者の足は門口にあり、汝をもまた舁き出すべし』10をんな立刻にペテロの足下に倒れて息絶ゆ。若者ども入り來りて、その死にたるを見、これを舁き出して夫の傍らに葬れり。11ここに全教會および此等のことを聞く者みな大なる懼を懐けり。12使徒たちの手によりて多くの徴と不思議と民の中に行はれたり。彼等はみな心を一つにして、ソロモンの廊にあり。13他の者どもは敢へて近づかず、民は彼らを崇めたり。14信ずるもの男女とも増々おほく主に屬けり。15終には人々、病める者を大路に舁ききたり、寢臺または床の上におく。此等のうち誰にもせよ、ペテロの過ぎん時、その影になりと庇はれんとてなり。16又エルサレムの周圍の町々より多くの人々、病める者・穢れし靈に惱されたる者を携へきたりて集ひたりしが、みな醫されたり。17ここに大祭司および之と偕なる者、即ちサドカイ派の人々、みな嫉に滿されて立ち、18使徒たちに手をかけて之を留置場に入る。19然るに主の使、夜、獄の戸をひらき、彼らを連れ出して言ふ、20『往きて宮に立ち、この生命の言をことごとく民に語れ』21かれら之を聞き、夜明がた宮に入りて教ふ。大祭司および之と偕なる者ども集ひきたりて、議會とイスラエル人の元老とを呼びあつめ、使徒たちを曳き來らせんとて人を牢舍に遣したり。22下役ども往きしに、獄のうちに彼らの居らぬを見て、歸りきたり告げて言ふ、23『われら牢舍の堅く閉ぢられて、戸の前に牢番の立ちたるを見しに、開きて見れば、内には誰も居らざりき』24宮守頭および祭司長らこの言を聞きて、如何になりゆくべきかと惑ひいたるに、25或人きたり告げて言ふ『視よ、汝らの獄に入れし人は、宮に立ちて民を教へ居るなり』26ここに宮守頭、下役を伴ひて出でゆき、彼らを曳き來る。されど手暴きことをせざりき、これ民より石にて打たれんことを恐れたるなり。27彼らを連れ來りて議會の中に立てたれば、大祭司問ひて言ふ、28『我等かの名によりて教ふることを堅く禁ぜしに、視よ、汝らは其の教をエルサレムに滿し、かの人の血を我らに負はせんとす』29ペテロ及び他の使徒たち答へて言ふ『人に從はんよりは神に從ふべきなり。30我らの先祖の神はイエスを起し給ひしに、汝らは之を木に懸けて殺したり。31神は彼を君とし救主として己が右にあげ、悔改と罪の赦とをイスラエルに與へしめ給ふ。32我らは此の事の證人なり。神のおのれに從ふ者に賜ふ聖靈もまた然り』33かれら之をききて怒に滿ち、使徒たちを殺さんと思へり。34然るにパリサイ人にて凡ての民に尊ばるる教法學者ガマリエルと云ふもの、議會の中に立ち、命じて使徒たちを暫く外に出さしめ、議員らに向ひて言ふ、35『イスラエルの人よ、汝らが此の人々に爲さんとする事につきて心せよ。36前にチウダ起りて、自ら大なりと稱し、之に附隨ふ者の數およそ四百人なりしが、彼は殺され、從へる者はみな散されて跡なきに至れり。37そののち戸籍登録のときガリラヤのユダ起りて、多くの民を誘ひおのれに從はしめしが、彼も亡び從へる者もことごとく散されたり。38然れば今なんぢらに言ふ、この人々より離れて、その爲すに任せよ。若しその企圖その所作、人より出でたらんにはおのづから壞れん。39もし神より出でたらんには彼らを壞ること能はず、恐らくは汝ら神に敵する者とならん』40彼等その勸告にしたがひ、遂に使徒たちを呼び出して之を鞭うち、イエスの名によりて語ることを堅く禁じて釋せり。41使徒たちは御名のために辱しめらるるに相應しき者とせられたるを喜びつつ、議員らの前を出で去れり。42かくて日毎に宮また家にて教をなし、イエスのキリストなる事を宣傳へて止まざりき。

第六章

1そのころ弟子のかず増加はり、ギリシヤ語のユダヤ人、その寡婦らが日々の施濟に漏されたれば、ヘブル語のユダヤ人に對して呟く事あり。2ここに十二使徒すべての弟子を呼び集めて言ふ『われら神の言を差措きて、食卓に事ふるは宜しからず。3然れば兄弟よ、汝らの中より御靈と智慧とにて滿ちたる令聞ある者七人を見出せ、それに此の事を掌どらせん。4我らは專ら祈をなすことと、御言に事ふることとを務めん』5集れる凡ての者この言を善しとし、信仰と聖靈とにて滿ちたるステパノ及びピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、またアンテオケの改宗者ニコラオを選びて、6使徒

たちの前に立てたれば、使徒たち祈りて手をその上に按けり。7かくて神の言ますます弘り、弟子の數エルサレムにて甚だ多くなり、祭司の中にも信仰の道に從へるもの多かりき。8さてステパノは恩惠と能力とにて滿ち、民の中に大なる不思議と徴とを行へり。9ここに世に稱ふるリベルテンの會堂およびクレネ人、アレキサンデリヤ人、またキリキヤとアジヤとの人の諸會堂より、人々起ちてステパノと論ぜしが、10その語るところの智慧と御靈とに敵すること能はず。11乃ち或者どもを唆かして『我らはステパノが、モーセと神とを瀆す言をいふを聞けり』と言はしめ、12民および長老・學者らを煽動し、俄に來りてステパノを捕へ、議會に曳きゆき、13僞證者を立てて言はしむ『この人はこの聖なる所と律法とに逆ふ言を語りて止まず、14即ち、かのナザレのイエスは此の所を毀ち、かつモーセの傳へし例を變ふべしと、彼が云へるを聞けり』と。15ここに議會に坐したる者みな目を注ぎてステパノを見しに、その顏は御使の顏の如くなりき。

第七章

1かくて大祭司いふ『此等のこと果してかくの如きか』2ステパノ言ふ『兄弟たち親たちよ、聽け、我らの先祖アブラハム未だカランに住まずして尚メソポタミヤに居りしとき、榮光の神あらはれて、3「なんぢの土地、なんぢの親族を離れて、我が示さんとする地に往け」と言ひ給へり。4ここにカルデヤの地に出でてカランに住みたりしが、その父の死にしのち、神は彼を彼處より汝らの今住める此の地に移らしめ、5此處にて足、蹈立つる程の地をも嗣業に與へ給はざりき。然るに、その地を未だ子なかりし彼と彼の裔とに所有として與へんと約し給へり。6神また其の裔は他の國に寄寓人となり、その國人は之を四百年のあひだ奴隸となして苦しめん事を告げ給へり。7神いひ給ふ「われは彼らを奴隸とする國人を審かん、然るのち彼等その國を出で、この處にて我に事へん」8神また割禮の契約をアブラハムに與へ給ひたれば、イサクを生みて八日めに之に割禮を行へり。イサクはヤコブを、ヤコブは十二の先祖を生めり。9先祖たちヨセフを嫉みてエジプトに賣りしに、神は彼と偕に在して、10凡ての患難より之を救ひ出し、エジプトの王パロの前にて寵愛を得させ、また智慧を與へ給ひたれば、パロ之を立ててエジプトと己が全家との宰となせり。11時にエジプトとカナンの全地とに飢饉ありて大なる患難おこり、我らの先祖たち糧を求め得ざりしが、12ヤコブ、エジプトに穀物あるを聞きて、先づ我らの先祖たちを遣す。13二度めの時ヨセフその兄弟たちに知られ、ヨセフの氏族パロに明かになれり。14ヨセフ言ひ遣して己が父ヤコブと凡ての親族と七十五人を招きたれば、15ヤコブ、エジプトに下り、彼處にて己も我らの先祖たちも死にたり。16彼等シケムに送られ、曾てアブラハムがシケムにてハモルの子等より銀をもて買ひ置きし墓に葬られたり。17かくて神のアブラハムに語り給ひし約束の時近づくに隨ひて、民はエジプトに蕃えひろがり、18ヨセフを知らぬ他の王、エジプトに起るに及べり。19王は惡計をもて我らの同族にあたり、我らの先祖たちを苦しめて、其の嬰兒の生存ふる事なからんやう、之を棄つるに至らしめたり。20その頃モーセ生れて甚うるはしくして三月のあいだ父の家に育てられ、21遂に棄てられしを、パロの娘ひき上げて己が子として育てたり。22かくてモーセはエジプト人の凡ての學術を教へられ、言と業とに能力あり。23年齡四十になりたる時、おのが兄弟たるイスラエルの子孫を顧みる心おこり、24一人の害はるるを見て之を護り、エジプト人を擊ちて、虐げらるる者の仇を復せり。25彼は己の手によりて神が救を與へんとし給ふことを、兄弟たち悟りしならんと思ひたるに、悟らざりき。26翌日かれらの相爭ふところに現れて和睦を勸めて言ふ「人々よ、汝らは兄弟なるに、何ぞ互に害ふか」27隣を害ふ者モーセを押退けて言ふ「誰が汝を立てて我らの司また審判人とせしぞ、28昨日エジプト人を殺したる如く、我をも殺さんとするか」29この言により、モーセ遁れてミデアンの地の寄寓人となり、彼處にて二人の子を儲けたり。30四十年を歷て後シナイ山の荒野にて、御使、柴の焰のなかに現れたれば、31モーセ之を見て視るところを怪しみ、認めんとして近づきしとき、主の聲あり。曰く、32「我は汝の先祖たちの神、即ちアブラハム、イサク、ヤコブの神なり」モーセ戰慄き敢へて認むることを爲ず。33主いひ給ふ「なんぢの足の鞋を脫げ、なんぢの立つところは聖なる地なり。34我エジプトに居る我が民の苦難を見、その歎息をききて之を救はん爲に降れり。いで我なんぢをエジプトに遣さん」35斯く彼らが「誰が汝を立てて司また審判人

とせしぞ」と言ひて拒みし此のモーセを、神は柴のなかに現れたる御使の手により、司また救人として遣し給へり。36この人かれらを導き出し、エジプトの地にても、また紅海および四十年のあひだ荒野にても、不思議と徴とを行ひたり。37イスラエルの子らに「神は汝らの兄弟の中より、我がごとき預言者を起し給はん」と云ひしは此のモーセなり。38彼はシナイ山にて語りし御使および我らの先祖たちと偕に荒野なる集會に在りて汝らに與へん爲に生ける御言を授りし人なり。39然るに我らの先祖たちは此の人に從ふことを好まず、反つて之を押退け、その心エジプトに還りて、40アロンに言ふ「我らに先だち往くべき神々を造れ、我らをエジプトの地より導き出しし、かのモーセの如何になりしかを知らざればなり」41その頃かれら犢を造り、その偶像に犠牲をささげて己が手の所作を喜べり。42爰に神は彼らを離れ、その天の軍勢に事ふるに任せ給へり。これは預言者たちの書に「イスラエルの家よ、なんぢら荒野にて四十年の間、屠りし畜と犠牲とを我に献げしや。43汝らは拝せんとして造れる像、すなはちモロクの幕屋と神ロンパの星とを舁きたり。われ汝らをバビロンの彼方に移さん」と録されたるが如し。44我らの先祖たちは荒野にて證の幕屋を有てり、モーセに語り給ひし者の、彼が見し式に循ひて造れと命じ給ひしままなり。45我らの先祖たちは之を承け繼ぎ、先祖たちの前より神の逐ひいだし給ひし異邦人の領地を收めし時、ヨシユアとともに携へ來りてダビデの日に及べり。46ダビデ神の前に恩惠を得て、ヤコブの神のために住處を設けんと求めたり。47而して、その家を建てたるはソロモンなりき。48されど至高者は手にて造れる所に住み給はず、即ち預言者の49「主のたまはく、天は我が座位、地は我が足臺なり。汝 等わが爲に如何なる家をか建てん、わが休息のところは何處なるぞ。50わが手は凡て此 等の物を造りしにあらずや」と云へるが如し。51項強くして心と耳とに割禮なき者よ、汝らは常に聖靈に逆ふ、その先祖たちの如く汝らも然り。52汝らの先祖たちは預言者のうちの誰をか迫害せざりし。彼らは義人の來るを預じめ告げし者を殺し、汝らは今この義人を賣り、かつ殺す者となれり。53なんぢら、御使たちの傳へし律法を受けて、尚これを守らざりき』54人々これらの言を聞きて、心いかりに滿ち切齒しつつステパノに向ふ。55ステパノは聖靈にて滿ち、天に目を注ぎ、神の榮光およびイエスの神の右に立ちたまふを見て言ふ、56『視よ、われ天開けて人の子の神の右に立ち給ふを見る』57ここに彼ら大聲に叫びつつ、耳を掩ひ心を一つにして驅け寄り、58ステパノを町より逐ひいだし、石にて撃てり。證人らその衣をサウロといふ若者の足下に置けり。59かくて彼 等がステパノを石にて撃てるとき、ステパノ呼びて言ふ『主イエスよ、我が靈を受けたまへ』60また跪づきて大聲に『主よ、この罪を彼らの負はせ給ふな』と呼はる。斯く言ひて眠に就けり。

第八章

1サウロは彼の殺さるるを可しとせり。その日エルサレムに在る教會に對ひて大なる迫害おこり、使徒たちの他は皆ユダヤ及びサマリヤの地方に散さる。2敬虔なる人々ステパノを葬り、彼のために大に胸打てり。3サウロは教會をあらし、家々に入り男女を引出して獄に付せり。4ここに散されたる者ども歴巡りて御言を宣べしが、5ピリポはサマリヤの町に下りてキリストの事を傳ふ。6群衆ピリポの行ふ徴を見聞して、心を一つにし、謹みて其の語る事どもを聽けり。7これ多くの人より、之に憑きたる穢れし靈、大聲に叫びて出で、また中風の者と跛者と多く醫されたるに因る。8この故にその町に大なる勸喜おこれり。9ここにシモンといふ人あり、前にその町にて魔術を行ひ、サマリヤ人を驚かして自ら大なる者と稱へたり。10小より大に至る凡ての人つつしみて之に聽き『この人は、いわゆる神の大能なり』といふ。11かく謹みて聽けるは、久しき間その魔術に驚かされし故なり。12然るにピリポが、神の國とイエス・キリストの御名とに就きて宣傳ふるを人々信じたれば、男女ともにバプテスマを受く。13シモンも亦みづから信じ、バプテスマを受けて、常にピリポと偕に居り、その行ふ徴と、大なる能力とを見て驚けり。14エルサレムに居る使徒たちは、サマリヤ人、神の御言を受けたりと聞きて、ペテロとヨハネとを遣したれば、15彼ら下りて人々の聖靈を受けんことを祈れり。16これ主イエスの名によりてバプテスマを受けしのみにて、聖靈いまだ其の一人にだに降らざりしなり。17ここに二人のもの彼らの上に手を按きたれば、みな聖靈を受けたり。18使徒たちの按手によりて其の御靈を與へられしを見て、シモン金を持ち來りて言ふ、19『わが手を按くすべての人の聖靈を受くるやう

に、此の權威を我にも與へよ』 20ペテロ彼に言ふ『なんぢの銀は汝とともに亡ぶべし、なんぢ金をもて神の賜物を得んと思へばなり。 21なんぢは此の事に關係なく干與なし、なんぢの心、神の前に正しからず。 22然ればこの惡を悔改めて主に祈れ、なんぢが心の念あるひは赦されん。 23我なんぢが苦き膽汁と不義の繋とに居るを見るなり』 24シモン答へて言ふ『なんぢらの言ふ所のこと一つも我に來らぬやう、汝ら我がために主に祈れ』 25かくて使徒たちは證をなし、主の御言を語りて後、サマリヤ人の多くの村に福音を宣傳へつつエルサレムに歸れり。 26然るに主の使ピリポに語りて言ふ『なんぢ起ちて南に向ひエルサレムよりガザに下る道に往け。そこは荒野なり』 27ピリポ起ちて往きたれば、視よ、エテオピヤの女王カンダケの權官にして、凡ての寶物を掌どる閹人エテオピヤ人あり、禮拜の爲にエルサレムに上りしが、 28歸る途すがら馬車に坐して預言者イザヤの書を讀みゐたり。 29御靈ピリポに言ひ給ふ『ゆきて此の馬車に近寄れ』 30ピリポ走り寄りて、その預言者イザヤの書を讀むを聽きて言ふ『なんぢ其の讀むところを悟るか』 31閹人いふ『導く者なくば、いかで悟り得ん』而してピリポに、乘りて共に坐せんことを請ふ。 32その讀むところの聖書の文は是なり『彼は羊の屠場に就くが如く曳かれ、羔羊のその毛を剪る者のまへに默すがごとく口を開かず。 33卑しめられて審判を奪はれたり、誰かその代の狀を述べ得んや。その生命 地上より取られたればなり』 34閹人こたへてピリポに言ふ『預言者は誰に就きて斯く云へるぞ、己に就きてか、人に就きてか、請ふ示せ』 35ピリポ口を開き、この聖句を始としてイエスの福音を宣傳ふ。 36途を進むる程に水ある所に來りたれば、閹人いふ『視よ、水あり、我がバプテスマを受くるに何の障りかある』 37[なし] 38乃ち命じて馬車を止め、ピリポと閹人と二人ともに水に下りて、ピリポ閹人にバプテスマを授く。 39彼ら水より上りしとき、主の靈ピリポを取去りたれば、閹人ふたたび彼を見ざりしが、喜びつつ其の途に進み往けり。 40かくてピリポはアゾトに現れ、町々を經て福音を宣傳へつつカイザリヤに到れり。

第九章

1サウロは主の弟子たちに對して、なほ恐喝と殺害との氣を充し、大祭司にいたりて、 2ダマスコにある諸教會への添書を請ふ。この道の者を見出さば、男女にかかはらず縛りてエルサレムに曳かん爲なり。 3往きてダマスコに近づきたるとき、忽ち天より光いでて、彼を環り照したれば、 4かれ地に倒れて『サウロ、サウロ、何ぞ我を迫害するか』といふ聲をきく。 5彼いふ『主よ、なんぢは誰ぞ』答へたまふ『われは汝が迫害するイエスなり。 6起きて町に入れ、さらば汝なすべき事を告げらるべし』 7同行の人々、物言ふこと能はずして立ちたりしが、聲は聞けども誰をも見ざりき。 8サウロ地より起きて目をあけたれど何も見えざれば、人その手をひきてダマスコに導きゆきしに、 9三日のあひだ見えず、また飲食せざりき。 10さてダマスコにアナニヤといふ一人の弟子あり、幻影のうちに主いひ給ふ『アナニヤよ』答ふ『主よ、我ここに在り』 11主いひ給ふ『起きて直といふ街にゆき、ユダの家にてサウロといふタルソ人を尋ねよ。視よ、彼は祈りをるなり。 12又アナニアといふ人の入り來りて、再び見ゆることを得しめんために、手を己がうへに按くを見たり』 13アナニヤ答ふ『主よ、われ多くの人より此の人に就きて聞きしに、彼がエルサレムにて汝の聖徒に害を加へしこと如何ばかりぞや。 14また此處にても、凡て汝の御名をよぶ者を縛る權を祭司長らより受けをるなり』 15主いひ給ふ『往け、この人は異邦人・王たち・イスラエルの子孫のまへに、我が名を持ちゆく我が選の器なり。 16我かれに我が名のために如何に多くの苦難を受くるかを示さん』 17ここにアナニヤ往きて其の家にいり、彼の上に手をおきて言ふ『兄弟サウロよ、主すなはち汝が來る途にて現れ給ひしイエス、われを遣し給へり。なんぢが再び見ることを得、かつ聖靈にて滿されん爲なり』 18直ちに彼の目より鱗のごときもの落ちて見ることを得、すなはち起きてバプテスマを受け、 19かつ食事して力づきたり。サウロは數日の間ダマスコの弟子たちと偕にをり、 20直ちに諸會堂にて、イエスの神の子なることを宣べたり。 21聞く者みな驚きて言ふ『こはエルサレムにて此の名をよぶ者を害ひし人ならずや、又ここに來りしも、之を縛りて祭司長らの許に曳きゆかんが爲ならずや』 22サウロますます能力くははり、イエスのキリストなることを論證して、ダマスコに住むユダヤ人を言ひ伏せたり。 23日を經ること久しくして後、ユダヤ人かれを殺さんと相謀りたれど、 24その計畧サウロに知らる。かくて彼らはサウロを殺さん

とて、晝も夜も町の門を守りしに、25その弟子ら夜中かれを籃にて石垣より縋り下せり。26ここにサウロ、エルサレムに到りて弟子たちの中に列らんとすれど、皆かれが弟子たるを信ぜずして懼れたり。27然るにバルナバ彼を迎へて、使徒たちの許に伴ひゆき、その途にて主を見しこと、主の之に物言ひ給ひしこと、又ダマスコにてイエスの名のために臆せず語りし事などを具に告ぐ。28ここにサウロはエルサレムにて弟子たちと共に出入し、29主の御名のために臆せず語り、又ギリシヤ語のユダヤ人と、かつ語りかつ論じたれば、彼等これを殺さんと謀りしに、30兄弟たち知りて彼をカイザリヤに伴ひ下り、タルソに往かしめたり。31かくてユダヤ、ガリラヤ及びサマリヤを通じて、教會は平安を得、ややに堅立し、主を畏れて歩み、聖靈の祐助によりて人數いや増せり。32ペテロは徧く四方をめぐりてルダに住む聖徒の許にいたり、33彼處にてアイネヤといふ人の中風を患ひて八年のあひだ牀に臥し居るに遇ふ。34かくてペテロ之に『アイネヤよ、イエス・キリスト汝を醫したまふ、起きて牀を收めよ』と言ひたれば、直ちに起きたり。35ここにルダ及びサロンに住む者みな之を見て主に歸依せり。36ヨツパにタビタと云ふ女の弟子あり、その名を譯すればドルカスなり。此の女は、ひたすら善き業と施濟とをなせり。37彼そのころ病みて死にたれば、之を洗ひて高樓に置く。38ルダはヨツパに近ければ、弟子たちペテロの彼處に居るを聞きて、二人の者を遣し『ためらはで我らに來れ』と請はしむ。39ペテロ起ちてともに往き、遂に到れば、彼を高樓に伴れてのぼりしに、寡婦らみな之をかこみて泣きつつ、ドルカスが偕に居りしほどに製りし下衣・上衣を見せたり。40ペテロ彼等をみな外に出し、跪づきて祈りし後、ふりかへり屍體に向ひて『タビタ、起きよ』と言ひたれば、かれ目を開き、ペテロを見て起反れり。41ペテロ手をあたへ、起して聖徒と寡婦とを呼び、タビタを活きたるままにて見す。42この事ヨツパ中に知られたれば、多くの人、主を信じたり。43ペテロ皮工シモンの家にありて日久しくヨツパに留れり。

第十章

1ここにカイザリヤにコルネリオといふ人あり、イタリヤ隊と稱ふる軍隊の百卒長なるが、2敬虔にして全家族とともに神を畏れ、かつ民に多くの施濟をなし、常に神に祈れり。3或日の午後三時ごろ幻影のうちに神の使きたりて『コルネリオよ』と言ふを明かに見たれば、4之に目をそそぎ怖れて言ふ『主よ、何事ぞ』御使いふ『なんぢの祈と施濟とは、神の前に上りて記念とせらる。5今ヨツパに人を遣してペテロと稱ふるシモンを招け、6彼は皮工シモンの家に宿る。その家は海邊にあり』7斯く語れる御使の去りし後、コルネリオ己が僕二人と從卒中の敬虔なる者一人とを呼び、8凡ての事を告げてヨツパに遣せり。9明くる日かれらなほ途中にあり、既に町に近づかんとする頃ほひ、ペテロ祈らんとて屋の上に登る、時は晝の十二時ごろなりき。10飢ゑて物欲しくなり、人の食を調ふるほどに我を忘れし心地して、11天開け、器のくだるを見る、大なる布のごとき物にして、四隅もて地に縋り下されたり。12その中には諸種の四足のもの、地を匍ふもの、空の鳥あり。13また聲ありて言ふ『ペテロ、立て、屠りて食せよ』14ペテロ言ふ『主よ、可からじ、我いまだ潔からぬもの穢れたる物を食せし事なし』15聲再びありて言ふ『神の潔め給ひし物を、なんぢ潔からずとすな』16かくの如きこと三度にして、器は直ちに天に上げられたり。17ペテロその見し幻影の何の意なるか、心に惑ふほどに、視よ、コルネリオより遣されたる人、シモンの家を尋ねて門の前に立ち、18訪ひて、ペテロと稱ふるシモンの此處に宿るかを問ふ。19ペテロなほ幻影に就きて打案じゐたるに、御靈いひ給ふ『視よ、三人なんぢを尋ぬ。20起ちて下り疑はずして共に往け、彼らを遣したるは我なり』21ペテロ下りて、かの人たちに言ふ『視よ、我は汝らの尋ぬる者なり、何の故ありて來るか』22かれら言ふ『義人にして神を畏れ、ユダヤの國人の中に令聞ある百卒長コルネリオ、聖なる御使より、汝を家に招きて、その語ることを聽けとの告を受けたり』23ここにペテロ彼らを迎へ入れて宿らす。明くる日たちて彼らと共に出でゆきしが、ヨツパの兄弟も數人ともに往けり。24明くる日カイザリヤに入りし時、コルネリオは親族および親しき朋友を呼び集めて彼らを待ちゐたり。25ペテロ入り來れば、コルネリオ之を迎へ、その足下に伏して拜す。26ペテロ彼を起して言ふ『立て、我も人なり』27かくて相語りつつ内に入り、多くの人の集れるを見て、ペテロ之に言ふ、28『なんぢらの知る如く、ユダヤ人たる者の外の國人と交りまた近づくことは、律法に適はぬ所なり、然れど神

は、何人をも穢れたるもの潔からぬ者と言ふまじきことを我に示したまへり。29この故に、われ招かるるや躊躇はずして來れり。然れば問ふ、汝らは何の故に我をまねきしか』30コルネリオ言ふ『われ四日前に我が家にて午後三時の祈をなし、此の時刻に至りしに、視よ、輝く衣を著たる人、わが前に立ちて、31「コルネリオよ、汝の祈は聽かれ、なんぢの施濟は神の前に憶えられたり。32人をヨツパに送りてペテロと稱ふるシモンを招け、かれは海邊なる皮工シモンの家に宿るなり」と云へり。33われ速かに人を汝に遣したるに、汝の來れるは忝けなし。いま我等はみな、主の汝に命じ給ひし凡てのことを聽かんとて、神の前に在り』34ペテロ口を開きて言ふ、『われ今まことに知る、神は偏ることをせず、35何れの國の人にても神を敬ひて義をおこなふ者を容れ給ふことを。36神はイエス・キリスト（これ萬民の主）によりて平和の福音をのべ、イスラエルの子孫に言をおくり給へり。37即ちヨハネの傳へしバプテスマの後、ガリラヤより始り、ユダヤ全國に弘りし言なるは汝らの知る所なり。38これは神が聖靈と能力とを注ぎ給ひしナザレのイエスの事にして、彼は徧くめぐりて善き事をおこなひ、凡て惡魔に制せらるる者を醫せり、神これと偕に在したればなり。39我等はユダヤの地およびエルサレムにて、イエスの行ひ給ひし諸般のことの證人なり、人々は彼を木にかけて殺せり。40神は之を三日めに甦へらせ、かつ明かに現したまへり。41然れど凡ての民にはあらで、神の預じめ選び給へる證人、即ちイエスの死人の中より甦へり給ひし後、これと共に飲食せし我らに現し給ひしなり。42イエスは己の生ける者と死にたる者との審判主に、神より定められしを證することと、民どもに宣傳ふる事とを我らに命じ給ふ。43彼につきては預言者たちも皆、おほよそ彼を信ずる者の、その名によりて罪の赦を得べきことを證す』44ペテロ尚これらの言を語りをる間に、聖靈、御言をきく凡ての者に降りたまふ。45ペテロと共に來りし割禮ある信者は、異邦人にも聖靈の賜物のそそがれしに驚けり。46そは彼らが異言をかたり、神を崇むるを聞きたるに因る。47ここにペテロ答へて言ふ『この人々われらの如く聖靈をうけたれば、誰か水を禁じて其のバプテスマを受くることを拒み得んや』48遂にイエス・キリストの御名によりてバプテスマを授けられんことを命じたり。ここに彼らペテロに數日とどまらんことを請へり。

第十一章

1使徒たち及びユダヤに居る兄弟たちは、異邦人も神の言を受けたりと聞く。2かくてペテロのエルサレムに上りしとき、割禮ある者ども彼を詰りて言ふ、3『なんぢ割禮なき者の内に入りて之と共に食せり』4ペテロ有りし事を序正しく説き出して言ふ、5『われヨツパの町にて祈り居るとき、我を忘れし心地し、幻影にて器のくだるを見る、大なる布のごとき物にして、四隅もて天より縋り下され我が許にきたる。6われ目を注めて之を視るに、地の四足のもの、野の獸、匐ふもの、空の鳥を見たり。7また「ペテロ、立て、屠りて食せよ」といふ聲を聞けり。8我いふ「主よ、可からじ、潔からぬもの穢れたる物は、曾て我が口に入りしことなし」9再び天より聲ありて答ふ「神の潔め給ひし物を、なんぢ潔からずと爲な」10かくの如きこと三度にして、終にはみな天に引上げられたり。11視よ、三人の者カイザリヤより我に遣されて、はや我らの居る家の前に立てり。12御靈われに、疑はずして彼らと共に往くことを告げ給ひたれば、此の六人の兄弟も我とともに往きて、かの人の家に入れり。13彼はおのが家に御使の立ちて「人をヨツパに遣し、ペテロと稱ふるシモンを招け、14その人、なんぢと汝の全家族との救はるべき言を語らん」と言ふを、見しことを我らに告げたり。15ここに、われ語り出づるや、聖靈かれらの上に降りたまふ、初め我らの上に降りし如し。16われ主の曾て「ヨハネは水にてバプテスマを施しが、汝らは聖靈にてバプテスマを施されん」と宣給ひし御言を思ひ出せり。17神われらが主イエス・キリストを信ぜしときに賜ひしと同じ賜物を彼らにも賜ひたるに、われ何者なれば神を阻み得ん』18人々これを聞きて默然たりしが、頓て神を崇めて言ふ『されば神は異邦人にも生命を得さする悔改を與へ給ひしなり』19かくてステパノによりて起りし迫害のために散されたる者ども、ピニケ、クブロ、アンテオケまで到り、ただユダヤ人にのみ御言を語りたるに、20その中にクブロ及びクレネの人、數人ありて、アンテオケに來りし時、ギリシヤ人にも語りて主イエスの福音を宣傳ふ。21主の手かれらと偕にありたれば、數多の人、信じて主に歸依せり。22

この事エルサレムに在る教會に聞えたれば、バルナバをアンテオケに遣す。23かれ來りて、神の恩惠を見てよろこび、彼等に、みな心を堅くして主にをらんことを勸む。24彼は聖靈と信仰とにて滿ちたる善き人なればなり。ここに多くの人々、主に加はりたり。25かくてバルナバはサウロを尋ねんとてタルソに往き、26彼に逢ひてアンテオケに伴ひきたり、二人ともに一年の間かしこの教會の集會に出でて多くの人を教ふ。弟子たちのキリステアンと稱へらるる事はアンテオケより始れり。27その頃エルサレムより預言者たちアンテオケに下る。28その中の一人アガボと云ふもの起ちて、大なる飢饉の全世界にあるべきことを御靈によりて示せるが、果してクラウデオの時に起れり。29ここに弟子たち各々の力に應じてユダヤに住む兄弟たちに扶助をおくらん事をさだめ、30遂に之をおこなひ、バルナバ及びサウロの手に托して長老たちに贈れり。

第十二章

1その頃ヘロデ王、教會のうちの或人どもを苦しめんとて手を下し、2劍をもてヨハネの兄弟ヤコブを殺せり。3この事ユダヤ人の心に適ひたるを見て、またペテロをも捕ふ、頃は除酵祭の時なりき。4すでに執りて獄に入れ、過越の後に民のまへに曳き出さんとの心構にて、四人一組なる四組の兵卒に付して之を守らせたり。5かくてペテロは獄のなかに因はれ、教會は熱心に彼のために神に祈をなせり。6ヘロデこれを曳き出さんとする其の前の夜、ペテロは二つの鏈にて繋がれ、二人の兵卒のあひだに睡り、番兵らは門口にゐて獄を守りたるに、7視よ、主の使ペテロの傍らに立ちて、光明室内にかがやく。御使かれの脇をたたき、覺していふ『疾く起きよ』かくて鏈その手より落ちたり。8御使いふ『帶をしめ、鞋をはけ』彼その如く爲たれば、又いふ『上衣をまとひて我に從へ』9ペテロ出でて隨ひしが、御使のする事の眞なるを知らず、幻影を見るならんと思ふ。10かくて第一・第二の警固を過ぎて町に入るところの鐵の門に到れば、門おのづから彼等のために開け、相共にいでて一つの街を過ぎしとき、直ちに御使はなれたり。11ペテロ我に反りて言ふ『われ今まことに知る、主その使を遣して、ヘロデの手およびユダヤの民の凡て思ひ設けし事より、我を救ひ出し給ひしを』12斯く悟りてマルコと稱ふるヨハネの母マリヤの家に往きしが、其處には數多のもの集りて祈りゐたり。13ペテロ門の戸を叩きたれば、ロダといふ婢女ききに出できたり、14ペテロの聲なるを知りて、歡喜のあまりに門を開けずして走り入り、ペテロの門の前に立てることを告げたれば、15彼ら『なんぢは氣狂へり』と言ふ。然れどロダは夫なりと言張る。かれら言ふ『それはペテロの御使ならん』16然るにペテロなほ叩きて止まざれば、かれら門をひらき之を見て驚けり。17かれ手を搖かして人々を鎭め、主の己を獄より導きいだし給ひしことを具に語り『これをヤコブと兄弟たちとに告げよ』と言ひて他の處に出で往けり。18夜明になりて、ペテロは如何にせしとて兵卒の中の騷一方ならず。19ヘロデ之を索むれど見出さず、遂に守卒を訊して死罪を命じ、而してユダヤよりカイザリヤに下りて留れり。20偖ヘロデ、ツロとシドンとの人々を甚く怒りたれば、其の民ども心を一つにして彼の許にいたり、王の内侍の臣ブラストに取入りて和諧を求む。かれらの地方は王の國より食品を得るに因りてなり。21ヘロデ定めたる日に及びて王の服を著け高座に坐して言を宣べたれば、22集民よばはりて『これ神の聲なり、人の聲にあらず』と言ふ。23ヘロデ神に榮光を歸せぬに因りて、主の使たちどころに彼を擊ちたれば、蟲に噛まれて息絶えたり。24かくて主の御言いよいよ增々ひろまる。25バルナバ、サウロはその職務を果し、マルコと稱ふるヨハネを伴ひてエルサレムより歸れり。

第十三章

1アンテオケの教會にバルナバ、ニゲルと稱ふるシメオン、クレネ人ルキオ、國守ヘロデの乳兄弟マナエン及びサウロなどいふ預言者と教師とあり。2彼らが主に事へ斷食したるとき、聖靈いひ給ふ『わが召して行はせんとする業の爲に、バルナバとサウロとを選び、別て』3ここに彼ら斷食し、祈りて二人の上に手を按きて往かしむ。4この二人、聖靈に遣されてセルキヤに下り、彼處より船にてクプロに渡り、5サラミスに著きてユダヤ人の諸會堂にて神の言を宣傳へ、またヨハネを助人として伴ふ。6徧くこの島を經行きてパポスに到り、バルイエスといふユダヤ人にて僞預言者たる魔術者に遇ふ。7彼は地方總督なる慧き人セルギオ・パウロと偕にありき。總督はバルナバとサウロとを招き神の言を聽かんと

したるに、8かの魔術者エルマ（この名を釋けば魔術者）二人に敵對して總督を信仰の道より離れしめんとせり。9サウロ又の名はパウロ、聖靈に滿され、彼に目を注めて言ふ、10『ああ有らゆる詭計と奸惡とにて滿ちたる者、惡魔の子、すべての義の敵よ、なんぢ主の直き道を曲げて止まぬか。11視よ、いま主の御手なんぢの上にあり、なんぢ盲目となりて暫く日を見ざるべし』かくて立刻に朦と闇とその目を掩ひたれば、探り回りて導きくるる者を求む。12ここに總督この有りし事を見て、主の教に驚きて信じたり。13さてパウロ及び之に伴ふ人々、パポスより船出してパンフリヤのペルガに到り、ヨハネは離れてエルサレムに歸れり。14彼らはペルガより進み往きてピシデヤのアンテオケに到り、安息日に會堂に入りて坐せり。15律法および預言者の書の朗讀ありしのち、會堂司たち人を彼らに遣し『兄弟たちよ、もし民に勸の言あらば言へ』と言はしめたれば、16パウロ起ちて手を搖かして言ふ、『イスラエルの人々および神を畏るる者よ、聽け。17このイスラエルの民の神は、我らの先祖を選び、そのエジプトの地に寄寓せし時、わが民をおこし、強き御腕にて之を導きいだし、18おほよそ四十年のあひだ、荒野にて彼らの所作を忍び、19カナンの地にて七つの民族をほろぼし、その地を彼らに嗣がしめて、20凡そ四百五十年を經たり。此ののち預言者サムエルの時代まで審判人を賜ひしを、21後に至りて彼ら王を求めたれば、神は之にキスの子サウロと云ふベニヤミンの族の人を四十年のあひだ賜ひ、22之を退けて後、ダビデを擧げて王となし、且これを證して「我エッサイの子ダビデといふ我が心に適ふ者を見出せり、彼わが意をことごとく行はん」と宣給へり。23神は約束に隨ひて此の人の裔より、イスラエルの爲に救主イエスを興し給ひしが、24その來る前にヨハネ預じめイスラエルの凡ての民に悔改のバプテスマを宣傳へたり。25かくてヨハネ己が走るべき道程を終へんとする時「なんぢら我を誰と思ふか、我はかの人にあらず、視よ、我に後れて來る者あり、我はその鞋の紐を解くにも足らず」と云へり。26兄弟たち、アブラハムの血統の子ら及び汝等のうち神を畏るる者よ、この救の言は我らに贈られたり。27それエルサレムに住める者および其の司らは、彼をも安息日ごとに讀むところの預言者たちの言をも知らず、彼を刑ひて預言を成就せしめたり。28その死に當るべき故を得ざりしかど、ピラトに殺さんことを求め、29彼につきて記されたる事をことごとく成しをへ、彼を木より下して墓に納めたり。30されど神は彼を死人の中より甦へらせ給へり。31かくてイエスは己と偕にガリラヤよりエルサレムに上りし者に多くの日のあひだ現れ給へり。その人々は今、民の前にイエスの證人たるなり。32我らも先祖たちが與へられし約束につきて喜ばしき音信を汝らに告ぐ、33神はイエスを甦へらせて、その約束を我らの子孫に成就したまへり。即ち詩の第二篇に「なんぢは我が子なり、われ今日なんぢを生めり」と録されたるが如し。34また朽腐に歸せざる狀に彼を死人の中より甦へらせ給ひし事に就きては、斯く宣給へり。曰く「われダビデに約せし確き聖なる恩惠を汝らに與へん」35そは他の篇に「なんぢは汝の聖者を朽腐に歸せざらしむべし」と云へり。36それダビデは、その代にて神の御旨を行ひ、終に眠りて先祖たちと共に置かれ、かつ朽腐に歸したり。37然れど神の甦へらせ給ひし者は朽腐に歸せざりき。38この故に兄弟たちよ、汝ら知れ。この人によりて罪の赦のなんぢらに傳へらるることを。39汝らモーセの律法によりて義とせられ得ざりし凡ての事も、信ずる者は皆この人によりて義とせらるる事を。40然れば汝ら心せよ、恐らくは預言者たちの書に云ひたること來らん、41曰く「あなどる者よ、なんぢら視よ、おどろけ、亡びよ、われ汝らの日に一つの事を行はん。これを汝らに具に告ぐる者ありとも信ぜざる程の事なり」』42彼らが會堂を出づるとき、人々これらの言を次の安息日にも語らんことを請ふ。43集會の散ぜし後、ユダヤ人および敬虔なる改宗者おほくパウロとバルナバとに從ひ往きたれば、彼らに語りて神の恩惠に止らんことを勸めたり。44次の安息日には、神の言を聽かんとて殆ど町擧りて集りたり。45されどユダヤ人はその群衆を見て嫉に滿され、パウロの語ることに言ひ逆ひて罵れり。46パウロとバルナバとは臆せずして言ふ『神の言を先づ汝らに語るべかりしを、汝等これを斥けて己を永遠の生命に相應しからぬ者と自ら定むるによりて、視よ、我ら轉じて異邦人に向はん。47それ主は斯く我らに命じ給へり。曰く「われ汝を立てて異邦人の光とせり。地の極にまで救ならしめん爲なり」』48異邦人は之を聽きて喜び、主の言をあがめ、又とこしへの生命に定められたる者はみな信じ、49主の言この地に徧く弘りたり。50然るにユ

ダヤ人ら、敬虔なる貴女たち及び町の重立ちたる人々を
唆かして、パウロとバルナバとに迫害をくはへ、遂に彼
らを其の境より逐ひ出せり。51二人は彼らに對ひて足の
塵をはらひ、イコニオムに往く。52弟子たちは喜悦と聖
靈とにて滿され居たり。

第十四章

1二人はイコニオムにて相共にユダヤ人の會堂に入りて
語りたれば、之に由りてユダヤ人およびギリシヤ人あま
た信じたり。2然るに從はぬユダヤ人ら異邦人を唆か
し、兄弟たちに對して惡意を懷かしむ。3二人は久しく
留り、主によりて臆せずして語り、主は彼らの手によ
り、徴と不思議とを行ひて恵の御言を證したまふ。4こ
こに町の人々相分れて、或者はユダヤ人に黨し、或者
は使徒たちに黨せり。5異邦人ユダヤ人および其の司ら
相共に使徒たちを辱しめ、石にて撃たんと企てしに、6
彼ら悟りてルカオニヤの町なるルステラ、デルベ及びそ
の邊の地にのがれ、7彼處にて福音を宣傳ふ。8ルステ
ラに足弱き人ありて坐しゐたり、生れながらの跛者にて
曾て歩みたる事なし。9この人パウロの語るを聽きゐた
るが、パウロ之に目をとめ、救はるべき信仰あるを見
て、10大聲に『なんぢの足にて眞直に起て』と言ひたれ
ば、かれ躍り上りて歩めり。11群衆、パウロの爲ししこ
とを見て聲を揚げ、ルカオニヤの國語にて『神たち人の
形をかりて我らに降り給へり』と言ひ、12バルナバをゼ
ウスと稱へ、パウロを宗と語る人なる故にヘルメスと稱
ふ。13而して町の外なるゼウスの宮の祭司、數匹の牛と
花飾とを門の前に携へきたりて、群衆とともに犠牲を
献げんとせり。14使徒たち、即ちバルナバとパウロと之
を聞きて、己が衣をさき群衆のなかに馳せ入り、15呼ば
りて言ふ『人々よ、なんぞ斯かる事をなすか、我らも汝
らと同じ情を有てる人なり、汝らに福音を宣べて斯かる
虚しき者より離れ、天と地と海とその中にある有らゆる
物とを造り給ひし活ける神に歸らしめんとするなり。16
過ぎし時代には神、すべての國人の己が道々を歩むに任
せ給ひしかど、17また自己を證し給はざりし事なし。即
ち善き事をなし、天より雨を賜ひ、豐穣の時をあたへ、
食物と勸喜とをもて汝らの心を滿ち足らはせ給ひしな
り』18斯く言ひて辛うじて群衆の己らに犠牲を献げんと
するを止めたり。19然るに數人のユダヤ人、アンテオケ
及びイコニオムより來り、群衆を勸め、而してパウロを
石にて撃ち、既に死にたりと思ひて町の外に曳き出せ
り。20弟子たち之を立圍みゐたるに、パウロ起きて町に
入る。明くる日バルナバと共にデルベに出で往き、21そ
の町に福音を宣傳へ、多くの人を弟子として後、ルステ
ラ、イコニオム、アンテオケに還り、22弟子たちの心を
堅うし信仰に止らんことを勸め、また我らが多くの艱難
を歴て神の國に入るべきことを教ふ。23また教會毎に
長老をえらび、斷食して祈り、弟子たちを其の信ずる
所の主に委ぬ。24かくてピシデヤを經てパンフリヤに到
り、25ペルガにて御言を語りて後アタリヤに下り、26
彼處より船出して、その成し果てたる務のために神の恵
みに委ねられし處なるアンテオケに往けり。27既に到り
て教會の人々を集めたれば、神が己らと偕に在して成し
給ひし凡てのこと、竝に信仰の門を異邦人にひらき給ひ
しことを述ぶ。28かくて久しく留りて弟子たちと偕にゐ
たり。

第十五章

1或人々ユダヤより下りて、兄弟たちに『なんぢらモー
セの例に遵ひて割禮を受けずば救はるるを得ず』と教
ふ。2ここに彼らとパウロ及びバルナバとの間に、大な
る紛爭と議論と起りたれば、兄弟たちはパウロ、バルナ
バ及びその中の數人をエルサレムに上らせ、此の問題に
つきて使徒・長老たちに問はしめんと定む。3かれら
教會の人々に見送られて、ピニケ及びサマリヤを經、
異邦人の改宗せしことを具に告げて、凡ての兄弟に大
なる喜悦を得させたり。4エルサレムに到り、教會と
使徒と長老とに迎へられ、神が己らと偕に在して爲し給
ひし凡ての事を述べたるに、5信者となりたるパリサイ
派の或人々立ちて『異邦人にも割禮を施し、モーセの
律法を守ることを命ぜざる可からず』と言ふ。6ここに
使徒・長老たち此の事につきて協議せんとて集る。7多
くの議論ありし後、ペテロ起ちて言ふ『兄弟たちよ、
汝らの知るごとく、久しき前に神は、なんぢらの中より
我を選び、わが口より異邦人に福音の言を聞かせ、之を
信ぜしめんとし給へり。8人の心を知りたまふ神は、我
らと同じく、彼等にも聖靈を與へて證をなし、9かつ
信仰によりて彼らの心をきよめ、我らと彼らとの間に隔
を置き給はざりき。10然るに何ぞ神を試みて、弟子たち

の頸に我らの先祖も我らも負ひ能はざりし軛をかけんとするか。11然らず、我らの救はるるも彼らと均しく主イエスの恩恵に由ることを我らは信ず』12ここに會 衆みな默して、バルナバとパウロとの、己 等によりて神が異邦人のうちに爲し給ひし多くの徴と不思議とを述ぶるを聽く。13彼らの語り終へし後、ヤコブ答へて言ふ『兄弟たちよ、我に聽け、14シメオン既に神の初めて異邦人を顧み、その中より御名を負ふべき民を取り給ひしことを述べしが、15預言者たちの言もこれと合へり。16録して「こののち我かへりて、倒れたるダビデの幕屋を再び造り、その頽れし所をふたたび造り、而して之を立てん。17これ殘餘の人々、主を尋ね求め、凡て我が名をもて稱へらるる異邦人もまた然せん爲なり。18古へより此 等のことを知らしめ給ふ主、これを言ひ給ふ」とあるが如し。19之によりて我は判斷す、異邦人の中より神に歸依する人を煩はすべきにあらず。20ただ書き贈りて、偶像に穢されたる物と、淫行と、絞殺したる物と、血とを避けしむべし。21昔より、いづれの町にもモーセを宣ぶる者ありて、安息 日 毎に諸 會 堂にてその書を讀めばなり』22ここに使徒・長老たち及び全 教 會は、その中より人を選びてパウロ、バルナバと共にアンテオケに送ることを可しとせり。選ばれたるは、バルサバと稱ふるユダとシラスとにて、兄弟たちの中の重立ちたる者なり。23之に托したる書にいふ『使徒および長老たる兄弟ら、アンテオケ、シリヤ、キリキヤに在る異邦人の兄弟たちの平安を祈る。24我等のうちの或 人々われらが命じもせぬに、言をもて汝らを煩はし、汝らの心を亂したりと聞きたれば、25我ら心を一つにして人を選びて、26我らの主イエス・キリストの名のために生命を惜まざりし者なる、我らの愛するバルナバ、パウロと共に汝らに遣すことを可しとせり。27之によりて我らユダとシラスとを遣す、かれらも口づから此 等のことを述べん。28聖 靈と我らとは左の肝要なるものの他に何をも汝らに負はせぬを可しとするなり。29即ち偶像に献げたる物と、血と、絞殺したる物と、淫行とを避くべき事なり、汝 等これを愼まば善し。なんぢら健かなれ』30かれら別を告げてアンテオケに下り、人々を集めて書を付す。31人々これを讀み慰安を得て喜べり。32ユダもシラスもまた預言者なれば、多くの言をもて兄弟たちを勸めて彼らを堅うし、33暫く留りてのち、兄弟たちに平安を祝せられ、別を告げて、己らを遣しし者に歸れり。34[なし]35斯てパウロとバルナバとは尚アンテオケに留りて多くの人とともに主の御言を教へ、かつ宣傳へたり。36數日の後パウロはバルナバに言ふ『いざ、我ら曩に主の御言を傳へし凡ての町にまた往きて、兄弟たちを訪ひ、その安否を尋ねん』37バルナバはマルコと稱ふるヨハネを伴はんと望み、38パウロは彼が曾てパンフリヤより離れ去りて、勤勞のために共に往かざりしをもて、伴ふは宜しからずと思ひ、39激しき爭論となりて遂に二人 相 別れ、バルナバはマルコを伴ひ、舟にてクプロに渡り、40パウロはシラスを選び、兄弟たちより主の恩恵に委ねられて出で立ち、41シリヤ、キリキヤを經て諸 教 會を堅うせり。

第十六章

1かくてパウロ、デルベとルステラとに到りたるに、視よ、彼處にテモテと云ふ弟子あり、その母は信者なるユダヤ人にて、父はギリシヤ人なり。2彼はルステラ、イコニオムの兄弟たちの中に令聞ある者なり。3パウロかれの共に出で立つことを欲したれば、その邊に居るユダヤ人のために之に割禮を行へり、その父のギリシヤ人たるを凡ての人の知る故なり。4かくて町々を經ゆきて、エルサレムに居る使徒・長老たちの定めし規を守らせんとて、之を人々に授けたり。5ここに諸 教 會はその信仰を堅うせられ、人員 日毎にいや増せり。6彼らアジヤにて御言を語ることを聖 靈に禁ぜられたれば、フルギヤ及びガラテヤの地を經ゆきて、7ムシヤに近づき、ビテニヤに往かんと試みたれど、イエスの御靈ゆるし給はず、8遂にムシヤを過ぎてトロアスに下れり。9パウロ夜、幻影を見たるに、一人のマケドニヤ人あり、立ちて己を招き『マケドニヤに渡りて我らを助けよ』と言ふ。10パウロこの幻影を見たれば、我らは神のマケドニヤ人に福音を宣傳へしむる爲に、我らを召し給ふことと思ひ定めて、直ちにマケドニヤに赴かんとせり。11さてトロアスより船出して、眞直にはせてサモトラケにいたり、次の日ネアポリスにつき、12彼處よりピリピにゆく。ここはマケドニヤの中にて、この邊の第一の町にして殖民地なり、われら數日の間この町に留る。13安息 日に町の門を出でて、祈場あらんと思はるる河のほとりに往き、其處に坐して、集れる女たちに語りたれば、14テアテラ

の町の紫布の商人にして、神を敬ふルデヤと云ふ女ききき居りしが、主その心をひらき、謹みてパウロの語る言をきかしめ給ふ。15彼は己も家族もバプテスマを受けてのち、我らに勸めて言ふ『なんぢら我を主の信者なりとせば、我が家に來りて留れ』斯く強ひて我らを留めたり。16われら祈場に往く途中、卜筮の靈に憑れて卜筮をなし、其の主人らに多くの利を得さする婢女、われらに遇ふ。17彼はパウロ及び我らの後に從ひつつ叫びて言ふ『この人たちは至高き神の僕にて、汝らに救の道を教ふる者なり』18幾日も斯くするをパウロ憂ひて、振反りその靈に言ふ『イエス・キリストの名によりて、汝にこの女より出でん事を命ず』靈ただちに出でたり。19然るにこの女の主人ら利を得る望のなくなりたるをみて、パウロとシラスとを捕へ、市場に曳きて司たちに往き、20之を上役らに出して言ふ『この人々はユダヤ人にて、我らの町を甚く騷がし、21我らロマ人たる者の受くまじく行ふまじき習慣を傳ふるなり』22群衆も齊しく起り立ちたれば、上役ら命じて其の衣を褫ぎ、かつ笞にて打たしむ。23多く打ちてのち獄に入れ、獄守に固く守るべきことを命ず。24獄守この命令を受けて二人を奥の獄に入れ、桎にてその足を締め置きたり。25夜半ごろパウロとシラスと祈りて神を讃美する囚人ら聞きゐたるに、26俄に大なる地震おこりて牢舍の基ふるひ動き、その戸たちどころに皆ひらけ、凡ての囚人の縲紲とけたり。27獄守、目さめ獄の戸の開けたるを見て、囚人にげ去れりと思ひ、刀を抜きて自殺せんとしたるに、28パウロ大聲に呼はりて言ふ『みづから害ふな、我ら皆ここに在り』29獄守、燈火を求め、駈け入りて戰きつつパウロとシラスとの前に平伏し、30之を連れ出して言ふ『君たちよ、われ救はれん爲に何をなすべきか』31二人は言ふ『主イエスを信ぜよ、然らば汝も汝の家族も救はれん』32かくて神の言を獄守とその家に居る凡ての人々に語れり。33この夜、即時に獄守かれらを引取りて、その打傷を洗ひ、遂に己も己に屬する者もみな直ちにバプテスマを受け、34かつ二人を自宅に伴ひて食事をそなへ、全家ともに神を信じて喜べり。35夜明になりて上役らは警吏どもを遣して『かの人々を釋せ』と言はせたれば、36獄守これらの言をパウロに告げて言ふ『上役、人を遣して汝らを釋さんとす。然れば今いでて安らかに往け』37ここにパウロ警吏に言ふ『我らはロマ人たるに罪を定めずして公然に鞭うち、獄に投げ入れたり。然るに今ひそかに我らを出さんと爲るか。然るべからず、彼等みづから來りて我らを連れ出すべし』38警吏これらの言を上役に告げたれば、其のロマ人たるを聞きて懼れ、39來り宥めて、二人を連れ出し、かつ町を去らんことを請ふ。40二人は獄を出でてルデヤの家に入り、兄弟たちに逢ひ、勸をなして出で往けり。

第十七章

1かくてアムピポリス及びアポロニヤを經てテサロニケに到る。此處にユダヤ人の會堂ありたれば、2パウロは例のごとく彼らの中に入り、三つの安息日にわたり、聖書に基きて論じ、かつ解き明して、3キリストの必ず苦難をうけ、死人の中より甦へるべきことを述べ『わが汝らに傳ふる此のイエスはキリストなり』と證せり。4その中のある人々および敬虔なる數多のギリシヤ人、また多くの重立ちたる女も信じてパウロとシラスとに從へり。5ここにユダヤ人ら嫉を起して市の無頼者をかたらひ、群衆を集めて町を騷がし、又ふたりを集民の前に曳き出さんとしてヤソンの家を圍みしが、6見出さざれば、ヤソンと數人の兄弟とを町司たちの前に曳ききたり、呼はりて言ふ『天下を顚覆したる彼の者ども此處にまで來れるを、7ヤソン迎へ入れたり。この曹輩は皆カイザルの詔勅にそむき、他にイエスと云ふ王ありと言ふ』8之をききて群衆と町司たちと心をさわがし、9保證を取りてヤソンと他の人々とを釋せり。10兄弟たち直ちに夜の間にパウロとシラスとをベレヤに送りいだす。二人は彼處につきてユダヤ人の會堂にいたる。11此處の人々はテサロニケに居る人よりも善良にして、心より御言をうけ、この事正しく然るか然らぬか、日々聖書をしらぶ。12この故にその中の多くのもの信じたり、又ギリシヤの貴女、男子にして信じたる者も少からざりき。13然るにテサロニケのユダヤ人ら、パウロがベレヤにも神の言を傳ふることを聞きたれば、此處にも來りて群衆を動かし、かつ騷がしたり。14ここに兄弟たち直ちにパウロを送り出して海邊に往かしめ、シラスとテモテとは尚ベレヤに留れり。15パウロを導ける人々はアテネまで伴ひ往き、パウロよりシラスとテモテとに、疾く我に來れとの命を受けて立ち去れり。16パウロ、アテネにて彼らを待ちをる間に、町に偶像の滿ちたるを見て、その心に

憤慨を懐く。17されば會堂にてはユダヤ人および敬虔なる人々と論じ、市場にては日々逢ふところの者と論じたり。18斯てエピクロス派ならびにストア派の哲學者數人これと論じあひ、或者らは言ふ『この囀る者なにを言はんとするか』或者らは言ふ『かれは異なる神々を傳ふる者の如し』是はパウロがイエスと復活とを宣べたる故なり。19遂にパウロをアレオパゴスに連れ往きて言ふ『なんぢが語るこの新しき教の如何なるものなるを、我ら知り得べきか。20なんぢ異なる事を我らの耳に入るるが故に、我らその何事たるを知らんと思ふなり』21アテネ人も、彼處に住む旅人も、皆ただ新しき事を或は語り、或は聞きてのみ日を送りゐたり。22パウロ、アレオパゴスの中に立ちて言ふ『アテネ人よ、我すべての事に就きて汝らが神々を敬ふ心の篤きを見る。23われ汝らが拝むものを見つつ道を過ぐるほどに「知らざる神に」と記したる一つの祭壇を見出したり。然れば我なんぢらが知らずして拝む所のものを汝らに示さん。24世界とその中のあらゆる物とを造り給ひし神は、天地の主にましませば、手にて造れる宮に住み給はず。25みづから凡ての人に生命と息と萬の物とを與へ給へば、物に乏しき所あるが如く、人の手にて事ふることを要し給はず。26一人よりして諸種の國人を造りいだし、之を地の全面に住ましめ、時期の限と住居の界とを定め給へり。27これ人をして神を尋ねしめ、或は探りて見出す事あらしめん爲なり。されど神は我等おのおのを離れ給ふこと遠からず、28我らは神の中に生き、動きまた在るなり。汝らの詩人の中の或者どもも「我らは又その裔なり」と云へる如し。29かく神の裔なれば、神を金・銀・石など人の工と思考とにて刻める物と等しく思ふべきにあらず。30神はかかる無知の時代を見過しにし給ひしが、今は何處にても凡ての人に悔改むべきことを告げたまふ。31曩に立て給ひし一人によりて、義をもて世界を審かんために日をさだめ、彼を死人の中より甦へらせて保證を萬人に與へ給へり』32人々、死人の復活をききて、或者は嘲笑ひしが、或者は『われら復この事を汝に聞かん』と言へり。33ここにパウロ人々のなかを出で去る。34されど彼に附隨ひて信じたるもの數人あり。其の中にアレオパゴスの裁判人デオヌシオ及びダマリスと名づくる女あり、尚その他にもありき。

第十八章

1この後パウロ、アテネを離れてコリントに到り、2アクラと云ふポントに生れたるユダヤ人に遇ふ。クラウデオ、ユダヤ人にことごとくロマを退くべき命を下したるによりて、近頃その妻プリスキラと共にイタリヤより來りし者なり。3パウロ其の許に到りしに、同業なりしかば偕に居りて工をなせり。彼らの業は幕屋製造なり。4かくて安息日毎に會堂にて論じ、ユダヤ人とギリシヤ人とを勸む。5シラスとテモテとマケドニヤより來りて後は、パウロ專ら御言を宣ぶることに力め、イエスのキリストたることをユダヤ人に證せり。6然るに、彼ら之に逆ひかつ罵りたれば、パウロ衣を拂ひて言ふ『なんぢらの血は汝らの首に歸すべし、我はいさぎよし、今より異邦人に往かん』7遂に此處を去りて、神を敬ふテテオ・ユストと云ふ人の家に到る。この家は會堂に隣れり。8會堂司クリスポその家族一同と共に主を信じ、また多くのコリント人も聽きて信じ、かつバプテスマを受けたり。9主は夜まぼろしの中にパウロに言ひ給ふ『おそるな、語れ、默すな、10我なんぢと偕にあり、誰も汝を攻めて害ふ者なからん。此の町には多くの我が民あり』11かくてパウロ一年六个月ここに留りて神の言を教へたり。12ガリオ、アカヤの總督たる時、ユダヤ人、心を一つにしてパウロを攻め、審判の座に曳きゆき、13『この人は律法にかなはぬ仕方にて神を拝むことを人に勸む』と言ひたれば、14パウロ口を開かんとせしに、ガリオ、ユダヤ人に言ふ『ユダヤ人よ、不正または奸惡の事ならば、我が汝らに聽くは道理なれど、15もし言・名あるいは汝らの律法にかかはる問題ならば、汝等みづから理むべし。我かかる事の審判人となるを好まず』16かくて彼らを審判の座より逐ひいだす。17ここに人々みな會堂司ソステネを執へ、審判の座の前にて打ち扑きたり。ガリオは凡て此らの事を意とせざりき。18パウロなほ久しく留りてのち、兄弟たちに別を告げ、プリスキラとアクラとを伴ひ、シリヤに向ひて船出す。早くより誓願ありたれば、ケンクレヤにて髪を剃れり。19かくてエペソに著き、其處にこの二人を留めおき、自らは會堂に入りてユダヤ人と論ず。20人々かれに今しばらく居らんことを請ひたれど、肯んぜずして、21別を告げ『神の御意ならば復なんぢらに返らん』と言ひてエペソより船出し、22カイザリヤにつき、而してエルサレムに上

り、教會の安否を問ひてアンテオケに下り、23此處に暫く留りて後、また去りてガラテヤ、フルギヤの地を次々に經て凡ての弟子を堅うせり。24時にアレキサンデリヤ生れのユダヤ人にて、聖書に通達したるアポロと云ふ能辯なる者エペソに下る。25この人は曩に主の道を教へられ、ただヨハネのバプテスマを知るのみなれど、熱心にして詳細にイエスの事を語り、かつ教へたり。26かれ會堂にて臆せずして語り始めしを、プリスキラとアクラと聞きゐて之を迎へ入れ、なほも詳細に神の道を解き明せり。27アポロ遂にアカヤに渡らんとしたれば、兄弟たち之を勵まし、かつ弟子たちに彼を受け容るるやうに書き贈れり。彼かしこに往き、既に恩惠によりて信じたる者に多くの益を與ふ。28即ち聖書に基き、イエスのキリストたる事を示して、激甚くかつ公然にユダヤ人を言ひ伏せたるなり。

第十九章

1かくてアポロ、コリントに居りし時、パウロ東の地方を經てエペソに到り、或弟子たちに逢ひて、2『なんぢら信者となりしとき聖靈を受けしか』と言ひたれば、彼等いふ『いな、我らは聖靈の有ることすら聞かず』3パウロ言ふ『されば何によりてバプテスマを受けしか』彼等いふ『ヨハネのバプテスマなり』4パウロ言ふ『ヨハネは悔改のバプテスマを授けて、己に後れて來るもの（即ちイエス）を信ずべきことを民に云へるなり』5彼等これを聞きて主イエスの名によりてバプテスマを受く。6パウロ手を彼らの上に按きしとき、聖靈その上に望みたれば、彼ら異言を語り、かつ預言せり。7この人々は凡て十二人ほどなり。8ここにパウロ會堂に入りて、三个月のあひだ臆せずして神の國に就きて論じ、かつ勸めたり。9然るに或者ども頑固になりて從はず、會衆の前に神の道を譏りたれば、パウロ彼らを離れ、弟子たちをも退かしめ、日毎にツラノの會堂にて論ず。10斯くすること二年の間なりしかば、アジヤに住む者は、ユダヤ人もギリシヤ人もみな主の言を聞けり。11而して神はパウロの手によりて尋常ならぬ能力ある業を行ひたまふ。12即ち人々かれの身より或は手拭あるひは前垂をとりて病める者に著くれば、病は去り惡靈は出でたり。13ここに諸國遍歷の咒文師なるユダヤ人數人あり、試みに惡靈に憑かれたる者に對して、主イエスの名を呼び『われパウロの宣ぶるイエスによりて、汝らに命ず』と言へり。14斯くなせる者の中に、ユダヤの祭司長スケワの七人の子もありき。15惡靈こたへて言ふ『われイエスを知り、又パウロを知る。然れど汝らは誰ぞ』16かくて惡靈の入りたる人、かれらに跳びかかりて二人に勝ち、これを打拉ぎたれば、彼ら裸體になり傷を受けてその家を逃げ出でたり。17此の事エペソに住む凡てのユダヤ人とギリシヤ人とに知れたれば、懼かれら一同のあひだに生じ、主イエスの名崇められる。18信者となりし者おほく來り、懺悔して自らの行爲を告ぐ。19また魔術を行ひし多くの者ども、その書物を持ちきたり、衆人の前にて焚きたるが、其の價を算ふれば銀五萬ほどなりき。20主の言、大に弘りて權力を得しこと斯くの如し。21此等の事のありし後、パウロ、マケドニヤ、アカヤを經てエルサレムに往かんと心を決めて言ふ『われ彼處に到りてのち必ずロマをも見るべし』22かくて己に事ふる者の中にてテモテとエラストとの二人をマケドニヤに遣し、自己はアジヤに暫く留る。23その頃この道に就きて一方ならぬ騷擾おこれり。24デメテリオと云ふ銀細工人ありしが、アルテミスの銀の小宮を造りて細工人らに多くの業を得させたり。25それらの者および同じ類の職業者を集めて言ふ『人々よ、われらが此の業に賴りて利益を得ることは、汝らの知る所なり。26然るに、かのパウロは手にて造れる物は神にあらずと云ひて、唯にエペソのみならず、殆ど全アジヤにわたり、多くの人々を說き勸めて惑したり、これ亦なんぢらの見聞する所なり。27かくては啻に我らの職業の輕しめらるる恐あるのみならず、また大女神アルテミスの宮も蔑せられ、全アジヤ全世界のをがむ大女神の稜威も滅ぶるに至らん』28彼等これを聞きて憤恚に滿され、叫びて言ふ『大なる哉、エペソ人のアルテミス』29かくて町擧りて騷ぎ立ち、人々パウロの同行者なるマケドニヤ人ガイオとアリスタルコとを捕へ、心を一つにして劇場に押入りたり。30パウロ集民のなかに入らんとしたれど、弟子たち許さず。31又アジヤの祭の司のうちの或者どもも彼と親しかりしかば、人を遣して劇場に入らぬやうにと勸めたり。32ここに會衆おほいに亂れ、大方はその何のために集りたるかを知らずして、或者はこの事を、或者はかの事を叫びたり。33遂に群衆の或者ども、ユダヤ人の推し出したるアレキサンデルに勸めたれば、かれ手を搖かして

集民に辯明をなさんとすれど、34其のユダヤ人たるを知り、みな同音に『おほいなる哉、エペソ人のアルテミス』と呼はりて二 時間ばかりに及ぶ。35時に書記役、群衆を鎮めおきて言ふ『さてエペソ人よ、誰かエペソの町が大女神アルテミス及び天より降りし像の宮守なることを知らざる者あらんや。36これは言ひ消し難きことなれば、なんぢら靜なるべし、妄なる事を爲すべからず。37この人々は宮の物を盜む者にあらず、我らの女 神を謗る者にもあらず、然るに汝ら之を曳き來れり。38もしデメテリオ及び偕にをる細工人ら、人に就きて訴ふべき事あらば、裁判の日あり、かつ司あり、彼 等おのおの訴ふべし。39もし又ほかの事につきて議する所あらば、正式の議會にて決すべし。40我ら今日の騷擾につきては、何の理由もなきにより咎を受くる恐あり。この會 合につきて言ひひらくこと能はねばなり』41斯く言ひて集會を散じたり。

第二十章

1騷亂のやみし後、パウロ弟子たちを招きて勸をなし、之に別を告げ、マケドニヤに往かんとて出で立つ。2而して、かの地方を巡り多くの言をもて弟子たちを勸めし後、ギリシヤに到る。3そこに留ること三个月にして、シリヤに向ひて船出せんとする時、おのれを害はんとするユダヤ人らの計 略に遭ひたれば、マケドニヤを經て歸らんと心を決む。4之に伴へる人々はベレア人にしてプロの子なるソパテロ、テサロニケ人アリスタルコ及びセクンド、デルベ人ガイオ及びテモテ、アジヤ人テキコ及びトロピモなり。5彼らは先だちゆき、トロアスにて我らを待てり。6我らは除酵祭の後ピリピより船出し、五日にしてトロアスに著き、彼らの許に到りて七日のあひだ留れり。7一 週の首の日われらパンを擘かんとて集りしが、パウロ明日いで立たんとて彼 等とかたり、夜半まで語り續けたり。8集りたる高樓には多くの燈火ありき。9ここにユテコといふ若者 窓に倚りて坐しゐたるが、甚く眠氣ざすほどに、パウロの語ること愈々 久しくなりたれば、遂に熟睡して三階より落つ。これを扶け起したるに、はや死にたり。10パウロ降りて其の上に伏し、かき抱きて言ふ『なんぢら騷ぐな、生命はなほ内にあり』11乃ち復のぼりてパンを擘き、食してのち久しく語りあひ、夜明に至り遂に出でたてり。12人々かの若者の活きたるを連れきたり、甚く慰藉を得たり。13かくて我らは先だちて船に乘り、アソスにてパウロを載せんとして彼處に船出せり。彼は徒歩にて往かんとて斯くは定めたるなり。14我らアソスにてパウロを待ち迎へ、これを載せてミテレネに渡り、15また彼處より船出して翌日キヨスの彼方にいたり、次の日サモスに立ち寄り、その次の日ミレトに著く。16パウロ、アジヤにて時を費さぬ爲に、エペソには船を寄せずして過ぐることに定めしなり。これは成るべく五旬節の日エルサレムに在ることを得んとて急ぎしに因る。17而してパウロ、ミレトより人をエペソに遣し、教 會の長 老たちを呼びて、18その來りし時かれらに言ふ『わがアジヤに來りし初の日より、如何なる状にて常に汝らと偕に居りしかは、汝らの知る所なり。19即ち謙遜の限をつくし、涙を流し、ユダヤ人の計 略によりて迫り來し艱難に耐へて主につかへ、20益となる事は何くれとなく憚らずして告げ、公然にても家々にても汝らを教へ、21ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に對して悔改め、われらの主イエスに對して信仰すべきことを證せり。22視よ、今われは心 搦められてエルサレムに往く。彼處にて如何なる事の我に及ぶかを知らず。23ただ聖 靈いづれの町にても我に證して、縲紲と患難と我を待てりと告げたまふ。24然れど我わが走るべき道程と、主イエスより承けし職、すなわち神の惠の福音を證する事とを果さん爲には、固より生命をも重んぜざるなり。25視よ、今われは知る、前に汝らの中を歷巡りて御國を宣傳へし我が顏を、汝ら皆ふたたび見ざるべきを。26この故に、われ今日なんぢらに證す、われは凡ての人の血につきていさぎよし。27我は憚らずして神の御旨をことごとく汝らに告げしなり。28汝 等みづから心せよ、又すべての群に心せよ、聖 靈は汝 等を群のなかに立てて監督となし、神の己の血をもて買ひ給ひし教 會を牧せしめ給ふ。29われ知る、わが出で去るのち、暴き豺狼なんぢらの中に入りきたりて、群を惜まず、30又なんぢらの中よりも、弟子たちを己が方に引き入れんとて、曲れることを語るもの起らん。31されば汝ら目を覺しをれ。三年の間わが夜も晝も休まず、涙をもて汝 等おのおのを訓戒せしことを憶えよ。32われ今なんぢらを、主および其の惠の御言に委ぬ。御言は汝らの德を建て、すべての潔められたる者とともに嗣業を受けしめ得るなり。33我は人の金 銀・衣服を貪りし事なし。

34この手は我が必要に供へ、また我と偕なる者に供へしことを汝等みづから知る。35我すべての事に於て例を示せり、即ち汝らも斯く働きて、弱き者を助け、また主イエスの自ら言ひ給ひし「與ふるは受くるよりも幸福なり」との御言を記憶すべきなり』36斯く言ひて後、パウロ跪づきて一同とともに祈れり。37みな大に歎きパウロの頸を抱きて接吻し、38そのふたたび我が顔を見ざるべしと云ひし言によりて特に憂ひ、遂に彼を船まで送りゆけり。

第二十一章

1ここに我ら人々と別れて船出をなし、眞直にはせてコスに到り、次の日ロドスにつき、彼處よりパタラにわたる。2此の處にてピニケにゆく船に遇ひ、これに乗りて船出す。3クプロを望み、之を左にして過ぎ、シリヤに向ひて進み、ツロに著きたり、此處にて船荷を卸さんとすればなり。4かくて弟子たちに尋ね逢ひて七日留れり。かれら御靈によりてパウロに、エルサレムに上るまじき事を云へり。5然るに我ら七日終りて後、いでて旅立ちたれば、彼等みな妻子とともに町の外まで送りきたり、諸共に濱邊に跪づきて祈り、6相互に別を告げて我らは船に乗り、彼らは家に歸れり。7ツロをいでトレマイに到りて船路つきたり。此處にて兄弟たちの安否を訪ひ、かれらの許に一日留り、8明くる日ここを去りてカイザリヤにいたり、傳道者ピリポの家に入りて留る、彼はかの七人の一人なり。9この人に預言する四人の娘ありて、處女なりき。10我ら數日留り居るうちに、アガボと云ふ預言者ユダヤより下り、11我らの許に來りてパウロの帶をとり、己が足と手とを縛りて言ふ『聖靈かく言ひ給ふ「エルサレムにて、ユダヤ人この帶の主を斯くの如く縛りて異邦人の手に付さん」と』12われら之を聞きて此の地の人々とともにパウロに、エルサレムに上らざらんことを勸む。13その時パウロ答ふ『なんぢら何ぞ歎きて我が心を挫くか、我エルサレムにて、主イエスの名のために、唯に縛らるるのみかは、死ぬることをも覺悟せり』14斯く我らの勸告を納れるによりて『主の御意の如くなれかし』と言ひて止む。15この後われら行李を整へてエルサレムに上る。16カイザリヤに居る弟子も數人ともに往き、我らの宿らんとするクプロ人マナソンといふ舊き弟子のもとに案内したり。17エルサレムに到りたれば、兄弟たち歡びて我らを迎へたり。18翌日パウロ我らと共にヤコブの許に往きしに、長老たちみなあつまり居たり。19パウロその安否を問ひて後、おのが勤勞によりて異邦人のうちに神の行ひ給ひしことを、一々告げたれば、20彼ら聞きて神を崇め、またパウロに言ふ『兄弟よ、なんぢの見るごとく、ユダヤ人のうち、信者となりたるもの數萬人あり、みな律法に對して熱心なる者なり。21彼らは、汝が異邦人のうちに居る凡てのユダヤ人に對ひて、その兒らに割禮を施すな、習慣に從ふなと云ひて、モーセに遠ざかることを教ふと聞けり。22如何にすべきか、彼らは必ず汝の來りたるを聞かん。23されば汝われらの言ふ如くせよ、我らの中に誓願あるもの四人あり、24汝かれらと組みて之とともに潔をなし、彼等のために費を出して髮を剃らしめよ。さらば人々みな汝につきて聞きたることの虛僞にして、汝も律法を守りて正しく歩み居ることを知らん。25異邦人の信者となりたる者につきては、我ら既に書き贈りて、偶像に献げたる物と、血と、絞殺したる物と、淫行とに遠ざかるべき事を定めたり』26ここにパウロその人々と組みて、次の日ともどもに潔をなして宮に入り、潔の期滿ちて各人のために献物をささぐべき日を告げたり。27かくて七日の終らんとする時、アジヤより來りしユダヤ人ら、宮の内にパウロの居るを見て、群衆を騒がし、かれに手をかけ叫びて言ふ、28『イスラエルの人々助けよ、この人はいたる處にて民と律法と此の所とに悖れることを人々に教ふる者なり、然のみならず、ギリシヤ人を宮に率き入れて、此の聖なる所をも汚したり』29からら曩にエペソ人トロピモがパウロとともに市中にゐたるを見て、パウロ之を宮に率き入れしと思ひしなり。30ここに市中みな騒ぎたち、民ども馳せ集り、パウロを捕へて宮の外に曳き出せり、かくて門は直ちに鎖されたり。31彼らパウロを殺さんとせしとき、軍隊の千卒長に、エルサレム中さわぎ立てりとの事きこえたれば、32かれ速かに兵卒および百卒長らを率ゐて馳せ下る。かれら千卒長と兵卒とを見て、パウロを打つことを止む。33千卒長、近よりてパウロを執へ、命じて二つの鏈にて繋がせ、その何人なるか、何事をなしたるかを尋ぬるに、34群衆の中にて或者はこの事を、或者はかの事を呼はり、騒亂のために確なる事を知るに由なく、命じて陣營に曳き來らしめたり。35階段に至れる

に、群衆の手暴きによりて、兵卒パウロを負ひたり。 36これ群れる民ども『彼を除け』と叫びつつ隨ひ迫れる故なり。 37パウロ陣營に曳き入れられんとするとき、千卒長に言ふ『われ汝に語りて可きか』かれ言ふ『なんぢギリシヤ語を知るか。 38汝はかのエジプト人にして、曩に亂を起して四千人の刺客を荒野に率ゐ出でし者ならずや』 39パウロ言ふ『我はキリキヤなるタルソのユダヤ人、鄙しからぬ市の市民なり。請ふ民に語るを許せ』 40之を許したれば、パウロ階段の上に立ち、民に對ひて手を搖かし、大に靜まれる時、ヘブルの語にて語りて言ふ、

第二十二章

1『兄弟たち親たちよ、今なんぢらに對する辯明を聽け』 2人々そのヘブルの語を語るを聞きてますます靜になりたれば、又いふ、 3『我はユダヤ人にてキリキヤのタルソに生れしが、此の都にて育てられ、ガマリエルの足下にて先祖たちの律法の嚴しき方に遵ひて教へられ、今日の汝らのごとく神に對して熱心なる者なりき。 4我この道を迫害し、男女を縛りて獄に入れ、死にまで至らしめしことは、 5大祭司も凡ての長老も我に就きて證するなり。我は彼等より兄弟たちへの書を受けて、ダマスコに寓り居る者どもを縛り、エルサレムに曳き來りて罰を受けしめんとて彼處にゆけり。 6往きてダマスコに近づきたるに、正午ごろ忽ち大なる光、天より出でて我を環り照せり。 7その時われ地に倒れ、かつ我に語りて「サウロ、サウロ、何ぞ我を迫害するか」といふ聲を聞き、 8「主よ、なんぢは誰ぞ」と答へしに「われは汝が迫害するナザレのイエスなり」と言ひ給へり。 9偕に居る者ども光は見しが、我に語る者の聲は聞かざりき。 10われ復いふ「主よ、我なにを爲すべきか」主いひ給ふ「起ちてダマスコに往け、なんぢの爲すべき定りたる事は彼處にて悉とく告げらるべし」 11我は、かの光の晃耀にて目見えずなりたれば、偕にをる者に手を引かれてダマスコに入りたり。 12ここに律法に據れる敬虔の人にして、其の町に住む凡てのユダヤ人に令聞あるアナニヤという者あり。 13彼われに來り傍らに立ちて「兄弟サウロよ、見ることを得よ」と言ひたれば、その時、仰ぎて彼を見たり。 14かれ又いふ「我らの先祖の神は、なんぢを選びて御意を知らしめ、又かの義人を見、その御口の聲を聞かしめんとし給へり。 15これは汝の見聞したる事につきて、凡ての人に對し彼の證人とならん爲なり。 16今なんぞ躊躇ふか、起て、その御名を呼び、バプテスマを受けて汝の罪を洗ひ去れ」 17かくて我エルサレムに歸り、宮にて祈りをるとき、我を忘れし心地して主を見奉るに、我に斯く言ひ給ふ、 18「なんぢ急げ、早くエルサレムを去れ、人々われに係る汝の證を受けぬ故なり」 19我いふ「主よ、我さきに汝を信ずる者を獄に入れ、諸會堂にて之を扑ち、 20又なんぢの證人ステパノの血の流されしとき、我もその傍らに立ちて之を可しとし、殺す者どもの衣を守りしことは、彼らの知る所なり」 21われに言ひ給ふ「往け、我なんぢを遠く異邦人に遣すなり」と』 22人々ききゐたりしが、此の言に及び、聲を揚げて言ふ『斯くのごとき者をば地より除け、生かしおくべき者ならず』 23斯く叫びつつ其の衣を脱ぎすて、塵を空中に撒きたれば、 24千卒長、人々が何故パウロにむかひて斯く叫び呼はるかを知らんとし、鞭うちて訊ぶることを命じて、彼を陣營に曳き入れしむ。 25革鞭をあてんとてパウロを引き張りし時、かれ傍らに立つ百卒長に言ふ『ロマ人たる者を罪も定めずして鞭うつは可きか』 26百卒長これを聞きて千卒長に往き、告げて言ふ『なんぢ何をなさんとするか、此の人はロマ人なり』 27千卒長きたりて言ふ『なんぢはロマ人なるか、我に告げよ』かれ言ふ『然り』 28千卒長こたふ『我は多くの金をもて此の民籍を得たり』パウロ言ふ『我は生れながらなり』 29ここに訊べんとせし者どもは直ちに去り、千卒長はそのロマ人なるを知り、之を縛りしことを懼れたり。 30明くる日、千卒長かれが何故ユダヤ人に訴へられしか、確なる事を知らんと欲して、彼の縛を解き、命じて祭司長らと全議會とを呼び集め、パウロを曳き出して其の前に立たしめたり。

第二十三章

1パウロ議會に目を注ぎて言ふ『兄弟たちよ、我は今日に至るまで事毎に良心に從ひて神に事へたり』 2大祭司アナニヤ傍らに立つ者どもに、彼の口を擊つことを命ず。 3ここにパウロ言ふ『白く塗りたる壁よ、神なんぢを擊ち給はん、なんぢ律法によりて我を審くために坐しながら、律法に悖りて我を擊つことを命ずるか』 4傍らに立つ者いふ『なんぢ神の大祭司を罵るか』 5パウロ

言ふ『兄弟たちよ、我その大祭司たることを知らざりき。録して「なんぢの民の司をそしる可からず」とあればなり』 6かくてパウロ、その一部はサドカイ人、その一部はパリサイ人たるを知りて、議會のうちに呼はりて言ふ『兄弟たちよ、我はパリサイ人にしてパリサイ人の子なり、我は死人の甦へることの希望につきて審かるるなり』 7斯く言ひしに因りて、パリサイ人とサドカイ人との間に紛爭おこりて、會衆相分れたり。 8サドカイ人は復活もなく御使も靈もなしと言ひ、パリサイ人は兩ながらありと云ふ。 9遂に大なる喧噪となりて、パリサイ人の中の學者數人たちて爭ひて言ふ『われら此の人に惡しき事あるを見ず、もし靈または御使かれに語りたるならば如何』 10紛爭いよいよ激しくなりたれば、千卒長、パウロの彼らに引裂かれんことを恐れ、兵卒どもに命じて下りゆかしめ、彼らの中より引取りて陣營に連れ來らしめたり。 11その夜、主パウロの傍らに立ちて言ひ給ふ『雄々しかれ、汝エルサレムにて我につきて證をなしたる如く、ロマにても證をなすべし』 12夜明になりてユダヤ人、徒黨を組み盟約を立てて、パウロを殺すまでは飲食せじと言ふ。 13この徒黨を結びたる者は四十人餘なり。 14彼らは祭司長・長老らに往きて言ふ『われらパウロを殺すまでは何をも味ふまじと堅く盟約を立てたり。 15されば汝等なほ詳細に訊べんとする状して、彼を汝らの許に連れ下らすることを、議會とともに千卒長に訴へよ。我等その近くならぬ間に殺す準備をなせり』 16パウロの姉妹の子この待伏の事をきき、往きて陣營に入りパウロに告げたれば、 17パウロ百卒長の一人を呼びて言ふ『この若者を千卒長につれ往け、告ぐる事あり』 18百卒長これを携へ、千卒長に至りて言ふ『囚人パウロ我を呼びて、この若者なんぢに言ふべき事ありとて、汝に連れ往くことを請へり』 19千卒長その手を執り退きて、私に問ふ『われに告ぐる事とは何ぞ』 20若者いふ『ユダヤ人は、汝がパウロの事をなほ詳細に訊ぶる爲にとて、明日かれを議會に連れ下ることを汝に請はんと申合せたり。 21汝その請に從ふな、彼らの中にて四十人餘の者、パウロを待伏せ、之を殺すまでは飲食せじと盟約を立て、今その準備をなして汝の許諾を待てり』 22ここに千卒長、若者に『これらの事を我に訴へたりと誰にも語るな』と命じて歸せり。 23さて百卒長を兩三人よびて言ふ『今夜九時ごろカイザリヤに向けて往くために、兵卒二百、騎兵七十、槍をとる者二百を整へよ』 24また畜を備へ、パウロを乘せて安全に總督ペリクスの許に護送することを命じ、 25かつ左のごとき書をかき贈る。 26『クラウデオ・ルシヤ謹みて總督ペリクス閣下の平安を祈る。 27この人はユダヤ人に捕へられて殺されんとせしを、我そのロマ人なるを聞き、兵卒どもを率ゐ往きて救へり。 28ユダヤ人の彼を訴ふる理由を知らんと欲して、その議會に引き往きたるに、 29彼らの律法の問題につき訴へられたるにて、死もしくは縛に當る罪の訴訟にあらざるを知りたり。 30又この人を害せんとする謀計ありと我に聞えたれば、われ俄にこれを汝のもとに送り、これを訴ふる者に、なんぢの前にて彼を訴へんことを命じたり』 31ここに兵卒ども命ぜられたる如くパウロを受けとりて、夜中アンテパトリスまで連れてゆき、 32翌日これを騎兵に委ね、ともに往かしめて陣營に歸れり。 33騎兵はカイザリヤに入り、總督に書をわたし、パウロを其の前に立たしむ。 34總督、書を讀みて、パウロのいづこの國の者なるかを問ひ、そのキリキヤ人なるを知りて、 35『汝を訴ふる者の來らんとき、尚つまびらかに汝のことを聽かん』と言ひ、かつ命じて、ヘロデでの官邸に之を守らしめたり。

第二十四章

1五日ののち、大祭司アナニヤ數人の長老およびテルトロと云ふ辯護士とともに下りて、パウロを總督に訴ふ。 2パウロ呼び出されたれば、テルトロ訴へ出でて言ふ『ペリクス閣下よ、われらは汝によりて太平を樂しみ、 3なんぢの先見によりて、此の國人のために時に隨ひ處に隨ひて、惡しき事の改められたるを感謝して罷まず。 4ここに喃々しく陳べて汝を妨ぐまじ、願はくは寛容をもて我が少しの言を聽け。 5我等この人を見るに、恰も疫病のごとくにて、全世界のユダヤ人のあひだに騷擾をおこし、且ナザレ人の異端の首にして、 6宮をさへ瀆さんとしたれば、之を捕へたり。 7[なし] 8汝この人に就きて訊さば、我らの訴ふる所をことごとく知り得べし』 9ユダヤ人も之に加へて、誠にその如くなりと主張す。 10總督、首にて示しパウロに言はしめたれば、答ふ『なんぢが年久しくこの國人の審判人たることを我は知るゆゑに、喜びて我が辯明をなさん。 11なんぢ知り得べし、我が禮拜のためにエルサレムに上りてより僅か十二日に

過ぎず、12また彼らは、我が宮にても會堂にても市中にても、人と爭ひ群衆を騷がしたるを見ず、13いま訴へたる我が事につきても證明すること能はざるなり。14我ただ此の一事を汝に言ひあらはさん、即ち我は彼らが異端と稱ふる道に循ひて、我が先祖たちの神につかへ、律法と預言者の書とに録したる事をことごとく信じ、15かれら自らも待てるごとく、義者と不義者との復活あるべしと、神を仰ぎて望を懷くなり。16この故に、われ常に神と人とに對して良心の責なからんことを勉む。17我は多くの年を經てのち歸りきたり、我が民に施濟をなし、また献物をささげゐたりしが、18その時かれらは我が潔をなして宮にをるを見たるのみにて、群衆もなく騷擾もなかりしなり。19然るにアジアより來れる數人のユダヤ人ありて——もし我に咎むべき事あらば、彼らが汝の前に出でて訴ふることを爲べきなり。20或はまた此處なる人々、わが先に議會に立ちしとき、我に何の不義を認めしか言へ。21唯われ彼らの中に立ちて「死人の甦へる事につきて我けふ汝らの前にて審かる」と呼はりし一言の他には何もなかるべし』22ペリクスこの道のことを詳しく知りたれば、審判を延して言ふ『千卒長ルシヤの下るを待ちて汝らの事を定むべし』23かくて百卒長に命じパウロを守らせ、寛かならしめ、かつ友の之に事ふるをも禁ぜざらしむ。24數日の後ペリクス、その妻なるユダヤ人の女ドルシラとともに來り、パウロを呼びよせてキリスト・イエスに對する信仰のことを聽き、25パウロが正義と節制と來らんとする審判とにつきて論じたる時、ペリクス懼れて答ふ『今は去れ、よき機を得てまた招かん』26かくてパウロより金を與へられんことを望みて、尚しばしば彼を呼びよせては語れり。27二年を經てポルシオ・フェスト、ペリクスの任に代りしが、ペリクス、ユダヤ人の意を迎へんとして、パウロを繋ぎたるままに差措けり。

第二十五章

1フェスト任國にいたりて三日の後、カイザリヤよりエルサレムに上りたれば、2祭司長ら及びユダヤ人の重立ちたる者ども、パウロを訴へ之を害はんとして、3フェストの好意にて彼をエルサレムに召し出されんことを願ふ。斯くして道に待伏し、之を殺さんと思へるなり。4然るにフェスト答へて、パウロのカイザリヤに囚はれ在ることと、己が程なく歸るべき事とを告げ、5『もし彼に不善あらんには、汝等のうち然るべき者ども我とともに下りて訴ふべし』と言ふ。6かくて彼處に八日 十日ばかり居りてカイザリヤに下り、明くる日、審判の座に坐し、命じてパウロを引出さしむ。7その出で來りし時、エルサレムより下りしユダヤ人ら、これを取圍みて様々の重き罪を言ひ立てて訴ふれども、證すること能はず。8パウロは辯明して言ふ『我はユダヤ人の律法に對しても、宮に對しても、カイザルに對しても、罪を犯したる事なし』9フェスト、ユダヤ人の意を迎へんとしてパウロに答へて言ふ『なんぢエルサレムに上り、彼處にて我が前に審かるることを諾ふか』10パウロ言ふ『我はわが審かるべきカイザルの審判の座の前に立ちをるなり。汝の能く知るごとく、我はユダヤ人を害ひしことなし。11若しも罪を犯して死に當るべき事をなしたらんには、死ぬるを厭はじ。然れど此の人々の訴ふること實ならずば、誰も我を彼らに付すことを得じ、我はカイザルに上訴せん』12ここにフェスト陪席の者と相議りて答ふ『なんぢカイザルに上訴せんとす、カイザルの許に往くべし』13數日を經て後、アグリッパ王とベルニケとカイザリヤに到りてフェストの安否を問ふ。14多くの日 留りゐたれば、フェスト、パウロのことを王に告げて言ふ『ここにペリクスが囚人として遺しおきたる一人の人あり、15我エルサレムに居りしとき、ユダヤ人の祭司長・長老ら之を訴へて罪に定めんことを願ひしが、16我は答へて、訴へらるる者の未だ訴ふる者の面前にて辯明する機を與へられぬ前に付すは、ロマ人の慣例にあらぬ事を告げたり。17この故に彼等ここに集りたれば、時を延さず次の日 審判の座に坐し、命じてかの者を引出さしむ。18訴ふる者かれを圍みて立ちしが、思ひしごとき惡しき事は一つも陳ぶる所なし。19ただ己らの宗教、またはイエスと云ふ者の死にたるを活きたりと、パウロが主張するなどに關する問題のみなれば、20かかる審理には我も當惑せし故、かの人に「なんぢエルサレムに往き彼處にて審かるる事を好むか」と問ひしに、21パウロは上訴して皇帝の判決を受けん爲に守られんことを願ひしにより、命じて之をカイザルに送るまで守らせ置けり』22アグリッパ、フェストに言ふ『我もその人に聽かんと欲す』フェスト言ふ『なんぢ明日かれに聽くべし』23明くる日アグリッパとベルニケと大に威儀を整へてきたり、

千卒長ら及び市の重立ちたる者どもと共に訊問所に入りたれば、フェストの命によりてパウロ引出さる。24フェスト言ふ『アグリッパ王、竝びに此處に居る凡ての者よ、汝らの見るこの人は、ユダヤの民衆が擧りて生かしおくべきにあらずと呼はりて、エルサレムにても此處にても我に訴へし者なり。25然るに我はその死に當るべき惡しき事を一つだに犯したるを認めねば、彼の自ら皇帝に上訴せんとする隨にその許に送らんと決めたり。26而して彼につきて我が主に上書すべき實情を得ず。この故に汝等のまへ、特にアグリッパ王よ、なんぢの前に引出し、訊問をなしてのち、上書すべき箇條を得んと思へり。27囚人を送るに訴訟の次第を陳べざるは道理ならずと思ふ故なり』

第二十六章

1アグリッパ、パウロに言ふ『なんぢは自己のために陳ぶることを許されたり』ここにパウロ手を伸べ、辯明して言ふ、2『アグリッパ王よ、我ユダヤ人より訴へられし凡ての事につきて、今日なんぢらの前に辯明するを我が幸福とす。3汝がユダヤ人の凡ての習慣と問題とを知るによりて殊に然りとす。されば請ふ、忍びて我に聽け。4わが始より國人のうちに又エルサレムに於ける幼き時よりの生活の狀は、ユダヤ人のみな知る所なり。5彼等もし證せんと思はば、わが我らの宗教の最も嚴しき派に從ひて、パリサイ人の生活をなしし事を始より知れり。6今わが立ちて審かるるは、神が我らの先祖たちに約束し給ひしことの希望に因りてなり。7之を得んことを望みて、我が十二の族は夜も晝も熱心に神に事ふるなり。王よ、この希望につきて、我はユダヤ人に訴へられたり。8神は死人を甦へらせ給ふとも、汝等なんぞ信じ難しとするか。9我も曩にはナザレ人イエスの名に逆ひて樣々の事をなすを宜きことと自ら思へり。10我エルサレムにて之をおこなひ、祭司長らより權威を受けて多くの聖徒を獄にいれ、彼らの殺されし時これに同意し、11諸教會堂にてしばしば彼らを罰し、強ひて瀆言を言はしめんとし、甚だしく狂ひ、迫害して外國の町にまで至れり。12此のとき祭司長らより權威と委任とを受けてダマスコに赴きしが、13王よ、その途にて正午ごろ天よりの光を見たり、日にも勝りて輝き、我と伴侶とを圍み照せり。14我等みな地に倒れたるに、ヘブルの語にて「サウロ、サウロ、何ぞ我を迫害するか、刺ある策を蹴るは難し」といふ聲を我きけり。15われ言ふ「主よ、なんぢは誰ぞ」主いひ給ふ「われは汝が迫害するイエスなり。16起きて汝の足にて立て、わが汝に現れしは、汝をたてて其の見しことと我が汝に現れて示さんとする事との役者また證人たらしめん爲なり。17我なんぢを此の民および異邦人より救はん、又なんぢを彼らに遣し、18その目をひらきて暗より光に、サタンの權威より神に立ち歸らせ、我に對する信仰によりて罪の赦と潔められたる者のうちの嗣業とを得しめん」と。19この故にアグリッパ王よ、われは天よりの顯示に背かずして、20先づダマスコに居るもの、次にエルサレム及びユダヤ全國、また異邦人にまで、悔改めて神に立ちかへり、其の悔改にかなふ業をなすべきことを宣傳へたり。21之がためにユダヤ人われを宮にて捕へ、かつ殺さんとせり。22然るに神の祐によりて今日に至るまで尚存へて、小なる人にも大なる人にも證をなし、言ふところは預言者およびモーセが必ず來るべしと語りしことの外ならず。23即ちキリストの苦難を受くべきこと、最先に死人の中より甦へる事によりて、民と異邦人とに光を傳ふべきこと是なり』24パウロ斯く辯明しつつある時、フェスト大聲に言ふ『パウロよ、なんぢ狂氣せり、博學なんぢを狂氣せしめたり』25パウロ言ふ『フェスト閣下よ、我は狂氣せず、宣ぶる所は眞にして慥なる言なり。26王は此等のことを知るゆゑに、我その前に憚らずして語る。これらの事は片隅に行はれたるにあらねば、一つとして王の眼に隱れたるはなしと信ずるに因る。27アグリッパ王よ、なんぢ預言者の書を信ずるか、我なんぢの信ずることを知る』28アグリッパ、パウロに言ふ『なんぢ説くこと僅にして我をキリステアンたらしめんとするか』29パウロ言ふ『説くことの僅なるにもせよ、多きにもせよ、神に願ふは、啻に汝のみならず、凡て今日われに聽ける者の、この縲紲なくして我がごとき者とならんことなり』30ここに王も總督もベルニケも、列座の者どもも皆ともに立つ、31退きてのち相語りて言ふ『この人は死罪または縲紲に當るべき事をなさず』32アグリッパ、フェストに言ふ『この人カイザルに上訴せざりしならば釋さるべかりしなり』

第二十七章

1すでに我等をイタリヤに渡らしむること決りたれば、パウロ及びその他數人の囚人を、近衞隊の百卒長ユリアスと云ふ人に付せり。2ここに我らアジヤの海邊なる各處に寄せゆくアドラミテオの船の出帆せんとするに乘りて出づ。テサロニケのマケドニヤ人アリスタルコも我らと共にありき。3次の日シドンに著きたれば、ユリアス懇切にパウロを遇ひ、その友らの許にゆきて歡待を受くることを許せり。4かくて此處より船出せしが、風の逆ふによりてクプロの風下の方をはせ、5キリキヤ及びパンフリヤの沖を過ぎてルキヤのミラに著く。6彼處にてイタリヤにゆくアレキサンデリヤの船に遇ひたれば、百卒長われらを之に乘らしむ。7多くの日のあひだ船の進み遲く、辛うじてクニドに對へる處に到りしが、風に阻へられてサルモネの沖を過ぎ、クレテの風下の方をはせ、8陸に沿ひ辛うじて良き港といふ處につく。その近き處にラサヤの町あり。9船路久しきを歷て、斷食の期節も既に過ぎたれば、航海危きにより、パウロ人々に勸めて言ふ、10『人々よ、我この航海の害あり損多くして、ただ積荷と船とのみならず、我らの生命にも及ぶべきを認む』11されど百卒長は、パウロの言ふ所よりも船長と船主との言を重んじたり。12且この港は冬を過すに不便なるより、多數の者も、なし得んにはピニクスに到り、彼處にて冬を過さんとて、此處を船出するを可しとせり。ピニクスはクレテの港にて東北と東南とに向ふ。13南風おもむろに吹きたれば、彼ら志望を得たりとして錨をあげ、クレテの岸邊に沿ひて進みたり。14幾程もなくユーラクロンといふ疾風その島より吹きおろし、15之がために船は吹き流され、風に向ひて進むこと能はねば、船は風の追ふに任す。16クラウダといふ小島の風下の方にいたり、辛うじて小艇を收め、17これを船に引上げてのち、備綱にて船體を卷き縛り、またスルテスの洲に乘りかけんことを恐れ、帆を下して流る。18いたく暴風に惱され、次の日、船の者ども積荷を投げすて、19三日めに手づから船具を棄てたり。20數日のあひだ日も星も見えず、暴風はげしく吹き荒びて、我らの救はるべき望ついに絶え果てたり。21人々の食せぬこと久しくなりたる時、パウロその中に立ちて言ふ『人々よ、なんぢら前に我が勸をきき、クレテより船出せずして、この害と損とを受けずあるべき筈なりき。22いま我なんぢらに勸む、心安かれ、汝等のうち一人だに生命をうしなふ者なし、ただ船を失はん。23わが屬するところ我が事ふる所の神の使、昨夜わが傍らに立ちて、24「パウロよ、懼るな、なんぢ必ずカイザルの前に立たん、視よ、神は汝と同船する者をことごとく汝に賜へり」と云ひたればなり。25この故に人々よ、心安かれ、我はその我に語り給ひしごとく必ず成るべしと神を信ず。26而して我らは或島に推上げらるべし』27かくて十四日めの夜に至りて、アドリヤの海を漂ひゆきたるに、夜半ごろ水夫ら陸に近づきたりと思ひて、28水を測りたれば、二十尋なるを知り、少しく進みてまた測りたれば、十五尋なるを知り、29岩に乘り上げんことを恐れて、艫より錨を四つ投して夜明を待ちわぶ。30然るに水夫ら船より逃れ去らんと欲し、舳より錨を曳きゆくに言寄せて小艇を海に下したれば、31パウロ、百卒長と兵卒らとに言ふ『この者ども若し船に留らずば、汝ら救はるること能はず』32ここに兵卒ら小艇の綱を斷切りて、その流れゆくに任す。33夜の明けんとする頃、パウロ凡ての人に食せんことを勸めて言ふ『なんぢら待ち待ちて食事せぬこと今日にて十四日なり。34されば汝らに食せんことを勸む、これ汝らが救のためなり、汝らの頭髮一筋だに首より落つる事なし』35斯く言ひて後みづからパンを取り、一同の前にて神に謝し、擘きて食し始めたれば、36人々もみな心を安んじて食したり。37船に居る我らは凡て二百七十六人なりき。38人々食し飽きてのち、穀物を海に投げ棄てて船を輕くせり。39夜明になりて、孰の土地かは知らねど、砂濱の入江を見出し、なし得べくば此處に船を寄せんと相議り、40錨を斷ちて海に棄つるとともに、舵纜をゆるめ舳の帆を揚げて、風にまかせつつ砂濱さして進む。41然るに潮の流れあふ處にいたりて船を淺瀨に乘り上げたれば、舳膠著きて動かず、艫は浪の激しきに破れたり。42兵卒らは囚人の泳ぎて逃れ去らんことを恐れ、これを殺さんと議りしに、43百卒長パウロを救はんと欲して、その議るところを阻み、泳ぎうる者に命じ、海に跳び入りてまず上陸せしめ、44その他の者をば或は板あるひは船の碎片に乘らしむ。斯くしてみな上陸して救はるるを得たり。

第二十八章

1われら救はれて後、この島のマルタと稱ふるを知れり。2土人ら一方ならぬ情を我らに表し、降りしきる雨と

寒氣とのために、火を焚きて我ら一同を待遇せり。 3パウロ柴を束ねて火にくべたれば、熱によりて蝮いでて其の手につく。 4蛇のその手に懸りたるを土人ら見て互に言ふ『この人は必ず殺人者なるべし、海より救はれしも、天道はその生くるを容さぬなり』 5パウロ蛇を火のなかに振り落して何の害をも受けざりき。 6人々は彼が腫れ出づるか、または忽ち倒れ死ぬるならんと候ふ。久しく窺ひたれど、聊かも害を受けぬを見て、思を變へて、此は神なりと言ふ。 7この處の邊に島司のもてる土地あり、島司の名はポプリオといふ。此の人われらを迎へて懇切に三日の間もてなせり。 8ポプリオの父、熱と痢病とに罹りて臥し居たれば、パウロその許にいたり、祈りかつ手を按きて醫せり。 9この事ありてより、島の病める人々みな來りて醫されたれば、 10禮を厚くして我らを敬ひ、また船出の時には必要なる品々を贈りたり。 11三月の後、われらはこの島に冬籠せしデオスクリの號あるアレキサンデリヤの船にて出で、 12シラクサにつきて三日とまり、 13此處より繞りてレギオンにいたり、一日を過ぎて南風ふき起りたれば、我ら二日めにポテオリに著き、 14此處にて兄弟たちに逢ひ、その勸によりて七日のあひだ留り、而して遂にロマに往く。 15かしこの兄弟たち我らの事をききて、アピオポロおよびトレスタベルネまで來りて我らを迎ふ。パウロこれを見て神に感謝し、その心勇みたり。 16我らロマに入りて後、パウロは己を守る一人の兵卒とともに別に住むことを許さる。 17三日すぎてパウロ、ユダヤ人の重立ちたる者を呼び集む。その集りたる時これに言ふ『兄弟たちよ、我はわが民わが先祖たちの慣例に悖ることを一つも爲さざりしに、エルサレムより囚人となりて、ロマ人の手に付されたり。 18かれら我を審きて死に當ることなき故に、我を釋さんと思ひしに、 19ユダヤ人さからひたれば、餘義なくカイザルに上訴せり。然れど我が國人を訴へんとせしにあらず。 20この故に我なんぢらに會ひ、かつ共に語らんことを願へり、我はイスラエルの懷く希望の爲にこの鎖に繋がれたり』 21かれら言ふ『われら汝につきてユダヤより書を受けず、また兄弟たちの中より來りて、汝の善からぬ事を告げたる者も、語りたる者もなし。 22ただ我らは汝の思ふところを聞かんと欲するなり。それは此の宗旨の到る處にて非難せらるるを知ればなり』 23ここに日を定めて多くの人パウロの宿に來りたれば、パウロ朝より夕まで神の國のことを説明して證をなし、かつモーセの律法と預言者の書とを引きてイエスのことを勸めたり。 24パウロのいふ言を或者は信じ、或者は信ぜず。 25互に相合はずして退かんとしたるに、パウロ一言を述べて言ふ『宜なるかな、聖靈は預言者イザヤによりて汝らの先祖たちに語り給へり。曰く、 26「なんぢらこの民に往きて言へ、なんぢら聞きて聞けども悟らず、見て見れども認めず、 27この民の心はにぶく、耳は聞くにものうく、目は閉ぢたればなり。これ目にて見、耳にて聞き、心にてさとり、ひるがへりて我に醫さるることなからん爲なり」 28然れば汝ら知れ、神のこの救は異邦人に遣されたり、彼らは之を聽くべし』 29[なし] 30パウロは滿二年のあひだ、己が借り受けたる家に留り、その許にきたる凡ての者を迎へて、 31更に臆せずまた妨げられずして、神の國をのべ、主イエス・キリストの事を教へたり。

ロマ人への書

第一章

1キリスト・イエスの僕、召されて使徒となり、神の福音のために選び別たれたるパウロ—— 2この福音は神その預言者たちにより、聖書の中に預じめ御子に就きて約し給ひしものなり。 3御子は肉によれば、ダビデの裔より生れ、 4潔き靈によれば、死人の復活により大能をもて神の子と定められ給へり、即ち我らの主イエス・キリストなり。 5我等その御名の爲にもろもろの國人を信仰に從順ならしめんとて、彼より恩惠と使徒の職とを受けたり。 6汝等もその中にあり、てイエス・キリストの有とならん爲に召されたるなり。—— 7われ書をロマに在りて神に愛せられ、召されて聖徒となりたる凡ての者に贈る。願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩惠と平安と汝らに在らんことを。 8汝らの信仰、全世界に言ひ傳へられたれば、我まづ汝ら一同の爲にイエス・キリストによりて我が神に感謝す。 9その

御子の福音に於て我が靈をもて事ふる神は、わが絶えず祈のうちに汝らを覺え、10如何にしてか御意に適ひ、いつか汝らに到るべき途を得んと、常に冀がふことを我がために證し給ふなり。11われ汝らを見んことを切に望むは、汝らの堅うせられん爲に靈の賜物を分け與へんとてなり。12即ち我なんぢらの中にありて、互の信仰により相共に慰められん爲なり。13兄弟よ、我ほかの異邦人の中より得しごとく、汝らの中よりも實を得んとて、屢次なんぢらに往かんとしたれど、今に至りてなほ妨げらる、此の事を汝らの知らざるを欲せず。14我はギリシヤ人にも夷人にも、智き者にも愚なる者にも負債あり。15この故に我はロマに在る汝らにも福音を宣傳へんことを頻りに願ふなり。16我は福音を恥とせず、この福音はユダヤ人を始めギリシヤ人にも、凡て信ずる者に救を得さする神の力たればなり。17神の義はその福音のうちに顯れ、信仰より出でて信仰に進ましむ。録して『義人は信仰によりて生くべし』とある如し。18それ神の怒は、不義をもて眞理を阻む人の、もろもろの不虔と不義とに對ひて天より顯る。19その故は、神につきて知り得べきことは彼らに顯著なればなり、神これを顯し給へり。20それ神の見るべからざる永遠の能力と神性とは、造られたる物により世の創より悟りえて明かに見るべければ、彼ら言ひ遁るる術なし。21神を知りつつも尚これを神として崇めず、感謝せず、その念は虚しく、その愚なる心は暗くなれり。22自ら智しと稱へて愚となり、23朽つることなき神の榮光を易へて、朽つべき人および禽獣・匍ふ物に似たる像となす。24この故に神は彼らを其の心の慾にまかせて、互にその身を辱しむる汚穢に付し給へり。25彼らは神の眞を易へて虚僞となし、造物主を措きて造られたる物を拜し、且これに事ふ、造物主は永遠に讃むべき者なり、アァメン。26之によりて神は彼らを恥づべき慾に付し給へり。即ち女は順性の用を易へて逆性の用となし、27男もまた同じく女の順性の用を棄てて互に情慾を熾し、男と男と恥づることを行ひて、その迷に値すべき報を己が身に受けたり。28また神を心に存むるを善しとせざれば、神もその邪曲なる心の隨に爲まじき事をするに任せ給へり。29即ちもろもろの不義・惡・慳貪・惡意にて滿つる者、また嫉妬・殺意・紛爭・詭計・惡念の溢るる者、30讒言する者・謗る者・神に憎まるる者・侮る者・高ぶる者・誇る者・惡事を企つる者・父母に逆ふ者、31無知・違約・無情・無慈悲なる者にして、32かかる事どもを行ふ者の死罪に當るべき神の定を知りながら、啻に自己これらの事を行ふのみならず、また人の之を行ふを可しとせり。

第二章

1されば凡て人を審く者よ、なんぢ言ひ遁るる術なし、他の人を審くは、正しく己を罪するなり。人をさばく汝もみづから同じ事を行へばなり。2かかる事をおこなふ者を罪する神の審判は眞理に合へりと我らは知る。3かかる事をおこなふ者を審きて自己これを行ふ人よ、なんぢ神の審判を遁れんと思ふか。4神の仁慈なんぢを悔改に導くを知らずして、その仁慈と忍耐と寛容との豐なるを輕んずるか。5なんぢ頑固と悔改めぬ心とにより、己のために神の怒を積みて、その正しき審判の顯るる怒の日に及ぶなり。6神はおのおのの所作に隨ひて報い、7耐へ忍びて善をおこない光榮と尊貴と朽ちざる事とを求むる者には、永遠の生命をもて報い、8徒黨により眞理に從はずして不義にしたがう者には、怒と憤恚とをもて報い給はん。9すべて惡をおこなふ人には、ユダヤ人を始めギリシヤ人にも患難と苦難とあり。10凡て善をおこなふ人には、ユダヤ人を始めギリシヤ人にも光榮と尊貴と平安とあらん。11そは神には偏り視給ふこと無ければなり。12凡そ律法なくして罪を犯したる者は律法なくして滅び、律法ありて罪を犯したる者は律法によりて審かるべし。13律法を聞くもの神の前に義たるにあらず、律法をおこなふ者のみ義とせらるべし。—— 14律法を有たぬ異邦人、もし本性のまま律法に載せたる所をおこなふ時は、律法を有たずともおのづから己が律法たるなり。15即ち律法の命ずる所のその心に録されたるを顯し、おのが良心もこれを證をなして、その念、たがひに或は訴へ或は辯明す。—— 16是わが福音に云へる如く、神のキリスト・イエスによりて人々の隱れたる事を審きたまふ日に成るべし。17汝ユダヤ人と稱へられ、律法に安んじ、神を誇り、18その御意を知り、律法に教へられて善惡を辨へ、19また律法のうちに知識と眞理との式を有てりとして、盲人の手引、暗黒にをる者の光明、20愚なる者の守役、幼兒の教師なりと自ら信ずる者よ、21何ゆゑ人に教へて己を教へぬか、竊む勿れと宣べて自ら竊むか、22姦淫する勿れと言ひて姦淫するか、偶像を惡み

て宮の物を奪ふか、23律法に誇りて律法を破り神を輕んずるか。24録して『神の名は汝らの故によりて異邦人の中に涜さる』とあるが如し。25なんぢ律法を守らば割禮は益あり、律法を破らば汝の割禮は無 割禮となるなり。26割禮なき者も律法の義を守らば、その無 割禮は割禮とせらるるにあらずや。27本 性のまま割禮なくして律法を全うする者は、儀文と割禮とありてなほ律法をやぶる汝 を審かん。28それ表面のユダヤ人はユダヤ人たるにあらず、肉に在る表面の割禮は割禮たるにあらず。29隠なるユダヤ人はユダヤ人なり、儀文によらず、靈による心の割禮は割禮なり、その譽は人よりにあらず、神より來るなり。

第三章

1さらばユダヤ人に何の優るる所ありや、また割禮に何の益ありや。2凡ての事に益おほし、先づ第一に彼らは神の言を委ねられたり。3されど如何ん、ここに信ぜざる者ありとも、その不 信は神の眞實を廢つべきか。4決して然らず、人をみな虚僞 者とすとも神を誠實とすべし。録して『なんぢは其の言にて義とせられ、審かるるとき勝を得給はん爲なり』とあるが如し。5然れど若し我らの不義は神の義を顯すとせば何と言はんか、怒を加へたまふ神は不義なるか（こは人の言ふごとく言ふなり）6決して然らず、若し然あらば神は如何にして世を審き給ふべき。7わが虚僞によりて神の誠實いよいよ顯れ、その榮光とならんには、いかで我なほ罪人として審かるる事あらん。8また『善を來らせん爲に惡をなすは可からずや』（或 者われらを譏りて之を我らの言なりといふ）かかる人の罪に定めらるるは正し。9さらば如何ん、我らの勝る所ありや、有ることなし。我ら既にユダヤ人もギリシヤ人もみな罪の下に在りと告げたり。10録して『義人なし、一人だになし、11聰き者なく、神を求むる者なし。12みな迷ひて相 共に空しくなれり、善をなす者なし、一人だになし。13彼らの咽は開きたる墓なり、舌には詭計あり、口唇のうちには蝮の毒あり、14その口は詛と苦とにて滿つ。15その足は血を流すに速し、16破壞と艱難とその道にあり、17彼らは平和の道を知らず。18その眼前に神をおそるる畏なし』とあるが如し。19それ律法の言ふところは律法の下にある者に語ると我らは知る、これは凡ての口ふさがり、神の審判に全世界の服せん爲なり。20律法の行爲によりては、一人だに神のまへに義とせられず、律法によりて罪は知らるるなり。21然るに今や律法の外に神の義は顯れたり、これ律法と預言者とに由りて證せられ、22イエス・キリストを信ずるに由りて凡て信ずる者に與へたまふ神の義なり。之には何 等の差別あるなし。23凡ての人、罪を犯したれば神の榮光を受くるに足らず、24功なくして神の恩惠により、キリスト・イエスにある贖罪によりて義とせらるるなり。25即ち神は忍耐をもて過來しかたの罪を見遁し給ひしが、己の義を顯さんとて、キリストを立て、その血によりて信仰によれる宥の供物となし給へり。26これ今おのれの義を顯して、自ら義たらん爲、またイエスを信ずる者を義とし給はん爲なり。27さらば誇るところ何處にあるか。既に除かれたり、何の律法に由りてか、行爲の律法か、然らず、信仰の律法に由りてなり。28我らは思ふ、人の義とせらるるは、律法の行爲によらず、信仰に由るなり。29神はただユダヤ人のみの神なるか、また異邦人の神ならずや、然り、また異邦人の神なり。30神は唯一にして、割禮ある者を信仰によりて義とし、割禮なき者をも信仰によりて義とし給へばなり。31然らば我ら信仰をもて律法を空しくするか、決して然らず、反つて律法を堅うするなり。

第四章

1さらば我らの先祖アブラハムは肉につきて何を得たりと言はんか。2アブラハム若し行爲によりて義とせられたらんには誇るべき所あり、然れど神の前には有ることなし。3聖書に何と云へるか『アブラハム神を信ず、その信仰を義と認められたり』と。4それ働く者への報酬は恩惠といはず、負債と認めらる。5されど働く事なくとも、敬虔ならぬ者を義としたまふ神を信ずる者は、その信仰を義と認めらるるなり。6ダビデもまた行爲なくして神に義と認めらるる人の幸福につきて斯く云へり。曰く、7『不法を免され、罪を蔽はれたる者は幸福なるかな、8主が罪を認め給はぬ人は幸福なるかな』9されば此の幸福はただ割禮ある者にのみあるか、また割禮なき者にもあるか、我らは言ふ『アブラハムはその信仰を義と認められたり』と。10如何なるときに義と認められたるか、割禮ののちか、無 割禮のときか、割禮の後ならず、無 割禮の時なり。11而して無 割禮のときの信仰に

よれる義の印として割禮の徽を受けたり、これ無割禮にして信ずる凡ての者の義と認められん爲に、その父となり、12また割禮のみに由らず、我らの父アブラハムの無割禮のときの信仰の跡をふむ割禮ある者の父とならん爲なり。13アブラハム世界の世嗣たるべしとの約束を、アブラハムとその裔との與へられしは、律法に由らず、信仰の義に由れるなり。14もし律法による者ども世嗣たらば、信仰は空しく約束は廢るなり。15それ律法は怒を招く、律法なき所には罪を犯すこともなし。16この故に世嗣たることの恩恵に干らんために信仰に由るなり、是かの約束のアブラハムの凡ての裔、すなわち律法による裔のみならず、彼の信仰に效ふ裔にも堅うせられん爲なり。17彼はその信じたる所の神、すなはち死人を活し、無きものを有るものの如く呼びたまふ神の前にて、我等すべての者の父たるなり。録して『われ汝を立てて多くの國人の父とせり』とあるが如し。18彼は望むべくもあらぬ時になほ望みて信じたり、是なんぢの裔はかくの如くなるべしと言ひ給ひしに隨ひて、多くの國人の父とならん爲なりき。19かくて凡そ百歳に及びて己が身の死にたるがごとき状なると、サラの胎の死にたるが如きとを認むれども、その信仰よわらず、20不信をもて神の約束を疑はず、信仰により強くなりて神に榮光を歸し、21その約し給へることを、成し得給ふと確信せり。22之に由りて其の信仰を義と認められたり。23斯く『義と認められたり』と録したるは、アブラハムの爲のみならず、また我らの爲なり。24我らの主イエスを死人の中より甦へらせ給ひし者を信ずる我らも、その信仰を義と認められん。25主は我らの罪のために付され、我らの義とせられん爲に甦へらせられ給へるなり。

第五章

1斯く我ら信仰によりて義とせられたれば、我らの主イエス・キリストに頼り、神に對して平和を得たり。2また彼により信仰によりて、今立つところの恩恵に入ることを得、神の榮光を望みて喜ぶなり。3然のみならず患難をも喜ぶ、そは患難は忍耐を生じ、4忍耐は練達を生じ、練達は希望を生ずと知ればなり。5希望は恥を來らせず、我らに賜ひたる聖靈によりて神の愛われらの心に注げばなり。6我等のなほ弱かりし時、キリスト定りたる日に及びて、敬虔ならぬ者のために死に給へり。7それ義人のために死ぬるもの殆どなし、仁者のためには死ぬることを厭はぬ者もやあらん。8然れど我等がなほ罪人たりし時、キリスト我等のために死に給ひしに由りて、神は我らに對する愛をあらはし給へり。9斯く今その血に頼りて我ら義とせられたらんには、まして彼により怒より救はれざらんや。10我等もし敵たりしとき御子の死に頼りて神と和ぐことを得たらんには、まして和ぎて後その生命によりて救はれざらんや。11然のみならず今われらに和睦を得させ給へる我らの主イエス・キリストに頼りて神を喜ぶなり。12それ一人の人によりて罪は世に入り、また罪によりて死は世に入り、凡ての人罪を犯しし故に、死は凡ての人に及べり。13律法のきたる前にも罪は世にありき、されど律法なくば罪は認められること無し。14然るにアダムよりモーセに至るまで、アダムの咎と等しき罪を犯さぬ者の上にも死は王たりき。アダムは來らんとする者の型なり。15されど恩恵の賜物は、かの咎の如きにあらず、一人の咎によりて多くの人の死にたらんには、まして神の恩恵と一人の人イエス・キリストによる恩恵の賜物とは、多くの人に溢れざらんや。16又この賜物は罪を犯しし一人より來れるものの如きにあらず、審判は一人よりして罪を定むるに至りしが、恩恵の賜物は多くの咎よりして義とするに至るなり。17もし一人の咎のために一人によりて死は王となりたらんには、まして恩恵と義の賜物とを豐に受くる者は、一人のイエス・キリストにより生命に在りて王たらざらんや。18されば一つの咎によりて罪を定むることの凡ての人に及びしごとく、一つの正しき行爲によりて義とせられ生命を得るに至ることも、凡ての人に及べり。19それは一人の不従順によりて多くの人の罪人とせられし如く、一人の従順によりて多くの人、義人とせらるるなり。20律法の來りしは咎の増さんためなり。されど罪の増すところには恩恵も彌増せり。21これ罪の死によりて王たりし如く、恩恵も義によりて王となり、我らの主イエス・キリストに由りて永遠の生命に至らん爲なり。

第六章

1されば何をか言はん、恩恵の増さんために罪のうちに止るべきか、2決して然らず、罪に就きて死にたる我らは爭で尚その中に生きんや。3なんじら知らぬか、凡そ

キリスト・イエスに合ふバプテスマを受けたる我らは、その死に合ふバプテスマを受けしを。4我らはバプテスマによりて彼とともに葬られ、その死に合せられたり。これキリスト父の榮光によりて死人の中より甦へらせられ給ひしごとく、我らも新しき生命に歩まんためなり。5我らキリストに接がれて、その死の状にひとしくば、その復活にも等しかるべし。6我らは知る、われらの舊き人、キリストと共に十字架につけられたるは、罪の體ほろびて、此ののち罪に事へざらん爲なるを。7そは死にし者は罪より脱るるなり。8我等もしキリストと共に死にしならば、また彼とともに活きんことを信ず。9キリスト死人の中より甦へりて復死に給はず、死もまた彼に主とならぬを我ら知ればなり。10その死に給へるは罪につきて一たび死に給へるにて、その活き給へるは神につきて活き給へるなり。11斯くのごとく汝らも己を罪につきては死にたるもの、神につきては、キリスト・イエスに在りて活きたる者と思ふべし。12されば罪を汝らの死ぬべき體に王たらしめて其の慾に從ふことなく、13汝らの肢體を罪に献げて不義の器となさず、反つて死人の中より活き返りたる者のごとく己を神にささげ、その肢體を義の器として神に献げよ。14汝らは律法の下にあらずして恩恵の下にあれば、罪は汝らに主となる事なきなり。15然らば如何に、我らは律法の下にあらず、恩恵の下にあるが故に、罪を犯すべきか、決して然らず。16なんぢら知らぬか、己を献げ僕となりて、誰に從ふとも其の僕たることを。或は罪の僕となりて死に至り、或は従順の僕となりて義に至る。17然れど神に感謝す、汝等はもと罪の僕なりしが、傳へられし教の範に心より従ひ、18罪より解放されて義の僕となりたり。19斯く人の事をかりて言ふは、汝らの肉よわき故なり。なんぢら舊その肢體をささげ、穢と不法との僕となりて不法に到りしごとく、今その肢體をささげ、義の僕となりて潔に到れ。20なんぢら罪の僕たりしときは義に對して自由なりき。21その時に今は恥とする所の事によりて何の實を得しか、これらの事の極は死なり。22然れど今は罪より解放されて神の僕となりたれば、潔にいたる實を得たり、その極は永遠の生命なり。23それ罪の拂ふ價は死なり、然れど神の賜物は我らの主キリスト・イエスにありて受くる永遠の生命なり。

第七章

1兄弟よ、なんぢら知らぬか、(われ律法を知る者に語る)律法は人の生ける間のみ之に主たるなり。2夫ある婦は律法によりて夫の生ける中は之に縛らる。然れど夫死なば夫の律法より解かるるなり。3されば夫の生ける中に他の人に適かば淫婦と稱へらるれど、夫死なばその律法より解放さるる故に、他の人に適くとも淫婦とはならぬなり。4わが兄弟よ、斯くのごとく汝等もキリストの體により律法に就きて死にたり。これ他の者、すなはち死人の中より甦へらせられ給ひし者に適き、神のために實を結ばん爲なり。5われら肉に在りしとき、律法に由れる罪の情は我らの肢體のうちに働きて、死のために實を結ばせたり。6されど縛られたる所に就きて我等いま死にて律法より解かれたれば、儀文の舊きによらず、靈の新しきに從ひて事ふることを得るなり。7さらば何をか言はん、律法は罪なるか、決して然らず、律法に由らでは、われ罪を知らず、律法に『貪る勿れ』と言はずば、慳貪を知らざりき。8されど罪は機に乗じ誡命によりて各様の慳貪を我がうちに起せり、律法なくば罪は死にたるものなり。9われ曾て律法なくして生きたれど、誡命きたりし時に罪は生き、我は死にたり。10而して我は生命にいたるべき誡命の反つて死に到らしむるを見出せり。11これ罪は機に乗じ誡命によりて我を欺き、かつ之によりて我を殺せり。12それ律法は聖なり、誡命もまた聖にして正しく、かつ善なり。13されば善なるもの我に死となりたるか。決して然らず、罪は罪たることの現れんために、善なる者によりて我が内に死を來らせたるなり。これ誡命によりて罪の甚だしき惡とならん爲なり。14われら律法は靈なるものと知る、されど我は肉なる者にて罪の下に賣られたり。15わが行ふことは我しらず、我が欲する所は之をなさず、反つて我が憎むところは之を爲すなり。16わが欲せぬ所を爲すときは律法の善なるを認む。17然れば之を行ふは我にあらず、我が中に宿る罪なり。18我はわが中、すなわち我が肉のうちに善の宿らぬを知る、善を欲すること我にあれど、之を行ふ事なければなり。19わが欲する所の善は之をなさず、反つて欲せぬ所の惡は之をなすなり。20我もし欲せぬ所の事をなさば、之を行ふは我にあらず、我が中に宿る罪なり。21然れば善をなさんと欲する我に惡ありとの法を、われ見出せり。22われ中なる人にては神の律法

を悦べど、23わが肢體のうちに他の法ありて、我が心の法と戰ひ、我を肢體の中にある罪の法の下に虜とするを見る。24噫われ惱める人なるかな、此の死の體より我を救はん者は誰ぞ。25我らの主イエス・キリストに頼りて神に感謝す、然れば我みづから心にては神の律法につかへ、内にては罪の法に事ふるなり。

第八章

1この故に今やキリスト・イエスに在る者は罪の定めらるることなし。2キリスト・イエスに在る生命の御靈の法は、なんじを罪と死との法より解放したればなり。3肉によりて弱くなれる律法の成し能はぬ所を神は爲し給へり、即ち己の子を罪ある肉の形にて罪のために遣し、肉に於て罪を定めたまへり。4これ肉に從はず靈に從ひて歩む我らの中に、律法の義の完うせられん爲なり。5肉にしたがふ者は肉の事をおもひ、靈にしたがふ者は靈の事をおもふ。6肉の念は死なり、靈の念は生命なり、平安なり。7肉の念は神に逆ふ、それは神の律法に服はず、否したがふこと能はず、8また肉に居る者は神を悦ばすこと能はざるなり。9然れど神の御靈なんぢらの中に宿り給はば、汝らは肉に居らで靈に居らん、キリストの御靈なき者はキリストに屬する者にあらず。10若しキリスト汝らに在さば、體は罪によりて死にたる者なれど、靈は義によりて生命に在らん。11若しイエスを死人の中より甦へらせ給ひし者の御靈なんぢらの中に宿り給はば、キリスト・イエスを死人の中より甦へらせ給ひし者は、汝らの中に宿りたまふ御靈によりて、汝らの死ぬべき體をも活し給はん。12されば兄弟よ、われらは負債あれど、肉に負ふ者ならねば、肉に從ひて活くべきにあらず。13汝 等もし肉に從ひて活きなば、死なん。もし靈によりて體の行爲を殺さば活くべし。14すべて神の御靈に導かるる者は、これ神の子なり。15汝らは再び懼を懷くために僕たる靈を受けしにあらず、子とせられたる者の靈を受けたり、之によりて我らはアバ父と呼ぶなり。16御靈みづから我らの靈とともに我らが神の子たることを證す。17もし子たらば世嗣たらん、神の嗣子にしてキリストと共に世嗣たるなり。これはキリストとともに榮光を受けん爲に、その苦難をも共に受くるに因る。18われ思うに、今の時の苦難は、われらの上に顯れんとする榮光にくらぶるに足らず。19それ造られたる者は、切に慕ひて神の子たちの現れんことを待つ。20造られたるものの虚無に服せしは、己が願によるにあらず、服せしめ給ひし者によるなり。21然れどなほ造られたる者にも滅亡の僕たる状より解かれて、神の子たちの光榮の自由に入る望は存れり。22我らは知る、すべて造られたるものの今に至るまで共に嘆き、ともに苦しむことを。23然のみならず、御靈の初の實をもつ我らも自ら心のうちに嘆きて、子とせられんこと、即ちおのが體の贖はれんことを待つなり。24我らは望によりて救はれたり、眼に見ゆる望は望にあらず、人その見るところを爭でなほ望まんや。25我等もし其の見ぬところを望まば、忍耐をもて之を待たん。26斯くのごとく御靈も我らの弱を助けたまふ。我らは如何に祈るべきかを知らざれども、御靈みづから言ひ難き歎をもて執成し給ふ。27また人の心を極めたまふ者は御靈の念をも知りたまふ。御靈は神の御意に適ひて聖徒のために執成し給へばなり。28神を愛する者、すなはち御旨によりて召されたる者の爲には、凡てのこと相 働きて益となるを我らは知る。29神は預じめ知りたまふ者を御子の像に象らせんと預じめ定め給へり。これ多くの兄弟のうちに、御子を嫡子たらせんが爲なり。30又その預じめ定めたる者を召し、召したる者を義とし、義としたる者には光榮を得させ給ふ。31然れば此 等の事につきて何をか言はん、神もし我らの味方ならば、誰か我らに敵せんや。32己の御子を惜まずして我らすべてのために付し給ひし者は、などか之にそへて萬物を我らに賜はざらんや。33誰か神の選び給へる者を訴へん、神は之を義とし給ふ。34誰か之を罪に定めん、死にて甦へり給ひしキリスト・イエスは神の右に在して、我らのために執成し給ふなり。35我等をキリストの愛より離れしむる者は誰ぞ、患難か、苦難か、迫害か、飢か、裸か、危險か、劍か。36録して『汝のために我らは、終日ころされて屠らるべき羊の如きものとせられたり』とあるが如し。37されど凡てこれらの事の中にありても、我らを愛したまふ者に頼り、勝ち得て餘あり。38われ確く信ず、死も生命も、御使も、權威ある者も、今ある者も後あらん者も、力ある者も、39高きも深きも、此の他の造られたるものも、我らの主キリスト・イエスにある神の愛より、我らを離れしむるを得ざることを。

第九章

1我キリストに在りて眞をいひ虚僞を言はず、2我に大なる憂あることと心に絶えざる痛あることとを、我が良心も聖靈によりて證す。3もし我が兄弟わが骨肉の爲にならんには、我みづから詛はれてキリストに棄てらるるも亦ねがふ所なり。4彼等はイスラエル人にして、彼らには神の子とせられたることと、榮光と、もろもろの契約と、授けられたる律法と、禮拜と、もろもろの約束とあり。5先祖たちも彼等のものなり、肉によれば、キリストも彼等より出で給ひたり。キリストは萬物の上にあり、永遠に讃むべき神なり、アァメン。6それ神の言は廢りたるに非ず。イスラエルより出づる者みなイスラエルなるに非ず。7また彼等はアブラハムの裔なればとて皆その子たるに非ず『イサクより出づる者は、なんぢの裔と稱へらるべし』とあり。8即ち肉の子らは神の子らにあらず、ただ約束の子等のみ其の裔と認めらるるなり。9約束の御言は是なり、曰く『時ふたたび巡り來らば、我きたりてサラに男子あらん』と。10然のみならず、レベカも我らの先祖イサク一人によりて孕りたる時、11その子いまだ生れず、善も惡もなさぬ間に、神の選の御旨は動かず、12行爲によらで召す者によらん爲に『兄は次弟に事ふべし』とレベカに宣へり。13『われヤコブを愛しエザウを憎めり』と録されたる如し。14さらば何をか言はん、神には不義あるか。決して然らず。15モーセに言ひ給ふ『われ憐まんとする者をあはれみ、慈悲を施さんとする者に慈悲を施すべし』と。16されば欲する者にも由らず、走る者にも由らず、ただ憐みたまふ神に由るなり。17パロにつきて聖書に言ひ給ふ『わが汝を起したるは此の爲なり、即ち我が能力を汝によりて顯し、且わが名の全世界に傳へられん爲なり』と。18されば神はその憐まんと欲する者を憐み、その頑固にせんと欲する者を頑固にし給ふなり。19さらば汝あるいは我に言はん『神なんぞなほ人を咎め給ふか、誰かその御定に悖る者あらん』20ああ人よ、なんぢ誰なれば神に言ひ逆ふか、造られしもの造りたる者に對ひて『なんぢ何ぞ我を斯く造りし』と言ふべきか。21陶工は同じ土塊をもて、此を貴きに用ふる器とし、彼を賤しきに用ふる器とするの權なからんや。22もし神、怒をあらはし權力を示さんと思しつつも、なほ大なる寛容をもて、滅亡に備れる怒の器を忍び、23また光榮のために預じめ備へ給ひし憐憫の器に對ひて、その榮光の富を示さんとし給ひならば如何に。24この憐憫の器は我等にして、ユダヤ人の中よりのみならず、異邦人の中よりも召し給ひしものなり。25ホゼヤの書に『我わが民たらざる者を我が民と呼び、愛せられざる者を愛せらるる者と呼ばん、26「なんぢら我が民にあらず」と言ひし處にて、彼らは活ける神の子と呼ばるべし』と宣へる如し。27イザヤもイスラエルに就きて叫べり『イスラエルの子孫の數は海の砂のごとくなりとも、救はるるはただ殘の者のみならん。28主、地の上に御言をなし了へ、これを遂げ、これを速かにし給はん』29また『萬軍の主われらに裔を遺し給はずば、我等ソドムの如くになり、ゴモラと等しかりしならん』とイザヤの預言せしが如し。30然らば何をか言はん、義を追ひ求めざりし異邦人は義を得たり、即ち信仰による義なり。31イスラエルは義の律法を追ひ求めたれど、その律法に到らざりき。32何の故か、かれらは信仰によらず、行爲によりて追ひ求めたる故なり。彼らは躓く石に躓きたり。33録して『視よ、我つまづく石さまたぐる岩をシオンに置く、之に依頼む者は辱しめられじ』とあるが如し。

第十章

1兄弟よ、わが心のねがひ、神に對する祈は、彼らの救はれんことなり。2われ彼らが神のために熱心なることを證す、されど其の熱心は知識によらざるなり。3それは神の義を知らず、己の義を立てんとして、神の義に服はざればなり。4キリストは凡て信ずる者の義とせられん爲に律法の終となり給へり。5モーセは、律法による義をおこなふ人は之によりて生くべしと録したり。6されど信仰による義は斯くいふ『なんぢ心に「誰か天に昇らん」と言ふなかれ』と。7これキリストを引下さんとするなり『また「たれか底なき所に下らん」と言ふなかれ』と。是キリストを死人の中より引上げんとするなり。8さらば何と言ふか『御言はなんぢに近し、なんぢの口にあり、汝の心にあり』と。これ我らが宣ぶる信仰の言なり。9即ち、なんぢ口にてイエスを主と言ひあらはし、心にて神の之を死人の中より甦へらせ給ひしことを信ぜば、救はるべし。10それ人は心に信じて義とせられ、口に言ひあらはして救はるるなり。11聖書にいふ『すべて彼を信ずる者は辱しめられじ』と。12ユダヤ人とギリシヤ人との區別なし、同一の主は萬民の主にまし

まして、凡て呼び求むる者に對して豐なり。13『すべて主の御名を呼び求むる者は救はるべし』とあればなり。14然れど未だ信ぜぬ者を爭で呼び求むることをせん、未だ聽かぬ者を爭で信ずることをせん、宣傳ふる者なくば爭で聽くことをせん。15遣されずば爭で宣傳ふることをせん『ああ美しきかな、善き事を告ぐる者の足よ』と録されたる如し。16されど、みな福音に從ひしにはあらず、イザヤいふ『主よ、われらに聞きたる言を誰か信ぜし』17斯く信仰は聞くにより、聞くはキリストの言による。18されど我いふ、彼ら聞えざりしか、然らず『その聲は全地にゆきわたり、其の言は世界の極にまで及べり』19我また言ふ、イスラエルは知らざりしか、先づモーセ言ふ『われ民ならぬ者をもて汝らに嫉を起させ、愚なる民をもて汝らを怒らせん』20またイザヤ憚らずして言ふ『我を求めざる者に、われ見出され、我を尋ねざる者に我あらはれたり』21更にイスラエルに就きては『われ服はずして言ひさからふ民に、終日手を伸べたり』と云へり。

第十一章

1されば我いふ、神はその民を棄て給ひしか。決して然らず。我もイスラエル人にしてアブラハムの裔ベニヤミンの族の者なり。2神はその預じめ知り給ひし民を棄て給ひしにあらず。汝らエリヤに就きて聖書に云へることを知らぬか、彼イスラエルを神に訴へて言ふ、3『主よ、彼らは汝の預言者たちを殺し、なんぢの祭壇を毀ち、我ひとり遺りたるに、亦わが生命をも求めんとするなり』と。4然るに御答は何と云へるか『われバアルに膝を屈めぬ者、七千人を我がために遺し置けり』と。5斯くのごとく今もなほ恩惠の選によりて遺れる者あり。6もし恩惠によるとせば、もはや行爲によるにあらず。然らずば恩惠はもはや恩惠たらざるべし。7さらば如何に、イスラエルはその求むる所を得ず、選ばれたる者は之を得たり、その他の者は鈍くせられたり。8『神は今日に至るまで、彼らに眠れる心、見えぬ目、聞えぬ耳を與へ給へり』と録されたるが如し。9ダビデも亦いふ『かれらの食卓は羂となれ、網となれ、つまづきとなれ、報となれ、10その眼は眩みて見えずなれ、常にその背を屈めしめ給へ』11されば我いふ、彼らの躓きしは倒れんが爲なりや。決して然らず、反つて其の落度により て救は異邦人に及べり、これイスラエルを勵まさん爲なり。12もし彼らの落度、世の富となり、その衰微、異邦人の富となりたらんには、まして彼らの數滿つるに於てをや。13われ異邦人なる汝等にいふ、我は異邦人の使徒たるによりて己が職を重んず。14これ或は我が骨肉の者を勵まし、その中の幾許かを救はん爲なり。15もし彼らの棄てらるること世の平和となりたらんには、其の受け納れらるるは、死人の中より活くると等しからずや。16もし初穗の粉潔くば、パンの團塊も潔く、樹の根潔くば、其の枝も潔からん。17若しオリブの幾許の枝き り落されて野のオリブなる汝、その中に接がれ、共にその樹の液汁ある根に與らば、18かの枝に對ひて誇るな、たとひ誇るとも汝は根を支へず、根は反つて汝を支ふるなり。19なんぢ或は言はん『枝の折られしは我が接がれん爲なり』と。20實に然り、彼らは不信によりて折られ、汝は信仰によりて立てるなり、高ぶりたる思をもたず、反つて懼れよ。21もし神、原樹の枝を惜み給はざりしならば、汝をも惜み給はじ。22神の仁慈と、その嚴肅とを見よ。嚴肅は倒れし者にあり、仁慈はその仁慈に止る汝にあり、若しその仁慈に止らずば、汝も切り取らるべし。23彼らも若し不信に止らずば、接がるることあらん、神は再び彼らを接ぎ得給ふなり。24なんぢ生來の野のオリブより切り取られ、その生來に悖りて善きオリブに接がれたらんには、まして原樹のままなる枝は己がオリブに接がれざらんや。25兄弟よ、われ汝らが自己を聰しとする事なからん爲に、この奥義を知らざるを欲せず、即ち幾許のイスラエルの鈍くなれるは、異邦人の入り來りて數滿つるに及ぶ時までなり。26かくしてイスラエルは悉とく救はれん。録して『救ふ者シオンより出で來りて、ヤコブより不虔を取り除かん、27われその罪を除くときに彼らに立つる我が契約は是なり』とあるが如し。28福音につきて云へば、汝等のために彼らは敵とせられ、選につきて云へば、先祖たちの爲に彼らは愛せらるるなり。29それ神の賜物と召とは變ることなし。30汝ら前には神に從はざりしが、今は彼らの不順によりて憐まれたる如く、31彼らも汝らの受くる憐憫によりて憐まれん爲に、今は從はざるなり。32神は凡ての人を憐まんために、凡ての人を不順の中に取籠め給ひたり。33ああ神の智慧と知識との富は深いかな、その審判は測り難く、その途は尋ね難し。34『たれか主の心を知り

し、誰かその議士となりし。35たれか先づ主に與へて其の報を受けんや』36これ凡ての物は神より出で、神によりて成り、神に歸すればなり、榮光とこしへに神にあれ。アァメン。

第十二章

1されば兄弟よ、われ神のもろもろの慈悲によりて汝らに勸む、己が身を神の悦びたまふ潔き活ける供物として献げよ、これ靈の祭なり。2又この世に效ふな、神の御意の善にして悦ぶべく、かつ全きことを辨へ知らんために、心を更へて新にせよ。3われ與へられし恩惠によりて汝等おのおのに告ぐ、思ふべき所を超えて自己を高しとすな。神のおのおのに分ち給ひし信仰の量にしたがひ愼みて思ふべし。4人は一つ體におほくの肢あれども、凡ての肢その運用を同じうせぬ如く、5我らも多くあれど、キリストに在りて一つ體にして、各人たがひに肢たるなり。6われらが有てる賜物はおのおの與へられし恩惠によりて異なる故に、或は預言あらば信仰の量にしたがひて預言をなし、7或は務あらば務をなし、或は教をなす者は教をなし、8或は勸をなす者は勸をなし、施す者はをしみなく施し、治むる者は心を盡して治め、憐憫をなす者は喜びて憐憫をなすべし。9愛には虛僞あらざれ、惡はにくみ、善はしたしみ、10兄弟の愛をもて互に愛しみ、禮儀をもて相讓り、11勤めて怠らず、心を熱くし、主につかへ、12望みて喜び、患難にたへ、祈を恆にし、13聖徒の缺乏を賑し、旅人を懇ろに待せ、14汝らを責むる者を祝し、これを祝して詛ふな。15喜ぶ者と共によろこび、泣く者と共になけ。16相互に心を同じうし、高ぶりたる思をなさず、反つて卑きに附け。なんぢら己を聰しとすな。17惡をもて惡に報いず、凡ての人のまへに善からんことを圖り、18汝らの爲し得るかぎり力めて凡ての人と相和げ。19愛する者よ、自ら復讐すな、ただ神の怒に任せまつれ。録して『主いひ給ふ、復讐するは我にあり、我これに報いん』とあり。20『もし汝の仇飢ゑなば之に食はせ、渇かば之に飲ませよ、なんぢ斯するは熱き火を彼の頭に積むなり』21惡に勝たることなく、善をもて惡に勝て。

第十三章

1凡ての人、上にある權威に服ふべし。そは神によらぬ權威なく、あらゆる權威は神によりて立てらる。2この故に權威にさからふ者は神の定に悖るなり、悖る者は自らその審判を招かん。3長たる者は善き業の懼にあらず、惡しき業の懼なり、なんぢ權威を懼れざらんとするか、善をなせ、然らば彼より譽を得ん。4かれは汝を益せんための神の役者なり。然れど惡をなさば懼れよ、彼は徒らに劍をおびず、神の役者にして、惡をなす者に怒をもて報ゆるなり。5然れば服はざるべからず、啻に怒の爲のみならず、良心のためなり。6また之がために汝ら貢を納む、彼らは神の仕人にして此の職に勵むなり。7汝等その負債をおのおのに償へ、貢を受くべき者に貢ををさめ、稅を受くべき者に稅ををさめ、畏るべき者をおそれ、尊ぶべき者をたふとべ。8汝等たがひに愛を負ふのほか何をも人に負ふな。人を愛する者は律法を全うするなり。9それ『姦淫する勿れ、殺すなかれ、盜むなかれ、貪るなかれ』と云へるこの他なほ誡命ありとも『おのれの如く隣を愛すべし』といふ言の中にみな籠るなり。10愛は隣を害はず、この故に愛は律法の完全なり。11なんぢら時を知る故に、いよいよ然なすべし。今は眠より覺むべき時なり。始めて信ぜし時よりも今は我らの救近ければなり。12夜ふけて日近づきぬ、然れば我ら暗黑の業をすてて光明の甲を著るべし。13晝のごとく正しく歩みて宴樂・醉酒に、淫樂・好色に、爭鬪・嫉妬に歩むべきに非ず。14ただ汝ら主イエス・キリストを衣よ、肉の慾のために備すな。

第十四章

1なんぢら信仰の弱き者を容れよ、その思ふところを詰るな。2或人は凡ての物を食ふを可しと信じ、弱き人はただ野菜を食ふ。3食ふ者は食はぬ者を蔑すべからず、食はぬ者は食ふ者を審くべからず、神は彼を容れ給へばなり。4なんぢ如何なる者なれば、他人の僕を審くか、彼が立つも倒るるも其の主人に由れり。彼は必ず立てられん、主は能く之を立たせ給ふべし。5或人は此の日を彼の日に勝ると思ひ、或人は凡ての日を等しとおもふ、各人おのが心の中に確く定むべし。6日を重んずる者は主のために之を重んず。食ふ者は主のために食ふ、これ神に感謝すればなり。食はぬ者も主のために食はず、かつ神に感謝するなり。7我等のうち己のために生ける者なく、己のために死ぬる者なし。8われら生くるも主のために生き、死ぬるも主のために死ぬ。然れば生くるも

死ぬるも我らは主の有なり。9それキリストの死にて復生き給ひしは、死にたる者と生ける者との主とならん爲なり。10なんぢ何ぞその兄弟を審くか、汝なんぞ其の兄弟を蔑するか、我等はみな神の審判の座の前に立つべし。11録して『主いひ給ふ、我は生くるなり、凡ての膝はわが前に屈み、凡ての舌は神を讃め稱へん』とあり。12我等おのおの神のまへに己の事を陳ぶべし。13されば今より後、われら互に審くべからず、むしろ兄弟のまへに妨碍または躓物を置かぬように心を決めよ。14われ如何なる物も自ら潔からぬ事なきを主イエスに在りて知り、かつ確く信ず。ただ潔からずと思ふ人にのみ潔からぬなり。15もし食物によりて兄弟を憂ひしめば、汝は愛によりて歩まざるなり、キリストの代りて死に給ひし人を、汝の食物によりて亡すな。16汝らの善きことの譏られぬようにせよ。17それ神の國は飲食にあらず、義と平和と聖靈によれる歡喜とに在るなり。18かくしてキリストに事ふる者は神に悦ばれ、人々に善しとせらるるなり。19されば我ら平和のことと互に徳を建つる事とを追ひ求むべし。20なんぢ食物のために神の御業を毀つな。凡ての物は潔し、されど之を食ひて人を躓かする者には惡とならん。21肉を食はず、葡萄酒を飲まず、その他なんぢの兄弟を躓かする事をせぬは善し。22なんぢの有てる信仰を己みづから神の前に保て。善しとする所につきて自ら咎めなき者は幸福なり。23疑ひつつ食ふ者は罪せらる。これ信仰によらぬ故なり、凡て信仰によらぬ事は罪なり。

第十五章

1われら強き者はおのれを喜ばせずして、力なき者の弱を負ふべし。2おのおの隣人の徳を建てん爲に、その益を圖りて之を喜ばすべし。3キリストだに己を喜ばせ給はざりき。録して『なんぢを謗る者の謗は我に及べり』とあるが如し。4夙くより録されたる所は、みな我らの教訓のために録ししものにして、聖書の忍耐と慰安とによりて希望を保たせんとてなり。5願はくは忍耐と慰安との神、なんぢらをしてキリスト・イエスに效ひ、互に思を同じうせしめ給はん事を。6これ汝らが心を一つにし口を一つにして、我らの主イエス・キリストの父なる神を崇めん爲なり。7此の故にキリスト汝らを容れ給ひしごとく、汝らも互に相容れて神の榮光を彰すべし。8われ言ふ、キリストは神の眞理のために割禮の役者となり給へり。これ先祖たちの蒙りし約束を堅うし給はん爲、9また異邦人も憐憫によりて神を崇めんためなり。録して『この故に、われ異邦人の中にて汝を讃めたたへ、又なんぢの名を謳はん』とあるが如し。10また曰く『異邦人よ、主の民と共に喜べ』11又いはく『もろもろの國人よ、主を讃め奉れ、もろもろの民よ、主を稱へ奉れ』12又イザヤ言ふ『エツサイの萠蘖生じ、異邦人を治むるもの興らん。異邦人は彼に望をおかん』13願はくは希望の神、信仰より出づる凡ての喜悦と平安とを汝らに滿たし、聖靈の能力によりて希望を豐ならしめ給はんことを。14わが兄弟よ、われは汝らが自ら善に滿ち、もろもろの知識に滿ちて互に訓戒し得ることを確く信ず。15されど我なほ汝らに憶ひ出させん爲に、ここかしこ少しく憚らずして書きたる所あり、これ神の我に賜ひたる恩惠に因る。16即ち異邦人のためにキリスト・イエスの仕人となり、神の福音につきて祭司の職をなす。これ異邦人の聖靈によりて潔められ、御心に適ふ献物とならん爲なり。17されば、われ神の事につきては、キリスト・イエスによりて誇る所あり。18我は、キリストの異邦人を服はせん爲に我を用ひて、言と業と、19また徴と不思議との能力、および聖靈の能力にて働き給ひし事のほかは敢へて語らず、エルサレムよりイルリコの地方に到るまで、徧くキリストの福音を充たせり。20我は努めて他人の置ゑたる基礎のうへに建てじとて、未だキリストの御名の稱へられぬ所にのみ福音を宣傳へり。21録して『未だ彼のことを傳へられざりし者は見、いまだ聞かざりし者は悟るべし』とあるが如し。22この故に、われ汝らに往かんとせしが、しばしば妨げられたり。23されど今は此の地方に働くべき處なく、且なんぢらに往かんことを多年切に望みゐたれば、24イスパニヤに赴かんとき立寄りて汝らを見、ほぼ意に滿つるを得てのち汝らに送られんとを望むなり。25されど今、聖徒に事へん爲にエルサレムに往かんとす。26マケドニアとアカヤとの人々は、エルサレムに在る聖徒の貧しき者に幾許かの施與をするを善しとせり。27實に之を善しとせり、また聖徒に對して斯くする負債あり。異邦人もし彼らの靈の物に與りたらんには、肉の物をもて彼らに事ふべきなり。28されば此の事を成し了へ、この果を付してのち、汝らを歷てイスパニヤに往かん。29われ汝らに到るとき

は、キリストの滿ち足れる祝福をもて到らんことを知る。30兄弟よ、我らの主イエス・キリストにより、また御靈の愛によりて汝らに勸む、なんぢらの祈のうちに、我とともに力を盡して我がために神に祈れ。31これユダヤにをる從はぬ者の中より我が救はれ、又エルサレムに對する我が務の聖徒の心に適ひ、32かつ神の御意により、歡喜をもて汝等にいたり、共に安んぜん爲なり。33願はくは平和の神なんぢら衆と偕に在さんことを、アァメン。

第十六章

1我ケンクレヤの教會の執事なる我らの姉妹フィベを汝らに薦む。2なんぢら主にありて聖徒たるに相應しく彼を容れ、何にても其の要する所を助けよ、彼は夙くより多くの人の保護者また我が保護者たり。3プリスカとアクラとに安否を問へ、彼らはキリスト・イエスに在る我が同勞者にして、4わが生命のために己の首をも惜まざりき。彼らに感謝するは、ただ我のみならず、異邦人の諸教會もまた然り。5又その家にある教會にも安否を問へ。又わが愛するエパネトに安否を問へ。彼はアジヤにて結べるキリストの初の實なり。6汝等のために甚く勞せしマリヤに安否を問へ。7我とともに囚人たりし我が同族アンデロニコとユニアスとに安否を問へ、彼らは使徒たちの中に名聲あり、かつ我に先だちてキリストに歸せし者なり。8主にありて我が愛するアンプリヤに安否を問へ。9キリストにある我らの同勞者ウルパノと我が愛するスタキスとに安否を問へ。10キリストに在りて錬達せるアペレに安否を問へ。アリストブロの家の者に安否を問へ。11わが同族ヘロデオンに安否を問へ。ナルキソの家なる主に在る者に安否を問へ。12主に在りて勞せしツルパナとツルポサとに安否を問へ。主に在りて甚く勞せし愛するペルシスに安否を問へ。13主に在りて選ばれたるルポスと其の母とに安否を問へ、彼の母は我にもまた母なり。14アスンクリト、フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマス及び彼らと偕に在る兄弟たちに安否を問へ。15ピロロゴ及びユリヤ、ネレオ及びその姉妹、またオルンパ及び彼らと偕に在る凡ての聖徒に安否を問へ。16潔き接吻をもて互に安否を問へ。キリストの諸教會みな汝らに安否を問ふ。17兄弟よ、われ汝らに勸む、おほよそ汝らの學びし教に背きて分離を生じ、顛躓をおこす者に心して之に遠ざかれ。18かかる者は我らの主キリストに事へず、反つて己が腹に事へ、また甘き言と媚諂とをもて質朴なる人の心を欺くなり。19汝らの從順は凡ての人に聞えたれば、我なんぢらの爲に喜べり。而して我が欲する所は、汝らが善に智く、惡に疏からんことなり。20平和の神は速かにサタンを汝らの足の下に碎き給ふべし。願はくは我らの主イエスの恩惠、なんぢらと偕に在らんことを。21わが同勞者テモテ及び我が同族ルキオ、ヤソン、ソシパテロ汝らに安否を問ふ。22この書を書ける我テルテオも主にありて汝らに安否を問ふ。23我と全教會との家主ガイオ汝らに安否を問ふ。町の庫司エラストと兄弟クワルトと汝らに安否を問ふ。24[なし] 25願はくは長き世のあひだ隱れたれども、26今顯れて、永遠の神の命にしたがひ、預言者たちの書によりて信仰の從順を得しめん爲に、もろもろの國人に示されたる奥義の默示に循へる我が福音と、イエス・キリストを宣ぶる事とによりて、汝らを堅うし得る、27唯一の智き神に、榮光世々限りなくイエス・キリストに由りて在らんことを、アァメン。

コリント人への前の書

第一章

1神の御意により召されてイエス・キリストの使徒となれるパウロ及び兄弟ソステネ、2書をコリントに在る神の教會、即ちいづれの處にありても、我らの主、ただに我等のみならず彼らの主なるイエス・キリストの名を呼び求むる者とともに、聖徒となるべき召を蒙り、キリスト・イエスに在りて潔められたる汝らに贈る。3願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩惠と平安と汝らに在らんことを。4われ汝らがキリスト・イエスに在りて神より賜はりし恩惠に就きて、常に神に感謝す。5汝らはキリストに在りて、諸般のこと即ち凡ての言と凡ての悟とに富みたればなり。6これキリストの證なんぢらの中に堅うせられたるに因る。7斯く汝らは凡ての賜物に缺くる所なくして、我らの主イエ

ス・キリストの現れ給ふを待てり。8彼は汝らを終まで堅うして、我らの主イエス・キリストの日に責むべき所なからしめ給はん。9汝らを召して其の子われらの主イエス・キリストの交際に入らしめ給ふ神は眞實なる哉。10兄弟よ、我らの主イエス・キリストの名に頼りて汝らに勸む、おのおの語るところを同じうし、分爭する事なく、同じ心おなじ念にて全く一つになるべし。11わが兄弟よ、クロエの家の者、なんぢらの中に紛爭あることを我に知らせたり。12即ち汝 等おのおの『我はパウロに屬す』『われはアポロに』『我はケパに』『我はキリストに』と言ふこれなり。13キリストは分たるる者ならんや、パウロは汝らの爲に十字架につけられしや、汝らパウロの名に頼りてバプテスマを受けしや。14我は感謝す、クリスポとガイオとの他には、我なんぢらの中の一人にもバプテスマを施さざりしを。15是わが名に頼りて汝らがバプテスマを受けしと人の言ふ事なからん爲なり。16またステパノの家族にバプテスマを施しし事あり、此の他には我バプテスマを施しし事ありや知らざるなり。17そはキリストの我を遣し給へるはバプテスマを施させん爲にあらず、福音を宣傳へしめんとてなり。而して言の智慧をもつてせず、是キリストの十字架の虚しくならざらん爲なり。18それ十字架の言は亡ぶる者には愚なれど、救はるる我らには神の能力なり。19録して、『われ智者の智慧をほろぼし、慧き者のさときを空しうせん』とあればなり。20智者いづこにか在る、學者いづこにか在る、この世の論者いづこにか在る、神は世の智慧をして愚ならしめ給へるにあらずや。21世は己の智慧をもて神を知らず（これ神の智慧に適へるなり）この故に神は宣教の愚をもて、信ずる者を救ふを善しとし給へり。22ユダヤ人は徴を請ひ、ギリシヤ人は智慧を求む。23されど我らは十字架に釘けられ給ひしキリストを宣傳ふ。これはユダヤ人に躓物となり、異邦人に愚となれど、24召されたる者にはユダヤ人にもギリシヤ人にも、神の能力また神の智慧たるキリストなり。25神の愚は人よりも智く、神の弱は人よりも強ければなり。26兄弟よ、召を蒙れる汝らを見よ、肉によれる智き者おほからず、能力ある者おほからず、貴きもの多からず。27されど神は智き者を辱しめんとて世の愚なる者を選び、強き者を辱しめんとて弱き者を選び、28有る者を亡さんとて世の卑しきもの、輕んぜらるる者、すなわち無きが如き者を選び給へり。29これ神の前に人の誇る事なからん爲なり。30汝らは神に頼りてキリスト・イエスに在り、彼は神に立てられて我らの智慧と義と聖と救贖とになり給へり。31これ『誇る者は主に頼りて誇るべし』と録されたる如くならん爲なり。

第二章

1兄弟よ、われ曩に汝らに到りしとき、神の證を傳ふるに言と智慧との優れたるを用ひざりき。2イエス・キリスト及びその十字架に釘けられ給ひし事のほかは、汝らの中にありて何をも知るまじと心を定めたればなり。3我なんぢらと偕に居りし時に、弱くかつ懼れ、甚く戰けり。4わが談話も、宣教も、智慧の美しき言によらずして、御靈と能力との證明によりたり。5これ汝らの信仰の、人の智慧によらず、神の能力に頼らん爲なり。6されど我らは成人したる者の中にて智慧を語る。これ此の世の智慧にあらず、又この世の廢らんとする司たちの智慧にあらず、7我らは奥義を解きて神の智慧を語る、即ち隱れたる智慧にして、神われらの光榮のために、世の創の先より預じめ定め給ひしものなり。8この世の司には之を知る者なかりき、もし知らば榮光の主を十字架に釘けざりしならん。9録して『神のおのれを愛する者のために備へ給ひし事は、眼いまだ見ず、耳いまだ聞かず、人の心いまだ思はざりし所なり』と有るが如し。10されど我らには神これを御靈によりて顯し給へり。御靈はすべての事を究め、神の深き所まで究むればなり。11それ人のことは己が中にある靈のほかに誰か知る人あらん、斯くのごとく神のことは神の御靈のほかに知る者なし。12我らの受けし靈は世の靈にあらず、神より出づる靈なり、是われらに神の賜ひしものを知らんためなり。13又われら之を語るに人の智慧の教ふる言を用ひず、御靈の教ふる言を用ふ、即ち靈の事に靈の言を當つるなり。14性來のままなる人は神の御靈のことを受けず、彼には愚なる者と見ゆればなり。また之を悟ることも能はず、御靈のことは靈によりて辨ふべき者なるが故なり。15されど靈に屬する者は、すべての事をわきまふ、而して己は人に辨へらるる事なし。16誰か主の心を知りて主を教ふる者あらんや。然れど我らはキリストの心を有てり。

第三章

1兄弟よ、われ靈に屬する者に對する如く汝らに語ること能はず、反つて肉に屬するもの、即ちキリストに在る幼兒に對する如く語れり。2われ汝らに乳のみ飲ませて堅き食物を與へざりき。汝 等そのとき食ふこと能はざりし故なり。3今もなほ食ふこと能はず、今もなほ肉に屬する者なればなり。汝らの中に嫉妬と紛爭とあるは、これ肉に屬する者にして世の人の如くに歩むならずや。4或 者は『われパウロに屬す』といひ、或 者は『われアポロに屬す』と言ふ、これ世の人の如くなるにあらずや。5アポロは何 者ぞ、パウロは何 者ぞ、彼 等はおのおの主の賜ふところに隨ひ、汝らをして信ぜしめたる役者に過ぎざるなり。6我は植ゑ、アポロは水 灌げり、されど育てたるは神なり。7されば種うる者も、水 灌ぐ者も數ふるに足らず、ただ尊きは育てたまふ神なり。8種うる者も、水 灌ぐ者も歸する所は一つなれど、各自おのが勞に隨ひて其の値を得べし。9我らは神と共に働く者なり。汝らは神の畠なり、また神の建築物なり。10我は神の賜ひたる恩惠に隨ひて、熟錬なる建築師のごとく基を据ゑたり、而して他の人その上に建つるなり。然れど如何にして建つべきか、おのおの心して爲すべし、11既に置きたる基のほかは誰も据うること能はず、この基は即ちイエス・キリストなり。12人もし此の基の上に金・銀・寶石・木・草・藁をもつて建てなば、13各人の工は顯るべし。かの日これを明かにせん、かの日は火をもつて顯れ、その火おのおのの工の如何を驗すべければなり。14その建つる所の工、もし保たば値を得、15もし其の工 燒けなば損すべし。然れど己は火より脱れ出づる如くして救はれん。16汝ら知らずや、汝らは神の宮にして、神の御靈なんぢらの中に住み給ふを。17人もし神の宮を毀たば神かれを毀ち給はん。それ神の宮は聖なり、汝 らも亦かくの如し。18誰も自ら欺くな。汝 等のうち此の世にて自ら智しと思ふ者は、智くならんために愚なる者となれ。19そは此の世の智慧は神の前に愚なればなり。録して『彼は智者をその惡巧によりて捕へ給ふ』20また『主は智者の念の虚しきを知り給ふ』とあるが如し。21さらば誰も人を誇とすな、萬の物は汝らの有なればなり。22或はパウロ、或はアポロ、或はケパ、或は世界、あるひは生、あるひは死、あるひは現在のもの、或 は未來のもの、皆なんぢらの有なり。23汝 等はキリストの有、キリストは神のものなり。

第四章

1人よろしく我らをキリストの役者また神の奥義を掌どる家 司のごとく思ふべし。2さて家 司に求むべきは忠實ならん事なり。3我は汝らに審かれ、或は人の審判によりて審かるることを最 小き事とし、また自らも己を審かず。4我みづから責むべき所あるを覺えねど、之に由りて義とせらるる事なければなり。我を審きたまふ者は主なり。5然れば主の來り給ふまでは時に先だちて審判すな。主は暗にある隱れたる事を明かにし、心の謀計をあらはし給はん。その時おのおの神より其の譽を得べし。6兄弟よ、われ汝 等のために此 等のことを我とアポロとの上に當てて言へり。これ汝らが『録されたる所を踰ゆまじき』を我らの事によりて學び、この人をあげ、かの人を貶して誇らざらん爲なり。7汝をして人と異ならしむる者は誰ぞ、なんぢの有てる物に何か受けぬ物あるか。もし受けしならば、何ぞ受けぬごとく誇るか。8なんぢら既に飽き、既に富めり、我らを差措きて王となれり。われ實に汝らが王たらんことを願ふ、われらも共に王たることを得んが爲なり。9我おもふ、神は使徒たる我らを死に定められし者のごとく、後の者として見せ給へり。實に我らは宇宙のもの、即ち御使にも、衆人にも、觀物にせられたるなり。10我らはキリストのために愚なる者となり、汝らはキリストに在りて慧き者となれり。我等は弱く汝らは強し、汝らは尊く我らは卑し。11今の時にいたるまで我らは飢ゑ、渇き、また裸となり、また打たれ、定れる住家なく、12手づから働きて勞し、罵らるるときは祝し、責めらるるときは忍び、13譏らるるときは勸をなせり。我らは今に至るまで世の塵芥のごとく、萬の物の垢のごとくせられたり。14わが斯く書すは汝らを辱しめんとにあらず、我が愛する子として訓戒せんためなり。15汝 等にはキリストに於ける守役 一萬ありとも、父は多くあることなし。そはキリスト・イエスに在りて福音により汝らを生みたるは、我なればなり。16この故に汝らに勸む、我に效ふ者とならんことを。17之がために主にありて忠實なる我が愛子テモテを汝らに遣せり。彼は我がキリストにありて行ふところ、即ち常に各地の教會に教ふる所を、汝らに思ひ出さしむべし。18わが汝らに到ること無しとして誇る者あり。19されど主の御意ならば速かに汝 等にいたり、誇る者の言にはあらで、その能力を知らんとす。20神の國は

言にあらず、能力にあればなり。21汝ら何を欲するか、われ笞をもて到らんか、愛と柔和の心とをもて到らんか。

第五章

1現に聞く所によれば、汝らの中に淫行ありと、而してその淫行は異邦人の中にもなき程にして、或人その父の妻を有てりと云ふ。2斯くてもなほ汝ら誇ることをなし、かかる行爲をなしし者の除かれんことを願ひて悲しまざるか。3われ身は汝らを離れ居れども、心は偕に在りて其處に居るごとく、かかる事を行ひし者を既に審きたり。4すなはち汝ら及び我が靈の、我らの主イエスの能力をもて偕に集らんとき、主イエスの名によりて、5斯くのごとき者をサタンに付さんとす、是その肉は亡されて、其の靈は主イエスの日に救はれん爲なり。6汝らの誇は善からず。少しのパン種の、粉の團塊をみな膨れしむるを知らぬか。7なんぢら新しき團塊とならんために舊きパン種を取り除け、汝らはパン種なき者なればなり。夫われらの過越の羔羊すなはちキリスト既に屠られ給へり、8されば我らは舊きパン種を用ひず、また惡と邪曲とのパン種を用ひず、眞實と眞との種なしパンを用ひて祭を行ふべし。9われ前の書にて淫行の者と交るなと書き贈りしは、10此の世の淫行の者、または貪欲のもの、奪ふ者、または偶像を拜む者と更に交るなと言ふにあらず（もし然せば世を離れざるを得ず）11ただ兄弟と稱ふる者の中に、或は淫行のもの、或は貪欲のもの、或は偶像を拜む者、あるひは罵るもの、或は酒に醉ふもの、或は奪ふ者あらば、斯かる人と交ることなく、共に食する事だにすなとの意なり。12外の者を審くことは我の干る所ならんや、汝らの審くは、ただ内の者ならずや。13外にある者は神これを審き給ふ。かの惡しき者を汝らの中より退けよ。

第六章

1汝等のうち互に事あるとき、之を聖徒の前に訴へずして、正しからぬ者の前に訴ふることを敢へてする者あらんや。2汝ら知らぬか、聖徒は世を審くべき者なるを。世もし汝らに審かれんには、汝ら最小き事を審くに足らぬ者ならんや。3なんぢら知らぬか、我らは御使を審くべき者なるを、ましてこの世の事をや。4然るに汝ら審くべき此の世の事のあるとき、教會にて輕しむる所の者を審判の座に坐らしむるか。5わが斯く言ふは汝らを辱しめんとてなり。汝等のうちに兄弟の間のことを審き得る智きもの一人だになく、6兄弟は兄弟を、而も不信者の前に訴ふるか。7互に相訴ふるは既に當しく汝らの失態なり。何故むしろ不義を受けぬか、何故むしろ欺かれぬか。8然るに汝ら不義をなし、詐欺をなし、兄弟にも之を爲す。9汝ら知らぬか、正しからぬ者の神の國を嗣ぐことなきを。自ら欺くな、淫行のもの、偶像を拜むもの、姦淫をなすもの、男娼となるもの、男色を行ふ者、10盜するもの、貪欲のもの、酒に醉ふもの、罵るもの、奪ふ者などは、みな神の國を嗣ぐことなきなり。11汝等のうち曩には斯くのごとき者ありしかど、主イエス・キリストの名により、我らの神の御靈によりて、己を洗ひかつ潔められ、かつ義とせらるることを得たり。12一切のもの我に可からざるなし、然れど一切のもの益あるにあらず。一切のもの我に可からざるなし、されど我は何物にも支配せられず、13食物は腹のため、腹は食物のためなり。されど神は之をも彼をも亡し給はん。身は淫行をなさん爲にあらず、主の爲なり、主はまた身の爲なり。14神は既に主を甦へらせ給へり、又その能力をもて我等をも甦へらせ給はん。15汝らの身はキリストの肢體なるを知らぬか、然らばキリストの肢體をとりて遊女の肢體となすべきか、決して然すべからず。16遊女につく者は彼と一つ體となることを知らぬか『二人のもの一體となるべし』と言ひ給へり。17主につく者は之と一つ靈となるなり。18淫行を避けよ。人のをかす罪はみな身の外にあり、されど淫行をなす者は己が身を犯すなり。19汝らの身は、その内にある神より受けたる聖靈の宮にして、汝らは己の者にあらざるを知らぬか。20汝らは價をもて買はれたる者なり、然らばその身をもて神の榮光を顯せ。

第七章

1汝らが我に書きおくりし事に就きては、男の女に觸れぬを善しとす。2然れど淫行を免れんために、男はおのおの其の妻をもち、女はおのおの其の夫を有つべし。3夫はその分を妻に盡し、妻もまた夫に然すべし。4妻は己が身を支配する權をもたず、之を持つ者は夫なり。斯くのごとく夫も己が身を支配する權を有たず、之を有つ者は妻なり。5相共に拒むな、ただ祈に身を委ぬるため

合意にて暫く相別れ、後また偕になるは善し。これ汝らが情の禁じがたきに乗じてサタンの誘ふことなからん爲なり。 6されど我が斯くいふは命ずるにあらず、許すなり。 7わが欲する所は、すべての人の我が如くならん事なり。然れど神より各自おのが賜物を受く、此は此のごとく、彼は彼のごとし。 8我は婚姻せぬ者および寡婦に言ふ。もし我が如くにして居らば、彼等のために善し。 9もし自ら制すること能はずば婚姻すべし、婚姻するは胸の燃ゆるよりも勝ればなり。 10われ婚姻したる者に命ず（命ずる者は我にあらず、主なり）妻は夫と別るべからず。 11もし別るる事あらば、嫁がずして居るか、又は夫と和げ。夫もまた妻を去るべからず。 12その外の人に我いふ（主の言ひ給ふにあらず）もし或兄弟に不信者なる妻ありて偕に居ることを可しとせば、之を去るな。 13また女に不信者なる夫ありて偕に居ることを可しとせば、夫を去るな。 14そは不信者なる夫は妻によりて潔くなり、不信者なる妻は夫によりて潔くなりたればなり。然なくば汝らの子供は潔からず、されど今は潔き者なり。 15不信者みづから離れ去らば、その離るるに任せよ。斯くのごとき事あらば、兄弟または姉妹、もはや繋がるる所なし。神の汝らを召し給へるは平和を得させん爲なり。 16妻よ、汝いかで夫を救ひ得るや否やを知らん。夫よ、汝いかで妻を救ひ得るや否やを知らん。 17唯おのおの主の分ち賜ふところ、神の召し給ふところに循ひて歩むべし。凡ての教會に我が命ずるは斯くのごとし。 18割禮ありて召されし者あらんか、その人、割禮を廢つべからず。割禮なくして召されし者あらんか、その人、割禮を受くべからず。 19割禮を受くるも受けぬも數ふるに足らず、ただ貴きは神の誡命を守ることなり。 20各人その召されし時の状に止るべし。 21なんぢ奴隷にて召されたるか、之を思ひ煩ふな（もし釋さるることを得ばゆるされよ） 22召されて主にある奴隷は、主につける自主の人なり。斯くのごとく自主にして召されたる者は、キリストの奴隷なり。 23汝らは價をもて買はれたる者なり。人の奴隷となるな。 24兄弟よ、おのおの召されし時の状に止りて神と偕に居るべし。 25處女のことに就きては主の命を受けず、然れど主の憐憫によりて忠實の者となりたれば、我が意見を告ぐべし。 26われ思ふに、目前の患難のためには、人その在るが隨にて止るぞ善き。 27なんぢ妻に繋がるる者なるか、釋くことを求むな。妻に繋がれぬ者なるか、妻を求むな。 28たとひ妻を娶るとも罪を犯すにはあらず。處女もし嫁ぐとも罪を犯すにあらず。然れどかかる者はその身、苦難に遭はん、我なんぢらを苦難に遭はすに忍びず。 29兄弟よ、われ之を言はん、時は縮れり。されば此よりのち妻を有てる者は有たぬが如く、 30泣く者は泣かぬが如く、喜ぶ者は喜ばぬが如く、買ふ者は有たぬが如く、 31世を用ふる者は用ひ盡さぬが如くすべし。此の世の状態は過ぎ往くべければなり。 32わが欲する所は汝らが思ひ煩はざらん事なり。婚姻せぬ者は如何にして主を喜ばせんと主のことを慮ぱかり、 33婚姻せし者は如何にして妻を喜ばせんと、世のことを慮ぱかりて心を分つなり。 34婚姻せぬ女と處女とは身も靈も潔くならんために主のことを慮ぱかり、婚姻せし者は如何にしてその夫を喜ばせんと世のことを慮ぱかるなり。 35わが之を言ふは汝らを益せん爲にして、汝らに絆を置かんとするにあらず、寧ろ汝らを宣しきに適はせ、餘念なく只管、主に事へしめんとてなり。 36人もし處女たる己が娘に對すること宣しきに適はずと思ひ、年の頃もまた過ぎんとし、かつ然せざるを得ずば、心のままに行ふべし。これ罪を犯すにあらず、婚姻せさすべし。 37されど人もし其の心を堅くし、止むを得ざる事もなく、又おのが心の隨になすを得て、その娘を留め置かんと心のうちに定めたらば、然するは善きなり。 38されば其の娘を嫁がする者の行爲は善し。されど之を嫁がせぬ者の行爲は更に善し。 39妻は夫の生ける間は繋がるるなり。然れど夫もし死なば、欲するままに嫁ぐ自由を得べし、また主にある者にのみ適くべし。 40然れど我が意見にては、その儘に止らば殊に幸福なり。我もまた神の御靈に感じたりと思ふ。

第八章

1偶像の供物に就きては我等みな知識あることを知る。知識は人を誇らしめ、愛は徳を建つ。 2もし人みづから知れりと思はば、知るべき程の事をも知らぬなり。 3されど人もし神を愛せば、その人、神に知られたるなり。 4偶像の供物を食ふことに就きては、我ら偶像の世になき者なるを知り、また唯一の神の外には神なきを知る。 5神と稱ふるもの、或は天に或は地にありて、多くの神、おほくの主あるが如くなれど、 6我らには父なる唯一の神あるのみ、萬物これより出で、我らも亦これに

歸す。また唯一の主イエス・キリストあるのみ、萬物これに由り、我らも亦これに由れり。7されど人みな此の知識あるにあらず、或人は今もなほ偶像に慣れ、偶像の献物として食する故に、その良心よわくして汚さるるなり。8我らを神の前に立たしむるものは食物にあらず、されば食するも益なく、食せざるも損なし。9されど心して汝らの有てる此の自由を弱き者の躓物とすな。10人もし知識ある汝が偶像の宮にて食事するを見んに、その人弱きときは良心そそのかされて偶像の献物を食せざらんや。11さらばキリストの代りて死に給ひし弱き兄弟は、汝の知識によりて亡ぶべし。12斯くのごとく汝ら兄弟に對して罪を犯し、その弱き良心を傷めしむるは、キリストに對して罪を犯すなり。13この故に、もし食物わが兄弟を躓かせんには、兄弟を躓かせぬ爲に、我は何時までも肉を食はじ。

第九章

1我は自主の者ならずや、使徒にあらずや、我らの主イエスを見しにあらずや、汝らは主に在りて我が業ならずや。2われ他の人には使徒ならずとも汝らには使徒なり。汝らは主にありて我が使徒たる職の印なればなり。3われを審く者に對する我が辯明は斯くのごとし。4我らは飲食する權なきか。5我らは他の使徒たち主の兄弟たち及びケパのごとく、姉妹たる妻を携ふる權なきか。6ただ我とバルナバとのみ工を止むる權なきか。7誰か己の財にて兵卒を務むる者あらんや。誰か葡萄畑を作りてその果を食はぬ者あらんや。誰か群を牧ひてその乳を飲まぬ者あらんや。8我ただ人の思にのみ由りて此等のことを言はんや、律法も亦かく言ふにあらずや。9モーセの律法に『穀物を碾す牛には口籠を繋くべからず』と録したり。神は牛のために慮ぱかり給へるか、10また專ら我等のために之を言ひ給ひしか、然り、我らのために録されたり。それ耕す者は望をもて耕し、穀物をこなす者は之に與る望をもて碾すべきなり。11もし我ら靈の物を汝らに蒔きしならば、汝らの肉の物を刈り取るは過分ならんや。12もし他の人なんぢらに對してこの權あらんには、まして我らをや。然れど我等はこの權を用ひざりき。唯キリストの福音に障碍なきやうに一切のことを忍ぶなり。13なんぢら知らぬか、聖なる事を務むる者は宮のものを食し、祭壇に事ふる者は祭壇のものに與るを。14斯くのごとく主もまた福音を宣傳ふる者の福音により て生活すべきことを定め給へり。15されど我は此等のことを一つだに用ひし事なし、また自ら斯くせられんために之を書き贈るにあらず、斯くせられんよりは寧ろ死ぬるを善しとすればなり。誰もわが誇を空しくせざるべし。16われ福音を宣傳ふとも誇るべき所なし、已むを得ざるなり。もし福音を宣傳へずば、我は禍害なるかな。17若しわれ心より之をなさば報を得ん、たとひ心ならずとも我はその務を委ねられたり。18然らば我が報は何ぞ、福音を宣傳ふるに、人をして費なく福音を得しめ、而も福音によりて我が有てる權を用ひ盡さぬこと是なり。19われ凡ての人に對して自主の者なれど、更に多くの人を得んために、自ら凡ての人の奴隷となれり。20我ユダヤ人にはユダヤ人の如くなれり、これユダヤ人を得んが爲なり。律法の下にある者には——律法の下に我はあらねど——律法の下にある者の如くなれり。これ律法の下にある者を得んが爲なり。21律法なき者には——われ神に向ひて律法なきにあらず、反つてキリストの律法の下にあれど——律法なき者の如くなれり、これ律法なき者を得んがためなり。22弱き者には弱き者となれり、これ弱き者を得んためなり。我すべての人には凡ての人の状に從へり、これ如何にもして幾許かの人を救はんためなり。23われ福音のために凡ての事をなす、これ我も共に福音に與らん爲なり。24なんぢら知らぬか、馳場を走る者はみな走れども、褒美を得る者の、ただ一人なるを。汝らも得んために斯く走れ。25すべて勝を爭ふ者は何事をも節し愼む、彼らは朽つる冠冕を得んが爲なれど、我らは朽ちぬ冠冕を得んがために之をなすなり。26斯く我が走るは目標なきが如きにあらず、我が拳鬪するは空を擊つが如きにあらず。27わが體を打ち擲きて之を服從せしむ。恐らくは他人に宣傳へて自ら棄てらるる事あらん。

第十章

1兄弟よ、我なんぢらが之を知らぬを好まず。即ち我らの先祖はみな雲の下にあり、みな海をとほり、2みな雲と海とにてバプテスマを受けてモーセにつけり。3而して皆おなじく靈なる食物を食し、4みな同じく靈なる飲物を飲めり。これ彼らに隨ひし靈なる岩より飲みたるなり、その岩は即ちキリストなりき。5然れど彼らのう

ち多くは神の御意に適はず、荒野にて亡されたり。6此等のことは我らの鑑にして、彼らが貪りし如く惡を貪らざらん爲なり。7彼らの中の或者に效ひて偶像を拜する者となるな、即ち『民は坐して飮食し立ちて戲る』と録されたり。8又かれらの中の或者に效ひて我ら姦淫すべからず、姦淫を行ひしもの一日に二萬三千人死にたり。9また彼等のうちの或者に效ひて我ら主を試むべからず、主を試みしもの蛇に亡されたり、10又かれらの中の或者に效ひて呟くな、呟きしもの亡す者に亡されたり。11彼らが遭へる此等のことは鑑となれり、かつ末の世に遭へる我らの訓戒のために録されたり。12さらば自ら立てりと思ふ者は倒れぬやうに心せよ。13汝らが遭ひし試煉は人の常ならぬはなし。神は眞實なれば、汝らを耐へ忍ぶこと能はぬほどの試煉に遭はせ給はず。汝らが試煉を耐へ忍ぶことを得んために之と共に遁るべき道を備へ給はん。14さらば我が愛する者よ、偶像を拜することを避けよ。15され慧き者に言ふごとく言はん、我が言ふところを判斷せよ。16我らが祝ふところの祝の酒杯は、これキリストの血に與るにあらずや。我らが擘く所のパンは、これキリストの體に與るにあらずや。17パンは一つなれば、多くの我らも一體なり、皆ともに一つのパンに與るに因る。18肉によるイスラエルを視よ、供物を食ふ者は祭壇に與るにあらずや。19さらば我が言ふところは何ぞ、偶像の供物はあるものと言ふか、また、偶像はあるものと言ふか。20否、我は言ふ、異邦人の供ふる物は神に供ふるにあらず、惡鬼に供ふるなりと。我なんぢらが惡鬼と交るを欲せず。21なんぢら主の酒杯と惡鬼の酒杯とを兼ね飮むこと能はず。主の食卓と惡鬼の食卓とに兼ね與ること能はず。22われら主の妬を惹起さんとするか、我らは主よりも強き者ならんや。23一切のもの可からざるなし、然れど一切のもの益あるにあらず、一切のもの可からざるなし、されど、一切のもの德を建つるにあらず。24各人おのが益を求むることなく、人の益を求めよ。25すべて市場にて賣る物は、良心のために何をも問はずして食せよ。26そは地と之に滿つる物とは主の物なればなり。27もし不信者に招かれて往かんとせば、凡て汝らの前に置く物を、良心のために何をも問はずして食せよ。28人もし此は犧牲にせし肉なりと言はば、告げし者のため、また良心のために食すな。29良心とは汝の良心にあらず、かの人の良心を言ふなり。何ぞわが自由を他の人の良心によりて審かるる事をせん。30もし感謝して食する事をせば、何ぞわが感謝する所のものに就きて譏らるる事をせん。31さらば食ふにも飮むにも何事をなすにも、凡て神の榮光を顯すやうにせよ。32ユダヤ人にもギリシヤ人にも、また、神の教會にも躓物となるな。33我も凡ての事を凡ての人の心に適ふやうに力め、人々の救はれんために、己の益を求めずして多くの人の益を求むるなり。

第十一章

1我がキリストに效ふ者なる如く、なんぢら我に效ふ者となれ。2汝らは凡ての事につきて我を憶え、且わが傳へし所をそのまま守るに因りて、我なんぢらを譽む。3されど我なんぢらが之を知らんことを願ふ。凡ての男の頭はキリストなり、女の頭は男なり、キリストの頭は神なり。4すべて男は祈をなし、預言をなすとき、頭に物を被るは其の頭を辱しむるなり。5すべて女は祈をなし、預言をなすとき、頭に物を被らぬは其の頭を辱しむるなり。これ薙髮と異なる事なし。6女もし物を被らずば、髮をも剪るべし。されど髮を剪り或は薙ることを女の恥とせば、物を被るべし。7男は神の像、神の榮光なれば、頭に物を被るべきにあらず、されど女は男の光榮なり。8男は女より出でずして、女は男より出で、9男は女のために造られずして、女は男のために造られたればなり。10この故に女は御使たちの故によりて頭に權の徽を戴くべきなり。11されど主に在りては、女は男に由らざるなく、男は女に由らざるなし。12女の男より出でしごとく、男は女によりて出づ。而して萬物はみな神より出づるなり。13汝等みづから判斷せよ、女の物を被らずして神に祈るは宜しき事なるか。14なんぢら自然に知るにあらずや、男もし長き髮の毛あらば恥づべきことにして、15女もし長き髮の毛あらばその光榮なるを。それ女の髮の毛は被物として賜はりたるなり。16假令これを坑辯ふ者ありとも、斯くのごとき例は我らにも神の諸教會にもある事なし。17我これらの事を命じて汝らを譽めず。汝らの集ること益を受けずして損を招けばなり。18先づ汝らが教會に集るとき分爭ありと聞く、われ略これを信ず。19それは汝等のうちに是とせらるべき者の現れんために黨派も必ず起るべければなり。20なんぢら一處に集るとき、主の晩餐を食すること能はず。21食

する時おのおの人に先だちて己の晩餐を食するにより、饑うる者あり、酔ひ飽ける者あればなり。22汝ら飲食すべき家なきか、神の教會を輕んじ、また乏しき者を辱しめんとするか、我なにを言ふべきか、汝らを譽むべきか、之に就きては譽めぬなり。23わが汝らに傳へしことは主より授けられたるなり。即ち主イエス付され給ふ夜、パンを取り、24祝して之を擘き、而して言ひ給ふ『これは汝等のための我が體なり。我が記念として之を行へ』25夕餐ののち酒杯をも前の如くして言ひたまふ『この酒杯は我が血によれる新しき契約なり。飲むごとに我が記念として之をおこなへ』26汝等このパンを食し、この酒杯を飲むごとに、主の死を示して其の來りたまふ時にまで及ぶなり。27されば宜しきに適はずして主のパンを食し、主の酒杯を飲む者は、主の體と血とを犯すなり。28人みづから省みて後、そのパンを食し、その酒杯を飲むべし。29御體を辨へずして飲食する者は、その飲食によりて自ら審判を招くべければなり。30この故に汝等のうちに弱きもの病めるもの多くあり、また眠に就きたる者も少からず。31我等もし自ら己を辨へなば審かるる事なからん。32されど審かるる事のあるは、我らを世の人とともに罪に定めじとて、主の懲しめ給ふなり。33この故に、わが兄弟よ、食せんとて集るときは互に待ち合せよ。34もし飢うる者あらば、汝らの集會の審判を招くこと無からん爲に、己が家にて食すべし。その他のことは我いたらん時これを定めん。

第十二章

1兄弟よ、靈の賜物に就きては、我なんぢらが知らぬを好まず。2なんぢら異邦人なりしとき、誘はるるままに物を言はぬ偶像のもとに導き往かれしは、汝らの知る所なり。3然れば我なんぢらに示さん、神の御靈に感じて語る者は、誰も『イエスは詛はるべき者なり』と言はず、また聖靈に感ぜざれば、誰も『イエスは主なり』と言ふ能はず。4賜物は殊なれども、御靈は同じ。5務は殊なれども、主は同じ。6活動は殊なれども、凡ての人のうちに凡ての活動を爲したまふ神は同じ。7御靈の顯現をおのおのに賜ひたるは、益を得させんためなり。8或人は御靈によりて智慧の言を賜はり、或人は同じ御靈によりて知識の言、9或人は同じ御靈によりて信仰、ある人は一つ御靈によりて病を醫す賜物、10或人は異能ある業、ある人は預言、ある人は靈を辨へ、或人は異言を言ひ、或人は異言を釋く能力を賜はる。11凡て此等のことは同じ一つの御靈の活動にして、御靈その心に隨ひて各人に分け與へたまふなり。12體は一つにして肢は多し、體の肢は多くとも一つの體なるが如く、キリストも亦然り。13我らはユダヤ人・ギリシヤ人・奴隷・自主の別なく、一體とならん爲に、みな一つ御靈にてバプテスマを受けたり。而してみな一つ御靈を飲めり。14體は一肢より成らず、多くの肢より成るなり。15足もし『我は手にあらぬ故に體に屬せず』と云ふとも、之によりて體に屬せぬにあらず。16耳もし『それは眼にあらぬ故に體に屬せず』と云ふとも、之によりて體に屬せぬにあらず。17もし全身、眼ならば、聽くところ何れか。もし全身、聽く所ならば、臭ぐところ何れか。18げに神は御意のままに肢をおのおの體に置き給へり。19若しみな一肢ならば、體は何れか。20げに肢は多くあれど、體は一つなり。21眼は手に對ひて『われ汝を要せず』と言ひ、頭は足に對ひて『われ汝を要せず』と言ふこと能はず。22否、からだの中にて最も弱しと見ゆる肢は、反つて必要なり。23體のうちにて尊からずと思はるる所に、物を纏ひて殊に之を尊ぶ。斯く我らの美しからぬ所は、一層すぐれて美しくすれども、24美しき所には、物を纏ふの要なし。神は劣れる所に殊に尊榮を加へて、人の體を調和したまへり。25これ體のうちに分爭なく、肢々一致して互に相顧みんためなり。26もし一つの肢苦しまば、もろもろの肢ともに苦しみ、一つの肢尊ばれなば、もろもろの肢ともに喜ぶなり。27乃ち汝らはキリストの體にして各自その肢なり。28神は第一に使徒、第二に預言者、第三に教師、その次に異能ある業、次に病を醫す賜物、補助をなす者、治むる者、異言などを教會に置きたまへり。29是みな使徒ならんや、みな預言者ならんや、みな教師ならんや、みな異能ある業を行ふ者ならんや。30みな病を醫す賜物を有てる者ならんや、みな異言を語る者ならんや、みな異言を釋く者ならんや。31なんぢら優れたる賜物を慕へ、而して我さらに善き道を示さん。

第十三章

1たとひ我もろもろの國人の言および御使の言を語るとも、愛なくば鳴る鐘や響く鐃鈸の如し。2假令われ預言

する能力あり、又すべての奥義と凡ての知識とに達し、また山を移すほどの大なる信仰ありとも、愛なくば數ふるに足らず。3たとひ我わが財産をことごとく施し、又わが體を燒かるる爲に付すとも、愛なくば我に益なし。4愛は寛容にして慈悲あり。愛は妬まず、愛は誇らず、驕らず、5非禮を行はず、己の利を求めず、憤ほらず、人の惡を念はず、6不義を喜ばずして、眞理の喜ぶところを喜び、7凡そ事忍び、おほよそ事信じ、おほよそ事望み、おほよそ事耐ふるなり。8愛は長久までも絶ゆることなし。然れど預言は廢れ、異言は止み、知識もまた廢らん。9それ我らの知るところ全からず、我らの預言も全からず。10全き者の來らん時は全からぬもの廢らん。11われ童子の時は語ることも童子のごとく、思ふことも童子の如く、論ずる事も童子の如くなりしが、人と成りては童子のことを棄てたり。12今われらは鏡をもて見るごとく見るところ朧なり。然れど、かの時には顏を對せて相見ん。今わが知るところ全からず、然れど、かの時には我が知られたる如く全く知るべし。13げに信仰と希望と愛と此の三つの者は限りなく存らん、而して其のうち最も大なるは愛なり。

第十四章

1愛を追ひ求めよ、また靈の賜物、ことに預言する能力を慕へ。2異言を語る者は人に語るにあらずして神に語るなり。そは靈にて奥義を語るとも、誰も悟る者なければなり。3されど預言する者は人に語りて其の德を建て、勸をなし、慰安を與ふるなり。4異言を語る者は己の德を建て、預言する者は教會の德を建つ。5われ汝等がみな異言を語らんことを欲すれど、殊に欲するは預言せん事なり。異言を語る者、もし釋きて教會の德を建つるにあらずば、預言する者のかた勝るなり。6然らば兄弟よ、我もし汝らに到りて異言をかたり、或は默示、あるいは知識、あるいは預言、あるいは教をもて語らずば、何の益かあらん。7生命なくして聲を出すもの、或は笛、あるいは立琴、その音もし差別なくば、爭で吹くところ彈くところの何たるを知らん。8ラッパ若し定りなき音を出さば、誰か戰鬪の備をなさん。9斯くのごとく汝らも舌をもて明かなる言を出さずば、いかで語るところの何たるを知らん、これ汝等ただ空氣に語るのみ。10世には國語の類おほかれど、一つとして意義あらぬはなし。11我もし國語の意義を知らずば、語る者に對して夷人となり、語る者も我に對して夷人とならん、12然らば汝らも靈の賜物を慕ふ者なれば、教會の德を建つる目的にて賜物の豐ならん事を求めよ。13この故に異言を語る者は自ら釋き得んことをも祈るべし。14我もし異言をもて祈らば、我が靈は祈るなれど、我が心は果を結ばず。15然らば如何にすべきか、我は靈をもて祈り、また心をもて祈らん。我は靈をもて謳ひ、また心をもて謳はん。16汝もし然せずば、靈をもて祝するとき、凡人は汝の語ることを知らねば、その感謝に對し如何にしてアァメンと言はんや。17なんぢの感謝はよし、然れど、その人の德を建つることなし。18我なんぢら衆の者よりも多く異言を語ることを神に感謝す。19然れど我は教會にて異言をもて一萬言を語るよりも、寧ろ人を教へんために我が心をもて五言を語らんことを欲するなり。20兄弟よ、智慧に於ては子供となるな、惡に於ては幼兒となり、智慧に於ては成人となれ。21律法に録して『主、宣はく、他し言の民により、他し國人の口唇をもて此の民に語らん、然れど尚かれらは我に聽かじ』とあり。22されば異言は、信者の爲ならで不信者のための徵なり。預言は、不信者の爲ならで信者のためなり。23もし全教會一處に集れる時、みな異言にて語らば、凡人または不信者いり來らんに、汝らを狂へる者と言はざらんや。24然れど若しみな預言せば、不信者または凡人の入りきたるとき、會衆のために自ら責められ、會衆のために是非せられ、25その心の秘密あらはるる故に、伏して神を拜し『神は實に汝らの中に在す』と言はん。26兄弟よ、さらば如何にすべきか、汝らの集る時はおのおの聖歌あり、教あり、默示あり、異言あり、釋く能力あり、みな德を建てん爲にすべし。27もし異言を語る者あらば、二人、多くとも三人、順次に語りて一人これを釋くべし。28もし釋く者なき時は、教會にては默し、而して己に語り、また神に語るべし。29預言者は二人もしくは三人かたり、その他の者はこれを辨ふべし。30もし坐しをる、他のもの默示を蒙らば、先のもの默すべし。31汝らは皆すべての人に學ばせ勸を受けしめんために、一人一人預言することを得べければなり。32また預言者の靈は預言者に制せらる。33それ神は亂の神にあらず、平和の神なり。34聖徒の諸教會のするごとく、女は教會にて默すべし。彼らは語ることを許されず。

律法に云へるごとく順ふべき者なり。35何事か學ばんとする事あらば、家にて己が夫に問ふべし、女の教會にて語るは恥づべき事なればなり。36神の言は汝等より出でしか、また汝等にのみ來りしか。37人もし自己を預言者とし、或は御靈に感じたる者と思はば、わが汝らに書きおくる言を主の命なりと知れ。38もし知らずば其の知らざるに任せよ。39されば我が兄弟よ、預言することを慕ひ、また異言を語ることを禁ずな。40凡ての事、宜しきに適ひ、かつ秩序を守りて行へ。

第十五章

1兄弟よ、曩にわが傳へし福音を更に復なんぢらに示す。汝らは之を受け、之に頼りて立ちたり。2なんぢら徒らに信ぜずして、我が傳へしままを堅く守らば、この福音に由りて救はれん。3わが第一に汝らに傳へしは、我が受けし所にして、キリスト聖書に應じて我らの罪のために死に、4また葬られ、聖書に應じて三日めに甦へり、5ケパに現れ、後に十二弟子に現れ給ひし事なり。6次に五百人以上の兄弟に同時にあらはれ給へり。その中には既に眠りたる者もあれど、多くは今なほ世にあり。7次にヤコブに現れ、次にすべての使徒に現れ、8最終には月足らぬ者のごとき我にも現れ給へり。9我は神の教會を迫害したれば、使徒と稱へらるるに足らぬ者にて、使徒のうち最小き者なり。10然るに我が今の如くなるは、神の恩惠に由るなり。斯くてその賜はりし御惠は空しくならずして、凡ての使徒よりも我は多く働けり。これ我にあらず、我と偕にある神の恩惠なり。11されば我にもせよ、彼等にもせよ、宣傳ふる所はかくの如くにして、汝らは斯くのごとく信じたるなり。12キリストは死人の中より甦へり給へりと宣傳ふるに、汝等のうちに、死人の復活なしと云ふ者のあるは何ぞや。13もし死人の復活なくば、キリストもまた甦へり給はざりしならん。14もしキリスト甦へり給はざりしならば、我らの宣教も空しく、汝らの信仰もまた空しからん、15かつ我らは神の僞證人と認められん。我ら神はキリストを甦へらせ給へりと證したればなり。もし死人の甦へることなくば、神はキリストを甦へらせ給はざりしならん。16もし死人の甦へる事なくば、キリストも甦へり給はざりしならん。17若しキリスト甦へり給はざりしならば、汝らの信仰は空しく、汝等なほ罪に居らん。18然ればキリストに在りて眠りたる者も亡びしならん。19我等この世にあり、キリストに頼りて空しき望みを懐くに過ぎずば、我らは凡ての人の中にて最も憫むべき者なり。20然れど正しくキリストは死人の中より甦へり、眠りたる者の初穂となり給へり。21それ人によりて死の來りし如く、死人の復活もまた人に由りて來れり。22凡ての人、アダムに由りて死ぬるごとく、凡ての人、キリストに由りて生くべし。23而して各人その順序に隨ふ。まづ初穂なるキリスト、次はその來り給ふときキリストに屬する者なり。24次には終きたらん、その時キリストは、もろもろの權能・權威・權力を亡して國を父なる神に付し給ふべし。25彼は凡ての敵をその足の下に置き給ふまで、王たらざるを得ざるなり。26最後の敵なる死もまた亡されん。27『神は萬の物を彼の足の下に服はせ給ひ』たればなり。萬の物を彼に服はせたりと宣ふときは、萬の物を服はせ給ひし者のその中になきこと明かなり。28萬の物かれに服ふときは、子も亦みづから萬の物を己に服はせ給ひし者に服はん。これ神は萬の物に於て萬の事となり給はん爲なり。29もし復活なくば、死人の爲にバプテスマを受くるもの何をなすか、死人の甦へること全くなくば、死人のためにバプテスマを受くるは何の爲ぞ。30また我らが何時も危険を冒すは何の爲ぞ。31兄弟よ、われらの主イエス・キリストに在りて、汝等につき我が有てる誇によりて誓ひ、我は日々に死すと言ふ。32我がエペソにて獣と鬪ひしこと、若し人のごとき思にて爲しならば、何の益あらんや。死人もし甦へる事なくば『我等いざ飲食せん、明日死ぬべければなり』33なんぢら欺かるな、惡しき交際は善き風儀を害ふなり。34なんぢら醒めて正しうせよ、罪を犯すな。汝等のうちに神を知らぬ者あり、我が斯く言ふは汝等を辱しめんとてなり。35されど人あるひは言はん、死人いかにして甦へるべきか、如何なる體をもて來るべきかと。36愚なる者よ、なんぢの播く所のもの先づ死なずば生きず。37又その播く所のものは後に成るべき體を播くにあらず、麥にても他の穀にても、ただ種粒のみ。38然るに神は御意に隨ひて之に體を予へ、おのおのの種にその體を予へたまふ。39凡ての肉、おなじ肉にあらず、人の肉あり、獣の肉あり、鳥の肉あり、魚の肉あり。40天上の體あり、地上の體あり、されど天上の物の光榮は地上の物と異なり。41日の光榮あり、月の光榮あり、星の光榮あ

り、此の星は彼の星と光榮を異にす。42死人の復活もまた斯くのごとし。朽つる物にて播かれ、朽ちぬものに甦へらせられ、43卑しき物にて播かれ、光榮あるものに甦へらせられ、弱きものにて播かれ、強きものに甦へらせられ、44血氣の體にて播かれ、靈の體に甦へらせられん。血氣の體ある如く、また靈の體あり。45録して、始の人アダムは、活ける者となれるとあるが如し。而して終のアダムは、生命を與ふる靈となれり。46靈のものは前にあらず、反つて血氣のもの前にありて靈のもの後にあり。47第一の人は地より出でて土に屬し、第二の人は天より出でたる者なり。48この土に屬する者に、すべて土に屬する者は似、この天に屬する者に、すべて天に屬する者は似るなり。49我ら土に屬する者の形を有てるごとく、天に屬する者の形をも有つべし。50兄弟よ、われ之を言はん、血肉は神の國を嗣ぐこと能はず、朽つるものは朽ちぬものを嗣ぐことなし。51視よ、われ汝らに奥義を告げん、我らは悉とく眠るにはあらず、52終のラッパの鳴らん時みな忽ち瞬間に化せん。ラッパ鳴りて死人は朽ちぬ者に甦へり、我らは化するなり。53そは此の朽つる者は朽ちぬものを著、この死ぬる者は死なぬものを著るべければなり。54此の朽つるものは朽ちぬものを著、この死ぬる者は死なぬものを著んとき『死は勝に呑まれたり』と録されたる言は成就すべし。55『死よ、なんぢの勝は何處にかある。死よ、なんぢの刺は何處にかある』56死の刺は罪なり、罪の力は律法なり。57されど感謝すべきかな、神は我らの主イエス・キリストによりて勝を與へたまふ。58然れば我が愛する兄弟よ、確くして揺くことなく、常に勵みて主の事を務めよ、汝等その勞の、主にありて空しからぬを知ればなり。

第十六章

1聖徒たちの爲にする寄附の事に就きては、汝らも我がガラテヤの諸教會に命ぜしごとくせよ。2一週の首の日ごとに、各人その得る所にしたがひて己が家に貯へ置け、これ我が到らんとき始めて寄附を集むる事なからん爲なり。3われ到らば、汝らが選ぶところの人々に添書をあたへ、汝らの恵む物をエルサレムに携へ往かしめん。4もし我も往くべきならば、彼らは我と共に往くべし。5我マケドニヤを通らんとすれば、マケドニヤを過ぎて後に汝らの許にゆかん。6かくて汝らの中に留りゐて、或は冬を過すこともあらん、是わが何處に往くも汝らに送られん爲なり。7我は今なんぢらを途の次に見ることを欲せず、主ゆるし給はば、暫く汝らと偕に留らんことを望む。8われ五旬節まではエペソに留らんとす。9そは活動のために大なる門わが前にひらけ、また逆ふ者も多ければなり。10テモテもし到らば、愼みて汝等のうちに懼なく居らしめよ、彼は我と同じく主の業を務むる者なり。11されば誰も之を卑しむることなく、安らかに送りて我が許に來らしめよ、我かれが兄弟たちと共に來るを待てるなり。12兄弟アポロに就きては、我かれに兄弟たちと共に汝らに到らんことを懇ろに勸めたりしが、今は往くことを更に欲せず、されど好き機を得ば往くべし。13目を覺し、堅く信仰に立ち、雄々しく、かつ剛かれ。14一切のこと愛をもて行へ。15兄弟よ、ステパナの家はアカヤの初穗にして、彼らが身を委ねて聖徒に事へたることは、汝らの知る所なり。16われ汝らに勸む、斯くのごとき人々また凡て之とともに働きて勞する者に服せよ。17我ステパナとポルトナトとアカイコとの來るを喜ぶ。かれらは汝らの居らぬを補ひたればなり。18彼らは我が心と汝らの心とを安んじたり、斯くのごとき者を認めよ。19アジヤの諸教會なんぢらに安否を問ふ。アクラとプリスカ及びその家の教會、主に在りて懇ろに汝らに安否を問ふ。20すべての兄弟なんぢらに安否を問ふ。なんぢら潔き接吻をもて互に安否を問へ。21我パウロ自筆をもて汝らに安否を問ふ。22もし人、主を愛せずば詛はるべし、我らの主きたり給ふ。23願はくは主イエスの恩恵なんぢらと偕にあらんことを。24わが愛はキリスト・イエスに在りて汝等すべての者とともに在るなり。

コリント人への後の書

第一章

1神の御意によりてイエス・キリストの使徒となれるパウロ及び兄弟テモテ、書をコリントに在る神の教會、ならびにアカヤ全國に在る凡ての聖徒に贈る。2願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩惠と平安と汝らに在らんことを。3讃むべき哉、われらの主イエス・キリストの父なる神、即ちもろもろの慈悲の父、一切の慰安の神、4われらを凡ての患難のうちに慰め、我等をして自ら神に慰めらるる慰安をもて、諸般の患難に居る者を慰むることを得しめ給ふ。5そはキリストの苦難われらに溢るる如く、我らの慰安も亦キリストによりて溢るればなり。6我ら或は患難を受くるも汝らの慰安と救とのため、或は慰安を受くるも汝らの慰安の爲にして、その慰安は汝らの中に働きて、我らが受くる如き苦難を忍ぶことを得しむるなり。7かくて汝らが苦難に與るごとく、また慰安にも與ることを知れば、汝らに對する我らの望は堅し。8兄弟よ、我らがアジヤにて遭ひし患難を汝らの知らざるを好まず、すなはち壓せらるること甚だしく、力 耐へがたくして、生くる望を失ひ、9心のうちに死を期するに至れり。これ己を頼まずして、死人を甦へらせ給ふ神を頼まん爲なり。10神は斯かる死より我らを救ひ給へり、また救ひ給はん。我らは後もなほ救ひ給はんことを望みて神を頼み、11汝らも我らの爲に祈をもて助く。これ多くの人の願望によりて賜はる恩惠を、多くの人の感謝するに至らん爲なり。12われら世に在りて殊に汝らに對し、神の清淨と眞實とをもて、また肉の智慧によらず、神の恩惠によりて行ひし事は、我らの良心の證する所にして、我らの誇なり。13我らの書き贈ることは、汝らの讀むところ知る所の他ならず。14而して我は汝 等のうち或 者の既に知れる如く、我らの主イエスの日に我らが汝らの誇、なんぢらが我らの誇たるを終まで知らんことを望む。15この確信をもて先づ汝らに到り、再び益を得させ、16かくて汝らを經てマケドニアに往き、マケドニアより更に復なんぢらに到り、而して汝らに送られてユダヤに往かんことを定めたり。17かく定めたるは浮きたる事ならんや。わが定むるところ肉によりて定め、然り然り、否々と言ふが如きこと有らんや。18神は眞實にて在せば、我らが汝らに對する言も、然りまた否と言ふが如きにあらず。19我ら即ちパウロ、シルワノ、テモテが汝らの中に傳へたる神の子キリスト・イエスは、然りまた否と言ふが如き者にあらず、然りと言ふことは彼によりて成りたるなり。20神の約束は多くありとも、然りと言ふことは彼によりて成りたれば、彼によりてアァメンあり、我ら神に榮光を歸するに至る。21汝らと共に我らをキリストに堅くし、且われらに膏を注ぎ給ひし者は神なり。22神はまた我らに印し、保證として御靈を我らの心に賜へり。23我わが靈魂を賭けて神の證を求む、我がコリントに往くことの遲きは、汝らを寛うせん爲なり。24されど我らは汝らの信仰を掌どる者にあらず、汝らの喜悦を助くる者なり、汝らは信仰によりて立てばなり。

第二章

1われ再び憂をもて汝らに到らじと自ら定めたり。2我もし汝らを憂ひしめば、我が憂ひしむる者のほかに誰か我を喜ばせんや。3われ前に此の事を書き贈りしは、我が到らんとき、我を喜ばすべきもの、反つて我を憂ひしむる事のなからん爲にして、汝らは皆わが喜悦を喜悦とするを信ずるに因りてなり。4われ大なる患難と心の悲哀とにより、多くの涙をもて汝らに書き贈れり。これ汝らを憂ひしめんとにあらず、我が汝らに對する愛の溢るるばかりなるを知らしめん爲なり。5もし憂ひしむる人あらば、我を憂ひしむるにあらず、幾許か汝ら衆を憂ひしむるなり。（幾許かと云へるは、われ激しく責むるを好まぬ故なり）6かかる人の多數の者より受けたる懲罰は足れり。7されば汝ら寧ろ彼を恕し、かつ慰めよ、恐らくは其の人、甚だしき愁に沈まん。8この故に我なんぢらの愛を彼に顯さんことを勸む。9前に書き贈りしは、凡ての事につきて汝らが從 順なりや否やをも試み知らん爲なり。10なんぢら何事にても人を恕さば、我も亦これを恕さん、われ恕したる事あらば、汝らの爲にキリストの前に恕したるなり。11これサタンに欺かれざらん爲なり、我等はその詭謀を知らざるにあらず。12我キリス

トの福音の爲にトロアスに到り、主われに門を開き給ひたれど、13我が兄弟テトスに逢はぬによりて心に平安をえず、彼處の者に別を告げてマケドニヤに往けり。14感謝すべきかな、神は何時にてもキリストにより、我らを執へて凱旋し、何處にても我等によりてキリストを知る知識の馨をあらはし給ふ。15救はるる者にも亡ぶる者にも、我らは神に對してキリストの香しき馨なり。16この人には死よりいづる馨となりて死に至らしめ、かの人には生命より出づる馨となりて生命に至らしむ。誰か此の任に耐へんや。17我らは多くの人のごとく神の言を曲げず、眞實により神による者のごとく、神の前にキリストに在りて語るなり。

第三章

1我等ふたたび己を薦め始めんや、また或人のごとく人の推薦の書を汝らに齎し、また汝等より受くることを要せんや。2汝らは即ち我らの書にして我らの心に録され、又すべての人に知られ、かつ讀まるるなり。3汝らは明かに我らの職によりて書かれたるキリストの書なり。而も墨にあらで活ける神の御靈にて録され、石碑にあらで心の肉碑に録されたるなり。4我らはキリストにより、神に對して斯かる確信あり。5されど己は何事をも自ら定むるに足らず、定むるに足るは神によるなり。6神は我らを新約の役者となるに足らしめ給へり、儀文の役者にあらず、靈の役者なり。そは儀文は殺し、靈は活せばなり。7石に彫り書されたる死の法の職にも光榮ありて、イスラエルの子等はそのやがて消ゆべきモーセの顔の光榮を見つめ得ざりし程ならんには、8まして靈の職は光榮なからんや。9罪を定むる職もし光榮あらんには、まして義とする職は光榮に溢れざらんや。10もと光榮ありし者も更に勝れる光榮に比ぶれば、光榮なき者となれり。11もし消ゆべき者に光榮ありしならんには、まして永存ふるものに光榮なからんや。12我らは斯くのごとき希望を有つゆゑに、更に臆せずして言ひ、13又モーセの如くせざるなり。彼は消ゆべき者の消えゆくをイスラエルの子らに見せぬために、面帕を顔におほひたり。14然れど彼らの心鈍くなれり。キリストによりて面帕の廢るべきを悟らねば、今日に至るまで舊約を讀む時その面帕なほ存れり。15今日に至るまでモーセの書を讀むとき、面帕は彼らの心のうへに置かれたり。16然れど主に歸する時、その面帕は取り除かるべし。17主は即ち御靈なり、主の御靈のある所には自由あり。18我等はみな面帕なくして、鏡に映るごとく主の榮光を見、榮光より榮光にすすみ、主たる御靈によりて主と同じ像に化するなり。

第四章

1この故に我ら憐憫を蒙りて此の職を受けたれば、落膽せず、2恥づべき隱れたる事をすて、惡巧に歩まず、神の言をみださず、眞理を顯して神の前に己を凡ての人の良心に薦むるなり。3もし我らの福音おほはれ居らば、亡ぶる者に覆はれをるなり。4この世の神は此等の不信者の心を暗まして、神の像なるキリストの榮光の福音の光を照さざらしめたり。5我らは己の事を宣べず、ただキリスト・イエスの主たる事と、我らがイエスのために汝らの僕たる事とを宣ぶ。6光、暗より照り出でよと宣ひし神は、イエス・キリストの顔にある神の榮光を知る知識を輝かしめんために、我らの心を照し給へるなり。7我等この寶を土の器に有てり、これ優れて大なる能力の我等より出でずして、神より出づることの顯れんためなり。8われら四方より患難を受くれども窮せず、爲ん方つくれども希望を失はず、9責められるれども棄てられず、倒さるれども亡びず、10常にイエスの死を我らの身に負ふ。これイエスの生命の我らの身にあらはれんため爲なり。11それ我ら生ける者の常にイエスのため死に付さるるは、イエスの生命の我らの死ぬべき肉體にあらはれん爲なり。12さらば死は我等のうちに働き、生命は汝等のうちに働くなり。13録して『われ信ずるによりて語れり』とあるごとく、我等にも同じ信仰の靈あり、信ずるに因りて語るなり。14これ主イエスを甦へらせ給ひし者の我等をもイエスと共に甦へらせ、汝らと共に立たしめ給ふことを我ら知ればなり。15凡ての事は汝らの益なり。これ多くの人によりて御惠の増し加はり、感謝いや増りて神の榮光の顯れん爲なり。16この故に我らは落膽せず、我らが外なる人は壞るれども、内なる人は日々に新なり。17それ我らが受くる暫くの輕き患難は、極めて大なる永遠の重き光榮を得しむるなり。18我らの顧みる所は見ゆるものにあらで見えぬものなればなり。見ゆるものは暫時にして、見えぬものは永遠に至るなり。

第五章

1我らは知る、我らの幕屋なる地上の家、壊るれば、神の賜ふ建造物、すなはち天にある、手にて造らぬ、永遠の家あることを。2我等はその幕屋にありて歎き、天より賜ふ住所をこの上に著んことを切に望む。3之を著るときは裸にてある事なからん。4我等この幕屋にありて重荷を負へる如くに歎く、之を脱がんとにあらで、此の上に著んことを欲すればなり。これ死ぬべき者の生命に呑まれん爲なり。5我らを此の事に適ふものとなし、その證として御靈を賜ひし者は神なり。6この故に我らは常に心強し、かつ身に居るうちは主より離れ居るを知る、7見ゆる所によらず、信仰によりて歩めばなり。8斯く心強し、願ふところは寧ろ身を離れて主と偕に居らんことなり。9然れば身に居るも身を離るるも、ただ御心に適はんことを力む。10我等はみな必ずキリストの審判の座の前にあらはれ、善にもあれ惡にもあれ、各人その身になしたる事に隨ひて報を受くべければなり。11斯く主の畏るべきを知るによりて人々に説き勸む。われら既に神に知られたり、亦なんぢらの良心にも知られたりと思ふ。12我等は再び己を汝らに薦むるにあらず、ただ我等をもて誇とする機を汝らに與へ、心によらず外貌によりて誇る人々に答ふることを得させんとするなり。13我等もし心狂へるならば、神の爲なり、心慥ならば、汝らの爲なり。14キリストの愛われらに迫れり。我ら思ふに、一人すべての人に代りて死にたれば、凡ての人すでに死にたるなり。15その凡ての人に代りて死に給ひしは、生ける人の最早おのれの爲に生きず、己に代り死にて甦へり給ひし者のために、生きん爲なり。16されば今より後われ肉によりて人を知るまじ、曾て肉によりてキリストを知りしが、今より後は斯くの如くに知ることをせじ。17人もしキリストに在らば新に造られたる者なり、古きは既に過ぎ去り、視よ、新しくなりたり。18これらの事はみな神より出づ、神はキリストによりて我らを己と和がしめ、かつ和がしむる職を我らに授け給へり。19即ち神はキリストに在りて世を己と和がしめ、その罪を之に負はせず、かつ和がしむる言を我らに委ね給へり。20されば我等はキリストの使者たり、恰も神の我等によりて汝らを勸め給ふがごとし。我等キリストに代りて願ふ、なんぢら神を和げ。21神は罪を知り給はざりし者を我らの代に罪となし給へり、これ我らが彼に在りて神の義となるを得んためなり。

第六章

1我らは神とともに働く者なれば、神の恩惠を汝らが徒らに受けざらんことを更に勸む。2（神いひ給ふ『われ惠の時に汝に聽き、救の日に汝を助けたり』と。視よ、今は惠のとき、視よ、今は救の日なり）3我等この職の謗られぬ爲に何事にも人を躓かせず。4反つて凡ての事において神の役者のごとく己をあらはす、即ち患難にも、窮乏にも、苦難にも、5打たるるにも、獄に入るにも、騒擾にも、勞動にも、眠らぬにも、斷食にも、大なる忍耐を用ひ、6また廉潔と知識と寛容と仁慈と聖靈と虚僞なき愛と、7眞の言と神の能力と左右に持ちたる義の武器とにより、8また光榮と恥辱と惡名と美名とによりて表す。我らは人を惑す者の如くなれども眞、9人に知られぬ者の如くなれども人に知られ、死なんとする者の如くなれども、視よ、生ける者、懲さるる者の如くなれども殺されず、10憂ふる者の如くなれども常に喜び、貧しき者の如くなれども多くの人を富ませ、何も有たぬ者の如くなれども凡ての物を有てり。11コリント人よ、我らの口は汝らに向ひて開け、我らの心は廣くなれり。12汝らの狹くせらるるは我らに因るにあらず、反つて己が心に因るなり。13汝らも心を廣くして我に報をせよ。（我わが子に對する如く言ふなり）14不信者と軛を同じうすな、釣合はぬなり、義と不義と何の干與かあらん、光と暗と何の交際かあらん。15キリストとベリアルと何の調和かあらん、信者と不信者と何の關係かあらん。16神の宮と偶像と何の一致かあらん、我らは活ける神の宮なり、即ち神の言ひ給ひしが如し。曰く『われ彼らの中に住み、また歩まん。我かれらの神となり、彼等わが民とならん』と。17この故に『主いひ給ふ、「汝等かれらの中より出で、之を離れ、穢れたる者に觸るなかれ」と。「さらば我なんぢらを受け、18われ汝らの父となり、汝等わが息子むすめとならん」と、全能の主いひ給ふ』とあるなり。

第七章

1されば愛する者よ、我らかかる約束を得たれば、肉と靈との汚穢より全く己を潔め、神を畏れてその清潔を成就すべし。2我らを受け容れよ、われら誰にも不義をなしし事なく、誰をも害ひし事なく、誰をも掠めし事なし。3わが斯く言ふは、汝らを咎めんとにあらず、そは

我が既に言へる如く、汝らは我らの心にありて、共に死に共に生くればなり。4我なんぢらを信ずること大なり、また汝 等をもて誇とすること大なり、我は慰安にみち、凡ての患難の中にも喜悦あふるるなり。5マケドニヤに到りしとき、我らの身はなほ聊かも平安を得ずして、様々の患難に遭ひ、外には分爭、内には恐懼ありき。6然れど哀なる者を慰むる神は、テトスの來るによりて我らを慰め給へり。7唯その來るに因りてのみならず、彼が汝らによりて得たる慰安をもて慰め給へり。即ち汝らの我を慕ふこと、歎くこと、我に對して熱心なることを我らに告ぐるによりて、我ますます喜べり。8われ書をもて汝らを憂ひしめたれども悔いず、その書の汝らを暫く憂ひしめしを見て、前には悔いたれども今は 喜ぶ。9わが喜ぶは汝らの憂ひしが故にあらず、憂ひて悔 改 に至りし故なり。汝らは神に從ひて憂ひたれば、我等より聊かも損を受けざりき。10それ神にしたがふ憂は、悔なきの救を得るの悔 改を生じ、世の憂は死を 生ず。11視よ、汝らが神に從ひて憂ひしことは、如何ばかりの奮勵・辯明・憤 激・恐懼・愛慕・熱心・罪を責むる心などを汝らの中に生じたりしかを。汝 等かの事に就きては全く潔きことを表せり。12されば前に書を汝らに書き贈りしも、不義をなしたる人の爲にあらず、また不義を受けたり人の爲にあらず、我らに對する汝らの奮勵の、神の前にて汝らに顯れん爲なり。13この故に我らは慰安を得たり。慰安を得たる上にテトスの喜悦によりて更に喜べり。そは彼の心なんぢら一同によりて安んぜられたればなり。14われ曩に彼の前に汝らに就きて誇りたれど恥づることなし、我らが汝らに語りし事のみな誠實なりし如く、テトスの前に誇りし事もまた誠實となれり。15彼は汝 等みな從 順にして畏れ戰き、己を迎へしことを思ひ出して、心を汝らに寄すること増々 深し。16われ凡ての事に汝らに就きて心 強きを喜ぶ。

第八章

1兄 弟よ、我らマケドニヤの諸 教 會に賜ひたる神の恩惠を汝らに知らす。2即ち患難の大なる試練のうちに彼らの喜悦あふれ、又その甚だしき貧窮は吝みなく施す富の溢るるに至れり。3われ證す、彼らは聖徒に事ふることに與る惠を切に我らに請ひ求め、みづから進みて、力に應じ、否これに過ぎて施濟をなせり。4われ證す、彼らは聖徒に事ふることに與る惠を切に我らに請ひ求め、みづから進みて、力に應じ、否これに過ぎて施濟をなせり。5我らの望のほかに先づ己を主にささげ、神の御意によりて我らにも身を委ねたり。6されば我らはテトスが前に此の慈惠のことを汝らの中に始めたれば、又これを成 就せんことを勸めたり。7汝 等もろもろの事、すなはち信仰に、言に、知識に、凡ての奮勵に、また我らに對する愛に富めるごとく、此の慈惠にも富むべし。8われ斯く言ふは汝らに命ずるにあらず、ただ他の人の奮勵によりて、汝らの愛の眞實を試みん爲なり。9汝らは我らの主イエス・キリストの恩惠を知る。即ち富める者にて在したれど、汝 等のために貧しき者となり給へり。これ汝らが彼の貧窮によりて富める者とならん爲なり。10施濟のことに就きて我ただ意見を述ぶ、これは汝らの益なり。汝らは此の事をただに一年 前より人に先だちて行 ひしのみならず、又これを願い始めし事なれば、11今これを成し遂げよ、汝らが心より願ひしごとく、所有に應じて成し遂げよ。12人もし志望あらば、其の有たぬ所に由るにあらず、其の有つ所に由りて嘉納せらるるなり。13これ他の人を安くして汝らを苦しめんとにあらず、均しくせんとするなり。14すなはち今なんぢらの餘るところは彼らの足らざるを補ひ、後また彼らの餘る所は汝らの足らざるを補ひて、均しくなるに至らんためなり。15録して『多く集めし者にも餘る所なく、少く集めし者にも足らざる所なかりき』とあるが如し。16汝らに對する同じ熱心をテトスの心にも賜へる神に感謝す。17彼はただに勸を容れしのみならず、甚だ熱心にして、自ら進んで汝らに往くなり。18我等また彼とともに一人の兄 弟を遣す。この人は福音をもて諸 教 會のうちに譽を得たる上に、19主の榮 光と我らの志 望とを顯さんがために、掌どれる此の慈惠に就きて、諸 教 會より我らの道伴として選ばれたる者なり。20彼を遣すは、此の大なる釀金を掌どるに、人に咎めらるる事を避けんためなり。21そは主の前のみならず、人の前にも善からんことを慮ぱかりてなり。22また一人の兄 弟を彼らと共につかはす、我らは多くの事につきて屢次かれの熱心なるを認めたり。而して今は彼が汝らを深く信ずるに因りて、その熱心の更に加はるを認む。23テトスのことを言へば、我が友なり、汝らに對して我が同勞者なり。この兄 弟たちの事をいへば、彼らは諸 教 會の使なり、キリストの

榮光なり。24されば汝らの愛と我らが汝らに就きて誇れる事との證を、諸教會の前にて彼らに顯せ。

第九章

1聖徒に施すことに就きては汝らに書きおくるに及ばず、2我なんぢらの志望あるを知ればなり。その志望につき汝らの事をマケドニヤ人に誇りて、アカヤは既に一年前に準備をなせりと云へり。かくて汝らの熱心は多くの人を勵ましたり。3されどわれ兄弟たちを遣すは、我が言ひしごとく汝らに準備をなさしめ、之につきて我らの誇りし事の空しくならざらん爲なり。4もしマケドニヤ人われと共に來りて汝らの準備なきを見ば、汝らは言ふに及ばず、我らも確信せしによりて恐らくは恥を受けん。5この故に兄弟たちを勸めて、先づ汝らに往かしめ、曩に汝らが約束したる慈惠を、吝むが如くせずして、惠む心よりせん爲に預じめ調へしむるは、必要のことと思へり。6それ少く播く者は少く刈り、多く播く者は多く刈るべし。7おのおの吝むことなく、強ひてすることなく、その心に定めし如くせよ。神は喜びて與ふる人を愛し給へばなり。8神は汝等をして常に凡ての物に足らざることなく、凡ての善き業に溢れしめんために、凡ての恩惠を溢るるばかり與ふることを得給ふなり。9録して『彼は散して貧しき者に與へたり。その正義は永遠に存らん』とある如し。10播く人に種と食するパンとを與ふる者は、汝らにも種をあたへ、且これを殖し、また汝らの義の果を増し給ふべし。11汝らは一切に富みて吝みなく施すことを得、かくて我らの事により、人々神に感謝するに至るなり。12此の施濟の務は、ただに聖徒の窮乏を補ふのみならず、充ち溢れて神に對する感謝を多からしむ。13即ち彼らは此の務を證據として、汝らがキリストの福音に對する言明に順ふことと、彼らにも凡ての人にも吝みなく施すこととに就きて、神に榮光を歸し、14かつ神の汝らに給ひし優れたる恩惠により、汝らを慕ひて汝等のために祈らん。15言ひ盡しがたき神の賜物につきて感謝す。

第十章

1汝らに對し面前にては謙だり、離れゐては勇ましき我パウロ、自らキリストの柔和と寛容とをもて汝らに勸む。2我らを肉に從ひて歩むごとく思ふ者あれば、斯かる者に對しては雄々しくせんと思へど、願ふ所は我が汝らに逢ふとき斯く勇ましくせざらん事なり。3我らは肉にありて歩めども、肉に從ひて戰はず。4それ我らの戰爭の武器は肉に屬するにあらず、神の前には城砦を破るほどの能力あり、我等はもろもろの論説を破り、5神の示教に逆ひて建てたる凡ての櫓を毀ち、凡ての念を虜にしてキリストに服はしむ。6且なんぢらの從順の全くならん時、すべての不從順を罰せんと覺悟せり。7汝らは外貌のみを見る、若し人みづからキリストに屬する者と信ぜば、己がキリストに屬する如く、我らも亦キリストに屬する者なることを更に考ふべし。8假令われ汝らを破る爲ならずして建つる爲に、主が我らに賜ひたる權威につきて誇ること稍過ぐとも恥とはならじ。9われ書をもて汝らを嚇すと思はざれ。10彼らは言ふ『その書は重くかつ強し、その逢ふときの容貌は弱く、言は鄙し』と。11斯くのごとき人は思ふべし。我らが離れをる時おくる書の言のごとく、逢ふときの行爲も亦然るを。12我らは己を譽むる人と敢へて竝び、また較ぶる事をせず、彼らは己によりて己を度り、己をもて己に較ぶれば智なき者なり。13我らは範圍を踰えて誇らず、神の我らに分ち賜ひたる範圍にしたがひて誇らん。その範圍は汝らに及べり。14汝らに及ばぬ者のごとく範圍を踰えて身を延すに非ず、キリストの福音を傳へて汝らにまで到れるなり。15我らは己が範圍を踰えて他の人の勞を誇らず、唯なんぢらの信仰の彌増すにより、我らの範圍に循ひて汝らのうちに更に大ならんことを望む。16これ他の人の範圍に既に備りたるものを誇らず、汝らを踰えて外の處に福音を宣傳へん爲なり。17誇る者は主によりて誇るべし。18そは是とせらるるは己を譽むる者にあらず、主の譽め給ふ者なればなり。

第十一章

1願はくは汝等わが少しの愚を忍ばんことを。請ふ我を忍べ。2われ神の熱心をもて汝らを慕ふ、われ汝らを潔き處女として一人の夫なるキリストに献げんとて、之に許嫁したればなり。3されど我が恐るるは、蛇の惡巧によりてエバの惑されし如く、汝らの心害はれてキリストに對する眞心と貞操とを失はん事なり。4もし人きたりて我らの未だ宣べざる他のイエスを宣ぶる時、また汝らが未だ受けざる他の靈を受け、未だ受け容れざる他の福音を受くるときは、汝ら能く之を忍ばん。5我は何事

にもかの大使徒たちに劣らずと思ふ。6われ言に拙けれども知識には然らず、凡ての事にて全く之を汝らに顯せり。7われ汝らを高うせんために自己を卑うし、價なくして神の福音を傳へたるは罪なりや。8我は他の教會より奪ひ取り、その俸給をもて汝らに事へたり。9又なんぢらの中に在りて乏しかりしとき、誰をも煩はさず、マケドニヤより來りし兄弟たち我が窮乏を補へり。斯く凡ての事に汝らを煩はすまじと愼みたるが、此の後もなほ愼まん。10我に在るキリストの誠實によりて言ふ、我この誇をアカヤの地方にて阻まるる事あらじ。11これ何故ぞ、汝らを愛せぬに因るか、神は知りたまふ。12我わが行ふ所をなほ行はん、これ機會をうかがふ者の機會を斷ち、彼等をしてその誇る所につき我らの如くならしめん爲なり。13かくの如きは僞使徒また詭計の勞動人にして、己をキリストの使徒に扮へる者どもなり。14これ珍しき事にあらず、サタンも己を光の御使に扮へば、15その役者らが義の役者のごとく扮ふは大事にはあらず、彼等の終局はその業に適ふべし。16われ復いはん、誰も我を愚と思ふな。もし然おもふとも、少しく誇る機を我にも得させん爲に、愚なる者として受け容れよ。17今いふ所は主によりて言ふにあらず、愚なる者として大膽に誇りて言ふなり。18多くの人、肉によりて誇れば、我も誇るべし。19汝らは智き者なれば喜びて愚なる者を忍ぶなり。20人もし汝らを奴隸とすとも、食ひ盡すとも、掠めとるとも、驕るとも、顏を打つとも、汝らは之を忍ぶ。21われ恥ぢて言ふ、我らは弱き者の如くなりき。されど人の雄々しき所は我もまた雄々し、われ愚にも斯く言ふなり。22彼らヘブル人なるか、我も然り、彼らイスラエル人なるか、我も然り、彼らアブラハムの裔なるか、我も然り。23彼らキリストの役者なるか、われ狂へる如く言ふ、我はなほ勝れり。わが勞は更におほく、獄に入れられしこと更に多く、鞭うたれしこと更に夥だしく、死に瀕みたりしこと屢次なりき。24ユダヤ人より四十に一つ足らぬ鞭を受けしこと五度、25笞にて打たれしこと三たび、石にて打たれしこと一たび、破船に遭ひしこと三度にして、一晝夜海にありき。26しばしば旅行して河の難、盜賊の難、同族の難、異邦人の難、市中の難、荒野の難、海上の難、僞兄弟の難にあひ、27勞し、苦しみ、しばしば眠らず、飢ゑ渇き、しばしば斷食し、凍え、裸なりき。28ここに擧げざる事もあるに、なほ日々われに迫る諸教會の心勞あり。29誰か弱りて我弱らざらんや、誰か躓きて我燃えざらんや。30もし誇るべくは、我が弱き所につきて誇らん。31永遠に讃むべき者、すなはち主イエスの神また父は、我が僞らざるを知り給ふ。32ダマスコにてアレタ王の下にある總督、われを捕へんとてダマスコ人の町を守りたれば、33我は籠にて窓より石垣傳ひに縋り下されて其の手を脫れたり。

第十二章

1わが誇るは益なしと雖も止むを得ざるなり、茲に主の顯示と默示とに及ばん。2我はキリストにある一人の人を知る。この人、十四年前に第三の天にまで取去られたり（肉體にてか、われ知らず、肉體を離れてか、われ知らず、神しり給ふ）3われ斯くのごとき人を知る（肉體にてか、肉體の外にてか、われ知らず、神しり給ふ）4かれパラダイスに取去られて、言ひ得ざる言、人の語るまじき言を聞けり。5われ斯くのごとき人のために誇らん、されど我が爲には弱き事のほか誇るまじ。6もし自ら誇るとも我が言ふところ誠實なれば、愚なる者とならじ。されど之を罷めん。恐らくは人の我を見われに聞くところに過ぎて、我を思ふことあらん。7我は我が蒙りたる默示の鴻大なるによりて高ぶることのなからん爲に、肉體に一つの刺を與へらる、即ち高ぶることなからん爲に我を擊つサタンの使なり。8われ之がために三度まで之を去らしめ給はんことを主に求めたるに、9言ひたまふ『わが恩惠なんぢに足れり、わが能力は弱きうちに全うせらるればなり』さればキリストの能力の我を庇はんために、寧ろ大に喜びて我が微弱を誇らん。10この故に我はキリストの爲に微弱・恥辱・艱難・迫害・苦難に遭ふことを喜ぶ、そは我よわき時に強ければなり。11われ汝らに強ひられて愚になれり、我は汝らに譽められるべかりしなり。我は數ふるに足らぬ者なれども、何事にもかの大使徒たちに劣らざりしなり。12我は徵と不思議と能力ある業とを行ひ、大なる忍耐を用ひて汝等のうちに使徒の徵をなせり。13なんぢら他の教會に何の劣る所かある、唯わが汝らを煩はさざりし事のみならずや、此の不義は請ふ我に恕せ。14視よ、茲に三度なんぢらに到らんとして準備したれど、尚なんぢらを煩はすまじ。我は汝らの所有を求めず、ただ汝らを求む。それ子は親のために貯ふべきにあらず、親は子のために貯ふべきな

り。15我は大に喜びて汝らの靈魂のために物を費し、また身をも費さん。我なんぢらを多く愛するによりて、汝ら我を少く愛するか。16或人いはん、我なんぢらを煩はさざりしも、狡猾にして詭計をもて取りしなりと。17然れど我なんぢらに遣しし者のうちの誰によりて汝らを掠めしや。18我テトスを勸めて汝らに遣し、これと共にかの兄弟を遣せり、テトスは汝らを掠めしや。我らは同じ御靈によりて歩み、同じ足跡を蹈みしにあらずや。19汝らは夙くより我等なんぢらに對して辯明すと思ひしならん。されど我らはキリストに在りて神の前にて語る。愛する者よ、これ皆なんぢらの徳を建てん爲なり。20わが到りて汝らを見ん時、わが望の如くならず、汝らが我を見んとき、亦なんぢらの望の如くならざらんことを恐れ、かつ分爭・嫉妬・憤恚・徒黨・誹謗・讒言・驕傲・騒亂などの有らんことを恐る。21また重ねて到らん時、わが神われを汝等のまへにて辱しめ、且おほくの人の、前に罪を犯して行ひし不潔と姦淫と好色とを悔改めざるを悲しましめ給ふことあらん乎と恐る。

第十三章

1今われ三度なんぢらに到らんとす、二三の證人の口によりて凡てのこと慥めらるべし。2われ既に告げたれど、今離れをりて、二度なんぢらに逢ひし時のごとく、前に罪を犯したる者とその他の凡ての人々とに預じめ告ぐ、われ復いたらば決して宥さじ。3汝らはキリストの我にありて語りたまふ證據を求むればなり。キリストは汝らに對ひて弱からず、汝等のうちに強し。4微弱によりて十字架に釘けられ給ひたれど、神の能力によりて生き給へばなり。我らもキリストに在りて弱き者なれど、汝らに向ふ神の能力によりて彼と共に生きん。5なんぢら信仰に居るや否や、みづから試み自ら驗しみよ。汝らみづから知らざらんや、若し棄てらるる者ならずば、イエス・キリストの汝らの中に在す事を、6我は我らの棄てらるる者ならぬを汝らの知らんことを望む。7我らは汝らの少しにても惡を行はざらんことを神に祈る。これ我らの是とせらるるを顯さん爲にあらず、よし我らは棄てらるる者の如くなるとも、汝らの善を行はん爲なり。8我らは眞理に逆ひて能力なく、眞理のためには能力あり。9われら弱くして汝らの強きことを喜ぶ、また之に就きて祈るは、汝らの全くならん事なり。10われ離れ居りて此等のことを書き贈るは、汝らに逢ふとき、主の破る爲ならずして建つる爲に我に賜ひたる權威に隨ひて嚴しくせざらん爲なり。11終に言はん、兄弟よ、汝ら喜べ、全くなれ、慰安を受けよ、心を一つにせよ、睦み親しめ、然らば愛と平和との神なんぢらと偕に在さん。12潔き接吻をもて相互に安否を問へ、13凡ての聖徒なんぢらに安否を問ふ。14願はくは主イエス・キリストの恩惠・神の愛・聖靈の交感、なんぢら凡ての者と偕にあらんことを。

ガラテヤ人への書

第一章

1人よりに非ず、人に由るにも非ず、イエス・キリスト及び之を死人の中より甦へらせ給ひし父なる神に由りて使徒となれるパウロ、2及び我と偕にある凡ての兄弟、書をガラテヤの諸教會に贈る。3願はくは、我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩惠と平安と汝らに在らんことを。4主は我らの父なる神の御意に隨ひて、我らを今の惡しき世より救ひ出さんとて、己が身を我らの罪のために與へたまへり。5願はくは榮光、世々限りなく神にあらん事を、アァメン。6我は汝らが斯くも速かにキリストの恩惠をもて召し給ひし者より離れて、異なる福音に移りゆくを怪しむ。7此は福音と言ふべき者にあらず、ただ或人々が汝らを擾してキリストの福音を變へんとするなり。8されど我等にもせよ、天よりの御使にもせよ、我らの曾て宣傳へたる所に背きたる福音を汝らに宣傳ふる者あらば詛はるべし。9われら前に言ひし如く今また言はん、汝らの受けし所に背きたる福音を宣傳ふる者あらば詛はるべし。10我いま人に喜ばれんとするか、或は神に喜ばれんとするか、抑もまた人を喜ばせんことを求むるか。もし我なほ人を喜ばせをらば、キリストの僕にあらじ。11兄弟よ、われ汝らに示す、わが傳へたる福音は、人に由れるものにあらず。12我は人より之を受けず、また教へられず、唯イエス・キリストの默示に由れるなり。13我がユダヤ教に於ける曩

の日の擧動は、なんぢら既に聞けり、即ち烈しく神の
教會を責め、かつ暴したり。14又わが國人のうち、我と
同じ年輩なる多くの者にも勝りてユダヤ教に進み、わが
先祖たちの言傳に對して甚だ熱心なりき。15されど母の
胎を出でしより我を選び別ち、その恩惠をもて召し給へ
る者16御子を我が内に顯して其の福音を異邦人に宣傳へ
しむるを可しとし給へる時、われ直ちに血肉と謀らず、
17我より前に使徒となりし人々に逢はんとてエルサレム
にも上らず、アラビヤに出で往きて遂にまたダマスコに
返れり。18その後三年を歷て、ケパを尋ねんとエルサレ
ムに上り、十五日の間かれと偕に留りしが、19主の
兄弟ヤコブのほか孰の使徒にも逢はざりき。20（茲に書
きおくる事は、視よ、神の前にて僞らざるなり）21その
後シリヤ、キリキヤの地方に往けり。22キリストにある
ユダヤの諸教會は我が顏を知らざりしかど、23ただ
人々の『われらを前に責めし者、曾て暴したる信仰の道
を今は傳ふ』といふを聞き、24わが事によりて神を崇め
たり。

第二章

1その後十四年を歷て、バルナバと共にテトスをも連れ
て、復エルサレムに上れり。2我が上りしは默示に因り
てなり。かくて異邦人の中に宣ぶる福音を彼らに告げ、
また名ある者どもに私に告げたり、これは我が走るこ
と、又すでに走りしことの空しからざらん爲なり。3而
して我と偕なるギリシヤ人テトスすら割禮を強ひられざ
りき。4これ私に入りたる僞兄弟あるに因りてなり。彼
らの忍び入りたるは、我らがキリスト・イエスに在りて
有てる自由を窺ひ、且われらを奴隸とせん爲なり。5然
れど福音の眞理の汝らの中に留らんために、我ら一時も
彼らに讓り從はざりき。6然るに、かの名ある者どもよ
り——彼らは如何なる人なるにもせよ、我には關係な
し、神は人の外面を取り給はず——實にかの名ある者ど
もは我に何をも加へず、7反つてペテロが割禮ある者に
對する福音を委ねられたる如く、我が割禮なき者に對す
る福音を委ねられたるを認め、8（ペテロに能力を與へ
て割禮ある者の使徒となし給ひし者は、我にも異邦人の
ために能力を與へ給へり）9また我に賜はりたる恩惠を
さとりて、柱と思はるるヤコブ、ケパ、ヨハネは、交誼
の印として我とバルナバとに握手せり。これは我らが
異邦人にゆき、彼らが割禮ある者に往かん爲なり。10唯
その願ふところは我らが貧しき者を顧みんことなり、我
も固より此の事を勵みて行へり。11されどケパがアンテ
オケに來りしとき、責むべき事のありしをもて面前これ
と諍ひたり。12その故はある人々のヤコブの許より來る
までは、かれ異邦人と共に食しゐたるに、かの人々の來
りてよりは、割禮ある者どもを恐れ、退きて異邦人と別
れたり。13他のユダヤ人も彼とともに僞行をなし、バ
ルナバまでもその僞行に誘はれゆけり。14されど我か
れらが福音の眞理に循ひて正しく歩まざるを見て、
會衆の前にてケパに言ふ『なんぢユダヤ人なるにユダ
ヤ人の如くせず、異邦人のごとく生活せば、何ぞ強ひて
異邦人をユダヤ人の如くならしめんとするか』15我らは
生來のユダヤ人にして、罪人なる異邦人にあらざれど
も、16人の義とせらるるは律法の行爲に由らず、唯キリ
スト・イエスを信ずる信仰に由るを知りて、キリスト・
イエスを信じたり。これ律法の行爲に由らず、キリスト
を信ずる信仰によりて義とせられん爲なり。律法の行爲
によりては義とせらるる者一人だになし。17若しキリス
トに在りて義とせららんことを求めて、なほ罪人と認め
られなば、キリストは罪の役者なるか、決して然らず。
18我もし前に毀ちしものを再び建てなば、己みづから
犯罪者たるを表す。19我は神に生きんために、律法によ
りて律法に死にたり。20我キリストと偕に十字架につけ
られたり。最早われ生くるにあらず、キリスト我が内に
在りて生くるなり。今われ肉體に在りて生くるは、我を
愛して我がために己が身を捨て給ひし神の子を信ずるに
由りて生くるなり。21我は神の恩惠を空しくせず、もし
義とせらるること律法に由らば、キリストの死に給へる
は徒然なり。

第三章

1愚なる哉、ガラテヤ人よ、十字架につけられ給ひしま
まなるイエス・キリスト、汝らの眼前に顯されたるに、
誰が汝らを誑かししぞ。2我は汝等より唯この事を聞か
んと欲す。汝らが御靈を受けしは律法の行爲に由るか、
聽きて信じたるに由るか。3汝らは斯くも愚なるか、
御靈によりて始りしに、今肉によりて全うせらるるか。
4斯程まで多くの苦難を受けしことは徒然なるか、徒然
にはあるまじ。5然らば汝らに御靈を賜ひて汝らの中に

能力ある業を行ひ給へるは、律法の行爲に由るか、聽きて信ずるに由るか。6録して『アブラハム神を信じ、その信仰を義とせられたり』とあるが如し。7されば知れ、信仰に由る者は是アブラハムの子なるを。8聖書は神が異邦人を信仰に由りて義とし給ふことを知りて、預じめ福音をアブラハムに傳へて言ふ『なんぢに由りてもろもろの國人は祝福せられん』と。9この故に信仰による者は、信仰ありしアブラハムと共に祝福せらる。10されど凡て律法の行爲による者は詛の下にあり。録して『律法の書に記されたる凡ての事を常に行はぬ者はみな詛はるべし』とあればなり。11律法に由りて神の前に義とせらるる事なきは明かなり『義人は信仰によりて生くべし』とあればなり。12律法は信仰に由るにあらず、反つて『律法を行ふ者は之に由りて生くべし』と云へり。13キリストは我等のために詛はるる者となりて、律法の詛より我らを贖ひ出し給へり。録して『木に懸けらるる者は凡て詛はるべし』と云へばなり。14これアブラハムの受けたる祝福の、イエス・キリストによりて異邦人におよび、且われらが信仰に由りて約束の御靈を受けん爲なり。15兄弟よ、われ人の事を藉りて言はん、人の契約すら既に定むれば、之を廢しまた加ふる者なし。16かの約束はアブラハムと其の裔とに與へ給ひし者なり。多くの者を指すごとく『裔々に』とは云はず、一人を指すごとく『なんぢの裔に』と云へり、これ即ちキリストなり。17然れば我いはん、神の預じめ定め給ひし契約は、その後四百三十年を歴て起りし律法に廢せらるることなく、その約束も空しくせらるる事なし。18もし嗣業を受くること律法に由らば、もはや約束には由らず、然るに神は約束に由りて之をアブラハムに賜ひたり。19然れば律法は何のためぞ。これ罪の爲に加へ給ひしものにて、御使たちを經て中保の手によりて立てられ、約束を與へられたる裔の來らん時にまで及ぶなり。20（中保は一方のみの者にあらず、然れど神は唯一に在せり）21さらば律法は神の約束に悖るか、決して然らず。もし人を生かすべき律法を與へられたらんには、實に義とせらるるは律法に由りしならん。22されど聖書は凡ての者を罪の下に閉ぢ籠めたり。これ信ずる者のイエス・キリストに對する信仰に由れる約束を與へられん爲なり。23信仰の出で來らぬ前は、われら律法の下に守られて、後に顯れんとする信仰の時まで閉ぢ籠められたり。24かく信仰によりて我らの義とせられん爲に、律法は我らをキリストに導く守役となれり。25されど信仰の出で來りし後は、我等もはや守役の下に居らず。26汝らは信仰によりキリスト・イエスに在りて、みな神の子たり。27凡そバプテスマに由りてキリストに合ひし汝らは、キリストを衣たるなり。28今はユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自主もなく、男も女もなし、汝らは皆キリスト・イエスに在りて一體なり。29汝 等もしキリストのものならば、アブラハムの裔にして約束に循へる世嗣たるなり。

第四章

1われ言ふ、世嗣は全業の主なれども、成人とならぬ間は僕と異なることなく、2父の定めし時の至るまでは後見者と家令との下にあり。3斯くのごとく我らも成人とならぬほどは、世の小學の下にありて僕たりしなり。4されど時 滿つるに及びては、神その御子を遣し、これを女より生れしめ、律法の下に生れしめ給へり。5これ律法の下にある者をあがなひ、我等をして子たることを得しめん爲なり。6かく汝ら神の子たる故に、神は御子の御靈を我らの心に遣して『アバ、父』と呼ばしめ給ふ。7されば最早なんぢは僕にあらず、子たるなり、既に子たらば亦 神に由りて世嗣たるなり。8されど汝ら神を知らざりし時は、その實 神にあらざる神々に事へたり。9今は神を知り、むしろ神に知られたるに、何ぞ復かの弱くして賤しき小學に還りて、再びその僕たらんとするか。10汝らは日と月と季節と年とを守る。11我は汝らの爲に働きし事の或は無 益にならんことを恐る。12兄弟よ、我なんぢらに請ふ、われ汝 等のごとく成りたれば、汝ら我がごとく成れ。汝ら何事にも我を害ひしことなし。13わが初め汝らに福音を傳へしは、肉體の弱かりし故なるを汝ら知る。14わが肉體に汝らの試錬となる者ありたれど汝ら之を卑しめず、又きらはず、反つて我を神の使の如く、キリスト・イエスの如く迎へたり。15汝 らの其の時の幸福はいま何處に在るか。我なんぢらに就きて證す、もし爲し得べくば己が目を抉りて我に與へんとまで思ひしを。16然るに我なんぢらに眞を言ふによりて仇となりたるか。17かの人々の汝らに熱心なるは善き心にあらず、汝らを我らより離して己らに熱心ならしめんとてなり。18善き心より熱心に慕はるるは、啻に我が汝らと偕にをる時のみならず、何時にても宜しき事な

り。19わが幼兒よ、汝らの衷にキリストの形 成るまでは、我ふたたび産の苦痛をなす。20今なんぢらに到りて我が聲を易へんことを願ふ、汝らに就きて惑へばなり。21律法の下にあらんと願ふ者よ、我にいへ、汝ら律法をきかぬか。22即ちアブラハムに子 二人あり、一人は婢女より、一人は自主の女より生れたりと録されたり。23婢女よりの子は肉によりて生れ、自主の女よりの子は約束による。24この中に譬あり、二人の女は二つの契約なり、その一つはシナイ山より出でて、奴隷たる子を生む、これハガルなり。25このハガルはアラビヤに在るシナイ山にして今のエルサレムに當る。エルサレムはその子らとともに奴隷たるなり。26されど上なるエルサレムは、自主にして我らの母なり。27録していふ『石女にして産まぬものよ、喜べ。産の苦痛せぬ者よ、聲をあげて呼はれ。獨住の女の子は多し、夫ある者の子よりも多し』とあり。28兄弟よ、なんぢらはイサクのごとく約束の子なり。29然るに其の時、肉によりて生れし者 御靈によりて生れし者を責めしごとく、今なほ然り。30されど聖書は何と云へるか『婢女とその子とを逐ひいだせ、婢女の子は自主の女の子と共に業を嗣ぐべからず』とあり。31されば兄弟よ、われらは婢女の子ならず、自主の女の子なり。

第五章

1キリストは自由を得させん爲に我らを釋き放ちたまへり。されば堅く立ちて再び奴隷の軛に繋がるな。2視よ、我パウロ汝らに言ふ、もし割禮を受けば、キリストは汝らに益なし。3又さらに凡て割禮を受くる人に證す、かれは律法の全體を行ふべき負債あり。4律法に由りて義とせられんと思ふ汝らは、キリストより離れたり、恩惠より墮ちたり。5我らは御靈により、信仰によりて希望をいだき、義とせらるることを待てるなり。6キリスト・イエスに在りては、割禮を受くるも割禮を受けぬも益なく、ただ愛に由りてはたらく信仰のみ益あり。7なんぢら前には善く走りたるに、誰が汝らの眞理に從ふを阻みしか。8かかる勸は汝らを召したまふ者より出づるにあらず。9少しのパン種は粉の團塊をみな膨れしむ。10われ汝らに就きては、その聊かも異念を懷かぬことを主によりて信ず。されど汝らを擾す者は、誰にもあれ審判を受けん。11兄弟よ、我もし今も割禮を宣傳へば、何ぞなほ迫害せられんや。もし然せば十字架の顛躓も止みしならん。12願はくは汝らを亂す者どもの自己を不具にせんことを。13兄弟よ、汝らの召されたるは自由を與へられん爲なり。ただ其の自由を肉に從ふ機會となさず、反つて愛をもて互に事へよ。14それ律法の全體は『おのれの如くなんぢの隣を愛すべし』との一言にて全うせらるるなり。15心せよ、若し互に咬み食はば相 共に亡されん。16我いふ、御靈によりて歩め、さらば肉の慾を遂げざるべし。17肉の望むところは御靈にさからひ、御靈の望むところは肉にさからひて互に相 戻ればなり。これ汝らの欲する所をなし得ざらしめん爲なり。18汝 等もし御靈に導かれなば、律法の下にあらじ。19それ肉の行爲はあらはなり。即ち淫行・汚穢・好色・20偶像 崇拜・呪術・怨恨・紛爭・嫉妬・憤恚・徒黨・分離・異端・21猜忌・醉酒・宴樂などの如し。我すでに警めたるごとく、今また警む。斯かることを行ふ者は神の國を嗣ぐことなし。22されど御靈の果は愛・喜悦・平和・寛容・仁慈・善良・忠信・23柔和・節制なり。斯かるものを禁ずる律法はあらず。24キリスト・イエスに屬する者は、肉とともに其の情と慾とを十字架につけたり。25もし我ら御靈に由りて生きなば、御靈に由りて歩むべし。26互に挑み互に妬みて、虚しき譽を求むることを爲な。

第六章

1兄弟よ、もし人の罪を認むることあらば、御靈に感じたる者、柔和なる心をもて之を正すべし、且おのおの自ら省みよ、恐らくは己も誘はるる事あらん。2なんぢら互に重を負へ、而してキリストの律法を全うせよ。3人もし有ること無くして自ら有りとせば、是みづから欺くなり。4各自おのが行爲を驗し見よ、さらば誇るところは他にあらで、ただ己にあらん。5各自おのが荷を負ふべければなり。6御言を教へらるる人は、教ふる人と凡ての善き物を共にせよ。7自ら欺くな、神は侮るべき者にあらず、人の播く所は、その刈る所とならん。8己が肉のために播く者は肉によりて滅亡を刈りとり、御靈のために播く者は御靈によりて永遠の生命を刈りとらん。9われら善をなすに倦まざれ、もし撓まずば、時いたりて刈り取るべし。10この故に機に隨ひて、凡ての人、殊に信仰の家族に善をおこなへ。11視よ、われ手づから

如何に大なる文字にて汝らに書き贈るかを。12凡そ肉において美しき外觀をなさんと欲する者は、汝らに割禮を強ふ。これ唯キリストの十字架の故によりて責められざらん爲のみ。13そは割禮をうくる者すら自ら律法を守らず、而も汝らに割禮をうけしめんと欲するは、汝らの肉につきて誇らんが爲なり。14されど我には、我らの主イエス・キリストの十字架のほかに誇る所あらざれ。之によりて世は我に對して十字架につけられたり、我が世に對するも亦然り。15それ割禮を受くるも受けぬも、共に數ふるに足らず、ただ貴きは新に造らるる事なり。16此の法に循ひて歩む凡ての者の上に、神のイスラエルの上に、平安と憐憫とあれ。17今よりのち誰も我を煩はすな、我はイエスの印を身に佩びたるなり。18兄弟よ、願はくは我らの主イエス・キリストの恩惠、なんぢらの靈とともに在らんことを、アァメン。

エペソ人への書

第一章

1神の御意によりてキリスト・イエスの使徒となれるパウロ、書をエペソに居る聖徒、キリストに在りて忠實なる者に贈る。2願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩惠と平安と汝らに在らんことを。3讃むべきかな、我らの主イエス・キリストの父なる神、かれはキリストに由りて靈のもろもろの祝福をもて天の處にて我らを祝し、4御前にて潔く瑕なからしめん爲に、世の創の前より我等をキリストの中に選び、5御意のままにイエス・キリストに由り愛をもて己が子となさんことを定め給へり。6是その愛しみ給ふ者によりて我らに賜ひたる恩惠の榮光に譽あらん爲なり。7我らは彼にありて恩惠の富に隨ひ、その血に頼りて贖罪、すなはち罪の赦を得たり。8神は我らに諸般の知慧と聰明とを與へてその恩惠を充しめ、9御意の奥義を御意のままに示し給へり。10即ち時滿ちて經綸にしたがひ、天に在るもの地にあるものを、悉とくキリストに在りて一つに歸せしめ給ふ。これ自ら定め給ひし所なり。11我らは、凡ての事を御意の思慮のままに行ひたまふ者の御旨によりて預じめ定められ、キリストに在りて神の産業とせられたり。12これ夙くよりキリストに希望を置きし我らが、神の榮光の譽とならん爲なり。13汝等もキリストに在りて、眞の言すなはち汝らの救の福音をきき、彼を信じて約束の聖靈にて印せられたり。14これは我らが受くべき嗣業の保證にして、神に屬けるものの贖はれ、かつ神の榮光に譽あらん爲なり。15この故に我も汝らが主イエスに對する信仰と凡ての聖徒に對する愛とを聞きて、16絶えず汝らのために感謝し、わが祈のうちに汝らを憶え、17我らの主イエス・キリストの神、榮光の父、なんぢらに智慧と默示との靈を與へて、神を知らしめ、18汝らの心の眼を明かにし、神の召にかかはる望と、聖徒にある神の嗣業の榮光の富と、19神の大能の勢威の活動によりて信ずる我らに對する能力の極めて大なるとを知らしめ給はんことを願ふ。20神はその大能をキリストのうちに働かせて、之を死人の中より甦へらせ、天の所にて己の右に坐せしめ、21もろもろの政治・權威・能力・支配、また啻に此の世のみならず、來らんとする世にも稱ふる凡ての名の上に置き、22萬の物をその足の下に服はせ、彼を萬の物の上に首として教會に與へ給へり。23この教會は彼の體にして、萬の物をもて萬の物に滿し給ふ者の滿つる所なり。

第二章

1汝ら前には咎と罪とによりて死にたる者にして、2この世の習慣に從ひ、空中の權を執る宰、すなはち不從順の子らの中に今なほ働く靈の宰にしたがひて歩めり。3我等もみな前には彼らの中にをり、肉の慾に從ひて日をおくり、肉と心との欲する隨をなし、他の者のごとく生れながら怒の子なりき。4されど神は憐憫に富み給ふが故に、我らを愛する大なる愛をもて、5咎によりて死にたる我等をすら、キリスト・イエスに由りてキリストと共に活し、(汝らの救はれしは恩惠によれり)6共に甦へらせ、共に天の處に坐せしめ給へり。7これキリスト・イエスに由りて我らに施したまふ仁慈をもて、其の恩惠の極めて大なる富を、來らんとする後の世々に顯さんとてなり。8汝らは恩惠により、信仰によりて救はれたり、是おのれに由るにあらず、神の賜物なり。9行爲に

由るにあらず、これ誇る者のなからん爲なり。10我らは神に造られたる者にして、神の預じめ備へ給ひし善き業に歩むべく、キリスト・イエスの中に造られたるなり。11されば記憶せよ、肉によりては異邦人にして、手にて肉に行ひたるかの割禮ありと稱ふる者に無 割禮と稱へらるる汝ら、12曩にはキリストなく、イスラエルの民 籍に遠く、約束に屬する諸般の契約に與りなく、世に在りて希望なく、神なき者なりき。13されど前に遠かりし汝ら今キリスト・イエスに在りて、キリストの血によりて近づくことを得たり。14彼は我らの平和にして、己が肉により、様々の誡命の規より成る律法を廢して、二つのものを一つとなし、怨なる隔の中籬を毀ち給へり。これは二つのものを己に於て一つの新しき人に造りて平和をなし、15彼は我らの平和にして、己が肉により、様々の誡命の規より成る律法を廢して、二つのものを一つとなし、怨なる隔の中籬を毀ち給へり。これは二つのものを己に於て一つの新しき人に造りて平和をなし、16十字架によりて怨を滅し、また之によりて二つのものを一つの體となして神と和がしめん爲なり。17かつ來りて、遠かりし汝 等にも平和を宣べ、近きものにも平和を宣べ給へり。18そはキリストによりて我ら二つのもの一つ御靈にありて父に近づくことを得たればなり。19されば汝 等はもはや旅人また寄寓人にあらず、聖徒と同じ國人また神の家族なり。20汝らは使徒と預言者との基の上に建てられたる者にして、キリスト・イエス自らその隅の首石たり。21おのおのの建造物、かれに在りて建て合せられ、彌増に聖なる宮、主のうちに成るなり。22汝 等もキリストに在りて共に建てられ、御靈によりて神の御住となるなり。

第三章

1この故に汝ら異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となれる我パウロ——2汝 等のために我に賜ひたる神の恩惠の經綸は汝ら聞きしならん、3即ち我まへに簡單に書きおくりし如く、この奥義は默示にて我に示されたり。4汝 等これを讀みてキリストの奥義にかかはる我が悟 を知ることを得べし。5この奥義は、いま御靈によりて聖 使徒と聖 預言者とに顯されし如くに、前代には人の子らに示されざりき。6即ち異邦人が福音によりキリスト・イエスに在りて共に世嗣となり、共に一體となり、共に約束に與る者となる事なり。7我はその福音の役者とせらる。これ神の能力の活動に隨ひて我に賜ふ 惠の賜物によるなり。8我は凡ての聖徒のうちの最 小き者よりも小き者なるに、キリストの測るべからざる富を異邦人に傳へ、9また萬物を造り給ひし神のうちに、世々 隱れたる奥義の經綸の如何なるもの乎をあらはす恩惠を賜はりたり。10いま教 會によりて神の豐なる知慧を、天の處にある政治と權威とに知らしめん爲なり。11これは永遠より我らの主キリスト・イエスの中に、神の定め給ひし御旨によるなり。12我らは彼に在りて彼を信ずる信仰により、臆せず疑はずして神に近づくことを得るなり。13されば汝らに請ふ、わが汝 等のために受くる患難に就きて落膽すな、是なんぢらの譽なり。14この故に我は天と地とに在る諸族の名の起るところの父に 跪づきて願ふ。15この故に我は天と地とに在る諸族の名の起るところの父に跪づきて願ふ。16父その榮光の富にしたがひて、御靈により力をもて汝らの内なる人を強くし、17信仰によりてキリストを汝らの心に住はせ、汝らをして愛に根ざし、愛を基とし、18凡ての聖徒とともにキリストの愛の廣さ・長さ・高さ・深さの如何ばかりなるかを悟り、19その測り知るべからざる愛を知ることを得しめ、凡て神に滿てる者を汝らに滿しめ給はん事を。20願はくは我らの中にはたらく能力に隨ひて、我らの凡て求むる所、すべて思ふ所よりも甚く勝る事をなし得る者に、21榮光 世々 限りなく教 會によりて、又キリスト・イエスによりて在らんことを、アァメン。

第四章

1されば主に在りて囚人たる我なんぢらに勸む。汝ら召されたる召に適ひて歩み、2事 毎に謙遜と柔和と寛 容とを用ひ、愛をもて互に忍び、3平和の繋のうちに勉めて御靈の賜ふ一致を守れ。4體は一つ、御靈は一つなり。汝 らが召にかかはる一つ望をもて召されたるが如し。5主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ、6凡ての者の父なる神は一つなり。神は凡てのものの上に在し、凡てのものを貫き、凡てのものの内に在したまふ。7我等はキリストの賜物の量に隨ひて、おのおの恩惠を賜はりたり。8されば云へることあり『かれ高きところに昇りしとき、多くの虜をひきゐ、人々に賜物を賜へり』と。9既に昇りしと云へば、まづ地の低き處まで降りしにあ

らずや。10降りし者は即ち萬の物に滿たん爲に、もろもろの天の上に昇りし者なり。11彼は或 人を使徒とし、或 人を預言者とし、或 人を傳道者とし、或 人を牧師・教師として與へ給へり。12これ聖徒を全うして職を行はせ、キリストの體を建て、13我等をしてみな信仰と神の子を知る知識とに一致せしめ、全き人、すなはちキリストの滿ち足れるほどに至らせ、14また我等はもはや幼童ならず、人の欺 騙と誘惑の術たる惡巧とより起る樣々の教の風に吹きまはされず、15ただ愛をもて眞を保ち、育ちて凡てのこと首なるキリストに達せん爲なり。16彼を本とし全身は凡ての節々の助にて整ひ、かつ聯り、肢體おのおの量に應じて働くにより、その體 成長し、自ら愛によりて建てらるるなり。17されば我これを言ひ、主に在りて證す、なんぢら今よりのち、異邦人のその心の虛無に任せて歩むが如く歩むな。18彼らは念 暗くなりて、其の內なる無知により、心の頑固によりて神の生命に遠ざかり、19恥を知らず、放縱に凡ての汚穢を 行はんとて己を好 色に付せり。20されど汝らはかくの如くならん爲にキリストを學べるにあらず。21汝らは彼に聞き、彼に在りてイエスにある眞理に循ひて教へられしならん。22即ち汝ら誘惑の慾のために亡ぶべき前の動作に屬ける舊き人を脫ぎすて、23心の靈を新にし、24眞理より出づる義と聖とにて、神に象り造られたる新しき人を著るべきことなり。25されば虛僞をすてて各自その隣に實をかたれ、我ら互に肢なればなり。26汝ら怒るとも罪を犯すな、憤 恚を日の入るまで續くな。27惡魔に機會を得さすな。28盜する者は今よりのち盜すな、むしろ貧しき者に分け與へ得るために手づから働きて善き業をなせ。29惡しき言を一切なんぢらの口より出すな、ただ時に隨ひて人の德を建つべき善き言を出して、聽く者に益を得させよ。30神の聖 靈を憂ひしむな、汝らは贖罪の日のために聖 靈にて印せられたるなり。31凡ての苦・憤 恚・怒・喧噪・誹謗、および凡ての惡意を汝 等より棄てよ。32互に仁慈と憐憫とあれ、キリストに在りて神の汝らを赦し給ひしごとく、汝らも互に赦せ。

第五章

1されば汝ら愛せらるる子供のごとく、神に效ふ者となれ。2又キリストの汝らを愛し、我らのために己を馨しき香の獻 物とし犧牲として、神に獻げ給ひし如く、愛の中をあゆめ。3聖徒たるに適ふごとく、淫行、もろもろの汚穢、また慳貪を汝らの間にて稱ふる事だに爲な。4また恥づべき言・愚なる話・戲 言を言ふな、これ宜しからぬ事なり、寧ろ感謝せよ。5凡て淫行のもの、汚れたるもの、貪るもの、即ち偶像を拜む者どもの、キリストと神との國の世嗣たることを得ざるは、汝らの確く知る所なり。6汝ら人の虛しき言に欺かるな、神の怒はこれらの事によりて不 從 順の子らに及ぶなり。7この故に彼らに與する者となるな。8汝ら舊は闇なりしが、今は主に在りて光となれり、光の子供のごとく歩め。9（光の結ぶ實はもろもろの善と正義と誠實となり）10主の喜び給ふところの如何なるかを辨へ知れ。11實を結ばぬ暗き業に與する事なく、反つて之を責めよ。12彼らが隱れて行ふことは之を言ふだに恥づべき事なり。13凡てかかる事は、責められるとき光にて顯さる、顯さるる者はみな光となるなり。14この故に言ひ給ふ『眠れる者よ、起きよ、死人の中より立ち上れ。さらばキリスト汝を照し給はん』15されば愼みてその歩むところに心せよ、智からぬ者の如くせず、智き者の如くし、16また機會をうかがへ、そは時 惡しければなり。17この故に愚 とならず、主の御意の如何を悟れ。18酒に醉ふな、放蕩はその中にあり、むしろ御靈にて滿され、19詩と讃美と靈の歌とをもて語り合ひ、また主に向ひて心より且うたひ、かつ讃美せよ。20凡ての事に就きて常に我らの主イエス・キリストの名によりて父なる神に感謝し、21キリストを畏みて互に服へ。22妻たる者よ、主に服ふごとく己の夫に服へ。23キリストは自ら體の救 主にして教 會の首なるごとく、夫は妻の首なればなり。24教 會のキリストに服ふごとく、妻も凡てのこと夫に服へ。25夫たる者よ、キリストの教 會を愛し、之がために己を捨て給ひしごとく、汝らも妻を愛せよ。26キリストの 己を捨て給ひしは、水の洗をもて言によりて教 會を潔め、これを聖なる者として、27汚點なく皺なく、凡て斯くのごとき類なく、潔き瑕なき尊き教 會を、おのれの前に建てん爲なり。28斯くのごとく夫はその妻を己の體のごとく愛すべし。妻を愛するは己を愛するなり。29己の身を憎む者は曾てあることなし、皆これを育て養ふ、キリストの教 會に於けるも亦かくの如し。30我らは彼の體の肢なり、31『この故に人は父 母を離れ、その妻に合ひて二人のもの一體となるべし』32この奧義は大なり、わが

言ふ所はキリストと教會とを指せるなり。33汝 等おのおの己のごとく其の妻を愛せよ、妻も亦その夫を敬ふべし。

第六章

1子たる者よ、なんぢら主にありて兩親に順へ、これ正しき事なり。2『なんぢの父 母を敬へ（これ約束を加へたる誡命の首なり）3さらばなんぢ幸福を得、また地の上に壽 長からん』4父たる者よ、汝らの子供を怒らすな、ただ主の薫陶と訓戒とをもて育てよ。5僕たる者よ、キリストに從ふごとく畏れをののき、眞心をもて肉につける主人に從へ。6人を喜ばする者の如く、ただ目の前の事のみを勤めず、キリストの僕のごとく心より神の御旨をおこなひ、7人に事ふる如くせず、主に事ふるごとく快くつかへよ。8そは奴隷にもあれ、自主にもあれ、各自おこなふ善き業によりて主より其の報を受くることを汝ら知ればなり。9主人たる者よ、汝らも僕に對し斯く行ひて威嚇を止めよ、そは彼らと汝らとの主は天に在して、偏り視たまふことなきを汝ら知ればなり。10終に言はん、汝ら主にありて其の大能の勢威に頼りて強かれ。11惡魔の術に向ひて立ち得んために、神の武具をもて鎧ふべし。12我らは血肉と戰ふにあらず、政治・權威、この世の暗黒を掌どるもの、天の處にある惡の靈と戰ふなり。13この故に神の武具を執れ、汝ら惡しき日に遭ひて仇に立ちむかひ、凡ての事を成就して立ち得んためなり。14汝ら立つに誠を帶として腰に結び、正義を胸當として胸に當て、15平和の福音の備を靴として足に穿け。16この他なほ信仰の盾を執れ、之をもて惡しき者の凡ての火矢を消すことを得ん。17また救の冑および御靈の劍、すなはち神の言を執れ。18常にさまざまの祈と願とをなし、御靈によりて祈り、また目を覺して凡ての聖徒のためにも願ひて倦まざれ。19又わが口を開くとき言を賜はり、憚らずして福音の奥義を示し、20語るべき所を憚らず語り得るように、我がためにも祈れ、我はこの福音のために使者となりて鎖に繋がれたり。21愛する兄弟、主に在りて忠實なる役者テキコ、我が情況わが爲す所のことを、具に汝らに知らせん。22われ彼を遣すは、我が事を汝らに知らせて、汝らの心を慰めしめん爲なり。23願はくは父なる神および主イエス・キリストより賜ふ平安と、信仰に伴へる愛と、兄弟たちに在らんことを。24願はくは朽ちぬ愛をもて我らの主イエス・キリストを愛する凡ての者に御惠あらんことを。

ピリピ人への書

第一章

1キリスト・イエスの僕たる我ら、パウロとテモテと、書をピリピにをるキリスト・イエスに在る凡ての聖徒、および監督たちと執事たちとに贈る。2願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩惠と平安とが汝らに在らんことを。3われ汝らを憶ふごとに、我が神に感謝し、4常に汝ら衆のために、願のつどつど喜びて願をなす。5是なんぢら初の日より今に至るまで、福音を弘むることに與るが故なり。6我は汝らの衷に善き業を始め給ひし者の、キリスト・イエスの日まで之を全うし給ふべきことを確信す。7わが斯くも汝ら衆を思ふは當然の事なり、我が縲紲にある時にも、福音を辯明して之を堅うする時にも、汝らは皆われと共に恩惠に與るによりて、我が心にあればなり。8我いかにキリスト・イエスの心をもて汝ら衆を戀ひ慕ふか、その證をなし給ふ者は神なり。9我は祈る、汝らの愛、知識ともろもろの悟とによりて彌が上にも増し加はり、10善惡を辨へ知り、キリストの日に至るまで潔よくして躓くことなく、11イエス・キリストによる義の果を充して、神の榮光と譽とを顯さん事を。12兄弟よ、我はわが身にありし事の反つて福音の進歩の助となりしを汝らが知らんことを欲するなり。13即ち我が縲紲のキリストの爲なることは、近衞の全營にも、他の凡ての人にも顯れ、14かつ兄弟のうちの多くの者は、わが縲紲によりて主を信ずる心を厚くし、懼るる事なく、ますます勇みて神の言を語るに至れり。15或 者は嫉妬と分爭とによりてキリストを宣傳へ、あるものは善き心によりて之を宣傳ふ。16これは福音を辯明するために我が立てられたることを知り、愛によりてキリストを宣べ、17かれは我が縲紲に患難を加へんと思ひ、誠意によらず、徒黨によりて之を宣ぶ。

18さらば如何、外貌にもあれ、眞にもあれ、孰も宣ぶる所はキリストなれば、我これを喜ぶ、また之を喜ばん。19そは此のことの汝らの祈とイエス・キリストの御靈の賜物とによりて、我が救となるべきを知ればなり。20これは我が何事をも恥ぢずして、今も常のごとく聊かも臆することなく、生くるにも、死ぬるにも、我が身によりてキリストの崇められ給はんことを切に願ひ、また望むところに適へるなり。21我にとりて、生くるはキリストなり、死ぬるもまた益なり。22されど若し肉體にて生くる事わが勤勞の果となるならば、孰を選ぶべきか、我これを知らず。23我はこの二つの間に介まれたり。わが願は世を去りてキリストと偕に居らんことなり、これ遙に勝るなり。24されど我なほ肉體に留るは汝らの爲に必要なり。25我これを確信する故に、なほ存へて汝らの信仰の進歩と喜悦とのために、汝 等すべての者と偕に留らんことを知る。26これは我が再び汝らに到ることにより、汝 らキリスト・イエスに在りて我にかかはる誇を増さん爲なり。27汝 等ただキリストの福音に相應しく日を過せ、さらば我が往きて汝らを見るも、離れゐて汝らの事をきくも、汝らが靈を一つにして堅く立ち、心を一つにして福音の信仰のために共に戰ひ、28凡ての事において逆ふ者に驚かされぬを知ることを得ん。その驚かされぬは、彼らには亡の兆、なんぢらには救の兆にて、此は神より出づるなり。29汝 等はキリストのために啻に彼を信ずる事のみならず、また彼のために苦しむ事をも賜はりたればなり。30汝らが遭ふ戰鬪は、曩に我の上に見しところ、今また我に就きて聞くところに同じ。

第二章

1この故に若しキリストによる勸、愛による慰安、御靈の交際、また憐憫と慈悲とあらば、2なんぢら念を同じうし、愛を同じうし、心を合せ、思ふことを一つにして、我が喜悦を充しめよ。3何事にまれ、徒黨また虛榮のためにすな、おのおの謙遜をもて互に人を己に勝れりとせよ。4おのおの己が事のみを顧みず、人の事をも顧みよ。5汝らキリスト・イエスの心を心とせよ。6即ち彼は神の貌にて居給ひしが、神と等しくある事を固く保たんとは思はず、7反つて己を空しうし、僕の貌をとりて人の如くなれり。8既に人の状にて現れ、己を卑うして死に至るまで、十字架の死に至るまで順ひ給へり。9この故に神は彼を高く上げて、之に諸般の名にまさる名を賜ひたり。10これ天に在るもの、地に在るもの、地の下にあるもの、悉とくイエスの名によりて膝を屈め、11且もろもろの舌の『イエス・キリストは主なり』と言ひあらはして、榮光を父なる神に歸せん爲なり。12されば我が愛する者よ、なんぢら常に服ひしごとく、我が居る時のみならず、我が居らぬ今もますます服ひ、畏れ戰きて己が救を全うせよ。13神は御意を成さんために汝らの衷にはたらき、汝 等をして志望をたて、業を行はしめ給へばなり。14なんぢら呟かず疑はずして、凡ての事をおこなへ。15是なんぢら責むべき所なく素直にして、此の曲れる邪惡なる時代に在りて神の瑕なき子とならん爲なり。汝らは生命の言を保ちて、世の光のごとく此の時代に輝く。16かくて我が走りしところ勞せしところ空しからず、キリストの日にわれ誇ることを得ん。17さらば汝らの信仰の供物と祭とに加へて、我が血を灌ぐとも我は喜ばん、なんぢら衆と共に喜ばん。18かく汝 等もよろこべ、我とともに喜べ。19われ汝らの事を知りて慰安を得んとて、速かにテモテを汝らに遣さんことを主イエスに頼りて望む。20そは彼のほかに我と同じ心をもて眞實に汝らのことを慮ぱかる者なければなり。21人は皆イエス・キリストの事を求めず、唯おのれの事のみを求む。22されどテモテの錬達なるは汝らの知る所なり、即ち子の父に於ける如く我とともに福音のために勤めたり。23この故に我わが身の成行を見ば、直ちに彼を遣さんことを望む。24我もまた速かに往くべきを主によりて確信す。25されど今は先われと共に働き共に戰ひし兄弟、すなはち汝らの使として我が窮乏を補ひしエパフロデトを、汝らに遣すを必要のことと思ふ。26彼は汝等すべての者を戀ひしたひ、又おのが病みたることの汝らに聞えしを以て悲しみ居るに因りてなり。27彼は實に病にかかりて死ぬばかりなりしが、神は彼を憐みたまへり、啻に彼のみならず、我をも憐み、憂に憂を重ねしめ給はざりき。28この故に急ぎて彼を遣す、なんぢらが再び彼を見て喜ばん爲なり。又わが憂を少うせん爲なり。29されば汝ら主にありて歡喜を盡して彼を迎へ、かつ斯くのごとき人を尊べ。30彼は汝らが我を助くるに當り、汝 らの居らぬを補はんとて、己が生命を賭け、キリストの事業のために死ぬばかりになりたればなり。

第三章

1終に言はん、我が兄弟よ、なんぢら主に在りて喜べ。なんぢらに同じことを書きおくるは、我に煩はしきことなく、汝等には安然なり。2なんぢら犬に心せよ、惡しき勞動人に心せよ、肉の割禮ある者に心せよ。3神の御靈によりて禮拜をなし、キリスト・イエスによりて誇り、肉を恃まぬ我らは眞の割禮ある者なり。4されど我は肉にも恃むことを得るなり。もし他の人、肉に恃むところありと思はば、我は更に恃む所あり。5我は八日めに割禮を受けたる者にして、イスラエルの血統、ベニヤミンの族、ヘブル人より出でたるヘブル人なり。律法に就きてはパリサイ人、6熱心につきては教會を迫害したるもの、律法によれる義に就きては責むべき所なかりし者なり。7されど曩に我が益たりし事はキリストのために損と思ふに至れり。8然り、我はわが主キリスト・イエスを知ることの優れたるために、凡ての物を損なりと思ひ、彼のために既に凡ての物を損せしが、之を塵芥のごとく思ふ。9これキリストを獲、かつ律法による己が義ならで、唯キリストを信ずる信仰による義、すなはち信仰に基きて神より賜はる義を保ち、キリストに在るを認められ、10キリストとその復活の力とを知り、又その死に效ひて彼の苦難にあづかり、11如何にもして死人の中より甦へることを得んが爲なり。12われ既に取れり、既に全うせられたりと言ふにあらず、唯これを捉へんとて追ひ求む。キリストは之を得させんとて我を捉へたまへり。13兄弟よ、われは既に捉へたりと思はず、唯この一事を務む、即ち後のものを忘れ、前のものに向ひて勵み、14標準を指して進み、神のキリスト・イエスに由りて上に召したまふ召にかかはる褒美を得んとて之を追ひ求む。15されば我等のうち成人したる者は、みな斯くのごとき思を懷くべし、汝等もし何事にても異なる思を懷き居らば、神これをも示し給はん。16ただ我等はその至れる所に隨ひて歩むべし。17兄弟よ、なんぢら諸共に我に效ふものとなれ、且なんぢらの模範となる我らに循ひて歩むものを視よ。18そは我しばしば汝らに告げ、今また涙を流して告ぐる如く、キリストの十字架に敵して歩む者おほければなり。19彼らの終は滅亡なり。おのが腹を神となし、己が恥を光榮となし、ただ地の事のみを念ふ。20されど我らの國籍は天に在り、我らは主イエス・キリストの救主として其の處より來りたまふを待つ。21彼は萬物を己に服はせ得る能力によりて、我らの卑しき状の體を化へて、己が榮光の體に象らせ給はん。

第四章

1この故に我が愛するところ慕ふところの兄弟、われの喜悦われの冠冕たる愛する者よ、斯くのごとく主にありて堅く立て。2我ユウオデヤに勸めスントケに勸む、主にありて心を同じうせんことを。3また眞實に我と軛を共にする者よ、なんぢに求む。この二人の女を助けよ。彼らはクレメンス其のほか生命の書に名を録されたる我が同勞者と同じく、福音のために我とともに勤めたり。4汝ら常に主にありて喜べ、我また言ふ、なんぢら喜べ。5凡ての人に汝らの寛容を知らしめよ、主は近し。6何事をも思ひ煩ふな、ただ事ごとに祈をなし、願をなし、感謝して汝らの求を神に告げよ。7さらば凡て人の思にすぐる神の平安は、汝らの心と思とをキリスト・イエスによりて守らん。8終に言はん、兄弟よ、凡そ眞なること、凡そ尊ぶべきこと、凡そ正しきこと、凡そ潔よきこと、凡そ愛すべきこと、凡そ令聞あること、如何なる徳いかなる譽にても、汝等これを念へ。9なんぢら我に學びしところ、受けしところ、聞きしところ、見し所を皆おこなへ、さらば平和の神なんぢらと偕に在さん。10汝らが我を思ふ心の今また萠したるを、われ主にありて甚く喜ぶ。汝らは固より我を思ひゐたるなれど、機を得ざりしなり。11われ窮乏によりて之を言ふにあらず、我は如何なる状に居るとも、足ることを學びたればなり。12我は卑賤にをる道を知り、富にをる道を知る。また飽くことにも、飢うることにも、富むことにも、乏しき事にも、一切の秘訣を得たり。13我を強くし給ふ者によりて、凡ての事をなし得るなり。14されど汝らが我が患難に與りしは善き事なり。15ピリピ人よ、汝らも知る、わが汝らに福音を傳ふる始、マケドニヤを離れ去るとき、授受して我が事に與りしは、汝等のみにして、他の教會には無かりき。16汝らは我がテサロニケに居りし時に、一度ならず二度までも我が窮乏に物贈れり。17これ贈物を求むるにあらず、唯なんぢらの益となる實の繁からんことを求むるなり。18我には凡ての物そなはりて餘あり、既にエパフロデトより汝らの贈物を受けたれば、飽き足れり。これは馨しき香にして神の享け給ふところ、喜びたまふ所の供物なり。19かくてわが神は己の

富に隨ひ、キリスト・イエスによりて汝らの凡ての窮乏を榮光のうちに補ひ給はん。20願はくは榮光世々限りなく、我らの父なる神にあれ、アァメン。21汝らキリスト・イエスに在りて聖徒おのおのに安否を問へ、我と偕にある兄弟たち汝らに安否を問ふ。22凡ての聖徒、殊にカイザルの家のもの、汝らに安否を問ふ。23願はくは主イエス・キリストの恩惠、なんぢらの靈と偕に在らんことを。

コロサイ人への書

第一章

1神の御心によりてキリスト・イエスの使徒となれるパウロ及び兄弟テモテ、2書をコロサイに居る聖徒、キリストにありて忠實なる兄弟に贈る。願はくは我らの父なる神より賜ふ恩惠と平安と汝らに在らんことを。3我らは常に汝らの爲に祈りて、我らの主イエス・キリストの父なる神に感謝す。4これキリスト・イエスを信ずる汝らの信仰と、凡ての聖徒に對する汝らの愛とにつきて聞きたればなり。5かく聖徒を愛するは、汝らの爲に天に蓄へあるものを望むに因る。この望のことは汝らに及べる福音の眞の言によりて汝らが曾て聞きし所なり。6この福音は全世界にも及び、果を結びて増々大になれり。汝らが神の恩惠をききて眞に之を知りし日より、汝らの中に然りしが如し。7汝らが、我らと共に僕たる愛するエパフラスより學びたるは、この福音なり。彼は汝らの爲にキリストの忠實なる役者にして、8汝らが御靈によりて懷ける愛を我らに告げたり。9この故に我らこの事を聞きし日より、汝等のために絶えず祈りかつ求むるは、汝ら靈のもろもろの知慧と穎悟とをもて神の御意を具に知り、10凡てのこと主を悦ばせんが爲に、その御意に從ひて歩み、凡ての善き業によりて果を結び、いよいよ神を知り、11また神の榮光の勢威に隨ひて賜ふもろもろの力によりて強くなり、凡ての事よろこびて忍び、かつ耐へ、12而して我らを光にある聖徒の嗣業に與るに足る者とし給ひし父に感謝せん事なり。13父は我らを暗黒の權威より救ひ出して、その愛しみ給ふ御子の國に遷したまへり。14我らは御子に在りて贖罪すなはち罪の赦を得るなり。15彼は見得べからざる神の像にして、萬の造られし物の先に生れ給へる者なり。16萬の物は彼によりて造らる、天に在るもの、地に在るもの、見ゆるもの、見えぬもの、或は位、あるひは支配、あるひは政治、あるひは權威、みな彼によりて造られ、彼のために造られたればなり。17彼は萬の物より先にあり、萬の物は彼によりて保つことを得るなり。18而して彼はその體なる教會の首なり、彼は始にして死人の中より最先に生れ給ひし者なり。これ凡ての事に就きて長とならん爲なり。19神は凡ての滿ち足れる徳を彼に宿して、20その十字架の血によりて平和をなし、或は地にあるもの、或は天にあるもの、萬の物をして己と和がしむるを善しとし給ひたればなり。21汝等もとは惡しき業を行ひて神に遠ざかり、心にて其の敵となりしが、22今は神キリストの肉の體をもて、其の死により汝等をして己と和がしめ、潔く瑕なく責むべき所なくして、己の前に立たしめんし給ふなり。23汝等もし信仰に止り、之に基きて堅く立ち、福音の望より移らずば、斯くせらるることを得べし。此の福音は汝らの聞きし所、また天の下なる凡ての造られし物に宣傳へられたるものにして、我パウロはその役者となれり。24われ今なんぢらの爲に受くる苦難を喜び、又キリストの體なる教會のために、我が身をもてキリストの患難の缺けたるを補ふ。25われ神より汝等のために與へられたる職に隨ひて教會の役者となれり。26これ神の言、すなはち歴世歴代かくれて、今神の聖徒に顯れたる奥義を宣傳へんとてなり。27神は聖徒をして異邦人の中なるこの奥義の榮光の富の如何ばかりなるかを知らしめんと欲し給へり、此の奥義は汝らの中に在すキリストにして榮光の望なり。28我らは此のキリストを傳へ、知慧を盡して凡ての人を訓戒し、凡ての人を教ふ。これ凡ての人をしてキリストに在り、全くなりて神の前に立つことを得しめん爲なり。29われ之がために我が衷に能力をもて働き給ふものの活動にしたがひ、力を盡して勞するなり。

第二章

1我なんぢら及びラオデキヤに居る人々、その他すべて我が肉體の顔をまだ見ぬ人のために、如何に苦心するか

を汝らの知らんことを欲す。2かく苦心するは、彼らが心 慰められ、愛をもて相 列り、全き穎悟の凡ての富を得て、神の奥義なるキリストを知らん爲なり。3キリストには知慧と知識との凡ての寶 藏れあり。4我これを言ふは、巧なる言をもて人の汝らを欺くこと勿らん爲なり。5われ肉體にては汝らと離れ居れど、靈にては汝らと偕に居りて喜び、また汝らの秩序あるとキリストに對する信仰の堅きとを見るなり。6汝らキリスト・イエスを主として受けたるにより、其のごとく彼に在りて歩め。7また彼に根ざしてその上に建てられ、かつ教へられし如く信仰を堅くし、溢るるばかり感謝せよ。8なんぢら心すべし、恐らくはキリストに從はずして人の言 傳と世の小學とに從ひ、人を惑す虚しき哲學をもて汝らを奪ひ去る者あらん。9それ神の滿ち足れる徳はことごとく形體をなしてキリストに宿れり。10汝らは彼に在りて滿ち足れるなり。彼は凡ての政 治と權威との首なり。11汝 らまた彼に在りて手をもてせざる割禮を受けたり、即 ち肉の體を脱ぎ去るものにして、キリストの割禮なり。12汝らバプテスマを受けしとき、彼とともに葬られ、又かれを死人の中より甦へらせ給ひし神の活動を信ずるによりて、彼と共に甦へらせられたり。13汝ら前には諸般の咎と肉の割禮なきとに因りて死にたる者なりしが、神は汝らを彼と共に生かし、我らの凡ての咎を赦し、14かつ我らを責むる規の證 書、すなはち我らに逆ふ證 書を塗抹し、これを中 間より取り去りて十字架につけ、15政 治と權威とを褫ぎて之を公然に示し、十字架によりて凱旋し給へり。16然れば汝ら食物あるひは飲物につき、祭あるいは月朔あるいは安息 日の事につきて、誰にも審かるな。17此 等はみな來らんとする者の影にして、其の本體はキリストに屬けり。18殊更に謙遜をよそほひ御使を拜する者に、汝らの褒美を奪はるな。かかる者は見し所のものに基き、肉の念に隨ひて徒らに誇り、19首に屬くことをせざるなり。全體は、この首によりて節々 維々に助けられ、相 聯り、神の育にて生 長するなり。20汝 等もしキリストと共に死にて此の世の小學を離れしならば、何ぞなほ世に生ける者のごとく人の誡命と教とに循ひて21『捫るな、味ふな、觸るな』と云ふ規の下に在るか。22（此 等はみな用ふれば盡くる物なり）23これらの誡命は、みづから定めたる禮拜と謙遜と身を惜まぬ事とによりて知慧あるごとく見ゆれど、實は肉 慾の放 縱を防ぐ力なし。

第三章

1汝 等もしキリストと共に甦へらせられしならば、上にあるものを求めよ、キリスト彼處に在りて神の右に坐し給ふなり。2汝ら上にあるものを念ひ、地に在るものを念ふな、3汝らは死にたる者にして、其の生命はキリストとともに神の中に隱れ在ればなり。4我らの生命なるキリストの現れ給ふとき、汝らも之とともに榮光のうちに現れん。5されば地にある肢體、すなはち淫行・汚穢・情 慾・惡 慾・また慳貪を殺せ、慳貪は偶像 崇拜なり。6神の怒は、これらの事によりて不 從 順の子らに來るなり。7汝らもかかる人の中に日を送りし時は、これらの惡しき事に歩めり。8されど今は凡て此 等のこと及び怒・憤 恚・惡意を棄て、譏と恥づべき言とを汝らの口より棄てよ。9互に虚言をいふな、汝らは既に舊き人とその行爲とを脱ぎて、10新しき人を著たればなり。この新しき人は、これを造り給ひしものの像に循ひ、いよいよ新になりて知識に至るなり。11かくてギリシヤ人とユダヤ人、割禮と無 割禮、あるひは夷狄、スクテヤ人・奴隷・自主の別ある事なし、それキリストは萬の物なり、萬のものの中にあり。12この故に汝らは神の選民にして聖なる者また愛せらるる者なれば、慈悲の心・仁慈・謙遜・柔和・寛 容を著よ。13また互に忍びあひ、若し人に責むべき事あらば互に恕せ、主の汝らを恕し給へる如く汝らも然すべし。14凡て此 等のものの上に愛を加へよ、愛は徳を全うする帶なり。15キリストの平和をして汝らの心を掌どらしめよ、汝らの召されて一體となりたるはこれが爲なり、汝ら感謝の心を懷け。16キリストの言をして豐に汝らの衷に住ましめ、凡ての知慧によりて、詩と讃美と靈の歌とをもて、互に教へ互に訓戒し、恩惠に感じて心のうちに神を讃美せよ。17また爲す所の凡ての事、あるひは言あるひは行爲、みな主イエスの名に頼りて爲し、彼によりて父なる神に感謝せよ。18妻たる者よ、その夫に服へ、これ主にある者のなすべき事なり。19夫たる者よ、その妻を愛せよ、苦をもて之を待ふな。20子たる者よ、凡ての事みな兩親に順へ、これ主の喜びたまふ所なり。21父たる者よ、汝らの子供を怒らすな、或は落膽することあらん。22僕たる者よ、凡て

の事みな肉につける主人にしたがへ、人を喜ばする者の如く、ただ眼の前の事のみを勤めず、主を畏れ、眞心をもて從へ。23汝ら何事をなすにも人に事ふる如くせず、主に事ふる如く心より行へ。24汝らは主より報として嗣業を受くることを知ればなり。汝らは主キリストに事ふる者なり。25不義を行ふ者はその不義の報を受けん、主は偏り視給ふことなし。

第四章

1主人たる者よ、汝らも天に主あるを知れば、義と公平とをもて其の僕をあしらへ。2汝ら感謝しつつ目を覺して祈を常にせよ。3また我らの爲にも祈りて、神の我らに御言を傳ふる門をひらき、我等をしてキリストの奥義を語らしめ、4之を我が語るべき如く顯させ給はんことを願へ、我はこの奥義のために繋がれたり。5なんぢら機をうかがひ、外の人に對し知慧をもて行へ。6汝らの言は常に惠を用ひ、鹽にて味つけよ。然らば如何にして各人に答ふべきかを知らん。7愛する兄弟、忠實なる役者、主にありて我とともに僕たるテキコ、我がことを具に汝らに知らせん。8われ殊に彼を汝らに遣すは、我らの事を知らしめ、又なんぢらの心を慰めしめん爲なり。9汝らの中の一人、忠實なる愛する兄弟オネシモを彼と共につかはす、彼等この處の事を具に汝らに知らせん。10我と共に囚人となれるアリスタルコ及びバルナバの從弟なるマルコ、汝らに安否を問ふ。此のマルコに就きては汝ら既に命を受けたり、彼もし汝らに到らば之を接けよ。11またユストと云へるイエス汝らに安否を問ふ。割禮の者の中ただ此の三人のみ、神の國のために働く我が同勞者にして我が慰安となりたる者なり。12汝らの中の一人にてキリスト・イエスの僕なるエパフラス汝らに安否を問ふ。彼は常に汝らの爲に力を盡して祈をなし、汝らが全くなり、凡て神の御意を確信して立たんことを願ふ。13我かれが汝らとラオデキヤ及びヒエラポリスに在る者との爲に甚く心を勞することを證す。14愛する醫者ルカ及びデマス汝らに安否を問ふ。15汝らラオデキヤにある兄弟とヌンパ及びその家にある教會とに安否を問へ。16この書を汝らの中にて讀みたらば、之をラオデキヤ人の教會にも讀ませ、汝等はまたラオデキヤより來る書を讀め。17アルキポに言へ『主にありて受けし職を愼みて盡せ』と。18我パウロ手づから安否を問ふ。わが縲紲を記憶せよ。願はくは御惠なんぢらと偕に在らんことを。

テサロニケ人への前の書

第一章

1パウロ、シルワノ、テモテ、書を父なる神および主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教會に贈る。願はくは恩惠と平安と汝らに在らんことを。2われら祈のときに汝らを憶えて、常に汝ら衆人のために神に感謝す。3これ汝らが信仰のはたらき、愛の勞苦、主イエス・キリストに對する望の忍耐を、我らの父なる神の前に絶えず念ふに因りてなり。4神に愛せらるる兄弟よ、また汝らの選ばれたることを知るに因りてなり。5それ我らの福音の汝らに至りしは、言にのみ由らず、能力と聖靈と大なる確信とに由れり。且われらが汝らの中にありて汝らの爲に如何なる行爲をなししかは、汝らの知る所なり。6かくて汝らは大なる患難のうちにも、聖靈による喜悅をもて御言をうけ、我ら及び主に效ふ者となり、7而してマケドニヤ及びアカヤに在る凡ての信者の模範となれり。8それは主のことば汝等より出でて、啻にマケドニヤ及びアカヤに響きしのみならず、神に對する汝らの信仰のことは諸方に弘りたるなり。されば之に就きては何をも語るに及ばず。9人々親しく我らが汝らの中に入りし状を告げ、また汝らが偶像を棄てて神に歸し、活ける眞の神に事へ、10神の死人の中より甦へらせ給ひし御子、すなはち我らを來らんとする怒より救ひ出すイエスの、天より降りたまふを待ち望むことを告ぐればなり。

第二章

1兄弟よ、我らの汝らに到りしことの空しからざりしは、汝ら自ら知る。2前に我らは汝らの知るごとく、ピリピにて苦難と侮辱とを受けたれど、我らの神に頼りて大なる紛爭のうちに、憚らず神の福音を汝らに語れり。3我らの勸は、迷より出でず、汚穢より出でず、詭計を用

ひず、4神に嘉せられて福音を委ねられたる者なれば、人を喜ばせんとせず、我らの心を鑒たまふ神を喜ばせ奉つらんとして語るなり。5我らは汝らの知るごとく何時にても諂諛の言を用ひず、事によせて慳貪をなさず（神これを證し給ふ）6キリストの使徒として重んぜらるべき者なれども、汝らにも他の者にも人よりは譽を求めず、7汝らの中にありて優しきこと、母の己が子を育てやしなふ如くなりき。8かく我らは汝らを戀ひ慕ひ、なんぢらは我らの愛する者となりたれば、啻に神の福音のみならず、我らの生命をも與へんと願へり。9兄弟よ、なんぢらは我らの勞と苦難とを記憶す、われらは汝らの中の一人をも累はすまじとて、夜晝工をなし、勞しつつ福音を宣傳へたり。10また信じたる汝 等にむかひて、如何に潔く正しく責むべき所なく行ひしかは、汝らも證し神も證し給ふなり。11汝らは知る、我らが父のその子に對するごとく各人に對し、12御國と榮光とに招きたまふ神の心に適ひて歩むべきことを勸め、また勵まし、また諭したるを。13かくてなほ我ら神に感謝して已まざるは、汝らが神の言を我らより聞きし時、これを人の言とせず、神の言として受けし事なり。これは誠に神の言にして、汝ら信ずる者のうちに働くなり。14兄弟よ、汝らはユダヤに於けるキリスト・イエスにある神の教會に效ふ者となれり、彼らのユダヤ人に苦しめられたる如く、汝らも己が國人に苦しめられたるなり。15ユダヤ人は主イエスをも預言者をも殺し、我らを追ひ出し、16我らが異邦人に語りて救を得させんとするを拒み、神を悦ばせず、かつ萬民に逆ひ、かくして常に己が罪を充すなり。而して神の怒はかれらに臨みてその極に至れり。17兄弟よ、われら心は離れねど、顔にて暫時なんぢらと離れ居れば、汝らの顔を見んことを愈々切に願ひて、18（我パウロは一度ならず再度までも）なんぢらに到らんと爲たれど、サタンに妨げられたり。19我らの主イエスの來り給ふとき、御前における我らの希望、また喜悦、また誇の冠冕は誰ぞ、汝らならずや。20實に汝らは我らの光榮、我らの喜悦なり。

第三章

1この故に、もはや忍ぶこと能はず、我等のみアテネに留ることに決し、2キリストの福音において神の役者たる我らの兄弟テモテを汝らに遣せり。これは汝らを堅うし、また信仰につきて勸め、3この患難によりて動かさるる者の無からん爲なり。患難に遭ふことの我らに定りたるは、汝 等みづから知る所なり。4我らが患難に遭ふべきことは、汝らと偕に在りしとき預じめ告げたるが、今 果して汝らの知るごとく然か成れり。5この故に最早われ忍ぶこと能はず、試むる者の汝らを試みて、我らの勞の空しくならんことを恐れ、なんぢらの信仰を知らんとて人を遣せり。6然るに今テモテ汝らより歸りて、汝らの信仰と愛とにつきて喜ばしき音信を聞かせ、又なんぢら常に我らを懇ろに念ひ、我らに逢はんことを切に望み居るは、我らが汝らに逢はんことを望むに等しと告げたるによりて、7兄弟よ、われらは諸般の苦難と患難との中にも、汝らの信仰によりて慰安を得たり。8汝 等もし主に在りて堅く立たば我らは生くるなり。9汝 等につきて我らの神の前によろこぶ大なる喜悦のために、如何なる感謝をか神に献ぐべき。10我らは夜晝 祈りて、汝らの顔を見んことと、汝らの信仰の足らぬ所を補はんこととを切に願ふ。11願はくは我らの父なる神みづからと我らの主なるイエスと、我らを導きて汝らに到らせ給はんことを。12願はくは主、なんぢら相 互の愛および凡ての人に對する愛を増し、かつ豊にして、我らが汝らを愛する如くならしめ、13かくして汝らの心を堅うし、我らの主イエスの、凡ての聖徒と偕に來りたまふ時、われらの父なる神の前に潔くして責むべき所なからしめ給はんことを。

第四章

1されば兄弟よ、終に我ら主イエスによりて汝らに求め、かつ勸む。なんぢら如何に歩みて神を悦ばすべきかを我等より學びし如く、また歩みをる如くに増々 進まんことを。2我らが主イエスに頼りて如何なる命令を與へしかは、汝らの知る所なり。3それ神の御旨は、なんぢらの潔からんことにして、即ち淫行をつつしみ、4各人おのが妻を得て、潔くかつ貴くし、5神を知らぬ異邦人のごとく情慾を放縦にすまじきを知り、6かかる事によりて兄弟を欺き、また掠めざらんことなり。凡て此 等のことを行ふ者に主の報し給ふは、わが既に汝らに告げ、かつ證せしごとし。7神の我らを招き給ひしは、汚穢を行はしめん爲にあらず、潔からしめん爲なり。8この故に之を拒む者は人を拒むにあらず、汝らに聖 靈を

與へたまふ神を拒むなり。9兄弟の愛につきては汝らに書きおくるに及ばず。汝らは互に相愛する事を親しく神に教へられ、10また既にマケドニヤ全國に在るすべての兄弟を愛するに因りてなり。されど兄弟よ、なんぢらに勸む。ますます之を行ひ、11我らが前に命ぜしことく力めて安靜にし、己の業をなし、手づから働け。12これ外の人に對して正しく行ひ、また自ら乏しきことなからん爲なり。13兄弟よ、既に眠れる者のことに就きては、汝らの知らざるを好まず、希望なき他の人のごとく歎かざらん爲なり。14我らの信ずる如く、イエスもし死にて甦へり給ひしならば、神はイエスによりて眠に就きたる者を、イエスと共に連れきたり給ふべきなり。15われら主の言をもて汝らに言はん、我等のうち主の來りたまふ時に至るまで生きて存れる者は、既に眠れる者に決して先だたじ。16それ主は、號令と御使の長の聲と神のラッパと共に、みづから天より降り給はん。その時キリストにある死人まづ甦へり、17後に生きて存れる我らは、彼らと共に雲のうちに取り去られ、空中にて主を迎へ、斯くていつまでも主と偕に居るべし。18されば此等の言をもて互に相慰めよ。

第五章

1兄弟よ、時と期とに就きては汝らに書きおくるに及ばず。2汝らは主の日の盜人の夜きたるが如くに來ることを、自ら詳細に知ればなり。3人々の平和無事なりと言ふほどに、滅亡にはかに彼らの上に來らん、妊める婦に産の苦痛の臨むがごとし、必ず遁るることを得じ。4されど兄弟よ、汝らは暗に居らざれば、盜人の來るごとく其の日なんぢらに追及くことなし。5それ汝等はみな光の子ども晝の子供なり。我らは夜に屬く者にあらず、暗に屬く者にあらず。6されば他の人のごとく眠るべからず、目を覺して愼むべし。7眠る者は夜眠り、酒に醉ふ者は夜醉ふなり。8されど我らは晝に屬く者なれば、信仰と愛との胸當を著け、救の望の兜をかむりて愼むべし。9それ神は我らを怒に遭はせんとにあらず、主イエス・キリストに頼りて救を得させんと定め給へるなり。10主の我等のために死に給へるは、我等をして寤めをるとも眠りをるとも己と共に生くることを得しめん爲なり。11此の故に互に勸めて各自の徳を建つべし、これ汝らが常に爲す所なり。12兄弟よ、汝らに求む。なんぢらの中に勞し、主にありて汝らを治め、汝らを訓戒する者を重んじ、13その勤勞によりて厚く之を愛し敬へ。また互に相和ぐべし。14兄弟よ、汝らに勸む、妄なる者を訓戒し、落膽せし者を勵まし、弱き者を扶け、凡ての人に對して寛容なれ。15誰も人に對し惡をもて惡に報いぬやう愼め。ただ相互に、また凡ての人に對して常に善を追ひ求めよ。16常に喜べ、17絶えず祈れ、18凡てのことを感謝せよ、これキリスト・イエスに由りて神の汝らに求め給ふ所なり。19御靈を熄すな、20預言を蔑すな、21凡てのこと試みて善きものを守り、22凡て惡の類に遠ざかれ。23願はくは平和の神、みづから汝らを全く潔くし、汝らの靈と心と體とを全く守りて、我らの主イエス・キリストの來り給ふとき責むべき所なからしめ給はん事を。24汝らを召したまふ者は眞實なれば、之を成し給ふべし。25兄弟よ、我らのために祈れ。26きよき接吻をもて凡ての兄弟の安否を問へ。27主によりて汝らに命ず、この書を凡ての兄弟に讀み聞かせよ。28願はくは主イエス・キリストの恩惠、なんぢらと偕に在らんことを。

テサロニケ人への後の書

第一章

1パウロ、シルワノ、テモテ、書を我らの父なる神および主イエス・キリストに在るテサロニケ人の教會に贈る。2願はくは父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩惠と平安と汝らに在らんことを。3兄弟よ、われら汝等につきて常に神に感謝せざるを得ず、これ當然の事なり。そは汝らの信仰おほいに加はり、各自みな互の愛を厚くしたればなり。4されば我らは、汝らが忍べる凡ての迫害と患難との中にありて保ちたる忍耐と信仰とを、神の諸教會の間に誇る。5これ神の正しき審判の兆にして、汝らが神の國に相應しき者とならん爲なり。今その御國のために苦難を受く。6汝らに患難を加ふる者に患難をもて報い、患難を受くる汝らに、我らと共に安息をもて報い給ふは、神の正しき事なり。7即ち主イエス

焔の中にその能力の御使たちと共に天より顯れ、8神を知らぬ者と我らの主イエスの福音に服はぬ者とに報いをなし給ふとき、9かかる者どもは主の顔とその能力の榮光とを離れて、限りなき滅亡の刑罰を受くべし。10その時は主おのが聖徒によりて崇められ、凡ての信ずる者（なんぢらも我らの證を信じたる者なり）によりて讃められんとて來りたまふ日なり。11これに就きて我ら常に汝らのために祈るは、我らの神の汝 等をして召に適ふ者となし、能力をもて汝らの凡て善に就ける願と信仰の業とを成就せしめ給はんことなり。12これ我らの神および主イエス・キリストの恵によりて、我らの主イエスの御名の汝らの中に崇められ、又なんぢらも彼に在りて崇められん爲なり。

第二章

1兄弟よ、我らの主イエス・キリストの來り給ふこと、又われらが主の許に集ふことに就きては、汝らに求む。2或は靈により、或は言により、或は我等より出でし如き書により、主の日すでに來れりとて、容易く心を動かしかつ驚かざらん事を。3誰が如何にすとも、それに欺かるな。その日の前に背教の事あり、不法の人すなはち滅亡の子あらはれざるを得ず、4彼はすべて神と稱ふる者および人の拜む者に逆ひ、此 等よりも己を高くし、遂に神の聖所に坐し己を神として見する者なり。5われ汝らと偕に在りし時、これらの事を告げしを汝ら憶えぬか。6彼をして己が時に至りて顯れしめんために、彼を阻めをる者を汝らは知る。7不法の秘密は既に働けり、然れど此はただ阻めをる者の除かるるまでなり。8かくて其のとき不法の者あらはれん、而して主イエス御口の氣息をもて彼を殺し、降臨の輝耀をもて彼を亡し給はん。9彼はサタンの活動に從ひて來り、もろもろの虚僞なる力と徴と不思議と、10不義のもろもろの誑惑とを行ひて、亡ぶる者どもに向はん、彼らは眞理を愛する愛を受けずして、救はるることを爲ざればなり。11この故に神は、彼らが虚僞を信ぜんために惑をその中に働かせ給ふ。12これ眞理を信ぜず不義を喜ぶ者の、みな審かれんため爲なり。13されど主に愛せらるる兄弟よ、われら常に汝 等のために神に感謝せざるを得ず。神は御靈によれる潔と眞理に對する信仰とをもて、始より汝らを救に選び、14また我らの主イエス・キリストの榮光を得させんとて、我らの福音をもて汝らを招き給へばなり。15されば兄弟よ、堅く立ちて我らの言あるひは書に由りて教へられたる傳を守れ。16我らの主イエス・キリスト、及び我らを愛し恩惠をもて永遠の慰安と善き望とを與へ給ふ我らの父なる神、17願はくは汝らの心を慰めて、凡ての善き業と言とに堅うし給はんことを。

第三章

1終に言はん、兄弟よ、我らの爲に祈れ、主の言の汝らの中におけるごとく、疾く弘りて崇められん事と、2われらが無法なる惡人より救はれんこととを祈れ。そは人みな信仰あるに非ざればなり。3されど神は眞實なれば、汝らを堅うし汝らを護りて、惡しき者より救ひ給はん。4かくて我らの命ずることを汝らが今も行ひ、後もまた行はんことを主によりて信ずるなり。5願はくは主なんぢらの心を、神の愛とキリストの忍耐とに導き給はんことを。6兄弟よ、我らの主イエス・キリストの名によりて汝らに命ず、我等より受けし傳に從はずして妄に歩む凡ての兄弟に遠ざかれ。7如何にして我らに效ふべきかは、汝らの自ら知る所なり。我らは汝らの中にありて妄なる事をせず、8價なしに人のパンを食せず、反つて汝等のうち一人をも累はさざらんために勞と苦難とをもて、夜晝はたらけり。9これは權利なき故にあらず、汝等をして我らに效はしめん爲に、自ら模範となりたるなり。10また汝らと偕に在りしとき、人もし働くことを欲せずば食すべからずと命じたりき。11聞く所によれば、汝 等のうちに妄に歩みて何の業をもなさず、徒事にたづさはる者ありと。12我ら斯くのごとき人に、靜に業をなして己のパンを食せんことを、我らの主イエス・キリストに由りて命じかつ勸む。13兄弟よ、なんぢら善を行ひて倦むな。14もし此の書にいへる我らの言に從はぬ者あらば、その人を認めて交ることをすな、彼みづから恥ぢんためなり。15然れど彼を仇の如くせず、兄弟として訓戒せよ。16願はくは平和の主、みづから何時にても凡ての事に平和を汝らに與へ給はんことを。願はくは主なんぢら凡ての者と偕に在さん事を。17我パウロ手づから筆を執りて汝らの安否を問ふ。これ我がすべての書の記章なり。わが書けるものは斯くの如し。18願はくは我らの主イエス・キリストの恩惠なんぢら凡ての者と偕ならんことを。

テモテへの前の書

第一章

1我らの救主なる神と我らの希望なるキリスト・イエスとの命によりて、キリスト・イエスの使徒となれるパウロ、2書を信仰に由りて我が眞實の子たるテモテに贈る。願はくは父なる神および我らの主キリスト・イエスより賜ふ恩惠と憐憫と平安と、汝に在らんことを。3我マケドニヤに往きしとき汝に勸めし如く、汝なほエペソに留まり、ある人々に命じて、異なる教を傳ふることなく、4昔 話と窮りなき系圖とに心を寄する事なからしめよ。此 等のことは信仰に基ける神の經綸の助とならず、反つて議論を生ずるなり。5命令の目的は清き心と善き良心と僞りなき信仰とより出づる愛にあり。6ある人々これらの事より外れて虛しき物語にうつり、7律法の教師たらんと欲して、反つて其の言ふ所その確證する所を自ら悟らず。8律法は道理に循ひて之を用ひば善き者なるを我らは知る。9律法を用ふる者は、律法の正しき人の爲にあらずして、不法のもの、服從せぬもの、敬虔ならぬもの、罪あるもの、潔からぬもの、妄なるもの、父を擊つもの、母を擊つもの、人を殺す者、10淫行のもの、男色を行ふもの、人を誘拐すもの、僞るもの、いつはり誓ふ者の爲、そのほか健全なる教に逆ふ凡ての事のために設けられたるを知るべし。11これは我に委ねられし幸福なる神の榮光の福音に循へるなり。12我に能力を賜ふ我らの主キリスト・イエスに感謝す。13われ曩には涜す者、迫害する者、暴行の者なりしに、我を忠實なる者として、この職に任じ給ひたればなり。われ信ぜぬ時に知らずして行ひし故に憐憫を蒙れり。14而して我らの主の恩惠は、キリスト・イエスに由れる信仰および愛とともに溢るるばかり彌増せり。15『キリスト・イエス罪人を救はん爲に世に來り給へり』とは、信ずべく正しく受くべき言なり、其の罪人の中にて我は首なり。16然るに我が憐憫を蒙りしは、キリスト・イエス我を首に寛容をことごとく顯し、この後、かれを信じて永遠の生命を受けんとする者の模範となし給はん爲なり。17願はくは萬世の王、すなはち朽ちず見えざる唯一の神に、世々 限りなく尊貴と榮光とあらん事を、アァメン。18わが子テモテよ、汝を指したる凡ての預言に循ひて、我この命令を汝に委ぬ。これ汝がその預言により、信仰と善き良心とを保ちて、善き戰鬪を戰はん爲なり。19或 人よき良心を棄てて信仰の破船をなせり。20その中にヒメナオとアレキサンデルとあり、彼らに涜すまじきことを學ばせんとて、我これをサタンに付せり。

第二章

1されればわれ第一に勸む、凡ての人のため、王たち及び凡て權を有つものの爲に、おのおの願・祈祷・とりなし・感謝せよ。2是われら敬虔と謹嚴とを盡して、安らかに靜かに一生を過さん爲なり。3斯くするは美事にして、我らの救主なる神の御意に適ふことなり。4神は凡ての人の救はれて、眞理を悟るに至らんことを欲し給ふ。5それ神は唯一なり、また神と人との間の中保も唯一にして、人なるキリスト・イエス是なり。6彼は己を與へて凡ての人の贖價となり給へり、時 至りて證せらる。7我これが爲に立てられて宣傳者となり、使徒となり（我は眞を言ひて虛僞を言はず）また信仰と眞とをもて異邦人を教ふる教師となれり。8これ故にわれ望む、男は怒らず爭はず、何れの處にても潔き手をあげて祈らんことを。9また女は恥を知り、愼みて宜しきに合ふ衣にて己を飾り、編みたる頭髮と金と眞珠と價 貴き衣とを飾とせず、10善き業をもて飾とせんことを。これ神を敬はんと公言する女に適へる事なり。11女は凡てのこと 從 順にして靜に道を學ぶべし。12われ女の教ふることと男の上に權を執ることとを許さず、ただ靜にすべし。13それアダムは前に造られ、エバは後に造られたり。14アダムは惑されず、女は惑されて罪に陷りたるなり。15然れど女もし愼みて信仰と愛と潔とに居らば、子を生むことに因りて救はるべし。

第三章

1『人もし監督の職を慕はば、これよき業を願ふなり』とは、信ずべき言なり。2それ監督は責むべき所なく、一人の妻の夫にして、自ら制し、愼み、品行 正しく、旅人を懇ろに待し、能く教へ、3酒を嗜まず、人を打たず、寛容にし、爭はず、金を貪らず、4善く己が家を理

め、謹嚴にして子女を從 順ならしむる者たるべし。 5（人もし己が家を理むることを知らずば、爭でか神の教會を扱ふことを得ん） 6また新に教に入りし者ならざるべし、恐らくは傲慢になりて惡魔と同じ審判を受くるに至らん。 7外の人にも令聞ある者たるべし、然らずば誹謗と惡魔の羂とに陷らん。 8執事もまた同じく謹嚴にして、言を二つにせず、大酒せず、恥づべき利をとらず、 9潔き良心をもて信仰の奥義を保つものたるべし。 10まづ彼らを試みて責むべき所なくば、執事の職に任ずべし。 11女もまた謹嚴にして人を謗らず、自ら制して凡ての事に忠實なる者たるべし。 12執事は一人の妻の夫にして、子女と己が家とを善く理むる者たるべし。 13善く執事の職をなす者は良き地位を得、かつキリスト・イエスに於ける信仰につきて大なる勇氣を得るなり。 14われ速かに汝に往かんことを望めど、今これらの事を書きおくるは、 15若し遲からんとき、人の如何に神の家に行ふべきかを汝に知らしめん爲なり。神の家は活ける神の教會なり、眞理の柱、眞理の基なり。 16實に大なるかな、敬虔の奥義『キリストは肉にて顯され、靈にて義とせられ、御使たちに見られ、もろもろの國人に宣傳へられ、世に信ぜられ、榮光のうちに上げられ給へり』

第四章

1されど御靈あきらかに、或 人の後の日に及びて、惑す靈と惡鬼の教とに心を寄せて、信仰より離れんことを言ひ給ふ。 2これ虚僞をいふ者の僞善に由りてなり。彼らは良心を燒金にて烙かれ、 3婚姻するを禁じ、食を斷つことを命ず。されど食は神の造り給へる物にして、信じかつ眞理を知る者の感謝して受くべきものなり。 4神の造り給へる物はみな善し、感謝して受くる時は棄つべき物なし。 5そは神の言と祈とによりて潔められるるなり。 6汝もし此 等のことを兄弟に教へば、信仰と汝の從ひたる善き教との言にて養はるる所のキリスト・イエスの良き役者たるべし。 7されど妄なる談と老いたる女の 昔 話とを捨てよ、また自ら敬虔を修 行せよ。 8體の修 行もいささかは益あれど、敬虔は今の生命と後の生命との約束を保ちて凡ての事に益あり。 9これ信ずべく正しく受くべき言なり。 10我らは之がために勞しかつ苦心す、そは我ら凡ての人、殊に信ずる者の救 主なる活ける神に望を置けばなり。 11汝これらの事を命じかつ教へよ。 12なんぢ年 若きをもて人に輕んぜらるな、反つて言にも、行 狀にも、愛にも、信仰にも、潔にも、信者の模範となれ。 13わが到るまで、讀むこと勸むること教ふる事に心を用ひよ。 14なんぢ長老たちの按手を受け、預言によりて賜はりたる賜物を等閑にすな。 15なんぢ心を傾けて此 等のことを專ら務めよ。汝の進歩の明かならん爲なり。 16なんぢ己とおのれの教とを愼みて此 等のことに怠るな、斯くなして己と聽く者とを救ふべし。

第五章

1老人を譴責すな、反つて之を父のごとく勸め、若き人を兄弟の如くに、 2老いたる女を母の如くに勸め、若き女を姉妹の如くに全き貞潔をもて勸めよ。 3寡婦のうちの眞の寡婦を敬へ。 4されど寡婦に子もしくは孫あらば、彼ら先づ己の家に孝を行ひて親に恩を報ゆることを學ぶべし。これ神の御意にかなふ事なり。 5眞の寡婦にして獨殘りたる者は、望を神におきて、夜も晝も絶えず願と祈とを爲す。 6されど佚樂を放恣にする寡婦は、生けりと雖も死にたる者なり。 7これらの事を命じて彼らに責むべき所なからしめよ。 8人もし其の親族、殊に己が家族を顧みずば、信仰を棄てたる者にて、不信者よりも更に惡しきなり。 9六十歳 以下の寡婦は寡婦の籍に記すべからず、記すべきは一人の夫の妻たりし者にして、 10善き業の聲聞あり、或は子女をそだて、或は旅人を宿し、或は聖徒の足を洗ひ、或は惱める者を助くる等、もろもろの善き業に從ひし者たるべし。 11若き寡婦は籍に記すな、彼らキリストに背きて心 亂るる時は、嫁ぐことを欲し、 12初の誓約を棄つるに因りて批難を受くべければなり。 13彼 等はまた懶惰に流れて家々を遊びめぐる、啻に懶惰なるのみならず、言 多くして徒事にたづさはり、言ふまじき事を言ふ。 14されば若き寡婦は嫁ぎて子を生み、家を理めて敵に少しにても謗るべき機を與へざらんことを我は欲す。 15彼らの中には既に迷ひてサタンに從ひたる者あり。 16信者たる女もし其の家に寡婦あらば、自ら之を助けて教會を煩はすな。これ眞の寡婦を教會の助けん爲なり。 17善く治むる長老、殊に言と教とをもて勞する長老を一層 尊ぶべき者とせよ。 18聖書に『穀物を碾す牛に口籠を繫くべからず』また『勞動人のその價を得るは相應しきなり』と云へばなり。 19長老に對する訴訟は二三人の證 人なくば受くべからず。 20罪

を犯せる者をば衆の前にて責めよ、これ他の人をも懼れしめんためなり。21われ神とキリスト・イエスと選ばれたる御使たちとの前にて厳かに汝に命ず、何事をも偏り行はず、偏頗なく此等のことを守れ、22軽々しく人に手を按くな、人の罪に與るな、自ら守りて潔くせよ。23今よりのち水のみを飲まず、胃のため、又しばしば病に罹る故に、少しく葡萄酒を用ひよ。24或人の罪は明かにして先だちて審判に往き、或人の罪は後にしたがふ。25斯くのごとく善き業も明かなり、然らざる者も遂には隠るること能はず。

第六章

1おほよそ軛の下にありて奴隷たる者は、おのれの主人を全く尊ぶべき者とすべし。これ神の名と教との譏られざらん爲なり。2信者たる主人を有てる者は、その兄弟なるに因りて之を輕んぜず、反つて彌増々これに事ふべし。その益を受くる主人は信者にして愛せらるる者なればなり。汝これらの事を教へかつ勧めよ。3もし異なる教を傳へて、健全なる言すなはち我らの主イエス・キリストの言と、敬虔にかなふ教とを肯はぬ者あらば、4その人は傲慢にして何をも知らず、ただ議論と言爭とにのみ耽るなり、之によりて嫉妬・爭闘・悪しき念おこり、5また心腐りて眞理をはなれ、敬虔を利益の道とおもふ者の爭論おこるなり。6されど足ることを知りて敬虔を守る者は、大なる利益を得るなり。7我らは何をも携へて世に來らず、また何をも携へて世を去ること能はざればなり。8ただ衣食あらば足れりとせん。9されど富まんと欲する者は、誘惑と羂、また人を滅亡と沈淪とに溺らす愚にして害ある各様の慾に陥るなり。10それ金を愛するは諸般の悪しき事の根なり、ある人々これを慕ひて信仰より迷ひ、さまざまの痛をもて自ら己を刺しとほせり。11神の人よ、なんぢは此等のことを避けて、義と敬虔と信仰と愛と忍耐と柔和とを追ひ求め、12信仰の善き戰闘をたたかへ、永遠の生命をとらへよ。汝これが爲に召を蒙り、また多くの證人の前にて善き言明をなせり。13われ凡ての物を生かしたまふ神のまへ、及びポンテオ・ピラトに向ひて善き言明をなし給ひしキリスト・イエスの前にて汝に命ず。14汝われらの主イエス・キリストの現れたまふ時まで汚點なく責むべき所なく、誡命を守れ。15時いたらば幸福なる唯一の君主、もろもろの王の王、もろもろの主の主、これを顯し給はん。16主は唯ひとり不死を保ち近づきがたき光に住み、人の未だ見ず、また見ること能はぬ者なり。願はくは尊貴と限りなき權力と彼にあらんことを、アァメン。17汝この世の富める者に命ぜよ。高ぶりたる思をもたず、定なき富をたのまずして、唯われらを樂しませんとて萬の物を豐に賜ふ神に依頼み、18善をおこなひ、善き業に富み、惜みなく施し、分け與ふることを喜び、19かくて己のために善き基を蓄へ、未來の備をなして眞の生命を捉ふることを爲よと。20テモテよ、なんぢ委ねられたる事を守り、妄なる虚しき物語、また僞りて知識と稱ふる反對論を避けよ。21ある人々この知識を裝ひて信仰より外れたり。願はくは御恵なんじと偕に在らんことを。

テモテへの後の書

第一章

1神の御意により、キリスト・イエスにある生命の約束に循ひて、キリスト・イエスの使徒になれるパウロ、2書を我が愛する子テモテに贈る。願はくは父なる神および我らの主キリスト・イエスより賜ふ、恩恵と憐憫と平安と汝に在らんことを。3われ夜も晝も祈の中に絶えず汝を思ひて、わが先祖に效ひ清き良心をもて事ふる神に感謝す。4我なんぢの涙を憶え、わが歓喜の滿ちん爲に汝を見んことを欲す。5是なんぢに在る虚僞なき信仰をおもひ出すに因りてなり。その信仰の曩に汝の祖母ロイス及び母ユニケに宿りしごとく、汝にも然るを確信す。6この故に、わが按手に因りて汝の内に得たる神の賜物をますます熾にせんことを勧む。7そは神の我らに賜ひたるは、臆する靈にあらず、能力と愛と謹愼との靈なればなり。8されば汝われらの主の證をなす事と、主の囚人たる我とを恥とすな、ただ神の能力に隨ひて福音のために我とともに苦難を忍べ。9神は我らを救ひ聖なる召をもて召し給へり。是われらの行爲に由るにあらず、神の御旨にて創世の前にキリスト・イエスをもて我らに賜ひし恩恵に由るなり。10この恩恵は今われらの救主キ

リスト・イエスの現れ給ふに因りて顕れたり。彼は死をほろぼし、福音をもて生命と朽ちざる事とを明かにし給へり。 11我はこの福音のために立てられて宣傳者・使徒・教師となれり。 12之がために我これらの苦難に遭ふ。されど之を恥とせず、我わが依頼む者を知り、且わが委ねたる者を、かの日に至るまで守り得給ふことを確信すればなり。 13汝キリスト・イエスにある信仰と愛とをもて我より聽きし健全なる言の模範を保ち、 14かつ委ねられたる善きものを我等のうちに宿りたまふ聖靈に頼りて守るべし。 15アジヤに居る者みな我を棄てしは汝の知る所なり、その中にフゲロとヘルモゲネとあり。 16願はくは主オネシポロの家に憐憫を賜はんことを。彼はしばしば我を慰め、又わが鎖を恥とせず。 17そのロマに居りし時には懇ろに尋ね來りて、遂に逢ひたり。 18願はくは主かの日にいたり主の憐憫を彼に賜はんことを、彼がエペソにて我に事へしことの如何ばかりなりしかは、汝の能く知るところなり。

第二章

1わが子よ、汝キリスト・イエスにある恩惠によりて強かれ。 2且おほくの證人の前にて、我より聽きし所のことを他の者に教へ得る忠實なる人々に委ねよ。 3汝キリスト・イエスのよき兵卒として我とともに苦難を忍べ。 4兵卒を務むる者は生活のために纏はるる事なし、これ募れる者を喜ばせんとすればなり。 5技を競ふ者、もし法に隨ひて競はずば冠冕を得ず。 6勞する農夫まづ實の分配を得べきなり。 7汝わが言ふ所をおもへ、主なんぢに凡ての事に就きて悟を賜はん。 8わが福音に云へる如く、ダビデの裔にして死人の中より甦へり給へるイエス・キリストを憶えよ。 9我はこの福音のために苦難を受けて惡人のごとく繋がるるに至れり、されど神の言は繋がれたるにあらず。 10この故に我えらばれたる者のために凡ての事を忍ぶ。これ彼等をして永遠の光榮と共にキリスト・イエスによる救を得しめんとてなり。 11ここに信ずべき言あり『我等もし彼と共に死にたる者ならば、彼と共に生くべし。 12もし耐へ忍ばば、彼と共に王となるべし。若し彼を否まば、彼も我らを否み給はん。 13我らは眞實ならずとも、彼は絶えず眞實にましませり、彼は己を否み給ふこと能はざればなり』 14汝かれらに此等のことを思ひ出さしめ、かつ言爭する事なきやう神の前にて嚴かに命ぜよ、言爭は益なくして聞く者を滅亡に至らしむ。 15なんぢ眞理の言を正しく教へ、恥づる所なき勞動人となりて、神の前に錬達せる者とならんことを勵め。 16また妄なる虚しき物語を避けよ。かかる者はますます不敬虔に進み、 17その言は脱疽のごとく腐れひろがるべし、ヒメナオとピレトとは斯くのごとき者の中にあり。 18彼らは眞理より外れ、復活ははや過ぎたりと云ひて、或人々の信仰を覆へすなり。 19されど神の据ゑ給へる堅き基は立てり、之に印あり、記して曰ふ『主おのれの者を知り給ふ』また『凡て主の名を稱ふる者は不義を離るべし』と。 20大なる家の中には金銀の器あるのみならず、木また土の器もあり、貴きに用ふるものあり、また賤しきに用ふるものあり。 21人もし賤しきものを離れて自己を潔よくせば貴きに用ひらるる器となり、淨められて主の用に適ひ、凡ての善き業に備へらるるべし。 22汝わかき時の慾を避け、主を清き心にて呼び求むる者とともに、義と信仰と愛と平和とを追ひ求めよ。 23愚なる無學の議論を棄てよ、これより分爭の起るを知ればなり。 24主の僕は爭ふべからず、凡ての人に優しく能く教へ忍ぶことをなし、 25逆ふ者をば柔和をもて戒むべし、神あるひは彼らに悔改むる心を賜ひて眞理を悟らせ給はん。 26彼ら一度は惡魔に囚はれたれど、醒めてその羂をのがれ、神の御心を行ふに至らん。

第三章

1されど汝これを知れ、末の世に苦しき時きたらん。 2人々おのれを愛する者・金を愛する者・誇るもの・高ぶる者・罵るもの・父母に逆ふもの・恩を忘るる者・潔からぬ者、 3無情なる者・怨を解かぬ者・讒る者・節制なき者・殘刻なる者・善を好まぬ者、 4友を賣る者・放縱なる者・傲慢なる者・神よりも快樂を愛する者、 5敬虔の貌をとりてその徳を捨つる者とならん、斯かる類の者を避けよ。 6彼らの中には人の家に潜り入りて愚なる女を虜にする者あり、斯くせらるる女は罪を積み重ねて各樣の慾に引かれ、 7常に學べども眞理を知る知識に至ること能はず。 8彼の者らはヤンネとヤンブレとがモーセに逆ひし如く、眞理に逆ふもの、心の腐れたる者、また信仰につきて棄てられたる者なり。 9されど此の上になほ進むこと能はじ、そはかの二人のごとく彼らの愚なる事も亦すべての人に顯るべければなり。 10汝は我が

教誨・品行・志望・信仰・寛容・愛・忍耐・迫害、および苦難を知り、11またアンテオケ、イコニオム、ルステラにて起りし事、わが如何なる迫害を忍びしかを知る。主は凡てこれらの中より我を救ひ出したまへり。12凡そキリスト・イエスに在りて敬虔をもて一生を過さんと欲する者は迫害を受くべし。13惡しき人と人を欺く者とは、ますます惡にすすみ、人を惑し、また人に惑されん。14されど汝は學びて確信したる所に常に居れ。なんぢ誰より之を學びしかを知り、15また幼き時より聖なる書を識りし事を知ればなり。この書はキリスト・イエスを信ずる信仰によりて救に至らしむる知慧を汝に與へ得るなり。16聖書はみな神の感動によるものにして、教誨と譴責と矯正と義を薫陶するとに益あり。17これ神の人の全くなりて諸般の善き業に備を全うせん爲なり。

第四章

1われ神の前また生ける者と死にたる者とを審かんとし給ふキリスト・イエスの前にて、その顯現と御國とをおもひて嚴かに汝に命ず。2なんぢ御言を宣傳へよ、機を得るも機を得ざるも常に勵め、寛容と教誨とを盡して責め、戒め、勸めよ。3人々健全なる教に堪へず、耳痒くして私慾のままに己がために教師を増し加へ、4耳を眞理より背けて昔話に移る時來らん。5されど汝は何事にも愼み、苦難を忍び、傳道者の業をなし、なんぢの職を全うせよ。6我は今供物として血を灑がんとす、わが去るべき時は近づけり。7われ善き戰鬪をたたかひ、走るべき道程を果し、信仰を守れり。8今よりのち義の冠冕わが爲に備はれり。かの日に至りて正しき審判主なる主、これを我に賜はん、啻に我のみならず、凡てその顯現を慕ふ者にも賜ふべし。9なんぢ勉めて速かに我に來れ。10デマスは此の世を愛し、我を棄ててテサロニケに往き、クレスケンスはガラテヤに、テトスはダルマテヤに往きて、11唯ルカのみ我とともに居るなり。汝マルコを連れて共に來れ、彼は職のために我に益あればなり。12我テキコをエペソに遣せり。13汝きたる時わがトロアスにてカルポの許に遺し置きたる外衣を携へきたれ、また書物、殊に羊皮紙のものを携へきたれ。14金細工人アレキサンデル大に我を惱せり。主はその行爲に隨ひて彼に報いたまふべし。15汝もまた彼に心せよ、かれは甚だしく我らの言に逆ひたり。16わが始の辯明のとき誰も我を助けず、みな我を棄てたり、願はくはこの罪の彼らに歸せざらんことを。17されど主われと偕に在して我を強めたまへり。これ我によりて宣教の全うせられ、凡ての異邦人のこれを聞かん爲なり。而して我は獅子の口より救ひ出されたり。18また主は我を凡ての惡しき業より救ひ出し、その天の國に救ひ入れたまはん。願はくは榮光世々限りなく彼にあらん事を、アァメン。19汝プリスカ及びアクラ、またオネシポロの家に安否を問へ。20エラストはコリントに留れり。トロピモは病ある故に我かれをミレトに遺せり。21なんぢ勉めて冬のまへに我に來れ、ユブロ、プデス、リノス、クラウデヤ、及び凡ての兄弟、なんぢに安否を問ふ。22願はくは主なんぢの靈と偕に在し、御惠なんぢらと偕に在らんことを。

テトスへの書

第一章

1神の僕またイエス・キリストの使徒パウロ——我が使徒となれるは、永遠の生命の望に基きて神の選民の信仰を堅うし、また彼らを敬虔にかなふ眞理を知る知識に至らしめん爲なり。2僞りなき神は、創世の前に、この生命を約束し給ひしが、3時いたりて御言を宣教にて顯さんとし、その宣教を我らの救主たる神の命令をもて我に委ねたまへり。——4われ書を同じ信仰によりて我が眞實の子たるテトスに贈る。願はくは父なる神および我らの救主キリスト・イエスより賜ふ恩惠と平安と、汝にあらんことを。5わが汝をクレテに遺し置きたる故は、汝をして缺けたる所を正し、且わが命ぜしごとく町々に長老を立てしめん爲なり。6長老は責むべき所なく、一人の女の夫にして、子女もまた放蕩をもて訴へらるる事なく、服從せぬことなき信者たるべきなり。7それ監督は神の家司なれば、責むべき所なく、放縱ならず、輕々しく怒らず、酒を嗜まず、人を打たず、恥づべき利を取らず、8反つて旅人を懇ろに待ひ、善を愛し、謹愼あ

り、正しく潔く節制にして、9教に適ふ信ずべき言を守る者たるべし。これ健全なる教をもて人を勸め、かつ言ひ逆ふ者を言ひ伏することを得んためなり。10服從せず、虛しき事をかたり、人の心を惑す者おほし、殊に割禮ある者のうちに多し。11彼らの口を箝がしむべし、彼らは恥づべき利を得んために、教ふまじき事を教へて全家を覆へすなり。12クレテ人の中なる或る預言者いふ『クレテ人は常に虛僞をいふ者、あしき獸、また懶惰の腹なり』13この證は眞なり。されば汝きびしく彼らを責めよ、14彼らがユダヤ人の昔 話と眞理を棄てたる人の誡命とに心を寄することなく、信仰を健全にせん爲なり。15潔き人には凡ての物きよく、汚れたる人と不 信者とには一つとして潔き物なし、彼らは既に心も良心も汚れたり。16みづから神を知ると言ひあらはせど、其の行爲にては神を否む。彼らは憎むべきもの、服はぬ者、すべての善き業に就きて棄てられたる者なり。

第二章

1されど汝は健全なる教に適ふことを語れ。2老人には自ら制することと謹嚴と謹愼とを勸め、また信仰と愛と忍耐とに健全ならんことを勸めよ。3老いたる女にも同じく、清潔にかなふ行爲をなし、人を謗らず、大酒の奴隸とならず、善き事を教ふる者とならんことを勸めよ。4かつ彼 等をして若き女に夫を愛し、子を愛し、5謹愼と貞操とを守り、家の務をなし、仁慈をもち、己が夫 に服はんことを教へしめよ。これ神の言の汚されざらん爲なり。6若き人にも同じく謹愼を勸め、7なんぢ自ら凡ての事につきて善き業の模範を示せ。教をなすには邪曲なきことと謹嚴と、8責むべき所なき健全なる言とを以てすべし。これ逆ふ者をして我らの惡を言ふに由なく、自ら恥づる所あらしめん爲なり。9奴隸には己が主人に服ひ、凡ての事において之を喜ばせ、之に言ひ逆はず、10物を盜まず、反つて全き忠 信を顯すべきことを勸めよ。これ凡ての事において我らの救 主なる神の教を飾らん爲なり。11凡ての人に救を得さする神の恩惠は既に顯れて、12不 敬虔と世の慾とを棄てて謹愼と正義と敬虔とをもて此の世を過し、13幸福なる望、すなはち大なる神、われらの救 主イエス・キリストの榮光の顯現を待つべきを我らに教ふ。14キリストは我等のために己を與へたまへり。是われらを諸般の不法より贖ひ出して、善き業に熱心なる特選の民を己がために潔めんとてなり。15なんぢ全き權威をもて此 等のことを語り、勸め、また責めよ。なんぢ人に輕んぜらるな。

第三章

1汝かれらに司と權威ある者とに服し、かつ從ひ、凡ての善き業をおこなふ備をなし、2人を謗らず、爭はず、寬容にし、常に柔和を凡ての人に顯すべきことを思ひ出させよ。3我らも前には愚なるもの、順はぬもの、迷へる者、さまざまの慾と快樂とに事ふるもの、惡意と嫉妬とをもて過すもの、憎むべき者、また互に憎み合ふ者なりき。4されど我らの救 主なる神の仁慈と、人を愛したまふ愛との顯れしとき、5我らの行ひし義の業にはよらで、唯その憐憫により、更 生の洗と、我らの救 主イエス・キリストをもて豐に注ぎたまふ聖 靈による維新とにて、我らを救ひ給へり。6我らの行ひし義の業にはよらで、唯その憐憫により、更 生の洗と、我らの救 主イエス・キリストをもて豐に注ぎたまふ聖 靈による維新とにて、我らを救ひ給へり。7これ我らが其の恩惠によりて義とせられ、永遠の生命の望にしたがひて世嗣とならん爲なり。8この言は信ずべきなれば、我なんぢが此 等につきて確證せんことを欲す。神を信じたる者をして愼みて善き業を務めしめん爲なり。かくするは善き事にして人に益あり。9されど愚なる議論・系圖・爭鬪、また律法に就きての分爭を避けよ。これらは益なくして空しきものなり。10異端の者をば一度もしくは二度、訓戒して後これを棄てよ。11かかる者は汝の知るごとく、邪曲にして自ら罪を認めつつ尚これを犯すなり。12我アルテマス或はテキコを汝に遣さん、その時なんぢ急ぎてニコポリなる我がもとに來れ。われ彼處にて冬を過さんと定めたり。13教法師ゼナス及びアポロを懇ろに送りて、乏しき事なからしめよ。14かくて我らの伴侶も善き業を務めて必要を資けんことを學ぶべし、これ果を結ばぬ事なからん爲なり。15我と偕に居る者みな汝に安否を問ふ。信仰に在りて我らを愛する者に安否を問へ。願はくは御惠、なんぢら凡ての者と偕にあらん事を。

ピレモンへの書

第一章

1キリスト・イエスの囚人たるパウロ及び兄弟テモテ、書を我らが愛する同勞者ピレモン、 2我らの姉妹アピヤ、我らと共に戰鬪をなせるアルキポ及び汝の家にある教會に贈る。 3願はくは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩惠と平安と、汝らに在らんことを。 4われ祈るとき常に汝をおぼえて我が神に感謝す。 5これ主イエスと凡ての聖徒とに對する汝の愛と信仰とを聞きたればなり。 6願ふところは、汝の信仰の交際の活動により、人々われらの中なる凡ての善き業を知りて、榮光をキリストに歸するに至らんことなり。 7兄弟よ、我なんぢの愛によりて大なる勸喜と慰安とを得たり。聖徒の心は汝によりて安んぜられたればなり。 8この故に、われキリストに在りて、汝になすべき事を聊かも憚らず命じ得れど、 9むしろ愛の故によりて汝にねがふ。 10既に年老いて今はキリスト・イエスの囚人となれる我パウロ、縲紲の中にて生みし我が子オネシモの事をなんぢに願ふ。 11かれ前には汝に益なき者なりしが、今は汝にも我にも益ある者となれり。 12我かれを汝に歸す、かれは我が心なり。 13我は彼をわが許に留めおきて、我が福音のために縲紲にある間、なんぢに代りて我に事へしめんと欲したれど、 14なんぢの承諾を經ずして斯くするを好まざりき、是なんぢの善の止むを得ざるに出でずして心より出でんことを欲したればなり。 15彼が暫時なんぢを離れしは、或は汝かれを永遠に保ち、 16もはや奴隸の如くせず、奴隸に勝りて愛する兄弟の如くせん爲なりしやも知るべからず。我は殊に彼を愛す、まして汝は肉によりても主によりても、之を愛せざる可けんや。 17汝もし我を友とせば、請ふ、われを納るるごとく彼を納れよ。 18彼もし汝に不義をなし、または汝に負債あらば、之を我に負はせよ。 19我パウロ手づから之を記す、われ償はん、汝われに身を以て償ふべき負債あれど、我これを言はず。 20兄弟よ、請ふ、なんぢ主に在りて我に益を得させよ、キリストに在りて我が心を安んぜよ。 21我なんぢの從順を確信して之を書き贈る。わが言ふところに勝りて汝の行はんことを知るなり。 22而して我がために宿を備へよ、我なんぢらの祈により、遂に我が身の汝らに與へられんことを望めばなり。 23キリスト・イエスに在りて我とともに囚人となれるエパフラス、 24及び我が同勞者マルコ、アリスタルコ、デマス、ルカ皆なんぢに安否を問ふ。 25願はくは主イエス・キリストの恩惠、なんぢらの靈と偕にあらんことを。

ヘブル人への書

第一章

1神むかしは預言者 等により、多くに分ち、多くの方法をもて先祖たちに語り給ひしが、2この末の世には御子によりて、我らに語り給へり。神は曾て御子を立てて萬の物の世嗣となし、また御子によりて諸般の世界を造り給へり。3御子は神の榮光のかがやき、神の本質の像にして、己が權能の言をもて萬の物を保ちたまふ。また罪の潔をなして、高き處にある稜威の右に坐し給へり。4その受け給ひし名の御使の名に勝れるごとく、御使よりは更に勝る者となり給へり。5神は孰の御使に曾て斯くは言ひ給ひしぞ『なんぢは我が子なり、われ今日なんぢを生めり』と。また『われ彼の父となり、彼わが子とならん』と。6また初子を再び世に入れ給ふとき『神の凡ての使は之を拜すべし』と言ひ給ふ。7また御使たちに就きては『神は、その使たちを風となし、その事ふる者を焔となす』と言ひ給ふ。8されど御子に就きては『神よ、なんじの御座は世々限りなく、汝の國の杖は正しき杖なり。9なんぢは義を愛し、不法をにくむ。この故に神なんぢの神は歡喜の油を、汝の友に勝りて汝にそそぎ給へり』と。10また『主よ、なんぢ太初に地の基を置きたまへり、天も御手の業なり。11これらは滅びん、されど汝は常に存へたまはん。これらはみな衣のごとく舊びん。12而して汝これらを袍のごとく疊み給はん、これらは衣のごとく變らん。されど汝はかはり給ふことなく汝の齡は終らざるなり』と言ひたまふ。13又いづれの御使に曾て斯くは言ひ給ひしぞ『われ汝の仇を汝の足臺となすまでは、我が右に坐せよ』と。14御使はみな事へまつる靈にして、救を嗣がんとする者のために職を執るべく遣されたる者にあらずや。

第二章

1この故に我ら聞きし所をいよいよ篤く愼むべし、恐らくは流れ過ぐる事あらん。2若し御使によりて語り給ひし言すら堅くせられて、咎と不 從 順とみな正しき報を受けたらんには、3我ら斯くのごとき大なる救を等閑にして爭でか遁るることを得ん。この救は初め主によりて語り給ひしものにして、聞きし者ども之を我らに確うし、4神また徵と不思議とさまざまの能力ある業と、御旨のままに分ち與ふる聖 靈とをもて證を加へたまへり。5それ神は我らの語るところの來らんとする世界を、御使たちには服はせ給はざりき。6或 篇に人 證して言ふ『人は如何なる者なれば、之を御心にとめ給ふか。人の子は如何なる者なれば、之を顧み給ふか。7汝これを御使よりも少しく卑うし、光榮と尊貴とを冠らせ、8萬 の物をその足の下の服はせ給へり』と。既に萬の物を之に服はせ給ひたれば、服はぬものは一つだに殘さるる事なし。されど今もなほ我らは萬の物の之に服ひたるを見ず。9ただ御使よりも少しく卑くせられしイエスの、死の苦難を受くるによりて榮光と尊貴とを冠らせられ給へるを見る。これ神の恩惠によりて萬民のために死を味ひ給はんとてなり。10それ多くの子を光榮に導くに、その救の君を苦難によりて全うし給ふは、萬の物の歸するところ、萬の物を造りたまふ所の者に相應しき事なり。11潔めたまふ者も、潔められる者も、皆ただ一つより出づ。この故に彼らを兄弟と稱ふるを恥とせずして言ひ給ふ、12『われ御名を我が兄弟たちに告げ、集會の中にて汝 を讃め歌はん』13また『われ彼に依頼まん』又『視よ、我と神の我に賜ひし子 等とは……』と。14子 等はともに血肉を具ふれば、主もまた同じく之を具へ給ひしなり。これは死の權力を有つもの、即ち惡魔を死によりて亡し、15かつ死の懼によりて生涯、奴隸となりし者どもを解放ち給はんためなり。16實に主は御使を扶けずしてアブラハムの裔を扶けたまふ。17この故に神の事につきて憐憫ある忠實なる大 祭司となりて、民の罪を贖はんために、凡ての事において兄弟の如くなり給ひしは宜なり。18主は自ら試みられて苦しみ給ひたれば、試みられるる者を助け得るなり。

第三章

1されば共に天の召を蒙れる聖なる兄弟よ、我らが言ひあらはす信仰の使徒たり大 祭司たるイエスを思ひ見よ。2彼の己を立て給ひし者に忠實なるは、モーセが神の全家に忠實なりしが如し。3家を造る者の家より勝りて

尊ばるる如く、彼もモーセに勝りて大なる榮光を受くるに相應しき者とせられ給へり。4家は凡て之を造る者あり、萬の物を造り給ひし者は神なり。5モーセは後に語り傳へられんと爲ることの證をせんために、僕として神の全家に忠實なりしが、6キリストは子として神の家を忠實に掌どり給へり。我等もし確信と希望の誇とを終まで堅く保たば、神の家なり。7この故に聖靈の言ひ給ふごとく『今日なんぢら神の聲を聞かば、8その怒を惹きし時のごとく、荒野の嘗試の日のごとく、こころを頑固にするなかれ。9彼處にて汝らの先祖たちは我をこころみて驗し、かつ四十年の間わが業を見たり。10この故に我この代の人を憤ほりて云へり、「彼らは常に心まよい、わが途を知らざりき」と。11われ怒をもて「彼らは、我が休に入るべからず」と誓へり』12兄弟よ、心せよ、恐らくは汝等のうち活ける神を離れんとする不信仰の惡しき心を懷く者あらん。13汝等のうち誰も罪の誘惑によりて頑固にならぬやう、今日と稱ふる間に日々互に相勸めよ。14もし始の確信を終まで堅く保たば、我らはキリストに與る者となるなり。15それ『今日なんじら神の聲を聞かば、その怒を惹きし時のごとく、こころを頑固にするなかれ』と云へ。16然れば聞きてなほ怒を惹きし者は誰なるか、モーセによりてエジプトを出でし凡ての人にあらずや。17また四十年のあひだ、神は誰に對して憤ほり給ひしか、罪を犯してその死屍を荒野に横たへし人々にあらずや。18又かれらは我が安息に入るべからずとは、誰に對して誓ひ給ひしか、不從順なる者にあらずや。19之によりて見れば、彼らの入ること能はざりしは、不信仰によりてなり。

第四章

1然れば我ら懼るべし、その安息に入るべき約束はなほ遺れども、恐らくは汝らの中これに達せざる者あらん。2それは彼らのごとく我らも善き音信を傳へられたり、然れど彼らには聞きし所の言益なかりき。聞くもの之に信仰をまじへざりしに因る。3われら信じたる者は、かの休に入ることを得るなり。『われ怒をもて「彼らは、わが休に入るべからず」と誓へり』と云ひ給ひしが如し。されど世の創より御業は既に成れるなり。4或篇に七日めに就きて斯く云へり『七日めに神その凡ての業を休みたまへり』と。5また茲に『かれらは、我が休に入るべからず』と云へり。6然れば之に入るべき者なほ在り、曩に善き音信を傳へられし者らは、不從順によりて入ることを得ざりしなれば、7久しきを經てのち復、日を定めダビデによりて『今日』と言ひ給ふ。曩に記したるが如し。曰く『今日なんじら神の聲を聞かば、こころを頑固にするなかれ』8若しヨシュア既に休を彼らに得しめしならば、神はその後、ほかの日につきて語り給はざりしならん。9然れば神の民の爲になほ安息は遺れり。10既に神の休に入りたる者は、神のその業を休み給ひしごとく、己が業を休めり。11されば我等はこの休に入らんことを務むべし、是かの不從順の例にならひて誰も墮つることなからん爲なり。12神の言は生命あり、能力あり、兩刃の劍よりも利くして、精神と靈魂、關節と骨髓を透して之を割ち、心の念と志望とを驗すなり。13また造られたる物に一つとして神の前に顯れぬはなし、萬の物は我らが係れる神の目のまへに裸にて露るるなり。14我等には、もろもろの天を通り給ひし偉なる大祭司、神の子イエスあり。然れば我らが言ひあらはす信仰を堅く保つべし。15我らの大祭司は我らの弱を思ひ遣ること能はぬ者にあらず、罪を外にして凡ての事、われらと等しく試みられ給へり。16この故に我らは憐憫を受けんが爲、また機に合ふ助となる惠を得んがために、憚らずして惠の御座に來るべし。

第五章

1凡そ大祭司は人の中より選ばれ、罪のために供物と犧牲とを献げんとて、人にかはりて神に事ふることを任ぜらる。2彼は自らも弱に纏はるるが故に、無知なるもの、迷へる者を思ひ遣ることを得るなり。3之によりて民のために爲すごとく、また己のためにも罪に就きて献物をなさざるべからず。4又この貴き位はアロンのごとく神に召さるるにあらずば、誰も自ら之を取る者なし。5斯くの如くキリストも己を崇めて自ら大祭司となり給はず。之に向ひて『なんじは我が子なり、われ今日なんじを生めり』と語り給ひし者、これを立てたり。6また他の篇に『なんじは永遠にメルキゼデクの位に等しき祭司たり』と言ひ給へるが如し。7キリストは肉體にて在ししとき、大なる叫と涙とをもて、己を死より救ひ得る者に祈と願とを献げ、その恭敬によりて聽かれ給へり。8彼は御子なれど、受けし所の苦難によりて從順

を學び、9かつ全うせられたれば、凡て己に順ふ者のために永遠の救の原となりて、10神よりメルキゼデクの位に等しき大祭司と稱へられ給へり。11之に就きて我ら多くの言ふべき事あれど、汝ら聞くに鈍くなりたれば釋き難し。12なんじら時を經ること久しければ、教師となるべき者なるに、今また神の言の初歩を人より教へられざるを得ず、汝らは堅き食物ならで乳を要する者となれり。13おほよそ乳を用ふる者は幼兒なれば、未だ義の言に熟せず、14堅き食物は智力を練習して善惡を辨ふる成人の用ふるものなり。

第六章

1この故に我らはキリストの教の初歩に止ることなく、再び死にたる行爲の悔改と神に對する信仰との基、2また各樣のバプテスマと按手と、死人の復活と永遠の審判との教の基を置かずして完全に進むべし。3神もし許し給はば、我ら之をなさん。4一たび照されて天よりの賜物を味ひ、聖靈に與る者となり、5神の善き言と來世の能力とを味ひて後、6墮落する者は更にまた自ら神の子を十字架に釘けて肆し者とする故に、再びこれを悔改に立返らすること能はざるなり。7それ地しばしば其の上に降る雨を吸ひ入れて耕す者の益となるべき作物を生ぜば、神より祝福を受く。8されど茨と薊とを生ぜば、棄てられ、かつ詛に近く、その果ては焚かるるなり。9愛する者よ、われら斯くは語れど、汝らには更に善きこと、即ち救にかかはる事あるを深く信ず。10神は不義に在さねば、汝らの勤勞と、前に聖徒につかへ、今もなほ之に事へて御名のために顯したる愛とを忘れ給ふことなし。11我らは汝等がおのおの終まで前と同じ勵をあらはして全き望を保ち、12怠ることなく、信仰と耐忍とをもて約束を嗣ぐ人々に效はんことを求む。13それ神はアブラハムに約し給ふとき、指して誓ふべき己より大なる者なき故に、己を指して誓ひて言ひ給へり、14『われ必ず、なんぢを惠み惠まん、なんぢを殖し殖さん』と、15斯くの如くアブラハムは耐へ忍びて約束のものを得たり。16おほよそ人は己より大なる者を指して誓ふ、その誓はすべての爭論を罷むる保證たり。17この故に神は約束を嗣ぐ者に御旨の變らぬことを充分に示さんと欲して誓を加へ給へり。18これ神の謊ること能はぬ二つの變らぬものによりて、己の前に置かれたる希望を捉へんとて遁れたる我らに強き奬勵を與へん爲なり。19この希望は我らの靈魂の錨のごとく安全にして動かず、かつ幔の内に入る。20イエス我等のために前驅し、永遠にメルキゼデクの位に等しき大祭司となりて、その處に入り給へり。

第七章

1此のメルキゼデクはサレムの王にて至高き神の祭司たりしが、王たちを破りて還るアブラハムを迎へて祝福せり。2アブラハムは彼に凡ての物の十分の一を分け與へたり。その名を釋けば第一に義の王、次にサレムの王、すなはち平和の王なり。3父なく、母なく、系圖なく、齡の始なく、生命の終なく、神の子の如くにして限りなく祭司たり。4先祖アブラハム分捕物のうち十分の一、最も善き物を之に與へたれば、その人の如何に尊きかを思ふべし。5レビの子等のうち祭司の職を受くる者は、律法によりて、民すなはちアブラハムの腰より出でたる己が兄弟より、十分の一を取ることを命ぜらる。6されど此の血脈にあらぬ彼は、アブラハムより十分の一を取りて約束を受けし者を祝福せり。7それ小なる者の大なる者に祝福せらるるは論なき事なり。8かつ此所にては死ぬべき者十分の一を受くれども、彼處にては『活くるなり』と證せられた者これを受く。9また十分の一を受くるレビすら、アブラハムに由りて十分の一を納めたりと云ふも可なり。10そはメルキゼデクのアブラハムを迎へし時に、レビはなほ父の腰に在りたればなり。11もしレビの系なる祭司によりて全うせらるる事ありしならば（民は之によりて律法を受けたり）何ぞなほ他にアロンの位に等しからぬメルキゼデクの位に等しき祭司の起る必要あらんや。12祭司の易る時には律法も亦必ず易るべきなり。13此等のことは曾て祭壇に事へたることなき他の族に屬する者をさして云へるなり。14それ我らの主のユダより出で給へるは明かにして、此の族につき、モーセは聊かも祭司に係ることを云はざりき。15又メルキゼデクのごとき他の祭司おこり、肉の誡命の法に由らず、朽ちざる生命の能力によりて立てられたれば、我が言ふ所いよいよ明かなり。16又メルキゼデクのごとき他の祭司おこり、肉の誡命の法に由らず、朽ちざる生命の能力によりて立てられたれば、我が言ふ所いよいよ明かなり。17そは『なんぢは永遠にメルキゼデクの位に等し

き祭司たり』と證せられ給へばなり。18前の誡命は弱く、かつ益なき故に廢せられ、19（律法は何をも全うせざりしなり）更に優れたる希望を置かれたり、この希望によりて我らは神に近づくなり。20かの人々は誓なくして祭司とせられたれども、21彼は誓なくしては爲られず、誓をもて祭司とせられ給へり。即ち彼に就きて『主ちかひて悔い給はず、「なんじは永遠に祭司たり」』と言ひ給ひしが如し。22イエスは斯くも優れたる契約の保證となり給へり。23かの人々は死によりて永くその職に留ることを得ざる故に、祭司となりし者の數多かりき。24されど彼は永遠に在せば易ることなき祭司の職を保ちたまふ。25この故に彼は己に頼りて神にきたる者のために執成をなさんとて常に生くれば、之を全く救ふこと得給ふなり。26斯くのごとき大祭司こそ我らに相應しき者なれ、即ち聖にして惡なく、穢なく、罪人より遠ざかり、諸般の天よりも高くせられ給へり。27他の大祭司のごとく先づ己の罪のため、次に民の罪のために日々犧牲を献ぐるを要し給はず、その一たび己を献げて之を成し給ひたればなり。28律法は弱みある人々を立てて大祭司とすれども、律法の後なる誓の御言は、永遠に全うせられ給へる御子を大祭司となせり。

第八章

1今いふ所の要點は斯くのごとき大祭司の我らにある事なり。彼は天にては稜威の御座の右に坐し、2聖所および眞の幕屋に事へたまふ。この幕屋は人の設くるものにあらず、主の設けたまふ所なり。3おおよそ大祭司の立てらるるは供物と犧牲とを献げん爲なり、この故に彼もまた献ぐべき物あるべきなり。4然るに若し地に在さば、既に律法に循ひて供物を献ぐる祭司等あるによりて祭司とはなり給はざるべし。5彼らの事ふるは、天にある物の型と影となり。モーセが幕屋を建てんとする時に『愼め、山にて汝が示されたる式に效ひて凡ての物を造れ』との御告を受けしが如し。6されどキリストは更に勝れる約束に基きて立てられし勝れる契約の中保となりたれば、更に勝る職を受け給へり。7かつ初の契約もし虧くる所なくば、第二の契約を求むる事なかりしならん。8然るに彼らを咎めて言ひ給ふ『主いひ給ふ「視よ、我イスラエルの家とユダの家とに、新しき契約を設くる日來らん。9この契約は我かれらの先祖の手を執りて、エジプトの地より導き出しし時に立てし所の如きにあらず、彼らは我が契約にとどまらず、我も彼らを顧みざりしなり」と主いひ給ふ。10「されば、かの日の後に我がイスラエルの家と立つる契約は是なり」と主いひ給ふ。「われ我が律法を彼らの念に置き、そのこころに之を記さん、また我かれらの神となり、彼らは我が民とならん。11彼らはまた各人その國人に、その兄弟に教へて、なんじ主を知れと言はざるべし。そは小より大に至るまで、皆われを知らん。12我もその不義を憐み、この後また其の罪を思ひ出でざるべし』と。13既に『新し』と言ひ給へば、初のものを舊しとし給へるなり、舊びて衰ふるものは、消失せんとするなり。

第九章

1初の契約には禮拜の定と世に屬する聖所とありき。2設けられたる幕屋あり、前なるを聖所と稱へ、その中に燈臺と案と供のパンとあり。3また第二の幕の後に至聖所と稱ふる幕屋あり。4その中に金の香壇と金にて徧く覆ひたる契約の櫃とあり、この中にマナを納れたる金の壺と芽したるアロンの杖と契約の石碑とあり、5櫃の上に榮光のケルビムありて贖罪所を覆ふ。これらの物に就きては、今一々言ふこと能はず、6此等のもの斯く備りたれば、祭司たちは常に前なる幕屋に入りて禮拜をおこなふ。7されど奥なる幕屋には、大祭司のみ年に一度おのれと民との過失のために献ぐる血を携へて入るなり。8之によりて聖靈は前なる幕屋のなほ存するあひだ、至聖所に入る道の未だ顯れざるを示し給ふ。9この幕屋はその時のために設けられたる比喩なり、之に循ひて献げたる供物と犧牲とは、禮拜をなす者の良心を全うすること能はざりき。10此等はただ食物・飲物さまざまの濯事などに係り、肉に屬する定にして、改革の時まで負せられたるのみ。11然れどキリストは來らんとする善き事の大祭司として來り、手にて造らぬ此の世に屬せぬ更に大なる全き幕屋を經て、12山羊と犢との血を用ひず、己が血をもて只一たび至聖所に入りて、永遠の贖罪を終へたまへり。13もし山羊および牡牛の血、牝牛の灰などを穢れし者にそそぎて其の肉體を潔むることを得ば、14まして永遠の御靈により瑕なくして己を神に献げ給ひしキリストの血は、我らの良心を死にたる行爲より潔めて活ける神に事へしめざらんや。15この故に彼は

新しき契約の中保なり。これ初の契約の下に犯したる咎を贖ふべき死あるによりて、召されたる者に約束の永遠の嗣業を受けさせん爲なり。16それ遺言は必ず遺言者の死を要す。17遺言は遺言者死にてのち始めて效あり、遺言者の生くる間は效なきなり。18この故に初の契約も血なくして立てしにあらず。19モーセ律法に循ひて諸般の誡命をすべての民に告げてのち、犢と山羊との血また水と緋色の毛とヒソプとをとりて、書および凡ての民にそそぎて言ふ、20『これ神の汝らに命じたまふ契約の血なり』と。21また同じく幕屋と祭のすべての器とに血をそそげり。22おほよそ律法によれば、萬のもの血をもて潔めらる。もし血を流すことなくば、赦さるることなし。23この故に天に在るものに象りたる物は此等にて潔められ、天にある物は此等に勝りたる犧牲をもて潔めらるべきなり。24キリストは眞のものに象れる、手にて造りたる聖所に入らず、眞の天に入りて今より我等のために神の前にあらはれ給ふ。25これ大祭司が年ごとに他の物の血をもて聖所に入るごとく、屢次おのれを献ぐる爲にあらず。26もし然らずば世の創より以來しばしば苦難を受け給ふべきなり。然れど今、世の季にいたり己を犧牲となして罪を除かんために一たび現れたまへり。27一たび死ぬることと死にてのち審判を受くることとの人に定りたる如く、28キリストも亦おほくの人の罪を負はんが爲に一たび献げられ、復罪を負ふことなく、己を待望む者に再び現れて救を得させ給ふべし。

第十章

1それ律法は來らんとする善き事の影にして眞の形にあらねば、年毎にたえず献ぐる同じ犧牲にて、神にきたる者を何時までも全うすることを得ざるなり。2もし之を得ば、禮拜をなす者、一たび潔められて復心に罪を憶えねば、献ぐることを止めしならん。3然れど犧牲によりて、年ごとに罪を憶ゆるなり。4これ牡牛と山羊との血は罪を除くこと能はざるに因る。5この故にキリスト世に來るとき言ひ給ふ『なんぢ犧牲と供物とを欲せず、唯わが爲に體を備へたまへり。6なんぢ燔祭と罪祭とを悦び給はず、7その時われ言ふ「神よ、我なんぢの御意を行はんとて來る」我につきて書の巻に録されたるが如し』と。8先には『汝いけにへと供物と燔祭と罪祭と（即ち律法に循ひて献ぐる物）を欲せず、また悦ばず』と言ひ、9後に『視よ、我なんぢの御意を行はんとて來る』と言ひ給へり。その後なる者を立てん爲に、その先なる者を除き給ふなり。10この御意に適ひてイエス・キリストの體の一たび献げられしに由りて我らは潔められたり。11すべての祭司は日毎に立ちて事へ、いつまでも罪を除くこと能はぬ同じ犧牲をしばしば献ぐ。12然れどキリストは罪のために一つの犧牲を献げて限りなく神の右に坐し、13斯くて己が仇の己が足臺とせられん時を待ちたまふ。14そは潔められらる者を一つの供物にて限りなく全うし給ふなり。15聖靈も亦われらに之を證して16『「この日の後、われ彼らと立つる契約は是なり」と主いひ給ふ。また「わが律法をその心に置き、その念に銘さん」』と言ひ給ひて、17『この後また彼らの罪と不法とを思ひ出でざるべし』と言ひたまふ。18かかる赦ある上は、もはや罪のために献物をなす要なし。19然れば兄弟よ、我らイエスの血により、20その肉體たる幔を經て我らに開き給へる新しき活ける路より憚らずして至聖所に入ることを得、21かつ神の家を治むる大なる祭司を得たれば、22心は濯がれて良心の咎をさり、身は清き水にて洗はれ、眞の心と全き信仰とをもて神に近づくべし。23また約束し給ひし者は忠實なれば、我ら言ひあらはす所の望を動かさずして堅く守り、24互に相顧み、愛と善き業とを勵まし、25集會をやむる或人の習慣の如くせず、互に勸め合ひ、かの日のいよいよ近づくを見て、ますます斯くの如くすべし。26我等もし眞理を知る知識をうけたる後、ことさらに罪を犯して止めずば、罪のために犧牲、もはや無し。27ただ畏れつつ審判を待つことと、逆ふ者を焚きつくす烈しき火とのみ遺るなり。28モーセの律法を蔑する者は慈悲を受くることなく、二三人の證人によりて死に至る。29まして神の子を蹈みつけ、己が潔められし契約の血を潔からずとなし、恩惠の御靈を侮る者の受くべき罰の重きこと如何許とおもふか。30『仇を復すは我に在り、われ之を報いん』と言ひ、また『主その民を審かん』と言ひ給ひし者を我らは知るなり。31活ける神の御手に陥るは畏るべきかな。32なんぢら御光を受けしのち苦難の大なる戰鬪に耐へし前の日を思ひ出でよ。33或は誹謗と患難とに遭ひて觀物にせられ、或は斯かることに遭ふ人の友となれり。34また囚人となれる者を思ひやり、永く存する尤も勝れる所有の己にあるを知りて、我が所有を奪はるるをも喜びて忍

びたり。35されば大なる報を受くべき汝らの確信を投げすつな。36なんぢら神の御意を行ひて約束のものを受けん爲に必要なるは忍耐なり。37『いま暫くせば、來るべき者きたらん、遲からじ。38我に屬ける義人は、信仰によりて活くべし。もし退かば、わが心これを喜ばじ』39然れど我らは退きて滅亡に至る者にあらず、靈魂を得るに至る信仰を保つ者なり。

第十一章

1それ信仰は望むところを確信し、見ぬ物を眞實とするなり。2古への人は之によりて證せられたり。3信仰によりて我等は、もろもろの世界の神の言にて造られ、見ゆる物の顯るる物より成らざるを悟る。4信仰に由りてアベルはカインよりも勝れる犧牲を神に献げ、之によりて正しと證せられたり。神その供物につきて證し給へばなり。彼は死ぬれども、信仰によりて今なほ語る。5信仰に由りてエノクは死を見ぬように移されたり。神これを移し給ひたれば見出されざりき。その移さるる前に神に喜ばるることを證せられたり。6信仰なくしては神に悦ばるること能はず、そは神に來る者は、神の在すことと神の己を求むる者に報い給ふこととを、必ず信ずべければなり。7信仰に由りてノアは、未だ見ざる事につきて御告を蒙り、畏みてその家の者を救はん爲に方舟を造り、かつ之によりて世の罪を定め、また信仰に由る義の世嗣となれり。8信仰に由りてアブラハムは召されしとき嗣業として受くべき地に出で往けとの命に遵ひ、その往く所を知らずして出で往けり。9信仰により異國に在るごとく約束の地に寓り、同じ約束を嗣ぐべきイサクとヤコブと共に幕屋に住めり、10これ神の營み造りたまふ基礎ある都を望めばなり。11信仰に由りてサラも約束したまふ者の忠實なるを思ひし故に、年邁ぎたれど胤をやどす力を受けたり。12この故に死にたる者のごとき一人より天の星のごとく、また海邊の數へがたき砂のごとく夥多しく生れ出でたり。13彼 等はみな信仰を懷きて死にたり、未だ約束の物を受けざりしが、遙にこれを見て迎へ、地にては旅人また寓れる者なるを言ひあらはせり。14斯く言ふは、己が故郷を求むることを表すなり。15若しその出でし處を念はば、歸るべき機ありしなるべし。16されど彼らの慕ふ所は天にある更に勝りたる所なり。この故に神は彼らの神と稱へらるるを恥とし給はず、そは彼 等のために都を備へ給へばなり。17信仰に由りてアブラハムは試みられし時イサクを献げたり、彼は約束を喜び受けし者なるに、その獨子を献げたり。18彼に對しては『イサクより出づる者なんぢの裔と稱へらるべし』と云ひ給ひしなり。19かれ思へらく、神は死人の中より之を甦へらすることを得給ふと、乃ち死より之を受けしが如くなりき。20信仰に由りてイサクは來らんとする事につきヤコブとエサウとを祝福せり。21信仰に由りてヤコブは死ぬる時ヨセフの子 等をおのおの祝福し、その杖の頭によりて禮拜せり。22信仰に由りてヨセフは生命の終らんとする時、イスラエルの子らの出で立つことに就きて語り、又おのが骨のことを命じたり。23信仰に由りて兩親はモーセの生れたる時、その美しき子なるを見て、王の命をも畏れずして三月の間これを匿したり。24信仰に由りてモーセは人と成りしときパロの女の子と稱へらるるを否み、25罪のはかなき歡樂を受けんよりは、寧ろ神の民とともに苦しまんことを善しとし、26キリストに因る謗はエジプトの財寶にまさる大なる富と思へり、これ報を望めばなり。27信仰に由りて彼は王の憤恚を畏れずしてエジプトを去れり。これ見えざる者を見るがごとく耐ふる事をすればなり。28信仰に由りて彼は過越と血を灑ぐこととを行へり、これ初子を滅す者の彼らに觸れざらん爲なり。29信仰に由りてイスラエル人は紅海を乾ける地のごとく渡りしが、エジプト人は然せんと試みて溺れ死にたり。30信仰に由りて七日のあいだ廻りたればエリコの石垣は崩れたり。31信仰に由りて遊女ラハブは平和をもて間者を接けたれば、不 從 順の者とともに亡びざりき。32この外なにを言ふべきか、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル及び預言者たちに就きて語らば、時 足らざるべし。33彼らは信仰によりて國々を服へ、義をおこなひ、約束のものを得、獅子の口をふさぎ、34火の勢力を消し、劍の刃をのがれ、弱よりして強くせられ、戰爭に勇ましくなり、異國人の軍勢を退かせたり。35女は死にたる者の復活を得、ある人は更に勝りたる復活を得んために、免さるることを願はずして極刑を甘んじたり。36その他の者は嘲笑と鞭と、また縲紲と牢獄との試錬を受け、37或 者は石にて擊たれ、試みられ、鐵鋸にて挽かれ、劍にて殺され、羊・山羊の皮を纏ひて經あるき、乏しくなり、惱され、苦しめられ、38（世は彼らを置くに堪へ

ず）荒野と山と洞と地の穴とに徨へり。39彼 等はみな信仰に由りて證せられたれども約束のものを得ざりき。40これ神は我らの爲に勝りたるものを備へ給ひし故に、彼らも我らと偕ならざれば、全うせらるる事なきなり。

第十二章

1この故に我らは斯く多くの證人に雲のごとく圍まれたれば、凡ての重荷と纏へる罪とを除け、忍耐をもて我らの前に置かれたる馳場をはしり、2信仰の導師また之を全うする者なるイエスを仰ぎ見るべし。彼はその前に置かれたる歡喜のために、恥をも厭はずして十字架をしのび、遂に神の御座の右に坐し給へり。3なんじら倦み疲れて心を喪ふこと莫らんために、罪人らの斯く己に逆ひしことを忍び給へる者をおもへ。4汝らは罪と鬪ひて未だ血を流すまで抵抗しことなし。5また子に告ぐるごとく汝らに告げ給ひし勸言を忘れたり。曰く『わが子よ、主の懲戒を輕んずるなかれ、主に戒められるるとき倦むなかれ。6そは主、その愛する者を懲しめ、凡てその受け給ふ子を鞭うち給へばなり』と。7汝らの忍ぶは懲戒のため爲なり、神は汝らを子のごとく待ひたまふ、誰か父の懲しめぬ子あらんや。8凡ての人の受くる懲戒、もし汝らに無くば、それは私生兒にして眞の子にあらず、9また我らの肉體の父は、我らを懲しめし者なるに尚これを敬へり、況して靈魂の父に服ひて生くることを爲ざらんや。10そは肉體の父は暫くの間その心のままに懲しむることを爲しが、靈魂の父は我らを益するために、その聖潔に與らせんとて懲しめ給へばなり。11凡ての懲戒、今は喜ばしと見えず、反つて悲しと見ゆ、されど後これに由りて練習する者に、義の平安なる果を結ばしむ。12されば衰へたる手、弱りたる膝を強くし、13足蹇へたる者の履み外すことなく、反つて醫されんために汝らの足に直なる途を備へよ。14力めて凡ての人と和ぎ、自ら潔からんことを求めよ。もし潔からずば、主を見ること能はず。15なんじら愼め、恐らくは神の恩惠に至らぬ者あらん。恐らくは苦き根はえいでて汝らを惱し、多くの人これに由りて汚されん。16恐らくは淫行のもの、或は一飯のために長子の特權を賣りしエサウの如き妄なるもの起らん。17汝らの知るごとく、彼はそののち祝福を受けんと欲したれども棄てられ、涙を流して之を求めたれど回復の機を得ざりき。18汝らの近づきたるは、火の燃ゆる觸り得べき山・黑雲・黑闇・嵐、19ラッパの音、言の聲にあらず、この聲を聞きし者は此の上に言の加へられざらんことを願へり。20これ『獸すら山に觸れなば、石にて擊るべし』と命ぜられしを、彼らは忍ぶこと能はざりし故なり。21その現れしところ極めて怖しかりしかば、モーセは『われ甚く怖れ戰けり』と云へり。22されど汝らの近づきたるはシオンの山、活ける神の都なる天のエルサレム、千萬の御使の集會、23天に録されたる長子どもの教會、萬民の審判 主なる神、全うせられたる義人の靈魂、24新約の仲保なるイエス及びアベルの血に勝りて物 言ふ灑の血なり、25なんじら心して語りたまふ者を拒むな、もし地にて示し給ひし時これを拒みし者ども遁るる事なかりしならば、況して天より示し給ふとき、我ら之を退けて遁るることを得んや。26その時、その聲、地を震へり、されど今は誓ひて言ひたまふ『我なほ一たび地のみならず、天をも震はん』と。27此の『なほ一度』とは震はれぬ物の存らんために、震はるる物すなはち造られたる物の取り除かるることを表すなり。28この故に我らは震はれぬ國を受けたれば、感謝して恭 敬と畏懼とをもて御心にかなふ奉仕を神になすべし。29我らの神は燒き盡す火なればなり。

第十三章

1兄弟の愛を常に保つべし。2旅人の接待を忘るな、或人これに由り、知らずして御使を舍したり。3己も共に繋がるるごとく囚人を思へ、また己も肉體に在れば、苦しむ者を思へ。4凡ての人、婚姻のことを貴べ、また寢床を汚すな。神は淫行のもの、姦淫の者を審き給ふべければなり。5金を愛することなく、有てるものを以て足れりとせよ。主みづから『われ更に汝を去らず、汝を捨てじ』と言ひ給ひたればなり。6然れば我ら心を強くして斯く言はん『主わが助主なり、我おそれじ。人われに何をなさん』と。7神の言を汝らに語りて汝らを導きし者どもを思へ、その行 狀の終を見てその信仰に效へ。8イエス・キリストは昨日も今日も永遠までも變り給ふことなし。9各樣の異なる教のために惑さるな。飮食によらず、恩惠によりて心を堅うするは善し、飮食によりて歩みたる者は益を得ざりき。10我らに祭壇あり、幕屋に事ふる者は之より食する權を有たず。11大祭司、罪のために活物の血を携へて至 聖所に入り、その

活物の體は陣營の外にて燒かるるなり。12この故にイエスも己が血をもて民を潔めんが爲に、門の外にて苦難を受け給へり。13されば我らは彼の恥を負ひ、陣營より出でてその御許に往くべし。14われら此處には永遠の都なくして、ただ來らんとする者を求むればなり。15此の故に我らイエスによりて常に讃美の供物を神に献ぐべし、乃ちその御名を頌むる口唇の果なり。16かつ仁慈と施濟とを忘るな、神は斯くのごとき供物を喜びたまふ。17汝らを導く者に順ひ之に服せよ。彼らは己が事を神に陳ぶべき者なれば、汝らの靈魂のために目を覺しをるなり。彼らを歎かせず、喜びて斯く爲さしめよ、然らずば汝らに益なかるべし。18我らの爲に祈れ、我らは善き良心ありて凡てのこと正しく行はんと欲するを信ずるなり。19われ速かに汝らに歸ることを得んために、汝らの祈らんことを殊に求む。20願はくは永遠の契約の血によりて、羊の大牧者となれる我らの主イエスを、死人の中より引上げ給ひし平和の神、21その悦びたまふ所を、イエス・キリストに由りて我らの衷に行ひ、御意を行はしめん爲に凡ての善き事につきて、汝らを全うし給はんことを。世々限りなく榮光、かれに在れ、アァメン。22兄弟よ、請ふ我が勸の言を容れよ、我なんじらに手短く書き贈りたるなり。23なんじら知れ、我らの兄弟テモテは釋されたり。彼もし速かに來らば、我かれと偕に汝らを見ん。24汝らの凡ての導く者、および凡ての聖徒に安否を問へ。イタリヤの人々、なんぢらに安否を問ふ。25願はくは恩惠なんぢら衆と偕に在らんことを。

ヤコブの書

第一章

1神および主イエス・キリストの僕ヤコブ、散り居る十二の族の平安を祈る。2わが兄弟よ、なんぢら各樣の試錬に遭ふとき、只管これを歡喜とせよ。3そは汝らの信仰の驗は、忍耐を生ずるを知ればなり。4忍耐をして全き活動をなさしめよ。これ汝らが全くかつ備りて、缺くる所なからん爲なり。5汝らの中もし智慧の缺くる者あらば、咎むることなくまた惜む事なく、凡ての人に與ふる神に求むべし、さらば與へられん。6但し疑ふことなく、信仰をもて求むべし。疑ふ者は、風に動かされて翻へる海の波のごときなり。7かかる人は主より何物をも受くと思ふな。8斯かる人は二心にして、凡てその歩むところの途定りなし。9卑き兄弟は、おのが高くせられたるを喜べ。10富める者は、おのが卑くせられたるを喜べ。そは草の花のごとく過ぎゆくべければなり。11日出で熱き風吹きて草を枯らせば、花落ちてその麗しき姿ほろぶ。富める者もまた斯くのごとく、その途の半にして己まづ消え失せん。12試錬に耐ふる者は幸福なり、之を善しとせらるる時は、主のおのれを愛する者に、約束し給ひし生命の冠冕を受くべければなり。13人誘はるるとき『神われを誘ひたまふ』と言ふな、神は惡に誘はれ給はず、又みづから人を誘ひ給ふことなし。14人の誘はるるは己の慾に引かれて惑さるるなり。15慾孕みて罪を生み、罪成りて死を生む。16わが愛する兄弟よ、自ら欺くな。17凡ての善き賜物と凡ての全き賜物とは、上より、もろもろの光の父より降るなり。父は變ることなく、また回轉の影もなき者なり。18その造り給へる物の中にて我らを初穗のごとき者たらしめんとて、御旨のままに眞理の言をもて、我らを生み給へり。19わが愛する兄弟よ、汝らは之を知る。されば、おのおの聽くことを速かにし、語ることを遲くし、怒ることを遲くせよ。20人の怒は神の義を行はざればなり。21されば凡ての穢と溢るる惡とを捨て、柔和をもて其の植ゑられたる所の靈魂を救ひ得る言を受けよ。22ただ御言を聞くのみにして、己を欺く者とならず、之を行ふ者となれ。23それ御言を聞くのみにして之を行はぬ者は、鏡にて己が生來の顏を見る人に似たり。24己をうつし見て立ち去れば、直ちにその如何なる姿なりしかを忘る。25されど全き律法、すなはち自由の律法を懇ろに見て離れぬ者は、業を行ふ者にして、聞きて忘るる者にあらず、その行爲によりて幸福ならん。26人もし自ら信心ふかき者と思ひて、その舌に轡を著けず、己が心を欺かば、その信心は空しきなり。27父なる神の前に潔くして穢なき信心は、孤兒と寡婦とをその患難の時に見舞ひ、また自ら守りて世に汚されぬ是なり。

第二章

1わが兄弟よ、榮光の主なる我らの主イエス・キリストに對する信仰を保たんには、人を偏り視るな。2金の指輪をはめ華美なる衣を著たる人、なんぢらの會堂に入りきたり、また粗末なる衣を著たる貧しき者いり來らんに、3汝 等その華美なる衣を著たる人を重んじ視て『なんぢ此の善き處に坐せよ』と言ひ、また貧しき者に『なんぢ彼處に立つか、又はわが足下に坐せよ』と言はば、4汝らの中にて區別をなし、また惡しき思をもてる審判人となるに非ずや。5わが愛する兄弟よ、聽け、神は世の貧しき者を選びて信仰に富ませ、神を愛する者に約束し給ひし國の世繼たらしめ給ひしに非ずや。6然るに汝らは貧しき者を輕んじたり、汝らを虐げ、また裁判所に曳くものは、富める者にあらずや。7彼らは汝らの上に稱へらるる尊き名を汚すものに非ずや。8汝 等もし聖書にある『おのれの如く汝の隣を愛すべし』との尊き律法を全うせば、その爲すところ善し。9されど若し人を偏り視れば、これ罪を行ふなり。律法、なんぢらを犯罪者と定めん。10人、律法 全體を守るとも、その一つに躓かば是すべてを犯すなり。11それ『姦淫する勿れ』と宣ひし者、また『殺す勿れ』と宣ひたれば、なんぢ姦淫せずとも、若し人を殺さば律法を破る者となるなり、12なんぢら自由の律法によりて審かれんとする者のごとく語り、かつ行ふべし。13憐憫を行はぬ者は憐憫なき審判を受けん、憐憫は審判にむかひて勝ち誇るなり。14わが兄弟よ、人みづから信仰ありと言ひて、もし行爲なくば何の益かあらん、かかる信仰は彼を救ひ得んや。15もし兄弟 或は姉妹、裸體にて日用の食物に乏しからんとき、16汝 等のうち、或 人これに『安らかにして往け、温かなれ、飽くことを得よ』といひて體に無くてならぬ物を與へずば、何の益かあらん。17斯くのごとく信仰もし行爲なくば、死にたる者なり。18人もまた言はん『なんぢ信仰あり、われ行爲あり、汝の行爲なき信仰を我に示せ、我わが行爲によりて信仰を汝に示さん』と。19なんぢ神は唯一なりと信ずるか、かく信ずるは善し、惡鬼も亦 信じて慄けり。20ああ虚しき人よ、なんぢ行爲なき信仰の徒然なるを知らんと欲するか。21我らの父アブラハムはその子イサクを祭壇に献げしとき、行爲によりて義とせられたるに非ずや。22なんぢ見るべし、その信仰、行爲と共にはたらき、行爲によりて全うせられたるを。23またアブラハム神を信じ、その信仰を義と認められたりと云へる聖書は成就し、かつ彼は神の友と稱へられたり。24かく人の義とせらるるは、ただ信仰のみに由らずして行爲に由ることは、汝らの見る所なり。25また遊女ラハブも使者を受け、これを他の途より去らせたるとき、行爲によりて義とせられたるに非ずや。26靈魂なき體の死にたる者なるが如く、行爲なき信仰も死にたるものなり。

第三章

1わが兄弟よ、なんぢら多く教師となるな。教師たる我らの更に嚴しき審判を受くることを、汝ら知ればなり。2我らは皆しばしば躓く者なり、人もし言に蹉跌なくば、これ全き人にして全身に轡を著け得るなり。3われら馬を己に馴はせんために轡をその口に置くときは、その全身を馭し得るなり。4また船を見よ、その形は大く、かつ激しき風に追はるるとも、最 小き舵にて舵人の欲するままに運すなり。5斯くのごとく舌もまた小きものなれど、その誇るところ大なり。視よ、いかに小き火の、いかに大なる林を燃すかを。6舌は火なり、不義の世界なり、舌は我らの肢體の中にて、全身を汚し、また地獄より燃え出でて一生の車輪を燃すものなり。7獸・鳥・匍ふもの・海にあるもの等、さまざまの種類みな制せらる、既に人に制せられたり。8されど誰も舌を制すること能はず、舌は動きて止まぬ惡にして死の毒の滿つるものなり。9われら之をもて主たる父を讃め、また之をもて神に象りて造られたる人を詛ふ。10讃美と呪詛と同じ口より出づ。わが兄弟よ、かかる事はあるべきにあらず。11泉は同じ穴より甘き水と苦き水とを出さんや。12わが兄弟よ、無花果の樹オリブの實を結び、葡萄の樹、無花果の實を結ぶことを得んや。斯くのごとく鹽水は甘き水を出すこと能はず。13汝 等のうち智くして慧き者は誰なるか、その人は善き行 狀により柔和なる智慧をもて行爲を顯すべし。14されど汝 等もし心のうちに苦き妬と黨派心とを懷かば、誇るな、眞理に悖りて僞るな。15かかる智慧は上より下るにあらず、地に屬し、情慾に屬し、惡鬼に屬するものなり。16妬と黨派心とある所には亂と各樣の惡しき業とあればなり。17されど上よりの智慧は第一に潔よく、次に平和・寛容・温順また憐憫と善き果とに滿ち、人を偏り視ず、虚僞なきものな

り。18義の果は平和をおこなふ者の平和をもて播くに因るなり。

第四章

1汝 等のうちの戰爭は何處よりか、分爭は何處よりか、汝 らの肢體のうちに戰ふ慾より來るにあらずや。2汝ら貪れども得ず、殺すことをなし、妬むことを爲れども得ること能はず、汝らは爭ひまた戰す。汝らの得ざるは求めざるに因りてなり。3汝ら求めてなほ受けざるは慾のために費さんとて妄に求むるが故なり。4姦淫をおこなふ者よ、世の友となるは、神に敵するなるを知らぬか、誰にても世の友とならんと欲する者は、己を神の敵とするなり。5聖書に『神は我らの衷に住ませ給ひし靈を、妬むほどに慕ひたまふ』と云へるを虛しきことと汝ら思ふか。6神は更に大なる恩惠を賜ふ。されば言ふ『神は高ぶる者を拒ぎ、へりくだる者に恩惠を與へ給ふ』と。7この故に汝ら神に服へ、惡魔に立ち向へ、さらば彼なんぢらを逃げ去らん。8神に近づけ、さらば神なんぢらに近づき給はん。罪人よ、手を淨めよ、二心の者よ、心を潔よくせよ。9なんぢら惱め、悲しめ、泣け、なんぢらの笑を悲歎に、なんぢらの歡喜を憂に易へよ。10主の前に己を卑うせよ、然らば主なんぢらを高うし給はん。11兄弟よ、互に謗るな。兄弟を謗る者、兄弟を審く者は、これ律法を誹り、律法を審くなり。汝もし律法を審かば、律法をおこなふ者にあらずして審判 人なり。12立法者また審判者は唯 一人にして、救ふことをも滅ぼすことをも爲し得るなり。なんぢ誰なれば隣を審くか。13聽け『われら今日もしくは明日それがしの町に往きて、一年の間かしこに留り、賣買して利を得ん』と言ふ者よ、14汝らは明日のことを知らず、汝らの生命は何ぞ、暫く現れて遂に消ゆる霧なり。15汝 等その言ふところに易へて『主の御意ならば、我ら活きて此のこと、或は彼のことを爲さん』と言ふべきなり。16されど今なんぢらは高ぶりて誇る、斯くのごとき誇はみな惡しきなり。17人 善を行ふことを知りて、之を行はぬは罪なり。

第五章

1聽け、富める者よ、なんぢらの上に來らんとする艱難のために泣きさけべ。2汝らの財は朽ち、汝らの衣は蠹み、3汝らの金 銀は錆びたり。この錆なんぢらに對ひて證をなし、かつ火のごとく汝らの肉を蝕はん。汝 等この末の世に在りてなほ財を蓄へたり。4視よ、汝 等がその畑を刈り入れたる勞動人に拂はざりし値は叫び、その刈りし者の呼聲は萬軍の主の耳に入れり。5汝らは地にて奢り樂しみ、屠らるる日に在りて尚おのが心を飽かせり。6汝らは正しき者を罪に定め、且これを殺せり、彼は汝らに抵抗することなし。7兄弟よ、主の來り給ふまで耐へ忍べ。視よ、農夫は地の貴き實を、前と後との雨を得るまで耐へ忍びて待つなり。8汝らも耐へ忍べ、なんぢらの心を堅うせよ。主の來り給ふこと近づきたればなり。9兄弟よ、互に怨 言をいふな、恐らくは審かれん。視よ、審判 主、門の前に立ちたまふ。10兄弟よ、主の名によりて語りし預言者たちを苦難と耐忍との模範とせよ。11視よ、我らは忍ぶ者を幸福なりと思ふ。なんぢらヨブの忍耐を聞けり、主の彼に成し給ひし果を見たり、即ち主は慈悲ふかく、かつ憐憫あるものなり。12わが兄弟よ、何事よりも先づ誓ふな、或は天、あるひは地、あるひは其の他のものを指して誓ふな。只なんぢら然りは然り否は否とせよ、罪に定められる事なからん爲なり。13汝 等のうち苦しむ者あるか、その人、祈せよ。喜ぶ者あるか、その人、讃美せよ。14汝 等のうち病める者あるか、その人、教會の長老たちを招け。彼らは主の名により其の人に油をぬりて祈るべし。15さらば信仰の祈は病める者を救はん、主かれを起し給はん、もし罪を犯しし事あらば赦されん。16この故に互に罪を言ひ表し、かつ癒されんために相 互に祈れ、正しき人の祈 ははたらきて大なる力あり。17エリヤは我らと同じ情をもてる人なるに、雨 降らざることを切に祈りしかば、三年 六个月のあひだ地に雨 降らざりき。18かくて再び祈りたれば、天 雨を降らし、地その果を生ぜり。19わが兄弟よ、汝 等のうち眞理より迷ふ者あらんに、誰か之を引回さば、20その人は知れ、罪人をその迷へる道より引回す者は、かれの靈魂を死より救ひ、多くの罪を掩ふことを。

ペテロの前の書

第一章

1イエス・キリストの使徒ペテロ、書をポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤ、ピテニヤに散りて宿れる者、2即ち父なる神の預じめ知り給ふところに隨ひて、御靈の潔により柔順ならんため、イエス・キリストの血の灑を受けんために選ばれたる者に贈る。願はくは恩惠と平安と汝らに増さんことを。3讃むべきかな、我らの主イエス・キリストの父なる神、その大なる憐憫に隨ひ、イエス・キリストの死人の中より甦へり給へることに由り、我らを新に生れしめて生ける望を懐かせ、4汝らの爲に天に蓄へある、朽ちず汚れず萎まざる嗣業を繼がしめ給へり。5汝らは終のときに顯れんとて備りたる救を得んために、信仰によりて神の力に護らるるなり。6この故に汝ら今しばしの程さまざまの試煉によりて憂へざるを得ずとも、なほ大に喜べり。7汝らの信仰の驗は、壞つる金の火にためさるるよりも貴くして、イエス・キリストの現れ給ふとき譽と光榮と尊貴とを得べきなり。8汝らイエスを見しことなけれど之を愛し、今 見ざれども之を信じて、言ひがたく、かつ光榮ある喜悦をもて喜ぶ。9これ信仰の極、すなはち靈魂の救を受くるに因る。10汝らの受くべき恩惠を預言したる預言者たちは、この救につきて具に尋ね査べたり。11即ち彼らは己が中に在すキリストの靈の、キリストの受くべき苦難および其の後の榮光を預じめ證して、何時のころ如何なる時を示し給ひしかを査べたり。12彼 等はその勤むるところ己のためにあらず、汝らの爲なることを默示によりて知れり。即ち天より遣され給へる聖靈によりて福音を宣ぶる者どもの、汝らに傳へたる所にして、御使たちも之を懇ろに視んと欲するなり。13この故に、なんぢら心の腰に帶し、愼みてイエス・キリストの現れ給ふときに、與へられんとする恩惠を疑はずして望め。14從 順なる子等の如くして、前の無知なりし時の慾に效はず、15汝らを召し給ひし聖者に效ひて、自ら凡ての行 狀に潔かれ。16録して『われ聖なれば、汝らも聖なるべし』とあればなり。17また偏ることなく各人の業に隨ひて審きたまふ者を父と呼ばば、畏をもて世に寓る時を過せ。18なんぢらが先祖たちより傳はりたる虚しき行 狀より贖はれしは、銀や金のごとき朽つる物に由るにあらず、19瑕なく汚點なき羔羊の如きキリストの貴き血に由ることを知ればなり。20彼は世の創の前より預じめ知られたまひしが、この末の世に現れ給へり。21これは彼を死人の中より甦へらせて之に榮光を與へ給ひし神を、彼によりて信ずる汝らの爲なり、この故に汝らの信仰と希望とは神に由れり。22なんぢら眞理に從ふによりて靈魂をきよめ、僞りなく兄弟を愛するに至りたれば、心より熱く相愛せよ。23汝らは朽つる種に由らで、朽つることなき種、すなはち神の活ける限りなく保つ言に由りて新に生れたればなり。24『人はみな草のごとく、その光榮はみな草の花の如し、草は枯れ、花は落つ。25されど主の御言は永遠に保つなり』汝らに宣傳へたる福音の言は即ちこれなり。

第二章

1されば凡ての惡意、すべての詭計・僞善・嫉妬および凡ての謗を棄てて、2いま生れし嬰兒のごとく靈の眞の乳を慕へ、之により育ちて救に至らん爲なり。3なんぢら既に主の仁慈あることを味ひ知りたらんには、然すべきなり。4主は人に棄てられ給へど、神に選ばれたる貴き活ける石なり。5なんぢら彼にきたり、活ける石のごとく建てられて靈の家となれ。これ潔き祭司となり、イエス・キリストに由りて神に喜ばるる靈の犧牲を献げん爲なり。6聖書に『視よ、選ばれたる貴き隅の首石を我シオンに置く。之に依頼む者は辱しめられじ』とあるなり。7されば信ずる汝らには尊きなれど、信ぜぬ者には『造家者らの棄てたる石は、隅の首石となれる』にて、8『つまづく石、礙ぐる岩』となるなり。彼らは服はぬに因りて御言に躓く。これは斯く定められたるなり。9されど汝らは選ばれたる族、王なる祭司・潔き國人・神に屬ける民なり、これ汝らを暗黒より召して、己の妙なる光に入れ給ひし者の譽を顯させん爲なり。10なんぢら前には民にあらざりしが、今は神の民なり。前には憐憫を蒙らざりしが、今は憐憫を蒙れり。11愛する者よ、われ汝らに勸む。汝らは旅人また宿れる者なれば、靈魂に

逆ひて戰ふ肉の慾を避け、12異邦人の中にありて行 狀を美しく爲よ、これ汝らを謗りて惡をおこなふ者と云へる人々の、汝らの善き行爲を見て、反つて眷顧の日に神を崇めん爲なり。13なんぢら主のために凡て人の立てたる制度に服へ。或は上に在る王、14或は惡をおこなふ者を罰し、善をおこなふ者を賞せんために王より遣されたる司に服へ。15善を行ひて愚なる人の無知の言を止むるは、神の御意なればなり。16なんぢら自由なる者のごとくすとも、その自由をもて惡の覆となさず、神の僕のごとくせよ。17なんぢら凡ての人を敬ひ、兄弟を愛し、神を畏れ、王を尊べ。18僕たる者よ、大なる畏をもて主人に服へ、啻に善きもの、寛容なる者にのみならず、情なき者にも服へ、19人もし受くべからざる苦難を受け、神を認むるに因りて憂に堪ふる事をせば、これ譽むべきなり。20もし罪を犯して撻たるるとき、之を忍ぶとも何の功かある。されど若し善を行ひてなほ苦しめらるる時これを忍ばば、これ神の譽めたまふ所なり。21汝らは之がために召されたり、キリストも汝らの爲に苦難をうけ、汝らを其の足跡に隨はしめんとて模範を遺し給へるなり。22彼は罪を犯さず、その口に虚僞なく、23また罵られて罵らず、苦しめられて脅かさず、正しく審きたまふ者に己を委ね、24木の上に懸りて、みづから我らの罪を己が身に負ひ給へり。これ我らが罪に就きて死に、義に就きて生きん爲なり。汝らは彼の傷によりて癒されたり。25なんぢら前には羊のごとく迷ひたりしが、今は汝らの靈魂の牧者たる監督に歸りたり。

第三章

1妻たる者よ、汝らもその夫に服へ。たとひ御言に遵はぬ夫ありとも、汝らの潔く、かつ恭敬しき行 狀を見て、言によらず妻の行 狀によりて救に入らん爲なり。2妻たる者よ、汝らもその夫に服へ。たとひ御言に遵はぬ夫ありとも、汝らの潔く、かつ恭敬しき行 狀を見て、言によらず妻の行 狀によりて救に入らん爲なり。3汝らは髮を辮み、金をかけ、衣服を裝ふごとき表面のものを飾とせず、4心のうちの隱れたる人、すなはち柔和、恬靜なる靈の朽ちぬ物を飾とすべし、是こそは神の前にて價 貴きものなれ。5むかし神に望を置きたる潔き女たちも、かくの如くその夫に服ひて己を飾りたり。6即ちサラがアブラハムを主と呼びて之に服ひし如し。汝らも善を行ひて何事にも戰き懼れずばサラの子たるなり。7夫たる者よ、汝らその妻を己より弱き器の如くし、知識にしたがひて偕に棲み、生命の恩惠を共に嗣ぐ者として之を貴べ、これ汝らの祈に妨害なからん爲なり。8終に言ふ、汝らみな心を同じうし、互に思ひ遣り、兄弟を愛し、憐み、へりくだり、9惡をもて惡に、謗をもて謗に報ゆることなく、反つて之を祝福せよ。汝らの召されたるは祝福を嗣がん爲なればなり。10『生命を愛し、善き日を送らんとする者は、舌を抑へて惡を避け、口唇を抑へて虚僞を語らず、11惡より遠ざかりて善をおこなひ、平和を求めて之を追ふべし。12それ主の目は義人の上にとどまり、その耳は彼らの祈にかたむく。されど主の御顏は惡をおこなふ者に向ふ』13汝 等もし善に熱心ならば、誰か汝らを害はん。14たとひ義のために苦しめらるる事ありとも、汝ら幸福なり『彼 等の威嚇を懼るな、また心を騷がすな』15心の中にキリストを主と崇めよ、また汝らの衷にある望の理由を問ふ人には、柔和と畏懼とをもて常に辯明すべき準備をなし、16かつ善き良心を保て。これ汝 等のキリストに在りて行ふ善き行 狀を罵る者の、その謗ることに就きて自ら愧ぢん爲なり。17もし善をおこなひて苦難を受くること神の御意ならば、惡を行ひて苦難を受くるに勝るなり。18キリストも汝らを神に近づかせんとて、正しきもの正しからぬ者に代りて、一たび罪のために死に給へり、彼は肉體にて殺され、靈にて生かされ給へるなり。19また靈にて往き、獄にある靈に宣傳へたまへり。20これらの靈は、昔ノアの時代に方舟の備へらるるあひだ寛容をもて神の待ち給へるとき、服はざりし者どもなり、その方舟に入り水を經て救はれし者は、僅にしてただ八人なりき。21その水に象れるバプテスマは肉の汚穢を除くにあらず、善き良心の神に對する要求にして、イエス・キリストの復活によりて今なんぢらを救ふ。22彼は天に昇りて神の右に在す。御使たち及びもろもろの權威と能力とは彼に服ふなり。

第四章

1キリスト肉體にて苦難を受け給ひたれば、汝らも亦おなじ心をもて自ら鎧へ。——肉體にて苦難を受くる者は罪を止むるなり——2これ今よりのち、人の慾に從はず、神の御意に從ひて、肉體に寓れる殘の時を過さん爲なり。3なんぢら過ぎにし日は、異邦人の好む所をおこ

なひ、好色・慾情・酩酊・宴樂・暴飲・律法にかなはぬ偶像崇拜に歩みて、もはや足れり。4彼らは汝らの己とともに放蕩の極に走らぬを怪しみて譏るなり。5彼らは生ける者と死にたる者とを審く準備をなし給へる者に己のことを陳ぶべし。6福音の死にたる者に宣傳へられしは、彼らが肉體にて人のごとく審かれ、靈にて神のごとく生きん爲なり。7萬の物のをはり近づけり、然れば汝ら心を慥にし、愼みて祈せよ。8何事よりも先づ互に熱く相愛せよ。愛は多くの罪を掩へばなり。9また吝むことなく互に懇ろに待せ。10神のさまざまの恩惠を掌どる善き家司のごとく、各人その受けし賜物をもて互に事へよ。11もし語るならば、神の言をかたる者のごとく語り、事ふるならば、神の與へたまふ能力を受けたる者のごとく事へよ。是イエス・キリストによりて事々に神の崇められ給はん爲なり。榮光と權力とは世々限りなく彼に歸するなり、アァメン。12愛する者よ、汝らを試みんとて來れる火のごとき試煉を異なる事として怪しまず、13反つてキリストの苦難に與れば、與るほど喜べ、なんぢら彼の榮光の顯れん時にも喜び樂しまん爲なり。14もし汝等キリストの名のために謗られなば幸福なり。榮光の御靈すなはち神の御靈なんじらの上に留り給へばなり。15汝等のうち誰にても或は殺人、あるひは盜人、あるひは惡を行ふ者、あるひは妄に他人の事に干涉する者となりて苦難に遭ふな。16されど若しキリスチアンたるをもて苦難を受けなば、之を恥づることなく、反つて此の名によりて神を崇めよ。17既に時いたれり、審判は神の家より始るべし。まづ我等より始るとせば、神の福音に從はざる者のその結局は如何にぞや。18義人もし辛うじて救はるるならば、不敬虔なるもの、罪ある者は何處にか立たん。19されば神の御意に從ひて苦難を受くる者は、善を行ひて己が靈魂を眞實なる造物主にゆだね奉るべし。

第五章

1われ汝らの中なる長老たちに勸む（我は汝らと同じく長老たる者、またキリストの苦難の證人、顯れんとする榮光に與る者なり）2汝らの中にある神の群羊を牧へ。止むを得ずして爲さず、神に從ひて心より爲し、利を貪るために爲さず、悅びてなし、3委ねられたる者の主とならず、群羊の模範となれ。4さらば大牧者の現れ給ふとき、萎まざる光榮の冠冕を受けん。5若き者よ、なんぢら長老たちに服へ、かつ皆たがひに謙遜をまとへ『神は高ぶる者を拒ぎ、へりくだる者に恩惠を與へ給ふ』6この故に神の能力ある御手の下に己を卑うせよ、さらば時に及びて神なんぢらを高うし給はん。7又もろもろの心勞を神に委ねよ、神なんぢらの爲に慮ばかり給へばなり。8愼みて目を覺しをれ、汝らの仇なる惡魔、ほゆる獅子のごとく歷廻りて呑むべきものを尋ぬ。9なんぢら信仰を堅うして彼を禦げ、なんぢらは世にある兄弟たちの同じ苦難に遭ふを知ればなり。10もろもろの恩惠の神、すなはち永遠の榮光を受けしめんとて、キリストによりて汝らを召し給へる神は、汝らが暫く苦難をうくる後、なんぢらを全うし、堅うし、強くして、その基を定め給はん。11願はくは權力世々限りなく神にあれ、アァメン。12われ忠實なる兄弟なりと思ふシルワノに由りて、簡單に書き贈りて汝らに勸め、かつ此は神の眞の恩惠なることを證す、汝等この恩惠に立て。13汝らと共に選ばれてバビロンに在る教會、なんぢらに安否を問ふ、わが子マルコも安否を問ふ。14なんぢら愛の接吻をもて互に安否を問へ。願はくはキリストに在る汝ら衆に平安あらんことを。

ペテロの後の書

第一章

1イエス・キリストの僕また使徒なるシメオン・ペテロ、書を我らの神および救主イエス・キリストの義によりて、我らと同じ貴き信仰を受けたる者に贈る。2願はくは神および我らの主イエスを知るによりて、恩惠と平安と汝らに增さんことを。3キリストの神たる能力は、生命と敬虔とに係る凡てのものを我らに賜へり。是おのれの榮光と德とをもて召し給へる者を我ら知るに因りてなり。4その榮光と德とによりて我らに貴き大なる約束を賜へり、これは汝らが世に在る慾の滅亡をのがれ、神の性質に與る者とならん爲なり。5この故に勵み勉めて汝らの信仰に德を加へ、德に知識を、6知識に節制を、

節制に忍耐を、忍耐に敬虔を、7敬虔に兄弟の愛を、兄弟の愛に博愛を加へよ。8此等のもの汝らの衷にありて彌増すときは、汝等われらの主イエス・キリストを知るに怠ることなく、實を結ばぬこと無きに至らん。9此等のものの無きは盲人にして遠く見ること能はず、己が舊き罪を潔められしことを忘れたるなり。10この故に兄弟よ、ますます勵みて汝らの召されたること、選ばれたることを堅うせよ。若し此等のことを行はば躓くことなからん。11かくて汝らは我らの主なる救主イエス・キリストの永遠の國に入る恩恵を豊に與へられん。12されば汝らは此等のことを知り、既に受けたる眞理に堅うせられたれど、我つねに此等のことを思ひ出させんとするなり。13我は尚この幕屋に居るあいだ、汝らに思ひ出させて勵ますを正當なりと思ふ。14そは我らの主イエス・キリストの我に示し給へるごとく、我わが幕屋を脱ぎ去ることの速かなるを知ればなり。15我また汝等をして我が世を去らん後にも、常に此等のことを思ひ出させんと勉むべし。16我らは我らの主イエス・キリストの能力と來りたまふ事とを汝らに告ぐるに、巧なる作話を用ひざりき、我らは親しくその稜威を見し者なり。17いとも貴き榮光の中より聲出でて『こは我が愛しむ子なり、我これを悦ぶ』と言ひ給へるとき、主は父なる神より尊貴と榮光とを受け給へり。18我らも彼と偕に聖なる山に在りしとき、天より出づる此の聲をきけり。19かくて我らが有てる預言の言は堅うせられたり。汝等この言を暗き處にかがやく燈火として、夜明け、明星の汝らの心の中にいづるまで顧みるは善し。20なんじら先づ知れ、聖書の預言は、すべて己がままに釋くべきものにあらぬを。21預言は人の心より出でしにあらず、人々聖靈に動かされ、神によりて語れるものなればなり。

第二章

1されど民のうちに僞預言者おこりき、その如く汝らの中にも僞教師あらん。彼らは滅亡にいたる異端を持ち入れ、己らを買ひ給ひし主をさへ否みて、速かなる滅亡を自ら招くなり。2また多くの人かれらの好色に隨はん、之によりて眞の道を讒らるべし。3彼らは貪慾によりて飾言を設け、汝等より利をとらん。彼らの審判は古へより定められたれば遲からず、その滅亡は寢ねず。4神は罪を犯しし御使たちを赦さずして地獄に投げいれ、之を黒闇の穴におきて審判の時まで看守し、5また古き世を容さずして、ただ義の宣傳者なるノアと他の七人とをのみ護り、敬虔ならぬ者の世に洪水を來らせ、6またソドムとゴモラとの町を滅亡に定めて灰となし、後の不敬虔をおこなふ者の鑑とし、7ただ無法の者どもの好色の擧動を憂ひし正しきロトのみを救ひ給へり。8（この正しき人は彼らの中に住みて、日々その不法の行爲を見聞して、己が正しき心を傷めたり）9かく主は敬虔なる者を試煉の中より救ひ、また正しからぬ者を審判の日まで看守して之を罰し、10別けて、肉に隨ひて、汚れたる情慾のうちを歩み、權ある者を輕んずる者を罰することを知り給ふ。この曹輩は膽太く放縦にして、尊き者どもを讒りて畏れぬなり。11御使たちはかの尊き者どもに勝りて、大なる權勢と能力とあれど、彼らを主の御前に讒り訴ふることをせず。12然れど、かの曹輩は恰も捕へられ屠らるるために生れたる辯別なき生物のごとし、知らぬことを讒り、不義の價をえて必ず亡さるべし。13彼らは晝もなほ酒食を快樂とし誘惑を樂しみ、汝らと共に宴席に與りて、汚點となり瑕となる。14その目は淫婦にて滿ち罪に飽くことなし、彼らは靈魂の定らぬ者を惑し、その心は貪欲に慣れて呪詛の子たり。15彼らは正しき道を離れて迷ひいで、ベオルの子バラムの道に隨へり。バラムは不義の報を愛して、16その不法を咎められたり。物言はぬ驢馬、人の聲して語り、かの預言者の狂を止めたればなり。17この曹輩は水なき井なり、颶風に逐はるる雲霧なり、黒き闇かれらの爲に備へられたり。18彼らは虚しき誇をかたり、迷の中にある者どもより辛うじて遁れたる者を、肉の慾と好色とをもて惑し、19之に自由を與ふることを約すれど、自己は滅亡の奴隷たり、敗くる者は勝つ者に奴隷とせらるればなり。20彼等もし主なる救主イエス・キリストを知るによりて、世の汚穢をのがれしのち、復これに纏はれて敗くる時は、その後の状は前よりもなほ惡しくなるなり。21義の道を知りて、その傳へられたる聖なる誡命を去り往かんよりは寧ろ義の道を知らぬを勝れりとす。22俚諺に『犬おのが吐きたる物に歸り來り、豚身を洗ひてまた泥の中に轉ぶ』と云へるは眞にして、能く彼らに當れり。

第三章

1愛する者よ、われ今この第二の書を汝らに書き贈り、第一なると之とをもて汝らに思ひ出させ、その潔よき心を勵まし、2聖なる預言者たちの預じめ云ひし言、および汝らの使徒たちの傳へし主なる救主の誡命を憶えさせんとす。3汝等まづ知れ、末の世には嘲る者嘲笑をもて來り、おのが慾に隨ひて歩み、4かつ言はん『主の來りたまふ約束は何處にありや、先祖たちの眠りしのち、萬のもの開闢の初と等しくして變らざるなり』と。5彼らは殊更に次の事を知らざるなり、即ち古へ神の言によりて天あり、地は水より出で水によりて成立ちしが、6その時の世は之により水に淹はれて滅びたり。7されど同じ御言によりて今の天と地とは蓄へられ、火にて燒かれん爲に、敬虔ならぬ人々の審判と滅亡との日まで保たるるなり。8愛する者よ、なんぢら此の一事を忘るな。主の御前には一日は千年のごとく、千年は一日のごとし。9主その約束を果すに遲きは、或人の遲しと思ふが如きにあらず、ただ一人の亡ぶるをも望み給はず、凡ての人の悔改に至らんことを望みて汝らを永く忍び給ふなり。10されど主の日は盜人のごとく來らん、その日には天とどろきて去り、もろもろの天體は燒け崩れ、地とその中にある工とは燒け盡きん。11かく此等のものはみな崩るべければ、汝等いかに潔き行狀と敬虔とをもて、12神の日の來るを待ち之を速かにせんことを勉むべきにあらずや、その日には天燃え崩れ、もろもろの天體燒け溶けん。13されど我らは神の約束によりて、義の住むところの新しき天と新しき地とを待つ。14この故に愛する者よ、汝等これを待てば、神の前に汚點なく瑕なく安然に在らんことを勉めよ。15且われらの主の寬容を救なりと思へ、これは我らの愛する兄弟パウロも、その與へられたる智慧にしたがひ曾て汝らに書き贈りし如し。16彼はその凡ての書にも此等のことに就きて語る、その中には悟りがたき所あり、無學のもの心の定らぬ者は、他の聖書のごとく之をも強ひ釋きて自ら滅亡を招くなり。17されば愛する者よ、なんぢら預じめ之を知れば、愼みて無法の者の迷にさそはれて己が堅き心を失はず、18ますます我らの主なる救主イエス・キリストの恩寵と主を知る知識とに進め。願はくは今および永遠の日までも榮光かれに在らんことを。

ヨハネの第一の書

第一章

1太初より有りし所のもの、我等が聞きしところ、目にて見し所、つらつら視て手觸りし所のもの、即ち生命の言につきて、2――この生命すでに顯れ、われら之を見て證をなし、その曾て父と偕に在して、今われらに顯れ給へる永遠の生命を汝らに告ぐ――3我らの見しところ聞きし所を汝らに告ぐ、これ汝等をも我らの交際に與らしめん爲なり。我らは父および其の子イエス・キリストの交際に與るなり。4此等のことを書き贈るは、我らの喜悦の滿ちん爲なり。5我らが彼より聞きて、また汝らに告ぐる音信は是なり、即ち神は光にして少しの暗き所なし。6もし神と交際ありと言ひて暗きうちを歩まば、我ら僞りて眞理を行はざるなり。7もし神の光のうちに在すごとく光のうちを歩まば、我ら互に交際を得、また其の子イエスの血、すべての罪より我らを潔む。8もし罪なしと言はば、是みづから欺けるにて眞理われらの中になし。9もし己の罪を言ひあらはさば、神は眞實にして正しければ、我らの罪を赦し、凡ての不義より我らを潔め給はん。10もし罪を犯したる事なしといはば、これ神を僞者とするなり、神の言われらの中になし。

第二章

1わが若子よ、これらの事を書き贈るは、汝らが罪を犯さざらん爲なり。人もし罪を犯さば、我等のために父の前に助主あり、即ち義なるイエス・キリストなり。2彼は我らの罪のために宥の供物たり、啻に我らの爲のみならず、また全世界の爲なり。3我らその誡命を守らば、之によりて彼を知ることを自ら悟る。4『われ彼を知る』と言ひて其の誡命を守らぬ者は僞者にして眞理その衷になし。5その御言を守る者は誠に神の愛、その衷に全うせらる。之によりて我ら彼に在ることを悟る。6彼に居ると言ふ者は、彼の歩み給ひしごとく自ら歩むべきなり。7愛する者よ、わが汝らに書き贈るは、新しき誡命

にあらず、汝らが初より有てる舊き誡命なり。この舊き誡命は汝らが聞きし所の言なり。8然れど我が汝らに書き贈るところは、また新しき誡命にして、主にも汝らにも眞なり、その故は眞の光すでに照りて、暗黒はややに過ぎ去ればなり。9光に在りと言ひて其の兄弟を憎むものは、今もなほ暗黒にあるなり。10その兄弟を愛する者は、光に居りて顛躓その衷になし。11その兄弟を憎む者は暗黒にあり、暗きうちを歩みて己が往くところを知らず、これ暗黒はその眼を矇したればなり。12若子よ、我この書を汝らに贈るは、なんぢら主の御名によりて罪を赦されたるに因る。13父たちよ、我この書を汝らに贈るは、汝ら太初より在す者を知りたるに因る。若き者よ、我この書を汝らに贈るは、なんぢら惡しき者に勝ちたるに因る。子供よ、我この書を汝らに贈りたるは、汝ら御父を知りたるに因る。14父たちよ、我この書を汝らに贈りたるは、汝ら太初より在す者を知りたるに因る。若き者よ、我この書を汝らに贈りたるは、汝ら強くかつ神の言その衷に留り、また惡しき者に勝ちたるに因る。15なんぢら世をも世にある物をも愛すな。人もし世を愛せば、御父を愛する愛その衷になし。16おほよそ世にあるもの、即ち肉の慾、眼の慾、所有の誇などは、御父より出づるにあらず、世より出づるなり。17世と世の慾とは過ぎ往く、されど神の御意をおこなふ者は永遠に在るなり。18子供よ、今は末の時なり、汝らが非キリスト來らんと聞きしごとく、今や非キリスト多く起れり、之によりて我等その末の時なるを知る。19彼らは我等より出でゆきたれど、固より我等のものに非ざりき。我らの屬ならば、我らと共に留りしならん。されどその出でゆきしは、皆われらの屬ならぬことの顯れん爲なり。20汝らは聖なる者より油を注がれたれば、凡ての事を知る。21我この書を汝らに贈るは、汝ら眞理を知らぬ故にあらず、眞理を知り、かつ凡ての虚僞の眞理より出でぬことを知るに因る。22僞者は誰なるか、イエスのキリストなるを否む者にあらずや。御父と御子とを否む者は非キリストなり。23凡そ御子を否む者は御父をも有たず、御子を言ひあらはす者は御父をも有つなり。24初より聞きし所を汝らの衷に居らしめよ。初より聞きしところ汝らの衷に居らば、汝らも御子と御父とに居らん。25我らに約し給ひし約束は是なり、即ち永遠の生命なり。26汝らを惑す者どもに就きて我これらの事を書き贈る。27なんぢらの衷には、主より注がれたる油とどまる故に、人の汝らに物を教ふる要なし。此の油は汝らに凡ての事を教へ、かつ眞にして虚僞なし、汝等はその教へしごとく主に居るなり。28されば若子よ、主に居れ。これ主の現れ給ふときに臆することなく、其の來り給ふときに恥づることなからん爲なり。29なんぢら主を正しと知らば、凡て正義をおこなふ者の主より生れたることを知らん。

第三章

1視よ、父の我らに賜ひし愛の如何に大なるかを。我ら神の子と稱へらる。既に神の子たり、世の我らを知らぬは、父を知らぬによりてなり。2愛する者よ、我等いま神の子たり、後いかん、未だ顯れず、主の現れたまふ時われら之に肖んことを知る。我らその眞の状を見るべければなり。3凡て主による此の希望を懷く者は、その清きがごとく己を潔くす。4すべて罪をおこなふ者は不法を行ふなり、罪は即ち不法なり。5汝らは知る、主の現れ給ひしは罪を除かん爲なるを。主には罪あることなし。6おほよそ主に居る者は罪を犯さず、おほよそ罪を犯す者は未だ主を見ず、主を知らぬなり。7若子よ、人に惑さるな、義をおこなふ者は義人なり、即ち主の義なるがごとし。8罪を行ふものは惡魔より出づ、惡魔は初より罪を犯せばなり。神の子の現れ給ひしは、惡魔の業を毀たん爲なり。9凡て神より生るる者は罪を行はず、神の種、その衷に止るに由る。彼は神より生るる故に罪を犯すこと能はず。10之に由りて神の子と惡魔の子とは明かなり。おほよそ義を行はぬ者および己が兄弟を愛せぬ者は神より出づるにあらず。11われら互に相愛すべきは汝らが初より聞きし音信なり。12カインに效ふな、彼は惡しき者より出でて己が兄弟を殺せり。何故ころしたるか、己が行爲は惡しく、その兄弟の行爲は正しかりしに因る。13兄弟よ、世は汝らを憎むとも怪しむな。14われら兄弟を愛するによりて、死より生命に移りしを知る、愛せぬ者は死のうちに居る。15おほよそ兄弟を憎む者は即ち人を殺す者なり、凡そ人を殺す者の、その内に永遠の生命なきを汝らは知る。16主は我らの爲に生命を捨てたまへり、之によりて愛といふことを知りたり、我等もまた兄弟のために生命を捨つべきなり。17世の財寶をもちて兄弟の窮乏を見、反つて憐憫の心を閉づる者は、いかで神の愛その衷にあらんや。18若子よ、われ

ら言と舌とをもて相愛することなく、行爲と眞實とを以てすべし。19之に由りて我ら眞理より出でしを知り、且われらの心われらを責むとも神の前に心を安んずべし。20神は我らの心よりも大にして一切のことを知り給へばなり。21愛する者よ、我らが心みづから責むる所なくば、神に向ひて懼なし。22且すべて求むる所を神より受くべし。是その誡命を守りて御心にかなふ所を行へばなり。23その誡命はこれなり、即ち我ら神の子イエス・キリストの名を信じ、その命じ給ひしごとく互に相愛すべきことなり。24神の誡命を守る者は神に居り、神もまた彼に居給ふ。我らその賜ふところの御靈に由りて其の我らに居給ふことを知るなり。

第四章

1愛する者よ、凡ての靈を信ずな、その靈の神より出づるか否かを試みよ。多くの僞預言者世に出でたればなり。2凡そイエス・キリストの肉體にて來り給ひしことを言ひあらはす靈は神より出づ、なんぢら之によりて神の御靈を知るべし。3凡そイエスを言ひ表さぬ靈は神より出でしにあらず、これは非キリストの靈なり。その來ることは汝ら聞けり、この靈いま既に世にあり。4若子よ、汝らは神より出でし者にして既に彼らに勝てり。汝らに居給ふ者は世に居る者よりも大なればなり。5彼らは世より出でし者なり、之によりて世の事をかたり、世も亦かれらに聽く。6我らは神より出でし者なり。神を知る者は我らに聽き、神より出でぬ者は我らに聽かず。之によりて眞理の靈と迷謬の靈とを知る。7愛する者よ、われら互に相愛すべし。愛は神より出づ、おほよそ愛ある者は、神より生れ神を知るなり。8愛なき者は、神を知らず、神は愛なればなり。9神の愛われらに顯れたり。神はその生み給へる獨子を世に遣し、我等をして彼によりて生命を得しめ給ふに因る。10愛といふは、我ら神を愛せしにあらず、神われらを愛し、その子を遣して我らの罪のために宥の供物となし給ひし是なり。11愛する者よ、斯くのごとく神われらを愛し給ひたれば、我らも亦たがひに相愛すべし。12未だ神を見し者あらず、我等もし互に相愛せば、神われらに在し、その愛も亦われらに全うせらる。13神、御靈を賜ひしに因りて、我ら神に居り神われらに居給ふことを知る。14又われら父のその子を遣して世の救主となし給ひしを見て、その證をなすなり。15凡そイエスを神の子と言ひあらはす者は、神かれに居り、かれ神に居る。16我らに對する神の愛を我ら既に知り、かつ信ず。神は愛なり、愛に居る者は神に居り、神も亦かれに居給ふ。17かく我らの愛完全をえて、審判の日に懼なからしむ。我等この世にありて主の如くなるに因る。18愛には懼なし、全き愛は懼を除く、懼には苦難あればなり。懼るる者は、愛いまだ全からず。19我らの愛するは、神まづ我らを愛し給ふによる。20人もし『われ神を愛す』と言ひて、その兄弟を憎まば、これ僞者なり。既に見るところの兄弟を愛せぬ者は、未だ見ぬ神を愛すること能はず。21神を愛する者は亦その兄弟をも愛すべし。我等この誡命を神より受けたり。

第五章

1凡そイエスをキリストと信ずる者は、神より生れたるなり。おほよそ之を生み給ひし神を愛する者は、神より生れたる者をも愛す。2我等もし神を愛して、その誡命を行はば、之によりて神の子供を愛することを知る。3神の誡命を守るは即ち神を愛するなり、而してその誡命は難からず。4おほよそ神より生るる者は世に勝つ、世に勝つ勝利は我らの信仰なり。5世に勝つものは誰ぞ、イエスを神の子と信ずる者にあらずや。6これ水と血とに由りて來り給ひし者、即ちイエス・キリストなり。啻に水のみならず、水と血とをもて來り給ひしなり。7證する者は御靈なり。御靈は眞理なればなり。8證する者は三つ、御靈と水と血となり。この三つ合ひて一つとなる。9我等もし人の證を受けんには、神の證は更に大なり。神の證はその子につきて證し給ひし是なり。10神の子を信ずる者はその衷にこの證をもち、神を信ぜぬ者は神を僞者とす。これ神その子につきて證せし證を信ぜぬが故なり。11その證はこれなり、神は永遠の生命を我らに賜へり、この生命はその子にあり。12御子をもつ者は生命をもち、神の子をもたぬ者は生命をもたず。13われ神の子の名を信ずる汝らに此等のことを書き贈るは、汝らに自ら永遠の生命を有つことを知らしめん爲なり。14我らが神に向ひて確信する所は是なり、即ち御意にかなふ事を求めば、必ず聽き給ふ。15かく求むるところ、何事にても聽き給ふと知れば、求めし願を得たる事をも知るなり。16人もし其の兄弟の死に至らぬ罪を犯すを見

ば、神に求むべし。さらば彼に、死に至らぬ罪を犯す人々に生命を與へ給はん。死に至る罪あり、我これに就きて請ふべしと言はず。17凡ての不義は罪なり、されど死に至らぬ罪あり。18凡て神より生れたる者の罪を犯さぬことを我らは知る。神より生れ給ひし者、これを守りたまふ故に、惡しきもの觸るる事をせざるなり。19我らは神より出で、全世界は惡しき者に屬するを我らは知る。20また神の子すでに來りて我らに眞の者を知る知識を賜ひしを我らは知る。而して我らは眞の者に居り、その子イエス・キリストに居るなり、彼は眞の神にして永遠の生命なり。21若子よ、自ら守りて偶像に遠ざかれ。

ヨハネの第二の書

第一章

1長老、書を選ばれたる婦人および其の子供に贈る。われ眞をもて汝らを愛す。啻に我のみならず、凡て眞理を知る者はみな汝らを愛す。2これは我らの衷に止りて永遠に偕にあらんとする眞理に因りてなり。3父なる神および父の子イエス・キリストより賜ふ恩惠と憐憫と平安とは、眞と愛との中にて我らと偕にあらん。4われ汝の子供のうちに、我らが父より誡命を受けし如く、眞理に循ひて歩む者あるを見て甚だ喜べり。5婦人よ、われ今なんぢに願ふは、我らが互に相愛すべき事なり。これは新しき誡命を書き贈るにあらず、我らが初より有てる誡命なり。6彼の誡命に循ひて歩むは即ち愛なり、汝らが初より聞きしごとく、愛に歩むは即ち誡命なり。7人を惑すもの多く世にいで、イエス・キリストの肉體にて來り給ひしことを言ひ表さず、かかる者は人を惑す者にして、非キリストなり。8なんぢら我らが働きし所を空しくせず、滿ち足れる報を得んために自ら心せよ。9凡そキリストの教に居らずして、之を越えゆく者は神を有たず、キリストの教にをる者は父と子とを有つなり。10人もし此の教を有たずして汝らに來らば、之を家に入るな、安かれと言ふな。11之に安かれと言ふ者は、その惡しき行爲に與するなり。12我なほ汝らに書き贈ること多くあれど、紙と墨とにてするを好まず、我らの歡喜を充さんために汝等にいたり、顏をあわせて語らんことを望む。13選ばれたる汝の姉妹の子供、なんぢに安否を問ふ。

ヨハネの第三の書

第一章

1長老、書を愛するガイオ、わが眞をもて愛する者に贈る。2愛する者よ、我なんぢが靈魂の榮ゆるごとく汝すべての事に榮え、かつ健かならんことを祈る。3兄弟たち來りて汝が眞理を保つこと、即ち眞理に循ひて歩むことを證したれば、われ甚だ喜べり。4我には我が子供の、眞理に循ひて歩むことを聞くより大なる喜悦はなし。5愛する者よ、なんぢ旅人なる兄弟たちにまで行ふ所みな忠實をもて爲せり。6かれら教會の前にて汝の愛につきて證せり。なんぢ神の御意に適ふやうに彼らを見送らば、その行ふところ善からん。7彼らは異邦人より何をも受けずして御名のために旅立せり。8されば斯かる人を助くべきなり、我らも彼らと共に眞理のために働く者とならん爲なり。9われ曩に聊か教會に書きおくれり。然れど彼らの中に長たらんと欲するデオテレペス我らを受けず。10この故に我もし往かば、その行へる業を思ひ出させん。彼は惡しき言をもて我らを罵り、なほ足れりとせずして自ら兄弟たちを接けず、之を接けんとする者をも拒みて教會より逐ひ出す。11愛する者よ、惡に效ふな、善にならへ。善をおこなふ者は神より出で、惡をおこなふ者は未だ神を見ざるなり。12デメテリオは凡ての人にも眞理にも證せらる。我等もまた證す、なんぢ我らの證の眞なるを知る。13我なほ汝に書き贈ること多くあれど、墨と筆とにてするを欲せず、14速かに汝を見、たがひに顏をあはせて語らんことを望む。汝に平安あれ、朋友たち安否を問ふ。なんぢ名をさして友たちに安否を問へ。

ユダの書

第一章

1イエス・キリストの僕にしてヤコブの兄弟なるユダ、
書を召されたる者、すなはち父なる神に愛せられ、イエス・キリストの爲に守らるる者に贈る。2願はくは憐憫と平安と愛と、なんぢらに増さんことを。3愛する者よ、われ我らが共に與る救につき勵みて汝らに書き贈らんとせしが、聖徒の一たび傳へられたる信仰のために戰はんことを勸むる書を、汝らに贈るを必要と思へり。4そは敬虔ならずして我らの神の恩惠を好色に易へ、唯一の主なる我らの主イエス・キリストを否むものども潛り入りたればなり。彼らが此の審判を受くべきことは昔より預じめ録されたり。5汝らは固より凡ての事を知れど、我さらに汝等をして思ひ出さしめんとする事あり、即ち主エジプトの地より民を救ひ出して、後に信ぜぬ者を亡し給へり。6又おのが位を保たずして己が居所を離れたる御使を、大なる日の審判まで、闇黒のうちに長久の繩目をもて看守し給へり。7ソドム、ゴモラ及びその周圍の町々も亦これと同じく、淫行に耽り、背倫の肉慾に走り、永遠の火の刑罰をうけて鑑とせられたり。8かくの如くかの夢見る者どもも肉を汚し、權威ある者を輕んじ、尊き者を罵る。9御使の長ミカエル惡魔と論じてモーセの屍體を爭ひし時に、敢へて罵りて審かず、唯『ねがはくは主なんぢを戒め給はんことを』と云へり。10されど此の人々は知らぬことを罵り、無知の獸のごとく、自然に知る所によりて亡ぶるなり。11禍害なるかな、彼らはカインの道にゆき、利のためにバラムの迷に走り、またコラの如き謀反によりて亡びたり。12彼らは汝らと共に宴席に與り、その愛餐の暗礁たり、憚らずして自己をやしなふ牧者、風に逐はるる水なき雲、枯れて又かれ、根より拔かれたる果なき秋の木、13おのが恥を湧き出す海のあらき波、さまよふ星なり。彼らの爲に暗き闇、とこしへに蓄へ置かれたり。14アダムより七代に當るエノク彼らに就きて預言せり。曰く『視よ、主はその聖なる千萬の衆を率ゐて來りたまへり。15これ凡ての人の審判をなし、すべて敬虔ならぬ者の不敬虔を行ひたる不敬虔の凡ての業と、敬虔ならぬ罪人の、主に逆ひて語りたる凡ての甚だしき言とを責め給はんとてなり』16彼らは呟くもの、不滿をならす者にして、おのが慾に隨ひて歩み、口に誇をかたり、利のために人に諂ふなり。17愛する者よ、汝らは我らの主イエス・キリストの使徒たちの預じめ言ひし言を憶えよ。18即ち汝らに曰らく『末の時に嘲る者おこり、己が不敬虔なる慾に隨ひて歩まん』と。19彼らは分裂をなし、情慾に屬し、御靈を有たぬ者なり。20されど愛する者よ、なんぢらは己がいと潔き信仰の上に徳を建て、聖靈によりて祈り、21神の愛のうちに己をまもり、永遠の生命を得るまで我らの主イエス・キリストの憐憫を待て。22また彼らの中なる疑ふ者をあはれみ、23或者を火より取出して救ひ、或者をその肉に汚れたる下衣をも厭ひ、かつ懼れつつ憐め。24願はくは汝らを守りて躓かしめず、瑕なくして榮光の御前に歡喜をもて立つことを得しめ給ふ者、25即ち我らの救主なる唯一の神に、榮光・稜威・權力・權威、われらの主イエス・キリストに由りて、萬世の前にも今も萬世までも在らんことを、アァメン

ヨハネの默示録

第一章

1これイエス・キリストの默示なり。即ち、かならず速かに起るべき事を、その僕どもに顯させんとて、神の彼に與へしものなるを、彼その使を僕ヨハネに遣して示し給へるなり。2ヨハネは神の言とイエス・キリストの證とに就きて、その見しところを悉とく證せり。3此の預言の言を讀む者と之を聽きて其の中に録されたることを守る者どもとは幸福なり、時近ければなり。4ヨハネ書をアジヤに在る七つの教會に贈る。願はくは今在し、昔在し、後來りたまふ者、および其の御座の前にある七つの靈、5また忠實なる證人、死人の中より最先に生れ給ひしもの、地の諸王の君なるイエス・キリストより賜ふ

恩惠と平安と汝らに在らんことを。願はくは我らを愛し、その血をもて我らを罪より解放ち、6われらを其の父なる神のために國民となし祭司となし給へる者に、世々限りなく榮光と權力とあらんことを、アァメン。7視よ、彼は雲の中にありて來りたまふ、諸衆の目、殊に彼を刺したる者これを見ん、かつ地上の諸族みな彼の故に歎かん、然り、アァメン。8今いまし、昔いまし、後きたり給ふ主なる全能の神いひ給ふ『我はアルパなり、オメガなり』9汝らの兄弟にして汝らと共にイエスの艱難と國と忍耐とに與る我ヨハネ、神の言とイエスの證との爲にパトモスといふ島に在りき。10われ主日に御靈に感じゐたるに、我が後にラッパのごとき大なる聲を聞けり。11曰く『なんぢの見る所のことを書に録して、エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、ヒラデルヒヤ、ラオデキヤに在る七つの教會に贈れ』12われ振反りて我に語る聲を見んとし、振反り見れば七つの金の燈臺あり。13また燈臺の間に人の子のごとき者ありて、足まで垂るる衣を著、胸に金の帶を束ね、14その頭と頭髪とは白き毛のごとく雪のごとく白く、その目は焔のごとく、15その足は爐にて燒きたる輝ける眞鍮のごとく、その聲は衆の水の聲のごとし。16その右の手に七つの星を持ち、その口より兩刃の利き劍いで、その顏は烈しく照る日のごとし。17我これを見しとき其の足下に倒れて死にたる者の如くなれり。彼その右の手を我に按きて言ひたまふ『懼るな、我は最先なり、最後なり、18活ける者なり、われ曾て死にたりしが、視よ、世々限りなく生く。また死と陰府との鍵を有てり。19されば汝が見しことと今あることと、後に成らんとする事とを録せ、20即ち汝が見しところの我が右の手にある七つの星と七つの金の燈臺との奥義なり。七つの星は七つの教會の使にして、七つの燈臺は七つの教會なり。

第二章

1エペソに在る教會の使に書きおくれ。「右の手に七つの星を持つ者、七つの金の燈臺の間に歩むもの斯く言ふ、2われ汝の行爲と勞と忍耐とを知る。また汝が惡しき者を忍び得ざることと、自ら使徒と稱へて使徒にあらぬ者どもを試みて、その虚僞なるを見あらはししこととを知る。3なんぢは忍耐を保ち、我が名のために忍びて倦まざりき。4されど我なんぢに責むべき所あり、なんぢは初の愛を離れたり。5されればなんぢ何處より墜ちしかを思へ、悔改めて初の行爲をなせ、然らずして若し悔改めずば、我なんぢに到り汝の燈臺を、その處より取除かん。6されど汝に取るべき所あり、汝はニコライ宗の行爲を憎む、我も之を憎むなり。7耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし、勝を得る者には、われ神のパラダイスに在る生命の樹の實を食ふことを許さん」8スミルナに在る教會の使に書きおくれ。「最先にして最後なる者、死人となりて復生きし者かく言ふ。9われ汝の艱難と貧窮とを知る——されど汝は富める者なり。我はまた自らユダヤ人と稱へてユダヤ人にあらず、サタンの會に屬く者より汝が譏を受くるを知る。10なんぢ受けんとする苦難を懼るな、視よ、惡魔なんぢらを試みんとて、汝らの中の或者を獄に入れんとす。汝ら十日のあひだ患難を受けん、なんぢ死に至るまで忠實なれ、然らば我なんぢに生命の冠冕を與へん。11耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし。勝を得るものは第二の死に害はるることなし」12ペルガモに在る教會の使に書きおくれ。「兩刃の利き劍を持つもの斯く言ふ、13われ汝の住むところを知る、彼處にはサタンの座位あり、汝わが名を保ち、わが忠實なる證人アンテパスが、汝等のうち即ちサタンの住む所にて殺されし時も、なほ我を信ずる信仰を棄てざりき。14されど我なんぢに責むべき一二の事あり、汝の中にバラムの教を保つ者どもあり、バラムはバラクに教へ、彼をしてイスラエルの子孫の前に躓物を置かしめ、偶像に献げし物を食はせ、かつ淫行をなさしめたり。15斯くのごとく汝らの中にもニコライ宗の教を保つ者あり。16さらば悔改めよ、然らずば我すみやかに汝に到り、わが口の劍にて彼らと戰はん。17耳ある者は御靈の諸教會に言ひ給ふことを聽くべし、勝を得る者には我かくれたるマナを與へん、また受くる者の外たれも知らざる新しき名を録したる白き石を與へん」18テアテラに在る教會の使に書きおくれ。「目は焔のごとく、足は輝ける眞鍮の如くなる神の子かく言ふ、19われ汝の行爲および汝の愛と信仰と職と忍耐とを知る、又なんぢの初の行爲よりは後の行爲の多きことを知る。20されど我なんぢに責むべき所あり、汝はかの自ら預言者と稱へて我が僕を教へ惑し、淫行をなさしめ、偶像に献げし物を食はしむる女イゼベルを容れおけり。21我かれに悔改むる機を與ふれど、その淫行を

悔改むることを欲せず。22視よ、我かれを牀に投げ入れん、又かれと共に姦淫を行ふ者も、その行爲を悔改めずば、大なる患難に投げ入れん。23又かれの子供を打ち殺さん、斯くてもろもろの教會は、わが人の腎と心とを究むる者なるを知るべし、我は汝 等おのおのの行爲に隨ひて報いん。24我この他のテアテラの人にして未だかの教を受けず、所謂サタンの深きところを知らぬ汝らに斯くいふ、我ほかの重を汝らに負はせじ。25ただ汝 等はその有つところを我が到らん時まで保て。26勝を得て終に至るまで我が命ぜしことを守る者には、諸國の民を治むる權威を與へん。27彼は鐵の杖をもて之を治め、土の器を碎くが如くならん、我が父より我が受けたる權威のごとし。28我また彼に曙の明 星を與へん。29耳ある者は御靈の諸 教會に言ひ給ふことを聽くべし」

第三章

1サルデスに在る教會の使に書きおくれ。「神の七つの靈と七つの星とを持つ者かく言ふ、われ汝の行爲を知る、汝 は生くる名あれど死にたる者なり。2なんぢ目を覺し、殆ど死なんとする殘のものを堅うせよ、我なんぢの行爲のわが神の前に全からぬを見とめたり。3されば汝の如何に受けしか、如何に聽きしかを思ひいで、之を守りて悔改めよ。もし目を覺さずば、盜人のごとく我きたらん、汝わが何れの時きたるかを知らざるべし。4されどサルデスにて衣を汚さぬもの數名あり、彼らは白き衣を著て我とともに歩まん、斯くするに相應しき者なればなり。5勝を得る者は斯くのごとく白き衣を著せられん、我その名を生命の書より消し落さず、我が父のまへと御使の前とにてその名を言ひあらはさん。6耳ある者は御靈の諸 教會に言ひ給ふことを聽くべし」7ヒラデルヒヤにある教會の使に書きおくれ。「聖なるもの眞なる者、ダビデの鍵を持ちて、開けば閉づる者なく、閉づれば開く者なき者かく言ふ、8われ汝の行爲を知る、視よ、我なんぢの前に開けたる門を置く、これを閉ぢ得る者なし。汝すこしの力ありて、我が言を守り、我が名を否まざりき。9視よ、我サタンの會、すなはち自らユダヤ人と稱へてユダヤ人にあらず、ただ虛僞をいふ者の中より、或者をして汝の足下に來り拜せしめ、わが汝を愛せしことを知らしめん。10汝わが忍耐の言を守りし故に、我なんぢを守りて、地に住む者どもを試むるために全世界に來らんとする試錬のときに免れしめん。11われ速かに來らん、汝の有つものを守りて、汝の冠冕を人に奪はれざれ。12われ勝を得る者を我が神の聖所の柱とせん、彼は再び外に出でざるべし、又かれの上に、わが神の名および我が神の都、すなはち天より我が神より降る新しきエルサレムの名と、我が新しき名とを書き記さん。13耳ある者は御靈の諸 教會に言ひ給ふことを聽くべし」14ラオデキヤに在る教會の使に書きおくれ。「アァメンたる者、忠實なる眞なる證人、神の造り給ふものの本源たる者かく言ふ、15われ汝の行爲を知る、なんぢは冷かにもあらず熱きにもあらず、我はむしろ汝が冷かならんか、熱からんかを願ふ。16かく熱きにもあらず、冷かにもあらず、ただ微温きが故に、我なんぢを我が口より吐き出さん。17なんぢ、我は富めり、豐なり、乏しき所なしと言ひて、己が惱める者・憐むべき者・貧しき者・盲目なる者・裸なる者たるを知らざれば、18我なんぢに勸む、なんぢ我より火にて煉りたる金を買ひて富め、白き衣を買ひて身に纏ひ、なんぢの裸體の恥を露さざれ、眼藥を買ひて汝の目に塗り、見ることを得よ。19凡てわが愛する者は、我これを戒め之を懲す。この故に、なんぢ勵みて悔改めよ。20視よ、われ戸の外に立ちて叩く、人もし我が聲を聞きて戸を開かば、我その内に入りて彼とともに食し、彼もまた我とともに食せん。21勝を得る者には我とともに我が座位に坐することを許さん、我の勝を得しとき、我が父とともに其の御座に坐したるが如し。22耳ある者は御靈の諸 教會に言ひ給ふことを聽くべし」』

第四章

1この後われ見しに、視よ、天に開けたる門あり。初に我に語るを聞きしラッパのごとき聲いふ『ここに登れ、我この後おこるべき事を汝に示さん』2直ちに、われ御靈に感ぜしが、視よ、天に御座 設けあり。3その御座に坐したまふ者あり、その坐し給ふものの狀は碧玉・赤瑪瑙のごとく、かつ御座の周圍には緑 玉のごとき虹ありき。4また御座のまはりに二十四の座位ありて、二十四人の長老、白き衣を纏ひ、首に金の冠冕を戴きて、その座位に坐せり。5御座より數多の電光と聲と雷霆と出づ。また御座の前に燃えたる七つの燈火あり、これ神の七つの靈なり。6御座のまへに水晶に似たる

玻璃の海あり。御座の中央と御座の周圍とに四つの活物ありて、前も後も數々の目にて滿ちたり。7第一の活物は獅子のごとく、第二の活物は牛のごとく、第三の活物は面のかたち人のごとく、第四の活物は飛ぶ鷲のごとし。8この四つの活物おのおの六つの翼あり、翼の内も外も數々の目にて滿ちたり、日も夜も絶間なく言ふ、『聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、昔いまし、今いまし、のち來りたまふ主たる全能の神』9この活物ら御座に坐し、世々限りなく活きたまふ者に榮光と尊崇とを歸し、感謝する時、10二十四人の長老、御座に坐したまふ者のまへに伏し、世々限りなく活きたまふ者を拜し、おのれの冠冕を御座のまへに投げ出して言ふ、11『我らの主なる神よ、榮光と尊崇と能力とを受け給ふは宜なり。汝は萬物を造りたまひ、萬物は御意によりて存し、かつ造られたり』

第五章

1我また御座に坐し給ふ者の右の手に、卷物のあるを見たり、その裏表に文字あり、七つの印をもて封ぜらる。2また大聲に『卷物を開きてその封印を解くに相應しき者は誰ぞ』と呼はる強き御使を見たり。3然るに天にも地にも、地の下にも、卷物を開きて之を見得る者なかりき。4卷物を開き、これを見るに相應しき者の見えざりしに因りて、我いたく泣きゐたりしに、5長老の一人われに言ふ『泣くな、視よ、ユダの族の獅子・ダビデの萠蘖、すでに勝を得て卷物とその七つの封印とを開き得るなり』6我また御座および四つの活物と長老たちとの間に、屠られたるが如き羔羊の立てるを見たり、之に七つの角と七つの目とあり、この目は全世界に遣されたる神の七つの靈なり。7かれ來りて御座に坐したまふ者の右の手より卷物を受けたり。8卷物を受けたるとき、四つの活物および二十四人の長老、おのおの立琴と香の滿ちたる金の鉢とをもちて、羔羊の前に平伏せり、此の香は聖徒の祈禱なり。9かくて新しき歌を謳ひて言ふ『なんぢは卷物を受け、その封印を解くに相應しきなり、汝は屠られ、その血をもて諸種の族・國語・民・國の中より人々を神のために買ひ、10之を我らの神のために國民となし、祭司となし給へばなり。彼らは地の上に王となるべし』11我また見しに、御座と活物と長老たちとの周圍にをる多くの御使の聲を聞けり。その數、千々萬々にして、12大聲にいふ『屠られ給ひし羔羊こそ、能力と富と知慧と、勢威と尊崇と、榮光と讃美とを受くるに相應しけれ』13我また天に、地に、地の下に、海にある萬の造られたる物、また凡てその中にある物の云へるを聞けり。曰く『願はくは御座に坐し給ふものと羔羊とに、讃美と尊崇と榮光と權力と世々限りなくあらん事を』14四つの活物はアァメンと言ひ、長老たちは平伏して拜せり。

第六章

1羔羊その七つの封印の一つを解き給ひし時、われ見しに、四つの活物の一つが雷霆のごとき聲して『來れ』と言ふを聞けり。2また見しに、視よ、白き馬あり、之に乘るもの弓を持ち、かつ冠冕を與へられ、勝ちて復勝たんとて出でゆけり。3第二の封印を解き給ひたれば、第二の活物の『來れ』と言ふを聞けり。4かくて赤き馬いで來り、これに乘るもの地より平和を奪ひ取ることと、人をして互に殺さしむる事とを許され、また大なる劍を與へられたり。5第三の封印を解き給ひたれば、第三の活物の『來れ』と言ふを聞けり。われ見しに、視よ、黒き馬あり、之に乘るもの手に權衡を持てり。6かくてわれ四つの活物の間より出づるごとき聲を聞けり。曰く『小麥五合は一デナリ、大麥一升五合は一デナリなり、油と葡萄酒とを害ふな』7第四の封印を解き給ひたれば、第四の活物の『來れ』と言ふを聞けり。8われ見しに、視よ、青ざめたる馬あり、之に乘る者の名を死といひ、陰府これに隨ふ。かれらは地の四分の一を支配し、劍と饑饉と死と地の獸とをもて人を殺すことを許されたり。9第五の封印を解き給ひたれば、曾て神の言のため、又その立てし證のために殺されし者の靈魂の祭壇の下に在るを見たり。10彼ら大聲に呼はりて言ふ『聖にして眞なる主よ、何時まで審かずして地に住む者に我らの血の復讐をなし給はぬか』11ここにおのおの白き衣を與へられ、かつ己等のごとく殺されんとする同じ僕たる者と兄弟との數の滿つるまで、なほ暫く安んじて待つべきを言ひ聞けられたり。12第六の封印を解き給ひし時、われ見しに、大なる地震ありて日は荒き毛布のごとく黒く、月は全面血の如くなり、13天の星は無花果の樹の大風に搖られて、生り後の果の落つるごとく地におち、14天は卷物を卷くごとく去りゆき、山と島とは悉と

くその處を移されたり。15地の王たち・大臣・將校・富める者・強き者・奴隷・自主の人、みな洞と山の巖間とに匿れ、16山と巖とに對ひて言ふ『請ふ、我らの上に墜ちて御座に坐したまふ者の御顔より、羔羊の怒より、我らを隱せ。17そは御怒の大なる日 既に來ればなり。誰か立つことを得ん』

第七章

1この後、われ四人の御使の地の四隅に立つを見たり、彼らは地の四方の風を引止めて、地にも海にも諸種の樹にも風を吹かせざりき。2また他の一人の御使の、活ける神の印を持ちて日の出づる方より登るを見たり、かれ地と海とを害ふ權を與へられたる四人の御使にむかひ、大聲に呼はりて言ふ、3『われらが我らの神の僕の額に印するまでは、地をも海をも樹をも害ふな』4われ印せられたる者の數を聽きしに、イスラエルの子 等のもろもろの族の中にて印せられたるもの合せて十四萬 四千あり。5ユダの族の中にて一萬 二千 印せられ、ルベンの族 の中にて一萬 二千、ガドの族の中にて一萬 二千、6アセルの族の中にて一萬 二千、ナフタリの族の中にて一萬 二千、マナセの族の中にて一萬 二千、7シメオンの族 の中にて一萬 二千、レビの族の中にて一萬 二千、イサカルの族の中にて一萬 二千、8ゼブルンの族の中にて一萬 二千、ヨセフの族の中にて一萬 二千、ベニヤミンの族の中にて一萬 二千 印せられたり。9この後われ見しに、視よ、もろもろの國・族・民・國語の中より、誰も數へつくすこと能はぬ大なる群衆、しろき衣を纏ひて手に棕梠の葉をもち、御座と羔羊との前に立ち、10大聲に呼はりて言ふ『救は御座に坐したまふ我らの神と羔羊とにこそ在れ』11御使みな御座および長老たちと四つの活物との周圍に立ちて、御座の前に平伏し神を拜して言ふ、12『アァメン、讃美・榮光・知慧・感謝・尊貴・能力・勢威、世々 限りなく我らの神にあれ、アァメン』13長老たちの一人われに向ひて言ふ『この白き衣を著たるは如何なる者にして何處より來りしか』14我いふ『わが主よ、なんぢ知れり』かれ言ふ『かれらは大なる患難より出できたり、羔羊の血に己が衣を洗ひて白くしたる者なり。15この故に神の御座の前にありて、晝も夜もその聖所にて神に事ふ。御座に坐したまふ者は彼らの上に幕屋を張り給ふべし。16彼らは重ねて飢ゑず、重ねて渇かず、日も熱も彼らを侵すことなし。17御座の前にいます羔羊は、彼らを牧して生命の水の泉にみちびき、神は彼らの目より凡ての涙を拭ひ給ふべければなり』

第八章

1第七の封印を解き給ひたれば、凡そ半時のあひだ天 靜なりき。2われ神の前に立てる七人の御使を見たり、彼らは七つのラッパを與へられたり。3また他の一人の御使、金の香爐を持ちきたりて祭壇の前に立ち、多くの香を與へられたり。これは凡ての聖徒の祈に加へて、御座の前なる金の香壇の上に献げんためなり。4而して香の煙、御使の手より聖徒たちの祈とともに神の前に上れり。5御使その香爐をとり、之に祭壇の火を盛りて地に投げたれば、數多の雷霆と聲と電光と、また地震おこれり。6ここに七つのラッパをもてる七人の御使これを吹く備をなせり。7第一の御使ラッパを吹きしに、血の混りたる雹と火とありて、地にふりくだり、地の三分の一 燒け失せ、樹の三分の一 燒け失せ、もろもろの青 草 燒け失せたり。8第二の御使ラッパを吹きしに、火にて燃ゆる大なる山の如きもの海に投げ入れられ、海の三分の一 血に變じ、9海の中の造られたる生命あるものの三分の一 死に、船の三分の一 滅びたり。10第三の御使ラッパを吹きしに、燈火のごとく燃ゆる大なる星、天より隕ちきたり、川の三分の一と水の源泉との上におちたり。11この星の名は苦 艾といふ。水の三分の一は苦 艾となり、水の苦くなりしに因りて多くの人 死にたり。12第四の御使ラッパを吹きしに、日の三分の一と月の三分の一と星の三分の一と撃たれて、その三分の一は暗くなり、晝も三分の一は光なく、夜も亦おなじ。13また見しに、一つの鷲の中空を飛び、大なる聲して言ふを聞けり。曰く『地に住める者どもは禍害なるかな、禍害なるかな、禍害なるかな、尚ほかに三人の御使の吹かんとするラッパの聲あるに因りてなり』

第九章

1第五の御使ラッパを吹きしに、われ一つの星の天より地に隕ちたるを見たり。この星は底なき坑の鍵を與へられたり。2かくて底なき坑を開きたれば、大なる爐の 煙のごとき煙、坑より立ちのぼり、日も空も坑の煙にて暗くなれり。3煙の中より蝗 地上に出でて、地の蝎のもてる力のごとき力を與へられ、4地の草すべての青きもの

又すべての樹を害ふことなく、ただ額に神の印なき人をのみ害ふことを命ぜられたり。5されど彼らを殺すことを許されず、五月のあひだ苦しむることを許さる、その苦痛は、蝎に刺されたる苦痛のごとし。6このとき人々、死を求むとも見出さず、死なんと欲すとも死は逃げ去るべし。7かの蝗の形は戰爭の爲に具へたる馬のごとく、頭には金に似たる冠冕の如きものあり、顏は人の顏のごとく、8之に女の頭髮のごとき頭髮あり、齒は獅子の齒のごとし。9また鐵の胸當のごとき胸當あり、その翼の音は軍 車の轟くごとく、多くの馬の戰鬪に馳せゆくが如し。10また蝎のごとき尾ありて之に刺あり、この尾に五月のあひだ人を害ふ力あり。11この蝗に王あり。底なき所の使にして、名をヘブル語にてアバドンと云ひ、ギリシヤ語にてアポルオンと云ふ。12第一の禍害すぎ去れり、視よ、此の後なほ二つの禍害きたらん。13第六の御使ラッパを吹きしに、神の前なる金の香壇の四つの角より聲ありて、14ラッパを持てる第六の御使に『大なるユウフラテ川の邊に繫がれをる四人の御使を解放て』と言ふを聞けり。15かくてその時その日その月その年に至りて、人の三分の一を殺さん爲に備へられたる四人の御使は解放たれたり。16騎兵の數は二億なり、我その數を聞けり。17われ幻影にてその馬と之に乘る者とを見しに、彼らは火・煙・硫黄の色したる胸當を著く。馬の頭は獅子の頭のごとくにて、その口よりは火と煙と硫黄と出づ。18この三つの苦痛、すなはち其の口より出づる火と煙と硫黄とに因りて、人の三分の一 殺されたり。19馬の力はその口とその尾とにあり、その尾は蛇の如くにして頭あり、之をもて人を害ふなり。20これらの苦痛にて殺されざりし殘の人々は、おのが手の業を悔改めずして、なほ惡鬼を拜し、見ること聞くこと歩むこと能はぬ、金・銀・銅・石・木の偶像を拜せり、21又その殺人・咒術・淫行・竊盜を悔改めざりき。

第十章

1我また一人の強き御使の、雲を著て天より降るを見たり。その頭の上に虹あり、その顏は日の如く、その足は火の柱のごとし。2その手には展きたる小き卷 物をもち、右の足を海の上におき、左の足を地の上におき、3獅子の吼ゆる如く大聲に呼はれり、呼はりたるとき七つの雷霆おのおの聲を出せり。4七つの雷霆の語りし時、われ書き記さんとせしに、天より聲ありて『七つの雷霆の語りしことは封じて書き記すな』といふを聞けり。5かくて我が見しところの海と地とに跨り立てる御使は、天にむかひて右の手を擧げ、6天および其の中に在るもの、地および其の中にあるもの、海および其の中にある物を造り給ひし、世々限りなく生きたまふ者を指し、誓ひて言ふ『この後、時は延ぶることなし。7第七の御使の吹かんとするラッパの聲の出づる時に至りて、神の僕なる預言者たちに示し給ひし如く、その奥義は成就せらるべし』8かくて我が前に天より聞きし聲のまた我に語りて『なんぢ往きて、海と地とに跨り立てる御使の手にある展きたる卷 物を取れ』と言ふを聞けり。9われ御使のもとに往きて、小き卷 物を我に與へんことを請ひたれば、彼いふ『これを取りて食ひ盡せ、さらば汝の腹 苦くならん、然れど其の口には蜜のごとく甘からん』10われ御使の手より小き卷 物をとりて食ひ盡したれば、口には蜜のごとく甘かりしが、食ひし後わが腹は苦くなれり。11また或 物われに言ふ『なんぢ再び多くの民・國・國語・王たちに就きて預言すべし』

第十一章

1ここにわれ杖のごとき間竿を與へられたり、かくて或者いふ『立ちて神の聖所と香壇と其處に拜する者どもとを度れ、2聖所の外の庭は差措きて度るな、これは異邦人に委ねられたり、彼らは四十 二个月のあひだ聖なる都を蹂躙らん。3我わが二人の證 人に權を與へん、彼らは荒布を著て千二百 六十日のあひだ預言すべし。4彼らは地の主の御前に立てる二つのオリブの樹、二つの燈臺なり。5もし彼らを害はんとする者あらば、火その口より出でてその敵を焚き盡さん。もし彼らを害はんとする者あらば、必ず斯くのごとく殺さるべし。6彼らは預言するあひだ雨を降らせぬやうに天を閉づる權力あり、また水を血に變らせ、思ふままに幾度にても諸種の苦難をもて地を擊つ權力あり。7彼 等がその證を終へんとき、底なき所より上る獸ありて之と戰鬪をなし、勝ちて之を殺さん。8その屍體は大なる都の衢に遺らん。この都を譬へてソドムと云ひ、エジプトの云ふ、即ち彼らの主もまた十字架に釘けられ給ひし所なり。9もろもろの民・族・國 語・國のもの、三日半の間その屍體を見、かつ其の屍體を墓に葬ることを許さざるべし。10地に住

む者どもは彼らに就きて喜び樂しみ互に禮物を贈らん、此の二人の預言者は地に住む者を苦しめたればなり』 11三日半ののち生命の息、神より出でて彼らに入り、かれら足にて起ちたれば、之を見るもの大に懼れたり。 12天より大なる聲して『ここに昇れ』と言ふを彼ら聞きたれば、雲に乘りて天に昇れり、その敵も之を見たり、 13このとき大なる地震ありて、都の十分の一は倒れ、地震のために死にしもの七千人にして、遺れる者は懼をいだき天の神に榮光を歸したり。 14第二の禍害すぎ去れり、視よ、第三の禍害すみやかに來るなり。 15第七の御使ラッパを吹きしに、天に數多の大なる聲ありて『この世の國は我らの主および其のキリストの國となれり。彼は世々限りなく王たらん』と言ふ。 16かくて神の前にて座位に坐する二十四人の長老ひれふし神を拜して言ふ、 17『今いまし、昔います主たる全能の神よ、なんぢの大なる能力を執りて王と成り給ひしことを感謝す。 18諸國の民怒をいだけり、なんぢの怒も亦いたれり、死にたる者を審き、なんぢの僕なる預言者および聖徒、また小なるも大なるも汝の名を畏るる者に報賞をあたへ、地を亡す者を亡したまふ時いたれり』 19斯くて天にある神の聖所ひらけ、聖所のうちに契約の櫃見え、數多の電光と聲と雷霆と、また地震と大なる雹とありき。

第十二章

1また天に大なる徴見えたり。日を著たる女ありて、其の足の下に月あり、其の頭に十二の星の冠冕あり。 2かれは孕りをりしが、子を産まんとして産みの苦痛と惱とのために叫べり、 3また天に他の徴見えたり。視よ、大なる赤き龍あり、これに七つの頭と十の角とありて、頭には七つの冠冕あり。 4その尾は天の星の三分の一を引きて之を地に落せり。龍は子を産まんとする女の前に立ち、産むを待ちて其の子を食ひ盡さんと構へたり。 5女は男子を産めり、この子は鐵の杖もて諸種の國人を治めん。かれは神の許に、その御座の下に擧げられたり。 6女は荒野に逃げゆけり。彼處に千二百六十日の間かれが養はるる爲に神の備へ給へる所あり。 7かくて天に戰爭おこれり、ミカエル及びその使たち龍とたたかふ。龍もその使たちも之と戰ひしが、 8勝つこと能はず、天には、はや其の居る所なかりき。 9かの大なる龍、すなわち惡魔と呼ばれ、サタンと呼ばれたる全世界をまどはす古き蛇は落され、地に落され、その使たちも共に落されたり。 10我また天に大なる聲ありて『われらの神の救と能力と國と神のキリストの權威とは、今すでに來れり。我らの兄弟を訴へ夜晝われらの神の前に訴ふるもの落されたり。 11而して兄弟たちは羔羊の血と己が證の言とによりて勝ち、死に至るまで己が生命を惜まざりき。 12この故に天および天に住める者よ、よろこべ、地と海とは禍害なるかな、惡魔おのが時の暫時なるを知り、大なる憤恚をいだきて汝等のもとに下りたればなり』と云ふを聞けり。 13かくて龍はおのが地に落されしを見て、男子を生みし女を責めたりしが、 14女は荒野なる己が處に飛ぶために、大なる鷲の兩の翼を與へられたれば、其處にいたり、一年、二年、また半年のあひだ蛇のまへを離れて養はれたり。 15蛇はその口より水を川のごとく、女の背後に吐きて之を流さんとしたれど、 16地は女を助け、その口を開きて龍の口より吐きたる川を呑み盡せり。 17龍は女を怒りてその裔の殘れるもの、即ち神の誡命を守りイエスの證を有てる者に、戰鬪を挑まんとて出でゆき、海邊の砂の上に立てり。

第十三章

1我また一つの獸の海より上るを見たり。之に十の角と七つの頭とあり、その角に十の冠冕あり、頭の上には神を涜す名あり。 2わが見し獸は豹に似て、その足は熊のごとく、その口は獅子の口のごとし。龍はこれに己が能力と己が座位と大なる權威とを與へたり。 3我その頭の一つ傷つけられて死ぬばかりなるを見しが、その死ぬべき傷いやされたれば、全地の者これを怪しみて獸に從へり。 4また龍おのが權威を獸に與へしによりて、彼ら龍を拜し、且その獸を拜して言ふ『たれか此の獸に等しき者あらん、誰か之と戰ふことを得ん』 5獸また大言と涜言とを語る口を與へられ、四十二个月のあひだ働く權威を與へらる。 6彼は口をひらきて神を涜し、又その御名とその幕屋すなはち天に住む者どもとを涜し、 7また聖徒に戰鬪を挑みて、之に勝つことを許され、且もろもろの族・民・國語・國を掌どる權威を與へらる。 8凡て地に住む者にて、其の名を屠られ給ひし羔羊の生命の書に、世の創より記されざる者は、これを拜せん。 9人もし耳あらば聽くべし。 10虜にせらるべき者は虜にせられん、劍にて殺す者はおのれも劍にて殺さるべし、聖徒

たちの忍耐と信仰とは茲にあり。 11我また他の獣の地より上るを見たり。これに羔羊のごとき角二つありて龍のごとく語り、 12先の獣の凡ての權威を彼の前にて行ひ、地と地に住む者とをして死ぬべき傷の醫されたる先の獣を拜せしむ。 13また大なる徴をおこなひ、人々の前にて火を天より地に降らせ、 14かの獣の前にて行ふことを許されし徴をもて地に住む者どもを惑し、劍にうたれてなほ生ける獣の像を造ることを地に住む者どもに命じたり。 15而してその獣の像に息を與へて物言はしめ、且その獣の像を拜せぬ者をことごとく殺さしむる事を許され、 16また凡ての人をして、大小・貧富・自主・奴隷の別なく、或はその右の手、あるいは其の額に徽章を受けしむ。 17この徽章を有たぬ凡ての者に賣買することを得ざらしめたり。その徽章は獣の名、もしくは其の名の數字なり。 18智慧は茲にあり、心ある者は獣の數字を算へよ。獣の數字は人の數字にして、その數字は六百六十六なり。

第十四章

1われ見しに、視よ、羔羊シオンの山に立ちたまふ。十四萬四千の人これと偕に居り、その額には羔羊の名および羔羊の父の名記しあり。 2われ天よりの聲を聞けり、多くの水の音のごとく、大なる雷霆の聲のごとし。わが聞きし此の聲は彈琴者の立琴を彈く音のごとし。 3かれら新しき歌を御座の前および四つの活物と長老たちとの前にて歌ふ。この歌は地より贖はれたる十四萬四千人の他は誰も學びうる者なかりき。 4彼らは女に汚されぬ者なり、潔き者なり、何處にまれ羔羊の往き給ふところに隨ふ。彼らは人の中より贖はれて神と羔羊とのために初穗となれり。 5その口に虚僞なし、彼らは瑕なき者なり。 6我また他の御使の中空を飛ぶを見たり。かれは地に住むもの、即ちもろもろの國・族・國語・民に宣傳へんとて、永遠の福音を携へ、 7大聲にて言ふ『なんぢら神を畏れ、神に榮光を歸せよ。その審判のとき既に至りたればなり。汝ら天と地と海と水の源泉とを造り給ひし者を拜せよ』 8ほかの第二の御使、かれに從ひて言ふ『倒れたり、倒れたり。大なるバビロン、己が淫行より出づる憤恚の葡萄酒をもろもろの國人に飲ませし者』 9ほかの第三の御使、かれらに從ひ大聲にて言ふ『もし獣とその像とを拜し、且その額あるいは手に徽章を受くる者あらば、 10必ず神の怒の酒杯に盛りたる混りなき憤恚の葡萄酒を飲み、かつ聖なる御使たち及び羔羊の前にて、火と硫黄とにて苦しめらるべし。 11その苦痛の煙は世々限りなく立ち昇りて、獣とその像とを拜する者、また其の名の徽章を受けし者は、夜も晝も休息を得ざらん。 12神の誡命とイエスを信ずる信仰とを守る聖徒の忍耐は茲にあり』 13我また天より聲ありて『書き記せ「今よりのち主にありて死ぬる死人は幸福なり」御靈も言ひたまふ「然り、彼等はその勞役を止めて息まん。その業これに隨ふなり」』と言ふを聞けり。 14また見しに、視よ、白き雲あり、その雲の上に人の子の如きもの坐して、首には金の冠冕をいただき、手には利き鎌を持ちたまふ。 15又ほかの御使、聖所より出で、雲のうへに坐したまふ者にむかひ、大聲に呼はりて『なんぢの鎌を入れて刈れ、地の穀物は全く熟し、既に刈り取るべき時至ればなり』と言ふ。 16かくて雲の上に坐したまふ者その鎌を地に入れたれば、地の穀物は刈り取られたり。 17又ほかの御使、天の聖所より出で、同じく利き鎌を持てり。 18又ほかの火を掌どる御使、祭壇より出で、利き鎌を持つ者にむかひ大聲に呼はりて『なんぢの利き鎌を入れて地の葡萄の樹の房を刈り收めよ、葡萄は既に熟したり』と言ふ。 19御使その鎌を地に入れて地の葡萄を刈りをさめ、神の憤恚の大なる酒槽に投げ入れたり。 20かくて都の外にて酒槽を踐みしに、血酒槽より流れ出でて馬の轡に達くほどになり、一千六百町に廣がれり。

第十五章

1我また天に他の大なる怪しむべき徴を見たり。即ち七人の御使ありて最後の七つの苦難を持てり、神の憤恚は之にて全うせらるるなり。 2我また火の混りたる玻璃の海を見しに、獣とその像とその名の數字とに勝ちたる者ども、神の立琴を持ちて玻璃の海の邊に立てり。 3彼ら神の僕モーセの歌と羔羊の歌とを歌ひて言ふ『主なる全能の神よ、なんぢの御業は大なるかな、妙なるかな、萬國の王よ、なんぢの道は義なるかな、眞なるかな。 4主よ、たれか汝を畏れざる、誰か御名を尊ばざる、汝のみ聖なり、諸種の國人きたりて御前に拜せん。なんぢの審判は既に現れたればなり』 5この後われ見しに、天にある證の幕屋の聖所ひらけて、 6かの七つの苦難を持てる七人の御使、きよき輝ける亞麻布を著、金の帶を胸に

束ねて聖所より出づ。7四つの活物の一つ、その七人の御使に、世々限りなく生きたまふ神の憤恚の滿ちたる七つの金の鉢を與へしかば、8聖所は神の榮光とその權力とより出づる煙にて滿ち、七人の御使の七つの苦難の終るまでは、誰も聖所に入ること能はざりき。

第十六章

1我また聖所より大なる聲ありて、七人の御使に『往きて神の憤恚の七つの鉢を地の上に傾けよ』と言ふを聞けり。2かくて第一の者ゆきて其の鉢を地の上に傾けたれば、獸の徽章を有てる人々とその像を拜する人々との身に、惡しき苦しき腫物生じたり。3第二の者その鉢を海の上に傾けたれば、海は死人の血の如くなりて、海にある生物ことごとく死にたり。4第三の者その鉢をもろもろの河と、もろもろの水の源泉との上に傾けたれば、みな血となれり。5われ水を掌どる御使の『いま在し昔いますの聖なる者よ、なんぢの斯く定め給ひしは正しき事なり。6彼らは聖徒と預言者との血を流したれば、之に血を飲ませ給ひしは相應しきなり』と云へるを聞けり。7我また祭壇の物言ふを聞けり『然り、主なる全能の神よ、なんぢの審判は眞なるかな、義なるかな』と。8第四の者その鉢を太陽の上に傾けたれば、太陽は火をもて人を燒くことを許さる。9かくて人々烈しき熱に燒かれて、此等の苦難を掌どる權威を有たちまふ神の名を涜し、かつ悔改めずして神に榮光を歸せざりき。10第五の者その鉢を獸の座位の上に傾けたれば、獸の國暗くなり、その國人痛によりて己の舌を齧み、11その痛と腫物とによりて天の神を涜し、かつ己が行爲を悔改めざりき。12第六の者その鉢を大なる河ユウフラテの上に傾けたれば、河の水涸れたり。これ日の出づる方より來る王たちの途を備へん爲なり。13我また龍の口より、獸の口より、僞預言者の口より、蛙のごとき三つの穢れし靈の出づるを見たり。14これは徴をおこなふ惡鬼の靈にして、全能の神の大なる日の戰鬪のために全世界の王たちを集めんとて、その許に出でゆくなり。15（視よ、われ盜人のごとく來らん、裸にて歩み羞所を見らるることなからん爲に、目を覺してその衣を守る者は幸福なり）16かの三つの靈、王たちをヘブル語にてハルマゲドンと稱ふる處に集めたり。17第七の者その鉢を空中に傾けたれば、聖所より御座より大なる聲いでて『事すでに成れり』と言ふ。18かくて數多の電光と聲と雷霆とあり、また大なる地震おこれり、人の地の上に在りし以來かかる大なる地震なかりき。19大なる都は三つに裂かれ、諸國の町々は倒れ、大なるバビロンは神の前におもひ出されて、劇しき御怒の葡萄酒を盛りたる酒杯を與へられたり。20凡ての島は逃げさり、山は見えずなれり。21また天より百斤ほどの大なる雹、人々の上に降りしかば、人々雹の苦難によりて神を涜せり。是その苦難甚だしく大なればなり。

第十七章

1七つの鉢を持てる七人の御使の一人きたり、我に語りて言ふ『來れ、われ多くの水の上に坐する大淫婦の審判を汝に示さん。2地の王たちは之と淫をおこなひ、地に住む者らは其の淫行の葡萄酒に醉ひたり』3かくてわれ御靈に感じ、御使に携へられて荒野にゆき、緋色の獸に乘れる女を見たり、この獸の體は神を涜す名にて覆はれ、また七つの頭と十の角とあり。4女は紫色と緋とを著、金・寶石・眞珠にて身を飾り、手には憎むべきものと己が淫行の汚とにて滿ちたる金の酒杯を持ち、5額には記されたる名あり。曰く『奥義大なるバビロン、地の淫婦らと憎むべき者との母』6我この女を見るに、聖徒の血とイエスの證人の血とに醉ひたり。我これを見て大に怪しみたれば、7御使われに言ふ『なにゆゑ怪しむか、我この女と之を乘せたる七つの頭、十の角ある獸との奥義を汝に告げん。8なんぢの見し獸は前に有りしも今あらず、後に底なき所より上りて滅亡に往かん、地に住む者にて世の創より其の名を生命の書に記されざる者は、獸の前にありて今あらず、後に來るを見て怪しまん。9智慧の心は茲にあり。七つの頭は女の坐する七つの山なり、また七人の王なり。10五人は既に倒れて一人は今あり、他の一人は未だ來らず、來らば暫時のほど止るべきなり。11前にありて今あらぬ獸は第八なり、前の七人より出でたる者にして滅亡に往くなり。12汝の見し十の角は十人の王にして未だ國を受けざれども、一時のあひだ獸と共に王のごとき權威を受くべし。13彼らは心を一つにして己が能力と權威とを獸にあたふ。14彼らは羔羊と戰はん。而して羔羊かれらに勝ち給ふべし、彼は主の主、王の王なればなり。これと偕なる召されたるもの、選ばれたるもの、忠實なる者も勝を得べし』15御使

また我に言ふ『なんぢの見し水、すなわち淫婦の坐する
處は、もろもろの民・群衆・國・國語なり。16なんぢ
の見し十の角と獣とは、かの淫婦を憎み、之をして荒涼
ばしめ、裸ならしめ、且その肉を喰ひ、火をもて之を焼
き盡さん。17神は彼らに御旨を行ふことと、心を一つに
することと、神の御言の成就するまで國を獣に與ふるこ
ととを思はしめ給ひたればなり。18なんぢの見し女は地
の王たちを宰どる大なる都なり』

第十八章

1この後また他の一人の御使の大なる權威を有ちて天よ
り降るを見しに、地はその榮光によりて照されたり。2
かれ強き聲にて呼はりて言ふ『大なるバビロンは倒れた
り、倒れたり、かつ惡魔の住家、もろもろの穢れたる靈
の檻、もろもろの穢れたる憎むべき鳥の檻となれり。3
もろもろの國人はその淫行の憤恚の葡萄酒を飲み、地の
王たちは彼と淫をおこなひ、地の商人らは彼の奢の勢力
によりて富みたればなり』4また天より他の聲あるを聞
けり。曰く『わが民よ、かれの罪に干らず、彼の苦難を
共に受けざらんため、その中を出でよ。5かれの罪は積
りて天にいたり、神その不義を憶え給ひたればなり。6
彼が爲しし如く彼に爲し、その行爲に應じ倍して之を報
い、かれが酌み與へし酒杯に倍して之に酌み與へよ。7
かれが自ら尊びみづから奢りしと同じほどの苦難と悲歎
とを之に與へよ。彼は心のうちに「われは女王の位に坐
する者にして寡婦にあらず、決して悲歎を見ざるべし」
と言ふ。8この故に、さまざまの苦難、一日のうちに彼
の身にきたらん、即ち死と悲歎と饑饉となり。彼また火
にて焼き盡されん、彼を審きたまふ主なる神は強ければ
なり。9彼と淫をおこなひ、彼とともに奢りたる地の王
たちは、其の焼かるる煙を見て泣きかつ歎き、10その
苦難を懼れ、遙に立ちて「禍害なるかな、禍害なるか
な、大なる都、堅固なる都バビロンよ、汝の審判は時の
間に來れり」と言はん。11地の商人かれが爲に泣き悲し
まん。今より後その商品を買ふ者なければなり。12その
商品は金・銀・寶石・眞珠・細布・紫色・絹・緋色およ
び各樣の香木、また象牙のさまざまの器、價貴き木、
眞鍮・鐵・蛸石などの各樣の器、13また肉桂・香料・
香・香油・乳香・葡萄酒・オリブ油・麥粉・麥・牛・
羊・馬・車・奴隷および人の靈魂なり。14なんぢの靈魂
の嗜みたる果物は汝を去り、すべての美味、華美なる物
は亡びて汝を離れん、今より後これを見ること無かるべ
し。15これらの物を商ひ、バビロンに由りて富を得たる
商人らは、其の苦難を懼れて遙に立ち、泣き悲しみて言
はん、16「禍害なるかな、禍害なるかな、細布と紫色と
緋とを著、金・寶石・眞珠をもて身を飾りたる大なる
都、17斯ばかり大なる富の時の間に荒涼ばんとは」而し
て凡ての船長、すべて海をわたる人々、舟子および海に
よりて生活を爲すもの遙かに立ち、18バビロンの焼かる
る煙を見て叫び「いづれの都か、この大なる都に比ぶべ
き」と言はん。19彼等また塵をおのが首に被りて泣き悲
しみ叫びて「禍害なるかな、禍害なるかな、此の大なる
都、その奢によりて海に船を有てる人々の富を得たる
都、かく時の間に荒涼ばんとは」と言はん。20天よ、
聖徒・使徒・預言者よ、この都につきて喜べ、神なんぢ
らの爲に之を審き給ひたればなり』21ここに一人の強き
御使、大なる碾臼のごとき石を擡げ海に投げて言ふ『お
ほいなる都バビロンは斯くのごとく烈しく撃ち倒され
て、今より後見えざるべし。22今よりのち立琴を彈くも
の、樂を奏するもの、笛を吹く者、ラッパを鳴す者の聲
なんぢの中に聞えず、今より後さまざまの細工をなす
細工人なんぢの中に見えず、碾臼の音なんぢの中に聞え
ず、23今よりのち燈火の光なんぢの中に輝かず、今より
のち新郎・新婦の聲なんぢの中に聞えざるべし。そは汝
の商人は地の大臣となり、諸種の國人はなんぢの咒術に
惑され、24また預言者・聖徒および凡て地の上に殺され
し者の血は、この都の中に見出されたればなり』

第十九章

1この後われ天に大なる群衆の大聲のごとき者ありて、
かく言ふを聞けり。曰く『ハレルヤ、救と榮光と權力と
は、我らの神のものなり。2その御審は眞にして義なる
なり、己が淫行をもて地を汚したる大淫婦を審き、神の
僕らの血の復讐を彼になし給ひしなり』3また再び言ふ
『ハレルヤ、彼の焼かるる煙は世々限りなく立ち昇るな
り』4ここに二十四人の長老と四つの活物と平伏して
御座に坐したまふ神を拜し『アァメン、ハレルヤ』と言
へり。5また御座より聲出でて言ふ『すべて神の僕たる
もの、神を畏るる者よ、小なるも大なるも、我らの神を
讃め奉れ』6われ大なる群衆の聲おほくの水の音のごと

く、烈しき雷霆の聲の如きものを聞けり。曰く『ハレルヤ全能の主、われらの神は統治らすなり。7われら喜び樂しみて之に榮光を歸し奉らん。そは羔羊の婚姻の時いたり、既にその新婦みづから準備したればなり。8彼は輝ける潔き細布を著ることを許されたり、此の細布は聖徒たちの正しき行爲なり』9御使また我に言ふ『なんぢ書き記せ、羔羊の婚姻の宴席に招かれたる者は幸福なり』と。また我に言ふ『これ神の眞の言なり』10我その足下に平伏して拜せんとしたれば、彼われに言ふ『愼みて然すな、我は汝およびイエスの證を保つ汝の兄弟とともに僕たるなり。なんぢ神を拜せよ、イエスの證は即ち預言の靈なり』11我また天の開けたるを見しに、視よ、白き馬あり、之に乘りたまふ者は「忠實また眞」と稱へられ、義をもて審きかつ戰ひたまふ。12彼の目は焰のごとく、その頭には多くの冠冕あり、また記せる名あり、之を知る者は彼の他になし。13彼は血に染みたる衣を纏へり、その名は「神の言」と稱ふ。14天に在る軍勢は白く潔き細布を著、白き馬に乘りて彼にしたがふ。15彼の口より利き劍いづ、之をもて諸國の民をうち、鐵の杖をもて之を治め給はん。また自ら全能の神の烈しき怒の酒槽を踐みたまふ。16その衣と股とに『王の王、主の主』と記せる名あり。17我また一人の御使の太陽のなかに立てるを見たり。大聲に呼はりて、中空を飛ぶ凡ての鳥に言ふ『いざ、神の大なる宴席に集ひきたりて、18王たちの肉、將校の肉、強き者の肉、馬と之に乘る者との肉、すべての自主および奴隸、小なるもの大なる者の肉を食へ』19我また獸と地の王たちと彼らの軍勢とが相集りて、馬に乘りたまふ者および其の軍勢に對ひて戰鬪を挑むを見たり。20かくて獸は捕へられ、又その前に不思議を行ひて獸の徽章を受けたる者と、その像を拜する者とを惑したる僞預言者も、之とともに捕へられ、二つながら生きたるまま硫黄の燃ゆる火の池に投げ入れられたり。21その他の者は馬に乘りたまふ者の口より出づる劍にて殺され、凡ての鳥その肉を食ひて飽きたり。

第二十章

1我また一人の御使の底なき所の鍵と大なる鎖とを手に持ちて、天より降るを見たり。2彼は龍、すなわち惡魔たりサタンたる古き蛇を捕へて、之を千年のあひだ繫ぎおき、3底なき所に投げ入れ閉ぢ込めて、その上に封印し、千年の終るまでは諸國の民を惑すことなからしむ。その後、暫時のあひだ解放さるべし。4我また多くの座位を見しに、之に座する者あり、審判する權威を與へられたり。我またイエスの證および神の御言のために斬られし者の靈魂、また獸をもその像をも拜せず、己が額あるいは手にその徽章を受けざりし者どもを見たり。彼らは生きかへりて千年の間キリストと共に王となれり。5（その他の死人は千年の終るまで生きかへらざりき）これは第一の復活なり。6幸福なるかな、聖なるかな、第一の復活に干る人。この人々に對して第二の死は權威を有たず、彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年のあひだ王たるべし。7千年終りて後サタンは其の檻より解放たれ、8出でて地の四方の國の民、ゴグとマゴグとを惑し戰鬪のために之を集めん、その數は海の砂のごとし。9かくて彼らは地の全面に上りて、聖徒たちの陣營と愛せられたる都とを圍みしが、天より火くだりて彼等を燒き盡し、10彼らを惑したる惡魔は、火と硫黄との池に投げ入れられたり。ここは獸も僞預言者もまた居る所にして、彼らは世々限りなく晝も夜も苦しめらるべし。11我また大なる白き御座および之に座し給ふものを見たり。天も地もその御顏の前を遁れて跡だに見えずなりき。12我また死にたる者の大なるも小なるも御座の前に立てるを見たり。而して數々の書展かれ、他にまた一つの書ありて展かる、即ち生命の書なり、死人は此等の書に記されたる所の、その行爲に隨ひて審かれたり。13海はその中にある死人を出し、死も陰府もその中にある死人を出したれば、各自その行爲に隨ひて審かれたり。14かくて死も陰府も火の池に投げ入れられたり、此の火の池は第二の死なり。15すべて生命の書に記されぬ者はみな火の池に投げ入れられたり。

第二十一章

1我また新しき天と新しき地とを見たり。これ前の天と前の地とは過ぎ去り、海も亦なきなり。2我また聖なる都、新しきエルサレムの、夫のために飾りたる新婦のごとく準備して、神の許をいで、天より降るを見たり。3また大なる聲の御座より出づるを聞けり。曰く『視よ、神の幕屋、人と偕にあり、神、人と偕に住み、人、神の民となり、神みづから人と偕に在して、4かれらの目の淚をことごとく拭ひ去り給はん。今よりのち死もなく、

悲歎も號叫も苦痛もなかるべし。前のもの既に過ぎ去りたればなり』 5かくて御座に坐し給ふもの言ひたまふ『視よ、われ一切のものを新にするなり』また言ひたまふ『書き記せ、これらの言は信ずべきなり、眞なり』 6また我に言ひたまふ『事すでに成れり、我はアルパなり、オメガなり、始なり、終なり、渇く者には價なくして生命の水の泉より飲むことを許さん。 7勝を得る者は此等のものを嗣がん、我はその神となり、彼は我が子とならん。 8されど臆するもの、信ぜぬもの、憎むべきもの、人を殺すもの、淫行のもの、咒術をなすもの、偶像を拜する者および凡て僞る者は、火と硫黄との燃ゆる池にて其の報を受くべし、これ第二の死なり』 9最後の七つの苦難の滿ちたる七つの鉢を持てる七人の御使の一人きたり、我に語りて言ふ『來れ、われ羔羊の妻なる新婦を汝に見せん』 10御使、御靈に感じたる我を携へて大なる高き山にゆき、聖なる都エルサレムの、神の榮光をもて神の許を出でて天より降るを見せたり。 11その都の光輝はいと貴き玉のごとく、透徹る碧玉のごとし。 12此處に大なる高き石垣ありて十二の門あり、門の側らに一人づつ十二の御使あり、門の上に一つづつイスラエルの子孫の十二の族の名を記せり。 13東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門あり。 14都の石垣には十二の基あり、これに羔羊の十二の使徒の十二の名を記せり。 15我と語る者は都と門と石垣とを測らん爲に金の間竿を持てり。 16都は方形にして、その長さ廣さ相均し。彼は間竿にて都を測りしに一千二百町あり、長さ廣さ高さみな相均し。 17また石垣を測りしに、人の度すなはち御使の度に據れば百四十四尺あり。 18石垣は碧玉にて築き、都は清らかなる玻璃のごときに純金にて造れり。 19都の石垣の基はさまざまの寶石にて飾れり。第一の基は碧玉、第二は瑠璃、第三は玉髓、第四は緑玉、 20第五は紅縞瑪瑙、第六は赤瑪瑙、第七は貴橄欖石、第八は緑柱石、第九は黄玉石、第十は緑玉髓、第十一は青玉、第十二は紫水晶なり。 21十二の門は十二の眞珠なり、おのおのの門は一つの眞珠より成り、都の大路は透徹る玻璃のごとき純金なり。 22われ都の内にて宮を見ざりき、主なる全能の神および羔羊はその宮なり。 23都は日月の照すを要せず、神の榮光これを照し、羔羊はその燈火なり。 24諸國の民は都の光のなかを歩み、地の王たちは己が光榮を此處にたづさへきたる。 25都の門は終日閉ぢず（此處に夜あることなし） 26人々は諸國の民の光榮と尊貴とを此處にたづさえ來らん。 27凡て穢れたる者また憎むべき事と虚僞とを行ふ者は、此處に入らず、羔羊の生命の書に記されたる者のみ此處に入るなり。

第二十二章

1御使また水晶のごとく透徹れる生命の水の河を我に見せたり。この河は神と羔羊との御座より出でて都の大路の眞中を流る。 2河の左右に生命の樹ありて十二種の實を結び、その實は月毎に生じ、その樹の葉は諸國の民を醫すなり。 3今よりのち詛はるべき者は一つもなかるべし。神と羔羊との御座は都の中にあり。その僕らは之に事へ、 4且その御顔を見ん、その御名は彼らの額にあるべし。 5今よりのち夜ある事なし、燈火の光をも日の光をも要せず、主なる神かれらを照し給へばなり。彼らは世々限りなく王たるべし。 6彼また我に言ふ『これらの言は信ずべきなり、眞なり、預言者たちの靈魂の神たる主は、速かに起るべき事をその僕どもに示さんとて、御使を遣し給へるなり。 7視よ、われ速かに到らん、この書の預言の言を守る者は幸福なり』 8これらの事を聞き、かつ見し者は我ヨハネなり。かくて見聞せしとき我これらの事を示したる御使の足下に平伏して拜せんとせしに、 9かれ言ふ『つつしみて然すな、われは汝および汝の兄弟たる預言者、また此の書の言を守る者と等しく僕たるなり、なんじ神を拜せよ』 10また我に言ふ『この書の預言の言を封ずな、時近ければなり。 11不義をなす者はいよいよ不義をなし不淨なる者はいよいよ不淨をなし、義なる者はいよいよ義をおこなひ、清き者はいよいよ清くすべし。 12視よ、われ報をもて速かに到らん、各人の行爲に隨ひて之を與ふべし。 13我はアルパなり、オメガなり、最先なり、最後なり、始なり、終なり、 14おのが衣を洗ふ者は幸福なり、彼らは生命の樹にゆく權威を與へられ、門を通りて都に入ることを得るなり。 15犬および咒術をなすもの、淫行のもの、人を殺すもの、偶像を拜する者、また凡て虚僞を愛して之を行ふ者は外にあり。 16われイエスは我が使を遣して諸教會のために此等のことを汝らに證せり。我はダビデの萠蘖また其の裔なり、輝ける曙の明星なり』 17御靈も新婦もいふ『來りたまへ』聞く者も言へ『きたり給へ』と、渇

く者はきたれ、望む者は價なくして生命の水を受けよ。
18われ凡てこの書の預言の言を聞く者に證す。もし之に
加ふる者あらば、神はこの書に記されたる苦難を彼に加
へ給はん。19若しこの預言の書の言を省く者あらば、神
はこの書に記されたる生命の樹、また聖なる都より彼の
受くべき分を省き給はん。20これらの事を證する者いひ
給ふ『然り、われ速かに到らん』アァメン、主イエス
よ、來りたまへ。21願はくは主イエスの恩恵なんぢら凡
ての者と偕に在らんことを。